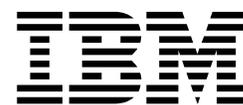
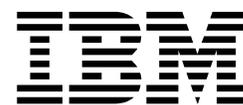


IBM z/VSE
バージョン 6 リリース 2



メッセージおよびコード
第 2 巻

IBM z/VSE
バージョン 6 リリース 2



メッセージおよびコード
第 2 巻

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、1093 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM z/Virtual Storage Extended (z/VSE) バージョン 6 リリース 2 (プログラム番号 5686-VS6) および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本書は SC43-2939-00 の改訂版です。

資料のご注文方法については、<http://www.ibm.com/jp/manuals> の「ご注文について」をご覧ください。(URL は、変更になる場合があります)

また、FAX によりまたはインターネット経由で送付することもできます。

Internet: s390id@de.ibm.com

FAX (Germany): 07031-16-3456

FAX (other countries): (+49)+7031-16-3456

なお、お寄せいただいたご意見は、弊社にて随時利用させていただきますので、ご承諾のうえご記入くださいますようお願い申し上げます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC34-2683-01

Version 6 Release 2

Messages and Codes

Volume 2

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1984, 2017.

目次

本書について	v
本書の編成	v
関連資料	v
メッセージの形式	vi
メッセージ・テキスト構文	viii
メッセージを受け取った場合	ix
オンライン・メッセージ記述	ix
変更の要約	xi
第 1 章 接頭部 DIT の VSE 用 DITTO/ESA メッセージ	1
第 2 章 接頭部 EAG の REXX/370 実行 時メッセージ	11
EAGREX=REXX/370 実行時メッセージ	11
第 3 章 接頭部 EYU の CICS Explorer メッセージ	23
第 4 章 EZA アプリケーション・プログ ラミング・インターフェースから出される 接頭部 EZA のメッセージ	31
第 5 章 接頭部 EZY CICS Listener メ ッセージ	35
第 6 章 接頭部 HCP の z/VSE メッセー ジ	47
第 7 章 接頭部 ICK の装置サポート機能 メッセージ	49
コンソールで受信するメッセージ	49
出力印刷装置で受け取るメッセージ	60
第 8 章 接頭部 IDC の IDCAMS メッ セージ	175
接頭部 IDC の IDCAMS メッセージ	175
第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由 コード	239
システム・エラー	239
第 10 章 IDSK - z/VSE Installation Disk Tool	281
第 11 章 接頭部 IES の z/VSE 固有メ ッセージ	287
接頭部 IESU のメッセージ	346

第 12 章 接頭部 IFC の EREP メッセ ージ	357
EREP 戻りコード	357
EREP DEBUG パラメーター	357
第 13 章 VSAM 診断ツール用 IKQ 接 頭部メッセージ	371
重大度 ID	371
3 桁のメッセージ番号	371
処置標識	371
カタログ検査リカバリー手順	372
VSAM 診断ツール用 IKQxxxx = メッセージ	374
第 14 章 接頭部 INW のワークステーシ ョンのファイル転送メッセージ	387
INW0xx=ワークステーションのファイル転送メッセ ージ	387
INWxxxx=高機能ワークステーション/IBM PC メ ッセージ	387
INWCxx=ワークステーション通信メッセージ	404
INWMUxx = INWMUTIL メッセージ	406
第 15 章 接頭部 IPK の ESERV メッ セージ	409
第 16 章 接頭部 IST の VTAM メッセ ージ	413
VTAM メッセージ	413
第 17 章 VTAM コード	709
VTAM 取り消しコード	709
VTAM リソース状況コードおよび修飾子	713
X.25 エラー・コード	726
DTE 生成診断コード	728
VTAM メッセージのコマンド・タイプ	731
VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およ びそれらについての記述	739
戻りコードおよび戻りコード通知用のセンス・フィ ールド	740
待ち状態イベント ID	767
センス・コード	779
記述子コード、宛先コード、および抑止レベル	878

第 18 章 接頭部 IRR のシステム許可機能メッセージ	901
第 19 章 IXFP メッセージ	903
第 20 章 接頭部 IXP の IOCP メッセージ	909
IXPxxx=IOCP メッセージ	909
第 21 章 接頭部 IZP の IOCP メッセージ	911
IZPxxx=IOCP メッセージ	911
第 22 章 接頭部 K の VSE/ICCF メッセージ	913
接頭部 K のメッセージ	913
VSE/ICCF 端末メッセージ	958
VSE/ICCF 戻りコード	966
第 23 章 接頭部 L のライブラリアン・メッセージ	969
第 24 章 LFP 接頭部 Linux ファースト・パス・メッセージ	1005
第 25 章 ライブラリアン・フィードバック・コード	1009
第 26 章 接頭部 M のシステム・ヒストリー保守プログラム・メッセージ	1015
第 27 章 接頭部 P の 3800 印刷装置メッセージ	1045
第 28 章 接頭部 R の z/VSE REXX/VSE ジョブ制御メッセージ	1057
第 29 章 接頭部 S の独立型 JCL メッセージ	1059
SAxx=汎用独立型 JCL メッセージ	1059

SIxx=自動インストール独立型 JCL メッセージ	1065
第 30 章 接頭部 VMCF の VM/VSE メッセージ	1069
第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード	1071
特記事項	1093
プログラミング・インターフェース情報	1095
商標	1095
製品資料に関するご使用条件	1095
アクセシビリティ	1097
支援機能の使用	1097
資料の形式	1097

本書について

本書は、IBM® z/VSE パッケージとそのコンポーネント・ライセンス・プログラムから発行されるメッセージ (およびコード) を解説したものです。本書では、受け取ったメッセージ (コード) に応答するときに処置が必要であるとすると、どのような処置をとるべきかについて解説しています。

メッセージおよびコードの解説は、接頭部ごとにトピックに分かれています。各トピックは、接頭部の数字順およびアルファベット順に構成されています。

本書の編成

本書は 3 巻で構成され、以下のように分類されています。

表 1. z/VSE メッセージおよびコード

ボリューム	接頭部
IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻	接頭部 0- から 8- および A- から BSTxxxx のメッセージ、VSE/ 拡張機能コードと SVC エラー、z/VSE 対話式インターフェース・コード
IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 2 巻	接頭部 DIT- から VMCF- のメッセージ、VSE/VSAM 戻りコードとエラー・コード
IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 3 巻	DFHxxxxnnn メッセージ (CICS® Transaction Server メッセージ)、CICS Transaction Server 異常終了コード

本書に使用できるバインダーは 3 つあります。これらのバインダーは、引き続き資料番号 SX33-9020 を使用してご注文いただけます。

関連資料

本書では、必要に応じて他の資料を参照しています。

z/VSE ホーム・ページ

z/VSE は、WWW 上にホーム・ページがあります。ホーム・ページでは、VSE 関連プロダクトやサービス、z/VSE の新機能、およびその他の VSE ユーザーにとって興味深い項目に関する最新情報が記載されています。

z/VSE ホーム・ページは、次のアドレスで見ることができます。

<http://www.ibm.com/systems/z/os/zvse/>

次のサイトで VSE ユーザーの例 (ZIP 形式) を検索することもできます。

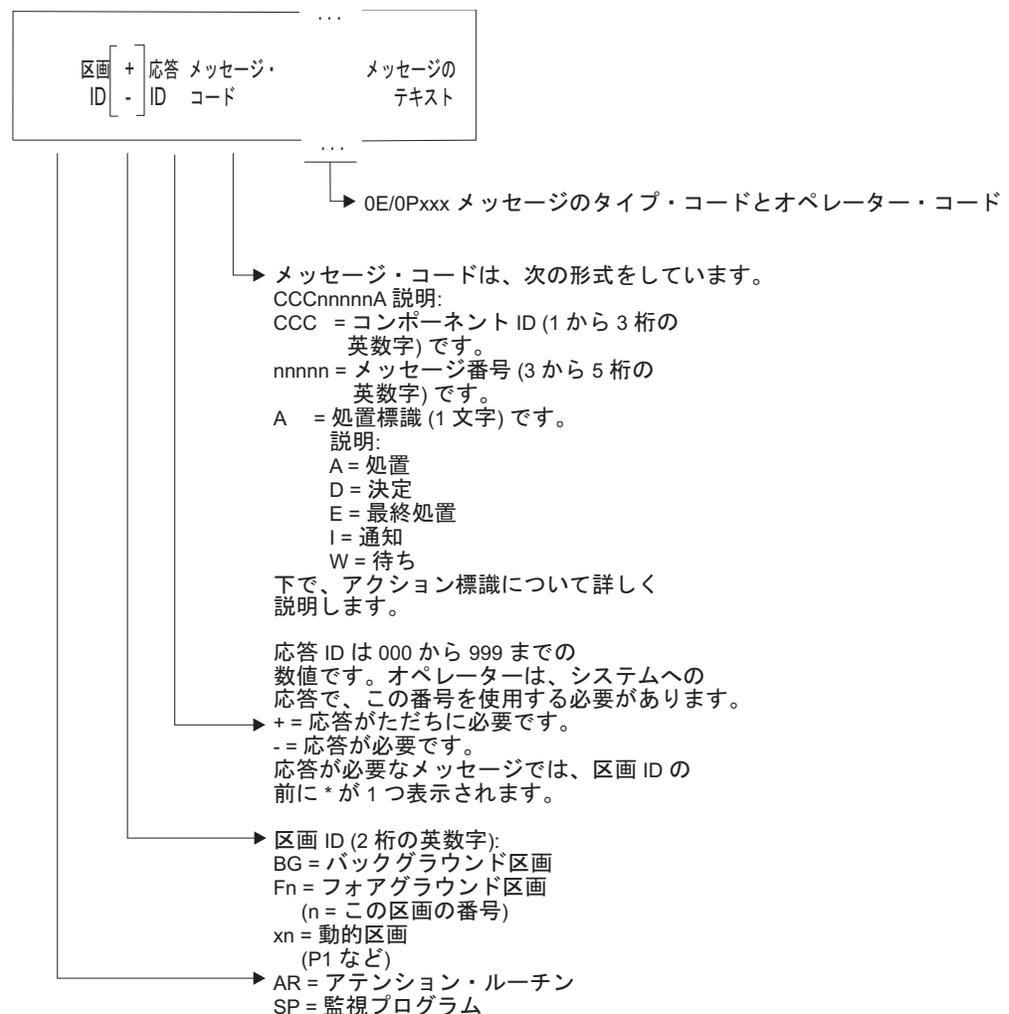
<http://www.ibm.com/systems/z/os/zvse/downloads/samples.html>

z/VSE Knowledge Center

IBM Knowledge Center は、IBM の技術情報の新しいホーム・ページです。
z/VSE 資料も、IBM Knowledge Center の一部であり、http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSB27H/zvse_welcome.html からアクセスできます。

メッセージの形式

各メッセージは、区画 ID、応答 ID、メッセージ・コード、およびメッセージ・テキストから成っています。一般形式を以下に示します。



例えば、次のようなメッセージが出されたとします。

F1 010 1V17A LST2 SUSPENDED FOR FORMS MOUNT

これは、次のように解釈できます。

- F1** 前景 **1** の区画で実行されているプログラムがこのメッセージを出したことを示します。
- 010** オペレーターの応答の応答 ID です。
- 1V** **VSE/POWER** がこのメッセージを出したことを示します。
- 17** メッセージ番号です。

A オペレーターの応答が必要なことを示します。

LST2 SUSPENDED FOR FORMS MOUNT

メッセージ・テキストです。

上記の例では、オペレーターはリスト書き込み機能 **LST2** を再始動するか、あるいは終了することで応答できます。

処置標識

処置標識は、必要な処置のタイプを指定するもので、以下のいずれかです。

処置標識

意味

A = 処置 :

オペレーターは続行する前に、例えば、磁気テープを取り付けたり、入出力装置の用意をするなどの処置を行う必要があります。

D = 決定 :

オペレーターは続行する前に、論理決定を行う必要があります。

E = 最終処置 :

オペレーターは即時に何かを行う必要はありませんが、最終的には行う必要があります。

I = 通知 :

このようなメッセージは、(即時の) 応答を必要としません。これは、例えば、検出された条件あるいはジョブの完了についてオペレーターに通知します。しかし、ある特定の条件は、ジョブを正常に実行するため、あるいはシステムを再度完全に使用できるようにするために、訂正または除去する必要があります。多くの場合、それはオペレーターの仕事ではなく、システム・プログラマーまたはジョブの担当者の仕事です。

W = 待機 :

ハードウェアまたはシステムの誤動作のため、システムは待ち状態に入っています。例えば、ハードウェア障害が生じた場合、**IPL** を介してシステムを再始動する前に、オペレーターはハードウェア・スイッチを設定するか、またはエラー・リカバリー・プログラムを実行する (あるいはその両方を行う) 必要がある場合もあります。

処置標識 **A** および **D** の場合、メッセージを出したプログラムは、通常は、オペレーターが応答を入力するまで、あるいは装置を作動可能にするなどの処置を行うまで待機します。

タイプ/オペレーター処置コード

一部のカテゴリーの監視プログラム・メッセージには、『**t**』 (タイプ) と『**o**』 (オペレーター処置コード) が示されます。次のような形式のメッセージの場合 :

ccccct o (メッセージ・テキスト)

それらのメッセージの「**t**」および「**o**」の意味については、「**cccc**」メッセージのセクションの最初の部分を参照してください。

メッセージ・テキスト構文

一部のメッセージ・テキストには、大括弧([])、中括弧({ })、または垂直バー(|)などのメタ・タグが含まれています。

これらのメタ・タグは以下のように読み取ります。

[] (大括弧)

大括弧はオプション・テキストを囲みます。テキストを 1 回選択できます。または選択しないこともできます。

{ } (中括弧)

中括弧は、垂直バーで区切られたオプションを囲みます。1 つのオプションを選択する必要があります。

| (垂直バー)

垂直バーは異なるオプションを区切ります。

例えば、次のようなメッセージ・テキストが出されたとします。

**PAGEABLE AREA [nnnK] TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE'
COMMAND/OPERAND [{(JOB-|OUT-|NET-|XMT-|J+O-|N+X)-EXIT
INCLUDED}]**

これは以下を意味します。

- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (JOB-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (OUT-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (NET-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (XMT-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (J+O-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (N+X-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (JOB-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (OUT-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (NET-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (XMT-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (J+O-EXIT INCLUDED) または
- PAGEABLE AREA nnnK TOO SMALL, INCREASE VALUE OF 'SIZE' COMMAND/OPERAND (N+X-EXIT INCLUDED)

メッセージを受け取った場合

正しい応答がはっきり分からない場合には、必ずメッセージを調べてください。メッセージに示されている状況に以前に遭遇したことがない場合や、異なる処置が必要な場合があります。必ず、完全なメッセージの説明を読んでください。

その説明自体が完全ではないように思われる場合、メッセージが属する (サブ) コンポーネント・グループの冒頭を調べてください。一部のグループのメッセージは特定の規則に従っています。

例えば、コンポーネント **1** のメッセージは、4 番目の文字位置に変数数字 **n** を持つことがあります。これは、ジョブ制御ステートメントのエラー・フィールドを示すものです。

OPxx の一部のメッセージには、さらに補足情報が含まれています。その補足情報については、コンポーネント **0** のサブコンポーネント **P** を扱っているセクションの最初の部分で説明されています。

メッセージが繰り返し表示され、通常の操作を続けることができない場合には、「*z/VSE Guide for Solving Problems*」も参照してください。この資料には、問題の状態と、可能な解決策が記載されています。

オンライン・メッセージ記述

z/VSE コンソールを使用しているときには、次のいずれかを行うと、z/VSE メッセージおよびコードの資料に示されているメッセージ記述をオンラインで表示することができます。

1. コンソール表示画面上のメッセージ番号の下にカーソルを移動して、EXPLAIN キーを押す。あるいは、
2. コマンド・フィールド (==>) にメッセージ番号を入力してから、EXPLAIN キーを押す。

重要：

コマンド・フィールドにメッセージ番号を入力する場合、メッセージ記述で勧められている処置を行う前に、必ず 有効なメッセージ記述を入力したことを確認してください。入力した番号が有効でない場合、z/VSE は最も近い番号の説明を示す場合があります。そのメッセージに関する推奨された処置は、ユーザーの作業には正しくないことがあります。

メッセージ記述が別のメッセージを参照している場合には、最初の記述の中にあるそのメッセージ番号にメッセージを移動してから EXPLAIN キーを押すと、そのメッセージの記述を表示することができます。コマンド行に以下の適切な処置のいずれかを入力してから EXPLAIN キーを押せば、オンラインで VSE/VSAM 戻りコードを見ることもできます。

- VSAMOPEN
- VSAMCLOS
- VSAMREQU
- VSAMXXCB

VSE/ESA 2.4 では、メッセージの説明でハードコピー資料を以前に参照していたようなメッセージには、いくつかのダミー・メッセージがそのメッセージ内に含まれていました。そのようなダミー・メッセージには、接頭部 VSE とその後に 5 桁の数字が付いています (例えば、VSE00001)。それらは、他のテキストを参照するためにメッセージの説明の中で使用されているものです。接頭部 VSE の付いたメッセージは、「IBM VSE/ESA メッセージとコード 第 1 巻」では説明されていません。

変更の要約

この資料は、z/VSE バージョン 6 リリース 2 に実装された機能拡張および変更を反映するために更新されました。また、用語、細かな修正、および編集上の変更も含まれています。

- z/VSE 6.2 には IBM System z10 以上が必要です。
- 高速サービス・アップグレード (FSU):
 - 初期インストールまたは FSU を使用すれば、z/VSE 6.2 へのアップグレードを行うことができます。
 - FSU は、z/VSE 6.1 システムからのアップグレード時にのみ使用できます。
 - z/VSE V5 から z/VSE V6 に FSU は使用できません。

z/VSE 6.1 以降、z/VSE は英語版としてのみ出荷されます。

z/VSE 6.1 ではアーキテクチャー・レベル・セット (ALS) が導入されました。IBM System z10 以上が必要となります。

第 1 章 接頭部 DIT の VSE 用 DITTO/ESA メッセージ

DIT0090I 使用可能な仮想記憶が不足している。
説明: DITTO は現在の機能を開始するまたは継続するための、十分な仮想記憶がありません。
ユーザーの処置: 大きな区画でジョブを再実行してください。
JOBCLASS パラメーターがあるフルスクリーン DITTO を呼び出し、大きな区画のクラスを指定してください。

DIT0110I **Function name is not supported in batch mode**
説明: バッチ・モードでは実行できない DITTO 機能呼び出しました。
ユーザーの処置: 別の機能を使用するか、または別のモードで DITTO を呼び出してください。

DIT0120I **Function name is not included in DITTO/ESA**
説明: DITTO/ESA の一部ではない機能呼び出しました。
ユーザーの処置: DITTO のこのリリースで変更された機能の詳細については、「*DITTO/ESA User's Guide and Reference*」を参照してください。

DIT0130I **Function name is not supported in full-screen mode**
説明: フルスクリーン・モードでは実行できない DITTO 機能呼び出しました。
ユーザーの処置: 別の機能を使用するか、または別のモードで DITTO を呼び出してください。

DIT0140I **Function name is not supported in command mode**
説明: コマンド・モードでは実行できない DITTO 機能呼び出しました。
ユーザーの処置: 別の機能を使用するか、または別のモードで DITTO を呼び出してください。

DIT0150I **Function name is not supported in line mode**
説明: ライン・モードでは実行できない DITTO 機能呼び出しました。
ユーザーの処置: 別の機能を使用するか、または別のモードで DITTO を呼び出してください。

DIT0163I **Function name is not supported in VSE**
説明: VSE オペレーティング・システムでは使用できない DITTO 機能呼び出しました。
ユーザーの処置: 機能のリストについては、「*DITTO/ESA User's Guide and Reference*」または XXX 機能で作成されるリストを参照してください。

DIT0170I **Function name is not supported in stand-alone VSE**

説明: 独立型 VSE 環境では使用できない DITTO 機能呼び出しました。
ユーザーの処置: VSE 独立型環境に適切な機能を使用してください。機能のリストについては、「*DITTO/ESA User's Guide and Reference*」または XXX 機能で作成されるリストを参照してください。

DIT0200I **Function name only supported in a CMS/VSE DITTO session**
説明: 呼び出された機能は、DITTO が CICS 端末から開始された場合にはサポートされません。
ユーザーの処置: DITTO/ESA (VSE 版) を CMS セッションから開始してください。詳細については、「*DITTO/ESA User's Guide and Reference*」を参照してください。

DIT0322I **DITTO security setup failed - module 'DITSECUR' not found**
説明: セキュリティー出口は存在しなければなりません。
ユーザーの処置: 「*DITTO/ESA Installation and Customization Guide*」および「*DITTO/ESA User's Guide and Reference*」を参照してください。

DIT0330I **Not authorized for function**
説明: ユーザー ID は、指定した機能を使用する権限がありません。
ユーザーの処置: この機能を使用する必要がある場合は、システム・サポートに連絡して、ユーザー ID がこの機能または機能グループを使用できるようにしてください。「*DITTO/ESA Installation and Customization Guide*」および「*DITTO/ESA User's Guide and Reference*」を参照してください。

DIT0350I **Not authorized to xxx spool output not owned**
説明: ユーザー ID は、指定したスプール・ファイルにアクセスする権限がありません。
ユーザーの処置: この機能を使用する必要がある場合は、システム・サポートに連絡して、アクセスできないスプール出力にユーザー ID がアクセスできるようにしてください。「*DITTO/ESA User's Guide and Reference*」を参照してください。

DIT0400I **Panel display error rc for panel name**
説明: パネルを表示することができません (例えば、パネルを翻訳のために変更した)。
ユーザーの処置: システム・エラー情報を保管して、システム・サポートに連絡してください。

DIT0410I **Unable to initialize full-screen mode**
説明: 予期しないエラーが起こったため、DITTO はフルスクリーン・セッションをセットアップできません。
ユーザーの処置: システム・エラー情報を保管して、システム・サポートに連絡してください。

DIT0650I DITTO profile save failed

説明: DITTO はプロファイルを更新しましたが、エラーが起きました。
 ユーザーの処置: DITTO スタートアップ・ジョブの LIBDEF ステートメントにある CATALOG パラメーターの指定を検査してください。「DITTO/ESA User's Guide and Reference」を参照してください。

DIT0660I DITTO profile not found or in error, defaults used

説明: DITTO インストール・プロファイルまたはユーザー・プロファイルが、見つからないかエラーがあります。弊社提供のデフォルト値を使用しました。
 ユーザーの処置: 「DITTO/ESA User's Guide and Reference」を参照してください。

DIT0670I DITTO profile parameter parameter=value unknown, defaults used

説明: 無効なパラメーターが、DITTO インストール・プロファイルにあります。弊社提供のデフォルト値を使用しました。
 ユーザーの処置: 「DITTO/ESA User's Guide and Reference」を参照してください。

DIT0680I Profile error on or near 'parameter', DITTO defaults used

説明: 構文エラーを、DITTO インストール・プロファイルで、または近くの示されたパラメーターで検出しました。弊社提供のデフォルト値を使用してジョブが実行されます。
 ユーザーの処置: ユーザー提供 DITTO プロファイルを訂正してください。「DITTO/ESA User's Guide and Reference」を参照してください。

DIT0800I SYSLST is assigned to disk, output truncated to 121 bytes

説明: ディスク上の VSE SYSLST データ・セットには、121 バイトの長さの制限があります。DITTO の出力の長さは 133 バイトなので、SYSLST への書き込みは出力が切り捨てられる原因になります。処理を続行します。

DIT0810I Print record not in forms 'A' format

説明: TFA または SFA 機能は、テープまたはディスク・レコードの最初のバイトに無効なプリンター CCW コードを検出しました。
 ユーザーの処置: 使用する入力データが SFA/TFA 形式であることを確認してください。

DIT0830I RECLIMIT mmmnn start value exceeds mmmnn record length

説明: SET パラメーターの RECLIMIT が、印刷を行うレコードのレコード長より大きい開始位置を指定しています。
 ユーザーの処置: SET 機能を使用して、RECLIMIT の始まりをレコードの範囲内の位置に設定して、機能を再度実行してください。

DIT0842I REXX not available, printout routed to printer

説明: SET PRINTOUT=REXX を指定しましたが、DITTO は REXX プロシージャから呼び出されていません。印刷出力はプリンターに経路指定されます。(SET PRINTOUT=PRINTER)
 ユーザーの処置: DITTO を REXX EXEC から呼び出すときは、SET PRINTOUT=REXX だけを使用してください。

DIT0910I Missing or invalid control card

説明: このメッセージは、制御カードにエラーがあることを示しています。後続くメッセージには、エラーに関する詳細情報があります。
 ユーザーの処置: 制御カードを訂正して、ジョブを再実行してください。

DIT0920I Parameter parameter missing

説明: 必要なパラメーターを省略しました。
 ユーザーの処置: 必要なパラメーターのすべてを与えてください。

DIT0930I Missing or invalid function code

説明: 機能コードを省略したか、無効な機能コードを指定しました。
 ユーザーの処置: 正しい機能コードを制御ステートメントを与えてください。

DIT0940I Invalid syntax near card column mm

説明: 制御ステートメントの構文が無効です。エラーの検出を助けるために、スケールが印刷されます。
 ユーザーの処置: 制御ステートメントを訂正してください。

DIT0950I Too many parameters

説明: 指定したパラメーターが多すぎるか、重複しています。
 ユーザーの処置: 多すぎるまたは重複しているパラメーターを除去してください。

DIT0960I Parameters parameter1 and parameter2 are mutually exclusive

説明: 一緒に使用できない 2 つのパラメーターを指定しました。
 ユーザーの処置: 正しいパラメーターを与えてください。

DIT0970I Parameter parameter1 or parameter2 missing

説明: 必要なパラメーターを与えていません。
 ユーザーの処置: 指示されたパラメーターのいずれかを指定してください。

DIT0980I Parameter parameter1 or parameter2 or parameter3 missing

説明: 必要なパラメーターを与えていません。
 ユーザーの処置: 指示されたパラメーターのいずれかを指定してください。

DIT0990I Invalid continuation, syntax error near card column *nn*

説明: 制御ステートメントが継続すると判断しましたが、見つからないか、または無効な構文があります。
 ユーザーの処置: 継続標識を除去するか、または継続カードを訂正してください。

DIT1000I Unexpected end of parameter specification

説明: DITTO 呼び出しのパラメーターがコマンドで終わっています。
 ユーザーの処置: DITTO 呼び出しのパラメーター指定を訂正してください。

DIT1130I Parameter *parameter* invalid or not applicable for this function

説明: 不明なパラメーター、またはこの機能に適用できないパラメーターを指定しました。
 ユーザーの処置: DITTO 呼び出しまたは制御ステートメントを訂正してください。

DIT1140I Parameter *parameter* is ambiguous

説明: DITTO は指定された短縮パラメーターを判別できません。
 ユーザーの処置: 完全なパラメーター名を指定してください。

DIT1150I Value of parameter *parameter* missing

説明: 指定したパラメーターの値が見つかりません。
 ユーザーの処置: DITTO 呼び出しまたは制御ステートメントを訂正してください。

DIT1160I Extraneous parameter *parameter* ignored

説明: この機能が使用していないパラメーター、または重複パラメーターを与えました。
 ユーザーの処置: DITTO 呼び出しまたは制御ステートメントからパラメーターを除去してください。

DIT1170I Invalid value for parameter *parameter*

説明: パラメーターに誤った値を指定しました。
 ユーザーの処置: DITTO 呼び出しまたは制御ステートメントを訂正してください。

DIT1180I Value of parameter *parameter* too long

説明: パラメーターに誤った値を指定しました。
 ユーザーの処置: DITTO 呼び出しまたは制御ステートメントを訂正してください。

DIT1190I Value out of range for parameter *parameter*

説明: パラメーターに誤った値を指定しました。
 ユーザーの処置: DITTO 呼び出しまたは制御ステートメントを訂正してください。

DIT1200I Invalid or inconsistent KEYLOC or KEYLEN value

説明: 指定したキー長の値およびキー位置の値は、使用するレコードに合わないキーになります。

キー位置にキー長を加え 1 を引いた数が、レコード長以下でなくてはなりません。(例えば、キー位置が 50 でキー長が 10 の場合は、レコード長は 59 以上でなければなりません。)
 ユーザーの処置: キー長、キー位置、あるいはその両方を変更してください。

DIT1210I Increment value too high

説明: 増分値が指定したキー長に合いません。
 ユーザーの処置: 増分値またはキー長を変更してください。

DIT1302I Device *unit* not capable or spooled

説明: 穿孔カードを解釈する機能呼び出ししましたが、カード穿孔装置がカードを解釈できないか、装置が専用にされていません。
 ユーザーの処置: 解釈せずにカードにコピーするか、または印刷機能がある穿孔装置の接続/割り当てを行ってください。

DIT1500I End of *xxxxx* tape sensed

説明: 示されたテープがテープの終わり (つまりテープ終了 (EOT) マークの後) に位置しています。テープがリールであれば、テープが送りリールから巻き取られているかもしれません。
 ユーザーの処置: テープがその物理的な終わりの前で停止した場合は、必要に応じて注意しながら進めることができます (例えば、壊れたテープの物理的な終わりでまでをコピーする)。

DIT1600I Unit *unit* does not support Erase Tape

説明: テープ消去機能呼び出ししましたが、テープ装置がテープ消去を実行できません。
 ユーザーの処置: この機能を実行するには、IBM 3400 テープ装置 (またはそれを同等のもの) にテープを取り付けてください。

DIT1623I Error on *xxxxx* tape, CCBCOM *com*, CSW *csw*, sense 0-6 *sense*

説明: 示されたテープ装置でエラーが起きました。読み取りデータ・チェックが起こった場合は、続いてメッセージ DIT1630D が出される可能性があります。
 ユーザーの処置: メッセージ・テキストを保管してください。入出力エラー・メッセージのコンソール・ログを調べて、保管してください。エラーが続く場合は、メッセージ・テキストをシステム・サポートに報告してください。

DIT1630D Bypass record - B, ignore error - I, user correct - C

説明: エラーが入力テープの読み取り中に見つかりました。
 ユーザーの処置: レコードをスキップして次のレコードから読み取るには、B と応答してください。入力バッファーへ読み取ったままのレコードを使用するには、I と応答してください。レコードを訂正するには、C と応答してください。

DIT1700I No EOD delimiter is set

説明: テープ機能にファイル数として EOD を指定しましたが、SET 機能を使用して EOD 値を指定していません。テープのデフォルトの EOD 値はありません。
 ユーザーの処置: 別のファイル数を指定するか、SET 機能を使用して EOD 区切り文字を定義してください。

DIT1710I Input record exceeds nnnnn byte buffer

説明: DITTO は、レコードに十分な大きさを持つバッファを割り振ることができません。
 ユーザーの処置: 大きな仮想記憶で再度実行してください。

DIT1720I nnnnn byte input block exceeds nnnnn byte buffer

説明: DITTO は、ブロックに十分な大きさを持つバッファを割り振ることができません。
 ユーザーの処置: 大きな仮想記憶で再度実行してください。

DIT1810I No more data found on input tape

説明: 入力テープのデータの終わりに達しました。(テープ・マークのすぐ後でデータ・チェックが起こった場合は、DITTO はデータの終わりに達したと想定します。)

DIT2030I Software EOF found

説明: DITTO は指定のディスク位置で、すべてがゼロの制御インターバル (ソフトウェア・ファイルの終わり) を見つけました。そのため、これ以上処理を実行できません。
 ユーザーの処置: ソフトウェア EOF の後に続く FBA ブロックで継続するには、CISIZE 指定を省略してください。

DIT2040I No control interval found at PBN nnnn

説明: ゼロ以外の CISIZE を指定しましたが、有効な制御情報を見つけれませんでした。これは誤っている CISIZE パラメーターの値、または CI 境界を指示していない BEGIN パラメーターの値が原因と思われます。
 ユーザーの処置: CISIZE パラメーター、BEGIN パラメーター、またはその両方を訂正してください。原因に関する詳細情報については、CISIZE パラメーターを省略してください。FBA 装置に保管されたままのデータを見ることができます。

DIT2050I Track overflow occurred during write CKD

説明: CKD ディスクに書き込んでいるときにトラック・オーバーフロー状態が起きました。これは EOF レコードをデータ・レコードに置き換えているときの、DRL 機能で起こります。DITTO はファイルの終わり (EOF) レコードをリストアします。

DIT2180I No disk record found

説明: 指定のディスク・レコードがこのトラックにはありません。
 ユーザーの処置: 適切であれば、小さいディスク・レコード番号を指定してください。

DIT2190I No home address record

説明: ホーム・アドレス・レコードが、指定のディスク位置で見つかりません。これは、おそらくハードウェア・エラーです。
 ユーザーの処置: 機能を再度実行してください。問題が再発するようであれば、システム・サポートに連絡してください。

DIT2200D Should new EOF be written after this record? Y or N

説明: DRL 機能は、ファイルの終わりレコードを KEY および DATA フィールドがあるレコードに変更します。(EOF をデータ・レコードに変換します)
 ユーザーの処置: このレコードの後に新しいファイルの終わりレコードが必要であれば、Y と応答してください。必要でなければ、N または U を入力して、機能を終了してください。

DIT2210I EOF scan requires CISIZE

説明: EOF スキャンを FBA 装置に指定しましたが、CISIZE 値が与えられていません。
 ユーザーの処置: CISIZE を指定して機能を再度実行してください。

DIT2520I Output tape not positioned at load point or after EOF labels

説明: 出力テープが、ラベル付きデータ・セットを書き込むように正しく位置づけられていません。有効な位置は、ロード開始点および別のラベル付きファイルの後です。
 ユーザーの処置: テープを正しく位置づけて機能を再実行するか、またはラベル処理を行わずに機能を再実行してください。

DIT2530I No xxxxxx label found on input tape

説明: 示されたテープが、標準ラベル・テープでないか、正しく位置づけられていません。
 ユーザーの処置: ラベル付きテープを取り付けてください。そのテープを処理したいデータ・セット位置にセットして機能を再実行するか、ラベル処理を行わずに機能を再実行してください。

DIT3010I unit is invalid device for this function

説明: 指定した装置は、呼び出した機能に対する正しいタイプではありません。(例えば、ディスク機能に対する入力装置がテープ装置)
 ユーザーの処置: この機能に対する有効な装置を使用するか、指定した装置に対する適切な DITTO 機能を使用してください。

DIT3030I SYSnnn assignment invalid

説明: SYSnnn に割り当てた装置は、呼び出した機能に対する正しいタイプではありません。(例えば、テープ機能に対する入力装置がディスク)
 ユーザーの処置: 割り当てまたは制御ステートメントを訂正してください。

DIT3040I 'volser' volume information not available, GETVCE RC rc

説明: ボリューム識別ラベル VOLSER を持つディスクが、システムに認知されていません。
 ユーザーの処置: 有効なボリューム通し番号を選択してください。オンライン・ボリュームで問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT3050I SYSnnn is unassigned

説明: INPUT または OUTPUT パラメーターで指定したプログラマー論理装置、または EXTENT JCL ステートメント、または DITTO が使用するシステム論理装置が割り当てられていません。
 ユーザーの処置: JCL または INPUT または OUTPUT パラメーターを訂正して、ジョブを再度実行してください。

DIT3060I No LUBs available

説明: 論理装置ブロック (LUB) テーブルが満杯のため、プログラマー論理装置は動的に割り当てられません。
 ユーザーの処置: すでに割り当てられている装置を選択するか、必要のない装置の割り当てを解放して、機能を再度実行してください。

DIT3100I Data set dsname not found

説明: 指定した装置または使用している VSAM カタログに、データ・セット dsname が見つかりません。
 ユーザーの処置: 使用している DLBL および EXTENT ステートメントに、正しいデータ・セット名、ボリューム、およびカタログ情報があることを確認して、ジョブを再度実行してください。対話式 DITTO セッションでは、正しく応答してください。

DIT3112I DLBL statement dlblname missing or invalid

説明: FILEIN または FILEOUT パラメーターで与えた DLBL 名がラベル域にないか、または見つかった DLBL ステートメントは、呼び出した機能では使用できません。
 ユーザーの処置: DLBLNAME の DLBL および EXTENT ステートメントを与えるか、FILEIN または FILEOUT パラメーターにある名前を訂正してください。

DIT3120I EXTENT information for name missing or inconsistent

説明: EXTENT ステートメントが DLBL 指定に与えられていないか、または装置情報がないか、あるいは DITTO パラメーターと一致していません。
 ユーザーの処置: EXTENT 情報を与えるか訂正してください。

DIT3130I TLBL statement tlblname missing

説明: テープ機能を FILEIN または FILEOUT パラメーターを使用して呼び出しましたが、TLBL ステートメントが TLBLNAME に与えられていません。
 ユーザーの処置: TLBL ステートメントを与えてください。

DIT3162I Filename OPEN failed, cancel code xxx

説明: DLBL または TLBL ステートメントが指定しているデータ・セットがオープンしていません。
 ユーザーの処置: 同時に表示されるシステム・メッセージを参照して、データ・セットの状態を検査してください。

DIT3170I Invalid input/output data set for function name

説明: 指定した機能は、指定したデータ・セットでは使用できません。例えば、VSAM 機能は順次データ・セットを処理できません。SAM 機能は順次データ・セットにのみ使用できます。
 ユーザーの処置: そのデータを処理できる機能を指定してください。基本ディスク機能を使用して、編成が分からないデータを検査することができます。

DIT3182I Input/Output/Work data set filename operation failed, cancel code xxx

説明: 示された操作が失敗しました。
 ユーザーの処置: 付随するシステム・メッセージを探し、適切なシステム情報を参照してください。

DIT3190I Unable to process CISIZE 0

説明: SAM 入力機能が呼び出され、入力データ・セットが FBA 装置にあることを指定しました。入力データ・セットの形式 1 ラベルの CISIZE にゼロがあり、データ・セットが DTFPH によって作成されたことを示しています。このデータ・セットは、DITTO のデータ・セット機能で処理できません。

DIT3310I Permanent I/O error on input/output

説明: 予期しない戻りコードが、読み取りまたは書き込み操作に返されました。
 ユーザーの処置: 詳細情報については、対応するシステム・メッセージを参照してください。

DIT3500I Block size (nnnnn) invalid for FIXED,nnnnn output

説明: ブロック・サイズがレコード・サイズと等しくないデータ・セットに、固定長の非ブロック化形式のレコードを書き込むことはできません。
 ユーザーの処置: レコード・サイズに等しいブロック・サイズを指定するか、異なるレコード形式を指定してください。

DIT3510I Input data length (length) not multiple of reccize (reccize)

説明: 入力ブロックまたはレコードが、出力レコード・サイズと同じ、または倍数ではない長さです。
 ユーザーの処置: 制御ステートメントまたは入力データを訂正してください。

DIT3520I Block size (nnnnn) exceeds maximum (max)

説明: 作業中のデータ・セットのタイプまたはファイルにとって大きすぎるブロックを書き込もうとしました。ブロック・サイズは使用しているレコード形式、CKD 装置のトラック容量、FBA 制御インターバル・サイズ、またはカタログに定義

されているデータ・セットあるいはファイルの属性によって制限されています。

ユーザーの処置: 小さいレコード・サイズを指定するか、または出力ファイル定義を変更してください。

DIT3530I Record size (recsize) exceeds maximum (max)

説明: 作業中のデータ・セットのタイプまたはファイルにとって大きすぎるレコードを書き込もうとしました。レコード・サイズは使用しているレコード形式、CKD 装置のトラック容量、FBA 制御インターバル・サイズ、またはカタログに定義されているデータ・セットあるいはファイルの属性によって制限されています。

ユーザーの処置: 小さいレコード・サイズを指定するか、または出力データ・セット/ファイル定義を変更してください。

DIT3540I Block size (blksize) not multiple of record size (recsize)

説明: ブロックは 1 つまたは複数のレコードからなっています。ブロック・サイズはレコード・サイズと同じか、またはレコード・サイズの倍数でなければなりません。

ユーザーの処置: 別のブロック・サイズまたは別のレコード・サイズを指定してください。

DIT3550I Record size (nnnnn) invalid for FIXED,nnnnn output

説明: 検出したレコード・サイズは、出力指定と適合しません。

ユーザーの処置: 入力または出力仕様を訂正してください。

DIT3560I Inconsistent record size (nnnnn) for FIXED,nnnnn input

説明: 検出したレコード・サイズは、入力指定と適合しません。

ユーザーの処置: 入力または出力仕様を訂正してください。

DIT3570I Inconsistent block length field X'xxxx', block length is length

説明: 可変長 (ブロック化) の入力の読み取り中に、DITTO はブロック長フィールドがデータ・ブロックの物理的な長さとは違っている、データ・ブロックを見つけました。

ユーザーの処置: 入力フィールドを訂正して、誤っているブロックの前で停止するように処理を制限するか、入力仕様を訂正してください。

DIT3580I Inconsistent record length field X'xxxx'

説明: 可変長 (ブロック化) の入力の読み取り中に、DITTO はレコード長フィールドがゼロまたはデータ・ブロックの物理的な長さより大きい、データ・ブロックを見つけました。

ユーザーの処置: 入力フィールドを訂正して、誤っているブロックの前で停止するように処理を制限するか、入力仕様を訂正してください。

DIT3590I REXX variable VAR is empty

説明: 示された REXX 変数にストリングがないか、または定義されていません。

ユーザーの処置: DITTO を呼び出す前に、必要な値でプロシージャの REXX 変数を初期設定してください。

DIT3600I REXX stem count VAR invalid

説明: 示された REXX 変数に有効な値がないか、または定義されていません。

ユーザーの処置: DITTO を呼び出す前に、正しいステム・カウントでプロシージャの REXX 変数を初期設定してください。

DIT3610I Incorrect block length field X'xxxx', block nnnn, length nnnn

説明: 示されたブロックに可変長形式のデータが含まれていないか、ブロック記述子フィールドの値がデータ・ブロックの物理長と異なっています。

ユーザーの処置: 入力データを訂正するか、正しくないブロックの前で停止するように処理を制限するか、または入力仕様を訂正してください。

DIT3620I Incorrect record length field X'xxxx', block nnnn, offset nnnn

説明: 示されたブロックに可変長形式のデータが含まれていないか、レコード記述子フィールドの値が非ブロック化には無効です。

ユーザーの処置: 入力データを訂正するか、正しくないブロックの前で停止するように処理を制限するか、または入力仕様を訂正してください。

DIT3630I Incorrect spanned record segmentation, block nnnn, record nnnn

説明: 示されたブロックに、完全なレコードにアセンブルすることができない可変長スパン・レコードのセグメントが含まれています。

ユーザーの処置: 入力データを訂正するか、正しくないブロックの前で停止するように処理を制限するか、または入力仕様を訂正してください。

DIT3700I Key positioning not possible

説明: 制御インターバル・アクセスまたは NONINDEXED VSAM 入力でキー位置を指定することはできません。

ユーザーの処置: キー位置の指定を除去してください。

DIT3710I Output data set not ESDS

説明: 複数のテープ・データ・セットを 1 つの VSAM データ・セットにコピーするために、NFILES パラメーターを指定して TV 機能を使用しました。出力 VSAM データ・セットは、入力順データ・セットでなければなりません。

ユーザーの処置: 出力データ・セットとして ESDS を指定してください。

DIT3720I Inconsistent key length or key position

説明: ある VSAM キー順データ・セットから別の VSAM キー順データ・セットへ、レコードを複写しました。出力データ・セットは、入力データ・セットと比べてキー位置またはキーの長さが違っています。

ユーザーの処置: キー位置またはキーの長さを変更してよいかどうかを確認してください。

DIT3750I VSAM macro RC X'rc', Error Code X'xx' yyy

説明: VSAM マクロが予期しないコードを返しました。メッセージには失敗したマクロ、戻りコードとエラー・コード、およびいくつかのエラーについての追加説明があります。(詳しくは、現行リリースの VSAM の説明を参照してください。)

X'xx' は 16 進数で、

- OPEN または CLOSE 障害であれば、ACB のエラー・バイトです。
- POINT、GET、または PUT 障害であれば、RPL のエラー・バイトです。
- SHOWCB または TESTCB 障害であれば、レジスター 0 の内容です。

yyy はエラーに関する追加情報を表示します。

ユーザーの処置: VSAM の現行リリースの資料に記述されているとおりに修正処置を行ってください。

DIT3920I OPEN error X'xx', VSAM/SAM feature not available

説明: インストールされている SAM 機能用の VSE/VSAM スペース管理なしで、SAM ESDS をオープンしようとした。

ユーザーの処置: 機能に正しい VSAM 環境を与えてください。

DIT3930D OPEN warning code X'xx' yyy. Continue ? Y or N

説明: VSAM OPEN はメッセージに示されている警告コードを返しました。DITTO はこの条件を無視するか、または機能を終了するかの判断を求めています。(詳細情報については、ご使用の VSAM の現行リリースの資料をご覧ください。)

ユーザーの処置: VSAM の現行リリースの資料に記述されているとおりに修正処置を行ってください。続けるには Y を、機能を終了するには、N を入力してください。

DIT3950I Recovery from invalid RBA (nnnnn) failed

説明: VSAM は入力した RBA を拒否しました。高位の RBA で最初のレコードを見つける試みも失敗しました。

ユーザーの処置: レコードの始まりと一致する RBA を入力してください。

DIT3962I SHOWCAT for input\output data set failed, RC rc, Error Code rtcd

説明: 指定したデータ・セットに関する情報を探索しているときに、VSAM SHOWCAT マクロに障害 (戻りコード RC を与えて) が起こりました。VSAM 戻りコードの値は RTCD で

す。これらのコードの説明については、VSAM の現行リリースの資料を参照してください。SHOWCAT マクロが VSAM 代替索引操作のために障害が起きたのであれば、VSAM リカバリー処置のために、誤った戻りコードが表示されるかもしれません。

ユーザーの処置: コードの説明に基づいて適切な処置を行ってください。

DIT4050A Mount next input tape on unit, then press ENTER

説明: テープが終わりに達して、マウントする続きのテープがあります。システムは応答を待ちます。

ユーザーの処置: 新しいテープを取り付けて実行キーを押してください。終了するには、QUIT、CANCEL、EXIT、EOJ を入力してください。

DIT4070D Tape volume to be labeled on unit. Enter 'volser', Cancel - U

説明: 標準ラベル出力を指定しましたが、指定したテープ・ボリュームにはラベルがありません。システムは応答を待ちます。

ユーザーの処置: ボリュームに使用する順次識別を入力するか、U を入力して取り消してください。

DIT4090D Unexpired file name date on tape unit,vol1. Ignore - I, Cancel - U

説明: 出力テープとして取り付けたボリュームが、満了日に達していません。システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: 出力に使用できるテープであることを確認して、I を入力して続けるか、または U を入力して取り消してください。

DIT4100A Mount next output tape on unit, then press ENTER

説明: 出力テープの終わりに達しましたが、書き込む出力がまだあります。システムは応答を待ちます。

ユーザーの処置: 新しいテープを取り付けて実行キーを押してください。システムがアンロードしないように設定している場合は、テープは巻き戻りますが、アンロードされないことに注意してください。終了するには、QUIT、CANCEL、EXIT、EOJ を入力してください。

DIT4110A Ready unit, then press ENTER

説明: 装置 unit が操作不能です。システムは応答を待ちます。

ユーザーの処置: 正しい装置が取り付けられ、割り当てられていることを確認してください。装置を作動可能にして実行キーを押してください。終了するには、QUIT、CANCEL、EXIT、EOJ を入力してください。

DIT4120A Unprotect tape on unit, press ENTER when ready

説明: 保護されているテープに書き込もうとしています。システムは応答を待ちます。
 ユーザーの処置: テープの保護を解除するか、テープを変えて実行キーを押してください。終了するには、QUIT、CANCEL、EXIT、EOJ を入力してください。

DIT4130D Manual rewind/unload detected on unit, press ENTER to rewind and continue

説明: オペレーターの手動介入要求は、示された装置で起こりました。システムは応答を待ちます。
 ユーザーの処置: 実行キーを押して巻き戻して続けるか、または QUIT、CANCEL、EXIT、EOJ を入力して終了してください。

DIT4140D More input volsers required. Enter 'volser', Cancel - U

説明: 機能に指定されたよりも多くの入力ボリュームが必要です。システムは応答を待ちます。
 ユーザーの処置: 次の入力ボリュームに使用する順次 ID を入力するか、U と入力して取り消してください。

DIT4150D More output volsers required. Enter 'volser', Cancel - U

説明: 機能に指定されたよりも多くの出力ボリュームが必要です。システムは応答を待ちます。
 ユーザーの処置: 次の出力ボリュームに使用する通し番号を入力するか、U と入力して取り消してください。

DIT5500I Library request REQUEST failed, RC rc, RSCD rscd

説明: ライブラリー要求が、示された戻りコードと理由コードで失敗しました。
 ユーザーの処置: 詳細情報については、VSE の現行リリースの資料を参照してください。

DIT5900I Format of DB field incorrect at offset nnnnn

説明: 示された 2 バイト文字セット・フィールドの形式に誤りがあります。DITTO は奇数の長さの 2 バイト・フィールドを見つけました。

DITTO は最初の誤りのあるフィールドを見つけただけ、このメッセージを出します。DITTO はこのメッセージをレコードの終わりに印刷し、最後の文字を EBCDIC ブランク (X'40') で置き換えます。機能は続けます。

DIT5910I Mixed field ends before end of DB subfield at offset nnnnn

説明: 示されたオフセットにある 2 バイト文字セット (DBCS) サブフィールドが、混合 DBCS の終わりと EBCDIC フィールドの間でリセットされていません。例えば、DBCS と EBCDIC の混合データの中に、2 バイト・フィールドの終わりを示すシフトイン文字 (X'0F') がありません。

DITTO は最初の誤りのあるフィールドを見つけただけ、このメッセージを出します。DITTO はこのメッセージをレコードの終わりに印刷します。機能は続けます。
 ユーザーの処置: FMT コマンドにあるフィールド定義を訂正してください。機能を再度実行してください。

DIT5920I One or more records with incorrect DB fields found

説明: DITTO は 1 つまたは複数のレコードに誤りのある 2 バイト文字セット・フィールドを検出しました。

DITTO は、このメッセージをリストの終わりに印刷します。これは、DITTO が 1 つまたは複数のエラー・メッセージを出したことを示しています。機能は続けます。
 ユーザーの処置: メッセージ DIT5900I および DIT5910I のリストを検査して、誤りのあるレコードを見つけください。

DIT6003I Minimum requirement to run this level of DITTO is VSE/ESA 2.4

説明: VSE で DITTO/ESA リリース 3 を実行するには、VSE/ESA バージョン 2 リリース 4 またはそれ以上が必要です。
 ユーザーの処置: 現在ご使用のシステム・レベルで実行できるレベルの DITTO を使用してください。

DIT6040I Load of module name failed, module not found

説明: DITTO が、DITTO 呼び出しに必要なモジュールを見つけることができません。このモジュールが削除されたか、保護されている可能性があります。例えば、このモジュールでサポートされる機能がインストール・システムでは必要ない場合です。
 ユーザーの処置: この機能を使用する必要がある場合、システム・サポートに連絡してください。

DIT6050I Successfully recovered from ABEND

説明: DITTO の実行中に ABEND が起こりました。状況によっては、ダンプが作成されます。
 ユーザーの処置: システム・エラーまたは DITTO メッセージを検査して、修正処置を行ってください。問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT6083I CDLOAD of module xxxxxxxx failed, RC rc

説明: モジュール xxxxxxxx のロードが、予期しないエラーで失敗しました。rc は、CDLOAD 戻りコードです。
 ユーザーの処置: VSE の現行リリースの資料にしたがって、適切な処置を取ってください。

DIT6090I Access to REXX variable pool failed, xxx R15 nn

説明: REXX 変数プール・システム・サービスとの接続を確立しようとしていたときに、障害が起こりました。
 ユーザーの処置: システム・サポートに連絡してください。

DIT6100I Unexpected code returned from REXX variable interface, RC nn

説明: REXX 変数プールからの読み取り、または書き込みをしているときに、REXX システム・インターフェースが予期しない結果を返しました。

ユーザーの処置: システム・サポートに連絡してください。

DIT6133I I/O error on unit, CCBCOM com, CSW csw, sense 0-3 sense

説明: 示された装置でリカバリー不能な入出力エラーが起りました。

ユーザーの処置: 正しい装置を使用しているか、およびそれが正しくオンラインにセットされているかを確かめてください。入出力エラー・メッセージのコンソール・ログを調べて、保管してください。エラーが続く場合は、メッセージ・テキストをシステム・サポートに報告してください。

DIT6230I Function xxxx not possible on read/only disk

説明: DITTO 機能が呼び出されましたが、ディスクは読み取り専用モードでリンクされています。

ユーザーの処置: ディスクを読み取り/書き込みモードでリンクできるかどうかをチェックしてください。できる場合は、読み取り/書き込みモードでディスクを再リンクし、機能を再実行してください。

DIT6750I action VTOC failed, RC rc

説明: VTOC アクセス操作が予期しないエラーで失敗しました。失敗した処置は、OPEN または READ です。戻りコードは、問題のタイプを示しています。

ユーザーの処置: 戻りコードが 012 または 004 であれば、ROD コマンドを出してください。LVTOC ユーティリティー・プログラムを実行して、エラーを検査してください。問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT6760I Extent setup failed, EXTENT macro RC rc

説明: DITTO は EXTENT マクロ問題を検出しました。

ユーザーの処置: システム・サポートに連絡してください。

DIT6770I Label access failure - action RC rc

説明: ラベル域へのアクセスが予期しないエラーで失敗しました。メッセージは、失敗した処置と戻りコードを示します。

ユーザーの処置: ROD コマンドを出してください。LSERV ユーティリティー・プログラムを実行して、エラーを検査してください。問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT6780I Request canceled, see console messages for error information

説明: 入力/出力要求が失敗しました。追加の VSE システム・エラー・メッセージが、エラーの原因を識別します。

ユーザーの処置: 関連するエラー・メッセージおよびコードについては、コンソール・ログを参照してください。エラー・コ

ードの記述については、VSE の現行リリースの資料を参照してください。

DIT6790I Spool access error, XPCB RC rc, FDBK rtcd

説明: DITTO はスプール・アクセス問題を検出しました。

ユーザーの処置: システム・サポートに連絡してください。

DIT6800I Label area not available, update in progress

説明: システム・ラベル域へのアクセスが失敗しました。ラベル域は別のタスクがロックしています。

ユーザーの処置: システム・コンソールの保留中の応答を確認して、機能を再度実行してください。問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT6810I Assigning unit failed, - macro RC rc

説明: 装置を割り当てられません。示されたマクロが予期しないエラーで失敗しました。

ユーザーの処置: 装置の状態を確認してください。示されたマクロについては、資料に記述されているとおりに適切な処置を行ってください。問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT6820I macro for unit failed, R15 rc

説明: 示された装置に対する示されたマクロが、予期しない戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: 示されたマクロについては、資料に記述されているとおりに適切な処置を行ってください。問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT6830I macro failed, R15 rc

説明: 示されたマクロが、予期しない戻りコードで失敗しました。

ユーザーの処置: 示されたマクロについては、資料に記述されているとおりに適切な処置を行ってください。問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT6840I macro failed, RC rc RSCD rscd

説明: 示されたマクロが、予期しない戻りコードおよび理由コードで失敗しました。

ユーザーの処置: 示されたマクロについては、資料に記述されているとおりに適切な処置を行ってください。問題が解決しなければ、システム・サポートに連絡してください。

DIT9990I DITTO problem - message nnnn not found in table

説明: DITTO はメッセージ・テーブルで、メッセージ番号 NNNN を見つけることができません。これは DITTO エラーと考えられます。

ユーザーの処置: システム・サポートに連絡してください。

第 2 章 接頭部 EAG の REXX/370 実行時メッセージ

このトピックでは、システム・アプリケーション体系 REXX/370 用の IBM ライブラリーから出されるメッセージへの応答に役立つ内容が説明されています。ランタイム・メッセージが説明されています。

ランタイム・メッセージでは、メッセージ番号の最初の 2 桁は REXX エラー番号を表し、最後の 2 桁はサブコードです。サブコードは 2 次メッセージに使われ、エラーをさらに詳しく識別します。

EAGREX=REXX/370 実行時メッセージ

EAGREX0248E Unable to load IBM Library for システム・アプリケーション体系 REXX/370

説明: プログラムは、NUCXLOAD コマンドを使用してライブラリーを中核エクステンションとしてロードしていません。このエラーは、仮想マシンがライブラリーにアクセスしていない、またはストレージが足りない場合に起こります。この問題が訂正されない限り、コンパイルされている REXX プログラム・ユーティリティを実行できません。

ユーザーの処置: ライブラリー (EAGRTLIB MODULE) があるディスクにアクセスしていることを確認してください。アクセスしている場合は、ミニディスクまたは SFS ディレクトリを解放するか、または中核エクステンションを削除して、さらにストレージを獲得してください。あるいは、仮想マシンに大きな仮想記憶サイズを定義して、CMS を再 IPL してください。

EAGREX0249E Unable to load EAG Message Repository

説明: 以下の理由のいずれかが原因で、プログラムを実行できませんでした。以下のテキスト中の * は、言語 ID を表しています。

- メッセージ・リポジトリが言語 DCSS にインストールされておらず、アクセスしているディスクに EAGUME TXT* も EAGUME TEXT も見つからない。
- 読み取り/書き込み A ディスクがなく、メッセージ・リポジトリのファイル・タイプが TXT* である。
- 読み取り/書き込み A ディスクに十分なスペースがなく、メッセージ・リポジトリのファイル・タイプが TXT* である。

ユーザーの処置: メッセージ・リポジトリが言語 DCSS、またはディスクのどちらかで使用できることを確認してください。言語 DCSS が使用できなくて、そのファイル・タイプが TXT* であれば、読み取り/書き込み A ディスクが、メッセージ・リポジトリを記憶するのに十分な大きさであることを確認してください。問題を解決できない場合は、IBM の担当者に報告してください。詳しくは、「IBM Compiler and Library for システム・アプリケーション体系 REXX/370: Diagnosis Guide」を参照してください。言語 ID (*) の値の説明は、「VM/ESA CP Planning and Administration」、「VM/SP Administration」、「VM/XA Planning and Administration」、

および「VM/ESA Planning and Administration」にあります。

EAGREX0300E Error 3 running compiled program, line nn: Program is unreadable

説明: 2 次メッセージを参照してください。

EAGREX0301I Compiled EXEC does not have fixed length records

説明: コンパイルした プログラム は固定長レコードではありません。コンパイラーは固定長レコードを CMS のコンパイルした プログラム に使用しますが、レコード形式は後で変更されます。

ユーザーの処置: プログラムを再度コンパイルするか、またはプログラムを MVS からインポートした場合は、REXXF プログラム を使用して CMS 用に形式化してください。

EAGREX0302I Program is not a valid compiled EXEC

説明: プログラム・ファイルのコンパイル・コードが、コンパイラーが生成した形式ではありません。

ユーザーの処置: プログラムを再度コンパイルしてください。

EAGREX0303I Level of IBM Library for システム・アプリケーション体系 REXX/370 too low

説明: プログラムが、システムにインストールされているよりも新しいバージョンのライブラリーでコンパイルされているため、実行できません。古いレベルのライブラリーを使用してください。

ユーザーの処置: プログラムをコンパイルするのに使用した、コンパイラーのバージョンに対応するライブラリーのバージョンがあるシステムで、プログラムを実行してください。あるいは、ソース・ファイルにアクセスできれば、プログラムを実行したいシステムでプログラムをコンパイルし直してください。コンパイルし直した後もエラーが続くようであれば、システム・サポート担当者に連絡してください。

EAGREX0304I The program cannot run with the Alternate Library

説明: プログラムを NOALTERNATE コンパイラー・オプションでコンパイルしました。

ユーザーの処置: 以下のいずれかを行ってください。

- プログラムを ALTERNATE コンパイラー・オプションでコンパイルする。
- インストール・システムを検査して、使用しているライブラリーを確認する。

EAGREX0400E Error 4 running compiled program, line nn: Program interrupted

説明: システムが REXX プログラムの実行に割り込みました。これは通常、HI (解釈の停止) 即時コマンドを出したことが原因です。

EAGREX0500E Error 5 running compiled program, line nn: Machine storage exhausted

説明: ライブラリーが作業域と変数に必要なストレージを獲得することができません。これはコンパイルしたプログラムを呼び出したプログラムが、使用可能なストレージのすべてを使い果たしたために起こることがあります。

ユーザーの処置: 大きな区画サイズを使用してください。

EAGREX0600E Error 6 running compiled program, line nn: Unmatched "/" or quote

説明: コメントまたはリテラル・ストリングが開始されていますが、終了していません。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。リテラル・ストリングまたはコメントを訂正してください。

EAGREX0601I Unmatched quote

説明: リテラル・ストリングを始めましたが、終わっていません。

EAGREX0602I Unmatched "/"

説明: コメントを始めましたが、終わっていません。

EAGREX0603I Unmatched shift-out character in DBCS string

説明: シフトアウト/シフトインが対になっていない (つまりシフトアウト文字があるのにシフトイン文字がないか、またはシフトアウト文字とシフトイン文字の間のバイト数が奇数) リテラル・ストリングまたはコメントを OPTIONS 'ETMODE' で処理しました。

EAGREX0700E Error 7 running compiled program, line nn: WHEN or OTHERWISE expected

説明: SELECT 命令には少なくとも 1 つの WHEN 文節 (および場合によっては OTHERWISE 文節) が必要です。他の命令を検出した場合も、(または OTHERWISE の前に WHEN 文節がない場合も) このメッセージが出されます。

ユーザーの処置: WHEN 文節を SELECT の後に挿入してください。

EAGREX0800E Error 8 running compiled program, line nn: Unexpected THEN or ELSE

説明: プログラムは対応する IF または WHEN 文節を最初に実行しないで THEN または ELSE 文節を実行しようとした。このエラーは、制御が IF または WHEN 構成に移ったとき、つまり THEN または ELSE が IF または WHEN 構成の文脈の範囲外にある場合、起こります。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX0801I Unexpected THEN

説明: プログラムは対応する IF または WHEN 文節を最初に実行しないで THEN 文節を実行しようとした。このエラーは、制御が THEN 文節に移ったときに起こります。

EAGREX0802I Unexpected ELSE

説明: プログラムは対応する IF 文節を最初に実行しないで ELSE 文節を実行しようとした。このエラーは、制御が ELSE 文節に移ったときに起こります。

EAGREX0900E Error 9 running compiled program, line nn: Unexpected WHEN or OTHERWISE

説明: プログラムは、対応する SELECT 命令を最初に実行しないで、WHEN または OTHERWISE 文節を実行しようとした。このエラーは、制御が WHEN または OTHERWISE 文節に移ったときに起こります。つまり、WHEN または OTHERWISE が、SELECT 命令の文脈の範囲外にあります。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX0901I Unexpected WHEN

説明: プログラムは、対応する SELECT 命令を最初に実行しないで、WHEN 文節を実行しようとした。このエラーは、制御が WHEN 文節に移ったときに起こります。

EAGREX0902I Unexpected OTHERWISE

説明: プログラムは、対応する SELECT 命令を最初に実行しないで、OTHERWISE 文節を実行しようとした。このエラーは、制御が OTHERWISE 文節に移ったときに起こりません。

EAGREX1000E Error 10 running compiled program, line nn: Unexpected or unmatched END

説明: プログラムは、対応する DO ループまたは SELECT 文節が活動状態ではないときに END に着きました。このエラーは、制御がループに移るとき、またはプログラムに END キーワードが多すぎるときに起こります。SIGNAL 命令は現在のループを終了するので、制御をループ内のある場所から別の場所へ移すために使用することはできないことに注意してください。このメッセージのその他の原因として、THEN または

ELSE サブキーワードのすぐ後に END がある、または DO 文節にある制御変数名と一致しない名前を END キーワードに指定していることが挙げられます。

**EAGREX1100E Error 11 running compiled program, line
nn: Control stack full**

説明: このメッセージは、プログラムがライブラリーのランタイム制限を超えたときに出されます。

EAGREX1101I PROCEDURE nesting exceeds 30000

説明: このメッセージは、30 000 活動プロシーチャーの制限を超えたときに出されます。正しく終了しない再帰的サブルーチンは、このメッセージが出るまでループします。

**EAGREX1300E Error 13 running compiled program, line
nn: Invalid character in program**

説明: リテラル (引用符でくくられた)・ストリングまたはコメント以外のところにある、解釈されるべき文字列にブランクまたは以下の文字以外の文字があります。

A-Z a-z 0-9 (英数字)
@ # \$ % . ? ! _ (名称文字)

& * () - + = ¥ ~ ' " ; : < , > / | %
(特殊文字)

OPTIONS 'ETMODE' が有効な場合は
任意の DBCS 文字。

プログラムを別のシステムからインポートした場合は、文字の変換が正しいことを確認してください。

**EAGREX1400E Error 14 running compiled program, line
nn: Incomplete DO/SELECT/IF**

説明: プログラムの終わり (または INTERPRET 命令の文字列の終わり) で、一致する END がない DO または SELECT、または命令が後にない THEN 文節または ELSE 文節を検出しました。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX1401I Incomplete DO instruction: END not found

説明: 前の DO に一致する END がありません。

EAGREX1402I Incomplete SELECT instruction: END not found

説明: 前の SELECT に一致する END がありません。

EAGREX1403I Instruction expected after THEN

説明: THEN 文節の後に命令がありません。

EAGREX1404I Instruction expected after ELSE

説明: ELSE 文節の後に命令がありません。

**EAGREX1500E Error 15 running compiled program, line
nn: Invalid hexadecimal or binary string**

説明: 16 進数ストリングは、先行ブランクまたは末尾ブランクを持つことはできません。バイト境界で組み込みブランクのみを含めることができます。数字は 0-9、文字は A-F (小文字も含む) が使用できます。同様に、バイナリー・ストリングは、4 ビットのグループ境界で追加したブランクだけが使用できます。数字は 0 と 1 が使用できます。

**EAGREX1600E Error 16 running compiled program, line
nn: Label not found**

説明: SIGNAL 命令で指定した、または SIGNAL VALUE 命令にある式の結果によって指定された、ラベルが見つかりません。式にエラーがあるか、ラベルが定義されていないと思われます。

**EAGREX1601I Label reference on SIGNAL is mixed case,
but label is uppercase**

説明: SIGNAL 命令で指定した、または SIGNAL VALUE 命令にある式の結果によって指定された、ラベルは大小混合文字列ですが、参照されるラベルの名前が大文字で定義されています。

ユーザーの処置: 式を変更して、大文字の文字列にしてください。

**EAGREX1700E Error 17 running compiled program, line
nn: Unexpected PROCEDURE**

説明: PROCEDURE 命令が誤った位置で検出されました。このエラーは、CALL 命令または関数参照が正しく呼び出したのではなく、PROCEDURE 命令によって「すべてを無効」にしたのが原因です。

**EAGREX1800E Error 18 running compiled program, line
nn: THEN expected**

説明: REXX のすべての IF 文節および WHEN 文節は、THEN 文節が後になければなりません。THEN 文節が必要なところで別の文節が見つかりました。

**EAGREX1900E Error 19 running compiled program, line
nn: String or symbol expected**

説明: SIGNAL または CALL 命令は、リテラル・ストリングまたは記号が必要ですが、どちらも見つかりませんでした。ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX1901I CALL not followed by routine name/ON/OFF

説明: CALL 命令ではルーチン名、条件名がある ON、または条件名があるオフ が必要です。

EAGREX1902I SIGNAL not followed by label name or VALUE/ON/OFF or expression

説明: SIGNAL の後にラベル名、ON または オフ または VALUE がありません。

EAGREX2000E Error 20 running compiled program, line nm: Symbol expected

説明: 文節 CALL ON、END、ITERATE、LEAVE および SIGNAL ON では、1 つの記号が必要です。必要なときに記号が与えられていないか、別のトークンがあるか、記号の後に別のトークンがあります。

あるいは、DROP、UPPER、および PROCEDURE EXPOSE 命令には、記号のリストまたは変数参照が必要ですが、別のトークンが検出されました。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX2001I Variable expected

説明: 変数が必要なところに別のトークンがあります。

EAGREX2002I UPPER list may contain only simple or compound variables

説明: UPPER 命令の変数のリストに、許可されたもの以外の項目があります。

EAGREX2003I NAME not followed by routine name

説明: CALL ON 文節では、サブキーワード NAME の後にルーチンの名前がなければなりません。

EAGREX2004I NAME not followed by label name

説明: SIGNAL ON 文節では、サブキーワード NAME の後にラベル名がなければなりません。

EAGREX2100E Error 21 running compiled program, line nm: Invalid data on end of clause

説明: 文節の後にコメント以外のトークンがあります。コメント以外のトークンは使用できません。

EAGREX2200E Error 22 running compiled program, line nm: Invalid character string

説明: OPTIONS 'ETMODE' で、文字または文字の組み合わせがある記号を検出しました。DBCS 文字がある記号は使用できません。

EAGREX2300E Error 23 running compiled program, line nm: Invalid SBCS/DBCS mixed string

説明: シフトアウト - シフトインが対になっていない文字ストリング (つまり、シフトアウトがあるがシフトインがないか、またはシフトアウト - シフトインの間のバイト数が奇数) を、OPTIONS 'EXMODE' で処理したか、DBCS 関数に渡しました。

ユーザーの処置: 文字ストリングを訂正してください。

EAGREX2400E Error 24 running compiled program, line nm: Invalid TRACE request

説明: TRACE 命令で指定した設定値が、有効な TRACE 設定値のいずれにも一致しない文字で始まりました。

EAGREX2500E Invalid sub-keyword found

説明: 言語プロセッサは命令の特定のサブキーワードを必要としましたが、別のものを検出しました。例えば、NUMERIC の 2 番目のトークンはサブキーワード DIGITS、FORM または FUZZ でなければなりません。NUMERIC の後に別のものがあれば、このメッセージが出ます。

EAGREX2501I PARSE not followed by a valid sub-keyword

説明: UPPER サブキーワード、またはサブキーワード ARG、EXTERNAL、NUMERIC、PULL、SOURCE、VALUE、VAR または VERSION のいずれも後にない PARSE キーワードを検出しました。

EAGREX2502I PARSE UPPER not followed by a valid sub-keyword

説明: サブキーワード ARG、EXTERNAL、NUMERIC、PULL、SOURCE、VALUE、VAR または VERSION のいずれも後にない PARSE UPPER キーワードを検出しました。

EAGREX2503I CALL ON/OFF not followed by supported condition name

説明: 条件 ERROR、FAILURE または HALT のいずれかが、CALL ON または CALL オフ 命令に必要です。

EAGREX2504I ";" or sub-keyword NAME expected

説明: 誤ったデータを CALL ON 命令の終わりで検出しました。条件名の後で受け入れられるサブキーワードは NAME だけです。

EAGREX2505I NUMERIC not followed by DIGITS/FORM/FUZZ

説明: NUMERIC 命令では、サブキーワード DIGITS、FORM または FUZZ のいずれかが必要です。

EAGREX2506I NUMERIC FORM not followed by expression/valid sub-keyword/";"

説明: 誤ったデータを NUMERIC FORM の終わりで検出しました。FORM の後で認識できるデータは、式またはサブキーワード VALUE、SCIENTIFIC または ENGINEERING のいずれかだけです。

EAGREX2507I PROCEDURE not followed by EXPOSE or ";"

説明: 誤ったデータを PROCEDURE 命令で検出しました。PROCEDURE 命令で認識できるサブキーワードは EXPOSE だけです。

EAGREX2508I SIGNAL ON/OFF not followed by supported condition name

説明: 条件 ERROR、FAILURE、HALT、NOVALUE、または SYNTAX のいずれかが、SIGNAL ON または SIGNAL オフ命令に必要です。

EAGREX2600E Error 26 running compiled program, line nn: Invalid whole number

説明: 整数計算を必要とする式が、整数を NUMERIC DIGITS の現在の設定の範囲内で計算しなかったか、999 999 999 の使用を意図した場合は、その制限より大きいです。

EAGREX2601I Exponent not a whole number

説明: 指数 (^) 演算子の右側の項が、NUMERIC DIGITS の現在の設定内の整数に計算されなかったか、または 999 999 999 の使用を意図した場合は、その制限を超えました。

EAGREX2602I Returned value not a whole number

説明: (REXX プログラムがコマンドとして呼び出されたとき) EXIT または RETURN 命令が返された戻りコードが、-2147483648 から 2147483647 までの範囲内の整数ではありません。

EAGREX2603I NUMERIC setting not a whole number

説明: NUMERIC 命令の式は、整数を NUMERIC DIGITS の現在の設定の範囲内で計算しなかったか、999 999 999 の使用を意図した場合は、その制限より大きいです。

EAGREX2604I Quotient from integer division not a whole number

説明: 整数除算 (%) の結果が、NUMERIC DIGITS の現在の設定の範囲内の整数ではありません。

EAGREX2605I Quotient from remainder operation not a whole number

説明: 剰余 (//) を得るために実行した整数除算の結果が、NUMERIC DIGITS の現在の設定の範囲内の整数ではありません。

EAGREX2606I Repetition value in DO not a whole number

説明: DO 文節の反復値が、整数を NUMERIC DIGITS の現在の設定の範囲内で計算しなかったか、999 999 999 の使用を意図した場合は、その制限より大きいです。

EAGREX2607I Column number in PARSE not a whole number

説明: 絶対定位置パターンの桁数、または PARSE 命令の絶対定位置パターンとして使用する変数パターンに指定された変数の値が、NUMERIC DIGITS の現在の設定の範囲内の整数ではないか、999 999 999 の使用を意図した場合は、その制限より大きいです。

EAGREX2608I Relative position in PARSE not a whole number

説明: 相対定位置パターンとして指定された数、または PARSE 命令の相対定位置パターンとして使用する変数パターンに指定された変数の値が、NUMERIC DIGITS の現在の設定の範囲内の整数ではないか、999 999 999 の使用を意図した場合は、その制限より大きいです。

EAGREX2609I Input to stream I/O function not a whole number

説明: ストリーム I/O 関数に入力として指定した数が、整数ではありません。

EAGREX2700E Error 27 running compiled program, line nn: Invalid DO syntax

説明: DO 文節で構文エラーを検出しました。
ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX2701I FOREVER not followed by WHILE/UNTIL/";"

説明: DO FOREVER の後で、誤ったデータを検出しました。DO FOREVER の後の有効なサブキーワードは、WHILE と UNTIL だけです。

EAGREX2703I TO/BY/FOR-phrase occurs more than once in a DO

説明: DO 文節に 2 つ以上の TO、BY、または FOR 句があります。

EAGREX2706I TO/BY/FOR not followed by expression

説明: DO 文節の TO、BY、または FOR サブキーワードの後は、式が必要です。

**EAGREX2800E Error 28 running compiled program, line
nn: Invalid LEAVE or ITERATE**

説明: プログラムはループしていないときに、LEAVE または ITERATE 命令を実行しようとしていました。このエラーは制御をループに移すとき、つまり LEAVE または ITERATE が反復 DO ループの範囲外にあることを検出した場合に起こります。SIGNAL 命令は、すべての活動ループを終了するので、その後出された ITERATE または LEAVE 命令がこのメッセージを出す原因になります。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX2801I Invalid LEAVE

説明: プログラムはループしていないときに、LEAVE 命令を実行しようとしていました。

EAGREX2802I Invalid ITERATE

説明: プログラムはループしていないときに、ITERATE 命令を実行しようとしていました。

**EAGREX2803I LEAVE not valid outside repetitive DO
loop**

説明: LEAVE 命令を反復 DO ループの範囲外で検出しました。

**EAGREX2804I ITERATE not valid outside repetitive DO
loop**

説明: ITERATE 命令を反復 DO ループの範囲外で検出しました。

**EAGREX2805I Variable does not match control variable of
an active DO loop**

説明: LEAVE または ITERATE 命令に指定した記号が、現在活動している DO ループの制御変数と一致しません。

EAGREX2806I Name of DO control variable expected

説明: 現在活動している DO ループの制御変数名が、LEAVE または ITERATE 命令の後に必要です。別のトークンが検出されました。

**EAGREX2900E Error 29 running compiled program, line
nn: Environment name too long**

説明: ADDRESS 命令の環境名が式の値として指定され、その式を計算した結果が 8 文字の制限を超えています。

**EAGREX3000E Error 30 running compiled program, line
nn: Name or string > 250 characters**

説明: 250 文字の制限を超えた名前または文字列が見つかりました。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

**EAGREX3001I Name of compound variable > 250
characters**

説明: 置き換えした後の複合変数名が、250 文字の制限を超えています。

EAGREX3002I Label name > 250 characters

説明: SIGNAL VALUE 命令の式として指定されたラベル名が、250 文字の制限を超えています。

EAGREX3004I String > 250 characters

説明: 16 進数またはバイナリー・ストリングに置換した後の引用符でくくられた文字列が、250 文字の制限を超えています。

EAGREX3005I Name > 250 characters

説明: 記号が 250 文字を超えています。

**EAGREX3100E Error 31 running compiled program, line
nn: Name starts with number or "."**

説明: 名前が数字またはピリオドで始まる変数に、値を割り当てることはできません。同様に、名前が数字またはピリオドで始まる変数を DROP、EXPOSE または UPPER 命令の変数のリストに含めることはできません。および PARSE 命令の VAR サブキーワードの後で使用することもできません。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX3101I "(" not followed by a variable name

説明: DROP 命令、または PROCEDURE 命令サブキーワード EXPOSE の後には、副次リストを示す変数名が必要です。

EAGREX3102I Variable name expected

説明: 数字またはピリオドで始まる名前を、DROP 命令のリスト、または PROCEDURE 命令のサブキーワード EXPOSE の後で検出しました。

EAGREX3104I Variable required on the left of "="

説明: 割り当てのターゲットが、数字またはピリオドで始まる記号であることを検出しました。

**EAGREX3200E Error 32 running compiled program, line
nn: Invalid use of stem**

説明: 語幹名を UPPER 命令のリストで検出しました。

**EAGREX3300E Error 33 running compiled program, line
nn: Invalid expression result**

説明: 特定の文脈が間違っている、式の結果を検出しました。

EAGREX3301I Invalid NUMERIC expression result

説明: NUMERIC 命令の式の結果が間違っています。このエラーに共通するほとんどの原因は、DIGITS または FUZZ の値が整数ではないことです。

EAGREX3302I NUMERIC DIGITS not greater than NUMERIC FUZZ

説明: プログラムは、現在の NUMERIC DIGITS の値を現在の NUMERIC FUZZ の値以下にすることになる、NUMERIC 命令を出しました。DIGITS の値は、FUZZ より大きくなければなりません。

EAGREX3304I SIGNAL VALUE not followed by expression

説明: SIGNAL VALUE 命令で必要な式がありません。

EAGREX3305I ADDRESS VALUE not followed by expression

説明: ADDRESS VALUE 命令で必要な式がありません。

EAGREX3306I NUMERIC FORM VALUE not followed by expression

説明: NUMERIC FORM VALUE 命令で必要な式がありません。

EAGREX3400E Error 34 running compiled program, line nm: Logical value not 0 or 1

説明: IF、WHEN、DO WHILE または DO UNTIL 句の式は、項を論理演算子（つまり、 \neg 、 $\&$ 、 $\&\&$ 、または $\&\&$ ）で演算するので、結果が 0 か 1 にならなければなりません。例えば、以下の場合、

```
If result Then Exit rc
```

result の値が、0 または 1 以外の場合、失敗します。したがって、句は以下のように記述するのが望ましいです。

```
If result $\neq$ 0 Then Exit rc
```

EAGREX3401I WHILE not followed by expression

説明: サブキーワード WHILE の後には、式がなければなりません。

EAGREX3402I UNTIL not followed by expression

説明: サブキーワード UNTIL の後には、式がなければなりません。

EAGREX3403I IF not followed by expression

説明: サブキーワード IF の後には、式がなければなりません。

EAGREX3404I WHEN not followed by expression

説明: サブキーワード WHEN の後には、式がなければなりません。

EAGREX3500E Error 35 running compiled program, line nm: Invalid expression

説明: 式に文法エラーがあります。

ユーザーの処置: 特定情報については、2 次メッセージを参照してください。

EAGREX3501I Assignment operator must not be followed by another "="

説明: 最初の割り当て「=」のすぐ後に 2 つ目の = があります。

ユーザーの処置: 「=」の 1 つを削除して正しい割り当てにするか、文節がコマンドを意図している場合は、括弧で式をくくってください。

EAGREX3502I Left operand missing

説明: 接頭演算子ではなく、左オペランドがない演算子を検出しました。

EAGREX3503I Right operand missing

説明: 演算子の後にオペランドがありません。

EAGREX3504I Prefix operator not followed by operand

説明: 記号、リテラル・ストリング、または左括弧が後にない、接頭演算子を検出しました。

EAGREX3505I "(" not followed by an expression or sub-expression

説明: 有効な式または副次式が後にない、左括弧を検出しました。

EAGREX3506I Invalid operator

説明: 式にある演算子文字の順序が無効です。

EAGREX3507I Invalid use of NOT operator

説明: $a\sim b$ または $(a)\sim b$ 形式の式または副次式を検出しました。

ユーザーの処置: 否定項を連結する場合には、以下の方法があります。

- 別のオペランドの場合は、括弧でくくります。例: $\text{left}(a,3)(\sim b)$ 。
- 記号またはリテラル・ストリングの場合は、連結記号を使用します。例: $a||(\sim b)$ 。

EAGREX3508I Missing expression

説明: 必要な式がありません。例: INTERPRET;

EAGREX3600E Error 36 running compiled program, line nn: Unmatched "(" in expression

説明: 式にある括弧が対になっていません。右括弧より左括弧が多いです。

EAGREX3700E Error 37 running compiled program, line nn: Unexpected "," or ")"

説明: 式で、コンマが関数呼び出しの外にあるか、または右括弧が多すぎます。

EAGREX3800E Error 38 running compiled program, line nn: Invalid template or pattern

説明: テンプレートの解析に使用できない特殊文字があるか、または変数パターンの構文が間違っています。PARSE VALUE 命令で WITH サブキーワードを省略しても、このメッセージが出されます。

EAGREX3801I Incomplete PARSE VALUE: WITH not found

説明: PARSE VALUE 命令で WITH サブキーワードが省略されています。

EAGREX4000E Error 40 running compiled program, line nn: Incorrect call to routine

説明: プログラムが誤ったパラメーターで組み込み関数を呼び出したか、トラップされていない SYNTAX 条件で終了している外部ルーチンを呼び出しました。

ルーチンを呼び出そうとしているのではない場合は、スペースまたは演算子で分けるべきところの、左括弧の隣りに記号または文字列を置いたのかもしれませんが。この位置の記号または文字列は、関数呼び出しとして読み取られる句になります。例えば、乗算を意図した場合は、TIME (4+5) は、TIME (4+5) と書かなければなりません。

EAGREX4001I Null string specified as option

説明: プログラムが OPTION 引数がある組み込み関数を呼び出し、ヌル・ストリングをオプションとして渡しました。
ユーザーの処置: オプションに有効な値を与えてください。

EAGREX4002I Invalid option

説明: プログラムが OPTION 引数がある組み込み関数を呼び出し、誤った値をオプションに渡しました。
ユーザーの処置: オプションに有効な値を与えてください。

EAGREX4003I Argument not positive

説明: プログラムは値がゼロと同じか小さい引数で組み込み関数を呼び出しました。

EAGREX4004I Argument not a single character

説明: 組み込み関数は長さが 1 の引数が必要ですが、異なる長さが与えられました。

EAGREX4005I Argument not a whole number

説明: 呼び出された組み込み関数の引数の値は整数でなければなりません、プログラムは別のものを与えました。例えば、LENGTH 引数は、整数が必要です。

EAGREX4006I First argument negative and second argument not supplied

説明: プログラムは、D2C または D2X 関数の 2 番目の引数を与えられていませんが、最初の引数が負の数のときは、2 番目の引数が必要です。

EAGREX4007I String longer than 250 characters (500 hexadecimal digits)

説明: プログラムは以下の制限のいずれかを超過した入力文字列で、C2D または X2D 関数を呼び出しました。

- C2D 関数の入力文字列は、関数の結果を形式化するのに有効な 250 文字を超えてはならない。
- X2D 関数の入力文字列は、最終結果を形式化するのに有効な 500 桁 (16 進数) を超えてはならない。

EAGREX4008I Argument not a valid hexadecimal string

説明: 呼び出された組み込み関数の引数の値は 16 進数ストリングでなければなりません、プログラムは別のものを与えました。16 進数ストリングは、文字 0-9、A-F (小文字も含む) だけが使用できます。ブランクは、バイト境界でのみ発生します。

EAGREX4009I Output string longer than 250 characters (500 hexadecimal digits)

説明: D2C または D2X 関数の呼び出しの出力文字列が、以下の制限のいずれかを超過しました。

- D2C 関数の出力文字列は、有効な 250 文字を超えてはならない。
- D2X 関数の出力文字列は、有効な 500 文字 (16 進数) を超えてはならない。

EAGREX4010I Result not a whole number

説明: 呼び出された組み込み関数が返したデータが整数ではないので、指数を除いて形式化することができません。

NUMERIC DIGITS の値が十分な大ききでなければ、これが起こります。例えば、NUMERIC DIGITS を 2 に設定して、C2D(1) で C2D 関数を呼び出した場合、結果が 3 桁を必要とする 241 になりますが、使用できるのは 2 桁だけなので、このエラーが起こります。

EAGREX4011I Result too long

説明: 呼び出された組み込み関数が返したデータが、使用できるメモリーには大きすぎます。このエラーは、例えば COPIES、INSERT、OVERLAY または SPACE 組み込み関数を使用した場合に起こります。

ユーザーの処置: 小さな *STRING* または *COUNT* 引数を指定するか、大きなストレージを獲得してください。

EAGREX4012I Failure in system service, no clock available

説明: 呼び出された組み込み関数は、システム・サービス障害のため、システム時刻を得ることができませんでした。

ユーザーの処置: 問題が解決しない場合は、システム・サポート担当者に連絡してください。

EAGREX4013I "min" > "max" on RANDOM function

説明: プログラムは *MAX* 引数の値より大きな *MIN* 引数の値で、*RANDOM* 組み込み関数を呼び出しました。 *MIN* 引数は *MAX* 引数以下でなければなりません。

EAGREX4014I "max" - "min" exceeds 100000 on RANDOM function

説明: *RANDOM* 組み込み関数の呼び出しにある *min* と *max* 引数間の範囲が、100 000 の制限より大きいです。

EAGREX4015I Error number out of range on ERRORTXT function

説明: プログラムはエラー番号引数の誤っている値で、*ERRORTXT* 組み込み関数を呼び出しました。エラー番号は、0 から 99 の範囲内でなければなりません。

EAGREX4017I Argument not positive or zero

説明: プログラムは、ゼロ以上でなければならぬ引数を、ゼロより小さい値を使用して組み込み関数を呼び出しました。

EAGREX4018I Invalid pad character

説明: 呼び出された組み込み関数の *PAD* 引数の値は 1 文字でなければなりませんでしたが、プログラムは別のものを与えました。

EAGREX4019I Elapsed time clock out of range in TIME function invocation

説明: *TIME* 組み込み関数の呼び出しで経過時間時計が範囲外でした。このエラーは、経過時間時計の秒数が 9 桁を超えた場合に起こります。

ユーザーの処置: このエラーはシステム問題が原因かもしれませんが、システム・サポート担当者に連絡してください。

EAGREX4020I Line number out of range in SOURCELINE function

説明: *SOURCELINE* 組み込み関数の呼び出しが、以下のいずれかの理由で間違っています。

- プログラムが間違った行番号を関数に渡した。
- プログラムを *NOSLINE* (*NOSL*) オプションでコンパイルした。

ユーザーの処置: プログラムを *SLINE* オプションでコンパイルしていれば、行番号がソース・ファイルの最終行の番号を超えていないことを確認してください。プログラムを *NOSLINE* オプションでコンパイルしていれば、プログラムを変更するか、または *SLINE* オプションで再度コンパイルしてください。

EAGREX4021I Invalid symbol in name argument of VALUE function

説明: *VALUE* 組み込み関数の *NAME* 引数の値は、有効な *REXX* 記号でなければなりません。プログラムは別のものを与えています。このメッセージに共通するほとんどの原因は、記号では無効な特殊文字を使用していることです。

EAGREX4022I Incorrect call to built-in function or DBCS function package

説明: 関数を *OPTIONS 'EXMODE'* で呼び出したときに、エラーを検出しました。このエラーは *DBCS* 関数パッケージの機能、および文字列演算を実行する組み込み関数に対して起こります。

ユーザーの処置: 問題の原因が明白でない場合は、プログラムをインタープリターを使用してデバッグしてください。

EAGREX4023I Argument not a number

説明: 呼び出された組み込み関数の引数の値は数字でなければなりません。プログラムは別のものを与えています。

EAGREX4024I Exponent exceeds specified digits in FORMAT function

説明: *FORMAT* 組み込み関数の指数引数に与えた値が、結果の範囲外です。このエラーは、*FORMAT* 組み込み関数が形式化する数字の指数サイズが小さすぎる場合に起こります。

EAGREX4025I Integer part exceeds specified digits in FORMAT function

説明: プログラムは、形式化する数字の整数部を含めたために、十分な大きさではない *BEFORE* 引数の値で、*FORMAT* 組み込み関数を呼び出しました。例えば、関数を *FORMAT(225.1,2)* で呼び出した場合、数字に 3 桁の整数がありますが、スペースは 2 桁だけ指定したために、このエラーが起こります。

EAGREX4026I External routine returned with non-zero return code

説明: 外部ルーチンがゼロ以外の戻りコードで返りました。
ユーザーの処置: 外部ルーチンを訂正してください。

EAGREX4027I External routine could not obtain an EVALBLOCK

説明: 外部ルーチンは、ストレージが足りないために EVALBLOCK 制御ブロックを得ることができませんでした。
ユーザーの処置: 大きな領域サイズを使用してください。

EAGREX4028I External routine could not locate language processor environment

説明: 外部ルーチンが言語プロセッサ環境にありません。
ユーザーの処置: システム・サポート担当者に連絡してください。

EAGREX4029I External routine encountered an ABEND

説明: 外部ルーチンが異常終了しました。
ユーザーの処置: 外部ルーチンを訂正してください。

EAGREX4030I Invalid number of arguments on built-in function invocation

説明: 組み込み関数を呼び出しましたが、渡された引数の数字が関数に必要な引数の範囲内にありません。

EAGREX4031I Required argument missing in built-in function invocation

説明: 組み込み関数を呼び出しましたが、この関数が必要とする引数が与えられていません。

EAGREX4032I Argument not a valid binary string

説明: 呼び出された組み込み関数の引数の値はバイナリー・ストリングでなければなりません、プログラムは別のものを与えました。バイナリー・ストリングは数字 0 および 1 だけが使用できます。ブランクは、2 進数の 4 桁のグループ境界で発生します。

EAGREX4033I Selector not supported for VALUE function

説明: VALUE 組み込み関数のセレクターは、CMS リリース 6 またはそれより後のリリースのみでサポートされています。

EAGREX4034I Global variable name longer than 255 characters

説明: VALUE 組み込み関数が CMS リリース 6 またはそれより後のリリースにあるセレクターで呼び出されましたが、変数名の長さが最大 255 文字の制限を超えました。

EAGREX4035I New global variable value longer than 255 characters

説明: VALUE 組み込み関数が CMS リリース 6 またはそれより後のリリースにあるセレクターで呼び出されましたが、値の長さが最大 255 文字の制限を超えました。

EAGREX4036I Invalid selector

説明: VALUE 組み込み関数が CMS リリース 6 またはそれより後のリリースにあるセレクターで呼び出されましたが、SELECTOR の最初のトークンが無効です。有効なトークンは、GLOBAL、SESSION および LASTING です。

EAGREX4037I Error upon invocation of system service in VALUE function

説明: VALUE 組み込み関数が CMS リリース 6 またはそれより後のリリースにあるセレクターで呼び出されましたが、希望する処置を実行しようとする試みは失敗しました。これは A ディスクが満杯、A ディスクが読み取り/書き込みモードでアクセスされていない、または A ディスクをアクセスしていないことが原因です。

EAGREX4038I Variable expected

説明: VALUE 組み込み関数の呼び出しの最初の引数が、数字またはピリオドで始まる記号であり、しかもセレクターが与えられていません。

EAGREX4039I Start value of CHARIN or CHAROUT function must be 1

説明: 1 以外の値を、CHARIN または CHAROUT 関数の開始値として指定しました。

EAGREX4040I Count value of the LINEIN function must be 0 or 1

説明: 0 または 1 以外の値を、LINEIN 関数のカウント値として指定しました。

EAGREX4041I Command required for operation 'C'

説明: 命令 'C' を使用する STREAM 関数の呼び出しは、3 番目のパラメーターとしてコマンドが必要です。

EAGREX4042I Command not allowed with operation other than 'C'

説明: STREAM 関数を命令 'C' を使用して呼び出した場合のみ、コマンドを指定します。

EAGREX4043I Operation value of STREAM function must be 'C', 'D', or 'S'

説明: STREAM 関数の命令は以下のものだけが有効です。

- 'C' (コマンド)
- 'D' (記述)
- 'S' (状態)

EAGREX4044I Invalid argument value in stream I/O function

説明: ストリーム I/O 関数 (CHARIN、CHAROUT、CHARS、LINEIN、LINEOUT、LINES、または STREAM) がエラーを返しました。

EAGREX4100E Error 41 running compiled program, line nn: Bad arithmetic conversion

説明: 算術式で、無効な数字の、または -999 999 999 から +999 999 999 までの範囲にない指数を持つ項を検出しました。

変数が誤って使用されているか、または算術演算子が引用符で囲まれていない文字式にあります。例えば、コマンド MSG * Hi! は、'MSG * Hi!' と記述します。そうしないと、プログラムは MSG に Hi! を掛けようとします。

EAGREX4101I Initial expression missing in controlled DO loop

説明: 制御 DO ループで初期式が必要なところがありません。

EAGREX4200E Error 42 running compiled program, line nn: Arithmetic overflow/underflow

説明: 算術演算の結果が、9桁の制限より大きい指数 +999 999 999 より大きいか、-999 999 999 より小さい) を必要としています。このエラーは、式の計算中または DO ループ制御変数のステップ実行中に起こります。

EAGREX4201I Overflow occurred during addition or subtraction

説明: 加算または減算の結果が、999 999 999 より大きい指数を必要としています。

EAGREX4202I Overflow occurred during multiplication

説明: 乗算の結果が、999 999 999 より大きい指数を必要としています。

EAGREX4203I Underflow occurred during multiplication

説明: 乗算の結果が、-999 999 999 より小さい指数を必要としています。

EAGREX4204I Overflow occurred during division

説明: 除算の結果が、999 999 999 より大きい指数を必要としています。

EAGREX4205I Underflow occurred during division

説明: 除算の結果が、-999 999 999 より小さい指数を必要としています。

EAGREX4206I Division by zero

説明: プログラムはある数をゼロで割ろうとしました。

EAGREX4207I Integer division by zero

説明: プログラムはある数を % (整数除算) 演算子を使用して、ゼロで割ろうとしました。

EAGREX4208I Remainder of division by zero

説明: プログラムはある数を // (余り) 演算子を使用して、ゼロで割ろうとしました。

EAGREX4209I Overflow occurred during exponentiation

説明: 指数演算の結果が、999 999 999 より大きい指数を必要としています。

EAGREX4210I Underflow occurred during exponentiation

説明: 指数演算の結果が、-999 999 999 より小さい指数を必要としています。

EAGREX4211I Value zero to a negative power

説明: プログラムは、指数演算でゼロをマイナスで累乗しようとしてしました。

EAGREX4300E Error 43 running compiled program, line nn: Routine not found

説明: プログラムで呼び出した外部ルーチンが見つかりません。このエラーの最も単純で共通の原因のほとんどが名前への入力ミスです。別の可能性として、標準機能パッケージのどれかが使用できないことが挙げられます。

ルーチンを呼び出そうとしているのではない場合は、スペースまたは演算子で分けるべきところの、左括弧の隣りに記号または文字列を置いたのかもしれませんが。コンパイラーはそれを、関数呼び出しとして参照します。この位置の記号または文字列は、関数呼び出しとして読み取られる句になります。例えば、乗算を意図した場合は、文字列3(4+5) は、3*(4+5) と記述します。

EAGREX4400E Error 44 running compiled program, line nn: Function did not return data

説明: プログラムは外部ルーチンを式の中の関数として呼び出しました。ルーチンはエラーなしで終わっているように見えますが、式のなかで使用するためのデータを戻しませんでした。

EAGREX4500E Error 45 running compiled program, line nn: No data specified on function RETURN

説明: REXX プログラムまたは内部ルーチンが関数として呼び出されましたが、(RETURN 命令によって) データを戻さないので戻ろうとしました。

**EAGREX4600E Error 46 running compiled program, line
nn: Invalid variable reference**

説明: DROP または PROCEDURE 命令で、変数参照 (名前を括弧でくくことで示されている、使用する値を持つ変数) の構文が間違っています。変数名のすぐ後にあるべき右括弧がありません。

**EAGREX4700E Error 47 running compiled program, line
nn: Unexpected label**

説明: ラベルを INTERPRET 命令の文字列で検出しました。

**EAGREX4800E Error 48 running compiled program, line
nn: Failure in system service**

説明: ユーザーの入力、出力、またはコンソール・スタックの操作などのシステム・サービスが正しく作動しなかったか、システムの出口がシステム・サービスのエラーを検出しました。
ユーザーの処置: 入力正しいこと、プログラムが正しく動いていることを確認してください。問題が解決しない場合は、システム・サポート担当者に連絡してください。

EAGREX4801I Error on EXECINIT invocation

説明: モジュール名テーブルに指定された EXECINIT ルーチンが、呼び出されていないか、ゼロ以外の戻りコードを返しました。
ユーザーの処置: システム・サポート担当者に連絡してください。

EAGREX4802I Error on EXECTERM invocation

説明: モジュール名テーブルに指定された EXECTERM ルーチンが、呼び出されていないか、ゼロ以外の戻りコードを返しました。
ユーザーの処置: システム・サポート担当者に連絡してください。

EAGREX4803I EVALBLOCK cannot be obtained

説明: ライブラリーは GETEVAL 関数で IRXRLT システム・ルーチン呼び出して、EVALBLOCK 制御ブロックを得ようとしたが、成功しませんでした。
ユーザーの処置: システム・サポート担当者に連絡してください。

**EAGREX4804I Error on invocation of global exit for REXX
programs**

説明: CMS の REXX プログラムのグローバル出口を指定しましたが、システム・インターフェースがないため呼び出すことができませんでした。前提となる CMS PTF を使用していない可能性があります。
ユーザーの処置: システム・サポート担当者に連絡してください。

**EAGREX4805I System interfaces for invocation of stream
I/O function not available**

説明: VM/ESA リリース 2.1 および VM/ESA リリース 2.2 のストリーム I/O を指定しましたが、システム・インターフェースがないため、呼び出すことができませんでした。前提となる CMS PTF を使用していない可能性があります。
ユーザーの処置: システム・サポート担当者に連絡してください。

EAGREX4806I Error in stream I/O function

説明: ストリーム I/O 関数 (CHARIN、CHAROUT、CHARS、LINEIN、LINEOUT、LINES、または STREAM) がエラーを返しました。

EAGREX4900E Interpretation error

説明: INTERPRET プロセッサの内部自己整合性チェックが、エラーを示しています。
ユーザーの処置: このメッセージが出たことを IBM 担当員に報告してください。

第 3 章 接頭部 EYU の CICS Explorer メッセージ

EYUBN0005E *applid cmdname failed for restype resname (version version), RESP=resp, RESP2LO=resp2lo, RESP2HI=resp2hi*

説明: 指定のリソースに対して指定された EXEC CICS コマンドが失敗しました。メッセージの変数については、上の記述を参照してください。指定のリソースが既に存在している場合は、関連 DFH メッセージで追加情報を参照してください。

システムの処置: 例外トレース・レコードが CICS トレース・データ・セットに書き込まれます。CICS システムに対して指定された復旧処置が実行されます。デフォルトの処置では処理が続行されます。それ以外の場合は、代替処置を示すメッセージ EYUBN0008W が発行されます。

オペレーターの応答: メッセージ EYUBN0008W が発行されたかどうかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

EYUBN0006E *cmdname failed for restype resname (version version), RESP=resp, RESP2=resp2*

説明: 指定のリソースに対して指定された EXEC CICS コマンドが失敗しました。メッセージの変数については、上の記述を参照してください。

システムの処置: 例外トレース・レコードが CICS トレース・データ・セットに書き込まれます。CICS システムに対する復旧処置が実行されます。デフォルトの処置では処理が続行されます。それ以外の場合は、代替処置を示すメッセージ EYUBN0008W が発行されます。

オペレーターの応答: メッセージ EYUBN0008W が発行されたかどうかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

EYUBN0008W *An error has occurred and the failure action is to action.*

説明: これは、CICS システムに対して指定されている復旧処置を示します。この処置はエラーの発生後に行われるものです。

action は次のいずれかです。

- CICS を終了します。
- オペレーターの指示を待ちます。
- CREATE 処理を終了します。

このメッセージは EYUBN0005E または EYUBN0006E とともに表示されます。

システムの処置: 障害処置に基づいて処理が続行されます。オペレーターの指示を待つことが処置である場合は、メッセージ EYUBN0010E が発行されます。

オペレーターの応答: オペレーターの指示を待つことが処置である場合は、メッセージ EYUBN0010E に応答してください。

プログラマーの応答: なし。

EYUBN0010E *Please specify failure processing action - CONTINUE, TERMINATE, NORMAL, or IMMEDIATE*

説明: 障害が発生しました。CICS システムに対する復旧処置はオペレーターの指示を待つことです。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかでコンソール・メッセージに回答してください。

CONTINUE

BAS 要求の処理を続行します。

TERMINATE

BAS 要求の処理を終了します。

NORMAL

ターゲット CICS の通常シャットダウンを開始します。

IMMEDIATE

ターゲット CICS の即時シャットダウンを開始します。

プログラマーの応答: なし。

EYUBN0088W *An error has occurred and the failure action is to action*

説明: これは、CICS システムに対して指定されている復旧処置を示します。この処置はエラーの発生後に行われるものです。

action は次のいずれかです。

- CICS を終了します
- オペレーターの指示を待ちます
- CREATE 処理を終了します

このメッセージは EYUBN0005E または EYUBN0006E とともに表示されます。

システムの処置: 障害処置に基づいて処理が続行されます。オペレーターの指示を待つことが処置である場合は、メッセージ EYUBN0010E が発行されます。

オペレーターの応答: オペレーターの指示を待つことが処置である場合は、メッセージ EYUBN0010E に応答してください。

プログラマーの応答: なし。

EYUBN0099I *Resource creation processing complete*

説明: BAS リソース作成処理が完了しました。

システムの処置: リソースの作成が失敗した場合は、失敗に関する 1 つ以上のエラー・メッセージがこのメッセージとともに表示されます。リソースの作成が成功した場合は、他のエラー・メッセージは表示されず、処置は不要です。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラー・メッセージを参照して適切な処置を判断してください。

EYUNL0099I *applid addspace LRT initialization complete*

説明: MAS の長時間実行タスク (LRT) が正常に初期設定されました。

addspace MAS がローカル MAS (LMAS) であるか、シングル・サーバー領域 (SMSS) であるかを示します。

システムの処置: MAS は作業を行う準備ができています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUNL0901I *applid addspace* LRT NORMAL termination initiated

説明: 関連する CICS システムが終了中のため、MAS の長時間実行タスク (LRT) を終了しています。

addspace MAS がローカル MAS (LMAS) であるか、シングル・サーバー領域 (SMSS) であるかを示します。

システムの処置: MAS の終了が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUNL0999I *applid addspace* LRT termination complete

説明: MAS の長時間実行タスク (LRT) が終了しました。

addspace MAS がローカル MAS (LMAS) であるか、シングル・サーバー領域 (SMSS) であるかを示します。

システムの処置: MAS サブコンポーネントが CICS システムから削除されます。CICS システムは終了するか、実行を継続します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUNX0001I *applid addspace* initialization program starting

説明: MAS の初期設定プログラムを開始しています。

addspace MAS がローカル MAS (LMAS) であるか、シングル・サーバー領域 (SMSS) であるかを示します。

システムの処置: CICS は初期設定プログラムに制御を渡し、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUNX0030I *applid addspace* successfully initiated from terminal termid

説明: MAS は、指定の端末でオペレーターによって正常に開始されました。

addspace MAS がローカル MAS (LMAS) であるか、シングル・サーバー領域 (SMSS) であるかを示します。

termid MAS を開始した端末を示します。

システムの処置: MAS の初期設定が続行されます。初期設定プロセスに関連した詳細メッセージがジョブ・ログに示されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUNX0051I *applid addspace* termination initiated

説明: 終了中の CICS システムから MAS シャットダウン・タスクに制御が渡されました。

addspace MAS がローカル MAS (LMAS) であるか、シングル・サーバー領域 (SMSS) であるかを示します。

システムの処置: MAS の終了処理が開始され、CICS に制御が返されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUNX0052I *applid compid* termination ECB posted

説明: 指定されたコンポーネントの終了 ECB が通知されました。タスクが終了します。

compid コンポーネントがカーネル・リンケージ (KNL) であるか、管理対象アプリケーション・システム (MAS) であるかを示します。

システムの処置: MAS の終了が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUNX0070I *applid XLWA* termination ECB posted

説明: カーネル・リンケージ (KNL) 作業域の ECB が通知され、CICS システムが終了中であること、および MAS が再始動されないことが示されます。

システムの処置: CICS に制御が戻り、CICS システムと MAS の終了が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUNX0071I *applid* MAS successfully terminated from terminal termid.

説明: MAS エージェント・コードが、端末 *termid* でトランザクション COSH を実行しているオペレーターによって正常に停止されました。

システムの処置: MAS エージェント・コードが停止しました。CICS は実行を継続します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXC0001I *applid* Data Cache initialization complete

説明: データ・キャッシュ・マネージャー・コンポーネントが正常に初期設定されました。

システムの処置: CICSplex[®] SM は、他のコンポーネントの初期設定を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXC0020E *applid* Cache request exceeds extension size for compid cache

説明: 要求のサイズがデータ・キャッシュ領域のサイズを超過していたため、データ・キャッシュ・マネージャーはブロック割り振り要求を満たすことができませんでした。

compid ブロック割り振りを要求したコンポーネントの省略形です (例えば、データ・リポジトリの場合は DAT)。

システムの処置: データ・キャッシュ・マネージャーは要求を実行できません。ユーザー・トレース・レコードが CICS トレース・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 例外トレース・レコードおよびジョブ・ログを収集して、IBM サポートにお問い合わせください。

EYUXC0101I *applid* Data Cache termination complete

説明: データ・キャッシュ・マネージャー・コンポーネントが終了しました。

システムの処置: CMAS のシャットダウンが続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXD0001I *applid* Data Repository initialization complete

説明: データ・リポジトリ・コンポーネントが正常に初期設定されました。

システムの処置: CMAS の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXD0003I *applid* Data Repository termination complete

説明: データ・リポジトリ・コンポーネントが終了しました。

システムの処置: CMAS の終了が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXD0018I *applid* Enhanced MOS initialization in progress

説明: CMAS 初期設定の拡張 MOS 初期設定フェーズが開始されました。

システムの処置: 拡張 MOS 初期設定が進行中です。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXD0019I *applid* Enhanced MOS initialization complete

説明: CMAS 初期設定の拡張 MOS 初期設定フェーズが正常に完了しました。

システムの処置: CMAS の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXD0020E *applid* Enhanced MOS initialization failed

説明: CMAS 初期設定の拡張 MOS 初期設定フェーズ中に障害が発生しました。

システムの処置: システムは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブ・ログを調べて、障害の理由を示

している可能性がある、以前に発行されたメッセージがないか確認してください。生成されたダンプやトレースも調べてください。障害の理由が見つからない場合は、IBM サポートにお問い合わせください。

EYUXD0021I *applid* Enhanced MOS termination in progress

説明: CMAS 終了の拡張 MOS 終了フェーズが開始されました。

システムの処置: CMAS の終了が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXD0022I *applid* Enhanced MOS termination complete

説明: CMAS 終了の拡張 MOS 終了フェーズが正常に完了しました。

システムの処置: CMAS の終了が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXD0101E *applid* Data Repository initialization failed

説明: データ・リポジトリ・コンポーネントを初期設定できませんでした。

システムの処置: CMAS の初期設定は終了します。ユーザー・トレース・レコードが CICS トレース・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 例外トレース・レコードと、このメッセージより前に発行されたメッセージを調べて、問題の原因を判別してください。

EYUXD0112I *applid* API Initialization has started

説明: データ・リポジトリ・コンポーネントのアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) サブコンポーネントが初期設定されています。

システムの処置: API の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXD0800I *applid* API Initialization complete

説明: データ・リポジトリ・コンポーネントのアプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) サブコンポーネントが正常に初期設定されました。

システムの処置: CMAS の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0003I *applid* CPSM Version nnn comptype startup in progress

説明: CICSplex SM コンポーネントが、初期設定プロセスを開始しています。

nnnn コンポーネントの初期設定が行われている CICSplex SM のバージョンです。

comptype

これは、コンポーネントを以下のいずれかとみなします。

SMSS シングル・サーバー領域。

システムの処置: 初期設定を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0005I *applid Major Object created for component*

説明: 指定されたコンポーネントのロード・モジュールがロードされ、公開ディレクトリおよび専用ディレクトリが作成されました。コンポーネントのすべての基本制御ブロックが取得され、形式設定されました。

component

これは、コンポーネントを以下のいずれかとみなします。

- カーネル・リンケージ (KNL)
- トレース・サービス (TRC)
- メッセージ・サービス (MSG)
- 外部サービス (SRV)
- 共通サービス
- キャッシュ・マネージャー (CHE)
- データ・リポジトリ (DAT)
- キュー・マネージャー (QUE)
- 通信
- トポロジー
- モニター・サービス
- リアルタイム分析
- ワークロード・マネージャー
- MAS (管理対象アプリケーション・システム)

システムの処置: 初期設定を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0006I *applid component initialization has started*

説明: カーネル・リンケージ・コンポーネントが、指定された *component* の初期設定を要求しました。

システムの処置: 指定されたコンポーネントの初期設定が開始されます。追加のメッセージが発行され、コンポーネント初期設定の進行状況が記録されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0007I *applid comptype Phase nn initialization complete*

説明: 指定されたタイプの CICSplex SM コンポーネントが、いずれかの初期設定フェーズを完了しました。

comptype

初期設定中のコンポーネントを以下のいずれかとして示します。

CMAS CICSplex SM アドレス・スペース

LMAS ローカル管理対象アプリケーション・システム

SMSS CICS 管理クライアント・インターフェースのシングル・サーバー・バージョン

nn 正常に完了した初期設定フェーズを示します。アドレス・スペースのタイプに応じて、1 から 4 の任意の初期設定フェーズが完了する必要があります。このメッセージは、以下のフェーズの完了後に表示されません。

フェーズ 説明

II すべてのカーネル・リンケージ・サブコンポーネントが初期設定され、環境サービス・システム・サービス (ESSS) との接続が確立されます。

III すべての CICSplex SM 基本サービス・コンポーネントが初期設定されます。

システムの処置: CICSplex SM 初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0011I *applid comptype shutdown in progress*

説明: 指定されたタイプの CICSplex SM コンポーネントのシャットダウン中です。*comptype* は、コンポーネントを以下のいずれかとして示します。

CMAS CICSplex SM アドレス・スペース。

LMAS ローカル管理対象アプリケーション・システム。

SMSS CICS 管理クライアント・インターフェースのシングル・サーバー・バージョン。

システムの処置: シャットダウンが続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0015I *applid component termination requested*

説明: カーネル・リンケージ・コンポーネントが、指定されたコンポーネントの終了を CICSplex SM シャットダウンの一環として要求しました。CICSplex SM の各コンポーネントは、以下の順序で終了します。

- リアルタイム分析 (CMAS のみ)
- ワークロード・マネージャー
- モニター・サービス (CMAS のみ)
- トポロジー・サービス (CMAS のみ)
- 通信
- データ・リポジトリ (CMAS のみ)
- キュー・マネージャー
- データ・キャッシュ・マネージャー (CMAS のみ)
- 共通サービス
- パラメーター・サービス
- メッセージ・サービス

システムの処置: 指定されたコンポーネントの終了処理が開始されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0016I *applid addspace shutdown complete*

説明: 指定されたタイプの CICSplex SM コンポーネントが正常にシャットダウンされました。

addspace アドレス・スペースのタイプを以下のいずれかとして示します。

CMAS CICSplex SM アドレス・スペース。
LMAS ローカル管理対象アプリケーション・システム。
SMSS シングル・サーバー領域。

システムの処置: 指定されたアドレス・スペースは存在しなくなりました。CMAS または ローカル MAS であった場合、制御は CICS に返されます。

オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EYUXL0021I *applid component initialization has started*

説明: 指定されたコンポーネントの初期設定が開始されました。

component

これは、コンポーネントを以下のいずれかとみなします。

- トレース・サービス
- メッセージ・サービス

システムの処置: メッセージ・サービス・コンポーネントがまだアクティブになっていないため、このメッセージは外部メッセージ・プロセッサによって発行されます。初期設定を続行します。

オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EYUXL0022I *applid addspace Phase I initialization complete*

説明: 指定されたタイプのアドレス・スペースが、最初の初期設定フェーズを完了しました。このフェーズでは、CICSplex SM 要件が検証され、メジャー・オブジェクト・ベース環境がセットアップされます。

addspace 初期設定中のアドレス・スペースのタイプを以下のいずれかとして示します。

CMAS CICSplex SM アドレス・スペース
LMAS ローカル管理対象アプリケーション・システム
SMSS シングル・サーバー領域

システムの処置: CICSplex SM 初期設定が続行されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EYUXL0023I *applid Trace Services termination requested*

説明: カーネル・リンケージ・コンポーネントが、トレース・サービスの終了を CICSplex SM シャットダウンの一環として要求しました。

システムの処置: メッセージ・サービス・コンポーネントがアクティブでなくなったため、このメッセージは外部メッセージ・プロセッサによって発行されます。トレース・サービスの終了が開始されます。

オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EYUXL0119I *applid CPSM Kernel loaded from module*

説明: CPSM カーネル・オブジェクトがロード・モジュール *module* からロードされました。

システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EYUXL0201E *applid EYUPARM Data Set Cannot Be Accessed*

説明: 以下のいずれかの理由により、CMAS または MAS の初期設定中に EYUPARM データ・セットにアクセスできませんでした。

- スタートアップ JCL に EYUPARM の DLBL ステートメントがない。
- 区画外一時データ・キュー COPR が CICS に定義されていないか、EYUPARM データ・セットを参照していない。

システムの処置: CMAS または MAS のパラメーター初期設定が終了します。

オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: EYUPARM の DLBL ステートメントが、CMAS または MAS のスタートアップ JCL に正しく指定されていることを確認してください。COPR のリソース定義が存在し、EYUPARM データ・セットを参照していることを確認してください。

EYUXL0205D *applid Parameter Errors have Occurred. Reply 'GO' or 'CANCEL'*

説明: CMAS または MAS のパラメーター初期設定中に非クリティカル・エラーが発生しました。

システムの処置: パラメーター初期設定は休止し、応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: このメッセージより前に発行されたメッセージを確認して、どのタイプのパラメーター・エラーが発生していたかを判別してください。次に、これらのエラーがあってもパラメーター初期設定を続行するのか、または取り消すのかを決定してください。「GO」と応答すると、パラメーター初期設定が続行されます。「CANCEL」と応答すると、パラメーター初期設定は終了します。関連メッセージに示されているエラーを訂正し、CMAS スタートアップ・ジョブまたは MAS スタートアップ・ジョブを再実行してください。

EYUXL0206E *applid Invalid parameter Name - parmname - parameter bypassed*

説明: CMAS または MAS のパラメーター初期設定中に、無効なパラメーター名が見つかりました。

parmname

無効なパラメーター名を示します。

システムの処置: 無効なパラメーター名は無視されます。これは非クリティカル・エラーです。CMAS または MAS のパラメーター初期設定は続行されます。このメッセージのあとに、メッセージ『EYUXL0205D』が続きます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージ 27 ページの『EYUXL0205D』が出されたら、応答してください。

EYUXL0207E *applid Invalid parameter value -value - parameter bypassed*

説明: CMAS または MAS のパラメーター初期設定中に、無効なパラメーター値が見つかりました。value は無効なパラメーター値を示します。

システムの処置: 無効なパラメーター値は無視されます。これは非クリティカル・エラーです。CMAS または MAS のパラメーター初期設定は続行されます。このメッセージのあとに、メッセージ 27 ページの『EYUXL0205D』が続きます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0211I *applid CPSM Start Up Parameters*

説明: これは、EYUPARM リストおよび関連エラーのメッセージ・ヘッダーです。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0212I *applid parameter*

説明: このメッセージは、CMAS または MAS のパラメーター初期設定中に EYUPARM 入力データ・セットで見つかった *parameter* ステートメントをリストします。

システムの処置: パラメーター・ステートメントの一部が無効な場合、このメッセージのあとに該当するエラー・メッセージが続きます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0214I *applid Parameter Services initialization complete*

説明: パラメーター・サービス・サブコンポーネントが正常に初期設定されました。

システムの処置: CICSplex SM 初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXL0215E *applid Parameter Services initialization failed*

説明: パラメーター・サービス・サブコンポーネントを初期設定できませんでした。

システムの処置: CICSplex SM 初期設定は終了します。ユーザー・トレース・レコードが CICS トレース・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 例外トレース・レコードと、このメッセージより前に発行されたメッセージを調べて、問題の原因を判別してください。

EYUXM0001I *applid Message Services initialization complete*

説明: メッセージ・サービス・コンポーネントが正常に初期設定されました。

システムの処置: CICSplex SM 初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXM0004I *applid Message Services termination complete*

説明: メッセージ・サービス・コンポーネントが終了しました。

システムの処置: メッセージ・サービス・コンポーネントは、メッセージの発行に使用できなくなりました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXQ0001I *applid Queue Manager initialization complete*

説明: キュー・マネージャー・サブコンポーネントが正常に初期設定されました。

システムの処置: CICSplex SM 初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXQ0002I *applid Queue Manager termination complete*

説明: キュー・マネージャー・サブコンポーネントが終了しました。

システムの処置: CICSplex SM の終了を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXS0001I *applid Common Services initialization complete*

説明: 共通サービス・サブコンポーネントが正常に初期設定されました。

システムの処置: CICSplex SM 初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXS0002I *applid Common Services termination complete*

説明: 共通サービス・サブコンポーネントが終了しました。

システムの処置: CICSplex SM の終了を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXU0001I *applid command input*

説明: このメッセージは、現在の COLU トランザクション用に発行されたコマンドのテキストをエコー出力します。

システムの処置: COLU 処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXU0002I *applid Online Utility terminated with result*

説明: COLU トランザクションは処理を完了しました。
result COLU 処理の結果を以下のいずれかとして示します。

no errors

トランザクションが正常に完了しました。

error(s) トランザクションで 1 つ以上のエラー条件が発生しました。

システムの処置: COLU トランザクションは処理を完了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーがあったことをこのメッセージが示す場合、このメッセージの前に発行された EYUXUnnnn メッセージを調べて、問題の原因を判別してください。次に COLU への入力を訂正して、トランザクションを再実行してください。

EYUXU0004E *applid No parmtype specified in the input stream*

説明: COLU への入力に必須パラメーターが指定されていませんでした。

parmtype

不足しているパラメーターのタイプがキーワードであるか、データであるかを示します。

システムの処置: COLU トランザクションは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: COLU トランザクションの構文を調べてください。次に COLU への入力を訂正して、トランザクションを再実行してください。

EYUXU0005E *applid Invalid parmtype (parm) specified*

説明: 無効なパラメーターを指定して COLU トランザクションが実行されました。

parmtype

無効なパラメーターのタイプがコンポーネント ID であるか、キーワードであるかを示します。

parm 無効なコンポーネント ID パラメーターまたはキーワード・パラメーターです。

システムの処置: COLU トランザクションは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: COLU トランザクションの構文を調べてください。次に COLU への入力を訂正して、トランザクションを再実行してください。

EYUXU0006E *applid cblock for compid is not available*

説明: COLU で必要な制御ブロックを、指定されたコンポーネントで使用できません。

cblock 必要な制御ブロックが MODB であるか、MOEB であるかを示します。

compid COLU がアクセスしようとしていたコンポーネントを示します。

COLU が発行された CMAS または MAS でコンポーネントが初期設定されていない可能性があります。

システムの処置: COLU トランザクションは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指定されたコンポーネントが完全に初期設定されていることを確認してから、トランザクションを再実行してください。

EYUXU0010E *applid Missing keyword value in keyword parm*

説明: COLU トランザクションで指定されたキーワード・パラメーターに必要な値がありません。

parm 値が指定されていないキーワード・パラメーターです。

システムの処置: COLU トランザクションは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: COLU トランザクションの構文を調べてください。次に COLU への入力を訂正して、トランザクションを再実行してください。

EYUXU0014E *applid Utility processor for compid encountered an unexpected error*

説明: COLU トランザクションによって呼び出された CICSplex SM プログラムが、メソッド障害応答を返しました。

compid エラーを生成したコンポーネントを示します。

システムの処置: COLU トランザクションは終了します。ユーザー・トレース・レコードが CICS トレース・データ・セットに書き込まれます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: トレース・レコードを収集して、IBM サポートにお問い合わせください。

EYUXU0015I *applid There are no allocated queue resources which satisfy your request*

説明: QUE オプションおよび適切なオペランドを指定して COLU オンライン・ユーティリティ・トランザクションが実行されましたが、指定された基準と一致する割り振りキューがありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EYUXU0016E *applid Component and/or method ID are invalid*

説明: COLU オンライン・ユーティリティ・トランザクションの QUE オプションで指定したコンポーネント ID またはメソッド ID に誤りがあります。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 有効なコンポーネント ID またはメソッド ID を指定して COLU QUEUE トランザクションを再実行してください。

EYUXZ0001I

EYUXZ0001I *applid* Trace Services termination complete

説明: トレース・サービス・サブコンポーネントが終了しました。

システムの処置: CICSplex SM は、CICS トレース・データ・セットに対してユーザー・トレース・レコードを発行できなくなりました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

第 4 章 EZA アプリケーション・プログラミング・インターフェースから出される接頭部 EZA のメッセージ

EZA001I **EZASOH99 (LEVEL date) STARTED**
 [CICS-TransId CICS-TaskNo Date Time]

説明: このメッセージは、EZA API トレース機能がアクティブな場合に出されるもので、アプリケーションから EZA API が初めて呼び出された場合に発行されます。

CICS の下では、CICS トランザクション ID (CICS-TransId)、CICS タスク番号 (CICS-TaskNo)、および現在日付 (Date) と時刻 (Time) が、メッセージ行末尾の CICS リストに印刷されます (EZA API トレース出力の送信先が SYSLST の場合)。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZA002I >>> *function* **PROCESSING STARTS ...**
 [SOCKET=number][WITH ...] [CICS-TransId
 CICS-TaskNo Date Time]

説明: このメッセージは、EZA API トレース機能がアクティブな場合に出されるもので、EZA API が機能 *function* を処理するために呼び出された場合に発行されます。該当する場合、この機能要求に対する関連ソケット、その他の入力パラメータの番号 (*number*) が表示されます。

CICS の下では、CICS トランザクション ID (CICS-TransId)、CICS タスク番号 (CICS-TaskNo)、および現在日付 (Date) と時刻 (Time) が、メッセージ行末尾の CICS リストに印刷されます (EZA API トレース出力の送信先が SYSLST の場合)。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZA003I *function* **RETURNS WITH RC**
 /ERRNO="Retcode /Errno",..." [CICS-TransId
 CICS-TaskNo Date Time]

説明: このメッセージは、EZA API トレース機能がアクティブな場合に出されるもので、EZA API が呼び出し元に返された場合に発行されます。該当する場合は、戻りコードと ERRNO の値が表示され、さらに、その他のリターン情報が表示されることもあります。

CICS の下では、CICS トランザクション ID (CICS-TransId)、CICS タスク番号 (CICS-TaskNo)、および現在日付 (Date) と時刻 (Time) が、メッセージ行末尾の CICS リストに印刷されます (EZA API トレース出力の送信先が SYSLST の場合)。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZA100I **UNEXPECTED VALUE OUTSIDE RANGE:**

n [CICS-TransId CICS-TaskNo Date Time]

説明: 新規のソケット番号を割り振るソケット要求 (SOCKET、ACCEPT、TAKESOCKET など) の処理時に、TCP/IP スタック・ルーチンがソケット番号 *n* を返しましたが、この値は、EZA API でサポートされるソケット番号の最高値を超えています。

CICS の下では、CICS トランザクション ID (CICS-TransId)、CICS タスク番号 (CICS-TaskNo)、および現在日付 (Date) と時刻 (Time) が、メッセージ行末尾の CICS リストに印刷されます (EZA API トレース出力の送信先が SYSLST の場合)。

システムの処置: ソケット要求は失敗します。

オペレーターの応答: 追加メッセージがないか確認し、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを調べて、失敗となるソケット要求が発行される十分前にソケットをクローズできないか確認してください。

EZA101I *function* **FUNCTION NOT SUPPORTED**
 [CICS-TransId CICS-TaskNo Date Time]

説明: ソケット *function* 要求が出されましたが、この要求は EZA API ではサポートされていません。

CICS の下では、CICS トランザクション ID (CICS-TransId)、CICS タスク番号 (CICS-TaskNo)、および現在日付 (Date) と時刻 (Time) が、メッセージ行末尾の CICS リストに印刷されます (EZA API トレース出力の送信先が SYSLST の場合)。

システムの処置: ソケット要求は失敗します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを変更してください。

EZA102I **FUNCTION CODE xxx NOT SUPPORTED.**
 [CICS-TransId CICS-TaskNo Date Time]

説明: EZASMI マクロ要求が (16 進) 機能コード *xxx* で発行されましたが、これは EZA API ではサポートされていません。

CICS の下では、CICS トランザクション ID (CICS-TransId)、CICS タスク番号 (CICS-TaskNo)、および現在日付 (Date) と時刻 (Time) が、メッセージ行末尾の CICS リストに印刷されます (EZA API トレース出力の送信先が SYSLST の場合)。

システムの処置: 要求は失敗します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムを変更してください。

EZA103I **UNEXPECTED TCP/IP ERROR CODE *nnnn***

EZA104I • EZA204I

[CICS-TransId CICS-TaskNo Date Time]

説明: TCP/IP 製品が、予期しないエラー・コード *nnnn* を返しました。

CICS の下では、CICS トランザクション ID (CICS-TransId)、CICS タスク番号 (CICS-TaskNo)、および現在日付 (Date) と時刻 (Time) が、メッセージ行末尾の CICS リストに印刷されます (EZA API トレース出力の送信先が SYSLST の場合)。

システムの処置: グローバル・エラー変数が EOPNOTSUPP に設定されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: 応答: この問題は IBM (または、ご使用の TCP/IP 製品の提供者) に報告してください。

EZA104I UNEXPECTED ERROR IN *function* PROCESSING: OFFSET *Xoffset* [CICS-TransId CICS-TaskNo Date Time]

説明: 機能 *function* の処理中に予期しないエラーが発生しました。メッセージには、このエラーが検出された処理モジュール内の 16 進の *offset* が記載されます。

CICS の下では、CICS トランザクション ID (CICS-TransId)、CICS タスク番号 (CICS-TaskNo)、および現在日付 (Date) と時刻 (Time) が、メッセージ行末尾の CICS リストに印刷されます (EZA API トレース出力の送信先が SYSLST の場合)。

システムの処置: 要求が失敗する可能性があります。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: 問題を弊社に報告してください。

EZA105I IPNRCHCK failed with Reason = *reason*

説明: EZA 処理環境で初期検査のために TCP/IP for z/VSE® スタックに対するインターフェースが呼び出されました。この呼び出しは失敗しました。*reason* は次のいずれかです。

MAININIF

TCP/IP for z/VSE スタックにアクセスできません。

MAINSQB2

TCP/IP for z/VSE スタックにアクセスできません。

MAINSQB2

TCP/IP for z/VSE スタックにアクセスできません。

STUBCDLO

フェーズ \$SOCKOPT をロードできません。

STUBCDLD

メイン・インターフェース・ルーチン (通常は IPNRBSDC) をロードできません。

STUBNSCA

TCP/IP for z/VSE スタックはまだ初期化されていません。

他の理由は、破損した制御ブロックを示すために返される可能性があります。

システムの処置: EZA API 関数呼び出しは RETCODE=-1 および ERRNO=1117 (ENETDOWN) で終了します。

オペレーターの応答: TCP/IP for z/VSE スタックが開始されていること、および TCP/IP ライブラリーがアプリケーションの LIBDEF SEARCH チェーン内に含まれていることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

EZA200I EZATRUE has successfully been started.

説明: EZATRUE (EZA 処理環境用の CICS タスク関連ユーザー出口) が正常に開始されました。

システムの処置: CICS トランザクションからの EZA API ファンクション呼び出し (EZASMI および EZASOKET) の受け入れおよび処理が行われるようになります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZA201I EZATRUE has successfully been stopped.

説明: EZATRUE (EZA 処理環境用の CICS タスク関連ユーザー出口) が正常に停止されました。

システムの処置: CICS トランザクションからの EZA API ファンクション呼び出し (EZASMI および EZASOKET) の受け入れが行われなくなります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZA202I EZATRUE is already active.

説明: EZATRUE (処理環境用の CICS タスク関連ユーザー出口) がアクティブであるにもかかわらず、EZATRUE を開始するプログラム EZASTRUE が呼び出されました (トランザクション EZAT、または、EXEC CICS LINK、CICS PLT による)。

システムの処置: EZATRUE の開始要求は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZA203I EZATRUE is already disabled.

説明: EZATRUE (処理環境用の CICS タスク関連ユーザー出口) がアクティブでないにもかかわらず、EZATRUE を停止するプログラム EZASTRUE が呼び出されました (トランザクション EZAT、または、EXEC CICS LINK、CICS PLT による)。

システムの処置: EZATRUE の停止要求は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZA204I Invalid input format.

説明: トランザクション EZAT 開始されましたが、入力が無効 (START、STOP のいずれでもない) です。

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZA205I **Failure to [enable|disable] EZATRUE:****RESP=resp, EIBRCODE=eibrcode**

説明: EZATRUE (EZA 処理環境用の CICS タスク関連ユーザ出口) の開始または停止要求が失敗しました。

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: CICS *resp* および *eibrcode* の値によって、失敗の理由を判断してください。

第 5 章 接頭部 EZY CICS Listener メッセージ

EZY1218E *mm/dd/yy hh:mm:ss* PROGRAM *progname*
 DISABLED TRANID=*tran* PARTNER INET
 ADDR=*xxx.xxx.xxx* PORT=*ppppppp*

説明: Listener EZACIC02 は、トランザクション *tran* に関連付けられたプログラム *progname* の状況を検査しました。プログラムは使用可能ではありませんでした。

システムの処置: Listener を続行します。

オペレーターの応答: CEMT を使用してプログラムの状況を調べ、訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1219E *mm/dd/yy hh:mm:ss* UNEXPECTED *eventtype*
 EVENT IN LISTENER *transactionid* FROM
 CLIENT IP ADDRESS *ipaddress* PORT
 portnumber

説明: CICS リスナーに予期しないイベントが通知されました。

eventtype は、イベントのタイプ (READ、WRITE、または EXCEPTION) です。

transactionid は、リスナーの CICS トランザクションの名前です。

ipaddress は、クライアントのリモート IP アドレスです。

portnumber は、クライアントのリモート・ポート番号です。
システムの処置: リスナーは接続を終了し、処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

EZY1220E *mm/dd/yy hh:mm:ss* READ FAILURE ON
 CONFIGURATION FILE PHASE=*xx*
 EIBRESP2=*rrrrrr*

説明: CICS Listener 初期設定フェーズ EZACIC21 が構成ファイルを読み取れませんでした。

システムの処置: トランザクションを終了します。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: EIBRESP2 値を使用して問題を判別し、ファイルを訂正してください。

EZY1221E *mm/dd/yy hh:mm:ss* CICS LISTENER
 ENABLE FAILURE EIBRCODE BYTE2 = *rr*

説明: タスク関連ユーザー出口 (TRUE) プログラム

EZACIC01 を使用可能にしようとしたが、失敗しました。

システムの処置: トランザクションを終了します。

オペレーターの応答: EIBRCODE BYTE2 値が 20 の場合、EZAO トランザクションを使用して CICS リスナー・サポートを停止してから再度開始することができます。これ以外の値の場合、CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: EIBRCODE 値を使用して問題の原因を判別し、ファイルを訂正してください。EIBRCODE BYTE2 値 20 は、TRUE がすでに使用可能であることを示しています。使用可能である理由は多くの場合、CICS リスナー・サポート がすでに活性化されているためです。

EZY1222E *mm/dd/yy hh:mm:ss* LISTENER
 TRANSACTION *tran* MUST BE STARTED
 WITH CICS LISTENER INTERFACE

説明: Listener トランザクション *tran* が CICS Listener トランザクション EZAO で開始されていません。

システムの処置: トランザクション *tran* を終了します。

オペレーターの応答: トランザクション EZAO を使用して CICS Listener を開始してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1224I *mm/dd/yy hh:mm:ss* CICS LISTENER
 INITIALIZATION SUCCESSFUL

説明: CICS LISTENER インターフェースは初期設定を正常に完了しました。

システムの処置: 実行を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1225E *mm/dd/yy hh:mm:ss* STARTBR FAILURE ON
 CICS LISTENER CONFIGURATION FILE
 PHASE=*xx* EIBRESP2=*rrrrrr*

説明: 構成ファイルに対して使用された STARTBR コマンドが失敗しました。

システムの処置: トランザクションを終了します。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: EIBRESP2 値を使用して問題の原因を判別してください。構成ファイルの CICS 定義を調べて、ブラウズ操作が許可されていることを確認してください。

EZY1226E *mm/dd/yy hh:mm:ss* READNEXT FAILURE
 ON CICS LISTENER CONFIGURATION
 FILE PHASE=*xx* EIBRESP2=*rrrrrr*

説明: 構成ファイルに対して使用された READNEXT コマンドが失敗しました。

システムの処置: トランザクションを終了します。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: EIBRESP2 値を使用して問題の原因を判別してください。構成ファイルの CICS 定義を調べて、ブラウズ操作が許可されていることを確認してください。

EZY1227E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **INVALID LISTENER**
TRANID=tran

説明: Listener トランザクション *tran* が CICS に定義されていません。

システムの処置: Listener の初期設定を終了します。

オペレーターの応答: CICS 機能を使用して listener トランザクション・プログラムを定義します。次に EZAO を使用して listener を開始してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1228E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER**
TRANSACTION tran DISABLED

説明: Listener トランザクション *tran* が使用不可であったため、これを開始できませんでした。

システムの処置: Listener の初期設定を終了します。

オペレーターの応答: CICS 機能を使用してトランザクションを使用可能にしてから、EZAO を使用して listener を開始してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1229E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER**
TRANSACTION tran NOT AUTHORIZED

説明: Listener トランザクション *tran* の開始が許可されていなかったため、これを開始できませんでした。

システムの処置: Listener の初期設定を終了します。

オペレーターの応答: CICS 機能を使用して listener トランザクションの開始を許可してから、EZAO を使用して listener を開始してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1246E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER**
PROGRAM ID progname INVALID

説明: プログラム *progname* が定義されていないため、Listener トランザクションを開始できませんでした。

システムの処置: Listener の初期設定を終了します。

オペレーターの応答: プログラム ID が正しい場合、CICS 機能を使用してこれを定義してください。プログラム ID が正しくない場合、EZAC トランザクションを使用して CICS LISTENER 構成ファイルを訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1247E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER**
PROGRAM ID progname DISABLED

説明: プログラム *progname* が使用不可であるため、Listener トランザクションを開始できませんでした。

システムの処置: Listener の初期設定を終了します。

オペレーターの応答: CICS 機能を使用してプログラムを使用可能にしてから、EZAO を使用して listener を開始してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1250E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER tran**
NOT ON CONFIGURATION FILE

説明: Listener トランザクション *tran* が CICS LISTENER 構成ファイルに定義されていません。

システムの処置: Listener の初期設定を終了します。

オペレーターの応答: listener トランザクション名が正しい場合、EZAC トランザクションを使用してこれを CICS 構成ファイルに定義してください。名前が正しくない場合、EZAO トランザクションでこれを訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1251E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER**
MODULE progname ABEND xxxx

説明: CICS LISTENER モジュール *progname* が異常終了しました。

システムの処置: トランザクションを終了します。

オペレーターの応答: IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1253E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER tran**
NOT ON CONFIGURATION FILE

説明: 無効な listener 名を使用して EZAO STOP LISTENER TRANSACTION が実行されました。

システムの処置: 名前を訂正するためのパネルを表示します。

オペレーターの応答: 名前を訂正して、終了を再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1254E **CACHE FILE ERROR RESP2 VALUE rrrrrr**
DATE = mm/dd/yy TIME = hh:mm:ss CALL
c

説明: キャッシュ・ファイル操作でエラーが発生しました。

システムの処置: エラー応答で呼び出し側プログラムに戻ります。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: RESP2 値を使用してエラーを判別し、キャッシュ・ファイルを訂正してください。

EZY1255E **TEMPORARY STORAGE ERROR RESP**
VALUE rrrrrr. DATE = mm/dd/yy TIME =
hh:mm:ss CALL # c

説明: EZACIC25 の一時ストレージ操作でエラーが発生しました。

システムの処置: エラー応答で呼び出し側プログラムに戻ります。

オペレーターの応答: RESP 値を使用してエラーを判別してください。IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1256E *mm/dd/yy hh:mm:ss* CICS LISTENER
INTERFACE NOT ENABLED PRIOR TO
LISTENER STARTUP

説明: CICS LISTENER インターフェースが活動状態にないときに listener を開始しようとした。

システムの処置: エラーを返して、トランザクション EZAO を終了します。

オペレーターの応答: Listener を開始する前に、トランザクション EZAO を使用して CICS LISTENER を開始してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1258I *mm/dd/yy hh:mm:ss module* ENTRY POINT is
address

説明: このメッセージは、モジュールのエントリー・ポイント・アドレスを示しています。

module はモジュールの名前です。

address は、モジュールのエントリー・ポイント・アドレスです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1259I *mm/dd/yy hh:mm:ss module* ENTRY POINT is
addressmm/dd/yy hh:mm:ss IOCTL CALL
FAILURE TRANSACTION=*transactionid*
TASKID=*tasknumber* ERRNO=*errno*

説明: Listener トランザクション *transactionid* が IOCTL 呼び出しで失敗しました。メッセージ・テキストの各部の意味は、以下のとおりです。

transactionid は、リスナーが動作しているトランザクションの名前です。

tasknumber は、リスナー・タスクの CICS タスク番号です。

errno は、TCP/IP ソケット・エラー番号です。

システムの処置: このエラーがリスナーの初期化の間に発生した場合、リスナー・トランザクション *transactionid* は終了しません。そうではない場合、リスナーは処理中のソケットをクローズし、通常の処理を再開します。

オペレーターの応答: *errno* 値を使用して失敗の原因を判別してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1285E *mm/dd/yy hh:mm:ss* CICS LISTENER
TRANSACTION *tran* NOT ON
CONFIGURATION FILE

説明: 開始しようとした listener トランザクション *tran* の記述レコードが、CICS LISTENER 構成ファイルにありません。

システムの処置: Listener を終了します。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: EZAC を使用して listener を構成ファイルに追加し、再試行してください。

EZY1286E *mm/dd/yy hh:mm:ss* READ FAILURE ON
CICS LISTENER CONFIGURATION FILE
TRANSACTION=*tran* EIBRESP2=*rrrr*

説明: listener トランザクション *tran* は構成ファイルを読み取れませんでした。

システムの処置: Listener を終了します。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: EIBRESP2 の値を解釈してください。ファイルが CICS に認識されていない場合は、構成ファイルのインストール・ステップを実行してください。

EZY1287E *mm/dd/yy hh:mm:ss* GETMAIN FAILURE
FOR VARIABLE STORAGE
TRANSACTION=*tran* EIBRESP2=*rrrrrr*

説明: EZACIC02 は実行する必要がある変数ストレージを取得できませんでした。

システムの処置: Listener を終了します。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: EIBRESP2 の値を解釈してください。示された通りに CICS 構成を訂正してください。

EZY1288E *mm/dd/yy hh:mm:ss* CICS LISTENER
MODULE *progname* ABEND *aaaa*

説明: CICS LISTENER インターフェースのモジュール *progname* で異常終了が発生しました。

システムの処置: Listener を終了します。

オペレーターの応答: IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1289I *mm/dd/yy hh:mm:ss* CICS LISTENER
TRANSACTION *tran* TERMINATING

説明: listener トランザクション *tran* が終了中です。これは、通常のシャットダウン状態か、または listener ソケットに関連する障害です。後者の場合は、直前のメッセージに障害の説明があります。

システムの処置: listener の終了を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1290I *mm/dd/yy hh:mm:ss* LISTENER *tran*
STARTING

説明: Listener トランザクション *tran* (プログラム EZACIC02) に制御が渡されました。

システムの処置: Listener *tran* を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1291I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **LISTENER**
TRANSACTION=tran TASKID=cicstask
ACCEPTING REQUESTS VIA PORT
pppppp

説明: Listener トランザクション *tran* が、ポート *pppppp*

で接続要求を受信できるようになりました。
 システムの処置: Listener *tran* を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1292I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CANNOT START**
LISTENER, TRUE NOT ACTIVE.
TRANSACTION=tran TASKID=cicstask
EIBRCODE BYTE3=rr

説明: CICS LISTENER インターフェースの初期設定が正常に完了しませんでした。この listener を続行できません。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: EZAO を使用して listener を開始する場合、まず CICS LISTENER インターフェースが初期設定を正常に完了したことを確認してください。自動初期設定でこのエラーが発生した場合、CICS LISTENER インターフェースの初期設定が失敗した理由を示すその他のメッセージを参照してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1293I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **INITAPI CALL FAILURE**
TRANSACTION=tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxxx

説明: Listener トランザクション *tran* が INITAPI 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1294E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **SOCKET CALL FAILURE**
TRANSACTION=tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxxx

説明: Listener トランザクション *tran* が SOCKET 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1295E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **BIND CALL FAILURE**
TRANSACTION=tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxxx

説明: Listener トランザクション *tran* が BIND 呼び出しで失敗しました。

システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1296E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **LISTEN CALL FAILURE**
TRANSACTION=tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxxx

説明: Listener トランザクション *tran* が LISTEN 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1297E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **GETCLIENTID CALL**
FAILURE TRANSACTION=tran
TASKID=cicstask ERRNO=xxxxxx

説明: Listener トランザクション *tran* が GETCLIENTID 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1298I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CLOSE CALL FAILURE**
TRANSACTION ID=tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxxx

説明: Listener トランザクション *tran* が CLOSE 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を続行します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1299E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **SELECT CALL FAILURE**
TRANSACTION=tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxxx

説明: Listener トランザクション *tran* が SELECT 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1300E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **READ FAILURE**
TRANSID=tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxxx INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=ppppppp

説明: Listener トランザクション *tran* が READ 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を続行します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1301E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **READ CALL RECEIVED**
NULL DATA TRANSID=tran PARTNER
INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: Listener トランザクション *tran* がクライアントからヌル・データを受信しました。クライアントがソケットのクローズ呼び出しを出したか、または長さがゼロの送信を出しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を続行します。
 オペレーターの応答: クライアント・プログラムを訂正してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1302E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **READ TIMEOUT**
PARTNER INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=ppppppp

説明: クライアントからの初期メッセージが、この listener について CICS LISTENER 構成ファイルに指定された読み取りタイムアウト値に達するまでに到着しませんでした。
 システムの処置: listener は接続ソケットをクローズし、サーバー・トランザクションを開始しようとしません。
 オペレーターの応答: 遅延の原因を判別して、それを訂正してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1303E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **EZACIC02 GIVESOCKET**
TIMEOUT TRANS tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: 開始済みサーバー・トランザクションが、この listener について CICS LISTENER 構成ファイルに指定されたタイムアウト値に達するまでに **takesocket** を実行しませんでした。
 システムの処置: クライアントにエラー・メッセージを送信して、ソケットをクローズします。
 オペレーターの応答: サーバー・トランザクションの遅延の理由を判別してください。CICS システムが過負荷状態であるか、または **takesocket** が出される前のサーバー・トランザクションの処理が多すぎたことが原因だと思われます。状況を訂正して、再試行してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1304E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **UNEXPECTED INPUT**
EVENT TRANSACTION=tran PARTNER
INET ADDRESS=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=ppppppp

説明: トランザクション入力メッセージの終了後に、listener がクライアントからのデータを受信しました。
 システムの処置: listener はこのデータを無視します。
 オペレーターの応答: この listener について CICS LISTENER 構成ファイルに指定された最小メッセージ長が正しいことを確認してください。正しい場合は、クライアントがこの追加データを送信する理由を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1305E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **UNEXPECTED**
EXCEPTION EVENT TRANS=tran
PARTNER INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=ppppppp

説明: この接続で listener が、サーバーによって正常な **takesocket** が出されたことを示すイベントではなく、例外イベントを受信しました。
 システムの処置: イベントを無視します。
 オペレーターの応答: 帯域外データの使用など、例外イベントを引き起こす処理をクライアントが行っていないことを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1306E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **SECURITY EXIT** *exitname*
IS NOT DEFINED TRANID=tran
TASKID=xxxxxxx

説明: この listener について CICS LISTENER 構成ファイルに指定されたセキュリティー出口が CICS に定義されていません。
 システムの処置: ソケットをクローズして、接続を終了します。
 オペレーターの応答: CICS RDO を使用してセキュリティー出口を定義してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1307E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **MAXIMUM # OF**
SOCKETS USED. TRANS=tran
TASKID=cicstask ERRNO=xxxxx

説明: listener トランザクション *tran* に割り振られたすべてのソケットが使用中です。
 システムの処置: ソケットが使用可能になるまで、ACCEPT 呼び出しに遅延が生じます。
 オペレーターの応答: EZAC トランザクションを使用して listener *tran* に割り振るソケット数を増やし、listener トランザクション *tran* を再始動してください。
 プログラマーの応答:

EZY1308E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **ACCEPT CALL FAILURE**
TRANSACTION=tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxx

説明: Listener トランザクション *tran* が ACCEPT 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1309E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **GIVESOCKET FAILURE**
TRANS tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxx INET ADDR =xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=mv.pppppp

説明: Listener トランザクション *tran* が GIVESOCKET 呼び出しで失敗しました。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。
 オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1310E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **IC VALUE NOT**
NUMERIC TRANID=tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=pppppp

説明: トランザクション入力メッセージに指定されたインターバルに、1 つ以上の非数値文字が含まれています。
 システムの処置: インターバルは無視され、トランザクションが即時に開始されます。
 オペレーターの応答: このトランザクション入力メッセージを送信するクライアント・プログラムを訂正してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1311E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS TRANID tran NOT**
AUTHORIZED PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=xxxxxx

説明: トランザクション入力メッセージに指定されたトランザクション名 *tran* は RSL 許可ではなく、CICS Listener セキュリティー出口は *tran* の実行を許可しません。
 システムの処置: トランザクションは開始されません。
 オペレーターの応答: トランザクションが許可されている場合は CICS トランザクション定義を、またはクライアント・プログラムが不正なトランザクション名を送信する場合はクライアント・プログラムを訂正してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1312E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **SECURITY EXIT exitname**
CANNOT BE LOADED TRANID=tran
TASKID=cicstask

説明: Listener トランザクション *tran* が、セキュリティー出口プログラム *exitname* をロードしようとして失敗しました。

システムの処置: Listener トランザクション *tran* は続行されますが、このトランザクション入力メッセージに関連付けられたサーバー・トランザクションは開始されません。
 オペレーターの応答: CEMT を使用して出口プログラムの状況を判別し、見つかった問題を訂正してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1313E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **LISTENER NOT**
AUTHORIZED TO ACCESS SECURITY
EXIT exitname TRANID=tran
TASKID=cicstask

説明: Listener トランザクション *tran* は、セキュリティー・プログラム *exitname* へのアクセスを許可されていません。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* は続行されますが、このトランザクション入力メッセージに関連付けられたサーバー・トランザクションは開始されません。
 オペレーターの応答: セキュリティー出口プログラムが正しくない場合、EZAC を使用して CICS LISTENER 構成ファイルにあるこの *listener* の定義を訂正してください。セキュリティー出口プログラムが正しい場合、CICS RDO 機能を使用して、セキュリティー出口プログラム *exitname* を使用できるよう *listener* トランザクション *tran* に許可を与えてください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1314E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **SECURITY EXIT exitname**
IS DISABLED TRANID=tran
TASKID=cicstask

説明: セキュリティー出口プログラム *exitname* が使用不可になっています。
 システムの処置: Listener トランザクション *tran* は続行されますが、このトランザクション入力メッセージに関連付けられたサーバー・トランザクションは開始されません。
 オペレーターの応答: CEMT を使用してセキュリティー出口プログラムを使用可能にしてください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1315I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **INVALID TRANID=tran**
PARTNER INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=pppppp

説明: クライアントからのトランザクション入力メッセージがトランザクション *tran* を指定しましたが、このトランザクションは CICS に定義されていません。
 システムの処置: Listener は続行されますが、このトランザクション入力メッセージに関連付けられたサーバー・トランザクションは開始されません。
 オペレーターの応答: トランザクション名が正しくない場合、クライアント・プログラムを訂正してください。トランザクション名が正しい場合、CICS トランザクション定義を訂正してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1316E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **TRANID=tran IS
DISABLED PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: トランザクション *tran* が使用不可になっています。
 システムの処置: Listener は続行されますが、このトランザク
 ション入力メッセージに関連付けられたサーバー・トランザク
 ション *tran* は開始されません。
 オペレーターの応答: CEMT を使用してサーバー・トランザ
 クションを使用可能にしてください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1317E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **TRANID=tran IS NOT
AUTHORIZED PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: Listener は、トランザクション入力メッセージに指定さ
 れたトランザクション名の開始を許可されていません。
 システムの処置: トランザクションは開始されません。
 オペレーターの応答: listener トランザクション *tran* にト
 ランザクションを開始する許可を与えてください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1318E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **TD START
SUCCESSFUL, QUEUEID=qqqq**

説明: Listener トランザクションが、一時データ・キュー
qqqq を介してサーバー・トランザクションを開始しました。
 システムの処置: Listener トランザクションは続行され、サー
 バー・トランザクションの開始の準備ができています。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1319E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **QID ERROR FOR TD
DESTINATION tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: listener トランザクションは、一時データ・キューを介
 して CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。
 DFHRESP は QIDERR でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: キュー名が正しくない場合、このトラン
 ザクション入力メッセージを送信するクライアント・プログラ
 ムを訂正してください。キュー名が正しい場合、CICS 宛先管
 理テーブルを訂正してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1320E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **I/O ERROR FOR TD
DESTINATION tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: Listener トランザクションは、一時データ・キューを介
 して CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。
 DFHRESP は IOERR でした。
 システムの処置: Listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡し
 てください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1321E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **LENGTH ERROR FOR
TD DESTINATION tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: Listener トランザクションは、一時データ・キューを介
 して CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。
 DFHRESP は LENGERR でした。
 システムの処置: Listener トランザクション *xxxx* を続行しま
 す。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡し
 てください。このキューの最小の長さは 72 より大きくしてく
 ださい。
 プログラマーの応答: このメッセージ長を収容できるよう一時
 データ・キューの定義を変更してください。

EZY1322E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **TD DESTINATION tran
DISABLED PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: Listener トランザクションは、一時データ・キューを介
 して CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。
 DFHRESP は DISABLED でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CEMT を使用して宛先を使用可能にし
 てください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1323E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **TD DESTINATION tran
OUT OF SPACE PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: Listener トランザクションは、一時データ・キューを介
 して CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。
 DFHRESP は NOSPACE でした。
 システムの処置: Listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡し
 てください。
 プログラマーの応答: この一時データ・キューにスペースを割
 り振ってください。

EZY1324E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **TD START FAILED
QUEUE ID= tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: Listener トランザクションは、一時データ・キューを介
 して CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。
 DFHRESP は 99 でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡し
 てください。
 プログラマーの応答: 一時データ・キューの問題を判別して、
 それを訂正してください。

EZY1325E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **START SUCCESSFUL
TRANID=tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp**

説明: Listener トランザクションは、一時データ・キューを介
 して CICS トランザクション *tran* を開始できました。

システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1326E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **START I/O ERROR**
TRANSACTION ID=tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: listener トランザクションは CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。DFHRESP は IOERR でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: 入力エラーの原因を判別して、それを訂正してください。

EZY1327E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **START TRANSACTION**
ID tran INVALID PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: listener トランザクションは CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。DFHRESP は TRANSIDERR でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: RDO 内のトランザクション定義を調べて、それが正しいことを確認してください。

EZY1328E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **START TRANSACTION**
ID tran NOT AUTHORIZED PARTNER
INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: listener トランザクションは CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。DFHRESP は NOTAUTH でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: トランザクション ID が正しくない場合、このトランザクション入力メッセージを送信したクライアント・プログラムを訂正してください。トランザクションが正しい場合、このトランザクションを開始するための許可を listener トランザクションに与えてください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1329E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **START FAILED (99)**
TRANSID=tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: listener トランザクションは CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。DFHRESP は 99 でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: RDO 内のトランザクション定義を調べてください。トランザクションが開始されない理由を示す可能性のある関連メッセージを探してください。

EZY1330E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **IC START SUCCESSFUL**
TRANSACTION ID=tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: listener トランザクションは CICS トランザクション *tran* を開始できました。
 システムの処置: Listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1331E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **IC START I/O ERROR**
TRANSACTION ID=tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: listener トランザクションは CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。DFHRESP は IOERR でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: 入力エラーについての特定の情報を提供するこの他のメッセージを探して、問題を訂正してください。

EZY1332E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **IC START INVALID**
REQUEST TRANSACTION ID=xxxx
PARTNER INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=ppppppp

説明: listener トランザクションは CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。DFHRESP は INVREQ でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。
 プログラマーの応答: なし。

EZY1333E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **IC START FAILED (99)**
TRANSACTION ID=tran PARTNER INET
ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: listener トランザクションは CICS トランザクション *tran* を開始できませんでした。DFHRESP は 99 でした。
 システムの処置: listener トランザクションを続行します。
 オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: トランザクションの RDO 定義を調べてください。IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

EZY1334E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **INVALID USERID**
TRANSACTION ID=tran PARTNER INET
ADDR = xxx.xxx.xxx.xxx PORT =ppppppp

説明: ユーザー・セキュリティ出口は無効な USERID フィールドを Listener に渡しました。

システムの処置: サーバー・トランザクションは開始されません。

オペレーターの応答: セキュリティー出口の無効な USERID を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1335E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **WRITE FAILED**
ERRNO=xxxxx TRANSACTION ID=tran
PARTNER INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=ppppppp

説明: listener トランザクション *tran* が WRITE コマンドで失敗しました。

システムの処置: listener トランザクションを続行します。

オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1336E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **TAKESOCKET FAILURE**
TRANS tran TASKID=cicstask
ERRNO=xxxxx INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=ppppppp

説明: Listener トランザクション *tran* が TAKESOCKET コマンドで失敗しました。

システムの処置: Listener トランザクション *xxxx* を続行します。

オペレーターの応答: ERRNO 値を使用して失敗の原因を判別してください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1337E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS IN QUIESCE**
LISTENER TERMINATING TRANSID=
tran TASKID=cicstask

説明: Listener トランザクション *tran* が、CICS が静止中であることを検出したため終了しています。

システムの処置: Listener トランザクション *tran* を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1338E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **PROGRAM progname**
NOT FOUND TRANID=tran PARTNER
INET ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx PORT=ppppppp

説明: Listener はトランザクションに関連付けられたプログラムの状況を検査しました。プログラムが見つかりませんでした。

システムの処置: Listener を続行します。

オペレーターの応答: トランザクション ID が正しくない場合、トランザクション入力メッセージを送信したクライアント・プログラムを訂正してください。トランザクション ID が正しい場合、CICS のトランザクションおよびプログラム定義を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1339E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **EXIT PROGRAM IS**
NOT ENABLED. DISABLE IGNORED.
TERM=term TRAN=tran

説明: CICS LISTENER インターフェースの終了が要求されましたが、インターフェースが使用可能になっていません。

システムの処置: 終了要求は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1340E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **API ALREADY**
QUIESCING DUE TO PREVIOUS REQ.
EZAO IGNORED. TERM=term TRAN=tran.

説明: CICS LISTENER インターフェースの静止が要求されましたが、すでに静止中です。

システムの処置: 2 番目の要求を無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1341E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **API ALREADY IN**
IMMED MODE DUE TO PREV REQ.
EZAO IGNORED. TERM=term TRAN=tran

説明: CICS LISTENER インターフェースの即時終了が要求されましたが、すでに即時終了が進行中です。

システムの処置: 2 番目の要求を無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1342I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **DISABLE DELAYED**
UNTIL ALL USING TASKS COMPLETE.
TERM=term TRAN=tran

説明: 静止状態になっており、CICS LISTENER インターフェースを使用して未解決の CICS タスクがすべて完了することを待っています。

システムの処置: 静止を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1343I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER**
INTERFACE IMMEDIATELY DISABLED.
TERM=term TRAN=tran

説明: CICS LISTENER インターフェースの即時終了要求が正常に完了しました。

システムの処置: CICS LISTENER インターフェースを終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1344I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **CICS LISTENER**
INTERFACE QUIESCENTLY DISABLED.
TERM=term TRAN=tran

説明: CICS LISTENER インターフェースの据え置き終了要求が正常に完了しました。

EZY1347I • EZY1363I

システムの処置: CICS LISTENER インターフェースを終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

EZY1347I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **PROGRAM** *progname*
ASSUMED TO BE AUTOINSTALLED
TRANID=tran IP ADDR=xxx.xxx.xxx.xxx
PORT=pppppp

説明: Listener はトランザクションに関連付けられたプログラム *progname* の状況を検査しました。プログラムが見つかりませんでした。プログラムの自動インストールが CICS 領域で活動状態になっているため、Listener はプログラム定義が CICS によって自動的にインストールされるものと想定します。

システムの処置: Listener を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: トランザクション定義内のプログラム名が正しいことを確認してください。プログラムが PPT に明示的に定義されるのではなく、自動インストールされることになっていることを確認してください。

EZY1349E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **UNABLE TO OPEN**
CONFIGURATION FILE
TRANSACTION=transactionid
EIBRESP2=eibresp2

説明: CICS リスナーは、EXEC CICS SET FILE 呼び出しを使用して CICS ソケット構成ファイル (EZACONFG) を開こうと試みていたときに、CICS から異常な応答を受け取りました。

transactionid は、リスナーが動作しているトランザクションの名前です。

eibresp2 は、EXEC CICS SET FILE 呼び出しで CICS によって返された EIBRESP2 値です。説明は「CICS System Programming Reference」にあります。

システムの処置: リスナーは終了します。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 「CICS System Programming Reference」を参照し、EIBRESP2 の値について調べてください。このファイルが CICS に認識されていない場合、構成ファイルのインストール手順を実行してください。

EZY1353E *mm/dd/yy hh:mm:ss* **COMMA MISSING**
AFTER IC TRANS ID= xxxx PARTNER IP
ADDR=inetaddress PORT=xxxxxx

説明: リスナーは、クライアントのトランザクション要求メッセージで、インターバル制御機能 (IC) 開始タイプ標識の後にコマ区切り文字を検出ませんでした。メッセージ・テキストの各部の意味は、以下のとおりです。

transactionid は、接続元クライアントによって要求されたトランザクションの名前です。

inetaddress は、接続元クライアントの IP アドレスです。

portnumber は、接続元クライアントのポート番号です。

例: 標準リスナーのトランザクション要求メッセージ:

```
SCCS,DATA,IC000010
EZY1258I 10/11/05 14:01:55 EZACIC02 ENTRY POINT IS
17CB2028
EZY1291I 10/11/05 14:01:56 LISTENER TRANSACTION=
EZAL TASKID= 00000032L ACCEPTING REQUESTS VIA
PORT 3010
EZY1353E 10/11/05 14:02:56 COMMA MISSING AFTER IC
TRANSACTION ID= SCCS PARTNER INET ADDR=10.1.1.2
PORT= 1076
```

システムの処置: リスナーは、クライアントのトランザクション要求メッセージで指定されているトランザクションを開始せず、接続を終了します。このメッセージはクライアントにも返されます。

オペレーターの応答: IC 開始タイプと IC 開始時刻がコマ区切り文字で区切られていることを確認してください。クライアントのトランザクション要求メッセージについては、「IBM z/VSE TCP/IP サポート」でリスナー入力フォーマットを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

EZY1357I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **TRANSIENT DATA**
QUEUE SPECIFIED ON ERROR TD IS
NOT DEFINED TO CICS

説明: リスナーが、ERROR TD 構成オプションによって指定された CICS 一時データ・キューが、IP CICS ソケット・インターフェースが有効になっている CICS 領域に定義されていないことを判別しました。

システムの処置: EZAM 一時データ・キューが、すべての CICS リスナー・インターフェース・メッセージを報告するために使用されます。

オペレーターの応答: CICS システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ERROR TD 構成オプションによって指定された CICS 一時データ・キューが、CICS に正しく定義されていることを確認してください。

EZY1363I *mm/dd/yy hh:mm:ss* **LISTENER** *transactionid*
taskno **HAD** *n* **THREADS ACTIVE WHEN**
STACK *tcpname* **ENDED**

説明: このメッセージは、指定された TCP/IP スタックが終了したときにアクティブであったリスナー・スレッドの数を示します。このメッセージの後に、影響を受けるクライアントについて説明する、1 つ以上の EZY1368I メッセージが続きます。メッセージ・テキストの各部の意味は、以下のとおりです。

transactionid は、リスナーのトランザクション ID です。

taskno は、CICS によって割り当てられているタスク番号です。

threads は、指定された TCP/IP スタックが終了したときにアクティブであったスレッドの数です。

tcpname リスナーがアフィニティーを持っていた TCP/IP 名です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 処置は不要です。

プログラマーの応答: 処置は不要です。

EZY1366E *mm/dd/yy hh:mm:ss CICS/SOCKETS*
LISTENER TRANSACTION *tranid* IS
ALREADY ACTIVE

説明: IP CICS ソケット・リスナーが、同じトランザクション ID を持つ別のリスナーが既にアクティブであることを判別しました。

tranid は、重複する IP CICS ソケット・リスナーの CICS トランザクション ID です。

システムの処置: このメッセージを出した IP CICS ソケット・リスナーは終了します。

オペレーターの応答: リスナーの CICS トランザクション ID またはポート番号を変更し、その定義が固有になるようにしてください。IP CICS ソケット・リスナーの構成について詳しくは、「IBM z/VSE TCP/IP サポート」を参照してください。
 プログラマーの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

EZY1367I *mm/dd/yy hh:mm:ss SOCK# IP ADDRESS*
PORT CHILD

説明: リスナーは、その TCP/IP スタックが終了したときにクライアント接続を処理していました。このメッセージは、子サーバー・タスクによって使用されなかったソケットをリスナーが受け入れたときに出力されます。このメッセージは、後に続く EZY1368I 詳細メッセージのヘッダー・メッセージです。
 EZY1363I メッセージと一緒に出力されます。

例: リスナーがデータを処理しているときにスタックが終了した場合に出力されるメッセージ:

```
EZY1363I 05/02/12 11:51:43 LISTENER EZAL 0000045L HAD 1
THREADS ACTIVE WHEN STACK SOCKET00 IS UNAVAILABLE
EZY1367I 05/02/12 11:51:43 SOCK#      IP ADDRESS
PORT CHILD
EZY1368I 05/02/12 11:51:43          1 806:
:1:2.....4.141 SRV8
```

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 処置は不要です。

プログラマーの応答: 処置は不要です。

EZY1368I *mm/dd/yy hh:mm:ss sock# ipaddr port tran*

説明: リスナーは、その TCP/IP スタックが終了したときにクライアント接続を処理していました。このメッセージは、子サーバー・タスクによって使用されなかったソケットをリスナーが受け入れたときに出力されます。処理されていたクライアント接続ごとに、1 つの EZY1368I メッセージが出力されます。メッセージ・テキストの各部の意味は、以下のとおりです。

sock# は、リスナーのソケット番号です。

ipaddr は、クライアントの IP アドレスです。

port は、クライアントのポート番号です。

tran は、子サーバーのトランザクション ID です。子サーバー・トランザクション ID がブランクである場合、まだ ID は判別されていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 処置は不要です。

プログラマーの応答: 処置は不要です。

EZY1369E *mm/dd/yy hh:mm:ss LISTENER *transactionid**
taskno **IS DELAYED, STACK *tcpname* IS**
UNAVAILABLE

説明: 指定されたリスナーに割り当てられている TCP/IP スタックは、アクティブではありません。メッセージ・テキストの各部の意味は、以下のとおりです。

transactionid は、リスナーのトランザクション ID です。

taskno は、CICS によって割り当てられているタスク番号です。

tcpname リスナーがアフィニティーを持っていた TCP/IP 名です。

システムの処置: リスナーはリソースを解放し、*tcpname* 値で示されている TCP/IP スタックに接続します。スタックがアクティブではないことが原因で接続が失敗した場合、リスナーは、その RTYTIME 構成オプションで指定された時間だけ遅延し、再接続を試みます。リスナーの RTYTIME 値の設定について詳しくは、「IBM z/VSE TCP/IP サポート」で

「TYPE=LISTENER」の情報を調べてください。

オペレーターの応答: *tcpname* 値で示されている TCP/IP アドレス・スペースを開始または再開してください。

プログラマーの応答: 処置は不要です。

EZY3996E *mm/dd/yy hh:mm:ss AN INVALID TCP/IP*
NAME WAS DETECTED:
TCPADDR=cccccccc. PARAMETER
IGNORED

説明: TCP/IP アドレス・スペース (TCPADDR) の無効な名前 *cccccccc* を使用して、CICS リスナー CICS オブジェクトが指定されています。有効な名前は *SOCKETnn* または *nn* です。*nn* は接続先の TCP/IP スタックの ID です。*nn* は 00 から 99 の範囲内であればなりません。

システムの処置: パラメーターは無視されます。デフォルトの TCP/IP ID が使用されます (00 であるか、JCL ステートメント // OPTION SYSPARM='nn' で定義されます)。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: CICS リスナー CICS オブジェクトの TCPADDR 値を訂正してください。EZAC トランザクションを使用して、この変更を行うことができます。

第 6 章 接頭部 HCP の z/VSE メッセージ

**HCP0875A THE PROCESSOR CONTROLLER CAN
PERFORM ONLY A SUBSET OF
FUNCTIONS. FOLLOW LOCAL
PROCEDURES FOR REPORTING A
PROCESSOR CONTROLLER PROBLEM.
(52099)**

説明: プロセッサ・コントローラーに問題が起きたので、最小の機能サブセットしか実行できません。

システムの処置: システム操作は実行されます。ただし、VARY PROCESSOR、IOCP コマンドなどのプロセッサ・コントローラーを使用する機能は失敗します。

オペレーターの応答: ローカル・プロシージャに従ってプロセッサ・コントローラーの問題を報告してください。

プログラマーの応答: なし。

**HCPVMI232E HCPGIR450W IPL UNIT ERROR;
IRB 00404017 00100020 0C60B974
00800000CP entered; disabled wait PSW
000E0000 00000232**

説明: インストール・ディスクを IPL するだけの十分な使用可能プロセッサ・ストレージがありません。64M が必要です。

システムの処置: システムはハード待ちに移行します。

オペレーターの応答: インストール・ディスクの CP DEF
STOR 64M

IPL pcuu

プログラマーの応答: なし。

第 7 章 接頭部 ICK の装置サポート機能メッセージ

コンソールで受信するメッセージ

ICK001D CONFIRM PURGING OF UNEXPIRED DATA SETS ON *ccuu*, REPLY U TO PURGE, ELSE T

説明: 1 つ以上のデータ・セットが *ccuu* にあるボリューム上にある場合は、INIT コマンドによって、このデータ・セットの 1 つ以上のトラックの内容が破壊される可能性があります。

1 つ以上の未満了データ・セットが *ccuu* にあるボリューム上にある場合は、INSPECT コマンドまたは TRKFMT コマンドによって、このデータ・セットの 1 つ以上のトラックの内容が破壊される可能性があります。

TRKFMT コマンドによって検査または処理されるトラックが実際にデータ・セット内に存在するかどうかの検査は行われません。データ・セットが INSPECT コマンドまたは TRKFMT コマンドの影響を受けるのは、指定したトラックが未満了データ・セット内に存在する場合だけです。

データ・セットは、VTOC から除去されません。リカバリーが有効になっているのでない限り、指定されたトラックまたはブロックだけが除去されます。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: INIT コマンドの場合、データ・セットの無条件の除去を許可するなら U と、応答してください。

除去を停止し機能を打ち切るなら T と応答してください。

INSPECT コマンドの場合、INSPECT にコマンドで指定したトラックを処理させるには、U と応答してください。

指定されたトラックが壊されないように、機能を終了させるには、T を応答してください。

TRKFMT コマンドの場合、TRKFMT にコマンドで指定したトラックを処理させるには、U と応答してください。

指定されたトラックが壊されないように、機能を終了させるには、T を応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK002D ERROR IN REPLY, REPLY U OR T

説明: メッセージに対して無効な応答がなされました。有効な応答は U または T だけです。このいずれかの文字で応答すると、再入力要求が出されます。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 無条件での除去には U を、終了には T を応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK003D REPLY U TO ALTER VOLUME *ccuu* CONTENTS, ELSE T

説明: オフラインでのボリューム *ccuu* の処理は確認される必

要があります。これは、オペレーティング・システムはオフラインのボリュームをチェックしないためです。そのボリューム上のデータが失われるか修正される恐れがあります。

使用されたコマンドおよびパラメーターによって、変更データ量はボリューム通し番号と同程度の場合 (VOLID パラメーターが指定された REFORMAT コマンドなど) もあれば、トラック程度 (NOPRESERVE パラメーターが指定された INSPECT コマンドなど) になる、または全ボリュームと同じほど大きな場合もあります。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: コマンド処理を続行するなら、U と応答してください。コマンドを打ち切るなら、T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK004D READY DEVICE *ccuu* AND REPLY U, ELSE T

説明: 装置 *ccuu* は READY 状態になっていません。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 装置が READY (使用可能) 状態になっていることを確認し、コマンド処理を続行する場合は U と、コマンドを打ち切る場合は T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK005E DEFINE INPUT DEVICE, REPLY *dddd,ccuu* or CONSOLE

説明: *dddd* は装置タイプです。

ccuu はチャンネルおよび装置アドレスです。

このメッセージは、独立型環境においてのみ示されます。コマンド入力ストリームの装置タイプおよび位置は指定されなければなりません。ヌル行を入力すればコンソールを指定できます。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 入力装置タイプとそのチャンネル、および装置アドレスを指定してください。 *ccuu* は、3 または 4 桁の数字で指定できます。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK006E DEFINE OUTPUT DEVICE, REPLY *dddd,ccuu* or CONSOLE

説明: *dddd* は装置タイプです。

ccuu はチャンネルおよび装置アドレスです。

このメッセージは、独立型環境においてのみ示されます。印刷出力装置の装置タイプおよび位置は指定されなければなりません。

ん。ヌル行を入力すればコンソールを指定できます。
システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 出力装置タイプとそのチャンネルおよび装置アドレスを指定してください。ccuu は、3 桁または 4 桁として指定できます。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK007E INVALID INPUT DEVICE SPECIFIED

説明: このメッセージは、CMS または独立型バージョンでのみ現れます。オペレーターが、ICK005E メッセージに対して正しくない装置タイプを指定しました。

システムの処置: ICKDSF は、ICK005E メッセージを繰り返します。

オペレーターの応答: 正しい入力装置タイプを指定してください。CMS バージョンの場合は、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『CMS バージョンの入門』のトピックの、『入出力装置を選択するためのパラメーターの使用法』を参照してください。

独立型バージョンの場合は、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『独立型バージョンの入門』のトピックの、『独立型テープからの ICKDSF の IPL』のステップ 3 を参照してください。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK008E INVALID OUTPUT DEVICE SPECIFIED

説明: このメッセージは、CMS または独立型バージョンでのみ現れます。オペレーターが、ICK006E メッセージに対して正しくない装置タイプを指定しました。

システムの処置: ICKDSF は、メッセージ ICK006E を繰り返します。

オペレーターの応答: 正しい出力装置タイプを指定してください。

CMS バージョンの場合は、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『CMS バージョンの入門』のトピックの、『入出力装置を選択するためのパラメーターの使用法』を参照してください。

独立型バージョンの場合は、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『独立型バージョンの入門』のトピックの、『独立型テープからの ICKDSF の IPL』のステップ 4 を参照してください。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK009I SVC INTERRUPT OCCURRED

説明: このメッセージは、CMS または独立型バージョンでのみ現れます。プログラム・エラーである可能性があります。SVC 命令は、CMS または独立型バージョンでは使用できません。

システムの処置: ICKDSF は、終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK010I PROGRAM INTERRUPT OCCURRED

説明: このメッセージは、CMS または独立型バージョンでのみ現れます。命令が正しく行われなかったために生じたプログラム・エラーである可能性があります。

システムの処置: ICKDSF は、終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK011E I/O ERROR -- error-type, ccuu, command, csw, sense

説明: このメッセージは、CMS または独立型バージョンでのみ現れます。示されているタイプの入出力エラーが、アドレス ccuu の装置上で発生しました。メッセージは、エラーのあるコマンド、チャンネル状況ワード (CSW) の内容、およびその装置に対するセンス操作の結果を表示します。

システムの処置: ICKDSF は、終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を訂正し、ICKDSF を再始動してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK012E INTERVENTION REQUIRED, ccuu

説明: このメッセージは、CMS または独立型バージョンでのみ現れます。示されている装置が READY 状態になっていません。

システムの処置: ICKDSF は、問題が訂正されるまで待ちます。

オペレーターの応答: 装置が READY 状態になっていることを確認してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK013E CONSOLE READ FAILED, REENTER LAST LINE

説明: このメッセージは、CMS または独立型バージョンでのみ現れます。コンソールに入力された行を読み取ろうとしたときに、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: ICKDSF は、その行が再入力されるまで待ちます。

オペレーターの応答: その行を再入力してください。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK014D SET DEVICE ccuu IN WRITE-MODE AND REPLY U, ELSE T

説明: アドレス ccuu の装置は、読み取り専用モードに設定されています。

システムの処置: ICKDSF は応答を待ちます。

オペレーターの応答: 書き込み操作ができるように装置を設定し、U と応答してください。書き込み操作ができない場合は、T と応答すればコマンドが打ち切られます。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK015E SUPPLY TODAY'S DATE, REPLY mm/dd/yy

説明: このメッセージは、独立型環境においてのみ示されます。

- 日付を出力見出し行の一部として表示したい場合には、月、日、および年を示された通りに応答してください。
- 日付を表示しない場合には、実行キーを押してください。

このメッセージを表示したくない場合には、独立型 ICKDSF を IPL する前に CPU 時間および日付を設定してください。システムの処置: 出力リストの見出し行に日付が表示されるか、または日付が指定されなければその部分がブランクになります。

オペレーターの応答: 出力リストの見出し行に日付を表示したい場合は、月、日、および年を応答してください。表示しない場合には、実行キーを押して応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK016E SUPPLY TIME OF DAY, REPLY hh:mm:ss

説明: このメッセージは、独立型環境においてのみ示されます。

- 出力リストの見出し行に時刻を表示したい場合には、時、分、および秒を示された通りに応答してください。
- 時刻を表示しない場合には、実行キーを押してください。

このメッセージを表示したくない場合には、独立型 ICKDSF を IPL する前に CPU 時間および日付を設定してください。システムの処置: 出力リストの見出し行に時刻が表示されるか、または時刻が指定されなければその部分がブランクになります。

オペレーターの応答: 出力リストの見出し行に時刻を表示したい場合には、時、分、および秒を応答してください。表示しない場合には、実行キーを押して応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK017D filename IS A SECURED FILE

説明: 指定された *filename* はデータ保護ファイルなので、ICKDSF は関連メッセージである ICK018D で、このファイルを除去する許可を求めます。

システムの処置: これは通知メッセージなので、コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ICK018D CONFIRM PURGING OF SPECIFIED FILE NAME, REPLY U TO PURGE, ELSE T

説明: ファイル名は ICK017D メッセージで表示されています。INIT コマンドの処理時には、データ・セットを除去する許可が要求されます。

INSPECT コマンドおよび **TRKFMT** コマンドの処理時には、このデータ・セットの 1 つまたは複数のトラックの内容を破壊する可能性があることを容認する許可が要求されます。

TRKFMT コマンドによって検査または処理されるトラックが実際にこのデータ・セットに含まれているかどうかの検査は行われません。データ・セットは、**VTOC** から除去されません。

システムの処置: オペレーターから正しい応答を得た後、処理が続行されます。オペレーターの応答が **T** であるなら、コマンドは打ち切られ、**ICKDSF** は次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答が **U** であるなら、**ICKDSF** は現行コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: **U** または **T** のいずれかを指定してこのメッセージに応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK019D CONFIRM PURGING OF ALL VSAM FILES ON ccuu, REPLY U TO PURGE, ELSE T

説明: *ccuu* にあるボリュームには 1 つ以上の **VSAM** データ・セットが入っているということが分かっています。

INIT コマンドが指定されている場合には、*ccuu* にあるボリューム上にあるすべての **VSAM** データ・セットを除去する許可が要求されます。

INSPECT コマンドまたは **TRKFMT** を指定した場合は、*ccuu* にあるボリューム上に 1 つ以上の **VSAM** データ・セットが見つかったら、**VSAM** データ・セットの 1 つ以上のトラックの内容を破壊する可能性があることを容認する許可が要求されます。**TRKFMT** コマンドによって検査または処理されるトラックが実際に **VSAM** データ・セット内に存在するかどうかの検査は行われません。

VSAM データ・セットが **INSPECT** コマンドまたは **TRKFMT** コマンドの影響を受けるのは、指定したトラックが **VSAM** データ・セット内に存在する場合だけです。データ・セットは、**VTOC** から除去されません。指定されたトラックの中味だけが除去されます。もし、**PRESERVE**、**HOLDIT**、または **KEEPIT** が指定されていれば、**INSPECT** コマンドはトラックの内容を保管しリストアしようとしています。

システムの処置: オペレーターから正しい応答を得た後、処理が続行されます。オペレーターの応答が **T** であるなら、コマンドは打ち切られ、**ICKDSF** は次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答が **U** であるなら、現行コマンドの処理が続行されます。

オペレーターの応答: **U** または **T** のいずれかを指定してこのメッセージに応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK020D DEVICE ccuu IS SHARED. REPLY U OR T

説明: *ccuu* アドレス指定されているボリュームが共用されており、**ICKDSF** が従属ボリューム上で作動するよう許可を要求しています。

システムの処置: オペレーターから正しい応答を得た後、処理が続行されます。オペレーターの応答が **T** であるなら、コマンドは打ち切られ、**ICKDSF** は次のコマンドの処理を続行します。オペレーターの応答が **U** であるなら、現行コマンドの処理が続行されます。

オペレーターの応答: **U** または **T** のいずれかを指定してこのメッセージに応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK024I UNABLE TO OPEN VOLUME

説明: 指定されたボリュームをオープンできません。原因としては次の事柄が考えられます。

- DD ステートメントが欠落しているか、または正しくない。
- チャネル/装置アドレスが正しくない。
- 共用環境で処理が行われている場合、ICKDSF を処理中のシステム上で、装置がオフライン状況になっていない。
- このボリュームに関連した入出力エラー。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームの状況を確認してください。ボリューム状況を判別するために、先行メッセージを調べてください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK030E DEFINE INPUT DEVICE: fn ft fm, OR CONSOLE, ORREADER

説明: システムが入力装置の指定を要求しています。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- コンソールを ICKDSF 入力コマンド・ストリームとして使用する場合には、CONSOLE と入力するか、実行キーを押してください。
- ICKDSF 入力コマンド・ストリームが CMS ファイル中に含まれている場合には、fn ft fm を入力してください。
- ICKDSF 入力コマンド・ストリームが個人用の読取装置ファイルに入っている場合には、READER と入力してください (このファイルは読取装置の最初のファイルでなければなりません)。

オンライン・ヘルプ・パネルを呼び出すには、? を入力してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK031E DEFINE OUTPUT DEVICE: fn ft fm, OR CONSOLE, ORPRINTER

説明: システムは出力装置の指定を要求しています。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- コンソールを ICKDSF 出力装置として使用する場合には、CONSOLE と入力するか、実行キーを押してください。
- 出力装置が CMS ファイルである場合には、fn ft fm を入力してください。
- ICKDSF 出力装置が印刷装置である場合には、PRINTER と入力してください。

オンライン・ヘルプ・パネルを呼び出すには、? を入力してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK033E ENTER CYL OR BLOCK SIZE FOR THE SPECIFIED MINIDISK

説明: CKD 装置のシリンダーか、FBA (固定ブロック方式) 装置のブロックに、ミニディスクのサイズを指定してください。ミニディスクのサイズの正確度についての検査は行われません。このメッセージは、メッセージ ICK12316I の後にきます。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: CKD 装置のシリンダーか、FBA (固定ブロック方式) 装置のブロックに、ミニディスクのサイズ (1-8 の 10 進数字) を指定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK035I CMS PARAMETER LIST LENGTH IS INVALID.

説明: ICKDSF が、CMS 呼び出しパラメーターにより呼び出されましたが、リストの項目数が無効です。有効な数字:

2、4、または 6:

- 2 の長さでは、以下のパラメーターが有効です。
 - CONSOLE CONSOLE
 - CONSOLE PRINTER
 - READER CONSOLE
 - READER PRINTER
- 4 の長さでは、以下のパラメーターが有効です。
 - CONSOLE fn ft fm
 - READER fn ft fm
 - fn ft fm CONSOLE
 - fn ft fm PRINTER
- 6 の長さでは、次のパラメーターが有効です。
 - fn ft fm fn ft fm

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: 有効な INPUT と OUTPUT 装置のパラメーターを指定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK036I CMS PARAMETER LIST IS INVALID.

説明: ICKDSF が呼び出しパラメーター・リストで呼び出されましたが、リストが無効です。INPUT DEVICE では、次のパラメーターが有効です: CONSOLE、READER または fn ft fm。OUTPUT DEVICE では、次のパラメーターが有効です:

CONSOLE、PRINTER または (fn ft fm)。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: 有効な INPUT と OUTPUT DEVICE のパラメーターを指定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK037I FILE MODE PARAMETER LENGTH INVALID

説明: ICKDSF が CMS 呼び出しパラメーター・リストを使用して呼び出されましたが、ファイル・モード・パラメーターの長さが無効です。ファイル・モードの最大長は 2 文字です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: 有効なファイル・モード・パラメーターを指定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK057I INVALID DEVICE TYPE: VTOC INDEX
NOT SUPPORTED ON THIS DEVICE**

説明: この装置タイプは、VTOC 索引付きの初期設定の装置タイプとして有効ではありません。

システムの処置: VTOC 索引は作成されません。INIT コマンド処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK058I ccuu I/O ERROR DETECTED DURING
INDEX CREATION: ERROR CODE= ***

説明: VTOC 索引作成処理中に入出力エラーが起きました。以下のエラー・コードが出される可能性があります。

- 1 ボリューム・ラベルの読み取り中にエラーが起きました。
- 2 VTOC を読み取る際にエラーが起きました。
- 3 VTOC を書き出す際にエラーが起きました。
- 4 索引レコードを書き出す際にエラーが起きました。
- 5 索引エクステンント違反。索引サイズを大きくしてください。

システムの処置: VTOC 索引作成処理が打ち切られます。

VTOC 内の VSE ボリューム標識はオンに切り替えられます。

INIT コマンド処理は続行されます。

オペレーターの応答: 問題判別のため、エラー応答に関してシステム・コーディネーターに問い合わせてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK059I INDEX STARTING LOCATION INVALID
AS SPECIFIED**

説明: INIT コマンド・ステートメントの INDEX パラメーターが無効です。次に挙げる理由のいずれかにより指定された開始位置は有効ではありません。

- VTOC とのオーバーラップを引き起こした。
- 索引データ・セットの開始位置として、シリンダー 0、トラック 0 を定義した。
- 装置の物理的限界外であった。
- 指定された相対トラックは、その装置について無効であった。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INDEX パラメーターに指定された値を調べ、エラーのある値を訂正してください。ジョブを再実行依頼してください。

**ICK061I ccuu VTOC INDEX CREATION
SUCCESSFUL: VOLUME IS IN INDEX
FORMAT**

説明: VTOC 索引は、ボリューム上に首尾良く作成されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK062I ccuu VTOC INDEX CREATION FAILED:
RETURN CODE= 12**

説明: 索引作成が失敗しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ障害の理由に関する補足情報を得るために、ジョブ出力を調べてください。

ICK091I ccuu NED=ttttt.mmm.mfg.lc.sssssssssss

説明: 装置 NED が装置に示されます。装置が単一経路に接続されている場合、またはホストへの多重経路が存在する場合は、すべての経路について一致する NED 情報が見つかりました。示される NED 情報の形式は次のとおりです。

ttttt	装置タイプ
mmm	モデル
mfg	製造元
lc	製造場所
ssssssssss	シーケンス番号

注: 上記のフィールドの情報は、装置から戻されるときに印刷されます。ブランクが戻される場合は、ブランクが印刷されます。印刷不能文字は、「.」として印刷される可能性があります。この例は、次のとおりです。

- 装置タイプ・フィールドである ttttt は、6 桁のフィールドです。情報は、装置から戻されるとメッセージに印刷されます。例えば、最初の 2 桁がブランクとして装置によって戻される場合は、メッセージにブランクとして印刷されます。そのため、装置タイプ・フィールドに先行ブランクがあるように表示されます。
- 一部の装置 (例えば、2105) は、モデル・フィールドでブランクを戻すため、メッセージのモデル・フィールドはブランクになります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: この装置に関する情報が正しくない場合は、構成エラーが存在するかどうかを判別するために必要な処置を取り、問題を訂正してください。

**ICK126D DATA ALREADY EXISTS FOR TRACK
X'cccc hhhh' REPLY R TO RECOVER, E
TO ERASE THE RECOVERY DATA, OR T
TO TERMINATE**

説明: このメッセージは、トラック (ICK2115I) に対するリカバリー・データが存在するものの、そのトラック上にはすでにデータが存在している場合に出されます。

この状況は、以下の場合に起こり得ます。

- そのトラックにある元のデータが、障害の起きた時点でまだ消去されていなかった。
- INSPECT コマンドが呼び出される前まではユーザーがそのボリュームを使用できましたが、INSPECT の実行が完了しませんでした。

システムの処置: 次のいずれかを指定して応答するよう、オペ

ICK130D • ICK177D

レーターに対するプロンプトが出されます。

- R が指定されると、リカバリー情報からデータがリカバリーされます。(トラックにある新しいデータは消去されます)。
- E が指定されると、リカバリー・データが破壊されます。トラックにある現行データが残ります。
- T が指定されると、処理が打ち切られます。リカバリー・データはそのまま残ります。もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることとなります。

オペレーターの応答: R、E または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK130D DATA CANNOT BE RECOVERED FOR TRACK X'cccc hhhh' REPLY C TO ERASE AND CONTINUE, T TO TERMINATE, I TO IGNORE

説明: 以前の INSPECT コマンドの実行は、PRESERVE バックアップ処理中に完了しませんでした。

注: データをバックアップ位置からリカバリーすることはできません。

システムの処置: このメッセージに応答するよう、オペレーターに対するプロンプトが出されます。INSPECT コマンドの現行呼び出し時に HOLDIT が指定された場合には、無視をするオプションが用意されています。

- C が指定されると、バックアップ位置でデータが消去され、指定された範囲の初めの位置から処理が開始されます。バックアップ位置からデータをリカバリーする必要がない場合には、これを指定する必要があります。
- I が指定されると、リカバリー・データが無視され、処理が現在の呼び出しで続行されます。

注: この応答は HOLDIT が指定された場合にのみ許可されます。

リカバリー・データはそのまま残ります。もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることとなります。

- T が指定されると、処理が打ち切られます。リカバリー・データはそのまま残ります。ユーザーがリカバリー処理を再試行することを、またはデータの消去を許可する前に状況を調べることを望んでいる場合には、これを指定する必要があります。もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることとなります。

オペレーターの応答: C、I または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK158D DATA CANNOT BE RECOVERED FOR BLOCK xxxxxxxx REPLY C TO ERASE AND CONTINUE, T TO TERMINATE, I TO IGNORE

説明: 以前に呼び出された INSPECT コマンドの実行は、PRESERVE バックアップ処理中に完了しませんでした。

注: データをバックアップ位置からリカバリーすることはできません。

システムの処置: このメッセージに応答するよう、オペレーター

ーに対するプロンプトが出されます。INSPECT コマンドの現行呼び出し時に HOLDIT が指定された場合には、無視をするオプションが用意されています。

- C が指定されると、バックアップ位置でデータが消去され、指定された範囲の初めの位置から処理が開始されます。バックアップ位置からデータをリカバリーする必要がない場合には、これを指定する必要があります。
- I が指定されると、リカバリー・データが無視され、処理が現在の呼び出しで続行されます。この応答は、HOLDIT が指定された場合にのみ許可されることに注意してください。リカバリー・データはそのまま残ります。もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることとなります。
- T が指定されると、処理が打ち切られます。リカバリー・データはそのまま残ります。ユーザーがリカバリー処理を再試行することを、またはデータの消去を許可する前に状況を調べることを望んでいる場合には、これを指定する必要があります。もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることとなります。

オペレーターの応答: C、I または T と応答してください。

ICK159D DATA ALREADY EXISTS FOR BLOCK xxxxx REPLY R TO RECOVER, E TO ERASE THE RECOVERY DATA, OR T TO TERMINATE

説明: このメッセージは、ブロック (ICK12157 メッセージを参照) に対するリカバリー・データが存在するものの ICKDSF データでも元のユーザー・データでもないデータが、そのブロック上にすでに存在している場合に出されます。

INSPECT コマンドが呼び出される前まではユーザーがそのボリュームを使用できましたが、INSPECT の実行が完了しなかった場合に、このような状況が起こり得ます。

システムの処置: このメッセージに応答するよう、オペレーターに対するプロンプトが出されます。

- R が指定されると、リカバリー情報からデータがリカバリーされます。(そのブロックにある新しいデータは消去されます)。
- E が指定されると、リカバリー・データが破壊されます。ブロックにある現行データが残ります。
- T が指定されると、処理が打ち切られます。リカバリー・データはそのまま残ります。もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることとなります。

オペレーターの応答: R、E または T と応答してください。

ICK177D REPLY U TO ERASE CONTENTS OF SYSTEM RESERVED AREA ON ccuu, ELSE T

説明: RECLAIM(SYSAREA) パラメーターを持った CONTROL コマンドが出されると、ICKDSF がシステムの予約域の内容を破棄するレクラメーション処理を開始する前に、オペレーターは処理を確認しなければなりません。ccuu が、このコマンドが継続するときに修正されるデバイスのアドレスです。

システムの処置: ICKDSF は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- U を応答して、システムの予約域のレクラメーション処理を、コマンドが開始することを許可してください。
- T を応答して処理を終了しシステムの予約域の内容が破棄されることを防いでください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK203I PPRCOPY ESTPAIR FUNCTION COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: リモート・コピー・ペアを確立するために使用された PPRCOPY ESTPAIR コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK210I ***** COPY IN PROGRESS *****

説明: PPRCOPY ESTPAIR コマンドで MSGREQ(YES) パラメーターが指定されました。コピー処理がまだ進行中です。コマンドはまだ完了していません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK231I DEVICE IS NOW A PEER TO PEER REMOTE COPY VOLUME

説明: PPRCOPY ESTPAIR が正常に完了しました。装置は現在、対等リモート・コピー・ボリュームです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK316I INSTALL FUNCTION COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: INSTALL コマンド処理は、正常に完了しました。

システムの処置: ICKDSF は、正常に完了しました。次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK318I REVAL FUNCTION COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: REVAL コマンド処理は、正常に完了しました。

システムの処置: ICKDSF は、正常に完了しました。次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK401I ccuu SUSPECTED DRIVE PROBLEM

説明: ドライブ・テスト中にエラーが検出されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: インストール手順によって多少異なりますが、次の処置を取ることができません。

- ボリューム全体をバックアップ・ボリュームから別のドライブにリストアする。
- そのドライブの使用を中止する。

出力データを保管してください。その中には、ハードウェア問題に関する詳細な情報が入っています。

機器に関連した問題であると思われる場合は、インストール手順にしたがって、適切な処置を講じてください。

システム・プログラマーの応答: VM 下で稼働している場合 (VM 下で稼働している CMS バージョンまたは独立型バージョン、あるいは VSE、MVS™ の場合)、このメッセージは、ユーザー ID にリンクされているミニディスク装置に対して診断機能が実行されようとしたことを示す場合があります。診断機能は、専用装置上で行われる必要があります。

診断機能が試みられたと思われるが、この ANALYZE コマンドを呼び出した主要な目的がスキャンの実行である場合には、NODRIVE を指定してください。そうでない場合、その装置は専用装置でなければなりません。

VM サポートについて詳しくは、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『CMS バージョンの入門』のトピックを参照してください。

問題が繰り返し起きるようであれば、ジョブ出力データを保管して、IBM ハードウェア技術員に連絡してください。

ICK404I ccuu VOLUME HAS UNFORMATTED DATA BLOCKS. TESTING TERMINATED

説明: 初期設定されていないデータ・ブロック (データ・フィールドは書き込まれていない) を読み取る試みがなされました。

システムの処置: 504 個のデータ・チェックの後、ANALYZE コマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: 適切なプロシージャを実行し、必要なすべてのデータをボリュームからリカバリーします。そのあと、VSE ユーティリティ INTDK または INTDSK をオプション IQ を指定して実行し、すべてのデータ・ブロックを初期設定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK407I ccuu NO DRIVE PROBLEMS FOUND

説明: ドライブ・テストは首尾良く行われ、問題は検出されませんでした。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

注:

- データ問題が起きて、このコマンドを実行するようにプロンプトが出されましたが、それでも問題が残るようであれば、データ検査テストを実行してください。

ICK411I • ICK501I

- ドライブ問題が起きて、このコマンドを実行するようにプロンプトが出されましたが、それでも問題が残るようであれば、インストール手順に応じてさらに分析を行う必要があります。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK411I FUNCTIONAL VERIFICATION DATA WRITE/READ TEST STARTED

説明: REVAL コマンド処理の HA/R0 妥当性検査および機能データの検査テストが開始されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK412I FUNCTIONAL VERIFICATION DATA WRITE/READ TEST ENDED

説明: REVAL コマンド処理の HA/R0 妥当性検査および機能データの検査テストが終了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK416D CHPID = XX, RESERVED, REPLY R TO RETRY, B TO BYPASS

説明: 処理中にどの再試行でも予約済みのままであるパスが検出されると、システム・オペレーターに対してこのメッセージが出されます。XX はそのパス (CHPID) を示しています。

システムの処置: 説明を参照してください。

オペレーターの応答:

- 応答が R である場合、その装置に対して入出力操作が再び命令されます。
- 応答が B である場合、後続処理はこのパスに関してバイパスされます。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK417D X, Y, RESERVED, REPLY R TO RETRY, B TO BYPASS

説明: 処理中にどの再試行でも予約済みのままであるパスが検出されると、システム・オペレーターに対してこのメッセージが出されます。X はチャンネル番号を表し、Y はチャンネル・セット (CPU 指定) を表します。

システムの処置: 説明を参照してください。

オペレーターの応答:

- 応答が R である場合、その装置に対して入出力操作が再び命令されます。
- 応答が B である場合、後続処理はこのパスに関してバイパスされます。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK418I REVALIDATE FIXSIM(4E4E) PROCESS STARTED

説明: 指定された範囲のユーザー・データの再書き込みが開始されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK419I REVALIDATE FIXSIM(4E4E) PROCESS ENDED

説明: 指定された範囲のユーザー・データの再書き込みが終了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK420I REVALIDATE FUNCTION STARTED WITHOUT FFVDP WRITE/READ TEST

説明: HA/R0 妥当性検査が REVAL コマンドに指定された範囲に対して開始されました。ファクトリー機能検査のデータ・パターンはボリュームに書き込まれません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK430I REVALIDATE REFRESH PROCESS STARTED

説明: 指定された範囲のユーザー・データの再書き込みが開始されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK431I REVALIDATE REFRESH PROCESS ENDED

説明: 指定された範囲のユーザー・データの再書き込みが終了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK440I VOLSER, VTOC AND DATA IN THE SPECIFIED RANGE WILL BE ERASED

説明: このメッセージは、REVAL DATA または REVAL NODATA 処理のために印刷されました。指定された範囲内の VOL1 レコード、VTOC ポインター、およびデータが消去されます。REVAL 処理が完了すると、ボリューム上のデータはアクセス不能になります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK501I INVALID DEVICE TYPE SPECIFIED FOR BUILDIX COMMAND

説明: BUILDIX コマンドでサポートされない装置タイプ (例えば、2314 DASD) のボリュームの VTOC を変更する要求が出されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

ICK502I BUILDIX FUNCTION STARTED

説明: BUILDIX コマンドの実行が開始されました。 BUILDIX コマンドの処理が開始されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

ICK503I ccuu REQUEST RECEIVED TO CONVERT VTOC TO **FORMAT

説明: このメッセージは、要求された VTOC の形式変更を検証します。 ** は、次の要求された形式を表します: OS または IX のいずれか。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK504I ccuu VTOC FORMAT IS CURRENTLY **FORMAT, REQUEST ACCEPTED

説明: このメッセージは、指定された BUILDIX 機能が、ボリュームの VTOC の現行形式に有効であることを検証します。 ** は、次の VTOC の形式を表します: OS または IX のいずれか。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK505I ccuu VTOC FORMAT IS CURRENTLY **FORMAT, REQUEST REJECTED

説明: BUILDIX コマンドで要求された形式が、現行の VTOC 形式と同じです。

** は、次の VTOC の形式を表します: OS または IX のいずれか。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK508A ccuu SHOULD CONVERSION PROCEED? REPLY U TO CONTINUE, ELSE T

説明: このメッセージにより、オペレーターは、ユーザーが BUILDIX 関数の要求を許可されているかどうかを、コマンド処理の開始前に検査することができます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: ユーザーがコマンドを出すことを許可されていることを検証して、次のように応答してください。

- 継続には U です。
- T が指定されると、処理が打ち切られます。

U または T 以外の応答をすると、このメッセージが再度出されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK509I ccuu DIRF FLAG SET IN VTOC, BUILDIX CANNOT PROCEED

説明: VTOC に DADSM 割り込みのフラグを設定する、直前のジョブでの VTOC 処理の間に、エラーが起きました。

VTOC は正確ではありません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: VTOC を再作成するジョブを用意してそのボリュームに対し実行してください。(例えば、IEFBR14 ジョブを実行して一時データ・セットをボリュームに割り振ってください。)

ジョブが完了したら、BUILDIX コマンドを再度出してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK510I ccuu BUILDIX REQUEST CANCELLED DUE TO OPERATOR ACTION

説明: オペレーターは、応答を必要とするメッセージに CANCEL と応答しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK511I ccuu CVAF ERROR: RETURN CODE= ERROR CONDITION= *****

説明: 共通 VTOC アクセス機能が、ICKDSF に論理エラーないしは物理的エラーを示す戻りコードを返しました。 戻りコードの意味は次のとおりです。

- 4, 12 論理エラーを示します。
- 8 無効な索引構造を示します。
- 16 入出力エラーを示します。

エラー条件が印刷されるのは、戻りコードが 4 または 8 の場合だけです。これらのエラー条件の詳細については、「CVAF Diagnosis Reference」または「MVS/Enterprise System Architecture System-Data Administration」を参照してください。

システムの処置: コマンド処理は、戻りコードにより以下のどれかの条件で終了します。

- 4, 8, 12 ボリュームは OSVTOC 形式のままです。
- 16 ボリュームは、コマンドが出される前の状態のままです。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK512I ccuu ERROR: SYS1.VTOCIX. IS A VIO DATASET. BUILDIX TERMINATED.

説明: BUILDIX コマンドは、VIO データ・セットとして割り振られた索引データ・セットをサポートしません。

システムの処置: コマンド処理は終了し、戻りコード 12 が出されます。 VTOC は、変更されません。

オペレーターの応答: なし。

**ICK513I ccuu BUILDIX PROCESSING
COMPLETED: VTOC IS NOW IN
FORMAT.

説明: BUILDIX コマンドは正常に完了しました。は、次の新規の VTOC 形式を示します: OS または IX のいずれか。
システムの処置: ICKDSF は、正常に終了しました。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK514I INDEXED VTOC FACILITY NOT ON
SYSTEM. BUILDIX TERMINATED.**

説明: VTOC を IXVTOC 形式に変更する要求が出されましたが、システムには索引付き VTOC のプログラミング・サポートがありません。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK515I ccuu BUILDIX COMMAND FAILED.

説明: エラーのためにコマンドの処理が打ち切られました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK516I ccuu I/O ERROR DETECTED DURING
VTOC CONVERSION: ERROR CODE= ***

説明: BUILDIX 処理の間に入出力エラーがありました。エラー・コード:

- 1 ボリューム・ラベル読み取り中のエラー
- 2 VTOC 読み取り中のエラー
- 3 VTOC 書き込み中のエラー
- 4 索引レコード書き込み中のエラー
- 5 索引エクステントが違反。索引サイズ増加が必要

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。
オペレーターの応答: 問題の判別のためにエラー表示をシステム・コーディネーターに知らせてください。

**ICK517I ccuu ERROR: VOLUME IS A DOS
STACKED PACK**

説明: 処理されているボリュームは、ボリュームの最初のトラック上に VTOC を持っています。VTOC の移行は、このタイプのボリュームでは可能ではありません。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK518I ccuu ERROR: VOLUME CONTAINS SPLIT
CYLINDER EXTENTS**

説明: このボリュームは、BUILDIX コマンドでサポートされない共有のエクステント・データ・セットを 1 つないし複数持っています。
システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。
オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK519I ccuu ERROR: SYS1.VTOCIX. DATASET
NOT FOUND ON VOLUME**

説明: 索引データ・セットがボリュームに検出できませんでした。
システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK520I ccuu ERROR: DUPLICATE INDEX
DATASET NAME FOUND ON VOLUME**

説明: ボリューム上に、SYS1.VTOCIX で始まる名前を持つ 2 つのデータ・セットが見つかりました。ボリューム当たり 1 つしか許されません。
システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK521I ccuu ERROR: INDEX DATASET EXTENT
NOT CONTIGUOUS**

説明: 索引データ・セットが複数のエクステントを占有しています。このデータ・セットはただ 1 つのエクステントしか持てません。
システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK522I INVALID UNITADDRESS OR DDNAME
SPECIFIED**

説明: コマンド・ステートメントの UNITADDRESS または DDNAME が誤りです。
システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。
オペレーターの応答: ジョブ制御ステートメントを訂正して、もう一度ジョブをサブミットしてください。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK523I VTOC ENQUEUE FAILURE

説明: ENQ RET=HAVE、8 (タスクにリソースがない) より大きい戻りコードを返しました。
システムの処置: コマンドは終了します。次のコマンドの処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ENQ が得られたら再度ジョブをサブミットしてください。

**ICK526I CONVERSION TO OSFORMAT COULD
NOT COMPLETE SUCCESSFULLY**

説明: OSFORMAT に変換する BUILDIX 処理の完了後、VTOC がエラー条件を示しました。
システムの処置: BUILDIX は、異常終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: このメッセージは、通常、ボリュームの OS VTOC にエラーがあることを意味します。エ

ラーの性質を判別するため VTOC を調べてください。

**ICK528I INDEX DATA SET CANNOT START AT
CYLINDER 0, TRACK 0**

説明: シリンダー 0、トラック 0 が索引データ・セットの位置に指定されました。これは有効な位置ではありません。
システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 有効な位置を使用してコマンドを再度指定してください。

**ICK529I ALLOCATE ERROR: RETURN CODE =

説明: DADSM 割り振りが ICKDSF に予期しない戻りコードを戻しました。

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: DADSM 割り振りの戻りコードの詳しい説明については、DADSM 診断解説書を参照してください。

ICK600I MAPALT STARTED

説明: MAPALT コマンドの実行が開始されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

**ICK602I INCORRECT DEVICETYPE, MAPALT
TERMINATED**

説明: 指定された装置タイプは、MAPALT コマンドではサポートされていません。

システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。

オペレーターの応答: MAPALT は、固定ブロック・モードの固定ブロック装置上でのみ実行されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK603I UNABLE TO OPEN VOLUME

説明: 指定されたボリュームをオープンできません。ASSGN ステートメントが欠落しているか無効である、またはチャネルおよび装置アドレスが無効である可能性があります。

システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。

オペレーターの応答: エラーを修正し、ジョブを再度サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK604I ccuu LIMITS PARAMETER INVALID AS
SPECIFIED, MAPALT TERMINATED**

説明: LIMITS パラメーターで指定された相対ブロック数が無効です。

システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。

オペレーターの応答: LIMITS パラメーターの値を訂正してか

ら、ジョブを再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK605I ccuu UNRECOVERABLE I/O ERROR
DETECTED, MAPALT TERMINATED**

説明: リカバリー不能な入出力エラー (データ・チェック以外) が発生しました。

システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。

オペレーターの応答: ジョブ出力データを調べてください。その中には、エラー分析に役立つ診断情報が入っています。

問題判別の助けとして ICKDSF の ANALYZE コマンドを実行してください。

このタイプのエラーからリカバリーするためには、インストール手順にしたがってください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK606I nnnnn BLOCKS ASSIGNED TO
ALTERNATES IN LIMITS SPECIFIED**

説明: この要約メッセージは、コマンド・ステートメントで指定された限界内で代替ブロックに割り当てられたブロック数を示しています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK607I ccuu MAPALT ABNORMALLY ENDED,
REPORT MAY BE INCOMPLETE**

説明: コマンド処理の終了を引き起こすエラーが存在しています。報告は不完全である場合があります。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: ジョブ出力データにある先行メッセージを調べ、インストール手順にしたがってください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK608I ccuu MAPALT ENDED NORMALLY,
RETURN CODE= n**

説明: コマンド処理が、処理を停止させるエラーを検出することなく終了しました。

メッセージ中に 0 または 4 という戻りコードが示されます。

戻りコード 0 は、エラーがなかったことを意味しています。

戻りコード 4 は、1 つ以上のリカバリー可能なエラーが発生したことを意味しています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK609I PERMANENT DATA CHECK FOUND
READING ID FOR BLOCK nnnnnn**

説明: メッセージ中に示されている 1 次ブロックの ID フィールドを読み込んでいる際に、永続データ・チェックが発生しました。

ICK611I • ICK00100I

システムの処置: 診断情報は出力装置上に印刷され、そのコマンドの実行が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: システム・コーディネーターのためにジョブ出力を保管し、データ・リカバリーおよび代替ブロック割り当てに関するインストール手順にしたがってください。

ICK611I MAIN STORAGE NOT AVAILABLE, MAPALT TERMINATED

説明: 制御ブロックおよび作業域用のストレージの動的な獲得に失敗しました。

システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。

オペレーターの応答: 主ストレージ・サイズを大きくしてから、ジョブを再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK705I VOLUME SERIAL NUMBER FOR DEVICE ccuu IS xxxxxx

説明: これは、ccuu にあるボリュームのボリューム通し番号と VTOC に関する通知メッセージです。

ボリューム通し番号が変更された場合は、次のメッセージのいずれか (あるいはその両方) も表示されます。

CHANGED FROM xxxxxx - ccuu のボリューム通し番号が変更されました。

VOLUME SERIAL DUPLICATE FOR DEVICE ccuu.

VOLUME MADE UNAVAILABLE - ccuu の新規ボリューム通し番号が、オペレーティング・システムにすでに認識されているボリュームのボリューム通し番号と重複しています。その装置はアンロードされました。

VTOC 位置が変更された場合は、次のメッセージも受け取ります。

VTOC LOCATION MOVED - ccuu にあるボリュームの VTOC 位置が移動されました。

システムの処置: ICKDSF は処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

出力印刷装置で受け取るメッセージ

ICK00001I FUNCTION COMPLETED, HIGHEST CONDITION CODE WAS nn hh:mm:ss mm/dd/yy

説明: コマンドが実行されました。

- 値 *nn* は、処理中に生成された最後の条件コード (LASTCC) です。
- *hh:mm:ss* および *mm/dd/yy* は、それぞれ時、分、秒、および月、日、年でそのメッセージの日付と時刻を表しています。

注: LASTCC 値は、そのコマンドの実行中に印刷されたメッセージ中にあった条件コードのうちで最も値の大きいものです。

システムの処置: LASTCC は *nn* に設定されます。

MAXCC は *nn* が MAXCC の現行値よりも大きな値である場合、*nn* に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00002I ICKDSF PROCESSING COMPLETE. MAXIMUM CONDITION CODE WAS nn

説明: このメッセージは、ICKDSF のジョブ・ステップが完了した時点で出されます。ジョブ・ステップを実行している間に設定された条件コードの最高値 (MAXCC) は印刷され (ICK00001I メッセージを参照)、レジスター 15 に入れて ICKDSF 呼び出し元へ返されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00091I ccuu NED=ttttt.mmm.mfg.lc.sssssssssss

説明: 装置 NED が装置に示されます。装置が単一経路に接続

されている場合、またはホストへの多重経路が存在する場合は、すべての経路について一致する NED 情報が見つかりました。示される NED 情報の形式は次のとおりです。

ttttt = 装置タイプ
mmm = モデル
mfg = 製造元
lc = 製造場所
ssssssssss = シーケンス番号

注: 上記のフィールドの情報は、装置から戻されるときに印刷されます。ブランクが戻される場合は、ブランクが印刷されません。印刷不能文字は、「.」として印刷される可能性があります。この例は、次のとおりです。

- 装置タイプ・フィールドである ttttt は、6 桁のフィールドです。情報は、装置から戻されるとメッセージに印刷されます。例えば、最初の 2 桁がブランクとして装置によって戻される場合は、メッセージにブランクとして印刷されます。そのため、装置タイプ・フィールドに先行ブランクがあるように表示されます。
- 一部の装置 (例えば、2105) は、モデル・フィールドでブランクを戻すため、メッセージのモデル・フィールドはブランクになります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: この装置に関する情報が正しくない場合は、構成エラーが存在するかどうかを判別するために必要な処置を取り、問題を訂正してください。

ICK00100I I/O DELAY IS SET TO nnnn AFTER EVERY m I/O INVOCATION

説明: 遅延時間が「なし」にリセットされます。

システムの処置: 後続の ICKDSF コマンドに対しては遅延時間が設定されません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00101I I/O DELAY IS SET TO NONE

説明: 遅延時間が「なし」にリセットされます。

システムの処置: 後続の ICKDSF コマンドに対しては遅延時間が設定されません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00204I PRECEDING COMMAND BYPASSED DUE TO CONDITION CODES

説明: 指定された IF-THEN-ELSE コマンド順のために、そのコマンドがバイパスされました。IF-THEN-ELSE コマンド順を指定する際には、THEN または ELSE 節のいずれかが実行され、実行されない節はバイパスされます。

システムの処置: コマンド順序のバイパスされた部分は、構文エラーの有無を検査されますが、処理されません。ICKDSF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK00206I IMPROPERLY PLACED COMMA HAS BEEN FOUND AND IGNORED

説明: コマンドをスキャンする際に冗長なコンマが現れました。It is ignored.

注: コンマを使用して、定位置パラメーターを省略することはできません。

先行定位置パラメーターの省略は許可されていません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: このメッセージが再発行されないようにするには、構文エラーを訂正してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK00215I MINIDISK INFORMATION FOR DEVICE ccuu RELOCATION FACTOR = nnnnn SIZE = mmmmm OWNER = owner-id FPO LINK ADDRESS = xxxx

説明: このメッセージは、ユーザー・ミニディスクの実ボリューム上の位置を示します。(例えば、CKD 装置の場合は、実ボリュームのシリンダー nnnn に位置するミニディスクのシリンダー 0) 再配置因数およびミニディスク・サイズは 10 進数です。ユーザーのミニディスクとは、仮想アドレス xxxx として ICKDSF によって呼び出し元に LINK されたフルパック・オーバーレイのことです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00222I WARNING: COMMAND-END DELIMITER APPEARS WITHIN APOSTROPHES

説明: オプション・コマンド区切り文字 (セミコロン) が、引用符付きストリングに見いだされました。閉じ一重引用符が除外されている可能性があります。

システムの処置: この使用方法が受け入れられ、セミコロンは区切り文字ではなく有効な文字として扱われます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: セミコロンの使用方法を確かめ、必要に応じて訂正してください。

ICK00233I TOO MANY RIGHT PARENTHESES FOUND. EXCESS IGNORED

説明: コマンド末尾または 1 次レベル・パラメーターの後の右小括弧が多すぎます。

システムの処置: 余分なものは無視され、コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 余分な小括弧を除去してください。

ICK00546I DATA SET NAME = data.set.name

説明: VTOC 拡張処理で指定された VTOC エクステンントを占有するデータ・セットの名前です。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00700I DEVICE INFORMATION FOR ccuu IS CURRENTLY AS FOLLOWS: PHYSICAL DEVICE=yyyy LOGICAL DEVICE=yyyy STORAGE CONTROLLER=aaaa STORAGE CONTROL DESCRIPTOR=bb DEVICE DESCRIPTOR=cc ADDITIONAL DEVICE INFORMATION=XXXXXXXX

説明: PHYSICAL DEVICE=yyyy は、処理されている装置の物理装置タイプを識別します。メッセージは常に出されます。

LOGICAL DEVICE=yyyy は、論理装置を識別します。この行は、論理装置が物理装置と異なっている場合にのみ表示されません。

STORAGE CONTROLLER=aaaa は、処理されている装置のストレージ管理装置タイプを識別します。これは、センス ID CCW がサポートされている場合にのみ表示されます。

STORAGE CONTROL DESCRIPTOR=bb は、そのストレージ・コントローラーに関連している機能を記述します。これには、センス ID バイト 3 にある情報が含まれています。(このバイトの具体的な意味について詳しくは、ストレージ管理装置の資料を参照してください。)センス ID CCW がサポートされている場合は、このメッセージが出されます。

DEVICE DESCRIPTOR=cc は、その装置に関連する機能を記述します。これには、センス ID バイト 6 にある情報が含ま

ICK00701I • ICK00706I

れています。(このバイトの具体的な意味について詳しくは、ストレージ管理装置の資料を参照してください。) センス ID CCW がサポートされている場合は、このメッセージが出されます。

ADDITIONAL DEVICE INFORMATION = XXXXXXXX は、IBM 技術員により問題診断のために使用されます。
システムの処置: ICKDSF コマンド処理は続行されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00701I EQUIPMENT CHECK RETRY SUCCESSFUL

説明: システムが、入出力装置チェックから首尾良くリカバリーしました。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。 サービス担当者の支援が必要である場合にエラーの原因を判別するため、チャンネル・コマンド・ワード (CCW)、チャンネル状況ワード (CSW) およびセンス情報が提供されます。

ICK00702I SECONDARY VOLUME DEVICE DESCRIPTOR = cc

説明: このメッセージは、1 次と 2 次のボリュームが異なったモデルの装置であるときに、二重コピーのペアの 2 次ボリュームの ANALYZE または INSPECT コマンド処理に続きます。より詳しいことについては、メッセージ ICK00700I の DEVICE DESCRIPTOR を参照してください。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00703I DEVICE IS OPERATED AS A MINIDISK

説明: ICKDSF が、使用されている装置はミニディスクであると判別しました。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00704I DEVICE DOES NOT SUPPORT MEDIA MAINTENANCE FUNCTIONS

説明: ICKDSF は、使用されている装置はミニディスクであるか、装置がメディア保守機能をサポートしていないことを判別しました。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00705I SUBSYSTEM INFORMATION FOR ccuu IS CURRENTLY AS FOLLOWS:SUBSYSTEM SERIAL NUMBER = xxxxx SUBSYSTEM ID = xxxx CHANNEL CONNECTION ADDRESS = xx LSS NUMBER = xx

説明: 装置のサブシステム情報が印刷されています。印刷される情報は、処理対象の装置によって異なります。

SUBSYSTEM SERIAL NUMBER = xxxxx は、サブシステムまたはストレージ管理装置のシーケンス番号の最後の 5 桁 (または、RVA 装置の最後の 7 桁) を示しています。

SUBSYSTEM ID = xxxx は、DASD サブシステムを識別するユーザー割り当て名を示します。

CHANNEL CONNECTION ADDRESS = xx は、入出力操作時にチャンネルに対して入出力装置を固有に識別する入出力アドレスを示します。これは、RVA 装置の場合は印刷されません。

LSS NUMBER = xx は、論理サブシステム (LSS) 番号を示しています。これは、2105 で稼働している場合に印刷されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00706I SUBSYSTEM INFORMATION FOR ccuu IS CURRENTLY AS FOLLOWS:

SUBSYSTEM SERIAL NUMBER = xxxxx

SUBSYSTEM ID = xxxx

CHANNEL CONNECTION ADDRESS = xx

PATHS/CLUSTER ID = xx

SYSTEM ADAPTER ID = xx

HOST LINK ADDRESS = xxxxx

LSS NUMBER = xx

説明: 装置のサブシステム情報が印刷されています。印刷される情報は、処理対象の装置によって異なります。

SUBSYSTEM SERIAL NUMBER = xxxxx は、ストレージ管理装置シーケンス番号の最後の 5 桁を識別します。

SUBSYSTEM ID = xxxx は、DASD サブシステムを識別するユーザー割り当て名を示します。この番号はインストール・システムのサービス技術員が設定するもので、重要プロダクト・データに含められます。

CHANNEL CONNECTION ADDRESS = xx は、入出力操作時にチャンネルに対して入出力装置を固有に識別する入出力アドレスを示します。

PATHS/CLUSTER ID = xx は、クラスターのどのストレージ・パスがストレージ・ディレクターに構成されているかを示します (ビット 0 - ストレージ・パス 0、ビット 1 - ストレージ・パス 1)。処理対象のコントロール・ユニットまたは装置に適用されない場合、N/A と印刷されます。

SYSTEM ADAPTER ID = xx は、チャンネル・インターフェースを示します。

HOST LINK ADDRESS = xxxx は、ESCON/ホスト・リンク・アドレスを示します (並列チャンネルの場合はすべて 0 です)。印刷されるリンク・アドレスの長さは、タイプによって異なります。

LSS NUMBER = xx は、論理サブシステム番号を示しています。これは、2105 で稼働している場合に印刷されます。

システムの処置: なし。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00707I MIRRORING OPERATIONAL

説明: 装置のミラーリング状況が操作可能になっています。このメッセージは通知目的のみ出されます。ミラーリング状況は ICKDSF 処理には影響を与えません。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00708I MIRRORING PENDING

説明: 装置のミラーリング状況が保留になっています。このメッセージは通知目的のみ出されます。ミラーリング状況は ICKDSF 処理には影響を与えないので、実行中のコマンドの ICKDSF 条件コードには影響しません。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK00709I MIRRORING FAILED

説明: この装置のミラーリングが失敗しました。ハードウェア障害が原因です。問題を解決するために、サービス呼び出しが自動的に行われ、再同期処理が開始されます。再同期が完了すると、ミラーリングは操作可能になります。このメッセージは通知目的のみ出されます。ミラーリング状況は ICKDSF 処理には影響を与えないので、実行中のコマンドの ICKDSF 条件コードには影響しません。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
 システム・プログラマーの応答: これはひとりでに解決される一時的条件なので、処置は不要です。ただし、この装置のデータは現在、ミラーリングによって保護されていないので、このデータまたは新規割り振り(または両方)を、現在ミラーリングされている装置に移動することができます。

**ICK01016I ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh'
 ASSIGNED TO PRIMARY TRACK
 CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: 主トラックに対して代替トラックが割り当てられました。その理由は以下のとおりです。

主トラックに損傷があることを示す印が付けられていたか、または表面検査で損傷が発見された。

無条件の代替トラック割り当てがその主トラックに関して要求された。

システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01018I ALTERNATE CCHH=X'cccc hhhh'
 RE-ASSIGNED FOR PRIMARY
 CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: 示された主トラックに割り当てられた当初の代替トラックに、以下の事柄が生じました。

損傷があることを示す印が付けられていた。

表面検査で損傷が発見された。別の代替トラックが当初の代替トラックの代わりに割り当てられました。

(PRESERVE オプションが指定されていた場合、当初の代替トラック上に見いだされたデータは、新しい代替トラックにコピーされます。)

システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01020I ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh'
 WAS RECLAIMED**

説明: この代替トラックには損傷を示す印が以前に付けられていましたが、表面検査が実行されたときには損傷はありませんでした。

このトラックは利用可能な代替トラックの組に追加されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01021I PRIMARY TRACK CCHH=X'cccc hhhh'
 WAS RECLAIMED**

説明: この主トラックには損傷を示す印が以前に付けられていましたが、表面検査が実行されたときには損傷はありませんでした。

この主トラックは利用可能であることを示す印が付けられ、割り当てられた代替トラックは利用可能な代替トラックの組に追加されます。

(PRESERVE パラメーターが指定されていた場合、この代替トラックに書き込まれたデータはすべてレクラメーションされる主トラックにコピーされます。)

システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01022I DEFECTIVE PRIMARY TRACK STATUS
 WILL BE RESET FOR TRACK X'cccc hhhh'**

説明: INSTALL/REVAL コマンドの処理の際に、指定されたトラックについての主トラック損傷状況は、代替トラックからの関連を断たれます。

そのトラックに損傷があるかどうかを判別するために、指定された主トラックに対して表面検査機能が後ほど実行されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01135I PRESERVE INFORMATION EXISTS ON
CE CYLINDER FOR TRACK X'cccc hhhh'**

説明: ANALYZE DRIVETEST 処理の際に、指定されたトラックに対する INSPECT コマンドの PRESERVE 機能の実行が完了していなかったことが判明しました。

そのトラックに損傷があるかどうかを判別するために、指定された主トラックに対して表面検査機能が後ほど実行されます。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01136I CONTINUE INFORMATION EXISTS ON
CE CYLINDER FOR TRACK X'cccc hhhh'**

説明: ANALYZE DRIVETEST 処理の際に、以前に呼び出された INIT コマンドの実行が完了していなかったことが判明しました。X'cccc hhhh' は、チェックポイントがとられた最後のトラックを表します。

このチェックポイントを超えるトラックは使用不能である可能性が高いものです。
システムの処置: この情報は消去されません。ANALYZE 処理は、ドライブ・テストの残り部分を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 以前のチェックポイント以降のトラックの可用性を確認するため、この装置に対して INIT コマンドを実行してください。

ICK01305I ccuu ALL DATA MACHINE READABLE

説明: これは、ボリューム上のすべてのデータを首尾良く読み取れることを示す通知メッセージです。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01306I SKIP DISPLACEMENTS ASSIGNED

説明: これは、スキップ変位処理が起き、スキップ変位が首尾良く割り当てられたことを示す通知メッセージです。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01307I DEFECTIVE TRACK LIST IN
HEXADECIMAL FOR VOLUME volid**

説明: このメッセージはボリューム・マップの最初の行です。この行の後に、コマンドの処理時に損傷が発見されたトラックの 16 進リストが続きます。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01308I THE FOLLOWING PRIMARY TRACKS
WERE FOUND DEFECTIVE:**

説明: このメッセージは、コマンドの処理時に損傷が発見された主トラックを 16 進数で識別するボリューム・マップ中の行です。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01309I THE FOLLOWING ALTERNATE TRACKS
WERE FOUND DEFECTIVE:**

説明: このメッセージは、コマンドの実行中に損傷が発見された主トラックを 16 進数で識別するボリューム・マップ中の行です。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01310I NO DEFECTIVE TRACKS WERE FOUND

説明: このメッセージは、コマンドの処理時に損傷のあるトラックがなかったことを示すボリューム・マップ中の行です。
すべてのトラックを検査するようコマンドで指定しなかった場合、検査されなかったトラックには損傷がある可能性があります。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01311I NO DEFECTIVE PRIMARY TRACKS
WERE FOUND**

説明: このメッセージは、コマンドの処理時に損傷のある主トラックがなかったことを示すボリューム・マップ中の行です。
すべての主トラックを検査するようコマンドで指定しなかった場合、検査されなかった主トラックには損傷がある可能性があります。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01312I NO DEFECTIVE ALTERNATE TRACKS
WERE FOUND**

説明: このメッセージは、コマンドの処理時に損傷のある代替トラックがなかったことを示すボリューム・マップ中の行です。
すべての代替トラックを検査するようコマンドで指定しなかった場合、検査されなかった代替トラックには損傷がある可能性があります。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01313I VOLUME CONTAINS nnnn ALTERNATE TRACKS -- mmmm AVAILABLE

説明: このメッセージは、ボリューム・マップ中の行です。このボリュームは、*nnnn* 個の代替トラックを予約しているものとして定義されます。

mmmm 個のトラックは、損傷のある主トラックに割り当てられておらず、また損傷のあることが判明して割り当てに利用できなくなっているトラックでもありません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01314I VTOC IS LOCATED AT CCHH=X'cccc hhhh' AND IS xxxx TRACKS

説明: このメッセージは、VTOC の開始地点となっているシリンダーおよびトラック、またはその VTOC が占めるトラック数を表示しているボリューム・マップ中の行です。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01315I VOLUME IS IN UN-INITIALIZED STATE

説明: ボリューム・ラベルおよび VTOC 情報は、INSTALL/REVAL コマンド処理の際に消去されました。このボリュームには、ボリューム・ラベルや VTOC がありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INSTALL/REVAL コマンド処理が成功した場合は、INIT コマンドを使用してボリュームを初期設定してください。VM では、CPVOLUME コマンドを使用してボリュームを初期設定してください。

ICK01316I INSTALL FUNCTION COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: INSTALL コマンド処理は、正常に完了しました。

システムの処置: ICKDSF は、正常に完了しました。次のコマンドに対して処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01317I VTOC-INDEX IS LOCATED AT CCHH=X'cccc hhhh' AND IS xxxx TRACKS.

説明: このメッセージは、VTOC 索引の開始地点となっているシリンダーとトラック、およびその VTOC 索引が占めるトラック数を示します。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01318I REVAL FUNCTION COMPLETED SUCCESSFULLY

説明: REVAL コマンド処理は、正常に完了しました。

システムの処置: ICKDSF は、正常に完了しました。次のコマンドに対して処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01319I VOLUME IS TEMPORARILY NOT AVAILABLE FOR IPL

説明: 並行媒体保守 処理中に、シリンダー 0 ヘッド 0 で表面検査が実行されます。トラックには損傷ありのフラグが付けられ、データは代替トラック上に保管されています。この処理の間は、このボリュームを IPL に使用することはできません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01320I LOGICAL DEVICE TYPE IS NOW SET TO : xxxx

説明: INSTALL コマンドのモード変更機能が完了し、論理装置タイプはタイプ *xxxx* と等価になりました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01323I VOLUME CONTAINS nn ALTERNATE LOCATIONS, mm ASSIGNED, jj UNAVAILABLE, kk AVAILABLE

説明: このメッセージは、以下のボリュームをマップします。

nn は、装置に予約された代替位置の合計数です。

mm は、主トラックに割り当てられた代替位置の数です。

jj は、サブシステムに利用不能な位置の数です。

kk は、代替割り当てにまだ利用可能な位置の数です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01328I SURFACE ANALYSIS PROCESSING ON TRACK X'XXXX XXXX'

説明: 指定されたトラックに対してスキップ変位処理が呼び出されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01331I TRACK X'cccc hhhh' MAY REQUIRE INSPECTION

説明: 3350 の CHECK NOSKIP 処理中に、INIT または INSPECT が、トラック X'cccc hhhh' 上でデータ・チェックを

検出しました。しかし、さらに処理を行っても、損傷は検出されませんでした。

このメッセージは、このトラックに対して後ほど INSPECT TRACKS (X'cccc', X' hhhh') CHECK(n) が行われた場合に、損傷が検出される可能性がある (そしてスキップされる) ことを示しています。

システムの処置: INIT または INSPECT 処理は、次のトラックに進みます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INIT または INSPECT コマンドの完了後、プログラマーはこのメッセージで示されたトラックに対して INSPECT CHECK(n) TRACKS(...) を実行することができます。

ICK01332I SURFACE ANALYSIS CYLINDER COULD NOT BE UPDATED

説明: スキップ変位をトラックに割り当てた後で、ICKDSF が表面分析シリンダーのデルタ・マップをこのトラックの現在のスキップ変位データによって更新することはできません。

このメッセージに関連した CCW、CSW およびセンス情報が印刷されます。

システムの処置: 損傷のあるトラックの処理が首尾良く完了しました。ホーム・アドレスが読み取り不能になると、それ以降にこのトラックを呼び出すときには、損傷の位置を見つけるためにトラック全体を再分析する必要があります。

このメッセージは通知用のみです。この条件からはユーザーへの影響は生じません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。トラックの可用性には影響はないので、それ以上の情報を調べる必要はありません。ただし、必要であるなら、障害のある CCW、CSW およびセンス情報を詳細に調べることができます。

ICK01334I CURRENTLY PROCESSING TRACK CCHH=X'cccc hhhh'

説明: ICKDSF によるフルボリューム処理の実行時に表示される通知メッセージ。このメッセージは、ICKDSF の進行状況を示すために出されます。

システムの処置: コマンドは次のトラックの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01336I TRACK X'cccc hhhh' EXPERIENCED NON-RECURRING DATA CHECKS

説明: このトラックのスキップ変位分析処理で、反復不能な分散データ・チェックを 2 個以上検出しました。

システムの処置: コマンドは次のトラックの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: この条件は、トラック上のランダム・ノイズが多すぎるときに生じる場合があります。このメッセージが複数のトラック、または同じヘッドの下にある多くのトラックに対して出される場合は、ハードウェア問題が潜

在していることを示す場合があります。

ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK01380I THE FOLLOWING TRACKS ARE UNRECOVERABLE:

説明: このメッセージは、コマンドの処理中にリカバリー不能であることが判明したトラックを識別するボリューム・マップ中の行です。リカバリー不能なトラックとは、リカバリーのためのすべての試みがなされたのに、ホーム・アドレスとレコード 0 を首尾良く読み取れなかったトラックのことです。このメッセージの後には、以下のリカバリー不能なトラックに関する情報が続きます: トラックの CCHH = X'cccc hhhh'。

システムの処置:

- トラックをリカバリーできない原因がデータ・エラーである場合は、コマンドはエラー戻りコード付きで完了するまで実行されます。

- トラックをリカバリーできない原因がデータ・エラーでない場合は、そのエラーを検出した後コマンド処理が停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 失敗の原因を判別するために、前のメッセージを調べてください (その入出力の原因となった CCW、CSW、およびセンス情報も含む)。

読み取り/書き込みモード切り替えが READ モードに設定されていたり、あるいは他の何らかの条件が原因で ICKDSF がそのボリューム上に書き出すことができなくなっていると、このメッセージが出される場合があります。

IBM ハードウェア・サービス技術員の援助が必要となることもあります。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK01381I RECURRING CORRECTABLE ERRORS ON TRACKS: X'cccc hhhh'

説明: このメッセージは、ICKDSF が繰り返し起きる訂正可能データ・チェックを検出したトラックを識別する、ボリューム・マップ中の行です。このメッセージは、スキップ変位域を持たないカウント・キー・データ装置の場合にのみ出されます。このメッセージの後には、以下のトラックに関する情報が続きます: トラックの CCHH = X'cccc hhhh'。

システムの処置: コマンドは首尾良く完了しました。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 表示されたトラック (1 つまたは複数) 上に訂正可能なデータ・チェックがあるとインストール・システムにとって有害であると判定した場合には、INSPECT コマンドを使用して代替トラックを、示されたトラックに無条件に割り当てることができます。

ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK01400I ccuu ANALYZE STARTED

説明: ANALYZE は、メッセージ中に識別される論理ボリューム (すなわち、装置アドレスが ccuu であるボリューム) 上でのテストの実行を開始しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ICK01405I ccuu ALL DATA MACHINE READABLE WITHOUT ERRORS

説明: データ検査中に、ボリュームが首尾良く読み取られました。(SCAN オプション)

システムの処置: 処理は正常に終了します。

オペレーターの応答: なし。

(データに関する問題が起きても ANALYZE の実行が促されたり、その問題が繰り返し起きる場合には、インストール手順に応じた分析がさらに必要となります)。

システム・プログラマーの応答: (データに関する問題が起きても ANALYZE の実行が促されたり、その問題が繰り返し起きる場合には、インストール手順に応じた分析がさらに必要となります)。

ICK01406I ccuu ANALYZE ENDED

説明: ANALYZE コマンドが処理を完了しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

ICK01407I ccuu NO DRIVE PROBLEMS FOUND

説明: ドライブ・テストは首尾良く完了し、問題は検出されませんでした。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ICK01408I ccuu DATA VERIFICATION TEST STARTED

説明: ANALYZE は、データ検査の実行を開始しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01409I DRIVE TEST STARTED

説明: ドライブ・テスト処理が始まります。

システムの処置: ドライブ・テスト処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01410I DRIVE TEST: TESTING SUCCESSFUL ON
: CHPID = XX CHANNEL NUMBER = X
CHANNEL SET = X STORAGE
DIRECTOR ID = XX SUBSYSTEM ID =
XXXX CLUSTER = X STORAGE PATH =
X**

説明:

- 示されたパス上でのドライブ・テストが、処理を正常に完了しました。ここで、パラメーターは以下のとおりです。
 - CHPID = XX は、処理中のパスの CHPID を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。
 - CHANNEL NUMBER = X は、処理中のパスのチャンネル番号を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。
 - CHANNEL SET = X は、処理中のパスのチャンネル・セット (CPU 指定) を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。
 - STORAGE DIRECTOR ID = XX は、処理中のパスのストレージ・ディレクター ID を識別します。ここには、センス・バイト 21 にある情報が含まれています。この行は、処理されているストレージ管理装置に適用されていないと表示されません。
 - SUBSYSTEM ID = XXXX は、処理中のパスのサブシステム ID を識別します。ここには、センス・バイト 20 と 21 にある情報が含まれています。この行は、処理されているストレージ管理装置に適用されていないと表示されません。
 - CLUSTER = X は、処理中のパスのクラスターを識別します。この行は、処理されているストレージ管理装置に適用されていないと表示されません。
 - STORAGE PATH = X は、処理中のクラスターのストレージ・パスを識別します。この行は、処理されているストレージ管理装置に適用されていないと表示されません。
- システムの処置: コマンドの ICKDSF 処理は続行されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01411I FUNCTIONAL VERIFICATION DATA WRITE/READ TEST STARTED

説明: REVAL コマンドについての指定範囲の HA/R0 妥当性検査および機能データ検査テストが開始されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01412I FUNCTIONAL VERIFICATION DATA WRITE/READ TEST ENDED

説明: REVAL コマンドについての指定範囲の HA/R0 妥当性検査および機能データ検査テストが終了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01413I IN THIS ENVIRONMENT PATH CONTROL WILL ONLY PROCESS ON CHANNEL: X

説明: 独立型環境でパス制御を使用すると、表示されたチャンネルのみが最初に見つかったチャンネル・セット上で処理されます。この環境で操作を行う際の制約事項に関しては、パス制御パラメーターを参照してください。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01414I THE FOLLOWING ERRORS WERE ALSO DETECTED

説明: このメッセージは、ドライブ・テストで障害が起きた際にサービス技術員が使用するセンス・データを提供します。(先行する ICK21407 および ICK21409 メッセージを参照してください。)

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。

ICK01415I CORRECTABLE DATA CHECK OCCURRED ON CE CYLINDER, HEAD = X'hhhh', RECORD = X'rr'

説明: 示されたヘッドとレコードにおいて、IBM 技術員用 (CE) シリンダーの入出力エラーが起きました。このメッセージに続いて、障害のあるレコード上のエラーを記述している CCW、CSW およびセンス・バイトが示されます。

システムの処置: ICKDSF のコマンド処理は続行されます。

後ほど打ち切られる場合があります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 打ち切られた場合には、サービス技術員が使用するための CCW、CSW およびセンス情報が提供されます。

ICK01416D CHPID = XX, RESERVED, REPLY R TO RETRY, B TO BYPASS

説明: 処理中にどの再試行でも予約済みのままであるパスが検出されると、システム・オペレーターに対してこのメッセージが出されます。

XX はそのパス (CHPID) を示しています。

- 応答が R である場合、その装置に対して入出力操作が再び命令されます。
- 応答が B である場合、後続処理はこのパスに関してバイパスされます。

システムの処置: 説明を参照してください。

オペレーターの応答: R、または B を応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01417D X, Y RESERVED, REPLY R TO RETRY, B TO BYPASS

説明: 処理中にどの再試行でも予約済みのままであるパスが検出されると、システム・オペレーターに対してこのメッセージが出されます。

X はチャンネル番号を指定し、Y はチャンネル・セット (CPU 指定) を指定します。

- 応答が R である場合、その装置に対して入出力操作が再び命令されます。
- 応答が B である場合、後続処理はこのパスに関してバイパスされます。

システムの処置: 説明を参照してください。

オペレーターの応答: R、または B を応答してください。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01418I REVALIDATE FIXSIM(4E4E) PROCESS STARTED

説明: 指定された範囲のユーザー・データの再書き込みが開始されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01419I REVALIDATE FIXSIM(4E4E) PROCESS ENDED

説明: 指定された範囲のユーザー・データの再書き込みが終了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01420I REVALIDATE FUNCTION STARTED WITHOUT FFVDP WRITE/READ TEST

説明: REVAL コマンドについての指定範囲の HA/R0 妥当性検査テストが開始されました。ファクトリー機能検査のデータ・パターンはボリュームに書き込まれません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01421I RECOVER PREVIOUS REVALIDATE FIXSIM(4E4E) CHECKPOINT

説明: 直前の REVAL FIXSIM(4E4E) は完了しませんでした。ICKDSF は、前の範囲を先に REVAL FIXSIM(4E4E) を再始動します。リカバリー処理が完了すると、ICKDSF はそれから新しい範囲を継続して処理します。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01422I RECOVER PREVIOUS REVALIDATE DATA/NODATA CHECKPOINT

説明: 直前の REVAL DATA または NODATA 処理が完了しませんでした。REVAL は、現行の仕様で直前の範囲を処理します。それから新しい範囲を処理します。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01425I PRIMARY TRACK CCHH = X'cccc hhhh' HAD BEEN SURFACE CHECKED

説明: ICKDSF がユーザー・データを主トラックに再書き込みしているときに、入出力エラーが発生しました。ICKDSF は、主トラックを修正しようとして表面検査を実行しました。

システムの処置: 主トラックの問題が、表面検査で修正できた

ときはコマンド処理は継続します。そうでない場合、コマンドは終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドが終了した場合は、前に表面検査ルーチンから出されたメッセージを参照してください。

ICK01430I REVALIDATE REFRESH PROCESS STARTED

説明: 指定された範囲のユーザー・データの再書き込みが開始されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01431I REVALIDATE REFRESH PROCESS ENDED

説明: 指定された範囲のユーザー・データの再書き込みが終了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01432I RECOVER PREVIOUS REVALIDATE REFRESH CHECKPOINT

説明: 直前の REVAL REFRESH 処理が完了しなかったので、ICKDSF は REVAL REFRESH を前の範囲を先に実行します。リカバリー処理が完了すると、ICKDSF はそれから新しい範囲を継続して処理します。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01440I VOLSER, VTOC AND DATA IN THE SPECIFIED RANGE WILL BE ERASED

説明: このメッセージは、REVAL DATA または REVAL NODATA 処理のために印刷されました。指定された範囲内の VOL1 レコード、VTOC ポインター、およびデータが消去されます。REVAL 処理が完了すると、ボリューム上のデータはアクセス不能になります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01501I INVALID DEVICE TYPE SPECIFIED FOR BUILDIX COMMAND

説明: BUILDIX コマンドでサポートされない装置タイプ (例えば、2314 DASD) のボリュームの VTOC を変更する要求が出されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームが、BUILDIX コマンドでサポートされている装置タイプであることを検証してから、JCL かコマンド・ステートメントを変更してください。

ICK01502I BUILDIX FUNCTION STARTED

説明: BUILDIX コマンド処理が開始されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01503I ccuu REQUEST RECEIVED TO CONVERT VTOC TO **FORMAT

説明: このメッセージは、要求された VTOC の形式変更を検証します。 ** は、次の要求された形式を表します - OS または IX のいずれか。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01504I ccuu VTOC FORMAT IS CURRENTLY **FORMAT, REQUEST ACCEPTED

説明: このメッセージは、コマンド・ステートメントの BUILDIX 関数が、ボリュームの VTOC の現行形式に有効かどうかを検査します。 ** は VTOC の形式を表し、OS または IX のいずれかです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01508A ccuu SHOULD CONVERSION PROCEED? REPLY U TO CONTINUE, ELSE T

説明: このメッセージにより、オペレーターは、ユーザーが BUILDIX 関数の要求を許可されているかどうかを、コマンド処理の開始前に検査することができます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: ユーザーがコマンドを出すことを許可されていることを検証して、次のように応答してください。

- 継続には U です。
- T が指定されると、処理が打ち切られます。

U または T 以外の応答をすると、このメッセージが再度出されます。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01513I ccuu BUILDIX PROCESSING COMPLETED: VTOC IS NOW IN **FORMAT

説明: BUILDIX コマンドは正常に完了しました。 は、次の新規の VTOC 形式を示します: OS または IX のいずれか。

システムの処置: ICKDSF は、正常に終了しました。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01520I THE VTOC-INDEX WAS DELETED

説明: ICKDSF が、ボリュームから索引データ・セットを削除しました。これは、VTOC が再作成されたために、索引データ・セットが有効でなくなったためです。もし装置が MVS 環境に対してオンラインであれば、ICKDSF は新しい索引データ・セットを割り振り、索引を再作成します。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01600I MAPALT STARTED

説明: MAPALT コマンドの実行が開始されました。
 システムの処置: なし。
 オペレーターの応答: なし。

ICK01606I nnnnn BLOCKS ASSIGNED TO ALTERNATES IN LIMITS SPECIFIED

説明: この要約メッセージには、今回または前回の実行時にコマンド・ステートメント上で指定された限界内で代替ブロックとして割り当てられたブロック数が示されています。
 システムの処置: なし。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01608I ccuu MAPALT ENDED NORMALLY, RETURN CODE= n

説明: コマンドが、処理を打ち切る原因となるエラーを検出することなく完了しました。

メッセージ中に 0 または 4 という戻りコードが示されます。

- 戻りコード 0 は、エラーがなかったことを意味しています。
- 戻りコード 4 は、1 つ以上のリカバリー可能なエラーが発生したことを意味しています。

システムの処置: なし。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01609I PERMANENT DATA CHECK FOUND READING ID FOR BLOCK nnnnnn

説明: メッセージ中に示されている 1 次ブロックの ID フィールドを読み込んでいる際に、永続データ・チェックが発生しました。
 システムの処置: 診断情報が出力装置上に印刷され、コマンド処理は続行されます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: システム・コーディネーターのためにジョブ出力を保管し、データ・リカバリーに関するインストール手順にしたがってください。

このメッセージを受け取ったブロックが最高 3 つであるなら、ICKDSF の INSPECT コマンドを使用して、データ・チェックの起きているブロックに対し代替ブロックを割り当てることができます。

このメッセージを受けとったブロックが 4 つ以上なら、IBM

ハードウェアまたはソフトウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK01701I ONLY 5 USER VOL LABELS ALLOWED

説明: 固定ブロック方式装置には、5 つのユーザー・ボリューム・ラベルのみが許されています。LABEL パラメーターにおいて、6 つ以上のラベルが指定されました。
 システムの処置: スペースは 6 つのラベルについて予約され、処理は続行されます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01704I ALTERNATE ASSIGNED FOR BLOCK xxxxxxxx

説明: ブロック xxxxxxxx に損傷のあることが、表面分析中に検出されました。このブロックには、代替ブロックが割り当てられました。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01708I RECLAIM SUCCESSFUL FOR BLOCK xxxxxxxx

説明: ブロック xxxxxxxx は首尾良くレクラメーションされました。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01714I RECLAIM UNSUCCESSFUL FOR BLOCK xxxxxxxx

説明: 損傷のあるブロック xxxxxxxx の表面分析が失敗し、レクラメーションできませんでした。
 システムの処置: 代替ブロックがこのブロックに割り当てられました。コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01715I TOTAL NUMBER OF ALTERNATES ASSIGNED = n

説明: N は、今回の実行で割り当てられた代替ブロックの合計数です。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01725I EXCESSIVE NUMBER OF ALTERNATES ASSIGNED FOR A CYLINDER

説明: 3370 ボリュームの初期設定中に、25 個以上の代替ブロックが 1 つのシリンダー上に割り当てられました。この数は、シリンダー上の代替ブロック数を上回っています。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: これは、ボリュームの性能低下の原因となる可能性があります。IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取る必要がある場合もあります。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK01726I nnnnnn FACTORY FLAGGED BLOCKS.

説明: このメッセージは、INIT レクラメーション処理の最終メッセージです。nnnnnn は、代替ブロックを持つものとして製造元によって指定されたブロックの数を示しています。システムの処置: INIT 処理表面分析フェーズが開始されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01727I RECLAIM SPECIFIED WITH NOCHECK.
 NO RECLAIM DONE**

説明: NOCHECK が指定されたか、またはデフォルト指定されたので、RECLAIM 機能は実行されませんでした。

RECLAIM には CHECK が必要です。

システムの処置: 処理は RECLAIM なしで続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: RECLAIM に対して、

CHECK を指定してジョブを再実行してください。

**ICK01729I SPECIFIED CISIZE ADJUSTED TO NEXT
 HIGHER MULTIPLE OF DEVICE
 BLOCKSIZE**

説明: 512 の倍数でない CISIZE を指定すると、ICKDSF はそのすぐ上の倍数までその値を切り上げます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01730I RECLAIM AND/OR CHECK NOT
 SUPPORTED FOR MINI-DISKS**

説明: 要求された CHECK または RECLAIM (あるいはその両方) の機能は、固定ブロック方式 (FBA) ミニディスクではサポートされていません。

システムの処置: 処理は、CHECK または RECLAIM なしで続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。CHECK または RECLAIM が必要な場合は、ボリューム全体を初期設定してください。

**ICK01731I MAP FUNCTION NOT SUPPORTED FOR
 MINI-DISKS**

説明: MAP パラメーターがコマンド上で指定されたか、デフォルト指定されましたが、MAP は固定ブロック方式 (FBA) ミニディスクにおいてサポートされていません。

システムの処置: 処理は MAP なしで続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01732I MAP FUNCTION NOT SUPPORTED FOR
 THIS DEVICE TYPE**

説明: MAP パラメーターが指定されたか、MAP がサポートされていない装置でデフォルトとなりました。

システムの処置: 処理は、MAP 機能をバイパスして継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK01754I xx OF THE INSPECTED BLOCKS HAVE
 ALTERNATES ASSIGNED**

説明: これは、MAP を指定すると印刷される要約メッセージです。xx は、代替ブロックを割り当てられている検査対象のブロック数です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01759I USER DATA ON BLOCK xxxxxxxx
 RESTORED**

説明: コマンド処理は永続エラーのために失敗しましたが、ICKDSF はコマンド処理を打ち切る前にブロック xxxxxxxx 上のデータをリストアできました。

システムの処置: 前述に報告されたエラーのため、現行のコマンド処理は打ち切られました。次のコマンドに関して処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01760I SURFACE OF BLOCK xxxxxxxx
 DEFECTIVE**

説明: チェック機能で、ブロック xxxxxxxxxx の表面に損傷のあることが分かりました。

システムの処置: ASSIGN が指定される場合は、代替ブロックが割り当てられます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01761I SURFACE OF BLOCK xxxxxxxx NOT
 DEFECTIVE**

説明: チェック機能で、ブロック xxxxxxxx の表面に損傷のないことが分かりました。

システムの処置: 次のブロックに関して処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01765I NEW ALTERNATE ASSIGNED TO BLOCK
 xxxxxxxx**

説明: ブロック xxxxxxxx は、新しい代替ブロックを割り当てられました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01781I dataset IS A PASSWORD PROTECTED
DATA SET BUT USER EXIT DIRECTS
BYPASS CHECK**

説明: ユーザー・セキュリティ出口ルーチン・モジュールは、そのボリューム上にある名前の挙げられたパスワード保護データ・セットに対するパスワード検査をバイパスするよう、ICKDSF に指示を出しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01795I TRACK X'cccc hhhh' IS CONTAINED IN
DATA SET dataset**

説明: コマンドで指定されたトラックは、示されたデータ・セットに含まれています。(このメッセージには、ICK31780I などの他のメッセージが続く場合があります。)

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01832I PATH xxxx,y HAS BEEN WRITE
ALLOWED**

説明: これは、オペレーターおよびプログラマーに対して、どのパス ID が CONTROL コマンドによって書き込み許可されているかを示している通知メッセージです。

「xxxx」は装置アドレスで、「y」はパス ID(CHPID) です。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: そのパス上のすべての装置は消去されました。しかし、オペレーターは、必要なパスをオンラインに戻してアクセス可能にしなければなりません。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK01833I DEVICE ccuu FENCE STATUS CLEARED

説明: これは、装置 ccuu の分離状況が CONTROL コマンドによって消去されたことを示す、通知メッセージです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK01841I RESET INDEFINITE CONDITION OF
DEVICE ccuu COMPLETE**

説明: 装置の確定されていない条件の再設定 が首尾良く完了しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02100I LAST INVOCATION CHECKPOINTED AT
X'cccc hhhh', RECOVERY IN PROCESS**

説明: 直前の INIT コマンドの使用が、完了しませんでした。このメッセージで指定されたトラックは、最後のチェックポイント位置になります。

システムの処置: 障害時に処理中だったトラックは正常な状態に戻されます。(特定の装置は、装置タイプおよび前回使用したときの INIT コマンドの障害の原因によって異なります)。

リカバリー処理が完了した後で、INIT コマンドの今回の使用のための処理が開始されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02101I INITIALIZE IS CONTINUING FROM
TRACK X'cccc hhhh'.**

説明: INIT が呼び出されたとき、CONTINUE データが存在していました。

システムの処置: CURRENT が指定されている範囲の残りの部分については、トラック X'cccc hhhh' から処理が始まります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02103I INITIALIZE IS CONTINUING FROM
BLOCK xxxxxxxx.**

説明: INIT が呼び出されたとき、CONTINUE データが存在していました。xxxxxxx は、チェックポイントが取られた最後のブロックを示します。

システムの処置: CURRENT が指定されている範囲の残りの部分については、ブロック xxxxxxxxxx から処理が開始されます。

**ICK02104I NO ADDITIONAL TRACKS REMAIN IN
THE SPECIFIED RANGE**

説明: CONTINUE 処理は以前に活動化されていました。

(ICK02101I メッセージを参照してください。) ボリュームの妥当性を確認するために必要とされるトラック検査の後に、指定された範囲内では処理すべき追加トラックはありませんでした。

システムの処置: 最小の初期化機能で処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02105I PROCESSING IS CONTINUING FROM
LAST CHECKPOINT**

説明: コマンドの前回呼び出しが処理を完了していませんでした。現在のコマンドによってその状況が検出されましたが、最後のチェックポイントから処理は続行されます。

システムの処置: コマンド処理は最後のチェックポイントから続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK02128I RECOVERY PROCESS COMPLETE

説明: 直前のチェックポイントからのデータのリカバリーが完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02129I RECOVERY COMPLETE FOR TRACK
X'cccc hhhh'**

説明: バックアップ・リカバリー機能が、指定されたトラックについて完了しました。

システムの処置: 現在の呼び出しパラメーターで、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02150I INITIALIZE IS CONTINUING WITH
RECLAIM PROCESSING**

説明: 直前の INIT コマンドの使用が、レクラメーション処理の間に完了しませんでした。レクラメーション処理が、再始動します。

システムの処置: レクラメーション処理が、再始動しました。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02156I INITIALIZE PREVIOUSLY INTERRUPTED
AT BLOCK xxxxxxxx**

説明: 直前の INIT コマンドの使用が、完了しませんでした。メッセージに指定されたブロックが、最後のチェックポイントの場所です。

システムの処置: CONTINUE データと指定されたパラメーターが、どんな処理がなされたかを判別するために調べられます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02163I CONTINUE INFORMATION EXISTS ON
CE CYLINDER FOR BLOCK xxxxxxxx**

説明: ANALYZE DRIVETEST 処理の際に、以前に呼び出された INIT コマンドの実行が完了していなかったことが判明しました。xxxxxxx は、チェックポイントが取られた最後のブロックを表しています。

システムの処置: この情報は消去されません。ANALYZE 処理は、ドライブ・テストの残り部分を続行します。

システム・プログラマーの応答: これは通知メッセージです。

前回の INIT 中断の状況に応じて、必要ならば、CONTINUE または NONCONTINUE を指定して INIT コマンドを再開できます。

**ICK02164I PRESERVE INFORMATION EXISTS ON
CE CYLINDER FOR BLOCK xxxxxxxx**

説明: ANALYZE DRIVETEST 処理中に、INSPECT コマンドの PRESERVE 機能が指定ブロックに対して処理を完了していなかったことが分かりました。このブロックのデータは保管されています。

システムの処置: この情報は消去されません。ANALYZE 処理は、ドライブ・テストの残り部分を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 指定されたブロックの可用性を確認して、データをリカバリーするため、この装置に対して INSPECT コマンドを実行してください。

**ICK02166I RECOVERY COMPLETE FOR BLOCK
xxxxxxx**

説明: バックアップ・リカバリー機能が、指定されたブロックについて完了しました。

システムの処置: 現在の呼び出しパラメーターで、処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02174I VOLUME CONTAINS xxxxx ALTERNATE
TRACKS -- AVAILABLE ALTERNATES
UNDETERMINED**

説明: このボリュームの VTOC が読み取れないか、または存在しません。このため、利用可能な代替トラック数の現在値を判別できません。前のメッセージに、VTOC がアクセス不能である理由が示されています。xxxxx は、ボリューム上の代替トラックの合計数です。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: VTOC にアクセスできない理由を判別するため、先行メッセージを参照してください。

**ICK02200I PPRCOPY DEFINESSESSIONS FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: 指定されたセッションを OPEN または CLOSE する要求が正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02201I PPRCOPY ESTPATH FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: 2 つのサブシステムの間に PPRC パスを確立するために使用された PPRCOPY ESTPATH コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02202I PPRCOPY DELPATH FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: 2つのサブシステム間のPPRCパスを削除するために使用されたPPRCOPY DELPATH コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02203I PPRCOPY ESTPAIR FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: リモート・コピー・ペアを確立するために使用されたPPRCOPY ESTPAIR コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02204I PPRCOPY DELPAIR FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: リモート・コピー・ペアを削除するために使用されたPPRCOPY DELPAIR コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02205I PPRCOPY SUSPEND FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: リモート・コピー・ペアを延期するために使用されたPPRCOPY SUSPEND コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02206I PPRCOPY QUERY FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: 装置状況を照会するために使用されたPPRCOPY QUERY コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02207I PPRCOPY RECOVER FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: 2次ボリュームへのアクセスを再確立するために使用されたPPRCOPY RECOVER コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02208I PPRCOPY FREEZE FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: 単一のストレージ管理装置上のすべてのPPRCボリュームに対するすべての操作を中断するために使用するPPRCOPY FREEZE コマンドが、正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02209I PPRCOPY RUN FUNCTION COMPLETED
SUCCESSFULLY**

説明: 単一のストレージ管理装置上の以前にFREEZEしたすべてのPPRCボリュームに対するすべての操作を再開するために使用するPPRCOPY RUN コマンドが、正常に完了しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK02210I *** COPY IN PROGRESS *******

説明: PPRCOPY ESTPAIR コマンドでMSGREQ(YES)パラメーターが指定されました。コピー処理がまだ進行中です。

ESTPAIR コマンドはまだ完了していません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK02211I DEVICE IS IN CRITICAL WRITE STATE

説明: PPRCOPY ESTPAIR コマンドで指定されたとおりに、1次装置がクリティカル書き込み状態に置かれました。この状態では、2次装置への更新書き込みが失敗すると装置チェックになり、1次装置は延期状態に入りません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02212I COPY SUSPENDED BY HOST
COMMAND DIRECTED TO THE
PRIMARY**

説明: 確立後に中断するためにESUSPパラメーターが指定された可能性があります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを使用すれば、詳しい状況を入手することができます。

**ICK02213I VOLUME IS ELIGIBLE FOR PPRC
CASCADING**

説明: このメッセージは、照会される装置がカスケード機能をサポートし、対等通信コピーのペアの1次ボリュームとしてセットアップされている場合に、PPRCOPY QUERY 処理中に発行されます。この装置は、カスケード関係を完全にする対等通信コピーのペアの2次ボリュームになることができます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02214I INFORMATION FOR THIS VOLUME AS
 A PRIMARY FOLLOWS**

説明: このメッセージは、照会される装置がカスケード状態にあり、このメッセージの後の情報が、対等通信コピーのペアの 1 次ボリュームとしての装置に関連する場合に、PPRCOPY QUERY 処理中に発行されます。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02215I INFORMATION FOR THIS VOLUME AS
 A SECONDARY FOLLOWS**

説明: このメッセージは、照会される装置がカスケード状態にあり、このメッセージの後の情報が、対等通信コピーのペアの 2 次ボリュームとしての装置に関連する場合に、PPRCOPY QUERY 処理中に発行されます。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02216I PPRCOPY POPULATESESSION
 FUNCTION COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: 指定されたセッションからボリュームを JOIN または REMOVE する要求が正常に完了しました。指定されたボリュームは、'join pending' または 'remove pending' の状態になります。ボリュームを含む非同期 PPRC 構成が開始済みであるか、または整合性グループが進行中であるかに応じて、このボリュームはしばらくの間そのままの状態になることに注意してください。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02217I PPRCOPY STARTASYNCCOPY FUNCTION
 COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: STARTASYNCCOPY が正常に完了しました。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02218I PPRCOPY TERMASYNCCOPY FUNCTION
 COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: コマンドは、エラーなしで完了しました。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02219I VOLUME IN CASCADED FAILOVER
 MODE. HOST WRITES ALLOWED**

説明: アドレス指定されたボリュームはカスケードされた 3 組の中間ボリュームで、フェイルオーバー要求が、そのボリュームの 2 次パーソナリティーのローカル・ペアに正常に発行され、フェイルオーバー・モードに設定されました。このボリュームに対してホスト書き込みが許可されます。
 システムの処置: なし。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK02220I UNABLE TO QUERY FLASHCOPY

説明: コマンドは失敗しました。問題の原因を示す他のメッセージが発行されたはずです。
 システムの処置: コマンドは終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 示された問題を訂正し、要求の受け渡しをし直してください。

ICK02221I UNABLE TO WITHDRAW FLASHCOPY

説明: コマンドは失敗しました。問題の原因を示す他のメッセージが発行されたはずです。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 示された問題を訂正し、要求の受け渡しをし直してください。

ICK02222I UNABLE TO ESTABLISH FLASHCOPY

説明: コマンドは失敗しました。問題の原因を示す他のメッセージが発行されたはずです。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 示された問題を訂正し、要求の受け渡しをし直してください。

**ICK02223I FLASHCOPY TARGET IN PATH GROUP -
 ONLINE TARGET NOT ALLOWED**

説明: ESTABLISH 要求は、グループ分けされることが検出されたターゲット装置を指定します。この装置は、オンラインであると想定されます。
 システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ターゲット装置をオフラインにするか、オフラインであるターゲットの装置を選択して、ジョブを再実行してください。装置が 2105 であれば、オンラインのターゲット装置との FlashCopy の関係を確立する場合には、ONLINTGT(YES) パラメーターを使用できます。

**ICK02224I SOURCEVOL AND TARGETVOL
KEYWORDS NOT ALLOWED WITH
RESETGTWRTINHIBIT**

説明: RESETGTWRTINHIBIT を指定する場合は、'target write inhibit' を除去する装置にコマンドを発行する必要があるため、SOURCEVOL および TARGETVOL キーワードを使用することはできません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 'target write inhibit' を除去する装置に直接コマンドを発行してください。

**ICK02225I ATTEMPT TO ESTABLISH A FLASHCOPY
TARGET VOLUME THAT IS ALREADY
AN ASYNCHRONOUS PPRC PRIMARY
VOLUME**

説明: また、非同期 PPRC の 1 次ボリュームであるボリュームを FlashCopy のターゲット・ボリュームにすることはできません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FlashCopy のターゲット・ボリュームにするボリュームが意図したものであることを確認してください。そうである場合は、コマンドを再サブミットする前に、その関係から非同期 PPRC の 1 次ボリュームであるボリュームを除去する必要があります。

**ICK02226I INVALID CONSISTENCY GROUP STATE
FOR RECEIPT OF REVERTIBLE
FLASHCOPY ESTABLISH COMMAND**

説明: 非同期 PPRC の従属が、整合性グループの作成の一環としてリモート ESS に Revertible Establish Flashcopy コマンドを発行したときに、Extended Distance Consistency セッションは、'Consistency Group In Progress' 状態ではありませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 技術員に連絡してください。

**ICK02227I VOLUME IS IN CASCADED FAILBACK
MODE. PRIMED FOR
RESYNCHRONIZATION**

説明: PPRC Establish Failback が、カスケードされた 3 組の中間ボリュームに対して発行されました。この中間ボリュームは、現在、元のローカル・ボリュームに対する PPRC 1 次ボリュームになっていますが、元のリモート・ボリュームに対する PPRC 1 次ボリュームにはなっていません。しかしながら、このボリューム自体とリモート・ボリュームとの間の対等通信リモート・コピーの再同期を許可する状態であることが構造に記録されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK02230I DEVICE IS NOW IN SIMPLEX STATE

説明: PPRCOPY DELPAIR または RECOVER コマンドが正常に完了しました。装置は現在、シンプレックス状態にあります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02231I DEVICE IS NOW A PEER TO PEER
REMOTE COPY VOLUME**

説明: PPRCOPY ESTPAIR が正常に完了しました。装置は現在、対等リモート・コピー・ボリュームです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK02232I DEVICE IS NOW A SUSPENDED PPRC
VOLUME**

説明: PPRCOPY SUSPEND コマンドが正常に完了しました。装置は現在、延期 PPRC ボリュームです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK03000I CPVOL REPORT FOR ccuu FOLLOWS:
VOLUME SERIAL = valid
{CYL|PAGE} RANGE TO BE
FORMATTED IS xxx - yyy
FORMATTING OF CYLINDER xxx
STARTED at hh:mm:ss
TDSK CYLINDER(S) xxxx-yyyy NOT
EXAMINED
FORMATTING OF CYLINDER yyy
STARTED at hh:mm:ss
FORMATTING OF CYLINDER zzz
ENDED at hh:mm:ss
VOLUME SERIAL NUMBER IS NOW =
valid
{CYL|PAGE} ALLOCATION IS AS
FOLLOWS:
TYPE START END TOTAL

type xxxx yyyy zzzz**

説明: VOLUME SERIAL=valid は、処理中の装置のボリューム通し番号を識別します。

{CYL|PAGE} RANGE TO BE FORMATTED IS xxx - yyy は、形式設定する対象となるシリンダーまたは FBA ページの範囲の開始値と終了値を識別します。EXAMINE 機能が指定された場合、このメッセージは、{CYL|PAGE} RANGE TO BE EXAMINED IS xxx - yyy となります。

FORMATTING OF {CYL|PAGE} xxx STARTED AT

hh:mm:ss は、形式設定または検査が開始された時刻を表します。

FORMATTING OF {CYL|PAGE} yyy STARTED AT

hh:mm:ss は、シリンダー/ページ yyy の形式設定または検査が開始された時刻を表します。これは、周期的に繰り返される進捗メッセージです。(ほぼシリンダー 100 個または 10000 ページごと)。

TDSK CYLINDER(S) xxxx-yyyyy NOT EXAMINED は、EXAMINE 処理でスキップされたシリンダーの開始値と終了値を示します。TDSK シリンダーは、EXAMINE で読み取れる形式になっていないのでバイパスされます。

FORMATTING OF {CYL|PAGE} zzz ENDED AT hh:mm:ss は、形式設定または検査が終了した時刻を表します。

CPVOLUME コマンド中で VOLID(通し番号) が指定されていた場合、VOLUME SERIAL NUMBER IS NOW = valid は、処理中の装置の新しいボリューム通し番号を識別します。

{CYL|PAGE} ALLOCATION IS AS FOLLOWS: には、割り振りマップの内容が示されます。

システムの処置: コマンドの ICKDSF 処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK03005I AIXVOL REPORT FOR ccuu FOLLOWS:
VOLUME SERIAL = valid
CYLINDER RANGE TO BE FORMATTED
IS xxx - yyy
FORMATTING OF CYLINDER xxx
STARTED at hh:mm:ss
FORMATTING OF CYLINDER yyy
STARTED at hh:mm:ss
FORMATTING OF CYLINDER zzz
ENDED at hh:mm:ss
VOLUME SERIAL NUMBER IS NOW =
valid

説明: VOLUME SERIAL=valid は、処理中の装置のボリューム通し番号を識別します。

CYLINDER RANGE TO BE FORMATTED IS xxx - yyy は、形式設定されるシリンダーの範囲の開始と終わりの値を識別します。EXAMINE 機能が指定された場合、このメッセージは、CYLINDER RANGE TO BE EXAMINED IS xxx - yyy となります。

FORMATTING|EXAMINATION OF CYLINDER xxx STARTED at hh:mm:ss は、形式設定または検査が開始された時刻を表します。

FORMATTING|EXAMINATION OF CYLINDER yyy STARTED at hh:mm:ss は、シリンダー yyy の形式設定または検査が開始された時刻を表します。これは、定期的に繰り返される進捗状況のメッセージです(約 100 シリンダーごと)。

FORMATTING|EXAMINATION OF CYLINDER zzz ENDED at hh:mm:ss は、形式設定または検査が終了した時刻を表します。

VOLUME SERIAL NUMBER IS NOW = valid は、VOLID (通し番号) が AIXVOL コマンドで指定されている場合は、処理中の装置の新しいボリューム通し番号を識別します。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK03010I SPECIFIED RANGE (xxxx,yyyy); VOLUME
END LIMITED TO nnnn

説明: 形式設定範囲または割り振りタイプ・ステートメントが、そのボリュームの収容能力 nnnn を超過する範囲終了値 yyyy を指定しました。

システムの処置: CPVOLUME および AIXVOL は yyyy を nnnn で置き換え、処理は続行されます。

オペレーターの応答: その結果として指定された範囲が受け入れ可能な場合は、不要です。そうでない場合は、正しい範囲値を用いて CPVOLUME または AIXVOL を再実行してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK03011I CYLINDER|PAGE RANGE TO BE
FORMATTED IS xxxx-yyyy
CYLINDER|PAGE RANGE TO BE
EXAMINED IS xxxx-yyyy

説明: xxxx は、CPVOLUME または AIXVOL コマンドで形式設定または検査される最初のシリンダーまたはページです。

yyyy は、CPVOLUME または AIXVOL コマンドで形式設定または検査される最後のシリンダーです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK03020I CPVOL WILL PROCESS ccuu FOR
{VM/370|XA|ESA} MODE

説明: CPVOLUME は、その操作モードが VM/370、VM/XA または VM/ESA であることを判別しました。

VM/ESA モードで形式設定されているボリュームは、

VM/ESA または z/VM[®] システムで使用できます。

CPVOLUME は、指定されたオペレーティング・システムに装置を形式設定します。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: MODE が受け入れ可能な場合は、なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK03021I ccuu IS FORMATTED FOR
{VM/370|VM/XA|VM/ESA|ESA} MODE

説明: CPVOLUME は、装置が VM/370、VM/XA か VM/ESA、または VM/ESA のみの環境向けに形式設定されていると判別しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: モードが受け入れられる場合は、なしです。

**ICK03022I FORMATTING THE DEVICE with/without
FILLER RECORDS**

説明: ポリウムは、充てん文字レコードあり/なしのどちらかで形式設定されます。それは、装置の状況とパラメーターの指定によります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK03024I DEVICE IS CURRENTLY FORMATTED
with/without FILLER RECORDS**

説明: 指定されたポリウムは、現在充てん文字レコードあり、またはなしで形式設定されています。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK03025I AIXVOL WILL PROCESS ccuu FOR
AIX/ESA MODE**

説明: AIXVOL は、AIX/ESA® 環境で使用されるべく装置を処理します。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK03026I TRACK CENTER TEST DATA EXISTS,
SELECTED HEADS WILL BE
FORMATTED**

説明: INSTALL コマンドは、トラックのセンター・データに示されたヘッドのみを形式設定します。トラックのセンター・データがない場合は、INSTALL はポリウム全体を形式設定します。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK03030I ALLOCATION MAP WILL BE EXPANDED
FROM xxxx TO yyyy {CYLS|PAGES}
ALLOCATION MAP WILL BE REDUCED
FROM xxxx TO yyyy {CYLS|PAGES}**

説明: UNIT パラメーターで指定されたポリウムは、その装置上に含まれているシリンダーの実数ともはや一致していない割り振りマップで、事前に形式設定されていました。値 xxxx は、割り振りマップ中で定義されたシリンダーの最高値です。装置が専用装置である場合、yyyy は固有装置のシリンダー数です。ミニディスクである場合、yyyy はミニディスクのシリンダー数です。

このような状態は、以下の場合に起こります。

- CP 形式設定されたポリウムが、よく多くのシリンダーを含んでいるポリウムに複写されたりリストアされたりする。例えば、3380D が 3380E に複写される場合、メッセージは 885 個から 1770 個のシリンダーに割り振りマップが拡張されなければならないことを示します。

- 事前に形式設定されたミニディスクが異なるシリンダー数で再定義される。
- MIMIC(MINI(yyy)) パラメーターが、割り振りマップに合致しない値 yyy を指定する。

操作が FORMAT または ALLOCATE である場合、ICK003D メッセージに対する応答が U であれば、割り振りマップが変更されます。割り振りマップの末尾に PERM スペースを追加すれば、マップが拡張されます。マップは、割り振りマップの終わりからスペースを削除することにより減少します。

システムの処置: ICKDSF は処理を続行します。

オペレーターの応答: 変更が受け入れ可能な場合は、なし。

そうでない場合、ICK003D メッセージに対して T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK03040I PERMANENT READ ERROR ON
{cchh | block}**

説明: EXAMINE 機能の実行中に、訂正不能なデータ・チェックが起きました。

システムの処置: EXAMINE 機能は処理を続行します。

オペレーターの応答: EXAMINE が完了したら、表示されたシリンダーを再形式設定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK03050I FORMAT ERROR ON CYL(S) xxxx-yyyy

説明: EXAMINE 機能の実行中に、適切に形式設定されていないシリンダー (またはシリンダー範囲) が見つかりました。これには、以下の理由が考えられます。

3380 DASD 上に充てんレコード付きのシリンダーと充てんレコードなしのシリンダーが混合して存在しています。シリンダーの範囲が、CP のシステム域としてではなく、CMS ミニディスクとして CPVOLUME により形式設定された可能性があります。

システムの処置: EXAMINE 機能は処理を続行します。

オペレーターの応答: EXAMINE が完了したら、表示されたシリンダーを再形式設定してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK03060I INVALID TRACK FORMAT ON cchh

説明: FORMAT 機能の実行中、トラック上で R0 を探索しているときに、INVALID TRACK FORMAT または NO RECORD FOUND エラーが発生しました。

システムの処置: そのトラックを表面検査して R0 を書き直すため、INSPECT 機能が開始されます。INSPECT が成功した場合は形式設定が続行され、そうでない場合は操作が打ち切られます。ICK03070I メッセージで、そのトラック表面検査操作の結果が報告されます。

オペレーターの応答: 操作が続行される場合は、なし。操作が打ち切られる場合は、ICK03070I または ICK33110I メッセージを参照してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK03070I SURFACE CHECK IN PROGRESS ON
cchh|block SURFACE CHECK
COMPLETED
SUCCESSFULLY ON cchh|block**

説明: 形式設定中に、CKDトラックまたはFBAブロックの検査を必要とする装置エラーが検出されました。CPVOLUMEまたはAIXVOLはINSPECT機能呼び出し、エラーを訂正しようと試みます。INSPECTが開始されるとき、その結果を報告するためINSPECTを再発行するときに、ICK03070Iメッセージが出されます。

システムの処置: INSPECT操作が完了するまで、形式設定が保留されます。INSPECTが成功した場合は、形式設定が続行されます。INSPECTが失敗した場合は、形式設定が打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INSPECT操作が成功した場合は、なし。INSPECTが失敗した場合は、INSPECTで出された追加メッセージを参照してください。

**ICK03080I CYL0/TRK0 REFORMATTED WITH NEW
ALLOCATION MAP**

説明: メッセージICK03030Iが直前に出されました。これは割り振りマップの必要な変更を示しています。このメッセージは、割り振りマップ・レコードのサイズ変更を行うため、シリンダー0トラック0のレコードが書き込みされたことを示します。

システムの処置: ICKDSFは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK03090I VOLUME SERIAL = vvvvvv

説明: vvvvvvは、ボリューム・ラベルのレコードから得られたボリューム通し番号です。もしボリューム・ラベル・レコードがなければ、vvvvvvは.....と表示されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK04000I DEVICE IS IN SIMPLEX STATE

説明: 装置は、片面印刷の状態、二重コピーのペアの一部ではありません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK04001I DEVICE IS IN DUPLEX STATE

説明: 装置は、二重コピーのペアの一部であり、二重状態にあります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。処理は、もしICKDSFコマンドが二重状態のボリュームをサポートしないときは、後に終わりになる可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04002I DEVICE IS IN SUSPENDED DUPLEX
STATE**

説明: 装置は、二重コピーのペアの一部であり、延期された二重状態にあります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04003I PROCESSING ON PRIMARY VOLUME OF
DUAL COPY PAIR**

説明: コマンド処理は、二重コピーのペアの1次ボリュームに向けられています。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04004I PROCESSING ON SECONDARY VOLUME
OF DUAL COPY PAIR**

説明: コマンド処理は、二重コピーのペアの2次ボリュームに向けられています。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04005I THE FOLLOWING MEDIA SIM IS BEING
CLOSED, SIM ID=X'nn'**

説明: オープン・メディアSIMは、成功したトラック表面の検査のあと、クローズされています。より詳しいことについてはICK10711Iを参照してください。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04006I RECOVERY IN PROGRESS FOR TRACK
X'cccc hhhh'**

説明: 現行の処理が、チェックポイント・データが直前のICKDSF機能のために存在し、リカバリー・アクションが指定されたトラックに対し進行中であることを判別しました。

システムの処置: ICKDSFは、リカバリー・アクションを継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04007I SPEED OR NOSPEED IS IGNORED FOR
THE DEVICE TYPE**

説明: SPEEDまたはNOSPEEDオプションは、指定された装置タイプには実行できません。というのは、装置サポート機能がサブシステム機能実行(PSF)コマンドを出し、サブシステムがこの装置のデータSCANを実行するからです。

システムの処置: パラメーターを無視して、コマンド処理が継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04008I PSF ORDER = xxxxx PSF SUBORDER =
yyyyy**

説明: 命令 xxxx および副指令 yyyyy のサブシステム機能実行 (PSF) で、エラーが検出されました。
システムの処置: エラー・タイプにより、処理は継続あるいは終了となります。取られたアクションを判別するために、一緒に示されたメッセージを参照してください。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 一緒に示されたメッセージを参照してください。

**ICK04009I TRACK X'cccc hhhh' IS NOT DEFECTIVE,
NOT RECLAIMED**

説明: 表面検査のあと、指定された主トラックは欠陥がないことが判明しました。このトラックは、NORECLAIM が指定されているので代替位置に割り当てられたままです。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04010I DIAGNOSTIC INFORMATION FROM
READ SUBSYSTEM DATA:**

説明: このメッセージは、直前に出された PSF コマンドの情報を与えます。この情報は、異常条件が起きたときにサブシステムから戻されます。
システムの処置: 問題の重大度次第で、機能の処理は終わることがあります。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: エラー情報を調べてください。詳細については、「IBM Secure Sockets Layer Direct Access Storage Reference」または「IBM RAMAC Array Subsystem Reference」を参照してください。必要ならば、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK04013I PRIMARY TRACK X'cccc hhhh' IS
PERMANENTLY (RE)ASSIGNED TO AN
ALTERNATE LOCATION**

説明: 代替位置が、指定された主トラックに割り当てられました。なぜなら主トラックに欠陥があるか、無条件で代替位置を主トラックに割り当てるのが要求されたからです。主トラックにすでに代替位置が割り当てられていた場合には、新しい代替位置が主トラックに再度割り当てられます。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK04020I INVALID TRACK DETECTED ON X'cccc
hhhh', ASSUMED NO DATA ON THE
TRACK**

説明: 0F0B 条件が検出されました。ICKDSF はそのトラックにデータが存在しないと想定して、HA と R0 を再書き込みします。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK04029I DEVICE IS IN SUSPENDED PPRC STATE

説明: 装置は、PPRC ペアの一部であり、延期状態にあります。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを使用すれば、詳しい状況を入手することができます。

**ICK04030I DEVICE IS A PEER TO PEER REMOTE
COPY VOLUME**

説明: 装置は PPRC ペアの一部であり、装置の対等リモート・コピーが活動状態になっています。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを使用すれば、詳しい状況を入手することができます。

ICK04031I DEVICE IS IN PPRC PENDING STATE

説明: 装置は、PPRC ペアの一部であり、PPRC 保留状態にあります。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを使用すれば、詳しい状況を入手することができます。

**ICK04032I DEVICE SPECIFIED IS A PPRC
SECONDARY**

説明: 指定された値は PPRC 2 次です。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを使用すれば、詳しい状況を入手することができます。

**ICK10705I VOLUME SERIAL NUMBER FOR DEVICE
ccuu IS xxxxxx**

説明: ccuu にあるボリューム上の、ボリューム通し番号または VTOC (あるいはその両方) に関する通知メッセージです。ボリューム通し番号が変更された場合は、次のいずれかまたは両方のメッセージを受け取ります。

- CHANGED FROM xxxxxx - ccuu のボリューム通し番号が変更されました。
- VOLUME SERIAL DUPLICATE FOR DEVICE ccuu. VOLUME MADE UNAVAILABLE - ccuu 上の新しいボリューム通し番号は、オペレーティング・システムに対してすでに知られている番号と重複しています。その装置はアンロードされました。

VTOC 位置が変更された場合は、次のメッセージも受け取ります。

- VTOC LOCATION MOVED - ccuu にあるボリュームの VTOC 位置が移動されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: その装置が他のシステムによって共用されている場合は、このボリュームを共用しているシステムに取り付けし直す必要がある場合があります。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK10710I I/O ERROR OCCURRED ON DEVICE ccuu

説明: アドレスが *ccuu* によって指定された装置上で、入出力エラーが起きました。入出力エラーの性質は次の 2 行にわたって記述されます。そこには、障害のあるチャンネル・コマンド・ワード (CCW)、チャンネル状況ワード (CSW)、ファイル・マスク、およびセンス・バイトが表示されます。VM 下の仮想マシンで ICKDSF を実行している場合は、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『VM 下でゲストとしてサポートされる ICKDSF バージョン』のトピックの『VM 下での問題解決』を参照してください。

システムの処置: コマンド処理を続行します。コマンドが打ち切られる場合がありますが、大抵の場合打ち切りした後で打ち切りメッセージが出ます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その問題が純粋に装置上の問題であるかどうかを調べてください。その装置問題を訂正し、コマンドを再試行してください。

ICK10711I SIM INFORMATION: CCUU=ccuu, error type, severity, MT=xxxx-xx, SER=xxxx-xxxx, REFCODE=xxx-xxxx-xxxx, VOLSER==xxxxxx, ID=xx, CCHH=X'cccc hhhh', BLOCK=xxx xxxxx, REPEATED SIM=xxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

説明: これは、サービス通知メッセージ (SIM) からの情報です。CCHH または BLOCK フィールドは、エラー・タイプに適切な場合に印刷されます。エラー・タイプに適切でない他のフィールドは、メッセージの変数部分に N/A と印刷されます。DASD 型式番号は、MT フィールドの 3 から 5 ビットのところに表示されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: SIM に関する詳細については、装置に応じて、「IBM ストレージ・サブシステム・メディアの保守」、「*Customer Guide for Using Secure Sockets Layer Direct Access Storage Subsystems Service Information Messages*」、「*Using the RAMAC Array DASD in an MVS, VM, or VSE Environment*」、または「*Using the RAMAC Array Subsystem in an MVS, VM, or VSE Environment*」を参照してください。

ICK10720I UNABLE TO DETERMINE IF DUPLICATE VOLSER EXISTS

RETURN CODE = xxxxxxxx

REASON CODE = xxxxxxxx

説明: ICKDSF 結論処理が、このボリュームの重複 *volser* に、他の UCB が存在するかどうかを判別することを試みましたが、UCBLOOK サービスが、予期しないエラー条件を戻したので、ICKDSF は重複が存在するかどうか判別できませんでした。装置の UCB はオフラインとマークされました。

16 進数の UCBLOOK 戻りコードと理由コードは、もし該当するときは、印刷されます。

システムの処置: 結論処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答:

- 直前のメッセージを調べて、要求された ICKDSF 機能が正常に完了したかどうか判別してください。
- UCBLOOK 戻りコードと理由コードを調べてエラーの原因を判別してください。

UCB サービス、および対応する戻りコードと理由コードの説明については、「*MVS/ESA Planning: Dynamic I/O Configuration*」を参照してください。

もし同じ VOLSER に他にオンライン装置がなければ、そのボリュームはオンラインに戻すことができます。

ICK10721I ccuu VOLUME MADE UNAVAILABLE

説明: 装置が ICKDSF 終了処理の間にアンロードされました。これは、エラーが起きたか、重複した VOLSER が検出されたためです。

システムの処置: 終了処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 直前のメッセージを調べて、ボリュームが利用できない理由を判別してください。

ICK10722I UCBLOOK FAILED RETURN CODE = xxxxxxxx REASON CODE = xxxxxxxx

説明: UCB サービス UCBLOOK は不成功でした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。16 進数の UCBLOOK 戻りコードと理由コードは、もし該当するときは、印刷されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: UCBLOOK 戻りコードと理由コードを調べてエラーの原因を判別してください。

UCB サービス、および対応する戻りコードと理由コードの詳細については、「*MVS/ESA Planning: Dynamic I/O Configuration*」を参照してください。

ICK10723I UCBPIN FAILED RETURN CODE = xxxxxxxx REASON CODE = xxxxxxxx

説明: UCB サービス UCBPIN は不成功でした。16 進数の UCBPIN 戻りコードと理由コードは、もし該当するときは、印刷されます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: UCBPIN 戻りコードと理由コードを調べてエラーの原因を判別してください。

UCB サービス、および対応する戻りコードと理由コードの詳細については、「*MVS/ESA Planning: Dynamic I/O Configuration*」を参照してください。

**ICK10724I UCBPIN FAILED, UNABLE TO UNPIN
UCB RETURN CODE = xxxxxxxx REASON
CODE = xxxxxxxx**

説明: この装置の UCB は、固定を解除できませんでした。16 進数の UCBPIN 戻りコードと理由コードは、もし該当するときは、印刷されます。ICKDSF 終了処理は正常に完了することができません。タスク終了処理もまた UCB の固定解除を試みます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: UCBPIN 戻りコードと理由コードを調べてエラーの原因を判別してください。

UCB サービス、および対応する戻りコードと理由コードの詳細については、「MVS/ESA Planning: Dynamic I/O Configuration」を参照してください。

**ICK10725I UCB SERVICE FAILED RETURN CODE =
xxxxxxx REASON CODE = xxxxxxxx**

説明: ICKDSF が経路状況を判別しようとしているとき UCB サービスが失敗しました。16 進数の UCB サービスの戻りコードと理由コードは、もし該当するときは、印刷されます。システムの処置: ICKDSF は処理を終わるか、あるいはいくつかの機能をバイパスして継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: UCB サービスの戻りコードと理由コードを調べてエラーの原因を判別してください。

UCB サービス、および対応する戻りコードと理由コードの詳細については、「MVS/ESA Planning: Dynamic I/O Configuration」を参照してください。後に続くメッセージを調べて、ICKDSF がいくつかの機能をバイパスして処理を継続するか、処理を終了するかを判別してください。

ICK10726I UNABLE TO DETERMINE PATH STATUS

説明: パス状況を判別できませんでした。

システムの処置: コマンド処理は、パス制御を必要とする機能をバイパスして継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 直前のメッセージを調べて経路状況が判別できなかった理由を判別してください。

**ICK10727I UNABLE TO UNALLOCATE UCB,
RC=xxxx, RSN=xxxx**

説明: UCB の割り振りを解除しようとしているときにエラーが発生しました。RC および RSN は、UCB の割り振りを解除するために起動された MVS サービスからの戻りコードと理由コードです。

システムの処置: ICKDSF は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: UCB の割り振りを解除できない理由を判別してください。

ICK11005I VTOC DOES NOT EXIST

説明: そのコマンドの実行中に、VTOC がボリューム上に見つかりませんでした。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: MVS または VSE 環境で使用する前に、そのボリュームを初期設定する必要があります。

注: CP ボリュームでは、VTOC を必要としません。

**ICK11009I IPL PROGRAM SUPPLIED FOR MSS --
IGNORED**

説明: MSS ステージング・バックとして形式設定されているボリュームは、IPL レコードを持ってません。

システムの処置: コマンド処理は、指定された IPL プログラムを無視して継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IPLDD パラメーターをコマンドから除去してください。

ICK11010I UNABLE TO CLOSE VOLUME

説明: システムが首尾良くクローズされることを妨害するシステム・エラーが起きました。

システムの処置: ボリュームがクローズされなかったのも、そのコマンドは首尾良く完了しなかったと考えられます。ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK11019I NEXT-AVAILABLE-ALTERNATE POINTER
OR COUNTER IN VTOC IS INVALID**

説明: 次に使用可能な代替トラックへのポインター値、または使用可能な代替トラック数のカウントが間違っています。

システムの処置: コマンド処理を続行します。可能な場合は、処理が完了したときに VTOC 中の値が更新されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK11038I NO VALID TRACKS WERE SPECIFIED

説明: TRACKS パラメーターが無効なアドレスのみを指定している場合、このメッセージはそのコマンドが処理されなかったことを示します。

システムの処置: コマンド処理は終了します。ただし、

PRESERVE データは、終了前に処理されます。ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドを再発行し、1 つまたは複数の正しいトラック・アドレスを指定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK11048I INDEX SIZE SPECIFIED IS NOT LARGER THAN THE ORIGINAL, THE ORIGINAL SIZE IS USED

説明: 指定された新しい索引サイズが、現行サイズよりも小さな値です。索引の再作成時には、現行サイズが使用されます。システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 現行サイズよりも小さな索引を作成したい場合には、まず BUILDIX コマンドを使って現行索引を削除してから、BUILDIX コマンドを使って望みのサイズの索引を作成してください。

ICK11049I EXTINDEX PARAMETER IGNORED, VOLUME IS NOT IN INDEX FORMAT

説明: ボリュームに対して EXTINDEX パラメーターが指定されましたが、そのボリュームは索引形式ではありません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 索引を作成したい場合は、BUILDIX コマンドを使用してください。

ICK11050I VTOC LOCATION SPECIFIED FOR MSS STAGING PACK -- IGNORED

説明: 大容量ストレージ・システムのステー징ング・パックには VTOC の位置を指定できません。

システムの処置: VTOC パラメーターは無視され、コマンド処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: VTOC パラメーターをコマンドから除去してください。

ICK11051I LABELS PARAMETER SPECIFIED FOR MSS STAGING PACK -- IGNORED

説明: 大容量ストレージ・システム (MSS) のステー징ング・パックにユーザー・ボリュームのラベルを置くことはできません。

システムの処置: LABELS パラメーターは無視され、コマンド処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: LABELS パラメーターをコマンドから除去してください。

ICK11065I DATA PRESERVED FOR TRACK CCHH=X'cccc hhhh' ON ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh'

説明: このメッセージは、保存されたデータが代替トラックに首尾良く書き込まれた場合に、ICK21047I メッセージの後に続きます。

システムの処置: コマンドは次のトラックの処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されます。

システム・プログラマーの応答: 障害の理由を判別するため、障害のあったトラックをさらに検査する必要がある場合があります。

ICK11066I DATA RESTORED FROM ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh' TO PRIMARY TRACK CCHH=X'cccc hhhh'

説明: これは、ユーザー・データが代替トラックから主トラックにリストアされたことを示す通知メッセージです。しかし、このメッセージの前後に生じた入出力エラーのために、処理は打ち切られなければなりません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラー原因を判別するために、障害のある CCW、CSW および SENSE 情報を調べてください。

ICK11095I UNABLE TO READ VOLUME LABEL - PROCESS CONTINUING

説明: OS ボリューム・ラベルのないボリューム上で検査が要求されました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11130I CAN NOT DETACH LINKED DEVICE ccuu

RC = nnnn

説明: DIAGNOSE 08 は、ユーザー・プログラムが CP コマンドを出すことを可能にします。DETACH コマンドは、メディア保守処理の間に ICKDSF でリンクされた全パックのオーバーレイである指定されたアドレスを切り離します。操作は、CP 戻りコード nnnn で失敗となりました。

システムの処置: コマンドは終了します。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: DETACH のより詳しい情報については、「z/VM CP コマンドおよびユーティリティ・リファレンス」を参照してください。

ICK11306I NO STORAGE AVAILABLE FOR PACK MAP

説明: ボリュームの初期化または検査中に、バック・マップを形式設定するために後ほど収集されるデータ・エレメント用のストレージが動的に獲得されました。データ・エレメントの割り振りは終わりましたが、ストレージを使用できませんでした。

システムの処置: コマンドが完了しましたが、バック・マップはありません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: より大きな領域サイズを指定してから、コマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK11315I UNABLE TO READ VOLUME LABEL

説明: ポリウム・ラベルを読み取ろうとしていたときに、入出力エラーが発生しました。ユーザー・ポリウム・ラベル数が判別できないので、IPL プログラム・レコードは既存のレコード上に書き込まれる可能性があります。

システムの処置: コマンド処理は継続します。しかし ICKDSF は IPL プログラムのレコードを書き込みません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK11328I SKIP DISPLACEMENT(S) CHANGED FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: スキップ変位表面検査により、トラック上で損傷の可能性のある区域を少なくとも 1 つ検出しました。損傷のある区域はスキップされました。後続メッセージが出されないなら、トラックの表面に損傷はありません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11329I SURFACE ANALYSIS CYLINDER COULD NOT BE READ FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: トラック上のスキップ変位情報を製造時点のレベルにまでリストアさせる必要があるとき、そのスキップ変位の装置に関する表面分析シリンダーがアクセスされます。

表面分析シリンダー上に製造時点でのマップ情報がなかったか、または訂正不能な入出力エラーが発生した場合に、このメッセージが出されることがあります。

このエラーの原因となった CCW、CSW およびセンス情報が印刷されます。

システムの処置: 入力トラック状況および処理されている装置タイプによっては、ホーム・アドレスが、製造時点でのステップ変位情報なしで、そのトラックの表面検査が行われる前に、再度書き出される場合があります。製造時点での変位情報が重ね書きされる可能性のある場合には、後続メッセージが出されます。

システム・プログラマーの応答: トラックの可用性には影響はないので、情報をさらに調べる必要はありません。しかし、必要なら、障害のある CCW、CSW およびセンス情報を詳しく調べることができます。

ICK11390I INVALID DATA ON SA CYLINDER

説明: このポリウムの表面分析シリンダーのデータ (このポリウムのスキップ変位情報が入っているデータ) が予期されている形式になっていません。

システムの処置: これは単なる通知メッセージです。ICKDSF は、この状態の結果として取られる他の処置に関する、他のメッセージを提供します。コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11392I SKIP DISPLACEMENT DATA

DEFAULTED FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: 指定されたトラックのスキップ変位データを読み取れません。

システムの処置: スキップ変位が割り当てられていないものとしてそのトラックが処理され、このトラック上で表面検査が行われます。

新しいスキップ変位が、要求通り割り当てられます。

注: このトラックに対して製造元で割り当てられたスキップ変位が存在しているなら、それらの値はリセットされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。このトラックに関する ICKDSF 処理が完了すると、指定されたトラックの条件 (すなわち、損傷があるかないか) が有効になります。

ICK11400I SUSPECTED PATH PROBLEM

説明: 当初は操作可能であったパスがドライブ・テスト実行中に操作不能になりました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのパスが操作不能状況になった原因を正し、ジョブを再実行してください。

ICK11411I ccuu INCORRECT DEVICE TYPE FOR DRIVE TEST, DRIVE TEST BYPASSED

説明: 装置 ccuu によって示されたポリウムに対する装置タイプは、固定メディア装置用ではありませんが、ドライブ・テストが指定 (またはデフォルト設定) されました。

システムの処置: ANALYZE 処理は、データ検査テストを続行します。ANALYZE 戻りコードは、4 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ANALYZE ドライブ・テストに有効な装置タイプには、次のものがあります。

- 「ICKDSF コマンドでサポートされる CKD 装置およびストレージ・サブシステム」テーブルにリストされている装置。
- 「ICKDSF コマンドでサポートされる FBA 装置」テーブルにリストされている装置。
- CKD 装置上でエミュレートされる任意の CKD 装置。

「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」のトピック『Introduction to ICKDSF』に表が示されています。

ICK11412I DRIVE TEST NOT SUPPORTED FOR MINIDISK, DRIVE TEST BYPASSED

説明: 指定された ANALYZE DRIVETEST 機能は、ミニディスクに対してはサポートされていません。

システムの処置: ドライブ・テストはバイパスされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11414I WRITE INHIBIT SWITCH ON, WRITE TESTS BYPASSED

説明: 装置が書き込み禁止の状態のときに、ANALYZE ドライブ・テストが CE シリンダー上へ書き出そうとしたため、エラーが検出されました。

システムの処置: CE シリンダー上への書き出しを試みるすべてのテストはバイパスされますが、処理は続行されます。

オペレーターの応答: 装置に R/W または READ スイッチがある場合には、そのスイッチが READ/WRITE 位置になっているか、また正しく機能しているかどうかを確かめてください。

オペレーティング・システムがストレージ管理装置を書き出し禁止にしている場合にも、この状態が起こり得ます。詳しい処置については、CONTROL コマンドの説明を参照してください。

ICK11417I HOME ADDRESS READ FROM C.E. CYLINDER IS INCORRECT: SHOULD BE X'cccc hhhh', IS X'cccc hhhh'.

説明: CE シリンダー上の指定されたトラックのホーム・アドレス中のシリンダーおよびヘッド情報が、不正確です。

システムの処置: ANALYZE は、正しいシリンダーおよびヘッド情報を指定してホーム・アドレスを再書き込みしようとしています。

- 書き直しが成功した場合、書き出しテストに関して処理が続行されます。
- 書き直しが成功しなかった場合、このメッセージの後に失敗した CCW、CSW、センスが続いて示され、また書き出しテストがバイパスされることを示す標識が続きます。処理は続行され、書き出しテストがバイパスされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 書き出し上の問題があると思われるので、ANALYZE が実行され、CE シリンダー上でのホーム・アドレスの書き直しが失敗に終わった場合には、さらに状況を調査する必要があります。

ICK11418I HOME ADDRESS MARKED DEFECTIVE ON CE CYLINDER CCHH = X'cccc hhhh'

説明: CE シリンダー上のトラック X'cccc hhhh' のホーム・アドレスの中で、欠陥ビットがオンにセットされていることがわかりました。これがバックアップ・データを含むバックアップ・トラックの 1 つでない限り、ICKDSF は、欠陥ビットをオフにしてホーム・アドレスを書き直そうとします。訂正試行が失敗した場合は、このメッセージの後に CCW、CSW およびセンス情報を含む別の ICK10710I または ICK20100I が続きます。

バックアップ・データの存在は、先行メッセージに表示されません。

システムの処置: 後ほど打ち切られる場合があります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICK10710I または ICK20100I メッセージが出されたら、CCW、CSW およびセンスを調べてエラー原因を判別してください。問題の原因を訂正するに

は、IBM ハードウェア・サービス技術員の援助が必要な場合があります。

先行メッセージで、以前の完了していないコマンドに対してバックアップ・データが存在していることが分かった場合、その未完のコマンドを最初に再実行してください。

ICK11425I OPERATOR SPECIFIED B TO BYPASS RESERVED PATH

説明: ICK416D または ICK417D メッセージに対し、オペレーターが 'B' と応答しました。

システムの処置: このパス上では、これ以降の処理はバイパスされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11426I DRIVE TEST: PATH UNAVAILABLE ON: CHPID = XX CHANNEL NUMBER = X CHANNEL SET = X STORAGE DIRECTOR ID = XX SUBSYSTEM ID = XXXX CLUSTER = X STORAGE PATH = X

説明: ドライブ・テストは操作可能またはアクセス可能ではないパスに対して入出力操作の開始を試みませんでした。

CHPID = XX は、処理中のパスの CHPID を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。

CHANNEL NUMBER = X は、処理中のパスのチャンネル番号を識別します。

CHANNEL SET = X は、処理中のパスのチャンネル・セット (CPU 指定) を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。

STORAGE DIRECTOR ID = XX は、処理中のパスのストレージ・ディレクター ID を識別します。ここには、センス・バイト 21 にある情報が含まれています。この行が処理中のストレージ管理装置に適用されない場合、またはストレージ・ディレクター ID が判別される前にエラーが発生する場合、この行は表示されません。

SUBSYSTEM ID = XXXX は、処理中のパスのサブシステム ID を識別します。ここには、センス・バイト 20 と 21 にある情報が含まれています。この行が処理中のストレージ管理装置に適用されない場合、またはサブシステム ID が判別される前にエラーが発生する場合、この行は表示されません。

CLUSTER = X は、処理中のパスのクラスターを識別します。この行が処理中のストレージ管理装置に適用されない場合、またはクラスターが判別される前にエラーが発生する場合、この行は表示されません。

STORAGE PATH = X は、処理中のクラスターのストレージ・パスを識別します。この行が処理中のストレージ管理装置に適用されない場合、またはストレージ・パスが判別される前にエラーが発生する場合、この行は表示されません。

システムの処置: ドライブ・テスト処理がこのパス上で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 操作可能状況にないパスの原因を訂正してください。

ICK11427I PATH PARAMETER(S) IGNORED

説明: パス制御パラメーターは、3380 および 3390 装置上のドライブ・テスト機能に対してのみ有効で、VSE バージョンではサポートされていません。

3990 ストレージ管理装置が保証ストレージ・パス操作をサポートしていない場合に、3990 ストレージ管理装置で処理すると、このメッセージが ICK10710I メッセージに続いて出される場合があります。パス制御パラメーターは、3380 および 3390 をエミュレートするすべての装置で有効であるわけではありません。詳細については、ANALYZE コマンドの節を参照してください。

システムの処置: 処理はパス制御なしで続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置が 3380 または 3390 ではない場合、またはその装置が VSE バージョンで処理されている場合、これ以上の処置は必要ありません。

3990 ストレージ管理装置で処理しているときに、このメッセージが ICK10710I に続いて出されるなら、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。パス・パラメーターは、3380 および 3390 をエミュレートするすべての装置で有効であるわけではありません。詳細については、ANALYZE コマンドの節を参照してください。

ICK11428I STORAGE PATH STATUS CANNOT BE DETERMINED

説明: ストレージ・パス状況の判別中に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: ANALYZE コマンドが実行されている場合、パス制御機能はバイパスされます。

CONTROL CLEARFENCE コマンドが出された場合、分離状況は判別できません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 疑いのある装置の問題を処理するため、インストール先で決められている手順にそった処置をとってください。

ICK11429I FENCED/DISABLED PATH(S) WILL BE BYPASSED

説明: 分離または使用禁止条件が 1 つまたは複数のパス上で検出されました。

システムの処置: 既存の分離または使用禁止条件が存在するパス (1 つまたは複数) 上で、処理がバイパスされます。パス状況テーブルには、分離または使用禁止条件の存在するパス (1 つまたは複数) が表示されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 分離または使用禁止条件の存在するパスを判別するには、以前に印刷されたパス状況テーブルを調べてください。

そのパスが使用禁止になっている場合には、その原因を判別してください。分離条件が存在している場合には、その分離条件を解決するため IBM ソフトウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK11430I PATH INFORMATION CANNOT BE DETERMINED

説明: パス情報がエラーのため判別できません。パス制御 (PC) を必要とする ICKDSF 機能は処理できません。

システムの処置: 後に続くメッセージが、コマンド処理を終了させる必要があるか、パス制御を使用せず継続できるかを示します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 直前のメッセージを調べてパス情報が判別できなかった理由を判別してください。

ICK11431I PATH MAP ROUTINE FAILED RC = xxxxxxxx

説明: システム・パス・マップ・ルーチンがエラーで戻りました。RC=xxxxxxx は、このメッセージにおける戻りコード (16 進数) です。以下のものがあります。

- | | |
|-----|---------------------------------|
| コード | 意味 |
| 4 | ターゲット・サブチャネルは永続エラーでありアクセスできません。 |
| 8 | UCB がサブチャネルに接続されていません。 |

システムの処置: 後に続くメッセージが、コマンド処理を終了する必要があるか、パス制御を使用せず継続できるかを示します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコード 8 はサブチャネル接続なしを示します。これは UCB はあるが、サブチャネルはないことを意味します。

この条件には、以下の 3 つの考えられる原因と解決策があります。

1. ソフトウェアに過剰に生成しました。動的に新しいサブチャネルを追加するか、そのソフトウェアと一致する IOCDs で再度 IML を行って訂正してください。
2. CONFIG CHIPID を使用して、最後のチャネル・パスを別の区画に移動しました。最後のチャネル・パスが除去されたとき、すべてのサブチャネルも除去され、UCB は接続なしとなります。CHIPID をその区画に再構成して訂正してください。
3. VM のもとで、装置を MVS から切り離したので、サブチャネルが接続なしとなりました。装置をゲストに接続することにより訂正してください。

ICK11432I LOGICAL PATH STATUS CANNOT BE DETERMINED

説明: 論理経路の状況を判別しようとしていた際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CCW、CSW、センス情報を調べてエラーの原因を判別してください。疑いのある装置の間

題を処理するため、インストール先で決められている手順にそった処置をとってください。

ICK11433I INTERFACE INFORMATION CANNOT BE DETERMINED

説明: インターフェース情報の取得中にエラーが発生しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 前に出されたメッセージを調べ、エラーの原因を判別してください。

ICK11434I FIBRE CHANNEL CONNECTION INFORMATION CANNOT BE DETERMINED

説明: 指定された 2 つの World Wide Node Name で識別されるコントロール・ユニット間の FCP パスの接続情報を要求する、WWNN キーワードを指定する ANALYZE NOSCAN NODRIVE が発行されました。 I/O 要求は失敗しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 失敗の原因を示す他のメッセージが、発行されたはずですが、失敗の原因を判別して、該当する場合には、失敗の原因を解決して、要求の受け渡しをし直してください。

ICK11435I CHANNEL CONNECTION ADDRESS SPECIFIED BUT IGNORED

説明: チャネル接続アドレス (cca) は、このコマンドには不要です。 指定した値は無視されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 指定したチャネル接続アドレス (cca) を除去してください。

ICK11436I CGROUP PARAMETER IGNORED FOR THIS STORAGE CONTROL

説明: CGROUP パラメーターが、PPRCOPY ESTPATH コマンドで指定されましたが、装置は整合性グループをサポートしていません。パラメーターは無視されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11437I CCA SPECIFICATION IS MISSING, IT IS REQUIRED FOR THIS REQUEST

説明: このコマンドにチャネル接続アドレス (CCA) を指定する必要があります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CCA を指定して、要求の受け渡しをし直してください。

ICK11438I NO PRIMARY ADAPTERS AVAILABLE FOR FIBRE CHANNEL CONNECTION

説明: 指定された 2 つの World Wide Node Name で識別されるコントロール・ユニット間の FCP パスの接続情報を要求する、WWNN キーワードを指定する ANALYZE NOSCAN NODRIVE が発行されました。 2 番目に指定された World Wide Node Name で識別されるコントロール・ユニットに対する、最初の World Wide Node Name で識別されるコントロール・ユニット上の FCP 経路で構成されたアダプターはありません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置の構成の担当者に連絡して、必要な FCP 接続が存在するかどうかを判別してください。存在する場合は、構成を物理的に確立する必要があります。

ICK11439I NO SECONDARY ADAPTERS AVAILABLE FOR FIBRE CHANNEL CONNECTION

説明: 指定された 2 つの World Wide Node Name で識別されるコントロール・ユニット間の FCP パスの接続情報を要求する、WWNN キーワードを指定する ANALYZE NOSCAN NODRIVE が発行されました。最初に指定された World Wide Node Name で識別されるコントロール・ユニットに対する、2 番目の World Wide Node Name で識別されるコントロール・ユニット上の FCP パスで構成されたアダプターはありません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置の構成の担当者に連絡して、必要な FCP 接続が存在するかどうかを判別してください。存在する場合は、構成を物理的に確立する必要があります。

ICK11450I DIRECT I/O IS NOT SUPPORTED FOR THIS DEVICE, PARAMETER IGNORED

説明: DIRECTIO パラメーターが指定されましたが、サブシステムが二重コピーをサポートしないか、装置が片面印刷の状態にあります。

システムの処置: コマンド処理は、DIRECTIO なしに続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11451E *WARNING*** ALTERNATE TRACK
ASSIGNMENT EXISTS ON SECONDARY
VOLUME**

説明: 1 つないしそれ以上の代替トラック割り当てが、二重コピーのペアの 2 次ボリュームに存在します。代替トラックの割り当てがあるときの 2 次ボリュームのボリュームとしての使用は、推奨できません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 代替トラックの割り当てのない他のボリュームのコピーを再度作成してください。このボリュームは、片面印刷ボリュームとして、または二重コピーのペアの 1 次ボリュームとして使用することができます。

**ICK11452I UNABLE TO READ DATA ON
SECONDARY VOLUME FOR TRACK
CCHH = X'cccc hhhh'**

説明: 二重コピーのペアの 1 次ボリュームの処理では、INSPECT は 2 次ボリュームの対応するトラックが読み取り可能かどうか判別します。2 次ボリュームの指定されたトラックが読み取り可能ではありませんでした。

直前の ICK10710I メッセージに、エラーの CCW、CSW、およびセンス情報があります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CCW、CSW、センス情報とを調べて、2 次ボリュームのエラーの原因を判別してください。2 次ボリュームの問題を処理するためインストール手順で決められている適切な処置をとってください。

**ICK11453I UNABLE TO READ DATA ON PRIMARY
VOLUME FOR TRACK CCHH = X'cccc
hhhh'**

説明: 1 次ボリュームの処理の間に、二重コピーのペアの 1 次ボリュームのデータが読み取り不能でした。

直前の ICK10710I メッセージに、1 次ボリュームのエラーの CCW、CSW、およびセンス情報があります。

もし装置が二重の状態であれば、処理は 2 次ボリュームからデータを読み取り続けます。

システムの処置: データが 2 次ボリュームによりリカバリーできないときは、ICK21044I メッセージが出されます。コマンド処理は、次のトラックから続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CCW、CSW、センス情報とを調べて、1 次ボリュームのエラーの原因を判別してください。もしエラーがデータ・チェックであれば、以下のアクションが推奨されます。

1. 1 次ボリュームを中断します。これで 1 次ボリュームは、使用不能の 2 次となります。
2. DIRECTIO パラメーターで、使用不能の 2 次のトラックを検査してください。
3. もし INSPECT が実行できれば、二重コピーのペアを再作成してください。

もし装置が二重状態でありデータが 2 次ボリュームからリカバリーできれば、上のアクションは必要ありません。

他のすべてのエラーについては、二重コピーのペアの 1 次ボリュームのエラーを処理するため、インストール手順で決められている適切な処置を取ってください。

**ICK11454I UNABLE TO READ DATA ON PRIMARY
VOLUME FOR TRACK CCHH = X'cccc
hhhh', PROCESS CONTINUING**

説明: 二重コピーのペアの 2 次ボリュームを処理しているときは、INSPECT は 1 次ボリュームの対応するトラックが読み取り可能かどうか判別します。1 次ボリュームの指定されたトラックが読み取り可能ではありませんでした。

直前の ICK10710I メッセージに、エラーの CCW、CSW、およびセンス情報があります。

システムの処置: TOLERATE(PRIFAIL) が指定されたので、コマンド処理は 2 次ボリュームのこのトラックで続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CCW、CSW、およびセンス情報を調べ、1 次ボリュームのエラーの原因を判別してください。そして二重コピーのペアの 1 次ボリュームのエラーを処理するためインストール手順で決められている適切な処置をとってください。

**ICK11455I {PREVIOUS
INSTALL|REVAL|INIT|INSPECT}
COMMAND DID NOT COMPLETE ON
{PRIMARY|SECONDARY VOLUME}**

説明: 現行処理がチェックポイント・データが存在することを検出しました。これは、直前のコマンドが二重コピーのペアの 1 次または 2 次ボリュームで完了前に終了したためです。

システムの処置: ICKDSF でとられたアクションは、現行機能と二重コピー・ボリュームの状態とにより異なります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 以下のメッセージを参照してください。直前の ICKDSF コマンドが完了しなかった理由を判別してください。

ICK11456I CHECKPOINT DATA BEING ERASED

説明: 受信した直前のメッセージの説明を参照してください。指定した現行の ICKDSF 機能と、二重コピー・ボリュームの状況とに基づいて、ICKDSF は以下のいずれかであると判別します。

- ユーザーが、チェックポイントのリカバリー処理を要求しなかった
- 現行機能を実行するため、チェックポイント・データを消去しなければならない

システムの処置: ICKDSF は、チェックポイント・データを消去します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: もし直前の ICKDSF 機能が完了しなかったならば、二重コピーのペアを作成したり故障させたり (ボリュームの状態を変更したり)、あるいは異なった機能を呼び出したりしないことが強く推奨されます。

ICK11457I PROCESSING CONTINUES WITHOUT RECOVERY ACTION

説明: 直前のメッセージの説明を参照してください。ICKDSFが、現行のボリューム状態、現行のICKDSF機能のすべきこと、およびチェックポイント・データの内容とに基づいて、リカバリ処理をすべきかどうか、またはどのようにすべきかが判然としません。

ボリュームが二重コピー・ボリュームなので、現行の機能が優先順位を持ちます。

システムの処置: コマンド処理が、チェックポイントのリカバリなしに、継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 確実にボリュームを使用可能な状態にするため、直前の機能を完了させることが強く推奨されます。もし必要ならば、二重コピーのペアを片面印刷の状態においてください。チェックポイント・データは、消去される時と、されない時とがあります(ICK11456を参照してください)。

ICK11458I UNABLE TO USE ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh' TO ESTABLISH TRACK ASSOCIATION

説明: 指示された代替トラックは、2次ボリュームに1次トラックと代替トラックとを関連付けるためには使用できません。

システムの処置: INSPECT コマンド処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INSPECT SKIP で代替トラックの表面検査を実行してください。

ICK11459I NOPRESERVE PARAMETER IGNORED ON PRIMARY VOLUME OF DUAL COPY PAIR

説明: NOPRESERVE パラメーターは、二重コピーのペアの1次ボリュームでは無効です。

システムの処置: NOPRESERVE パラメーターは無視され、PRESERVE が有効の状態コマンド処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11460I PRESERVE PARAMETER IGNORED ON SECONDARY VOLUME OF DUAL COPY PAIR

説明: PRESERVE パラメーターは、二重コピーのペアの2次ボリュームでは無効です。

システムの処置: PRESERVE パラメーターは無視され、コマンド処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11461I NON-STANDARD RECORD ZERO EXISTS ON PRIMARY VOLUME FOR TRACK CCHH = X'cccc hhhh', PROCESS CONTINUING

説明: 二重コピーのペアの1次ボリュームに標準でないレコード0状態が存在します。

システムの処置: TOLERATE(PRIFAIL) が指定されたので、コマンド処理は2次ボリュームで継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 1次ボリュームを片面印刷の状態にして、INSPECT NOPRESERVE を1次ボリュームのトラック上で実行する必要があります。

ICK11462I NON-STANDARD RECORD ZERO EXISTS ON SECONDARY VOLUME FOR TRACK CCHH = X'cccc hhhh', CORRECTION IN PROGRESS

説明: 二重コピーのペアの2次ボリュームに標準でないレコード0状態が存在します。

システムの処置: INSPECT は、標準ホーム・アドレスとレコード0を2次ボリュームのトラックに書き込もうとします。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK11741I DATA CHECK ON ID OR DATA FIELD ORIENTATION ADDR = nnnnn.

説明: このメッセージは、ANALYZE のデータ検査テスト・フェーズで失敗した各ブロックについて、印刷されます。データ検査は、ブロック ID またはデータ・フィールド上でデータ同期が首尾良く行われなかったことを示します。

nnnnn は、エラーが起きたブロックの相対ブロック番号です。

このメッセージの後に、障害のあるCCW、CSWおよびセンス情報を示している行が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 通常は、このエラーはメディアの表面の問題を示しており、以下により解決されます。

- INSPECT コマンドを使用して、障害のあるブロックに代替ブロックを割り当てる。または
- CHECK パラメーターを指定したINIT コマンドを使用し、FBA 装置を再初期設定する。

注: 新しくインストールされた装置に対してこれらのメッセージが多発するときは、装置の初期化が正しくないことを示している場合があります。この場合、おそらくIBMハードウェア・サービス技術員の援助が必要になります。

ICK11743I DATAVER UNCORRECTABLE ERROR ADDR BLOCK nnnnn

説明: このメッセージは、ECCの訂正不能なデータ・チェックでANALYZEのデータ検査テスト・フェーズに失敗したブロックについて、印刷されます。このメッセージの後に、障害のあるCCW、CSWおよびセンス情報を示している行が続き

ます。nnnnn は、障害のあるブロックの相対ブロックの番号です。

システムの処置: ANALYZE 処理は続行されます。戻りコードは 4 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 通常は、このエラーはメディアの表面の問題を示しており、以下により解決されます。

- INSPECT コマンドを使用して、障害のあるブロックに代替ブロックを割り当てる。または
- CHECK パラメーターを指定した INIT コマンドを使用して、FBA 装置を再初期設定する。

INSPECT または INIT コマンドを使用して問題解決を試みても繰り返し失敗する場合は、IBM ハードウェア・サービス技術員の援助を要請してください。

**ICK11745I DATAVER CORRECTABLE ERROR ADDR
BLOCK = nnnnn**

説明: このメッセージは、ECC の訂正不能なデータ・チェックにより ANALYZE のデータ検査テスト・フェーズに失敗した各ブロックについて、印刷されます。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW およびセンス情報を示している行が続きます。

nnnnn は、障害のあるブロックの相対ブロックの番号です。システムの処置: ANALYZE 処理は続行されます。戻りコードは 4 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 通常このエラーはメディアの表面上に検出される小さな欠陥を示すものであり、ECC 訂正を行うエラー・リカバリー手順を有する VSE および VM などのシステムでその装置が使用されている場合には、問題ではありません。

ストレージ内のデータを修正することがパフォーマンスに与える影響は、代替ブロックからデータを読み取る装置の場合よりも少ないものです。このタイプのエラーを除去する必要がある場合、障害のあるブロックに無条件に代替ブロックを割り当てるため INSPECT コマンドを使用できます。

注: これらのエラーが頻繁に発生する場合は、IBM ハードウェア・サービス技術員に援助を要請して、ハードウェア問題が存在するかどうか判別してください。

**ICK11752I BLOCK xxxxxxxx OUTSIDE DEVICE
LIMITS**

説明: BLOCKS パラメーターで指定されたブロック番号 xxxxxxxx は、無効です。

システムの処置: コマンドが続行されます。正しくないブロック番号は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: BLOCKS パラメーター中に正しいブロック番号を指定し、ジョブを再サブミットしてください。「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『INSPECT コマンド - FBA』のトピックの

『BLOCKRANGE|BLOCKS パラメーター: 検査するブロックの指定』を参照してください。ジョブ出力を保管して、IBM サ

ービス技術員に連絡してください。

**ICK11782I DATAVER UNCORRECTABLE ERROR
ADDR CCHH = X'cccc hhhh'**

説明: このメッセージは、ECC の訂正不能と思われるデータ・チェックによりデータ検査テストに失敗したトラックについて、印刷されます。

ストレージ管理装置の再試行によって訂正可能なタイプのエラーであるか、またはエラーを経験したレコードに ECC 訂正可能な隣接していないデータ・チェックが 2 つ含まれている場合には、このエラーは (レコード 1 の後に続くキーまたはデータ・フィールド中の訂正可能なエラーを含め) ECC 訂正不能となります。

上記のいずれの場合でも、同一のデータに対する後続の入出力は、このエラーを訂正可能と認識することがあります。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW およびセンス情報を示している行が続きます。cccc hhhh は、障害のあるトラックの 16 進数のシリンダー・アドレスとヘッド・アドレスです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 通常このエラーはメディア表面に問題があることを示しており、スキップ変位を行ってその欠陥をスキップするか、または必要であれば代替トラックを割り当てることによって解決できます。INSPECT コマンドを使用して、スキップ変位を行うか、または代替トラックを割り当てることができます。

注: INSPECT または INIT コマンドを使用して問題の解決を試みても繰り返し失敗する場合は、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK11784I DATAVER CORRECTABLE ERROR ADDR
CCHH = X'cccc hhhh'**

説明: このメッセージは、ECC 修正データ・チェックでのデータ検査テストのフェーズで障害があった各トラックごとに印刷されます。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。cccc hhhh は、障害のあるトラックの 16 進数のシリンダー・アドレスとヘッド・アドレスです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。戻りコードは 4 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 通常このエラーはメディア表面に問題があることを示しており、INSPECT コマンドを使用してそのエラーにスキップ変位を行うか、または CHECK パラメーターを指定した INIT コマンドを使用して CKD 装置を再初期化することによって解決できます。

このエラーはメディアの表面に検出される小さな欠陥を示しており、装置が IBM オペレーティング・システム (ECC 訂正を行うエラー・リカバリー手順を有するもの) で使用されている場合は、スキップ変位を行う必要はありません。

エラーのスキップ変位が実行された後は、パフォーマンスに影響

響はなく、ECC 訂正可能エラーはすべてトラックからなくなります。

注: INSPECT または INIT コマンドを使用して問題の解決を試みても繰り返し失敗する場合は、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK11826I DATAVER INVALID TRACK FORMAT
ON CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: 指定されたトラック上でデータをスキャン中に、正しくないトラック形式条件が検出されました。これは、通常データがトラック容量を超えてトラックに書き込まれたことを示しています。これは一般にユーザー・エラーです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。コマンドが完了した時点で、戻りコードは 4 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 指定されたトラックの入ったデータ・セットを判別してください。正しくないトラック形式条件がどのようにして起きたのかを判別するには、指定されたトラック上のデータがどのように、どこで、またいつ書き込まれたのかを突き止めてください。

**ICK11827I POTENTIAL DRIVE PROBLEM
EXPERIENCED ON TRACK CCHH =
X'xxxx xxxx'**

説明: INSPECT {RESERVE|HOLDIT} 処理で、ドライブ問題の可能性があることが検出されました。

システムの処置: 処理は継続し、この状態に対する可能な修正を行います。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: もしこのメッセージが複数の ICKDSF 呼び出しの間複数のトラックで出された場合、または同じトラックで再発した場合、IBM サービス技術担当員に連絡してください。

**ICK11841I DEVICE IS NOT IN STATUS CANNOT BE
DETERMINED STATE**

説明: CONTROL コマンドの RESETICD パラメーター (Reset Indefinite Condition for Device) が、現在 "Status Cannot Be Determined" 状態にない装置に対して出されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK12105I NO BLOCKS REMAIN IN THE
SPECIFIED RANGE**

説明: CONTINUE 処理は以前に活動化されていました。(ICK02103I メッセージを参照してください。) 最後にチェックポイントがとられた位置の後ろにある指定された範囲で、処理すべきブロックはありません。

システムの処置: 最小の初期化機能で処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12107I CONTINUE FUNCTION CANCELLED

説明: INIT コマンドの継続機能が取り消されました。取り消しの理由は、先行メッセージ (1 つまたは複数) に記述されています。

システムの処置: 処理は指定された範囲を続行します。チェックポイントは、もはや取られません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 処理が正常に完了したならば、このメッセージは無視しても構いません。

FBA 装置に関して処理が完了しない場合、RECLAIM が指定されていなければこのメッセージは無視しても構いません。

RECLAIM が指定されている FBA 装置の場合、RECLAIM ジョブを再始動してください。

処理が完了していない CKD 装置の場合、無効な形式を含むトラックが装置上に存在することがあります。

異常終了の原因が解決された後、ボリューム全体に対して中程度 INIT を実行しなければなりません。

注: 後ほど INIT コマンドを呼び出すときには、同じエラーを経験するとは限らず、また事前に記録された位置から CONTINUE が試みられるものとも限りません。これは、その機能が取り消された理由およびその障害の性質に依存しています。

複数の初期化が必要である場合は、望まれない位置から処理が再開されることのないようにするために、NOCONTINUE を指定できます。

それぞれの呼び出しに対する処理が首尾良く完了している限りは、このメッセージが何度出てきても無視することができます。

ICK12108I CONTINUE TRACK CANNOT BE USED

説明: 通常チェックポイント情報を収容するのに使用しているトラックが、この装置によって使用されています。このメッセージの後に ICK12107I が続きます。

システムの処置: ICK12107I メッセージを参照してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICK12107I メッセージを参照してください。

**ICK12109I CONTINUE DATA COULD NOT BE
RESET**

説明: チェックポイント・データの書き込み中にエラーが発生しました。このメッセージの後に ICK12107I が続きます。

システムの処置: ICK12107I メッセージを参照してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICK12107I メッセージを参照してください。

ICK12110I LAST INSPECT PROCESS FROM ANOTHER CPU CHECKPOINTED AT X'xxxx xxxx'

説明: 現行の INSPECT 処理が、指定されたトラックに対して別の処理装置から来たチェックポイント・データが存在していることを検出しました。これは以前の INSPECT 処理が別の処理装置から途中で打ち切られたか、または別の処理装置からの INSPECT 処理が、現在同一の装置およびトラック上で作動していることを示しています。

システムの処置: ICK12111I または ICK33105 メッセージを参照してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICK12111I または ICK33105 メッセージを参照してください。

ICK12111I SURFACE CHECKING BYPASSED FOR X'xxxx xxxx'

説明: このメッセージは、ICK12110I メッセージの後に続きます。このメッセージは、FORCE パラメーターが指定された場合にのみ提供されます。INSPECT 処理は指定されたトラックに対してバイパスされます。

システムの処置: コマンドは次のトラック上での処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 複数の INSPECT 処理を同一の装置上で並行して作動させるのは避けてください。以前の INSPECT 処理が途中で打ち切られていたことが判明した場合は、指定されたトラックに対してその INSPECT ジョブを再サブミットしてください。

ICK12112I UNABLE TO SET/RESET/READ CHECKPOINT DATA, PROCESSING CONTINUES

説明: 入出力エラーのために、現行の INSPECT 処理がチェックポイント・データの設定/リセット/読み取りを行うことができません。エラーに対するリカバリー処理の手段が尽きました。

システムの処置: FORCE パラメーターが指定されているので、それ以降のチェックポイント・データ機能をバイパスすることによって、現行の INSPECT 処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12115I DATA BEING RECOVERED FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: 以前の INSPECT コマンドの実行は、PRESERVE バックアップ処理中に完了しませんでした。

システムの処置: 基本表面検査機能が、指定されたトラックに対して行われ、もしデータが存在していればデータがリカバリーされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12116I PRESERVE DATA CANNOT BE BACKED UP FOR THIS DEVICE TYPE

説明: この装置タイプについては、PRESERVE リカバリー機能はサポートされていません。

システムの処置: HOLDIT に関しては、処理は続行されません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12117I PRESERVE BACKUP TRACK CANNOT BE USED. USE HOLDIT

説明: リカバリー情報を入れるために通常使用されるトラックが、この装置によって使用中で、PRESERVE が指定されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PRESERVE または KEEPIT の代わりに HOLDIT を指定して、ジョブを再サブミットしてください。

ICK12118I ERROR READING BACKUP TRACK

説明: 指定されたコマンドが、このボリュームのリカバリー・データの存在を判別していたところ、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: CCW、CSW およびセンス情報が印刷されます。このメッセージの後に、システム処置を記述する別のメッセージが続きます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12119I PRESERVE BACKUP DATA IGNORED

説明: HOLDIT が指定されている場合には、このメッセージは ICK12118I の後に続きます。リカバリー・データが存在していたとしても、そのままに残され、処理は続行されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12120I THE PRESERVE DATA EXISTS FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: ユーザーがデータを保存しようとしていますが、保存するデータはすでに他のミニディスクにあります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICK32123I を参照してください。

ICK12121I BACKUP/RECOVERY DATA IGNORED

説明: ICK12118I に続いて、このメッセージが出されることがあります。リカバリー・データが存在していたとしても、そのままに残され、処理は続行されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12123I PRESERVE BACKUP DATA CANNOT BE ESTABLISHED OR RESET

説明: PRESERVE バックアップ機能を実行している際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: データがリセットされている最中であったならば、このメッセージは警告として出されます。コマンド処理を続行します。

ICK12124I ERROR TRYING TO ACCESS RECOVER TRACK X'cccc hhhh' --RECOVERY IN PROGRESS

説明: リカバリーを行おうと試みているトラックの処理を決定しようとしていたときに、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: このトラックに関して、標準 ICKDSF トラック・リカバリー操作が行われます。リカバリーが首尾良く行われたならば、バックアップ・リカバリー処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: トラック・リカバリーが失敗するならば、以下のメッセージが出されます。

ICK12125I NO PRESERVE BACKUP DATA EXISTS FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: トラック・バックアップ・リカバリーがリカバリーを行おうとしていますが、リカバリー不能です。このトラックに対する標準 ICKDSF トラック・リカバリー操作が失敗に終わりました。しかし、そのトラックに対するデータが存在していません。

システムの処置: バックアップ・リカバリーが完了したかのようには処理が続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: リカバリー不能トラックに対する標準インストール手順にしたがってください。

ICK12126D DATA ALREADY EXISTS FOR TRACK X'cccc hhhh' REPLY R TO RECOVER, E TO ERASE THE RECOVERY DATA, OR T TO TERMINATE

説明: このメッセージは、トラックに対するリカバリー・データが存在するものの (ICK1215I メッセージを参照)、データがそのトラック上にすでに存在している場合に出されます。

以下の場合にこの状況が起こり得ます。

- そのトラックにある元のデータが、障害の起きた時点でまだ消去されていません。
- INSPECT コマンドが呼び出される前まではユーザーがそのボリュームを使用できましたが、INSPECT の実行が完了しませんでした。

システムの処置: このメッセージに応答するよう、オペレーターに対するプロンプトが出されます

以下を指定できます。

- R が指定されると、リカバリー情報からデータがリカバリーされます。(トラックにある新しいデータは消去されます)。

- E が指定されると、リカバリー・データが破壊されます。トラックにある現行データが残ります。
- T が指定されると、処理が打ち切られます。リカバリー・データはそのまま残ります。

もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることになります。

オペレーターの応答: R、E または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12128I RECOVERY DATA HAS BEEN ERASED

説明: このメッセージは、以下のように応答すると出されます。

- ICK22158D または ICK22130D メッセージに対して C と応答する。
- ICK12126D または ICK12159D メッセージに対して E と応答する。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12130I UNABLE TO RESET RECOVERY DATA

説明: コマンド処理が完了したことを示すためコマンド・チェックポイント・データが更新されているときに、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。すべての必要な機能が完了しました。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームは依然として使用可能です。ユーザー・トラックではないトラックにおいて入出力エラーが発生したので、このメッセージは無視できます。

これ以降 INIT コマンドを呼び出すと、警告メッセージが出されます。必要な場合は、入出力エラー問題を取り扱うためのインストール手順に従う処置を取ってください。問題を解決できなければ、IBM ソフトウェア・サービス技術員に連絡してください。

ICK12151I RECLAIM PROCESSING PREVIOUSLY INTERRUPTED, RECLAIM FORCED

説明: レクラメーション処理の間に INIT コマンドの直前の使用が失敗し、RECLAIM パラメーターは CONTINUE パラメーターと共に指定されていませんでした。

ファクトリー障害に正しくフラグが立てられ、すべての 1 次と代替のペアが正しく接続されるように、レクラメーション処理が強制されます。

システムの処置: レクラメーション処理が、再始動しました。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12153I BLOCKRANGE IGNORED

説明: BLOCKRANGE 指定は無視されます。これは直前の RECLAIM パラメーターを持った INIT コマンドの使用が失敗したためです。装置のデータ保全性を保証するためにボリューム全部の処理が強行されます。

ICK12154I • ICK12172I

システムの処置: 表面の分析は、最後のチェックポイントのブロックからボリュームの終了まで継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12154I PARAMETER NOSKIP IS IGNORED FOR DEVICE TYPE

説明: スキップ変位の表面検査は、NOSKIP パラメーターがユーザーにより指定されていても、この装置タイプに対して常に実行されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12155I PARAMETERS IGNORED FOR DEVICE TYPE - parameter list

説明: リストされたパラメーターは、その装置タイプでは無視されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12157I DATA BEING RECOVERED FOR BLOCK xxxxxxx

説明: 以前に呼び出された INSPECT コマンドは、PRESERVE 処理の際に、完了するまで実行されませんでした。

システムの処置: 指定されたブロックに関する表面検査機能は完了し、データはリカバリーされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12159D DATA ALREADY EXISTS FOR BLOCK xxxxx REPLY R TO RECOVER, E TO ERASE THE RECOVERY DATA, OR T TO TERMINATE

説明: このメッセージは、ブロック (ICK12157 メッセージを参照) に対するリカバリー・データが存在するものの、ICKDSF データでも元のユーザー・データでもないデータが、そのブロック上にすでに存在している場合に出されます。

INSPECT コマンドが呼び出される前まではユーザーがそのボリュームを使用しましたが、INSPECT の実行が完了しなかった場合に、このような状況が起こり得ます。

システムの処置: このメッセージに応答するよう、オペレーターに対するプロンプトが出されます

次のように応答してください。

- R が指定されると、リカバリー情報からデータがリカバリーされます。(そのブロックにある新しいデータは消去されます)。
- E が指定されると、リカバリー・データが破壊されます。ブロックにある現行データが残ります。
- T が指定されると、処理が打ち切られます。リカバリー・データはそのまま残ります。

もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることになります。

オペレーターの応答: R、E または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12161I ERROR READING RECOVERY BLOCK - DATA IGNORED

説明: リカバリーをバックアップするブロックが現在リカバリーを試みているが、首尾良く読み取ることができません。

システムの処置: そのブロック上に存在するデータはすべて無視され、このブロックに対して通常の表面検査手順が行われ

ます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12162I ERROR READING BACKUP BLOCK

説明: INSPECT が、このボリュームに対するリカバリー・データの存在を判別していた際に入出力エラーが発生しました。

システムの処置: CCW、CSW およびセンス情報が印刷されます。このメッセージの後に、システム処置を記述する別のメッセージが続きます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12168I SPEED IGNORED BECAUSE HEADRANGE SPECIFIED

説明: SPEED は一度に 1 つのシリンダーにしか働かないので、もし HEADRANGE と SPEED の両方が指定された場合、SPEED は HEADRANGE では無効となり、無視されます。

システムの処置: コマンド処理は、NOSPEED で継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12171I PRESERVE DATA BEING ERASED FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: INIT コマンドの処理中に、直前の INSPECT コマンドの使用が完了していないことが判別されました。これは初期設定なので、トラック (cccc hhhh) から保管されたデータはもはや不要と想定されました。

システムの処置: 保管されたデータは消去され、コマンド処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12172I PRESERVE DATA BEING ERASED FOR BLOCK xxxxxxxx

説明: INIT コマンドの処理中に、直前の INSPECT コマンドの使用が完了していないことが判別されました。これは初期設定なので、ブロック xxxxxxxx によって保管されているデータは、もはや必要ないと考えられます。

システムの処置: 保管されたデータは消去され、コマンド処理は継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12173I *WARNING* PREVIOUS PROCESS DID NOT COMPLETE

説明: INSTALLまたは REVAL コマンドが処理を完了していないことを示すチェックポイント・データが検出されました。このことは、そのボリュームが使用不能状態にあることを示している場合があります。

システムの処置: このメッセージの後に ICK12107 が続きます。CONTINUE 機能は取り消されます。コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、以下の場合に無視することができます。

- 中間の初期設定の際に、このメッセージが出された場合 (条件は訂正されます)。
- ICK12130 メッセージが以前のコマンドの処理中に出されたことと判別できる場合。

そうでなければ、コマンドを実行してその装置を使用可能な状態に確実に戻すことが勧められています (例えば、中間の初期設定または REVAL)。

ICK12179I UNABLE TO DETERMINE CHECKPOINT INFORMATION, RECOVERY PROCESS BYPASS

説明: チェックポイント・データ読み取り中に入出力エラーが起きました。チェックポイント・データは無視されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 直前の入出力エラーの情報を参照してください。

ICK12180I CHECKPOINT DATA EXISTS FROM A PREVIOUS xxxxxxxx COMMAND

説明: 現行処理がチェックポイント・データが存在することを判別しました。これは直前の ICKDSF コマンドが正常に完了しなかったことを示します。

システムの処置: 現行処理と処理のチェックポイント・データ次第で、機能は処理を継続するか終了します。以下のメッセージを参照してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12181I CHECKPOINT DATA IS BEING ERASED

説明: ICK12180 に記述されているチェックポイント・データを参照してください。現行処理が直前の ICKDSF 機能のエラーをリカバリーまたは上書きできるので、チェックポイント・データは消去されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12182I A SUBSYSTEM FUNCTION MAY STILL BE EXECUTING FROM ANOTHER CPU

説明: ICK12180 に記述されているチェックポイント・データを参照してください。チェックポイントの情報から現行処理はサブシステムの機能が他のホストでまだ実行されている可能性があることを判別しました。これは PSF コマンドに許される最大実行時間がまだ経過していないためです。

システムの処置: 複数の ICKDSF 機能が同時に同じ装置に対しては実行できませんので、機能処理は終了しました。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 現行機能が完了するまで待つか、またはそのジョブを同じホストから再実行してください。

ICK12183I PREVIOUS SUBSYSTEM FUNCTION IS BEING CANCELLED

説明: ICK12180 に記述されているチェックポイント・データを参照してください。現行処理が、直前の PSF コマンドは終了しているはずか取り消せると判別しました。

前の PSF コマンドの CANCEL が装置に出されたところです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK12184I FUNCTION CONTINUES WITHOUT CHECKPOINT PROCESS

説明: ICK12180 に記述されているチェックポイント・データを参照してください。現行処理は、直前の ICKDSF 機能のリカバリーなしに継続できます。しかし、現行処理は直前のチェックポイント・データを消去することも、それ自身のチェックポイント・データを設定することもしません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 現行処理が完了したあと、ICK12180 で示されたコマンドを再実行してください。

ICK12185I **WARNING UNABLE TO RESET CHECKPOINT INFORMATION**

説明: 現行 ICKDSF 処理は完了しましたが、チェックポイント・データをリセットできませんでした。これは、入出力エラー、サブシステムの機能の障害、またはオーバーレイされたチェックポイント・データのためです。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: この問題に関連したエラー情報を調べてください。そして必要ならば IBM 技術員に連絡してください。問題が訂正されてからコマンドを再実行してください。

**ICK12200I ENQUEUE FAILED ON TRACK X'cccc
hhhh'. PROCESS CONTINUING**

説明: トラック X'cccc hhhh' を含んでいるデータ・セットの待機 (ENQ) が失敗に終わりました。TOLERATE(ENQFAIL) が指定されているので、処理は続行されます。
システムの処置: このトラックのコマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK12202I INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE
FOR DATA SET ENQUEUE --
TOLERATE(ENQFAIL) IS IN EFFECT FOR
ALL TRACKS**

説明: データ・セット・エンキュー手順を処理するのに必要なストレージを入手する際に、GETMAIN が失敗に終わりました。TOLERATE(ENQFAIL) が指定されていたので、待機が失敗したかのように、処理は続行されます。
システムの処置: 待機 (ENQ) 機能なしで、すべてのトラックのコマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK12204I UNABLE TO ENQUEUE VSAM DATA
SET FOR TRACK X'cccc hhhh', PROCESS
CONTINUING**

説明: 指定されたトラックは VSAM データ・セットの一部です。ICKDSF は、VSAM データ・セットに対するデータ・セット・エンキューをサポートしません。TOLERATE(ENQFAIL) が指定または想定されているので、このトラックに関して処理が続行されます。
システムの処置: このトラックに関して処理が続行されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK12316I UNABLE TO DETERMINE MINIDISK
SIZE**

説明: 要求されたコマンドのシステム・サポート・コードが VM に存在しないか、ミニディスクが T ディスクです。このメッセージのあとにメッセージ ICK033E が続きます。
システムの処置: システムは、ミニディスクのサイズの指定を要求します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK13010I ALLOCATION MAP NOT UPDATED

説明: 割り振りマップを更新する機能が要求されましたが、CPVOLUME によって割り振りマップの更新がバイパスされるという、エラー条件が検出されました。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: その操作に対するすべてのメッセージを検討し、報告されたエラーを訂正してください。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK13015I FILLER|NOFILLER PARAMETER IS
IGNORED FOR DEVICE TYPE**

説明: 指定された装置タイプは、FILLER|NOFILLER パラメーターをサポートしません。
システムの処置: コマンド処理は継続し、FILLER または NOFILLER は無視されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK13016I MODE PARAMETER IS IGNORED FOR
THE LIST|LABEL FUNCTION**

説明: MODE パラメーターは LIST と LABEL 機能には必要ありませんので指定することは不要です。
システムの処置: MODE パラメーターは無視され、コマンド処理は継続します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK13018I PARM ALLOCATION TYPE IS IGNORED
IN A VM/XA ENVIRONMENT**

説明: CPVOLUME は、ユーザーは VM/XA 環境で操作しており、PARM 割り振りタイプが割り振りマップに存在すると判別しました。
システムの処置: PARM 割り振りタイプを無視して、コマンド処理が継続します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: PARM 割り振りタイプは VM/ESA 環境でのみ有効で、VM/XA 環境では無視されます。ボリュームのそのスペースを使用したいときは、VM/XA でサポートされる割り振りタイプにそれを再割り振りしなければなりません。

ICK13019I UNDEFINED ALLOCATION TYPES EXIST

説明: CPVOLUME が、ボリュームのスペースが割り振られていないと判別しました。PARM 割り振りタイプ範囲全体が再割り振りされていませんでした。PARM タイプを再割り振りするためには、PARM 範囲全体を再割り振りしなければなりません。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ??? のフラグを付けられた割り振りマップ内の範囲を再割り振りしてください。

**ICK13020I CYLINDER(S) xxxx-yyyy WAS
FORMATTED with/without FILLER
RECORDS**

説明: CPVOLUME コマンドの EXAMINE 機能を実行中に、シリンダー (またはシリンダーの範囲) が直前に CPVOLUME が異なった方式 (充てん文字または非充てん文字) で形式設定されていたことを検出しました。
システムの処置: コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK14000I OUTSTANDING DEVICE SIM STILL EXISTS, SIM ID=X'nn'

説明: 指定された装置は、オープン SIM 状況です (オープン、保留状態、または、抑制表示)。システムは SIM 情報を印刷します。メッセージ ICK10711I を参照してください。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

ICK14001I OUTSTANDING MEDIA SIM STILL EXIST, SIM ID=X'xx'

説明: 指定された装置に、クローズされていないメディア SIM があります。SIM 情報は印刷されます。ICK10711I メッセージを参照してください。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ICK10711I メッセージを参照してください。

ICK14002I UNABLE TO OBTAIN ADDITIONAL SIM

説明: 直前に出された PSF コマンドが、失敗したか例外状況を検出し、SIM がサブシステムにより生成されています。しかし、関連した SIM が検出できません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

ICK14003I MEDIA MAINTENANCE IS RECOMMENDED FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: サブシステムは、指定されたトラックのメディア保守アクションを勧告しています。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 現行処理が完了したあと、指定されたトラックのメディア保守手順を実行してください。

ICK14004I INVALID ALTERNATE LOCATION ASSIGNMENT FOR TRACK X'cccc hhhh', INSPECT REQUIRED

説明: サブシステムが、指定されたトラックにメディア保守アクションが必要なことを示しています。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 現行処理が完了したあと、指定されたトラックのメディア保守手順を実行してください。

ICK14006I SIM CAN NOT BE FOUND FOR THE SPECIFIED SIM ID=X'nn'

説明: 現行 ICKDSF プロセスは、装置の SIM 情報の要約に含まれている、指定された SIM ID の詳細な SIM 情報を得ることができません。
 システムの処置: コマンド処理は、指定された SIM ID の SIM 管理なしに継続します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

ICK14007I INVALID STATE CHANGE FOR SIM ID=X'nn'

説明: 指定された SIM ID で例外が検出されました。これは SIM ID が無効なためです。
 システムの処置: コマンド処理は、指定された SIM ID の SIM 管理なしに継続します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

ICK14008I UNABLE TO UPDATE SIM STATUS FOR SIM ID=X'nn'

説明: 現行の ICKDSF 処理が SIM 状況の更新ができません。これは入出力エラーか、ある他のサブシステムの例外状況のためです。
 システムの処置: エラーの原因は印刷され、コマンド処理は指定された SIM ID の SIM 管理なしに継続します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

ICK14009I UNRECOVERABLE ERROR IS DETECTED FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: リカバリー不能エラーが指定されたトラックの PSF (Perform Subsystem Function) 中に検出されました。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 指定されたトラックのメディア保守が推奨されます。

ICK14010I RECOVERABLE ERROR IS DETECTED FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: リカバリー可能エラーが指定されたトラックの PSF (Perform Subsystem Function) 中に検出されました。
 システムの処置: コマンド処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 指定されたトラックのメディア保守が推奨されます。

ICK14020I VOLUME LABEL IN INPUT DOES NOT MATCH THAT ON VOLUME

説明: RECOVER 操作がボリューム・ラベルを検査しようとしたところ、コマンド入力で与えられたラベルとボリューム上のラベルが一致しないことがわかりました。

システムの処置: RECOVER 操作を完了し、戻りコード 4 を通知します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリューム・ラベルを検査してください。

ICK14021I CHANNEL PROGRAM: READ VOLUME LABEL FAILED

説明: RECOVER 操作でボリューム・ラベルを書き込もうとしましたが、失敗しました。

システムの処置: ボリューム・ラベル・ステップだけを残して、ボリュームの RECOVER 操作を完了し、戻りコード 4 を通知します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答:

ICK14022I CHANNEL PROGRAM: WRITE VOLUME LABEL FAILED

説明: RECOVER 操作でボリューム・ラベルを書き込もうとしましたが、失敗しました。

システムの処置: ボリューム・ラベル・ステップだけを残して、ボリュームの RECOVER 操作を完了し、戻りコード 4 を通知します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: システム・コンソールに出された DASD ERP メッセージを参照してください。適切な処置を行ってから、ICKDSF または同様のプログラムを使用して、ボリュームに再度ラベルを付けてください。

ICK20011I FUNCTION CANNOT BE EXECUTED. INSUFFICIENT MAIN STORAGE

説明: コマンドを実行するのに十分な仮想記憶がありません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICKDSF が利用できる仮想記憶の量を増やし、コマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20100I I/O ERROR OCCURRED DURING DRIVE TEST

説明: 基本ドライブ・テストの際に入出力エラーが発生しました。このメッセージの後に、エラーの CCW、CSW およびセンス情報が続きます。

システムの処置: バス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。

バス制御が使用されている場合、現行パスのドライブ・テスト

処理は終了し、次に利用できる指定されたパスに関して処理が続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 疑いのある装置の問題を処理するため、インストール先で決められている手順にそった処置をとってください。

ICK20101I I/O ERROR OCCURRED DURING DRIVE TEST ON CCHH = X'cccc hhhh'

説明: ドライブ・テストを実行している際に、示されたトラック上で入出力エラーが発生しました。このメッセージの後に、エラーの CCW、CSW およびセンス情報が続きます。

システムの処置: バス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。

バス制御が使用されている場合、現行パスのドライブ・テスト処理は終了し、次に利用できる指定されたパスに関して処理が続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのエラーの原因を判別するために、障害のある CCW、CSW およびセンス情報を調べなければなりません。

ICK20200I 0F0B TRACK X'cccc hhhh' WAS ALLOCATED TO DATA SET data.set.name

説明: メッセージにリストされたトラックに 0F0B エラーがあります。そのトラックがデータ・セットに割り振られていれば、そのデータ・セット名がメッセージで示されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 応答については、「Maintaining IBM Storage Subsystem Media」の手順 4 を参照してください。

ICK20201I TRACK X'cccc hhhh' IS ALLOCATED TO DATA SET data.set.name

説明: メッセージにリストされたトラックに訂正不能エラーがあります。そのトラックがデータ・セットに割り振られ、そのデータ・セット名がメッセージで示されます。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 訂正不能エラーについて詳しくは、メッセージ ICK11782I を参照してください。

ICK20800I UNABLE TO SCRATCH dsname

説明: 識別されたデータ・セットをスクラッチしようとしていた際に、エラーが発生しました。後続の 2 次レベル・メッセージが、そのエラーを識別します。

システムの処置: そのデータ・セットはスクラッチされません。ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行しません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 関連したメッセージを参照してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20801I ** NO VOLUME MOUNTED

説明: ボリュームが取り付けられていません。
 システムの処置: そのデータ・セットはスクラッチされません。 ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行しません。

オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 正しいボリュームを取り付け、コマンドを出し直してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20802I ** PASSWORD VERIFICATION FAILED

説明: スクラッチされるデータ・セットがパスワード保護を受けていて、オペレーターが適切なパスワードを提供しませんでした。

システムの処置: そのデータ・セットはスクラッチされません。 ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行しません。

オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: コマンドを再発行して、プロンプトが出たら正しいパスワードを指定してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20803I ** DATA SET HAS NOT EXPIRED ON VOLUME volser

説明: PURGE パラメーターが指定されておらず、そのデータ・セットの保存期間も尽きていません。

システムの処置: そのデータ・セットはスクラッチされません。 ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行しません。

オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: そのデータ・セットを破壊したければ PURGE パラメーターを指定し、コマンドを再発行してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20804I ** PERMANENT I/O ERROR ON VOLUME

説明: 入出力エラー条件のために、VTOC を読み取れません。

システムの処置: そのデータ・セットはスクラッチされません。 ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行しません。

オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: そのボリュームをリストアするか、またはオフラインでボリュームを初期設定してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20805I ** UNABLE TO MOUNT VOLUME volser

説明: そのボリュームを取り付けるのに適切な装置が利用不能でした。

システムの処置: そのデータ・セットはスクラッチされません。 ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行しません。

オペレーターの応答: その装置を取り付け可能にして、コマンドを再発行してください。

システム・プログラマーの応答: なし。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20806I ** DATA SET WAS IN USE

説明: スクラッチされるべきデータ・セットが別のプログラムによって使用されていました。

システムの処置: そのデータ・セットはスクラッチされず、コマンドは処理を続行します。

オペレーターの応答: 他のジョブがそのデータ・セットを使用しないようにして (DISP=SHR を指定しないでください)、コマンドを再発行してください。

システム・プログラマーの応答: なし。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20810I ** INVALID RACF AUTHORIZATION

説明: RACF 保護されているデータ・セットがボリューム上に常駐しています。 ユーザーはそのデータ・セットをスクラッチするのに適切な権限を持っていないので、そのボリュームを除去することができません。

システムの処置: そのデータ・セットはスクラッチされず、コマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを使用して処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: なし。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20950I INVALID FORMAT STRUCTURE

説明: 静的テキスト構造の 1 つの要素が正しくありません。 プログラム・エラーである可能性があります。

システムの処置: 行を印刷する要求を無視します。 コマンドは処理を続行しますが、出力データは印刷されません。

オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20951I OUTPUT COLUMN SPECIFIED OUT OF RANGE

説明: 出力桁の指定が、許されている印刷行の幅を超えています。例えば、120 桁を超えています。 プログラム・エラーである可能性があります。

システムの処置: このフィールドおよび同じ行のそれ以降のフィールドは無視されます。 コマンドは処理を続行しますが、出力データは印刷されません。

オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20952I EXCESSIVE FIELD LENGTH FOR BD OR PU CONV

説明: 2 進数から 10 進数、またはパックからアンパックへの変換長が、15 より大きい指定になっていました。 プログラム・エラーである可能性があります。

システムの処置: デフォルト値の 15 が使用され、コマンドは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20953I A REDO SUB-STRUCTURE IS NESTED

説明: 繰り返される構造の組の中に、繰り返し構造は定義できません。プログラム・エラーである可能性があります。

システムの処置: 現行の繰り返し操作は打ち切られます。すべての構造は一度のみ処理されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20954I STATIC TEXT ENTRY REQUESTED NOT IN MODULE

説明: 指定された静的テキスト・モジュール中の、特定の静的テキスト項目に対する要求を分析解決することができません。静的テキスト項目が正しくないか、またはプログラマーが静的テキスト・モジュール中にメッセージを入力することを怠りました。

プログラム・エラーである可能性があります。

システムの処置: その要求は無視され、コマンドは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK20955I INVALID PACKED DECIMAL FIELD

説明: パック 10 進数からアンパック 10 進数への変換要求の際に、0 から 9 までの範囲にない数値が現れました。おそらくプログラム・エラーです。

システムの処置: 現行の要求に関して変換が停止します。パックからアンパックへの変換をせずに、コマンドは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21000I ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh' FOUND UNRECOVERABLE

説明: トラック表面を検査している際にエラー条件が現れたため、そのトラックが欠陥トラックであることを示すために代替トラックのホーム・アドレスまたはレコード 0 を書き直すことができませんでした。

そのトラックには損傷があると印づけられないので、オペレーティング・システムはそれを使用できません。

システムの処置: トラックをリカバリーできない原因がデータ・エラーである場合、コマンドは実行されてエラー戻りコードが戻されて完了します。トラックをリカバリーできない原因がデータ・エラーでない場合は、そのエラーを検出した後コマンド処理が停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 失敗の原因を判別するために、前のメッセージを調べてください (その入出力の原因となった CCW、CSW、およびセンス情報も含む)。このメッセージは、読み取り/書き込みモード切り替えが READ モードに設定されている場合、またはその他の条件によって ICKDSF がボリュームに書き込めない場合に、出されることがあります。

VM (独立型または VM の下で作動するオペレーティング・システム版のいずれでも) の下で作動している場合、このメッセージは、ミニディスクまたはユーザー ID に LINK されている装置 (あるいはその両方) に対して、診断機能またはメディア保守機能の実行が試みられたことを示している場合があります。診断およびメディア保守機能は、専用装置において行われなければなりません。

VM サポートについて詳しくは、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『VM 下でゲストとしてサポートされる ICKDSF バージョン』のトピックを参照してください。

IBM 技術員の援助が必要かと思われます。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK21001I PRIMARY TRACK CCHH=X'cccc hhhh' FOUND UNRECOVERABLE

説明: トラック表面を検査している際に、そのトラックが欠陥トラックであることを示すために基本トラックのホーム・アドレスまたはレコード 0 に再度書き込むのを防げるエラー条件が現れました。

そのトラックには損傷があると印づけられないので、オペレーティング・システムはそれを使用できません。

このメッセージは、そのコマンドを実行する際に、読み書きモード・スイッチが不注意に READ モードに設定されていたときに現れる場合があります。

システムの処置: リカバリー不能トラック限界値に達しない限り (ICK31013I メッセージを参照)、ICKDSF の処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 失敗の原因を判別するために、前のメッセージを調べてください (その入出力の原因となった CCW、CSW、およびセンス情報も含む)。このメッセージは、書き込みモード・スイッチが READ モードに設定されている場合、またはその他の条件によって ICKDSF がボリュームに書き込めない場合に、出されることがあります。

VM (独立型または VM の下で作動するオペレーティング・システム版のいずれでも) の下で作動している場合、このメッセージは、ミニディスクまたはユーザー ID に LINK されている装置 (あるいはその両方) に対して、診断機能またはメディア保守機能の実行が試みられたことを示している場合があります。診断およびメディア保守機能は、専用装置において行われなければなりません。

VM サポートについて詳しくは、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『VM 下でゲストとしてサポートされる ICKDSF バージョン』のトピックを参照してください。

IBM 技術員の援助が必要かと思われます。ジョブ出力を保管

し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK21002I INVALID VTOC ORIGIN SPECIFICATION
FOR TRACK CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: その VTOC パラメーターは、VTOC に関して無効なトラック位置を指定しています。VTOC はシリンダー 0、トラック 0 から始まることはできず、また代替トラック域を侵犯することもできません。

64K を超えるトラックがあるデバイスには、VTOC 配置に関して特殊な考慮事項があります。既存の IBM ソフトウェアでは、VTOC を処理するために相対トラック・アドレス指定または Track-Track-Record (TTR) フォーマットが使用されます。VTOC トラックとして参照できる最も高位のアドレスは 64K-1 に制限されています。そのため、VTOC 全体が最初の 64K トラックに常駐する必要があります。つまり、VTOC の末尾はシリンダー 4369 の前でなければなりません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: デフォルトの位置をそのまま使用するか、または正しい位置を指定してコマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21003I INVALID VTOC EXTENT
SPECIFICATION: xxxx**

説明: VTOC パラメーターが、VTOC 域に無効なエクステン (トラック数) を指定しています。VTOC は 0 のエクステンを持つことはできず、また代替トラック域を侵犯することもできません。

64K を超えるトラックがあるデバイスには、VTOC 配置に関して特殊な考慮事項があります。既存の IBM ソフトウェアでは、VTOC を処理するために相対トラック・アドレス指定または Track-Track-Record (TTR) フォーマットが使用されます。VTOC トラックとして参照できる最も高位のアドレスは 64K-1 に制限されています。そのため、VTOC 全体が最初の 64K トラックに常駐する必要があります。つまり、VTOC の末尾はシリンダー 4369 の前でなければなりません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: デフォルトのエクステントをそのまま使用するか、または正しいエクステントを指定してコマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21007I R-ZERO INCORRECT -- a CCHH=X'cccc
hhhh' (X'cccc hhhh') b CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: このメッセージは、ボリューム上に無効な基本/代替トラックの関連付けがあることを示しています。適切な関連の例については、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」で付録 B の図『主トラックと代替トラックの関連 (3390-2 型)』を参照してください。

- CCHH=cccc hhhh は、エラーのある主トラックのシリンダー/ヘッドを示しています。トラックに欠陥のフラグが付けられていれば、a は D に設定され、そうでなければ、a は N に設定されます。括弧内の cccc hhhh は、エラーの主トラックのレコード 0 内で指し示されたトラックのシリンダー/ヘッドです。
- CCHH=cccc hhhh は、エラーのある代替トラックのシリンダー/ヘッドを示しています。そのトラックに欠陥のあることを示すフラグが付けられている場合、b は D に設定され、そうでなければ、b は N に設定されます。適切な関連の例については、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の付録 B の図『主トラックと代替トラックの関連 (3390-2 型)』を参照してください。

未知の代替トラック・ポインターを含む主トラックが検出された場合は (レコード・ゼロのシリンダー/ヘッドが有効なトラック・アドレスを示していない場合は)、メッセージの b CCHH=cccc hhhh という部分は「N CCHH=FFFF」と印刷されます。

システムの処置: INITIALIZE コマンドを実行している場合、処理は停止します。

INSPECT コマンドを実行している場合、次のトラックに関して ICKDSF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 初期設定を行う場合、このメッセージは最小 INIT に対してのみ出されます。問題を訂正するために、そのボリュームを中間レベルで初期設定するか、または主トラックか代替トラックを INSPECT してください。

INSPECT 処理の場合、このメッセージはトラックに関する矛盾が存在する場合に出され、問題を修正するのに ICKDSF を使うことはできません。ASSIGN を指定して問題を再試行してください。RECLAIM を指定すると問題が解決することもあります。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21008I UNABLE TO WRITE IPL RECORDS

説明: IPL プログラム・レコードを書くことができませんでした。このメッセージの直前に印刷されたメッセージに、そのエラーの種類が示されています。

システムの処置: IPL プログラム・レコードは書かれませんが、コマンドは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21011I CRITICAL TRACK DESCRIPTOR
INCORRECT CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: 重要なトラックとは VTOC およびシリンダー 0、トラック 0 のために確保されているトラックのことです。識別されたトラック上のレコード 0 の内容にエラーがあります。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのボリュームを中間レベルで再初期設定するか、または X'cccc hhhh' にあるトラックを

INSPECT してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21014I SURFACE CHECK FUNCTION FAILS ON TRACK CCHH=X'cccc hhhh'

説明: 示されたトラックを読み書きしている際に、DATA CHECK 以外のチャンネル・プログラム障害が起きました。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: そのメッセージに関連した CCW、CSW およびセンス情報を調べて、その入出力エラーの種類を判別してください。

VM (独立型または VM の下で作動するオペレーティング・システム版のいずれでも) 下で作動している場合、このメッセージは、ミニディスクまたはそのユーザー ID に LINK されている装置 (あるいはその両方) に対して、診断機能またはメディア保守機能の実行が試みられたことを示している場合があります。診断およびメディア保守機能は、専用装置において行われなければなりません。

VM サポートについて詳しくは、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の『VM 下でゲストとしてサポートされる ICKDSF バージョン』のトピックを参照してください。ジョブ出力を保管し、IBM サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK21015I ALTERNATE TRACK CCHH = X'cccc hhhh' FOUND DEFECTIVE

説明: ユーザー・データを保存している際に、並行媒体保守処理の間に、指定された代替トラックに欠陥があることが見いだされました。
システムの処置: その代替トラックは、欠陥ありのフラグがあり、ICKDSF はユーザー・データを保存するために、次の代替トラックを使用して続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK21016I UNABLE TO USE ALTERNATE TRACK CCHH = X'cccc hhhh' TO PRESERVE DATA

説明: 指定された代替トラックは、ユーザー・データを保存するのに用いることができません。それは欠陥があることが見いだされたか、または入出力エラーがあります。
システムの処置: 入出力エラーが発生したならば、処理は打ち切られます。代替トラックに欠陥があることが見いだされたならば、次の代替トラックを使用して ICKDSF は、続行されません。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 入出力エラーの場合、失敗した CCW、CSW および SENSE 情報を調べて、そのエラーの原因を判別しなければなりません。

ICK21017I NO MORE ALTERNATE TRACKS LEFT ON PACK

説明: 欠陥のないすべての代替トラックが主トラックとして割り当てられています。
システムの処置: 代替トラックの割り当ては打ち切られます。コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 主トラックおよび代替トラックのレクラメーションを試みるために、INSPECT コマンドの RECLAIM 機能を使用してください。(IBM 3375、3380、および 3390 の場合には、INSPECT コマンドのみを使用してください。)

代替トラックの割り当て原因を判別するには、IBM サービス技術員の援助が必要となる場合があります。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21028I NOT ALLOWED TO CHANGE VOLUME LABEL

説明: 許可ユーザーのみが、リソース・アクセス管理機能 (RACF[®]) インストール済みのシステムのボリューム・ラベルを変更することができます。
システムの処置: ボリューム・ラベルの内容は変更されません。しかしコマンド処理は続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21030I NOT ALLOWED TO WRITE IPL RECORDS

説明: 許可ユーザーのみが、リソース・アクセス管理機能 (RACF) インストール済みのシステムのボリュームの IPL レコードを変更することができます。
システムの処置: IPL レコードは書き込まれませんでした。しかし、コマンド処理は続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21031I UNABLE TO RECLAIM ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh'

説明: 示された代替トラック上のホーム・アドレスおよびレコード 0 を書き換える試みがなされていたときに、入出力エラーが発生しました。
システムの処置: 代替トラックはレクラメーションされません。コマンド処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21032I UNABLE TO RECLAIM PRIMARY TRACK
CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: 示された主トラック上のホーム・アドレスおよびレコード 0 を書き換える試みがなされていたときに、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: 主トラックはレクラメーションされません。

コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21033I TRACK DISSOCIATION FAILED:
CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: 基本または代替トラックをレクラメーションするとき、レコード 0 を正しく書き換えるのを妨げるエラーが発生したので、基本および代替トラックに関連したトラック・アドレスを除去することができませんでした。

システムの処置: 代替トラックは欠陥があるものとして印付けられ、コマンドは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21037I INVALID TRACK ADDRESS SPECIFIED:
CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: ボリュームの、定義済みの主トラックまたは代替トラック域内のトラックのみを検査することができます。TRKFMT コマンドで処理できるのは、主トラック域だけです。これらの領域に含まれないトラックが指定されたか、またはトラック・アドレス指定に構文エラーがあります。

システムの処置: 無効なトラックに対して要求された処置は無視されますが、そのコマンドの残りの部分の処理は、正しく指定されたトラックに対して続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 無効な指定を訂正し、コマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21039I PRIMARY TRACK CCHH=X'cccc hhhh'
DEFECTIVE, NO ALTERNATE -- DATA
SAVED**

説明: 表面検査によって、示された主トラックに欠陥があることが判明しましたが、そのトラックに割り当てる代替トラックがありません。

システムの処置: 可能であれば、主トラックの内容は保管され、主トラック上に書き込みされます。コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21040I PRIMARY TRACK CCHH=X'cccc hhhh'
DEFECTIVE, NO ALTERNATE -- DATA
LOST**

説明: 表面検査によって、示されたトラックに欠陥があることが判明しましたが、そのトラックに割り当てる代替トラックがありません。

システムの処置: 主トラック上に書き込みできないので、主トラックの内容は失われます。コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21041I ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh'
DEFECTIVE -- DATA SAVED**

説明: 表面検査によって、示された代替トラックに欠陥があることが判明しましたが、そのトラックに再割り当てできる代替トラックがありません。

システムの処置: 可能であれば、代替トラックの内容は保管され、代替トラックに書き込みされます。コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21042I ALTERNATE TRACK CCHH=X'cccc hhhh'
DEFECTIVE -- DATA LOST**

説明: 表面検査によって、示された代替トラックに欠陥があることが判明しましたが、そのトラックに再割り当てできる代替トラックがありません。

システムの処置: 代替トラック上に書き込みできないので、代替トラックの内容は失われます。コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21044I UNABLE TO PRESERVE -- UNABLE TO
READ TRACK CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: 入出力エラーのために、示されたシリンダーとトラック上のレコードを読み取ることができませんでした。

以下の 2 つの条件があります。

- 後続のメッセージの中のセンス情報がすべてゼロである
- CSW がチャンネル終了、入出力装置終了、および不正長 (2 番目の語の最初の 2 バイトが 0C40) のみを示している。

は、以前の ICKDSF 処理によって、標準的ではないレコード・ゼロがそのボリューム上に残っていることを示すものです。

そのトラックに NOPRESERVE CHECK(1) を指定した INSPECT を実行し、状況を正してください (トラック上にユーザー・データがないことに注意してください)。

システムの処置: 示されたトラック上のレコードは失われず、そのトラックは欠陥があるものとして印付けられません。指定されたトラックは表面検査されません。コマンドは次のトラックの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーのあるトラックを含むデータ・セットに対してエラー・リカバリー手順を開始し、NOPRESERVE を指定してエラーのあるトラックに対するコマンドを再実行してください。

NOPRESERVE を指定して INSPECT を実行する場合、ボリュームが二重コピーのペアの一部であるなら、そのボリュームを片面印刷状態にしてください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21045I UNABLE TO RESTORE -- UNABLE TO READ TRACK CCHH=X'cccc hhhh'

説明: 並行媒体保守 処理の際に、指定された代替トラック上のユーザー・データを再び読み取って元の主トラックにリストア戻すことが、入出力エラーのためにできません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。ユーザー・データは、その代替トラック上に残ります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラー原因を判別するために、障害のある CCW、CSW および SENSE 情報を調べてください。

ICK21047I PRESERVED DATA CANNOT BE REWRITTEN TO TRACK CCHH=X'cccc hhhh'

説明: 保存されたレコードを元のトラックまたは割り当てられた代替トラックに書き込もうと試みていた際に、入出力エラーが発生して書き込み操作が首尾良く行われませんでした。

システムの処置: ASSIGN コマンドの現行値にかかわらず、(新しい) 代替トラックを割り当て、そのデータを正しく再書き込みするための試みが 3 回まで行われます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 後続のメッセージに、そのデータの最終的な状況が示されます。

ICK21048I CYL-0 TRK-0 DEFECTIVE, PACK UNUSABLE FOR IPL

説明: シリンダー 0、トラック 0 に欠陥があることが判明しました。そのトラックには代替トラックが割り当てられましたが、そのボリュームは IPL ボリュームとしては使用できません。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: このボリュームを初期プログラム・ロード・ボリュームとして使用しなければならない場合には、IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してくださ

い。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21050I ERROR OCCURRED WHILE PROCESSING TRACK CCHH = X'cccc hhh'

説明: 示されたトラックの処理中にエラーが発生しました。パラメーターで指定された機能は完了していない可能性があります。

システムの処置: コマンドは次のトラックの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 前に出されたメッセージを調べ、エラーの原因を判別してください。

ICK21055I VTOC IS LOCATED ON CYLINDER 0 HEAD 0

説明: VTOC は、そのボリュームの最初のトラックに存在しています。このために、ボリュームの最初のトラックに IPL プログラム・レコードを書き込むことはできません。VTOC 拡張処理や VTOC 最新表示処理も許可されません。

システムの処置: IPLDD が指定された場合、コマンドは処理を続行しますが、IPL プログラム・レコードは書き込まれません。VTOC 拡張または VTOC 最新表示処理が指定された場合、コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IPL レコードを持つ必要がある場合は、VTOC を拡張するか、VTOC を最新表示してから、ボリュームの最初のトラック以外のトラックに VTOC をおいて、ボリュームを再初期設定してください。

ICK21060I FREE SPACE IS NOT AVAILABLE FOR THE NEW INDEX

説明: ボリュームのフリー・スペース・エクステントは、新しい INDEX を入れるには小さ過ぎます。

システムの処置: 索引を再作成しません。コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを移動するか除去して、新しい索引のサイズに対し十分大きいフリー・スペースを作ってください。それから新しい索引データ・セットを割り振り、BUILDIX コマンドを出して索引を作成し直してください。

ICK21065I ERROR OCCURRED WHILE ISSUING MACRO MODVCE, RETURN CODE =

説明: VSE 環境では、ボリュームのクローズの際に、ボリューム通し番号の変更を監視プログラムに知らせるエラーが発生しました。戻りコードの値は 10 進数です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 障害の理由については、「IBM VSE/Advance Functions Diagnosis Reference Supervisor」を参照してください。

**ICK21070I ERROR OCCURRED WHILE ISSUING
MACRO CVTOC, RETURN CODE =**

説明: VSE 環境では、ボリュームのクローズの際に、OVTOC マクロが獲得した排他的オープンをアンロックしようとしたところ、エラーが発生しました。 戻りコードの値は 10 進数です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 障害の理由については、「IBM VSE/Advance Functions Diagnosis Reference Supervisor」を参照してください。

**ICK21080I ALTERNATE TRACKS INSPECTION NOT
VALID FOR DEVICE TYPE**

説明: ユーザーは 2305-1 または 2305-2 上の代替トラックを検査することを要求しました。 これらの装置に関しては、代替トラックを直接検査することはできません。 その代替トラックに関連付けられた主トラックを検査すると、その代替トラックが自動的に検査されます。

システムの処置: ICKDSF は次のトラックを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 代替トラックの検査が必要であれば、その代替トラックに関連付けられた主トラックのアドレスを、マップから調べ、その主トラック・アドレスを使ってジョブを再実行してください。

**ICK21316I UNABLE TO OPEN IPL INPUT DATA
SET**

説明: IPLDD パラメーターによって指定されたデータ・セットをオープンできません。 関連したメッセージが、その障害の理由を示しています。

システムの処置: コマンドは処理を続行しますが、IPL プログラム・レコードは書き込まれません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 関連したメッセージによって判別されたエラーを訂正し、コマンドを再発行してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21317I IPL INPUT RECORD-1 FORMAT
IMPROPER**

説明: 最初のユーザー指定 IPL ブートストラップ・レコードが、レコードの最初の 4 文字として IPL1 を含んでいませんでした。

システムの処置: システム定義 IPL ブートストラップ・レコードがボリューム上に書かれ、処理は続行します。 ユーザー指定 IPL ブートストラップ・レコードの残りおよび IPL プログラム・レコードは、無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IPL ブートストラップ・レコード形式を訂正し、コマンドを再発行するか、またはシステム定義 IPL ブートストラップ・レコードを受諾してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21318I IPL INPUT RECORD-2 FORMAT
IMPROPER**

説明: 2 番目のユーザー指定 IPL ブートストラップ・レコードがレコードの最初の 4 文字として IPL2 を含んでいませんでした。

システムの処置: システム定義 IPL ブートストラップ・レコードがボリューム上に書かれ、処理は続行します。 ユーザー指定 IPL ブートストラップ・レコードおよび IPL プログラム・レコードは、無視されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IPL ブートストラップ・レコード形式を訂正し、コマンドを再発行するか、またはシステム定義 IPL ブートストラップ・レコードを受諾してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21319I UNABLE TO WRITE BOOTSTRAP
RECORD-1 ON VOLUME**

説明: 最初の IPL ブートストラップ・レコードをシリンダー 0、トラック 0 に書き込もうと試みていた際に、入出力エラーが発生しました。 このボリュームを IPL に再利用することはできません。

システムの処置: コマンドの処理は続行しますが、IPL ブートストラップ・レコードはそのボリューム上に書き込まれません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのトラックをレクラメーションするために INSPECT コマンドを出すか、またはそのボリュームを再初期設定してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21320I UNABLE TO WRITE BOOTSTRAP
RECORD-2 ON VOLUME**

説明: 2 番目の IPL ブートストラップ・レコードをシリンダー 0、トラック 0 に書き込もうと試みていた際に、入出力エラーが発生しました。 このボリュームを IPL に再利用することはできません。

システムの処置: コマンドの処理は続行しますが、IPL ブートストラップ・レコードはそのボリューム上に書き込まれません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのトラックをレクラメーションするために INSPECT コマンドを出すか、またはそのボリュームを再初期設定してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK21321I UNABLE TO WRITE IPL PROGRAM ON
VOLUME**

説明: IPL プログラム・レコードをボリューム上に書き込もうと試みていたときに、入出力エラーが発生しました。 そのボリュームは IPL に使用できません。

システムの処置: コマンドの処理は続行しますが、IPL プログラム・レコードはそのボリューム上に書き込まれません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのトラックをレクラメーションするために INSPECT コマンドを出すか、またはそのボリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21322I SPECIFIED IPL PROGRAM LENGTH IS EXCESSIVE

説明: ユーザー指定 IPL プログラムに必要なバイトの合計数が、初期設定されているボリュームに対して許されている最大値を超えました。

システムの処置: コマンドの処理は続行しますが、IPL プログラムはそのボリューム上に書き込まれません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: サイズが大きすぎる原因を調べ、IPL プログラムを再コンパイルまたは再アセンブルし、それからコマンドを再発行してください。

ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21323I IPL PROGRAM INPUT CONTAINS NO TXT CARDS

説明: その IPL プログラムに対して指定されている入力レコードが読み取られましたが、標準テキスト (TXT) レコードとして識別されるレコードを含んでいませんでした。

システムの処置: IPLDD パラメーターは無視され、コマンドは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 入力ストリーム、または指定されたデータ・セット中に正しい入力を用意するようにしてください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21350I EXCESSIVE COMBINED ERROR RATE ON HEAD X'cccc hhhh'

説明: 指定されたヘッドは、装置の許容エラー率のしきい値を超えました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: メッセージ ICK21401I を参照してください。

ICK21351I EXCESSIVE COMBINED ERROR RATE FOR ALL HEADS

説明: 診断 (CE) シリンダーのすべてのヘッドの総合エラー率が、装置の許容エラー率のしきい値を超えました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: メッセージ ICK21401I を参照してください。

ICK21394I EXCESSIVE DATA CHECKS OCCURRING FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: 指定されたトラックに対するスキップ変位処理の際に、この装置タイプに対して妥当と考えられるより多くのデータ・チェックが検出されました。

システムの処置: このトラックに関する処理は完了しました。

ICKDSF は次のトラックを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、このトラックに関して異常な数のデータ・チェックが起きたことを示しています。このメッセージは警告のためのものですが、特にこのメッセージが複数のトラックに対して出される場合には、IBM ハードウェア・サービス技術員の援助が必要ことがあります。

代替トラックの割り当てが必要な場合には、INSPECT NOCHECK ASSIGN を実行してください。

ICK21398I RECORD ZERO MAY BE INVALID ON TRACK X'cccc hhhh'

説明: 指定されたトラックの表面検査の完了時 (成功してもしなくても) に、標準レコード・ゼロの書き換えが検査できませんでした。表面検査は、成功のときと不成功のときとがあります。

システムの処置: このメッセージが INIT または INSPECT NOPRESERVE の際に出されたならば、ICKDSF は次のトラックを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: このメッセージには、指定されたトラック上で表面検査が失敗したという表示を、しばしば伴います。入出力エラー・メッセージを含め、付随するメッセージを調べて、障害の原因を判別する助けにしてください。

IBM 担当員のサポートが必要な場合もあります。

エラーの原因が確定され除去された場合、レコード・ゼロが無効である状況を修正するには、トラックの INSPECT を実行しなければなりません。INSPECT PRESERVE 処理の際に付随するメッセージがデータの損失を示すならば、データ・リカバリ処置が必要になる場合があります。

ICK21401I ccuu SUSPECTED DRIVE PROBLEM

説明: ドライブ・テスト中にエラーを検出しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題を調べるのに、先行メッセージが助けになるはずです。

印刷装置出力を保管しておいてください。機器に関連した問題であると思われる場合は、インストール手順にしたがって、適切な処置を講じてください。その問題が説明できないときには、IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡を取ってください。

それまでしばらくの間、インストール手順によって、以下のことを行うこともできます。

- ボリューム全体をバックアップ・ボリュームから別のドライブにリストアする。

- そのドライブの使用を中止する。

ICK21402I ccuu ERROR READING DATA

説明: コマンドのデータ・スキャンの部分でデータ・チェックが検出された場合に、このメッセージが出ます。

システムの処置: ICKDSF は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 先行メッセージを調べてそのデータ・チェックの性質と場所を判別し、それらのメッセージに基づいて適切な処置を取ってください。

ICK21403I TEMPORARY EQUIPMENT CHECK LIMIT EXCEEDED, ERROR INFORMATION FOLLOWS

説明: ドライブ・テストの書き込み読み取りテスト部分中に、この装置タイプで一時的装置チェックの超過が検出されました。

メッセージには、生じた一時出力装置チェックに対して、障害のあるチャンネル状況ワード (CSW)、チャンネル・コマンド・ワード (CCW)、およびセンス・バイトが続きます。

システムの処置: パス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。パス制御が使用されている場合、現行パス上でドライブ・テスト処理は打ち切られ、ICKDSF は次に利用可能なパスを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK21404I WRT TST: FORMAT WRITE OF CE CYLINDER FAILED ON HEAD = X'hhhh'

説明: IBM サービス技術員 (CE) シリンダーに形式書き出しを行っている際に、エラーが検出されました。

システムの処置: パス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。パス制御が使用されている場合、現行パス上でドライブ・テスト処理は打ち切られ、ICKDSF は次に利用可能なパスを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を判別するために、先行メッセージを調べてください。

ICK21405I WRT TST: UPDATE WRITE OF CE CYLINDER FAILED ON HEAD = X'hhhh'

説明: IBM 技術員 (CE) シリンダーに更新書き込みをしている際に、エラーが検出されました。

システムの処置: パス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。パス制御が使用されている場合、現行パス上でドライブ・テスト処理は打ち切られ、ICKDSF は次に利用可能なパスを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を判別するために、先行メッセージを調べてください。

ICK21406I CLEANUP TEST: CLEANUP OF CE CYLINDER FAILED ON HEAD = X'hhhh'

説明: ドライブ・テストの検査が完了した後で、IBM 技術員 (CE) シリンダー上のトラックを終結処置しようと試みていた際に、エラーが検出されました。

システムの処置: パス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。パス制御が使用されている場合、現行パス上でドライブ・テスト処理は打ち切られ、ICKDSF は次に利用可能なパスを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を判別するために、先行メッセージを調べてください。

ICK21407I UNCORRECTABLE DATA CHECK OCCURRED ON CE CYLINDER, HEAD = X'hhhh', RECORD = X'rr'

説明: ドライブ・テストの読み取りテスト部分で、訂正不能なデータ・チェックが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW およびセンス・バイト情報が続きます。

システムの処置: ICKDSF は続行されます。後ほど打ち切られる場合があります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その問題を解決する助けを得るために、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK21408I CE CYLINDER DATA CHECK THRESHOLD EXCEEDED

説明: IBM 技術員 (CE) シリンダーからの読み取りテストの際に、この装置タイプでは普通と思われるより多くのデータ・チェックが検出されました。

システムの処置: パス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。パス制御が使用されている場合、現行パス上でドライブ・テスト処理は打ち切られ、ICKDSF は次に利用可能なパスを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 障害のあるヘッド (1 つまたは複数) およびレコード (1 つまたは複数) を判別するために、ICK01415 または ICK21407 メッセージ (あるいはその両方) に含まれているエラー・メッセージを調べてください。その問題を解決する助けを得るために、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK21409I CORRECTABLE DATA CHECK LIMIT EXCEEDED ON CE CYLINDER, HEAD = X'hhhh'

説明: ドライブ・テストの読み取りテスト部分で、このヘッドがエラー基準を超えました。このメッセージに先行して、訂正可能データ・チェックを検出した各レコードごとに ICK01415 が出ます。

システムの処置: パス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。パス制御が使用されている場

ICK21410I • ICK21421I

合、現行パス上でドライブ・テスト処理は打ち切れ、ICKDSF は次に利用可能なパスを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 障害のあるレコードを判別するために、ICK01415 メッセージに含まれているエラー情報を調べてください。その問題を解決する助けを得るために、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK21410I READ TEST: READ TEST ON CE CYLINDER FAILED ON HEAD = X'hhhh'

説明: ドライブ・テストの読み取り部分で、データ・チェック以外のエラーが発生しました。

システムの処置: パス制御が使用されていなければ、ドライブ・テスト処理は終了します。パス制御が使用されている場合、現行パス上でドライブ・テスト処理は打ち切れ、ICKDSF は次に利用可能なパスを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題の原因を判別するために、先行メッセージを調べてください。

ICK21420I DRIVE TEST: TESTING UNSUCCESSFUL ON : CHPID = XX CHANNEL NUMBER = X CHANNEL SET = X STORAGE DIRECTOR ID = XX SUBSYSTEM ID = XXXX CLUSTER = X STORAGE PATH = X

説明: ドライブ・テストは、示されたパス上で正常に完了しませんでした。ここで、パラメーターには次のような意味があります。

CHPID = XX は、処理中のパスの CHPID を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。

CHANNEL NUMBER = X は、処理中のパスのチャンネル番号を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。

CHANNEL SET = X は、処理中のパスのチャンネル・セット (CPU 指定) を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。

STORAGE DIRECTOR ID = XX は、処理中のパスのストレージ・ディレクター ID を識別します。ここには、センス・バイト 21 にある情報が含まれています。この行は、処理されているストレージ管理装置に適用されていないと表示されません。

SUBSYSTEM ID = XXXX は、処理中のパスのサブシステム ID を識別します。ここには、センス・バイト 20 と 21 にある情報が含まれています。この行は、処理されているストレージ管理装置に適用されていないと表示されません。

CLUSTER = X は、処理中のパスのクラスターを識別します。この行は、処理されているストレージ管理装置に適用されていないと表示されません。

STORAGE PATH = X は、処理中のクラスターのストレージ・パスを識別します。この行は、処理されているストレージ管理装置に適用されていないと表示されません。

システムの処置: ドライブ・テスト処理がこのパス上で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 指定されたパス上のエラーの原因を判別するために、先行メッセージを調べてください。

ICK21421I DRIVE TEST: I/O ERROR ON : CHPID = XX CHANNEL NUMBER = X CHANNEL SET = X STORAGE DIRECTOR ID = XX SUBSYSTEM ID = XXXX CLUSTER = X STORAGE PATH = X

説明: 示されたパス上で入出力エラーが発生しました。そのエラーに対する CSW、CCW、およびセンス・バイト情報が、メッセージとともに印刷されます。

CHPID = XX は、処理中のパスの CHPID を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。

CHANNEL NUMBER = X は、処理中のパスのチャンネル番号を識別します。

CHANNEL SET = X は、処理中のパスのチャンネル・セット (CPU 指定) を識別します。この行は、そのオペレーティング・システム環境に適用されていないと表示されません。

STORAGE DIRECTOR ID = XX は、処理中のパスのストレージ・ディレクター ID を識別します。ここには、センス・バイト 21 にある情報が含まれています。この行が処理中の記憶装置に適用されない場合、またはストレージ・ディレクター ID が判別される前にエラーが発生する場合、この行は表示されません。

SUBSYSTEM ID = XXXX は、処理中のパスのサブシステム ID を識別します。ここには、センス・バイト 20 と 21 にある情報が含まれています。この行が処理中のストレージ管理装置に適用されない場合、またはサブシステム ID が判別される前にエラーが発生する場合、この行は表示されません。

CLUSTER = X は、処理中のパスのクラスターを識別します。この行が処理中のストレージ管理装置に適用されない場合、またはクラスターが判別される前にエラーが発生する場合、この行は表示されません。

STORAGE PATH = X は、処理中のクラスターのストレージ・パスを識別します。この行が処理中のストレージ管理装置に適用されない場合、またはストレージ・パスが判別される前にエラーが発生する場合、この行は表示されません。

システムの処置: このパス上ではこれ以上の処理は行われません。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: CCW、CSW、センス情報を調べてエラーの原因を判別してください。

ICK21422I CHPID/ALLCHPID INVALID FOR THIS ENVIRONMENT

説明: MVS/ESA、MVS/XA、CMS/XA、CMS/ESA、および独立型/XA モード環境でのみ、CHPID および ALLCHPID パラメーターが有効です。
 システムの処置: ドライブ・テスト処理がバイパスされます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK21423I CHANNUM/ALLCHAN/CHANSET INVALID FOR THIS ENVIRONMENT

説明: 独立型/370 モード環境中でのみ、CHANNUM、ALLCHAN および CHANSET パラメーターが有効です。
 システムの処置: ドライブ・テスト処理がバイパスされます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK21424I UNKNOWN PATH SPECIFIED CHPID = XX CHANNEL NUMBER = X

説明: パラメーター中で指定された CHPID または CHANNEL の値が、ICKDSF によって判別された有効なパスのいずれとも合致していません。CHPID = XX または CHANNEL NUMBER = X のいずれかが、指定されたパラメーターにしたがって表示されます。
 システムの処置: ICKDSF は、指定された次に有効なパスを続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK21425I INVALID SPECIFICATION FOR PATH PARAMETERS:xx

説明: パラメーター中で指定された CHPID またはチャンネルの値が無効です。XX が無効な値です。

CHPID の有効な値は 00 から FF までです。

CHANNUM の有効な値は 0 から F までです。

システムの処置: ドライブ・テスト処理がバイパスされます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK21454I UNABLE TO READ DATA ON PRIMARY VOLUME FOR TRACK CCHH = X'cccc hhhh', PROCESS TERMINATING

説明: INSPECT が、二重コピーのペアの 2 次ボリュームを処理しているとき、1 次ボリュームの対応するトラックが読み取り可能かの判別を試みました。このケースでは 1 次ボリュームのトラックは読み取り不能です。

直前の ICK10710I メッセージに、エラーの CCW、CSW、およびセンス情報があります。

システムの処置: TOLERATE(PRIFAIL) が指定されていないので、2 次ボリュームのトラックは検査されません。このトラックのコマンド処理は終了し、次のトラックを使用して処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CCW、CSW、センス情報とを調べて、1 次ボリュームのエラーの原因を判別してください。そして二重コピーのペアの 1 次ボリュームのエラーを処理するため、インストール手順にしたがって適切な処置をとってください。

ICK21461I NON-STANDARD RECORD ZERO EXISTS ON PRIMARY VOLUME FOR TRACK CCHH = X'cccc hhhh' PROCESS TERMINATING

説明: 二重コピーのペアの 1 次ボリュームに標準でないレコード 0 状態が存在します。

システムの処置: TOLERATE(PRIFAIL) が指定されないので、コマンド処理は 2 次ボリュームのこのトラックで終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 1 次ボリュームを片面印刷の状態にし、1 次ボリュームのトラックに INSPECT NOPRESERVE を実行してください。

ICK21601I I/O ERROR ON PATH XX

説明: その装置への潜在的なパスを判別しようと試みている際に、示されたパス上で入出力エラーが発生しました。そのエラーに対する CSW、CCW およびセンス・バイトが、メッセージとともに印刷されます。

システムの処置: このパス上ではこれ以上の処理は行われません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CCW、CSW、センス情報を調べてエラーの原因を判別してください。

ICK21721I FIXED BLOCK WRITE C.E. AREA TEST: BWRCE

説明: IBM 技術員 (CE) シリンダーに書き込みをしている際に、エラーが検出されました。

システムの処置: コマンド処理は、8 の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21723I FIXED BLOCK CALIBRATION SEEK TEST: BCALSK

説明: 読み取りのためにアクセス・アームをブロック 244 から指定された位置に移動させ、再び戻そうとした際に、エラーが検出されました。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21725I MULTIPLE BLOCK WRITE TEST: BHDSK

説明: 複数のブロックに書き込みを行って、次の順次トラックをシークしようとした際に、エラーが検出されました。
 システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21727I FIXED BLOCK INCREMENTAL SEEK
TEST: BINCSK**

説明: 読み取りのためにアクセス・アームを順次移動させようとした際に、エラーが検出されました。
 システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21729I FIXED BLOCK SERVO SEEK TEST:
BSRVOSK**

説明: CE 域のブロック 244 を読み書きしようとしている際に、エラーが検出されました。
 システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。

**ICK21731I FIXED BLOCK RANDOM SEEK TEST:
BRANSK**

説明: 読み取りのためにヘッドをランダムに切り替えようとしていた際に、エラーが検出されました。
 システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21733I FIXED BLOCK READ PREFORMATTED
BLOCK TEST: BWRNFPS**

説明: CE 域のブロック 296 を読み取ろうと試みている際に、エラーが検出されました。
 システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21735I FIXED BLOCK WRITE PRESELECTED
BLOCKS TEST: BWRNFP**

説明: CE 域の複数のブロックに書き込もうと試みている際に、エラーが検出されました。
 システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21736I FIXED BLOCK WRITE/READ
PRESELECTED BLOCKS TEST: BWRRDRV**

説明: CE シリンダー中のトラック上の事前選択ブロック上で読み書きテストをしていた際に、エラーが検出されました。
 システムの処置: CE シリンダーの次のトラック上のブロックをテストすることによって、ANALYZE ドライブ・テストは処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21737I FIXED BLOCK ERROR READING ID
FIELD, TESTING TERMINATED**

説明: CE シリンダー上の ID フィールドを読み取っている際に、エラーが検出されました。
 システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21738I FIXED BLOCK DATA COMPARE FAILED:
BWRRDRV**

説明: 読み取られたデータ・レコード中のデータが、同一のレコードに対して以前に書き出されたデータと等しくないというエラーが検出されました。
 システムの処置: CE シリンダーの次のトラック上のブロックをテストすることによって、ANALYZE ドライブ・テストは処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21739I FIXED BLOCK DATA COMPARE FAILED:
BWRCE**

説明: 読み取られたデータ・レコード中のデータが、以前に書き出された同一のレコードと等しくないというエラーが検出されました。
 システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21750I SNS TEST: ERROR IN SENSE CCW

説明: ANALYZE がセンス情報を入手しようとして失敗したときに、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21752I RECAL TEST: RECALIBRATE TO CYL 0 HEAD 0

説明: ANALYZE がアクセス・アームをシリンダー 0、ヘッド 0 に再び合わせ直そうとしたときに、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21754I RHAMH TEST: READ HOME ADDRESS UNDER MOVABLE HEADS FAILED.

説明: ANALYZE が、すべての可動ヘッドの下にあるホーム・アドレスを読み取れなかったときに、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

**ICK21755I READ FOR PRESERVE OF BLOCK
xxxxxxx FAILED: NON-CORRECTABLE
DATA CHECKS PROCESSING OF BLOCK
TERMINATED**

説明: 永続データ・チェックのために、ブロック xxxxxxxx 上のユーザー・データを読み取ることができませんでした。

システムの処置: 診断情報が出力装置上に印刷されます。そのブロック上にあるユーザー・データを失わないようにするために、そのブロックの処理が打ち切られます。ICKDSF は、BLOCKS パラメーター中に指定されている次の有効なブロックを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーのあるブロックを含んでいるデータ・セットに対してエラー・リカバリー手順を開始させ、NOPRESERVE を指定してエラーのあるブロックに対するコマンドを再実行してください。

ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21756I RHAFH TEST: READ HOME ADDRESS UNDER FIXED HEADS FAILED.

説明: ANALYZE が、すべての固定ヘッドの下にあるホーム・アドレスを読み取ろうとして失敗したときに、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21758I SKINCR TEST: INCREMENTAL MOVEMENT OF ACCESS ARM FAILED.

説明: ANALYZE がアクセス・アームを順次移動させようとして失敗したときに、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21760I SKRAN TEST: RANDOM CYLINDER ACCESS FAILED.

説明: ANALYZE が、1 つのシリンダー・アドレスから別のシリンダー・アドレスへアクセス・アームをランダムに移動させようとして失敗したときに、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21762I SKMAX TEST: SEEK FROM CYLINDER 0 TO MAXIMUM CYLINDER FAILED.

説明: ANALYZE が、シリンダー 0 から最大シリンダー・アドレスへアクセス・アームを移動させようとして失敗したときに、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21764I RHA TEST: READ HOME ADDRESS ON**C.E. CYLINDER FAILED. WRITE TEST BYPASSED.**

説明: ANALYZE が CE シリンダーのホーム・アドレスを読み取ろうとして失敗したときに、エラーが検出されました。こ

のメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は続行されますが、CE シリンダー上の書き込みテストは実行されません。戻りコードは 8 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21765I UNABLE TO WRITE HOME ADDRESSES ON CCHH = X'cccc hhhh'

説明: CE シリンダーにホーム・アドレスの書き込みを試行中にエラーが起きました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報が続きます。

システムの処置: パス制御が有効であれば、ICKDSF は次のパスの処理を続行します。パス制御が有効でなければ、コマンド処理を終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その問題を解決する助けを得るために、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK21766I WRT TEST: WRITE RECORDS R0 AND R1 ON C.E. CYLINDER FAILED.

説明: ANALYZE が CE シリンダー上のレコード 0 および 1 を書き込もうとして失敗した際に、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21768I RDMT TEST: MULTI-TRACK READ ON C.E. CYLINDER FAILED

説明: ANALYZE が CE シリンダー上のレコードを読み取ろうとして失敗したときに、エラー検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21770I RMDT DATA COMPARE TEST: WRONG RECORD READ

説明: ドライブ・エラーのために誤ったレコードが読み取られたときに、エラーが検出されました。メッセージの後は障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。ただし、CSW 中で装置チェックが示されていないならばセンス情報はゼロになります。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21772I WRTPAD READ WRONG RECORD--EXP=xxxxxxx, REC=yyyyyyy

説明: ANALYZE が、書き出しカウント、キー、データ CCW を用いてレコードを書き出し、それを読み戻そうと試みたときに、エラーが検出されました。読み戻されたレコードは予期しないものでした。

xxxxxxx は、予期されていたレコードの記述です。すなわち、書き出されたデータです。

yyyyyyy は、受け取られたレコードの記述です。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21774I WRTPAD TEST: WRITE COUNT, KEY, DATA FAILED

説明: ANALYZE が、書き出しカウント、キー、データ CCW を用いてレコードを書き出そうとして失敗したときに、エラーが検出されました。このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21775I DATAVER: DATA CHECKS EXCEEDED THRESHOLD - PROCESS CONTINUING

説明: データ・チェックの数が、指定された装置に設定された限界を超えました。CKD 装置の場合、この限界は 50 です。システムの処置: INSTALL コマンド処理は打ち切られる前にモード変更を完了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: スキャン・パラメーターを指定してそのボリューム上で ANALYZE コマンドを実行してください。INSTALL および ANALYZE コマンドのコンソール出力および印刷装置出力を保管して、機器に関連した問題であるかどうかを判別するため、インストール手順にしたがって適切な処置を講じてください。

問題が機器に関連したものであると判別されるならば、IBM ハードウェアまたはソフトウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK21776I DATAVER TEST: ERROR DURING DATA VERIFICATION

説明: データ検査テストの際に、ドライブ・エラーが検出されました。

このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: コマンド処理は、8 の戻りコードで終了しません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブ・エラーについては、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK21778I CLEANUP TEST: CLEANUP OF C.E. CYLINDER TRACK 0 FAILED

説明: ANALYZE がそのテストを完了し、CE シリンダー上のトラック 1 の終結処置でエラーが発生して、エラーが検出されました。

このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK21786I RPS ERROR: READ SECTOR OR SET SECTOR FAILED

説明: ANALYZE がセクターの読み取りまたは設定を試みて失敗したときに、エラーが検出されました。

このメッセージの後に、障害のある CCW、CSW、およびセンス情報の印刷出力が続きます。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。

ICK21798I INVALID TRACK FORMAT ON CYLINDER = xxxx HEAD x

説明: レクラメーション処理の際に、トラックについての製造時点での損傷マップ中の矛盾する形式を指定したトラックが現れました。

システムの処置: 示されたトラックのレクラメーション処理は打ち切られます。次の順次トラックのレクラメーション処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK21826I INVALID TRACK FORMAT ON TRACK CCHH = X'cccc hhhh'

説明: 指定されたトラック上でデータを保存しようと試みた際に、無効なトラック形式条件が検出されました。これは、通常データがトラック容量を超えてトラックに書き込まれたことを示しています。これは一般にユーザー・エラーです。

システムの処置: 指定されたトラック上のレコードは失われず、そのトラックは欠陥があるものとして印付けられません。

指定されたトラックは表面検査されません。ICKDSF は次のトラックを続行します。戻りコードは 8 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 指定されたトラックの入ったデータ・セットを判別してください。無効なトラック条件がどのように起きたかを判別するために、指定されたトラック上にいつ、どこに、どのようにしてデータが書き込まれたかを調べてください。

インストール手順を用いて、そのトラック上のデータのリカバリーを開始してください。NOPRESERVE を指定した、障害のあるトラックを検査してください。

ICK21831I NO PATHS HAVE BEEN WRITE ALLOWED

説明: 装置へのパスに対する書き出しアクセスを許可するために CONTROL コマンドを実行している際に、すべてのパスに対する書き出し許可が失敗に終わりました。

システムの処置: 戻りコードは 8 に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ストレージ管理を受けることがわかっており、書き込み保護されている装置に対してはジョブを再実行してください。

この条件は、要求されたパスが長い間保管されすぎていて、オペレーターが再試行を打ち切るように求めたときにも起こり得ます。この条件が存在するときには、そのパスが確実に解放され、ジョブが再実行できるように処置を取らなければなりません。

ICK21832I FENCE STATUS INDETERMINATE

説明: 分離状況をリセットするための CONTROL コマンド (CLEARFENCE パラメーターが指定された) が、失敗に終わりました。装置分離状況は、この時点では判別できません。

システムの処置: 戻りコードは 8 に設定され、処理は続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: この条件は、要求されたパスが長い間保管されすぎていて、オペレーターが再試行を打ち切るように求めたときにも起こり得ます。この条件が存在するときには、そのパスが確実に解放され、ジョブが再実行できるように処置を取らなければなりません。

この装置に関して分離状況が存在していることが確定されれば、その装置の分離を取り除くために他の方法を用いる必要があります。IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK21833I DEVICE ccuu FENCE STATUS STILL
EXISTS ON -- CLUSTER x STORAGE
PATH y**

説明: 分離状況をリセットするために、CONTROL コマンド (CLEARFENCE パラメーターが指定されている) が、CCW を首尾良く出しました。しかし、許容される時間間隔が過ぎても、装置分離状況は依然としてストレージ・パス上に存在しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。

**ICK21834I PATH xxxx,y RESERVED-REPLY U TO
RETRY WRITE ALLOW, T TO IGNORE**

説明: このメッセージは、CONTROL コマンドが何度再試行しても予約されたままであるパスに遭遇したときに、システム・オペレーターに対して出されます。

xxxx は装置アドレスです。

y パス ID (CHPID) です。

次のように応答してください。

- 応答が U であれば、その装置に対して書き込み許可が再発行されます。
- 応答が T であれば、このパスは無視され、次のパスを続行します。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: U または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK21835I DEVICE ccuu RESERVED-REPLY U TO
RETRY CLEAR FENCE, ELSE T**

説明: このメッセージは、CONTROL コマンド (CLEARFENCE パラメーターが指定されている) 処理が続いている間中、装置またはパスが保存されたままであったときに、出されます。

次のように応答してください。

- ユーザーが U と応答したときには、CONTROL コマンドが再発行されます。
- ユーザーが T と応答したときは、このパスは無視され、CONTROL コマンド処理は次のパスを続行します。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: U または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK21836I IPL TEXT EXISTS ON valid. REPLY U TO
OVERLAY, ELSE T.**

説明: すでに IPL テキストを含んでいるボリューム上の IPL テキストを置き換えようとする試みがなされました。

次のように応答してください。

- 応答が U であれば、新しい IPL テキストがボリューム上に置かれます。
- 応答が T であれば、そのコマンドは打ち切られます。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: U または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK21837I SP FENCE STATUS STILL EXISTS ON
CLUSTER x STORAGE PATH y
THROUGH CHANNEL-SWITCH z**

説明: 分離状況をリセットするために、CONTROL コマンド (CLEARFENCE パラメーターが指定されている) が、CCW を首尾良く出しました。しかし、許容されている時間間隔が過ぎても、SP 分離状況は指定されたチャンネル・スイッチを通るストレージ・パス上に依然として存在しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。

**ICK21850I EXTENDED CKD FUNCTIONS CANNOT
BE ACTIVATED - MINIMAL INIT
FORCED**

説明: その装置はオペレーティング・システムに対してオンラインになったことがなく、オペレーティング・システム・キャッシュ論理は活動化されていません。ICKDSF 表面検査機能を実行することはできません。

システムの処置: 最小初期設定が要求されたかのようにして、処理は続行されます。これによって、ボリューム上にボリューム・ラベルおよび VTOC が書き込まれます。

オペレーターの応答: 装置をオンラインに変え、それからオフラインに変えるか、またはオンラインに変え、ジョブがオンラインで実行できるようにしなければなりません (これによって、オペレーティング・システム・キャッシュ論理を活動化させることができます)。

システム・プログラマーの応答: 現行の状況でその装置をオンラインに変えられなければ (すなわちボリューム・ラベルが、すでにオンラインになっているボリューム・ラベルと同一であれば)、INIT または REFORMAT コマンドを実行してそのボリューム・ラベルを変更することができます。

その装置がオンラインに変えられた後 (そして必要ならば再びオフラインにされた後) で、ジョブを再実行することができます。

**ICK22130D DATA CANNOT BE RECOVERED FOR
TRACK X'cccc hhhh' REPLY C TO ERASE
AND CONTINUE, T TO TERMINATE, I
TO IGNORE**

説明: 以前の INSPECT コマンドの処理は、PRESERVE バックアップ処理中に完了しませんでした。

注: データをバックアップ位置からリカバリーすることはできません。

次のように応答してください。

- C が指定されると、バックアップ位置でデータが消去され、指定された範囲の初めの位置から処理が開始されます。バックアップ位置からデータをリカバリーする必要がない場合には、これを指定する必要があります。

- I が指定されると、リカバリー・データが無視され、処理が現在の呼び出しで続行されます。この応答は、HOLDIT が指定された場合にのみ許可されることに注意してください。リカバリー・データはそのまま残ります。

もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることになります。

- T が指定されると、処理が打ち切られます。リカバリー・データはそのまま残ります。ユーザーがリカバリー処理を再試行することを、またはデータの消去を許可する前に状況を調べることを望んでいる場合には、これを指定する必要があります。

もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることになります。

システムの処置: システムは応答を待ちます。(INSPECT コマンドの現行の呼び出し時に HOLDIT が指定された場合には、無視をするオプションが用意されています)。

オペレーターの応答: C、I または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK22131I ALTERNATE TRACK CANNOT BE ASSIGNED FOR THE RECOVERY TRACK

説明: バックアップ・リカバリーが処理を行っているトラックに欠陥がありますが、利用可能な代替トラックがありません。システムの処置: 代替トラックが割り当てられていないで、リカバリー・トラックにバックアップ・リカバリー・データを書き込もうとする試みがなされました。

その手順が失敗すると、後続メッセージがシステム処置を示します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 将来の使用に利用可能な代替トラックを作るために、割り当てられた代替トラックを持っているトラックに対して INSPECT RECLAIM を実行するようにしてください。

ICK22158D DATA CANNOT BE RECOVERED FOR BLOCK xxxxxxxx REPLY C TO ERASE AND CONTINUE, I TO IGNORE, T TO TERMINATE.

説明: 以前に呼び出された INSPECT コマンドの実行は、PRESERVE バックアップ処理中に完了しませんでした。

注: データをバックアップ位置からリカバリーすることはできません。

次のように応答してください。

- C が指定されると、バックアップ位置でデータが消去され、指定された範囲の初めの位置から処理が開始されます。バックアップ位置からデータをリカバリーする必要がない場合には、これを指定する必要があります。
- I が指定されると、リカバリー・データが無視され、処理が現在の呼び出しで続行されます。この応答は、HOLDIT が指定された場合にのみ許可されることに注意してください。リカバリー・データはそのまま残ります。

もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることになります。

- T が指定されると、処理が打ち切られます。リカバリー・データはそのまま残ります。ユーザーがリカバリー処理を再試行することを、またはデータの消去を許可する前に状況を調べることを望んでいる場合には、これを指定する必要があります。

もう一度 INSPECT コマンドを呼び出すと、リカバリー・データの処理を再度試みることになります。

システムの処置: このメッセージに回答するよう、オペレーターに対するプロンプトが出されます (INSPECT コマンドの現行呼び出し時に HOLDIT が指定された場合には、無視をするオプションが用意されています)。

オペレーターの応答: C、I または T と応答してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK22176I DATA CHECK THRESHOLD EXCEEDED ON ONE OR MORE HEADS

説明: 1 つまたは複数のヘッド上のデータ・エラー率が、その装置に対するデータ・チェック限界値基準を超えていることを、ANALYZE SCAN 機能が見いだしました。

システムの処置: どのヘッド (1 つまたは複数) がデータ・チェック・エラー率限界値を超えているかを示すために、'DATA CHK' 欄に 'T' と記した、可動ヘッド・エラー・テーブルが ICKDSF 出力装置上に印刷されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 可動ヘッド・エラー・テーブルおよび先行メッセージは、その問題を識別する助けになります。ANALYZE ランからの印刷装置出力を保管し、機器に関連した問題であると思われる場合は、インストール手順に従って、適切な処置を講じてください。問題を判別できなければ、IBM サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK22201I TRACK X'cccc hhh' WAS NOT INSPECTED DUE TO ENQUEUE FAILURE ON -- xxxxxx

説明: トラック X'cccc hhh' についてのデータ・セット・エンキュー (ENQ) が失敗に終わりました。

xxxxxx はデータ・セット名です。

TOLERATE(ENQFAIL) は指定されませんでした。そのトラックは INSPECT されませんでした。

システムの処置: INSPECT は、次のトラックを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのデータ・セットが利用可能になったら、このトラックに対してジョブを再実行してください。

そのデータ・セットが排他的制御のために決して利用可能にならず、またそのトラックを検査しなければならない場合は、TOLERATE(ENQFAIL) を指定してこのトラックに関してそのジョブを再実行することができます。

ICK22205I TRACK X'cccc hhhh' WAS NOT INSPECTED -- VSAM DATA SET CAN NOT BE ENQUEUED

説明: 指定されたトラックは VSAM データ・セットの一部です。ICKDSF は、VSAM データ・セットに対するデータ・セット・エンキューをサポートしません。TOLERATE (ENQFAIL) が指定または想定されなかったため、そのトラックは検査されませんでした。

システムの処置: ICKDSF は次のトラックを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 取り付けられている装置をオフラインにするか、または TOLERATE(ENQFAIL) を指定することによって、このトラックに対する INSPECT を行ってください。

ICK22206I TRACK X'cccc hhhh' WAS NOT PROCESSED DUE TO ENQUEUE FAILURE ON - xxxxxx

説明: トラック X'cccc hhhh' についてのデータ・セット・エンキュー (ENQ) が失敗に終わりました。

xxxxxx はデータ・セット名です。

TOLERATE(ENQFAIL) は指定されませんでした。そのトラックは処理されませんでした。

システムの処置: コマンド処理は次のトラックで続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのデータ・セットが利用可能になったら、このトラックに対してジョブを再実行してください。

そのデータ・セットが排他的制御のために決して利用可能にならず、またそのトラックを処理しなければならない場合は、TOLERATE(ENQFAIL) を指定して、このトラックに関するジョブを再実行してください。

ICK22207I TRACK X'cccc hhhh' WAS NOT PROCESSED - VSAM DATA SET CAN BE ENQUEUED

説明: 指定されたトラックは VSAM データ・セットの一部です。ICKDSF は、VSAM データ・セットに対するデータ・セット・エンキューをサポートしません。TOLERATE (ENQFAIL) が指定されなかったか、想定されなかったために、そのトラックは処理されませんでした。

システムの処置: コマンド処理は次のトラックで続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 取り付けられている装置をオフラインにするか、または TOLERATE(ENQFAIL) を指定することによって、このトラックに対するジョブを実行してください。

ICK24000I UNABLE TO PRESERVE DATA FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: 現行 ICKDSF 処理は、指定されたトラックでメディア保守アクションを実施する前に、一時的代替位置を割り当てることができません。

システムの処置: エラーの原因は印刷され、コマンド処理は次のトラックから続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 出された他のエラー・メッセージについては、「プログラマー応答」を参照してください。

ICK24001I SUBSYSTEM FUNCTION HAS BEEN CANCELLED

説明: 現行 ICKDSF 処理は、直前に出された PSF コマンドがキャンセルされたことを判別しました。このキャンセルは、もし最大実行時間を超えたのであれば ICKDSF により、あるいは ICKDSF 以外の処理によりなされます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 付いているエラー・メッセージを参照して、取り消されるサブシステムの機能の原因を判別してください。必要があれば、コマンドを再実行してください。

ICK24002I UNABLE TO OBTAIN THE TRACK STATUS FOR TRACK X'cccc hhhh'

説明: 現行の ICKDSF 処理が、指定されたトラックの現在のトラックの状況を判別できません。これは、入出力エラーかサブシステムの機能の障害によるものです。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK24003I UNABLE TO READ PRIMARY TRACK X'cccc hhhh' AFTER DATA IS RESTORED

説明: メディア保守機能のあとで、直前に割り当てられた一時代替位置から主トラックにデータをリストアしようとした。主トラックの読み取りの失敗でリストア機能は失敗しました。

システムの処置: 指定された主トラックは、代替位置に永続的に割り当てられています。コマンド処理は次のトラックで続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK24004I PRIMARY TRACK READ FAILURE IS DETECTED

説明: メディア保守 PRESERVE 機能中に、主トラックのデータが読み取れませんでした。これは、入出力エラーかサブシステムの機能の失敗によるものです。

システムの処置: 関連したエラー情報は印刷され、この機能は次のトラックで続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: NOPRESERVE オプションでジョブを再度実行してください。必要ならば、IBM 技術員に連絡してください。

ICK24005I ALTERNATE LOCATION READ FAILURE IS DETECTED

説明: メディア保守 PRESERVE 機能中に、代替位置のデータが読み取れませんでした。これは、サブシステムの機能の失敗によるものです。

システムの処置: 関連したエラー情報は印刷され、この機能は次のトラックで継続します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: NOPRESERVE オプションでジョブを再度実行してください。必要ならば、IBM 技術員に連絡してください。

ICK24050I DEVICE SPECIFIED IS NOT THE PRIMARY OF A PPRC PAIR

説明: その装置は PPRC ペアの 1 次ボリュームではありません。PPRC QUERY PATHS は、PPRC に、アプリケーション・サイト・ストレージ管理 (1 次) に関連するすべてのパスを表示するように指示します。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PATHS パラメーターなしでコマンドを出し直すか、またはコマンドを 1 次ボリュームに対して出し直してください。

ICK24051I DEVICE SPECIFIED IS A DUAL COPY VOLUME

説明: その装置は二重コピー・ボリュームです。PPRC または片面印刷ボリュームではありません。PPRC QUERY コマンドは、二重コピー・ボリュームについてのボリュームまたはパス情報を表示しません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRC ペアを確立する必要がある場合には、PPRCOPY ESTPAIR コマンドを出す前に、二重コピー・ペアを終了する必要があります。

ICK24052I ESTPAIR COMPLETED WITH ERRORS

説明: MSGREQ パラメーターを指定した PPRCOPY ESTPAIR コマンドが正常に完了しましたが、訂正可能なエラーが検出されました。コピーは完了し、ボリューム・ペアは二重コピー状態にあります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 出されたコンソール・メッセージを探してください。戻されたセンス・データに関する情報については、IBM 3990 Storage Control Reference for Model 6 を参照してください。ハードウェア・エラー条件があればサービス技術員に知らせてください。

ICK30003I FUNCTION TERMINATED. CONDITION CODE IS nn hh:mm:ss mm/dd/yy

説明: 実際のコマンドか打ち切りエラー条件に遭遇しました。値 *nn* は、そのコマンドの処理中に生成された最終条件コード (LASTCC) です。このメッセージの直前に印刷されたメッセー

ジは、そのエラーの性質を示しています。

LASTCC 値は、そのコマンドが印刷されている間に印刷されたメッセージの中で見いだされる最も高位の条件コードであることに注意してください。

hh:mm:ss および *mm/dd/yy* は、そのメッセージの出された時間、分、秒、および月、日、年を、それぞれ表しています。

システムの処置: ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。LASTCC は *nn* に設定されます。MAXCC は、*nn* が MAXCC の現行値よりも大きな値である場合、*nn* に設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を訂正し、コマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30004I FUNCTION TERMINATED. INSUFFICIENT MAIN STORAGE

説明: 割り振られた仮想記憶が小さすぎます。

システムの処置: ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 仮想記憶の割り振りサイズを大きくし、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK30008I *function* NOT SUPPORTED IN THIS ENVIRONMENT

説明: 現在使用されている ICKDSF のバージョンは、指定された機能をサポートしていません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ユーザーの手引きのコマンドの説明を参照して、実行している ICKDSF バージョンでどの機能がサポートされるかを調べてください。適切なパラメーターを指定してジョブを再実行するか、または要求された機能をサポートする ICKDSF のバージョンで実行するようにしてください。

ICK30009I CPU CLOCK IS NOT SET OR NOT OPERATIONAL

説明: 処理装置時刻機構が設定されていないか、または操作不能です。

システムの処置: 処理は、ICKDSF の戻りコード 12 で打ち切られます。

オペレーターの応答: 処理装置時刻機構を設定してください。

システム・プログラマーの応答: 処理装置時刻機構を設定してください。

ICK30091I ccuu NED INFORMATION DOES NOT MATCH FOR ONE OR MORE PATHS: NED=ttttt.mmm.mfg.lc.ssssssssssss, CHPID=xx

説明: 構成エラーが検出されました。このホストへの多重経路が存在しますが、装置の NED 情報が各パスで一致しません。

NED 情報は、CHPID ごとに印刷されます。示される NED 情報の形式は次のとおりです。

ttttt = 装置タイプ
 mmm = モデル
 mfg = 製造元
 lc = 製造場所
 sssssssssss = シーケンス番号

注: 上記のフィールドの情報は、装置から戻されるときに印刷されます。ブランクが戻される場合は、ブランクが印刷されます。印刷不能文字は、「.」として印刷される可能性があります。この例は、次のとおりです。

- 装置タイプ・フィールドである ttttt は、6 桁のフィールドです。情報は、装置から戻されるとメッセージに印刷されます。例えば、最初の 2 桁がブランクとして装置によって戻される場合は、メッセージにブランクとして印刷されます。そのため、装置タイプ・フィールドに先行ブランクがあるように表示されます。
- 一部の装置 (例えば、2105) は、モデル・フィールドでブランクを戻すため、メッセージのモデル・フィールドはブランクになります。

システムの処置: ICKDSF は終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

システム・プログラマーの応答: 1 つ以上の経路が誤ってケーブル接続されている可能性があります。各パスの情報を調べて、一致していないパスを判別し、問題を訂正するために必要な処置を取ってください。

ICK30101I NO PATHS AVAILABLE TO EXECUTE DRIVE TEST

説明: 以下の条件の 1 つ以上が検出されたので、ICKDSF は、指定されたパス・パラメーターに合致する利用可能なパスを見つけることができませんでした。

- ユーザー指定パスが ICKDSF によって見いだされたパスのいずれとも合致しませんでした。合致していないパスに対しては、ICK21424I メッセージがそれ以前に出されます。ICKDSF によって見いだされたパスは、PATH STATUS テーブルに示されます。有効なパスを指定するためにパラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。
- ユーザー指定パスが操作不能であることが見いだされました。PATH STATUS テーブルに示されます。そのパスが操作不能条件にある原因を判別してください。
- ユーザー指定パスが、そのパスのテストをそれ以上続けることを妨げるエラーに遭遇しました。そのエラーの原因を判別するには、以前のエラー・メッセージ (1 つまたは複数) を調べなければなりません。疑いのある装置の問題を処理するため、インストール先で決められている手順にそった処置をとってください。

このメッセージはパラメーター中に指定されているパスにのみ関係しています。利用可能だが指定されていないパスについては、考慮されていません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 説明を参照してください。

ICK30111I DEVICE SPECIFIED IS THE SECONDARY OF A DUPLEX OR PPRC PAIR

説明: 指定された装置は、二重または PPRC ペアの 2 次装置アドレスです。基本装置アドレスを指定しなければなりません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 基本装置アドレスを指定して、ジョブを再サブミットしてください。

ICK30112I DEVICE SPECIFIED IS IN DUPLEX PENDING STATE

説明: 二重ペア装置は一時状態にあります。サブシステムは、2 つの装置を同期させるために処理を行っています。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 複写が完了したら、ジョブを再サブミットしてください。

ICK30113I DEVICE SPECIFIED IS NOT IN SIMPLEX STATE

説明: 指定された装置が二重ペアであるため、ICKDSF 機能を実行できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 指定された機能をサブミットするには、その装置を片面印刷状態にし、ジョブを再サブミットしてください。(限定 ICKDSF 機能は二重コピー・モードにある装置をサポートすることに注意してください。)

ICK30114I PINNED DATA EXISTS, MODE SWITCHING IS NOT ALLOWED

説明: 3390 モードから 3380 トラック互換モードへの、またはその逆の IBM 3390 のモード・スイッチが、コントロール・ユニットの固定データのため実行できません。(固定データについては、「IBM 3990 Storage Control Reference」を参照してください。)

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: モード切り替えをサブミットするには、固定データを廃棄し、ジョブを再度サブミットしてください。

ICK30115I DEVICE SPECIFIED IS IN PPRC PENDING STATE

説明: その装置は PPRC 保留状態になっています。PPRC ペアを確立するためのコピー処理が進行中です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コピーが完了したとき、コマンドを出し直してください。

**ICK30116I DEVICE SPECIFIED IS THE PRIMARY OF
A PPRC PAIR**

説明: PPRCOPY RECOVER コマンドは、PPRC ペアの 2 次装置でのみ有効です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置番号が 2 次ボリュームであるかどうかを確かめ、PPRCOPY RECOVER コマンドを出し直してください。

ICK30130I ccuu DEVICE NOT OPERATIONAL

説明: 指定された装置アドレスが操作可能になっていません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置へのパスが使用可能かどうかを検査してください。出力を保管し、必要があれば IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK30200I TOO MANY POSITIONAL PARAMETERS
AFTER xxxx**

説明: パラメーター・リストに指定された定位置パラメーターが多すぎます。特に xxxx という文字に続くパラメーターが多すぎます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドから余分のパラメーターを除去し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30201I CONSTANT xxxx EXCEEDS LENGTH
LIMIT**

説明: 定数 xxxx が、コマンド構文法によって許されているよりも多くの文字を含んでいます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その定数を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30202I ABOVE TEXT BYPASSED UNTIL NEXT
COMMAND. CONDITION CODE IS 12**

説明: 構文エラーが発生しました。コマンドの残りの部分は無視されます。

このメッセージの直前に印刷されたメッセージは、そのエラーの性質を示しています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 構文エラーを訂正し、そのコマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30203I ITEM xxxx DOES NOT ADHERE TO
RESTRICTIONS**

説明: 示されたパラメーターが、要求されている命名規則にしたがっていません。例えば、dname のつづりが誤っています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーター・エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30205I DELIMITER xxxx IS NOT PROPERLY
PRECEDED BY A CONSTANT OR
KEYWORD**

説明: サブパラメーター・リストまたはデータが予期されている場所に、区切り文字が見いだされました。

区切り文字が正しく使用されていません。括弧が不適切に置かれたか、または定位置パラメーターが欠落している可能性があります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 構文エラーを訂正し、そのコマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30207I REMAINDER OF COMMAND INPUT
STREAM IGNORED**

説明: コマンド・ストリームをさらにスキャンすることを禁止するエラーが発生しました。このメッセージの直前に印刷されたメッセージは、そのエラーの性質を示しています。

注: この状況に遭遇したときには、条件コード (MAXCC) は常に 16 に設定されます。

システムの処置: ICKDSF 処理が打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーを訂正して、コマンドを再度出してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30208I LEFT PARENTHESIS MISSING
FOLLOWING KEYWORD xxxx**

説明: キーワード xxxx の後に、左括弧が続いていません。

左括弧は、必要なサブパラメーター・リストやそのコマンド・キーワードに関連した値の先頭に置く必要があります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: キーワードの要件を調べ、構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30209I RIGHT PARENTHESIS MISSING AFTER
 xxxx**

説明: 予期される場所に右括弧が見いだされなかったか、またはサブパラメーター・リストが正しく区切られていませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30210I INVALID PARENTHESES FOR
 SPECIFYING REPEATED SUBPARAMETER
 LIST**

説明: 繰り返しサブパラメーター・リストを区切るのに用いられている括弧が、欠落しているか、または合致していません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK30211I KEYWORD xxxx IS IMPROPER

説明: コマンドの中に、つづりが誤っているか、不適切に指定されたか、または適用不能なキーワードが現れました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30212I INVALID LEFT PARENTHESIS AFTER
 xxxx**

説明: 定位置パラメーター xxxx を区切るものと思われる左括弧が見いだされましたが、定位置パラメーターは定数でも、定数リストでもありません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK30213I KEYWORD xxxx APPEARS TOO OFTEN

説明: コマンド中に xxxx が現れる回数が多すぎます。パラメーター・リストの指定が正しくないことが考えられます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのキーワードを除去することによってコマンドを訂正し、コマンドを再発行してください。

い。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30214I HEX OR BINARY CONSTANT SPECIFIED
 IMPROPERLY**

説明: 16 進数または 2 進数の定数が正しい形式で指定されていません。それぞれ X'n' または Bn です。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30216I ABOVE TEXT BYPASSED UNTIL NEXT
 COMMAND**

説明: このコマンドの構文検査中にエラーが発生し、構文検査が打ち切られました。このメッセージの直前に印刷されたメッセージは、そのエラーの性質を示しています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK30217I PASSWORD IMPROPER AFTER xxxx

説明: パスワードが許されていないところで、スラッシュ (/) によって示されるパスワードが現れました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのパスワードをパラメーターから除去し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30218I TOO MANY REPEATED SUBPARAMETER
 LISTS APPEAR**

説明: コマンド中に繰り返し現れるサブパラメーターの数が多すぎます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を調べ、エラーを訂正し、それからコマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK30219I VERB NAME xxxx UNKNOWN

説明: verb xxxx は、コマンドと認識されません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSFは、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいコマンド名を指定して、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30220I IMPROPER NUMERIC DIGIT FOUND IN
xxxx**

説明: 定数 xxxx 中に無効な文字があります。

- 10 進数は記号 0 から 9 までのみで指定することができます。
- 16 進数は記号 0 から 9 までと、A から F までのみで指定することができます。
- 2 進数は記号 0 と 1 のみで指定することができます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドの構文エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30221I CONSTANT xxxx NOT WITHIN VALUE
RANGE**

説明: 定数 xxxx の値は、関連したパラメーターに対して許されている値の範囲外にあります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文に許されている値を調べ、エラーを訂正し、それからコマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30223I TOO MANY CONSTANTS IN LIST
BEGINNING AT xxxx**

説明: コマンドで指定されている定数が、文字 xxxx 以降に多すぎます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30225I REQUIRED (SUB)PARAMETER OF xxxx IS
MISSING**

説明: xxxx によって識別される必須パラメーターまたはサブパラメーターが、欠落しています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 欠落しているパラメーターを追加し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30226I INCONSISTENT PARAMETERS
INVOLVING xxxx**

説明: 同時には使用できないと定義されているパラメーターが含まれているコマンドがあります (一方のパラメーターが指定されるならば、他のパラメーターは許されません)。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF

は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK30227I VOLCOUNT MISMATCH WITH NUMBER
OF INDIVIDUAL OR RANGES OF
VOLUMES SPECIFIED WITH IVOLLIST
OR RVOLLIST KEYWORD**

説明: VOLCOUNT キーワードで指定された値が、IVOLLIST または RVOLLIST キーワードで指定された項目数と一致しません。IVOLLIST を指定する場合は、個々の項目数が VOLCOUNT で示されている数と一致する必要があります。RVOLLIST を使用する場合は、VOLCOUNT に、指定された範囲数が含まれている必要があります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: VOLCOUNT 値が該当するリストの項目数と一致することを確認して、ジョブを再サブミットしてください。

**ICK30234I TOO FEW RIGHT PARENTHESES FOUND
AT END OF COMMAND**

説明: サブパラメーター・リストを適切に閉じるのに、コマンドの末尾の右小括弧が少なすぎます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK30300I ERROR OPENING {dsname|ddname}

説明: 示されたデータ・セットまたはボリュームをオープンしようと試みた際に、エラーが発生しました。エラーの原因については、関連したメッセージを参照してください。

システムの処置: 関連したメッセージを参照してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 関連したメッセージを参照してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30301I ERROR CLOSING dsname

説明: データ・セットをクローズしようと試みた際に、エラーが発生しました。エラーの原因については、関連したメッセージを参照してください。

システムの処置: 関連したメッセージを参照してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 関連したメッセージを参照してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30302I ACTION ERROR ON dsname

説明: このメッセージは、エラーが発生したときに処理されていたデータ・セットの名前を識別します。エラーの説明については、関連したメッセージを参照してください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30304I ** JCL STATEMENT MISSING

説明: DDNAME パラメーターで識別された DD ステートメントが欠落しています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: DD ステートメントがコマンドで指定された通りジョブ・ストリームにあることを確認してください。正しく DD 名が指定されたかどうかを調べてください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK30309I **RECORD xxxxx NOT WRITTEN.
LENGTH INVALID**

説明: 以下のいずれかの理由で、レコード xxxxx が書き出されませんでした。

- レコード長が出力データ・セットの LRECL よりも大きかった。
- レコード長が出力データ・セットの LRECL よりも小さく、RECFM が F (固定長) であった。

注: xxxxx は、16 進形式のレコードの最初の 5 バイトです。システムの処置: ICKDSF は、このようなエラーが 4 回起きるまで処理を続行します。4 回エラーが起きた後、コマンドは実行を続行しますが、出力データ・セットにそれ以上のレコードは書き込まれません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しい LRECL 値を指定してデータ・セットを再定義してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30312I ** SYSTEM UNABLE TO OPEN

説明: OPEN SVC の後 DCBOFLG が ON に設定されていないか (MVS)、OPEN システム・マクロの失敗によるものです (VSE)。エラーの原因については、関連したメッセージを参照してください。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30313I **synad.text

説明: 入出力エラーが起きました。MVS データ・マネージメント・サービスの SYNADAF エラー・メッセージの内容が書き込まれました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: SYNADAF メッセージの説明を調べてください。エラーを訂正して、コマンドを再度出してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK30315I **RECORD SIZE GREATER THAN 32767
NOT SUPPORTED**

説明: システムは、サイズが 32,767 バイトより大きい論理レコードを処理できません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: DD ステートメントを変更して LRECL の長さを 32,767 バイトより小さく指定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30317I ** PERMANENT I/O ERROR

説明: 入出力操作を実行中に、エラーが検出されました。データ・セット名は、関連したメッセージにあります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: MVS JCL ステートメントを検査して、データ・セットが正しく定義されたことを確認してください。

データ・セットが正しく定義されていれば、ハードウェア・エラーです。データ・セットは、他の入出力装置で再作成しなければなりません。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30318I ** INVALID DATA SET SPECIFICATION

説明: DLBL ステートメント中のデータ・セットの指定が無効であるために、入出力アダプターのオープン/クローズ・ルーチンは、そのデータ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: 特定のデータ・セットに対する処理が打ち切られます。特定のデータ・セットをオープンすることが、そのコマンドによって実行されている主な機能にとって重要ではない場合は、コマンド処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: DLBL ステートメントを調べて、ユーザー・エラーがあるかどうかを判断してください。エラーがなければ、ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK30320I ** INVALID DEVICE TYPE

説明: データ・セットが順次処理をサポートしていない装置上に存在しているので、入出力アダプターのオープン/クローズ・ルーチンは、そのデータ・セットをオープンできませんでした。

システムの処置: 特定のデータ・セットに対する処理が打ち切られます。特定のデータ・セットをオープンすることが、そのコマンドによって実行されている主な機能にとって重要ではない場合は、コマンド処理が続行されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ユーザー・エラーであることが考えられます。そのデータ・セットは、順次処理 (SAM アクセス方式) がサポートされている有効な装置上に存在していません。エラーを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

エラーが繰り返し起きるようであれば、ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK30321I ** OPEN/CLOSE ABEND EXIT TAKEN

説明: OPEN/CLOSE システム・サービス SVC は、データ・セットをオープンまたはクローズする際に、エラーを検出しました。ABEND メッセージが JOBJCL データ・セットに書き出されました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ABEND メッセージを調べて、エラーを訂正し、それからコマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30330I DATA SET xxxxxxxx IS TOO SHORT FOR THE SPECIFIED FUNCTION

説明: 指定されたデータ・セットは、CCW チェーンに指定されたデータ・フィールドを提供するのに十分な大きさがありません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを再度割り当て、ジョブをもう一度サブミットしてください。

ICK30332I UNABLE TO PROCESS DATA SET RC=xx

説明: CP マクロ FSSTATE が、RC=xx で出されました。

コード 意味

20	ファイル ID の文字が無効
24	ファイル・モードが無効
28	ファイルが見つからない
36	ディスクにアクセスできない
80	OS データ・セットをアクセスしての入出力エラー
81	データ・セットが OS 読み取りパスワードで保護されている
82	OS データ・セット編成が BSAM、QSAM、または BPAM でない

83 OS データ・セットが、16 を超えるエクステントを持っている

システムの処置: コマンドは、条件コード 12 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーを修正し、ジョブを再実行してください。

ICK30334I {record length|format} OF DATA SET fn ft fm IS INCORRECT

説明: レコード長は = 80 で、レコード形式は固定ブロックでなければなりません。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを訂正して、ジョブを再度実行してください。

ICK30335I DATA SET ON READ ONLY DISK

説明: 指定されたファイルは、読み取り専用ディスクにあります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを訂正して、ジョブを再度実行してください。

ICK30336I TIC ADDRESS OUTSIDE CCW AREA OF FILE

説明: ccw 区域の外のアドレスを持った TIC ccw が検出されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを訂正して、ジョブを再度実行してください。

ICK30337I CCW ENDING INDICATOR NOT FOUND

説明: X'FFFFFFFFFFFFFFFF' のダブルワードが、ファイルに見つかりませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを訂正して、ジョブを再度実行してください。

ICK30500I MAIN STORAGE NOT AVAILABLE, COMMAND TERMINATED

説明: 制御ブロックおよび作業域用のストレージの動的な獲得に失敗しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: 主ストレージ・サイズを大きくしてから、ジョブを再サブミットしてください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30699I I/O RETRY LIMIT EXCEEDED

説明: 入出力を行おうとしましたが、再試行限度以内に正常に完了することができませんでした。

システムの処置: 代替りカバリーが可能であれば、コマンドが正常実行される可能性もありますが、そうでない場合、コマンドは失敗します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を判別し、失敗の原因に対処できる場合は、ジョブを再実行してください。

ICK30700I EQUIPMENT CHECK

システムの処置: パス制御が使用されていないならば、ドライブ・テスト処理は終了します。パス制御が使用されている場合、現行パス上でドライブ・テスト処理は打ち切れ、ICKDSF は次に利用可能なパスを続行します。

ICK30701I EQUIPMENT CHECK ON ccuu

説明: 装置チェックの入出力エラーが発生しました。

システムの処置: ICK00701I メッセージ EQUIPMENT CHECK RETRY SUCCESSFUL を受け取らなければ、コマンドの処理は打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 入出力装置チェックの原因を判別するために、障害のある CCW、CSW およびセンス情報を調べてください。

センス情報を解釈するため、またはエラーの原因を訂正するため (あるいはその両方) に、IBM ハードウェア・サービス技術員に援助を依頼してください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK30702I OPERATOR DID NOT READY DEVICE

説明: 操作を作動可能にするよう ICK004D メッセージによって指示されたときに、オペレーターがコマンドの処理を打ち切るように要求しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30703I DEVICE ALREADY IN USE

説明: UNITADDRESS または DDNAME パラメーターによって、ICKDSF のコマンド中で参照されている装置は、別のジョブですでに使用されています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: どのジョブが装置を使用しているかを判別し、そのジョブが完了した後で、ユーザーのジョブを再サブミットしてください。

ICK30704I INVALID DEVICE-TYPE FOR FUNCTION

説明: 指定された装置タイプが、出されたコマンドに対して無効です。例えば、大容量ストレージ・システム・ステージング・バックが 2314 装置になることはありません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドを再発行し、適切な装置を指定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30705I OPERATOR DID NOT SET DEVICE TO WRITE-MODE

説明: 入出力操作の際に、その装置は読み取り専用モードに設定されていることが見いだされました。

オペレーターは ICK014D メッセージへの応答として、その装置を書き込みモードへ設定せずに、そのコマンドを打ち切ることを選択しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その装置が書き込みモードにあることを確認してから、コマンドを再サブミットしてください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30706I DEVICETYPE PARAMETER MISSING OR ERRONEOUS

説明: このメッセージは、独立型環境においてのみ示されます。

DEVICETYPE パラメーターは、有効な装置タイプのいずれかを指定しなければなりません。有効な装置タイプについては、「ICKDSF コマンドでサポートされる FBA 装置」テーブルを参照してください。「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」のトピック『Introduction to ICKDSF』に表が示されています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーを訂正して、コマンドを再度出してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK30707I MIMIC MINI/EMU SPECIFICATION ERRONEOUS

説明: VM 環境用の MVS ミニディスクに対して、または固定ブロック体系装置上でエミュレートされたカウント・キー・データ装置に対して指定されたシリンダー数が、そのボリューム上に存在している基本シリンダーの合計数よりも大きくなっています。

システムの処置: コマンドは打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: MINI または EMU 指定中で無効なシリンダー数を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**ICK30708I DEVICETYPE PARAMETER REQUIRED
WITH MIMIC MINI/EMU
SPECIFICATION.**

説明: MIMIC MINI パラメーターを指定するときには、DEVICETYPE パラメーターも指定しなければなりません。
システムの処置: コマンドは打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**ICK30709I ACCESS DENIED TO SHARED DEVICE
ccuu BY OPERATOR**

説明: メッセージ ICK020D に対するオペレーター応答が T であれば、このメッセージはコマンドが終了する前に出されます。
システムの処置: コマンド処理は打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: そのボリュームがアクセス可能になった場合は、ジョブを再サブミットしてください。

**ICK30710I SUBSID SUPPORT NOT AVAILABLE ON
SYSTEM**

説明: ICKDSF が実行されている VSE システムのレベルでは、ICKDSF を実行するのに必要なサポートがなされていません。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 説明を参照してください。

ICK30711I CHANNEL ERROR: CSW=xxxxxx xxxxxxxx

説明: リカバリー不能なチャンネル・エラーが発生しました。xx . . . xx は、エラー発生時の CSW の最後の 7 バイトの 16 進表示です。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF 処理は、次のコマンドを続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK30712I ccuu DEVICE TYPE VERIFICATION
FAILED**

説明: OPEN の際に、ICKDSF がアドレス xxx の装置タイプを判別できなかったか、またはその装置タイプがサポートされていません。

センス ID CCW X'E4' が、アドレス xxx の装置によってサポートされる場合は、次のメッセージが出されます。

PHYSICAL DEVICE=UNKNOWN
SENSE ID=xxxxxxxxxxxxxx

センス ID 情報については、適切な装置情報を参照してください。基本的に、形式は次のとおりです。

バイト 0 = X'FF'
バイト 1-3 = ストレージ管理装置 ID
バイト 4-6 = 装置 ID

センス ID CCW がその装置によってサポートされていない場合、次のメッセージが出されます。

PHYSICAL DEVICE=UNKNOWN
LOGICAL DEVICE=UNKNOWN
システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 「概説書」に ICKDSF がサポートする直接アクセス装置がリストされています。

UNITADDRESS、DDNAME、または SYSNAME パラメーターによって指定された装置が、ICKDSF によってサポートされているかどうかを確認してください。装置が ICKDSF によってサポートされている場合、出力データを保管して、IBM サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK30713I UNABLE TO ALLOCATE UCB, RC=xxxx,
RSN=xxxx**

説明: UCB を割り振ろうとしているときにエラーが発生しました。RC および RSN は、UCB を割り振るために起動された MVS サービスからの戻りコードと理由コードです。
システムの処置: ICKDSF は終了します。
オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
システム・プログラマーの応答: UCB を割り振ることができない理由を判別してください。

ICK30714I DDNAME NOT FOUND IN JCL

説明: 入力コマンドの DDNAME パラメーターで指定された DD 名は、このジョブ・ステップで検出されませんでした。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 指定された DD 名をコマンドに入れるには、このジョブ・ステップの JCL に DD カードを追加してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK30715I DEVICE IS IN TRANSITION MODE

説明: その装置は 3390 モードおよび 3380 トラック互換モードの間での推移状態にあります。このことは、以前の INSTALL コマンドが完了していなかったために起きる場合があります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 他のコマンドを実行する前

に、INSTALL コマンドを実行してモード変更を完了させてください。

**ICK30716I DEVICE IS IN MEDIA MAINTENANCE
RESERVE STATE**

説明: 以前の INSPECT PRESERVE が完了していなかったために、その装置はメディア保守保留状態にあります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: メディア保守予約を解放できるように、障害のあるトラック以外のトラックに対して INSPECT PRESERVE コマンドを実行してください。

ICK30717 UNRECOGNIZED I/O ERROR TYPE

説明: 入出力エラーが起きました。しかし、指定された装置タイプではエラーが認識できません。

システムの処置: ICKDSF が再試行を実行しましたが、エラーが消えません。システムかハードウェアのエラーと考えられます。

システム・プログラマーの応答: 失敗した CCW、CSW およびセンス情報を調べてください。センス情報を解釈し、エラーの原因を訂正するには、IBM 技術員の援助が必要になることがあります。

**ICK30718I FUNCTION NOT SUPPORTED FOR
NONSYNCHRONOUS DASD**

説明: 指定された機能が実行できません。これは、装置が非同期ストレージ・サブシステムに接続されているためであり、このサブシステムは 3380 トラックの互換モードをサポートしません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 指定された機能が実行できるのは、3380 トラックの互換モードをサポートする非同期ストレージ・サブシステム、または並列チャネル・インターフェースです。

**ICK30719 DEVICE IS IN THE STATUS CAN NOT BE
DETERMINED STATE**

説明: 装置が状態を判別できない状況にあります。

CONTROL コマンドを RESETICD パラメーターで実行して、他のコマンドが出される前にこの状況をリセットしてください。

システムの処置: 現行のコマンドは終了します。

システム・プログラマーの応答: IBM 技術員に連絡して CONTROL RESETICD を実行してください。

ICK30721I UNABLE TO DETERMINE PATH STATUS

説明: パス状況を判別できませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 直前のメッセージを調べてパス状況を判別できなかった理由を判別してください。

**ICK30722I FUNCTION NOT ALLOWED ON XRC
VOLUME**

説明: 装置は、XRC がこのボリュームで活動状態であることを示します。XRC が活動状態の場合、指定された機能を行うことはできません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: この機能を実行する前に、ボリュームを XRC セッションから移動する必要があります。詳細については、「z/OS DFSMS Advanced Copy Services」の『Controlling ICKDSF activity to XRC volumes』のセクションを参照してください。

**ICK30726I STIMERM FUNCTION CANNOT BE
PERFORMED
RETURN CODE = xxxxxxxx**

説明: この STIMERM 機能は、実行できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。STIMERM 機能からの戻りコードは、16 進数で印刷されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM 技術員に連絡して、この機能が実行できなかった理由を判別してください。

ICK30730I UNSUPPORTED DEVICE TYPE

説明: ICK00700I メッセージ中に記述された装置タイプは、ICKDSF のリリースでは、もはやサポートされていない装置です。

システムの処置: この機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK30731I X'xxxxx' CYLINDER SIZE EXCEEDS
MAXIMUM SIZE SUPPORTED**

説明: 装置が、ICKDSF がサポートするシリンダーの最大サイズを超えました。X'xxxxx' には、装置を構成するシリンダー・サイズが入ります。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置をサポートされているサイズに再定義して、コマンドを再発行してください。装置をサポートされているサイズに再定義するには、IBM ハードウェア・サービス技術員の援助が必要な場合があります。

**ICK30800I DEVICE IS EITHER SPARE VOLUME OR
BROKEN SPARE VOLUME**

説明: 装置が、予備のボリューム状況か、障害のあるボリューム状況かのいずれかです。この装置のデータは、アクセス不可能です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: もしこのボリュームを予備の状態で保持するのであれば、装置アドレスを訂正してコマンドを再度出してください。もしこのボリュームを予備の状態で保

持しないのであれば、ボリューム状況を変更するため IBM 技術員に連絡してください。

ICK31004I VTOC CREATION FAILED

説明: ボリューム上に VTOC を書き込もうと試みた際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: その VTOC はボリューム上に書き込まれず、コマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31005I INDEX IS REQUIRED WHEN STORAGEGROUP IS SPECIFIED FOR THIS DEVICE TYPE

説明: ユーザーはおそらく、デフォルト索引をサポートしない装置で ICKDSF を実行しています。有効な装置タイプについては、「ICKDSF コマンドでサポートされる FBA 装置」テーブルを参照してください。「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」のトピック『Introduction to ICKDSF』に表が示されています。

このケースでは、STORAGEGROUP パラメーターを指定するときに明示的に INDEX パラメーターを指定しなければなりません。

システムの処置: コマンドは、戻りコード 12 で終了します。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: STORAGEGROUP パラメーターが指定されているときは、INDEX パラメーターが指定されていることを確認してください。

ICK31006I VOLUME LABEL CREATION FAILED

説明: ボリューム・ラベルを書き込もうと試みた際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: ボリューム・ラベルは書き込まれず、コマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのエラーの原因を判別するために、障害のある CCW、CSW およびセンス情報を調べてください。また、次の操作を行います。

- 最小初期設定の際に、ボリューム・ラベルの書き込みはボリューム上で行われる最初の書き込み操作です。このメッセージは、そのボリュームが読み取り専用モードであることを示している場合があります。
- そのエラーは、データ・チェックによって起こる場合があります。シリンダー 0、トラック 0 の INSPECT を実行して、エラーを訂正してください。

その他の障害の条件の場合には、IBM サービス技術員の援助が必要と思われます。この場合、ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK31007I ALLTRACKS NOT SUPPORTED FOR THIS FUNCTION

説明: ALLTRACKS パラメーターは、NOCHECK NOASSIGN 処理に対してのみ有効です。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 範囲パラメーターを使用して、指定されたトラックの量を制限してください。

ICK31011I NON-STANDARD VOL1 RECORD DETECTED

説明: 変更しようとしている、ボリューム・ラベルを持った VOL1 レコードは、標準の 80 文字の VOL1 レコードではありません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: AIXVOL コマンドを使用して、ボリューム・ラベルを変更してください。

ICK31012I VOLID NOT SPECIFIED AND NO VOLUME LABEL EXISTS

説明: 初期設定されているボリュームは、ボリューム・ラベルを含んでいないか、ボリューム・ラベルが提供されていません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうかを確認してください。VOLID パラメーターを指定して、コマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31013I UNRECOVERABLE TRACK THRESHOLD MET

説明: 複数のトラック上にホーム・アドレス/レコード・ゼロを書き込む際に、複数の障害が起きました。このメッセージは、多くの ICK21000 または ICK21001 (あるいはその両方) メッセージの後に続きます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 障害の原因を判別するために、(入出力の原因となった CCW、CSW、およびセンスも含めて) 先行メッセージを調べてください。

このメッセージは、読み取り/書き込みモード切り替えが READ モードに設定されている場合、またはその他の条件によって ICKDSF がボリュームに書き込めない場合に、出されることがあります。

ボリューム上に書き込めないことは、ICK21000 メッセージがボリューム上の連続した最初の 10 個の代替トラックに対して出されることによって、示されます。

VM (独立型または VM の下で作動するオペレーティング・シ

ステム版のいずれでも)の下で作動している場合、このメッセージは、ミニディスクまたはユーザー ID に LINK されている装置 (あるいはその両方) に対して、診断機能またはメディア保守機能の実行が試みられたことを示している場合があります。

診断およびメディア保守機能は、専用装置において行われなければなりません。VM サポートについて詳しくは、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」を参照してください。

IBM 技術員の援助が必要かと思われる。

ICK31015I UNABLE TO READ VOLUME LABEL

説明: ポリリューム通し番号を検査するためにポリリューム・ラベルを読み取ろうと試みた際に、入出力エラーが発生しました。システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドを再発行して NOVERIFY を指定するか、またはポリリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31016I LABEL NOT SUPPORTED FOR CMS FORMATTED VOLUMES

説明: LABEL パラメーターが指定されましたが、ポリリュームは CMS 形式であり、CP 形式ではありません。システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 適切な CMS コマンドを使用してポリリューム・ラベルを変更してください。

ICK31017I VOLID PARAMETER INVALID FOR UNINITIALIZED VOLUME

説明: VOLID パラメーターは、初期設定済みポリリュームに対してのみ有効です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ポリリュームを初期設定してください。

ICK31019I NEXT-AVAILABLE-ALTERNATE POINTER OR COUNTER IN VTOC IS INVALID

説明: 次に使用可能な代替トラックへのポインター値、または使用可能な代替トラック数のカウントが間違っています。

システムの処置: コマンド処理を続行します。可能な場合は、処理が完了したときに VTOC 中の値が更新されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 最小または最大レベルにおいて、そのポリリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31022I UNABLE TO CHANGE VOLUME LABEL

説明: ポリリューム・ラベル中のポリリューム通し番号、所有者識別コード、または VTOC のアドレスを変更しようと試みた際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ポリリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31023I INVALID UNITADDRESS, SYSNAME OR DDNAME SPECIFIED

説明: 指定されたチャンネル・アドレスおよび装置アドレスがシステム入出力構成中に存在しないか、DDNAME が正しくないか、または SYSNAME が正しくありません。このメッセージは、MVS 環境のオフライン実行時に並列アクセス・ポリリュームの別名が指定された場合に発行される場合があります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ccuu, dname または sysxxx に代入する値を訂正してからコマンドを再発行してください。並列アクセス・ポリリュームについては、並列アクセス・ポリリュームの基本ポリリュームを指定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31024I UNABLE TO OPEN VOLUME

説明: 指定されたポリリュームをオープンできません。原因として次の事柄が考えられます。

- DD ステートメントが欠落しているか、または正しくない。
- チャンネル/装置アドレスが正しくない。
- 共用環境で処理が行われている場合、ICKDSF を処理中のシステム上で、装置がオフライン状況になっていない。
- このポリリュームに関連した入出力エラー。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 先行メッセージを調べてポリリューム状況を判別してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31025I VOLUME NOT MOUNTED PRIVATE

説明: オンラインの初期設定、検査、または再形式設定が要求される場合、他のジョブによる妨害を避けるため、指定されたポリリュームは PRIVATE として取り付ける必要があります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのポリリュームを PRIVATE として取り付けるか、またはジョブをオフラインで実行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK31026I COMMAND INVALID FOR
UNINITIALIZED VOLUME**

説明: REFORMAT コマンドは、以前に初期設定されているボリュームに対してのみ指定できます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームを初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK31027I UNABLE TO WRITE VOLUME LABEL
DURING VTOC CREATION**

説明: VTOC の位置を示しているボリューム・ラベル・フィールドを書き換えようと試みた際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31028I INVALID VSE DATA SET NAME

説明: DSname は 7 文字までに限定されています。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを訂正して、ジョブを再度実行してください。

**ICK31029I VTOCPTR SPECIFIED AND VOLUME
LABEL EXISTS**

説明: VTOCPTR は、以前に初期設定されたボリュームの破壊された *volser* 情報をリストアするのに使用されます。ボリューム・ラベルが存在している場合、VTOCPTR は使用できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31030I VALID VTOC DOES NOT EXIST AT THE
SPECIFIED LOCATION**

説明: 形式 4 DSCB が、指定された VTOC 位置で見つかりませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しい VTOC 位置を指定し、REFORMAT コマンドを再発行してください。

**ICK31034I ASSIGN NOCHECK PROHIBITED WITH
RANGE PARAMETERS**

説明: ASSIGN および NOCHECK の組み合わせは、ユーザーが代替トラックまたはブロックが必要であると判断したことを示しています。その判断は ICKDSF によって実行された表

面分析処理とは独立したものです。

このパラメーターの組み合わせを範囲パラメーターとともに用いた場合には、無条件代替割り当てが起きるので、ボリューム上の代替トラックまたはブロックが容易に使い尽くされてしまうことがあります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: 代替トラックやブロックの無条件割り当てが必要であると判断された場合には、TRACKS または BLOCKS パラメーターとともに ASSIGN および NOCHECK を使用してください。

ICK31035I UNABLE TO READ FORMAT-4 DSCB

説明: VTOC に対する形式 4 データ・セット制御ブロック (DSCB) を読み取ろうと試みた際に、入出力エラーが発生しました。そのレコードは、その位置を示すために読み取られ、それから再び書き込まれます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームを再初期設定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31036I UNABLE TO INITIALIZE 2314 MINI DISC

説明: 2314 ミニディスクの指定の場合に、2 シリンダーよりも少ない初期設定が要求されました。常に 1 つのシリンダーが代替トラック用のシリンダーとして使用されるので、これは受け入れられません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: MIMIC(MINI(n)) パラメーターを訂正し、コマンドを再発行してください。

**ICK31043I NO STORAGE AVAILABLE TO HOLD
RECORD BEING PRESERVED, TRACK
CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: 表面検査の際にトラックの内容を保存するために、トラック全体がそのボリュームのトラック容量にしたがって動的に割り振られるバッファーに読み取られます。このバッファーを割り振るのに十分なスペースがありません。

システムの処置: 検査されているトラックは、データ損失を避けるために表面検査はされず、コマンドは打ち切られます。

ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: システム・ストレージ・スペースを増やすか、またはデータが破壊される可能性があるなら NOPRESERVE パラメーターを指定してください。コマンドを再発行してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK31046I UNABLE TO WRITE FORMAT-4 DSCB AT
CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: VTOC を更新しようと試みた際に、入出力エラーが発生しました。最初に利用可能な代替トラックのアドレスおよび代替トラックの数が、VTOC 中に書き込めませんでした。
 システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ボリュームを再初期設定し、VTOC のために別のシリンダーおよびトラック位置を指定するか、または代替トラックを割り当てるために INSPECT コマンドを出してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK31048I VOLSER CHANGE NOT ALLOWED FOR
ONLINE VOLUMES**

説明: VOLSER の変更は、オンライン のボリュームにはできません。VOLSER の変更は、オフライン のボリュームのみ可能です。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ボリュームをオフライン に変更して、VOLID パラメーターを指定しコマンドを再度実行してください。

**ICK31049I UNITADDRESS SPECIFIED FOR ONLINE
VOLUME**

説明: UNITADDRESS はオフライン処理についてのみ有効ですが、この装置はオンラインになっています。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: そのボリュームをオフライン に変えるか、または DDNAME パラメーターを指定してください。

**ICK31050I UNABLE TO ENSURE DATA
AVAILABILITY -- FUNCTION
TERMINATED**

説明: INSPECT コマンドに AVAILABLE パラメーターが指定されました。しかし、装置が 並行媒体保守 機能をサポートせず、INSPECT 処理の間 ICKDSF はユーザー・データの使用可能度を確認できません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: AVAILABLE パラメーターを除去してコマンドを再度出してください。

**ICK31052I MINIMAL INITIALIZATION NOT
PERMITTED FOR MSS STAGING PACK**

説明: 大容量ストレージ・システムのステージング・パックはサポートされていません。
 システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31053I DIRECTIO(SECONDARY) IS SPECIFIED
TO THE VOLUME IN DUPLEX STATE**

説明: 二重状態にあるボリュームに INSPECT DIRECTIO(SECONDARY) 機能が指定されました。
 システムの処置: ボリュームが二重状態にあると、INSPECT 機能は 2 次装置ではサポートされません。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: INSPECT を呼び出す前に、ボリュームを保留された故障の二重状態にしてください。

**ICK31054I DEVICE NOT SUPPORTED FOR THE
SPECIFIED FUNCTION**

説明: コマンドに対して指定されたボリュームは、使用されているパラメーターの組み合わせで定義されている機能に対してサポートされていません。

例えば、ANALYZE は 9332 装置に対して有効ではありません。その他の非互換機能については、「ICKDSF コマンドでサポートされる FBA 装置」テーブルを参照してください。「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」のトピック『Introduction to ICKDSF』に表が示されています。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、コマンドを再発行してください。

**ICK31055I CONCURRENT MEDIA MAINTENANCE
FUNCTION REQUIRED FOR DUAL COPY
VOLUMES**

説明: 二重コピーのペアの部分であるボリュームを処理するためには、INSPECT コマンドはこのストレージ管理装置の 並行媒体保守 機能を必要とします。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。とりあえず、二重コピーのペアを片面印刷にリセットして、片面印刷状態のボリュームに INSPECT コマンドを実行してください。

**ICK31056I VTOC LOCATION IN VOLUME LABEL
INCORRECT**

説明: 標準ボリューム・ラベル中で指定された VTOC 位置が正しくありません。そのために、VTOC へのアドレス可能度が失われています。
 システムの処置: このコマンドは打ち切られます。次のコマンドに関して処理が続行されます。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: ボリュームを再初期設定し、VTOC へのアドレス可能度を再確立してください。

**ICK31057I INVALID DEVICE TYPE: VTOC INDEX
NOT SUPPORTED ON THIS DEVICE**

説明: この装置タイプは、VTOC 索引付きの初期設定の装置タイプとして有効ではありません。
システムの処置: VTOC 索引の作成は試みられません。 INIT コマンド ICKDSF は継続されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31058I ccuu I/O ERROR DETECTED DURING
INDEX CREATION: ERROR CODE= ***

説明: VTOC 索引作成処理中に入出力エラーが起きました。
エラー・コード:
1 ボリューム・ラベル読み取り中のエラー
2 VTOC 読み取り中のエラー
3 VTOC 書き込み中のエラー
4 索引レコード書き込み中のエラー
5 索引エクステントが違反。索引サイズ増加が必要
システムの処置: VTOC 索引作成処理が打ち切られます。
VTOC 内の VSE ボリューム標識はオンに切り替えられます。
INIT コマンド処理は続行されます。
オペレーターの応答: 問題判別のために、エラーの徴候をシステム・コーディネーターに知らせてください。
システム・プログラマーの応答: なし。 出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK31059I INDEX STARTING LOCATION INVALID
AS SPECIFIED**

説明: INIT コマンド・ステートメント上の INDEX パラメーターが無効です。次に挙げる理由のいずれかにより、指定された開始位置は有効ではありません。
• VTOC とのオーバーラップを引き起こした。
• 索引データ・セットの開始位置として、シリンダー 0、トラック 0 を定義した。
• 装置の物理的限界外であった。
• 指定された相対トラックは、その装置について無効であった。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: INDEX パラメーターに指定された値を調べ、エラーの値を訂正してください。ジョブを再実行依頼してください。

**ICK31060I VTOC INDEX RECORDS EXCEEDED THE
MAXIMUM VALUE ALLOWED**

説明: 指定された索引エクステントを、許容される最大値を超える数の索引レコードが必要となるように作成することはできません。最大 VTOC および VTOC 索引サイズについては、『付録 C. VTOC 索引』を参照してください。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: VTOC エクステントのサイズを修正して、コマンドをもう一度出してください。

**ICK31061I ccuu VTOC INDEX CREATION
SUCCESSFUL: VOLUME IS IN INDEX
FORMAT**

説明: VTOC 索引は、ボリューム上に首尾良く作成されました。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31062I ccuu VTOC INDEX CREATION FAILED:
RETURN CODE= 12**

説明: 索引作成が失敗しました。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ジョブ障害の理由に関する補足情報を得るために、ジョブ出力を調べてください。

**ICK31063I UNABLE TO READ HOME ADDRESS
BEFORE DATA SAVED FROM
CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: トラック上のデータが読まれる以前に、指定されたトラックからホーム・アドレスが読み取られます。この読み取り操作が失敗に終わりました。
システムの処置: ICKDSF は次のトラックを続行します。戻りコードは 8 に設定されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 必要であれば、トラック上のデータをリカバリーするようにしてください (ホーム・アドレスを読み取れないので、これは不可能な場合もあります)。それから、すべての可能なリカバリー処置が行われるようにするために、NOPRESERVE を指定して障害のあるトラックの検査をしてください。
NOPRESERVE を指定して INSPECT を実行する場合、ボリュームが二重コピーのペアの一部であるなら、そのボリュームを片面印刷状態にしてください。

注: このトラックに関するそれ以上の検査は行われません。このトラックの条件に関する情報は、処理が完了したときにマップ中に保持または含まれることはありません。

**ICK31064I UNABLE TO READ RECORD ZERO
BEFORE DATA SAVED FROM
CCHH=X'cccc hhhh'**

説明: トラック上のデータが読まれる以前に、指定されたトラックからレコード・ゼロが読み取られます。この読み取り操作が失敗に終わりました。
センス情報がすべてゼロであり、CSW がチャンネル終了/入出力装置終了/不正長のみを示している場合、このトラック上で以前に ICKDSF 処理が実行されていたときに、異常終了が起きたことを示している場合があります。
システムの処置: ICKDSF は次のトラックを続行します。戻りコードは 8 に設定されます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 必要であれば、トラック上の

データをリカバリーするようにしてください (レコード・ゼロを読み取れないので、これは不可能な場合もあります)。それから、すべての可能なリカバリー処置が行われるようにするために、NOPRESERVE を指定して障害のあるトラックの検査をしてください。

NOPRESERVE を指定して INSPECT を実行する場合、ボリュームが二重コピーのペアの一部であるなら、そのボリュームを片面印刷状態にしてください。

注: このトラックに関するそれ以上の検査は行われません。このトラックの条件に関する情報は、処理が完了したときにマップ中に保持または含まれることはありません。

**ICK31066I PRESERVE RECOVERY FAILED DATA
MAY BE LOST FOR TRACK CCHH=X'cccc
hhhh'**

説明: このメッセージは、保存されたデータが代替トラックに首尾良く書き込めない場合に、ICK21047I メッセージの後に続きます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 障害の原因を判別するために、障害のある CCW、CSW およびセンス・バイト情報 (メッセージに付随するもの) を分析する必要があります。

障害のある状況が判別され訂正されたならば、障害のあるトラックを正しい形式にするために、そのトラックの INSPECT が必要となります。トラック上の以前のデータに対するデータ・リカバリー手順が必要となることがあります。

**ICK31067I UNABLE TO ESTABLISH PRIMARY AND
ALTERNATE ASSOCIATION FOR TRACK
CCHH = X'cccc hhhh'**

説明: 並行媒体保守処理中に発生した入出力エラーのために、指定された主トラックの HA/R0 を他の代替トラックに関連させるために書き込むことができませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラー原因を判別するために、障害のある CCW、CSW および SENSE 情報を調べてください。

**ICK31070I DUPLEX PAIR STATE HAS BEEN
CHANGED**

説明: 二重ペアの状態が、直接入出力操作の間に (ICKDSF によってでなく) 変更されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICKDSF 出力と、1 次と 2 次の物理ボリュームが処理している文書とを保管してください。

状態変更の原因を調べ、インストール手順に従って適切な処置をとってください。装置の問題と考えられれば、IBM 技術員に連絡してください。

ICKDSF ジョブを再開してください。

注: もしボリュームが保留された二重状態となれば、元の 1 次と 2 次のボリュームが入れ代わっている可能性があります。

**ICK31082I DEVICE TYPE OF SPECIFIED UNIT
ADDRESS IS INVALID FOR THIS
COMMAND**

説明: このコマンドでは、指定された装置タイプは受け入れられません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 指定された装置の装置タイプは、先行メッセージに示されているはずですが、指定されたコマンドに対する有効な装置タイプを判別するために、入力コマンドの記述を調べてください。

**ICK31096I UNABLE TO READ VOLUME LABEL -
CANNOT VERIFY VOLUME**

説明: ボリューム・ラベルのないボリューム、または MVS オペレーティング・システムに対してオンラインになっているボリュームに関して検査を指定した INSPECT コマンドが要求されました。

システムの処置: ボリューム・ラベルを指定せずに検査を行うことはできないので、そのコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INIT コマンドを使用してボリューム・ラベルを書き込んでから、NOVERIFY パラメーターを指定して INSPECT コマンドを再実行するか、または装置をオフラインに変えてください (あるいは、この両方を行ってください)。

**ICK31300I VERIFICATION FAILED: VOLUME-SERIAL
WRONG**

説明: VERIFY パラメーターが指定されましたが、指定されたボリューム通し番号が、ボリューム・ラベル中に見いだされたボリューム通し番号と合致していません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうか調べてください。コマンドで指定されたボリューム通し番号を訂正するか、または NOVERIFY パラメーターを指定してください。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK31301I VERIFICATION FAILED: OWNER-ID
WRONG**

説明: VERIFY パラメーターが指定されましたが、指定された所有者識別コードが、ボリューム・ラベル中に見いだされた所有者識別コードと合致していません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいボリュームが取り付け

であるかどうか調べてください。 コマンド中で指定された所有者識別コードを訂正するか、または NOVERIFY パラメーターを指定してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31302I VERIFICATION FAILED: VOLUME-SERIAL EXISTS

説明: VERIFY(*NONE*) パラメーターが指定されましたが、ボリューム・ラベルにボリューム通し番号が検出されました。 システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 正しいボリュームが取り付けられているかどうか調べてください。 VERIFY パラメーターをボリューム通し番号とともに指定するか、NOVERIFY パラメーターを指定してください。

ICK31303I UNABLE TO VERIFY AUTHORIZATION FOR PROTECTED DATA SET

説明: データ・セットをスクラッチしようとする試みがなされましたが、ユーザーはそのようにする権限を持っていませんでした。 システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 適切な権限を入手するか、またはオフライン・モードでコマンドを再発行してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31304I SYSTEM OPERATOR DID NOT CONFIRM DATA SET PURGING

説明: オペレーターはメッセージ ICK001D に対して T と応答しました。 システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: データを除去してよいかを判別し、そうであれば、コマンドを再発行し ICK001D メッセージに U と応答してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31305I UNEXPIRED OR PASSWORD PROTECTED DATA SET FOUND ON VOLUME

説明: NOPURGE を指定した INIT、または、NOPRESERVE を指定した INSPECT のいずれかを使用して、オンライン・ボリュームを処理しようとしたのですが、期限切れになっていないデータ・セット、または、パスワード保護されているデータ・セットが見つかりました。 このため、ボリュームの初期化または検査ができません。 システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 期限切れになっていない、またはパスワード保護されているデータ・セットを除去できるならば、PURGE パラメーターを指定した INIT コマンド、または PRESERVE パラメーターを指定した INSPECT コマンドを再発行するか、あるいはボリュームをオフラインで処理してください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31307I CORRECTABLE DATA CHECK LIMIT EXCEEDED THE THRESHOLD

説明: REVAL FIXSIM(4E4E) または REFRESH 処理中に、過剰データ・チェックが検出されました。 システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31308I DATA CHECK OCCURS WHILE RESTORING TRACK X'cccc hhhh'

説明: ユーザー・データをリストア中に、データ・チェックが検出されました。 システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31309I READ BACK CHECK FAILED ON TRACK X'cccc hhhh', DATA LOST

説明: ユーザー・データをリストア中に、再読み取りのユーザー・データがデータ・チェックにかかりました。 ユーザー・データは失われました。 システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31310I REVALIDATE FIXSIM(4E4E) PROCESS CAN NOT CONTINUE

説明: REVAL FIXSIM(4E4E) 処理中に、重大エラーが検出されました。 システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 問題判別のためには、前に出されたメッセージを参照してください。

ICK31311I REVALIDATE REFRESH PROCESS CAN NOT CONTINUE

説明: REVAL REFRESH 処理中に、重大エラーが検出されました。 システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 問題判別のためには、前に出されたメッセージを参照してください。

ICK31322I RACHECK FAILED FOR *resname*

説明: 許可されていない ICKDSSF コマンドを実行しようとして
ました。リソースは RACF によって保護されているため、要
求は失敗しました。 *Resname* には、リソース名が入ります。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 正しいレベルの許可を入手し
てください。

**ICK31323I RACROUTE FAILED
SAF RETURN CODE = *nn*
RACF RETURN CODE = *nn*
RACF REASON CODE = *nn***

説明: RACF は、リソースにアクセスするためのユーザー権限
を検査する要求を完了できませんでした。エラー・コードにつ
いては、「External Security Interface (RACROUTE) Macro
Reference」の RACROUTE REQUEST=AUTH で戻りコード
情報を参照してください。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: エラー・コードに示されてい
るエラーを訂正してください。

**ICK31324I VOLUME CONTAINS VSAM DATA
SET(S)**

説明: オンラインで処理されているボリュームに、1 つまたは
複数の VSAM データ・セットが含まれています。
システムの処置: そのデータ・セットは破壊されず、コマンド
は打ち切られます。 ICKDSSF は、次のコマンドを用いて処理
を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: VSAM データ・セットを削
除するアクセス方式サービス・プログラムを使用するか、また
はボリュームをオフラインで初期設定してください。 ジョブ出
力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK31325I OPERATOR REFUSED TO CONTINUE
PROCESSING**

説明: オペレーターは、処理を続行するという応答を求められ
たときに、 ICK003D メッセージに T と応答しました。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSSF
は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 処理する要求がなぜ拒否され
たかを判別し、コマンドを再発行してください。

ICK31326I IMPROPER RACF ACCESS AUTHORITY

説明: ユーザーが適切なレベルの権限を持っていない限り、
RACF 保護されているボリュームは処理できません。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSSF
は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 適切なレベルの権限を入手す
るか、またはそのボリュームをオフライン・モードで処理して

ください。 ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連
絡してください。

**ICK31327I NO STORAGE AVAILABLE FOR
MAXIMUM TRACK CAPACITY RECORD**

説明: 表面検査の際にボリューム上に最終的に書き込まれる、
主ストレージ・バッファ中のビット・パターンを構築するの
に利用できるストレージがありませんでした。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSSF
は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ジョブ・ステップのためによ
り大きな領域サイズを指定して、ジョブを再サブミットして
ください。

ICK31328I UNABLE TO OBTAIN STORAGE

説明: 制御ブロックおよび作業域用のストレージの動的な獲得
に失敗しました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ストレージ・サイズを大きく
してから、ジョブを再サブミットしてください。

ICK31329I ERROR DURING FREEMAIN

説明: FREEMAIN マクロ実行中に、エラーが発生しました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問
い合わせください。

ICK31330I UNIT PARAMETER INVALID

説明: UNIT パラメーターが指定されましたが、このオペレ
ーティング・システム環境では無効です。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: このオペレーティング・シス
テムでどのパラメーターが有効であるかを判別するために、指
定されたコマンドで使用できるパラメーターを調べてくださ
い。

ICK31331I REALADDR PARAMETER INVALID

説明: 指定された REALADDR パラメーターは、このオペレ
ーティング・システム環境では無効です。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: このオペレーティング・シス
テムで有効なパラメーターを判別するために、指定されたコマ
ンドで使用できるパラメーターを調べてください。

ICK31335I SPECIFIED RANGE IS INVALID WHEN USED WITH REALADDR PARAMETER

説明: INSPECT REALADDR コマンドに対して指定されたアドレスは、CKD 装置の場合 1 シリンダーを超えることはできず、FBA 装置の場合 1 ブロックを超えることはできません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 有効なパラメーターを判別するために、指定されたコマンドで使用できるパラメーターを調べてください。

ICK31396I TOO MANY DATA CHECKS ON VOLUME

説明: 指定されたボリュームを処理する際に、この装置タイプに対して妥当と考えられるよりも多くのデータ・チェックが検出されました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、このボリュームに対して異常な数のデータ・チェックが起きたことを示しています。

そのボリュームで多数のデータ・チェックが起きることが予想されるならば、コマンドを再発行することができます。

そうでなければ、IBM ハードウェア・サービス技術員の援助を依頼してください。現行の ICKDSF 出力のほかに、そのボリュームの ANALYZE SCAN を実行してその出力をサービス技術員に提供すれば役立つ場合があります。

ICK31401I UNABLE TO PROCESS FURTHER

説明: この装置上での処理を続けることを妨げるエラーが発生しました。

パス制御が使用され、残りのパス上での処理を妨げるエラーが発生したときに、このメッセージが出されます。

また、二重または延期二重状態のボリュームが、処理の際にその状態を変更するときにも、このメッセージが出されます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を判別するために、先行メッセージを調べてください。

ICK31403I ccuu DATA SCAN VALUES INVALID, TESTING TERMINATED

説明: LIMITS パラメーターによって指定された相対ブロック数、トラック、またはシリンダーが無効です。

システムの処置: データ検査は行われません。

オペレーターの応答: LIMITS パラメーター中で有効な相対ブロック数、トラック、またはシリンダーを指定し、要求を再サブミットしてください。

ICK31404I ccuu VOLUME HAS UNFORMATTED DATA BLOCKS, TESTING TERMINATED

説明: 初期設定されていないデータ・ブロック (データ・フィールドは書き込まれていない) を読み取る試みがなされました。

システムの処置: 504 個のデータ・チェックの後、ANALYZE コマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: 適切な手順を実行して、必要なすべてのデータをボリュームからリカバリーしてください。それから、検査パラメーターを指定した ICKDSF INIT コマンドを使用して、ボリュームを再初期設定してください。

ICK31405I NO STORAGE AVAILABLE

説明: 作業域と制御ブロックのためのストレージの動的獲得が失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: 主ストレージ・サイズを増加してください。

ICK31406I INVALID DATA RECEIVED FROM DEVICE, varname=varvalue

説明: CCW が装置に出され、無効なデータが戻されました。

varname 値には、ICKDSF が参照している変数が含まれ、

varvalue 値には、装置から返されたデータが含まれます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31410I MAIN STORAGE NOT AVAILABLE, TESTING TERMINATED

説明: 作業域と制御ブロックのためのストレージの動的獲得が失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: 主ストレージ・サイズを増加してください。

ICK31412I ccuuDEVICE NOT READY, TESTING TERMINATED

説明: ある条件が起り、障害のある CSW センス・バイトの中に要介入が通知されました。

システムの処置: ANALYZE コマンド処理は打ち切られません。

オペレーターの応答: ドライブを作動可能にし、コマンドを再発行してください。

ICK31413I DATAVER DATA FORMAT UNACCEPTABLE ON CYLINDER X'cccc'

説明: 装置の 16 進数シリンダー X'cccc' で、次のいずれかの条件が起りました。

- 識別されたシリンダー上のデータが、標準 IBM CCW によって読み取り不能な形式で書かれています。

INIT または INSPECT コマンド (あるいはその両方) を用いて、さらに検査または訂正 (あるいはその両方) することができます。

- テスト中にドライブ・エラー (作動可能でなくなるなど) が起きました。 そのドライブ・エラーを起こした条件は、通常は断続的または例外的であり、ドライブ・テストの際には検出されませんでした。

IBM ハードウェア・サービス技術員にサポートを依頼してください。

- テストされているボリュームは別のプログラムによってアクセスされ、他のプログラムは、ANALYZE が再読み取りをしようとしたレコードを消去しました。 この条件が起こる可能性はわずかですが、発生した場合は、ANALYZE ジョブを再実行してください。

システムの処置: ANALYZE 処理は、戻りコード 8 で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 説明を参照してください。ドライブの状況を知るために、後続メッセージを調べてください。

ICK31414I MAIN STORAGE NOT AVAILABLE FOR DRIVE TEST

説明: ストレージが CCW と作業域に利用不能です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: ストレージ・サイズを大きくしてから、ジョブを再サブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK31415I UNABLE TO READ HOME ADDRESS FROM CE TRACK X'cccc hhhh'

説明: 書き込みシステム・ストレス・テスト中に、CE トラックからホーム・アドレスが読み取れませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31416I UNABLE TO WRITE RECORDS TO CE TRACK X'cccc hhhh'

説明: 書き込みシステム・ストレス・テスト中に、レコードを CE トラックに書き込むことができません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31417I MULTIPLE DATA CHECKS OCCUR ON TRACK X'cccc hhhh'

説明: 書き込みシステム・ストレス・テスト中に、同一の CE トラックで少なくとも 2 つのデータ・チェックが起きました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM

サービス技術員に連絡してください。

ICK31418I DATA CHECKS EXCEED HEAD THRESHOLD

説明: 書き込みシステム・ストレス・テスト中に、同一の CE トラックに 3 つ以上のデータ・チェックが起きました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31420I DATA COMPARE ERROR STARTING AT BYTE = X'xxxx'

EXPECTED DATA =

+ 00

+ 10

RECEIVED DATA =

+ 00

+ 10

説明: ドライブ・テスト中に転送されたデータが、期待されたデータと一致しませんでした。メッセージで印刷された最初のバイトが、一致しない最初のバイトです (相対的に転送データの最初)。

期待したデータと受信したデータが、不一致の所からのオフセット 0 で始まって、ダンプされます。ダンプされたデータの長さは可変長です。

システムの処置: このパスでのコマンド処理は終了します。

いくつかのテストはバイパスされました。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 問題解決の援助を求めるため、IBM サービス技術担当員に連絡してください。

ICK31430I EXCESSIVE 0F0B ERRORS OCCURRED ON THE VOLUME

説明: 0F0B エラーが、しきい値を超えたボリュームで起きました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31501I INVALID DEVICE TYPE SPECIFIED FOR BUILDIX COMMAND

説明: 装置タイプが BUILDIX コマンドでサポートされていないボリューム (例えば、9332 DASD) での VTOC の形式の変更の要求が出されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームが、BUILDIX コマンドでサポートされている装置タイプにあることを検証してから、JCL かコマンド・ステートメントを変更してください。

**ICK31505I ccuu VTOC FORMAT IS CURRENTLY
FORMAT, REQUEST REJECTED

説明: VTOC の形式は、BUILDIX コマンド・ステートメントで要求された形式と現在同一です。

** は VTOC の形式を表し、OS または IX のいずれかです。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド・ステートメントを検査してください。(要求された形式は、このメッセージで識別された現行 VTOC 形式の反対でなければなりません)

JCL DD ステートメントが正しくボリュームを識別することを確認してください。ステートメントに必要な変更を加え、ジョブを再度サブミットしてください。

**ICK31509I ccuu DIRF FLAG SET IN VTOC,
COMMAND CANNOT PROCEED**

説明: 直前のジョブでの VTOC 処理でのエラーが、DADSM 割り込みフラグを VTOC に設定させました。VTOC は正確ではありません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: VTOC を再作成するジョブを用意してそのボリュームに対し実行してください。(例えば、IEFBR14 ジョブを実行して一時データ・セットをボリュームに割り振ってください。)

このジョブの完了後、再度コマンドを出してください。

注: VTOC DIRF ビットと索引付きビット (DS4VTOC=5) を併せて設定することは絶対にしないでください。両方を設定した場合、上記の IEFBR14 ジョブで VTOC を修正できなくなります。この状態を修正する場合、システムで使用可能な SUPERZAP プログラムを使えば、DIRF ビットをオフにすることができます。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31510I ccuu BUILDIX REQUEST CANCELLED
DUE TO OPERATOR ACTION**

説明: オペレーターは、応答を必要とするメッセージに CANCEL と応答しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブのキャンセルの理由をオペレーターに確認してください。

ICK31511I ccuu CVAF ERROR: RETURN CODE=
ERROR CONDITION= *****

説明: 共通 VTOC アクセス機能が、ICKDSF に論理エラーないしは物理的エラーを示す戻りコードを返しました。戻りコードの意味は次のとおりです。

- 4, 12 論理エラー
- 8 索引の構造体が無効
- 16 入出力エラー

これらのエラー条件の詳細については、「z/OS DFSMSdfp 診断」(GY88-8507) を参照してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CVAF の戻りコードとエラー状態コードの詳しい説明については、DADSM プログラム・ロジック情報を参照してください。

**ICK31512I ccuu ERROR: SYS1.VTOCIX. IS A VIO
DATASET. BUILDIX TERMINATED.**

説明: 索引データ・セットは、VIO データ・セットとして割り振られました。これは BUILDIX コマンドでサポートされません。

システムの処置: コマンド処理は終了し、戻りコード 12 が出力されます。VTOC は未変更です。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 索引データ・セットの割り振りが永続データ・セットを指定していることを確認してください。

索引データ・セットを定義する JCL ステートメントを検査して、パラメーターを変更してください。ジョブを再実行依頼してください。

**ICK31514I INDEXED VTOC FACILITY NOT ON
SYSTEM**

説明: VTOC を IXVTOC 形式に変更する要求が出されましたが、システムには索引付き VTOC のプログラミング・サポートがありません。

システムの処置: コマンドが BUILDIX ならば、コマンド処理は終了します。コマンドが REFORMAT ならば、ICKDSF は索引を VTOC 拡張処理の完了後作成し直しません。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK31515I ccuu BUILDIX COMMAND FAILED.

説明: エラーのためにコマンドの処理が打ち切られました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 失敗のタイプを記述するメッセージを見るため、ジョブ出力をチェックしてください。

**ICK31516I ccuu I/O ERROR DETECTED DURING
VTOC CONVERSION: ERROR CODE= ***

説明: BUILDIX 処理中に入出力エラーが起きました。エラー・コード:

- 1 ボリューム・ラベル読み取り中のエラー
- 2 VTOC 読み取り中のエラー
- 3 VTOC 書き込み中のエラー
- 4 索引レコード書き込み中のエラー
- 5 索引エクステン트가違反。索引サイズ増加が必要

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。

オペレーターの応答: 問題の識別のためシステム・コーディネーターに相談してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31517I ccuu ERROR: VOLUME IS A DOS
STACKED PACK**

説明: 処理されているボリュームは、ボリュームの最初のトラック上に VTOC を持っています。このようなボリューム上では VTOC 変換が不可能です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INIT コマンドによってボリュームを初期設定して、ボリューム上の問題を訂正してください。

注: これによって、ボリューム上のすべてのデータは除去されてしまいます。

**ICK31518I ccuu ERROR: VOLUME CONTAINS SPLIT
CYLINDER EXTENTS**

説明: ボリュームが 1 つ以上の共有エクステント・データ・セットを持っています。これらは、コマンドでサポートされません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31519I ccuu ERROR: SYS1.VTOCIX. DATASET
NOT FOUND ON VOLUME**

説明: 索引データ・セットがボリュームに検出できませんでした。

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ制御ステートメントをチェックして索引データ・セットを割り振る DD ステートメントが存在するかを調べてください。

もしステートメントが存在すれば、名前が正しく指定されたか確認してください。エラーを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

**ICK31520I ccuu ERROR: DUPLICATE INDEX
DATASET NAME FOUND ON VOLUME**

説明: ボリューム上に、SYS1.VTOCIX で始まる名前を持つ 2 つのデータ・セットが見つかりました。ボリューム当たり 1 つしか許されません。

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットの 1 つをスクラッチするためジョブをサブミットするか、もし新しい索引の割り振りが望ましいのであれば、両方のデータ・セットをスクラッチしてください。

**ICK31521I ccuu ERROR: INDEX DATASET EXTENT
NOT CONTIGUOUS**

説明: このデータ・セットは複数のエクステントを持っています。索引データ・セットは、ただ 1 つのエクステントしか持てません。

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 無効な索引データ・セットをスクラッチしてください。ただ 1 つのエクステントが索引に割り振られることが確かなジョブ制御ステートメントとともに、ジョブを再度サブミットしてください。

**ICK31522I INVALID UNITADDRESS OR DDNAME
SPECIFIED**

説明: コマンド・ステートメントの UNITADDRESS または DDNAME が誤りです。

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。

オペレーターの応答: ジョブ制御ステートメントを訂正して、もう一度ジョブをサブミットしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK31523I VTOC ENQUEUE FAILURE

説明: ENQ RET=HAVE、8 (タスクにリソースがない) より大きい戻りコードを返しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ENQ が獲得できるときに、ジョブを再度サブミットしてください。

**ICK31526I CONVERSION TO OSFORMAT COULD
NOT COMPLETE SUCCESSFULLY**

説明: OSFORMAT に変換する BUILDIX 処理の完了時、VTOC がエラー状態を示しました。

システムの処置: BUILDIX は、異常終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: このメッセージは、通常、ボリュームの OS VTOC にエラーがあることを示しています。エラーの性質を判別するため VTOC を調べてください。

**ICK31528I INDEX DATA SET CANNOT START AT
CYLINDER 0, TRACK 0**

説明: シリンダー 0、トラック 0 が索引データ・セットの位置に指定されました。これは有効な位置ではありません。

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 有効な位置を使用してコマンドを再度出してください。

**ICK31529I ALLOCATE ERROR: RETURN CODE =

説明: DADSM 割り振りが ICKDSF に予期しない戻りコードを返しました。

システムの処置: BUILDIX コマンド処理は終わります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: DADSM 割り振りの戻りコードの詳しい説明については、DADSM 診断解説書を参照してください。

ICK31530I NO ROOM IN VTOC OR VTOC INDEX ON VOLUME

説明: ボリュームの VTOC または VTOC 索引が満杯であることを DADSM 割り振りが ICKDSF に伝えたため、索引を作成できませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: データ・セットを別のボリュームに移動するか、不要なデータ・セットをボリュームから削除することで、スペースを開放できます。または、REFORMAT コマンドを使用して、VTOC および VTOC 索引を拡張することができます。

ICK31531I DUMPCONDITIONING VOLSER CAN NOT BE SET TO EXISTING VOLSER

説明: VOLID パラメーターで指定されたボリューム通し番号が、ボリューム上の既存の番号と同じです。ボリュームを調整済みのボリュームとして識別するには、現行の VOLSER を変更してください。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 新規ボリューム通し番号を指定して、コマンドを再発行してください。

ICK31539I EXTINDEX PARAMETER INVALID FOR OFFLINE VOLUMES

説明: MVS 環境では、EXTINDEX を指定するときは、ボリュームはオンラインでなければなりません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置をオンラインに変えてから、DDNAME パラメーターを使用してコマンドを出し直してください。

ICK31540I NEWVTOC PARAMETER INVALID FOR ONLINE VOLUMES

説明: MVS 環境では、NEWVTOC が指定されたときはボリュームはオフラインでなければなりません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置をオフラインに変えて、UNIT パラメーターを付けてコマンドを再度出してください。

ICK31541I NEW VTOC EXTENT IS NOT LARGER THAN THE ORIGINAL VTOC EXTENT

説明: 新しい VTOC のサイズは、古い VTOC のサイズより大きくなければなりません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 新しい VTOC のサイズを修正して、ジョブを再度出してください。

ICK31542I OVERLAY BETWEEN THE OLD AND NEW VTOC IS NOT ALLOWED

説明: 新しい VTOC の開始位置と終了位置は、古い VTOC のそれと同じではいけません。新旧の VTOC のオーバーレイは、許されません。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 新しい VTOC の位置を修正してジョブを再度出してください。または NEWVTOC(ANY,n) を指定して ICKDSF に新しい VTOC の最初の空いているエクステントを探させてください。

ICK31543I I/O ERROR DETECTED WHILE ACCESSING VTOC : ERROR CODE = x

説明: ICKDSFVTOC をアクセスしている際に入出力エラーが生じました。以下のエラー・コードが出される可能性があります。

1 VTOC 読み取り中のエラー

2 VTOC 書き込み中のエラー

システムの処置: ICKDSF 処理が打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31544I SPECIFIED VTOC EXTENT WAS OCCUPIED BY THE FOLLOWING DATA SETS :

説明: 指定された VTOC エクステントは他のデータ・セットに割り振られています。データ・セット名については、メッセージ ICK00546 を参照してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 新しい VTOC 位置を変更するか、不要になったデータ・セットを削除するか、またはこれらのデータ・セットを別の位置に移動してから、ジョブを再実行してください。

ICK31545I FREE SPACE IS NOT AVAILABLE FOR THE NEW VTOC

説明: 指定された VTOC のエクステントはすでに他のデータ・セットに割り振られているか、またはボリュームの空きエクステントが小さすぎて新しい VTOC を収めることができません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 新しい VTOC 位置を変更するか、不要になったデータ・セットを削除するか、またはこれらのデータ・セットを別の位置に移動してください。あるいは、NEWVTOC が指定されていた場合は、NEWVTOC(ANY,n) を指定して、ICKDSF に最初の空きエクステント (新しい VTOC 用の空きエクステントがあれば) を探させてください。

ICK31548I NEW VTOC EXTENT MUST BE SPECIFIED

説明: VTOC エクステントは、NEWVTOC または EXTVTOC に必要なサブパラメーターです。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: コマンドを修正し、ジョブを再度出してください。

ICK31549I ERROR WAS FOUND IN VTOC: ERROR CODE = x

説明: データ・セットの情報に関して VTOC にエラーがありました。考えられるエラー・コードは、以下のとおりです。

- 1 F1 または F 3 ポインターが F3 DSCB を指していない
- 2 無効なデータ・セット・エクステントの情報。 F1 DSCB の場合、データ・セット名については、メッセージ ICK00546 を参照してください。
- 3 無効なレコード番号

システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: インストール先の定める手順に従って VTOC を再作成してください。VTOC が修復された後で、コマンドを出し直してください。

ICK31550I INVALID VTOC LOCATION SPECIFIED:

説明: 指定された VTOC の位置に、無効文字があります。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: VTOC の位置を訂正して、ジョブを再度出してください。

ICK31551I TOO MANY SUBPARAMETERS SPECIFIED IN PARAMETER : parameter

説明: リストされたパラメーターで指定されたサブパラメーターの数が限界を超えています。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。

ICK31560I ERROR OCCURRED WHILE ISSUING MACRO OVTOC, RETURN CODE =

説明: VSE 環境では、ボリュームのオープンの際に、OVTOC マクロを介して排他的オープンを獲得しようとしたところ、エラーが発生しました。戻りコードの値は 10 進数です。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 障害の理由については、「VSE/Advance Functions Diagnosis Reference Supervisor」を参照してください。

ICK31565I ERROR OCCURRED WHILE ISSUING MACRO ASSIGN,RETURN CODE =

説明: VSE 環境では、ボリュームのオープンの際に、システム論理装置を動的に割り当てようとしたときに、エラーが発生しました。戻りコードの値は 10 進数です。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 障害の理由については、「VSE/Advance Functions Diagnosis Reference Supervisor」を参照してください。

ICK31602I INCORRECT DEVICETYPE, MAPALT TERMINATED

説明: 指定された装置タイプは、MAPALT コマンドではサポートされていません。
 システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。
 オペレーターの応答: コマンド・ステートメントの DEVICETYPE キーワード中で正しい装置タイプを指定し、ジョブを再サブミットしてください。(MAPALT は、固定ブロック・モードの固定ブロック装置上でのみ処理されます。)
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK31603I UNABLE TO OPEN VOLUME

説明: 指定されたボリュームをオープンできません。ASSGN ステートメントが欠落しているか無効である、あるいはチャネルおよび装置アドレスが無効である可能性があります。
 システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。
 オペレーターの応答: エラーを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。
 システム・プログラマーの応答: なし。

ICK31604I ccuu LIMITS PARAMETER INVALID AS SPECIFIED, MAPALT TERMINATED

説明: LIMITS パラメーターによって指定された相対ブロック数が無効です。
 システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。
 オペレーターの応答: LIMITS パラメーターの値を訂正してから、ジョブを再サブミットしてください。

ICK31605I ccuu UNRECOVERABLE I/O ERROR DETECTED, MAPALT TERMINATED

説明: リカバリー不能な入出力エラー (データ・チェック以外の) が発生しました。
 システムの処置: MAPALT コマンドの実行が打ち切られます。
 オペレーターの応答: ジョブ出力を調べてください。その中には、エラー分析に役立つ診断情報が入っています。
 問題判別に役立つ ICKDSF ANALYZE コマンドを実行し、このタイプのエラーをリカバリーするためのインストール手順にしたがってください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31607I ccuu MAPALT ABNORMALLY ENDED,
REPORT MAY BE INCOMPLETE**

説明: エラーのためにコマンドの処理が打ち切られました。
報告は不完全である場合があります。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: 先行ジョブ出力のメッセージを調べ、インストール手順にしたがってください。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK31611I MAIN STORAGE NOT AVAILABLE,
MAPALT TERMINATED**

説明: 制御ブロックおよび作業域用のストレージの動的な獲得に失敗しました。
システムの処置: MAPALT コマンド処理は打ち切られます。
オペレーターの応答: 主ストレージ・サイズを大きくしてから、ジョブを再サブミットしてください。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK31700I VTOC EXTENT INVALID

説明: FBAVTOC パラメーターから計算された開始ブロック番号または終了ブロック番号が、正しくありません。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: FBAVTOC パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

**ICK31701I VTOC EXTENT EXCEEDED THE
MAXIMUM VALUE ALLOWED**

説明: 指定された VTOC のエクステントが、許される最大のエクステントを超えました。さまざまな装置タイプの最大 VTOC サイズについては、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」の付録『VTOC 索引』を参照してください。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: VTOC のエクステントのサイズを修正して、ジョブを再度出してください。

**ICK31702I AN UNRECOVERABLE I/O ERROR
OCCURRED DURING RECLAIM
PROCESSING**

説明: INIT のレクラメーション処理中に、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 失敗の原因を判別するために、前のメッセージを調べてください (その入出力の原因となった CCW、CSW、およびセンス情報も含む)。
問題が解決されてから INIT コマンドを再実行してください。
IBM 技術員の援助が必要かと思われます。ジョブ出力を保管

し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK31705I ALTERNATE BLOCKS EXHAUSTED

説明: 基本ブロックを代替させる必要がありましたが、利用可能なすべての代替ブロックは、すでに割り当てられています。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: いくつかの代替ブロックを解放するために、RECLAIM を指定してボリュームを再初期設定してください。これを首尾良く行えない場合は、ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31706I AN UNRECOVERABLE I/O ERROR
OCCURRED DURING SURFACE
ANALYSIS**

説明: INIT の表面分析中に、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 失敗の原因を判別するために、前のメッセージを調べてください (その入出力の原因となった CCW、CSW、およびセンス情報も含む)。問題を解決して INIT コマンドを再度実行してください。

IBM 技術員の援助が必要かと思われます。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31709I I/O ERROR FORMATTING BLOCK
IDENTIFIER**

説明: 3370 上のブロックのブロック識別フィールドを形式設定しているときに、訂正不能なエラーが発生しました。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31710I I/O ERROR FORMATTING BAD BLOCK
xxxxxxxxxx**

説明: 欠陥ブロック xxxxxxxx を設定しているときに、訂正不能なエラーが発生しました。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK31711I CANNOT READ SA INFORMATION

説明: 入出力エラーのために、表面分析 (SA) 情報 (製造元でフラグ付けされたリスト) を読み取ることができませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK31712I INVALID SA INFORMATION FORMAT

説明: 表面分析 (SA) 情報 (製造元でフラグ付けされたリスト) のデータ形式にエラーがあります (データの終わりが見つからない場合が、典型的なものです)。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK31713I CANNOT READ PRIME CYLINDER IDS

説明: 基本ブロック ID フィールドを読み取っているときに、訂正不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK31715I SETMODE PARAMETER INVALID FOR THIS DEVICE TYPE

説明: INSTALL コマンドの SETMODE パラメーターは、特定の装置タイプに対してのみ有効です。サポートされる装置タイプについては、INSTALL コマンドを参照してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK31716I INVALID PARAMETER(S) FOR DEVICE TYPE: list of parameters

説明: パラメーター・リスト中のパラメーターが、処理されている装置タイプに関して無効です。例えば、VTOC パラメーターが FBA 装置の INIT に対して指定されたか、あるいは CHECK パラメーターが IBM 3375、3380 または 3390 に対して指定されました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK31717I VERIFICATION FAILED: VOL1 LABEL DOES NOT EXIST

説明: 検査が要求されましたが、初期設定されているボリュームが、検査用に用いられる VOL1 ラベルを持っていないので、失敗に終わりました。このことは、そのボリュームが誤っているボリュームである可能性を示しています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 矛盾を分析解決し、ジョブを再実行してください。

ICK31718I INIT FAILED: VOLID NOT SPECIFIED AND I/O ERROR READING VOLUME LABEL

説明: VOLID パラメーターが指定されていません。そして、ボリューム・ラベルを読み取っているときに入出力エラーが発生したので、ボリューム通し番号を使用できません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: VOLID を指定してください。

これを首尾良く行えない場合は、ボリューム・ラベル読み取り時に入出力エラーが発生した原因を調査してください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK31719I INVALID PARAMETER(S) FOR OPEN-SYSTEM - list of parameters

説明: リストに示されたパラメーターは、開放型システム DASD のパラメーターとしては無効です。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK31720I VOLUME SIZE IS TOO SMALL FOR THIS FUNCTION

説明: ボリュームのサイズ (シリンダーの数) が、この機能に小さすぎます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: この機能を実行するための大きなボリュームを使用してください。

ICK31721I LSS PARAMETER REQUIRED FOR DEVICE TYPE

説明: この装置に指定する LSS パラメーターが必要です。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

**ICK31722I VERIFICATION FAILED: I/O ERROR
READING VOL1 LABEL**

説明: VOL1 ラベルを読み取っているときに、訂正不能な入力エラーが発生しました。 検査を続けることはできません。 システムの処置: 診断情報が出力装置上に印刷されます。 このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: NOVERIFY および VOLID を指定して、そのボリュームを再初期設定してください。 ボリューム上のデータをリカバリーする手順を開始してください。 ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31723I TOO MANY LINK ADDRESSES
SPECIFIED FOR DEVICE TYPE**

説明: 指定されたリンク・アドレスの数が、この装置タイプに許可されている数より多くなっています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

**ICK31724I SEC LSS SPECIFIED DOES NOT MATCH
LSS IN LINKADDR: X'xxxx xxxx'**

説明: LSS パラメーターで 2 次 LSS として指定された論理サブシステム番号が、linkaddress の最後のバイトで指定された宛先 LSS と一致しません。 X'xxxx xxxx' は、一致しない指定の linkaddress です。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

**ICK31728I FBA MINIDISK NOT SUPPORTED IN
THIS ENVIRONMENT**

説明: 固定ブロック体系ミニディスクが、VSE または MVS 環境でサポートされていません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICKDSF の独立型バージョンの中で、そのコマンドを実行してください。

**ICK31748I COMMAND CANNOT BE EXECUTED -
DEVICE ACCESS LIMITED**

説明: 指定された装置に対しては、特定のタイプのアクセスが禁止されているので、現行のコマンドは実行できません。

例えば、ミニディスクに対しては、診断制御 CCW を出すことはできません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ユーザーの出したコマンドが指定された装置に使用できるかどうかを確かめてください。

**ICK31749I DEVICE TYPE NOT SUPPORTED IN THIS
ENVIRONMENT**

説明: その装置タイプは、ICKDSF のユーザー・バージョンでサポートされていません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ユーザーの手引きのコマンドの説明を参照して、どの ICKDSF のバージョンがこの装置タイプをサポートしているかを調べてください。 ジョブを再実行する前に、適切なバージョンを必ずインストールしてください。

**ICK31750I TRACKS OR ALLTRACKS PARAMETER
REQUIRED FOR CKD DEVICES**

説明: カウント・キー・データ装置に対して、BLOCKS が指定されました。 これらの装置に対しては、TRACKS または ALLTRACKS のいずれかを指定しなければなりません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: TRACKS または ALLTRACKS を指定して、ジョブを再サブミットしてください。 出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK31751I BLOCKS PARAMETER REQUIRED FOR
FBA DEVICE**

説明: 固定ブロック体系装置に対して、TRACKS OR ALLTRACKS が指定されましたが、これらの装置に対しては、BLOCKS を指定しなければなりません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。 ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: BLOCKS を指定して、ジョブを再サブミットしてください。 出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK31753I NO VALID BLOCK NUMBERS SPECIFIED

説明: BLOCKS パラメーターによって指定されたすべてのブロック番号は無効でした。このメッセージの前には、1 つまたは複数の ICK11752I メッセージがあります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: BLOCKS パラメーター中に正しいブロック番号を指定し、ジョブを再サブミットしてください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK31756I READ FOR PRESERVE OF BLOCK
xxxxxxx FAILED: UNRECOVERABLE I/O
ERROR**

説明: リカバリー不能な入出力エラーのために、ブロック xxxxxxxx 上のユーザー・データを読み取ることができませんでした。

システムの処置: ブロック上のユーザー・データが失われないようにするために、診断情報が出力装置上に印刷され、ブロックの処理が打ち切られます。コマンドの処理は、BLOCKS パラメーターで指定された次の有効なブロックを続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31757I READ FOR PRESERVE OF BLOCK
xxxxxxx FAILED: INSPECT ECC
CORRECTION LOGIC FAILED**

説明: ブロック xxxxxxxx 上のユーザー・データの読み取りが、訂正可能エラーというエラー訂正コード (ECC) を伴って失敗に終わりました。しかし、センス中の ECC 訂正情報が、処理された CCW チェーンに関して予期される情報と対応していませんでした。

システムの処置: 診断情報が出力装置上に印刷され、コマンド処理は打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK31758I USER DATA ON BLOCK xxxxxxxx LOST

説明: コマンド処理は、永続エラーによって失敗に終わりました。ICKDSF は、ブロック xxxxxxxx 上のユーザー・データをリストアできませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ブロック xxxxxxxx を含んでいるデータ・セットに対するリカバリー手順を開始してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK31762I CHECK FUNCTION FOR BLOCK xxxxxxxx
FAILED: UNRECOVERABLE I/O ERROR**

説明: ブロック xxxxxxxx の表面検査の際に、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: 診断情報が出力装置上に印刷されます。コマンド処理は打ち切られ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

PRESERVE が指定されている場合、そのブロック上のユーザー・データの状況を示す ICK31758I メッセージまたは ICK01759I メッセージが、出力装置上に出ます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31763I ASSIGN FUNCTION FOR BLOCK
xxxxxxx FAILED: NO ALTERNATE
BLOCKS AVAILABLE**

説明: ブロック xxxxxxxx に代替ブロックを割り当てようとする試みがなされましたが、使用可能な代替ブロックがもはやありませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

PRESERVE が指定されている場合、そのブロック上のユーザー・データの状況を示す ICK31758I メッセージまたは ICK01759I メッセージが、出力装置上に出ます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その装置を再初期設定してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK31764I ASSIGN FUNCTION FOR BLOCK
xxxxxxx FAILED: FORMAT DEFECTIVE
BLOCK ERROR**

説明: ブロック xxxxxxxx に新しい代替ブロックを割り当てるために、形式欠陥ブロック CCW チェーンを用いている際に、リカバリー不能なエラーが発生しました。

システムの処置: 診断情報が出力装置上に印刷されます。コマンド処理は打ち切られ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

PRESERVE が指定されている場合、そのブロック上のユーザー・データの状況を示す ICK31758I メッセージまたは ICK01759I メッセージが、出力装置上に出ます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31766I ASSIGN FUNCTION FOR BLOCK
xxxxxxx FAILED: NO NON-DEFECTIVE
ALTERNATES FOUND**

説明: ブロック xxxxxxxx に対して形式欠陥ブロック CCW チェーンが 10 回再試行されましたが、割り当てられた 10 の代替ブロックがすべて表面分析で不合格でした。

システムの処置: コマンド処理は打ち切られ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

PRESERVE が指定されている場合、そのブロック上のユーザー・データの状況を示す ICK31758I メッセージまたは ICK01759I メッセージが、出力装置上に出ます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31767I ASSIGN FUNCTION FOR BLOCK
xxxxxxx FAILED: UNRECOVERABLE I/O
ERROR OCCURRED DURING SURFACE
ANALYSIS**

説明: ブロック xxxxxxxx に割り当てられた代替ブロックの表面分析の際に、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: 診断情報が出力装置上に印刷されます。 コマンドは打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

PRESERVE が指定されている場合、そのブロック上のユーザー・データの状況を示す ICK31758I メッセージまたは ICK01759I メッセージが、出力装置上に出ます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31768I INVALID LOGICAL AND PHYSICAL
DEVICE COMBINATION FOR
REQUESTED FUNCTION**

説明: 論理および物理装置タイプが等しくありませんでした。このことは、センス ID (センス入出力タイプ) CCW から戻された情報によって判別されました。ICKDSF は、固定ブロック体系装置のエミュレーションをサポートしていません。

システムの処置: コマンド処理は打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 構成装置が、ICKDSF によってサポートされているかどうか確認してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK31769I DEVICE BLOCK SIZE OF nnnn NOT
SUPPORTED**

説明: 読取装置の特性 CCW から戻されたブロック・サイズ (nnnn) 情報が、512 ではありません。

システムの処置: コマンド処理は打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31772I INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE
TO READ VTOC**

説明: 入力バッファのためのストレージの動的獲得が、失敗に終わりました。

システムの処置: コマンドは打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: GETMAIN/GETVIS で利用可能なストレージの量を増やしてください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK31773I VOL1 LABEL NOT FOUND

説明: オンライン・ボリュームに VOL1 ラベルがありません。

システムの処置: コマンド処理は打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームを初期設定するか、または ICKDSF の独立型バージョンでそのコマンドを再実行してください。

ICK31774I I/O ERROR READING VOL1 LABEL

説明: VOL1 ラベルを読み取る際に、永続入出力エラーが発生しました。

システムの処置: 診断情報が出力装置上に印刷されます。 コマンド処理は打ち切れ、ICKDSF は次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームを再初期設定し、ボリューム上のデータに対するリカバリー手順を開始してください。

再初期設定のための INIT コマンドでは、NOVERIFY および VOLID パラメーターが指定されなければなりません。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31775I DATAVER: DATA CHECK EXCEEDED
THRESHOLD**

説明: データ・チェックの数が、指定された装置に設定された限界を超えました。

- FBA 装置の場合、この限界は 504 です。
- CKD 装置の場合、この限界はこの装置に対する代替トラック数か、または 50 の、どちらか大きい方と等しくなります。

システムの処置: コマンド処理は終了し、戻りコード 12 が出されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コンソール出力およびプリンター出力を保管してください。機器に関連した問題であるかを判別するため、インストール手順にしたがって、適切な処置を講じてください。

その問題が機器に関連したものであると判別されたなら、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK31776I dataset IS A RACF-PROTECTED DATA
SET, BUT RACF IS INACTIVE**

説明: 指定されたデータ・セットは RACF 保護とマークされています。しかし、RACF はシステムで活動状態ではありません。このため、ICKDSF はデータ・セットを変更するユーザーの権限を判別できません。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: システムで RACF を活動化するか、オフライン・モードで実行してください。

ICK31777I UNRECOVERABLE I/O ERROR READING THE VTOC

説明: ICKDSF セキュリティー機能が、VTOC を読み取ろうとしましたが、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド処理は打ち切られますが、次のコマンドがあれば、それが処理されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を調査してください。必要な場合は、そのコマンドをオフライン・モードまたは独立型バージョンで実行してください。

ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

ICK31779I dataset IS A RACF-PROTECTED DATA SET, BUT NO RACF PROFILE EXISTS

説明: 指定されたデータ・セットは RACF 保護とマークされています。しかし、RACF データ・セットは指定されたデータ・セットのプロファイルを持っていません。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: システム RACF 管理者に連絡してください。必要ならば、オフライン・モードまたは ICKDSF の独立型バージョンでコマンドを実行してください。

ICK31780I dataset IS A RACF-PROTECTED DATA SET, BUT THE USER IS NOT AUTHORIZED

説明: 指定されたデータ・セットは RACF 保護とマークされています。しかし、ユーザーはデータ・セットを変更する権限がありません。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: システム RACF 管理者に連絡してください。

ICK31782I dataset IS A PASSWORD PROTECTED DATA SET, NO PASSWORD GIVEN

説明: 名前の挙げられたデータ・セットはパスワード保護されていますが、ユーザーはそのデータ・セットにパスワードを与えませんでした。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PASSWORDS パラメーターを用いて名前の挙げられたデータ・セットにパスワードを与

え、そのジョブを再実行してください。

ICK31783I dataset IS A PASSWORD PROTECTED DATA SET, USER HAS NO ALTER AUTHORITY

説明: 名前の挙げられたデータ・セットはパスワード保護されていますが、ユーザーによって与えられたパスワードは、そのデータ・セットを変更する権限を与えるものではありません。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいパスワードを与えて、そのジョブを再実行してください。

ICK31784I dataset IS A PASSWORD PROTECTED DATA SET, WRONG PASSWORD GIVEN

説明: 名前の挙げられたデータ・セットはパスワード保護されていますが、ユーザーはこのデータ・セットに対して誤ったパスワードを与えました。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいパスワードを与えて、そのジョブを再実行してください。

ICK31785I USER SECURITY EXIT ROUTINE RETURNED AN INVALID CODE = X'code'

説明: ユーザー・セキュリティ出口が、「装置サポート機能使用者の手引きおよび解説書」のトピック『User Security EXIT Module』に記載されているコード以外のコードを返しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: インストール先の、ICKDSF 用のユーザー・セキュリティ出口ルーチンの所有者と連絡を取ってください。

ICK31786I dataset IS A PASSWORD PROTECTED DATASET, USER EXIT REJECTS DATASET

説明: 名前の挙げられたデータ・セットはパスワード保護されていますが、ユーザー・セキュリティ出口ルーチン・モジュールは、ユーザーがこのデータ・セットを変更することを許可されていないことを示しています。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: インストール先の、ユーザー・セキュリティ出口ルーチン・モジュールの所有者に相談してください。

ICK31787I TRACK X'00000000' CANNOT BE INSPECTED WITH NOPRESERVE

説明: ICKDSF は、NOPRESERVE オプションを指定したオンライン・モードでシリンダー 0、トラック 0 を検査することを許可していません。MVS 環境では、ボリュームが MVS に対してオンラインのときは、NOPRESERVE をトラックに使用することはできません。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 必要な場合は、オフライン・モードまたは ICKDSF の独立型バージョンで実行してください。

ICK31788I TRACK X'cccc hhhh' IS CONTAINED IN THE VTOC

説明: メッセージで示されたトラックは、VTOC に含まれています。INSPECT コマンドを実行するとき、NOPRESERVE を指定してそのトラックを INSPECT することはできません。ボリュームが MVS 環境でオンラインであれば、TRKFMT コマンドを実行するとき、そのトラックを処理することはできません。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 必要な場合は、オフライン・モードまたは ICKDSF の独立型バージョンでジョブを実行してください。

ICK31789I VOLUME volser IS RACF PROTECTED AND THE USER HAS INSUFFICIENT ACCESS AUTHORITY

説明: 指定されたボリュームは RACF 保護のボリュームです。そしてユーザーは、内容を変更する権限を持っていません。

システムの処置: コマンド処理は終了し、もしあれば、次のコマンドが処理されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: あなたのインストール・システムの RACF 管理担当者と相談してください。

ICK31790I dataset IS A PASSWORD PROTECTED DATA SET, UNRECOVERABLE I/O ERROR IN PASSWORD DATA SET

説明: 名前の挙げられたデータ・セットを修正する権限がユーザーにあることを検査する際に、システム・パスワード・データ・セットにリカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド処理は打ち切られますが、次のコマンドがあれば、それが処理されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: インストール先のシステム・プログラマーに相談してください。

ICK31791I dataset IS AN UNEXPIRED DATASET, USER NOT AUTHORIZED

説明: 示されたデータ・セットの満了日がまだ過ぎていないのに、INIT コマンドに PURGE パラメーターが指定されなかったか、コマンドが NOPRESERVE を設定した INSPECT になっています。

システムの処置: コマンド処理はセキュリティー機能が完了した後で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INIT を使用する場合は、PURGE パラメーターを指定してから、ジョブを再実行してください。INSPECT を使用する場合は、PRESERVE を指定して実行してください。

ICK31792I dataset IS A VSAM DATASET, USER NOT AUTHORIZED

説明: 示されたデータ・セットは VSAM データ・セットであるのに、INIT コマンドに PURGE パラメーターが指定されなかったか、INSPECT コマンドに NOPRESERVE が指定されました。

システムの処置: セキュリティー機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: INIT を使用する場合は、PURGE を指定してから、ジョブを再実行してください。

INSPECT を使用する場合は、PRESERVE を指定して実行してください。

ICK31793I dataset IS A PASSWORD/VSAM/ UNEXPIRED DATASET, USER EXIT TERMINATES COMMAND

説明: 名前の挙げられたデータ・セットはパスワード保護されていて、VSAM または期限の切れていないデータ・セット、およびユーザー・セキュリティー出口ルーチン・モジュールは、ICKDSF がこのコマンドの処理を打ち切らなければならないことを示しています。

システムの処置: コマンド処理は打ち切られますが、次のコマンドがあれば、それが処理されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: インストール先の、ユーザー・セキュリティー出口ルーチン・モジュールの所有者に相談してください。

ICK31794I dataset: UNRECOVERABLE I/O ERROR READING FORMAT 2/ FORMAT 3 DSCB

説明: 名前の挙げられたデータ・セットの形式 2/形式 3 データ・セット・ラベルを読み取っている際に、リカバリー不能な入出力エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド処理は打ち切られますが、次のコマンドがあれば、それが処理されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: インストール先のシステム・プログラマーに相談してください。必要な場合は、オフライン・モードまたは独立型バージョンで実行してください。

ICK31796I TRACK INSIDE VTOC INDEX DATASET CANNOT BE INSPECTED WITH NOPRESERVE

説明: 検査すべき 1 つまたは複数のトラックが INDEX VTOC データ・セット中に含まれていますが、NOPRESERVE を指定しては検査できません。MVS 環境では、ボリュームが MVS に対してオンラインのときは、NOPRESERVE をトラックに使用することはできません。

TRACKS パラメーターが指定されている場合、先行する ICK01795I メッセージは、INDEX VTOC データ・セット内部にある、ユーザーが指定したトラックを識別します。

システムの処置: コマンド処理は、セキュリティ機能が完了した後で打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 必要な場合は、オフライン・モードまたは独立型バージョンで実行してください。

ICK31797I TRACKS INSIDE VTOC CANNOT BE INSPECTED WITH NOPRESERVE

説明: 検査すべき 1 つまたは複数のトラックが VTOC 中に含まれていますが、NOPRESERVE を指定しては検査できません。MVS 環境では、ボリュームが MVS に対してオンラインのときは、NOPRESERVE をトラックに使用することはできません。

システムの処置: セキュリティ機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 必要な場合は、オフライン・モードまたは独立型バージョンで実行してください。

ICK31799I OPERATOR REFUSED PERMISSION TO RECLAIM SYSTEM RESERVE AREA ON ccuu

説明: オペレーターがメッセージ ICK177D に T と回答しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なぜ要求した処理が拒否されたかを判別して、再度コマンドを出してください。

ICK31816I PREVIOUS COMMAND DID NOT COMPLETE: commandname

説明: 前のコマンドがまだ完了していません。完了していないコマンドが、*commandname* で示されています。その条件が訂正されるまで、コマンド処理は使用禁止となります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 最初に、完了していないコマンドを実行してください。

ICK31817I TRACK x'00000000' CANNOT BE PROCESSED ONLINE

説明: MVS オンライン・モードでは、ICKDSF コマンドで、シリンダー 0、ヘッド 0 の処理を行うことはできません。システムの処置: セキュリティ機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 必要があれば、オフライン・モードで実行するか、または ICKDSF の独立型バージョンを実行してください。

ICK31818I TRACK INSIDE VTOC INDEX DATASET CANNOT BE PROCESSED ONLINE

説明: 処理すべき 1 つまたは複数のトラックが INDEX VTOC データ・セットに含まれています。MVS オンライン・モードでは、これらのトラックをコマンドで処理することはできません。

システムの処置: セキュリティ機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 必要があれば、オフライン・モードで実行するか、または ICKDSF の独立型バージョンを実行してください。

ICK31819I TRACKS INSIDE VTOC CANNOT BE PROCESSED ONLINE

説明: 処理すべき 1 つまたは複数のトラックが VTOC に含まれています。MVS オンライン・モードでは、これらのトラックをコマンドで処理することはできません。

システムの処置: セキュリティ機能が完了するとコマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 必要があれば、オフライン・モードで実行するか、または ICKDSF の独立型バージョンを実行してください。

ICK31820I INVALID TRACK FORMAT DETECTED ON X'cccc hhhh'

説明: 主トラックは欠陥ありのフラグが立っていましたが、関連した代替トラックは主トラックを逆指名していませんでした。主トラックのデータは失われました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

ICK31821I FREQUENCY OF SURFACE CHECKING PROCESS EXCEEDS THE LIMIT

説明: REVAL FIXSIM(4E4E) または REFRESH 処理の間に、主トラックに実行された表面検査の数が、限界を超えました。システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブ出力を保管して、IBM サービス技術員に連絡してください。

**ICK31827I UNABLE TO DO CONCURRENT
PRESERVE ON TRACK CCHH = X'xxxx
xxxx'**

説明: 並行媒体保守 が、トラックから未修正データを読み取ったと保証することができませんでした。レコードの数またはデータ・レコードの形式が、一様に変更されています。この問題には、以下のとおり、考えられる原因が 2 つあります。

- INSPECT 処理中のユーザー・プログラムによるトラックの一様の再形式設定がデータを保存している
- ハードウェア・エラー

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: このメッセージには、ICK11827 が先行します。ジョブを再度実行して、INSPECT 処理中に同じボリュームをアクセスするアプリケーションがないことを確認してください。もしこのメッセージが ICK11827 が続いたら、IBM 技術員に連絡してください。

**ICK31837I IPL TEXT EXISTS ON VOLUME.
OPERATOR REFUSED PERMISSION TO
OVERLAY**

説明: ボリュームにはすでに IPL テキストが含まれており、このテキストは置き換えることができません。

オペレーターは IPL テキストを置き換えることを許可しませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IPL テキストを含んでいないボリュームを指定するか、またはシステム・オペレーターに許可を与えるように指示してください。

**ICK31841I FORMAT FC STATUS CANNOT BE
DETERMINED FOR DEVICE ccuu**

説明: 入出力エラーが RESETICD 機能の完了を妨げました。この問題には、以下のとおり、考えられる原因が 2 つあります。

- ハードウェア・エラー
- 装置が FC 状況になっておらずリセットの必要がない

システムの処置: ICKDSF は、終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: *Storage Subsystem Library* 3990 を参照してください。CCW、CSW、センス情報を調べてエラーの原因を判別してください。インストール手順にしたがって適切な処置をとってください。

**ICK31851I EXTENDED CKD FUNCTIONS CANNOT
BE ACTIVATED - COMMAND
TERMINATED**

説明: その装置はオペレーティング・システムに対してオンラインになったことがなく、拡張 CKD 機能 (例えば、キャッシュ論理) が活動化されていません。ICKDSF 表面検査機能を実行することはできません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: 拡張 CKD 機能を活動化させるには、次

のいずれかを行う必要があります。

- 装置をオンラインにしてからオフラインに変える。
- 装置をオンラインに変えて、ジョブをオンラインで実行する。

また、装置への入出力パスが少なくとも 1 つオンラインであるようにしてください。

システム・プログラマーの応答: 装置をオンラインに変えることができないければ (すなわち、ボリューム・ラベルがないか、またはボリューム・ラベルが重複している場合)、この手順によって拡張 CKD 論理を活動化させることができます。ジョブは再び、オフラインで首尾良く実行されます。

ICK32106I RANGE SPECIFICATIONS INVALID

説明: 現行の範囲を指定しているパラメーターの組み合わせ、または値 (あるいはその両方) が無効です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

**ICK32110I TOO MANY TRACKS IN SPECIFIED
RANGE FOR SKIP DISPLACEMENT
FUNCTION**

説明: 処理されるべきトラックの合計数は、SKIP 処理で許されている最大数を超過しています。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

システム・プログラマーの応答: 範囲を小さくしてジョブを再実行するか、または NOSKIP パラメーターを指定してジョブを実行してください。

**ICK32111I TOO MANY TRACKS IN SPECIFIED
RANGE**

説明: 指定された範囲内でのトラックの合計数が、INSPECT 処理で許されている最大数を超過しています。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 範囲を小さくしてジョブを再実行するか、または必要に応じてデータを保管し、INITIALIZE コマンドを使用してください。

**ICK32112I UNABLE TO SET/RESET/READ
CHECKPOINT DATA, PROCESSING
TERMINATES**

説明: 入出力エラーのために、現行の INSPECT 処理がチェックポイント・データの設定/リセット/読み取りを行うことができません。エラーに対するリカバリー処理の手段が尽きました。

システムの処置: 現行の INSPECT 処理は打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 別の処理装置から同一の装置を処理している ICKDSF ジョブがないことが分かれれば、FORCE パラメーターを用いてその INSPECT ジョブを再サブミットすることができます。

**ICK32113I ONLINE REVALIDATE FIXSIM(4E4E) IS
INVALID WHEN FIXSIM(4E4E)
CHECKPOINT EXIST**

説明: REVALIDATE FIXSIM(4E4E) コマンドがオンライン・ボリュームに対して出されました。このボリュームには、前の REVALIDATE FIXSIM(4E4E) コマンドからのチェックポイント・データが含まれており、そのコマンドがまだ完了していません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置をオフラインに変え、UNIT パラメーターを指定して FIXSIM (4E4E) ジョブを再度出してください。

**ICK32114I INVALID SUBPARAMETER SPECIFIED IN
PARAMETER : xxxxxx**

説明: リストされたパラメーターでユーザーに指定されたサブパラメーターが無効です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: サブパラメーターを訂正して、ジョブを再度出してください。

**ICK32115I ONLINE REVAL REFRESH IS INVALID
WHEN REFRESH CHECKPOINT EXIST**

説明: 直前の REVAL REFRESH が完了しなかったときは、装置がオンラインであればユーザーは他の REVAL REFRESH を指定できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 装置をオフラインに変えて、UNIT パラメーターとともに REVAL REFRESH ジョブを再度出してください。

**ICK32120I PRESERVE BACKUP FUNCTION
CANNOT BE ACTIVATED**

説明: INSPECT コマンドの PRESERVE バックアップ機能を活動化することができません。このメッセージは ICK12118I のあとに続きます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのジョブは、HOLDIT を用いて再実行できます。

そのエラーが一時的なものであれば、ジョブを再実行することができます。

**ICK32121I CANNOT WRITE DATA ON THE
PRESERVE TRACK**

説明: 保存トラック上のユーザー・データをバックアップする際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのジョブは、HOLDIT を用いて再実行できます。

注: このシステム・プログラマーの応答は、INSPECT コマンドに対してのみ有効です。

そのエラーが一時的なものであれば、ジョブを再実行することができます。

**ICK32122I PRESERVE BACKUP FUNCTION
CANCELLED USE "HOLDIT"**

説明: PRESERVE バックアップ機能を処理する際に、入出力エラーが発生しました。このメッセージの前には、取り消しの理由を示すメッセージがあります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのジョブは、HOLDIT を用いて再実行できます。

そのエラーが一時的なものであれば、ジョブを再実行することができます。

**ICK32123I PRESERVE DATA EXISTS THAT DOES
NOT BELONG TO THIS MINIDISK**

説明: ユーザーが、指定されたミニディスクのデータを保存しようとしています。しかし、他のミニディスクのために保存されたデータがすでに存在しています。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICK12120I にあるトラック・アドレスを見て、どのミニディスクが影響を受けているか判別してください。コマンドを再度出す前に、直前の保存データをリカバリーするか消去してください。

**ICK32127I DATA CANNOT BE RECOVERED,
INSPECT TERMINATED**

説明: このメッセージは、ユーザーが ICK22158I、ICK22130I、ICK12126I または ICK12159I に T と応答すると、出されます。

**ICK32160I CANNOT WRITE DATA ON THE
PRESERVE BLOCK**

説明: 保存ブロック上のユーザー・データをバックアップしている際に、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのジョブは、HOLDIT を用いて再実行できます。

そのエラーが一時的なものであれば、ジョブを再実行することができます。

ICK32165I TOO MANY BLOCKS IN SPECIFIED RANGE

説明: 指定された範囲内でのブロックの合計数が INSPECT 処理で許されている最大数を超過しています。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 範囲を小さくしてジョブを再実行するか、または必要に応じてデータを保管し、INITIALIZE コマンドを使用してください。

ICK32166I ERROR NOT A DATA CHECK-PROCESSING TERMINATED

説明: データ・チェックではない入出力エラーが発生しました。そのエラーの原因を判別するために、先行メッセージ、CCW、CSW およびセンス情報を参照してください。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その入出力エラーの原因を判別するために、先行メッセージ、CCW、CSW およびセンス情報を調べてください。

ICK32167I ALTERNATE TRACK CANNOT BE ASSIGNED FOR TRACK CCHH=X'cccc hhhh'

説明: 無条件で代替トラックを割り当てる INSPECT コマンドの実行の際に、X'cccc hhhh' に利用できる代替トラックがありませんでした。

トラックに対する割り当ては起きません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 利用可能な代替トラックが足りてしまいました。

トラックを無条件に割り当てるため、以下の事柄を行ってください。

1. すでに代替トラックを割り当てられているトラックに対しては、RECLAIM を指定した INSPECT を出してください。
2. 任意のトラックをレクラメーションできるならば、このトラックに無条件代替トラックを割り当てるため、ジョブを再実行してください。

注: MAP が指定されている場合、マップは処理されている INSPECT の最後に作成されます。マップは、現在代替トラックを割り当てられているトラックが含まれています。MAP が指定されていない場合、任意のトラックに対して INSPECT NOCHECK NOASSIGN MAP TRACKS(xxxx,xxxx) を実行して、マップを作成してください。

ICK32170I - CONTINUE DATA EXISTS FOR THIS VOLUME - RUN INITIALIZE

説明: この INSPECT ジョブに関して、以前の INIT ジョブが完了していないことが判別されています。

CKD 装置の場合、オペレーティング・システムで使用できないトラックがそのボリューム上にあると考えられています。ボリューム・ラベルおよび VTOC は、そのボリューム上に書き込まれませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: この INSPECT ジョブを再実行する前に、INIT を最小レベルまたはそれ以上のレベルで実行してください。

ICK32171I PREVIOUS INSTALL OR REVAL COMMAND DID NOT COMPLETE

説明: INSTALL/REVAL コマンドが完了しておらず、そのボリュームは使用不能状態のままです。その条件が訂正されるまで、コマンド処理は使用禁止となります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その装置を使用可能状態に戻すコマンドを出してください (例えば、INSTALL、中間初期設定、または REVAL)。

ICK32175I UNABLE TO SET/RESET MODE

説明: INSTALL コマンド処理の際に、装置を 3390 モードまたは 3380 トラック互換モードに切り替えるときに、入出力エラーが発生しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのエラーの原因を判別するために、先行メッセージ中の CSW、CCW、およびセンス情報を調べてください。

ICK32176I DATA CHECK THRESHOLD EXCEEDED ON FOLLOWING HEAD(S):

説明: 1 つまたは複数のヘッド上でのデータ・エラー率が、その装置に対するデータ・チェック・エラー率限界値基準を超えました。

エラーのあるヘッドは、メッセージとともに印刷されました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 機器に関連した問題であると思われる場合は、インストール手順にしたがって、適切な処置を講じてください。問題を判別できなければ、IBM サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK32177I DATA SETS EXIST ON DFSMS
MANAGED VOLUME**

説明: オンライン INIT を実行していますが、ユーザーがストレージ管理サブシステム (DFSMS) 管理ボリュームとして初期設定しようとしているボリューム上に、データ・セットがあります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: そのボリュームからデータ・セットを削除するか、または INIT をオフラインで実行してください。

**ICK32178I UNRECOVERABLE TRACK ON CE/SA
CYLINDER, CCHH = X'xxxx xxxx'**

説明: ホーム・アドレスとレコード・ゼロを、指示されたトラックに書き込む試みは、すべて失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 失敗した CCW、CSW、セクタ情報とを調べてエラーの原因を判別してください。

その問題を解決する助けを得るために、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

**ICK32180I DIAGNOSTIC INFORMATION FOR
CHECKPOINT DATA:**

説明: チェックポイント処理は失敗しました。診断情報は印刷されています。

システムの処置: 他の関連したメッセージを参照してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK32181I UNABLE TO DETERMINE CHECKPOINT
INFORMATION, FUNCTION
TERMINATED**

説明: 入出力エラーかサブシステムの障害がチェックポイント・データの識別を妨げています。

システムの処置: 関連した診断情報は印刷され、この機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK32182I UNABLE TO UPDATE CHECKPOINT
INFORMATION, FUNCTION
TERMINATED**

説明: 入出力エラーかサブシステムの障害のため、チェックポイント・データを更新できません。

システムの処置: 関連した診断情報は印刷され、この機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK32190I CURRENT PROCESS TERMINATED DUE
TO CHECKPOINT DATA**

説明: ICK12180 に記述されているチェックポイント・データを参照してください。現行処理は、直前の ICKDSF 機能のりカバーなしには継続できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ICK12180I の記述にしたがってコマンドを再度実行してください。

**ICK32203I INSUFFICIENT STORAGE AVAILABLE
FOR DATA SET ENQUEUE -- FUNCTION
TERMINATED**

説明: データ・セット・エンキュー手順を処理するのに必要なストレージを入手する際に、GETMAIN が失敗に終わりました。

TOLERATE(ENQFAIL) が指定されていなかったため、処理は打ち切られます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ストレージを大きくするか、TOLERATE(ENQFAIL) を指定するか、または合計トラックを少なく指定するかいずれかを行って、ジョブを再実行してください。

**ICK32310I FUNCTION NOT SUPPORTED FOR READ
ONLY MINIDISK**

説明: ユーザーが要求した ICKDSF コマンド機能は、読み取り専用ミニディスク上では実行できません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK32315I DEVICE ADDRESS COULD NOT BE
FOUND TO ESTABLISH A LINK**

説明: ICKDSF は、ミニディスクのメディア保守機能に全パックのオーバーレイ・リンクを確立するために、未使用の仮想アドレスを得る必要があります。

アドレスの範囲 05FF から 0000 が降順でチェックされましたが、利用可能なアドレスはありませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CP DETACH を使用して未使用の仮想アドレスを切り離してから、コマンドを出し直してください。

**ICK32316I SYSTEM SUPPORT IS UNAVAILABLE
FOR SPECIFIED FUNCTION**

説明: ICKDSF の CMS バージョンの VM/SP、VM/HPO、VM/XA、または VM/ESA からの必要なシステム・サポート・コードが存在しません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: インストールされているシステムをチェックして、その環境にサポートが提供されているかどうか判別してください。もしサポートが利用可能であれば、ジョブを実行する前にインストール済みであることを確認してください。

ICK32317I ccuu DEVICE DOES NOT EXIST

説明: 指定された装置アドレスが存在していません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいアドレスを与えて、ジョブを再実行してください。

**ICK32318I CCUU UNABLE TO DETERMINE
SUB-CHANNEL ID FOR THE SPECIFIED
DEVICE**

説明: CMS マクロ、GETSID を出して *ccuu* で指定された装置のサブチャンネル ID を得る試みがなされました。しかし、一致するサブチャンネル ID がありませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK32345I CYLINDER OR BLOCK INFORMATION
IS REQUIRED FOR THE SPECIFIED
FUNCTION**

説明: REALADDR を指定するとき、シリンダー・アドレスまたはブロック・アドレスも指定する必要があります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 範囲を与えるか、または指定したコマンドに対する特定のシリンダー/トラック/ブロックを与えてください。

**ICK32347I REPLY T TO MESSAGE ICKnnnnnn HAS
BEEN ISSUED, FUNCTION TERMINATED**

説明: ICKDSF が呼び出しパラメーターを使用して呼び出されました。そしてコンソールは INPUT 装置ではありません。想定された応答 T が直前の ICKnnnnnn メッセージに与えられました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: 呼び出しパラメーター・リストなしか、あるいはコンソールを INPUT 装置に指定して、ジョブを再度実行してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK32364I CAN NOT OBTAIN ACCESS TO DEVICE
ccuu RC= nnnn failing reason**

説明: DIAGNOSE E4 FCN 00、01、02 または 03 により、ICKDSF は以下のことを行えます。

- ミニディスク情報を入手すること。または

- 指定されたユーザーのミニディスクあるいはシステム中で定義されている実装置にフルバック・オーバーレイ・リンクを確立すること。

その操作は、CP 戻りコード RC=nnnn で失敗に終わりました。メッセージの *failing reason* 行は、その障害に関するいくつかの共通の原因を示しています。

RC=0005

USER DOES NOT HAVE DIRECTORY OR RACF AUTHORIZATION

この機能を実行するには、OPTION ディレクトリー制御ステートメントに指定された適切なオプション (DEVMAINT、LNKExclu 等) と、もし RACF/VM がインストールされていれば、適切な RACF PERMITS がユーザーのために実行されることが必要です。

注: VM/ESA システムでは、LNKExclu が必須です。

RC=0101

- VIRTUAL DEVICE ADDRESS INVALID

その装置番号は、入力ユーザー ID によって指定された仮想マシンの現行入出力構成の装置を識別しません。

RC=0102

VIRTUAL DEVICE ADDRESS IS NOT ACCEPTED. IT DOES NOT REPRESENT A MINIDISK

RC=0103

REAL VOLUME WHICH CONTAINS THE MINI DISK IS NOT MOUNTED

RC=0200

USERID NOT DEFINED TO THE SYSTEM

RC=0201

DEVICE DOES NOT IDENTIFY A VIRTUAL DEVICE IN THE DIRECTORY FOR THE INPUT USERID

RC=0202

VIRTUAL DEVICE ADDRESS IS NOT ACCEPTED IT DOES NOT REPRESENT A MINIDISK

RC=0203

REAL VOLUME WHICH CONTAINS THE MINI DISK IS NOT MOUNTED

RC=0204

THE DIRECTORY BLOCKS COULD NOT BE ACCESSED BECAUSE OF SYSTEM ERROR

RC=0300

USERID NOT DEFINED TO THE SYSTEM

RC=0301

DEVICE DOES NOT IDENTIFY A VIRTUAL DEVICE IN THE DIRECTORY FOR THE INPUT USERID

RC=0302

VIRTUAL DEVICE ADDRESS IS NOT ACCEPTED IT DOES NOT REPRESENT A MINIDISK

RC=0303

REAL VOLUME WHICH CONTAINS THE MINI
DISK IS NOT MOUNTED

RC=0304

THE DIRECTORY BLOCKS COULD NOT BE
ACCESSED BECAUSE OF SYSTEM ERROR

RC=0305

A FULL PACK OVERLAY ALREADY EXISTS
一度に 1 つのフルパック・オーバーレイのみが、ポ
リリューム上で許されています。

RC=0306

THE FULL PACK OVERLAY REQUEST
INCLUDES CP PAGING, SPOOLING,
DIRECTORY, T-DISK OR DUMP AREAS

RC=0307

THE FULL PACK OVERLAY REQUEST FAILED
BECAUSE THE MINIDISK HAS EXISTING LINKS
TO IT USERID = NNNNNN

ターゲット・ミニディスクが、それに対する書き出し
リンクを持っています。LINK を除去し、ジョブを
再実行してください。

USERID = NNNNNN は、そのポリリュームに対する
既存のリンクを持っているユーザーを示しています。

RC=0402

INPUT REAL DEVICE IS NOT ACCEPTED
BECAUSE IT IDENTIFIES A NON DASD DEVICE

RC=0403

DEVICE OFFLINE OR NOT MOUNTED

VM/ESA 環境において、その装置が FREE 装置 (シ
ステムに割り当てられていない) ならば、この戻りコ
ードを受け取る可能性があります。この場合、その
装置をシステムに接続してください。

RC=0405

A FULL PACK OVERLAY ALREADY EXISTS
一度に 1 つのフルパック・オーバーレイのみが、ポ
リリューム上で許されています。

RC=0406

THE FULL PACK OVERLAY REQUEST
INCLUDES CP PAGING, SPOOLING,
DIRECTORY, T-DISK OR DUMP AREAS

RC=0407

THE FULL PACK OVERLAY REQUEST FAILED
BECAUSE THE MINIDISK HAS EXISTING LINKS
TO IT USERID = NNNNNN

ターゲット・ミニディスクが、それに対する書き出し
リンクを持っています。LINK を除去し、ジョブを
再実行してください。USERID = NNNNNN は、
そのポリリュームに対する既存のリンクを持っているユ
ーザーを示しています。

RC=0410

CYLINDER OR BLOCK NUMBER INVALID
CP は、そのシリンダーまたはブロック番号が無効で
あると判断しました。シリンダーまたはブロックが

装置タイプに対して有効である場合、この装置タイプ
を正しく定義するために、CP ディレクトリーを調べ
てください。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF
は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
オペレーターの応答: 問題を訂正し、ジョブを再実行してくだ
さい。
システム・プログラマーの応答: 診断 E4 コマンドとそれに対
応する戻りコードについて詳しくは、「CP Programming
Services」を参照してください。

**ICK33000I volser {CYL|PAGE} ZERO NOT IN
CP{370|XA|ESA} FORMAT**

説明: 装置を形式設定する必要がある機能が要求されました。
ポリリュームの形式が、このオペレーティング・システムではサ
ポートされない形式になっています。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: CPVOLUME コマンドを使用して、ポ
リリュームを改めて形式設定してください。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33001I volser {CYL|PAGE} ZERO NOT IN CP
FORMAT**

説明: 要求機能は、形式設定された装置が必要です。この装
置は形式設定されていません。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: 装置を形式設定してください。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33005I volser {CYL|PAGE} ZERO NOT IN
AIX/ESA FORMAT**

説明: 要求された機能には、AIX/ESA 環境用に形式設定され
た装置が必要です。この装置は、AIX/ESA 環境用に形式設定
されていません。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: 装置を形式設定してください。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33010I SPECIFIED RANGE(yyyy,zzzz); START
CYLINDER HIGHER THAN END
CYLINDER**

説明: 範囲または割り振りステートメントに、終了値よりも大
きい開始値が含まれています。
システムの処置:
• 誤りのあるステートメントが RANGE である場合、処理は
打ち切られます。
• 誤りのあるステートメントが割り振りステートメントである
場合、その割り振りマップは更新されません。
オペレーターの応答: エラーのあるステートメントを修正して
ください。
システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33020I SPECIFIED RANGE(xxxx,yyyy); START
CYLINDER HIGHER THAN VOLUME
END (nnnn)**

説明: 範囲または割り振りステートメントに、その装置の最大シリンダー/ページ (nnnn) よりも大きい終了値 (yyyy) が含まれています。

システムの処置:

- 誤りのあるステートメントが RANGE である場合、処理は打ち切られます。
- 誤りのあるステートメントが割り振りステートメントである場合、その割り振りマップは更新されません。

オペレーターの応答: エラーのあるステートメントを修正してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK33030I ALLOCATION MAP IS INVALID

説明: 割り振りマップに、論理的に矛盾するデータが含まれています。

システムの処置: 割り振りマップは更新されず、処理は打ち切られます。

オペレーターの応答: 割り振りマップは、0 という開始値を指定した CPVOLUMEFORMAT 機能を実行することによって、再作成されなければなりません。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK33040I ALLOCATION MAP IS FULL

説明: 割り振りマップが、85 個の割り振り範囲という上限に達しました。

システムの処置: 割り振りマップは更新されず、処理は打ち切られます。

オペレーターの応答: その装置に対する割り振りマップを検討して、割り振り範囲を組み合わせたたり削除したりして、フラグメント化を減らすようにしてください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33050I ALLOCATION TYPE *type* IS NOT
SUPPORTED IN {VM370|VMXA|VMESA;}
MODE**

説明: このオペレーティング・システムは、表記の割り振りタイプをサポートしていません。有効な割り振りタイプについては、CPVOLUME コマンドを参照してください。

システムの処置: 割り振りマップは更新されず、処理は打ち切られます。

オペレーターの応答: 割り振りタイプを変更してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33060I ALLOCATION TYPE *type* IS NOT
SUPPORTED ON 3880-xx**

説明: 指定された割り振りタイプは、3880-11 または 3880-21 ベージング・サブシステムではサポートされていません。サポートされている割り振りタイプは、PAGE および PERM のみです。

システムの処置: 割り振りマップは更新されません。

オペレーターの応答: 割り振りタイプを変更するか、または異

なった装置タイプを使用してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33070I ALLOCATION MAP FORMAT DOES NOT
ALLOW LIST/EXAMINATION**

説明: この装置に存在する ALLOCATION MAP 形式は、指定された装置タイプに必要な形式ではありません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CPVOLUME ALLOCATE を TYPE を指定せずに実行して既存の割り振りマップを要求された形式に変換するか、必要なパラメーターを指定して CPVOLUME FORMAT を実行してください。

**ICK33080I PREVIOUS *cmdtype* COMMAND DID
NOT COMPLETE**

説明: INITIALIZE、INSTALL、INSPECT または REVAL コマンドは中断され、完了しませんでした。

システムの処置: 処理は禁止されます。

オペレーターの応答: 中断されたコマンドを完了してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33090I DEVICE MUST BE PROCESSED IN
VM/370 OR VM/ESA MODE.**

説明: CPVOLUME コマンドは、従来 VM/370 と VM/ESA システムで使用する FBA ボリュームの形式設定を行っていました。VM/370 用の形式設定はサポートされなくなりました。過去に VM/370 モードで形式設定されたボリュームは、VM/ESA または z/VM システムで使用する場合、再度形式設定する必要があります。過去に VM/ESA モードで形式設定されたボリュームは、そのまま VM/ESA または z/VM システムで使用することができます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。

**ICK33091I DEVICE MUST BE PROCESSED IN
VM/370 MODE**

説明: CPVOLUME コマンドは、このオペレーティング・システムでは指定された装置タイプをサポートしていません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33095I DEVICE MUST BE PROCESSED IN
VM/ESA MODE**

説明: CPVOLUME コマンドは、ESA モードでのみ指定された装置タイプをサポートします。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK33100I nnnn CYLINDER MINIDISK IS INVALID

説明: *nnnn* が、割り振りマップが許すシリンダーの最大数を超えています。割り振りマップの容量は 4096 です。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: MIMIC(MINI) パラメーターの装置のシリンダーの値を訂正して、ジョブを再度実行してください。

**ICK33101I CONCURRENT MEDIA MAINTENANCE
FUNCTION CANCELLED**

説明: エラーのために、並行メディア保守機能は取り消されます。そのエラーを判別するために、先行メッセージを調べてください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 以前に出されたメッセージを参照してください。

**ICK33102I CONCURRENT MEDIA MAINTENANCE
FUNCTION CAN NOT BE ACTIVATED**

説明: 必要とされたストレージ管理マイクロコード・サポートが存在していないか、または障害が起きたので、並行媒体保守機能を活性化できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。

**ICK33103I UNABLE TO RESET MEDIA
MAINTENANCE RESERVE STATE**

説明: 以下の場合、その装置を通常の状態にリセットすることができません。

- ICKDSF が再び呼び出された。
- その装置をメディア保守保留状態からリセットしている際に入出力エラーが発生し、並行媒体保守機能を続行することができない。
- INSTALL コマンドの後に、メディア保守保留状態をリセットすることができない。

システムの処置: コマンド処理は終了します。その装置はメディア保留状態のままです。その装置に関する今後の入出力すべては、その問題が解決されるまで入出力エラーになります。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。問題が解決されてからジョブを再実行依頼してください。

ICK33104I DEVICE ccuu INACCESSIBLE

説明: 以下の作業中に入出力エラーが発生したため、装置がメディア保守予約状態に入りました。1) ユーザー・データのリストア中、または 2) 装置をメディア保留状態から通常の状態にリセット中。その装置をユーザー・プログラムでアクセスすることはできません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM ハードウェア・サービス技術員に連絡してください。

**ICK33105I UNABLE TO RECOVER CHECKPOINT
FAILURE FOR ANOTHER CPU**

説明: 現行の INSPECT 処理が、別の処理装置からのチェックポイント・データが存在していることを検出しました。

FORCE パラメーターが指定されていないので、現行の INSPECT 処理では、その障害をリカバリーすることができません。

システムの処置: 現行の INSPECT 処理は打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: その装置上で作業している別の処理装置がないことが判別できたならば、FORCE パラメーターを指定して、ジョブを再実行依頼してください。

**ICK33106I VOLSER ALREADY EXISTS,
VERIFY/NOVERIFY MUST BE SPECIFIED**

説明: INSTALL コマンドが、ボリューム通し番号のあるボリュームに実行されました。volser を指定して VERIFY パラメーターを使用するか、NOVERIFY を指定して INSTALL を実行してください。

INSTALL の後、ボリュームは未初期設定状態のままであり、MVS、VM、VSE のいずれの環境でも使用できないことに注意してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: VERIFY または NOVERIFY パラメーターを指定してください。

**ICK33110I FORMAT TERMINATED-DEVICE MODE
DOES NOT ALLOW INSPECTION**

説明: 形式設定中に、CKDトラックまたは FBA ブロックの検査を必要とする装置エラーが発生しました。CPVOLUME または AIXVOL は、ミニディスク・エラーのために INSPECT を呼び出すことができません。

システムの処置: 形式設定は打ち切られます。

オペレーターの応答: USERID および REALADDR パラメーターを使用してミニディスク・トラックまたはブロックを INSPECT する方法については、「装置サポート機能 使用者の手引きおよび解説書」を参照してください。『INSPECT コマンド - CKD』および『INSPECT コマンド - FBA』のトピックの『CMS バージョン・ミニディスク・サポート』を参照してください。

CKDトラックまたは FBA ブロックが首尾良く検査された後で、形式設定操作を再始動してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

**ICK33113I NOFILLER IS NOT ALLOWED IN 370
MODE**

説明: NOFILLER は、CPVOLUME が XA または ESA モードで稼働しているときのみ指定できます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: NOFILLER コマンドを指定せずに CPVOLUME FORMAT コマンドを再度出してください。または XA または ESA モードを指定してください。

**ICK33114I FORMATTING ON PARTIAL VOLUME IS
NOT ALLOWED**

説明: 以下の場合、ボリュームの一部を形式設定することはできません。

- 現行の指定は NOFILLER であり、ボリュームが前の CPVOLUME で充てん文字レコードとともに形式設定された
 - 現行の指定は FILLER であり、ボリュームが前の CPVOLUME で充てん文字レコードなしに形式設定された
- システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。
- オペレーターの応答: なし。
- システム・プログラマーの応答: RANGE パラメーターなしに CPVOLUME FORMAT コマンドを再度出してください。

ICK33120I *type* IS AN INVALID ALLOCATION TYPE

説明: 指定された割り振りタイプは、CPVOLUME コマンドには該当しません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 割り振りタイプを訂正して、ジョブを再度実行してください。

**ICK34000I PERFORM SUBSYSTEM FUNCTION
FAILED**

説明: 直前に出された PSF コマンドのサブシステムに失敗の完了状況があります。

システムの処置: このエラーの PSF コマンド命令と SIM 情報は、印刷されています。この機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34001I UNDEFINED COMPLETION STATUS
CODE IS DETECTED**

説明: 直前に出された PSF コマンドの、サブシステムから戻された完了状況は未定義です。

システムの処置: 直前に出された PSF コマンドとその関連した Read Subsystem Data は、印刷されています。この機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34002I INVALID EXCEPTION STATUS CODE OR
INFORMATION IS DETECTED**

説明: 直前に出された PSF コマンドの、サブシステムから戻された例外状況または情報は無効です。

システムの処置: システムは、直前に出された PSF コマンドと関連した Read Subsystem Data を印刷します。この機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34003I UNABLE TO DETERMINE
DEVICE/TRACK STATUS FOR MEDIA
MAINTENANCE**

説明: ICKDSF が、装置、トラック状況、または装置のメディア保守特性を判別できません。これは PSF コマンドの失敗によるものです。

直前の入出力エラー・メッセージまたはそれに続くサブシステム読み取りデータを検査して、エラーを識別してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34005I NO MORE ALTERNATE LOCATION
AVAILABLE**

説明: サブシステムは、表面検査機能の前に代替位置を割り当てられないか、主トラックの障害に永続的なフラグを立てることができませんでした。

システムは、サブシステム読み取りデータを印刷します。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34007I UNABLE TO RESTORE PRIMARY TRACK
X'cccc hhhh' FROM ALTERNATE
LOCATION**

説明: サブシステムは、データを代替位置から指定された主トラックへのリストアができません。直前のメッセージのエラー記述を参照してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34010I UNABLE TO ASSIGN ALTERNATE
LOCATION FOR TRACK X'cccc hhhh'**

説明: サブシステムは、代替位置を指定された主トラックへ割り当てできません。直前の入出力エラー・メッセージまたはそれに続くサブシステム読み取りデータを検査して、エラーを識別してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34014I DRIVE TEST FAILED EXCEPTION
 STATUS DETECTED**

説明: 装置テスト中に、装置テストで失敗した例外状況 がありました。

システムの処置: システムは、このエラーについてのサブシステム読み取りデータからの診断情報と装置 SIM を印刷します。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

ICK34015I ERROR COUNT EXCEEDED THRESHOLD

説明: エラー・カウントが、指定された ICKDSF 機能に対して許容される最大値に達しました。エラーの性質については、先行するエラー・メッセージを参照してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34016I TRACK X'cccc hhhh' NOT FLAGGED
 DEFECTIVE**

説明: ICKDSF が直前の表面検査 PSF コマンドを実行したときに、代替トラックが割り当てられました。したがって、ICKDSF は指定されたトラックに欠陥があると想定しました。

このトラックは、欠陥がありません。

システムの処置: ICKDSF 処理は、表面検査 PSF コマンドを出す前に、主トラックは代替トラックに割り当てられていることを習慣的に確認しなければなりません。

しかし、このエラーが起きたときは、ICKDSF 論理エラーかサブシステムのエラーである可能性があります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34017I UNRECOVERABLE TRACK HEADER
 FAILURE DETECTED FOR TRACK X'cccc
 hhhh'**

説明: 各トラックのヘッダーには、ホーム・アドレスとレコード 0 が含まれています。これらは、サブシステムによって管理され、ホストがアクセスすることはできません。サブシステムはまた、障害からのリカバリーを実行します。

トラック・ヘッダーの障害条件は重大エラーであり、装置の修繕/取り換えのサービスを必要とします。

特にこの PSF コマンドのためにユーザー・データを保管したり、一時的代替ポインター機能を使用したりする必要はありません。

システムの処置: コマンド処理は終了し、システムは SIM を出します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

保守サービスの後、再度 ICKDSF 機能を処理してください。

**ICK34018I PRIMARY TRACK HEADER FAILURE
 DETECTED FOR TRACK X'cccc hhhh'**

説明: 各トラックのヘッダーには、ホーム・アドレスとレコード 0 が含まれています。これらは、サブシステムによって管理され、ホストがアクセスすることはできません。サブシステムはまた、障害からのリカバリーを実行します。

トラック・ヘッダーの障害条件は重大エラーであり、装置の修繕/取り換えのサービスを必要とします。

トラック・ヘッダーの障害が、代替位置の割り当て中か割り当て後に起きたのであれば、ユーザー・データは失われるとはかぎりません。装置は使用でき、ホストは一時的代替ポインター機能でデータにアクセスできます。(この一時的代替ポインター機能は、保守サービス・アクションの後にリセットされます。) システムの処置: コマンド処理は終了し、システムは SIM を出します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。保守サービスの後、再度 ICKDSF 機能を処理してください。

**ICK34019I EXISTING TRACK HEADER FAILURE
 (ANOTHER TRACK) DETECTED**

説明: トラック・ヘッダーの障害条件は、保守サービスを必要とするため他のトラックでの PSF コマンド中に検出されません。サブシステムは、異なった一時的代替機能を必要とするこれ以上のコマンドを受け入れられません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34020I EXISTING TRACK HEADER FAILURE
 (THIS TRACK) DETECTED ON X'cccc
 hhhh'.**

説明: 前のヘッド障害に保守サービスが必要なため、PSF コマンドの処理中にトラック・ヘッダー障害条件が検出されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34021I INVALID ALTERNATE LOCATION
ASSIGNMENT DETECTED FOR TRACK
X'cccc hhhh'**

説明: 代替割り当て例外状況は、指定されたトラックには無効です。

システムの処置:

- もし現行コマンドが ANALYZE、INIT、または INSTALL であれば、エラーは報告されます。ICKDSF が必要なリカバリー・アクションを実行し、機能は終了します。
- もし INSPECT PRESERVE が現行コマンドならば、NOPRESERVE オプションを指定して再度コマンドを出してください。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34022I I/O ERROR OCCURRED FOR PERFORM
SUBSYSTEM FUNCTION**

説明: サブシステム機能 (PSF) コマンドが処理中に入出力エラーがありました。システムは、CCW、CSW およびセンス情報を印刷します。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34023I INVALID READ SUBSYSTEM DATA
MESSAGE IS DETECTED**

説明: PSF コマンドが、サブシステム読み取りデータからの無効な応答を検出しました。診断情報については、メッセージ ICK04010I を参照してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34024I OUTSTANDING DEVICE SIM STILL
EXISTS, SIM ID=X'nn'**

説明: 指定された装置は、オープン SIM 状況です (オープン、保留状態、または、抑制表示)。システムは SIM 情報を印刷します。メッセージ ICK10711I を参照してください。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IBM サービス担当員にお問い合わせください。

**ICK34030I PPRCOPY OPERATION FAILED:
FORMAT/MESSAGE=X'xx', REASON
CODE=X'xx'**

説明: ストレージ管理装置が、二重ボリューム操作 (ただし、PPRC 機能特定ではない) に関連するエラーをサブシステムで検出しました。センス情報のバイト 7 から、メッセージ形式と番号が与えられます。xx は、センス情報のバイト 8 からの理由コードです。メッセージ ICK10710I 中のセンス情報がす

べてゼロの場合は、FORMAT/MESSAGE および REASON CODE を無視することができます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: センス形式 0 メッセージ

F、理由コード n については、3990 Storage Control

Reference for Model 6 を参照してください。エラーを訂正

し、コマンドを再実行してください。

**ICK34031I NO RESOURCES TO CREATE
FLASHCOPY RELATION OR NUMBER
EXCEEDS MAXIMUM ALLOWED**

説明: 要求された関係を作成するために使用可能なリソースがないか、関係の最大数を既に満たしています。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FLASHCPY QUERY

RELATIONS でボリュームでの FlashCopy® 関係を照会して、

既存の関係を判別してください。適切な場合、FLASHCPY

WITHDRAW コマンドを使用して、関係を除去してくださ

い。

**ICK34032I ESTPAIR FAILED - NVS SPACE NOT
AVAILABLE FOR BIT MAP**

説明: 十分な不揮発性記憶スペースが使用できないため、アプリケーション位置のストレージ管理装置が、ボリューム・ペアの変更済みトラック・ビットマップを作成することができませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 固定データの手順について

は、IBM 3990 Operations and Recovery Guide を参照してく

ださい。条件を訂正し、コマンドを再実行してください。

**ICK34033I ESTPAIR FAILED - DEVICES NOT IN
SUSPEND MODE**

説明: コマンドで予期されたように、装置が延期モードになっていませんでした。ESTPAIR RESYNC オプションは、装置が SUSPEND モードの場合のみ有効です。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンド

を使用してペアの状況を検査してから、COPY または

NOCOPY オプションを指定して ESTPAIR コマンドを使用し

てください。

**ICK34034I ESTPAIR FAILED - DEVICES NOT IN
SIMPLEX MODE**

説明: コマンドで予期されたように、装置が単信モードになっていませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンド

を出して、装置の状況 (保留、二重、または延期) を調べてく

ださい。延期状況の場合は、RESYNC オプションを指定した ESTPAIR コマンドを使用してください。

**ICK34035I COMMAND FAILED - SECONDARY NOT
 IN CORRECT STATE**

説明: 2 次ボリュームは、このホストまたは別の接続ホストによって活動的に使用されています。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: ターゲット 2 次装置の活動を静止してください (その装置をすべての接続ホストに対してオフラインに変えてください)。ターゲット 2 次装置が活動的に使用されていないか、または 3990 二重ペアのメンバーでない可能性があります。

**ICK34036I ESTPAIR FAILED - PINNED DATA ON
 SUSPENDED VOLUME**

説明: ストレージ管理装置がボリュームの固定データを検出し、コマンドを停止しました。固定データを含む延期ボリュームに対して、PPRCOPY ESTPAIR コマンドが出されました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 固定データの手順については、IBM 3990 Operations and Recovery Guide を参照してください。条件を訂正し、コマンドを再実行してください。

**ICK34037I ESS BATTERY UNAVAILABLE,
 REQUIRED FOR FLASHCOPY
 OPERATION**

説明: ESS バッテリー機能が使用不可であるか、インストールされていません。FlashCopy では、正しい操作を行うためにバッテリーが必要です。
システムの処置: このコマンドは打ち切られます。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 技術員に連絡してください。

**ICK34038I SUSPEND OPERATION REJECTED -
 SUSPEND STATE EXISTED**

説明: すでに延期状態にあるペアに対して、PPRC コピーを延期する試みが行われました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを実行して、PPRC ボリュームまたはパスの状況を調べてください。

**ICK34039I ATTEMPTED A DUPLEX OPERATION ON
 A SIMPLEX VOLUME**

説明: PPRC ペアのメンバーでないボリュームに対して、PPRC 操作 (DELPAIR、SUSPEND、または RECOVER) が指示されました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンド

を出して、ボリュームの状況を判別してください。

**ICK34040I SUSPEND PRIMARY FAILED - DUPLEX
 OR PPRC PENDING**

説明: 二重または PPRC 操作が保留されているボリュームに対して、延期操作が試みられました。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して、ボリュームが保留状況にあるかどうかを調べてください。装置が保留状況でなくなったときに、コマンドを出し直してください。

**ICK34041I COMMAND FAILED - DEVICE IN CE
 MODE, UNCONFIGURED OR STATUS
 CANNOT BE DETERMINED**

説明: 装置が CE モードになっているか、構成されていない、あるいは状況が判別できない状態になっています。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: 装置を CE モードでなくするか、条件を修正してから、コマンドを再発行してください。

**ICK34042I DELPAIR FAILED - DASD FAST WRITE
 PENDING**

説明: DASD 高速書き込みの保留中に、ストレージ管理装置がペアを終了できませんでした。
システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: DEVSERV コマンド (MVS) または Q DASDFW (VM) または CACHE UNIT=ccuu,STATUS (VSE) を出して、DASD 高速書き込み条件を判別してください。DFW 保留条件がクリアされたときに、コマンドを出し直してください。固定データが存在すると、DFW 保留条件はクリアされません。(VM の場合に固定データが存在するかどうかを判別するには、Q PINNED コマンドを出してください。)

**ICK34043I xxx FAILED, SUBSYSTEM INSTALLING
 MICROCODE**

説明: 表記のコマンドは、サブシステムが新規のマイクロコード・ロードをインストールしようとしていた時に受信したため、失敗しました。

xxx は、PPRCOPY または FLASHCPY のいずれかになります。

システムの処置: コマンド処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: マイクロコード・インストール操作を完了させてから、コマンドを出し直してください。

ICK34044I ESTPATH FAILED - WOULD EXCEED UNITS/PATHS LIMITS

説明: コマンドを実行すると、2 次の最大数または特定のストレージ管理装置に対するパス数を超過してしまいます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PATH オプションを指定した PPRCOPY QUERY コマンドを出して、それぞれに確立されているリカバリー位置のストレージ管理装置とパスを判別してください。

ICK34046I NO MATCH IN CU FOR SSID OR SER# OF PRIMARY OR SECONDARY

説明: ストレージ管理装置は、コマンド入力のパラメーターを、サブシステム ID または通し番号と一致するよう解決できませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 構成マップおよびログを検査して、コマンド入力に 1 次および 2 次情報を正しく識別しているかどうかを調べてください。PPRCOPY QUERY コマンドを使用してこの検査を行うこともできます。

ICK34047I CONDITIONS AT SECONDARY CU PROHIBIT PROPER OPERATION

説明: リカバリー位置のストレージ管理装置で、操作の開始を禁止するような条件が検出されました。リカバリー位置 3990 に、次のいずれかの条件が存在します。

- サブシステムのキャッシュが活動状態でない。
- 装置のキャッシュが活動状態でない。
- サブシステムの NVS が活動状態でない。
- 装置の DFW が活動状態でない。
- 1 次装置と 2 次装置の形状に互換性がない。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: DEVSERV コマンド (MVS) または Q DASD DETAILS (VM) または CACHE SUBSYS=ccuu,STATUS および CACHE UNIT=ccuu,STATUS (VSE) を出して、上記条件の状況を判別し、これらの条件を訂正してください。条件が訂正されたら、コマンドを出し直してください。

ICK34048I FAILED TO ESTABLISH ONE OR MORE PATHS TO SECONDARY

説明: ストレージ管理装置が、PPRCOPY ESTPATH コマンドで指定されたすべてのパスの確立を完了できませんでした。1 つまたは複数のパスを確立できませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PATHS オプションを指定した PPRCOPY QUERY コマンドを 1 次装置に出して、パス状況を判別してください。「確立済み」以外の状況に必要な処置については、PPRCOPY QUERY コマンドで戻されるデータを参照してください。

ICK34049I ESTPAIR FAILED - A VOLUME HAS PINNED DATA

説明: 1 次または 2 次ボリュームのいずれかに固定データがあるため、ペアを確立できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 固定データのリカバリー手順については、IBM 3990 Operations and Recovery Guide を参照してください。条件を訂正し、コマンドを再試行してください。

ICK34050I VOLUME IN SUSPENDED PPRC STATE

説明: アドレス指定された装置は、対等通信リモート・コピーの延期状態にあります。示された通常の許可での書き込みコマンドはすべて拒否されます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して、装置の状況 (保留、二重、または延期) を調べてください。PPRCOPY SUSPEND または PPRC FREEZE コマンドを発行した結果、装置が延期状態になる可能性がある理由は、いくつかあります。装置を延期状態から解除するために適切だと思われる場合は、次のようにします。

- FREEZE の結果、延期が発生する場合は、PPRCOPY RUN コマンドを装置に発行できます。パスとペアを再確立する必要があります。

または

- RESYNC オプションを指定して ESTPAIR コマンドを使用してください。

ICK34051I ESTPAIR FAILED - SECONDARY VOLUME IS A FLASHCOPY TARGET VOLUME

説明: establish peer-to-peer remote copy pair コマンドを受信しました。2 次ボリュームは Remote FlashCopy のターゲット・ボリュームです。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ESTPAIR コマンドの 2 次ターゲット・ボリュームがコマンドで正しく指定されていることを確認してください。指定されている場合は、ターゲット装置を FlashCopy 状態から解いてください。そうしないと、ESTPAIR コマンドを処理できません。

ICK34052I DELPATH FAILED - PPRC VOLUMES ARE STILL ACTIVE

説明: PPRC ボリュームがまだ活動状態にある間に、DELPATH が出されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 最初に PPRCOPY DELPAIR コマンドを出して PPRC ペアを終了させてから、そのコマンドを再試行してください。この処置は、ユーザーが (PPRCOPY QUERY コマンドを使用して) 状況を検査済みであ

り、正しい PPRC 装置を指定していると想定しています。

ICK34053I UNIT DOES NOT SUPPORT PPRC OPERATIONS

説明: PPRC 機能をサポートしないストレージ管理装置に PPRC 操作が送信されました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRC ライセンス・マイクロコードがインストールされたストレージ管理装置に接続されている装置に、そのコマンドを出してください。

ICK34054I PPRCOPY PRIMARY TIMED OUT ATTEMPTING TO COMMUNICATE WITH SECONDARY

説明: PPRCOPY 1 次ボリュームは、2 次ボリュームと通信しようとしてタイムアウトになりました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーの原因を判別して、ジョブを再実行してください。問題の原因を判別するには、ハードウェア・サービス技術員の援助が必要な場合があります。

ICK34055I PPRCOPY FAILED - SECONDARY ADDRESS OUTSIDE OF ADDRESS RANGE

説明: PPRC 2 次ボリュームに指定された装置または CCA が、有効なアドレスの範囲外にあります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 2 次ボリュームに有効な装置を指定して、ジョブを再実行してください。

ICK34056I ESTPATH FAILED - SAME PATH SPECIFIED AS COMMAND RECEIVED ON

説明: ESTABLISH PATH は、1 次ホストからコマンドを受信したパスと同じパスを linkaddress に指定しました。両方と同じパスを使用することはできません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: linkaddress で別のパスを指定して、ジョブを再実行してください。

ICK34057I SECONDARY DEVICE FOUND TO BE GROUPED

説明: グループ分けされることが検出された 2 次装置の ESTABLISH PAIR を受信しました。この装置は、オンラインであると想定されます。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 2 次装置をオフラインにするか、オフラインである 2 次の装置を選択して、ジョブを再実行してください。装置が 2105 であれば、オンラインの 2 次装置とのペアを確立する場合に、ONLINESEC(YES) パラメーターを使用できます。

ICK34058I OPERATION CAN NOT BE EXECUTED ON AN ALIAS ADDRESS

説明: PPRC 操作で別名ボリュームが指定されました。操作では、PARALLEL ACCESS VOLUME の基本ボリュームを指定する必要があります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK34059I SPECIFIED VOLUMES NOT OF THE SAME SIZE AND FORMAT

説明: 指定されたボリュームのサイズと形式が同じではありません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: サイズと形式が同じボリュームを選択して、ジョブを再サブミットしてください。

ICK34060I TARGET VOLUME IS A PPRC PRIMARY OR SECONDARY VOLUME OR AN XRC PRIMARY VOLUME

説明: 指定されたターゲット・ボリュームが、PPRC 1 次ボリュームまたは XRC 1 次ボリュームです。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ターゲット・ボリュームが PPRC 1 次ボリュームであり、これが望ましい場合は、TGTOKASPPRCPRIM(YES) を指定して、要求の受け渡しをし直すことができます。また、XRC 1 次ボリュームを FlashCopy のターゲット・ボリュームにすることはできません。

ICK34061I ESTPAIR FAILED - DEVICES NOT IN SAME TRACK FORMAT

説明: PPRC ESTPAIR 操作で、同じトラック形式でない装置の二重ペアを確立しようとした。2 次装置のシリンダー数は、1 次装置のシリンダー数に等しいかそれより大きくなければなりません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 選択した装置が同じトラック形式であることを確かめ、コマンドを再発行してください。

ICK34062I PPRCOPY COMMAND FAILED - NO ACTIVE PATH AVAILABLE

説明: コマンドを完了させるには、少なくとも 1 つの活動パスが 2 次コントロール・ユニットに確立されていなければなりません。パスがない場合、コマンドは終了します。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 少なくとも 1 つのパスが使用可能なことを確かめてから、コマンドを出し直してください。

ICK34063I ADDRESS SPECIFIED AS THE SECONDARY IS INCORRECT

説明: ストレージ管理装置が、コマンドで与えられたパラメーターから 2 次 (ターゲット) ボリュームのアドレスを解決できませんでした。コマンドで与えられた 2 次アドレスは、この PPRC ペアには無効です。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して情報を入手してから、コマンドを出し直してください。

ICK34064I CLEANUP FAILED

説明: PPRCOPY ESTPATH が失敗しました。ICKDSF が DELPATH を出して最終処置を実行しようとしたのですが、これも失敗しました。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して情報を入手してから、コマンドを出し直してください。

ICK34065I PPRCOPY FAILED - SUBSYSTEM IS IN A STATE CHANGE PENDING CONDITION

説明: サブシステムまたは装置が「状態変更保留」条件のために、コマンドが失敗しました。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY コマンドを定期的に再試行してください。状態変更保留条件がクリアされればすぐに、コマンドは成功するはずです。

ICK34066I PPRCOPY FAILED - CACHE STORAGE IS NOT AVAILABLE

説明: そのコマンドにはキャッシュ・ストレージが必要ですが、キャッシュ・ストレージが利用可能ではありません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: キャッシュ・ストレージが利用可能であることを確かめ、コマンドを出し直してください。

ICK34067I PPRCOPY FAILED - DEVICE IS NOT SUSPENDED DUPLEX

説明: 二重ペアを確立しようとしたのですが、アドレス指定された装置が延期二重 (Suspended Duplex) ではありません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して PPRCOPY ESTPATH コマンドに必要なパス情報を入手してから、コマンドを出し直してください。

ICK34068I PPRCOPY FAILED - DEVICE IS NOT SIMPLEX OR SECONDARY OF A DUPLEX PAIR

説明: 二重ペアを確立しようとしたのですが、指定された装置がシンプレックスでも二重ペアの 2 次でもありません。
 システムの処置: なし。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して装置の状況を調べてから、コマンドを出し直してください。

ICK34069I PPRCOPY FAILED - PRIMARY DEVICE WRITE FAILURE

説明: 対等リモート・コピーが延期されました。1 次装置書き込みが失敗に終わりました。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して装置の状況を調べてから、コマンドを出し直してください。

ICK34070I PPRCOPY FAILED - SECONDARY SUBSYSTEM FAILURE

説明: 2 次サブシステム障害のために、対等リモート・コピーが延期されました。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 2 次サブシステムの状況を検査 (そして訂正) してから、コマンドを出し直してください。

ICK34071I PPRCOPY FAILED - COMMUNICATIONS WITH THE SECONDARY DEVICE FAILURE

説明: 対等リモート・コピーが延期されました。2 次装置との通信が失敗に終わりました。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して 2 次装置の状況を調べてから、コマンドを出し直してください。

ICK34072I PPRCOPY FAILED - CRITICAL VOLUME STATE, ALL WRITES WILL FAIL

説明: 対等リモート・コピーが延期されました。クリティカル・ボリューム状態です。問題が修正され、コピーが再確立されるまで、すべての書き込みは失敗に終わります。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して装置の状況を調べてから、コマンドを出し直してください。

ICK34073I PPRCOPY FAILED - NOT READY DEVICE, INTERVENTION REQUIRED

説明: 対等リモート・コピーが延期されました。装置が作動可能ではありません。対等リモート・コピー 2 次には、介入が必要です。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 装置を作動可能にして、コマンドを出し直してください。

ICK34074I UNABLE TO DETERMINE COPY COMPLETION STATUS

説明: コピー完了状況を検査中に、入出力エラーが発生しました。PPRCOPY ESTPAIR 機能が正常に完了していない可能性があります。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY コマンドを出して、装置の状況を判別してください。装置がまだ PENDING モードまたは SUSPEND(x) 状態にある可能性があります。

ICK34075I ESTPAIR FAILED TO COMPLETE COPY FROM PRIMARY VOLUME

説明: MSGREQ パラメーターを指定した PPRCOPY ESTPAIR コマンドを完了できませんでした。ストレージ・サブシステムがエラーを検出しました。コピーが完了しておらず、ボリューム・ペアが二重状態にあります。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 出されたコンソール・メッセージを探してください。戻されたセンス・データに関する情報については、IBM 3990 Storage Control Reference for Model 6 を参照してください。ハードウェア・エラー条件があればサービス技術員に知らせてください。

ICK34076I PPRCOPY FAILED - NON-VOLATILE STORAGE IS NOT AVAILABLE

説明: そのコマンドには不揮発性ストレージが必要ですが、不揮発性ストレージが利用可能ではありません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 不揮発性ストレージが利用可

能であることを確かめ、コマンドを出し直してください。

ICK34077I PRIMARY VOLUME INFORMATION NOT CORRECT FOR THIS SECONDARY

説明: PPRC フェイルオーバー・モードでは、1 次ボリュームを識別するパラメーターは、この 2 次ボリュームに関連する装置にとって正しくありません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK34078I VOLUME IS NOT A PPRC SECONDARY IN THE PROPER STATE

説明: PPRC フェイルオーバー・モードでは、ボリュームは、全二重状態または延期状態の 2 次ボリュームでなければなりません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 適した状態の正しいボリュームにコマンドを発行するようにしてください。

ICK34079I VOLUME INFORMATION NOT CORRECT FOR ORIGINAL PRIMARY

説明: PPRC フェイルバック・モードでは、元の 1 次ボリュームを識別するパラメーターは、このボリュームに関連する装置にとって正しくありません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、ジョブを再実行してください。

ICK34080I VOLUME IS NOT A PPRC PRIMARY IN SUSPENDED STATE

説明: PPRC フェイルバック・モードでは、ボリュームは、延期状態の 1 次ボリュームでなければなりません。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 適した状態の正しいボリュームにコマンドを発行するようにしてください。

ICK34081I AN ESTABLISH PPRC CMD ATTEMPTED AN INVALID TRANSITION BETWEEN MODES

説明: PPRC 距離延長モードに移行しようとしたのですが、PPRC 距離延長モードに遷移するには、ペアが誤った状態にあります。PPRC 距離延長モードへの有効な遷移は、延期の状態からのみです。
 システムの処置: コマンド処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 システム・プログラマーの応答: 正しいボリュームのコマンドを発行していること、およびボリュームが正しい状態にあることを確認してください。

ICK34082I A COMMAND WAS RECEIVED THAT IS NOT VALID FOR THIS PPRC STATE

説明: 装置の確立済みの対等通信リモート・コピー状態と競合するコマンドを受信しました。

システムの処置: コマンド処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいボリュームのコマンドを発行していること、およびボリュームが正しい状態にあることを確認してください。

ICK34083I ESTPAIR FAILED - SOURCE AND DESTINATION PORTS FOR PPRC PATH OVER FCP NOT UNIQUE

説明: FCP への PPRC パスのソース・ポートと宛先ポートは、固有でなければなりません。ソースと宛先の両方として単一ポートを使用することはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FCPPATHS キーワードの SAID の指定を訂正して、要求の受け渡しをし直してください。

ICK34084I ESTPATH FAILED - MIXED ESCON AND FCP INFORMATION SPECIFIED

説明: ESTPATH コマンドでは、すべての ESCON またはすべての FCP パスを指定する必要があります。ESCON パスと FCP パスを同じコマンド内で混合することはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ESTPATH 指定を訂正してから、要求の受け渡しをし直してください。

ICK34085I INVALID WORLD WIDE NODE NAME SPECIFIED

説明: 1 次および 2 次 WWNN は、ESS ボックスに有効な WWNN でなければなりません。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ESTPATH、DELPATH、または ANALYZE 要求で参照されている WWNN の指定を訂正してください。WWNN は、PPRCOPY QUERY コマンド (PATHS なしで) を装置に発行することで判別できます。

ICK34086I ATTEMPT TO ESTABLISH OR REMOVE FCP OR ESCON PATHS WHEN THE OTHER TYPE EXISTS

説明: FCP パスを確立または削除する要求が出されましたが、関連するコントロール・ユニット間に ESCON パスが既に存在するか、または ESCON パスを確立または削除する要求が出されましたが、関連するコントロール・ユニット間に FCP パスが既に存在します。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 該当するタイプのパスを参照

するように、要求を変更してください。既に存在するパスのタイプを確認するには、PPRC QUERY PATHS 要求を発行できます。

ICK34087I ESTPATH FAILED - ATTEMPT TO ESTABLISH FCP PPRC PATHS ON PORT WITH EXISTING FICON PATHS

説明: 既存の FICON[®] 論理経路を使用して、ポートで FCP PPRC 経路を確立または除去しようとしていました。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しい装置がターゲットになっていることを確認してください。正しくて、要求が ESTPATH である場合は、FICON パスを除去するまでコマンドを正常に実行できません。正しい装置がターゲットになっていて、要求が DELPATH 要求である場合は、削除する FCP PPRC パスはありません。

ICK34088I PPRC SECONDARY VOLUME FOUND IN UNCONFIGURED OR UNDEFINED STATE

説明: 対等通信リモート・コピーの 2 次ボリュームが、未構成または未定義の状態であることが検出されました。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK34089I ESTPATH FAILED - DEVICE 0 NOT CONFIGURED IN SECONDARY LSS

説明: 装置 0 が 2 次論理サブシステムで構成されていないため、establish peer-to-peer remote copy paths コマンドが失敗しました。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK34090I ESTPAIR FAILED - FAILOVER OR FAILBACK SPECIFIED BUT PPRC PAIR ALREADY IN REQUESTED STATE

説明: PPRC フェイルオーバー・モードまたは PPRC フェイルバック・モードが指定された establish peer-to-peer remote copy pair コマンドを受信しましたが、対等通信リモート・コピーのペアは既に要求された状態になっています。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK34091I CASCADING PPRC SECONDARY IN INVALID STATE FOR REQUEST. PRIMARY SYNCHRONOUS AND SUSPENDED, PENDING DUPLEX, OR FULL DUPLEX

ICK34092I • ICK34097I

説明: カスケード PPRC モードでは、PPRC 関係にする 2 次ボリュームがこのコマンドで指定されている場合は、その関係をカスケード PPRC 状態で確立する必要があります。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 現行のコマンドがターゲットとする 2 次ボリュームが正しいボリュームであることを確認してください。正しい場合は、CASCADE キーワードを付けて ESTPAIR コマンドを現在のコマンドの 1 次ボリュームと 2 次ボリュームのペアに再発行できます。

ICK34092I SPECIFIED PRIMARY VOLUME MAY NOT BE IN PPRC EXTENDED DISTANCE MODE

説明: カスケード PPRC モードでは、コマンドで同期モードでのカスケード PPRC を指定する場合は、1 次ボリューム・パラメーターで指定されているこのコマンドを受信するボリュームは、PPRC 距離延長モードで PPRC 2 次ボリュームにすることはできません。

システムの処置: 処理は停止します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 現行のコマンドがターゲットとする 2 次ボリュームが正しいボリュームであることを確認してください。正しい場合は、ローカル・ペアが距離延長モードになっていて、リモート・ペアが同期モードになっているカスケードされた 3 組はサポートされません。

それでもカスケードされた 3 組が必要な場合は、有効な構成は次のようになります。

- 同期から距離延長
- 距離延長から距離延長
- 同期から同期

それでも距離延長モードのローカル・ペアでカスケードされた 3 組が必要な場合は、距離延長モードでリモート・ペアを確立する必要があります。

ICK34093I INVALID VALUE SPECIFIED FOR xxxxxx

説明: ユーザーが指定した xxxxxx で示される値が無効です。xxxxxx の代わりに置き換えることができる値は、次のとおりです。

- PRIMARY CCA
- SECONDARY CCA
- PRIMARY LSS
- PRIMARY SEQUENCE NUMBER
- PRIMARY WWNN
- PRIMARY SSID
- SECONDARY LSS
- SECONDARY SEQUENCE NUMBER
- SECONDARY WWNN
- SECONDARY SSID
- FIRST LINK OR FCP PATH
- SECOND LINK OR FCP PATH
- THIRD LINK OR FCP PATH
- FOURTH LINK OR FCP PATH
- FIFTH LINK OR FCP PATH

- SIXTH LINK OR FCP PATH
- SEVENTH LINK OR FCP PATH
- EIGHTH LINK OR FCP PATH
- PACE

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 誤った値を再指定して、要求の受け渡しをし直してください。

ICK34094I INVALID BITS SET IN BYTE X'XXXX'. THOSE BITS SET INVALIDLY ARE: y (, z ...)

説明: ビットが、CCW に無効なバイト xxxx で設定されました。無効ビットは、従来型の 16 進形式で示されます。そのため、例えば左から 1 番目のビットが無効な場合は "X'80'" で示され、左から 2 番目のビットは "X'40'" で示されます。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 出力を保管して、IBM 技術員に通知してください。

ICK34095I TRACK FORMAT MISMATCH BETWEEN PRIMARY AND SECONDARY DEVICE DETECTED DURING UPDATE

説明: 2 次ボリューム上のトラックの形式が、更新操作の実行中の対応する主トラックの形式と一致しません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: トラック形式の矛盾を確認して訂正し、コマンドを再発行してください。

ICK34096I CASCADED SYNC TO SYNC CONFIGURATION WITH WRITES FROM LOCAL PAIR PROCEEDING

説明: カスケード PPRC 関係の PPRC ペアが、ファイバー・チャンネル・リンクを介して接続されています。カスケード PPRC 関係の両方の PPRC ペアが同期であり、まだ最初の PPRC ペアの 1 次から 2 次へ書き込み入出力を転送しています。この組み合わせは許可されていません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 現在同期モードになっているリモート PPRC ペアを、距離延長モードにリストアしてください。

ICK34097I RESTORE SPECIFIED AND VOLUMES WERE NOT IN A PERSISTENT RELATIONSHIP WHOSE BACKGROUND COPY HAD COMPLETED

説明: Restore Flashcopy relationship コマンドを受信しました。ボリュームは、バックグラウンド・コピーを完了した永続的な関係ではありませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FLASHCPY QUERY RELATIONS コマンドを使用して、バックグラウンド・コピーを完了したかどうか判別し、完了した場合は要求の受け渡しをし直してください。

ICK34098I INBAND REQUEST SENT TO NON-PPRC VOLUME

説明: 要求は、実行するコマンドを PPRC リモート・コントロール・ユニットに送信する必要があり、コマンドを受信するボリュームが PPRC 1 次ではないか、指定されたりリモート 2 次の PPRC 1 次が存在しないことを示していました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: インバンドが意図されたものであることを確認してください。これが意図されたものではない場合は、これを要求するキーワードを除去してください。例えば、FlashCopy 要求から SOURCEVOL キーワードを除去します。インバンドが意図されたものである場合は、ターゲットのボリュームが、PPRC QUERY コマンドを使用して行うことができる PPRC 関係になっていることを確認してください。

ICK34099I COMMAND NOT SUPPORTED ON THE HARDWARE OR SOFTWARE LEVEL OF ESS

説明: 要求された機能は、ハードウェアまたはソフトウェア・レベルのアドレス指定された ESS でサポートされていません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: アドレス指定された ESS が意図したものであることを確認してください。意図したものである場合は、ESS のハードウェア・レベルまたはソフトウェア・レベル (あるいはその両方) を、要求された機能をサポートするレベルにする必要があります。

ICK34100I ORDER CANNOT COMPLETE DUE TO INTERNAL HARDWARE CONDITIONS OR LACK OF RESOURCES TO MANAGE THE RELATIONSHIP

説明: 内部ハードウェア条件または関係を管理するためのリソースの不足により、要求されたコマンドを完了できません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 2 分間待ち、コマンドを再実行してください。この状態が続く場合は、技術員に通知してください。

ICK34101I REMOTE SOURCE VOLUME SPECIFIED FOR INBAND REQUEST NOT SECONDARY PPRC VOLUME OF THE ADDRESSED VOLUME

説明: 要求では、このコマンドをアドレス指定する PPRC 1 次ボリュームの PPRC 2 次ボリュームにするリモート・ソース・ボリュームを指定する必要があります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: SOURCEVOL キーワードでは、PPRC 2 次ボリュームが入出力を実行するボリュームに指定されていることを確認してください。

ICK34102I MAXIMUM NUMBER OF FLASHCOPY RELATIONSHIPS HAS BEEN EXCEEDED

説明: FlashCopy のターゲット関係の最大数が、FlashCopy エクステンツで指定されたソース・トラックを 1 つ以上超過したため、コマンドを完了できません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ターゲットの関係の数は、既存の関係を撤回するか、既存の関係が完了する (バックグラウンド・コピーの完了によって) まで待つことで、削減可能です。バックグラウンド・コピーの完了は、FLASHCPY QUERY RELATIONS コマンドでモニターできます。

ICK34103I FCP PATHS SPECIFIED BUT SPECIFIED ADAPTER(S) ARE FIBRE CHANNEL ARBITRATED LOOP

説明: コマンドで指定された SAID は FCAL アダプターを対象としており、そのようなアダプターには FCP パスを確立できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FCP パスが意図されていることを確認し、意図されている場合は、パスの確立に使用可能な SAID を判別してください。

ICK34104I REQUEST SPECIFIES THAT EXISTING TARGET TRACK BECOME A SOURCE TRACK

説明: 既存のターゲット・トラックがソース・トラックになるように指定されているため、コマンドを完了できません。単一トラックは、ソース・トラックとターゲット・トラックの両方になることはできません。ターゲット・トラックのソースは 1 つだけです。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドで意図した装置が指定のものであることを確認し、そうであれば、この要求を正常に完了するために、FlashCopy 関係を撤回しなければならない可能性があります。

ICK34105I MAXIMUM NUMBER OF RELATIONSHIPS FOR THE VOLUME EXCEEDED

説明: ボリュームの関係の最大数を超過したため、コマンドを完了できません。Flashcopy Withdraw コマンドによって関係が分割される場合は、関係の数が増える可能性があります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ターゲットの関係の数は、既存の関係を撤回するか、既存の関係が完了する (バックグラウンド・コピーの完了によって) まで待つことで、削減可能です。FLASHCOPY QUERY RELATIONS コマンドでモニターできます。

ICK34106I VOLUME INHIBITED FOR FLASHCOPY RELATIONSHIP ESTABLISH

説明: FlashCopy 関係の確立にボリュームが使用禁止になっているため、コマンドを完了できません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FlashCopy 関係の確立にボリュームが使用禁止になっている理由を判別して、状況を訂正し、適切な場合は要求の受け渡しをし直してください。使用禁止の理由によっては、FLASHCOPY QUERY コマンドが原因の判別に役立つことがあります。

ICK34107I COMMAND CANNOT COMPLETE BECAUSE SPECIFIED VOLUME(S) ARE OFFLINE OR IN INACCESSIBLE STATE

説明: 指定されたボリュームがオフラインまたはアクセス不能状態になっているため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ボリュームがオフラインになっているために失敗した場合は、装置をオンラインにするか、要求の受け渡しをし直してください。ボリュームがアクセス不能状態になっているために失敗した場合は、アクセス不能の原因を判別して訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

ICK34108I REQUEST SPECIFIES THAT EXISTING TARGET TRACK BECOME A TARGET TRACK

説明: 既存のターゲット・トラックがターゲット・トラックになるように指定されているため、コマンドを完了できません。単一トラックは、ソース・トラックとターゲット・トラックの両方になることはできません。ターゲット・トラックのソースは 1 つだけです。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドで意図した装置が指定のものであることを確認し、そうであれば、この要求を正常に完了するために、FlashCopy 関係を撤回しなければならない可能性があります。

ICK34109I REQUEST SPECIFIES THAT EXISTING SOURCE TRACK BECOME A TARGET TRACK

説明: 既存のソース・トラックがターゲット・トラックになるように指定されているため、コマンドを完了できません。単一トラックは、ソース・トラックとターゲット・トラックの両方になることはできません。ターゲット・トラックのソースは 1 つだけです。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンドで意図した装置が指定のものであることを確認し、そうであれば、この要求を正常に完了するために、FlashCopy 関係を撤回しなければならない可能性があります。

ICK34110I REQUEST TO REVERSE FLASHCOPY RELATIONSHIP FAILED BECAUSE TARGET BITMAP NOT ALL ZEROES

説明: コマンドが、FlashCopy 関係の順序を逆にしようとしたましたが、ターゲットのビットマップがすべてゼロではありませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FlashCopy のバックグラウンド・コピーが完了するまで待ってください。バックグラウンド・コピーの完了は、FLASHCOPY QUERY RELATIONS コマンドでモニターできます。

ICK34111I STATE OF EXISTING FLASHCOPY RELATION DOES NOT ALLOW SPECIFIED REQUEST

説明: 既存の FlashCopy 関係の状態では、指定された要求を処理できません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FLASHCOPY QUERY コマンドまたは FLASHCOPY QUERY RELATIONS コマンドのいずれかを発行して、既存の FlashCopy 関係の状態を判別してください。

ICK34112I REQUEST ISSUED TO VM MINI-DISK WHICH IS NOT SUPPORTED

説明: VM ミニディスクである装置に要求が発行されましたが、ミニディスクはサポートされていません。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK34113I REVERT OR COMMIT SPECIFIED, BUT THE EXISTING RELATION IS NOT REVERTIBLE

説明: 既存の関係は復帰不可能です。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK34114I ATTEMPT TO SPLIT EXISTING FULL VOLUME INCREMENTAL FLASHCOPY RELATION

説明: このコマンドは、既存のボリューム全体の増分 FlashCopy 関係を分割しようとした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。
システム・プログラマーの応答: なし。

ICK34115I CHANGE RECORDING SPECIFIED BUT IS ALREADY ACTIVE AND NOT PREVIOUSLY ACTIVATED WITH SAME OPERATION TYPE

説明: Change recording が指定されていますが、change recording はすでに活動状態であり、同じ操作タイプによって以前活動化されませんでした。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: FLASHCPY QUERY または PPRC QUERY をボリュームに発行して、Change Recording がすでに活動状態であるかどうかを判別してください。活動状態になっている場合は、他のユーザーが別の目的でこれらのボリュームを使用している可能性があります。

ICK34117I XDC CONSISTENCY CANNOT BE MAINTAINED DUE TO CONDITION THAT CAUSES VOLUME TO BE IN INCORRECT STATE

説明: 休止された増分のタイムアウト、またはボリュームを誤った状態にした他の条件により、XDC (非同期 PPRC) の整合性を維持できません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRCOPY QUERY SESSIONSDEVICES を発行して、セッションでのボリュームの状態を判別してください。必要に応じて訂正処置を取ってください。訂正処置では、ボリュームを正しい状態にする、セッションからボリュームを除去する、またはハードウェアを修理するために、コマンドの発行が必要になる可能性があります。

ICK34118I CLOSE SESSION CANNOT BE DONE BECAUSE THERE ARE STILL VOLUMES IN THE SESSION

説明: まだセッションを取り込んでいるボリュームがあるため、PPRC DEFINESESSIONS CLOSE コマンドは失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRC QUERY SESSIONSDEVICES を発行して、まだセッションに定義されているボリュームを判別してから、PPRC POPULATE REMOVE コマンドを使用して、セッションからこれらのボリュームを除去してください。

ICK34119I PPRC SECONDARY VOLUME NOT ESTABLISHED IN CASCADING PPRC STATE

説明: すでに既存の PPRC 関係の 1 次になっているボリュームを、PPRC 関係の 2 次として確立しようとした。これによって、カスケードされた 3 組が作成されましたが、この 2

次ボリュームは、カスケード状態になるように既存の関係で確立されませんでした。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 新規の PPRC 関係の 2 次になるように示されているボリュームが意図したものであることを確認してください。そうであれば、既存の PPRC 関係を分割し、CASCADE キーワードを指定して再確立してから、この要求の受け渡しをし直してください。

ICK34120I SESSION ALREADY OPEN ON LSS OR MAXIMUM SESSIONS ALLOWED ALREADY MET

説明: セッションをオープンする要求は、ターゲットの LSS にセッション番号がすでに存在するか、セッションの最大数をすでに満たしているため失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRC QUERY

SESSIONSDEVICES コマンドを発行して、装置に存在するセッションを判別してから、この要求の受け渡しをし直す前に、不要なセッションを削除してください。

ICK34121I ONE OF THE VOLUME(S) IS ALREADY ASSOCIATED WITH A SESSION

説明: セッションに特定のボリュームを取り込む要求は、ボリュームが別のセッションにすでに定義されているため失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRC QUERY

SESSIONSDEVICES コマンドを発行して、現在どのボリュームがどのセッションを取り込んでいるかを判別してから、適切な場合は、この要求の受け渡しをし直す前に、既存のセッションからボリュームを除去してください。

ICK34122I SPECIFIED SESSION ID DOES NOT EXIST ON ADDRESSED LSS

説明: 指定されたセッションからボリュームを JOIN または REMOVE する要求は、ターゲットの LSS にセッションが存在しないため失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRC QUERY

SESSIONSDEVICES コマンドを発行して、現在どのセッションがどの LSS に存在するかを判別してから、適切な場合は、この要求の受け渡しをし直す前に、必要なセッションを定義してください。

ICK34123I PATHS NOT ESTABLISHED BETWEEN MASTER AND ONE OR MORE SUBORDINATES

説明: マスター ESS とその従属の 1 つの間に FCP パスが確立されていなかったため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRC ESTPATH コマンドを使用して、マスターとその従属の間に FCP パスを確立してから、この要求の受け渡しをし直してください。

**ICK34124I START REQUESTED AND ANOTHER
MASTER IS ALREADY RUNNING OR
MODIFY REQUESTED AND
PARAMETERS DO NOT MATCH
EXISTING SESSION OR COMMAND
ISSUED TO OTHER THAN ALLOWABLE
LSS**

説明: STARTASYNCCOPY START を指定した場合は、ターゲットの ESS ボックスでマスターがすでに実行されています。STARTASYNCCOPY MODIFY を指定した場合は、指定されたパラメーターと既存の値に不一致があるか、または誤った LSS がターゲットになっています。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: STARTASYNCCOPY START を指定した場合は、ターゲットの ESS が意図したものであることを確認し、そうであれば、既存の非同期 PPRC 構成を終了して、この要求の受け渡しをし直してください。

STARTASYNCCOPY MODIFY を指定した場合は、指定されたパラメーターが正しいこと、および正しい LSS がターゲットになっていることを確認してください。

**ICK34125I COMMAND ISSUED TO DEVICE ON
WHICH CONFIGURATION DOES NOT
EXIST OR TO OTHER THAN
ALLOWABLE LSS**

説明: 指定されたセッションの構成が存在しないか、STARTASYNCCOPY コマンドが最初に発行された LSS のメンバーではない装置に入出力が実行されたため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 要求が正しい装置に発行されたこと、および正しいセッション番号が指定されていることを確認してください。

**ICK34126I COMMAND ISSUED TO SUBORDINATE
DEVICE WOULD RESULT IN EXCEEDING
THE MAXIMUM NUMBER OF ALLOWED
MASTERS**

説明: コマンドの完了によって、アドレス指定されている従属に許可されているマスターの最大数を越えたため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しい従属 ESS SSID の要求であることを確認してください。

**ICK34127I MISMATCH BETWEEN MASTER CUSN
AND THAT FOR SPECIFIED SESSION
OR BETWEEN SPECIFIED AND EXISTING
SESSIONS**

説明: 指定されたマスターのコントロール・ユニットの通し番号が、指定されたセッション番号の既存のコントロール・ユニットの通し番号と一致しないか、指定されたセッション番号が、指定されたマスターの既存のセッション番号と一致しないため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: パラメーターを訂正して、要求の受け渡しをし直してください。

**ICK34128I ONE OR MORE NON-VOLATILE
STRUCTURES COULD NOT BE
UPDATED OR ACCESSED DUE TO
FAILURE OR TO ESS BEING IN SINGLE
CLUSTER MODE**

説明: 障害または単一クラスター・モードになっている ESS により、1 つ以上の不揮発性構造を更新できないか、アクセスできないため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 技術員に通知してください。

**ICK34129I PAUSE/TERMINATE FAILED BECAUSE
COMPLETION WOULD JEOPARDIZE THE
CONSISTENT COPY OF THE DATA**

説明: 非同期 PPRC 構成の休止/終了は、データのコピーの整合性を保ちながら終了できなかったため失敗しました。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 技術員に通知してください。

**ICK34130I XDC START INCREMENT ORDER
RECEIVED ON SUBSYSTEM, BUT
SESSION OR MEMBERS OF SESSION
NOT IN CORRECT STATE**

説明: XDC (非同期 PPRC) start increment order をサブシステムで受信しましたが、セッションまたはセッションのメンバーが最新状態ではありません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: PPRC QUERY ASYNCCOPY コマンドまたは PPRC QUERY SESSIONSDEVICES コマンド (あるいはその両方) を発行して、セッションの状態を判別してください。

**ICK34131I XTH CUSN FIELD OF TOPOLOGY
KEYWORD INVALID**

説明: CUSN フィールドの指定に、無効な文字数があります。CUSN フィールドは、シーケンス番号 (5 文字以下)、2 文字の製造工場、4 文字のマシン・タイプ (合計で 11 文字)

で構成されています。製造工場またはマシン・タイプを指定する場合は、両方を指定する必要があります。

システムの処置: このコマンドの処理は終了し、戻りコード 12 が設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: CUSN 指定を調べて、フィールド (特にシーケンス番号) の文字数が、先行ゼロを含めた最大より少ないことを確認してください。製造工場とマシン・タイプについては、CONTROL CONFIG(DISPLAY) コマンドを装置に発行することで判別できます。

ICK34132I SPECIFICATION OF MACHINE TYPE AND PLANT OF MANUFACTURE MUST BE MADE FOR ALL SUBORDINATES OR NONE OF THEM

説明: 従属の製造工場とマシン・タイプを指定する場合は、すべての従属で情報を指定する必要があります。

システムの処置: このコマンドの処理は終了し、戻りコード 12 が設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: すべての従属の製造工場およびマシン・タイプを指定するか、または何も指定せずにジョブを再サブミットしてください。

ICK34133I XTH CUSN FIELD OF TOPOLOGY KEYWORD CONTAINS INVALID MACHINE TYPE

説明: xth CUSN で指定したマシン・タイプが無効です。

システムの処置: このコマンドの処理は終了し、戻りコード 12 が設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: xth CUSN 指定を調べて、マシン・タイプが正しいことを確認してください。マシン・タイプについては、CONTROL CONFIG(DISPLAY) コマンドを装置に発行することで判別できます。

ICK34134I XTH CUSN FIELD OF THE TOPOLOGY KEYWORD CONTAINS AN INVALID SEQUENCE NUMBER

説明: xth CUSN で指定したコントロール・ユニットのシーケンス番号が無効です。おそらく長すぎます。

システムの処置: このコマンドの処理は終了し、戻りコード 12 が設定されます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: xth CUSN 指定を調べて、指定されたシーケンス番号が正しく、製造工場とマシン・タイプのどちらも指定されていないことを確認してください。

ICK34135I PPRC ESTPAIR INCRASYNC(INCRES) ISSUED BUT 3-SITE INCREMENTAL RESYNC MECHANISM NOT RUNNING

説明: 増分再同期リカバリー処理の引き受け要求が行われましたが、アドレス指定されたボリュームでは、増分再同期機構が稼働していません。

システムの処置: コマンドは失敗します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 正しいボリュームがアドレス指定されていることを確認してください。ボリュームのアドレス指定が正しい場合は、INCRASYNC(STOP) が装置に対して発行されていないか確認してください。2 つのボリュームの同期がなお必要な場合、1 次ボリュームを 2 次ボリュームに全コピーする必要が生じます。

ICK34136I INCREMENTAL RESYNC TIME SEQUENCE CONFLICT BETWEEN PRIMARY AND SECONDARY VOLUMES

説明: INCRASYNC(INCRES) コマンドが、3 サイト増分再同期確立を指定して発行されましたが、2 次の 3 サイト増分再同期の時間シーケンスが 1 次の 3 サイト増分再同期の時間シーケンスより新しくなっています。

システムの処置: コマンドは失敗します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ローカル 1 次およびリモート 2 次と識別されたボリュームが、同じカスケードされた 3 組のメンバーになっていないか、なっていないことが考えられます。ボリュームの識別が正しいことを確認してください。2 つのボリュームの同期がなお必要な場合、1 次ボリュームを 2 次ボリュームに全コピーする必要が生じます。

ICK34137I MISMATCH IN SPECIFICATION OF INCREMENTAL RESYNC PRIMARY AND SECONDARY VOLUMES

説明: INCRASYNC(INCRES) コマンドが、3 サイト増分再同期確立を指定して発行されましたが、指定された 1 次と 2 次が、両方とも同じ対等通信リモート・コピーの 1 次のターゲットになっていないか、指定された 1 次の 2 次ボリュームが、指定された 2 次の 1 次ボリュームと同じボリュームになっていません。

システムの処置: コマンドは失敗します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ローカル 1 次およびリモート 2 次と識別されたボリュームが、同じカスケードされた 3 組のメンバーになっていないか、なっていないことが考えられます。ボリュームの識別が正しいことを確認してください。

ICK34138I 3-SITE INCREMENTAL RESYNC IS ACTIVE ON THIS VOLUME

説明: アドレス指定されたボリューム上で増分再同期がアクティブになっています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK40227I AN ELSE COMMAND APPEARS IMPROPERLY

説明: 対応する IF ステートメントがない ELSE 節がコマンド中に現れました。

システムの処置: コマンドの残りの部分は無視されます。

ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK40228I AN END COMMAND IS INVALID

説明: 対応する DO ステートメントがない END ステートメントが現れました。

システムの処置: コマンドの残りの部分は無視されます。

ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: DO-END の順番を訂正して、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK40229I 'IF' COMMAND HAS INVALID RELATIONAL EXPRESSION

説明: IF-THEN-ELSE ステートメントの順序が正しくありません。

システム変数の LASTCC および MAXCC のみを指定することができ、それらの値は、0 から 99999 までの 10 進数でなければなりません。

システムの処置: コマンド・ストリームの残りの部分は無視されます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: IF-THEN-ELSE ステートメントの順序に関する要件を調べ、エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK40230I SET COMMAND HAS INVALID ASSIGNMENT EXPRESSION

説明: SET ステートメントの構文が正しくありません。システム変数の LASTCC および MAXCC のみを指定することができ、それらの値は、0 から 99999 までの 10 進数でなければなりません。

システムの処置: コマンド・ストリームの残りの部分は無視されます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: SET ステートメントの構文要件を調べ、エラーを訂正し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK40232I IMPROPER OR MISSING THEN KEYWORD

説明: IF-THEN-ELSE コマンド順序で THEN 節が欠落しているか、またはつづりが誤っています。

システムの処置: コマンド・ストリームの残りの部分は無視されます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: エラーを訂正して、コマンドを再度出してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK40236I INPUT STREAM END-OF-FILE FOUND BEFORE END OF COMMAND

説明: コマンドをスキャンしている際に、ファイルの終わり条件が現れました。これはコマンド継続構文が誤っているか、または入力ストリーム中でレコードが欠落していることから起こります。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: コマンド構文を訂正するか、または欠落しているレコードを追加して、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK40237I TOO MANY LEVELS OF IF COMMAND NESTING

説明: 11 以上の IF ステートメントがネストされています。

システムの処置: コマンド・ストリームの残りの部分は無視されます。ICKDSF は、次のコマンドを用いて処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: ネストが多くなりすぎないようにコマンド・ストリームを再構成し、コマンドを再発行してください。出力を保管して、IBM 技術員に連絡してください。

ICK40300I ERROR READING INPUT DATA FROM *fn ft fm* RC= nnnn

説明: 指定された CMS ファイルから CMS マクロ FSREAD がレコードを読み取り中に、RC=nnnn でエラー状態が起きました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの説明については、「CMS Macros and Function Reference」の FSREAD マクロを参照してください。

ICK40305I ERROR READING INPUT DATA FROM VIRTUAL READER RC= nnnn

説明: CMS マクロ RDCARD が仮想読取装置のファイルからレコードを読み取り中に、RC=nnnn でエラー状態が起きました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの説明については、「CMS Macros and Function Reference」の RDCARD マクロを参照してください。

ICK40310I ERROR WRITING OUTPUT DATA TO *fn ft fm RC= nnnn*

説明: 指定された CMS ファイルに CMS マクロ FSWRITE がレコードを書き込み中に、RC=nnnn でエラー状態が起きました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの説明については、「CMS Macros and Function Reference」の FSWRITE マクロを参照してください。

ICK40315I ERROR WRITING OUTPUT DATA TO VIRTUAL PRINTER RC= nnnn

説明: CMS マクロ PRINTL が仮想プリンターに行を印刷中に、RC=nnnn でエラー状態が起きました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの説明については、「CMS Macros and Function Reference」の PRINTL マクロを参照してください。

ICK40317I UNABLE TO DETERMINE MINI DISK SIZE

説明: ICKDSF が CMS 呼び出しパラメーター・リストを使用して呼び出されました。処理はオペレーターの応答を必要としますが、入力装置がオペレーターの入力を許しません。

システムの処置: コマンド処理は終了します。

オペレーターの応答: 応答が可能な入力装置を指定し、再度ジョブを実行してください。

システム・プログラマーの応答: なし。

ICK40320I I/O OPERATION INCOMPLETE OR FAILED RC= nnnn

説明: CMS マクロ HNDINT が DASD 入出力操作の入出力割り込みを処理中に、RN=nnnn でエラー状態が起きました。

システムの処置: このコマンドは打ち切られます。

オペレーターの応答: なし。

システム・プログラマーの応答: 戻りコードの説明については、「CMS Macros and Function Reference」の HNDINT マクロを参照してください。

ICK40999I UABORT CODE nn

説明: 異常終了エラーのために、ICKDSF 処理プログラムは打ち切られました。この状況は、通常、ハードウェア・エラー、プログラム・エラー、またはシステム・エラーによって引き起こされます。メッセージはプログラマー向け書き込み SVC を介して、出力リストに現れます。

コード *nn* が、そのエラーの性質を示しています。

コード 意味

- 15 CMS パラメーター・リストを用いて ICKDSF が CMS から呼び出されたときに、入力データ・セットの入ったファイルが見つからなかった。
- 19 入力装置が無効である。
- 24 テキスト処理プログラムの印刷制御テーブルが、GDT によってアドレス指定されていない。
- 28 以下のものに対する仮想記憶が利用できない。
- ページ・ヘッダー行
 - 引数リスト
 - 表題
 - フッター行
 - 印刷制御テーブル (PCT)
 - 入出力アダプター・ヒストリー・データとメッセージ域の初期設定
 - 事前割り振り自動ストレージを用いるモジュールのための自動 (動的) ストレージ
 - GETMAIN/GETVIS 要求
 - STAE 制御ブロック用のスペース
 - オープン制御ブロック割り振り
 - 装置情報テーブル (DIT)
- 注: SYSPRINT データ・セットがオープンされていないので、十分なストレージが利用できなかったというメッセージが出せませんでした。
- 29 出力装置が無効である。
- 32 オープンされていないデータ・セットに対する処理が要求された。
- 33 STAE 制御を取り消すことができない。
- 34 USTAE 呼び出しが多すぎる。
- 36 処理プログラムが SYSPRINT (あるいは処理プログラムの標準リスト出力データ・セットを表すのに用いられた任意の DD 名) をオープンすることができない。
- SYSIN DD カードのつづりが誤っている可能性がある。
- 40 以下の U マクロ引数リストが無効である。
- 0OPEN, UCLOSE, UPUT, UALLOC, UCVAF, UGSPACE, UGPOOL, UFPOOL, USCRATCH, UTIME, UVOLCHK, UWTO, UDEQ, USTAE, URESERVE
- 41 UGSPACE マクロのストレージ要求が無効になっている。
- 44 処理プログラムがダンプを作成することができない。SNAP システム・サービスは失敗に終わった: DSFDUMP データ・セットをオープンできなかったか、または十分なストレージが利用できなかった。
- 50 ICKDSF 順序が正しくない。
- 52 ULOAD 用のモジュールが見つからない。
- 59 SIO ルーチンでの HNDINT マクロ・エラー。メッセージ ICK40320I の異常終了エラー・メッセージ。ICK40320I の説明と応答を参照してください。
- 68 GETVIS 障害。
- 69 GET SCHIB ルーチンでの HNDINT マクロ・エラ

接頭部 ICK

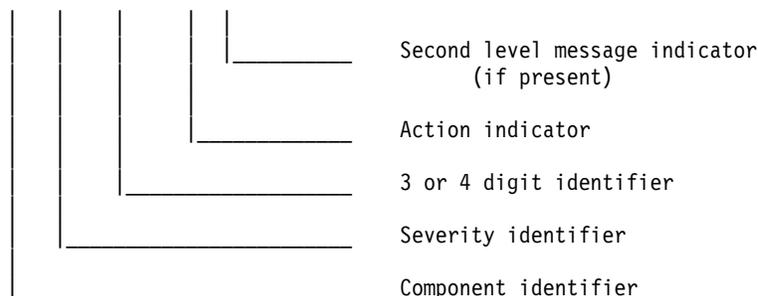
- ー (オープン時)。メッセージ ICK40320I の異常終了エラー・メッセージ。ICK40320I の説明と応答を参照してください。
- 72 装置タイプがサポートされない。
- 75 オペレーティング・システムが判別できない。
- 76 370 モードがサポートされない。
- 77 VSE EXTRACT が失敗し、CPUID を判別できない。
- 80 CCW 処置フラグが正しくない。
- 81 無効の OSVTOC。問題を訂正するための DADSM 呼び出しができない。
- 82 内部 ENQ 処理の問題。
- 84 その装置タイプでは認識できない入出力エラーが発生した。
- 88 オペレーターが ICK014D メッセージに T と応答した。
- 89 指定された入出力が正しくない。IBM サービス担当員にお問い合わせください。
- 93 ICKDSF が ICK011E メッセージに対して異常終了した。
- 96 処理されている装置上で入出力装置チェックが起きた。
- 98 PSF 順序が正しくないか、または処置が定義されていない。
- 99 PSF 順序が処置テーブル中で定義されていない。
- システムの処置: ICKDSF は、終了します。
- オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
- システム・プログラマーの応答: エラーの原因を訂正し、ICKDSF を再始動してください。ジョブ出力を保管し、IBM ハードウェア・サービス技術員と連絡を取ってください。

第 8 章 接頭部 IDC の IDCAMS メッセージ

接頭部 IDC の IDCAMS メッセージ

IDC メッセージの形式は次のとおりです。

IDC s nnn(n) I n message text



メッセージ・テキストの前に ** がある場合、そのメッセージは先行メッセージをさらに説明するものです。

3 桁の ID をもつメッセージはシステム・オペレーターに送られ、重大度 ID は付いていません。

3 桁または 4 桁で示される他のメッセージはすべて SYSLST に送られます。

重大度 ID

重大度 ID は次のとおりです。

- 0 通知。 実行への影響はありません。
- 1 警告。 実行は、おそらく、正常です。
- 2 エラー。 実行は、おそらく、失敗します。
- 3 重大エラー。 正常な実行は、おそらく、不可能です。
- 4 終了エラー。 正常な実行は不可能です。

処置標識

この標識は、I (通知メッセージ) または A (オペレーターの処置が必要) です。

IDCxxx = システム・オペレーターに対して出されるメッセージ

IDC400A MOUNT VOLUME xxx OF BACKUP FILE ON SYS004=cuu

説明: アクセス方式サービス・プログラムの RESTORE コマンドの実行中に、リストア処理を続行するために、ボリューム・シーケンス番号 xxx のバックアップ・ファイル・ボリュームが必要となりました。

システムの処置: 正しいテープ・ボリュームが取り付けられるまで、RESTORE コマンドの処理が延期されます。

オペレーターの応答: SYS004=cuu に、ボリューム・シーケンス番号 xxx のテープ・ボリュームを取り付け、END/ENTER を押して RESTORE コマンドの実行を継続してください。 そうしない場合は、CANCEL を入力して RESTORE コマンドの実行を終わらせてください。

プログラマーの応答: なし。

IDC401I BACKUP VOLUME REQUIRED FOR file-id

説明: アクセス方式サービス・プログラムの RESTORE コマンドの実行中に、ファイル ID が指定した対象の最初の部分が入っているバックアップ・ファイルのボリュームが必要になりました。 このメッセージの後には常に、メッセージ IDC402A が続き、取り付けるボリュームについてさらに詳しい情報が示されています。

システムの処置: 要求したテープ・ボリュームが取り付けられるまで、RESTORE コマンドの処理が延期されます。

オペレーターの応答: メッセージ IDC402A を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

**IDC402A MOUNT VOLUME xxx OR HIGHER ON
SYS004=cuu**

説明: アクセス方式サービス・プログラムの RESTORE コマンドの実行中に、ファイル ID によりメッセージ IDC401I に指定された対象の最初の部分を含むバックアップ・ファイルのボリュームが必要になりました。RESTORE コマンドでは、正しい開始ボリュームがわかりませんが、xxx よりも大きいか等しいボリューム・シーケンス番号のボリュームから開始されるはずで、このメッセージの前には常に、メッセージ IDC401I があります。

システムの処置: 要求したテープ・ボリュームが取り付けられるまで、RESTORE コマンドの処理が延期されます。

オペレーターの応答: ファイル ID が指定した (メッセージ IDC401I に) 対象の最初のバックアップ・ファイル・ボリュームを SYS004=cuu に取り付け、END/ENTER を押して RESTORE 処理を続行してください。そうでない場合は、CANCEL を入力して処理を中止してください。

このボリュームのボリューム・シーケンス番号は、バックアップ対象相互参照 (Backup Object Cross-Reference (BOCR)) で判別できます。BOCR を使用できないためボリュームを判別できない場合は、xxx かそれよりも高いボリューム・シーケンス番号をもつバックアップ・ファイルのボリュームを取り付けてください。ボリューム・シーケンス番号が、指定した対象の

最初のボリュームのボリューム・シーケンス番号よりも高い場合は、RESTORE コマンドにより、再度処理が求められます。こうして、取り付けるボリュームのボリューム・シーケンス番号が用意されます (メッセージ IDC400A)。

プログラマーの応答: なし。

**IDC403I TIME STAMP MISMATCH. BACKUP FILE
CREATED ON date AT hh:mm:ss**

説明: 取り付けたテープ・ボリュームが RESTORE コマンドで処理中のバックアップ・ファイルに属していません。バックアップ・ファイル作成タイム・スタンプ、またはバックアップ・ボリューム作成タイム・スタンプのいずれかが一致していません。処理中のバックアップ・ファイルは、メッセージに示された日付の示された時刻に作成されました。

システムの処置: このメッセージの後には、メッセージ IDC400A か、またはメッセージ IDC401I と IDC402A のいずれかが続きます。

オペレーターの応答: このメッセージは、前に取り付けたテープ・ボリュームが処理中のバックアップ・ファイルに属していなかったことを示しています。後続のメッセージ IDC400A、または後続のメッセージ IDC401I と IDC402A で指定された処置を実行してください。ただし、取り付けるボリュームが、メッセージ IDC403I で示された日時に作成されたバックアップ・ファイルに属するものか確認してください。

プログラマーの応答: なし。

SYSLST に書き出されるメッセージ

これらのメッセージには、4 桁または 5 桁の数字が含まれます。どちらの場合でも、最初の数字は重大度 ID です。

**IDC0001I FUNCTION COMPLETED, HIGHEST
CONDITION CODE WAS xxx**

説明: このメッセージは、任意の機能コマンドが、その完了時に出すものです。エラーが起きなかった場合は、条件コードは 0 です。エラーが起きた場合は、それは、この完了メッセージの前にあるエラー・メッセージにより示されます。

システムの処置: LASTCC を xxx にセットします。xxx が現在の MAXCC を超えている場合は、MAXCC もセットします。

プログラマーの応答: xxx がゼロでない場合、このコマンドに関連したシステム出力 (SYSLST) メッセージを使用して、問題判別を行ってください。

**IDC0002I IDCAMS PROCESSING COMPLETE.
MAXIMUM CONDITION CODE WAS xxx**

説明: このメッセージは、ジョブ・ステップの完了時に出力されます。ジョブ・ステップの実行時にセットされた条件コードの最大値 (MAXCC) が印刷されています。IDCAMS のプログラム呼び出し (「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」の付録 D を参照) の場合は、MAXCC がレジスター 15 に入れられて呼び出し側に戻されます。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: xxx がゼロでない場合、このジョブ・ステップに関連したシステム出力 (SYSLST) メッセージを使用して、問題判別を行ってください。

**IDC0005I NUMBER OF RECORDS PROCESSED
WAS nnn**

説明: これは、REPRO または PRINT コマンドの実行で処理したレコードの数 (nnn) を示した情報メッセージです。入力レコードが選別して処理された場合、nnn には、実際に処理されたレコードだけが含まれます。(相対レコード・ファイルの場合、「空スロット」はレコードとして処理されるため、カウントに加えられます。)

条件コードが 0 である場合、すべてのレコードが処理されました。条件コードが 4 の場合は、処理されていないレコードがいくつかあります。この状態を起こすには、「COUNT」を指定する必要はありません。ファイルを部分的に処理している場合は、条件コード 4 が起きた理由を示せるよう、ファイルの内容に精通していなければなりません。このメッセージは、レコードを 1 つも処理しなかった (エラーである) ことを示すこともあります。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC0055I VOLUME SPACE EXCEEDS MAXIMUM
VSAM CAPABILITY. MAXIMUM WILL BE
USED**

説明: これは通知メッセージです。VSE/VSAM は、より大きな DASD ボリューム (3390-9) でそれぞれ 150255 トラックの最初の 10017 シリンダーでのみスペースを割り振って、使用することができます。それぞれ 150255 トラックの 10017 シリンダー (シリンダーごとに 15 トラック) を超える DASD ボ

リュームに VSAM カタログまたは VSAM スペースを定義しようと試みた場合、このメッセージが表示されます。要求された割り振りが、それぞれ 150255 トラックの最大 10017 シリンダーを超えていない場合、カタログまたはスペースの定義は正常に完了します。この DASD ボリュームで VSAM がマップできるのは 150255 トラックです。

システムの処置: 要求された割り振りが 150255 トラックを超えていない場合、処理を続行します。要求された割り振りが 150255 トラックを超えていれば、カタログまたはスペースは割り振られません。

プログラマーの応答: リストで、このメッセージの直後に続いているメッセージを参照してください。

**IDC0177I BLOCKS DEFINED FOR VOLUME *volser*
ARE: block number THROUGH block
number
block number THROUGH block number
etc.**

説明: ユニーク・コンポーネントの DEFINE SPACE、DEFINE MASTERCATALOG、DEFINE USERCATALOG、DEFINE CLUSTER|AIX (UNIQUE と一緒に)、あるいは IMPORT|IMPORTRA を使用して、データ・スペースが固定ブロック・ボリューム上に定義されました。装置特性に適切にあわせて、丸めを行うと、実際の割り振りが、要求されたエクステントと異なることがあります。実際の割り振りは、メッセージ中に示されています。

システムの処置: 処理を続行します。条件コードは、変更しません。

プログラマーの応答: ユーザー指定のエクステントと実際のスペース割り振りとの間に差異があれば、その差異の部分 (現在 VSAM データ・スペースに含まれていません) は、これ以降の処理で使用することができます。もっと小さなスペースも受け入れられるのであれば、処置が不要です。この場合、スペースとそれに関連した対象を削除して、定義し直すことができます。

**IDC0204I PRECEDING COMMAND BYPASSED DUE
TO CONDITION CODES**

説明: 形式指定コマンドの構造指定 (すなわち、IF - THEN - ELSE) により、コマンドがバイパスされました。

システムの処置: コマンドの構文エラーについては検査しますが、実行はしません。

プログラマーの応答: 必要であれば、ジョブ・ステップと関連のあるシステム出力 (SYSLST) を使用して、問題判別を行ってください。

**IDC0206I IMPROPERLY PLACED COMMA HAS
BEEN FOUND AND IGNORED**

説明: 不必要なコンマがコーディングされています。省略された定位置パラメーターが、連続したコンマによって表されていないこともあります。

システムの処置: その使用は認めますが、余分なコンマを無視します。

プログラマーの応答: コマンドを調べて、パラメーターを省略していないことを確かめてください。余分なコンマを除き、コマンドを再び実行したときに、このメッセージが出ないようにしてください。

**IDC0222I WARNING: COMMAND-END DELIMITER
APPEARS WITHIN APOSTROPHES**

説明: オプション・コマンド区切り文字であるセミコロンが、アポストロフィで囲まれた項目の中にあります。右 (閉じ) のアポストロフィが省略されていることもあります。

システムの処置: その使用を認め、処理を続けます。セミコロンは、文字ストリング内の有効な文字として扱うが、コマンド区切り文字としては扱いません。

プログラマーの応答: 欠落しているアポストロフィがないか調べてください。省略されている場合は、その欠落しているアポストロフィを挿入し、コマンドを実行し直してください。

**IDC0233I TOO MANY RIGHT PARENTHESES
FOUND. EXCESS IGNORED**

説明: サブパラメーター・リストの終わり、または第 1 レベル・パラメーターの後の右括弧が多すぎます。

システムの処置: 余分な括弧を無視して、処理を続行します。

プログラマーの応答: 無効な構文を訂正してください。

**IDC0234I WARNING: TOO FEW RIGHT
PARENTHESES FOUND AT END OF
COMMAND**

説明: コマンドの終わりにある、サブパラメーター・リストを正しく閉じるための右括弧の数が不足しています。これは、ハイフンまたは正符号の継続文字の脱落に起因することもあります。

システムの処置: その使用を認め、右括弧の数が正しいものとして、処理を続行します。

プログラマーの応答: 継続文字を省いていないか調べてください。無効な構文を訂正してください。システムの処置により、所要の結果が得られなかった場合は、コマンドを実行し直してください。

**IDC0283I NO SYNTAX ERRORS WERE FOUND IN
THIS COMMAND. COMMAND WILL
NOT BE EXECUTED**

説明: このメッセージの直前のコマンドに対して構文検査が行われました。構文エラーが見つからず、コマンドは実行されません。

システムの処置: システムは、このジョブの中のアクセス方式サービス・プログラムの残りのコマンドの構文を調べます。コマンドはいずれも実行されません。

プログラマーの応答: アクセス方式サービス・プログラムのすべてのコマンドに構文エラーがなかった場合、**PARM=SYNCHK** を指定しないでジョブを実行してください。

**IDC0284I SYNTAX CHECKING STARTED. THE
FOLLOWING COMMANDS ARE ONLY
CHECKED, NOT EXECUTED**

説明: アクセス方式サービス・プログラムの **PARM** コマンドに、**SYNCHK** を指定したか、または **EXEC** ステートメントの **PARM** パラメーターの一部として **SYNCHK** を指定しました。

システムの処置: 構文が検査されたコマンドのリストが、このメッセージの後に続きます。コマンドは実行されません。後続のメッセージが構文エラーを識別します。

プログラマーの応答: 構文エラーを訂正し、VSAM は、1 回の実行でコマンドごとに 1 つの構文エラーしか検出できないの

で、構文検査を再実行してください。

それ以上構文エラーが見つからない場合、SYNCHK を指定しないでジョブを実行してください。

**IDC0296I A DEFAULT MODEL HAS BEEN
SUCCESSFULLY DEFINED**

説明: デフォルトのモデルの定義が、首尾よく行われました。
システムの処置: 条件コード (LASTCC) をゼロにセットします。処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC0508I DATA ALLOCATION STATUS FOR
VOLUME *volser* IS *nnn***

説明: このメッセージは、データ・コンポーネントに指定されたボリュームの割り振り状況が非ゼロであることを示します。
nnn は、VSAM カタログの戻りコードです。
システムの処置: DEFINE および IMPORT の場合、コマンドの処理は、通常、LASTCC に 12 をセットして終了します。IMPORTRA の場合、現在の対象はインポートされず、LASTCC を 8 にセットしますが、コマンドは別の対象を可搬ファイルにインポートする処理を続けます。下記の場合を除けば、このメッセージは、メッセージ IDC3007I または IDC3009I と一緒に出ます。メッセージ IDC3009I は、カタログ戻りコードとカタログ理由コードを提示します。

マルチボリュームが (明示的または暗黙的に) 指定されている場合、DEFINE CLUSTER または ALTERNATEINDEX NONUNIQUE が首尾よく実行されると、このメッセージが出ます。これは、データ・コンポーネントの 1 次割り振りが、指示されているボリュームではうまくいきませんでした、別のボリュームで成功したことを示しています。この場合、メッセージ IDC3007I や IDC3009I は表示されず、LASTCC は 0 にセットされたままです。プログラマーの応答は不要です。キー範囲指定のマルチボリューム DEFINE UNIQUE データ・コンポーネントにおいて、キー範囲よりも多くのボリュームが指定されている場合、定義がうまくいくと、データ・ボリューム割り振り状況が非ゼロとなります。この場合、メッセージ IDC3007I や IDC3009I は表示されず、LASTCC は 0 にセットされたままです。プログラマーの応答は不要です。
プログラマーの応答: 指定されたボリューム上での割り振りが失敗した理由を調べてください。239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』に示されている戻りコードの説明を使用してください。

**IDC0509I INDEX ALLOCATION STATUS FOR
VOLUME *volser* IS *nnn***

説明: このメッセージは、索引対象用に指定されたボリュームの割り振り状況が非ゼロであることを示しています。
nnn は、VSAM カタログの戻りコードです。

システムの処置: DEFINE および IMPORT の場合、コマンドの処理は、通常、LASTCC に 12 をセットして終了します。IMPORTRA の場合、現在の対象はインポートされず、LASTCC を 8 にセットしますが、コマンドは別の対象を可搬ファイルにインポートする処理を続けます。下記の場合を除けば、このメッセージは、メッセージ IDC3007I または IDC3009I と一緒に出ます。メッセージ IDC3009I は、カタログ戻りコードとカタログ理由コードを提示します。

マルチボリュームが (明示的または暗黙的に) 指定されている

場合、DEFINE CLUSTER または ALTERNATEINDEX NONUNIQUE が首尾よく実行されると、このメッセージが出ます。これは、索引コンポーネントの 1 次割り振りが、指示されているボリュームではうまくいかなかったが、別のボリュームで成功したことを示しています。この場合、メッセージ IDC3007I や IDC3009I は表示されず、LASTCC は 0 にセットされたままです。プログラマーの応答は不要です。
プログラマーの応答: エラーを判別するには、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』のもとに示されている戻りコードの説明を参照してください。

**IDC0510I CATALOG ALLOCATION STATUS FOR
VOLUME *volser* IS *nnn***

説明: このメッセージは、VSAM カタログを含むボリュームの割り振り状況が非ゼロであることを示します。
nnn は、VSAM カタログの戻りコードです。
システムの処置: コマンドの処理を終了します。このメッセージはメッセージ IDC3007I または IDC3009I と一緒に表示されず、メッセージ IDC3009I は、カタログ戻りコードとカタログ理由コードを提示します。
プログラマーの応答: エラーを判別するには、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』のもとに示されている戻りコードの説明を参照してください。

**IDC0511I SPACE ALLOCATION STATUS FOR
VOLUME *volser* IS *nnn***

説明: このメッセージは、VSAM スペースが定義されるボリュームの割り振り状況が非ゼロであることを示します。
nnn は、VSAM カタログの戻りコードです。

単一ボリュームの DEFINE SPACE の場合、このメッセージは (メッセージ IDC3007I または IDC3009I と一緒に)、DEFINE SPACE のエラーの原因を示しています。データ・スペースが、まったく定義されていません。LASTCC は、常に 12 にセットされます。

マルチボリュームの DEFINE SPACE の場合、

- このメッセージが、1 つ、もしくはそれ以上のボリュームについて現れていますが、メッセージ IDC3007I やメッセージ IDC3009I が現れていなければ、データ・スペースは、このメッセージで示されていないボリューム上に首尾よく定義されています。このメッセージで示されているボリュームには、戻りコード *nnn* で示される理由により、データ・スペースは定義されていません。LASTCC は、常に 8 にセットされます。
- このメッセージが、1 つ、もしくはそれ以上のボリュームについて現れ、メッセージ IDC3007I または IDC3009I のいずれかが現れていれば、データ・スペースは、このメッセージで示されているボリュームに定義されていません。データ・スペースは、このメッセージで示されていないボリュームに定義されていることもあるし、されていないこともあります。LISTCAT SPACE を実行して、示されていないボリュームに、新しいデータ・スペースが定義されているかどうかを判別します。LASTCC は、常に 12 にセットされます。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: エラーを判別するには、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』のもとに示されている戻りコードの説明を参照してください。マルチボ

リュームに対し行う DEFINE であった場合は、VOLUMES リストから、首尾よく定義されたボリュームを取り除いてください。(上記の『原因』の項を参照してください) コマンドを実行し直してください。

IDC0512I NAME GENERATED-(x) file-id

説明: これは、通知メッセージです。DATA および INDEX の対象名が指定されていない場合は、VSAM カタログ管理が生成します。括弧内の文字 (「D」または「I」) は、ファイル ID に対応する対象を示します。デフォルトのモデルの定義の場合、印刷されるデータ (および索引) 名は、ユーザーの指定した名前とは関係なく、アクセス方式サービス・プログラムが生成します。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 不要です。これは、ALTER または IMPORT(RA) OBJECTS によりコンポーネントを明示的に参照するときに用いる名前です。

IDC0520I CATALOG RECOVERY VOLUME IS volser

説明: このメッセージは、定義されたばかりの対象のカタログ・リカバリー・データ (CRA) をすべて含むボリュームの通し番号を示しています。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 定義されたばかりの対象のカタログ項目を変更するような操作に備えて、名前が示されているボリュームを取り付けておかなければなりません。

IDC0526I ALTERED ALLOCATION STATUS FOR VOLUME volser IS mnn

説明: このメッセージは、VSAM ファイルへのボリュームの追加または除去における割り振り状況を示しています。mnn は、VSAM カタログの戻りコードで、状況を示しています。0 は、ボリュームの割り振りが首尾よく行われたことを示しています。戻りコードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC0550I ENTRY (x) objectname DELETED

説明: 指定された objectname が、VSAM カタログから削除されました。これが VSAM ファイルまたはカタログである場合、それに割り振られていた全スペースは、割り振りを解かれます。x は、以下に従った項目のタイプを示します。

A = 非 VSAM
C = クラスター
D = データ
G = 代替索引
I = 索引
M = マスター・カタログ
R = パス
U = ユーザー・カタログ
V = ボリューム

ボリューム項目が削除されるのは、ボリュームにデータ・スペースがまったくなくなった場合のみであることに注意してください。

さい。この場合、カタログは、ボリュームを所有しません。

objectname にはボリューム通し番号が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC0551I * * ENTRY objectname NOT DELETED

説明: このメッセージの前に示されているメッセージが、objectname 項目が削除されなかった理由を示しています。

システムの処置: 名前が示されている対象は削除しません。

プログラマーの応答: 削除されなかった原因を正し、コマンドを実行し直してください。

IDC0555I DELETION OF SPACE OBJECT DID NOT CAUSE volser TO BE DELETED

説明: データ・スペースの削除により、ボリュームがカタログから削除できず、形式 4 VTOC ラベルの VSAM 所有者フラグは、オフになりませんでした。以下の原因が考えられます。

- ボリュームがカタログ・ボリュームです。
- ボリュームに、空でないデータ・スペースがあり、FORCE が指定されていませんでした。
- ボリュームが、1 つ、またはそれ以上の VSAM ファイルに対する候補ボリュームで、しかも、FORCE が指定されていませんでした。

システムの処置: ボリュームは、最初に定義されていたカタログの所有のままです。空のデータ・スペースを削除して、処理を続行します。

プログラマーの応答: (非カタログ) ボリュームをカタログから削除したければ、次のようにしてください。

- LISTCAT 出力を使用して、そのボリュームが候補ボリュームであるか判別してください。(VOLFLAG が DATA または INDEX VOLUME グループの中で CANDIDATE です。) そのようなファイルがある場合は、
 - これらのファイルを削除してください。または、
 - ALTER REMOVEVOLUMES を使用して、ファイルの候補リストから、このボリュームを除いてください。または、
 - DELETE SPACE コマンドに FORCE オプションを指定してください。

次に、コマンドを実行し直してください。

- LISTCAT 出力を使用して、そのボリュームにデータ・スペースが割り振られているファイルがあるか判別してください。(VOLFLAG が DATA または INDEX VOLUME グループの中で PRIME または OVERFLOW です。) そのようなファイルがある場合は、
 - これらのファイルを削除してください。または、
 - これらのファイルに対し EXPORT または REPRO を実行し、次に古いコピーを削除してください。または、
 - DELETE SPACE コマンドに FORCE オプションを指定してください。

次に、コマンドを実行し直してください。

ボリュームがカタログ・ボリュームである場合、DELETE USERCATALOG または MASTERCATALOG を実行することによってのみ、VSAM の所有権を除くことができます。

IDC0571I CATALOG RELOAD HAS BEEN INVOKED

説明: カタログを目的ファイルとして、REPRO コマンドが実行されました。このメッセージは、カタログ再ロード操作の処理の開始を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC0594I PORTABLE DATA SET CREATED SUCCESSFULLY ON date AT hh:mm:ss

説明: これは、通知メッセージです。可搬ファイルに、エクスポート中のクラスターまたは代替索引 (および、それに関連する経路) を再生成する上で必要なすべての情報が入っています。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 不要です。クラスターまたは代替索引をインポートする場合は、この日付および時刻を、IMPORT メッセージ IDC0604I に示されている日付および時刻と比較して、バックアップ・バージョンが正しくインポートされたか確かめてください。

注: このメッセージが出た後でエラーが起こることがあり、この場合、エラー・メッセージが印刷され、エラー条件コードがセットされます。これらのエラーは、ファイルを削除する (PERMANENT オプション) か、またはファイルを変更する (TEMPORARY オプション、これにより、ファイル・カタログ項目に一時的なフラグが付けられる) 際の誤りに起因していません。この誤りにより、最初に古いコピーを削除するか、または (同じ名前のすべてのコンポーネントも含めて) 再命名しなければ、このカタログにファイルをインポートすることはできなくなります。

IDC0603I CONNECT FOR USER CATALOG catname SUCCESSFUL

説明: この通知メッセージは、CONNECT が正しく完了したカタログの名前 (catname) を示します。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

IDC0604I DATA SET BEING IMPORTED WAS EXPORTED ON date AT hh:mm:ss

説明: この通知メッセージは、ファイルがエクスポートされた日付と時刻を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 不要です。このメッセージにより、可搬ファイルが正しくインポートされていることが確かめられます。

IDC0622I USERCATALOG catname DISCONNECTED

説明: 新しいポインター (同じ catname を持つ) をユーザー・カタログに結合するために、IMPORTRA が使われて、ユーザー・カタログが切り離されました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC0626I IMPORTRA SUCCEEDED FOR objectname

説明: 対象 (objectname) が、首尾よくインポートされました。システムの処置: 処理を続行します。これは、通知メッセージです。

プログラマーの応答: なし。

IDC0652I altindex SUCCESSFULLY BUILT

説明: altindex で示される代替索引が、エラーなしに、正しく作られました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC0665I NUMBER OF ENTRIES THAT MISCOMPARED IN THIS CRA - nm

説明: COMPARE オプションが要求され、アクセス方式サービス・プログラムが、カタログ・リカバリー域 (CRA) とカタログとの間で一致しないものが 1 つ以上ある項目を nm 個 (ボリューム、クラスター、代替索引、非 VSAM、および/またはカタログ項目) 見つけました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 出力リストで、* MISCOMPARES フィールド・タイプの印刷行を調べ、この項目に一致しないものがあるか、および、どのフィールドが一致しないのかを判別してください。リカバリーが必要かどうか判別してください。(データ・リカバリー手順については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」を参照してください。)

IDC0669I EXPORTING FROM CRA ON VOLUME volser

説明: アクセス方式サービス・プログラムが、カタログ・リカバリー域 (CRA) およびメッセージ中に名前が印されているボリュームに関連する 1 つ以上のファイル、ユーザー・カタログ項目、または非 VSAM 項目をエクスポートしようとしています。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC0670I DATA SET SUCCESSFULLY EXPORTED

説明: 2 次メッセージ IDC0674I に名前が示されているファイル、カタログ項目、または非 VSAM 項目が、首尾よく取り出され、可搬ファイルに書かれました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC0672I ** LOCKED ON CATALOG catname

説明: この 2 次メッセージは、処理される最初の CRA を持つカタログの名前を示しています。これは、CRA 項目がエクスポートされるカタログです。カタログはアクセス保全のためキューに入れています (すなわち「ロック」されます)。

システムの処置: リスト中の、このメッセージのすぐ前にある 1 次メッセージを参照してください。

プログラマーの応答: リスト中の、このメッセージのすぐ前にある 1 次メッセージを参照してください。

IDC0674I ** NAME IS file-id

説明: これは、2 次メッセージであり、別のメッセージの補足として、ファイル ID を示しています。メッセージの説明は、先の 1 次メッセージを参照してください。

システムの処置: リスト中の、このメッセージのすぐ前にある 1 次メッセージを参照してください。

プログラマーの応答: リスト中の、このメッセージのすぐ前にある 1 次メッセージを参照してください。

**IDC0676I PORTABLE DATA SET CREATED
SUCCESSFULLY ON date AT time**

説明: 可搬ファイルが作成されました。このファイルには、エクスポートされたファイル、ユーザー・カタログ項目、および非 VSAM 項目を IMPORTRA により再生成する上で必要な情報が入っています。IMPORTRA は、インポートされる各対象ごとに、エクスポートの日時を印刷します。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 不要です。可搬ファイルがインポートされるときに、この日時が、メッセージ IDC0604I に印刷されます。

**IDC0874I FOLLOWING NOT ALPHABETIC -
INSUFFICIENT WORK SPACE FOR SORT**

説明: 十分な仮想記憶が使えず、DUMP もしくは NAME オプション指定の LISTCRA コマンドへの応答にリストする対象の、英字順分類ができません。

システムの処置: 分類を行わず、対象は、カタログ・リカバリー域を読んだときに現れた順にリストします。

プログラマーの応答: 分類リストが必要な場合は、もっと大きな区画でコマンドを実行し直してください。

**IDC0877I NUMBER OF OBJECTS THAT
MISCOMPARED IN THIS CRA - nn**

説明: COMPARE オプションが要求されました。このメッセージは、カタログ・リカバリー域とカタログの間で一致しないものが生じているレコードの数 (nn) を示しています。出力リストに、*MISCOMPARES フィールド・タイプの印刷行が nn 個あります。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: nn がゼロであれば、不要です。それ以外の場合は、リカバリーが必要かどうか判別してください。

LISTCRA 出力の解釈方法および DUMP COMPARES オプション出力リストを示す例については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。また、LISTCRA * MISCOMPARES メッセージのリカバリー処置については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」の『LISTCRA: リカバリー可能カタログの分析』を参照してください。

**IDC0888I ** ENTRY CONTAINS NO DATA
RECORDS**

説明: これは、2 次メッセージであり、エクスポートされる VSAM ファイルにデータ・レコードがないことを示しています。ファイルの名前は、リスト中のこのメッセージの前にある

2 次メッセージ IDC0674I に示されています。以下に示す理由により、この状態が起こります。

- ファイルが定義されました (2 次割り振り、固有、または非割り振り) が、まだロードされていません。
- ファイルは動的または再使用可能ファイルであり、最後のクローズ時に、DLBL DISP パラメーターに DELETE または DATE (満了となっている日付) が指定されているか、または ACB MACRF パラメーターに DELETE または DATE (満了となっている日付) が指定されているため、空にリセットされました。ファイルは、レコードがロードされずに、クローズしました。
- ファイルは動的または再使用可能ファイルであり、最後のオープン時に、ACB MACRF マクロに OUT が指定されており、DLBL DISP パラメーターに NEW が指定されているか、または ACB MACRF パラメーターに RST が指定されていたため、空にリセットされました。ファイルは、レコードがロードされずにクローズしました。
- ファイルは、デフォルトのモデルです。デフォルト・モデルは、データ・レコードをもちません。

システムの処置: このファイルのカタログ情報だけを、処理しようとしています。処理の結果については、このメッセージの前にある 1 次メッセージを参照してください。処理が首尾よく行われれば、IMPORTRA によりファイルを再定義するために必要な情報が、可搬ファイルに入ります。

プログラマーの応答: なし。

**IDC0922I xxx DUMP ELEMENT INVALID FOR
SYMBOLIC DUMP**

説明: PARM コマンドにより、UDUMP マクロが出されました。記号ダンプ・リストのダンプ・エレメント xxx に無効なタイプ・フィールドがあります。または長さフィールドが、指定されたタイプには無効です。条件コードは変わりません。これはシステム・エラーです。

システムの処置: ダンプ・エレメント xxx を無視します。記号ダンプの処理を続行します。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLS) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

**IDC0923I xxx ARRAY HEADER INVALID FOR
SYMBOLIC DUMP**

説明: PARM コマンドにより、UDUMP マクロが出されました。記号ダンプ・リスト xxx の配列ヘッダーが次のいずれかです。

- エクステンション・フィールドが無効です。(0 よりも大きく、99 以下でなければなりません)
- 項目カウント・フィールドが無効です。(0 よりも大きくなければなりません)
- 既存の配列指定の中にある配列ヘッダーです。(配列の中に配列があってはなりません)

条件コードは変わりません。これは、システム・エラーです。システムの処置: 配列ヘッダー xxx を無視します。配列指定の中にあるダンプ・エレメントは、単一 (配列ではない) 項目として扱います。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC0924I DUMP ROUTINE INVOKED AT xxxx

説明: PARM コマンドにより、UDUMP マクロが、ダンプ・ポイント xxxx からアクセス方式サービス・プログラムのダンプ・ルーチン呼び出しました。

システムの処置: IDCAMS トレース・テーブルをダンプします。これは、PARM コマンドの指定に従って、記号ダンプか区画の全ダンプ、またはその両方です。

プログラマーの応答: なし。

**IDC0925I DUMP *nnn* PRODUCED AT DUMP POINT
xxxx**

説明: PARM コマンドにより、区画の全ダンプ (SNAP) が行われました。これは、*nnn* 番目のスナップ・ダンプです。

UDUMP マクロは、ダンプ点 xxxx の所で呼び出されました。システムの処置: スナップ・ダンプを実行し、処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC0930I RECORD MAPPING FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: ジョブ内のすべての機能が正常に実行されました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC0935I IXFP/SNAPSHOT FUNCTION
COMPLETED SUCCESSFULLY**

説明: ソース・ボリューム・リスト内のすべてのボリュームに関して SNAPSHOT コピーがとられ、エラーは検出されませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC1024I INDEX SHAREOPTIONS(4) CHANGED TO
SHAREOPTIONS OF DATA**

説明: 索引コンポーネントに対して DEFINE コマンドに SHAREOPTIONS(4) を指定しましたが、データ・コンポーネントの共用オプションの値は、4 ではありません。索引の共用オプションが 4 であるならば、データの共用オプションもまた 4 でなければなりません。

システムの処置: 索引の共用オプションをデータの共用オプションと同じ値にします。

プログラマーの応答: LISTCAT を実行して、索引の共用オプションが何に変更されたかを判別してください。変更されたものが受け入れられない場合は、データと索引の両方の共用オプションを 4 に変更してください。

**IDC1048I DATA SHAREOPTIONS MUST BE 4
WHEN INDEX SHAREOPTIONS IS 4**

説明: 索引のコンポーネントに対して ALTER コマンドに SHAREOPTIONS(4) を指定しました。データのコンポーネントにも共用オプションの値の 4 を指定しなければなりません。システムの処置: 要求したように索引の共用オプションを 4 に変更します。

プログラマーの応答: LISTCAT を実行して、データ・コンポーネントの共用オプションが何であるかを判別してください。データの共用オプションが 4 の場合は、処置は不要です。データの共用オプションが 4 でない場合は、それを 4 に変更するか、または索引の共用オプションを他の値に変更してください。

**IDC1172I USECLASS AS SPECIFIED AT
DATA/INDEX IGNORED BECAUSE SPACE
NOT SPECIFIED AT SAME LEVEL**

説明: データまたは索引レベルでの USECLASS 指定 (0 以外) が無視されました。これは、スペース・パラメーター (シリンダー、トラック、ブロック、レコード) が指定されていないか、または同じレベルでモデル化されていないからです。

システムの処置: 処理を続行します。条件コードを 4 にセットします。

プログラマーの応答: システムの処置を受け入れない場合は、定義を削除し、所要の USECLASS およびスペースを同じレベルで指定して、定義し直してください。

**IDC1285I CRA ON VOLUME *valid* HAS NO FILES
TO BE EXPORTED**

説明: 指定されている CRA は有効ですが、そこにファイルがありません。または要求されたファイルが入っていません。

NONE が指定されていれば、このメッセージは出ません。

システムの処置: LASTCC を 4 にセットして、他の CRA の処理を続行します。処理の終了時に、何もエクスポートされていなければ、LASTCC を 12 にセットします。

プログラマーの応答: このメッセージが予想外の場合は、LISTCRA コマンドを使用して、CRA を調べてください。また LISTCAT を使用して、ファイルにとってボリュームが正しいか判別することもできます。

IDC1293I *xxx* PARAMETER IGNORED

説明: 指定されているキーワード・パラメーター *xxx* は、無視されました。与えられた大文字小文字またはパラメーターの組み合わせには適用できないためです。

xxx が DEFAULTVOLUMES である場合、DEFAULTVOLUMES が明示的に指定されましたが (クラスター/代替索引レベルで、またはデータあるいは索引コンポーネント・レベルで)、VOLUMES パラメーターの明示指定 (クラスター/代替索引レベルで、またはデータあるいは索引コンポーネント・レベルで) により変更されたため、クラスター/代替索引の定義時に、デフォルトのモデル・ボリューム・リストが生成されなかったことを、このメッセージは示しています。

xxx が ORIGIN である場合、ORIGIN パラメーターが

DEDICATE パラメーターと一緒に指定されたことを、このメッセージは示しています。ORIGIN が無視されました。

xxx が FILE である場合、FILE パラメーターが DEDICATE パラメーターと一緒に指定されたことを、このメッセージは示しています。FILE が無視されました。

xxx が BLOCKS である場合は、このメッセージは、指定された値が BLOCKS パラメーターの最大値 16,777,215 (X'FFFFFF') より大きいことを示します。

IMPORT および IMPORTRA の場合、影響を受けたクラスタまたは代替索引の名前が、2 次メッセージ IDC0674I に示されています。

システムの処置: 処理を続行します。xxx が DEFAULTVOLUMES である場合、ファイルまたはファイル・コンポーネントを、VOLUMES パラメーターで指定のボリュームに定義します。条件コード (LASTCC) を 4 にセットします。

xxx が BLOCKS である場合は、最大値が設定されます。プログラマーの応答: xxx が DEFAULTVOLUMES である場合、(VOLUMES パラメーターから) 実際に使用されているボリュームが満足のいくものであれば、処置は不要です。(コマンドを再び使用するのであれば、不必要な DEFAULTVOLUMES 指定はすべて取り除いてください。)

xxx が ORIGIN または FILE である場合、ボリュームの残りの部分が VSAM スペースに専用されていることを、そのまま受け入れるか、あるいはスペースを削除して、DEDICATE を省略し、その代わりに、ORIGIN または FILE を使用して定義し直してもかまいません。

DEFAULTVOLUMES 機能を使用してファイルを定義し直したい場合は、VOLUMES パラメーターが DEFAULTVOLUMES パラメーターを変更しないように、コマンド・パラメーターを変更してください。DEFINE および IMPORT の場合、ファイルを削除して、コマンドを実行し直してください。

xxx が BLOCKS であり、最大値をまだ受け入れられない場合は、DEDICATE を指定して、スペース全体を VSAM に指定する必要があります。

IDC1294I [NOCIFORMAT] SAM ESDS FOUND IN CRA *volser*, DATA SET IS BYPASSED

説明: *volser* 上のカタログ・リカバリー域 (CRA) にあるすべての項目 (ALL サブパラメーター) をエクスポートするよう、EXPORTRA コマンドが要求を出しました。2 次メッセージ IDC0674I により示されている SAM ESDS ファイルは、次の理由からエクスポートされません。

- ファイルは、NOCIFORMAT (これがメッセージ・テキスト中に示されています) であり、NOCIFORMAT SAM ESDS はエクスポートできません。
- SAM 機能のための VSAM スペース管理が、このシステムに組み込まれておらず、そのために SAM ESDS はエクスポートできません。(NOCIFORMAT がメッセージ・テキスト中に示されていません。)

システムの処置: 示されているファイルはエクスポートせず、LASTCC を 4 にセットして、エクスポートする他の項目について処理を続行します。

プログラマーの応答: 不要です。ENTRIES サブパラメーターを (有効にエクスポートできるすべての項目について) 指定すれば、このメッセージを出さないようにできます。

NOCIFORMAT SAM ESDS の場合、ファイル・リカバリーを行い、必要であれば可搬コピーを作るユーザー・プログラムを用意しなければなりません。SAM 機能のための VSAM スペース管理がシステムに組み込まれていない場合は、SAM ESDS をアクセスすることはできません。

IDC1295I ** RECORD NOT READ. LENGTH INVALID

説明: ブロック長フィールドにマイナスまたはゼロの長さの値をもつ可変非ブロック化レコードが見つかりました。そのレコードは無視されます。

IDC1329I INCONSISTENT SPANNED RECORD DETECTED

説明: アクセス方式サービス・プログラムのスパン・レコードの処置要求中に、エラーが検出されました。制御インターバル RDF に記憶されたレベル番号が一致しません。このことは、2 つまたはそれ以上のレコード・セグメントが同じ更新レベルにないことを意味します。これは、共用出力の並行アクセスが原因の場合もあります。

システムの処置: レコードはバイパスされます。このエラーが 4 回繰り返されるまでは、エクスポートは続行されます。5 番目のエラー以降は、ファイルの処理は終了します。

プログラマーの応答: ファイルが出力用に並行してアクセスされていないことを確認して、コマンドを実行し直してください。問題が再発する場合には、前のバックアップからファイルをリカバリーしてください。

IDC1502I PASSWORD SUPPRESSION IN MODEL OBJECT

説明: これは、警告メッセージです。モデルに与えられたパスワードが、パスワード自身を突き止めるために十分なものではない場合に出されます。したがって、パスワードは、定義中の対象には使用されていません。

システムの処置: パスワードはモデル化せず、処理を続行します。

プログラマーの応答: パスワードのモデル化が必要な場合は、モデル対象のマスター・パスワードを与えてください。対象を削除して、定義し直してください。

IDC1543I NEW KEYS AND/OR RECORDSIZE VALUES EQUAL TO PRIOR DEFAULT VALUES

説明: ALTER コマンドが KEYS または RECORDSIZE パラメーターを指定しましたが、このパラメーターの値は、DEFINE コマンドにより選択されたデフォルト値と同じです。DEFINE のデフォルトは、KEYS(64 0)、非スパン・ファイルの場合、RECORDSIZE(4089 4089)、スパン・ファイルの場合、RECORDSIZE(4086 32600) です。

システムの処置: システムは、条件コード 4 で ALTER コマンドの処理を続行し、KEYS および RECORDSIZE 以外のパ

ラメーターがあれば、それを変更します。キーの値が無効であると、同じコマンド内のレコード・サイズの値も変更されません。また、その逆もあります。

プログラマーの応答: デフォルトの値が正しければ、不要です。正しくない場合は、ALTER コマンドを実行して、それらを訂正してください。

IDC1544I KEYS AND/OR RECORDSIZE VALUES EQUAL TO PRIOR NON-DEFAULT VALUES

説明: ALTER コマンドで、KEYS に指定した値、または RECORDSIZE に指定した最大値が、すでに定義されている値と同じです。KEYS および RECORDSIZE の DEFINE デフォルト値だけを変更することができます。

システムの処置: システムは、条件コード 4 で ALTER コマンドの処理を続行し、KEYS および RECORDSIZE 以外のパラメーターがあれば、それを変更します。キーの値が無効であると、同じコマンド内のレコード・サイズの値も変更されません。また、その逆もあります。

プログラマーの応答: 指定された値が正しければ、不要です。正しくない場合は、その項目を削除して、正しい値で定義し直してください。

IDC1561I WKSPC LACKING FOR *objectname*

説明: アクセス方式サービスおよび LISTCAT の呼び出しには、もっと大きな区画サイズが必要です。

システムの処置: システムは、示されている *objectname* に対する LISTCAT コマンドの処理をバイパスし、条件コード 4 で処理を続行します。

プログラマーの応答: バイパスされた項目について、さらに大きな区画でコマンドを実行し直してください。

IDC1562I *volser* VOLUME SERIAL NUMBER TOO LONG

説明: LISTCAT コマンドの SPACE 要求で、ENTRIES パラメーターの値が 6 桁を超えています。LISTCAT で SPACE が指定されている場合、ENTRIES パラメーターはボリューム通し番号でなければなりません。その長さは、6 桁を超えてはなりません。

システムの処置: システムは、LISTCAT コマンドの示されている項目をバイパスし、条件コード 4 で処理を続行します。

プログラマーの応答: ボリューム通し番号を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC1564I *entryname* IS AN UNKNOWN TYPE

説明: カタログから戻された *entryname* は、LISTCAT がサポートしていないタイプです。

システムの処置: システムは、LISTCAT コマンドから示されている *entryname* をバイパスし、条件コード 4 で処理を続行します。

プログラマーの応答: OS/VS カタログを処理している場合なら、LISTCAT 処理で、OS/VS にのみ有効な項目タイプ (世代別データ・グループ (タイプ・コード B)、非 VSAM の別名項目 (タイプ・コード X)、またはユーザー・カタログ項目など)

があった可能性があります。そうでない場合は、カタログ検査サービス補助プログラムを実行し、それによって出されるメッセージのプログラマーの応答に従ってください。カタログ検査については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」に記述されています。

問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC1565I *entryname* NOT A REQUESTED TYPE

説明: 指定された *entryname* は、LISTCAT コマンドで指定された項目のタイプの中にはありません。

システムの処置: システムは、LISTCAT コマンドから示されている *entryname* をバイパスし、条件コード 4 で処理を続行します。

プログラマーの応答: 項目のタイプを正しく指定して、コマンドを実行し直してください。

IDC1566I ** *entryname* COULD NOT BE LISTED

説明: パスワード許可がなされていないか、またはカタログ・アクセス・エラーのために、*entryname* がリストできません。この状態の原因については、先行メッセージを参照してください。

システムの処置: システムは、*entryname* をバイパスし、条件コード 4 で処理を続行します。

プログラマーの応答: リスト中の、このメッセージのすぐ前にある 1 次メッセージを参照してください。

IDC1567I ** INVALID CONTROL INTERVAL NUMBER *nnn*

説明: VSAM カタログ内で、制御インターバル番号 (10 進数 *nnn*) により識別されている関連対象項目が、存在しません。

これの前にある 1 次メッセージが、カタログ戻りコード・エラーを示しています。

システムの処置: システムは、示されている項目をバイパスして、処理を続行します。

プログラマーの応答: カタログ検査サービス補助プログラムを実行して、無効な対象名を判別してください。その後、カタログ検査メッセージのプログラマーの応答に従ってください。カタログ検査については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」に記述されています。

IDC1574I CATALOG ENTRY COMPARISON NO LONGER FUNCTIONING

説明: このメッセージは、100 番目の IDC1575I メッセージが出された後に、出されます。バックアップ・カタログと目的のカタログとの比較を続行しますが、一致しないボリューム通し番号だけがリストされます。

システムの処置: 再ロード処理を続行します。ファイル ID が不一致でも、メッセージ IDC1575I は出しません。

プログラマーの応答: 目的のカタログとバックアップ・カタログとの間に、不一致項目が多数検出されました。したがって、再ロードの前および後に得た LISTCAT 出力を注意深く調べ終るまでは、再ロード・カタログの使用は慎重に行うべきで

す。LISTCAT コマンドを実行して、適用可能なカタログの内容をリストしてください。

**IDC1575I ONLY {BACKUP|TARGET} DEFINES
{file-id|volser}**

説明: このメッセージは、バックアップ・カタログまたは目的のカタログのいずれかに、ファイルまたはボリューム項目がないことを示しています。

システムの処置: 再ロード処理を続行します。

プログラマーの応答: バックアップだけがファイルを定義している場合、ファイルの実際のデータが、示されているボリュームにない場合があります。これは IDCAMS LISTCAT で検査できます。したがって、カタログ項目を削除してください。

ERASE オプションでは、他のユーザーのデータに影響を与える恐れがあるため、DELETE NOERASE オプションを使用してください。

バックアップだけがボリュームを定義している場合、そのボリュームはおそらく、このカタログの所有ではありません。このボリュームにあると示されているファイルを削除し、次に、このボリュームを削除してください。(ボリューム通し番号が同じである非 VSAM ボリュームを取り付ける必要があります。)

目的のカタログだけが VSAM ファイルを定義している場合、ファイル・アクセスは行われていません。ファイルのバックアップ・コピー (EXPORT からの出力) を得て、(IMPORT コマンドを使用して) インポートしておいてください。

目的のカタログだけが非 VSAM ファイルを定義している場合、DEFINE コマンドにより、これらのカタログ項目は再設定できます。

目的のカタログだけがボリュームを定義している場合、ボリューム・アクセスは行われていません。VSAM の所有権およびデータ・スペース保護の属性が除かれるまでは、VSAM での再使用はできません。

LISTCAT コマンドを実行して、適用可能なカタログの内容をリストしてください。

**IDC1595I PASSWORDS SUPPRESSED FOR THE
EXPORTED DATA SET**

説明: ファイルのマスター・パスワードが与えられなかったため、パスワードおよびその他の保護情報をアクセスできません。

システムの処置: コマンドの処理を続行します。ファイルの可搬バージョンが作られますが、保護属性はありません。ファイルは、インポート時に保護属性を持たないこととなります。プログラマーの応答: 保護属性が必要であれば、ファイルのマスター・パスワードを指定して、コマンドを実行し直してください。

**IDC1614I INVALID NAME IN OBJECTS
PARAMETER: objectname**

説明: IMPORT コマンドの OBJECTS パラメーターに指定されている *objectname* が、インポート中の VSAM ファイルのオブジェクト名、あるいは、それと関連のある経路と一致しません。

システムの処置: インポート処理を、通常どおりに続けます。*objectname* に対応する OBJECTS パラメーターを無視します。条件コードを 4 にセットします。

プログラマーの応答: 結果が所要のものでない場合、エラーのある *objectname* の指定を訂正し、コマンドを実行し直してください。インポートされたファイルには「一時的」のマークが付けれなくなるので (「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」の EXPORT TEMPORARY オプションを参照)、IMPORT を再実行する前に削除しておかなければなりません。

**IDC1627I PREDEFINED EMPTY DATA SET FOUND
-- OBJECTS PARAMETER NOT USED**

説明: インポートクラスターまたは代替索引の 1 つ、またはそれ以上のコンポーネントに対し、OBJECTS パラメーターが指定されましたが、カタログ内に、一致する定義済み空ファイルが見つかりました。

OBJECTS NEWNAME サブパラメーターを使用して、空ファイルのファイル ID と一致するよう、インポートクラスターまたは代替索引のファイル ID を再命名した場合は、このメッセージを無視してください。(定義済みの空ファイルが使用できるよう、ファイル ID が一致していなければなりません。)

システムの処置: OBJECTS パラメーターを無視して、クラスターまたは代替索引を、定義済み空ファイルにインポートします。条件コードを 4 にセットします。

プログラマーの応答: 結果が所要のものでない場合、OBJECTS 属性を指定して、空ファイルを定義し直してください。または空ファイルを削除してください。次にコマンドを実行し直してください。

**IDC1644I ALTERNATE INDEX KEY NOT IN BASE
RECORD xxx**

説明: xxx は、代替キー全体が十分に入らない長さの基本クラスター・レコードを示しています。基本クラスターがキー順ファイルである場合、xxx は、短い基本クラスター・レコードのキー (最高、最初の 10 バイトまで) を 16 進数で表したものです。基本クラスターが入力シーケンス・ファイルである場合、xxx は、短い基本クラスター・レコードの RBA を 10 進数で表したものです。

システムの処置: 基本クラスター・レコードをバイパスします。したがって、これは、作成中の代替索引に反映されません。代替索引の名前は、やはり表示されているメッセージ IDC1653I に示されています。BLDINDEX の処理を続行します。

プログラマーの応答: 代替索引の定義で、代替キーのオフセットまたは長さを間違っ指定していないか調べてください。指定されたキーが正しければ、代替索引の作成後、短いレコードを削除して、ユーザー・プログラムにより、十分な長さのレコード、および更新セットの一部として代替索引を書き直しておいてください。これにより、代替索引は、この特別の基礎レコードを反映するよう更新されることとなります。

**IDC1645I NONUNIQUE AIX KEY xxx PRIME
 {KEY|RBA} IS xxx**

説明: 作成中の代替索引 (その名前は、やはり表示されているメッセージ IDC1653I を参照) が、UNIQUEKEY という属性を付けて定義されていました。すなわち、1 つの代替キーは、1 つでしかも唯一のクラスター・レコードの中にあります。それなのに、同じ代替キーが複数個ありました。このメッセージは、重複したキーの発生ごとに 1 回ずつ出されます。メッセージは、代替キー (最高、最初の 10 バイトまで) を 16 進数で示します。基本クラスターがキー順ファイルである場合、メッセージは、1 次キー (最高、最初の 10 バイトまで) を 16 進数で示します。基本クラスターが入力シーケンス・ファイルである場合、メッセージは、基本 RBA を 10 進数で表示します。

システムの処置: 代替索引レコードは、代替キー、および最初にリストされた基本キーまたは RBA だけを含めて作成されます。後続の基本キー/RBA は、すべて、代替索引レコードには反映されません。

プログラマーの応答: UNIQUEKEY の属性が正しく指定されている場合は、基本クラスターにエラーがあるので、ユーザー・プログラムにより訂正しておいてください。

UNIQUEKEY 属性が正しく指定されておらず、しかも、

- 代替索引が、REUSE パラメーターを指定して定義されていた場合は、ALTER コマンドを使用して、それを NONUNIQUEKEY に変更してください。
- 代替索引が、REUSE パラメーターを指定して定義されていなかった場合は、代替索引を削除し、NONUNIQUEKEY 属性を指定して、それを定義し直してください。

次に、BLDINDEX コマンドを使用して、代替索引を作り直してください。

**IDC1646I mmmn EXCESS PRIME {KEY|RBA} VALUES
 FOR AIX KEY xxx**

説明: xxx は、代替索引レコードのキー (最高、最初の 10 バイトまで、16 進数で表示) であり、そのレコードが、代替索引キーに対し生じた基本キーまたは RBA ポインター値すべてを収めるには短すぎました。mmm (10 進数で表示) は、レコード内に得ることができなかったポインターの数です。作成中の代替索引の名前は、次のメッセージに示されています。

システムの処置: 代替索引レコードは、それにあてはまるポインターだけを付けて作成します。

プログラマーの応答: 代替索引の定義で、代替キーのオフセットまたは長さを間違えて指定していないか調べてください。指定されたキーが正しい場合は、代替索引を削除し、任意の 1 代替キーについて最大数の基本キーまたは 4 バイトの RBA ポインターが十分に収まるような最大レコード・サイズにより代替索引を定義し直してください (アクセス方式サービス・プログラムのコマンドを使用してください)。次に、BLDINDEX コマンドを使用して、代替索引を作り直してください。

IDC1653I file-id BUILT WITH ERRORS

説明: file-id によって示される代替索引の作成が完了しましたが、処理を打ち切れないエラーがいくつかありました。そのようなエラーには、以下のようなものがあります。

- 1 つ、または複数の基本クラスター・レコードに、代替索引キーが含まれていません。
- UNIQUEKEY 属性を付けて定義された代替索引 1 つについて、1 つまたは複数の代替キーが複数回発生しました。
- 1 つ、または複数個の代替索引レコードが、短すぎて、すべての基本キーまたは RBA ポインターを入れられません。

この代替索引に関する、処理を打ち切れないエラーはすべて、先行メッセージに示されています。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 起きたエラーにより異なります。リスト中の先行メッセージの説明にある個々のエラーについて概説されている処置を参照してください。

**IDC1661I OUT-OF-SYNC DATA SET
 SUCCESSFULLY EXPORTED (BY FORCE)**

説明: IMPORTRA を用いてファイルを再作成する上で必要な情報が可搬ファイルに含まれています。エクスポート時に、データ・セット登録簿ボリューム・レコード内のタイム・スタンプまたはスペース情報と、データ/索引項目内のそれらの情報とが一致しなかったために、ファイルが同期していませんでした。ファイル ID については、2 次メッセージ IDC0674I を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC1662I ** OUT-OF-SYNC DATA SET NOT
 EXPORTED**

説明: 後続の 2 次メッセージ IDC0674I に名前が示されている VSAM ファイルが、同期しなくなったが、FORCE が指定されませんでした。同期しなくなった原因は、データ・セット登録簿ボリューム・レコード内のタイム・スタンプまたはスペース情報と、データ/索引項目内のそれらの情報とが一致していないからです。

システムの処置: VSAM ファイルはエクスポートしません。処理を続行します。

プログラマーの応答: SYSLST 上の先行のメッセージを参照して、エラーの原因を調べてください。問題が起こるとしても、ファイルをエクスポートしたければ、FORCE を指定して EXPORTRA コマンドを実行し直してください。

IDC1663I BYPASSED RELATION file-id

説明: VSAM クラスターまたは代替索引への経路、あるいは非 VSAM 対象に対する OS/VS 別名について、エラーが起きました。あるいはカタログ項目を突き止められませんでした。file-id は、クラスター、代替索引、または非 VSAM オブジェクト名です。このメッセージは、OS/VS カタログがユーザー・カタログとして VSE システムに接続されている場合のみ、最後の対象に対し出されます。

システムの処置: 関連する対象の処理をバイパスします。示さ

れている対象の処理は続行します。

プログラマーの応答: 上に名前が示されている対象が OS/VS 対象の場合は、IMPORTRA 操作の後で LISTCAT を実行し、関連対象で欠落しているものを判別し、それを定義し直してください。そうでない場合は、カタログ検査サービス補助プログラムを実行し、それによって出されるメッセージのプログラマーの応答に従ってください。カタログ検査については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」に記述されています。

IDC1664I ASSOCIATION ERROR, file-id

説明: 名前が示されている *file-id* は、ユーザー・カタログまたは非 VSAM データ・セットを指していますが、これに OS/VS 別名ではない関連項目があります。このメッセージは、OS/VS カタログがユーザー・カタログとして VSE システムに接続されている場合のみ出されます。
システムの処置: 関連項目は、エクスポート対象とはせず、メッセージ中の対象の処理は続行します。
プログラマーの応答: IMPORTRA 操作後、上に名前が示されている対象をリストして、関連項目で欠落しているものを判別して、それらを定義し直してください。

IDC1667I VOLUME *volser* IS OUT-OF-SYNC AND LATER THAN VOLUME *volser*

説明: CRA 登録簿ファイルのタイム・スタンプが、リスト上の後続メッセージに名前が示されている VSAM ファイルがあるボリュームの 1 つにあるファイル・タイム・スタンプと一致していません。データに、まだリカバリー可能なものがあるのに、マルチボリューム・ファイルのボリュームが同期していません。
システムの処置: ファイルの同期検査をさらに続けます。VSAM ファイル項目と、それに関連する項目は、エクスポートの際バイパスします。
プログラマーの応答: ディスクのコピー/リストア・システム・ユーティリティー・プログラムを使用して、2 つのボリュームの同期をはかってください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC1678I ** DATA SET EXPORTED WITH MINOR ERRORS

説明: エクスポート中のファイルに関連した対象を処理しているときに、エラーが起きました。2 次メッセージ IDC0674I が、エクスポート中のファイルを示しています。
システムの処置: 関連対象の処理をバイパスします。基本クラスターまたは代替索引をエクスポートします。
プログラマーの応答: SYSLST 出力上の先行メッセージを参照して、エラーのタイプおよびリカバリー手順を判別してください。

IDC1679I ** OUT-OF-SYNC DATA SET EXPORTED WITH MINOR ERRORS

説明: 同期からはずれたファイルに関連した対象を処理しているときに、エラーが起きました。同期しなくなった原因は、データ・セット登録簿ボリューム・レコード内のタイム・スタン

プまたはスペース情報と、データ/索引項目内のそれらの情報とが一致していないからです。FORCE オプションの指定により、同期していないファイルもエクスポートされます。
システムの処置: 関連対象の処理をバイパスします。基本クラスターまたは代替索引をエクスポートします。
プログラマーの応答: SYSLST 出力上の先行メッセージを参照して、エラーのタイプおよびリカバリー手順を判別してください。

IDC1771I DELETE INCOMPLETE

説明: エラーが起きましたが、すべての対象が削除されたわけではありません。メッセージ IDC0550I が後に続いて、どの対象が削除されたかを識別します。
システムの処置: アクセス方式サービス・プログラムがカタログ検査サービス補助プログラムを呼び出し、この補助プログラムの出力により、発生したカタログ・エラーを識別できます。
プログラマーの応答: カタログ検査サービス補助プログラムのメッセージとその関連資料を参照して、どの対象が削除されなかったかを判別してください。その後、DELETE コマンドに IGNOREERROR を指定してそれらを削除してください。

IDC1870I ** IGNORED VSAM ERROR READING CRA - CI *nnX*

説明: LISTCRA コマンドで、指定された制御インターバルのカタログ・リカバリー域 (CRA) レコードを読み取っているときに、入出力エラーが検出されました。「*nn*」は、16 進表示の制御インターバル番号です。先行メッセージが、VSAM I/O エラーを示しています。
システムの処置: そのレコードを無視し、LISTCRA コマンドの処理時に、エラーの数が 50 個を超えるまでは処理を続けます。エラーの数が 50 個になったときに、処理を終わらせます。
プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を判別し、問題を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC1871I IGNORED VSAM ERROR READING CATALOG - CI *nnX*

説明: LISTCRA コマンドで、示された制御インターバルのカタログ・レコードを読み取っているときに、入出力エラーが検出されました。「*nn*」は、16 進表示の制御インターバル番号です。先行メッセージが、入出力エラーを示しています。
システムの処置: そのレコードを無視し、LISTCRA コマンドの処理時に、エラーの数が 50 個を超えるまでは処理を続けます。エラーの数が 50 個になったときに、処理を終わらせます。
プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を判別し、問題を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC1875I ERROR TRANSLATING CRA CI FROM CATALOG CI - *nnX*

説明: 項目を読む前に、項目のカタログ制御インターバル (*nn*) (関連項目を指しています) を CRA 制御インターバルに変換しているときに、エラーが起きました。これは、通常、項目の定義が不完全であることか、または入出力エラー (先行メ

ッセージに示されています)に起因します。

システムの処置: エラーをバイパスして、処理を続行します。しかし、リスト中にさほど重要ではないエラーが現れることがあります。

プログラマーの応答: エラーが起きたボリュームを、前の有効であった状態にリストアしてください。カタログ・リカバリについては、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」を参照してください。問題が再発する場合には、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡してください。

IDC1878I *listcra-procname* IGNORED ERROR FROM FIELD MANAGEMENT

説明: モジュール IDCRC04 (EXPORTRA フィールド管理) が LISTCRA により呼び出されましたが、LISTCRA が指定したフィールドに関する情報を戻すことができませんでした。このメッセージは、通常、入出力エラー (先行メッセージにより示されています) に起因しています。listcra-procname は、エラーが検出されたときに制御権があった LISTCRA プロシージャです。

システムの処置: エラーをバイパスして、処理を続行します。しかし、リスト中にさほど重要ではないエラーが現れることがあります。

プログラマーの応答: エラーが起きたボリュームを、前の有効であった状態にリストアしてください。カタログ・リカバリについては、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」を参照してください。問題が再発する場合は、IBM 担当員に連絡をとり、このジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を問題判別に使用できるようにしておいてください。

IDC1880I IGNORED I/O ERROR READING VOLUME LABEL

説明: LISTCRA コマンドは、タイム・スタンプ情報を得るために VTOC 内の形式 4 ラベルを読んでいるときに、入出力エラーがありました。

システムの処置: エラーを無視します。タイム・スタンプは印刷しません。

プログラマーの応答: LVTOC ユーティリティ・プログラムを使用して形式 4 ラベルをリストしてください。あるいは先行の入出力エラー・メッセージに示されている理由コードを参照して、入出力エラーの原因を判別してください。問題点を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC1885I CRA RECORD COULD NOT BE READ BY FIELD MANAGEMENT

説明: モジュール IDCRC04 (EXPORTRA フィールド管理) は、不一致リストについて CRA フィールドを読むために LISTCRA により呼び出されましたが、要求されたフィールドを戻せませんでした。このメッセージは、通常、先行メッセージに識別されている入出力エラーに起因しています。

システムの処置: エラーをバイパスして、処理を続行します。しかし、リスト中にさほど重要ではないエラーが現れることがあります。

プログラマーの応答: エラーが起きたボリュームを、以前の有効であった状態にリストアしてください。カタログ・リカバリについては、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」を参照してください。問題が再発する場合は、IBM 担当員に連絡をとり、このジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を問題判別に使用できるようにしておいてください。

IDC1887I ERROR REFERENCING CRA ON VOLUME *volser* - REASON CODE *n*

説明: カタログ・リカバリ域 (CRA) のオープンの際、理由コード *n* によって示される問題がありました。ここで、

n = 3: ボリュームのタイム・スタンプが得られませんでした。

n = 6: CRA レコード読み取りの入出力エラー。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 不要です。ただし、このメッセージが出る原因となった問題により、別のメッセージが出され、処置をとる必要が出てくる場合があります。

IDC1927I INVALID 'MARGINS' VALUES SPECIFIED. DEFAULT MARGINS ASSUMED

説明: PARM コマンドの MARGINS パラメーターに指定された左マージンの値が無効です。この値は、右マージンの値よりも少なくとも 2 文字分少なくなければなりません。

システムの処置: システムは、デフォルトのマージン値 (2 と 72) を使用し、条件コード 4 で処理を続行します。印刷の切り捨てや正しくない位置に印刷されることがあります。

プログラマーの応答: 必要であれば、無効な MARGINS 指定を訂正して、コマンド・ストリームを実行し直してください。

IDC1932I RECMAP COMMAND CAUSED NO ACTION

説明: RECMAP コマンドで使用されたパラメーターは、アクションをとることのできないような方法で結合されました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: コマンドのパラメーターの構成を調べて、コマンドを実行し直してください。

IDC2035I INVALID ERROR CONVERSION TABLE

説明: UERROR マクロが出され、数字カタログ戻りコードをメッセージ文に変換しようとした時に、エラーが検出されました。これはシステム・エラーです。

システムの処置: メッセージ文を印刷しません。カタログ戻りコード・エラー・メッセージを印刷し、処理を続行します。プログラマーの応答: 問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡してください。

IDC2552I ENTRY TYPE IS INVALID FOR DELETE

説明: 削除できる項目のタイプは、クラスター、ユーザー・カタログ、マスター・カタログ、非 VSAM、スペース、経路、および代替索引です。2 次メッセージ IDC0551I が、削除されない対象を示しています。

システムの処置: その項目は削除されません。他の有効な項目は削除します。

プログラマーの応答: コマンド中の無効な項目名を訂正してください。または取り除いてください。その項目を削除すべきであると考えられる場合は、カタログ検査サービス補助プログラムを実行して、それによって出されるメッセージのプログラマーの応答に従ってください。カタログ検査については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」に記述されています。

IDC2553I ERASE OPTION IS INVALID FOR ENTRY TYPE

説明: 処理中の DELETE コマンドが、VSAM クラスターまたは代替索引以外の対象に対し、ERASE を指定しています。2 次メッセージ IDC0551I が、削除されない対象を示しています。

システムの処置: その項目は削除されません。VSAM ファイル項目があれば、それらを削除します。

プログラマーの応答: 項目名を訂正するか、または ERASE パラメーターを除いて、コマンドを実行し直してください。

IDC2556I INSUFFICIENT CORE AVAILABLE TO CONTINUE DELETION OF ENTRY *entryname*

説明: 項目名に対し、DELETE コマンドが出されました。削除中に、削除するべき関連項目の名前を入れるための作業域をより大きくするよう、ストレージが要求されましたが、この要求が受け入れられませんでした。

システムの処置: 対象項目名を削除する試みは止めて、システムは、コマンド中に指定されている残りの対象の削除処理に進みます。

プログラマーの応答: 削除されなかった対象を削除するための新しいジョブをサブミットし、より大きな区画でのサブミットを要求してください。必要であれば、LISTCAT コマンドを実行して、該当対象および関連対象のカタログ項目のリストをとってください。

IDC2563I ALLOCATION/VOLUME PARAMETER IS INVALID FOR ENTRY TYPE(S)

説明: 割り振り、またはボリューム情報のための LISTCAT コマンドの要求が、所要項目または項目のタイプと矛盾します。システムの処置: LISTCAT コマンドは、矛盾していない要求部分のリストを試みます。

プログラマーの応答: フィールド指定と矛盾しないような LISTCAT 対象のタイプ、または対象名のパラメーターを指定して、ジョブを実行し直してください。

IDC2616I PATH *pathname* WAS NOT SUCCESSFULLY IMPORTED

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- IMPORT または IMPORTRA コマンドが、インポート中の対象への *pathname* をうまく定義できませんでした。1 番起こり得る原因は、すでにカタログ内にある対象名との重複です。定義誤りの原因については、先行のカタログ戻りコード・メッセージ IDC3007I または IDC3009I を調べてください。
- NEWNAME パラメーターを使って、経路の名前を変えようとしたが、この新しい名前が、デフォルトのモデルのために予約されていた名前であったため、IMPORT コマンドは、経路名をインポートできません。先行メッセージ IDC3298I を調べてください。

システムの処置: メッセージに示した経路をインポートせず、条件コード (LASTCC) を 8 にセットして、クラスターまたは代替索引、およびその他の関連経路対象 (IMPORTRA の場合は、可搬ファイルに入っているその他の対象) について、通常のインポート処理を続けます。

プログラマーの応答: 先行メッセージの『プログラマーの応答』の項を調べてください。経路の定義が失敗した場合 (カタログ戻りコード・メッセージ) は、経路がすでにカタログ内にあるかどうか調べてください。

あった場合は、以下のいずれかの処置をとってください:

- 重複対象に DELETE を実行するか、または名前を付け直す (ALTER NEWNAME) かけて、次に、前に失敗した経路項目に DEFINE を実行してください。
- 前に失敗した経路項目に対し、新しい名前を使って DEFINE を実行してください。
- 目的の正しいカタログが使用されているか調べてください。間違っていれば、インポート済みの全対象に DELETE を実行し、正しいカタログを指定してコマンドを実行し直してください。

IDC2618I INVALID OBJECTS SUBPARAMETER FOR PATH *pathname*

説明: NEWNAME 以外の OBJECTS サブパラメーターが、経路対象 *pathname* に対し指定されていました。

システムの処置: 示してある経路をインポートしません。さもなければ、残りの経路を定義し、クラスターまたは代替索引を可搬ファイルからインポートしようと試み、通常の処理を続行します。

プログラマーの応答: 欠落している経路に DEFINE を実行してください。または OBJECTS パラメーターを訂正してください。インポートされたファイルに DELETE を実行して、コマンドを実行し直してください。

IDC2620I OBJECT TYPE {ALIAS|GDG|SAM ESDS} NOT SUPPORTED FOR OBJECT *file-id*

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- IMPORTRA が、*file-id* により識別されている OS/VS 世代別データ・グループ (GDG) を可搬ファイル上に見つけました。OS/VS 世代別データ・グループは、VSE にインポートできません。

- IMPORTRA が、*file-id* により識別されている OS/VS ユーザー・カタログ別名項目 (ALIAS) または OS/VS 非 VSAM 別名項目 (ALIAS) を可搬ファイル上に見つけました。ユーザー・カタログ項目および非 VSAM ファイルは、VSE にインポートできます (非 VSAM ファイルは、リカバリー不能カタログに限定されます) が、別名項目はインポートできません。
- IMPORT または IMPORTRA が、*file-id* により識別されている SAM ESDS 項目 (SAM ESDS) を可搬ファイル上に見つけました。SAM 機能のための VSAM スペース管理は、このシステムに組み込まれていません。したがって、SAM ESDS をインポートすることはできません。

システムの処置: IMPORT の場合、LASTCC を 12 にセットして、コマンドの処理を終了します。

IMPORTRA の場合、*file-id* により識別されている対象をバイパスし、可搬ファイル上の次の対象から処理を続行します。別名については、LASTCC を 4 にセットし、世代別データ・グループおよび SAM ESDS については、8 にセットします。プログラマーの応答: 正しい可搬ファイルが取り付けられ、インポートされていたか調べてください。正しい場合は、処置は不要です。正しくない場合は、首尾よくインポートされた対象を削除し (IMPORTRA に限ります)、正しい可搬ファイルを取り付けて、コマンドを実行し直してください。

IDC2621I IMPORTRA FAILED FOR *file-id*

説明: 名前が示されている対象がインポートできません。前のメッセージに、その原因が示されています。

システムの処置: 可搬ファイルの次の対象から処理を続行します。

プログラマーの応答: SYSLST 出力上の前のメッセージを検討して、誤りの原因を判別し、問題点を訂正してから、コマンドを実行し直してください。

IDC2640I *file-id* NOT AN AIX

説明: *file-id* により識別されているファイルが、代替索引または代替索引への経路ではありません。ファイル ID は、OUTFILE *dname* サブパラメーターにより識別されている DLBL ステートメントに指定されているか、または OUTDATASET パラメーターに指定されていました。OUTFILE ファイルまたは OUTDATASET ファイルは、代替索引または代替索引への経路を定義していなければなりません。

システムの処置: このファイル ID に関する処理を終了します。ただし、他に指定されているファイル ID すべての処理を続行します。

プログラマーの応答: OUTFILE *dname* サブパラメーターにより識別されている DLBL ステートメント、または OUTDATASET パラメーター内のファイル ID が、定義されている代替索引、または代替索引への経路のファイルのものであるか確認してください。次に、このファイル ID に対しコマンドを実行し直してください。必要であれば、LISTCAT コマンドを実行して、適用対象と関連対象のカタログ項目のリストをとってください。

IDC2642I *file-id* NOT RELATED TO BASE

説明: *file-id* により識別されているファイルは、代替索引または代替索引への経路ですが、代替索引が基本クラスターに関連していません。BLDINDEX コマンドの OUTFILE/OUTDATASET パラメーターにより識別されている代替索引は、すべて、INFILE/INDATASET パラメーターにより識別されている基本クラスターに関連していると定義されていなければなりません。この関係は、DEFINE ALTERNATEINDEX コマンドの RELATE パラメーターを用いて設定されます。システムの処置: この代替索引に関する処理を終了します。ただし、OUTFILE/OUTDATASET パラメーターにより識別されている他の代替索引に関する処理は続行します。プログラマーの応答: OUTFILE/OUTDATASET パラメーターにより識別されている代替索引、または INFILE/INDATASET パラメーターにより識別されている基本クラスターを訂正して、正しい関係が成立するようにしてください。代替索引の定義が不適切であった場合、それを削除し、RELATE パラメーターで正しい関係を指定して、定義し直してください。次に、このファイル ID に対しコマンドを実行し直してください。必要であれば、LISTCAT コマンドを実行して、適用対象と関連対象のカタログ項目のリストをとってください。

IDC2647I INSUFFICIENT STORAGE TO OBTAIN BUFFERS AND WORKAREAS

説明: BLDINDEX コマンドが、バッファ、作業域、および最小の分類域用に仮想記憶を獲得しようとしていたときに、障害が起きました。(BLDINDEX における仮想記憶の考慮事項については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。) これは、1 つの代替索引を開始させるのに必要なストレージ量です。代替索引の名前は、メッセージ IDC2654I に示されています。

システムの処置: この代替索引に関する処理を終了します。

BLDINDEX は、指定されている他の代替索引の処理を試みます。

プログラマーの応答: 区画サイズを増やし、作られなかった代替索引についてコマンドを実行し直してください。

IDC2648I JOB CONTROL CARDS FOR EXTERNAL SORT MISSING OR IN ERROR

説明: このメッセージが単独で出た場合、ユーザーが EXTERNALSORT パラメーターを指定し、WORKVOLUMES パラメーターを省略しましたが、分類作業ファイルのジョブ制御を与えなかったことを意味しています。(分類作業ファイル・ジョブ制御の要件については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。) このメッセージの前に IDC2649I または IDC2650I が出ていた場合、BLDINDEX が内部分類を完了することができず、外部分類作業ファイルに適切なジョブ制御が与えられていませんでした。作成中の代替索引の名前は、メッセージ IDC2654I に示されています。

システムの処置: この代替索引に関する処理を終了します。ただし、BLDINDEX は、指定されている他の代替索引の処理を試みます。

プログラマーの応答: 外部分類作業ファイルを指定してください。

い。または内部分類が実行できるよう、より大きな区画を提供してください。次に、作成されなかった代替索引に対しコマンドを実行し直してください。

IDC2649I INSUFFICIENT STORAGE TO PERFORM INTERNAL SORT

説明: BLDINDEX コマンドは、分類を開始させるために必要な最小仮想記憶を獲得できましたが、分類全体に必要な量より不足していました。(基本クラスターの VSAM カタログ項目に蓄えられている基本クラスター統計情報にあるレコード数に基づきます) このような状況で、BLDINDEX は、外部分類の実行を試みます。

システムの処置: この代替索引に関する処理を終了します。ただし、BLDINDEX は、指定されている他の代替索引の処理を試みます。

プログラマーの応答: 分類作業ファイルを指定してください。または、内部分類が実行できるよう、より大きな区画を提供してください。作成されていない代替索引に対し、コマンドを実行し直してください。

IDC2650I INSUFFICIENT STORAGE TO FINISH INTERNAL SORT

説明: 初期設定時に、BLDINDEX は、内部分類に必要なストレージの容量を算定します。この算定は、基本クラスターのための VSAM カタログ項目に蓄えられている基本クラスター統計情報内のレコード数に基づいています。このメッセージが出された場合、BLDINDEX は、算定した必要量を満たす仮想記憶を獲得することができました。しかし統計情報が誤って低くなっていた (おそらく、基本クラスターのクローズ時に起きた障害に起因する) ため、最初に得たストレージの容量では足りなくなりました。このような状況で、BLDINDEX は、外部分類を行わなければなりません。

システムの処置: この代替索引に関する処理を終了します。ただし、BLDINDEX は、指定されている他の代替索引の処理を試みます。

プログラマーの応答: 以下のいずれかを行ってください。

- 分類作業ファイルを指定してください。
- IMPORT コマンドを使用して、ファイルを作り直してください。(この処置により、エラーのある統計情報が訂正されます。)
- 内部分類を実行できるように、より大きな区画を提供してください。

作成されていない代替索引に対し、コマンドを実行し直してください。

IDC2651I DEFINE OF SORT WORK FILES FAILED

説明: 外部分類の準備の際、BLDINDEX は、2 つの分類作業ファイルを動的に定義しようとしていました。しかし、この試みは、VSAM カタログ管理により拒否されました。このメッセージの前に、メッセージ IDC3007I または IDC3009I が出されており、VSAM カタログ戻りコード、および時には理由コードが示されています。

このメッセージの前に、メッセージ IDC3007I または IDC3009I が出されていない場合は、IDCUT1 または IDCUT2

の無効なファイル ID が DLBL ステートメントに指定されていた可能性があります。

システムの処置: この代替索引に関する処理を終了します。ただし、BLDINDEX は、指定されている他の代替索引の処理を試みます。

プログラマーの応答: カタログ戻りコードまたは理由コードにより示されているエラーを訂正してください。カタログ戻りコードが、定義済みファイル (分類作業ファイル) の 2 次割り振りを行うために記憶装置が不足していることを示している場合、データ・スペースをより多く用意してください。分類作業ファイルに必要なデータ・スペース量を計算してください。その際、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」の『代替索引の作成』のところに記載されている式を使用してください。作成されていない代替索引に対し、コマンドを実行し直してください。

IDC2654I *file-id* WAS NOT BUILT

説明: メッセージ中に示されている代替索引に対し、処理を打ち切るエラーが起きました。そのエラーを含むメッセージが、このメッセージの前に出されています。

システムの処置: この代替索引に関する処理を終了します。ただし、BLDINDEX は、指定されている他の代替索引の処理を試みます。

プログラマーの応答: 起きたエラーにより異なります。先行メッセージの説明にある処置を参照してください。

IDC2655I UNABLE TO LOCATE ATTRIBUTES OF *file-id*

説明: アクセス方式サービス・プログラムが BLDINDEX コマンドを処理しているときに *file-id* によって識別されている項目について、必要なすべての情報を得ることができませんでした。要求された情報は、すべてのカタログ項目 (項目タイプ、関連する対象、AMDSB 制御ブロック (データ対象に関する)) について存在していなければならないため、これは、重大なカタログ・エラーであることを示しています。

システムの処置: *file-id* が基本クラスターである場合は、BLDINDEX の処理を終了します。ファイル ID が代替索引、または代替索引への経路である場合は、その代替索引に関する処理を終了します。ただし、BLDINDEX は、識別されている他の代替索引の処理を試みます。

プログラマーの応答: DELETE IGNOREERROR を指定して、誤っているカタログ項目を削除し、その後で対象を作成し直してください。経路または代替索引の場合は、それを定義し直してください。基本クラスターの場合は、IMPORT(RA)、RESETCAT を実行してください。さもなければ、それを構成し直してください。

問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管してください。LISTCAT コマンドを実行して、適用対象と、関連する対象のカタログ項目をリストしてください。IBM 担当員に連絡してください。

IDC2656I LOCATE FAILED FOR *file-id*

説明: 基本クラスターまたは代替索引 (*file-id* により識別) に対し出された VSAM カタログ探索要求が不首尾に終わりました。メッセージ IDC3007I または IDC3009I が、このメッセージの前に出され、カタログ戻りコード、およびあれば理由コードを示しています。このメッセージ中に示されているファイル ID は、INFILE/IN DATASET または OUTFILE/OUTDATASET パラメーターにより指定されていたものです。名前が示されている対象、または名前が示されている対象に関連した対象 (例えば、名前が示されている対象が、代替索引への経路であれば、代替索引) に対する探索が、失敗しています。

システムの処置: 失敗が基本クラスターに関連している場合は、BLDINDEX コマンド全体の処理を終了します。失敗が代替索引に関連している場合は、その代替索引に関する処理を終了します。ただし、BLDINDEX は、指定されている他の代替索引の処理を試みます。

プログラマーの応答: カタログ戻りコードおよび理由コードにより示されるエラーを訂正して、作成されていない代替索引に対し、コマンドを実行し直してください。

IDC2660I INVALID ENTRY TYPE IN CATALOG, OBJECT BYPASSED

説明: エクスポート中の対象が、VSAM クラスター、代替索引、ユーザー・カタログ、非 VSAM 対象、あるいは OS/VS2 世代別データ・グループのいずれでもないことが、項目タイプ・フィールドにより示されています。2 次メッセージ IDC0674I に、無効な項目の名前が示されています。

システムの処置: メッセージに示した対象はエクスポートしません。エクスポートすべき他の対象の処理を続行します。

プログラマーの応答: カタログ検査サービス補助プログラムを実行して、それによって出されるメッセージのプログラマーの応答に従ってください。カタログ検査については、

「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」に記述されています。

IDC2666I ENTRY NAME SPECIFIED CANNOT BE FOUND IN SPECIFIED CRA

説明: EXPORTRA コマンドの ENTRIES パラメーターに指定されたファイル、または他の対象が、指定のカタログ・リカバリ域 (CRA) にありません。2 次メッセージ IDC0674I に、そのファイルの名前または他のカタログ対象の名前が示されています。

システムの処置: この対象の処理を終了し、次の対象から処理を続行します。

プログラマーの応答: LISTCRA コマンドを使用して、エクスポート予定のファイルまたは他のカタログ対象の名前および CRA を調べ、必要に応じてそれを訂正してください。次に、対象に対しコマンドを実行し直してください。

IDC2668I DATA SET NOT EXPORTED, VOLUME *volser* REQUIRED BUT NOT SUPPLIED

説明: マルチボリューム・ファイルのエクスポートには、示されているボリュームが必要です。これが、CRA キーワードのボリューム・リストに含まれていません。2 次メッセージ IDC0674I に、ファイルが示されています。

システムの処置: その VSAM 項目をエクスポートしません。処理を続行します。

プログラマーの応答: CRA パラメーター・リストに、ボリューム通し番号に関するデータ名項目 (NONE キーワードと一緒に) を追加し、関連する DLBL および EXTENT ステートメントを追加してください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC2671I WILL NOT PROCESS CRA ON VOLUME *volser*. DIFFERENT CATALOG NAME

説明: このボリュームは、EXPORTRA コマンドに名前が指定されている最初の CRA を所有しているカタログに属していません。CRA パラメーター・リストに指定されているすべてのボリュームは、同一カタログ (メッセージ IDC0672I に示されています) に属していなければなりません。

システムの処置: このボリュームの処理を続けません。他の CRA の処理を続行します。

プログラマーの応答: 正しい CRA ボリュームを指定して、コマンドを実行し直してください。

IDC2673I CONFLICTING JCL SPECIFICATIONS FOR DNAME *dname*

説明: EXPORTRA CRA *dname1* パラメーター、または LISTCRA INFILE *dname* パラメーターによって表されているボリュームのボリューム通し番号を得ることができません。以下の原因が考えられます。

- CRA または INFILE *dname* に、一致する DLBL filename パラメーターがありません。
- 対応する EXTENT ステートメントが、欠落しています。
- DLBL ステートメントに、対応する EXTENT ステートメントが複数個あります。
- 対応する EXTENT ステートメントに、ボリューム通し番号パラメーターがありません。

システムの処置: このボリュームの処理を続けません。他の CRA の処理を続行します。

プログラマーの応答: *dname*、DLBL ファイル名、あるいは対応する EXTENT ステートメントを訂正してください。正しいボリューム通し番号 (他のパラメーターは、すべて省略できます) を指定した EXTENT ステートメントが 1 つあるか確認してください。コマンドを実行し直してください。

IDC2675I DUPLICATE NAME ENCOUNTERED, NAME ON VOLUME *volser* BYPASSED

説明: 2 つの異なるボリューム上にあるカタログ・リカバリ域 (CRA) に、重複した対象名が見つかりました。2 次メッセージ IDC0674I に、バイパスされた対象のファイル ID が示されています。

システムの処置: 2 次メッセージに示したオブジェクト名はエクスポートしません。

プログラマーの応答: バイパスしたファイルのコピーが、必要なものであった場合は、CRA ENTRIES サブパラメーターを使用して、その項目に対し別個に EXPORTRA を実行してください。

IDC2677I ** DATA SET NOT EXPORTED

説明: エクスポート中の対象について、エラーが起きました。あるいはカタログ項目を突き止められません。先行メッセージに、その原因が示されています。後続の 2 次メッセージ IDC0674I に、対象のファイル ID が示されています。

システムの処置: 示されている対象はエクスポートしません。他の対象に対する処理を続行します。

プログラマーの応答: SYSLST 出力上の先行メッセージから、エラーのタイプを判別してください。重大エラーが起きていた場合は、その対象を定義し直してください。

IDC2872I CRA IS OWNED BY *catname*

説明: COMPARE が指定されましたが、このボリュームのカタログ・リカバリー域が、CATALOG パラメーターに指定されているカタログとは別のものに属しています。

システムの処置: この CRA に対する COMPARE オプションを無視し (2 次メッセージ IDC2873I を出します)、処理を続行します。

プログラマーの応答: CATALOG パラメーターに正しいカタログを指定するか、あるいは INVOLUMES または INFILE パラメーターに正しいボリュームを指定して、ジョブを実行し直してください。

IDC2873I ** COMPARE OPTION IGNORED

説明: COMPARE オプションが指定されましたが、CATALOG パラメーターに指定されているカタログがオープンできません。あるいは、このボリュームのカタログ・リカバリー域 (CRA) が、CATALOG パラメーターに指定されているカタログとは別のものに属しています。オープン処理時にエラーが起きた場合は、そのエラーの原因が、SYSLST 出力上のこのメッセージの前にあるメッセージに示されています。原因が、間違ったカタログである場合は、1 次メッセージ IDC2872I が、このメッセージの前に出されています。

システムの処置: LISTCRA コマンドの COMPARE オプションを無視して、処理を続行します。カタログをオープンできない場合は、INVOLUMES または INFILE のもとでリストされているすべての CRA について、COMPARE オプションを無視します。

プログラマーの応答: 先行の 1 次メッセージに示されている処置をとり、コマンドを実行し直してください。

IDC2876I IGNORED VERIFY FAILURE FOR CRA

説明: カatalog・リカバリー域がオープンされる時には、正しいファイルの終わり状態を準備するために、VERIFY を出さなければなりません。VERIFY の処理が、不首尾に終わりました。

システムの処置: エラーを無視して、処理を続行します。カ

atalog・リカバリー域の内容が、不完全な状態でリストされることがあります。

プログラマーの応答: このメッセージの前にあるメッセージの、プログラマーの応答を調べてください。ボリュームをリストアする必要があることがあります。

IDC2879I CATALOG NOT LOCKED UP FOR THIS EXECUTION

説明:

- カatalog・ボリューム通し番号を知るために、LISTCRA がモジュール IDCRC04 (EXPORTRA フィールド管理) を呼び出した時、そのモジュールにエラーが生じました。
- カatalogとそれに関連する CRA を同時にリセット (RESETCAT) しないよう、あるいは更新しないようカatalogをロックしようとした時に、エラーが起きました。(このエラーは、エラー・メッセージ IDC3289I により識別されます。)

先行エラー・メッセージについては、SYSLST 出力を参照してください。

システムの処置: LISTCRA の処理を続行します。LISTCRA COMPARE のためにカatalogがエンキュー (「ロック」) されていないため、LISTCRA の処理中にカatalogまたはリカバリー域項目が更新された場合、リスト・エラーまたは不一致状態が起きることがあります。

プログラマーの応答: CRA リストの正確性に疑問がある場合は、他のプログラムがカatalogをアクセスしていないときにコマンドを実行し直してください。

IDC2882I VSAM ERROR READING CRA CONTROL RECORD

説明: LISTCRA コマンドで、カatalog・リカバリー域のカatalog制御レコード読み取りの際、エラーがありました。

システムの処置: この CRA の処理をバイパスします。指定されている他の CRA の処理を続行します。

プログラマーの応答: 先行メッセージの「プログラマーの応答」を調べてください。ボリュームをリストアする必要があることがあります。リカバリーを達成できない場合は、LISTCRA コマンドの前に、ダンプ・ポイント LRCT および LRZZ の所で PARM TEST FULL コマンドを使用して、ジョブを実行し直してください。このダンプを使用して、エラーの原因を判別できます。ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡してください。

IDC2884I IGNORED VERIFY FAILURE FOR CATALOG

説明: カatalogをオープンする時には、正しいファイルの終わり状態を準備するために、VERIFY を出さなければなりません。VERIFY の処理が、不首尾に終わりました。

システムの処置: エラーを無視して、処理を続行します。誤りのある比較および (または) 入出力エラーになることがあります。

プログラマーの応答: 先行メッセージの「プログラマーの応答」を調べてください。カatalogをリストアするために、

RESETCAT またはボリュームのリストアが必要になることがあります。

**IDC2886I UNABLE TO REFERENCE CRA ON
VOLUME *volser* - REASON CODE *n***

説明: カタログ・リカバリー域 (CRA) をオープンしているときに、理由コード *n* により示される問題が生じました。ここで、

- n = 1:** CRA を検査できません。
- n = 2:** CRA をオープンできません。
- n = 4:** CI 番号 0 に入出力エラーが起きました。
- n = 5:** CI 番号 3 に入出力エラーが起きました。
- n = 7:** 登録簿の番号エラー、または指定された CRA にファイル項目が含まれていません。
- n = 8:** 登録簿項目のエラー。
- n = 9:** 同時更新活動を行わせないために、CRA ロックを行えません。先行メッセージ IDC3289I に、誤りの原因が示されています。

システムの処置: CRA に誤りのマークを付け、それらのどの項目も可搬ファイルに入れません。指定されている他の CRA に対し、処理を続けます。

プログラマーの応答: 理由コードが 1、2、4、または 5 である場合、エラーが起きたボリュームを、前の有効であった状態にリストアしてください。カタログ・リカバリーについて詳しくは、「*VSE/VSAM User's Guide and Application Programming*」を参照してください。

理由コードが 7 または 8 である場合、EXPORTRA コマンドに FORCE キーワードを与え、同期上の問題を無視するようにしてください。

理由コードが 9 である場合、先行エラー・メッセージ IDC3289I に指示されている訂正処置を参照し、コマンドを実行し直してください。

IDC2950I INVALID FORMAT STRUCTURE

説明: テキスト形式構造の中の 1 つの構造にあるエレメントが、無効です。これはシステム・エラーです。

システムの処置: 行を印刷する要求を無視します。これ以降の処理は、個々のコマンドにより異なります。コマンドは、このエラーを無視することもあるし、しないこともあります。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC2951I OUTPUT COLUMN SPECIFIED OUT OF RANGE

説明: 指定された出力桁が、印刷行の幅を超えています。例えば、桁 1 から桁 121 の間にありません。これはシステム・エラーです。

システムの処置: このフィールド、および後続フィールドを無視します。不完全なメッセージまたは印刷行が印刷されます。これ以降の処理は、個々のコマンドにより異なります。コマンドは、このエラーを無視することもあるし、しないこともあります。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のため

に、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

**IDC2952I EXCESSIVE FIELD LENGTH FOR BD OR
PU CONV**

説明: 2 進数から 10 進数への変換、または、パック形式からアンパック形式への変換の長さに、15 桁よりも長いものが指定されていました。これはシステム・エラーです。

システムの処置: 印刷用のデータ変換には、デフォルトの値 (15) を使用します。印刷行が間違った結果になることがあります。これ以降の処理は、個々のコマンドにより異なります。コマンドは、このエラーを無視することもあるし、しないこともあります。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC2953I A REDO SUB-STRUCTURE IS NESTED

説明: 再実行印刷行構造が、再実行される構造セットの中に定義できません。これはシステム・エラーです。

システムの処置: 現在の再実行操作を終了します。構造はすべて、一度しか処理されません。正しくない印刷行が 1 行、または複数行現れることがあります。これ以降の処理は、個々のコマンドにより異なります。コマンドは、このエラーを無視することもあるし、しないこともあります。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

**IDC2954I STATIC TEXT ENTRY REQUESTED NOT
IN MODULE**

説明: 静的テキスト要求が、ある項目を指定していましたが、その項目がモジュール内にありません。おそらく、システム・エラーです。

システムの処置: メッセージ、または他の印刷行の印刷要求を無視します。印刷行またはメッセージは失われます。これ以降の処理は、個々のコマンドにより異なります。コマンドは、このエラーを無視することもあるし、しないこともあります。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC2955I INVALID PACKED DECIMAL FIELD

説明: パック形式からアンパック形式への印刷データ変換要求で、0 から 9 の範囲にない数字がありました。入力データが間違っていると思われます。これはシステム・エラーです。

システムの処置: 変換を停止します。前に変換したデータを印刷します。不完全なメッセージまたは印刷行が印刷されます。これ以降の処理は、個々のコマンドにより異なります。コマンドは、このエラーを無視することもあるし、しないこともあります。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

**IDC3003I FUNCTION TERMINATED. CONDITION
CODE IS *nnn***

説明: 機能コマンドの実行中に、処理を終わらせるエラー状態が起こると、このメッセージが出力されます。プログラム・リスト中の、このメッセージのすぐ前に印刷されているメッセージに、起きたエラーが示されています。

システムの処置: このコマンドを終了し、次のコマンドから処理を続行します。LASTCC を *nnn* にセットします。*nnn* が現在の MAXCC の値を超えている場合は、MAXCC もセットします。

プログラマーの応答: エラーの原因を訂正し、コマンドを実行し直してください。

**IDC3004I FUNCTION TERMINATED. INSUFFICIENT
MAIN STORAGE**

説明: 区画サイズが小さく、機能コマンドを実行できません。システムの処置: 後続メッセージが、他のことを示していなければ、コマンド処理を終了します。

プログラマーの応答: 区画のサイズを増やして、コマンドを実行し直してください。

**IDC3006I FUNCTION TERMINATED DUE TO
BEGINNING POSITIONING ERROR**

説明: ファイル内にレコードを位置づけようとした (PRINT コマンドの FROMKEY 機能により行われます) ときに、エラーが起きました。位置標識がファイルの範囲を超えていることもあるし、あるいは位置づけにおいて入出力エラーが起きることもあります。入出力エラー・メッセージは印刷されます。システムの処置: コマンドを終了します。

プログラマーの応答: 位置づけパラメーターの値を訂正してください。入出力エラーについては、このメッセージの前に示されている入出力エラー・メッセージの説明を参照してください。

**IDC3007I ** VSAM CATALOG RETURN-CODE IS
*nnn***

説明: このカタログ管理戻りコードは、カタログ・エラーまたは例外状態に起因します。このメッセージは、理由コードが戻されないとき、すなわちメッセージ IDC3009I が出されないときにのみ使用されます。先行の 1 次メッセージに、カタログ・エラーが記述されています。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 指定されている戻りコードを参照してください。戻りコードは、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にリストされています。

**IDC3009I **VSAM CATALOG RETURN CODE IS
nnn - REASON CODE IS IGG0CLxx -
*mmm***

説明: カatalog・エラーまたは例外状態の結果として、カタログ管理モジュール IGG0CLxx は、戻りコード (*nnn*) および理

由コード (*mmm*) を戻しました。先行の 1 次メッセージに、カタログ・エラーが記述されています。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: この戻りコードおよび理由コードを参照してください。戻りコードと理由コードは、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にリストされています。

IDC3010I UNABLE TO OPEN *file-id*

説明: ALTER、DEFINE、DELETE、または LISTCAT の場合は、CATALOG パラメーターのファイル名 (*dname*) が DLBL ステートメントのファイル ID を識別していますが、それがカタログではありません。EXPORT および IMPORT の場合は、INFILE および OUTFILE のファイル名 (*dname*) が、それぞれ、エクスポート中またはインポート中のファイルのファイル ID (または、その経路の中の 1 つ) と一致する DLBL ステートメントの *file-id* を識別していません。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: CATALOG *dname* パラメーター、または EXPORT INFILE パラメーター、または IMPORT OUTFILE パラメーター (および関連するジョブ制御ステートメント) を省いてください。

IDC3012I ENTRY *entryname* NOT FOUND

説明: カatalogの変更、探索、または削除を行うためにユーザーが示した *entryname* が、指定のカタログの中にありません。特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: *entry name* が正しくつづられているか調べてください。項目が入っているカタログが正しく参照されているか確かめてください。*entry name* が削除されず、定義されているか調べてください。必要な訂正を行い、コマンドを実行し直してください。

IDC3013I DUPLICATE DATA SET NAME

説明: ユーザーが指定した項目名は、指定されたカタログ内にすでにあり、既存の重複項目のためにカタログ定義は除去されます。重複名には、ファイル ID の他に、ユーザー・カタログ、経路項目などがあります。特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に

続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答：項目名が正しくつづられているか調べ、正しいカタログを参照していることを確認してください。重複項目を削除、または再命名することが適切であれば、そのようにしてください。必要な訂正を行い、コマンドを実行し直してください。

IDC3014I CATALOG ERROR

説明：VSAM カタログ操作中に、エラーが起きました。特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置：後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答：2 次メッセージの戻りコードおよび理由コードにより示されるプログラマーの応答を参照してください。

IDC3016I CATALOG IS NOT AVAILABLE

説明：VSAM カタログのオープンまたはクローズ時にエラーが起きました。あるいはコマンドに指定されているユーザー・カタログが見つかりません。特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置：後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答：コマンドに指定してあるカタログが存在しているか調べてください。または、カタログがアクセスできない理由を判別してください。2 次メッセージのそれぞれの理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。必要な訂正を行い、コマンドを実行し直してください。

IDC3017I INSUFFICIENT SPACE IN CATALOG

説明：カタログまたはカタログ・リカバリー域がいっぱいです。所要のクラスの VSAM スペースが不足しているため、カタログまたは CRA を常駐させるボリュームに 2 次割り振りをすることができないか、または最大エクステント数 (16) に達しています。すぐ後に続いている 2 次メッセージを参照してください。理由コードは、VSAM 要求マクロから出されます。このコードの説明は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にあります。

システムの処置：後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答：2 次メッセージに示されている理由コードは、VSAM 要求マクロから出されたものです。このコード

の説明は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にあります。

不要になった非 VSAM ファイルをボリュームからスクラッチし、次に DEFINE SPACE コマンドを出して、必要なクラスの VSAM データ・スペースを追加して使用できるようにしてください。および (または)、不要になった VSAM ファイル、パス項目、あるいは非 VSAM 項目を削除してください。または、クラスをカタログに必要なクラスに変更し、VSAM データ・スペースを削除し、使用可能な VSAM データ・スペースを定義し直してください。

カタログのエクステントが 16 に達したときは、カタログのすべての対象を EXPORT(RA) し、カタログが所有しているすべてのボリュームを DELETE SPACE FORCE して、より大きい 1 次割り振りまたは 2 次割り振りを持つカタログを再定義し、すべてのボリュームで DEFINE SPACE(s) を行い、以前にエクスポートされた対象をすべて IMPORT(RA) してください。LISTCAT により、カタログのスペース・クラスがわかります。CRA は、任意のスペース・クラスに 2 次割り振りすることができます。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3018I PASSWORD VERIFICATION FAILED

説明：パスワード・パラメーターがありません (または、パスワード・パラメーターが間違っています)。および、

- オペレーターによる応答が認められていません。
- 正しいパスワードを与えるための最大試行数を、オペレーターは超えました。
- ユーザー指定の検証ルーチンが、ファイルの使用を許可していません。

特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置：後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答：指定したパスワードを訂正してください。または検査ルーチンがアクセスを認めない理由を判別してください。LISTCAT を使用して、カタログ、ファイル、または経路パスワードとその他の許可情報を表示することができます。2 次メッセージのそれぞれの理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。正しいパスワードを指定し、コマンドを実行し直してください。

IDC3019I INVALID ENTRY TYPE FOR REQUESTED ACTION

説明：要求されたカタログ処置が、指定された項目には無効です。例えば、VSAM ファイルの索引コンポーネントを削除しようとしたか、または ALTER を実行できません。特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置：後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に

続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 指定処置が、この項目タイプに認められているものか確かめてください。項目タイプは、LISTCAT コマンドにより妥当性を検査することができます。2 次メッセージのそれぞれの戻りコードおよび理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。正しいパスワードを指定し、コマンドを実行し直してください。

IDC3020I INSUFFICIENT SPACE ON USER VOLUME

説明:

- 固有 VSAM ファイルを拡張しようとした。
- 指定ボリュームが初期割り振りを収容できないか、あるいは必要な 2 次拡張が不首尾に終わりました。
- ユーザーが指定した固定ブロック・エクステントの数の調整のために、データ・スペースが割り振られなくなりました。

特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 2 次メッセージの戻りコードおよび理由コードに関する原因とプログラマーの処置については、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』に説明があります。

IDC3021I USER VOLUME NOT MOUNTED

説明:

- 不適當な記号装置が割り当てられました。または、
- 記号装置が割り当てられていません (EXTENT ステートメントに記号装置パラメーターが含まれています)。
- デフォルトのボリュームを使用した 2 次割り振りが不首尾に終わり、それに対応したデフォルト・モデルのボリューム・リストに、取り付けられていないボリュームがあります。

特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 2 次メッセージの戻りコードおよび理由コードに関する原因とプログラマーの処置については、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』に説明があります。

IDC3022I INVALID RELATED OBJECT

説明:

- DEFINE コマンドの RELATE パラメーターに指定されている対象が存在していません。あるいは定義中の対象のタイプにとって妥当ではありません。または、
- 代替索引がインポート中であり、関連する基本クラスターが妥当なタイプではありません。または存在していません。

特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 2 次メッセージのそれぞれの理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。

DEFINE の場合、RELATE または PATHENTRY パラメーターに名前が指定されている項目を訂正し、コマンドを実行し直してください。IMPORT(RA) の場合、正しいカタログにインポートを行っており、そこに基本クラスターとその経路名が含まれているかを確認してから、コマンドを実行し直してください。

IDC3023I UNEXPIRED PURGE DATE

説明: 項目を削除しようとしたが、その項目は満了日に達しておらず、PURGE オプションが指定されていなかったため、失敗しました。後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 項目を削除したければ、PURGE オプションを指定し、コマンドを実行し直してください。

IDC3025I INSUFFICIENT SUBALLOCATION DATA SPACE

説明:

- 指定されたボリュームのどれにも、新しく定義された VSAM ファイルを割り振るための十分な空きスペースを持つ、必要なクラスのデータ・スペースがありません。
- DEFINE カタログに割り振られたデータ・スペースが、CRA の初期割り振りを行える十分な大きさではありません。
- 十分なスペースが使用できますが、それが 5 つを超えるエクステントにスパンしています。5 つのエクステントまでが許されます。

特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、すぐ後に続く 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が

示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 2 次メッセージの戻りコードおよび理由コードに関する原因とプログラマーの処置については、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』に説明があります。

IDC3026I DUPLICATE DATA SPACE NAME ON VOLUME

説明: UNIQUE 属性を指定した DEFINE 操作で、あるボリューム上にファイル・コンポーネントの名前を指定しましたが、そのボリューム上には、同じ名前の非 VSAM ファイルがすでに存在していました。あるいは、UNIQUE 属性のあるキー順ファイルまたは代替索引が、同一ボリューム上に複数のキー範囲を指定しました。後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 以下のいずれかです。

- UNIQUE パラメーターを除いてください。
- 別のコンポーネント・ファイル ID を指定してください。
- 別のボリュームを指定してください。
- 元のファイルをボリュームから取り除いてください。
- 別個のボリュームに各キー範囲を置いてください。

IDC3027I NO SPACE IN VTOC FOR LABEL

説明: データ・スペースの定義 (DEFINE SPACE または DEFINE CLUSTER/AIX UNIQUE) 中に、VSAM 割り振り機能を実行しようとしたのですが、追加の形式 1 ラベルのためのスペースが VTOC 内にありません。後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答:

- 不要になった非 VSAM ファイル (SCRATCH オプション指定のもの)、VSAM 固有ファイル、またはデータ・スペースをボリュームから削除し、追加の形式 1 ラベルを使用できるようにしてください。
- より大きなボリュームを指定して、ボリュームを初期設定し直してください。

いずれの処置も、ただちに実行できない場合は、別のボリュームを指定してください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3028I DATA SET IN USE

説明: ファイルまたはカタログは、現在、オープンされており、削除できません。2 つの異なったジョブが、同じ VSAM ファイルまたはカタログを同時に参照しているときに、この状態が起きます。特定のカatalog管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 2 次メッセージのそれぞれの理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。他の区画 (または、DASD 共用環境の共用システム) がファイル、またはカタログを必要としないか調べてから、コマンドを出し直してください。

IDC3029I LOGICAL RECORD LENGTH EXCEEDS 32761

説明: 非スパン・ファイルに指定されている最大論理レコード長が、32761 を超えています。最大制御インターバル・サイズが 32768 であることに注意してください。後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 最大論理レコード長を減らすか、または、ファイルをスパンとして定義し直してください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3030I CONTROL INTERVAL SIZE TOO LARGE

説明: データ・コンポーネントの制御インターバル・サイズに、32,768 よりも大きな値が指定されています。または索引コンポーネントの制御インターバル・サイズに、装置タイプに認められている最大値よりも大きな値が指定されています。

2314/2319 の場合、最大サイズは、7,168 バイトです。その他のすべての装置の場合、最大サイズは、8,192 バイトです。特定のカatalog管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 2 次メッセージのそれぞれの理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。制御インターバル・サイズを減らしてください。あるいは索引コンポーネントの装置タイプによりエラーが起きた場合は、索引の最大制御インターバル・サイズがより大きな値である別の装置を使用してください。次に、コマンドを実行し直してください。

**IDC3031I KEY EXTENDS BEYOND MAXIMUM
RECORD LENGTH**

説明: KEYS 指定が、最大論理レコードの終わりの位置を超えています。 後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。 したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: キーの長さを減らしてください。キーの位置を変更してください。あるいはレコードの長さを増やしてください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3032I BUFFER SPACE TOO SMALL

説明: DEFINE 操作時に指定されたバッファ・サイズが小さすぎて、定義中の VSAM ファイルの最小数の制御インターバルを入れることができません。索引ファイルには、データ用の 2 つの制御インターバルと 1 つの索引用制御インターバルが十分に入る大きさの仮想記憶が必要です。非索引ファイルには、データ用の 2 つの制御インターバルが十分に入る大きさの仮想記憶が必要です。後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: DEFINE の場合は、

- BUFFERSPACE パラメーターを省略してください。または、
- BUFFERSPACE パラメーターの値を増やしてください。または、
- DATA または INDEX CONTROLINTERVALSIZE の値を減らしてください。

次に、コマンドを実行し直してください。

IMPORT(RA) の場合は、選択した装置タイプへ、定義にしたがってファイルをインポートすることができません。IMPORT の場合、空のファイルを前もって定義しておくことにより、問題点を取り除くことができます。IMPORTRA の場合、別の装置タイプ、できればファイルのエクスポート元である装置タイプを使ってコマンドを実行してください。

**IDC3033I VOLUME RECORD NOT FOUND IN
CATALOG**

説明: ボリュームを参照しましたが、そのボリュームは、指定の VSAM カタログ (またはデフォルトの) が所有しているものではありません。後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に

続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 正しいカタログが指定されているか確かめてください。また、正しいボリュームが指定されており、そのボリュームが、要求が向けられているカタログ内に定義されている (DEFINE SPACE コマンドを使用) かも確かめてください。次に、コマンドを実行し直してください。

**IDC3044I SPECIFIED EXTENTS NOT ON
CYLINDER BOUNDARY**

説明: DEFINE コマンド、または IMPORT(RA) コマンド (固有ファイルの場合) の内部定義で CYLINDER パラメーターが指定されましたが、それに対応する EXTENT ステートメントに示されているエクステントが、シリンダー境界から始まっていないか、または終わっていません。DEFINE の場合、このエラーは、DEFINE カタログ、スペース、固有、クラスター、または固有代替索引においてのみ起こります。後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: UNIQUE ファイルの場合、EXTENT ステートメントを訂正して、ボリューム通し番号パラメーターにより識別されている装置タイプのシリンダー境界を反映するようにしてください。DEFINE スペースまたはカタログの場合、FILE パラメーターを除き、ORIGIN、DEDICATE、TRACKS または RECORDS パラメーターを使用して、スペース割り振りを指定してください。次に、コマンドを実行し直してください。固有に割り振ったコンポーネントのエクステントはシリンダー境界になければならないことに注意してください。

IDC3045I CATALOG NOT EMPTY

説明: 空でない VSAM カタログを削除しようとしてしました。

後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: VSAM カタログに、カタログ、ボリュームに関するデータ・スペース項目以外の項目が何も含まれていない時のみ、そのカタログを削除することができます。

LISTCAT を使用して、まだカタログ内にある項目の名前およびタイプを判別し、それらを削除してください。次に、コマンドを実行し直してください。

**IDC3046I NO CATALOG RECOVERY AREA ON
VOLUME FOR UNIQUE FILE**

説明: 固有ファイルをボリューム上に定義しようとしてしましたが、そのボリュームにカタログ・リカバリー域 (CRA) が含まれていません。後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関

する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 正しいカタログおよびボリュームが参照されているか確かめてください。

- リカバリー不能カタログに固有ファイルを定義してください。または、
- DEFINE SPACE コマンドを使用して、カタログ・リカバリー域のために、VSAM スペースの最小 1 シリンダーをボリューム (CKD 装置) に割り振ってください。または、
- DEFINE SPACE コマンドを使用して、カタログ・リカバリー域のために、VSAM の最大制御域単位値と等しいブロックをボリューム (固定ブロック装置) に割り振ってください。

次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3047I VTOC, FILE OR EXTENT OVERLAP

説明: DEFINE SPACE ORIGIN パラメーター、または EXTENT ステートメントに指定されている新しいエクステン트가、以下のものと重複していたため、(スペース定義または固有ファイル定義のための) スペース割り振り操作が失敗しました。

- VTOC エクステン
- 満了日の保護・非 VSAM ファイル
- 満了日前の保護・非 VSAM ファイル
- 満了日前の非 VSAM ファイル
- エクステン

後続の 2 次メッセージには、原因や処置に関する追加情報は含まれていません。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: スペース割り振りを行うために、エクステン

IDC3048I FILE DEFINITION STATEMENT MISSING OR IN ERROR

説明: DLBL または EXTENT ステートメントが欠落しているか、または誤りがあります。または ORIGIN 指定に誤りがあります。またはシステム論理装置エラーが検出されました。特定

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く)

に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 2 次メッセージのそれぞれの理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。誤りのある DLBL または EXTENT ステートメントを訂正するか、または取り除いて、コマンドを実行し直してください。

IDC3171I INVALID VALUE SPECIFIED FOR {CLASS|SECONDARY USECLASS}

説明: CLASS または 2 次 USECLASS に、受け入れられない値が指定されています。

システムの処置: DEFINE および IMPORT コマンドの場合、処理を終了し、条件コード (LASTCC) を 12 にセットします。IMPORTRA コマンドの場合、影響を受けるクラスターまたは代替索引 (および関連する経路) はインポートしません。可搬ファイル内にある他のファイルに関する処理を続行し、条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。

プログラマーの応答: CLASS または 2 次 USECLASS に指定されている値を調べてください。これらのパラメーターの正しい使用法については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。エラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3173I USECLASS SPECIFIED INVALID WITH UNIQUE

説明: 非ゼロの USECLASS 値が、UNIQUE 属性と並行して指定されています。UNIQUE 属性があるクラスター、または代替索引コンポーネントの USECLASS パラメーター値にはゼロしか指定できません。USECLASS の矛盾は、明示指定または DEFINE でのモデリングに起因して起こる可能性があります。IMPORT および IMPORTRA の場合、コンポーネントに UNIQUE 属性があるときに、非ゼロ USECLASS パラメーター値を、OBJECTS サブパラメーターとして指定できません。システムの処置: DEFINE および IMPORT コマンドの場合、処理を終了し、状態コード (LASTCC) を 12 にセットします。

IMPORTRA コマンドの場合、影響を受けるクラスターまたは代替索引 (および関連する経路) はインポートしません。可搬ファイル内にある他のファイルに関する処理を続行し、条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。プログラマーの応答: UNIQUE または非ゼロ USECLASS を除去して、コマンドを実行し直してください。

IDC3190I keyword PARAMETER INVALID WITH ENTRY TYPE

説明: 指定されているキーワードは、変更中の対象のタイプにとって正しいものではありません。これは、クラスター/代替索引とデータ/索引コンポーネント属性との間の区別において生ずる問題であることが多々あります。

システムの処置: コマンドを終了します。

プログラマーの応答: 正しいコンポーネント名をコマンドに指

定してください。各項目タイプの有効な ALTER パラメーターを示すテーブルについては、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3200I TOO MANY POSITIONAL PARAMETERS AFTER xxx

説明: パラメーター・リストに指定されている定位置パラメーターの数が多すぎます。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。
システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。
プログラマーの応答: 余分なパラメーターを除去し、コマンドを実行し直してください。

IDC3201I CONSTANT xxx EXCEEDS LENGTH LIMIT

説明: パラメーターの値 xxx が、パラメーター定義またはその実行により認められている最大数を超過しています。もっと短い値を指定しなければなりません。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。
システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。
プログラマーの応答: 問題になっているパラメーターの値の定義を調べ、認められている範囲の値を指定して、コマンドを実行し直してください。

IDC3202I ABOVE TEXT BYPASSED UNTIL NEXT COMMAND. CONDITION CODE IS 12

説明: 現在実行しているコマンドで、エラーが検出されました。コマンドの残りの部分をバイパスします。プログラム・リスト内で、このメッセージの前にあるエラー・メッセージに、エラーが示されています。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。
システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。
プログラマーの応答: エラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3203I ITEM xxx DOES NOT ADHERE TO RESTRICTIONS

説明: 項目名 (すなわち、ファイル ID/オブジェクト名) であるパラメーター値 xxx の形式が、命名規約に合っていません。ファイル ID/オブジェクト名の命名規則については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。
システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。
プログラマーの応答: このパラメーターの形式規約をチェック

し、項目を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3205I DELIMITER x IS NOT PROPERLY PRECEDED BY A CONSTANT OR KEYWORD

説明: キーワード、サブパラメーター・リスト、またはデータが指定されるべき箇所に、区切り文字がありました。区切り文字 x が、正しく使用されていません。括弧が、おそらく不適切であるか、または定位置/キーワード・パラメーターが欠落していると思われます。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。
システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。
プログラマーの応答: 指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3207I REMAINDER OF COMMAND INPUT STREAM IGNORED

説明: ジョブ・ステップのコマンド入力ストリームを、これ以上スキャンさせないようなエラーが起きました。先行のエラー・メッセージにエラーが説明されています。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされました。
システムの処置: 現行のコマンドを実行せず、ジョブ・ステップのコマンド入力ストリームの残りの部分を無視します。条件コード (MAXCC) を 16 にセットします。
プログラマーの応答: 関連するエラーを訂正して、ジョブ・ステップを実行し直してください。

IDC3208I LEFT PARENTHESIS MISSING FOLLOWING KEYWORD xxx

説明: キーワード xxx の後に、キーワードに関連するサブパラメーター・リストまたは定数を区切る括弧が正しく続きません。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。
システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。
プログラマーの応答: パラメーターの要件を調べ、指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3209I RIGHT PARENTHESIS MISSING AFTER xxx

説明: 右括弧 (1 つ、または複数のパラメーター値を区切るためのもの) が、xxx の後にありません。指定されている項目が多すぎることもあります。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。
システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。
プログラマーの応答: パラメーターの要件を調べ、指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

**IDC3210I INVALID PARENTHESES FOR
SPECIFYING REPEATED SUBPARAMETER
LIST**

説明: 反復サブパラメーター・リストの反復を区切るための括弧が欠落しています。または対になっていません。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: 反復サブパラメーター内の括弧が欠落しているか、または対になっていないかを調べ、指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3211I KEYWORD *keyword* IS IMPROPER

説明: キーワードが、指定された用法になっていません。このキーワードは、適用できません。つづりが誤っているか、または正しくないサブパラメーター・リスト内のサブパラメーターとして指定されています。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: キーワードおよび括弧の指定を調べ、必要な訂正を行って、コマンドを実行し直してください。

IDC3212I INVALID LEFT PARENTHESIS AFTER *xxx*

説明: 定位置パラメーター *xxx* を区切るために、左括弧が示されていました。しかし、この定位置パラメーターには、サブパラメーターはないと定義されているため、括弧の使用は認められません。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: 指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

**IDC3213I KEYWORD *keyword* APPEARS TOO
OFTEN**

説明: 同じパラメーター・リストまたはサブパラメーター・リストの中に、キーワードが複数回コーディングされていました。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: 余分なキーワードを除き、コマンドを実行し直してください。

**IDC3214I HEX OR BINARY CONSTANT SPECIFIED
IMPROPERLY**

説明: 16 進数または 2 進数パラメーター値が、それぞれ X'...' または B'...' の形式になっていません。数値パラメーターは、X または B で始まっているが、単一引用符が後に続いていません。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: 数値パラメーターを訂正し、コマンドを実行し直してください。

**IDC3216I ABOVE TEXT BYPASSED UNTIL NEXT
COMMAND**

説明: 現在実行しているコマンドで、エラーが検出されました。出力リストの先行メッセージに、エラーが正確に示されています。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3217I PASSWORD IMPROPER AFTER *xxx*

説明: パスワードが、パスワードを認めていないパラメーター値 (*xxx*) の後にあります。これは、パラメーター値の中に違法なスラッシュ (/) が現れていることに起因していることがあります。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: コーディング誤りのパラメーター値を訂正して、コマンドを実行し直してください。

**IDC3218I TOO MANY REPEATED SUBPARAMETER
LISTS APPEAR**

説明: 認められている回数よりも多く、サブパラメーター・リストが繰り返しコーディングされています。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: パラメーターの説明を参照して、何回繰り返し確認されているのか調べてください。指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3219I VERB NAME xxx UNKNOWN

説明: コマンド xxx は、以下の理由により、システムに認識されません。

- コマンドの名前のつづりが誤っています。
- ステートメントが、順序どおりではありません。
- コマンド継続文字が欠落しているため、パラメーターがコマンド名であると解釈されることがあります。
- コマンドが、このシステムではサポートされていない機能のものであります。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のステートメントから処理を再開します。

プログラマーの応答: コマンドがこのシステムでサポートされている場合は、つづりが誤っているコマンド名、ステートメントの順序の違い、または欠落している継続文字を訂正して、コマンドを実行し直してください。コマンドがサポートされていない場合は、必要な機能を組み込んでから、コマンドを実行しなければなりません。

IDC3220I IMPROPER NUMERIC DIGIT FOUND IN xxx

説明: xxx に無効な数字があります。10 進数には、0 から 9 だけが使用できます。X'...' 形で指定される 16 進数には、0 から 9 と A から F だけが使用できます。B'...' の形で指定される 2 進数には、0 と 1 だけが使用できます。エラーが見つかったとき、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: 無効な数字を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3221I CONSTANT xxx NOT WITHIN VALUE RANGE

説明: 数値 xxx が、このパラメーターで認められている値の範囲内にありません。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: 数値を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3223I TOO MANY CONSTANTS IN LIST BEGINNING AT xxx

説明: xxx で始まるリストにコーディングされているパラメーター値が多すぎます。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: パラメーターの定義を見て、パラメーター値をいくつリスト内に示せるものかを調べてください。指定

を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3225I REQUIRED (SUB)PARAMETER OF xxx IS MISSING

説明:

- コマンドに必要なキーワード・パラメーター xxx が欠落しています。
- 別のパラメーターの指定により必要となるキーワード・パラメーター xxx が欠落しています。
- キーワード・パラメーターに必要な定位置サブパラメーター xxx が欠落しています。
- そのコマンドにはキーワード・パラメーター・グループの 1 つが必要ですが、欠落しています。xxx は、このキーワード・グループの 1 つを示します。
- キーワード・パラメーター・グループの中の 1 つが、別のパラメーターの指定により必要となりましたが、欠落していました。

xxx は、このキーワード・グループの 1 つを示します。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: 欠落しているパラメーターを追加して、コマンドを実行し直してください。

IDC3226I INCONSISTENT PARAMETERS INVOLVING xxx

説明: キーワード xxx は、他のパラメーターと矛盾しているパラメーターを示しています。エラーが見つかった時、コマンドは、その構文が正しいかスキャンされていました。

システムの処置: このコマンドについて、これ以上、構文のチェックを行いません。コマンドは実行されません。次のコマンドから処理を再開します。

プログラマーの応答: このパラメーターに関する制約の説明を参照してください。パラメーターの一方を除いて、コマンドを実行し直してください。

IDC3229I XXL PARAMETER INVALID FOR RRDS, VRDS AND KEYRANGES

説明: XXL パラメーターを、RRDS、VRDS、またはキー範囲を指定して定義されたデータ・セットと組み合わせて指定することはできません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: EXTRALARGEDATASET(XXL) パラメーターを、NUMBERED パラメーターまたは KEYRANGES パラメーターと組み合わせて指定しないようにします。モデルを使用していることが、無効なパラメーターの組み合わせの原因でないことも確認してください。モデルが NUMBERED パラメーターまたは KEYRANGES パラメーターを使用して定義されているときに、このモデルを使用する DEFINE CLUSTER で XXL を指定することはできません。この逆も同様です。

IDC3230I RRDS CAN NOT BE DEFINED WITH COMPRESSED ATTRIBUTE

説明: COMPRESSED 属性では、相対レコード・ファイルを定義できませんでした。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。

プログラマーの応答: COMPRESSED 属性を除去してください。

IDC3232I MAX RECORDSIZE TOO SMALL FOR COMPRESSED ATTRIBUTE

説明: DEFINE CLUSTER の (最大) レコード・サイズが、以下のいずれかの状態になっています。

- 40 以下の大きさである (ESDS または VRDS の定義時)
- 40 にキー長とキー・オフセットを加えた数以下の大きさである (KSDS 定義時)

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。

プログラマーの応答: クラスタがデータ圧縮に適した候補であるかどうかを評価してください。最大レコード長を増やして上記の状況を満足させるようにするか、COMPRESSED 属性を除去してください。

IDC3233I CCDS MUST BE DEFINED WITH NOCOMPRESSION

説明: 圧縮制御データ・セット VSAM.COMPRESS.CONTROL は、COMPRESSED 属性では定義できませんでした。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。

プログラマーの応答: COMPRESSED 属性を除去してください。

IDC3234I COMPRESSION CONTROL SERVICE FAILED. RETURN CODE *rc* REASON *reason*

説明: IDCAMS に圧縮制御エラーが発生しました。戻りコード *rc* と理由コード *reason* が返されました。このエラーは、SYSLOG に書き込まれているメッセージ 4A91I によって詳しい内容がわかります。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。

プログラマーの応答: 4A91I メッセージを参照してください。

IDC3235I A COMPRESSED CLUSTER CANNOT SERVE AS MODEL

説明: COMPRESSED 属性が指定されたデフォルト・モデルへの DEFINE CLUSTER か、または MODEL(...) パラメーターを圧縮したクラスタに適用しました。

システムの処置: この後に続くメッセージが、とられた処置を示します。

プログラマーの応答: デフォルト・モデルを定義するときは、COMPRESSED パラメーターを省略するか、または NOCOMPRESS クラスタ・モデルを使用してください。モ

デルを適用する場合も、COMPRESSED パラメーターを指定できません。

IDC3236I INVALID EXPIRATION DATE FORMAT

説明: DEFINE または ALTER コマンドの TO パラメーターに指定された桁数が、予期された日付形式 *yyyymmdd* または *yyddd* と一致していません。

システムの処置: DEFINE または ALTER コマンドの処理を終了し、条件コード (LASTCC) を 12 にセットします。

プログラマーの応答: 必要な日付形式 *yyyymmdd* または *yyddd* を TO パラメーターに指定して、コマンドを再サブミットしてください。

IDC3237I EXPIRATION DATE OUTSIDE ACCEPTABLE RANGE

説明: DEFINE または ALTER コマンドの TO パラメーターに指定された満了日が、将来有効な 99 年の範囲を超えています。

システムの処置: DEFINE または ALTER コマンドの処理を終了し、条件コード (LASTCC) を 12 にセットします。

プログラマーの応答: 有効な満了日を TO パラメーターに指定して、コマンドを再サブミットしてください。有効な満了日は、現在の日付に等しいかそれより大きく、かつ将来 99 年を超えてはなりません。yyyymmdd の最大値は、2099365 です (もし将来 99 年先に到達できる場合)。

IDC3238I DATE CONVERSION FAILED

説明: DEFINE、ALTER、または DELETE コマンドの満了日変換手順で、内部エラーが起きました。

システムの処置: DEFINE、ALTER、または DELETE コマンドの処理を終了し、条件コードを 12 にセットします。

DELETE の場合は、さらに IDUMP マクロを出します。

プログラマーの応答: 問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管しておいてください。DELETE の場合は、後続の 2 次メッセージ IDC3009I で、戻りコードと理由コードが示されます。2 次メッセージのそれぞれの理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。IBM サポートに連絡してください。

IDC3281I VOLUME ALREADY HAS A CATALOG ON IT

説明: 1 つのボリューム上には 1 つのカタログしか常駐できません。ユーザーが指定したボリュームには、すでにカタログが入っています。特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続のメッセージ IDC3003I (2 次メッセージの後に続く) は、コマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 既存のカタログを削除するか、または新しいカタログに対して他のボリュームを指定してください。次に DEFINE コマンドを実行し直してください。

**IDC3282I ANOTHER RECOVERABLE CATALOG
ALREADY OWNS SPACE ON VOLUME**

説明: 1 つのボリューム上には、リカバリー可能なカタログが 1 つだけスペースを所有することができます。ユーザーの指定したボリュームには、別のリカバリー可能カタログが所有しているスペースがすでにあります。特定のカタログ管理エラー・コード値およびその原因については、後続の 2 次メッセージを参照してください。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 次の処置のいずれかを行ってください。

- リカバリー可能カタログがすでに所有しているスペースを除去してください。
- リカバリー不能カタログを指定して新しいスペースを所有してください。
- 異なるボリューム上に新しいスペースを定義してください。

**IDC3283I CRA OR SPACE FOR RECOVERABLE
CATALOG MUST NOT RESIDE ON THIS
VOLUME**

説明: カタログ・リカバリー可能エリア (CRA) がラージ DASD ボリュームまたは FBA ボリュームに存在してはなりません。ラージ DASD ボリュームまたは FBA ボリュームでのリカバリー可能カタログの定義、またはリカバリー可能カタログ用ラージ DASD ボリュームまたは FBA ボリュームでの VSAM スペースの定義が試みられました。

システムの処置: 後続メッセージ (2 次メッセージの後に続く) に、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 次の処置のいずれかを行ってください。

- リカバリー不能カタログをラージ DASD ボリュームまたは FBA ボリュームに指定してください。
- リカバリー可能カタログを別のボリュームに指定してください。
- ラージ DASD ボリュームまたは FBA ボリューム上に新しいスペースを所有するためにリカバリー不能カタログを指定してください。
- 異なるボリューム上に新しいスペースを定義してください。

**IDC3287I **OPERATOR CANCELED A MOUNT
REQUEST DURING CRA-OPEN**

説明: このコマンドに必要な CRA ボリュームを取り付けている時に、誤りが起きました。

システムの処置: リストの後続メッセージの「システムの処置」を参照してください。CRA-OPEN が OPEN エラー・コードを戻します。

プログラマーの応答: 正しいボリュームが使用可能であるか確かめて、ジョブを実行し直してください。

**IDC3288I **AUTO-ASSIGN FAILED DURING
CRA-OPEN**

説明: このコマンドに必要な CRA ボリュームのための割り当てが失敗しました。

システムの処置: リストの後続メッセージの「システムの処置」を参照してください。CRA-OPEN が OPEN エラー・コードを戻します。

プログラマーの応答: プログラムが使用した明示割り当て (一時および永続の両方) の数を減らすか、あるいはプログラムが使用する区画に対し、より多くの論理装置を割り当てるように要求してください。

**IDC3289I LOCK REQUEST FAILED, RC=xxx FOR
RESOURCE name WITH
{SCOPE{INT|EXT}|VOLID volid}**

説明: リソースのロック要求が不首尾に終わりました。理由コードは、RC=xxx により示されます。

システムの処置: リストの後続メッセージの「システムの処置」を参照してください。

プログラマーの応答: 示された理由コードについては、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』の下の戻りコード 246 を参照してください。

**IDC3290I RECORDFORMAT PARAMETER
REJECTED. SAM ESDS FEATURE NOT
INSTALLED.**

説明: DEFINE コマンドにおいて、RECORDFORMAT パラメーターが明示的に指定されていたか、またはモデル化されていましたが、パラメーターが提供する機能をサポートするために必要な、SAM 機能の VSAM スペース管理が組み込まれていませんでした。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: RECORDFORMAT パラメーターを省略し、コマンドを出し直すか、または必要な SAM 機能の VSAM スペース管理を組み込んでください。

**IDC3291I DEFAULTVOLUMES NOT ALLOWED FOR
{UNIQUE|ORDERED|DEFAULT MODEL}
OBJECT**

説明: 示されている属性を持つ対象 (クラスター、代替索引、データ・コンポーネント、または索引コンポーネント) に対し、DEFAULTVOLUMES パラメーターが指定されていません。以下の対象に対し、DEFAULTVOLUMES 機能は指定できません。

- 固有コンポーネント (UNIQUE) を持つファイルに属している対象。
- 順序属性 (ORDERED) を持つ対象。
- デフォルトのモデル対象 (文字ストリング「DEFAULT.MODEL. ...」で名前が始まる対象)。

クラスターまたは代替索引名に対し DEFAULTVOLUMES が指定されている場合、それが VOLUMES パラメーターにより

変更されない限り、データおよび索引コンポーネントにまで指定が及ぶことに注意してください。

影響を受けるクラスターまたは代替索引の名前は、2 次メッセージ IDC0674I により示されています。

システムの処置: IMPORT コマンドの場合、処理を終了し、条件コード (LASTCC) を 12 にセットします。IMPORTRA コマンドの場合、影響を受けるクラスターまたは代替索引はインポートしません。可搬ファイル内にある他のファイルに関する処理を続行し、条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。

プログラマーの応答: DEFAULTVOLUMES パラメーターを VOLUMES パラメーターと入れ替え、コマンドを実行し直してください。

注: IMPORT コマンドの場合、ORDERED 属性によりこの矛盾が起きていたときには、代わりに OBJECTS の UNORDERED サブパラメーターを指定し (ORDERED 属性を除く)、コマンドを実行し直してください。

IDC3292I VOLUMES PARAMETER REQUESTED WITH xxx

説明: メッセージに示されている (xxx) パラメーターまたは状態により対象を定義しているときに、VOLUMES パラメーターが明示的に指定されていませんでした。またはモデル化されていませんでした。xxx は、以下のとおりです。

- DEFAULT MODEL DEFINE
- UNIQUE パラメーター
- ORDERED パラメーター

システムの処置: DEFINE コマンドの処理を終了し、条件コード (LASTCC) を 12 にセットします。

プログラマーの応答: 必要な VOLUMES パラメーターを指定したコマンドを出し直してください。あるいは関連するパラメーター/状態を除いてください。

IDC3295I REQUESTED DATA SET *file-id* IS [NOCIFORMAT] SAM ESDS AND CANNOT BE EXPORTED

説明: EXPORT において、項目名パラメーターが次のものを指定しました。

- NOCIFORMAT SAM ESDS。しかし、NOCIFORMAT SAM ESDS は、エクスポートできません。(NOCIFORMAT がメッセージ・テキスト中に示されています。)
- SAM ESDS。SAM 機能のための VSAM スペース管理が、このシステムに組み込まれていません。したがって、SAM ESDS はエクスポートできません。(NOCIFORMAT がメッセージ・テキスト中に示されています。)

EXPORTRA において、ENTRIES (項目名) パラメーターが次のものを指定しました。

- NOCIFORMAT SAM ESDS。しかし、NOCIFORMAT SAM ESDS は、エクスポートできません。(NOCIFORMAT がメッセージ・テキスト中に示されています。)
- SAM ESDS。SAM 機能のための VSAM スペース管理が、このシステムに組み込まれていません。したがって、SAM

ESDS はエクスポートできません。(NOCIFORMAT がメッセージ・テキスト中に示されていません。)

システムの処置: EXPORT の場合、LASTCC を 12 にセットして、コマンドの処理を終了します。EXPORTRA の場合、示したファイルをエクスポートしません。LASTCC を 8 にセットし、EXPORT(RA) を使用してエクスポートすべき他の項目について、処理を続行します。

プログラマーの応答: カタログまたはファイル ID の指定が間違っていたために、ファイルが誤って選択された場合は、その指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

NOCIFORMAT SAM ESDS の場合は、ユーザー自身がプログラムを用意して、ファイルのバックアップおよびリストア、(必要ならば) 可搬コピーを行われなければなりません。SAM 機能のための VSAM スペース管理がシステムに組み込まれていない場合は、SAM ESDS をアクセスすることはできません。

IDC3297I INVALID DEFAULT MODEL NAME

説明: DEFINE において、VSAM 対象は、接頭修飾語「DEFAULT.MODEL.」を付けて名前が付けられていますが、追加の修飾語が、定義中のファイル・ダンプに必要な予約名に従っていません。

IMPORT において、ユーザー・カタログを連結しているときに、カタログに指定された名前 (OBJECTS パラメーターの「name」サブパラメーター) に、デフォルト・モデルに予約された名前が入っています。予約されているモデル名は、「DEFAULT.MODEL. ...」で始まる任意の名前です。

システムの処置: コマンドの処理を終了し、条件コード (LASTCC) を 12 にセットします。IMPORT の場合、ユーザー・カタログはマスター・カタログに結合しませんが、OBJECTS パラメーターに指定されている他のユーザー・カタログは結合できます。それらは、メッセージ IDC0643I に示されます。

プログラマーの応答: DEFINE の場合、ファイル・タイプまたはデフォルト・モデル名を変更して、デフォルト・モデルに必要な組み合わせの 1 つに従わせてください。デフォルト・モデルの定義を望まない場合は、「DEFAULT.MODEL. ...」接頭部を付けなくてください。次に、コマンドを実行し直してください。

IMPORT の場合、カタログ名を有効な名前に訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3298I RENAMING DEFAULT MODEL NAME *default-model-name* {FROM|TO} *entryname* IS NOT ALLOWED

説明:

- ALTER NEWNAME または IMPORT NEWNAME を使用して、対象 *entryname* の名前を、デフォルト・モデルの予約名 (DEFAULT.MODEL.xxxx) に変えようとした。または、
- ALTER NEWNAME を使用して、デフォルト・モデル・オブジェクト (DEFAULT.MODEL.xxxx) の名前を、新しい名前 *entryname* に変えようとした。

デフォルト・モデル対象の改名、および対象のデフォルト・モデル名への改名は、認められていません。予約されているモデル名は、「DEFAULT.MODEL. ...」で始まる任意の名前です。システムの処置: ALTER の場合、カタログを変更せず、条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、コマンドの処理を終了します。

IMPORT の場合、*entryname* が代替索引、クラスター、データ・コンポーネントまたは索引コンポーネントであれば、何もインポートせず、条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、コマンドの処理を終了します。*entryname* が経路名であれば、影響を受ける経路をインポートせず、メッセージ IDC2616I を出し、条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。クラスターまたは代替索引、およびその他の経路対象について、通常のインポート処理を続行します。

プログラマーの応答:

ALTER の場合:

デフォルト・モデルを改名したいときには、デフォルト・モデルを削除し、それを定義し直してください。対象を改名して、それをデフォルト・モデルとしたときには、その対象を削除し、該当するデフォルト・モデル名を付けて定義し直してください。

IMPORT の場合:

コマンドが終了したときには、*entryname* に有効な名前を選択し、それを NEWNAME パラメーターに指定して、コマンドを実行し直してください。経路にエラーが起きたときは、有効な名前により経路を定義するか、または NEWNAME パラメーターに有効な経路名を指定し、クラスター/代替索引を削除して、コマンドを実行し直してください。

IDC3299I INVALID PARAMETER COMBINATION: xxx/yy/zzz

説明: メッセージ中に示されているパラメーターが、受け入れられません。または矛盾する組み合わせで使用されています。これは、通常、明示指定により起こるものですが、DEFINE コマンドの場合、モデル化またはシステム・デフォルトの使用により起こることもあります。また、DEFINE コマンドの場合、矛盾には、データと索引のコンポーネント間のパラメーター矛盾も含まれます。

- NOALLOC/SUBALLOC/UNIQUE
 - NOALLOCATION が一方のコンポーネント (データまたは索引) に対し指定されており、両方に指定されていません。
- RESERVED NAME/SUBALLOC/UNIQUE
 - NOALLOCATION パラメーターと一緒に指定せずに、デフォルト・モデルを定義することはできません。

SAM 機能のための VSAM スペース管理で使用する場合、以下の組み合わせは無効です。

RECORDFORMAT/SPANNED
RECORDFORMAT/RECOVERY
RECORDFORMAT/NUMBERED
RECORDFORMAT/INDEXED
NOCIFORMAT/WRITCHECK
NOCIFORMAT/ERASE

NOCIFORMAT/EXCEPTIONEXIT

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: 受け入れられないパラメーターの一方を除くように、パラメーター指定を変更して、コマンドを実行し直してください。

IDC3300I ERROR OPENING {file-id | filename}

説明: *file-id* (*file-id* が使用できない場合は、*filename* が示されます) により識別されるファイルをオープンしようとしている時に、エラーが検出されました。説明については、プログラム・リストの対応するメッセージを参照してください。

EXPORTRA、LISTCRA、および RESETCAT の場合、CRA のオープンにおけるエラーにより、このメッセージが出ることがあります。

注: CRA のファイル ID は、常に、

「CATALOG.RECOVERY.AREA.VOL.volser」の形式になっています。

システムの処置: 対応するメッセージの説明を参照してください。

プログラマーの応答: 対応するメッセージの説明を参照してください。

IDC3301I ERROR CLOSING {file-id | filename}

説明: *file-id* (*file-id* が使用できない場合は、*filename* が示されます) により識別されるファイルをクローズしようとしている時に、エラーが検出されました。説明については、プログラム・リストの対応するメッセージを参照してください。

EXPORTRA、LISTCRA、および RESETCAT の場合、CRA のクローズにおけるエラーにより、このメッセージが出ることがあります。

注: CRA のファイル ID は、常に、

「CATALOG.RECOVERY.AREA.VOL.volser」の形式になっています。

システムの処置: 対応するメッセージの説明を参照してください。

プログラマーの応答: 対応するメッセージの説明を参照してください。

IDC3302I ACTION ERROR ON file-id

説明: *file-id* により識別されるファイルにアクセスしようとしている時に、エラーが検出されました。説明については、プログラム・リストの対応するメッセージを参照してください。

システムの処置: 対応するメッセージの説明を参照してください。

プログラマーの応答: 対応するメッセージの説明を参照してください。

IDC3303I ** CANNOT OPEN FOR UPDATE

説明: 更新モードのためには、VSAM ファイルしかオープンできません。オープンしたいファイル名が、非 VSAM DLBL ステートメントに印刷されています。

システムの処置: ファイルをオープンせず、コマンドを終了します。

プログラマーの応答: DLBL ステートメントの指定を調べ、ステートメントを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3304I ** JCL STATEMENT MISSING

説明: FILE、INFILE、または OUTFILE パラメーターに名前が記されている DLBL ジョブ制御ステートメントが見つかりません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: dname パラメーターが誤ってつづられていないか、DLBL ステートメントが欠落していないか、あるいは DLBL ステートメントのファイル名が間違っつづられていないかを調べてください。エラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3305I ** CANNOT BE OPENED FOR OUTPUT

説明: 出力のためには、アクセス方式サービス・プログラムは、ディスクまたはテープ上で物理的順次に編成されている VSAM ファイルおよび非 VSAM ファイルだけしかオープンできません。OUTFILE または WORKFILE の dname が、これらのファイル・タイプの中の 1 つではありませんでした。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: OUTFILE または WORKFILE dname および (または) 対応する DLBL ステートメントを変更して、ディスクまたはテープ上の VSAM ファイル、または非 VSAM 物理的順次ファイルのいずれかを指定してください。次にコマンドを実行してください。

IDC3306I ** PS PROCESSING INVALID FOR KEYED DATA SET

説明: このファイルに対し、物理的順次アクセスを行えません。索引順次ファイルを、キーによる順次以外の方法で処理することはできません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: DLBL ステートメントを変更して、VSAM ファイルを指定してください、あるいはコマンド中のファイルの用法を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3307I ** DATA SET CANNOT BE OPENED FOR KEYED PROCESSING

説明: キーによる処理のためには、キー順 VSAM ファイルおよび索引順次ファイルだけしかオープンできません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: DLBL ステートメントを変更して、キー付きファイルを指定してください。あるいはコマンド中のファイルの用法を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3308I ** DUPLICATE RECORD xxx

説明: REPRO コマンドの出力ファイルには、同じキーまたはレコード番号を持つレコードが、すでに含まれています。索引ファイルの場合、xxx は、16 進数形式では 40 バイト長までの重複キー・レコードのキーです。キーが 40 バイトより長い場合は、xxx はドットで分けられたキーの最初の 19 バイトと最

後の 19 バイトを表しています。相対レコード・ファイルの場合、xxx は、重複レコードの相対レコード番号 (10 進数形式) です。

システムの処置: このレコードを書き出しません。パラメーター ERRORMAX で指定されたエラー数を超えるまで、処理を続行します。それ以上のレコードをファイルに書き出しません。ERRORMAX のデフォルト値は 3 です。

プログラマーの応答: 出力ファイル内の重複レコードをオーバーレイしたい場合は、REPLACE を指定した REPRO コマンドを実行し直してください。プログラムを終了させたくない場合は、REPRO パラメーター ERRORMAX の値を増やしてください。

IDC3309I ** RECORD LENGTH INVALID: xxx

説明: 以下の理由により、レコード xxx が書き出されませんでした。

- レコード長が、出力ファイルの LRECL を超えています (論理処理)。
- レコード長が、出力ファイルの LRECL と等しくなく、出力が、RECFM=FIXUNB または FIXBLK、または相対レコード・ファイルのいずれかでした。
- 書き出される制御インターバル長が、出力ファイルの制御インターバル・サイズと等しくありませんでした。

メッセージで、xxx は、レコードの最初の 40 バイト (16 進数形式) です。レコードが 40 バイトより長い場合には、xxx はドットで分けられたレコードの最初の 19 バイトと最後の 19 バイトを表します。

システムの処置: このレコードを書き出しません。パラメーター ERRORMAX で指定されたエラー数を超えるまで、処理を続行します。それ以上のレコードをファイルに書き出しません。ERRORMAX のデフォルト値は 3 です。

プログラマーの応答: LRECL または制御インターバル・サイズを正しく指定して、出力ファイルを定義し直してください。入力ファイルが可変長レコードから構成されている場合、出力ファイルが、固定長レコードの VSAM 相対レコード・ファイルまたは物理的順次ファイルであってはなりません。プログラムを終了させたくない場合は、REPRO パラメーター ERRORMAX の値を増やしてください。

IDC3310I ** KEY SUPPLIED IS LONGER THAN KEY LENGTH OF DATA SET

説明: 位置づけるために指定されたキーが、ファイルのキーの長さよりも長くなっていました。例えば、FROMKEY に指定されているキーが、ファイルのキーの長さを超えています。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: 正しいファイルを処理しているのか確かめてください。正しいキーをコマンドに指定するか、または DLBL ステートメントに正しいファイル ID を指定して、コマンドを実行し直してください。

IDC3311I ** TYPE OF POSITIONING NOT SUPPORTED

説明: VSAM および索引順次ファイルにのみ、位置づけが有効です。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: VSAM または索引順次ファイルの定義時に、DLBL ステートメントおよび EXTENT ステートメントを指定し直すか、または位置指定パラメーターを取り除いてください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3312I ** SYSTEM UNABLE TO OPEN

説明: OPEN 要求後に、DTF オープン・フラグがオンにセットされませんでした。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: SYSLOG 出力で追加のシステム・メッセージを調べ、システムが DTF をオープンできなかった理由を確かめてください。

IDC3314I RECORD OUT OF SEQUENCE: xxx

説明: 書き出そうとしたレコードのキーが、前にファイルに書かれたレコードのキーよりも低い値でした。メッセージ内の xxx は、16 進数表記で 40 バイトまでの、順序が正しくないレコードのキーです。キーが 40 バイト以上の場合、xxx はドットで分けられたキーの最初の 19 バイトと最後の 19 バイトを表します。

システムの処置: このレコードを書き出しません。パラメーター ERRORMAX で指定されたエラー数を超えるまで、処理を続行します。それ以上のレコードをファイルに書き出しません。ERRORMAX のデフォルト値は 3 です。

プログラマーの応答: 書き出すレコードを、昇順になるように並びかえて、コマンドを実行し直してください。プログラムを終了させたくない場合は、REPRO パラメーター ERRORMAX の値を増やしてください。

IDC3316I ** DATA SET IS NOT VSAM CATALOG

説明: このメッセージは、VSE には適用されません。

システムの処置: 予測できません。

プログラマーの応答: 関連するすべての出力を保管し、問題判別のためにダンプをとり、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC3317I ** PERMANENT I/O ERROR

説明: リスト上の先行メッセージに名前が示されているファイルに対し、I/O 操作を実行しているときに、入出力エラーが検出されました。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: DLBL ジョブ制御ステートメントを調べて、正しい情報が与えられているか確かめてください。必要であれば、ステートメントを訂正して、コマンドを実行し直してください。IMPORT(RA)、PRINT、または REPRO において、BLKSIZE パラメーターが正しく指定されているかどうか

調べてください。ステートメントまたはパラメーターに正しい情報が与えられていれば、SYSLOG 入出力エラー・メッセージを調べてください。DASD エラーが起きている場合は、代替トラック割り当てユーティリティ・プログラム (CKD 装置)、または代替ブロック割り当てユーティリティ・プログラム (FBA 装置) を実行して、バックアップ・コピーからファイルをリストアしてください。

IDC3318I ** INVALID DATA SET SPECIFICATION

説明: ENVIRONMENT パラメーター、または DLBL ステートメント、TLBL ステートメントが、正しく指定されていないか、割り当てられた装置タイプと一致していませんでした。情報が間違っているか、または必要なパラメーターが欠落しています。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: ENVIRONMENT パラメーターを調べて、必要なパラメーターがすべて指定されていること、および割り当てられた装置タイプと一致していることを確かめてください。また、DLBL または TLBL ジョブ制御ステートメント、および SYS nmn の割り当てを調べて、それらが正しく指定されていることを確かめてください。エラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3319I ** INVALID BLOCKSIZE SPECIFICATION

説明: OUTFILE の ENVIRONMENT パラメーターでのブロック・サイズが最大値 65534 バイトを超えました。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: ブロック・サイズ・パラメーターを調べてください。

IDC3320I ** INVALID DEVICE TYPE

説明: ジョブ制御ステートメントに、無効な装置タイプが指定されています。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: ENVIRONMENT (PDEV および HDEV) パラメーターが正しく指定されているか調べてください。PRIMEDATADEVICE および HINDEXDEVICE パラメーターの正しい使用方法については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」に記述されている関連コマンドの ENVIRONMENT パラメーターの説明を参照してください。エラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3321I ** OPEN/CLOSE ABEND EXIT TAKEN

説明: このメッセージは、VSE には適用されません。

システムの処置: 予測できません。

プログラマーの応答: 関連するすべての出力を保管し、問題判別のためにダンプをとり、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC3322I DATA SET ORGANIZATION IS NOT VSAM

説明: VSAM ファイルではないファイルに対し、検査要求 (UVERIFY) が出されました。

システムの処置: 検査要求を終了します。次に行う処置は、

個々のコマンドにより異なります。コマンドの処置については、後続メッセージを参照してください。

プログラマーの応答: ファイルの名前またはタイプを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3323I ** VSAM CATALOG RETURN CODE IS
nnm

説明: カタログ (対応メッセージに示されています) をオープンしているときに、エラーが起きました。可能な戻りコード値およびその意味については、プログラマーの応答を参照してください。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 示された戻りコードについては、239ページの『第9章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』を参照してください。

IDC3324I **VSAM CATALOG RETURN CODE IS
nnm - REASON CODE IS IGG0CLxx -
mmm

説明: カタログ (対応メッセージに示されています) をオープンしているときに、エラーが起きました。カタログ・エラーまたは例外状態の結果として、カタログ管理モジュール IGG0CLxx は、戻りコード (*nnm*) および理由コード (*mmm*) を戻しました。

システムの処置: 後続メッセージに、この状態が起きたときのコマンドに対して取られた処置が示されています。したがって、メッセージ IDC3003I が後に続いている場合、これは、その状態によりコマンドが終了したことを示します。

プログラマーの応答: 示された戻りコードおよび理由コードについては、239ページの『第9章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』を参照してください。

IDC3325I ** INCORRECT BLOCKSIZE SPECIFIED
FOR IMPORTRA

説明: INFILE パラメーターのブロック・サイズが間違っているために、可搬ファイルを読むことができません。誤長レコードによるエラーが起きました。

システムの処置: IMPORTRA コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: INFILE パラメーターの BLOCKSIZE 値を、EXPORTRA で使用された値に変更して、コマンドを実行し直してください。EXPORTRA ブロック・サイズ値以上の値を指定することにより、この問題点を訂正できます。

IDC3326I ** REPLACE INVALID FOR OUTPUT
THROUGH A PATH

説明: 出力ファイルが経路であるのに、REPRO コマンドに REPLACE パラメーターが指定されていました。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: 出力内の基本キー (および、UNIQUEKEY 属性を持つ更新セット代替索引の代替キー) と同じであるレコードが入力に含まれていない場合は、REPLACE

パラメーターを除くだけで、REPRO を実行することができません。それ以外の場合は、出力ファイルとして基本クラスターまたは代替索引名を指定できます。REPLACE パラメーターに関する制約については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。

IDC3327I ** DUPLICATE RECORD IN UPGRADE
SET - BASE RECORD xxx

説明: REPRO 操作時に、出力基本クラスターにレコードを追加しようとした。しかし、出力ファイルの代替索引 (UNIQUEKEY 属性を持つ) を更新しているときに、更新セットに重複レコードがありました。基本クラスターがキー順ファイルである場合、xxx は、16 進数形式で 40 バイトまでの基本キーです。キーが 40 バイトより長い場合は、xxx はドットで分けられたキーの最初の 19 バイトと最後の 19 バイトを表しています。基本クラスターが入力シーケンス・ファイルである場合、xxx は、40 バイトまでの (16 進数) レコードです。レコードが 40 バイトより長い場合には、xxx はドットで分けられたレコードの最初の 19 バイトと最後の 19 バイトを表します。

システムの処置: レコードを基本クラスターに書き出さず、このレコードの代替索引を更新しません。パラメーター

ERRORMAX で指定されたエラー数を超えるまで、処理を続行します。それ以上のレコードをファイルに書き出しません。

ERRORMAX のデフォルト値は 3 です。

プログラマーの応答: UNIQUEKEY 属性が正しく指定されている場合、追加が行われている基本クラスター・レコードにエラーがあるため、訂正が必要です。UNIQUEKEY 属性が正しく指定されていない場合、ALTER コマンドを使用して、NONUNIQUEKEY に変更することができます。必要な訂正を行って、コマンドを実行し直してください。プログラムを終了させたくない場合は、REPRO パラメーター ERRORMAX の値を増やしてください。

IDC3328I ** FBA DEVICE NOT SUPPORTED FOR
ISAM PROCESSING

説明: PRINT または REPRO コマンドの ENVIRONMENT パラメーターの HINDEXDEVICE サブパラメーターで、固定ブロック装置が指定されていました。これは、固定ブロック装置における ISAM 処理の要求を意味していますが、このような処理はサポートされていません。SAM ファイルに対し、PRIMEDATADEVICE の代わりに、間違って HINDEXDEVICE を指定していることがあります。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: INFILE が ISAM である場合、HINDEXDEVICE と JCL を、正しい装置タイプを表すよう変更してください。INFILE が SAM である場合、PRIMEDATADEVICE を指定してください。INFILE が VSAM である場合、ENVIRONMENT およびそのサブパラメーターを省いてください。コマンド、および対応する INFILE dname JCL を訂正して、コマンドを実行し直してください。

**IDC3329I ** DATA SET ORGANISATION VSAM
NOT ALLOWED**

説明: EXPORT コマンドで、VSAM ファイルである
OUTFILE が参照されました。VSAM ファイルは、携帯用フ
ァイルとして有効なデータ・セット編成ではありません。
システムの処置: EXPORT を実行しません。
プログラマーの応答: OUTFILE 指定を訂正してください。

**IDC3351I ** VSAM {OPEN|CLOSE|I/O} RETURN
CODE IS *nnn***

説明: VSAM のオープン、クローズ、または処置要求実行
(メッセージ・テキスト中に、そのいずれかが示されています)
中に、エラーが起きました。メッセージ中の *nnn* は、VSAM
が戻したエラー・コード (10 進数) です。非ゼロのレジスター
15 値に関連するエラー・コードだけがエラーと見なされます。
エラー・コードの完全なリストおよび各コードの説明は、
1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラ
ー・コード』にあります。
システムの処置: 実行中の機能により、処置は異なります。
リスト上の先行および (または) 後続メッセージを参照して
ください。
プログラマーの応答: エラー・コード記述にしたがってエラー
を訂正してください。

**IDC3500I A VALID VSAM DEFINE STRUCTURE
WAS NOT PROVIDED**

説明: 対象パラメーター・リスト (FDT) に、AIX®、
CLUSTER、MCAT、UCAT、NONVSAM、PATH、または
SPACE が指定されていません。アクセス方式サービスの読
取/解釈プログラムが、このエラーを検出しています。これは
システム・エラーです。
システムの処置: コマンドの処理を終了します。
プログラマーの応答: コマンドを調べて、対象のタイプが指定
されているかを確認してください。指定されていない場合は、
訂正して、コマンドを実行し直してください。さもなければ、
問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよ
びシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をと
ってください。

**IDC3501I MODEL ENTYPE IS NOT CONSISTENT
WITH THE OBJECT BEING DEFINED**

説明: VSAM ファイル、代替索引、またはユーザー・カタロ
グをモデル化するために使用されている対象が、定義されて
いるものと異なっています。すなわち、モデルの項目タイプが、
定義中の対象の項目タイプと一致していません。
システムの処置: コマンドの処理を終了します。
プログラマーの応答: モデルの対象のタイプが、定義中のもの
と等しいことを確かめて、コマンドを実行し直してください。

**IDC3503I FILE SEQUENCE LIST IS INCONSISTENT
WITH VOLUME LIST**

説明: FILESEQUENCENUMBERS パラメーター・リスト内の
エレメント数が、VOLUMES パラメーター・リストのボリューム
数と等しくありません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。
プログラマーの応答: 両リスト内のエレメントを調べ、必要な
箇所を訂正してください。次に、コマンドを実行し直してくだ
さい。

**IDC3504I THE RANGE LIST CANNOT BE
CONSTRUCTED**

説明: アクセス方式サービス・プログラムに割り当てられた区
域が不十分であるため、必要なキー範囲のリストを作成できま
せん。おそらくシステム・エラーと思われます。
システムの処置: コマンドの処理を終了します。
プログラマーの応答: この問題は、KEYRANGES をモデル化
しないことにより、防ぐことができます。PARM
TEST(FULL((DE33,1,1))) を指定して、ジョブを実行し直して
ください。問題判別のために、ジョブに関するダンプ、ジョブ・
ストリームおよびシステムの出力 (SYSLST) を保管し、IBM
担当員に連絡をとってください。

**IDC3505I INCORRECT SPECIFICATION OF SPACE
ALLOCATION**

説明: スペース・パラメーター BLOCKS、TRACKS、
CYLINDERS、DEDICATE、または RECORDS が、DEFINE
コマンドで正しく指定されていません。

- DEFINE CLUSTER|ALTERNATEINDEX の場合、スパー
ス・パラメーターは、次のいずれかの組み合わせで指定され
ていなければなりません。すなわち、クラスター|代替索引
レベルのみ、データ・レベルのみ、データ・レベルおよび索
引レベル (クラスター|代替索引レベルは省かなければなり
ません)。
- DEFINE SPACE の場合、スペース・パラメーターの 1 つ
(または CANDIDATE) は、SPACE のサブパラメーターで
なければなりません。
- DEFINE カタログの場合、スペース・パラメーターは、次
のいずれかの組み合わせで指定されていなければなりません。
すなわち、カタログ・レベル、データ・レベル、および
索引レベル。カタログ・レベルとデータ・レベル。カタロ
グ・レベルのみ。

スペース・パラメーター BLOCKS、TRACKS、
CYLINDERS、DEDICATE、または RECORDS は、対応する
対象パラメーター・リストには現れません。
システムの処置: コマンドの処理を終了します。
プログラマーの応答: 「IBM z/VSE VSE 中央機能
VSE/VSAM コマンド」に記述されている DEFINE コマンドお
よびスペース仕様を参照してください。エラーのある
DEFINE コマンドを訂正して、コマンドを実行し直してくだ
さい。

**IDC3507I THE RECORDSIZE PARAMETER IS
REQUIRED BUT NOT SPECIFIED**

説明: RECORDSIZE パラメーターが、コマンドから省略され
ていました。このメッセージは、RECORDS パラメーターが
指定されているときの DEFINE SPACE についてのみ示されま
す。
システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: RECORDSIZE を指定してください。または RECORDS から TRACKS、CYLINDERS、DEDICATE、または BLOCKS へ、割り振りを変更して、コマンドを実行し直してください。

IDC3513I DNAME NOT SPECIFIED WITH UNIQUE ATTRIBUTE

説明: UNIQUE 属性を持つ対象に対し、FILE パラメーターが指定されていません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: FILE パラメーターを指定し、対応する DLBL および EXTENT ステートメントを与えて、コマンドを実行し直してください。対応する EXTENT ステートメントに、CKD 装置の場合は、相対トラックおよびトラック数 (FBA 装置の場合は、開始ブロックおよびブロック数パラメーター) が含まれていなければならないことに注意してください。

IDC3514I KEYRANGES ARE INVALID

説明: KEYRANGES パラメーター (DEFINE または IMPORT コマンド) の低または高キー値に、以下のような無効なキー値が指定されていました。

- 低キーと高キーの組で、高キー値が低キー値よりも低い値です。または、
- 低キーと高キーの複数の組が重複しています。または等しくなっています。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: KEYRANGES パラメーターを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3515I AVERAGE RECORD SIZE EXCEEDS MAXIMUM RECORD SIZE

説明: RECORDSIZE パラメーターの最初のサイズ値が、2 番目のものを超えています。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: RECORDSIZE の平均値、またはサイズの最大値を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3516I KEYS PARAMETER REQUIRED FOR KEY SEQUENCED DATA SET

説明: キー順ファイルの定義には、DEFINE コマンドの KEYS パラメーターに、キーの位置と長さを指定する必要があります。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: KEYS パラメーターを指定 (または訂正) してコマンドを再実行するか、正しいモデル・クラスターを使用してください。問題が再発する場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC3517I AVG AND MAX RECORDSIZE NOT EQUAL FOR RELATIVE RECORD DATA SET

説明: 相対レコード・ファイル (NUMBERED パラメーターを指定) の平均値および最大レコード・サイズとは異なる値が、

RECORDSIZE パラメーターに指定されていました。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: DEFINE コマンドの平均値または最大 RECORDSIZE 値のいずれかを訂正してください。入力シーケンス・ファイルが必要な場合は、NUMBERED を NONINDEXED に変更してください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3518I REUSE PARAMETER INVALID WITH UNIQUE OR KEYRANGES

説明: クラスターまたは代替索引に対し、UNIQUE または KEYRANGES パラメーターと一緒に、REUSE 属性を明示的、またはモデル化を通じて指定することはできません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: REUSE パラメーターまたは UNIQUE および (または) KEYRANGES パラメーターのいずれかを訂正し、コマンドを実行し直してください。

IDC3519I REUSE ATTRIBUTE CONFLICT BETWEEN DATA AND INDEX

説明: REUSE 属性が、DATA および INDEX 対象の間で同じではありません。例えば、NOREUSE が CLUSTER レベルで指定されているのに、REUSE が DATA レベルで指定されています。INDEX レベルに何も指定されていなければ、NOREUSE がデフォルトとしてとられます。別の例としては、CLUSTER レベルでのモデル化が指定されていますが、属性が DATA レベルまたは INDEX レベルの (両方ではなく) 一方でしか明示的に指定変更されていません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: DATA および INDEX に対し指定されている REUSE 属性が確実に同じであるようにして対象を定義し直してください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3521I SPANNED ATTRIBUTE INVALID FOR A RELATIVE RECORD DATA SET

説明: SPANNED および NUMBERED が、明示的またはモデル化を通して、一緒に指定されていました。相対レコード・ファイルのレコードは、制御インターバルをスパンすることはできません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: SPANNED パラメーターまたはファイル・タイプの指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3522I SPANNED ATTRIBUTE REQUIRED IF RECORDSIZE GREATER THAN 32,761

説明: RECORDSIZE パラメーターに、32,761 よりも大きな値の最大サイズが指定されていますが、SPANNED が指定されていません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: RECORDSIZE パラメーターを訂正するか、または SPANNED パラメーターを指定してください。次に、コマンドを実行し直してください。

**IDC3524I KEYRANGE VALUES EXCEED
KEYLENGTH OR ARE NOT IN
ASCENDING ORDER**

説明: KEYRANGE パラメーターのキーの値が、正しく指定されていません。キー範囲のキー値が、ユーザー指定/デフォルト・キー長よりも長いか、あるいはキー範囲の組が、昇順になっていません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: DEFINE コマンドのキー範囲の値を調べてください。そのデータ・セットのキーの長さはどれ位かを判別し、KEYRANGE パラメーターに指定されているキー値すべてが、この長さよりもかならず短くなるようにしてください。また、キー範囲の組が、昇順に並べられているのかも確かめてください。次に、コマンドを出し直してください。

**IDC3525I INSUFFICIENT PASSWORD
AUTHORIZATION TO ALTER KEYS**

説明: 与えられたパスワードが、ALTER の実行を認められるレベルのものではありません。KEYS の値を変更するためには、クラスター、代替索引、または経路のマスター・パスワードが必要とされるか、または、その代わりにカタログ・マスター・パスワードを与えることができます。一方のコンポーネントがパスワード保護されており、もう一方で保護されていない場合は、データと索引コンポーネントの両方が変更されるのであっても、保護されているコンポーネントのマスター・パスワードで十分です。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: パスワードを与えて、コマンドを実行し直してください。

**IDC3527I ALTER WAS UNABLE TO LOCATE
ATTRIBUTES OF OBJECT TO BE
MODIFIED**

説明: 変更できない属性を変更しようとしたか、または変更したい項目を、カタログ内で見つけましたが、必要なフィールドを突き止められませんでした。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: 変更しようとしているパラメーターが、項目名の対象タイプにとって有効なものであるかを調べてください。カタログ項目内のデータ、および使用中のカタログが間違いないかを調べてください。必要であれば、問題判別のために、このジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

**IDC3528I THE OBJECT TO BE MODIFIED IS
PASSWORD SUPPRESSED**

説明: 項目の中の保護フィールド (パスワード、コード、試行回数など) の変更が、処理中の ALTER コマンドに指定されていましたが、項目のマスター・パスワード、または更新あるいは高レベル・カタログ・パスワードが含まれていませんでした。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: 変更する項目のマスター・パスワードま

たは更新/高レベル・カタログ・パスワードを、その項目に認められている要求変更のために与えてください。パスワードを与えて、コマンドを実行し直してください。

**IDC3537I INVALID ALTERNATE INDEX
PARAMETERS SPECIFIED**

説明: UPGRADE が指定されていましたが、変更中の対象が代替索引ではないか、または UNIQUEKEY が指定されていましたが、変更中の DATA 対象が代替索引の DATA 対象ではありません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: 代替索引の名前、または代替索引の DATA 対象の名前を正しく指定して、コマンドを実行し直してください。

**IDC3538I UNIQUEKEY/UPGRADE INVALID FOR
NON-EMPTY ALTERNATE INDEX**

説明: UNIQUEKEY または UPGRADE パラメーターが指定されていますが、代替索引が空ではありません。代替索引にレコードが全くない場合にのみ、これらのパラメーターを指定することができます。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: UNIQUEKEY および (または)

UPGRADE 属性がある代替索引が真に必要であれば、その代替索引を削除し、これらの属性がある代替索引を定義し直してから、BLDINDEX で作り直してください。

**IDC3539I KEYS AND/OR RECORDSIZE
PARAMETER SPECIFIED FOR
NON-EMPTY OBJECT**

説明: ALTER コマンドに KEYS または RECORDSIZE パラメーターが指定されていましたが、クラスターまたは代替索引にデータ・レコードが含まれています。

システムの処置: コマンドの処理を終了して、対象のカタログ項目を、変更しないでおきます。

プログラマーの応答: キー位置および (または) レコード・サイズを変更したい場合は、ファイルを削除し、次にそれを定義し直して、再ロードしてください。定義済みの空のファイルに対し、REPRO または EXPORT/IMPORT を使用して、ファイルを再生成することができます。

**IDC3540I KEYS/RECORDSIZE VALUES CONFLICT
WITH CONTROL INTERVAL SIZE**

説明: 新しいキーの長さ、キー位置、または最大レコード・サイズには、もっと大きな制御インターバルが必要です。

システムの処置: コマンドの処理を終了して、対象のカタログ項目を、変更しないでおきます。

プログラマーの応答: 指定した KEYS または

RECORDLENGTH の値が正しいか調べてください。対象を削除し、所要の KEYS または RECORDSIZE パラメーター値を指定して、対象を定義し直してください。

**IDC3541I NEW ALTERNATE INDEX KEY VALUES
CONFLICT WITH BASE CLUSTER
RECORDSIZE**

説明: ALTER コマンドが代替索引に対し、あるキーに対する KEYS パラメーターを指定していますが、そのキーの終了位置が、基本クラスターの平均レコード・サイズの外にあるか、基本クラスターがスパンされている場合には終わりのキー位置がその基本クラスターの第 1 制御インターバル・セグメントの中ではありません。

システムの処置: コマンドの処理を終了して、対象のカタログ項目を、変更しないでおきます。

プログラマーの応答: LISTCAT コマンドを実行して、適用される対象および関連対象のカタログ項目のリストをとってください。ALTER コマンドを訂正するか、または基本クラスターの最大レコード・サイズまたは制御インターバル・サイズを訂正してください。次に、コマンドを実行し直してください。

**IDC3542I AVG AND MAX RECORDSIZE NOT
EQUAL FOR RELATIVE RECORD DATA
SET**

説明: 相対レコード・ファイル (ファイル・タイプ NUMBERED) の平均値および最大レコード・サイズと異なる値が、RECORDSIZE パラメーターに指定されていました。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: ALTER コマンドの、平均値または最大サイズ値を訂正して、次に、コマンドを実行し直してください。

**IDC3545I KEYS AND/OR RECORDSIZE VALUES
CANNOT BE ALTERED**

説明: ALTER コマンドは、対象に対し新しい KEYS または RECORDSIZE 値を指定しましたが、その対象の対応する値が、対象が定義された時のデフォルトになっていません。あるいは非デフォルト値に変更されていません。KEYS および RECORDSIZE に関する ALTER 制約については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。

システムの処置: コマンドの処理を終了して、対象のカタログ項目を、変更しないでおきます。

プログラマーの応答: 対象を削除し、正しく定義し直して、コマンドを実行し直してください。

**IDC3546I NEW KEY VALUES CONFLICT WITH
RECORDSIZE**

説明: 終了位置が平均レコード・サイズの外にあるキー、あるいはレコードがスパンしている場合、終了キー位置が、レコードの最初の制御インターバル・セグメントの中になようなキーを定義した KEYS パラメーターが、ALTER コマンドに指定されています。

システムの処置: コマンドの処理を終了して、対象のカタログ項目を、変更しないでおきます。

プログラマーの応答: LISTCAT コマンドを実行して、適用される対象および関連対象のカタログ項目のリストをとってください。ALTER コマンドを訂正するか、または基本クラスター

の平均レコード・サイズまたは制御インターバル・サイズを訂正してください。次に、コマンドを実行し直してください。

**IDC3547I ENTRY TYPE INVALID WITH
KEYS/RECORDSIZE PARAMETER**

説明: 指定された項目名が、クラスターまたは代替索引のデータ・コンポーネントではありません。クラスターまたは代替索引ではありません。あるいはクラスターまたは代替索引への経路ではありません。

システムの処置: コマンドの処理を終了して、項目のカタログ・データを、変更しないでおきます。

プログラマーの応答: 正しいカタログをアクセスしているか確かめてください。LISTCAT コマンドを実行して、適用される対象および関連対象のカタログ項目のリストをとってください。項目名を訂正して、コマンドを実行し直してください。

**IDC3570I DELIMITERS MUST NOT BE SPECIFIED
WHEN RELOADING A CATALOG**

説明: カタログを再ロードする場合、REPRO コマンドの限界指定 (FROMKEY、TOKEY など) は指定できません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。目的のカタログを変更しません。

プログラマーの応答: REPRO コマンドから限界指定を除いて、コマンドを実行し直してください。

**IDC3572I TARGET CATALOG IS TOO SMALL TO
CONTAIN THE BACKUP CATALOG**

説明: 目的のカタログのサイズが不適当です。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。目的のカタログを変更しません。

プログラマーの応答: アンロード時に得た LISTCAT 出力から、バックアップ・カタログのサイズを判別してください。目的のカタログを削除し、バックアップ・カタログの項目が十分に入るスペースを指定して、目的のカタログを定義し直し、コマンドを実行し直してください。

**IDC3573I {NAME|VOLSER|DEVTYPE} OF BACKUP
AND TARGET CATALOG DO NOT
AGREE**

説明: 目的のカタログ名 (NAME)、そのボリューム通し番号 (VOLSER)、またはその装置タイプ (DEVTYPE) がバックアップ・カタログと一致していません。これらの値は、バックアップ・カタログの値とすべて一致していなければなりません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。目的のカタログを変更しません。

プログラマーの応答: 適切なバックアップから所要のカタログへ再ロードしているのかどうかを判別し、必要に応じて訂正を行い、コマンドを実行し直してください。

**IDC3582I INPUT DATA SET ORGANIZATION
INCOMPATIBLE WITH OUTPUT DATA
SET**

説明: 非相対レコード・ファイルから空でない相対レコード出力ファイルにコピーしようとしたときに、このエラー状態が起

きます。ファイルに REUSE 属性がないのか、または ALTER REUSE オプションが指定されていません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。データはコピーしません。

プログラマーの応答: 入力ファイルと出力ファイルのファイル・タイプ、空/空ではないという状況、および出力ファイルの REUSE 属性を調べてください。示されている状態の場合、出力ファイルと REPRO コマンドの両方が、コピーを続けるために REUSE を指定しなければならないことに注意してください。ファイルおよび REPRO パラメーターを正しく整えて、コマンドを実行し直してください。

IDC3583I *parameter* INCOMPATIBLE WITH INFIL DATA SET TYPE

説明: メッセージに示されているパラメーターは、このファイル・タイプにとって正しい用法ではありません。限界指定とファイル・タイプの間に矛盾があります。例えば、相対レコード・ファイルに対する TOKEY の指定。REPRO コマンド記述でのこのパラメーターの使用制約については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。データはコピーしません。

プログラマーの応答: 指定したパラメーターまたはファイルを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3592I THE ENTRY NAME IS NOT CLUSTER OR ALTERNATE INDEX

説明: コマンド内の、項目パラメーターにより識別されている対象が、クラスターまたは代替索引ではありません。クラスターまたは代替索引を識別するために、経路名を使用することはできません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。可搬ファイルは、オープンしません。

プログラマーの応答: 項目名が、実際に、クラスターまたは代替索引オブジェクト名であるか調べてください。指定を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC3593I A REQUIRED CATALOG FIELD WAS NOT LOCATED

説明: 次に必須のカタログ・フィールドの中の 1 つを、カタログ管理が突き止めることができませんでした。すなわち、ENTYPE、ENTNAME、または NAMEDS。または EXPORTRA の場合、データ・コンポーネントを突き止めることができませんでした。EXPORTRA の場合、2 次メッセージ IDC0674I に、影響を受けるファイルが示されています。

おそらくシステム・エラーと思われる。

システムの処置: EXPORT の場合は、コマンド処理は終了します。エクスポート処理は行いません。EXPORTRA の場合は、エクスポートのために対象をバイパスして、処理を続けます。

プログラマーの応答: 問題判別のために、このジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管してください。IBM サポートに連絡してください。

IDC3596I THE DATA SET SPECIFIED IN THE EXPORT PARAMETER IS NOT USABLE

説明: EXPORT コマンドに指定されているファイルは使用できないというマークが、DELETE FORCE 操作 (スペース占有の矛盾のため)、または RESETCAT (ファイルをリセットできなかったため) により付けられました。(RESETCAT の IGNORE オプションおよび DELETE の FORCE オプションについては、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。)

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: ファイルに使用不可というフラグが付けられているため、このファイルをエクスポートできません。データをリカバリーしたい場合は、REPRO または EXPORTRA コマンドを使用するか、または先にエクスポートされたコピーへ戻してください。LISTCAT を使用すれば、どのカタログ項目に、NOTUSABLE 属性のフラグが付けられているのかを判別できます。

IDC3598I RECORDMODE REQUIRED FOR CLUSTER WITH COMPRESSED ATTRIBUTE

説明: 圧縮したクラスターの EXPORT または EXPORTRA を実行しましたが、EXPORT(RA) コマンドが RECORDMODE を指定していません。圧縮したクラスターの場合は、RECORDMODE が必要です。

システムの処置: EXPORT の場合は、コマンド処理は終了します。エクスポート処理は行いません。EXPORTRA の場合は、エクスポートのために対象をバイパスして、処理を続けます。

プログラマーの応答: EXPORT コマンドで RECORDMODE を指定してください。

IDC3602I IMPORT OF DATA SET FAILED AFTER DEFINE - DELETE ATTEMPTED

説明: エクスポート中のクラスターまたは代替索引が首尾よく定義されましたが、新しく定義されたクラスターまたは代替索引のすべてのデータをコピーする前に、エラーが起きました。プログラム・リストの先行メッセージに、インポートが失敗した理由 (例えば、無効な DLBL ステートメント、可搬ファイルが入っているボリュームにおける入出力エラー) が説明されています。

システムの処置: 定義されたデータ・セットを削除します。メッセージ IDC0550I が後から出されて、削除が首尾よく行われたことが示されます。次に、IMPORT コマンドを終了します。可搬のファイル上の他の対象については、IMPORTRA コマンドはインポートを続けます。

プログラマーの応答: プログラム・リストの先行メッセージを参照してください。

IDC3606I PORTABLE DATA SET IN ERROR

説明: 可搬ファイル上のデータが、所要のものではありませんでした。次のいずれかの状態が起きました。

- タイム・スタンプ・レコードが、有効ではありません。

- クラスタまたは代替索引のデータ・レコードの前にある特殊なレコードが、有効ではありません。
- ユーザー・カタログ、非 VSAM データ・セット、OS/VS 別名、または OS/VS 世代別データ・グループの制御レコードが、有効ではありません。
- テープが BACKUP により作成されました。

IMPORT の場合、最初の 2 つの状態だけが起こる可能性があります。

メッセージ IDC0604I が出されていない場合は、これは、おそらく、オペレーターまたはユーザー・エラーです (INFILE により識別されるファイルが、有効な可搬ファイルではありません)。それ以外の場合は、これは、おそらく、システム・エラーです。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。メッセージ IDC0604I が出されている場合は、何らかのインポートがなされていることがあります。また、カタログ項目が削除されることもあります。SYSLST メッセージに、その削除が示されません。

プログラマーの応答: IMPORT により処理される可搬ファイルが EXPORT により作成されたこと、あるいは IMPORTRA により処理される可搬ファイルが EXPORTRA により作成されたことを確かめてください。テープが BACKUP により作成されていた場合は、それを RESTORE で処理してください。

問題が再発する場合は、問題判別のために、このジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管してください。LISTCAT コマンドを実行して、該当するボリュームの VTOC のリストを取り、IBM 担当員に連絡してください。

IDC3607I DELETE UNSUCCESSFUL - NOT A TEMPORARY DATA SET

説明: IMPORT コマンドの処理中に、アクセス方式サービス・プログラムは、カタログ内に重複したファイル識別名を見つけました。重複したファイルは、空ではなく、一時フラグはオンになっていませんでした。そのファイルに対し NEWNAME が指定されていた場合、それは、カタログ内に重複した項目を持つ新しい名前です。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: インポート中のファイル ID を調べ、正しいカタログにインポートを行っているか確かめてから、次のいずれかを行ってください。

- カatalog名を訂正して、コマンドを実行し直してください。
- インポートしたい対象の名前を訂正して、コマンドを実行し直してください。
- 重複したカタログ対象に対し、ALTER NEWNAME コマンドまたは DELETE コマンドを実行し、次に IMPORT コマンドを実行し直してください。

IDC3608I CONNECT FOR *catname* FAILED

説明: メッセージに示されているユーザー・カタログへの結合が、失敗しました。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: プログラム・リストの前のメッセージに、失敗の説明および実行すべき処置が示されています。

IDC3609I VOLUME SPECIFICATION NEEDED FOR *file-id*

説明: 可搬ファイル上または IMPORT コマンド内に、ボリューム情報が見つかりませんでした。DOS/VS リリース 30 以前のもの、OS/VS1 リリース 3.1 以前のもの、あるいは OS/VS2 リリース 3 以前のものの制御下で、PERMANENT オプションを指定してエクスポートされたクラスタをインポートしている場合にも、この状態が起きます。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。何もインポートしません。

プログラマーの応答: クラスタ名、またはクラスタを含むデータおよび索引名に対し、VOLUMES パラメーターを指定してください。コマンドを実行し直してください。

IDC3610I SPECIFICATION OF DEVICE TYPES, VOLUMES REQUIRED FOR CONNECT

説明: ユーザー・カタログを連結する場合には、カタログ名の他に、DEVICETYPES および VOLUMES パラメーターが必要です。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。何もインポートしません。

プログラマーの応答: IMPORT コマンドの OBJECTS サブパラメーターとして装置タイプ、ボリュームおよびカタログ名を指定して、コマンドを実行し直してください。

IDC3612I DELETE UNSUCCESSFUL - NOT A CLUSTER OR AIX

説明: カatalog内の重複項目を削除しようとしたが、その項目がクラスタまたは代替索引ではなかったため、不首尾に終わりました。この重複項目により、クラスタまたは代替索引をインポートするためのカタログ定義が失敗しました。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。何もインポートしません。または削除しません。

プログラマーの応答: 正しいカタログにインポートを行っていることを確かめてください。LISTCAT を実行して、実際にどのような項目があるのか調べてください。インポートしようとしているものが、カタログ内の矛盾した名前であるか調べてください。カタログ内の矛盾した対象を削除するか、または改名するか、あるいは別の目的のカタログ (必要ならば、VOLUMES) を指定してください。あるいは NEWNAME パラメーターを使用して、インポートしようとしているクラスタまたは代替索引の名前を変更してください。次に、コマンドを実行し直してください。

IDC3613I ERROR ENCOUNTERED OPENING PORTABLE DATA SET

説明: 可搬ファイルをオープンすることができませんでした。システムの処置: コマンドの処理を終了します。何もインポートしません。

プログラマーの応答: リストの先行メッセージを参照してください。そのメッセージには、インポートしようとしたファイルがオープンできなかった理由が説明されています。できれば、OPEN が出したメッセージのために、ジョブの SYSLOG 出力をとっておいてください。

**IDC3617I ATTRIBUTES OF PREDEFINED ENTRY
INCOMPATIBLE WITH THOSE
EXPORTED**

説明: システムのインポート中の定義済みファイルが、元、エクスポートされたものと一致していません。 以下のような間違いがあります。

- ファイルのタイプが同一ではありません (キー順、VSAM 入力順、SAM 入力順、または相対レコード)。
- キーの長さが同じではありません (KEYS パラメーター)。
- 相対キー位置 (オフセット) が同じではありません (KEYS パラメーター)。
- 定義済みのファイルの最大レコード・サイズが、最初にエクスポートされたファイルのものよりも不足しています (RECORDSIZE パラメーター)。
- 両方のファイルが SAM ESDS ですが、それらの RECORDFORMAT パラメーターが一致していません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。 何もインポートしません。

プログラマーの応答: 定義済みのファイルを削除し、正しい属性で定義し直してください。 次に、コマンドを実行し直してください。

**IDC3619I ALTER NEWNAME FOR IMPORTRA
FAILED**

説明: インポート中の対象の名前を変更するために実行した ALTER が、失敗しました。 先行メッセージに、誤りの原因が示されています。 IMPORTRA コマンドは、定義した VSAM 対象を、ロードのためにオープンできるよう、変更します。 その名前は、ジョブ制御ステートメントに指定されている名前に変更され、次に、ロード後に、元の名前に変更されます。 影響を受けるクラスターまたは代替索引は、後続メッセージ IDC2621I に示されます。

システムの処置: IMPORTRA は、対象を削除しようとしたが、その対象に対する ALTER NEWNAME が不首尾に終わりました (後続メッセージを参照してください)。 影響を受ける対象をバイパスして、可搬ファイル上の次の対象から処理を続行します。

プログラマーの応答: 先行メッセージと後続メッセージに示されている訂正処置を行って、コマンドを実行し直してください。

**IDC3624I UNABLE TO OBTAIN OUTPUT DATA
SET NAME**

説明: IMPORTRA は、OUTFILE パラメーターに示されているファイル名により識別される DLBL ステートメントから、ファイル ID を得ることができませんでした。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。 何もインポートしません。

プログラマーの応答: 不要になったので、OUTFILE パラメーターは取り除き、次にコマンドを実行し直してください。

IDC3641I *file-id* NOT A BASE CLUSTER

説明: *file-id* により識別されるファイルが、基本クラスター、または基本クラスターへの経路ではありません。 ファイル ID は、INDATASET パラメーター、または INFILE dname サブパラメーターを介して識別される DLBL ステートメントに指定されています。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。 代替索引は空のままにしておきます。

プログラマーの応答: ファイル ID は、定義されている空ではない基本クラスター、または基本クラスターへの経路でなければなりません。 INDATASET パラメーター、または INFILE サブパラメーターを介して識別される DLBL ステートメントにあるファイル ID を訂正し、コマンドを実行し直してください。 LISTCAT コマンドを実行して、適用されるカタログの内容のリスト、および適用される対象と関連対象のカタログ項目のリストをとらなければならないこともあります。

IDC3643I *file-id* IS EMPTY

説明: *file-id* により識別される基本クラスターに、レコードが何もありません。 代替索引を作成するためには、基本クラスターに、少なくとも 1 つのレコードが入っていなければなりません。

システムの処置: コマンドの処理を終了します。 代替索引は空のままにしておきます。

プログラマーの応答: ユーザー・プログラム (または REPRO コマンド) を使って、基本クラスターに少なくとも 1 レコードをロードしてください。 次に BLDINDEX コマンドを実行し直してください。

**IDC3883I ERROR COUNT EXCEEDED UPPER
LIMIT, FUNCTION TERMINATED**

説明: LISTCRA コマンドで、入出力エラーが 51 個以上ありました。

システムの処置: LISTCRA コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: 入出力エラーの原因を判別し、問題を訂正して、コマンドを実行し直してください。 カタログまたはボリュームのリカバリーが必要になることがあります。

**IDC4227I AN 'ELSE' COMMAND APPEARS
IMPROPERLY**

説明: 対応する IF-THEN 形式指定コマンドがないのに、ELSE 形式指定コマンドがあります。 おそらく、形式指定コマンドの継続方法が間違っています。

システムの処置: ジョブ・ステップ内のコマンド入力ストリームの残りの部分を見捨て、条件コード (MAXCC) を 16 にセットします。

プログラマーの応答: その使用を訂正してください。 まだ実行が必要なコマンドを実行し直してください。

IDC4228I AN 'END' COMMAND IS INVALID

説明: END 形式指定コマンドに、それに対応する DO 形式指定コマンドがありません。

システムの処置: ジョブ・ステップ内のコマンド入力ストリー

ムの残りの部分を見捨て、条件コード (MAXCC) を 16 にセットします。

プログラマーの応答: DO-END の用法を訂正してください。まだ実行が必要なコマンドを実行し直してください。

IDC4229I 'IF' COMMAND HAS INVALID RELATIONAL EXPRESSION

説明: IF 形式指定コマンドに、無効な関係表示があります。システムの処置: ジョブ・ステップ内のコマンド入力ストリームの残りの部分を見捨て、条件コード (MAXCC) を 16 にセットします。

プログラマーの応答: IF コマンドの構文要件を調べ、その用法を訂正してください。まだ実行が必要なコマンドを実行し直してください。

IDC4230I 'SET' COMMAND HAS INVALID ASSIGNMENT EXPRESSION

説明: SET 形式指定コマンドに、無効な割り当て表示があります。

システムの処置: ジョブ・ステップ内のコマンド入力ストリームの残りの部分を見捨て、条件コード (MAXCC) を 16 にセットします。

プログラマーの応答: SET コマンドの構文の制約を調べ、その用法を訂正してください。まだ実行が必要なコマンドを実行し直してください。

IDC4232I IMPROPER OR MISSING 'THEN' KEYWORD

説明: IF 形式指定コマンドの THEN の部分が、欠落しています。またはつづりに誤りがあります。おそらく、形式指定コマンドの継続方法が間違っています。

システムの処置: ジョブ・ステップ内のコマンド入力ストリームの残りの部分を見捨て、条件コード (MAXCC) を 16 にセットします。

プログラマーの応答: その用法を訂正し、まだ実行が必要なコマンドを実行し直してください。

IDC4236I INPUT STREAM END-OF-FILE FOUND BEFORE END-OF-COMMAND

説明: コマンドをスキャンしているときに、コマンド入力ストリームにファイルの終わりがありました。入力レコードが欠落しているか、または最後のコマンド行に誤って継続文字を付けていることがあります。

システムの処置: 現在のコマンドを処理しません。

プログラマーの応答: 欠落しているデータを追加するか、または間違っている継続文字を取り除いて、コマンドを実行し直してください。

IDC4237I TOO MANY LEVELS OF 'IF' COMMAND NESTING

説明: IF 形式指定コマンドが、取り扱うことのできないレベルにまでネストされています。

システムの処置: ジョブ・ステップ内のコマンド入力ストリー

ムの残りの部分を見捨て、条件コード (MAXCC) を 16 にセットします。

プログラマーの応答: 形式指定コマンドを構成し直して、ネストを 10 レベルの限界に収まるようにしてください。まだ実行が必要なコマンドを実行し直してください。

IDC4999I UABORT CODE *nn*

説明: 処理終了エラーにより、IDCAMS 処理プログラムを打ち切られました。コード番号 (*nn* エラーの性質を示します) が、問題判別を容易にするために提供されています。コード *nn* には、以下の値が示されます。

24 = テキスト・プロセッサの印刷制御テーブル・アドレスが GDT (グローバル・データ・テーブル) の中にセットされていません。

28 = 以下のものについて、仮想記憶が使用できません。

- テキスト・プロセッサの変換テーブル
- I/O アダプターの初期設定
- モジュールの自動 (動的) ストレージ
- テキスト・プロセッサ動的ストレージ
- バックアップ/リストア・ブロック (BACKUP または RESTORE コマンドの実行中に)

仮想記憶内トレース・テーブルを参照して、どれが正しい状態であるのか判別してください。

32 = オープンしていないファイルをアクセスする要求がありました。

36 = プロセッサが、SYSLST (またはプロセッサの標準リスト出力ファイルを示す名前) をオープンすることができませんでした。

40 = 無効な U マクロ引数リストがありました。

52 = フェーズをロードしようとしたが、フェーズがライブラリーの中ではありませんでした。

64 = 次の理由で CDLOAD が不首尾に終わりました。

- フェーズ・テーブルが入っている IDCSA04 をロードしているときに、エラーが起きました。
- 区画 GETVIS のスペースがゼロ K です。
- 負の値のフェーズ・サイズを要求しました。
- 実 GETVIS 域でストレージの障害がありました。

68 = 区画に十分な GETVIS 域がなかったため、作業用ストレージを得るために IDCAMS を出した初期 GETVIS が満たされません。この誤りの最も一般的な原因は、EXEC ステートメントから SIZE パラメータを省いていることです。

72 = 内部 RESETCAT エラーが起きました。

76 = CANCEL コマンドが実行されました。

80 = バックアップ/リストア・ブロック・フェーズが、システム・ライブラリーにありませんでした。

(BACKUP または RESTORE コマンドの実行中に)

28 および 68 を除きすべてのコードは、おそらくシステム・エラーです。

システムの処置: 処理を終了し、28、68、および 76 以外のすべてのコードについては、SYSDUMP 上にダンプを出します。

プログラマーの応答: コード 28 および 68 の場合、EXEC ステートメントに SIZE=AUTO パラメータが含まれているか確かめてください。SIZE=AUTO が指定されている場合、よ

り大きな区画でコマンドを実行し直してください。

コード 76 は、ユーザーが起こさせたものですから、プログラマーの応答は、CANCEL コマンドが実行された理由により異なります。

28 および 76 以外のすべてのコードについては、VSAM は、SYSDUMP 用の出力を備えた IDUMP を出します。問題判別のために使用できるジョブに関連する SYSDUMP 出力を作成してください。SYSDUMP については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」を参照してください。

**IDC01002I RESETCAT CATALOG *catname* VOL *volser*
 LEVEL *time stamp***

説明: これは、通知メッセージであり、リセットするカタログ、そのボリューム通し番号、および生成タイム・スタンプが示されています。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC01011I CRA CHOSEN FOR RESET - VOL *volser*
 LEVEL *time stamp***

説明: これは、通知メッセージであり、カタログをリセットするために使用されているカタログ・リカバリー域 (CRA) およびボリューム上の CRA 生成タイム・スタンプが示されています。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC01037I *catname* HAS BEEN RESET

説明: これは通知メッセージであり、示されているカタログに対する RESETCAT 処理が完了したことが示されています。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC01300I BACKUP FILE CREATED ON *date* AT
 *hh:mm:ss***

説明: BACKUP コマンドにより、バックアップ・ファイルが首尾よく生成され、バックアップ対象相互参照 (BOCR) にリストされている対象がリストアできるようになりました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 0 にセットして、処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC01301I RESTORE'S BACKUP FILE CREATED ON
 date AT *hh:mm:ss***

説明: RESTORE コマンドに指定されている対象のリストアに使用されるバックアップ・ファイルは、メッセージに示されている日付および時刻に生成されました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 0 にセットして、処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC01302I SUCCESSFUL RESTORATION OF *file-id*

説明: メッセージに示されている対象が、首尾よくリストアされました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 0 にセットして、処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC01303I SUCCESSFUL DELETION OF *file-id* -
 ENTRY TYPE=*x***

説明: リストア処理中、示された対象が正常に削除されました。 *file-id* は、VSAM カタログから削除された対象の名前を示します。 *x* は、以下に従った項目のタイプを示します。

A = 非 VSAM
C = クラスタ
D = データ
G = 代替索引
I = 索引
M = マスター・カタログ
R = パス
U = ユーザー・カタログ
V = ボリューム

このメッセージは、リストアの進行状況を示し、対象のリストア中に後でエラーが起きた場合に、容易に取り消せるようにするためのものです。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 0 にセットして、処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC01304I SUCCESSFUL DEFINITION OF *file-id*

説明: リストア処理中に、メッセージに示されている対象が首尾よく定義されました。このメッセージは、リストアの進行状況を示し、対象のリストア中に後でエラーが起きた場合に、容易に取り消せるようにするためのものです。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 0 にセットして、処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC01305I PASSWORDS SUPPRESSED FOR *file-id*

説明: BACKUP コマンドにおいて、対象について指定されているパスワードは、対象またはカタログのマスター・パスワードではありません。

システムの処置: 対象をパスワードなしでバックアップします。条件コード (LASTCC) を 0 にセットして、処理を続行します。

プログラマーの応答: パスワードが必要でない場合は、プログラマーの応答は不要です。パスワードが必要な場合は、対象をもう一度バックアップして、その時に、対象またはカタログのマスター・パスワードを指定してください。

**IDC11003I CONTROL INTERVAL *nnnnnn* BYPASSED
 IN CRA *volser***

説明: IGNORE が指定されており、入出力エラーが起きました。そのレコードを無視します。このメッセージの前に、IDC3351I が出されており、そこにエラーの性質が示されています。 *nnnnnn* は、カタログ・リカバリー域 (CRA) にあるレ

コードの制御インターバル番号 (16 進数) です。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: これにより、指定ボリュームの対象内のエラーが検出されることになるか、またはボリューム上の対象が、通知なしで全体的に失われることがあります。このエラーのためにリセットできないカタログ・ファイルは、使用不可のマークが付けられ、それらのスペースの割り振りが解除されることがあります。LISTCAT を実行して、どの対象がリセット操作後も、まだ存在しているのか、および UNUSEABLE 属性のフラグがファイルに付けられているのかを判別してください。ボリュームをリストアする必要があることもあります。RESETCAT を実行し直してください。

IDC11015I CONTROL INTERVAL *nnnnnn* BYPASSED IN CATALOG

説明: IGNORE が指定されており、入出力エラーが起きました。そのレコードを無視します。メッセージ IDC3351I が、このメッセージの前に出され、そこにエラーの性質が示されています。*nnnnnn* は、カタログ内のレコードの制御インターバル番号 (16 進数) です。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: カatalogに記されているレコードは、アクセスできません。対応するリセット・カタログ・リカバリー域 (CRA) 項目が含まれていれば、それはリカバリーします。非リセット CRA 項目が含まれていれば、その項目は、アクセスできない状態におかれます。LISTCAT により、エラーの重要度が示されます。使用しているボリュームのリストアが必要ながあります。RESETCAT を実行し直してください。

IDC11022I *entryname, type1* CONTAINS A CONNECTOR TO INVALID RECORD *nnnnnn, type2*

説明: タイプ 1 の対象項目名に、レコードへの依存度が含まれていますが、これは無効です。無効な依存レコードは、カタログ制御インターバル番号 (16 進数 *nnnnnn*) およびレコード・タイプ (タイプ 2) によって表されます。

項目のタイプは、以下のとおりです。

A = 非 VSAM
C = クラスタ
D = データ
G = 代替索引
I = 索引
M = マスター・カタログ
R = パス
U = ユーザー・カタログ
V = ボリューム

システムの処置: 無効なレコードへの参照を削除します。メッセージ IDC21024I、IDC21025I、または IDC21026I を、この後に出し、このエラーの結果とられる他の処理を示します。処理を続行します。

プログラマーの応答: SYSLST 上の後続メッセージ (『システムの処置』に記されているメッセージの内の 1 つ) を参照して、実行すべき処置を判別してください。

IDC11023I *entryname, type1* ERROR FOR ASSOCIATION [*nnnnnn*] *type2*

説明: タイプ 1 レコードである *entryname* が、予期したタイプとは異なったタイプのレコードに連鎖されています。あるいは、記されている対象が、不完全なレコード・セットにより構成されています。*nnnnnn* は、カタログ内のレコードの制御インターバル番号 (16 進表示) であり、タイプはレコードの項目タイプです。予期しうる関連の制御インターバル番号が示されていない場合は、その対象の関連が基礎レコードにありません。タイプ 2 の関連性は、示されている *entry name* にとって必要なものです。項目のタイプは、以下のとおりです。

A = 非 VSAM
C = クラスタ
D = データ
G = 代替索引
I = 索引
M = マスター・カタログ
R = パス
U = ユーザー・カタログ
V = ボリューム

システムの処置: メッセージ IDC21026I を次に出し、項目を削除したことを示します。処理を続行します。

プログラマーの応答: メッセージ IDC21026I を参照してください。

IDC11029I SPACE MAP FOR VOLUME *volser* CORRECTED

説明: カatalogに 2 次割り振りされた VSAM データ・スペース・マップは、メッセージに示されているボリュームの状態を反映するように、訂正されました。項目が RESETCAT により削除された場合、または 2 次割り振りと示されているスペースが 2 次割り振りされていない (すなわち、スペース・マップが、RESETCAT を行う項目について正しくない) 場合に、この訂正処理が行われます。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: このメッセージは、あるエラーの状態の訂正を示すものです。エラーは、先行のエラー・メッセージで明確に示されていることもあるし、まったく示されていないこともあります。後者の場合、使用可能な 2 次割り振りスペースからスペースが 2 次割り振りされましたが、このスペースを要求した項目が発見できません。プログラマーによる訂正処置は不要です。

IDC11031I UNIQUE DATA SET *file-id* HAS FEWER EXTENTS THAN THE DATA SPACE

説明: このメッセージは、固有ファイルに割り振られたスペース (エクステント) は、存在していますが、使用されていないことを示すためのものです。ファイルが拡張されるときに、このスペースが使用されます。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

IDC11033I *file-id, volser* NOT DELETED

説明: リセットされていないボリューム上の固有ファイルに、対応する DATA もしくは INDEX あるいはその両方のコンポーネントがありません。カタログでは、リセットされていないボリューム上に固有ファイルが存在することが示されています。リセットされているカタログ・リカバリー域 (CRA) では、この固有ファイルがリセットされるボリューム上にないことを示しています。カタログは CRA 記述でリセットされません。しかし、ファイルは VTOC から除去されません。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: ファイルが無効になっていれば、VTOC からスクラッチしてください。VTOC 項目 (VSAM と非 VSAM の両方) は、VSAM ユーティリティ・プログラム IKQVDU を使用してスクラッチできます。IKQVDU の使用手順は、「VSE/VSAM VSAM Logic」Volume 1 または 2 に記載されています。

IDC11036I *file-id, type* OUT-OF-SYNC ON *volser*

説明:

注: このメッセージは、OS/VS2 のもとで VSAM 使用における互換性という理由のみから示されています。

メッセージに示されているファイルまたはコンポーネントに、無効なスペース情報があります。名前が示されているファイルまたはコンポーネントが占有しているエクステントは、他の VSAM ファイルまたはシステムとは矛盾していません。しかし、自己検査フィールドが、検査に失敗しました。ファイルまたはコンポーネント自体は、多分正常です。

項目のタイプは、以下のとおりです。

C = クラスタ
D = データ
G = 代替索引
I = 索引

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: ファイルのリストをとり (LISTCAT および必要ならば PRINT)、それが正しく、アクセス可能であることを確認してください。

IDC11041I *dataspacename* SPACE CORRECTED

説明: メッセージに示されているデータ・スペースについてのカタログ・ボリューム・レコード内のエクステントが、対応する VTOC 形式 1 ラベルおよび形式 3 ラベル (ある場合) 内のエクステントと同一ではありません。データ・スペース・グループ発生セグメント項目のエクステントは、VTOC 形式 1 ラベルおよび (ある場合は) VTOC 形式 3 ラベルを使用して訂正されました。

データ・スペースは、固有ファイル用ではありません。データ・スペース名 (VTOC 形式 1 ラベルのファイル ID フィールド) は、常に、

「Z9999992.VSAMDSPC.Txxxxxxx.Txxxxxxx」の形式になっています。14 個の x は、データ・スペースが作成された時を示すタイム・スタンプ (下位 2 文字を除く) です。これらは、カタログ・ボリューム・レコード・データ・スペース・グループ発生セグメント内のタイム・スタンプ・フィールドと一致して

います。(データ・スペース・グループの LISTCAT 出力については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。)

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: ファイル項目 (データまたは索引レコード・ボリューム項目) 内のエクステントが、データ・スペース・グループ発生セグメント項目よりも少ない場合、おそらくはその状態の結果として、後に出されるメッセージに、ファイルに使用不可のマークが付けられたかどうかを示されます。メッセージ IDC21027I または IDC21030I に注意してください。

IDC11042I *dataspacename* SPACE DELETED

説明: カatalog・ボリューム・レコード・データ・スペース・グループ発生セグメント項目が、実在しない VTOC 形式 1 ラベルを示しています。データ・スペース・グループ発生セグメント項目は、削除されました。このメッセージは、前に起きた何らかのシステム・エラーによって出されることがあります。

データ・スペースは、固有ファイル用ではありません。データ・スペース名 (VTOC 形式 1 ラベルのファイル ID フィールド) は、常に、

「Z9999992.VSAMDSPC.Txxxxxxx.Txxxxxxx」の形式になっています。14 個の x は、データ・スペースが作成された時を示すタイム・スタンプ (下位 2 文字を除く) です。これらは、カタログ・ボリューム・レコード・データ・スペース・グループ発生セグメント内のタイム・スタンプ・フィールドと一致しています。(データ・スペース・グループの LISTCAT 出力については、「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」を参照してください。)

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: おそらくはこの状態の結果として、ファイル・コンポーネントに使用不可のマークが付けられたかどうか後に送られるメッセージで示されます。メッセージ IDC21027I または IDC21030I に注意してください。

IDC11043I **TIMESTAMP FOR VOLUME RECORD ON VOL** *volser* **WAS CORRECTED**

説明: カatalog・ボリューム・レコードのタイム・スタンプが、VTOC 形式 4 ラベルの VSAM タイム・スタンプと一致していません。これは、VSAM カatalog管理が、一方のタイム・スタンプを更新し、他方を更新していない誤りに起因している可能性があります。

システムの処置: 処理を続行します。カタログ・レコード・タイム・スタンプを、VTOC 形式 4 ラベルのタイム・スタンプと一致するよう更新します。

プログラマーの応答: なし。

IDC11306I **NO OBJECT FOR** *entryname*

説明: バックアップ時に、メッセージに示されている名前を対象がバックアップされませんでした。これは、何も見つからなかったか、または前のメッセージに示されているエラーが原因です。あるいは、VSE/VSAM 圧縮制御データ・セットが明示的に組み込まれました。

リストア中に、指定された *entryname* の、バックアップ・ファイルの対象が見つかりませんでした。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 4 に設定して、処理を続けます。

プログラマーの応答: BACKUP または RESTORE コマンドに間違っ項目名が指定されていないか、または前のエラーが原因でこのメッセージが出されたのか調べてください。

RESTORE コマンドの場合、バックアップ対象相互参照 (BOCR) を使用して、間違っ項目名が指定されているか判断できます。

IDC11307I SKIPPING RESTORATION OF *file-id*

説明: 基本クラスターまたは代替索引のリストア中に起きたエラーの結果、その基本クラスターまたは代替索引に関連する代替索引または経路がリストアできず、それらのリストアはスキップされました。このメッセージには、そのような状態によりリストアがスキップされた対象の名前が示されています。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 4 にセットして、リストアすべき次の対象から処理を続行します。

プログラマーの応答: 基本クラスターまたは経路項目代替索引のエラーを訂正して、それを再びリストアしてください。これは、その関連対象のリストアも起こさせます。

代わりに、リストアがスキップされた対象の (経路ではない) 名前を明示的に示し、それを別個に (RESTORE コマンドにより) リストアしてください。

IDC11308I BLOCKSIZE HAS BEEN REDUCED TO DEVICE MAXIMUM

説明: 指定されたブロック・サイズが、使用されているテープ装置では許されないものです。

システムの処置: ブロック・サイズは、使用されているテープ装置で許される最大値にリセットされました。条件コード (LASTCC) は 4 に設定されて、処理が続けられます。

プログラマーの応答: なし。

IDC11310I *fn* MIGHT BE INCONSISTENT IN BACKUP FILE

説明: BACKUP 用に VSAM 対象をオープンしているときに、それぞれの対象が、別のタスクによってすでに書き込み用にオープンされています。この状況は、BACKUP ファイルの各対象のコピーが一致していないためであると思われます。

システムの処置: それぞれの対象のオープン処理を続行します。対象はバックアップされます。

オペレーターの応答: 念のため、一括 BACKUP 処理の他にそれぞれの VSAM 対象を個別にバックアップすることをお勧めします。

プログラマーの応答: なし。

IDC11345I CANNOT CONVERT ALLOCATION UNITS FOR *file-id*

説明: バックアップを行っているとき、割り振り情報 (トラック、シリンダー、またはブロック) を装置独立単位 (レコード) に変換することが不可能です。または、1 次または 2 次割り振りに対するレコードの最大数に達しました。(レコードの最大数は X'FFFFFF' です。)

- これは、対象を同じボリュームまたは同じ装置タイプのボリュームにリストアすれば、起こりません。
- ただし、対象を異なる装置タイプのボリュームにリストアしようとする、多すぎる、または少なすぎるスペースが割り当てられることがあります。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 4 にセットし、指定した対象をバックアップします。

プログラマーの応答:

- 対象の異なる装置タイプのボリュームにリストアしようとする場合、RESTORE コマンドに DATARECORDS を指定してください。
- 同じ装置タイプにボリュームにリストアする場合には、処置は不要です。
- 例えば、モデルあるいはデフォルト・モデルのような割り振りデータ・セットでないデータ・セットをバックアップした場合は、このメッセージは無視してください。

IDC11347I *filename* NOT CLOSED AFTER PREVIOUS ACCESS

説明: バックアップ操作時に、示されたファイルがクローズされていませんでした。

システムの処置: LASTCC 条件コードを 4 にセットします。示されたファイルはバックアップされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 示されたファイルで VERIFY 操作を実行してください。

IDC11358I SPECIFIED BUFSIZE NOT APPLICABLE

説明: ディスク操作のバックアップのための指定されたバッファ・サイズ (BUFSIZE) は、次の理由で使用できません。

- バックアップ装置が FBA ディスクであり、BUFSIZE 値が 32K を超えている。
- バックアップ装置が CKD ディスクまたは ECKD™ ディスクであり、BUFSIZE 値が一定のトラック長を超えている。
- BUFSIZE 値が 512 の倍数ではない。
- BUFSIZE 値が、次にバックアップを行う対象の索引 CI サイズよりも小さい。
- BUFSIZE 値が、次にバックアップを行う対象のデータ・コンポーネント・レコード・サイズの倍数になっていない。

システムの処置: 可能な BUFSIZE 値を VSE/VSAM バックアップ/リストア・プログラムが計算します。条件コード (LASTCC) を 4 に設定して、処理を続けます。1、2、3 の場合、ユーザー指定の BUFSIZE は、さらにバックアップ処理を続けると無視されます。

プログラマーの応答: なし。

IDC11359I EXTENT WITH SEQUENCE NUMBER *n* IS TOO SMALL FOR BACKUP

説明: ディスク操作のバックアップを行うために用意された *n* 番目のディスク・エクステントは、単一バックアップ・ファイル・データ・ブロックを収容できる大きさではありません。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 4 に設定して、エクステントをスキップし、次のエクステントを使用してバックアップ操作を継続します。

プログラマーの応答: バックアップ・ジョブを再実行する前に、EXTENT ステートメントで定義されたディスク・エクステンツを訂正してください。

IDC21009I *componentname, type* **DOES NOT EXIST ON VOLUME** *volser*

説明: マルチボリューム・ファイル・コンポーネントが、リセット前には *volser* 上にありました。しかし、それが、リセット後にはなくなっています。項目のタイプは、データ項目は D、索引項目の場合は I のいずれかです。

システムの処置: 処理を続行します。ファイル・コンポーネントは、そのカタログ項目に、使用不可のマークが付けられます。

プログラマーの応答: 有効なボリューム上のファイルは、その削除前に、EXPORTRA または REPRO を使用して除去できます。使用不可のマークが付けられたファイルは、出力のためにオープンすることもできないし、また EXPORT コマンドを使ってアクセスすることもできません。

IDC21020I **UNABLE TO ALLOCATE** *volser*

説明: カタログ・リセット操作に必要なボリュームが、CRAVOLUMES または CRAFILES パラメーターに指定されていません。 *volser* (ボリューム通し番号) には、マルチボリューム・ファイルの一部が含まれています。その 1 次データ・エクステンツは、RESETCAT によりリセット中のボリューム上にあります。

システムの処置: 処理を続行します。 *volser* 上のエクステンツのスペース割り振りは、リセットしません。

プログラマーの応答: CRAVOLUMES または CRAFILES の NONE オプションを使用して、示されているボリュームを使用不能にしてください。コマンドを実行し直してください。

IDC21024I *entryname, type* **CONTAINS AN INVALID ALIAS CHAIN**

注: このメッセージは、OS/VS2 の下で

VSAM 使用との互換性を与える 目的でのみ提供されます。 **VSE** によって、別名を定義したり使用したりすることはできません。

説明: USERCATALOG または NONVSAM 項目の別名チェーンが無効です。項目タイプは、非 VSAM ファイルの場合は A、ユーザー・カタログの場合は U です。

システムの処置: 処理を続行します。別名チェーンを訂正します。ただし、別名項目の中には、失われるものもあります。

プログラマーの応答: LISTCAT を実行して、どの別名が失われるのかを判別してください。削除された別名は、OS/VS2 システムでしか再定義できません。

IDC21025I *gdgentryname, type* **HAS AN INVALID GDG DATA SET ASSOCIATION**

注: このメッセージは、OS/VS2 の下で

VSAM 使用との互換性を与える 目的でのみ提供されます。 **VSE** によって、**GDG** データ・セットや基数を定義したり使用したりすることはできません。

説明: GDG 基数を持つ GDG データ・セットに関連するレコードにエラーがあります。GDG 基数がリカバリーされました。しかし、この基数に関連する世代別データ・セット・ストリングは、突き止めることのできたデータ・セット記述だけを反映するように変更されました。

タイプ B は、世代別データ・グループを示します。タイプ A は、関連する世代別データ・セット (非 VSAM) を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: GDG 基数に対し LISTCAT を実行し、どの項目がもう存在していないのかを判別してください。項目が存在していても、RESETCAT は、データ・セットを変更やスクラッチしません。(それらは、非 VSAM ファイルであり、VTOC 形式 1 項目においてはまだ存在しています。)

IDC21026I *entryname, type* **DELETED**

説明: 前のメッセージに、この項目がカタログから削除されることになったエラーが示されています。

項目のタイプは、以下のとおりです。

A = 非 VSAM
C = クラスタ
D = データ
G = 代替索引
I = 索引
R = パス
U = ユーザー・カタログ

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 削除された項目が VSAM 対象である場合、それが占有していたスペースは、2 次割り振りのために戻されます。その項目が必要な場合は、定義し直してロードしてください。またはインポートしてください。この対象に従属している対象も、やはり削除されますが、それらについてのメッセージは出されないことに、注意してください。例えば、あるクラスタが削除されると、すべてのパス、代替索引、および更新セットも削除されます。

IDC21027I **{CRA|CATALOG} SPACE ON VOLUME**
volser **NOT OWNED BY CATALOG**

説明: カタログ・リカバリー域 (CRA) エクステンツまたはカタログ・エクステンツに、VSAM データ・スペース VTOC 形式 1 項目と一致するエクステンツがありません。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: VTOC とカタログとの間でのスペース所有権の要求が矛盾しているため、その結果、カタログの内容が損なわれます。RESETCAT の次に、EXPORT を使用して、示されているボリューム上のすべてのファイルを転送してください。EXPORT の次に、ファイルに対し PRINT を実行して、正当なデータが入っているか確かめ、DELETE SPACE FORCE を実行して、すべてのデータ・スペースを削除し、VSAM 所有権をボリュームから取り除いてください。次に、ボリューム上に所有のスペースを DEFINE (カタログは、再び、ボリュームを所有します)、IMPORT を使用して、ファイルを設定し直してください。

IDC21030I *componentname, type* **HAS INVALID SPACE DESCRIPTION FOR** *volser*

説明: メッセージに示されているファイル・コンポーネントが、*volser* 上のスペースを要求しています。そのスペースは、このコンポーネントには割り振られません。特に、コンポーネント・カタログ・レコードにある、*volser* のボリューム・グループ発生セグメントが、ボリューム・レコード・データ・スペース・グループ発生セグメントに反映されていません。

項目のタイプは、D (データの場合) または I (索引の場合) です。

システムの処置: 処理を続行します。ファイル・コンポーネントは、使用不可のマークが付けられ、*volser* についてのボリューム・グループ発生セグメント記述を、無効にします。

プログラマーの応答: LISTCAT を実行して、無効なエクステントを判別してください。ファイルを削除してください。ファイルを再定義して再ロードしてください。またはファイルをインポートしてください。

IDC21032I *type1* **DELETED FROM** *entryname, type2*

説明: タイプ 1 対象が、*entryname, type2* と関連しているように定義されています。しかし、項目タイプ 1 を記述しているレコードが発見できません。したがって、タイプ 1 項目は、示されている項目名の記述から削除されました。削除された項目の名前を持つレコードが見つからないため、その名前は示されません。

項目のタイプは、以下のとおりです。

A = 非 VSAM
B = GDG 基数 (OS/VS2 MVS)
C = クラスタ
D = データ
G = 代替索引
I = 索引
R = パス
U = ユーザー・カタログ
X = 別名 (OS/VS2 MVS)

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 示されている項目名に対し LISTCAT を実行し、どの関連項目が削除されたのかを判別し、それを定義し直してください。

IDC21034I **SPACE MAP ERROR FOR** *volser*

説明: カatalog・ボリューム・レコード・スペース・マップは、ボリューム上のどのスペースが 2 次割り振りに使用できるのかを示したのですが、これが、カatalog内で正しい長さになっていません。これは、カatalogまたはカatalog・リカバリー域 (CRA) の損傷に起因することがあります。この状態は、RESETCAT によっては訂正できません。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: *volser* が、カatalog・ボリュームではない場合には、以下に従ってください。

- ボリューム上のすべてのファイルに、EXPORT または EXPORTRA を実行してください。
- ボリュームに対し、DELETE SPACE FORCE を実行してください。
- ボリューム上に必要なデータ・スペースを DEFINE してください。

- すべてのファイルに IMPORT または IMPORTRA を実行してボリュームに戻してください。

volser が、カatalog・ボリュームである場合には、以下に従ってください。

- ボリューム (CRAVOLUMES(...ALL)) または (CRA(...ALL)) 上のすべての対象に、EXPORTRA を実行してください。
- ボリューム上の、データ・スペース項目およびカatalog以外の対象に、DELETE を実行してください。
- ボリュームに、DELETE {MASTER|USER}CATALOG を実行してください。
- ボリュームに、DEFINE {MASTER|USER}CATALOG を実行してください。
- ボリューム上に必要なデータ・スペースを DEFINE してください。
- すべての対象を、ボリューム/カatalogへ IMPORTRA してください。

損傷のため削除を行えない場合は、ボリューム・リストアにより、リカバリーに戻り、次に、必要ならば RESETCAT を使用して、ボリュームの同期をはかってください。

IDC21045I *entryname1, type* **ON** *craool* **RENAMED** *entryname2*

説明: カatalog内の、ある対象として、同じ名前の対象をリセットしようとした。対象は、メッセージに示されている名前に変更されました。*entryname1* は、その元の名前であり、*entryname2* は、その新しい名前です。示されている項目だけが、名前を変更され、その従属または関連項目 (ある場合) は変更されませんでした。項目のタイプは、以下のとおりです。

A = 非 VSAM
B = GDG 基数 (OS/VS2 MVS)
C = クラスタ
D = データ
G = 代替索引
I = 索引
R = パス
U = ユーザー・カタログ
X = 別名 (OS/VS2 MVS)

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: VSE がサポートする項目の場合は、ALTER NEWNAME を使用してください。および別のカatalogへ対象を移すことにより、あるいは、その一方を行うことにより、命名上の矛盾を解決することができます。再命名された項目が非 VSAM 項目の場合、関連する VTOC 形式 1 ラベルは再命名されません。項目を削除し (NOSCRATCH)、矛盾を解決し、適切な OS/VS2 システムに項目を再定義することができます。

GDG 基数または GDG データ・セットが再命名された場合、基数、およびその関連データ・セットを削除し (NOSCRATCH)、矛盾を解決し、次に適切な OS/VS2 システムに定義し直してください。

カatalog・コネクターが再命名された場合、カatalogをエクスポートし (DISCONNECT オプションを使用)、矛盾を解決し、カatalog・コネクター項目をインポートすることができます。

ALIAS が再命名された場合、矛盾を解決し、ALTER を出し

て、項目を再命名して、適切な OS/VS2 に、戻すことができます。

非 VSAM および GDG データ・セットは、この新しい名前を使ってアクセスすることはできないことに注意してください。これは、VTOC 形式 1 ラベル名が、カタログ名に対応していないからです。カタログ項目は、アクセス可能です。

IDC21046I *componentname, type ON cravol RENAMED componentname*

説明: 固有データまたは索引コンポーネントをカタログしようとしたが、その名前前の対象の項目が、すでにカタログ内にありました。すべてのボリューム上において、固有コンポーネントは、それに対応する VTOC 形式 1 ラベルと一緒に再命名されています。

項目のタイプは、D (データの場合) または I (索引の場合) です。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: 再命名された対象は、アクセス可能です。もし、必要であれば、名前が矛盾しているカタログ内の対象を、別のカタログの制御のもとでアクセスできるように移動することができます。あるいは、その対象の名前を変更することができます (ALTER を使用)。次に、RESETCAT 実行中に再命名された固有対象の名前を、元の名前にすることができます (ALTER を使用)。

IDC21047I *componentname, type ON cravol MAY NOT BE ACCESSED BY NAME*

説明: RESETCAT 実行時に、固有対象をカタログしようとしたが、その名前前の対象の項目が、すでにカタログ内にありました。RESETCAT は、その固有対象を再命名しようとしたが、失敗しました。これは、すべてのボリュームが使用不可であったか、または NEWNAME 機能が失敗したためです。

項目のタイプは、D (データの場合) または I (索引の場合) です。

システムの処置: 処理を続行します。再命名の試行の結果、CRA 項目または VTOC 形式 1 ラベルのどれも、再命名は行われません。RESETCAT は、重複した名前が付いている既存のカタログ対象の再命名を試みます。これは、後続の「rename message」(再命名メッセージ、例えば、IDC21045I) により示されます。

プログラマーの応答: 示されている対象は、クラスター名によりアクセスできますが、示されているデータや索引名によっては、アクセスできる場合もあるし、できない場合もあります。LISTCAT を実行して、示されている component name に命名上の矛盾があるかどうかを判別してください。ファイルをエクスポートし、次に、データや索引コンポーネントによりアクセスビリティを得られるよう、命名上の矛盾を解決した後、再びインポートできます。

IDC21308I **CANNOT CLOSE** *file-id*

説明: メッセージに名前が示されている対象をクローズしているときに、エラーが起きました。このメッセージの後には、必ずメッセージ IDC21309I が続きます。

システムの処置: 状態コード (LASTCC) を 4 にセットします。メッセージに示されている対象のバックアップ/リストアを完了し、次の対象から続行します。

プログラマーの応答: バックアップの場合、処理は不要です。対象は正常にバックアップされました。リストアの場合、対象のリストアは完了しました。しかし、メッセージに示されている対象のカタログ情報には、正しい高使用 RBA、正しい高キー RBA、または索引情報は含まれていません。VERIFY コマンドを実行することにより、この問題を解決できます。さもなければ、継続メッセージ IDC21309I に示されている VSAM クローズ・エラー・コードを分析し、エラーの原因を訂正して、対象をもう一度リストアしてください。

IDC21309I ****VSAM CLOSE ERROR IS** *nmn*

説明: VSAM クローズ中に、エラーが起きました。これは、先行メッセージのテキストに示されています。メッセージ中の *nmn* は、VSAM が戻したエラー・コード (10 進数) です。

システムの処置: 実行中の機能により、処置は異なります。リスト内の先行メッセージにある条件コードを参照してください。

プログラマーの応答: エラー・コードにしたがってエラーを訂正してください。クローズ・エラー・コードの説明は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にあります。

IDC21357I **BACKUP DEVICE NOT SUITABLE FOR BACKING UP OBJECT** *file id*

説明: バックアップ装置は、CKD 装置または ECKD 装置のいずれかであり、次の VSAM 対象をバックアップするための最小の BUFSIZE 値 (VSE/VSAM バックアップ/リストア・プログラムによって計算されます) が、バックアップ装置のトラック長を超えています。

システムの処置: 示された VSAM 対象の *file id* をスキップし、バックアップ処理を続行します。条件コード (LASTCC) を 8 に設定します。

プログラマーの応答: フルバックアップを行うには、より大きいトラック容量を持つディスクをバックアップ装置として選択し、バックアップ・ジョブを再実行してください。

IDC21369I *file id NOT CONTAINED IN BACKUP FILE*

説明: ディスク常駐バックアップ・ファイルからのリストア中に、リストアする対象がバックアップ・ファイルにありませんでした。おそらく、バックアップ処理の終了が完全でなかったために、対象のバックアップが正しく行われませんでした。この場合、バックアップ・ファイル・ディレクトリーには項目が含まれていますが、対象についての位置情報は含まれていません。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 に設定し、対象

ファイル *file id* をスキップします。次の対象のリストア処理を続行します。

プログラマーの応答: バックアップ相互参照リストを調べて、バックアップ・ファイルの作成時に、示された対象がバックアップされなかったことを確かめてください。可能ならば、古いバックアップ・ファイルのような別のソースを使用して、対象をリストアしてください。

IDC31000I CATALOG NOT A RECOVERABLE CATALOG

説明: リセットを行うために指定されたカタログが、RECOVERABLE 属性を付けて定義されていません。RESETCAT は、リカバリー可能カタログのみをリセットできます。

システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを定義しません。
プログラマーの応答: リカバリー不能カタログおよびそのボリュームをリカバリーするためには、カタログが所有しているすべてのボリュームについて、同期的なボリューム・リストアを実行する必要があります。CATALOG パラメーターの指定が間違っている場合は、パラメーター、および対応する DLBL CATALOG (CATALOG *dname* が指定されている場合) を訂正してください。コマンドを実行し直してください。

IDC31004I DEFINE OF WORKFILE FAILED

説明: 作業ファイルに対する DEFINE が失敗しました。メッセージ IDC3007I または IDC3009I が、このメッセージの前に出され、誤りの理由を示すカタログ管理戻りコードおよび理由コードが示されています。

システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。
プログラマーの応答: メッセージ IDC3007I または IDC3009I に示されている戻りコードと理由コードによる指示にしたがって、訂正処理を実行してください。戻りコードおよび理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。

IDC31005I WORKFILE DEFINED IN THE CATALOG TO BE RESET

説明: 作業ファイルが、リセットされるカタログ内にあるように指定されています。WORKCAT の *catname* と CATALOG の *catname* が同じです。

システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを定義しません。
プログラマーの応答: WORKCAT パラメーターを使って、リセット中のカタログとは異なるカタログを指定してください (すなわち、CATALOG *catname* を指定しないでください)。

IDC31006I PHYSICAL I/O ERROR - VSAM ACTION CODE *nm*

説明: カタログを拡張しているときに、物理入出力エラーが起きました。

システムの処置: R15 の内容=X'0C'。コマンドを終了します。

カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを削除します。

プログラマーの応答: エラーを訂正し (エラーがあるボリュームのリストアが必要な場合があります) RESETCAT を出し直してください。VSAM 要求マクロによって戻される 10 進コードは、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にリストされています。カタログおよび CRA 項目は変更されていないため、入出力エラーのタイプに応じて、現在の状態にリカバリーすることができます。エラーが訂正できない場合は、同じ名前の、より大きなカタログを定義し、次にそのカタログに対し RESETCAT を実行してください。カタログが所有しているすべてのボリュームは、カタログを再定義する前に、保管しておいてください。リセットするカタログは、RESETCAT を実行し直す前に、リストアしておいてください。

IDC31007I LOGICAL I/O ERROR - VSAM ACTION CODE (*nm*)

説明: カタログの拡張時に、論理入出力エラーが起きました。これは、リセット中のカタログ内に、フリー・レコードが十分にないことが原因となります。

システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを削除します。
プログラマーの応答: エラーを訂正してください。VSAM 要求マクロによって戻される 10 進数コードの説明は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にあります。カタログが 16 個のエクステンツにまで達し、これ以上拡張できない場合は、さらに大きなカタログを、同じ名前前で新しく定義してください。次に、そのカタログに対し、RESETCAT を実行してください。カタログが所有しているすべてのボリュームは、カタログを再定義する前に、保管しておいてください。リセットするカタログは、RESETCAT を実行し直す前に、リストアしておいてください。

IDC31008I ERROR ACCESSING THE CATALOG

説明: RESETCAT が、CATALOG パラメーターにより指定されたファイルをアクセスしようとしていたときに、エラーが生じました。メッセージ IDC3007I または IDC3009I が、このメッセージの前に出され、このエラーを識別しています。

システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを削除します。
プログラマーの応答: エラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。戻りコードおよび理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。エラーを訂正できない場合は、同じ名前のカタログを新たに定義し、RESETCAT を使用して、失敗したカタログが所有していたすべてのボリュームを、そのカタログにリセットしてください。カタログが所有しているすべてのボリュームは、カタログを再定義する前に、保管しておいてください。リセットするカタログは、RESETCAT を実行し直す前に、リストアしておいてください。

**IDC31010I CRA DOES NOT BELONG TO CATALOG
- VOL *volser***

説明: カタログ・リカバリー域 (CRA) が、リセットするために指定されています (すなわち、CRAVOLUMES または CRAFILES パラメーター・リストに含めます) が、それは、リセットされるべきカタログに属していません。
システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを削除します。
プログラマーの応答: リセットする正しいボリュームまたはカタログを指定し直して、コマンドを実行し直してください。

**IDC31012I MAXIMUM RELATIVE RECORD NUMBER
EXCEEDED IN WORKFILE**

説明: 作業ファイル相対レコード番号の限界を超えました。これ以上、作業ファイルにレコードを書き出せません。カタログと CRA 項目を合わせた数が大きすぎて、RESETCAT は、1 回の実行で扱うことができません。
システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを削除します。
プログラマーの応答: リセットを行うために指定された CRA ボリュームのサブセットを指定し直し、RESETCAT コマンドを複数回、実行し直してください。

**IDC31013I COULD NOT MERGE ONE OR MORE
CRAS**

注:

CRA のファイル ID は、常に、
"CATALOG.RECOVERY.AREA.VOL.*volser*".

説明: このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。すなわち、IDC3300I、IDC3301I、または IDC31010I です。
システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを削除します。
プログラマーの応答: 示されているメッセージのエラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC31014I DELETE OF WORKFILE FAILED

説明: 指定された作業ファイルに対する DELETE の実行が、失敗しました。このメッセージの前に出されたメッセージ IDC3007I または IDC3009I に、エラーが示されています。
システムの処置: コマンドを終了します。前のメッセージが、処理を終了させるエラーを示していない限り、RESETCAT 操作を完了させます。
プログラマーの応答: メッセージ IDC3007I または IDC3009I に示されているエラーを訂正し、次に DELETE コマンドを使用して、作業ファイルを削除してください。戻りコードおよび理由コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。これ以外のプログラマーの応答については、先行メッセージを調べてください。

IDC31016I NO CRA SPECIFIED FOR RESET

説明: CRAVOLUMES または CRAFILES パラメーターは、すべての CRA に NONE オプションを指定しています。したがって、どのボリュームも、リセットのためには指定されていません。
システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを定義しません。
プログラマーの応答: ALL を指定するか、または NONE を省いて、リセットのために正しいボリュームを指定してください。コマンドを実行し直してください。

**IDC31017I UNABLE TO GET EXCLUSIVE USE OF
THE CATALOG**

説明: リセットしようとしたカタログは、他のプログラムがオープンしていました。リセット操作は、排他使用においてのみカタログをリセットできます。
システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを定義しません。
プログラマーの応答: リセットしようとしているカタログを、他の区画が使用していないときに、コマンドを実行し直してください。

IDC31018I CRA UNAVAILABLE

説明: カタログ・リセット操作に必要なボリュームが、CRAVOLUMES または CRAFILES パラメーターに指定されていません。 *volser* (ボリューム通し番号) には、マルチボリューム・ファイルの一部が含まれています。その 1 次データ・エクステンツは、RESETCAT によりリセット中のボリューム上にあります。
システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを削除します。VSAM VTOC 項目を、削除することがあります。メッセージ IDC11040I および IDC11044I を調べてください。
プログラマーの応答: 必要なボリュームは、メッセージ IDC21020I により、先に識別されています。以下の手段によりボリュームを指定してください。

- DLBL および EXTENT ステートメントを使用してください。DLBL ステートメントのファイル名を、NONE を示しているコマンドの CRAFILES パラメーターに加えてください。
- NONE を示しているコマンドの CRAVOLUMES パラメーターに *volser* を指定してください。

コマンドを実行し直してください。

**IDC31019I CRA *volser* SPECIFIED FOR RESET MORE
THAN ONCE**

説明: CRAVOLUMES または CRAFILES パラメーターが、同じ *volser* を複数回、指定しています。
システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを定義しません。
プログラマーの応答: リセットを行う正しいボリュームを指定し、コマンドを実行し直してください。

IDC31035I BAD VOLUME RECORDS FOR *volser*

説明: カタログ・リカバリー域 (CRA) で、示されている *volser* のボリューム・レコードが存在していません。あるいはその関連したレコードの 1 つが存在していません (メッセージ IDC11022I を参照してください)。

システムの処置: IGNORE が指定されている (または、デフォルトされている) 場合、リセットが行われます。これは、この *volser* に割り振られているすべてのファイルに、使用不可のマークが付けられることを意味します。NOIGNORE が指定されているか、またはデフォルトされている場合、RESETCAT 操作は、作業ファイルを削除し、カタログまたは CRA を更新する前に終了します。VSAM VTOC 項目を、削除することができます。メッセージ IDC11040I および IDC11044I を調べてください。

プログラマーの応答: IGNORE が指定されている場合、カタログにエラーはありません。一緒に出されたメッセージに、このシステムの処置の結果として、各ファイルに対し行ったシステムの処置 (および、必要なプログラマーの応答) が示されます。NOIGNORE が指定されている場合、以下のことを行ってください。

- EXPORTRA を使用して、この *volser* のすべての VSAM ファイルをエクスポートしてください。および、
- *volser* 上で、DELETE SPACE FORCE を実行してください。および、
- *volser* に必要なすべてのデータ・スペースを定義し直してください。および、
- IMPORTRA を実行して、すべてのファイルをリカバリーしてください。

IDC31038I COULD NOT UPDATE ONE OR MORE CRAS

説明: このメッセージの前に出されたメッセージを参照してください。メッセージは、IDC3300I または IDC3301I のいずれかです。(リセット更新を行うための、1 つ以上の CRA を OPEN または CLOSE できません。)

システムの処置: 処理を続行します。カタログを更新します。その CRA に対する OPEN が失敗していなければ、(メッセージ IDC3300I を参照してください) CRA 項目を更新します。VSAM VTOC 項目を、削除することができます。メッセージ IDC11040I および IDC11044I を調べてください。

プログラマーの応答: 先行メッセージに示されているエラーを訂正してください。コマンドを実行し直してください。

IDC31039I UNABLE TO RETRIEVE DLBL/EXTENT PARMs FOR *dname*

説明: CATALOG、CRAFILES、WORKCAT、または WORKFILES パラメーターに名前が示されている DLBL ジョブ制御ステートメントが発見できません。

システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを定義しません。プログラマーの応答: *dnames* のつづりが誤っていないか、または DLBL/EXTENT ステートメントあるいはパラメーターが欠落していないか調べてください。CATALOG および WORKCAT *dnames* (および DLBLs) は省略することができます。CRAFILES および WORKFILES は、CRAVOLUMES お

よび WORKVOLUMES により置き換えることができます。エラーを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC31048I VTOC ERROR ON *volser* - DADSM RETURN CODE IS *nn*

説明: アクセス方式サービス・プログラムが、指定されたボリューム上の VTOC を首尾よくアクセスできません。メッセージ中の *nn* は、VSE 共通 VTOC 処理プログラムが出した戻りコード (10 進数) です。これらの戻りコードは、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」の『共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード』にリストされています。

システムの処置: コマンドを終了します。カタログおよび CRA 項目は変更しません。作業ファイルを削除します。VSAM VTOC 項目を、削除することができます。メッセージ IDC11040I および IDC11044I を調べてください。

プログラマーの応答: プログラマー自身でエラー状態を訂正できない場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡してください。

IDC31310I INVALID GENERIC NAME *file-id*

説明: BACKUP または RESTORE コマンドの分析中に、「*」が複数個ある総称名、または最後の文字が「*」ではない総称名が見つかりました。

システムの処置: 残りの項目名を分析した後に、コマンドの処理を終了します。バックアップまたはリストアは行いません。条件コード (LASTCC) を 12 にセットします。

プログラマーの応答: 無効な総称名を訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC31311I ERROR EXPANDING GENERIC NAME *entryname*

説明: BACKUP コマンドの総称名の拡張中に、ジョブまたはマスター・カタログにおいて物理的なエラー (このメッセージの後に必ず続いて出されるメッセージ IDC31312I に示されています) が起き、そのために、総称名の拡張は不完全な結果でした。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。BACKUP 機能は、総称名をできるだけ拡張しようと試みてから、BACKUP コマンドの次の項目名を使用して処理を続けます。

プログラマーの応答: バックアップ対象相互参照 (BOCR) を調べて、指定された総称名で、どの対象がバックアップされ、どれがされていないか判別してください。バックアップできなかった対象およびカタログに対し、訂正処理を実行してください。次にバックアップされなかったすべての対象をバックアップしてください。

IDC31312I **VSAM PHYSICAL ERROR RETURN CODE IS *nnn*

説明: BACKUP コマンドの総称名の拡張中に、先行メッセージ IDC31311I に示されているような物理エラーが起きました。

nnn は、エラー・コード (10 進数) です。R15 の内容 =X'0C'。

システムの処置: システムの処置については、リスト中の先行メッセージ (IDC31311I) を参照してください。

プログラマーの応答: エラー・コードにしたがってエラーを訂正してください。要求エラー・コードの説明は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にあります。

IDC31313I PASSWORD CONFLICT FOR *file-id*

説明: 指定された対象のパスワードが、後続メッセージ (IDC31314I) に指定されている対象のパスワードと矛盾しています。2 つの項目名は、排他的ではありませんが、異なるパスワードを持っています。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、BACKUP コマンドの他の項目名の分析をした後に、コマンドを終了します。

プログラマーの応答: エラーのあるパスワードを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC31314I **CONFLICTING OBJECT IS *file-id*

説明: 指定された対象のパスワードが、先行メッセージ (IDC31313I) に指定されている対象のパスワードと矛盾しています。2 つの項目名は、排他的ではありませんが、異なるパスワードを持っています。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) は、先行メッセージのものと同じです。BACKUP コマンドの他の項目名の分析をした後で、コマンドを終了します。

プログラマーの応答: エラーのあるパスワードを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC31315I CANNOT LOCATE CATALOG

説明: BACKUP または RESTORE コマンドのために、カタログを判別するための位置突き止めが失敗しました。このメッセージの後には、必ずメッセージ IDC31316I が続きます。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、BACKUP または RESTORE コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: メッセージ IDC31316I に示されている戻りコードおよび理由コードを分析し、エラーを訂正してください。

IDC31316I **VSAM CATALOG RETURN CODE IS *nnm* - REASON CODE IS IGG0CLxx - *mmm*

説明: カタログ・エラーまたは例外状態の結果として、カタログ管理モジュール IGG0CLxx は、戻りコード (*nnm*) および理由コード (*mmm*) を戻しました。先行の 1 次メッセージに、カタログ・エラーが記述されています。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) および NS「システムの処置」は、先行メッセージの場合と同じです。

プログラマーの応答: この戻りコードおよび理由コードを参照してください。コードの説明は、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』にあります。

IDC31317I CANNOT OPEN VSAM CATALOG

説明: BACKUP コマンドにおいて、VSAM ジョブまたはマスター・カタログが、総称名の拡張のためにオープンできませんでした。このメッセージの後には、必ずメッセージ

IDC31325I が続きます。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、BACKUP コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: 後続メッセージ IDC31325I に示されている VSAM オープン・エラー・コードを分析し、適切な訂正処理をとってください。

IDC31318I CATALOG VOLUME ERROR

説明: VSAM 内部エラー状態のために、カタログ・ボリュームを正常に取り付けることができませんでした。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、BACKUP または RESTORE コマンドの実行を終了します。

プログラマーの応答: 問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡してください。

IDC31319I CATALOG EXTENT ERROR

説明: カタログのエクステントが突き止められませんでした。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、BACKUP または RESTORE コマンドの実行を終了します。

プログラマーの応答: LISTCAT コマンドを実行して、カタログ・エクステントが正しいか判別してください。それらが正しい場合は、BACKUP または RESTORE コマンドを実行し直してください。問題が再発する場合は、多分カタログに欠陥があり、適切なカタログ・リカバリー処置の実行が必要です。

IDC31320I CATALOG I/O ERROR

説明: カタログのオープン時に、入出力エラーが起きました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、BACKUP コマンドの処理を終了します。対象はバックアップされません。

プログラマーの応答: カタログを欠陥のないボリュームにリストアして、ジョブを、実行し直してください。

IDC31321I CANNOT RETRIEVE CATALOG INFORMATION FOR *file-id*

説明: メッセージに示されている対象に対するバックアップ操作が失敗しました。このメッセージの後には、必ずメッセージ IDC31316I が続きます。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、指定された対象はバックアップしません。次の対象からバックアップを続行します。

プログラマーの応答: メッセージ IDC31316I に示されている戻りコードおよび理由コードを分析してください。これ以降のファイルの処理には、多分もっと前のバックアップ・コピーにさかのぼる必要があります。

**IDC31322I CANNOT LOCATE ASSOCIATION OF
file-id**

説明: 指定された対象について、代替索引または経路を自動的にバックアップするべきか判別しているときに、エラーが起きました。このメッセージの後には、必ずメッセージ IDC31316I が続きます。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、エラーのある関連対象、およびそれに基づくすべての対象はバックアップしません。指定された対象の関連対象、または次の対象からバックアップを続けます。

プログラマーの応答: バックアップ対象相互参照 (BOCR) を調べて、どの対象がバックアップされなかったか判別してください。メッセージ IDC31316I に示されているカタログ戻りコードおよび理由コードを分析し、適切な訂正処置を行ってください。

**IDC31323I CANNOT LOCATE BASE CLUSTER OF
file-id**

説明: メッセージに示されている代替索引の基本クラスターのファイル ID を取り出しているときに、カタログ出力エラーが起きました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されているおよび経路関連対象をバックアップしません。次の対象からバックアップを続行します。

プログラマーの応答: バックアップ対象相互参照 (BOCR) を調べて、どの代替索引がバックアップされなかったか判別してください。カタログを訂正し、代替索引を再びバックアップしてください。

IDC31324I CANNOT OPEN file-id

説明: バックアップ/リストアのために、メッセージに示されている対象をオープンしているときに、エラーが起きました。このメッセージの後には、必ずメッセージ IDC31325I が続きます。

システムの処置: 状態コード (LASTCC) を 8 にセットします。メッセージに示されている対象のバックアップ/リストアは行わず、次の対象からバックアップ/リストアを続行します。リストアの場合、指定された対象は、すでにカタログに定義されており、削除が試みられます。削除の成否は、後続メッセージにより判別できます。

プログラマーの応答: 継続メッセージ IDC31325I に指定されている VSAM オープン・エラー・コードを分析し、エラーの原因を訂正して、対象を再びバックアップ/リストアしてください。

IDC31325I **VSAM OPEN ERROR IS nnn

説明: VSAM オープン時に、エラーが起きました (その内容は、先行メッセージのテキストに示されています)。メッセージ中の *nnn* は、VSAM が戻したエラー・コード (10 進数) です。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) は、前のメッセージのものと同じです。処置は、実行中の機能により異なります。リストの先行メッセージを参照してください。

プログラマーの応答: エラー・コードにしたがってエラーを訂

正してください。オープン・エラー・コードの説明は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にあります。

**IDC31326I NO BACKUP OF file-id - CANNOT BE
RESTORED**

説明: メッセージに示されている対象は、VSE/VSAM リリース 1 以前のリリースにより生成されたか、または OS/VS のもとで生成されており、RESTORE コマンドでは処理できない物理ファイル特性 (物理レコード・サイズ) をもっています。システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象をバックアップしません。次の対象からバックアップを続行します。

プログラマーの応答: アクセス方式サービス・プログラムの EXPORT コマンドを使用して、メッセージに示されている対象をバックアップしてください。

IDC31327I EXTENT ERROR FOR file-id

説明: 指定されたファイルのエクステントが、カタログ内で突き止められませんでした。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象のバックアップ/リストアを終了します。次の対象からバックアップ/リストアを続行します。プログラマーの応答: LISTCAT コマンドを実行して、メッセージに示されている対象のカタログ情報が正しいか判別してください。正しければ、対象を再びバックアップしてみてください。エラーが再発する場合は、多分その対象のファイル構造に誤りがあります。これを訂正するには、もっと前のバックアップ・コピーにさかのぼる必要があります。

IDC31328I VOLUME ERROR FOR file-id

説明: VSAM 内部エラー状態のために、メッセージに示されている対象のボリュームが首尾よく取り付けられませんでした。

システムの処置: 状態コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象のバックアップ/リストアを終了します。次の対象からバックアップ/リストアを続行します。プログラマーの応答: 問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLSST) を保管し、IBM 担当員に連絡してください。

IDC31329I DISK I/O ERROR FOR file-id

説明: メッセージに示されている対象のバックアップ/リストア中に、ディスク入出力エラーが起きました。

システムの処置: 状態コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象のバックアップ/リストアを終了します。次の対象から処理を続行します。プログラマーの応答: BACKUP コマンドの実行中にエラーが起きている場合、対象はバックアップできません。対象をリストアしたければ、もっと前のバックアップ・コピーにさかのぼる必要があります。

RESTORE コマンドの実行中にエラーが起きている場合は、異なるボリューム・セットに対象をリストアしてください。そのためには、RESTORE コマンドの

VOLUMES、DATAVOLUMES、および INDEXVOLUMES パラメーターを使用してください。

IDC31330I BACKUP FILE I/O ERROR

説明: BACKUP または RESTORE コマンドの実行中に、バックアップ・ファイルにリストア不能な入出力エラーが起きました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットして、BACKUP または RESTORE コマンドの実行を終了します。

プログラマーの応答: BACKUP コマンドの実行中にエラーが起きた場合は、新しいテープ・セットを用いて、コマンドを実行し直してください。エラーなしでバックアップされたすべての対象をリストアするために、間違ったバックアップ・ファイルが使用された可能性があります。これは、バックアップ対象相互参照 (BOCR) に名前が示されています。

RESTORE コマンドの実行中にエラーが起きた場合は、リストアが正常に行われたとメッセージが出ている対象は、すべて、正しくリストアされています。バックアップ・ファイルの残りの対象については、もっと前のバックアップ・コピーに戻しておく必要があります。

IDC31331I USECLASS ERROR FOR *file-id*

説明: メッセージに示されている対象に対し、USECLASS、DATAUSECLASS、または INDEXUSECLASS パラメーターに間違った 2 次スペース・クラスが指定されています。または UNIQUE コンポーネントに対し、非ゼロのスペース・クラスが指定されています。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象をリストアしません。ただし、その対象の既存の古いバージョンは、すでに削除されていることがあります。次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: スペース・クラス指定を訂正し、対象を再びリストアしてください。

IDC31332I NO DNAME FOR UNIQUE COMPONENT OF *file-id*

説明: メッセージに示されている対象の UNIQUE コンポーネントに対し、FILE、DATAFILE、または INDEXFILE のいずれのパラメーターも指定されていません。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象をリストアしません。ただし、その対象の既存の古いバージョンは、すでに削除されていることがあります。次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: 対象を再びリストアしてください。この時、欠落していた FILE、DATAFILE、または INDEXFILE パラメーターを指定してください。

IDC31333I CANNOT FIND OBJECT *file-id*

説明: RESTORE コマンドの実行中に、バックアップ・ファイルの登録簿に項目が入っている対象をリストアしようとした。これは、

1. バックアップ・ファイルの組み立てが、BACKUP コマンドの処理中に早めに終了してしまったか、または対象が首尾よくバックアップされなかったことに起因します。
2. バックアップ・データが不正確なデータを含んでいるので識別できません。

システムの処置:

1. 条件コード (LASTCC) を 8 にセットして、リストアしたい次の対象から処理を続行します。
2. 総称のリストアについては 1 を参照してください。選択によるリストアについてはバックアップ・テープを最後までファイルが探索されます。続きのファイルはいずれもリストアされません。

プログラマーの応答:

1. ファイルの前の (正しい) バックアップ・コピーを使用してください。
2. 総称のリストアについては 1 を参照してください。選択によるリストアについては、総称のリストア (*) を使用して失敗したファイルの後の残りファイルをリストアする必要があります。失敗したファイルについてはファイルの、前の (正しい) バックアップ・コピーを使用してください。

IDC31334I CANNOT FIND OLD VERSION OR ASSOCIATION OF *file-id*

説明: メッセージに示されている対象の既存バージョン、または関連物を削除しようとしたときに、エラーが起きました。このメッセージの後には、必ずメッセージ IDC31316I が続きます。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象、またはその関連物をリストアしません。この対象に基づく代替索引またはパスも、明示的に要求されない限りリストアしません。次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: メッセージ IDC31316I に示されているカタログ戻りコードおよび理由コードを分析し、訂正処置を行い、対象を再びリストアしてください。この問題点は、DELETE FORCE により解決できます。

IDC31335I CANNOT DEFINE *file-id*

説明: メッセージに示されている対象をリストア前に定義しているときに、エラーが起きました。このメッセージの後には、必ずメッセージ IDC31316I が続きます。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象をリストアしません。ただし、その対象の既存の古いバージョンは、すでに削除されていることがあります。次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: メッセージ IDC31316I に示されているカタログ戻りコードおよび理由コードを分析し、エラーを訂正し、その対象を再びリストアしてください。

IDC31336I CANNOT RESTORE SAM ESDS *file-id*

説明: SAM 機能のための VSAM スペース管理が組み込まれていないシステムに、SAM ESDS をリストアしようとしています。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: SAM 機能のための VSAM スペース管理が組み込まれているシステムで、ファイルをリストアしてください。

IDC31337I CANNOT RESTORE *file-id* WITH SPECIFIED MODIFICATIONS

説明:

- リストア対象のオブジェクトの、スペース割り振り情報を変更しようとした。バックアップ・コードの作成元とは異なる装置タイプにリストアを指定したか、RESTORE コマンドに DATARECORDS または INDEXCISIZE パラメーターを指定しました。この修正により、次の対象特性のいずれか 1 つが変更されます。これらのファイル特性は、BACKUP から RESTORE に変更することができません。
 - データ・コンポーネントの制御域のサイズ (スパンしている ESDS のみ)
 - データ・コンポーネントの制御インターバルのサイズ (任意のファイル)
- FBA/SCSI デバイスまたはラージ DASD に、以下の KSDS クラスターをリストアしようと試みました。
 - キーの長さが 55 より大きく、データ CISIZE は 4096 バイトより小さい
 - キーの長さが 35 より大きく、データ CISIZE は 2048 バイトより小さい
 - キーの長さが 6 より大きく、データ CISIZE は 1024 バイトより小さい

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象のリストアを終了します。ただし、対象は、カタログ内にすでに定義されています。VSAM は、対象をカタログから削除しようと試みます。削除の成否は、後続メッセージにより知らせます。次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: EXPORT RECORDMODE および IMPORT を使用して、対象を新しいボリュームに移動してください。または、対象の特性を変更せずにその対象をリストアしてください。EXPORT/IMPORT または REPRO を使用し、クラスターを異なるデバイス・タイプ (FBA、SCSI、またはラージ DASD) に移動してください。

IDC31338I CANNOT EXTEND *file-id*

説明: 指定された対象のリストア中に、2 次スペースを割り振ろうとしたが失敗しました。次の理由が考えられます。

- これ以上スペースが定義されていない。
- 2 次割り振りができない。
- UNIQUE コンポーネントには、スペースの大きさが不十分。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。メッセージに示されている対象は部分的にリストアされますが、使用可能ではありません。その対象の既存の古いバージョンは、すでに削除されている場合があります。新しい対象は、すでに定義されています。新しい対象の削除を試みてください。削除の成否は、後続メッセージにより知らせます。次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: DASD スペースを十分に用意して、対

象をリストアしてください。IDCAMS RESTORE の DATARECORDS() パラメーターを使用して、適切な 1 次および 2 次割り振りを指定しなければならない場合があります。

IDC31339I MORE THAN 255 LEVELS FOR *file-id*

説明: 対象の索引の再組み立てには、255 よりも多くの索引レベルが必要です。これは、索引制御インターバル・サイズが 512 バイトでは不十分なことに起因しています。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。メッセージに示されている対象は部分的にリストアされますが、使用可能ではありません。その対象の古いバージョンは、すでに削除されていることがあります。新しい対象は、すでに定義されています。新しい対象の削除を試みます。削除の成否は、後続メッセージにより知らせます。次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: ファイルは、他のリソースからリストアする必要があります。より大きな索引制御インターバル・サイズでファイルを定義し直してください。

IDC31340I BACKUP FILE IN ERROR

説明: 以下のいずれかの理由により、RESTORE が失敗して取り付けられたテープを読み取れませんでした。

- 取り付けられたテープ・ファイルがバックアップ・ファイルではないか、または間違ったデータがある。
- 取り付けられたテープは標準ラベルで作成されており、RESTORE コマンドには STDLABEL パラメーターが指定されていない。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) は 12 に設定され、RESTORE コマンドの処理は終了します。

プログラマーの応答: 正しいバックアップ・ファイルを用意して、コマンドを再実行してください。

IDC31341I INCOMPLETE BACKUP COPY OF *file-id*

説明: メッセージに示されている対象のリストア中に、バックアップ・ファイルに予期しない対象の終わりがありません。その原因は、テープ・ファイルがバックアップ・ファイルではないか、または、対象のバックアップの終了が早すぎたためです。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。メッセージに示されている対象は部分的にリストアされますが、使用可能ではありません。その対象の既存の古いバージョンは、すでに削除されている場合があります。新しい対象は、すでに定義されています。新しい対象の削除を試みます。削除の成否は、後続メッセージにより知らせます。次の対象からリストアを試みます。

プログラマーの応答: 正しいバックアップ・ファイルが使用されていたか調べてください。使用されていない場合は、正しいバックアップ・ファイルを使用して、対象をリストアしてください。さもなければ、対象の前のバックアップ・コピーをリストアしてください。

IDC31342I RESTORE TERMINATED. FAILURE TO MOUNT BACKUP VOLUME

説明: バックアップ・ファイルのボリュームを取り付けるよう要求されたときに、オペレーターは、CANCEL と応答しました。

システムの処置: 条件コードを 12 にセットして、RESTORE コマンドの処理を終了します。

プログラマーの応答: オペレーターが取り消しを行った原因を判別してください。

IDC31343I FUNCTION TERMINATED. MAXIMUM NUMBER OF ERRORS EXCEEDED

説明: 対象特定の誤りは最大 32 までしか許されていないのに、BACKUP もしくは RESTORE コマンドの実行中にそれを超えてしまいました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 にセットし、次のコマンドから処理を続けます。

プログラマーの応答: 誤りを訂正して、コマンドを実行し直してください。

IDC31344I CANNOT DEFINE *file-id* WITH SPECIFIED MODIFICATION

説明: メッセージに示されている対象の定義中に、VSAM がその対象をリストアできないというエラーが起きました。これは、バックアップ・コピーが作成された装置タイプとは異なる装置タイプのボリュームに対象をリストアしようとしたか、または、RESTORE コマンドに DATARECORDS または INDEXCISIZE を指定したためです。これらの属性を変更することにより、VSAM がファイルの制御域のサイズを変更する必要がある場合があります。新しい制御域のサイズは、次により異なります。

- 新しい装置タイプ
- バックアップ・ファイル用に指定されたスペース割り振り量 (RESTORE に DATARECORDS が指定されている場合は、無視されます)。

この結果、制御域のサイズがファイルの最大論理レコード・サイズよりも小さい場合は、この定義は失敗となります。

このメッセージの後には、常に、戻りコード 96 と理由コード 4 が示されて、メッセージ IDC31316I が続きます。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットし、メッセージに示されている対象をリストアしません。ただし、その対象の既存の古いバージョンは、すでに削除されていることがあります。次の対象からリストアを続行します。

プログラマーの応答: メッセージ IDC31316I に示されているカタログ戻りコードおよび理由コードを分析し、エラーを訂正し、その対象を再びリストアしてください。問題が再発する場合は、EXPORT RECORDMODE および IMPORT を使用して対象を移動するか、または、その対象のスペース割り振り情報を変更せずにその対象をリストアしてください。

IDC31346I NO BACKUP OF *file-id* - CANNOT RESTORE INHIBITED COMPONENT

説明: BACKUP の処理中に、メッセージに示された対象に少なくとも 1 つの更新禁止コンポーネントのあることがわかりました。INHIBITSOURCE または INHIBITTARGET のキーワードを EXPORT コマンドに使用するか、または INHIBIT キーワードを ALTER コマンドに使用することによって、コンポーネントは、使用禁止になります。更新禁止コンポーネントを RESTORE するのは不可能です。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 8 にセットします。メッセージに示されている対象をバックアップしません。次の対象からバックアップを続行します。

プログラマーの応答: アクセス方式サービス・プログラムの ALTER コマンドを使用して、メッセージに示された対象のコンポーネントの UNINHIBIT を行ってください。次にその対象をバックアップしてください。

IDC31348I INVALID OBJECT FOR *filename*

説明: バックアップ中に、以下のいずれかが発生しました。

1. 名前付きファイルが CI 形式以外のファイルです。管理 SAM 要求マクロは、CI 形式のファイルのみを支援します。
2. 名前付き SAM-ESDS ファイルが検出されましたが、VSAM SAM 機構はシステムにインストールされていません。

システムの処置: LASTCC 条件コードを 8 にセットします。メッセージに示されているファイルをバックアップしません。SAM 機構がインストールされている場合には、バックアップ操作を次のファイルで続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: バックアップ用に CI 形式以外のファイルを読み込むには、DTFPH および EXCP マクロを使用してください。

IDC31356I ERROR DURING DECOMPACTION

説明: 圧縮バックアップ・ファイルからのリストア時に、圧縮データ単位をもとに戻すことができませんでした。バックアップ・ファイルが一部上書きされているか、または損傷している可能性があります。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) は 12 に設定し、リストア処理を終了します。

プログラマーの応答: 可能であれば、以前に生成されたバックアップ・ファイルを使用してください。

IDC31360I GETVCE NOT SUCCESSFUL - RETURN CODE = *n*

説明: バックアップ操作またはリストア操作を行っているときに、バックアップ装置から装置特性またはトラック・バランスを得るために GETVCE マクロが出されましたが、正常に終了できませんでした。戻りコードが、この問題の理由を示します。通常は、作動可能でないか、操作可能なバックアップ装置がないことが原因です (GETVCE 戻りコードの意味については、「z/VSE System Macros Reference」の GETVCE マクロの説明を参照してください)。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、バックアップまたはリストア操作を終了します。

プログラマーの応答: 示された GETVCE 戻りコードを使用してエラーの原因の分析と除去を行い、ジョブを再実行してください。

IDC31361I INVALID DEVICE TYPE FOR BACKUP DEVICE

説明: 以下のいずれかの理由で、バックアップ装置が無効です。

- バックアップ (SYS005) またはリストア操作 (SYS004) に割り当てられた装置が、VSE/VSAM バックアップ/リストア・プログラムでサポートされるテープまたはディスク装置のどちらでもない。
- 装置がリストア操作のために SYS004 に割り当てられていない。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、バックアップまたはリストア操作を終了します。

プログラマーの応答: 正しいバックアップ装置つまり使用可能なバックアップ装置を割り当て、ジョブを再実行してください。

IDC31362I I/O ERROR DURING WRITE TO BACKUP DEVICE *cuu*

説明: ディスクのバックアップ時に、ディスク装置 *cuu* でリカバリー不能な入出力エラーが起きました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、バックアップ処理を終了します。

プログラマーの応答: 印刷されたバックアップ相互参照リストには、どの VSAM オブジェクトがすでに正常にバックアップされているのかが示されています。対象はこのバックアップ・ファイルからもリストアできます。バックアップ・ファイルを完成するには、まず // DLBL BACKOUT, '... カードが省略されていないことを確認する必要があります。必要があれば、カードをジョブ・ストリームに挿入してください。いずれにしても、別のディスク装置を割り当てるか、またはバックアップ操作に他のディスク・エクステントを定義して、ジョブを再実行してください。

IDC31363I DIRECTORY IS TOO LARGE FOR THE FIRST EXTENT ON VOLUME *volser*

説明: ディスク操作のバックアップ時に、バックアップ・ファイル・ディレクトリーが、占有された各ボリュームの最初のエクステントに書き込まれましたが、ボリューム *volser* の最初のエクステントが小さすぎるため、バックアップ・ファイル・ディレクトリーを収容できません。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、バックアップ処理を終了します。

プログラマーの応答: 示されたボリュームに新しいエクステントを定義して、バックアップ・ジョブを再実行してください。

IDC31364I NO MORE EXTENTS AVAILABLE FOR BACKUP FILE

説明: ディスク操作のバックアップを取得するために用意されたディスク・エクステントが使いきられましたが、バックアップ・ファイルは完成していません。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、バックアップ処理を終了します。

プログラマーの応答: より大きいエクステントまたは追加のエクステントをバックアップ・ファイルに定義し、バックアップ・ジョブを再実行してください。

IDC31365I INCORRECT DEVICE TYPE FOR NEW VOLUME *volser*

説明: ディスク操作のバックアップ時に、新しいボリュームが要求されました。新しいボリュームは (EXTENT ステートメントで) 用意されましたが、装置タイプまたは装置配置が前のボリュームのものとは異なるため、使用できません。同一のバックアップ・ファイルで占められているボリュームはすべて、装置タイプが同じでなければならず、またタイプが CKD または ECKD の場合は、トラック長が同じでなければなりません。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、バックアップ処理を終了します。

プログラマーの応答: 要求されたタイプの別ボリュームを用意して、ジョブを再実行してください。

IDC31366I EXTENT WITH LIMITS *low,high* ON VOLUME *volser* IS NOT A VALID BACKUP FILE EXTENT

説明: ディスク操作からのリストアを行っているときに、示された範囲 *low,high* を持つ、要求されたバックアップ・ファイル・ディスク・エクステントが (オープン処理によって) ボリューム *volser* 上に見つかりましたが、バックアップ・データが入っていません。メッセージは、次の 2 つの状況のうちのいずれかを示しています。

1. 最初のエクステントのレコードが、BOE (エクステントの始まり) レコードではない。
2. BOE レコードに、誤ったタイム・スタンプのような、無効な情報が入っている。

バックアップ・ファイルの一部または全部が上書きされているか、または異なるバックアップ・ファイルの一部が連結されているためであると考えられます。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、リストア処理を終了します。

プログラマーの応答: リストア・ジョブで与えた EXTENT ステートメントが正しいかどうかを調べてください。メッセージからのエクステント記述情報と、バックアップ・ファイル生成時に印刷されたバックアップ参照リストからのエクステント記述情報を比較してください。可能であれば、JCL ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

IDC31367I I/O ERROR DURING RESTORE FROM BACKUP DEVICE *cuu*

説明: ディスク操作からのリストア時に、ディスク装置 *cuu* でリストア不能な入出力エラーが起きました。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、リストア処理を終了します。

プログラマーの応答: リストア・プロトコルで、正常にリストアできた対象とリストアできなかった対象を知ることができます。対象を正常にリストアするために、新しいリストア・ジョブを作成し、実行することができます。リストアされなかった対象は、古いバックアップ・ファイルのような、他のソースから再生成する必要があります。

IDC31368I REQUIRED BACKUP FILE EXTENT ON VOLUME *volser* IS NOT AVAILABLE

説明: ディスク操作からのリストア時に、必要なバックアップ・ファイルのディスク・エクステントがボリューム *volser* に見つかりませんでした。

システムの処置: 条件コード (LASTCC) を 12 に設定し、リストア処理を終了します。

プログラマーの応答: 必要なボリュームについて、それぞれ EXTENT ステートメントがあるかどうかを調べてください。バックアップ・ファイル生成時に印刷された相互参照リストから、選択した対象をリストアするときに必要なボリュームのリストを取得することができます。メッセージに示されたボリューム *volser* が実際には使用可能である場合は、バックアップ・ファイルの一部が上書きされている可能性があります。可能であれば、欠落した EXTENT ステートメントを追加して、リストア・ジョブを再実行してください。

IDC31370I COMPRESSION CONTROL ERROR FOR *dsn*

説明: クラスタ *dsn* の IDCAMS BACKUP または RESTORE 中に、VSE/VSAM 圧縮制御サービス・エラーを検出しました。このエラーは、SYSLOG に書き込まれているメッセージ 4A91I によって詳しい内容がわかります。

システムの処置: 指定したクラスタは、それぞれバックアップまたはリストアしません。

プログラマーの応答: メッセージ 4A91I を参照してください。

IDC31372I BACKUP OF SNAPSHOT VOLUME TERMINATED. MISMATCH OF SOURCE AND TARGET VOLUME COUNT

説明: ソース・ボリューム数とターゲット・ボリューム数が一致しません。SOURCEVOLUMES パラメーター内のそれぞれのソース・ボリュームに、TARGETVOLUMES パラメーター内のターゲット・ボリュームが対応している必要があります。

システムの処置: BACKUP コマンドの処理を終了します。
プログラマーの応答: SOURCEVOLUMES パラメーター内のボリュームの数と TARGETVOLUMES パラメーター内のボリュームの数が同じになるように、どちらかのパラメーター内のボリュームを変更してください。

IDC32000I NUMBER OF SOURCEVOLUMES AND TARGETVOLUMES MUST BE EQUAL

説明: ソース・ボリューム数とターゲット・ボリューム数が一致しません。SOURCEVOLUMES パラメーター内のそれぞれのソース・ボリュームに、TARGETVOLUMES パラメーター内のターゲット・ボリュームが対応している必要があります。

システムの処置: SNAP コマンドの処理を終了します。SNAPSHOT コピーはとられませんでした。

プログラマーの応答: SOURCEVOLUMES パラメーター内のボリュームの数と TARGETVOLUMES パラメーター内のボリュームの数が同じになるように、どちらかのパラメーター内のボリュームを変更してください。

IDC32004I INSUFFICIENT GETVIS TO PERFORM SNAP COMMAND

説明: SNAP コマンドが、コマンド処理中に使用される内部ボリューム・リスト用に仮想記憶を獲得しようとしていたときに、障害が起きました。この算定は、SOURCE/TARGETVOLUMES パラメーター内のボリュームの数に基づいています。

システムの処置: SNAP コマンドの処理を終了します。

SNAPSHOT コピーはとられませんでした。

プログラマーの応答: 区画のサイズを増やして、コマンドを実行し直してください。

IDC32008I VOLUME PARAMETER LIST IS IMPROPER FOR IXFP/SNAPSHOT FUNCTION

説明: 与えられた SNAP コマンドから作成された内部ボリューム・リストが、IXFP/SNAPSHOT 機能で拒否されました。

システムの処置: SNAP コマンドの処理を終了します。

SNAPSHOT コピーはとられませんでした。

プログラマーの応答: SNAP コマンドに明らかなエラーがないか検査してください。原因が分からない場合は、問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡をとってください。

IDC32012I IXFP/SNAPSHOT FUNCTION RETURNED AN INVALID RETURN CODE

説明: IXFP/SNAPSHOT 機能が、この SNAP コマンドによって、SNAPSHOT コピーを行うために呼び出されました。この機能が、この SNAP コマンドで処理することのできない無効な戻りコードを返しました。これは内部エラーです。

システムの処置: SNAP コマンドの処理を終了します。すべての SNAPSHOT コピーがとられたとは限りません。

プログラマーの応答: コンソール出力を見て、IXFP/SNAPSHOT 機能から出されたメッセージ (メッセージ ID は IXFP です) がないか調べてください。問題判別のために、ジョブに関連するジョブ・ストリームおよびシステム出力 (SYSLST) を保管し、IBM 担当員に連絡してください。

IDC32016I VOLUME SERIAL *volser* IS NOT UNIQUE

説明: このメッセージに示されたボリューム通し番号は固有ではありません。これはソース・ボリュームまたはターゲット・ボリュームのいずれかです。

システムの処置: SNAP コマンドの処理を終了します。すべての SNAPSHOT コピーがとられたとは限りません。

プログラマーの応答: このボリュームをボリューム通し番号によって一意的に識別することができません。正しいボリューム通し番号を指定したこと、そのボリューム通し番号が固有であることを確認してください。

IDC32020I VOLUME SERIAL *volser* DOES NOT EXIST

説明: SOURCE/TARGETVOLUMES パラメーターに指定されたとおりのボリューム通し番号を持つ装置は見つかりませんでした。

システムの処置: SNAP コマンドの処理を終了します。すべての SNAPSHOT コピーがとられたとは限りません。

プログラマーの応答: 正しいボリューム通し番号を渡したことを確認し、装置が作動可能かつアクセス可能であることも確認してください。

IDC32024I VOLUME *volser* HAS AN INVALID DEVICE STATUS

説明: 指定されたボリュームの装置状況が無効です。

SNAPSHOT コピーをとるときは、ソース・ボリュームとターゲット・ボリュームが DVCUP でなければなりません。それ以外の場合は、装置を識別できなかったか、または装置が RVA 装置ではありません。

システムの処置: SNAP コマンドの処理を終了します。すべての SNAPSHOT コピーがとられたとは限りません。

プログラマーの応答: 装置が正しい装置状況を取得していることを確認してください。装置が READY かつ

OPERATIONAL であることを確認し、最終的に 'ONLINE cuu' コマンドを出してください。

IDC32028I IXFP/SNAPSHOT FUNCTION IS NOT AVAILABLE - PHASE \$IJBIXFP NOT FOUND

説明: フェーズ \$IJBIXFP が見つからなかったため、IXFP/SNAPSHOT 機能を実行できませんでした。

IXFP/SNAPSHOT が使用可能でないか、またはこのフェーズが SVA にロードされていません。

システムの処置: SNAP コマンドの処理を終了します。

SNAPSHOT コピーはとられませんでした。

プログラマーの応答: IXFP/SNAPSHOT サポート (オプション製品) を使用可能にするか、またはすでに使用可能になっている場合は、SET SDL インターフェイスを使用してフェーズ \$IJBIXFP を SVA にロードしてください。

IDC32040I IXFP/SNAPSHOT FUNCTION FAILED. RETURN CODE *nm* REASON *mm*

説明: IXFP エラーまたは例外条件の結果として、戻りコード (*nm*) および理由コード (*mm*) が IXFP/SNAPSHOT 機能から返されました。追加の IXFP メッセージ (メッセージ ID は IXFP です) が出力されます。通常は、戻りコードは 64 (X'40') になり、理由コードは IXFP メッセージからのメッセージ番号を表します。

システムの処置: 対応する IXFP メッセージに、このコマンドに対して取られた処置が示されます。

プログラマーの応答: コンソール上の特定の

IXFP/SNAPSHOT メッセージを調べるか、または理由コードを使用して IXFP メッセージ (IXFP*mm*) を識別してください。

IDC32103I THE PHASE FOR FUNCTION RECMAP COULD NOT BE LOADED

説明: フェーズ IDCRCMAP をロードできませんでした。このフェーズがシステムに存在しないか、または見つからないかのいずれかです。

システムの処置: 処理は停止します。

プログラマーの応答: このフェーズが存在することを確認し、コマンドを実行し直してください。

IDC32104I LE RUNTIME ERROR RC= *xxx*

説明: フェーズ CEEPIPI での例外条件の結果として、戻りコード (*xxx*) が LE 実行環境から返されました。

システムの処置: 処理は停止します。

プログラマーの応答: フェーズ \$IESVSDF がシステムに存在するかどうか調べてください。これらのエラーについては、「LE/VSE Programming Guide」で説明されています。

IDC32105I OPEN ERROR FOR RECORD MAPPING FILE IESMAPD

説明: ファイル IESMAPD をオープンできませんでした。

VSAM クラスター 'VSE.VSAM.RECORD.MAPPING.DEFS' が定義されていないか、または見つからないかのいずれかです。

システムの処置: 処理は停止します。

プログラマーの応答: このクラスターが存在すること、このクラスター用の有効なラベルが存在すること (デフォルト・カタログは VSESPUC です) を確認し、コマンドを実行し直してください。

IDC32106I RECMAP FUNCTION ERROR. *name* NOT FOUND

説明: *name* オブジェクトが見つかりません。 *name* は、次のいずれかです。

- COLUMN
- MAP
- VIEW

システムの処置: 処理は停止します。

プログラマーの応答: このオブジェクトが存在することを確認し、コマンドを実行し直してください。

**IDC32108I RECMAP FUNCTION ERROR. *name*
ALREADY EXISTS**

説明: *name* オブジェクトはすでに存在しています。 *name* は、次のいずれかです。

- COLUMN
- REFCOLUMN
- MAP
- VIEW

システムの処置: 処理は停止します。

プログラマーの応答: このオブジェクトの名前を変更し、コマンドを実行し直してください。

**IDC32109I RECMAP ERROR. REFCOLUMN NOT
FOUND IN MAP**

説明: ビューの列を定義または変更するときにマップ内の列を参照しようとしたのですが、その列が存在しません。

システムの処置: 処理は停止します。

プログラマーの応答: 最初にマップおよびその列を定義するか、または *refcolumn* の名前を既存の名前に変更してください。

**IDC32110I RECORD MAPPING FUNCTION ERROR.
RETURN CODE *nnn* FUNCTION *mmm***

説明: 例外条件の発生後の内部エラーの結果として、戻りコード (*nnn*) と機能コード (*mmm*) が RECMAP 機能から返されました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: このメッセージを正確に記録しておき、IBM 担当員に連絡してください。

**IDC32111I RECMAP ERROR. DECIMALPOS IS
INCONSISTENT WITH THE CURRENT
COLUMN TYPE**

説明: 列を変更するときに DECIMALPOS パラメーターを指定しましたが、そのパラメーターは定義時に設定した現行の列の TYPE と矛盾しています。

DECIMALPOS は以下の TYPE でのみ指定できます。

- PACKED
- UNPACKD
- ZONED
- UZONED

システムの処置: 処理は停止します。

プログラマーの応答: 列の TYPE を正しいタイプに変更してください。

**IDC32112I RECMAP FUNCTION ERROR. INVALID
DECIMALPOS VALUE SPECIFIED**

説明: DECIMALPOS 値は 10 進数のみを指定できます。10 進数には 0 から 9 および負の値用の「-」のみが使用できます。16 進数および 2 進数は指定できません。

システムの処置: 処理は停止します。

プログラマーの応答: DECIMALPOS 値を変更して、コマンドを再実行してください。

IDC32200I RACROUTE SUCCESSFULL

説明: RACROUTE 成功。

システムの処置: IXFP/SNAPSHOT/DDSR が出されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IDC32204I RACROUTE RESOURCE NOT
PROTECTED OR BATCH SECURITY=OFF**

説明:

1. RACROUTE リソースが保護されていません。
 - バッチ・セキュリティは有効ですが、対応する VSAMSNAP 機能が VSM に定義されていないか、対応する機能がアクティブではありません。すべての IXFP/SNAPSHOT/DDSR 要求が実行されます。
2. バッチ・セキュリティが無効です。
 - すべての IXFP/SNAPSHOT/DDSR 要求が実行されます。

システムの処置: IXFP/SNAPSHOT/DDSR が出されました。

オペレーターの応答: IDCAMS IXFP/SNAPSHOT/DDSR を、許可ユーザーのみに制限する必要がある場合は、バッチ・セキュリティを有効にし、対応する機能を定義してください。候補となる機能は、VSAMSNAP.COPY、VSAMSNAP.NOCOPY、VSAMSNAP.ALL です。

プログラマーの応答: なし。

**IDC32240I RACROUTE (AUTH) FAILED WITH
RETURN CODE *nn* REASON *mm***

説明: RACROUTE 機能が失敗し、RACROUTE (AUTH) の戻りコードおよび理由コードが示されました。

システムの処置: IDCAMS 機能を終了します。IDCAMS 操作は実行されません。このメッセージの後には、必ずレジスター 15 からの SAF 戻りコードに関する IDC32241I が続きます。

オペレーターの応答: RACROUTE (AUTH) の戻りコードおよび理由コードを確認します。エラーを訂正し、再実行します。

プログラマーの応答: なし。

**IDC32241I SAF RETURN CODE *nn* FOR RACROUTE
(AUTH)**

説明: RACROUTE 機能が失敗し、レジスター 15 からの SAF 戻りコードが示されています。

システムの処置: IDCAMS 機能を終了します。IDCAMS 操作は実行されません。このメッセージの前に、必ずメッセージ IDC32240I が出されています。

オペレーターの応答: SAF 戻りコードを確認してください。

エラーを訂正し、再実行します。

プログラマーの応答: なし。

第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード

このセクションは、メッセージ IDC0508I-IDC0511I、IDC3007I、もしくは IDC3323I (戻りコードのみ) または IDC3009I もしくは IDC3324I の一部として表示される場合のある、IDCAMS 戻りコードおよび理由コードをリストして説明しています。

これらのメッセージは戻りコードと理由コードを常に 10 進数で表示します。戻りコードと理由コードは VSAM カタログ管理プログラムに対する IDCAMS 要求 (すなわち、定義、変更、削除、探索、およびカタログ・オープン) の結果です。

理由コードがシステム・エラーを示していない限り、その記述にはプログラマー応答が推奨されています。システム・エラーの場合は、下に示す段落への参照が表示されます。説明に特に示されていない限り、カタログ管理要求は実行されません。

システム・エラー

DELETE 処理が失敗に終わった場合、DELETE IGNOREERROR コマンドを出して、中断された DELETE ジョブによって残されている部分的なカタログ・データを除去してください。DEFINE 処理が失敗に終わった場合、DELETE IGNOREERROR コマンドを出して、中断された DEFINE ジョブによって残された部分的なカタログ・データを除去してください。それから DEFINE ジョブを再サブミットしてください。それでもエラーが繰り返されるようであれば、あるいはその障害が DELETE または DEFINE の際に起きなければ次のようにしてください (明示的に注記されていない限り)。

1. 失敗したジョブまたはジョブ・ステップ入力 (カードまたはリスト) を保管してください。
2. SYSLST 出力を保管し、もし可能であれば、問題判別のために SYSLOG 出力も保管してください。
3. 標準 (永続) ラベル情報が使用された場合、LSERV を実行し、SYSLST 出力を保管してください。
4. メッセージ 1I51I が SYSLOG または SYSLST 上に現れる場合、識別されたダンプを SYSDUMP ライブラリーから印刷してください。ダンプは、このステップに関連するエラーに対してのみ、そして SYSDUMP が割り当てられている場合にのみ、生成されます。
5. IBM サポートに連絡してください。

戻りコード	理由コード	解説
0	4	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』 を参照してください (ステップ 4)。</p> <p>説明: これは警告です。レコードが削除されたフリー・チェーンから読み取られましたが、フリー (タイプ 'F') レコードではありませんでした。 VSAM はフリー・チェーンが壊されているものと見なし、除去します。 このチェーン・レコードは失われています。 現在、削除されたフリー・チェーンには何も入っていませんが、使用可能です。 レコードは、通常の方法でその連鎖に追加されます。 このような破損は通常、カタログ操作時にシステムで障害が発生したために起きます。</p>
	8	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』 (ステップ 4)。</p> <p>説明: これは警告です。割り振られていないフリー・チェーンが、割り振られていないような既存のレコードを指し示していました。 リカバリーが実行され、このレコードはバイパスされました。 このような問題は通常、カタログ操作時にシステムで障害が発生したために起きます。</p>
4	2	<p>説明: カタログのオープン中にエラーが発生しました。</p> <p>プログラマーの応答: SYSLOG 出力を検査し、メッセージ 4228I で与えられたエラー・コードを調べてください。 このエラー・コードは、VSAM OPEN によって出されるもので、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で説明されています。</p>
	4	<p>説明: カタログのクローズ中にエラーが発生しました。</p> <p>プログラマーの応答: SYSLOG 出力を検査し、メッセージ 4228I で与えられたエラー・コードを調べてください。 このエラー・コードは、VSAM CLOSE によって出されるもので、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で説明されています。</p>
	8	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』 (ステップ 4)。説明: これは内部エラーです。カタログ管理に ACB が与えられましたが、その ID が X'A0' ではありませんでした。IDUMP が出されています。このエラーは、問題プログラムが、所有していないストレージをオーバーレイするときに起きます。</p>
	10	<p>説明: マスター・カタログ中のユーザー・カタログ項目が見つかりません。</p> <p>プログラマーの応答: 以下のようなエラーの可能な原因について調べ、必要な訂正を行ってから、ジョブを再実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複数のマスター・カタログがあるときは、IPL 時に正しいマスター・カタログが使用されたかを調べてください。 • カタログ名のつづりが正しいことを確かめてください。 • LISTCAT コマンドを使用して、ユーザー・カタログがエクスポートされたか、または削除されたかを確かめてください。

戻りコード	理由コード	解説
8	2	<p>システム・エラー。『システム・エラー』を参照してください。 (ステップ 4)</p> <p>説明: カタログ DELETE 中に、カタログのクラスター・レコードが、その正規の位置 (3 番目の自己記述レコード) に見つかりませんでした。 IDUMP が出されています。</p>
	4	<p>説明: カタログ入出力ルーチンがカタログからフリー・レコードを読み取りました。</p> <p>プログラマーの応答: このエラーは、アクセス方式サービスの削除操作が完了しなかったため、一部の構造がカタログに残ったときに起きることがあります。 IGNOREERROR を DELETE コマンドに追加して、再度受け渡してください。削除操作が原因でないときは、IBM サポートに連絡してください。メッセージ 1I51I が SYSLOG または SYSLST に現れたときは、IBM サポートに連絡する前に、SYSDUMP ライブラリーから識別されたダンプを印刷してください。</p>
	6	<p>説明: VSAM カタログのレコードの読み取り要求が出されましたが、「レコードが見つからない」条件が生じました。これは、要求された名前の対象がそのカタログに定義されていないことを意味します。</p> <p>プログラマーの応答: 以下のようなエラーの可能な原因について調べ、必要な訂正を行ってから、ジョブを再実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 項目名のつづりが誤っている可能性があります。 DELETE コマンドに誤った項目タイプが指定されている可能性があります。 IMPORT コマンドでこのエラーが起きた場合は、インポートされたデータおよび索引コンポーネント名が既存のカタログの項目名と一致していないことを確かめるために、適切な処置を行ってください。IMPORT コマンドで NEWNAME パラメーターが指定されていた場合は、OBJECTS 項目名が、エクスポートされたコンポーネントの名前と一致するかを確かめてください。
	8	<p>説明: キーによってレコードをカタログに入れる要求が出されましたが、重複キー・エラーになりました。</p> <p>プログラマーの応答: カタログにすでに存在する名前を定義しようとしたか、カタログにインポートしようとしたか、クラスターまたは代替索引の場合は、クラスターまたはデータまたは索引コンポーネント名が原因で、重複名条件が起こった可能性があります。対象とその対象タイプがカタログの中にあるかを調べるために、LISTCAT ENTRIES (entry name) を実行してください。</p>
	12	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4)。</p> <p>説明: この内部エラーは、バッファー・チェーンにあると思われるレコードが存在していないことを示すものです。 IDUMP が出されています。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	14	<p>説明: アクセス方式サービス DELETE 操作中にフリー・レコードが読み取られました。</p> <p>プログラマーの応答: カタログ中の部分構造の結果として、このエラーが起きました。部分構造の例としては、データおよび索引レコードは存在しているが、関連するクラスター・レベル・レコードが存在していないクラスターがあります。これは、DEFINE または DELETE コマンドのカタログ更新時にシステム障害が発生したときに起きます。DELETE コマンドに IGNOREERROR を指定して、DELETE を出してください。失敗したコマンドが DEFINE であるときは、DEFINE を再実行してください。</p>
16	0	<p>説明: CYLINDER パラメーターがアクセス方式サービス DEFINE コマンドまたは (固有ファイルの) IMPORT(RA) コマンドの内部定義で指定されましたが、(a) ORIGIN パラメーター値がシリンダー境界から開始されていないか、または (b) ファイル・パラメーター値について、対応する DLBL ステートメントおよび EXTENT ステートメントで見つかったエクステントがシリンダー境界で開始または終了していません。DEFINE コマンドの処理中に、このエラーはマスター・カタログ、ユーザー・カタログ、VSAM データ・スペース、UNIQUE 属性を持つクラスター索引または代替索引のいずれかで起きる可能性があります。</p> <p>プログラマーの応答: ORIGIN パラメーターまたは EXTENT ステートメントを、ボリューム通し番号パラメーターで識別された装置タイプのシリンダー境界を反映するように訂正してください。あるいは、スペースまたはカタログ定義の場合は、TRACKS または RECORDS パラメーターを使用して、スペース割り振りを指定してください。次に、コマンドを実行し直してください。固有に割り振ったコンポーネントのエクステントはシリンダー境界になければならないことに注意してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
20	すべて	<p>説明: カタログまたはカタログ・リカバリー域がいっぱいです。所要のクラスの VSAM スペースが不足しているため、カタログまたは CRA を常駐させるボリュームに 2 次割り振りをすることができないか、または最大エクステント数 (16) に達しています。</p> <p>プログラマーの応答: 2 次メッセージの中の 10 進エラー・コードは、VSAM 要求マクロからのものです。1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照してください。ボリュームで不要になった非 VSAM ファイルをスクラッチしてから、DEFINE SPACE コマンドを受け渡して、要求されたクラスの追加 VSAM スペースを使用可能にしてください。あるいは、不要になった VSAM ファイル、経路項目、または非 VSAM 項目を削除してください (両方行ってもかまいません)。あるいは、そのカタログに必要なクラスに変更して、使用可能な VSAM データ・スペースを削除および再定義してください。カタログのエクステントが 16 に達したときは、カタログのすべての対象を EXPORT(RA) し、カタログが所有しているすべてのボリュームを DELETE SPACE FORCE して、より大きい 1 次割り振りまたは 2 次割り振りを持つカタログを再定義し、すべてのボリュームで DEFINE SPACE(s) を行い、以前にエクスポートされた対象をすべて IMPORT(RA) してください。LISTCAT により、カタログのスペース・クラスがわかります。CRA は、任意のスペース・クラスに 2 次割り振りすることができます。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
24	2	<p>説明: カタログから情報を読み取ろうとした (LOCATE) ときに、入出力エラーが起きました。</p> <p>プログラマーの応答: SYSLOG からの出力でメッセージ 4222I、4223I、および 4224I を調べてください。問題の原因がハードウェア・エラーでない場合は、カタログをリストアまたは再作成してください。</p>
	4	<p>説明: カタログ検査操作中に入出力エラーが起きました。</p> <p>プログラマーの応答: SYSLOG からの出力でメッセージ 4222I、4223I、および 4224I を調べてください。問題の原因がハードウェア・エラーでない場合は、カタログをリストアまたは再作成してください。</p>
28	2	<p>説明: カタログの修正を必要とするアクセス方式サービス・コマンドの処理中に、入出力エラーが起きました。</p> <p>プログラマーの応答: SYSLOG からの出力でメッセージ 4222I、4223I、および 4224I を調べてください。1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で識別されたエラーがデータの損傷を示している場合は、カタログをリストアまたは再作成する必要があります。カタログの LISTCAT ALL は、損傷の状態と、まだアクセスできる項目を調べるときに役立ちます。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	4	<p>説明: 既存のカタログの OPEN が実行されているときに、入出力エラーが起きました。</p> <p>プログラマーの応答: SYSLOG からの出力でメッセージ 4222I、4223I、および 4224I を調べてください。メディア・エラーが原因の場合は、カタログをリストアまたは再作成してください。</p>
32	2	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4)</p> <p>説明: この内部エラーは、更新拡張のためのカタログ・パラメーター・リスト (CPL) で要求されたデータを、カタログ管理プログラムが返すことができなかったことを示しています。IDUMP が出されています。</p>
36	2	<p>説明: ALTER コマンドで読み取られたファイル名のレコード・タイプが正しくありませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: ALTER コマンドで正しい名前が指定されているかを調べて、コマンドを再発行してください。</p>
	4	<p>説明: 固有のデータまたは索引コンポーネントに対する ALTER NEWNAME コマンドが出されましたが、VTOC で古い名前が見つかりませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: 正しいボリュームが取り付けられていることを確かめてください。ボリュームについて LVTOC プログラムを実行してください。VTOC 項目が見つからない場合は、ファイルを削除して、バックアップ・コピーから再ロードしてください。</p>
40	0	<p>説明: VSAM カタログ管理プログラムがカタログ情報を返すことができるように、仮想記憶が要求されましたが、ストレージを十分に確保できませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: より大きい区画でコマンドを再実行してください。</p>
44	2	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4)。</p> <p>説明: DELETE CATALOG 中に、カタログ作業域が小さすぎることがわかりました。アクセス方式サービスはより大きい作業域を用意する必要があります。</p>
	4	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4)。</p> <p>説明: カタログが大きすぎるため、必要なカタログ作業域サイズが開発における制限を超えています。</p> <p>プログラマーの応答: IBM サポート・センターに連絡してください。</p>
48	2	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4)。</p> <p>説明: 無効なカタログ・パラメーター・リスト (CPL) がカタログ管理ドライバーに渡されました。IDUMP が出されています。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	4	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』（ステップ 4）。 説明: DEFINE 時に正しくないマスター・カタログ ACB が見つかりました。 IDUMP が出されています。
	6	説明: 非 VSAM ファイルを変更するために、アクセス方式サービス ALTER コマンドを使用して、NEWNAME 以外の試みが行われました。 プログラマーの応答: 非 VSAM ファイルに対しては、NEWNAME を除いて、AMS ALTER コマンドは無効です。 項目を削除および再定義してください。
	8	説明: ALTER コマンドを使用して、カタログ名を変更しようとした。 プログラマーの応答: カatalog名を変更することができません。 誤ってカatalog名を指定していないかを調べてください。 カatalogの名前を変更したいときは、これを削除して新たに再定義してください。
	20	説明: カatalog・ボリュームの DELETE SPACE コマンドで FORCE パラメーターが指定されました。 カatalog・ボリュームで空でないデータ・スペースを削除することはできません。 プログラマーの応答: FORCE パラメーターは、カatalogの入ったボリュームに対する DELETE SPACE コマンドで指定された場合は、無効です。 削除したいボリュームにあるすべての VSAM ファイルを削除してください。 カatalogを削除したいときは、最初に項目をすべて削除しなければなりません。 その後、FORCE パラメーターを指定せずに、DELETE SPACE コマンドを出してください。
	34	説明: NOCIFORMAT SAM ESDS の DELETE 要求で、ERASE が指定されました。 DELETE は実行されませんでした。 プログラマーの応答: ERASE パラメーターを除去して、DELETE コマンドを再実行してください。
52	すべて	説明: 共通 VTOC ハンドラー (CVH) からカatalog管理にエラーが渡されました。 示された理由コードは、CVH 戻りコードを表しています。 CVH 戻りコードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」の『共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコード』トピックを参照してください。 プログラマーの応答: 共通 VTOC ハンドラー (CVH) 戻りコードのエラー記述を参照して、問題の訂正を試みてください。 訂正できない場合、IBM サポートに連絡してください。 以下に複数の CVH 戻りコードをリストします。これは VSAM では特殊な意味があります。
	8	説明: EXTENT ステートメントで、存在しないボリュームを指定したか、SYSxxx 番号が割り当てられていません。 プログラマーの応答: EXTENT ステートメントの SYSxxxx 仕様を変更してください。

戻りコード	理由コード	解説
	12	<p>説明: 指定された EXTENT は、VSAM カタログで認識しているスペース外にあります。次のいずれかの原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VSAM カタログで認識しているスペース外に固有ファイルが定義されている。または • 拡張領域内に開始点を設定する ORIGIN パラメーターを使用してカタログ・データ・スペースが拡張 DASD 上に定義されている。または • 割り振りの終わりが拡張領域内になるよう強制する ORIGIN パラメーターを使用して、カタログ・データ・スペースが拡張 DASD 上に定義されている。 <p>プログラマー応答: EXTENT ステートメントおよび指定した ORIGIN と割り振り値を確認して、割り振り範囲全体が VSAM カタログに認識されたスペース内に収まり、DASD の非拡張部分の内側になるようにします。</p>
	28	<p>説明: 指定されたエクステントが、未満了ファイルのエクステントとオーバーラップします。</p> <p>プログラマーの応答: 以下のいずれかを行って、エクステントがオーバーラップしている個所を見つけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ORIGIN パラメーターとスペース割り振りパラメーターを、VTOC 表示で指定された高・低エクステントと比較する。 • EXTENT ステートメントの FILE パラメーターで定義された高・低エクステント範囲を、VTOC 表示で指定されたエクステント範囲と比較する。 • エクステント範囲がラベル域にある場合、LSERV を行って範囲を見つけ、VTOC 表示のエクステント範囲と比較する。 <p>エクステントがオーバーラップしていれば、エラーのある EXTENT ステートメントまたは ORIGIN パラメーターを訂正して、ジョブを再実行してください。</p>
	32	<p>説明: 指定されたエクステントが、保護されている未満了ファイルのエクステントとオーバーラップしています。</p> <p>プログラマーの応答: 以下のいずれかを行って、エクステントがオーバーラップしている個所を見つけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ORIGIN パラメーターとスペース割り振りパラメーターを、VTOC 表示で指定された高・低エクステントと比較する。 • EXTENT ステートメントの FILE パラメーターで定義された高・低エクステント範囲を、VTOC 表示で指定されたエクステント範囲と比較する。 • エクステント範囲がラベル域にある場合、LSERV を行って範囲を見つけ、VTOC 表示のエクステント範囲と比較する。 <p>エクステントがオーバーラップしていれば、エラーのある EXTENT ステートメントまたは ORIGIN パラメーターを訂正して、ジョブを再実行してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	36	<p>説明: 指定されたエクステントが、VTOC のエクステントとオーバーラップしています。</p> <p>プログラマーの応答: LVTOC を実行してください。形式 4 の VTOC ラベル (VTOC 表示の最初のラベル) は VTOC エクステント範囲を含みます。実行中のプログラムが一時ラベル・セットを使用し、VTOC をオーバーラップする場合、ORIGIN パラメーターと空間割り振りパラメーターか、FILE パラメーター、またはオーバーラップを行う EXTENT ステートメントを訂正してください。ジョブが標準または区画標準ラベルを使用する場合、LSERV を実行し、出力を使用して、オーバーラップするファイルか VSAM データ・スペースを訂正して、適切なラベル・トラックを再構築してください。</p>
	40	<p>説明: エクステントが指定されていないか、FBA エクステント仕様を丸めた結果、エクステントが 0 になりました。</p> <p>プログラマーの応答: エクステントを指定してジョブを再実行してください。FBA 装置の場合、エクステント制限を増やしてください。</p>
	56	<p>説明: 指定されたエクステントが、保護されている満了ファイルのエクステントとオーバーラップしています。</p> <p>プログラマーの応答: ORIGIN パラメーターに割り振りパラメーターまたは FILE パラメーターを加えた高・低エクステント範囲か、EXTENT ステートメントまたは LSERV 出力の高・低エクステント範囲を、VTOC 表示のファイルまたはデータ・スペース範囲と比較してください。エクステントがオーバーラップしている場合は、エラーのあった EXTENT ステートメントを訂正してください。</p>
	64	<p>説明: GETVIS の障害が起きました。</p> <p>プログラマーの応答: さらに GETVIS スペースを割り振るか、またはより大きい区画でジョブを再実行してください。</p>
	72	<p>説明: CDLOAD が失敗しました。</p> <p>プログラマーの応答: より大きい区画でジョブを再実行してください。これが効果のないときは、IBM サポートに連絡する前に、IKQVLAB がシステム・ライブラリーにあるかどうかを調べてください。</p>
	80	<p>説明: 指定されたエクステントが、互いにオーバーラップしていません。</p> <p>プログラマーの応答: DLBL および EXTENT ステートメントがプログラムに組み込まれているときは、矛盾したエクステントを調べ、訂正してください。標準ラベル・セットが使用されているときは、LSERV を実行し、出力を使用して、矛盾するファイル・エクステントを見つけ、訂正してください。その後、標準ラベルのエクステントを作り直してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
56	2	<p>説明: 指定された最大回数の試行が SYSLOG のメッセージ 4221A で行われましたが、システム・オペレーターは正しいパスワードを指定できませんでした。 コマンドはパスワードを省略されています。</p> <p>プログラマーの応答: コマンドまたはオペレーターに正しいパスワードを与えて、コマンドを再発行してください。</p>
	6	<p>説明: アクセス方式サービス・コマンドからパスワードが省略されているか、ファイルまたはカタログへのアクセスに必要なパスワードが正しく指定されておらず、またオペレーター・プロンプトも許可されていませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE パラメーターまたは ALTER ATTEMPTS パラメーターでオペレーター・プロンプトを許可するか、または正しいパスワードをコマンドに指定してください。</p>
	8	<p>説明: コマンドがパスワードを省略したか、またはマスター・パスワードを指定しなかったため、ユーザー指定の検査ルーチンがファイルまたはカタログへのアクセス許可を与えませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: コマンドに必要なパスワードを指定するか、ユーザー指定の検査ルーチンを調べるか、またはその両方を行ってください。 ファイルまたはカタログへのアクセスが許可されたときは、制御権をカタログ検査ルーチンに返す前に、レジスター 15 をゼロに設定する必要があります。</p>
	12	<p>説明: (指定またはデフォルトされた) SCRATCH オプションを持つ DELETE NONVSAM が原因で、VSAM スペース管理プログラム・スクラッチ・ルーチンのセキュリティ違反が起きました。ファイル VTOC 項目は、データ保護ファイルを示します。</p> <p>プログラマーの応答: セキュリティ非 VSAM 項目を VSAM によって削除することはできません。 セキュリティ非 VSAM ファイルを削除するときは、NOSCRATCH オプションを指定してください。 安全保護ファイルをスクラッチしたいときは、安全保護ファイルと同じファイル ID を使用して DTF をオープンし、メッセージ 4n33A が出されたときに DELETE で応答するようにオペレーターに指示してください。</p>
58	0	<p>説明: レコードの追加が試みられましたが、追加を行うと、ファイルの合計サイズが X'FFFFFFFF' (4.3 GB) を超えてしまいます。要求は拒否されました。</p>
	4	<p>説明: ファイルまたはカタログを定義する試みがなされましたが、1 次割り振りの高割り振り RBA (HALRBA-OR-CI) が X'FFFFFFFF' (4.3 GB - または XXL KSDS 用 CI の数) を超えました。</p>
	12	<p>説明: オプション NOALLOCATION でファイルを定義しようとしたが、後のスペース割り振りで 1 次の高割り振り RBA (HALRBA-OR-CI) が X'FFFFFFFF' (XXL KSDS で 4.3 GB) を超えました。ファイル定義は拒否されます。</p>

戻りコード	理由コード	解説
60	すべて	この戻りコードにリストされているすべての理由コードに対するプログラマーの処置は同じです。 <ul style="list-style-type: none"> 理由コードがシステム・エラーを示していないときは、コマンドで指定された項目の名前が正しいか、または機能の有効なタイプが要求されていることを確かめてください。LISTCAT を実行することにより、カタログ項目が現在も有効であるかどうかを調べてください。 理由コードがシステム・エラーを示しているときは、IBM サポートに連絡する前に、DUMP オプションを指定した PRINT コマンドでカタログをリストし、問題判別のために SYSLST 出力とともに出力を保管しておいてください。
0		カタログを削除しようとしたが、項目タイプが指定されていません (MASTERCATALOG)。
4		説明: 無効な項目タイプ (例: CLUSTER、AIX)。
6		説明: 無効な項目タイプ (例: AIX または CLUSTER) を使用して、属性を変更しようとした。
8		説明: 無効な項目 (例: CLUSTER、AIX、または INDEX) を使用して、BUFFERSPACE パラメーターを変更しようとした。
10		説明: 無効な項目タイプ (例: CLUSTER または AIX) を使用して、FREESPACE または WRITECHECK パラメーターを変更しようとした。
12		説明: 無効な項目タイプ (DATA、INDEX 以外) を使用して、ボリュームを変更しようとした。
14		システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』 (ステップ 4)。説明: ボリュームの ADD 時のテスト・カタログ・パラメーター・リスト (CPL) のエラー。IDUMP が出されています。
16		システム・エラー。上記の 239 ページの『システム・エラー』 (ステップ 4)。説明: AIX G レコード関連が、'D'、'I'、または 'C' のいずれでもありません (AIX は KSDS ではありません)。
18		システム・エラー。上記の 239 ページの『システム・エラー』 (ステップ 4)。説明: 更新セット Y レコード関連が 'D' または 'I' のいずれでもありません。
20		システム・エラー。上記の 239 ページの『システム・エラー』 (ステップ 4)。説明: 基本クラスター・データ・レコードの中の 'Y' 関連が、'Y' レコードを指していません。
22		システム・エラー。上記の 239 ページの『システム・エラー』 (ステップ 4)。説明: 'C' レコードの 'D' 関連が 'D' レコードを指していません。
24		説明: UPGRADE または UPDATE が、それぞれ代替索引またはパスでない項目に試みられました。
26		説明: EXCEPTIONEXIT を変更しようとしたが、項目がデータまたは索引コンポーネントではありません。
28		説明: 平均 RECORDSIZE を変更しようとしたが、項目がデータまたは索引コンポーネントではありません。
30		説明: 満了日付を変更しようとしたが、項目がクラスター、代替索引、パス、カタログのいずれでもありません。
32		説明: リカバリー可能カタログの非 VSAM 項目に、DELETE、DEFINE、または ALTER のいずれかのコマンドを使用しようとした。VSE はリカバリー可能カタログの非 VSAM 項目をサポートしません。

戻りコード	理由コード	解説
	34	<p>説明: NOALLOCATE データ・セットに関連する候補ボリュームのリストからボリュームを除去しようとしたが、このボリュームは CRA ボリュームでもリストの最後のボリュームでもありません。システムは、正しく除去できる REMOVEVOLUMES リストの任意のボリュームを除去します。CRA ボリュームまたは最後のボリュームは除去されません。</p>
	36	<p>説明: ファイルを変更しようとしたが、そのファイルはすでに別のユーザーに対してオープンされています (共用 DASD 環境にいる可能性があります)。</p> <p>プログラマーの応答: 後で (ファイルが使用されていないとき) ALTER コマンド指定とともにジョブを再実行してください。</p>
	38	<p>説明: IMBED パラメーターで定義されたクラスタの索引部分にボリュームを追加しようとした。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE コマンドの VOLUMES パラメーターに十分なボリュームを指定してください。</p>
	40	<p>説明: このボリュームを既に候補として持つオブジェクトにボリュームを追加しようとした。Request rejected.</p>
64	2	<p>システム・エラー。239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4) を参照してください。説明: テスト・フィールド名が、データ・スペース・グループ・オカレンスに存在しません。</p>
	4	<p>システム・エラー。239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4) を参照してください。説明: 関連名が存在しません。</p>
	6	<p>システム・エラー。上記の 239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4)。説明: F フィールド名の LOCATE 中に、'D' または 'I' コンポーネントの固定ブロック装置特性の取り出しで、システム・エラーが起きました。LOCATE は戻りコード 0 を返しましたが、要求情報を返せませんでした。</p>
68	2	<p>説明: 固有 VSE ファイルを拡張しようとした。2 次割り振りされたファイル (およびカタログ) のみ拡張することができます。</p> <p>プログラマーの応答: VSE では固有ファイルを拡張できません。より大きいか、より多くのエクステントを持つファイルを再ロードするか、非固有ファイルとして再定義して再ロードしてください。</p>
	4	<p>説明: 1 次割り振りがオーバーフローしましたが、2 次割り振り値が指定されていませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: ファイルを再ロードして、2 次スペース割り振り値、より大きい 1 次スペース値、または追加ボリュームを指定してください。</p>

戻りコード 理由コード

解説

6 説明: 適格ボリュームで、既存のファイルにスペースを 2 次割り振りするためのクラス 0 スペースが不足しています (拡張機能)。

プログラマーの応答: 次のいずれかの方法で、2 次割り振り用のクラス 0 スペースを用意してください。

- ボリューム上により多くのクラス 0 スペースを定義する。
- 使用されていないファイルを削除して、より多くのクラス 0 スペースを使用可能にする。
- ALTER コマンドの ADDVOLUMES パラメーターを使用して、新しいボリューム上により多くのファイルのためのクラス 0 スペースを与える。
- 割り振り中のファイルに対する 2 次割り振り量 (新しいボリュームに拡張する場合は、1 次割り振り量) を減らす。

12 説明: 再使用可能ファイルで、1 ボリュームにつき 16 エクステンットの限度を超えています。

プログラマーの応答: 以下を 1 つ以上使用して、ファイルを再ロードしてください。

- より大きい 1 次割り振り
- より大きい 2 次割り振り
- 追加ボリューム

16 説明:

- データ・スペース割り振りに対する DEFINE SPACE コマンドで、以下の中でエクステンットの丸めが指定されています。
 1. ORIGIN パラメーターとスペース割り振りパラメーター、または
 2. EXTENT ステートメントの FILE パラメーター
 これらについて、データ・スペースの割り振りが行われませんでした。複数エクステンットが与えられたときは、このパラメーターはすべて、スペース割り当てなしに丸められます。
- FBA-SCSI 装置に対する DEFINE SPACE コマンドで、ブロック数の割り当てが 16,777,215 (X'FFFFFF') を超えています。このため、データ・スペースの割り振りが行われませんでした。
- データ・スペース割り振りの UNIQUE 属性を持つクラスターまたは代替索引の DEFINE、IMPORT、または IMPORTRA で、EXTENT ステートメントで指定された最初の (または唯一の) エクステンットを丸めた結果、データ・スペースが割り振られませんでした。

プログラマーの応答: ORIGIN パラメーター、BLOCKS または RECORDS コマンド、あるいは EXTENT ステートメントの中の相対ブロック番号パラメーターまたはブロック数パラメーターを訂正して、コマンドを再発行してください。EXTENT 相対ブロック番号とブロック数は、ともに装置の最小 CA 値で割り切れる場合は、丸められないことに注意してください。

戻りコード	理由コード	解説
	18	<p>説明: DEFINE カタログのデータ・スペース割り振りで、BLOCKS または RECORDS パラメーターを持つ ORIGIN パラメーターか、最初の (または唯一の) EXTENT ステートメントに指定されたスペースを丸めた結果、スペースは割り振られませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: コマンド (BLOCKS または RECORDS を持つ ORIGIN) または EXTENT ステートメント中の相対ブロック番号パラメーターまたはブロック数パラメーターを訂正して、エクステン트가少なくともカタログを収容できるだけの大きさにしてください。カタログ・サイズの最小必要量については、戻りコード 140 理由コード 24 を参照してください。注 EXTENT 相対ブロック番号とブロック数が、ともに装置の最小 CA 値で割り切れる場合は、丸めは行われません。</p>
	24	<p>説明: 既存のファイルにスペースを 2 次割り振りするために、要求されたクラス (ゼロ以外) のスペースを適格ボリューム上に十分に確保できません (拡張機能)。</p> <p>プログラマーの応答: 次のいずれかの方法で、2 次割り振りのための要求されたクラスの追加スペースを用意して、ファイルを再ロードしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 任意の適格ボリュームに、要求されたクラスのスペースをさらに定義する。 • 要求されたクラスのスペースを占めている、使用されていないファイルを削除する。 • ALTER コマンドの ADDVOLUMES/ADDVOLUMES パラメーターを使用して、新しいボリューム上に、より多くの要求されたクラスのスペースを用意する。 • 割り振り中のファイルに対する 2 次割り振り量 (新しいボリュームに拡張する場合は、1 次割り振り量) を減らす。これには、ファイルの再定義が必要になります。
70	2	<p>説明: 指定されたボリューム上に使用可能なスペースが見つからなかった (または十分に大きいスペースが確保できない) ため、DEDICATE またはデフォルトの ORIGIN を使用したスペース割り振りが失敗しました。</p> <p>プログラマーの応答: ボリューム上の不要なスペース (VSAM データ・スペース) を削除して、ジョブを再実行してください。</p>
	4	<p>説明: 指定されたどのボリュームにもスペースが割り振られていなかったか、または割り振られたスペースが十分でないために、定義が失敗しました。これは、メッセージ IDC0510I または IDC0511I のいずれかに関連しています。</p> <p>プログラマーの応答: メッセージ IDC0510I または IDC0511I を参照して、各ボリュームに対する割り振りおよび状況戻りコードを調べてください。特定のボリュームに対するメッセージ IDC0511I の割り振り状況戻りコードが 70 であった場合は、このボリュームには割り振りのための空スペースがないか、または十分でないことを意味しています。ボリュームに空スペースがあるかを確認して、コマンドを再実行してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
72	2	<p>説明: ボリューム・リスト上のデフォルト・ボリュームで十分なスペースが確保できなかったために、(適切なタイプの) 取り付けられたボリュームのすべてについて 2 次割り振りが失敗しました。取り付けられていない、対応するデフォルト・モデルのボリューム・リストにあるデフォルト・ボリュームは、2 次割り振りに適していません。</p> <p>プログラマーの応答: 取り付けられていないボリュームをできるだけ多く取り付けるようオペレーターに依頼して、コマンドを再発行してください。</p>
	4	<p>説明: 次の理由で、自動割り当て機能が失敗しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> この区画でプログラマー論理装置が使用できなかった (SYSxxx の割り当てステートメントがこの装置を使用している)。 ボリュームが取り付けられている装置が予約されている (アテンション・ルーチンの VOLUMES コマンド)。 ボリュームが取り付けられている装置が「ダウン」している (ジョブ制御コマンド DVCDN)。
	8	<p>説明: 不当な記号装置が割り当てられたか、または記号装置が割り当てられていません。</p> <p>プログラマーの応答: ASSGN または EXTENT ステートメントを変更して正しい記号装置情報を与えるか、または EXTENT 記号装置パラメーターを省略してください。</p>
	12	<p>説明: オペレーターが要求されたボリュームを取り付けられなかったため、取り消しを要求しました。</p>
	16	<p>説明: オペレーターが 'NEWPAC' と応答しましたが、ボリュームが取り付けられていませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: ボリューム・コマンドを使用して、使用可能なボリュームのボリューム通し番号を調べてください。要求されたボリュームを作動可能にするか、または適切なボリューム通し番号を指定して、ジョブを再実行してください。</p>
	20	<p>説明: 自動割り当て解除が失敗しました。</p>
	24	<p>プログラマーの応答: 必要なし。</p> <p>説明: 動的割り当ての際に、ロック・テーブルがいっぱいでした。</p>
	28	<p>プログラマーの応答: コマンドを再実行してください。</p> <p>説明: 自動割り当てまたは割り当て解除中に、十分なストレージが使用できませんでした。</p>
74	2	<p>プログラマーの応答: 十分な GETVIS ストレージが使用可能であることを確認して、コマンドを再発行してください。</p> <p>説明: ボリュームが完全に専用になる前に、1 ボリューム当たりの最大エクステント数 (16)、または DEFINE SPACE 当たりの総エクステント数 (225) に達しました。このエクステントは、VSAM データ・スペースとして割り振られたものです。</p> <p>プログラマーの応答: ボリューム上にさらにスペースが必要なときは、DEDICATE を指定して別の define space を発行してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	4	<p>説明: LISTCAT コマンド処理中に、データ・セットに関して、無効なボリューム・グループ発生セグメント (VIGO) 記述が検出されました。</p> <p>プログラマーの応答: 同じカタログに対して IKQVCHK を実行し、報告されたエラーで詳細を調べます。</p>
	6	<p>説明: LISTCAT コマンド処理中に、データ・セットに関して、無効なエクステント・サイズまたは境界が検出されました。</p> <p>プログラマーの応答: 同じカタログに対して IKQVCHK を実行し、報告されたエラーで詳細を調べます。</p>
80	すべて	<p>戻りコード 80 の理由コードはすべて、DEFINE ALTERNATEINDEX コマンドの RELATE パラメーター (または DEFINE PATH コマンドの PATHENTRY パラメーター) で指定された対象が存在していないこと、あるいは定義されている対象のタイプとして正しくないことを示しています。 いずれもプログラマーの処置は同じです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • RELATE または PATHENTRY パラメーターで指名された項目が、定義されている対象のタイプとして正しくなるように、DEFINE コマンドを訂正してください。 • IMPORT(RA) の場合は、カタログまたはカタログ名を訂正して、その中に代替索引のための要求された関連対象が含まれるようにしてください。 <p>0 説明: RELATE パラメーターで指定された項目名は再使用可能で す。 REUSE 属性を持つ基本クラスターに代替索引を作成することは できません。</p> <p>2 説明: RELATE パラメーターで指定された項目名は、相対レコー ド・ファイルです。 相対レコード・ファイルである基本クラスター に代替索引を作成することはできません。</p> <p>4 説明: RELATE パラメーターまたは PATHENTRY パラメーター で指定された項目名が存在しません。</p> <p>6 説明: 代替索引またはパスをカタログに作成することはできませ ん。</p> <p>8 説明: 代替索引またはパスの名前と、関連対象の名前が同じです。</p> <p>10 説明: 代替索引またはパスの関連対象へのポインターが失われてい ます。</p> <p>12 説明: 代替索引が基本クラスターの上に作成されていないか、また は関連するパス対象がクラスターまたは代替索引ではありません。</p> <p>14 説明: 代替索引またはパスを、SAM ESDS に作成することはでき ません。</p> <p>プログラマーの応答: 指定された関連オブジェクト名が正しいかど うかを調べてください。 正しくない場合は、関連オブジェクト名 を要求されたものに変更して、コマンドを再発行してください。</p> <p>84 0 説明: 項目の満了日に達しておらず、DELETE または IMPORT コ マンドに PURGE オプションが指定されていなかったために、そ の項目を削除できませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: 項目を削除する必要があるときは、PURGE オプションを指定して、コマンドを再発行してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
86	0	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。
	2	説明: DELETE コマンドの日付検査中の外部エラー。 YEAR224 マクロの年の入力数値ではありません。 システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。
	4	説明: DELETE コマンドの日付検査中の内部エラー。 YEAR224 マクロのウィンドウ・パラメーターが無効。 システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。
88	0	説明: DELETE コマンドの日付検査中の内部エラー。 YEAR224 マクロから、定義された理由コードが得られません。 説明: カタログ・リカバリー域をオープンできませんでした。
	6	プログラマーの応答: VSAM OPEN によって返されたメッセージ 4228I で理由コードを、SYSLOG 出力で調べてください。 1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照してください。 説明: カタログ・リカバリー域 (CRA) の最大 CA 値が指定されていません。
92	0	プログラマーの応答: 最大 CA 値と等しい、余分なブロックを許可するために、DEFINE コマンドのスペース割り振りパラメーターを変更してください (マスターまたはユーザー・カタログ、または VSAM データ・スペースの場合)。 説明: エクステンツの最大数を超過してファイルを拡張しようとした。 VSAM ファイルまたはカタログが、すでに最大エクステンツ数に達しているため、現在のスペース割り振りを超過して拡張することはできません。 カタログおよび再使用可能データ・セットの場合は、16 のエクステンツが許可されます。 2 次割り振りされた他のすべてのファイルでは、最大 123 のエクステンツが使用できます。
96	0	プログラマーの応答: LISTCAT コマンドを使用してスペース・フラグメント化を調べ、REPRO コマンドを使用して、このファイルおよびその他のフラグメント化の著しいファイルの旧コピーを再定義、コピー、削除してこのフラグメント化を減らしてください。 説明: スパン・レコードで指定されたキー全体が、制御インターバルに入っていない。
	4	プログラマーの応答: KEYS パラメーターを調整して、コマンドを再発行してください。 説明: スパン・レコードの論理レコードの最大サイズが、制御域サイズを超えています。
		プログラマーの応答: RECORDSIZE パラメーターまたはスペース割り振りの 1 次または 2 次パラメーターのいずれかを調整して、コマンドを再発行してください。

戻りコード	理由コード	解説
	6	<p>説明: 基本クラスター内のスパン・レコードの代替索引キー全体が、制御インターバルに入っていません。</p> <p>プログラマーの応答: KEYS パラメーター指定を訂正して、コマンドを再発行してください。</p>
	8	<p>説明: 次のいずれかが起きています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KEYS パラメーターにエラーがありました。代替索引キー・オフセットに基本クラスターのキー長を加えたものが、レコード・サイズより大きくなっています。 • 代替索引を定義している最大レコード・サイズが小さすぎます。最大レコード・サイズは少なくとも、基本クラスター・キー (または RBA)、代替索引キーにオーバーヘッドの 5 バイトを加えたものを収容できるだけの大きさでなければなりません。 <p>プログラマーの応答: パラメーターの指定を訂正して、コマンドを再発行してください。</p>
100	0	<p>説明: リカバリー可能カタログで固有ファイルを定義しようとしたが、ボリュームにはまだカタログ・リカバリー域がありません。</p> <p>プログラマーの応答: 正しいカタログとボリュームが参照されていることを確かめてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リカバリー不能カタログに固有ファイルを定義してください。 • DEFINE SPACE コマンドを使用して、ボリューム (CKD) にカタログ・リカバリー域 (CRA) のために、VSAM スペースの最小限である 1 シリンダーを割り振ってください。 • DEFINE SPACE コマンドを使用して、ボリューム (固定ブロック長) にカタログ・リカバリー域 (CRA) のために VSAM 最大 CA 値に等しいブロックを割り振ってください。
104	0	<p>次に、コマンドを実行し直してください。</p> <p>説明: DEFINE コマンドでマスター・カタログを定義しようとしたが、マスター・カタログはすでに存在し、使用されています。</p> <p>プログラマーの応答: 新しいマスター・カタログを定義したいときは、元のカテゴリを削除するか、または VSAM マスター・カタログを割り当てずに再 IPL してください。</p>
108	0	<p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。 (ステップ 4)</p>
112	2	<p>説明: フィールド名が正しくありません。</p> <p>システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。 (ステップ 4)</p> <p>説明: カatalog・フィールドのパラメーター・リストのグループ・コードが正しくありません。 IDUMP が出力されています。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	6	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: 固定長ブロックのカタログ・ディクショナリー・フィールド名が、UPDATE または MODIFY で使用されました。固定長ブロック名は、LOCATE の場合、および非テストのカタログ・フィールド・パラメーター・リストの場合にのみ有効です。IDUMP が出されています。
120	0	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: 存在しないフィールドを修正しようとしています。
124	2	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: レコード管理プログラムが、RBA に無効な戻りコードを返しました。
	4	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: カタログ作成のオープン処理で、指定された制御インターバルが 9 を超えています。
	6	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: 誤って CCR レコード ('L') が読み取られました。
132	0	説明: VOLUMES パラメーターが省略されましたが、適切なデフォルトのモデルが見つかりません。
		プログラマーの応答: VOLUMES パラメーターを指定するか、適切なデフォルトのモデルを定義してください。また、正しいカタログが指定またはデフォルトされたかを調べてください。
		VOLSER リストへのポインターおよび該当するデフォルトのモデルがありません。
	2	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: VOLSER リストへのポインターがありません。
	4	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: データの AMDSB へのカタログ・フィールド・パラメーター・リストがありません。
	6	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: クラスター・レベルからのカタログ・フィールド・ベクトル・テーブルがありません。
	8	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)
		説明: カタログ・フィールド・パラメーター・リストに、データ・セット属性へのポインターがありません。

戻りコード	理由コード	解説
	10	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: ポリユーム・スペース・パラメーターのためのカタログ・フィールド・パラメーター・リストがありません。
	12	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 満了日の値へのポインターがありません。
	14	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: カatalog・フィールド・パラメーター・リストに、作成日付へのポインターがありません。
	16	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: カatalog・フィールド・パラメーター・リストに、装置タイプへのポインターがありません。
	18	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』(ステップ 4)を参照してください。 説明: カatalog・フィールド・ベクトル・テーブルに、カatalog・フィールド・パラメーター・リストがありません。
	20	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 作業域へのポインターがありません。
	22	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 関連対象のパスワード・データへのポインターがありません。
	24	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: カatalog・フィールド・パラメーター・リストに、所有者 ID へのポインターがありません。
	26	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: カatalog・フィールド・パラメーター・リストに、クラスター・スペース・パラメーターへのポインターがありません。
	28	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: カatalog・フィールド・パラメーター・リストに、データ・スペース・パラメーターへのポインターがありません。
	30	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: カatalog・フィールド・パラメーター・リストに、索引スペース・パラメーターへのポインターがありません。

戻りコード	理由コード	解説
	32	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルに、バッファ・サイズ・カタログ・フィールド・パラメーター・リストがありません。
	34	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: クラスタ・カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルに、バッファ・サイズ・カタログ・フィールド・パラメーター・リストがありません。
	36	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 索引カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルに、カタログ・フィールド・パラメーター・リストがありません。
	38	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: クラスタまたはデータ・カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルに、論理レコード・サイズ・カタログ・フィールド・パラメーター・リストがありません。
	40	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: ポリューム・リスト・カタログ・フィールド・パラメーター・リストに、データ・セット・ファイル・シーケンス番号へのポインターがありません。
136	2	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: ポリューム通し番号リストの長さがありません。
	4	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: DEFINE UNIQUE FILE に対応する DNAME パラメーターが欠けています。
	6	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: クラスタ項目名が欠けています。
	8	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: スペース・カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルで、スペース・パラメーターが欠けています。
	10	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: スペース・カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルで、VOLSER リスト・ポインターが欠けています。

戻りコード	理由コード	解説
	12	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: スペース・カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルで、DNAME ポインタが欠けています。
	14	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: ポリユーム・リストにクラスター・カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルの長さがありません。
	16	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 'C' または 'D' カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルに、スペース・パラメーターがありません。
	18	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 平均論理レコード・サイズが欠けています。
	20	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: キーが指定されていません。
	24	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: ポリユーム・リストに項目がありません。
	26	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 装置タイプ・リストに項目がありません。
	28	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: AIX 名が欠けています。
	30	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: パス項目名が欠けています。
140	2	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: RRDS および ESDS の索引カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルが見つかりました。
	4	説明: 次のいずれかの理由で、KEYRANGES パラメーターが誤っています。 <ul style="list-style-type: none"> • カタログ定義操作では、KEYRANGES パラメーターは無効です。 • KEYRANGES パラメーターに指定された値が昇順で指定されていませんでした。 <p>プログラマー応答: コマンドを訂正して、再実行してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	6	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: データおよびクラスターの両方のカタログ・フィールド・ベクトル・テーブルに、キー範囲が見つかりました。
	8	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 作業域が小さすぎます。
	10	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: クラスタおよびデータの両方のカタログ・フィールド・ベクトル・テーブルで、スペース・パラメーターが見つかりました。
	12	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: バッファ・サイズが複数回指定されました。
	14	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: インデックスカタログ・フィールド・ベクトル・テーブルで、平均論理レコード・サイズが指定されました。
	16	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: DEFINE CATALOG では、平均論理レコードは無効です。
	18	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: クラスタおよびデータ・カタログ・フィールド・ベクトル・テーブル上で、平均論理レコード・サイズが指定されました。
	20	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4) 説明: 'D' および 'I' カタログ・フィールド・ベクトル・テーブルで指定されたキーの長さが矛盾しています。
	22	説明: 次のいずれかのエラーが起きました。 <ul style="list-style-type: none"> • 複数のボリューム通し番号のリストが存在していますが、その項目が一致していません。 • ボリューム通し番号のリストが、EXTENT ステートメントで指定されたリストと一致していません。 <p>プログラマーの応答: VOLUMES パラメーターまたは EXTENT ステートメントを訂正してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
24		<p>説明: カタログ・スペースの 1 次割り振りに、不正な値が指定されました。 指定された数が大きすぎるか、小さすぎるかのいずれかです。</p> <p>必要な最小のスペースが次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FBA の場合: <ul style="list-style-type: none"> - 6 の最小 CA • 3380 および 3390 (CKD および ECKD) の場合: <ul style="list-style-type: none"> - 6 トラック • トラック数が 65536 を超える大容量 DASD の場合 (3390 - 9 など): <ul style="list-style-type: none"> - 5 シリンダー <p>CKD 装置の場合、最小 CA は 1 トラックです。FBA 装置の場合は、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」(索引の『ストレージ、FBA 装置の容量』) を参照してください。</p> <p>最大スペースは装置によって異なり、またボリュームですでに使用されているスペースの量で決まります。</p> <p>クラスター、および次の最小/最大 CA の倍数に丸められたデータ・レベル、索引レベルの 1 次または 2 次割り振りに指定されたスペース容量の合計が、DEFINE CATALOG に対して CKD 装置で 5000 シリンダー、または、FBA-SCSI 装置で 8,388,096 ブロックを超えています。</p>
26		<p>システム・エラー。上記の 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。説明: カタログ定義のスペース要求タイプが無効です。</p>
28		<p>説明: 異なる数の VOLUMES パラメーターと FILESEQUENCENUMBERS パラメーターが存在しています。</p> <p>プログラマーの応答: 入力を訂正し、コマンドを再実行してください。</p>
30		<p>説明: VOLUMES パラメーターよりも多くの DEVICETYPES パラメーターがあります。</p> <p>プログラマーの応答: 入力を訂正し、コマンドを再実行してください。</p>
32		<p>説明:</p> <ul style="list-style-type: none"> • DEFINE コマンドで、無効なキー位置が CLUSTER、ALTERNATEINDEX、または DATA パラメーターに指定されました。 • IMPORT コマンドで、圧縮したクラスターをインポートしようとしたが、クラスターが COMPRESSED 属性で事前定義されていませんでした。 <p>プログラマーの応答:</p> <ul style="list-style-type: none"> • DEFINE の場合、キー位置を訂正して、コマンドを再実行してください。 • IMPORT の場合、IMPORT コマンドを出す前に、COMPRESSED 属性を指定してクラスターを定義する必要があります。

戻りコード	理由コード	解説
	34	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。 (ステップ 4)
	36	説明: DEFINE のスペース要求タイプが無効です。 説明: KEYRANGES 数とボリューム数が一致しません。 固有データ構成で、KEYRANGES 数がボリューム数よりも多くなっています。 プログラマーの応答: SYSLOG が使用できるときは、ボリュームのいずれかにスペースを割り振ろうとしているときにエラーが起きたことを示すメッセージ 42xx を調べてください。 入力を訂正して、コマンドを再発行してください。
	38	システム・エラー。上記の 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。説明: カタログ定義では固有の属性は許可されません。
	40	オプション IMBED を指定して、VSAM ファイルの RESTORE を LARGE DASD で行うことはできません (ボリュームの CATALOG および SPACE が VSE 2.6 以降のリリースで指定されている場合は、3390-mod 9)。
	42	説明: 相対レコード (NUMBERED) ファイルにスパン属性があります。 プログラマーの応答: スパン属性を除去して、コマンドを再発行してください。
	44	説明: 相対レコード・ファイルに、平均レコード長と等しくない最大レコード長があります。 プログラマーの応答: RECORDSIZE パラメーター指定を訂正して、コマンドを再発行してください。
	46	説明: DOS/VS リリース 31 のインストールよりも前に作成された VSAM 項目に、EXCEPTIONEXIT が指定されました。 プログラマーの応答: DOS/VS リリース 31 のインストールの前に作成された VSAM ファイル・カタログ項目で実行される ALTER コマンドでは、EXCEPTIONEXIT は使用できません。 EXPORT/IMPORT または REPRO を使用して新しいファイル・コピーを作成し、ALTER コマンドを再発行してください。
	48	説明: 固定長ブロック装置に対する DEFINE コマンドで、TRACKS または CYLINDERS が指定されました。 "ボリューム・リストの生成" が使用された場合、割り振り装置は CKD 装置を示しますが、デフォルトのモデルには何もありません。 プログラマーの応答: 正しいカタログとボリューム通し番号が指定されたかを確認してください。 固定長ブロック装置を使用している場合は、TRACKS または CYLINDERS を BLOCKS または RECORDS に変換しなければなりません。 必要な変更を行って、DEFINE コマンドを再発行してください。 『ボリューム・リストの生成』が使用された場合は、デフォルトのリストに CKD 装置があり、少なくとも 1 つの CKD 装置が取り付けられていることを確かめてください。

戻りコード	理由コード	解説
	50	<p>説明: CKD 装置への DEFINE コマンドで BLOCK が指定されましたが、これは、固定長ブロック装置の場合にのみ有効です。「ボリューム・リストの生成」が使用された場合、割り振り装置は FBA 装置を示しますが、デフォルトのモデルには何もありません。</p> <p>プログラマーの応答: 正しいカタログとボリューム通し番号が指定されたかを確認してください。CKD が意図されていた場合は、BLOCKS を TRACKS、CYLINDERS、または RECORDS に変換しなければなりません。必要なジョブ制御を変更して、DEFINE コマンドを再発行してください。「ボリューム・リストの生成」が使用された場合は、デフォルトのモデル・ボリューム・リストに FBA 装置が定義されており、また少なくとも 1 つの FBA 装置が取り付けられていることを確かめてください。</p>
	52	<p>システム・エラー。239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)</p>
144	2	<p>説明: EXTRACT マクロからエラーが返されました。</p> <p>説明: 代替索引またはパス名が無効です。最初の文字は英字でなければなりません。</p> <p>プログラマーの応答: 項目名を訂正して、コマンドを再発行してください。項目名が正しい場合は、メッセージ 1151I を調べて、識別されたダンプを SYSDUMP ライブラリーから印刷してください。IBM サポートに連絡してください。</p>
	4	<p>システム・エラー。239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)</p>
	6	<p>説明: 固有名が無効です。Z999999 を使用しますが、これには制約があります。</p> <p>説明: データ名および索引名は、カタログでは使用できません。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE MASTERCATALOG および DEFINE USERCATALOG の INDEX レベルと DATA レベルで NAME パラメーターの指定を除去し、コマンドを再発行してください。名前パラメーターが指定されていない場合は、メッセージ 1151I を調べ、指名されたダンプを SYSDUMP ライブラリーで印刷してください。IBM サポートに連絡してください。</p>
	8	<p>説明: 27 文字より大きいファイル ID を持つ区画独立ファイルを定義しようとしてしました。</p> <p>プログラマーの応答: ファイル ID を訂正して、ジョブを再実行してください。</p>
148	4	<p>説明: 1 ボリュームには 1 つのカタログしか入れられません。ユーザーが指定したボリュームには、すでにカタログが入っています。</p> <p>プログラマーの応答: 既存のカタログを削除するか、新しいカタログに異なるボリュームを指定して、DEFINE コマンドを再発行してください。</p>

戻りコード 理由コード

解説

- 8 説明: 1 つのリカバリー可能カタログだけがボリュームでスペースを所有することができます。ユーザーの指定したボリュームには、別のリカバリー可能カタログが所有しているスペースがすでにあります。
- プログラマーの応答: 次のいずれかを実行してください。
- リカバリー可能カタログがすでに所有しているスペースを除去してください。
 - 非リカバリー可能カタログが新しいスペースを所有するよう指定してください。
 - 異なるボリューム上に新しいスペースを定義してください。
- 12 説明: DEFINE SPACE コマンドの実行中に、指定されたボリューム上の 1 つ以上のスペースについて既存のカタログ項目が見つかりました。対応する形式 1 ラベルが、VTOC から欠けていることから、カタログ項目が誤っていることがわかります。この矛盾は、IKQVDU サービス・エイドを使用してカタログを更新せずに形式 1 ラベルを削除したことによるものです。また、スペースの定義または削除中にシステムに障害が発生したために起きることもあります。
- プログラマーの応答: DELETE SPACE コマンドを実行して、カタログからスペースの定義を除去し、その後 DEFINE SPACE コマンドを再発行してください。
- 16 説明: カタログ・リカバリー可能エリア (CRA) がラージ DASD ボリュームまたは新規の FBA 装置タイプに存在してはなりません。
- ラージ DASD ボリュームまたは新規の FBA 装置タイプでのリカバリー可能カタログの定義、またはリカバリー可能カタログ用ラージ DASD ボリュームまたは新規の FBA 装置タイプでの VSAM スペースの定義が試みられました。
- プログラマーの応答: 次の処置のいずれかを行ってください。
- リカバリー不能カタログをこの DASD ボリュームに指定してください。
 - リカバリー可能カタログを別のボリュームに指定してください。
 - ラージ DASD ボリューム上に新しいスペースを所有するためにリカバリー不能カタログを指定してください。
 - 異なるボリューム上に新しいスペースを定義してください。
- 152 0 説明: 空でない VSAM カタログを除去しようとしてしました。
- プログラマーの応答: VSAM カタログを除去できるのは、カタログ・ボリューム用のデータ・スペース項目以外に項目が含まれていないときだけです。LISTCAT コマンドを使用して、カタログにまだ残っている名前を調べ、削除してください。次に、コマンドを実行し直してください。

戻りコード	理由コード	解説
156	0	<p>説明: ボリュームに割り振られたデータ・スペースには、クラス 0 のスペースが十分でないため、新しく定義されたクラスターまたは代替索引の 2 次割り振り要求を満たすことができません。</p> <p>プログラマーの応答: 次のいずれかの方法で、ボリューム上の使用可能なデータ・スペースを増やしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DEFINE コマンドを使用して、より多くのクラス 0 データ・スペースを作成します (満了日を過ぎた保護されていない非 VSAM ファイルが占めるスペースを使用することができます)。 • 使用クラス 0 の不要な VSAM ファイルを削除します。 • ユーザーの VOLUMES 指定を、要求されたクラス 0 スペースを持つボリュームに変更します。 • 定義されている対象のための 1 次割り振り量を減らしてください。 <p>ORDERED オプションが指定されている場合は、1 次割り振り量の初期 2 次割り振りが、VOLUMES パラメーター・リストの最初のボリュームで満たされなければなりません。それ以外の場合は、VOLUMES パラメーター・リストの任意のボリュームで初期 2 次割り振りを満たすことができます。VOLUMES リストが指定されていないければ (例えば暗黙定義)、使用している EXTENT カードまたはカタログの DEFAULT.MODEL.ESDS.SAM ファイルのどちらかに指定されているボリュームを検査してください。</p>
	2	<p>説明: DEFINE カタログ・コマンドで、クラス 0 データ・スペースが指定されましたが、カタログ・リカバリー域 (CRA) の 2 次割り振りを行うには不十分です。カタログには十分なスペースがありました。カタログおよびデータ・スペースは定義、割り振りのいずれも行われていません。</p> <p>プログラマーの応答: データ・スペースのサイズを増やすか、カタログ割り振りのサイズを減らすか、またはその両方を行ってから、コマンドを再発行してください。CRA には最大 CA が 1 つ必要であることに注意してください。CKD 装置では、最大 CA は 1 シリンダーに相当します。固定ブロック装置では、開始相対ブロック番号が最大 CA 値で割り切れなければなりません。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	24	<p>説明: 指定されたボリューム上に必要なクラス (0 以外) のスペースが不十分なため、新たに定義されたクラスまたは代替索引の 2 次割り振り要求を満たすことができません。</p> <p>プログラマーの応答: 指定されたボリュームで要求されたクラスの使用可能なデータ・スペースを、次のいずれかの方法で増やしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DEFINE コマンドを使用して、要求されたクラスのデータ・スペースを作成してください (満了日を過ぎた保護されていない非 VSAM ファイルが占めるスペースを使用することができます)。 • 同じ USECLASS を持つ不要な VSAM ファイルを削除してください。 • VOLUMES 指定を、要求されたクラスのフリー・スペースを持つボリュームに変更してください。 • 定義されている対象のための 1 次割り振り量を減らしてください。 • ファイル (またはコンポーネント) の USECLASS を、十分なフリー・スペースが使用できるようなクラスに変更してください。 <p>ORDERED オプションが指定されている場合は、1 次割り振り量の初期 2 次割り振りが、VOLUMES パラメーター・リストの最初のボリュームで満たされなければなりません。それ以外の場合は、VOLUMES パラメーター・リストの任意のボリュームで初期 2 次割り振りを満たすことができます。</p>
	26	<p>説明: DEFINE カタログ・コマンドで、ゼロ以外のクラスのデータ・スペースが指定されましたが、カタログ・リカバリー域 (CRA) の 2 次割り振りを行うには不十分です。カタログには十分なスペースがありました。カタログおよびデータ・スペースは定義、割り振りのいずれも行われていません。</p> <p>プログラマーの応答: データ・スペースのサイズを増やすか、カタログ割り振りのサイズを減らすか、またはその両方を行ってから、コマンドを再発行してください。カタログ・リカバリー域には、CA が 1 つ必要であることに注意してください。CKD 装置では、最大 CA は 1 シリンダーに相当します。固定ブロック装置では、開始相対ブロック番号は最大 CA 値で割り切れなければなりません。</p>
	28	<p>説明: BIG- または FAT-DASD で、オプション DEDICATE を設定した DEFINE CATALOG コマンドは、既存の VTOC 項目があるために VSAM スペース・エクステンツが重複する結果になる場合、拒否されます。これは、DEFINE SPACE DEDICATE には適用されません。BIG- または FAT-DASD に対して DEFINE CATALOG DEDICATE を指定した場合に限られます。</p> <p>プログラマーの応答: 該当するボリュームに対する VSAM カタログの定義を、オプション DEDICATE を設定せず、シリンダー割り振りを設定して指定してください。さらに、DEFINE SPACE を使用して適当なボリュームに VSAM スペースを割り振ってください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
160	0	<p>説明: スペース対象を削除しても、ボリュームを削除できませんでした。このボリュームには、VSAM ファイルおよび (または) カタログで占められた、削除不能なデータ・スペースが入っています。</p> <p>プログラマーの応答: なし。このコードは、カタログのあるボリュームにスペースの削除が要求されているときか、または VSAM ファイルによって占められるデータ・スペースがあり、FORCE が指定されていないときは常に返されます。FORCE が指定されていない限り、空のデータ・スペースだけが削除されます。LISTCAT SPACE ALL リストでは、カタログが所有する各ボリュームの各データ・スペースごとに、完全な割り振り状況が与えられます。</p>
164	すべて	<p>戻りコード 164 にリストされているすべての理由コードについて、プログラマーの処置は同じです。区画のサイズを増やして、コマンドを再発行してください。</p>
	2	<p>説明: VSAM カタログ管理プログラムが、作業域用の仮想記憶を得ることができません。</p>
	8	<p>説明: VSAM レコード管理プログラムが、作業域用の仮想記憶を得ることができません。</p>
168	2	<p>説明: 装置タイプがサポートされていません。</p> <p>プログラマーの応答: このファイルの EXTENT ステートメントに指定された EXTENT 装置で指定された記号装置が、直接アクセス装置に割り当てられていないか、またはまったく割り当てられていません。割り当てを訂正して、ジョブを再実行してください。</p>
	4	<p>説明: 装置タイプが正しくありません。</p> <p>プログラマーの応答: 装置指定を訂正して、コマンドを再発行してください。</p>
	8	<p>説明: 固定長ブロック装置に、DEFINE NONVSAM が指定されました。固定長ブロック装置は、非 VSAM ファイルをカタログするためのサポートはしません。</p> <p>プログラマーの応答: ファイルを固定長ブロック装置に入れる場合は、これをカタログすることはできません。ファイルを CKD 装置に入れる場合は、DEVICETYPE および VOLUMES パラメーターを CKD ボリュームに変更して、コマンドを再発行してください。</p>
172	4	<p>説明: UNIQUE 属性を使用する DEFINE 操作でボリューム上のファイルの名前が指定されましたが、そのボリュームには、同一名を持つ別の非 VSAM ファイルがすでに存在しています。または、UNIQUE 属性を持つキー順ファイルまたは代替索引が同じボリューム上で複数のキー範囲を指定しました。</p> <p>プログラマーの応答: 別のファイル ID または別のボリュームを指定するか、元のファイル ID をボリュームから除去するか、または別々のボリュームにキー範囲をそれぞれ指定してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
176	0	<p>説明: データ・スペースの定義中に、新しい項目が書かれるボリュームで VSAM 割り振りを実行しようとしたのですが、VTOC の項目用スペースが不足しています。</p> <p>プログラマーの応答: ボリュームから不要の非 VSAM (SCRATCH オプションで) または VSAM 固有ファイルまたはデータ・スペースを削除することによって、VTOC に新しい項目のための空を作るか、より大きい VTOC を使用してボリュームを再初期設定してください。いずれもすぐに実施できない場合は、別のボリュームを使用してください。</p>
184	2	<p>説明: カタログが使用中であるため、使用が終わるまでは削除できません。</p> <p>プログラマーの応答: DELETE コマンドを再発行する前に、他の区画がそのカタログを使用していないことを調べてください。この問題が、z/VSE オンライン・メッセージ説明ファイルの削除時に起こった場合は、アテンション・ルーチン・コマンドの EXPLAIN OFF を出し、ジョブを再実行してください。この問題が、z/VSE オンライン・メッセージ説明ファイルを含むカタログ (またはマスター・カタログ) の削除時に起こった場合は、z/VSE システムを再 IPL し、EXPLAIN 機能を使わずにジョブを再実行してください。</p>
	4	<p>説明: 次のいずれかが起きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クラスタまたはコンポーネントの DELETE が要求されましたが、ファイルまたはそのコンポーネントの 1 つがオープンされています。クローズされるまで、ファイルを削除することはできません。 • DELETE SPACE FORCE が要求されましたが、ボリュームにスペースを持っているか、その候補リストにボリュームを持つファイルが 1 つ以上オープンしています。このファイルがすべてクローズされるまで、FORCE オプションを使用してボリュームを削除することはできません。 <p>プログラマーの応答: 正しいファイルまたはボリュームを削除しているか検査し、他の区画にオープンしているファイルがないことを調べてください。その後、DELETE コマンドを再発行してください。LISTCAT コマンドを用いると、1 次または候補ボリュームとしてボリュームをリストするすべてのファイル・コンポーネントを識別することができます。この問題が、z/VSE オンライン・メッセージ説明ファイルの削除時に起こった場合は、アテンション・ルーチン・コマンドの EXPLAIN OFF を出し、ジョブを再実行してください。この問題が、z/VSE オンライン・メッセージ説明ファイルを含むカタログ (またはマスター・カタログ) の削除時に起こった場合は、z/VSE システムを再 IPL し、EXPLAIN 機能を使わずにジョブを再実行してください。</p>
188	2	<p>システム・エラー。239 ページの『システム・エラー』を参照してください。(ステップ 4)</p> <p>説明: 処理に使用できる RPL がありません。要求は無視されません。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	4	システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』 を参照してください。 (ステップ 4)
	6	説明: 2 次割り振りが失敗しました。 システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』 を参照してください。 (ステップ 4)
192	0	説明: 処理に使用できる RPL がありません。 要求は無視されま す。 説明: 非スパン・ファイルの最大論理レコード長 (32,761 バイト) を超えています。 プログラマーの応答: 最大論理レコード長を減らすか、または SPANNED としてファイルを定義して、コマンドを再実行してく ださい。
192	2	説明: スパン・レコードの平均論理レコード長が 32,758 バイトを 超えています。 プログラマーの応答: 平均論理レコード長を減らしてください。
196	0	説明: 指定されたデータ・コンポーネントの制御インターバル・サ イズが、VSAM 最高の 32,768 バイトを超えています。 プログラマーの応答: データ・コンポーネントの CONTROLINTERVALSIZE パラメーターを調整し、コマンドを再 発行してください。
200	0	説明: 指定された索引コンポーネント制御インターバル・サイズが その装置タイプで許される最大値を超えています。 最大サイズは 8192 バイトです。
204	0	プログラマーの応答: 索引コンポーネントの制御インターバル・サ イズを減らすか、またはより大きい最大索引制御インターバル・サ イズの別の装置を使用して、コマンドを再実行してください。 説明: KEYS 指定が、最大の論理レコードの終わりを超えていま す。
208	0	プログラマーの応答: キーの長さを減らすか、キー位置を変更する か、または論理レコード長を増やして、コマンドを再実行してくだ さい。 説明: 定義操作中に指定されたバッファ・スペースが小さすぎ て、定義される VSAM のファイル・タイプの制御インターバルの 最小数を収容できません。 索引付きファイルには、2 つのデー タ・コンポーネント制御インターバルと 1 つの索引コンポーネン ト制御インターバルを収容できるだけの仮想記憶が必要です。 索引 なしファイルでは、2 つのデータ・コンポーネント制御インターバ ルのために十分な仮想記憶が必要です。 プログラマーの応答: DEFINE の場合、BUFFERSPACE パラメー ターを省略するか、BUFFERSPACE パラメーター値を増やすか、 または DATA または INDEX CONTROLINTERVALSIZE 値を減 らして、コマンドを再発行してください。

戻りコード	理由コード	解説
212	すべて	<p>戻りコード 212 は、VSAM カタログ管理プログラムが、DEFINE、IMPORT または IMPORTRA コマンドで渡されたパラメーターから受け入れ可能な制御インターバル・サイズの値を計算できないときに出されます。</p>
	2	<p>システム・エラー。『システム・エラー』を参照してください。 (ステップ 4)</p>
	4	<p>説明: 指定された、またはデフォルト値では、キー順ファイルまたは代替索引の制御域ごとに、1 つのデータ制御インターバルしかできません。このファイルには、制御域ごとに最低 2 つのデータ制御インターバルが必要です。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE の場合、より小さいデータ CONTROLINTERVALSIZE 値を指定するか、より大きい 1 次または 2 次 (あるいは両方) 割り振り値を指定してください。</p>
	6	<p>説明: 2 次割り振りされたキー順ファイルまたは代替索引で、索引制御インターバル・サイズが小さすぎるために、データを記述、またはキーを保持するために十分な項目を入れることができません。データ制御インターバル数の削減は失敗しました。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE の場合、索引制御インターバル・サイズを増やすか、VSAM デフォルトの制御インターバル・サイズを使用してください。</p>
	8	<p>説明: 固有のキー順ファイルまたは代替索引で、索引制御インターバル・サイズが小さすぎて、データを記述またはキーを保管するために十分な項目を入れることができません。(制御域サイズを減らして) データ制御インターバル数の削減は失敗しました。これは、固有ファイルが CKD 装置にあり、制御域がシリンダーでなければならぬためです。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE の場合、索引制御インターバル・サイズを増やすか、または VSAM デフォルトを使用してください。IMPORT(RA) の場合、ファイルまたはファイル・コンポーネントをエクスポートした装置のタイプとは異なる装置タイプにインポートしたため、この状態が起きています。IMPORT の場合、インポートの前に上記の DEFINE 訂正処置を使用してファイルを事前定義することができます。それ以外の場合、VOLUMES パラメーターで (エクスポートされたタイプとは) 異なる装置タイプを指定してください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
	10	<p>説明: 非固有ファイルを入れるにはバッファー・スペースが小さすぎます。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE の場合、BUFFERSPACE パラメーター値を増やすか、または省略してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	12	<p>説明: 固有ファイルを入れるには、バッファ・スペースが小さすぎます。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE の場合、BUFFERSPACE パラメータ値を増やすか、または省略してください。IMPORT(RA) の場合、ファイルまたはファイル・コンポーネントをエクスポートした装置のタイプとは異なる装置タイプにインポートしたため、この状態が起きています。IMPORT の場合、インポートの前に上記の DEFINE 訂正処置を使用してファイルを事前定義することができます。それ以外の場合、VOLUMES パラメータで (エクスポートされたタイプとは) 異なる装置タイプを指定してください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
	14	<p>説明: 指定またはデフォルト値では、ESDS または RRDS の CA 当たりの CI 数が 1 より小さくなってしまう。</p> <p>プログラマーの応答: 次のいずれかを指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • より小さい CONTROLINTERVALSIZE 値 • より大きい 1 次割り振り値 • より大きい 2 次割り振り値 • より大きい 1 次および 2 次割り振り値
	16	<p>説明: FIXBLK の形式を持つ SAM ESDS で、最大 RECORDSIZE が SAM 論理レコード・サイズの倍数になっていません。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE の場合、SAM 最大 RECORDSIZE が SAM 論理レコード・サイズの倍数になっていることを確かめてください。REPRO の場合、OUTFILE が暗黙に定義されているときは、ENVIRONMENT サブパラメータ、BLOCKSIZE および RECORDSIZE が相互に倍数になっていることを確かめてください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
	18	<p>説明: DEFINE CATALOG または DEFINE SPACE で、データ・レベルおよび索引レベルの 1 次割り振りに指定されたブロック数の合計が、16,777,215 (X'FFFFFF') を超えています。</p> <p>プログラマーの応答: データおよび索引レベルに指定した割り振り値をより小さくしてください。合計値がクラスター・レベルの割り当て値に適合し、16,777,215 (X'FFFFFF') を超えないようにしてください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
216	2	<p>説明: EXTENT ステートメントで指定された新しいエクステン ト、または ORIGIN と割り振りパラメーター (BLOCKS など) で 指定されたスペースが、以下の 1 つ以上とオーバーラップしてい たため、スペースの割り振り操作 (スペース定義の) が失敗しまし た。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VTOC のエクステント • 満了日を過ぎ、安全保護された非 VSAM ファイル • 満了日になっていない、安全保護された非 VSAM ファイル • 満了日になっていない、安全保護されない非 VSAM ファイル • 複数のエクステントのセットが与えられ、これらが互いにオー バーラップしている <p>プログラマーの応答: スペース割り振り用として複数のエクステン トが用意されている場合は、互いにオーバーラップしないかを調べ てください。 VSELVTOC プログラムを実行して、ボリュームの どのスペースが使用されておらず、スペース割り振り用に使用でき るか調べてください。 ORIGIN とスペース・パラメーター (スペ ース定義)、または EXTENT ステートメント (固有ファイルの定 義) を訂正して、コマンドを再発行してください。</p>
220	12	<p>説明: ECKD 装置に対して、固有のデータ・セット (CLUSTER ま たは AIX) で、FAT-DASD と非 FAT-DASD の混合エクステン トを割り当てることはできません。小規模の DASD と BIG-DASD (3390 mod 9/27) (最大 10017 シリンダー) の混合は認められて おり、影響はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オプション FATDASD を設定して CLUSTER または AIX を UNIQUE で定義する場合、割り当てエクステントに使用される 各ボリュームを以下のようにしてください。 <ul style="list-style-type: none"> - いずれも FAT-DASD として現在の VSAM カタログに事前 定義されていること。 - あるいは、最小実容量が 64K+1 トラックであること。 • DEFINE CLUSTER UNIQUE または DEFINE AIX UNIQUE 時に FATDASD を指定しない場合、指定されたボリュームが、 現在の VSAM カタログに対して FAT-DASD と定義されてい ないようにしてください。そうでないと DEFINE コマンドは拒 否されます。 <p>現在の VSAM カタログに認識されていないが、最小実容量が 64K+1 トラックになっているボリュームがオプション FATDASD を省略して指定されると、BIG-DASD (最大 10017 シリンダー) として定義されます。それらのボリュームは、 FAT-DASD とはみなされません。</p> <p>プログラマーの応答: FATDASD の指定に応じて、ボリュームを ADD または REMOVE してください。</p>
	14	<p>説明: オプション UNIQUE を設定した DEFINE CLUSTER/AIX で、1 つ以上の指定エクステントがボリューム容量を超えていま す。これは VSAM 特定の VOLUME タイプ (FAT-DASD など) とは無関係です。</p> <p>プログラマーの応答: EXTENT 指定を訂正して、スペース割り振 りをボリューム限度内に収めるようにしてください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	16	<p>説明: DEFINE SPACE で、指定した割り振りがボリューム限度を超えるため、割り振りは拒否されました。</p> <p>プログラマーの応答: DEFINE SPACE コマンドの 1 次/2 次割り振りおよび ORIGIN に指定した値を訂正してください。</p>
224	0	<p>説明: ボリューム情報を追加しようとしているときに、カタログ・ボリューム・レコードの容量を超えました。</p> <p>プログラマーの応答: LISTCAT コマンドを使用して、超過したフィールドを調べ、それに応じて値を調整してください。</p>
	2	<p>説明: 基本クラスター用に指定された UPGRADE 代替索引の数が、システム最大値の 125 を超えました。新たな UPGRADE 代替索引は定義されませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: 125 個の UPGRADE の代替索引がすべて必要であるか、または既存の索引がユーザーの要求を満たしているかを調べてください。</p>
228	0	<p>説明: 時刻機構でハードウェア・エラーが起きました。</p> <p>プログラマーの応答: サービス技術員に連絡してください。</p>
232	すべて	<p>VSAM は CDLOAD 障害が原因で、要求されたプログラム・フェーズをロードできませんでした。VSAM 理由コードは CDLOAD 戻りコードに対応しています。</p> <p>4</p> <p>説明: GETVIS 域が割り振られていません。</p> <p>プログラマーの応答: EXEC ステートメントで SIZE=AUTO を指定して、コマンドを再発行してください。</p> <p>8</p> <p>説明: 仮想記憶が割り振られていない区画から仮想記憶の要求が出されました。要求しているプログラムは実モードで実行していました。</p> <p>12</p> <p>プログラマーの応答: EXEC ステートメントで SIZE=AUTO を指定して、コマンドを再発行してください。</p> <p>説明: フェーズのロードに使用できる仮想記憶が不足しています。</p>
238	0	<p>プログラマーの応答: 仮想区画のサイズを増やして、コマンドを再発行してください。</p> <p>エラーが起きました。エラー対象はすべて削除されていません。</p> <p>プログラマーの応答: 自動的に呼び出されるカタログ検査サービス補助プログラムからのメッセージを調べてください。これらは、DELETE コマンドで IGNOREERROR を指定することによって、どの対象を削除すべきかを示します。</p>

戻りコード	理由コード	解説
240	4	<p>説明: ラベル域を処理しているときに、次のエラーのいずれかが起きました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EXTENT ステートメントで見つかった記号装置が誤っていました。 • DLBL および EXTENT ステートメントで与えられた情報が、アクセス方式サービス・コマンドで与えられた情報と矛盾しています。 • DLBL ステートメントが欠けているか、dname またはファイル名のつづりが誤っています。 • ラベルの読み取り時に、使用できる仮想記憶がありませんでした。 • 装置特性の検索中のエラー。 • 装置タイプが無効。装置 (FBA または FBA-SCSI) を有効な容量で定義するようにしてください。FBA の最大サイズは 2 GB で、FBA-SCSI 装置の制限は 24 GB です。 <p>プログラマーの応答: DLBL、EXTENT、または ASSGN ステートメントが正しいこと、仮想記憶が区画に十分に割り振られていることを確かめてください。また、アクセス方式サービス・コマンドの dname パラメーターが正しいかどうかを調べてください。指定された装置が使用可能かどうか調べてください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
	6	<p>説明:</p> <ul style="list-style-type: none"> • EXTENT ステートメントが見つかりませんでした。 • DLBL ステートメントが複数の EXTENT ステートメント (例えば、各ボリュームに 1 つ) を要求しましたが、1 つ以上の EXTENT ステートメントが欠けています。 <p>プログラマーの応答: 処理されているボリュームに EXTENT ステートメントを指定して、DLBL 情報を完成してください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
	8	<p>説明: 装置タイプが無効であるか、または装置タイプの処理中にラベル域でエラーが起きたかのいずれかです。スペース割り振りが EXTENT ステートメントまたは ORIGIN で指定されましたが、スペース割り振りが、割り当てられた装置タイプの正しい範囲にない可能性があります。記号装置に割り当てられたボリューム ID が、EXTENT ステートメントで指定されたボリューム ID と一致していない可能性もあります。</p> <p>プログラマーの応答: DLBL、EXTENT、または ASSGN ステートメントを調べてください。記号装置パラメーターを省略するか、または記号装置が直接アクセス装置に割り当てられていること、指定されたエクステントについて装置タイプが有効であること、割り当てられた装置のボリューム ID が EXTENT ステートメントのボリューム ID と一致していることを確認してください。理由コード 4 で示されているプログラマーの処置も調べてください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
	10	<p>説明: 指定されたエクステントが多すぎるか、またはボリューム通し番号が重複しています。</p> <p>プログラマーの応答: EXTENT ステートメントを訂正してください。コマンドを実行し直してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
12		<p>説明: アクセス方式サービス・コマンドで指定された合計スペースが、そのボリュームの EXTENT 指定の合計を超えています。</p> <p>プログラマーの応答: アクセス方式サービス・コマンドまたは EXTENT ステートメントのいずれかで指定されたスペース割り振りを、2 つが矛盾しないように調整してください。コマンドを実行し直してください。</p>
22		<p>説明: DLBL ステートメントで指定されたカタログ名とアクセス方式サービス・コマンドが一致していません。</p> <p>プログラマーの応答: (不要になったため) カatalogの dname を省略するか、またはアクセス方式サービス・コマンドと DLBL ステートメントの両方で正しいカタログ名が指定されていることを確かめてください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
24		<p>説明: マスター・カタログの DLBL ステートメントが見つかりませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: マスター・カタログの DLBL ステートメントでファイル名として IJSYSCT を指定してください。コマンドを実行し直してください。</p>
26		<p>説明: 必要なジョブ・カタログが見つかりませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: (不要になったため) カatalogの dname を省略するか、またはコマンドにカタログの dname が存在し、かつ DLBL ステートメントにファイル名とファイル ID オペランドが存在していること、さらにそれらが正しく指定されていることを調べてください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
28		<p>説明: カatalog名が DLBL ステートメントから欠けています。</p> <p>プログラマーの応答: DLBL ステートメントにカタログ名を指定してください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
30		<p>説明: EXTENT ステートメントのジョブ・カタログのボリューム通し番号が、マスター・カタログのこのカタログで見つかったボリューム通し番号と一致していません。</p> <p>プログラマーの応答: (不要になったため) EXTENT ステートメントを省略するか、または EXTENT ステートメントのボリューム通し番号を訂正してください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>
32		<p>説明: 次のいずれかが原因で、自動割り当て機能が失敗しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> この区画でプログラマー論理装置が使用できなかった (SYSxxx の割り当てステートメントがこの装置を使用している)。 ボリュームが取り付けられている装置が予約されている (アテンション・ルーチンの VOLUME コマンド)。 ボリュームが取り付けられている装置が「ダウン」している (ジョブ制御コマンド DVCDN)。
34		<p>説明: カatalog・リカバリー域を含むボリュームを取り付けられなかったため、オペレーターが取り消しを要求しました。</p> <p>プログラマーの応答: ディスク装置をカタログ・リカバリー域ボリュームに使用できることを確かめて、ジョブを再実行してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	40	<p>説明: 次のいずれかが原因で、自動割り当て機能が失敗しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> この区画でプログラマー論理装置が使用できなかった (SYSxxx の割り当てステートメントがこの装置を使用している)。 ボリュームが取り付けられている装置が予約されている (アテンション・ルーチンの VOLUME コマンド)。 ボリュームが取り付けられている装置が「ダウン」している (ジョブ制御コマンド DVCDN)。
	42	<p>説明: ユーザー・カタログの入っているボリュームを取り付けられなかったため、オペレーターが取り消しを要求しました。</p> <p>プログラマーの応答: スピンドルをユーザー・カタログ・ボリュームで使用できることを確かめて、ジョブを再実行してください。ユーザー・カタログが事前に割り当てられていない (EXTENT ステートメントが省略されている) ときは、VSAM はカタログがオープン時に取り付けられていなければ、取り付け要求を出すことに注意してください。</p>
	44	<p>説明: カタログが仮想装置上にあるため、非仮想装置への対象の定義が失敗しました。</p> <p>プログラマーの応答: 定義するカタログおよび対象を同じタイプ (実または仮想) の装置上に置いて、ジョブを再実行してください。</p>
	46	<p>説明: カタログが非仮想装置上にあるため、仮想装置への対象の定義が失敗しました。</p> <p>プログラマーの応答: 定義するカタログおよび対象を同じタイプ (実または仮想) の装置上に置いて、ジョブを再実行してください。</p>
	48	<p>説明: リカバリー可能カタログが仮想装置ではサポートされないため、仮想装置へのリカバリー可能カタログの定義が失敗しました。</p> <p>プログラマーの応答: 仮想装置のカタログ定義コマンドにリカバリー可能オプションを指定せずに、ジョブを再実行してください。</p>
242	すべて	<p>説明: DELETE コマンドによってファイルからデータを消去している間に、物理入出力エラーが起きました。戻りコード 242 で出された 10 進数の理由コード (nnn) は、VSAM 要求マクロ・エラー・コードであり、VSAM レコード管理プログラムで起きたエラーを示しています。VSAM エラー・コードについては、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で説明されています。このファイルは一部消去されていますが、削除はされていません。</p> <p>プログラマーの応答: 削除前にファイルを消去することが重要である場合は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で理由コードを調べ、エラーを訂正してください。それ以外の場合は、消去オプションを除去してください。次に、コマンドを実行し直してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
244	すべて	<p>説明: VSAM カタログ管理プログラムがこの ACB をオープンできないため、消去操作に失敗しました。 戻りコード 244 で出された 10 進数の理由コード (<i>nmn</i>) は、VSAM OPEN マクロのエラー・コードであり、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で説明されています。</p> <p>プログラマーの応答: カタログ項目の削除の前にファイルを消去することが重要である場合は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で理由コードを調べ、OPEN が失敗する原因となったエラーを訂正してください。それ以外の場合は、ERASE オプションを除去して、コマンドを再発行してください。</p>
	0	<p>説明: この ACB はオープンできませんでした (消去しようとしているときに OPEN に失敗しました)。 カタログ ACB のアドレスまたは CI 番号が誤っている可能性があります。</p> <p>プログラマーの応答: カタログ ACB アドレスと CI 番号を調べて、ジョブを再実行してください。</p>
246	4	<p>説明: システム・リソースまたはユーザー・ファイルが別のタスクで使用されていることがわかりました。</p> <p>プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。</p>
	8	<p>説明: ロック・テーブルがいっぱいです。</p> <p>プログラマーの応答: システム GETVIS 域を大きくして、コマンドを再発行してください。</p>
	12	<p>説明: このリソースに対する前の要求が、異なる共用オプション値を使用して生成されたか、またはファイルがすでにオープンされている可能性があります。</p> <p>プログラマーの応答: ファイルがクローズされていることを確かめて、コマンドを再発行してください。 エラーが再発するときは、IBM サポートに連絡してください。</p>
	16	<p>説明: デッドロック状況が検出されました。</p> <p>プログラマーの応答: コマンドを再実行してください。 エラーが再発するときは、IBM サポートに連絡してください。</p>
	20	<p>説明: LOCK パラメーター・リスト (DTL) が無効です。</p> <p>プログラマーの応答: コマンドを再実行してください。 エラーが再発するときは、IBM サポートに連絡してください。</p>
	24	<p>説明: リソースはすでに排他的に所有されています。</p> <p>プログラマーの応答: コマンドを再実行してください。 問題が再発するときは、IBM サポートに連絡してください。</p>
	28	<p>説明: DASD ロック・ファイルがいっぱいです。</p> <p>プログラマーの応答: コマンドを再実行してください。</p>
	32	<p>説明: ロック要求で示されたボリュームがオンラインではありません。</p> <p>プログラマーの応答: コマンドを再実行してください。 エラーが再発するときは、IBM サポートに連絡してください。</p>

戻りコード	理由コード	解説
	36	説明: ロック・ファイルで入出力エラーが起きました。
248	0	プログラマーの応答: コマンドを再実行してください。 説明: ボリューム・レコードが見つかりませんでした。 カタログが所有していないボリュームを参照しました。
250	すべて	プログラマーの応答: 正しいボリュームが指定されたこと、および要求が出されたカタログにボリュームが定義 (DEFINE SPACE コマンドを使用して) されていることを確かめてください。 次に、コマンドを実行し直してください。 説明: VSAM レコード管理プログラムが、消去操作中に論理エラーを検出しました。 戻りコード 250 で出された 10 進数の理由コード (<i>nnn</i>) は、レコード管理プログラム論理エラーを示す VSAM 要求マクロ・エラー・コードであり、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で説明されています。このファイルは一部消去されていますが、削除はされていません。
252	0	プログラマーの応答: カタログ項目の削除の前にファイルを消去することが重要である場合は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』で理由コードを調べ、エラーを訂正してください。 それ以外の場合は、消去オプションを除去してください。 次に、コマンドを実行し直してください。 システム・エラー。 239 ページの『システム・エラー』を参照してください。
254	すべて	説明: 早期終了。(内部標識が CCACD1 で見つかったときは、エラーを示しているのではなく、カタログをオープンする最後の O/C/EOV 要求が完了したことを表しています。) スペース・ビットマップの処理中に無効なグループ・オカレンスが見つかりました。 説明: ボリューム容量が、スペース・ビットマップで示された長さとは違っています。 この障害は、非 VSAM プログラム (例えば FASTCOPY および DDR) によって VSAM オブジェクトを含むボリュームが異なる装置特性または容量を持つ別のボリュームに移動したことが原因であると思われます。

第 10 章 IDSK - z/VSE Installation Disk Tool

IDSK000I Z/VSE INSTALLATION DISK TOOL *v.r.m* [(s)]

説明: プログラムがバージョン *v*、リリース *r*、モディファイケーション *m*、および該当する場合はサービス・レベル *sl* を報告しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IDSK001I NON-SUPPORTED EXECUTION ENVIRONMENT

説明: プログラムが、サポートされていない実行環境で実行されました。

- z/VSE Installation Disk Tool for z/VSE SA (IJBIDISK PHASE) は、リムーバブル・メディアまたはサーバーからのインストールにおいて、z/VSE スタンドアロン環境でのみ実行できます。

- z/VSE Installation Disk Tool for z/VM CMS (VSEIDISK MODULE) は、z/VM CMS 環境でのみ実行できます。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IDSK002I MISSING INVOCATION PARAMETER: *parameter*

説明: プログラムが起動されましたが、すべての必須起動パラメーターが指定されていたわけではありません。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 欠落している起動パラメーターを指定してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK003I INVALID INVOCATION PARAMETER: *parameter*

説明: 起動パラメーターとして無効な値が指定されました。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 無効な起動パラメーターを訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK004I UNKNOWN INVOCATION PARAMETER: *parameter*

説明: プログラムが起動パラメーターを認識しません。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 起動パラメーターのスペルを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK005I EXECUTING IN DRY RUN MODE

説明: プログラムはすべてのテストを実行しますが、実際にディスクを変更することはありません。ディスクが変更されないために一部のテストが失敗する可能性があります。これは予期されたことです。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IDSK009I *progress/status text*

説明: これは、一見してすぐに分かる進行状況メッセージで、進行中の処理を報告します。

システムの処置: 処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IDSK010I FAILED TO OPEN I/O DEVICE: *device*

説明: 入出力デバイスをオープンできませんでした。z/VSE 環境では、示されている「*device*」は論理装置番号 (LUN) です。z/VM CMS 環境では、示されている「*device*」は仮想デバイス番号 (CUU) です。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK011I FAILED TO READ BASIC IDENTIFICATION INFORMATION

説明: 基本識別情報を入出力デバイスから読み取ることができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: 指定された VSE 装置 (CUU) が有効であることを確認してください。
- z/VM CMS 環境: 指定された仮想装置番号 (CUU) が有効であることを確認してください。

処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK012I INVALID BASIC IDENTIFICATION INFORMATION

説明: 入出力デバイスによって報告された基本識別情報は無効です。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: 指定された VSE 装置 (CUU) が有効であることを確認してください。
- z/VM CMS 環境: 指定された仮想装置番号 (CUU) が有効であることを確認してください。

処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK013I UNSUPPORTED I/O DEVICE TYPE: type

説明: デバイスによって報告された入出力デバイス・タイプはサポートされていません。サポートされるのは、3390

ECKD、FCP 接続 SCSI および FBA DASD のみです。FBA DASD は、エミュレートされた FBA にすることもできます。システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: 指定された VSE 装置 (CUU) が有効であることを確認してください。
- z/VM CMS 環境: 指定された仮想装置番号 (CUU) が有効であることを確認してください。

指定された装置が 3390 ECKD または FBA DASD であることを確認してください。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK014I EXPECTED ECKD ARCHITECTURE

説明: 入出力デバイスは、必要な ECKD アーキテクチャーをサポートしていません。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: 指定された VSE 装置 (CUU) が有効であることを確認してください。
- z/VM CMS 環境: 指定された仮想装置番号 (CUU) が有効であることを確認してください。

指定された装置が 3390 ECKD DASD であることを確認してください。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK020I FAILED TO READ DEVICE CHARACTERISTICS DATA

説明: デバイス特性データを入出力デバイスから読み取ることができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: 指定された VSE 装置 (CUU) が有効であることを確認してください。

- z/VM CMS 環境: 指定された仮想装置番号 (CUU) が有効であることを確認してください。

処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK021I INVALID DEVICE CHARACTERISTICS DATA: EXPECTED A BLOCKSIZE OF x BYTES

説明: ブロック装置 (FBA または SCSI) では、予期されたブロック・サイズは使用されません。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: 指定された VSE 装置 (CUU) が有効であることを確認してください。
- z/VM CMS 環境: 指定された仮想装置番号 (CUU) が有効であることを確認してください。

指定された装置が FBA DASD であることを確認してください。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK030I FAILED TO READ VOLUME LABEL (VOL1)

説明: ボリューム・ラベル (VOL1) をディスクから読み取ることができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: 用意されている VSEIDISK.EXEC スクリプトを使用して、z/VSE インストール・ディスクを作成してください。必要に応じて、ディスクは装置サポート機能でフォーマットされます。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK031I EXPECTED VTOC ON CYLINDER c, HEAD h

説明: ボリューム目録 (VTOC) がまったく存在しないか、または予期されている場所にありません。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: 用意されている VSEIDISK.EXEC スクリプトを使用して、z/VSE インストール・ディスクを作成してください。必要に応じて、ディスクは装置サポート機能でフォーマットされます。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK032I EXPECTED VTOC ON BLOCK *b*

説明: ポリウム目録 (VTOC) がまったく存在しないか、または予期されている場所にありません。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: 用意されている VSEIDISK.EXEC スクリプトを使用して、z/VSE インストール・ディスクを作成してください。必要に応じて、ディスクは装置サポート機能でフォーマットされます。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK033I TOO MANY BLOCKS ALLOCATED FOR VTOC: MAXIMUM IS *b*

説明: VTOC に割り振られているブロックが多過ぎます。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: 用意されている VSEIDISK.EXEC スクリプトを使用して、z/VSE インストール・ディスクを作成してください。必要に応じて、ディスクは装置サポート機能でフォーマットされます。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK034I INVALID TAPE IMAGE FILE

説明: z/VSE インストール・テープ・イメージ・ファイルはインストール・ディスクの作成に使用できません。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 指定したファイルが可変レコード形式であることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK040I FAILED TO ADD EXTENT FOR THE WHOLE DISK (RC=*rc*)

説明: プログラムは、ディスク全体のエクステントを追加できませんでした。戻りコードは EXTENT マクロの戻りコードのいずれかで、16 進表記です。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK041I FAILED TO DELETE EXTENT FOR THE WHOLE DISK (RC=*rc*)

説明: プログラムは、ディスク全体のエクステントを削除できませんでした。戻りコードは EXTENT マクロの戻りコードのいずれかで、16 進表記です。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK051I FAILED TO OPEN *type* STREAM: *file*

説明: プログラムは、z/VSE インストール・テープ・イメージのストリームを開くことができませんでした。z/VM 環境では、対象のファイルはファイル名、タイプ、およびモードで示されています。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 指定されたファイル名、タイプ、およびモードが有効であることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK052I FAILED TO OPEN MEMORY STREAM

説明: プログラムは、メモリー内にある z/VSE インストール・テープ・イメージのメモリー・ストリームを開くことができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK060I FAILED TO OPEN TAPE IMAGE

説明: プログラムは、z/VSE インストール・テープ・イメージを開くことができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK061I FAILED TO DETERMINE TAPE IMAGE SIZE

説明: プログラムは z/VSE インストール・テープ・イメージのサイズを計算できませんでした。そのイメージは既にオープンされていました。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: 指定したテープ・ファイルが z/VSE インストール・テープ・イメージであることを確認してください。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK067I z/VSE INSTALLATION TAPE IMAGE VERSION *v.r.m* UNSUPPORTED ON BLOCK DEVICE

説明: このバージョンとリリースの z/VSE インストール・テープ・イメージは、FBA や SCSI などのブロック装置上に z/VSE インストール・ディスクを作成するために使用することはできません。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: z/VSE インストール・テープ・イメージのバージョンが z/VSE インストール・ディスク・タイプでサポートされていることを確認してください。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK068I FAILED TO EXTRACT TAPE IMAGE VERSION AND RELEASE (RC=rc)

説明: このバージョンとリリースの z/VSE インストール・テープ・イメージはテープから読み取ることができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: 指定したテープ・ファイルが z/VSE インストール・テープ・イメージであることを確認してください。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK069I NON-SUPPORTED Z/VSE INSTALLATION TAPE IMAGE VERSION: v.r.m

説明: z/VSE インストール・テープ・イメージのバージョン *v* およびリリース *r* は、z/VSE Installation Disk Tool のバージョン *m* より新しいものです。z/VSE Installation Disk Tool は、同じまたはそれより前のバージョン *m* のみサポートします。z/VSE Installation Disk Tool のバージョン *m* より新しいバージョンについては、メッセージ IDSK000I を参照してください。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: z/VSE インストール・テープ・イメージのバージョン *m* およびリリース *r* と同じか、それよりも新しい z/VSE Installation Disk Tool を使用してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK070I FAILED TO WRITE TAPE IMAGE: text

説明: プログラムは、テープ・イメージを z/VSE インストール・ディスクに書き込むことができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 指定された DASD が書き込み保護されていないことを確認してください (例えば、読み取り専用として接続されているなど)。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK071I FAILED TO WRITE BOOT PHASE: text

説明: プログラムは、ブート・フェーズを z/VSE インストール・ディスクに書き込むことができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 指定された DASD が書き込み保護されていないことを確認してください (例えば、読み取り専用として接続されているなど)。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK072I FAILED TO WRITE BOOT PROGRAM: text

説明: プログラムは、ブート・チャンネル・プログラムを z/VSE インストール・ディスクに書き込むことができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 指定された DASD が書き込み保護されていないことを確認してください (例えば、読み取り専用として接続されているなど)。処理を再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK098I FAILED TO INITIALIZE

説明: プログラムは、必要なデータ構造を初期化できませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK099I OUT OF MEMORY

説明: プログラムは、必要な量のメモリーを割り振ることができませんでした。

システムの処置: プログラムは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答:

- z/VSE SA 環境: IBM に連絡してください。
- z/VM CMS 環境: ゲストの仮想ストレージ・サイズを大きくしてください。「z/VM CP コマンドおよびユーティリティー・リファレンス」で、コマンド DEFINE STORAGE について調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK102E MISSING INVOCATION PARAMETER: parameter

説明: スクリプトが起動されましたが、すべての必須起動パラメーターが指定されていたわけではありません。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 欠落している起動パラメーターを指定してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK103E INVALID INVOCATION PARAMETER:
parameter

説明: 起動パラメーターとして無効な値が指定されました。
システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 無効な起動パラメーターを訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK104E MISSING INVOCATION OPTION: *option*

説明: スクリプトが起動されましたが、すべての必須起動オプションが指定されていたわけではありません。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 欠落している起動オプションを指定してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK105E INVALID INVOCATION OPTION: *option*

説明: 無効な起動オプションが指定されました。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 無効な起動オプションを訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK106E MISSING INVOCATION OPTION VALUE:
option

説明: 起動オプションが指定されましたが、値が指定されていません。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 欠落している起動オプションの値を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK107E INVALID INVOCATION OPTION VALUE:
option=ovalue

説明: 起動オプションとして無効な値が指定されました。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 無効な起動オプションの値を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK110E FILE CANNOT BE FOUND: *fn ft fm*

説明: ファイル名 *fn*、ファイル・タイプ *ft*、ファイル・モード *fm* のファイルが見つかりません。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 指定されたファイル名、タイプ、およびモードが有効であることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

**IDSK111E FILE CANNOT BE FOUND ON ANY
ACCESSED DISK: *fn ft***

説明: ファイル名 *fn*、ファイル・タイプ *ft* のファイルが、アクセスされているディスクにも Shared File System (SFS) ディレクトリーにも見つかりません。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 指定されたファイル名およびタイプが有効であることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK112E INVALID DEVICE NUMBER: *vdev*

説明: 示されている仮想デバイス番号 (CUU) は無効です。デバイス番号は、1 から 4 桁の 16 進数でのみ構成されます。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 示されている仮想デバイス番号を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK113E INVALID VOLUME IDENTIFIER: *volid*

説明: 示されているボリューム ID (VOLID) は無効です。ボリューム ID は、1 から 6 桁の英数字でのみ構成されます。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 示されているボリューム ID を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

**IDSK120E DEVICE NUMBER DOES NOT EXIST OR
IS NON-DASD: *vdev***

説明: 示されている仮想デバイス番号は存在しないか、またはサポートされていないデバイス・タイプを指しています。3390 ECKD DASD のみがサポートされます。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 示されている仮想デバイス番号を確認してください。

プログラマーの応答: なし。

**IDSK121E SCSI INSTALL ON NON FBA DASD IS
NOT SUPPORTED**

説明: SCSI オプションは、エミュレートされた FBA DASD に対してのみ使用できます。

システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: 示されている仮想デバイス番号を確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK122E DASD IS READ-ONLY

説明: z/VSE インストール・ディスクとして指定された DASD は読み取り専用です。
 システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。
 オペレーターの応答: 書き込み許可があるモードで DASD にリンクしてください。
 プログラマーの応答: なし。

IDSK123E DASD HAS LESS THAN *number unit*

説明: z/VSE インストール・ディスクとして指定された DASD には、示されている必要数のストレージがありません。
 システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。
 オペレーターの応答: 少なくとも必要最小量の記憶域が使用可能になっている DASD を z/VSE インストール・ディスクとして使用してください。
 プログラマーの応答: なし。

IDSK131E DEVICE SUPPORT FACILITIES IS REQUIRED TO FORMAT THE Z/VSE INSTALLATION DISK

説明: このスクリプトは、ICKDSF MODULE にアクセスできませんでした。
 システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。
 オペレーターの応答: IBM 装置サポート機能 (ICKDSF) が常駐しているディスクまたは Shared File System (SFS) ディレクトリにアクセスしてください。
 プログラマーの応答: なし。

IDSK132E Z/VSE INSTALLATION DISK TOOL IS REQUIRED TO CREATE THE Z/VSE INSTALLATION DISK

説明: このスクリプトは、VSEIDISK MODULE にアクセスできませんでした。
 システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。
 オペレーターの応答: z/VSE Installation Disk Tool が常駐しているディスクまたは Shared File System (SFS) ディレクトリにアクセスしてください。
 プログラマーの応答: なし。

IDSK141I FORMATTING Z/VSE INSTALLATION DISK [(TAKES LONGER)] ...

説明: スクリプトが、IBM 装置サポート機能 (ICKDSF) による z/VSE インストール・ディスクのフォーマット (初期化) を開始しました。オプション ERASE が指定されている場合、この操作には長い時間がかかります。
 システムの処置: z/VSE インストール・ディスクは、IBM 装置サポート機能 (ICKDSF) でフォーマット (初期化) されます。
 オペレーターの応答: 詳しくは、この後に続く IBM 装置サポート機能 (ICKDSF) メッセージを参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IDSK142E FORMATTING OF Z/VSE INSTALLATION DISK FAILED WITH RC=*rc*

説明: IBM 装置サポート機能 (ICKDSF) がゼロ以外の戻りコードを返しました。
 システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。
 オペレーターの応答: 詳しくは、このメッセージの前の IBM 装置サポート機能 (ICKDSF) メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IDSK143I CREATING Z/VSE INSTALLATION DISK

...

説明: スクリプトが、z/VSE Installation Disk Tool による z/VSE インストール・ディスクの作成を開始しました。
 システムの処置: z/VSE インストール・ディスクが、z/VSE Installation Disk Tool によって作成されます。このプロセスの間、z/VSE インストール・テープ・イメージが、該当する IPL レコードと一緒にディスクに書き込まれます。
 オペレーターの応答: 詳しくは、後に続く IDSK メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IDSK144E CREATION OF Z/VSE INSTALLATION DISK FAILED WITH RC=*rc*

説明: z/VSE Installation Disk Tool がゼロ以外の戻りコードを返しました。
 システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。
 オペレーターの応答: 詳しくは、このメッセージの前の IDSK メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IDSK151D REPLY 'CONTINUE' TO ALTER DASD *vdev*, ELSE 'CANCEL'

説明: スクリプトが、仮想デバイス・アドレス *vdev* で示されている DASD に対して、元に戻すことができない変更を加えようとしています。
 システムの処置: スクリプトは、危険性を伴う操作の前に、確認のプロンプトを出します。
 オペレーターの応答: 続行するには「CONTINUE」と、中止するには「CANCEL」と応答してください。
 プログラマーの応答: なし。

IDSK159I OPERATOR REFUSED TO CONTINUE PROCESSING

説明: ユーザーは、処理の続行を拒否しました。
 システムの処置: スクリプトは、ゼロ以外の戻りコードで終了します。
 オペレーターの応答: 詳しくは、このメッセージの前の IDSK メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

第 11 章 接頭部 IES の z/VSE 固有メッセージ

IESA0202I UNABLE TO CONTINUE. DUMP xxxx SAVED.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、内部エラーを検出しました。ユーザー状況レコードが重ね書きされているか、あるいはプログラムにエラーがありました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。ユーザー状況レコードが入っている CICS トランザクション・ダンプをとります。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。

オペレーターの応答: この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはプログラムのバッファが破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に援助を依頼してください。CICS ダンプ・データ・セットを印刷して、ダンプ ID XXXX を見つけてください。特に、ユーザー状況レコードをオーバーラップしているデータを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESA0205I UNEXPECTED RETURN CODE X'xx' FROM GETVCE MACRO.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、エラーを検出しました。GETVCE マクロを使用して、ボリュームのリストをシステムに加える要請は、失敗しました。考えられる戻りコードは、以下のとおりです。

X'04' 論理装置番号または、ボリューム ID が間違っています。

X'08' 指定されたボリュームが取り付けられていないか、指定された論理装置が割り当てられていないか、あるいは指定した装置がシステムにありません。

X'0C' 指定された論理装置に「無視」が割り当てられました。

X'10' 入出力装置が操作不可能です。

X'14' パラメーター・リストが間違っています。

X'18' 指定した論理装置または入出力装置が DASD ではありません。

X'1C' 入出力装置が作動可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。

オペレーターの応答: 戻りコードに従ってください。

プログラマーの応答: なし。

IESA0208I UNABLE TO READ TS QUEUE qqqqqqqq. EIBRCODE=X'rrxxxxxxxx'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムで、キュー qqqqqqqq に CICS READQ TS コマンドを出しましたが、失敗しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。可能であれば、該当する一時ストレージ・キューを削除します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。

オペレーターの応答: rr に表示されている値に基づいて、続行してください。

rr	意味	処置
01	ITEMERR	1
02	QIDERR	1
04	IOERR	2
20	INVREQ	1
D0	SYSIDERR	1
D1	ISCINVREQ	1
E1	LENGERR	1

1. これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。

2. これは、入出力で発生したものとして処理してください。DFHTEMP に関するエラーを示しているコンソール・メッセージ、または DFHTEMP が入っている入出力装置を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESA0209I UNABLE TO WRITE TO TS QUEUE qqqqqqqq. EIBRCODE=X'rrxxxxxxxx'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムで、キュー qqqqqqqq に CICS WRITEQ TS コマンドを出しましたが、失敗しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。可能であれば、該当する一時ストレージ・キューを削除します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。

オペレーターの応答: rr に表示されている値に基づいて、続行してください。

rr	意味	処置
01	ITEMERR	1
02	QIDERR	1
04	IOERR	2
08	NOSPACE	3
20	INVREQ	1
D0	SYSIDERR	1
D1	ISCINVREQ	1

1. これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンラ

イン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。

2. これは、入出力で発生したものとして処理してください。DFHTEMP に関するエラーを示しているコンソール・メッセージ、または DFHTEMP が入っている入出力装置を調べてください。
3. これは通常、一時ストレージ機能を使用するタスクが多過ぎることに起因する問題です。システムがあまり使われていない時に実行し直すか、あるいは DFHTEMP データ・セットをもう少し大きく定義し直してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0212I UNABLE TO LINK PROGRAM pppppppp.
EIBRCODE=X'rrrrrrrrrr'.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されているプログラムで、CICS LINK コマンドを出しましたが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに pppppppp を見つけることができなかったか、または pppppppp が使用可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、EIBRCODE 値 rrrrrrrrrr を探して、問題判別を開始してください。インストールが正しく行われた場合には、pppppppp はシステムにあるはずですが、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0217I UNABLE TO TRANSFER CONTROL TO
THE FUNCTION PROCESSOR ENDING
MODULE, xxxxxxxx. CONTROL WAS
GIVEN BACK TO CICS.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されているプログラムで、CICS XCTL コマンドを出しましたが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに xxxxxxxx を見つけることができなかったか、または xxxxxxxx が使用可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーを検出した機能処理プログラムを取り消し、CICS RETURN コマンドを出します。

オペレーターの応答: インストールが正しく行われた場合には、xxxxxxx はシステムにあるはずですが、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。xxxxxxx が使用可能でない場合には、z/VSE 対話式ユーザー・インターフェースは作動しません。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0220I ERROR SITUATION FROM SUBSYSTEM.
z/VSE MESSAGE xxxx RETURNED. SEE
APPROPRIATE LOG INSERT.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) に示されたプログラムが、VSE/ICCF インターフェース・プログラムを使用して、エラーを検出しました。障害ログで見つけることもできるメッセージを示すメッセージ番号が戻されました。

システムの処置: このメッセージを、VSE/ICCF インターフェース・プログラムから戻されたメッセージと同様に、オンライン・システム・ログに追加します。問題が検出され、診断情報が保管されたことを伝える補足メッセージが、プログラムに送られます。

オペレーターの応答: ICCF サブシステムが示されたメッセージを戻す理由を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0221I UNIDENTIFIED SUBSYSTEM MESSAGE
FROM ICCF:**

xx

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) に示されたプログラムが、VSE/ICCF インターフェース・プログラムを使用して、エラーを検出しました。解釈できない、固有の ICCF メッセージが戻されました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題が検出され、診断情報が保管されたことを伝える補足メッセージが、プログラムに送られます。

オペレーターの応答: ICCF サブシステムが示されたメッセージを戻す理由を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0222I UNABLE TO EXECUTE CICS COMMAND.
EIBRCODE=X'rrrrrrrrrr', EIBFN=X'ffff'.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されたプログラムが、VSE/ICCF インターフェース・プログラムを使用して失敗した CICS コマンドを出しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題が検出され、診断情報が保管されたことを伝える補足メッセージが、プログラムに送られます。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料を調べ、失敗した CICS 機能を示す EIBFN 値 ffff、および失敗の原因を示す EIBRCODE 値 rrrrrrrrrr を探して、問題判別を開始してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0223I INTERNAL ERROR AFTER LINK TO THE
ICCF INITIATOR MODULE mmmmmmmmm.
DUMP dddd SAVED.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されたプログラムが、VSE/ICCF インターフェース・プログラム mmmmmmmmm を使用して内部エラーを検出しました。ユーザー状況レコード、または他のストレージ域が、重ね書きされたか、あるいはプログラムにエラーがあります。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題が検出され、診断情報が保管されたことを伝える補足メッセージが、プログラムに送られます。ストレージ域を含めた CICS トランザクション・ダンプがとられません。

オペレーターの応答: この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはプログラムのバッファが破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に援助を依頼してください。CICS ダンプ・データ・セットを印刷して、ダンプ ID xxxx を見つけてください。特に、問題の原因となった、ストレージ域をオーバーラップしているデータの種類を、調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESA0230I UNABLE TO SET UP CROSS PARTITION COMMUNICATION IN THE BACK END. THE FAILING BACK END FUNCTION TERMINATED WITH RETURN CODE X'cc' AND REASON CODE X'rr'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されたプログラムが、CICS 区画と ICCF 対話式区画との XPCC 相互区画通信を使用してエラーを検出しました。XPCC 機能の「識別」、「接続」、「受信」、または「送信」のいずれか 1 つが失敗しました。要求したデータは検索できませんでした。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題が検出され、診断情報が保管されたことを伝える補足メッセージが、プログラムに送られます。

オペレーターの応答: この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により解決される場合には、相互区画通信に関連するプログラムの 1 つが壊されたか、またはいくつかのシステム域が壊されたものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行を中断させ、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーがたびたび起こる場合には、システム管理者は、戻りコードおよび理由コードを保管して、弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESA0308I UNEXPECTED RETURN CODE X'rr' FROM MACRO mmmmmmmmm

説明: プログラム IESDSL が、マクロ mmmmmmmmm から予期しない戻りコード X'rr' を検出しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題の発生と、その診断情報の保管を伝える補足メッセージを、プログラムに送ります。

オペレーターの応答: 問題が断続的に発生し、オンライン・システムの再始動で解決されたときは、関連のプログラム、またはシステム域の一部が、損傷を受けていると考えられます。エラーが頻繁に起きるときは、システム管理担当者は、戻りコードを保管し、弊社に支援を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESA0400I UNEXPECTED RETURN/REASON CODE rr/rt FROM MACRO mmmmm

説明: 対話式インターフェースの機能が上記のマクロ呼び出しを出したときに、示された戻り/理由コードが戻されました。詳細については、「z/VSE System Macros Reference」に記載されている関連マクロの説明を参照してください。その説明に、メッセージに示されたマクロが含まれていない場合は、弊社に連絡してください。

システムの処置: 機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESA0401I UNEXPECTED ERROR CODE xx FROM IESCONSL

説明: コンソール・プログラム IESCONSL から、メッセージに示された予期しない戻りコードが戻されました。

システムの処置: コンソール機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESA0402I TERMINAL IS NOT SUPPORTED FOR THE CONSOLE DIALOG

説明: サポートされない端末からコンソール機能が出されました。

システムの処置: 機能は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESA0500I UNABLE TO CONTINUE - REASON CODE rr.

説明: z/VSE に対して使用された SUBMIT インターフェースが、ゼロ以外の戻りコードを出しました。理由コードは次のとおりです。

- 04 インターフェース問題。内部エラーが発生しました。
- 11 インターフェース問題。/SWIT または /CONN コマンドがエラーで戻されました。
- 15 インターフェース問題。VSE/POWER のスプールまたはアカウント・ファイル・スペースが不足しています。
- 16 インターフェース問題。VSE/POWER インターフェースを利用できません。
- 18 インターフェース問題。VSE/POWER-ICCF のインターフェース問題です。
- 19 インターフェース問題。相互区画通信モジュール DTSIXP から予想外の戻りコードです。
- 20 インターフェース問題。VSE/POWER が、戻り情報(おそらく、受け渡したジョブの構文エラーからの情報)を出しました。
- 21 入力側問題。指定したパラメーターが無効でした。
- 22 入力側問題。インターフェース・プログラムが間違っていて「再使用」されました。
- 24 入力側問題。メンバー名が指定されていません。
- 29 入力側問題。指定したライブラリー名が無効でした。

- 41 入力側問題。指定したメンバーが見つかりませんでした。
- 42 ユーザー問題。メンバーが圧縮されました。
- 44 ユーザー問題。メンバーのパスワードがありませんでした。
- 45 ユーザー問題。メンバーのパスワードが無効でした。
- 47 ユーザー問題。組み込まれるメンバーを見つけることができませんでした。
- 48 ユーザー問題。INCLUDE が 9 以上のネスト・レベルを指定しました。
- 49 ユーザー問題。再帰的 INCLUDE ステートメントが検出されました。
- 55 ユーザー問題。組み込まれるメンバーが圧縮されました。
- 57 ユーザー問題。組み込まれるメンバーのパスワードがありませんでした。
- 58 ユーザー問題。組み込まれるメンバーのパスワードが無効でした。
- 63 ユーザー問題。ジョブに、POWER® または DOS/VSE の JOB ステートメントがありませんでした。

システムの処置: SUBMIT インターフェースを中止させます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 「インターフェース」または「入力側」問題の場合には、z/VSE 管理者に連絡してください。「ユーザー」問題の場合には、エラーを修正しジョブを再サブミットしてください。

**IESA0630I TEXT FILE ACCESS ERROR -
EIBRCODE=X'rr'; UNABLE TO PROCESS
HELP TEXT**

説明: プログラム IESXSPM は、テキスト・ファイル IESTRFL をアクセス中にファイル・エラー状態を見つけました。エラーは EIBRCODE 値の rr で説明されています。このエラーは、テキスト・ファイルにある選択画面操作援助の処理中に起こりました。プログラム開発ライブラリー中の、操作援助テキストの削除が、正しく行われることもあります。

システムの処置: メッセージをオンライン・システム・ログ・ファイルに追加して、選択画面保守を中止させます。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で

EIBRCODE を調べ、発生したエラーを正確に判別してください。NOTOPEN (X'08') のようなエラーの場合には、CEMT トランザクションを使用して IESTRFL ファイルをオープンして、再度実行してください。戻りコードが DSIDERR または IOERR の場合には、ユーザーの手順に従ってエラー状態を解消してください。エラー時にテスト中のアプリケーションがない場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0642I pppppppp ENCOUNTERED AN ERROR
USING ICCF, IESCLIST
CLERRS=X'xxxxxxx'.**

説明: 示されているプログラムが、ICCF の使用中にエラーを見つけました。エラーのタイプは、CLERRS 値 xxxxxxxx で示されています。処理は停止されます。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システム・ログ・ファイルに追加して、機能を中止させます。

オペレーターの応答: CLERRS コードは、IESCLIST 制御ブロックについての z/VSE 内部資料に示されています。エラーの原因は、ICCF が一時的に使用できなくなったか、または ICCF の現在の状態では、機能が実行できないことによるものです。タスクを再度実行して、エラーが再度起こる場合には、ICCF を再始動させてください。それでもなおエラーが起こる場合には、システム管理者を通して弊社に連絡し、診断用の CLERRS 値を提示してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0675I FUNCTION UNABLE TO CONTINUE,
DUMP dddd SAVED**

説明: ログ上のこのメッセージの前に出されたメッセージ IESV0089I に示されているプログラムが、異常終了しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システム・ログ・ファイルに追加して、機能を中止させます。

オペレーターの応答: これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。しかし、オンライン・システムを停止した上で、再始動したあとに、このメッセージが繰り返し起こる場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0690I pppppppp ENCOUNTERED EIB VALUES:
EIBFN=X'xxxx', EIBRCODE= X'xxxx' SEE
CICS APRM**

説明: メッセージに示されているプログラムが、EXEC CICS コマンドを出した時点で、示されているエラーを見つけました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システム・ログ・ファイルに追加して、機能を中止させます。

オペレーターの応答: これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。しかし、オンライン・システムを停止した上で、再始動したあとに、このメッセージが繰り返し起こる場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0701I UNABLE TO INQUIRE DATASET
IESCNTL, EIBRCODE=X'xxxxxxxxxxx'.**

説明: (このメッセージに先行する) メッセージ IESV0089I で識別されたプログラムから出された CICS INQUIRE DATASET コマンドが、失敗しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのロ

グに追加します。エラーを検出した機能を取り消します。
 オペレーターの応答: これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESA0702I UNABLE TO ACCESS CONTROL FILE,
 SYNONYMS FOR USER 'xxxx' MIGHT BE
 OUT OF ORDER**

説明: (このメッセージに先行する) メッセージ IESV0089I で識別されたプログラムが、z/VSE 制御ファイルの読み取りまたは書き込みを行おうとしたところ、エラーを検出しました。ユーザー xxxx の同義語が削除、または不完全なのが、エラーの原因です。
 システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。
 オペレーターの応答: このメッセージに先行するプログラム IESCF A からのメッセージをオンライン・システム・ログで調べて、制御ファイルの問題を解決してください。制御ファイルへのアクセスが確立された後、ユーザー xxxx はダイアログ「同義語の保守」を使用して同義語を調べ、訂正してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESA0760I UNABLE TO RETRIEVE DATA,
 EIBRCODE X'rrrrrrrrrrrrrrrrrr'.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、CICS RETRIEVE コマンドを出しましたが、失敗しました。プログラムは、入力が 'EXEC CICS START' コマンドで渡されるのを、期待しています。
 システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。
 オペレーターの応答: rr で示された値に基づき、この問題には、2 つの理由が考えられます。
 1. rr が '01' の場合 (ENDDATA): このプログラムに接続したトランザクションを開始しているアプリケーション・プロファイルに誤りがあります。アプリケーション・クラス '1' の指定と、プログラムに渡すデータが必要です。
 2. rr が 1 以外の場合: これが時々起こる障害の場合、所有していないストレージを重ね書きするテスト中アプリケーションによるものです。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESA0761I UNABLE TO CONTINUE, PASSED DATA
 HAVE INCORRECT LENGTH.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、パラメーターを受け取るために、CICS RETRIEVE コマンドを出しました。しかし、受け取ったデータの長さが間違っています。
 システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。
 オペレーターの応答: エラーは、ほとんどの場合、誤ったアプリケーション・プロファイルによるものです。このメッセージを出しているプログラムに渡ったデータが正しいかを確認してください。エラーが断続的に起きる場合、所有していないストレージを重ね書きするテスト中のアプリケーションによるものです。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESA0762I UNABLE TO START TRANSACTION 'tttt',
 EIBRCODE X'rrrrrrrrrrrrrrrrrr'.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、CICS START コマンドを出しましたが、失敗しました。
 システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。
 オペレーターの応答: トランザクション tttt が CICS に定義され、活動可能な状態になっていることを確認してください。必要であれば、正しいトランザクション ID を渡すように、このプログラムを呼び出すアプリケーション・プロファイルを訂正してください。
 メッセージが断続的に出る場合、所有していないストレージを重ね書きするテスト中のアプリケーションによるものです。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESA0814I FOLLOWING IS THE DESCRIPTION OF
 AN ABEND IN AN ICCF INTERACTIVE
 PARTITION. TERMINAL ID: tttt, USER
 ID: uuuuuuuuu**

説明: 端末 tttt のユーザー uuuuuuuuu が、ICCF 対話式区画プログラムを実行していましたがプログラムは異常終了しました。異常終了を処理しているときに、プログラムによって、診断情報が ICCF ライブラリー・メンバー DTRL nmmn に作成されました。
 システムの処置: このメッセージを使用して、DTRLnmmn の初めの 20 行をオンライン・システムのログに挿入します。
 オペレーターの応答: このメッセージの情報の 20 行を使用して、問題判別を開始してください。エラー発生時に、基本ライブラリーに保管された、ライブラリー・メンバー nmmn には、さらに情報が入っている可能性があります。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0822I INTERNAL ERROR ENCOUNTERED.
TRANSACTION DUMP 'IESI'
REQUESTED.**

説明: IESFPIP と IESDAP の間のインターフェースで、エラーが発生しました。システムは、このユーザーの選択パネルをこの端末に表示することができません。

システムの処置: ID が IESI の CICS トランザクション・ダンプを要求します。ユーザーは z/VSE からサインオフされます。

オペレーターの応答: このエラーがめったに起こらないものであれば、ユーザー作成のアプリケーション・プログラムが CICS 区画のストレージを上書きした結果として、このエラーが起こった可能性があります。このエラーが頻繁に起こり、それがユーザー作成のアプリケーション・プログラムが実行を開始する前であれば、CICS ダンプ・データ・セットから IESI ダンプを印刷し、弊社に援助を要請してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0828I FORCED LOGOFF FROM ICCF
OCCURRED. CANCEL CODE X'xxxxxxx'**

説明: z/VSE が ICCF インターフェースと作業中に、ICCF から取り消しコード xxxxxxxx を受け取りました。ユーザーは、ICCF から強制的に切り離されました。これは、z/VSE が処理して継続できる条件の 1 つではありません。

システムの処置: 取り消しコードを受け取ったアプリケーションを中止させ、このメッセージをログ記録します。

オペレーターの応答: ICCF 資料で取り消しコードを見つけ、資料にある指示にしたがって続けてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0835I RETURN CODE X'xxxxxxx' FROM ICCF
IS UNEXPECTED AND CANNOT BE
PROCESSED.**

説明: z/VSE アプリケーションが ICCF 対話区画で実行中に、ICCF から戻りコード xxxxxxxx を受け取りました。これは多分、エラーです。z/VSE は、このコードを処理するようになっていません。

システムの処置: 戻りコードを受け取ったアプリケーションを中止させ、このメッセージをログ記録します。

オペレーターの応答: ICCF 資料で戻りコードを見つけ、その資料にある指示に従って続けてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0836I I/A PARTITION RETURN CODE X'rrrrrrrr',
FROM APPLICATION 'aaaaaaaa', INVALID**

説明: ICCF 対話式区画で実行中のアプリケーション aaaaaaaa が、未定義の戻りコードにより、終了しました。これは、アプリケーションにエラーがあると考えられます。示されているアプリケーション名は、アプリケーション・プロファイルの名前で、必ずしも対話式区画で実行中のプログラムの名前ではありません。

システムの処置: メッセージをログ記録して、システムはゼロ

の戻りコードが与えられた場合と同様にして実行を続けます。
オペレーターの応答: まず、上に示されたアプリケーション・プロファイルを表示し (アプリケーション・プロファイル保護機能を使用) 該当するプログラムの名前を見つけてください。プログラムをユーザーが修正していない場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0840I INTERNAL ERROR OCCURRED USING
PROGRAM IESATFC. CODE 'x'**

説明: このメッセージの前に出されたメッセージ IESV0089I に示されているプログラムが、プログラム IESATFC を呼び出し中に、インターフェース・エラーを見つけました。これは、z/VSE プログラム・エラーであるか、またはローカル・アプリケーション・プログラムが非所有オンライン区画のストレージを上書きした結果として生じることがあります。

システムの処置: エラーをログし、新たに機能を開始する試みを中止させます。端末ユーザーに対しては、機能を呼び出すことができないということを示す、エラー・メッセージが表示されます。

オペレーターの応答: プログラムが、所有していないストレージを重ね書きしているかどうかを判別してください。内部的に作成されてプログラムが実行中の場合には、これが問題となることもあります。

しかし、この失敗が続いて起こったり、内部的に作成されたアプリケーション・プログラムが実行に入る前に起こる場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。この場合、メッセージ中の理由コード X は、問題判別で重要となります。理由コードは、次のようにエラーのフィールドを示します。

コード	意味
1	AFCADTWA の TWA アドレスが間違っています。
2	TWA が初期設定されていないか、TWA アドレスが間違っています。
3	AFCTTRAN トランザクション ID が指定されていません。
4	AFCADWA 中の作業域アドレスが間違っています。

プログラマーの応答: なし。

**IESA0843I SECURITY CHECK ERROR 'rr'
OCCURRED TRYING TO VALIDATE
TRANSACTION 'tttt'**

説明: プログラム IESATFC は、トランザクション tttt のセキュリティチェックを要求した後で、DFHXSP から予期しない戻りコード rr を受け取りました。このコードは、セキュリティチェックの「合格」または「失敗」以外を示すものです。したがって正しいものではありません。

システムの処置: エラーをログし、新たに機能を開始する試みを中止させます。端末ユーザーに対しては、機能を呼び出すことができないということを示す、エラー・メッセージが表示されます。

オペレーターの応答: 内部のアプリケーション・プログラムが、所有していないストレージを重ね書きしているかどうかを

判別してください。そのプログラムが実行に入るまでに、失敗が起こらなかった場合には、これが問題となることもありません。

ご使用先で、セキュリティの目的で DFHXSP の内部作成版 (バージョン) を組み込んでいる場合には、構内システムの管理者も問題判別に関与してください。

上記の理由のどちらにも当てはまらなくとも考えられる場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。この場合、メッセージ中の戻りコード `rr` が、問題解決には役立ちます。

コード 意味

- 4 新しいパスワードが必要です。
トランザクション・セキュリティが検査中の場合には、この戻りコードは間違っています。
- 8 オペレーター ID カードが必要です。
トランザクション・セキュリティが検査中の場合には、この戻りコードは間違っています。
- 12 未使用です。この戻りコードは、未定義です。
- 16 正しくないサインオンを試みました。
トランザクション・セキュリティが検査中の場合には、この戻りコードは間違っています。
- 24 プログラム・エラーです。このエラーは TESATFC または DFHXSP のいずれかにあります。
インストール先で独自の DFHXSP 版を組み込んでいる場合は、導入先で、問題判別を行ってください。
問題の判別は、主に導入済みシステムで実行されるべきです。

上記以外の戻りコードは、いずれも未定義で、かつ DFHXSP のエラーが原因で出されます。

プログラマーの応答: なし。

IESA0903I NO PROFILE RECORD EXISTS FOR TERMINAL 'tttt'

説明: 端末 `tttt` が事前生成のセキュリティ値とともに、DFHTCT で指定されました。これは、オペレーターがサインオンをしなくてもすむように、端末で行うことができます。しかし、`z/VSE` プロファイル主導処理では、端末を正しく初期設定して処理するために、端末用プロファイルが必要となります。

システムの処置: `z/VSE` サインオン・トランザクションは、このメッセージを記録し、メッセージを端末に書き出し、終了します。端末には、`z/VSE` 提供の機能へのアクセス権はありません。

オペレーターの応答: ユーザー・プロファイル保守機能に進み、ユーザー ID として端末 ID (このメッセージ中の) を使用してください。「ユーザー」プロファイルを定義してください。

プログラマーの応答: なし。

IESA0921I AN ERROR WAS ENCOUNTERED USING LOGO MODULE DATA. DUMP 'IES6' REQUESTED.

説明: IESIES01 と IESDAP の間のインターフェースでエラーが発生しました。システムはユーザー作成のロゴ・データをサインオン画面に表示することができません。

システムの処置: ID が IES6 の CICS トランザクション・ダンプを要求します。

オペレーターの応答: このエラーがめったに起こらないものであれば、ユーザー作成のアプリケーション・プログラムが CICS 区画のストレージを上書きした結果として、このエラーが起こった可能性があります。このエラーが頻繁に起こり、それがユーザー作成のアプリケーション・プログラムが実行を開始する前であれば、CICS ダンプ・データ・セットから IES6 ダンプを印刷し、弊社に援助を要請してください。

プログラマーの応答: なし。

IESA0960I TERMINAL xxxx LOCKED FOR USER ID yyyyyyyy, AFTER zzzz INVALID SIGN ON ATTEMPT(S).

説明: 連続して `zzzz` 回の無効なサインオンが `z/VSE` に対して試みられた後、端末 `xxxx` がロックされました。最後に試行されたユーザー ID は `yyyyyyyy` です。

正しくないパスワードが入力されたとき、または外部セキュリティ検査に失敗したときは常に、無効なサインオン試行にカウントされます。有効なサインオンによって、無効な試行のカウントはリセットされます。

最大サインオン試行回数は、ICCF ライブラリー 59 のサインオン・ロゴ IESELOGO のスケルトンで指定されています。

値が 0 のときは、検査を行わないことを意味します。

システムの処置: 端末のサインオンがロックされます。処理を続行します。

オペレーターの応答: 端末 `xxxx` をアンロックするためには、システム管理担当者は、ダイアログ「拒否端末のアンロック」を使用する必要があります。

プログラマーの応答: なし。

IESA0961I CLEANUP PROCESSING FOR TERMINAL xxxx COMPLETED.

説明: 端末 `xxxx` のクリーンアップ処理が完了しました。クリーンアップ処理は、ノード・エラー・プログラム (DFHZNEP) またはタイムアウト処理によって開始されます。

システムの処置: ユーザーはサインオフされ、端末は解放されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESA1068I USER PROFILE MAINTENANCE UNABLE TO CONTINUE. FUNCTION SERVICE ERROR X'rr'. CICS DUMPID 'UPMU' SAVED.

説明: ユーザー・プロファイル保守用プログラムが内部システ

ム・エラーからリカバリーできませんでした。以下のエラーの発生が考えられます。

- X'01' ユーザー・プロファイル
保守用機能が、取り消しまたは
打ち切られました。
- X'02' ICCF エラーが発生しました。
- X'04' アプリケーション・
プロファイル項目に
形式または内部エラーがあります。
- X'08' 機能を開始中の PGMIDERR または
TRANSID エラーです。

問題が再発生する場合には、CICS ダンプ UPMU を印刷出力して、弊社に連絡してください。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。ユーザー・プロファイル保守用機能を中止させます。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**IESA1069I UPDATE PASSWORD FUNCTION
UNABLE TO CONTINUE. FUNCTION
SERVICE ERROR X'rr'. CICS DUMPID
PWDU SAVED.**

説明: 更新パスワード・プログラムが内部システム・エラーからリカバリーできませんでした。

機能サービス・エラー

- x'01' = 更新パスワード機能が取り消しまたは打ち切られました。
- x'02' = ICCF エラーが発生しました。
- x'04' = アプリケーション・プロファイル項目に形式または内部エラーがありました。
- x'08' = 更新パスワード機能を起動中に PGMIDERR または TRANSID エラーが発生しました。

問題が再発生する場合には、CICS ダンプ PWDU を印刷出力して、弊社に連絡してください。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。更新パスワード機能を中止させます。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**IESA1201I RECEIVED ERROR rr FROM IESSCRIO
WHEN RECEIVING WITH MAP
mmmmmmmm**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、ネットワーク入力を受け取ろうとしました。この受け取りを完了するためにプログラム IESSCRIO が使用されました。しかし、IESSCRIO はエラーを見つけ、戻りコード rr をセットしました。エラーのあるマップ名は、mmmmmmmm です。

システムの処置: エラー・メッセージをオンライン・システム・ログに挿入します。それ以外の処置は、戻りコードを受け取ったプログラムによります。プログラムの通常の処置は、こ

の実行を取り消してしまうことです。

オペレーターの応答: 問題判別の処置については、メッセージ IESA1202I の説明を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1202I RECEIVED ERROR rr FROM IESSCRIO
WHEN SENDING WITH MAP mmmmmmmmm**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、ネットワーク出力を送り出そうとしました。この受け取りを完了するためにプログラム IESSCRIO が使用されました。しかし、IESSCRIO はエラーを見つけ、戻りコード rr をセットしました。エラーのあるマップ名は、mmmmmmmm です。

システムの処置: エラー・メッセージをオンライン・システム・ログに挿入します。それ以外の処置は、戻りコードを受け取ったプログラムによります。プログラムの通常の処置は、この実行を取り消してしまうことです。

オペレーターの応答: 以下の表には、考えられる戻りコード、およびそれぞれの戻りコードに対してとる、問題判別の処置を示したものです。

コード	処置	意味
1	1	呼び出し側プログラムの要求コード (SCRQ フィールド) が定義されていません。
2	1	呼び出し側プログラムによる出力は行えません。端末のオペレーターは、操作援助を使用中あるいはエラー (正しくない PF キーの使用によるものなど) を引き起こしたので、エラーの修正を要します。
3	2	呼び出し側で指定したマップ・セットが使用不可能です。
4	3	指定したマップ名がマップ・セットにありません。
5	4	IESSCRIO とともに使用するマップには、MODE=INOUT を指定しなければなりません。このマップでは、IN または OUT です。
6	1	アプリケーションが提供する出力 TIOA が短すぎます。
8	1	マップ名中のコンポーネント・コードが未定義です。
9	1	呼び出し側プログラムが要求を出しましたが、その要求には、TIOA 出力も指定する必要があります。しかし、TIOA 出力が指定されていません。
10	5	マップのサイズが間違っています。
11	1	要求が間違っています。
12	1	ユーザー・エラーです。正しくないアドレスを指定しました。

コード	処置	意味
13	1, 4	MODE=OUT マップが指定された入力マッピング要求です。
14	1, 4	MODE=IN マップが指定された出力マッピング要求です。
15	1	カーソル指定がありません。
16	1	端末は BMS ではサポートされていません。
17	1	タスクは端末を所有しません。
18	1	CICS の内部エラー。
19	1	IESSCRIO のサブプログラムが異常終了しました。
20	1	端末読み取りタイムアウトが起きました。
21	1	呼び出し側プログラムで入力マッピングを要求しましたが、マップする入力メッセージがありません。
30	1	予期しない戻りコードです。

処置 1: これは呼び出し側プログラムのエラーと思われる。呼び出し側プログラムは、このメッセージの前に出されたメッセージ IESV0089I に示されています。以下の「注意」を参照してください。処置 2: これは、呼び出し側プログラムで参照されるマップ・セットが DFHPPT に定義されていないか、使用不可能であるか、またはプログラムが未定義の名前を使用した結果として生じる可能性があります。マップ・セット名が正しくない場合は、プログラマーによるエラーが考えられます(以下の「注意」もお読みください)。DFHPPT が部分的に変更された場合には、マップ・セット定義が除去されたか、または別の名前に変更されたものと考えられます。これは、PPT を変更した結果によるローカル・エラーです。マップ・セットが使用不可能かどうかを調べるためには、CEMT I PR (IESE*) を使用して、使用不可能であるマップ・セットを使用可能にしてください。処置 3: これはプログラム・エラーと思われる。下記の注も参照してください。マップ・セットの 1 つの名前を使用しているユーザー作成のプログラムがリンク・エディットされていないことを確認してください。z/VSE マップ・セットはすべて IESE で始まります。ユーザー作成プログラムは起こりうる混乱を避けるため、IES で始めないでください。処置 4: これは、通常はマップ定義のエラーです。しかし、以下の注意は、この場合に特にあてはまるものです。処置 5: 端末の定義にエラーがないか調べてください。端末は、最小 24 行で 80 桁として定義しなければなりません。処置 4 も参照してください。

注: 弊社提供のコンポーネントから発生するエラーは、プログラムがオンライン区画の他のプログラムまたはデータ域に書き込む場合に起こります。例えば、そのシステムでローカルに作成されたアプリケーション・プログラムがテスト中の時は、失敗が断続的なものとなります。オンライン・システムを再始動すれば、起こらないことがあります。テストを再開したあとで失敗が再発するならば、考えられる原因は、プログラムまたはデータ域が変更されていることによります。テスト中のプロ

ラムを実行せずに、障害が起こった条件を再現してみてください。それでもまだ失敗する場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

**IESA1251I INTERNAL ERROR. DUMP 'LQDP'
REQUESTED. THE LOG MESSAGE
QUEUE WAS DELETED**

説明: プログラム IESLQDP は、表示用のログ・メッセージを記憶するために使用しているメッセージ・バッファに、エラーを見つけました。バッファの内容を解釈する上で必要な制御域が壊されました。プログラムは、続けることができません。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQDP' を要請します。メッセージ・キューを削除します。表示操作を中止させます。

オペレーターの応答: このエラーは、正しくないアプリケーション・プログラムによって重ね書きされたプログラムまたはメッセージ・バッファ、あるいは IESLQDP 中の内部論理エラーに原因があります。トランザクション・ダンプで、エラーのある制御域を見つけることができます。この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはプログラムのバッファが破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1261I PROGRAM IESLQDP RECEIVED AN
'INVREQ' ERROR CONDITION USING
TEMPORARY STORAGE. TRANSACTION
DUMP 'LQDP' WAS REQUESTED**

説明: プログラム IESLQDP が、CICS 一時ストレージの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、INVREQ 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQDP' を要請します。そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: このエラーは、正しくないアプリケーション・プログラムによってプログラムまたはデータ域が重ね書きされたこと、または IESLQDP 中の内部論理エラーが原因で発生した可能性があります。トランザクション・ダンプで、関連データ域を調べることができます。この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはデータ域が破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1262I PROGRAM IESLQDP RECEIVED AN
'IOERR' ERROR CONDITION USING
TEMPORARY STORAGE. TRANSACTION
DUMP 'LQDP' WAS REQUESTED**

説明: プログラム IESLQDP が、CICS 一時ストレージの読み取り/書き込みを行うために EXEC CICS コマンドを出した後、IOERR エラー条件を検出しました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQDP' を要請します。表示操作を中止させます。

オペレーターの応答: これは、入出力エラーとして取り扱ってください。システム・コンソールで DFHTEMP または DFHTEMP が入っている入出力装置に関するエラーについて、メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1263I PROGRAM IESLQDP RECEIVED AN
'ITEMERR' ERROR CONDITION USING
TEMPORARY STORAGE. TRANSACTION
DUMP 'LQDP' WAS REQUESTED**

説明: プログラム IESLQDP が、CICS 一時ストレージの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、ITEMERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQDP' を要請します。表示操作を中止させます。

オペレーターの応答: このエラーは、正しくないアプリケーション・プログラムによってプログラムまたはデータ域が重ね書きされたこと、または IESLQDP 中の内部論理エラーが原因で発生した可能性があります。トランザクション・ダンプで、エラーのあるデータ域を見つけることができます。この問題が時々起こり、オンライン・システムの再開により、またはプログラムの「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはデータ域が、壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1264I PROGRAM IESLQDP RECEIVED A
'LENGERR' ERROR CONDITION USING
TEMPORARY STORAGE. TRANSACTION
DUMP 'LQDP' WAS REQUESTED**

説明: プログラム IESLQDP が、CICS 一時ストレージの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、LENGERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQDP' を要請します。表示操作を中止させます。

オペレーターの応答: このエラーは、正しくないアプリケーション・プログラムによってプログラムまたはデータ域が重ね書きされたこと、または IESLQDP 中の内部論理エラーが原因で発生した可能性があります。このプログラムは EXEC CICS コマンドの SET オプションを使用するので、これは CICS のエラーでもあることがあります。この問題が時々起こり、オンライン・システムの再開により、またはプログラムの「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プロ

グラムまたはデータ域が、壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1271I PROGRAM IESLQBP RECEIVED AN
'INVREQ' ERROR CONDITION USING
TEMPORARY STORAGE. TRANSACTION
DUMP 'LQBP' WAS REQUESTED**

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時ストレージの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、INVREQ 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQBP' が要求されます。そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: このエラーは、正しくないアプリケーション・プログラムによって、重ね書きされたプログラムまたはデータ域、あるいは IESLQBP 中の内部論理エラーに原因があります。トランザクション・ダンプで、関連データ域を調べることができます。この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはデータ域が破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1272I PROGRAM IESLQBP RECEIVED AN
'IOERR' ERROR CONDITION USING
TEMPORARY STORAGE.**

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時ストレージの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、IOERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: このメッセージを、一時データ出力 (普通 SYSLST) 向けオンライン・システム・ログに挿入します。このプログラムは、メッセージを一時ストレージ・メッセージ・ログに挿入せずに、一時データ出力宛先へと再ルーティングを開始します。

オペレーターの応答: このエラーを、入出力エラーとして取り扱ってください。システム・コンソールで DFHTEMP または DFHTEMP が入っている入出力装置に関するエラーについて、メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1273I PROGRAM IESLQBP RECEIVED AN
'ITEMERR' ERROR CONDITION USING
TEMPORARY STORAGE. TRANSACTION
DUMP 'LQBP' WAS REQUESTED**

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時ストレージの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、ITEMERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQBP' が要求さ

れます。そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: このエラーは、正しくないアプリケーション・プログラムによって、重ね書きされたプログラムまたはデータ域、あるいは IESLQBP 中の内部論理エラーに原因があります。トランザクション・ダンプで、関連データ域を調べることができます。この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはデータ域が破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1274I PROGRAM IESLQBP RECEIVED AN
'LENGERR' ERROR CONDITION USING
TEMPORARY STORAGE. TRANSACTION
DUMP 'LQBP' WAS REQUESTED**

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時ストレージの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、LENGERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQBP' が要求されます。そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: このエラーは、正しくないアプリケーション・プログラムによって、重ね書きされたプログラムまたはデータ域、あるいは IESLQBP 中の内部論理エラーに原因があります。IESLQBP は EXEC CICS コマンドの SET オプションを使用するので、これは CICS のエラーでもあることがあります。トランザクション・ダンプで、関連データ域を調べることができます。この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはデータ域が破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1275I PROGRAM IESLQBP RECEIVED A
'NOSPACE' ERROR CONDITION USING
TRANSIENT DATA. SOME MESSAGES
WERE LOST.**

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時データに書き込みを行おうとしたときに、NOSPACE 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: このメッセージを、オンライン・システムのログに挿入します。このプログラムは、一時ストレージ・メッセージ・ログにのみメッセージを集め始めます。このメッセージは、一時データ・メッセージ・ログには、出てきません。

オペレーターの応答: 次のいずれかが、エラーの原因です。

1. システムを使用し過ぎる。
2. CICS 区画内データ・セット DFHNTRA が小さすぎる。

2 番目が原因のときは、システム管理者に知らせ、必要であれば、DFHNTRA のサイズを大きくするよう依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1276I PROGRAM IESLQBP RECEIVED AN
'QIDERR' ERROR. TRANSACTION DUMP
'LQBP' REQUESTED**

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時ストレージまたは一時データの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、QIDERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQBP' が要求されます。そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: このエラーは、正しくないアプリケーション・プログラムによって、重ね書きされたプログラムまたはデータ域、あるいは IESLQBP 中の内部論理エラーに原因があります。これは、ユーザーで DFHDCT 変更を加えたことも原因です。トランザクション・ダンプを使用して、エラーを調べてください。この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはデータ域が破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1277I THE TRANSIENT DATA MESSAGE LOG
IS NOT OPEN. SOME MESSAGES WERE
LOST**

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時データに書き込みを行おうとしたときに、NOTOPEN 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: このメッセージを、オンライン・システムのログに挿入します。

オペレーターの応答: オンライン・システムのメッセージ・ログであるはずの一時データ区画外宛先がクローズしています。マスター端末トランザクション CEMT を使用して、宛先をオープンしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA1278I PROGRAM IESLQBP ABENDED 'aaaa'
TRYING TO USE TRANSIENT DATA
QUEUE 'dddd'**

説明: プログラム IESLQBP は、z/VSE コンポーネントが記録した一時データ・メッセージを読み取り、それらをメッセージ表示一時ストレージ・キューにコピーし、永続的に (通常は SYSLST に) 記録するために、他の一時データ・キューに入れ直します。そのプログラムは、一時データ宛先 dddd を使用しようとしたましたが、aaaa を異常終了しました。

システムの処置: このメッセージを一時データにログ記録し、メッセージ表示キューに挿入します (したがって、1 回の異常終了で、これはメッセージ画面に 2 回現れます)。一時データ入力キューから読み取られたメッセージは、失われます。あと

に続く呼び出しに基づき、IESLQBP は失敗した一時データ・キューをやり直します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で異常終了コード *aaaa* を調べ、宛先 *dddd* に関する問題を修正してください。

プログラマーの応答: なし。

IESA1282I PROGRAM IESLQBP RECEIVED AN 'IOERR' ERROR CONDITION READING TRANSIENT DATA. MESSAGES MAY BE LOST.

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時データの読み取りを行おうとしたときに、IOERR 条件を受け取りました。システムの処置: このメッセージを、オンライン・システムのログに挿入します。プログラムは、続行しようとしてますが、エラーが再発すると終了します。

オペレーターの応答: このエラーを、入出力エラーとして取り扱って、DFHNTRA に関するメッセージまたは DFHNTRA を含む装置に関するメッセージがないか、システム・コンソールを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESA1283I PROGRAM IESLQBP RECEIVED AN 'IOERR' ERROR CONDITION WRITING TRANSIENT DATA. SOME MESSAGES WERE LOST.

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時データの書き込みを行おうとしたときに、IOERR 条件を受け取りました。

システムの処置: このメッセージは、一時ストレージ・オンライン・システム・ログに挿入されます。プログラムは、メッセージを集めて一時ストレージ・メッセージ・ログにのみ入れようとしています。これらのメッセージは、一時データ・メッセージ・ログ上には、現れません。

オペレーターの応答: このエラーを、入出力エラーとして取り扱って、DFHNTRA に関するメッセージまたは DFHNTRA を含む装置に関するメッセージがないか、システム・コンソールを調べてください。もしこのプログラムの出力一時データ宛先が区画外宛先であれば、問題はその宛先に関連します。

プログラマーの応答: なし。

IESA1284I PROGRAM IESLQBP RECEIVED A 'LENGERR' ERROR CONDITION USING TRANSIENT DATA. TRANSACTION DUMP 'LQBP' WAS REQUESTED.

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時データの読み取り/書き込みを行おうとしたときに、LENGERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: トランザクション・ダンプ 'LQBP' が要求されます。そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: 次の一つがこのエラーの原因です。

1. プログラムまたはデータ域を重ね書きをしているアプリケーション・プログラム
2. IESLQBP の内部エラー
3. EXEC CICS の SET オプションのエラー

トランザクション・ダンプをとって、関連データ域を調べてください。もし問題がまれであり、オンライン・システムを再始動するか、プログラムの「新しいコピー」機能を実行することによって解決できる場合は、データ域またはプログラム域が壊されているものと考えられます。オンライン・システムの実行中、しかもユーザー作成のアプリケーションの実行前に、このエラーがたびたび起こる場合には、システム管理者は弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IESA1285I PROGRAM IESLQBP RECEIVED A 'NOSPACE' ERROR CONDITION USING TEMPORARY STORAGE.

説明: プログラム IESLQBP が、CICS 一時ストレージに書き込みを行おうとしたときに、NOSPACE 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: このメッセージは、プログラムの一時データ出力宛先に書かれます。プログラムは、メッセージを一時ストレージ・メッセージ・ログに挿入せずに、一時データにのみ再ルーティングを行います。

オペレーターの応答: CICS 一時ストレージ・データ・セット DFHTEMP が小さすぎます。「メッセージ・ログの検査」のダイアログを使って、一時ストレージ・メッセージ・ログからメッセージを削除して、これを修正することができます。またシステム管理者にこの問題を報告し、必要であれば DFHTEMP のサイズの増加を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESA4034I INTERMEDIATE STORAGE ERROR - EIBRCODE=X'rr'; UNABLE TO PROCESS THE REQUEST

説明: このメッセージの前に出されたメッセージ IESV0089I で示されたプログラムが、CICS 一時ストレージを使用しようとしたところ、エラー条件を検出しました。エラーは、EIBRCODE 値 *rr* で示されます。

システムの処置: このメッセージを、オンライン・システムのログに挿入します。可能であれば、該当する一時ストレージ・キューを削除します。

オペレーターの応答: 以下の EIBRCODE で示されている値に基づいて続行してください。

コード	意味	処置
X'01'	ITEMERR	1
X'02'	QIDERR	1
X'04'	IOERR	2
X'08'	NOSPACE	3
X'20'	INVREQ	1
X'D0'	SYSIDERR	1
X'D1'	ISCINVREQ	1
X'E1'	LENGERR	1

1. これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。

2. これは、入出力で発生したエラーとして処理してください。 DFHTEMP に関するエラーを示しているコンソール・メッセージ、または DFHTEMP が入っている入出力装置を調べてください。
3. これは通常、一時ストレージ機能を使用するタスクが多過ぎることに起因する問題です。 システムがあまり使われていない時に実行し直すか、あるいは DFHTEMP データ・セットをもう少し大きく定義し直してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA4052I PROGRAM IESMDP RECEIVED A
'INVTREQ' DURING A CICS RETRIEVE
COMMAND**

説明: プログラム IESMDP は、EXEC CICS START コマンドが渡したデータを取り出そうとしましたが、エラー状態に出合いました。 エラーは、INVTREQ です。

システムの処置: このメッセージを、オンライン・システムのログに挿入します。 表示されるはずのメッセージは、失われます。

オペレーターの応答: このエラー状態は、DFHTSP のダミー版が DFHTSP の機能版の代わりに、スタートアップ時にオンライン・システムに組み込まれた場合に示されます。 システム管理者は、正しい一時ストレージ・プログラムを組み込むために、システム初期設定テーブル DFHSIT または DFHSIT に対する重ね書きを変更する必要があります。

プログラマーの応答: なし。

**IESA4053I PROGRAM IESMDP RECEIVED A
'LENGERR' USING AN EXEC CICS
COMMAND**

説明: プログラム IESMDP は、EXEC CICS コマンドのあとでエラー状態に出合いました。

システムの処置: このメッセージを、オンライン・システムのログに挿入します。 表示されるはずのメッセージは、失われることもあります。

オペレーターの応答: このエラー状態は、所有していないストレージを重ね書きしているアプリケーション・プログラムに起因していることもあり、あるいは IESDUSR または IESMDP のプログラム・エラーを示していることもあります。 エラーが、オンライン・システムの実行のたびに起こり、しかもユーザー作成のアプリケーション・プログラムが実行される前に起こる場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA4054I PROGRAM IESMDP RECEIVED A
'NOTFND' ERROR DURING A CICS
RETRIEVE COMMAND**

説明: プログラム IESMDP が、CICS からデータを取り出そうとしたところ、NOTFND エラー条件を検出しました。

システムの処置: このメッセージを、オンライン・システムのログに挿入します。 表示されるはずのメッセージは、失われます。

オペレーターの応答: このエラー状態は、所有していないストレージを重ね書きしているアプリケーション・プログラムに起

因していることもあり、あるいは IESDUSR または IESMDP のプログラム・エラーを示していることもあります。 エラーが、オンライン・システムの実行のたびに起こり、しかもユーザー作成のアプリケーション・プログラムが実行される前に起こる場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESA4055I THE SCREEN AT TERMINAL 'tttt'
CANNOT BE SAVED. THE DATA
RETURNED FROM READBUF IS TOO
SHORT. THE MESSAGE TO BE
DELIVERED WAS DISCARDED. DUMP
'MDP' SAVED**

説明: プログラム IESMDP は、他のユーザーから送られたメッセージを表示する前に、ディスプレイ端末のバッファにある現在の画面を保管しなければなりません。 EXEC CICS RECEIVE BUFFER コマンドは、その端末にあるバッファのコピーを読み取るために使用されますが、戻されたデータは論理的に短いために正しくありません。これはエラー状態と見なされません。

システムの処置: このメッセージを、オンライン・システムのログに挿入します。 表示されるはずのメッセージは、失われます。

オペレーターの応答: このエラー状態は、端末でのハードウェアのエラーによるものか、あるいは端末からプログラム IESMDP に至る経路のいずれかでのハードウェア・エラーまたはソフトウェア・エラーによるものと考えられます。 指定された端末に関する、あるいはコンピューターにデータを送信するためにその端末が使用するコンポーネントに関する、エラーのメッセージをシステム・コンソールで調べてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESB0014I UNABLE TO CONTINUE - SPOOLING
SYSTEM IS SHORT ON SPOOL OR
ACCOUNT FILE SPACE.**

説明: VSE/POWER がそのスプールまたはアカウント・ファイル用のスペースを使い尽くしたため、選択された機能を実行できませんでした。

システムの処置: バッチ・キュー・ダイアログ機能を中止します。

オペレーターの応答: スプール/アカウント・ファイル・スペースを使用可能にする方法を判別するために、スプーリング・システムに関する情報を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESB0121I UNABLE TO CONTINUE. DUMP xxxx
SAVED.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、内部エラーを検出しました。 ユーザー状況レコード、または他のストレージ域が、重ね書きされたか、あるいはプログラムにエラーがあります。 xxxx は、トランザクション・ダンプの名前です。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。 問題判別に役立つすべてのストレージ域を含

んだ CICS トランザクション・ダンプをとりまします。エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはプログラムのバッファが破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に援助を依頼してください。CICS ダンプ・データ・セットを印刷して、ダンプ ID XXXX を見つけてください。特に、文字ストリング 'SHARED AREAS-->' の後のストレージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESB0126I UNABLE TO READ TEMPORARY STORAGE QUEUE.
EIBRCODE=X'rrxxxxxxxx'.

説明: (このメッセージに先行する) メッセージ IESV0089I で識別されたプログラムから出された CICS READQ TS コマンドが、失敗しました。
 システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。可能であれば、該当する一時ストレージ・キューを削除します。エラーを検出した機能を取り消します。
 オペレーターの応答: rr に表示されている値に基づいて、続行してください。以下の値が示されます。

rr	意味	処置
01	ITEMERR	1
02	QIDERR	1
04	IOERR	2
20	INVREQ	1
D0	SYSIDERR	1
D1	ISCINVREQ	1
E1	LENGERR	1

処置:

- (1) これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
- (2) これは、入出力で発生したものとして処理してください。DFHTEMP に関するエラーを示しているコンソール・メッセージ、または DFHTEMP が入っている入出力装置を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESB0127I UNABLE TO TRANSFER CONTROL TO PROGRAM IESFPEP.
EIBRCODE=X'xxxxxxxx'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されているプログラムで、CICS XCTL コマンドを出しましたが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに IESFPEP を見つけることができなかったか、または IESFPEP が使用可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーを検出した機能を取り消し、CICSRETURN コマンドを出します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、EIBRCODE 値 xxxxxxxxxxx を探して、問題判別を開始してください。インストールが正しく完了した場合には、IESFPEP はユーザーのシステムに入っているはずですが、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。IESFPEP が使用可能でないと、z/VSE 対話式ユーザー・インターフェースは作動しません。
 プログラマーの応答: なし。

IESB0128I UNABLE TO LINK PROGRAM pppppppp.
EIBRCODE=X'rrrrrrrrrr'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されているプログラムで、CICS LINK コマンドを出しましたが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに pppppppp を見つけることができなかったか、または pppppppp が使用可能ではありません。
 システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーを検出した機能を取り消します。
 オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、EIBRCODE 値 rrrrrrrrrr を探して、問題判別を開始してください。インストールが正しく行われた場合には、pppppppp はシステムにあるはずですが、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。
 プログラマーの応答: なし。

IESB0129I UNABLE TO REWRITE A TEMPORARY STORAGE ITEM.
EIBRCODE=X'rrxxxxxxxx'.

説明: (このメッセージに先行する) メッセージ IESV0089I で識別されたプログラムから出された CICS WRITEQ TS REWRITE コマンドが、失敗しました。
 システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。可能であれば、該当する一時ストレージ・キューを削除します。エラーを検出した機能を取り消します。
 オペレーターの応答: rr に表示されている値に基づいて、続行してください。以下の値が示されます。

rr	意味	処置
01	ITEMERR	1
02	QIDERR	1
04	IOERR	2
08	NOSPACE	3
20	INVREQ	1
D0	SYSIDERR	1
D1	ISCINVREQ	1

処置:

- (1) これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した

- 後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
- (2) これは、入出力で発生したものととして処理してください。 DFHTEMP に関するエラーを示しているコンソール・メッセージ、または DFHTEMP が入っている入出力装置を調べてください。
 - (3) これは通常、一時ストレージ機能を使用するタスクが多過ぎることに起因する問題です。 システムがあまり使われていない時に実行し直すか、あるいは DFHTEMP データ・セットをもう少し大きく定義し直してください。
- プログラマーの応答: なし。

IESB0130I UNABLE TO WRITE A TEMPORARY STORAGE ITEM.
EIBRCODE=X'rrxxxxxxxx'.

説明: (このメッセージに先行する) メッセージ IESV0089I で識別されたプログラムから出された CICS WRITEQ TS コマンドが、失敗しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。 可能であれば、該当する一時ストレージ・キューを削除します。 エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: rr に表示されている値に基づいて、続行してください。以下の値が示されます。

rr	意味	処置
01	ITEMERR	1
02	QIDERR	1
04	IOERR	2
08	NOSPACE	3
20	INVREQ	1
D0	SYSIDERR	1
D1	ISCVREQ	1

- 処置:
- (1) これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
 - (2) これは、入出力で発生したものととして処理してください。 DFHTEMP に関するエラーを示しているコンソール・メッセージ、または DFHTEMP が入っている入出力装置を調べてください。
 - (3) これは通常、一時ストレージ機能を使用するタスクが多過ぎることに起因する問題です。 システムがあまり使われていない時に実行し直すか、あるいは DFHTEMP データ・セットをもう少し大きく定義し直してください。
- プログラマーの応答: なし。

IESB0140I UNEXPECTED XPCC RETURN CODE
IJBXRETC=X'rr', IJBXREAS=X'cc'.

説明: (このメッセージに先行する) メッセージ IESV0089I で識別されたプログラムが、CICS 区画と VSE/POWER 区画の間で XPCC 区画間通信を使用しているときに、エラーを検出

しました。 XPCC 機能 CONNECT、RECEIVE、SEND の 1 つが失敗しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。 問題が起き、診断情報が保管されたことを伝える追加メッセージが、画面に書き出されます。

オペレーターの応答: この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により解決される場合には、相互区画通信に関連するプログラムの 1 つが壊されたか、またはいくつかのシステム域が壊されたものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行を中断させ、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーがたびたび起こる場合には、システム管理者は、戻りコードおよび理由コードを保管して、弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESB0141I UNEXPECTED POWER RETURN CODE
PXPRETCD=X'rr', PXPFBKCD=X'ff'.

説明: (このメッセージに先行する) メッセージ IESV0089I で識別されたプログラムが、区画間通信を使用中に、VSE/POWER から予期しない戻りコードを受け取りました。

POWER コマンド PDISPLAY、PALTER、PDELETE、PHOLD、または、PRELEASE の 1 つが失敗しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。 問題が起き、診断情報が保管されたことを伝える追加メッセージが、画面に書き出されます。

オペレーターの応答: 問題が断続的にのみ起き、オンライン・システムの再始動で解決される場合には、区画間連絡機能またはシステム域に対して使用されたストレージが壊されています。 オンライン・システムの複数回の実行を中断させ、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーがたびたび起こる場合には、システム管理者は、戻りコードおよびフィードバック・コードを保管して、弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESB0142I UNEXPECTED POWER RETURN BUFFER - BUFFER TYPE PXPBTYP=X'ff'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に示されている) で識別したプログラムが区画間連絡機能を使用中に、予期していない戻りバッファを VSE/POWER から受け取りました。

POWER コマンド PDISPLAY、PALTER、PDELETE、PHOLD、または、PRELEASE の 1 つが失敗しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。 問題が起き、診断情報が保管されたことを伝える追加メッセージが、画面に書き出されます。

オペレーターの応答: 問題が断続的にのみ起き、オンライン・システムの再始動で解決される場合には、区画間連絡機能またはシステム域に対して使用されたストレージが壊されています。 オンライン・システムの複数回の実行を中断させ、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーがたびたび起こる場合には、システム管理者は、戻りコードおよびフィードバック・コードを保管して、弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESB0143I UNABLE TO TRANSFER CONTROL TO PROGRAM 'pppppppp' EIBRCODE=X'xxxxxxxxxx'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されているプログラムで、CICS XCTL コマンドを出しましたが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テールにプログラム pppppppp を見つけることができなかったか、またはプログラムが使用禁止にされたかのいずれかです。システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題が起き、診断情報が保管されたことを伝える追加メッセージが、画面に書き出されます。状況によって、機能を取り消します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、EIBRCODE 値 xxxxxxxxxxxx を探して、問題判別を開始してください。なんらかのアプリケーション・プログラムでストレージ域が上書きされていないければ、インストールが正常に完了している場合、プログラム pppppppp がシステムにあります。考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。

プログラマーの応答: なし。

IESB0144I PREVIOUS MESSAGE WAS RETURNED BY A SUBSYSTEM

説明: サブシステムに問題があるために、VSE/POWER のようなサブシステムとの通信が正しく機能しません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題が起き、診断情報が保管されたことを伝える追加メッセージが、画面に書き出されます。状況によって、機能を終了します。

オペレーターの応答: このメッセージが VSE/POWER によって出された場合には、VSE/POWER ファイルの 1 つがいっぱいになっている可能性があります。これが事実であることを、コンソールで調べて該当のファイルのスペースを大きくしてください。そうでなければ、戻されたサブシステム・メッセージを調べ、通常の問題判別の処理を実行してください。

プログラマーの応答: なし。

IESC1001I BEGINNING STARTUP OF VSE CONNECTOR SERVER

説明: VSE コネクター・サーバーのスタートアップが始まりました。

システムの処置: VSE コネクター・サーバーのスタートアップを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1002I FINISHED STARTUP OF VSE CONNECTOR SERVER

説明: VSE コネクター・サーバーのスタートアップが完了しました。このメッセージの直後にメッセージ IESC1003I が続きます。

システムの処置: サーバーは現在、クライアントの接続を待っています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1003I WAITING FOR CONNECTIONS OF CLIENTS...

説明: VSE コネクター・サーバーは初期設定を完了し、現在、クライアントの接続を待っています。これからずっと、クライアントの接続が受け入れられます。

システムの処置: サーバーはクライアントの接続を待っています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1004E INVALID CODEPAGE(S) SPECIFIED

説明: コード・ページ変換を初期設定できませんでした。

VSE コネクター・サーバーの構成メンバーに指定されているコード・ページの少なくとも 1 つが無効です。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: VSE コネクター・サーバーの構成メンバーに指定されているコード・ページを検査してください。

VSE コネクター・サーバー・コマンド STATUS を出してコード・ページを表示することもできます。

デフォルトのコード・ページは次のとおりです。

- ASCII: IBM-850
- EBCDIC: IBM-1047

プログラマーの応答: なし。

IESC1005E CANNOT SET UP TCP/IP LISTENER

説明: サーバーが TCP/IP listen ソケットをセットアップできません。

- これは、以下のいずれかが原因と考えられます。
- TCP/IP for z/VSE がまだ開始されていない。
- TCP/IP インターフェース (\$EDCTCPV.PHASE) がロード不可能であるか、または無効である。
- ポートがすでに使用中である。実際のポート番号については、VSE コネクター・サーバーの構成メンバーまたは STATUS コマンドを参照してください。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答:

- TCP/IP for z/VSE が稼働していることを確認してください。
- ジョブ出力を見て、メッセージ「EDCV001I TCP/IP function socket() not implemented」が出されているかどうか調べてください。このメッセージは、誤った \$EDCTCPV.PHASE がロードされたことを示しています。LE/VSE はこの PHASE をダミーとして出荷しますが、この PHASE がメッセージ EDCV001I を出します。このダミー PHASE は PRD2.SCEEBASE に入っています。TCP/IP for z/VSE で提供される PHASE がロードされていることを確認してください。通常、これは PRD1.BASE にあります。

- 構成メンバーに指定されているポートが、システムで実行中の別の TCP/IP アプリケーションですでに使用中であるかどうか調べてください。

注: ポートを変更する場合は、クライアント・サイドにおいてもそのポートを変更する必要があります。

プログラマーの応答: なし。

IESC1006I BEGINNING SHUTDOWN

説明: SHUTDOWN コマンドが出されました。

システムの処置: サーバーは遮断を開始します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1007I SHUTDOWN CANCELED

説明: SHUTDOWN コマンドが出されましたが、シャットダウンが取り消されました。これは通常、メッセージ IESC1047I または IESC1048I に対して NO を応答した結果です。

システムの処置: サーバーは操作を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1008I BEGINNING SHUTDOWN OF VSE CONNECTOR SERVER

説明: SHUTDOWN コマンドが出され、シャットダウン処理が開始されました。

システムの処置: サーバーはシャットダウン処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1009I FINISHED SHUTDOWN OF VSE CONNECTOR SERVER

説明: シャットダウン処理が完了しました。このメッセージは、VSE コネクター・サーバーが終了前に出す最後のメッセージです。

システムの処置: サーバーは戻りコード 0000 を出して終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1010E OPEN CONFIG FILE FAILED: member-name

説明: VSE コネクター・サーバーの構成メンバーを読み取り用にオープンできませんでした。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: 構成メンバーが存在し、別のプログラムによって使用されていないことを確認してください。サーバーのスタートアップ・ジョブを検査して、構成メンバーの位置が正しいか調べてください。

// EXEC IESVCSRV,PARM='DD:LIB.SLIB(NAME.TYPE)'

PARM ステートメントは、サーバーを構成するために使用されるメンバーの位置と名前を定義します。

プログラマーの応答: なし。

IESC1011I USING CONFIG FILE: member-name

説明: 指定されたメンバーが、サーバーを構成するために使用されています。

システムの処置: サーバーはこのメンバーを読み取り用にオープンしようとします。このメンバーをオープンできない場合は、このメッセージに続いて、メッセージ IESC1010E が出力されることがあります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1012I USING LIBRARIAN CONFIG FILE: member-name

説明: 指定されたメンバーが、サーバーを構成するために使用されています。このメンバーには、サーバーからアクセス可能なライブラリーが入っています。

システムの処置: サーバーの構成処理が続けられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1013I USING USERS CONFIG FILE: member-name

説明: 指定されたメンバーが、サーバーを構成するために使用されています。このメンバーには、ログオンを許可または拒否されるユーザーと IP アドレスが入っています。

システムの処置: サーバーは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1014I USING PLUGIN CONFIG FILE: member-name

説明: 指定されたメンバーが、サーバーを構成するために使用されています。このメンバーには、サーバーのスタートアップ時にロードされるプラグインが入っています。

システムの処置: サーバーは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1015E OPEN PLUGIN CONFIG FILE FAILED: member-name

説明: VSE コネクター・サーバーの構成メンバーを読み取り用にオープンできませんでした。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: 構成メンバーが存在し、別のプログラムによって使用されていないことを確認してください。サーバーの構成メンバーを検査して、構成メンバーの位置が正しいか調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESC1016E SYNTAX ERROR IN PLUGIN CONFIG FILE: member-name

説明: VSE コネクター・サーバーのプラグイン構成メンバーで構文エラーを検出しました。

システムの処置: サーバーはこのステートメントを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: プラグイン構成メンバーの構文を検査してください。各プラグインがメンバー内の 1 行で定義されません。

PLUGIN=*phase-name*,PARAM=*parameter-string*

プログラマーの応答: なし。

IESC1017E SYNTAX ERROR IN CONFIG FILE:

member-name

説明: VSE コネクター・サーバーの構成メンバーで構文エラーを検出しました。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: 構成メンバーの構文を検査し、エラーを訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

IESC1018I LOADING PLUGIN: *plugin-name*

説明: 指定されたプラグインをロード中です。

システムの処置: サーバーは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1019E FAILED LOADING PLUGIN: *plugin-name*

説明: 指定されたプラグイン PHASE をロードできませんでした。これは、プラグインが存在しないか、または無効であることが原因です。

システムの処置: サーバーはこのプラグインを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: 指定されたプラグインがスタートアップ・ジョブの LIBDEF チェーンに入っていることを確認してください。PHASE が有効な VSE コネクター・サーバー・プラグインであることを確認してください。

プログラマーの応答: PHASE がすべてのプラグイン・エントリー・ポイントをエクスポートすることを確認してください。

IESC1020E FAILED SETUP PLUGIN: *plugin-name*

説明: 指定されたプラグインを初期設定できませんでした。これは、プラグインのセットアップ機能からの無効な戻りコードが原因です。

システムの処置: サーバーはこのプラグインを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: プラグインの開発者に連絡してください。

プログラマーの応答: プラグインのセットアップ機能がプラグインをセットアップできることを確認してください。

IESC1021E DUPLICATE COMMAND-ID FOR PLUGIN: *plugin-name*

説明: 指定されたプラグインは、他のプラグインによってすでに定義された少なくとも 1 つのコマンド ID を定義しています。

システムの処置: サーバーはこのプラグインを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: プラグインの開発者に連絡してください。

プログラマーの応答: プラグインが有効なコマンド ID を定義していることを確認してください。

IESC1022E FAILED TO LOAD THE PHASE: *phase-name*

説明: 指定された PHASE をロードできませんでした。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: 指定された PHASE が存在し、スタートアップ・ジョブの LIBDEF チェーンに入っていることを確認してください。この PHASE を SVA にロードすることもできます。

プログラマーの応答: なし。

IESC1023I CLIENT CONNECTED FROM IP: *IP-address*

説明: 指定された IP アドレスからの接続が受け入れられました。

システムの処置: サーバーは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1024I CLIENT DISCONNECTED FROM IP:

IP-address

説明: 指定された IP アドレスからの接続が切断されました。

システムの処置: サーバーは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1025I CLIENT SESSION DENIED FOR IP:

IP-address

説明: 指定された IP アドレスに関してログオン試行が拒否されました。

システムの処置: サーバーは指定されたクライアントを切断します。

オペレーターの応答: これは通常、サーバーのユーザー構成メンバー内の項目が原因です。指定された IP アドレスがユーザー構成メンバー内に定義されていないか、または明示的にログオンを許可されていないかのいずれかです。

プログラマーの応答: なし。

IESC1026I CLIENT SESSION DENIED FOR USER:

user-ID

説明: このメッセージは、指定されたユーザー ID に関してログオンが拒否されたことを示しています。

システムの処置: サーバーは指定されたクライアントを切断します。

オペレーターの応答: これは通常、サーバーのユーザー構成メンバー内の項目が原因です。指定されたユーザー ID が定義されていないか、または明示的にログオンを許可されていないかのいずれかです。

プログラマーの応答: なし。

IESC1027I PASSWORD HAS EXPIRED FOR USER:*user-ID*

説明: パスワードが有効期限切れであるため、指定されたユーザー ID に関してログオン試行が拒否されました。

システムの処置: サーバーはログオンを拒否します。

オペレーターの応答: ユーザーはパスワードの変更または有効期限のリセットを求められます。

プログラマーの応答: なし。

IESC1028I CLIENT SESSION ESTABLISHED FOR USER: *user-ID*

説明: 指定されたユーザー ID に関してログオンが受け入れられ、セッションが確立されました。

システムの処置: サーバーはこのユーザーのためにセッションを確立します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1029I STATUS COMMAND

説明: STATUS コマンドが出されました。 後続のメッセージにサーバーの状況情報が表示されます。

システムの処置: サーバーは状況情報を表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1030W SETTRACE COMMAND: INVALID PARAMETER

説明: SETTRACE コマンドが出されましたが、パラメーターが欠落しているか無効です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: SETTRACE コマンドを訂正してください。

Syntax: SETTRACE *trace-file trace-level*

例: SETTRACE DD:SYSLST 0xFFFFFFFF

プログラマーの応答: なし。

IESC1031I TRACE SET TO *trace-file trace-level*

説明: SETTRACE コマンドが出され、トレースが、指定されたトレース・ファイルとトレース・レベルに設定されました。

システムの処置: サーバーはトレースを、指定されたトレース・レベルに従って、指定されたトレース・ファイルに書き込みます。

オペレーターの応答: なし。 トレースを停止するには、

SETTRACE コマンドを使用し、トレース・レベルを

0x00000000 に設定してください。

例: SETTRACE DD:SYSLST 0x00000000

プログラマーの応答: なし。

IESC1032W SENDMSG COMMAND: INVALID PARAMETER

説明: SENDMSG コマンドが出されましたが、パラメーターが欠落しているか無効です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: SENDMSG コマンドを訂正してください。

Syntax: SENDMSG *user(s) message text*

例: SENDMSG SYSA GOOD MORNING

SENDMSG * HELLO

プログラマーの応答: なし。

IESC1033I *num* CLIENTS STOPPED SUCCESSFULLY

説明: STOP CLIENT コマンドが出され、*num* クライアントが正常に停止されました。

システムの処置: サーバーは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1034W STOP CLIENT COMMAND: INVALID PARAMETER

説明: STOP CLIENT コマンドが出されましたが、パラメーターが欠落しているか無効です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: STOP CLIENT コマンドを訂正してください。

Syntax: STOP CLIENT {*client-id*|ALL}

例: STOP CLIENT 1

STOP CLIENT ALL

プログラマーの応答: なし。

IESC1035W STOP CLIENT COMMAND: CLIENT ID OUT OF RANGE

説明: STOP CLIENT コマンドが出されましたが、クライアント ID が範囲外です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: STOP CLIENT コマンドを訂正してください。 STATUS コマンドを出して、有効なクライアント ID のリストを入手してください。 クライアント ID は 0 から n の数値です。ここで、n は最大クライアント数です。

プログラマーの応答: なし。

IESC1036W STOP CLIENT COMMAND: INVALID CLIENT ID

説明: STOP CLIENT コマンドが出されましたが、クライアント ID が無効です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: STOP CLIENT コマンドを訂正してください。 STATUS コマンドを出して、有効なクライアント ID のリストを入手してください。 クライアント ID は 0 から n の数値です。ここで、n は最大クライアント数です。

プログラマーの応答: なし。

IESC1037I *num* CLUSTERS CLOSED SUCCESSFULLY

説明: CLOSE VSAM コマンドが出され、*num* クラスタが正常にクローズされました。

システムの処置: サーバーは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1038W CLOSE VSAM COMMAND: NO CLUSTERS CURRENTLY OPEN

説明: CLOSE VSAM コマンドが出されましたが、現在オープンされているクラスターはありません。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1039W CLOSE VSAM COMMAND: INVALID PARAMETER

説明: CLOSE VSAM コマンドが出されましたが、パラメーターが欠落しているか無効です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: CLOSE VSAM コマンドを訂正してください。

構文: CLOSE VSAM {slot-id|ALL}

例: CLOSE VSAM 2
CLOSE VSAM ALL

プログラマーの応答: なし。

IESC1040W CLOSE VSAM COMMAND: SLOT ID OUT OF RANGE

説明: CLOSE VSAM コマンドが出されましたが、指定されたスロット ID が範囲外です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: CLOSE VSAM コマンドを訂正してください。 STATUS コマンドを出して、現在使用中のスロットのリストを入手してください。 スロット ID は 0 から始まる数値です。

プログラマーの応答: なし。

IESC1041W CLOSE VSAM COMMAND: INVALID SLOT ID

説明: CLOSE VSAM コマンドが出されましたが、指定されたスロット ID が無効です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: CLOSE VSAM コマンドを訂正してください。 STATUS コマンドを出して、現在使用中のスロットのリストを入手してください。 スロット ID は 0 から始まる数値です。

プログラマーの応答: なし。

IESC1042W CLOSE VSAM COMMAND: CLUSTER IS CURRENTLY IN USE

説明: CLOSE VSAM コマンドが出されましたが、スロットに関連したクラスターは現在使用中です。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。 クラスターはオープンされたままです。

オペレーターの応答: 後でコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IESC1043I HELP COMMAND

説明: HELP コマンドが出されました。

システムの処置: サーバーはヘルプ・メッセージを表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1044W INVALID COMMAND

説明: 無効なコマンドが出されました。

システムの処置: サーバーはこのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: そのコマンドを訂正してください。

HELP コマンドを出して、使用可能コマンドに関するヘルプを表示することができます。

プログラマーの応答: なし。

IESC1045I MESSAGE SENT TO *num* USERS

説明: SENDMSG コマンドが出され、メッセージが *num* ユーザーに送信されました。

システムの処置: サーバーはメッセージを、指定されたユーザーに送ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1046I ENTER VSE CONNECTOR SERVER COMMAND

説明: サーバーは、オペレーターからのメッセージを受信する準備ができています。 このメッセージは、ユーザーが MSG *partition-ID* を行うと出されます。

システムの処置: サーバーはコマンドのプロンプトを出しますが、処理を続行します。

オペレーターの応答: 応答 ID を使用して、VSE コネクター・サーバー・コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IESC1047I DO YOU REALLY WANT TO SHUT DOWN ? (YES/NO)

説明: このメッセージは、SHUTDOWN コマンドの後に出力されます。 このメッセージが出された場合、実際に接続されているクライアントはありません。

システムの処置: サーバーは SHUTDOWN コマンドの確認のプロンプトを出しますが、処理を続行します。

オペレーターの応答: シャットダウンを続行したい場合は YES を入力し、遮断したくない場合は NO または他の何かを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IESC1048I THERE ARE *num* CLIENTS. CONTINUE SHUTDOWN ? (YES/NO)

説明: このメッセージは、SHUTDOWN コマンドの後に出力されます。 このメッセージが出された場合、*num* クライアントが実際に接続されています。 この時点でシャットダウンを続行すると、それらのクライアントは切断されます。

システムの処置: サーバーは SHUTDOWN コマンドの確認の

プロンプトを出しますが、処理を続行します。
 オペレーターの応答: シャットダウンを続行したい場合は YES を入力し、遮断したくない場合は NO または他の何かを入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1049E OPEN USERS CONFIG FILE FAILED:

member-name

説明: VSE コネクター・サーバーのユーザー構成メンバーを読み取り用にオープンできませんでした。
 システムの処置: サーバーは終了します。
 オペレーターの応答: 構成メンバーが存在し、別のプログラムによって使用されていないことを確認してください。サーバーの構成メンバーを検査して、構成メンバーの位置が正しいか調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1050E OPEN LIBRARIAN CONFIG FILE FAILED:

member-name

説明: VSE コネクター・サーバーのライブラリアン構成メンバーを読み取り用にオープンできませんでした。
 システムの処置: サーバーは処理を続行しますが、サーバーからアクセス可能なライブラリーはありません。
 オペレーターの応答: 構成メンバーが存在し、別のプログラムによって使用されていないことを確認してください。サーバーの構成メンバーを検査して、構成メンバーの位置が正しいか調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1051E INTERNAL ERROR IN MODULE

mmmmmmmmmm, CODE = nnnnnnnn.

説明: モジュール *mmmmmmmmmm* で内部エラーが発生しました。エラー・コードは *nnnnnnnn* でした。
 システムの処置: 機能/モジュールは終了します。
 オペレーターの応答: このエラーを IBM に報告してください。
 プログラマーの応答: このエラーを IBM に報告してください。

IESC1052I SERVER TASK IS NOT RUNNING

説明: このメッセージは、停止トランザクションが呼び出されたが、サーバー・タスクが実行されていなかった場合に表示される可能性があります。
 システムの処置: 停止トランザクションは終了します。サーバー・タスクは実行されていないか、すでに停止されているため、サーバー・タスクの停止は行われません。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1053I ABOUT TO STOP SERVER TASK

説明: 停止トランザクションがサーバー・タスクを停止しようとしています。
 システムの処置: サーバー・タスクには停止要求が通知されません。

オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1054I SERVER TASK IS ALREADY RUNNING

説明: このメッセージは、開始トランザクションが呼び出されたが、サーバー・タスクがすでに実行されている場合に示される可能性があります。
 システムの処置: 開始トランザクションは終了します。サーバー・タスクはすでに実行されているため開始されません。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1055I ABOUT TO START SERVER TASK

説明: 停止トランザクションがサーバー・タスクを開始しようとしています。
 システムの処置: サーバー・タスクが開始されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1056E FAILED TO START SERVER TASK

説明: 開始トランザクションがサーバー・タスクの開始に失敗しました。このエラーは、EXEC CICS START TRANSID からのゼロ以外の戻りコードによって発生します。
 システムの処置: 開始トランザクションはサーバー・タスクを開始せずに終了します。
 オペレーターの応答: トランザクション ICVS およびプログラム IESCVSRV が正しく定義されているかどうかを調べてください。
 プログラマーの応答: このエラーをオペレーターに連絡してください。

IESC1057I SERVER TASK HAS BEEN STARTED

説明: このメッセージは、サーバー・タスクが開始されたことをユーザーに通知するために、サーバー・タスクから発行されます。
 システムの処置: サーバー・タスクは処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1058I SERVER TASK HAS BEEN STOPPED.

説明: このメッセージは、サーバー・タスクが停止されたことをユーザーに通知するために、サーバー・タスクから発行されます。
 システムの処置: サーバー・タスクは終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC1059E FAILED TO START MIRROR TASK.

説明: サーバー・タスクがミラー・タスクの開始に失敗しました。このエラーは、EXEC CICS START TRANSID からのゼロ以外の戻りコードによって発生します。
 システムの処置: サーバー・タスクは、ミラー・タスクを開始せずに処理を続行します。
 オペレーターの応答: トランザクション ICVM およびプログ

ラム IESVCMIR が正しく定義されているかどうかを調べてください。

プログラマーの応答: このエラーをオペレーターに連絡してください。

IESC1060I USING SSL CONFIG FILE: *member-name*.

説明: 指定されたメンバーが、サーバーを構成するために使用されています。

システムの処置: サーバーはこのメンバーを読み取り用にオープンしようとしています。このメンバーをオープンできない場合、このメッセージの後にメッセージ IESC1061E が表示されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC1061E OPEN SSL CONFIG FILE FAILED: *member-name*.

説明: SSL 構成メンバーを読み取り用にオープンできませんでした。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: 構成メンバーが存在し、別のプログラムによって使用されていないことを確認してください。サーバーの構成メンバーを検査して、構成メンバーの位置が正しいか調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESC1062E INIT SSL RUNTIME FAILED. RC = *return-code*.

説明: SSL ランタイムの初期化が指定の戻りコードで失敗しました。

システムの処置: サーバーは終了します。

オペレーターの応答: gsk_initialize 機能からの戻りコードを調べてください。

プログラマーの応答: SSL 構成メンバーに指定された SSL バージョンが正しくて、キー付きファイルが存在するかどうかを調べてください。

IESC2001E FAILED TO LOAD CONFIG PHASE IESRD CFG

説明: VSAM 出口 IESVEX01.PHASE は VSAM リダイレクター構成フェーズ IESRD CFG.PHASE をロードできませんでした。この構成フェーズは、特定の VSAM ファイルの VSAM 要求がリダイレクトされるのかどうかを判別するために必要です。

システムの処置: このオープン要求は拒否され、VSAM から CDLOAD エラーが発行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: フェーズ IESRD CFG が存在していて、現行プログラムの LIBDEF 内にあることを確認してください。

IESC2002E FAILED TO LOAD EXIT PHASE

説明: VSAM 出口 IESVEX01.PHASE は VSAM リダイレクター出口フェーズをロードできませんでした。出口フェーズの名前が、対応する構成項目内に指定されます。

システムの処置: このオープン要求は拒否され、VSAM から CDLOAD エラーが発行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 出口フェーズが存在していて、現行プログラムの LIBDEF 内にあることを確認してください。出口の名前が正しく指定されているかどうか、対応する構成項目を調べてください。

IESC2003E FAILED TO CONNECT TO REDIRECTOR SERVER

説明: VSAM リダイレクター IESREDIR.PHASE が VSAM リダイレクター・サーバーに接続できません。サーバーの IP アドレスおよびポート番号が、対応する構成項目内に指定されています。

システムの処置: このオープン要求は拒否され、VSAM から「ファイルがありません」エラーが発行されます。オプション IGNOREERROR=YES が指定されている場合、このエラーは無視され、このファイルの要求をリダイレクトすることなく VSAM が続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VSAM リダイレクター・サーバーが稼働していることを確認してください。接続に使用されるポート番号が正しいことを確認してください (デフォルトのポート番号は 2387 です)。

IESC2004E GETVIS FAILED

説明: リダイレクターが、内部制御ブロックに記憶域を割り振ることができませんでした。

システムの処置: リダイレクターは、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。

オペレーターの応答: 区画 GETVIS が十分に使用可能であることを確認してください。

プログラマーの応答: 区画 GETVIS が十分に使用可能であることを確認してください。

IESC2005E PHASE IESRDANC COULD NOT BE LOCATED IN THE SVA

説明: プログラム IESRD LDA が SVA 内にアンカー・フェーズ IESRDANC を検出できませんでした。新規のリダイレクター構成を登録するには、アンカー・フェーズが SVA 内になければなりません。

システムの処置: 新規のリダイレクター構成を登録せずに処理が終了します。

オペレーターの応答: IPL の後に IESRDANC が SVA に必ずロードされるようにしてください。

プログラマーの応答: IPL の後に IESRDANC が SVA に必ずロードされるようにしてください。

IESC2006E PHASE IESRDANC IS INVALID

説明: アンカー・フェーズ IESRDANC が SVA に見つかりましたが無効です。オーバーレイされた可能性があります。
 システムの処置: 新規のリダイレクター構成を登録せずに処理が終了します。
 オペレーターの応答: IPL の後に正しい IESRDANC が SVA に必ずロードされるようにしてください。
 プログラマーの応答: IPL の後に正しい IESRDANC が SVA に必ずロードされるようにしてください。

IESC2007E PHASE IESRD CFG COULD NOT BE LOCATED IN THE SVA

説明: プログラム IESRD LDA が SVA 内にアンカー・フェーズ IESRD CFG を検出できませんでした。新規の構成として登録するには、構成フェーズが SVA 内になければなりません。
 システムの処置: 新規のリダイレクター構成を登録せずに処理が終了します。
 オペレーターの応答: SVA に IESRD CFG をロードしてください。
 プログラマーの応答: SVA に IESRD CFG をロードしてください。

IESC2008I PHASE IESRD CFG HAS BEEN LOADED AND REGISTERED

説明: プログラム IESRD LDA が新規のリダイレクター構成を正常に登録しました。
 システムの処置: 処理を続行します。これで新規の構成がアクティブになり、すべての OPEN 要求に対して使用されるようになります。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC2009I EXIT *exit-name* ACTIVE FOR: CLUSTER: *cluster-name* CATALOG: *catalog-name*

説明: VSAM クラスタがリダイレクトされると、VSAM リダイレクターがこのメッセージを発行します。
 システムの処置: 処理を続行します。指定の出口が、指定されたクラスタのすべての VSAM 要求についてコントロールを取得します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC2020E FAILED TO LOAD DECISION EXIT PHASE

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、指定された決定出口をロードできませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成の決定出口の指定を訂正してください。

IESC2021E FAILED TO CONNECT TO MQSERIES SERVER

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、指定された MQ Series サーバーに接続できませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: MQ Series サーバーが稼働していることを確認してください。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成の MQ Series サーバーの指定を訂正し、サーバーが稼働していることを確認してください。

IESC2022E FAILED TO CONNECT TO MQSERIES ON VSE

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、VSE 上の指定された MQ Series サーバーに接続できませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: MQ Series が VSE 上で稼働していることを確認してください。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成の MQ Series サーバーの指定を訂正し、MQ Series が VSE 上で稼働していることを確認してください。

IESC2023E FAILED TO OPEN MQSERIES QUEUE

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、指定された MQ Series キューを開くことができませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成の MQ Series キューの指定を訂正してください。

IESC2024E FAILED TO CLOSE MQSERIES QUEUE

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、MQ Series キューをクローズできませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、キューをクローズすることなく処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC2025E FAILED TO DISCONNECT FROM MQSERIES

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、MQ Series システムとの接続を切断することができませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、MQ Series との接続を切断せずに処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC2026E FAILED TO OPEN DELTA CLUSTER

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、指定されたデルタ・クラスターを開くことができませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成のデルタ・クラスターの指定を訂正してください。

IESC2027E INVALID MAXRECLEN OF DELTA CLUSTER

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、指定されたデルタ・クラスターの最大レコード長に誤りがあることを検出しました。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成のデルタ・クラスターの指定を訂正してください。

IESC2028E INVALID DELTA CLUSTER TYPE

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、指定されたデルタ・クラスターのクラスター・タイプに誤りがあることを検出しました。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成のデルタ・クラスターの指定を訂正してください。

IESC2029E INVALID KEY LENGTH OF DELTA CLUSTER

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、指定されたデルタ・クラスターのキーの長さに誤りがあることを検出しました。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成のデルタ・クラスターの指定を訂正してください。

IESC2030E INVALID KEY POSITION OF DELTA CLUSTER

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、指定されたデルタ・クラスターのキー位置の長さに誤りがあることを検出しました。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リダイレクター構成のデルタ・クラスターの指定を訂正してください。

IESC2031E DECISION EXIT FAILED TO INITIALIZE

説明: 指定された決定出口がエラーを返したため、VSAM 取り込み出口 IESVSCAP がこの出口を初期化できませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。
 オペレーターの応答: 決定出口からの追加メッセージがないか確認してください。
 プログラマーの応答: リダイレクター構成の決定出口の指定を訂正し、出口を初期化できない理由を調べてください。

IESC2032E FAILED TO PUT MESSAGE TO QUEUE

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、MQ Series キューにデルタ・レコードを入れることができませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP は続行しますが、デルタ・レコードの内容を SYSLST にダンプします (メッセージ IESC2033I を参照してください)。
 オペレーターの応答: MQ Series キューに十分なスペースがあることを確認してください。
 プログラマーの応答: MQ Series キューに十分なスペースがあることを確認してください。

IESC2033I DELTA RECORD HAS BEEN DUMPED TO SYSLST

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP がデルタ・レコードを処理できませんでした。データを保管するため、レコードが SYSLST にダンプされました。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: このメッセージの前に別のメッセージ (IESC2032E、IESC2035E など) がないか確認してください。
 プログラマーの応答: このメッセージの前に別のメッセージ (IESC2032E、IESC2035E など) がないか確認してください。

IESC2034E FAILED TO COMMIT TO MQSERIES

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、MQ Series の変更をコミットできませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP は続行しますが、変更はコミットされずに残ります。
 オペレーターの応答: MQ Series キューに十分なスペースがあることを確認してください。
 プログラマーの応答: MQ Series キューに十分なスペースがあることを確認してください。

IESC2035E FAILED TO WRITE DELTA RECORD

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP がデルタ・レコードをデルタ・クラスターに書き込めませんでした。
 システムの処置: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP は続行しますが、デルタ・レコードの内容を SYSLST にダンプします (メッセージ IESC2033I を参照してください)。

オペレーターの応答: デルタ・クラスターに十分なスペースがあることを確認してください。

プログラマーの応答: デルタ・クラスターに十分なスペースがあることを確認してください。

IESC2036E SPEED OPTION NOT ALLOWED FOR DELTA CLUSTER

説明: VSAM 取り込み出口 IESVSCAP が、デルタ・クラスターで SPEED オプションが使用されていることを検出しました。SPEED オプションは、デルタ・クラスターには使用できません。

システムの処置: VSAM 取り込み出口は、未完了の処理を終了します。そのため、VSAM OPEN エラー '80'X が発生します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: デルタ・クラスター定義から SPEED オプションを削除してください。

IESC3001E SEVERE ERROR WHILE PERFORMING LDAP AUTHENTICATION RC='nn' FDBK='nn' OPERATION='nnnn'

説明: LDAP 認証が実行されていたときに、重大エラー状態が発生しました。認証処理は停止されました。失敗した操作および戻された戻りコードとフィードバック・コードがメッセージに示されています。

システムの処置: 認証処理が停止され、適切なエラー・コードがサインオン・プログラムに戻されます。サインオン・プログラムでは、エラー・メッセージを表示できます。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: LDAP 構成 (IESLDCFG) を確認し、必要に応じて訂正してください。LDAP サーバーが作動可能であり到達可能であることを確認してください。操作のタイプに応じて、戻りコードおよびフィードバック・コードを確認してください。多くの場合、フィードバック・コードは LDAP 戻りコードを示しています。LDAP 戻りコードのリストが、PRD1.BASE にある C ヘッダー・ファイルの IESLDAPH.h にあります。

IESC3002I [date time] [applid] LDAP SIGNON SUCCESSFUL [AT TERMINAL nnnn] BY USER user

説明: ユーザー <user> の LDAP サインオンが正常に実行されました。サインオンが CICS 下で実行された場合、applid は要求が実行された CICS applid を示します。そうでない場合、これは省略されます。端末名は、サインオンが実行された端末を示します。使用可能な端末がない場合は省略されます。このメッセージが SYSLST または一時データ・キューに書き込まれる場合は、日時フィールドが付加され、サインオンが実行された日時を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC3003I [date time] [applid] LDAP SIGNON HAS FAILED [AT TERMINAL nnnn]. USER NOT RECOGNIZED: user

説明: LDAP サインオンが失敗しました。ユーザー <user> がシステムに認識されませんでした。サインオンが CICS 下で実行された場合、applid は要求が実行された CICS applid を示します。そうでない場合、これは省略されます。端末名は、サインオンが実行された端末を示します。使用可能な端末がない場合は省略されます。このメッセージが SYSLST または一時データ・キューに書き込まれる場合は、日時フィールドが付加され、サインオンが実行された日時を示します。

システムの処置: LDAP サインオン要求が拒否されました。

オペレーターの応答: これが調査を必要とするセキュリティ違反を暗黙に示していなければ、このユーザー ID がシステムに認識されるように、ユーザー ID を LDAP マッピング・ファイルおよび LDAP サーバーに追加するようセキュリティ管理者に依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESC3004I [date time] [applid] LDAP SIGNON HAS FAILED [AT TERMINAL nnnn]. PASSWORD NOT RECOGNIZED FOR USER user

説明: LDAP サインオンが失敗しました。ユーザー <user> が正しくないパスワードを指定しました。サインオンが CICS 下で実行された場合、applid は要求が実行された CICS applid を示します。そうでない場合、これは省略されます。端末名は、サインオンが実行された端末を示します。使用可能な端末がない場合は省略されます。このメッセージが SYSLST または一時データ・キューに書き込まれる場合は、日時フィールドが付加され、サインオンが実行された日時を示します。

システムの処置: LDAP サインオン要求が拒否されました。

オペレーターの応答: なし。ただし、これが調査を必要とするセキュリティ違反を意味する場合には、その限りではありません。

プログラマーの応答: なし。

IESC4001E INCORRECT START MODE

説明: 接続プール・マネージャー・トランザクションが、誤った方法で開始されました。トランザクション IDBS によるのみ開始できます。

システムの処置: 接続プール・マネージャー・トランザクションは、アクションを行うことなく終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC4002E INVALID PARAMETER: nnn

説明: 無効または不明なパラメーターが、トランザクション IDBS と一緒に指定されました。

システムの処置: トランザクション IDBS は、アクションを行うことなく終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正し、再試行してください。

IESC4003E FAILED TO ALLOCATE MEMORY

説明: メモリーの割り振りを試みましたが、失敗しました。
システムの処置: アクティブになっているプログラムは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: CICS ストレージ制限を大きくしてください。

IESC4004I ABOUT TO START DBCLI CONNECTION MANAGER

説明: トランザクション IDBS が、接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM を開始しようとしています。

システムの処置: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM が開始されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC4005E FAILED TO START DBCLI CONNECTION MANAGER

説明: トランザクション IDBS は、接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM を開始できませんでした。

システムの処置: トランザクション IDBS は、アクションを行うことなく終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 追加の関連メッセージをコンソールで調べてください。

IESC4006I DBCLI CONNECTION MANAGER HAS BEEN STARTED

説明: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM が正常に開始されました。

システムの処置: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM は処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC4007W DBCLI CONNECTION MANAGER IS ALREADY ACTIVE

説明: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM は既にアクティブであるため、トランザクション IDBS はこれを開始できませんでした。

システムの処置: トランザクション IDBS は、アクションを行うことなく終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC4008E FAILED TO INITIALIZE EZA API ENVIRONMENT

説明: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM は、EZA API 環境を初期化できませんでした。

システムの処置: トランザクション IDBM は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 接続プール・マネージャーを開始する前

に、EZA タスク関連ユーザー出口がアクティブであることを確認してください。 TCPNAME および ADSNAME オプション、また JCL の中の // OPTION SYSPARM='NN' と // SETPARM EZA\$PHA='routine-name' を調べてください。

IESC4009E FAILED TO CREATE THE DBCLI TOKEN

説明: トークン・サービス・ルーチンの呼び出しで、接続プール・マネージャー用のトークンを作成することができませんでした。

システムの処置: トランザクション IDBM は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM 担当員に連絡してください。

IESC4010I ABOUT TO STOP DBCLI CONNECTION MANAGER

説明: トランザクション IDBP が、接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM を停止しようとしています。

システムの処置: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM は停止されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC4011E FAILED TO STOP DBCLI CONNECTION MANAGER

説明: トランザクション IDBP は、接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM を停止できませんでした。

システムの処置: トランザクション IDBP は、アクションを行うことなく終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 追加の関連メッセージをコンソールで調べてください。

IESC4012I DBCLI CONNECTION MANAGER HAS BEEN STOPPED

説明: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM が正常に停止されました。

システムの処置: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC4013I DBCLI CONNECTION MANAGER IS TERMINATING

説明: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM を終了しています。

システムの処置: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC4014W DBCLI CONNECTION MANAGER IS NOT ACTIVE

説明: 接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM はアクティブではないため、トランザクション IDBP または IDBQ は接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM と通信を行うことができませんでした。

システムの処置: トランザクション IDBP または IDBQ は、アクションを行うことなく終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: トランザクション IDBS を使用して、接続プール・マネージャーを開始してください。

IESC4015W DBCLI TOKEN COULD NOT BE DELETED

説明: トークン・サービス・ルーチンの呼び出しで、接続プール・マネージャーのトークンを削除することができませんでした。

システムの処置: トランザクション IDBM は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM 担当員に連絡してください。

IESC4016E DBCLI TOKEN IS INVALID

説明: 接続プール・マネージャーのトークンの内容が無効です。別のアプリケーションによって同じトークン名が使用されていると考えられます。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM 担当員に連絡してください。

IESC4017E DBCLI CONNECTION MANAGER DID NOT RESPOND

説明: トランザクション IDBP または IDBQ は、接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM との通信を行うことができませんでした。アクティブであると考えられますが、想定される時間内に応答しません。

システムの処置: トランザクション IDBP または IDBQ は、アクションを行うことなく終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 接続プール・マネージャーがアクティブであることを確認してください。必要であれば、停止してから再始動してください。問題が解消されない場合、FORCE パラメーターを使用して接続プール・マネージャーの開始を試みてください。

IESC4018E FAILED TO QUERY CONNECTION MANAGER

説明: トランザクション IDBQ は、接続プール・マネージャー・トランザクション IDBM との通信を行うことができませんでした。照会応答でエラーを返しました。

システムの処置: IDBQ は、アクションを行うことなく終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 接続プール・マネージャーがアクティブであることを確認してください。必要であれば、停止してから

再始動してください。問題が解消されない場合、FORCE パラメーターを使用して接続プール・マネージャーの開始を試みてください。

IESC4020E INVALID START MODE

説明: DBCLI 対話式端末トランザクション IDBT が、誤ったモードで (例えば、コンソールなどの非 3270 端末から) 開始されました。

システムの処置: DBCLI 対話式端末は終了します。

オペレーターの応答: 代わりに 3270 端末で DBCLI 対話式端末トランザクション IDBT を開始してください。

プログラマーの応答: 代わりに 3270 端末で DBCLI 対話式端末トランザクション IDBT を開始してください。

IESC4021E INVALID PARAMETER: pppp

説明: DBCLI 対話式端末トランザクション IDBT が無効/不明パラメーター *pppp* またはパラメーター値で開始されました。

システムの処置: DBCLI 対話式端末は終了します。

オペレーターの応答: IDBT トランザクション呼び出しのパラメーターを調べてください。

プログラマーの応答: IDBT トランザクション呼び出しのパラメーターを調べてください。

IESC4022E SCREEN I/O ERROR

説明: DBCLI 対話式端末トランザクション IDBT で画面入出力実行時に重大エラーが発生しました。

システムの処置: DBCLI 対話式端末は終了します。

オペレーターの応答: 端末が使用可能であることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サポート担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: 端末が使用可能であることを確認してください。問題が解決しない場合は、IBM サポート担当員に連絡してください。

IESC5001E FAILED TO OBTAIN STORAGE

説明: リモート・デバッグ・インターフェースで内部制御ブロックに記憶域を割り振ることができませんでした。

システムの処置: リモート・デバッグ・インターフェースのデバッグ・セッションは終了します。

オペレーターの応答: 区画 GETVIS が十分に使用可能であることを確認してください。

プログラマーの応答: 区画 GETVIS が十分に使用可能であることを確認してください。

IESC5002E ANCHOR BLOCK IS INVALID

説明: リモート・デバッグ・インターフェースで、無効なアンカー・ブロックが発生しました。これは内部エラーまたはストレージ・オーバーレイを示します。エラーが解決されない場合には、IBM ソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

システムの処置: リモート・デバッグ・インターフェースのデバッグ・セッションは終了します。

オペレーターの応答: IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

プログラマーの応答: IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

**IESC5003E LOAD OF ORIGINAL FRONT END
'nnnnnnnn' FAILED**

説明: リモート・デバッグ・インターフェースでオリジナル Debug Tool フロントエンド・プログラム *nnnnnnnn* をロードできませんでした。オリジナル・フロントエンド・プログラムのデフォルト名は EQA30ORI です。オリジナル・フロントエンド・プログラムの名前を変更した場合は、デバッグ対象プログラムの実行に使用される JCL で // SETPARM

DBG\$ORI='nnnnnnnn' のようにして名前を指定する必要があります。通常、オリジナル・フロントエンド・プログラムは PRD2.CONFIG に指定されています。デバッグ対象プログラムの実行に使用される JCL において PRD2.CONFIG が LIBDEF チェーンに含まれることを確認してください。

システムの処置: リモート・デバッグ・インターフェースのデバッグ・セッションは終了します。

オペレーターの応答: 説明を参照してください。

プログラマーの応答: 説明を参照してください。

IESC5004E FAILED TO INITIALIZE THE EZA API

説明: リモート・デバッグ・インターフェースで EZA API 環境を初期設定できませんでした。通常、このメッセージは、EZA インターフェースのセットアップが不完全であるか、または正しくないことを示します。LIBDEF ステートメント、// OPTION SYSPARM='nm'、および // SETPARM EZA\$PHA=... ステートメントが正しいことを確認してください。CICS の下でデバッグを行うときは、EZA TRUE が活動状態になっていることを確認してください。

システムの処置: リモート・デバッグ・インターフェースのデバッグ・セッションは終了します。

オペレーターの応答: 説明を参照してください。

プログラマーの応答: 説明を参照してください。

**IESC5005E FAILED TO CONNECT TO REMOTE
DEBUG SERVER**

説明: リモート・デバッグ・インターフェースで、デバッグ・サーバーが稼働するリモート・システムに接続できませんでした。TCP/IP セットアップを調べてください。また、ご使用の z/VSE システムから指定の IP アドレスやホスト名にアクセスできることを確認してください。多くの場合、ファイアウォールが接続の確立を妨げています。そのようなケースでは、代わりにパッシブ・デバッグ・セッションを使用することを検討できます。

システムの処置: リモート・デバッグ・インターフェースのデバッグ・セッションは終了します。

オペレーターの応答: 説明を参照してください。

プログラマーの応答: 説明を参照してください。

**IESC5006I WAITING FOR A REMOTE DEBUG
CLIENT TO CONNECT...**

説明: リモート・デバッグ・インターフェースはリモート・デバッグ・クライアントの接続を待機します。このメッセージは、リモート・デバッグ・クライアントがデバッグ対象プログラムに接続する状況ではパッシブ・モードが使用されることを示します。

システムの処置: リモート・デバッグ・インターフェースはリモート・デバッグ・クライアントの接続を最大 120 秒 (2 分) 待機します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESC5007E FAILED TO ACCEPT A REMOTE DEBUG
CLIENT**

説明: リモート・デバッグ・インターフェースで、リモート・デバッグ・クライアントからの接続を受け入れることができませんでした。タイムアウト (120 秒 (2 分)) に達したか、または TCP/IP エラーが発生しました。リモート・デバッグ・クライアントが、正しい IP アドレス/ホスト名とポートを使用してリモート・デバッグ・インターフェースに接続していることを確認してください。

システムの処置: リモート・デバッグ・インターフェースのデバッグ・セッションは終了します。

オペレーターの応答: 説明を参照してください。

プログラマーの応答: 説明を参照してください。

**IESC5008I DEBUG SESSION HAS BEEN
SUCCESSFULLY ESTABLISHED**

説明: リモート・デバッグ・インターフェースでリモート・デバッグ・クライアントとのデバッグ・セッションが確立されました。

システムの処置: リモート・デバッグ・インターフェースはリモート・デバッグ・クライアントと通信し、そのリモート・デバッグ・クライアントに代わってデバッグ機能を実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6001E SYNTAX ERROR: nnnn

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターのトランザクション MQTM で構文エラーが発生しました。nnnn に、詳細が示されています。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは終了します。

オペレーターの応答: MQTM トランザクション呼び出しの構文を調べてください。

プログラマーの応答: MQTM トランザクション呼び出しの構文を調べてください。

**IESC6002E SYNTAX ERROR IN MQSERVER
PARAMETER. EXPECTED
'ChannelNameTCP/ConnectionName'**

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターのトランザクション MQTM で、MQSERVER パラメーターの構文エラーが発

生しました。予期されるパラメーター構文は「ChannelName/TCP/ConnectionName」です。
 システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは終了します。
 オペレーターの応答: MQTM トランザクション呼び出しの構文を調べてください。
 プログラマーの応答: MQTM トランザクション呼び出しの構文を調べてください。

IESC6003E MISSING PARAMETER 'nnnn'

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターのトランザクション MQTM では、パラメーター *nnnn* を指定することが必要です。
 システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは終了します。
 オペレーターの応答: MQTM トランザクション呼び出しのパラメーターを調べてください。
 プログラマーの応答: MQTM トランザクション呼び出しのパラメーターを調べてください。

IESC6004I LIST OF ACTIVE MQ CLIENT TRIGGER MONITORS:

説明: SHOW コマンドが出されました。後続のメッセージに現在のアクティブ・インスタンスの状況が表示されます。
 システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターはアクティブ・インスタンスのリストを表示します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC6005I END OF LIST (n TRIGGER MONITOR(S) DISPLAYED)

説明: SHOW コマンドが出されました。このメッセージは、表示の終わりを示しています。
 システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは SHOW コマンドを完了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC6006E ERROR DURING SCREEN I/O

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターで、端末で発行された SHOW コマンドの実行中に画面入出力エラーが発生しました。
 システムの処置: SHOW コマンドは終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 端末のセットアップを調べてください。
 SHOW コマンドは、VTAM 端末またはコンソールでのみ実行できます。

IESC6007I SHOW COMMAND ENDED

説明: SHOW コマンドが端末で発行されました。ユーザーが PF3 を押して表示を終了しました。
 システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは SHOW コマンドを完了します。
 オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6008E FAILED TO CONNECT TO THE REMOTE QUEUE MANAGER: RC=rr REASON=dd MQSERVER='ssss'

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターは、リモート・キュー・マネージャー *ssss* に接続できませんでした。戻りコードおよび理由コード (*rr* および *dd*) は、MQ クライアントによって返された WebSphere MQ 戻りコードおよび理由コードを示しています。
 システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは終了するか、再接続モードになっている場合は接続を再試行します。
 オペレーターの応答: MQSERVER パラメーターが MQ Server の正しいチャンネルおよび接続名を指定していること、および MQ Server でクライアント接続の受け入れが可能になっていることを確認してください。
 プログラマーの応答: MQSERVER パラメーターが MQ Server の正しいチャンネルおよび接続名を指定していること、および MQ Server でクライアント接続の受け入れが可能になっていることを確認してください。

IESC6009E FAILED TO OPEN THE INITIATION QUEUE: RC=rr REASON=dd QUEUE='qqqq'

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターは、開始キュー *qqqq* を開くことができませんでした。戻りコードおよび理由コード (*rr* および *dd*) は、MQ クライアントによって返された WebSphere MQ 戻りコードおよび理由コードを示しています。
 システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは終了します。
 オペレーターの応答: INITQ パラメーターが正しいキュー名を指定していること、およびこのキューがアプリケーションで使用可能になっていることを確認してください。
 プログラマーの応答: INITQ パラメーターが正しいキュー名を指定していること、およびこのキューがアプリケーションで使用可能になっていることを確認してください。

IESC6010I THE TRIGGER MONITOR WITH MQSERVER='ssss', QMGR='mmmm', AND INITQ='qqqq' IS NOW ACTIVE

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターが開始され、現在アクティブになっています。
 システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、MQ Server *ssss* 上のキュー・マネージャー *mmmm* の開始キュー *qqqq* のモニターを続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESC6011W THE INITIATION QUEUE 'qqqq' IS ALREADY MONITORED BY nn OTHERS

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターが開始され、現在アクティブになっています。開始キュー *qqqq* が他の *nn* 個のトリガー・モニターによって入力用に既に開かれていること

が検出されました。これは、他のトリガー・モニター・インスタンスもこの開始キューをモニターしていることを示している可能性があります。複数のトリガーが同一の開始キューをモニターしている場合、すべてのトリガー・イベントがすべてのトリガー・モニターによって確認されるわけではありません。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、開始キュー *qqqq* のモニターを続行します。

オペレーターの応答: 他のトリガー・モニターが同一の開始キューを使用しているかどうかを確認してください。

プログラマーの応答: 他のトリガー・モニターが同一の開始キューを使用しているかどうかを確認してください。

IESC6012W THE CONNECTION TO MQSERVER 'ssss' WAS INTERRUPTED. TRYING TO RECONNECT EACH *nn* SECONDS

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターで、MQ Server *ssss* への接続のエラーが発生しました。*nn* 秒ごとに MQ Server への再接続を試行しています。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、*nn* 秒ごとに MQ Server *ssss* への再接続を試行します。

オペレーターの応答: MQ Server でクライアント接続の受け入れが可能になっていることを確認してください。

プログラマーの応答: MQ Server でクライアント接続の受け入れが可能になっていることを確認してください。

IESC6013I THE CONNECTION TO MQSERVER 'ssss' WAS RESTORED, MONITORING CONTINUES

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターは、MQ Server *ssss* への接続を復元しました。開始キューのモニターを続行します。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、開始キューのモニターを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6014E SEVERE ERROR DURING MQGET FROM QUEUE='qqqq'. REASON=*dd*

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターで、キュー *qqqq* からの MQGET の実行中に重大エラーが発生しました。戻りコードおよび理由コード (*rr* および *dd*) は、MQ クライアントによって返された WebSphere MQ 戻りコードおよび理由コードを示しています。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは終了します。

オペレーターの応答: 戻りコードおよび理由コードを調べて、MQ Server でクライアント接続の受け入れが可能になっていること、および開始キュー *qqqq* がアプリケーションで使用可能になっていることを確認してください。

プログラマーの応答: 戻りコードおよび理由コードを調べて、MQ Server でクライアント接続の受け入れが可能になっていること、および開始キュー *qqqq* がアプリケーションで使用可能になっていることを確認してください。

IESC6015I START ISSUED FOR TRIGGER MONITOR WITH MQSERVER='ssss', QMGR='mmmm', AND INITQ='qqqq'

説明: MQ Server *ssss* 上のキュー・マネージャー *mmmm* の開始キュー *qqqq* をモニターする MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスに対して、START が発行されました。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターが開始されます。開始されたら、メッセージがさらに発行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6016E FAILED TO START TRIGGER MONITOR INSTANCE WITH RESP=*rr* RESP2=*dd*

説明: MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスに対して START が発行されましたが、START は CICS 応答コード *rr* および *dd* で失敗しました。

システムの処置: START コマンドを終了します。

オペレーターの応答: CICS 応答コードを調べて、START が失敗した理由を確認してください。

プログラマーの応答: CICS 応答コードを調べて、START が失敗した理由を確認してください。

IESC6017W A TRIGGER MONITOR WITH MQSERVER='ssss', QMGR='mmmm', AND INITQ='qqqq' IS ALREADY ACTIVE (CICS TASK *nn*)

説明: MQ Server *ssss* 上のキュー・マネージャー *mmmm* の開始キュー *qqqq* をモニターする MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスに対して START が発行されましたが、同じパラメーターを持つアクティブなトリガー・モニター・インスタンスが既にあります。

システムの処置: START コマンドを終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6018E FAILED TO LOAD TRIGGER MONITOR STARTUP LIST 'IESMQCTL.Z'

説明: STARTALL コマンドが発行されたか、事前構成されたすべての MQ トリガー・モニター・インスタンスを自動的に開始するために MQ クライアント・トリガー・モニター・プログラムが PLTPI 内で開始されましたが、アクティブな SOURCE LIBDEF チェーン内でライブラリー・メンバー

「IESMQCTL.Z」を見つけることができませんでした。

システムの処置: STARTALL コマンドを終了します。

オペレーターの応答: ライブラリー・メンバー

「IESMQCTL.Z」が、SOURCE LIBDEF チェーン内のライブラリーで使用可能になっていることを確認してください。

プログラマーの応答: ライブラリー・メンバー

「IESMQCTL.Z」が、SOURCE LIBDEF チェーン内のライブラリーで使用可能になっていることを確認してください。

IESC6019E SYNTAX ERROR IN TRIGGER MONITOR STARTUP LIST 'IESMQCTL.Z'

説明: STARTALL コマンドが発行されたか、事前構成されたすべての MQ トリガー・モニター・インスタンスを自動的に開始するために MQ クライアント・トリガー・モニター・プログラムが PLTPI 内で開始されましたが、ライブラリー・メンバー「IESMQCTL.Z」に無効なステートメントが含まれています。

システムの処置: STARTALL コマンドを終了します。

オペレーターの応答: ライブラリー・メンバー

「IESMQCTL.Z」内のステートメントを訂正してください。

プログラマーの応答: ライブラリー・メンバー

「IESMQCTL.Z」内のステートメントを訂正してください。

IESC6020I TRIGGER MONITOR STARTUP LIST 'IESMQCTL.Z' WAS PROCESSED SUCCESSFULLY

説明: STARTALL コマンドが発行されたか、事前構成されたすべての MQ トリガー・モニター・インスタンスを自動的に開始するために MQ クライアント・トリガー・モニター・プログラムが PLTPI 内で開始され、ライブラリー・メンバー「IESMQCTL.Z」が正常に処理されました。

システムの処置: 事前構成された MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスが開始されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6021W THERE ARE NO ACTIVE TRIGGER MONITORS TO STOP

説明: STOPALL コマンドが発行されたか、アクティブなすべての MQ トリガー・モニター・インスタンスを停止するために MQ クライアント・トリガー・モニター・プログラムが PLTSD 内で開始されましたが、アクティブ・インスタンスがありません。

システムの処置: STOPALL コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6022I STOP ISSUED FOR TRIGGER MONITOR WITH MQSERVER='ssss', QMGR='mmmm', AND INITQ='qqqq'

説明: MQ Server ssss 上のキュー・マネージャー mmmm の開始キュー qqqq をモニターする MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスに対して、STOP が発行されました。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターが停止されます。停止されたら、メッセージがさらに発行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6023I THE TRIGGER MONITOR WITH MQSERVER='ssss', QMGR='mmmm', AND INITQ='qqqq' HAS BEEN STOPPED

説明: MQ Server ssss 上のキュー・マネージャー mmmm の開始キュー qqqq をモニターする MQ クライアント・トリガー・モニターが停止しました。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6024W A TRIGGER MONITOR WITH MQSERVER='ssss', QMGR='mmmm', AND INITQ='qqqq' IS NOT ACTIVE

説明: MQ Server ssss 上のキュー・マネージャー mmmm の開始キュー qqqq をモニターする MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスに対して STOP が発行されましたが、これらのパラメーターを持つアクティブ・インスタンスがありませんでした。

システムの処置: STOP コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6025E STOP REQUESTED, BUT CICS TASK nm DOES NOT RUN TRANSACTION 'tttt' OR IS NOT ACTIVE AT ALL. USE 'FORCE=YES' TO STOP IT ANYWAY

説明: MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスに対して STOP が発行されましたが、関連 CICS タスク nm が予期されるトランザクション tttt を実行しないか、アクティブになっていません。多くの場合、これは MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスが予期せずに異常終了したためにアクティブでなくなったことを示しています。

システムの処置: STOP コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: リストからインスタンスを削除するために、FORCE=YES を指定して STOP コマンドを使用してください。

プログラマーの応答: リストからインスタンスを削除するために、FORCE=YES を指定して STOP コマンドを使用してください。

IESC6026E FORCE STOP REQUESTED, BUT CICS TASK nm DOES NOT RUN TRANSACTION 'tttt' OR IS NOT ACTIVE AT ALL. THE TRIGGER MONITOR WILL BE REMOVED FROM THE LIST

説明: MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスに対して STOP が発行されましたが、関連 CICS タスク nm が予期されるトランザクション tttt を実行しないか、アクティブになっていません。多くの場合、これは MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスが予期せずに異常終了したためにアクティブでなくなったことを示しています。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスがリストから削除されます。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IESC6027E THE TRIGGER MONITOR DOES NOT SEEM TO BE MONITORING THE INITQ. SPECIFY 'FORCE=YES' TO FORCE-STOP IT

説明: MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスに対して STOP が発行されましたが、関連付けられている開始キューをモニターしていないようです。

システムの処置: STOP コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: リストからインスタンスを削除するために、FORCE=YES を指定して STOP コマンドを使用してください。

プログラマーの応答: リストからインスタンスを削除するために、FORCE=YES を指定して STOP コマンドを使用してください。

IESC6028W ABEND 'aaaa' HAS OCCURRED IN TRIGGER PROGRAM 'pppp' AT 'nnnn'

説明: 異常終了 *aaaa* が、トリガー・プログラム *pppp* の位置 *nnnn* で発生しました。*nnnn* に疑問符が示されている場合、位置は不明です。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、開始キューのモニターを続行します。

オペレーターの応答: 詳細な問題分析を行うために、異常終了に起因して生成されたダンプまたは追加のメッセージを収集してください。

プログラマーの応答: 異常終了の原因を調査し、問題を訂正してください。

IESC6029E LINK TO TRIGGER PROGRAM 'pppp' FAILED WITH RESP=rr RESP2=dd FOR TRIGGER MESSAGE FOR QUEUE 'qqqq'

説明: EXEC CICS LINK によってトリガー・プログラム *pppp* が呼び出されることになっていた対象のキュー *qqqq* のトリガー・イベント・メッセージを受信しました。LINK が CICS 応答コード *rr* および *dd* で失敗しました。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、このトリガー・イベントを無視し、開始キューのモニターを続行します。

オペレーターの応答: CICS 応答コードを調べて、LINK が失敗した理由を確認してください。

プログラマーの応答: CICS 応答コードを調べて、LINK が失敗した理由を確認してください。

IESC6030W TRIGGER PROGRAM 'pppp' HAS REQUESTED TO STOP THE MONITOR FOR QUEUE 'qqqq'

説明: トリガー・プログラム *pppp* が実行され、MQ クライアント・トリガー・モニターによる開始キュー *qqqq* のモニターを停止することを要求しました。トリガー・プログラムは、LINK を指定した COMMAREA によって渡される MQTM データ構造のトリガー・データ・フィールド内の位置 13 (トリ

ガー・イベント・フラグ) に文字「S」を配置することで、モニターの停止を要求できます。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターが停止します。

オペレーターの応答: 停止要求の原因を調査し、問題を訂正してください。

プログラマーの応答: 停止要求の原因を調査し、問題を訂正してください。

IESC6031E FAILED TO START TRANS-ID 'tttt' WITH RESP=rr RESP2=dd FOR TRIGGER MESSAGE FOR QUEUE 'qqqq'

説明: トランザクション *tttt* の EXEC CICS START によってトリガー・プログラムが開始された対象のキュー *qqqq* のトリガー・イベント・メッセージを受信しました。START が CICS 応答コード *rr* および *dd* で失敗しました。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、このトリガー・イベントを無視し、開始キューのモニターを続行します。

オペレーターの応答: CICS 応答コードを調べて、START が失敗した理由を確認してください。

プログラマーの応答: CICS 応答コードを調べて、START が失敗した理由を確認してください。

IESC6032E NEITHER TRANS-ID NOR PROGRAM SPECIFIED IN TRIGGER MESSAGE FOR QUEUE 'qqqq'

説明: MQTM データ構造のトリガー・データ・フィールドに トランザクション ID もプログラム名も指定されていなかったキュー *qqqq* のトリガー・イベント・メッセージを受信しました。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、このトリガー・イベントを無視し、開始キューのモニターを続行します。

オペレーターの応答: キュー *qqqq* のトリガー設定を調べて、訂正してください。

プログラマーの応答: キュー *qqqq* のトリガー設定を調べて、訂正してください。

IESC6033W QUIT COMMAND WITH UNEXPECTED TOKEN RECEIVED FROM QUEUE='qqqq'

説明: QUIT コマンドが含まれているメッセージを開始キュー *qqqq* から受信しましたが、予期しないトークン値が含まれていました。これは、複数の MQ クライアント・トリガー・モニター・インスタンスが同一の開始キューをモニターしているときにそのいずれかが停止しようとする、発生する可能性があります。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、この QUIT コマンドを無視し、開始キューのモニターを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6034W UNKNOWN COMMAND 'cccc' RECEIVED FROM QUEUE='qqqq'

説明: 不明なコマンド `cccc` が含まれているメッセージを、開始キュー `qqqq` から受信しました。これは、アプリケーションのメッセージが誤って開始キューに入ったときに、発生する可能性があります。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、このコマンドを無視し、開始キューのモニターを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6035W UNKNOWN MESSAGE FORMAT 'nnnn' RECEIVED FROM QUEUE='qqqq'

説明: 不明な形式 `nnnn` のメッセージを、開始キュー `qqqq` から受信しました。これは、アプリケーションのメッセージが誤って開始キューに入ったときに、発生する可能性があります。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは、このメッセージを無視し、開始キューのモニターを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESC6036E THE MQ CLIENT IS NOT AVAILABLE OR NOT INSTALLED

説明: MQ クライアント・トリガー・モニターは、MQ クライアントが使用不可であるか、インストールされていないことを検出しました。

システムの処置: MQ クライアント・トリガー・モニターは終了します。

オペレーターの応答: MQ クライアントが正しくインストールされていること、そのプログラムおよびトランザクションが CICS に定義されインストールされていること、およびこれらのプログラムとトランザクションが CICS で使用可能になっていることを確認してください。

プログラマーの応答: MQ クライアントが正しくインストールされていること、そのプログラムおよびトランザクションが CICS に定義されインストールされていること、およびこれらのプログラムとトランザクションが CICS で使用可能になっていることを確認してください。

IESE0903 NO PROFILE RECORD EXISTS FOR USER ID '\$\$\$\$\$\$\$' AT TERMINAL '????'

説明: 事前生成セキュリティ値とともに、端末 `tttt` が CICS リソース定義に指定されました。これは、オペレーターがサインオンをしなくてもすむように、端末で行うことができます。ただし、IBM Virtual Storage Extended のプロファイル主導処理には、端末入力を介して割り当てられたユーザー ID のためのプロファイルが必要になります。

システムの処置:

オペレーターの応答: ユーザー・プロファイル保守機能呼び出し、与えられたユーザー ID のプロファイルを定義してください。

IESE0907 NO PROFILE RECORD EXISTS FOR USER ID '\$\$\$\$\$\$\$'.

説明: 与えられたユーザー ID は VSE システムの使用を許可されていますが、対話式インターフェース・プロファイル・レコードが見つかりません。

システムの処置:

オペレーターの応答: IBM Virtual Storage Extended BSM を使用しているときは、VSE 制御ファイルをアクセス可能にしてください。

外部セキュリティ管理プログラム (ESM) を使用しているときは、ESM のユーザー・プロファイル内に対話式インターフェース・セグメントを定義するか、またはユーザーの VSE 制御ファイルにユーザー・プロファイルを定義してください。

IESE0921 AN ERROR WAS ENCOUNTERED USING LOGO MODULE DATA.

説明: IESIES01 と IESDAP の間のインターフェースでエラーが発生しました。システムは、サインオン画面のユーザー提供ロゴ・データを正しく処理することができません。

システムの処置: デフォルトの VSE サインオン画面を表示します。

オペレーターの応答: サインオン画面のユーザー提供ロゴ・データが有効かどうかを確かめてください。ロゴ・ソース・データ指定が正しい場合は、ストレージに保持されているロゴが破壊されている可能性があります。このエラーの前に記憶保護違反をしていないか調べてください。

IESE0951 CICS SIGNON FOR USER ID '\$\$\$\$\$\$\$' AT TERMINAL '????' FAILED. ERROR CONDITION:'@@@@@@@@', EIBRESP: '&&&'

説明: 指定されたユーザー ID が対話式インターフェースにログオンしようとして失敗しました。CICS SIGNON 機能が失敗したため、対話式インターフェースに入ることはできません。

システムの処置: ユーザーが、「対話式インターフェースのサインオン (Interactive Interface Signon)」画面を表示しました。

オペレーターの応答: 「CICS Application Programming Reference」で SIGNON コマンドのエラー条件について調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESF0106I UNABLE TO TRANSFER CONTROL TO PROGRAM ppppppppp.

EIBRCODE=X'rrrrrrrrrrr'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されているプログラムで、CICS XCTL コマンドを出しましたが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに `pppppppp` を見つけることができなかったか、または `pppppppp` が使用可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーが検出された機能処理プログラムを、取り消します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、

EIBRCODE 値 *rrrrrrrrrr* を探して、問題判別を開始してください。インストールが正しく行われた場合には、*ppppppppp* はシステムにあるはずで、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。

プログラマーの応答: なし。

IESF0201I AN INTERNAL PROBLEM HAS BEEN ENCOUNTERED.

説明: 内部データを調べている時点で、重大な問題が見つかりました。エラー・オフセットだけでなく、プログラム名も問題を識別するのに役立つものと考えられます。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。要求された機能を中止させ、ディスク・データ管理機能の最初の選択画面を表示します。

オペレーターの応答: プログラム名およびエラー・オフセットを保管し、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IESF0203I PROBLEM ENCOUNTERED PROCESSING THE STANDARD LABEL AREA, LABEL RETCODE: 'rr'.

説明: LABEL インターフェースを介して、システム標準ラベル域の読み取り、および更新を行おうとしましたが、問題が起きました。戻りコードの説明については、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」内の『VSE/拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: メッセージを端末に出します。機能をやり直すことができます。

オペレーターの応答: 問題が再発する場合には、戻りコードを保管して、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IESF0204I PROBLEM ENCOUNTERED STORING ICCF MEMBER 'F\$uuuu', DTSCPL RETCODE: 'rr'.

説明: ライブラリー・メンバー *F\$uuuu* を作成中に、戻りコードが DTSCPL マクロによって出されました。戻りコードの意味は次の通りです:

- 0 通常戻り
- 1 出力バッファがいっぱいです。DTSCPLPRP に戻ってコマンド・リストを終わらせるか、または次の出力バッファに入れるか、あるいは、その両方を行います。
- 8 DTSTX00 をロードすることができません。使用可能な GETVIS スペースがありません。
- 16 /EXEC または /RUN を出そうとしました。
- 12 DTSTXnn をロードすることができません。使用可能な GETVIS スペースがありません。
- 28 パラメーター・リスト (バッファ・アドレス) が無効です。

システムの処置: メッセージを端末に出します。機能をやり直すことができます。

オペレーターの応答: 問題が再発する場合には、戻りコードを保管して、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IESF0215I PROBLEM ENCOUNTERED IN THE FRONTEND WHEN COMMUNICATING WITH THE BACKEND. REG15-RETURN CODE 'cc', ERROR CODE 'rr'

説明: XPCC インターフェースを介して、フロントエンド・プログラムからバックエンド・プログラムに至る通信経路をセットアップ中に、問題が起きました。エラー・コードおよび戻りコードは、z/VSE サービス技術員にのみ意味のあるものですが、これらのコードを書き留めておいてください。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。要求された機能を中止させ、ディスク・データ管理機能の最初の選択画面を表示します。

オペレーターの応答: プログラム名、エラー・オフセット、戻りコード、およびエラー・コードを保管し、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IESF0249I FUNCTION CANNOT BE USED, BECAUSE THERE ARE TOO MANY FILES.

説明: このメッセージは、ダイアログ・ファイルとカタログ管理を使用している場合に、選択されたカタログのファイルが多すぎることを示しています。この制約は、関連カタログからファイルを削除すれば回避することができます。それができない場合、このカタログで作業するには、VSAM バッチ機能を使用してください。

システムの処置: ダイアログは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESGD100I BEGINNING STARTUP OF GDPS CONNECTOR

説明: GDPS コネクターのスタートアップが開始されました。システムの処置: GDPS コネクターのスタートアップを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESGD110I LOADING GDPS CONFIG MEMBER: <member>

説明: GDPS コネクターが構成メンバー (<member>) のロードを試行します。

システムの処置: GDPS コネクターが構成メンバー (<member>) のロードを試行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESGD120E CONFIGURATION FAILED

説明: GDPS コネクターが構成メンバーを読み取ろうとしました。

システムの処置: GDPS コネクターは終了します。

オペレーターの応答: 構成ファイルが有効かどうかを確認してください。GDPS コネクター・スタートアップ・ジョブで正しい構成ファイルが指定されているかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESGD130I FINISHED STARTUP OF GDPS CONNECTOR

説明: GDPS コネクタのスタートアップが終了しました。

システムの処置: GDPS コネクタは処理を開始します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESGD140I SHUTTING DOWN GDPS CONNECTOR

...

説明: SHUTDOWN コマンドが出されたか、エラーが発生しました。

システムの処置: GDPS コネクタはシャットダウンされません。

オペレーターの応答: 詳しくは、ジョブ・リストを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESGD160I PLEASE USE "MSG XX,DATA=COMMAND" WITH THE FOLLOWING COMMANDS:

説明: HELP コマンドが出されました。

システムの処置: GDPS コネクタは、すべての有効なコマンドを表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESGD170W INVALID COMMAND

説明: 無効なコマンドが出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 「MSG XX,DATA=HELP」を入力し、有効なコマンドのすべてをリストで表示します。

プログラマーの応答: なし。

IESGD180W PLEASE USE "MSG XX,DATA=COMMAND"

説明: "MSG XX" が出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 「MSG XX,DATA=COMMAND」を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IESGD190I FOR MORE INFORMATION USE "MSG XX,DATA=HELP"

説明: 無効なコマンドが出されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 「MSG XX,DATA=HELP」を入力し、有効なコマンドのすべてをリストで表示します。

プログラマーの応答: なし。

IESGD200E SOCKET EXCEPTION

説明: ソケットとの連携時にエラーが発生しました。これは、以下のいずれかが原因と考えられます。

- TCP/IP for z/VSE がまだ開始されていない。
- TCP/IP インターフェース (\$EDCTCPV.PHASE) がロード不可能であるか、または無効である。
- ポートがすでに使用中である。実際のポート番号については、構成メンバーまたは STATUS コマンドを参照してください。

システムの処置: GDPS コネクタは終了します。

オペレーターの応答:

- TCP/IP for z/VSE が稼働していることを確認してください。
- ジョブ出力を見て、メッセージ「EDCV001I TCP/IP function socket() not implemented」が出されているかどうか調べてください。このメッセージは、誤った \$EDCTCPV.PHASE がロードされたことを示しています。LE/VSE では、メッセージ EDCV001I を出すこの PHASE がダミーとして提供されます。このダミー PHASE は PRD2.SCEEBASE に入っています。TCP/IP for z/VSE で提供される PHASE がロードされていることを確認してください。通常、これは PRD1.BASE にあります。
- 構成メンバーで指定されたポートが、システムで実行中の他の TCP/IP アプリケーションで既に使用中であるかどうかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESGD210E CANNOT SET UP TCP/IP LISTENER

説明: GDPS コネクタが TCP/IP listen ソケットをセットアップできません。これは、以下のいずれかが原因と考えられます。

- TCP/IP for z/VSE がまだ開始されていない。
- TCP/IP インターフェース (\$EDCTCPV.PHASE) がロード不可能であるか、または無効である。
- ポートがすでに使用中である。実際のポート番号については、構成メンバーまたは STATUS コマンドを参照してください。

システムの処置: GDPS コネクタは終了します。

オペレーターの応答:

- TCP/IP for z/VSE が稼働していることを確認してください。
- ジョブ出力を見て、メッセージ「EDCV001I TCP/IP function socket() not implemented」が出されているかどうか調べてください。このメッセージは、誤った \$EDCTCPV.PHASE がロードされたことを示しています。LE/VSE では、メッセージ EDCV001I を出すこの PHASE がダミーとして提供されます。このダミー PHASE は PRD2.SCEEBASE に入っています。TCP/IP for z/VSE で提供される PHASE がロードされていることを確認してください。通常、これは PRD1.BASE にあります。
- 構成メンバーで指定されたポートが、システムで実行中の他の TCP/IP アプリケーションで既に使用中であるかどうかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESGD220E CANNOT CREATE EVENT PACKETS

説明: GDPS コネクターが、GDPS K-System に送信されるイベント・パケットを作成しようとした。
 システムの処置: GDPS コネクターは終了します。
 オペレーターの応答: 詳細情報については、ジョブ・リストを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD250I RESETTING STATISTICS ...

説明: RESETSTAT コマンドが出されました。
 システムの処置: 統計値 (ハートビートおよび要求カウンター) はすべてリセットされます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD290I COMMAND NOT ALLOWED IN CURRENT STATE

説明: 現在は許可されていないコマンドが出されました。これは、GDPS コネクターが初期化されていて保守モードでない場合に、構成を変更 (許可されていません) するコマンドで発生する可能性があります。
 システムの処置: GDPS コネクターはこのコマンドを無視します。
 オペレーターの応答: "MSG XX,DATA=STARTMAINTENANCE" を入力して保守モードを開始してから、もう一度コマンドを出してください。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD300I SWITCHING SITE

説明: SWITCHSITE コマンドが出されたか、GDPS K-System がスイッチ・コマンドを送信しました。
 システムの処置: GDPS コネクターはサイトを切り替えます。例えば、サイト 1 が現在アクティブである場合は、サイト 2 に切り替えます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD310W SHUTDOWN FORCED - NO MAINTENANCE CHANGED

説明: FORCESHUT コマンドが出されました。
 システムの処置: GDPS コネクターは、最初に保守モードに切り替わることなくシャットダウンされます。

重要: GDPS K-System はこれをエラーと解釈します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD320E MAINTENANCE MODE CHANGE FAILED

説明: STARTMAINTENANCE コマンドまたは STOPMAINTENANCE コマンドが出されましたが、GDPS コネクターはモードを変更できませんでした。
 システムの処置: GDPS コネクターは終了します。
 オペレーターの応答: 詳しくは、ジョブ・リストを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESGD330I MAINTENANCE MODE IS ALREADY ACTIVE

説明: STARTMAINTENANCE コマンドが出されましたが、GDPS コネクターは既に保守モードです。
 システムの処置: GDPS コネクターはこのコマンドを無視します。
 オペレーターの応答: 正しいコマンドを入力してください。「MSG XX,DATA=HELP」を入力し、有効なコマンドのすべてをリストで表示します。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD340I MAINTENANCE MODE IS ALREADY INACTIVE

説明: STOPMAINTENANCE コマンドが出されましたが、GDPS コネクターは保守モードではありません。
 システムの処置: GDPS コネクターはこのコマンドを無視します。
 オペレーターの応答: 正しいコマンドを入力してください。「MSG XX,DATA=HELP」を入力し、有効なコマンドのすべてをリストで表示します。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD350I MAINTENANCE MODE CHANGED TO: <value>

説明: STARTMAINTENANCE コマンドまたは STOPMAINTENANCE コマンドが出され、GDPS コネクターはモードを変更しました。
 システムの処置: 保守モードは要求モードになります。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD360I MAINTENANCE MODE IS ACTIVE

説明: GDPS コネクターがスタートアップを終了しましたが、保守モードになっています。
 システムの処置: GDPS コネクターは保守モードであり、コマンドを待っています。
 オペレーターの応答: 「MSG XX,DATA=STOPMAINTENANCE」を入力して、保守モードを終了してください。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD370I GDPS CONNECTOR STATUS:

説明: STATUS コマンドが出されました。
 システムの処置: GDPS コネクターはその状況を表示します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESGD380I RESTARTING GDPS CONNECTOR

説明: RELOADCONFIG コマンドが出されたか、構成値が変更されたか、または GDPS K-System からの「reset」コマンドを受け取りました。

システムの処置: GDPS コネクターは再始動します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESGD390I CONFIGURATION CHANGED

説明: 構成値が変更されました。

システムの処置: 構成メンバーが保存され、GDPS コネクターは再始動されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESI0003I JOB xxxxxx WAS NOT FOUND IN RDR QUEUE

説明: ジョブ管理が、VSE/POWER 読み取りキューに入っていないジョブを管理しようとした。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブ名を順序リスト (/STATUS コマンド) の内容と比較してください。パスワードも検査してください。

IESI0004I JOB xxxxxx HAS NOT BEEN ALTERED

説明: ジョブ管理が、ジョブの後処理または優先順位を変更しようとした。そのジョブは、VSE/POWER 読み取りキューに入っていないか、または現在実行中であるかのいずれかです。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: このジョブが活動中かどうか調べてください。

プログラマーの応答: ジョブ名を順序リスト (/STATUS コマンド) の内容と比較してください。ジョブ名のつづりを調べてください。パスワードも検査してください。そのジョブが VSE/POWER キューに存在するかどうかを調べてください。

IESI0005I JOB MANAGER COMMAND PROCESSING ABNORMALLY TERMINATED

説明: ジョブ管理が異常終了しました。理由は、前のメッセージに説明されています。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 異常終了の原因を示している前のメッセージを参照してください。

IESI0006I JOB xxxxxx IS NOW IN DISP = x

説明: ジョブ管理が、VSE/POWER 読み取りキュー内の指定されたジョブの後処理を変更しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESI0007I JOB MANAGER COMMAND PROCESSING COMPLETE

説明: ジョブ管理のコマンド機能が正常に完了しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESI0009A INVALID REPLY. PLEASE TRY AGAIN

説明: 前のメッセージに対するオペレーターの応答が正しくありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 前のメッセージを綿密に調べて、正しく応答してください。

プログラマーの応答: なし。

IESI0010I INVALID JOB MANAGER COMMAND

説明: ジョブ管理の実行中に、関連するジョブ管理・コマンドが欠落していたか、または無効でした。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 関連するコマンドを修正し、受け渡しをし直してください。

IESI0013I NO ORDERED LIST EXISTS FOR PARTITION = xx

説明: ジョブ管理ファイルに、/STATUS コマンドが呼び出される対象となった区画の順序リストが含まれていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESI0014I LOCK MACRO FAILURE. RETURN CODE = xx

説明: LOCK/UNLOCK マクロ命令の使用が正しくありません (戻りコードは 0 ではありません)。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 「VSE 拡張機能マクロ解説書」に説明してある戻りコードを調べてください。

IESI0015I INVALID FORMAT OPTION

説明: /FORMAT コマンドは、次の理由のいずれかにより正しくありません。

1. ジョブ管理ファイルが、IPL 以後に形式設定されていません。

2. 正しくないパラメーターが指定されました。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IPL 後、直ちにこのジョブを実行してください。正しくないパラメーターがある場合には、/FORMAT コマンドを修正してください。

**IESI0016I GETVIS MACRO FAILURE. RETURN
 CODE = xx**

説明: GETVIS マクロ命令の使用が正しくありません (戻りコードは 0 ではありません)。
 システムの処置: ジョブ管理を取り消します。
 オペレーターの応答: この区画の SIZE 値が、GETVIS 区域用に少なくとも 1K 残されているかを確かめてください。MAP コマンドを使用して、サイズを表示してください。
 プログラマーの応答: 「VSE 拡張機能マクロ解説書」に説明してある戻りコードを調べてください。

**IESI0017I /.xxxxxxx MAY BE SPECIFIED ONLY
 ONCE**

説明: xxxxxxxx は、ジョブ管理・コマンドの名前です。複数回指定できるコマンドは、/.PCMD または /.STATUS コマンドのみです。他のすべてのジョブ管理・コマンドは、そのステップで固有でなければなりません。
 システムの処置: ジョブ管理を取り消します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: ジョブ管理・コマンドを複数回使用しないように、入力ストリームを訂正してください。

**IESI0018I BUILD ERROR DUE TO MISSING /.END
 COMMAND**

説明: ジョブの順序リスト (/.BUILD コマンドとそれに続くジョブ名のリスト) の作成が開始されましたが、/.END コマンドで終わっていません。
 システムの処置: ジョブ管理を取り消します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: ジョブ名のリストの後に、/.END コマンドを挿入してください。

**IESI0019I INVALID JOB SPECIFICATION DURING
 BUILD**

説明: メッセージは、以下の理由の 1 つにより出されました。

1. ジョブ名に正しくない文字が入ってます。
2. ジョブ名またはパスワードが 8 文字を超えています。
3. ジョブ名が 1 桁目で始まっていません。
4. ジョブ名とパスワードとを区切るコンマがありません。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 入力ストリームを修正して、受け渡しをし直してください。

**IESI0021I NO RECORD FOUND ON JOB
 MANAGER FILE**

説明: これは、重大エラーです。ジョブ管理ファイルは破棄されました。
 システムの処置: ジョブ管理を取り消します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: ジョブ管理ファイルを形式設定し直してください (/.FORMAT コマンド)。

**IESI0022I NO OR INVALID PARAMETER FOUND
 IN xxxxxx**

説明: xxxxxx コマンドの、少なくとも 1 つのパラメーターがないか、または正しくありません。
 システムの処置: ジョブ管理を取り消します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 関連するコマンドを修正してください。

IESI0023I RETURNED MESSAGE = xxxxx

説明: このメッセージは、/.PCMD コマンドの使用後に出されます。xxxxx は、VSE/POWER によって戻されたメッセージに対応しています。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: これが、予想通りのものであるかどうかを調べてください。

IESI0024D ENTER THE JOB NAME

説明: ABORT ジョブは、活動中です。オペレーターは、RESET オプションを選択しました。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 解放したいジョブの名前を入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0025I THE LAST JOB NORMALLY COMPLETED
 WAS: xxxxxx**

説明: ABORT ジョブが実行中で、この情報を出しています。同時に、VSE/POWER 印刷キュー中の状況報告書を使用できます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: 次のメッセージを待ちます。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0026D ENTER: RESUME, RESET OR EXIT

説明: ジョブ管理によって管理されるジョブの 1 つで、打ち切り条件が起きました。ABORT ジョブは、/.BUILD コマンドでの定義通りに解放されます。/.ABORT コマンドでは、OPERATOR オプションが選択されました。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 正しい応答は次の通りです。

RESUME: 以前に打ち切られた (「未完了」状態の) ジョブが再始動します。どのジョブも「未完了」状態でなければ、次に実行されるジョブが順序リストに見つかります。

RESET: プログラムは、ジョブ名を尋ねます。このジョブが、すでに正しく完了している場合でも、順序リストにあるジョブ名を指定することができます。その後のすべてのジョブも (再) 実行されます。

EXIT: ジョブ管理は終了します。打ち切られたジョブは、「未完了」としてフラグが付けられたままとなります。後になって正しく再始動させるためには、ABORT ジョブをオペレーターが解放しなければならず、別の ABORT オプションを選択しなければなりません。このオプションが意味を持つのは、ジョブ

管理を一時的に停止させ、関連する異常終了問題を判別して訂正したい場合です。

プログラマーの応答: 打ち切り状態を明確にした上で、それをオペレーターに説明してください。

**IESI0027I NAME NOT FOUND IN THE JOB LIST.
PLEASE TRY AGAIN**

説明: オペレーターは、メッセージ IESI0026D に対し 'RESET' と応答し、メッセージ IESI0024D の応答としてジョブ名を与えました。このジョブは、/.BUILD コマンドで作成された順序リストに存在しません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: ジョブ名のつづりが正しいかどうかを調べてください。

プログラマーの応答: ジョブ名を、順序リスト (/.STATUS コマンド) の内容と比較してください。

**IESI0028I MORE THAN 60 JOBS ARE DEFINED IN
/.BUILD**

説明: ジョブ管理の順序リストの作成中に、60 個を超えるジョブが定義されました。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 順序リストのジョブの数を減らしてください。

**IESI0029I INVALID SECURITY PASSWORD FOR
/.CLEAR**

説明: /.CLEAR コマンドの SECURITY パスワードが、最後の /.BUILD コマンドの SECURITY コマンドと一致していません。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: パスワードを修正して、入力ストリームの受け渡しをし直してください。

IESI0030I JOB SEQUENCE ERROR

説明: 管理されたジョブは解放されましたが、このジョブはリストでの順序になっていないか、あるいはこの区画ではリストがありません (通常、このエラーは、システム・オペレーターまたは VSE/ICCF ユーザーがジョブを解放したために起こります)。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: 関連ジョブがオペレーターまたは VSE/ICCF ユーザーによって解放されたかどうかを確かめてください。

プログラマーの応答: なし。

IESI0031I LOGIC ERROR DURING ABORT

説明: このメッセージは、以下の場合に出されます。

1. /.ABORT コマンドが、ABORT ジョブの最初のコマンドではありません。
2. ABORT ジョブ名が、/.BUILD コマンドのパラメーターのものとは一致していません。

3. メッセージ IESI0026D に応答して、この ABORT ジョブを「リセット」または「再開」しようとした。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: メッセージ IESI0024D の応答として、ABORT ジョブ名を入力しないでください。

プログラマーの応答: /.ABORT が ABORT ジョブの最初のコマンドであるかどうかを調べてください。

ABORT ジョブ名が、作成時に定義したものと一致しているかどうかを確かめてください。

弊社サポート・センターに、既知問題データベースの探索を依頼してください。

**IESI0032I INVALID /.PCMD VSE/POWER
COMMAND**

説明: /.PCMD コマンドの後の文字列が、サポートされる有効な VSE/POWER コマンドではありません。

システムの処置: このコマンドを無視します。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このコマンドを除去するか修正してください。

**IESI0033I COMMAND ISSUED WITH CONTROL
SERVICE WAS: xxxxxxx**

説明: ジョブ管理が、制御サービスのために VSE/POWER にアクセスしました。xxxxxxx は、VSE/POWER に送信されたコマンドであり、このコマンドが失敗しました。このメッセージの後には常にメッセージ IESI0023I が続き、VSE/POWER によって戻された情報が示されます。

システムの処置: そのジョブ管理・ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 失敗したコマンドを調べてください (これは、多くの場合、変更すべきジョブが VSE/POWER 読み取りキューになかったことが原因です)。

IESI0034I PHASE xxxxxxxx NOT FOUND IN SVA

説明: LOAD マクロ命令の実行後、関連フェーズが SVA にロードされていないことがわかりました。xxxxxxx は、フェーズ名と対応しています。

システムの処置: そのジョブ管理・ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このメッセージが出される可能性があるのは、ジョブ管理の高性能オプション (HPO) が使用された場合だけです (PARM=FASTPATH)。このオプションは、ユーザー環境では有効ではありません。EXEC ステートメントの PARM オペランドを除去してください。

**IESI0036I GETFLD MACRO FAILURE. FIELD =
xxxxxxx RETURN CODE = xx.**

説明: GETFLD マクロ命令の使用に失敗しました。(戻りコードは 0 以外です)。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの探索を、弊社サ

ポート・センターに依頼してください。

IESI0037I PROGRAM RUNS ONLY IN A STATIC PARTITION.

説明: ジョブ管理が動的区画で呼び出されましたが、ジョブ管理は静的区画で実行する必要があります。

システムの処置: ジョブ管理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブ管理列に属するジョブを静的区画にサブミットしてください。

IESI0040I MEMBER xxxxxxxx OF TYPE yyyyyyyy NOT FOUND IN ACCESSED LIB.SUBLIB. COMMAND SKIPPED.

説明: 指定したメンバーが、前回アクセスしたサブライブラリーに見つからなかったため、POWER 読み取りキューにロードされません。

システムの処置: 次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: どのサブライブラリーに、メンバーが保管されているかを確認して、適切な ACCESS コマンドをコーディングしてください。

IESI0041I SYNTAX ERROR NEAR COLUMN n COMMAND IGNORED.

説明: 構文エラーが SYSLST 上のこのエラー・メッセージの前の行で検出されました。メンバーは、POWER 読み取りキューにロードされません。

システムの処置: 次のコマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 無効な DTRIINIT コマンドを訂正してください。

IESI0042I XPCC-REQUEST FAILED. RETURN CODE = @1 AND REASON CODE = @2. PROGRAM TERMINATED.

説明: POWER と通信するために、XPCC 要求が出されたが、表示された理由で失敗しました。

システムの処置: プログラムは、戻りコード 16 を返して中止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 「VSE/POWER Application Programming」で、XPCC 要求が失敗した理由を調べてください。

IESI0043I POWER-SPOOL REQUEST FAILED. RETURN CODE = @1 FEEDBACK CODE = @2. PROGRAM TERMINATED.

説明: POWER と通信するために、スプール・アクセス要求が出されたが、表示された理由で失敗しました。

システムの処置: プログラムは、戻りコード 16 を返して中止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 「VSE/POWER Application

Programming」で、スプール・アクセス要求が失敗した理由を調べてください。

IESI0051D DO YOU WANT TO CONFIGURE TCP/IP DURING INITIAL STARTUP? YES/NO

説明: 端末のデフォルトのアクセス方式は VTAM[®] です。VTAM は、初期インストール中に自動的に呼び出されます。あとで、初期インストール中に TCP/IP を選択すると、TCP/IP for z/VSE の構成ダイアログが開始され、Telnet 端末を使用できるようになります。そうすると、TCP/IP for z/VSE および Telnet 端末が始動します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: TCP/IP for z/VSE の初期構成を実行する場合は、YES を入力してください。基本スタートアップが開始され、TCP/IP for z/VSE の構成の質問が表示されます。初期インストール中に TCP/IP for z/VSE が始動します。初期インストール中に VTAM のみを呼び出す場合は、NO を入力してください。いずれの場合でも、初期インストール後に TCP/IP for z/VSE または IPv6/VSE の構成を行うことができます。

プログラマーの応答: なし。

IESI0053I NO OTHER PARTITION MAY BE ACTIVE

説明: XECBTAB マクロ命令 (TYPE=DEFINE) が正しく実行されませんでした。(0 以外の戻りコード)。このマクロは、レコードが VSE/POWER 読み取りキューに入れられる (PUTSPOOL) 前に出されます。

システムの処置: プログラムを取り消します。

オペレーターの応答: 他の区画が活動中でないかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESI0054I JOB ABNORMALLY TERMINATED

説明: ジョブ管理によって管理されるジョブの 1 つが異常終了しました。

システムの処置: ジョブ管理は、/BUILD コマンドで指定されたとおりに、ABORT ジョブを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 異常終了の原因を突き止めてください。

IESI0055I PUTSPOOL MACRO FAILED, RETURN CODE=rc

説明: VSE/POWER PUTSPOOL マクロ命令が成功しませんでした(0 以外の戻りコード)。戻りコードの説明については、「VSE/POWER Application Programming」を参照してください。

PUTSPOOL マクロは、VSE XPOST および XWAIT マクロを使用します。戻りコード rc は、これらのサービスからの結果になります。XPOST からの戻りコードは、コードの固有性を維持するために 16 が掛けられます。XPOST および XWAIT からの戻りコードは、「z/VSE System Macros Reference」で説明されています。

例えば、X'CO' の戻りコードは、VSE/POWER が、

PUTSPOOL マクロを使用するプログラムとは異なるアドレス・スペースで実行されていることを意味します。
 システムの処置: プログラムを取り消します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0056I CDLOAD MACRO FAILURE FOR PHASE
phase-name, RETURN CODE = rc

説明: CDLOAD マクロ命令が正常に使用されていません (戻りコードは 0 ではありませんでした)。
 システムの処置: インストール・テープ装置についての情報なしに、処理は継続します。
 オペレーターの応答: 「z/VSE System Macros Reference」で、戻りコードを調べてください。弊社サポート・センターに連絡し、問題回避の指示と、既知問題データベースの探索を依頼してください。
 プログラマーの応答: なし。
 モジュール: DTRIINST

IESI0057I INTERNAL ERROR: xxx IS NO TAPE DRIVE ADDRESS

説明: IJSYSRS.SYSLIB の RESTORE 中に、'xxx' が内部テープ装置のアドレスとして表示されましたが、PUB テーブルを調べたところ、与えられた値 'xxx' はテープ装置には関連していません。
 システムの処置: インストール・テープ装置についての情報なしに、処理は継続します。
 オペレーターの応答: 弊社サポート・センターに連絡し、問題回避の指示と、既知問題データベースの探索を依頼してください。
 プログラマーの応答: なし。
 モジュール: DTRIINST

IESI0058I TO START CICS, YOU MAY DEFINE UP TO 3 3270 TERMINALS

説明: CICS スタートアップ用の JCL ストリームを作成するためには、プログラムは、ユーザーがどの端末を使用したいかを知らなければなりません。
 システムの処置: メッセージが、メッセージ IESI0059D のあとに現れます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0059D ENTER A 3270 ADDRESS (CUU) OR (PCUU) OR "END"

説明: CICS スタートアップ用の JCL ストリームを作成するためには、プログラムは、ユーザーがどのディスプレイ端末を使用したいかを知らなければなりません。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: CICS スタートアップに使用する 3270 ディスプレイ端末を少なくとも 1 つ指定しなければなりません。端末装置は 3270 ディスプレイ端末とします。端末アドレスは 3 桁 (CUU) または 4 桁 (PCUU) です。アドレス・リストの終了には、'END' を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

IESI0060I YOU NEED TO DEFINE AT LEAST ONE LOCAL 3270

説明: メッセージ IESI0059D に対する応答として 3270 アドレスがないか、あるいは正しい 3270 アドレスが指定されていません。
 システムの処置: このメッセージのあとには、IESI0059D が続きます。ここで 3270 アドレスを再度指定することもできます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0061A xxxx IS NO 3270 TERMINAL ADDRESS. PLEASE TRY AGAIN

説明: メッセージ IESI0059D に対する応答は正しい構文になっていますが、PUB テーブルの検査で、指定された値 'xxxx' が 3270 ディスプレイ端末と関連していないことがわかりました。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: CICS スタートアップに使用したい 3270 ディスプレイ端末の物理アドレス (PCUU) または VSE アドレス (CUU) を指定してください (4 桁または 3 桁)。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0062D CHECK YOUR ANSWERS. DO YOU WANT TO CONTINUE? YES/NO

説明: オペレーターの応答の論理ブロックは、正しく処理されました。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: システムとのダイアログ中に与えた応答を調べてください。1 つまたは複数の応答を変更したい場合には、このメッセージに対する応答として、'NO' を指定してください。このようにすれば、メッセージは、ダイアログができるように再度該当する部分を示します。応答のすべてが、正しい場合には、'YES' を指定してください。プログラムは次のステップを続行します。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0064I DEFINE UP TO 3 LOCAL VTAM TERMINALS

説明: プログラムは、現在 VTAM のスタートアップに関する情報を収集しています。
 システムの処置: このメッセージの後に、IESI0059D が続きます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0065D IS THE LOCAL CONTROL UNIT AN SNA CU ? YES/NO

説明: VTAM のスタートアップに関する情報が必要です。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 3270 端末用の構内コントロール・ユニットが SNA の場合には、'YES' を指定し、SNA でない場合

には 'NO' を指定してください。
プログラマーの応答: なし。

IESI0066I DEFINE TERMINAL TYPE ATTACHED TO THIS CONTROL UNIT

説明: このメッセージは、ローカル・コントロール・ユニットが SNA 制御のときに出力されます。この情報は、プログラムが、VTAM ノード定義 (VTMSNA.B) 中の LU ステートメントの DLOGMOD パラメーターを作成するときに、必要です。システムの処置: このメッセージのあとには、IESI0067D が続きます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IESI0067D ENTER 24X80, 32X80 OR 43X80

説明: このメッセージは、ローカル・コントロール・ユニットが SNA 制御のときに出力されます。この情報は、プログラムが、VTAM ノード定義 (VTMSNA.B) 中の LU ステートメントの DLOGMOD パラメーターを作成するときに、必要です。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 端末のタイプを調べて、上記の値の 1 つを与えてください。
プログラマーの応答: なし。

IESI0068A TERMINAL ADDRESS xxxx ALREADY SPECIFIED. PLEASE TRY AGAIN

説明: IESI0059D に対する応答として、2 つ以上の端末アドレスが指定され、同じアドレス (xxxx) が 2 回指定されました。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 他の 3270 端末のアドレス (3 または 4 桁) を指定するか、あるいは追加の端末を使用しない場合には、'END' を指定してください。
プログラマーの応答: なし。

IESI0069I THE FOLLOWING JOBS WILL BE EXECUTED:

説明: プログラムは、特定のジョブを実行して z/VSE システム・インストールを完了させるために、ジョブ管理に情報を与えます。システムの処置: このメッセージのあとには、SYSLST で印刷されたジョブ名のリストが続きます。
オペレーターの応答: このメッセージのあとに、ジョブ名のリストが続きます。関連するジョブは、自動的に実行されます。
プログラマーの応答: なし。

IESI0070A xxxx IS THE ADDRESS OF YOUR SYSTEM CONSOLE. PLEASE TRY AGAIN

説明: IESI0059D に対する応答として、システム・コンソールの物理アドレス (xxxx) が端末アドレスとして指定されました。システムの処置: このメッセージのあとには、他の端末アドレスを要請するメッセージ IESI0059D が出力されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IESI0071D ENTER ADDRESS OF 3270 CONTROL UNIT: cuu or pcuu

説明: このメッセージは、ローカル・コントロール・ユニットが SNA 制御のときに出力されます。プログラムは、VTAM ノード定義 (VTMSNA.B) 中の PU ステートメントの CUADDR パラメーターを作成するために、この情報を必要とします。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: CICS 端末が接続される SNA コントロール・ユニットのアドレス (3 または 4 桁) を指定してください。
プログラマーの応答: なし。

IESI0072A xxxx IS NO 3270 CONTROL UNIT. PLEASE TRY AGAIN

説明: メッセージ IESI0071D に対する応答は正しい構文になっていますが、PUB テーブルの検査で、指定されたアドレス値 'xxxx' が構内 3270 SNA コントロール・ユニットと関連していないことがわかりました。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: CICS 端末が接続される SNA コントロール・ユニットのアドレス (3 または 4 桁) を指定してください。
プログラマーの応答: なし。

IESI0073D ENTER ADDRESS OF A 3270 TERMINAL (2 TO 33) OR "END"

説明: このメッセージは、ローカル・コントロール・ユニットが SNA 制御のときに出力されます。この情報は、プログラムが、VTAM ノード定義 (VTMSNA.B) 中の LU ステートメントの LOCADDR パラメーターを作成するときに、必要です。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答:

1. アドレスを入力するか、または END キーを押してください。

このアドレスは 2 から 33 の任意の数字で、CICS スタートアップに使用される端末にユーザーが割り当てたアドレスです。VTAM 資料では、この数字は、PU にある LU の論理アドレスとして参照されることもあります。(連続する IESI0073D メッセージへの応答として) 複数のアドレスを定義するときは、必ず昇順に指定してください。

最後 (または 1 つ) のアドレスを定義した後に、メッセージが再度出されたときは、応答として END キーを押してください。

2. 実行キーを押してください。
プログラマーの応答: なし。

IESI0074A xx IS NO VALID PORT NUMBER. PLEASE TRY AGAIN

説明: メッセージ IESI0073D (xx) に対する応答が正しくありません。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: CICS スタートアップに使用する端末のポート番号を指定してください。最小値は 0 で、最大値は 31 です。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0075I YOU NEED TO DEFINE AT LEAST ONE
3270 PORT NUMBER**

説明: メッセージ IESI0073D に対する応答として、正しいポート番号が指定されていません。少なくとも 1 つの番号を指定しなければなりません。

システムの処置: このメッセージのあとには、再度ポート番号を要請するメッセージ IESI0073D が出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0076A PORT NUMBER *xx* OUT OF SEQUENCE.
PLEASE TRY AGAIN**

説明: メッセージ IESI0073D によって求められ、応答したポート番号が昇順で与えられませんでした。

システムの処置: このメッセージのあとには、再度ポート番号を要請するメッセージ IESI0073D が出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0078D SELECT AN ENVIRONMENT OUT OF A
(SMALL), B (MEDIUM), OR C (LARGE).**

説明: 要件に近いシステム・サイズ (VSIZE) および区画レイアウトを選択できるように、z/VSE は 3 つの異なる事前定義環境を提供します。選択された環境は、次の IPL 後にアクティブになります。詳細については、「IBM z/VSE 計画」を参照してください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 選択した環境に対応する文字を入力してください。デフォルトはないため、必ず文字を入力する必要があります。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0079D DO YOU WANT TO RUN WITH
SECURITY ON? YES/NO**

説明: 初期インストール時には、z/VSE アクセス制御で提供されるセキュリティを用いてシステムを実行できるようにするオプションがあります。セキュリティを選ぶと、初期インストールを完了しシステムを再度 IPL した後に、活動状態になります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: セキュリティを使用可能にするときは 'YES' を、使用可能にしないときは 'NO' を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0080I LOCK HAS BEEN RESET FOR *member.type*
IN LIBRARY *lib.sublib***

説明: ライブラリー *lib.sublib* 内の VSE ライブラリー・メンバー *member.type* がロックされていました。VSE ライブラリー・アクセス・プログラム DTRILIB による更新要求がこのロックをリセットしました。

システムの処置: 処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESI0081I INVALID DASD TYPE FOR SYSRES

説明: (GETVCE マクロで指定された) SYSRES の装置タイプは、SYSRES としてサポートされている DASD タイプではありません。

システムの処置: プログラムを取り消します。

オペレーターの応答: SYSRES DASD の装置タイプを調べてください。DASD タイプは次のいずれかでなければなりません。3390、FBA (VM)、FBA (SCSI)

プログラマーの応答: なし。

IESI0082I INVALID OR MISSING PARAMETER

説明: EXEC ステートメントの PARM オプションに、正しくないパラメーター値が入っているか、またはパラメーター値がありません。

システムの処置: プログラムは、4 より大きな戻りコードで終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 修正した上で、EXEC ステートメントの受け渡しをし直してください。

IESI0083I TAPE FORMAT IS *xxxxxxx*

説明: プログラム DTRITAP がオプション・プログラム・テープの形式を調べます。上記メッセージがその結果として、*xxxxxxx* は、'V2-STACKED' または 'NOT V2-STACKED' を知らせます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0084I FUNCTION DTRIL_{*xxx*} OF DTRILIB
TERMINATED WITH RETURN CODE *yy***

説明: フェーズ 'DTRILIB' (モジュール名 'DTRILIB1') を呼び出し中に、リカバリー不能なエラーが起きました。呼び出し側プログラム (例えば 'DTRIPRE') が、この終了メッセージを出しました。戻りコード *yy* と同様に DTRIL *xx* 機能も DTRILCOM マクロで宣言されています。エラーについての詳細は、LIST 出力に書き込まれている可能性のある、ライブラリアン・メッセージで、参照することができます。

システムの処置: プログラムは、戻りコード > 4 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 機能コードと戻りコードを見て、説明が、問題解決に役立つかどうかを、調べてください。

以下の戻りコードが DTRILIB から書き込まれます。

00004 見つからない
00005 ライブラリーが存在しない
00006 サブライブラリーが存在しない
00007 ライブラリーがアクセス不能
00008 メンバーの終わり
00009 メンバーが存在
0000A PARMLIST にエラーがある

0000C ライブラリーがいっぱいになっている
 00020 セキュリティー違反
 00024 重大エラー

上記の戻りコードの説明が、問題解決に役立たない場合には、既知問題データベースの探索を、弊社サポート・センターに依頼してください。

**IESI0085I LIBRARIAN MACRO xxxxxxxx
 TERMINATED WITH RETURN CODE yy**

説明: フェーズ 'DTRILIB' (モジュール名 'DTRILIB1') は、リカバリー不能なエラー状況になり、この終了メッセージを出しました。プログラムは、予期しない戻りコード (例えば、戻りコード 04 と 32 はセキュリティ違反を示します) を与えた LIBRARIAN レベル 2 マクロを使用します。エラーについては、リスト出力に書き出された LIBRARIAN メッセージを参照してください。
 システムの処置: 制御権を呼び出し側プログラムに戻します。オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: マクロと戻りコードで、上記の説明が問題解決に役立つかどうかを、調べてください。役立たない場合には、既知問題データベースの探索を弊社サポート・センターに依頼してください。

IESI0086I INTERNAL LOGIC ERROR IN xxxxxxxx

説明: プログラムからライブラリアンと呼び出し中に、関連するパラメーター・リスト (INLCPARB) は、異なる出口ルーチンを定義します。ライブラリアン・プログラムが予期しない出口を使用すると (関連入力域がすでに /* があるのに SYSIPT 出口を特別に使用している)、このメッセージがフェーズ 'DTRIPRE' または 'DTRITAP' によって出されます。
 システムの処置: このメッセージのあとには、ライブラリアン・エラー・メッセージ (SYSLST 出口を経て、DTRIPRE に与えられたもの) が続きます。プログラムは、戻りコード > 4 で終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 既知問題データベースの探索を、弊社サポート・センターに依頼してください。

**IESI0087I xxxxxxxx TERMINATED DUE TO
 LIBRARIAN RETURN CODE xx**

説明: DTRIPRE と DTRITAP はそれぞれライブラリアンを内部的に使用して、オプション・プログラム・テープに対して、スキャン機能を実行します。この機能の使用は正しくありませんでした (0 以外の戻りコード)。
 システムの処置: このメッセージのあとには、ライブラリアン戻りコードが、入っているライブラリアン・エラー・メッセージ (SYSLST 出口を経て、DTRIPRE に与えられたもの) が続きます。プログラム DTRIPRE/DTRITAP は、4 より大きな戻りコードで終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: ライブラリアン戻りコードの説明が問題解決に役立っているかどうかを調べてください。役立たない場合には、既知問題データベースの探索を弊社サポート・センターに依頼してください。

**IESI0088I INSUFFICIENT LIBRARY SPACE TO
 INSTALL ALL PROGRAMS ON TAPE**

説明: オプション・プログラム・テープのスキャン機能で、デフォルトのターゲット・ライブラリーが小さ過ぎて、テープ上のプログラム・プロダクトを全部はインストールできないということが、わかりました。
 システムの処置: このメッセージの後には、メッセージ IESI0094I が続きます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0089I UNSUPPORTED BACKUP TAPE FORMAT

説明: オプション・プログラム・テープがスキャンされました。テープ上の、少なくとも 1 つのプログラム・プロダクトが、正しい BACKUP ID を持っていません。プログラムがライブラリアン形式でないことが、考えられます。
 システムの処置: このメッセージの後には、メッセージ IESI0094I が続きます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0090A ARE THERE ANY MORE OPTIONAL
 PROGRAM TAPES? YES/NO**

説明: 任意のオプション・プログラム・テープの処理が完了したあとで、システムは、処理するテープがまだあるかどうかを、知る必要があります。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 処理したいオプション・プログラム・テープが、まだあるかどうかを調べて、正しい応答の 1 つを入れてください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0091A PLEASE MOUNT THE TAPE LABELED
 "VSE OPTIONAL TAPE NUMBER @1"**

説明: テープの取り付けが要求されました。
 システムの処置: このメッセージのあとにメッセージ IESI0092A が続きます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0092A MOUNT ON TAPE DRIVE xxx. WHEN
 READY, REPLY "END/ENTER"**

説明: このメッセージは、要請されたテープの取り付けについての詳細を、示しています。
 システムの処置: このメッセージは、メッセージ IESI0091A の後で出されます。システムは、オペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: テープ装置 xxx にテープを取り付けてください。xxx はテープ装置の cuu アドレスです。テープ上の外部ラベルが、メッセージ IESI0091A に示されているラベルと一致しているかを、確かめてください。用意ができたら、ENTER を押して続行してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0093I MEMBER DTRLxxxx.Z NOT FOUND IN
SUBLIBRARY IJSYSRS.SYSLIB**

説明: フェーズ 'DTRIPRE' (モジュール名 'DTRIPRE1') は、インストール・ジョブ・ストリームを生成するために、情報を必要としています。この情報は、メンバー名 'DTRLxxxx' およびメンバー・タイプ 'Z' をもつ異なったメンバーに入っています。メンバーの少なくとも 1 つを見つけることができません。

システムの処置: プログラムは、戻りコード > 4 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの探索を、弊社サポート・センターに依頼してください。

**IESI0095I YOU WILL BE ASKED FOR TAPE
MOUNT IF CURRENT TAPE IS
INSTALLED**

説明: このメッセージは、追加テープの取り付けをあとで行うように、知らせるものです。

システムの処置: このメッセージは、メッセージ IESI0090A の後で出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0096I MORE THAN 200 PRODUCTS SCANNED.
PROGRAM TERMINATED.**

説明: 複数のオプション・プロダクト・テープをスキャンしたところ、全部で 200 を超えるオプション・プロダクトが検出されました。プログラムは、200 までのオプション・プロダクトのスキャンしかサポートしません。エラーの原因としては、同じテープが取り付けられ、2 度スキャンされたことが考えられます。

システムの処置: テープのスキャンを終了します。

オペレーターの応答: オプションのプロダクト・テープを調べて、再実行してください。

**IESI0097A GETVCE MACRO FAILURE. RETURN
CODE = rc. PROGRAM TERMINATED.**

説明: GETVCE マクロ命令の使用は、失敗しました (戻りコードは表示の通り)。

システムの処置: そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: GETVCE 戻りコードを調べてください。

**IESI0098D DO YOU WANT TO SPECIFY VTAM
TERMINALS? YES|NO**

説明: 初期インストールの間に構成する TCP/IP を選択しました。さらに、初期インストールまたは基本開始を対象に、3 つまでの VTAM ベース端末を定義することができます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- 3 つまでの VTAM ベース端末を定義する場合、YES を入力します。これで、VTAM の構成ダイアログが開始されます。

- TCP/IP 端末のみ指定する場合は、NO を入力してください。VTAM 端末の構成ダイアログはスキップされます。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0099I ERROR DURING MESSAGE HANDLING.
ISSUED MESSAGE WAS xxxxxxxx**

説明: z/VSE プログラムがメッセージ xxxxxxxx を出しましたが、メッセージ処理ルーチンでこのメッセージを表示または印刷することができません。

システムの処置: そのプログラムは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 既知問題データベースの探索を、弊社サポート・センターに依頼してください。

**IESI0100A GETVCE MACRO FAILURE. RETURN
CODE = xx. IPL TERMINATED**

説明: GETVCE マクロ命令の使用は、失敗しました (戻りコードは表示の通り)。

システムの処置: IPL を終了します (ハードウェア・ウェイト状態)。

オペレーターの応答: DOSRES DASD が取り付けられ、作動可能かどうかを調べてください。

プログラマーの応答: GETVCE 戻りコードを調べてください。「VSE/Advanced Functions Codes and SVC Errors」の「VSE/Advanced Functions Return Codes」を参照してください。

**IESI0101I INSUFFICIENT SYSTEM
CONFIGURATION FOR INITIAL
INSTALLATION**

説明: IPL 時、フェーズ DTRICONF は、少なくとも以下のハードウェア装置が PUB テーブルに記述されているかどうかを検査します。これらの装置は、z/VSE の初期インストールに必要です。CPU およびシステム・コンソールのほか、最小の機械構成は次の通りです。

- 所定の数の DASD 装置 (SYSRES と同じタイプ)
- 1 つのテープ駆動機構
- 1 つの印刷装置
- 1 つの CICS 端末

システムの処置: このメッセージの次にメッセージ IESI0102A を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0102A SPECIFY IPL ADD COMMAND FOR
xxxxxxxx**

説明: 前のメッセージ IESI0101I ですすでに、z/VSE 初期インストールの最小構成が使用可能でないことが示されました。このメッセージは、どの装置が欠落しているかを示し、ここで xxxxxxxx は以下のいずれかを意味します。

- テープ装置

- CICS 端末/ローカル SNA コントロール・ユニット
- 印刷装置
- yy DASD DEVICE(S) - TYPE AS SYSRES (yy は、欠落している DASD 装置の番号を示します)

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 欠落している装置について、IPL ADD コマンドを指定してください。ADD コマンドについては、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0103A SYSRES TYPE NOT SUPPORTED BY
 z/VSE. IPL TERMINATED**

説明: z/VSE ではサポートされない DASD タイプに IPL が実行されました。
 システムの処置: IPL を終了します (ハードウェア・ウェイト状態)。
 オペレーターの応答: IPL アドレスを調べて、これが有効な SYSRES DASD の装置タイプを表していることを確かめてください。DASD タイプは次のいずれかでなければなりません。3390、FBA (VM)、FBA (SCSI)
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0104D IF YOU WANT TO USE A 3420 TAPE
 DRIVE FOR INSTALLATION, SPECIFY
 IPL ADD COMMAND. ELSE HIT ENTER
 TO CONTINUE**

説明: 3420 テープ駆動機構では感知できません (SENSE-ID コマンドをサポートしていないということです)。これが、IPL で PUB テーブルに対応項目を自動作成できない理由です。インストールに 3420 テープ駆動機構を使用したい場合は、関連する ADD コマンドを指定してください。ADD コマンドについては、「z/VSE System Control Statements」を参照してください。インストールに 3420 テープ駆動機構を使用しない場合、またはすでにテープ駆動機構を追加した場合は、ENTER キーを押してください。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 適応できるならば、IPL ADD コマンドを指定してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0120I VOLID xxxxxx FOUND ON FOLLOWING
 ADDRESSES (cuu):**

説明: z/VSE インストールに使用する DASD の VOLID は固有でなければなりません。それ以外は予測できない結果を生じます。これは、VOLID の「DOSRES」および「SYSWKx」が、システムに感知されるハードウェア機械構成に一度だけ現れることを意味します。重要な VOLID が複数回見つかった場合には、フェーズ DTRIVLD が上記の情報を与えます。
 システムの処置: このメッセージの次に、VOLID xxxxxx が見つかった DASD アドレスのリストを出します。リストの次には、メッセージ IESI0121D または IESI0123I を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0121D ENTER ADDRESS OF DASD TO BE
 USED AS SYSWKx: cuu**

説明: このメッセージは、メッセージ IESI0120I の後に出ます。2 回以上、VOLID SYSWK x が検出されました。システムは、z/VSE のインストール時にどの DASD を SYSWKx として使用すべきかを知っていなければなりません。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: メッセージ IESI0120I の後に出されるリストの DASD アドレスの 1 つを指定してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0122A PLEASE TRY AGAIN. SELECT ONE OF
 THE ADDRESSES ABOVE.**

説明: メッセージ IESI0121D に対するオペレーターの応答が無効でした。
 システムの処置: 正しい応答については、メッセージ IESI0120I で DASD アドレスのリストを参照してください。システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 先行リストの DASD のアドレスの 1 つを指定してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0123I DASD WITH ADDRESS xxx WILL BE
 USED AS xxxxxx**

説明: このメッセージは、メッセージ IESI0120I の後に出ます。VOLID DOSRES または VOLID SYSWK1 が 2 回以上検出されました。
 システムの処置: VOLID DOSRES の場合、システムは IPL に選択された DOSRES を使用します。VOLID SYSWK1 の場合、システムは自動インストールに指定された SYSWK1 を使用します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0124I FOLLOWING DEVICE(S) WILL BE SET IN
 DEVICE DOWN STATUS:**

説明: このメッセージは、メッセージ IESI0120I、IESI0121D、および IESI0123I の後に表示されます。
 システムの処置: 有効な VOLID を持つ DASD が IPL および JCL で不要に使用されることがないように、そのような装置は「DEVICE DOWN」状態で設定されます (「DVCDN」コマンドおよび「DVCUP」コマンドの説明を参照してください)。このメッセージの次に DASD の実アドレスのリストを出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0125I IPL NOT FROM DOSRES. IPL
 TERMINATED**

説明: 初期インストール時の IPL は、DOSRES というボリューム ID をもっている DASD からは行われませんでした。
 システムの処置: IPL を終了します。
 オペレーターの応答: 正しいボリュームから IPL を再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0126I NO DASD WITH VOLID xxxxxx FOUND.
IPL WILL BE TERMINATED.**

説明: z/VSE は、システム・パックに関して特定のボリューム ID を必要とします。ID xxxxxx を持つボリュームが感知されていないか、またはボリュームが削除されています。

システムの処置: IPL を終了します。

オペレーターの応答: 必要なボリューム ID でシステム・パックを初期設定するか、またはシステム・パックを削除しないでください。

プログラマーの応答: なし。

IESI0132I record MISSING OR INVALID IN member

説明: アプリケーション・プログラムが、ライブラリー・メンバーに特定のレコードを必要とします。このレコードは、欠落しているか、明らかに間違っており、プログラムが続行できません。

システムの処置: このメッセージが、コンソール上にかかれ、それぞれのアプリケーション・プログラムは、予期できない終了をします。戻りコードに、POWER ジョブを終了した内容を設定し、POWER ジョブ・マネージャーは、異常終了ジョブ CUSABEND を解放します。

オペレーターの応答: 「VSE/ESA Unattended Node Support」の付録 B の『Error Handling』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0133I PROCESSING OF member ENDED WITH
LIBRARIAN RETURN CODE rc.**

説明: アプリケーション・プログラムが、LIBRARIAN に特殊なインターフェースのヘルプを備えた、AF ライブラリーの特定のメンバーを、処理しました。OPEN、WRITE、または CLOSE アクセスの結果、LIBRARIAN インターフェースから 0 より大きな戻りコードが戻されました。プログラムは、それぞれのメンバーを正しくまたは完全に処理することはできません。

システムの処置: インターフェースの戻りコード込みのメッセージは、コンソール上に書き出され、個々のアプリケーション・プログラムは、予期できない終了をします。戻りコードに、POWER ジョブを終了した内容を設定し、POWER ジョブ・マネージャーは、異常終了ジョブ CUSABEND を解放します。

オペレーターの応答: 「VSE/ESA Unattended Node Support」の付録 B の『Error Handling』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IESI0141I STATEMENT NOT RECOGNIZED.

説明: テープから DASD へ PTF をコピーするユーティリティーは、ステートメントを認識できませんでした。

システムの処置: ステートメントをスキップします。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESI0142I INVALID PTF NUMBER SPECIFICATION.

説明: PTF 番号の指定に構文的なエラーがあります。

システムの処置: ステートメントをスキップします。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0143I "COPY ALL" SPECIFIED, EXPLICITLY
SPECIFIED PTF nnn IGNORED.**

説明: "COPY ALL" ステートメントに加えて、特定の PTF 番号の明示的なコピー・ステートメントが指定されています。

システムの処置: ステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0144I PTF nnn NOT FOUND ON SERVICE
TAPE.**

説明: 指定された PTF 番号が、保守テープにありませんでした。

システムの処置: ステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESI0145I DUPLICATE PTF SPECIFICATION nnn.

説明: リストされた PTF 番号が、すでに前のコピー・ステートメントのうちの 1 つに指定されていました。

システムの処置: ステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0146I MAXIMUM NUMBER OF EXPLICITLY
SPECIFIED PTFS TO BE COPIED
REACHED.**

説明: ユーティリティーによって操作できる、明示的に指定された PTF の最大数に達しました。この PTF とそれ以降のすべての PTF は、無視されます。

システムの処置: ステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0147I NO OR NO VALID "COPY" STATEMENT
FOUND DURING READING SYSIPT.**

説明: テープから DASD へ PTF をコピーするユーティリティーが、SYSIPT から読み取りを行っている時に、有効なコピー・ステートメントを見つめませんでした。

システムの処置: ユーティリティーは、PTF をコピーしないでこのセッションを、終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESI0148I PARAMETER LIST NOT SUPPORTED

説明: コピー・ユーティリティを呼び出す EXEC ステートメントには、パラメーター・リストがあります。これは、ユーティリティでサポートされません。

システムの処置: パラメーター・リストを無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0149I MOUNT NEXT SERVICE TAPE. WHEN
READY, REPLY "END/ENTER"**

説明: ユーザーが、メッセージ IESI0150 に対して YES を応答しました。指定された PTF を見つけるのにスキャンするサービス・テープがたくさんあることを意味します。今は、次のテープの取り付けをユーザーに要求します。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: 新規のテープを取り付けたあとで END/ENTER を応答して、処理を続行してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0150I ARE THERE ANY MORE SERVICE
TAPES? YES/NO**

説明: 現在までに、スキャンされたサービス・テープ上に、指定された PTF が全くありません。そのため、ユーザーに追加テープを要求します。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: 追加テープをスキャンする必要がある場合は、YES を応答し、それ以外の場合は NO を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0191I SYS004 NOT ASSIGNED TO A DASD
DEVICE**

説明: 論理装置 SYS004 が CKD または FBA DASD 装置に割り当てられていないか、ディスクが操作不能ではありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: ディスクが作動可能であることを確認し、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: 必要ならば、ASSGN ステートメントを追加し、ディスクの割り当てを行ってください。

IESI0192I DATASET NOT IN VTOC: data set id

説明: 指定したデータ・セット ID が VTOC 形式 1 ラベルと一致しません。

システムの処置: SYSIPT から読み込まれたジョブを、取り消します。それ以外は、制御をオペレーターに戻します。

オペレーターの応答: SYSLOG からの入力の場合は、字のつづり、または他のエラーを、調べて訂正し、ジョブを再サブミットしてください。それ以外はジョブを終わらせ、LVTOC を実行してください。

プログラマーの応答: データ・セット ID と VTOC の印刷出力とを比較し、必要な訂正を行ってください。

IESI0193I NO MORE EXTENT AREA AVAILABLE

説明: システムが DASDFP = YES を指定して、プログラムが SVC 104 を出し EXTENT スーパーバイザー領域を割り振りましたが、どれも使用可能ではありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: ジョブを再サブミットしてください。

問題が発生する場合には、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0194I NO SPACE AVAILABLE IN PARTITION
GETVIS AREA**

説明: 区画の GETVIS 域に、使用できるスペースがありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: SIZE コマンドで、区画 GETVIS 領域に少なくとも 48K バイトを割り振ってから、コマンドの受け渡しをし直してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0195I filename NOT FOUND IN CYLINDER
LABEL**

説明: DLBL ジョブ制御ステートメントは、このファイルにはありません。

システムの処置: SYSIPT からの入力の場合には、ジョブを取り消します。それ以外は制御をオペレーターに戻します。

オペレーターの応答: SYSLOG 入力にエラーがある場合は、SYSLOG 入力を再入力してください。それ以外は、ジョブに DLBL ステートメントを入力し、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: SYSIPT または SYSLOG に登録されたファイル名と、DLBL ステートメントのファイル名とを比較し、必要ならば訂正してください。

IESI0196I ENTER INPUT OR /* TO TERMINATE

説明: オペレーターが EXEC ジョブ・ステートメントを入力したので、ファイル記述は SYSLOG からのものでなければなりません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: ファイル名、ファイル ID または "/*" のいずれかを、入力し、このステップを完了させてください。

プログラマーの応答: なし。

IESI0197I INVALID PARAMETER LIST

説明: このプログラムは EXEC ステートメントの PARM オプションを使用して呼び出されました。有効パラメーターは、次の通りです。

1. NOMSG は、エラー・メッセージを抑制します (オプション)

2. DATE=END または DATE=MAX

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: ファイル名、ファイル ID または "/*" のいずれかを、入力し、このステップを完了させてください。

プログラマーの応答: なし。

IESI0201I PARAMETER *n* IS MISSING.

説明: 必須である N 番目のパラメーターが EXEC ステートメントの PARM オペランドに指定されていません。
 システムの処置: プログラムは、戻りコード > 4 で終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: EXEC ステートメントを訂正してください。

**IESI0202I PARAMETER *n* INTERPRETED AS
"xxxxxxx" IS NOT A VALID MEMBER
NAME.**

説明: N 番目のパラメーターが EXEC ステートメントの PARM オペランドに正しく指定されていません。プログラムは、ライブラリアン・コマンド構文に従ったメンバー名を予期しています。
 システムの処置: プログラムは、戻りコード > 4 で終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: EXEC ステートメントを訂正してください。

**IESI0203I PARAMETER *n* INTERPRETED AS
"xxxxxxx" IS NOT A GENERIC
PROCEDURE NAME.**

説明: N 番目のパラメーターが EXEC ステートメントの PARM オペランドに正しく指定されていません。プログラムは、\$\$ で始まる ASI JCL プロシージャのセットの名前を、期待しています。
 システムの処置: プログラムは終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: EXEC ステートメントを訂正してください。

**IESI0204I PARAMETER *n* INTERPRETED AS
"xxxxxxx" IS NOT A VALID KEYWORD.**

説明: N 番目のパラメーターが EXEC ステートメントの PARM オペランドに正しく指定されていません。メッセージ IESI0205 が続きます。正しいキーワードを示しています。
 システムの処置: プログラムは続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0205I EXPECTED: "xxxxxxx". PARAMETER
IGNORED.**

説明: このメッセージはいつも、IESI0204 の後に出来ます。
 システムの処置: プログラムは続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: EXEC ステートメントを訂正してください。

**IESI0206I PARAMETER STRING INTERPRETED AS
"xxxxxxx" IGNORED.**

説明: EXEC ステートメントの PARM オペランドに、パラメーターとして認識できない情報があります。
 システムの処置: プログラムは続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: EXEC ステートメントを訂正してください。

**IESI0207I NO SETPARM STATEMENT FOUND FOR
"xxxxxxx" IN MEMBER *yyyyyyyy*.PROC.**

説明: スタートアップ処理で使用されるプログラム DTRISTRRT が、入力に SETPARM プロシージャを必要とします。その名前は、EXEC ステートメントのパラメーター 1 として、指定されます。プロシージャは、IJSYSRS.SYSLIB になければなりません。プロシージャには、監視プログラムで生成された、各区画ごとのステートメント SETPARM XUSE *yy* (*yy* は区画 ID) が必要です。
 システムの処置: プログラムは続行します。メッセージ IESI0213 が続きます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: プロシージャに SETPARM ステートメントを挿入してください。

**IESI0208I SETPARM STATEMENT FOR "xxxxxxx" IN
MEMBER *yyyyyyyy*.PROC DOES NOT
CONTAIN 2 CHARACTERS
ALPHANUMERIC VALUE OR "NONE".**

説明: 上記メッセージ IESI0207 の説明を参照してください。SETPARM ステートメントにはこの区画の使用を示している 2 桁の英数字かまたは、この区画はスタートアップ時に開始していないことを示す NONE が必要です。
 システムの処置: プログラムは続行します。メッセージ IESI0213 が続きます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: プロシージャの SETPARM ステートメントを訂正してください。

**IESI0209I RESTARTING *xx* NOT POSSIBLE SINCE
yyyyyy START MODE REQUESTED.
PLEASE, SHUT DOWN SYSTEM AND
RE-IPL.**

説明: プログラム DTRISTRRT が、単一区画の再スタートアップに使用されたとき、システム・スタートアップはすでに要求されていたので、スタートアップ要求を拒否しました。
 システムの処置: プログラムは終了します。
 オペレーターの応答: メッセージのとおりになしてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0210I STARTUP PROCESSING TERMINATED.

説明: プログラム DTRISTRRT が終了します。
 システムの処置: プログラムは終了します。
 オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 理由を説明している前に出ているメッセージを読んでください。

IESI0211I ALL PARTITIONS WILL BE INITIALIZED IN xxxxxxxx START MODE. IF YOU WANT TO INTERRUPT THEN ENTER MSG yy.

説明: これは、スタートアップ・オプションについての通知メッセージです。例えば、コールド・スタート・モードが出されます。このメッセージが表示されてから 10 秒以内に MSG yy を入力すれば、スタートアップ・オプションを変更することができます。この時間間隔は、yy 用のスタートアップ・プロシージャー内の JCL ステートメント EXEC DTRISTR/PTARM='..' を変更することによって 0 から 999 秒までの間に変更することができます。システム IPL 時にスタートアップを変更するために LOADPARM ...P を指定した場合は、MSG BG を入力してはなりません。LOADPARM を指定した場合、システムは、オペレーターがスタートアップ・モードを指定するまで停止しています。
 システムの処置: スタートアップ処理が続きます。
 オペレーターの応答: LOADPARM ...P パラメーターを指定しなかったときにスタートアップを変更したい場合は、時間内に MSG yy を入力してください
 プログラマーの応答: なし。

IESI0212I PARTITION xx RESTARTING IN yyyyyyy START MODE.

説明: このメッセージがコンソールに表示されたあと、オペレーターは、10 秒以内に指定すれば、再始動処理を中断することができます。この時間間隔は、システム・インストール先が (JCL ステートメント EXEC DTRISTR/PTARM='..' を変更することによって) 0 から 999 秒までの間に変更することができます。
 システムの処置: 再始動処理が続行します。
 オペレーターの応答: スタートアップに割り込みたい場合は、時間内に MSG yy を入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0213A SELECT STARTUP MODE FOR yyyyyyy : xxxxx xxxxx.

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 指定されたオプションの 1 つを入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0214I SELECT STARTUP MODE FOR yyyyyyy : xxxxx xxxxx.

説明: このメッセージは、メッセージ IESI0215 の後で出されます。
 システムの処置: プログラムは続行します。
 オペレーターの応答: 指定されたオプションの 1 つを入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0215A OR, IF NO CHANGE, ENTER: xxx.

説明: このメッセージは、メッセージ IESI0214 の後で出されます。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: メッセージ IESI0214 またはこのメッセージで指定されたオプションの 1 つを入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0216I LOG DTRISTR USING MEMBER xxxxxxxx.PROC IN IJSYSRS.SYSLIB.

説明: スタートアップ処理に使用されるプログラム DTRISTR が主だったイベントのログを書き込みます。ロギングは EXEC ステートメントのパラメーター 5 のキーワード "TEST1" で指示されます。このメッセージは、処理されている SETPARM プロシージャーの名前を示します。
 システムの処置: プログラムは続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0217I LOG DTRISTR INPUT FROM xxxxxxxx : xxxxxxxx.

説明: スタートアップ処理に使用されるプログラム DTRISTR が主だったイベントのログを書き込みます。ロギングは EXEC ステートメントのパラメーター 5 のキーワード "TEST1" で指示されます。このメッセージは、スタートアップ・モード (メンバーまたはオペレーター) の決定に対して入力源を示します。また入力項目も示します。
 システムの処置: プログラムは続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0218I LOG DTRISTR PROCESSING xx DECIDES ON xxxxxx START MODE.

説明: スタートアップ処理に使用されるプログラム DTRISTR が主だったイベントのログを書き込みます。ロギングは EXEC ステートメントのパラメーター 5 のキーワード "TEST1" で指示されます。このメッセージは、区画ごとに結果のスタートアップ・モードを示します。
 システムの処置: プログラムは続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESI0219I LOG DTRISTR OUTPUT INTO xxxxxxxx : xxxxxxxx.

説明: スタートアップ処理に使用されるプログラム DTRISTR が主だったイベントのログを書き込みます。ロギングは EXEC ステートメントのパラメーター 5 のキーワード "TEST1" で指示されます。このメッセージは、出力が置かれるところ (メンバー) と出力項目を示します。
 システムの処置: プログラムは続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0220I PARAMETER *n* INTERPRETED AS
"xxxxxxxxxxxx" IS NOT A VALID CPUID.**

説明: N 番目のパラメーターが EXEC ステートメントの PARM オペランドに正しく指定されていません。プログラムは、12 桁の 16 進数字で表された CPU-ID を期待しています。CPU-ID の形式は、STIDP (CPU ID の記憶) アセンブラー命令の実行の結果のフィールドの最初の 6 バイトに相当しています。

システムの処置: プログラムは終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントを訂正してください。

**IESI0221I PARTITIONS WILL BE INITIALIZED IN
xxxxxxx START MODE. IF YOU WANT
TO INTERRUPT THEN ENTER MSG *xx*.**

説明:

システムの処置: プログラムは続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0222I REMAINING PARTITIONS WILL BE
INITIALIZED IN xxxxxxx START MODE.
IF YOU WANT TO INTERRUPT THEN
ENTER MSG *xx*.**

説明: これは、スタートアップ・オプションについての通知メッセージです。例えば、コールド・スタート・モードが出されます。このメッセージが表示されてから 10 秒以内に MSG *yy* を入力すれば、スタートアップ・オプションを変更することができます。この時間間隔は、*yy* 用のスタートアップ・プロシージャー内の JCL ステートメント EXEC DTRISTR/ Parm='..' を変更することによって 0 から 999 秒までの間に変更することができます。システム IPL 時にスタートアップを変更するために LOADPARM ...P を指定した場合は、MSG BG を入力してはなりません。LOADPARM を指定した場合、システムは、オペレーターがスタートアップ・モードを指定するまで停止しています。

システムの処置: スタートアップ処理が続きます。

オペレーターの応答: LOADPARM ...P パラメーターを指定しなかったときにスタートアップを変更したい場合は、時間内に MSG *yy* を入力してください

プログラマーの応答: なし。

**IESI0230I MEMBER xxxxxxxx DOES NOT EXIST IN
LIBRARY xxxxxx.yyyyyyyyyy. PROCESSING
CONTINUES, IN CASE OF NO ERRORS
OCCUR THE MEMBER WILL BE
CREATED.**

説明: 指定されたメンバーが指定されたライブラリー/サブライブラリーに存在しません。後処理中に重大エラーが起きなければ、メンバーが生成されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0231I SYNTAX ERROR IN STATEMENT
"xx...xx". STATEMENT WILL BE
IGNORED.**

説明: エラー・メッセージに示された SETPARM ステートメントに構文エラーがあります。プログラムは SETPARM ステートメントを無視します。メッセージ IESI0232 が続きます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SETPARM プロシージャーの SETPARM ステートメントを訂正して、処理中にこのメッセージが出るのを避けてください。

**IESI0232I AN ERROR OCCURRED DURING
PROCESSING, A NEW MEMBER @1 WILL
BE CREATED FOR OUTPUT. AN
EXISTING INPUT MEMBER REMAINS
UNCHANGED.**

説明: このメッセージは、メッセージ IESI0231、IESI0233、IESI0235、IESI0240 の後に続きます。出力に対しては、新しいメンバーが生成されて元のメンバーの内容を保管します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESI0233I SYNTAX ERROR IN OPERATION "xx...xx".
OPERATION WILL BE IGNORED.**

説明: このメッセージに示された操作に、構文エラーがあります。プログラムは操作を無視します。メッセージ IESI0232 が続きます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このメッセージが出ないように、プログラムの呼び出し (パラメーターまたは SYSIPT の入力) の操作を訂正してください。

**IESI0234I SYNTAX ERROR IN
<library | sublibrary | member>NAME
"xxxxxxxx". PROGRAM TERMINATED.**

説明: エラー・メッセージに示されたライブラリー、サブライブラリーまたはメンバー名に構文エラーがあります。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ライブラリー、サブライブラリーまたはメンバー名を訂正してください。

**IESI0235I MAXIMUM NUMBER OF SETPARM
STATEMENTS EXCEEDED. xxxxxxxx WILL
BE IGNORED.**

説明: プログラムで扱われる SETPARM プロシージャーの SETPARM ステートメントの最大数は 150 です。入力メンバーに 150 を超える SETPARM ステートメントがあるか、または SETPARM ステートメント (SET 操作) を増やす操作、しかも SETPARM ステートメントを 150 より多く増やす操作が呼び出されました。プログラムは個々のステートメントの操作

を無視します。メッセージ IESI0232 が続きます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: このメッセージが出ないように、
 SETPARM ステートメントを 150 より少なくしてください。

**IESI0236I LIBRARY xxxxxxxx.yyyyyyyyyy FULL.
 PROGRAM TERMINATED.**

説明: ライブラリーまたはサブライブラリーがいっぱいです。
 システムの処置: 処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 以下のいずれかです。

- ライブラリーのスペースを増加する。
- 「ミニ」スタートアップでシステムを IPL し (BG + POWER)、PauseBG ジョブを解放してシステム・コンソールから LIBR「スペース解放」コマンドを入れる。
- 別の SHARING システムがすでに稼働中ならば、そのシステムで LIBR「スペース解放」ジョブを実行させ、そのあとですべての SHARED システムを再 IPL する。

**IESI0237I INTERNAL ERROR : INVALID
 PARAMETERLIST FOR MODULE
 DTRMAPBL. PROGRAM TERMINATES.**

説明: 修正できない内部エラーが発生しました。
 システムの処置: 処理は終了します。 戻りコードは 16 です。 戻りコードの説明については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0238I INTERNAL ERROR : BUILDING BLOCK
 xxxxxxxx NOT CORRECTLY LOADED.
 PROGRAM TERMINATES.**

説明: 修正できない内部エラーが発生しました。
 システムの処置: 処理は終了します。 戻りコードは 16 です。 戻りコードの説明については、「IBM z/VSE 管理」を参照してください。
 オペレーターの応答: GETVIS スペースを使い果たしたか、またはフェーズが見つからないなどの、エラーが起きていないかを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0239I MAXIMUM WAIT-TIME ELAPSED WHILE
 CONDITION "xx...xxx = yy...yy" WAS
 FALSE.**

説明: このメッセージは待ち操作に対してだけ起こります。メッセージで与えられた条件が待ち操作で与えられた全待ち時間でテストされ、事実でなかったという情報を提供します。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESI0240I MIXING OF SET/ DELETE OPERATION
 WITH WAIT OPERATION NOT
 ALLOWED. OPERATION "xx...xx" WILL
 BE IGNORED.**

説明: 1 回のプログラム呼び出し中に、待ち操作を伴う SET および DELETE 操作を混合することは許可されません。プログラムは操作を無視します。メッセージ IESI0232 が続きます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: プログラムの呼び出し (パラメーターまたは SYSIPT) 内の操作を削除して、このメッセージが出ないようにしてください。

**IESI0241I LIBRARY / SUBLIBRARY xxxxxxxx DOES
 NOT EXIST. PROGRAM TERMINATES.**

説明: 指定されたライブラリー/サブライブラリーが存在していません。
 システムの処置: 処理は終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: ライブラリー/サブライブラリーを作成してください。

**IESI0242I NO VALID SETPARM STATEMENT
 AVAILABLE. NO NEW MEMBER WILL BE
 CREATED RESPECTIVELY AN EXISTING
 MEMBER WILL BE DELETED.**

説明: すべての SETPARM ステートメントが、プログラムによって削除された場合、または無効な SETPARM ステートメントだけが残っている場合は、メンバーは作成されず、既存のメンバーは完全に削除され、ライブラリー/サブライブラリーの空のメンバーをもつのを避けます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**IESL0004I UNEXPECTED SUBSYSTEM MESSAGE:
 ICCF message**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージに先行される) に示されたプログラムが、変換できない ICCF から戻されたメッセージを受け取っています。
 システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。このエラーを検出した機能を取り消して、処理を続行します。
 オペレーターの応答: ICCF Messages and Codes を使用して、ICCF メッセージを探し出し、問題の判別を行ってください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESL0100I UNABLE TO CONTINUE. DUMP xxxx
 SAVED.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムが、内部エラーを検出しました。ユーザー状況レコード、または他のストレージ域が、重ね書きされたか、あるいはプログラムにエラーがあります。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題判別に役立つすべてのストレージ域を含んだ CICS トランザクション・ダンプをとります。エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: この問題が時々しか起こらず、オンライン・システムの再始動により、またはプログラムで「新しいコピー」機能を実行することによって解決される場合には、プログラムまたはプログラムのバッファが破壊されているものと考えられます。オンライン・システムの複数回の実行にわたって、ユーザー作成のアプリケーションが実行される前に、このエラーが頻繁に発生する場合は、システム管理者を通して IBM に援助を依頼してください。CICS ダンプ・データ・セットを印刷して、ダンプ ID xxxx を見つけてください。特に、文字ストリング 'SHARED AREAS-->' の後のストレージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESL0104I UNABLE TO TRANSFER CONTROL TO PROGRAM pppppppp.
EIBRCODE=X'rrrrrrrrrr'.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されているプログラムで、CICS XCTL コマンドを出しましたが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに pppppppp を見つけることができなかったか、または pppppppp が使用可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、EIBRCODE 値 rrrrrrrrrr を探して、問題判別を開始してください。インストールが正しく行われた場合には、pppppppp はシステムにあるはずですが、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。

プログラマーの応答: なし。

**IESL0105I UNABLE TO LINK PROGRAM pppppppp.
EIBRCODE=X'rrrrrrrrrr'.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されたもの) に示されているプログラムで、CICS LINK コマンドを出しましたが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに pppppppp を見つけることができなかったか、または pppppppp が使用可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、EIBRCODE 値 rrrrrrrrrr を探して、問題判別を開始してください。インストールが正しく行われた場合には、pppppppp はシステムにあるはずですが、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。

プログラマーの応答: なし。

IESL0107I UNABLE TO RELEASE THE EXIT PROGRAM IESLIBE.

EIBRCODE=X'xxxxxxxxxx'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されている) で識別されたプログラムから出された CICS RELEASE コマンドが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに IESLIBE を見つけることができなかったか、あるいは IESLIBE が使用可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、EIBRCODE 値 xxxxxxxxxxxx を探して、問題判別を開始してください。インストールが正しく完了した場合には、IESLIBE はユーザーのシステムに入っているはずですが、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。

プログラマーの応答: なし。

**IESL0108I UNABLE TO READ TS QUEUE qqqqqqqq.
EIBRCODE=X'rrrrrrrrrr'.**

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムで、キュー qqqqqqqq に CICS READQ TS コマンドを出しましたが、失敗しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。可能であれば、該当する一時ストレージ・キューを削除します。エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: rr に表示されている値に基づいて、続行してください。以下の値が示されます。

rr	意味	処置
01	ITEMERR	1
02	QIDERR	1
04	IOERR	2
20	INVREQ	1
D0	SYSIDERR	1
D1	ISCVREQ	1
E1	LENGERR	1

処置:

- (1) これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
- (2) これは、入出力で発生したものとして処理してください。DFHTEMP に関するエラーを示しているコンソール・メッセージ、または DFHTEMP が入っている入出力装置を調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESL0110I UNABLE TO LOAD THE EXIT PROGRAM IESLIBE. EIBRCODE=X'xxxxxxxxxx'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出されている) で識別されたプログラムから出された CICS RELEASE コマンドが、失敗しました。CICS が処理プログラム・テーブルに IESLIBE を見つけることができなかったか、あるいは

IESLIBE が使用可能ではありません。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で、EIBRCODE 値 xxxxxxxxxxxx を探して、問題判別を開始してください。インストールが正しく完了した場合には、IESLIBE はユーザーのシステムに入っているはずで、考えられる主な原因は、DFHPPT がインストール・システムで変更され、z/VSE が必要とするいくつかの項目が除去されたことです。
プログラマーの応答: なし。

IESL0112I UNABLE TO WRITE TO TS QUEUE

qqqqqqqq. EIBRCODE=X'rrxxxxxxxxx'.

説明: メッセージ IESV0089I (このメッセージの前に出された) で示されたプログラムで、失敗したキュー qqqqqqqq に CICS WRITEQ TS コマンドを出しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。可能であれば、該当する一時ストレージ・キューを削除します。エラーを検出した機能を取り消します。

オペレーターの応答: rr に表示されている値に基づいて、続行してください。以下の値が示されます。

rr	意味	処置
01	ITEMERR	1
02	QIDERR	1
04	IOERR	2
08	NOSPACE	3
20	INVREQ	1
D0	SYSIDERR	1
D1	ISCINVREQ	1

処置:

- (1) これが、たまにしか起こらない障害の場合には、テスト中のアプリケーションが、所有していないストレージを重ね書きしたことに起因することがあります。ただし、オンライン・システムを停止して再始動した後でも、このメッセージが繰り返し発生する場合は、システム管理者を通して IBM に連絡してください。
- (2) これは、入出力で発生したものとして処理してください。DFHTEMP に関するエラーを示しているコンソール・メッセージ、または DFHTEMP が入っている入出力装置を調べてください。
- (3) これは通常、一時ストレージ機能を使用するタスクが多過ぎることに起因する問題です。システムがあまり使われていない時に実行し直すか、あるいは DFHTEMP データ・セットをもう少し大きく定義し直してください。

プログラマーの応答: なし。

IESMA001E PLUGIN MANAGER INIT FAILED

説明: プラグイン・マネージャーのフェーズ (IESMMGR.PHASE) の初期設定が失敗しました。

システムの処置: エージェントを終了します。

オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESMA101I BEGINNING STARTUP OF MONITORING AGENT

説明: モニタリング・エージェントのスタートアップが始まりました。

システムの処置: モニタリング・エージェントのスタートアップを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESMA102I FINISHED STARTUP OF MONITORING AGENT

説明: モニタリング・エージェントのスタートアップが完了しました。このメッセージの直後にメッセージ IESMA103I が続きます。

システムの処置: エージェントは現在、クライアントの接続を待っています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESMA103I WAITING FOR CONNECTIONS OF CLIENTS...

説明: エージェントは初期設定を完了し、現在、クライアントの接続を待っています。これからずっと、クライアントの接続が受け入れられます。

システムの処置: エージェントはクライアントの接続を待っています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESMA104E CANNOT SET UP TCP/IP LISTENER

説明: エージェントが TCP/IP listen ソケットをセットアップできません。これは、以下のいずれかが原因と考えられます。

- TCP/IP for z/VSE がまだ開始されていない。
- TCP/IP インターフェース (\$EDCTCPV.PHASE) がロード不可能であるか、または無効である。
- ポートがすでに使用中である。実際のポート番号については、モニタリング・エージェントの構成メンバーまたは STATUS コマンドを参照してください。

システムの処置: エージェントを終了します。

オペレーターの応答:

- TCP/IP for z/VSE が稼働していることを確認してください。
- ジョブ出力を見て、メッセージ「EDCV001I TCP/IP function socket() not implemented」が出されているかどうか調べてください。このメッセージは、誤った \$EDCTCPV.PHASE がロードされたことを示しています。LE/VSE はこの PHASE をダミーとして出荷しますが、この PHASE がメッセージ EDCV001I を出します。このダミー PHASE は PRD2.SCEEBASE に入っています。TCP/IP for z/VSE で提供される PHASE がロードされていることを確認してください。通常、これは PRD1.BASE にあります。

- 構成メンバーに指定されているポートが、システムで実行中の別の TCP/IP アプリケーションですでに使用中であるかどうか調べてください。

注: ポートを変更する場合は、クライアント・サイドにおいてもそのポートを変更する必要があります。

プログラマーの応答: なし。

**IESMA105I PLEASE USE "MSG
XX,DATA=COMMAND" WITH THE
FOLLOWING COMMANDS:**

説明: HELP コマンドが出されました。

システムの処置: エージェントは有効なコマンドをすべて表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESMA106E CONFIGURATION FAILED

説明: エージェントの構成メンバーの読み取り中にエラーがありました。

システムの処置: エージェントを終了します。

オペレーターの応答: 構成メンバーが存在し、別のプログラムによって使用されていないことを確認してください。サーバーのスタートアップ・ジョブを検査して、構成メンバーの位置が正しいか調べてください。

```
// EXEC IESMASNM,PARM='DD:LIB.SLIB(NAME.TYPE)'
```

PARM ステートメントは、エージェントを構成するために使用されるメンバーの位置と名前を定義します。詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESMA107E INIT OF DATA STRUCTURE FAILED

説明: エージェントの初期設定中にエラーがありました。

システムの処置: エージェントを終了します。

オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESMA108E DATA RESET FAILED

説明: エージェントのデータ再初期設定中にエラーがありました。

システムの処置: エージェントを終了します。

オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESMA109E PLUGIN MANAGER PREPARE FAILED

説明: プラグイン・マネージャーの準備に失敗しました。

システムの処置: エージェントはクライアントの新しい着信接続を待っています。

オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESMA110E PLUGIN MANAGER FINISH FAILED

説明: プラグイン・マネージャーの完了に失敗しました。

システムの処置: エージェントはクライアントの新しい着信接続を待っています。

オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESMA111I BEGINNING SHUTDOWN OF
MONITORING AGENT**

説明: モニタリング・エージェントのシャットダウンが始まりました。

システムの処置: モニタリング・エージェントのシャットダウンを続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESMA112I FINISHED SHUTDOWN OF
MONITORING AGENT**

説明: モニタリング・エージェントのシャットダウンが完了しました。

システムの処置: エージェントを終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESMA113I RESETTING STATISTICS ...

説明: RESETSTAT コマンドが出されました。

システムの処置: エージェントは統計情報をすべてリセットします。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IESMA114I FOR MORE INFORMATION USE "MSG
XX,DATA=HELP"**

説明: 無効なコマンドが出されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 「MSG XX,DATA=HELP」を入力し、有効なコマンドのすべてをリストで表示します。

プログラマーの応答: なし。

IESMA115W INVALID COMMAND

説明: 無効なコマンドが出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 「MSG XX,DATA=HELP」を入力し、有効なコマンドのすべてをリストで表示します。

プログラマーの応答: なし。

**IESMA116W PLEASE USE "MSG
XX,DATA=COMMAND"**

説明: "MSG XX" が出されました。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 次のように入力してください。

```
"MSG XX,DATA=COMMAND"
```

プログラマーの応答: なし。

IESMA117E SOCKET EXCEPTION

説明: TCP/IP ソケットが例外を生成しました。
 システムの処置: エージェントを終了します。
 オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA118I AGENT STATUS:

説明: STATUS コマンドが出されました。
 システムの処置: エージェントは状況を表示します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA901E ERROR DURING DATA INITIALIZATION

...

説明: データ初期設定中にエラーが発生しました。
 システムの処置: SNMP トラップは送信されません。プログラムは終了します。
 オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA902E ERROR DURING ARGUMENT PROCESSING ...

説明: 1 つ以上の引数が無効です。
 システムの処置: SNMP トラップは送信されません。プログラムはヘルプを表示して終了します。
 オペレーターの応答: 引数を調べてください。詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA903E ERROR DURING SYSIPT PROCESSING ...

説明: 1 つ以上の引数が無効です。
 システムの処置: SNMP トラップは送信されません。プログラムはヘルプを表示して終了します。
 オペレーターの応答: SYSIPT パラメーターを調べてください。詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA904E NOT ENOUGH PARAMETERS

説明: パラメーター指定が不足しています。
 システムの処置: SNMP トラップは送信されません。プログラムはヘルプを表示して終了します。
 オペレーターの応答: パラメーターを調べてください (SYSIPT および引数)。

注: * はコメントに使用します。* を指定した引数は無視されます。
 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA905E ERROR DURING TRAP GENERATION ...

説明: トラップ生成中にエラーが発生しました。
 システムの処置: SNMP トラップは送信されません。プログラムは終了します。
 オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA906E TRAP NOT SENT TO *destination:port*

説明: トラップは宛先に送信されませんでした。
 システムの処置: 処理は続行されます。さらに宛先を指定した場合、次の宛先が試行されます。
 オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA907I TRAP SUCCESSFULLY SENT TO *destination:port*

説明: トラップは宛先に送信されました。

注: UDP はハンドシェイクを使用しないプロトコルであるため、SNMP は確認応答を要求しません。したがって、このメッセージはトラップが送信されたことを意味しますが、受信されたことは意味しません。
 システムの処置: 処理は続行されます。さらに宛先を指定した場合、次の宛先が試行されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA908I IESMTRAP *version* HELP:

説明: パラメーター処理中にエラーが発生し、有効なパラメーターがすべて表示されます。
 システムの処置: 有効なパラメーターがすべて表示されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESMA909E SOCKET ERROR

説明: プログラムは TCP/IP ソケットをセットアップできません。これは、以下のいずれかが原因と考えられます。

- TCP/IP for z/VSE がまだ開始されていない。
- TCP/IP インターフェース (\$EDCTCPV.PHASE) がロード不可能であるか、または無効である。

システムの処置: SNMP トラップは現在および今後、送信されません。プログラムは終了します。
 オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
 プログラマーの応答: なし。

IESMM001W OID *oid* ALREADY HANDLED BY PLUGIN *pluginname*

説明: プラグインは、他のプラグインが既に処理している OID を利用しようとしています。
 システムの処置: 2 番目のプラグインの場合、oid は無視されます。

オペレーターの応答: 一緒に処理できない 1 つ以上のプラグインがあります。詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
プログラマーの応答: なし。

IESMM002I MONITORING PLUGIN MANAGER STATUS:

説明: STATUS コマンドが出されました。
システムの処置: モニタリング・プラグイン・マネージャーは状況を表示します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IESMM003I ACTIVE PLUGINS:

説明: LISTPLUGINS コマンドが出されました。
システムの処置: モニタリング・プラグイン・マネージャーはアクティブ・プラグインを表示します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IESMM004I LOADING PLUGIN *pluginname...*

説明: モニタリング・プラグイン・マネージャーはプラグインをロードしようとしています。
システムの処置: モニタリング・プラグイン・マネージャーはプラグインのロードを開始します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IESMM005E PLUGIN *pluginname* NOT LOADED

説明: プラグインのロード中にエラーが発生しました。
システムの処置: プラグインはそれ以上使用されません。
オペレーターの応答: 詳しい情報を知るためにジョブ出力メッセージを調べてください。
プログラマーの応答: なし。

IESMS00I CDLOAD FOR DICTIONARY FAILED WITH RC=*rc*

説明: 指定した言語の辞書フェーズ \$IJBxDCT をロードしようとしたのですが、CDLOAD 戻りコード *rc* で障害が起きました。
システムの処置: 処理は完了コード 16 で終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 入力パラメーターが、正しい言語を指定していることを検査して、対応する辞書が、検索チェーンのサブライブラリーにあることを、確かめてください。

IESMS01I COMPRESSION ERROR, RC=*rc*

説明: 解説テキストを圧縮しようとしたのですが、戻りコード *rc* で障害が起きました。
システムの処置: 処理は完了コード 20 で終了して、ダンプを作成します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: このエラーは、辞書の損傷が原因で起こることがあります。辞書に障害がなければ、システム・エラー

と思われる。弊社に報告してください。

IESMS02I EXPANSION ERROR, RC=*rc*

説明: 前に圧縮した解説テキストを展開しようとしたのですが、戻りコード *rc* で障害が起きました。
システムの処置: 処理は完了コード 20 で終了して、ダンプを作成します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: このエラーは、辞書の損傷が原因で起こることがあります。辞書に障害がなければ、システム・エラーと思われる。弊社に報告してください。

IESMS03I COMPRESSION/EXPANSION MISMATCH

説明: 解説テキストの圧縮および展開の結果が、入力テキストと一致しません。
システムの処置: 処理は完了コード 20 で終了して、ダンプを作成します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: このエラーは、辞書の損傷が原因で起こることがあります。辞書に障害がなければ、システム・エラーと思われる。弊社に報告してください。

IESMS04I VSAM OPEN ERROR, RC=*rc* EC=*ecc*

説明: 説明ファイルを開こうとしたのですが、戻りコード *rc* およびエラー・コード *ecc* で障害が起きました。
システムの処置: 処理は完了コード 16 で終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: VSAM オープン・エラーの記述を参照してください。

IESMS05I UNEXPECTED VSAM GET ERROR, RC=*rc* EC=*ecc*

説明: 説明ファイルから、レコードを検出しようとしたのですが、予期しない戻りコード *rc* とエラー・コード *ecc* の組み合わせで、障害が起きました。
システムの処置: 処理は完了コード 20 で終了して、ダンプを作成します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: VSAM 要求エラーの記述を参照してください。これは、システム・エラーが考えられます。システム・エラーの場合は、弊社に報告してください。

IESMS06I UNEXPECTED VSAM PUT ERROR, RC=*rc* EC=*ecc*

説明: 説明ファイルにレコードを保管しようとしたのですが、予期しない戻りコード *rc* とエラー・コード *ecc* の組み合わせで障害が起きました。
システムの処置: 処理は完了コード 20 で終了して、ダンプを作成します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: VSAM 要求エラーの記述を参照してください。エラーが環境問題に関連していなければ、(例えば VSAM スペースの不足) 弊社に報告してください。

IESMS071 VSAM ENDREQ ERROR, RC=rc EC=ecc

説明: 説明ファイルの VSAM 位置を解放しようとした
が、戻りコード rc とエラー・コード ecc で障害が起
きました。

システムの処置: 処理は完了コード 20 で終了して、
ダンプを作成します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VSAM 要求エラーの記述を参
照してください。これは、システム・エラーが考
えられます。システム・エラーの場合は、弊社
に報告してください。

**IESP00301 UNDEFINED RETURN CODE, 'xxx', FROM
MODULE 'IESOPLRP' TO MODULE
'IESOPFE'**

説明: 示されている 2 つのモジュール相互間の
インターフェースにエラーがあります。

システムの処置: メッセージをオンライン・シ
ステムのログ・ファイルに追加します。オン
ライン問題判別表示操作を中止させます。

オペレーターの応答: これが、たまにしか起
こらない障害の場合には、テスト中のア
プリケーションが、所有していないスト
レージを重ね書きしたことに起因する
ことがあります。ただし、オンライン・シ
ステムを停止して再始動した後でも、
このメッセージが繰り返し発生する
場合は、システム管理者を通して IBM
に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP00341 INTERMEDIATE STORAGE ERROR -
EIBRCODE=X'xx'; UNABLE TO PROCESS
THE REQUEST**

説明: オンライン問題判別表示要求の処理
中は、CICS 一時ストレージ機能を使
用してデータが保管されます。表示プ
ログラムは、一時ストレージを使用し
てエラーを解消することができませ
んでした。

システムの処置: メッセージをオンライン・
システムのログ・ファイルに追加しま
す。オンライン問題判別表示操作を中
止させます。

オペレーターの応答: 以下の EIBRCODE
で示されている値に基づいて続行し
てください。

コード	意味	処置
X'01'	ITEMERR	1
X'02'	QIDERR	1
X'04'	IOERR	2
X'08'	NOSPACE	3
X'20'	INVREQ	1
X'D0'	SYSIDERR	1
X'D1'	ISCINVREQ	1
X'E1'	LENGERR	1

処置 1: これがたまにしか起こらない障
害の場合には、テスト中のアプリケ
ーションが、所有していないストレ
ージを重ね書きしたことに起因する
ことがあります。ただし、オンライ
ン・システムを停止して再始動した
後でも、このメッセージが繰り返
し発生する場合は、システム管理
者を通して IBM に連絡してくだ
さい。処置 2: これは、入出力で
発生したエラーとして処理してく
ださい。DFHTEMP に関するエ
ラーを示している

コンソール・メッセージ、または DFHTEMP
が入っている入出力装置を調べて
ください。処置 3: これは通常、
一時ストレージ機能を使用するタ
スクが多すぎることに起因する
問題です。システムがあまり使
われていない時に実行し直すか、
あるいは DFHTEMP データ・セ
ットをもう少し大きく定義し直
してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP04001 TRANSACTION ABEND xxxx ISSUED BY
PROGRAM pppppppp**

説明: このメッセージは、プログラム
IESOPINI、IESOPRO、IESOPADD、
IESOPLRP の 1 つで内部エラーが
見つかったことを示しています。
エラーが見つけられたプログラム
は、異常終了しました。

システムの処置: メッセージをオン
ライン・システムのログ・ファイル
に追加します。

オペレーターの応答: これが、たま
にしか起こらない障害の場合には、
テスト中のアプリケーションが、
所有していないストレージを重ね
書きしたことに起因することがあ
ります。ただし、オンライン・シ
ステムを停止して再始動した後
でも、このメッセージが繰り返
し発生する場合は、システム管
理者を通して IBM に連絡して
ください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP04011 EIBRCODE X'xxxxxxxxxx' DURING XCTL
FROM PROGRAM aaaaaaaaa TO PROGRAM
bbbbbbbb**

説明: このメッセージは、EXEC CICS
XCTL コマンドの失敗を示してい
ます。

システムの処置: メッセージをオン
ライン・システムのログ・ファイル
に追加します。

オペレーターの応答: CICS Transaction
Server 資料で、EIBRCODE 値
xxxxxxxxxx を探して、問題判
別を開始してください。インス
トールが正しく行われた場合に
は、要求されたすべてのプログ
ラムは、システムにあるはず
です。考えられる主な原因は、
DFHPPT がインストール・シ
ステムで変更され、z/VSE が
必要とするいくつかの項目が
除去されたことです。

プログラマーの応答: なし。

**IESP04021 EIBRCODE X'xxxxxxxxxx' DURING LINK
FROM PROGRAM aaaaaaaaa TO PROGRAM
bbbbbbbb**

説明: このメッセージは、EXEC CICS
LINK コマンドの失敗を示してい
ます。

システムの処置: メッセージをオン
ライン・システムのログ・ファイル
に追加します。

オペレーターの応答: CICS Transaction
Server 資料で、EIBRCODE 値
xxxxxxxxxx を探して、問題判
別を開始してください。インス
トールが正しく行われた場合に
は、要求されたすべてのプログ
ラムは、システムにあるはず
です。考えられる主な原因は、
DFHPPT がインストール・シ
ステムで変更され、z/VSE が
必要とするいくつかの項目が
除去されたことです。

プログラマーの応答: なし。

**IESP0403I INTERNAL PARAMETER ERROR IN
 OLPD FILE MANAGER**

説明: オンライン問題判別ファイルを管理しているプログラムのセット内で、内部エラーが起きました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: エラーが断続的に起きる場合には、テスト中の何らかのアプリケーション・プログラムが、所有していないストレージ域に重ね書きしたことが考えられます。オンライン区画を停止させた上で、再度開始させてください。エラーが再発し、しかもアプリケーション・プログラムのテスト開始前に起こる場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP0404I EIBRCODE X'xxxxxxxxxx' ACCESSING
 FILE ffffffff IN PROGRAM pppppppp AT
 OFFSET X'0000'**

説明: 示しているファイルをアクセス中に、エラーが起きました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で EIBRCODE 値を調べ、発生したエラーを正確に判別してください。NOTOPEN または IOERR のようなエラーの場合には、ユーザーの手順にしたがって、ファイルが再度使用できるようにしてください。ユーザーの手順が示されておらず、失敗が断続的に起こる場合には、テスト中の何らかのアプリケーション・プログラムが、所有していないストレージ域に重ね書きしたことが考えられます。この場合、オンライン・システムを停止させた上で、再度開始させて問題を修正してください。この問題が繰り返し起こり、しかもアプリケーション・プログラムがテスト前の場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP0405I THE ONLINE PROBLEM
 DETERMINATION FILE xxxxxxxx IS
 DISABLED**

説明: 示されているファイルは使用可能でないため、アクセスすることができませんでした。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: マスター端末トランザクション CEMT を使用して、オンライン問題判別ファイルを使用可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP0406I DATA SET ID ERROR FOR ONLINE
 PROBLEM DETERMINATION FILE,
 xxxxxxx**

説明: 示されているファイルをアクセスすることができません。これは、そのファイルの項目が、ファイル制御テーブル DFHFCT に見つからないためです。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。CICS のこの実行段階では、オンライン問題判別は使用できません。

オペレーターの応答: DFHFCT 中の項目が、オンライン問題判別ファイルにとって必要であることを、システム管理者に知らせてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP0407I THE ONLINE PROBLEM
 DETERMINATION FILE, xxxxxxxx, IS
 CLOSED**

説明: 示されているファイルは、クローズされたために、アクセスすることができません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。ファイルがオープンされるまで、オンライン問題判別を使用することはできません。

オペレーターの応答: マスター端末トランザクション CEMT を使用して、示されているファイルをオープンしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP0408I EIBRCODE X'rrrrrrrrrrrr' ACCESSING TS
 QUEUE qqqqqqqq IN PROGRAM pppppppp
 AT OFFSET X'0000'**

説明: プログラム pppppppp が CICS 一時ストレージ・キュー qqqqqqqq で作業中に、エラーが発生しました。エラーは、プログラム中のオフセット 0000 で見つかりました。起こった特別のエラーは、EIBRCODE rrrrrrrrrrrr の値で示されています。

システムの処置: この問題が繰り返される間は、オンライン問題判別に発生事象レコードを新たに追加することはできません。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で EIBRCODE 値を調べてください。戻りコードが NOSPSPACE または IOERR のような場合には、ユーザーの手順に従って状態を分析解決してください。QIDERR や ITEMERR などの場合には、問題が起こった回数に従って処理してください。断続的に起こりかつ何らかのアプリケーションが、テスト中に起こる問題は、アプリケーションが所有していないストレージに、重ね書きした結果によるものと考えられます。この問題が繰り返し起こり、しかもユーザー作成のアプリケーションが実行前の場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESP0409I THE ONLINE PROBLEM
 DETERMINATION FILE IS OUT OF
 SERVICE**

説明: このメッセージは、事前にログされた何らかのエラーの最終結果を表しています。このエラーは重大エラーです。したがって、オンライン問題判別のファイル管理構成要求は続行できません。

システムの処置: オンライン・システムのこれ以降の実行では、オンライン問題判別ファイルにアクセスすることができません。

オペレーターの応答: 以前に示されたメッセージの問題判別に、専念してください。

プログラマーの応答: なし。

IESP0410I PROGRAM pppppppp RECEIVED RETURN CODE X'rrrr' FROM IESSCRIO

説明: プログラム pppppppp が端末との間でデータを交換中に、エラーが起きました。エラーは、IESSCRIO が見つけ、IESOPID に戻されました。

システムの処置: オンライン問題判別に関する発生事象情報の表示を中止させます。

オペレーターの応答: メッセージ IESA1202I の説明を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IESP0411I INCIDENT RECORD LOST - EIBRCODE X'rrrrrrrrrrrr' ACCESSING FILE fffffff IN PROGRAM pppppppp AT OFFSET X'0000'

説明: プログラム pppppppp が示されているオンライン問題判別ファイル在处理中に、エラーが起きました。起った特別のエラーは、EIBRCODE rrrrrrrrrrrr の値で示されています。

システムの処置: このエラーにより、発生事象レコードは失われます。

オペレーターの応答: CICS Transaction Server 資料で EIBRCODE 値を調べてください。戻りコードが DSIDERR または IOERR のようなものである場合には、ご使用先のユーザーの手順に従って状態を分析解決してください。ILLOGIC や INVREQ などの場合には、問題が起った回数にしたがって処理してください。断続的に起りかつ何らかのアプリケーション

ンが、テスト中に起る問題は、アプリケーションが所有していないストレージに、重ね書きした結果によるものと考えられます。この問題が繰り返り起り、しかもユーザー作成のアプリケーションが実行前の場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IESP0412I INCIDENT RECORD CONTAINS INVALID MESSAGE CALL CONTROL BLOCK AT OFFSET X'0000'

説明: プログラム IESOPID は、オンライン問題判別ファイル中の発生事象レコードの内容が、内部的に正しくないということを検出しました。オフセット・フィールドは、正しくないデータが置かれている発生事象レコード中のオフセットを示しています。

システムの処置: 該当する発生事象レコードを、表示しようとする試みを、打ち切ります。

オペレーターの応答: これは、問題判別でのプログラム・エラー、または所有していないストレージに重ね書きをしている、テスト中のなんらかのアプリケーション・プログラムの結果によるものと考えられます。オンライン・システムの再始動を中断したまま故障が続き、それによって複数の発生事象レコードに影響が及ぶ場合には、システム管理者を通して弊社に連絡してください。故障が 1 つのレコードのみに影響を及ぼすか、あるいはオンライン・システムの再始動により修復された場合には、ストレージに重ね書きしているアプリケーション・プログラムに原因があると考えられます。

プログラマーの応答: なし。

接頭部 IESU のメッセージ

これらのメッセージを出すエラーは、SYSLST 上にメッセージを印刷します。プログラムを続行できない時、IESBLDUP が取り消される場合があります。または、メッセージが SYSLST 上に印刷され、想定したデフォルトによって処理を続行する場合もあります。さらに、z/VSE、ICCF、および VSAM エラー条件が発生したり、これらのサブシステムによってエラー・メッセージが生成される可能性もあります。

IESU0002I z/VSE CONTROL FILE 'IESCNTL' OPENED FOR nnnnnn

説明: z/VSE 制御ファイルが正常にオープンされました。制御ステートメントに UPDATE=NO を指定した場合には、入力のみに対してファイルがオープンされます。UPDATE=YES を指定した場合は、出力に対してファイルがオープンされます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESU0004I ICCF DTSFILE OPENED

説明: ICCF DTSFILE が DTSFILRT により正しくオープンされました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESU0006I BACKUP DTSFILE 'DTSRSTR' OPENED

説明: DTSRSTR=YES が制御ステートメントに指定されて、ファイルが SYS004 で正しくオープンされました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESU0008I CICS SIGN ON TABLE LOADED

説明: CICS サインオン・テーブルが z/VSE ライブラリーで見つかり、正常にロードされました。SNT で見つかったユーザー ID は、状況報告書にリストされます。'SNT=YES' が指定された場合、SNT は、z/VSE ユーザー・プロファイルの追加時に処理されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

**IESU0010I IESBLDUP EXECUTION COMPLETED,
END OF JOB**

説明: IESBLDUP プログラムの実行が完了しました。
 システムの処置: ジョブを終了させます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IESU0012I CONTROL FILE COPY OPENED

説明: 制御ファイルのバックアップ・コピーが正常にオープンされました。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。

**IESU0020A DTSFILE BACKUP PROCESSING
COMPLETE, MOUNT CONTROL FILE
COPYON 'nnn', PRESS ENTER WHEN
READY OR ENTER 'CANCEL' TO
CANCEL JOB**

説明: このメッセージは、制御ファイル・コピーの処理中で、1 つだけ物理テープ駆動装置が割り当てられるときに、オペレーター・コンソールに表示されます。
 システムの処置: ジョブはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 制御ファイル・コピー・テープを装置 *nnn* に取り付けて、実行を押して続行するか、または 'CANCEL' を入力してジョブを終了してください。

**IESU0102I FAILURE DURING CDLOAD OF
DTSFILRT, JOB CANCELLED**

説明: z/VSE ライブラリーからフェーズ 'DTSFILRT' をロードしようとしたのですが、失敗しました。レジスター 15 が 0 以外の戻りコードで、CDLOAD マクロが戻りました。
 システムの処置: z/VSE 制御ファイルをクローズし、ジョブを取り消して、戻りコード 16 を出します。
 オペレーターの応答: エラーをプログラマーに連絡してください。
 プログラマーの応答: ICCF フェーズ DTSFILRT が、探索チェーンに定義されている z/VSE ライブラリーに存在するかどうかを確かめてください。存在する場合、CDLOAD エラー条件について詳しくは、「z/VSE System Macros Reference」の CDLOAD マクロの説明を参照してください。

**IESU0104I KEYWORD MISSING, PROCESSING
CONTINUES**

説明: 区切り文字のコンマの後にキーワードがあるはずですが、何も見つかりませんでした。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: 制御ステートメントを検査し、すべてのオプションが正しく指定されているかを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESU0106I 'nnnnnnnn' IS INVALID KEYWORD, JOB
CANCELLED**

説明: 値 *nnnnnnnn* は、有効な制御ステートメント・キーワードではありません。
 システムの処置: ジョブは戻りコード 16 で取り消されます。
 プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正し、ジョブの受け渡しを、し直してください。

**IESU0107I 'CF=YES' INVALID WHEN 'DTSRSTR=NO'
AND 'DTSFILE=NO' IS SPECIFIED,
'CF=NO' ASSUMED**

説明: 'CF=YES' が指定された場合には、'DTSRSTR=YES' または 'DTSFILE=YES' が必要です。DTSRSTR と DSTFILE の両方が NO にセットされている場合には、'CF=NO' が想定され、処理が続行されます。
 システムの処置: 'CF=NO' オプションで処理は続行します。
 プログラマーの応答: ステートメントを訂正して、相いれない訂正を消去してください。

**IESU0108I NO PARAMETER FOUND AFTER
KEYWORD, JOB CANCELLED**

説明: キーワード構文指定が制御ステートメントで見付かりましたが、= 符号の後に有効なパラメーターがありませんでした。
 システムの処置: 戻りコード 16 でジョブを取り消します。
 オペレーターの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESU0110I INVALID PARAMETER FOUND AFTER
KEYWORD, JOB CANCELLED**

説明: 無効なキーワード・パラメーターが、制御ステートメントにあります。
 システムの処置: 戻りコード 16 でジョブを取り消します。
 オペレーターの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESU0112I WRONG LENGTH PARAMETER, JOB
CANCELLED**

説明: 多過ぎるか、少な過ぎる文字を持つパラメーターが、制御ステートメントに指定されました。
 システムの処置: 戻りコード 16 でジョブを取り消します。
 オペレーターの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。
 プログラマーの応答: なし。

**IESU0115I PARTITION IS NOT RUNNING UNDER
CONTROL OF POWER, JOB CANCELLED**

説明: IESBLDUP は POWER/VS の管理下の区画で実行されていません。ジョブ DTRMIGR は POWER 読み取りキューにスプルーされるので、IESBLDUP は POWER/VS 管理下の区画で実行する必要があります。
 システムの処置: ジョブは戻りコード 16 で取り消されます。
 オペレーターの応答: POWER/VS 管理下の区画で再度実行してください。

**IESU0116I XPCC-REQUEST FAILED. FUNC = xxxxxxx.
RETURN CODE = xx AND REASON
CODE = yy. PROGRAM TERMINATED.**

説明: POWER と通信するため、XPCC 要求の指示が出されましたが、表示された理由のため失敗しました。
 システムの処置: プログラムは、戻りコード 16 で終了します。
 オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 「VSE/POWER Application Programming」で、XPCC 要求が失敗した理由を調べてください。

IESU0118I POWER-SPOOL REQUEST FAILED.
REQUEST TYPE = xxxxxxxx. RETURN
CODE = xx FEEDBACK CODE = yy.
PROGRAM TERMINATED.

説明: POWER と通信するため、スプール・アクセス要求の指示が出されましたが、表示された理由のため失敗しました。
 システムの処置: プログラムは、戻りコード 16 で終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 「VSE/POWER Application Programming」で、スプール・アクセス要求が失敗した理由を調べてください。

IESU0120I DTSUTIL, -ANALS, -AUDIT, OR -BATCH
IS ACTIVE IN ANOTHER PARTITION,
JOB CANCELLED

説明: DTSFILE をアクセスする別の ICCF ユーティリティが、別の区画で活動中であり、ICCF DTSFILE の処理はできません。

システムの処置: ジョブは戻りコード 16 で取り消されます。
 オペレーターの応答: 別のジョブが終了するのを待って、再び実行してください。

プログラマーの応答: なし。

IESU0122I CICS SIGN ON TABLE NOT FOUND,
JOB CANCELLED

説明: 'SNT=YES' が制御ステートメントに指定されましたが、CICS サインオン・テーブル (フェーズ名 = 'DFHSNT') が z/VSE ライブラリーに見つかりませんでした。

システムの処置: ジョブは戻りコード 16 で取り消されます。
 プログラマーの応答: CICS サインオン・テーブル (DFHSNT) が、探索チェーンにある z/VSE ライブラリーに存在するかどうかを確かめてください。

IESU0123I VERSION xxxx OF CICS SIGN ON TABLE
FOUND, JOB CANCELED

説明: z/VSE ライブラリーで見つかった CICS サインオン・テーブル (フェーズ名 = 'DFHSNT') は、旧バージョンの CICS です。CICS バージョン 1.7 以降だけがサポートされます。

システムの処置: ジョブは戻りコード 16 で取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: z/VSE のこのリリースに用いられる CICS のバージョンを判別し、CICS サインオン・テーブル (DFHSNT) に有効なバージョンを使用するようにしてください。

IESU0124I UNIDENTIFIED STATEMENT(S) on
SYSIPT, IGNORED

説明: SYSIPT からステートメントが読み込まれましたが、識別できません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。
 オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSIPT データを検査して、必要があれば、訂正してください。

IESU0126I ERROR READING DTSFILE, JOB
CANCELLED RECORD ID = rrrrrr, n\$
EXPECTED: ERROR CODE = xxxx, REL
REC # = mmmn

説明: DTSFILE からレコードを読み込もうとした時に、エラーが検出されました。読み込み可能なレコードが DTSFILE に見出された場合には、rrrrrr が、読み込まれたレコードの先頭の 6 文字です。n\$ は求められた DTSFILE レコードのタイプを示し、xxxx は、ICCF ルーチン DTSFILRT により戻されたエラー・コードで、mmmn は、読み込み中のレコードの相対レコード数です。

システムの処置: 制御ファイルをクローズし、戻りコード 16 で、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: DTSFILE が、正しいラベル情報と、割り当てに一致しているかどうかを判別し、ファイルが作成されていて、不用意に破壊されていないかを、検査してください。

966 ページの『VSE/ICCF 戻りコード』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IESU0127I TABLE ADM\$USRT FOUND ON SYSIPT,
NOT REQUIRED - IGNORED

説明: ユーザーのテーブル ADM\$USRT を組み込む SLI ステートメント、または他のテーブルを組み込む SLI がありましたが IESBLDUP では、SYSIPT にこれ以上テーブルを組み込む必要がなく、必要なデータは、ICCF DTSFILE から読み取ります。

システムの処置: システムは組み込まれたテーブルを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESU0128I ERROR READING DTSRSTR, JOB
CANCELLED

説明: DTSRSTR からレコードを読み込もうとした時に、エラーが検出されました。読み込み可能なレコードが DTSRSTR に検出された場合は、エラー・メッセージの後にリストされます。

システムの処置: 制御ファイルをクローズし、戻りコード 16 で、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: DTSUTIL により作成された有効なリストア形式テープが、SYS004 に割り当てられたテープ駆動機構に取り付けられているかを確認し、ジョブを再実行してください。

IESU0129I DTSRSTR NOT ASSIGNED TO A TAPE

説明: DTSRSTR=YES が指定されましたが、SYS004 にテープが割り当てられていません。

システムの処置: システムはこのジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: テープを割り当てるか、または DTSRSTR=NO を使用してください。

**IESU0130I nnnn USER PROFILE NOT FOUND ON
z/VSE CONTROL FILE 'IESCNTL', JOB
CANCELLED**

説明: ユーザー・プロファイル *nnnn* が z/VSE 制御ファイル IESCNTL に定義されていませんが、モデル・プロファイルとして必要です。

システムの処置: 制御ファイルをクローズし、戻りコード 16 で、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: ADMN、PROG、および GENL オプションで指定されたプロファイルを調べ、それらが z/VSE 制御ファイルに正しく定義されているかどうかを確かめてください。対話式インターフェースの、プロファイル定義機能を使用して、モデル・プロファイルを定義し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

IESU0131I SYS005 NOT ASSIGNED TO A TAPE

説明: CF=YES が指定されましたが、SYS005 がテープに割り当てられておらず、さらに、IGN または UA にも割り当てられていません。

システムの処置: システムはこのジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: テープを 1 つだけしか使用してはならない場合は、SYS005 を UA に割り当て、制御ファイルなしで DOS/VSE から移行が行われる場合は、SYS005 を IGN に割り当ててください。それ以外の場合には、制御ファイルのバックアップを備えた磁気テープ装置を割り当ててください。

IESU0132I GETVIS ERROR, JOB CANCELLED

説明: ユーザー ID テーブルの作成のためにストレージを獲得しようとしたのですが、z/VSE GETVIS が失敗しました。

システムの処置: ジョブは戻りコード 16 で取り消されます。オペレーターの応答: エラーをプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 区画 GETVIS 領域の大きさを増加して、ジョブを再実行してください。問題が解消されない場合、詳細については、「z/VSE System Macros Reference」および GETVIS マクロの説明を参照してください。

**IESU0134I MAXIMUM NUMBER OF USER IDS
DEFINED FOR ICCF HAS BEEN
REACHED**

説明: ICCF DTSFILE に許される ID の最大数に達しました。これ以上の追加は、現在の割り振りではできません。

システムの処置: 制御ファイルをクローズして DTRMIGR を POWER/VS 読み取りキューにプット・スプールし、0 の戻りコードでジョブを終了します。

オペレーターの応答: 状況報告を調べて、どのユーザーが追加されているかを判別してください。DTSFILE 上に必要とされるスペースの量を判別して、DTSFILE を DTSUTIL ユーティリティでリストアし、ユーザー・パラメーターでユーザー・プロファイルの割り当ての最大数を増加してください。ジョブを再実行して、ユーザー ID の追加を終了してください。前に追加された ID は、二重定義として無視されます。

プログラマーの応答: なし。

**IESU0135I CONTROL FILE xxxx ERROR, R15=nn,
FDBK=cc, KEY=kkkkkkkkkkkk**

説明: 操作 *xxxx* の実行中に、z/VSE 制御ファイル IESCNTL で VSAM エラーが発生しました。

システムの処置: 可能ならば制御ファイルをクローズし、

PDUMP および戻りコード 16 でジョブを取り消します。

オペレーターの応答: VSAM 戻りコードおよびエラー条件の詳細については、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照してください。このエラーが出力で起こった場合、z/VSE 制御ファイルの更新および DTRMIGR の PUTSPOOL は不完全である可能性があります。結果を確信できるまで、DTRMIGR を実行しないでください。指摘されたエラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

IESU0138I VSAM ERROR, JOB CANCELLED

説明: z/VSE 制御ファイル IESCNTL で VSAM エラーが発生しました。エラーの詳細について述べた IESU0135I メッセージが表示されます。

システムの処置: 可能ならば制御ファイルをクローズし、

PDUMP および戻りコード 16 でジョブを取り消します。

プログラマーの応答: IESU0135I メッセージの記述を参照してください。

**IESU0140I ERROR IN USER TABLE, JOB
CANCELLED**

説明: ユーザー・プロファイルの組み込みに使用される内部テーブルの形式に、エラーが検出されました。

システムの処置: 制御ファイルをクローズし、PDUMP および戻りコード 16 でジョブを取り消します。

プログラマーの応答: これは通常、モデルとして使用された z/VSE ユーザー・プロファイルが正しく定義されていなかったことが原因です。状況報告を参照し、対応する ICCF ユーザー・レコードが ICCF DTSFILE から読み込まれて、そのプロファイルが、正しく定義されているかを判別してください。

z/VSE 対話式インターフェースを用いてユーザー・プロファイルを再定義し、出力を調べてプロファイルが正しいことを確認してください。このエラーが出力で起こった場合、z/VSE 制御ファイルの更新および DTRMIGR の PUTSPOOL は不完全である可能性があります。結果を確信できるまで、DTRMIGR を実行しないでください。エラーが解決されない場合には、弊社に連絡してください。

**IESU0142I CONTROL FILE NOT AVAILABLE, JOB
CANCELLED**

説明: z/VSE 制御ファイル (IESCNTL) をオープンしようとしたのですが、ファイルが使用可能でないため、X'A8' の戻りコードで失敗しました。

システムの処置: ジョブは戻りコード 16 で取り消されます。

オペレーターの応答: これは通常、VSAM オープンが出されたとき、IESCNTL が CICS および対話式インターフェースによって使用中であることが原因です。IESCNTL は 'UPDATE=YES' が指定されたとき出力でオープンされ、IESBLDUP が実行される前に、クローズする必要があります。

制御ファイルが使用中であるかどうかを判別し、もし使用中であれば、CICS を遮断するか、または CEMT を使用してファイルをクローズしてください。このメッセージを作成した VSAM エラー条件については、1071 ページの『第 31 章

VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』のエラー・コード X'A8' の説明を参照してください。

IESU0144I INVALID RECORD TYPE ON CONTROL FILE COPY, RECORD IGNORED

説明: 制御ファイル・コピーからユーザー・プロファイル・レコードが読み取られましたが、レコードに z/VSE のこのリリースでは認識できないバージョン/修正コードが含まれています。エラー・レコードの最初の 14 バイトが、このメッセージの後に印刷されます。

システムの処置: そのレコードを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: 制御ファイル・コピーが有効な z/VSE 制御ファイルからのものである場合、このエラーは起こってはなりません。印刷されたレコード情報を検討して、どのレコードがエラーであるかを、判別してください。プロファイルに対するユーザー ID はバイト 2 から始まり、エラーである版/修正は、バイト 13 と 14 にあります。問題を訂正するために、対話式インターフェースを使用して、指摘されたユーザー ID を再定義して、新しい制御ファイル・コピーを生成して、ジョブを再実行してください。

IESU0150I nnnnn RECORDS WERE ADDED TO THE z/VSE CONTROL FILE

説明: 総数 nnnnn 個のレコードが、制御ファイルに追加されました。この総数には、制御ファイル・バックアップ・コピーからコピーされたレコード、および移行ユーティリティによって作成された、新しいユーザー・プロファイル・レコードが、すべて含まれています。'UPDATE=NO' が指定されていた場合、この数はゼロです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IESU0151I BACKUP TAPE OF CONTROL FILE NOT CORRECT, JOB CANCELED

説明: 制御ステートメントに 'CF=YES' が指定されましたが、テープ上の制御ファイルに見つかりません。

システムの処置: ジョブは戻りコード 16 で取り消されます。

オペレーターの応答: バックアップ制御ファイルを持つテープを取り付けて、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0011I THE HASH TABLE (IESHTAB) CANNOT BE LOADED

説明: ハッシュ・テーブル・プログラム IESHTAB は、オンライン区画のスタートアップ時に IESCICIN でロードされなければなりません。この実行がなされていません。おそらくこれは、ローカル・サイトでのエラーによるものです。

システムの処置: 初期設定を続行しますが、ICCF を必要とする機能での作業は、実行できないことが考えられます。

オペレーターの応答: マスター端末トランザクションを使用して、プログラム IESHTAB がオンライン・システムに定義されているかを判別してください。定義されていない場合には、定義してください。プログラムが定義されている場合は、オンライン・システムに使用可能なライブラリーが変更されている可能性があります。正しいライブラリーがすべて使用可能かどうか、および IESHTAB がその 1 つに存在するかどうかを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0012I THE HASH TABLE (IESHTAB) HAS INCORRECT CONTENTS

説明: ハッシュ・テーブル (プログラム IESHTAB) が、オンライン区画のスタートアップ時に IESCICIN でロードされましたが、フェーズに正しいデータが入っていません。おそらくこれは、ローカル・サイトでのエラーによるものです。

システムの処置: 初期設定を続行しますが、ICCF を必要とする機能での作業は、実行できないことが考えられます。

オペレーターの応答: 大部分の原因は、ローカル・サイトがライブラリーの 1 つに別のプログラムを IESHTAB という名前で行ったためです。IESHTAB をその正しい内容で、置き換えなければなりません。ICCF 機能の使用は、トランザクションまたはシステム異常終了になることが、考えられます。

プログラマーの応答: なし。

IESV0013I THE INITIATE REQUEST FOR TRANSACTION IESO FAILED

説明: プログラム IESCICIN が、トランザクション IESO、オンライン問題判別のファイル管理タスクを開始しようとしたが、失敗しました。トランザクション ID IESO がオンライン・システムに定義されていません。おそらくこれは、ローカル・サイトでのエラーによるものです。

システムの処置: 初期設定を続行しますが、オンライン問題判別でのトランザクション異常終了データの収集はできません。

オペレーターの応答: トランザクション ID IESO がオンライン・システムに定義されなければなりません。システムが必要とする別のトランザクション ID も、ローカル・サイトにこのエラーがある場合には、欠落しています。システムが、DFHPCT の誤ったバージョンで初期設定されているか、または PCT がローカル・サイトで大幅に変更されていることも考えられます。

プログラマーの応答: なし。

IESV0014I THE INITIATE REQUEST FOR TRANSACTION IESN FAILED

説明: プログラム IESCICIN が、z/VSE の NEWS 機能を初期設定するのに必要なトランザクション IESN を開始しようとしたが、失敗しました。トランザクション ID IESN がオンライン・システムに定義されていません。おそらくこれは、ローカル・サイトでのエラーによるものです。

システムの処置: 初期設定を続行しますが、z/VSE の NEWS 機能は使用不能であり、別の機能でトランザクション異常終了が起こる可能性があります。

オペレーターの応答: トランザクション ID IESN はオンライン・システムに定義されていなければなりません。システムが必要とする別のトランザクション ID も、ローカル・サイトにこのエラーがある場合には、欠落しています。システムが、DFHPCT の誤ったバージョンで初期設定されているか、または PCT がローカル・サイトで大幅に変更されていることも考えられます。

プログラマーの応答: なし。

IESV0015I PROGRAM IESSVL CANNOT BE LOADED. INITIALIZATION HAS FAILED.

説明: プログラム IESCICIN がプログラム IESSVL をロードしようとした。このプログラムは、弊社提供のトランザクション用の情報保存プログラムです。この問題が解決されるまで、オンライン・システムはほぼ使えません。エラーが訂正されるまでは、システム・コンソールで入力されたトランザクションしか実行できません。おそらくこれは、ローカル・サイトでのエラーによるものです。

システムの処置: IBM 提供の一部のトランザクションに必要なオンライン区画の初期設定は実行されません。

オペレーターの応答: システム・コンソールのマスター端末トランザクション (CEMT) を使用して、プログラム IESSVL がオンライン・システムに定義されているかどうかを確認してください。定義されていない場合には、DFHPPT の誤ったバージョンが DFHSIT または SIT オーバーライドに指定されています。定義されている場合には、オンライン・システムに対する使用可能なライブラリー内にありません。オンライン・システム・スタートアップ時に、フェーズ IESSVL を含むライブラリーが使用可能かどうかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0016I IESV0016I LANGUAGE DETERMINATION ERROR. INITIALIZATION HAS FAILED.

説明: プログラム IESCICIN が、z/VSE のこの実行に使用する言語を判別しようとした。これはサインオンに使用される BMS マップ・セットをロードすることによって行われます。この時、正しい名前前のマップ・セットが見つかりませんでした。おそらくこれは、ローカル・サイトでのエラーによるものです。

システムの処置: 初期設定を続行しますが、対話式ユーザー・インターフェースの z/VSE 機能は使用できません。

オペレーターの応答: このエラーは 2 つの原因が考えられます。(その中に z/VSE のための項目がない) 誤ったバージョンの DFHPPT によってオンライン・システムを始動させた場合。または、LIBDEF のチェーンを変更して、z/VSE フェーズを含むライブラリーをその探索チェーンから切り離れた場合です。

プログラマーの応答: なし。

IESV0017I ACTIVATION OF ONLINE PROBLEM DETERMINATION FAILED

説明: プログラム IESCICIN がプログラム IESOPIA ために異常終了出口 'XPCABND' を確立しようとした。これは、CICS EXEC レベルのコマンド 'ENABLE' および 'EXTRACT' を用いて行われます。このいずれかのコマンドが失敗し、ゼロ以外の戻りコードが出されました。

システムの処置: 初期設定は続きますが、対話式ユーザー・インターフェースのオンライン問題判別機能は、たぶん働きません。

オペレーターの応答: このエラーは、次のいくつかの理由で起こります。

- 正しくないバージョンの DFHPPT (IESOPIA 項目の存在しない DFHPPT) によってオンライン・システムが始動された場合。
- IESOPIA についての PPT 項目が使用禁止になっていた場合。

- LIBDEF チェーンが変更され、IESOPIA を含むライブラリーが、探索チェーン外に残されていた場合。
- DFHSIT 内に 'EXITS=YES' が指定されていない場合。

'ENABLE' および 'EXTRACT' コマンドの詳細については、「CICS Customization Guide」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0081I IESMRTP RECEIVED A 'DSIDERR' READING 'xxxxxxx'. CHECK THAT 'xxxxxxx' IS IN DFHFCT

説明: メッセージ取り出しプログラムは、示されているファイルをアクセス中に CICS から DSIDERR を受け取りました。これは、DFHFCT が変更され、示されているファイルが削除されたことを、示しています。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、メッセージ IESV0090I を要求中のプログラムに戻します。

オペレーターの応答: DFHFCT を変更し、示されているファイルの定義を組み込んでください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0082I IESMRTP RECEIVED A 'ILLOGIC' ERROR READING xxxxxxx. xxxxxxx IS UNAVAILABLE

説明: メッセージ取り出しプログラムが、示されたファイルにアクセス中に、CICS から ILLOGIC 戻り条件を受け取りました。そのファイルを読み取ることができません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、メッセージ IESV0090I を要求中のプログラムに戻します。

オペレーターの応答: VSAM ユーティリティを使用し、示されているファイルの特性が、そのファイル・インストール後に存在していた特性と比べて、どのように変更されたかを判定してください。ファイルを修正できない場合には、ファイルを作り出す必要もあります。

プログラマーの応答: なし。

IESV0083I IESMRTP RECEIVED A 'INVREQ' ERROR READING xxxxxxx. xxxxxxx IS UNAVAILABLE

説明: メッセージ取り出しプログラムが、示されたファイルにアクセス中に、CICS から INVREQ 戻り条件を受け取りました。そのファイルを読み取ることができません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、メッセージ IESV0090I を要求中のプログラムに戻します。

オペレーターの応答: このエラーは、多分、示されているファイルの DFHFCT 中の項目が、インストール先で変更されたことに起因します。DFHFCT TYPE=DATASET 中のサービス要求オプションで、キーによる直接取り出しが行えるかどうかを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0084I IESMRTP RECEIVED A 'IOERR' ERROR READING xxxxxxx.**xxxxxxx IS UNAVAILABLE**

説明: メッセージ取り出しプログラムが、示されたファイルにアクセス中に、CICS から IOERR 戻り条件を受け取りました。そのファイルを読み取ることができません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、メッセージ IESV0090I を要求中のプログラムに戻します。

オペレーターの応答: オンライン・システム中のファイルに関する IOERR と同様にしてこれを処理してください。ハードウェアの故障を示しているコンソール・メッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0085I IESMRTP RECEIVED A 'LENGERR' ERROR READING xxxxxxx.**xxxxxxx IS UNAVAILABLE**

説明: メッセージ取り出しプログラムが、示されたファイルにアクセス中に、CICS から LENGERR 戻り条件を受け取りました。そのファイルを読み取ることができません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、メッセージ IESV0090I を要求中のプログラムに戻します。

オペレーターの応答: IESMRTP は EXEC CICS READ の SET オプションを使用するので、これは CICS のエラーとして扱わなければなりません。システム管理者を通して弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0086I MESSAGE xxxxxxxx yyyyyyyyy (KEY zzzzzzzzzzzz) NOT IN MESSAGE FILE, aaaaaaa

説明: メッセージ取り出しプログラムは、xxxxxxx yyyyyyyyy (キー zzzzzzzzzzzz のもとで記憶されているもの) のテキストを取り出すよう要求されました。テキストは、示されているファイル aaaaaaa に入っていません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、このメッセージをメッセージ取り出しプログラムから、メッセージ・テキストを要求したプログラムに送ります。

オペレーターの応答: おそらく、CICS 区画のラベルまたは JCL が変更され、上記で参照されたファイルが z/VSE と一緒に出荷されたメッセージ・ファイルでなくなりました。あるいは、ファイルが、実行中の z/VSE プログラムのレベルと矛盾している可能性があります。新しいメッセージ・ファイルの更新が行われている場合には、更新が正しく完了したかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0087I MESSAGE xxxx FOR COMPONENT y HAS INCORRECT FORMAT;**NO TEXT LINE**

説明: メッセージ取り出しプログラムは、コンポーネント・コード y に対するメッセージ xxxx のテキストを取り出しましたが、メッセージにはテキスト行が入っていないことがわかりました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、このメッセージをメッセージ取り出しプログラムから、メッセージ・テキストを要求したプログラムに送ります。

オペレーターの応答: これは、メッセージ・ファイルを更新するユーティリティーのエラーと考えられます。また、z/VSE システムと一緒に配布されたメッセージ・ソースのエラー、あるいはサービス更新中のエラーである場合もあります。システム管理者を通して弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0088I MESSAGE xxxx FROM yyyyyyyyy, OFFSET X'oooo', (KEY zzzzzzzzzzzz) NOT IN aaaaaaa

説明: オフセット oooo のプログラム yyyyyyyyy は、メッセージ xxxx のテキストの取り出しを要求されました。使用しているメッセージ・ファイル・キーは、zzzzzzzzzzzz です。テキストは、示されているファイル aaaaaaa に入っていません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、このメッセージをメッセージ取り出しプログラムから、メッセージ・テキストを要求したプログラムに送ります。

オペレーターの応答: おそらく、CICS 区画のラベルまたは JCL が変更され、上記で参照されたファイルが z/VSE と一緒に出荷されたメッセージ・ファイルでなくなりました。あるいは、ファイルが、実行中の z/VSE プログラムのレベルと矛盾している可能性があります。新しいメッセージ・ファイルの更新が行われている場合には、更新が正しく完了したかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0089I FOLLOWING MESSAGE(S) FROM PROGRAM 'xxxxxxx', OFFSET X'yyyyy'. dddddddd tttttt

説明: この行は、メッセージ・ログに書き込まれます。書き込みは、プログラム xxxxxxx およびメッセージ・ログ中でこのメッセージのあとの行を要求したプログラム中のオフセット yyyyy を識別するために、行われます。必要があれば、これを問題判別に役立てることができます。ddddddd tttttt は、メッセージがログ記録された日時です。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: これは、通知メッセージで、問題判別に必要な場合に、使用するものです。

プログラマーの応答: なし。

IESV0090I MESSAGE FILE 'xxxxxxx' CANNOT BE READ. DIAGNOSTIC INFORMATION WAS LOGGED

説明: 何らかのエラーにより、ファイル xxxxxxx の読み取りができなくなったあとで、このメッセージは、呼び出し側プログラムに戻されます。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、このメッセージをメッセージ取り出しプログラムから、メッセージ・テキストを要求したプログラムに送ります。

オペレーターの応答: オンライン・システムのログを調べ、問題判別を開始することができるように、システム管理者に、このメッセージの内容を伝えてください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0091I THE MESSAGE FILE, 'xxxxxxx', IS DISABLED

説明: メッセージ取り出しプログラムは、メッセージに示されているファイルが、使用不可能であることを見つけました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、メッセージ IESV0090I を要求中のプログラムに戻します。

オペレーターの応答: CICS マスター端末トランザクション CEMT を使用して、メッセージ・ファイルを使用可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0092I INVALID SO/SI IN MESSAGE nnnn (KEY kkkkkkkkkkkk) IN fffffff. SEE DUMP 'MRTP'.

説明: メッセージ nnnn (kkkkkkkkkkkk は、ファイル fffffff のレコードのキー) が誤ったデータを含んでいます。シフトイン (SI) 文字とシフトアウト (SO) 文字の順序が正しくありません。メッセージ取り出しプログラム IESMRTP は、このメッセージを取り扱うことができません。

システムの処置: ID が MRTP の CICS トランザクション・ダンプを要求します。ダンプの中に、エラーのあったメッセージを含むファイルのレコードが現れます。

オペレーターの応答: このエラーがめったに起こらないものであれば、ユーザー作成のアプリケーション・プログラムが CICS 区画のストレージを上書きした結果として、このエラーが起こった可能性があります。このエラーが頻繁に起こり、このメッセージが出される場合には、CICS ダンプ・データ・セットから MRTP ダンプを印刷し、弊社に援助を要請してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0093I INVALID SO/SI IN MESSAGE nnnnnnnnnn ttttttt (KEY kkkkkkkkkkkk). DUMP 'MRTP'.

説明: プログラムが、メッセージ・ファイル IESTRFL からメッセージを取り出そうとしました。通常、これは画面かメッセージの説明のテキスト・レコードです。メッセージ nnnnnnnnnn ttttttt (kkkkkkkkkkkk は IESTRFL の中のレコード・キー) が誤ったデータを含んでいます。シフトイン (SI) 文字とシフトアウト (SO) 文字の順序が正しくありません。メッセージ取り出

しプログラム IESMRTP は、このメッセージを取り扱うことができません。

システムの処置: ID が MRTP の CICS トランザクション・ダンプを要求します。ダンプの中に、エラーのあったメッセージを含むファイルのレコードが現れます。

オペレーターの応答: このエラーがめったに起こらないものであれば、ユーザー作成のアプリケーション・プログラムが CICS 区画のストレージを上書きした結果として、このエラーが起こった可能性があります。このエラーが頻繁に起こり、このメッセージが出される場合には、CICS ダンプ・データ・セットから MRTP ダンプを印刷し、弊社に援助を要請してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0094I THE MESSAGE FILE, 'xxxxxxx', IS CLOSED

説明: メッセージ取り出しプログラムが、メッセージで示されたファイルが、クローズされていて、活動状態でないことを見つけました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。さらに、メッセージ IESV0090I を要求中のプログラムに戻します。

オペレーターの応答: CICS マスター端末トランザクション CEMT を使用して、メッセージ・ファイルをオープンしてください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0601I NO TERMINAL INPUT RECEIVED. RETURNED TO SELECTION PANEL.

説明: 編集機能のように、ICCF 固有環境での作業中、端末は遊休時間が長過ぎて、時間切れになりました。これは、おそらく ICCF にユーザー ID を定義した際に、デフォルトの ICCF オプションを取らなかったため発生したと思われます。OPTB のビット 0 およびプロファイルの時間切れの値は、重要です。システムの処置: 制御は選択画面に戻されます。

オペレーターの応答: ICCF セッションの TIMEOUT 値を変更するために、/SETIME TIMEOUT コマンドを使用してください。COMMAND MODE にいる限り、この値は影響を受けません。/RETURN コマンドで、選択画面に戻ってください。

プログラマーの応答: なし。

IESV0606I UNABLE TO CONTINUE BECAUSE INTERACTIVE PARTITION CANCELED.

説明: 使用していた機能は、ICCF 対話区画で実行されており、ICCF 取り消しコード 8 で異常終了しました。

システムの処置: このメッセージをオンライン・システムのログに追加します。問題が検出され、診断情報が保管されたことを伝える補足メッセージが、プログラムに送られます。

オペレーターの応答: 多くの場合、この機能を繰り返すと正しく実行されます。エラーが頻繁に起きる場合、システム管理担当者は、弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV1001I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A 'DSIDERR' CONDITION ACCESSING THE CONTROL FILE

説明: 制御ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE 制御ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、DSIDERR 戻り条件を受け取りました。データ・セット IESCNTL に対する DFHFCT の項目がありません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: インストール先で独自の DFHFCT を作成した場合は、z/VSE FCT 項目についてのコピー・ステートメントをその DFHFCT に追加しなければなりません。ICCF ライブラリー・メンバー DFHFCTSP および DFHFCTSO が、z/VSE に必要な DFHFCT コーディングの例として、システムと一緒に出荷されます。システム管理者に、このエラーについて知らせてください。

プログラマーの応答: なし。

IESV1002I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A 'INVREQ' CONDITION ACCESSING THE CONTROL FILE

説明: 制御ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE 制御ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、INVREQ 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: IESCNTL に対する DFHFCT 項目が、実行を要請されている機能を実行させないように変更された場合に、この状態が起きます。マスター端末のオペレーターが、データ・セットに対して許されるサービス要求を変えていないことを確認してください。インストール先で複数の CICS 区画を使用している場合は、z/VSE に関して正しい DFHFCT 項目セットを使用するようにしてください。制御ファイルは、ICCF が入っている区画以外の区画では、読み取り専用ファイルとしなければなりません。

プログラマーの応答: なし。

IESV1003I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A 'IOERR' CONDITION ACCESSING THE CONTROL FILE

説明: 制御ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE 制御ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、IOERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: このエラーを入出力エラーと同様に扱ってください。システム・コンソールで IESCNTL に関する、または IESCNTL が入っている装置に関するエラーのメッセージを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IESV1004I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A 'ISCINVREQ' CONDITION ACCESSING THE CONTROL FILE

説明: 制御ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE 制御ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、ISCINVREQ 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: ユーザー・システムは次のいずれかの状況に当てはまります。

- 制御ファイル IESCNTL への書き込みアクセスがない区画でエラーが起きた場合、またその区画用の DFHFCT にリモート制御ファイル IESRCTL 用の記入項目がある場合、その区画から制御ファイルへの書き込みアクセスがある区画までのシステム間通信 (ISC) に障害が起きた可能性があります。システム間通信を再始動してください。
- DFHFCT がアプリケーション・プログラムによって重ね書きされず、IESRCTL 用の記入項目が DFHFCT にない場合、インストール・システムによってエラーが起きた可能性があります。DFHFCT にある記入項目に、IESCNTL 制御ファイルがリモート・オンライン・システム上に存在することを記述しないようにしてください。システム管理者に DFHFCT が重ね書きされたか、または誤って変更されたことを通知してください。

プログラマーの応答: なし。

IESV1005I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A 'ILLOGIC' CONDITION ACCESSING THE CONTROL FILE

説明: 制御ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE 制御ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、ILLOGIC 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: VSAM ユーティリティを使用して、制御ファイル IESCNTL の特性が、そのファイルのインストール直後に存在していた特性と比べて、どのように変更されたかを判定してください。ファイルを修正できない場合には、ファイルを作り出す必要もあります。

プログラマーの応答: なし。

IESV1006I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A 'LENGERR' CONDITION ACCESSING THE CONTROL FILE

説明: 制御ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE 制御ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、LENGERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: IESCFA は EXEC CICS READ の SET オプションを使用するので、これは CICS のエラーとして扱わなければなりません。システム管理者を通して弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1007I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A
'SYSIDERR' CONDITION ACCESSING
THE CONTROL FILE**

説明: 制御ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE 制御ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、SYSIDERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: ユーザー・システムは次のいずれかの状況に当てはまります。

- 制御ファイル IESCNTL への書き込みアクセスがない区画でエラーが起きた場合、またその区画用の DFHFCT にリモート制御ファイル IESRCTL 用の記入項目がある場合、その区画から制御ファイルへの書き込みアクセスがある区画までのシステム間通信 (ISC) に障害が起きた可能性があります。システム間通信を再始動してください。
- DFHFCT がアプリケーション・プログラムによって重ね書きされず、IESRCTL 用の記入項目が DFHFCT にない場合、インストール・システムによってエラーが起きた可能性があります。DFHFCT にある記入項目に、IESCNTL 制御ファイルがリモート・オンライン・システム上に存在することを記述しないようにしてください。システム管理者に DFHFCT が重ね書きされたか、または誤って変更されたことを通知してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1008I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A
'NOTOPEN' CONDITION ACCESSING
THE CONTROL FILE**

説明: 制御ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE 制御ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、NOTOPEN 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: マスター端末トランザクション CEMT を使用して、制御ファイル IESCNTL をオープンしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1009I PROGRAM IESCFA ENCOUNTERED A
'DISABLED' CONDITION ACCESSING
THE CONTROL FILE.**

説明: z/VSE 制御ファイル IESCNTL が使用禁止状態にあることを、制御ファイル・アクセス・プログラムが発見しました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: マスター端末トランザクション CEMT を使用して、z/VSE 制御ファイル IESCNTL を使用可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1101I PROGRAM IESMRFA ENCOUNTERED A
'DSIDERR' CONDITION ACCESSING THE
MESSAGE ROUTING FILE**

説明: メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、DSIDERR 戻り条件を受け取りました。データ・セット IESROUT に対する DFHFCT の項目がありません。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: インストール先で独自の DFHFCT を作成した場合は、z/VSE FCT 項目についてのコピー・ステートメントをその DFHFCT に追加しなければなりません。ICCF ライブラリー・メンバー DFHFCTSP および DFHFCTSO が、z/VSE に必要な DFHFCT コーディングの例として、システムと一緒に出荷されます。システム管理者に、このエラーについて知らせてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1102I PROGRAM IESMRFA ENCOUNTERED A
'INVREQ' CONDITION ACCESSING THE
MESSAGE ROUTING FILE**

説明: メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、INVREQ 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: IESROUT に対する DFHFCT 項目が、実行するように要求された機能を許可しないように変更されていた場合、この条件が起きます。マスター端末のオペレーターが、データ・セットに対して許されるサービス要求を変えていないことを確認してください。インストール先で複数の CICS 区画を使用している場合は、z/VSE に関して正しい DFHFCT 項目セットを使用するようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1103I PROGRAM IESMRFA ENCOUNTERED A
'IOERR' CONDITION ACCESSING THE
MESSAGE ROUTING FILE**

説明: メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、IOERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: このエラーを入出力エラーと同様に扱ってください。システム・コンソールで、IESROUT のエラーまたは IESROUT を含む装置についてのメッセージを検査してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1104I PROGRAM IESMRFA ENCOUNTERED A
'ISCINVREQ' CONDITION ACCESSING
THE MESSAGE ROUTING FILE**

説明: メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、

ISCINVREQ 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: DFHFCT がアプリケーション・プログラムで上書きされていない場合、たいていインストール先のエラーです。システム管理者に DFHFCT が重ね書きされたか、または誤って変更されたことを通知してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1105I PROGRAM IESMRFA ENCOUNTERED A
'ILLOGIC' CONDITION ACCESSING THE
MESSAGE ROUTING FILE**

説明: メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、ILLOGIC 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: VSAM コーティリティーを使用して、メッセージ・ルーティング・ファイル (IESROUT) の特性が、インストール直後といかに変更されているかを、判別してください。ファイルを修正できない場合には、ファイルを作り出す必要もあります。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1106I PROGRAM IESMRFA ENCOUNTERED A
'LENGERR' CONDITION ACCESSING
THE MESSAGE ROUTING FILE**

説明: メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、LENGERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: IESMRFA は EXEC CICS READ の SET オプションを使用するので、これは CICS のエラーとして扱わなければなりません。システム管理者を通して弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1107I PROGRAM IESMRFA ENCOUNTERED A
'SYSIDERR' CONDITION ACCESSING
THE MESSAGE ROUTING FILE**

説明: メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、SYSIDERR 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: DFHFCT がアプリケーション・プログラムで上書きされていない場合、たいていインストール先のエラーです。システム管理者に DFHFCT が重ね書きされたか、または誤って変更されたことを通知してください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1108I PROGRAM IESMRFA ENCOUNTERED A
'NOTOPEN' CONDITION ACCESSING
THE MESSAGE ROUTING FILE**

説明: メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが、z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイルにアクセスするために EXEC CICS コマンドを出した後、NOTOPEN 戻り条件を受け取りました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: マスター端末トランザクション (CEMT) を使用して、メッセージ・ルーティング・ファイル (IESROUT) をオープンしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IESV1109I THE z/VSE MESSAGE ROUTING FILE,
IESROUT, IS DISABLED**

説明: z/VSE メッセージ・ルーティング・ファイル IESROUT が使用禁止状態にあることを、メッセージ・ルーティング・ファイル・アクセス・プログラムが発見しました。

システムの処置: メッセージをオンライン・システムのログ・ファイルに追加します。

オペレーターの応答: マスター端末トランザクション (CEMT) を使用して、メッセージ・ルーティング・ファイル (IESROUT) を使用可能にしてください。

プログラマーの応答: なし。

第 12 章 接頭部 IFC の EREP メッセージ

このセクションには、IFCEREP1 プログラム・モジュールによって出され、SYSLSY 論理装置に書き込まれるメッセージが含まれています。ここに列挙されているメッセージのあるものは、報告書出力にも現れます。

接頭部 IFC の EREP メッセージすべては、番号の次に「I」が付いており、これらが通知メッセージであることを示します。しかし、実際には、EREP 処理の状況および EREP 処理または EREP/システム制御の問題発生の方を示すことがあります。IFCEREP1 に重大エラーが起きた場合、IFCEREP1 は停止します。

EREP 戻りコード

EREP は、処理を停止する時に IFCxxxI メッセージに加えて、以下の戻りコードを出します。

戻りコード (10 進数)

	意味
00	エラーなし
04	注意
08	重大エラー (非打ち切り)
10	重大エラー (非打ち切り)
12	重大エラー (打ち切り)
16	破滅的エラー

12 以上の戻りコードは、EREP が異常終了し、報告書を完了できないことを示しています。戻りコード 04 の場合、処理は続行し、報告書は完了します。ただし、報告書にすべてのレコードが含まれていない可能性があります。戻りコード 08 および 10 の場合、EREP に起きたエラーの種類によって、処理は続行されない可能性があります。処理が続行される場合、報告書は未完了かもしれません。

EREP (IFCEREP1) は、04 より大きい各戻りコードに対して、少なくとも 1 つの IFCxxxI メッセージを出します。また、04 戻りコードを出した状況のものに対してもメッセージを出します。メッセージは、SYSLSY 出力または報告書出力の本体に現れる場合があります。

EREP DEBUG パラメーター

いくつかのメッセージで、EREP への入力データを実際に見るよう推奨される場合があります。エラー・レコードを見る 1 つの方法は、DEBUG パラメーター・オプションの 1 つを指定して EREP をもう一度実行することです。他の DEBUG オプションは、EREP プログラムを構成するモジュールが使用する連絡域およびデータ域にアクセスできます。これらは、EREP 内の問題を診断するのに役立ちます。

注: IBM サービス技術員の指示にしたがって、EREP プログラムをデバッグしてください。問題が存在することに気付いた場合、まず最初に IBM サービス・センターに連絡してください。

本書は主に IBM のお客様を対象にしているため、お客様が使用できる推奨 DEBUG オプションのみが記載されています。必要であれば、IBM サービス技術員からさらに詳しいアドバイスを得ることができます。

構文法

DEBUG パラメーターは、どの EREP ランにも含めることができます。その構文法は、以下の通りです。

DEBUG=(nn[,nn] ...)

nn は EREP DEBUG オプションに割り当てられる 1 桁または 2 桁の 10 進数です。

表示: EREP は、指定されたオプションによって指示された情報を、報告書出力の一部として印刷することになります。

デフォルト:

なし。デバッグ情報は通常は印刷されません。

コーディング:

他の EREP キーワード・パラメーターと同じルールと規則が適用されます。

パラメーター対立:

なし。

オプション

ユーザーは、以下の DEBUG オプションを使用することができます。

オプション

番号 意味

- 4 制御モジュールの名前およびコンパイル日付すべてを印刷する。IFCEREP1 によって呼び出された各ルーチンの開始時間および停止時間を印刷する。情報が SYSLST 出力に表示される。
- 17 フィルターを通過した各レコードの 16 進数ダンプを印刷する。レコードは、イベント・ヒストリーの報告書の中で、通常の各データ・ラインの次に表示されます。これらは、明細編集報告書にも表示されます。
- 45 フレーム・レコードの 16 進数ダンプを IFCZFRME モジュールから印刷する。レコードは、MCH または CCH 明細 PRINT 報告書にしか表示されません。
- 49 フレーム・レコードの 16 進数ダンプすべてを IFCZFST1 モジュールから印刷する。このオプションも、MCH および CCH 明細 PRINT 報告書にしか表示されません。

IFC101I REQUEST FOR NON-EXISTENT I/O SERVICE

説明: 入出力サービスの内部要求で、無効な要求コードが指定されました。

システムの処置: 要求は無視されます。以後の入力を処理しません。

プログラマーの応答: システム制御が正しいかどうかを確認し

て、ジョブを再実行してください。問題が解消されない場合は、「EREP User's Guide」を調べてください。

IFC111I OPEN REQUESTED, DATA SET NOT SPECIFIED

説明: OPEN 要求が出されましたが、オープンすべきデータ・セットが示されていません。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントまたは FILEDEFS が正しいかどうかを確認してから、ジョブを再実行してください。問題が解消されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

IFC112I READ REQUESTED, NO DATA SET OPEN

説明: データ・セットがオープンされていないために、EREP は要求された読み取り操作を実行することができません。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: DD ステートメントまたは FILEDEFS が正しいかどうかを確認してから、ジョブを再実行してください。問題が解消されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

IFC119I RECORDS IGNORED, TABSIZE ALLOCATION TOO SMALL

説明: TABSIZE パラメーターで制御されている EREP の内部分類テーブルが小さすぎて、この報告書を処理できません。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: TABSIZE パラメーターの値を大きくし、必要に応じて領域、仮想マシン・ストレージ、または区画サイズを増やしてからジョブ・ステップを再実行してください。IFCOFFLD を実行している場合は、領域、仮想マシン・ストレージ、または区画のサイズを増やすだけで十分です。

IFC120I nnnnnnnn {RECORDS SAVED FOR rrrrrr} RECORDS THAT PASSED FILTERING}

説明:

1. 要求された報告書を作成するために EREP が使用するレコード数を示します。rrrrrr は以下の 1 つです。

SYSEXN

SYSUM PART 1

SYSUM PART 2

TREND PART 1

TREND PART 2

2. (DEV=, TYPE=... のような) 選択基準に一致したレコード数を示します。

選択基準に一致するすべてのレコードは、フィルターを通過します。それらの、すべてのレコードが、報告書の作成に使用されるわけではありません。要求された報告書に適合するレコードだけが保管されます。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

IFC122I nnnnnnnnnn RECORDS IGNORED BECAUSE TRUNCATED BIT ON

説明: EREP が見つけた、切り捨てビットがオンにセットされたレコードの数を示します。

システムの処置: 該当コードを無視します。TYPE の指定がある場合には、切り捨てられた (または未知の) レコードを処理しません。

プログラマーの応答: なし。

IFC134I {EXCESSIVE CPUS ENCOUNTERED | SHARE CARDS SPECIFY EXCESSIVE CPUS FOR THIS REPORT}

説明:

- 処理中のデータ・セットに過剰な数の CPU からのレコードが入っていましたが、EREP 制御には CPU、MOD 選択パラメーターまたは SYSIMG 制御ステートメントの有効な組み合わせが、入っていませんでした。
- 要求した報告書について過剰な処理装置 (CPU) を指定している CONTROLLER、DASDID、SHARE のいずれかステートメントが EREP によって見つかりました。

システム要約報告書には、最大 10 の処理装置が示されます。その他すべての報告書には、16 まで示されますが、次の例外があります。

- システム例外報告書は最大 255 の処理装置
- イベント・ヒストリー報告書は最大 256 の処理装置
- PRINT=PT 報告書は無制限の処理装置
- 限界値報告書は無制限の処理装置

システム要約用のプロセッサの最大数を 16 に増やす方法については、「*EREP User's Guide*」を参照してください。

システムの処置: 処理中のデータ・セットが、多過ぎる数の CPU からレコードを受け取る場合には、処理は継続しますが、出力はすべての可能なプロセッサを示すのではなく、要求されたレポートに許された最大数を示します。

CONTROLLER、DASDID、SHARE のいずれかのステートメントで過剰な処理装置を指定すると、処理は続行しますが、出力はすべての使用可能な処理装置を示すわけではなく、要求された報告書で許可されている最大数のみを示します。

プログラマーの応答: SYSIMG 制御ステートメントをコーディングし、ジョブを再実行してください。これによって、システム・イメージの実数まで CPU が減少します。CPU が依然として多すぎるときは、SYSIMG 制御ステートメントの他に CPU または MOD 選択パラメーターをコーディングする必要があります。これは、レコードを処理する処理装置の数を制限します。

制御ステートメントに定義されている CPU が多すぎるときは、1 つの CPU 通し番号を使用して制御ステートメントを再コーディングしてください。(詳細については、それぞれの制御ステートメントの説明を参照してください。)

IFC136I CLOSE REQUESTED, NO DATA SET OPEN

説明: データ・セットをクローズする要求を受け取りましたが、オープンされているデータ・セットはありません。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: システム制御が正しいかどうかを確認して、ジョブを再実行してください。問題が解消されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

**IFC137I RECORD WITHOUT CPU SERIAL
 NUMBER ENCOUNTERED**

説明: EREP が、処理装置の連続番号が 000000 になっているレコードを見つけました。
 システムの処置: そのレコードを無視します。
 プログラマーの応答: なし。

**IFC140I FRAME CPU-SERIAL-NUMBER TABLE
 OVERFLOWED**

説明: EREP が、フレーム・テーブルの容量 (16) を超える数の処理装置を検出しました。
 システムの処置: 処理を続けますが、一部の CCH または MCH レコードがフレームで編集されない可能性があります。
 プログラマーの応答: ジョブを再実行し、CPU 選択パラメーターを使用して処理装置の数を制限してください。

**IFC141I CORE NOT AVAILABLE FOR FRAME
 PROCESSING**

説明: 追加ストレージについての GETMAIN または GETVIS が失敗しました。
 システムの処置: EREP を終了します。
 プログラマーの応答: EREP が使用できる仮想記憶の量を増やし、EREP を再実行してください。

**IFC142I mmmmmmm RECORDS FOUND WITH
 INVALID DATE FIELD**

説明: EREP が無効な日付フィールドが含まれた 1 つまたは複数のレコードを見つけました。最後のハーフバイトが 'X'F' ではありませんでした。
 システムの処置: そのレコードを無視して処理を続けます。
 プログラマーの応答: なし。

**IFC143I INCOMPLETE DASD INPUT
 RECORD/DEFINITION**

説明: (MVS、VM、および VSE) 次のレコードは、EREP 処理に欠落している情報です。

このメッセージは、次のいずれかの条件によって引き起こされました。

1. レコードが IBM 以外の DASD のレコードである。 OEM ハードウェア・サポートに連絡してください。
2. その DASD 装置によって、無効なセンス情報が生成された。ハードウェア・サポートに連絡してください。
3. オペレーティング・システム・エラー記録プログラムが、レコードを誤って作成した。

システムの処置: 処理を続行します。このレコードを報告書に組み込みます。

プログラマーの応答: 原因: その DASD 装置によって、無効なセンス情報が生成された場合。

処置: そのエラーが起こった場所を判別するためにフィールド・サポートに連絡してください。

原因: オペレーティング・システムのエラー記録プログラムが、レコードを誤って作成した場合。

処置: IBM サポートに連絡して、その記録方式を制御するオペレーティング・システムの正しいレベルのコードを発注してください。

問題判別: 以下の資料を入手してください

- このメッセージに続くレコード。
- APAR/PTF を含む、システムの EREP のレベル。
- レコードを作成したシステムの ERP のレベル。

**IFC150I mmmmmmmmm RECORDS READ FROM INPUT
 SOURCE**

説明: EREP が報告書に用いるために読み取ったレコードの数を示しています。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

問題判別: なし。

**IFC152I mmmmmmmmm RECORDS FOUND WITH A
 ZERO VOLID**

説明: EREP が見つけた、000000 という連続ボリューム番号が入っているレコードの数を示します。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

問題判別: なし。

**IFC154I SORTBREAK FORCED DUE TO
 EXCESSIVE FAULT CODES**

説明: EREP が微候コード・テーブルの容量を超える数の、異なる障害微候コードを検出しました。

システムの処置: このチャンネル/コントロール・ユニットの DASD 装置要約は、2 つ (またはそれ以上) の報告書を含んでいます。

プログラマーの応答: 同じ問題が続いて起きる場合、領域/区画サイズまたは仮想マシンのストレージ・サイズを増やし、選択パラメーターを使用してデータの量を制限してください。

**IFC165I SORTBREAK FORCED DUE TO
 EXCESSIVE VOLIDS**

説明: EREP が、VOLID テーブルの容量を超える数の固有なボリューム ID を検出しました。

システムの処置: このチャンネル/制限装置の DASD 詳細要約は、2 つ (またはそれ以上) の報告書を含んでいます。

プログラマーの応答: 領域/区画サイズまたは仮想マシンのストレージ・サイズを増やしてください。問題が再発する場合は、選択パラメーターを使用してデータの量を制限してください。

IFC166I tttttttt TABLE FULL; INCREASE TABSIZE

説明: 指定されたテーブルに割り振られた領域がいっぱいです。 tttttttt は以下のいずれかになります。

DASDID
 LIMIT
 SHARE
 CONTROLLER
 SUMM

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: TABSIZE 値を増やし、必要に応じて、領域/区画サイズまたは仮想マシンのストレージ・サイズも増やしてください。その上で、ジョブを再実行してください。

**IFC167I CUA RANGE IS INVALID ON A
SHARE/CONTROLLER CARD**

説明: SHARE または CONTROLLER ステートメントに指定された範囲が、32 アドレス制限を超えているか、または無効なコントロール・ユニット境界にまたがっています。例えば、SHARE=(...130-14F) の範囲が奇数の CUA から偶数の CUA にまたがっている場合、これは無効になります。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: SHARE/CONTROLLER ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**IFC168I CUA OVERLAPS WITH ANOTHER
SHARE/CONTROLLER ENTRY**

説明: SHARE または CONTROLLER ステートメントのアドレス範囲が、別の SHARE または CONTROLLER ステートメント範囲と重なっています。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: SHARE または CONTROLLER ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**IFC169I *nnnn* RECORDS NOT USED BY
modulename FOR THIS CUX**

説明: 保守装置コードの作成に使用されたレコード数が、このチャネル/コントロール・ユニットの示されたレコード数と一致していない理由を示します。すべての MDR および OBR レコードが EREP に渡されますが、特定の障害徴候コードを持つ OBR レコードだけがデータ削除報告書に使用されます。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IFC170I GETVCE FAILURE. LOGICAL UNIT
SYSxxx**

説明: 装置特性 get-device-characteristics SVC が失敗しました。SYSxxx をオープンするために必要な装置タイプが使用できません。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: // ASSGN ステートメントを訂正または追加して、適切な論理装置を割り当ててください。

IFC171I INVALID DEVICE TYPE SYSxxx

説明: 論理装置 SYSxxx に割り当てられた装置は、実行が必須の処理タイプには無効です。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: SYSxxx について // ASSGN ステートメントを訂正してください。

**IFC172I SEGMENTED RECORD INCOMPLETE
(24-byte header)**

説明: SYSREC の論理レコードのセグメントが、欠けているかまたは間違っています。レコードの先頭の 24 バイトがメッセージに示されています。

システムの処置: レコードのセグメントは必ずしもすべて処理されません。該当のセグメントがフレームまたは SYSREC に属している場合には、フレーム・セット全体が削除されます。したがって、MCH および CCH レコードの一部は処理されないこともあります。

プログラマーの応答: 続いて読み取りエラー・メッセージが出るかどうか調べてください。IJSYSRC の割り振りと初期設定のやり直しが必要かもしれません。エラー記録一時ルーチンの実行に誤りがあることもあります。弊社にプログラミング・サポートを依頼してください。

**IFC173I ERROR READING SYSREC, RECORD
SKIPPED**

説明: SYSREC で読み取りエラーが起きました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: SET RF=CREATE IPL コマンドを用いて、IJSYSRC の割り振りと SYSREC の初期設定をし直してください。

**IFC174I *nnnn* RECORDS WITH SENSE BYTES 3 &
4 EQUAL TO SENSE BYTES 8 & 9**

説明: 障害徴候コード 191A を持つ OBR レコードは、センス・バイト 3 と 4 がセンス・バイト 8 と 9 と同じであってはなりません。これらのセンス・バイトが等しくなっているレコード数が、このメッセージに示されています。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、レコードは保守装置コードの判別には使用しません。

プログラマーの応答: ハードウェアの問題です。貴社の CE または保守作業員に連絡してください。

**IFC175I *logical unit* OPEN REQUESTED, ALREADY
OPEN**

説明: すでにオープンしているデータ・セットに対し、2 度目のオープンが要求されました。

システムの処置: 要求は無視されます。以後の入力を処理しません。

プログラマーの応答: システム制御が正しいかどうかを確認して、ジョブを再実行してください。問題が解消されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

IFC176I *logical unit* FAILED TO OPEN

説明: 指定のデータ・セットはオープンできませんでした。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: 指定のデータ・セットに関する // ASSGN ステートメントを追加または訂正し、ジョブを実行し直してください。

IFC177I *logical unit* NOT OPEN WHEN
 {READ|WRITE} REQUESTED

説明: 書き込みまたは読み取りを要求したとき、指定されたデータ・セットがオープンしていませんでした。

システムの処置: 要求は無視されます。以後の入力を処理しません。

プログラマーの応答: システム制御が正しいかどうかを確認して、ジョブを再実行してください。問題が解消されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

IFC178I RECORDS IGNORED; *logical unit* READ
 DIRECT ERROR

説明: 指定されたデータ・セットで永続入出力エラーが起きました。EREP は 1 つまたは複数のレコードを無視しました。システムの処置: 処理を続行します。エラーの原因となった物理レコードは無視されます。

プログラマーの応答: データ・セットが入っているボリュームを別の装置に移すか、またはデータ・セットを別のボリュームに移して、問題がハードウェアの誤動作に起因するものかどうかを判別してください。メッセージが繰り返されない場合には、使用したもとの装置 (またはボリューム) でのハードウェア・エラーと思われる。エラーが続く場合は、エラーが起きたデータ・セットのダンプを取るためにユーティリティを実行してください。SYSREC でエラーが起きた場合には、再 IPL を行い、SET RF=CREATE を出して、データ・セットを再初期設定してください。

重要: エラーを突き止めるためボリュームの移動は 1 回だけにしてください。ディスク・バックをむやみに取り付けたら、はずしたりすると、バックや駆動機構の損傷を招くことがあります。

IFC179I *logical unit* CLOSE REQUESTED, *logical unit*
 NOT OPEN

説明: クローズを要求されたとき、指定されたデータ・セットはオープンしていませんでした。

システムの処置: 要求は無視されます。

プログラマーの応答: システム制御が正しいかどうかを確認して、ジョブを再実行してください。問題が解消されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

IFC180I SYSREC HEADER CANNOT BE READ

説明: EREP には SYSREC のヘッダー・レコードが読み取れません。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: SYSREC のダンプを取るためのユーティリティを実行してください。そして、IPL をし直し、SET RF=CREATE を用いてシステム記録ファイル (SYSREC) を初期設定し直してください。

IFC181I SYSREC HEADER CHECK BYTE
 INCORRECT

説明: SYSREC のヘッダー・レコードの妥当性検査でエラーが見つかりました。

システムの処置: EREP プログラムを終了します。

プログラマーの応答: SYSREC のダンプを取るためのユーティリティを実行してください。そして、IPL をし直し、SET RF=CREATE を用いてシステム記録ファイル (SYSREC) を初期設定し直してください。

IFC182I RECORDS IGNORED, INSUFFICIENT
 SPACE ON SYS001

説明: SYS001 に割り振られているスペースは、入力レコードをすべて処理するには不十分です。このメッセージに続いて、メッセージ IFC183I が出ます。

システムの処置: 処理を続行します。SYS001 への書き込みが不可能になる前に読み取られたレコードだけが、報告書出力に含められます。EREP は、報告書用のレコードの読み取りをそれ以上行いません。

プログラマーの応答: SYS001 に割り振るスペースを増やし、ジョブを実行し直してください。

IFC183I LAST RECORD PROCESSED WAS *text*
 data ...

説明: これは IFC182I のあとに出るメッセージで、SYS001 のスペースがなくなる前に処理された最後のレコードの始めの 40 バイトを 16 進数で示します。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

IFC184I RECORDER FILE HEADER CANNOT BE
 RESET

説明: 訂正不能出力エラーのために、SYSREC のヘッダー・レコードをリセットすることができません。

システムの処置: プログラムは正常に終了します。

プログラマーの応答: 再 IPL を行い、SYSREC を再初期設定するために SET RF=CREATE を出してください。

IFC185I GETVIS FAILED FOR ##### TABLE

説明: パラメーター TABSIZE に示された値について GETVIS が出されましたが、区画の GETVIS 域が小さすぎます。##### は、以下のいずれかになります。

DASDID

LIMIT

SHARE

SORT

SUMM

ALIAS LIST

CI BUFFER

HEADER BUFFER

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: 区画サイズを増やすために、// EXEC ステートメントの SIZE パラメーターを変更して、ジョブを再実行してください。

**IFC186I nnnnnn RECORDS IGNORED BECAUSE
OF UNKNOWN TYPE**

説明: EREP が、サポートされていない装置から、送られてきたレコードを、見つけました。

システムの処置: 該当のレコードを無視し、報告書では使いません。

プログラマーの応答: 出力データ・セットをダンプするユーティリティを実行し、未定義のレコードの有無を検査してください。

**IFC187I nnnnnn RCDS IGNORED BECAUSE
SYS001 READ ERRORS**

説明: このメッセージは、SYS001 のデータ・セットの読み取り中に入出力エラーが起きたため、EREP が処理できなかったレコードの数を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が再発する場合、そのデータ・セットが入っている直接アクセス装置を検査してください。

**IFC188I UNABLE TO FIND MODULE SPECIFIED
BY USERPGM**

説明: EREP で、USERPGM パラメーターにより要求されたプログラムが見つかりませんでした。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: 要求されたユーザー・プログラムが正しく、またそれがコア・イメージ・ライブラリーに入っていることを確かめてください。

IFC189I SYNTAX ERROR AT *

説明: このメッセージの上にある EREP 制御ステートメントに構文エラーがあります。エラーがあるのは、アスタリスクの上のキーワードまたはオペランドです。このメッセージはまた、DEV パラメーターに EREP が確認しない装置を含む場合にも出されます。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: パラメーターを訂正して、再びジョブ・ステップを再実行してください。

IFC190I DUPLICATION AT *

説明: このメッセージの上にある EREP 制御ステートメントに重複するキーワードまたはオペランドがあります。重複はアスタリスクの上の個所に生じています。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: 重複するキーワードまたはオペランドを片方削除し、ジョブ・ステップを再実行してください。

IFC191I PARAMETER CONFLICTS - parameter text

説明: EREP 制御ステートメントの中に、互いに同時に指定できないパラメーターが含まれています。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: 矛盾するパラメーターを取り除き、このジョブ・ステップを再実行してください。

**IFC192I PROCESSING TERMINATED, logical unit
{READ|WRITE} ERROR**

説明: 指定されたデータ・セットで永続入出力エラーが起きました。

システムの処置: ジョブ・ステップを打ち切ります。SYSREC は消去されません。

プログラマーの応答: データ・セットが入っているボリュームを別の装置に移すか、またはデータ・セットを別のボリュームに移して、問題がハードウェアの誤動作に起因するものかどうかを判別してください。メッセージが繰り返されない場合には、使用したもとの装置 (またはボリューム) でのハードウェア・エラーと思われる。エラーが続く場合は、エラーが起きたデータ・セットのダンプを取るためにユーティリティを実行してください。SYSREC でエラーが起きた場合には、再 IPL を行い、SET RF=CREATE を出して、データ・セットを再初期設定してください。

重要: エラーを突き止めるためボリュームの移動は 1 回だけにしてください。ディスク・バックをむやみに取り付けたり、はずしたりすると、バックや駆動機構の損傷を招くことがあります。

**IFC193I FRAME LOST WHILE WRITING TO
SYS009**

説明: フレーム・レコードを SYS009 データ・セットに書き込んでいる際に、EREP がエラーを見つけました。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。同じ問題が再発する場合には、データ・セットが入っている駆動機構をチェックしてください。

**IFC194I {MCF|CCF} FRAME xx MISSING FOR
MOD yyyy SERIAL zzzzzz**

説明: EREP は、予期されたフレーム・レコードを見つけませんでした。

システムの処置: 処理を続けます。データ・レコードの一部は編集されません。報告書出力に追加メッセージが出されることもあります。

プログラマーの応答: メッセージに示された通し番号を持つ処理装置のレコーダー・ファイル (SYSREC) を再初期設定してください。EREP パラメーターの MERGE を指定して、その CPU でジョブを再実行してください。

IFC195I SCAN ERROR CODE AT ***

説明: フレーム・レコード中に、処理活動の定義されていないスキャン・コマンドが見つかりました。

システムの処置: 処理を続け、このフレームを SYSLST に 16 進数形式でダンプします。通常の印刷行の中で、フレーム内のエラー発生個所に相当する位置に「***」が現れます。

プログラマーの応答: SYSREC を初期設定し直し、MERGE パラメーターを用いてジョブを再実行してください。

問題判別: 関連出力はすべて保存してください。

IFC196I FRAME SET MISSING *yyyy zzzzzz*

説明: EREP が、モデル *yyyy*、通し番号 *zzzzzz* の処理装置でフレームが欠けているを見つけました。

システムの処置: この処理装置の MCH レコードと CCH レコードは、編集に必要なフレーム・セットが欠けているために、正しく編集されません。

プログラマーの応答: SYSREC が入力データ・セットの場合には、必要なすべてのフレームが存在するかどうかを確認するためにデータ・セットを再初期設定してください。

**IFC197I NO FRAMES AVAILABLE {MCH|CCH}
MOD *yyyy* SERIAL *zzzzzz***

説明: EREP は、このモデルおよび通し番号を持つ MCH または CCH レコードの処理に必要なフレームを見つけることができませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。エラー・レコードを編集しないか、または同じモデル番号についてのみフレームの編集を行います。

プログラマーの応答: SYSREC を再初期設定し、MERGE パラメーターを使用してジョブを再実行してください。

**IFC198I LOG ERR {MCF|CCF} FRAME *xx* MOD
yyyy SERIAL *zzzzzz***

説明: EREP が、フレーム中に無効なログ・タイプのスキャン・コードを見つけました。

システムの処置: このフレームを使用しません。エラー・レコードの一部は編集せずに、処理を続行します。

プログラマーの応答: SYSREC を再初期設定し、MERGE パラメーターを使用してジョブを再実行してください。

IFC199I *nnnnnn* DIRECT READ FAILURES

説明: EREP は、SYS001 の読み取り中に、*nnnnnn* 個のレコードを失いました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が再発する場合、そのデータ・セットが入っている直接アクセス装置を検査してください。

**IFC200I NUMBER OF BYTES REPORTED DIFFERS
FROM RECORD COUNT**

説明: センス・バイトまたは統計データのバイトの予測数が、装置によって記録されたセンス・バイト数または OBR レコードに指定されたセンス・バイト数と違っています。EREP は装置の EREP サポートに対する本来の技術要求に従って、センス・バイトを形式化します。

システムの処置: なし。EREP は、レコード中で予期されたセンス・バイト数を形式化しました。

プログラマーの応答: このメッセージは、以下の 2 つの場合に、報告書の出力に現れることがあります。

1. 形式化されたセンス・バイトの数が、装置が実際に OBR レコードに記録したバイトの合計数より少ない場合。この場合は単なる通知メッセージで、不定形式のセンス・バイトは EREP 報告書に影響を及ぼしません。

または

2. 形式化されたセンス・バイトの数が、装置が実際に OBR レコードに記録したバイトの合計数より多い場合。これはバイトのカウンタ数 (統計またはセンス) の記録にエラーがあることを意味します。この場合、メッセージは問題の発生を示します。

2 のケースに該当すると考えられる場合には、入出力装置およびシステムの記録処理の両方に重点を置いて、問題判別を行ってください。

**IFC201I *nnnn* RECORDS IGNORED DUE TO
MORE THAN *nm* CPUs**

説明: EREP は、入力データに 16 を超える固有の CPU を検出しました。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: CPU の数が実際のシステム・イメージ数になるように SYSIMG 制御ステートメントをコーディングして、ジョブを再実行してください。

CPU がまだ多すぎる場合には、SYSIMG 制御ステートメントに加えて CPU あるいは MOD 選択パラメーターをコーディングする必要があります。これにより、レコードを処理するプロセッサの数が制限されます。

**IFC203I *nnnn* RECORDS IGNORED DUE TO
STORAGE DIRECTOR ID = ZERO**

説明: 無効なストレージ・ディレクター ID を含んでいたために EREP で使用できなかったレコードの数を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。

**IFC204I // ASSGN FOR LOGICAL UNIT SYS*nnn*
MISSING OR INVALID**

説明: SYS*nnn* をオープンするために必要な装置タイプが使用できません。

システムの処置: このジョブ・ステップを打ち切ります。

プログラマーの応答: // ASSGN ステートメントを訂正または追加して、適切な論理装置を割り当ててください。

**IFC210I INVALID REQUEST CODE *xx* MOD *yyyy*
SER *zzzzzz***

説明: EREP が、303X MCH または CCH 詳細要約に関連する無効な要求を受け取りました。

システムの処置: 要求は処理されません。

プログラマーの応答: ソフトウェアまたはハードウェアのエラーと考えられます。ジョブを再実行してください。エラーが解決されない場合は、「EREP User's Guide」を調べてください。

**IFC211I FRAME GROUP USED: *xx* MOD *yyyy* SER
*zzzzzz***

説明: EREP は、先行メッセージで識別されたグループの代わりに、フレーム・グループ *xx* を使用中です。

システムの処置: EREP は、フレーム・グループ *xx* を使用して、303X MCH/CCH 詳細要約の処理を続けます。

プログラマーの応答: PARM='FRAMES' を指定した IFCDIP00、SET RF=CREATE または CLEARF を指定した CPEREP で ERDS を再初期設定してから、MERGE パラメーターを使用してジョブを再実行してください。

**IFC212I INVALID MODEL TYPE *yyyy*: SUMMARY
MODULE NOT LOADED**

説明: 3031、3032 または 3033 以外の処理装置についてのフレーム処理が要求されました。
システムの処置: このレコードを詳細要約に入れません。
プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。エラーが解決されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。レコード中のモデル・タイプがメッセージに示されたものと同じである場合、CCH/MCH 詳細編集機能を実行して、レコードの 16 進ダンプを出してください。

IFC213I TABLE OVERFLOW. MOD *yyyy* SER *zzzzzz*

説明: 303X 詳細要約に使用するフレーム・セットに、要約テーブルの許容限度を上回る 2 進エラーがあります。
システムの処置: EREP は、メッセージ IFC220I を出し、要約を打ち切ります。
プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。エラーが解決されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。
問題判別: 入力データ・セットのダンプを取得してください。レコード中のモデル・タイプがメッセージに示されたものと同じである場合、CCH/MCH 詳細編集機能を実行して、レコードの 16 進ダンプを出してください。

**IFC214I CANNOT PROCESS RECORD: TYPE OR
LOGOUT LENGTH INVALID**

説明: EREP は、ログアウト長フィールドが 0 の MCH または CCH レコード、あるいは非 IBM システムが、MVS、VM、VSE 以外のシステムにより生成された CCH レコードを検出しました。
システムの処置: このレコードを要約に入れません。
プログラマーの応答: 入力レコードを検査し、ジョブを再実行してください。エラーが解決されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

**IFC215I FRAME READ ERROR: MOD *yyyy* SER
*zzzzzz***

説明: 入出力エラーのため、EREP の入出力ハンドラーがフレーム・レコードを読み取ることができませんでした。
システムの処置: 次のレコードで処理を続けます。
プログラマーの応答: 可能であれば、入力ボリュームを別の駆動機構に再取り付けて、ジョブを再実行してください。エラーが解決されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

**IFC216I UNIDENTIFIED FRAME TYPE *xx*: MOD
yyyy SER *zzzzzz***

説明: 303X 詳細要約の処理中に、EREP が、予期された MCF または CCF 以外のフレーム・レコード・タイプを見つけました。
システムの処置: 処理を続けますが、このレコードは使用しません。
プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。エラーが解決されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

IFC217I 303X LOAD LIST IS FULL

説明: EREP が、要約テーブル・モジュール内の 303X ロード・リストがすでにいっぱいになっていることを見つけました。
システムの処置: EREP は要約処理を打ち切ります。
プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。エラーが解決されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

**IFC218I 303X DEFAULT SUMMARY TABLE
MODULE *mmmmmmmmmm* USED**

説明: EREP は、前に出された IFC219I メッセージで示された、欠けている要約モジュールの代わりに、デフォルトのモジュール *mmmmmmmmmm* を使用しました。
システムの処置: EREP は、このメッセージに示されているデフォルトの要約テーブル・モジュール名を使用して、要約処理を続けます。
プログラマーの応答: システムに EREP の最新リリースがインストールされているかどうかを確認し、ジョブを再実行してください。エラーが解決されない場合は、「*EREP User's Guide*」を調べてください。

**IFC219I 303X SUMMARY MODULE *mmmmmmmmmm*
NOT FOUND**

説明: EREP は、選択された *mmmmmmmmmm* 要約モジュールを見つけることができませんでした。
システムの処置: EREP は、このレコードを要約から除外して、メッセージ IFC218I に示されたデフォルトの要約モジュールを使用して、要約処理を続けます。デフォルトの要約テーブル・モジュールがない場合は、EREP は、要約処理を打ち切り、メッセージ IFC220I を出します。
プログラマーの応答: このメッセージの直後にメッセージ IFC218I が出された場合には、そのメッセージの「プログラマーの応答」の項目を参照してください。直後に IFC220I が出された場合には、正しいレベルの EREP がインストールされていない可能性があります。ソフトウェア・サポート担当員とともに検査してください。

**IFC220I SEVERE ERROR. SUMMARY
TERMINATED FOR THIS MODEL**

説明: このすぐ前のメッセージに示されたエラーが原因で、EREP は要約処理を打ち切りました。
システムの処置: EREP は要約処理を打ち切ります。

IFC221I • IFC232I

プログラマーの応答: この前のメッセージの「プログラマーの応答」の項を参照してください。

IFC221I NO SHARE CARD

説明: EREP が、入力の中に複数の処理装置用のレコードを見つけましたが、SHARE ステートメントがありません。

システムの処置: EREP は、処理を続けます。ただし、テープ装置の場合には、EREP が処理を進めるためにユーザーの意図している装置がどれであるかを判定する際に、その判定に誤りが生じることがあります。

プログラマーの応答: テープ装置の場合には SHARE ステートメントを入れてください。

IFC223I THRESHOLD TABLE ERROR

説明: (MVS、VM、および VSE) テーブルに、EREP が認識しない値またはその他のデータが含まれているか、EREP が期待しているデータが含まれていません。

システムの処置: EREP は、レコードの処理を停止します。

プログラマーの応答: テーブルが正しくないか、オーバーレイされたかのいずれかです。EREP の最新レベルをインストールし、可能なすべての APAR/PTF を適用してあることを確認してください。

テーブルが PTF により置き換えられている場合には、その PTF を除去し、ジョブを再実行してください。

この場合、ソフトウェア・サポート担当員に連絡してください。

IFC225I SCAN CODE ERROR xxxxxx, MOD yyyyy SER zzzzzz

説明: 303X MCH/CCH 詳細要約の処理中に、EREP がフレーム・レコードの中に無効なスキャン・コードを見つけました。

システムの処置: 処理を続行します。ただし、EREP は、該当のフレーム・コードで参照される標識は要約する代わりに、報告書中の該当個所に「***」を入れます。また、問題の詳細を示すために、メッセージ IFC226I を出します。

プログラマーの応答: 「EREP User's Guide」を調べてください。

IFC226I SUMMARY IN ERROR: FRAME TYPE {MCF|CCF} FRAME ID xx

説明: 前に出されたメッセージ IFC225I の補足です。

システムの処置: IFC225I を参照してください。

プログラマーの応答: IFC225I を参照してください。

IFC227I NO DASDID CARD FOR ENTRIES FLAGGED WITH *

説明: EREP は、DASDID ステートメントにない DASD 装置に対するレコードを検出しました。* が付いた項目が DASD サブシステム例外報告書に示されます。

システムの処置: EREP は、処理を続けます。ただし、障害装置の分析はおそらく間違っています。

プログラマーの応答: 物理 IDS を与えていない DASD の

DASDID ステートメントを組み込んでください。

IFC229I MODULE xxxxxxxx, RPA=xxxxxxx, REQUESTED AN UNSUPPORTED SERVICE FUNCTION; FRF=yyyyyyyyy, FCF=zzzzzzzz

説明: 上記のモジュールがサービス要求を出しましたが、機能要求フラグ (FRF) または機能制御フラグ (FCF) に無効な、またはサポートされていないコードが含まれています。

システムの処置: EREP は、要求を無視し、指定の戻り点アドレスで呼び出しモジュールに制御権を返します。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

プログラマーの応答: プロダクトの、プロダクト依存型出口モジュールまたはプロダクト制御テーブル (PCT) のどちらかに、エラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

問題判別: 出力はすべて、分析に備えて保存してください。

IFC230I UNABLE TO TRANSFER CONTROL TO {MOD=xxxxxxx| PROCxxxxxxx}; IFCXCST OVERFLOW - CRITICAL ERROR.

説明: 制御権移動スタック・テーブル、IFCXCST がいっぱいです。EREP は、要求された上記モジュールまたはプロシージャーに制御権を移動できません。

システムの処置: EREP は、要求を無視して制御権を呼び出しモジュールに返します。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

プログラマーの応答: 弊社のレベル 2 のサービスを依頼してください。

IFC231I UNABLE TO LOAD MODULE xxxxxxxx FOR MODULE yyyyyyyyy; LMAT OVERFLOW - CRITICAL ERROR

説明: IFCLOAD または IFCALL マクロを介して、EREP は、モジュール yyyyyyyyy のためにモジュール xxxxxxxx をロードしようとしたが、EREP は、ロード・モジュール・アドレス・テーブル (LMAT) が、いっぱいのため要求を満たすことができませんでした。

システムの処置: EREP は、要求を無視して制御権を呼び出しモジュールに返します。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

プログラマーの応答: 弊社のレベル 2 のサービスを依頼してください。

IFC232I UNABLE TO GET VIRTUAL STORAGE FOR MODULE xxxxxxxx; VSAT OVERFLOW - CRITICAL ERROR.

説明: 示されたモジュールは、IFCGETM マクロを介して仮想記憶を要求しました。EREP は、仮想記憶アドレス・テーブル (VSAT) がいっぱいのため要求を満たすことができませんでした。

システムの処置: EREP は、要求を無視して制御権を呼び出し

モジュールに戻します。レジスター 15 に戻りコードが入っています。

プログラマーの応答: 弊社のレベル 2 のサービスを依頼してください。

**IFC233I INVALID FUNCTION - STE BUILD
MODULE mmmmmmmmm**

説明: 示されたモジュールに対して、そのモジュールでは不可能な処理を要求しました。

システムの処置: 処理を続けます。EREP は、このレコードをシステム例外報告書に記録しません。

プログラマーの応答: プロダクトの、プロダクト依存型出口モジュールまたはプロダクト制御テーブル (PCT) のどちらかに、エラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

問題判別: 出力はすべて、分析に備えて保存してください。

IFC235I GETVIS FAILED FOR EVTABLE

説明: EREP は、イベント・ヒストリー報告書に必要な、有効な CPU 通し番号のテーブルのための仮想記憶を確保することができませんでした。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: 区画サイズを増やし、ジョブを再実行してください。

**IFC237I GETVIS FAILED FOR TREND TABLE
PART 1**

説明: EREP は、傾向分析報告書第 1 部の作成に必要なテーブルのための仮想記憶を確保することができませんでした。

システムの処置: レコードをこれ以上処理できません。EREP は、報告書の一部を作ります。

プログラマーの応答: 区画サイズを増やし、ジョブを再実行してください。

IFC239I GETVIS FAILED FOR PHYID TABLE

説明: EREP は、物理 ID のテーブルのための仮想記憶を確保することができませんでした。

システムの処置: 処理を続けます。このレコードは報告書から除外されます。

プログラマーの応答: 区画サイズを増やし、ジョブを再実行してください。

IFC241I GETVIS FAILED FOR ACLAS TABLE

説明: EREP は、システム要約および傾向分析報告書を作成するための、追加分類テーブルの仮想記憶を確保することができませんでした。

システムの処置: 処理を続けます。EREP は、このレコードの追加分類は行いません。

プログラマーの応答: 区画サイズを増やし、ジョブを再実行してください。

**IFC242I EXIT MOD mmmmmmmmm COULD NOT
OBTAIN ERROR CLASS**

説明: 示されたモジュールがこのレコード用のプロダクト依存型データの入ったプロダクト制御テーブル (PCT) をロードすることができなかった、または PCT に入っているはずのエラー・クラスが入っていなかったかのいずれかです。

システムの処置: 処理を続けます。このレコードは報告書から除外されます。

プログラマーの応答: プロダクトの、プロダクト依存型出口モジュールまたは PCT のどちらかに、エラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

**IFC243I EXIT MOD mmmmmmmmm COULD NOT
OBTAIN PHYSICAL ID**

説明: 示されたモジュールがこのレコード用のプロダクト依存型データの入ったプロダクト制御テーブル (PCT) をロードすることができなかった、または PCT に入っているはずの物理 ID が入っていなかったかのいずれかです。

システムの処置: 処理を続けます。このレコードは報告書から除外されます。

プログラマーの応答: プロダクトの、プロダクト依存型出口モジュールまたは PCT のどちらかに、エラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

**IFC244I EXIT MOD mmmmmmmmm COULD NOT
OBTAIN VOLID**

説明: 示されたモジュールがこのレコード用のプロダクト依存型データの入ったプロダクト制御テーブル (PCT) をロードすることができなかった、または PCT に入っているはずのボリューム通し番号が入っていなかったかのいずれかです。

システムの処置: 処理を続けます。このレコードは報告書から除外されます。

プログラマーの応答: プロダクトの、プロダクト依存型出口モジュールまたは PCT のどちらかに、エラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

**IFC245I EXIT MOD mmmmmmmmm COULD NOT
OBTAIN SYMCDE**

説明: 示されたモジュールがこのレコード用のプロダクト依存型データの入ったプロダクト制御テーブル (PCT) をロードすることができなかった、または PCT に入っているはずの徴候コードが入っていなかったかのいずれかです。

システムの処置: 処理を続けます。このレコードは報告書から除外されます。

プログラマーの応答: プロダクトの、プロダクト依存型出口モジュールまたは PCT のどちらかに、エラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC246I EXIT MOD *mmmmmmmmmm* COULD NOT OBTAIN TERMINAL NAME

説明: 示されたモジュールがこのレコード用のプロダクト依存型データの入ったプロダクト制御テーブル (PCT) をロードすることができなかった、または PCT に入っているはずの端末名が入っていなかったかのいずれかです。

システムの処置: 処理を続けます。このレコードは報告書から除外されます。

プログラマーの応答: プロダクトの、プロダクト依存型出口モジュールまたは PCT のどちらかに、エラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC247I EXIT MOD *mmmmmmmmmm* COULD NOT OBTAIN LIA/LIBADR

説明: 示されたモジュールがこのレコード用のプロダクト依存型データの入ったプロダクト制御テーブル (PCT) をロードすることができなかった、または PCT に入っているはずの回線インターフェースが入っていなかったかのいずれかです。

システムの処置: 処理を続けます。このレコードは報告書から除外されます。

プログラマーの応答: プロダクトの、プロダクト依存型出口モジュールまたは PCT のどちらかに、エラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC250I EXIT MOD *mmmmmmmmmm* COULD NOT OBTAIN SFT DATA

説明: 示されたモジュールは、イベント・ヒストリー報告書用のプロダクト依存型のデータを提供します。モジュールは、ソフトウェア (SFT) レコード用のデータを見つけることができませんでした。

システムの処置: 処理を続けます。ただし、このレコードの項目には、プロダクト依存型データは含まれません。

プログラマーの応答: プロダクトの出口モジュールまたはプロダクト制御テーブル (PCT) のどちらかにエラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC251I EXIT MOD *mmmmmmmmmm* COULD NOT OBTAIN OBR DATA

説明:

- 示されたモジュールは、イベント・ヒストリー報告書用のプロダクト依存型のデータを提供します。OBR レコード用のデータを見つけることができませんでした。
- 示された出口モジュールがエラーを検出したか、またはプロダクトのプロダクト制御テーブル (PCT) にエラーがあります。

システムの処置: 処理を続けます。ただし、このレコードの項目には、プロダクト依存型データは含まれません。

プログラマーの応答: プロダクトの出口モジュールまたはプロダクト制御テーブル (PCT) のどちらかにエラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC252I EXIT MOD *mmmmmmmmmm* COULD NOT OBTAIN CCH DATA

説明: 示されたモジュールは、イベント・ヒストリー報告書用のプロダクト依存型のデータを提供します。モジュールは、この CCH レコード用のデータを見つけることができませんでした。

システムの処置: 処理を続けます。ただし、このレコードの項目には、プロダクト依存型データは含まれません。

プログラマーの応答: プロダクトの出口モジュールまたはプロダクト制御テーブル (PCT) のどちらかにエラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC253I EXIT MOD *mmmmmmmmmm* COULD NOT OBTAIN MDRDASD DATA

説明: 示されたモジュールは、イベント・ヒストリー報告書用のプロダクト依存型のデータを提供します。モジュールは、この MDR レコード用の DASD 特定データを見つけることができませんでした。

システムの処置: 処理を続けます。ただし、このレコードの項目には、プロダクト依存型データは含まれません。

プログラマーの応答: プロダクトの出口モジュールまたはプロダクト制御テーブル (PCT) のどちらかにエラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC256I UNABLE TO LOAD MODULE *xxxxxxx* FOR MODULE IFCZIMGR

説明: EREP 実行の初期設定中ですが、上記のサービス・モジュールが見つからないか、またはロードできません。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: 初期設定中に探索しているライブラリーに上記のモジュールが組み込まれていることを確認し、EREP の実行をもう一度試みてください。

IFC257I UNABLE TO INITIALIZE IFCZIMGR FOR *mmmmmmmmmm*

説明: EREP は、表示されたモジュール用の EREP のシステム・インターフェース・マネージャー (IFCZIMGR) を初期設定することができませんでした。必要なサービス・モジュールをロードできなかったか、または TOURIST/SYSLST データ・セットをオープンできなかったかのいずれかです。理由はこの前に出されたメッセージに示されています。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: 前に出されたメッセージに示されている推奨処置を行い、再実行してください。

IFC258I EXIT MOD *mmmmmmmmmm* COULD NOT FORMAT REPORT FOR *ssrr*

説明:

- 示されたモジュールは、プロダクト依存型の詳細要約報告書を作成します。この SCP (*ss*) またはレコード・タイプ (*rr*) の報告書を作成することができません。

- レコード・タイプはレコードのバイト 0 です。各レコード・タイプの説明については、「*EREP User's Guide*」を参照してください。
- SCP はレコードのバイト 1 で、以下のいずれかになります。
 - VM
 - VE (VSE)
 - V2 (MVS)
- 示された出口モジュールがエラーを検出したか、またはプロダクトのプロダクト制御テーブル (PCT) にエラーがあります。

システムの処置: 処理を続けます。ただし SCP およびレコード・タイプの詳細要約報告書は作成されません。

プログラマーの応答: モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC259I EXIT MOD *xxxxxxxxxxxx* COULD NOT OBTAIN DATA FOR *ssrr*

説明:

- 示されたモジュールは、イベント・ヒストリー報告書用のプロダクト依存型のデータを提供します。この SCP (*ss*) またはレコード・タイプ (*rr*) のデータを取得することができません。
- レコード・タイプはレコードのバイト 0 です。各レコード・タイプの説明については、「*EREP User's Guide*」を参照してください。
- SCP はレコードのバイト 1 で、以下のいずれかになります。
 - VM
 - VE (VSE)
 - V2 (MVS)
- 示された出口モジュールがエラーを検出したか、またはプロダクトのプロダクト制御テーブル (PCT) にエラーがあります。

システムの処置: 処理を続けます。ただし、このレコードの項目には、プロダクト依存型データは含まれません。

プログラマーの応答: モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC260I USER EXIT MOD *xxxxxxxxxxxx* COULD NOT BE LOADED FOR EREP

説明: 示されたモジュールは、イベント・ヒストリー報告書用のプロダクト依存型のデータを提供します。EREP はこのモジュールをロードできませんでした。

システムの処置: 処理を続けます。ただし、このレコードの項目には、プロダクト依存型データは含まれません。

プログラマーの応答: プロダクトのプロダクト制御テーブル (PCT) にエラーがあります。モジュール名に含まれる各プロダクトに、EREP サポートがインストールされているかどうかを確認してください。

IFC261I SYSIMG STATEMENTS IGNORED WHEN PRINT=PT REQUESTED

説明: PRINT=PT を要求するときは、SYSIMG 制御ステートメントはコーディングしてはなりません。

システムの処置: 処理を続行します。SYSIMG 制御ステートメントは無視されます。

プログラマーの応答: なし。

IFC262I SYSTEM IMAGE STATEMENTS ALTERED CPU SERIAL NUMBERS

説明: 報告書の最後にある CPU テーブル中の CPU 識別番号は SYSIMG 制御ステートメントで情報が指定されたので、1 桁目または 2 桁目に変更されました。

システムの処置: なし。

プログラマーの応答: なし。

IFC263I TABSIZE REQUEST EXCEEDS MAXIMUM ALLOWED VALUE

説明: TABSIZE 要求は EREP のアドレッシング能力を超えています。

システムの処置: EREP を終了します。

プログラマーの応答: TABSIZE の指定値をより小さくして、ジョブを再実行してください。許可される値については、「*EREP User's Guide*」を参照してください。

IFC264I UNABLE TO IDENTIFY DASD DEVICE WITH {OBR|MDR} CODE {xxxx|xx} IN RECORD

説明: 後に続くレコードは、レコード中に一致しない OBR または MDR コードを検出したという情報を含んでいます。装置タイプ・コードについては、「*EREP User's Guide*」で説明されています。

このメッセージは以下の 1 つによって起こります。

1. その DASD 装置によって、無効なセンス情報が生成された。
2. オペレーティング・システムが間違っレコードを生成した。
3. 下記の理由により、オペレーティング・システム (エラー・リカバリー手順) が正しくないレコードを構築した。
 - a. (ERP) がそのレコードを生成するまで、その DASD 装置はオンラインにならなかったことがない。
 - b. DASD 装置は、レコードを生成した ERP のレベルではサポートされていない。
4. レコードが IBM 以外の DASD のレコードである。
5. DASD 装置が、報告書を生成した EREP のレベルではサポートされていない。

システムの処置: 処理は続行するが、装置依存型の情報はレコードに印刷されません。

プログラマーの応答:

原因 アクション

1 または 2

そのエラーが起きた場所を判別するためにフィールド・サポートに連絡を取ってください。

IFC265I • IFC266I

3a オフライン装置をオンラインにしてからオフラインに戻すと、問題が解決されます。

5 IBM サポートに連絡して、その装置の適切なレベルのコードを導入するように教えてください。

2 または 3b (369 ページ)

IBM サポートに連絡して、その記録方式を制御するオペレーティング・システムの正しいレベルのコードを導入するように教えてください。

問題判別: 以下の資料を入手してください

- このメッセージに続くレコード。
- APAR/PTF を含む、システムの EREP のレベル。
- レコードを作成したシステムの ERP のレベル。

システムの処置: EREP は、要求を無視して制御権を呼び出しモジュールに戻します。

プログラマーの応答: 区画サイズを増やし、ジョブを再実行してください。

IFC265I INVALID SENSE FOR DASD DEVICE TYPE xxxx

説明: 次のレコードには、装置タイプ・コードで示された矛盾するセンス情報が含まれています。

このメッセージは以下の 1 つによって起こります。

1. レコードが IBM 以外の DASD のレコードである。
2. オペレーティング・システムのエラー・リカバリー・プロセスジャー (ERP) が以下の原因で正しくないレコードを生成した。
 - a. DASD 装置が、オンラインになる前に ERP がレコードを生成した。
 - b. DASD 装置は、レコードを生成した ERP のレベルではサポートされていない。
3. DASD 装置が、報告書を生成した EREP のレベルではサポートされていない。
4. その DASD 装置によって、無効なセンス情報が生成された。
5. メッセージに示される装置タイプが間違っている。 EREP は、1 から 4 の理由で間違っ装置を識別した。

システムの処置: 処理は続行するが、装置依存型の情報はレコードに印刷されません。

プログラマーの応答: エラーの原因が理由 1、2、または 3 (DASD 装置が、報告書を生成した EREP のレベルではサポートされていない) のいずれでもない場合、フィールド・サポートに連絡し、エラーが起きた場所を突き止めてください。理由 2a は、オフライン装置をオンラインにしてからオフラインに戻すと、問題が解決されます。理由 2b と 3 は、適切なレベルのコードのインストールにより、問題が解決されます。

問題判別: 以下の資料を入手してください

- このメッセージに続くレコード。
- APAR/PTF を含む、システムの EREP のレベル。
- レコードを作成したシステムの ERP のレベル。

IFC266I UNABLE TO OBTAIN VIRTUAL STORAGE FOR MODULE "mmmmmmmmmm", GETVIS FAILURE, SIZE=' 'X.

説明: このエラー・メッセージは、モジュール mmmmmmmmm のための仮想記憶要求が出されたけれども、要求を満たすだけの十分な GETVIS ストレージが残っていなかったため、この要求が引き受けられなかったことを示します。

第 13 章 VSAM 診断ツール用 IKQ 接頭部メッセージ

このセクションでは、IKQVCHK (Catalog Checker) に加えて、IKQVPRED (Compression Compression Space Prediction) および IKQVEDA (VSAM SNAP トレース) のメッセージについて説明します。

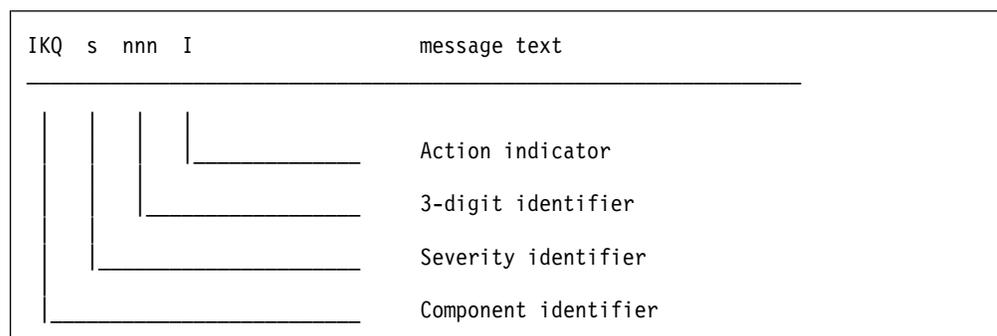


図 1. VSAM 診断ツール・メッセージの形式

重大度 ID

これは以下のいずれかです。

- 0 = 通知 - 実行に影響を及ぼさない。
- 4 = 打ち切りエラー - 正常な実行が不可能

3 桁のメッセージ番号

重大度 ID に加えてこの番号を用いて、このセクションの中でメッセージを探し当ててください。

処置標識

I は通知メッセージを示しています。カタログ検査メッセージの場合、システム・オペレーターとの間での連絡はありません。これらのメッセージはオペレーター・コンソールに印刷されないため「オペレーター処置」がありません。この項目はこれらのメッセージの説明からは除かれています。

カタログ・エラーは、大部分のユーザーが触れることのない、内部カタログ・レコード、データ、および制御ブロックを含んでいるので、その性質上理解するのがむずかしいものです。問題分析で役立つようにするためには、メッセージとその原因に関する記述が、具体的なものでなければなりません。しかし、各メッセージに関連したプログラマーの処置には、エラー条件についての完全な知識が必要とされるわけではありません。

多くのメッセージには、1 つまたは複数の 512 バイトのカタログ・レコードのダンプが続いています。メッセージのプログラマーの処置を実施するのに、そのダンプ

の意味を理解する必要はありません。しかし問題解決の助けとして、そのダンプを IBM プログラミング・サポートに提供する必要があります。

カタログ検査はまた、検出したカタログ・レコードの種々のタイプのリストを作成します。必要な場合、ユーザーはこのリストも IBM プログラミング・サポートに提供してください。このリストは、カタログ検査が異常終了 (重大度 4 のメッセージで示される) した場合には作成されません。

カタログ検査リカバリー手順

いくつかのカタログ検査サービス補助プログラム・メッセージ (IKQnnnnI) では、損傷のあるレコードを VSAM カタログから除去するために、以下のリカバリー手順が推奨されています。

リカバリー手順 A - ボリューム・レコード

ASSOCIATED HKR RECORD FOLLOWS サブメッセージ (IKQnnnnI メッセージに続く) の NAME= フィールドは、カタログから除去し、再作成すべきボリューム・レコードを識別しています。エラーを正すために、以下のステップを踏んでください。

1. カタログ・ボリューム、NAME= によって識別されているボリューム、および (マルチボリューム・ファイルの場合は) NAME= ボリュームに常駐しているオブジェクトの一部を含んでいる他のボリュームのバックアップを取るために、VSE ディスク高速コピー・ユーティリティー・プログラムを使用してください。ディスク高速コピーの詳細については、「z/VSE System Utilities」を参照してください。
2. 損傷を受けたボリューム・レコードをカタログから除去する前に、そのボリューム上にデータを持っているファイルを削除しなければなりません。LISTCAT コマンドを実行して、どのファイルがそのボリューム上にスペースを所有しているかを判別してください。これらのファイルについての受け入れられるバックアップ・コピーがなく、それらの内容を保管しておきたいならば、BACKUP または REPRO を実行してください。バックアップされているクラスターに関連した代替索引を自動的に保管するので、BACKUP コマンドの方が推奨されています。(REPRO を用いた場合には、リストア時にこれらの AIX を再構築しなければなりません。)

それから、そのボリューム上でスペースを所有している各ファイルに対して DELETE コマンドを出します。(そのファイルに関連している AIX およびパスは、自動的に削除されます。)

3. カタログから損傷を受けたボリューム・レコード (NAME= によって識別されている) を除去するには、DELETE SPACE コマンドを出してください。
4. カタログ中にそのボリュームを再定義するには、DEFINE SPACE コマンドを出してください。
5. ステップ 2 でファイル (および関連した AIX またはパス) が削除された場合には、以下のいずれかの方法でそれらを再びカタログ中に導入してください。
 - ステップ 2 で BACKUP を使用した場合は、ステップ 2 で保管されたリストア・オブジェクトを定義しリストアするために、RESTORE コマンドを使用してください。それによって、関連した AIX とパスも自動的にリストアされます。

- そうでない場合は、ステップ 3 で削除された各オブジェクトを DEFINE してください。それから、REPRO を用いてステップ 2 で保管されたオブジェクトをリストアします。また、ステップ 3 で削除された AIX またはパスを DEFINE してください。BLDINDEX コマンドを使って関連した AIX を再作成します。

リカバリー手順 B - ボリューム・レコードに影響を及ぼさないレコード

「ASSOCIATED HKR RECORD FOLLOWS」タグの後のサブメッセージ中の NAME= フィールド (IKQnnnnI 主メッセージに続いている) は、カタログから除去され、再作成されるべきオブジェクトを識別しています。エラーを正すために、以下のステップを踏んでください。

1. カatalog・ボリュームと削除すべきオブジェクトを含んでいるボリュームの両方をバックアップするために、VSE ディスク高速コピー・ユーティリティー・プログラムを使用してください。ディスク高速コピーの詳細については、「z/VSE System Utilities」を参照してください。
2. 損傷のあるオブジェクトがクラスターであるならば、カタログ・レコードを除去する前に、その内容を保管したいと思うことでしょう。BACKUP または REPRO を行うことによって、このことができます。

バックアップされているクラスター上に構築された代替索引を自動的に保管するので、BACKUP コマンドの方が推奨されています。(REPRO を用いた場合には、リストア時にこれらの AIX を再構築しなければなりません。) OPEN がカタログ・エラーを検出したために BACKUP または REPRO が失敗に終わったならば、そのファイルの以前のコピーに頼らなければなりません。

3. IGNOREERROR および NOERASE オプションを指定した DELETE コマンドを出すことによって、損傷を受けたオブジェクト (NAME= で識別されている) をそのカタログから除去してください。削除されたオブジェクトがクラスターである場合、それに関連した AIX やパスは自動的に削除されます。

DELETE IGNOREERROR は自動的にカタログ検査サービス補助プログラムを呼び出しカタログ・レコードを検査します。それが、カタログにはエラーがないことを示すカタログ検査状況報告書を作成する場合は、ステップ 4 に進んでください。それ以外の場合には、出されたカタログ検査メッセージで示された処置をとってから、ステップ 4 に進んでください。

4. ステップ 2 でファイル (および関連した AIX またはパス) が削除された場合には、以下のいずれかの方法でそれらを再びカタログ中に導入してください。
 - ステップ 2 で BACKUP を使用した場合は、ステップ 2 で保管されたリストア・オブジェクトを定義しリストアするために、RESTORE コマンドを使用してください。それによって、関連した AIX とパスも自動的にリストアされます。
 - そうでない場合は、ステップ 3 で削除された各オブジェクトを DEFINE してください。それから、ステップ 2 で保管されているオブジェクトをリストアするために REPRO を使用してください。また、ステップ 3 で削除された AIX またはパスを DEFINE してください。BLDINDEX コマンドを使って関連した AIX を再作成します。

VSAM 診断ツール用 IKQxxxx = メッセージ

IKQ0004I **READ FAILED FOR CI X'nnnnnn', RPL
RETURN CODE aaa (X'bb'), RPL REASON
CODE ccc (X'dd')**

説明: CI X'nnnnnn' のレコード読み取り要求が失敗しました。VSAM は、戻りコード (X'bb') をレジスター 15 に、理由コード (X'dd') を RPL にセットしました。これらのコードは、239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』で説明されています。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、エラーに関する詳細を示す後続のメッセージを参照して、これらのメッセージに指定された処置を取ってください。

IKQ0006I **LAST FORMATTED CI NOT LOW KEY
RANGE RECORD SUPPOSED LAST
FORMATTED REC:
dump*of*catalog*record
CCR RECORD FOLLOWS:
dump*of*catalog*record**

説明: このメッセージに続くカタログ制御レコード (CCR) ・ダンプの X'30' の変位に、そのカタログの不定様式セクションに対するポインターがあります。このレコードよりも小さい CI をもつレコードは、カタログ内の最後の定様式レコードでなければならないし、低キー範囲のレコードでなければなりません。このレコードは読み取られたので、低キー範囲のレコードではありません。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムがカタログを探索して、最後の定様式レコードを見つけます。追加のメッセージにより、探索の成否が知らされます。

プログラマーの応答: 後続のエラー・メッセージにより異なります。

IKQ0007I **READ FAILED FOR FIRST HIGH KEY
RANGE RECORD, RPL RETURN CODE
aaa (X'bb'), RPL REASON CODE ccc (X'dd')**
**REC PREVIOUSLY READ FOLLOWS:
dump*of*catalog*record
CCR RECORD FOLLOWS:
dump*of*catalog*record**

説明: カタログ高キー範囲のセクションが、予期した位置がありません。これは、多分、カタログ内の不定様式ポインターのエラーによります。不定様式ポインターは、このメッセージに続くカタログ制御レコード (CCR) ・ダンプの変位 X'30' にあります。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムがカタログを探索して、高キー範囲の始まりを見つけます。追加のメッセージにより、探索の成否が知らされます。

プログラマーの応答: 後続のエラー・メッセージにより異なります。

IKQ0008I **CCR UNFORMATTED RECORD POINTER
DOES NOT POINT TO FIRST
UNFORMATTED RECORD LKR REC**

**WITH INVALID DATA:
dump*of*catalog*record
CCR RECORD FOLLOWS:
dump*of*catalog*record**

説明: カタログ制御レコード (CCR) の変位 X'30' に、そのカタログの不定様式セクションに対するポインターがあります。これより小さい CI をもつレコードは、カタログ内の最後の定様式レコードであり、低キー範囲 (LKR) のレコードです。次のレコードをキーによって読み取ることにより、高キー範囲のカタログ内の最初のレコードを戻さなければなりません。この読み取りによって戻されたレコードが、高キー範囲のレコードではありませんでした。不定様式レコードに対するポインターが正しくありません。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムがカタログを探索して、最後の定様式レコードを見つけます。追加のメッセージにより、探索の成否が知らされます。

プログラマーの応答: 後続のエラー・メッセージにより異なります。

IKQ0009I **INVALID TYPE IN LOW KEY RANGE
RECORD LKR RECORD WITH INVALID
DATA:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR RECORD FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: カタログ高キー範囲部分の 1 つの名前が、低キー範囲のレコードを指しています。この低キー範囲のレコードには、次の VSAM レコード・タイプ (C、G、D、I、R、V、A、U、B、X) のいずれか 1 つが含まれていません。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: このメッセージの後には、間違った低キー範囲のレコードを 16 進数で印刷したもの、および対応する高キー範囲のレコードの名前が続きます。NAME=aa..aa によって指定された名前に対して IGNOREERROR オプションを指定して DELETE コマンドを実行してください。この処置により、カタログ内にいくつかの断片が残される場合があります。DELETE コマンド (カタログ検査サービス補助プログラムを呼び出す) からの出力により、カタログ内にさらに断片があるかどうかわかります。

クラスターまたは AIX を削除する場合は、そのデータ・コンポーネントと索引コンポーネントも削除しなければならない場合があります。この場合は、DELETE IGNOREERROR の終わりに用意されたカタログ報告書が、カタログにはエラーがないということを示すまで、数回 DELETE ステップを実行しなければならないことがあります。

IKQ0010I **HIGH KEY RANGE RECORD CONTAINS
INVALID CI NUMBER ASSOCIATED
HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: カタログの高キー範囲 (HKR) レコードに、無効の CI 番号 (カタログの定様式セクションからはずれている) があります。NAME=aa..aa によって、損傷したレコードが識別されます。CI 番号 bbbbbbb は、無効です。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: カタログから損傷したレコードを取り除いてください。NAME=aa..aa で指定された名前に対して IGNOREERROR オプションを指定して DELETE コマンドを実行してください。

**IKQ0012I CCR UNFORMATTED RECORD POINTER
CORRECTED CCR RECORD FOLLOWS:
dump*of*catalog*record**

説明: カタログ制御レコード (CCR) に、カタログの不定様式セクションに対するポインターがあります。このポインターは間違っていることが判明して訂正されました。このメッセージに続く CCR ダンプの変位 X'30' に、訂正されたポインターが示されます。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。VSAM が、CCR にエラーを見つけ、それを訂正しました。

**IKQ0013I CCR DELETED FREE CHAIN
CORRECTED
CCR RECORD FOLLOWS:
dump*of*catalog*record**

説明: カタログ制御レコード (CCR) に、削除した CI チェーンの最初の削除 CI に対するポインターがあります。このポインターまたはそのポインターが示すチェーン上のエレメントが間違っています。VSAM は、エラー個所でチェーンを打ち切って問題を修正しました。いくつかの自由レコードを使用できなくなる場合もありますが、疑わしいレコードが取り除かれたので打ち切ったフリー・チェーンは正しいです。このメッセージに続く CCR ダンプが、正しいポインターを示します。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: なし。VSAM が、CCR にエラーを見つけ、それを訂正しました。

**IKQ0014I READ FAILED FOR LAST FORMATTED
RECORD, CI X'nnnnnn', RPL RETURN
CODE aaa (X'bb'), RPL REASON CODE ccc
(X'dd')CCR RECORD FOLLOWS:
dump*of*catalog*record**

説明: カタログ制御レコード (CCR) に、カタログの不定様式セクションに対するポインターがあります。このレコードの前にあるレコードの読み取り要求が失敗したので、このポインターは無効です。RPL の戻りコードおよび理由コードにより、なぜ読み取りに失敗したかが説明されます。これらのコードは、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』に示されています。

このメッセージに続く CCR ダンプが、変位 X'30' に無効なポインターを示します。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムがカタログを探索して、最後の定様式レコードを見つけます。追加のメッセージにより、探索の成否が知らされます。

プログラマーの応答: 後続のエラー・メッセージにより異なります。

**IKQ0016I DATA SET NAME NOT SAME IN HIGH
AND LOW KEY RANGE RECORDS LKR
REC WITH INVALID DATA:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: カタログ高キー範囲部分の 1 つの名前が、同じ名前を持たない低キー範囲 (LKR) のレコードを指しています。このメッセージに続くダンプが、低キー範囲のレコードを示します。一致していない名前が、変位 X'31' にあります。

NAME=aa..aa により、損傷したレコードが識別されます。損傷したレコードは CI 番号 bbbbbbb に含まれます。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: このメッセージの後には、間違った低キー範囲のレコードを 16 進数で印刷したもの、および対応する高キー範囲のレコードの名前が続きます。NAME=aa..aa で指定された名前に対して IGNOREERROR オプションを指定して DELETE コマンドを実行してください。この処置により、カタログ内いくつかの断片が残される場合があります。

DELETE コマンド (カタログ検査サービス補助プログラムを呼び出す) からの出力により、カタログ内にさらに断片があるかどうかわかります。

クラスターまたは AIX を削除する場合は、そのデータ・コンポーネントと索引コンポーネントも削除しなければならない場合があります。この場合は、DELETE IGNOREERROR の終わりに用意されたカタログ報告書が、カタログにはエラーがないということを示すまで、数回 DELETE ステップを実行しなければならないことがあります。

**IKQ0018I GROUP OCCURRENCE POINTER (GOP)
VERTICAL EXTENSION CHAIN BROKEN,
INITIAL GOP AT DISPLACEMENT
mmm(X'mmmm') REC WITH BROKEN VERT
EXT CHAIN
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: カタログに、グループ発生セグメントに対するグループ発生セグメント・ポインター (GOP) の垂直拡張チェーンがあります。チェーンが壊れていて、グループ発生セグメントのデータが失われています。このメッセージに続くダンプが変位 X'mmmm' に無効の GOP を示します。NAME=aa..aa により、

損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ポリウムまたは非 VSAM 対象が識別されます。CI bbbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージで識別された対象がポリウムである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0019I **INVALID CI IN GROUP OCCURRENCE
POINTER AT DISPLACEMENT *mmm*
(X'*mmm'*) REC WITH ERRONEOUS GOP
FOLLOWS**
*****dump*of*catalog*record*****
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb*

説明: カタログに、グループ発生セグメントに対するグループ発生セグメント・ポインター (GOP) の垂直チェーンがあります。GOP の 1 つが、カタログの定様式セクションからはずれた CI を参照しています。チェーンが壊れているのでグループ発生セグメントのデータは、失われています。このメッセージに続くダンプが変位 X'*mmm'* に無効の GOP を示します。NAME=*aa..aa* により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ポリウム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI *bbbbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=*aa..aa* サブメッセージで識別された対象がポリウムである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0020I **RECORD SHOULD BE TYPE a
IKQ0018I and associated text
REC WITH BROKEN VERT EXT CHAIN
dump*of*catalog*record
QUESTIONAL VERT EXT REC:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb***

説明: グループ発生セグメント・ポインター (GOP) のチェーンが壊れています。チェーン内のレコード・タイプは、W (ポリウム) または E (その他) でなければならないのに、そうではありません。グループ発生セグメントに到達できないので、その情報が失われています。このメッセージに続いて、無効な GOP のダンプがあります。NAME=*aa..aa* により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ポリウムまたは非 VSAM 対象が識別されます。CI *bbbbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。

このメッセージは、常にメッセージ IKQ0018I (無効な GOP の位置を示す) とともに出されます。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=*aa..aa* サブメッセージで識別された対象がポリウムである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0021I **INVALID GROUP OCCURRENCE
POINTER TYPE FOR THIS
RECORD,DISPLACEMENT *nnn* (X'*mmm'*)
REC WITH ERRONEOUS GOP FOLLOWS
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:**

NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb*

説明: ダンプしたレコードに、このタイプのカタログ・レコードには無効のグループ発生セグメントがあります。例えば、クラスター・レコード (タイプ 'C') には、データ・スペースのグループ発生セグメント (グループ・コード '6') を入れることはできません。無効なポインターは、このメッセージに続くダンプの変位 X'*mmm'* にあります。NAME=*aa..aa* により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ポリウム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI *bbbbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=*aa..aa* サブメッセージで識別された対象がポリウムである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0022I **PSEUDO HORIZONTAL EXTENSION
RECORD NOT CORRECT TYPE PSEUDO
HORIZ EXT BASE RECORD:
dump*of*catalog*record
REC WITH BROKEN PSEUDO HRZ CHN
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb***

説明: グループ発生セグメントが大きすぎて、カタログ・レコードに適合していません。グループ発生セグメントの情報は、2 つまたはそれ以上のカタログ・レコードにスパンしなければなりません (疑似水平チェーンと呼ばれます)。チェーン内のレコードの 1 つが、正しいレコード・タイプではありません。チェーンが壊れているので、グループ発生セグメント内の情報の一部が失われました。

NAME=*aa..aa* により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ポリウム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI *bbbbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=*aa..aa* サブメッセージで識別された対象がポリウムである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0023I **HORIZONTAL EXTENSION RECORD
NOT CORRECT TYPE REC WITH HORIZ
PTR FOLLOWS:
dump*of*catalog*record
QUESTIONABLE HORIZ EXT REC:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb***

説明: グループ発生セグメント・ポインターの情報の保持のために使用されるカタログ・レコードの水平チェーンが壊れています。チェーン内のレコードの 1 つが間違っています (ポリウム・レコードに対しては W、その他に対しては E でなければなりません)。チェーンが無効なので、データは失われています。

メッセージの最初の部分に続くダンプは、チェーン内の最後の有効なカタログ・レコードを示します。フィールド X'2C' には、それがどのタイプのカタログ・レコードであるかが示されています。メッセージの 2 番目の部分に続くダンプは、無効な水平拡張レコードを示します。フィールド X'2C' には、それがどのタイプのカタログ・レコードであるかが示されています。

NAME=aa..aa により、損傷したクラスタ、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0024I **AFFECTED CI IN RECORD HORIZONTAL EXTENSION POINTER REC WITH HORIZ PTR FOLLOWS:**

*****dump*of*catalog*record*****

ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:

NAME=aa..aa CI=bbbbbb

説明: このメッセージの前には、常にメッセージ IKQ0004I があります。グループ発生セグメント・ポインターの情報の保持のために使用されるカタログ・レコードの水平チェーンが壊れていました。チェーン内のレコードの 1 つの読み取り操作が失敗しました。チェーンの失われた部分の情報をリカバリーすることはできません。このメッセージに続いて、無効なポインターのダンプがあります。NAME=aa..aa により、損傷したクラスタ、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0025I **INVALID CI NUMBER IN HORIZONTAL EXTENSION POINTER REC WITH HORIZ PTR FOLLOWS:**

*****dump*of*catalog*record*****

ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:

NAME=aa..aa CI=bbbbbb

説明: グループ発生セグメント・ポインターの情報の保持のために使用されるカタログ・レコードの水平チェーンが壊れています。チェーン内のレコードの 1 つが、チェーン内の次のレコードに対するポインターとして無効な CI 番号 (カタログの定様式セクションからはずれている) を参照します。チェーンが壊れているので、チェーンの失われた部分の情報をリカバリーすることができません。

NAME=aa..aa により、損傷したクラスタ、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別さ

れます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0026I **INVALID RECORD TYPE IN ASSOCIATION GROUP OCCURRENCE AT DISPLACEMENT nnn (X'mmm') REC WITH ERRONEOUS GO FOLLOWS:**

*****dump*of*catalog*record*****

ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:

NAME=aa..aa CI=bbbbbb

説明: 関連グループ発生セグメント (GO) の指定した変位におけるタイプ・フィールドが、このカタログ・レコードに対して有効ではありません。NAME=aa..aa により、損傷したクラスタ、AIX、またはパスが識別されます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: リカバリー手順 B を実行して (このトピックの始めで説明)、カタログから損傷したレコードを取り除いてください。

IKQ0027I **RECORD TYPE IN ASSOCIATION GROUP OCCUR- RENCE NOT EQUAL TO RECORD TYPE IN RECORD IT REFERENCES**

説明: 関連グループ発生セグメント内のタイプ・フィールドが、その関連グループ発生セグメントが指すレコード内のタイプ・フィールドと異なります。後続のメッセージ IKQ0028I により、関連グループ発生セグメントの位置が示されます。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: リカバリー手順 B を実行して、カタログから損傷したレコード (メッセージ IKQ0028I の NAME=aa..aa によって識別されます) を取り除いてください。リカバリー手順 B については、このトピックの始めで説明されています。

IKQ0028I **AFFECTED GROUP OCCURRENCE AT DISPLACEMENT nnn (X'mmm') REC WITH ERRONEOUS GO FOLLOWS:**

*****dump*of*catalog*record*****

ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:

NAME=aa..aa CI=bbbbbb

説明: これは 2 次メッセージであって、他のエラー・メッセージと組み合わせられた場合のみ現れます。このメッセージに続くダンプでは、間違ったグループ発生セグメント (GO) が変位 X'mmm' にあります。NAME=aa..aa により、損傷したクラスタ、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: メッセージ IKQ0028I の直前に出されたメッセージの指示に従ってください。

IKQ0029I **AFFECTED GROUP OCCURRENCE
POINTER AT DISPLACEMENT
nnn(X'mmmm') REC WITH ERRONEOUS
GOP FOLLOWS
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: このメッセージの前には、常にメッセージ IKQ0004I があります。グループ発生セグメント・ポインター (GOP) の垂直チェーンが壊れています。チェーン内の GOP には、読み取りのできなかった CI 番号があります。グループ発生セグメントに到達できないので、その情報が失われています。

NAME=aa..aa により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI bbbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0030I **ASSOCIATION GROUP OCCURRENCE
AT DISPLACEMENT nnn (X'mmmm') HAS
NO RETURN POINTER REC WITH
ASSOC GO FOLLOWS:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: 相互に関連のある 2 つのカタログ・レコードが、それぞれの CI がその中に入っている関連グループ発生セグメントをもつことを要求しています。関連グループ発生セグメントの X'mmmm' に、印刷レコードに指し戻すべきレコードの CI 番号があります。しかし、印刷レコードに戻していません。

このメッセージに続いて、戻りポインターのないレコードのダンプがあります。NAME=aa..aa により、損傷したクラスター、AIX、またはパスが識別されます。CI bbbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: リカバリー手順 B を使用して、損傷したレコードをカタログから取り除いてください。リカバリー手順 B については、このトピックの始めで説明されています。

IKQ0031I **DSDIR AT DISPLACEMENT nnn (X'mmmm')
POINTS TO INVALID COMPONENT
TYPE REC WITH ERRONEOUS GO
FOLLOWS:
dump*of*catalog*record
ASSOC REC WITH UNEQUAL TYPE:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: ボリューム・レコードのデータ・セット登録簿 (DSDIR) のグループ発生セグメントが、データ (タイプ D) コンポーネントまたは索引 (タイプ I) コンポーネントでないレコードを指しています。DSDIR には、無効の情報があります。

DSDIR は、このメッセージに続く最初のダンプの変位 X'mmmm' にあります。2 番目のダンプには、無効のレコード・タイプを持つレコードが示されています。NAME=aaaaaa により、損傷したボリュームが識別されます。CI bbbbbbb は、そのボリュームに対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: リカバリー手順 A を用いて、損傷したレコードを取り除けますが、ほとんどの場合メッセージは本質的に深刻ではありません。リカバリー手順 A については、このトピックの始めで説明されています。

IKQ0032I **NO VIGO FOUND FOR DSDIR AT
DISPLACEMENT nnn (X'mmmm') REC WITH
PROBLEM DSDIR FOLLOWS
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: ボリューム・レコード (NAME=aa..aa によって識別されます) が、データまたは索引のコンポーネントがボリューム上にスペースを所有していること、またはそのコンポーネントがそのボリュームを候補ボリュームとしてリストしたことを示しています。このコンポーネントに対するボリューム情報のグループ発生セグメント (VIGO) には、使用中のボリューム、または候補のボリュームが示されていません。

このメッセージに続くダンプは、変位 X'mmmm' に無効なデータ・セット登録簿 (DSDIR) を示しています。NAME=aaaaaa により、損傷したボリュームが識別されます。CI bbbbbbb は、そのボリュームに対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: リカバリー手順 A を用いて、損傷したレコードを取り除けますが、ほとんどの場合メッセージは本質的に深刻ではありません。リカバリー手順 A については、このトピックの始めで説明されています。

IKQ0033I **VIGO AT DISPLACEMENT nnn (X'mmmm')
DOES NOT POINT TO VOLUME
RECORD REC WITH ERRONEOUS GO
FOLLOWS:
dump*of*catalog*record
LKR REC WITH INVALID DATA:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: ボリューム情報のグループ発生セグメント (VIGO) の検査中に、VSAM は、タイプ V ではない「ボリューム」レコードを読み取りました。コンポーネントと正しいボリューム・レコード間のポインターの関係が壊れています。

このメッセージに続く最初のダンプには、VIGO の X'mmmm' のボリューム・レコードの名前のあるレコードが示されています。2 番目のダンプには、実際に読み取られたけれどもボリューム・レコードではないレコードが示されています。

NAME=aa..aa により、損傷したクラスターまたは AIX が識別

されます。CI *bbbbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: *NAME=aa..aa* サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0034I **READ FAILED FOR KEY *nnnnnn***
*****IKQ0042I and associated text*****
*****IKQ0028I and associated text *** REC**
WITH PROBLEM VIGO FOLLOWS:
*****dump*of*catalog*record*****
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb*

説明: メッセージ IKQ0028I で識別されたレコードのボリューム情報のグループ発生セグメント (VIGO) の検査中に、メッセージ IKQ0034I で指定されたボリューム *nnnnnn* に対するキーによる読み取りが出されました。この読み取りは、メッセージ IKQ0042I に指定された RPL 戻りコードおよび理由コードのため失敗しました。NAME=*aa..aa* により、損傷したクラスターまたは AIX が識別されます。CI *bbbbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が解決しない場合は、リカバリー手順 B を実行してください。リカバリー手順 B については、このトピックの始めてで説明されています。

IKQ0035I **NO DSDIR FOUND FOR VIGO AT**
DISPLACEMENT *nnn* (X'*nnnn'*) REC WITH
PROBLEM VIGO FOLLOWS:
*****dump*of*catalog*record*****
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb*

説明: 上記のレコードのボリューム情報のグループ発生セグメント (VIGO) の検査中に対応するデータ・セット登録簿 (DSDIR) の情報を見つけることができません。コンポーネント自体は、自分がボリューム上にスペースを持っている (あるいは自分は、候補スペースである) と信じているのに、ボリュームには、そのコンポーネントに関する情報がありません。

NAME=*aa..aa* により、損傷したクラスターまたは AIX が識別されます。CI *bbbbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: リカバリー手順 B を実行してください。リカバリー手順 B については、このトピックの始めてで説明されています。

IKQ0036I **THE FOLLOWING RECORD IS**
UNAVAILABLE
*****dump*of*catalog*record*****

説明: カタログの高キー範囲のレコードまたは低キー範囲のレコードが、メッセージに示されたレコードを指していないので、このレコードをアクセスすることができません。

NOIMBED カタログの場合は、CI 6 および 8 は、常に使用できないレコードを表します。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: 処置は不要です。メッセージに示されたレコードを再使用することはできませんが、(カタログを組み立て直さない限り)、それが、他のカタログ・レコードに影響を与えることはありません。

IKQ0039I **INVALID CI IN GROUP OCCURRENCE**
AT DISPLACEMENT *nnn* (X'*mmm'*) REC
WITH ERRONEOUS GO FOLLOWS:
*****dump*of*catalog*record*****
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb*

説明: このメッセージに続くダンプにおいて、変位 X'*mmm'* のグループ発生セグメント (GO) に、無効な CI 番号があります。この CI 番号は、カタログの定様式セクションからはずれています。NAME=*aa..aa* により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI *bbbbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: *NAME=aa..aa* サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

IKQ0042I **RPL RETURN CODE *aaa* (X'*bb'*), RPL**
REASON CODE *ccc* (X'*dd'*) PREVIOUS
RECORD READ FOLLOWS:
*****dump*of*catalog*record*****

説明: これは 2 次メッセージで、常に別のメッセージの後に続いて、前のメッセージで説明された入出力エラーの原因についてさらに説明します。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: 前のメッセージで説明された処置を行ってください。

IKQ0043I **INVALID CI NUMBER IN PSEUDO**
HORIZONTAL EXTENSION CHAIN REC
WITH HORIZ PTR FOLLOWS:
*****dump*of*catalog*record*****
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbbbb*

説明: グループ発生セグメントが大きすぎて、カタログ・レコードに適合していません。グループ発生セグメントの情報は、2 つまたはそれ以上のカタログ・レコードにスパンしなければなりません (疑似水平チェーンと呼ばれます)。チェーン内のポインターの 1 つに、無効の CI 番号がありました (カタログ定様式セクションからはずれています)。チェーンが壊れているので、グループ発生セグメント内の情報の一部が失われました。

NAME=*aa..aa* により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別さ

れます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー・レコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

**IKQ0044I AFFECTED CI IN RECORD HORIZONTAL
EXTENSION POINTER, PART OF
PSEUDO HORIZONTAL EXTENSION
CHAIN REC WITH HORIZ PTR
FOLLOWS:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: このメッセージの前には、常にメッセージ IKQ0004I があります。グループ発生セグメントが大きすぎて、1 つのカタログ・レコードに適合していません。グループ発生セグメントの情報は、2 つまたはそれ以上のカタログ・レコードにスパンしなければなりません(疑似水平チェーンと呼ばれます)。チェーン内の CI の 1 つに対する読み取りが失敗しました。チェーンが壊れているので、グループ発生セグメント内の情報の一部が失われました。

Name=aa..aa により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が解消されず、NAME=aa..aa サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

**IKQ0045I PSEUDO HORIZONTAL EXTENSION
CHAIN BROKEN REC WITH BROKEN
PSEUDO HRZ CHN
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb**

説明: グループ発生セグメントが大きすぎて、カタログ・レコードに適合していません。グループ発生セグメントの情報は、2 つまたはそれ以上のカタログ・レコードにスパンしなければなりません(疑似水平チェーンと呼ばれます)。チェーン内にあると思われるレコードの 1 つに、関係のないデータがありました。チェーンが壊れているので、グループ発生セグメント内の情報の一部が失われました。

Name=aa..aa により、損傷したクラスター、AIX、パス、ユーザー・カタログ、ボリューム、または非 VSAM 対象が識別されます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージで識別された対象がボリュームである場合は、リカバリー手順 A を実行してください。それ以外の場合は、リカバリー手順 B を実行してください。手順 A と B については、このトピックの冒頭で説明しています。

**IKQ0047I VIGO AT DISPLACEMENT xx HAS
INVALID FIXED PART LENGTH REC
WITH PROBLEM VIGO FOLLOWS:
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb
BASE COMPONENT CONTAINING GO:
dump*of*catalog*record**

説明: VSAM はボリューム情報のグループ発生セグメント(VIGO)の検査中に 2 番目のバイトで無効固定部分長を検出しました。これは破損したグループ発生セグメントを示すことがあります。このメッセージの後に続く最初のダンプは、影響を受けた VIGO を持つレコードを示します。

NAME=aa..aa により、VIGO が含まれる損傷クラスター/AIX が識別されます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。VIGO 項目が拡張レコードに含まれる場合は、2 番目のダンプに関連基礎レコードが表示されます。システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージによって識別された対象に復旧手順 B を実行してください。リカバリー手順 A および B については、このトピックの始めで説明されています。

**IKQ0048I VIGO AT DISPLACEMENT xx HAS
INVALID VOLUME NAME REC WITH
PROBLEM VIGO FOLLOWS
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=aa..aa CI=bbbbbb
BASE COMPONENT CONTAINING GO:
dump*of*catalog*record**

説明: VSAM はボリューム情報のグループ発生セグメント(VIGO)の検査中に無効 volser (ブランクまたは 16 進数のゼロ)を検出しました。これは破損したグループ発生セグメントを示すことがあります。このメッセージの後に続く最初のダンプは、影響を受けた VIGO を持つレコードを示します。

NAME=aa..aa により、VIGO が含まれる損傷クラスター/AIX が識別されます。CI bbbbbb は、aa..aa に対する最初の低キー範囲のレコードです。VIGO 項目が拡張レコードに含まれる場合は、2 番目のダンプに関連基礎レコードが表示されます。システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=aa..aa サブメッセージによって識別された対象に復旧手順 B を実行してください。リカバリー手順 A および B については、このトピックの始めで説明されています。

IKQ0049I VIGO AT DISPLACEMENT *xx* HAS
INVALID EXTENT DESCRIPTOR AT
DISPLACEMENT *yy* REC WITH PROBLEM
VIGO FOLLOWS
dump*of*catalog*record
ASSOCIATED HKR REC FOLLOWS:
NAME=*aa..aa* CI=*bbbb*
BASE COMPONENT CONTAINING GO:
dump*of*catalog*record

説明: VSAM はボリューム情報のグループ発生セグメント (VIGO) の検査中に不整合エクステンツ記述子 (無効なサイズまたは境界) を検出しました。これは、グループ発生セグメント内で破損したデータ・セット・エクステンツを示すことがあります。このメッセージの後に続く最初のダンプは、影響を受けた VIGO を持つレコードを示します。

NAME=*aa..aa* により、VIGO が含まれる損傷クラスター/AIX が識別されます。CI *bbbb* は、*aa..aa* に対する最初の低キー範囲のレコードです。VIGO 項目が拡張レコードに含まれる場合は、2 番目のダンプに関連基礎レコードが表示されます。システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムの処理を続行します。

プログラマーの応答: NAME=*aa..aa* サブメッセージによって識別された対象に復旧手順 B を実行してください。リカバリー手順 A および B については、このトピックの始めで説明されています。

IKQ0076I No DDNAMEs currently specified for
partition.

説明: 指定された区画に関連する SNAP トレースの有効化のときに、具体的なデータ・セット (DDNAME) が指定されていませんでした。

システムの処置: VSAM IKQVEDA SNAP トレースは区画全体に対して有効化されます。

プログラマーの応答: なし。

IKQ0077I Following DDNAMEs have been specified
for partition.

説明: 指定された区画に関連する現在有効にされている SNAP トレースでトレースされる、すべての選択された具体的なデータ・セット (DDNAME) のリストです。

システムの処置: VSAM IKQVEDA SNAP トレースは指定された区画の指定されたデータ・セットすべてに対して有効化されます。

プログラマーの応答: なし。

IKQ0078I Invalid parameter has been specified.

説明: 現行の SNAP トレース有効化に対して、無効なパラメーターが指定されました。

システムの処置: エラーのある VSAM IKQVEDA SNAP トレース項目は有効化されません。処理は続行されます。

プログラマーの応答: 影響する SNAP トレースを訂正し、再度サブミットしてください。

IKQ0079I Insufficient SYSTEM GETVIS. Statement
will be ignored.

説明: 現行の SNAP トレース有効化項目を処理するにはシステム GETVIS が不十分です。

システムの処置: エラーのある VSAM IKQVEDA SNAP トレース項目は有効化されません。処理は続行されます。

プログラマーの応答: 影響する SNAP トレースを変更するか、必要なシステム GETVIS を指定し、再度サブミットしてください。

IKQ0080D SNAP013 is only activated for a file during
OPEN processing. Please ensure that file(s)
to be traced are opened after SNAP013 is
initialized.

説明: 最初の SNAP013 トレースが有効化されるときの情報メッセージです。

システムの処置: VSAM IKQVEDA SNAP トレース項目は有効化されます。処理は、可能な次の SNAP トレース有効化項目から続行されます。SNAP013 トレースでは、指定された区画にある選択されたファイルごとまたはすべてのファイルについて、メモリー内の循環トレース表を作成します。これらのトレース表は、オープン処理の間のみ作成されます。影響するファイルが既にオープンされた後で SNAP013 を有効にしても、SNAP013 トレース表は作成されません。

プログラマーの応答: SNAP013 でトレースするすべてのファイルがクローズされており、対応する SNAP013 トレースが有効化された後で再オープンされることを確認してください。

IKQ0081D ENTER FUNCTION ENABLE | DISABLE |
END | HELP

説明: このメッセージは次のいずれかを要求します。

- スナップ・ダンプの起動 (使用可能)
- 前に使用可能状態にあったスナップ・ダンプの起動停止 (使用禁止)
- ENABLE 機能または DISABLE 機能の終了
- SYSLOG 上にメッセージ IKQ0090I から IKQ0094I を作成する援助機能の呼び出し

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のいずれかを入力してください。

- ENABLE SNAP=*xx*[,PART=*yy*] (区画 *yy* 中のスナップ番号 *xx* を使用可能にします)
- DISABLE SNAP=*xx*[,PART=*yy*] (区画 *yy* 中のスナップ番号 *xx* を使用禁止にします)

xx = 1 から 16 まで、*yy* = BG または Fn です。

PART が省略された場合には、スナップ・ダンプは出されている区画に対して使用可能または使用禁止になります。

- END (上記の機能のいずれかを終了します)
- HELP (援助機能呼び出します)

IKQ0082I SNAP 00*xx* ENABLED | DISABLED IN
PARTITION *yy*

説明: このメッセージは、スナップ番号 *xx* が区画 *yy* で使用可能または使用禁止になっていることを知らせます。

システムの処置: これは単なる通知メッセージです。

IKQVEDA 処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IKQ0083I INVALID FUNCTION - FOR VALID
FUNCTIONS ENTER HELP**

説明: 無効スナップ・ダンプ要求を入力しました。

システムの処置: IKQVEDA は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IKQ0084I PARAMETER - SNAP= - NOT SPECIFIED
OR MISSPELLED**

説明: SNAP パラメーターを省略したか、または無効な

SNAP パラメーターを入力しました。

システムの処置: IKQVEDA は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IKQ0085I INVALID SNAP NUMBER - FOR VALID
NUMBERS ENTER HELP**

説明: 無効な SNAP 番号を入力しました。

システムの処置: IKQVEDA は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IKQ0086I SNAP NUMBER 00xx IS ALREADY
ENABLED|DISABLED IN PARTITION yy**

説明: 二重の SNAP 番号を入力しました。

システムの処置: これは単なる通知メッセージです。

IKQVEDA 処理は続行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IKQ0087I PARAMETER - PART= - NOT FOUND OR
PARTITION NOT SUPPORTED**

説明: 無効区画パラメーターまたは、サポートされていない区画を入力しました。

システムの処置: IKQVEDA は、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IKQ0088I EXEC PARAMETER NOT SYSIPT OR
SYSLOG - SYSLOG ASSUMED**

説明: // EXEC IKQVEDA,PARM='SYSnnn' ステートメントで無効な SYSnnn 指定を入力しました。

システムの処置: IKQVEDA は、SYSLOG から SNAP トレース・コマンドが入力されるのを想定して、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IKQ0090I FOLLOWING MESSAGES IKQ0091 TO
IKQ0094 EXPLAIN POSSIBLE FUNCTIONS**

説明: このメッセージは、援助機能が呼び出される時に含まれます。

IKQ0091I END TERMINATE IKQVEDA

説明: このメッセージは、援助機能が呼び出される時に含まれます。

**IKQ0092I ENABLE SNAP=xx, PART=yy ENABLE
SNAP NUMBER xx IN PARTITION yy**

説明: このメッセージは、援助機能が呼び出される時に含まれます。

**IKQ0093I DISABLE SNAP=xx, PART=yy DISABLE
SNAP NUMBER xx IN PARTITION yy**

説明: このメッセージは、援助機能が呼び出される時に含まれます。

**IKQ0094I xx= 1 to 16, yy = BG OR FN,
PARAMETER 'PART' OPTIONAL**

説明: このメッセージは、援助機能が呼び出される時に含まれます。

**IKQ3001I Insufficient Partition Getvis. IKQVDU has
been cancelled.**

説明: 区画定義には、IKQVDU が正しく機能するために十分な区画の GETVIS がありません。

システムの処置: ジョブ・ステップは取り消されました。

オペレーターの応答: 別の区画でジョブを再実行してください。

**IKQ4001I CATALOG OPEN FAILURE, ACB RETURN
CODE aaa (X'bb'), ACB REASON CODE ccc
(X'dd'), IKQVCHK TERMINATED**

説明: VSAM は、カタログをオープンできません。カタログ名は、EXEC PARM='xx..x' ステートメントに指定されていたか、またはデフォルトのカタログが使用されていました。

VSAM は、戻りコード (X'bb') をレジスター 15 に、理由コード (X'dd') を ACB にセットしました。これらのコードは、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』に示されています。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: 指定された戻りコードと理由コードを参照してください。戻りコードと理由コードの完全なリスト、各コードの説明、および可能なユーザー応答の説明は、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』にあります。エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。エラーを訂正できない場合は、カタログが使用できないので、それを作成し直してください。「VSE/VSAM User's

Guide and Application Programming」の『カタログの再作成』を参照してください。

IKQ4002I CATALOG LOCK FAILURE, LOCK RETURN CODE aa (X'bb'), IKQVCHK TERMINATED

説明: カタログ検査サービス補助プログラムが、カタログ更新/探索ロックを設定しようとした。LOCK マクロはこのメッセージに示されているコードを返しました。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: LOCK 戻りコードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」(セクション『VSE/拡張機能コードおよび SVC エラー』)の『VSE/拡張機能戻りコード』にあるトピックを参照してください。問題を修正して、ジョブを再実行してください。

IKQ4003I RECORD TYPE CODE NOT 'L' IN CCR, IKQVCHK TERMINATED CCR RECORD FOLLOWS: *dump*of*catalog*record*****

説明: カタログ制御レコード (CI 3) に、「L」以外のタイプのあることがわかりました。このメッセージに続いて、無効のカタログ制御レコードのダンプがあります。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: CCR レコードは、カタログの自己説明部分として非常に重要な部分です。このレコードの内容に疑問点があるので、カタログ全体が疑わしくなります。カタログを作成し直さなければなりません。「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」の『カタログの再作成』を参照してください。

IKQ4005I WRITE FAILED FOR CI X'000003', RPL RETURN CODE aaa (X'bb'), RPL REASON CODE ccc (X'dd'), IKQVCHK TERMINATED

説明: VSAM がカタログ制御レコード内のエラーを修正しましたが (エラーについては前のメッセージを参照)、新しいレコードをカタログに書き込めませんでした。RPL 戻りコードと理由コードに、いつ書き込みが失敗したかが説明されています。VSAM は、戻りコード (X'bb') をレジスター 15 に、理由コード (X'dd') を RPL にセットしました。これらのコードの説明については、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照してください。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: RPL 理由コードと戻りコードの説明を参照してください。受け取ったコードについてのプログラマーの処置に従ってください。その上で、ジョブを再実行してください。エラーが再発する場合は、カタログを再作成する必要があります。「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」の『カタログの再作成』を参照してください。

IKQ4011I READ NEXT FAILED WHILE SEARCHING FOR HIGH KEY RANGE START, IKQVCHK TERMINATED PREVIOUS RECORD READ FOLLOWS: *dump*of*catalog*record*****

説明: カタログ高キー範囲セクションの始まりを見つけないことができません。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: カタログが損傷しているため、作成し直さなければなりません。「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」の『カタログの再作成』を参照してください。

IKQ4015I READ NEXT FAILED WHILE STEPPING THROUGH HIGH KEY RANGE, IKQVCHK TERMINATED *IKQ0042I and associated text*** **PREVIOUS RECORD READ FOLLOWS:*** ***dump*of*catalog*record*****

説明: カタログ検査サービス補助プログラムが、カタログの定キー範囲セクションのレコードに名前をマッピングしながら、カタログの高キー範囲セクションを介してステップを進めています。この機能の実行中に、高キー範囲のレコードの読み取りが失敗しました。メッセージ IKQ0042I によって、なぜ読み取りが失敗したかが説明されます。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: ジョブを実行し直して、問題がハードウェアの読み取りエラーによるものではないことを確かめてください。問題が再発する場合は、カタログの高キー範囲部分または索引部分が損傷しています。

リカバリー不能 のカタログの場合には、カタログを REPRO し、再び戻してください。この処理中に、索引が再作成されます。そのあと、カタログ検査 (「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」に説明されています) を実行してください。それでもなおエラーのある場合は、カタログを作成し直してください。

リカバリー可能 なカタログの場合は、カタログを作成し直してください。詳細については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」の『カタログの再作成』を参照してください。

IKQ4017I GETVIS FAILURE, GETVIS RETURN CODE aa (X'bb'), IKQVCHK TERMINATED

説明: カタログ検査サービス補助プログラムが、制御ブロックとワークスペースのための仮想記憶を取得しようとした。GETVIS マクロがこのメッセージに示されているコードを返しました。

システムの処置: カタログ検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: GETVIS 戻りコードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」の『VSE/拡張機能戻りコード』のトピック (セクション VSE/拡張機能コードおよび

び SVC エラー)を参照してください。問題を修正して、ジョブを再実行してください。

**IKQ4037I READ FAILED FOR CCR RECORD (CI 3),
RPL RETURN CODE aaa (X'bb'), RPL
REASON CODE ccc (X'dd'), IKQVCHK
TERMINATED**

説明: メッセージに指定された RPL 戻りコードおよび理由コードのために、カタログ制御レコード (CI 3) を読み取ることができません。これらのコードについては、本書の "IDCAM5 戻りコードおよび理由コード" で説明されています。

システムの処置: カatalog検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、カタログを作成し直してください。

「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」の『カタログの再作成』を参照してください。

**IKQ4038I READ FOR CATALOG DLBL 'xxxxxxx'
FAILED, LABEL RETURN CODE aa (X'bb'),
IKQVCHK TERMINATED**

説明: カatalog検査サービス補助プログラムが、指定された DLBL ステートメントを読み取ろうとしました。LABEL マクロは、戻りコード X'bb' を返しました。

システムの処置: カatalog検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: LABEL 戻りコードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」の『VSE/拡張機能戻りコード』のトピック (セクション VSE/拡張機能コードおよび SVC エラー)を参照してください。問題を修正して、ジョブを再実行してください。

**IKQ4040I EOF OCCURRED WHILE SEARCHING
FOR HIGH KEY RANGE START,
IKQVCHK TERMINATED**

説明: カatalog高キー範囲セクションの始まりを見つけることができません。

システムの処置: カatalog検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が再発する場合は、カタログを作成し直してください。

「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」の『カタログの再作成』を参照してください。

**IKQ4041I INVALID DATA IN INPUT
PARAMETERS, IKQVCHK TERMINATED**

説明: EXEC ステートメントの PARM パラメーターに指定されたデータが、次の形式に従っていません。

PARM='aa..a/bbbbbbbb'

ただし、aa..a は、カタログの名前 (44 文字を超えてはなりません。組み込みブランクもあってはなりません)。

bbbbbbbb は、パスワード (8 文字を超えてはなりません。組み込みブランクもあってはなりません)。

/ は、カタログ名とパスワードを分ける区切り文字です。パスワードはオプションなので、指定しない場合 / は不要です。

システムの処置: カatalog検査サービス補助プログラムは処理を停止します。

プログラマーの応答: 間違っているカタログおよび (または) パスワードを訂正し、ジョブを実行し直してください。

**IKQ5000I Computing compression ratios for files in
catalog catalog_id**

説明: IKQCPRED が、示されたカタログ内のファイルを調べようとしています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IKQ5001I exploring catalog catalog_id

説明: IKQCPRED が、示されたカタログ内のファイルを調べようとしています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IKQ5002I No catalog id passed on EXEC PARM

説明: IKQCPRED を呼び出すために使用された JCL EXEC コマンドに、PARM='...' 文節が指定されていなかったか、PARM 文節にカタログ名が指定されていなかったかのいずれかです。

システムの処置: 実行を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXEC IKQCPRED ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

**IKQ5003I This processor supports hardware data
compression**

説明: z/VSE CVT 制御ブロックは、CMPSC (ハードウェア・データ圧縮) 命令をサポートするプロセッサでシステムが実行中であることを示しています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IKQ5004I This processor does not support hardware
data compression**

説明: z/VSE CVT 制御ブロックは、CMPSC (ハードウェア・データ圧縮) をサポートしないプロセッサでシステムが実行中であることを示しています。

システムの処置: 実行を続けます。データ圧縮サービスは、データ圧縮にソフトウェア・エミュレーションを使用します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IKQ5005I Catalog OPEN failed

説明: IKQCPRED が、IKQ5001 メッセージに示されたカタログをオープンできません。

システムの処置: 実行を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このメッセージの前に、メッセージ 4228I が出力されます。オープン・エラー戻りコードを分析し、適切な処置をとってください。

IKQ5007I Totalcluster(s) will be checked

説明: IKQCPRED は、合計 *total* のクラスターのデータを検査します。

システムの処置: 実行を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IKQ5008I IKQCPRED phase - Phase phase number

説明: IKQCPRED は、示された処理フェーズに入ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IKQ5009I n cluster(s) checked of total

説明: IKQCPRED は、*total* のうち、*n* 個のデータ・セットを処理しました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IKQ5011I Error on file id RBA= rba FDBK= rr00ss

説明: IKQCPRED は、クラスター *file id* を処理していました。相対バイト・アドレス *rba* にあるレコードを読み取っているときに、レコード管理エラー・コード *feedback* が戻されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラー・コード *ss* およびレジスタ 15 *rr* の説明については、1071 ページの『第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード』を参照してください。DTFSD アクセスを使用して書き込まれた VSAM 管理スペース内の SAM ファイルを読み取っているときに、処理エラーが起きました。このようなデータ・セットをスキャンする必要がある場合は、データを VSAM ESDS クラスターにコピーし、コピーに対して IKQCPRED を実行することができます。

IKQ5012I Insufficient GETVIS

説明: IKQCPRED が、十分な GETVIS-ANY ストレージを獲得できません。

システムの処置: 実行を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: もっと大きな GETVIS-ANY を使用できる区画でジョブを再実行するか、SIZE=IKQCPRED を指定して SIZE 値を減らしてください。

IKQ5013I Compression Management System error

return code Reason reason code onaction

説明: IKQCPRED が、メッセージにリストされた、VSE/VSAM 圧縮管理サービス・コンポーネントからの戻りコードと理由コードを検出しました。

システムの処置: 実行を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージ 4A90I に示されている圧縮管理サービスの戻りコードと理由コードの説明を参照してください。

IKQ5015I Less than 2MB GETVIS available: nnn

bytes currently available. 実行を続けます。

説明: IKQCPRED が実行されている区画に、推奨サイズに足りない GETVIS しか含まれていないことがわかりました。システムの処置: 実行を続けますが、あとで問題が起こる可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ジョブが正常に実行されない場合は、もっと多くの GETVIS-ANY を使用できる区画でジョブを再実行するか、SIZE=IKQCPRED を指定して SIZE 値を減らしてください。

第 14 章 接頭部 INW のワークステーションのファイル転送メッセージ

INW0xx=ワークステーションのファイル転送メッセージ

以下のメッセージはホストによって出されるものです。ワークステーションから出されるものではありません。ワークステーションからのメッセージについては、適切なワークステーション資料を参照してください。

INWxxxx=高機能ワークステーション/IBM PC メッセージ

INW0001I FILE TRANSFER COMPLETE

説明: ホスト転送ファイルへの、またはホスト転送ファイルからのファイル転送が、正常に完了しました。

以下のメッセージは、完了したファイル転送を示します。

INW1 オプションを指定し、ワークステーション・ファイル転送ダイアログが使用されたときは、これらのメッセージも、メッセージ番号 INW0001I とともに出されます。

```
INW0017I FILE TRANSFER COMPLETE WITH BINARY
          OPTION FORCED
INW0022I FILE STORED IN TS QUEUE qname
INW0024I FILE STORED IN TS QUEUE qname.
          CONTROL GIVEN TO PROGRAM progname
INW0025I FILE RECEIVED FROM TS QUEUE qname
INW0048I TRACE COMPLETE - CHECK TRACE FILE
          IWSTRACE IN POWER LIST QUEUE
INW0049I TRACE COMPLETE - CHECK TRACE FILE
          CFTRxxx IN CICS TEMPORARY STORAGE
INW0050I TRACE COMPLETE - CHECK TS QUEUE
          CFTRxxx OR LIST QUEUE IWSTRACE
INW0075I QUEUE ENTRY entryname entrynumber
          RECEIVED
INW0079I JOB jobname jobnumber SUCCESSFULLY
          SUBMITTED. RC=xyxy
INW0082I QUEUE ENTRY entryname entrynumber
          CREATED. RC=xxxx
INW0084I OK
INW0085I LIBRARIAN COMMAND(S) SUCCESSFULLY
          SUBMITTED - MAXRC=return code
```

これ以上の情報については、それぞれのメッセージ (上にリストされたメッセージ番号を使用して) を参照してください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INW0002I TRANSMISSION ERROR.

MODULE=nnnnnnnn RC=xxxx

説明: ホストとワークステーション間でのデータ転送に、エラー状態が検出されました。これは転送中のデータのエラーか、または識別されていないシステム・エラーである可能性があります。

nnnnnnnn は検出されたモジュールの名前で、xxxx はエラー

を識別する 16 進コードです。個々のモジュール・エラーのリストと、これらに対応する戻りコードの意味については、以下を参照してください。

モジュール

エラーの説明

INWPCLS0

0001 - 無効な応答 (AID ENTER、PF1、または PF2 で応答してください)

INWPCLS2

0001 - 無効な応答 (AID ENTER、PF1、または PF2 で応答してください)

INWPCLS1

0001 - 応答を受信していない DDM - このリストの最後の DDM エラーを参照

INWPGBUF

- 0001 - 応答バッファ・アドレスがゼロ
- 0002 - ゼロ入力ポインタを受信

INWPGET0

0001 - 無効な応答 (AID ENTER、PF1、または PF2 で応答してください)

INWPGET2

0001 - 無効な応答 (AID ENTER、PF1、または PF2 で応答してください)

INWPGET1

- 0001 - 肯定応答なし X'63'
- 0002 - データ確認 X'05' がない DDM - このリストの最後の DDM エラーを参照

INWP0PN0

0001 - 無効な応答 (AID ENTER なし)

INWP0PN1

- FFFF - PC からの受信データなし
- EEEE - PC からの無効な応答 DDM - このリストの最後の DDM エラーを参照

INWPPBUF

00001 - ゼロ入力ポインタを受信

INWPPUT0

- 0001 - 無効な応答 (AID ENTER または PF2 で応答してください)
- 0002 - 無効なフレーム・シーケンス番号

INW0003I • INW0005I

- 0003 - 無効なデータ長を受信

INWPPUT2

- 0001 - 無効な応答 (AID ENTER または PF2 で応答してください)
- 0002 - 無効なフレーム・シーケンス番号
- 0003 - 無効なデータ長を受信

INWPPUT1

- 0001 - 応答が「データ確認」の X'05' でない
- 0200 - 到着順序が無効。IBM PC 3270 エミュレーション・プログラムの場合: PC ファイルが見つからないか、またはディスク・エラー。
- 4A00 - レコード長が無効
- 5D00 - サポートされないタイプ DDM - このリストの最後の DDM エラーを参照

INWPQUER

- 0001 - EXTDS を検査する EXEC CICS ASSIGN からの非ゼロの戻りコード
- 0002 - 「照会・応答」からの応答がない
- 0003 - 「照会・応答」からの長さが無効
- 0004 - 「照会・応答」からの応答が無効
- 0005 - 画面を消去する SEND からのエラー

INWPRCVE

- 0001 - PC からの受信失敗
- 0002 - DBCS ワークステーション: 構造化ファイルの受信なし

INWPROOT

- 0002 - IND\$FILE cmd を RECEIVE しているとき、エラーが起きました。

INWPSNDR

- 0001 - XPCC バッファ・アドレスがゼロ

DDM エラーは、ワークステーションによって戻されたエラー・コードです。ファイル転送セッションが「ハング」状態のように見えるとき、ホスト・セッションで何かのキー (S) を押すと、受け取る DDM エラーは押したキーへの応答であり、ワークステーションからのエラーではないことに注意してください。

コード (16 進)

エラーの説明

- X'0100' オープンの失敗
- X'0200' 到着順序が許可されない (ファイル転送が Ctrl-C によって取り消されたとき起こる可能性があります)
- X'0300' 未オープン・ファイルのクローズ
- X'1A00' ファイル名が無効
- X'1B00' ファイルが見つからない
- X'1C00' ファイル・サイズが無効
- X'2000' 機能のオープン・エラー
- X'3E00' 許可されていない操作
- X'4700' レコードがファイルに追加されていない
- X'5800' ファイルの検索ができない
- X'5D00' サポートされていないタイプ
- X'6000' コマンド構文エラー (PC ディスクがいっぱいであるか、損傷を受けたときに起こる可能性があります)
- X'6200' パラメーターがない
- X'6300' パラメーターがサポートされていない
- X'6500' パラメーター値がサポートされていない

- X'6E00' データ構成エレメントがない

- X'7100' レコード長が 0

- X'7100' 無効なフラグ値

DFT モードのワークステーションで作業し、最後の文字として 0 を持つモジュール名 (例えば INWPPUT0 または INWPGET0) で SEND または RECEIVE が成功しなかった後にこのメッセージがホスト・セッションに現れた場合は、おそらくユーザーの CICS 端末が、端末制御テーブルに定義された EXTDS 機構を持っていません。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: ファイル転送操作を再試行してください。問題が続くときは、弊社に支援を依頼してください。

プログラマーの応答: 形式が正しいか、間違ったデータがないかについてファイルを検査してください。ホスト接続の状況すべてのコンポーネントのセットアップを調べてください。ワークステーションを DFT モードで操作している場合は、CICS 端末が、端末制御テーブル (DFHTCT) に定義された EXTDS 機構を持っているかどうかを確認してください。

INW0003I HOST MAIN STORAGE UNAVAILABLE. FILE TRANSFER TERMINATED

説明: システムは、動的ストレージを取得するために GETMAIN を要請しましたが、その要請は満たされませんでした。これはおそらくシステムに過大な負荷がかかっており、多数のタスクが同時にストレージを要求していることが原因と考えられます。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: しばらく待ってから、コマンドを再度出してください。それでもなお問題が起こる場合には、システムの管理者に連絡してください。

プログラマーの応答: この状態がたびたび起こる場合には、CICS 区画のサイズを大きくしてください。

INW0004I INVALID REQUEST CODE. FILE TRANSFER TERMINATED

説明: ワークステーションからホストに送信されたファイル転送コマンドに (ワークステーションで生成された) GET または PUT が指定されていません。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: ファイル転送操作の呼び出しに使用したパラメーターを調べて、訂正してください。ファイル転送操作を再試行してください。問題が続くときは、弊社に支援を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0005I HOST FILENAME INVALID

説明:

FILE=HTF: ファイル名が 8 文字を超えているか、*:() < > のいずれかの文字または末尾に下線を含んでいます。

FILE=TS: ファイル名が 8 文字を超えているか、*:() < > のいずれかの文字または末尾に下線を含んでいます。

これが TS キューから RECEIVE されたときは、RECEIVE コマンドで指定されるホスト・ファイル名が TS キュー・ヘッダー・レコードのファイル名と一致しません。

POWER へ/**POWER** からのファイル転送: 入り口名は 1-8 文字の長さでなければなりません。有効な文字は、A から Z、0 から 9、- . / @ # です。

VSE へ/**VSE** からのファイル転送: メンバー名は 1-8 文字の長さでなければなりません。有効な文字は、A から Z、0 から 9、\$ @ # です。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいファイル名を用いて再度コマンドを出してください。TS キューからファイルを受け取り、またはヘッダー・レコードの名前がわからない場合は、ホスト・ファイル名にアスタリスク (*) を指定してください。この場合、ヘッダー・レコードはデータ・レコードの前にダウンロードされます。

プログラマーの応答: なし。

INW0006I INVALID OR CONFLICTING OPTION 'nnnnnnnn'

説明: 2 つの矛盾するオプション (ASCII および BINARY) が指定されたか、オプション・キーワードが誤ってつづられているか、要求機能がサポートされていないか、変数値に続く等号が無効です。

オプション・キーワードが無効な場合、または変数値に続く等号が長すぎる場合は、nnnnnnnn はオプションの最初の 8 桁を示します。変数値が無効な場合には、nnnnnnnn はオプション・キーワードの持つ無効な値を示します。

ファイルを VSE ライブラリーへ、または VSE ライブラリーから、メンバー・タイプ PHASE を指定して転送しているときは、オプション ASCII、CRLF、LRECL= および UC は無効です。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいオプションを指定してコマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0007I ERROR IN HOST TRANSFER FILE. FILE TRANSFER TERMINATED

説明: ホスト転送ファイル INWFILE がアクセス不可です。これは、そのファイルが (1) VSAM に対して未定義か、定義が間違っています。(2) そのファイルが CICS (FCT) に対して未定義か、定義が間違っています。あるいは (3) そのファイルが CICS 環境で使用できないためです。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: システム管理者に連絡してください。

プログラマーの応答: ファイル INWFILE ファイルが正しく定義されており使用可能であることを確かめてください。

INW0008I FILE TRANSFER COMPLETE WITH RECORDS TRUNCATED

説明: CRLF オプションを持つ VSE ライブラリーへの SEND が出されましたが、1 つ以上のレコードが許可された長さ 80 文字を超えました。レコードは 80 文字までに切り捨てられます。このメッセージは、2 進ファイルを送信する時にも出されます。例えば、CRLF オプションを使用する .EXE ファイルなどです。

システムの処置: ファイル転送を完了し、レコードを切り捨てます。

オペレーターの応答: 正しいレコード長でファイルが送信されたかどうかを調べ、正しいオプションを使用していることを確かめてから、ファイル転送操作を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0009I INVALID USER ID 'user-id'

説明: RECEIVE コマンドまたは SEND コマンドの FROM= オプションまたは FOR= オプションで、無効なユーザー ID が見つかりました。

IUI にサインオンするときは、ユーザー ID は 4-8 文字で、z/VSE システムに正しく定義されていなければなりません。

IUI にサインオンせずに作業を行うと、ユーザー ID が正しい長さ (1-8 文字) であるかどうかは検査されますが、ユーザー ID がシステムで定義されているかどうかは検査されません。

8 文字を超えるユーザー ID が見つかったときは、先頭の 8 文字のみがメッセージに表示されます。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいユーザー ID を使用して、コマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0010I FILE/MEMBER filename filetype ALREADY EXISTS. USE THE REPLACE OPTION

説明: REPLACE オプションを指定せずに、ファイル/メンバーがホスト転送ファイルまたは VSE ライブラリーに送られましたが、同じファイル名とファイル・タイプ、またはそのいずれかを持つファイル/メンバーがすでに存在しています。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 既存のファイルを置き換える場合は、REPLACE オプションを指定して、SEND コマンドを再発行してください。置き換えない場合は、異なるファイル名とファイル・タイプまたはそのいずれかを使用してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0011I NO MORE SPACE IN HOST TRANSFER FILE. TRANSFER TERMINATED

説明: メッセージの通りです。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: ホスト・セッションに切り換え、転送ユーティリティを用いてファイルを削除してください。

RECEIVE コマンド (KEEP オプションのないもの) を使用して転送ファイル中のスペースを解放することもできます。これが行えない場合には、システム管理者に連絡してください。

プログラマーの応答: 必要であれば、転送ファイル INWFILE のサイズを大きくしてください。

INW0012I FILE/MEMBER filename filetype NOT FOUND.

説明: ホスト転送ファイルまたは、VSE サブライブラリーからファイル/メンバーを受け取るため、または VSE サブライブラリー・ディレクトリーを表示するために RECEIVE コマンド

INW0013I • INW0018I

が出されましたが、指定されたファイル名とファイル・タイプを持つファイル/メンバーがありません。

または

存在しないライブラリー・メンバーを指定する UNLOCK オプションを持つ SEND コマンドが出されました。

ホスト転送ファイル内の SHARED ファイルに対して (FROM= オプションを指定して) コマンドが出されたときは、ファイルは指定のユーザーについては存在しません。これは、指定されたユーザー ID またはファイル名が正しくないためです。

このメッセージは DCDF= オプションでホスト転送ファイルがない名前が指定されたときにも現れます。DCDF のファイル・タイプはブランクまたは DCDF でなければなりません。

注: 指定のファイル名またはファイル・タイプに円記号 (\$) が含まれているときは、メッセージ INW0012I は円記号のある位置で切られます。これは、ワークステーションが円記号をメッセージ終了標識と見なすためです。この場合、ホスト・セッションで完全なメッセージを調べてみてください。

ホスト・ファイル名/ファイル・タイプを指定せずにコマンドを出したときは、メッセージに示される名前は、システムが想定したデフォルト名です。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいホスト・ファイル名/ファイル・タイプを指定し、RECEIVE コマンドを再発行して、必要ならユーザー ID を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0013I YOU ARE NOT AUTHORIZED TO ACCESS FILE *filename filetype*

説明: FROM= オプションを指定して RECEIVE コマンドが出されましたが、指定されたファイルが PUBLIC ではないか、または指定されたユーザーによって与えられた (共有する) ものではありません。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 指定されたユーザーからの、PUBLIC および SHARED ファイルのリストについては、移動ユーティリティの表示機能を使用してください。正しいファイル名およびユーザー ID を指定して RECEIVE コマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0014I INTERNAL SYSTEM ERROR. MODULE=*nnnnnnnn* RC=*xxxx*

説明: ホスト転送ファイルからファイルを読み取り中またはそのファイルにファイルを書き込み中に、ファイル転送マネージャーから予想しなかった戻りコードを受け取りました。ファイルは、読み取りまたは書き込み操作が完了する前に内部的なシステム・エラーにより多分、壊されています。nnnnnnnn は、エラーを検出したモジュールの名前であり、xxxx は、転送ファイル・マネージャーから受け取った 16 進の戻りコードです。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 転送ユーティリティの表示機能を使用して、ファイルの状況を調べてください。ファイル転送操作を

再試行してください。問題が続くときは、弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0015I FILE TRANSFER COMPLETE. SHARE FOR USER *nnnn* FAILED

説明: FOR= オプション付きの SEND 要求が出されました。ファイルはホスト転送ファイルに正しく記憶されましたが、ほかのユーザーにそのファイルを送る (共有する) ことができませんでした。これは、ホスト転送ファイルがいっぱいであるか、識別できないシステム・エラーが起こったためです。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: ホスト転送ファイル中の一部のスペースを解放することを試み、コマンドを再度出してください。必要であれば、システム管理者に連絡して、ホスト転送ファイルを大きくしてもらってください。

プログラマーの応答: なし。

INW0016I FILE TRANSFER COMPLETE BUT ERASE NOT SUCCESSFUL

説明: ERASE オプションで RECEIVE 要求が出されました。ファイルは正常にワークステーション・ディスクに保管されましたが、内部エラーが原因でホスト転送ファイルから消去できませんでした。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 移動ユーティリティの消去機能を使用して、ファイルを消去してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0017I FILE TRANSFER COMPLETE WITH BINARY OPTION FORCED

説明: RECEIVE 要求で、ASCII オプションが明示的に、またはデフォルトによって指定されましたが、受け取る予定のファイルはホストによって BINARY オプションで送信されました。ASCII オプションを指定すると、ファイルはワークステーションで使用できなくなるため、BINARY オプションが強制されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INW0018I ERROR WRITING TO DAMAGED OR FULL DISK

説明: ワークステーション・ディスクが損傷をうけているか、あるいはファイルのフリー・スペースが不足しているため、ファイルを保管できません。(CUT 接続では INW0018I の代わりに、ホストでメッセージ DFH2001I が表示されます。)

システムの処置: DFT 接続では、ワークステーション・セッション中にワークステーション・メッセージ TRANS12 および TRANS11 が表示されます。

オペレーターの応答: ディスクのスペースを一部解放するか、または別のディスクを使用して再試行してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0019I NO DATA STORED IN HOST FILE.
WORKSTATION FILE EMPTY OR
BINARY**

説明: 何も入っていないワークステーション・ファイルが送信されたか、2 進数のワークステーション・ファイルが CRLF オプションで送信されました。

システムの処置: 転送ファイル中で、ファイルに疑問符のフラグを付けます。

オペレーターの応答: ワークステーション・ファイルを調べ、2 進数ファイルの場合は、BINARY オプションを指定してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0020I INPUT COMMAND TOO LONG

説明: CICS によって受信された入力コマンドの長さが、ホストで取り扱える最大長の 160 桁を超えています。

SEND/RECEIVE コマンドは次の内部形式に変換されます。

IND\$FILE PUT|GET hostname hosttype (options) comments

PC ファイル指定はホストに送信されないことに注意してください。これは、すべてのブランクを含め、ホスト名、ホスト・タイプ、オプションおよび注釈が 147 文字を超えてはならないことを意味します。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しい長さのコマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0021I TS QUEUE *qname* NOT FOUND

説明: ダウンロードで、QNAME= オプションで指定した TS キューまたはこのオプションが省略された場合のデフォルト TS キューが見つかりませんでした。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: CEBR トランザクションを使ってそのキューが存在するか、それが何かデータを持っているかどうかを調べてください。アップロードかユーザーのトランザクションを使って必要なキューを作ってください。

プログラマーの応答: なし。

INW0022I FILE STORED IN TS QUEUE *qname*

説明: ワークステーション・ファイルが示された TS キューに正常に保管されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**INW0024I FILE STORED IN TS QUEUE *qname*
CONTROL GIVEN TO PROGRAM
*progrname***

説明: ワークステーション・ファイルは、示された TS キューに正しく格納され、ユーザー・プログラムが呼び出されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INW0025I FILE RECEIVED FROM TS QUEUE *qname*

説明: 示されたキューの内容が、ワークステーションで受け取られました。アスタリスクがホスト・ファイル名として指定され、キューにヘッダー・レコードが含まれている場合は、ヘッダー・レコードもワークステーションにダウンロードされません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**INW0026I RECORD SIZE EXCEEDS *xxxx* BYTES.
FILE TRANSFER TERMINATED.**

説明: 有効な最大レコード・サイズは以下の通りです。

- 32760 - CICS 一時ストレージ用
- 32600 - ホスト転送ファイル用
- 80 - VSE ライブラリー用
- Send/receive バッファ・サイズ (デフォルトまたは BUF= オプションの指定) マイナス 20 - POWER 用

許可された最大値より大きい LRECL= オプションが指定されたか、CRLF オプションで大きな 2 進ファイルを送信しています。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: BINARY/NOCLRF オプションまたは正しい LRECL= オプションを指定してコマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0027I FILE TRANSFER TERMINATED BY
PROGRAM *progrname*. RC=*xxxx***

説明: プログラム *progrname* からゼロ以外の戻りコードが戻されました。xxxx は、ユーザー・プログラムから出された 16 進表記の戻りコードです。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: エラー状況を訂正して、もう一度試してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0028I INVALID QUEUE NAME OR PROGRAM
NAME *name***

説明: TS キューの名前とユーザー・プログラム名は文字列 CFTR で始まり、最低 6 文字必要です。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: エラー状況を訂正して、もう一度試してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0029I TS QUEUE *name* ALREADY EXISTS.
SPECIFY REPLACE OR APPEND.**

説明: アップロードにおいて、指定されたキューまたはデフォルトのキューがすでに存在し、NOREPLACE オプションが有効になっています。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: キューを削除するときは、REPLACE オ

プシオンを指定して操作を再実行してください。新規ファイル
を既存のキューに追加するときは、APPEND を指定してくだ
さい。

プログラマーの応答: なし。

**INW0030I CICS TEMPORARY STORAGE
EXHAUSTED**

説明: ファイル転送に必要なキューを割り当てるための一時ス
トレージの余裕がもうありません。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: システム管理者に連絡して、スペースを
解放してもらるか、追加のスペースを割り振ってもらってくだ
さい。

プログラマーの応答: なし。

**INW0031I ERROR READING TS QUEUE *name*.
EIBRCODE=*xxxx* MODULE=INWP*nnnn***

説明: 示された TS キューからの読み取り中に、予期しないエ
ラーが発生しました。 *xxxx* は、CICS で戻される EIBRCODE
の最初の 2 バイトの 16 進表記です。 EIBRCODE= と
MODULE= は、ホスト・セッションで表示されたメッセージ
にのみ示されます。

システムの処置: ファイル転送を終了します。 メッセージを
メッセージ・ログ・ファイルに記録します。

オペレーターの応答: システム管理担当者にエラーの分析を依
頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0032I FAILURE TO LINK TO PROGRAM
*progrname***

説明: 以下のいずれかの理由によって、示されたプログラムへ
リンクできません。

- プログラムが存在しない。
- プログラムが CICS 処理プログラム・テーブル (PPT) に定
義されていない。
- プログラムが使用禁止になっている。
- プログラムが CICS リソース・セキュリティー・キーで保
護されている。

システムの処置: *progrname* が INWFMGR の場合、ファイル
転送を終了します。 ホスト転送ファイルはアクセスできませ
ん。 *progrname* が INWNTFY の場合、ファイル転送は完了し
ますが、通知メッセージは送られません。

FILE=TS の場合は以下の通りです。

SEND では、ワークステーション・ファイルは TS キューに
記憶されますが、ユーザー・プログラムによる呼び出しは失
敗します。

RECEIVE では、ファイル転送は終了します。

このメッセージは、メッセージ・ログ・ファイルに記録されま
す。 またメッセージ・ログには、問題判別に役立つ CICS か
らのメッセージも含まれています。

オペレーターの応答: CEMT トランザクションを使用して、
プログラムの状況を確認および訂正した後、操作を再実行して
ください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0033I ERROR WRITING TS QUEUE *name*.
EIBRCODE=*xxxx* MODULE=INWP*nnnn***

説明: 示された TS キューへの書き込み中に、予期しないエラ
ーが発生しました。 *xxxx* は、CICS で戻される EIBRCODE
の最初の 2 バイトの 16 進表記です。 EIBRCODE= と
MODULE= は、ホスト・セッションで表示されたメッセージ
にのみ示されます。

xxxx の意味は、以下を参照してください。

EIBRCODE

意味

1800 CICS 一時ストレージ・データ・セット (DFHTEMP)
がいっぱいです。

0100 レコード数が 32767 を超えています。

システムの処置: ファイル転送を終了します。 メッセージを
メッセージ・ログ・ファイルに記録します。

オペレーターの応答: システム管理担当者にエラーの分析を依
頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0034I ERROR DELETING TS QUEUE *name*.
EIBRCODE=*xxxx* MODULE=INWP*nnnn***

説明: 示された TS キューの削除中に、予期しないエラーが発
生しました。 *xxxx* は、CICS で戻される EIBRCODE の最初
の 2 バイトの 16 進表記です。 EIBRCODE= と MODULE=
は、ホスト・セッションで表示されたメッセージにのみ示され
ます。

システムの処置: ファイル転送を終了します。 メッセージを
メッセージ・ログ・ファイルに記録します。

オペレーターの応答: システム管理担当者にエラーの分析を依
頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0035I FILE TRANSFER COMPLETE. NOTIFY
FAILED. RC=*xxxx***

説明: ファイルが正しくホスト転送ファイルに送信、またはホ
スト転送ファイルから受信されましたが、通知メッセージは
以下の戻りコード *xxxx* で指定された問題が原因で送信できま
せん。

0001 ユーザー ID は VSE 制御ファイル IESCNL に定
義されていません。

0002 オンライン・メッセージ・ファイル IESTRFL をアク
セスできませんでした。

0004 メッセージ・ルーティング・ファイル IESROUT が
アクセスできないか、またはいっぱいです。

0008 VSE 制御ファイル IESCNL にアクセスできません
でした。

0010 メッセージが経路指定されました - ユーザーは
z/VSE にサインオンしていません。

0080 内部エラー。

システムの処置: メッセージをメッセージ・ログ・ファイルに
記録します。

オペレーターの応答: システム管理担当者にエラーの分析を依
頼してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0036I SECURITY VIOLATION: FAILURE TO ACCESS A PROTECTED RESOURCE.

説明: ファイル転送トランザクション (IND\$) は、リソース・セキュリティ・レベルのチェックをしています。SEND または RECEIVE コマンド中の 'PROGRAM=' オプションで指定されたユーザー出口プログラム、またはこのプログラムによってアクセスされたリソースが、PPT または FCT の項目内の正しいリソース・レベルと一致しません。

システムが一時ストレージ・キュー CFTRxxxx セキュリティ・レベルのチェックをしている場合には、あなたのユーザー ID は、これらの TS キューにアクセスする許可を与えられていません。

システムの処置: ファイル転送を中止し、メッセージをメッセージ・ログ・ファイルに記録し、下記のようなパネルをホスト・セッションで表示します。

IESPRBDC1 ONLINE PROBLEM DETERMINATION DATA COLLECTION

The transaction you were executing ended abnormally.

Information about this incident has been stored for later problem determination.

Specifics about this incident are given below:

Transaction ID: IND\$	Abend Code: AEY7
Task ID: 2835	Abend Date: 6/19
Program ID: INWPCCOM	Abend Time: 13:31:20

Another panel is displayed when you press Enter. It is the panel you were working on when the error occurred. Examine it carefully, and note any information which may be useful in finding the error.

===| PRESS ENTER WHEN YOU HAVE COPIED ALL THE HIGHLIGHTED INFORMATION.

オペレーターの応答: システム管理担当者にエラーの分析を依頼してください。z/VSE に詳しい場合は、オンライン問題判別 (OLPD) 機能を使用して、アクセスしようとしていた保護リソースを識別してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0037I ABNORMAL END IN HOST SESSION. FILE TRANSFER TERMINATED.

説明: ホスト・セッションで実行中のプログラムが異常終了しました。

システムの処置: ファイル転送を中止させます。メッセージはメッセージ・ログ・ファイルに記録され、上記のメッセージ INW0036I に表示されているようなパネルがホスト・セッション側に表示され、失敗したプログラムが示されます。

オペレーターの応答: システム管理担当者にエラーの分析を依頼してください。z/VSE に詳しい場合は、オンライン問題判別 (OLPD) 機能を使用して、エラーを識別してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0038I HOST FILETYPE INVALID

説明:

- **FILE=HTF:** ファイル・タイプが 8 文字を超えているか、* : () < > のいずれかの文字または末尾に下線を含んでいません。
- **FILE=TS:** ファイル・タイプが 8 文字を超えているか、* : () < > のいずれかの文字または末尾に下線を含んでいません。
- **POWER** からのファイル転送: 指定する場合、POWER キュー項目番号は 0 から 5 桁の長さで指定できます。
- **VSE** ライブラリーのファイル転送: メンバー・タイプは 0 から 8 文字の長さにしてください。有効な文字は、A から Z、0 から 9、\$ @ # です。

VSE ライブラリーにファイルを送信するときは、以下の通りです。

- メンバーが内部フェーズ・ヘッダーによって識別されたフェーズでない場合、メンバー・タイプ PHASE は無効です。メンバーがフェーズで CLRF、LRECL=80、または UC のような無効なオプションが指定された場合にも、このメッセージが出されます。
- メンバー・タイプ PROC、OBJ、および 1 文字のメンバー・タイプは固定長 80 の形式が必要で、NOCRLF オプションとともに指定された場合、またはメンバーがフェーズの場合は無効です。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいファイル・タイプまたはオプションを指定してコマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0039I CHECKING OF USER IDS FAILED - MODULE=INWTUID RC=nnnn

説明: FOR= または FROM= オプションを指定した SEND コマンドまたは RECEIVE コマンドが出されましたが、次の戻りコード *nnnn* で示される内部エラーが原因でユーザー ID の検査が失敗しました。

- 0263** CICS からの予期しないエラーです。
- 0267** GETMAIN 要求が失敗しました。
- 026A** プログラム IESCFA (制御ファイル・アクセス) が、PPT で使用不能または定義されていないため、あるいはシステム・ライブラリーになかったために呼び出すことができませんでした。
- 026B** 制御ファイル IESCNTL が使用できません。
- 026C** 制御ファイル IESCNTL がクローズされています。
- 026D** プログラム IESCFA で予期しないエラーが起きました。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: プログラム IESCFA からのエラー・メッセージについて、VSE メッセージ・ログを調べてください。システム管理担当者に IESCFA と IESCNTL のいずれかまたは両方の状況の調査を依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0040I FILE TRANSFER ABENDED.
CONVERSION ERRORS LOGGED IN
filename INWCMSGS**

説明: ファイル転送操作でデータ変換 (DCDF=) が要求されましたが、変換するデータとデータ変換記述子ファイル (DCDF) が一致していないため、重大な変換エラーが起きました。

詳細エラー診断は、ホスト転送ファイル内のメンバー *filename* INWCMSGS に記録されます。変換エラーが起きたファイル転送操作ごとに、このメンバーの新版が作成されます。システムの処置: ファイル転送を終了します。メッセージを *filename* INWCMSGS に保管します。

オペレーターの応答: ホスト転送ファイル・メンバー *filename* INWCMSGS のエラー・メッセージを分析し、エラーを訂正し再実行してください。後で参照できるようにエラー・メッセージを保存しておくには、*filename* INWCMSGS の内容を保管してください。これは次のファイル転送操作で上書きされません。

プログラマーの応答: なし。

**INW0041I FILE TRANSFER COMPLETE.
CONVERSION ERRORS LOGGED IN
filename INWCMSGS**

説明: データ変換 (DCDF=) の指定でファイル転送操作は正常に完了しましたが、軽度の変換エラーが検出されました。

詳細エラー診断は、ホスト転送ファイル内のメンバー *filename* INWCMSGS に記録されます。変換エラーが起きたファイル転送操作ごとに、このメンバーの新版が作成されます。システムの処置: ファイル転送は完了します。メッセージが *filename* INWCMSGS 内に格納されます。

オペレーターの応答: ホスト転送ファイルのメンバー *filename* INWCMSGS のメッセージを分析し、必要ならエラーを訂正し、再試行してください。後で参照できるようにエラー・メッセージを保存しておくには、*filename* INWCMSGS の内容を保管してください。これは次のファイル転送操作で上書きされません。

プログラマーの応答: なし。

**INW0042I SEVERE CONVERSION ERRORS
OCCURRED - RECORDING OF ERRORS
FAILED**

説明: ファイル転送でデータ変換 (DCDF=) が要求されましたが、変換すべきデータとデータ変換記述子ファイル (DCDF) とが一致していないため、重大な変換エラーが起きました。しかし、診断の記録はできませんでした。エラー記録を取り扱うトランザクション INWX が正しく開始できませんでした。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: トランザクション INWX およびプログラム INWCMSG が (DFHPCTxx および DFHPPTxx の中に) 正しく定義され、使用可能になっているかどうか、また CICS 一時ストレージが使い尽くされていないかどうかを調べてください。一時ストレージを再形式化するため、CICS をシャットダウンし、再始動してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0043I FILE TRANSFER COMPLETE -
RECORDING OF CONVERSION ERRORS
FAILED**

説明: データ変換 (DCDF=) 指定ファイル転送操作は首尾よく完了しましたが、軽度の変換エラーが検出されました。しかし、エラー記録を取り扱うトランザクション INWX が正しく開始できなかったため、エラーの診断を記録することができませんでした。

システムの処置: ファイル転送は完了します。

オペレーターの応答: トランザクション INWX およびプログラム INWCMSG が (DFHPCTxx および DFHPPTxx の中に) 正しく定義され、使用可能になっているかどうか、また CICS 一時ストレージが使い尽くされていないかどうかを調べてください。一時ストレージを再形式化するため、CICS をシャットダウンし、再始動してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0044I INVALID CONTENTS IN DATA
CONVERSION DESCRIPTOR FILE *filename*
*filetype***

説明: SEND 操作または RECEIVE 操作で指定された DCDF の内容が、次のいずれかが原因で無効です。

- レコード長またはレコード ID が正しくない。
- レコード・フィールドの値が正しくない。
- ホスト・データ形式 SQLINPUT が RECEIVE 操作に使用されている。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: DCDF を訂正し、ホスト転送ファイルに保管して、ファイル転送操作を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0045I FILE TRANSFER TERMINATED BY
WORKSTATION OR OPERATOR**

説明: CUT モードでファイルを転送中に、リカバリー不能なエラー状態がワークステーション制御プログラムで検出されました。ワークステーションは、ファイル転送の終了を示す AID コード 'X'F2' をホストに送ります。オペレーターがホスト・セッションで F2 キーを押してファイル転送を中断したときにも、このメッセージが出されます。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: ファイル転送操作を再実行してください。エラーが続くときは、IBM 担当員に知らせてください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0046I INVALID DATA RECEIVED FROM HOST
- CHECK SUMS DO NOT MATCH**

説明: CUT モードで RECEIVE ファイル転送操作を行っていると、受信データについてワークステーションで作られた検査合計が、ホストが送った検査合計と一致せず、データの一部が破壊されたことを示しています。これは、特に ASCII プロトコル変換がファイル転送に使用されている回線のエラーが原因であると考えられます。

システムの処置: データを 3 回再転送します。その後、上記のメッセージを出して、ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: ファイル転送操作を同じデータで、また異なるデータで再実行してください。エラーが続くときは、IBM 担当員に知らせてください。

プログラマーの応答: なし。

**INW00471 INVALID DATA RECEIVED FROM
WORKSTATION - CHECK SUMS DO
NOT MATCH**

説明: CUT モードで SEND ファイル転送操作を行っているときに、受信データについてワークステーションで作られた検査合計が、ワークステーションが送った検査合計と一致せず、データの一部が破壊されたことを示しています。これは、特に ASCII プロトコル変換がファイル転送に使用されている回線のエラーが原因であると考えられます。

システムの処置: データを 3 回再転送します。その後、上記のメッセージを出して、ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: ファイル転送操作を同じデータで、また異なるデータで再実行してください。エラーが続くときは、IBM 担当員に知らせてください。

プログラマーの応答: なし。

**INW00481 TRACE COMPLETE - CHECK TRACE FILE
IWSTRACE IN POWER LIST QUEUE**

説明: ファイル転送操作が、TRACE=LST オプション付きで IWS バッファ・トレースを要求しました。トレースは正常に完了し、トレースの出力は POWER リスト・キュー項目 IWSTRACE に格納されています。TRACE または TRACECUT オプションが指定された場合、このメッセージは、CICS 一時ストレージの 2 番目のトレース・ファイル CFTRTRCE にエラーがあることを意味します。診断情報は IWSTRACE に格納されています。

システムの処置: このメッセージはホスト・セッションにだけ表示されます。ワークステーション・セッションでは、正常なファイル転送の完了、またはエラー・メッセージが表示されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: トレース・ファイル CFTRTRCE のエラーを分析するには、リスト項目 IWSTRACE を表示または印刷して、以下のメッセージを探してください。

```
INFO: CFTRxxxx ERROR EIBRESP=nnnn
EIBRESP2=0000 MODULE=INWPTRCE....14
```

EIBRESP コードはエラーのタイプを示しています (メッセージ INW0053I も参照してください)。

**INW00491 TRACE COMPLETE - CHECK TRACE FILE
CFTRTRCE IN CICS TEMPORARY
STORAGE**

説明: ファイル転送操作が、TRACE=Q オプション付きで IWS バッファ・トレースを要求しました。トレースは正常に完了し、トレースの出力は TS キュー CFTRTRCE に格納されます。TRACE または TRACECUT が指定された場合、このメッセージは、POWER リスト・キューの 2 番目のトレース・ファイル IWSTRACE にエラーがあることを意味します。診断情報は CFTRTRCE に格納されています。

システムの処置: このメッセージはホスト・セッションにだけ表示されます。ワークステーション・セッションでは、正常なファイル転送の完了、またはエラー・メッセージが表示されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: トレース・ファイル IWSTRACE のエラーを分析するには、一時ストレージ・キュー CFTRTRCE を表示 (CICS CEBR コマンドで) して、以下のメッセージを探してください。

```
INFO: IWSTRACE ERROR EIBRESP=nnnn
EIBRESP2=nnnn MODULE=INWPTRCE....14
```

EIBRESP と EIBRESP2 コードはエラーのタイプを示しています (メッセージ INW0053I も参照してください)。

**INW00501 TRACE COMPLETE - CHECK TS QUEUE
CFTRTRCE OR LIST QUEUE IWSTRACE**

説明: ファイル転送操作が、TRACE または TRACECUT オプション付きで IWS バッファ・トレースを要求しました。トレースは正常に完了し、トレースの出力は TS キュー CFTRTRCE および POWER リスト・キュー項目 IWSTRACE に格納されます。

システムの処置: このメッセージはホスト・セッションにだけ表示されます。ワークステーション・セッションでは、正常なファイル転送の完了、またはエラー・メッセージが表示されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: トレース出力をオンラインで分析するには、PF6 (実行が許可されている場合) で固有の CICS に入るか、コマンド CEBR CFTRTRCE でキューの内容を表示するか、または バッチ・キューの管理 ダイアログでリスト・キュー項目 IWSTRACE を表示してください。

トレース出力のリストを入手するには、IWSTRACE をホストの印刷装置で印刷するか、または次のコマンドで CFTRTRCE をワークステーションにダウンロードしてください。

```
RECEIVE PCFILE * (FILE=TS QNAME=CFTRTRCE
```

それをワークステーションの印刷装置で印刷してください。

**INW00511 SETUP ERROR - EXTDS IS REQUIRED IN
THE TCT FOR TERMINAL xxxx**

説明: TRACE オプションが SEND または RECEIVE コマンドで指定されました。セットアップ検査によりこの端末は DFT モードですが、EXTDS 機構が端末に対する端末制御テーブル (DFHTCTSP) で指定されていないことが判明しました。EXTDS 機構は DFT モードでのファイル転送に必要です。

システムの処置: ファイル転送を終了します。次の診断情報をトレース・ファイルに保管します。

```
INFO:        EXTDS FEATURE NOT DEFINED IN TCT
OUTBOUND: SEND QUERY REPLY TO CHECK CUT OR DFT
INBOUND:  QUERY REPLIES RECEIVED FROM TERMINAL
ERROR:     TERMINAL IS IN DFT MODE - EXTDS REQUIRED
```

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ハードウェアの構成 のダイアログを使用して、CICS PARMS リストにこの端末項目に対する EXTDS

機構を指定してください。 VM 下のゲスト・マシンとして z/VSE を実行している場合は、EXTDS 機構が定義されているアドレスにダイヤルしてください。

A から Z
0 から 9
@ # \$

最初の文字は数字であってはなりません。

INW0052I SETUP ERROR - EXTDS FEATURE NOT VALID FOR TRACECUT OPTION

説明: 端末が CUT モードにあることを示す TRACECUT オプションが、SEND コマンドまたは RECEIVE コマンドで指定されましたが、セットアップ検査により EXTDS 機能がこの端末制御テーブル (DFHCTSP) 項目で指定されていることがわかりました。 CUT モードでファイル転送を行っているときは、EXTDS 機能はトレースには有効ではありません。システムの処置: ファイル転送を終了します。次の診断情報をトレース・ファイルに保管します。

INFO: CUT MODE ASSUMED DUE TO TRACECUT OPTION
INFO: EXTDS FEATURE DEFINED IN TCT
ERROR: EXTDS FEATURE INVALID FOR TRACECUT OPTION

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ハードウェアの構成 ダイアログを使用して、この端末の CICS PARMS リストから EXTDS 機能を除去してください。 VM 下のゲスト・マシンとして z/VSE を実行しているときは、EXTDS 機能が定義されていないアドレスにダイヤルしてください。

TRACECUT オプションが DFT モードの端末に誤って指定されたときは、ワークステーションとホスト・セッションがともに「ハング」します。ホスト・セッションで実行キーを押して、ワークステーション・セッションを取り消してください。

TCT の EXTDS 機能をトレースせずに、CUT モードで通常のファイル転送を行っても、ワークステーションを接続しているコントローラーに拡張データ・ストリーム機能が備わっているときは、問題がないことに注意してください。

**INW0053I ERROR IN TRACE FILE 'tracename'
EIBRESP=nnnn EIBRESP2=nnnn**

説明: SEND/RECEIVE が trace オプション付きで出されましたが、トレース・レコードの CICS 一時ストレージへの記録と IWSTRACE リスト項目への記録が失敗しました。

EIBRESP コード 0026 は、CICS 一時ストレージ内のトレース・レコードの数が許可された最大数 32767 を超えていることを示します。 *tracename* は、失敗した 2 番目のトレース・ファイルの名前です。 EIBRESP および EIBRESP2 は CICS の戻りコードを示します。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EIBRESP コード 0018 は、CICS 一時ストレージまたは POWER キュー内でのスペース不足状態を示しています。その他の戻りコードについては、「CICS *Application Programming Reference*」を参照してください。

**INW0054I INVALID DESTINATION NAME xxxxxxxx
IN DEST= OPTION**

説明: 名前は 1 から 8 文字の長さで指定できます。

- CICS レポート・コントローラー機能を使用する SEND (FILE=LST) では、有効な文字は以下のとおりです。

A から Z
0 から 9
@ # \$
/ - .

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいノード名でコマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0055I INVALID NODENAME xxxxxxxx IN
NODE= OPTION**

説明: 名前は 1 から 8 文字の長さで指定できます。

- CICS レポート・コントローラー機能を使用する SEND (FILE=LST) では、有効な文字は以下のとおりです。

A から Z
0 から 9
@ # \$

最初の文字は数字にしてください。

- SEND (FILE=LSTX|PUN) では、有効な文字は以下の通りです。

A から Z
0 から 9
@ # \$
/ - .

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいノード名でコマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0056I INVALID FILENAME/REPORTNAME
xxxxxxx**

説明: リスト・キュー項目の名前は 2 から 8 文字の長さでなければなりません。有効な文字は以下の通りです。

A から Z
0 から 9
@ # \$

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 報告書名を指定してコマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0057I ERROR IN LINES= OR L= OPTION -
MUST BE A NUMBER BETWEEN 3 AND
99**

説明: メッセージに説明されている通りです。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいページ当たりの行数でコマンドを再度出してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0058I ERROR IN LINELENGTH= OR LL=
OPTION - MUST BE BETWEEN 20 AND
205**

説明: メッセージに説明されている通りです。
システムの処置: ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答: 正しい行の長さでコマンドを再度出して
ください。
プログラマーの応答: なし。

**INW0059I ERROR IN COPY= OPTION - MUST BE
BETWEEN 1 AND 255**

説明: メッセージに説明されている通りです。
システムの処置: ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答: 正しい複写数でコマンドを再度出して
ください。
プログラマーの応答: なし。

**INW0060I ERROR IN CLASS= OPTION - MUST BE
A CHARACTER FROM A-Z OR 0-9**

説明: オプションは A-Z または 0-9 の文字でなければなりません。
SEND FILE=LST 機能は例外であり、A-Z のみが許可
されています。
システムの処置: ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答: 正しいクラスを指定してコマンドを再発
行してください。
プログラマーの応答: なし。

**INW0061I INVALID DISP= OPTION - MUST BE D
OR L FOR LST or D,L,H,K FOR
PUN/LSTX**

説明: メッセージに説明されている通りです。
システムの処置: ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答: 正しい後処理を指定して、コマンドを再
発行してください。
プログラマーの応答: なし。

**INW0062I ERROR FROM xxxxxxxx EIBRESP=mmmm
EIBRESP2=nnnn**

説明: xxxxxxxx で示される CICS レポート・コントローラー
機能から予期しないエラー・コードが戻りました。

SPOOL0PN = SPOOLOPEN
SPOOLCLS = SPOOLCLOSE
SPLREAD = SPOOLREAD
SPOOLWRT = SPOOLWRITE

EIBRESP および EIBRESP2 コードの説明については、「CICS
Application Programming Reference」を参照してください。
システムの処置: ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: エラー・コードを分析し、問題を修正
できない場合、IBM 担当員に連絡してください。

**INW0063I INVALID {MCC|ASA} CONTROL
CHARACTERS IN OUTPUT RECORDS**

説明: CC、CC=MCC、CC=ASA のいずれかのオプション
で、ファイルが VSE/POWER リスト・キュー (FILE=LST) に
送られましたが、それぞれに有効な MCC または ASA 制御文
字が含まれていませんでした。CC または CC= オプションが
指定されると、常に各レコードの先頭の文字が有効な制御文字
であるかどうか CICS レポート・コントローラー・フィー
チャー (RCF) によって検査されます。FILE=LSTX オプション
または FILE=PUN オプションを指定して、LIST キューまた
は PUNCH キューに送っているときには、有効な制御文字の
検査は行われないうちに注意してください。
システムの処置: ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答: ファイルに有効な制御文字があることを
確かめてください。
プログラマーの応答: なし。

**INW0064I NO MORE SPACE IN POWER
{SPOOL|ACCOUNT} FILE**

説明: スプール・ファイルまたはアカウント・ファイルがいつ
ぱいであるため、これ以上のデータを VSE/POWER キューに
入れることができません。このメッセージは、RECEIVE 操作
と同様 SEND 操作で出されることがあります。
システムの処置: ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答: スペースを解放するために、
VSE/POWER キューから項目をいくつか削除してみてください。
VSE/POWER ジョブ・アカウントングを使用しない場
合は、JDEL オペレーター・コマンドを入力して、アカウン
ト・ファイルを消去してください。使用する場合は、アカウン
ト・プログラムを実行して、アカウント・レコードの処理と削
除を行ってください。
プログラマーの応答: なし。

INW0065I POWER IS NOT AVAILABLE

説明: VSE/POWER との間でファイル転送が試みられま
したが、POWER または CICS レポート・コントローラーが活動状
態にありません。
システムの処置: ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: POWER が活動状態にあり、CICS レポ
ート・コントローラーがインストールされていることを確認し
てください。

**INW0067I POWER QUEUE ENTRY NOT RECEIVED.
REASON = xxyy**

説明: 要求されたキュー項目を受け取ることができません
でした。その理由が、xx (16 進数の VSE/POWER 戻りコード
PXPRETCD) と yy (16 進数の VSE/POWER フィードバッ
ク・コード PXPFBKCD) で示されています。コードには以下
の意味があります。

0401 キュー項目が見つかりません。指定されたパラメータ
ーまたはデフォルトのパラメーターに一致する項目が
見つかりません。例えば、項目名、項目番号、また
はクラスのいずれも指定されていないと、システム

は、後処理が D または K で、クラス A をもつ、要求ユーザーが所有している項目を探します。キュー項目が 1 文字の名前のときに、このエラーが起ります。この場合は、項目番号または CLASS= を指定しなければなりません。

0402 キュー項目がパスワードで保護されています。PWS ファイル転送はパスワードで保護された項目を扱えません。

0403 キュー項目が活動状態です。その項目は現在、VSE/POWER (DISP=*) で処理中であり、アクセスできません。

他のすべての理由コードは、起こるはずのない、また IBM 担当員に報告しなければならない内部エラーを示しています。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 上記にリストされていない理由コードについては、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0068I TRACE FILE CFTRTRCE IS BUSY - PLEASE TRY AGAIN LATER

説明: TRACE=Q オプションを指定しましたが、他のユーザーが、一時ストレージ・キュー CFTRTRCE のトレース・ファイルに書き込みを行っています。

システムの処置: ファイル転送を完了しますが、トレースは行いません。このメッセージはホスト・セッションのみに現れますが、通常のファイル転送メッセージは、PWS セッションに示されます。

オペレーターの応答: しばらくしてからコマンドを出し直すか、または TRACE=LST オプションを使用して、VSE/POWER リスト・キューにトレースを書き込んでください。

プログラマーの応答: なし。

INW0070I {LIBRARY|POWER} ACCESS DENIED. REASON = reason code

説明: 次のいずれかの理由で、VSE ライブラリーまたは VSE/POWER キューにアクセスできませんでした。

0001 VSE ライブラリーまたは VSE/POWER へのアクセスは、モジュール INWPSEC1 (VSE/POWER の場合) またはモジュール INWPSEC2 (ライブラリーの場合) に割り当てられた CICS リソース・セキュリティ・キーによって保護されています。このキーはユーザー・プロファイルでは定義されていません。

0002 VSE でセキュリティが活動状態 (SEC=YES) ですが、ユーザーは、VSE 対話式インターフェースまたは CICS のいずれにもサインオンしていません。保護システムでは、対話式インターフェースを使用しないユーザーは、少なくとも CICS にサインオンしていなければ、VSE ライブラリーにアクセスしたり、VSE/POWER にジョブをサブミットすることはできません。

0003 ユーザーが VSE/POWER にジョブを受け渡そうとしました (SEND FILE=RDR) が、ユーザー・プロフ

ファイルにジョブ・サブミット・フラグがセットされていなかったため、許可されません。

0004 ユーザーが保護システム (SEC=YES) の VSE ライブラリーにアクセスしようとしたましたが、現行のセキュリティ・テーブル (制御ファイル内のユーザー・プロファイル定義または DTSECTAB) によると、ユーザーは要求されたリソースへのアクセスを許可されていません。RECEIVE 操作については、ライブラリアン・エラー診断 (メッセージ L163I) が PWS ファイルに返されます。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: システム管理者に、VSE/POWER および VSE ライブラリーについてのアクセス権限を問い合わせてください。

プログラマーの応答: なし。

INW0071I SECURITY MODULE INWPSECn NOT FOUND

説明: 次のいずれかの理由で、モジュール INWPSECn が見つかりませんでした。このモジュールは、VSE/POWER キュー (INWPSEC1) および VSE ライブラリー (INWPSEC2) へのアクセスのためにリソース・セキュリティ・レベル検査で使用されるもので、z/VSE システムと一緒に出荷されます。

- モジュールがライブラリー IJSYSRS.SYSLIB から削除された。
- 活動状態の CICS プログラム処理プログラム・テーブル DFHPPTxx に項目がない。
- 使用不可能になっている。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: このプログラムの状況の検査をシステム管理担当者に依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0072I ERROR IN RSL= OPTION - MUST BE A NUMBER BETWEEN 1 AND 24 OR PUBLIC

説明: メッセージに説明されている通りです。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しい RSL の値でコマンドを再度出してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0073I USER TRANSLATE TABLE COULD NOT BE LOADED. STANDARD TABLE WAS USED

説明: USERTRT= オプションで指定されたユーザー変換テーブルは、次の理由でロードされませんでした。

- CICS でアクセスされるすべての VSE ライブラリーに存在しないか、
- 活動状態の CICS プログラム処理テーブル DFHPPTxx に項目がないか、
- 使用不可能になっている。

システムの処置: ファイル転送は標準 ASCII/EBCDIC 変換プログラムを使用して完成しました。

オペレーターの応答: システム管理者にお問い合わせください。

プログラマーの応答: なし。

INW0074I XPCF FUNCTION
{IDENT|CONNECT|SENDR} FAILED.
RETCODE/REASON = xxyy

説明: VSE/POWER またはライブラリアン・トランザクション・サーバーとの XPCF 接続を確立しようとしたが、失敗しました。16 進戻りコード *xx* と理由コード *yy* は XPCF エラーの原因を示します。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: システム管理者にお問い合わせください。

プログラマーの応答: 0E00 の IDENT コードは、内部制御ブロックを割り振るには、ストレージが不十分であることを示しています。これが頻繁に起きるときは、システム GETVIS 域を増やす必要があります。

000C の CONNECT コードは、タイムアウト、すなわち、要求されたパートナー (VSE/POWER またはライブラリアン・トランザクション・サーバー) が CONNECT を出さなかったことを示します。VSE/POWER キューとの間でのファイル転送の場合、これが起こる可能性があるのは、VSE/POWER が活動状態でない場合だけです。VSE ライブラリーへの、または VSE ライブラリーからのファイルでは、これはライブラリー・トランザクション・サーバーを呼び出すジョブがサブミットされ、正常に始動しましたが、ジョブをロードできなかったか、または CONNECT を出す前に異常終了したため、ライブラリー・トランザクション・サーバー・プログラム LIBRTPS がサブミットできなかったことを意味します。システム・コンソールが再表示モードであるときにも、戻りコード/理由コード 000C が出されることがあります。システム・コンソールが再表示モードであることを調べるか、またはジョブ PWSLTS が異常終了した場合は、エラーを分析するためにリスト出力を調べてください。

他のコードはすべて、CONNECT が正常に行われた後、VSE/POWER またはライブラリアン・トランザクション・サーバーの異常終了が原因で引き起こされたと思われる、XPCF セッションの障害を示します。システム・コンソールを調べ、ジョブ PWSLTS の出力をリストしてください。

問題が続くときは、弊社サービス・センターに連絡してください。

INW0075I QUEUE ENTRY *entryname entrynumber*
RECEIVED

説明: メッセージに説明されている通りです。

システムの処置: ファイル転送は完了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INW0076I NO ENTRIES FOUND IN POWER QUEUE

説明: VSE/POWER キューの PDISPLAY が受け渡されましたが、指定されたパラメーターに一致する項目が見つからないか、キューが空です。

システムの処置: PWS ファイルに返される情報はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INW0077I REQUEST FOR POWER SERVICE *aaabbbc*
REJECTED. RETCODE/FEEDBACK = xxyy

説明: VSE/POWER キューへのアクセス要求が拒否されました。その理由が、*xx* (16 進数の VSE/POWER 戻りコード PXPRETCD) と *yy* (16 進数の VSE/POWER フィードバック・コード PXPFBKCD) で示されています。

aaabbbc は、エラー発生時に実行されていた内部 VSE/POWER サービスで、次のとおりです。

aaa VSE/POWER 要求: CTL, PUT, GET, GCM。

bbb VSE/POWER サービス:

OPN - spool open
 DAT - spool data
 CLS - spool close
 MSG - retrieve message
 QIT - quit
 PUR - purge
 RES - restart

c (適用可能な場合) アクセスされているキューの ID :
 R = RDR, L = LST, P = PUN。

VSE/POWER 戻りコードとフィードバック・コードの詳しい説明は、「VSE/POWER *Application Programming*」にあります。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: システム管理担当者にエラーの分析を依頼してください。

プログラマーの応答: これは、起きてはならない内部エラーです。問題が続くときは、IBM 担当員に連絡してください。

INW0078I NO COMMAND(S) FOUND IN
COMMENTS AREA

説明: FILE=PCMD または FILE=LCMD を指定した RECEIVE コマンドが入力されましたが、VSE/POWER またはライブラリアンのいずれのコマンドも注釈域に指定されていませんでした。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 有効な VSE/POWER ライブラリアン・コマンドを右小括弧の後に指定して、コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0079I JOB *jobname jobnumber* SUCCESSFULLY
SUBMITTED. RC = xxyy

説明: ジョブが VSE/POWER RDR キューに正常に受け渡されました。このメッセージはジョブが実行中であるかどうかを示してはなりません。RECEIVE FILE=PMSG コマンドでジョブ

状況を照会するには、返された *jobname* と *jobnumber* を使用してください。

16 進戻りコード RC= が追加情報を提供します。 *xx* は次のいずれかです。

- 00 ジョブはエラーなしで正常に受け渡されました。
- 07 メッセージ・キューイング/検索サポートが活動状態ではありません。MSG オプションが指定されました (またはデフォルトで活動状態です) が、VSE/POWER 自動スタート・デックで SET JCMQ=0 が指定されたため、ジョブ完了メッセージをキューイングすることができません。NOMSG オプションを指定するか、または自動スタート・デックで JCMQ パラメーターを変更してください。
- 08 メッセージ・キューがあと少しでフルになります。メッセージ・キューに残されたスペースは、5 つのジョブ完了メッセージが入るより少なくなっています。キューがフルになると、最も古いメッセージが破棄 (戻りコード 09) されます。メッセージを検索するために RECEIVE (FILE=PMSG) コマンドを PWS に出してください。
- 09 メッセージ・キューがいっぱいです。最も古いメッセージが、新しいコード・メッセージを記憶するために廃棄されます。また上記の戻りコード 08 も参照してください。

yy は以下のいずれかになります。

- 00 ジョブはエラーなしで正常に受け渡されました。
- 01 VSE/POWER JECL ステートメントのエラーです。ジョブの後処理は H (保留) になりました。
- 02 ジョブが正しい * \$\$ EOI ステートメントで終わっていないか、* \$\$ EOI ステートメントのあとに 1 つ以上の空白行が続いていないか、または行が有効な新しい * \$\$ JOB ステートメントを含んでいません。最後の場合、メッセージに示される *jobname* は、AUTONAME になります。
- 03 レコードがスプールされていません。ワークステーション・ファイルには VSE/POWER * \$\$ EOI ステートメントだけが含まれ、データ・レコードはありません。
- 04 レコードが切り捨てられました。1 つまたはそれ以上のレコードが最大長の 128 文字を超えており、VSE/POWER によって切り捨てられました。
- 05 send バッファにデータがありません。送信された PWS ファイルにデータが含まれていません。

システムの処置: ファイル転送は、示された戻りコードで完了します。

オペレーターの応答: PWS ファイルに完全で有効なジョブが含まれているかどうかを調べてください。必要なら、エラーを訂正して、ジョブをもう一度受け渡してください。
プログラマーの応答: なし。

INW0080I NO JOB COMPLETION MESSAGES FOUND

説明: ジョブ完了メッセージの検索要求が出されましたが、次のいずれかの理由で、指定の検索基準に合うメッセージが見つかりませんでした。

- 正しくないジョブ名、またはユーザー ID が指定されました。
- ジョブの処理が完了していません。
- ジョブが NOMSG オプションで受け渡されました。
- メッセージがすでに検索されています。
- VSE/POWER シャットダウンのために、メッセージが失われました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INW0081I NO JOB COMPLETION MESSAGE FOUND. JOB STATUS = *code*

説明: 特定ジョブのジョブ完了メッセージを検索する要求が出されましたが、メッセージが見つかりませんでした。システムは、ジョブの状況を判断するため RDR キューを調べます。ジョブ状況は、以下のような *code* によって示されています。

- 0002 指定された名前、番号を持つジョブ、および要求ユーザー (USER=) によって所有されているジョブが見つかりませんでした。ジョブがリモート・ノードで実行するために送信された場合は、ジョブ状況は常に 0002 になります。
- 0004 ジョブは実行中です。
- 0006 ジョブはディスパッチ可能ではありません (後処置 D または K でない)。
- 0008 ジョブ・クラスが使用不能か、または定義されていません。
- 0010 ジョブ・クラスは使用中です (空き区画はありません)。
- 0012 ジョブはディスパッチ可能で、ジョブ・クラスは使用可能ですが、ジョブは実行されていません。
- 0014 ジョブは「準備」状態で、すぐに実行できます。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: ジョブが開始できるかどうかを確認して、ジョブの完了後に、コマンドを再発行してください。
プログラマーの応答: なし。

INW0082I QUEUE ENTRY *entryname entrynumber* CREATED. RC = *xxxx*

説明: PWS ファイルが正常に VSE/POWER LST または PUN キューに送信され、戻された名前と番号でキュー項目が作成されました。

戻りコード RC= は以下の補足情報を示します。

- 00 ファイルが正常に送信されました。
- 03 レコードがスプールされませんでした。
- 04 レコードが切り捨てられました。
- 05 送信バッファにデータがありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 通常、何も入っていない PWS ファイル

を送らない限り、ゼロ以外の戻りコードは出されません。問題が続くときは、IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0083I JOB COMPLETION MESSAGE
 QUEUEING/RETRIEVAL NOT ACTIVE**

説明: ジョブ完了メッセージを受け取るために RECEIVE (FILE=PMSG) が出されましたが、VSE/POWER 自動スタート・デックで SET JCMQ=0 が指定されたために、メッセージ・キューイング/検索サポートが活動状態にありません。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ジョブ完了メッセージのキュー化と検索を行いたい場合は、VSE/POWER 自動スタート SET コマンドの JCMQ パラメーターをゼロ以外の値に変更しなければなりません。

INW0084I OK

説明: 出力を作成しない VSE/POWER コマンド (PALTER、PDELETE など) がホストに受け渡され、正常にサブミットされました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**INW0085I LIBRARIAN COMMAND(S)
 SUCCESSFULLY SUBMITTED - MAXRC =
 return code**

説明: ライブラリアン・コマンドが正常にライブラリアン・トランザクション・サーバー (LTS) に受け渡されました。

return code は、ライブラリアン・トランザクション・サーバーで返されるライブラリアン最大戻りコードです。戻りコードがゼロのときは、すべてのコマンドが正常に実行されたことを示します。ゼロ以外の戻りコードは、コマンドが少なくとも 1 つ失敗したことを示します。

システムの処置: ライブラリアン・トランザクション・サーバーで作成された情報とエラー・メッセージを RECEIVE コマンドで指定された PWS ファイルに戻します。

オペレーターの応答: VSE ライブラリアンで報告されたエラーがないか、PWS ファイルの内容を調べ、エラーを訂正してから、コマンドを再度受け渡してください。

プログラマーの応答: なし。

**INW0086I LTS JOB COULD NOT BE STARTED IN
 CLASS(ES) class(es), RC=xyyy REASON=aa**bb****

説明: VSE ライブラリーにアクセスする要求が PWS から出されましたが、ライブラリー・トランザクション・サーバー (LTS) を呼び出すジョブ PWSLTS が以下の Reason= に与えられた理由で、示されているジョブ・クラスで開始できませんでした。

aa は、ジョブが開始できなかった理由を示します。

00 ジョブの状況を判断する前に、bb によって通知されたエラーが起きました。

- 04 ジョブ・クラスを使用中 (空き区画がない) です。
- 06 ジョブはディスパッチ可能で、ジョブ・クラスは使用可能ですが、ジョブは実行されていません。
- 08 ジョブ・クラスが使用不能か、または定義されていません。
- 10 ジョブはディスパッチ可能ではありません (後処置 D または K でない)。
- 12 ジョブは正常に受け渡されましたが、RDR キューに見つかりません。これは、ジョブがサブミットされた後、中央オペレーターによって誤って削除されたか、または VSE/POWER の誤動作が原因で削除された場合にのみ起きます。

複数の区画クラスがメッセージに示されている場合、理由コード aa は、これらの最後のクラスについてのみ示しています。例えば、クラス ABC がメッセージに示されている場合は、理由 0800 は、クラス A と B が使用中の間、クラス C が使用不能または存在していないことを意味しています。

bb は、VSE/POWER または XPCC サービスからの予期しない戻りコードを示します。

- 00 VSE/POWER または XPCC サービスからのエラーはありません。
- 14 5 秒超の「準備状態」にあるジョブが見つかりました。これは、非常に忙しいシステムで時々起きることがあります。ジョブ準備には、選択的区画のプロファイルの処理が含まれます。
- 16 VSE/POWER がジョブのサブミットに失敗しました。
- 18 PALTER コマンドからの予期しない戻りコードです。
- 20 PDISPLAY コマンドからの予期しない戻りコードです。
- 22 PDELETE コマンドからの予期しない戻りコードです。
- 24 ジョブがサブミットされましたが、開始できませんでした。ジョブ項目が見つかり、DISP=* 状態にありませんでしたが、後続のジョブ削除の試行はメッセージ 1R88I で失敗しました。ジョブの状況が示されているメッセージについては、システム・コンソールを調べてください。
- 30 XPCC からのエラーの戻りコードのために、VSE/POWER アクセスが失敗しました。

理由 bb=14 から 22 の場合は、VSE/POWER 戻りコード (xx) とフィードバック・コード (yy) が RC= に示されます。これらのコードは、「VSE/POWER Application Programming」で説明されています。

理由 bb=30 の場合、XPCC 戻り (xx) および理由 (yy) コードが RC= に示されています。

理由 aa=00 は、ジョブの状況を判断する前に、bb によって通知されたエラーが起きたことを示しています。

システムの処置: どのクラスで LTS ジョブを実行するかを決めるために、システムは以下を行います。

1. CLASS= オプションが SEND/RECEIVE コマンドに指定されたかどうかを調べ、指定されている場合は、このクラスを使用します。
2. 1 つ以上のクラスが「ユーザー・プロファイルの保守」ダイアログで定義されているかどうかを調べ、定義されている場合、定義された通りのクラスの順番でジョブの開始を続けて行います。
3. デフォルト・クラス P を使用します。
オペレーターの応答: RC=0000 の場合、メッセージ・テキストに示されたジョブ・クラスが有効で、ジョブを実行するために作動可能になっているかどうかを調べ、必要であれば、CLASS= オプションと有効な動的または静的クラスを指定して、コマンドを再発行してください。

RC=0614 は多くの LIBDEF ステートメントを含んでいる大きな動的区画プロファイルが原因で出されることがあります。動的区画クラスが P に与えられた PWSPROF のような最小のプロファイルを使用しているかどうかを確認してください。

RC が 0000 以外の場合、これは XPPC VSE/POWER 接続の問題を示しています。問題が続くときは、弊社サービス・センターに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

INW00871 {SEND|REPLY} BUFFER TOO SMALL

説明: 通常、デフォルトの送信/受信バッファ・サイズは、VSE/POWER キューとの間でレコードを転送するだけの十分な大きさがあります。このメッセージは、送信/受信バッファより大きい論理レコードが転送されたときに出力されます。このメッセージは、例えば、.EXE ファイルを CRLF オプションで送信した場合など、2 進ファイルを送信したときにも出力されます。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: BUF= オプションを使用して、SEND 用の送信バッファと RECEIVE 操作用の応答バッファを増やしてください。転送しているファイルのタイプについて正しいオプションを使用しているかどうかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

INW00881 CONTROL FILE ACCESS FAILED.

REASON = *reason code*

説明: システム・プロファイル (FILE=PROF) のダウンロード時に、システム ID、ライブラリー・トランザクション・サーバー (LTS) のジョブ・クラス、PWS アクセスのライブラリー名などの各種情報を検索するために、VSE 制御ファイル (IESCNTL) にアクセスしようとした。

制御ファイルは次のいずれかの理由によりアクセスできません。

- 0001 IESCFADS 制御ブロックにストレージを割り振る GETMAIN 要求が失敗しました。
- 0002 制御ファイル・アクセス・プログラム IESCAF は、見つからなかったか、使用不能であったか、DFHPPT で定義されていなかったためにリンクできませんでした。
- 0003 IESCAF からの戻りコードは、制御ファイルがクロ

ーズされているか、または使用不能なためアクセスできなかったことを示します。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: REASON=0001 の場合は、しばらくしてからコマンドを再発行してください。主ストレージが使用可能になっていると思われます。それ以外の場合は、主ストレージの状況またはプログラム IESCAF の状況の調査をシステム管理担当者に依頼してください。

プログラマーの応答: なし。

INW00891 REQUEST FOR LIBRARY SERVICE *service* REJECTED. RETCODE/FEEDBACK=*xxyy*

説明: VSE ライブラリーへのアクセス要求がライブラリアン・トランザクション・サーバーによって拒否されました。これは、ライブラリー・トランザクション・サーバー (LTS) によって戻された、*xx* (16 進戻りコード FRHDRETC) と *yy* (16 進フィードバック・コード FRHDFDBC) で示された問題が原因です。

service はエラーが起きたときに再実行していた内部ライブラリー・サービスです。SERVICE は以下の通りです。

FRHD フレーム・ヘッダー・サービス

CMDOPN

ライブラリー・コマンド・インターフェース - 要求の開始

CMDCON

ライブラリー・コマンド・インターフェース - 要求の継続

APISTM

ライブラリー API - LIBRM STATE MEMBER 要求

APISTS

ライブラリー API - LIBRM STATE SUBLIBRARY 要求

APIOPI

ライブラリー API - LIBRM OPEN INPUT 要求

APIOPO

ライブラリー API - LIBRM OPEN OUTPUT 要求

APIGET

ライブラリー API - LIBRM GET 要求

APIPUT

ライブラリー API - LIBRM PUT 要求

APILCK

ライブラリー API - LIBRM LOCK または UNLOCK 要求

xxyy は戻り/フィードバック・コードで、以下の通りです。

- 0004 ライブラリー・サービス・コード CMDOPN とともに出力され、これはライブラリアン・コマンド・シーケンスが正しくないことを意味します。RECEIVE コマンドの注釈域に与えられた情報が、要求された機能を完了するために不足しています。例えば、次のシーケンスでデータのカタログが行われたとします。CATALOG TEST.A; DATA1; DATA2; /+; カタログでは、ライブラリアンは固定長 80 文字の入力レコードを予約しており、この例のようなカタログ要求を扱うことはできません。

0800 XPPC 送信バッファが要求を組み立てるには小さすぎます。

0C00 応答バッファが小さすぎます。少なくとも 512K が必要です。

1000 無効なフレーム形式。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: CMDOPN 0004 を受け取った場合は、サービス・コマンドの注釈域にライブラリアン・コマンドが正しいシーケンスに含まれているかどうかを確認してください。

他のすべての戻りコードは、起きてはならない内部エラーを示しています。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0090I SYSTEM ERROR DURING LIBRARY ACCESS *service*. RETCODE/FEEDBACK = *xxyy*

説明: VSE ライブラリーへのアクセス要求が、16 進表記で示された外部または内部システム・エラー *xxyy* のために拒否されました。*xx* は FRHDSVRC に戻され、*yy* は FRHDSVFC に戻されます。*service* は、上記のメッセージ INW0089I で示されたライブラリアン・サービスです。

xxyy は次のいずれかです。

FF01 XPPC SENDR 要求が除去されました。応答バッファが小さすぎるためフレーム・ヘッダーを返せません。

FF02 XPPC SENDR 要求が除去されました。GETVIS は REPLY または SENDR 入力バッファにストレージを割り振れませんでした。

FF03 XPPC SENDR 要求が除去されました。GETVIS は LDCB リストにストレージを割り振れませんでした。

FF04 XPPC SENDR 要求が除去されました。GETVIS は COMMAND 行にストレージを割り振れませんでした。

FFFF 内部システム・エラーです。ライブラリアン戻りコードで情報が正常に検索できたことが示されましたが、すべての出力ポインタ (FRHDDIRO、FRHDGETO、FRHDMGO など) がゼロになっています。

その他の戻りコード/フィードバック・コードはすべて、「z/VSE System Macros Reference」の LIBRM マクロに記述されています。例えば、メッセージにサービス APIGET が示される場合は、上記資料の LIBRM GET セクションで戻りコードの説明を参照してください。戻りコードはメッセージでは 16 進数で表示されますが資料では 10 進表記で表示されていることに注意してください。戻りコードが *10yy* または *14yy* のときは、追加のエラー・メッセージが PWS ファイルに返されません。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: これは、起きてはならない内部エラーです。IBM 担当員に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0091I {LIBRARY|SUBLIB} name DOES NOT EXIST

説明: ユーザーが *name* で示された VSE ライブラリーまたはサブライブラリーにアクセスしようとしたが、そのライブラリーまたはサブライブラリーが存在しないか、またはディレクトリ表示 (FILE=LDIR) の場合は、*name* 指定と一致するサブライブラリーが見つかりませんでした。

L=オプションで指定されたライブラリーがないときは、

PRIMARY が想定されます。S=オプションで指定されたサブライブラリーがないときは、ID がサブライブラリー名に使用されます。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: 正しいライブラリーとサブライブラリー名を使用して、コマンドを再発行してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0092I LIBRARY library name IS FULL

説明: 新規メンバーを保管できるだけのスペースがライブラリーに残っていません。

システムの処置: ファイル転送を終了します。

オペレーターの応答: このライブラリー内のサブライブラリーからメンバーを削除できないときは、システム管理者にライブラリーの拡張を依頼してください。

プログラマーの応答: 「IBM z/VSE 管理」で説明されているようにして、ライブラリーを拡張してください。

INW0093I MEMBER LOCKED BY OTHER USER WITH LOCK ID lock-id

説明: 以下のいずれかが起こりました。

1. 既存の VSE ライブラリー・メンバーを置換しようとしたが、そのメンバーは別のユーザーによってロックされています。
2. LOCK オプションまたは UNLOCK オプションを指定してメンバーを受け取ろうとしたが、メンバーが別のユーザーによってロックされています。

システムの処置: 以下のいずれかです。

1. ファイル転送を終了します。
2. メンバーを受け取りますが、LOCK/UNLOCK は実行しません。

オペレーターの応答: メンバーの状況を知るために、メンバーをロックしたユーザーを判別してください。

プログラマーの応答: なし。

INW0094I MEMBER name type IS NOT LOCKED - UPDATE/RECEIVE REJECTED

説明:

- SEND の場合: ロックされていない既存のライブラリー・メンバーを置換しようとした。既存メンバーは、次の場合のみ置換することができます。
 1. 当ユーザーによってメンバーがロックされている場合。
 2. UNCOND オプションを明示的に指定する場合。これにより、当ユーザーがロックしているかどうかに関係なく、メンバーが置換されます。

- RECEIVE の場合：ロックされていないメンバーについて UNLOCK オプションが指定されました。
システムの処置： ファイル転送を終了します。
オペレーターの応答： 既存メンバーを置換するには、当ユーザーがメンバー・ロックに関係していない場合は UNCOND オプションを指定するか、または LOCK オプションを持つ RECEIVE コマンドを使用して、メンバーを置換する前にロックしてください。

置換しようとしているメンバーを実際にロックしていたと思われる場合には、ロックは一部のシステム・サービス機能によって除去することができます。この場合、システム管理担当者にメンバーの状況の判別を依頼してください。

プログラマーの応答： なし。

INW0098I LOAD ERROR FOR MESSAGE MODULE INWPMSxx

説明： 以下の理由で、ワークステーションで表示されるファイル転送メッセージを含む、上記のメッセージ・モジュールをロードできませんでした。

- モジュールが存在しない。
- モジュールが CICS 処理プログラム・テーブル (PPT) で定義されていない。

INWCxx=ワークステーション通信メッセージ

INWCA001I REQUEST *reqname* FOR APPLICATION *applname* FAILED. ERROR CODE = X(*rc*)

説明： APPC 論理装置 *applname* への VTAM マクロ *reqname* が失敗しました。マクロ *reqname* の文脈内のエラー・コード *rc* の説明については、「VTAM Programming」を参照してください。

多くの場合、APPC サービスを要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置： 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

INWCA002I REQUEST *reqname* FOR APPLICATION *applname* FAILED. R15=X(*aa*), R0=X(*bb*), RTNCD=X(*cc*), FDB2=X(*dd*)

説明： APPC 論理装置 *applname* への VTAM マクロ *reqname* が失敗しました。マクロ *reqname* の文脈内のレジスター値については、「VTAM Programming」を参照してください。

RTCND および FDB2 コードの説明については、740 ページの『戻りコードおよび戻りコード通知用のセンス・フィールド』を参照してください。

多くの場合、APPC サービスを要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置： 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

- 使用不可能になっている。

このメッセージは通常、英文で表示されます。

システムの処置： ファイル転送を完了します。正しいメッセージがホスト・セッションで表示されます。

オペレーターの応答： CEMT トランザクションを使用して、プログラムの状況を確認および訂正した後、操作を再実行してください。

プログラマーの応答： なし。

INW0099I ERROR ACCESSING MESSAGE FILE FOR MESSAGE INWxxxxI

説明： ホストのメッセージ・ファイル (IESTRFL) をアクセスすることができません。これはそのファイルが損傷しているか、クローズしたか、または使用不可能となったか、あるいは示されているメッセージがメッセージ・ファイルに見つからないことによるものです。

システムの処置： なし。

オペレーターの応答： メッセージ・ファイルの状況を調べてください。メッセージ番号が正しいメッセージを示していない場合には、弊社に援助を依頼してください。

プログラマーの応答： なし。

INWCA003I ALLOCATION REQUEST FROM *partner* REJECTED. SENSE CODE = X(*ss*)

説明： 論理装置 *partner* が APPC 変換を試みましたが、示されている理由のために拒否されました。センス・コードの説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置： 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

INWCA004I APPCCMD *reqname* REQUEST FOR APPLICATION *applname* FAILED. RTNCD=X(*aa*), FDB2=X(*bb*), RCPRI=X(*cc*), RCSEC=X(*dd*), Sense=X(*ss*)

説明： APPC 論理装置 *applname* への APPCCMD *reqname* 要求が失敗しました。1 次戻りコード (RCPRI) と 2 次戻りコード (RCSEC) の説明については、「VTAM Programming for LU 6.2」を参照してください。RTCND および FDB2 コードの説明については、740 ページの『戻りコードおよび戻りコード通知用のセンス・フィールド』を参照してください。

多くの場合、APPC サービスを要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置： 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。APPC 変換は失われます。

オペレーターの応答： なし。

プログラマーの応答： なし。

INWCA005I EXEC CICS REQUEST FOR APPC CONNECTION *connid* FAILED.
EIBFN=X(aa), EIBRCODE=X(bb),
EIBERRCD=X(cc), EIBRESP=dd,
EIBRESP2=ee

説明: 接続 *connid* への APPC 関連 EXEC CICS 要求が失敗しました。EIB フィールドの説明については、「CICS Application Programming Reference」を参照してください。

多くの場合、APPC サービスを要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置: 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。APPC 変換は失われます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWCA010I STARTUP OF APPC ATTACH MANAGER FAILED - reason

説明: 次のいずれかの *reason* によって、APPC 接続マネージャーの初期設定に失敗しました。

INSUFFICIENT STORAGE

ストレージの要求が失敗した。

INSUFFICIENT TASKS

サブタスクの要求が失敗した。

UNABLE TO OPEN LU

PARM ステートメントで指定されている VTAM アプリケーションを活動化できなかった。

PROGRAM NOT FOUND

内部エラー。

AUTHORIZATION ERROR X(rc)

内部エラー。

INVALID PARAMETER

サブミットされたパラメーター不正であるか、PARM が指定されていない。

システムの処置: APPC 接続マネージャーは終了します。

オペレーターの応答: 以下の *reason* に対応する、適切な処置を行ってください。

INSUFFICIENT STORAGE

接続マネージャー・スタートアップ・ジョブに十分な GETVIS ストレージを与える。

INSUFFICIENT TASKS

サブタスクの不足を修正した後、すぐに再試行する。

UNABLE TO OPEN LU

VTAM アプリケーションを活動化できなかった原因を示している、先行メッセージを調べる。

PROGRAM NOT FOUND

弊社に連絡してください。

AUTHORIZATION ERROR X(rc)

弊社に連絡し、エラー・コードを提出する。

INVALID PARAMETER

適切な PARM ステートメントを与える。

プログラマーの応答: なし。

INWCA011I REQUEST NOT SUPPORTED. ENTER ONE OF THE FOLLOWING COMMANDS:
cmd-list

説明: MSG nn コマンドを、有効な要求として認識できませんでした。

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: 有効な要求については *cmd-list* を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

INWCD001I RDTS AGEND FAILED - reason

説明: リモート・データ伝送サービス (RDTS) エージェントが、示されている *reason* のために失敗しました。

システムの処置: RDTS エージェントは終了しました。

オペレーターの応答: 以下の *reason* に対応する、適切な処置を行ってください。

INSUFFICIENT STORAGE

区画に十分なストレージを与える。

INCOMPATIBLE VERSION

内部エラー - 弊社に連絡してください。

PROTOCOL VIOLATION

内部エラー - 弊社に連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

INWCD002I INVOCATION OF *program* FROM DLL *libname* FAILED - reason

説明: PWS 機能 *program* を呼び出そうとしましたが、指定された理由で失敗しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *program* が DLL *libname* に常駐し、DLL が PWS のパスにあることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

INWCS001I SAS REQUEST FAILED. RC=X(rc), Fdbk=X(fb).

説明: POWER への SAS 要求が、予期しない戻りコードで失敗しました。要求されたサービスは実行されませんでした。

rc は SAS 戻りコード、*fb* は SAS フィードバック・コードです。各コードの説明は、「VSE/POWER Application Programming」にあります。

多くの場合、SAS サービスを要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置: 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。

オペレーターの応答: この問題が続く場合、弊社に連絡してエラー・コードを報告してください。

プログラマーの応答: なし。

INWCX001I XPCC REQUEST FAILED. IJBXFC=X(fc), IJBXRETC=X(rc)

説明: XPCC 区画間通信サービスが、予期しない戻りコードで失敗しました。要求されたサービスは実行されませんでした。*fc* は XPCC 機能コード、*rc* は XPCC 戻りコードです。各コードの説明は、「z/VSE System Macros Reference」にあります。

多くの場合、XPCC サービスを要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置: 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWCX002I ECB name WAS POSTED UNEXPECTEDLY. IJBXFC=X(fc), IJBXREAS=X(re)

説明: その相手側からの通知を待機している XPCC 区画間通信サービスが実行されましたが、予期しない XPCC 理由コードが返されました。要求されたサービスは正常に完了しませんでした。*name* は通知された XPCC ECB、*fc* は XPCC 機能コード、*re* は XPCC 理由コードです。各コードの説明は、「z/VSE System Macros Reference」にあります。

多くの場合、XPCC サービスを要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置: 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。

オペレーターの応答: なし。

INWMUxx = INWMUTIL メッセージ**INWMU002I FUNCTION MISSING OR INVALID - function**

説明: 有効な機能名が入力行に見つかりません。機能名は、1 から 8 桁目内から始まっていなければなりません。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 無効なコマンドを訂正してください。

INWMU003I FILENAME MISSING OR INVALID - filename

説明: 認識できる有効なファイル名がありません。ファイル名は、'FILENAME=' パラメーター・キーワードのすぐ後に続けなければなりません。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 無効なコマンドを訂正してください。

INWMU004I USERID MISSING OR INVALID - user-id

説明: 認識できる有効なユーザー ID がありません。ユーザー ID は、'USERID=' パラメーター・キーワードのすぐ後に続けなければなりません。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWCX003I UNABLE TO ACCESS TS QUEUE name - reason

説明: CICS 一時キュー *name* の読み取りまたは書き込みを試みましたが、示された理由 *reason* で失敗しました。

多くの場合、TS キュー・サービスを要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置: 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWCX004I UNABLE TO LOAD/START PROGRAM name - reason

説明: 指定されているプログラムのロード、および開始をそれぞれ行おうと試みましたが、失敗しました。

多くの場合、ロード/開始を要求したプログラムからのメッセージがこのメッセージに続いて出されます。状況の理解を助けるための、追加の情報の提供がその目的です。

システムの処置: 呼び出し側プログラムに戻りコードが返されます。

オペレーターの応答: 失敗したジョブによってアクセスされているライブラリーにプログラムが存在するかどうか確認してください。このメッセージが CICS 区画から出された場合は、プログラムまたはトランザクションが正しく定義され、使用可能になっているかどうかを確かめてください。

プログラマーの応答: なし。

プログラマーの応答: 無効なコマンドを訂正してください。

INWMU005I FILE DOES NOT EXIST

説明: UNLOAD コマンドの対象となっているソース・ファイルが HTF に存在していません。このファイルは、コマンドに指定されたユーザー ID が所有していなければなりません。

システムの処置: コマンドを打ち切り、次のコマンドから処理を再開します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWMU006I DATA RECORDS MISSING

説明: UNLOAD コマンドの対象となっているソース・ファイルを HTF (ホスト転送ファイル) から読み取ることができません。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: HTF ソース・ファイルを再作成してください。

プログラマーの応答: なし。

INWMU007I DATA RECORD LENGTH ERROR

説明: UNLOAD コマンドの対象となっているソース・ファイ

ルを HTF (ホスト転送ファイル) から読み取ることができません。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: HTF ソース・ファイルを再作成してください。

プログラマーの応答: なし。

INWMU008I VSAM *macroname* ERROR R15=X'*return code*' EC=X'*error code*'

説明: VSAM ファイルへのアクセスが失敗しました。失敗したマクロから戻された VSAM 戻りコードとエラー・コードを調べてください。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 示されたエラーの原因を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

INWMU009I VSAM *macroname* ERROR R15=X'*return code*' EC=X'*error code*' DDNAME=*ddname*' ACB=*acb name*' RPL=*rpl name*'

説明: VSAM ファイルへのアクセスが失敗しました。失敗したマクロから戻された VSAM 戻りコードとエラー・コードを調べてください。

acb name に、ファイルの使用状況が示されています。

INWFILE	出力用にオープンされた、ホスト転送ファイル。
USERIN	入力専用でオープンされた、LOAD コマンドのソース・ファイル。
USEROUT	出力用にオープンされた、UNLOAD コマンドのターゲット・ファイル。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: 示されたエラーの原因を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

INWMU010I INPUT FILE IS EMPTY

説明: LOAD コマンドの対象となっているソース・ファイルが、空です。

システムの処置: コマンドを打ち切り、次のコマンドから処理を再開します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWMU011I \$\$\$IWS.WORKREC. HAS WRONG LENGTH

説明: \$\$\$IWS.WORKREC の長さが無効です。このレコードは、HTF (ホスト転送ファイル) アクセスのために一時的に使用されます。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: ジョブを再実行してください。それでも問題が解消されない場合は、HTF を再フォーマットしてください。

プログラマーの応答: なし。

INWMU012I BAD DIRECTORY RECORD ON INWFILE

説明: HTF (ホスト転送ファイル) ディレクトリー・レコードの形式が無効です。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: HTF を再フォーマットしてください。

プログラマーの応答: なし。

INWMU013I USER RECORD IS TOO BIG FOR INWFILE

説明: HTF ファイルの有効な最大レコード・サイズは、32,600 バイトです。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWMU014I INVALID KEYWORD - *keyword*

説明: コマンド内に無効なキーワードが見つかりました。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 無効なコマンドを訂正してください。

INWMU015I *number of* RECORDS UNLOADED

説明: UNLOAD コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWMU016I *number of* RECORDS LOADED *data time*

説明: LOAD コマンドが正常に完了しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWMU017I FILE DELETED

説明: ファイルが HTF (ホスト転送ファイル) から正常に削除されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

INWMU018I UNKOWN DATA TYPE IN INWFILE

説明: HTF 内のメンバーのデータ・タイプが無効です。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: HTF ソース・ファイルを再作成してください。

プログラマーの応答: なし。

INWMU019I FILETYPE MISSING OR INVALID - *filetype*

説明: 認識できる有効なファイル・タイプがありません。ファイル・タイプは、'FILETYPE=' パラメーター・キーワードのすぐ後に続けなければなりません。

システムの処置: ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 無効なコマンドを訂正してください。

第 15 章 接頭部 IPK の ESERV メッセージ

IPK301 INVALID SELECT CARD

説明: 1. マクロ選択カードの命令コードが、DSPLY、DSPCH、または PUNCH のいずれとしても認識されていません。または、2. オペランド・フィールドは埋まっていますが、最後のオペランドには、サブライブラリー名だけで、ブック名が含まれていません。
システムの処置: 次のマクロ選択カードが読めます。
プログラマーの応答: 命令コードを修正します。

IPK302 xxxxxxx NOT FOUND ON LIBRARY y

説明: メンバー xxxxxxx.y (y はメンバー・タイプ) は、ESERV ユーティリティを実行した区画でアクセス可能なサブライブラリーに見つかりませんでした。例えば、y が E であるときは、名前が xxxxxxx の E デックは見つかりません。このメッセージは、システムが SEC=YES (セキュリティ活動状態) で IPL され、マクロへの適切なアクセス権限を持たないときにも出ます。
システムの処置: 次のブックを調べます。
プログラマーの応答: ライブラリーのブック名を訂正するか、またはシステムが SEC=YES (セキュリティ活動状態) で IPL されているときは、マクロへの適切なアクセス権限があることを確かめてください。

IPK303 INVALID MACRO HEADER

説明: 選択されたブックの最初のレコードが、編集したマクロのヘッダーではありません。編集したデックが損傷されているか、または選択されたブックが編集形式ではありません。COPY ブックまたはソース・マクロ定義が、誤って選択されました。
システムの処置: ESERV の実行で選択される次のブックが探されます。
プログラマーの応答: 編集したマクロが、実際にその名前でカタログされているかどうかを調べます。指定したサブライブラリーが正しいですか。編集したデックが損傷している場合には、このメッセージ・セクションの後ろの注を参照してください。

IPK304 TOO LONG BOOK NAME

説明: ブランクやコンマのない 8 文字を超えるストリングがマクロ選択カードのオペランド・フィールドにあります。
システムの処置: 次のブックが探されます。
プログラマーの応答: マクロ選択カードのマクロ名を修正します。

IPK305 SYSPCH NOT ASSIGNED

説明: DSPCH や PUNCH の命令コードのあるマクロ選択カードがありますが、SYSPCH が割り当てられていません。
システムの処置: PUNCH オプションは無視され、編集解除は DSPLY モードで続きます。
プログラマーの応答: SYSPCH を割り当てます。

IPK306 EDECK SERIOUSLY DAMAGED.

DE-EDITING TERMINATED

説明: 編集したマクロ・デックは重大な損傷を受けたので、これ以上の編集解除は意味がありません。
システムの処置: 編集解除される次のマクロが探されます。
プログラマーの応答: このメッセージ・セクションの後ろの注を参照してください。

IPK307 NON-BLANK CHARACTER IN COL 72

説明: これは警告メッセージです。ESERV プログラムは制御レコードの 1 から 7 桁しか処理しません。ただし、72 桁目はブランクとして印刷されます。
システムの処置: 実行を続けます。ESERV プログラムは 72 桁目を無視します。
プログラマーの応答: なし。

IPK311 CARD nnnn OUT OF ORDER

説明: EDECK のカードの順序が正しくありません。前のカードのシーケンス番号より少ない番号のカードが見つかりました。
システムの処置: 順序誤りのカードは無視されます。次のカードが読めます。編集解除は続きます。
プログラマーの応答: このメッセージ・セクションの後ろの注 1 を参照してください。多分 COL ステートメントが誤ったフィールドを使用しています。

IPK312 CARDS(S) MISSING, nnnn-nnnn

説明: 1 枚以上のカードが EDECK 内で見つかりません。
システムの処置: 次のカードを使用して編集解除を続けます。
プログラマーの応答: このメッセージ・セクションの後ろの注 1 を参照してください。

IPK321 SEQUENCE NUMBER BEYOND END OF MACRO

説明: MEND ステートメントが編集解除されましたが、前にある更新制御カードのオペランドに対応するマクロ定義ステートメントが見つかりませんでした。これは次のいずれかによるものです。
1. 参照されたシーケンス番号がマクロ定義がありません。
2. マクロ定義ステートメントの順序フィールドが、COL ステートメントで指定された桁に位置していません。
システムの処置: 残りの更新制御カードは) END まで処理されません。
プログラマーの応答: マクロ定義の編集解除された出力を使用して、カードの順序フィールドを調べてください。

IPK322 INVALID UPDATE CONTROL CARD

説明: カードの 1 桁目の右括弧のすぐ次が、ブランクではありません。
システムの処置: SYSIPT は次の更新制御カードに移り、更新は続きます。

プログラマーの応答: 誤りのあるカードを修正するか、取り除きます。

**IPK323 INVALID OPERATION IN UPDATE
CONTROL CARD**

説明: 制御カードの命令フィールドに COL、VER、ADD、DEL、REP、RST または END 以外のもがあります。
システムの処置: SYSIPT は次の更新制御カードに移り、更新は継続します。
プログラマーの応答: 誤りのあるカードを修正するか、取り除きます。

IPK324 CONTROL CARD OUT OF SEQUENCE

説明:
1. VER、ADD、DEL、REP、または RST カードの最初のオペランドが、前にある制御カードの最後のオペランドより小さいか、または、
2. ADD、DEL、REP、または RST カードの最初のオペランドが、VER ステートメントでない前にある制御カードの最後のオペランドに等しいか、または、
3. 2 枚の連続した VER カードの最初のオペランドが同じです。
システムの処置: SYSIPT は次の更新制御カードに移り、更新は継続します。
プログラマーの応答: 制御カードを昇順に並べるか、または誤りのあるカードを修正するか、または取り除きます。

IPK325 MISMATCH IN SELECTED FIELD

説明: VER カードの後に続くソース・カードが、マクロ定義内の参照されたステートメントと一致していません。
システムの処置: SYSIPT は次の更新制御カードに移ります。この制御カードが同じマクロ定義を参照している場合、無効として標識が立てられます。SYSIPT は次の更新制御カードに移り、更新は継続します。
プログラマーの応答: マクロ定義の編集解除された出力を使用して、そのバージョンが期待したものかどうかを調べます。

**IPK326 INVALID OPERAND IN UPDATE
CONTROL CARD**

説明:
1. 制御カードのオペランドが無効であるか、または、
2. DEL または REP カードの第 2 オペランドが、第 1 オペランドより小さくなっています。
システムの処置: SYSIPT は次の更新制御カードに移り、更新は継続します。
プログラマーの応答: 誤りのあるカードを修正するか、取り除きます。

**IPK327 END OF MACRO BEFORE END OF
UPDATE CARDS**

説明: MEND ステートメントが編集解除または更新されたときに、)END 以外の更新制御カードが残っています。
システムの処置: 残りの更新制御カードを) END までフラッシュします。

プログラマーの応答: 誤りのあるカードを取り除くか、位置付け直しします。

**IPK328 UPDATE TERMINATED, SYSIPT READ
TO) END**

説明: メッセージ IPK321、IPK327、または IPK330 の後に現れる通知メッセージです。
システムの処置: なし。
プログラマーの応答: なし。

**IPK329 UNEXPECTED EOF SYSIPT;) END
MISSING**

説明:) END カードが読まれる前に、ファイルの終わりにきました。
システムの処置: 編集解除は継続します。
プログラマーの応答: 更新デッキに) END カードを挿入しません。

IPK330 INVALID COL STATEMENT

説明:
1. COL カードのオペランドが無効であるか、または、
2. COL ステートメントが、最初の更新制御ステートメントではありません。
システムの処置: 更新は実行されません。残りの更新制御カードは) END まで処理されません。
プログラマーの応答: オペランドを修正するか、または COL ステートメントを更新デッキの最初に入れます。

IPK331 SEQUENCE NUMBER IS TOO SMALL

説明: マクロ定義ステートメントのシーケンス番号が、前にある更新制御カードのシーケンス番号の参照より大きいです。これは次のいずれかによるものです。
1. 参照されたシーケンス番号がマクロ定義内にないか、または、
2. シーケンス番号がマクロ定義内にないか、または、
3. マクロ・ステートメントの順序フィールドが、COL ステートメントで指定された位置にありません。
システムの処置: 要求された処置は無視されるか、または終了します。SYSIPT は次の更新制御カードに移り、更新は継続します。
プログラマーの応答: マクロ定義の編集解除された出力を使用して、ステートメントの順序フィールドを調べてください。

**IPK332 SECOND OPERAND FOUND BEFORE
FIRST**

説明: 制御カードには、構文エラーはありません。しかし、削除または置換される最後のマクロ・ステートメントが、最初のもの前にあるといった方法で、相対アドレッシングが使われています。
システムの処置: 参照されたマクロ・ステートメントが、削除または置換されます。更新は継続します。
プログラマーの応答: 更新制御カードを修正します。

注:

1. IPK303、IPK306、IPK311 および IPK312 のメッセージは、いずれも、EDECK 内のカードの順序が誤っている場合に出される可能性があります。DSPCH オプションと HEX パラメーターを指定して SSERV プログラムを実行し、編集したマクロの印刷出力と穿孔デッキを作成してください。カードをシーケンス番号の昇順に並べてください。EDECK をカタログして、ESERV を再度実行してください。次の 3 つのことが起こる可能性があります。
 - a. マクロが正常に編集解除されます。
 - b. カードがまだ失われているので、メッセージ IPK312 が出されます。編集解除された出力を用い、ソース・マクロ定義のリストと比較することによって、ソース・マクロ定義を再び組み立ててみてください。
 - c. メッセージ IPK303 または IPK306 が出されます。EDECK は非常にひどく損傷しているため、使用することはできません。
2. 損傷した EDECK を ESERV プログラムが処理する可能性は、カードを失った場合、または順序が違っている場合に限られます。編集したテキストに不要情報が穿孔されているといった、より深刻な破壊のタイプでは、編集解除から予期できない結果が生じます。

第 16 章 接頭部 IST の VTAM メッセージ

VTAM メッセージ

このトピックではネットワーク・オペレーターのコンソールに表示される VTAM メッセージについて記述します。

VTAM オペレーター・メッセージに対する応答

VTAM オペレーター・メッセージ (例えば、IST095A) への応答の形式は、オペレーティング・システムによって異なります。

応答の形式と例を以下に示します。

- (応答 ID)(応答)

例 : 6 Yes

応答 ID を表示するには、次のように入力します。

REPLID

応答形式のカスタマイズが可能なことがあります。詳しくは、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。

ISTxxxx=VTAM メッセージ

IST001I VTAM START REJECTED - reason

説明: VTAM 初期設定が、以下のいずれかの *reason* で終了しました。

CANNOT LOCATE *name* IN *library*

メンバー *name* が、*library* に見つかりません。

ERROR DEFINING TABLE *tablename*

テーブル *tablename* を定義中に、エラーが起きました。

INCORRECT SUPERVISOR LEVEL

監視プログラム・レベルが、活動化される VTAM のレベルに対して互換性がありません。

INVALID ENVIRONMENT

VTAM の現行リリースが、サポートされていないオペレーティング・システムで初期設定されました。

INVALID CUSTNO OR VTAMPW

カスタマー番号または VTAM パスワードが正しく指定されていません。インストール情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

LOAD SUBTASK *name* INOPERATIVE

指定されたロード・サブタスク *name* で、abend が発生しました。

name NOT A VALID USS TABLE

テーブル *name* が、VTAM が予期していた USS テーブル形式を持っていませんでした。

name TABLE HAS NO TYPE ID

テーブル *name* が、有効な制御ブロック ID フィールド (CBID) を持っていませんでした。

name TABLE LOAD HAD I/O ERROR

ディスク上のロード・ライブラリー登録簿データの検索中に、テーブル *name* をロードしようとしたましたが、永続入力エラーを起こしました。

OPERATOR REQUESTED TERMINATION

メッセージ IST1216A に対する応答として、終了が選択されました。

PROCESSING ERROR

VTAM の内部リソースが、リソース名の重複のため失敗しました。

SVA CODE AT A DIFFERENT LEVEL

IPL プロシージャ内の SETSDL が、区画で開始されているものとは異なるバージョンの VTAM コードをロードしたために、VTAM は終了しました。

TERMINATION IN PROGRESS

VTAM が、初期設定呼び出し中に終了しました。

UNABLE TO ALLOCATE STORAGE

ストレージ要求が、初期設定時に失敗しました。
システムの処置: VTAM の初期設定は終了しました。VTAM 始動の試みは、失敗しました。
オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。
プログラマーの応答:

CANNOT LOCATE *name* IN *library*

library の登録簿を調べて、*name* があるかどうか確かめてください。ない場合は、*name* を *library* に追加してください。

さい。 *name* が、ATCSTRxx か ATCCONxx 形式ならば、LIST または CONFIG 始動オプションのどちらかで指定された *xx* が、正しい番号を表しているかどうかを確かめてください。

library が SVA なら、VTAM ロード・リスト・プロシージャーを実行して、VTAM モジュールをロードしてください。

ERROR DEFINING TABLE *tablename*

tablename の定義を、訂正しなければなりません。詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

INCORRECT SUPERVISOR LEVEL

正しい監視プログラム・レベルを入手して、VTAM を再始動してください。

LOAD SUBTASK *name* INOPERATIVE

VTAM 問題の診断方法について詳しくは、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

***name* NOT A VALID USS TABLE**

テーブル *name* の CSECT の内容を検査し、エラーが発見されたら、正しい CSECT で、ロード・ライブラリーを再作成してください。

***name* TABLE HAS NO TYPE ID**

テーブル *name* の CSECT の内容を検査し、エラーが発見されたら、正しい CSECT で、ロード・ライブラリーを再作成してください。

***name* TABLE LOAD HAD I/O ERROR**

ロード・ライブラリーを含むディスクが正しくアクセスされたかを判別し、されていない場合は、再度アクセスしてください。

OPERATOR REQUESTED TERMINATION

なし。

PARTITION ENDS ABOVE 16 M LINE

なし。

PROCESSING ERROR

VTAM システムに対するすべての要求が、システムに適合していることを確認するために、定義ライブラリーを検査してください。

SVA CODE AT A DIFFERENT LEVEL

SETSDL と区画ジョブが、同じ VTAM サブライブラリーを指しているかどうかを確認してください。

TERMINATION IN PROGRESS

なし。

UNABLE TO ALLOCATE STORAGE

VTAM に必要なストレージの量を判別するには、「Estimating Storage for VTAM」ディスクレットを使用してください。

MAP コマンドの出力を検査してください。

- いずれかの VARY コマンドが出された場合

code は異常終了コードです。

709 ページの『VTAM 取り消しコード』を参照してください。*code* についての説明があります。
 システムの処置: *configname* は VTAM に定義されていないので、VARY コマンドで活動化または非活動化する必要があります。その他の処理を続行します。
 オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。
 プログラマーの応答: システム・ログと *code* の記述で、問題を訂正してください。異常終了プロシージャーについては、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST009I VTAM IS ALREADY ACTIVE - START REJECTED

説明: VTAM がすでに活動化されているのにオペレーターが VTAM を活動化させようとすると、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は始動要求を無視します。

オペレーターの応答: VTAM を再始動するには、VTAM の最初のインスタンスを停止させてください。

プログラマーの応答: なし。

IST010I *command* COMMAND INVALID

説明: プログラム式オペレーター・インターフェースから入力されたコマンドの形式が間違っているために *command* が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。有効なコマンドは、VARY、MODIFY、および DISPLAY だけです。

このメッセージが出される原因のほとんどは、START または HALT コマンドが入力されたためです。

システムの処置: VTAM は *command* を実行しません。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: プログラム・オペレーター・アプリケーションを訂正してください。プログラム・オペレーター・アプリケーションの書き方については、「VTAM Programming」を参照してください。

IST011I *command* FOR *ncpname* status

説明: NCP *ncpname* に対して、MODIFY DUMP コマンドが出されると、VTAM はこのメッセージを出します。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

status は次のいずれかです。

COMPLETE

ダンプが完了しました。

FAILED, SENSE = *code*

ダンプが失敗しました。

REJECTED - NCP LEVEL

NCP は V5R2 より前の NCP リリースです。

IST003I ABEND OCCURRED DURING NETWORK DEFINITION OF CONFIG *configname*, CODE = *code*

説明: 構成 *configname* の VTAM ネットワーク定義が、異常終了すると、VTAM はこのメッセージを出します。ネットワーク定義は以下の場合に生成されます。

- VTAM 開始処理で CONFIG オペランドが処理される間

MODIFY DUMP,ACTION=PURGE は NCP V5R2 およびそれ以降のリリースのみ有効です。

システムの処置: その他の処理を続行します。

オペレーターの応答:

COMPLETE

なし。

FAILED, SENSE = code

考えられるハードウェア問題の *code* を調べてください。

code の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

REJECTED - NCP LEVEL

V5R2 以前のリリースの NCP には MODIFY DUMP コマンドを入力しないようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IST014I DEVICE SUPPORT MAY BE
UNAVAILABLE - SYS000 NOT
UNASSIGNED**

説明: VTAM は、ローカル SNA クラスター・コントローラーの接続、または切り離しを行うときに、SYS000 を必要とします。VTAM は、通信コントローラーのネットワーク制御プログラムをロードしたりダンプしたりするためにも、SYS000 を必要とします。

システムの処置: VTAM は続いて実行されますが、ローカル非 SNA 端末しか、処理されません。

オペレーターの応答: VTAM を停止し、SYS000 を未割り当てとして指定した後で、VTAM を再始動してください。問題判別のために、次のものを用意してください。

- システム・ログ
- VTAM 定義ステートメントに対する、SSERV ライブラリー・サービス・ルーチンから得られる出力。

プログラマーの応答: VTAM カタログ式始動プロシージャを、更新する必要がある場合があります。

**IST015A ERROR PROCESSING LIST IDENTIFIER -
ENTER LIST ID OR BLANK**

説明: VTAM は、リスト開始オプションの処理中に、エラーを検出しました。

システムの処置: VTAM は、このプロンプトに対する応答を待ちます。

- リスト ID *xx* が入力された場合、VTAM は、指定された開始リスト ATCSTR xx を読み取ろうとします。
- ブランクが入力された場合、VTAM は、それ以上のリストを処理することを止め、以前に処理したデフォルト開始オプション・リストの開始オプションを使用します。

応答を受信すると VTAM は、以前に定義した開始オプションに対して出された指示に回答して指定された追加オプション、または START コマンドを入力したときに指定された追加オプションを処理します。

オペレーターの応答: インストール先で指定されているリスト ID (2 文字) を入力するか、または空白を入力して以前に処理された開始オプションを使用してください。

プログラマーの応答: 使用されている ID が正しいか、それが VTAM オペレーターに正しく伝えられているか、またはデフ

ォルト開始オプション・リストの ID を応答するように伝えられているかを調べてください。

LIST 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。VTAM の開始方法、開始オプションのタイプ、および開始オプションの処理方法については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST017I UNABLE TO LOAD PHASE *phasename*

説明: 以下のいずれかが起こりました。

1. フェーズが LIBDEF 探索チェーンで定義されたライブラリーにありません。
2. フェーズを収容する十分なストレージがありません。
3. フェーズは、ページ固定されなくてはなりませんが、実記憶が十分にないため、ページ固定化ができませんでした。
4. フェーズが、再配置可能ではありません。

phasename は、ライブラリー内で参照できる、最小の完結した単位の名前です。

システムの処置: VTAM は終了するか、またはさらにメッセージを出します。

オペレーターの応答: 問題判別は以下のように行ってください。

- 登録簿を印刷する LISTD コマンドの出力を収集する
- MAP コマンドの実行結果の出力を収集してください。
- VTAM のインストールと保守のリンケージ・エディター出力と、他の適切なアプリケーション・プログラム生成の出力を保管する

プログラマーの応答: 上記の理由に応じて、以下のいずれかを行ってください。

1. フェーズを LIBDEF 探索チェーンで定義されたライブラリーに入れる
2. 仮想区画サイズを大きくする
3. 実区画サイズを大きくする
4. REL を指定して、リンク・エディットし直す

**IST018I CONFIG COULD NOT BE INITIALIZED -
VTAM START CONTINUES**

説明: CONFIG 開始オプションに指定されたネットワーク構成が初期設定されないと、VTAM は最初にこのメッセージを出します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST018I CONFIG COULD NOT BE INITIALIZED -
VTAM START CONTINUES

IST523I REASON = *reason*

IST314I END

グループの 2 番目のメッセージに、失敗した理由が説明されています。*reason* は次のいずれかです。

ERROR IN CONFIG LIST

構成リストにエラーがあります。このエラーの原因は、データ・セット定義ステートメントがないことだと思われるます。

ERROR READING VTAMLST FILE

指定された構成リストを見つけれませんでした。例え

ば、CONFIG=xx が指定されたのに、適切なライブラリー内に対応する ATCCONxx がない場合などです。

INSUFFICIENT STORAGE

使用できる十分なストレージがありません。

NAME IN CONFIGURATION LIST IS NOT VALID

構成リスト内に、命名規則に従っていない大ノード名または経路定義名が含まれています。このメッセージを表示しますが、VTAM は残りのノードの処理を続けます。

システムの処置: VTAM の初期設定は続けられます。名前が無効である場合を除き、VTAM はエラーが発生したノード以降のリスト内のノードを無視します。この場合、リストの残りについては処理を続行します。ただし、リスト自体に構文エラーがある場合には、そのリスト全体が無視されます。

オペレーターの応答: エラーが検出されている間も、ネットワークを使用できるようにするために、ネットワークの個々のノードに対して、VARY ACT コマンドを使用することによって、ネットワークの各部分 (またはすべて) を活動化できます。

- *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。
- その他の *reason* の場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

- *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** のときは、オペレーターが以下の開始オプションを、開始プロシージャで指定された通りに入力していることを確認してください。
 - バッファ・プール
 - SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足が原因でエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。
- その他のすべての *reason* の場合、指定された構成が必要な場合は VTAM を停止し、開始オプションまたは開始リストに指定された構成リストを訂正してください。その後、オペレーターに VTAM の再始動を依頼してください。

IST020I VTAM INITIALIZATION COMPLETE FOR level

説明: VTAM 初期設定が完了すると、VTAM はこのメッセージを出します。前のメッセージに、未処理の開始オプションが示されています。

level は、稼働中の VTAM のバージョン (*x*)、リリース (*y*)、およびモディフィケーション (適用可能な場合) です。例えば、ACF/VTAM バージョン *x* リリース *y* では、**VxRy** が表示されます。

このメッセージの後には、このホストのノード・タイプを示すメッセージ IST1348I と、稼働中の VTAM のバージョンのコンポーネント ID を示すメッセージ IST1349I が続きます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: VTAM ネットワーク・オペレーター・コマンド (VARY、MODIFY、DISPLAY、または HALT) を入力し、必要な VTAM アプリケーション・プログラムを始動することができます。

プログラマーの応答: なし。

IST025I BLDL FAILED FOR member IN library

説明: VTAM が、ライブラリー *library* のメンバー *member* を、見つけることができないため、LINK-LIST の作成に失敗しました。

システムの処置: VTAM は、この状態の結果として、VTAM が行う処置を示す別のメッセージを出します。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *member* 用のライブラリー *library* を調べてください。 *member* が存在せず、必要な場合には、追加してください。

IST033I command COMMAND CANCELLED

説明: VTAM リソースが使用できないため、*command* を取り消しました。例えば、VTAM がロックを得ることができない可能性がある場合などです。

command は START trace オプション、または MODIFY TRACE コマンドのどちらかです。

システムの処置: VTAM はコマンドを実行しません。

オペレーターの応答: リソースが利用可能になるまで待って、コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターが提供した出力を検査して、VTAM システムに対するすべての要求が、そのシステムに適合していることを確認してください。エラー状態を訂正したら、オペレーターにコマンドを再入力するように依頼してください。

IST037I command FAILED - SYNTAX ERROR

説明: 以下の 1 つあるいはそれ以上の構文エラーのため、*command* が失敗しました。

- コマンドに予期された区切り文字または句読点がありません。
- オペランドの長さが 8 文字を超えています。

- キーワードが引用符でくくられています。
- オペランド内に非 EBCDIC 文字があります。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 正しい形式でコマンドを再入力してください。コマンドの形式については「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST038I VARY FAILED FOR ID = *cdmname* - HOST CDRM IS NOT ACTIVE

説明: 外部クロスドメイン・リソース・マネージャー *cdmname* を活動化する VARY ACT コマンドは、このドメインの CDRM が活動化されていないために失敗しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *cdmname* でセッションを開始する場合は、自分のホストの CDRM を活動化するために、VARY ACT コマンドを入力してください。ホストの CDRM に対して DISPLAY ID コマンドを入力し、*cdmname* に対するコマンドが再入力される前に、これが必ず活動化されているようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

IST039I *command* FAILED - CANNOT IDENTIFY COMMAND TYPE

説明: *command* には、コマンドのタイプを示す識別可能なキーワードが含まれていません。例えば、VARY コマンドに ACT、ACQ、または LOGON などのような識別可能なキーワードが含まれていません。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 正しいオペランドを指定したコマンドを、再入力してください。オペランドのリストについては、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST040I START OPTION *option* REQUIRED - REENTER WHEN PROMPTED

説明: 要求された開始オプションが指定されていなかったり、正しく指定されていない場合に、VTAM はこのメッセージを出します。

option はエラーを含む開始オプションです。

システムの処置: VTAM は、他の開始オプションの処理を継続し、追加や修正を出します。VTAM の初期設定は、*option* に正しい値が入力されるまで完了しません。

オペレーターの応答: プロンプトが出されたら、必要なオプションを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST043I *value* INVALID VALUE FOR KEYWORD *keyword*

説明: VTAM オペレーター・コマンドの *keyword* に、無効な値が指定されました。*value* は、無効な値の最初の 8 文字です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: キーワード *keyword* を訂正して、コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST049I VTAM START REJECTED - *macroname* FOR [*acbtype*] ACB FAILED

説明: VTAM アクセス方式制御ブロック (ACB) または SETLOGON マクロ命令が失敗したために VTAM が終了すると、VTAM は最初にこのメッセージを出します。

macroname は、失敗したマクロ命令の名前です。使用できる値は OPEN または SETLOGON のいずれかです。

グループの 2 番目のメッセージに、失敗した理由が説明されています。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

- *macroname* が OPEN の場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST049I VTAM START REJECTED - OPEN FOR
        [acbtype] ACB FAILED
IST1218I ACB ERROR FIELD = acberflg
IST314I  END
```

IST049I

- *acbtype* には、VTAM に関連する ACB が記述され、どのホスト ACB が失敗したかが示されます。
 - OPEN ACB が制御点で失敗した場合、*acbtype* は CP です。
 - OPEN ACB が SSCP で失敗した場合、*acbtype* は表示されません。

IST1218I

acberflg は ACB のエラー・フィールドです。これは OPEN マクロ命令が返す 16 進数の値で、発生したエラーの特性を示します。

- *macroname* が SETLOGON の場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST049I VTAM START REJECTED - SETLOGON FOR
        [acbtype] ACB FAILED
IST1219I RTNCD = rtncd, FDB2 = fdb2
IST314I  END
```

IST049I

- *acbtype* には、VTAM に関連する ACB が記述され、どのホスト ACB が失敗したかが示されます。
 - SETLOGON ACB が制御点で失敗した場合、*acbtype* は CP です。
 - SETLOGON ACB が SSCP で失敗した場合、*acbtype* は表示されません。

IST1219I

rtncd はエラー・フィールド RPLRTNCD です。これは SETLOGON マクロ命令が返す 16 進数の値です。

fdb2 はフィードバック・フィールド RPLFDB2 です。これは SETLOGON マクロ命令が返す 16 進数の値です。*rtncd-fdb2* の組み合わせについては、740 ページの『戻りコードおよび戻りコード通知用のセンス・フィールド』を参照してください。

システムの処置: VTAM は終了します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログと戻りコードの情報を使用して問題を訂正してください。

IST1219I の *rtncd-fdb2* の組み合わせについては、740 ページの『戻りコードおよび戻りコード通知用のセンス・フィールド』を参照してください。

OPEN および SETLOGON マクロ命令の追加情報については、「VTAM Programming」を参照してください。

IST051A ENTER VTAM START PARAMETERS

説明: デフォルト始動リスト ATCSTR00 で PROMPT 開始オプションがコーディングされると、VTAM はこのメッセージを出します。オペレーターは開始オプションを入力して、すでに保管されているデフォルトの開始オプションを上書きするか、または追加オプションを指定してください。

システムの処置: VTAM は応答を待ち、入力されたオプションを処理します。

オペレーターの応答: 以下のいずれかを行ってください。

- システム・プログラマーから勧められた開始オプション、または導入先に指定されている開始オプションを入力してください。(必要なすべての開始オプションを 1 行に入力しきれない場合は、その行の最後のオプションの次にコンマを打ってください。するとメッセージ IST1311A が出され、残りの始動オプションの入力ができますようになります。)
- ブランクを入力すると、VTAM はデフォルト始動リストから、始動オプションを使用します。

注: LIST 開始オプションを入力する場合は、この LIST ID を正しく入力するように、十分注意してください。つづりにエラーがあっても、訂正することはできません。メッセージ IST1311A に対する応答として、LIST 開始オプションを入力することはできません。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST052I *parameter* IS AN INVALID START OPTION KEYWORD - IGNORED

説明: ユーザーは VTAM 開始オプションとしてパラメーター *parameter* を指定しようとしたましたが、これは無効なキーワードです。

システムの処置: VTAM はこのオプションを無視し、他の始動オプションの処理を続けます。

オペレーターの応答: VTAM から次にプロンプトが出たとき、正しいキーワードとオプションを入力するか、または、入力したいオプションがない場合は、ブランクを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST054I *member* IN *library* {NOT FOUND | IS EMPTY} - START PROCESSING CONTINUES

説明: 始動処理オプションの中で指定された、ライブラリーのメンバーが見つからないか、または空でした。

member は ATCSTR00 または ATCSTRxx のいずれかで、xx は LIST 開始オプションの番号です。

library は定義ライブラリーに指定された DDNAME です。システムの処置: VTAM は、*member* を無視し、他の開始オプションの処理を続けます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *member* がシステムに必要な場合、VTAM を停止した後に正しいライブラリー・メンバーで再始動してください。

IST056A LIST = *listid* IS INVALID - ENTER LIST ID OR BLANK

説明: LIST 開始オプションに指定された *listid* の値が無効です。以下のうちいずれかが当てはまります。

- この ID に対応するメンバーがない。
- この ID の長さが、2 文字を超えている。3 文字を超えて入力されると、最初の 3 文字だけが、メッセージに示されます。
- この ID に使用できない英数字が含まれている。

システムの処置: VTAM は、このメッセージに対する応答を待ちます。

オペレーターの応答: このメッセージが出されてから ID を入力すると、VTAM は、定義ライブラリー内のオプションを処理しようとしています。

デフォルト・リストを選択すると、個々の開始オプションの入力を求めるプロンプトが出ます。以下のいずれかを行ってください。

- 正しい ID を判別し、それを入力する
 - ブランクを入力して、デフォルト・リストを呼び出す
- プログラマーの応答: 指定したメンバーが、実際にあることを確かめてください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST057I KEYWORD MISSING AFTER TRACE/NOTRACE OPTION ON START PARMS

説明: 開始オプションの TRACE、または NOTRACE キーワードの後に、必要なキーワード (ID または TYPE) がないと、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は TRACE、または NOTRACE オプションを処理しないで、残りの開始オプションを処理します。

オペレーターの応答: IST1311A に応答して、正しいトレース・オプションを入力するか、ブランクを入力してエラーを無視してください。

プログラマーの応答: ATCSTRxx に含まれる VTAM 開始オ

プションを調べて、正しいオプションが指定されていることを確認してください。TRACE/NOTRACE 開始オプションの ID または TYPE キーワードに指定できる適切なオプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST058I *keyword1* AND *keyword2* OPTIONS HAVE DUPLICATE VALUES

説明: *keyword1* と *keyword2* に同じ値が指定されました。HOSTPU、および SSCPNAM 開始オプションに、同一の値が入力された場合に、この状況になります。
システムの処置: HOSTPU のデフォルトは、ISTPUS です。VTAM はプロンプト IST1311A を出し、開始オプションへの置き換えを再入力するように指示を出します。
オペレーターの応答: 始動リストに重複するキーワードがある場合は、システム・ログを保管して問題を判別してください。ない場合には、プロンプト IST1311A が出され次第、開始オプションへの置き換えを入力してください。
プログラマーの応答: 始動リストに重複するキーワードがある場合は、キーワードが固有の値を持つように変更してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST059I *text* IGNORED - INSUFFICIENT STORAGE

説明: VTAM が十分なストレージを獲得できなかったために、*text* に示された操作を完了できませんでした。

TRACE FOR *nodename*

ノード *nodename* に対する TRACE 開始オプションです。

PATH *pathname* FOR *nodename*

ノード *nodename* に対する、*pathname* で指定された動的パス更新セットの更新です。

システムの処置: *text* によって異なります。

TRACE FOR *nodename*

nodename が VTAM で、内部トレース (例えば、type=VTAM) を始動しようとした場合、初期設定は VTAM 内部トレース・テーブルなしで継続されます。

nodename が VTAM 以外の場合、VTAM は、開始オプションを置き換えるように、プロンプト IST1311A を出します。

PATH *pathname* FOR *nodename*

VTAM は、動的パス更新セット *pathname* を更新しません。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

VTAM 内部トレースについては、より小さなバッファ・サイズを指定して、MODIFY TRACE コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指

定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不十分なためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プール、CSA または SGA 制限を再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM に必要なストレージの量を判別するには、「Estimating Storage for VTAM」ディスクットを使用してください。
- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST061I *command* FOR *nodename* FAILED - NODE UNKNOWN TO VTAM

説明: オペレーターは、VTAM に定義されていないリソース *nodename* に *command* を入力しました。ヌル名 (ブランクだけからなる名前) も無効な識別名です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを正しく入力したかどうか確認してください。

- 小ノードを活動化しようとしていた場合は、現在のどの活動大ノードにも、そのような小ノードはないということが、メッセージに示されています。この場合には、小ノード *nodename* を含む大ノードを、まず活動化してください。どの大ノードが活動化されているかを判別するには、DISPLAY MAJNODES を使用します。
- 大ノードを活動化しようとしていた場合は、そのような大ノードが定義ライブラリーにないことが、メッセージに示されます。
- 大ノード、または小ノードを非活動化しようとしていた場合は、現在そのようなノードは、VTAM に対して定義されていないことが、メッセージに示されます。

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ID *nodename* を検査し、オペレーターに正しい ID を伝えてください。必要な場合は、正しい ID を使用するように、VTAM 定義ステートメントを変更してください。

IST066I *command* FAILED - CONFLICTING OR INVALID OPTIONS

説明: オペレーターが、1 つまたは複数の無効なオペランドを指定して、コマンド *command* を入力しました。2 つ以上のオプションは、同時に使用することができない場合もありますし、ある指定のオプションは、ある種のノードに関してしか有効でない場合もあります。NCP またはチャンネル間アダプターが、すでに別のパラメーターによって活動化されている場合にも、このメッセージが出る場合があります。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを正しく入力したかどうか確認してください。問題が解決されない場合は、システム・ログを保管し、大ノード定義を印刷し、問題を判別してください。

プログラマーの応答: オペランド使用上の制限について、コマンドの説明を調べてください。

- 例えば NCP などのすでに活動化されている大ノードを再活動化しようとしてこのメッセージが出された場合は、コマンドのオペランドと、以下のいずれかが矛盾しています。
 - 定義ステートメントのオペランド
 - 以前の活動化で指定されたオペランド
- 問題の大ノードが活動状態でない場合には、訂正されたオプションを指定してコマンドを再入力するように、オペレーターに依頼してください。
- ただし、大ノードがすでに活動化されていて、新たに活動化されるときに指定されたオペランドと、以前の活動化に使用されたオペランドとが矛盾している場合、新しいオペランドが必要なら、その大ノードを非活動化し、次に再活動化してください。

注: 大ノードを非活動化すると、そのノードを使用しているアクティブ・セッションが中断されます。

IST072I *command* FOR ID = *nodename* FAILED DURING NETWORK DEFINITION

説明: 大ノード *nodename* を活動化または獲得しようとして入力された *command* コマンドがネットワーク定義中に失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

command は、失敗したコマンドです。 *command* に指定可能な値とエラーの原因は以下のいずれかです。

VARY ACT または **VARY ACQ**

大ノード定義の VARY ACT または VARY ACQ コマンドにエラーがあります。

VARY DRDS

VARY DRDS (動的再構成データ・セット) コマンドの処理が失敗し、定義全体が拒否されました。

MODIFY DR

MODIFY DR コマンドが失敗しました。

nodename は、コマンドに指定された大ノードの名前です。

システムの処置: コマンドは失敗します。大ノードまたは DRDS 定義およびリソースは非活動状態のままで、VTAM はこれらを使用できません。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログを保管し、大ノード定義を印刷してください。

プログラマーの応答: 前に出されたメッセージに、失敗の原因

に関する情報が提供されています。

- 定義エラーの場合は、オペレーターがコマンドを再入力する前に、問題を解決するために、大ノード定義または DRDS 定義を、訂正してください。
- 定義エラーでない場合は、正しい大ノード名を使用して、コマンドを再入力するように依頼してください。 *command* の詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST073I *command* FOR ID = *nodename* FAILED - MORE POWERFUL REQUEST IN PROGRESS

説明: *nodename* に保留中の非活動化要求があるために *command* が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

注: コマンドが VARY INACT であった場合、保留中の非活動化要求は、より強力なタイプ (Immediate または Force) です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: DISPLAY コマンドを使用して、非活動化の進行状況をモニターしてください。 *nodename* が非活動化されたら、コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST074I *command* FOR ID = *nodename* FAILED - INSUFFICIENT STORAGE

説明: *nodename* に対して *command* が入力されましたが、VTAM は要求の処理に必要な作業域を得られなかったため、失敗しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: 影響を受けたストレージのタイプを示すために、このメッセージの前に、メッセージ IST561I、IST562I、IST563I、IST564I、IST565I または IST566I が出されます。

VTAM バッファ・プールに使用されているストレージと、システム GETVIS 域 (SGA) に関する情報を表示するには、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

nodename が、他のドメインのリソースのための定義に変換される独立論理装置の場合は、*nodename* の NCP 大ノードを非活動化してください。ストレージ不足が解消されたら、NCP 大ノードを活動化してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール

- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不十分なためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プール、CSA または SGA 制限を再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM に必要なストレージの量を判別するには、「Estimating Storage for VTAM」ディスクットを使用してください。
- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST075I NAME = name, TYPE = type

説明: このメッセージは、DISPLAY ID=nodename コマンドに応答して VTAM が出す多くのメッセージ・グループの一部です。

name は、表示されるリソースまたは ID タイプの名前です。

type の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST077I SIO = sio CUA = device_address [, SLOWDOWN = YES]

説明: VTAM は、チャンネル接続ノードの状況を要求する DISPLAY ID コマンドに応答して、このメッセージを出します。ローカル NCP に DISPLAY ID コマンドが出されると、このメッセージはホストから PU タイプ 4 に定義された、すべてのチャンネル接続リンク・ステーションに出されます。

sio は、そのチャンネルに関して数えられた、入出力開始命令の数です。この数は累積 (ノードが最後に活動化したときから) され、10 進数で表現されます。sio の値は 65535 を超えることはありません。sio が 65535 の場合、その値は、次の入出力開始命令が、出されたときに、0 にリセットされます。

device_address は、チャンネル接続装置の 16 進アドレスです。装置アドレスが使用不能である場合、フィールドには *NA が入ります。

SLOWDOWN=YES (示された場合) は、ノードの性能が低下したことを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST080I nodename1 status1 nodename2 status2 nodename3 status3

説明: このメッセージは、次のコマンドの内の 1 つに対する応答として、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

DISPLAY ID コマンド

このメッセージは、ノードをリストし、各ノードの状況を表示します。

DISPLAY LUGROUPS コマンド

このメッセージは、ノードをリストしますが、nodename が記号リソース名を表すために、状況を表示しません。

4 ノード以上の場合、メッセージはすべてのノードを表示するまで何度も繰り返し出されます。このメッセージの前に、リストされているノードのタイプを示すメッセージが出されます。

nodename は、ノードの名前です。

DISPLAY ID コマンドが入力された場合は、status 情報について、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

DISPLAY LUGROUPS コマンドが入力された場合は、status フィールドはブランクです。

コマンドに関する情報については、「VTAM Operation」を参照してください。LUGROUPS の情報については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST081I LINE NAME = linename, LINE GROUP = groupname, MAJNOD = nodename

説明: VTAM は以下の状態のときにこのメッセージを出します。

- DISPLAY ID コマンドが出された場合
- メッセージ IST680I 中にある、リソース nodename への接続要求が拒否された場合。詳細については、IST680I の記述を参照してください。
- メッセージ IST690I に表示されたステーション ID stationid が、活動中の交換回線大ノードにあるノード名に分解できなかったために、VTAM と物理装置との間の交換接続が正常に終了しなかった場合。詳細については、IST690I の記述を参照してください。

linename は、nodename が接続している回線です。

groupname は、回線 linename が属している回線グループです。

IST082I • IST089I

nodename は、回線に関連している大ノードです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST082I **DEVTYPE = devicetype [, CONTROLLING
LU = luname]**

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

devicetype は装置タイプです。 *devicetype* が **INDEPENDENT LU/CDRSC** の場合、ノードは CDRSC に示される独立 LU です。

luname は、定義ステートメントの LOGAPPL オペランドか、または VARY LOGON コマンドの LOGON オペランドに事前に指定された制御 LU の名前です。制御アプリケーション・プログラムがない場合、VTAM は **CONTROLLING LU = luname** を表示しません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST084I **NETWORK NODES:**

説明: このメッセージは、回線、ローカル SNA 大ノード、または交換 SNA 大ノードの状況を要求する、DISPLAY ID コマンドに対する応答として、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。このメッセージの直後に、メッセージが出され、表示されたノードに関連する従属ノードについての詳細が示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST085I **DISPLAY FAILED - INFORMATION NOT
AVAILABLE**

説明: VTAM が要求された情報を収集できないため、VTAM は DISPLAY PATHTAB コマンドを実行できません。

オペレーターが、DISPLAY PATHTAB コマンドに ADJSUB を指定した場合、指定された隣接サブエリアへの経路がありません。オペレーターが、DISPLAY PATHTAB コマンドに DESTSUB を指定した場合、指定された宛先サブエリアへの経路がありません。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: DISPLAY PATHTAB コマンドの場合、コマンドが正しく入力されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: さらに詳しい問題判別情報については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST087I **TYPE = line_type, CONTROL = line_control**

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドに回答して VTAM が出す、複数の異なるメッセージ・グループの一部です。

line_type は回線タイプを示し、以下のいずれかです。

LEASED
SWITCHED DIAL-IN
SWITCHED DIAL-OUT
SWITCHED DIAL-INOUT

line_control は次のいずれかです。

BSC
2 進データ同期通信
CTCA
チャンネル間接続
MPC
マルチパス・チャンネル
NCP
チャンネル接続 NCP
SDLC
同期データ・リンク制御
SS スタート・ストップ
USER
ユーザー定義プロトコル
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IST089I *nodename* **TYPE = nodetype,
status{[,CUA=device_address][,]
PHYS=puname}}**

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンド、またはドメインのリソースの特定カテゴリの状況を表示する DISPLAY コマンドに対する応答として、VTAM が出す多くのメッセージ・グループの一部です。

nodename は、表示されるリソースまたは ID タイプの名前です。

nodetype の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

status の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

device_address は、ノードの 16 進チャンネル・アドレスです。これには物理装置タイプ 4 *nodename* で正常に接続された通信コントローラーの接続機構が示されます。 *device_address* が利用不可であるときは、VTAM は *NA を発行します。

puname は、*nodename* の物理リソースである PU の名前であり、GROUP 定義ステートメントの PHYSRSC オペランドに指定されます。 *puname* が出されるのは、**TYPE=LINE** または **TYPE=LINE GROUP** の場合だけです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *nodename* の詳細については、DISPLAY ID を入力してください。

注: DISPLAY ID コマンドは、モデル LU、または PU ノードに対しては無効です。モデル LU、または PU ノードの詳細については、DISPLAY MODELS コマンドを入力してください。
プログラマーの応答: なし。

IST092I **REQUESTED *limit* LESS THAN CURRENT ALLOCATION - REQUEST {REJECTED|ACCEPTED}**

説明: SGALIMIT 開始オプション、SGA24 開始オプション、または MODIFY SGALIMIT コマンドに指定された値が、現在 VTAM に使用されているシステム GETVIS 域 (SGA) サイズよりも小さいです。コマンドに F を指定して強制的に変更しない限り、VTAM は MODIFY SGALIMIT 要求を拒否します。

VTAM が始動している間は、要求された開始オプションは常に拒否されます。

limit は次のいずれかです。

- **SGALIMIT** VTAM の使用できるシステム GETVIS 域の最大量を示します。
- **SGA24 LIMIT** 24 ビット以下の、アドレス可能なストレージである SGA を示します。

システムの処置:

- **ACCEPTED** が示された場合、オペレーターは F オペランドを指定して
MODIFY SGALIMIT コマンドを入力します。
VTAM は、コマンドに指定された新しい値を、*limit* に設定します。
- オペレーターが

MODIFY SGALIMIT を入力した後に、**REJECTED** が示された場合、または

- VTAM を開始中に **REJECTED** が示された場合、VTAM はコマンドを拒否し、*limit* は変更されないままになり、オペレーターは *limit* に許容値 (より大きい値) を入力するように指示されます。

オペレーターの応答: VTAM が要求を受け入れた場合、処置は不要です。VTAM が要求を拒否したときは、

- **START** コマンドの場合、許容 (より大きい) 値を指定して、SGALIMIT オプションまたは SGA24 オプションを入力します。
- 警告:
 - 指定した *limit* が低すぎるのに SGALIMIT コマンドに F オペランドを指定して、この制限を強制的に有効にしてしまうと、指定した制限以下に、使用率が落ちない限り他の VTAM コマンド (HALT および CANCEL を除く) を入力できなくなります。これは HALT または CANCEL を除くすべての VTAM オペレーター・コマンドを処理するために、このストレージが必要なためです。

SGA 使用率が新しいレベルを下回らない場合、MODIFY SGALIMIT コマンドを使用し、より適切な SGALIMIT 値を指定して VTAM を取り消すかまたは再始動してください。

VTAM に使用できるシステム GETVIS 域 (SGA) の量が、すでに使用中のサイズよりも確実に小さくなるように制限されているかどうかを検査してから、F (強制) オペランドを指定して MODIFY SGALIMIT コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: 必要であれば、適切な値を指定して SGALIMIT を再定義してください。再定義しない場合は、応答は不要です。

IST093I *nodename* **ACTIVE**

説明: VARY コマンドを使用して、リソース *nodename* が正常に活動化されると、VTAM はこのメッセージを出します。

注:

1. MSGLVL オプションにデフォルト値の BASE を指定するか受け入れると、リソースがホスト SSCP の場合にはこのメッセージを 2 回受信します。
2. リソースが活動していることを確認するために、このメッセージを予期していても、他の VTAM 処理によって VARY コマンドが上書きされてしまうと、メッセージは出されません。

例えば、VARY ACT コマンドが完了する前に NCP INOP を出してリカバリーしようとする、VTAM はオペレーターの出したコマンドを処理する前に、リソースを活動化させます。この状況では、メッセージ IST493I または IST1141I が表示され、VARY ACT コマンドが上書きされたことが示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST095A **OPTION TO DUMP *controller* AVAILABLE - REPLY 'YES' OR 'NO' OR 'YES,DUMPSTA=*linkstaname*'**

説明: このメッセージは、*controller* によって表されるネットワーク制御プログラムに関係している通信コントローラーを、VTAM がダンプすべきかどうかを、VTAM オペレーターに判別するように促しています。

通信コントローラーが失敗した場合にシステム・プログラマーが、AUTODMP オプションを PCCU マクロ命令に指定しなかった場合は、このプロンプトが出ます。したがって、オペレーターは、通信コントローラーの内容をダンプすべきかどうかを、選択することができます。

システムの処置: VTAM は有効な応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- NCP 生成時に指定されたリンク・ステーションか、または VARY ACT コマンドで、通信コントローラーの内容をダンプする場合は、YES を入力してください。
- YES,DUMPSTA=*linkstaname* と入力してください。
linkstaname は、NCP 生成時に PCCU マクロ命令の DUMPSTA オペランドにコーディングされた値です。
リンク・ステーションを指定しないで、YES,DUMPSTA= が指定された場合、VTAM は、デフォルト・ダンプ・ステーションを選択します。

- 通信コントローラーの内容をダンプしたくない場合は、NO を入力してください。

注:

1. コンソールからどの応答を返すべきかを、担当のシステム・プログラマーに尋ねておいてください。複数チャネル接続、または複数リンク接続の通信コントローラーを使用しているオペレーターが複数存在する時にこのメッセージが出されたら、1 人だけが YES と入力してください。他のオペレーターはそのダンプ操作が完了するのを待ってから、NO と入力しなければなりません。
2. このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST096I *command FAILED - DUPLICATE parameter PARAMETERS SPECIFIED*

説明: *command* に、*parameter* が、2 回以上指定されると、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要な数だけ、コマンドを再入力してください。ただし、*parameter* は、コマンドを 1 回入力するたびに、1 回だけ指定してください。

プログラマーの応答: なし。

IST097I *command ACCEPTED*

説明: VTAM が、初期設定処理のために、*command* を受け入れました。*command* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: コマンドの構文は正しく、VTAM は、*command* の処理を始めます。

オペレーターの応答: あるノードに対するコマンド処理を VTAM が完了してから、そのノードに影響を与える別のコマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST101I *command FAILED - operand_name NOT SPECIFIED*

説明: *command* が必須オペランド *operand_name* なしで入力されると、VTAM はこのメッセージを出します。*command* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要なオペランドを指定して、コマンドを再入力してください。*command* の詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST102I *VTAM IS NOW INACTIVE*

説明: VTAM は、エラーが発生したためか、または HALT コマンドが出されたために、停止されました。

システムの処置: システムの処理は続きます。VTAM の処理は行われません。

オペレーターの応答: なし。ただし、VTAM を再始動する必要がある場合は、通常の VTAM 開始プロシージャに従ってください。

プログラマーの応答: なし。

IST105I *nodename NODE NOW INACTIVE*

説明: オペレーターが、ノード *nodename* を正常に非活動化しました。これはほとんどの場合、VARY INACT コマンドを出したためです。*nodename* が他のクロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) の場合は、*nodename* のドメインから非活動化要求が出されたために、非活動化したものと思われれます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST107I *TIME AND DATE NOT SET IN ncpname DUE TO INVALID TIMER IN HOST*

説明: ホスト・プロセッサの時刻機構が間違っているか、操作不能であることを VTAM が発見しました。したがって、VTAM は、*ncpname* のロード後に、日付と時刻をセットしませんでした。

システムの処置: VTAM は、*ncpname* の活動化については、正常に完了しますが、時刻と日付はセットしません。

オペレーターの応答: 通信コントローラーに時刻と日付が必要な場合は、NCP を非活動化し、ホスト・プロセッサの時刻機構を設定し、NCP を再活動化してください。

プログラマーの応答: なし。

IST109I *subtask IS NOW TERMINATED*

説明: オペレーターが、MODIFY SUBTASK コマンドを使用して、サブタスク *subtask* の終了に成功しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST112I *VTAM INTERNAL TRACE MODIFY FAILED - CONFLICTING MODES*

説明: オペレーターが、VTAM 内部トレースに対して、MODIFY TRACE コマンドを入力し、そのデータを内部の循環テーブル (MODE=INT) ではなく、外部トレース・ファイル (MODE=EXT) に記録するようにしましたが、記録可能な外部トレース・ファイルがありません。SYS001 をテープまたはディスク・エクステンツに割り当てる必要があります。

システムの処置: VTAM は、MODIFY コマンドを拒否します。VTAM は、トレース・データを外部ファイルに記録することはできません。活動状態にある VTAM 内部トレース機能は、変更されずに活動を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VTAM 内部トレース・データを外部に記録する場合は、以下のようにしてください。

1. VTAM を停止する。
2. SYS001 をテープまたはディスク・ファイルに割り当てる。
3. VTAM とトレースを再始動する。

必要でない場合、処置は不要です。

IST113I *uservar* IS A USERVAR WITH VALUE
 value IN NETWORK *netid*

説明: VTAM は、DISPLAY SESSIONS、または DISPLAY ID=*uservar* オペレーター・コマンドに回答して、このメッセージを出します。

uservar は、ネットワーク *netid* 内の値が、*value* であるネットワーク・リソースに対して、ユーザーが定義した名前です。

uservar が、ユーザー変数とネットワーク・リソースの両方である場合、VTAM はリソースを表示し、ユーザー変数値は無視します。そうでない場合、VTAM は、USERVAR の値 *value* で表されるリソースを表示します。メッセージ IST075I は、DISPLAY ID で表示されるリソースの名前を含みます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST115I **INSUFFICIENT STORAGE TO READ**
 member MEMBER OF VTAM DEFINITION
 LIBRARY

説明: 定義ライブラリーの *member* を読み込むための区画に、十分なストレージがないと、VTAM はこのメッセージを出します。次のメッセージに、どの VTAM 機能が影響を受けるかが示されます。

システムの処置: コンソールに表示される次のメッセージのシステムの処置を参照してください。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが足りないためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プールか SGA 制限を再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを

変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST116I **MEMBER *member* NOT FOUND ON VTAM**
 DEFINITION LIBRARY

説明: VTAM が定義ライブラリーを探索しましたが、*member* を見つけられませんでした。次のメッセージに、どの VTAM 機能が影響を受けるかが示されます。

システムの処置: *member* が、VARY ACT コマンドで指定されたリソースの場合は、VARY ACT コマンドは失敗します。

member が、モデル名テーブル、または関連 LU テーブルの場合、テーブルは、定義されませんが、VARY ACT コマンドは、影響を受けません。

オペレーターの応答: USSTAB 開始オプションが正しくないために、VTAM がこのメッセージを出す場合は、MODIFY TABLE コマンドを入力して、ISTNOP で表されている新しい USS テーブルを供給することができます。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: VTAM 定義ライブラリーを調べて、問題を訂正してください。

IST117I **I/O ERROR READING *member* MEMBER**
 OF VTAM DEFINITION LIBRARY

説明: 入出力エラーが発生したために、VTAM は定義ライブラリーから *member* を読み取れませんでした。

システムの処置: コンソールに表示される次のメッセージのシステムの処置を参照してください。

オペレーターの応答: コンソールに表示される次のメッセージのオペレーターの応答を参照してください。

プログラマーの応答: コンソールに表示される次のメッセージのプログラマーの応答を参照してください。

IST118I **ANOMALY FOUND NEAR RECORD *count***
 IN MEMBER *member* - CODE = *code*

説明: VTAM が、定義ライブラリーの *member* の中の定義ステートメントのコーディングに、矛盾する構文を検出しました。

処理されるステートメントの中で使用される構文が、ステートメントの意図をあいまいなままにすると、VTAM はこのメッセージを出します。メッセージには、構文エラーは示されません。このエラーは、省略またはテキストの配置によるエラーだと思われます。

count は、メンバー (すべてのコメント行を含みます) の最初から検出点までの間で読み取られた、80 バイトの論理レコードの概数です。この数は、メンバーをエディターで見たとときの行数またはレコード数と等しくなります。

code は次のいずれかです。

- | コード | 説明 |
|-----|---|
| 1 | 構成または始動リスト <i>member</i> を処理中に、VTAM は 72 桁目に、継続を示す非空白文字を検出しましたが、そのレコードにはオペランドの終わりを示すスペース (コンマではない) が指定されて終わっています。同じレコードに両方がある場合、オペランドの終わりのほうが、継続より優先されるので、以下のような影響が出ます。 <ul style="list-style-type: none"> • 始動リストでは、これに続くレコードに含まれる始動オプションは、どれも無視されます。 • 構成リストでは、これに続くレコード中の大ノードは、自動的に活動化されません。 |
| 2 | 構成または始動リスト <i>member</i> を処理中に、VTAM は 71 桁目から継続しているレコードか、または継続を示すコンマで終わっているレコードを検出しましたが、72 桁目は空白で、これはレコードが継続しないことを示します。始動リストでは、これに続くレコードに含まれる始動オプションは、どれも無視されます。レコードが正しく 71 桁目で終わり、継続の意図が示されていない場合、メッセージはこのコード付きで出されます。 |
| 3 | 大ノード <i>member</i> を処理中に、VTAM は 72 桁目に継続を示す非空白文字が指定された、正しい構成のレコードを検出しましたが、継続レコードが 17 桁目以上で始まっているため、VTAM はそれをコメントと判断して無視しました。無視されたレコードをスキャンしたところ、これには等号 (=) が含まれているので、無視させるつもりのないオペランドが含まれていることがわかります。 |
| 4 | 大ノード <i>member</i> 、構成、または開始リスト <i>member</i> を処理中に、VTAM は 1 桁目に (*) を含むレコードを検出しました。これはフルライン・コメントであることを示します。72 桁目には非空白文字が含まれており、次のレコードもコメントとして扱うように VTAM に示しています。 |

VTAM はこれ以降の各行をコメントと判断して無視します。ただし 72 桁目が空白になっていれば、VTAM はレコードをコメントと判断しなくなります。このコードは無視された各レコードに出され、これらのレコードはグループ内でほぼ順次に配列されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *member*、*count*、および *code* に示された情報を使用して、レコードの構文が正しいことを確認してください。構文が正しければ、このメッセージを無視するか、またはテキストを再構成してメッセージを除去してください。

IST120I **NODE *nodename* NOW HAS CONTROLLING LU *luname***

説明: VTAM は、VARY ACT コマンド、または VARY LOGON コマンドの LOGON オペランドの処理を完了しました。論理装置 *nodename*、または *nodename* に関連する論理装

置が、他のアプリケーション・プログラムとのセッションにならない場合、VTAM はそれらの装置をアプリケーション・プログラム *luname* に、自動的にログオンします。リソースが活動していないと、ログオンは完了しません。リソースを活動化しても、アプリケーション・プログラムとのセッションが開始するわけではありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST122I **ATTACH OF VTAM SUBTASK *subtask* FAILED**

説明: 現在 8 つのサブタスクに接続しており、これ以上は接続できないため、VTAM サブタスクの 1 つの *subtask* に接続できません。

システムの処置: このエラーの結果として、システムのとる処置を示すメッセージが続いて出ます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 1 つ以上の非 VTAM サブタスクをシステムから除外し、VTAM を再始動してください。

IST127I ***modename* STILL ACTIVE - VTAM TERMINATION WAITING FOR *text***

説明: アプリケーション・プログラム *modename* がまだその ACB をクローズしていないので、VTAM を終了できません。

text は *partition* PROG = *programname* です。

システムの処置: VTAM は *text* が ACB をクローズするのを待ちます。

オペレーターの応答: *modename* を使用する *text* が完了するのを待つか、VTAM を終了させるために *text* を取り消してください。

プログラマーの応答: なし。

IST128I **HALT OF VTAM ALREADY IN PROGRESS**

説明: オペレーターが HALT コマンドを入力しましたが、前に入力された HALT コマンドの処理が進行中です。HALT の後に HALT QUICK または HALT CANCEL が続く場合のみ、HALT コマンドの重複が可能です。

VTAM を実行している区画をキャンセルすると、HALT CANCEL と同じ結果になります。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: VTAM ネットワークを直ちにクローズしたい場合は、HALT QUICK コマンド、あるいは HALT CANCEL コマンドを入力してください。その他の場合は、通常の HALT コマンドによってクローズしてください。

プログラマーの応答: なし。

**IST129I UNRECOVERABLE OR FORCED ERROR
ON NODE *nodename* - VARY INACT
SCHED**

説明: 以下のいずれかが起こったため、VTAM はリソース *nodename* に対して、VARY INACT コマンドを出そうとしました。

理由 説明

- 1 通信コントローラー、物理装置、論理装置、リンク、またはリンク・ステーションで、リカバリー不能なエラーが起きました。このメッセージの前にメッセージ IST259I が出されており、追加情報が記述されています。
- 2 オペレーターが、VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを出しました。
- 3 SSCP-LU、または SSCP-PU セッションで、最大 RU サイズを超過すると、VTAM は内部 VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを出そうとします。

システムの処置: VTAM は、リソース *nodename* に対して、VARY INACT コマンドを自動的に出します。

オペレーターの応答:

- 理由 1 の場合、システム・ログを保管し、問題を判別してください。問題判別の処置についての追加情報は、メッセージ IST259I の説明を参照してください。
- 理由 3 の場合、システム・ログを保管し、問題を判別してください。バッファー・トレースを行うと、エラーの原因についての追加情報が提供されることもあります。

プログラマーの応答:

- 理由 1 の場合、システム・ログ・メッセージ IST259I の説明を参考にして、問題を判別してください。問題の原因が判別できないためにさらに追加情報が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。
 - 理由 3 の場合、システム・ログとバッファー・トレースがあればそれを参考にして、問題を訂正してください。
 - オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、MDR/OBR 情報が記録されているかどうかを判別してください。EREP の使用について詳しくは、「*EREP User's Guide and Reference*」を参照してください。NetView® などのネットワーク管理アプリケーションを使用する場合、この問題についての警告やイベントが記録されていないかを調べてください。
- 表示される出力からは問題の原因を判別できない場合や、さらに援助が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの MDR/OBR 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。
- 明らかにソフトウェア・エラーが原因でこのメッセージが出された場合、以下の処置を行ってください。
 - IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。

- IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。

IST133I VTAM TERMINATION IN PROGRESS

説明: リカバリー不能なエラーが起こったか、またはオペレーターが、HALT コマンドを出したために、VTAM が終了します。

システムの処置: VTAM が終了する理由は、以下のいずれかです。

- オペレーターが HALT コマンドを入力した
- オペレーターが HALT QUICK コマンドを入力した
- オペレーターが HALT CANCEL コマンドを入力した
- VTAM がリカバリー不能エラーを検出した
- オペレーターが VTAM 区画を取り消した

各種の HALT コマンドの処理の詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。オペレーターが VTAM 区画を取り消した場合、または VTAM が、リカバリー不能なエラーを検出した場合は、HALT CANCEL コマンドを出した場合と同様に処理してください。

オペレーターの応答: HALT コマンドを出したためにこのメッセージが出された場合、処置は不要です。異常終了が原因の場合、前に出されたメッセージで、終了した原因を判別してください。

プログラマーの応答: なし。

**IST134I GROUP = *groupname*, MAJOR NODE =
*nodename***

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドに反応して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。*groupname* は、表示される回線が属する回線グループの記号名です。*nodename* は、その回線の大ノードの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST135I PHYSICAL UNIT = *puname* [,CUA =
device_address]**

説明: このメッセージは、論理装置に対する DISPLAY ID コマンドに反応して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

puname は、論理装置に関連する物理装置の名前です。

device_address は、物理装置の 16 進数の装置アドレスであり、これはローカル SNA 大ノード内の論理装置を表示しているときにだけ出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST136I **[[SWITCHED|LOCAL]] SNA MAJOR
NODE = majornode**

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドにตอบสนองして、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- **SWITCHED** または **LOCAL** は、論理装置または物理装置が存在する SNA 大ノードのタイプです。(ローカルまたはリモート SNA 大ノード内に定義されている場合です)。
 - **SWITCHED** は、ノードが、ダイヤル回線によってアクセスされることを意味します。
 - **LOCAL** は、ノードが、ホスト・プロセッサにチャネル接続されていることを意味します。
- *majornode* は、ローカル、またはリモート SNA 大ノードの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST137I **CONFIG configname BYPASSED - LOCAL
ADDRESS OF LU luname IS INVALID**

説明: 論理装置 *luname* についての、構成 *configname* の定義ステートメントに指定されたローカル・アドレス (LOCADDR) の値が無効です。ローカル大ノードの定義または交換定義に含まれるすべての従属型 LU には、LOCADDR に対してそれぞれ固有にコーディングされた有効な値がなければなりません。

システムの処置: 処理を続行します。VTAM は、*luname* を含む構成を、VTAM ネットワークに含みません。

オペレーターの応答: システム・ログを保管し、大ノード定義または交換定義を印刷し、問題を判別してください。

プログラマーの応答: ローカル・アドレス・ステートメントを訂正し、ローカル大ノードまたは交換定義に独自に割り当てられた同じ名前を使用して、定義ライブラリーにファイルしてください。新しい定義値を使用するには、大ノードまたは交換定義を非活性化してから再び活性化してください。

VTAM 定義ステートメントの説明については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST142I **CONFIG configname BYPASSED - PATH
MACRO macroname ERROR, REASON
CODE code**

説明: 交換 SNA 大ノードの活性化中にマクロ命令 *macroname* を処理していた時に、VTAM は以下のいずれかのコード *code* で示されるエラーが発生したために、構成 *configname* を迂回しました。

コード

意味

- 1 VBUILD 定義ステートメントの MAXDLUR、MAXNO、または MAXGRP 値がゼロであるか、デフォルトが使用されています。
 - 2 前に置かれた physical unit 定義ステートメントの MAXPATH 値がゼロであるか、デフォルトが使用されています。
 - 3 指定された経路の個数が、この物理装置の MAXPATH 値を超えています。
-

4 固有ダイヤル番号と、固有回線名の個数が、VBUILD 定義ステートメントで指定された MAXNO 値を超えています。

5 固有グループ名の個数が、VBUILD 定義ステートメントで指定された MAXGRP 値を超えています。

6 固有ダイヤル番号と、固有回線名の個数が、VBUILD 定義ステートメントで指定された MAXNO 値を超えています。

7 単一交換回線大ノード DLCADDR をコーディングした PATH 定義ステートメントの数が、最大数を超えています。

システムの処置: 処理を続行します。VTAM はメッセージで指定された構成を、VTAM ネットワークに追加しません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。このメッセージが出されたことを、記録しておいてください。

プログラマーの応答: このメッセージに *code* で示された問題を、訂正してください。エラーを訂正した後で、構成を再び活性化するために VARY コマンドを使用するように、オペレーターに依頼してください。

IST146I **LINE NAME = linename, STATUS = status**

説明: このメッセージは、ドメインのすべての LU の状況を要求する DISPLAY TERMS コマンドにตอบสนองして、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、次にリストされる LU への接続を可能にする回線 *linename* の状況を示します。

status 情報については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST148I **DIAL OUT PATH INFORMATION FOR
PHYSICAL UNIT puname**

説明: このメッセージは物理装置 *puname* に出された DISPLAY PATHS コマンドにตอบสนองして、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、経路が表示されている物理装置の名前を示します。この物理装置は、交換 SNA 大ノード内の小ノードであり、表示された経路を使用して、ネットワーク制御プログラム NCP と通信することができます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST149I **LINE GRP TELEPHONE NUMBER OR
LINE NAME PID GID CNT**

説明: このメッセージは、DISPLAY PATHS コマンドにตอบสนองして、VTAM が出すメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

IST149I LINE GRP TELEPHONE NUMBER OR LINE NAME
PID GID CNT

IST168I linegroup {phonenum|linename}

```

pid gid cnt {AVA|NAV} {MAN|AUT|DIR}
:
IST314I END

```

IST149I

これはメッセージ IST168I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST168I

linegroup はこの経路の回線グループ名です。
phonenum は電話番号 (非 X.21 回線用) です。
pid は経路 ID (PID) です。
gid は、すべての物理装置に通じている経路グループのグループ ID (GID) です。
cnt は、ダイヤル操作が NCP で試みられる回数です。
AVA は VTAM が経路を使用できることを示します。
NAV は VTAM が経路を使用できないことを示します。
MAN は手動ダイヤルを示します。
AUT は、非 X.21 回線では自動ダイヤルであることを示します。

DIR は X.21 回線に直接ダイヤルすることを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST150I RRT LOAD MODULE *rrtname* DOES NOT CONTAIN RESOURCE SEGMENT [EXTENSION]

説明: 定義ステートメントの処理中に、VTAM はリソース解決テーブル (RRT) *rrtname* 内にリソース・セグメント、またはリソース・セグメント拡張部分を見つけられませんでした。RRT は、ネットワーク制御プログラム NCP 生成時に作成されます。VTAM はリソース・セグメント (およびその項目) を使用して小ノードをネットワーク・アドレスに関連付け、またリソース・セグメント拡張部分を使用して物理装置タイプ 4 の名前を送信グループ番号に関連付けます。リソース・セグメントとリソース・セグメント拡張部分は、いずれも NCP ロード・モジュールがリンクされているデータ・セットの中に保管されます。

システムの処置: NCP の活動化は失敗します。処理を続行します。

オペレーターの応答: NCP が必須でない場合にのみ、ネットワークを使用することができます。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 以下のいずれかを行ってください。

1. NCP 生成処理が正常に完了しなかった場合は、NCP 生成で出された出力を調べて、リソース解決テーブルが作成されたかどうかを調べてください。作成されていた場合は、VTAM 定義処理を再始動してください。作成されていなかった場合は、NCP を再生成してから、VTAM 定義処理を再始動してください。
2. リソース解決テーブルが損傷している場合は、RRT ロード・モジュールのダンプをとり、そのテーブルにリソース・セグメント、リソース・セグメント拡張部分、あるいはその両方が含まれているかどうかを調べてください。

いずれの場合も、NCP を再生成することによって、RRT ロード・モジュールを訂正するか再作成して、VTAM 定義処理を再始動してください。

IST153I PENDING DEACTIVATION OF *nodename* OVERRIDDEN

説明: 別のドメインからより優先順位の高い非活動化要求が出され、VARY INACT コマンドがオーバーライドされて *nodename* の非活動化が保留状態にされました。別のドメインから VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドまたは VARY INACT,TYPE=IMMED コマンドが出されると、現在のドメインで入力された VARY INACT コマンドがオーバーライドされます。

システムの処置: システムはより優先順位の高いコマンドを処理します。オーバーライドされたコマンドは取り消される可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST154I EXPANSION FAILED FOR *bp* BUFFER POOL - CODE *code* ,USERID=

説明: VTAM バッファ・プール *bp* 内の使用可能な複数のバッファが、そのプールについて指定された拡張点の値以下になり、VTAM がプールを拡張しようとしたが、*code* に示された理由で、VTAM は、プールを拡張することができませんでした。

注: このメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

bp は、バッファ・プールの名前です。

code はいつ障害が発生したかによって異なります。

VTAM は、据え置き拡張の処理中に障害が発生すると、以下の *code* を出します。

コード	説明
2	拡張のための十分なストレージが、システム GETVIS 域 (SGA) にありません。
3	拡張のための十分なストレージが、VTAM 区画にありません。
5	VTAM は、ページ・フレーム不足、または他のページ・ロック問題のために、ストレージにページを固定できませんでした。
8	拡張を行ったために、プールの <i>xpanlim</i> 指定を超えました。 <i>xpanlim</i> に関する追加情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

システムの処置: VTAM はバッファ・プールを拡張しませんでした。VTAM が他のバッファ・プールを縮小すると、再びこのプールを拡張しようとします。より多くのバッファを獲得しようとする試みが失敗すると、パフォーマンスが下がることがあります。

オペレーターの応答: メッセージ IST930I が出された場合は、その説明を参照してください。

VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: メッセージ IST930I が出された場合は、その説明を参照してください。

複数の APPL-APPL セッションがセッション・レベルに歩調合わせされていないと、ストレージを拡張できない場合があります。歩調合わせされていない APPL-APPL セッションが 1 つであれば、セッションで使用できる VTAM 入出力バッファの数に制限がありません。この問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」の共通サブエリア・ネットワーク問題に関する項を参照してください。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不足したためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プール、CSA または SGA 開始オプションを再定義してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル(ATCSTRxx)を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

行っている操作が重要なものであれば、VTAM を停止して、さらに大きな区画サイズで再始動しなければなりません。

- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Diagnosis」および「VTAM Operation」を参照してください。

IST159I THE FOLLOWING NODES ARE IN A PENDING STATE

説明: VTAM は DISPLAY PENDING コマンドに回答して、このメッセージを出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST165I CDRM *cdrrname* HAS AN INVALID ELEMENT VALUE - 1 IS ASSUMED

説明: CDRM *cdrrname* のエレメント・アドレスとして 1 以外の値が指定されると、VTAM はこのメッセージを出します。どの VTAM クロスドメイン・リソース・マネージャー(CDRM) も、そのネットワーク内に 1 のエレメント・アドレスがなければなりません。

システムの処置: VTAM は、*cdrrname* の定義に、1 のエレメント・アドレスをもつネットワーク・アドレスを与えます。この CDRM ステートメントを処理した他のすべてのホストは、1 以外のエレメント値で定義された CDRM をもちます。したがって、他のドメインが *cdrrname* を使用してこのドメインと通信することはできません。これは、同一ネットワーク内の CDRM だけに適用されます。

オペレーターの応答: システム・ログを保管し、CDRM 定義

を印刷して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: CDRM は、現在このドメイン内の CDRM として定義されています。 *cdrrname* を非 VTAM ドメインに変更したい場合は、 *cdrrname* が定義されている大ノードを非活動化し、定義ライブラリー *cdrrname* の定義を変更してください。

cdrrname 定義を変更した後で、オペレーティング・システム・ユーティリティー・プログラムを使用して、区分データ・セットのメンバーを削除してください。その後で、*cdrrname* が定義されている大ノードを再活動化してください。

注:

1. *cdrrname* が、このホストの CDRM を定義する予定であったときは、*cdrrname* の定義内のエレメント・アドレスを、1 に変更してください。
2. *cdrrname* が、他のホストの CDRM を定義する予定であったときは、サブエリア・アドレスを、この VTAM の HOSTSA 開始オプション以外の値に変更してください。

IST167I NO DIAL OUT PATH FOR *puname*

説明: このメッセージは、*puname* に出された DISPLAY PATHS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。物理装置 *puname* に対するダイヤルアウト経路はありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST168I *linegroup {phonenum\linename} pid gid cnt {AVA|NAV} {MAN|AUT|DIR}*

説明: VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。グループの最初のメッセージは、IST149I または IST135II です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST169I DISCONNECTION CAUSED VARY *action* FOR PU = *puname*

説明: 以下のいずれかの状況が発生しました。

- すべての LU-LU セッションが終了しました。 *puname* の PU ステートメントに DISCNT=YES を指定した場合、 *action* は、INACT になります。
- VTAM が PU から即時または通常の切断要求を受信したために、すべての LU-LU セッションが終了したか、または最後の PU が非活動化されました。PU *puname* の PU ステートメントに、DISCNT=NO を指定した場合、 *action* は、INACT になります。
- VTAM が PU から即時または通常の切断要求を受信したために、 *action* は、REACT になります。VTAM は、PU *puname* を非活動化してから、再活動化します。VTAM は、切断要求があったときに活動状態にあったすべての LU を再活動化します。
- VTAM が、PU から接続オプションなしで、即時または通常の切断要求を受け取りました。 *action* は INACT になります。VTAM は、PU と LU を非活動化します。

- オペレーターが、LOGOFF HOLD=NO コマンドを出したために、VTAM とアプリケーション・プログラム間のすべてのセッションが終了しました。PU *puname* の PU ステートメントに、DISCNT=NO を指定した場合、*action* は、**INACT** になります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST170I LINES:

説明: このメッセージは、DISPLAY LINES コマンドに対する応答として、またはサブエリア物理装置に対する DISPLAY ID コマンドの一部として、VTAM が出すヘッダー行です。この見出し行に続くメッセージに、サブエリア物理装置に関連する回線の名前と状況が示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST171I ACTIVE SESSIONS = *sessions*, SESSION REQUESTS = *requests*

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

sessions は、XRF バックアップ・セッションを含む、アクティブ・セッションの数です。

requests は、保留中のログオン要求、キューのログオン要求、またはその両方の数です。 *requests* は、SSCP-SSCP セッションには適用されません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST172I NO *text*

説明: VTAM は、各種の DISPLAY コマンドに対する応答としてこのメッセージを出します。 *text* は、次の値のいずれかです。

- ADJCLUST TABLE EXISTS
- ADJCP FOUND
- ADJCP MAJOR NODE EXISTS
- ADJLISTS EXIST
- ADJSSCP TABLE EXISTS
- ADJSSCP TABLES EXIST
- APPLICATIONS {ACTIVE|ACTONLY|CONCT|EXIST|INACTIVE|INACTONLY|PENDING|RESET}
- CDRMS {ACTIVE|ACTONLY|CONCT|EXIST|INACTIVE|INACTONLY|PENDING|RESET}
- CDRSCS {ACTIVE|ACTONLY|CONCT|EXIST|INACTIVE|INACTONLY|PENDING|RESET}
- CLUS/PHYSUNITS {ACTIVE|ACTONLY|CONCT|EXIST|INACTIVE|INACTONLY|PENDING|RESET}
- CONNECTIONS ACTIVE
- COSMAP TABLE EXISTS

- GROUPS {ACTIVE|ACTONLY|CONCT|EXIST|INACTIVE|INACTONLY|PENDING|RESET}
- LINES {ACTIVE|ACTONLY|CONCT|EXIST|INACTIVE|INACTONLY|PENDING|RESET}
- LINK STATIONS {ACTIVE|ACTONLY|CONCT|EXIST|INACTIVE|INACTONLY|PENDING|RESET}
- LOGICAL UNITS {ACTIVE|ACTONLY|CONCT|EXIST|INACTIVE|INACTONLY|PENDING|RESET}
- MAJOR NODES {ACTIVE|EXIST|INACTIVE}
- MODELS EXIST
- MODEL SEGMENTS EXIST
- NETWORK NODES {ACTIVE|EXIST|INACTIVE}
- PENDING STATES EXIST
- PU T4/T5 MAJN {ACTIVE|EXIST|INACTIVE}
- SESSIONS {ACTIVE|EXIST|PENDING|QUEUED}
- TGPS EXIST
- TRACES ACTIVE
- TRL EXISTS
- TRLES EXIST
- USERVARS EXIST

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST176I *command* FAILED — *option1* AND *option2* ARE CONFLICTING OPTIONS

説明: コマンド *command* は、矛盾するオプションが指定されたため、失敗しました。オプション (*option1* と *option2*) は、互いに排他的オプションであり、コマンド上に同時に指定することはできません。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 上記のオプションの一方だけを指定し、その他のオプションが矛盾していないかどうかを調べて、*command* を再入力してください。 *command* の処理が完了したとき、必要なら、残りのオプションを指定してコマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST180I OPEN FAILED ON CKPT DS {*datasetname*}MAJ NODE *nodename* RTNCD = *class=rtnfdbk.major class=rtnfdbk.minor*

説明: 指定されたチェックポイント・データ・セットに対する、VSAM OPEN 機能が失敗しました。

datasetname は、チェックポイント・データ・セットの DLBL ステートメントの FILENAME です。

nodename は、大ノードの名前です。

major は、VSAM からのレジスター 15 の戻りコード (16 進数) です。

minor は、VSAM からの ACBERFLG の戻りコード (16 進数) です。

IST181I • IST184I

システムの処置: VTAM は、この大ノードについてのチェックポイント処理を中止します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 各戻りコードに対する正しい応答については、該当する VSAM の資料を参照してください。

IST181I **CLOSE FAILED ON CKPT DS** *datasetname*
MAJ NODE *nodename* RTNCD =
class=rtnfdbk.major class=rtnfdbk.minor

説明: 指定されたチェックポイント・データ・セットに対する、VSAM CLOSE 機能が失敗しました。

datasetname は、チェックポイント・データ・セットの DLBL ステートメントの FILENAME です。

nodename は、大ノードの名前です。

major は、VSAM からのレジスター 15 の戻りコード (16 進数) です。

minor は、VSAM からの ACBERFLG の戻りコード (16 進数) です。

システムの処置: VTAM は、この大ノードについてのチェックポイント処理を中止します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 各戻りコードに対する正しい応答については、該当する VSAM の資料を参照してください。

IST182I **UNABLE TO GET STORAGE FOR CKPT**
datasetname **MAJOR NODE** *nodename*

説明: VTAM は指定された大ノードについて、チェックポイントを行うための VTAM 専用ストレージを、確保できませんでした。

datasetname は、チェックポイント・データ・セットの DLBL ステートメントの FILENAME です。

nodename は、大ノードの名前です。

システムの処置: VTAM は、この大ノードについてのチェックポイント処理を中止します。 *nodename* が、VARY ACT コマンド (WARM オペランドと共に) で指定した大ノード名の場合、コマンドの処理は中止されます。

オペレーターの応答: ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。

• 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

- ダンプの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。外部トレースが活動状態である場合、VIT 分析ツールを使用してストレージを分析する方法については、VTAM Diagnosis を参照してください。

IST183A **controller FOUND LOADED WITH** *ncpname*
- REPLY 'YES' TO REIPL OR 'NO' TO
CONTINUE

説明: 構成の再始動中に、VTAM が NCP *ncpname* でロードするように指定された *controller* を見つけました。NCP が定義されたときに、NCP 生成の PCCU マクロ命令に AUTOSYN=NO、または VFYLM=YES が指定されていました。したがって、オペレーターは、示された NCP を再ロードするか、または現在のまま続けるかを、決めることになります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 示された NCP をロードしたい場合、YES と応答してください。NO と応答すると、NCP を再ロードすることなく、NCP の活動化が行われます。複数チャネル接続、または複数リンク接続の通信コントローラーの場合は、注意してください。NCP を再ロードしたい場合は、この通信コントローラーを共用するホストの 1 つだけに、YES を応答しなければなりません。他のホストは、ロードが完了するのを待ってから、NO と応答しなければなりません。ドメイン間でオペレーターが相互に連絡を取り合うことが必要になります。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST184I **I/O ERROR ON CKPT DS** *datasetname*
MAJOR NODE *nodename* RTNCD =
class=rtnfdbk.major class=rtnfdbk.minor

説明: 指定されたチェックポイント・データ・セットで、入出力エラーが起きました。

datasetname は、チェックポイント・データ・セットの DLBL ステートメントの FILENAME です。

nodename は、大ノードの名前です。

major は、VSAM からの RPLRTNCD の戻りコード (16 進数) です。

minor は、VSAM からの RPLERRCD の戻りコード (16 進数) です。

システムの処置: VTAM は、この大ノードについてのチェックポイント処理を中止します。 *nodename* が、VARY ACT コマンド (WARM オペランドと共に) に指定された大ノード名の場合、VTAM は、コマンドの処理を中止します。

オペレーターの応答: これは、おそらくハードウェア・エラーです。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 適切な応答については、該当する VSAM の資料を参照してください。

IST185I LOGICAL ERROR ON CHECKPOINT DS*datasetname* **MAJOR NODE** *nodename*

説明: チェックポイント・データ・セットと、現在の VTAM 構成との間に矛盾があります。

datasetname は、チェックポイント・データ・セットの DLBL ステートメントの FILENAME です。

nodename は、大ノードの名前です。

システムの処置: VTAM は、この大ノードについてのチェックポイント処理を中止します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: データ・セットの内容と、現在の VTAM 構成とを比較し、矛盾点を調べてください。

IST186I command FOR ID = nodename CONTINUES COLD - CHECKPOINT DATA SET
datasetname {EMPTY|ERROR}

説明: オペレーターが、VTAM を始動するために、WARM オペランドを指定して VARY ACT *command* を入力しましたが、ノード *nodename* の構成再始動データ・セット (チェックポイント・データ・セット) にレコードが含まれていなかったため、VTAM は、ノードをその初期状況 (コールド) で活動化しました。

datasetname は、チェックポイント・データ・セットの DLBL ステートメントの FILENAME です。

- 空の構成再始動データ・セットは、ノードが、以前にチェックポイント処理によって活動化されていなかったことを示しています。以前に活動化されていなかったノードに対して、ウォーム活動化を行うことはできません。
- メッセージがエラーを示しているときは、前のメッセージにエラーの説明があります。

NOT AVAILABLE

チェックポイント・データ・セットが存在しません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST187I command FOR ID = nodename FAILED - CHECKPOINT DATA SET *reason*

説明: オペレーターが、ノード *nodename* に対して WARM オペランドを指定して、VARY ACT *command* を入力しましたが、VTAM は、以下のいずれかの *reason* で、コマンドを拒否しました。

***cpdsname* EMPTY**

構成再始動データ・セット (チェックポイント・データ・セット) *cpdsname* にレコードがありません。(空の構成再始動データ・セットは、通常、そのノードが以前にチェックポイント処理によって活動化されていなかったことを示します。ノードが、以前に活動化されていなかった場合は、そのノードをウォーム状態で、再活動化することはできません。)

***cpdsname* ERROR**

VTAM が、構成再始動データ・セット (チェックポイン

ト・データ・セット) *cpdsname* を処理中に、エラーを見つけた。前のメッセージにエラーの説明があります。

NOT AVAILABLE

チェックポイント・データ・セットが存在しません。

システムの処置: コマンドは失敗します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: ノードを初期状況 (コールド) に活動化したい場合は、WARM オペランドを指定しないで、VARY ACT コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST191I command SYNTAX ERROR

説明: プログラム・オペレーター・アプリケーションによって入力されたコマンド *command* で、構文エラーが起こりました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: プログラム・オペレーター・アプリケーションの *command* の構文を訂正してください。正しいコマンド構文については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST192I POA MSG TRANSFER FAILED - INSUFFICIENT STORAGE

説明: プログラム式オペレーター・インターフェースが、プログラム・オペレーター・アプリケーション・プログラムに転送するメッセージ・データのためのストレージを割り振ることができないと、VTAM はシステム・コンソールにこのメッセージを出します。

システムの処置: 処理を続行します。VTAM メッセージが要応答オペレーター向け書き込み (WTOR) メッセージの場合、または非送信請求 VTAM メッセージの場合、VTAM はシステム・コンソールに "failing" メッセージを転送します。その他の処理は破棄されます。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。PPOLOG=YES が効いている場合、基本プログラム・オペレーター・ログにメッセージが書き込まれると、VTAM 専用ストレージを使い尽くすことがあります。

MODIFY PPOLOG=NO コマンドを出してログを停止させなければなりません。

VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY STORUSE コマンドを入力し、ストレージ・プールのストレージの使用率を表示してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。システム・ログを保管し、ダンプを要求して、現在の専用ストレージの使用率を判別してください。

プログラマーの応答:

- VTAM に割り振られた専用ストレージの量を検査して、VTAM のユーザー領域のサイズを検証する。

- 超過した専用ストレージを使用しているプログラム・オペレーター・アプリケーションを取り消す。
- PPOLOG=YES が効いている場合、基本プログラム・オペレーター (PPO) がすべての VTAM メッセージを受信しているかどうかを、RCVCMD マクロ命令で検査する

注: PPOLOG=YES が指定され、ストレージのない状態が解消されていれば、基本プログラム・オペレーターのアプリケーションもまた、このメッセージを受信する可能性があります。

IST193I REPLY *id* IGNORED - REPLY TOO LONG FOR REQUESTOR

説明: プログラム・オペレーター・アプリケーション・プログラムが、REPLY *id* コマンドを入力しましたが、要求された応答の要件に対して、応答テキストが長すぎます。

注: 3 桁以上の数字が入力されても、REPLY *id* には、2 桁の数字しか表示されません。

システムの処置: VTAM は、REPLY *id* コマンドを拒否し、処理を続けます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: プログラム・オペレーター・アプリケーションを訂正してください。

IST194I REPLY *id* NOT OUTSTANDING

説明: プログラム・オペレーター・アプリケーションが、REPLY *id* コマンドを入力しましたが、ID *id* の指定された未解決の応答要求はありません。メッセージ応答要求に対してすでに応答が行われたか、またはメッセージ応答 ID *id* が誤っています。

注: プログラム・オペレーター・アプリケーションが、3 桁以上の数字を入力しても、REPLY *id* には、2 桁の数字しか表示されません。

システムの処置: VTAM は、REPLY *id* コマンドを拒否します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: プログラム・オペレーター・アプリケーションを訂正してください。

IST195I REPLY *id* IGNORED - NON-DECIMAL ID

説明: プログラム・オペレーター・アプリケーションが、非 10 進数の ID を指定した REPLY *id* コマンドを入力しました。REPLY *id* コマンドは、00 から 99 までの 10 進数で入力されなければなりません。先行ゼロの設定は任意です。

注: プログラム・オペレーター・アプリケーションが、3 桁以上の数字を入力しても、REPLY *id* には、2 桁の数字しか表示されません。

システムの処置: VTAM は、REPLY *id* コマンドを拒否します。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: プログラム・オペレーター・アプリケーションを訂正してください。

IST199I OPTIONS = {NONE | *optionlist*}

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。

- IST199I の前に IST315I が出されている場合、詳細については、IST315I の説明を参照してください。
- このメッセージ・グループは、以下のいずれかのコマンドに回答して出されます。

- MODIFY TRACE,TYPE=EXIT,ID=*exitname*,OPT=*optionlist*
- MODIFY NOTRACE,TYPE=EXIT,ID=*exitname*,OPT=*optionlist*
- DISPLAY TRACES,TYPE=EXIT,ID=*exitname*
- DISPLAY TRACES,TYPE=ALL

IST075I NAME = *exitname*, TYPE = EXIT
 IST199I OPTIONS = {NONE|*optionlist*}
 IST314I END

注: ID は、TYPE=EXIT に必要なパラメーターですが、ISTEXCAA だけが有効です。

IST075I

このメッセージには、表示中のリソースが示されます。このメッセージ・グループでは、*type* は常に EXIT です。

IST199I

optionlist には、以下のオプションが含まれます。

ACCTING

最初と最後のアカウントिंग

ADJSSCP

隣接 SSCP 選択

ALIAS 別名変換

ALL 出口のすべての機能をトレース

ALS 隣接リンク・ステーション選択

BEGIN 機能の開始

END 機能の終了

GWPATH

ゲートウェイ・パス選択

INITAUTH

初期権限

REPL 出口置換と置換した機能

SECAUTH

2 次権限

VRSEL 仮想経路選択

XRF XRF セッション切り替え

システムの処置:

- MODIFY TRACE,TYPE=EXIT コマンドに回答してこのメッセージが出された場合、選択されたオプションでトレースが開始されます。
- MODIFY NOTRACE,TYPE=EXIT コマンドに回答してこのメッセージが出された場合、選択されたオプションでトレースが停止します。
- DISPLAY TRACES コマンドに回答してこのメッセージが出された場合、処理は継続します。

オペレーターの応答: トレース・レコードのダンプが必要な場合、インストール先で定義されている手順を使うか、またはシステム・プログラマーの指示を受けてください。EXIT トレースの詳細については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST206I SESSIONS:

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドが出されたために生成されるメッセージ IST634I グループのヘッダーです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST208I UNABLE TO TERMINATE SESSIONS FOR ID = *minornode* - INSUFFICIENT STORAGE

説明: VTAM が、その終了処理を完了するために必要なストレージがシステムに不足したため、*minornode* についてのセッションを終了できませんでした。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不足したためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プール、CSA または SGA 開始オプションを再定義してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル(ATCSTRxx)を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

VTAM 開始オプションについては、「VTAM *Resource Definition Reference*」を参照してください。追加情報については、「VTAM *Operation*」を参照してください。

IST211I NCP SLOWDOWN INITIATED FOR *controller*

説明: 通信コントローラ *controller* が、NCP SLOWDOWN バッファ・限界値に達したため、システム・スローダウン・モードに入りました。NCP は VTAM から受信する PIU の数を減らしますが、バッファが不足する状態が続いて CWALL 制限に到達すると、NCP は PIU の受け入れを停止します。

システムの処置: VTAM は、直接的な処置を取りません。実際にスローダウン・モードに入る動作は、チャンネル・インターフェース・レベルで起こります。

オペレーターの応答: システム・ログを保管して問題を判別し、また NCP ダンプ・ユーティリティを使用して NCP をダンプしてください。

プログラマーの応答: NCP 生成に必要な変更を加えてください。NCP ダンプの詳細については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

IST212I ACBNAME = *acbname*

説明: このメッセージは、アプリケーション・プログラムに出された DISPLAY ID コマンドに反応して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、ACBNAME キーワード *acbname* が、アプリケーション・プログラムの APPL 定義ステートメント・ラベルと一致しない場合にのみ現れます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST213I ACBNAME FOR ID = *applname*

説明: オペレーターが、アプリケーション・プログラムに対して DISPLAY ID コマンドを出しました。アプリケーション・プログラムの APPL 定義ステートメントの名前が *applname* です。DISPLAY ID に指定された名前は、APPL ステートメントで使用された ACBNAME キーワードです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST214I NCP SLOWDOWN TERMINATED FOR *controller*

説明: 通信コントローラ *controller* のスローダウン・モードは停止し、通信コントローラは、アウトバウンド PIU を受諾できます。

システムの処置: VTAM による直接的な処置は、行われません。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST221I *majornode* : *minornode* IS INVALID, *n*, UNSUPPORTED OPTION - *option*

説明: VTAM が、暗号機能をサポートしていないシステムで、暗号機能が必要な論理装置を活動化させようとした。MVS でのみ、データ暗号機能はサポートされます。

majornode は、VARY ACT コマンドによって活動化されている大ノードの名前です。

minornode は、*majornode* 内のノードの名前です。

n は 1 か 2 です。この番号は、論理装置に対して指定された暗号の方法を示します。

- *n* が 1 の場合、チェックポイント再始動データ・セットが暗号を指定しました。

- *n* が 2 の場合、定義ステートメントが、暗号を指定しました。

option は、*minornode* に対する VARY コマンドが拒否される原因となった、サポートされないオプションの名前です。オプションの名前は、ENCR=REQD、または ENCR=SEL です。システムの処置: VTAM は、*majornode* を活動化しますが、*minornode* は活動化しません。

オペレーターの応答: *minornode* が、ネットワーク運用に必要な場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: *minornode* が必要な場合は、定義ステートメントから、暗号に対する要求を取り去ってください。

IST223I MODIFY [*type*] COMMAND COMPLETED

説明: MODIFY コマンドが正常に終了すると、VTAM はこのメッセージを出します。

type (表示された場合) は、MODIFY コマンドのタイプを示します。 *type* は、以下のコマンドの場合には表示されません。

```
MODIFY IOPD
MODIFY MSGMOD
MODIFY PPOLOG
MODIFY SUPP
```

MODIFY コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

システムの処置: VTAM は、MODIFY コマンドによって要求された変更を行いました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST225I command FOR ID = *nodename* FAILED — reason

説明: *reason* が原因で *command* が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

reason は失敗の原因を示し、以下のいずれかになります。

ALSNAME NOT SPECIFIED

MODIFY TRACE,TYPE=GPT コマンドが、*nodename* に入力されましたが、ALSNAME が指定されておらず、また以下のいずれかの理由でデフォルト ALSNAME を判別できませんでした。

- *nodename* 用の隣接リンク・ステーション・リストに項目がない
- *nodename* 用の隣接リンク・ステーション・リストに 2 つ以上の項目 (ISTAPNPU 以外) がある。

ALSNAME NOT VALID

MODIFY TRACE,TYPE=GPT コマンドが、*nodename* に入力されましたが、指定されたか、またはデフォルトで使用された隣接リンク・ステーション名 (ALSNAME) が、コマンドが入力された時点では無効な状態でした。隣接リンク・ステーション・リストのただ 1 つの項目であるために ISTAPNPU がデフォルトとして使用された場合、これがコマンドの失敗した原因です。ISTAPNPU は、総称的な APPN 隣接リンク・ステーションの名前で

す。コマンドを完了させるには、実際の隣接リンク・ステーション名を指定しなければなりません。

CALL SECURITY ERROR

VTAM が、暗号化セキュリティー・データ・フィールド不一致を、XID の交換時に検出しました。この不一致は、以下の原因で起こります。

- 権限のないサブエリア・ダイヤル物理装置が、交換回線経由で接続の確立を試みる場合
- PRTCT オペランドがない場合
- 呼び出し側と受信側の双方に、正しいパスワードが、コーディングされていない場合
- サブエリア・ノードの 1 つが、呼び出しセキュリティー検査をサポートしていないレベルの場合

DYNAMIC CDRSC NOT VALID

nodename が、動的クロスドメイン・リソースです。これは、入力された TRACE コマンドには無効です。

EXIT IS NOT FOUND

オペレーターが、見つからない VTAM インストール・システム共通出口に対して DISPLAY EXIT コマンドを実行しました。

FUNCTION NOT OPERATIONAL

暗号化機能は、MODIFY ENCR コマンドの処理時には使用できません。

INVALID MODEL LU

オペレーターが、*nodename* に対して DISPLAY LUGROUPS コマンドを入力しました。DISPLAY LUGROUPS コマンドの GROUP オペランドに指定されている LUGROUP にモデル LU *nodename* が見つかりませんでした。

INVALID STATE FOR CDRSC

nodename に対するギブバック処理、または内部削除が失敗しました。VTAM は、事前定義された CDRSC が非活動状態であることを検出し、LU から CDRSC にアクティブ・セッションを転送できませんでした。

NO SUITABLE RESOURCES FOUND

VARY ACQ コマンド、または VARY REL コマンドが入力されましたが、NCP には何も影響を与えませんでした。

すでにリソースがすべて獲得、または解放されたか、コマンドに指定されている OWNER が、NCP のリソースに指定されているどの所有者名にも一致しません。2 つの異なるネットワークが、同じ固有のリソースを共有することはできません。

SECURITY MANAGER ERROR

VTAM が、コマンド *command* を処理中に、セキュリティー・エラーが発生しました。

SECURITY MANAGER NOT AVAILABLE

セキュリティー・マネージャーが使用不能か、またはリソース・クラス APPCLU が活動化されていません。

SUBORDINATE NODE PENDING INACT

nodename に従属する論理装置が、LU-LU セッションを待ち、非活動化を保留しているため、VTAM は、VARY INACT,TYPE=GIVEBACK コマンド、または VARY REL,TYPE=GIVEBACK コマンドを拒否しました。

UNABLE TO ALLOCATE CDRSC

nodename に対するギブバック処理、または内部削除が失敗しました。VTAM に、クロスドメイン・リソースを割り振るだけのリソースがなかったか、動的 CDRSC をサポートしていないので、アクティブ・セッションを LU から CDRSC に転送することができませんでした。

VTAM ERROR

MODIFY PROFILES コマンドの処理中に、VTAM が異常終了しました。

システムの処置: コマンドを完了しません。処理を続行しません。

CALL SECURITY ERROR

VTAM は交換接続を終了し、PU を非活動化します。

INVALID STATE FOR CDRSC または UNABLE TO ALLOCATE CDRSC

LU *nodename* は、アクティブ・セッションを持った非活動状態として、VTAM に判断されたままになります。

SECURITY MANAGER NOT AVAILABLE または SECURITY MANAGER ERROR

VTAM はプロファイルを再生せず、ストレージにあるプロファイルの使用を継続します。

オペレーターの応答:

ALSNAME NOT SPECIFIED

正しい隣接リンク・ステーションを決定するために、*nodename* に対して DISPLAY ID コマンドを入力してください。その後、MODIFY TRACE コマンドを再入力してください。

ALSNAME NOT VALID

正しい隣接リンク・ステーションを決定するために、*nodename* に対して DISPLAY ID コマンドを入力してください。その後、MODIFY TRACE コマンドを再入力してください。

独立 LU と関連する PU の状態 (活動または非活動) は、以下のとおりでなければなりません。

- NCP 内で動的に構成されていれば、活動状況
- NCP 交換回線にあれば、活動状況
- NCP 非交換回線にあれば、活動状況か非活動状況

CALL SECURITY ERROR

このメッセージが引き続き出されるか、コンソールをモニターしてください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合、VARY ANS コマンドを使用して、回線を応答モードから外してください。

CURRENT LEVEL HIGHER

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

DYNAMIC CDRSC NOT VALID

動的クロスドメイン・リソースではないリソースに、TRACE コマンドを再入力してください。動的クロスドメイン・リソースはトレースできません。

INSUFFICIENT STORAGE

ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST98II は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

INVALID MODEL LU

nodename が正しく入力されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

INVALID STATE FOR CDRSC

nodename で CDRSC を定義する CDRSC 大ノードを活動化してください。

NODE HAS NO KEY

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

REJECTED BY INSTALLATION EXIT

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

NO SUITABLE RESOURCES FOUND

すべての NCP リソースが獲得または解放されていること、あるいはコマンドに指定されている OWNER が、操作対象のリソースに指定されている所有者名と一致していることを確認してください。

SECURITY MANAGER ERROR

コマンドを出し直してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、セキュリティー管理担当者に連絡してください。

SUBORDINATE NODE PENDING INACT

すべての従属ノードの非活動化が完了するのを待って、コマンドを再入力してください。

UNABLE TO ALLOCATE CDRSC

nodename で CDRSC を定義する CDRSC 大ノードを活動化してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

CALL SECURITY ERROR

ダイヤル呼び出し処理に関係したすべてのノードが、呼び出しセキュリティー検証をサポートしているレベルであるかを確かめてください。呼び出し側と、受信側の同一性を検査するために使用されるパスワードは、一致していなければなりません。交換回線大ノード定義の PU ステートメントにある PRCTCT キーワードを参照してください。

EXIT IS NOT FOUND

見つからなかった VTAM インストール・システム修正出口ルーチンがシステムにインストールされていることを確認してください。

INVALID MODEL LU

nodename の定義を検査して、正しいかどうか確認してください。

UNABLE TO ALLOCATE CDRSC

VTAM を停止させ、動的 CDRSC をサポートするために、再始動してください。

VTAM ERROR

異常終了プロシージャについては、「VTAM Diagnosis」を参照してください。表示された出力から問題の原因を判別できない場合、または追加の援助が必要な場合は、IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

その他のすべての *reason* の場合、処置は不要です。

IST228I **ENCRYPTION =**
{REQUIRED|CONDITIONAL|SELECTIVE|
OPTIONAL|NONE}

説明: VTAM は、アプリケーション・プログラム、または論理装置に出された DISPLAY ID コマンドに応答して、このメッセージを出します。このメッセージは、問題のノードによってサポートされている、暗号のレベルを示します。暗号のレベルは、以下の通りです。

REQUIRED

VTAM が、このアプリケーション・プログラムが送信するすべてのメッセージを暗号化し、アプリケーション・プログラムが受信するすべてのメッセージを、非暗号化しなければならないことを示します。

CONDITIONAL

セッション・パートナーが暗号をサポートしている場合、VTAM は、このアプリケーション・プログラムが送信するすべてのメッセージを暗号化し、アプリケーション・プログラムが受信するすべてのメッセージを、暗号化解除しなければならないなりません。

セッション・パートナーが、暗号をサポートしない場合、VTAM は、暗号なしでセッションをセットアップします。

SELECTIVE

このアプリケーション・プログラムが、VTAM によって暗号化されるメッセージを、選択できることを示します。

OPTIONAL

アプリケーション・プログラムが、特別な暗号要求を持たないことを示します。その暗号能力は、ホスト・プロセッサの能力と同じです。

NONE

アプリケーション・プログラムが、特別な暗号要求を持たないことを示します。その暗号能力は、ホスト・プロセッサの能力と同じです。

暗号化に関する情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST231I *nodetype* **MAJOR NODE = majornode**

説明: VTAM は、大ノードに出された DISPLAY ID コマンドに応答して、このメッセージを出します。

nodetype は、大ノードのタイプをリストします。*nodetype* の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

LINES、STATIONS、または TERMS に対する DISPLAY コマンドの場合、*majornode* は、後続メッセージにリストされるリソースを含む大ノードです。

グループ名が指定された、DISPLAY ID コマンドの場合、*majornode* は、グループ定義を含む大ノードです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST232I *linename, status[, CUA = device address]*
[CONTROL = MPC]

説明: VTAM は、通信アダプター、LAN 大ノード、または複数経路チャンネル (MPC) 接続リソースに出された DISPLAY コマンドに応答して、このメッセージを出します。

linename は、タイプ 5 物理装置に定義された専用回線、タイプ 2 物理装置に定義された交換回線、または VCNS 回線の名前です。

status は、チャンネル間アダプター、またはトークンリング・アダプターの状況、または状態です。*status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

device address は、*linename* の 16 進装置アドレスです。

device address が表示されるのは、通信アダプターの場合だけです。

CONTROL = MPC は、リソースが接続された複数経路チャンネル (MPC) である場合に表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST234I **I/O ERROR** *terminalname, command,*
ncpresponse [bscstatus]

説明: BSC 3270 端末、またはコントロール・ユニットで入出力エラーが起これると、VTAM はこのメッセージを出します。

terminalname は、端末、またはコントロール・ユニットの名前です。

command は、基本伝送単位 (BTU) コマンド、および修飾子です。これは、入出力エラーが発生したときに NCP が受け取ったコマンドを表します。詳細については、3725 または 3745 について「NCP and EP Reference Summary and Data Areas」を参照してください。

ncpresponse は、コマンドが受信されたときに、NCP が送信したシステム応答、または拡張応答です。詳細については、3725 または 3745 について「NCP and EP Reference Summary and Data Areas」を参照してください。

bscstatus は、BSC 状況情報です。詳細については、「3174 Functional Description」を参照してください。

システムの処置:

- BSC 3270 端末装置での入出力エラーの場合、VTAM はアプリケーション・プログラムにエラー指示を送ります。
- BSC 3270 コントロール・ユニットで入出力エラーが起きた場合は、VTAM が、コントロール・ユニットからのデータに対するポーリングを再開します。

オペレーターの応答: これは、おそらくハードウェア・エラーです。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 表示された出力を使用して、問題の原因を判別してください。

IST238I *runame* {REQ|RES} FOR ID = *nodename*
RCVD *text*

説明: VTAM が、*nodename* に対する要求 (REQ) 単位、あるいは応答 (RES) 単位 *runame* を受信しました。 *runame* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

text には、*runame* と VTAM 処置についての追加情報が表示されます。 *text* には、以下のような値が含まれます。

RECOVERY IN PROGRESS

VTAM は、ノード *nodename* をリカバリー中です。 リカバリー結果については、後続のメッセージを参照してください。

ACTIVATION IS RESTARTED

VTAM は、ノード *nodename* の活動化を再始動中です。オペレーターは、前のメッセージで指示された処置を行う必要はありません。また、再活動化を行うと前のメッセージが繰り返されることがあります。

RU DATA-TYPE= type, CAUSE = cause

AM GUNBIND (DACTPU) request の場合は、*type* と *cause* を示す値が、このメッセージに含まれます。DACTPU の定義については、「SNA Formats」を参照してください。

RU DATA-TYPE フィールド、および RU DATA-CAUSE フィールド (16 進数で表現されています) は、以下の通りです。

<i>type</i>	意味
01	最後の使用です。物理接続が切れている可能性があります。
02	最後の使用ではありません。物理接続を断つべきではありません。
03	セッション停止の通知です。(SON)
<i>cause</i>	意味
07	VR-INOP: SSCP-PU セッションを運んでいる仮想経路が操作不能になり、SSCP-PU セッションが強制的に非活動化されました。
08	REX-INOP: SSCP-PU セッションに使用される経路拡張部分が、SSCP-PU セッションの強制非活動化によって、操作不能になりました。
09	HIERARCHICAL RESET: ACTPU に対する肯定応答により、VTAM は指定されたセッションを非活動化します。
0B	DACTVR: SSCP-PU セッションによって使用されていた仮想経路が、強制的に非活動化されたため、VTAM が指定された SSCP-PU セッションを非活動化しました。
0C	FAIL: SSCP-PU セッションが終了したため、VTAM が指定されたセッションをリセットしました。
0E	FAIL: RECOVERABLE. SSCP-PU セッションが終了したため、VTAM が指定されたセッションをリセットしました。
0F	CLEANUP: SSCP が、非活動化される PU から応答を受信する前に、ハーフセッションをリセットしているところです。

10 ALS RESET: VTAM は、送信 SSCP が所有している周辺隣接リンク・ステーション (ALS) をリセットします。

11 GIVEBACK: 送信 SSCP は、所有リソースの所有権を放棄します。

システムの処置: システムは、*nodename* のリカバリー処理、または活動化処理を続けます。

オペレーターの応答: リカバリーまたは活動化が成功したか、失敗したかを示す追加メッセージを待ってください。

プログラマーの応答: なし。

IST240A **WAIT STATE IN VTAM DUE TO INSUFFICIENT NUMBER OF I/O BUFFERS SPECIFIED BY USER**

説明: VTAM 処理には、入出力バッファ・プールに割り振られているよりも多くの入出力バッファが必要です。この状態は、入出力バッファ・プールのバッファ数が、NCP 生成時に指定された MAXBFRU 値より少ないか、またはローカル 3270 に必要なバッファの数より少ない場合に起こります。

システムの処置: 入出力バッファを要求した VTAM 処理は、待ち状態に入ります。他の VTAM 処理は続けられます。

オペレーターの応答: VTAM が初期設定されている場合は、少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。VTAM が初期設定されていない場合、システム・ログを保管して、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: これは、開始オプションの VTAM 定義エラーなので、VTAM を再始動するときに、より大きな入出力バッファ数を指定してください。VTAM によって接続されている、すべての装置の入出力バッファの要件を判別するためには、「VTAM Network Implementation Guide」を使用してください。必要に応じてこの要求を調整してください。

バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。待機プロシージャの概要については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST241I *command* **COMMAND COMPLETE FOR**
nodename

説明: VTAM は *nodename* に出された *command* の処理を完了すると、このメッセージを出します。 *command* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST242I *command* **COMMAND FAILED FOR ID =**
 nodename **SENSE = code**

説明: *nodename* に出された *command* の処理が、*code* で示された理由で失敗すると、VTAM はこのメッセージを出しします。

注: DISPLAY DISK コマンドまたは DISPLAY NCPSTOR コマンドを試みて、このコマンドが失敗した (ほとんどの場合、X'1005xxxx' のセンス・コードが出される) 場合は、使用している NCP のリリースがこのコマンドをサポートしているかどうかを確かめてください。*command* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: *command* が正しく入力されていることを確認してください。問題が解決しない場合、*code* を参考にしてエラーの原因を判別してください。

プログラマーの応答: なし。

IST243I **FRAMES SENT = sent, RCVD = received,**
 RCVD WITHOUT ERRORS = noerrors

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。最初のメッセージは IST549I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST244I **NCP type STORAGE FOR ID = ncpname**

説明: このメッセージは、DISPLAY NCPSTOR コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

```
IST244I NCP type STORAGE FOR ID = ncpname
IST245I address xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx
          xxxxxxxx
          :
          :
IST314I END
```

type は、STORAGE オペランドで指定された値によって、以下のいずれかになります。

```
type      STORAGE
MAIN      MAIN
DUMP VECTOR
          DUMPVEC
DUMP MAIN
          DUMPMMAIN
```

ncpname は、1 つ以上の IST245I メッセージで表示されるストレージを持つネットワーク制御プログラム (NCP) のアドレス *address* を示します。xxxxxxx は、16 進で示された 1 ワードのストレージです。各 IST245I が出されるごとに、ストレージの 4 文字が含まれます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST245I *address xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx xxxxxxxx*

説明: このメッセージは、DISPLAY NCPSTOR コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは IST244I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST246I *function_code return_code*

説明: このメッセージは、Program Operator Application (POA) がアクティブではない場合のみ、コンソールに表示されます。内部機能および戻りコードは無視しても構いません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST247I **LOAD/DUMP PROCEDURE STATUS =**
 status [, **RU COUNT = rucount**]

説明: VTAM は、NCP (PU タイプ 4) に出された DISPLAY ID コマンドに回答して、このメッセージを出します。

status は、表示される PU タイプ 4 のロードまたはダンプ・プロシージャの状態です。この有限状態機械値は、プロシージャが、ロードまたはダンプのいずれかであるかを示すと共に、そのプロシージャの現在状況も示します。*status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

status が **RESET** の場合、表示された時点では、ロードまたはダンプ・プロシージャは進行中ではありません。

rucount は、コントロール・ユニットに送られた IPLTEXT (**PLOAD**)、または DUMPTTEXT (**PFDMP**) 要求単位の数を示します。このフィールドを使用して、リモート NCP のダンプの進行状況、またはロード状況をモニターできます。

VTAM は、*status* が **PLOAD**、または **PFDMP** のときだけ

RU COUNT =rucount を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST252I **{JOB|SUB} {taskname|**
 *partitionid***}CANCELLED VTAM CODE code**
 errorlocation

説明: VTAM 機能が、VTAM メインタスク、VTAMRP サブタスクまたはアプリケーション・プログラム・タスクのもとで実行しているときにエラー状態を検出したために、終了しました。

partitionid は、失敗したタスクの区画 ID (例えば、**BG** または **F4**) です。失敗したタスクが、VTAM タスクの場合は、*partitionid* の代わりに、**CANCELLED** と示されます。

code は、709 ページの『VTAM 取り消しコード』で説明されている VSE コードの 1 つです。

次のプログラム割り込みコードも、このメッセージに表示されます。

- 01 演算例外
- 02 特権命令例外

- 03 実行例外
- 04 記憶保護例外
- 05 アドレッシング例外
- 06 指定例外
- 07 データ例外

プログラム割り込みコードの詳細については、該当するオペレーティング・システムの参照要約を参照してください。

errorlocation は次のいずれかです。

- *csect + offset*
- *phasename + offset*
- **AT HEX LOCATION** *address*

ここで、

address は、障害発生時の命令アドレスです。アドレスが VTAM フェーズにない場合、VTAM は *address* を表示します。

offset は、そのフェーズ、または CSECT 内のオフセットです。*offset* が *????* の場合、オフセットの判別ができません。

phasename は、エラー発生時に実行していた VTAM フェーズの名前です。

システムの処置: VTAM、およびその全アプリケーション・プログラムが、終了しています。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: VTAM を終了させたエラー状態を判別するためには、終了時に VTAM を実行していた VTAM メインタスク、VTAMRP サブタスク、またはアプリケーション・プログラム・タスクについて、よく調べておいてください。さらに詳しい問題判別情報については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST258I STMT IN ERROR = *text*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1249I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST259I INOP RECEIVED FOR *nodename* CODE = *code* [*text*]

説明: VTAM は、*nodename* について、INOPERATIVE RU を受信しました。*code* フィールドに INOP 理由コードが示されます。

注: INOP となるリソースが、NCP との接続をリモート側で切断する場合、VTAM ではなく NCP が INOP を生成します。*code* が 16 進数の 0F の場合、*text* は、INOP タイプについての任意の追加情報を提供します。

code (16 進数で表されます) は、以下のいずれかです。

- 01 端末 INOP: 接触のロスか、接続の予定外のロスか、または接続設定の失敗がありました。

このタイプのエラーは通常、接続が正常に確立された後に発生します。リンク・レベルのエラーが発生した場合、

境界機能はリンク・レベルのリカバリー・プロシージャでセッションをリカバリーしようとしています。このリカバリー活動に影響する定義は、GROUP、LINE、または PU 定義ステートメントのいずれかのオペランドです。通常のリカバリーが失敗したら、より高いレベルでリカバリーを行ってください。そのレベルのリカバリーは、このメッセージで示されます。

このタイプの障害が発生すると、通常メッセージ IST619I が出され、次に IST621I または IST129I が出されて、リカバリー処置の成否が報告されます。このエラーが発生すると、RECMS RU が必ず出されます。RECMS は各種データ・レコード (MDR) としてシステム・エラー記録データ・セットに保管されるか、NPDA に渡されます。分析するには Netview/NPDA または EREP を使用してください。

- 02 リンク障害
- 03 端末 INOP: SDLC 切断要求を受信しました。SNA-PU SDLC 接続はリンク・マネージャーを終了し、プログラムが使用できないことを (例えばオフライン)、1 次ステーションに通達します。
- 04 端末 INOP: SDLC 要求切断の応答を受信しました。通常の SDLC リンク・アクティビティーの間に、RR ポーリングは DISC を受信しました。これは通常、2 次ステーションが 1 次ステーションに DISC を要求していることを意味します。
- 05 端末 INOP: SDLC 切断モードを受信しました。転送中の 2 次 SDLC ステーションは切断されます。
- 06 ステーション INOP: IPL またはダンプが進行中です。
- 07 端末 INOP: 進行中にリモート操作で電源が切られました。
- 08 リンク: 強制非活動化 DACTLINK によって、無条件にリセットされました。
- 0A X.21 交換回線リンク: X.21 呼び出し進行記号を受信しましたが、バイト 6-7 に含まれていなかったため、発信呼び出しの確立に失敗しました。
- 0B X.21 交換回線リンク: データ回線終端装置 (DCE) が、DCE クリア状態を示したため、発信呼び出しの確立に失敗しました。
- 0C X.21 交換回線リンク: DCE 状態の変更に関するタイムアウトが発生したため、発信呼び出しの確立に失敗しました。
- 0D X.21 交換回線リンク: X.21 呼び出しフェーズ中に、予期しなかった接続消失が起きました。
- 0E X.21 交換回線リンク: X.21 呼び出しクリア・フェーズ中に、失敗が起きました。
- 0F X.21 交換回線リンク: 発信呼び出しの確立に失敗しました。X.21 呼び出し進行記号が受信されましたが、INOP を含んでいました。
- FD BSC 回線: BSC クラスタ・コントローラーの PU=YES モデムの障害が起きました。回線と、PU は、非活動化されます。
- FE ステーション INOP: S/370 チャンネル・リンク上で、ステーション INOP が起きました。
- FF リンク: S/370 チャンネル・リンクの障害が起きました。

IST260I • IST264I

text は、*code* が 16 進数の 0F の場合に表示され、呼び出し進行信号 (CPS) を記述します。

text は次のいずれかです。

- CPS = UNRECOGNIZED CALL PROGRESS SIGNAL
- CPS = *yy* - [*descr*]

yy の値 (10 進数で表されます) と、任意の *descr* は次のいずれかです。

yy descr

- 20 NO CONNECTION
- 21 NUMBER BUSY
- 22 PROCEDURE ERROR
- 23 TRANSMISSION ERROR
- 41 ACCESS BARRED
- 42 CHANGED NUMBER
- 43 NOT OBTAINABLE
- 44 OUT OF ORDER
- 45 CONTROLLED NOT READY
- 46 UNCONTROLLED NOT READY
- 47 DCE POWER OFF
- 48 INVALID FACILITY REQUEST
- 49 NETWORK FAULT IN LOCAL LOOP
- 51 CALL INFORMATION SERVICE
- 52 INCOMPATIBLE USER
- 61 NETWORK CONGESTION
- 71 L.T. NETWORK CONGESTION
- 72 RPOA OUT OF ORDER
- 81 REGISTRATION/CANCELLATION CONFIRMED

システムの処置: 処理を続行します。

注:

1. エラー・コード 02 の場合、VTAM はリカバリーを試みません。リンク障害はリカバリー不能です。
2. INOP が以前の INOP の処理の前に起こった場合、VTAM は、リカバリーを試みません。ノードは、非活動化されています。
3. 交換 PU については、以下のいずれかです。
 - 周辺 PU の場合、VTAM は、すべてのエラー・コードについて、リカバリーを試みません。
 - サブエリア PU の場合、VTAM は、エラー・コード 01 である場合に限り、リカバリーを試みます。

オペレーターの応答: これは、おそらくハードウェア・エラーです。問題判別のためシステム・ログを保管してください。オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、MDR/OBR 情報が記録されているかどうかを判別してください。保守援助プログラムの詳細については「*EREP User's Guide and Reference*」を参照してください。

NetView などのネットワーク管理アプリケーションを使用する場合、この INOP コードに警告が記録されていないか調べてください。

このメッセージに関連する非 VTAM サブエリア・ネットワーク問題、および IST259I 問題および診断の例については、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。

プログラマーの応答: 表示される出力からは問題の原因を判別できない場合や、さらに援助が必要な場合は、IBM のハードウ

ェア・サポート・センターに連絡してください。

可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの MDR/OBR 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。

IST260I *ncpname* - *sscpname* SESSION LOST, SA
 subarea CODE *code*

説明: SSCP *sscpname* と NCP *ncpname* 間のセッションが失敗しました。 *subarea* は、*ncpname* のサブエリアです。16 進数の理由コード *code* は次のいずれかです。

- 07 仮想経路操作不能。SSCP-PU セッションによって使用されていた仮想経路に対する、VR INOP を受信しました。
- 0A SSCP-PU セッションの強制非活動化。PU で、DACTPU を受信しました。
- 0B 仮想経路操作不能。SSCP-PU セッションによって使用されていた仮想経路が、強制的に非活動化されました。
- 0C SSCP が障害を起こしました。

注: *sscpname* が ***NA*** と示された場合には、この SSCP の名前が使用不能か、または判別できなかったことを示しています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: *ncpname* に対して、バックアップを用意するように指示を受けている場合には、その指示に従ってください。

プログラマーの応答: VTAM がこのメッセージを出したときに、ネットワーク・オペレーターが行うべきリカバリー手順を決めてください。

IST264I **REQUIRED** *resource* [*luname*] *reason*

説明: リソースがセッションを要求したが、以下にリストされたいずれかの理由でセッション開始要求が失敗すると、VTAM はこのメッセージを、メッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは IST663I です。

IST663I メッセージ・グループの一部であるメッセージ IST664I は、セッションを確立できなかったパートナーの名前を表示します。

resource と *reason* の組み合わせは、以下のいずれかです。

ADJSSCP TABLE
UNDEFINED
COS NAME *cosname*
UNDEFINED
LOGMODE NAME *logmode*
UNDEFINED
RESOURCE *luname*
UNDEFINED
RESOURCE *luname*
NOT ACTIVE
RESOURCE *luname*
UNSTABLE (装置タイプ LU のみ)
RESOURCE *luname*
DISABLED
RESOURCE *luname*
QUIESCING

RESOURCE *luname***BLOCKING LOGONS** (アプリケーション PLU のみ)**STORAGE****NOT AVAILABLE**

luname が表示されるのは、*resource* が **RESOURCE** の場合です。*luname* は、エラーがあった LU またはアプリケーションの実名です。SLU が不明な場合、*luname* は、***NA*** として表示されます。

- *luname* が SLU であれば、リソースは未定義、非活動、使用不可、または休止の状態です。
- *luname* が PLU であれば、リソースは未定義、非活動、使用不可、休止、またはログオン・ブロッキングの状態です。
- *cosname* の場合は、その名前をもつ COS (サービス・クラス) 項目が定義されていません。デフォルトのサービス・クラスが使用されていた場合、*cosname* はブランクになります。
- *logmode* の場合は、SLU に対するログオン・モードが無効です。
 - ログオン・モードが、VTAM 定義ステートメントの SLU に対するログオン・モード・テーブルにない
 - SLU に関連しているログオン・モード・テーブルがなく、このログオン・モードがデフォルトのログオン・モード・テーブルに含まれていない
 - SLU に関連している有効なログオン・モード・テーブルがなく、デフォルトのログオン・モード・テーブルが存在しない
- *logmode* が提供されない場合、またはブランクを含んでいる場合は、メッセージ IST264I が、今まで通り出されます。*logmode* には、***NA*** が表示されます。

システムの処置: VTAM は、セッション初期設定要求を拒否します。セッション設定は失敗します。

オペレーターの応答: 以下の適切な処理を行ってください。

- 要求されたリソースが **UNDEFINED** であれば VARY ACT コマンドを入力して、そのリソースが定義されているリソース大ノードを活動化してください。
- 要求されたリソースが **NOT ACTIVE** であれば、VARY ACT コマンドを入力してリソースを活動化してください。リソースがアプリケーション・プログラムであれば、そのプログラムを開始してください。
- 要求されたリソースが **UNSTABLE** であれば、何らかのタイプのエラー・リカバリー処理が行われていると思われる。これは ERP、INOP、あるいはセッションの終了が原因と思われる。リソースを表示し、リソースがリカバリーした後で再要求してください。
- 要求されたリソースが **DISABLED** で、装置タイプ LU であれば、電源がオンであるかどうか確認してください。
- 要求されたリソースが **DISABLED** で、アプリケーション・プログラムであればアプリケーション・プログラムを開始するか、そのアプリケーション・プログラムが SETLOGON START を出したかどうか確認してください。
- 要求されたリソースがアプリケーション・プログラムで、**QUIESCING** であれば SETLOGON QUIESCE が効力もっています。アプリケーション・プログラムは、遮断処理中で、VTAM が ACB をクローズしてから再度オープンしない限り、新たなセッションは受け付けられません。

- 要求されたリソースがアプリケーション・プログラムで、ACB が MACRF=NLOGON でオープンされていれば、これは **BLOCKING LOGONS** です。アプリケーション・プログラムに許可されているただ 1 つの LU-LU セッションは、OPNDST OPTCD=ACQUIRE でアプリケーション・プログラムそれ自身によって開始されたセッションです。
- **LOGMODE** の問題の場合、リソースが要求に正しいログオン・モードを指定したかどうか確認してください。DISPLAY ID コマンドを使用して、リソースのために識別されているテーブルを判別することができます。リソースに関連するログオン・モード・テーブル名を変更するには MODIFY TABLE コマンドを使用してください。
- ストレージが **NOT AVAILABLE** の場合は、少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答:

- **COS** の問題の場合、サービス・クラスが定義されているか確認してください。
- **LOGMODE** の問題の場合、現在 SLU に割り当てられているログオン・モード・テーブルを訂正するか、正しいモードをもつ他のログオン・モード・テーブルを割り当ててください。
- ストレージの問題については、VTAM 区画サイズに、より多くのストレージを割り振ってください。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不十分のためにエラーが発生したのであれば、バッファール・プール、CSA または SGA 制限を再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。開始オプションについては詳しくは、以下を参照してください。

VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

行っている操作が重要なものであれば、VTAM を停止して、さらに大きな区画サイズで再始動しなければなりません。

IST265I *command* FOR ID = *nodename1* FAILED -
DUP *nodename2* HL *highernode*

説明: このドメインが、すでに活動リソース *nodename2* をもっているため、VTAM はノード *nodename1* に出された *command* を拒否しました。 *highernode* は、*nodename2* の上位レベルのノード名 (PU 名、または大ノード名) です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: ネットワークが、リソース *nodename1* を要求する場合は、上位レベル・ノード *highernode* と共に、ノード *nodename2* を含むセグメントを非活動化するか、またはセグメントを解放するために、VARY REL コマンドを出してください。

リソース *nodename1* と、*nodename2* が同時に必要な場合は、いずれかの名前を変更してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 重複する名前をもつ 2 つのリソースが、同時に必要な場合は、その一方の名前を変更してください。

IST266I *subtask* **STARTED**

説明: VTAM は、特定 *subtask* を始動するための MODIFY SUBTASK,FUNCTION=ATTACH コマンドにตอบสนองして、このメッセージを出します。この *subtask* は、TPRINT、サブシステム・サポート・サービス、バッチ転送プログラム、またはオペレーターが

MODIFY SUBTASK,FUNCTION=ATTACH コマンドを入力できる、任意のルーチンです。このメッセージは、*subtask* を VTAM のサブタスクとして、VTAM が正常に生成したことを示しています。

システムの処置: VTAM は、MODIFY コマンドの処理を、正常に完了しました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST270I **LOAD OF** *ncpname* **COMPLETE - LOAD MODULE =** *loadmodname*

説明: VARY ACT コマンドに対する応答として、またはエラー・リカバリ手順を行った後の NCP の再ロードに対する応答として、VTAM は、通信コントローラー NCP *ncpname* に、ロード・モジュール *loadmodname* を正常にロードしました。これで、この通信コントローラーは、使用可能です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST271I **JOBNAME =** *jobname*, **STEPNAME =** *stepname*, [**DSPNAME =** *dspname*]

説明: このメッセージは、アプリケーション・プログラムに出された DISPLAY ID コマンドにตอบสนองして、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。リストされた *jobname* および *stepname* は、要求時にアプリケーション・プログラムを制御しているジョブのものです。

dspname は、アプリケーション・プログラムに関連するデータ・スペースの名前です。データ・スペースが VTAM によって作成され、またその形式が以下のいずれかである場合、データ・スペース名は自動的に生成されます。

ISTcccc

cccc は **0-FFFFC**

ccccIST

cccc は **1-99999**

jobname, *stepname* または *dspname* が使用できない場合、VTAM は *****NA***** を出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST272A **NO INITIAL TEST FOR** *controller* **- REPLY 'U' TO BYPASS - OR CANCEL**

説明: VARY ACT コマンドの処理中、またはエラー・リカバリ処理中に、VTAM が通信コントローラー *controller* をロードしようとしたが、ロード・ユーティリティ・プログラムの初期テスト・ルーチンを使用することができませんでした。これは、VTAM が、ルーチン (DIAGFILE) を保持しているファイルを使用することができなかったためです。その理由は、永続入出力エラーが起こったためか、ジョブ制御ステートメントが誤っていたか、または欠如していたためです。

システムの処置: VTAM は応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 'U' と入力して、初期テスト・ルーチンを回避してください。すなわち、ハードウェアをテストしないで、ネットワーク制御プログラム (NCP) のロードを開始してください。
- 'CANCEL' と入力して、ロード操作を取り消してください。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

プログラマーの応答: DIAGFILE に対するジョブ制御ステートメントを調べてください。

IST278A **INVALID REPLY FOR ID =** *controller* **LOAD - ENTER 'U' - OR CANCEL**

説明: オペレーターが、メッセージ IST272A に対して、無効な応答を入力しました。このメッセージには通信コントローラー *controller* に、NCP をロードするかどうかが表示されていました。有効な応答は、以下のいずれかです。

- 'U' - 初期テスト・ルーチンを回避する。この場合、ハードウェアをテストせずに、NCP がロードされます。
- 'CANCEL' - 要求を取り消します。

システムの処置: VTAM は有効な応答を待ちます。

オペレーターの応答: 問題の通信コントローラーについて出されたメッセージを調べ、有効な応答を入力してください。それ以外の応答を入力すると、このメッセージが繰り返されます。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST282A **INVALID REPLY FOR ID =** *controller action reason*

説明: オペレーターが、メッセージ IST095A、または IST284A に対して、無効な応答を入力しました。

action は次のいずれかです。

- **RELOAD**
- **DUMP**

reason は次のいずれかです。

- **SYNTAX ERROR**
- **DUMPSTA =** *dumpstaname* **IS NOT AVAILABLE**
- **LOADSTA =** *loadstaname* **IS NOT AVAILABLE**

有効な応答は、以下の通りです。

NO IST095A および IST284A に適用

YES IST095A および IST284A に適用

YES,DUMPSTA=dumpstaname

IST095A のみに適用

YES,LOADSTA=loadstaname

IST284A のみに適用

メッセージがダンプ *dumpstaname* あるいはロード・ステーション *loadstaname* が使用不能であることを示していれば、リンク・ステーションが、活動化されていないか、通信コントローラー *controller* に接続されていないか、ダンプ・ステーション *dumpstaname* がダンプをサポートしていないことを示しています。

システムの処置: VTAM は、元のメッセージを再び出します。

オペレーターの応答: 通信コントローラーの内容をダンプまたはロードしたい場合は、YES と入力してください。それ以外は、NO と入力してください。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST284A **OPTION TO RELOAD *controller***
AVAILABLE - REPLY 'YES' OR 'NO' OR
'YES,LOADSTA=LINKSTANAME'

説明: 通信コントローラー *controller* で実行中のネットワーク制御プログラム (NCP) が、障害を起こしました。

- 通信コントローラーの再ロード (チャネルを通じて) が必要な場合は、VTAM は通信コントローラーへのロードがまだ必要であるかどうかを判別し、必要なら再ロードを続けます。
- 通信コントローラーの再ロード (SDLC リンクを通じて) が必要な場合、VTAM は自動的に通信コントローラーをロードします。
- 別のホストが通信コントローラーを再ロードしない場合、失敗した NCP と以前に接触していたリンク・ステーションは、活動化されます。別のホストによる再ロードが完了した後で、NO と応答してください。

システムの処置: VTAM は応答を待ちます。この通信コントローラーに関連するノードは、アクセスできません。

オペレーターの応答: この通信コントローラーが、多重チャネル接続または多重リンク接続の場合は、影響のあった他の定義域のオペレーターと同じ応答をしてください。

1 つのリカバリー操作が完了してから、次のリカバリー操作を行わなければなりません。

VARY ACT コマンドまたは NCP 生成で指定された、デフォルトのリンク・ステーションを使用して、ドメインへのコントローラーの再ロードを開始するには、YES の応答を入力してください。

別のリンク・ステーションを指定する場合は、YES,LOADSTA=*linkstaname* を入力してください。ただし、*linkstaname* は、リンク・ステーションの名前です。リンク・

ステーションの名前を指定せずに、YES,LOADSTA= と応答した場合、VTAM は、デフォルトのリンク・ステーションを選択します。

このホストに通信制御装置の再ロードをさせたくない場合は、NO と応答してください。この場合、別のホストがこの通信制御装置を再ロードしないと、この通信制御装置のリソースは使用不能となります。VARY INACT コマンドを出して、NCP を非活動化させることもできます。

この通信コントローラーを共用している、すべてのホストによって NO が指定され、VARY ACT コマンドによって再ロードすることにした場合は、まず、VARY INACT コマンドによって、この通信コントローラーを非活動化させなければなりません。

注: このメッセージへの応答方法については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST285I ***dumptype* DUMP OF *resourcename* status**

説明: 通信コントローラーの内容がディスクにダンプされるようにスケジュールされた場合、またはデータ・セットへのダンプが成功した場合や失敗した場合に、VTAM はこのメッセージを出します。そのファイルは NCPDUMP です。

resourcename は、ダンプされる NCP を含む通信コントローラーに隣接する、通信コントローラー内の NCP の SDLC リンク・ステーションの名前です。

dumptype は次のいずれかです。

STATIC

NCP の処理は停止します。通信コントローラーの内容はマイクロコード・サービスによってダンプされ、VTAM は *resourcename* に関連する大ノードを非活動化します。

DYNAMIC

NCP の内容がダンプされる間、NCP の処理は続きます。VTAM は、NCP を非活動化しません。

MOSS

VTAM は、IBM 3720、3725 または 3745 通信コントローラーの MOSS ディスクに含まれる、保守オペレーター・サブシステムのダンプを、ホスト・データ・セットに転送します。

CSP

VTAM は、MOSS ディスクに含まれている、回線スキャン・プロセッサのダンプを、ホスト・データ・セットに転送します。

TRANSFER

VTAM は、IBM 3720、3725、または 3745 通信コントローラーに含まれる NCP ダンプを、ホスト・データ・セットに転送します。

status は次のいずれかです。

CANCELLED - PATH BLOCKED

VTAM が制御装置のダンプを試みましたが、ダンプ中であつたか、または他のホストがロードしていたために、コントローラーにアクセスできませんでした。

CANCELLED - PATH NOT OPERATIONAL

VTAM がダンプを試みましたが、チャネル経路が操作不可能であったために、コントローラーにアクセスできませんでした。これはおそらく、コントローラーがダンプ中であったためか、または他のホストがロードしていたことが原因と思われるが、もちろんハードウェア、またはソフトウェアの問題である可能性もあります。

COMPLETE

ダンプが完了しました。

PARTIALLY COMPLETE

ダンプ処理中に、通信コントローラー、ダンプ・データ・セット、あるいは SDLC リンクに、永続出力エラーが起きました。ダンプの一部は、使用不能です。ダンプ・データ・セットが小さいために、すべてのダンプを含むことができなかった可能性があります。

注: MODIFY DUMP コマンドに、ACTION=TRANSFER と、TYPE=CSP か TYPE=MOSS のいずれかが指定されている場合、CSP または MOSS ダンプがディスクに存在しなくても、BER ログ、CDF、TIC ダンプおよび CA ダンプがハード・ディスクに転送されます。このメッセージは、指定されたダンプがなくても、データがダンプ・データ・セットに転送されたことを意味します。

SCHEDULED TO DISK

ディスクへのダンプ要求が、NCP *resourcename* に対して進行中です。

STARTED

ダンプが開始されました。

FAILED - PERMANENT I/O ERROR

ダンプ処理中に、リカバリー不能な入出力エラーが、通信コントローラー、あるいはダンプ・データ・セットに起きました。ダンプは、使用できません。

FAILED - ddname CANNOT BE OPENED

VTAM がダンプを試みましたが、*ddname* で定義されたダンプ・データ・セットが、オープンできませんでした。ダンプ処理は、終了します。

FAILED - UNSUPPORTED DEVICE TYPE

VTAM はダンプを試みましたが、ダンプ・データ・セットが、サポートされていない装置にあったため、オープンできませんでした。ダンプ処理は、終了します。

システムの処置: *status* は以下のようにさまざまで、結果もそれに依りて異なります。

CANCELLED - PATH BLOCKED

ダンプは終了し、VTAM は、再確立されるべき NCP *resourcename* との接続を待ちます。

CANCELLED - PATH NOT OPERATIONAL

ダンプは終了し、VTAM は、再確立されるべき NCP *resourcename* との接続を待ちます。

COMPLETE

処理を続行します。

PARTIALLY COMPLETE

ダンプは終了します。

SCHEDULED TO DISK

処理を続行します。

STARTED

ダンプが開始されました。

FAILED - PERMANENT I/O ERROR

ダンプは終了します。

FAILED - ddname CANNOT BE OPENED

ダンプは終了します。

FAILED - UNSUPPORTED DEVICE TYPE

ダンプは終了します。

オペレーターの応答: *status* は以下のようにさまざまで、結果もそれに依りて異なります。

CANCELLED - PATH BLOCKED

なし。

CANCELLED - PATH NOT OPERATIONAL

NCP *resourcename* との接続が、数分間のうちに再確立されない場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

COMPLETE

NCP ダンプ・ユーティリティ・プログラムを使用して、ダンプ全体をフォーマットしてください。

PARTIALLY COMPLETE

ダンプが有効であり、十分なデータが保管されていれば、NCP ダンプ・ユーティリティ・プログラムを使用して、取得されたダンプの一部をフォーマットまたは印刷することができます。ダンプ・ユーティリティ・メッセージには、ダンプおよび保管されたデータの妥当性についての情報が示されます。

NCP ダンプ・ユーティリティを使用して、NCP のダンプを試みてください。NCP ダンプ・ユーティリティの使用方法については、「NCP, SSP, and EP Diagnosis Guide」を参照してください。

システム・ログを保管し問題を判別し、オペレーティング・システムの保守援助プログラムを実行してください。EREP の使用について詳しくは、「EREP User's Guide and Reference」を参照してください。

SCHEDULED TO DISK

NCP *resourcename* との通信を再確立し、ダンプ状況を MOSS ディスクに照会してください。ダンプが存在している場合は、ホスト・データ・セットにダンプを転送するために、MODIFY DUMP コマンドを使用できます。ユーティリティ・プログラムを使用すれば、ダンプのフォーマットと印刷が可能です。

STARTED

なし。

FAILED - PERMANENT I/O ERROR

これは、おそらくハードウェア・エラーです。

- 通信コントローラーの電源が入っていることを確かめてください。
- 通信コントローラーのオペレーター・パネル上の HARD STOP、および PROGRAM STOP の標識を調べて、オンになっていれば、LOAD スイッチを押してください。
- プロセッサ間での通信コントローラーの切り替えが可能であれば、その通信コントローラーが、VTAM ホスト・プロセッサ側に切り替えられていることを確かめてください。
- NCP ダンプ・ユーティリティを使用して、NCP のダンプを試みてください。NCP ダンプ・ユーティリ

ティーの使用方法については、「NCP, SSP, and EP Diagnosis Guide」を参照してください。

- システム・ログを保管し問題を判別し、オペレーティング・システムの保守援助プログラムを実行してください。 EREP の使用について詳しくは、「EREP User's Guide and Reference」を参照してください。

FAILED - ddname CANNOT BE OPENED

ダンプ・データ・セットの名前が正しく指定されている場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

FAILED - UNSUPPORTED DEVICE TYPE

サポートされているアクセス装置に、ダンプ・データ・セットがあることを確かめてください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *status* は以下のようにさまざまで、結果もそれに依りて異なります。

CANCELLED - PATH BLOCKED

なし。

CANCELLED - PATH NOT OPERATIONAL

以下の処置を取ってください。

- NCP 定義ライブラリーのチャンネル定義を調べて、障害を起こしたチャンネル・アダプターが、NCP *resourcename* に定義されていることを確認してください。
- チャンネル・アダプターが、正しく NCP *resourcename* に定義されている場合は、おそらくハードウェア・エラーです。チャンネル・アダプターが、MOSS からオンラインになっていることを確認してください。
- チャンネル・アダプターがオンラインで、問題が続く場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

COMPLETE

なし。

PARTIALLY COMPLETE

ダンプ・データ・セットのサイズを増やしてください。表示される出力からは問題の原因を判別できない場合や、さらに援助が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

SCHEDULED TO DISK

なし。

STARTED

なし。

FAILED - PERMANENT I/O ERROR

表示される出力からは問題の原因を判別できない場合や、さらに援助が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

FAILED - ddname CANNOT BE OPENED

以下のことを確認してください。

- ダンプ・データ・セット名のつづりが、MODIFY DUMP コマンドの DUMPDS オペランド、または PCCU 定義ステートメントの DUMPDS、CDUMPDS、または MDUMPDS オペランドで、間違っていないこと。
- 適切な JCL ステートメントが、VTAM 開始オプションに含まれていること。

オペレーターが提供した出力を調べて、VTAM に対するすべての要求が、システムに適合していることを確認してください。エラー状態を訂正したら、オペレーターにコマンドを再入力するように依頼してください。

FAILED - UNSUPPORTED DEVICE TYPE

オペレーターが提供した出力を調べて、VTAM に対するすべての要求が、システムに適合していることを確認してください。エラー状態を訂正したら、オペレーターにコマンドを再入力するように依頼してください。

IST301I INSUFFICIENT PRIVATE FIXED STORAGE FOR I/O TRACE TABLE

説明: 入出力トレース・テーブルに十分な固定ストレージが使用できない場合に、入出力トレースを活動化させると、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: 入出力トレースの活動化は継続しますが、トレース・レコードにはノードの名前または消失レコードの数は含まれません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 必要であれば、VTAM 区画に使用する実記憶のサイズを増やしてください。

IST302I INVALID DEFINITION TYPE IN MEMBER member IN VTAM DEFINITION LIBRARY

説明: 以下の場合に、VTAM はこのメッセージを出します。

- 大ノード定義 *member* の最初の定義ステートメント、またはマクロ命令が無効である場合。エラーのあるステートメントは、定義ステートメントのオペランドと思われます。このエラーの原因の 1 つに、定義ステートメントが間違っただけにあることが考えられます。
- 大ノード定義 *member* の最初の定義ステートメントまたはマクロ命令が VTAM 開始オプションとの互換性がないか、または開始オプションが正しく指定されていません。

注: NCP を活動化するには、特別な注意が必要です。VTAM は、このホストと関連している正しい PCCU 定義ステートメントを、SUBAREA キーワードの値と、このホストのサブエリア (HOSTSA 始動オプションで指定されています) とを比較して、選択します。VTAM は、そのサブエリア値を持つ PCCU 定義ステートメントを見つけれない場合に、このメッセージを表示します。詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の PCCU 定義ステートメントおよび HOSTSA 開始オプションの説明を参照してください。

システムの処置: VTAM は、大ノード *member* を、VTAM ネットワークに含めません。

オペレーターの応答: システム・ログを保管して問題を判別し、大ノード定義を印刷してください。

プログラマーの応答: 無効な定義を訂正し、定義ライブラリーの *member* を更新してください。

**IST303I INSUFFICIENT STORAGE TO BUILD
CONFIGURATION** *configname*

説明: 大ノードに関連する内部 VTAM テーブルに必要なストレージが使用できないため、VTAM は大ノード *configname* の処理を終了しました。

システムの処置: VTAM は、大ノード *configname* を、VTAM ネットワークに含めません。

オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、システム GETVIS 域 (SGA) に関する情報を表示してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: このメッセージは、以下の必要ストレージの見積量が、小さすぎたことを示しています。

- VTAM 区画サイズ
- VPBUF または VFBUF バッファ・プール
- 共用仮想域

オペレーターが、開始手順で指定されたとおりに、SGA 開始オプションを入力したことを確認してください。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不足したためにエラーが発生したのであれば、MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して、SGA 開始オプションを再定義してください。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。行っている操作が重要なものであれば、VTAM を停止して、さらに大きな区画サイズで再始動しなければなりません。

IST309I UNABLE TO LOAD MODULE *loadmodname*
FROM LIBRARY [*libraryname*]

説明: VTAM は、*loadmodname* で指定された通信コントローラー (NCP, RRT) を、ライブラリー *libraryname* からロードできませんでした。

注: *libraryname* は、存在しない可能性があります。

システムの処置: VTAM は、このロード・モジュールと、ライブラリーの組み合わせに関連する通信コントローラーを、活性化できませんでした。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *loadmodname* がなくなったり、名前が間違っていたりしていないか、*libraryname* を調べてください。*loadmodname* がない場合は、NCP が正常に生成されなかったと考えられます。NCP 生成の出力を調べ、NCP システム生成を訂正してから、活性化を再試行してください。

LIB LIST を実行し、指定したライブラリーが、検索リストに存在し、さらにそのリストの正しい位置に存在することを、確認してください。

**IST310I INVALID SPACE REQUEST FOR
CONFIGURATION** *majornode*

説明: VTAM は *majornode* に出された VARY ACT コマンドに応答して、このメッセージを出します。VTAM は、事前に割り振られた組み立て域に収まらない項目に出会ったため、組み立てを進めることができません。

システムの処置: VTAM ネットワークは、大ノード *majornode* を含みません。

オペレーターの応答: この大ノードに対して、VARY ACT コマンドを再試行してください。この状態が続く場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: オペレーターが提供した出力を調べて、VTAM に対するすべての要求が、システムに適合していることを確認してください。VTAM 問題の診断方法については詳しくは、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST311I NCP LOAD MODULE LIBRARY *libraryname*
- FAILED TO OPEN

説明: VTAM が、通信コントローラー NCP ロード・モジュール・ライブラリー *libraryname* のオープンを行いましたが、OPEN が失敗しました。

システムの処置: VTAM は、NCP システム生成出力をライブラリー *libraryname* に持つ、通信コントローラーを活性化することができません。

オペレーターの応答: *libraryname* が正しく入力されていることを確認してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 表示された出力を使用して、失敗した理由を判別してください。問題が解決されたら、通信コントローラーを再び活性化してください。

IST314I END

説明: これは、メッセージ・グループの終わりを示すマークです。詳細については、前のグループのメッセージを参照してください。

**IST315I VTAM INTERNAL TRACE ACTIVE -
MODE =** *modename*, **SIZE =** *size*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

- このメッセージは、MODIFY TRACE,TYPE=VTAM コマンドが出された場合、または TRACE 開始オプションに TRACE,TYPE=VTAM が指定された場合に出されます。

注: このメッセージ・グループは、トレース・オプションが要求されていなくても、VTAM がスタートアップされると必ず出されます。これは VTAM 内部トレースが、オプション API、PIU、MSG、NRM および SSCP で自動的にスタートアップされるためです。

```

IST315I VTAM INTERNAL TRACE ACTIVE -
        MODE = EXT, SIZE = NA
IST199I OPTIONS = {NONE|optionlist}
IST315I VTAM INTERNAL TRACE ACTIVE -
        MODE = INT, SIZE = size
IST199I OPTIONS = {NONE|optionlist}
IST314I END

```

- このメッセージ・グループは、TYPE=VTAM または TYPE=ALL が指定された DISPLAY TRACE コマンドに 応答して出されます。

```

IST350I DISPLAY TYPE = TRACES,TYPE=VTAM
IST315I VTAM INTERNAL TRACE ACTIVE -
        MODE = EXT, SIZE = NA
IST199I OPTIONS = {NONE|optionlist}
IST315I VTAM INTERNAL TRACE ACTIVE -
        MODE = INT, SIZE = size
IST199I OPTIONS = {NONE|optionlist}
IST314I END

```

IST350I このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループの場合、*type* は必ず **TRACES,TYPE=VTAM** となり、画面には VTAM 内部トレースの状況も表示されます。

IST315I

modename は **EXT** (外部) または **INT** (内部) で、VTAM 内部トレースの記録される場所を示します。

- MODE = EXT** の場合。
 - 外部トレースは、汎用トレース機能 (GTF) データ・セットに記録を書き込みます。
 - 外部トレースは、TRFILE 入出力バッファに記録を書き込みます。
 - MODE = EXT** の場合、必ず **SIZE = NA** が表示されます。
- MODE = INT** の場合:
 - 内部トレースは、内部トレース・テーブルに記録を書き込みます。
 - size* は、内部トレース・テーブル用に割り振られた、ページの数です。内部トレース・テーブルのサイズは、*size* ページです。これらのページがいっぱいになると、テーブルは循環使用されます。

デフォルトで最小の内部トレース・テーブルのサイズは 50 ページです。

内部トレース・テーブルに使用するストレージは、拡張共通サービス域 (CSA) から獲得されます。

IST199I

このメッセージは、トレースされる機能を表示します。TYPE=VTAM でトレースされるすべてのユーザー選択オプションのリストが、このメッセージに表示されます。

MODE = INT で **OPTIONS = NONE** のときは、ユーザー選択トレース・オプションが活動していないことを示します。例外状況と、ある種のトレース項目だけがトレースされます。

optionlist には、以下のオプションが含まれます。

API

アプリケーション・プログラム・インターフェース

APPC

LU 6.2 通信

CIO

チャンネル入出力

ESC

実行順序制御

LCS

LAN チャンネル・ステーション

LOCK

VTAM ロッキング・サービス

MSG

オペレーターへのメッセージ

NRM

ネットワーク・リソース管理

PIU

経路情報単位

PSS

処理スケジューリング・サービス

SMS

ストレージ管理サービス

SSCP

システム・サービス制御点

VCNS

VTAM 共通ネットワーク・サービス

VTAM 内部トレース・オプションについては、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

システムの処置:

- MODIFY TRACE** コマンドまたは **TRACE** 開始オプションに 応答してこのメッセージが出された場合、VTAM 内部トレース (VIT) が、始動されます。
- DISPLAY TRACES** コマンドに 応答してこのメッセージが出された場合、処理は続きます。

オペレーターの応答: トレース・レコードのダンプが必要な場合、インストール先で定義されている手順を使うか、またはシステム・プログラマーの指示を受けてください。VTAM 内部トレースの詳細については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST316I VTAM INTERNAL TRACE USER OPTIONS ARE NOW INACTIVE

説明: VTAM は、DISPLAY TRACES コマンドまたは MODIFY NOTRACE,TYPE=VTAM,OPT=END コマンドに 応答して、このメッセージを出します。このメッセージは、すべてのユーザー選択内部トレース・オプションが、現在非活動状態であることを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST317I VTAM INTERNAL TRACE ACTIVATION FAILED - INSUFFICIENT STORAGE

説明: MODIFY TRACE,TYPE=VTAM コマンド、または TRACE,TYPE=VTAM 開始オプションが指定された結果、VTAM が、内部トレースを活動化しようとし、トレース・テーブル用のストレージを得ようとしたが、失敗しました。システムの処置: VTAM は要求を拒否します。オペレーターの応答: VTAM が初期設定されている場合は、少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続けても、より小さなサイズのトレース・テーブルで十分な場合は、VTAM 内部トレースの始動に使用する、MODIFY コマンドのサイズ・オペランドに、より小さな値を指定してください。小さなトレース・テーブル・サイズでは不十分である場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

VTAM の初期設定が失敗した場合は、システム・ログを保管して問題を判別してください。

プログラマーの応答: 正しいトレース・テーブル・サイズが、指定されていることを確認してください。より大きなトレース・テーブルが必要な場合は、次のストレージのサイズを大きくする必要があります。

共用仮想域
GETVIS 域

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不足したためにエラーが発生したのであれば、MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して、CSA 開始オプションを修正してください。

VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST318I VTAM INTERNAL TRACE ACTIVATION FAILED - UNABLE TO FIX STORAGE

説明: MODIFY TRACE,TYPE=VTAM コマンド、または TRACE,TYPE=VTAM 開始オプションに応答して、VTAM はこのメッセージを出します。内部トレースを始動しようとしたが、以下のいずれかの理由で失敗しました。

- トレース・モジュールを固定ストレージに置くことができない
- トレース・テーブルにストレージを割り当てることができない

システムの処置: VTAM 内部トレースの活動化の試みは、拒否されます。

オペレーターの応答:

- トレース・テーブルのサイズ指定が正しくなかった場合は、正しいサイズを指定した MODIFY コマンドを、再入力してください。
- 追跡テーブルのサイズ指定が正しかった場合は、システム活動が低下するまで待ち、コマンドを再入力するか、またはもっと小さいサイズを指定したコマンドを、再入力してください。

- コマンドの失敗が続く場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: 他のプログラムに必要な固定ストレージ域を小さくするか、またはトレース・テーブルのサイズを小さくしてください。ストレージが不足したためにエラーが発生したのであれば、MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して、CSA 開始オプションを修正してください。

VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST319I CONFIGURATION *configname* FIRST SPECIFICATION USED *reason*

説明: 構成 *configname* の活動化時に、VTAM が NCP 定義ステートメント、または VTAM 定義ステートメントに、エラーを検出しました。

reason は次のいずれかです。

COMBINATION ERROR
DUPLICATE PARAMETER
EXTRA PARAMETER
EXTRA VALUE

エラーの詳細は 2 番目のメッセージ IST323I に示されます。システムの処置: VTAM ネットワークには、見つけられた最初の指定で定義されている *configname* が含まれます。オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: このメッセージと、メッセージ IST323I の情報を使用して、エラーの原因を判別してください。今後の使用に備えて、エラーのある定義ステートメントを訂正してください。

NCP 定義ステートメントの説明は、「NCP Resource Definition Guide」および「NCP Resource Definition Reference」を参照してください。

VTAM 定義ステートメントの説明は、「VTAM Resource Definition Reference」にあります。

IST320I CONFIGURATION *configname* DEFINITION FAILED - *reason*

説明: 構成 *configname* の活動化時に、VTAM が NCP 定義ステートメント、または VTAM 定義ステートメントに、エラーを検出しました。

reason は次のいずれかです。

DUPLICATE MACRO
INSUFFICIENT STORAGE
INVALID NAME
INVALID PARAMETER
INVALID VALUE
MISSING PARAMETER
MISSING MACRO

MISSING NAME
PARAMETER CONFLICT
SEQUENCE ERROR
SYNTAX ERROR

エラーの詳細は 2 番目のメッセージ IST323I に示されます。
 システムの処置: VTAM ネットワークに、構成 *configname* は含まれません。

オペレーターの応答: *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** で、VTAM が初期設定されている場合は、少し待ってから *configname* の再活性化を試みてください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。VTAM の初期設定が失敗した場合は、システム・ログを保管して問題を判別してください。

その他の *reason* の場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: このメッセージと、メッセージ IST323I の情報を使用して、エラーの原因を判別してください。エラーのある定義ステートメントを訂正してください。

- NCP 定義ステートメントにエラーがある場合は、間違っているステートメントを訂正し、NCP を再生成してください。NCP 定義ステートメントの詳細については、「NCP Resource Definition Guide」および「NCP Resource Definition Reference」を参照してください。
- VTAM 定義ステートメントにエラーがあった場合は、VTAM 定義ステートメントを更新することによって、構成 *configname* の定義を訂正してください。VTAM 定義ステートメントの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合は、内部 VTAM テーブルが要求するストレージが、使用不能です。必要に応じてストレージを増やしてください。

メッセージ・パーコレーション

メッセージ・パーコレーションとは、特定の VTAM オペレーター・メッセージが経路指定される方法を指します。メッセージが 2 次プログラム・オペレーターまたはシステム・コンソール・オペレーターから出されたコマンドへの応答である場合、そのメッセージは、コマンドを出した人と基本プログラム・オペレーターとの両方に経路指定（「パーコレート」）されます。基本プログラム・オペレーターはそのメッセージを非送信請求メッセージの形で受信します。

- コマンドが 2 次プログラム・オペレーターから出されたものであり、活動状態の基本プログラム・オペレーターがない場合、「パーコレートされた」メッセージは、システム・コンソールと 2 次プログラム・オペレーターに送信されません。
- ネットワーク管理アプリケーションが基本プログラム・オペレーターの場合、「パーコレートされた」メッセージを、そのメッセージを受信するアプリケーションに定義されているすべてのネットワーク管理アプリケーションにブロードキャストで送信することができます。

追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST321I **CONFIGURATION** *configname* **DEFAULT**
TAKEN - reason

説明: 構成 *configname* の活動化時に、VTAM が NCP 定義ステートメント、または VTAM 定義ステートメントに、エラーを検出しました。

reason は次のいずれかです。

COMBINATION ERROR
DUPLICATE PARAMETER
EXTRA PARAMETER
EXTRA VALUE
INVALID PARAMETER
INVALID VALUE
MISSING PARAMETER

エラーの詳細は 2 番目のメッセージ IST323I に示されます。
 システムの処置: VTAM は適切なデフォルト値をとり、処理を続けます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: このメッセージと、メッセージ IST323I の情報を使用して、エラーの原因を判別してください。今後の使用に備えて、エラーのある定義ステートメントを訂正してください。NCP 定義ステートメントの説明は、「NCP Resource Definition Guide」および「NCP Resource Definition Reference」にあります。VTAM 定義ステートメントの説明は、「VTAM Resource Definition Reference」にあります。

IST322I **CONFIGURATION** *configname* **ERROR**
IGNORED - reason

説明: 構成 *configname* の活動化時に、VTAM が、NCP 定義

ステートメント、または VTAM 定義ステートメントにエラーを検出しました。

VTAM は、定義ステートメント、またはオペランドを次のいずれかの *reason* で無視します:

COMBINATION ERROR
 DUPLICATE NAME
 EXTRA PARAMETER
 EXTRA VALUE
 INVALID MACRO
 INVALID NAME
 INVALID PARAMETER
 INVALID VALUE
 MISSING NAME
 PARAMETER CONFLICT
 SEQUENCE ERROR
 SYNTAX ERROR
 TABLE LOAD FAILURE
 TABLE NOT FOUND
 TABLE NOT VALID

エラーの詳細は、2 つの補足メッセージ IST323I および IST330I に示されます。

システムの処置: VTAM は定義ステートメントの処理は続けますが、間違ったオペランドは無視します。

オペレーターの応答: *reason* が **TABLE LOAD FAILURE**、**TABLE NOT FOUND**、または **TABLE NOT VALID** の場合は、構成の訂正が完了した後で、MODIFY TABLE コマンドを使用してテーブルをロードしてください。

他のすべての *reason* の場合は、システム・ログとネットワーク・ログを保管し、大ノード定義を印刷して問題を判別してください。

プログラマーの応答: このメッセージと、メッセージ IST323I か IST330I の情報を用いて、エラーの原因を分けてください。

reason が **TABLE LOAD FAILURE** または **TABLE NOT FOUND** の場合は、テーブルが、システム・ライブラリーに存在することを確認してください。

reason が **TABLE NOT VALID** の場合は、正しいテーブル名が、作成されるテーブルのタイプにコーディングされていることを確認してください。そうでない場合は、定義ステートメントのテーブル名を訂正し、構成 *configname* を再活動化してください。USS テーブルを必要とする動的再構成を試みている間に *reason* が **TABLE NOT VALID** となる場合、USSTAB が FORMAT=DYNAMIC でコーディングされていることを確認してください。

他のすべての *reason* については、今後の使用に備えてエラーのあるステートメントを訂正してください。NCP 定義ステートメントの説明は、「NCP Resource Definition Guide」および「NCP Resource Definition Reference」にあります。VTAM 定義ステートメントの説明は、「VTAM Resource Definition Reference」にあります。

IST323I LABEL = *labelname* - MACRO TYPE = *macrotype* - KEYWORD = *keyword*

説明: これは、メッセージ IST319I、IST320I、IST321I、IST322I、IST363I、IST886I、IST979I、および IST1335I を補足するメッセージです。定義に大小文字が含まれていても、メッセージに表示される値は大文字です。

labelname は、エラーのあるマクロ命令、またはステートメントの名前、またはラベルです。

macrotype は、マクロ命令のタイプです。

keyword は、エラーのあった実際のキーワード (または最初の 8 文字) を示します。

システムの処置: 取られた処置は、このメッセージの前のメッセージに示されています。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ラベル *labelname* の付いているマクロ命令のエラーのキーワードを見つけてください。前のエラー・メッセージを見て、そのキーワードについての問題点を調べてください。NCP 定義ステートメントでの VTAM オペランドの正しい使用方法については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST324I procedure IN PROGRESS WITH ID = *nodename* DUE TO *runame* REQUEST

説明: *nodename* に対する *procedure* が進行中の場合、VTAM はこのメッセージを出します。

procedure は、*nodename* からこのドメインのクロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) に送信された要求単位 *runame* (クロスドメイン要求) によって開始されました。*procedure* の値は、**INACT**、**ACTIVATE**、または **RESET** です。

runame の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *nodename* のドメインのオペレーターと一緒に調べてください。この要求を完了させるためには、さらに処置が必要かどうかを判別してください。

プログラマーの応答: なし。

IST326I REQUEST = *runame* FAILED FOR procedure ID = *nodename*, SENSE = *code*

説明: リソース *nodename* の要求単位 (RU) *runame* に行われた *procedure* の処置が失敗しました。原因は、センス *code* によって示されます。

runame の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

code の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。VTAM は、*procedure* の処理を、このドメイン内では正常に完了しますが、*nodename* のドメイン内の *procedure* の状況は確定しません。

オペレーターの応答: VTAM が、*procedure* の処理を、正常に完了した場合には、このドメインでは何の応答も必要ありませんが、*nodename* のオペレーターに通知する必要があります (そのドメインで、*procedure* の処理を完了するための処置が必要だからです)。

例えば、

REQUEST = DACTCDRM FAILED FOR INACT ID =

nodename, SENSE = 8002 の場合:

クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) の非活動化プロシージャ中に送られた SNA 要求の 1 つは、DACTCDRM です。この要求は、リンク障害 (センス・コード 8002) のため、*nodename* に到着しませんでした。このドメインでの非活動化は、正常に完了しますが、*nodename* のドメイン内での非活動化処理は、消失した DACTCDRM を待ちます。この例では、*nodename* のドメインのオペレーターは、非活動化プロシージャを完了するために、このドメインの CDRM に対して、VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを出した後で、*nodename* に対して DISPLAY ID コマンドを出さなければなりません。他のドメインのオペレーターに、問題判別処置をとるように依頼してください。

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターの表示した出力と *code* の記述を参考にして、失敗した原因を判別してください。

VTAM 問題の診断方法について詳しくは、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST327I *procedure ID = nodename INCOMPLETE, REQUEST = runame, SENSE = class=sense.code*

説明: VTAM は、プロシージャ *procedure* の処理を完了することができません。このプロシージャ (INACT または ACTIVATE) は、要求単位 (RU) *runame* により開始されました。原因は、センス *code* によって示されます。

runame の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

code の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: VTAM は、*procedure* の処理を完了していません。

オペレーターの応答: *nodename* のドメインのオペレーターに、そのドメインからも、このドメインと同じようにコマンドを出す必要があるかもしれないことを知らせてください。そのドメインからどのコマンドと、どのオペランドが出されたかを調べてください。

例えば、

INACT ID = *nodename* INCOMPLETE, REQUEST = CDTAKEDOWN, SENSE = 08090000 の場合は、以下のとおりです。

クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) の非活動化プロシージャ中に送られた要求の 1 つは、CDTAKEDOWN です。CDRM *nodename* は、それ自体と、このドメインの CDRM との同期がとれないことから (08090000= モード不一致)、この要求を拒否しました。これは、別々の定義域から出されたオペレーター・コマンドが、相互に干渉しあったことが、原因と考えられます。また、CDRM の 1 つにシステム・エラーがあったことが、原因とも考えられます。両方の定義域で VARY INACT コマンドを出して、非活動化プロシージャを完了してください。

プログラマーの応答: クロスドメイン・プロトコルの働きにつ

いては、「Systems Network Architecture Format and Protocol Reference: Architectural Logic」を参照してください。

IST328I **COMMUNICATION WITH CDRM ID = *cdrmname* LOST**

説明: クロスドメイン・リソース・マネージャー *cdrmname* との通信はもうできません。*cdrmname* のサブエリアで障害が起こったか、*cdrmname* への移行モード経路のサブエリアで障害が起こったためです。

システムの処置: *cdrmname* とその既存のセッションは活動状態を保ちますが、*cdrmname* は消失マークが付けられます。*cdrmname* によって管理されるクロスドメイン・リソース管理プログラムとの間で、新しいセッションを確立することはできません。既存のセッションは、使用されている物理経路が存在する限りは、活動状態に保たれます。

オペレーターの応答: アクティブ・セッションがあるかどうかを調べるために、*cdrmname* について、DISPLAY ID コマンドを出し、次に活動状態としてリストされた各クロスドメイン・リソースについて DISPLAY ID コマンドを出してください。そうすれば、どのリソースが *cdrmname* とセッションを持っているかが示されます。

新しいセッションを確立するためには、*cdrmname* を非活動化しなければなりません。*cdrmname* を非活動化するためには、VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを用いてください。

消失したサブエリアの問題に関係した他のホストでも、同じ手順を踏んでください。

プログラマーの応答: なし。

IST330I **TABLE TYPE = *tabletype* NAME = *tablename***

説明: このメッセージは、メッセージ IST322I を補足するものです。VTAM は、テーブル・タイプ *tabletype*、テーブル名 *tablename* をロードできませんでした。

tabletype には、次のものがあります:

ASLTAB

関連 LU テーブル

FLDTAB

メッセージあふれ防止テーブル

MDLTAB

モデル名テーブル

MODETAB

ログオン・モード・テーブル

USSTAB

不定様式システム・サービス (USS) ・テーブル

LOGTAB

解釈テーブル

COSTAB

サービス・クラス (COS)

システムの処置: VTAM は、以前にロードされたテーブルを使って処理を続けます。

オペレーターの応答: 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *tablename* が、*tabletype* テーブルの名前であり、それが定義ライブラリーにあるかどうかを確かめてください。

IST331I CONFIG *configname* BYPASSED - 'MAXSUBA' VALUES CONFLICT

説明: 以下のいずれかの理由で、VTAM は大ノード *configname* をネットワークに追加することができませんでした:

- 大ノードが最初に活動化されたときに効力をもっていた MAXSUBA 開始オプションに指定された値と一致しない。
- 大ノードが通信コントローラーの場合、NCP BUILD 生成定義ステートメントに指定された MAXSUBA 値が、MAXSUBA 開始オプションに指定された値と等しくない。

MAXSUBA は、前の V3R1 レベルの VTAM との通信を行うための移行目的でのみ使用されます。

システムの処置: VTAM は、大ノード *configname* を、VTAM ネットワークに含めません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: MAXSUBA の値は同じでなければなりません。定義ライブラリー内の該当する VTAM 定義を変更してください。

- 開始オプションの MAXSUBA 値が、大ノードが活動化されていたときに効力のあった値と一致しない場合、正しい MAXSUBA 値を指定して、VTAM を再始動してください。
- 通信コントローラーの場合、BUILD 定義ステートメントに指定された MAXSUBA 値が正しければ、BUILD 定義ステートメントを訂正して NCP を再生成してください。

注: MAXSUBA は、NCP の NETWORK 定義ステートメントにコーディングできます。非固有ネットワークでは、一致した MAXSUBA 値です。

MAXSUBA 開始オプションおよび BUILD 定義ステートメントの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST333I CONFIG *configname* USING DUPLICATE RESOURCE NAME *minornode* - CODE *code*

説明: VTAM は以下のいずれかの理由で、このメッセージを出します。

- VTAM が、同一のグループ名 (*minornode*) を参照する、同一の PU 定義ステートメントに関して、重複する SHM/MPS 定義ステートメントを見つけました。これは、物理装置を、短期保留モード/複数ポート共用機能 (SHM/MPS) と共に、交換回線大ノード、またはチャネル接続大ノードで、使用する場合に起こります。
- VTAM は、大ノード *configname* に使用されたノード名 *minornode* が、VTAM にすでに認証されている名前と重複していることを検出しました。ドメイン内のノード名は、すべて固有の名前でなければなりません。

システムの処置: システムの処置は、*code* の値によって決まります。*code* は次のいずれかです。

- 1 このコードは、チャネル接続大ノードに対して出されています。

VTAM は、SHM/MPS ノード *minornode* と、それに含まれる従属ノードを無効と見なし、使用しません。ただし、大ノード *configname* 内のその他のノードは、まだ使用できます。

- 2 このコードは、交換回線大ノードに対して出されていません。

VTAM が、同一のグループ名 (*minornode*) を参照する、同一の PU 定義ステートメントに関して、2 つの異なる SHM/MPS PATH 定義ステートメントを見つけました。

- 3 ノード *minornode* が、NCP 定義内に従属ノードを定義しています。この場合は、大ノード *configname* は、VTAM ネットワークに含まれません。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログを保管し、大ノード定義を印刷してください。

プログラマーの応答:

- コードが 1、または 3 の場合は、大ノード内の重複した名前を訂正してください。大ノードが NCP の場合は、NCP を再生成してください。エラーを起こしたノードを含む大ノードを非活動化してください。
- コードが 2 の場合は、SHM/MPS PATH 定義ステートメントを訂正してください。

IST336I THIS NCP MAJOR NODE WAS *action*

説明: これは、VTAM が獲得した NCP 大ノードに出された DISPLAY ID コマンドに回答して VTAM が出すメッセージです。

action は次のいずれかです。

- **ACQUIRED BEFORE ACTIVATION** これは、NCP 大ノードが活動化される前に獲得されたことを示します。
- **ACTIVATED BEFORE ACQUISITION** これは、NCP 大ノードが獲得される前に活動化されたことを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST339I CONFIG *configname* BYPASSED - *minornode* UNKNOWN TO THE NCP

説明: *minornode* が NCP に認識されていないため、VTAM は、大ノード *configname* をネットワーク構成に含みませんでした。NCP の生成が完了していないと思われます。VTAM は、リソース解決テーブル (RRT) 拡張部分が見つからない場合、あるいは項目が DR ADD 要件に合わない場合に、このメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は、大ノード *configname* を、VTAM ネットワークに追加しません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: NCP 生成を再実行し、その実行の完了を確認してください。NCP 生成に、LUDRPOOL マクロを含める必要がある場合があります。詳細については、「NCP Generation and Loading Guide」を参照してください。

IST348I UNABLE TO PROCESS DISCONNECTION FOR PU = *puname* DUE TO LACK OF STORAGE

説明: ストレージが不足したために物理装置 *puname* の切断に失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *puname* に対して、VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを入力してください。ストレージ不足のために、コマンドの失敗が再発する場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: ストレージ不足の問題が再発する場合は、必要に応じてストレージを増やす必要があるかもしれません。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。追加情報については、「VTAM *Operation*」を参照してください。

IST350I DISPLAY TYPE = *type*

説明: このメッセージは、VTAM が DISPLAY コマンドに回答して出す異なるメッセージ・グループまたはサブグループの一部です。このメッセージは画面でのヘッダー・メッセージとなり、また画面に表示される情報のタイプを示します。メッセージ・グループには、詳細な識別と状況の情報が含まれます。

type は表示中の情報またはリソースのタイプで、以下のいずれかです。

ADJACENT CLUSTER TABLE

指定されたネットワーク ID の隣接サブネットワーク経路リストと、リスト内の各境界線ノードの状況が表示されます。

ADJACENT CONTROL POINT

特定の隣接制御点ノード定義の属性と、それに割り当てられた接続を表示します。

ADJACENT SSCP TABLE

セッション開始要求のルーティングに使用される隣接 SSCP のリストが表示されます。

APPL MAJ NODES/NAMES

ドメイン内のすべての活動アプリケーション・プログラム大ノードの名前と、状況、およびこれらのノードに含まれているアプリケーション・プログラムの名前と、状況が表示されます。

BNCOSMAP

対応する非固有および固有サービス・クラス (COS) 名が表示されます。

BUFFER POOL DATA

VTAM バッファ・ストレージの使用状況が表示されません。

CDRMS

このホスト・プロセッサが認知している、すべてのクロスドメイン・リソース・マネージャの情報が表示されません。

CDRSCS

このドメインが認知している、すべてのクロスドメイン・リソースの状況が表示されます。

CLUSTERS/PHYS UNITS

ドメイン内の物理装置の名前と、状況が表示されます。

DLURS

依存型 LU サーバー (DLUS) にサポートされる依存型 LU リクエスター (DLUR)、およびその CPSVRMGR セッション・パイプの状況が表示されます。CPSVRMGR パイプは、競合勝者 (conwinner) と競合敗者 (conloser) の 2 つの LU 6.2 セッションで構成されます。この両方のセッションの状況が表示されます。

DIRECTORY

リソースについてのディレクトリー・サービス情報が表示されます。

EXIT

ユーザー書き込み出口ルーチンの名前と状況が表示されません。

GROUPS

ドメイン内の各グループの名前と状況が表示されます。

LINES

ドメイン内の回線の名前と状況が表示されます。

LOGICAL UNITS/TERMS

ドメイン内の論理装置の名前と状況が表示されます。

LUGROUP MAJOR NODES

ドメイン内のすべての LUGROUP 大ノードの状況が表示されます。

MAJOR NODES

ドメイン内のすべての活動大ノードの状況が表示されません。

MODELS

ドメイン内のモデル大ノードと、それらのノードに含まれるモデル小ノードの名前が表示されます。

NETWORK NODE SERVER LIST

このエンド・ノードのネットワーク・ノード・サーバーとして、現在活動させることのできるすべてのネットワーク・ノードの名前が表示されます。

PATH TABLE CONTENTS

このホスト・プロセッサに対して定義された、経路のリストが表示されます。

PENDING

保留状況にあるすべてのノードの名前が表示されます。

RSCLIST

特定のパターンに合致している名前を持つリソースについての情報が表示されます。

SESSIONS

ドメイン内のすべてのキューイングされた、保留状態の、アクティブ・セッションの数が表示されます。ドメイン内の各セッションに関する状況と、パートナー名も表示されます。

STATIONS

ドメイン内のリンク・ステーションの名前と状況が表示されます。

STATS,TYPE=COMPRESS

圧縮レベル、および入力または出力セッション通信量と、その圧縮レベルを使用するハーフセッション (セッションの一方のエンド) の数を表示します。

STATS,TYPE=VTAM

DISPLAY STATS コマンドに回答して出された VTAM ストレージの見積統計が表示されます。

STORAGE USAGE

ストレージ・プールと、データ・スペースの VTAM の使用状況が表示されます。

TG PROFILES

現在名前で定義されている伝送グループのプロファイル、およびプロファイルの表す伝送グループの特性が表示されます。

TNSTAT

調整統計が指定されたリソースの名前が表示されます。

TOPOLOGY

問題判別と、ネットワークの検査目的に使用されるトポロジー情報が表示されます。この情報には、リンクの故障率、受け入れられない経路ノードやリンク、およびノードの接続性が含まれます。

TRACES, TYPE=CNM

CNM バッファ・トレースの状況が表示されます。
CNM バッファ・トレースは PDPIUBUF (問題判別 PIU バッファ) および SAWBUF (セッション認知バッファ) です。

TRACES, TYPE=NODES

特定のリソースと、その従属ノードに対する BUF、GPT、IO、LINE、SIT および TG トレースの状況が表示されます。

TRACES, TYPE=SMS

SMS バッファ・トレースの状況が表示されます。

TRACES, TYPE=VTAM

VTAM 内部トレースの状況が表示されます。

TRL

活動中のトランスポート・リソース・リスト内の各エレメントのデータ・リンク制御の情報が表示されます。

USERVAR

ドメイン内のすべての USERVAR の名前と状況が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST351I LOCAL 3270 MAJOR NODE = *majornode*

説明: このメッセージは、DISPLAY TERMS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、次に表示されるメッセージでリストされる論理装置が属する、ローカル非 SNA 3270 大ノード *majornode* を示します。このメッセージの後に、メッセージ IST089I が続いて出されることがあります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST352I LOCAL SNA MAJOR NODE = *majornode*

説明: これは以下の状況で、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- DISPLAY TERMS コマンドに対する応答の場合。
majornode は、次に出されるメッセージでリストされる物理装置および論理装置が接続されているローカル SNA 大ノード

ド (ローカル・クラスター・コントローラー) です。次のメッセージには、*majornode* のサブノードがリストされます。

- リソース *nodename* に対する接続要求が拒否され、メッセージ IST680I が出された場合。*majornode* はローカル SNA 大ノード (ローカル・クラスター・コントローラー) です。詳細については、メッセージ IST680I の記述を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST353I SWITCHED SNA MAJOR NODE = *majornode*

説明: このメッセージは、DISPLAY TERMS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

majornode は、後続メッセージにリストされた物理装置と論理装置が接続されている交換 SNA 大ノードです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST354I PU T4/5 MAJOR NODE = *majornode*

説明: このメッセージは、COS、LINES または TERMS に出された DISPLAY コマンド、またはグループ名を指定した DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

DISPLAY COS コマンドの場合、*majornode* は、この後にリストされるサービス・クラス情報と、回線、物理装置、論理装置が関連する PU タイプ 4、または PU タイプ 5 大ノードです。

DISPLAY TERMS コマンドの場合、*majornode* は、この後にリストされる回線、物理装置、論理装置に関連する PU タイプ 4、または PU タイプ 5 大ノードです。

DISPLAY LINES コマンドの場合、*majornode* は、この後にリストされる回線に関連するチャンネル接続 PU タイプ 4、または PU タイプ 5 大ノードです。

グループ名を指定した DISPLAY ID コマンドについては、*majornode* は、グループが定義されている PU タイプ 4、または PU タイプ 5 大ノードです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST355I LOGICAL UNITS:

説明: このメッセージは、DISPLAY コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、この直後のメッセージ内にリストされるノードが論理装置であることを示しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST356I *bpid*[Q] [F] *bufsize curtot curavail maxtot*
maxused times exp/cont incr

説明: VTAM は、DISPLAY BFRUSE,BUFFER=SHORT コマンドに回答するメッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST632I を参照してください。

IST359I **ATTACHMENT = *linetype***

説明: このメッセージは、DISPLAY TERMS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、1 つのノードを別のノードに接続する回線のタイプを示します。

linetype は **LEASED** または **SWITCHED** です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST360I **APPLICATIONS:**

説明: このメッセージは、アプリケーション大ノードにだけ出された DISPLAY APPLS または DISPLAY ID コマンドに回答して出されるメッセージです。このメッセージは、次のメッセージに含まれるノードがアプリケーション・プログラム・ノードであることを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST361A *nodename/subarea* **FOUND LOADED WITH**
loadmodname/subarea **REPLY 'YES' TO**
RELOAD OR 'NO' TO CANCEL
ACTIVATION

説明: VARY ACT コマンドの処理中に、VTAM は指定された *nodename* および *subarea* が、すでに NCP ロード・モジュール *loadmodname* でロードされているか、または *subarea* がすでにサブエリアとして定義されていることを検出しました。ロード・モジュールが不明の場合、VTAM は、*loadmodname* の代わりに、***NA*** を表示します。

VFYLM=YES が、NCP の PCCU 定義ステートメントに指定されていました。オペレーターは、指定された通信コントローラーを再ロードするか、または活動化を終了するかを、決定しなければならない場合があります。

注: VTAM は正しい応答が入力されるまで、メッセージ IST361A を出し続けます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 通信コントローラーの再ロードが必要な場合は、'YES' と応答してください。再ロードした場合、通信コントローラーを共用している他の VTAM が、影響を受けます。

通信コントローラーの活動化を中止する必要がある場合は、'NO' を入力してください。これは、結果として、この VTAM に対して活動状態にあるロード・モジュールと、同じ通信コントローラーを共用している他の VTAM に対して活動

状態にあるロード・モジュールとの間で、不一致を起こします。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

IST362I **GROUP *groupname* DEVICES**
UNAVAILABLE - MISSING SYSCNTRL
OPTION

説明: BSC またはスタート・ストップ・グループ *groupname* の活動化時に、VTAM が、SYSCNTRL 定義ステートメントに RIMM、または MODE オプションが、存在しないことを検出しました。

注: ブロック・ハンドラーを使用している場合は、SYSCNTRL 定義ステートメントに BHS ASSC オプションが必要になる可能性があります。(BHSET を GROUP 定義ステートメントに指定している場合。)

システムの処置: VTAM は、BSC、またはスタート・ストップ・グループ *groupname* を、ネットワークに含みません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 必要な SYSCNTRL オプションを指定してください。SYSCNTRL オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST363I **CONFIG *configname* NODES AND**
SUBNODES SET UNAVAILABLE - *reason*

説明: VTAM は構成 *configname* の活動化時に、NCP 生成定義ステートメント、または VTAM 定義ステートメントにエラーがあることを検出しました。

reason は次のいずれかです。

DUPLICATE MACRO
DUPLICATE VALUE
INVALID NAME
INVALID PARAMETER
INVALID VALUE
MISSING MACRO
MISSING NAME
MISSING PARAMETER
PARAMETER CONFLICT
REPEATED VALUE
SEQUENCE ERROR
SYNTAX ERROR

2 番目のメッセージ IST323I に、エラーのある定義ステートメントの詳細が示されます。

システムの処置: VTAM は、マクロ命令または定義ステートメントの処理を続けます。メッセージ IST323I に、使用不能に設定されるノードの名前が示されます。このノードのサブノードも使用不能に設定されます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: エラーのあるマクロ命令またはステートメントを訂正してください。

- NCP 生成定義ステートメントにエラーがある場合、エラーを訂正してから NCP を再生成してください。
- VTAM 定義ステートメントにエラーがあった場合は、VTAM 定義ステートメントを更新することによって、構成 *configname* の定義を訂正してください。

IST366I **CONFIG *configname* UNABLE TO DEFINE *nodename* - MAXIMUM NUMBER OF NETWORK ADDRESSES FOR HOST SUBAREA EXCEEDED**

説明: 構成 *configname* の活動化時に、VTAM はホスト・サブエリア内のネットワーク・アドレスの最大数を超えました。VTAM は新しいエレメントをホスト・サブエリア内に定義することができませんでした。

システムの処置: *nodename* がすべてアスタリスクの場合、*configname* の活動化は失敗します。VTAM は、大ノード定義内のどのノードにもエレメント・アドレスを割り当てませんでした。

nodename がすべてアスタリスクでない場合、*configname* の活動化は継続されますが、*nodename* で識別されるノードは、無効マークが付けられ、VTAM ネットワーク内では使用できません。

オペレーターの応答: ネットワーク・アドレスを解放するために、ホスト・サブエリア内の不要な活動セグメントを非活動化してください。*configname* を非活動化し、次に活動化してください。VTAM がメッセージを出し続ける場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターが提供した出力を調べて、VTAM に対するすべての要求が、システムに適合していることを確認してください。

ホスト・サブエリア内の、VTAM によって割り当てることができるエレメントの数が最大数に達したので、装置や、アプリケーション・プログラムを、他のサブエリアに割り当てることができるかどうかを調べてください。

LU に高位のエレメント・アドレスを使用するには、ENHADDR 開始オプションに YES を指定してください。新しい開始オプションを使用するには、開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を修正して VTAM を再始動してください。詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST367I **NO STORAGE TO DEFINE NODE *nodename* CONFIG *configname***

説明: VTAM には、ノード *nodename* を定義するのに十分なストレージがありませんでした。

システムの処置:

- *nodename* がすべてアスタリスクの場合、*configname* の活動化は失敗します。VTAM は、大ノード定義内のどのノードにもエレメント・アドレスを割り当てませんでした。
- *nodename* がすべてアスタリスクではない場合、*configname* の活動化は継続され、*nodename* は *configname* に定義されている場合と同様に使用できなくなります。

- *nodename* が事前に存在していなかった場合、VTAM ネットワークには使用できません。
- *nodename* が事前に存在していた場合 (例えば独立 LU として)、定義が失敗しても既存のノードは影響を受けません。

オペレーターの応答: VTAM が初期設定されている場合は、ネットワーク・アドレスを解放するために、ホスト・サブエリア内の不要な活動セグメントを非活動化してください。

configname を非活動化し、次に活動化してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答: 以下のいずれかを行ってください。

- オペレーターが提供した出力を調べて、VTAM に対するすべての要求が、システムに適合していることを確認してください。構成から不必要な大ノードを削除して、より多くのストレージを使用できるかどうかを調べてください。
- 必要に応じてストレージを増やしてください。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST368I **FUNCTION GROUP *functiongroup* FAILED**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。IST886I または IST1277I が最初のメッセージです。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST380I **ERROR FOR ID = *nodename* — REQUEST: *runame*, SENSE: *code***

説明: リソース *nodename* に対する要求 *runame* が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

code はセンス・コードで、失敗した理由を示します。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

runame は失敗した要求の名前です。*runame* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: VTAM は、要求 *runame* を実行しません。

VTAM は、ACTLINK、CONTACT、ACTLU、または ACTPU などの RU に対する活動化要求を受信し、その要求が失敗すると、リソースが活動化中であるか非活動化中であるかに関係なく、通常は、リソースとすべての従属リソースを非活動化します。

オペレーターの応答:

- もう一度ノードを活動化、またはトレースしてください。
- それでも障害が発生する場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- VTAM がこのメッセージを繰り返して出す場合は、回線を使用不能にし、システム・ログを保管して問題を判別してください。

- *code* がストレージの問題を示している場合は、少し待つてからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、VTAM バッファ・プールに使用されたストレージと、システム GETVIS 域 (SGA) についての情報を表示してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

- センス・コード **081Cnnnn**

センス・コード (*nnnn*) のユーザー部分で示される原因を訂正し、コマンドを再入力してください。

注: ここで記述されているのは、このメッセージで出される可能性のあるセンス・コードのほんの一部です。センス・コードの詳しい説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

プログラマーの応答:

- *code* がストレージの問題を示している場合は、ストレージを必要に応じて増やしてください。ストレージが不足したためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プール、CSA または SGA 開始オプションを再定義してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。
 - VTAM に必要なストレージの量を判別するには、「Estimating Storage for VTAM」ディスクットを使用してください。
 - VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
 - 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。
 - バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
 - ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- センス・コード **081Cnnnn**

VARY ACT 要求で、ACTLINK 要求が失敗して、センス・コード **081Cnnnn** が出された場合は、PU (ローカル SNA) または PCCU 定義ステートメントの CUADDR オペランドを調べ、ノード *nodename* について、正しいチャンネル装置アドレス (CUA) が指定されていることを確認してください。
- センス・コード **08A30001**

VTAM がセンス・コード 08A30001 を繰り返し出す場合、交換接続を確立しようとしているサブエリア・ノードを判別してください。その接続を要求する権限が SSCP にあ

ば、どちらの SSCP も交換回線大ノードの PU ステートメントと同じ PRTCT オペランドがコーディングされているかどうか確認してください。また、両方のノードとその SSCP が、呼び出しセキュリティー確認をサポートするレベルであるかどうか確認してください。

許可されていないサブエリア・ノードが、メッセージを受信したホストへの交換接続を確立しようとしているために、VTAM はこのメッセージをセンス・コード 08A30001 で出すことがあります。

- NCP 生成に LUDRPOOL マクロ命令を組み込まなければならぬ場合もあります。
- 装置がシステムにとって使用可能であり、ハードウェア上の問題もないことを確かめてください。

IST381I *command* FOR ID = *nodename* FAILED - CANNOT DEFINE NODE

説明: VTAM は、コマンド *command* の処理を中止しました。VTAM は以下のいずれかの理由で、リソース *nodename* を定義できませんでした。

- *nodename* がこのドメインにある別のリソースと同じ名前を持っている。
- *nodename* がこのドメインにある別のリソースと同じネットワーク・アドレスを持っている。
- *nodename* の VNNAME の値が、このドメイン内の PU の CPNAME の値と一致する。
- *nodename* の VNNAME の値が、VN=YES が指定されていない ADJCP を参照している。

command は、失敗したコマンドです。*command* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

nodename はコマンドに指定されたリソースの名前です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *nodename* を表示します。

- リソースが存在すれば、リソースはすでに定義されているため *command* は失敗します。
- *nodename* が通信コントローラーであれば、DISPLAY STATIONS コマンドを入力してください。
- *nodename* のサブエリアが、ディスプレイで隣接サブエリアとしてリストされた場合、別の通信コントローラーが、そのサブエリアに対して定義されています。そのサブエリアへのリンクがまだ活動状態であれば、通信コントローラーはまだ存在する可能性があります。問題を訂正するために、隣接サブエリアへのリンクに対して、VARY INACT コマンドを入力してください。
- リソースが存在しなければ、VNNAME を表示してください。VNNAME がすでに存在する場合、VNNAME がすでに異なるノード・タイプで定義されているために、*command* は失敗します。

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *nodename* が固有の名前、固有のネットワーク・アドレスまたは固有の VNNAME であることを確認してください。VNNAME 定義の詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST382I *command* FOR ID = *nodename* FAILED —
STATE: *state* NOT VALID FOR REQUEST

説明: ノード *nodename* は要求に対して有効な状況でないために、*command* が拒否されました。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。*state* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: DISPLAY ID コマンドを用いて、*nodename* の処理過程をモニターしてください。処理が完了したら、要求されたネットワーク構成や装置状況を得るために必要なコマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST383I DEACTIVATION OF ID = *nodename*
FAILED — REQUEST: *request* SENSE: *code*

説明: *request* が、センス・コード *code* で失敗したために、VTAM が *nodename* の非活動化を完了できません。

request の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

code の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: *nodename* についての VARY 非活動化処理は、保留されます。ノードは、VTAM に対し使用不能です。オペレーターの応答: VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを出し、ノードを非活動化してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。プログラマーの応答: オペレーターによって提供された出力と、*code* の記述を参考にして、問題の原因を判別してください。

IST384I *command* FOR ID = *nodename* FAILED

説明: VTAM は、*nodename* の *command* の処理が失敗したときに、このメッセージを出します。例えば、処理の継続に使用できるストレージがなかったため、非活動化コマンドが失敗しました。

nodename は、リソースの名前で、NCP か論理装置 (LU) のいずれかの名前です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答:

- このメッセージの前に IST383I または IST1268I があれば、VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを入力して、リソースを非活動化してください。
- ストレージの問題の場合は、IST561I、IST562I、IST563I、IST564I、IST565I または IST566I がこのメッセージの前に出されて、影響を受けたストレージのタイプを示している場合があります。

メッセージ IST467I が接続エラー・タイプ 5 と共に表示された場合は、追加情報についてそのメッセージの「プログラマーの応答」を参照してください。

VTAM バッファ・プールに使用されているストレージと、システム GETVIS 域 (SGA) に関する情報を表示するには、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: ストレージ問題の場合は、開始プロシージャに指定したように、以下の開始オプションをオペレーターが入力したことを確認してください。

- バッファ・プール
- SGA

VPBUF バッファ・プールに必要なストレージの量を、少なく見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足エラーの場合は、バッファ・プールまたは CSA 開始オプションを再定義してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用しても開始オプションを修正できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を修正し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

DISPLAY BFRUSE、DISPLAY STORUSE、および MODIFY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST388I DYNAMIC CDRSC DEFINITION
SUPPORT = {YES|NO}

説明: VTAM は、ホスト・クロスドメイン・リソース・マネージャーに出された DISPLAY ID コマンドに応答して、このメッセージを出します。このメッセージは、指定されたホストが、そのホストに明示的に定義されていないクロスドメイン・リソースからのセッション開始要求を、処理するかどうかを示します。ホスト CDRM 定義ステートメントに CDRDYN=YES を指定した場合、ホストは、動的に定義されたリソースに対するセッションをサポートします。

このメッセージの YES の値が、メッセージ IST389I の OPT と組み合わせられていれば、VTAM は必要に応じて動的 CDRSC 項目を作成します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST389I PREDEFINITION OF CDRSC =
 {OPT|REQ}**

説明: このメッセージは、外部 CDRM 名に対して出された DISPLAY ID コマンドに応じて出されるもので、その CDRM に関連する CDRSC についての明示定義が任意のものか、必須のものかを示します。

このメッセージ内の **OPT** が、メッセージ IST388I 内の **YES** 値と組み合わさっていると、VTAM はセッションを開始する場合に、動的 CDRSC 項目を必要に応じて生成することを意味します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST391I ADJ LINK STATION = linkstation, LINE =
 linkname, NODE = majornode**

説明: このメッセージは、PU タイプ 4 (NCP) 大ノードについて入力された、DISPLAY ID コマンドからの出力の一部です。このメッセージは、表示された NCP の接続についての記述です。

linkstation は、隣接リンク・ステーションです。

linkname は、接続リンクです。

majornode は、そのリンクが定義されている大ノードです。専用ステーションについては、*majornode* は、リンク・ステーションが定義されている大ノードでもあります。

linkname と *majornode* は、リンク・ステーションが活動大ノードに定義されていない場合は、***NA*** となります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST393I PU T4/5 MAJOR NODE majornode,
 SUBAREA = subarea**

説明: このメッセージは、DISPLAY STATIONS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、PU タイプ 4 (NCP) 大ノード *majornode*、または PU タイプ 5 (ホスト) 大ノード *majornode* を識別し、このノードに関連するリンク・ステーションが後続メッセージにリストされます。*subarea* は *majornode* のサブエリア・アドレスです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST394I ADJACENT LINK STATIONS NOT
 OWNED BUT AWAITING ACTIVATION**

説明: このメッセージは、DISPLAY STATIONS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、メッセージ IST395I の見出しとなり、必要なだけ何回も出ます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST395I linkstation1 linkstation2 linkstation3 linkstation4
 linkstation5 linkstation6**

説明: このメッセージは、DISPLAY STATIONS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、示された PU タイプ 4 または PU タイプ 5 の大ノードについての、活動化されるのを待機している、所有されていない隣接リンク・ステーションのリストです。各変数 *linkstation* は、隣接リンク・ステーションを表しています。システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST396I LNKSTA STATUS CTG GTG ADJNODE
 ADJSA NETID**

説明: このメッセージは、VTAM が以下のコマンドに回答して出すメッセージ・グループの一部です。

リンク・ステーションおよび関連する回線についての **DISPLAY ID** コマンド

リンク・ステーションと関連する回線を表示します。

1 つまたは複数の関連リンク・ステーションを持つ回線に対する **DISPLAY ID** コマンド

リンク・ステーションと、関連する回線に対して、メッセージ IST397I が出されます。メッセージ IST610I は出されません。

DISPLAY STATIONS コマンド

各 PU タイプ 4 と、PU タイプ 5 大ノード内すべてのリンク・ステーションを表示します。メッセージ IST397I と IST610I が、各リンク・ステーション回線の対に対して返されます。メッセージ IST610I は、回線名 *linename* と、その状況 *linestatus* を表示します。

```
IST396I LNKSTA      STATUS      CTG GTG ADJNODE
         ADJSA      NETID
IST397I linkstation status      ctg gtg adjnode
         adjsa      netid
[IST610I LINE linename - STATUS linestatus]
```

メッセージには、以下のフィールドが表示されます。

linkstation

リンク・ステーション名。

status リンク・ステーション状況。 *status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

ctg 現在の伝送グループ。

gtg 生成された伝送グループ。

adjnode

使用可能な場合は、隣接 PU タイプ 4 または 5。(これが移行 NCP、または VTAM と VTAM の接続の場合は、ブランクです。)

adjsa 隣接 PU タイプ 4 または 5 に関連するサブエリア。(不明の場合、これは 0 です。)

netid 関連する PU タイプ 4 または 5 のネットワークの名前。

linename

回線名 (リンク・ステーションと関連)。

linestatus

回線 *linename* の状況。 *status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST397I *linkstation status ctg gtg adjnode adjsa netid*

説明: このメッセージは、DISPLAY コマンドに対する応答として、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループについて詳しくは、メッセージ IST396I の説明を参照してください。

status の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

IST398I **LOAD OF *controller* FAILED - *loadmodname* HAS ZERO ENTRY POINT**

説明: NCP ロード・モジュール *loadmodname* が、有効な入り口点を持たずに、生成されました。通信コントローラー *controller* の最後のロードでは、ゼロと見なされました。システムの処置: VTAM は、*controller* をロードしませんし、*loadmodname* の活動化も行いません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 正しい入り口点を指定して、NCP を再生成してください。問題が再発する場合は、VTAM 区画とアプリケーション・プログラム、さらに、監視プログラムのダンプを取得してください。

IST399E **ISTSDCOS IS NOT A CLASS OF SERVICE TABLE - ISTSDCOS DELETED**

説明: VTAM が、テーブル ISTSDCOS をロードしましたが、指定されたテーブルは、サービス・クラス (COS) テーブルではないと判断しました。

システムの処置: VTAM は、ISTSDCOS を削除し、初期設定を続けます。COS テーブルが存在しないので、ISTVTCOS またはブランク (デフォルトが提供されます) 以外の COS 名を要求する、すべてのセッション開始要求は失敗します。

オペレーターの応答: VTAM が、ISTSDCOS をロードしたかどうかを判断するために、DISPLAY COS,ID=ISTPUS コマンドが使用可能です。VTAM が、ISTSDCOS をロードしていない場合は、ISTSDCOS をロードするために、MODIFY TABLE コマンドを使用してください。

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ISTSDCOS は、ユーザー作成のサービス・クラス・テーブル用に予約された名前です。有効な COS テーブルを作成するために、COSTAB、COS および COSEND マクロ命令を使用して ISTSDCOS を作成しなければなりません。COS テーブルが必要なならば、有効なバージョンの ISTSDCOS をアセンブルして、その結果をシステム・ライブラリに再ロードしてください。詳細については、VTAM *Resource Definition Reference* を参照してください。

IST400I **TERMINATION IN PROGRESS FOR APPLID *applname***

説明: VTAM 終了タスクは、*applname* の VTAM アプリケーション ACBNAME の ACB をクローズしようとしています。この処理は、(正常または異常) 終了しました。

ACBNAME が APPL 定義内にコーディングされている場合は、*applname* は ACBNAME です。ACBNAME がコーディングされていない場合は、*applname* は APPL 定義ステートメントでコーディングされた NAME です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: VTAM がメッセージ IST805I を出す前に、*applname* の ACB を再オープンしようとしたましたが、失敗しました。メッセージ IST805I が出ない場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: VTAM 問題の診断について詳しくは、「z/OS® *Communications Server: SNA Diagnosis Vol 1 Techniques and Procedures*」を参照してください。詳しくは、「VTAM *Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST401I *command* **INITIATED FOR ID = *nodename***

説明: VTAM は、リソース *nodename* に対してのコマンド *command* を正常に開始しました。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST403I *command* **COMMAND FAILED — MULTIPLE OPTIONS FOR *operand_name* NOT ALLOWED**

説明: *command* が失敗しました。VTAM は、オペランド *operand_name* については複数の値を受け入れないためです。システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。 *command* が **START** の場合、VTAM は訂正するようにオペレーターに指示を出します。処理を続行します。

オペレーターの応答: コマンドを入力し直してください。

command については、オプションは 1 つだけ指定してください。VTAM 開始オプションの形式については、「VTAM *Resource Definition Reference*」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST407I **MODIFY ATTACH FAILED - *subtask* ALREADY ATTACHED**

説明: TPRINT、バッチ転送プログラム、またはサブシステム・サポート・サービスなどのサブタスクを接続するために、MODIFY SUBTASK コマンドが入力されましたが、その *subtask* はすでに接続されていたために、コマンドは失敗しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST408I MODIFY DETACH FAILED - subtask NOT ATTACHED

説明: TPRINT、バッチ転送プログラム、またはサブシステム・サポート・サービスなどのサブタスクを切り離すために、MODIFY SUBTASK コマンドが入力されましたが、その *subtask* は接続されていなかったため、コマンドは失敗しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST409I MODIFY ATTACH FAILED - INSUFFICIENT STORAGE

説明: オペレーターが、バッチ転送プログラム、またはサブシステム・サポート・サービスのようなサブタスクを接続するために、MODIFY SUBTASK コマンドを入力しましたが、GETVIS 域に十分なストレージがないために、コマンドは失敗しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答: GETVIS 域に対するストレージの必要量の見積もりが低すぎました。必要に応じてストレージを増やしてください。

VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を修正して、バッファ・プール開始オプションを再定義する必要がある可能性があります。新しい開始オプションを使用するためには、VTAM を再始動しなければなりません。

バッファの割り振りについては、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

ストレージに関連する問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST411I command COMMAND REJECTED DUE TO TERMINATION IN PROGRESS

説明: コマンド *command* は終了処理の進行中のため拒否されました。

システムの処置: VTAM の終了処理は続きます。

オペレーターの応答: VTAM を停止しなかった場合は、問題判別処置のため、システム・ログを用意してください。

プログラマーの応答: HALT コマンドを出して VTAM を停止しなかった場合は、システム・ログを見て、なぜ HALT が進行中なのかを判別してください。

IST412I VTAM COMMAND PROCESSING TERMINATED

説明: VTAM は終了処理中です。VTAM コマンドは処理されません。入力されたコマンドは拒否されます。

システムの処置: VTAM の終了処理は続きます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST414I command FOR ID = nodename FAILED — PROCESS UNAVAILABLE

説明: *nodename* が非活動状態のために *command* が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。 *command* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

次のいずれかの状況が発生したと思われます。

- *nodename* に対して強制非活動コマンドが出されたが、リソースはすでに非活動状態である。
- *nodename* に強制再活動化コマンドが出されたが、活動化処理がそれほど進まなかった。

システムの処置: VTAM は *command* の処理を停止します。

オペレーターの応答: 正しいノードに対してコマンドを出したかどうかを、確認してください。ノードが正しければ、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログを参考にして、問題を訂正してください。エラー状態を訂正したら、オペレーターにコマンドを再入力するように依頼してください。

IST422I I/O ERROR ON DS datasetname RTN CD = major, minor

説明: チェックポイント・データ・セット *datasetname* で入力エラーが発生しました。 *major* と *minor* は、VSAM からの大戻りコードと小戻りコードです。

システムの処置: VTAM はチェックポイント処理を中止します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: これは、おそらくハードウェア・エラーです。さらに適切な応答については該当する VSAM マニュアルを参照してください。

このメッセージとともに RTNCD=X'0808' が出力され、*datasetname* が NODELST データ・セットまたは CONFIGDS データ・セットを指定している場合は、VSAM CLUSTER 定義が正しいかどうかを調べてください。CLUSTER 定義の KEYS パラメーターに、正しいキー長を指定しなければなりません。これについては、「VTAM Network Implementation Guide」で説明されています。

IST423I UNABLE TO GET STORAGE FOR DS name

説明: VSAM は、*name* で識別されるブックに使用する VTAM 専用ストレージを獲得できませんでした。

システムの処置: VTAM はチェックポイント処理を中止します。

オペレーターの応答: VTAM が初期設定されている場合は、少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY STORUSE コマンドを入力し、ストレージ・プールのストレージの使用率を表示してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、VTAM Operation を参照してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

VTAM の初期設定が失敗した場合は、システム・ログを保管して問題を判別してください。

プログラマーの応答: オペレーターが提供した出力を調べて、VTAM に対するすべての要求が、システムに適合していることを確認してください。VTAM 区画に必要なストレージ量を見積もり直し、必要に応じてストレージを増やしてください。チェックポイント処理を再始動するには、VTAM いったん停止してから再始動してください。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST424I CLOSE FAILED ON DS *name* RTN CD = *major, minor*

説明: *name* で識別されている大ノード・チェックポイント・データ・セットまたはブックに対する VSAM CLOSE 機能は失敗はしました。VSAM からの大戻りコード (*major*) はレジスター 15 です。VSAM からの小戻りコード (*minor*) は ACBERFLG です。

システムの処置: VTAM はチェックポイント処理を中止します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: これは、おそらくハードウェア・エラーです。より適切な対応については、該当する VSAM 資料を参照してください。

IST425I OPEN FAILED ON DS *name* RTN CD = *major, minor*

説明: *name* で識別されている大ノード・チェックポイント・データ・セットまたはブックに対して行われた VSAM OPEN 機能は失敗はしました。VSAM からの大戻りコード (*major*) はレジスター 15 です。VSAM からの小戻りコード (*minor*) は ACBERFLG です。

システムの処置: VTAM はチェックポイント処理を中止します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 該当する VSAM マニュアルを参照して、問題に対応してください。この問題を避けるには、VTAM 開始ルーチンの正規部分として VERIFY 操作を行い、

データ・セットが正しくクローズされていることを確認してください。より適切な対応については、該当する VSAM 資料を参照してください。

IST430I *runame* FOR ID = *nodename* DISCARDED

説明: VTAM は、ノードのリカバリー処理に使用できるストレージが不足したため、*nodename* に対する *runame* を処理しませんでした。

runame の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: ノード *nodename* は、VTAM にとって活動状態に見えますが、どの要求も処理できません。このノードに関連する論理装置は、すべてアクセス不能です。

オペレーターの応答: *nodename* に対して、DISPLAY ID コマンドを入力してください。*nodename* が、まだ活動状態なら、VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを *nodename* に対して出し、ノードを非活動化してください。次に、そのノードを再活動化するために、VARY ACT,ID=*nodename* コマンドを入力してください。

VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。

行っている操作が重要なものであれば、VTAM を停止して、さらに大きな区画サイズで再始動しなければなりません。

- DISPLAY BFRUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」および「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST432I TUNING STATISTICS NOT ACTIVE, SMF NOT IN SYSTEM

説明: オペレーターが、VTAM の START コマンドで、調整統計オプション (TNSTAT) を要求しました。オペレーティング・システムに、システム管理機能 (SMF) を組み込んでいないか、VTAM の活動中に、SMF が活動化されていませんでした。SMF がオペレーティング・システムで活動していないと、VTAM は調整統計を実行できません。

システムの処置: 調整統計サブタスクが活動していないため、VTAM の活動中にこのサブタスクを活動化することはできません。システムの処理は続きます。

オペレーターの応答: SMF がオペレーティング・システムに含まれている場合は、SMF を活動化し、開始オプションのオプションとして、TNSTAT を組み込んでください。

プログラマーの応答: SMF がオペレーティング・システムに含まれており、VTAM を始動する前に、活動化されているかどうかを確認してください。

**IST433I COMMAND REJECTED - TUNING
STATISTICS TASK NOT ATTACHED**

説明: 調整統計サポートがシステムに組み込まれていないため、VTAM は MODIFY TNSTAT コマンドを拒否しました。TNSTAT 開始オプションが VTAM の開始オプション中に含まれていなかったか、VTAM が調整統計タスクの ISTINCTS を正常に開始できませんでした。

システムの処置: システムの処理は続きます。

オペレーターの応答: VTAM を開始するためのインストール手順にこのオプションの使用が指定されている場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: 調整統計を収集する必要がある場合は、VTAM を再始動し、開始オプション中に TNSTAT オプションが含まれているかどうかを確かめてください。

**IST436I STORAGE NOT AVAILABLE FOR
TUNING STATISTICS DATA**

説明: 調整統計サブタスク ISTINCTS は、VTAM 内で活動状態になっていますが、調整統計レコードを一時的に記憶するために使用できるストレージがありませんでした。

システムの処置: VTAM は、そのレコードのデータを、次の調整統計レコードに含めます。システムの処理は続きます。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。

- DISPLAY BFRUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」および「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST437I I/O TRACE TABLE FULL

説明: 50 個を超えるノードについて、I/O トレースが開始されています。トレース・テーブルに完全なレコードが書き込まれるのは、最高 50 個までのノードについてです。

システムの処置: I/O トレースは続けられます。しかし、I/O トレース・レコードには、ノード名、または消失レコード・カウントは含まれません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログと、I/O トレースを使用するためのインストール先の仕様を再検討してください。

IST440I TIME = time DATE = date ID = id

説明: このメッセージは、SNA コントローラーについて、調整統計を表示するメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST440I TIME = time  DATE = date  ID = id
IST441I DLRMAX = dlrmax CHWR = chwr  CHRDR = chrd
IST442I ATTN = attn  RDATN = rdatn IPIU = ipiu
IST443I OPIU = opiu  RDBUF = rdbuf SLODN = slodn
IST314I END
```

IST440I

time は、レコードが記録されたときの時間 (時、分、秒と 100 分の 1 秒で表されます) を示します。例えば、07431380 はレコードが、その日の 7 時 43 分 13 秒 80 に記録されたことを意味します。

date は、調整統計報告書が記録された日付です。日付は、*yyddd* の形式で、*yy* は西暦の最後の 2 桁、*ddd* は年間通算日です。例えば、87190 はレコードが 1987 年の 190 日目に記録されたことを意味します。

id は、ユーザー定義チャンネル接続 SNA クラスタ・コントローラーの名前、または統計が収集される通信コントローラーを接続するチャンネル・リンクの名前です。VTAM が生成したチャンネル・リンク名については、このフィールドは、後ろに『-L.』

が続くチャンネル装置アドレスになります。

IST441I

dlrmax は、間隔内のある時点で処理を待機していたか、またはその時点で処理されていたダンプ/ロード/再始動要求の最大数を示す 10 進数です。この数は、報告書に指定された SNA コントローラーではなく、ドメイン全体に適用されます。ダンプ/ロード/再始動サブタスクは、次のタイプの要求を処理します。

- NCP のダンプ、ロード、または再始動
- オペレーターに対して応答を要求する VTAM メッセージ
- ローカル大ノードに対する、セッションの確立と終了処理

この値は、一度にいくつのダンプ/ロード/再始動要求を処理できるのかを決定する DLRTCB 開始オプションの適切な設定値を決めるのに使用できます。DLRMAX が常に DLRTCB を超える場合、VTAM は使用可能な TCB の要求を逐次化するため、パフォーマンスに影響が出ることがあります。

chwr は、このレコードに含まれる時間間隔の間に出力された、書き出しチャンネル・プログラムの合計を示す 10 進数です。

chrd は、データを読むために出力された、読み取りチャンネル・プログラムの合計を示す 10 進数です。この数は、クラスタ・コントローラーにバッファを消去させる、読み取りを含みません。

IST442I

attn は、読み取りアテンション (RDATN) の合計を含む、制御装置から受信したアテンション割り込みの合計を示す 10 進数です。

IST441I • IST446I

rdatn は、読み取りチャンネル・プログラムの終了状態に含められるアテンションを、VTAM が受信した回数 (すなわち、VTAM がデータ読み取り後に、アテンションによってさらにデータ読み取りを要求された回数) の合計を示す 10 進数です。

ipiu は、この制御装置から受信した inbound (VTAM へ) PIU の合計を示す 10 進数です。

IST443I

opiu は、このコントローラーに送信された outbound (VTAM から) PIU の合計を示す 10 進数です。

rdbuf は、使用された読み取りバッファの合計を示す 10 進数です。

slodn は、コントローラーがスローダウン状況に入った回数の合計を示す 10 進数です。NCP については、これは CWall バッファ限界値に達した回数です。

注: SLODN フィールドは、メッセージ IST211I には関係ありません。このメッセージは、CWall より大きな限界値に達したときに出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーの指示に従って、システムを調整してください。統計の記録を中止するには、MODIFY NOTNSTAT コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: 調整統計の調整および分析方法については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST441I **DLRMAX = *dlrmax* CHWR = *chwr* CHRDR = *chrd***

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST440I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST442I **ATTN = *attn* RDATA = *rdatn* IPIU = *ipiu***

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST440I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST443I **OPIU = *opiu* RDBUF = *rdbuf* SLODN = *slodn***

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST440I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST446I **I/O ERROR *cua*, *reason*, *command*, *status*, *sense***

説明: VTAM チャンネル終了アベンデージは、VTAM がチャンネル接続装置 (通信サブシステム、通信アダプターなど) と通信をしている間に、エラー状態を検出しました。

cua は、エラーが見つかったポートのチャンネル装置アドレス (16 進数) です。

注: X.25 の場合、*cua* は、エラーの影響を受けた X.25 ポートのチャンネル装置アドレスの対の 1 つです。

reason は次のいずれかです。

ABORT - SENSE

ABORT/BUFFER DEPLETION

ATTENTION

BAD ENDING TIC

BPCP TERMINATED

BUS OUT CHECK

BUSY

CCW COUNT TOO LOW

CETI - INVALID ACK

CETI - SHOULD NOT OCCUR

CHAINING CHECK

CHANNEL CHECK

CHANNEL CONTROL CHECK

CHANNEL DAMAGED

CHANNEL DATA CHECK

CHANNEL END

CHANNEL PROGRAM CHECK

CHANNEL PROTECTION CHECK

COMMAND REJECT

CONTROL UNIT END

CTS DOWN FOR 10 SECONDS

DATA CHECK

DATA LENGTH CHECK

DATA REJECT

DEVICE END

DEVICE END/BUSY

DEVICE NOT OPERATIONAL

DSR DID NOT COME UP

EQUIPMENT CHECK

FRAME REJECT RECEIVED

INCORRECT I FIELD LENGTH

INCORRECT LENGTH

INTERFACE CONTROL CHECK

INTERVENTION REQUIRED

INVALID CCW FLAGS

INVALID COMMAND

INVALID FRAME RECEIVED

INVALID ORDER IN DATA

IPL REQUIRED

LINE CLOCK ERROR

LINK WAS DEACTIVATED

LOST DATA

MACHINE CHECK

MISSING ATTENTION

MISSING CHANNEL END
 MISSING STATUS
 NORMAL END
 NO SPANNED OUTPUT BUFFER
 NO VALID RESPONSE RCVD
 NON-I FRAME RECEIVED
 NOT INITIALIZED
 OTHER HARDWARE ERROR
 OVERRUN
 PACKET CROSSES PAGE BNDRY
 PARITY CHECK
 PCI
 PRINTER HAMMER ERROR
 PROTECTION CHECK
 RETRY LIMIT EXCEEDED
 SHOULD NOT OCCUR
 SHOULD NOT OCCUR - SENSE
 SHOULD NOT OCCUR - STATUS
 SIO CONDITION CODE 3
 STATUS MODIFIER
 STATUS MODIFIER/BUSY
 TIMEOUT
 TOO MANY BPCP BUFFERS
 UNDERRUN
 UNEXPECTED TRAP OCCURRED
 UNIT CHECK
 UNIT EXCEPTION
 UNKNOWN ERROR
 WRONG CCW DATA
 WRONG CMD ON LINK STARTUP.

注:

1. **CETI - INVALID ACK** の *reason* は、サブシステムが無効な肯定応答指標値を返したので、CETI アーキテクチャーに違反したことを意味します。 *cua* フィールドには、エラーを起こしたデータ・ポート (インバウンド、またはアウトバウンド) のチャンネル装置アドレスが示されます。 *command*、*status* および *sense* フィールドには、意味がありません。
2. **CETI - SHOULD NOT OCCUR** の *reason* は、サブシステムが無効な肯定応答指標値とは別の方法で、CETI アーキテクチャーに違反したことを意味します。 *cua* フィールドには、エラーを起こしたポートのチャンネル装置アドレスが示されます。 *command*、*status* および *sense* フィールドには、意味がありません。
3. **CHANNEL CONTROL CHECK** の *reason* は、リカバリー不能なエラーがサブシステムに起こったことを意味します。その後で、LAN 大ノードの下で回線を活動化しようとして、その試みが失敗した場合は、トークンリング・サブシステムの初期マイクロコード・ロード (IML) が必要になる場合があります。
4. **MISSING ATTENTION** の *reason* は、初期設定の完了時に、アテンション割り込みが割り込みポートで受信されなかったことを意味します。この場合、*command*、*status* および *sense* コードは、意味がありません。

5. **MISSING CHANNEL END** の *reason* は、次のうちの 1 つが完了したことを通知するための、チャンネル終了、または装置終了が受信されなかったことを意味します。
 - ポートのいずれかにおける、SENSE ID チャンネル・プログラム
 - 割り込みポートの初期設定中の IWRITE チャンネル・プログラム
 - ポートのいずれかにおける、SENSE チャンネル・プログラム (エラーが検出された後)

MISSING CHANNEL END メッセージの場合は、チャンネル・プログラム中の最初に開始された、コマンド・ワードのコマンド・コードが *command* フィールドに示されます。 *status* と *sense* フィールドは使用されません。

6. **NORMAL END** の *reason* は、受信されるはずのない時に **NORMAL END** が受信されたことを意味します。
7. *reason* の値の多くは、サブチャンネル状況、または装置状況の状態を示しています。サブチャンネルおよび装置状況条件については、「IBM System/370 Extended Architecture: Principles of Operation」を参照してください。

command は、チャンネル・コマンド・ワードのコマンド・コード (16 進数) です。

注: *command* は、このメッセージが、X.25 の I/O エラーを示すものであるときにはセットされません。

status は、チャンネル状況ワードに入っている状況情報 (16 進数) です。

sense は、センス・バイトです。センス・バイトは、装置によって異なります。 *sense* の値については、適切なハードウェア情報を参照してください。

システムの処置: システムは、エラー理由コードに応じた様々な処置をとります。

オペレーターの応答: メッセージを出す原因となったエラーに対する、インストール先作成の手順に従ってください。後で問題判別をするときのために、メッセージが出されたことと、その原因となった状態を記録しておいてください。

オペレーティング・システムの保守援助プログラムから出された出力を収集してください。EREP の使用について詳しくは、「EREP User's Guide and Reference」を参照してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

適切なハードウェア情報から *sense* の値を指定してください。プログラマーの応答: エラー理由コードと、オペレーターから提供された出力を調べて、適切な訂正を行ってください。

IST4471 BUFFER SIZE WAS IGNORED FOR ONE OR MORE POOLS

説明: プログラマーが、バッファー・サイズを指定できないプールにバッファー・サイズを指定すると、VTAM はこのメッセージを出します。指定できるバッファー・サイズは IOBUF だけです。

システムの処置: 無効なバッファー・サイズは、無視されました。デフォルトのサイズが使用されました。VTAM 始動プロセスは、継続します。

IST448I

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: IOBUF にバッファのサイズを指定してください。

IST448I *option* OPTION IGNORED - *reason*

説明: VTAM 開始オプションの処理中、または *option* の処理中にエラーが発生したために、DISPLAY VTAMOPTS か MODIFY VTAMOPTS コマンドを出すと、VTAM はこのメッセージを出します。

option は無視された開始オプションです。

reason は問題の原因を示し、これはエラーが発生したときに判別されます。

- VTAM 開始オプションの処理中にエラーが発生した場合、*reason* は以下のいずれです。

INSUFFICIENT STORAGE

指定された開始オプションを処理するのに十分な共通ストレージ、または専用ストレージが割り振られていません。

NO LONGER SUPPORTED

開始オプションが、VTAM の現在のバージョンではサポートされていません。

NOT A USS TABLE

USSTAB 開始オプションで指定されたテーブルが、USS テーブルではありません。

NOT SUPPORTED FOR CLIENT/SERVER

開始オプションが、VTAM クライアント/サーバー機能レベルではサポートされていません。

NOT SUPPORTED FOR MULTIDOMAIN

開始オプションが、VTAM マルチドメイン機能レベルではサポートされていません。

VALID ONLY FOR ICN OR MDH

この開始オプションは交換ネットワーク・ノードまたは移行データ・ホストに対してだけ有効です。

VALID ONLY FOR NETWORK NODE OR MDH

この開始オプションはネットワーク・ノードまたは移行データ・ホストに対してだけ有効です。 またこれは、APPN 機能しかサポートしないエンド・ノードでも無効です。

VSE 31-BIT SUPPORT NOT AVAILABLE

VSE 31 ビット・サポートがないため、IOBUF31=YES 開始オプションはサポートされません。

VTAM PTF UD52964 がインストールされたが、システムに z/VSE 31 ビット・サポートがない (VSE リリースが z/VSE 3.1 より前か、z/VSE 3.1 で z/VSE 3.1 PTF UD52873 (AF ベース) または UD52874 (生成機能) がない場合) 場合、VTAM では、IOBUF31 開始オプションに 'YES' を設定できません。VTAM の初期化時に、VTAM がこの監視プログラム・サポートがないことを検出し、かつ 'IOBUF31=YES' が指定されていた場合に、このメッセージが表示されます。

- DISPLAY VTAMOPTS コマンドを出してエラーが発生した場合は、*reason* は以下のいずれかになります。

CANNOT BE DISPLAYED

この開始オプションは、DISPLAY VTAMOPTS コマンドには無効です。

HAS NOT BEEN MODIFIED

FORMAT=MODIFIED がコマンドに指定されているために、この開始オプションは表示されません。また、VTAM が初期設定されているためにこの開始オプションは修正されませんでした。

UNRECOGNIZED OPTION

option は有効な VTAM 開始オプションではありません。

- MODIFY VTAMOPTS コマンドに対する応答の場合、*reason* は次のいずれかです。

CANNOT BE MODIFIED

この開始オプションは、MODIFY VTAMOPTS コマンドには無効です。

INSUFFICIENT STORAGE

コマンドを処理するために十分なストレージが、割り振られていません。

SPECIFIED VALUE NOT VALID

この開始オプションに指定された値は、このオプションの値としては無効です。

UNRECOGNIZED OPTION

option は有効な VTAM 開始オプションではありません。

VALID ONLY FOR A NETWORK NODE

この開始オプションは、ネットワーク・ノードの構成にしか適合しないので、MODIFY VTAMOPTS コマンドには無効です。 この開始オプションを修正可能にするために、この VTAM をネットワーク・ノードとして構成しなければなりません。

VALID ONLY FOR AN APPN NODE

この開始オプションは、APPN の構成にしか適合しないので、MODIFY VTAMOPTS コマンドには無効です。 この開始オプションを修正可能にするためには、この VTAM をネットワーク・ノード、エンド・ノードまたは移行データ・ホストとして構成しなければなりません。

VALID ONLY FOR ICN OR MDH

この開始オプションは、交換ネットワーク・ノードまたは移行データ・ホストの構成にしか適合しないので、MODIFY VTAMOPTS コマンドには無効です。

VALID ONLY FOR NETWORK NODE OR MDH

この開始オプションは、ネットワーク・ノードまたは移行データ・ホストの構成にしか適合しないので、MODIFY VTAMOPTS コマンドには無効です。 またこれは、APPN 機能しかサポートしないエンド・ノードでも無効です。 この開始オプションを修正可能にするためには、この VTAM をネットワーク・ノードまたは移行データ・ホストとして構成しなければなりません。

システムの処置:

- VTAM 開始オプションの処理
 - *reason* が NOT A USS TABLE の場合、VTAM は、弊社が提供するデフォルト USS テーブルを使用します。

- 他のすべての *reason* の場合、VTAM はこの開始オプションを無視しますが、VTAM 開始オプションの処理は継続します。
- DISPLAY VTAMOPTS コマンド
 - VTAM はこの開始オプションを表示しません。
- MODIFY VTAMOPTS コマンド
 - VTAM はこの開始オプションを無視します。他に有効なオプションが MODIFY VTAMOPTS コマンドに指定されている場合、コマンドの処理は継続します。

オペレーターの応答:

- VTAM 開始オプションの処理
 - **INSUFFICIENT STORAGE** の場合、VTAM が初期設定されている場合、少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、共通ストレージについての情報を表示してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。
 - VTAM の初期設定が失敗した場合は、システム・ログを保管して問題を判別してください。
 - その他の *reason* の場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

VTAM を始動するのに使用した開始オプションを提供してください。

- DISPLAY VTAMOPTS コマンド
 - **CANNOT BE DISPLAYED** または **UNRECOGNIZED OPTION** の場合、*option* が正しく入力されていることを確認してください。DISPLAY VTAMOPTS コマンドに有効なオプションを検査するには、「VTAM Operation」を参照してください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンド
 - **INSUFFICIENT STORAGE** の場合、少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、すべての VTAM 専用ストレージについての情報を表示してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。
 - **SPECIFIED VALUE NOT VALID** の場合、*option* が正しく入力されていることを確認してください。この開始オプションに有効な値を調べるには、「VTAM Operation」を参照してください。
 - **UNRECOGNIZED OPTION** の場合、*option* が正しく入力されていることを確認してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドに有効なオプションを検査するには、VTAM Operation を参照してください。
 - **VALID ONLY FOR A NETWORK NODE** の場合、システム・ログを保管して、問題を判別してください。VTAM の初期設定中、または DISPLAY VTAMOPTS コマンドを出した場合に、メッセージ IST1348I が出力され、この VTAM のノード・タイプが表示されます。

メッセージ IST1348I に表示されたノード・タイプが、**NETWORK NODE** または **INTERCHANGE NODE** の場合、この VTAM はネットワーク・ノードです。

- **VALID ONLY FOR AN APPN NODE** の場合、システム・ログを保管して、問題を判別してください。VTAM の初期設定中、または DISPLAY VTAMOPTS コマンドを出した場合に、メッセージ IST1348I が出力され、この VTAM のノード・タイプが表示されます。メッセージ IST1348I に表示されたノード・タイプが **END NODE**、**INTERCHANGE NODE**、**MIGRATION DATA HOST** または **NETWORK NODE** の場合、この VTAM は APPN ノードです。それ以外のノード・タイプの場合、このノードは **SUBAREA NODE** です。
- **VALID ONLY FOR ICN OR MDH** の場合、システム・ログを保管して、問題を判別してください。VTAM の初期設定中、または DISPLAY VTAMOPTS コマンドを出した場合に、メッセージ IST1348I が出力され、この VTAM のノード・タイプが表示されます。メッセージ IST1348I に表示されたノード・タイプが、**INTERCHANGE NODE** または **MIGRATION DATA HOST** の場合、この開始オプションが、この VTAM で修正できます。
- **VALID ONLY FOR NETWORK OR MDH** の場合、システム・ログを保管して、問題を判別してください。VTAM の初期設定中、または DISPLAY VTAMOPTS コマンドを出した場合に、メッセージ IST1348I が出力され、この VTAM のノード・タイプが表示されます。メッセージ IST1348I に表示されるノード・タイプが **NETWORK NODE**、**INTERCHANGE NODE**、または **MIGRATION DATA HOST** である場合は、この開始オプションは、この VTAM で修正できます。

プログラマーの応答:

- VTAM 開始オプションの処理
 - **INSUFFICIENT STORAGE** の場合、必要に応じてストレージを増やしてください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して、開始オプション SGALIMIT および SGA24 を修正することができます。
 - **NOT A USS TABLE** の場合、有効な USS テーブルの名前をオペレーターに伝えてください。オペレーター・メッセージおよびコマンドに使用する USS テーブルを変更するには、ID=ISTNOP を指定した MODIFY TABLE コマンドを入力することができます。
 - **VSE 31-BIT SUPPORT NOT AVAILABLE** で、z/VSE 3.1 が稼働している場合、APAR DY46396 (PTF UD52873 (AF ベース) または UD52874 (生成機能)) をインストールしてください。稼働している VSE が z/VSE 3.1 より前の場合、z/VSE 3.1 と APAR DY46396 (PTF UD52873 (AF ベース) または UD52874 (生成機能)) をインストールしてください。
- DISPLAY VTAMOPTS コマンド
 - なし。
- MODIFY VTAMOPTS コマンド
 - **INSUFFICIENT STORAGE** の場合、必要に応じてストレージを増やしてください。

- **VALID ONLY FOR A NETWORK NODE** の場合、システム・ログを調べて、出されたコマンドと定義ステートメント (適切な場合) を訂正してください。この VTAM をネットワーク・ノードとして構成するには、開始処理中に `NODETYPE=NN` を指定してください。
- **VALID ONLY FOR AN APPN NODE** の場合、オペレーターのシステム・ログを調べて、出されたコマンドと定義ステートメント (適切な場合) を訂正してください。この VTAM を APPN ノードとして構成する場合、開始処理中に `NODETYPE=NN` または `NODETYPE=EN` を指定してください。
- **VALID ONLY FOR ICN OR MDH** の場合、オペレーターのシステム・ログを調べて、出されたコマンドと定義ステートメント (適切な場合) を訂正してください。この VTAM を交換ネットワーク・ノードとして構成するには、開始処理中に `NODETYPE=NN` と `HOSTSA=n` を指定してください。この VTAM を移行データ・ホストとして構成するには、開始処理中に `NODETYPE=EN` と `HOSTSA=n` を指定してください。
- **VALID ONLY FOR NETWORK OR MDH** の場合、オペレーターのシステム・ログを調べて、出されたコマンドと定義ステートメント (適切な場合) を訂正してください。この VTAM をネットワーク・ノードとして構成するには、開始処理中に `NODETYPE=NN` を指定してください。この VTAM を移行データ・ホストとして構成するには、開始処理中に `NODETYPE=EN` と `HOSTSA=n` を指定してください。

IST449I *limitname = {csa|sga}, CURRENT = current, MAXIMUM = maxlevel*

説明: このメッセージは、DISPLAY BFRUSE コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。

このメッセージ・サブグループは、システム GETVIS 域 (SGA) についての情報を表示します。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST449I  limitname = sga, CURRENT = current,
          MAXIMUM = maxlevel
IST790I  MAXIMUM type    USED = maxK
IST595I  IRNLIMIT = irnlimitK, CURRENT=currentirnK
          MAXIMUM = maximumirnK
IST981I  VTAM PRIVATE: CURRENT = currentK,
          MAXIMUM USED = maximumK
IST314I  END
```

注:

1. 値はキロバイトで表されます。
2. DISPLAY BFRUSE コマンドで使用される専用ストレージは、VTAM のストレージ管理サービスが割り振る専用ストレージによって異なります。このストレージは、VTAM のオブジェクト・コードのストレージや、出口ルーチンなどの非 VTAM コードのストレージは反映しません。

IST449I

- *limitname* は **SGALIMIT** (この要求では SGA 制限が設定されます) または **SGA24 LIMIT** (この要求では 24 ビット・アドレス可能ストレージに SGA 制限が設定されます) のいずれかです。

sga は VTAM が使用できる SGA の特定タイプの最大量です。要求されるストレージの量は制限されますが、*sga* は **NO LIMIT** の場合もあり、この場合には VTAM は可能な限り多くの量のストレージを要求することができます。

current は現在の VTAM SGA 割り振りです。

maxlevel は、最後の DISPLAY BFRUSE コマンドが出されてからの最大の SGA 割り振りです。

IST790I

- *type* は次のいずれかです。

SGA	31 ビット・アドレス可能システム GETVIS 域
SGA24	24 ビット・アドレス可能システム GETVIS 域

maxK は、VTAM が開始してからこれまでに使用された *type* の最大量です。

IST595I

- *irnlimit* は、中間ルーティング・ノードのスローダウン通信量に使用される VTAM ストレージの最大量です。

currentirn は、中間ルーティング・ノードのスローダウン通信量で現在使用されているストレージの量です。

maximumirn は、最後の DISPLAY BFRUSE コマンドが出されてからの最大割り振りレベルです。

IST981I

- *currentK* は、現在使用されている VTAM 専用ストレージの量です。これは、VTAM モジュールのロードに必要な専用ストレージの量は反映していません。

maximumK は、VTAM が開始されてからこれまでに使用された VTAM 専用ストレージの最大量です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: データを検査して、さらに処置を行う必要があるかどうかを判断してください。

現在の割り振りが限界量に近い場合、システム構成やワークロードに著しい修正を行うのは合理的とは言えない場合もあります。問題判別のためシステム・ログを保管してください。プログラマーの応答: システム構成やワークロードに著しい変更を加える前に、このデータを検査してください。このデータを使用して、ストレージ必要量が満たされており、SGA が VTAM のストレージ・リソースの管理で効果的に使用されていることを確認してください。

IST450I **INVALID command COMMAND SYNTAX**

説明: *command* に無効な構文があると、VTAM はこのメッセージを出します。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。構文エラーがあるために VTAM がコマンドを判別できない場合は、このメッセージに表示される *command* フィールドは空白になります。システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: 正しい構文でコマンドを再入力してください。正しい構文については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST450I,1) を指定しなければなりません。これで、IST450I と USS メッセージ 1 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST451I *command* **COMMAND UNRECOGNIZED,**
PARAMETER=parameter

説明: VTAM は、パラメーターの指定された *command* がこのオペレーティング・システムではサポートされていない場合に、このメッセージを出します。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: VTAM は *command* を拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。正しい構文については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST451I,2) を指定しなければなりません。これで、IST451I と USS メッセージ 2 が同一であることが、運用レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST452I *parameter* **PARAMETER EXTRANEIOUS**

説明: 認識されないパラメーター *parameter* がオペレーター・コマンドに指定されると、VTAM はこのメッセージを出します。コマンドに入力された別のパラメーターと矛盾する場合にも、パラメーターが無効となることがあります。

注:

1. 矛盾する動詞がコマンドに指定されているために、このメッセージが出される場合もあります。例えば、**ACT** と **INACT** は、以下のコマンドでは矛盾します。
V ACT,INACT,ID=*name*
2. パラメーターは、パラメーターとリソース・タイプの別の組み合わせによっては、有効になる場合があります。
3. オペレーター・コマンドのパラメーターが、コマンドで提供された順序では処理されません。
4. 最初の定位置キーワード・パラメーターの前にあるコマンドの定位置パラメーターは、すべて **P1** で始まり、**Px** とラベル付けされます。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。正しい構文については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST452I,3) を指定しなければなりません。これで、IST452I と USS メッセージ 3 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター

・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST453I *parameter* **PARAMETER VALUE INVALID**

説明: オペレーター・コマンドに *parameter* が指定され、その値が無効であると、VTAM はこのメッセージを出します。

このメッセージが出される原因としては、以下のことが考えられます。

- *parameter* に指定された値がネットワーク名である場合、名前が定義されていないか、またはリソースが非活動化されていない場合があります。
- *parameter* に指定された値がネットワーク名でコマンドに IDTYPE も指定された場合、このメッセージは以下の場合に表示されます。
 - ネットワーク名 *parameter* が存在しない。
 - ネットワーク名 *parameter* が正しくても、コマンドに指定された IDTYPE が指定されていない。

注:

1. このパラメーターは、パラメーターとリソース・タイプの別の組み合わせでは有効な場合があります。
2. オペレーター・コマンドのパラメーターは、コマンドに入力した順番では処理されません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: コマンドを正しく入力したかどうか確認してください。コマンドおよびコマンド構文の追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST453I,4) を指定しなければなりません。これで、IST453I と USS メッセージ 4 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST454I *command* **COMMAND FAILED,**
INSUFFICIENT STORAGE

説明: 十分なストレージが使用できないために、*command* を正常に処理できません。ストレージ不足のために、VTAM がコマンドを判別できない場合は、メッセージの *command* 部分はヌルです。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。

- DISPLAY BFRUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」および「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST455I • IST459I

- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST454I,8) を指定しなければなりません。これで、IST454I と USS メッセージ 8 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

IST455I *parameters* SESSIONS ENDED

説明: VARY TERM コマンドが入力された結果、VTAM が LU-LU セッションを終了しました。NOTIFY=YES が指定されたか、デフォルト指定されました。*parameters* は、VARY TERM コマンドのパラメーターで、常にネットワークで修飾されます。例:

LU1=NETC.APPC2 SESSIONS ENDED

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST455I,11) を指定しなければなりません。これで、IST455I と USS メッセージ 11 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

IST456I *keyword* REQUIRED PARAMETER OMITTED

説明: VTAM は、オペレーター・コマンドに必要なパラメーターが指定されていない場合に、このメッセージを出します。

判別できる場合、*keyword* は、指定されなかったパラメーターです。その他の場合、*keyword* は、正しく入力されなかったコマンドの名前になります。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを訂正して、再入力してください。VTAM コマンドおよびパラメーターの詳細については、「VTAM *Operation*」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST456I,12) を指定しなければなりません。これで、IST456I と USS メッセージ 12 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM *Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST457I *POSITIVE command* COMMAND RESPONSE

説明: VTAM が、VARY TERM コマンド *command* を受諾しました。これが適用されるセッションが存在しないか、または適用されるすべてのセッションについて、要求に従ってセッション終了処理が行われます。いずれの場合も、NOTIFY=YES

パラメーターが指定されている場合は、適用されるすべてのセッションが終了したときに (または、適用されるセッションがない場合は直ちに)、VTAM が、メッセージ IST455I を出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST457I,0) を指定しなければなりません。これで、IST457I と USS メッセージ 0 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM *Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST458I *USS MESSAGE number* NOT DEFINED

説明: このプログラム・オペレーター・アプリケーション・プログラム (POA) をサポートするユーザー定義不定様式システム・サービス (USS) テーブルに、USS メッセージ *number* のテキストを定義する USSMSG マクロ命令が含まれていません。

システムの処置: *number* が 0 か 11 であれば、コマンドは正常に完了しています。それ以外の場合、VTAM はコマンドを実行しません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 必要なメッセージを、ユーザー定義 USS テーブルに追加してください。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST458I,14) を指定しなければなりません。これで、IST458I と USS メッセージ 14 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM *Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST459I *command FAILED - ID = nodename - ADJ NODE adjnode reason*

説明: *nodename* に対する *command* は、隣接ノード *adjnode* のエラーのため、失敗しました。

reason は次のいずれかです。

INVALID

この *reason* は、以下の状況で起こります。

- リンク・ステーション *nodename* が、PU タイプ 4 でも、PU タイプ 5 でもない隣接ノード *adjnode* に接続していました。
- 通信コントローラー *nodename* が、ロード、またはダンプに対してリンク・ステーション *adjnode* を指定しましたが、*adjnode* は、リンク・ステーションではなく、あるいは NCP *nodename* と関連してなく、交換回線リンク・ステーションでもありません。
- リンク・ステーションが見つかりませんでした。

CANNOT BE DEFINED

リンク・ステーション *nodename* が、VTAM に対して未

定義の隣接ノード *adjnode* に接続を試みました。VTAM は、ストレージ不足のため、この隣接ノードを定義できませんでした。

STATE *statename* INVALID

通信コントローラー *nodename* のロード、またはダンプを行うためのロード/ダンプ・ステーションとして、リンク・ステーション *adjnode* が選択されましたが、このリンク・ステーションは、現在の状態 *statename* では、ロード、またはダンプに使用できません。

CA/NCP CONFLICT

活動化されているリンク・ステーション *nodename* が、NCP *adjnode* と関連する通信アダプター SDLC リンク・ステーションです。(VTAM は、通信アダプターが、通信アダプター SDLC リンクを通じて行う NCP の接続、またはチャネル・アダプター SDLC リンク、あるいは非通信アダプター SDLC リンクを通じて行う NCP の活動を許可しますが、その両方を同時には許可しません。)

UNAVAILABLE

リンク・ステーション *nodename* が、NCP *adjnode* に関連していません。

システムの処置: VTAM はノードを非活動化し、コマンドは拒否されます。

オペレーターの応答:

INVALID

リンク・ステーション *nodename* を活動化してください。次に *command* を入力するか、再入力してください。ただし、コマンドにロード、あるいはダンプ・ステーションを指定しないでください。(VTAM に選択させてください。)

CANNOT BE DEFINED

しばらくしてから、リンク・ステーションを活動化してください。DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

STATE *statename* INVALID

リンク・ステーション *nodename* を活動化してください。次に *command* を入力するか、再入力してください。ただし、コマンドにロード、あるいはダンプ・ステーションを指定しないでください。(VTAM に選択させてください。)

CA/NCP CONFLICT

DISPLAY ID コマンドを、*adjnode* に対して入力してください (*adjnode* は、*nodename* に隣接する NCP です)。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

UNAVAILABLE

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

INVALID

隣接ノードを調べて、問題の原因を判別してください。

CANNOT BE DEFINED

必要に応じてストレージを増やしてください。

- DISPLAY BFRUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」および「VTAM Diagnosis」を参照してください。

- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

STATE *statename* INVALID

隣接ノードを調べて、問題の原因を判別してください。

CA/NCP CONFLICT

adjnode によって表された NCP を、通信アダプター SDLC リンク・ステーションを通じて接続したい場合は、NCP を非活動化するために、*adjnode* に対して VARY INACT コマンドを出すように、オペレーターに依頼してください。オペレーターは *nodename* に対して VARY ACT コマンドを出すことによって、通信アダプター SDLC リンク・ステーションを通じて、*adjnode* で表された NCP を接続させることができる可能性があります。

UNAVAILABLE

DISPLAY STATIONS コマンドを入力し、*adjnode* に関する出力を検討してください。リンク・ステーション *nodename* が、隣接 NCP *adjnode* に生成されていない可能性があります。その場合は、結果的に使用不能です。

これは、VTAM エラーです。問題が再発する場合は、弊社のソフトウェア・サービス・センターに連絡してください。

IST460I *command* FOR U/RNAME ENTRY ID =
nodename FAILED: *reason*

説明: *nodename* に対するコマンド *command* が、以下のいずれかの理由で失敗しました。

- U あるいは、RNAME オペランドが、通信コントローラーに対する VARY ACT コマンドに指定されていました。
- U あるいは、RNAME オペランドが、通信コントローラー・デッキ内に定義されていて、通信コントローラーが活動化されたときに、処理されました。

reason は次のいずれかです。

ALREADY CONNECTED

RNAME リストに指定されたリンク・ステーションが、他の通信コントローラーとして接続しているか、または接続しようとしています。

INSUFFICIENT STORAGE

ストレージ不足のため、VTAM は、チャネル装置アドレスを表すダミー・リンク・ステーション、または VTAM の認知していないリンク・ステーションを構築できませんでした。

STATE *state* INVALID

RNAME リストに指定されたリンク・ステーション、またはそれより高位のノードの現在の状態が、もはや適切な状態ではありません。例えば、ノードが非活動化処理の過程にあるか、またはエラー・リカバリー処理中であるといった場合です。*state* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

NODE CANNOT BE DEFINED

VTAM は、重複名、チャネル装置アドレス、または VTAM に認知されていないリンク・ステーションを定義できませんでした。

NODE INVALID

RNAME リストに指定されたノードが、チャネル・アダプター、SDLC リンク、またはリンク・ステーションではありませんでした。

NO SWITCHED LINK AVAILABLE

交換回線リンク・ステーション接続が、交換サブエリアが使用不能なために、確立できませんでした。

システムの処置: VTAM は、U または RNAME 項目の活動を中止します。

オペレーターの応答:

INSUFFICIENT STORAGE

DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

STATE *state* INVALID

ノード (またはその高位ノード) を非活動化してください。それから、ノード (またはその高位ノード) を活動化してください。

NO SWITCHED LINK AVAILABLE

通信コントローラーに対する VARY ACT コマンドが処理された後に、交換回線大ノードを活動化してください。交換回線大ノードが、通信コントローラーの前に活動化された場合は、最初に、通信コントローラーを活動化してから、交換回線大ノードを活動化してください。どのような場合でも、U または RNAME 項目 *nodename* を表示して、問題を判別してください。

開始オプション、または定義リストのエラーについては、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: 生成済みの RNAME リスト、または通信コントローラーの活動化のためにオペレーターに与えた RNAME リストに、通信コントローラーに接続されるべき、正しいリンク・ステーション名が含まれていること確認してください。

INSUFFICIENT STORAGE

VTAM 始動時に、より多くのストレージを指定してください。バッファー・プールまたは SGA 開始オプションを再定義する必要がある場合があります。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

NO SWITCHED LINK AVAILABLE

nodename に対する経路定義が使用可能で、CALL=OUT または CALL=INOUT がコーディングされていることを確認してください。

開始オプション、または定義リストのエラーについては、VTAM に対するすべての要求が、システムに適合していることを確認してください。エラー状態を訂正したら、オペレーターにコマンドを再入力するように依頼してください。

**IST461I ACTIVATE FOR U/RNAME ENTRY ID =
nodename STARTED**

説明: 通信コントローラーに出された VARY ACT コマンドが、*nodename* をコマンドの RNAME オペランド、または生成された値 U として指定しました。

システムの処置: U または RNAME 項目 *nodename* のリンクが活動状態であれば、*nodename* の活動化が開始されます。リンクが非活動状態の場合は、まず最初にそのリンクが活動化され、次に *nodename* が活動化されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST462I ACTIVATION OF LINK STATION
nodename IS DEFERRED PENDING
HIGHER LEVEL NODE ACTIVATION**

説明: 活動化中の通信コントローラーの RNAME リストに *nodename* が指定されました。 *nodename* を含む通信コントローラーは VTAM に認知されていないため、VTAM は *nodename* を活動化できません。

システムの処置: VTAM は活動化処理を保留しました。

nodename を含む通信コントローラーが活動化されるときに、*nodename* を活動化します。

オペレーターの応答: *nodename* を含む通信コントローラーを接続したい場合は、その通信コントローラーに VARY ACT コマンドを出してください。接続したくない場合は、*nodename* に対して VARY INACT コマンドを出してリンク・ステーションを非活動化してください。

プログラマーの応答: なし。

**IST464I LINK STATION *nodename1* HAS
CONTACTED *nodename2* SA *subarea***

説明: リンク・ステーション *nodename1* は、サブエリア *subarea* 内のノード *nodename2* に正常に接続しました。 *nodename2* がブランクで、*subarea* がゼロの場合、VTAM は、別のネットワークのサブエリア・ノードに接続しました。この VTAM ノードは、ゲートウェイ機能を持たないため、ネットワークと、接続したノードのサブエリア・アドレスを識別することができません。リンク・ステーションが、CTD1 状態で、NCP リンク・ステーション・キューにない場合、VTAM は、リンク・ステーションをキューイングするダミー NCP を獲得できません。したがって、*nodename2* はブランク、*subarea* はゼロとなります。 *nodename2* は、VTAM と VTAM との接続では、***NA*** です。

システムの処置: VTAM はリンク・ステーションを活動化します。

オペレーターの応答: VTAM が、他のネットワークのサブエリア・ノードと接続している場合、接続しておく必要がなければリンク・ステーションを非活動化してください。

プログラマーの応答: なし。

IST465I *command* FOR ID = *nodename* FAILED —
 NO {LOAD|DUMP|LINK} STATION
 AVAILABLE

説明: 必要なロード、ダンプ、またはリンク・ステーションが、以下のいずれかの理由で使用できないために、*nodename* に対する *command* が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

1. VTAM はデフォルトのダンプまたはロード・ステーションを選択しようとしたが、どのステーションも使用可能ではなかった。
2. ロードまたはダンプ処理が行われている間に、ロードまたはダンプ・ステーションが非活動化された。
3. VTAM が VARY ACT コマンドを出して、*nodename* といずれかのリンク・ステーションとの接続を確立しようとしたが、できなかった。

システムの処置: VTAM は *nodename* を非活動化し、コマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: *nodename* およびすべてのリンク・ステーションを表示し、つづりと状況を調べてください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

- 理由が 1 と 2 の場合は、VTAM にデフォルトのロードまたはダンプ・ステーションを選択させてください。
- 理由が 3 の場合は、まず最初にリンク・ステーションを活動化し、次に通信コントローラーを活動化するためのコマンドを出し直してください。

VTAM は、通信コントローラーとの接続関係を確立できなかったそれぞれのリンク・ステーションにも別のエラー・メッセージを出します。それらのメッセージも参照してください。
 プログラマーの応答: RNAME リスト内のリンク・ステーションが有効であるか、また通信コントローラーとの接続関係を確立するために使用できるかどうかを調べてください。必要であれば、RNAME リストを訂正してください。

IST466I *command* FOR ID = *controller* CONTINUES -
 UNABLE TO DO *text*

説明: 通信コントローラー *controller* の非活動化またはリカバリーの処理中に、VTAM は通信コントローラーをロード、ダンプ、またはリモート電源オフ (RMPO) するためのリンク・ステーションを検出できませんでした。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

text は次のいずれかです。

LOAD - NO LINK STATION AVAILABLE
DUMP - NO LINK STATION AVAILABLE
RMPO - NO LINK STATION AVAILABLE

システムの処置: VTAM は *controller* に出された *command* の処理を続行します。ロード、ダンプまたはリモート電源オフ (RMPO) は実行されません。

オペレーターの応答: *controller* とすべてのリンク・ステーションを表示して、状況を調べてください。リンク・ステーションを含む通信コントローラーが使用不能であれば、システム・ログを保管して問題を判別してください。

プログラマーの応答: VARY ACT RNAME リスト上のリン

ク・ステーションを含む通信コントローラーが、使用不能であっても使用可能にする必要があるときには、通信コントローラーをダンプするかしないかを VTAM オペレーターに指示してから、通信コントローラーを再ロードしてください。

IST467I CONTACTED ERROR TYPE *type* FOR ID
 = *nodename*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST467I CONTACTED ERROR TYPE type FOR ID = nodename
[IST468I XID1=xid1
IST469I xid1
:
IST470I XID2=xid2
IST471I xid2
:
IST471I xid2]
IST314I END
```

nodename に関する活動化プロシージャが、CONTACTED RU *error type* に示されているエラーのため、失敗に終わりました。

xid1 は、隣接ノードから受信した XID です。

xid2 は、隣接ノードに送信した XID です。

注:

1. 隣接ノードから受信した XID が、データを含んでいない (XID(NULL)) 場合、VTAM はメッセージ IST468I と IST469I を出しません。
2. *type* が 05、07 と 08 については、VTAM はメッセージに、隣接ノードから受信したデータと、隣接ノードに送信したデータを表示します。
3. XID が 1 つだけ存在する場合、VTAM はすべてのメッセージを表示し、失われた XID データはブランクとして表されます。

type は次のいずれかです。

- 03** 処理中に CONTACT RU エラーが起きました。XID が使用不能です。活動化中のホストとターゲット NCP の間の経路指定が、正しくない可能性があります。
- 05** 交換された XID パラメーターが矛盾します。次の理由が考えられます。
- 伝送グループ番号が一致しないか、または両方のノードで伝送グループ番号が 0 になっている。
 - 隣接 PU が XID パラメーターを受諾できない。
 - これが伝送グループの問題でない場合は、HOSTSA が始動リストにコーディングされていることを確認してください。HOSTSA が始動リストにコーディングされていない場合は、このエラーが発生します。
- 07** 隣接ノードへのルーティング機能がない。
- 08** VTAM が、現在活動状態の TG にリンク・ステーションを追加できない。次の理由が考えられます。
- XID パラメーターは、NCP 多重リンク伝送グループ内の他のリンクとは互換性がありません。

- 同じ 2 つのサブエリアに接続している、同じ TG 番号を持つ別のアクティブ TG がある。サブエリアの 1 つは VTAM ホストです。
- このホストは、現在活動化中のサブエリアと同じ番号の指定された、もう 1 つのノードと接続している。

0B 2.1 境界機能は、PU タイプ 2.0 または 2.1 ノードへの接続順序で、XID エラーを検出しました。

システムの処置: *nodename* の活動化は失敗し、VTAM はこのノードを非活動化します。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログを保管し、大ノード定義を印刷してください。

プログラマーの応答: *type* **03**、**05**、**07**、**08** および **0B** の場合、関連するノードのネットワーク定義が正しいことを確認してください。

また、以下の処置も行ってください。

- *type* **03** は、以下の問題のいずれかを示しています。
 - CONTACT 処理中のリンク・ハードウェア問題です。この場合は、リンクに関するインストール先の問題判別手順に従ってください。
 - 活動化を試みている通信コントローラーの中に、エミュレーター・プログラムがあります。
 - チャネル接続の NCP 側の隣接リンク・ステーションが、活動化されていません。
- *type* **05** については、以下のいずれかです。
 - 適用されるリンクと、リンク・ステーション定義に、互換性があることを確認してください。
 - HOSTSA が、開始リストにコーディングされていることを確認してください。
 - ストレージの問題の場合、IOBUF バッファ・プールに指定された *bufsize* の値を調べてください。このドメインにチャネル接続 NCP がある場合、この値は NCP 定義にある HOST ステートメントの UNITSZ オペランドに使用された値と一致しているか、それよりも大きくなければなりません。*bufsize* 値の説明については、「VTAM Resource Definition Reference」内のバッファ・プール開始オプションについての記述を参照してください。
- *type* **07** については、正しい経路指定定義が、各サブエリア・ノードに提供されていることを確認してください。
- *type* **08** については、適用可能なリンクと、リンク・ステーション定義に、互換性があることを確認してください。このサブエリアへの接続の要約については、DISPLAY STATIONS コマンドを出してください。
- *type* が **0B** の場合は、送信または受信された XID に、追加の CV X'22' が含まれている場合があります。これには、エラーの原因についてのより詳しい情報が記されています。CV X'22' の最後の 4 バイトには、センス・データが入ることがあります。

type が **05**、**07**、**08**、または **0B** の場合、追加の例および問題判別処置については、「VTAM Diagnosis」の共通サブエリア問題の項を参照してください。CV X'22' およびセンス・データ (提供された場合) の解釈に関する追加情報については、「SNA Network Product Formats」を参照してください。

提供された出力からは、問題の原因が判別できないために、さらに援助が必要である場合は、IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST468I XID1=*xid1*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。最初のメッセージは IST467I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST469I *xid1*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。最初のメッセージは IST467I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST470I XID2=*xid2*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。最初のメッセージは IST467I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST471I *xid2*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。最初のメッセージは IST467I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST473I CONNECTIVITY TEST TO *terminalname* TERMINATED AFTER *n* ECHOES DUE TO I/O ERROR, SENSE = *code*

説明: *terminalname* によって入力された IBMTEST コマンドで開始された端末 *terminalname* に対するホスト接続 (エコー) テストは中止されました。

code はセンス・コードで、エラーの原因を示します。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

n は、I/O エラーが発生する前に、要求されたデータが *terminalname* に送信された回数を示す 10 進数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: これは、おそらくハードウェア・エラーです。エラーの原因を判別し、必要であればコマンドを再入力してください。リンク・エラーの場合は、インストール問題判別手順に従ってください。

IST474I NO SUBTASK FOUND FOR THE ID SPECIFIED ON MODIFY MSG COMMAND

説明: オペレーターによって MODIFY MSG コマンドが入力されましたが、コマンドには VTAM に認知されている活動中のサブタスクのフェーズ名が指定されていませんでした。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: VTAM に認知されているサブタスク名を指定して、コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST475I *command FAILED FOR nodename REQUEST
runame SENSE code*

説明: VTAM が、*nodename* に対する *command* を完了させられません。要求単位 *runame* の処理中にエラーが起きました。

command および *runame* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

code はセンス・コードで、失敗した理由を示します。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: 失敗の原因を訂正できる場合は、訂正を行った上で、コマンドを再入力してください。*nodename* が他のドメインのリソースである場合は、エラーが両方のドメインで起こる可能性があります。

例えば、

- **ACTIVATE FAILED FOR *cdmname* REQUEST
ACTCDRM SENSE 08120000:**
 - SSCP-SSCP セッションの活動化が、他のドメインからの ACTCDRM 要求によって開始されましたが、このドメインのストレージが不十分であったために、失敗しました。
 - オペレーターは、*cdmname* に対して VARY ACT コマンドを出すことによって、このドメインでの活動化を再始動することが可能です。
 - 活動化がいつまでも成功しない場合。
 - MODIFY SGALIMIT コマンドを使用して、システム GETVIS 域 (SGA) を増やしてください。
 - 他のネットワーク・リソースを非活動化して、必要なストレージを獲得してください。
- **ACTIVATE FAILED FOR *cdmname* REQUEST
ACTCDRM SENSE 084E0000:**
 - SSCP-SSCP セッションの活動化が、ACTCDRM 要求、または応答の NETID が、CDRM 定義にコーディングされた NETID と一致しないために、失敗しました。
- **ACTIVATE FAILED FOR *cdmname* REQUEST
ACTCDRM SENSE 08810000:**
 - このホストがゲートウェイ・ホストではないのに、オペレーターがゲートウェイ SSCP として、*cdmname* に対して、VARY ACT コマンドを出した場合は、ゲートウェイ NCP が、ゲートウェイ SSCP に REQACTCDRM を送信します。その後、ゲートウェイ SSCP は、SSCP-SSCP セッションを活動化しようとします。
 - このホストが、ゲートウェイ・ホストで、バック・ツリー・バック構成になっている場合、ゲートウェイ NCP は、他のゲートウェイ・ホストに REQACTCDRM を送って、SSCP-SSCP セッションが確立されるようにします。

ストレージが問題である場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。そうでない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターから提供された出力を参考にして、障害の原因を判別してください。

ストレージに問題がある場合は、必要に応じてストレージを増やしてください。

- DISPLAY BFRUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」および「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

エラー状態を訂正したら、オペレーターにコマンドを再入力するように依頼してください。

IST476I **CDRM TYPE = {HOST|EXTERNAL} [,
GATEWAY CAPABLE]**

説明: このメッセージは、クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) に出された DISPLAY ID コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、CDRM がホストの内部にあるのか (HOST)、それとも外部にあるのか (EXTERNAL) を示しています。

もし HOST と表示され、しかもこの CDRM がゲートウェイ機能を行うことが可能であれば、GATEWAY CAPABLE と表示されます。そうでなければ、その他のパラメーターは表示されません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST477I **CDRMS:**

説明: このメッセージは、クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) 大ノードに出された DISPLAY ID コマンド、または DISPLAY CDRMS コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループのヘッダー・メッセージです。1 つまたはそれ以上の IST482I メッセージが後に続き、大ノード内の CDRM 小ノードをリストします。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST478I **CDRSCS:**

説明: このメッセージは、クロスドメイン・リソース管理 (CDRSC) 大ノードに出された DISPLAY CDRSCS コマンドに回答して VTAM が出したメッセージ・グループの一部です。この見出しメッセージに続いてメッセージ IST483I が出力され、VTAM に対して定義されているクロスドメイン・リソースのうち、CDRM によって管理されているもの、または表示されている CDRSC 大ノードの一部であるものがリストされます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST479I CDRM NAME = *cdrmname*, VERIFY OWNER = {YES|NO}

説明: このメッセージは、クロスドメイン・リソース (CDRSC) に出された DISPLAY ID コマンドに回答して VTAM が出したメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、表示が要求された CDRSC を所有するクロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) を示しています。その CDRSC が CDRM に定義されていなければ、*cdrmname* は *****NA***** になります。

CDRSC のオーナー検証は任意です。またそれは CDRSC の定義内の VFYOWNER キーワードで行われます。

VERIFY OWNER = YES は、オーナー検証をこのホスト内で行うように指示しています。オーナー検証が実行されると、VTAM は対立する所有者を含んでいるセッション設定要求を拒否します。

VERIFY OWNER = NO は、オーナー検証が必要ないので、VTAM が自動的に CDRSC の CDRM 所有権を変更できることを示しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST482I *cdrmname status*, SA *subarea*, EL *element*, NETID = *cdrmnetid*

説明: このメッセージは、クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) に関する DISPLAY コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、以下のいずれかのコマンドの結果として表示されます。

- クロスドメイン・リソース・マネージャー大ノードに対する DISPLAY ID コマンド
- このドメインに対して定義された、クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRMS) についての情報を要求する DISPLAY CDRMS コマンド。

このメッセージに、CDRM (*cdrmname*)、その状況 (*status*)、そのサブエリア・アドレス (10 進数) (*subarea*) およびそのエレメント・アドレス (10 進数) (*element*) がリストされます。サブエリア・アドレス、またはエレメント・アドレスが得られない場合、*element* は *****NA***** となります。

cdrmnetid は、*cdrmname* のネットワーク ID です。

VTAM は、この大ノードまたはドメイン内の CDRM をすべてリストするために必要な回数だけ、このメッセージを繰り返します。*status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST483I *cdrsname status*, CDRM = *cdrmname*, NETID = *cdrsnetid*

説明: このメッセージは、クロスドメイン・リソース (CDRSC) に関する DISPLAY コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、以下のいずれかのコマンドの結果として表示されます。

- CDRSC 大ノードを指定する DISPLAY ID コマンド
- このドメインに対して定義された、クロスドメイン・リソースについての情報を要求する DISPLAY CDRSCS コマンド。

このメッセージに、リソース名 *cdrsname*、その状況 *status*、および制御 CDRM の名前 *cdrmname* がリストされます。CDRM が得られない場合、*cdrmname* は、*****NA***** となります。

cdrsnetid は、*cdrsname* のネットワーク ID です。NETID が得られない場合、*cdrsnetid* は、*****NA***** となります。

VTAM は、この大ノードまたはドメイン内のクロスドメイン・リソースをすべてリストするために必要な回数だけ、このメッセージを繰り返します。*status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST484I SUBAREA = *subarea* [GATEWAY CONTROL *function_type*]

説明: このメッセージは、PU タイプ 4 に関する情報を表示するために出された DISPLAY ID コマンドに対応して VTAM が出したメッセージ・グループの一部です。

subarea は、リソースのサブエリア番号 (10 進数) です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST486I STATUS= *currentstatus*, DESIRED STATE= *desiredstate*

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出した複数の異なるメッセージ・グループの一部です。

currentstatus は、ノードの現在の状況です。*currentstatus* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

desiredstate は、望ましいノード状況です。*desiredstate* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。VTAM が要求状態を判別できない場合、*desiredstate* は *****NA***** となります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST487I *command2* FOR ID = *nodename* SCHEDULED BY *command1*

説明: VTAM は、*command2* が *nodename* に対してスケジュールされたときに、このメッセージを出します。 *command1* が、*command2* のスケジューリングの責任を果たします。例えば、周辺ノードを明示的に非活動化させると、そのノードの LU が暗黙的に非活動化します。

システムの処置: *command2* の処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST488I *command* FOR ID = *puname* FAILED - DUPLICATE NODE: *luname*

説明: このドメインがすでに活動リソース *luname* を持っているため、VTAM は VARY ACQ コマンドを拒否しました。VTAM は、論理装置 *luname* がこのドメイン内で固有な名前を持つまでは、物理装置 *puname* を獲得できません。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *luname* に対して、DISPLAY ID コマンドを出し、重複した *luname* を見つけてください。

- 大ノードがネットワークに必要なために、このノードを含む大ノードを非活動化できない場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。
- その他の場合は、重複した *luname* の大ノードを非活動化し、VARY ACQ コマンドを再入力してください。

問題が解決されない場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: 重複名をもつリソースが同時に必要な場合には、NCP マクロ命令と、VTAM 定義ステートメントの両方にある、このドメインのリソースの名前を変更してください。このためには、NCP の部分的再生成が必要です。

IST489I *command* FOR ID = *nodename* CONTINUES - CANNOT DEFINE NODE: *name*

説明: *command* の処理中に、VTAM は以下の理由のいずれかのため、*name* を *nodename* の一部として定義できないと判断しました。

- 隣接制御点 *name* が、有効なノード・タイプではない。
- NCP フレーム・リレー交換装置設定 (FRSESET) *name* が、このドメイン内の別の FRSESET と同じ名前である。
- リソース *name* に以下のいずれかのエラーがある。
 - *name* がこのドメインにある別のリソースと同じ名前を持っている。
 - *name* がこのドメインにある別のリソースと同じネットワーク・アドレスを持っている。
 - *name* がこのドメインにある別のリソースと同じ CPNAME の値を持っている。
 - *name* がこのドメインにある別のリソースと同じ LUALIAS の値を持っている。
 - *name* が、このドメイン内の別のリソースと同じ値を、IDBLK と IDNUM に持っている。
 - *name* が NCP 大ノード定義にあり、NCP 大ノード定義と同じ SUBAREA アドレスを使用する CDRM 定義である。

- *name* がこのドメインにある PU で CPNAME の値と一致する VNNAME の値を持っている。
 - *name* が VN=YES を指定していない ADJCP を指す VNNAME の値を持っている。
- 要求を処理するためのストレージが使用できない。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: *command* の処理は継続されますが、ただし、VTAM は *name* を使用できません。

オペレーターの応答:

- これは通常、定義エラーです。重複している名前を検査するには、*name* に DISPLAY ID コマンドを入力してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。
 - 定義エラーを検出できない場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、ストレージが不足していないかを調べてください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。
- MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

このメッセージは、セッション引き継ぎ処理中に出された可能性があります。セッション引き継ぎ問題の説明については、「VTAM Diagnosis」の共通 APPN 問題の項を参照してください。

プログラマーの応答:

- 定義にエラーがあるために定義が失敗したのであれば、システム・ログを参考にして、問題を訂正してください。NCP と VTAM 定義ステートメントに重複するオペランドがある場合に、同時に両方のリソースを定義するのであれば、重複するステートメントの一方または両方を変更してください。この問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」の共通サブエリア・ネットワーク問題に関する項を参照してください。VNNAME 定義の詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- ストレージ不足のために定義が失敗した場合は、VTAM 区画に対して必要な量だけストレージの量を増やしてください。
 - VTAM に必要なストレージの量を判別するには、「Estimating Storage for VTAM」プログラムを使用してください。
 - 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。
 - ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST490I *command2* FOR ID = *nodename* FAILED — *command1* IN PROGRESS

説明: *command1* を処理すると、VTAM は *nodename* に出される *command2* を拒否します。これは、*command1* が *command2* よりも優先されるためです。例えば、VARY REL

IST493I • IST496E

コマンドを処理してから、同じノードに VARY INACT を出しても失敗します。

注: 値 **SSCP TKOVR** の指定された *command2* と、値 **INACT GVBK** の指定された *command1* とともに、NCP に VARY ACT を出した結果、このメッセージが表示された場合、交換回線大ノードは NCP よりも先には活動化されませんでした。

command1 および *command2* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: *command1* の処理は続けますが、VTAM は *command2* を拒否します。

オペレーターの応答: DISPLAY コマンドを使用して、*command1* の処理をモニターしてください。 *command1* の処理が完了したときに、必要なネットワーク構成、または装置を獲得するためのコマンドを入力してください。

上記の例で、*nodename* をネットワークの一部として活動化したい場合は、*nodename* に対して VARY ACQ コマンドを出し、次に *nodename* に対して VARY ACT コマンドを出してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。プログラマーの応答: システム・ログを調べて、問題を起こした一連のコマンドを判別してください。

IST493I *command1* FOR ID = *nodename* OVERRIDDEN BY *command2*

説明: *nodename* に出された *command2* が *command1* を上書きすると、VTAM はこのメッセージを出します。 *command1* が先に出されていても、そうなります。

command2 は、*command1* を完了することができなかつたときに、VTAM によって出されたものと考えられます。例:

- 物理装置に VARY INACT,TYPE=IMMED コマンドが出されると、VTAM は同じ装置に出される VARY REL コマンドを拒否します。 VARY INACT,TYPE=IMMED コマンドは処理されますが、VARY REL コマンドは実行されません。これは、解放処理が非活動化処理の一部であるためです。

command1 および *command2* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: *command2* の処理を続けます。VTAM は *command1* を拒否します。

オペレーターの応答: VTAM は *command1* と *command2* を並行して処理することはできません。 *command1* は常に拒否されます。システム・ログを調べて、2 つのコマンドがなぜその順序で入力されたのかを判別してください。プログラマーの応答: なし。

IST494I *command* FOR ID = *nodename* FAILED — ALREADY IN DESIRED STATE

説明: *command* に *nodename* が指定されたが、すでに要求状態で獲得されている場合に、VTAM はこのメッセージを出します。例えば、ノードを指定する VARY ACQ コマンドが

nodename に出されたが、そのノードがすでに獲得されている場合です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *nodename* が正しく入力されていることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IST495I *type* HAS BEEN SET TO *value*

説明: VTAM は、以下のいずれかの場合にこのメッセージを出します。

- オペレーターは、MODIFY TRACE,TYPE=VTAM コマンドを出しました。コマンドの SIZE オペランドに指定された値は、内部トレース・テーブルのデフォルト・サイズの 50 ページよりも少なくなっています。
- オペレーターは、MODIFY SGALIMIT コマンドか、または SGA24 開始オプションを入力し、VTAM は正常に処理しました。

type は次のいずれかです。

- SIZE** VTAM 内部トレース・テーブルのデフォルトのサイズを、ページで示します。
- SGALIMIT** VTAM に使用可能なシステム GETVIS 域 (SGA) の最大量を示します。 **SGA24 LIMIT 24** ビット以下の、アドレス可能なストレージである SGA を示します。

value は次のいずれかです。

- MODIFY TRACE コマンドを出すときのメッセージが出される場合、*value* は内部トレース・テーブルのデフォルトのサイズで、常に **50** ページとなります。
- そうでない場合、*value* はコマンドまたは開始オプションにキロバイトで指定された値です。オペレーターが *type* を 0 に指定する場合、*value* は **NO LIMIT** となります。

システムの処置:

- MODIFY TRACE コマンドを出すときのメッセージが出される場合、SIZE オペランドに指定された値は無視され、内部トレース・テーブルのサイズは 50 ページに設定されます。
- MODIFY SGALIMIT コマンド、または SGA24 開始オプションを使用するときのメッセージが出される場合、SGA の VTAM 使用率は、コマンドまたは開始オプションに指定された値に制限されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST496E *function_name* FUNCTION INOPERATIVE DUE TO ABEND

説明: 異常終了が連続して何度か発生して、VTAM 機能 *function_name* が操作不能になると、VTAM はこのメッセージを出します。

function_name は次のいずれかです。

DYNAMIC CDRSC DELETION
I/O RESPONSE MONITOR
I/O RESPONSE TIMEOUT

システムの処置: 処理を続行します。異常処理が繰り返して

発生すると、他の VTAM 操作に障害が起きることもありま
す。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管し
てください。

- *function_name* が **DYNAMIC CDRSC DELETION** の場合
は、**DISPLAY ID=ISTCDRDY,SCOPE=ALL** コマンドを使用
して、動的クロスドメイン・リソース (CDRSC) の使用状況
をモニターしてください。アクティブ・セッションがない
CDRSC を削除するには、**VARY INACT** コマンドを出して
ください。
- *function_name* が **I/O RESPONSE MONITOR** の場合は、
DISPLAY PENDING コマンドを使用して、入出力応答活動
をモニターしてください。
- *function_name* が **I/O RESPONSE TIMEOUT** の場合は、
応答を受信していない保留入出力の重要性を評価して、
VTAM を再始動すべきかどうかを判別してください。

プログラマーの応答: VTAM 操作で起きた障害を個別に訂正
してください。障害が多すぎる場合は、VTAM を停止させて
から再始動してください。

IST499I DISK FUNCTIONS FOR *ncpname* NOT PERFORMED

説明: このメッセージは、以下の片方、または両方のコマンド
に回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメ
ッセージです。

- **LOADFROM**、**SAVEMOD** または **DUMpload** を指定し
て **NCP *ncpname*** に出された **VARY ACT** コマンド。
- **LOADFROM**、**SAVEMOD** または **DUMpload** を指定し
て **NCP *ncpname*** に出された **PCCU** 定義ステートメント。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST499I DISK FUNCTIONS FOR *ncpname* NOT PERFORMED
IST523I REASON = reason

メッセージ IST523I の *reason* は次のいずれかです。

LOAD NOT NECESSARY

オペレーターが **LOAD=U** を指定した **VARY ACT** コマ
ンドを入力しました。ロードが行われないので、機能は
NCP *ncpname* にセットされません。

CCU NOT CORRECT LEVEL

NCP NOT CORRECT LEVEL

SSP NOT CORRECT LEVEL

コントローラー (CCU)、NCP、または SSP は、要求され
た機能をサポートしていません。NCP V5R2 以前の
NCP リリースは、**LOADFROM**、**SAVEMOD**、または
DUMpload オペランドを指定して、ロードできませ
ん。これらのオペランドは、NCP V5R2 または以降のリ
リースについてののみ有効です。

システムの処置: 活動化は続けられます。**LOADFROM**、
SAVEMOD、または **DUMpload** オペランドは無視されま
す。

オペレーターの応答:

- VTAM が、**VARY ACT** コマンドに対する応答としてこの
メッセージを出し、そして *reason* が **LOAD NOT
NECESSARY** の場合に、新しい機能を **NCP *ncpname*** にセ

ットしたい場合は、**LOAD=YES** を指定して、**VARY ACT**
コマンドを出さなければなりません。

その他の *reason* の場合、問題判別のためにシステム・ログ
を保管してください。

- **VARY ACT** コマンドを入力していない場合は、担当のシス
テム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: NCP、SSP、および CCU が正しいレベ
ルのものであることを確認してください。VARY ACT コマン
ドで **LOADFROM**、**SAVEMOD**、または **DUMpload** オペ
ランドを使用するためには、NCP が NCP V5R2 かそれ以降
のリリースでなくてはならず、SSP も SSP V3R4 かそれ以降
のリリースでなくてはなりません。

IST500I NO TRFILE AVAILABLE - WRAP-MODE TRACE ONLY

説明: 記録可能なトレース・ファイルを用意するには、SYS001
をテープまたはディスク・エクステンツに割り当てなければな
りません。

システムの処置: ファイルは必要ないので、トレースは通常に
開始できますが、VTAM は外部ファイルにトレース・データ
を記録しません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管し
てください。

プログラマーの応答: トレース・データを記録する場合は、以
下のようにしてください。

1. VTAM を停止する。
2. SYS001 をテープまたはディスク・ファイルに割り当てる。
3. VTAM とトレースを再始動する。

必要でない場合、処置は不要です。

IST501I ATTACH OF TRACE I/O SUBTASK FAILED

説明: 8 個のサブタスク (制限) が、**MODIFY SUBTASK** コ
マンドを通じてすでに接続されているので、VTAM は TRACE
のための I/O サブタスク **VTMTRACE** を開始することができ
ません。

システムの処置: VTAM は、循環モードで使用する内部テー
ブルに、トレース・データを記録します。VTAM は、トレー
ス・データを外部ファイルに記録することはできません。

オペレーターの応答: 活動タスクが完了したときに、トレー
ス記録を開始するために、**MODIFY TRACE** コマンドを入力す
ることができます。

プログラマーの応答: なし。

IST502A OPTION TO REPLACE TRFILE TAPE ON SYS001

説明: **TPRINT** が、ユーティリティ・ジョブとして実行さ
れ、編集に使用する VTAM の TRACE 出力テープを要求した
ときに、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: 処理を続行します。システムは VTAM の
トレース・ファイルをクローズし、VTAM はトレース・デー
タを内部トレース・テーブルに記録し始めます。TPRINT は、
オペレーターからの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 現在使用しているテープ・ボリューム

を、TPRINT に対して SYS001 として割り当てられている装置に、移動してください。以下のいずれかを行ってください。

- TRACE 出力に使用する、新しいスクラッチ・テープを取り付けてから、'NEWTAP' と応答してください。
- 次の MODIFY TRACE コマンドを入力するまでは、テープ・ボリュウムの置換を延期するには、'ENTER' または 'EOB' と入力してください。その間、VTAM は、トレース・データを内部ファイルに記録します。
- これ以上外部記録が必要でない場合にのみ、'CANCEL' と応答してください。外部記録は、VTAM が再始動した後のみ、再始動することができます。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

**IST503I TRACE FILE UNUSABLE - CONTINUING
 IN WRAP-MODE**

説明: トレースのための I/O サブタスクが異常終了したとき、VTAM は、外部記録用ファイルを使用不能状態のままにしました。

システムの処置: VTAM は、循環モードで使用する内部テープに、トレース・データを収集します。VTAM は、トレース・データを外部ファイルに記録することはできません。オペレーターの応答: トレース・データの外部記録が必要な場合は、何の処置も必要ありません。外部記録が必要な場合は、SYS001 を新しいテープ、またはディスク・ファイルに割り当て、VTAM を再始動することによって、問題を訂正してください。

プログラマーの応答: TRFILE が使用不能になった理由を判別してください。VTMTRACE サブタスクに関する前のシステム・メッセージを検討してください。

IST504I VTAM TRACE SUBTASK STARTED

説明: VTAM サブタスク VTMTRACE は外部記録処理を活性化し、TRFILE のオープン処理を進めています。

システムの処置: トレース・データの記録は、TRFILE が正しくオープンされるとただちに始まります。

オペレーターの応答: なし。

IST505I VTAM TRACE SUBTASK ENDED

説明: HALT コマンドか、または TPRINT 要求を処理したために、VTAM サブタスク VTMTRACE はトレース・データの記録を終了し、TRFILE をクローズしました。

システムの処置: VTAM が TPRINT 要求を処理していれば、VTAM の処理が完了してから、トレース・データの記録が再始動されます。オペレーターが HALT コマンドを入力した場合、VTAM を再始動してから MODIFY TRACE コマンドを入力しなければ、トレース・データは再び記録されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST506I n TRACE RECORDS LOST DURING
 procedure**

説明: 中断の後、トレース・データの記録が再開されます。procedure は次のいずれかです。

CANCEL

レコードは、オペレーターが CANCEL コマンドを出した後に、VTAM がサブタスク VTMTRACE を再始動したときに失われました。

MODIFY

レコードは、MODIFY コマンド処理に対する応答として、VTAM がトレース・ファイルをオープンしたときに失われました。

RESET

ディスク・ファイルがいっぱいになったときに、VTAM がサブタスク VTMTRACE を終了させ、再始動しました。

REWIND

オペレーターがいっぱいになったテープを巻き戻しました。

TPRINT

レコードは、TPRINT コマンドを処理した後で、VTAM が VTAM サブタスク VTMTRACE を再始動したときに失われました。

データの記録処理が一時中断されている間に、*n* 個のトレース・レコードが破棄されました。レコードは、バッファへの書き込みが循環し、重ね書きが始められたときに破棄されました。

システムの処置: VTAM は、トレース・データの記録を再開します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターが、トレースを中断するために、CANCEL コマンドを何度も入力しなければならない場合は、TRFILE のサイズを大きくするか、または SYS001 をテープに割り当ててみてください。

**IST510I ROUTE TEST *displayid* FAILED - ERS NOT
 DEFINED**

説明: DISPLAY ROUTE コマンドに TEST=YES が指定されているのに、経路を表示するとすべての ER が UNDEFINED 状況に戻ってしまい、テストする ER が存在しないことを示してしまう場合に、経路状況を表示するメッセージに続いて、このメッセージが出されます。

表示識別番号 *displayid* は、前のメッセージ内の経路表示番号に対応しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST511I TRACE REQUEST FAILED - nodename
INVALID**

説明: VTAM は MODIFY TRACE コマンドまたは TRACE 開始オプションに回答して、このメッセージを出します。VTAM はリソース *nodename* に対してトレースを試みましたが、*nodename* が存在しないかまたは要求されたトレース・タイプには無効であったために失敗しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *nodename* が正しく入力されていることを確認してください。問題が解決しない場合、要求されたトレースのタイプに *nodename* が有効かどうか確認してください。

MODIFY TRACE コマンドまたは TRACE 開始オプションの情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

**IST512I TRACE TERMINATED FOR NODE =
nodename [ALSNAME = alsname]**

説明: VTAM がノード *nodename* についてのトレース活動を停止すると、MODIFY NOTRACE コマンドに回答して、VTAM はこのメッセージを出します。SCOPE=ALL オペランドがコマンドに指定された場合、VTAM は *nodename* に従属するすべてのリソースのトレースも停止します。

注: MSGLVL オプションにデフォルト値の BASE を指定するか受け入れると、リソースがホスト SSCP の場合にはこのメッセージを 2 回受信します。

nodename が独立 LU である場合、ALSNAME = *alsname* が表示されます。*alsname* は、LU *nodename* がトレースされる隣接リンク・ステーション (ALS) の名前です。

システムの処置: VTAM は、*nodename* のトレース活動を中止します。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST513I TRACE INITIATED FOR NODE nodename
[ALSNAME = alsname]**

説明: VTAM がリソース *nodename* に対してトレース活動を正常に開始すると、VTAM は MODIFY TRACE コマンドまたは TRACE オプションの指定された START コマンドに回答して、このメッセージを出します。MODIFY TRACE コマンドに SCOPE=ALL オペランドが指定された場合、または START コマンドに EVERY が指定された場合、VTAM は *nodename* に従属するすべてのリソースに対してトレースを開始します。

注: MSGLVL オプションにデフォルト値の BASE を指定するか受け入れると、リソースがホスト SSCP の場合にはこのメッセージを 2 回受信します。

nodename が独立 LU である場合、ALSNAME = *alsname* が表示されます。*alsname* は、LU *nodename* がトレースされる隣接リンク・ステーション (ALS) の名前です。

システムの処置: VTAM は、*nodename* のトレース活動を開始します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST516I DESTSUB ADJSUB TGN ER ER STATUS
VR(S)**

説明: このメッセージは、DISPLAY PATHTAB コマンドに対する応答として、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST516I DESTSUB ADJSUB TGN ER ER STATUS VR(S)
IST517I destsa adjsa tgn er status vrlist
:
```

メッセージ IST516I は、表示のヘッダー行となるもので、画面に表示される情報のタイプを表しています。

VTAM は、表示される各 ER テーブル項目ごとに、メッセージ IST517I を出します。明示経路に対応している仮想経路のユーザー定義リストが含まれます。また、そのホストに認知されている、明示経路に関する次のような情報も含まれます:

destsa リストされた明示経路の終端となる宛先サブエリア。
adjsa リストされた明示経路が通過する隣接サブエリア。
tgn 伝送グループ番号。
er 明示経路番号。
status このホストに認知されている、リストされた明示経路の現在の状況。テーブル項目のない明示経路を指定する仮想経路については、*status* は UNDEF を示されます。(この場合、*adj* の値はブランクになります。)

status は、次の値のいずれかです。

ACTIV3

ER が活動状態です。

明示経路は経路定義セットで VTAM に定義されており、これはネットワークに対して物理的に使用可能なので、このノードによって、またはこのノードと経路のもう一方の終端にあるノードの両方によって活動化されました。この状態にあるすべての経路に沿って物理装置が存在しているので、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。

INACT

VR が非活動状態です。

仮想経路が、経路定義セットで VTAM に定義されていますが、現在は非活動状態、または活動保留状態です。その仮想経路が、セッションに必要なときに、自動的に活動化されます。

INOP

ER が操作不能です。

明示経路が、経路定義セットで VTAM に定義されていますが、ネットワークに対して物理的に使用不能です。これは、接続可能性がすべての経路に関して存在していないということです。明示経路が、物理的接続可能性を持たないために、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は失敗します。

PACT

VR が活動化を保留中です。

仮想経路が、経路定義セットで VTAM に定義され、このノードによって、活動化の途中です。

PDEFA

ER が「保留定義-活動状態」です。

明示経路が、ネットワークに対して物理的に使用可能で、活動化処理が経路の他の終端ノードによって試みられましたが、経路は、経路定義セットで VTAM にまだ定義されていません。経路は、適切な経路定義セットが処理されたときに、このノードによって自動的に活動化されます。明示経路が、このホストに定義されていない場合、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。このテストの目的は、オペレーターが経路を定義するかどうかを判別できるように、明示経路の物理接続可能性を提供することです。VTAM が、セッション・メッセージ伝送を行うために、明示経路は、VTAM に定義されていないことはありません。

PDEF0

ER が「保留定義-作動状態」です。

明示経路が、ネットワークに対して物理的に使用可能ですが、経路は経路定義セット内で VTAM にまだ定義されていません。明示経路が、このホストに定義されていない場合、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。このテストの目的は、オペレーターが経路を定義するかどうかを判別できるように、明示経路の物理接続可能性を提供することです。VTAM が、セッション・メッセージ伝送を行うために、明示経路は VTAM に定義されていないことはありません。

UNDEF

ER が未定義です。

明示経路が、経路定義セットで VTAM に定義されておらず、ネットワークに対して物理的に使用可能ではありません。明示経路が、VTAM に定義されておらず、使用不能なため、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は常に失敗します。

vrlist リストされた明示経路に対応する、ユーザー定義の仮想経路番号です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 状況は、説明としてだけ使用される場合もあれば、状況が予想と異なるものになった場合に、オペレーターに処置を促す場合もあります。特に、状況が、UNDEF になっている仮想経路や明示経路の場合は、経路定義セットを活動化させるように指示する場合があります。状況が INOP の明示経路では、サブエリア・ノード、サブエリア間リンク、またはサブエリア間リンク・ステーションを活動化させるように指示する場合もあれば、ノード、リンク、またはリンク・ステーションにネットワークの問題があることを示す場合もあります。

プログラマーの応答: なし。

IST520I **UNABLE TO PROCESS** *runame* {REQ|RSP} [FROM *fromnetid*] [TO *tonetid*]

説明: このメッセージは、ストレージ不足や VTAM プログラムの異常終了に回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

プの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST520I UNABLE TO PROCESS runame {REQ|RSP}
      [FROM fromnetid] [TO tonetid]
[IST531I FROM SUBAREA = subarea, ELEMENT = element]
[IST531I TO SUBAREA = subarea, ELEMENT = element]
IST523I REASON = reason
```

tonetid が、要求単位、または応答単位 (RU) *runame* を処理できません。 *runame* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。 *runame* が 731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』にない場合、これは、1 バイトのカテゴリ・コードが前に付いた、RU の 3 バイトのネットワーク・サービス・ヘッダーです。

runame の発信者と宛先は、次のどちらかで識別されます。

- メッセージ IST520I に表示されたネットワーク名 (*fromnetid* および *tonetid*)、または
- メッセージ IST531I に表示されたネットワーク・アドレス (サブエリア・アドレス *subarea*、およびエレメント・アドレス *element*) です。

メッセージ IST523I の *reason* は次のいずれかです。

INSUFFICIENT STORAGE
VTAM PROGRAM ABEND

注: メッセージ IST531I は、**FROM** ネットワーク名 *fromnetid* と、**TO** ネットワーク名 *tonetid* の両方が VTAM に認知されている場合には表示されません。VTAM は、ネットワーク名の 1 つが不明のときは一度だけ、また両方のネットワーク名が不明のときは 2 度、メッセージを表示します。サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに **0** または ***NA*** を発行します。

システムの処置: 処理を続行します。VTAM は *runame* の処理を行えないために、他の VTAM の処理が失敗することがあります。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ストレージ不足が繰り返す問題は、**DISPLAY BFRUSE** コマンドの出力から判断して、該当するバッファのサイズを増やす必要がある場合があります。

オペレーターに、必須でないジョブの取り消しや、またはネットワークの未使用部分の非活動化を依頼してください。こうすることにより、VTAM を停止させてから、サイズを増やしたストレージを指定して再始動させるまでの間に起こりうるロスが防がれます。何度も失敗する場合は、VTAM を停止させてから再始動させてください。

IST521I **GBIND {FAILED|QUEUED} FOR COS** *cosname* [FROM *fromname*] [TO *tonetid*]

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST521I GBIND {FAILED|QUEUED} FOR COS cosname
      [FROM fromname] [TO tonetid]
[IST531I FROM SUBAREA = subarea, ELEMENT = element]
```

```
[IST531I TO SUBAREA = subarea,ELEMENT = element]
[IST531I VIA gatewayncp]
[IST531I VIA SUBAREA gwsubarea]
IST528I VIRTUAL ROUTE NUMBER vrlist
IST523I REASON = reason
```

汎用バインド (ACTPU、ACTLU、ACTCDRM または BIND) が、仮想経路が使用不能なために、キューイングされたか拒否されました。バインド・セッションのために SSCP によって送信された ACTPU、ACTLU または ACTCDRM は、いくつかの仮想経路が定義されていてもまだ使用可能ではない場合にはキューイングされます。汎用バインドには、定義済みで使用可能な仮想経路、および活動状態にできる仮想経路が必要です。

経路が活動化されていないために GBIND が失敗すると、サービス・クラス (COS) VR リスト (導先仮想経路選択出口ルーチンによって修正されている可能性があります) 中の 1 つ以上の仮想経路が定義されていて、かつ操作可能であっても、正常には活動化できません (すなわち仮想経路自体、またはそれに関連する明示経路を活動化できません)。SLU から PLU への明示経路ゼロに使用する移行要件をセッションが持っている場合にも、こうなります。この要件は、COS 内の経路では満たされません。

操作可能な経路がなかったために GBIND が失敗すると、VR リスト内の 1 つ以上の仮想経路が定義されても操作可能にはなりません。

どの経路も定義されていなかったために GBIND が失敗すると、VR リスト内の経路は定義されません。同様に、同じ理由で一定の GBIND がキューイングされるかもしれませんが、ただし、宛先副経路への経路が 1 つも定義されていなければ、GBIND はキューイングされません。

VR 選択出口ルーチン・エラーが原因で GBIND が失敗した場合、仮想経路選択出口ルーチンは COS の VR リストを修正し、出口選択された経路を使用できないようにします。少なくとも 1 つの仮想経路 ID *vrlist* は、VR 番号 (0-7) または伝送優先順位 (0-2) の正しい数値範囲外にあったか、または仮想経路が 1 つも定義されていなかったかのいずれかです。

メッセージ IST528I に示されている *vrlist* は、(伝送優先順位に関係なく) GBIND がキューイング、または失敗した時点での、その GBIND に関連のある仮想経路番号のリストです。仮想経路選択出口ルーチンが作動する前、作動中、または作動した結果として失敗が起こった場合、リストは COS からのものです。その他の場合は、その出口ルーチンが変更できる場合は、出口ルーチンによって行われた変更を反映したリストが表示されます。

汎用バインドの発信元と宛先は、以下のいずれかによって識別されます。

- メッセージ IST521I に示されているネットワーク名 (*fromname* および *tonetid*)
- メッセージ IST531I に示されているネットワーク・アドレス (サブエリア番号 *subarea*、およびエレメント番号 *element*)

- メッセージ IST531I に示されているゲートウェイ・ネットワーク名 (*gatewayncp*)
- メッセージ IST531I に示されているゲートウェイ・ネットワーク・アドレス (サブエリア番号 *gwsubarea*)

メッセージ IST523I の *reason* は次のいずれかです。

```
NO ROUTES DEFINED
NO ROUTES OPERATIVE
NO ROUTES ACTIVATED
VR SELECTION EXIT ERROR--UNDEFINED ROUTES
VR SELECTION EXIT ERROR--INVALID ROUTES
```

注:

1. VTAM は、FROM ネットワーク名 *fromname*、および TO ネットワーク名 *tonetid* の両方が VTAM に認知されていて、メッセージ IST521I に表示される場合は、メッセージ IST531I を出しません。VTAM は、ネットワーク名の 1 つが不明のときは一度だけ、ネットワーク名が両方とも不明のときは 2 度、メッセージを出します。サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに 0 または *NA* を発行します。
2. 失敗したかキューイングされた汎用 BIND が、ネットワーク間のものであった場合にだけ、VTAM はゲートウェイ情報を指定するメッセージ IST531I を出します。

GBIND が他のネットワークの SSCP に対する ACTCDRM の場合、ACTCDRM を隣接ネットワークに送信するのに使用するゲートウェイ・ノード (GWN) が使用可能になると、VTAM はメッセージ IST531I を出し、そのゲートウェイ・ノード (GWN) の名前を指定します。

他のネットワークの CDRM または CDRSC の場合、ゲートウェイ・ノード名 *gatewayncp* は、バインド要求を隣接ネットワークに送信するゲートウェイ・ノードに与えられます。ゲートウェイ・ノードの名前が不明の場合は、ゲートウェイ・ノードのサブエリア番号が与えられます。

COS は、個々のセッションに適用される経路セキュリティ、伝送優先順位、帯域幅のような経路制御ネットワークの特性を指定するものです。サービス・クラス名 *cosname* が、メッセージ IST521I に示されていない場合は、デフォルト・サービス・クラス項目が使用されます。

システムの処置: 処理は続けられますが、適用可能なセッションの設定は、失敗するか、または適用可能な仮想経路が使用可能になるまで待ちます。

オペレーターの応答: 経路活動化が失敗したために GBIND が失敗した場合は、VTAM は前に出したメッセージで、経路活動化の失敗を示しています。それらのメッセージに示されている問題を訂正し、SSCP、またはアプリケーション・プログラムで、GBIND を再試行してください。

経路が操作不能のために GBIND が失敗した場合は、適用不能な経路を DISPLAY ROUTE, TEST=YES コマンドを使用してテストし、どこで切れているかを判別してください。その経路の全長にわたって、完全に接続されるようにしてください。

経路が 1 つも定義されていないために、GBIND が失敗した場合は、適用可能な経路を定義する、適切な経路デッキを活動化してください。

VTAM が IST531I の中で、ACTCDRM を隣接ネットワークに送信するゲートウェイ・ノード (GWN) の名前を指定し、それに続いて異なる GWN が使用可能になったときには、新しく使用可能になった GWN を通じて CDRM を活動化するために、まず VARY INACT コマンドを、次に VARY ACT コマンドを使用してください。

ネットワーク・ノードやリンクを別々に、または同時に活動化する場合には、SSCP セッションをキューイングする要求が出されても問題がないときもあります。このような他の活動化処理が行われていない場合、または GBIND が、(後のメッセージ IST530I に示されるように) 長時間にわたってキューイングされたままになっている場合は、問題があるかもしれませんが、経路テストをしてみてください。SSCP がセッションを「束縛」していた際のリソースを非活動化することによって、キューイングされているセッション要求を取り消してください。

仮想経路選択出口ルーチンのエラーが原因で GBIND が失敗した場合は、その出口ルーチンにプログラミング・エラーがあるか、またはその出口ルーチンによって使用可能であるはずの経路が、定義されていなかったかのいずれかです。前者の場合は VTAM を停止し、システム・プログラマーに出口ルーチン・モジュールの訂正と、置き換えを依頼してください。後者の場合は、適用可能な経路を定義するために、適切な経路デッキを活動化してください。

プログラマーの応答: 経路定義が問題の原因である場合は、オペレーターに適切な経路デッキを提供してください。仮想経路選択出口ルーチンが問題の原因である場合は、出口ルーチンを訂正して、それを VTAM に再インストールしてください。

ネットワーク・ルーティングについては、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

VTAM 経路については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST522I {ER|VR} *n* ACT {FAILED|REJECTED} SA *subarea1* TO SA *subarea2* [FOR TP*i*]

説明: このメッセージは、次の理由のいずれかについて、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

- この VTAM ノードによって開始された仮想経路、または明示経路の活動化が、ネットワーク内で失敗した。
- この VTAM ノードがネットワークから受信した活動化要求が、拒否された。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST522I {ER|VR} n ACT
        {FAILED|REJECTED}
        SA subarea1 TO SA subarea2 [FOR TPi]
IST523I REASON = reason
[IST524I REVERSE ER MASK = ermask]
[IST525I REJECTING SA subarea3 USING TG tg
        ADJACENT SA subarea4]
```

注: FOR TP*i* は、VR *n* が表れるときのみ表れます。明示経路の活動化については、メッセージ IST522I には 1 桁または 2 桁の ER 番号 *n* と、10 進数のサブエリア番号 *subarea1* と *subarea2* が表示されます。これらはそれぞれ、経

路の活動化を開始したノードと、経路のもう一方の終端にあるノードを指定しています。障害の原因がこのノードにある場合は、活動化が拒否されたことを示し、経路にあるいくつかのノードが活動化を許容できなかったときは、活動化が失敗したことを示します。

メッセージ IST523I の *reason* は以下のいずれかで、拒否しているノード内に問題点があることを示します。

A REQUIRED TG IS INACTIVE

要求された伝送グループ (TG) が、経路のどこかで活動化されていません。

EXPLICIT ROUTE NOT DEFINED

明示経路が (正方向に) 定義されていません。

EXPLICIT ROUTE NOT REVERSIBLE

明示経路が反転可能ではありません (矛盾する定義があるか、あるいは逆方向への定義がありません)。

EXPLICIT ROUTE LENGTH EXCEEDS MAXIMUM

明示経路の長さが、使用可能な最大長を超えています (つまり、ループ経路が存在します)。

MIGRATION NODE DOES NOT SUPPORT THIS ER

隣接サブエリア NCP、または VTAM が、拡張サブエリア・アドレッシングをサポートせず、さらに活動化されつつある明示経路が、255 を超える発信元、または宛先サブエリアを持っているか、または 7 よりも大きい明示経路番号を持っています。

UNEXPECTED TYPE BYTE X'*nn*'

拒否しているノードから、意味不明の失敗コード *nn* を受け取りました。

メッセージ IST524I 中の *ermask* は、NC_ER_ACT または NC_ER_ACT_REPLY RU に入れて受信される、逆方向の明示経路 *mask* です。このマスクは、ER *n* の方向とは逆方向における流れの、明示経路番号を示します。ネットワークで明示経路の活動化が失敗した場合、VTAM はメッセージ IST525I を出し、拒否されたポイントでの伝送グループ ID (*tg*) を示します。IST525I は、下記から構成されます。

- 活動化を拒否しているネットワーク・ノードのサブエリア・アドレス *subarea3*
- 隣接ノードへ、または隣接ノードからの伝送グループ *tg* の数。
- 適用可能な隣接ノードのサブエリア・アドレス *subarea4* (伝送グループ番号、隣接ノードのサブエリア番号、あるいはその両方が、拒否しているノードに認知されていないとき、これらの番号は、ゼロとなります)。

仮想経路の活動化については、メッセージ IST522I、IST523I と (時に) IST524I が表れます。メッセージ IST522I は、1 桁の仮想経路番号 *n* を示します。サブエリア番号 *subarea1* と *subarea2* は、経路活動を開始するノード、および経路のもう一方の終端にあるノードの両方と、経路活動の伝送優先順位 (TP*i*) を指定します。

メッセージ IST523I の *reason* は、次のいずれかを表すことがあります。

ACTVR RESPONSE SENSE IS *class=sense.sense*

経路の活動化を開始したノードが、REASON 情報を送

信しました。センス・コードの追加情報については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

UNDEFINED EXPLICIT ROUTE REQUESTED

仮想経路とともに使用するよう定義された明示経路が、このノードでは定義されていません。

INCORRECT EXPLICIT ROUTE REQUESTED

経路の他の終端のノードが、このノードの経路定義と一致しない、1 つ以上の逆方向明示経路番号を指定しました。

VIRTUAL ROUTE NOT DEFINED

仮想経路が定義されていません。

注: 複数のセッションが、*subarea1* から *subarea2* への経路を、確立しようとした場合でも、このメッセージ・グループは一度しか表示されません。

システムの処置:

- この VTAM ノードが、他のネットワークからの経路活動化の試みを拒否した場合は、このノードについての処理は、影響なく続けられます。
- このノードによって開始された経路活動化が失敗した場合、他のいくつかのネットワーク・ノードは、経路活動化要求を拒否します。失敗したホストは、活動化の試みを生じさせた汎用バインドの処理を継続し、要求された COS 内にある使用可能な他の経路を使用します。
- どの経路も使用できない場合、汎用バインドは失敗に終わるか、使用可能な経路が得られるのを待つためにキューイングされます。

オペレーターの応答: FAILED と表示された経路活動化については、以下のいずれかです。

- 経路活動化 RU を拒否したノードに、問題があると思われる。
- メッセージ IST525I が出された場合は、拒否しているノードを示します。
- メッセージ IST525I が (仮想経路の活動化の失敗に関して) 表示されない場合は、経路の最遠端のノード *subarea2* が、拒否したノードです。
- 明示経路の活動化に失敗した理由が、その経路の物理的接続可能性を完成させるために、現在非活動状態にある伝送グループ (TG) を要求したことにある場合は、非活動状態 TG を含むノードが、活動状態にあるか、またはこの VTAM に対して活動状態にできるなら、その TG を活動化することができるかもしれません。それ以外の場合は、非活動状態 TG を含むノードを所有しているホストのオペレーターに、TG を活動化するように、依頼してください。
- 経路の活動化が、VTAM でサポートされていない移行 ER0 のために失敗した場合は、おそらく経路定義のエラーです。担当のシステム・プログラマーに、この旨を通知してください。

REJECTED と表示された経路活動化については、以下のとおりです。

- メッセージ IST522I が、この VTAM ノードが経路活動化 RU を拒否したことを示している場合は、このノードに問題があります。次の例外を除いて、システム・プログラマーに連絡してください。以下の場合は例外です。
 - ER が逆転可能でないために、ER 活動化が拒否されたとき。

- VR が未定義のために、VR 活動化が拒否されたとき。(「逆転可能でない」ER が未定義か、逆方向の定義に互換性がありません。すなわち、このメッセージを出した、拒否している VTAM ノードから、ER 活動化を生じているノードへの方向です)。

このような場合は、適切な経路定義セットを活動化することによって、対応する経路を正しく定義できます。

プログラマーの応答: このメッセージ・グループの情報は、基本的には、NC_ER_ACT、NC_ER_ACT_REPLY、または NC_ACTVR 要求単位の中で示されるか、あるいは NC_ACTVR 応答単位で現れるセンス情報の中で示されます。

正しくない明示経路が要求されたために、ホストが仮想経路の活動化を拒否した場合は、問題を解決できる場合とできない場合があります。その状況は、以下のいずれかです。

- サブジェクト仮想経路の明示経路が、経路のもう一方の終端に定義されているのとは異なる形で物理経路に定義されている場合 (すなわち、経路定義が矛盾しています)。
- 適用可能な経路デッキが最近活動化され、経路の他の終端が、1 つ以上の ER 定義について通知を受信する以前に、VR の活動化を試みた場合です。この 2 番目のケースは、タイミングの問題なので、処置は必要ありません。仮想経路を活動化する次の試みは、成功するはずです。

IST523I REASON = *reason*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST524I REVERSE ER MASK = *ermask*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは IST522I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST525I REJECTING SA *subarea3* USING TG *tg* ADJACENT SA *subarea4*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは IST522I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST526I ROUTE FAILED FROM *subarea1* TO *subarea2* - DSA *destsubarea* - NETID *netid*

説明: サブエリア番号 *subarea1* からサブエリア番号 *subarea2* までの伝送グループが操作不能になりました。 *destsubarea* は、ネットワーク *netid* における経路の宛先を示すサブエリア番号です。

システムの処置: 処理を続行します。この明示経路を使用するセッションはすべて中止されます。影響を受けたセッションは、それに使用できる代替経路があれば、そのセッション相手によって再び初期化することができます。

オペレーターの応答: 物理的な失敗が原因で停止した場合は、システム・プログラマーやネットワーク・サービス担当員に通知してください。ネットワーク内のオペレーターの処置が原因で、予期しない停止が起こった場合は、通知してきたノードまたはその隣接ノードを制御するオペレーターに連絡し、それぞれに適切な処置を行ってください。

IST528I • IST530I

注: システム・プログラマーに、明示経路についての詳しい情報を渡す必要がある場合は、宛先サブエリア番号として *subarea1* か *subarea2* (どちらか適切な方) を指定した `DISPLAY ROUTE,TEST=YES` コマンドを出して得られた結果を渡してください。この停止によって影響を受けた仮想経路の番号および伝送グループの番号が必要な場合は、宛先サブエリア番号として *destsubarea* を指定した `DISPLAY ROUTE,TEST=YES` コマンドを出すことによってその情報を得ることができます。仮想経路番号だけがが必要な場合は、`TEST=YES` オペランドを省略することができます。プログラマーの応答: ネットワーク障害が関係していれば、ネットワークを修復し、経路をリストアしてください。

IST528I VIRTUAL ROUTE NUMBER *vrlist*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは、IST521I、IST744I、または IST746I です。詳細については、それらのメッセージの説明を参照してください。

IST529I VR SELECTION EXIT *reason* [AND IS NOW INACTIVE]

説明: 仮想経路選択出口ルーチンが終了しました。

reason は次のいずれかです。

REQUESTED TERMINATION

出口ルーチンは、制御権を VTAM に戻すときに非ゼロの戻りコードを指定することによって、出口に自らの終了を要求しました。

IS NOT OPERATIVE DUE TO A LACK OF STORAGE

ストレージ不足のため出口ルーチンは操作不能になりました。

システムの処置: 処理を続行します。出口ルーチンが異常終了しても、その異常終了しきい値を超えていなければ、VTAM は出口ルーチンを復元します。異常終了値を超えた場合、または出口ルーチンが終了を要求した場合、VTAM は出口ルーチンの使用を停止し、要求されたサービス・クラスに基づいて、セッション要求のために仮想経路選択を直接行います。オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 仮想経路選択出口ルーチンが異常終了した場合は、出口ルーチン内にプログラミング・エラーがあると思われる。MODIFY EXIT コマンドを使用して、出口ルーチンを訂正したバージョンと置換することが可能です。MODIFY EXIT コマンドについては、「VTAM Operation」を参照してください。出口ルーチン自体が終了を要求する場合は、プログラミング・エラーがあるものと思われる。

IST530I *runame* PENDING FROM *fromnetid* TO *tonetid* FOR *fornodename*

説明: このメッセージは、要求単位 (RU) *runame* がリソース *fornodename* について対応する応答単位を受信せずに一定期間の間保留状態にあったときに VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST530I runame PENDING FROM fromnetid
        TO tonetid FOR fornodename
[IST531I FROM SUBAREA = subarea, ELEMENT = element]
[IST531I TO SUBAREA = subarea, ELEMENT = element]
IST1051I EVENT CODE = code
IST1062I EVENT ID = eventid
```

注: 次の時間間隔でも *runame* が未解決のままである場合は、*runame* が受信されるまでか、または要求単位が削除されるまで、これらのメッセージが繰り返して出されます。

IST530I

runame は、保留状態の要求単位 (RU) です。*runame* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

runame の発信元と宛先は、以下のいずれかによって識別されます。

- このメッセージに表示されているネットワーク名。
(*fromnetid* と *tonetid*)
- メッセージ IST531I に示されているネットワーク・アドレス。(サブエリア番号 *subarea* およびエレメント番号 *element*)

IST531I

FROM ネットワーク名 *fromnetid* と、**TO** ネットワーク名 *tonetid* の両方がこのメッセージに表示される場合は、VTAM はこのメッセージを出しません。

VTAM は、ネットワーク名の 1 つが不明の場合は一度、両方が不明の場合は 2 度、メッセージを表示します。

サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに **0** または ***NA*** を発行します。

IST1051I

code は、表示されているイベント ID の形式を識別するイベント・コードです。*code* の説明については、767 ページの『待ち状態イベント ID』を参照してください。

IST1062I

eventid は、保留要求の内部 VTAM ID です。*eventid* の説明については、767 ページの『待ち状態イベント ID』を参照してください。

システムの処置: 対応する応答単位を待ちながら、処理が続けられます。

オペレーターの応答: このメッセージ・グループは、問題が存在するかもしれないことを示しています。RU が未解決になっている時間が長い程 (つまり同じ RU に対してこれらのメッセージが何度も繰り返し表示されるほど)、問題がある可能性が高くなります。

特定の RU が一定の期間を過ぎても未解決のままである場合、入出力が保留中になっているノードを表示し、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

- *runame* が **CD DSEARCH** である場合、このメッセージ・グループは以下のいずれかの問題を示しています。

- コーディングされた IOINT 値が低く、ADJSSCP テーブル値がコーディングされていない
- DYNASSCP 開始オプションと ADJSSCP テーブルが正しく調整されていない

これらの DSRLST 問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

- *runame* が **CHAR CODED** の場合、このメッセージ・グループは、VTAM が LU に USSMSG を送信し、応答を待機していることを示します。通常これは装置の問題です。ユーザーがログオフせずに端末の電源を切ると、しばしばこのようなエラーが発生します。この状況を訂正するには、リソース *formodename* に VARY INACT コマンドを入力してから、同じリソースに VARY ACT コマンドを入力してください。
- *runame* が **GUNBIND** で、メッセージがドメイン間環境でログオフ時に受信される場合、このメッセージ・グループは、以下のいずれかが発生した可能性のあることを示します。
 - アプリケーションが CLSDST マクロ命令を出さなかった。
 - 装置が UNBIND RU に対して間違った応答を送信したか、または応答を送信しなかった。

この問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」の共通サブエリア・ネットワーク問題に関する項を参照してください。

- *runame* が **NMVT** である場合、このメッセージ・グループは、装置が実時間でモニターできない状態にあることを示します。つまり、ほとんどの装置の NetView プログラム、または RISC System/6000 装置の RISC System/6000* ネットワーク管理プログラムに対して、情報が正しく応答されなかったり、返されなかったということです。この問題を完全に解決するには、マイクロコードを変更しなければなりません。

この問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

プログラマーの応答: MODIFY IOPD コマンドを使用して、このメッセージの表示を制御しているタイムアウト間隔を変更してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

待機手順については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST531I **{[FROM|TO] SUBAREA = subarea, ELEMENT = element|VIA gatewaynetid|VIA SUBAREA gwsubarea}**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST533I **ER er {SUCCEEDED|FAILED} IN ROUTE TEST routetest**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST533I ER er {SUCCEEDED|FAILED} IN ROUTE TEST
routetest
IST797I FROM VIA ADJACENT DEST ER LENGTH
IST644I originpu TG [adjnode] destpu
IST534I originsa [tg1] [adjsa] destsa erlength
[IST798I netid ]
[IST572I REJECTING TG ADJACENT ER MASK]
[IST816I rejsa tg2 rejadjsa ermask]
IST523I REASON = reason
```

VTAM が、明示経路 *er* で経路テストを行いました。VTAM が経路テストの結果を受け取り、このメッセージ・グループにその情報を表示します。経路テスト番号 *routetest* (メッセージ IST533I で示されます) がゼロであれば、経路テストと、その結果は非送信請求 (**unsolicited**) でした。その他の場合は、TEST=YES オプションが指定された DISPLAY ROUTE コマンドの結果で、送信請求 (**solicited**) でした。送信請求経路テストについては、*routetest* は経路テスト番号で、メッセージ IST535I グループの経路状況表示番号に相当します (これは、すでに DISPLAY ROUTE コマンドの結果として、表示されています)。

経路テストで成功、あるいは失敗した明示経路 *er*:

- ネットワーク *netid* のノード *originpu*、サブエリア番号 *originsa* から発生しました。発信元物理装置名が使用不能の場合、*originpu* は *****NA***** (使用不能) と表示されます。
 - *originpu* は、DISPLAY ROUTE コマンドの ORIGIN オペランドで指定されたノード、あるいはデフォルトで使用されたノードです。
 - *netid* が表示されます。これは、DISPLAY ROUTE コマンドの NETID パラメーターで指定されたか、あるいは NETID 始動オプション (VTAM の初期設定時) に指定されたネットワーク ID です。
- 隣接ノード *adjnode*、サブエリア番号 *adjsa* を通じた流れです。*tg1* は、隣接サブエリア *adjsa* へのリンクに定義された伝送グループ番号です。
 - 経路テストが請求されていない場合は、隣接ノードは流れに示されていないので、*adjnode*、*adjsa*、および *tg1* は表示されません。ノード名が不明の場合、*adjnode* は、*****NA***** (使用不能) と表示されます。
- 宛先がノード *destpu*、サブエリア番号 *destsa* でした。
 - *destsa* は、DISPLAY ROUTE コマンドの DESTSUB パラメーターで指定された宛先サブエリア番号です。ノード名が定義されていない場合、*destpu* は、*****NA***** (使用不能) と表示されます。

erlength は、テスト中に横断した伝送グループの数で表された、明示経路の長さです。

経路テストの要求が、正常に経路の別の終端へ送られ、経路の別の終端からの受け取りが完了すれば、明示経路は、経路テストを正常に完了します。テストが完了するには、物理接続可能性が経路全体に存在し、それぞれの中間ノード、および別の終端ノードに、正しい経路定義がされていなければなりません。

明示経路が、テストで失敗する場合は、以下のいずれかです。

- サブエリア番号 *rejadjsa* に隣接する、サブエリア番号 *rejsa* のノードにより、伝送グループ番号 *tg2* を通じて拒否され

ました。*rejadjsa* または *tg2* (あるいはその両方) は、拒否ノードに認識されていない場合には、ゼロになることがあります。

- *ermask* は、明示経路 *er* の方向と反対方向である操作経路を示す 16 進数 4 桁のマスクです。先頭の 8 ビットは、ER の 0 から 7 を表します。マスクが 0 の場合、ER は逆転不能です。
- 以下の *reason* の値のいずれかで、拒否されました。

A REQUIRED TG IS INACTIVE

明示経路が、経路のどこかで現在活動中でない伝送グループを要求しています。

ER EXCEEDS MAXIMUM LENGTH

明示経路が最大可能な長さを超えています (すなわち、ループ経路が存在するかもしれません)。

ER NOT DEFINED

明示経路が正方向に定義されていません。

ER NOT REVERSIBLE

明示経路は、定義に互換性がないためか、または反対方向への定義がなされていないために逆転できません。

MIGRATION ER NOT SUPPORTED

移行ノードが見つかりました。移行ノードは、ER または VR プロトコルをサポートしません。ERO は使用できません。

MIGRATION NODE DOES NOT SUPPORT THIS ER

隣接サブエリア NCP、または VTAM が、拡張サブエリア・アドレッシングをサポートせず、さらに活動化されつつある明示経路が、255 を超える発信元、または宛先サブエリアを持っているか、または 7 よりも大きい明示経路番号を持っています。

MIGRATION NODE ENCOUNTERED

移行ノードが見つかりました。移行ノードは、ER または VR プロトコルをサポートしません。ERO は使用できません。

UNEXPECTED TYPE BYTE X'nn'

理由コード *nn* (16 進数で表示されます) が、拒否しているノードから戻ってきましたが、VTAM は、この理由コードを認識できません。

以下は、典型的な経路障害の図です。

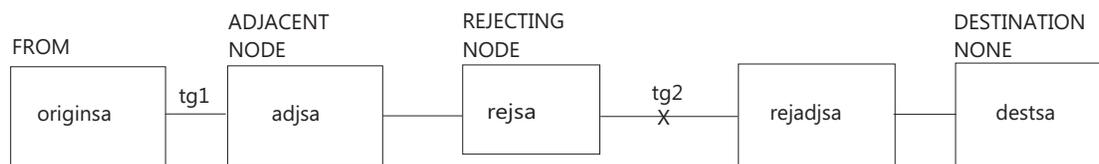


図 2. 典型的な経路障害

注: メッセージ IST572I、および IST816I は、経路テストが成功した場合には、表示されません。

システムの処置: 経路テストの結果にかかわらず、このホストに影響を与えずに、処理は続けられます。

オペレーターの応答: 明示経路が経路テストに成功した場合、VTAM は経路を使用してルーティング・セッション・メッセージ・トラフィックを行えます (ただし、明示経路および関連する仮想経路が VTAM に定義されていること)。経路定義が必要でない限り、オペレーターの応答は不要です。経路定義が必要な場合、適切なパス定義セットが活動化されます。

明示経路が経路テストに失敗した場合は、オペレーターの応答は必ずしも必要ではありませんが、VTAM がこの明示経路でセッション・メッセージ・トラフィックを運ぶためには、経路を正しく VTAM に定義し、経路のすべてのノードが、明示経路および仮想経路プロトコルをサポートするようにしてください。経路状況表示 (*routetest* に対応する、メッセージ IST535I) は、このホストの明示経路の定義、または未定義状況をリストします。

明示経路が、非活動伝送グループによって、経路テストに失敗した場合は、以下のいずれかの処置をとります。

- 拒否しているサブエリア *rejsa* をサブエリア *rejadjsa* の隣接ノードに接続している複数のリンクを、活動化させてください。
- 問題のあるノードがそのホストにない場合は、他のドメイン、または他のホストのオペレーターに、ノードの活動化を依頼してください。
- テストが請求されず、発信元のノードが別のホストの場合、この別のホストがこの経路でセッション・トラフィック活動を行うために、ノードを活動化する要求があることを示す場合があります。

プログラマーの応答: このメッセージ・グループの情報は、基本的には、NS_ER_TESTED 要求単位の中で現れます。

「VTAM Diagnosis」内の明示経路テスト・プロセスおよびその関連 RU の説明を参照してください。DISPLAY ROUTE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。問題の多くは、関連するネットワーク・ノード間での、矛盾する経路定義によるものです。

IST534I *originsa [tg1] [adjsa] destsa erlength*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは IST533I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST535I **ROUTE DISPLAY** *requestid* **FROM SA**
subarea1 TO SA subarea2

説明: このメッセージは、DISPLAY ROUTE コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST535I ROUTE DISPLAY requestid FROM SA subarea1
        TO SA subarea2
IST808I ORIGIN PU = originpu DEST PU = destpu
        NETID = netid
IST536I VR TP STATUS ER ADJSUB TGN STATUS
        CUR MIN MAX
IST537I [vr][tp] [vrstatus]
        [er] [adjsa] [tgn]
        [erstatus] [cur] [min]
        [max]
:
:
IST314I END
```

これらのメッセージは、宛先サブエリア *subarea2* への経路に対する、仮想経路状況、および明示経路情状況を表します。明示経路テスト・オプション (TEST=YES) が要求された場合は、適用可能な明示経路の実際のテストの結果が、後続のメッセージに表示されます。

IST535I

- メッセージ IST535I の経路表示番号 *requestid* は、同じ DISPLAY ROUTE コマンドにより出される後続のメッセージ (TEST=YES オプションの結果として) にも現れる、要求識別番号です。 *subarea1* は、経路状況を報告する側のノードのサブエリア・アドレスです。 *subarea2* は、宛先ノードのサブエリア・アドレスです。

IST808I

- メッセージ IST808I は、発信元 PU (*originpu*)、宛先 PU (*destpu*)、およびネットワーク ID (*netid*) のノード名を示します。
宛先サブエリア (DESTSA) が、PATH 定義ステートメントに定義されていない場合、*destpu* は、***NA*** (使用不能) と表示されます。

IST536I

- メッセージ IST536I は、後続のメッセージ IST537I のデータの列を識別するヘッダー行です。

IST537I

- 仮想経路は、以下で識別されます。
 - vr** 仮想経路番号および
 - tp** 伝送優先順位。
- メッセージ IST537I は、以下を識別します。
 - vrstatus** 仮想経路伝送優先順位対の現在の状況。
 - er** 仮想経路が対応している明示経路の番号。
 - adjsa** 明示経路が発信元ノードを離れるときに通る、隣接ノードのサブエリア番号。
 - tgn** 伝送グループ番号。
 - erstatus** 明示経路の状況。

VR 状況 *vrstatus* が、活動状態のときは、次のフィールドも含まれます。

cur

仮想経路の現在のウィンドウ・サイズ。

min

仮想経路の現在の最小ウィンドウ・サイズ。

max

仮想経路の現在の最大ウィンドウ・サイズ。

注: PATH 定義デックでコーディングされたデフォルトの最小、および最大のウィンドウ・サイズは、この表示には含まれません。

ISTPUS 以外の名前で、DISPLAY ROUTE コマンドに ORIGIN オペランドが指定されたか、または名前が、このホストの HOSTPU 開始オプションで指定された場合は、発信元サブエリア VR 情報を反映する *cur*、*min*、および *max* ウィンドウ・サイズは使用不能で、表示されません。

DISPLAY ROUTE コマンドに COSNAME オペランドが指定されている場合は、COS テーブル項目と同じ順序で、メッセージ IST537I が表示されます。仮想経路の表示、あるいは明示経路の表示が要求された場合は、仮想経路番号 (*vr*) の数字の順序で、メッセージが表示されます。

DISPLAY ROUTE コマンドで明示経路の表示が要求されたが、指定された明示経路を使用する仮想経路が定義されていない場合は、その明示経路に関するすべての仮想経路情報 (*vr*、*tp*、および *vrstatus*) は、ブランクになります。DISPLAY ROUTE コマンドで仮想経路の表示、あるいは COS の表示が要求され、指定された仮想経路が VTAM に定義されていない場合、その仮想経路に関するすべての明示経路情報 (*er*、*adjsa*、および *erstatus*) は、ブランクになります。*adjsa* は、UNDEF 状況のすべての明示経路に対してブランクになります。

メッセージ IST537I の *vrstatus* は、以下のいずれかの値を含む可能性があります。

ACTIV

VR が活動状態です。

仮想経路がパス定義セットで VTAM に定義されています。活動化が成功しました。1 つ以上のセッションで使用中です。

BLCKD

VR がブロックされています。

仮想経路が、経路定義セットで VTAM に定義され、活動化が成功しています。1 つ以上のセッションで使用していますが、経路に混雑が見つかりました。

PACT

VR が活動化を保留中です。

仮想経路が、経路定義セットで VTAM に定義され、このノードによって、活動化の途中です。

PINAC

VR が非活動化を保留中です。

仮想経路が、経路定義セットで VTAM に定義され、最近活動化されましたが、現在このノードによって非

活動化の途中です。VTAM が停止されない限り、再びセッションに必要なれば、VR は自動的に再活動化されます。

INACT

VR が非活動状態です。

仮想経路が、経路定義セットで VTAM に定義されていますが、現在は非活動状態、または活動保留状態です。その仮想経路が、セッションに必要なになったときに、自動的に活動化されます。

UNDEF

VR が未定義です。

仮想経路が、経路定義セットで VTAM に定義されていません。

メッセージ IST537I の *erstatus* は、以下のいずれかの値を含む可能性があります。

ACTIV1

ER が活動状態です。

明示経路は経路定義セットで VTAM に定義されており、ネットワークに対して物理的に使用可能なので、経路の別の終端のノードにより活動化されています。この状態にあるすべての経路に沿って物理装置が存在しているので、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。

ACTIV2

ER が活動状態です。

明示経路が経路定義セットで VTAM に定義されており、ネットワークに対して物理的に使用可能なので、経路の別の終端のノードにより活動化されていて、このノードでも活動化の途中です。この状態にあるすべての経路に沿って物理装置が存在しているので、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。

ACTIV3

ER が活動状態です。

明示経路は経路定義セットで VTAM に定義されており、これはネットワークに対して物理的に使用可能なので、このノードによって、またはこのノードと経路のもう一方の終端にあるノードの両方によって活動化されました。この状態にあるすべての経路に沿って物理装置が存在しているので、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。

MIGR

ER が活動状態です (ただし、限られた機能についてのみで、「移行」用です)。

明示経路が、経路定義セットで VTAM に定義され、ネットワークに対して物理的に使用可能であると思われます。活動化処理中に、経路の 1 つ以上のノードが、明示経路プロトコルをサポートしないと判明しました。1 つ以上のノードが、明示経路プロトコルをサポートしないため、経路テスト (TEST=YES オプション) は失敗する可能性があります。ただ、経路の物理接続可能性が失敗したわけではありません。移行ノードが原因で、経路が完全にテストできなかったというだけです。

PACT

ER が活動化を保留中です。

明示経路が経路定義セットで VTAM に定義されており、ネットワークに対して物理的に使用可能ですが、経路の別の終端のノードには活動化されておらず、現在このノードにより活動化の途中です。この状態にあるすべての経路に沿って物理装置が存在しているので、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。

INACT

ER が非活動状態です。

明示経路が、経路定義セットで VTAM に定義され、ネットワークに対して物理的に使用可能ですが、一度も活動化に成功していません。ER がセッションに必要なになった場合は、自動的に活動化が試みられます。この状態にあるすべての経路に沿って物理装置が存在しているので、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。

INOP

ER が操作不能です。

明示経路が、経路定義セットで VTAM に定義されていますが、ネットワークに対して物理的に使用不能です。これは、接続可能性がすべての経路に関して存在していないということです。明示経路が、物理的接続可能性を持たないために、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は失敗します。

PDEFA

ER が「保留定義-活動状態」です。

明示経路が、ネットワークに対して物理的に使用可能で、活動化処理が経路の他の終端ノードによって試みられましたが、経路は、経路定義セットで VTAM にまだ定義されていません。経路は、適切な経路定義セットが処理されたときに、このノードによって自動的に活動化されます。明示経路が、このホストに定義されていなくても、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。このテストの目的は、オペレーターが経路を定義するかどうかを判別できるように、明示経路の物理接続可能性を提供することです。VTAM が、セッション・メッセージ伝送を行うために、明示経路は、VTAM に定義されていなくてはなりません。

PDEFO

ER が「保留定義-作動状態」です。

明示経路が、ネットワークに対して物理的に使用可能ですが、経路は経路定義セット内で VTAM にまだ定義されていません。明示経路が、このホストに定義されていなくても、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は成功します。このテストの目的は、オペレーターが経路を定義するかどうかを判別できるように、明示経路の物理接続可能性を提供することです。VTAM が、セッション・メッセージ伝送を行うために、明示経路は VTAM に定義されていなくてはなりません。

UNDEF

ER が未定義です。

明示経路が、経路定義セットで VTAM に定義されておらず、ネットワークに対して物理的に使用可能ではありません。明示経路が、VTAM に定義されておらず、使用不能なため、経路テスト (TEST=YES オプション付き) は常に失敗します。

システムの処置: 処理を続行します。DISPLAY ROUTE コマンドに、TEST=YES が指定されている場合は、継続するメッセージ (経路表示番号 *rtn* が、メッセージ IST535I に表示されたものと同一です) は、経路テストが開始されたかどうかを示します。その場合には、テストの結果を示します (結果はネットワークから受け取ります)。

オペレーターの応答: 状況は、情報としてだけ使用される場合もあれば、状況が予想と異なる場合には、オペレーターに処置を促すこともあります。特に、状況が UNDEF になっている仮想経路や明示経路の場合は、経路定義セットを活性化させるように指示する場合があります。状況が INOP の明示経路では、サブエリア・ノード、サブエリア間リンク、またはサブエリア間リンク・ステーションを活性化させるように指示する場合があります。ノード、リンク、またはリンク・ステーションにネットワークの問題があることを示す場合もあります。

プログラマーの応答: なし。

**IST536I VR TP STATUS ER ADJSUB TGN
STATUS CUR MIN MAX**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST535I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

**IST537I [vr][tp] [vrstatus] [er] [adjsa] [erstatus] [cur]
[min] [max]**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST535I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST538I ROUTE TEST *routetest* IN PROGRESS

説明: このメッセージは、DISPLAY ROUTE コマンドに TEST=YES が指定されていて、ER テストを妨げるエラーが起こらなかった場合に、メッセージ IST535I で始まるメッセージ・グループに続いて表示されます。表示識別番号 *routetest* は、ROUTE TEST RU 内で渡され、非同期的に受け取られた ER テスト結果と、元の DISPLAY ROUTE コマンドとを関連づけるために使用されます。

システムの処置: 処理を続行します。ROUTE TEST RU は、ER テストを実行するように指示しています。ER テストの処理は、非同期的に実行されます。VTAM は、テストが完了してから出される後続のメッセージにテストの結果を表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST539I DISPLAY ROUTE COMMAND FAILED,
COS CANNOT BE RESOLVED**

説明: DISPLAY ROUTE コマンドに COSNAME が指定されていて、VTAM が指定された COSNAME に関連する仮想経路リストが見つけれなかった場合に、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: DISPLAY コマンドの実行は完了します。

オペレーターの応答: COSNAME のつづりが正しかったかどうかを確かめてください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 必要であれば、COS テーブルを更新して、必要な COSNAME を反映させてください。

**IST540I DISPLAY ROUTE COMMAND FAILED,
SENSE = *code***

説明: DISPLAY ROUTE コマンド処理中にエラーが発生すると、このメッセージが出されます。

code はセンス・コードで、エラーの原因を示します。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログと *code* の意味を参考にして、失敗した原因を判別してください。

**IST541I FOLLOWING PATH DEFINITION IS
IGNORED**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST541I FOLLOWING PATH DEFINITION IS IGNORED

IST544I PATH *list*

IST523I REASON = *reason*

VTAM は IST544I で示された経路定義を無視します。

list は次のいずれかです。

VRn = *ern*, **DESTSA** = *destsubarea*

ERn = *adj*, *tn* **DESTSA** = *destsubarea*

adj は、隣接サブエリア番号です。

destsubarea は、宛先サブエリア番号です。

ern は、明示経路番号です。

tn は、伝送グループ番号です。

reason は次のいずれかです。

INSUFFICIENT STORAGE

経路の存在を記録するテーブル項目を作成するための、十分なストレージがありません。

ER ALREADY DEFINED

指定された明示経路が、現行のパス定義ステートメントにすでに定義されています。

VR ALREADY DEFINED

指定された仮想経路が、現行のパス定義ステートメントにすでに定義されています。

ER MAY NOT BE REDEFINED

経路定義が、再定義できない状態（その経路は、活動状態にあります）にある明示経路を再定義しようとしています。

VR MAY NOT BE REDEFINED

経路定義が、再定義できない状態（その経路は、活動状態にあります）にある仮想経路を再定義しようとしています。

システムの処置： 記述された経路は、定義されていなければ使用不能です。

オペレーターの応答： 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答： ストレージ不足の問題が続く場合は、**DISPLAY BFRUSE** コマンドで得た出力から、該当するバッファ・プールを判別し、そのサイズを増やす必要がある場合があります。

これ以上ロスしないように、不必要なジョブの取り消しや、ネットワークで使用していない部分の非活動化を、オペレーターに指示してください。VTAM を停止させ、増やした記録域を指定して再始動させなければならない場合もあります。

経路がすでに定義されているのに、その定義を変更する場合には、パス指定にエラーがないか調べてください。

IST542I INVALID DESTSA *destsubarea* FOR PATH DEFINITION - IGNORED

説明： 宛先サブエリアの値 *destsubarea* が無効な場合、VTAM はこのメッセージを出します。無効な値とは、この VTAM が相互接続するネットワークがサポートする最大サブエリア番号を超えた値です。MXSUBNUM 開始オプションに指定された値が、最大サブエリア番号です。

システムの処置： 宛先サブエリア値 *destsubarea* は無視されません。*destsubarea* が、コーディングされた唯一の宛先サブエリア値である場合、すべてのパス定義が無視されます。

オペレーターの応答： 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答： 宛先サブエリア *destsubarea* への経路が必要な場合は、MXSUBNUM 開始オプションを修正して、最大サブエリア番号を変更してください。MXSUBNUM の新しい値を使用するには、VTAM を再始動してください。この開始オプションの説明については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

VTAM 開始オプションおよびそれと等価の ISTRACON フィールドについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST543I PATH *list* IS REDEFINED AS FOLLOWS

説明： このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST543I PATH *list* IS REDEFINED AS FOLLOWS
IST544I PATH *list*

経路デックに対する VARY ACT コマンドの結果として、経路を再定義中です。明示経路は異なる隣接サブエリア、伝送グル

ープ、または両方に至るように再定義されます。仮想経路は、異なる明示経路に対応するように再定義されます。

list は次のいずれかです。

VRn = *ern*, DESTSA = *destsubarea*

ERn = *adj*, tgn DESTSA = *destsubarea*

adj は、隣接サブエリア番号です。

destsubarea は、宛先サブエリア番号です。

ern は、明示経路番号です。

tgn は、伝送グループ番号です。

システムの処置： 指示された経路が、再定義されました。

オペレーターの応答： なし。旧経路をリストアしたい場合は、旧経路が定義されている経路テーブルを活性化させてください。

プログラマーの応答： なし。

IST544I PATH *list*

説明： このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは、IST541I または IST543I です。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST546I UNABLE TO PROCESS ER OP REPORT TO DESTINATION SA *destsubarea*

説明： このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST546I UNABLE TO PROCESS ER OP REPORT TO
DESTINATION SA = *destsubarea*
IST547I EXPLICIT ROUTE MASK *ermask*
IST523I REASON = *reason*

要求単位が、宛先サブエリア *destsubarea* に対して明示経路を操作可能であると報告しようとした。メッセージ IST523I で指摘された理由により、処理は失敗しました。

reason は、次の値のいずれかです。

INSUFFICIENT STORAGE

要求処理するだけの VTAM のストレージが、十分ではありませんでした。

INVALID ADJACENT SUBAREA *destsubarea*

サブエリア *destsubarea* が、最大サブエリア番号より大きいか、またはホスト・サブエリアと同じです。

INVALID DESTINATION SUBAREA *destsubarea*

サブエリア *destsubarea* が、最大サブエリア番号より大きいか、またはホスト・サブエリアと同じです。

メッセージ IST547I は、4 桁の 16 進数 (16 ビット) の *ermask* で、明示経路を示します。マスクの第 1 ビットは ER0 を、第 2 ビットは ER1 (以下同じ) を示します。システムの処置： 処理を続行します。VTAM が、報告された経路を操作可能にする要求を処理できないために、一部の VTAM の操作エラーが続いて起こる可能性があります。オペレーターの応答： 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答： ストレージ不足の問題が続く場合は、**DISPLAY BFRUSE** コマンドで得た出力から、該当するバッ

ァー・プールを判別し、そのサイズを増やす必要がある場合があります。

オペレーターに、必須でないジョブのキャンセル、またはネットワークの未使用部分の非活動化を依頼する必要がある場合があります。これにより、VTAM を停止してから増加させた記憶容量で再始動させるまでの間に発生するロスを防ぐことができます。

IST547I EXPLICIT ROUTE MASK *ermask*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは IST546I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST548I *command FAILED linkstation subarea1,nodename1 subarea2,nodename2*

説明: *linkstation* に対するコマンド *command* は、接続された (ロードされた) RU 内で受け取られた情報と、SSCP がすでに持っている隣接ノードについての情報とが一致しないため、失敗しました。SSCP テーブル内の隣接ノード (接続された RU からのサブエリア、または名前) が、PU タイプ 4 ではないか、RU のサブエリアまたは名前が、VTAM に定義されたサブエリアと一致しません。

subarea1 と *nodename1* は、RU から得られます。*subarea2* と *nodename2* は、VTAM の定義から得られます。どちらの場合も、隣接ノードの名前が使用不可の場合 (RU に名前フィールドがない場合、または VTAM がサブエリアでのみ隣接ノードを認識し、名前では認識していない場合) は、***NA*** が表示されます。

システムの処置: リンク・ステーションは非活動化されます。オペレーターの応答: 名前が与えられていて、それが正しければ、DISPLAY ID コマンドを使って、ノードを表示してください。DISPLAY STATIONS コマンドも出してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。プログラマーの応答: ネットワーク内に、同じ名前、または同じサブエリアを持つ異なる 2 つのノードがあります。エラーのノードを識別して、訂正してください。

IST549I LL2 TEST FOR ID = *name* ENDED *result*

説明: このメッセージは、MODIFY コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループ内の最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST549I LL2 TEST FOR ID = name ENDED result
IST243I FRAMES SENT = sent, RCVD = received,
        RCVD WITHOUT ERRORS = noerrors
```

MODIFY LL2 コマンドは、*name* に対してリンク・レベル 2 テストを開始するように要求します。

result は次のいずれかです。

DUE TO A LINK INOP

name が接続しているリンク内で障害が起こったため、テストが途中で中止されました。

DUE TO A TEST INIT ERROR

リンク・ステーションが初期テスト・コマンドに対する回答を待っている間に ERP 限界が満了したため、テスト初

期化プロシージャが失敗しました。この場合、*sent*、*received*、および *noerrors* はすべてゼロになります。2 つの NCP を接続しているリンクにおいて、両方の NCP が同時にそのリンクについてリンク・レベル 2 テストの開始を試みた場合にこのようなことが起こります。

SUCCESSFULLY

要求された個数の TEST コマンドに関して、有効な応答が受け取られました。

WITH ERRORS

テスト結果にエラーが含まれています。*noerrors* の説明を参照してください。

メッセージ IST243I には、送受信された SDLC TEST コマンドと応答の回数が含まれています。

sent は、テスト・コマンドが送られた数を表します。

received は、受け取ったコマンドの応答回数を表します。

noerrors は、受け取ったコマンドの応答回数を表し、ユーザーからのデータを (変更なしで) そのままもっています。データのエラーがなければ、その数は *received* と同じになります。*received* より数が少なければデータのエラーが発生しました。システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST561I STORAGE UNAVAILABLE: *bp* BUFFER POOL

説明: VTAM はバッファ・プール *bp* からストレージを要求しましたが、使用できるストレージがバッファ・プール内に十分でないため、要求は満たされませんでした。

bp は、バッファ・プールの名前です。バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

システムの処置: 要求されたストレージが必要になった理由によって、処置が決まります。このストレージ状態が VTAM に与える影響を示す、別のメッセージが続いて出されます。オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足が原因でエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

行っている操作が重要なものであれば、VTAM を停止して、さらに大きな区画サイズで再始動しなければなりません。

- DISPLAY BFRUSE および MODIFY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST562I STORAGE UNAVAILABLE: type REACHED

説明: 共通サービス域 (SGA) から VTAM ストレージを求める要求が出されましたが、満たされませんでした。満たそうとすると、SGALIMIT または SGA24 の制限値を超えることになります。

type は次のいずれかです。

- **SGALIMIT** ストレージの割り振り要求で、24 ビット・アドレス可能ストレージを明示的に指定しなかった場合。
- **SGA24** ストレージの割り振り要求で、24 ビット・アドレス可能ストレージを明示的に指定した場合。

システムの処置: 要求されたストレージが必要になった理由によって、処置が決まります。このストレージの状態が VTAM に与える影響を示す別のメッセージが、続いて出されることがあります。

オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターが、開始手順で指定されたとおりに、SGA 開始オプションを入力したことを確認してください。

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが足りないためにエラーが発生したのであれば、MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して SGA 制限を再定義しなければならない場合があります。

- DISPLAY BFRUSE および MODIFY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST567I command OF loadmodname FOR ncpname status

説明: このメッセージは、以下のいずれかの状況で、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

- VARY ACT コマンドに関連するディスク操作が行われなかったときに、NCP に出された VARY ACT,LOAD=YES または LOAD=U コマンドに応答する場合。
- NCP ncpname に LOADFROM、SAVEMOD、または DUMpload を指定した、NCP に出された VARY ACT コマンドに応答する場合。
- MODIFY LOAD 要求が実行不能だったときに、NCP に出された MODIFY LOAD コマンドに応答する場合。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST567I command OF loadmodname FOR ncpname status
IST523I REASON = reason

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

loadmodname は、影響を受けるロード・モジュールの名前です。不明の場合、loadmodname は、***NA*** です。

ncpname は、NCP の名前です。

status は次のいずれかです。

CANCELED
COMPLETE
FAILED
NOT PERFORMED

reason は次のいずれかです。

ALREADY LOADED

VARY ACT コマンドは継続します。通信コントローラーは、すでにロードが完了しています。

CANCEL IN PROGRESS

MODIFY LOAD (任意の ACTION タイプ) コマンドが出されましたが、VTAM は、同じ NCP に対して取り消し要求をその時点で処理していました。取り消しが完了しなければ、次に MODIFY LOAD コマンドを入力することができません。

CANCELED BY OPERATOR

処理中のロードは、MODIFY LOAD,ACTION=CANCEL コマンドで取り消されました。

CONTROLLER DISK OPTION UNAVAILABLE

コントローラーがディスク機能をサポートしないため、VARY ACT コマンドが失敗しました。

DISK/HARDWARE ERROR

ディスク、またはハードウェアのため、VARY ACT コマンドが失敗しました。

DISK FUNCTIONS NOT PERFORMED

非 3705 通信コントロール・ユニットの PCCU 定義ステートメントで INITEST=YES が指定されました。ロードは実行されましたが、VARY ACT コマンドは失敗しました。

DISK RESOURCE TEMPORARILY UNAVAILABLE

ハードウェア・リソースが、一時的に使用不能です。

DUPLICATE LOAD MODULE ON DISK

MODIFY LOAD, ACTION=ADD コマンドが入力されましたが、すでに同じ名前のロード・モジュールが、ディスクにあります。

ESTIMATED IPL WITHIN 5 MINS OF ANOTHER LOADMOD

MOSS ディスク上の別のロード・モジュールが、オペレーターが要求した IPL と同じ時間に IPL をスケジュールしたために、MODIFY LOAD コマンドが失敗しました。

FAILED - BAD LOGICAL UNIT

NCP 記号装置番号 (SYS000) が正しく割り当てられていないため、VARY ACT コマンドが失敗しました。

FAST LOAD NOT PERFORMED

VARY ACT, LOAD=YES コマンドが入力され、NCP のロードが成功しました。ただし、一度にロード・モジュール全体をストレージに入れるには、使用できる GETVIS 域が不足しているため、VTAM は高速ロードをせずに低速ロードを実行しました。

FUNCTION NOT SUPPORTED

MODIFY LOAD コマンドが入力されましたが、その NCP では、このコマンドはサポートされていません。

INITIAL TEST INVALID FOR CCU

非 3705 通信コントロール・ユニットの PCCU 定義スタートメントで INITEST=YES が指定されました。

IPLTIME MORE THAN 90 DAYS FROM CURRENT DATE

指定された IPLTIME が、現在の日付から 90 日を超えているため、MODIFY LOAD コマンドが失敗しました。

keyword time EARLIER THAN SYSTEM TIME

MODIFY LOAD コマンドが失敗しました。

keyword は、IPLTIME または NOTIFY のいずれかで、コマンドが失敗した理由を示します。

IPLTIME

要求された IPL 時間が、現在のシステム時間より前であるため、VTAM は IPL をスケジュールできません。

NOTIFY

通知を要求された時間が、現在のシステム時間より前であるため、VTAM は IPL をスケジュールできません。例えば、IPL を今から 30 分後に、また IPL の通知を IPL の始まる 60 分前にスケジュールすると、MODIFY LOAD コマンドは失敗し、VTAM は、このメッセージを出します。

IPLTIME および NOTIFY の両方の値が無効な場合でも、VTAM は、このメッセージを一度しか出しません。*keyword* の値は、IPLTIME です。

time は、*date, hh:mm* の形式であり、IPL または通知が要求された日時が入ります。*date* は、VTAM 開始パラメーターで指定された形式で出されます。デフォルトは *mm/dd/yy* です。*hh:mm* は 24 時間形式です。例えば、1:00 P.M. は、13:00 として表示されます。

LOAD IN PROGRESS

MODIFY LOAD, ACTION=ADD | REPLACE | PURGE コ

マンドが入力されましたが、VTAM は、その NCP に対して別のロード処理を行っていました。一度にロードできるのは 1 つだけです。

LOAD NOT IN PROGRESS

処理中のロードを取り消すために、MODIFY LOAD, ACTION=CANCEL コマンドが入力されましたが、処理中のロードはありません。

NO IPL SCHEDULED FOR LOAD MODULE *load_module*

MODIFY LOAD コマンドが失敗しました。スケジュールされた IPL は、このモジュールには現在セットされていません。

NO ROOM ON DISK

以下のいずれかが、起こりました。

- MODIFY LOAD, ACTION=ADD コマンドが入力されましたが、ディスクはすでにいっぱいです。
- A MODIFY LOAD, ACTION=REPLACE コマンドが入力されましたが、ロード・モジュール *loadmodname* が、ディスクにありません。ディスクにロード・モジュールを追加するためのスペースが不足しています。

REQUESTED FILE NOT FOUND

以下のいずれかが、起こりました。

- オペレーターが、LOADFROM=HOST オペランドを指定した VARY ACT コマンドを入力しましたが、VTAM はホストに NCP ロード・モジュール *loadmodname* を検出できませんでした。
- オペレーターが、LOADFROM=EXTERNAL オペランドを指定した VARY ACT コマンドを入力しましたが、VTAM は通信コントローラーのハード・ディスクに NCP ロード・モジュール *loadmodname* を検出できませんでした。
- オペレーターが、ACT=PURGE オペランドを指定した MODIFY LOAD コマンドを入力しましたが、VTAM は通信コントローラーのハード・ディスクにロード・モジュール *loadmodname* を検出できませんでした。

RU LENGTH ERROR

NCP が IPLINIT RU を拒否したため、MODIFY LOAD 操作が停止されました。これは、NCP が、MODIFY LOAD コマンドを処理できる正しいレベルではないことを示します。

SSP NOT CORRECT LEVEL

コントローラー (CCU)、NCP、または SSP は、要求された機能をサポートしていません。NCP V5R2 以前の NCP リリースは、LOADFROM、SAVEMOD、または DUMpload オペランドを指定して、ロードできません。これらのオペランドは、NCP V5R2 または以降のリリースについてのみに有効です。コマンドは失敗しました。

システムの処置: システムの処置については、*reason* の上記の説明を参照してください。その他の処理を続行します。オペレーターの応答: *reason* が以下の場合によって、応答が異なります:

CANCELED BY OPERATOR

アクションは不要です。これは単なる通知メッセージです。

DISK RESOURCE TEMPORARILY UNAVAILABLE

要求を再試行してください。

DUPLICATE LOAD MODULE ON DISK

MODIFY LOAD コマンドの ACTION=ADD オプションの代わりに、ACTION=REPLACE オプションを使用して、コマンドを再入力してください。

ESTIMATED IPL WITHIN 5 MINS OF ANOTHER LOADMOD

DISPLAY DISK コマンドを入力して、MOSS ディスクのすべてのロード・モジュールに対してスケジュールされている IPL 時間を判別してください。それに応じて、*ipltime* の値を変更し、コマンドを再入力してください。

FAILED - BAD LOGICAL UNIT

これは、VTAM の問題と思われる。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

FAST LOAD NOT PERFORMED

処理は不要です。

IPLTIME MORE THAN 90 DAYS FROM CURRENT DATE

現在の日付から 90 日以内の日付を指定して、コマンドを再入力してください。

keyword time EARLIER THAN SYSTEM TIME

time パラメーターを訂正し、コマンドを再入力してください。詳細については、VTAM Operation を参照してください。

LOAD IN PROGRESS

現在のロード操作の完了を待ってから、コマンドを再実行してください。

LOAD NOT IN PROGRESS

処理は不要です。処理中の操作を取り消す必要はありません。

NO IPL SCHEDULED FOR LOAD MODULE *load_module*

処置は不要です。これは単なる通知メッセージです。

NO ROOM ON DISK

MODIFY LOAD,ACTION=PURGE コマンドを入力して、不要なロード・モジュールをディスクから削除してください。ディスクの内容を調べるには、DISPLAY DISK コマンドを入力してください。

REQUESTED FILE NOT FOUND

システム・プログラマーによってセットアップされた手順に従ってください。

RU LENGTH ERROR

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

SSP NOT CORRECT LEVEL

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

または、ハードウェアの問題について定義された手順に従ってください。

プログラマーの応答:

- *reason* が **RU LENGTH ERROR** の場合は、NCP が正しいレベルであることを確認してください。
- *reason* が **SSP NOT CORRECT LEVEL** の場合は、NCP、SSP、および CCU が、正しいレベルであることを確認してください。VARY ACT コマンドで LOADFROM、SAVEMOD、または DUMpload オペランドを使用するためには、NCP が NCP V5R2 かそれ以降のリリースでなくてはならず、SSP も SSP V3R4 かそれ以降のリリースでなくてはなりません。
- それ以外の *reason* の場合、このほかに推奨する処置はありません。

IST571I LOAD FAILED FOR ID = *puname* REQ: *ru*, SENSE: *code*

説明: VTAM は、PU タイプ 2 をロードした後、そのロードが正常に完了したかどうかを示す NS_LOADSTAT 要求単位を受け取ります。ロードが正常に完了しなかったことを示す NS_LOADSTAT を受け取ったときに、VTAM はこのメッセージを出します。

puname は、ロードを要求した物理装置の名前を示していません。

- *ru* が **IPL INIT**、**IPL TEXT**、または **IPL FINAL** である場合、要求されたロードは、そのロード・プロシーチャー中に失敗します。
- 失敗したネットワーク・サービス要求単位 *ru* が **INITLOAD** である場合、アプリケーション・プログラムがロード要求を処理できないために、ロードに失敗します。

code はセンス・コードで、失敗の原因についての情報を表示します。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

注: *ru* が *****NA***** の場合、*code* は 08000000 (要求は拒否) であり、失敗した要求は使用できません。(その要求およびセンス情報は NS_LOADSTAT RU に含まれていません。) システムの処置: システムの処置は、ロードがいつ要求されたかによって異なります。物理装置の活動化処理中にロードが要求された場合、VTAM はその PU を非活動化します。非活動化が完了したときは、別のメッセージでそれが示されます。PU が活動化されたあとでロードが要求された場合、VTAM は何の処置もとりません。

オペレーターの応答: ロードの失敗が原因で物理装置が非活動化された場合は、物理装置の活動化を再試行してください。それ以外の場合は、何の処置もありません。この問題が再発する場合は、PU のハードウェアを調べ、問題を判別してください。
プログラマーの応答: なし。

IST572I REJECTING TG ADJACENT ER MASK

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは IST533I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST574E START I/O TIMEOUT OCCURRED FOR *linkname*

説明: ホストが I/O 操作を開始しましたが、その入出力操作に指定された時間内に割り込みが受信されませんでした。*linkname* は、通信リンクの名前です。
システムの処置: 処理を続行します。

注: このメッセージが表示された 3 分以内に他のホストから応答がなければ、要求単位 (RU) は消失します。LINE または GROUP の定義に MIH=YES が定義されていれば 3 分後に RU が失われ、さらに PU が操作不能になります。割り込み間隔は、MIHTMOUT 開始オプションで修正できます。詳細については、VTAM Resource Definition Reference を参照してください。

オペレーターの応答:

- 他のホストが失敗した場合、リンク *linkname* は使用できませんのでオペレーターはそのリンクを非活動化してください。
- 他のホストが一時的に停止した場合は、オペレーターがシステムを再び開始すれば、通常の操作が再開されます。

それ以外の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: なし。

IST577I TIME = *time* DATE = *date* ID = *id*

説明: このメッセージは、チャンネル間アダプターの VTAM の操作に属している調整統計を表示する、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST577I TIME = time DATE = date ID = id
IST578I CHNRM = chnrm CHMAX = chmax RDBUF = rdbuf
IST579I ATTN = attn TIMERS = timers QDPTH = qdpth
IST580I BUFCAP = bufcap PRI = pri SLODN = slodn
IST581I IPIU = ipiu OPIU = opiu DLRMAX = dlrmx
IST1022I WRBUF = wrbuf
IST314I END
```

IST577I

time は、レコードが記録されたときの時間 (時、分、秒と 100 分の 1 秒で表されます) を示します。例えば、07431380 はレコードが、その日の 7 時 43 分 13 秒 80 に記録されたことを意味します。

date は、調整統計報告書が記録された日付です。日付は、*yyddd* の形式で、*yy* は西暦の最後の 2 桁、*ddd* は年間通算日です。例えば、87190 はレコードが 1987 年の 190 日目に記録されたことを意味します。

id は、調整統計の収集に使用されたリンクの名前です。これは、関連するチャンネル接続大ノードの LINE 定義ステートメントの名前と一致します。

IST578I

chnrm は、VTAM がデータを、アダプターのもう一方にあるノードに送信するのに使用したチャンネル・プログラムの数です。

- *chnrm* は書き込みトリガーの数以上の数となります (TIMERS + QDPTH + PRI + BUFCAP)。
- *chnrm* と書き込みトリガーの合計が異なる場合は、以下のことを意味します。

データがキューイングされたときに、他のホストが出したアテンションによって開始された書き込みデータを持つチャンネル・プログラムの数ですが、書き込みデータを持つチャンネル・プログラムをトリガーできませんでした。

- チャンネル間アダプターの DELAY オペランドの値を増やすごとに、*chnrm* と書き込みトリガーの合計が、大きくなっていく可能性があります。

chmax は、すべてのチャンネル・プログラムのサイズが同じなので、0 になります。

rdbuf は、測定期間中に、転送された入力バイトの合計です。

IST579I

attn は、他のホストがデータを送信するために、チャンネル・プログラムを開始した回数です。この統計は、表示される他のどの統計とも関係ありません。アテンション割り込みの数を示すだけの値です。

インターバル時間を超えて比較したときは、ATTN は通常、他のホストでの TIMERS、QDPTH、BUFCAP と PRI の合計とは等しくありません。VTAM は、I/O 操作を開始する最初のイベントだけをカウントし、両方のホストが同時に書き出そうとした場合には、片方のホストは、調整統計に反映されないアテンションを受け取ります。

timers は、キューイングされたチャンネル間 PIU に対して指定された時間が満了したために、書き込みデータを持つチャンネル・プログラムが開始された回数です。

- セッション・トラフィックが多量の場合、望ましい値は 0 です。
- セッション・トラフィックが少量の場合、望ましい値は 0 以下です。

LINE 定義ステートメントの DELAY オペランドを増やすか、伝送優先順位 2 を使用すると、*timers* の値が減ることがあります。

qdpth は、キュー限界に達したために、チャンネル・プログラムが開始された回数です。この数は、*timers* より大きくなければなりません。

注: チャンネル経路アダプターに DELAY=0 が指定されると、TIMERS および QDPTH 調整統計が誤解を招くことがあります。

DELAY=0 の場合、*qdpth* はチャンネル間アダプターにデータを書き込んだチャンネル・プログラムの数を示します。

DELAY=0 の場合を除き、VTAM は使用率に基づく QDPTH 制限を判別します。

DELAY=0 の場合、*timers* は増加しません。

IBMLink にアクセスしている場合、追加情報については APAR OY59335 を参照してください。

IST580I

bufcap は、チャンネルの反対側にあるホストの読み取りバッファをいっぱいにするだけのデータがあるので、書き込みデータを持つチャンネル・プログラムが開始された回数を示します。

- 書き込みバッファが書き込みデータでいっぱいになっているチャンネル・プログラムが完了してから、データ・キューに残された残余 PIU によって、書き込みデータを持つチャンネル・プログラムが開始されると、*bufcap* も増加します。
- *bufcap* が常に 0 である場合、他の VTAM ホストの読み取りバッファが多すぎます。

pri は、優先順位の高い PIU がアウトバウンド・チャンネル・キューにあるために、書き込みデータを持つチャンネル・プログラ

ムが開始された回数です。つまり、PIU は伝送優先順位 2 以下で実行されているか、または仮想経路ペーシング応答となっています。

この数が大きくて、このチャンネルについては、きわめて少しの伝送優先順位 2 トラフィックしかない場合は、最小仮想経路ウィンドウ・サイズが、おそらく小さすぎます。TIMERS + QDPATH + BUFCAP の合計に関連するこの数が大きくなれば、アウトバウンドの発生が減り、より多くの CPU 時間が各 PIU によって使用できます。

slodn は、他の VTAM のスローダウン状況によって、書き出しデータを持つ、この VTAM チャンネル・プログラムが妨害された回数を示します。

IST581I

ipiu は、インバウンド PIU の数です。各チャンネル・プログラムに関する PIU の平均数は、送信側から以下のように計算できます。OPIU / (CHNRM + CHMAX)

opiu は、アウトバウンド PIU の数です。各書き出しプログラムに関する出力 PIU の平均数は、以下のように計算できます。OPIU / (CHNRM + CHMAX)

dlrmax は、間隔内のある時点で処理を待機していたか、またはその時点で処理されていたダンプ/ロード/再始動要求の最大数を示す 10 進数です。この数は、報告書に指定された SNA コントローラーではなく、ドメイン全体に適用されます。ダンプ/ロード/再始動サブタスクは、次のタイプの要求を処理します。

- NCP のダンプ、ロード、または再始動
 - オペレーターに対して応答を要求する VTAM メッセージ
 - ローカル大ノードに対する、セッションの確立と終了処理
- この値は、一度にいくつのダンプ/ロード/再始動要求を処理できるのかを決定する DLRTCB 開始オプションの適切な設定値を決めるのに使用できます。DLRMAX が常に DLRTCB を超える場合、VTAM は使用可能な TCB の要求を逐次化するため、パフォーマンスに影響が出ることがあります。

IST1021I

wrbuf は、計算期間に転送された出力の合計バイト数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 担当のシステム・プログラマーの指示に従って、システムを調整してください。統計の記録を中止するには、MODIFY NOTNSTAT コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: 調整統計の調整および分析方法については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST578I CHNRM = *chnrm* CHMAX = *chmax* RDBUF = *rdbuf*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST577I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST579I ATTN = *attn* TIMERS = *timers* QDPATH = *qdpth*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST577I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST580I BUFCAP = *bufcap* PRI = *pri* SLODN = *slodn*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST577I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST581I IPIU = *ipiu* OPIU = *opiu* DLRMAX = *dlrmax*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST577I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST582I 'EVERY' INVALID FOR TRACE OF ID = *hostpuname* - OPERAND IGNORED

説明: オペレーターがホスト名 *hostpuname* または ISTIRN に SCOPE=ALL または、EVERY オプションを指定してバッファー・トレースまたは I/O トレースの開始または終了を試みると、VTAM はこのメッセージを出します。SCOPE=ALL または EVERY オプションは、ホスト PU トレースについては、サポートされません。

システムの処置: VTAM は、SCOPE=ALL または EVERY オプションを無視します。トレースは指定されたノードに関してのみ、開始されるか終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST585E VTAM UNABLE TO CLOSE *applname* - RESOURCES MAY BE LOST TO VTAM

説明: VTAM アプリケーション・プログラム *applname* が、CLOSE ACB マクロ命令を出したか、または VTAM がアプリケーション・プログラムのアクセス方式制御ブロック (ACB) をクローズしようとする、VTAM はこのメッセージを出します。

このメッセージは、アプリケーション・プログラムが CLOSE ACB マクロ命令を出してから、アプリケーション・プログラムの下位タスクが異常終了した場合に、しばしば表示されます。この異常終了が発生すると、VTAM はアプリケーション・プログラムに代わって、ACB をクローズしようとしません。VTAM の ACB のクローズは成功しない場合もありますが、アプリケーション・プログラムの出さず CLOSE ACB は成功します。

システム・エラーが起きる可能性も、もちろんあります。

システムの処置: ACB はクローズされない場合もあり、またシステム・リソースが失われる場合もあります。

オペレーターの応答: これは、おそらくソフトウェア・エラー

です。このメッセージが、複数の異なるアプリケーション・プログラムで表示されたり、重要なリソースが拘束される場合には、VTAM を停止してから再始動してください。さらに、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

VTAM の停止中に、このメッセージが出たときは、VTAM 区画とアプリケーション・プログラム、さらに監視プログラムのダンプを取得し、VTAM 区画を取り消してください。

プログラマーの応答: オペレーターから提供された出力を解析し、問題の原因を判別してください。

アプリケーション・プログラムの問題について詳しくは、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

**IST587I IRN STORAGE {EXCEEDED|DEPLETED}
CAUSED BY SLOWDOWN OF NODE
nodename**

説明: このメッセージは、隣接サブエリア・ノード向けに経路指定できない中間ルーティング・ノード (IRN) トラフィックに使用された VTAM ストレージの状況を示します。

- 状況が **EXCEEDED** の場合は、中間ルーティング・ノードの低速処理に対してユーザーが指定したストレージの限界を超えています。
- 状況が **DEPLETED** の場合は、中間ルーティング・ノードのバッファーマネージャーがページング可能ストレージを得ることができません。

スローダウン処理の隣接サブエリアは、*nodename* によって識別されます。

システムの処置: 中間ルーティング・ノード・トラフィックは、固定バッファ内に保持されます。

オペレーターの応答: スローダウン処理のノードを非活動化してください。そうすれば、そのノードに関連するすべての固定ストレージおよびページング可能ストレージが解放されます。しかし、ユーザー・セッションは、中断されるかもしれません。

プログラマーの応答: ストレージの限界を超えた場合は、IRNSTRGE 開始オプションを修正してください。VTAM *Resource Definition Reference*

IST588I SIT TRACE STATUS = status

説明: このメッセージは、回線の状況を要求する DISPLAY コマンドを出した結果として表示される一連のメッセージの 1 つです。

スキャナー・インターフェース・トレース (SIT) は、NCP と回線の問題の診断に役立ちます。*status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST589I ERROR FOR ID = ncpname, CODE = code,
NET = netid**

説明: ゲートウェイ NCP *ncpname* の活動化中に、エラーが起きました。VTAM は、非ローカル、ネットワーク *netid* に割り当てた *ncpname* のネットワーク・アドレスを記録できませんでした。VTAM が他のネットワークのゲートウェイ NCP から、LU-LU セッションの要求を受け入れる場合は、ローカル・ネットワークの VTAM は、他のネットワークの NCP のネットワーク・アドレスを記録することができます。

ネットワーク・アドレスは、ゲートウェイ NCP の定義の BUILD、または NETWORK 定義ステートメントの NETID、MAXSUBA、および SUBAREA オペランドをもとに、VTAM によって割り当てられます。

code はエラーの理由を示すもので、以下のいずれかとなります。

- 1 同じサブエリア番号を持つ、非ローカル・ネットワーク *netid* のゲートウェイ NCP の記録が、ローカル・ネットワークにすでに存在します。
- 2 ネットワーク *netid* のサブエリア範囲が認知されていません。MAXSUBA オペランドが、*ncpname* の定義の BUILD または NETWORK 定義ステートメントに指定されていませんでした。ネットワーク・アドレスを割り当てるには、VTAM に *netid* のサブエリア範囲がなければなりません。
- 3 ネットワーク・アドレスを記録するストレージが不足しています。

システムの処置: ゲートウェイ NCP *ncpname* の活動化は続けられます。ただし VTAM は、ネットワーク *netid* から *ncpname* を通じて LU-LU セッションの要求を受け入れることができなくなり、また *code* が 1 の場合には、異なるゲートウェイ NCP を通じて、セッション要求を経路指定することになります。どちらになるかは予測できません。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログを保管し、大ノード定義を印刷してください。

プログラマーの応答: *code* の値によって、以下の応答が決まります。

- 1 ネットワーク *netid* 用に活動化された、または活動化されているゲートウェイ NCP の定義デックを調べてください。BUILD または NETWORK 定義ステートメントの NETID、または SUBAREA オペランドを検査してください。同じネットワークに対するサブエリア番号が、重複してはなりません。
- 2 **NETID = netid** が指定された BUILD、または NETWORK 定義ステートメントに、MAXSUBA をコーディングしてください。
- 3 ネットワーク *netid* のゲートウェイ NCP のネットワーク・アドレスを記録するためのストレージが、不足しています。これ以上ロスしないように、不必要なジョブの取り消しや、ネットワークで使用していない部分の非活動化を、オペレーターに指示してください。何度も失敗する場合は、VTAM を停止させてから再始動させてください。

IST590I *action* FOR PU *puname* ON LINE *linename*

説明: VTAM は以下の状態のときにこのメッセージを出します。

- *action* が **CONNECTIN ESTABLISHED** である場合、交換 PU からダイヤルインした結果、論理回線 *linename* を通じて、交換物理装置 *puname* への接続が確立されました。

注: NCP からダイヤルする場合にも、この処置は表示されます。

- *action* が **CONNECTOUT ESTABLISHED** の場合、交換 PU からダイヤルアウトした結果として、論理回線 *linename* を通じて、交換物理装置 *puname* への接続が確立されました。

ダイヤルアウトは、以下のいずれかが原因で起こります。

- アプリケーション・プログラムが、PU に関連する交換 LU で、セッションを確立しようとした。
- VARY DIAL コマンドに回答して、タイプ 2 または 2.1 装置への交換接続が確立された。

- *action* が **CONNECTOUT FAILED** の場合、論理回線 *linename* を通じて交換 PU *puname* に接続しようとする試みが失敗しました。

交換 PU への多重経路が定義されている場合、*linename* は接続が試みられた最後の論理回線の名前になります。

- *action* が **CONNECTION TERMINATED** の場合、論理回線 *linename* を通じて交換 PU *puname* に接続しようとする試みが終了しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *action* が **CONNECTOUT FAILED** の場合は、回線が使用不能になった原因を判別して、訂正してください。それ以外の場合については、処置は不要です。

プログラマーの応答: なし。

IST593I **ISTPDCLU {PD TRACE|SESSION AWARENESS} SESSION ENDED**

説明: UNBIND 要求が、VTAM LU サブタスク ISTDCLU と、NetView (TM) プログラム、NCCF LU、DSIAMLUT との間の LU-LU セッションの内の 1 つにおいて受信されました。2 つの並行 LU-LU セッションがあります。VTAM によって満たされた PIU トレース・バッファの内容を転送するためには、PD トレース・セッションが使用されます。セッション認識データを含んでいるバッファを転送するためには、セッション認識セッションが使用されます。このデータは、NetView プログラムまたは NLDM によって使用されません。

システムの処置: PD TRACE が指定されており、PD トレース・セッションが終了した後に、VTAM PIU トレース・バッファがいっぱいになった場合、PIU トレース・バッファは、最も古いトレース・データが含まれているバッファから順に再使用されます。この重ね書きは、PD トレース・セッションが、再開されるまで続きます。したがって、VTAM は常に、その PIU トレース・バッファ内で、最も新しくトレースされた PIU を維持していることとなります。VTAM サブタスク ISTDCLU は、新しい BIND 要求を待ちます。

SESSION AWARENESS が指定されている場合、VTAM

は、既存のセッション認識バッファを解放します。NetView プログラムと、NLDM は、セッション認識トレースの再始動を要求したときには、システム内の既存のすべてのアクティブ・セッションの最新状況を受け取ります。

オペレーターの応答: NetView プログラム端末オペレーター、または NLDM 端末オペレーターと相談し、UNBIND 要求の原因を判別してください。さらに VTAM PIU トレースが必要であれば、PD TRACE セッションを再活性化してください。

プログラマーの応答: なし。

IST594I **ISTPDCLU *macroname* FAILED**

class=rtnfdbk.reason1 [*class=rtnfdbk.reason2*]

説明: VTAM LU サブタスク ISTDCLU に代わって、VTAM によって出されたマクロ *macroname* が失敗しました。

macroname が **OPEN ACB** の場合、*reason1* は ACBERFLG の値で、*reason2* は表示されません。

macroname が、RPL ベース・マクロ命令の場合、*reason1* は理由コード RPLRTNCD で、*reason2* はフィードバック・コード RPLFDB2 です。*reason1* および *reason2* の説明については、740 ページの『戻りコードおよび戻りコード通知用のセンス・フィールド』を参照してください。

システムの処置: OPEN ACB マクロ命令が失敗した場合は、VTAM サブタスク ISTDCLU は、切り離されてから再び VTAM によって接続されます。ISTPDCLU の ACB をオープンする試みは、最高 25 回まで行われます。

SEND マクロ命令が失敗した場合は、送信されるバッファの内容は消失します。ISTPDCLU サブタスクのために処理は続きます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 戻りコードとフィードバック・コードの両方 (RPL ベース・マクロ命令について)、または ACBERFLG の値 (OPEN ACB の失敗について) を用いて、失敗の原因を判別してください。

IST595I **IRNLIMIT = *irnlimitK*, CURRENT = *currentirnK*, MAXIMUM = *maximumirnK***

説明: このメッセージは、DISPLAY BFRUSE コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST449I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST596I **IRN TRACE = {ON|OFF}**

説明: このメッセージは、VTAM が DISPLAY ID コマンドに回答して出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージには、VTAM の中間経路ノード (IRN) 機能に対して行われる入出力 (IO) トレースと、バッファ内容 (BUF) のトレースの状況が記述されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST597I **CAPABILITY-PLU** *capability,SLU*
capability,SESSION LIMIT limit

説明: このメッセージは、アプリケーション・プログラム、クロドメイン・リソース、または論理装置に出された DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、ノードが 1 次論理装置 (PLU)、または 2 次論理装置 (SLU) になり得るかどうかを示します。

limit は、そのノードに存在できる最大セッション数で、先行ゼロを持つ 10 進数で表されます。

capability は次のいずれかです。

ENABLED

ノードは、PLU または SLU、またはその両方として動作可能です。ローカル非 SNA 装置は、常に使用可能な機能を表示します。

DISABLED

ノードは (利用不可状態になるまで) 一時的に、PLU や SLU としては動作できなくなります。ただし、セッションはキューイングできます。装置の電源がオフの可能性があります。この状態は、装置の電源をオンにすることによって解消することができます。ACB をオープン状態のアプリケーション・プログラムが SLU になり、SETLOGON START コマンドが出されていない場合、そのアプリケーション・プログラムは、DISABLED と示されます。

INHIBITED

ノードがセッションを確立する準備ができていないか、またはどのセッションもキューイングしません。そのノードは、PLU または SLU としては動作できません。SSCP-LU セッションを持たない論理装置は、PLU と SLU 機能に対して、非活動化された CDRSC と同様に INHIBITED と示されます。オープンした ACB を持たないアプリケーション・プログラムは、SETLOGON QUIESCE を出したアプリケーション・プログラムと同様に、INHIBITED と示されます。

UNSTABLE

ノードは、あるタイプのエラー・リカバリーを試みています。これは、ERP、INOP、またはセッション終了が原因です。

limit は、リソースが独立 LU の場合、NONE です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *capability* が装置に対して DISABLED になっている場合は、装置の電源がオンになっているか確認してください。

capability がアプリケーションに対して DISABLED になっている場合は、アプリケーションが SETLOGON OPTCD=START を出していることを確認してください。

capability が INHIBITED になっている場合は、ACB がオープンされ、SETLOGON START も入力されていることを確認してください。

プログラマーの応答:

注: 装置 LU に対する *capability* が INHIBITED になっている場合、その機能については装置から VTAM に通知済みであることが、通常示されます。この情報は、NOTIFY または ACTLU RU の X'0C' 制御ベクトルで VTAM に渡されます。RU を獲得するには、装置を活動化する前か、または使用禁止にさせる手順を繰り返す前に、OPT=PIU を指定した VTAM 内部トレースか、または LU のバッファ・トレースを実行してください。RU の形式および X'0C' (LU 機能) 制御ベクトルについては、「VTAM Data Areas」を参照してください。SETLOGON マクロ命令の詳細については、「VTAM Programming」を参照してください。

IST599I **REAL NAME =** *realname*

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。*realname* は、表示されるリソースの実ネットワーク修飾名です。

注:

1. IST599I は、DISPLAY ID コマンドに指定された名前が実名である場合は、出されません。
2. 名前が不明のときは、*realname* は ***NA*** と表示されます。

IST602I **VARY FAILED ID =** *nodename* - **HIGHER**
NODE HAS BECOME INACTIVE

説明: 前の VARY コマンドが高位ノードを非活動化したため、VARY コマンドが失敗しました。これにより、今度は *nodename* が非活動化されます。

システムの処置: VTAM は VARY コマンドを拒否します。

高位ノードとすべての従属ノードは非活動状態になります。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 高位ノードと *nodename* の両方を再活動化できます。高位ノードは、エラー・リカバリー処理中に非活動化されている可能性があります。システム・ログを見て、非活動化の原因がエラー・リカバリー手順にあったのか、一連のコマンドにあったのかを判別してください。

IST605I **ERROR FOR ID =** *nodename* - *text1:text2*,
DATA INVALID FOR THIS NODE

説明: ノード *nodename* から出された要求が失敗したか、*nodename* の送信した応答に無効なデータが含まれていました。

text1:text2 はエラーを指定しており、以下のいずれかになります。

REQUEST : CONTACTED

理由 1 と 2 を参照してください。

RESPONSE : ACTPU

理由 3、4、5 と 6 を参照してください。

RESPONSE : RNAA

理由 7 を参照してください。

VTAM は以下のいずれかの理由で、このメッセージを出します。

1. エラーが原因で接続が失敗したことを示す **CONTACTED** 要求が、周辺ノードで受信されました。
 - 接続された RU に渡されたネットワーク ID が無効である可能性があります。
 - 周辺 PU と、PU が接続される通信コントローラーとの間の回線に問題がある可能性があります。
 - **CONTACTED** 要求に渡された制御点が、接続先のホストと同じです。
2. 隣接通信コントローラーがロードされていなかったことを示す **CONTACTED** 要求が、リンク・ステーションについて受信されました。発生する可能性のある状況は、3 つです。
 - a. リンク・ステーション *nodename* は、リンク・ステーションに出された **VARY ACT** コマンドによって活動化中でした (リンク・ステーションの直接、または間接活動化です)。VTAM は、隣接通信コントローラーがすでに NCP をロードしたと予期しましたが、まだロードしていませんでした。リンク・ステーションが 1 つしか活動化されていないと、VTAM がロード操作をしないため、リンク・ステーションの活動化は失敗します。
 - b. *nodename* に隣接する NCP のエラーをリカバリーしていたため、リンク・ステーション *nodename* が活動中でした (リンク・ステーションの自動活動化です)。
 - c. *nodename* に隣接する NCP に **VARY ACT** コマンドを出したために、リンク・ステーション *nodename* が活動化中でした。 **VARY ACT** コマンドに **LOAD=NO** が指定されていたために、NCP はロードされませんでした。
3. ロードが行われた後、または **LOAD=NO** が指定された **VARY ACT** コマンドで NCP を初期活動化した後に、NCP から受信した **ACTPU** 応答のロード・モジュール名またはサブエリアが、VTAM の予期した名前と、一致しませんでした。
4. **ACTPU** でエラーが発生したため、VTAM に無効な応答が返されました。これは、ハードウェアである可能性があります。
5. **LOAD=NO** を指定した **VARY ACT** コマンドまたは **VARY ACQ** コマンドを実行したところ、NCP から受信した **ACTPU** 応答がタイム・スタンプと一致しませんでした。
6. スケジュールされた IPL が事前に NCP にセットされて、NCP が再ロードされた場合、**ACTPU** 応答は VTAM が予期する名前と一致しません。NCP が、活動化されたときのロード・モジュールと異なるロード・モジュールと共に再ロードされた場合は、このメッセージが出され、NCP-VTAM セッションが、非活動化される可能性があります。
7. NCP から **RNAA** 応答を受信したところエラーが発生し、VTAM に無効な応答が返されました。これは NCP のエラーの可能性があり、

システムの処置: ノード *nodename* は、非活動化されます。

理由 2b、および 2c: ノード *nodename* は非活動化され、隣接 NCP は 1 つ以上の他の隣接リンク・ステーションが正常に活動化されるのを待機状態で保留状態になります。

オペレーターの応答:

- 理由 1: システム・ログを保管して、問題を判別してください。
- 理由 2: 最初に NCP が非活動状態にあることを確認した後で、この通信コントローラーに使用する NCP を活動化し、リンク・ステーション *nodename* に隣接する通信コントローラーをロードしてください。
リンク・ステーション *nodename* は以下のように再活動化されます。
 - 自動的 (NCP の活動化の一環として)
 - 直接的または間接的 (例えば、NCP が正常に活動化された後に **VARY ACT** コマンドを使用して)

NCP がロードされた後も異常終了を繰り返す場合は、障害追及のために、障害を起こした NCP をダンプしてください。

- 理由 3: システム・ログを保管して、問題を判別してください。
- 理由 4: システム・ログを保管して、問題を判別してください。

オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、MDR/OBR 情報が記録されているかどうかを判別してください。EREP の使用について詳しくは、「*EREP User's Guide and Reference*」を参照してください。NetView のようなネットワーク管理アプリケーションを使用している場合、この問題についての警告が記録されているかどうか調べてください。

バッファ・トレースを行うと、エラーの原因についての追加情報が提供されることもあります。

- 理由 5: システム・ログを保管して、問題を判別してください。
- 理由 6: **VARY ACT,LOAD=NO** コマンドを入力し、IPL で使用したロード・モジュールで NCP を活動化してください。
- 理由 7: システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答:

- 理由 1:
 - **contacted RU** で渡されたネットワーク ID が、PU 定義ステートメントで指定されたネットワーク ID と一致することを確認してください。
 - ノードを活動化しなければならない場合は、再活動化してください。問題が再発する場合は、影響を受けた *nodename* に対して入出力トレースまたはバッファ・トレースを実行している間に、問題を再現してください。*nodename* がリンク接続の場合は、影響を受けた回線に対して回線トレースを実行してください。

MODIFY TRACE,ID=ncpname コマンドを入力してください。*ncpname* は、周辺 PU、またはリンク・ステーション *nodename* (リンク・ステーション *nodename* に隣接する NCP 大ノードの反対として) を含む、NCP 大ノードの名前です。

- 1 つのホストに、タイプ 5 とタイプ 2.1 接続で接続している NCP がある場合、両方の接続を同時に活動化することはできません。タイプ 5 接続が活動しているのにタイプ 2.1 接続を同じホストで活動化させようとすると、このメッセージが出されます。

- 理由 2: これ以上の推奨される応答はありません。
- 理由 3: そのノードが活動化されなければならない場合は、再活動化してください。問題が再発する場合は、影響を受けた *nodename* に対して入出力トレースまたはバッファ・トレースを実行している間に、問題を再現してください。*nodename* がリンク接続の場合は、影響を受けた回線に対して回線トレースを実行してください。

MODIFY TRACE,ID=*nodename* コマンドを入力してください。

- 理由 4:
 - 表示される出力からは問題の原因を判別できない場合や、さらに援助が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの MDR/OBR 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。
 - 明らかにソフトウェアの問題であれば、以下の処置を実行してください。
 - IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
 - IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。
- 理由 5: そのノードが活動化されなければならない場合は、再活動化してください。問題が再発する場合は、影響を受けた *nodename* に対して入出力トレースまたはバッファ・トレースを実行している間に、問題を再現してください。*nodename* がリンク接続の場合は、影響を受けた回線に対して回線トレースを実行してください。

MODIFY TRACE,ID=*nodename* コマンドを入力してください。

- 理由 6: これ以上の推奨される応答はありません。
- 理由 7: そのノードが活動化されなければならない場合は、再活動化してください。問題が再発する場合は、影響を受けた *nodename* に対して入出力トレースまたはバッファ・トレースを実行している間に、問題を再現してください。*nodename* がリンク接続の場合は、影響を受けた回線に対して回線トレースを実行してください。

MODIFY TRACE,ID=*nodename* コマンドを入力してください。

IST607I *command* FOR *nodename* FAILED — INVALID NODE TYPE OR STATE

説明: コマンド *command* に指定されたオペランドは、タイプ、または *nodename* の状態が、要求された操作に対して無効のため、ノード *nodename* には適用できません。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 有効なノード・タイプであるリソース、

またはコマンドを入力するのに有効な状態のリソースに対して、コマンドを再入力してください。現在のリソースの状態を判別するには、DISPLAY ID コマンドを使用してください。*command* に関する追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST608I *command* FOR ID = *minornode* FAILED — HIGHER NODE: *highernode* NOT ACTIVE

説明: リソース *minornode* (論理装置、物理装置、または物理装置タイプ 4 またはリンク) を活動化するために *command* を入力すると、VTAM はこのメッセージを出します。高位ノード *highernode* が活動状態ではないために、コマンドが失敗しました。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

- minornode* が論理装置の場合、*highernode* は物理装置です。
- minornode* が物理装置、または物理装置タイプ 4 の場合、*highernode* はそのリンクです。
- minornode* がリンクの場合、*highernode* は、回線グループに対する GROUP 定義ステートメントの PHYSRSC オペランドに指定された物理装置です。

highernode は *minornode* を活動化する前に活動していなければなりません。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: リソース *minornode* を活動化する前に、ノード *highernode* に対する VARY ACT コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST610I *LINE* *linename* - STATUS *linestatus*

説明: このメッセージは、DISPLAY コマンドに対する応答として、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループについて詳しくは、メッセージ IST396I の説明を参照してください。

linestatus の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

IST617I *DEACTIVATION IN PROGRESS FOR* *nodename*

説明: CDRM 大ノード、または小ノードに出された VARY INACT コマンドを処理したところ、*nodename* が非活動化されました。

システムの処置: ノード *nodename* は非活動化状態になります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST619I ID = *nodename* FAILED - RECOVERY IN PROGRESS

説明: VTAM はノード *nodename* について失敗状態を認識したので、ノードのリカバリーを試みています。リカバリー処置の結果については、後続のメッセージを参照してください。

システムの処置: *nodename* のユーザー、または *nodename* に接続している装置にも、障害が通知されます。VTAM は *nodename* のリカバリーを試みます。
 オペレーターの応答: リカバリー処置の成否を示す追加メッセージが出されるまで待ってください。
 プログラマーの応答: なし。

IST621I {RECOVERY SUCCESSFUL|SSCP TAKEOVER COMPLETE} FOR NETWORK NODE *nodename*

説明: *nodename* またはアクティブ・セッションとの接続は、正常にリカバリーされました。前に、*nodename* またはその従属ノードに接続していたアプリケーション・プログラムは通知を受け取り、これらのノードの使用を再開することができます。
 システムの処置: ノード *nodename* は活動状態に戻されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IST623I *tabletype* ADJACENT SSCP TABLE [FOR *netid*]

説明: このメッセージは、以下のいずれかの状況が発生した場合に DISPLAY ADJSSCP コマンドを出した結果として、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- コマンドに指定された CDRM または NETID に、特定の ADJSSCP リストが定義されていない。
- CDRM も NETID も、コマンドには指定されていない。
- コマンドに SCOPE=ALL が指定されている。

DISPLAY ADJSSCP コマンドを実行すると、宛先 SSCP またはクロスドメイン・リソースへの経路指定に使用された隣接 SSCP についての情報が要求されます。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I DISPLAY TYPE = ADJACENT SSCP TABLE
IST623I tabletype ADJACENT SSCP TABLE [FOR netid]
IST624I sscpname
:
IST314I END
```

コマンドに SCOPE=ALL が指定されていると、コマンドのオペランドの指定に一致する、すべての定義済みの動的 ADJSSCP に対して、IST623I サブグループが繰り返し出されます。

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループでは、DISPLAY TYPE は必ず ADJACENT SSCP TABLE となります。

IST623I

- *tabletype* は、どの隣接 SSCP テーブルが表示されているかを示します。
 - *tabletype* が **DEFAULT** の場合、指定された CDRM または NETID には特定のリストは定義されませんでした。表示中のリストは、表示された NETID のデフォルト・リスト、またはすべてのネットワークのデフォルト・テーブルとして定義されました。

隣接 SSCP テーブルの定義方法については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
 - *tabletype* が **DYNAMIC** の場合、特定のリストは指定された CDRM または NETID に定義されず、デフォルトのリストも定義されませんでした。表示中のリストは、指定された NETID またはすべてのネットワークのデフォルト・テーブルに、動的に作成されました。

動的隣接 SSCP テーブルの詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

netid はリソースのネットワーク ID です。これは、DISPLAY ADJSSCP コマンドが NETID を指定し、デフォルト隣接 SSCP リストが、指定されたネットワークに定義されると表示されます。

IST624I

VTAM はこのメッセージを、表示中の隣接 SSCP テーブルの、各 *sscpname* に対して出します。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IST627I *nodename* - INSUFFICIENT STORAGE

説明: MODIFY TRACE コマンド、MODIFY NOTRACE コマンド、TRACE 開始オプション、または NOTRACE 開始オプションがノード *nodename* に対して出され、VTAM トレースを活動化または非活動化しようとしたが、パラメーター・リストを作成するための十分なストレージがありませんでした。

システムの処置: VTAM はコマンド、または開始オプションを拒否します。
 オペレーターの応答:

- VTAM がコマンドへの応答としてこのメッセージを出した場合、少し待ってからコマンドを出し直してください。エラーが解決しない場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。
- VTAM がスタートアップ時にこのメッセージを出す場合は、VTAM が初期設定されるまで待って、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャーに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足が原因でエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを

変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。
- VTAM Diagnosis

IST632I BUFF BUFF CURR CURR MAX MAX TIMES EXP/CONT EXP

説明: VTAM は、DISPLAY BFRUSE,BUFFER=SHORT コマンドに応答するメッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I DISPLAY TYPE = BUFFER POOL DATA
IST632I BUFF BUFF CURR CURR MAX MAX TIMES
      EXP/CONT EXP
IST633I ID SIZE TOTAL AVAIL TOTAL USED EXP
      THRESHOLD INCR
IST356I bpid[Q][F] bufsize curtot curavail maxtot
      maxused times exp/cont incr
IST449I limitname = sga, CURRENT = current,
      MAXIMUM = maxlevel
IST790I MAXIMUM type USED = maxK
IST595I IRNLIMIT = irnlimitK, CURRENT=currentirnK
      MAXIMUM = maximumirnK
IST981I VTAM PRIVATE: CURRENT = currentK,
      MAXIMUM USED = maximumK
IST314I END
```

メッセージ IST356I は、各 VTAM バッファース・プールについて繰り返されます。

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループでは、タイプは常に、**BUFFER POOL DATA** です。

IST632I および IST633I

これらのメッセージは、IST356I に表示された情報のヘッダー・メッセージです。

IST356I

- *bpid* は、バッファース・プールの名前です。バッファース・プールの説明、およびバッファース・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
 - Q** (存在する場合) は、このプールに対して要求がキューイングされたことを示します。このフィールドは通常、ブランクです。
 - F** (存在する場合) は、動的バッファリングが失敗したことを示します。このフィールドは通常、ブランクです。
- bufsize* は、各バッファース内のバイト数を表す 10 進数の値です。
 - IOBUF の場合は、このメッセージの *bufsize* に、87 バイトのオーバーヘッド値を追加しなければなりません。バ

ッファース・プールのデフォルト・サイズの情報については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

curtot は、プール内のバッファースの合計数を示す 10 進数です。

curavail は、現在未使用である使用可能なバッファースの数を示す 10 進数の値です。

maxtot は、最後にバッファース・プール・トレース記録が書き込まれてからこのプールに含められたバッファースの中で、一番多いバッファースの数を示す 10 進数の値です。

maxused は、最後にバッファース・プール・トレース記録が書き込まれてから使用されたバッファースの最大数を示す 10 進数です。

times は、最後にバッファース・プール・トレース記録が書き込まれてからこのプールが拡張された回数を示す 10 進数です。*times* の値が 99999 より大きい場合、このフィールドには ***** が表示されます。

exp は、トリガース拡張に使用された 10 進数です。

未使用のバッファースの数がこの値よりも低くなった場合、VTAM はバッファースを追加します。動的バッファリングが抑止された場合、このフィールドには **N/A** が入ります。

cont は、トリガース縮小に使用された 10 進数です。

使用可能なバッファースの数がこの値よりも大きくなる場合、VTAM は動的に獲得されたバッファースの可用性を検査します。使用可能であれば、VTAM はこれらのバッファースを解放します。ただし、使用可能なバッファースを解放する場合、ページ単位でバッファースを解放するので、同じページのすべてのバッファースも使用可能でなければなりません。

この値は、バッファース・プールが拡張モードの場合にのみ定義されます。画面に空白が表示された場合、バッファース・プールは現在拡張モードではありません。

動的バッファリングが抑止された場合、この欄には **N/A** が入ります。

incr は、動的拡張中にバッファース・プールに追加されるバッファースの数を示す 10 進数です。

バッファースは全ページに追加されます。このため、この数は、バッファース・プールの定義時に使用される数よりも大きくなる場合があります。動的バッファリングが使用できない場合、このフィールドには **N/A** が入ります。

IST449I、IST790I、IST595I、および IST981I サブグループ

このメッセージ・サブグループの記述については、メッセージ IST449I を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレータースの応答: なし。

プログラマースの応答: なし。

**IST633I ID SIZE TOTAL AVAIL TOTAL USED
EXP THRESHOLD INCR**

説明: VTAM は、DISPLAY BFRUSE,BUFFER=SHORT コマンドに応答するメッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST632I を参照してください。

**IST634I NAME STATUS SID SEND RECV VR TP
NETID**

説明: このメッセージは、アプリケーション・プログラム、クロスドメイン・リソース (CDRSC)、ホスト・クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM)、または論理装置に出された DISPLAY ID コマンドに応答して VTAM が出した、メッセージ・グループの一部です。メッセージ IST634I は IST635I の列ヘッダーで、各セッション・パートナー *name* に繰り返し出されます。メッセージ・グループのこの部分の完全な記述を以下に示します。

```
IST634I NAME STATUS SID SEND RECV VR
TP NETID
IST635I name status [sessid] [send] [recv] [vr]
[tp] [netid]
:
IST314I END
```

name はセッション・パートナー名です。

status はセッション状況であり、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』で説明されています。

sessid はセッション ID (SID) です。

send は、DISPLAY ID コマンドに指定されたリソースの送信した PIU の番号 (16 進数) の送信カウントです。このカウントは、通常のデータ・フローにのみ適用されます。

recv は、DISPLAY ID コマンドに指定されたリソースに受信された PIU の番号 (16 進数) のカウントです。このカウントは、通常のデータ・フローにのみ適用されます。

注: *send* および *recv* の値がブランクの場合、送信および受信カウントが (このホストでは) 使用できず、また BIND (/B) または UNBIND (/U) が進行中であるかどうかを示すものでもありません。例えば、PU タイプ 1 では、SEND または RECV カウントが使用できません。

vr は、セッションの使用する仮想経路番号です。セッション・パートナーが同じサブエリアにある場合、このフィールドは空白のままになります。

tp は、セッションに割り当てられた伝送優先順位です。セッション・パートナーが同じサブエリアにある場合、このフィールドは空白のままになります。

netid は、セッション・パートナーを含むネットワークを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST635I name status [sessid] [send] [recv] [vr] [tp]
[netid]**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST634I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST636I CDRSCS OWNED BY *cdrrmname* -

説明: このメッセージは、外部クロスドメイン・リソース・マネージャー *cdrrmname* に出された DISPLAY ID コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。このメッセージは、メッセージ IST080I のヘッダーで、*cdrrmname* の所有するクロスドメイン・リソースがリストされます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST637I SUBAREA=*subarea* ELEMENT=*element*

説明: このメッセージは、外部クロスドメイン・リソース・マネージャーに出された DISPLAY ID コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージです。

subarea と *element* は、外部 CDRM のサブエリアとエレメントのアドレスを、ユーザーのネットワークに定義されているとおりに表示します。サブエリアとエレメント・アドレスが不明のときは、N/A と表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST638I ADJNETSA = *adjnetsa*, ADJNETEL = *adjnetel*

説明: このメッセージは、外部クロスドメイン・リソース・マネージャーに出された DISPLAY ID コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。また、このメッセージ・グループは、別のメッセージ・グループの一部として現れることもあります。

```
IST638I ADJNETSA = adjnetsa, ADJNETEL = adjnetel
IST675I VR = vr, TP = tp
IST639I GWN = gwn, ADJNET = adjnet
IST640I hostname ADDR IN ADJNET - SA = hostsa,
EL = hostel
IST641I GATEWAY PATH SELECTION LIST - status
IST642I ADJNET GWN SUBAREA ELEM ADJNETSA
ADJNETEL
IST643I [adjnet] [gwn] [adjsa] [el]
[adjnetsa] [adjnetel]
```

メッセージ IST638I は、サブエリア・アドレス *adjnetsa*、および隣接ネットワークに定義された外部 CDRM のエレメント・アドレス *adjnetel* を示します。これらのアドレスが不明な場合には、このメッセージは表示されません。

メッセージ IST675I は、隣接ネットワーク内の CDRM セッションの仮想経路番号 (*vr*) と、伝送優先順位 (*tp*) を示します。隣接ネットワーク内の経路情報が認識されている場合にのみ、VTAM は、このメッセージを出します。

メッセージ IST639I は、隣接ネットワーク *adjnet* の CDRM に対する経路で使用される、ゲートウェイ NCP 名 *gwn* を示します。ゲートウェイ NCP、および隣接ネットワークの両方が認識されている場合にのみ、VTAM はこのメッセージを出します。

メッセージ IST640I は、外部 CDRM のネットワークに定義されたこのホスト *hostname*、サブエリア・アドレス *hostsa*、およびエレメント・アドレス *hostel* を示します。名前とアドレスが不明な場合には、このメッセージは表示されません。

メッセージ IST641I は、続いて出されるゲートウェイ経路選択リストを識別するヘッダー行になります。ゲートウェイ経路選択リストは、ネットワーク間 SSCP-SSCP セッション (これは、このホスト CDRM と、隣接ネットワークの外部 CDRM 間のセッションです) を確立するために使用された、代替ゲートウェイ NCP のリストです。 *status* が現れない場合は、メッセージ IST642I と IST643I が、ゲートウェイ NCP のリストに続いて出されます。 *status* が **DOES NOT EXIST** の場合には、CDRM には NCP が定義されず、メッセージ IST642I と IST643I は現れません。

リスト内の各項目には、セッションを確立するための、特定のゲートウェイ NCP の選択に使用されたパラメーターが、含まれています。一度セッションが活動化されると、別のメッセージが、SSCP-SSCP セッションの確立に使用された経路を識別します。

メッセージ IST642I は、メッセージ IST643I に表示されたデータのヘッダー行です。メッセージ IST643I によって表示された情報は、CDRM 大ノードの GWPATH 定義ステートメントで定義されたオペランドから獲得されます。VTAM は、各 GWPATH 定義ステートメントに、メッセージ IST643I を出します。表示された情報のいくつかが欠けている場合、対応する値が GWPATH 定義ステートメントから省略されています。情報には以下の項目が含まれます。

adjnet 隣接ネットワークのネットワーク ID
gwn CDRM への経路で使用されたゲートウェイ NCP の名前
adjsa このネットワークに定義された CDRM のサブエリア・アドレス
el このネットワークに定義された CDRM のエレメント・アドレス
adjnetsa 隣接ネットワークに定義された CDRM のサブエリア・アドレス
adjnetel 隣接ネットワークに定義された CDRM のエレメント・アドレス

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST639I GWN = *gwn*, ADJNET = *adjnet*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST638I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST640I *hostname* ADDR IN ADJNET - SA = *hostsa*,
EL = *hostel*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST638I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST641I GATEWAY PATH SELECTION LIST -
status

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST638I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST642I ADJNET GWN SUBAREA ELEM
ADJNETSA ADJNETEL

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST638I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST643I [*adjnet*] [*gwn*] [*adjsuba*] [*el*] [*adjnetsa*][*adjnetel*]

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部として出されます。グループの最初のメッセージは IST638I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST644I *originpu* TG [*adjnode*] *destpu*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST533I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST645I *configname* DEFINITION FAILED - NO
VALID *macrotype* MACRO

説明: 活動化、またはリソース・テークオーバー中に、NCP 定義 *configname* が、以下のいずれかの理由で失敗しました。

- NCP 定義に、有効な *macrotype* 定義ステートメントがない。
- NETID オペランドが、NCP 定義の各 *macrotype* 定義ステートメントに指定されたが、NETID の値が、このホストのネットワーク ID と一致しない。
- このホストのサブエリアに一致する、指定されたまたはデフォルト指定された SUBAREA オペランドの値を持つ *macrotype* 定義ステートメントがない。HOST 定義ステートメントについては、SUBAREA が指定されていない場合、サブエリアの値はデフォルトの 1 にされますが、HOSTSA 開始オプションの値が異なっている場合は、不一致を起す可能性があります。PCCU 定義ステートメントについては、SUBAREA オペランドのデフォルトは、このホストのサブエリアの値になります。
- HOST 定義ステートメントが、ローカル接続された V4R3 以前の NCP に指定されていない。

- BUILD 定義ステートメントが、有効な PCCU 定義ステートメントの前にあった (PCCU 定義ステートメントが指定されていないか、または NETID と、SUBAREA に一致する定義がない)。

システムの処置: NCP 定義デックの活動化は、ネットワーク定義中に失敗します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 正しい NETID と SUBAREA 値 (またはデフォルト) を指定して、*macrotype* 定義ステートメントを訂正するか、または正しい NETID と SUBAREA 値 (またはデフォルト) を、*macrotype* 定義ステートメントに含めてください。

IST650I **POLL = *delay*, NEGPOLL = *negresponse*, SESSION(S) = *maxsessions***

説明: このメッセージは、非交換ポーリング回線 (非 SDLC 回線) に出された DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出す回線状況表示の一部です。

delay は、回線のポーリング遅延時間 (連続ポーリング遅延時間) で、10 進数で表される秒数です。

negresponse は、回線上の他の端末のポーリングに対する否定応答の最大回数です。

maxsessions は、回線で許されているスケジュールされたセッションの最大数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST652I ***keyword* IS A DUPLICATE KEYWORD IN THE TRACE/NOTRACE OPTION**

説明: TRACE または NOTRACE 開始オプション文字列に、*keyword* が 2 回以上指定されています。

システムの処置: VTAM 初期設定プログラムは、TRACE も NOTRACE オプションも、またその後の開始オプションも処理しません。その前の開始オプションは、処理されています。

オペレーターの応答: IST1311A が出ていれば、以下のいずれかを実行してください。

- TRACE または NOTRACE オプション、およびその後のすべてのオプションを正しく入力してください。
- ブランクを入力して、デフォルト値にしてください。

プログラマーの応答: 開始オプションを訂正してください。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST654I **I/O TRACE = {ON|OFF}, BUFFER TRACE = {ON|OFF} [- AMOUNT = *value*]**

説明: 回線以外のトレース可能ノードに対する DISPLAY ID コマンドが出されると、VTAM はこのメッセージを出します。メッセージには、I/O トレース機能がノードに対して活動状態か非活動状態か、またそのノードに対してバッファ・トレース機能が活動状態か非活動状態かが示されます。

AMOUNT = *value* は、BUFFER TRACE = ON の場合に表

示されます。 *value* は TRACE 開始オプションまたは MODIFY TRACE コマンドに指定された AMOUNT オペランドの値を表し、またバッファの内容がどの程度トレース可能かを示します。 *value* は次のいずれかです。

PARTIAL

トレース記録は、ヘッダー情報を含めて最大サイズの 256 バイトあります。

FULL

バッファのすべての内容がトレース可能です。

注: バッファ内容のトレースを開始した時点で、AMOUNT が指定されていない場合は、デフォルトの *value* PARTIAL が表示されます。

バッファ内容トレースの追加情報については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST655I ***tracetype* TRACE STATUS = *status***

説明: VTAM は、DISPLAY ID コマンドに回答して、このメッセージを出します。

tracetype は次のいずれかです。

CNM

通信ネットワーク管理 (CNM) トレース

LINE

回線トレース

SMS

ストレージ管理サービス (SMS) トレース

TG 伝送グループ・トレース

status は、表示されているトレースの状況を示します。DISPLAY ID コマンドが入力された場合、このメッセージは、表示された回線に行われた LINE、または TG トレースの状況を示します。このメッセージは、コマンドが入力されたときに、LINE または TG トレースが活動状態であるか、または保留状態である場合にだけ表示されます。

status 情報については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST656I **ACTIVATE REJECTED FROM UNDEFINED CDRM, SA *subarea* EL *element***

説明: 外部ドメイン内のクロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) が、このドメインとのセッションを確立するために、ACTCDRM 要求を使用して要求を送信しましたが、CDRM が、VTAM に認識されていないために、失敗しました。このドメインには、CDRM が定義されていません。

subarea は、外部 CDRM のサブエリア・アドレスです。

element は、外部 CDRM のエレメント・アドレスです。

システムの処置: VTAM は要求を拒否します。その CDRM とのセッションは、確立できません。

オペレーターの応答: サブエリア *subarea* をもっているドメインのオペレーターに連絡し、どの CDRM が要求されたのかを調べてください。その非活動状態の CDRM に対する定義を含んでいる CDRM 大ノードに対して、VARY ACT コマンドを入力してください。そうすれば、このドメインの外部にある CDRM は、このドメインとのセッションを確立することが可能になります。問題判別のために、システム・ログとネットワーク・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 定義ライブラリーを調べて、このドメインとの通信を必要とすると思われる外部ドメインのすべての CDRM が、VTAM に対して定義されているかどうかを確認してください。

IST658I *command* **COMMAND FAILED - uservar NOT FOUND**

説明: VTAM に認識されていない USERVAR *uservar* に MODIFY USERVAR または DISPLAY USERVAR を出して失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。処理を続行します。

オペレーターの応答: VTAM に認識されているすべての USERVAR をリストするために、DISPLAY USERVAR コマンドを入力してください。正しい USERVAR 名を指定して、MODIFY USERVAR コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST660I *command* **FOR ID = nodename FAILED — PARM: parameter NOT VALID**

説明: 受け付けられないパラメーターが入力されたために、*nodename* に出された *command* が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

- *parameter* が **U='** (ブランク) の場合は、チャンネル接続大ノードの回線またはローカル SNA PU が装置アドレスなしで定義されており、装置アドレスが VARY ACT コマンドの U オペランドで指定されませんでした。
- *parameter* が **U=device_address** の場合は、**U=device_address** を指定した VARY ACT コマンドが、チャンネル接続大ノードの回線またはローカル SNA PU に対して入力されましたが、それが活動状態ではありませんでした。*device_address* が現在使用中の装置アドレスと一致しないと、このエラーになります。
- *parameter* が **LOGON=controllu** の場合、制御 LU 名が、アプリケーションに対する VARY ACT コマンドの **LOGON** オペランドに指定されました。制御 LU は、論理装置に対してのみ有効です。
- *parameter* の値が **RNAME** であれば、次の理由によりこのメッセージが出されます。
 - **RNAME=nodename** が、通信コントローラーの活動化中に指定された場合、*nodename* は論理装置の名前で、したがって有効ではありません。
 - **RNAME parameter** に指定された値が、正しいリンク・ステーション名ではない場合、*command* は失敗します。

- **RNAME=backup** が指定された場合、VTAM が、バックアップ・リンク・ステーション *backup* を処理できませんでした。
- **RNAME parameter** に指定された値が、ネットワーク制御プログラム (NCP) 定義と一致しない場合、*command* は失敗します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答:

- *parameter* が **U='** (ブランク) の場合は、U オペランドに装置アドレスを指定して、VARY ACT コマンドを再入力してください。
- *parameter* が **U=device_address** で、装置アドレスが正しい場合は、その回線または PU を非活動化してから、コマンドを再入力してください。
- *parameter* が **LOGON=controllu** の場合は、VARY ACT コマンドの正しい構文について、「VTAM Operation」を参照してください。

- *parameter* が **RNAME** の場合、有効な名前または値を *parameter* に指定して、コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答:

- *parameter* が **U='** (ブランク) の場合は、その回線または PU のデフォルトの装置アドレスを指定することができません。
- それ以外の場合は、処置は不要です。

IST663I *request* **REQUEST [{TO|FROM} adjnode] action, SENSE=code**

説明: このメッセージは、要求/応答単位 (RU) が正常に完了しない場合に VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST663I request REQUEST [{TO|FROM}
adjnode] action, SENSE=code
IST664I {REAL|ALIAS}
{OLU|PLU}=1uname1 {REAL|ALIAS}
{DLU|SLU}=1uname2
IST889I SID = sessid
```

注: IST889I に続いてメッセージが出される場合があります。詳細については、メッセージの説明の「追加メッセージ」を参照してください。

IST663I

- *request* は失敗した RU の名前です。
- *request* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。
- *action* は次のいずれかです。
 - **FAILED** は、*code* に記述された理由により *request* が正常に完了しなかったことを示します。
 - **PURGED** は、MODIFY IOPURGE コマンドまたは IOPURGE 開始オプションに指定されたタイムアウト値のために、*request* が除去されたことを示します。詳細については、VTAM Operation を参照してください。
 - **RECEIVED** は、*request* は受信されても、*code* で記述された理由のために正常に完了しなかったことを示します。

IST663I

同じドメイン・セッションで失敗した RU がフローする場合、**TO/FROM** は出されません。例えば、**INIT OTHER** RU が失敗すると、**TO/FROM** は出されません。**FROM** は、要求の応答としてではなく、要求が失敗した場合にだけ出されます。

adjnode は、要求を送信または受信する SSCP か、または要求が送信された関連リソースです。何らかの理由で CDINIT が隣接の SSCP の開始に失敗した場合、以下の形式でこのメッセージが出されます。

```
IST663I  CDINIT REQUEST FROM SSCP1A FAILED,  
        SENSE=0801000F
```

code は、エラーの原因についての追加情報を提供します。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

IST664I

発信元 LU は、PLU または SLU のいずれかです。宛先 LU についても同様です。失敗した RU が不明の場合、VTAM は *****NA***** を表示します。

IST889I

セッション ID *sessid* は、セッションの固有の ID を提供します。セッション ID が不明の場合、VTAM は *****NA***** を表示します。

追加メッセージ

- エラーのタイプによっては、IST889I に続いてメッセージが出される場合があります。

1. 処理エラー

```
IST264I  REQUIRED resource [luname] reason  
or  
IST1138I REQUIRED resource [luname] reason
```

resource と *reason* の組み合わせは、以下のいずれかです。

ADJSSCP TABLE

UNDEFINED

COS NAME *cosname*

UNDEFINED

LOGMODE NAME *logmode*

UNDEFINED

RESOURCE *luname*

UNDEFINED

RESOURCE *luname*

NOT ACTIVE

RESOURCE *luname*

UNSTABLE (装置タイプ LU のみ)

RESOURCE *luname*

DISABLED

RESOURCE *luname*

QUIESCING

RESOURCE *luname*

BLOCKING LOGONS (アプリケーション PLU のみ)

STORAGE

NOT AVAILABLE

luname が表示されるのは、*resource* が **RESOURCE** の場合です。*luname* は、エラーがあった LU またはアプリケーションの実名です。SLU が不明の場合、VTAM は *luname* に関して *****NA***** を表示します。

- コマンド行にネットワーク修飾名が入力され、MSGLVL が V4R1 以上を指定する場合、VTAM はメッセージ IST1138I を表示し、ネットワーク修飾名として *luname* を *netid.name* の形式で出します。
- デフォルトが使用されたり、MSGLVL が **BASE** を指定する場合は、VTAM はメッセージ IST264I を出し、*luname* はネットワーク修飾されません。

MSGLEVEL 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。USSMSG マクロ命令の MSGLVL オペランドについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

追加情報については、IST264I または IST1138I の説明を参照してください。

2. 自動ログオン・セッション・セットアップの失敗

```
IST890I  AUTOLOGON SESSION SETUP FAILED
```

このメッセージは、制御 PLU に試みた自動ログオンが失敗したことを示します。自動ログオンは以下のいずれかの理由で開始できません。

- LOGON コマンドとともに出す VARY LOGON または VARY ACT
- 指定された LOGAPPL とともに LU に適用された VARY ACT
- 制御 PLU セッションの再割り振り

3. 動的ダイヤルの失敗

```
IST1015I APPLICATION SUPPLIED parameter name  
= parameter value  
[IST1028I parameter value]
```

追加情報については、IST1015I の説明を参照してください。

4. 拡張センス・データ

```
IST891I  netid.nodename1[.nodename2]  
        GENERATED FAILURE NOTIFICATION  
[IST892I  resourcename ORIGINATED FAILURE  
        NOTIFICATION]  
IST893I  ORIGINAL FAILING REQUEST IS request
```

追加情報については、IST891I の説明を参照してください。

5. 使用可能リソースの通知

```
IST896I  AUTOLOGON WILL BE RETRIED WHEN  
        CONTROLLING PLU IS AVAILABLE
```

追加情報については、IST896I の説明を参照してください。

6. 隣接 SSCP テーブル情報

```
IST894I  ADJSSCPS TRIED  FAILURE SENSE  
        ADJSSCPS TRIED  FAILURE SENSE  
IST895I  sscpname      sense  
        sscpname      sense
```

追加情報については、IST894I の説明を参照してください。

7. 変換エラー

IST523I REASON = IMPROPER TRANSLATION OF
{OLU|DLU} NAME

LU-LU セッション・セットアップ要求時に、VTAM は別名変換機能で OLU 名 (*luname1*)、または DLU 名 (*luname2*) のいずれかを変換するように要求しましたが、機能の返した名前は、同じネットワーク ID を持つ異なる名前でした。別名と実名が同じネットワークに存在する場合、VTAM では両方の名前を同じにしてください。

システムの処置:

- *action* が、**FAILED** または **RECEIVED** の場合、LU-LU セッション・セットアップ要求は失敗します。
- *action* が **PURGED** の場合、LU-LU セッション・セットアップ要求は、他の SSCP へのルーティングを継続します。追加の隣接 SSCP が存在しない場合、LU-LU セッション・セットアップは失敗します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

- *action* が、**FAILED** または **RECEIVED** の場合、LU 変換が定義されている機能に関する定義を調べてください。LU の名前変換を変更するか、変換された名前の NETID を、別のネットワーク ID に変えてください。
- *action* が **PURGED** の場合、MODIFY IOPURGE コマンドまたは IOPURGE 開始オプションの IOPURGE に指定されたタイムアウト値が適切であることを検査してください。この値が小さすぎる場合、早期のルーティング・エラーが発生します。

IOPURGE 値が適切である場合、メッセージ IST663I の隣接 SSCP *adjnode* が活動状態であり、操作可能であることを検査してください。

MODIFY IOPURGE コマンドについては、「VTAM Operation」を参照してください。IOPURGE 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST664I {REAL|ALIAS} {OLU|PLU}=*luname1*
{REAL|ALIAS} {DLU|SLU}=*luname2*

説明: このメッセージは、セッションの開始要求と応答の処理中に発生します。起点論理装置 (*luname1*) は、1 次論理装置か 2 次論理装置のいずれかです。宛先論理装置 (*luname2*) についても同様です。セッション相手の名前が認識されていれば、セッション相手の実名が表示され (**REAL** で示される)、認識されていなければ別名が表示されます (**ALIAS** で示される)。DLU が想定される場合、名前は **REAL** で示されます。セッション・セットアップ指示が決定されない場合、**OLU** や **DLU** の代わりに、**PLU** と **SLU** が表示されます。

注: NETID が判別や想定をされる前に要求が失敗した場合、LU 名のネットワーク ID には *****NA***** が表示されます。

システムの処置: 処理は継続します。これ以降の処置は、この

メッセージと関連して表示されるメッセージによって決まります。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: デバッグのためには、セッション・セットアップ経路にしたがって、起点 LU で始まり宛先 LU の方向に作業してください。

IST670I VARY *command* PROCESSING FOR ID =
nodename COMPLETE

説明: リソース *nodename* に対する、指定された VARY コマンドの処理が完了しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST674I *command* FOR ID = *nodename* CONTINUES
— PARM: *parameter* IGNORED

説明: 入力された *parameter* が、コマンド *command* に指定されたリソース *nodename* に対して無効である場合に、VTAM はこのメッセージを出します。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: *command* の処理は続行されますが、VTAM は *parameter* を無視します。

オペレーターの応答: コマンドを再入力する必要はありません。*command* の処理は継続されますが、そのコマンドを次に使用する場合は、「VTAM Operation」を参照して、コマンドに対する有効なオペランドを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IST675I VR = *vr*, TP = *tp*

説明: VTAM は、CDRM または PU タイプ 4 か 5 に出された DISPLAY ID コマンドに応答して、このメッセージを出します。

vr は、仮想経路番号です。

tp は、表示されるノードのセッションの伝送優先順位です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST678I INSUFFICIENT STORAGE TO SCHEDULE
TPEND EXIT FOR *applname*

説明: VTAM が終了することをアプリケーション *applname* に通知しようとしたとき、そのアプリケーションの TPEND 出口をスケジュールするためのストレージが使用できなかった場合に、VTAM はこのメッセージを出します。

applname は、VTAM サブタスクか、またはユーザー・アプリケーションです。

システムの処置: 処理は継続されますが、VTAM は示されたアプリケーションに対しては TPEND 出口をスケジュールしません。HALT および HALT QUICK コマンドについては、*applname* が ACB をクローズするまで、VTAM を終了できま

せん。 *applname* に対する TPEND 出口のスケジュールは、しばらくしてから VTAM が再試行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: VTAM ストレージの割り振りが、開始オプションで指定されたとおりになっており、MODIFY SGALIMIT コマンドで修正されたとおりになっているかどうかを調べてください。

必要であれば、MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して、SGA 開始オプションを調整してください。

- ダンプの分析方法については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。外部トレースが活動状態である場合、VIT 分析ツールを使用してストレージを分析する方法については、VTAM *Diagnosis* を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM *Operation*」を参照してください。

IST679A PLEASE DIAL LINE = *linename*, NUMBER = *phonenum*

説明: 手動ダイヤルアウトを行ってください。VTAM はネットワーク・オペレーターに、*linename* 上の *phonenum* にダイヤルするように指示しています。

システムの処置: VTAM は NCP に対して、回線の接続が確立されるのをモニターするように指示します。装置との接続を求めるアプリケーション・プログラムの要求は、接続が確立されるまで待ち状態に置かれます。

オペレーターの応答: 要求された接続を正常に確立するか、ダイヤルアウト要求を終了するために VARY INOP コマンドを出してください。

プログラマーの応答: なし。

IST680I CONNECTION REQUEST DENIED - ID = *nodename text*

説明: リソース *nodename* に対する接続要求が拒否されると、VTAM はこのメッセージを出します。このメッセージは単一行メッセージとして、またメッセージ・グループの一部として出されます。

- *nodename* がローカル SNA 物理装置である場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST680I CONNECTION REQUEST DENIED -
      ID = nodename text
[IST1394I CPNAME = cpname STATION ID = stationid]
[IST352I LOCAL SNA MAJOR NODE = majornode ]
IST314I END
```

- *nodename* が DLUR サポート物理装置である場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST680I CONNECTION REQUEST DENIED -
      ID = nodename text
IST1354I DLUR NAME = dlnname MAJNODE = majnode
IST1394I CPNAME = cpname STATION ID = stationid
IST314I END
```

- その他のすべてのタイプのノードの場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST680I CONNECTION REQUEST DENIED -
      ID = nodename text
[IST1394I CPNAME = cpname STATION ID = stationid]
[IST081I LINE NAME = linename, LINE
```

```
GROUP = groupname,
      MAJNOD = nodename ]
```

```
IST1544I DIAL OUT PURGE IN PROGRESS - ID = nodename
IST314I END
```

text が INVALID VERID の場合、このメッセージはグループの最初のメッセージになります。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST680I CONNECTION REQUEST DENIED -
      ID = nodename INVALID
      VERID
IST940I verid
IST314I END
```

verid は、要求接点 RU に含まれる検証 ID です。

IST081I

linename は、*nodename* が接続している回線です。

groupname は、回線 *linename* が属している回線グループです。

nodename は、回線に関連している大ノードです。

IST352I

majornode はローカル SNA 大ノード (ローカル・クラスター・コントローラー) です。

IST680I

text は次のいずれかです。

CALL SECURITY ERROR

呼び出しセキュリティ検査に要求された情報が存在しないか、または無効なために、ダイヤルインまたはダイヤルアウトが拒否されました。

DIAL OUT IN PROGRESS

交換物理装置 *nodename* に対するダイヤルアウトが、別の回線を使用してすでに処理中です。手動ダイヤルについては、メッセージ IST679A を参照してください。自動ダイヤルについては、ダイヤルインは失敗します。

INVALID NETWORK NAME

このエラーは以下のいずれかの理由で発生することがあります。

- *nodename* が有効な名前ではありません。REQCONT RU で渡された CPNAME が見つからなかった (これは、交換 PU 定義に一致しています) か、REQCONT/REQACTPU RU で渡されたネットワーク ID か CPNAME が無効です。エラーの原因としては、これが一番多いです。
- *nodename* が、自身との接続を確立しようとしています。これはオペレーターが引き継ぎ要求を出すと発生することがあります。

INVALID VERID

接続要求が、*nodename* から受信されました。要求には、*nodename* に対する PATH 定義ステートメントの VERID オペランドと一致しない検査 ID が含まれています。

LINK NOT IN EAM

交換物理装置 *nodename* に対するダイヤルイン要求が、リンクが応答可能モード (EAM) でないために、受け付けられませんでした。

MAXLU INADEQUATE

ダイヤルインを行った交換物理装置 *nodename* が要求した論理装置の数は、リンクのサポートできる範囲を超えているため、ダイヤルイン要求は受け付けられませんでした。

NETID MISMATCH

REQCONT/REQACTPU RU の NETID が、ホストの NETID と一致しません。

NO USABLE PATH FOUND

呼び出し ID 検査が、*nodename* の PATH 定義ステートメントに示されましたが、使用可能な経路定義が見つかりませんでした。

PU ALREADY ACTIVE

REQACTPU が、すでにアクティブである DLUR PU に対して受信されました。

PU GEN NOT SUPPORTED

このエラーは以下のいずれかの理由で発生することがあります。

- ホストが交換 PU を識別できません。PU を含む交換回線大ノードは活動状態ではありません。
- 交換 PU に対する PU 定義ステートメントに ASDP=YES が指定されていないために、非生成端末サポートを使用できません。
- GROUP 定義ステートメントに DYNPU=YES が指定されていないために、動的に PU を作成する機能がありません。
- 隣接ノードから受け取った XID3 に指定されている、PU が表しているノードのネットワーク修飾名が、交換回線メジャー・ノードまたは PU 定義ステートメントの NETID および CPNAME オペランドに定義されている名前に一致していません。
- 隣接ノードから受け取った XID3 に指定されている *idblk* および *idnum* が、交換回線メジャー・ノードまたは PU 定義ステートメントの IDBLK および IDNUM オペランドに定義されている *idblk* および *idnum* に一致していません。

PU STATE CHANGED

構成サービス (CS) 出口が制御されていたときに、事前定義の PU の PU 状態が変更されました。事前定義の PU の REQCONT が CS 出口に送信されると、PU の状態に保留 REQCONT が設定されます。CS 出口から戻る前にこの PU またはその LINE が INOP を受信すると、PU の状態が変更されます。これは、接続のセットアップを続行できないことを示します。

PUTYPE MISMATCH

REQCONT/REQACTPU RU に見つかった PUTYPE が、交換 PU 定義の PUTYPE に一致していません。

REQCONT RU NOT VALID

このエラーは以下のいずれかの理由で発生することがあります。

- REQCONT RU で渡されたステーション ID (*nodename*) が見つかりません (すなわち、交換 PU 定義と一致しました)。これは接続を試みている交換物理

装置 *nodename* に、ソフトウェアまたはハードウェアの問題があることを示しています。

T2.1 NOT SUPPORTED

独立 LU を持つ PU タイプ 2.1 ノード *nodename* に対する接続要求が、必要なサポート・レベルを持たない NCP から受信されました。

VERID NOT IN REQC RU

呼び出し ID 検査が *nodename* に対する PATH 定義ステートメントに示されましたが、*nodename* から受信した接続要求が検査 ID を含んでいません。

VERIFY NOT SUPPORTED

呼び出し ID 検査が、*nodename* の PATH 定義ステートメントに示されましたが、NCP は、パケット交換ネットワークに対する呼び出し ID 検査をサポートしません。

IST1354I

- *dlurname* は、メッセージ IST680I の従属 LU リクエスト (DLUR) サポート物理装置ノード名に関連する、DLUR のネットワーク修飾 CP 名 (形式 *netid.name*) です。
- *majnode* は、メッセージ IST680I の DLUR サポート物理装置ノード名の交換回線メジャー・ノードの名前です。

IST1394I

cpname は、接続を試みているノードからの XID で渡された制御点 (CP) のネットワーク修飾名です。VTAM は *cpname* を *netid.name* の形式で表示します。CP 名が与えられない場合、***NA*** が表示されます。

stationid は、16 進数で表されるステーション ID です。ステーション ID の形式について詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」の IDBLK および IDNUM オペランドの説明を参照してください。

IST1544I

nodename は、関連する回線でダイヤルアウトした物理装置 (PU) です。

物理装置 (PU) がダイヤルアウトを行っても、要求先 (REQCONT RU) で受信された要求先情報 (CPNAME または STATIONID) が、ダイヤルアウトを行った PU の CPNAME または STATIONID に一致しない場合のみ、このメッセージが出されます。

2 つの原因が考えられます。

- VTAM リソース定義エラー: PU リンク・ステーション・アドレス定義にミスマッチがあるか、または不正な DIALNO がダイヤルアウトで使用されました。PU のリンク・ステーション・アドレス定義と、その PU へのダイヤルアウトに使用される DIALNO が正しいことを確認し、もう一度ダイヤルアウトしてください。
 - タイミングの問題: 2 つの異なる物理装置 (PU) (1 つはダイヤルアウトを実行、もう 1 つは同じ回線でダイヤルアウトを実行) によって競合状態が発生しています。この問題が原因であれば、もう一度ダイヤルアウトしてください。
- システムの処置: 処理を続行します。物理装置がオフライン

IST680I

の場合、セッション確立は保留状態のままです。その他の場合には、接続要求、およびその関連するセッション確立の試みは、失敗します。

オペレーターの応答:

CALL SECURITY ERROR

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

DIAL OUT IN PROGRESS

他の回線に、ダイヤルインを試みてください。

INVALID NETWORK NAME

- 問題判別のためシステム・ログを保管してください。
- IST1544I がメッセージ・グループに表示されている場合、IST1544I の副見出しの下で説明されている詳細を調べてください。

INVALID VERID

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

LINK NOT IN EAM

ダイヤルイン要求が、そのリンク *link* で受け付けられる場合、VARY ANS=ON,ID=*link* コマンドを使用して、応答可能モードにしてください。

MAXLU INADEQUATE

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

NETID MISMATCH

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

NO USABLE PATH FOUND

そのノードに対するダイヤルイン、またはダイヤルアウト要求が受け付けられる場合、VARY PATH=USE,ID=*nodename*, PID=*pathid* コマンドを使用して、*nodename* に対する経路定義を使用可能にしてください。

PU GEN NOT SUPPORTED

PU *nodename* を含む交換回線大ノードを活動化してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

PUTYPE MISMATCH

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

REQCONT RU NOT VALID

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

T2.1 NOT SUPPORTED

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

VERID NOT IN REQC RU

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

VERIFY NOT SUPPORTED

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

CALL SECURITY ERROR

- ダイヤル処理中のすべてのノードが、呼び出し保護検査をサポートするレベルであることを確認してください。交換回線大ノード定義の PU 定義ステートメントの PRCT オペランドを調べてください。
- IST1544I がメッセージ・グループに表示されている場合、IST1544I の副見出しの下で説明されている詳細を調べてください。

DIAL OUT IN PROGRESS

なし。

INVALID NETWORK NAME

- nodename* が有効な名前ではない場合、交換回線メジャー・ノード/モデル・メジャーと NCP メジャー・ノード定義の間に CPNAME の不一致がないかを調べてください。REQCONT/REQACTPU RU で渡されたネットワーク ID が、PU 定義ステートメントで指定されたネットワーク ID と一致することを確認してください。問題の原因を判別するためには、回線情報、I/O トレース情報、またはその両方が必要になる場合があります。
- オペレーターの引き継ぎ要求が原因でこのエラーが発生した場合、失敗したホストが制御をリカバリーするか、または別のホストが制御するまで、APPN または LEN の接続は使用できません。詳しくは、「VTAM Network Implementation Guide」で『SSCP Takeover』を参照してください。
- 名前の矛盾が原因でエラーが発生した場合、重複する名前を訂正してください。

INVALID VERID

nodename の交換回線大ノード定義ステートメントと、パケット交換ネットワークの呼び出し DTE アドレスの間で、VERID が一致しているかどうか調べてください。問題の原因を判別するために、回線情報か I/O トレース情報、またはその両方が必要になる場合があります。

LINK NOT IN EAM

リンクを応答可能モード (EAM) にしてください。

MAXLU INADEQUATE

交換回線大ノードと NCP 大ノード定義の間で、MAXLU が一致しているかどうか調べてください。NCP 大ノードに一致するように交換回線大ノードを更新するか、またはそのリンクでダイヤルインしないように、PU のリモート・ユーザーに依頼してください。

NETID MISMATCH

NETID は、ホストと同じでなければなりません (VTAM Resource Definition Reference で XNETALS を参照)。そうでない場合は、REQCONT/REQACTPU RU の NETID が間違っています。cpname が、ネットワーク修飾されていない場合、NETID は、デフォルトとして、ホストの NETID を使用します。

cpname と NETID が REQCONT/REQACTPU RU で正しくない場合に、それらをコーディングするときの情報については、装置の製品資料を参照してください。

NO USABLE PATH FOUND

nodename を含む交換回線大ノードの PATH 定義ステートメントを、調べてください。

PU GEN NOT SUPPORTED

必要に応じて、交換 PU の定義ステートメントを調べて修正してください。修正した定義を使用するには、交換回線大ノードを非活動化してから活動化してください。

PUTYPE MISMATCH

REQCONT/ REQACTPU RU で受け取る XID に示されている PUTYPE は、交換 PU に定義されている PUTYPE に一致していなければなりません (『VTAM Resource Definition Reference』で PUTYPE を参照)。

REQCONT/REQACTPU RU で受け取った XID で PUTYPE が正しく示されていない場合、装置の製品資料で PUTYPE の情報について調べてください。

REQCONT RU NOT VALID

装置と交換回線大ノードの間で、IDBLK または IDNUM が一致しているかどうかを調べてください。

T2.1 NOT SUPPORTED

nodename を含む交換回線大ノードの PATH 定義ステートメントと、LU 定義ステートメントを調べてください。

VERID NOT IN REQC RU

nodename に対する交換回線大ノードの定義ステートメントと、パケット交換ネットワークの呼び出し DTE アドレスの間で、VERIFY が一致していることを調べてください。問題の原因を判別するために、回線情報か I/O トレース情報、またはその両方が必要になる場合があります。

VERIFY NOT SUPPORTED

通信コントローラーが、パケット交換ネットワークをサポートするロード・モジュールを含んでいることを、確認してください。

IST683I CONNECTION REQUEST DENIED, ID = *nodename*

説明: このメッセージは、チャンネル接続物理装置 *nodename* の接続が切れたときに、VTAM が出すメッセージのサブグループの最初のメッセージです。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

IST683I CONNECTION REQUEST DENIED,
ID = *nodename*

IST684I I/O ERR, CSW = *channel_status_word*,
SENSE = *code*

channel_status_word (*subchannel_status_word* と呼ばれる) は、装置とチャンネル (またはサブチャンネル) に関する情報を提供します。

code はセンス・コードで、エラーの原因についての情報が示されます。*code* の値については、適切なハードウェア情報を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 2 つのメッセージの情報を使用して、適切なエラー・リカバリー処置を決定してください。*code* の値については、適切なハードウェア情報を参照してください。

I/O エラーを特定できない場合、あるいは **SENSE = 0200** または **8200** が、IST684I に表示される場合は、以下のことを調べてください。

- バッファ・サイズ (LFBUF) が、装置と VTAM の間で互換性があることを確認してください。これは装置インストール・ガイドラインを調べれば判別できます。

注: 装置によっては、偶数のバッファ・サイズを要求します。

- *nodename* の PU 定義の MAXBFRU に対して、適切な値が指定されていることを確認してください。

- MAXBFRU と、バッファ・サイズ (LFBUF) の積が、ハードウェアの最大送信サイズに等しいか、またはそれ以上であることを確認してください。最大送信サイズの追加情報については、ハードウェア資料を調べてください。

IST684I I/O ERR, CSW = *channel_status_word*,
SENSE = *code*

説明: このメッセージは、メッセージ・サブグループの一部です。サブグループの最初のメッセージは IST683I です。サブグループ全体の詳しい説明については、そのメッセージを参照してください。

IST688I VARY FAILED FOR ID = *cdrrmname* -
INSUFFICIENT STORAGE

説明: VTAM が外部 CDRM に出された VARY ACT コマンドを処理していた際に、ノード *cdrrmname* に対する要求の処理に使用できるストレージが十分ではありませんでした。

システムの処置: *cdrrmname* に対する VARY ACT コマンドは、失敗します。

オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、VTAM ストレージの使用率を調べてください。現在使用されているストレージが VTAM によって解放されたら、少し待ってからコマンドを再実行してください。問題が解決されない場合は、問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足が原因でエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

DISPLAY BFRUSE および MODIFY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。

「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

IST690I CONNECTION REQUEST DENIED -
INVALID STATION ID = *stationid*

説明: ステーション ID *stationid* を、活動中の交換回線大ノードのノード名に変換できないために、VTAM と物理装置の交換接続が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST693I

```
IST690I CONNECTION REQUEST DENIED - INVALID
          STATION ID = stationid
IST081I LINE NAME = linename, LINE GROUP = groupname,
          MAJNOD = nodename
IST1544I DIAL OUT PURGE IN PROGRESS - ID = nodename
IST314I END
```

IST081I

linename は、*nodename* が接続している回線です。

groupname は、回線 *linename* が属している回線グループです。

nodename は、回線に関連している大ノードです。

IST690I

stationid は、16 進数で表されるステーション ID です。ステーション ID の形式について詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」の IDBLK および IDNUM オペランドの説明を参照してください。

IST1544I

nodename は、関連する回線でダイヤルアウトした物理装置 (PU) です。

システムの処置: その物理装置への接続は、行われません。
オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: この問題は、以下のいずれかの理由で起こります。

- この物理装置の PU 定義を含む交換回線大ノードが活動していません。物理装置はトークンリングに接続された可能性があります。

この物理装置の定義を含む交換回線大ノードを活動化してください。

- リモート端末オペレーターが、間違った ID で物理装置を初期設定しました。

リモート・オペレーターに、正しいステーション ID を使用して物理装置を再初期設定するように、依頼してください。

- VTAM 定義ステートメントが間違っています。

オペレーターが以下の処置を実行して再ダイヤルする前に、VTAM 定義ステートメントを訂正してください。

- 交換回線大ノードに対して VARY INACT コマンドを入力する。
- 新しい VTAM 定義ステートメントを修正してファイルする。
- 交換回線大ノードを再活動化する。
- 再ダイヤルする。

- 物理装置の動的定義が、以下のいずれかの理由によって失敗しました。

- XID 出口が活動化されていなかったか、または XID 出口が定義されていない。

XID 出口が VTAMLIB に存在し、その出口が活動化されたことを確認してください。XID 出口の詳細については、「VTAM Customization」を参照してください。

- XID 出口は活動状態ですが、MODEL 大ノードが活動していないために無効であるか、またはエラーを含んでいます。

この場合には、メッセージ IST1016I がこのメッセージの前に出され、失敗の原因についてのより明確な情報を提供しています。

- 交換 PU が無効な状態です。この状態は、NCP などの境界機能を通じてホストが非活動化している PU が、別の境界機能を通じてダイヤルインする場合にリカバリー処理を行うと、発生することがあります。オペレーター・コマンドが出されたり、内部 INOP 処理を行うと、PU が非活動化されることがあります。VTAM での PU の現在のリソース状況が CONCT (接続可能) ではない場合、ダイヤル要求は失敗します。

この状況は内部リカバリー処理の結果として発生するので、オペレーターやプログラマーの処置は不要です。PU の再活動化が完了し、状態が CONCT になれば、ダイヤル要求は正常に完了します。

- メッセージ IST1544I が出された場合、問題の理由は次のとおりです。

物理装置 (PU) がダイヤルアウトを行っても、要求先 (REQCONT RU) で受信された要求先情報 (STATIONID) が、ダイヤルアウトを行った PU の STATIONID に一致していません。

2 つの原因が考えられます。

- VTAM リソース定義エラー: PU リンク・ステーション・アドレス定義にミスマッチがあるか、または不正な DIALNO がダイヤルアウトで使用されました。PU のリンク・ステーション・アドレス定義と、その PU へのダイヤルアウトに使用される DIALNO が正しいことを確認し、もう一度ダイヤルアウトしてください。
- タイミングの問題: 2 つの異なる物理装置 (PU) (1 つはダイヤルアウトを実行、もう 1 つは同じ回線でダイヤルインを実行) によって競合状態が発生しています。この問題が原因であれば、もう一度ダイヤルアウトしてください。

IST693I UNABLE TO DISCONNECT ID = *nodename*

説明: ストレージが不足したか、または I/O エラーが発生したために、チャンネル交換物理装置 *nodename* に出されたセッション終了要求が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージの前にメッセージ IST446I が出され、エラーの原因についての追加情報を提供している場合があります。

システムが *nodename* に割り振られたリソースを解放できるように、*nodename* に VARY INACT,TYPE=IMMED コマンドを入力してください。

- ストレージの問題を調べるには、以下の処置を行ってください。

DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、システム GETVIS 域 (SGA) に関する情報を表示してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての

情報も表示されます。この情報がストレージの問題であれば、通常は専用ストレージに関連しています。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、`DISPLAY STORUSE` コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

`MAP` コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

- I/O エラーを調べるには、以下の処置を行ってください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、`MDR/OBR` 情報が記録されているかどうかを判別してください。EREP の使用について詳しくは、「*EREP User's Guide and Reference*」を参照してください。NetView のようなネットワーク管理アプリケーションを使用している場合、この問題についての警告が記録されているかどうか調べてください。

プログラマーの応答:

- ストレージに問題がある場合は、必要に応じてストレージを増やしてください。ダンプの分析方法については、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。外部トレースが活動状態である場合、VIT 分析ツールを使用してストレージを分析する方法については、*VTAM Diagnosis* を参照してください。
- I/O エラーの場合、表示された出力から問題の原因が判別できず、追加の援助が必要である場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの `MDR/OBR` 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。

IST700I INVALID *type* - SKIPPING TO NEXT NETWORK STMT OR EOF

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST700I INVALID type - SKIPPING TO NEXT NETWORK
STMT OR EOF
IST701I CONFIG configname LABEL = labelname STMT
TYPE = statementname
```

VTAM が隣接 SSCP、ADJCLUST または COSMAP テーブル定義 *configname* で、エラーを検出しました。以下のいずれかが無効です。

- 定義ステートメント。
- ラベル (最初の英数字など)。
- NETWORK 定義ステートメントの NETID オペランドの値。

IST700I

type は **STMT**、**LABEL**、または **NETID** で、エラーの位置を示します。

NETID が無効な場合、隣接 SSCP、ADJCLUST または COSMAP テーブルの NETWORK 定義ステートメントの NETID オペランドにコーディングされた値が、名前の規約

に合っていない。値は必ず 8 文字以下で、最初の文字は英字であり、それ以降の文字は英数字でなければなりません。

IST701I

configname は、SSCP、ADJCLUST または COSMAP テーブル定義を示します。

labelname は、ステートメントのラベルです。

statementname は定義ステートメントのタイプで、ラベルが有効な場合にのみ表示されます。

システムの処置: エラーのあるステートメントの後に置かれた、隣接 SSCP、ADJCLUST、または COSMAP テーブル定義ステートメントはすべて、NETWORK ステートメント、またはファイルの終わり (EOF) が現れるまで、無視されます。NETWORK ステートメントが現れた場合は、その NETWORK ステートメントと、そのあとに続く定義ステートメントに対して、通常処理が再開されます。

テーブルが隣接 SSCP テーブルで、ラベル *labelname* を持つステートメントの前に置かれた NETWORK ステートメント (または NETWORK ステートメントの集まり) の有効な ADJCDRM ステートメントの後で、エラーが起こった場合、これらの ADJCDRM ステートメントは処理されます。ラベル *labelname* を持つステートメントの前に置かれた NETWORK ステートメント (または NETWORK ステートメントの集まり) に対して、有効な ADJCDRM ステートメントが現れなかった場合、NETWORK ステートメントと関係があるすべての定義ステートメントは、無視されます。

テーブルが隣接 ADJCLUST テーブルで、ラベル *labelname* を持つステートメントの前に置かれた NETWORK ステートメント (または NETWORK ステートメントの集まり) の有効な NEXTCP 定義ステートメントの後でエラーが起こった場合、これらの NEXTCP ステートメントは処理されます。ラベル *labelname* を持つステートメントの前に置かれた NETWORK ステートメント (または NETWORK ステートメントの集まり) に対して、有効な NEXTCP 定義が現れなかった場合、NETWORK ステートメントと関係があるすべての定義ステートメントは、無視されます。

テーブルが隣接 COSMAP テーブルで、ラベル *labelname* を持つステートメントの前に置かれた NETWORK ステートメント (または NETWORK ステートメントの集まり) の有効な MAPTOCOS 定義ステートメントの後でエラーが起こった場合、これらの MAPTOCOS ステートメントは処理されます。ラベル *labelname* を持つステートメントの前に置かれた NETWORK ステートメント (または NETWORK ステートメントの集まり) に対して、有効な MAPTOCOS 定義が現れなかった場合、NETWORK ステートメントと関係があるすべての定義ステートメントは、無視されます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: エラーを判別するには、`DISPLAY TABLE` コマンドを入力してください。VTAM テーブル定義ステートメントについては、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

エラーを訂正したら、修正したテーブル定義を使用するために大ノードを再活動化してください。

IST701I **CONFIG** *configname* **LABEL = labelname**
STMT TYPE = statementname

説明: VTAM はこのメッセージを、いくつかの異なるメッセージ・グループの一部として出します。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST702I **CONFIG** *configname* - **UNEXPECTED**
stmt_type

説明: VTAM は、隣接 SSCP テーブル定義、または動的経路更新セットの処理中に予期しないステートメントまたは EOF を検出しました。

configname は、隣接 SSCP テーブル定義、または動的経路更新セットを示します。

stmt_type は、予期しないステートメントを示します。値は以下のいずれかです。

- **CDRM STMT**
- **NETWORK STMT**[(*labelname*)]. *labelname* は NETWORK ステートメント。
- **EOF**

以下のいずれかの状況が発生しました。

- 有効な CDRM 定義ステートメントが処理された後に、有効な ADJCDRM ステートメントの前で、ラベル *labelname* を持つ NETWORK ステートメント、またはファイルの終わり (EOF) が発生しました。
- 有効な NETWORK ステートメントが処理された後に、有効な ADJCDRM ステートメントの前でファイルの終わり (EOF) が発生しました。
- 有効な ADJLIST ステートメントが処理された後に、有効な ADJCDRM ステートメントの前で、CDRM または NETWORK ステートメント、あるいは EOF が発生しました。

最初の 2 つの場合では、ADJCDRM 定義ステートメントは次のステートメントでなくてもかまいませんが、EOF または NETWORK ステートメントより前にあるべきです。ところが、隣接 SSCP テーブルの新しいセットで使用する宛先ネットワークを定義している EOF または NETWORK ステートメントが先にありました。有効な VPATH または NCPPATH ステートメントが処理された後で、有効な PATH ステートメントの前に EOF が発生しました。

3 番目の状況では、ADJCDRM 定義ステートメントは ADJLIST ステートメントの直後になければなりません。ところが、直後には CDRM または NETWORK ステートメント、あるいは EOF がありました。

システムの処置: 隣接 SSCP テーブル定義については、定義ステートメントが有効な隣接 SSCP テーブルを定義していないため、ADJCDRM ステートメントを伴わない NETWORK 定義ステートメント、および CDRM 定義ステートメントの処理は停止されます。

動的経路更新については、定義ステートメントが有効な動的経路更新セットを定義していないため、最後の VPATH または NCPPATH ステートメントは処理されません。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログとネットワーク・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 定義ライブラリーを再検討して、VTAM に対するすべての要求がシステムに適合していることを確認してください。

隣接 SSCP テーブル定義については、予期しなかった NETWORK ステートメントまたは EOF の前に (直前でなくてもかまいません)、1 つ以上の有効な ADJCDRM 定義ステートメントを挿入するか、または隣接 SSCP テーブル定義で宛先ネットワークや宛先 SSCP を定義しない、余分の NETWORK または CDRM ステートメントを削除してください。

動的経路更新については、EOF の前に 1 つ以上の有効な PATH 定義ステートメントを挿入するか、完全な動的経路更新セットを定義していない余分の VPATH、または NCPPATH ステートメントを削除してください。

ADJLIST 定義については、以下のいずれかを行ってください。

- 予期しない CDRM または NETWORK ステートメント、あるいは EOF の直前に、1 つ以上の有効な ADJCDRM 定義ステートメントを挿入してください。
- 余分な CDRM および NETWORK ステートメントを削除してください。
- ステートメントの順番が間違っている場合は、正しい位置にステートメントを移動してください。

IST703I **CONFIG** *configname* **ADJSSCP**
DEFINITIONS IGNORED - NO ADJCDRM
STMT

説明: 隣接 SSCP テーブル定義 *configname*. に、有効な CDRM、ADJCDRM または ADJLIST 定義ステートメントが見つかりませんでした。

システムの処置: 隣接 SSCP テーブル定義の処理は停止されます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 隣接 SSCP テーブル定義に、1 つ以上の有効な ADJCDRM 定義ステートメントを含めてください。

IST706I **ADJSSCP TABLE FOR** *configname*
IGNORED - INSUFFICIENT STORAGE

説明: このメッセージは、2 つのメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。2 つのメッセージ・グループの完全な記述は、以下のとおりです。

- CDRM または NETID 定義ステートメントで識別される項目で、隣接 SSCP テーブルが活動化される場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST706I  ADJSSCP TABLE FOR configname IGNORED -
INSUFFICIENT STORAGE
IST708I  {[NETID = netid] [NETWORK = macroname]
[CDRM = sscpname|DEFAULT TABLE]}|
DEFAULT TABLE FOR ALL NETWORKS
```

- ADJLIST 定義ステートメントで識別される項目で、隣接 SSCP テーブルが活動化されている場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST706I  ADJSSCP TABLE FOR configname IGNORED -
          INSUFFICIENT STORAGE
IST1333I  ADJLIST = listname
```

ストレージが不足したため、ADJSSCP 定義 *configname* の処理時に、指定されたネットワークと CDRM に対して、隣接 SSCP テーブルを組み立てることができませんでした。

IST706I

configname は ADJSSCP 定義です。

IST708I

netid は、定義中の ADJSSCP テーブルのネットワーク名です。これは、関連する NETWORK 定義ステートメント上の NETID オペランドで指定されます。NETID オペランド、または NETWORK ステートメントがコーディングされていない場合、NETID のデフォルトはホストのネットワークとなります。

macroname は、NETWORK 定義ステートメントにコーディングされているラベルです。表示されない場合は、ラベルが NETWORK 定義ステートメントにないか、NETWORK 定義ステートメントがまったくコーディングされていないかのいずれかです。この場合、隣接 SSCP テーブルのデフォルトは、ホストのネットワークとなります。

sscpname は、CDRM 定義ステートメントにコーディングされているラベルです。目的の隣接 SSCP テーブルは、ネットワーク *netid* 内の CDRM *sscpname* に到達するのに使用される隣接 SSCP で使用されます。*sscpname* が表示されない場合、定義中の ADJSSCP は、NETID で識別されるすべてのネットワークのデフォルト・テーブルで、

CDRM=*sscpname* の代わりに、**DEFAULT TABLE** が表示されます。

CDRM=***** が表示された場合は、指定された NETWORK ステートメントに続いてリストされるいずれかの CDRM に対して、隣接 SSCP テーブルを作成するためのストレージが不十分であったことを意味します。

VTAM は、活動化されるテーブルが、すべてのネットワークに対してデフォルト隣接 SSCP リストを持つ時に、

DEFAULT TABLE FOR ALL NETWORKS を示します。

IST1333I

listname は、ADJLIST 定義ステートメントで定義されている隣接 SSCP テーブルの名前です。

隣接 SSCP テーブルが CDRSC に定義されていなかった場合は、*****NA***** が表示されます。

隣接 SSCP テーブルの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の ADJLIST 定義ステートメントの説明を参照してください。

システムの処置: 示されたネットワークに対して隣接 SSCP テーブルを作成する試みは、それ以上行われません。

オペレーターの応答: VTAM の活動が消滅したら、再び操作してみてください。問題が解決されない場合、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

必要に応じてストレージを増やしてください。

- DISPLAY STORUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

- ダンプの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。外部トレースが活動状態である場合、VIT 分析ツールを使用してストレージを分析する方法については、VTAM Diagnosis を参照してください。

IST707I ADJSSCP TABLE BEING MODIFIED BY ACTIVATION OF *configname*

説明: このメッセージは、2 つのメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。2 つのメッセージ・グループの完全な記述は、以下のとおりです。

- CDRM または NETID 定義ステートメントで識別される項目で、隣接 SSCP テーブルが活動化される場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST707I  ADJSSCP TABLE BEING MODIFIED BY ACTIVATION
          OF configname
IST708I  {[NETID = netid] [NETWORK = macrolabel]
          [CDRM = sscpname]
          DEFAULT TABLE]}DEFAULT TABLE FOR ALL
          NETWORKS
```

- ADJLIST 定義ステートメントで識別される項目で、隣接 SSCP テーブルが活動化されている場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST707I  ADJSSCP TABLE BEING MODIFIED BY ACTIVATION
          OF configname
IST1333I  ADJLIST = listname
```

IST707I

隣接 SSCP テーブルは修正されています。

configname は、修正済みの CDRM または NETID、あるいはその両方を定義する隣接 SSCP テーブルを含む ADJSSCP 定義です。この項目は、テーブルに追加され、古いテーブルを修正します。

IST708I

netid は、定義中の ADJSSCP テーブルのネットワーク名です。これは、関連する NETWORK 定義ステートメント上の NETID オペランドで指定されます。もし NETID または NETWORK ステートメントがコーディングされていない場合、NETID のデフォルトはこのホストのネットワークとなります。

macrolabel は、NETWORK 定義ステートメントでコーディングされているラベルです。表示されない場合は、ラベルが NETWORK 定義ステートメントにないか、NETWORK 定義ステートメントがまったくコーディングされていないかのいずれかです。この場合、隣接 SSCP テーブルのデフォルトは、ホストのネットワークとなります。

sscpname は、CDRM ステートメントでコーディングされているラベルです。表示されない場合は、定義中の ADJSSCP テーブルが NETID で定義されているすべてのネットワークに対してのデフォルトのテーブルとなり、**CDRM=*sscpname*** の代わりに、**DEFAULT TABLE** が表示されます。活動化中のテーブルが、すべてのネットワークに対するデフォルトの隣接 SSCP リストを持っている場合、**DEFAULT TABLE FOR ALL NETWORKS** が出力されます。

IST1333I

listname は、ADJLIST 定義ステートメントで定義されている隣接 SSCP テーブルの名前です。

隣接 SSCP テーブルが CDRSC に定義されていなかった場合は、***NA*** が表示されます。

隣接 SSCP テーブルの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の ADJLIST 定義ステートメントの説明を参照してください。

システムの処置: 古い隣接 SSCP テーブルは新しい隣接 SSCP テーブルに置き換わります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST708I **{[NETID = *netid*] [NETWORK = *macrolabel*] [CDRM = *sscpname*] DEFAULT TABLE} | DEFAULT TABLE FOR ALL NETWORKS**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。最初のメッセージは、IST706I、IST707I、または IST831I のうちのいずれかです。詳しい説明はそれぞれのメッセージの説明を参照してください。

IST709I **CONFIG *configname* FAILED - *reason***

説明: ネットワーク定義の間に NCP 大ノード *configname* の活動化が失敗しました。 *reason* は次のいずれかです。

NO VALID BUILD OR NETWORK MACRO

NCP 大ノード定義 *configname* は、このホストに対する適切な SUBAREA または NETID、あるいはその両方の値をもった BUILD または NETWORK 定義ステートメントを含んでいません。

CONFLICTING NEWNAME SPECIFIED ON BUILD

VARY ACT コマンドで定義されている LOADMOD=*load module name* が、BUILD 定義ステートメント上の NEWNAME キーワードにコーディングされている値と一致していません。

CONFLICTING PUNAME SPECIFIED ON BUILD

VARY ACT コマンドで定義されている ID=*puname* は、BUILD 定義ステートメント上の PUNAME キーワードにコーディングされている値と一致しなければなりません。

システムの処置: NCP 大ノードの活動化は失敗します。

オペレーターの応答: *reason* が **NO VALID BUILD OR NETWORK MACRO** であれば、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

reason が **CONFLICTING NEWNAME SPECIFIED ON BUILD** の場合は、BUILD 定義ステートメント上の NEWNAME にコーディングされた値を指定する LOADMOD オペランドを持った VARY ACT コマンドを再入力してください。

reason が **CONFLICTING PUNAME SPECIFIED ON BUILD** であれば、BUILD 定義ステートメント上の PUNAME にコーディングされた値を指定する ID オペランドを持った VARY ACT コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: *reason* が **NO VALID BUILD OR NETWORK MACRO** の場合は、このホストに指定された適切な SUBAREA と NETID の値を持った BUILD または NETWORK 定義ステートメントを含めてください。

VTAM 定義ステートメントについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST710I **CONFIG = *configname* NETWORK = *netid* *text***

説明: BUILD、または NETWORK 定義ステートメントの COS テーブル名 (COSTAB オペランドで定義されました)、または最大サブエリア値 (MAXSUBA オペランドで定義されました) が、VTAM に対して定義できませんでした。

configname は、NCP 定義の名前を指定します。 *netid* は、エラーになった BUILD、または NETWORK 定義ステートメントの NETID オペランドにコーディングされたネットワーク ID を指定します。

text は、次に示されるように、各オペランドの失敗に対する特定の理由を示します。

COSTAB CONFLICT

netid と、この NCP に対する COS テーブルが、この NCP 定義または他の NCP 定義の他の BUILD または NETWORK 定義ステートメントによってすでに定義されています。

COSTAB NOT LOADED

テーブル・ロード・エラーが起きたか、または COS テーブルが見つかりませんでした。

COSTAB OVERFLOW

VTAM 機能の限界に達したため、NCP は COSTAB オペランドで識別された COS テーブルを共用できませんでした。

MAXSUBA CONFLICT

netid に対する最大サブエリア値 (MAXSUBA) は、この NCP 定義または他の NCP 定義の他の BUILD、または他の NETWORK 定義ステートメントによって、すでに定義されています。

NO STORAGE FOR COSTAB

使用可能なストレージが不足したために、COS テーブルを保管できませんでした。

NO STORAGE FOR MAXSUBA

使用可能なストレージが不足したために、最大サブエリア値 (MAXSUBA) を保管できませんでした。

システムの処置:

COSTAB CONFLICT

COS テーブル名は無視され、NCP 定義の処理は続けられます。この NCP 定義に定義された NETID に対する、元の COS テーブル名が使用されます。

COSTAB NOT LOADED

COS テーブル名は無視され、NCP 定義の処理は続けられます。この活動化に続いて、NETID によって識別されるネットワークへのすべてのネットワーク間セッションは、SSCP-SSCP セッションと、デフォルトのブランク COS 項目を使用する LU-LU セッションを除いて、失敗します。

COSTAB OVERFLOW

COS テーブル名は無視され、NCP 定義の処理は続けられます。この活動化に続いて、NETID によって識別されるネットワークへのすべてのネットワーク間セッションは、SSCP-SSCP セッションと、デフォルトのブランク COS

項目を使用する LU-LU セッションを除いて、失敗します。別の活動 NCP にサービス・クラス・テーブルが定義されている場合でも、COS テーブルの使用を VTAM に記録することができないため、この NCP 定義に対して使用することはできません。

MAXSUBA CONFLICT

最大サブエリア値は無視され、NCP 定義の処理は続けられます。異なる値がすでにこのホストに正常に定義され、この最大サブエリアに依存するすべてのセッションが終了されない限り、指定された NETID で識別されるネットワークへの変更または再定義は行えません。

NO STORAGE FOR COSTAB

COS テーブル名は無視され、NCP 定義の処理は続けられます。この活動化に続いて、NETID によって識別されるネットワークへのすべてのネットワーク間セッションは、SSCP-SSCP セッションと、デフォルトのブランク COS 項目を使用する LU-LU セッションを除いて、失敗します。

NO STORAGE FOR MAXSUBA

最大サブエリア値は無視され、NCP 定義の処理は続けられます。このホストがゲートウェイ NCP のネイティブ・ネットワークに常駐し、NETID オペランドによって識別されるネットワークにリンクまたはリンク・ステーションを所有する場合は、そのネットワークの最大サブエリア値を知らなければ、それらのリンクまたはリンク・ステーションを活動化することはできません。ただし、他の NCP の定義が、ネットワークに対して最大サブエリアを正常に定義していれば、他の NCP が定義されたまま（つまり、非活動化されない）になっている限り、それらのリンクまたはリンク・ステーションの活動化は可能です。

オペレーターの応答：問題判別のためシステム・ログを保管してください。

text が、NO STORAGE FOR COSTAB または NO

STORAGE FOR MAXSUBA の場合は、ストレージが使用可能になってから、この活動化を再実行してください。問題が解決されない場合、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

text が、COSTAB NOT LOADED、COSTAB CONFLICT、または COSTAB OVERFLOW の場合は、DISPLAY COS,ORIGIN=*configname*,NETID=* コマンドを入力し、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答:

COSTAB CONFLICT

DISPLAY COS コマンドの出力を検討してください。示されたネットワークに対して指定された定義ステートメントに先行する、すべての BUILD と NETWORK 定義ステートメントを調べて、同じ NETID に対してコーディングされた COSTAB 名を識別してください。この NCP 定義では、1 つのネットワークに対しては、1 つの COSTAB 名だけを、コーディングしてください。問題を解決するには、MODIFY TABLE コマンドを使用してください。

COSTAB NOT LOADED

DISPLAY COS コマンドの出力を検討してください。示

されたネットワークに対する BUILD または NETWORK 定義ステートメントの COSTAB オペランドによって識別されるサービス・クラス・テーブルが、NCP 定義に存在するかどうかを調べてください。問題を解決するには、MODIFY TABLE コマンドを使用してください。

COSTAB OVERFLOW

DISPLAY COS コマンドの出力を検討してください。各ネットワークと、NCP に対する COSTAB 名の使用を、255 以下に制限してください。多くの NCP を同時に活動化する必要がある場合は、さまざまなネットワークを定義する COSTAB のそれぞれに、異なる COSTAB 名を使用してください。問題を解決するには、MODIFY TABLE コマンドを使用してください。

MAXSUBA CONFLICT

示された NETID 開始オプションに対する BUILD、または NETWORK 定義ステートメントの MAXSUBA キーワードに指定された最大サブエリア値が、有効なことを調べてください。この値は、この NCP または活動化されたことのある他の NCP の、すべての他の BUILD または他の NETWORK 定義ステートメントの最大サブエリアと、同じでなければなりません。

NO STORAGE FOR COSTAB

ストレージ不足が続けて問題となる場合は、VTAM のバッファ・スペース、サブプール 231 を増やしてください。また、重要でないジョブを取り消すことや、またはネットワークの使用していない部分を非活動化することを、オペレーターに依頼してください。

NO STORAGE FOR MAXSUBA

ストレージ不足が続けて問題となる場合は、VTAM のバッファ・スペース、サブプール 231 を増やしてください。また、重要でないジョブを取り消すことや、またはネットワークの使用していない部分を非活動化することを、オペレーターに依頼してください。

IST712I CONFIG *configname* GWPATH *statement* IGNORED - MISSING OPERANDS

説明: 1 つ以上の必須オペランドが欠けているため、VTAM は、CDRM 大ノード定義 *configname* の GWPATH 定義ステートメント *statement* を無視します。

システムの処置: VTAM は、CDRM 大ノード *configname* の GWPATH 定義ステートメント *statement* を無視します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: GWPATH 定義ステートメントを調べてください。オペランドの組み合わせが、正しくコーディングされているかどうかを調べてください。

GWPATH 定義ステートメントの説明については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST713I CONFIG *configname* GWPATH *statement* -*opname* OPERAND IGNORED

説明: VTAM は、関連するオペランドが欠けているために、CDRM 大ノード *configname* の GWPATH 定義ステートメント *statement* のオペランド *opname* を無視します。

ELEMENT オペランドがコーディングされ、SUBAREA オペランドがない場合、VTAM は ELEMENT を無視します。

ADJNETEL オペランドがコーディングされ、ADJNETSA オペランドがない場合、VTAM は ADJNETEL を無視します。

システムの処置: VTAM は、GWPATH 定義ステートメントのオペランド *opname* を無視します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 無視されているオペランド (この場合、ELEMENT または ADJNETEL オペランド) を取り除くか、欠けているオペランド (この場合、SUBAREA または ADJNETSA オペランド) を追加してください。

IST714I CONFIG *configname* GWPATH *statement* IGNORED - INVALID STMT

説明: VTAM は、CDRM 大ノード *configname* の GWPATH 定義ステートメント *statement* を無視します。

GWPATH 定義ステートメントが、CDRM ステートメントに続いてコーディングされ、CDRM ステートメントが、このネットワークのリソースを定義するときに、VTAM はこのメッセージを出します。この状況は、以下のいずれかの方法をとる場合に起こります。

- CDRM ステートメントより先に、NETWORK 定義ステートメントがありません。これは、CDRM ステートメントがホストのネットワークのリソース用に定義されていることを意味します。
- NETWORK 定義ステートメントより先にある NETID オペランドは、NETWORK ステートメントが、このホストのネットワーク用であったことを示しています。
- ホストにゲートウェイ能力がない、つまり GWSSCP=YES で開始されていない場合は、GWPATH ステートメントを、CDRM 大ノードにコーディングすることはできません。
- 隣接ネットワーク内で認識されているサービス・クラス (COS) 名が無効です。キーワード値が長すぎるか、値に無効な文字が、含まれているか、または値が、英字 (A-Z) で始まっていない可能性があります。これは無効な COS 名が、SSCP-SSCP セッションに使用されている可能性があることを示しています。

システムの処置: VTAM は、GWPATH 定義ステートメント *statement* を無視します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 以下の状態のいずれに該当するかどうかを確かめるために、CDRM 大ノードを調べてください。

- GWPATH ステートメントをコーディングできます (つまり、先行する CDRM ステートメントは、別のネットワークの CDRM の定義用です)。
- GWPATH ステートメントをコーディングしてはなりません (つまり、先行する CDRM ステートメントは、このネットワークの CDRM の定義用です)。
- ホストがゲートウェイ機能を必要とする場合は、VTAM が開始されるときに、GWSSCP=YES を指定してください。
- ホストがゲートウェイ機能を必要としない場合は、CDRM 定義から GWPATH ステートメントを取り除いてください。

IST715I CONFIG *configname* CDRM *statementname* IGNORED - GWPATH STMT MISSING

説明: CDRM ステートメント *statementname* 上に SUBAREA オペランドを指定することによって、ゲートウェイ経路にデフォルト値を取らせない限り、GWPATH 定義ステートメントは、すべてのネットワーク間 CDRM に対して要求されます。以下の状況が起きている場合に、このメッセージが出されません。

1. CDRM 大ノード *configname* の NETWORK または CDRM 定義ステートメントが、CDRM *statementname* に対する少なくとも 1 つの有効な GWPATH ステートメントより前にあります。
2. SUBAREA オペランドが、ステートメント *statementname*、または GWPATH ステートメントで、指定されていません。

システムの処置: CDRM ステートメント *statementname* は無視されます。したがって、CDRM が、このホスト・ネットワークから活動化されることは不可能です。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: このホストのネットワーク内の CDRM を除いて、すべての CDRM に GWPATH 定義ステートメントが定義されているかどうかを確認してください。または、デフォルトのゲートウェイ経路を使用したいときは、CDRM ステートメントに、有効な SUBAREA オペランドが指定されていることを確認してください。

IST716I command FOR linkstation FAILED

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST716I command FOR linkstation FAILED

IST717I NETID *netid* ID *nodename* SA *subarea*
{CANNOT BE DEFINED|NODE TYPE INVALID}

リンク・ステーション *linkstation* に出されたコマンド *command* は、リンク・ステーションの活動化中に、隣接ノード *nodename* が接続されたときに、失敗しました。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

示された隣接ノードは、ネットワーク *netid* に存在し、*subarea* のサブエリア・アドレスを待ちます。

以下の状況のいずれかが、失敗の原因です。

CANNOT BE DEFINED

VTAM が、ストレージ不足、または隣接ネットワーク・アドレスを解釈できないために、示された隣接ノードを定義できませんでした。

NODE TYPE INVALID

ネットワーク・アドレスで識別される、示された隣接ノードは PU タイプ 4、または PU タイプ 5 ではありません。

システムの処置: リンク・ステーションは非活動化され、コマンドの処理は停止されます。

オペレーターの応答:

CANNOT BE DEFINED

リンク・ステーションの活動化をもう一度行ってください。活動化が失敗した場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

NODE TYPE INVALID

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

CANNOT BE DEFINED

ストレージの使用可能度を調べて、このホストによって活動化されている NCP 大ノード定義に、隣接ネットワーク *netid* のための BUILD または NETWORK 定義ステートメントを、MAXSUBA オペランドと共にコーディングしてください。

NODE TYPE INVALID

示された隣接ノードは、PU タイプ 4 または PU タイプ 5 以外のノードとして、VTAM に認識されています。また、ネットワーク間リソースとして認識されている可能性もあります。ネットワーク *netid* 内に割り振られたアドレスを調べてください。

IST717I **NETID** *netid* **ID** *nodename* **SA** *subarea*
{CANNOT BE DEFINED|NODE TYPE
INVALID}

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST716I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST719I **{SUBAREA** *subarea* **ELEMENT** *el* **|ADJNET**
netid **ADJNETSA** *adjnetsa* **ADJNETEL** *el*
[GWN *gwn***]**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST718I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST720I *linkstation* **HAS CONTACTED** *nodename* **IN**
netid, **SA** *subarea*

説明: リンク・ステーション *linkstation* が、ネットワーク *netid*、ノード *nodename*、サブエリア *subarea* によって識別される、PU タイプ 4、または PU タイプ 5 に正常に接続されました。ノード *nodename* が使用不能の場合には、***NA*** が、表示されます。

システムの処置: リンク・ステーションは活動化されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST721I **SESSION SETUP FOR CDRM** *cdrmname*
USING GWN *gatewayncp* **FAILED**

説明: VARY ACT,ID=*cdrmname* コマンドに応答する複数のメッセージ・グループの一部として、VTAM は、このメッセージを出します。メッセージ IST732I が、このメッセージより先に出される場合、全体の記述については、メッセージ

IST732I の説明を参照してください。それ以外の場合、このメッセージが、メッセージ・グループの最初になります。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST721I **SESSION SETUP FOR CDRM** *cdrmname* **USING GWN**
gatewayncp **FAILED**

IST723I **SSCPID** *sscpid* **ALREADY IN USE BY CDRM**
oldcdrm

CDRM *cdrmname* を使用するネットワーク間 SSCP-SSCP セッションは、ゲートウェイ NCP *gatewayncp* を使用しても、確立することができませんでした。

sscpid は、SSCPID 開始オプションで指定された SSCP のネットワーク ID で、16 進数で表示されます。

他のネットワーク (CDRM *oldcdrm* のうちの 1 つ) の複数の SSCP が、SSCPID として、*sscpid* 開始オプションと同じ値を指定して開始されたために、セッションが失敗しました。

システムの処置: セッション活動化要求は、失敗しました。

その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログとネットワーク・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

- 異なる SSCPID 開始オプション値を持つ、1 つ以上の別のネットワーク・ホストを再始動してください。2 つの SSCP が、通信している場合、SSCPID 値は、ネットワーク間で固有でなければなりません。
- 重複する SSCPID を持つホスト CDRM の 1 つだけが、一時点で活動状態にあることを確認してください。

IST723I **SSCPID** *sscpid* **ALREADY IN USE BY**
CDRM *oldcdrm*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST721I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST725I **GWN** *gatewayncp*, **SUBAREA** *subarea*, **CDRM**
ALIAS ELEMENT *element*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST732I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST726I **ADJNET** *adjnetid*, **ADJNETSA** *adjnetsubarea*,
ADJNETEL *adjnetel*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST732I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST727I **COMMUNICATION WITH CDRM**
cdrmname **LOST - REASON = X'code'**

説明: CDRM *cdrmname* を使用するセッションが、セッション停止通知 (SON) によって切断されました。切断の理由は、理由コード *code* (16 進数で表されます) によって示されます。*code* は、DACTCDRM 要求の一部で、以下のいずれかです。

code 意味

- 07 仮想経路が操作不能: SSCP-PU セッションを実行する仮想経路が操作不能となり、SSCP-PU セッションを強制的に非活動化しました。
- 0B 仮想経路の非活動化: SSCP-PU セッションで使用されている仮想経路の強制非活動化のために、識別された SSCP-PU セッションを非活動化しなければなりませんでした。
- 0C SSCP の障害 - リカバリー不能: セッションの SSCP の 1 つが異常終了したために、識別された SSCP-SSCP セッションを非活動化しなければなりませんでした。障害からのリカバリーは、不可能です。
- 0D セッションのオーバーライド: SSCP-PU セッションが、同じセッションに対する、異なる仮想経路を使用する、より最新のセッションの活動化要求によって、非活動化されなければなりませんでした。
- 0E SSCP の障害 - リカバリー可能: セッションの SSCP の 1 つが異常終了したために、識別された SSCP-SSCP セッションを非活動化しなければなりませんでした。障害からのリカバリーは、おそらく可能です。
- 0F クリーンアップ: SSCP は、DACTCDRM を受信するパートナー SSCP からの応答を受信する前に、そのハーフセッションをリセットしています。
- 10 SSCP 競合: 2 つの SSCP が、異なる仮想経路を使用して、互いに ACTCDRM 要求を送信しました。より大きな SSCP ID (SSCPID 開始オプション) を持つ SSCP から ACTCDRM を受信する SSCP は、コンテンション敗者の ACTCDRM が送信されたのと同じ仮想経路で、他の SSCP に対して、コード X'10' と共に DACTCDRM を送信します。
- 11 ゲートウェイ・ノードのクリーンアップ: ゲートウェイ SSCP セッション・パートナーが、(通知を通じて) セッションの非活動化を強制したために、ゲートウェイ・ノードが、セッションをクリーンアップしました。

システムの処置: 活動 LU-LU セッションを切断させることなく、CDRM *cdrmname* とのセッションが、非活動化されます。オペレーターの応答: システム・ログとネットワーク・ログを保管し、CDRM 定義を印刷して、問題を判別してください。セッションを再確立できるように、CDRM *cdrmname* に VARY ACT コマンドを入力してください。プログラマーの応答: RU の形式、特に、DACTCDRM とその理由コードについては、「SNA Formats」を参照してください。理由コード *cause* の意味については、DACTCDRM の説明を参照してください。

IST728I GWPATHS FOR GWN gatewayncp ARE NOW status FOR THESE CDRMS

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST728I GWPATHS FOR GWN gatewayncp ARE NOW status
        FOR THESE CDRMS
IST778I cdrmname1 [cdrmname2] [cdrmname3]
        [cdrmname4] [cdrmname5] [cdrmname6]
:
IST314I END
```

ゲートウェイ・ノード *gatewayncp* を使用する SSCP-PU セッションが確立 (*status = ENABLED*)、または切断 (*status = DISABLED*) されました。表示された CDRM (GWPATH ステートメントによって定義されています) への経路が、使用可能、または使用不能になりました。セッション状況が変更されると、ゲートウェイ・ノードにサポートされる、いずれかのネットワーク間 SSCP-SSCP セッションの能力に影響します。メッセージ IST778I は、この変更によって影響されたすべての CDRM の名前をリストします。メッセージ IST314I は、IST778I メッセージのリストの終わりです。システムの処置: 処理を続行します。表示された CDRM に対する保留中のセッション活動化要求が、もう一度行われます。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: SSCP-PU セッションが **DISABLED** で、リストされたいずれかの CDRM によってサポートされるネットワーク間セッションにゲートウェイ機能が必要なときに、ゲートウェイ・ノード *gatewayncp* を再活動化できない場合は、その CDRM を非活動化してから、新しいゲートウェイ NCP がこの SSCP-SSCP セッションをサポートできるように、別のゲートウェイ NCP を指定してその CDRM を再活動化する必要がある場合があります。

注: SSCP-SSCP セッションを非活動化すると、活動 LU-LU セッションが中断される可能性があります。

IST732I request REJECTED DUE TO reason

説明: VTAM はこのメッセージを単一のメッセージ、または複数のグループの一部として出します。このメッセージが、メッセージ IST734I (ネットワーク間セッション) より後に出される場合、そのメッセージの説明の追加情報を参照してください。

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

1. ACTCDRM

このホストが、外部 CDRM から **ACTCDRM** 要求を受け取りました。

- IST732I が単一メッセージとして出される場合、要求は以下の *reason* によって処理できません。

HOST CDRM INACTIVE

ホスト CDRM の定義を含む CDRM 大ノードが活動化されなかったか、ホスト CDRM が非活動状態です。

- それ以外の場合、IST732I が、以下のグループの最初のメッセージとして出されます。

```
IST732I request REJECTED DUE TO reason
IST725I GWN gatewayncp, SUBAREA subarea,
        CDRM ALIAS
        ELEMENT element
IST726I ADJNET adjnetid, ADJNETSA
        adjnetsubarea,
        ADJNETEL adjnetel
```

要求は、以下の *reason* によって処理できません。

SENDING CDRM UNKNOWN

ACTCDRM 要求の送信元が、このホストで定義されていません。

gatewaynncp は、ゲートウェイ NCP の名前です。

subarea と *element* は、このネットワークの外部 CDRM の別名アドレスのサブエリアと、エレメントの一部です。

隣接ネットワーク *adjnetid* に定義された CDRM のアドレスは、サブエリア *adjnetsubarea*、およびエレメント *adjnetel* です。

2. REQACTCDRM

このホストが、ゲートウェイ NCP 経路を通じて、外部 CDRM *cdrmname* から **REQACTCDRM request** を受け取りました。

```
oh IST732I request REJECTED DUE TO reason
IST721I SESSION SETUP FOR CDRM cdrmname USING
      GWN gatewaynncp FAILED
IST726I ADJNET adjnetid, ADJNETSA adjnetsubarea,
      ADJNETEL adjnetel
[IST830I ORIGINATING SSCP NAME = sscpname,
      NETID = netid]
```

メッセージ IST830I は、*reason* が **SENDING GWN INACTIVE** のときにのみ表示されます。

要求は、以下のいずれかの *reason* によって処理できません。

ACTIVATE IN PROGRESS

発信元 CDRM または宛先 CDRM が、活動化を保留しています。

HOST CDRM INACTIVE

ホスト CDRM の定義を含む CDRM 大ノードが活動化されなかったか、ホスト CDRM が非活動状態です。

INACT IN PROGRESS

発信元 CDRM、宛先 CDRM、または CDRM 大ノードが、非活動化を保留しています。

INSUFFICIENT STORAGE

セッション・セットアップを処理するストレージを、割り振ることができませんでした。

SENDING CDRM UNKNOWN

ACTCDRM の発信元が、このホストに定義されていません。

SENDING GWN INACTIVE

REQACTCDRM を送信するゲートウェイ NCP *gatewaynncp* の定義が、活動化されていません。

SENDING GWN INVALID

REQACTCDRM を送信するゲートウェイ NCP *gatewaynncp* の GWPATH 定義がありません。

gatewaynncp は、ゲートウェイ NCP の名前です。

隣接ネットワーク *adjnetid* に定義された、CDRM *cdrmname* のアドレスは、サブエリア *adjnetsubarea*、およびエレメント *adjnetel* です。

REQACTCDRM は、ネットワーク *netid* の SSCP *sscpname* で出されます。 *sscpname* または *netid* が、VTAM に認識されていない場合、これらは *****NA***** と表示されます。

システムの処置: セッションは確立できませんでした。

オペレーターの応答: 以下の *reason* によって、いずれかを行ってください。

ACTIVATE IN PROGRESS

処置は必要ありません。

HOST CDRM INACTIVE

ホスト CDRM 定義を含む CDRM 大ノードが活動状態であれば、その大ノードを活動化してください。そうでなければ、ホスト CDRM を活動化してください。

INACT IN PROGRESS

非活動化の完了を許可し、もう一度活動化してください。

INSUFFICIENT STORAGE

DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、ストレージの要件を評価してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

SENDING CDRM UNKNOWN

CDRM 大ノードが外部 CDRM の定義を含んでいる場合には、CDRM 大ノードを活動化してください。含んでいなければ、システム・ログとネットワーク・ログを保管し、CDRM 定義ステートメントを印刷して、問題を判別してください。

SENDING GWN INACTIVE

ゲートウェイ NCP を活動化してください。

SENDING GWN INVALID

システム・ログとネットワーク・ログを保管し、CDRM 定義ステートメントを印刷して、問題を判別してください。

プログラマーの応答:

INSUFFICIENT STORAGE

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不足したためにエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義する必要がある場合があります。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

DISPLAY BFRUSE および MODIFY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

SENDING GWN INVALID

REQACTCDRM を送信した、ゲートウェイ NCP のゲートウェイ経路定義の追加が必要です。新しい定義を使用するためには、新しい GWPATH 定義を含む CDRM 大ノードの非活動化、および活動化を行わなければなりません。

SENDING CDRM UNKNOWN

cdrmname に CDRM 定義ステートメントを追加してくだ

さい。新しい定義を使用するためには、CDRM 大ノードの非活動化、および活動化を行わなければなりません。

IST734I ACTIVATION OF CDRM *cdrmname* USING GWN *gatewayncp* FAILED

説明: SSCP-SSCP セッションの確立を試みたゲートウェイ NCP *gatewayncp* を経由して、ACTCDRM がホスト CDRM *cdrmname* によって送信されたときに、VTAM はこのメッセージを出します。

gatewayncp は、ゲートウェイ NCP の名前です。VTAM に認識されていない場合、*gatewayncp* は、***NA*** として表示されます。

システムの処置:

- このメッセージが単一、または IST735I を伴って表示される場合、セッションの確立は、別のゲートウェイ・ノードを介して現在実行されています。
- メッセージ IST732I が続いて出される場合、セッションの確立はできませんでした。

オペレーターの応答:

- このメッセージが単一、または IST735I を伴って表示される場合は、処理が続いているので、追加のメッセージにセッションの状況が示されます。
- メッセージ IST732I が続いて出されている場合、推奨処置については、IST732I のオペレーターの応答を参照してください。

プログラマーの応答:

- このメッセージが単一、または IST735I を伴って表示される場合、セッションの確立が実行中で、処置は必要ありません。
- メッセージ IST732I が続いて出されている場合、推奨処置については、IST732I のオペレーターの応答を参照してください。

IST735I NO ADDRESS TRANSFORMS - REQACTCDRM SENT

説明: ACTCDRM が、SSCP-SSCP セッションの確立中に送信されました。外部 CDRM に対する経路に、ゲートウェイ NCP で変換される活動別名アドレスがありません。これは以下のいずれかの状況で起きる可能性があります。

- バック・ツー・バック・ゲートウェイ構成では、2 次ゲートウェイ NCP が、外部 CDRM からの RNAA 要求をまだ受信していない可能性がある場合。
- 外部 CDRM が、このホストに隣接するネットワークのゲートウェイ NCP に対して、RNAA 要求を送信しなければならないのに、まだ送信していない場合。
- このホスト SSCP が、要求される SSCP-SSCP セッションをサポートする、1 つ以上のゲートウェイ NCP とのセッションを持っていない場合。

メッセージ IST734I が先行する場合、このメッセージは、ネットワーク間セッションに対するものです。

システムの処置: 要求された SSCP-SSCP セッションの活動化は、メッセージ IST734I の *cdrmname* によって示される CDRM から試みられます。

オペレーターの応答: 外部 CDRM がセッション活動化要求

(ACTCDRM) を送信したことを示す、メッセージ IST324I が表示されるのを待ってください。VTAM がすぐにメッセージ IST324I を出す場合は、応答は不要です。このメッセージが、妥当な時間内に現れなかった場合は、システム・ログとネットワーク・ログを保管し、問題を判別してください。

外部ホスト CDRM のオペレーターと共に、そのホストのすべてのセッション活動化手順が完了していることを調べてください。

プログラマーの応答: CDRM と、ゲートウェイ NCP 定義が正しいことと、それらの定義が、外部 CDRM からこのホスト SSCP への ACTCDRM 要求のルーティングに対して、十分なデータを含むことを確認してください。

IST737I DEFAULT VR LIST USED FOR CDRM *cdrmname* USING GWN *gatewayncp*

説明: このメッセージは、以下のいずれかを示しています。

- ゲートウェイ NCP *gatewayncp* が、*cdrmname* の存在するネットワークに対して定義された COS テーブルを持っていません。
- ゲートウェイ NCP *gatewayncp* は、*cdrmname* の存在するネットワークに対して定義された COS テーブルを持っていますが、ログオン・モード・テーブルに指定された名前に一致するテーブルの項目を、VTAM が見つけることができません。

このホストで、別名のアプリケーション・プログラムが活動状態の場合、VTAM は、隣接ネットワークで認識されている名前に対して、SSCP サービス・クラス項目 ISTVTCOS の変換を行います。このメッセージは、変換された名前またはデフォルトの名前 (ISTVTCOS) を持つ COS テーブル項目が、隣接ネットワークに存在しないことを示します。結果として、デフォルト (ブランク) の COS テーブルが、ゲートウェイ NCP *gatewayncp* を起点とする、外部 CDRM *cdrmname* に対する仮想経路の活動化に使用されます。

システムの処置: デフォルト COS 項目からの仮想経路 (VR) リストを使用して、セッションの活動化は続けられます。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログとネットワーク・ログを保管してください。

プログラマーの応答: セッションを確立できなくても、しなければならない場合は、以下の 2 つのステップのいずれかを行ってください。

- 適切な COS テーブルが定義されていない場合。
 - 以下を行ってください。
 - MODIFY
TABLE,OPTION=LOAD,ORIGIN=*gatewayncp* コマンドを使用して、*cdrmname* の常駐するネットワークに対して、適切な COS テーブルをロードする。
 - or
 - ゲートウェイ NCP *gatewayncp* を非活動化する。
 - ゲートウェイ NCP *gatewayncp* の生成デックのための *cdrmname* が存在する、ネットワークの NETWORK 定義ステートメントに、適切な COSTAB キーワードを追加する。
 - ゲートウェイ NCP *gatewayncp* を再活動化する。
 - または、問題に別名アプリケーションが関係する場合。

- 別名のアプリケーション・プログラムを活動化する。
- 別名変換テーブルを更新する (詳細については、「*NetView Installation and Administration Guide*」を参照してください)。
- COS テーブルに一致する項目が見つからない場合。
 - 以下を行ってください。
 - ゲートウェイ NCP *gatewayncp* を非活動化する。
 - ゲートウェイ NCP *gatewayncp* の定義デックの NETWORK 定義ステートメントの COSTAB キーワードで識別される COS テーブルに、必要な項目を追加する。
 - ゲートウェイ NCP *gatewayncp* を再活動化する。
 - または、MODIFY TABLE,OPTION=ASSOCIATE,TYPE=COSTAB,ORIGIN=*gatewayncp* コマンドを使用して、必要な項目を持つ COS テーブルを、ゲートウェイ NCP *gatewayncp* に関連付けてください。

IST740I UNABLE TO FREE ALIAS ADDRESSES FOR CDRM *cdrmname* GWN *gatewayncp*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST740I UNABLE TO FREE ALIAS ADDRESSES FOR CDRM
        cdrmname GWN gatewayncp
IST523I REASON = reason
```

reason によって示されたエラーのため、VTAM は 1 組の別名ネットワーク・アドレスを解放できませんでした。これにより、次にゲートウェイ NCP *gatewayncp* を使用する外部 CDRM *cdrmname* を活動化させても失敗します。ネットワークでの過密な活動状態が原因で起きた場合、この状態は一時的なものかもしれません。これは、このサイズのネットワークを管理するためのストレージが十分ではないことを示している場合があります。

障害の *reason* は次のいずれかです。

INSUFFICIENT STORAGE

VTAM が、十分なストレージを割り振ることができませんでした。NOTIFY RU が、SSCP-SSCP セッションに別名ネットワーク・アドレスを解放するために、ゲートウェイ NCP *gatewayncp* に送信されました。

NOTIFY REQUEST FAILED

NOTIFY RU が、SSCP-SSCP セッションに別名ネットワーク・アドレスを解放するために、ゲートウェイ NCP *gatewayncp* に送信されましたが、ゲートウェイ NCP *gatewayncp* は、別名ネットワーク・アドレスを解放することができませんでした。

システムの処置: 非活動化処理は続けられます。

オペレーターの応答: CDRM *cdrmname* を含む大ノードが、まだ活動状態にある場合は、その CDRM に VARY INACT コマンドを再入力してください。

以下のような場合には、別名ネットワーク・アドレスを解放するために、*gatewayncp* の NCP 大ノードを非活動化しなければなりません。

- ゲートウェイ NCP が、使用可能な別名ネットワーク・アドレスを持っていないために、セッションの確立が失敗していることを示す追加メッセージが表示された場合。
- 外部 CDRM 定義を含む大ノードが非活動状態の場合。

reason が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答: *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合は、使用可能なストレージの量がネットワークに対して適当であることを確認し、必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが不足したためにエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義する必要がある場合があります。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

DISPLAY BFRUSE および MODIFY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「*VTAM Operation*」を参照してください。「*VTAM Diagnosis*」に、追加情報があります。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。

IST742I ACTIVATION OF CDRM *cdrmname* {FAILED|QUEUED} - GWN PATH NOT AVAILABLE

説明: ネットワーク間 CDRM の活動中に、外部 CDRM *cdrmname* を使用する SSCP-SSCP セッションをサポートするためのゲートウェイ NCP を選択することができませんでした。

VTAM が活動状態にないゲートウェイ NCP を見つけた場合は、このメッセージだけが表示されます。VTAM が活動ゲートウェイ NCP を選択できた場合には、起きた障害を示すメッセージが、このメッセージより先に出されます。

システムの処置: 活動化が以下のいずれかによって、処理が異なります。

QUEUED

外部 CDRM *cdrmname* の活動化は、CDRM *cdrmname* の GWPATH ステートメントによって定義された、適切なゲートウェイ NCP の使用可能度を保留したまま、キューイングされます。

FAILED

ストレージ不足のため、外部 CDRM *cdrmname* の活動化が失敗したか、CDRM *cdrmname* の GWPATH ステートメントによって定義されたすべての経路で活動化が試行されましたが、失敗しました。

オペレーターの応答: 活動化を保留のままにしたい場合は、CDRM *cdrmname* に対して VARY INACT コマンドを出してください。

活動化を保留させる場合は、システム・ログとネットワーク・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: 以下のような場合、これは正常なメッセージです。

IST744I • IST745I

- 活動化中に、経路に障害が起きましたが、障害は予期されていきました。
- ホスト SSCP からゲートウェイ NCP へのセッション障害のため、既存の SSCP-SSCP セッションが切断されました。

ゲートウェイ NCP、または代替ゲートウェイ経路のリカバリーで、SSCP-SSCP セッションが再確立された場合には、処置は必要ありません。

以下のような場合には、外部 CDRM に関連する GWPATH 定義の追加または変更、あるいはゲートウェイ NCP の GWNAU 定義の変更が必要になると思われます。

- このメッセージが、外部 CDRM の初期活動化で出される場合。
- 外部 CDRM または該当するゲートウェイ NCP を活動化しても、セッションがリカバリーされない場合。

GWPATH および GWNAU 定義ステートメントを CDRM 活動化に関連付ける方法について詳しくは、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST744I CROSS-NETWORK SESSION SETUP FAILED, NETWORK = *netid*

説明: このメッセージは、2 つのメッセージ・グループの最初のメッセージです。2 つのメッセージ・グループの完全な記述は、以下のとおりです。

表示されるメッセージ・グループは、以下のようなセッションのタイプによって決まります。

- セッション確立の試みが SSCP-SSCP セッションの場合、失敗した要求は ACTCDRM で、以下のメッセージ・グループが出されます。

```
IST744I CROSS-NETWORK SESSION SETUP FAILED,
NETWORK = netid
IST745I ACTCDRM TO CDRM = cdrmname FAILED,
SENSE = code
IST531I FROM SUBAREA = subarea, ELEMENT =
element
IST531I TO SUBAREA = subarea, ELEMENT =
element
[IST528I VIRTUAL ROUTE NUMBER vrlist]
IST523I REASON = {SESSION SETUP REJECTED |
VR ACTIVATION FAILED}
```

code は、ACTCDRM 要求に出された否定応答のセンス・データです。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

- セッション確立の試みが LU-LU セッションの場合、失敗した要求は BIND RU で、以下のメッセージ・グループが出されます。

```
IST744I CROSS-NETWORK SESSION SETUP FAILED,
NETWORK = netid
IST746I BIND FAILED FROM pluname TO sluname,
SENSE = code
IST531I FROM SUBAREA = subarea, ELEMENT =
element
IST531I TO SUBAREA = subarea, ELEMENT =
element
[IST528I VIRTUAL ROUTE NUMBER vrlist]
IST523I REASON = {SESSION SETUP REJECTED |
VR ACTIVATION FAILED}
```

1 次論理装置 (PLU) の実名は *pluname* で、2 次論理装置 (SLU) の実名は *sluname* です。*code* は、BIND 要求に対する否定応答のセンス・データです。詳しいセンス・コード情報については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

メッセージ IST531I が最初に表示されると、ネットワーク *netid* (サブエリア *subarea*、およびエレメント *element*) で認識されている、PLU のアドレスを示します。サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに 0 または *NA* を発行します。

メッセージ IST531I が 2 番目に表示されると、ネットワーク *netid* (サブエリア *subarea* と、エレメント *element*) で、認識されている SLU のアドレスを示します。サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに 0 または *NA* を発行します。

セッション活動化障害の理由は、メッセージ IST523I によって示されています。

SESSION SETUP REJECTED

ゲートウェイ NCP は、セッション活動化要求に対する否定応答を受信しました。

VR ACTIVATION FAILED

ネットワーク *netid* 内の仮想経路を活動化することができません。メッセージ IST528I は、ネットワーク *netid* 内でゲートウェイ NCP が活動化を行った仮想経路のリストを提供する、*vrlist* を表示する場合があります。

システムの処置: セッションの活動化は、失敗します。
オペレーターの応答: 明示経路と仮想経路の状況を表示するには、このセッション・セットアップに含まれるすべてのネットワークに、DISPLAY ROUTE コマンドを入力してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

SESSION SETUP REJECTED

そのセッションで使用されたログオン・モード・テーブルの項目を検討してください。

VR ACTIVATION FAILED

すべての COS テーブル定義、および PATH 定義ステートメントが正しく、すべての必要なリンクとノードが活動状態であることを確認してください。

すべての定義が正しく、すべての必要なリンクとノードが活動状態であれば、以下の処置を行ってください。

- IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
- IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。

IST745I ACTCDRM TO CDRM = *cdrmname* FAILED, SENSE = *class=sense.code*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは

IST744I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

**IST746I BIND FAILED FROM *pluname* TO *sluname*,
SENSE = *code***

説明: VTAM は、このメッセージをグループの最初のメッセージとして、あるいはメッセージ IST744I で始まるメッセージ・グループの一部として出す可能性があります。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST746I が、グループの最初のメッセージとして出されるとき、VTAM は以下のように表示します。

```
IST746I BIND FAILED FROM pluname TO sluname,
SENSE = code
IST531I FROM SUBAREA = subarea, ELEMENT = element
IST531I TO SUBAREA = subarea, ELEMENT = element
[IST528I VIRTUAL ROUTE NUMBER vrlist]
IST523I REASON = VR ACTIVATION FAILED
```

NCP は、VTAM ネットワーク内の独立 PLU *pluname* から、SLU *sluname* までの仮想経路を活動化できませんでした。

メッセージ IST531I が最初に表示されると、ネットワーク *netid* (サブエリア *subarea*、およびエレメント *element*) で認識されている、PLU のアドレスを示します。サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに 0 または *NA* を発行します。

メッセージ IST531I が 2 番目に表示されると、ネットワーク *netid* (サブエリア *subarea* と、エレメント *element*) で、認識されている SLU のアドレスを示します。サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに 0 または *NA* を発行します。

システムの処置: セッションの活動化は、失敗します。
オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: COS テーブル定義、および PATH 定義ステートメントが正しいかどうかを確認してください。すべての要求されたリンクとノードが、活動状態にあるかどうかも確認してください。

**IST751I SIO = *sio*, ERROR CT = *count*, CUA =
*device_address***

説明: 通信アダプター回線の使用するチャンネル接続大ノードの状況を要求する DISPLAY ID コマンドが出されると、VTAM はこのメッセージを出します。

sio は、このノードに対してカウントされた I/O 開始操作の数です。この数は、(そのノードが最後に活動化されたとき以降の) 累計です。 *sio* の値は 65535 を超えることはありません。 *sio* が 65535 の場合、その値は、次の入出力開始命令が、出されたときに、0 にリセットされます。 *sio* の値が使用不能であれば、VTAM は ***NA*** を出します。

count は、このノードに対してカウントされた I/O エラーの数です。この数は、(そのノードが最後に活動化されたとき以降の) 累計です。 *count* が使用不能な場合、VTAM は ***NA*** を出します。

device_address は、このノードが接続されている回線の 16 進数のチャンネル・アドレスです。 *device_address* が利用不可であるときは、VTAM は *NA を発行します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST752I GPT TRACE STATUS = *status*[*ALSNAME*
= *alsname*]**

説明: このメッセージは、ノードの状況を要求する DISPLAY コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

このメッセージは、そのノードについての汎用 PIU トレース (GPT) の現在の状態を示します。

トレース状況コード *status* の値の詳細については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

独立 LU に対する DISPLAY コマンドの場合、VTAM は、独立 LU が使用している、すべての隣接リンク・ステーション (ALS) の名前を示します。VTAM は、各隣接リンク・ステーションに対して、一度だけメッセージ IST752I を出します。

VTAM は、NCP 大ノード (交換接続の場合は、NCP 大ノードを介して接続されたリンク・ステーション) に存在する、隣接リンク・ステーションに対してのみ、このメッセージを出します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST755I ALERT FROM PU *puname* FOLLOWS

説明: VTAM は、通信コントローラー *puname* から、タイプ 0 の非送信請求レコード定様式維持統計 (RECFMS) 要求を受信しました。このメッセージの次に、必ず 2 番目のメッセージが出され、*puname* から受信したユーザーの処置コードに基づく特定情報を示します。追加情報については、2 番目のメッセージの説明を参照してください。

このメッセージと、後続のメッセージは、通信ネットワーク管理 (CNM) アプリケーション・プログラムが定義されていて、RECFMS RU を受信するために活動状態の場合には、表示されません。

IST756E ALERT FROM PU *puname* FOLLOWS

説明: VTAM は、通信コントローラー *puname* から、タイプ 0 の非送信請求レコード定様式維持統計 (RECFMS) 要求を受信しました。このメッセージの次に、必ず 2 番目のメッセージが出され、*puname* から受信したユーザーの処置コードに基づく特定情報を示します。追加情報については、2 番目のメッセージの説明を参照してください。

このメッセージと、後続のメッセージは、通信ネットワーク管理 (CNM) アプリケーション・プログラムが定義されていて、RECFMS RU を受信するために活動状態の場合には、表示されません。

注: このメッセージは、何らかの処置をとって問題を訂正しなければならないことを示していますが、システムはユーザーの応答を待たずに処理を続行します。

IST757E MOSS UNAVAILABLE - HARDWARE ERROR

説明: 3725 または 3745 通信コントローラーの保守オペレーター・サブシステム (MOSS) は、プログラムの制御スイッチの位置が正しくないか、またはハードウェア・エラーが起こったために、使用不能になりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM から受信された RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 1 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 通信コントローラーの IPL を試みないでください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: プログラム制御の位置が正しいかどうかを調べてください。正しい場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST758E MOSS RELOADED - HARDWARE ERROR

説明: 3725 または 3745 通信コントローラーの保守オペレーター・サブシステム (MOSS) は、ハードウェア・エラーが発生した後に自動的に再ロードされました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM で受信した RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 2 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: エラーは正常にリカバリーされました。処理を続行します。

オペレーターの応答: MOSS ディスケット上に別のダンプを行うことができるように、MODIFY DUMP,TYPE=MOSS コマンドを出して、MOSS ダンプをホスト・データ・セットに転送してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 問題が再発しない限り、処置は不要です。問題が再発した場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST759E MOSS DISKETTE UNUSABLE

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内の保守オペレーター・サブシステム (MOSS) ディスケット駆動機構またはディスク・アダプター内でハードウェア・エラーが起こったため、その機構またはアダプターは使用不能になりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM によって受信された RECFMS 要求内に、ユーザー処置コード 3 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 通信コントローラーの IPL を試みないでください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST760E MOSS DISKETTE HARDWARE ERROR

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内の保守オペレーター・サブシステム (MOSS) ディスケットの一部が、ハードウェア・エラーが発生したために使用不能となりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM から受信された RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 4 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST761E MOSS CONSOLE UNAVAILABLE

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内の保守オペレーター・サブシステム (MOSS) ディスケットの一部が、使用不能となりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM の受信した RECFMS に、ユーザー処置コード 5 がありました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 失敗したアダプターを介して経路指定を用いるセッションはすべて中止され、適切なリカバリー処置が開始されています。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 物理的なインストール状態を調べ、必要に応じて、オペレーター・コンソール・テストを実行してください (通信コントローラーについては、「*Operator Console Reference and Problem Analysis Guide*」に説明されています)。

問題の原因が判別できないために追加の援助が必要な場合、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST762I MOSS IN MAINTENANCE MODE

説明: 3725 または 3745 通信コントローラーの保守オペレーター・サブシステム (MOSS) は、明示的な処置によってオフライン・モードにされました。このメッセージの前には、必ず IST755I が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM の受信した RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 6 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 保守モードを調べてください。正しくなければ、MOSS を ONLINE MODE にしてください。

**IST763I PHYSICAL UNIT RELOADED -
HARDWARE ERROR**

説明: 3725 または 3745 通信コントローラーが、ハードウェア・エラーからリカバリーするために再ロードされました。このメッセージの前には、必ず IST755I が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM の受信した RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 7 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: エラーは正常にリカバリーされました。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 問題が再発しない限り、処置は不要です。問題が再発した場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

**IST764I PHYSICAL UNIT RELOADED — PRIOR
ABEND CODE WAS *code***

説明: 3725 または 3745 通信コントローラーが、異常終了の原因となったソフトウェア・エラーからリカバリーするために再ロードされました。

code は異常終了コードです。

このメッセージの前には、必ず IST755I が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM の受信した RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 8 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: エラーは正常にリカバリーされました。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 問題が再発しない限り、処置は不要です。再発する場合、NCP 生成ハードウェアとハードウェア構成が一致しているかどうかを調べ、NCP をダンプしてください。

問題の原因を判別できないか、または追加の援助が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

**IST765E CHANNEL ADAPTER *channelname*
UNAVAILABLE - HARDWARE ERROR**

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内のチャンネル・アダプター *channelname* は、ハードウェア・エラーのために使用不能です。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM によって受信された RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 9 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: VTAM は失敗したアダプターを通して経路を使用するすべてのセッションを中止し、適切なりカバリー処置を開始しました。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

**IST766I DUMP FAILED - NO {MOSS|CSP|NCP}
DUMP ON *ncpname* DISK(ETTE)**

説明: VTAM はダンプを、MOSS、CSP、または NCP ディスケットから、NCP *ncpname* に使用するホスト 3745、3725 (MOSS または CSP 用) または 3720 (MOSS、CSP、または NCP) 通信コントローラーに転送しました。ディスクケットが空であったか、または VTAM が要求されたファイルを検出できなかったために、この要求は失敗しました。

システムの処置: ダンプ処理は終了します。

オペレーターの応答: ディスケットにダンプ要求を出し、次に MOSS、CSP、または NCP ダンプ要求を出し直してください。3725、3720、または 3745 通信コントローラー上のディスクケットが空でも、NCP からホストヘデータ・ファイルが伝送されることがあります。NCP ユーティリティ・プログラムを使用すると、ファイルを様式化して印刷することができません。

プログラマーの応答: なし。

**IST767E SCANNER *scannernum (line1-line2)*
UNAVAILABLE - HARDWARE ERROR**

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内のスキャナー *scannernum* は、*line1* から *line2* までの番号のいずれかの回線上でハードウェア・エラーが起こったため、使用不能になりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM によって受信された RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 11 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 影響を受ける回線はすべて操作不能になります。

オペレーターの応答: 事前に定義されたりカバリー処理またはバックアップ処理、あるいはその両方を行ってください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 影響を受けたスキャナーをロードし直してください。問題が再発しない限り、処置は不要です。問題が再発した場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

**IST768E SCANNER *scannernum (line1-line2)*
UNAVAILABLE - HARDWARE ERROR**

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内のスキャナー *scannernum* は、*line1* から *line2* までの番号のいずれかの回線上でハードウェア・エラーが起こったため、使用不能になりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM によって受信された RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 12 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 影響を受ける回線はすべて操作不能になります。

オペレーターの応答: 事前に定義されたりカバリー処理またはバックアップ処理、あるいはその両方を行ってください。

MODIFY DUMP コマンドを使用して、回線スキャナー・プロセッサのダンプをホストのデータ・セットに転送してください。別のダンプを MOSS ディスケットに転送することも可能です。問題判別のためシステム・ログを保管してください。プログラマーの応答: 影響を受けたスキャナーをロードし直してください。問題が再発しない限り、処置は不要です。問題が再発した場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST769E **SCANNER** *scannernum* (line1-line2)

UNAVAILABLE - SOFTWARE ERROR

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内のスキャナー *scannernum* は、line1 から line2 までの番号のいずれかの回線上でソフトウェア・エラーが起こったため、使用不能になりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM の受信した RECFMS 要求には、ユーザー処置コード 13 が含まれています。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 影響を受ける回線はすべて操作不能になります。

オペレーターの応答: 事前に定義されたりカバリー処置またはバックアップ処置、あるいはその両方をネットワークに行い、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: スキャナー *scannernum* をロードし直してください。問題が再発しない限り、処置は不要です。問題が再発する場合、NCP をダンプして、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST770E **SCANNER** *scannernum* (line1-line2)

UNAVAILABLE - SOFTWARE ERROR

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内のスキャナー *scannernum* は、line1 から line2 までの番号のいずれかの回線上でソフトウェア・エラーが起こったため、使用不能になりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM の受信した RECFMS 要求に、ユーザー処置コード 14 が含まれています。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 影響を受ける回線はすべて操作不能になります。

オペレーターの応答: 事前に定義されたりカバリー処理またはバックアップ処理、あるいはその両方を行ってください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 問題が再発しない限り、処置は不要です。問題が再発する場合、NCP をダンプして、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST771E **SCANNER** *scannernum* **LINE** *linename*
UNAVAILABLE - HARDWARE ERROR

説明: 3725 または 3745 通信コントローラー内の、回線 *linename* 上のスキャナー *scannernum* は、ハードウェア・エラーが起こったため使用不能になりました。このメッセージの前には、必ず IST756E が出され、通信コントローラーの名前が示されます。VTAM に受信された RECFMS 要求に、ユーザ

ー処置コード 15 が含まれていました。追加情報は、通信コントローラーの「操作ガイド」にあります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 影響を受けた回線を再活動化してください。問題が再発しない限り、処置は不要です。問題が再発した場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST772I **UAC** = *uac* [Q1 = *qualifier1* Q2 = *qualifier2* [Q3 = *qualifier3*]]

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST755I です。警報が、*uac* のユーザー処置コード (UAC) と共に受信されました。この警報に修飾子が含まれていれば、それらも表示されます (ゼロから 3 個までの修飾子)。

注:

- 修飾子テキストは、修飾子と警報と一緒に受信された場合に、印刷されます。例:
 - 警報に 2 個の修飾子が付いている場合、VTAM は、**Q3 = *qualifier3*** テキストを表示しません。
 - 警報に修飾子が付いていない場合は、VTAM は *uac* だけを表示します。
- VTAM が、以下にリストされていない UAC を表示した場合、VTAM は、UAC を認識しません。以下にリストされていない UAC については、「IBM 3720/3721 *Communication Controller Daily Task and Problem Determination*」を参照してください。

UAC に基づくメッセージ・グループの詳しい記述は、以下のとおりです。

UAC=01

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) に、ハードウェアのエラーがあったか、または制御プログラムと MOSS 間の通信エラーです。
- システムの処置: 処理を続行します。
- オペレーターの応答:
 - 3720 の IPL を行わないでください。
 - MOSS を IML して、3720 オペレーター画面の機能選択スイッチを "NORMAL" にし、MOSS をオンラインにしてください。
- 「IBM 3720/3721 *Communication Controller Operator's Guide*」を参照してください。
- MOSS ダンプをホストへ転送して、後で印刷するために、MODIFY DUMP,TYPE=MOSS コマンドを使用してください。
- 問題が続く場合は、最後の MOSS ダンプは転送しないでください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: 制御プログラムと MOSS インターフェースの状況 (Q1) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=02

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) にリカバリー可能なエラーがありました。MOSS は自動的に再ロードされました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答:
 - MOSS ダンプをホストへ転送して、後で印刷するために、MODIFY DUMP,TYPE=MOSS コマンドを使用してください。
 - 問題が続く場合は、最後の MOSS ダンプは転送しないでください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: 参照コード (Q1) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=03

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) のディスクレット・ドライブ、またはディスクレット・アダプターに、エラーがありました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=04

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) のディスクレット・ドライブ、またはディスクレット・アダプターに、エラーがありました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=05

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) のローカル・コンソールに、エラーがありました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - ローカル・コンソールが、IBM 3101 モードで操作されていることを確認してください。「IBM 3720/3721 Communication Controller Problem Determination Guide」を参照してください。
 - コンソール・テストを実行してください。コンソールの資料を参照してください。
 - ケーブルを調べてください。
 - 3720 オペレーター画面から、コンソール・リンク・テストを実行してください。「IBM 3720/3721 Communication Controller Daily Task and Problem Determination」を参照してください。

- 何の問題も現れない場合は、参照コード (Q2) を記録して、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=06

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) は、保守モードになっているためにオフラインです。
 - システムの処置: 処理を継続します。
 - オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
 - プログラマーの応答: 保守モードを調べてください。それが正しい場合は、MOSS をオンラインにしてください。
- 「IBM 3720/3721 Communication Controller Operator's Guide」を参照してください。

UAC=07

- 説明: 通信コントローラーに、ハードウェア・エラーがあります。通信コントローラーの IPL が、再実行されました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答:
 - ホストから、回線を再活性化してください。
 - 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: 異常終了コード (Q1) と、参照コード (Q2) を記録してください。問題の原因を判別できないか、または追加の援助が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=08

- 説明: 通信コントローラーに、ソフトウェア・エラーがあります。通信コントローラーの IPL が、再実行されました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答:
 - ホストから、回線を再活性化してください。
 - 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - ハードウェア構成と制御プログラム生成 (NCPA、CA、HICHAN、LOCHAN) との間に、不一致がないことを確認してください。異常終了コード 912 と 915 は、有効です。生成上の問題がある場合は、訂正してください。
 - NCP をダンプし、異常終了コード (Q1) にしたがって、ダンプを解析してください。
 - ソフトウェアの問題と思われる場合は、参照コード (Q2) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=09

- 説明: チャネル・アダプター (Q1) に、チャネル・アダプター・エラーが起きました。

- システムの処置: 障害を起こしたアダプター経由の経路を使用しているすべてのセッションが終了し、適切なリカバリー処置が開始されました。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - システムと通信コントローラーチャンネル・アダプター・パラメーターとの間の互換性 (NSC アドレス、ESC アドレス、選択出力優先順位、バースト長さ)を確認してください。
 - 参照コード (Q2) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=11

- 説明: スキャナー番号 Q1 に、スキャナー・ハードウェア・エラーが起きました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。
- システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。
- オペレーターの応答:
 - MOSS コンソールから、影響を受けたスキャナーに対して IML コマンドを再入力し、ホストから回線を再活動化してください。

「IBM 3720/3721 Communication Controller Operator's Guide」を参照してください。

- 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: 参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=12

- 説明: スキャナー番号 Q1 に、スキャナー・ハードウェア・エラーが起きました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。
- システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。
- オペレーターの応答:
 - MOSS コンソールから、影響を受けたスキャナーに対して IML コマンドを再入力し、ホストから回線を再活動化してください。

「IBM 3720/3721 Communication Controller Operator's Guide」を参照してください。

- スキャナー・ダンプをホストに転送し、後で印刷するために、MODIFY DUMP,TYPE=CSP コマンドを使用してください。
- 問題が解決されない場合、最後のスキャナー・ダンプは転送しないでください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: 参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=13

- 説明: スキャナー番号 Q1 に、制御プログラム・エラー、またはスキャナー・エラーが起きました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。
- システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。

• オペレーターの応答:

- MOSS コンソールから、影響を受けたスキャナーに対して IML コマンドを再入力し、ホストから回線を再活動化してください。

「IBM 3720/3721 Communication Controller Operator's Guide」を参照してください。

- 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

• プログラマーの応答:

- 制御プログラム生成のアドレスを調べてください。エラーがある場合は、訂正してください。
- NCP のダンプを取得し、ダンプを解析してください。
- ソフトウェアの問題と思われない場合は、参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=14

- 説明: スキャナー番号 Q1 に、制御プログラム・エラー、またはスキャナー・エラーが起きました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。
- システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。

• オペレーターの応答:

- MOSS コンソールから、影響を受けたスキャナーに対して IML コマンドを再入力し、ホストから回線を再活動化してください。

「IBM 3720/3721 Communication Controller Operator's Guide」を参照してください。

- スキャナー・ダンプをホストに転送し、後で印刷するために、MODIFY DUMP,TYPE=CSP コマンドを使用してください。
- 問題が解決されない場合、最後のスキャナー・ダンプは転送しないでください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

• プログラマーの応答:

- NCP のダンプを取得し、ダンプを解析してください。
- ソフトウェアの問題と思われない場合は、参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=15

- 説明: スキャナー番号 Q1 の回線アドレス Q2 に、回線エラーが起きました。
- システムの処置: 回線は操作不能です。

• オペレーターの応答:

- ホストから、回線を再活動化してください。
- 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

• プログラマーの応答:

- 参照コード (Q3) に従って、3720 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) 機能の回線問題判別を実行してください。

「IBM 3720/3721 Communication Controller Problem Determination Guide」を参照してください。

- ソフトウェアの問題と思われる場合は、参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=16

説明: スキャナー Q1 のハードウェア・エラーに続いて、自動スキャナー IML の再実行が進行中です。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。

オペレーターの応答: 自動スキャナー IML の再実行が完了するのを待ってください。他の警報が、IML の完了を示します。処置は必要ありません。

UAC=17

説明: スキャナー Q1 の制御プログラム・エラーに続いて、自動スキャナー IML の再実行が進行中です。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。

オペレーターの応答: 自動スキャナー IML の再実行が完了するのを待ってください。他の警報が、IML の完了を示します。処置は必要ありません。

UAC=18

- 説明: スキャナー Q1 のハードウェア・エラーに続いて、自動スキャナー IML の再実行が完了しました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。
- システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。
- オペレーターの応答:
 - ホストから、回線を再活性化してください。
 - 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: 参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=19

- 説明: スキャナー Q1 の制御プログラム・エラー、またはスキャナー・エラーに続いて、自動スキャナー IML の再実行が完了しました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。
- システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。
- オペレーターの応答:
 - スキャナー・ダンプをホストに転送し、後で印刷するために、MODIFY DUMP,TYPE=CSP コマンドを使用してください。
 - ホストから、回線を再活性化してください。

- 問題が解決されない場合、最後のスキャナー・ダンプは転送しないでください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

• プログラマーの応答:

- スキャナー IML の再実行時に、NCP ダンプ (MODIFY DUMP,TYPE=NCP コマンドを使用して) を取得し、ダンプを解析してください。
- ソフトウェアの問題と思われる場合は、参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=20

説明: スキャナー Q1 に、永続ハードウェア・エラーが起きました。スキャナー IML の再実行は、中止されました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。

システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=21

- 説明: スキャナー Q1 に、永続制御プログラム・エラー、またはスキャナー・エラーが起きました。スキャナー IML の再実行は中止されました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。
- システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - NCP のダンプを取得し、ダンプを解析してください。
 - ソフトウェアの問題と思われる場合は、参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=22

説明: スキャナー Q1 でハードウェア・エラーが発生したために、自動スキャナー IML の再実行が失敗しました。アドレスが Q2 の範囲にある回線は、操作不能です。

システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 参照コード (Q3) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=23

- 説明: スキャナー Q1 の制御プログラム・エラー、またはスキャナー・ハードウェア・エラーのために、自

動スキャナー IML の再実行が失敗しました。アドレスが **Q2** の範囲にある回線は、操作不能です。

- システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - NCP のダンプを取得し、ダンプを解析してください。
 - ソフトウェアの問題と思われる場合は、参照コード (**Q3**) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=24

説明: スキャナー **Q1** の、スキャナー・ハードウェア・エラー、または保守オペレーター・サブシステム (MOSS) エラーのために、自動スキャナー IML の再実行が失敗しました。アドレスが **Q2** の範囲にある回線は、操作不能です。

システムの処置: 影響を受けたすべての回線は、操作不能です。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 参照コード (**Q3**) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=25

- 説明: 回線、モデム、コンソール、または MOSS のために、保守オペレーター・サブシステム (MOSS) リモート・コンソールのエラーが起きました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - リモート・コンソール、リモート・モデム、またはローカル・モデムの電源がオンになっていることを、確認してください。
 - リモート・コンソール、リモート・モデム、ローカル・モデムとケーブルの物理的設置状況を確認してください。

「IBM 3720/3721 Communication Controller Problem Determination Guide」を参照してください。

- モデム・テストを実行してください。モデムの資料を参照してください。
- コンソール・テストを実行してください。コンソールの資料を参照してください。
- 3720 オペレーター画面から、コンソール・リンク・テストを実行してください。

「IBM 3720/3721 Communication Controller Daily Task and Problem Determination」を参照してください。

- 問題が現れない場合は、参照コード (**Q1**) を記録して、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=26

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) リモート・コンソールのエラーが起きました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - リモート・コンソールが、IBM 3101 モードで操作されていることを確認してください。

「IBM 3720/3721 Communication Controller System Integration」を参照してください。

- コンソール・テストを実行してください。コンソールの資料を参照してください。
- 問題が現れない場合は、参照コード (**Q1**) を記録して、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=27

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) ディスク、または MOSS ディスク・アダプターに、エラーが起きました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - ディスクが保管されている 1 次ディスクセットを使用して、通信コントローラーの IPL が実行可能です。

「IBM 3720/3721 Communication Controller Problem Determination Guide」を参照してください。

- 参照コード (**Q1**) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=30

- 説明: 保守オペレーター・サブシステム (MOSS) ディスク、または MOSS ディスク・アダプターに、エラーが起きました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答:
 - ディスクが修復されるまでは、3720 ディスクからの IPL、またはディスクへのダンプを、実行しないでください。

- IPL は、制御画面でディスク・モードに切り替えて、カスタマイズされたディスクの内容が保管された、1 次バックアップ・ディスクセットを使用したときのみ、実行可能です。

「3720/3721 Communication Controller Operator's Guide」を参照してください。

- 問題判別のためシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: 参照コード (**Q1**) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=31

- 説明: 通信コントローラーに、ハードウェア・エラーが起きました。通信コントローラーの IPL が、再実行されました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答:
 - ホストから、回線を再活性化してください。
 - 通信コントローラー・ダンプをホストへ転送し、3720 ディスクから削除するために、MODIFY DUMP,TYPE=NCP,OPTION=TRANS コマンドを使用してください。
 - 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答: 異常終了コード (Q1) と、参照コード (Q2) を記録して、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

UAC=32

- 説明: 通信コントローラーに、ソフトウェア・エラーが起きました。通信コントローラーの IPL が、再実行されました。
- システムの処置: 処理を継続します。
- オペレーターの応答:
 - ホストから、回線を再活性化してください。
 - 通信コントローラー・ダンプをホストへ転送し、3720 ディスクから削除してください。
ダンプをホストへ転送してはならない場合でも、3720 ディスクからは、削除しなければなりません。ダンプが削除されない場合は、後続のエラーに対する AUTODUMP/IPL 手順が行われません。
 - 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- プログラマーの応答:
 - ハードウェア構成と制御プログラム生成 (NCPCA、CA、HICHAN、LOCHAN) との間に、不一致がないことを確認してください。異常終了コード 912 と 915 は、有効です。生成上の問題がある場合は、訂正してください。
 - 異常終了コード (Q1) に従って、ダンプを解析してください。
 - ソフトウェアの問題と思われない場合は、参照コード (Q2) を記録し、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST773I SESSION WITH *luname* IN PROCESS OF BEING TERMINATED

説明: VTAM は、VARY INACT,GIVEBACK コマンドが出されたので PU を非活性化するところでした。セッションを、*luname* の非介入返還時に、実リソースから CDRSC に転送できませんでした。
システムの処置: VTAM は *luname* のセッションを中止します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IST778I *cdrrname1* [*cdrrname2*] [*cdrrname3*] [*cdrrname4*] [*cdrrname5*] [*cdrrname6*]

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST728I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST784I SESSION(S) EXIST(S) WITH UNKNOWN PARTNER(S)

説明: VTAM は、論理装置に出される DISPLAY ID コマンドに回答して、このメッセージを出します。このメッセージは、SSCP にパートナー情報 (セッションの相手の名前、セッション ID など) がないセッションが 1 つ以上存在していることを示しています。この情報は、SSCP-LU セッションが終了した時点で消失しました。その SSCP-LU セッションが再確立されると、SSCP は活動状態のままとなっていた LU-LU セッションを再認識します。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IST786I *command* COMMAND REJECTED — *reason*

説明: VTAM は、以下のいずれかの *reason* で *command* を拒否しました。

EXCEEDS *limit* CHARACTER LIMIT

command は最大許容長の *limit* を超えていました。コマンドの長さは制限値 *limit* 以下にしてください。許容されるコマンドの長さは、PPOLOG=YES の指定があるときは、もっと短くなります。

NO COMMAND OPERANDS

command の入力コマンドの長さ (コマンド接頭部を除いた後の) がゼロでした。

NOT AUTHORIZED

許可されていないユーザー・コンソールからコマンドが入力されました。VTAM コマンドは、VSE マスター・コンソールから発行する必要があります。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答:

- *reason* が **EXCEEDS *limit* CHARACTER LIMIT** の場合、コマンドの長さを *limit* 以下にしてから再入力してください。
- *reason* が **NO COMMAND OPERANDS** の場合、要求されたオペランドを指定して、*command* を再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST787I SSCP TAKEOVER FOR NODE *linkname* IN PROGRESS

説明: 非介入引き継ぎ時に、引き継ぎ側 SSCP で交換回線リンク *linkname* が活性化されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST788I MODIFY ATTACH FAILED - SUBTASK
LIMIT EXCEEDED**

説明: あるルーチンを VTAM のサブタスクとしてタスク生成するために、MODIFY SUBTASK コマンドが出されましたが、コマンドの許容最大数に達したために、コマンドは失敗しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを無視します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: サブタスクが必要であれば、停止してもよい活動サブタスクを判別し、その活動サブタスクをタスク消去するための MODIFY DETACH コマンドを出してから、失敗した MODIFY ATTACH コマンドを出し直すように、オペレーターに依頼してください。

**IST789I command FAILED FOR ID = ncpname, CA /
NCP CONFLICT**

説明: NCP が通信アダプター SDLC リンク・ステーションを通じて、接続されたために、*command* (VARY ACT または VARY ACQ) が失敗しました。(VTAM は、通信アダプター SDLC リンクを通じて NCP と接続することやチャンネルまたは非通信アダプター SDLC リンクを通じて、NCP の活動化を行うことができますが、両方を同時に行うことはできません。) システムの処置: VTAM は *command* の処理を停止します。

オペレーターの応答: DISPLAY ID=*ncpname* コマンドを入力して、どの通信アダプター・リンク・ステーションが NCP *ncpname* と通信しているのかを、判別してください。

プログラマーの応答: このホストで NCP *ncpname* を活動化させるかまたは獲得する場合には、この NCP と接続している通信アダプター SDLC リンク・ステーションを非活動化するように、オペレーターに依頼してください。オペレーターは NCP *ncpname* に対して、VARY ACT コマンドまたは VARY ACQ コマンドを再入力できます。

IST790I MAXIMUM type USED = maxK

説明: このメッセージは、DISPLAY BFRUSE コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST449I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST792I NO SUCH SESSION EXISTS

説明: オペレーターが、存在しないセッションに対して VARY TERM コマンドを出しました。例えば、保留アクティブ・セッションしか持っていない論理装置に対してコマンドが入力された場合は、このコマンドのデフォルトの範囲が、アクティブ・セッションのため、セッションが見つからない(または終了した) こととなります。VARY TERM コマンドを出す場合、指定された LU またはセッション・パートナーに、セッションが存在しないことに注意してください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: DISPLAY NET,SESSIONS,SCOPE=ALL を入力して、セッションが存在するか確認して、セッションの状況を調べてください。

VARY TERM コマンドを、もう一度入力してください。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージを変更する場合は、USSMSG マクロ命令に、MSG=(IST792I,6) を指定しなければなりません。これで、IST792I と USS メッセージ 6 が同一であることが、操作レベル USS テーブルに定義されます。VTAM オペレーター・メッセージに対する USSMSG マクロ命令については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

**IST793E SESSION MANAGEMENT ERROR, CODE
code [-response]**

説明: セッション管理出口ルーチン ISEXCAA が、無効なデータ、または無効な戻りコードを、レジスター 15 に戻しました。以下の *code* は、発生する可能性のあるエラー状況を示します。

コード
(16 進数)

- エラー
- 01 ゲートウェイ経路選択機能 (1 次機能コード X'04') の場合、元のリストのゲートウェイ経路項目が、リスト内の項目と一致しませんでした。
- SSCP 選択機能 (1 次機能コード X'06') の場合、戻されたリストの SSCP 項目が、デフォルトのリスト内の項目と一致しませんでした。
- code* が、隣接リンク・ステーション (ALS) の選択機能 (1 次機能コード X'08') に定義されていません。
- 03 ゲートウェイ経路機能 (1 次機能コード X'04') の場合、戻されたリスト内に、有効なゲートウェイ経路項目がありませんでした。
- SSCP 選択機能 (1 次機能コード X'06') の場合、戻されたリスト内に、有効な SSCP 選択項目がありませんでした。
- 隣接リンク・ステーション (ALS) の選択機能 (1 次機能コード X'08') の場合、ALS 名前ベクトルで戻された名前が、有効な PU の名前ではありません。
- 04 ゲートウェイ経路機能 (1 次機能コード X'04') の場合、隣接 SSCP のネットワークが、戻されたリスト内で正しくありませんでした。
- code* が、SSCP 選択機能 (1 次機能コード X'06') に定義されていません。
- code* が、隣接リンク・ステーション (ALS) の選択機能 (1 次機能コード X'08') に定義されていません。
- 05 ゲートウェイ経路機能 (1 次機能コード X'04') の場合、戻されたリスト内に、元のリストよりも多くのゲートウェイ経路項目がありました。
- SSCP 選択機能 (1 次機能コード X'06') の場合、戻されたリスト内に、渡されたリストよりも多くの SSCP 選択項目がありました。
- code* が、隣接リンク・ステーション (ALS) の選択機能 (1 次機能コード X'08') に定義されていません。

- 06 ゲートウェイ経路選択機能 (1 次機能コード X'04') の場合、出口ルーチンが無効な戻りコードを生成しました。
- code* が、SSCP 選択機能 (1 次機能コード X'06') に定義されていません。
- 隣接リンク・ステーション (ALS) の選択機能 (1 次機能コード X'08') の場合、出口ルーチンが 0、4、8、12、16、または 20 以外の戻りコードを生成しました。
- 07 ゲートウェイ経路選択機能 (1 次機能コード X'04') の場合、出口ルーチンが、ゲートウェイ経路リストへのポインターを変更しました。
- SSCP 選択機能 (1 次機能コード X'06') の場合、出口ルーチンが、SSCP 選択リストへのポインターを変更しました。
- 隣接リンク・ステーション (ALS) の選択機能 (1 次機能コード X'08') の場合、出口ルーチンが、ALS 名情報ベクトルへのポインターを変更しました。
- 08 初期許可機能 (1 次機能コード X'00') の場合、出口ルーチンが無効な戻りコードを戻しました。出口が、2 次許可機能をサポートしない場合、戻りコード 4 は無効だということに注意してください。
- 09 2 次許可機能 (1 次機能コード X'01') の場合、出口ルーチンが無効な戻りコードを戻しました。
- 10 初期または最終アカウント機能 (1 次機能コード X'02' または X'03') の場合、出口ルーチンが無効な戻りコードを戻しました。
- 11 終了機能 (1 次機能コード X'FF') の場合、出口ルーチンが無効な戻りコードを戻しました。
- 12 開始機能 (1 次機能コード X'FE') の場合、出口ルーチンが無効な戻りコードを戻しました。
- 14 何らかの機能の場合、セッション管理出口ルーチンが異常終了しました。
- 15 VTAM が初期設定された時、ストレージ不足が原因でパラメーター・リストを出口ルーチンに渡せなかったために、以下のインストール出口ルーチンは呼び込まれませんでした。
- セッション管理出口ルーチン
 - セッション・アカウント出口ルーチン
 - セッション許可出口ルーチン
- 16 VTAM の初期設定中に、16M バイト以下のストレージが不足したために、セッション管理出口ルーチンは要求されません。
- 17 別名選択機能 (1 次機能コード X'07') の場合、出口ルーチンが無効な戻りコードを戻しました。
- 18 使用可能なストレージが不足したために、別名パラメーター・リストを渡せませんでした。これがないと、セッション管理出口ルーチンに情報を渡せないため、別名選択機能 (1 次機能コード X'07') は使用できません。
- 19 別名選択機能 (1 次機能コード X'07') の場合、ネットワーク ID を判別する必要がありました。必要なネットワーク ID が、戻りパラメーター・リストから除かれていました

- 20 別名選択機能 (1 次機能コード X'07') の場合、送信したネットワーク ID と同じでないネットワーク ID が戻されました。
- 21 別名選択機能 (1 次機能コード X'07') の場合、変換のために送信された元のデータが、入力パラメーター・リスト内で変更されました。これは許可されていません。
- 22 別名選択機能 (1 次機能コード X'07') の情報に構文エラーがあります。
- 23 仮想経路選択機能 (1 次機能 X'0B') に対する情報が、構文的に無効です

response は次のいずれかです。

DEFAULT ALS LIST USED

これは隣接リンク・ステーション選択機能に対して出されました。

STANDARD GW PATHLIST USED

これはゲートウェイ・ノードに対して出されました。

STANDARD SSCP ROUTING USED

これは SSCP 選択機能に対して出されました。

STANDARD VR/TP LIST USED

これは仮想経路選択機能に対して出されました。

システムの処置: システムの処置は、*code* によって異なります。次のリストを参照してください。

コード

(16 進数)

アクション

- 01-07 *response* が、ゲートウェイ・ノードに対する **STANDARD GW PATHLIST USED** (1 次機能コード X'04') の場合、処理を続行します。VTAM は、CDRM マクロ命令の GATEWAY PATH オペランドによって決定された、デフォルト・ゲートウェイ・ノード経路リストを使用します。

response が、SSCP 選択機能に対する **STANDARD SSCP ROUTING USED** (1 次機能コード X'06') の場合、VTAM は標準の SSCP ルーティングを使用します。

response が、隣接リンク・ステーション (ALS) 選択機能に対する **DEFAULT ALS ROUTING USED** (1 次機能コード X'08') の場合、ALS リスト内にある最初の使用可能な PU が使用されます。ALS リストの PU が使用不能の場合は、クロスドメイン・ルーティングが使用されます。

- 08-09 VTAM はセッションを確立する権限を与えません。

10-11 VTAM は、戻りコードを無視します。

- 12 出口ルーチンは存在しませんが、処理は継続されます。出口ルーチンが再び呼び出されることはありません。すべてのセッションに権限が与えられ、アカウント・データは削除され、デフォルト・ゲートウェイ経路リストが、ゲートウェイ経路選択のために使用され、デフォルト SSCP 選択リストが、SSCP ルーティングのために使用され、別名アプリケーションが変換のために呼び出されます。

- 14-16 セッション管理出口ルーチンは、機能的に使用不能になり、ルーチンのために呼び出された機能は拒否されます。
- 17 セッションは、別名選択機能が存在しない場合と同様に継続します。別名選択機能を再評価してエラーを判別し、正しい戻りコードを提供してください。
- 18 VTAM 初期設定は続き、別名選択機能は使用不能になります。(別名選択機能は実行されません。)
- 19 無効な変更がなされたために、別名選択機能からの情報が使用されません。セッション設定は失敗します。別名選択機能が呼び出される前にネットワーク ID が認識されていなかった場合、ネットワーク ID が戻されていることを確認してください。
- 20 別名選択機能から返されたデータは、使用されません。無効なネットワーク ID が戻されました。セッション設定は失敗します。間違っただけの変換を訂正してください。
- 21 別名選択機能から返されたデータは、使用されません。セッション設定は失敗します。入力専用で予約されたストレージだけが、アクセスされます。詳細については、VTAM Customizationを参照してください。
- 22 別名選択機能から返されたデータは、構文的に無効なため使用されません。セッションは、セットアップに失敗します。返されたデータについては、すべての名前の構文が正しいことを確認し、空白になっている名前が各値に対して有効であるかどうかを判別し、さらにすべての値がブランクで埋め込みされていることを確認してください。
- 23 仮想経路選択機能から返されたデータは、構文的に無効なため、使用されません。セッションは、COS テーブルに定義された VR/TP リストを使用して、セットアップされます。有効な VR と TP 番号を使用し VR/TP 対の最大数を超えないようにしてください。COS テーブルのコーディング方法については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: セッション管理出口ルーチンに、エラーがあります。メッセージに示されたエラー・コードによって、エラーの原因を判別し、訂正してください。MODIFY EXIT コマンドを使用して、出口ルーチンを訂正したバージョンと置換することが可能です。追加情報については、VTAM Operation を参照してください。

IST794I VTAM START REJECTED - CANNOT LOAD bookname

説明: VTAM がプロシージャを開始する間に、ブック *bookname* をロードすることができませんでした。

システムの処置: 開始プロシージャは失敗します。

bookname がフェーズの場合は、このメッセージは、メッセージ IST017I に続いて出されます。

オペレーターの応答: このメッセージがメッセージ IST017I に続いて出される場合、メッセージには追加情報が提供されて

います。そうでない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

- このメッセージがメッセージ IST017I に続いて出される場合、メッセージには追加情報が提供されています。
- LINKBOOK に影響を与える PTF をインストールしている場合、LINKBOOK が再インストールされていることを確認してください。
- それ以外の場合、以下の処置を取ってください。
 - IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
 - IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。

IST796I HOSTSA VALUE EXCEEDS option

説明: HOSTSA 開始オプションに指定された値が *option* の値を超えると、VTAM はこのメッセージを出します。

option は開始オプションの名前で、MAXSUBA か、または MXSUBNUM です。

- MAXSUBA は最高位サブエリア値で、このネットワークで ENA 以前のノードと通信する任意のノードに割り当てることができません。ご使用のネットワークが拡張ネットワーク体系 (ENA) をサポートする場合、このメッセージが出されても処置は不要です。ENA は VTAM の 3 版と NCP の 4 版で適用されています。
- MXSUBNUM は、このホストが接続している別のネットワークがサポートする最大サブエリア番号です。そのため、ご使用のホストのサブエリア番号が MXSUBNUM よりも大きい場合、別のネットワークとは通信できません。

システムの処置:

- *option* が MAXSUBA の場合、処理は継続しています。
- *option* が MXSUBNUM の場合、VTAM は IST1311A を出して HOSTSA と MXSUBNUM に有効な値を示し、応答を待機します。

オペレーターの応答:

- *option* が MAXSUBA の場合、ご使用のネットワークが拡張ネットワーク体系 (ENA) をサポートしていれば、このメッセージが出されても処置は不要です。ご使用のネットワークが ENA 以前のノード含んでいる場合、システム・ログを保管して、問題を判別してください。
- *option* が MXSUBNUM の場合、IST1311A によって指示された時に、有効な値を、HOSTSA と MXSUBNUM に対して入力してください。

値を両方とも入力する必要はありません。VTAM は HOSTSA の値を無視することはありませんが、HOSTSA に入力する新しい値は、MXSUBNUM の初期設定よりも大きくしてください。

HOSTSA の値が MXSUBNUM の値よりも大きくならないと、メッセージ IST1311A が繰り返し出されます。

プログラマーの応答: *option* が **MAXSUBA** の場合、VTAM 開始オプションとそれらの関係を検討してください。ENA 以前のノードと通信するには、HOSTSA の最大値を MAXSUBA の値よりも大きくしないでください。

MAXSUBA および MXSUBNUM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST797I FROM VIA ADJACENT DEST ER LENGTH

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST533I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST798I *netid*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。最初のメッセージは IST533I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST799I *type procedure* IN PROGRESS

説明: DISPLAY ID コマンドが出されて、NCP の状況が要求されると、VTAM はこのメッセージを出します。

procedure は **LOAD** または **DUMP** です。

procedure が **LOAD** であれば、*type* の値は **NONDISRUPTIVE** になります。NCP に **MODIFY LOAD,ACTION=ADD** または **MODIFY LOAD,ACTION=REPLACE** が出され、その操作がまだ完了していないために、稼働中のロードは進行状態です。

procedure が **DUMP** の場合、*type* は次のいずれかです。

<i>type</i>	説明
DYNA	NCP ストレージの動的ダンプは進行中です。NCP は活動状態のままになります。
MOSS	3725 または 3745 通信コントローラー内の MOSS ディスクに含まれている保守オペレーター・サブシステム・ダンプはホストに転送され、ホスト・データ・セットに記憶されます。
CSP	MOSS ディスクに含まれる回線スキャナー・プロセッサ (CSP) のダンプは、ホストに転送され、ホスト・データ・セットに保管されます。

TRANSFER OF NCP

NCP は外部ディスク・ストレージにダンプされてから、ホスト・データ・セットに転送されます。

PURGE OF MOSS

保守オペレーター・サブシステムのダンプは、3725 または 3745 通信コントローラーの MOSS ディスクから消されました。

PURGE OF CSP

回線スキャナー・プロセッサのダンプは、3725 または 3745 通信コントローラーの MOSS ディスクから消されました。

PURGE OF NCP

NCP は、NCP の外部ディスク・ストレージから消されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST804I CLOSE IN PROGRESS FOR *applname* OPENED BY *{jobname[progrname] | userid}*

説明: VTAM は、正常終了または異常終了し、*jobname progrname* によってオープンされた、VTAM アプリケーション・プログラム *applname* の ACB をクローズしています。

jobname progrname は、ジョブの一連のステップによって共通に実行された、関連プログラムの名前です。*jobname* が不明な場合は、***NA*** が表示されます。

システムの処置: VTAM は、VTAM アプリケーション・プログラムの ACB をクローズします。アプリケーション・プログラムは、そのリソースを VTAM 内で解放する前に、終了することがあります。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラムに対する ACB は、正しくクローズされないと、再び正常にオープンできないため、クローズの完了を示すメッセージ IST805I が出される前に、ジョブを再始動しないでください。メッセージ IST805I が出ない場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: クローズが完了しなかった理由を判別し、問題を訂正してください。アプリケーション・プログラム問題の診断の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST805I VTAM CLOSE COMPLETE FOR *applname*

説明: VTAM は、VTAM アプリケーション・プログラム *applname* の ACB をクローズするための処置を正常に完了しました。

システムの処置: 処理を続行します。VTAM リソースは、アプリケーション・プログラム *applname* とのセッションを再び開始することはありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST806I ABEND CLOSE IN PROGRESS - *applname* OPENED BY *jobname programname*

説明: 前の OPEN ACB または CLOSE ACB マクロ命令を処理している間に、VTAM は、異常終了したジョブ *jobname* によってオープンされた VTAM アプリケーション・プログラム *applname* の ACB をクローズしています。*programname* は、*jobname* 内で実行されていたプログラムの名前であり、ロード・モジュールであるか、またはライブラリーに保管されたモジュールの名前です。

システムの処置: システムは、VTAM が現在処理中のオープン、またはクローズを完了したあとに、VTAM タスクをクローズします。タスクがクローズするまではアプリケーション・プログラムは終了しませんし、区画も使用可能になりません。オペレーターの応答: アプリケーション・プログラムは、ACB

が正しくクローズされないと再び正常にオープンできないため、クローズの完了を示すメッセージ IST805I が出される前に、ジョブを再始動しないでください。メッセージ IST805I が出されない場合は、*applname* に対して、VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを入力してください。それでもメッセージ IST805I が出されなければ、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。VTAM 区画、およびアプリケーション・プログラムと、監視プログラムのダンプを取得してください。

プログラマーの応答: アプリケーション・プログラムが異常終了する原因となった状態を、訂正してください。

IST807I *command* FOR ID = *puname* FAILED —
NODE IS IN TEST MODE

説明: コマンド *command* は、動的再構成により追加または移動された PU *puname* に対して MODIFY LL2 コマンドが処理されつつあるため、失敗しました。

システムの処置: VTAM コマンドの処置を停止します。

オペレーターの応答:

- MODIFY LL2,OPTION=CONT が指定されていれば、MODIFY LL2,OPTION=CANCEL を入力して、*command* を再入力してください。
- 指定されていなければ、MODIFY LL2 コマンドが完了するまで待って、*command* を再入力してください。

プログラマーの応答: MODIFY LL2,OPTION=CONT コマンドのために VTAM がこのメッセージを出した場合は、MODIFY LL2,OPTION=CANCEL を出して、コマンドを終了してください。

IST808I ORIGIN PU = *originpu* DEST PU = *destpu*
NETID = *netid*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST535I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST809I XRF SESSIONS - PRIMARY = *primarycount*
BACKUP = *backupcount*

説明: VTAM は、DISPLAY ID コマンドに回答して、このメッセージを出します。*primarycount* は、1 次拡張リカバリー機能 (XRF) セッションの現在のカウントであり、*backupcount* は、このノードに確立されているバックアップ XRF セッションの現在のカウントです。このメッセージは、表示された論理装置が、少なくとも 1 つの 1 次 XRF セッション、またはバックアップ XRF セッションを持つ場合にのみ現れます。

primarycount と *backupcount* 値の両方は、認識されないパートナーとのセッションを含みます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST813I USERVAR *uservar* CHANGED FROM *value1*
TO *value2*

説明: このメッセージは、USERVAR の値を変更するために MODIFY USERVAR コマンドが使用されたときに VTAM が出す、メッセージのグループの一部です。グループの最初のメッセージは IST1283I です。このグループの詳しい記述については、そのメッセージを参照してください。

注: このメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

IST814I USERVAR *uservar* DELETED

説明: USERVAR *uservar* が、MODIFY USERVAR コマンドで削除されました。*uservar* を指定してセッションを開始しようとしても、必ず失敗します。

注: このメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST815I AUTOMATIC RECOVERY IS SUPPORTED

説明: CDRM 定義ステートメントに自動リカバリー (RECOVERY=YES) が指定されて、クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) に DISPLAY ID コマンドが出されると、VTAM はこのメッセージを出します。障害が起きても、CDRM は自動的に SSCP-SSCP セッションをリカバリーしようとします。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST816I *rejsubarea tg2 rejadsubarea ermask*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST533I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST819I CDRM *cdrmname* COMMUNICATION
LOST - RECOVERY IN PROGRESS

説明: CDRM *cdrmname* との SSCP-SSCP セッションは中断しています。

システムの処置: このホスト、*cdrmname* または両 CDRM についての CDRM 定義ステートメント上に RECOVERY=YES が指定されているので、SSCP-SSCP セッションの再確立が試みられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST820I {ACTLU|ACTPU} RSP DATA DISCARDED
FOR ID = *nodename* - INSUFF STORAGE**

説明: VTAM に十分なストレージがなかったため、ノード *nodename* の送信した ACTLU または ACTPU に含まれる応答データを受信できませんでした。データは破棄されました。
システムの処置: ノード *nodename* は、非活動化されます。
オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、ストレージの可用性を調べてください。VTAM が、現在使用中のストレージを解放するまで待って、*nodename* の活動化をもう一度行ってください。

問題が解決されない場合は、問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

MAP コマンドの実行結果の出力を収集してください。
プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。

DISPLAY BFRUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

**IST821I SUBTASK *subtask* TERMINATED,
COMPLETION CODE *code***

説明: このメッセージは、MODIFY SUBTASK コマンドで開始したサブタスク *subtask* が完了し、コード *code* が返されたことを示します。*code* の値は、*subtask* によってレジスター 15 に返されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST822I CDRM *cdmname* RECOVERY FAILED -
INSUFFICIENT STORAGE**

説明: ストレージ不足が原因で、*cdmname* との SSCP-SSCP セッションを確立する試みが失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: このホスト、*cdmname*、または両 CDRM の CDRM 定義ステートメントが RECOVERY=YES を指定したために、VTAM は SSCP-SSCP セッションを再確立しようとします。ただし、要求を処理するためのストレージが不足しているため、VTAM は SSCP-SSCP セッションの再確立ができませんでした。

オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、ストレージの可用性を調べてください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足が原因でエラーが発生したのであれば、バッファ・プールまたは CSA の限界を再定義しなければならない場合があります。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動

して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- 追加情報については、VTAM Operation を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST823I X.25 NETWORK ERROR *lcid*, *diagnostic*, *cua*

説明: ネットワークから受けとったパケットが正しくないか、またはパケットの状態が論理チャネル *lcid* の予期していないものだったか、あるいはタイマーが満了しました。

diagnostic は、このメッセージの理由を示して出された診断コードです。この診断コードは、仮想サーキットが終了したときに続いてネットワークに送られるリセット要求パケットまたは復旧要求パケットの一部です。

注: 診断コード 172: DTE-TO-DTE での操作が環境である場合 (例えばパケット大ノードの PORT ステートメントに NETTYPE=DTE または NETTYPE=DCE がコードされている)、このエラーは、インバウンド・ウィンドウがクローズされた時に、リモート DTE がデータ・パケットに送信されたことを示します。VTAM がこの論理チャネルに定義した PWINDOW のサイズが、この論理チャネルのリモート DTE が使用しているウィンドウ・サイズと一致することを検査してください。SVC では、VTAM が呼び出しを発信する場合、VCPARMS ステートメントではなく、PORT ステートメントの PWINDOW 仕様を使用します。リモート DTE から呼び出しが出された場合のみ、VCPARMS PWINDOW 仕様は、PORT ステートメントの PWINDOW 仕様を一時変更します (「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください)。

cua は、エラー状態のポートの、チャネル装置アドレス (16 進数) です。

システムの処置: エラーのタイプに応じて、パケットが廃棄されるか、または仮想サーキットが終了します。仮想サーキットが終了すると、VTAM はリンクまたはステーション操作不能メッセージを出します。

オペレーターの応答: 必要に応じて、リンク、物理装置 (PU) および論理装置 (LU) に、VARY ACT コマンドを入れ直してください。

プログラマーの応答: パケット大ノードの定義にエラーが発生したためにこのメッセージが出された場合、定義を訂正してください。

**IST824I X.25 INCOMING CALL REJECTED - *error*,
*cua***

説明: VTAM が *error* によって説明される理由のため、X.25 ポート *cua* への入力呼び出しを拒否しました。*error* の説明については、726 ページの『X.25 エラー・コード』を参照してください。

システムの処置: システムは、リモート・データ端末装置 (DTE) 呼び出しを拒否します。

オペレーターの応答: *error* が **1204** または **1205** の場合は、呼び出しに回答できる適切な回線が見つからなかったため、入力呼び出しが拒否されました。

エラー **1204** の場合、使用中でない適切な回線が回答できますが、パケット大ノードの GROUP ステートメントに、SUBADIAL=NO がコーディングされています。

エラー **1205** の場合、使用中でない適切な回線が回答できますが、パケット大ノードの GROUP ステートメントに、SUBADIAL=YES がコーディングされています。エラー **1204** と **1205** の両方の場合は、対応する回線を応答モードにするために、VARY ANS=ON コマンドを入力するか、または適切な SUBADIAL 値を指定した VARY ACT,ANS=ON コマンドで、回線を活動化してください。これで、リモート DTE がダイヤルインできるかどうかを確認してください。

他の *error* コードについては、オペレーターの応答は、必要ありません。

プログラマーの応答: 以下のように、エラーを訂正してください。

error

アクション

1201

問題が繰り返し起きる場合は、始動リスト内の VP バッファ・プールを増やし、VTAM 区画を再始動してください。

1202

リモート DTE が、課金方法についてユーザーが知っていることと一致しているか確かめてください。必要な場合は、PORT 定義ステートメントの CHARGACC オペランドを、変更してください。必要な場合は、正しい課金方法をリモート DTE に、教えてください。

注: CHARGACC オペランド指定を用いて、個々のリモート DTE を選択的に受け入れたり拒否したりすることはできません。

1203

入力呼び出しを再試行させてください。問題がまだ続くようであれば、弊社技術員に知らせてください。

1204

問題が頻繁に起こるようであれば、接続要求を処理するために、CALL=IN または CALL=INOUT を指定した LINE 定義ステートメントを、SUBADIAL=NO が指定された GROUP 定義ステートメントにさらに追加してください。SUBADIAL=YES と SUBADIAL=NO のグループで定義された回線の会計数は、PORT 定義ステートメントの VCALLS オペランド上の、最も低い入力チャネル (LIC) から最も高い入力チャネル (HIC) までのチャネルと、最も低い 2 方向チャネルから、最も高い 2 方向チャネルによって定義されたバーチャル・サーキットの数と、等しくなければなりません。

1205

問題が頻繁に起こるようであれば、接続要求を処理するために、CALL=IN または CALL=INOUT を指定した LINE 定義ステートメントを、SUBADIAL=YES が指定さ

れた GROUP 定義ステートメントに、さらに追加してください。SUBADIAL=YES と SUBADIAL=NO のグループで定義された回線の会計数は、PORT 定義ステートメントの VCALLS オペランド上の、最も低い入力チャネル (LIC) から最も高い入力チャネル (HIC) までのチャネルと、最も低い 2 方向チャネルから、最も高い 2 方向チャネルによって定義されたバーチャル・サーキットの数と、等しくなければなりません。

その他の *error* コードの場合は、プログラマーの処置は、不要です。

IST825I **USERVAR DEFINED - NAME = *uservar*,
VALUE = *value***

説明: このメッセージは、MODIFY USERVAR コマンドを使用して USERVAR を定義するときに VTAM が出すメッセージ・グループの最初のもので、メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST825I  USERVAR DEFINED - NAME = uservar,
          VALUE = value
[IST1030I USERVAR EXIT IS exitname]
IST314I  END
```

注: このメッセージ・グループはパーコレートされます。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

IST825I

uservar は USERVAR の名前で、*uservar* の値は *value* に初期設定されました。その後の *uservar* へのセッション要求は、*value* に示されているアプリケーション・プログラムに送られます。

IST1030I

exitname は、USERVAR 出口ルーチンの名前です。USERVAR 出口が定義されていない場合、VTAM はこのメッセージを出しません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST830I **ORIGINATING SSCP NAME = *sscpname*,
NETID = *netid***

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST732I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST831I **DUPLICATE ADJCDRM NAME
adjcdrmname IN *configname***

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下の通りです。

隣接 SSCP テーブル定義 *configname* 内の一連の連続した ADJCDRM ステートメントのうち、2 つの ADJCDRM ステートメントで、重複したラベル *adjcdrmname* が見つかりました。*configname* 内で影響のあった隣接 SSCP テーブルは、メッセー

ジ IST708I と IST1333I で示されます。

- CDRM または NETID 定義ステートメントで識別される項目で、隣接 SSCP テーブルが活動化される場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST831I  DUPLICATE ADJCDRM NAME adjcdrmname IN
        configname
IST708I  {[NETID = netid]
         [NETWORK = macrolabel]
         [CDRM = sscpname]
         DEFAULT TABLE]}
        DEFAULT TABLE FOR ALL NETWORKS
```

- ADJLIST 定義ステートメントで識別される項目で、隣接 SSCP テーブルが活動化されている場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST831I  DUPLICATE ADJCDRM NAME adjcdrmname IN
        configname
IST1333I  ADJLIST = listname
```

IST708I

netid は、一連の ADJCDRM ステートメントに先行する NETWORK ステートメントに指定された NETID 値が元になっています。NETID 値が NETWORK ステートメントに指定されていなかったり、一連の ADJCDRM ステートメントに先行する NETWORK ステートメントがないと、メッセージ IST708I には NETID=*netid* が示されません。

macrolabel は一連の ADJCDRM ステートメントに先行する NETWORK ステートメントのラベルです。NETWORK ステートメントにラベルがなかったり、一連の ADJCDRM ステートメントに先行する NETWORK ステートメントが存在しない場合、メッセージ IST708I には NETWORK = *macrolabel* が示されません。

sscpname は CDRM ステートメントのラベルで、一連の ADJCDRM ステートメントの直前にきます。(CDRM ステートメントには必ずラベルが必要です。)一連の ADJCDRM ステートメントの直前にくる CDRM ステートメントがない場合、メッセージに CDRM = *sscpname* は現れません。その代わりに DEFAULT TABLE が示され、一連の ADJCDRM ステートメントは指定された *netid* の使用するデフォルト ADJSSCP テーブルであること (また、NETID = *netid* が表示されない場合は、すべてのネットワークが使用するデフォルト ADJSSCP でテーブルであること) が示されます。

VTAM は、活動化されるテーブルが、すべてのネットワークに対してデフォルト隣接 SSCP リストを持つ時に、DEFAULT TABLE FOR ALL NETWORKS を示します。

IST831I

adjcdrmname は、2 つの ADJCDRM ステートメントで検出される、重複したラベルです。

configname は、隣接 SSCP テーブル定義を識別します。

IST1333I

listname は、ADJLIST 定義ステートメントで定義されている隣接 SSCP テーブルの名前です。

隣接 SSCP テーブルの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」で、ADJLIST 定義ステートメントの記述を参照してください。

システムの処置: 重複した ADJCDRM ステートメントは無視

されます。ADJSSCP 定義の処理は続きます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 重複した ADJCDRM ステートメントを取り除いてください。

```
IST832I  UNLABELED statement_type STMT IN
        configname
```

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST832I  UNLABELED statement_type STMT IN configname
IST833I  SKIPPING TO NEXT text
```

statement_type は、*configname* 内で見つかったラベルなしステートメントを識別します。*statement_type* の値は、ADJCDRM、CDRM または ADJLIST です。

text は以下のようになります。

STMT

CDRM, NETWORK, OR ADJLIST STMT OR EOF

システムの処置: ラベルのない CDRM ステートメントが見つかった場合、ラベルのない CDRM ステートメントと、それに続く ADJSSCP 定義内のすべてのステートメントは、NETWORK ステートメント、CDRM ステートメント、またはファイルの終わり (EOF) に遭遇するまで無視されます。NETWORK ステートメントか、CDRM ステートメントに遭遇した場合は、通常の ADJSSCP 定義の処理がそのステートメントから再開されます。

ラベルのない ADJLIST ステートメントが見つかった場合は、そのステートメントだけが無視されます。このステートメントの前に ADJLIST ステートメントが先行していなければ、ラベルのない ADJLIST の直後にあるすべての ADJCDRM は無視されます。

ラベルのない ADJCDRM ステートメントが見つかった場合は、そのステートメントだけが無視されます。後続のステートメントがあれば、そのステートメントで処理は再開されます。オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 隣接 SSCP テーブル定義内のすべての CDRM、ADJCDRM、および ADJLIST ステートメントに、ラベルを付けてください。

```
IST833I  {NCPATH STMT, VPATH STMT, OR
        EOF| SKIPPING TO NEXT text}
```

説明: VTAM は、動的経路更新デックの処理中に構文エラーが見つかるこのメッセージを出します。動的経路更新処理は、次の NCPATH または VPATH ステートメントから再開されます。

NCPATH STMT, VPATH STMT, OR EOF は、以下のいずれかが理由で表示されます。

NCPATH または VPATH はラベルが付いていない。

NETID が NCPATH または VPATH ステートメントにない。

IST834I • IST838I

IST833I の前にメッセージ IST832I が出されると、VTAM は **SKIPPING TO NEXT text** を表示します。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 動的経路更新デックを訂正してください。

IST834I *num* **BACKUP SESSION(S) EXIST(S) WITH UNKNOWN PARTNERS**

説明: VTAM は、DISPLAY ID コマンドに回答して、このメッセージを出します。 *num* は、セッション・パートナーが不明のバックアップ拡張リカバリー機能 (XRF) セッションの数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST836I **X.25 NETWORK RESTART/RESET/CLEAR** *lcid, code, diagnostic, cua*

説明: 再始動、クリア、またはリセット指示を持つパケットが、ポート *cua* で、ネットワークから受信されました。

lcid は、影響を受けたバーチャル・サーキットの論理チャンネル ID です。

code は、パケット内に与えられる原因コードです。

diagnostic は、診断コードです。

多くのネットワークで、*lcid* がゼロ (「0000」) に設定されている場合には、再始動指示が受信されています。論理チャンネル・ゼロが、データ・チャンネルとして使用できるネットワークの場合は、再始動、クリアまたはリセット指示が受信されている可能性があります。

code が「0001」と「0127」の間の値の場合は、再始動クリア、またはリセット指示がデータ回線終端装置 (DCE) によって生成されています。*code* と *diagnostic* の説明については、パケット交換データ・ネットワークの資料を参照してください。

code が、「0000」(1980 ネットワーク) または「0128」(1984 ネットワーク) の場合は、再始動、クリア、またはリセットの原因が、データ端末装置 (DTE) によって生成されています。*diagnostic* の説明については、728 ページの『DTE 生成診断コード』を参照してください。

注: DTE-generated 生成のクリアと、リセット指示の場合、VTAM は診断コードが正常な開始、または終了 (0) 以外のときにだけ、このメッセージを表示します。ネットワークによっては、診断コードを使用できないために、診断コードをゼロ (0) にしなければなりません。したがってこのメッセージは、DTE が正常に開始や終了をしなくても、出されません。システムの処置: システムの処置は、要求のタイプによって異なります。

- 再始動指示の場合、すべてのバーチャル・サーキットが終了します。VTAM オペレーターは、そのパケット大ノードの

下にある、すべての回線に出されるリンク操作不能メッセージを受け取ります。この場合、論理チャンネル ID *lcid* は「0000」になります。

- クリア指示の場合、論理チャンネル ID *lcid* を持つ論理チャンネルが、クリア・パケットを受信しました。これが、エラー状況の場合、VTAM オペレーターは、このステーションが非活動化されたことを示している、ステーション操作不能メッセージを受け取ります。
- リセット指示の場合、論理チャンネル ID *lcid* を持つ論理チャンネルが、リセット・パケットを受信しました。これが、エラー状況の場合、VTAM オペレーターは、このステーションが非活動化されたことを示している、ステーション操作不能メッセージを受け取ります。

オペレーターの応答: リンク操作不能メッセージが生成されている場合は、操作不能のリンク (回線) と、その回線の下にある物理装置 (PU) と論理装置 (LU) に対して、VARY ACT コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST837I **X.25 DEFINITION ERROR** *error, cua*

説明: パケット大ノードの下で回線を活動化するとき、または呼び出すときに、システムが以下のことを発見しました。

- 大ノード定義が誤って指定されているか、抜けているか、または指定されたネットワーク・タイプとの互換性がない。
- 大ノード定義のオペランドが誤って指定されているか、抜けているか、または指定されたネットワーク・タイプとの互換性がない。
- 一時エラーが起きた。

error は、発生したエラーの種類を説明します。

cua は、エラー状態のポートのチャンネル装置アドレス (16 進数) です。

システムの処置: システムは、大ノード定義または回線の活動化を終了するか、呼び出しを拒否するか、または処理を続行します。システムが終了した場合は、X.25 ポートの下にあるすべてのリンクに対してリンク操作不能メッセージが出されません。システムが処理を続行した場合、ネットワークは、エラーの定義をもつ仮想経路をクリアまたはリセットすることがあります。この場合、VTAM はメッセージ IST836I を出します。オペレーターの応答: 大ノード定義を訂正してから、パケット大ノードに VARY ACT コマンドを出してください。プログラマーの応答: エラー・タイプ *error* によって指示されているように、大ノード定義を訂正してください。*error* の説明については、726 ページの『X.25 エラー・コード』を参照してください。

IST838I **TRACE STATUS DISPLAY FOR ID =** *nodename*

説明: このメッセージは、*nodename* に出された DISPLAY TRACES コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST838I TRACE STATUS DISPLAY FOR ID = nodename
IST839I PU NAME LINE NAME
IST840I puname linename
```

⋮
IST314I END

このメッセージ・グループは、3710 物理装置 *node* によってトレースされているリソースのリストを表示します。IST840I には、リソース *punname*、およびその回線 *linename* が示され、トレース中の各リソースごとに繰り返し出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST839I PU NAME LINE NAME

説明: VTAM はこのメッセージをメッセージ・グループの一部として出し、このメッセージは IST840I のヘッダーです。詳細については、メッセージ IST838I を参照してください。

IST840I *punname linename*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループ内の最初のメッセージは IST838I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST841I NO RESOURCES ARE BEING TRACED FOR *nodename*

説明: 3710 物理装置 *nodename* に、DISPLAY TRACES コマンドが出されましたがその物理装置についてトレース中のリソースはありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST844I VTAM START REJECTED - *name* IS DUPLICATE NAME

説明: VTAM は、初期設定時にリソースを定義しようとしたが、重複する項目 *name* がありました。

システムの処置: VTAM は終了します。

オペレーターの応答: 開始オプション、特に HOSTPU、NETID、および SSCPNAME オプションを正しく入力したかどうかを調べてください。間違っていた場合は、正しいオプションを指定して、VTAM を再始動してください。間違っていないければ、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: 特に VTAM 予約リソース名などの、重複項目を発生させる原因となった無効な開始オプション値 (HOSTPU=VTAM など) を調べてください。VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST845I X.25 DIAGNOSTIC PACKET *error, cua*

説明: データ回線終端装置 (DCE) で、X.25 ポートに問題があります。診断エラー・コードの *error* が、X.25 ポートに送信されました。 *error* はネットワークに特定のコードです。 *error* の説明については、ユーザーのパケット交換データ・ネットワーク情報を調べてください。

cua は、エラー状態のポートの、チャネル装置アドレス (16 進数) です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ネットワークを所有する電信電話会社に相談してください。

IST849I *operation1* INCONSISTENT WITH USE OF *operation2* IN *statementname*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループは下記のとおりです。

```
IST849I operation1 INCONSISTENT WITH USE OF
operation2 IN statementname
IST701I CONFIG configname LABEL = labelname
STMT TYPE = statementname
```

矛盾した接続が *operation1* と *operation2* の間で起こりました。VTAM は、*operation1* と *operation2* が以下のように組み合わせられると、メッセージ IST849I を出します。

AUTODL と SHOLD

AUTODL=NO が、GROUP または LINE 定義ステートメントにコーディングされた。

DIALNO と SHOLD

DIALNO が GROUP 定義ステートメントにコーディングされていない。

CPNAME と PUTYPE

CPNAME が、PU タイプ 2 以外の PU にコーディングされている。

LOADFROM と SAVEMOD

LOADFROM=EXT が VARY ACT コマンドに指定され、PCCU 定義ステートメントに SAVEMOD=YES が指定された。この組み合わせは無効です。

RESSCB と LOCADDR

RESSCB が独立 LU に指定された。

SAVEMOD と DUMPLD

SAVEMOD=NO が VARY ACT コマンドに指定され、SAVEMOD=YES が PCCU 定義ステートメントに指定された。この組み合わせは無効です。

SAVEMOD と LOADFROM

LOADFROM=EXT が VARY ACT コマンドに指定され、SAVEMOD=YES が PCCU 定義ステートメントに指定された。この組み合わせは無効です。

定義ステートメント *statementname* はノード *configname* にあり、ラベル *labelname* を持っています。

システムの処置: システムの処置は、*operation1* と *operation2* の値によって異なります。

AUTODL と SHOLD

VTAM は次のうち 1 つを行います。

- AUTODL=NO が GROUP 定義ステートメントにコーディングされている場合は VTAM は GROUP 定義ステートメント全体およびその配下のすべての定義ステートメントを無視します。
- AUTODL=NO が LINE 定義ステートメントにコーディングされている場合は VTAM はグループ内のすべての回線を通常の X.21 交換回線と見なし、そのグループ

ブは短期保留モード/複数ポート共用 (SHM/MPS) グループではないと考えます。

DIALNO と SHOLD

VTAM は GROUP 定義ステートメント全体およびその配下のすべての定義ステートメントを無視します。

CPNAME と PUTYPE

PU とサブノードは利用できません。

LOCADDR と EAS

VTAM は EAS を無視します。

LOADFROM と SAVEMOD

VTAM は、初期ロード中には PCCU 定義ステートメントにコーディングされた SAVEMOD=YES を使用しませんが、この先の再ロードに備えて保管しておきます。自動ダンプおよびロード・スイッチは、NCP では変更されません。

RESSCB と LOCADDR

VTAM は RESSCB を無視します。

SAVEMOD と DUMPLD

VTAM は、初期ロード中には PCCU 定義ステートメントにコーディングされた DUMPLD=YES を使用しませんが、この先の再ロードに備えて保管しておきます。自動ダンプおよびロード・スイッチは、NCP では変更されません。

SAVEMOD と LOADFROM

VTAM は、初期ロード中には PCCU 定義ステートメントにコーディングされた LOADFROM=EXT を使用しませんが、この先の再ロードに備えて保管しておきます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 定義ステートメント *statementname* を調べて、訂正してください。

IST860I DEACTIVATION OF *nodename* INCOMPLETE - INSUFFICIENT STORAGE

説明: 大ノードまたは小ノードを非活動化する VARY INACT コマンド、または受信された終了要求に応答して、VTAM はこのメッセージを出します。VTAM はコマンドを処理するだけの十分なストレージを取得できなかったためコマンドを完了できませんでした。

nodename はリソースの名前で、必ず CDRM です。

システムの処置: *nodename* に対する VARY 非活動化処理は、完了しません。VTAM は、ノードを使用できません。

LU-LU セッションは中断しません。

オペレーターの応答: より大きなストレージが使用可能なときに、VARY INACT コマンドをもう一度入力してください。

VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドの実行結果の出力を収集してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足が原因でエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

DISPLAY BFRUSE および MODIFY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST861I MODETAB=*modetab* USSTAB=*usstab* LOGTAB=*logtab*

説明: このメッセージは、アプリケーション・プログラム小ノード、または LU に対する DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。表示されるテーブルは以下の通りです。

- modetab* ログオン・モード・テーブル
- usstab* 非定様式システム・サービス (USS)
- logtab* 解釈テーブル

例えば、アプリケーション・プログラム用の解釈テーブルなどの、特定タイプのテーブルが、リソースに対して定義されていなかったか、テーブルを適用しない場合は、***NA*** が、表示されます。

リソースが適用された時に、代替値が指定されなかった場合、(ロードされていれば) 以下の弊社の提供のテーブルが使用されます。

ログオン・モード・テーブル

ISTINCLM

USS テーブル (オペレーター)

ISTINCNO

USS テーブル (端末)

ISTINCDT

解釈テーブル

デフォルトのテーブルなし。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST862I NETID = *netid* COSTABLE = *costable1* [, *costable2*]

説明: VTAM は DISPLAY COS コマンドに回答して、このメッセージを出します。特定のネットワークおよび PU タイプ 4 に関連するサービス・クラス (COS) テーブルの名前を表示します。この PU タイプ 4 に関連する後続のセッション開始要求で、どの COS テーブルが使用されるかを判別するには、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

netid オペランドから獲得される NETID は、サービス・クラス情報が表示されているネットワークの名前です。

- NETID が省略されると、*netid* はホスト・ネットワーク ID です。
- NETID が * (NETID=*netid*、または NETID=*NETWORK) ではない場合、COSTAB キーワードが、BUILD、または NETWORK 定義ステートメントにコーディングされているときにのみ、メッセージ IST862I が表示されます。COSTAB が、コーディングされていない場合、VTAM は、メッセージ IST887I を出します。
- DISPLAY COS,NETID=* が入力された場合、メッセージ IST862I は、BUILD または NETWORK 定義ステートメントのいずれかを使用して識別された各ネットワークについて表示されるか、作成されている動的ネットワークについて表示されます。
- DISPLAY COS,NETID=*NETWORK が入力された場合、メッセージ IST862I は、モデル・ネットワークの情報を表示します。

costable1 は、サービス・クラス解決時に使用される可能性のある COS テーブルを識別します。 *costable1* は、次のいずれかです。

name ネットワーク *netid* の BUILD、または NETWORK マクロ命令の COSTAB キーワードを使用して識別された COS テーブルの名前です。

ISTSDCOS

デフォルトの COS テーブルの名前です。ISTSDCOS は、ロードされたとき、および BUILD または NETWORK マクロ命令に、COS 名が指定されなかったときにだけ、表示されます。

ALGORITHM

COS 解決時に使用される、デフォルトのルーティング・アルゴリズムです。ALGORITHM は、COS 名が BUILD または NETWORK マクロ命令で指定されずにデフォルトの COS テーブル ISTSDCOS がロードされていなかったときに、表示されます。

costable2 は、*netid* がホスト・ネットワークと同じで *costable* の値が、BUILD または NETWORK 定義ステートメントで指定された場合に表示されます。PU タイプ 4 に関連するセッション開始時に、*costable1* または *costable2* のいずれが使用されるかは、「VTAM Network Implementation Guide」に記載されている COS 解決アルゴリズムに基づいて決められます。

costable2 は次のいずれかです。

ISTSDCOS

デフォルトの COS テーブルの名前です。

ALGORITHM

デフォルトのルーティング・アルゴリズムです。ISTSDCOS は、ロードされないと使用できないことに注意してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。特定のリソースに関連する COS テーブルを変更する必要がある場合は、MODIFY TABLE コマンドを使用する必要があります。また、MODIFY TABLE コマンドは、ISTSDCOS をロードするときも使用できます。

IST863I MODIFY TABLE COMMAND

FAILED-reason

説明: このメッセージは、MODIFY TABLE コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST863I MODIFY TABLE COMMAND FAILED-reason
IST864I NEWTAB=newtable, OLDTAB=oldtable,
      OPT=option, TYPE=tabletype
[IST935I ORIGIN=ncpname, NETID=netid,
      ID=resourcename]
```

newtable, *oldtable*, *ncpname*, *netid* と、*resourcename* の値は、以下のオペランドがコマンドに指定されない場合は、***NA*** となります。

newtable NEWTAB オペランド

oldtable OLDTAB オペランド

ncpname

ORIGIN オペランド

netid NETID オペランド

resourcename

ID オペランド

IST863I

reason は失敗の原因を示し、以下のいずれかになります。

ABEND DURING TABLE PROCESSING

異常終了が発生し、MODIFY TABLE コマンドは処理されませんでした。

BOTH FILTER TABLES IN USE

MODIFY TABLE,TYPE=FILTER, OPTION=LOAD コマンドが入力されましたが、直前の MODIFY TABLE,TYPE=FILTER の処理が完了しませんでした。直前のコマンドが完了しなければ、VTAM は MODIFY TABLE,TYPE=FILTER コマンドを実行できません。

ERROR BUILDING TABLE

tabletype で指定されたテーブルは、正常に作成されませんでした。

INSUFFICIENT STORAGE

十分なストレージが使用できなかったために、MODIFY TABLE コマンドを処理できませんでした。

I/O ERROR LOADING *newtable*

ロード操作中に、テーブル *newtable* でエラーが検索されました。

VTAMLIB がオープンされた時に、VTAMLIB からロードしているテーブルが、認識されているエクステンツで開始すると、このメッセージは受信されますが認識されていないエクステンツでは終了します。VTAMLIB の初期設定時に一度しか VTAMLIB がオープンされなかったために、VTAM を停止し、再始動してもう一度オープンするまでは、新しいエクステンツにはアクセスできません。データ・セットへのスペースの割り振りや、エクステンツの情報については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

I/O TIMEOUT LOADING *newtable*

テーブル *newtable* をロードしようとしたましたが、入出力

が完了するのを待機している間にハードウェアに問題が発生したため、テーブル・ロード機能がタイムアウトになりました。

LOADER INOPERATIVE

これは以下のいずれかの理由で生じることがあります。

- 直前のテーブルのロードが完了しなかった
- ロード要求中に、VTAM の指示したロード・サブタスク ISTINMLS が異常終了した
- VTAM の指示したロード・サブタスク ISTINMLS が、初期設定を完了しなかった

name NOT FOUND

name で識別されるリソースが存在しません。 *name* は新しいテーブル名 *newtable* か、または ID (*resourcenam*e) か MODIFY TABLE コマンドの ORIGIN (*ncpname*) オペランドで識別されるノード名です。

名前が *newtable* の場合、ストレージからテーブルをロードできないことがメッセージに示されます。

VTAMLIB が最初にオープンしたときには認識されていなかったエクステントに、VTAMLIB からロードしているテーブルが完全に含まれると、このメッセージが受信されることがあります。 VTAMLIB の初期設定の間に VTAMLIB が一度しかオープンされなかったため、VTAM を停止し、再始動して VTAMLIB をもう一度オープンしなければ、新しいエクステントにはアクセスできません。データ・セットへのスペースの割り振りや、エクステントの情報については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

ncpname HAS NO COS FOR netid

ネットワーク *netid* の *ncpname* NETWORK 定義ステートメントには COSTAB キーワードがありません。このネットワークでは削除するサービス・クラス・テーブルとの関連付けなどはありません。

netid NOT DEFINED FOR ncpname

PU タイプ 4 *ncpname* の大ノード定義に、*netid* を定義する NETWORK 定義ステートメントがなかったか、ホストが非ゲートウェイ SSCP であるために、ネットワーク定義ステートメントが無視されます。COS 関連付けを削除したり変更することはできません。

NEW TABLE ALREADY IN USE

OPTION=LOAD の場合、*newtable* で示されるテーブルは、すでに他のリソースが使用しています。元の *newtable* テーブルのすべての既存の参照が削除されるまでは、*newtable* の新版をロード (既存の版を置換するため) することはできません。

NO APPL/LU/CDRSC BELOW RESOURCE

*resourcenam*e で識別される大ノードには、小ノードがありません。このため、変更や削除をする関連付けはありません。

OLD TABLE WAS NOT IN USE

oldtable と、MODIFY TABLE コマンド内の *resourcenam*e で識別されるリソースとの間の関連付けを削除または変更する試み、または *oldtable* を *newtable* に置換する試みが行われましたが、指定されたテーブル・タイプの *oldtable* には、一致する点がありませんでした。

OLD & NEW TABLE NAMES IDENTICAL

*resourcenam*e で指定されたりリソースとそのすべての従属ノードに対しては、旧テーブル名 *oldtable* と、新テーブル名 *newtable* が同一でした。 *oldtable* の新しいコピーをロードする場合は、MODIFY TABLE,OPTION=LOAD を使用してください。

OPERATION INVALID FOR resourcenam

これは以下の理由で発生します。

TYPE=[USSTAB|LOGTAB|MODETAB|MDLTAB|ASLTAB|FLDTAB]
の場合

リソースに関連するテーブルの変更または削除が試みられました。 *resourcenam*e は、ID パラメーターに指定されたりリソース名です。指定されたりリソースは、MODIFY TABLE コマンドを実行するには無効なリソースであったか、またはアプリケーションの TYPE=LOGTAB などの、要求された操作のタイプには不適格でした。

OPTION=LOAD の場合

旧テーブル ISTCFMCM を再ロードしようとした。このテーブルは再ロードできません。

OPTION=DELETE,TYPE=COSTAB の場合

PU タイプ 4 または 5 ではないリソースの COS テーブルの関連付けを削除しようとしたか、または ISTSDCOS とホスト PU の間の関連付けを削除しようとした。

OPTION=ASSOCIATE,TYPE=COSTAB の場合

PU タイプ 4 または 5 ではないリソースの COS テーブルの関連付けを変更しようとした。

TABLE name IS FORMAT=OLD

テーブル *name* は、FORMAT=OLD を使用してアセンブルした USS テーブルであるか、テーブルがバックレベルです。バックレベル・テーブルは、USS テーブルであるか、または事前 VTAM V3R2 マクロ命令を使用してアセンブルされた解釈テーブルです。

TABLE TYPE CONFLICT

新テーブル *newtable* のテーブル・タイプは、TYPE キーワード (*tabletype*) を使用して指定したものと異なります。例えば、*newtable* は USS テーブルですが、TYPE=LOGTAB が MODIFY TABLE コマンドに指定されていました。

IST864I

option は、次の値のいずれかです。

ASSOCIATE

リソースとのテーブル関連付けを変更します。

DELETE

リソースとのテーブル関連付けを削除します。

LOAD

テーブルをロードまたは再生し、関連付けを変更します。

tabletype は、次の値のいずれかです。 *tabletype* を適用できないときには、例えば、OPT=LOAD を指定したために、***NA*** が表示されます。

ASLTAB

関連 LU テーブル

COSTAB

サービス・クラス・テーブル

CPSTAB

呼び出し進行シグナル・テーブル

FILTER セッション認識データ・フィルター**FLDTAB**

メッセージあふれテーブル

LOGTAB

解釈テーブル

MDLTAB

モデル名テーブル

MODETAB

ログオン・モード・テーブル

USSTAB

USS テーブル

IST935I

このメッセージには、いずれかのタイプのテーブルについての、追加の識別情報が含まれます。

ncpname は、ORIGIN オペランドに指定された PU タイプ 4 またはタイプ 5 の名前です。

netid は、NETID オペランドに指定されたネットワークを識別します。

resourcename は、ID オペランドに指定されたリソースの名前です。

システムの処置: 以下の *reason* を除いて、テーブルの関連付けは変更されませんでした。

- *reason* が **BOTH FILTER TABLES IN USE** の場合は、直前のコマンドは最終的には完了します。
- *reason* が **LOADER INOPERATIVE** の場合は、ローダーを必要とする後続の MODIFY TABLE コマンドは、すべて失敗します。入出力ロード操作が最終的に成功すれば、ロード操作が再び可能になります。

オペレーターの応答:

- *reason* が **ABEND DURING TABLE PROCESSING** の場合システム・ログとダンプを保管して、問題を判別してください。
- *reason* が **BOTH FILTER TABLES IN USE** の場合、直前のコマンドが完了してから、コマンドを出し直してください。
- *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合、より多くのストレージを使用できるようになってから MODIFY TABLE コマンドを入力し直してください。問題が解決されない場合、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。
- *reason* が以下の値の場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
 - **ERROR BUILDING TABLE**
 - **I/O ERROR LOADING** *newtable*
 - **I/O TIMEOUT LOADING** *newtable*
 - **LOADER INOPERATIVE**
 - **TABLE** *name* **IS FORMAT=OLD**

- *reason* が以下の値の場合、MODIFY TABLE オペランドが正しく入力されているかどうか確認してください。

- **name NOT FOUND**
- **ncpname HAS NO COS FOR netid**
- **netid NOT DEFINED FOR ncpname**
- **NEW TABLE ALREADY IN USE**
- **NO APPL/LU/CDRSC BELOW RESOURCE**
- **OLD TABLE WAS NOT IN USE**
- **OLD & NEW TABLE NAMES IDENTICAL**
- **OPERATION INVALID FOR resourcename**
- **TABLE TYPE CONFLICT**

コマンド・オペランドについては、「VTAM Operation」を参照してください。DISPLAY COS、DISPLAY ID および DISPLAY TABLE コマンドを使用して指定されたリソースの現在のテーブル関連付けを得ることができます。

プログラマーの応答:

- *reason* が **ABEND DURING TABLE PROCESSING** の場合システム・ダンプの内容を検査して、正しい問題判別の処理を決めてください。異常終了プロシージャについては、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- *reason* が **ERROR LOADING TABLE** の場合、このメッセージの前にはメッセージ IST979I が出されます。追加情報については、そのメッセージの説明を参照してください。
- *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** である場合、問題の原因を判別するためにオペレーターの出力を調べてください。

MODIFY TABLE 操作がクリティカルな場合、他のジョブを取り消すか、または複数の大ノードを非活性化し、ストレージを解放してコマンドを出せる状況を作り出して、MODIFY TABLE コマンドを出し直すように、オペレーターに依頼してください。

- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- *reason* が **I/O ERROR LOADING newtable** の場合、または **I/O TIMEOUT LOADING newtable** の場合、定義ライブラリーを検査して、VTAM システムの要件がシステムに対して正しいことを確認してください。ストレージの使用率を判別するには、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。
- *reason* が **LOADER INOPERATIVE** の場合は、システム・ダンプの内容を検査して、正しい問題判別の処理を決めてください。異常終了プロシージャについては、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- *reason* が **TABLE name IS FORMAT=OLD** の場合 USSTAB マクロ命令に FORMAT=DYNAMIC をコーディングし、V3R3 以上のレベルの VTAM マクロ命令ライブラリーを使用して、テーブルを再アSEMBルしてください。
- *reason* の他のすべての値については、応答は不要です。

IST864I NEWTAB=newtable, OLDTAB=oldtable,
OPT=option, TYPE=tabletype

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは、IST863I か IST865I のどちらかです。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST865I MODIFY TABLE COMMAND
COMPLETE-text

説明: このメッセージはメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST865I MODIFY TABLE COMMAND COMPLETE-text
[IST864I NEWTAB=newtable, OLDTAB=oldtable,
OPT=option, TYPE=tabletype]
[IST935I ORIGIN=ncpname, NETID=netid,
ID=resourcename]

MODIFY TABLE コマンドは、正常に処理されました。

IST864I

option は、次の値のいずれかです。

ASSOCIATE

リソースとのテーブル関連付けを変更します。

DELETE

リソースとのテーブル関連付けを削除します。

LOAD

テーブルをロードまたは再生し、関連付けを変更します。

tabletype は、次の値のいずれかです。tabletype を適用できないときには、例えば、OPT=LOAD を指定したために、**NA** が表示されます。

ASLTAB

関連 LU テーブル

COSTAB

サービス・クラス・テーブル

FILTER

セッション認識データ・フィルター

FLDTAB

メッセージあふれテーブル

LOGTAB

解釈テーブル

MDLTAB

モデル名テーブル

MODETAB

ログオン・モード・テーブル

USSTAB

USS テーブル

IST865I

text は次のいずれかです。

num ASSOCIATION(S) CHANGED

これは、option の値が ASSOCIATE の場合に表示されます。num は、次のように決定されます。

- tabletype の値が、USSTAB、LOGTAB、MODETAB、MDLTAB、FLDTAB、または ASLTAB の場合、num テーブルの関連付けは、ID パラメーター (resourcename) で指定されたリソースと、それに従属するすべてのノードに関して、oldtable から、newtable に変更されています。
- tabletype の値が COSTAB の場合は、num パラメーター (netid) で指定されたネットワークで、NEWTABLE を使用するために、num テーブル関連付けが、ORIGIN パラメーター (ncpname) で指定された PU タイプ 4、または PU タイプ 5 に関して、変更されました。ORIGIN と、NETID は、MODIFY TABLE で必須であるために、num は常に 1 です。

num FILTER TABLE(S) DELETED

現行のセッション認識データ・フィルターが、削除されました。すべてのセッションに対するトレース・データが、CNM インターフェースを介して渡されます。

NEW TABLE ALREADY ASSOCIATED

新テーブル newtable は、すでに指定されたリソースに関連付けられていました。TYPE=COSTAB のときは、リソースは、PU タイプ 4、または PU タイプ 5 であり、ncpname と netid ORIGIN パラメーターによって指定されたものです。それ以外の場合は resourcename によって指定されたものであり、それに従属するノードをすべて含んでいます。newtable の新しいバージョンをロードするには、MODIFY TABLE,OPTION=LOAD を出さなければなりません。

TABLE newtable LOADED

これは、option 値が LOAD であるときに表示されます。TEXT は、新テーブル newtable が、正常にロードされたことを示しています。oldtable の関連付けのすべては、newtable に変更されます。変更された関連付けの数については、カウントが取られません。

OLDTAB パラメーターが省略されると、oldtable は、newtable と同じになります。tabletype は、常に **NA** となります。

num ASSOCIATION(S) DELETED

これは、option の値が DELETE である場合に表示されます。num は、次のように決定されます。

- tabletype の値が、USSTAB、LOGTAB、MODETAB、MDLTAB、または ASLTAB の場合は、oldtable を参照する num は、ID パラメーターで指定されたリソースと、それに従属するすべてのノードについて、削除されました。これ以降のセッションの開始要求では、弊社が提供するデフォルトのテーブルを、使用することが可能です。
- tabletype の値が COSTAB の場合は、ORIGIN パラメーターで指定された PU タイプ 4、または PU タイプ 5 の COS テーブルと、NETID パラメーターで指定されたネットワークとの関連付けが終了しました。num の値は、常に 1 で、oldtable は、常に **NA** と表示されます。

newtable は、OPTION=DELETE に対する MODIFY TABLE コマンドでは許可されないため、常に ***NA*** になります。

IST935I

このメッセージには、いずれかのタイプのテーブルについての、追加の識別情報が含まれます。

ncpname は、ORIGIN オペランドに指定された PU タイプ 4 またはタイプ 5 の名前です。

netid は、NETID オペランドに指定されたネットワークを識別します。

resourcename は、ID オペランドに指定されたリソースの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 処置は不要です。どのテーブルの関連付けが変更されたかを判別するために、DISPLAY ID コマンドまたは DISPLAY COS コマンドを入力することができません。

プログラマーの応答: なし。

IST866I *command HAD NO EFFECT - reason*

説明: VTAM は以下のコマンドに回答して、このメッセージを出します。

- MODIFY ALSLIST
- MODIFY CDRM
- MODIFY DIRECTRY
- MODIFY TRACE
- VARY LOGON.

表示される可能性のある *command* および *reason* の値は、以下の通りです。

1. MODIFY ALSLIST command

alsname NOT VALID FOR cdrscname

alsname が無効です。MODIFY ALSLIST,ACTION=ADD または ACTION=REPLACE コマンドの NEWALS フィールドに、*alsname* が指定された場合は、NEWALS フィールドに指定された ALS 名が、有効かどうかを確かめてください。*alsname* が MODIFY ALSLIST,ACTION=DELETE または ACTION=REPLACE コマンドの OLDALS フィールドに指定された場合、OLDALS フィールドに指定された ALS 名が有効であることを確認してください。

ISTAPNPU VALID ONLY FOR APPN NODE

コマンドの NEWALS オペランドに ISTAPNPU が指定されましたが、ISTAPNPU は APPN ノードのみ有効です。

NO CDRSCS EXIST

説明は以下の MODIFY ALSLIST コマンドの ID の値によって判断されます。

ID=*

CDRSC 大ノードが、活動化されていませんでした。

ID=cdrsc major node

クロスドメイン・リソースが、大ノードに定義されていませんでした。

STORAGE NOT AVAILABLE

隣接リンク・ステーション・テーブルに、項目を追加するためのストレージが不足しています。

2. MODIFY CDRM command

cdrmname NOT FOUND

CDRM が、どのクロスドメイン・リソースにも割り当てられていません。

cdrmname NOT FOUND FOR cdrscname

以下のうちいずれかが当てはまります。

- *cdrscname* は、CDRSC 大ノードです。CDRM は、現在 *cdrmname* のクロスドメイン・リソースには割り当てられていません。
- *cdrscname* は、単一クロスドメイン・リソースです。*cdrscname* に関連する現在の CDRM が、*cdrmname* に一致しません。

NO CDRSCS EXIST

説明は以下の MODIFY CDRM コマンドの ID の値によって判断されます

ID=*

CDRSC 大ノードが、活動化されていませんでした。

ID=cdrsc major node

クロスドメイン・リソースが、大ノードに定義されていませんでした。

3. MODIFY DIRECTRY command

oldcpname NOT FOUND

The MODIFY DIRECTRY,UPDATE,ID=*resourcename*,CPNAME=(*newcpname,oldcpname*) コマンドが入力され、以下のいずれかの結果になります。

- ID オペランド *resourcename* に指定されたリソースは CDRSC 大ノードです。*oldcpname* は現在、*resourcename* に従属するいずれかの APPN リソースの所有する制御点 (CP) にはなっていません。
- ID オペランド *resourcename* に指定されたリソースは、単一 APPN リソースです。現在 *resourcename* と関連する所有 CP は、*oldcpname* と一致しません。

NO APPN CDRSC EXISTS

MODIFY DIRECTRY コマンドが CDRSC 大ノードに出されましたが、従属 APPN リソースが見つかりませんでした。CDRSC マクロ定義に CPNAME オペランドがないと、APPN CDRSC が識別されないことに注意してください。

4. MODIFY TRACE command

reason は VIT TABLE CHANGE IS IN PROGRESS です。VTAM 内部トレース (VIT) テーブルは変更中です。少し待ってからコマンドを出し直してください。

5. VARY LOGON command

reason は NO LOGICAL UNITS EXIST です。ログオン・モードは、LU が存在しないため、更新できませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。MODIFY DIRECTRY コマンドに回答してこのメッセージが出される場合、APPN

IST867I • IST872I

ディレクトリーは修正されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST867I SIT TRACE FOR *linename* FAILED TO ACTIVATE

説明: *linename* に出された MODIFY TRACE,TYPE=SIT コマンドは、スキャナーに問題があったために失敗しました。問題の原因としては、スキャナー・リソースが使用可能でなかったこと、あるいはスキャナーにハードウェア・エラーが起ったことが考えられます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: スキャナー・リソースが使用可能になったとき、コマンドを出し直してください。コマンドが失敗した場合は、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: ハードウェアの問題の原因を判別できない場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST869I USERID = *userid*

説明: このメッセージは、アプリケーション・プログラムに出された DISPLAY ID コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。リストされた *userid* は、要求時にアプリケーション・プログラムを制御しているジョブを表します。*userid* が *****NA***** の場合、名前が VTAM で使用できない名前であるか、アプリケーション・プログラムの ACB がオープンされていませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST870I NETWORK ADDRESS RECEIVED FOR *nodename* IN USE BY *resourcename*

説明: SSCP 引き継ぎのとき、アドレスの不一致が見つかりました。この不一致は、引き継ぎ側ホストがこれらの生成されたリソースに対して DR 削除を出していないとき、起こります。システムの処置: VTAM は以下のいずれかを行います。

- *nodename* に対する別のアドレスを要求すること。
- 生成されたリソース *resourcename* を削除すること。詳しい説明は、メッセージ IST871I を参照してください。

オペレーターの応答: 必要とする DR 削除がすべて完了していることを確かめてください。

プログラマーの応答: なし。

IST871I RESOURCE *resourcename* {DELETED|NOT DELETED}

説明: アドレス不一致エラーが見つかりました。VTAM はリソース *resourcename* を削除しようとしていました。メッセージ IST871I は、削除の試みが正しく行われたかどうかを示しています。

システムの処置: システム生成リソース *resourcename* が削除されます。*resourcename* が PU である場合は、接続された LU が削除されます。

オペレーターの応答: 削除が失敗した場合は、MODIFY DR を使って *resourcename* を削除してください。

プログラマーの応答: なし。

IST872I DR MOVE MISMATCH DETECTED FOR *puname*

説明: このメッセージは、以下のいずれかのコマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

- VARY DRDS コマンド
- MODIFY DR,TYPE=MOVE コマンド
- DR 不一致を示すセンス・コードが出されて、CONTACT が失敗した場合。この場合、内部 MODIFY DR,TYPE=MOVE が送信され、生成された回線から、NCP を最後に PU に接続した回線に、PU が移動されます。

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

```
IST872I DR MOVE MISMATCH DETECTED FOR puname
IST523I REASON = RESOURCE WAS MOVED FROM line1,
        NOT line2
IST314I END
```

```
IST872I DR MOVE MISMATCH DETECTED FOR puname
IST523I REASON = puname IS ON line1 IN NCP
IST401I F DR,TYPE=MOVE INITIATED FOR puname
IST314I END
```

IST401I

puname は移動された物理装置の名前です。

IST523I

puname は移動された物理装置の名前です。

line1 は、NCP の実際の移動元 *puname* の回線の名前です。

line2 は、*puname* が移動されたとき VTAM が認識した回線の名前です。

IST872I

puname は移動された物理装置の名前です。

システムの処置: オペレーターが MODIFY DR,TYPE=MOVE または VARY DRDS コマンドを出した場合、活動化の処理は継続します。

IST401I を含むメッセージ・グループが出された場合、内部 MODIFY DR,TYPE=MOVE が開始され、NCP を最後に PU に接続した回線に、PU を移動します。PU と LU は再活動化されます。

オペレーターの応答: IST401I を含むメッセージ・グループが出された場合、システム・ログを保管して、問題を判別してください。そうでない場合、可能であればすぐにリソースを活動化させてください。

プログラマーの応答: PU が VTAMLST の正しい回線にあるかどうか、または PU を正しい回線に配置するには MODIFY DR,TYPE=MOVE または ADD を出す必要があるかどうかを調べてください。

IST873I PLU SLU SID STATUS

説明: これは以下の状態で、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- SSCP 引き継ぎ処理中に、重複するセッション情報が受信された場合。このメッセージ・グループの最初のメッセージは IST1419I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。
- LIST=ALL,SCOPE=ALL が指定された、DISPLAY SESSIONS コマンドが出された場合。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```

IST350I  DISPLAY TYPE = SESSIONS
[IST1364I name IS A GENERIC RESOURCE NAME FOR: ]
[IST1154I resourcename_1 ... resourcename_n ]
:
[IST924I -----]
IST873I  PLU          SLU          SID
STATUS
IST874I  netid.pluname netid.sluname sessionid
status
[IST874I netid.pluname netid.sluname sessionid
status]
:
[IST875I  {ADJSSCP{ALSNAME} TOWARDS
adjacent_resource_type = resource_name
[text]}]
:
IST878I  NUMBER OF PENDING  SESSIONS = count
[IST1237I state = number [state = number]]
IST878I  NUMBER OF ACTIVE   SESSIONS = count
[IST1162I LU-LU              = count
IST1162I CP-CP CONWINNER    = count
IST1162I CP-CP CONLOSER    = count]
IST878I  NUMBER OF QUEUED   SESSIONS = count
[IST1237I state = number [state = number]]
IST878I  NUMBER OF TOTAL    SESSIONS = count
[IST1161I SSCP SESSIONS
IST1162I SSCP-LU            = count
IST1162I SSCP-PU            = count
IST1162I SSCP-SSCP          = count]
IST314I  END

```

注:

1. 不明なパートナー・セッションに関する情報は、DISPLAY SESSIONS コマンドからは、得られません。この情報が必要であれば、認識されているセッション・パートナーに対して、DISPLAY ID コマンドを入力してください。
2. メッセージ IST1161I と IST1162I は、アクティブ・セッションすべてについての情報が要求されたときのみ表示されます。コマンドに PLU、SLU、LU1、LU2、または SID オペランドを使用して、特定のセッションを要求した場合、メッセージ IST1161I と IST1162I は表示されません。
3. DISPLAY SESSIONS コマンドについては、「VTAM Operation」を参照してください。

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループの場合、表示タイプは必ず **SESSIONS** です。

IST873I

このメッセージは、IST874I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST874I

pluname は、ネットワーク修飾 1 次セッション・パートナー名です。

sluname は、ネットワーク修飾 2 次セッション・パートナー名です。

sessionid はセッション ID です。セッションの追加情報については、DISPLAY SESSIONS,SID=*sessionid* コマンドを入力してください

status はセッション状況です。(可能なセッション開始状態および終了状態については、「VTAM Messages and Codes」の『Session States and Modifiers』を参照してください。)

注: 同じセッションが 2 回表示され、しかもその *status* の値がそれぞれ異なる場合、セッションに対して LOCATE 処理と BIND 処理が同時に起きる可能性があります。このような状況はそう長くは続きません。DISPLAY SESSIONS コマンドを出し直してください。それでもセッションが 2 回表示される場合、セッションが中断している可能性があります。

IST875I

このメッセージは、隣接 SSCP (**ADJSSCP**) または隣接リンク・ステーション (**ALSNAME**) に関する情報を表示します。

発行元の SSCP が中間ホストの場合には、VTAM はこのメッセージを 2 回出すことがあります。

adjacent_resource_type は次のいずれかです。

DLU

隣接 SSCP が宛先論理装置 (DLU) の方向にあり、CDINIT または DSRLST が、セッションに対して保留されています。DLU は、隣接 SSCP にも適用されません。

PLU

隣接 SSCP または隣接リンク・ステーションは、1 次論理装置 (PLU) 方向です。

SLU

隣接 SSCP または隣接リンク・ステーションは、2 次論理装置 (SLU) 方向にあります。

resource_name は、示された *adjacent_resource_type* に向かい合う隣接 SSCP の名前です。

以下の場合、*text* は表示されません。

- このメッセージに記述されているリソースが、隣接リンク・ステーションである。
- SSCP が、ゲートウェイに対応していない。
- SSCP-SSCP セッションがクロスドメイン・セッションである。

考えられる *text* の値は、以下のとおりです。

IST874I • IST875I

GWNCPC NAME NOT AVAILABLE

ゲートウェイ NCP 名は、VTAM に認識されていません。

GWNCPC TOWARDS gateway_type = gwncpc

ゲートウェイ NCP 名は、VTAM に認識されています。

考えられる gateway_type の値は以下のとおりです。

DLU

ゲートウェイ NCP が、DLU に向いています。
VTAM が DLU を出すのは、adjacent_resource_type が DLU の場合だけです。

PLU

ゲートウェイ NCP は PLU に向いています。

SLU

ゲートウェイ NCP は SLU に向いています。

gwncpc は、メッセージ IST874I の pluname または sluname に対するゲートウェイ NCP です。

IST878I このメッセージは、PENDING、ACTIVE、QUEUED、および TOTAL の各セッションの数を示します。count は、指定されたタイプのセッションの数です。

IST1154I

メッセージ IST1364I の name が総称リソース名である場合に、このメッセージが表示されます。

resourcename は論理装置か、または netid.name の形式のアプリケーションです。

IST1161I

このメッセージは IST1162I のヘッダー・メッセージです。SSCP-LU と SSCP-PU のセッションが活動状態で、SSCP-SSCP セッションが活動中または活動保留の状態の場合、IST1161I/IST1162I サブグループが表示されます。

IST1162I

活動、または保留中のアクティブ・セッションが存在する場合、このメッセージが出されます。

- アクティブ・セッションがすべて要求されると、メッセージ IST878I の後にこのメッセージが続き、活動 LU-LU と CP-CP セッション (CONWINNER と CONLOSER) の数が表示されます。

通常、CP-CP CONWINNER と CP-CP CONLOSER の count は同じです。これらの数が異なる場合、VTAM はセッション開始、またはセッション中止の処理を行っています。ユーザーの処置は不要です。

- すべてのアクティブ・セッションが要求された場合は、ヘッダー・メッセージ IST1161I の後にこのメッセージが続き、活動 SSCP-LU および SSCP-PU セッションと、活動および保留中の活動 SSCP-SSCP セッションが表示されます。SSCP-SSCP セッションの count には、保留中のセッションも含まれています。メッセージ IST878I 中の、ACTIVE および TOTAL セッションの count には、これらのセッションは含まれていません。

- 活動状態の SSCP-LU セッションの count の値は、ISTNOP と ISTPDCLU アプリケーションを使用する 2 つの VTAM 開始セッションを含みます。
- SSCP-SSCP セッションの count の値は、保留セッションとアクティブ・セッションの両方を含みます。

コマンドに指定された PLU、SLU、LU1、LU2、または SID オペランドで特定のセッションが要求されると、このメッセージは表示されません。

IST1237I

このメッセージは PENDING と QUEUED セッションに対してのみ出され、状況情報を表示します。count が 0 であれば、メッセージ IST1237I は表示されません。

state はセッションの状況です。(可能なセッション開始状態および終了状態については、「VTAM Messages and Codes」の『Session States and Modifiers』を参照してください。) number は、指定された state のセッションの数です。

IST1364I

このメッセージは name が総称リソース名である場合に示される、メッセージ IST1154I のヘッダー・メッセージとして出されます。

name は表示されるグループ・リソースの総称リソース名です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST874I netid.pluname netid.sluname sessionid status

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。

- メッセージ・グループの見出しが IST1419I の場合、メッセージ・グループについて詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。
- それ以外の場合、メッセージ・グループの記述については IST873I の説明を参照してください。

IST875I {ADJSSCP|ALSNAME|APPNCOS} TOWARDS adjacent_resource_type = resource_name [text]

説明: VTAM は DISPLAY SESSIONS コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについて詳しくは、IST873I、IST878I、および IST879I の説明を参照してください。

このメッセージは、隣接 SSCP (ADJSSCP)、または隣接リンク・ステーション (ALSNAME) または APPN サービス・クラス (APPNCOS) についての情報を表示します。

発行元の SSCP が中間ホストの場合には、VTAM はこのメッセージを 2 回出すことがあります。

adjacent_resource_type は次のいずれかです。

DLU

隣接 SSCP が宛先論理装置 (DLU) の方向にあり、

CDINIT または DSRLST が、セッションに対して保留されています。 DLU は、隣接 SSCP にのみ適用されます。

PLU

隣接 SSCP または隣接リンク・ステーションは、1 次論理装置 (PLU) 方向です。

SLU

隣接 SSCP または隣接リンク・ステーションは、2 次論理装置 (SLU) 方向にあります。

resource_name は次のいずれかです。

- **ADJSSCP** または **ALSNAME** がメッセージに表示された場合には、*resource_name* は、示された *adjacent_resource_type* に向かい合う隣接 SSCP の名前です。
- **APPNCOS** がメッセージに表示された場合には、*resource_name* は、APPN サービス・クラス (COS) 名です。

以下の場合、*text* は表示されません。

- このメッセージに記述されているリソースが、隣接リンク・ステーションである。
- SSCP が、ゲートウェイに対応していない。
- SSCP-SSCP セッションがクロスドメイン・セッションである。
- APPN サービス・クラス名が表示されている。

考えられる *text* の値は、以下のとおりです。

GWNCP NAME NOT AVAILABLE

ゲートウェイ NCP 名は、VTAM に認識されていません。

GWNCP TOWARDS gateway_type = gwncp

ゲートウェイ NCP 名は、VTAM に認識されています。

考えられる *gateway_type* の値は以下のとおりです。

DLU
ゲートウェイ NCP が、DLU に向いています。VTAM が **DLU** を出すのは、*adjacent_resource_type* が **DLU** の場合だけです。

PLU
ゲートウェイ NCP は PLU に向いています。

SLU
ゲートウェイ NCP は SLU に向いています。

gwncp は、メッセージ IST874I の *pluname* または *sluname* に対するゲートウェイ NCP です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

- このメッセージの前に、メッセージ IST873I および IST874I が出されている場合、グループの記述については IST873I の説明を参照してください。
- このメッセージの前に、メッセージ IST879I が出されている場合、グループの記述についてはそのメッセージの説明を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST876I SIGNALS NEEDED TO COMPLETE SESSION (SETUP|TAKEDOWN)

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST879I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。IST876I はメッセージ IST877I のヘッダーであり、セッション状態がセッション開始保留またはセッション終了保留のときだけ出されます。

IST877I signal1 [signal2] [signal3] [signal4]

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST879I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。IST877I はセッション状態がセッション開始保留またはセッション終了保留のときだけ出されます。

IST878I NUMBER OF type SESSIONS = count

説明: このメッセージは、DISPLAY SESSIONS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

- LIST=COUNT (デフォルト)

```
IST350I DISPLAY TYPE = SESSIONS
[IST875I {ADJSSCP|ALSNAME} TOWARDS
         adjacent_resource_type = resource_name
         [text]]
:
IST878I NUMBER OF PENDING SESSIONS = count
IST878I NUMBER OF ACTIVE SESSIONS = count
IST878I NUMBER OF QUEUED SESSIONS = count
IST878I NUMBER OF TOTAL SESSIONS = count
[IST1161I SSCP SESSIONS
IST1162I SSCP-LU = count
IST1162I SSCP-PU = count
IST1162I SSCP-SSCP = count]
IST314I END
```

- LIST=SUMMARY

```
IST350I DISPLAY TYPE = SESSIONS
[IST875I {ADJSSCP|ALSNAME} TOWARDS
         adjacent_resource_type = resource_name
         [text]]
:
IST878I NUMBER OF PENDING SESSIONS = count
[IST1237I state = number [state = number]]
IST878I NUMBER OF ACTIVE SESSIONS = count
[IST1162I LU-LU = count
IST1162I CP-CP CONWINNER = count
IST1162I CP-CP CONLOSER = count]
IST878I NUMBER OF QUEUED SESSIONS = count
[IST1237I state = number [state = number]]
IST878I NUMBER OF TOTAL SESSIONS = count
[IST1161I SSCP SESSIONS
IST1162I SSCP-LU = count
IST1162I SSCP-PU = count
IST1162I SSCP-SSCP = count]
IST314I END
```

- LIST=ALL

このグループに関する詳しい説明については、メッセージ IST873I の説明を参照してください。

注:

IST878I

1. 不明なパートナー・セッションに関する情報は、**DISPLAY SESSIONS** コマンドからは、得られません。この情報が必要であれば、認識されているセッション・パートナーに対して、**DISPLAY ID** コマンドを入力してください。
2. メッセージ **IST116I** と **IST1162I** は、アクティブ・セッションすべてについての情報が要求されたときのみ表示されます。コマンドに **PLU**、**SLU**、**LU1**、**LU2**、または **SID** オペランドを使用して、特定のセッションを要求した場合、メッセージ **IST116I** と **IST1162I** は表示されません。
3. **DISPLAY SESSIONS** コマンドについては、「**VTAM Messages and Codes**」を参照してください。

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループの場合、表示タイプは必ず **SESSIONS** です。

IST875I

このメッセージは、隣接 **SSCP (ADJSSCP)** または隣接リンク・ステーション (**ALSNAME**) に関する情報を表示します。発行元の **SSCP** が中間ホストの場合には、**VTAM** はこのメッセージを 2 回出すことがあります。

adjacent_resource_type は次のいずれかです。

DLU

隣接 **SSCP** が宛先論理装置 (**DLU**) の方向にあり、**CDINIT** または **DSRLST** が、セッションに対して保留されています。 **DLU** は、隣接 **SSCP** にのみ適用されません。

PLU

隣接 **SSCP** または隣接リンク・ステーションは、1 次論理装置 (**PLU**) 方向です。

SLU

隣接 **SSCP** または隣接リンク・ステーションは、2 次論理装置 (**SLU**) 方向にあります。

resource_name は、示された *adjacent_resource_type* に向かい合う隣接 **SSCP** の名前です。

以下の場合、*text* は表示されません。

- このメッセージに記述されているリソースが、隣接リンク・ステーションである。
- **SSCP** が、ゲートウェイに対応していない。
- **SSCP-SSCP** セッションがクロスドメイン・セッションである。

考えられる *text* の値は、以下のとおりです。

GWNCMP NAME NOT AVAILABLE

ゲートウェイ **NCP** 名は、**VTAM** に認識されていません。

GWNCMP TOWARDS gateway_type = gwncmp

ゲートウェイ **NCP** 名は、**VTAM** に認識されています。

考えられる *gateway_type* の値は以下のとおりです。

DLU

ゲートウェイ **NCP** が、**DLU** に向いています。

VTAM が **DLU** を出すのは、*adjacent_resource_type* が **DLU** の場合だけです。

PLU

ゲートウェイ **NCP** は **PLU** に向いています。

SLU

ゲートウェイ **NCP** は **SLU** に向いています。

gwncmp は、メッセージ **IST874I** の *pluname* または *sluname* に対するゲートウェイ **NCP** です。

IST878I

このメッセージは、**PENDING**、**ACTIVE**、**QUEUED**、および **TOTAL** の各セッションの数を表示します。

count は、指定されたタイプのセッションの数です。

IST1161I

このメッセージは **IST1162I** のヘッダー・メッセージです。**SSCP-LU** と **SSCP-PU** のセッションが活動状態で、**SSCP-SSCP** セッションが活動中または活動保留の状態の場合、**IST1161I/IST1162I** サブグループが表示されます。

IST1162I

活動、または保留中のアクティブ・セッションが存在する場合、このメッセージが出されます。

- アクティブ・セッションがすべて要求されると、メッセージ **IST878I** の後にこのメッセージが続き、活動 **LU-LU** と **CP-CP** セッション (**CONWINNER** と **CONLOSER**) の数が表示されます。

通常、**CP-CP CONWINNER** と **CP-CP CONLOSER** の *count* は同じです。これらの数が異なる場合、**VTAM** はセッション開始、またはセッション中止の処理を行っています。ユーザーの処置は不要です。

- すべてのアクティブ・セッションが要求された場合は、ヘッダー・メッセージ **IST1161I** の後にこのメッセージが続き、活動 **SSCP-LU** および **SSCP-PU** セッションと、活動および保留中の活動 **SSCP-SSCP** セッションが表示されます。**SSCP-SSCP** セッションの *count* には、保留中のセッションも含まれています。メッセージ **IST878I** 中の、**ACTIVE** および **TOTAL** セッションの *count* には、これらのセッションは含まれていません。
 - 活動状態の **SSCP-LU** セッションの *count* の値は、**ISTNOP** と **ISTPDCLU** アプリケーションを使用する 2 つの **VTAM** 開始セッションを含みます。
 - **SSCP-SSCP** セッションの *count* の値は、保留セッションとアクティブ・セッションの両方を含みます。

コマンドに指定された **PLU**、**SLU**、**LU1**、**LU2**、または **SID** オペランドで特定のセッションが要求されると、このメッセージは表示されません。

IST1237I

このメッセージは **PENDING** と **QUEUED** セッションに対してのみ出され、状況情報を表示します。 *count* が **0** であれば、メッセージ **IST1237I** は表示されません。

state はセッションの状況です。(可能なセッション開始状態および終了状態については、「VTAM Messages and Codes」の『Session States and Modifiers』を参照してください。)

number は、指定された *state* のセッションの数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST879I {**PLU**{*lutype*}|**SLU**{*lutype*}} **REAL** = *realname*
ALIAS = *aliasname*

説明: このメッセージは、**DISPLAY SESSIONS,SID** コマンドの応答として、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I DISPLAY TYPE = SESSIONS
IST879I PLU{lutype} REAL = realname ALIAS =
aliasname
IST879I SLU{lutype} REAL = realname ALIAS =
aliasname
IST880I SETUP STATUS = status [TAKEDOWN STATUS =
takedownstatus]
      [IST875I {ADJSSCP|ALSNAME} TOWARDS
adjacent_resource_type =
resource_name [text]]
:
[IST876I SIGNALS NEEDED TO COMPLETE SESSION
      {SETUP|TAKEDOWN}]
[IST877I signal1 [signal2] [signal3] [signal4]]
IST933I LOGMODE=logmode, COS=cosenry [(FROM OLU)]
[IST1438I LOGMODE logmode UNKNOWN IN THIS DOMAIN,
      DEFAULT IS ISTCOSDF]
[IST875I APPNCOS TOWARDS
adjacent_resource_type = resource_name
      [text]]
:
[IST1048I COMPRESSION LEVEL - INPUT = input_level,
      OUTPUT = output_level]
[IST1049I PERCENT REDUCTION - INPUT = input_percent,
      OUTPUT = output_percent]
IST314I END
```

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループの場合、表示タイプは必ず **SESSIONS** です。

IST875I

このメッセージは、隣接 **SSCP** (**ADJSSCP**)、または隣接リンク・ステーション (**ALSNAME**) または **APPN** サービス・クラス (**APPNCOS**) についての情報を表示します。

発行元の **SSCP** が中間ホストの場合には、VTAM はこのメッセージを 2 回出すことがあります。

adjacent_resource_type は次のいずれかです。

DLU

隣接 **SSCP** が宛先論理装置 (DLU) の方向にあり、**CDINIT** または **DSRLST** が、セッションに対して保留されています。 **DLU** は、隣接 **SSCP** にのみ適用されます。

PLU

隣接 **SSCP** または隣接リンク・ステーションは、1 次論理装置 (PLU) 方向です。

SLU

隣接 **SSCP** または隣接リンク・ステーションは、2 次論理装置 (SLU) 方向にあります。

resource_name は次のいずれかです。

- **ADJSSCP** または **ALSNAME** がメッセージに表示された場合には、*resource_name* は、示された *adjacent_resource_type* に向かい合う隣接 **SSCP** の名前です。
- **APPNCOS** がメッセージに表示された場合には、*resource_name* は、**APPN** サービス・クラス (COS) 名です。

以下の場合、*text* は表示されません。

- このメッセージに記述されているリソースが、隣接リンク・ステーションである。
- **SSCP** が、ゲートウェイに対応していない。
- **SSCP-SSCP** セッションがクロスドメイン・セッションである。
- **APPN** サービス・クラス名が表示されている。

考えられる *text* の値は、以下のとおりです。

GWNCPC NAME NOT AVAILABLE

ゲートウェイ **NCP** 名は、VTAM に認識されていません。

GWNCPC TOWARDS gateway_type = gwncpc

ゲートウェイ **NCP** 名は、VTAM に認識されています。

考えられる *gateway_type* の値は以下のとおりです。

DLU

ゲートウェイ **NCP** が、**DLU** に向いています。**VTAM** が **DLU** を出すのは、*adjacent_resource_type* が **DLU** の場合だけです。

PLU

ゲートウェイ **NCP** は **PLU** に向いています。

SLU

ゲートウェイ **NCP** は **SLU** に向いています。

gwncpc は、メッセージ **IST874I** の *pluname* または *sluname* に対するゲートウェイ **NCP** です。

IST877I

- *signal1*-*signal4* は信号です。これらは、セッションがセッション開始、またはセッション終了で保留されている場合のみ、表示されます。

信号の意味は、以下に記述されている通りです。

COSESST-PLU

クロスドメイン・セッション開始要求が、**PLU** の方向から予期されました。

IST879I

CDSESSST-SLU

クロスドメイン・セッション開始要求が、SLU の方向から予期されました。

SESSST-PLU

セッション開始要求が、PLU の境界機能から予期されました。

SESSST-SLU

セッション開始要求が、SLU の境界機能から予期されました。

NTFYST-GWN-PLU

セッション開始の通知が、PLU 方向のゲートウェイ・ノードから予期されました。

NTFYST-GWN-SLU

セッション開始の通知が、SLU 方向のゲートウェイ・ノードから予期されました。

次の信号は、セッションが、セッション終了 (PSESEND) を保留されている場合にのみ、表示されます。

CDSESEND-PLU

クロスドメイン・セッション終了要求が、PLU の方向から予期されました。

CDSESEND-SLU

クロスドメイン・セッション終了要求が、SLU の方向から予期されました。

SESEND-PLU

セッション終了要求が、PLU の境界機能から予期されました。

SESEND-SLU

セッション終了要求が、SLU の境界機能から予期されました。

NTFYSE-GWN-PLU

セッション終了の通知が、PLU 方向のゲートウェイ・ノードから予期されました。

NTFYSE-GWN-SLU

セッション終了の通知が、SLU 方向のゲートウェイ・ノードから予期されました。

IST879I

- *lotype* は **OLU**、**DLU** またはブランクです。
 - LU が発信元のセッション・パートナーである場合、**OLU** が表示されます。
 - LU が宛先セッション・パートナーである場合、**DLU** が表示されます。
 - SSCP 引き継ぎが行われたために、OLU と DLU が認識されていない場合、このフィールドはブランクになります。リソースの引き継ぎに関する情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- *realname* は 1 次、または 2 次セッション・パートナーのネットワーク修飾の実名です。
- *aliasname* は 1 次、または 2 次セッション・パートナーのネットワーク修飾の別名です。1 次、または 2 次セッション・パートナーを見つけるために *aliasname* が使用されていない場合、VTAM は *****NA***** と表示します。

IST880I

- *status* はセッション状況です。(可能なセッション開始状況および終了状況については、「VTAM Messages and Codes」の『Session States and Modifiers』を参照してください。)
- *takedownstatus* は、セッション終了中のセッション状況です。セッション終了が進行中でなければ、*takedownstatus* はブランクになります。*takedownstatus* の説明については、「VTAM Messages and Codes」で『Session States and Modifiers』を参照してください。

IST933I

- *logmode* は、特定のセッション・パラメーターをセットアップするために使用する、ログオン・モード・テーブルの項目の名前です。これらの項目は、セッションの処理状況を決する規則です。指定された名前は、このドメインで知られているものです。

LOGMODE=***NA***

LOGMODE が、このドメインで不明で、判別不能です。

LOGMODE=logmode

LOGMODE が、このドメインで判別可能です。

LOGMODE=*BLANK*

LOGMODE が、このドメインで判別可能でブランクです。これは、有効な LOGMODE 項目です。

- *cosentry* は、セッションに許可されている経路のリストを含むサブエリア・サービス・クラス・テーブルの項目です。COS 名は次のような形式で表示されます。

COS=***NA***

- サブエリア COS 名がこのドメインで認識されていないので、判別することができません。
- メッセージ IST875I に **APPNCOS** が表示されていないので、表示するサブエリア COS 名がありません。APPN セッション・セットアップが不完全であれば、IST875I に APPN COS 名は表示されません。これは一時的な状況です。

COS=cosname

サブエリア COS 名がこのドメインで判別可能です。

COS=*BLANK*

サブエリア COS 名がこのドメインで判別可能でブランクです。これは有効な COS 名項目です。

COS=cosname (FROM OLU)

サブエリア COS 名がこのドメインで判別可能ですが、OLU ドメインにあるものとして、知られていません。

IST1048I

- このメッセージは、このセッションに対してデータ圧縮が使用された場合にのみ、出されます。
- *input_level* は、入力セッション・トラフィックに使用された圧縮レベルです。
- *output_level* は、出力セッション・トラフィックに使用された圧縮レベルです。

IST1049I

- このメッセージは、このセッションに対してデータ圧縮が使用された場合にのみ、出されます。

- *input_percent* は、入力セッション・トラフィックが圧縮された割合を示すパーセントです。
- *output_percent* は、出力セッション・トラフィックが圧縮された割合を示すパーセントです。

最後に表示を行ってから、新しいデータの流れがなかった場合、VTAM は、*input_percent* および *output_percent* の代わりに *NA* を出します。

IST1438I

このメッセージは、この定義で *logmode* が認識されておらず、ISTCOSDF がデフォルトとして使用されている場合にのみ出されます。ISTCOSDF の詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」および「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

- *logmode* はメッセージ IST933I に表示されるログ・モードです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージ IST1438I が表示され、デフォルトのログ・モードが必要ない場合、問題判別のためのシステム・ログを収集してください。

プログラマーの応答:

メッセージ IST1438I が表示されない場合、処置は不要です。

メッセージ IST1438I が表示され、*logmode* が (ISTCOSDF の代わりに) このドメインで認識されていなければならない場合、その *logmode* が SLU に関連する LOGMODE テーブルに、またはデフォルトの LOGMODE テーブル ISTINCLM にあることを確認してください。

VTAM は、メッセージ IST881I を 2 回出すこともあり、メッセージ IST259I が、この間に現れることもあります。

text は次のいずれかです。

- LOST CONTACT TO
- UNABLE TO CONTACT

linkstation は、影響を受けるリンク・ステーションの ID です。

システムの処置: *text* が LOST CONTACT TO の場合、コントローラーが使用可能になったことを示す、装置終了を受け取るまで、VTAM は CONTACT 処理を延期します。

text が UNABLE TO CONTACT の場合、チャンネル・プログラムが、起こるべきではないエラー状況を示して、終了しました。VTAM はエラー・リカバリーを試み、メッセージを出して結果を報告します。

オペレーターの応答: 通常、オペレーターの処置は、必要ありません。コントローラーが使用可能 (装置終了で通知されます) になると、VTAM は、CONTACT 処理を再開します。VTAM は、コントローラーが使用可能になったことを示すメッセージを出します。

装置が使用可能になる前に、CONTACT 処理を中止するには、VARY INACT,FORCE コマンドを入力して、コントローラーを非活動化してください。

注: コントローラーが、装置終了に回答していない場合は、別の装置が、ロード、ダンプ、またはリカバリー処置を終了しました。装置がオンラインかどうかを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

IST880I SETUP STATUS = *status* [TAKEDOWN STATUS = *takedownstatus*]

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST879I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST881I *text* LINK STATION *linkstation*

説明: このメッセージは、チャンネル接続コントローラーの接続が予期せずに切断されたときに、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。VTAM は、別のホストからの VARY ACT,LOAD=YES または LOAD=U コマンドに回答して、このメッセージ・グループを出す可能性があります。グループ全体の記述は、以下のとおりです。

IST881I *text* LINK STATION *linkstation*

IST882I WAITING FOR DEVICE END FROM DEVICE

コントローラーがオンラインで、DUMpload=YES、SAVEMOD=YES、および LOADFROM=EXT で活動化された場合は、コントローラーがダンプ中、またはロード中にある可能性があります。

IST882I WAITING FOR DEVICE END FROM DEVICE

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。最初のメッセージは IST881I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST883I *percentage* OF SAW BUFFERS USED [- SAW AND PIU TRACE HALTED]

説明: *percentage* は指定された制限に相対して使用されたセッション認識 (SAW) バッファのパーセントを示します。システムの処置: 下記の量は処理を示します。

ABOVE *percent*

SAW バッファのユーザーが指定した制限の *percent* が使用されました (*percent* が 80 または 90 パーセントで出されます)。処理を続行します。

BELOW 80%

使用パーセントが 80% あるいはそれ以下に落ちたことを示します。処理を続行します。

OVER 100%

ユーザーが指定した制限の 100% を超えました。

SAW および PIU トレース処理は終了します。

オペレーターの応答: ユーザーが指定した制限に達し、SAW 処理と PIU トレース処理が終了した場合は、ネットワーク管理アプリケーション (例えば NetView プログラム) を取り消して、再度実行する必要があります。

プログラマーの応答: このメッセージが頻繁に表示される場合は、SAW あるいは PIU トレース処理の初期設定時に、ユーザーが指定したバッファ使用制限を再度評価してください。

IST886I *commandinfo* [*statementname*] *action resource*
[**TO** *toname*] [**FROM** *fromname*] **FAILED**

説明: このメッセージは、動的再構成、または動的変更が失敗したことを示すために、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。この失敗は、MODIFY DR、VARY DRDS、または VARY ACT コマンドの結果によるものです。

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

1. MODIFY DR コマンド

```
IST886I MODIFY DR action resource [TO toname]
FROM fromname FAILED
IST523I REASON = reason
```

IST886I

- このメッセージ・グループでは、*commandinfo* は必ず **MODIFY DR** になります。
- *action* は以下のコマンド・タイプです。
 - **DELETE** は、物理装置、または論理装置の削除です。
 - **MOVE** は、物理装置と、その関連 LU の移動です。
- *resource* はコマンドによって影響を受ける物理装置、または論理装置の名前です。
- *toname* は、PU が移動される先の回線の名前で、*action* が、**MOVE** の場合にのみ、表示されます。
- *fromname* は PU が移動、または削除される元の回線の名前、または LU が削除される元の PU の名前です。

IST523I

このメッセージは、失敗の理由を説明します。 *reason* の可能な値は、このメッセージの説明の後の方で説明されます。

• VARY DRDS コマンド

```
IST886I DR drname [statementname] action
resource [TO toname] [FROM fromname]
FAILED
IST523I REASON = reason
IST368I FUNCTION GROUP functiongroup FAILED
```

IST886I

- このメッセージ・グループでは、*commandinfo* は必ず **DR drname** になります。
- *drname* は、再構成定義ステートメントを含む、動的再構成データ・セット名です。
- *statementname* は、指定された場合、失敗した特定の定義ステートメントです。
- *action* は、以下のいずれかの定義ステートメントです。
 - **ADD** は、物理装置、または論理装置の追加です。

- **DELETE** は、物理装置、または論理装置の削除です。
- **MOVE** は、物理装置と、その関連 LU の移動です。

resource は、定義ステートメントの影響を受けた物理装置または論理装置の名前です。

toname は PU の移動先または追加先の回線の名前、あるいは LU が追加される PU の名前です。 *toname* は、*action* が **MOVE**、または **ADD** の場合にのみ、表示されます。

fromname は PU が移動、または削除される元の回線の名前、または LU が削除される元の PU の名前です。 *fromname* が表示されるのは、*action* が **MOVE** または **DELETE** の場合だけです。

IST523I

このメッセージは、失敗の理由を説明します。 *reason* の可能な値は、このメッセージの説明の後の方で説明されます。

IST368I

このメッセージは、失敗した動的再構成データ・セットの特定の定義ステートメントを示します。 *functiongroup* は、失敗した定義ステートメントの VARY DRDS デックにある **ADD**、**DELETE**、または **MOVE** 定義ステートメントにある名前です。

2. VARY ACT コマンド

```
IST886I VARY ACT [statementname] action
resource [TO toname] [FROM fromname]
FAILED
IST523I REASON = reason
```

IST886I

- このメッセージ・グループでは、*commandinfo* は必ず **VARY ACT** になります。
- *statementname* は、VARY ACT コマンドの ID オペランドに指定された大ノード名です。
- *action* は以下のいずれかで、障害が発生した場合に実行される処置です。
 - **ADD** は、物理装置、または論理装置の追加です。
 - **CHANGE** は、オペランド値の変更です。
 - **DELETE** は、物理装置、または論理装置の削除です。
 - **MOVE** は物理装置、およびその関連 LU の移動、または論理装置の移動です。
- *resource* はコマンドによって影響を受ける物理装置、または論理装置の名前です。
- *toname* は、PU の移動先または追加先の回線の名前、あるいは LU の移動先または追加先の PU の名

前です。 *toname* が表示されるのは、*action* が **MOVE** または **ADD** の場合だけです。

- *fromname* は、PU が移動または削除される回線の名前、または LU が移動または削除される PU の名前です。 *fromname* が表示されるのは、*action* が **MOVE** または **DELETE** の場合だけです。

IST523I

このメッセージは、失敗の理由を説明します。 *reason* に表示される可能性のある値を、以下に示します。

各メッセージ・グループの 2 番目のメッセージは IST523I であり、このメッセージが障害の理由を説明します。 *reason* は次のいずれかです。

DUPLICATE STATION ID

交換 PU に対して、IDBLK または IDNUM の DR CHANGE を実行しようとしたが、その結果のステーション ID がネットワーク内で固有のものではありませんでした。

DR DELETE INVALID FOR INDEPENDENT LU

独立 LU に DR DELETE を実行しようとしたが、この LU は FROM オペランドに指定された隣接リンク・ステーションには関連していませんでした。これは無効な要求です。

DR NOT SUPPORTED

DR、または DR のこの機能をサポートしていないリソースに対して DR 機能を実行しようと試みました。

INSUFFICIENT STORAGE

VTAM が、DR 操作中にストレージを割り振ることができませんでした。

INVALID MACRO

定義ステートメントが読み取られましたが、これはこのタイプの定義デッキでは無効なメンバーです。例えば、GROUP 定義ステートメントは、DR デッキでは無効なメンバーです。

INVALID NAME

functiongroup が、PU または LU 定義ステートメントに対して無効です。

INVALID PARAMETER

無効な、または許可されないオペランドが、定義ステートメントに見つかりました。

INVALID RESOURCE CURRENT STATE

現在の状況がそれを許していないリソースで移動、または削除が試みられました。リソースが非活動、リセット、解放、または定義された状態でないためにこのエラーが発生します。

注: そのリソースの大ノードに VARY

ACT,UPDATE=ALL コマンドが入力されたときに、活動中の小ノードに対してこの理由が出されます。多くの場合、これは定義エラーではないので、処置はありません。最も考えられる原因は、IST886I に示されている小ノード *resource* の定義ステートメントのオペランドが、VARY ACT,UPDATE=ALL コマンドが大ノードに入力される前に、VARY LOGON、VARY NOLOGON、または MODIFY DEFAULTS のような VTAM コマンドによって変更されたということです。これは、IST886I の *action*

が CHANGE の場合にのみ発生します。これらのコマンドの追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

INVALID RESOURCE TYPE

動的再構成が許されないリソースに対して、移動、または削除を試みました。DR ADD、DELETE および MOVE は、SNA タイプ 1、2、または 2.1 の PU と、その従属 LU に対して、および従属 LU といくつかの独立 LU に対して実行することができます。

INVALID TO/FROM RESOURCE TYPE

動的再構成を許可していないターゲット・リソースに対して、リソースの追加、削除、またはその間の移動を試みました。DR ADD は、回線と PU に対して、許可されます。DR DELETE は、回線と PU からの場合に許可されます。DR MOVE は、回線と PU の間に対して許可されます。

INVALID VALUE

定義ステートメントのオペランドにコーディングされている値が無効です。

INVALID VALUE FOR ADDR

ADDR オペランドについて、PU 定義ステートメントにコーディングされた値が、すでに目的の回線の PU ADDR で指定されていて、重複していることが見つかりました。

LUGROUP CANNOT BE ADDED DYNAMICALLY

LUGROUP オペランドを PU 定義ステートメントに動的に追加しようと試みました。しかし、VTAM は動的変更によってこのオペランドを追加することはできません。このオペランドを追加したい場合は、動的再構成を使用して PU を削除し、LUGROUP とともに定義に追加し直してください。

MACRO SEQUENCE ERROR

DR 定義デッキに含まれている定義ステートメントの順序が、正しくありません。回線ターゲットの後には PU、PU 定義ステートメントの後には LU がなければなりません。PU 定義ステートメントは、回線への追加、回線間の移動、回線からの削除の後に、続けなければなりません。LU 定義ステートメントは、PU への追加、PU への移動、PU からの削除の後に、続けなければなりません。

MISSING MACRO

DR デッキに、定義ステートメントがありません。VBUILD 定義ステートメントは必須です。ヌルの定義デッキは、無効です (VBUILD 定義ステートメントの後になにもない)。ヌルの機能のグループは、無効です (機能グループに PU、または LU 定義ステートメントがない)。

MISSING NAME ON PU OR LU MACRO

DR 定義デッキ内の PU または LU ステートメントに名前がコーディングされていません。追加中、削除中または移動中のすべての PU および LU リソースに、名前が必要です。

MISSING PARAMETER

DR 定義デッキ内の定義ステートメントに、必要なオペランドがありませんでした。

NO RESOURCES FOUND UNDER FROM LINE/PU

DR DELETE または DR MOVE 機能が要求された回線、または PU リソースは、リソースを持っていません。

OPERANDS COULD NOT BE ADDED DYNAMICALLY

APPN オペランドを PU に動的に追加しようと試みましたが、その PU にこれらの APPN オペランドを動的に追加することはできません。その代わりに、動的再構成を使用して PU を削除し、必要な APPN オペランドとともに定義に追加し直すことができます。

PUDR=NO OR LUDR=NO CODED ON RESOURCE DEFINITION

その定義ステートメントに PUDR=NO か LUDR=NO のいずれかがコーディングされているリソースを動的に削除、または移動しようと試みました。PUDR=NO や LUDR=NO は、そのリソースで動的再構成を実行できないことを示しています。

PUTYPE CANNOT BE CHANGED DYNAMICALLY

指定されたリソースの PUTYPE の値を変更しようとした。

RESOURCE NOT FOUND WHERE SPECIFIED

指定されたターゲット *fromname* の下には存在しないリソースを削除または移動しようとした。

SYNTAX ERROR

DR 定義デックに構文エラーがあります。

TO/FROM RESOURCE NOT IN SAME NCP

ある NCP 側の回線と、別の NCP 側の回線との間で PU、または LU を、DR MOVE しようとした。

TO/FROM RESOURCE UNKNOWN

存在しないターゲットに、リソースを追加または移動しようとしたか、あるいは存在しないターゲットから、リソースを削除または移動しようとした。

システムの処置:

- MODIFY DR の場合、コマンドの処理は終了します。
- VARY DRDS の場合、IST368I に指定された *functiongroup* は処理されません。DR データ・セット *drname* の他の機能グループは、処理されます。
- VARY ACT コマンドについては、このリソースと従属リソースはスキップされますが、まだ残っている定義ステートメントは処理されます。

オペレーターの応答: メッセージ IST886I で示されたリソース *resource* に DISPLAY コマンドを入力してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

reason が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: オペレーターからの報告を参考にして、出されたコマンドと定義ステートメント (該当する場合) を訂正してください。

reason が **INSUFFICIENT STORAGE** であれば、ストレージを必要だけ大きくしてください。ストレージ不足エラーの場合は、バッファ・プールまたは CSA 開始オプションを再定義してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、

新しい開始オプションを使用してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

動的再構成と、MODIFY DR、VARY DRDS、および VARY ACT コマンドに関する情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST887I NO COS TABLE FOR *netid* - *text* MAY BE USED

説明: PU タイプ 4、または PU タイプ 5 (前のメッセージに示されています) に対する、DISPLAY COS コマンドに回答して、VTAM が、ネットワーク *netid* のサービス・クラス (COS) テーブルの表示を行おうとしました。PU タイプ 4 の場合は、*netid* に対する COS テーブルが PU 用の BUILD、または NETWORK 定義ステートメントのどちらにも定義されていませんでした。

DISPLAY COS,NETID=*NETWORK が入力されると、COSTAB キーワードがモデル・ネットワーク・ステートメントにコーディングされていない場合は、モデル・ネットワークについての、このメッセージが出されます。COSTAB キーワードが、モデル・ネットワーク・ステートメントにコーディングされている場合、VTAM は、メッセージ IST862I を出します。

text は次のいずれかです。

ISTSDCOS

ISTSDCOS (デフォルトのサービス・クラス・テーブル) は、ネットワーク *netid* で使用される仮想経路を識別するために、使用される場合があります。

DEFAULT ALGORITHM

デフォルトのサービス・クラス・テーブル ISTSDCOS は、VTAM の初期設定時にまたは後の MODIFY TABLE コマンドによってロードされませんでした。デフォルトのアルゴリズムが、ネットワーク *netid* で使用する仮想経路を識別するために使用される場合があります。

デフォルトのルーティング・アルゴリズム、サービス・クラス・テーブルの定義、およびサービス・クラスの解決の詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。BUILD および NETWORK 定義ステートメントの COSTAB オペランドの説明については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST888I ADDR + LENGTH VALUES EXCEED STORAGE - LENGTH SET TO *n*

説明: VTAM は、DISPLAY NCPSTOR,TYPE=DUMPVEC コマンドに回答して、このメッセージを出します。要求された NCP ストレージ域は大きすぎて表示できません。表示の長さは *n* までに変更されました。

システムの処置: コマンドは変更された長さで実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST889I **SID = sessionid**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST663I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST890I **AUTOLOGON SESSION SETUP FAILED**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST663I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST891I *netid.nodename1[.nodename2]* **GENERATED FAILURE NOTIFICATION**

説明: このメッセージは、セッション開始やセッション終了エラーが発生したときに拡張センス・データを提供するために、メッセージのサブグループの一部として出されます。このメッセージ・サブグループは、IST663I が先頭になっているメッセージ・グループに表示されています。

メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST891I netid.nodename1[.nodename2] GENERATED
FAILURE NOTIFICATION
[IST892I resourcename ORIGINATED FAILURE
NOTIFICATION]
IST893I ORIGINAL FAILING REQUEST IS request
```

IST891I

- *netid.nodename1* は、エラーを検出した NCP、CP、または SSCP のネットワーク修飾の名前です。
- *nodename2* が表示された場合、これは、以下のいずれかの状況で拡張センス・データを生成した NCP や物理装置の名前です。
 - 障害要求/応答を隣接移行 SSCP から受信した場合
 - 試行錯誤のルーティングの間に、隣接 SSCP からエラー通知を受信した後

IST892I

表示された場合、このメッセージは、エラーの原因を識別するために使用される関連リソース (*resourcename*) を識別します。

例えば、ゲートウェイ NCP が RNAA や SETCV 要求を拒否した場合、ゲートウェイ NCP 名がエラー通知の原因になっています。拒否応答を受信した SSCP はエラー通知を生成し、そのため終了プロシーチャーを開始しました。

IST893I

このメッセージは、エラーの原因によって失敗した要求を識別します。

request は、失敗した元の要求を識別します。例えば、ゲートウェイ NCP が CDINIT 処理の一部として、RNAA または SETCV 要求を拒否した場合、*request* は RNAA になります。

システムの処置: セッションのセットアップ処理は失敗します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 問題のデバッグを終了プロシーチャーの

開始に責任のある、システム・プログラマーとともに調整してください。その他の情報については、メッセージ IST663I を参照してください。拡張センス・データ (X'35') 制御ベクトルの詳しい説明については、「SNA Network Product Formats」を参照してください。

IST892I *resourcename* **ORIGINATED FAILURE NOTIFICATION**

説明: このメッセージは、メッセージ・サブグループの一部です。サブグループの最初のメッセージは IST891I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST893I **ORIGINAL FAILING REQUEST IS** *request*

説明: このメッセージはメッセージ・サブグループの一部として出されます。サブグループの最初のメッセージは IST891I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST894I **ADJSSCPS TRIED FAILURE SENSE ADJSSCPS TRIED FAILURE SENSE**

説明: 以下のいずれかの理由でセッション開始に失敗したときに、VTAM はこのメッセージをメッセージ・サブグループの一部として出し、隣接 SSCP テーブル情報を提供します。

- 隣接 SSCP テーブルを使用する試行錯誤のルーティングが失敗しました。宛先 LU は SSCP によって見つかりましたが、その *sscpname* は *sense* でセッション開始を拒否しました。
- 隣接 SSCP テーブルを使用する試行錯誤のルーティングがそのテーブルを使い果たしました。すべての隣接 SSCP テーブルが試みられましたが、宛先 LU はどの SSCP にも認識されていませんでした。

このメッセージ・サブグループは、IST663I が先頭になっているメッセージ・グループに表示されています。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST894I ADJSSCPS TRIED FAILURE SENSE ADJSSCPS TRIED
FAILURE SENSE
IST895I sscpname sense [sscpname sense]
:
```

IST894I このメッセージは、IST895I で表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST895I このメッセージは、試行錯誤のルーティングが試みられた隣接 SSCP の名前です。SSCP 名は、試みられた順序で表示されます。

sscpname は隣接 SSCP の名前です。

sscpname が **ISTAPNCP** であれば、これは ADJSSCP テーブルに指定されている項目で、APPN ネットワークの探索を表します。詳細については、*VTAM Network Implementation Guide*を参照してください。

sense はセンス・コードで失敗の原因を示します。*sense* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: セッションのセットアップは失敗しました。

オペレーターの応答: 問題判別のためのシステム・ログを保管し、システム定義に使用されているファイルを提供してください。

プログラマーの応答: 問題の原因を判別するために提供された報告、およびシステム定義ファイルを調べてください。(他のネットワークのシステム・プログラマーと共に、システムを定義するための別のネットワークで使用されている、隣接 SSCP テーブルを判別する必要がある場合があります。)

IST895I *sscpname sense* [sscpname sense]

説明: このメッセージは、メッセージ・サブグループの一部です。サブグループの最初のメッセージは IST894I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST896I **AUTOLOGON WILL BE RETRIED WHEN CONTROLLING PLU IS AVAILABLE**

説明: このメッセージは、自動ログオン・セッションの開始が、制御 PLU が使用可能でないために失敗するときに出されます。自動ログオンによって生成された開始要求は指定したリソースが使用可能になると通知を要求します。リソースが使用可能になるときに通知が発生し (メッセージ IST899I を参照)、自動ログオンは再試行されます。

システムの処置: セッション設定は失敗します。

オペレーターの応答: 問題が SSCP 制御 PLU セッションと関係する場合、制御 PLU を開始してください (SETLOGON START)。制御 PLU がドメインにないときは、他のドメインまたはネットワークのネットワーク・オペレーターと作業してください。

プログラマーの応答: なし。

IST897I [NONDISRUPTIVE] LOAD OF *ncpname* [WITH *loadmodname*] STARTED

説明: VTAM は、通信コントローラー *ncpname* のロードまたは非介入ロードを NCP ロード・モジュール *loadmodname* で開始しています。*loadmodname* は、ロード・モジュール名が *ncpname* と異なるときに、メッセージに含まれます。

システムの処置: 通信コントローラーへロード中です。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST898I **GWSELECT = {YES|NO}**

説明: ネットワーク間 CDRM に対し、DISPLAY ID コマンドが出された結果として、VTAM はこのメッセージを出します。このメッセージは、表示される CDRM に対して出され、またはそこから出される LU-LU セッション要求の処理中に、ホスト CDRM がゲートウェイ NCP 選択を行うかどうかを示します。

値が **YES** の場合は、ゲートウェイ NCP 選択がホスト CDRM によって行われることを示します。

値が **NO** の場合は、ゲートウェイ NCP 選択がホスト CDRM によって行われないことを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST899I **RETRY OF AUTOLOGON(S) TO *pluname* {action}**

説明: 自動ログオン・セッション・セットアップに必要なリソースが使用可能でないために、前の自動ログオン (AUTOLOGON) の試みが失敗した場合、VTAM はこのメッセージを出します。このメッセージに先行して IST896I が出され、自動ログオンはそのリソースが使用可能になったときに再試行されることを示します。

pluname は、リソース・ネットワーク修飾の名前です。

action は、システムがどのように自動ログオンの試みを扱うかを示します。

IN PROGRESS

pluname への自動ログオンの試みが進行中であることを示しています。制御 PLU が開始されたか、SSCP-SSCP や CP-CP セッションが使用可能になりました。リソースが使用可能でなかったために失敗した前の自動ログオンが再試行されています。

WILL NOT OCCUR

CDRM の非活動化についての通知を受信した場合、自動ログオンの試みが行われないことを示しています。

FOR AUTOTI

START オプション AUTOTI によって設定されたタイマーが期限切れになった制御 PLU に対して、再試行が行われます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST900I **TRACE PRINT UTILITY STARTED**

説明: MODIFY コマンドの TPRINT オペランドが正常に処理されたか、TPRINT ユーティリティ・プログラムが VTAM とは独立したジョブ・ステップとして実行されました。トレース印刷ユーティリティが開始されました。

システムの処置: TPRINT オプションを入力するようにオペレーターに知らせます。指定したノードからの TRACE 出力は SYSLST 装置へ向けられ、要求したすべてのトレース・データが印刷されるまで続きます。

オペレーターの応答: メッセージ IST905A、IST906A、および IST908A から TPRINT オプションを入力するように促されます。

プログラマーの応答: なし。

IST901A **'PRINT' OR 'CANCEL' MISSING - REENTER LINE**

説明: メッセージ IST905A または IST901A の応答は必要な verb PRINT または CANCEL で始まっていませんでした。

システムの処置: VTAM は訂正した応答を待ちます。

オペレーターの応答: オペランド付きまたはなしで TPRINT 応答を再入力するか、または CANCEL を入力してください。プログラマーの応答: なし。

IST902A INVALID PRINT OPTION - REENTER LINE

説明: TPRINT 要求の処理中、VTAM は必要なキーワード・オペランドを見つけれなかったか、または無効なキーワードを見つけました。有効なキーワード・オペランドは IO、BUF、LINE、TNST、CLEAR、および INTERVAL です。システムの処置: 訂正したオペランドの入力を待ちます。オペレーターの応答: 正しくキーワードを指定して行全体を再入力してください。プログラマーの応答: なし。

IST903A INVALID PRINT NODENAME - REENTER LINE

説明: 指定したノード名が次のうちの 1 つの理由で無効です。

- 8 文字を超える英数字を含んでいました。
- 使用可能な文字以外の文字を含んでいました。
- 文字で始まっていませんでした。

システムの処置: VTAM は訂正したノード名の入力を待ちます。

オペレーターの応答: ノードに対する名前を確かめてください。それから、訂正した名前で行全体を再入力してください。TPRINT 要求を取り消したい場合は、CANCEL を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST904A MAXIMUM OF 50 NODENAMES - ENTER ADDITIONAL OPTIONS

説明: 指定したノード名の数 VTAM のトレース印刷機能の限界の 50 に達しました。オプション ALL が許可されるのは、IO、BUF、LINE、および TNST キーワード・オペランドの場合だけです。

システムの処置: 次のオプションの入力を待ちます。

オペレーターの応答: 追加のオプションのみを入力してください。CLEAR、INTERVAL、ALL が許されるオプションです。

プログラマーの応答: なし。

IST905A ENTER TRACE PRINT OPTIONS OR 'CANCEL'

説明: VTAM トレース印刷ユーティリティ・プログラムには印刷オプションを指定することが必要です。

システムの処置: 処理は印刷オプションの入力を待ちます。

オペレーターの応答: TPRINT を入力してください。

CANCEL も入力できます。これで編集処理を開始する前にトレース印刷機能は停止します。受け入れられるキーワードは IO、BUF、LINE、TNST、ALL、INTERVAL、および CLEAR です。

プログラマーの応答: なし。

IST906A ENTER ADDITIONAL OPTIONS OR 'CANCEL'

説明: 先に入力した項目がコンマで終わっています。コンマは継続を示しています。

システムの処置: 処理は追加オプションの入力を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかを行ってください。

- 追加のトレース・オプションを入力してください。
- マル項目を入力してオプションの終わりということを示してください。
- CANCEL を入力して編集処理を開始する前にトレース印刷機能を終了してください。

プログラマーの応答: なし。

IST907A SNAPSHOT MODE TPRINT? ENTER Y OR N

説明: このメッセージは、トレース・データの記録を延期させることなく、VTAM のバッファにあるトレース・レコードを編集するためのオプションを提供します。

システムの処置: 応答を待ちます。

オペレーターの応答: Y または N を入力してください。

- Y と入力した場合、TPRINT が、VTAM のトレース・ファイルをアクセスしないで VTAM のトレース・バッファにあるレコードを編集し、印刷します。レコードを編集し、印刷します。
- N と入力した場合、記録処理が延期され、VTAM のトレース・ファイルが読み込まれ、編集、印刷されます。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

IST908A OFFLINE MODE TPRINT? ENTER Y OR N

説明: TPRINT は、ユーティリティ・ジョブ・ステップとして、実行されます。このメッセージは VTAM によって使用されていないファイルの (VTAM 処理に対して、オフラインです) SYS004 を編集するオプションを提供します。

システムの処置: 応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- 編集されるべきファイルが、VTAM によって使用されていないファイルの場合は、Y を入力してください。これは、アーカイブ・ファイルと呼ばれます。
- TPRINT が、VTAM の TRFILE を編集する場合は、N を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

**IST909A INVALID INTERVAL SPECIFIED -
REENTER LINE**

説明: INTERVAL オペランドに対して指定した値が無効な形式であるか、または無効な日付または時刻です。

システムの処置: VTAM は正しく指定したオペランドの入力を待ちます。

オペレーターの応答: 正しく指定した INTERVAL オペランドを指定して行全体を再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST910I TRACE PRINT UTILITY ENDED

説明: VTAM トレース印刷ユーティリティ・プログラム TPRINT は要求された編集および印刷を完了しました。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは終了します。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST911I TPRINT CANCELLED - INVALID SYS004
ASSIGNMENT**

説明: TPRINT ユーティリティ・プログラムは VTAM が非活動状態の間、実行していました。このプログラムはトレース編集が行われるファイルがあるものと想定していますが、それがありませんでした。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは終了します。

オペレーターの応答: SYS004 をトレース・ファイルに割り当てるジョブ制御ステートメントを追加してください。

プログラマーの応答: なし。

**IST912I TPRINT CANCELLED - VTAM
TERMINATION IN PROGRESS**

説明: VTAM トレース・ファイル (ONLINE) またはバッファ (SNAPSHOT) の編集を VTAM HALT コマンドが入力された後に行いました。これらのオプションのいずれに対しても、VTAM が活動状態でなければなりません。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは終了します。

オペレーターの応答: OFFLINE MODE オプションを使用するか、または VTAM が活動状態のときに TPRINT ユーティリティ・プログラムを実行してください。

プログラマーの応答: VTAM の HALT 処理をトレースしたい場合には、オペレーターに VTAM 以外の区画でジョブ・ステップとして TPRINT を実行してもらってください。

**IST913I TPRINT CANCELLED - ALREADY IN
PROGRESS**

説明: 1 つのトレース印刷ユーティリティ・プログラム (TPRINT) のみが一時点で VTAM トレース・ファイルまたはバッファにアクセスできます。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムに対する 2 番目の要求は無視されます。

オペレーターの応答: 現在実行中の TPRINT プログラムの処

理が完了するまで待つてから、2 番目の TPRINT 要求を再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

**IST914I TPRINT EDITING OFFLINE FILE ON
SYS004**

説明: トレース印刷ユーティリティ・プログラム (TPRINT) は SYS004 ファイル上でオフラインで編集しています。このオプションはオフライン処理モードのオペレーターの選択により、またトレース・ファイルを SYS004 に割り当てたことにより選ばれました。

オペレーターの応答: MSG (または MODIFY

MSG,ID=TPRINT) コマンドを使用して、ファイルの編集が通常に完了する前に取り消すことができます。

TPRINT を別の区画で実行していて、トレースがアクティブで、SNAPSHOT 'N' が要求されている場合、SYS004 および SYS001 の両方が TRFILE に割り当てられていることを確認してください。SYS004 が正しく割り当てられていなければ、メッセージ IST915I ではなく IST914I が出されます。

プログラマーの応答: なし。

**IST915I TRACE RECORDING SUSPENDED FOR
ONLINE TPRINT**

説明: トレース印刷ユーティリティ・プログラム (TPRINT) が VTAM トレース・ファイルのオンライン編集を行っています。このオプションは非オフライン処理モードのオペレーターの選択により、また SYS001 および SYS004 ファイルを編集に選択したことにより選ばれました。SYS001 および SYS004 の両方が TRFILE を指している必要があります。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは処理を続けます。TPRINT の処理中、トレース・データの収集は中断します。

オペレーターの応答: MSG (または MODIFY

MSG,ID=TPRINT) コマンドを使用して、ファイルの編集が通常に完了する前に取り消すことができます。

プログラマーの応答: TPRINT を別の区画で実行するときの詳細については、「VTAM Diagnosis」で『Using TPRINT』を参照してください。

**IST916I SNAPSHOT TPRINT PROCEEDING - NO
FILE PROVIDED**

説明: トレース印刷ユーティリティ・プログラムが VTAM のバッファ内でトレース・レコードの編集および印刷中です。このオプションは SNAPSHOT 処理モードのオペレーターの選択およびファイルを与えないこと (なにも必要とされない) によって選ばれました。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは処理を続けます。VTAM トレースはデータの収集を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST917I RECORDS MISSING ON TRACE FILE

説明: トレース印刷ファイルの編集時、トレース印刷ユーティリティ・プログラム (TPRINT) でトレース・レコードの損失がありました。トレース・レコードは TPRINT、REWIND、または CANCEL 要求によるトレースの記録の割り込みのためになりました。メッセージ IST596I が前もって出され、割り込みの原因となった状態をリストしました。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST918A operand VALUE IS NOT VALID - REENTER LINE

説明: CLEAR または FORMAT が指定されると、YES または NO のいずれかの値しか使用できなくなります。

operand は CLEAR または FORMAT のいずれかです。

システムの処置: VTAM はメッセージへの応答を待ってからトレース要求を処理します。

オペレーターの応答: CLEAR = YES か CLEAR = NO、または FORMAT = YES か FORMAT = NO を選択して、行全体を再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST919I NODE *nodename* NO LONGER HAS CONTROLLING LU [*luname*]

説明: VARY NOLOGON コマンドの処理が完了しました。

nodename が別の PLU とのセッション中、またはキュー内がないとき、ノード *nodename* は *luname* へ自動的にログオンされなくなります。*luname* は LU が NOLOGON コマンドにどのように指定されているかによって、含まれるか、含まれないかが決定されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST920I *bpid* [Q] [F] BUFF SIZE *bufsize* EXP INCREMENT *increment*

説明: このメッセージは、DISPLAY BFRUSE コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```

IST350I DISPLAY TYPE = BUFFER POOL DATA
IST920I bpid [Q] [F] BUFF SIZE bufsize
      EXP INCREMENT increment
IST921I          TIMES EXP times
      EXP/CONT THRESH exp/contthresh
IST922I          CURR TOTAL curtot
      CURR AVAILABLE curavail
IST923I          MAX TOTAL maxtot
      MAX USED maxused
[IST989I          EXP LIMIT explimit
BUFFS REQUESTED buffers]
[IST924I -----]
```

メッセージ・サブグループは、BUFFER オプションで指定された各 VTAM バッファ・プールに対して、繰り返されます。

IST920I

bpid は、バッファ・プールの名前です。バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

Q が表示されている場合、これは要求がプールでキューイングされていることを示します。このフィールドは通常、ブランクです。

F が表示されている場合、これは動的バッファリングが失敗したことを示します。このフィールドは通常、ブランクです。

bufsize は、各バッファ内のバイト数を表す 10 進数の値です。

IOBUF の場合は、このメッセージの *bufsize* に、87 バイトのオーバーヘッド値を追加しなければなりません。バッファ・プールのデフォルトのサイズについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

increment は、動的拡張中にプールに追加すべきバッファ数を示しています。

バッファは、全ページ単位で追加されます。したがって、バッファ数は、バッファ・プール開始オプションでバッファ・プールを定義するために使用された数 (*xpanno*) より大きくなる可能性があります。動的バッファリングが抑止されると、このフィールドには *NA* が入ります。

IST921I

times は、最新のバッファ・プール・トレース・レコードが書き込まれてから、プールが拡張された回数を示しています。

exp は、トリガーの拡張がいつ起きるかを示し、バッファ・プール開始オプションの *xpanlim* パラメーターから得られます。

使用可能なバッファ数が、*xpnpt* より落ちた場合は、VTAM がバッファを追跡します。動的バッファリングが抑止されると、このフィールドには *NA* が入ります。これは、バッファ拡張限界 (*xpanlim*) が、バッファ基底数 (バッファ・プール開始オプションに指定された *baseno*) 以下のために、起きる可能性があることに注意してください。

contthresh は、トリガー状態がいつ起きるかを示す値です。

プール内の使用可能なバッファ数 (*curavl*) が、*contthresh* より大きくなり、いくつかのバッファ数が、プール拡張によって、動的に獲得されていた場合、VTAM は、動的に獲得された使用可能なバッファをオペレーティング・システムに戻します。使用可能なバッファを解放する場合、バッファはページ単位で解放されるので、ページ上のすべてのバッファが、使用可能でなければなりません。動的に獲得されたバッファがない場合、このフィールドには、*NA* が入ります。

IST922I

curtot は、プール内のバッファの総数を示します。

IST921I • IST926I

curavail は、使用中でない、プール内の使用可能なバッファを示します。

IST923I

maxtot は、最新のバッファ・プール・トレース・レコードが書き込まれてから、プールに含まれていたバッファの最大数を示しています。

maxused は、最新のバッファ・プール・トレース・レコードが書き込まれてから、一時点において、使用中だったバッファの最大数を示しています。

IST989I

拡張が失敗したか、要求がキューイングされた場合、このメッセージが出されます。メッセージ IST989I は必ず IO00 プールに対して出されます。Q が表示されている場合は、他のプールに対しても出されます。

explimit は、このバッファ・プール用に許可されたバッファの最大数を示しています。

これは VTAM が始動したときに、バッファ・プール開始オプションに指定された *xpanlim* 値から得られます。
xpanlim 値が指定されていない場合、VTAM はバッファの最大数を使用します。動的バッファリングが抑止されると、このフィールドには *NA* が入ります。

buffers は、すべての未解決の、キューイングされた要求について要求されたバッファの合計を示します。キューイングされた要求が存在しない場合、このフィールドはゼロになります。

注: VTAM は、このメッセージ・グループと共に、追加のメッセージ・サブグループを出す可能性があります。このサブグループの詳しい説明については、メッセージ IST449I の説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST921I TIMES EXP *times* EXP/CONT THRESH *exp/contthresh*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST920I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST922I CURR TOTAL *curtot* CURR AVAILABLE *curavail*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST920I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST923I MAX TOTAL *maxtot* MAX USED *maxused*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST920I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST924I

説明: このメッセージは行区切りで、いくつかの異なるメッセージ・グループの一部として出されます。読みやすさのために、または情報のタイプを分けるために使用されます。このメッセージが各グループでどのように使用されるかについては、そのグループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST925I DYNAMIC PATH DEFINITION *pathname* STATUS = *status*

説明: このメッセージはある NCP (動的経路定義が存在する場合、またはホスト PU に対して、通常の PATH デックあるいは動的経路定義が存在する場合) に対する DISPLAY ID コマンドを出した結果として出されます。メッセージ IST925I は動的経路定義の各経路名に対して一度出され、経路名 *pathname* とその状況を表示します。

status は、次の値のいずれかです。

RESET 初期状態

DEFND

システムによって処理された経路情報

PLOAD

動的経路更新メンバー (NCPPATH) がロード中

ACTIV 経路テーブルまたは動的経路更新メンバーが活動状態、つまりロード済み

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST926I PATH FOR *pathname* IGNORED - NODE *nodename* NOT FOUND/INVALID

説明: VTAM は、以下のコマンドの 1 つを処理中に起きたエラーの応答として、このメッセージを出します。

- VARY ACT,ID=*ncpname* ここで NEWPATH オペランドは PCCU 定義ステートメントの処理中に見つかります。
- VARY ACT,ID=*ncpname*,NEWPATH=*pathname*
- VARY ACT,ID=*pathname*

pathname を含む動的経路更新セットの活動中に、リソース *nodename* を見つけられなかったか、または無効でした。

システムの処置: *pathname* の動的経路更新セットは無視されます。*pathname* を含む経路更新セットの処理は続けられません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST927I ERROR FOR *ncpname.pathname* DSA
destsubarea text CODE code

説明: VTAM は、以下のコマンドの 1 つを処理中に起きたエラーの応答として、このメッセージを出します。

- VARY ACT,ID=*ncpname* ここで NEWPATH オペランドは PCCU 定義ステートメントの処理中に見つかります。
- VARY ACT,ID=*ncpname*,NEWPATH=*pathname*
- VARY ACT,ID=*pathname*

pathname を含む動的経路更新セットの活動中に、NCP *ncpname* への SETCV RU 要求から、否定応答を受け取りました。

宛先サブエリア (DSA) は、*destsubarea* で示されます。

text と *code* の組み合わせによりエラーの原因が示されます。

- *text* が **ERN** *ern* であれば、考えられるコードは以下のようになります。

CODE 2

明示経路番号 *ern* への制御ブロック割り振りが失敗しました。

CODE 3

明示経路番号 *ern* は現在、操作可能です。

CODE 10

明示経路番号 *ern* に指定された隣接サブエリアの大きさが SALIMIT を超えています。

CODE 11

明示経路番号 *ern* が ERLIMIT と矛盾しています。

- *text* が **NETID** *netid* であれば、考えられるコードは以下のようになります。

CODE 1

ネットワーク ID *netid* が無効です。

CODE 2

ネットワーク ID *netid* への制御ブロック割り振りが失敗しました。

CODE 8

ネットワーク ID *netid* 内の拒否された ER、VR または VRPWS サブフィールドへのメッセージが続きます。

CODE 9

宛先サブエリアの大きさが、ネットワーク ID *netid* に指定された SALINIT を超えています。

- *text* が **VRN/TPF** *vrn/tpf* であれば、考えられるコードは以下のようになります。

CODE 2

仮想経路番号/伝送優先順位フィールド *vrn/tpf* への制御ブロック割り振りが失敗しました。

CODE 4

仮想経路番号 *vrn* が、未定義の明示経路番号 *ern* にマップされています。

CODE 5

仮想経路番号 *vrn* が、異なる (*ern* ではない) 明示経路にマップされています。

CODE 6

仮想経路番号/伝送優先順位フィールド *vrn/tpf* に対応する仮想経路 (VR) が、その経路定義にありません。

CODE 7

仮想経路番号/伝送優先順位フィールド *vrn/tpf* がすでに活動中です。

CODE 11

仮想経路番号 *vrn* が、ERLIMIT と矛盾する明示経路番号 *ern* にマップされています。

NCP 定義ステートメントでの VTAM オペランドの正しい使用方法については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。動的経路更新の説明については、「VTAM Network Implementation Guide」を更新してください。

システムの処置: *pathname* の動的経路更新セットは無視されます。*pathname* を含む経路更新セットの処理は続けられます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 動的経路更新セットを訂正して、失敗したコマンドをもう一度入力してください。

IST928I DELETER KEYWORD FOR *pathname* IGNORED

説明: このメッセージは、以下のコマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

- VARY ACT,ID=*ncpname* ここで NEWPATH オペランドは PCCU 定義ステートメントの処理中に見つかります。
- VARY ACT,ID=*ncpname*,NEWPATH=*pathname*
- VARY ACT,ID=*pathname*

グループの詳しい説明は、以下の通りです。

IST928I DELETER KEYWORD FOR *pathname* IGNORED
 IST523I REASON = *reason*

VARY コマンドの処理中に、DELETER=*ern* オペランドが、*pathname* を含む動的経路更新セットで検出されました。

pathname は、PATH 定義ステートメントでエラーのあるラベルを示します (ラベルがない場合には、***NA***) です。

reason は次のいずれかです。

DEST SUBAREA *destsa* INVALID

pathname を含む動的経路更新セットは、*destsa* 名が無効なため、無視されます。

ER *ern* IS OPERATIVE

明示経路 *ern* は現在活動中なので、削除できません。

ER *ern* NOT FOUND

明示経路 *ern* が見つからないので、削除できません。

システムの処置: *pathname* の動的経路更新セットは無視されます。*pathname* を含む経路更新セットの処理は続けられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST929I LOAD OF DYNAMIC PATH DEFINITION
ncpname,pathname COMPLETE

説明: VTAM はこのメッセージを以下のいずれかのコマンドへの応答として出します。

- VARY ACT,ID=*ncpname* ここで NEWPATH オペランドは PCCU 定義ステートメントの処理中に見つかります。
- VARY ACT,ID=*ncpname*,NEWPATH=*pathname*
- VARY ACT,ID=*pathname*,

pathname を含む動的経路更新セットによる NCP *ncpname* のロードが完了しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST930I *nodename1 - nodename2* SESSION USING
percentage OF bpBUF

説明: 示されているセッションが *bpBUF* バッファ・プールの 10 パーセント、またはそれ以上を使用していることを VTAM が検出しました。

注: このメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

nodename1 と *nodename2* は、プールの最大パーセンテージを使用するセッションのセッション・パートナーです。VTAM がノード名を認識しない場合、ノード ID は、*subareaelement* の形式で表示されます。*subarea* はサブエリアで、*element* は、ネットワーク・アドレスの要素部分です。

bpBUF はバッファ・プールの名前です。

percentage は、このセッションによって使用されているバッファ・プールのパーセンテージです。

nodename1 と *nodename2* 間のセッションが、バッファ・プールの大部分を使用している場合は、以下のいずれかの状況であると思われる。

- *nodename1* か *nodename2* に誤動作がある。VTAM のデータあふれの原因となるハードウェア、マイクロコード、およびアプリケーション・プログラム・エラーが考えられます。
- *nodename1* か *nodename2* のどちらにも誤動作はないが大量のデータが、有効なペーシングなしでこのセッションに転送されている。

システムの処置: メッセージ IST154I、IST1098I、または IST1099I がこのメッセージとともに表示されます。

- メッセージ IST154I が表示された場合、この時点でバッファ・プールは拡張されていません。ストレージがさらに使用可能になった場合、VTAM はバッファ・プールを拡張しようとする場合があります。VTAM は、バッファの拡張に失敗することによって、逆に影響を受ける可能性があります。
- メッセージ IST1098I や IST1099I が表示された場合、処理は続きます。
 - セッションが SSCP-LU セッションであれば、LU は非活性化され、メッセージ IST1098I が表示されます。

- セッションが LU-LU セッション (CP-CP を含む) であれば、そのセッションは終了し、メッセージ IST1099I が表示されます。

セッションがバッファ・プールの 10 パーセント以上を使用していることを VTAM が判別すると、自動的にセッションを終了するかどうかの決定が行われます。パーセンテージが HOTIOTRM 開始オプションの値より大きいか、それと同じであれば、VTAM は、*nodename1* と *nodename2* との間の全セッションの終了を開始します。セッションが自動的に終了すると、VTAM はメッセージ IST1099I を出します。

オペレーターの応答:

- この問題の原因が誤動作の発生している装置 LU にある場合、VARY INACT コマンドを使用して、その装置を非活性化してください。最悪の場合、この装置を物理的に切り離すか、または電源を切る必要がある場合があります。
- 問題が、VTAM のアプリケーション・プログラムによるものとして現れる場合、問題判別のためにプログラムのダンプをとり、アプリケーション・プログラムを終了してください。
- VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドの実行結果の出力を収集してください。

プログラマーの応答:

- セッション・ペーシングが、バッファ・プールの大部分を使用しているセッションに、有効であるかどうかを確かめてください。BIND 要求単位には、各セッションで使用されている値が含まれています。セッション・ペーシングの詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- このメッセージの前にメッセージ IST154I が表示され、*nodename1* と *nodename2* との間のセッションがバッファ・プールの大部分を使用していない場合、バッファ・プールのサイズが、少なく見積もられている可能性があります。
- メッセージ IST154I が出された場合、そのメッセージの *code* の説明を使用して、修正が必要なバッファ・プールを判別してください。
- バッファ・プールや CSA 開始オプションを再定義する必要がある可能性があります。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。
- これらのセッションを VTAM に自動的に終了させたい場合、*percentage* 以下の値を HOTIOTRM 開始オプションに指定してください。この開始オプションは、MODIFY VTAMOPTS コマンドで修正することができません。
- 詳細については、以下のマニュアルを参照してください。
 - バッファ・プールの説明、およびバッファ・プール仕様と割り振りの一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
 - HOTIOTRM 開始オプションおよびその他の VTAM 開始オプションについて詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

**IST932E FAILURE OCCURRED DURING
TAKEOVER OF luname, SENSE=sense**

説明: SSCP による LU *luname* の引き継ぎ時、BFSESSINFO RU を処理している間に、VTAM がセッションに関連するアドレスを記録できませんでした。

sense の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: LU *luname* に関連するセッションは終了します。

オペレーターの応答:

- PU を非活動化し、再活動化してください。
- ストレージ不足が頻繁に発生する場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: ストレージ不足が頻発する場合は、バッファ・プールのサイズを大きくする必要があります。

バッファ・プールの説明、およびバッファ・プール仕様と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

DISPLAY BFRUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

**IST933I LOGMODE=logmode, COS=cosentry [(FROM
OLU)]**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。このグループに関する詳しい説明については、メッセージ IST879I の説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST934I DLOGMOD=dlogmode USS
LANGTAB=langtab**

説明: このメッセージは、アプリケーション小ノード、または LU に対する DISPLAY ID コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

dlogmode は、ログオン・モード名がセッションの開始要求に提供されていなかった場合に、リソースによって使用されるデフォルトのログオン・モードです。デフォルトのログオン・モードが指定されていない場合、VTAM は *dlogmode* に *****NA***** を表示します。

langtab は、この LU に定義された言語テーブルの名前です。値が *langtab* に指定されていない場合、または DISPLAY ID コマンドが LU に対して入力されなかった場合、VTAM は、*langtab* に *****NA***** を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST935I ORIGIN=ncpname, NETID=netid,
ID=resourcename**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST863I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST936I ANSWER MODE = answermode

説明: このメッセージは、回線の方向 (または状態) を表示します。

answermode は次のいずれかです。

RESET

初期状態 (例、回線は非活動状態です)

ENABLED

指定された回線は、入力呼び出しを受け入れます。

DISABLED

指定された回線は、入力呼び出しを受け入れません。

PENDING DACTCONNIN RESPONSE

指定された回線が、入力呼び出しを受け入れ不能にするための DACTCONNIN RU に対する応答が、保留されています。

NEGATIVE DACTCONNIN RESPONSE

指定された回線が、入力呼び出しを受け入れ不能にするための DACTCONNIN RU に対応する否定応答が、受信されました。

PENDING ACTCONNIN RESPONSE

指定された回線が、入力呼び出しを受け入れ可能にするための ACTCONNIN RU に対応する応答が、保留されています。

NEGATIVE ACTCONNIN RESPONSE

指定された回線が、入力呼び出しを受け入れ不能にするための ACTCONNIN RU に対応する否定応答が、受信されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *answermode* が **NEGATIVE**

ACTCONNIN RESPONSE の場合は、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。

他のすべての *answermode* の値の場合には、処置は必要ありません。

プログラマーの応答: *answermode* が **NEGATIVE**

ACTCONNIN RESPONSE の場合は、構成が有効で NCP が正しく応答しているかを確かめてください。これは、NCP 生成と、生成された回線名の対応によって、判別することができます。

**IST937A loadmodname CORRELATOR MISMATCH
correlator1 - correlator2 REPLY 'RELOAD',
'INACT', OR 'IGNORE'**

説明: NCP ロード・モジュール *loadmodname* の活動化中に生成された相関子 *correlator1* が、通信コントローラーにロードさ

れた相関子 *correlator2* と一致しません。

VFYC=YES が、NCP の PCCU 定義ステートメントに指定されていました。したがって、オペレーターは通信コントローラーの再ロード、活動化の中止、不一致の無視を行う可能性があります。

システムの処置: 処理を続行します。メッセージ IST937A は、正しい応答が入力されるまで、繰り返し出されます。オペレーターの応答: 通信コントローラーを再ロードする場合は、'RELOAD' と応答してください。通信コントローラーが再ロードされたときには、その通信コントローラーを共用している他の VTAM は、影響を受けます。

通信コントローラーの活動化を中止する場合は、'INACT' と応答してください。これは、結果的に、この VTAM で活動状態にあるロード・モジュールと、同じ通信コントローラーを共用している、他の VTAM で活動状態にあるロード・モジュールとの間で、ロード・モジュールの不一致を起こします。

不一致を無視して、活動化を続ける場合は、'IGNORE' と応答してください。ただし、不一致は、ユーザー・エラーかもしれないので、無視すると、潜在的な問題となる可能性があります。

プログラマーの応答: なし。

注: このメッセージへの応答方法の詳細については、413 ページの『VTAM オペレーター・メッセージに対する応答』を参照してください。

IST938I OPEN ACB REJECTED, CANNOT LOAD *phasename*

説明: OPEN ACB の処理中、ALOAD ルーチンが、動的にフェーズ *phasename* をロードすることができませんでした。

システムの処置: OPEN ACB 処理は失敗します。メッセージ IST017I が続きます。

オペレーターの応答: 補足情報と、推奨処置については、メッセージ IST017I を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST939I VARY NOLOGON HAD NO EFFECT - *applname* NOT FOUND FOR *nodename*

説明: VTAM はこのメッセージを、VARY NOLOGON コマンドへの応答で出します。指定された *applname* とは異なるアプリケーションとの制御関係が *nodename* に存在していたので、コマンドが失敗しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: DISPLAY ID コマンドを *nodename* に入力し、制御関係があるかどうか確認します。示されている *applname* で VARY NOLOGON コマンドを出し直してください

プログラマーの応答: なし。

IST940I *verid*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST680I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST946I BASENO *n* GREATER OR EQUAL TO XPANLIM *limit* BUFFERS

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST946I BASENO *n* GREATER OR EQUAL TO XPANLIM *limit*
BUFFERS

IST947I STATIC BUFFERING ASSUMED FOR *bp*BUF

バッファ・プール *bp* の開始オプションの処理中、およびバッファへの入力拡張限度の変換中に、VTAM は、拡張限度が、プール内のバッファ基底数よりも少なかったことを判別しました。バッファの初期数が、プールに割り振られる場合も、拡張が、拡張限度より上のプールに強制されるため、プールを拡張することができません。その結果、バッファ・プール *bp* に入力された *xpanpt* および *xpanno* の値は無視され、バッファ・プールは動的拡張なしで操作されます。

n は、バッファ・プールに割り振られたバッファの基本数です。これは、バッファ・プールに対する、開始オプション内の *baseno* オペランドの値です。

limit は、バッファ・プールに対する開始オプション内の *xpanlim* オペランドによって指定されたストレージに適合する、バッファの最大数です。バッファ・プール開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

bp は、バッファ・プールの名前です。バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。バッファ・プールは、動的バッファリングを行わないで、操作されます。DISPLAY BFRUSE コマンドが、バッファ・プールに対して入力されると、拡張限度値に対して *****NA***** が表示されます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。VTAM を再始動する必要がある場合があります。

プログラマーの応答: バッファ・プール *bp* に対して、動的バッファリングが必要かどうかを判別してください。必要な場合は、*bp* バッファ・プールの *baseno* および *xpanlim* に適切な値を指定して、VTAM を再始動してください。必要でない場合、処置は不要です。

IST947I STATIC BUFFERING ASSUMED FOR *bp*BUF

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST946I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST949I **ISTMGC10 IN VTAMLIB *reason* - VTAM
PROCESSING CONTINUES**

説明: VTAM は *reason* のため、デフォルトのフィルター・テーブルをロードできませんでした。

reason は次のいずれかです。

NOT FOUND

テーブルが、VTAMLIB 内に見つかりませんでした。

NOT LOADED

テーブルをロードするための使用可能なストレージが、不足していました。

NOT VALID

ISTMGC10 が、有効なタイプ ID を持っていませんでした。

システムの処置: VTAM はロード要求を無視し、初期設定を続けます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: テーブルが、故意に空のままにされたか、または故意にシステム・ライブラリーにロードされなかったかどうかを確かめてください。そうでなかった場合、以下に表示されている、*reason* についての手順に従ってください。

reason が **NOT FOUND** の場合、VTAM を停止して、システム・ライブラリーに、テーブルをロードして、VTAM を再始動してください。

reason が **NOT LOADED** の場合、必要に応じてストレージを増やして、テーブルをもう一度ロードしてください。

reason が **NOT VALID** の場合、ISTMGC10 が、正しいマクロ命令で生成されたかどうか、およびテーブル・タイプが、正しいかどうかを検査してください。正しくない場合、VTAM を停止して、システム・ライブラリー内の有効なテーブルのバージョンを使用して、VTAM を再始動してください。

IST950I **VCNS=YES**

説明: このメッセージは、アプリケーション・プログラムに出された DISPLAY ID コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、このアプリケーションが VTAM 共通ネットワーク・サービス (VCNS) ユーザーであることを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST951I **DISPLAY DISK INFORMATION FOR
*ncpname***

説明: このメッセージは、DISPLAY DISK コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST951I  DISPLAY DISK INFORMATION FOR ncpname
[IST957I  NO NCP LOAD MODULE OR DUMP ON DISK]
[IST952I  DUMP NAME      DATE      TIME
IST953I  dumpname      date      time]
```

```

:
:
[IST954I  LOAD MODULE  DATE      TIME
          STORE STATUS [ACTIVE]
IST955I  loadmodname  date      time
          status      [YES|NO]]
:
:
[IST924I  -----]
[IST1065I  LOAD MODULE REQUESTED IPL  ESTIMATED IPL
IST1066I  load_module requested_time
estimated_time]
:
:
IST965I  AUTO DUMP/LOAD: {YES|NO}
IST314I  END
```

IST951I

このメッセージは、表示のヘッダーとして出され、情報が表示される NCP *ncpname* を識別します。

IST957I

表示する情報がディスク上にない場合は、このメッセージが IST951I に続きます。

IST952I と **IST953I** サブグループ

表示する情報がディスク上にある場合、VTAM は、ダンプ情報が使用可能なときに、このサブグループを出します。メッセージ IST953I が、ディスク上のダンプについて、繰り返し出されます。このサブグループの補足情報については、メッセージ IST952I の説明を参照してください。

IST954I と **IST955I** サブグループ

表示する情報がディスクにある場合、VTAM は、ロード・モジュール情報が使用可能なときに、このサブグループを出します。メッセージ IST955I が、ディスク上の各ロード・モジュールについて繰り返し出されます。このサブグループの補足情報については、メッセージ IST954I の説明を参照してください。

IST924I

VTAM は、表示を読みやすくするために、このメッセージを出します。

IST1065I と **IST1066I**

表示する情報がディスク上にある場合、ディスク上の少なくとも 1 つのロード・モジュールで、IPL がスケジュールされたときに、VTAM が、このサブグループを出します。メッセージ IST1066I が、ディスク上の各ロード・モジュールについて、繰り返し出されます。このサブグループの補足情報については、メッセージ IST1065I の説明を参照してください。

IST965I

このメッセージは、NCP が異常終了した場合に、3720 または 3745 通信コントローラーが自動再 IPL を受け入れるかどうかを示すために、出されます。メッセージ IST965I が、自動ダ

IST952I • IST956I

ンプ、またはロードが、起きることを示している場合には、通信コントローラーで活動状態にあるロード・モジュールが、再ロードされます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST952I DUMP NAME DATE TIME

説明: VTAM は DISPLAY DISK コマンドに応答する、メッセージのサブグループの一部として、このメッセージを出します。

このメッセージ・サブグループは、メッセージ IST951I が先頭のメッセージ・グループに表示されます。追加情報については、そのメッセージの説明を参照してください。

表示する情報がディスク上にある場合、VTAM は、ダンプ情報が使用可能なときに、このサブグループを出します。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST952I DUMP NAME DATE TIME
IST953I dumpname date time
```

VTAM は、ディスク上の各 NCP ダンプについて、メッセージ IST953I を出します。このメッセージには、以下の情報が含まれます。

dumpname

ディスク上の NCP ダンプの名前

date ディスク上にダンプがロードされた日付

time ディスク上にダンプがロードされた時間

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST953I *dumpname date time*

説明: VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。サブグループの最初のメッセージは IST952I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST954I LOAD MODULE DATE TIME STORE STATUS [ACTIVE]

説明: VTAM は DISPLAY DISK コマンドに応答する、メッセージのサブグループの一部として、このメッセージを出します。

このメッセージ・サブグループは、メッセージ IST951I が先頭のメッセージ・グループに表示されます。追加情報については、そのメッセージの説明を参照してください。

表示する情報がディスクにある場合、VTAM は、ロード・モジュール情報が使用可能なときに、このサブグループを出します。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST954I LOAD MODULE DATE TIME STORE STATUS
[ACTIVE]
IST955I loadmodname date time status
[YES|NO]
```

VTAM は、表示される各ロード・モジュールについて、メッセージ IST955I を出します。メッセージには、以下の情報が含まれます。

loadmodname

ディスク上のロード・モジュールの名前。

date

ディスク上にロード・モジュールが格納された日付。

time

ディスク上にロード・モジュールが格納された時間。

status

ロード・モジュールの格納状態です。 *status* は次のいずれかです。

STORED

ロード・モジュールが、正常に格納されています。

STORING

ロード・モジュールを現在格納中です。

SUSPENDED

ロード・モジュールを現在格納中ですが、この 5 分間に、MOSS は何の情報も受けていません。

[YES|NO]

loadmodname が現在ディスク上で活動状態にあるロード・モジュールのとき **ACTIVE** は **YES** になります。これは、ディスク上のロード・モジュールが、次にロードされることを意味します。

loadmodname が現在ディスク上で活動状態にないロード・モジュールのとき **ACTIVE** は **NO** になります。

[YES|NO] はディスク上の、少なくとも 1 つのロード・モジュールが、活動状態にあるときのみ表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST955I *loadmodname date time status* [YES|NO]

説明:

VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。サブグループの最初のメッセージは IST954I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

```
IST956I {PORT SAP=sapaddress MAC=macaddress
MAXDATA=n MAXSTN=maxstations!
PU SAP=sapaddress MAC=macaddress
MAXDATA=n}
```

説明: VTAM は、このメッセージを LAN 大ノード、または LAN に接続されている交換 (ステーション) PU への DISPLAY ID コマンドへの応答として出します。

PORT は LAN 大ノードが表示される時に示されます。得られる情報は、大ノード内の **PORT** 定義ステートメントでの同様のキーワードから取り出されます。

sapaddress は大ノード定義のための LAN 接続の、サービス・アクセス・ポイント (SAP) のアドレスです。

macaddress は大ノード定義のための LAN 接続の、12 桁の 16 進数表示のメディア・アクセス制御 (MAC) です。
macaddress が定義されていない場合は、複数のゼロが表示されます。
n は LAN 上で伝達される LPDU のフィールドに設定された最大バイト数です。
maxstations は LAN に関連付けられているステーションの最大数です。 *maxstations* は、LAN 大ノードを指定した DISPLAY ID コマンドの結果として、当メッセージが現れた時にだけ表示されます。

PU は LAN に接続した交換 PU (ステーション) が表示されている場合のみ示されます。 得られる情報は LAN、交換回線大ノード、使用されているサービス・アクセス・ポイント (SAP)、または使用されているメディア・アクセス制御 (MAC) のいずれかの PU 定義ステートメントでの同様のオペランドから取り出されます。

sapaddress は LAN 接続の物理装置のサービス・アクセス・ポイント (SAP) のアドレスです。
macaddress は PU で代表される LAN 上のステーションの、12 桁の 16 進数表示のメディア・アクセス制御 (MAC) アドレスです。
n は物理装置が経路情報単位 (PIU) の 1 セグメントとして受け取れる、伝送ヘッダー (TH) および要求/応答ヘッダー (RH) を含めた最大データ数 (バイト) です。

システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IST957I NO NCP LOAD MODULE OR DUMP ON DISK

説明: このメッセージは、DISPLAY DISK コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST951I です。もしディスク上になんの情報もなければ、IST957I が表示されます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IST958I INBND=*inbound* OUTBND=*outbound* PENDING=*pending* ATTN=*attntot* CUA=*device_address*

説明: VTAM は、LAN 大ノードに対する DISPLAY ID コマンドへの応答として、このメッセージを出します。
inbound は、全インバウンド・メッセージ数です。
outbound は、全アウトバウンド・メッセージ数です。
pending は、保留中の出力メッセージ数です。
attntot は、全アテンション割り込みの数です。
device_address は、割り込みポートの 16 進数のチャンネル・アドレスです。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IST960I DISPLAY TABLE FAILED-*tablename* NOT FOUND

説明: *tablename* が見つからないときに、VTAM は DISPLAY TABLE コマンドへの応答としてこのメッセージを出します。現在テーブルはログオン・モード、解釈、USS、モデル名、関連する LU テーブルなどのリソースによって使用されていないか、またはテーブルが存在しません。
 システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。
 オペレーターの応答: *tablename* が正しく入力されていることを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

IST961I [NONDISRUPTIVE] LOAD OF *ncpname* [WITH *loadmodname*] FAILED

説明: このメッセージは NCP *ncpname* に対するロードが失敗したときに、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

IST961I [NONDISRUPTIVE] LOAD OF *ncpname* [WITH
loadmodname] FAILED
 IST523I REASON = *reason*

loadmodname は、ロード・モジュール名が *ncpname* と異なるときに、メッセージに含まれます。

IST523I 中の *reason* は、なぜロードが失敗したかを示し、以下のいずれかです。

CANNOT LOAD SSP LOADER UTILITY - IFULOAD

説明: SSP ローダー・ユーティリティ IFULOAD のロードが、失敗しました。
 システムの処置: NCP ロード手順は、失敗します。このメッセージは、IST017I に続きます。
 オペレーターの応答: SSP を含んだライブラリーが、VTAM 始動ジョブ・リーダー・ファイルの LIBDEF 探索チェーンに、指定されているかどうかを確認してください。また、ライブラリーに、IFULOAD 用の PHASE メンバーがあることを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

PERMANENT I/O ERROR [-REQ: *runame* SENSE: *class=sense.sense*]

説明: 通信コントローラーへのロード中に、VTAM が、永続入力エラーを検出しました。このエラーの原因は、以下のうちのいずれかであると考えられます。
 - ハードウェアのエラー。
 - VTAM が、他のドメインからロードされた通信コントローラーに接続された多重チャンネルに、チャンネル競合を検出しました。
 - MODIFY LOAD コマンドが、ローカル、またはリモート NCP に対して出された場合は、PCCU マクロ命令の MAXDATA のサイズは、少なくとも 2,048 に、TH と RH のサイズを足したものにしなければなりません。
runame は、失敗した要求単位の名前です。 *runame* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。
sense は、失敗した要求単位に対する、SNA センス・コードです。 *sense* の説明については、779 ページの

『センス・コード』を参照してください。sense が NCP によって設定されている場合は、「NCP, SSP, and EP Messages and Codes」を参照してください。runame と sense の値は、リモート NCP のロードにだけ出されます。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。通信コントローラーは、非活動状態のままになり、VTAM では使用できません。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログを保管し、NCP ダンプ・ユーティリティーを使用して NCP ダンプをとってください。

オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、MDR/OBR 情報が記録されているかどうかを判別してください。EREP の使用について詳しくは、

「EREP User's Guide and Reference」を参照してください。

NetView のようなネットワーク管理アプリケーションを使用している場合、この問題についての警告が記録されているかどうか調べてください。

問題となった部分を作成し直し、入力する前に VTAM I/O トレースを活動状態にして SDAID を実行してください。その結果を収集してください。

プログラマーの応答: CUA オペラント (NCP ソース・ステートメントの PCCU 定義ステートメントで) が、コントロール・ユニットに接続された実際のチャンネル・アドレスと、一致しているか調べてください。コントローラーが、多重チャンネルと接続されていて、障害が、他のドメインからのロードによって引き起こされている場合には、ロード操作の完了を待ってください。

NCP 生成に必要な変更を加えてください。問題が解決しない場合、以下の処置を行ってください。

- IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。

- IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの MDR/OBR 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。

INITIAL TEST HARDSTOP

説明: 通信コントローラーを停止してしまう NCP ロード・ユーティリティーの初期テスト・プログラムが、原因となったエラー状態を VTAM が検出しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。通信コントローラーは、非活動状態のままです。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 提供された結果から問題の原因を判別できない場合、またさらに援助が必要な場合、IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

INVALID DEVICE TYPE DEFINITION

説明: VTAM が、通信コントローラーをロードしようとしたが、通信コントローラーの装置制御ブロック (UCB) をチェックし、さらにオペレーティング・システム生成に、この NCP 用の有効なチャンネル・アダプター・タイプが指定されなかったことを判別した後で、ロードが失敗しました。

システムの処置: 通信コントローラーは非活動化されます。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 指定された通信コントローラーのチャンネル装置アドレスが正しいか調べてください。正しい場合は、オペレーティング・システムの生成時に、通信コントローラーが誤って指定されていたと考えられます。

UNEXPECTED CODE code FROM loadmod

説明: VTAM は、通信コントローラー NCP のロードを行いました。VTAM が NCP ロード・ユーティリティー・プログラム loadmod から認識不能な戻りコード code (10 進数) を受け取ったとき、ロードが失敗しました。

loadmod は IFULOAD です。

システムの処置: 通信コントローラーは非活動化されます。

オペレーターの応答: NCP ユーティリティー・プログラムを使用して、通信コントローラーをオフラインで VTAM にロードしてください。ユーティリティー・プログラムの使用方法については、「NCP, SSP, and EP Generation and Loading Guide」を参照してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、NCP ダンプ・ユーティリティーを使用して NCP ダンプを取得してください。

プログラマーの応答: NCP 生成への必要な変更を行ってください。NCP 問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

LOAD MODULE TOO LARGE

説明: NCP ロード・モジュールが、その通信コントローラーには大きすぎるために、通信コントローラーへの NCP のロードが、失敗しました。

システムの処置: VTAM は、通信コントローラーを非活動化します。他の VTAM の処理は続けられます。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: NCP 生成を調べ、エラーがないか、およびストレージを必要以上に使っていないかを確かめてください。NCP は、再生成の必要があります。

IST962I INOP X'code' RECEIVED FOR PU UNDER SWITCHED LINE linename

説明: 交換回線で定義された PU のアドレスを含む、操作不能の RU を受信しました。VTAM は、PU が交換回線大ノードで PU 定義に接続されていない場合にのみこのメッセージを出します。交換回線が活動状態で、交換接続が未設定の場合にこのような状況になります。

linename は、交換回線の名前です。

code (16 進表示) は、INOP 理由コードを提供し、以下のいずれかになります。

- 01 端末 INOP: 接触のロスか、接続の予定外のロスか、または接続設定の失敗がありました。
- 03 端末 INOP: SDLC 切断要求を受信しました。
- 04 端末 INOP: SDLC 要求切断の応答を受信しました。
- 05 端末 INOP: SDLC 切断モードを受信しました。
- 06 ステーション INOP: IPL またはダンプが進行中です。
- 07 端末 INOP: 進行中にリモート操作で電源が切られました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST963I **LOAD MODULE = *loadmodname***

説明: このメッセージは、NCP への DISPLAY ID コマンドの結果として現れます。ロード・モジュールの名前が NCP PU での名前と異なる時のみ表示されます。

loadmodname は現在ロードされているロード・モジュールの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST964I **TPRINT CANCELLED - TPRINT ASID DIFFERENT THAN VTAM ASID**

説明: TPRINT ユーティリティ・プログラムが、VTAM 以外の異なる専用アドレス・スペースで始動されました。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは終了します。

オペレーターの応答: TPRINT ユーティリティ・プログラムを、VTAM と同じ専用アドレス・スペースで実行してください。

プログラマーの応答: なし。

IST965I **AUTO DUMP/LOAD: {YES|NO}**

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST951I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST966I **USER=VCNS**

説明: このメッセージは、VTAM が行の DISPLAY ID コマンドへ応答して出したメッセージ・グループの一部です。このメッセージはパケット大ノードの VTAM 共通ネットワーク・サービス (VCNS) アプリケーション・プログラムで使用されるすべての仮想呼び出しのアンカーとして、この行を識別します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST967I **operation FAILED FOR *dataspace*; RC return_code RS reason_code**

説明: データ・スペース *dataspace* へのマクロ (*operation*) が VTAM によって出されましたが、その要求は完了せず、エラー戻りコードが返されました。

dspname は VTAM によって作成されるデータ・スペースの名前です。データ・スペースが VTAM によって作成され、またその形式が以下のいずれかである場合、データ・スペース名は自動的に生成されます。

ACYcccc

cccc は 0-FFFFC

ISTcccc

cccc は 0-FFFFC

ccccIST

cccc は 1-99999

システムの処置: ネットワーク管理インターフェース・データ・スペース ISTNMPDS および ISTNMSDS の場合、実行される操作は、DSPSERV CREATE、DSPSERV RELEASE、および ALESERV ADD の 3 つだけです。

DSPSERV CREATE や ALESERV ADD が失敗した場合、VTAM と NetView プログラムのセッション・モニターとの間の通信では、LU0 インターフェースのみが使用可能になります。

DSPSERV RELEASE が失敗した場合、未使用のストレージを仮想記憶管理のために解放することなく、データ・スペース・インターフェースは機能し続けます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *return_code* および *reason_code* の説明については、「z/VSE System Macros Reference」を参照してください。

IST969I **TPRINT CANCELLED — TPRINT NOT AT SAME LEVEL AS VTAM**

説明: TPRINT ユーティリティ・プログラムは、使用可能で実行中の VTAM のレベルを検査します。検査中に、TPRINT ユーティリティ・プログラムは、TPRINT と VTAM が同じレベルではないことを判別しました。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは終了します。

オペレーターの応答: ジョブ制御ステートメントを変更して、正しいライブラリーを示すようにしてください。

プログラマーの応答: なし。

IST970I **LU-LU VERIFICATION ERROR *code* FOR *profilename***

説明: LU 6.2 アプリケーション・プログラムがセッションの確立を要求し、セッション・レベル LU-LU 検査違反、またはエラーが起きた場合に、このメッセージが出されます。

profilename は、LU 対に定義された、セキュリティ・マネージャ・プロファイルの名前です。*profilename* の形式は、*local_netid.local_name.partner_name* です。

local_netid は、ローカル・ネットワーク ID です。

local_name は、ローカル・アプリケーション・プログラムの ACB 名です。

partner_name は、セッション・パートナーの LU 名です。

code は、発生したセキュリティ違反のタイプです。

- 03 セキュリティー・マネージャーが、プロファイルをロックしました。
- 04 プロファイルに、無効なセッション・キーが含まれていません。
- 05 セキュリティーに関するエラーのために、*partner_name* がセッションを拒否した。
- 06 *local_name* は REQUIRED セッション・レベル LU-LU の妥当性検査で定義されていたが、以下のいずれかが発生した。
 - *local_name* は PLU だが、*profilename* にパスワードが定義されていなかった。
 - *partner_name* が、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査なしでセッションを要求している PLU である。
- 07 *local_name* と *partner_name* との間のセッションでの、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査データが、未解決のセッション活動化要求のデータに一致した。
- 08 *local_name* がオプションの妥当性検査で定義されていて、またパスワードが *profilename* に定義されている。これは、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査が必要であることを意味するが、*partner_name* は、妥当性検査なしのセッションを要求した。
- 09 *local_name* がオプションの妥当性検査で定義されていて、またパスワードが *profilename* に定義されておらず、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査が使用されないことを示している。*partner_name* は妥当性検査と共にセッションを要求しました。
- 0B セッションの活動化中に、プロファイルが変更されました。
- 0C プロファイルのパスワードの期限が切れています。
- 0D 拡張プロトコルだけを使用するように *local_name* が定義されている (SECLVL=LEVEL2 が APPL 定義ステートメントに指定されている)。*partner_name* は拡張プロトコルをサポートしません。
- 20 セキュリティー・マネージャーのコンポーネントが使用不能か、過負荷状態 (短期間に多くの要求を受信した) のいずれかになっています。
- 3C セキュリティー・マネージャー・コンポーネントが障害を起こしました。

システムの処置: セッションの活動化は失敗します。

オペレーターの応答: コード 03、04、0B、および 0C の場合、MODIFY PROFILES コマンドをローカル LU に出してください。VTAM がこのメッセージを繰り返し出す場合には、*code* および *profilename* を、セキュリティ管理者に知らせてください。

コード 05 の場合は、特定の処置について、パートナー LU に出されたメッセージ IST970I を調べてください。

コード 06、08、および 09 の場合、MODIFY PROFILES コマンドをローカル LU に出してください。VTAM が、このメッセージを繰り返し出す場合には、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

コード 07 と 0D の場合は、*code* および *profilename* をセキュリティ管理者に知らせてください。

コード 20 と 3C の場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: コード 05 の場合は、特定の処置について、パートナー LU に出されたメッセージ IST970I を調べてください。

コード 06、08、および 09 の場合、APPL ステートメントに指定されている VERIFY オペランドを検査して、2 つの LU の正しいレベルを決めてください。

コード 20 の場合は、セキュリティ・マネージャーがインストールされていて、リソース・クラス APPCLU が活動状態かを認識してください。

セキュリティ・マネージャーがインストールされていて、リソース・クラス APPCLU が活動状態の場合、セキュリティ・マネージャーの過負荷が原因と思われます。LU 定義ステートメントの AUTOSES の値を低くすると、問題が解決する可能性があります。

コード 3C の場合は、セキュリティ・マネージャーがインストールされているか、リソース・クラス APPCLU が活動状態かを検査してください。

IST971I ADJ LINK STATION *linkstation* USING

linkname IN *netid*

説明: このメッセージは、NCP 大ノードに対して入力された、DISPLAY ID コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このメッセージは、隣接リンク・ステーションが、ネットワーク間 NCP 大ノードと接続していることを示しています。

linkstation は、隣接リンク・ステーションです。

linkname は、接続しているリンク・ステーションです。

netid はネットワーク間 NCP 大ノードのネットワーク ID です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST972I SIT TRACE FOR *linename* TERMINATED -

reason

説明: *linename* に対するスキャナー・インターフェース・トレース (SIT) が中止されました。

reason は次のいずれかです。

HARDWARE ERROR

アダプター入力エラーが起こったか、または SIT バックアップ・タイマーが満了しました。

RESOURCES UNAVAILABLE

VTAM が必要とする NCP バッファーを得られなかったか、または、アダプター入力エラー以外の問題が起こりました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

- *reason* が **HARDWARE ERROR** の場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- *reason* が **RESOURCES UNAVAILABLE** の場合、スキャナー・リソースが使用可能になってからコマンドを再試行してください。それでもコマンドが失敗する場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、MDR/OBR 情報が記録されているかどうかを判別してください。EREP の使用について詳しくは、「*EREP User's Guide and Reference*」を参照してください。

NetView のようなネットワーク管理アプリケーションを使用している場合、この問題についての警告が記録されているかどうか調べてください。

プログラマーの応答: 表示される出力からは問題の原因を判別できない場合や、さらに援助が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。

可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの MDR/OBR 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。

IST973I USERVAR *uservar* {CLASS HAS BEEN CHANGED FROM AUTO TO USER| TYPE HAS BEEN CHANGED FROM *type* TO *type*}

説明: VTAM は MODIFY USERVAR コマンドに回答して、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1283I です。このグループの詳しい記述については、そのメッセージを参照してください。

uservar は USERVAR の名前です。

このメッセージは、以下のいずれか、または両方が発生したときに出力されます。

- **CLASS HAS BEEN CHANGED FROM AUTO TO USER**

VTAM によって自動的に管理されていた USERVAR に対して MODIFY コマンドが入力されたため、クラスがユーザー管理に変更されました。

注: VTAM が、この USERVAR の更新や削除を管理することはもうありません。

- **TYPE HAS BEEN CHANGED FROM *type* TO *type***

ユーザー管理 USERVAR のタイプが変更されました。

type は **STATIC**、**DYNAMIC**、または **VOLATILE** です。

注: このメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST974I TPRINT CANCELLED - INSUFFICIENT STORAGE

説明: TPRINT がストレージを要求しましたが、VTAM はそれを割り振ることができませんでした。

システムの処置: TPRINT ユーティリティ・プログラムは終了します。

オペレーターの応答: ストレージを、即時に解放することが不可能な場合、すべての未解決の VTAM コマンド処理が、完了するまで待つてから、コマンドをもう一度入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: VPBUF バッファ・プール・ストレージ要件が少なく見積もられていました。必要に応じてストレージを増やしてください。これには VTAM の再初期設定が必要になる可能性があります。バッファの割り振りについては、「*VTAM Network Implementation Guide*」を参照してください。ストレージに関連する問題の詳細については、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。

IST976I ENTRY *entryname* DEFINED BUT NO *tabletype* DEFINED FOR *resourcename*

説明: VTAM は、大ノードの活動化中、またはセッションの開始中に、このメッセージを出します。 *tabletype* テーブル項目 *entryname* が、 *resourcename* 定義ステートメントに指定されましたが、 *tabletype* テーブルが定義されていません。

entryname は、LU、LOCAL、TERMINAL、または APPL 定義ステートメントで指定された項目です。

tabletype は、**MDLTAB** (モデル名テーブル)、または **ASLTAB** (関連 LU テーブル) です。

resourcename は、*entryname* に定義された、1 から 8 文字の LU、LOCAL、TERMINAL、または APPL の名前です。

システムの処置: 大ノードの活動化中は、処理を続けます。

tabletype が **MDLTAB** の場合、PLU にモデル名を提供しないセッションの開始中は、セッションの確立を続けます。

tabletype が **ASLTAB** の場合、PLU に関連 LU 名を提供しないセッションの開始中は、セッションの確立を続けます。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: テーブルを、LU に関連付ける必要があります。LU 定義内にテーブルを指定するか、テーブルを LU に関連付けるために、MODIFY TABLE コマンドを出すことによって、これを行うことができます。

LU に定義テーブルが指定されている場合は、テーブルが、正しく指定されているかどうかを検査してください。指定されていない場合には、*tablename* を修正し、LU を再活動化してください。LU 定義に指定されたテーブルが、正しい場合には、オペレーターが、MODIFY TABLE コマンドで、関連付けを削除した可能性があります。別の MODIFY TABLE コマンドを入力して、関連付けを再確立してください。

IST977I MDLTAB=mdlname ASLTAB=aslname

説明: このメッセージは、アプリケーション小ノード、または LU に対して DISPLAY ID コマンドが出された結果として VTAM が出すメッセージのサブグループの一部です。メッセージの説明は以下のとおりです。

```
IST977I MDLTAB=mdlname ASLTAB=aslname
[IST1395I FLDTAB = fldname]
[IST1333I ADJLIST = listname]
```

IST977I

mdlname は、モデル名テーブルの名前です。

aslname は、関連する LU テーブルの名前です。

モデル名テーブルまたは関連する LU テーブルが、リソースに定義されていない場合は、***NA*** が表示されます。

IST1333I

このメッセージは、DISPLAY ID=CDRSC コマンドが出されたときにのみ表示されます。

listname は、ADJLIST 定義ステートメントで定義されている隣接 SSCP テーブルの名前です。

隣接 SSCP テーブルが CDRSC に定義されていなかった場合は、***NA*** が表示されます。

隣接 SSCP テーブルの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の ADJLIST 定義ステートメントの説明を参照してください。

IST1395I

このメッセージは、DISPLAY ID=ISTNOP コマンドが出されたときにのみ表示されます。

fldname は、ユーザー定義メッセージあふれ防止テーブルの名前です。ISTNOP に対して活動しているメッセージあふれテーブルがない場合は、*fldname* は ***NA*** になります。

これらのテーブルに関する詳細については「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST979I BUILD FAILED FOR TABLE tablename

説明: このメッセージはテーブル *tablename* を活動化できなかったときに大ノードの活動化、または MODIFY TABLE コマンドに応答して VTAM が出すメッセージ・グループの最初の部分です。

```
IST979I BUILD FAILED FOR TABLE tablename
IST523I REASON = reason
[IST323I LABEL = labelname - MACRO = macrotype -
KEYWORD = keyword]
```

IST979I

tablename は失敗したテーブルの名前で、モデル名テーブル、関連 LU テーブル、またはメッセージあふれテーブルのいずれかになります。

IST523I

- *reason* はエラーの原因を示します。
 - 理由の多くは、マクロ命令のコーディング・エラーであり、テーブルが事前にアセンブルされていないために、この時点で現れることにあります。
 - ストレージ不足、およびオープン障害のような他のエラーは、テーブル定義にエラーがない場合でも、活動化の失敗を引き起こすことがあります。
- *reason* は次のいずれかです。
 -

DUPLICATE ENTRY LABEL

テーブル内の、複数のテーブル項目マクロ命令 (MDLENT または ASLENT) に同じラベルがあります。

DUPLICATE PARAMETER

1 つのマクロ命令に、有効なキーワードが複数回コーディングされました。

DUPLICATE PLU VALUE

1 つの項目マクロ命令 (MDLENT または ASLENT) に続く、複数の PLU 副項目マクロ命令 (MDLPLU または ASLPLU) に同じ PLU 名があります。

EXTRA VALUE

複数の値を指定できないキーワードに複数の値がコーディングされました。

INSUFFICIENT STORAGE

VTAM はテーブルにストレージを割り振ることができませんでした。

INVALID LABEL

マクロ命令のラベルが無効か、または MDLENT や ASLENT マクロ命令がラベルなしでコーディングされました。

INVALID MACRO

リソース定義に無効なマクロ、または複数の MDLTAB や ASLTAB マクロ命令があります。

INVALID PARAMETER

マクロ命令に無効なキーワードがあります。

INVALID VALUE

キーワードに無効な値がコーディングされています。

MACRO SEQUENCE ERROR

リソース定義の第 2 マクロ命令が MDLPLU か ASLPLU のいずれかです。これらのマクロ命令はテーブル項目マクロ命令 (MDLENT や ASLENT) に先行して指定されなければなりません。

MISSING PLU PARAMETER

MDLPLU または ASLPLU マクロ命令が PLU キーワードに指定なしでコーディングされました。

SYNTAX ERROR

マクロ命令のキーワードに構文エラーがあります。

TABLE CONTAINS NO USEFUL INFORMATION

テーブルが論理的に空です。

- モデル名テーブルの場合、VTAM は、有効な MODEL キーワード値を持つ MDLENT や MDLPLU マクロ命令を見つけられませんでした。
- 関連 LU テーブルの場合、VTAM は、有効な PRINTER1 または PRINTER2 キーワード値を持つ ASLENT や ASLPLU マクロ命令を見つけられませんでした
- メッセージあふれテーブルの場合、VTAM は、有効な MESSAGE キーワード値をもつ FLIDENT マクロ命令を見つけられませんでした。

TABLE SIZE OF xxxxxxxx IS INVALID

テーブルが 16 メガバイト (16 進 00FFFFFF) の制限を超えました。

IST323I

- このメッセージが表示されると、*tablename* で発生したエラーの位置を識別します。

システムの処置: 処理は続けられますが、モデル端末サポート情報を提供するために *tablename* を使用できません。

オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、共通サービス域 (CSA) についての情報を表示してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

- *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** であれば、ストレージを必要なだけ大きくしてください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して CSA 開始オプションを再定義することができます。

DISPLAY BFRUSE および DISPLAY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

- *reason* が **OPEN FOR VTAM DATA SET SYS1.VTAMLST FAILED** であれば、システム定義、および VTAM データ・セットと割り振りを調べてください。エラー条件を訂正したら、テーブルを活性化し直してください。
- その他の *reason* の場合、メッセージ IST523I に示されているリソース定義エラーを訂正してください。

IST981I VTAM PRIVATE: CURRENT = currentk, MAXIMUM USED = maximumk

説明: このメッセージは、VTAM が、明示的に (GETMAIN で) 獲得する専用ストレージ (16M ラインの上、および下の領域) を反映します。このメッセージには、VTAM モジュールのロードに必要な専用ストレージ量は含まれません。

このメッセージは、DISPLAY BFRUSE や DISPLAY STORUSE コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・サブグループの一部です。DISPLAY BFRUSE コマンドの場合、サブグループの最初のメッセージは、IST449I です。DISPLAY STORUSE コマンドの場合、グループの最初のメッセージは、IST1242I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST982I n {runame|OTHER} REQUEST(S) PENDING TO SUBAREA subarea

説明: *runame* が表示されている場合は、要求単位 (RU) の数 *n* がサブエリア *subarea* に対して、一定期間、対応する応答単位なしに保留になっています。要求単位 (RU) が、後続の時間間隔、保留のままにおかれると、要求単位が受け取られるか、または取り消されるまで、その時間間隔で、このメッセージが繰り返されます。

要求単位タイプが不明なときには、VTAM は、**OTHER** を表示します。

メッセージ IST982I は、問題がありうることを示します。保留状態が長くなれば (つまり、より頻繁に同一要求単位に対し、このメッセージが表示される場合)、問題がある可能性は増します。

要求単位のリストとその説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

システムの処置: 対応する応答単位を待ちながら、処理が続けられます。

オペレーターの応答: 特定の要求単位が、一定期間保留状態のままとなる場合には、問題判別のためのシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 保留中の入出力の問題については、「VTAM Diagnosis」の待機プロシージャを参照してください。

IST983E poaname MESSAGE QUEUE EXCEEDED-FURTHER MESSAGES WILL BE DISCARDED

説明: POA *poaname* メッセージ・キューが、APPL 定義ステートメントに指定された限度 (POAQLIM) に達しました。これは、POA が、このアプリケーション・プログラムに関する、VTAM メッセージ・キューを消去するために間に合うように、RCVCMMD マクロ命令を出していないときに、起こる可能性があります。

poaname は、指定したメッセージにキュー限度に達した、POA の名前です。

システムの処置: すべての後続する *poaname* に対するメッセージは、メッセージ・キューが消去されるまで、破棄されます。

オペレーターの応答:

1. DISPLAY ID=*poaname* を出して、システム・ログを保管してください。メッセージ IST271I は、*poaname* に関連する *jobname* を提供します。
2. 問題判別のために、システム・ログを保管して、アプリケーション・プログラム (*jobname*) と VTAM のダンプを要求してください。

プログラマーの応答:

- POA が、RCVCMMD マクロ命令を、間に合うように出していない場合、キューが空になるまで、OPTCD=NQ で、RCVCMMD マクロ命令を出すことによって、*poaname* 用のメッセージ・キューを、消去することができます。

- RCVCMMD マクロ命令が、間に合うように出されている場合は、メッセージが間に合うように受信されていない理由を判断するために、ダンプと VTAM 内部トレース (使用できる場合) を調べてください。RCVCMMD マクロ命令が、VTAM によって、受け取られているかどうかを、検査してください。
- RCVCMMD マクロ命令を頻繁に出すために、POA RCVCMMD 処理の変更が必要になる可能性があります。
- POA のディスパッチ優先順位を、変更することもできます。ディスパッチ優先順位の詳細については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。
- *poaname* に関連するジョブを取り消すことができます。これを行うと、*poaname* 用の VTAM キューは消去されます。

プログラム・オペレーター・アプリケーションにおけるプログラム・オペレーター・コーディング要件および RCVCMMD マクロ命令の詳細については、「VTAM Programming」を参照してください。

IST984I USER EXIT *exitname* IS *status*

説明: VTAM は、ユーザー出口ルーチン *exitname* が、活動化されたとき、非活動化されたとき、または置き換えられたときに、このメッセージを出します。

status は次のいずれかです。

ACTIVE

初期設定中、または MODIFY EXIT,OPTION=ACT コマンドによって、ユーザー出口ルーチン *exitname* が、正常にロードされました。出口ルーチンは、VTAM コードによって要求されたときに、呼び出されます。

INACTIVE

ユーザー出口ルーチン *exitname* が MODIFY EXIT,OPTION=INACT コマンドによって、または MODIFY EXIT,OPTION=REPL コマンドが失敗したときに非活動化されました。出口ルーチンは、VTAM コードによって要求されたときに呼び出されません。

REPLACED

ユーザー出口ルーチン *exitname* が、MODIFY EXIT,OPTION=REPL コマンドによって、置き換えられました。出口ルーチンの新しいバージョンは、VTAM コードによって要求されたときに呼び出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST985I USER EXIT *exitname* action FAILED-CODE *code*

説明: VTAM は初期設定中に、または MODIFY EXIT コマンドに応答してこのメッセージを出します。

action は、出口ルーチン *exitname* について、失敗した操作を示します。これは以下のいずれかです。

ACTIVATION

初期設定中、または MODIFY EXIT,OPTION=ACT コマンドの処理中に、ユーザー出口ルーチン *exitname* の活動化が失敗しました。

INACTIVATION

MODIFY EXIT,OPTION=INACT コマンドの処理中に、ユーザー出口ルーチン *exitname* の非活動化が失敗しました。

INITIALIZATION

VTAM の出口機能の初期化に失敗しました。VTAM の出口機能を使用できません。この場合、*exitname* は表示されません。

INVOCATION

ユーザー出口ルーチン *exitname* の呼び出しが失敗しました。呼び出しは、VTAM コードで内部的に実行され、オペレーターによって影響を受けることはありません。

REPLACEMENT

MODIFY EXIT,OPTION=REPL コマンドの処理中に、ユーザー出口ルーチン *exitname* の置き換えが失敗しました。出口ルーチン *exitname* は現在、非活動状態です。このメッセージに続いて、メッセージ IST984I が出力され、補足情報を提供します。

code は 16 進数形式で、以下の障害のタイプを示しています。

- 04 出口機能を初期設定できませんでした。
- 08 出口ルーチン *exitname* が VTAM に認識されていません。
- 0A ISTIECDF のロード中にエラーが発生しました。VTAM の出口機能を使用できません。
- 0C ISTIECRT のロード中にエラーが発生しました。VTAM の出口機能を使用できません。
- 0E ISTIECVR のロード中にエラーが発生しました。VTAM の出口機能を使用できません。
- 10 出口ルーチン *exitname* はすでに要求状態になっていません。
- 14 ユーザー定義出口ルーチン *exitname* で、この処置を実行するためのストレージが不足しています。
- 18 出口ルーチン *exitname* の修正が許可されていません。
- 1C 出口ルーチン *exitname* の活動化時、非活動化時、呼び出し時、または置換時に異常終了が起きました。
- 1E 出口ルーチン *exitname* が非活動化されています。
- 20 出口ルーチン *exitname* モジュールのロード中にエラーが起きました。
- 24 出口ルーチン *exitname* の初期設定モジュールのロード中にエラーが起きました。
- 28 出口ルーチン *exitname* の活動化がすでに進行中です。
- 2A 出口ルーチン *exitname* は、サブエリア・ノードでサポートされていません。
- 2C 劣った機能を持つ出口ルーチンで置き換える要求に応答して、出口ルーチン *exitname* が非活動化されています。
- 2E 異常終了を 5 回繰り返した後にサブタスクが切り離されたので、出口ルーチンの活動化に失敗しました。
- 2F セッション・アカウンティング出口ルーチンおよびセッション許可出口ルーチンに対してのみサポートが用意されています。他のインストール・システム共通出口ルーチンはサポートされていません。
- 30 VTAM の出口機能を使用できません。
- 40 VTAM の出口機能を使用できません。
- F0 出口ルーチン *exitname* が非活動状態です。
- F1 出口ルーチン *exitname* の非活動化がすでに進行中です。

F2 出口ルーチン *exitname* での処理中に異常終了が起きました。

F3 出口ルーチン *exitname* の置換がすでに進行中です。
システムの処置: コード **04** の場合、処理を続行します。ユーザー出口ルーチン *exitname* は使用できません。

コード **08**、**10**、および **40** の場合、処理を続行します。

コード **0A**、**0C**、**0E**、および **30** の場合、VTAM 初期設定は失敗します。

コード **14**、**18**、**1C**、**1E**、**2A**、**2E**、および **F0** の場合、コマンドは実行されません。

コード **20** と **24** の場合、出口ルーチン *exitname* は見つからないので、呼び出されません。

コード **28** の場合、出口ルーチン *exitname* の活動化を続けます。

コード **2C** と **F1** の場合、出口ルーチン *exitname* の非活動化を続けます。

コード **F2** の場合、出口ルーチン *exitname* は使用できなくなり、それ以降の要求では呼び出されません。

コード **F3** の場合、出口ルーチン *exitname* の置換を続けます。

オペレーターの応答: コード

04、**08**、**0A**、**0C**、**0E**、**1C**、**30**、**40**、および **F2** の場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

コード **10** と **2A** の場合、処置は不要です。

コード **14** の場合、VTAM が初期設定されていれば、少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

VTAM の初期設定が失敗した場合は、システム・ログを保管して問題を判別してください。

コード **18**、**20**、**24**、および **F0** の場合、ユーザー出口ルーチン *exitname* が正しいことを確認してコマンドを再入力してください。それでも失敗する場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

コード **1E** と **F1** の場合、出口ルーチン *exitname* の非活動化が完了するのを待って、コマンドを再入力してください。

コード **28** の場合、出口ルーチン *exitname* の活動化が完了するのを待って、コマンドを再入力してください。

コード **2C** の場合、古い出口ルーチンよりも機能が劣る新しい出口ルーチンを活動化してもよいのかどうか確認してください。OPT=ACT を指定して MODIFY EXIT コマンドを入力し、適切な出口ルーチンを活動化してください。

出口ルーチンを、機能が劣る出口ルーチンと置換する予定があれば、OPT=INACT を指定して MODIFY EXIT コマンドを入力し、古い出口ルーチンを非活動化してください。さらに OPT=ACT を指定して MODIFY EXIT コマンドを入力し、新

しい出口ルーチンを活動化してください。

コード **F3** の場合、出口ルーチン *exitname* の置換が完了するのを待って、コマンドを再入力してください。

コード **2E** の場合、問題判別のためにコンソール・ログを保管してください。システム・プログラマーに連絡して、VTAM を再始動し、サブタスクを再接続してください。

プログラマーの応答: コード **04**、**08**、**0A**、**0C**、および **0E** の場合、モジュールが VTAM によって正しくロードされているかどうか調べてください。

得られた出力によって問題の原因を判別できない場合、以下の処置を行ってください。

- IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
- IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。

コード **10**、**1E**、**28**、**2A**、**2C**、**F1**、および **F3** の場合、処置は不要です。

コード **14** の場合、バッファ・プール、または CSA 開始オプションを再定義してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

DISPLAY BFRUSE および MODIFY VTAMOPTS コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

コード **18** の場合、正しい出口ルーチン名が使用されていたこと、および出口ルーチンが正しいロード・ライブラリーに存在することを確認してください。

コード **1C**、**30**、および **40** の場合、得られた出力によって問題の原因がわからなければ、以下の処置を行ってください。

- IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
- IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。

コード **20**、**24**、および **F0** の場合、正しい出口ルーチン名が使用されていたこと、および出口ルーチンが正しいロード・ライブラリーに存在していることを確認してください。これらの出口ルーチンに関する詳細については、「VTAM Customization」を参照してください。

コード **F2** の場合、出口ルーチン・コードのエラーによって異常終了が起きました。出口ルーチン *exitname* が正しく機能しているかどうかを確認してください。

IST986I • IST988I

コード 2E の場合、VTAM を再始動して、サブタスクを再度タスク生成してください。

IST986I **TABLE=tablename TYPE=tabletype USE**
COUNT=usecount

説明: このメッセージは、DISPLAY TABLE コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

1. MSGLVL=V4R1 またはそれ以上が指定されている場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST986I  TABLE=tablename TYPE=tabletype USE
          COUNT=usecount
[IST987I  THE RESOURCES THAT USE THE TABLE ARE:]
[IST1154I  resourcename_1 ... resourcename_n]
:
:
IST314I  END
```

2. MSGLVL=BASE が指定されるか、またはデフォルトとして取られると、以下のメッセージ・グループが表示されません。

```
IST986I  TABLE=tablename TYPE=tabletype USE
          COUNT=usecount
[IST987I  THE RESOURCES THAT USE THE TABLE ARE:]
[IST988I  resourcename_1 ... resourcename_n]
:
:
IST314I  END
```

MSGLEVEL 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。USSMSG マクロ命令の MSGLVL オペランドについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST986I

- *tablename* は、DISPLAY コマンドで入力されたテーブルの名前です。
- *tabletype* は *tablename* が表すテーブルのタイプで、以下のいずれになります。

ASLTAB

関連 LU テーブル

COSTAB

サービス・クラス・テーブル

FLDTAB

メッセージあふれテーブル

LOGTAB

解釈テーブル

MDLTAB

モデル名テーブル

MODETAB

ログオン・モード・テーブル

USSTAB

不定様式システム・サービス・テーブル

NA

名前を使用できません。USS テーブル、または解釈テーブルが、V3R2 以前のマクロ命令でアSEMBLされたか、USSTAB マクロ命令に、FORMAT=DYNAMIC がコーディングされていませんでした。

- *usecount* は、テーブルを使用しているリソースの数です。

注: *tabletype* が COSTAB の場合、*usecount* は、表示されたユーザー・リソース名の数より大きくなる可能性があります。PU タイプ 4 や PU タイプ 5 が、複数ネットワーク ID に対して *tablename* を使用すると、この現象が起こります。PU タイプ 4 または 5 のリソースに指定されたテーブルをどのネットワーク ID が使用しているかを判別するには、DISPLAY COS,ID=*resourcename*, NETID=*netid* コマンドを入力してください。

IST987I

このメッセージは IST988I と IST1154I に表示されている情報のヘッダー・メッセージです。

tabletype が COSTAB ではない場合、メッセージ IST988I またはメッセージ IST1154I にリストされた、すべてのリソースを表示することができないことがあります。例えば表示できないリソースは、モデル論理装置、および共用 NCP の下で定義されたりセット論理装置です。

IST988I

ネットワーク修飾名が表示されない場合、VTAM はこのメッセージを出します。

resourcename は、*tabletype* が COSTAB であれば、PU タイプ 4 または 5 です。その他のテーブル・タイプの場合、*resourcename* は論理装置、またはアプリケーションです。

IST1154I

ネットワーク修飾名が表示されている場合、VTAM はこのメッセージを出します。

resourcename は、*tabletype* が COSTAB であれば、PU タイプ 4 または 5 です。その他のテーブル・タイプの場合、*resourcename* は論理装置、または *netid.name* の形式のアプリケーションです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST987I **THE RESOURCES THAT USE THE TABLE**
ARE:

説明: このメッセージは、DISPLAY TABLE コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの全体の記述は、IST986I を参照してください。

IST988I *resourcename_1 ... resourcename_n*

説明: このメッセージは、DISPLAY TABLE コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの全体の記述は、IST986I を参照してください。

また、このメッセージは、DISPLAY LMTBL,TYPE=LUNAME コマンド、または DISPLAY LMTBL,TYPE=LOGMODE コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの全体の記述は、IST1006I を参照してください。

IST989I **EXP LIMIT** *explimit* **BUFFS REQUESTED**
buffers

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST920I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST990E **CORRELATOR MISMATCH FOR**
loadmodname **IGNORED - ACTIVATION**
CONTINUES

説明: NCP ロード・モジュール *loadmodname* の活動化中に、VTAM が生成された相関と、通信コントローラーにロードされた相関の間に、相関の不一致を検出しました。VFYC=IGNORE が、NCP の PCCU 定義ステートメントに指定されたか、メッセージ IST937A に、'IGNORE' が応答されたため、VTAM は、不一致を無視します。ただし、不一致は、ユーザー・エラーの可能性があり、それを無視すると、潜在的な問題となるかもしれません。

システムの処置: 活動化は続けられます。

オペレーターの応答: 相関の不一致が、故意ではない場合、NCP を非活動化し、もう一度ロードしてください。

相関の不一致を意図して行った場合には、応答は不要です。プログラマーの応答: 相関の不一致が故意ではない場合、NCP をもう一度生成するか、PCCU 定義ステートメントの VFYC の値を変更してください。

相関の不一致を意図して行った場合には、応答は不要です。

IST991I **CORRELATOR MISMATCH FOR**
loadmodname **FOUND-RELOAD**
SCHEDULED

説明: NCP ロード・モジュール *loadmodname* の活動化中に、VTAM が生成された相関と、通信コントローラーにロードされた相関の間に、相関の不一致を検出しました。

このメッセージは、NCP の再ロードがスケジュールされ、以下の理由のいずれかによって起きることを示しています。

- NCP PCCU 定義ステートメントの VFYC=NO が指定されたか、デフォルトが使用されました。

NCP ロード・モジュールと、リソース解決テーブル (RRT) 間に、不一致があるときは、オペレーターが、NCP を非活動化するまで、NCP の再ロードが、繰り返し起きます。

- メッセージ IST937A に 'RELOAD' が応答されました。

システムの処置: NCP は再ロードされます。

オペレーターの応答:

- 相関の不一致が意図的でない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

NCP が、継続ループ内にある場合には、VARY INACT コマンドを入力して、NCP を非活動化してください。

- 相関の不一致が意図的である場合は、処置は必要ありません。

プログラマーの応答:

- 相関の不一致が意図的でない場合は、NCP をもう一度生成するか、PCCU 定義ステートメントの VFYC 値を、変更してください。

- 相関の不一致が意図的である場合は、処置は必要ありません。

IST996I **{JOB|SUB} taskname partitionid [VTAM]**
PROGCK CODE *code errorlocation*

説明: VTAM メインタスク、VTAMRP サブタスク、またはアプリケーション・プログラム・タスクのもとで実行中の VTAM 機能で、プログラム・チェックが起きたため、VTAM が異常終了しました。

taskname は失敗したメインタスク (**JOB**)、または終了したサブタスク (**SUB**) の名前です。

partitionid は、失敗したタスクの区画 ID (例えば、**BG** または **F4**) です。失敗したタスクが、VTAM タスクの場合は、*id* の代わりに、**CANCELED** が現れます。

code は、709 ページの『VTAM 取り消しコード』で説明されている VSE 取り消しコードの 1 つです。

errorlocation は次のいずれかです。

- *csect + offset*
- *phasename + offset*
- **AT HEX LOCATION** *addr*

ここで、

- *addr* は、障害発生時の命令アドレスです。 *addr* が使用されるのは、アドレスが VTAM フェーズにない場合です。
- *offset* は、そのフェーズ、または CSECT 内のオフセットです。 *offset* が **????** の場合、オフセットを判別できなかったことを示しています。
- *phasename* は、エラー発生時に実行していた VTAM フェーズの名前です。

システムの処置: VTAM は終了します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 問題の原因を判別するために、オペレーターによって渡される出力を検討してください。VTAM 問題の診断方法について詳しくは、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

形式 IST996I SUB *taskname (partitionid)* VTAM PROGCK CODE *errorlocation* のメッセージは、VTAM サブタスクでプログラム・チェックが発生したため、それに応じて VTAM がそれ自体を取り消したことを示しています。解決策として、VTAM サブタスクでプログラム・チェックを引き起こしたエラーを訂正してください。

IST997I **{JOB|SUB} taskname partitionid CANCEL**
CODE *code errorlocation*

説明: VTAM メインタスク、VTAMRP サブタスク、またはアプリケーション・プログラム・タスクのもとで実行中の VTAM 機能は、監視プログラムによって、異常終了させられました。

taskname は失敗したメインタスク (**JOB**)、または終了したサブタスク (**SUB**) の名前です。

partitionid は、失敗したタスクの区画 ID (例えば、**BG**、また

は F4) です。失敗したタスクが、VTAM タスクの場合は、*id* の代わりに、**CANCELED** が現れます。

code は、709 ページの『VTAM 取り消しコード』で説明されている VSE コードの 1 つです。

以下の System/370 プログラム割り込みコードも、このメッセージに表示されます。

-
- 01 演算例外
- 02 特権命令例外
- 03 実行例外
- 04 記憶保護例外
- 05 アドレッシング例外
- 06 指定例外
- 07 データ例外

プログラム割り込みコードの詳細については、「Enterprise System Architecture/370 Reference Summary」を参照してください。

errorlocation は次のいずれかです。

- *csect* + *offset*
- *phasename* + *offset*
- **AT HEX LOCATION** *addr*

ここで、

- *addr* は、障害発生時の命令アドレスです。*addr* が使用されるのは、アドレスが VTAM フェーズにない場合です。
- *offset* は、そのフェーズ、または CSECT 内のオフセットです。*offset* が **????** の場合、オフセットを判別できなかったことを示しています。
- *phasename* は、エラー発生時に実行していた VTAM フェーズの名前です。

システムの処置: VTAM は終了します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 問題の原因を判別するために、オペレーターによって渡される出力を検討してください。VTAM 問題の診断方法について詳しくは、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST998E VTAM MESSAGE *messageid* ISSUED BUT DOES NOT EXIST

説明: VTAM は、メッセージの宛先 (VTAM オペレーター、またはプログラム・オペレーター・アプリケーション) に関連する VTAM メッセージ・テーブル内に、*messageid* を見つけることができませんでした。

システムの処置: メッセージ *messageid* の処理は完了します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 次のいずれかのメッセージ・モジュールから、有効な VTAM メッセージ ID が欠けていないかどうかを、調べてください。

- **ISTINCNO**、弊社が提供するデフォルトの操作レベル USS テーブル。

- **ISTCFCMM**、弊社が提供するデフォルトのメッセージ・テーブル。
- **USSTAB** 開始オプションで指定された USS テーブル。
- プログラム・オペレーター・アプリケーション用の APPL 定義ステートメントの **USSTAB** オペランドで指定された USS テーブル。
- **MODIFY TABLE** コマンドを使用する、アプリケーション・プログラムに指定された USS テーブル。

messageid が有効な VTAM メッセージ ID の場合は、常に弊社が提供するデフォルトの操作レベル USS テーブル **ISTINCNO** 内で見つかります。このメッセージは、USS テーブルが間違って修正されたか、または間違ってインストールされたことを示しています。

messageid が無効な VTAM メッセージ ID の場合は、以下の処置を行ってください。

- **IBMLink** にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、**IBMLink** の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
- **IBMLink** にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。

IST999E VTAM MESSAGE LOST - INSUFFICIENT STORAGE

説明: VTAM がメッセージを出そうとしましたが、十分なストレージを使用できませんでした。 **INSUFFICIENT STORAGE** の後に、VTAM によって出されるテキストは、無視してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージをコマンドに関連付けることができ、完全なメッセージを見る必要がある場合は、未使用の大ノードを、非活動状態にするか、またはジョブを取り消すことによって、ストレージを解放し、このメッセージの原因となったコマンドを入力し直してください。

ストレージの問題が再発する場合には、**DISPLAY BFRUSE** コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答: VTAM 区画に対する必要ストレージ量を少なく見積もった可能性があります。必要に応じてストレージを大きくしてください。 **DISPLAY BFRUSE** コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

IST1000I STORAGE UNAVAILABLE IN *area* RC *rc*

説明: VTAM は、ストレージの割り振りが失敗したことを知らせるために、このメッセージを出します。

area は要求されたストレージのタイプで、次のいずれかです。

- **SYSTEM GETVIS LOC-ANY AREA**
- **SYSTEM GETVIS LOC-BELOW AREA**
- **VTAM PRIVATE GETVIS AREA**
- **VTAM PRIVATE FIXED LOC-ANY**
- **VTAM PRIVATE FIXED LOC-BELOW**
- *jobname* **PRIVATE GETVIS AREA**

jobname はストレージの要求元を示します。

rc は次のいずれかです。

- 0 GETVIS が正常に完了しました。
- 4 区画の GETVIS 領域のサイズは OK。
- 8 指定された長さが負の値、または GETVIS 領域を超えている。
- C GETVIS 領域ではこれ以上の仮想記憶域は使用不可である。または、存在しないサブプールまたはフリー・スペースがないサブプールに長さゼロの GETVIS 要求が指定された。
- 10 最大数のサブプールを使い果たした。
- 14 GETVIS オプションが無効。
- 18 サブプール ID が無効。
- 20 SVA サブプールの PFX 要求が失敗した。
- 24 無効なサブプール・インデックスが指定され、以下の状況のいずれか、あるいは両方になっていた。
 - 要求が SPCNTRL=YES で出された。
 - 指定されたサブプール名は、SPCNTRL=YES で作成された既存のサブプールの名前である。(提供されたサブプール以外のサブプールを指している場合、サブプール・インデックスは無効です。これには既存のサブプールのゼロのサブプール・インデックスが含まれます)。
- 28 指定されたサブプールへのアクセスは、PFX 要求が保留されている限り許可されません。

システムの処置: 処置は、要求を必要とする理由によります。VTAM でこのストレージの状態に対する効果を識別する他のメッセージが続きます。

オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答: 「VTAM ストレージ見積もり」ディスクレットが、VTAM 仮想記憶要求を判別するために役立ちます。ストレージに関連する問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

VTAM 専用固定ストレージについてメッセージを受け取った場合、VTAM 区画の固定ストレージ値を大きくする必要があります。VTAM 区画の SETPFX に適切な値は、システム上のリソースによって異なります。

IST1001I ID= *applname* [LUNAME= *luname*]
[LOGMODE= *logmode*]

説明: このメッセージは、MODIFY CNOS、MODIFY DEFINE、または DISPLAY CNOS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1001I ID= applname [LUNAME= luname ]
          [LOGMODE= logmode]
IST1002I RCPRI=rcpri RCSEC=rcsec
[IST1005I fieldname=value [fieldname=value]]
          [fieldname=value]]
:
[IST1003I varname CNOS=cnosvalue
          DEFINE=definedvalue]
```

```
:
IST314I END
```

メッセージ IST1002I の *rcpri* と *rcsec* は、コマンドが正常に実行されなかったことを示します。VTAM はメッセージ IST1001I と IST1002I のみを出します。コマンドが正常に実行されると、VTAM は完了メッセージ・グループを出します。

IST1001I

applname は、オペレーター・コマンドに指定された LU 6.2 アプリケーション・プログラムの名前です。

luname は、このアプリケーション・プログラムのパートナー LU の名前です。

logmode は、このアプリケーション・プログラムのログオン・モードの名前です。

IST1002I

rcpri は、VTAM によって出される 1 次戻りコードの値です。

rcsec は、VTAM によって出された 2 次戻りコードの値です。*rcpri* および *rcsec* の詳細については、「VTAM Programming for LU 6.2」を参照してください。

IST1005I

このメッセージは、コマンドが正しく実行されたときのみ出されます。

以下の表で、フィールド名とその値について説明しています。

フィールド名	解説
--------	----

AUTOSES

正常な CNOS コマンドにしたがって、自動的に開始されたコンテンツ勝者セッションの数。

CONVCAP

CONVCAP は、パートナー論理装置 (LU) とのセッションが半二重会話か、または全二重と半二重会話の両方、のどちらをサポートするかを示します。

値	意味
---	----

FDX	パートナー LU は全二重と半二重会話の両方をサポートします。
-----	---------------------------------

HDX	パートナー LU は半二重会話のみをサポートします。
-----	----------------------------

VTAM は、パートナー LU との最初のセッションが確立されるまで CONVCAP の値を表示できません。パートナー LU との最初のセッションが確立されていないければ、VTAM は *****NA***** を表示します。

CONVSECL

CONVSECL は、アプリケーション・プログラムによってサポートされているセキュリティ・レベルを示します。

値 意味

NONE アプリケーション・プログラムは、セキュリティ・サブフィールドを含む FMH-5 を受け入れません。

CONV アプリケーション・プログラムは、セキュリティ・サブフィールドを含む FMH-5 を受け入れます。

ALREADYV

アプリケーション・プログラムは、セキュリティ・サブフィールドを含む FMH-5 を受け入れ、パスワード・サブフィールドに置かれた検査済み標識を受け入れます。

PERSISTV

アプリケーション・プログラムは、会話レベルのセキュリティをサポートし、受信する会話要求の永続検査標識を受け入れません。

AVPV アプリケーション・プログラムは、会話レベルのセキュリティをサポートし、永続検査標識と、受信する会話要求の検査済み標識の両方を受け入れます。

VTAM は、パートナー LU との最初のセッションが確立されるまで CONVSECL の値を表示できません。パートナー LU との最初のセッションが確立されていなければ、VTAM は *****NA***** を表示します。

CONVSECP

CONVSECP は、パートナー LU によってサポートされているセキュリティ・レベルを示します。

値 意味

NONE パートナー LU は、セキュリティ・サブフィールドを含む FMH-5 を受け入れません。

CONV パートナー LU は、セキュリティ・サブフィールドを含む FMH-5 を受け入れます。

ALREADYV

パートナー LU は、セキュリティ・サブフィールドを含む FMH-5 を受け入れ、パスワード・サブフィールドに置かれた、検査済み標識を受け入れます。

PERSISTV

パートナー LU は、会話レベル・セキュリティをサポートし、受信する会話要求の永続検査標識を受け入れます。

AVPV パートナー LU は、会話レベル・セキュリティをサポートし、永続検査標識と、受信する会話要求の検査済み標識の両方を受け入れます。

VTAM は、パートナー LU との最初のセッションが確立されるまで CONVSECP の値を表示できません。パートナー LU との最初のセッションが確立されていなければ、VTAM は *****NA***** を表示します。

DDRAINL

DDRAINL は、VTAM が、アプリケーション・プログラムに割り振り要求をドレーンさせる CNOS 要求を、受け入れるかどうかを示しています。

値 意味

ALLOW

VTAM は、アプリケーション・プログラムに割り振り要求をドレーンさせる、CNOS 要求を受け入れます。

NALLOW

VTAM は、アプリケーション・プログラムに割り振り要求をドレーンさせる、CNOS 要求を受け入れません。

DELETE

DELETE は、モード名が、LU モード・テーブルから削除できるかどうかを指定します。

値 意味

ALLOW

モード名は、LU モード・テーブルから削除できます。

NALLOW

モード名は、LU モード・テーブルから削除できません。

DRAINL

DRAINL は、アプリケーション・プログラムが、割り振り要求をドレーンできるかどうかを示しています。

値 意味

YES アプリケーション・プログラムは、割り振り要求をドレーンすることができます。

NO アプリケーション・プログラムは、割り振り要求をドレーンすることができません。

DRAINR

DRAINR は、パートナー LU が、割り振り要求をドレーンできるかどうかを示しています。

値 意味

YES パートナー LU は、割り振り要求をドレーンすることができます。

NO パートナー LU は、割り振り要求をドレーンすることができません。

DRESPL

DRESPL は、アプリケーション・プログラムがセッションの非活動化に責任があることを指定した CNOS 要求を、VTAM が受け入れるかどうかを指定します。

値 意味

ALLOW

VTAM は、アプリケーション・プログラ

ムがセッションの非活動化に責任があることを指定した CNOS 要求を受け入れません。

NALLOW

VTAM は、アプリケーション・プログラムがセッションの非活動化に責任があることを指定した CNOS 要求を受け入れません。

FREECNT

会話によって使用するために解放されている、パートナー LU とのアクティブ・セッションの数です。

QALLOC

セッションが解放されるのを待っている割り振り要求の数です。

RESP

RESP は、アプリケーション・プログラムが、セッションの非活動化に対して責任があるかどうかを指定します。

値 意味

LOCAL アプリケーション・プログラムは、セッションの非活動化に責任があります。

REMOTE

パートナー LU は、セッションの非活動化に責任があります。

VTAM は、MODIFY CNOS コマンドに対する応答にのみ、RESP の値を表示します。VTAM は、MODIFY DEFINE コマンド、または DISPLAY CNOS コマンドが入力されると、値の代わりに、***NA*** を表示します。

SESSCAP

SESSCAP は、パートナー LU のセッション能力を示します。

値 意味

PSINGLE

パートナー LU のセッション能力が判別されていません。1 次標識は、パートナー LU が並行セッションをサポートできないということです。

SINGLE

パートナー LU は、並行セッションをサポートできません。

PPARALLE

パートナー LU のセッション能力が、判別されていません。1 次標識は、パートナー LU が並行セッションをサポートできるとのことです。

PARALLEL

パートナー LU は、並行セッションをサポートできます。

SESSCNT

指定されたモード名を持つ、パートナー LU の活動化セッションの数です

SYNCLVL

SYNCLVL は、会話によってサポートされる同期レベルを指定します。

値 意味

NONE 同期レベルが、サポートされていません。

CONFIRM

CONFIRM 同期レベルが、サポートされています。

SYNCPT

SYNCPT および CONFIRM 同期レベルが、サポートされています。

WINLCNT

アプリケーション・プログラムがコンテンツであるアクティブ・セッションの数です。

WINRCNT

パートナー LU がコンテンツであるアクティブ・セッションの数です。

これらのフィールド名およびその値については、「VTAM Programming for LU 6.2」を参照してください。

IST1003I

このメッセージは、コマンドが正しく実行されたときのみ出されます。

varname は次のいずれかです。

MINWINL

LOGMODE オペランドに指定されたモード名のコンテンツ勝者になるようにアプリケーション・プログラムが保証されている並行セッションの最小数です。

MINWINR

LOGMODE オペランドに指定されたモード名のコンテンツ勝者になるようにパートナー LU が保証されている並行セッションの最小数です。

SESSLIM

LOGMODE オペランドに指定されたモード名で、アプリケーション・プログラムと、パートナー LU 間で許可された LU-LU セッションの最大数です。

cnosvalue は、CNOS の *varname* の値です。これは両方のパートナー LU によって受け入れられた値になります。

definedvalue は、DEFINE の *varname* の値です。VTAM は、パートナー LU から CNOS 開始の交渉が来たときに、内部的にこの値を使用します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージ IST1005I と IST1003I がこのグループにない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

それ以外の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: システム・ログおよび IST1002I の戻りコードの値を使用すると、この問題を解決する援助となります。

IST1002I **RCPRI=rcpri RCSEC=rcsec**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは、IST1001I か IST1110I のいずれかです。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

rcpri は、VTAM によって出される 1 次戻りコードの値です。

rcsec は、VTAM によって出された 2 次戻りコードの値です。

rcpri および *rcsec* の詳細については、「VTAM Programming for LU 6.2」を参照してください。

IST1003I **varname CNOS=cnosvalue
DEFINE=definedvalue**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは IST1001I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1004I **command FOR nodename FAILED - reason**

説明: VTAM は、以下のコマンドのいずれかが失敗したときに、このメッセージを出します。

- DISPLAY CNOS
- DISPLAY CONVID
- DISPLAY LMTBL,TYPE=LUNAME
- DISPLAY LMTBL,TYPE=LOGMODE
- DISPLAY STORUSE
- MODIFY CNOS
- MODIFY DEFINE

nodename は、*command* に指定されたローカル・アプリケーション・プログラムの名前です。*nodename* のネットワーク ID は、ホスト・ネットワーク ID と同じです。

reason は次のいずれかです。

APPLICATION JOB NOT FOUND

指定されたジョブ名が、見つかりません。

APPLICATION NOT ACTIVE

アプリケーション・プログラムが、ACB をオープンしていません。

APPLICATION NOT FOUND

要求されたアプリケーション・プログラムが、見つかりません。

DATA SPACE NOT FOUND

要求されたデータ・スペースが、見つかりません。

DEACTIVATION IN PROGRESS

アプリケーション・プログラムが出した CLOSE がまだ完了していないか、VARY INACT コマンドが、アプリケーション・プログラムに出されたか、VTAM が、非活動状態になっています。

INSUFFICIENT STORAGE

要求を完了するための使用可能なストレージが、不足していました。

NO APPLICATION ACTIVE

VTAM アプリケーション・プログラムが、ACB をオープンしていません。

NO APPLICATION DATA SPACE

アプリケーション・プログラムが、VTAM データ・スペースを持っていません。

NODE ACB IS CLOSED

アプリケーション・プログラムが、アプリケーション・プログラム制御ブロック (ACB) をクローズしました。

NODE NOT ACTIVE

アプリケーション・プログラムが、ACB をオープンしていません。

NODE NOT APPC CAPABLE

nodename が、アプリケーション・プログラムの名前になっていないか、*nodename* が、アプリケーション・プログラムの名前になっていますが、APPC=YES が、APPL 定義ステートメントに指定されていませんでした。

OPERATOR COMMAND NOT ALLOWED

アプリケーション・プログラムは APPC 可能ですが、OPERCNOS=ALLOW が、APPL 定義ステートメントに指定されていませんでした。

POOL NOT FOUND

要求されたプールが、見つかりません。

VTAM ERROR

コマンド処理中に、VTAM が異常終了しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。処理を続行します。

オペレーターの応答: *reason* の値によって、以下の応答が決まります。

APPLICATION JOB NOT FOUND

正しいジョブ名で、コマンドを再試行してください。

APPLICATION NOT ACTIVE

VARY ACT コマンドでアプリケーション・プログラムを活動化してください。これによって問題が解決しない場合には、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

APPLICATION NOT FOUND

正しいアプリケーション・プログラム名で、コマンドを再試行してください。

DATA SPACE NOT FOUND

正しいデータ・スペース名で、コマンドを再試行してください。

DEACTIVATION IN PROGRESS

以下に示す適切な処置を行ってください。

- CLOSE ACB、または VARY INACT コマンドが出された場合は、VARY ACT コマンドを入力して、アプリケーション・プログラムを再始動してください。
- VTAM が非活動状態になった場合には、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

INSUFFICIENT STORAGE

少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

NO APPLICATION ACTIVE

ACB をオープンしたアプリケーション・プログラムに、コマンドをもう一度出してください。

NO APPLICATION DATA SPACE

nodename が ISTDPCLU の場合、処置は必要ありません。別のアプリケーション・プログラムが指定されている場合には、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

NODE ACB IS CLOSED

VARY ACT コマンドでアプリケーション・プログラムを活動化してください。これによって問題が解決しない場合には、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

NODE NOT ACTIVE

VARY ACT コマンドでアプリケーション・プログラムを活動化してください。これによって問題が解決しない場合には、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

NODE NOT APPC CAPABLE

指定された *nodename* が、正しいか判別してください。

- *nodename* が間違っている場合は、正しい *nodename* を指定して、コマンドを再入力してください。
- *nodename* が正しい場合には、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

OPERATOR COMMAND NOT ALLOWED

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

POOL NOT FOUND

正しいプール名で、コマンドを再入力してください。

VTAM ERROR

問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答: *reason* の値によって、以下の応答が決まります。

APPLICATION JOB NOT FOUND

なし。

APPLICATION NOT FOUND

なし。

APPLICATION NOT ACTIVE

オペレーターが、アプリケーション・プログラムを活動化するために、VARY ACT コマンドを入力したが、問題が繰り返し起きる場合は、アプリケーション・プログラムの ACB をオープンしなければなりません。

DATA SPACE NOT FOUND

なし。

DEACTIVATION IN PROGRESS

VTAM が非活動状態になっている場合は、VTAM をもう一度活動化してください。

INSUFFICIENT STORAGE

バッファー・プールや CSA 開始オプションを再定義する必要がある可能性があります。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

VTAM Operation 「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

NO APPLICATION ACTIVE

なし。

NO APPLICATION DATA SPACE

ISTPDCLU 以外のアプリケーション・プログラムが指定されている場合、以下の処置を行ってください。

- IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
- IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。

NODE ACB IS CLOSED

オペレーターが、アプリケーション・プログラムを活動化するために、VARY ACT コマンドを入力したが、問題が繰り返し起きる場合は、アプリケーション・プログラムの ACB をオープンしなければなりません。

NODE NOT ACTIVE

オペレーターが、アプリケーション・プログラムを活動化するために、VARY ACT コマンドを入力したが、問題が繰り返し起きる場合は、アプリケーション・プログラムの ACB をオープンしなければなりません。

NODE NOT APPC CAPABLE

VARY INACT コマンドを入力して、大ノードを非活動化してください。関連する小ノードに対して DISPLAY ID コマンドを入力して、大ノードが、アプリケーション・プログラムかどうかを確認してください。APPL 定義ステートメントを調べ、APPC=YES が、指定されているかどうかを確認してください。APPL 定義ステートメントを修正して、APPC=YES を指定し、アプリケーション・プログラムを再始動して、コマンドを再試行する必要がある場合があります。

OPERATOR COMMAND NOT ALLOWED

VARY INACT コマンドを入力して、アプリケーション・プログラムを非活動化してください。APPL 定義ステートメントを修正して、OPERCNOS=ALLOW を指定し、アプリケーション・プログラムを再始動してコマンドを再入力してください。

POOL NOT FOUND

なし。

VTAM ERROR

VTAM が、DISPLAY CNOS コマンド、DISPLAY LMTBL,TYPE=LUNAME コマンド、DISPLAY LMTBL,TYPE=LOGMODE コマンド、DISPLAY CONVID コマンド、MODIFY CNOS コマンド、または MODIFY DEFINE コマンドの処理中に、異常終了しました。異常終了プロシージャについては、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

表示された出力から問題の原因を判別できない場合、または追加の援助が必要な場合は、IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST1005I *fieldname=value* [*fieldname=value*]
 [*fieldname=value*]

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは IST1001I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1006I *nametype* NAMES DEFINED [IN LU *luname*]
 FOR *applname*

説明: このメッセージは、DISPLAY LMTBL コマンドに対する応答として VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

MSGLVL=BASE を指定 :

- DISPLAY LMTBL,TYPE=LUNAME コマンドの場合、メッセージ・グループは以下のようになります。

```
IST1006I nametype NAMES DEFINED FOR applname
IST988I resourcename_1...resourcename_n
:
:
IST314I END
```

DISPLAY LMTBL,TYPE=LOGMODE コマンドの場合、メッセージ・グループは以下のようになります。

```
IST1006I nametype NAMES DEFINED IN LU luname
FOR applname
IST988I resourcename_1...resourcename_n
:
:
IST314I END
```

MSGLVL=V4R1 またはそれ以上を指定 :

- DISPLAY LMTBL,TYPE=LUNAME コマンドの場合、メッセージ・グループは以下のようになります。

```
IST1006I nametype NAMES DEFINED FOR applname
IST1154I resourcename_1...resourcename_n
:
:
IST314I END
```

- DISPLAY LMTBL,TYPE=LOGMODE コマンドの場合、メッセージ・グループは以下のようになります。

```
IST1006I nametype NAMES DEFINED IN LU luname
FOR applname
IST1154I resourcename_1...resourcename_n
:
:
IST314I END
```

MSGLEVEL 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

USSMSG マクロ命令の MSGLVL オペランドについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1006I

メッセージ IST1006I は、メッセージ IST988I および IST1154I のヘッダーであり、LU モード・テーブルのパートナー LU に定義されているすべての LU またはログオン・モード名をリストします。

nametype は、DISPLAY LMTBL コマンドの TYPE オペランドの値によって LU または LOGMODE のいずれかになります。

luname は、このアプリケーション・プログラムのパートナー LU の名前です。

applname は、DISPLAY 情報が要求された、LU 6.2 アプリケーション・プログラムの名前です。

IST988I

ネットワーク修飾名が表示されない場合、VTAM はこのメッセージを出します。

resourcename は LU またはログオン・モード名です。

IST1154I

ネットワーク修飾名が表示されている場合、VTAM はこのメッセージを出します。

resourcename は LU またはログオン・モード名です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1007I PARTNER = *luname*, LOGMODE = *logmode*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは IST1040I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1008I CONVID = *convid*, STATUS = *status*,
 ETIME = *etime*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは IST1040I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1009I SID = *sid*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは IST1040I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1010I NO CONVERSATION(S) FOUND FOR
 applname

説明: 指定されたオペランドをもとにして、アプリケーション・プログラム *applname* に関する会話が行われていないときに、VTAM は DISPLAY CONVID コマンドに回答して、このメッセージを出します。

applname は、DISPLAY 情報が要求された、LU 6.2 アプリケーション・プログラムの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1011I **ENTRY** *entryname* **NOT FOUND IN** *tabletype*
tablename **FOR** *resourcename*

説明: VTAM は、リソース用のテーブル項目を見つけれなければ、セッション開始中にこのメッセージを出します。

entryname 項目が、リソース *resourcename* に関して定義される *tabletype* テーブル *tablename* に存在しません。

entryname は、LU、LOCAL、TERMINAL、または APPL 定義ステートメントで指定された項目です。

tabletype は、**MDLTAB** (モデル名テーブル)、または **ASLTAB** (関連 LU テーブル) です。

tablename はテーブルの名前です。

resourcename は、LU、LOCAL、TERMINAL、または APPL 定義ステートメントで指定された 1 から 8 文字のリソース名です。このリソースの *entryname* が定義されています。

システムの処置: *tabletype* が **MDLTAB** であれば、PLU にモデル名を提供せずに、セッションの確立を続けます。

tabletype が **ASLTAB** であれば、PLU に関連 LU 名を提供せずに、セッションの確立を続けます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。 *entryname* と *tablename* を提供してください。

プログラマーの応答: *tablename* が、*resourcename* に対して、正しいテーブルであるかどうかを確認してください。 正しくない場合は、次のどちらかの処置を行ってください。

- 論理装置定義の *tablename* を変更して、論理装置を再活性化してください。
- **MODIFY TABLE** コマンドを入力して、論理装置に正しいテーブルを関連付けてください。

tablename が正しい場合は、論理装置定義で指定された *entryname* が、テーブルの *entryname* と一致するかどうかを確認してください。 *entryname* が一致しない場合は、次のどちらかの処置を行ってください。

- 論理装置定義の *entryname* を変更して、論理装置を再活性化してください。
- テーブルの *entryname* を追加、置換、または訂正し、更新したテーブルを使用するために、**MODIFY TABLE** コマンドを入力してください。

IST1012I **NO PARTNER LU(S) DEFINED FOR**
applname

説明: アプリケーション・プログラム *applname* の LU モード・テーブルに、LU 項目が定義されていない場合に、VTAM は、**DISPLAY LMTBL**, **TYPE=LUNAME** コマンドに応答して、このメッセージを出します。

applname は、**DISPLAY** 情報が要求された、LU 6.2 アプリケーション・プログラムの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1013I **NO LOGMODE(S) DEFINED IN LU** *luname*
FOR *applname*

説明: VTAM は、アプリケーション・プログラム *applname* の LU モード・テーブルに、*luname* についてのログオン・モード項目が定義されていないときに、**DISPLAY LMTBL**, **TYPE=LOGMODE** コマンドに対する応答として、このメッセージを出します。

luname は、指定された LU の名前です。

applname は、**DISPLAY** 情報が要求された、LU 6.2 アプリケーション・プログラムの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1014I *bp* **BUFFER POOL NOT BUILT - reason**

説明: VTAM は、バッファ・プール割り振りが失敗したことを知らせるために、VTAM の初期設定中に、このメッセージを出します。

bp は、バッファ・プールの省略形 (IST154I で定義されたもの) です。

reason は失敗の原因で、次のいずれかです。

- **BUFFER CANNOT SPAN PAGES**
- **PAGES NOT FIXED IN STORAGE**
- **SGA NOT AVAILABLE**
- **SGALIMIT EXCEEDED**
- **VTAM PRIVATE NOT AVAILABLE**

システムの処置: VTAM コマンドは失敗します。VTAM は終了します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

BUFFER CANNOT SPAN PAGES

固定バッファ・プールのバッファ・サイズが、ページのサイズを超えています。'bp' が IO であれば、「VTAM Resource Definition Reference」で『Specifying IOBUF Buffer Values』を参照してください。

PAGES NOT FIXED IN STORAGE

VSE は、ストレージをページ固定できませんでした。SETPFX LIMIT が VTAM 始動プロシージャに正しく設定されていることを確認してください。

SGA NOT AVAILABLE

VSE がストレージ割り振り要求に応えるためには、SGA が不十分でした。システム GETVIS 域が十分な大きさであることを確認してください。

SGALIMIT EXCEEDED

VTAM 始動パラメーター SGALIMIT または SGA24 の値を、バッファ・プール 'bp' を定義するために必要なストレージを超えています。SGALIMIT および SGA24 の設定が小さすぎないことを確認してください。

VTAM PRIVATE NOT AVAILABLE

VTAM 区画の仮想記憶割り振りが、バッファ・プール 'bp' を作成するためには不十分でした。

バッファ割り振りについて詳しくは、「VTAM Network Implementation Guide」で『Setting Buffer Pool Allocations』を参照してください。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の『Start Options』を参照してください。

VTAM システム・ストレージ要件、およびそれらを VSE に定義するときの情報については、「VTAM Network Implementation Guide」で『Defining VTAM to VSE』を、また『Estimating Storage for VTAM diskette』を参照してください。

ストレージ関連の問題について詳しくは、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1015I APPLICATION SUPPLIED *parameter_name* = *parameter_value*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST663I です。メッセージ・グループ全体については、メッセージの説明を参照してください。

このメッセージは、IST663I メッセージ・グループ内の最初のメッセージのサブグループです。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST1015I APPLICATION SUPPLIED parameter_name =
      parameter_value
[IST1028I parameter_value]
```

このメッセージ・サブグループは、2 次論理装置のホストのオペレーターにのみ出されます。

parameter_name は、メッセージ・サブグループに表示されたパラメーターの名前で、次のいずれかです。

DIAL NUMBER

parameter_value は、交換接続に関してアプリケーション・プログラムが与えた回線番号を表示します。

parameter_value に印刷不能文字が含まれていると、このメッセージは次のようになります。

```
IST1015I APPLICATION SUPPLIED DIAL
      NUMBER=X'parameter_value'
```

メッセージに印刷不能文字が含まれている場合、DIAL NUMBER の先頭に「X」が付きます。メッセージに印刷可能文字だけが含まれている場合、DIAL NUMBER の先頭に「X」は付きません。

DLCADDR SUBFIELD

parameter_value は、交換接続に関してアプリケーション・プログラムが与えた DLCADDR サブフィールドを表示します。*parameter_value* に印刷不能文字が含まれていると、このメッセージは次のようになります。

```
IST1015I APPLICATION SUPPLIED DLCADDR
      SUBFIELD=yy, X'parameter_value'
```

メッセージに印刷不能文字が含まれている場合、DLCADDR サブフィールドの先頭に「X」が付きます。メッセージに印刷可能文字だけが含まれている場合、DLCADDR サブフィールドの先頭に「X」は付きません。

yy はサブフィールド ID です。

DIRECT CALL LINE

parameter_value は、交換接続に関してアプリケーション・プログラムが与えた回線の名前を表示します。

IDBLK/IDNUM

parameter_value は、交換接続に関してアプリケーション・プログラムが与えた識別ブロック (IDBLK) および識別番号 (IDNUM) を表示します。IDBLK は、装置タイプを示し、IDNUM は、特定装置または、交換接続の接続を示しています。

IDBLK/IDNUM の場合、*parameter_value* は 64 文字の長さで、IDBLK 値と IDNUM 値の間にスペースはありません。このフィールドは、常に 16 進数で表示されています。VTAM は、*parameter_value* の最初の部分を IST1015I に、残りの部分を IST1028I に表示します。メッセージ・サブグループは、以下のように現れます。

```
IST1015I APPLICATION SUPPLIED
      IDBLK/IDNUM=X'parameter_value
IST1028I parameter_value'
```

CPNAME

parameter_value は、交換接続に関してアプリケーション・プログラムが与えたタイプ 2.1 周辺ノードの制御点 (CP) 名を表示します。

交換回線大ノードに関する IDBLK、IDNUM、および CPNAME オペランドの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

システムの処置: セッションの開始は失敗します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: メッセージ IST663I、IST664I、および IST889I を使用して、エラーの原因を突き止めてください。

DIAL NUMBER が正しくない形式、または XID 障害が、可能性としてあります。これはシステム・プログラマーのエラーとは限りません。このエラーでない場合は、アプリケーション・プログラマーに知らせてください。

IST1016I DYNAMIC DEFINITION OF *nodename* FAILED

説明: このメッセージは、動的交換物理装置、または論理装置の作成中にエラーが検出されたときに、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1016I DYNAMIC DEFINITION OF nodename FAILED
[IST1061I FAILURE OCCURRED ON puname AT locaddr]
IST523I REASON = reason
IST314I END
```

IST1016I

nodename は、作成できなかった PU または LU の名前です。

IST1061I

VTAM は、LU の動的定義が失敗したときに、メッセージ IST1061I を出します。

puname は、動的 LU を作成できなかった PU の名前です。
locaddr は、作成できなかった LU のアドレスです。

IST523I

- *reason* は問題の原因を示し、以下のいずれかです。

ERROR IN SDDL U EXIT OR EXIT NOT AVAILABLE

従属した LU 定義の選択 (SDDL U) 出口ルーチンが、活動化されていないか SDDL U 出口ルーチンの処理にエラーがあります。SDDL U 出口ルーチンが検出できるエラーは、以下のようになります。

- SDDL U 出口ルーチンが、LU 名を生成できませんでした。
- SDDL U 出口ルーチンが、使用するモデル LU を決定することができませんでした。

INSUFFICIENT STORAGE

動的リソースのためのストレージを獲得できませんでした。

INVALID NAME

構成サービス XID 出口ルーチン、または SDDL U 出口ルーチンによって戻されるノード名、またはモデル名が無効です。リソース定義は、無効な名前を持つノードについては、失敗します。

INVALID RESOURCE TYPE

独立 LU の定義が行われましたが、無効なリソース・タイプです。

MODEL LU GROUP *lugroup* NOT FOUND

puname の PU 定義ステートメントに指定された、モデル LU グループが非活動状態か、VARY ACT コマンドで入力された LU グループ名が、正しい VTAM 名ではありません。

MODEL *modelname* NOT FOUND

モデル PU、または LU を見つけることができませんでした。

MODEL *modelname* TYPE DOES NOT MATCH NODE TYPE

モデルのタイプが間違っています。LU ノードの記述中に PU モデルが指定されたか、PU ノードの記述中に LU モデルが指定されました。*modelname* はモデル PU または LU の名前です。

NO MODEL MATCHES *modelname*

使用中の装置のモデル名が、PU に指定された LUGROUP のモデル LU と一致していません。*modelname* は機械番号とモデル番号です。

***puname* DOES NOT SUPPORT DEPENDENT LOGICAL UNITS**

リモート PU からのリンクが従属 LU をサポートするように構成されていない (ACTPU が抑止されている) ので、交換 PU *puname* は従属 LU をサポートしていません。

VALUE FOR LOCADDR NOT VALID

LOCADDR のアドレス・オーバーライドが要求されましたが、新しい値が無効です。

システムの処置: このリソースの定義を完了することは、できません。LU のリソース定義が失敗した場合、VTAM は、残りの LU の定義を行います。PU のリソース定義が失敗した場合には、VTAM は、失敗した PU に関連する LU の定義を行いません。

オペレーターの応答:

INSUFFICIENT STORAGE

DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MODEL LU GROUP *lugroup* NOT FOUND

VARY ACT コマンドを入力して、LUGROUP モデル LU グループを含む *lugroup* 定義を活動化してください。問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

MODEL *modelname* NOT FOUND

DISPLAY MODELS コマンドを入力して、定義されているモデルをすべてリストしてください。モデル大ノードが活動化されていないか、出口ルーチンによって要求された名前が不正です。

- モデル大ノードが活動化されていなかった場合は、モデル大ノードを活動化してください。モデル大ノードが活動化された後、ダイヤルインを再び試みることができます。

注: ダイヤルインは、リモート装置によって行われなければなりません。一般に、オペレーターは、ダイヤルインを実行することはできません。

- モデル大ノード名が間違っている場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

***puname* DOES NOT SUPPORT DEPENDENT LOGICAL UNITS**

このホストが、リモート PU がない従属 LU の所有者として識別されないかぎり、処置は不要です。所有者として識別されている場合、このホストに対して ACTPU を抑止できないことを示すために、リモート PU は再構成されなければなりません。

その他すべての *reason*

問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

ERROR IN SDDL U EXIT OR EXIT NOT AVAILABLE

出口ルーチンが VTAMLIB にあり、出口ルーチンが活動化されているかどうかを確認してください。出口ルーチンが活動状態の場合、訂正すべきエラーは出口ルーチンにあります。SDDL U 出口ルーチンの詳細については、「VTAM Customization」を参照してください。

INSUFFICIENT STORAGE

必要に応じてストレージを増やしてください。

VTAM Operation

「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

INVALID NAME

出口ルーチンに返された名前を訂正してください。出口ルーチンが訂正された後で、ダイヤルインを再び試みることができます。

IST1017I • IST1020I

INVALID RESOURCE TYPE

出口ルーチンが、0 の LOCADDR または 0 のアドレス
上書きで LU モデルを指定していないことを確認してく
ださい。

MODEL LU GROUP *lugroup* NOT FOUND

モデル LU グループ LUGROUP を含む *lugroup* 定義を
活動化してください。 *puname* の PU 定義ステートメン
トの LUGROUP キーワードに活動 LU グループを指定
してください。

MODEL *modelName* NOT FOUND

交換接続インストール出口ルーチン ISTECCCS が、間違
ってモデル名を指定しました。 出口ルーチンが、有効な
モデル名を指定していることを確認してください。 出口
ルーチンが訂正された後で、ダイヤルインを再び試みるこ
とができます。

MODEL *modelName* RESOURCE TYPE DOES NOT MATCH NODE TYPE

PU の定義中には PU モデルを、LU の定義中には LU
モデルを、出口ルーチンが指定していることを確認してく
ださい。 出口ルーチンが訂正された後で、ダイヤルイン
を再び試みることができます。

NO MODEL MATCHES *modelName*

問題のモデルの頭字語に一致するように、適切な
LUGROUP でモデル LU 定義ステートメントを追加して
ください。

VALUE FOR LOCADDR NOT VALID

出口ルーチンを訂正してください。 出口ルーチンが訂正
された後で、ダイヤルインを再び試みることができます。

IST1017I MODELS:

説明: このメッセージは、モデル大ノードに対する DISPLAY
ID コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループ
の一部です。 このメッセージに続いて、VTAM は、モデル大
ノードに定義された各リソースについて、一度だけメッセージ
IST089I を出します。詳細については、このグループの別のメ
ッセージの説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1018I MODEL MAJOR NODE = *major_node_name*

説明: このメッセージは、DISPLAY MODELS コマンドに対
する応答として、VTAM が出すメッセージ・グループの一部
です。詳細については、このグループの別のメッセージの説明
を参照してください。

major_node_name は、モデル大ノードの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1019I USERVAR VALUE CLASS TYPE EXIT APPC

説明: このメッセージは、DISPLAY USERVAR コマンドに対
する応答として VTAM が出すメッセージ・グループの最初の

メッセージです。メッセージ・グループの詳細な記述は以下の
とおりです。

```
IST1019I USERVAR VALUE CLASS TYPE EXIT APPC
IST1029I uservar value class type exit {YES|NO}
:
:
IST314I END
```

VTAM は、表示されている各 USERVAR に対して一度だけ、
メッセージ IST1029I を出します。

uservar は USERVAR の名前です。

value は USERVAR の値です。 *value* は、*netid.name* の形式
のネットワーク修飾名です。

exit は、YES または NO で、USERVAR 出口ルーチンが、
この USERVAR に対して使用されているかどうかを示しま
す。

class は USER または AUTO のいずれかになります。 *class*
が AUTO の場合、VTAM はこの USERVAR を維持します。
class が USER の場合は、ユーザーがこの USERVAR を維持
します。

type の値は、以下のようになります。

STATIC

USERVAR は、別の SSCP で一度だけ照会する必要
があります。

DYNAMIC

USERVAR は、USERVAR を使用するセッションの
異常終了の後に、別の SSCP で照会する必要があります。

VOLATILE

USERVAR は、セッションが USERVAR を使用して
開始されたときに、別の SSCP で照会する必要があ
ります。

APPC は、YES または NO のいずれかで、USERVAR が、
拡張プログラム間通信 (APPC) をサポートしているかどうかを
示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1020I INSUFFICIENT STORAGE-DATA SPACE *dspname* FULL

説明: VTAM によって生成されたデータ・スペース *dspname*
がいっぱいになると、VTAM はこのメッセージを出します。

dspname は VTAM によって作成されるデータ・スペースの名
前です。データ・スペースが VTAM によって作成され、ま
たその形式が以下のいずれかである場合、データ・スペース名
は自動的に生成されます。

ISTcccc

cccc は 0-FFFFC

ccccIST

cccc は 1-99999

システムの処置: 処理を続行します。 要求されたストレージ

が必要になった理由によって、処置が決まります。このストレージ状態が VTAM に与える影響を示す、別のメッセージが続いて出されます。

オペレーターの応答: *dspname* に対して、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: アプリケーションがデータを受信できるよりも早く、またはアプリケーションが RECEIVE を出していないときにデータが到着した場合、通常この問題が発生します。

- アプリケーションとのセッションが正しいペーシング・カウントをもっていることを確認してください。
- アプリケーションに RECEIVE を出すことを妨げる問題がないことを確認してください。
- 得られた出力によって問題の原因を判別できない場合、以下の処置を行ってください。
 - IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
 - IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。DISPLAY STORUSE コマンドからの出力情報を提供してください。

IST1021I **MEDIUM = *medium*, ADAPNO = *adapno*,
CUA = *device_address*, SNA SAP = *snasap***

説明: VTAM は、DISPLAY ID コマンドが外部通信アダプター (XCA) 大ノードに対して入力されると、このメッセージを出します。

medium は、この XCA 大ノードによって表される LAN のタイプです。タイプは、PORT 定義ステートメントの MEDIUM オペランドで指定されます。 *medium* は次のいずれかです。

BOXMGR

3172 問題管理

CSMA/CD

802.3 LAN

FDDI

ファイバー分散データ・インターフェース

RING

トークンリング LAN

adapno は、PORT 定義ステートメントの ADAPNO オペランドで指定された、10 進数のアダプター・スロット番号です。 *medium* が **BOXMGR** の場合には、VTAM は、*NA* を表示します。

device_address は、PORT 定義ステートメントの CUADDR オペランドに指定された 16 進数のチャンネル装置アドレスです。

snasap は、PORT 定義ステートメントの SAPADDR オペランドで指定された、10 進数の SNA サービス・アクセス・ポイント・アドレスです。 SNA サービス・アクセス・ポイント・アドレスは、SNA 回線が、XCA 大ノード内に定義されている場合に表示されます。 SNA 回線が、定義されていない場合に

は、VTAM は、*NA* を表示します。 PORT 定義ステートメントに値が定義されなかった場合、および SNA 回線が、XCA 大ノード内に定義されている場合には、デフォルト値の 4 が、表示されます。 *medium* が **BOXMGR** の場合には、VTAM は、*NA* を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1022I **WRBUF = *wrbuf***

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST577I です。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST1023E **START I/O TIMEOUT OCCURRED FOR
CUA=*device_address***

説明: VTAM は、LAN のチャンネル・ステーションでの入出力操作を開始しましたが、以下のいずれかの理由によって、入出力開始タイムアウトが発生しました。

1. その入出力操作に指定された時間内に、割り込みが受信されませんでした。
2. その入出力操作に指定された時間内に、非同期イベントが発生しませんでした
3. LAN チャンネル・ステーションが、VTAM からのチャンネル要求に応答しませんでした。

device_address は、LAN チャンネル・ステーションとの通信に使用されるサブチャンネルの 16 進アドレスです。

システムの処置: 処理を続行します。

LAN チャンネル・ステーションが、定義された割り込み間隔で応答しなかった場合には、データは失われ、このサブチャンネルを使用するすべての回線が操作不能になります。デフォルトの割り込み間隔は 3 分です。詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の MIHTMOUT 開始オプションの説明を参照してください。

オペレーターの応答:

- LAN チャンネル・ステーションが停止した場合は、LAN チャンネル・ステーションを再始動するときに、通常操作が行われます。
- LAN チャンネル・ステーションに障害がある場合には、以下のように処置を行ってください。
 1. 回線が使用できないので、このサブチャンネルを使用する回線をすべて非活動化してください。
 2. 以下のような方法でハードウェア問題を調べてください。
 - オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、MDR/OBR 情報が記録されているかどうかを判別してください。 EREP の使用について詳しくは、「EREP User's Guide and Reference」を参照してください。 NetView プログラムのようなネットワーク管理アプリケーションを使用している場合、この問題についてアラートが記録されているかどうか確認してください。

- 表示される出力からは問題の原因を判別できない場合や、さらに援助が必要な場合は、IBM のハードウェア・サポート・センターに連絡してください。可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの MDR/OBR 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。

それ以外の場合は、処置は不要です。
プログラマーの応答: なし。

IST1024I I/O ERROR ON READ FOR CUA =
device_address-BYTE COUNT MISMATCH

説明: VTAM が、*device_address* にある LAN チャネル・ステーションの READ 操作中に、入力バッファ・エラーを検出しました。データ単位を含んでいるバッファの長さが、すべてのデータ単位の合計長と一致していません。

device_address は、ハードウェア・アダプターとの通信に使用されるチャネルの 16 進アドレスです。

システムの処置: 装置は非活性化されます。データは失われ、この装置を使用するすべての回線は操作不能になります。
オペレーターの応答: これは、おそらくハードウェア・エラーです。問題判別のためシステム・ログを保管してください。オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、MDR/OBR 情報が記録されているかどうかを判別してください。EREP の使用について詳しくは、「*EREP User's Guide and Reference*」を参照してください。

NetView のようなネットワーク管理アプリケーションを使用している場合、この問題についての警告が記録されているかどうか調べてください。

障害が続くようであれば、CCW トレースを使用して、この装置でデータをトレースしてください。

プログラマーの応答: 出力が、ハードウェア問題を示しておらず、問題の原因を判別できない場合、以下の処理を行ってください。

- IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
- IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの MDR/OBR 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。

IST1025I CPS DEFINITION TABLE NAME = name

説明: このメッセージは、DISPLAY CPS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST1025I CPS DEFINITION TABLE NAME = name
IST1026I SIGNAL = signal DELAY = delay RETRY
LIMIT = limit

⋮
[IST1027I CPS DEFINITION TABLE NOT LOADED]

IST1025

name は、呼び出し進行信号 (CPS) テーブルの名前です。

IST1026

このメッセージは、各呼び出し進行信号 (CPS) テーブル項目に対して表示されます。

signal は、2 桁の呼び出し進行信号です。

delay は、VTAM が再呼び出しを試行する前の遅延時間です。

limit は、呼び出しの再試行回数の限度です。

IST1027

このメッセージは、CPSTAB 開始オプションか MODIFY TABLE コマンドのいずれかが使用されて、CPS テーブルがロードされていない場合にのみ表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1026I SIGNAL = signal DELAY = delay RETRY
LIMIT = limit

説明: VTAM は DISPLAY CPS コマンドに対する応答メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1025I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1027I CPS DEFINITION TABLE NOT LOADED

説明: VTAM は DISPLAY CPS コマンドに対する応答メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1025I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1028I parameter_value

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。全体の記述については、メッセージ IST1015I の説明を参照してください。

IST1029I useroar value class type exit {YES|NO}

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1019I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1030I USERVAR EXIT IS exitname

説明: VTAM は MODIFY USERVAR コマンドに回答して、メッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。グループの最初のメッセージは、IST825I か IST1283I です。詳しい説明については、最初のメッセージの説明を参照してください。

注: このメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

**IST1031I MODIFY COMMAND FAILED - *uservar*:
EXIT FAILURE, CODE *code***

説明: MODIFY USERVAR コマンドが USERVAR 出口ルーチンと呼び出し、障害が起こったときに、VTAM はこのメッセージを出します。

考えられる *code* の値は以下のとおりです。

X'0008'

出口ルーチンが定義されていません。

X'0010'

VTAM はすでに要求状態にあります。

X'0014'

USERVAR 出口ルーチンを活動化するために十分なストレージがありません。

X'0018'

活動化がリクエスターによって許可されていません。

X'001C'

活動化、または非活動化中にエラーが起きました。

X'001E'

出口ルーチンが非活動化されています。

X'0028'

出口ルーチンの活動化がすでに進行中です。

X'00F0'

出口ルーチンが非活動状態です。

X'00F1'

出口ルーチンが非活動化を保留しています。

X'00F2'

出口ルーチンが異常終了しました。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。 *uservar* があらかじめ定義されていれば、前の値を保持します。 そうでない場合、障害の原因が訂正されるまで、その他の処理を続行します。

オペレーターの応答:

X'0008'

出口ルーチンの名前を正しく入力したかどうか確認してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

X'0010'

なし。

X'0014'

出口ルーチンの名前を正しく入力したかどうか確認してください。問題が解決しない場合、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して USERVAR 出口ルーチンを活動化するために十分なストレージがあるかどうか確認してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

X'0018'

出口ルーチンの名前を正しく入力したかどうか確認してください。

X'001C'

出口ルーチンの名前を正しく入力したかどうか確認してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

X'001E'

必要であれば、出口ルーチンを再活動化してください。

X'0028'

なし。

X'00F0'

必要であれば、出口ルーチンを活動化してください。

X'00F1'

なし。

X'00F2'

問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

X'0008'

出口ルーチンが正しく定義されているかどうか確認してください。VTAM 初期設定のときに出されるメッセージが、問題の原因に関する詳細を提供することがあります。

X'0010'

なし。

X'0014'

開始プロシージャに指定されているように、バッファ・プールや CSA 開始オプションをオペレーターが入力したかどうか確認してください。バッファ・プールや CSA 開始オプションを再定義する必要がある可能性があります。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

- ダンプの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

X'0018'

なし。

X'001C'

出口ルーチンで起こりうるエラーについて検査してください。詳細については、VTAM Customizationを参照してください。

X'001E'

なし。

X'0028'

なし。

X'00F0'

なし。

X'00F1'

なし。

X'00F2'

出口ルーチンで起こりうるエラーについて検査してください。詳細については、VTAM Customizationを参照してください。

**IST1032I *poolname* BUFFER SIZE TOO SMALL-SIZE
MUST BE AT LEAST *minsize***

説明: VTAM はバッファが小さすぎるときに、VARY ACT コマンドに応答して、このメッセージを出します。バッファ・プール *poolname* のバッファ・サイズは、回線を活動化する VTAM に対して、少なくとも *minsize* にしなければなりません。

poolname は、バッファ・プールの名前です。バッファ・

プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

minsize は、活動化しようとした回線のタイプの最小バッファ・サイズです。

システムの処置: 回線の活動化は失敗します。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: VTAM 開始リスト ATCSTRxx の *poolname* のバッファ・サイズを変更してください。VTAM 始動リストを訂正してから、VTAM を再始動し、回線に対して VARY ACT コマンドを入力してください。

IST1033I *uservar* ALREADY DEFINED FOR APPC SESSIONS OF *applname*

説明: APPC=YES が指定され、*uservar* がすでに *applname* に定義されていたときに、MODIFY USERVAR コマンドに対する応答として、VTAM がこのメッセージを出します。

APPC=YES を持つ別の USERVAR をこのアプリケーション・プログラムに定義することはできません。

uservar は、現在このアプリケーション・プログラムに定義されている USERVAR の名前です。

applname は、MODIFY USERVAR コマンドに指定されたアプリケーション・プログラムの名前です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否し、USERVAR テーブルの変更は行いません。処理を続行します。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラムにどの USERVAR を定義すべきかを判断してください。

- 現在定義されている USERVAR が、間違っている場合は、MODIFY USERVAR,OPTION=DELETE コマンドで現在定義されている USERVAR を削除してください。間違っている USERVAR を削除した後に、MODIFY USERVAR コマンドを出して、アプリケーション・プログラムに対して、正しい USERVAR を定義してください。

間違った USERVAR が定義されていた間に、*applname* の ACB がオープンされていた場合は、アプリケーション・プログラム制御ブロックに間違った情報が複写されました。この状況では、正しい USERVAR で、MODIFY USERVAR コマンドが入力されると、VTAM がメッセージ IST1034I を出します。

- 現在定義されている USERVAR が正しい場合は、処置は必要ありません。

プログラマーの応答: MODIFY USERVAR コマンドが、プログラム・オペレーター・インターフェースを介して出された場合は、アプリケーション・プログラムにどの USERVAR を定義すべきかを判断して、間違った USERVAR 定義で確立された構造を訂正してください。

IST1034I *applname* ALREADY USING *uservar* FOR APPC SESSIONS

説明: APPC=YES が指定され、*applname* がすでに *uservar* を使用しているときに、VTAM は、MODIFY USERVAR コマンドに対する応答として、このメッセージを出します。他の

USERVAR は、このアプリケーション・プログラムに対して APPC=YES を定義することはできません。

applname は、MODIFY USERVAR コマンドに指定されたアプリケーション・プログラムの名前です。

uservar は、アプリケーション・プログラムがすでに使用している USERVAR の名前です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否し、USERVAR テーブルの変更は行いません。処理を続行します。

オペレーターの応答: アプリケーション・プログラムが使用するべき USERVAR を、判別してください。

- アプリケーション・プログラムが、現在間違った USERVAR を使用している場合、アプリケーション・プログラムは、間違った USERVAR の関連情報のすべてを取り除くように、VTAM への接続を終了 (CLOSE ACB) する必要があります。一度、アプリケーション・プログラムの VTAM への接続が終了すると、正しい USERVAR を定義するために、MODIFY USERVAR コマンドを出すことができ、アプリケーション・プログラムは、VTAM への接続を再確立 (OPEN ACB) できます。
- アプリケーション・プログラムが現在正しい USERVAR を使用し、次の項目のような場合には、項目の指示にしたがってください。
 - USERVAR によって表されたサービスの活動状態の提供者の場合は、MODIFY USERVAR,APPC=YES コマンドで USERVAR を再定義します。
 - USERVAR によって表されたサービスの活動状態の提供者でない場合は、処置は必要ありません。

プログラマーの応答: MODIFY USERVAR コマンドが、プログラム・オペレーター・インターフェースを介して出された場合は、アプリケーション・プログラムにどの USERVAR を定義すべきかを判断して、間違った USERVAR 定義で確立された構造を訂正してください。

IST1035I ERROR WHILE {ADDING|DELETING} NETWORK *netid* {TO|FROM} GWN *gatewaynode*

説明: このメッセージは、BUILD または NETWORK 定義ステートメントの COS テーブル名 (COSTAB オペランドで定義します)、または最大サブエリア値 (MAXSUBA オペランドで定義します) を、VTAM に定義できなかったときに、VTAM が出すメッセージのグループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST1035I ERROR WHILE {ADDING|DELETING} NETWORK *netid* {TO|FROM} GWN *gatewaynode*
IST523I REASON = reason

IST1035I

- *netid* は接続が行われる動的ネットワークです。*gatewaynode* が活動化されているときは、このステートメントが処理されます。ゲートウェイ・ノードの場合、これは、モデル・ネットワーク・ステートメントです。
- *gatewaynode* は、追加または削除できなかったネットワーク *netid* のゲートウェイ・ノードです。

IST523I

- *reason* は障害の理由を示し、以下のいずれかです。

COSTAB NOT FOUND

VTAM がネットワーク *netid* の追加を行ったときに、モデル・ネットワークに関連する COS テーブル名を見つけることができませんでした。

COSTAB USE COUNT OVERFLOW

COSTAB オペランドでコーディングされた COS テーブルの、*gatewaynode* の共有の記録が VTAM の能力を超えました。

DUPLICATE COSTAB

netid または *gatewaynode* 用の COS テーブルは、すでに *gatewaynode* に対する BUILD または NETWORK 定義ステートメントに定義されています。

DUPLICATE MAXSUBA

最大サブエリア値 (MAXSUBA) は、すでに、*gatewaynode*、または別のゲートウェイ・ノードに対する BUILD または NETWORK 定義ステートメントに定義されています。

DUPLICATE SUBAREA

サブエリア値は、すでに別のゲートウェイ・ノードに対する BUILD または NETWORK 定義ステートメントに定義されています。

INSUFFICIENT STORAGE

ストレージ不足のため、ネットワーク *netid* を追加、または削除できません。

INSUFFICIENT STORAGE TO DEFINE COSTAB

ストレージ不足のため、COS テーブル名 (COSTAB) を定義することができません。

INSUFFICIENT STORAGE TO DEFINE MAXSUBA

ストレージ不足のため、最大サブエリア値 (MAXSUBA) を定義することができません。

INSUFFICIENT STORAGE TO DEFINE SUBAREA

ストレージ不足のため、サブエリアを定義することができません。

MAXSUBA USE COUNT OVERFLOW

MAXSUBA オペランドでコーディングされた最大サブエリアの *gatewaynode* の共有の記録が VTAM の能力を超えました。

MODEL NETWORK NOT FOUND

COPIES= を持つ NETWORK 定義ステートメントにコーディングされたモデル・ネットワークが *gatewaynode* に定義されていません。

UNEXPECTED RETURN CODE

ネットワーク *netid* の追加、または削除中に予期されない戻りコードが見つかりました。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING COSTAB

COS テーブルの定義中に、予期されない戻りコードが見つかりました。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING MAXSUBA

最大サブエリア値の定義中に、予期されない戻りコードが見つかりました。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING SUBAREA

サブエリア値の定義中に、予期されない戻りコードが見つかりました。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING COSTAB

COS テーブルの削除中に、予期されない戻りコードが見つかりました。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING MAXSUBA

最大サブエリア値の削除中に、予期されない戻りコードが見つかりました。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING SUBAREA

サブエリア値の削除中に、予期されない戻りコードが見つかりました。

システムの処置: ネットワーク *netid* を追加できなかったために、このメッセージが出された場合は、SSCP-SSCP セッションと、デフォルトのブランク COS 項目を使用する LU-LU セッションを除く、ネットワーク *netid* に向けられている、すべてのネットワーク間セッションを切断します。

システムの処置は、*reason* の値によって決まります。

COSTAB NOT FOUND

ネットワーク *netid* は *gatewaynode* では無視されます。

COSTAB USE COUNT OVERFLOW

COS テーブル名が、無視されます。別の活動 NCP にサービス・クラス・テーブルが定義されている場合でも、COS テーブルの使用を VTAM に記録することができないため、この NCP 定義に対して使用することはできません。

DUPLICATE COSTAB

COS テーブル名が、無視されます。この NCP 定義に定義された NETID に対する、元の COS テーブル名が使用されます。

DUPLICATE MAXSUBA

最大サブエリア値が、無視されます。すでに異なる値が、このホストに正常に定義され、この最大サブエリア値に依存するすべてのネットワークが非活動化されるまで、コーディングされた NETID によって識別されるネットワークの変更、または再定義はできません。

DUPLICATE SUBAREA

サブエリア名が、無視されます。この NCP 定義に定義された NETID の元のサブエリア名が使用されます。

INSUFFICIENT STORAGE

ストレージ不足のため、ネットワーク *netid* を追加、または削除できません。処理を続行します。

INSUFFICIENT STORAGE TO DEFINE COSTAB

COS テーブル名が、無視されます。

INSUFFICIENT STORAGE TO DEFINE MAXSUBA

最大サブエリア値が、無視されます。このホストがゲートウェイ NCP のネイティブ・ネットワークに常駐し、NETID オペランドによって識別されるネットワークにリンクまたはリンク・ステーションを所有する場合は、そのネットワークの最大サブエリア値を知らなければ、それらのリンクまたはリンク・ステーションを活動化することはできません。ただし、別の NCP の定義がネットワークの最大サブエリア値を正常に定義した場合は、別の NCP が非活動化されていない間だけ、リンク、またはリンク・ステーションの活動化が可能になります。

INSUFFICIENT STORAGE TO DEFINE SUBAREA

サブエリア名が、無視されます。

MAXSUBA USE COUNT OVERFLOW

最大サブエリア値が、無視されます。

MODEL NETWORK NOT FOUND

ネットワーク *netid* の定義が、失敗します。

UNEXPECTED RETURN CODE

ネットワーク *netid* の定義が、失敗します。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING COSTAB

COS テーブル名が、定義されません。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING MAXSUBA

最大サブエリア値が、定義されません。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING SUBAREA

サブエリア値が、定義されません。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING COSTAB

COS テーブル名が、削除されません。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING MAXSUBA

最大サブエリア値が、削除されません。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING SUBAREA

サブエリア値が、削除されません。

オペレーターの応答:

- *text* が **COSTAB NOT FOUND**、**DUPLICATE COSTAB**、または **COSTAB USE COUNT OVERFLOW** の場合、**DISPLAY COS,ORIGIN=gatewaynode,NETID=* コマンド**を入力し、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- *text* が **INSUFFICIENT STORAGE...** の場合は、ネットワーク *netid* へのすべてのリンクを非活動化し、ストレージが使用可能になってから、これらのリンクをもう一度活動化してください。**DISPLAY BFRUSE** コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、**DISPLAY STORUSE** コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。
- その他の *reason* の場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

COSTAB NOT FOUND

DISPLAY COS コマンドの出力を検討して、IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

COSTAB USE COUNT OVERFLOW

DISPLAY COS コマンドの出力を検討してください。各ネットワークと、NCP に対する **COSTAB** 名の使用を、255 以下に制限してください。多くの NCP を同時に活動化する必要がある場合は、さまざまなネットワークを定義する **COSTAB** のそれぞれに、異なる **COSTAB** 名を使用してください。問題を解決するには、**MODIFY TABLE** コマンドを使用してください。

DUPLICATE COSTAB

示されたネットワーク *netid* に対して指定された定義ステートメントに先行する、すべての **BUILD** と **NETWORK** 定義ステートメントを検討することによって、同じ **NETID** にコーディングされた **COSTAB** 名を識別してください。この NCP 定義では、1 つのネットワークに対しては、1 つの **COSTAB** 名だけを、コーディングしてください。問題を解決するには、**MODIFY TABLE** コマンドを使用してください。

DUPLICATE MAXSUBA

指定された **NETID** 開始オプション *netid* に対する **BUILD** または **NETWORK** 定義ステートメントの

MAXSUBA キーワードで指定された最大サブエリア値が有効かどうかを調べてください。この値は、この NCP または活動化されたことのある他の NCP の、すべての他の **BUILD** または他の **NETWORK** 定義ステートメントの最大サブエリアと、同じでなければなりません。

DUPLICATE SUBAREA

同じ **NETID** にコーディングされたサブエリア値を識別するために、示されたネットワークに指定された定義ステートメントに先行する、すべての **BUILD** と **NETWORK** 定義ステートメントを調べてください。この NCP 定義内には、各ネットワークに対して一つのサブエリア値のみをコーディングしてください。活動状態にある、すべての定義ステートメントを調べてください。

INSUFFICIENT STORAGE...

これ以上の損失を防ぐために、不必要なジョブを取り消すか、ネットワークの未使用部分の非活動化を行う必要があります。障害が多い場合には、**VTAM** を停止して、再始動しなければなりません。

バッファ・プールや **CSA** 開始制限を定義し直すことができます。**MODIFY VTAMOPTS** コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、**VTAM** 開始オプション・ファイル (**ATCSTRxx**) を変更し、**VTAM** を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- 追加情報については、「*VTAM Operation*」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および **VIT** 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。

MAXSUBA USE COUNT OVERFLOW

IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

MODEL NETWORK NOT FOUND

このエラーは、以下の 2 つが原因となっています。

1. モデル・ネットワークを含む定義ステートメントで **NCP** が、生成されましたが、定義が **VTAM** によって活動化される前に、モデル・ネットワークが除去されました。この場合は、モデル・ネットワークをリストアし、訂正した定義ステートメントを活動化してください。
2. **NCP** にエラーがあり、そのため **NCP** が理由もなく要求を生成しています。IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

UNEXPECTED RETURN CODE

IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING COSTAB

IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING MAXSUBA

IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

UNEXPECTED RETURN CODE DEFINING SUBAREA

IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING COSTAB

IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING MAXSUBA

IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

UNEXPECTED RETURN CODE DELETING SUBAREA

IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST1036I NODE ABEND-UNUSABLE RESOURCE IS
resource

説明: 外部通信アダプター (XCA) 大ノードを異常終了からリカバリーできないときに、VTAM はこのメッセージを出します。

resource には、異常終了したリソースのタイプと名前が入ります。表示される *resource* の値は、以下のようになります。

LINE linename

XCA 大ノード内の回線 *linename* が使用不能です。この大ノード内の他のすべての回線は影響を受けません。

SAP sapnum IN NODE nodename

XCA 大ノード *nodename* 内のサービス・アクセス・ポイント (SAP) *sapnum* が、使用不能です。

sapnum が SNA SAP の場合は、この SAP に関連するすべての回線が、使用不能です。この大ノード内の VCNS 回線は影響を受けません。

sapnum が VCNS SAP の場合は、指定された SAP が使用不能です。VCNS 回線に関連する他のすべての SAP およびすべての SNA 回線は影響を受けません。

NODE nodename

XCA 大ノード *nodename* が使用不能です。この大ノード内のすべての SNA および VCNS 回線は使用不能です。

他の VTAM 大ノードは影響を受けません。

システムの処置: メッセージに示されたリソースと、これを使用するすべてのリソースが、使用不能とマークされます。変更されていない他のすべてのリソースについては、処理が続けられます。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログとダンプの使用は、異常終了の原因の判別に役立ちます。失敗したリソースを使用するには、VTAM を停止して、再始動しなければなりません。さらに援助が必要な場合は、IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST1038I MODIFY NOTRACE REJECTED-VIT IS
NOT WAITING TO TERMINATE

説明: VTAM 内部トレース (VIT) が、終了するための待ち状態にない場合に、VTAM は、MODIFY

NOTRACE,TYPE=VTAM,OPTION=FORCE コマンドに応答して、このメッセージを出します。OPTION=FORCE は、前回 VIT を OPTION=END を使用して停止しようとして失敗したときのみ有効です。

システムの処置: MODIFY コマンドは拒否され、処理を続行します。

オペレーターの応答: MODIFY

NOTRACE,TYPE=VTAM,OPTION=END コマンドを入力して、VTAM 内部トレースを停止してください。これは、VIT を終了させることとなります。活動していない場合は、MODIFY NOTRACE,TYPE=VTAM,OPTION=FORCE コマンドを再入力してください。

詳細については、VTAM Operationを参照してください。

VIT を非活動化する方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1039I SSCP TKOVR FOR ID = nodename FAILED
- INACT GVBK SCHEDULED

説明: *nodename* に対する引き継ぎが失敗し、VARY INACT,TYPE=GIVEBACK コマンドによって引き継ぎがオーバーライドされた場合に、VTAM はこのメッセージを出します。引き継ぎ処理中に、入出力エラーが起きた場合、このメッセージは、内部的に VARY INACT,TYPE=GIVEBACK コマンドが入力されたことを、オペレーターに知らせます。

システムの処置: *nodename* および接続されたノードのすみやかな非活動化を続けます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログを調べて、問題の原因を判別してください。

IST1040I CONVERSATION(S) FOUND FOR applname

説明: このメッセージは、DISPLAY CONVID コマンドに対する応答として、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1040I CONVERSATION(S) FOUND FOR applname
IST1007I PARTNER = partner, LOGMODE = logmode
IST1008I CONVID = convid, STATUS = status, ETIME =
etime
IST1009I SID = sid
IST924I -----
IST1007I PARTNER = partner, LOGMODE = logmode
IST1008I CONVID = convid, STATUS = status, ETIME =
etime
IST1009I SID = sid
IST924I -----
:
IST314I END
```

メッセージ IST1040I は、オペレーター・コマンドに指定された LU 6.2 アプリケーション・プログラム、*applname* の名前を提供します。メッセージ IST1007I、IST1008I、および IST1009I は、LU 6.2 アプリケーション・プログラムとの個々の会話に関連する情報を、提供します。メッセージ IST924I は、異なる個々の会話にある LU 6.2 アプリケーション・プログラムを、区別するための行の分離記号として使用されます。

applname は、オペレーター・コマンドに指定された LU 6.2 アプリケーション・プログラムの名前です。

partner は、DISPLAY 情報が要求された、パートナー LU の名前です。

IST1043I

logmode は、DISPLAY 情報が要求された、ログオン・モードです。

convid は、指定されたアプリケーション・プログラムとパートナー LU の会話 ID です。

status は会話の状況です。可能な値は、以下のリストで与えられます。*status* が /D で終わっている場合は、会話に対する割り振り解除が保留中です。/D 修飾子は、持続セッションにのみ適用されます。

status

意味

E_CONV

半二重の会話の終了: 会話は割り振り解除されています。

F_SR

全二重の送信/受信: アプリケーション・プログラムは、パートナー LU との間でデータを送受信することが可能です。

F_SO

全二重の送信のみ: アプリケーション・プログラムは、パートナー LU から割り振り解除要求を受信しました。アプリケーション・プログラムは、パートナー LU にデータを送信することができ、会話を終了させるために割り振り解除要求を送信することが期待されています。

F_RO

全二重の受信のみ: アプリケーション・プログラムは、パートナー LU に割り振り解除要求を送信しました。アプリケーション・プログラムはパートナー LU からデータを受信することができ、会話を終了させるために割り振り解除要求を受信することが期待されています。

FP_SR_L

全二重の保留送信/受信ログ: アプリケーション・プログラムは、エラー・ログ・データの付随するエラー通知を受信しました。アプリケーションがデータを受信した後、会話は SEND/RECEIVE 状況に戻ります。

FP_RO_L

全二重の保留受信のみログ: アプリケーション・プログラムは、エラー・ログ・データの付随するエラー通知を受信しました。アプリケーションがデータを受信した後、会話は RECEIVE_ONLY 状態に戻ります。

FP_RS_L

全二重の保留リセット・ログ: 会話の終了は、エラー・ログ・データの受信を保留しています。アプリケーションがエラー・ログ・データを受信した後、会話は RESET 状況になります。

F_R_FM5

全二重の受信 FMH-5: 会話は SEND/RECEIVE 状況にありますが、受信されるのを待っている FMH-5 があります。アプリケーション・プログラムが FMH-5 を受信した後、会話は使用可能になります。

P_DEAL

半二重の保留割り振り解除: アプリケーション・プログラムは、パートナー LU のデータ受信の確認を待っています。

P_E_LOG

半二重の保留会話終了ログ: 会話の終了はエラー・ログ・データの受信を保留しています。

P_R_LOG

半二重の保留受信ログ: アプリケーション・プログラムは、会話の終了に先行しない、エラー・ログ・データを受信できます。

P_SEND

半二重の保留送信: アプリケーション・プログラムはデータ、および方向転換コマンドを受信しました。会話は、データの受諾と次の SEND 操作に続いて、SEND 状況になります。

R_CFM

半二重の受信確認: アプリケーション・プログラムは、確認要求への応答を予期されています。

R_CFM_D

半二重の確認受信割り振り解除: アプリケーション・プログラムは、状況を割り振り解除に変更する、確認要求への応答を予期されています。

R_CFM_S

半二重の受信確認送信: アプリケーション・プログラムは、確認要求への応答を予期され、確認の後でアプリケーション・プログラムが SEND 状況になることを示す、方向転換コマンドを受信しました。

R_FM5

半二重の受信 FMH-5: 会話は RECEIVE 状況にありますが、受信されるのを待っている FMH-5 があります。アプリケーション・プログラムが FMH-5 を受信した後、会話は使用可能になります。

RECEIVE

半二重の受信: アプリケーション・プログラムはパートナー LU からの情報を予期しています。

RESET

全二重、または半二重のリセット: 会話は割り振り解除されています。

SEND

半二重の送信: アプリケーション・プログラムは、パートナー LU へのデータ送信、またはパートナー LU からの確認の要求が可能です。

etime は、最後の API 操作が会話で実行されてからの経過時間(分)です。*etime* の値が 99999 より大きい場合、VTAM は 99999 を表示します。

sid は、会話のセッション ID です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1043I CP NAME = *cpname*, CP NETID = *netid*,
DYNAMIC LU = {YES|NO}

説明: VTAM は、PU タイプ 2.1 に対する DISPLAY ID コマンドに回答するメッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。

cpname は PU に関連する CP の名前です。

netid の意味は、XNETALS 開始オプションと、PU 定義ステートメントで指定された NETID 値によって決まります。XNETALS 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

cpname や *netid* が不明な場合、VTAM は *****NA***** を表示します。

DYNAMIC LU は、PU が動的独立 LU をサポートするかどうを示します。これは、PU 定義ステートメントの DYNLU オペランドの値と一致します。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IST1044I ALSLIST = *alsname alsname alsname alsname*
説明: VTAM は、独立 LU に対する DISPLAY ID コマンドに回答するメッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。

alsname は、DISPLAY ID コマンドに指定された、独立 LU に定義されている、すべての隣接リンク・ステーションの名前です。VTAM は、すべての隣接リンク・ステーション名が表示されるまで、このメッセージを出します。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IST1045I NODE TYPE = *nodetype*
説明: VTAM はこのメッセージを、いくつかの異なるメッセージ・グループの一部として出します。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

nodetype の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

IST1046I *nodetype nodename* ALSO EXISTS
説明: このメッセージは、VTAM が DISPLAY ID *=name* コマンドの応答として出すメッセージ・グループの一部で、複数のリソースが同じ名前であることを示しています。

nodetype は次のいずれかです。

CP IST075I に表示されている SSCP (または CDRM) に加えて、制御点 *nodename* が存在しています。

SSCP
IST075I に表示されている CP に加えて、SSCP (または CDRM) *nodename* が存在しています。

nodename は、形式 *netid.name* の、リソースのネットワーク修飾名です。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

IST1049I PERCENT REDUCTION - INPUT = *input_percent*, OUTPUT = *output_percent*
説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST879I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1050I MAXIMUM COMPRESSION LEVEL - INPUT = *input_level*, OUTPUT = *output_level*
説明: VTAM は、アプリケーションに対して入力された DISPLAY ID コマンドに答えて、このメッセージを出します。このメッセージは、アプリケーションが 1 次論理装置 (PLU) であるときの、アプリケーションの最大圧縮レベルを示しています。

input_level は、APPL 定義ステートメントの CMPAPPLI オペランドに指定された入力セッション・トラフィックの最大圧縮レベルです。

output_level は、APPL 定義ステートメントの CMPAPPLO オペランドに指定された出力セッション・トラフィックの最大圧縮レベルです。

APPL 定義ステートメントの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

圧縮限界および圧縮レベルの詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 最大圧縮レベルを変更するには、MODIFY COMPRESS コマンドを使用してください。必要でない場合、処置は不要です。詳細については、VTAM Operation を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1051I EVENT CODE = *code*
説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは、IST530I か IST1436I です。詳細については、最初のメッセージの説明を参照してください。

code の説明については、767 ページの『待ち状態イベント ID』を参照してください。

IST1052I SYNTAX ERROR AFTER *option*-ALL FURTHER OPTIONS IGNORED

説明: *option* の後の開始オプションに構文エラーがあるときに、VTAM はこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は *option* の後の開始オプションをすべて無視します。メッセージ IST1311A を出して、正しい開始オプションについて指示します。

オペレーターの応答: IST1311A の指示通りに、最後の有効な開始オプションの後に開始オプションをすべて入力してください。また、それ以降のすべての開始オプションにデフォルト値を入れたい場合は、ブランクにしておいてください。

プログラマーの応答: *option* が ATCSTRxx ファイルにコーディングされている場合は、そのファイルの *option* に続くオブ

ションの構文を訂正してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1053I VALUE FOR *option* MUST BE 'YES' OR 'NO'

説明: VTAM は、START 処理の間、または MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答として *option* に YES か NO 以外の値が含まれているときにこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。

- START 処理の間にエラーが起こった場合、VTAM はメッセージ IST1311A を出して、正しい *option* の値について指示します。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答でエラーが起こった場合は、処理は継続します。

オペレーターの応答:

- START 処理の間にエラーが起こった場合、IST1311A に応答して *option* に YES または NO を入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、正しく *option* を入力したかどうか確認してください。

プログラマーの応答:

- START の処理の間にエラーが起こった場合、ATCSTRxx ファイルに *option* がコーディングされていれば、*option* の値を訂正してください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、処置は不要です。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1054I VALUE FOR *option* MUST BE BETWEEN *min* AND *max*

説明: VTAM は、START 処理の間、または MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答として *option* の値が範囲外にあるときにこのメッセージを出します。*option* の値は *min* と *max* の間でなければなりません。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。

- START 処理の間にエラーが起こった場合、VTAM はメッセージ IST1311A を出して、正しい *option* の値について指示します。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答でエラーが起こった場合は、処理は継続します。

オペレーターの応答:

- START 処理の間にエラーが起こった場合、IST1311A に応答して *option* に *min* と *max* の間の値を入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、正しく *option* を入力したかどうか確認してください。

プログラマーの応答:

- START の処理の間にエラーが起こった場合、ATCSTRxx ファイルに *option* がコーディングされていれば、*option* の値を訂正してください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、処置は不要です。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1055I VALUE FOR *option* MUST BE *type*

説明: VTAM は、START 処理の間に、または *option* の値が正しい *type* ではないときに MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答としてこのメッセージを出します。考えられる *type* の値は以下のとおりです。

NUMERIC

option の値は、数値でなければなりません。

TIMER *option* の値は、形式 **xxI** でなければなりません。ここで **xx** は数値で、**I** は時間の間隔 (**S** = 秒、**M** = 分、**H** = 時間、**D** = 日) の文字表示です。**TIMER** 表記を使用している各開始オプションは、異なる範囲をもっています。詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。

- START 処理の間にエラーが起こった場合、VTAM はメッセージ IST1311A を出して、正しい *option* の値について指示します。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答でエラーが起こった場合は、処理は継続します。

オペレーターの応答:

- START 処理の間にエラーが起こった場合、IST1311A に応答して *option* に有効な値を入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、正しく *option* を入力したかどうか確認してください。

プログラマーの応答:

- START の処理の間にエラーが起こった場合、ATCSTRxx ファイルに *option* がコーディングされていれば、*option* の値を訂正してください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、処置は不要です。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1056I *option* PARAMETER *n* MUST BE BETWEEN *min* AND *max*

説明: *option* に指定された *n* 番目のパラメーターが範囲外にあるときに、START 処理の間、または MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答として VTAM はこのメッセージを出します。このパラメーターは *min* と *max* の間の値でなければなりません。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。

- START 処理の間にエラーが起こった場合、VTAM はメッセージ IST1311A を出して、正しい *option* の値について指示します。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答でエラーが起こった場合は、処理は継続します。

オペレーターの応答:

- START 処理の間にエラーが起こった場合、IST1311A に応答してパラメーター *n* に *min* と *max* の間の値を入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、正しく *option* を入力したかどうか確認してください。

プログラマーの応答:

- START の処理の間にエラーが起こった場合、ATCSTRxx ファイルに *option* がコーディングされていれば、*option* の値を訂正してください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、処置は不要です。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1057I *resourcename* IS ALSO A REAL RESOURCE

説明: VTAM は以下のコマンドに応答して、このメッセージを出します。

- DISPLAY SESSIONS
VTAM は、活動中のネットワーク・リソース *resourcename* のためのセッションについての情報を表示します。このメッセージは、IST113I や IST1156I に続き、USERVAR と活動中のネットワーク・リソースが同じ名前であることを示しています。
resourcename は、形式 *netid.name* の、リソースのネットワーク修飾名です。
- DISPLAY ID=*displayname*,IDTYPE=LUALIAS または IDTYPE=USERVAR
 - このメッセージは、IST075I が見出しになっているメッセージ・グループの一部です。コマンドに指定されている名前は、LUALIAS や USERVAR 名およびネットワーク・リソースの両方を識別します。
 - IDTYPE=USERVAR が指定されていれば、*resourcename* はリソースの名前です。コマンドで *displayname* にネットワーク修飾名が入力された場合、*resourcename* は、*netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出されます。
 - IDTYPE=LUALIAS が指定されていれば、*resourcename* はネットワーク修飾ではありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

- DISPLAY SESSIONS
USERVAR の値に関するセッション情報については、メッセージ IST113I や IST1156I の USERVAR 値に対して DISPLAY SESSIONS コマンドを入力してください。このネットワークに定義されている現在活動中の USERVAR をリストするには、DISPLAY USERVAR コマンドを入力してください。

現在活動中のネットワーク・リソース *resourcename* とその他のセッションに関する情報については、USERVAR の名前を変更してください。

- DISPLAY ID=*displayname*,IDTYPE=LUALIAS または IDTYPE=USERVAR

DISPLAY ID=*displayname*,IDTYPE=RESOURCE コマンド (ここで *displayname* はリソースの名前) を入力することによって、ネットワーク・リソースについての情報を表示することができます。

プログラマーの応答: なし。

IST1058I MODEL LU GROUP = *lugroup*, LUSEED = *pattern*

説明: VTAM は、動的 LU 定義をサポートする PU に対して入力された、DISPLAY ID コマンドに応答する、メッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。

lugroup は、この PU の動的 LU を定義するために使用されるモデル LU グループです。 *lugroup* の値は、PU 定義ステートメントの LUGROUP キーワードに対応します。

pattern は、従属した LU (SDDL) 出口の定義の選択に渡される文字パターンです。このパターンは、動的に定義される LU の名前を生成するために、使用することができます。 *pattern* の値は、PU 定義ステートメントの LUSEED キーワードに対応します。詳細については、VTAM Resource Definition Referenceを参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1059I MODEL NAME = *modelname*

説明: VTAM は、動的に定義されたリソースに対する DISPLAY ID コマンドへの応答で、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。 *modelname* は、リソースを作成するために使用されたモデルの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1060I LUGROUP MAJOR NODE = *lugroupnode*

説明: VTAM は、DISPLAY LUGROUPS コマンドへの応答で、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。 *lugroupnode* は、表示されている LUGROUP 大ノードの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1061I FAILURE OCCURRED ON *puname* AT *locaddr*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは IST1016I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1062I **EVENT ID = eventid**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。このグループの最初のメッセージは、IST530I か IST1436I です。詳細については、最初のメッセージの説明を参照してください。

eventid の説明については、767 ページの『待ち状態イベント ID』を参照してください。

IST1063I **MODELS AFTER THE 255TH MODEL IN LUGROUP lugroup IGNORED**

説明: *lugroup* に 255 を超えるモデル LU 定義が含まれているときに、LUGROUP *lugroup* の活動化中に、VTAM はこのメッセージを出します。LUGROUP は、255 を超えるモデルを持つことはできません。

システムの処置: *lugroup* の最初の 255 モデルのみが定義されます。256 以降のすべてのモデルは無視されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *lugroup* の定義を訂正してください。LUGROUP 大ノードには、255 を超えるモデル LU を含めることはできません。詳細については、VTAM Resource Definition Reference を参照してください。

IST1064I **TRACE IGNORED, nodename - STORAGE SHORTAGE**

説明: このメッセージは、要求されたトレースを開始するために十分なストレージがないときに、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1064I TRACE IGNORED, nodename - STORAGE SHORTAGE
IST1045I NODE TYPE = nodetype
IST314I END
```

ネットワーク修飾名が、開始オプションや MODIFY TRACE コマンドに入力された場合、VTAM は *netid.name* の形式の *nodename* を出します。

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置:

- *nodename* が VTAM で、内部トレース (例えば、type=VTAM) を始動しようとした場合、初期設定は VTAM 内部トレース・テーブルなしで継続されます。
- *nodename* が VTAM 以外であれば、VTAM は、開始オプションの上書きを行うように指示するメッセージ IST1311A を出します。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシ

ステム・ログとダンプを保管してください。

VTAM 内部トレースについては、より小さなバッファ・サイズを指定して、MODIFY TRACE コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが足りないためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プールか SGA 制限を再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- 追加情報については、VTAM Operation を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1065I **LOAD MODULE REQUESTED IPL ESTIMATED IPL**

説明: VTAM は DISPLAY DISK コマンドに応答する、メッセージのサブグループの一部として、このメッセージを出します。

このメッセージ・サブグループは、メッセージ IST951I が先頭のメッセージ・グループに表示されます。追加情報については、そのメッセージの説明を参照してください。

メッセージ・サブグループの詳しい説明は、次の通りです。

```
IST1065I LOAD MODULE REQUESTED IPL ESTIMATED IPL
IST1066I load_module requested_time estimated_time
:
```

IPL が、ディスク上の少なくとも 1 つのロード・モジュールでスケジュールされたときに、このサブグループが出されます。IST1066I が、各ロード・モジュールについて繰り返されます。

- スケジュールされた IPL に、1 つのロード・モジュールしかない場合、VTAM はこのロード・モジュールに対して、メッセージ IST1066I を出します。さらに IST1066I は、すべてのロード・モジュールが、IPL をスケジュールされていなくても、繰り返されます。例は以下の通りです。

```

IST1065I LOAD MODULE REQUESTED IPL ESTIMATED IPL
IST1066I load_module requested_time estimated_time
IST1066I load_module ***NA***      ***NA***
IST1066I load_module ***NA***      ***NA***

```

- スケジュールされた IPL にロード・モジュールがない場合には、VTAM はこのサブグループを出しません。

IST1066I

load_module は、ディスク上のロード・モジュールの名前です。

requested_time は、MODIFY LOAD コマンドで入力されたときに IPL がスケジュールされた時間です。この時間は、入力された MODIFY LOAD の時間範囲を反映し、入力された DISPLAY DISK の時間範囲は反映しません。

estimated_time は、VTAM によって計算された、IPL が行われる時間です。この時間は、入力された DISPLAY DISK の時間範囲を反映します。*requested_time* と *estimated_time* の差は、次のように発生します。

- MODIFY LOAD コマンド、および DISPLAY DISK コマンドが、異なる時間範囲で入力されました。
- MODIFY LOAD コマンドが入力されたときに、VTAM と NCP 間でネットワーク遅延が起きました。この場合、*estimated_time* は、実際の IPL 時間です。
- DISPLAY DISK コマンドが入力されると、VTAM と NCP 間でネットワーク遅延が起きます。この場合、実際の IPL 時間は *estimated_time* より早くなります。
- MODIFY LOAD コマンドの入力された時間と、DISPLAY DISK コマンドの入力された時間の間で、ホストのシステム・クロックが、調整されました。

requested_time と *estimated_time* は、*date, hh:mm* の形式で、IPL がスケジュールされた日付と時間を表します。*date* は、VTAM 開始パラメーターで指定された形式で出されます。デフォルトは *mm/dd/yy* です。*hh:mm* は 24 時間形式です。例えば、1:00 P.M. は、**13:00** として表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1066I *load_module requested_time estimated_time*

説明: VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。このサブグループの最初のメッセージは、IST1065I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1067I LOGICAL LINES:

説明: VTAM は、メッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。これは、1 つまたは複数の論理回線グループの物理リソースである PU に対して出された DISPLAY ID コマンドへの応答です。VTAM は、メッセージ IST080I を出し、先行 PU に関連する論理回線の名前と状況を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1068I PHYSICAL RESOURCE (PHYSRSC) = *puname*

説明: VTAM は、メッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。これは、回線または回線グループに対して出された DISPLAY ID コマンドへの応答です。

puname は、表示されているリソース (論理回線または論理回線を含む回線グループまたはトランスポート・リソース・リスト・エレメント) に関連する物理リソースの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1069I PARAMETER *n* FOR *option* MUST BE *type*

説明: VTAM は、開始オプション *option* に指定されている *n* 番目のパラメーターが正しい *type* ではないときに、START 処理の間、または MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答としてこのメッセージを出します。考えられる *type* の値は以下のとおりです。

NUMERIC

option の値は、数値でなければなりません。

TIMER *option* の値は、形式 **xxI** でなければなりません。ここで **xx** は数値で、**I** は時間の間隔 (**S** = 秒、**M** = 分、**H** = 時間、**D** = 日) の文字表示です。**TIMER** 表記を使用している各開始オプションは、異なる範囲をもっています。詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。

- START 処理の間にエラーが起こった場合、VTAM はメッセージ IST1311A を出して、正しい *option* の値について指示します。

- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答でエラーが起こった場合は、処理は継続します。

オペレーターの応答:

- START 処理の間にエラーが起こった場合、IST1311A に応答して *option* のパラメーター *n* に有効な値を入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、正しく *option* を入力したかどうか確認してください。

プログラマーの応答:

- START の処理の間にエラーが起こった場合、ATCSTRxx フォールトに *option* がコーディングされていれば、*option* の値を訂正してください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、処置は不要です。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1070I *value FOR option IS NOT VALID-START CONTINUES*

説明: VTAM は、開始オプション *option* に指定された値が無効なときにこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。メッセージ IST1311A を出して、*option* に正しい値を入力するよう促します。

オペレーターの応答: IST1311A に応答して *option* の有効な値を入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れた場合は、ブランクのままにしてください。

プログラマーの応答: *option* が ATCSTRxx ファイルにコーディングされている場合、このファイルの *option* の値を訂正してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1071I **SONLIM OPTION PARAMETER 1 MUST BE GREATER THAN PARAMETER 2**

説明: VTAM は、SONLIM 開始オプションの第 2 パラメーターが、第 1 パラメーターより大きい場合に、このメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は SONLIM にコーディングされた値を無視します。メッセージ IST1311A を出して、SONLIM の正しい値について指示します。

オペレーターの応答: メッセージ IST1311A に応答して、SONLIM に正しいパラメーターを入力してください。また、SONLIM にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。

プログラマーの応答: SONLIM が ATCSTRxx ファイルにコーディングされている場合、そのファイルの SONLIM の値を訂正してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1072I *option HAS TOO MANY PARAMETERS-START OPTION IGNORED*

説明: VTAM は、開始オプション *option* に指定されているパラメーターが多すぎるときに、START 処理の間、または MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答としてこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。

- START 処理の間にエラーが起こった場合、VTAM はメッセージ IST1311A を出して、正しい *option* の値について指示します。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答でエラーが起こった場合は、処理は続きます。

オペレーターの応答:

- START 処理の間にエラーが起こった場合、IST1311A に応答して *option* に正しいパラメーターを入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、正しく *option* を入力したかどうか確認してください。

プログラマーの応答:

- START の処理の間にエラーが起こった場合、ATCSTRxx ファイルに *option* がコーディングされていれば、*option* の値を訂正してください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、処置は不要です。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1073I *option2 CAN ONLY BE SPECIFIED AFTER OPTION option1*

説明: VTAM は、TRACE、NOTRACE、TNSTAT、または NOTNSTAT の開始オプション *option2* が順序通りにならないときに、このメッセージを出します。開始オプション *option1* は、TRACE、NOTRACE、TNSTAT、または NOTNSTAT です。*option2* は、*option1* の後に指定しなければなりません。

システムの処置: VTAM は *option2* を無視します。メッセージ IST1311A を出して、*option1* に正しい値を入力するよう促します。

オペレーターの応答: TRACE、NOTRACE、TNSTAT、または NOTNSTAT 開始オプションの後に *option2* を入力してください。また、*option1* にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。

プログラマーの応答: *option2* が ATCSTRxx ファイルにコーディングされている場合、そのファイルの *option1* の値の後に *option2* の値を移動してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1074I **PARAMETERS FOR option ARE NOT WITHIN THRESHOLD LIMITS**

説明: バッファ・プール開始オプションの処理中に、以下のいずれかの状態が起きると、このメッセージが出されます。

- 基本数 (baseno) がスローダウン開始値 (SLOWPT)、または拡張開始値 (xpanpt) よりも小さい場合。
- 拡張開始値が 0 以外で、スローダウン開始値よりも小さい場合。SPBUF と LPBUF の場合、基本数と拡張開始値との間、または基本数とスローダウン開始値との間の差は 5 以下です。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。メッセージ IST1311A を出して、*option* に正しい値を入力するよう促します。

オペレーターの応答: IST1311A に応答して、*option* に有効な値を入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れた場合は、ブランクのままにしてください。

プログラマーの応答: *option* が ATCSTRxx ファイルにコーディングされている場合、このファイルの *option* の値を訂正してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1075I PARAMETER *n* FOR *option* IS NOT VALID

説明: VTAM は、開始オプション *option* に指定されている *n* 番目のパラメーターに無効な値が含まれているときに、START 処理の間、または MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答としてこのメッセージを出します。

システムの処置: VTAM は *option* を無視します。

- START 処理の間にエラーが起こった場合、VTAM はメッセージ IST1311A を出して、正しい *option* の値について指示します。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答でエラーが起こった場合は、処理は継続します。

オペレーターの応答:

- START 処理の間にエラーが起こった場合、IST1311A に応答して *option* に値をすべて再入力してください。また、*option* にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、正しく *option* を入力したかどうか確認してください。

プログラマーの応答:

- START の処理の間にエラーが起こった場合、ATCSTRxx ファイルに *option* がコーディングされていれば、*option* の値を訂正してください。
- MODIFY VTAMOPTS コマンドへの応答で、エラーが起こった場合は、処置は不要です。

VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1076I VALUE DEFINED FOR HOSTPU, *value*, IS A RESERVED KEYWORD

説明: HOSTPU 始動オプションで定義されたホスト・サブエリア PU 名が以下のいずれかの予約語であるとき、VTAM はこのメッセージを発行します: VTAMSEG、VTAM、ISTNOP、ISTPDCLU、ISTGROUP、TRACE

value は HOSTPU に定義された値です。

システムの処置: VTAM は HOSTPU の値を無視します。メッセージ IST1311A を出して、HOSTPU の正しい値について指示します。

オペレーターの応答: IST1311A に応答して HOSTPU に有効な値を入力してください。HOSTPU にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクのままにしてください。

プログラマーの応答: HOSTPU が ATCSTRxx ファイルにコーディングされている場合、そのファイルの HOSTPU の値を訂正してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1077I OPTION *option* AFTER *type* keyword IS NOT VALID

説明: VTAM は、TRACE/NOTRACE の特定のタイプの後に指定されたオプションが無効なときに、このメッセージを出します。*option* は、VTAM 開始オプションで、*type* は無効な

トレース・タイプです。Keyword は TRACE または NOTRACE です。

システムの処置: VTAM は TRACE や NOTRACE 始動オプションを無視します。メッセージ IST1311A を出して、TRACE や NOTRACE オプションの正しい値について指示します。

オペレーターの応答: メッセージ IST1311A に応答して、すべてのオプションと共に TRACE や NOTRACE を入力し直してください。また、TRACE や NOTRACE にデフォルト値を入れたい場合は、ブランクにしてください。

プログラマーの応答: これらの開始オプションが、ATCSTRxx ファイル内にコーディングされている場合には、そのファイル内の TRACE または NOTRACE に対するオプション値を訂正してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1078I LIST START OPTION CANNOT BE IN START FILE-OPTION IGNORED

説明: VTAM は LIST 開始オプションが、ATCSTRxx ファイルに見つかったときに、このメッセージを出します。この開始オプションは、プロンプトが出されたとき、または VTAM START コマンドに指定されているときのみ、入力することができます。LIST 開始オプションの詳細については、

「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

システムの処置: VTAM は指定された開始オプションを無視します。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ATCSTRxx ファイルから LIST=xx ステートメントを取り除いてください。

IST1079I *ncpname* ACTIVATION CONTINUES-CANNOT ASSOCIATE *groupname*

説明: これは、VTAM が NCP *ncpname* の活動化中に出すメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

IST1079I *ncpname* ACTIVATION CONTINUES-CANNOT ASSOCIATE *groupname*

IST1117I PHYSICAL RESOURCE (PHYSRSC) *puname* {IS NOT KNOWN|IS NOT A PU}

IST1079I *ncpname* は、活動化中の NCP の名前です。

groupname は、メッセージ IST1117I の物理リソース *puname* と関連すると定義された回線グループの名前です。

IST1117I *puname* は、GROUP 定義ステートメントの PHYSRSC オペランドで定義されたりソースです。

このメッセージは、VTAM がメッセージ IST1079I に示された *groupname* を *puname* と関連付けることができない理由を示します。

システムの処置: VTAM は、回線グループ *groupname* またはその従属リソースを *puname* と関連付けることができません。*groupname* は、独立した回線グループとして活動化されます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *groupname* に対する GROUP ステートメントの PHYSRSC オペランドが同じ NCP 定義の PU ステートメントを指定しているかどうか、およびその PU が NCP を活動化するホストによって所有されているかどうかを確認してください。

IST1080I {DUMP|LOAD} STATION NAME = *station_name*

説明: VTAM は、PU タイプ 4 に対する DISPLAY ID コマンドに応答するメッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。

station_name は、NCP の DUMP または LOAD ステーション名です。DISPLAY コマンドが出されたときに、DUMP または LOAD ステーション名が使用不能の場合には、VTAM は、このフィールドに *****NA***** を表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1081I ADJACENT LINK STATION = *alsname*

説明: VTAM は、LU に対する DISPLAY ID コマンドに回答するメッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。

alsname は、DISPLAY ID コマンドに指定された、LU に関連する隣接リンク・ステーションの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1082I GENERATED ADDRESS FOR *cdrcsname*
DELETED FROM *alsname*

説明: アドレス不一致のエラーが発生すると、VTAM はこのメッセージを出します。VTAM は、隣接リンク・ステーション *alsname* の下で生成された、クロスドメイン・リソース *cdrcsname* の削除を試みます。このメッセージは、*cdrcsname* が削除されたことを示します。

alsname の PU が見つからない場合、VTAM は *****NA***** を出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1083I ERROR ACTIVATING ADJCP *adjcpname*
SENSE = *code*

説明: VTAM は、隣接制御点の動的割り振りの間にエラーを検出した場合、このメッセージを出します。

adjcpname は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*adjcpname* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

code はエラーの原因を示します。*code* の説明については、

779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログの情報、および *code* の説明を使用して、問題を解決してください。

IST1084I START LIST IGNORED - *name* WILL BE USED

説明: メッセージ IST1215I の開始リストの処理中、および LISTBKUP=*backup_list* や LISTBKUP=DEFAULTS が指定されているときにエラーが発生すると、VTAM はこのメッセージを出します。

name は次のいずれかです。

- LISTBKUP 開始オプションに *backup_list* が指定されている場合、*name* は、エラーの発生した開始リストの代わりに、処理されているバックアップ開始リストの名前です。
- LISTBKUP オプションに DEFAULT が指定されている場合、*name* は VTAM DEFAULTS か ATCSTR00 のいずれかです。
 - *name* が VTAM DEFAULTS であれば、ATCSTR00 の処理中にエラーが発生し、開始オプションの値は弊社のデフォルトにリセットされます。
 - *name* が ATCSTR00 であれば、ATCSTRxx の処理中にエラーが発生し、開始オプションの値は、ATCSTRxx 処理の前の値にリセットされます。

LISTBKUP 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。詳細については、VTAM Network Implementation Guideを参照してください。

システムの処置: VTAM はエラーの発生した開始リストを無視し、*name* を使用します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1085I *type* ACTIVATION ERROR *resource* SENSE = *code*

説明: 境界機能に基づく接続、または仮想経路に基づく接続の活動化を行っているときにエラーが発生した場合、VTAM はこのメッセージを出します。

type は失敗した伝送グループ接続のタイプを表し、以下のいずれかになります。

BF-TG

境界機能に基づく接続

VR-TG

仮想経路に基づく接続

resource は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されている場合、*resource* は CP *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出されます。

code はエラーの原因を示します。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログの情報、および *code* の説明を使用して、問題を解決してください。

IST1086I APPN CONNECTION FOR *adjcpname* IS ACTIVE-TGN= *tgn*

説明: 隣接制御点への APPN 接続が活動状態になると、VTAM はこのメッセージを出します。

adjcpname は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*adjcpname* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

tgn は、伝送グループ番号です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1088I ADJCP *adjcpname* HAS BEEN DEACTIVATED

説明: 隣接制御点大ノードの非活動化が完了すると、VTAM はこのメッセージを出します。

adjcpname は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*adjcpname* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1089I MODIFY FAILED-TGP *tgpname* DOES NOT EXIST

説明: VTAM は MODIFY TGP コマンドへの応答として、このメッセージを出します。

tgpname はコマンドに入力された伝送グループ・プロファイルの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *tgpname* が正しく入力されていることを確認してください。それでもコマンドが失敗する場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *tgpname* が正しいこと、およびリソースが VTAM に定義されていることを確認してください。そうでない場合は、TGP 定義を更新してください。

IST1090I TGP FOR *type resource* IS SET TO *tgpname*

説明: VTAM は MODIFY TGP コマンドへの応答として、このメッセージを出します。

type および *resource* に使用される可能性のある値は、以下のとおりです。

type resource
CDRM *cdrmname*

cdrmname は、VR-based 基本 (仮想経路に基づく) TG 接続を要求することができる CDRM の名前です。

cdrmname は、*netid.name* 形式のネットワーク修飾名である可能性があります。

TGN=255 が MODIFY TGP コマンドに指定されている場合、*type* は CDRM です。

CP *cpname(tgn)*

cpname は隣接制御点の名前です。 *cpname* がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *cpname* を発行します。

tgn は、伝送グループ番号です。

TGN が MODIFY TGP コマンドに 255 以外のものとして指定されている場合、*type* は CP です。

LINE *linename*

linename は、接続ネットワーク機能が定義されている活動中の回線 (NCP/トークンリング相互接続 [NTRI]) の名前です。

PORT *portname*

portname は、接続ネットワーク機能が定義されている活動中のポート (外部通信アダプター [XCA]) の名前です。

PU *puname*

puname は活動中のタイプ 2.1 物理装置の名前です。

tgpname は伝送グループ・プロファイルの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1091I MODIFY TGP FAILED - *type resource* IS UNKNOWN

説明: *type resource* が VTAM に認識されていないときに、MODIFY TGP コマンドへの応答として VTAM はこのメッセージを出します。

type および *resource* に使用される可能性のある値は、以下のとおりです。

type resource
CDRM *cdrmname*

cdrmname は、VR-based 基本 (仮想経路に基づく) TG 接続を要求することができる CDRM の名前です。 *cdrmname* は、*netid.name* 形式のネットワーク修飾名である可能性があります。

TGN=255 が MODIFY TGP コマンドに指定されている場合、*type* は CDRM です。

CP *cpname(tgn)*

cpname は隣接制御点の名前です。 *cpname* がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *cpname* を発行します。

tgn は、伝送グループ番号です。

TGN が MODIFY TGP コマンドに 255 以外のものとして指定されている場合、*type* は CP です。

ID *resourcename*

resourcename はリソースの名前です。リソースのタイプは VTAM に認識されていません。

TGN が MODIFY TGP コマンドに指定されていない場合、*type* は ID です。

LINE *linename*

linename は、接続ネットワーク機能が定義されている活動中の回線 (NCP/トークンリング相互接続 [NTRI]) の名前です。

PORT *portname*

portname は、接続ネットワーク機能が定義されている活動中のポート (外部通信アダプター [XCA]) の名前です。

PU *puname*

puname は活動中のタイプ 2.1 物理装置の名前です。システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *resource* が正しく入力されていることを確認してください。VTAM がメッセージを出し続ける場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *type resource* が正しいことを確認してください。正しくなければ、TGP 定義を更新してください。

VTAM Resource Definition Reference

IST1092I MODIFY TGP FAILED, INSUFFICIENT STORAGE

説明: ストレージが不足しているときに、VTAM は MODIFY TGP コマンドへの応答としてこのメッセージを出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: MODIFY TGP コマンドを出し直してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY STORUSE コマンドを入力し、ストレージ・プールのストレージの使用率を表示してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。

DISPLAY STORUSE コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1093I start_option1 IS IGNORED-ONLY VALID WHEN start_option2 IS SPECIFIED

説明: *start_option1* とともに指定しなければならない *start_option2* が指定されていないと、VTAM はこのメッセージを出します。

start_option2 は開始オプションの、または必要な値をとまなう開始オプションの名前です。

システムの処置: *start_option1* を無視します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ATCSTRxx にある VTAM 開始オプションを検査して、正しいオプションが指定されているかどうか確認してください。*start_option1* を指定するためには、*start_option2* を指定しなければなりません。VTAM Resource Definition Reference

IST1094I GWSSCP VALUE FORCED TO NO-NODETYPE IS EN

説明: 開始オプションとして GWSSCP=YES と NODETYPE=EN の両方が指定されていると、VTAM はこのメッセージを出します。中間ルーティングにエンド・ノード (EN) を使用することはできません。GWSSCP のデフォルト値が使用され、NODETYPE=EN が指定されていても、このメッセージが出されます。

システムの処置: GWSSCP 開始オプションが NO に変更されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ATCSTRxx にある VTAM 開始オプションを検査して、正しいオプションが指定されているかどうか確認してください。

このノードが中間ルーティングに使用できるものであるかどうか判別してください。

- そうであれば NODETYPE=NN を指定します。
- そうでなければ GWSSCP=NO を使用します。

GWSSCP および NODETYPE 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1095I INITIATION FAILED FOR cpname - NO LINK TO ADJCP

説明: VARY ACT,ID=*cpname* コマンドへの応答として VTAM はこのメッセージを出します。

制御点サービス・マネージャー (CPSVCMG) セッションから隣接 CP への使用可能なリンクが存在していないために、セッション初期設定が失敗しました。隣接 CP を表すクロスドメイン・リソース (CDRSC) は、隣接 CP がホストに BIND を送ることができるために、活動状態のままです。

cpname は隣接制御点の名前です。VTAM は *cpname* を *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出します。

注: VRTG 接続での CDRM への VARY ACT コマンドの結果としてこのメッセージが表示された場合、このメッセージを無視してください。SSCP-SSCP セッションが活動化されると、CP-CP セッションも活動状態になります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: DISPLAY ID=*cpname* コマンドを入力して、リンクが CP-CP セッションをサポートしているかどうか確認してください。

使用しているノードが CP-CP セッションをサポートしていない場合、リンクを再活動化し、VARY

ACT,ID=*pnname*,CPCP=YES コマンドを入力して、要求するセッションを開始してください。このコマンドは前の PU 定義を上書きします。うまくいかなければ、もう一方のノードは CP-CP セッションをサポートしません。

プログラマーの応答: もう一方のノードが CP-CP セッションをサポートしない場合、以下の手順が必要です。

1. そのノードを非活動化する。
2. そのノードの PU 定義を変更する。
3. そのノードを再活動化する。

IST1096I CP-CP SESSIONS WITH *adjcpname* ACTIVATED

説明: 隣接制御点 (CP) との CP-CP セッションが活動化され、使用可能になっています。コマンドへの応答として出されることもあります。

注: CP-CP セッションは、CP-CP セッション対の競合勝者と競合敗者のセッションのことを指します。

adjcpname は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*adjcpname* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1097I CP-CP SESSION WITH *cpname* TERMINATED

説明: このメッセージは、隣接制御点との CP-CP セッションが終了したときに、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。コマンドへの応答として出されることもあります。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1097I CP-CP SESSION WITH cpname TERMINATED
IST1280I SESSION TYPE = sessiontype - SENSE = code
IST314I END
```

IST1097I

cpname は隣接制御点の名前です。*cpname* がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *cpname* を発行します。

IST1280I

sessiontype は、終了中の CP-CP セッションのタイプを示し、CONWINNER (競合勝者) か CONLOSER (競合敗者) のいずれかになります。

code は終了に関連するセンス・コードです。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 以下の処置を行ってください。

- 非交換接続であれば、リソースの状況を表示する
- VARY ACT,ID=*cpname* コマンドを出して、CP-CP セッションを再活動化する

プログラマーの応答: なし。

IST1098I *resource* DEACTIVATED, DEPLETING IO BUFFER POOL

説明: SSCP-LU セッションが I/O バッファ・プールを使いきってしまったので、VTAM はそのセッションの論理装置を非活動化します。これは、許可されている容量を超えるバッファ・プールを使用しているセッションを VTAM が見つけたときに発生します。

resource は、非活動化される LU の名前です。

このメッセージの前にメッセージ IST930I や IST1153I が表示され、これらは 2 つのセッション・パートナーを識別します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: バッファ・プールを使い果たした原因を調べ、訂正してから、セッションを再活動化してください。

メッセージ IST930I や IST1153I を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1099I SESSION TERMINATED, DEPLETING *bp* BUFFER POOL

説明: LU-LU セッションが *bp* バッファ・プールを使いきってしまったので、VTAM はそのセッションを終了します。

bp はバッファ・プールの名前で、IO か LF のいずれかです。これは LU-LU か CP-CP セッションのいずれかになります。

これは、HOTIOTRM 開始オプションに指定されている値以上の *bp* バッファ・プールのパーセンテージを使用しているセッションを VTAM が見つけた場合に発生します。

このメッセージの前にメッセージ IST930I や IST1153I が表示され、これらは 2 つの LU-LU セッション・パートナーを識別します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: バッファ・プールを使い果たした原因を調べ、訂正してから、セッションを再活動化してください。

メッセージ IST930I や IST1153I を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

**IST1100I ADJACENT CONTROL POINTS FROM
MAJOR NODE *majornode***

説明: このメッセージは、隣接制御点大ノードに入力した DISPLAY コマンドへの応答として VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1100I  ADJACENT CONTROL POINTS FROM MAJOR NODE
          majornode
IST1102I  NODENAME NODETYPE CONNECTIONS CP CONNECTIONS
          NATIVE
IST1103I  nodename nodetype connections cp_connections
          native
          :
          :
IST314I  END
```

IST1100I

majornode は隣接制御点大ノードの名前です。

IST1103I

nodename は、形式 *netid.name* の小ノードのネットワーク修飾名です。 *nodetype* はノードのタイプで、**EN** (エンド・ノード)、**NN** (ネットワーク・ノード)、または **VN** (仮想ノード)、あるいは ***NA*** (適用外) になります。以下のいずれかの状況では ***NA*** が表示されます。

- 装置が接続され、LEN ノードである。
- ノード・タイプが隣接 CP に前もって定義されていない。ノードへの接続が行われると、正しいノード・タイプが表示されます。

connections は、ノードへの活動中の接続の数です。 *cp_connections* は、CP-CP セッションをサポートする活動中の接続の数です。 *native* は、DISPLAY コマンドを出しているノードと同じ APPN トポロジー・サブネットワークに *nodename* があるかどうかを示します。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

YES *nodetype* が **NN** か **VN** で、 *nodename* が DISPLAY コマンドを出しているノードと APPN トポロジー情報を共有している。

NO *nodetype* が **NN** か **VN** で、 *nodename* が DISPLAY コマンドを出しているノードと APPN トポロジー情報を共有していない。

NA *nodetype* が **EN** である場合。

ノード・タイプおよび APPN 接続の詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST1101I ADJCP DISPLAY SUMMARY FOR
*adjcpname***

説明: このメッセージは、隣接制御点に出した DISPLAY コマンドへの応答として、VTAM が出すメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

- 活動中の TG 接続があれば、VTAM は次のメッセージを出します。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = ADJACENT CONTROL POINT
IST486I  STATUS= ACTIV, DESIRED STATE= ACTIV
IST1197I  ADJCP MAJOR NODE = majornode
IST1101I  ADJCP DISPLAY SUMMARY FOR adjcpname
IST1102I  NODENAME      NODETYPE CONNECTIONS
          CP_CONNECTIONS NATIVE
IST1103I  nodename      nodetype connections
          cp_connections native
          :
          :
IST1104I  CONNECTION SUMMARY FOR adjcpname
IST1105I  RESOURCE STATUS TGN CP-CP
          TG CHARACTERISTICS
IST1106I  resource status tgn cp-cp
          tg_characteristics
          :
          :
IST314I  END
```

- 活動中の TG 接続がなければ、VTAM は次のメッセージを出します。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = ADJACENT CONTROL POINT
IST486I  STATUS= ACTIV, DESIRED STATE= ACTIV
IST1197I  ADJCP MAJOR NODE = majornode
IST1101I  ADJCP DISPLAY SUMMARY FOR adjcpname
IST1102I  NODENAME      NODETYPE CONNECTIONS
          CP_CONNECTIONS NATIVE
IST1103I  nodename      nodetype connections
          cp_connections native
          :
          :
IST1104I  CONNECTION SUMMARY FOR adjcpname
IST172I  NO CONNECTIONS ACTIVE
IST314I  END
```

IST1101I

adjcpname は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*adjcpname* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

IST1102I

このメッセージは、メッセージ IST1103I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1103I

nodename は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*nodename* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。 *nodetype* はノードのタイプで、**EN** (エンド・ノード)、**NN** (ネットワーク・ノード)、**VN** (仮想ノード)、または ***NA*** (適用外) になります。以下のいずれかの状況では ***NA*** が表示されます。

- 装置が接続され、LEN ノードである。
- ノード・タイプが隣接 CP に前もって定義されていない。ノードへの接続が行われると、正しいノード・タイプが表示されます。

connections は、ノードへの活動中の接続の数です。

cp_connections は、CP-CP セッションをサポートする活動中の接続の数です。 *native* は、DISPLAY コマンドを出しているノ

ードと同じ APPN トポロジー・サブネットワークに *nodename* があるかどうかを示します。考えられる *native* の値は以下のとおりです。

- YES** *nodetype* が **NN** か **VN** で、*nodename* が **DISPLAY** コマンドを出しているノードと APPN トポロジー情報を共有している。
- NO** *nodetype* が **NN** か **VN** で、*nodename* が **DISPLAY** コマンドを出しているノードと APPN トポロジー情報を共有していない。
- *NA*** *nodetype* が **EN** である場合。

APPN 接続とノード・タイプの詳細については、「*VTAM Network Implementation Guide*」を参照してください。

IST1104I *adjcpname* は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*adjcpname* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

IST1105I

このメッセージは、メッセージ **IST1106I** に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1106I

resource は、伝送グループ番号に関連する PU、CDRM、PORT、または LINE の名前です。*status* は接続状況で、以下のいずれかになります。

AC/N

活動中：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

AC/R

活動中：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告される

AQ/N

指定変更によって活動中：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

AQ/R

指定変更によって活動中：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告される

AP/N

APPN 接続保留中：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

AQ/N

休止：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

AQ/R

休止：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告される

IN/N

非活動：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

IN/R

非活動：APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告される

NEV

APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

ign は、伝送グループ番号です。*cp-cp* は、GROUP、LINE、または PU 定義ステートメント、あるいは VARY ACT コマンドに指定することができるユーザー定義の値です。この値は、接続が CP-CP セッションをサポートできるかどうかを示します。

- 表示される可能性のある値は、**YES** または **NO** です。
- CPCP オペランドの詳細については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

tg_characteristics は、*puname* の伝送グループ特性を表す 16 バイトの 16 進数ストリングです。*puname* がローエントリー・ネットワーク (LEN) ノードであれば、****** NA ****** が表示されます。LEN PU は、伝送グループと関連がありません。

バイト 説明

1 TG 状況と CP-CP セッション・サポート。

ビット 説明

1 TG 状況

0 TG は操作不能

1 TG は操作可能

2 予約済み (0)

3 TG 状況

0 TG は休止していない

1 TG は休止中

4-8 予約済み (必ずしも 0 ではない)

2 容量。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている CAPACITY 値に対応します。表示される値は、コーディングされている値の内部表記です。TG プロファイルにコーディングされた CAPACITY 値が、VTAM で使用される内部表記にどのようにマップされるかについて詳しくは、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

3-7 予約済み (0)

8 単位時間あたりのコスト。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている COSTTIME 値に対応します。

9 バイトあたりのコスト。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている COSTBYTE 値に対応します。

10 予約済み (0)

11 セキュリティ。この値は以下のように TGP 定義ステートメントにコーディングされている SECURITY 値に対応します。

X'01' UNSECURE

X'20' PUBLIC

X'40' UNDERGRO

X'60' SECURE

X'80' GUARDED

X'A0' ENCRYPT

X'C0' SHIELDED

12 波及遅延。この値は以下のように TGP 定義ステートメントにコーディングされている PDELAY 値に対応します。

X'4C' NEGLIGIB
 X'71' TERRESTR
 X'91' PACKET
 X'99' LONG

13 予約済み (0)

14-16 ユーザー定義。これらの値は、TGP 定義ステートメントで UPARM1、UPARM2、および UPARM3 にそれぞれコーディングされている値に対応します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 必要のない (*tg_characteristics* に含まれている) 伝送グループ特性がある場合、リソース定義ステートメントをコーディングし直してください。

詳細については、*VTAM Resource Definition Reference*を参照してください。

IST1102I NODENAME NODETYPE CONNECTIONS CP CONNECTIONS NATIVE

説明: このメッセージは、DISPLAY ID=*adjcpname* コマンド、または DISPLAY ADJCP コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- DISPLAY ID=*adjcpname* コマンド

このメッセージ・グループの詳しい説明については、メッセージ IST1100I の説明を参照してください。

- DISPLAY ADJCP コマンド

考えられるメッセージ・グループの詳しい説明については、メッセージ IST1101I とメッセージ IST1197I の説明を参照してください。

IST1103I *nodename nodetype connections cp_connections native*

説明: このメッセージは、DISPLAY ID=*adjcpname* コマンド、または DISPLAY ADJCP コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- DISPLAY ID=*adjcpname* コマンド

このメッセージ・グループの詳しい説明については、メッセージ IST1100I の説明を参照してください。

- DISPLAY ADJCP コマンド

考えられるメッセージ・グループの詳しい説明については、メッセージ IST1101I とメッセージ IST1197I の説明を参照してください。

IST1104I CONNECTION SUMMARY FOR *adjcpname*

説明: このメッセージは、DISPLAY ADJCP コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。考えられるメッセージ・グループの詳しい説明については、メッセージ IST1101I とメッセージ IST1197I の説明を参照してください。

IST1105I RESOURCE STATUS TGN CP-CP TG CHARACTERISTICS

説明: このメッセージは、VTAM が以下のコマンドに回答して出すメッセージ・グループの一部です。

- タイプ 2.1 PU、仮想経路に基づく伝送グループとの CDRM、接続ネットワークの一部である外部通信アダプター (XCA) ポート、または接続ネットワークの一部である NCP/トークンリング相互接続 (NTRI) 回線への DISPLAY ID コマンド。このメッセージの詳しい説明は以下のとおりです。

```
IST1105I RESOURCE STATUS TGN CP-CP
          TG CHARACTERISTICS
IST1106I resource status tgn cp-cp
          tg_characteristics
```

:

```
IST314I END
```

- 隣接制御点への DISPLAY ADJCP コマンド。

考えられるメッセージ・グループの詳しい説明については、メッセージ IST1101I とメッセージ IST1197I の説明を参照してください。

resource は、伝送グループに関連する PU、CDRM、ポートまたは回線の名前です。

status は接続状況を表示し、以下のいずれかになります。

AC/N

活動中: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

AC/R

活動中: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告される

AO/N

指定変更によって活動中: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

AO/R

指定変更によって活動中: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告される

AP/N

APPN 接続保留中: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

AQ/N

休止: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

AQ/R

休止: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告される

IN/N

非活動: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

IN/R

非活動: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告される

NEV

APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

tgname は、伝送グループ番号です。TG 番号が puname に割り当てられていない場合、*NA* が表示されます。

cp-cp は、GROUP、LINE、または PU 定義ステートメント、あるいは VARY ACT コマンドに指定することができるユーザー定義の値です。この値は、接続が CP-CP セッションをサポートできるかどうかを示します。

- 表示される可能性のある値は、YES または NO です。
- CPCP オペランドの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

tg_characteristics は、puname の伝送グループ特性を表す 16 バイトの 16 進数ストリングです。puname がローエントリー・ネットワーク (LEN) ノードであれば、**** NA **** が表示されます。LEN PU は、伝送グループと関連がありません。

バイト 説明

1 TG 状況と CP-CP セッション・サポート。

ビット 説明

1 TG 状況

0 TG は操作不能

1 TG は操作可能

2 予約済み (0)

3 TG 状況

0 TG は休止していない

1 TG は休止中

4-8 予約済み (必ずしも 0 ではない)

2 容量。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている CAPACITY 値に対応します。表示される値は、コーディングされている値の内部表記です。TG プロファイルにコーディングされた CAPACITY 値が、VTAM で使用される内部表記にどのようにマップされるかについて詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

3-7 予約済み (0)

8 単位時間あたりのコスト。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている COSTTIME 値に対応します。

9 バイトあたりのコスト。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている COSTBYTE 値に対応します。

10 予約済み (0)

11 セキュリティ。この値は以下のように TGP 定義ステートメントにコーディングされている SECURITY 値に対応します。

X'01' UNSECURE

X'20' PUBLIC

X'40' UNDERGRO

X'60' SECURE

X'80' GUARDED

X'A0' ENCRYPT

X'C0' SHIELDED

12 波及遅延。この値は以下のように TGP 定義ステートメントにコーディングされている PDELAY 値に対応します。

X'4C' NEGLIGIB

X'71' TERRESTR

X'91' PACKET

X'99' LONG

13 予約済み (0)

14-16 ユーザー定義。これらの値は、TGP 定義ステートメントで UPARM1、UPARM2、および UPARM3 にそれぞれコーディングされている値に対応します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要のない (tg_characteristics に含まれている) 伝送グループ特性がある場合、TGP 定義を変更してください。TGP 定義の定義方法について詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1106I resource status tgname cp-cp tg_characteristics

説明: このメッセージは、タイプ 2.1 PU、VRTG 可能 CDRM、接続ネットワークの一部であるポート (XCA)、または接続ネットワークの一部である回線 (NTRI) への DISPLAY ID コマンド、あるいは DISPLAY ADJCP コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST1105I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1107I TGP NAME TG CHARACTERISTICS

説明: このメッセージは、DISPLAY TGPS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST1107I TGP NAME TG CHARACTERISTICS

IST1108I tgname tg_characteristics

:

IST314I END

tgname は伝送グループ・プロファイル名です。

tg_characteristics は、tgname と関連付けられた PU の伝送グループ特性を表す 16 バイトの 16 進数ストリングです。PU がローエントリー・ネットワーク (LEN) ノードであれば、**** NA **** が表示されます。LEN PU は、伝送グループと関連がありません。

バイト 説明

1 TG プロファイルを表示している場合、このバイトは 0 ですが、活動中のリソースの TG 特性を表示している場合、他の値が表示される場合があります。(例えば、DISPLAY ADJCP コマンドの結果)

2 容量。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている CAPACITY 値に対応します。表示される値は、コーディングされている値の内部表記です。TG プロファイルにコーディングされている CAPACITY 値が VTAM によって使用されている内部表記にどのようにマップされているかについて詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

3-7 予約済み (0)

- 8 単位時間あたりのコスト。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている COSTTIME 値に対応します。
- 9 バイトあたりのコスト。この値は TGP 定義ステートメントにコーディングされている COSTBYTE 値に対応します。
- 10 予約済み (0)
- 11 セキュリティー。この値は以下のように TGP 定義ステートメントにコーディングされている SECURITY 値に対応します。
- X'01' UNSECURE
X'20' PUBLIC
X'40' UNDERGRO
X'60' SECURE
X'80' GUARDED
X'A0' ENCRYPT
X'C0' SHIELDED
- 12 波及遅延。この値は以下のように TGP 定義ステートメントにコーディングされている PDELAY 値に対応します。
- X'4C' NEGLIGIB
X'71' TERRESTR
X'91' PACKET
X'99' LONG
- 13 予約済み (0)
- 14-16 ユーザー定義。これらの値は、TGP 定義ステートメントで UPARM1、UPARM2、および UPARM3 にそれぞれコーディングされている値に対応します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1108I *tgname tg_characteristics*

説明: このメッセージは、DISPLAY TGPS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST1107I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1110I **ACTIVATION OF CP-CP SESSION WITH *cpname* FAILED**

説明: このメッセージは、*cpname* との CP-CP セッションを活動化できないときに、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

cpname は隣接制御点の名前です。 *cpname* がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *cpname* を発行します。

グループ内で後続するメッセージは、VTAM が CP-CP セッションを活動化できない原因を示し、以下のメッセージを含んでいます。

IST1002I *RCPRI=rcpri RCSEC=rcsec*

RCPRI か RCSEC 戻りコード・フィールドのいずれか、または両方に非ゼロの値がある場合、このメッセージが出力されます。

rcpri は、VTAM によって出される 1 次戻りコードの値です。

rcsec は、VTAM によって出された 2 次戻りコードの値です。 *rcpri* および *rcsec* の詳細については、「VTAM Programming for LU 6.2」を参照してください。

IST1111I **ADJACENT NODE DOES NOT SUPPORT UNSOLICITED BINDS**

このメッセージは、VARY ACT,ID=*cpname* コマンドへの応答として出されます。隣接ノードは、非送信請求バインドの受信をサポートしません。これは、リンク活動化の結果としてバインドが行われないかぎり、CP-CP セッションでバインドを送信する他のノードを受け入れません。隣接ノードは、他のノードではなく、そのノード自身にだけ CP-CP セッションの開始を許可しています。

IST1112I **CP ALREADY HAS A CP-CP SESSION WITH A NETWORK NODE**

このメッセージは、すでにネットワーク・ノード (NN) との CP-CP セッションを行っているエンド・ノード (EN) への CP-CP セッションの確立を試みているときに、VARY ACT,ID=*cpname* コマンドへの応答で出されるメッセージです。EN は、一度に 1 つの NN としか CP-CP セッションを行うことができません。

IST1113I **EN-EN SESSION IS NOT VALID**

このメッセージは、EN-EN セッションが試みられたときに VARY ACT,ID=*cpname* コマンドへの応答で出されるメッセージです。EN と EN の間での CP-CP セッションは許可されません。

IST1119I **FAILURE REASON IS INSUFFICIENT STORAGE**

このメッセージは、VARY ACT,ID=*cpname*,IDTYPE=CP コマンドへの応答で出されます。VTAM は、CP-CP セッションを確立するために必要な内部信号にストレージを割り振ることができませんでした。

IST1246I **ADJACENT CP NOT DEFINED IN CURRENT NETWORK NODE SERVER LIST**

このメッセージは、ネットワーク・ノードが CP-CP セッションを確立しようと試みていて、そのネットワーク・ノードをネットワーク・ノード・サーバー・リストの内容にしたがってネットワーク・ノード・サーバーとして使用できないときにエンド・ノードで出されます。

IST1247I **ALL ATTEMPTS TO ESTABLISH A SESSION WERE UNSUCCESSFUL**

このメッセージは、VARY ACT,ID=*cpname*,IDTYPE=CP コマンドへの応答で出されます。エンド・ノードでの VTAM は、コマンドに指定されているネットワーク・ノードとの CP-CP セッションを確立しようと試みましたが、すべての試みは失敗しました。

IST1280I **SESSION TYPE = *sessiontype* - SENSE = *code***

このメッセージは、以下のいずれかの原因によって CP-CP セッションの活動化に失敗したときに出力されます。

1. セッションの活動化を行っているときに、リカバリー不能エラーが発生した。
2. 競合勝者セッションの活動化を行っているときにエラーが発生し、最大数の再試行が試みられた後もエラーが解決されない。

このメッセージは IST1356I に先行されることがあります。詳細については IST1356I の説明を参照してください。

sessiontype は **CONWINNER** (競合勝者) か **CONLOSER** (競合敗者) のいずれかです。

code はエラーに関連するセンス・コードです。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

IST1356I NETWORK NODE DOES NOT PROVIDE REQUIRED SERVER FUNCTION

このメッセージは、エンド・ノードがネットワーク・ノード *cpname* との CP-CP セッションを活動化しようと試み、以下のことが真であれば、そのエンド・ノードで出されます。

エンド・ノードのネットワーク・ノード・サーバー・リストがそのネットワーク・ノード・サーバーとなるための要件の 1 つとして *cpname* は、SLU 開始セッション能力を提供しなければならないことを指定しているが、*cpname* は SLU 開始セッションをサポートしていないことをエンド・ノードに通知した。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

IST1002I

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

IST1111I

CP-CP セッションをサポートしている隣接ノードとのリンクを非活動化した後、活動化し直してください。これによって、他のノードに、バインド処理を開始させることができます。これを行うことによって CP-CP セッションを活動化できます。

IST1112I

この CP は EN です。EN が、正しい NN との CP-CP セッションを確立していることを確認してください。

IST1113I

なし。

IST1119I

DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、システム GETVIS 域 (SGA) に関する情報を表示してください。メッセージ IST98II には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

IST1246I

VARY ACT,ID=*cpname* コマンドを入力して、希望するサーバーを指定してください。*cpname* が現在のネットワーク・ノード・サーバー・リストに許可されていないなくても、VTAM は *cpname* との CP-CP セッションを確立しようと試みます。

ネットワーク・ノード・サーバー・リストを修正しなければなりません。ネットワーク・ノード・サーバー・リス

トが変更されないままであれば、現在のサーバーが失敗したときに VTAM は新しいサーバーを獲得できません。リストを修正した後、VARY ACT,ID=*member_name* コマンド (ここで *member_name* は、編集されたネットワーク・ノード・サーバー・リストを含む定義ライブラリーのメンバーの名前) を出してください。

IST1247I

隣接ノードが正しく機能しているかを判別し、ノード間の接続についての問題を調べなければなりません。

その後 VARY ACT,ID=*cpname* コマンドを入力して、希望するサーバーを選択してください。

さらに多くのネットワーク・ノードがサーバーとして機能するように、ネットワーク・ノード・サーバー・リストを修正しなければなりません。リストを修正した後、VARY ACT,ID=*member_name* コマンド (ここで *member_name* は、編集されたネットワーク・ノード・サーバー・リストを含む定義ライブラリーのメンバーの名前) を出してください。

IST1280I

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

IST1356I

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

IST1002I

rcpri と *rcsec* の説明を使用すると、問題解決に役立ちます。

IST1111I、IST1112I、および IST1113I

なし。

IST1119I

必要に応じてストレージを増やしてください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して CSA 開始オプションを再定義することができます。ストレージ不足の問題が解決したら、VARY ACT,ID=*cpname* コマンドを入力して、希望するサーバーを指定してください。

詳細については、VTAM *Operation* を参照してください。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM *Diagnosis*」を参照してください。

IST1246I および IST1247I

ネットワーク・ノード・サーバー・リストの修正によって、その他のネットワーク・ノードを受け入れ可能サーバーとして定義することができます。各ネットワーク・ノード用の新しい NETSRVR 定義ステートメントを追加するか認識されているネットワーク・ノード・サーバーとして機能させることができる NETSRVR 定義ステートメントを追加してください。

NETSRVR 定義ステートメントの詳細については、「VTAM *Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST1280I

センス・コードの説明を使用すると、問題解決に役立ちます。

IST1356I

ネットワーク・ノード・サーバー・リストを修正しなけれ

IST1111I • IST1118I

ばなりません。 *cpname* のネットワーク・ノード・サーバーの項目、または名前のない項目用の NETSRVR 定義ステートメントのいずれかに SLUINIT=OPT を指定してください。

もう一度セッションを活動化する前に、修正されたネットワーク・ノード・サーバー・リストを再活動化するようにオペレーターに指示してください。

IST1111I ADJACENT NODE DOES NOT SUPPORT UNSOLICITED BINDS

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1110I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1112I CP ALREADY HAS A CP-CP SESSION WITH A NETWORK NODE

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1110I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1113I EN-EN SESSION IS NOT VALID

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1110I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1114I option START OPTION IGNORED - NOT VALID FOR value

説明: 指定された *value* に対して *option* が無効なときに、VTAM はこのメッセージを出します。

option は、無視されている開始オプションです。

value は次のいずれかです。

- *option* に無効な、指定されたノード・タイプ
 - *option* と矛盾する、指定された開始オプションとその値
- システムの処置: *option* を無視します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ATCSTRxx にある VTAM 開始オプションを検査して、正しいオプションが指定されているかどうか確認してください。VTAM 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1115I CDRM NAME *cdrmname* IS DIFFERENT THAN SSCPNAME START OPTION

説明: このメッセージは、開始オプションに指定されているホスト・システム・サービス制御点 (SSCP) 名とは異なる名前のホスト・クロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) 大ノードを活動化する試みに応答して VTAM が出すメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。

メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST1115I  CDRM NAME cdrmname IS DIFFERENT THAN
          SSCPNAME START OPTION
IST1116I  SSCP NAME sscpname IS USED
```

IST1115I

cdrmname は、CDRM 大ノード定義に指定されている名前です。

IST1116I

sscpname は、SSCPNAME 開始オプションに指定されている名前です。

システムの処置: ホスト CDRM 大ノードに指定されている名前は無視され、ホスト CDRM 名には SSCP 名が使用されません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 名前が一致するように、ホスト CDRM 定義か START オプションに指定されている SSCP 名のいずれかを変更してください。START オプションを変更した場合、VTAM を再始動しなければなりません。ホスト CDRM 定義を変更した場合、新しい定義を使用するためには、大ノードを非活動化してから活動化し直さなければなりません。

IST1116I SSCP NAME *sscpname* IS USED

説明: VTAM はこのメッセージを、メッセージ・サブグループの一部として出します。サブグループの最初のメッセージは IST1115I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1117I PHYSICAL RESOURCE (PHYSRSC) *puname* {IS NOT KNOWN|IS NOT A PU}

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1079I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1118I LINK DEFINITION FAILURE, CP = *cpname* TGN = *tgn*

説明: このメッセージは、トポロジー、およびルーティング・サービスへのリンクを定義しようとする試みが失敗したときに VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。グループの 2 番目のメッセージには、失敗の原因が示されています。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

```
IST1118I  LINK DEFINITION FAILURE, CP = cpname
          TGN = tgn
IST1119I  FAILURE REASON IS INSUFFICIENT STORAGE
IST314I  END
```

```
IST1118I  LINK DEFINITION FAILURE, CP = cpname
          TGN = tgn
IST1261I  ABEND OCCURRED DURING LINK DEFINITION
IST314I  END
```

IST1118I

cpname は、このリンクが接続されている制御点の名前です。
cpname がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *cpname* を発行します。

tgn は、このリンクに関連する伝送グループ番号です。

IST1119I

トポロジー、およびルーティング・サービスへのリンクを定義するために十分なストレージがありません。

IST1261I

トポロジー、およびルーティング・サービスへのリンクが定義される前に、異常終了が発生しました。

システムの処置: リンクにセッションは割り振られません。

その他の処理を続行します。

オペレーターの応答:

1. DISPLAY ADJCP,ID=*cpname*,E コマンドを入力し、メッセージ IST1105I と IST1106I に表示される情報を使用して、*cpname* と *tgn* によって指定されているリンクに関連する PU を識別してください。
2. VARY INACT コマンドを入力して、リンクを非活動化してください。リンク定義で他の試みが行われる前に、リンクを非活動化しなければなりません。VARY INACT コマンドが完了したら、VARY ACT コマンドを入力して、リンクを活動化してください。
3. このメッセージ・グループを VTAM が出し続ける場合、2 番目のメッセージのオペレーターの応答を参照してください。

IST1119I

ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

IST1261I 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: IST1119I

必要に応じてストレージを増やしてください。

IST1261I

システム・ダンプの内容を検討して、問題を判別するための正しい処置を判別してください。

IST1119I FAILURE REASON IS INSUFFICIENT STORAGE

説明: VTAM はこのメッセージを、いくつかの異なるメッセージ・グループの一部として出します。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST1120I *macroname* APPNCOS DEFINITION FAILED-INSUFFICIENT STORAGE

説明: VTAM はこのメッセージを、APPN サービス・クラス (COS) 定義の失敗に回答して出します。要求を処理するための専用ストレージが十分でなかったために、定義ステートメントが失敗しました。

macroname は、定義ステートメントに定義されているサービス・クラスの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。

DISPLAY BFRUSE および DISPLAY STORUSE コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。

「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1121I COSAPPN IN *library* errorrtyp e - PROCESSING CONTINUES

説明: VTAM は、このメッセージを、ライブラリー・メンバー COSAPPN が空、見つからない、または構文エラーを含んでいるときに outします。

library は定義ライブラリーに指定されているデータ定義名 (DDNAME) です。

errorrtyp e はエラーのタイプを示し、IS EMPTY、NOT FOUND、または IN ERROR (構文エラーがある) になります。

システムの処置: VTAM の初期設定は続けられます。ただし、APPN 経路選択に、弊社提供のサービス・クラスを使用することはできません。

オペレーターの応答: APPN サービス・クラスが異なるメンバー名で指定されていて、構成リスト処理や VARY ACT コマンドによって活動化されている場合、処置は必要ありません。

そうでない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

IST1122I

- **IS EMPTY** や **NOT FOUND** が表示された場合、COSAPPN を意図的に空にしているのか、見つからないのかを確認してください
- **IN ERROR** が表示された場合、エラーの追加情報については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

注: 対応するサービス・クラスの代替セットが、開始オプションに指定されている他の構成ファイルによって定義されていない場合、APPN セッションを活動化しようと試みると、予期しない結果に終わることがあります。

IST1122I CHKPT TO DATASET *datasetname* WAS NOT SUCCESSFUL, CODE = *code*

説明: VTAM はこのメッセージを以下のいずれかのコマンドへの応答として出します。

- MODIFY CHKPT
- MODIFY CHKPT,ALL
- MODIFY CHKPT,DIR
- MODIFY CHKPT,TOPO
- Z NET
- Z NET,QUICK

このメッセージは、APPN ディレクトリー・データベースか APPN トポロジー・データベースのいずれかを、指定された *datasetname* に VTAM が書き込めなかったことを確認します。

code はエラーの原因を示し、以下のいずれかになります。

- | コード | エラー |
|-----|--|
| 1 | ストレージが不足しています。 |
| 2 | ディスク・ファイルが定義されていません。 |
| 3 | 初期データベース・ロードが完了する前に、MODIFY CHKPT コマンドが試みられた。 |
| 4 | ディスク入出力エラーが発生しました。これらのエラーは、このメッセージの前に出される、別のメッセージで報告されることがあります。 |
| 5 | Z NET や Z NET,QUICK コマンドが、初期データベース・ロードが完了する前に入力された可能性がある。直前の異常終了や初期設定エラーのためにディスク入出力サブタスクが使用不能になり、終了処理が開始された。 |
| 6 | MODIFY CHKPT 開始コマンドが、ネットワーク・ノードで入力されなかった。 |
| 7 | APPN ディレクトリーにチェックポイントに対するリソースがない。 |
| 10 | トポロジーと経路に指定サービス・タスクが、MODIFY CHKPT コマンドの処理を試みている間に異常終了した。 |

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

- | コード | 応答 |
|-----|---|
| 1 | ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージ |

が表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

- | | |
|----|--|
| 2 | 問題判別のためにシステム・ログを保管してください。 |
| 3 | MODIFY CHKPT コマンドを入力した場合、少し待ってから入力し直してください。 |
| 4 | 問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。 |
| 5 | どのように終了処理が開始されたかにかかわらず、他のチェックポイントを試みないでください。終了コマンドを入力していない場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。 |
| 6 | ネットワーク・ノードで入力されていないので、VTAM は MODIFY CHKPT コマンドを無視します。ネットワーク・ノードで作業しているかどうかを確認して、コマンドを入力し直してください。 |
| 7 | なし。 |
| 10 | 問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。 |

プログラマーの応答:

- | コード | 応答 |
|-----|--|
| 1 | 必要に応じてストレージを増やしてください。

DISPLAY BFRUSE および DISPLAY STORUSE コマンドについて詳しくは、「VTAM Operation」を参照してください。「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。 |
| 2 | 見つからないディスク・ファイルを定義しなければなりません。追加情報については、適用可能な順次アクセス方式の資料、および「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。 |
| 3 | なし。 |
| 4 | 詳細については、該当する順次アクセスの方法についての資料を参照してください。 |
| 5 | このメッセージの前に出されたメッセージを使用して、問題の原因を判別してください。このメッセージは、ディレクトリー・サービス、またはトポロジー・ルーティング・サービス・データベースが <i>datasetname</i> に書き込まれていないことだけを通知します。VTAM はディスク入出力サブタスクなしで継続しますが、チェックポイント機能は使用できません。 |
| 6 | なし。 |
| 7 | なし。 |
| 10 | システム・ダンプの内容を検討して、問題を判別するための正しい処置を判別してください。異常終了プロシージャについては、「VTAM Diagnosis」を参照してください。 |

**IST1123I MODIFY CHKPT TO DATASET *datasetname*
 WAS SUCCESSFUL**

説明: VTAM はこのメッセージを、以下のいずれかのコマンドの応答として出します。

```
MODIFY CHKPT
MODIFY CHKPT, DIR
MODIFY CHKPT, ALL
MODIFY CHKPT, TOPO
Z NET
Z NET, QUICK
```

このメッセージは、ディレクトリー・サービスかトポロジー・ルーティング・サービスのいずれかが、指定された *datasetname* にそのデータベースを書き出したことを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST1124I UNABLE TO REGISTER RESOURCES
 WITH *nodename***

説明: このメッセージは、このエンド・ノードの VTAM が、そのネットワーク・ノード・サーバーにリソースを登録できないときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。

nodename は、形式 *netid.name* のネットワーク・ノード・サーバー制御点のネットワーク修飾名です。

グループの 2 番目のメッセージは、エンド・ノードがリソースを登録できない原因を示し、以下のいずれかになります。

IST1125I END NODE IS NOT AUTHORIZED

エンド・ノードがネットワーク・ノード・サーバーで許可されていないので、リソースを登録できません。

IST1126I END NODE NETID REJECTED

ネットワーク・ノードが許可されているネットワーク ID の最大の数を超えたので、ネットワーク・ノード・サーバーはエンド・ノードのネットワーク ID を拒否しました。

IST1127I UNRECOGNIZED REGISTRATION REQUEST

このエンド・ノードからの登録要求を解釈できないことを、ネットワーク・ノード *nodename* が繰り返し報告しています。これは以下のいずれかのソフトウェア・エラーのためです。

- エンド・ノード・ソフトウェアに障害があり、正しい要求を送信している。
- ネットワーク・ノード・ソフトウェアに障害があり、エンド・ノードからの要求を認識できない。

システムの処置:

IST1125I または IST1126I

ネットワーク・ノード・サーバー *nodename* との CP-CP セッションが非活動化されるまで、VTAM はリソースの登録を停止します。このサーバー、または他のネットワーク・ノードとの CP-CP セッションはその後、活動化されます。

IST1127I

nodename との CP-CP セッションは非活動化されます。VTAM がオペレーターのいずれかが、他のネットワー

ク・ノードとの CP-CP セッションを活動化し、VTAM はリソース登録を再開します。

オペレーターの応答:

IST1125I または IST1126I

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

IST1127I

MODIFY TRACE,TYPE=BUF,ID=*nodename* コマンドを入力してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

IST1125I

エンド・ノードとネットワーク・ノード *nodename* の間で CP-CP セッションが必要な場合、ネットワーク・ノード・サーバー・リストを修正して、そのネットワーク・ノードで権限をもつようにエンド・ノードを定義してください。必要であれば、ネットワーク・ノード・サーバー・リストで選択されたネットワーク・ノードに NETSRVR 定義ステートメントを組み込むか、認識されているどのネットワーク・ノードにもネットワーク・ノード・サーバーとして機能させる NETSRVR 定義ステートメントをエンド・ノードに組み込んでください。

リストを編集した後、VARY ACT,ID=*member_name* (ここで、*member_name* は、編集したネットワーク・ノード・サーバー・リストを含む定義リスト・メンバーのメンバー名です) を出してください。さらに VARY TERM,ID=*nodename* コマンドを出して、このエンド・ノードとネットワーク・ノード *nodename* の間の CP-CP セッションを非活動化してください。新しいネットワーク・ノード・サーバー・リストを使用して VTAM は自動的に CP-CP セッションを活動化します。

IST1126I

ネットワーク ID に適応するネットワーク・ノード・サーバーを選択してください。必要であれば、ネットワーク・ノード・サーバー・リストで選択されたネットワーク・ノードに NETSRVR 定義ステートメントを組み込むか、認識されているどのネットワーク・ノードにもネットワーク・ノード・サーバーとして機能させる NETSRVR 定義ステートメントをエンド・ノードに組み込んでください。

IST1127I

システム・ログとトレースの結果を調べて、REGISTR と DELETE GDS 変数が正しい形式に対応していることを確認してください。

- REGISTR と DELETE GDS 変数の記述、および GDS 変数形式の説明については「SNA Formats」か「SNA Network Product Formats」を参照してください。
- トレースの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

また、新しいネットワーク・ノードを選択して、このエンド・ノードのサーバーとして機能させてください。必要であれば、ネットワーク・ノード・サーバー・リストで選択されたネットワーク・ノードに NETSRVR 定義ステートメントを組み込むか、認識されているどのネットワー

ク・ノードにもネットワーク・ノード・サーバーとして機能させる NETSRVR 定義ステートメントをエンド・ノードに組み込んでください。

リストを修正した後、VARY ACT,ID=*member_name* コマンド (ここで *member_name* は、編集されたネットワーク・ノード・サーバー・リストを含む定義ライブラリーのメンバーの名前) を出してください。

IST1125I END NODE IS NOT AUTHORIZED

説明: VTAM は、このエンド・ノードでの VTAM がリソースをそのネットワーク・ノード・サーバーに登録できないときに、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1124I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1126I END NODE NETID REJECTED

説明: VTAM は、このエンド・ノードでの VTAM がリソースをそのネットワーク・ノード・サーバーに登録できないときに、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1124I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1127I UNRECOGNIZED REGISTRATION REQUEST

説明: VTAM は、このエンド・ノードでの VTAM がリソースをそのネットワーク・ノード・サーバーに登録できないときに、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1124I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1128I PATH *pathname* IGNORED, *nodename* - STORAGE SHORTAGE

説明: このメッセージは、ノード *nodename* の動的パス更新セット *pathname* を更新するために十分なストレージを使用できないときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1128I PATH pathname IGNORED, nodename - STORAGE
SHORTAGE
IST1045I NODE TYPE = nodetype
IST314I END
```

VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出します。

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM は、動的パス更新セット *pathname* を更新しません。

オペレーターの応答: 少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。ストレ

ジ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。VTAM 内部トレースについては、より小さなバッファ・サイズを指定して MODIFY TRACE コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが足りないためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プールか SGA 制限を再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM に必要なストレージの量を判別するには、*Estimating Storage for VTAM* ディスケットを使用してください。
- VTAM 開始オプションについては、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。
- 追加情報については、「*VTAM Operation*」を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「*VTAM Network Implementation Guide*」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。

IST1129I *command* FAILED, *nodename* - DEACTIVATE PENDING

説明: このメッセージは、オペレーターが *command* に指定したリソース *nodename* が非活動化要求を保留しているときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1129I command FAILED, nodename - DEACTIVATE
PENDING
IST1045I NODE TYPE = nodetype
IST314I END
```

失敗した *command* が VARY INACT コマンドであれば、保留中の非活動化はより強いタイプ (即時または強制) のものです。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: DISPLAY コマンドを使用して、非活動化の進行状況をモニターしてください。 *nodename* が非活動化されたら、VARY コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1130I *command* FOR *nodename* FAILED -
STORAGE SHORTAGE

説明: このメッセージは、VTAM が要求を処理するために十分なストレージを獲得できなかったために、リソース *nodename* への *command* が失敗したときに VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1130I  command FOR nodename FAILED - STORAGE
          SHORTAGE
IST1045I  NODE TYPE = nodetype
IST314I  END
```

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。処理を続行します。

オペレーターの応答: 影響を受けたストレージのタイプを示すために、このメッセージの前に、メッセージ IST561I、IST562I、IST563I、IST564I、IST565I または IST566I が出力されます。

VTAM バッファ・プールに使用されているストレージと、システム GETVIS 域 (SGA) に関する情報を表示するには、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

nodename が、他のドメインのリソースのための定義に変換される独立論理装置の場合は、*nodename* の NCP 大ノードを非活動化してください。ストレージ不足が解消されたら、NCP 大ノードを活動化してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージが足りないためにエラーが発生したのであれば、バッファ・プールか SGA 制限を再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1131I DEVICE = *devicetype* [- CONTROLLING LU
= *luname*]

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

devicetype は装置タイプです。 *devicetype* が ILU/CDRSC であれば、ノードは CDRSC で示される独立 LU です。

luname は、定義ステートメントの LOGAPPL オペランドか、または VARY LOGON コマンドの LOGON オペランドに事前に指定された制御 LU の名前です。

- ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *luname* を *netid.name* の形式で出します。
- 制御アプリケーション・プログラムがない場合、VTAM は CONTROLLING LU = *luname* を表示しません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1132I *nodename* IS ACTIVE, TYPE = *nodetype*

説明: VTAM はこのメッセージを、VARY コマンドに回答して、*nodename* が正しく活動化されたときに出力します。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

nodetype は表示されているノードのタイプです。

nodetype の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

注: リソースが活動していることを確認するために、このメッセージを予期していても、他の VTAM 処理によって VARY コマンドが上書きされてしまうと、メッセージは出力されません。

例えば、VARY ACT コマンドが完了する前に NCP INOP を出してリカバリーしようとする、VTAM はオペレーターの出したコマンドを処理する前に、リソースを活動化させます。

この状況では、メッセージ IST493I や IST1141I が表示され、VARY ACT コマンドが無効になったことを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1133I *nodename IS NOW INACTIVE, TYPE =
nodetype*

説明: VTAM はこのメッセージを、*nodename* が正しく活動化されたときに出力します。これはほとんどの場合、VARY INACT コマンドを出力したためです。*nodename* が他のクロスドメイン・リソース・マネージャー (CDRM) の場合は、*nodename* のドメインから非活動化要求が出されたために、非活動化したものと思われる。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出力します。

nodetype は表示されているノードのタイプです。

nodetype の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1134I *nodename NOW HAS CONTROLLING LU
luname*

説明: VTAM はこのメッセージを、VARY ACT か VARY LOGON コマンドのいずれかの LOGON オペランドの処理が完了したときに出力します。

論理装置 *nodename*、または *nodename* に関連する論理装置が、他のアプリケーション・プログラムとのセッションにない場合、VTAM はそれらの装置をアプリケーション・プログラム *luname* に、自動的にログオンします。リソースが活動していないと、ログオンは完了しません。リソースを活動化しても、アプリケーション・プログラムとのセッションが開始するわけではありません。

ネットワーク修飾名が、コマンドの ID オペランドに入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出力します。

ネットワーク修飾名が、コマンドの LOGON オペランドに入力された場合、VTAM は *luname* を *netid.name* の形式で出力します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1135I **FORCED VARY INACT SCHEDULED FOR
nodename**

説明: VTAM はこのメッセージを、ノード *nodename* を非活動化するための VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドへの応答として出力します。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、

VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出力します。

システムの処置: VTAM は、ノード *nodename* に VARY INACT コマンドを出力します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1136I **VARY INACT nodename SCHEDULED -
UNRECOVERABLE ERROR**

説明: VTAM はこのメッセージを、以下のいずれかの原因によってリソース *nodename* への VARY INACT コマンドがスケジュールされているときに出力します。

- 通信コントローラー、物理装置、論理装置、リンク、またはリンク・ステーションで、リカバリー不能なエラーが起きました。
- SSCP-LU セッション、または SSCP-PU セッションで最大 RU サイズを超過したために、VTAM が内部 VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドをスケジュールした。

VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出力します。

システムの処置: VTAM は、リソース *nodename* に自動的に VARY INACT コマンドを出力します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: オペレーティング・システム・サービス支援プログラムを実行して、弊社に連絡してください。EREPの使用について詳しくは、「*EREP User's Guide and Reference*」を参照してください。

IST1137I *command FAILED, nodename - reason*

説明: VTAM はこのメッセージを、指定された *reason* のために *command* が失敗したときに出力します。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出力します。

reason は失敗の原因を示し、以下のいずれかになります。

ALSNAME NOT GIVEN

MODIFY TRACE,TYPE=GPT コマンドが、*nodename* に入力されましたが、ALSNAME が指定されなかったため、以下のいずれか理由のためにデフォルト ALSNAME を決定することができませんでした。

- *nodename* 用の隣接リンク・ステーション・リストに項目がない
- *nodename* 用の隣接リンク・ステーション・リストに 2 つ以上の項目 (ISTAPNPU 以外) がある。

ALSNAME NOT VALID

MODIFY TRACE,TYPE=GPT コマンドが、*nodename* に入力されましたが、指定されたか、またはデフォルトで使用された隣接リンク・ステーション名 (ALSNAME) が、コマンドが入力された時点では無効な状態でした。隣接リンク・ステーション・リストのただ 1 つの項目であるために ISTAPNPU がデフォルトとして使用された場合、これがコマンドの失敗した原因です。ISTAPNPU は、総称的な APPN 隣接リンク・ステーションの名前です。コマンドを完了させるには、実際の隣接リンク・ステーション名を指定しなければなりません。

CDRSC IS DYNAMIC

nodename は動的クロスドメイン・リソースですが、入力した TRACE コマンドには有効ではありません。

CDRSC NOT ACTIVE

ノード *nodename* でのギブバック処理、または内部削除が失敗しました。VTAM は定義済み CDRSC が活動していないことを検出したのでアクティブ・セッションを LU から CDRSC に転送することができませんでした。

CDRSC NOT ALLOCATED

ノード *nodename* でのギブバック処理、または内部削除が失敗しました。VTAM に、クロスドメイン・リソースを割り振るだけのリソースがなかったか、動的 CDRSC をサポートしていないので、アクティブ・セッションを LU から CDRSC に転送することができませんでした。

DEACTIVATE PENDING

nodename に従属する論理装置に、LU-LU セッションがあり、非活動を保留しているため、VTAM は、VARY INACT,TYPE=GIVEBACK コマンド、または VARY REL,TYPE=GIVEBACK コマンドを拒否しました。

EXIT IS NOT FOUND

オペレーターが、見つからない VTAM インストール・システム共通出口に対して DISPLAY EXIT コマンドを実行しました。

MODEL LU NOT VALID

オペレーターが、*nodename* に DISPLAY LUGROUPS コマンドを入力しましたが、DISPLAY LUGROUPS コマンドの GROUP オペランドに指定されている LUGROUP にモデル LU *nodename* が見つかりませんでした。

RESOURCES NOT FOUND

オペレーターが VARY ACQ または VARY REL コマンドを出しましたが、NCP に影響はありませんでした。

すでにリソースがすべて獲得、または解放されたか、コマンドに指定されている OWNER が、NCP のリソースに指定されているどの所有者名にも一致しません。2 つの異なるネットワークが、同じ固有のリソースを共有することはできません。

SECURITY DATA ERROR

VTAM が、暗号化セキュリティ・データ・フィールド不一致を、XID の交換時に検出しました。この不一致は、以下の原因で起こります。

- 権限のないサブエリア・ダイヤル物理装置が、交換回線経由で接続の確立を試みる場合
- PRTCT オペランドがない場合
- 呼び出し側と受信側の双方に、正しいパスワードが、コーディングされていない場合
- サブエリア・ノードのいずれかが、呼び出しセキュリティ確認をサポートしていないレベルである

SECURITY ERROR

VTAM が、コマンド *command* を処理中に、セキュリティ・エラーが発生しました。

STORAGE SHORTAGE

オペレーターが *nodename* に MODIFY ENCR コマンドを入力しましたが、VTAM アドレス・スペースに十分なストレージがありません。

SUPPORT UNAVAILABLE

セキュリティー・マネージャーが使用不能か、またはリソース・クラス APPCLU が活動化されていません。

VTAM ABEND

MODIFY PROFILES コマンドの処理中に、VTAM が異常終了しました。

システムの処置: コマンドを完了させません。処理を続行しません。

CDRSC IS DYNAMIC または CDRSC NOT ALLOCATED

LU *nodename* は、アクティブ・セッションを持った非活動状態として、VTAM に判断されたままになります。

SECURITY DATA ERROR

VTAM は交換接続を終了し、PU を非活動化します。

SECURITY ERROR または SUPPORT UNAVAILABLE

VTAM はプロファイルを再生せず、ストレージにあるプロファイルの使用を継続します。

オペレーターの応答: *reason* によって応答が決定されます。

ALSNAME NOT GIVEN

DISPLAY ID コマンドを *nodename* に対して入力して正しい隣接リンク・ステーションを決定し、コマンドを入力し直してください。

ALSNAME NOT VALID

DISPLAY ID コマンドを *nodename* に対して入力して正しい隣接リンク・ステーションを決定し、コマンドを入力し直してください。

独立 LU と関連する PU の状態 (活動または非活動) は、以下のとおりでなければなりません。

- NCP 内で動的に構成されていれば、活動状況
- NCP 交換回線にあれば、活動状況
- NCP 非交換回線にあれば、活動状況か非活動状況

CDRSC IS DYNAMIC または CDRSC NOT ALLOCATED

nodename で CDRSC を定義する CDRSC 大ノードを活動化してください。

DEACTIVATE PENDING

すべての従属ノードの非活動化が完了するのを待って、コマンドを再入力してください。

MODEL LU NOT VALID

nodename が正しいことを検査して、コマンドを出し直してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

RESOURCES NOT FOUND

すべての NCP リソースが獲得または解放されていること、あるいはコマンドに指定されている OWNER が、操作対象のリソースに指定されている所有者名と一致していることを確認してください。

SECURITY DATA ERROR

このメッセージが引き続き出されるか、コンソールをモニターしてください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合、VARY ANS コマンドを使用して、回線を応答モードから外してください。

SECURITY ERROR

コマンドを出し直してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、セキュリティ管理担当者に連絡してください。

VTAM ABEND

問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

エラーの原因が、暗号化機能の不適切な終了処理である場合、STOP コマンドを入力して暗号化機能を終了させてください。また、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

その他すべての *reason*

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *reason* によって応答が決定されます。

CDRSC IS DYNAMIC

動的クロスドメイン・リソースではないリソースに、TRACE コマンドを再入力してください。動的クロスドメイン・リソースはトレースできません。

CDRSC NOT ALLOCATED

VTAM を停止させ、動的 CDRSC をサポートするために、再始動してください。

EXIT IS NOT FOUND

見つからなかった VTAM インストール・システム修正出口ルーチンがシステムにインストールされていることを確認してください。

MODEL LU NOT VALID

modename の定義を検査して、正しいかどうか確認してください。

SECURITY DATA ERROR

ダイヤル呼び出し処理に関係したすべてのノードが、呼び出しセキュリティ検証をサポートしているレベルであるかを確かめてください。呼び出し側と、受信側の同一性を検査するために使用されるパスワードは、一致していなければなりません。交換回線大ノード定義の PU ステートメントにある PRCTC キーワードを参照してください。

STORAGE SHORTAGE

このエラーが頻繁に発生する場合、VTAM ストレージ割り振りを調べてください。必要に応じてストレージを増やしてください。

- VTAM に必要なストレージの量を判別するには、「*Estimating Storage for VTAM*」プログラムを使用してください。
- 追加情報については、「*VTAM Operation*」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。

VTAM ABEND

異常終了プロシージャについては、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。表示された出力から問題の原因を判別できない場合、または追加の援助が必要な場合は、IBM のソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

その他のすべての *reason* の場合、処置は不要です。

IST1138I REQUIRED resource [luname] reason

説明: リソースがセッションを要求したが、以下にリストされたいずれかの理由でセッション開始要求が失敗すると、VTAM はこのメッセージを、メッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは IST663I です。

IST663I メッセージ・グループの一部であるメッセージ IST664I は、セッションを確立できなかったパートナーの名前を表示します。

resource と *reason* の組み合わせは、以下のいずれかです。

ADJSSCP TABLE

UNDEFINED

COS NAME *cosname*

UNDEFINED

LOGMODE NAME *logmode*

UNDEFINED

RESOURCE *luname*

UNDEFINED

RESOURCE *luname*

NOT ACTIVE

RESOURCE *luname*

UNSTABLE (装置タイプ LU のみ)

RESOURCE *luname*

DISABLED

RESOURCE *luname*

QUIESCING

RESOURCE *luname*

BLOCKING LOGONS (アプリケーション PLU のみ)

STORAGE

NOT AVAILABLE

luname が表示されるのは、*resource* が **RESOURCE** の場合です。*luname* は、エラーがあった LU またはアプリケーションの実名です。SLU が不明な場合、*luname* は、***NA*** として表示されます。

- ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *luname* を *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出します。
- *luname* が SLU であれば、リソースは未定義、非活動、使用不可、または休止の状態です。
- *luname* が PLU であれば、リソースは未定義、非活動、使用不可、休止、またはログオン・ブロッキングの状態です。
- *cosname* の場合は、その名前をもつ COS (サービス・クラス) 項目が定義されていません。デフォルトのサービス・クラスが使用されていた場合、*cosname* はブランクになります。
- *logmode* の場合は、SLU に対するログオン・モードが無効です。
 - ログオン・モードが、VTAM 定義ステートメントの SLU に対するログオン・モード・テーブルにない
 - SLU に関連しているログオン・モード・テーブルがなく、このログオン・モードがデフォルトのログオン・モード・テーブルに含まれていない
 - SLU に関連している有効なログオン・モード・テーブルがなく、デフォルトのログオン・モード・テーブルが存在しない

- `logmode` が提供されない場合、またはブランクを含んでいる場合は、メッセージ IST264I が、今まで通り出されます。
`logmode` には、***NA*** が表示されます。

システムの処置: VTAM は、セッション初期設定要求を拒否します。セッション設定は失敗します。

オペレーターの応答: 以下の適切な処理を行ってください。

- 要求されたリソースが **UNDEFINED** であれば `VARY ACT` コマンドを入力して、そのリソースが定義されているリソース大ノードを活性化してください。
 - 要求されたリソースが **NOT ACTIVE** であれば、`VARY ACT` コマンドを入力してリソースを活性化してください。リソースがアプリケーション・プログラムであれば、そのプログラムを開始してください。
 - 要求されたリソースが **UNSTABLE** であれば、何らかのタイプのエラー・リカバリー処理が行われていると思われる。これは ERP、INOP、あるいはセッションの終了が原因と思われる。リソースを表示し、リソースがリカバリーした後で再要求してください。
 - 要求されたリソースが **DISABLED** で、装置タイプ LU であれば、電源がオンであるかどうか確認してください。
 - 要求されたリソースが **DISABLED** で、アプリケーション・プログラムであればアプリケーション・プログラムを開始するか、そのアプリケーション・プログラムが `SETLOGON START` を出したかどうか確認してください。
 - 要求されたリソースがアプリケーション・プログラムで、**QUIESCING** であれば `SETLOGON QUIESCE` が効力をもっています。アプリケーション・プログラムは、遮断処理中で、VTAM が ACB をクローズしてから再度オープンしない限り、新たなセッションは受け付けられません。
 - 要求されたリソースがアプリケーション・プログラムで、ACB が `MACRF=NLOGON` でオープンされていれば、これは **BLOCKING LOGONS** です。アプリケーション・プログラムに許可されているただ 1 つの LU-LU セッションは、`OPNDST OPTCD=ACQUIRE` でアプリケーション・プログラムそれ自身によって開始されたセッションです。
 - **LOGMODE** の問題の場合、リソースが要求に正しいログオン・モードを指定したかどうか確認してください。
`DISPLAY ID` コマンドを使用して、リソースのために識別されているテーブルを判別することができます。リソースに関連するログオン・モード・テーブル名を変更するには `MODIFY TABLE` コマンドを使用してください。
 - ストレージが **NOT AVAILABLE** の場合は、少し待ってからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、`DISPLAY BFRUSE` コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、`DISPLAY STORUSE` コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。
- プログラマーの応答:
- **COS** の問題の場合、サービス・クラスが定義されているか確認してください。
 - **LOGMODE** の問題の場合、現在 SLU に割り当てられているログオン・モード・テーブルを訂正するか、正しいモードをもつ他のログオン・モード・テーブルを割り当ててください。

- **STORAGE** の問題の場合、VTAM 区画サイズや VPBUF にさらにストレージを割り振ってください。ストレージが足りないためにエラーが発生したのであれば、バッファールールか SGA 制限を再定義してください。

`MODIFY VTAMOPTS` コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM 開始オプションについては、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。
- 追加情報については、「*VTAM Operation*」を参照してください。

行っている操作が重要なものであれば、VTAM を停止して、さらに大きな区画サイズで再始動しなければなりません。

IST1139I *runame* FOR *nodename* FAILED - SENSE: *code*

説明: このメッセージは、ノード *nodename* への要求 *runame* がセンス・コード *code* で失敗したときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1139I  runame FOR nodename FAILED - SENSE: code
IST1045I  NODE TYPE = nodetype
IST314I   END
```

IST1139I

runame は *nodename* に対して出された要求です。

runame の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*nodename* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

code はセンス・コードで、エラーの原因を示します。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

IST1045I

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM は、要求 *runame* を実行しません。

VTAM は、`ACTLINK`、`CONTACT`、`ACTLU`、または `ACTIPU` などの RU に対する活性化要求を受信し、その要求が失敗すると、リソースが活動化中であるか非活動化中であるかに関係なく、通常は、リソースとすべての従属リソースを非活動化します。

オペレーターの応答:

- もう一度ノードを活性化、またはトレースしてください。

- それでも障害が発生する場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
- VTAM がこのメッセージを繰り返し出すようであれば、回線を使用禁止にしてください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。
- *code* がストレージの問題を示している場合は、少し待つてからコマンドを再入力してください。VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、VTAM バッファ・プールに使用されたストレージと、システム GETVIS 域 (SGA) についての情報を表示してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

- センス・コード **081Cnnnn**

センス・コード (*nnnn*) のユーザー部分で示される原因を訂正し、コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答:

- *code* がストレージの問題を示している場合は、ストレージを必要に応じて増やしてください。ストレージ不足が原因でエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM に必要なストレージの量を判別するには、「*Estimating Storage for VTAM*」ディスクットを使用してください。
- VTAM 開始オプションについては、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。
- 追加情報については、「*VTAM Operation*」を参照してください。
- バッファ・プールの説明、およびバッファ・プールの指定と割り振りに関する一般情報については、「*VTAM Network Implementation Guide*」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「*VTAM Diagnosis*」を参照してください。

- センス・コード **081Cnnnn**

VARY ACT 要求での ACTLINK 要求が、センス・コード **081Cnnnn** で失敗した場合、PU (ローカル SNA) の CUADDR オペラントや PCCU 定義ステートメントを調べて、正しいチャネル装置アドレス (CUA) がノード *nodename* に指定されているかどうか確認してください。

- センス・コード **08A30001**

VTAM がセンス・コード 08A30001 を繰り返し出す場合、交換接続を確立しようとしているサブエリア・ノードを判別してください。その接続を要求する権限が SSCP にあれば、どちらの SSCP も交換回線大ノードの PU ステートメ

ントと同じ PRTCT オペラントがコーディングされているかどうか確認してください。また、両方のノードとその SSCP が、呼び出しセキュリティー確認をサポートするレベルであるかどうか確認してください。

許可されていないサブエリア・ノードが、メッセージを受信したホストへの交換接続を確立しようとしているために、VTAM はこのメッセージをセンス・コード 08A30001 で出すことがあります。

- NCP 生成に LUDRPOOL マクロ命令を組み込まなければならぬ場合もあります。
- 装置がシステムにとって使用可能であり、ハードウェア上の問題もないことを確かめてください。

IST1140I *command* FAILED *nodename* - STATE *state*
NOT VALID

説明: このメッセージは、リソース *nodename* が要求のために有効な状況にないので、*command* が拒否されたときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1140I  command FAILED nodename - STATE state
          NOT VALID
IST1045I  NODE TYPE = nodetype
IST314I   END
```

IST1140I

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

state は、要求時の *nodename* の状況です。*state* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

IST1045I

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: DISPLAY ID コマンドを使用して、ノードの状況をモニターしてください。処理が完了したら、要求されたネットワーク構成や装置状況を得るために必要なコマンドを入力してください。

プログラマーの応答: システム・ログを調べて、問題の原因となった一連のイベントを判別してください。

IST1141I *command1* FOR *nodename* OVERRIDDEN BY
command2

説明: VTAM はこのメッセージを、*command1* が最初に入力されていても *command1* が *command2* によってオーバーライドされたときにします。

command2 は、*command1* を完了することができなかつたときに、VTAM によって出されたものと考えられます。例:

- 物理装置に VARY INACT,TYPE=IMMED コマンドが出されると、VTAM は同じ装置に出される VARY REL コマンドを拒否します。VARY INACT,TYPE=IMMED コマンドは処理されますが、VARY REL コマンドは実行されません。これは、解放処理が非活動化処理の一部であるためです。

command1 および *command2* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。システムの処置: VTAM は *command1* を拒否します。*command2* の処理を続けます。

オペレーターの応答: VTAM は *command1* と *command2* を並行して処理することはできません。*command1* は常に拒否されます。システム・ログを調べて、2 つのコマンドがなぜその順序で入力されたのかを判別してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1142I TRACE REQUEST FAILED - *nodename* NOT VALID

説明: このメッセージは、MODIFY TRACE コマンドや TRACE 開始オプションに応答して VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。*nodename* が存在していないか、要求されたトレースのタイプに有効でないために、リソース *nodename* のトレースに失敗しました。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1142I TRACE REQUEST FAILED - nodename NOT VALID
IST1045I NODE TYPE = nodetype
IST314I END
```

ネットワーク修飾名がコマンド行や開始オプションに入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *nodename* が正しく入力されていることを確認してください。問題が解決しない場合、要求されたトレースのタイプに *nodename* が有効かどうか確認してください。

MODIFY TRACE コマンドや TRACE 開始オプションの詳細については「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1143I TRACE TERMINATED FOR *nodename* [ALSNAME = *alsname*]

説明: このメッセージは、リソース *nodename* でのトレース活動が終了したときに MODIFY NOTRACE コマンドに応答して VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1143I TRACE TERMINATED FOR nodename [ALSNAME =
alsname]
IST1045I NODE TYPE = nodetype
IST314I END
```

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

alsname は、LU がトレースされる隣接リンク・ステーション (ALS) の名前です。トレース・ノードが独立 LU であれば、*alsname* は表示されます。

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM は、*nodename* のトレース活動を中止します。処理を続行します。

注: MODIFY NOTRACE が SCOPE=ALL オペランドで入力された場合、VTAM は *nodename* に従属するノードのすべてのトレースも終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1144I TRACE INITIATED FOR *nodename* [ALSNAME = *alsname*]

説明: このメッセージは、ノード *nodename* へのトレース活動が正しく開始されたときに MODIFY TRACE コマンドに応答して VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1144I TRACE INITIATED FOR nodename [ALSNAME =
alsname]
IST1045I NODE TYPE = nodetype
IST314I END
```

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

alsname は、LU がトレースされる隣接リンク・ステーション (ALS) の名前です。トレース・ノードが独立 LU であれば、*alsname* は表示されます。

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM は、*nodename* のトレース活動を開始します。

注: MODIFY TRACE コマンドに SCOPE=ALL オペランドをコーディングした場合、VTAM はすべての従属ノードでも同様にトレースを開始します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1145I TRACE REQUEST FAILED, *nodename* - STORAGE SHORTAGE

説明: このメッセージは、MODIFY TRACE コマンド、MODIFY NOTRACE コマンド、TRACE START オプション、または NOTRACE START オプションがリソース *nodename* への VTAM トレースを活動化、または非活動化するために入力されていても、パラメーター・リストを作成するための十分なストレージが無いときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1145I TRACE REQUEST FAILED, nodename - STORAGE
          SHORTAGE
IST1045I NODE TYPE = nodetype
IST314I  END
```

ネットワーク修飾名がコマンド行や開始オプションに入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

nodetype は *nodename* のリソース・タイプです。

考えられる値については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンド、または開始オプションを拒否します。処理を続行します。

オペレーターの応答:

- VTAM がコマンドへの応答としてこのメッセージを出した場合、少し待ってからコマンドを出し直してください。エラーが解決しない場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。
- VTAM がスタートアップ時にこのメッセージを出す場合は、VTAM が初期設定されるまで待って、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログとダンプを保管してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: オペレーターが開始プロシージャに指定されているように、以下の開始オプションを入力していることを確認してください。

- バッファ・プール
- SGALIMIT

GETVIS 域に必要なストレージの量を低く見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足が原因でエラーが発生した場合は、バッファ・プールまたは SGA 開始オプションを再定義してください。

MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

- VTAM 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。
- ダンプの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1146I *nodename* command U = operand FAILED

説明: VTAM はこのメッセージを、受け入れ不可能な *operand* が入力されたために *nodename* への *command* が失敗したときに出します。

- *operand* がブランクの場合は、チャンネル接続大ノードの回線またはローカル SNA PU が、チャンネル装置アドレスなしで定義されており、チャンネル装置アドレスが VARY ACT コマンドの U オペランドでも指定されませんでした。
- *operand* が *cua* であれば、U=*cua* を指定した VARY ACT コマンドが、活動していないチャンネル接続大ノードやローカル SNA PU の回線に入力されました。このエラーは、現在使用されているチャンネル装置アドレスと *cua* が一致しないときに発生します。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *operand* がブランクであれば、U オペランドにチャンネル装置アドレスを指定して VARY ACT コマンドを出し直してください。

operand が *cua* で、*cua* が正しいチャンネル・アドレスであれば、回線や PU を非活動化して、コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: *operand* がブランクであれば、回線や PU にデフォルトのチャンネル装置アドレスを指定してください。

operand が *cua* であれば、処置は不要です。

IST1147I *nodename* command LOGON= operand FAILED

説明: VTAM は、VARY ACT または VARY LOGON コマンドへの応答としてこのメッセージを出します。受け入れ不可能な *operand* が入力されたために *nodename* への *command* が失敗しました。

operand が制御 LU であれば、アプリケーションへの VARY ACT コマンドの LOGON オペランドに、制御 LU 名が指定されました。制御 LU は、論理装置に対してのみ有効です。

ネットワーク修飾名が、コマンドの ID オペランドに入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

ネットワーク修飾名が、コマンドの LOGON オペランドに入力された場合、VTAM は *operand* を *netid.name* の形式で出します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *operand* が制御 LU であれば、VARY ACT コマンドの正しい構文について、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1148I *nodename command RNAME = operand*
FAILED

説明: VTAM はこのメッセージを、受け入れ不可能な *operand* が入力されたために *nodename* への *command* が失敗したときに出します。

コマンドは以下のいずれかの原因で失敗しました。

- **RNAME = *nodename*** (ここで *nodename* は論理装置の名前) が通信コントローラーの活動化中に指定されたので無効である
- **RNAME *operand*** に指定されている値が、有効なリンク・ステーション名ではない
- **RNAME = *backup*** が指定されたが、VTAM はバックアップ・リンク・ステーション *backup* を処理することができない
- **RNAME *operand*** に指定されている値が、ネットワーク制御プログラム (NCP) 定義と一致しない

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、

VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *operand* に有効なノード名や値を指定して、コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1149I **VARY command PROCESSING FOR NODE**
nodename COMPLETE

説明: VTAM はこのメッセージを、リソース *nodename* への VARY コマンド処理が完了したときに出します。

ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、

VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1150I *uservar CHANGED: value1 TO value2*

説明: このメッセージは、USERVAR の値を変更するために MODIFY USERVAR コマンドが使用されたときに VTAM が出す、メッセージのグループの一部です。グループの最初のメッセージは IST1283I です。このグループの詳しい記述については、そのメッセージを参照してください。

注: このメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

value1 は、*uservar* の元の値です。ネットワーク修飾名が前の MODIFY コマンドに入力された場合、VTAM は *value1* を形式 *netid.name* で出します。

value2 は、*uservar* の新しい値です。ネットワーク修飾名が現行の MODIFY コマンドで入力された場合、VTAM は *value2* を形式 *netid.name* で出します。

その後の *uservar* へのセッション要求は、*value2* に指定されているアプリケーションに送られます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1151I **USERVAR *uservar* DEFINED: VALUE =**
value

説明: このメッセージは、MODIFY USERVAR コマンドを使用して USERVAR を定義するときに VTAM が出すメッセージ・グループの最初のもので、メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1151I USERVAR uservar DEFINED: VALUE = value
[IST1030I USERVAR EXIT IS exitname]
IST314I END
```

注: このメッセージ・グループはパーコレートされます。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

IST1151I

uservar は USERVAR の名前です。

uservar の値は *value* に初期設定されています。ネットワーク修飾名が、コマンド行に入力された場合、VTAM は *value* を *netid.name* の形式で出します。

その後の *uservar* へのセッション要求は、*value* に指定されているアプリケーションに送られます。

IST1030I

exitname は、USERVAR 出口ルーチンの名前です。USERVAR 出口が定義されていない場合、VTAM はこのメッセージを出しません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1152I *nodename CONTROLLING LU [luname]*
REMOVED

説明: VTAM はこのメッセージを VARY NOLOGON コマンドの処理が完了したときに出します。リソース *nodename* がそのセッションにない場合、または他の PLU とのセッションを待機している場合 *nodename* は *luname* に自動的にログオンされません。LU が NOLOGON コマンドにどのように指定されているかによって、*luname* は組み込まれることも組み込まれないこともあります。

IST1153I

ネットワーク修飾名が、コマンドの ID オペランドに入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

ネットワーク修飾名が、コマンドの NOLOGON オペランドに入力された場合、VTAM は *luname* を *netid.name* の形式で出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1153I *nodename1 nodename2 SESSION bpBUF USE percentage*

説明: 示されているセッションが *bpBUF* バッファ・プールの 10 パーセント、またはそれ以上を使用していることを VTAM が検出しました。

注: このメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

nodename1 と *nodename2* は、プールの最大パーセンテージを使用するセッションのセッション・パートナーです。VTAM は *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として *nodename1* と *nodename2* を出します。VTAM がノード名を認識していない場合、ノード ID は形式 *subareaelement* (*subarea* はサブエリアで、*element* は、ネットワーク・アドレスの要素部分) で表されます。

bpBUF はバッファ・プールの名前です。

percentage は、このセッションによって使用されているバッファ・プールのパーセンテージです。

nodename1 と *nodename2* との間のセッションが、バッファ・プールの大部分を使用していない場合、バッファ・プールのサイズを少なく見積もったと思われる。

nodename1 と *nodename2* 間のセッションが、バッファ・プールの大部分を使用している場合は、以下のいずれかの状況であると思われる。

- *nodename1* か *nodename2* に誤動作がある。VTAM のデータあふれの原因となるハードウェア、マイクロコード、およびアプリケーション・プログラム・エラーが考えられます。
- *nodename1* か *nodename2* のどちらにも誤動作はないが大量のデータが、有効なペーシングなしでこのセッションに転送されている。

システムの処置: メッセージ IST154I、IST1098I、または IST1099I がこのメッセージとともに表示されます。

- メッセージ IST154I が表示された場合、この時点でバッファ・プールは拡張されていません。ストレージがさらに使用可能になった場合、VTAM はバッファ・プールを拡張しようとする場合があります。VTAM は、バッファの拡張に失敗することによって、逆に影響を受ける可能性があります。
- メッセージ IST1098I や IST1099I が表示された場合、処理は続きます。

- セッションが SSCP-LU セッションであれば、LU は非活性化され、メッセージ IST1098I が表示されます。
- セッションが LU-LU セッション (CP-CP を含む) であれば、そのセッションは終了し、メッセージ IST1099I が表示されます。

セッションがバッファ・プールの 10 パーセント以上を使用していることを VTAM が判別すると、自動的にセッションを終了するかどうかの決定が行われます。パーセンテージが HOTIOTRM 開始オプションの値より大きいか、それと同じであれば、VTAM は、*nodename1* と *nodename2* との間の全セッションの終了を開始します。セッションが自動的に終了すると、VTAM はメッセージ IST1099I を出します。

オペレーターの応答:

- この問題の原因が誤動作の発生している装置 LU にある場合、VARY INACT コマンドを使用して、その装置を非活性化してください。極端な場合、装置を物理的に切断、または電源をオフにしなければなりません。
- この問題の原因が VTAM アプリケーション・プログラムにある場合、そのプログラムのダンプをとって、終了させてください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。
- VTAM がこのメッセージを出し続ける場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答:

- セッション・ペーシングが、バッファ・プールの大部分を使用しているセッションに、有効であるかどうかを確かめてください。BIND 要求単位には、各セッションで使用されている値が含まれています。セッション・ペーシングに関する詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。
- このメッセージの前にメッセージ IST154I が表示され、*nodename1* と *nodename2* との間のセッションがバッファ・プールの大部分を使用していない場合、バッファ・プールのサイズが、少なく見積もられている可能性があります。
- メッセージ IST154I が出された場合、そのメッセージの *code* の説明を使用して、修正の必要なバッファ・プールを判別してください。
- バッファ・プールや CSA 開始オプションを再定義する必要がある可能性があります。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。
- これらのセッションを VTAM に自動的に終了させたい場合、*percentage* 以下の値を HOTIOTRM 開始オプションに指定してください。この開始オプションは、MODIFY VTAMOPTS コマンドで修正することができません。
- 詳細については、以下のマニュアルを参照してください。
 - バッファ・プールの説明、およびバッファ・プール仕様と割り振りの一般情報については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

- HOTOIOTRM 開始オプションおよびその他の VTAM 開始オプションについて詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- 詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1154I *resourcename_1 ... resourcename_n*

説明: このメッセージは、DISPLAY TABLE コマンドに応答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。このグループの最初のメッセージは、IST986I か IST1006I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1155I *nodename VARY NOLOGON = applname*
FAILED

説明: VTAM はこのメッセージを、VARY NOLOGON コマンドへの応答で出します。指定された *applname* とは異なるアプリケーションとの制御関係が *nodename* に存在していたので、コマンドが失敗しました。

ネットワーク修飾名が、コマンドの ID オペランドに入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

ネットワーク修飾名が、コマンドの NOLOGON オペランドに入力された場合、VTAM は *applname* を *netid.name* の形式で出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: DISPLAY ID コマンドを *nodename* に入力し、制御関係があるかどうか確認します。示されている *applname* で VARY NOLOGON コマンドを出し直してください

プログラマーの応答: なし。

IST1156I **USERVAR** *uservar* **IN** *netid* **HAS VALUE**
value

説明: VTAM はこのメッセージを以下のいずれかのコマンドへの応答として出します。

- DISPLAY SESSIONS

このメッセージは、コマンドに指定されているリソース名が USERVAR の名前であるときに、DISPLAY SESSIONS コマンドへの応答で VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- DISPLAY ID

このメッセージは、ID オペランドに指定されているリソース名が USERVAR の名前であるときに、DISPLAY ID コマンドへの応答で VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST075I です。

uservar は、値 *value* をもつ、ネットワーク *netid* のネットワーク・リソースのユーザー定義名です。 *uservar* がネットワーク修飾の USERVAR 値をもっていれば、VTAM は *value* を形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出します。

uservar が、ユーザー変数とネットワーク・リソースの両方である場合、VTAM はリソースを表示し、ユーザー変数値は無視します。そうでない場合、VTAM は、USERVAR の値 *value* で表されるリソースを表示します。このメッセージが DISPLAY ID コマンドへの応答で出された場合は、メッセージ IST075I に、表示されているリソースの名前が含まれていません。

注: IDTYPE=USERVAR がコマンドに入力された場合、VTAM は実リソースではなく USERVAR *value* をメッセージ IST075I に表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1157I **DUPLICATE REGISTRATION** *endnode1*
endnode2

説明: このメッセージは、1 つのリソースへの登録要求を 2 つの異なるエンド・ノード *endnode1* と *endnode2* から受信したときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。これは、以下のいずれかの状況が発生したときに起こります。

- あるエンド・ノードからの別のエンド・ノードにリソースが移動されたが、最初のエンド・ノードがネットワーク・ノード・サーバーからそのリソースを削除することができなかった。これはエラー条件ではありません。
- どちらのエンド・ノードも同じリソースの定義をもち、そのリソースが登録されることを指定している。これはエラー条件です。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST1157I DUPLICATE REGISTRATION *endnode1* *endnode2*
IST1194I DUPLICATE RESOURCE IS *resourcename*
IST314I END

IST1157I

endnode1 と *endnode2* は、形式 *netid.name* の 2 つのエンド・ノード制御点のネットワーク修飾名です。

IST1194I

このメッセージは、登録が 2 度行われたリソースを識別しません。 *resourcename* は、 *netid.name* 形式で表された、リソースのネットワーク修飾名です。

システムの処置: 2 番目の登録要求の情報で、最初の登録要求からの情報を置き換えます。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 重複するリソース定義が行われていないかどうか確認してください。

**IST1158I MODIFY TOPO COMMAND FAILED, ID
= *nodename* [TGN = *tgnumber*]**

説明: このメッセージは、MODIFY TOPO コマンドが失敗したときに、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

nodename は、コマンドの ID オペランドに指定されたリソースの名前です。ネットワーク修飾名が、コマンドに入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出します。

tgnumber が指定されている場合、これはコマンドの TGN オペランドの伝送グループ (TG) 番号です。TGN = *tgnumber* は、グループの 2 番目のメッセージが IST1159I であれば表示されません。

グループの 2 番目のメッセージは障害の原因を説明し、以下のいずれかになります。

IST1159I HOST NODE DATABASE ENTRY CANNOT BE DELETED

このメッセージは、*nodename* がコマンドが入力されたのと同じノードであるときに出力されます。このメッセージ・グループでは、メッセージ IST1158I の *nodename* はメッセージ IST1159I の **HOST NODE** と同じノードです。ホスト・ノードを表すトポロジー・データベース項目を削除することはできません。

IST1160I TYPE=FORCE MUST BE SPECIFIED FOR LOCAL TG OR ADJACENT NODE

このメッセージは、TYPE=FORCE がコマンドに指定されておらず、リソースがローカル接続 TG や隣接ノードであるときに出力されます。ローカル接続 TG や隣接ノードのトポロジー・データベース項目を削除するには TYPE=FORCE が必要です。

IST1248I DEACTIVATE LOCAL LINK BEFORE DELETING

このメッセージは、ローカル接続 TG *tgnumber* を削除しようと試みていて、それが活動状態であるときに出力されます。活動状態のローカル接続 TG の削除を VTAM は許可していません。

IST1308I RESOURCE WAS NOT FOUND IN THE TOPOLOGY DATABASE

コマンドのメッセージは、*nodename* や *tgnumber* がトポロジー・データベースに見つからないときに出力されます。システムの処置: トポロジー・データベースは変更されません。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: **IST1159I**

nodename が正しく入力されているかどうか確認してください。*nodename* が、コマンドの入力された同じノードであれば、このリソースのトポロジー・データベース項目を削除することはできません。

IST1160I

ローカル接続 TG *tgnumber* または隣接ノード *nodename* を削除するには TYPE=FORCE を指定してコマンドを出し直してください。

IST1248I

TG *tgnumber* を削除するには、VARY INACT コマンドを入力してリンクを非活動化してから MODIFY TOPO,FUNCTION=DELETE コマンドを出し直してください。

IST1308I

nodename と *tgnumber* が適用可能であれば、それらが正しく入力されているかどうか確認してください。
プログラマーの応答: なし。

**IST1159I HOST NODE DATABASE ENTRY
CANNOT BE DELETED**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1158I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

**IST1160I TYPE=FORCE MUST BE SPECIFIED FOR
LOCAL TG OR ADJACENT NODE**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1158I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1161I SSCP SESSIONS

説明: VTAM は DISPLAY SESSIONS コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは、IST873I か IST878I のいずれかです。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST1162I *sessiontype* = *count*

説明: VTAM は DISPLAY SESSIONS コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは、IST873I か IST878I のいずれかです。詳しくは、グループの最初のメッセージの説明を参照してください。

IST1163I RSN

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1164I *rsn*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては、IST1295I のメッセージを参照してください。

**IST1166I VIRTUAL NODE *nodename* CONNECTION
ACTIVATION FAILED**

説明: このメッセージは、仮想ノードとの論理接続の活動化に失敗したときに、回線への VARY ACT コマンドに回答して VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

```

IST1166I VIRTUAL NODE nodename CONNECTION
ACTIVATION FAILED
IST1334I TGN NOT AVAILABLE
IST314I END

IST1166I VIRTUAL NODE nodename CONNECTION
ACTIVATION FAILED
IST1226I TOPOLOGY UPDATE FAILED, INSUFFICIENT
STORAGE
IST314I END

IST1166I VIRTUAL NODE nodename CONNECTION
ACTIVATION FAILED
IST1346I NCP DOES NOT SUPPORT CONNECTION NETWORK
FUNCTION
IST314I END

```

以下のいずれかが発生したときに、このメッセージ・グループは出されます。

- 接続ネットワークの伝送グループ (TG) 番号すべてが使用されているために、TG 番号を割り当てることができない
- ストレージ不足のために、活動論理接続のトポロジー更新が失敗した
- バージョン 6 リリース 3 以前のバージョンで実行されているので、NCP は接続ネットワーク機能をサポートしていない

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: **IST1334I**

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

IST1226I

DISPLAY BRFFUSE コマンドを入力して、共通サービス域 (CSA) についての情報を表示してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。

ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

IST1346I

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: **IST1334I**

以下のいずれかの方法で、TG 番号をさらに使用可能にしてください。

- 回線を非活動化して、使用できる TG 番号を増やす。
- 回線に新しい VNNAME を指定することによって、新しい仮想ノードを定義して、その回線を再活動化する。仮想ノードはそれぞれ、回線のどちら側にも定義されていなければなりません。

IST1226I

必要に応じてストレージを増やしてください。

VTAM Operation

IST1346I

NCP が接続ネットワーク機能 (バージョン 6 リリース 3 またはそれ以上) をサポートするレベルであることを確認してください。詳しくは、適切な NCP 資料を参照してください。

IST1167I VN nodename CONNECTION DEACTIVATION FAILED

説明: このメッセージは、非活動状態の接続ネットワークへのトポロジー更新が正常に完了しなかったために、仮想ノードとの論理接続の非活動化に失敗したときに、VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```

IST1167I VN nodename CONNECTION DEACTIVATION
FAILED
IST1226I TOPOLOGY UPDATE FAILED, INSUFFICIENT
STORAGE
IST314I END

```

nodename は、仮想ノードの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: DISPLAY BRFFUSE コマンドを入力して、共通サービス域 (CSA) についての情報を表示してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。

ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: ストレージを大きくしてください。

詳細については、「VTAM Operation」および「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1168I VIRTUAL NODE nodename CONNECTION ACTIVE

説明: VTAM はこのメッセージを、仮想ノードとの論理接続が活動状態になったときに、回線への VARY ACT コマンドに応答して出します。

nodename は、仮想ノードの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1169E poaname REPLY ID FOR MESSAGE msgid NOT AVAILABLE

説明: VTAM は、要応答オペレーター向け書き込み (WTOR) メッセージ *msgid* をプログラム・オペレーター・アプリケーション (POA) *poaname* に送信しましたが、応答 ID はこの *poaname* に対して使用不可能です。これは、以下のいずれかが原因となって発生します。

- 未解決の WTOR メッセージを受信するため、POA が十分に迅速に RCVCMD マクロ命令を出していない。
- 未解決の WTOR メッセージが POA に受信されているが、応答が VTAM に受信されていない。

poaname は、VTAM メッセージを受信する POA の名前です。

msgid は失敗したメッセージの ID です。

システムの処置: メッセージ *msgid*、およびすべての後続する WTOR メッセージは、応答 ID がこの *poaname* に対して有効になるまでシステム・コンソールに転送されます。

オペレーターの応答:

1. DISPLAY ID=*poaname* を出して、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。メッセージ IST271I は、*poaname* に関連する *jobname* を提供します。
2. 問題判別のために、アプリケーション・プログラム (*jobname*) と VTAM のダンプを要求してください。

プログラマーの応答:

- 十分迅速に POA が RCVCMND マクロ命令を出していない場合、OPTCD=NQ で RCVCMND マクロ命令を出すことによって、*poaname* 用の VTAM メッセージ・キューを消去してください。
- 十分迅速に RCVCMND マクロ命令が出されていれば、ダンプと VTAM 内部トレース (可能な場合) を調べて、メッセージが迅速に受信、または応答されない原因を判別してください。
- POA は未解決の WTOR メッセージそれぞれに対して SENDCMD マクロ命令を出して、REPLY コマンドを VTAM に送信しなければなりません。RCVCMND と SENDCMD マクロ命令が VTAM に受信されているかどうか確認してください。
- RCVCMND マクロ命令を頻繁に出すために、POA RCVCMND 処理の変更が必要になる可能性があります。
- POA のディスパッチ優先順位を、変更することもできます。ディスパッチ優先順位の詳細については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。
- *poaname* に関連するジョブを取り消すことができます。これを行うと、*poaname* 用の VTAM キューは消去されます。

プログラム・オペレーター・アプリケーション、RCVCMND および SENDCMD マクロ命令、ならびに VTAM 応答 ID については、「VTAM Programming」のプログラム・オペレーター・コーディング要件を参照してください。

IST1176I BASIC FROZEN

説明: このメッセージは、TYPE=COMPRESS が指定された場合に、DISPLAY STATS コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。グループの詳しい記述については、メッセージ IST1435I の説明を参照してください。

IST1177I level input basic frozen

説明: VTAM はこのメッセージを、TYPE=COMPRESS が指定されているときに DISPLAY STATS コマンドに回答してメッセージ・グループの一部として出します。グループの詳しい記述については、メッセージ IST1435I の説明を参照してください。

IST1183I exitname EXIT RETURNED A CODE OF usercode [label diagcode]

説明: このメッセージは、出口ルーチンで示された状況に回答して VTAM によって出されます。

exitname はユーザー作成出口ルーチンの名前です。

usercode は、出口ルーチンによって渡された、レジスター 15 の 16 進数の戻りコードです。

label と *diagcode* は、すべての出口ルーチンに出されるわけではありません。

label は、VTAM 診断コード *diagcode* をマークする、*exitname* に特定のメッセージ・テキストです。

diagcode は、ユーザー作成出口ルーチン *exitname* の VTAM 生成コードです。

システムの処置: システムの処置は、*exitname* の 16 進数の *usercode* によって異なります。*diagcode* が表示された場合、このコードによってシステムの処置が決定されます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *exitname*、出口戻りコード *usercode*、*label*、および *diagcode* を「VTAM Customization」で調べ、コードの意味を判別し、適切なコードを出口ルーチンに定義してください。

トランザクション処理機能 (TPF) 環境に固有の IBM 提供の USERVAR 出口ルーチンを使用している場合は、戻りコードに関して、「VTAM Customization」を参照してください。

「VTAM Customization」で、出口からの特定の出口戻りコードが要求されない場合は、出口ルーチンの作成者とともに、ユーザー作成コードの記述を調べてください。

IST1184I CPNAME = cpname - NETSRVR = network_node_server

説明: このメッセージは、DISPLAY DIRECTORY や DISPLAY ID=*cdrsc* コマンドに回答して VTAM が出す、いくつかのメッセージ・グループの一部です。

- DISPLAY DIRECTORY が出された場合、グループの最初のメッセージは IST1186I です。詳細については、IST1186I の記述を参照してください。
- DISPLAY ID=*cdrsc* が出された場合、IST1184I が単独で、またはメッセージ・サブグループの中で、あるいはその両方で表示されます。
 - IST1184I は、CDRSC 情報を表示する他のメッセージとともに表示されることがあります。

IST1184I CPNAME = cpname - NETSRVR = ***NA***

- IST1184I は以下のサブグループで出されることがあります。

[IST075I NAME = nodename, TYPE = nodetype]

IST1186I DIRECTORY ENTRY = entrytype
resourcetype

IST1184I CPNAME = cpname - NETSRVR =
network_node_server

[IST1402I SRTIMER = srtimer SRCOUNT = srcount]

[IST1401I RESOURCE NOT FOUND-RETRY IN time
SEC(S) OR number REQUEST(S)]

IST314I END

注: IDTYPE オペランドが DISPLAY ID コマンドに指定された場合、サブエリア・リソースについての情報がメッセージ IST1186I サブグループに先行することがあります。 VTAM Operation

IST075I

このメッセージは DISPLAY ID コマンドに対してのみ表示されます。 *nodename* はコマンドの ID オペランドに指定されているリソース名です。 *nodetype* は *nodename* のリソース・タイプです。 *nodetype* の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

IST1184I

cpname は形式 *netid.name* の所有制御点のネットワーク修飾名です。

結合 APPN とサブエリア・ネットワークでは、所有 CP は実際、異なる APPN サブネットワークの SSCP やネットワーク・ノードになります。 サブエリア・ネットワークで見つかったすべての所有 CP は、リソースが見つかった交換ノードによって操作されているエンド・ノードとして、元の CP に表されます。

network_node_server は、*netid.name* の形式のリソース・ネットワーク修飾名です。 *network_node_server* は、ターゲット・リソースを探し出すために接続しなければならない、ホストの APPN サブネットワークにおけるネットワーク・ノードを表します。 DISPLAY ID=*cdrsc* が出された場合、*network_node_server* は、この情報が適用されないことを示す ***NA*** になることがあります。

IST1186I

このメッセージは、ディレクトリー・データベースでリソースが見つかったことを示し、リソースについての情報を表示します。

entrytype は次のいずれかです。

DEFINED

ディレクトリー・データベースに、リソースがあらかじめ定義されている

DYNAMIC

動的探索要求の結果としてリソースがわかっていて、保管されている

REGISTERED

エンド・ノード・リソース登録によって、リソースがディレクトリー・データベースに登録されている

resourcetype は、ホスト APPN ディレクトリーによって認識されているリソース・タイプを表し、実際のリソース・タイプとは異なる場合があります。 *resourcetype* は次のいずれかです。

EN リソースの所有制御点 (CP) としても認識されているエンド・ノードを表す

LU 論理装置を表す

NN ホストの APPN サブネットワークのネットワーク・ノードを表す

IST1401I

SRCHRED 開始オプションが ON で、表示中のリソースが探索縮小項目を表している場合、VTAM はこのメッセージを出します。 このリソースへの探索は、*time* と *number* フィールドに示されているように制限されます。 探索縮小項目の処理の詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

- *time* は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する残りの秒数です。 指定された秒数が満了すると、リソースへのそれ以降の探索は制限されません。
- *number* は、VTAM が探索縮小制限なしでリソースを探索するまでに必要な要求の量を示します。
 - **NEXT** が表示されると、リソースへの次の探索要求を制限しません。
 - その他の場合、*number* の要求が受信されるまで、VTAM は探索を制限します。 例えば *number* が 2 であれば、VTAM は最初に受信した要求を制限しますが、2 番目に受信した要求は制限しません。
- *time* や *number* の値が *NA* であれば、これは適用不可を意味します。 タイマーやカウンタが 0 に設定されていると、この値が表示されます。
- このリソースに使用されている SRTIMER と SRCOUNT のしきい値は、メッセージ IST1402I に表示されます。

IST1402I

SRCHRED 開始オプションが ON であるときに、VTAM はこのメッセージを出します。 表示されるリソースに使用されている SRCOUNT と SRTIMER の値が示されます。

srtimer は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する、秒単位の時間です。

srcount は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する、要求の数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1185I NAME = resourcename - DIRECTORY

ENTRY = entrytype resourcetype

説明: VTAM はこのメッセージを、DISPLAY DIRECTORY コマンドに回答してメッセージ・サブグループの一部として出します。 サブグループの最初のメッセージは IST1184I です。 詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1186I DIRECTORY ENTRY = entrytype resourcetype

説明: このメッセージは、DISPLAY ID コマンドまたは DISPLAY DIRECTORY コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- DISPLAY DIRECTORY が出されると、以下のメッセージ・グループが表示されます。

[IST350I DISPLAY TYPE = DIRECTORY]

IST1186I DIRECTORY ENTRY = entrytype
resourcetype

IST1184I CPNAME = cpname - NETSVR =
network_node_server

[IST1402I SRTIMER = srtimer SRCOUNT = srcount]

IST1186I

```
[IST1401I RESOURCE NOT FOUND-RETRY IN time
SEC(S) OR number REQUEST(S)]
[IST1185I NAME = resourcename - DIRECTORY ENTRY
= entrytype resourcetype]
[IST1315I DISPLAY TRUNCATED AT MAX = number]
IST314I END
```

- DISPLAY ID が出されると、以下のメッセージ・グループが出されることがあります。

```
[IST075I NAME = nodename, TYPE = nodetype]
IST1186I DIRECTORY ENTRY = entrytype
resourcetype
IST1184I CPNAME = cpname - NETSRVR =
network_node_server
[IST1402I SRTIMER = srtimer SRCOUNT = srcount]
[IST1401I RESOURCE NOT FOUND-RETRY IN time
SEC(S) OR number REQUEST(S)]
IST314I END
```

注: IDTYPE オペランドが DISPLAY ID コマンドに指定された場合、サブエリア・リソースについての情報がメッセージ IST1186I サブグループに先行することがあります。 VTAM Operation

IST075I

このメッセージは DISPLAY ID コマンドに対してのみ表示されます。 *nodename* はコマンドの ID オペランドに指定されているリソース名です。 *nodetype* は *nodename* のリソース・タイプです。 *nodetype* の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。 **IST350I**

このメッセージは DISPLAY DIRECTORY コマンドにのみ表示され、必ず **DIRECTORY** です。 **IST1184I**

cpname は形式 *netid.name* の所有制御点のネットワーク修飾名です。

結合 APPN とサブエリア・ネットワークでは、所有 CP は実際、異なる APPN サブネットワークの SSCP やネットワーク・ノードになります。 サブエリア・ネットワークで見つかったすべての所有 CP は、リソースが見つかった交換ノードによって操作されているエンド・ノードとして、元の CP に表されます。 *network_node_server* は、*netid.name* の形式のリソース・ネットワーク修飾名です。 *network_node_server* は、ターゲット・リソースを探し出すために接続しなければならない、ホストの APPN サブネットワークにおけるネットワーク・ノードを表します。 DISPLAY ID=*cdrsc* が出された場合、*network_node_server* は、この情報が適用されないことを示す *****NA***** になることがあります。

IST1185I

このメッセージは、メッセージ IST1184I の *cpname* に従属するリソースがあるときのみ出され、従属リソースそれぞれについて繰り返されます。

resourcename は、メッセージ IST1184I の *cpname* に従属するリソースのネットワーク修飾名です。 VTAM は *resourcename* を *netid.name* の形式で出します。 *entrytype* は次のいずれかです。

DEFINED

ディレクトリー・データベースに、リソースがあらかじめ定義されている

DYNAMIC

動的探索要求の結果としてリソースがわかっている、保管されている

REGISTERED

エンド・ノード・リソース登録によって、リソースがディレクトリー・データベースに登録されている

resourcetype は、ホスト APPN ディレクトリーによって認識されているリソース・タイプを表し、実際のリソース・タイプとは異なる場合があります。 *resourcetype* は次のいずれかです。

EN リソースの所有制御点 (CP) を表す

結合 APPN とサブエリア・ネットワークでは、所有 CP は実際、異なる APPN サブネットワークの SSCP やネットワーク・ノードになります。 サブエリア・ネットワークで見つかったすべての所有 CP は、リソースが見つかった交換ノードによって操作されているエンド・ノードとして、元の CP に表されます。

LU 論理装置を表す

NN ターゲットのリソースを探索するために接続されていないなければならない、ホストの APPN サブネットワークのネットワーク・ノードを表す

VTAM Operation

IST1186I

このメッセージは、ディレクトリー・データベースでリソースが見つかったことを示し、リソースについての情報を表示します。 *entrytype* は次のいずれかです。

DEFINED

ディレクトリー・データベースに、リソースがあらかじめ定義されている

DYNAMIC

動的探索要求の結果としてリソースがわかっている、保管されている

REGISTERED

エンド・ノード・リソース登録によって、リソースがディレクトリー・データベースに登録されている

resourcetype は、ホスト APPN ディレクトリーによって認識されているリソース・タイプを表し、実際のリソース・タイプとは異なる場合があります。 *resourcetype* は次のいずれかです。

EN リソースの所有制御点 (CP) としても認識されているエンド・ノードを表す

LU 論理装置を表す

NN ホストの APPN サブネットワークのネットワーク・ノードを表す

IST1315I

表示されるリソースの数が、DISPLAY DIRECTORY コマンドの MAX オペランドに指定されている値を超えたときに、VTAM はこのメッセージを出します。

number は、DISPLAY DIRECTRY コマンドの MAX オペランドに指定されている値です。VTAM Operation

IST1401I

SRCHRED 開始オプションが ON で、表示中のリソースが探索縮小項目を表している場合、VTAM はこのメッセージを出します。このリソースへの探索は、*time* と *number* フィールドに示されているように制限されます。探索縮小項目の処理の詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

- *time* は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する残りの秒数です。指定された秒数が満了すると、リソースへのそれ以降の探索は制限されません。
- *number* は、VTAM が探索縮小制限なしでリソースを探索するまでに必要な要求の量を示します。
 - NEXT が表示されると、リソースへの次の探索要求を制限しません。
 - その他の場合、*number* の要求が受信されるまで、VTAM は探索を制限します。例えば *number* が 2 であれば、VTAM は最初に受信した要求を制限しますが、2 番目に受信した要求は制限しません。
- *time* や *number* の値が *NA* であれば、これは適用不可を意味します。タイマーやカウンタが 0 に設定されていると、この値が表示されます。
- このリソースに使用されている SRTIMER と SRCOUNT のしきい値は、メッセージ IST1402I に表示されます。

IST1402I

SRCHRED 開始オプションが ON であるときに、VTAM はこのメッセージを出します。表示されるリソースに使用されている SRCOUNT と SRTIMER の値が示されます。

srtimer は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する、秒単位の時間です。

srcount は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する、要求の数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1187I *value* NOT VALID-APPN NOT SUPPORTED BY *resourcename*

説明: *resourcename* が拡張対等通信ネットワーク* (APPN) をサポートしていないために指定のコマンドまたはオペランドが無効である場合、VTAM はこのメッセージを出力します。

value は次のいずれかです。

- 失敗したコマンドの名前。 *value* の説明については 731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。
- コマンドが失敗する原因となったオペランドの名前。

value の詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

resourcename はリソースの名前です。

- ID=*resourcename* が指定された場合、*resourcename* はコマンドに指定されたりソースのネットワーク修飾名です。
- ID=*resourcename* が指定されなかった場合、*resourcename* はコマンドが入力されたホストのネットワーク修飾名です。

VTAM は *resourcename* を *netid.name* の形式で出します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを正しく入力したかどうか確認してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

ID=*resourcename* が指定された場合、*resourcename* の大ノード定義を印刷してください。

プログラマーの応答: ID=*resourcename* が指定されていれば、*resourcename* が APPN をサポートするかどうか確認してください。

IST1188I ACF/VTAM level STARTED AT *time* ON *date*

説明: このメッセージは、DISPLAY VTAMOPTS コマンドに応答して VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

1. コマンドに FORMAT=CURRENT が指定 (またはデフォルト指定) されたときは、DISPLAY VTAMOPTS コマンドに応答して、以下のメッセージ・グループが出されます。

```
IST1188I  ACF/VTAM level STARTED AT time ON date
IST1349I  COMPONENT ID = dddd-ddddd-ddd
IST1348I  VTAM STARTED AS nodetype
IST1189I  option = current_value [option =
          current_value]
```

```
⋮
```

```
IST314I  END
```

2. コマンドに FORMAT=MODIFIED または FORMAT=COMPLETE が指定されたときは、DISPLAY VTAMOPTS コマンドに応答して、以下のメッセージ・グループが出されます。

- FORMAT=MODIFIED が入力された場合、VTAM は、VTAM 初期設定以後に変更された開始オプションに関する情報を表示します。
- FORMAT=COMPLETE が入力された場合、VTAM は、指定されたすべてのオプションに関する情報を表示します。

```
IST1188I  ACF/VTAM level STARTED AT time ON date
IST1349I  COMPONENT ID = dddd-ddddd-ddd
IST1348I  VTAM STARTED AS nodetype
IST1309I  START OPTION      CURRENT VALUE
          ORIGINAL VALUE    ORIGIN
IST1310I  option            current_value
          original_value     origin
⋮
```

```
IST314I  END
```

VTAM Operation

IST1188I

level は、稼働中の VTAM のバージョン (x)、リリース (y)、およびモディフィケーション (該当する場合) です。例えば、ACF/VTAM バージョン x リリース y では、**VxRy** が表示されます。

time は、VTAM が開始された時刻 (hh:mm:ss) であり、24 時間形式で表されます。

date は、VTAM が開始された日付です。 *date* の形式は DATEFORM 開始オプションに基づいており、以下のいずれかになります。

DATEFORM|DATEFRM=DMY

date は DD/MM/YY です。

DATEFORM|DATEFRM=MDY (デフォルト)

date は MM/DD/YY です。

DATEFORM|DATEFRM=YMD

date は YY/MM/DD です。

VTAM Resource Definition Reference

IST1189I

- *option* は、VTAM 開始オプションの名前です。
 - このメッセージは、コマンドに指定されたすべてのオプションを表示するために繰り返し表示されます。
 - OPTION=* が指定された場合、VTAM はすべての開始オプションの値を表示します。
- 可能な *option* の名前については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- *current_value* は、*option* の現行値です。
 - current_value* が時間を表す場合、このメッセージはこの値を秒数で表示します。例えば、1 分の値が CDRSCTI 開始オプションに指定された場合、VTAM は *current_value* を **60S** として表示します。
 - current_value* が *****NA***** の場合、これは、*option* がホスト構成には適用できないことを意味します。例えば、ホストが APPN 機能をもたないサブエリア・ノードとして構成されている場合には、APPN *option* を指定することはできません。
 - current_value* が ***BLANKS*** の場合は、値が入力されず、デフォルトがブランクであることを意味します。

IST1309I および IST1310I

- *option* は、VTAM 開始オプションの名前です。
 - このメッセージは、コマンドに指定されたすべてのオプションを表示するために繰り返し表示されます。
 - OPTION=* が指定された場合、VTAM はすべての開始オプションの値を表示します。
- 可能な *option* の名前については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- *current_value* は、*option* の現行値です。
- *original_value* は、*option* に指定された元の値です。
 - current_value* と *original_value* が時間を表す場合、このメッセージはこれらの値を秒数で表示します。例えば、開始処理中に 1 分の値が CDRSCTI 開始オプションに指定された場合、VTAM は *current_value* を **nS** として、*original_value* を **60S** として表示します。

current_value と *original_value* が *****NA***** の場合、これは、*option* がホスト構成には適用されないことを意味します。例えば、ホストが APPN 機能をもたないサブエリア・ノードとして構成されている場合には、APPN *option* を指定することはできません。

current_value と *original_value* が ***BLANKS*** の場合は、値が入力されず、デフォルトがブランクであることを意味します。

origin は、*original_value* が指定された場所を指します。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

ATCSTRxx

開始リスト。

DEFAULT

IBM 提供のデフォルト開始オプション。

OPERATOR

オペレーターから入力された開始オプション。

*****NA*****

current_value と *original_value* は *****NA***** です。

IST1348I

- *nodetype* は、このホストのノード・タイプを示し、指定されている、またはデフォルトの開始オプションによって決定されます。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。
 - **END NODE**
 - **INTERCHANGE NODE**
 - **MIGRATION DATA HOST**
 - **NETWORK NODE**
 - **SUBAREA NODE**

IST1349I

dddd-ddddd-ddd は、VTAM によって割り振られているコンポーネント ID です。この ID は、弊社が VTAM プログラムを維持するために使用します。ベクトル・リストの説明およびコンポーネント ID については、「VTAM Programming」を参照してください。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IST1189I *option = current_value [option = current_value]*

説明: VTAM は DISPLAY VTAMOPTS コマンドに応答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1188I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1193I *sessiontype* **SESSION DEACTIVATION FAILURE FOR resource**

説明: VTAM はこのメッセージを、ストレージ不足のために *sessiontype* セッションの非活動化を完了できなかったときに出力します。

- *sessiontype* が **CP-CP** であれば、*resource* は隣接制御点の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*resource* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

- *sessiontype* が CP-SVR であれば、*resource* は従属 LU リクエスト (DLUR) を表す CDRSC の名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*resource* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

- *sessiontype* が CP-CP であれば、DISPLAY ID=*resource* CPNODE=YES,E コマンドを出して、*resource* との CP-CP セッションが活動しているかどうか判断してください。活動している場合、VARY INACT,ID=*resource*,CPNODE=YES コマンドを出して、その CP-CP セッションを終了してください。CP-CP セッションが完全に非活動化されると、メッセージ IST1097I が表示されます。
- *sessiontype* が CP-SVR であれば、DISPLAY ID=*resource* コマンドを出して、*resource* との CP-SVR セッションが活動しているかどうか判断してください。活動している場合、VARY INACT,ID=*resource* コマンドを出して、その CP-SVR セッションを終了してください。CP-SVR セッションが完全に非活動化されると、メッセージ IST1133I が表示されます。

プログラマーの応答: なし。

IST1194I DUPLICATE RESOURCE IS *resourcename*

説明: VTAM はこのメッセージを、1 つのリソースの登録要求を 2 つの異なるエンド・ノードから受信したときに、メッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは IST1157I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1196I APPN CONNECTION FOR *resourcename* INACTIVE - TGN = *tn*

説明: VTAM はこのメッセージを、隣接制御点への APPN 接続が非活動状態になったときに outします。隣接制御点が接続されていた大ノードは非活動化されています。

resourcename は、*netid.name* の形式の隣接制御点のネットワーク修飾名です。

tn は、伝送グループ番号です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1197I ADJCP MAJOR NODE = *majornode*

説明: VTAM はこのメッセージを、隣接制御点への DISPLAY ADJCP コマンドに回答して、メッセージ・グループの一部として outします。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

- SCOPE=ALL がコマンドに指定されていれば、VTAM は次のメッセージ・グループを出します。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = ADJACENT CONTROL POINT
IST486I  STATUS= ACTIV, DESIRED STATE= ACTIV
IST1197I ADJCP MAJOR NODE = majornode
IST1101I ADJACENT CP DISPLAY SUMMARY FOR
         adjcpname
```

```
IST1102I NODENAME          NODETYPE CONNECTIONS
         CP CONNECTIONS NATIVE
IST1103I nodename          nodetype connections
         cp_connections native
IST1104I CONNECTION SUMMARY FOR adjcpname
IST1105I RESOURCE STATUS   TGN CP-CP
         TG CHARACTERISTICS
IST1106I resource status tgn cp-cp
         tg_characteristics
         .
         .
IST314I  END
```

- SCOPE=ALL がコマンドに指定されていない場合、VTAM は次のメッセージ・グループを出します。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = ADJACENT CONTROL POINT
IST486I  STATUS= ACTIV, DESIRED STATE= ACTIV
IST1197I ADJCP MAJOR NODE = majornode
IST314I  END
```

IST1197I

majornode は、リソースを含んでいる大ノードのネットワーク修飾名です。VTAM は *majornode* を *netid.name* の形式で outします。

IST1101I

このメッセージ・サブグループの記述については、IST1101I の説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1198I *resourcename* DELETED FROM DIRECTORY

説明: VTAM はこのメッセージを、MODIFY DIRECTORY,ID=*name* コマンドが *resourcename* の所有 CP の名前をこのホストの CP 名に変更したときに outします。

このホストによって所有されているリソースは、APPN リソース・ディレクトリーで重複していないので、*resourcename* は APPN リソース・ディレクトリーから削除されています。

resourcename は、形式 *netid.name* の、リソースのネットワーク修飾名です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1199I *command* FOR *resourcename* FAILED, UNKNOWN RESOURCE

説明: VTAM はこのメッセージを以下のいずれかのコマンドへの回答として outします。

- *resourcename* の所有 CP やネットワーク・ノード・サーバーを変更しようと試みた MODIFY DIRECTORY,UPDATE コマンド。CPNAME、ID または NETSRVR オペランドのいずれかに指定されている名前は APPN ディレクトリーに認識されていないので、修正できません。
- リソース *resourcename* を削除しようと試みた MODIFY DIRECTORY,DELETE コマンド。ID オペランドに指定されている名前は APPN ディレクトリーに認識されていないので、修正できません。

command は必ず、DIRECTRY,UPDATE や MODIFY DIRECTRY,DELETE コマンドのことを指す **F DIRECTRY** です。

resourcename は、形式 *netid.name* の、リソースのネットワーク修飾名です。 *resourcename* は、MODIFY DIRECTRY コマンドの ID オペランドに指定されていた同じリソースであることも、コマンドに指定されているリソースに從属するリソースであることもあります。

- *resourcename* が ID オペランドに指定されている名前と同じであれば、*resourcename* は APPN ディレクトリーに認識されていません。
- *resourcename* が ID オペランドに指定されている名前と同じでなければ、その ID オペランドに指定されている名前は CDRSC 大ノードです。VTAM は、CDRSC 大ノードに從属するすべての小ノードの所有 CP やネットワーク・ノード・サーバーの変更を行っています。 *resourcename* 小ノードは、それ以降 APPN ディレクトリーに認識されていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

- *resourcename* が MODIFY DIRECTRY コマンドの ID オペランドに指定されている名前と同じであれば、*resourcename* を正しく入力したかどうか確認してください。
- *resourcename* が MODIFY DIRECTRY コマンドの ID オペランドに指定されている名前と同じでなければ、処置は不要です。

プログラマーの応答: なし。

IST1201I COMMAND REJECTED BY ISTMCMND EXIT

説明: ユーザー・コマンド妥当性検査出口 (ISTCMCMND) が、オペレーター・コマンドを拒否しました。このメッセージは、常に最後に入力されたコマンドを調べます。ユーザー・コマンド検査出口の詳細については、「VTAM Customization」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 出されたコマンドが、失敗するようになっていたかどうかを、確認してください。

- コマンドが失敗するようにプログラムされていた場合には、処置はありません。コマンドおよび妥当性検査出口は、計画された通りに作動しています。
- コマンドが失敗するようにプログラムされていない場合には、正しい実行を確認するために、コマンドおよび妥当性検査出口を再検討してください。

IST1204I VALUE *resourcename* FOR *operand* NOT VALID FOR REQUEST

説明: *operand* の値 *resourcename* が VTAM に定義されているリソースであっても、この特定のコマンド、オペランド、または構成に指定できないときに、VTAM はこのメッセージを出します。このメッセージは、以下のいずれかのコマンドへの応答で出されます。

- DISPLAY APPLS
- DISPLAY CDRMS
- DISPLAY CDRSCS
- DISPLAY CLSTRS
- DISPLAY GROUPS
- DISPLAY LINES
- DISPLAY PENDING
- DISPLAY TERMS

システムの処置: *operand* が **ID** で、少なくとも 1 つの有効なリソースが指定されていれば、DISPLAY コマンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: コマンドを正しく入力したかどうか確認してください。問題が解消されない場合は、「VTAM Operation」で、使用している DISPLAY コマンドの ID オペランドに有効なリソースのタイプを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IST1205I MANAGEMENT SERVICES TRANSPORT UNAVAILABLE

説明: このメッセージは、管理サービス・トランスポートが使用不能なときに VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。

グループの 2 番目のメッセージは、管理サービス・トランスポートを使用できない理由を示し、以下のいずれかになります。

•

IST1206I LOAD FAILED FOR THE PROGRAM-TO-PROGRAM INTERFACE

VTAM はプログラム間インターフェース・モジュール (CNMCNETV) をロードできません。管理サービス・トランスポート・データをネットワーク管理に送るには、このモジュールが必要です。

IST1207I NETWORK MANAGEMENT IS INACTIVE

NetView プログラムのようなネットワーク管理アプリケーションが活動していないために、VTAM は管理サービス・トランスポートを使用できません。

IST1208I PROGRAM-TO-PROGRAM INTERFACE MODULE IS INACTIVE

プログラム間インターフェース・モジュールが初期化されていないために、VTAM は管理サービス・トランスポート・データをネットワーク管理に送ることができません。

IST1209I PROGRAM-TO-PROGRAM INTERFACE MODULE STORAGE SHORTAGE

プログラム間インターフェース・モジュールにストレージが不足しているために VTAM は管理サービス・トランスポート・データをネットワーク管理に送ることができません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

IST1206I

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

IST1207I

ネットワーク管理が開始されているかどうか確認してください。ネットワーク管理にネットワーク管理インターフェース・モジュールが接続されていると、VTAM は管理

サービス・トランスポートの初期設定を継続します。ネットワーク管理の資料を参照して、ネットワーク管理の開始方法について調べてください。

IST1208I

プログラム間インターフェース・モジュールが初期設定されているかどうか確認してください。VTAM はプログラム間インターフェース・モジュールの接続を最初の 1 時間の間は繰り返し試み、その後は 1 時間ごとに 1 回試みます。プログラム間インターフェースの資料を参照して、インターフェース・モジュールの初期設定方法について調べてください。

IST1209I

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

IST1206I

プログラム間インターフェース・モジュール CNMCNETV が LPALIB に存在しているかどうか確認してください。管理サービス・トランスポートを使用するために VTAM を再始動しなければなりません。

IST1207I

なし。

IST1208I

なし。

IST1209I

プログラム間インターフェース・モジュールのために、バッファ・キュー制限を大きくする必要があります。詳細については、プログラム間インターフェースの資料を参照してください。

**IST1206I LOAD FAILED FOR THE
PROGRAM-TO-PROGRAM INTERFACE**

説明: VTAM はこのメッセージを、管理サービス・トランスポートが使用不能のときに、メッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは IST1205I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1207I NETWORK MANAGEMENT IS INACTIVE

説明: VTAM はこのメッセージを、管理サービス・トランスポートが使用不能のときに、メッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは IST1205I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

**IST1208I PROGRAM-TO-PROGRAM INTERFACE
MODULE IS INACTIVE**

説明: VTAM はこのメッセージを、管理サービス・トランスポートが使用不能のときに、メッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは IST1205I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

**IST1209I PROGRAM-TO-PROGRAM INTERFACE
MODULE STORAGE SHORTAGE**

説明: VTAM はこのメッセージを、管理サービス・トランスポートが使用不能のときに、メッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは IST1205I です。

詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

**IST1211I I/O ERROR *terminalname* *command*
ncp_response [*bsc_status*]**

説明: BSC 3270 端末、またはコントロール・ユニットで入出力エラーが起これると、VTAM はこのメッセージを出します。これは、おそらくハードウェア・エラーです。

terminalname は、端末、またはコントロール・ユニットの名前です。リソースが存在するネットワークが VTAM に認識されていれば、*resource* は形式 *netid.name* のネットワーク修飾名として出されます。

command は、基本伝送単位 (BTU) コマンド、および修飾子です。これは、入出力エラーが発生したときに NCP が受け取ったコマンドを表します。詳細については、3725 または 3745 について「NCP and EP Reference Summary and Data Areas」を参照してください。

ncp_response は、コマンドを受け取っているときに NCP が送信するシステム、および拡張応答です。詳細については、3725 または 3745 について「NCP and EP Reference Summary and Data Areas」を参照してください。

bsc_status は、BSC 状況情報です。詳細については、「3174 Functional Description」を参照してください。

システムの処置:

- BSC 3270 端末装置での入出力エラーの場合、VTAM はアプリケーション・プログラムにエラー指示を送ります。
- BSC 3270 コントロール・ユニットで入出力エラーの場合、VTAM はコントロール・ユニットからのデータのポーリングを再開することができます。

オペレーターの応答: 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 問題判別の結果に従って、その問題を訂正してください。

IST1213I *profilename* LU-LU VERIFY ERROR *code*

説明: LU 6.2 アプリケーション・プログラムがセッションの確立を要求しても、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査違反やエラーが発生すると、VTAM はこのメッセージを出します。

profilename は、LU 対に定義された、セキュリティー・マネージャー・プロファイルの名前です。*profilename* の形式は、*local_netid.local_name.partner_netid.partner_name* になります。ここで、

local_netid は、ローカル・ネットワーク ID です。

local_name は、ローカル・アプリケーション・プログラムの ACB 名です。

partner_netid はセッション・パートナーのネットワーク ID です。

partner_name は、セッション・パートナーの LU 名です。

code は、発生したセキュリティー違反のタイプです。

03 セキュリティー・マネージャーが、プロファイルをロックしました。

IST1215I

- 04** プロファイルに、無効なセッション・キーが含まれていません。
- 05** セキュリティーに関するエラーのために、*partner_name* がセッションを拒否した。
- 06** *local_name* は REQUIRED セッション・レベル LU-LU の妥当性検査で定義されていたが、以下のいずれかが発生した。
- *local_name* は PLU だが、*profilename* にパスワードが定義されていなかった。
 - *partner_name* が、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査なしでセッションを要求している PLU である。
- 07** *local_name* と *partner_name* との間のセッションでの、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査データが、未解決のセッション活動化要求のデータに一致した。
- 08** *local_name* がオプションの妥当性検査で定義されていて、またパスワードが *profilename* に定義されている。これは、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査が必要であることを意味するが、*partner_name* は、妥当性検査なしのセッションを要求した。
- 09** *local_name* がオプションの妥当性検査で定義されていて、またパスワードが *profilename* に定義されておらず、セッション・レベル LU-LU 妥当性検査が使用されないことを示している。*partner_name* は妥当性検査と共にセッションを要求しました。
- 0B** セッションの活動化中に、プロファイルが変更されました。
- 0C** プロファイルのパスワードの期限が切れています。
- 0D** 拡張プロトコルだけを使用するように *local_name* が定義されている (SECLVL=LEVEL2 が APPL 定義ステートメントに指定されている)。*partner_name* は拡張プロトコルをサポートしません。
- 20** セキュリティー・マネージャーのコンポーネントが使用不能か、過負荷状態 (短期間に多くの要求を受信した) のいずれかになっています。
- 3C** セキュリティー・マネージャー・コンポーネントが障害を起しました。

システムの処置: セッションの活動化は失敗します。

オペレーターの応答: コード **03**、**04**、**0B**、および **0C** の場合、MODIFY PROFILES コマンドをローカル LU に出してください。VTAM がこのメッセージを繰り返し出す場合には、*code* および *profilename* を、セキュリティー管理者に知らせてください。

コード **05** の場合、パートナー LU へのメッセージ IST970I や IST1213I を調べて、特定の処置を行ってください。

コード **06**、**08**、および **09** の場合、MODIFY PROFILES コマンドをローカル LU に出してください。VTAM が、このメッセージを繰り返し出す場合には、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

コード **07** と **0D** の場合は、*code* および *profilename* をセキュリティー管理者に知らせてください。

コード **20** と **3C** の場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: コード **05** の場合、パートナー LU へ

のメッセージ IST970I や IST1213I を調べて、特定の処置を行ってください。

コード **06**、**08**、および **09** の場合、APPL ステートメントに指定されている VERIFY オペランドを検査して、2 つの LU の正しいレベルを決めてください。

コード **20** の場合は、セキュリティー・マネージャーがインストールされていて、リソース・クラス APPCLU が活動状態かを認識してください。

セキュリティー・マネージャーがインストールされていて、リソース・クラス APPCLU が活動状態の場合、セキュリティー・マネージャーの過負荷が原因と思われます。LU 定義ステートメントの AUTOSSES の値を低くすると、問題が解決する可能性があります。

コード **3C** の場合は、セキュリティー・マネージャーがインストールされているか、リソース・クラス APPCLU が活動状態かを検査してください。

IST1215I ERROR IN START LIST *list* - *reason*

説明: 開始リスト *list* の処理中にエラーが発生した場合、VTAM はこのメッセージを出します。

list は、エラーが発生した開始オプション・リストです。

reason は次のいずれかです。

I/O ERROR

開始リスト *list* の読み取り中にエラーが発生しました。

MEMBER NOT FOUND

VTAM 定義ライブラリーに開始リスト *list* を見つけることができませんでした。

START OPTION NOT VALID

開始オプションにエラーがあります。

SYNTAX ERROR

開始リスト *list* に無効な構文があります。

システムの処置: このメッセージに続いて、メッセージ IST1216A か IST1084I のいずれかを出します。

- メッセージ IST1216A は応答を促し、VTAM は応答を待機します。

- メッセージ IST1084I は、VTAM デフォルト ATCSTR00 が特定の開始リストのどちらが使用されるかを示します。処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージ IST1216A から指示が出された場合は、1、2、または 3 を入力してください。それ以外の場合については、処置は不要です。

プログラマーの応答:

I/O ERROR

このメッセージの前にメッセージ IST117I が出されません。追加情報については、そのメッセージの説明を参照してください。

MEMBER NOT FOUND

このメッセージの前にメッセージ IST116I が出されません。追加情報については、そのメッセージの説明を参照してください。

START OPTION NOT VALID

問題の原因によって、このメッセージの前にいくつかの異なるメッセージが出されます。考えられるメッセージと

しては IST057I、IST058I、IST059I、IST092I、IST176I、IST652I、IST1052 から 1056I、IST1064I、および IST1069I から 1078I があります。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

SYNTAX ERROR

このメッセージの前にメッセージ IST052I、IST115I または IST1249I が出力されます。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1216A ENTER 1 TO CONTINUE-2 TO REENTER LIST-3 TO TERMINATE VTAM

説明: VTAM はこのメッセージを、開始リストでエラーが発生したときに出力します。このメッセージの前にメッセージ IST1215I が出力され、開始リストの名前とエラーの原因を示します。詳細については、そのメッセージを参照してください。
システムの処置: VTAM は応答を待機します。

- 1 が入力されると、VTAM は処理を続行します。メッセージ IST1215I に示されている *reason* が処理を決定します。

I/O ERROR

開始リストは処理されません。

MEMBER NOT FOUND

リストの開始オプションをすべて無視します。

START OPTION NOT VALID

リスト内の有効な開始オプションを処理し、メッセージ IST1311A を出して新しい開始オプションの入力を促します。

SYNTAX ERROR

構文エラーが検出される前に処理された開始オプションをすべて処理します。メッセージ IST1311A を出して新しい開始オプションの入力を促します。

- 2 が入力されると、VTAM はメッセージ IST015A を出して新しい開始リスト ID の入力を促します。
- 3 が入力されると、処理はすべて停止され、VTAM は終了します。

オペレーターの応答: 1、2、または 3 を入力してください。

継続にするには 1 を入力します。

2 を入力した場合、IST015A の指示に従って新しい開始リスト ID を入力し直してください。

3 を入力すると、VTAM は終了します。

プログラマーの応答: なし。

IST1217A RESPONSE NOT VALID: REENTER 1, 2, OR 3

説明: メッセージ IST1216A に応答して 1、2、または 3 を入力しなかった場合、VTAM はこのメッセージを出力します。追加情報については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1218I ACB ERROR FIELD = *acberflg*

説明: VTAM はこのメッセージを、アクセス方式制御ブロック (ACB) マクロ命令が失敗したために VTAM が終了したときに、メッセージ・グループの一部として出力します。グループの最初のメッセージは IST049I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1219I RTNCD = *rtncd*, FDB2 = *fdb2*

説明: VTAM はこのメッセージを SETLOGON マクロ命令が失敗したために VTAM が終了したときに、メッセージ・グループの一部として出力します。グループの最初のメッセージは IST049I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1220I SSCPNAME NETID CURRENT STATE ROUTING STATUS

説明: VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出力します。サブグループの最初のメッセージは IST611I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1221I {WRITE|READ} DEV = *device_address* STATUS = *status*

説明: VTAM はこのメッセージを、すべての WRITE と READ サブチャネルの操作状況を識別するための DISPLAY ID コマンドに応答してメッセージ・グループの一部として出力します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST075I NAME = nodename, TYPE = LINE
IST486I STATUS = currentstatus, DESIRED STATE =
          desiredstate
IST087I TYPE = LEASED, CONTROL = MPC
IST134I GROUP = groupname, MAJOR NODE = nodename
IST1221I WRITE DEV = device_address STATUS = status
          :
          :
IST1221I READ DEV = device_address STATUS = status
          :
          :
IST314I END
```

注: VTAM は、*nodename* のすべての WRITE サブチャネル・アドレスを表示し、その後すべての READ サブチャネル・アドレスを表示します。

IST075I

nodename は、DISPLAY ID コマンドに入力されたリソースの名前です。

このメッセージ・グループのノード・タイプは必ず LINE です。

IST486I

currentstatus は、ノードの現在の状況です。状況情報については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

desiredstate は、望ましいノード状況です。状況情報については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。VTAM が要求状態を判別できない場合、*desiredstate* は ***NA*** となります。

IST087I

このメッセージ・グループでは、回線タイプは必ず LEASED です。

このメッセージ・グループでは、回線制御は必ず MPC (複数経路チャネル) です。

IST134I

groupname は、IST075I に表示されている *nodename* が属する回線グループの名前です。
このメッセージでの *nodename* は、回線用の大ノードの名前です。

IST1221I

- *device_address* は、表示された **WRITE** または **READ** サブチャンネルの 16 進アドレスです。
- *status* は、表示されている **WRITE** や **READ** サブチャンネルの状況です。考えられる値は以下のとおりです。

ACTIVE

サブチャンネルは活動状態です。

INOP

サブチャンネル経路は操作不能です。

RESET

サブチャンネル経路は準備ができていません。

SLOWDN

サブチャンネル経路はスローダウン中です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST1222I {WRITE|READ} DEVICE *device_address* IS
 INOPERATIVE, NAME IS *resource_name***

説明: VTAM はこのメッセージを、隣接サブエリアとの間の **WRITE** や **READ** 経路が活動していないときに出力します。潜在的な問題についての情報を提供し、回線の非活動化の前に出されることがあります。

device_address は、表示された **WRITE** または **READ** サブチャンネルの 16 進アドレスです。

resource_name は次のいずれかです。

- タイプ 5 物理装置に定義されている専用回線の名前。
- TRLE 名とも呼ばれる、活動中のトランスポート・リソース・リストのエレメントの名前。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

- *resource_name* がトランスポート・リソース・リスト・エレメント (TRLE) 名であれば、この TRLE を使用している APPN ホスト間チャンネル PU を非活動化して、その PU を活動化し直さなければなりません。*resource_name* が回線であれば、その回線を一度終了し、再始動させてください。

resource_name が TRLE 名と回線のいずれでもない場合、処理は必要ありません。データ転送の効率に影響することがあるので、注意してください。

- 操作不能なサブチャンネル・アドレスがネットワークにとって重要なものであれば、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。
 - 関連メッセージが出されることがあり、詳細情報を提供します。
 - 使用可能な経路がなく、回線が非活動化されていれば、VTAM はその他のエラー・メッセージを出力します。また、複数回線の別のサイドでの VTAM のコンソール・ログ上のメッセージも調べてください。
- オペレーティング・システム保守援助プログラムを実行して、MDR/OBR 情報が記録されているかどうかを判別してください。EREP の使用について詳しくは、「*EREP User's Guide and Reference*」を参照してください。

- NetView プログラムのようなネットワーク管理アプリケーションを使用している場合、この問題についてアラートが記録されているかどうか確認してください。

プログラマーの応答: 出力が、ハードウェア問題を示しておらず、問題の原因を判別できない場合、以下の処理を行ってください。

- IBMLink にアクセスしていれば、この区域で既知問題を探索してください。該当する問題が見つからない場合は、IBMLink の Electronic Technical Report (ETR) オプションを使用して、この問題を IBM に報告してください。
- IBMLink にアクセスできない場合は、この問題を IBM ソフトウェア・サポート・センターに報告してください。可能であれば、オペレーティング・システムの保守援助プログラムの MDR/OBR 情報か、またはネットワーク管理アプリケーションの記録した警告情報を提供してください。

IST1223I BN NATIVE

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出力します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについて詳しくは、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1224I *bn native*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出力します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについて詳しくは、IST1295I のメッセージを参照してください。

**IST1225I VIRTUAL NODE *nodename* CONNECTION
 INACTIVE**

説明: VTAM は仮想ノードを使用する論理接続が非活動状態になったとき、ある回線に対する VARY INACT の応答としてこのメッセージを出力します。*nodename* は、仮想ノードの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST1226I TOPOLOGY UPDATE FAILED,
 INSUFFICIENT STORAGE**

説明: このメッセージは仮想ノードへの論理接続の活動に障害が起きたとき、VTAM がある回線に対する VARY ACT の応答として出すグループ・メッセージの一部です。この障害は活動状態の論理接続のためのトポロジー更新が、ストレージ不足のために失敗したためおこりました。グループの最初のメッセージは、IST1166I か IST1167I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1227I *id value = description*

説明: VTAM は DISPLAY STATS コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出力します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST1345I の説明を参照してください。

IST1228I *command FOR resourcename FAILED, CODE = code*

説明: VTAM は所有している CP、または *resourcename* のネットワーク・ノード・サーバーを変更しようとした、MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドの応答に、このメッセージを出します。CPNAME または NETSRVR オペランドのどちらかに指定した名前は、APPN 登録簿にある情報と一致しません。

command は常に、MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドを指す **F DIRECTRY** です。

resourcename は、形式 *netid.name* の、リソースのネットワーク修飾名です。*resourcename* は、MODIFY DIRECTRY コマンドの ID オペランドで入力したリソース、またはコマンドで指定した名前前のリソースに従属するリソースと同じです。

code について、以下の値のリストは障害の原因を記述してあります。

コード エラー

- 1 *resourcename* は、APPN 登録簿でネットワーク・ノードとして認識されました。所有している CP またはネットワーク・ノードのネットワーク・ノード・サーバーを変更する試みは、有効ではありません。
- 2 *resourcename* は、APPN 登録簿でエンド・ノードとして認識され、しかも CPNAME オペランドが MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドで指定されています。エンド・ノードの所有 CP を変更する試みは、有効ではありません。
- 3 *resourcename* は、APPN 登録簿にある非制御点として認識され、しかも MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドには CPNAME オペランドが指定されていませんでした。*resourcename* が非制御点の場合、CPNAME オペランドはリソースを所有している制御点 (CP) を識別するために必要です。

システムの処置: *resourcename* の階層は更新されません。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: DISPLAY ID コマンドを使用して、現在の *resourcename* のタイプを得てください。次に適切なオペランドを指定して、MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドを再度入力してください。MODIFY DIRECTRY コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1229I *command FAILED, resourcename IS NOT A {CP|EN|NN}*

説明: 以下のいずれかの理由で、VTAM は MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドの応答にこのメッセージを出します。

- MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドに、*resourcename* を CP (制御点) として指定するオペランド CPNAME=*resourcename* がある。*resourcename* は APPN 登録簿の CP として識別されません。
- MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドに、*resourcename* が EN (エンド・ノード) であることを示すオペランド

CPNAME=*resourcename* と NETSRVR=*name* がある。

resourcename は APPN 登録簿の EN として識別されません。

- MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドに、*resourcename* を NN (ネットワーク・ノード) として指定するオペランド NETSRVR=*resourcename* がある。*resourcename* は APPN 登録簿の NN として識別されません。

command は常に、MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドを指す **F DIRECTRY** です。

resourcename は、形式 *netid.name* の、CPNAME オペランドまたは NETSRVR オペランドのどちらかで指定されたネットワーク修飾名です。

システムの処置: VTAM は MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドを無視します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: *resourcename* のつづりが正しいことを確認して、コマンドを再度入力してください。

DISPLAY ID コマンドを入力して、現在の *resourcename* のタイプを確認してください。*resourcename* に制御点またはネットワーク・ノードのどちらかが必要な場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 以下の処置で APPN 登録簿にある *resourcename* タイプを変更することができます。

- MODIFY DIRECTRY,DELETE,ID=*resourcename* コマンドを入力する。
- 定義リストにある *resourcename* のタイプを変更して、リストを活性化する。
- 希望する結果によって CPNAME または NETSRVR オペランドのどちらかを使用して、MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドを再度入力する。

IST1230I *TIME = time DATE = date ID = id*

説明: このメッセージは、マルチパス・チャネル (MPC) が接続しているリソースの統計を表示する、メッセージ・グループの最初のもので、メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1230I TIME      = time      DATE      = date ID = id
IST1231I IPIU      = ipiu      OPIU       = opiu
IST1232I TSWEET    = tsweep    QSWEEP    = qsweep
IST1233I DEV       = dev       DIR        = dir
IST1234I BSIZE     = bsize     MAXBYTES  = maxbytes
IST1235I SIO       = sio       SLOWDOWN  = slowdown
IST1236I BYTECNT0 = bytecnt0  BYTECNT  = bytecnt
IST924I -----
IST1233I DEV       = dev       DIR        = dir
IST1234I BSIZE     = bsize     MAXBYTES  = maxbytes
IST1235I SIO       = sio       SLOWDOWN  = slowdown
IST1236I BYTECNT0 = bytecnt0  BYTECNT  = bytecnt
:
```

注: このメッセージは回線 *id* の場合は、すべてのサブチャネル・アドレスに統計を表示します。

IST1233I、IST1234I、IST1235I、および IST1236I は、回線名 *id* のサブチャネル・アドレスごとに繰り返されます。

IST1230I

- *time* はレコードが繰り返されたときの時刻です。

– *hh* は時

- *mm* は分
- *ss* は秒
- *pp* は 100 分の 1 秒
- *date* はレコードが繰り返されたときの日付です。 *date* の形式は DATEFORM 始動オプションに基づいており、以下のいずれかです。

DATEFORM|DATEFRM=DMY

date は DD/MM/YY です。

DATEFORM|DATEFRM=MDY (デフォルト)

date は MM/DD/YY です。

DATEFORM|DATEFRM=YMD

date は YY/MM/DD です。

- *id* は、統計が記録されるリンクの名前、および関連チャネル接続大ノードの LINE 定義ステートメントで指定した名前です。

IST1231I

ipiu は受信したインバウンド PIU の合計数です。 *opiu* は送信したアウトバウンド PIU の合計数です。

IST1232I

- *tsweep* はタイムアウトのため開始したスイープの数です。スイープとは、データを損失していないか検査するために、隣接するホストと交換する特殊なデータ・ブロックです。最高位のサブエリア番号を使用するホストだけが、スイープのタイマーを開始します。
- *qsweep* は、受信キューが大き過ぎるために、開始したスイープの数です。
 - 受信キューの大きさは、次の層に渡されるために待っているデータのバイト数を示します。
 - 大き過ぎる受信キューは、通常データ・セグメントの再逐次化の問題を示しています。読み取りサブチャネルの速度が一致していないか、または使用可能な入出力バッファの不足が原因と思われる。

IST1233I

dev は統計が記録される、装置の 16 進数サブチャネル・アドレスです。これは LINE 定義ステートメントの READ または WRITE ステートメントにコーディングしたサブチャネル・アドレスの 1 つに対応しています。

dir はこの装置の向き (READ または WRITE) です。

IST1234I

bsize はこの装置によってサポートされている最大バッファサイズです。

maxbytes は最大のチャネル・プログラムで使用されるバイト数です。このフィールドは使用率、つまり送信または受信バッファへのデータの詰め込み状況に関する情報を提供しません。この数が *bsize* に近づいたとき、装置のバッファの最大瞬間使用率が発生したことを示しています。

IST1235I

- *sio* は、サブチャネルの入出力開始操作の回数です。この数は累積 (ノードが最後に活動化したときから) され、10 進数で表現されます。 *sio* の値は 65535 を超えることはありません。 *sio* が 65535 の場合、その値は、次の入出力開始命令が、出されたときに、0 にリセットされます。

- *slowdown* は入力されたスローダウン・モードの回数です。 *slowdown* が増加していれば、使用可能な入出力バッファが不足していることを示しています。
 - メッセージ IST1233I に **DIR = READ** があると、 *slowdown* は、インバウンド・データをアンパックする入出力バッファの不足のためにチャネル・プログラムをすぐに再開することができないと、そのたびに増分されます。
 - メッセージ IST1233I に **DIR = WRITE** があると、 *slowdown* は ****N/A**** です。

IST1236I

- *bytecnto* はバイト・カウント・オーバーフローです。このカウンターは、 *bytecnt* の値がこのフィールドに許されている最大値 (999999999) を超えたときに、1 ずつ増えます。 *bytecnto* および *bytecnt* は、サブチャネルの転送が正常終了したバイトの合計数を計算するために使用します。
- *bytecnt* はバイト・カウントです。この値はメッセージ IST1233I の **WRITE** サブチャネルの送信した、または **READ** サブチャネルの読み取ったバイト数の累積値です。 *bytecnto* は、 *bytecnt* がこのフィールドに許されている最大値 (999999999) を超えるたびに 1 ずつ増え、 *bytecnt* は 0 にされます。
 - サブチャネルの転送したバイトの合計数を計算するには、 *bytecnto* の値に 999999999 を掛けてください。そしてその結果に *bytecnt* の値を足してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 統計の記録を中止するには、MODIFY NOTINSTAT コマンドを入力してください。

プログラマーの応答: 調整統計の調整および分析方法については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST1231I IPIU = ipiu OPIU = opiu

説明: VTAM は、このメッセージを、マルチパス・チャネル (MPC) 接続リソースの調整統計を表示するメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1230I です。詳しい説明については、そのメッセージを参照してください。

IST1232I TSWEET = tsweep QSWEET = qsweep

説明: VTAM は、このメッセージを、マルチパス・チャネル (MPC) 接続リソースの調整統計を表示するメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1230I です。詳しい説明については、そのメッセージを参照してください。

IST1233I DEV = dev DIR = dir

説明: VTAM は、このメッセージを、マルチパス・チャネル (MPC) 接続リソースの調整統計を表示するメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1230I です。詳しい説明については、そのメッセージを参照してください。

IST1234I **BSIZE = bsize MAXBYTES = maxbytes**

説明: VTAM は、このメッセージを、マルチパス・チャネル (MPC) 接続リソースの調整統計を表示するメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1230I です。詳しい説明については、そのメッセージを参照してください。

IST1235I **SIO = sio SLOWDOWN = slowdown**

説明: VTAM は、このメッセージを、マルチパス・チャネル (MPC) 接続リソースの調整統計を表示するメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1230I です。詳しい説明については、そのメッセージを参照してください。

IST1236I **BYTECNT0 = bytectnt0 BYTECNT = bytectnt**

説明: VTAM は、このメッセージを、マルチパス・チャネル (MPC) 接続リソースの調整統計を表示するメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1230I です。詳しい説明については、そのメッセージを参照してください。

IST1237I *state = number [state = number]*

説明: VTAM は、DISPLAY SESSIONS,LIST=SUMMARY コマンドの応答のグループの一部として、このメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST873I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1238I **DSPNAME CURRENT MAXIMUM QUEUED**

説明: VTAM は、メッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。これは、特定のネットワーク管理アプリケーションに関する情報を要求する DISPLAY STORUSE,DSPNAME=*dspname* コマンドに対する応答です。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I DISPLAY TYPE = STORAGE USAGE
IST1238I DSPNAME CURRENT MAXIMUM QUEUED
IST1239I dspname current maximum queued
IST314I END
```

注: DISPLAY STORUSE,DSPNAME=* が入力された場合、VTAM は、すべてのネットワーク管理アプリケーションおよび他のすべてのデータ・スペースのストレージ使用状況を表示します。

IST350I このメッセージは、表示する情報のタイプを示し、このメッセージ・グループの場合は常に **STORAGE USAGE** です。

IST1238I このメッセージは、IST1239I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1239I *dspname* は、VTAM によって作成されるデータ・スペースの名前で、DISPLAY STORUSE コマンドで指定されたネットワーク管理データ・スペースです。データ・スペースが

VTAM によって作成され、またその形式が以下のいずれかである場合、データ・スペース名は自動的に生成されます。

ISTcccc

cccc は **0-FFFFC**

ccccIST

cccc は **1-99999**

current は、現在のストレージ使用状況で、キロバイトで表されます。*maximum* は、データ・スペースが作成された以降の最大ストレージ使用状況で、キロバイトで表されます。*queued* は、処理のためにキューイングされている要求の現在のストレージ使用状況で、キロバイトで表されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1239I *dspname current maximum queued*

説明: VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。このサブグループの最初のメッセージは、IST1238I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1240I **DSPNAME CURRENT MAXIMUM JOBNAME APPL COUNT**

説明: VTAM は、DISPLAY STORUSE コマンドに答えて、メッセージ・サブグループの一部としてこのメッセージを出します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

- このメッセージ・グループは、以下のコマンドに応答して出されます。

DISPLAY STORUSE,DSPNAME=*dspname*

特定のデータ・スペースのストレージ使用状況を表示します。

DISPLAY STORUSE,JOBNAME=*jobname*

特定の VTAM アプリケーション・ジョブのストレージ使用状況を表示します。

DISPLAY STORUSE,APPL=*applname*

特定のアプリケーションのストレージ使用状況を表示します。

DISPLAY STORUSE,APPL=*

すべてのアプリケーションのストレージ使用状況を表示します。

```
IST350I DISPLAY TYPE = STORAGE USAGE
IST1240I DSPNAME CURRENT MAXIMUM JOBNAME APPL
COUNT
IST1241I dspname current maximum jobname applname
applcount
IST314I END
```

- DISPLAY STORUSE,DSPNAME=* は、すべてのデータ・スペースのストレージ使用状況を表示します。

- DISPLAY STORUSE,JOBNAME=* は、すべての VTAM アプリケーション・ジョブのストレージ使用状況を表示します。

IST350I このメッセージは、表示する情報のタイプを示し、このメッセージ・グループの場合は常に **STORAGE USAGE** です。

IST1241I • IST1242I

IST1240I このメッセージは、IST1241I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1241I *dspname* は、VTAM によって作成されるデータ・スペースの名前です。データ・スペースが VTAM によって作成され、またその形式が以下のいずれかである場合、データ・スペース名は自動的に生成されます。

ISTcccc

cccc は **0-FFFFC**

ccccIST

cccc は **1-99999**

current は、現在のストレージ使用状況で、キロバイトで表されます。*maximum* は、データ・スペースが作成された以降の最大ストレージ使用状況で、キロバイトで表されます。

jobname は、データ・スペース *dspname* に情報を記憶することができる VTAM アプリケーション・ジョブのうちの 1 つの名前です。*applname* は、データ・スペース *dspname* に情報を記憶することができる VTAM アプリケーションのうちの 1 つの名前です。*applcount* は、データ・スペース *dspname* に情報を記憶することができる活動 VTAM アプリケーションの数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1241I *dspname current maximum jobname applname
applcount*

説明: VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。このサブグループの最初のメッセージは、IST1240I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

**IST1242I POOL CURRENT MAXIMUM [POOL
CURRENT MAXIMUM]**

説明: VTAM は、DISPLAY STORUSE コマンドに回答するメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。

可能性のあるメッセージ・グループの例は、次の通りです。

- DISPLAY STORUSE,POOL=*poolname*

このメッセージ・グループは、特定のストレージ・プールの情報を表示します。

```
IST350I DISPLAY TYPE = STORAGE USAGE
IST1242I POOL CURRENT MAXIMUM
IST1243I poolname current maximum
IST1315I DISPLAY TRUNCATED AT NUM = number
IST314I END
```

- DISPLAY STORUSE,POOL=* *command*.

このメッセージ・グループは、すべてのストレージ・プールのストレージ使用率を表示します。メッセージ **IST1244I** が、このメッセージの終わりに表示され、専用区域と共通ストレージのプール使用率を要約します。

```
IST350I DISPLAY TYPE = STORAGE USAGE
IST1242I POOL CURRENT MAXIMUM
[POOL CURRENT MAXIMUM]
IST1243I poolname current maximum
```

[*poolname current maximum*]

```
IST924I -----
IST1244I TOTAL storage_type POOL STORAGE USAGE:
current maximum
IST1244I TOTAL storage_type POOL STORAGE USAGE:
current maximum
[IST981I VTAM PRIVATE: CURRENT = currentK,
MAXIMUM USED = maximumK]
[IST1315I DISPLAY TRUNCATED AT NUM = number]
IST314I END
```

IST350I

このメッセージは、表示する情報のタイプを示し、このメッセージ・グループの場合は常に **STORAGE USAGE** です。

IST981I

currentK は、現在使用されている VTAM 専用ストレージの量です。これは、VTAM モジュールのロードに必要な専用ストレージの量は反映していません。

maximumK は、VTAM が開始されてからこれまでに使用された VTAM 専用ストレージの最大量です。

ストレージ・プールの詳細については、「*VTAM Network Implementation Guide*」を参照してください。

このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「*VTAM Operation*」を参照してください。

IST1242I

このメッセージは、IST1243I に表示されたメッセージのヘッダー・メッセージです。

IST1243I

poolname は DISPLAY STORUSE コマンドで指定されたストレージ・プールの名前になります。

current は、現在のストレージ使用の合計で、キロバイトで表されています。

maximum は、VTAM が初期設定されてからの最大ストレージ使用の合計で、キロバイトで表されています。

IST1244I

storage_type は、**PRIVATE** (専用ストレージ)、**SGA** (システム GETVIS 域)、または **COMMON** (共通ストレージ) のいずれかです。

current は、現在のストレージ使用の合計で、キロバイトで表されています。

maximum は、VTAM が初期設定されてからの最大ストレージ使用の合計で、キロバイトで表されています。

IST1315I

出力が途中で切れている場合、このメッセージは表示された行数を示します。

number は、DISPLAY STORUSE コマンドの NUM オペランドに指定された数、DSPLYMAX 開始オプションの値、または DSPLYMAX のデフォルトのいずれかを表しています。

VTAM Resource Definition Reference

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1243I *poolname current maximum [poolname current maximum]*

説明: VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。このサブグループの最初のメッセージは、IST1242I になります。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1244I **TOTAL** *storage_type* **POOL STORAGE USAGE:** *current maximum*

説明: このメッセージは、すべての専用区域、および共通ストレージ・プールのストレージ使用率を要求する、DISPLAY STORUSE,POOL=* コマンドの応答として、VTAM が出すメッセージのグループの一部です。メッセージ・グループの詳しい記述については、メッセージ IST1242I を参照してください。

storage_type は、PRIVATE (専用ストレージ) または SGA (システム GETVIS 域) のいずれかです。

current は、現在のストレージ使用の合計で、キロバイトで表現されています。

maximum は、VTAM が初期設定されてからの最大ストレージ使用の合計で、キロバイトで表されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1245I **NO NETWORK NODE SERVER IS AVAILABLE FOR CP-CP SESSIONS**

説明: VTAM は以下の状態のときにこのメッセージを出します。

- VTAM はネットワーク・ノードを使用して CP 間セッションを活性化しようとしたが失敗し、他の適切なネットワーク・ノード・サーバーが見つからない。これはオペレーター・コマンドへの応答ではありません。
- ネットワーク・ノードを使用する活動状態の CP 間セッションを失い、VTAM は他の適切なネットワーク・ノード・サーバーを見つけることができない。この状態は、元の CP 間セッションをオペレーター・コマンドで活性化することができます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: VARY ACT,ID=*adjcpname* コマンドを入力して、希望するサーバーを指定してください。 *adjcpname* が

現在のネットワーク・ノード・サーバー・リストに許可されていなくても、VTAM は *adjcpname* を使用する CP 間セッションを確立しようとします。

プログラマーの応答: 追加のネットワーク・ノードを受け入れ可能なサーバーとして定義するために、ネットワーク・ノード・サーバー・リストを修正してください。それぞれのネットワーク・ノードに新しい NETSRVR 定義ステートメントを追加するか、認識されているネットワーク・ノードを許可してネットワーク・ノード・サーバーの役割を行わせる NETSRVR 定義ステートメントを追加してください。

リストを修正した後、VARY ACT,ID=*member_name* コマンド (ここで *member_name* は、編集されたネットワーク・ノード・サーバー・リストを含む定義ライブラリーのメンバーの名前) を出してください。

ネットワーク・ノード・サーバー・リストを変更しないしていると、現在のサーバーに障害が起きても、VTAM は新しいサーバーを獲得できません。

IST1246I **ADJACENT CP NOT DEFINED IN CURRENT NETWORK NODE SERVER LIST**

説明: このエンド・ノードがネットワーク・ノードを使用するセッションを確立できないとき、VTAM はメッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1110I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1247I **ALL ATTEMPTS TO ESTABLISH A SESSION WERE UNSUCCESSFUL**

説明: このエンド・ノードがネットワーク・ノードを使用するセッションを確立できないとき、VTAM はメッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1110I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1248I **DEACTIVATE LOCAL LINK BEFORE DELETING**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1158I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1249I **SYNTAX ERROR AT RECORD** *record_number* **IN MEMBER** *member*

説明: このメッセージは、構文エラーが定義ライブラリーのステートメントで検出されたときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初にあるものです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST1249I SYNTAX ERROR AT RECORD *record_number* IN MEMBER *member*

IST258I STMT IN ERROR = text

IST314I END

IST1250I

record_number は、エラーの検出時に処理中であった *member* の論理レコードの数です。この数は、*member* をエディターで表示したときの、行またはレコード番号と同じです。

member はエラーのステートメントがある定義ライブラリーのメンバーです。

text は構文エラーがあるステートメントのテキストです。エラーは、空白ではない文字がカラム 72 にあり、継続行のカラム 16 が空白になっているような、アセンブラのコーディング・エラーの可能性があります。共通するエラーは、カラム 72 の継続記号の前にコンマがないことです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: エラーのあるステートメントを修正してください。定義ステートメントの正しい構文について詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1250I NAME LEVEL MODULE STATUS

説明: VTAM は、DISPLAY EXIT,NAME=*exitname* または DISPLAY EXIT,NAME=* コマンドへの応答のメッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I DISPLAY TYPE = EXIT
IST1250I NAME LEVEL MODULE STATUS
IST1251I exitname exitlevel module status
.
.
[IST199I OPTIONS = {NONE|optionlist}]
.
.
IST314I END
```

注: コマンドが、NAME=* を指定する場合、IST1251I はすべての出口の状況を表示するために繰り返されます。コマンドが NAME=ISTEXCAA を指定して、出口が活動状態の場合、IST199I はこの出口によってサポートされている、すべての機能を表示するために繰り返されます。

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループの場合、表示タイプは常に **EXIT** です。

IST1250I および IST1251I サブグループ

- *exitname* はユーザー作成出口ルーチンの名前です。
- *exitlevel* は内部出口バージョン ID です。 *exitname* の *exitlevel* の説明については、「VTAM Customization」を参照してください。 *exitlevel* をコーディングしていないと、***NA*** が表示されます。
- *module* は、ユーザー作成出口ルーチンのモジュール名です。
- *status* は、DISPLAY EXIT コマンドを出したときの *exitname* の状況で、以下のいずれかが当てはまります。

ACTIVE

出口は操作可能です。

INACTIVE

出口は使用できません。

PENDING ACTIVE

出口は活動化の途中です。

PENDING ACTIVE REPLACE

出口は MODIFY EXIT,ID=*exitname*,OPT=REPL コマンドの活動化フェーズです。

PENDING INACTIVE

出口は非活動化の途中で、終了活動についてのみ使用できます。

PENDING INACTIVE REPLACE

出口は MODIFY EXIT,ID=*exitname*,OPT=REPL コマンドの非活動化フェーズです。

IST199I

optionlist には、以下のオプションが含まれます。

ACCTING

最初と最後のアカウントिंग

ADJ_DSRL

DSRLST 処理のための隣接 SSCP 選択

ADJSSCP

隣接 SSCP 選択

ALIAS

別名変換

ALL

出口のすべての機能をトレース

ALS

隣接リンク・ステーション選択

ALS_CDRS

CDRSC のための隣接リンク・ステーション選択

ALS_DSRL

DSRLST 処理のための隣接リンク・ステーション選択

BEGIN

機能の開始

END

機能の終了

GWPATH

ゲートウェイ・パス選択

INIT_IO

INIT OTHER CD のための初期権限

INITAUTH

初期権限

REPL

出口置換と置換した機能

SECAUTH

2 次権限

VRSEL

仮想経路選択

XRF

XRF セッション切り替え

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

ACTIVE

なし。

INACTIVE

status のこの値は、以下の 2 つの状態を示しています。

- 出口はインストールされたが、使用することはできない。

MODIFY EXIT コマンドを使用して、*exitname* を活動化してください。MODIFY EXIT コマンドについては、「VTAM Operation」を参照してください。

- 出口がインストールされていない。

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

PENDING ACTIVE、PENDING ACTIVE REPLACE、PENDING INACTIVE、および PENDING INACTIVE REPLACE

exitname が保留状態のままであれば、問題がある可能性があります。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 出口が操作に必要であれば、続ける前に VTAM を停止して、ユーザー作成出口の問題を修正しなければなりません。追加情報については、「VTAM Customization」を参照してください。

IST1251I *exitname exitlevel module status*

説明: VTAM はメッセージ・サブグループの一部として、このメッセージを出します。サブメッセージの最初のメッセージは IST1250I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1252I **DEFINED NETWORK NODE SERVER LIST, NAME = *nnslist***

説明: このメッセージは、DISPLAY NETSRVR コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = NETWORK NODE SERVER LIST
IST1252I  DEFINED NETWORK NODE SERVER LIST, NAME =
           nnslist
IST1253I  {nodename|****NAMELESS****|NONE}
           [SLUINIT=REQ|SLUINIT=OPT]
:
:
IST924I  -----
[IST1254I  SERVER LIST PROCESSED ORDER =
           {FIRST|NEXT}
           ]
IST924I  -----]
[IST1255I  OTHER NETWORK NODES ALLOWED AS SERVERS
IST1253I  {nodename|NONE}
           [SLUINIT=REQ|SLUINIT=OPT]]
:
:
IST924I  -----
IST1256I  CURRENT NETWORK NODE SERVER
IST1253I  {nodename|NONE}
           [SLUINIT=REQ|SLUINIT=OPT]
IST314I  END
```

IST350I

このメッセージは表示される情報のタイプを識別し、このメッセージ・グループに対しては、常に **NETWORK NODE SERVER LIST** です。

IST1252I および **IST1253I** サブグループ: サーバーとして定義したネットワーク・ノードのリスト

このメッセージ・サブグループは、ネットワーク・ノード・サーバー・リスト *nnslist* に明示的に定義した、すべてのネットワーク・ノードを表示します。 *nodename* は、*netid.name* 形式の隣接ネットワーク・ノードのネットワーク修飾名です。

******NAMELESS****** は、ネットワーク・ノード・サーバー・リストに名前がない項目があれば、表示されます。

NONE は、ネットワーク・ノードが潜在的なサーバーとして明示的に定義されておらず、ネットワーク・ノード・サーバー・リストに名前がない項目がなければ、表示されます。

SLUINIT=REQ または **SLUINIT=OPT** は *nodename* のために表示され、NETSRVR 定義ステートメントに指定された値です。

IST1254I: ネットワーク・ノード・サーバー・リストを処理する順序

このメッセージは、1 つまたは複数のネットワーク・サーバーが、このエンド・ノードのサーバーとしての役割を果たすために明示的に定義されたとき表示されます。これはネットワーク・ノード・サーバー・リストを処理する順序を示しています。

FIRST サーバーの探索が、リストに指定された最初のネットワーク・ノードから始まることを示します。

NEXT サーバーの探索が、試みが成功または失敗した最後の項目の後に続く、リストのネットワーク・ノードで始まることを示します。

IST1255I および **IST1253I** サブグループ: サーバーとして使用できる他のネットワーク・ノードのリスト

このメッセージ・サブグループは、SCOPE=ALL がコマンドに指定されたときのみ表示されます。これはこのエンド・ノードのネットワーク・ノード・サーバーの役割を果たすことができるが、ネットワーク・ノード・サーバー・リストに明示的に定義されていない、すべてのネットワーク・ノードを表示します。 *nodename* は、*netid.name* 形式の隣接ネットワーク・ノードのネットワーク修飾名です。

- **NONE** 以下のいずれかの状態のときに表示されます。
 - ネットワーク・ノード・サーバー・リストに名前がない項目がない。
 - ネットワーク・ノード・サーバー・リストに名前がない項目があるが、CP 間セッションをサポートする別の認知されている隣接ネットワーク・ノードがない。

SLUINIT=REQ または **SLUINIT=OPT** は *nodename* のために表示され、NETSRVR 定義ステートメントに指定された値です。

IST1256I および **IST1253I** サブグループ: 現在サーバーとして稼働しているネットワーク・サーバー

このメッセージ・サブグループは、このエンド・ノードのネットワーク・ノード・サーバーとして現在稼働しているネットワーク・ノードの名前を表示します。 *nodename* は、*netid.name* 形式の隣接ネットワーク・ノードのネットワーク修飾名です。

NONE は、このエンド・ノードに現在ネットワーク・ノード・サーバーがない場合に表示されます。

SLUINIT=REQ または **SLUINIT=OPT** は *nodename* のために表示され、NETSRVR 定義ステートメントに指定された値です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージ・グループが、予想したとおりのネットワーク・ノード・サーバー・リストを表示すれば、応答は必要ありません。

メッセージ・グループが予想外の表示をした場合は、問題判別

IST1253I • IST1257I

のためにシステム・ログを保管してください。

IST1256I および **IST1253I** サブグループ:

nodename が希望するサーバーではないが、ネットワーク・ノード・サーバー・リストが正しければ、現在のサーバーへのセッションを非活性化して、リストを再度活性化してください。プログラマーの応答: メッセージ・グループが予想外の結果を表示した場合は、以下を行ってください。

1. ネットワーク・ノード・サーバー・リストを訂正する。
2. `VARY ACT,ID=member_name` コマンドを入力して、修正したリストを再活性化するようにオペレーターに依頼する。ここで、*member_name* は、ネットワーク・ノード・サーバー・リストを含む定義リスト・メンバーの名前です。

IST1252I および **IST1253I** サブグループ:

リストに特定のノードがなければ、そのノードをネットワーク・サーバー・リスト定義ステートメントのグループに明示的に追加する、`NETSRVR` 定義ステートメントを追加してください。

注: サーバーの役割を果たすネットワーク・ノードを可能にする `NETSRVR` 定義ステートメントの前に、ネットワーク・ノードを明示的に名付ける、すべての `NETSRVR` 定義ステートメントをリストしてください。

IST1254I:

ORDER に希望する値が表示されなければ、`VBUILD,TYPE=NETSRVR` 定義ステートメントを変更して、サーバー選択の正しい順序を指定してください。

IST1255I および **IST1253I** サブグループ:

ネットワーク・ノードがサーバーとして明示的に定義されていなければ、デフォルトにより、ネットワーク・ノードは `SLUINIT=OPT` が名前がない項目に定義されている間は使用することができます。

同様に、特定のネットワーク・ノード名がない、`NETSRVR` 定義ステートメントが、定義ステートメントの最後に組み込まれていれば、ネットワーク・ノードは、`SLUINIT=OPT` が名前がない項目に定義されている間は、サーバーの役割を果たすために使用することができます。

明示的に定義したネットワーク・ノードをサーバーとしてのみ使用する場合は、`VBUILD,TYPE=NETSRVR` 定義ステートメントを使用して、ネットワーク・ノード・サーバー・リストを作成して、それぞれの `NETSRVR` 定義ステートメントの各ネットワーク・ノードを明示的に名付けてください。

IST1256I および **IST1253I** サブグループ:

nodename が希望するサーバーではなく、ネットワーク・ノード・サーバー・リストが正しくなければ、`VBUILD,TYPE=NETSRVR` 定義ステートメントを使用してネットワーク・ノード・サーバー・リストを修正して、それぞれの `NETSRVR` 定義ステートメントの各ネットワーク・ノードを明示的に名付けてください。

ネットワーク・ノード・サーバー・リストの作成方法については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST1253I {*nodename*|****NAMELESS****| NONE}
[SLUINIT=REQ|SLUINIT=OPT]

説明: VTAM は `DISPLAY NETSRVR` コマンドの応答に、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは **IST1252I** です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1254I **SERVER LIST PROCESSED ORDER =**
{FIRST|NEXT}

説明: VTAM は `DISPLAY NETSRVR` コマンドの応答に、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは **IST1252I** です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1255I **OTHER NETWORK NODES ALLOWED**
AS SERVERS

説明: VTAM は `DISPLAY NETSRVR` コマンドの応答に、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは **IST1252I** です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1256I **CURRENT NETWORK NODE SERVER**

説明: VTAM は `DISPLAY NETSRVR` コマンドの応答に、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは **IST1252I** です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1257I **SEQUENCE NOT VALID, STATEMENT**
IGNORED, SKIPPING TO EOF

説明: このメッセージは、ネットワーク・ノード・サーバー・リストに順序が正しくない `NETSRVR` ステートメントがあるとき、VTAM が出すメッセージ・グループにある最初のものです。サーバーの役割を果たすためにネットワーク・ノードを明示的に名付けるすべての `NETSRVR` ステートメントは、ネットワーク・ノードを明示的に名付けない `NETSRVR` ステートメントの前になければなりません。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1257I SEQUENCE NOT VALID, STATEMENT IGNORED,  
          SKIPPING TO EOF  
IST701I CONFIG configname LABEL = labelname  
          STMT TYPE = statementname  
IST314I END
```

IST701I

configname は `VBUILD` ステートメントに割り当てられた名前です。

labelname は `NETSRVR` ステートメントで指定されたネットワーク・ノードの名前です。

statementname は `NETSRVR` ステートメントです。

システムの処置: ネットワーク・ノードを明示的に名付けていない `NETSTVR` ステートメントの後にある `NETSRVR` ステートメント

トメントは、無視します。 処理を続行します。

オペレーターの応答: システム・プログラマーはネットワーク・ノード・サーバー・リストを修正しなければなりません。リストを修正した後、VARY ACT,ID=member_name コマンド(ここで member_name は、編集されたネットワーク・ノード・サーバー・リストを含む定義ライブラリーのメンバーの名前)を出してください。

プログラマーの応答: ネットワーク・ノード・サーバー・リストからなる、NETSRVR 定義ステートメントの順序を訂正してください。 ネットワーク・ノード・サーバー・リストの作成方法については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1258I value IS NOT VALID FOR nodetype

説明: VTAM は、ノードのコマンドまたはオペランドが有効ではないときに、このメッセージを出します。

value は次のいずれかです。

- 失敗したコマンドの名前。 value の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。
- コマンドが失敗する原因となったオペランドの名前。

value の詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: コマンドを正しく入力したかどうか確認してください。 問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 必要であれば、このエンド・ノードまたはネットワーク・ノードの NODETYPE 開始オプションを訂正してください。 次にシステムを再度活動化してください。

NODETYPE 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1259I VBUILD TYPE = type1 IS ONLY VALID FOR type2

説明: VTAM は以下の状態のときにこのメッセージを出します。

- type1 が NETSRVR の場合、ネットワーク・ノード・サーバー・リストを作成しようとしたときに、VTAM はこのネットワーク・ノードでこのメッセージを出します。 ネットワーク・ノードはそれ自身がサーバーとして機能します。この場合 type2 は EN です。
- type1 が ADJCLUST または BNCOSMAP の場合、VBUILD ステートメントをボーダー・ノードではないノードに定義したとき、VTAM はこのメッセージを出します。この場合 type2 は BN です。

システムの処置: VBUILD ステートメントは無視されます。 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: type1 が NETSRVR の場合:

- このノードをネットワーク・ノードとして定義するには、ネットワーク・ノード・システム定義からネットワーク・ノード・サーバー・リストを削除する。

- このノードをエンド・ノードとして定義するには、開始オプションを訂正して、このノードをエンド・ノードとして定義する。「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

type1 が ADJCLUST または BNCOSMAP の場合:

- このノードをボーダー・ノードとして定義するには、必要に応じて開始オプションを修正する。
- このノードをボーダー・ノードとして定義しない場合は、適切な ADJCLUST または COSMAP 定義ステートメントを削除する。

IST1260I type TRUNCATED-INSUFFICIENT STORAGE

説明: このメッセージは、ストレージ不足のため VTAM が、指定したリソース・タイプの完全な内部表現を作成できないときに VTAM が出す、メッセージ・グループの最初のものです。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1260I  type TRUNCATED-INSUFFICIENT STORAGE
IST701I   CONFIG configname LABEL = labelname
          STMT TYPE = statementname
IST314I   END
```

type は指定したリソースを示し、以下のいずれかになります。

**NETWORK NODE SERVER LIST
ADJACENT CLUSTER TABLE
COSMAP TABLE**

IST701I

このメッセージはリソース内で切り捨てが起きたところを識別します。

- type が NETWORK NODE SERVER LIST の場合:
 - configname は VBUILD 定義ステートメントに割り当てた名前。
 - labelname は NETSRVR 定義ステートメントで指定したネットワーク・ノードの名前。
 - statementname は NETSRVR 定義ステートメント。
- type が ADJACENT CLUSTER TABLE または COSMAP TABLE の場合:
 - configname は VBUILD 定義ステートメントに割り当てた名前。
 - labelname は NETWORK 定義ステートメントの NETID で指定した名前。
 - statementname は NETWORK 定義ステートメント。

VTAM 定義ステートメントおよびテーブルは、「VTAM Resource Definition Reference」で説明されています。

システムの処置: VTAM は正常に処理できる分だけの項目を使用して、残りを無視します。

type が NETWORK NODE SERVER LIST の場合、認知されているネットワーク・ノードが、ネットワーク・ノード・サーバーとしての役割を果たすことができることを示す項目が、切り捨てられたリストの終わりに追加されます。

処理を続行します。

オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、システム GETVIS 域 (SGA) に関する情報を表示してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

type が **ADJACENT CLUSTER TABLE** または **COSMAP TABLE** の場合: DISPLAY ADJCLUST コマンドまたは DISPLAY COSMAP コマンドを入力して、どの項目が記録されたのかを判別してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、得た出力をシステム・プログラマーに渡してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。

type が **NETWORK NODE SERVER LIST** の場合、ストレージ不足問題が訂正された後で以下を行ってください。

- VARY ACT,ID=*member_name* コマンドを入力するようにオペレーターに依頼してください。ここで、*member_name* は、ネットワーク・ノード・サーバー・リストを含む定義リスト・メンバーの名前です。

詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

ダンプの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。外部トレースが活動状態である場合、VIT 分析ツールを使用してストレージを分析する方法については、VTAM Diagnosis を参照してください。

IST1261I ABEND OCCURRED DURING LINK DEFINITION

説明: APPN トポロジー・ルーティング・サービスへのリンクを定義しようとして失敗すると、VTAM はメッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。グループの最初のメッセージは IST1118I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1262I MODULE *modulename* LOAD FAILED - *reason*

説明: モジュール *modulename* のロードに失敗したときに、VTAM は MODIFY EXIT コマンドの応答にこのメッセージを出します。

modulename ロードに失敗したモジュールの名前です。

reason は、ロードが失敗した原因に関する情報を提供し、以下のいずれかが当てはまります。

INSUFFICIENT STORAGE

ロード要求を処理するのに使用できるストレージが足りない。

I/O ERROR LOADING MODULE

modulename のロード中に入出力エラーが起こった。

I/O TIMEOUT LOADING MODULE

modulename をロードしようとしたが、システムまたはハ

ードウェア問題が原因で、入出力の完了を待っている間にモジュール・ロード機能がタイムアウトになった。

LOADER INOPERATIVE

これは以下のいずれかの理由で生じることがあります。

- 前のモジュールのロードが完了していない
- ロード要求中に VTAM の指示したロード・サブタスク ISTINMLS が異常終了した。
- VTAM の指示したロード・サブタスク ISTINMLS が、初期設定を完了しなかった

LOCK PROTOCOL VIOLATION

VTAM がロード要求を満たそうとしていたときに、プロトコル違反のロックが起こった。

MODULE NOT FOUND

modulename が識別したリソースが存在しない。

システムの処置:

- *reason* が **LOADER INOPERATIVE** の場合、ローダーに必要なその後続くすべてのコマンドは失敗します。入出力ロード操作が最終的に正常になれば、ロード操作は再び使用できるようになります。
- その他すべての *reason* の場合は、MODIFY EXIT コマンドを無視して VTAM は古い出口を使用します。

オペレーターの応答:

- *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。ストレージに余裕ができれば、コマンドを再度入力してください。
- *reason* が **MODULE NOT FOUND** の場合、正しいコマンドを入力したことを確認してください。「VTAM Operation」を参照してください。
- *reason* が以下の値の場合、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

- I/O ERROR LOADING MODULE
- I/O TIMEOUT LOADING MODULE
- LOADER INOPERATIVE
- LOCK PROTOCOL VIOLATION

プログラマーの応答:

- *reason* が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合は、*gEstimating Storage for VTAM* ディスケットにある情報を使用して、VTAM ストレージ要件を検討してください。ダンプの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。外部トレースが活動状態である場合、VIT 分析ツールを使用してストレージを分析する方法については、VTAM Diagnosis を参照してください。

操作が重要な場合は、コマンドのために大ノードを非活動化していなければなりません。ストレージを解放し、コマンドを再度入力してください。

- *reason* が **I/O ERROR LOADING MODULE** または **I/O TIMEOUT LOADING MODULE** の場合、VTAMLST ファイルを調査して、VTAM システムの要件がユーザーのシステムにとって正しいことを確認してください。
- *reason* が **LOADER INOPERATIVE** または **LOCK PROTOCOL VIOLATION** の場合、弊社ソフトウェア・サポート・センターに連絡してください。

IST1263I *command* FOR *nodename* FORCED COLD,
datasetname |bookname {EMPTY|ERROR}

説明: ノード *nodename* の構成再始動データ・セット (チェックポイント・データ・セット) にレコードがないか、またはエラーが起きたため、VTAM は初期 (コールド) 状態で *nodename* を活動化しました。

command は START または VARY ACT です。

nodename は影響を受けるノードの名前です。 *nodename* がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

bookname はチェックポイント・ブックの DDNAME です。

- 空の構成再始動データ・セットは、ノードが、以前にチェックポイント処理によって活動化されていなかったことを示しています。以前に活動化されていなかったノードに対して、ウォーム活動化を行うことはできません。
- メッセージがエラーを示しているときは、前のメッセージにエラーの説明があります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1264I *command* FOR *nodename* FAILED DURING
DEFINITION

説明: 大ノード *nodename* を活動化または獲得しようとして入力された *command* コマンドがネットワーク定義中に失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

command は、失敗したコマンドです。 *command* に指定可能な値とエラーの原因は以下のいずれかです。

VARY ACT または **VARY ACQ**

大ノード定義の VARY ACT または VARY ACQ コマンドにエラーがあります。

VARY DRDS

VARY DRDS (動的再構成データ・セット) コマンドの処理が失敗し、定義全体が拒否されました。

MODIFY DR

MODIFY DR コマンドが失敗しました。

nodename はコマンドに指定した大ノードの名前です。

nodename がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

システムの処置: コマンドは失敗します。大ノードまたは DRDS 定義およびリソースは非活動状態のままで、VTAM はこれらを使用できません。

オペレーターの応答: 問題判別のために、システム・ログを保管し、大ノード定義を印刷してください。

プログラマーの応答: 前に出されたメッセージに、失敗の原因に関する情報が提供されています。

- 定義エラーの場合は、オペレーターがコマンドを再入力する前に、問題を解決するために、大ノード定義または DRDS 定義を、訂正してください。

- 定義エラーでない場合は、正しい大ノード名を使用して、コマンドを再入力するように依頼してください。 *command* の詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

IST1265I *command* FOR *nodename* FAILED - reason

説明: オペレーターはノード *nodename* に対して、VARY ACT コマンドの *command* に WARM オペランドを指定して入力しました。

command は、失敗したコマンドです。

nodename はコマンドに指定したノードの名前です。 *nodename* がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

VTAM は、以下の *reason* のいずれかにより、コマンドを拒否します。

cpdsname EMPTY

構成再始動データ・セット (チェックポイント・データ・セット) *cpdsname* にレコードがありません。(空の構成再始動データ・セットは、通常、そのノードが以前にチェックポイント処理によって活動化されていなかったことを示します。ノードが、以前に活動化されていなかった場合は、そのノードをウォーム状態で、再活動化することはできません。)

cpdsname ERROR

VTAM が、構成再始動データ・セット (チェックポイント・データ・セット) *cpdsname* を処理中に、エラーを見つけました。前のメッセージにエラーの説明があります。

NO cpdsname

チェックポイント・データ・セットが存在しません。システムの処置: コマンドは失敗します。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: ノードを初期状況 (コールド) に活動化したい場合は、WARM オペランドを指定しないで、VARY ACT コマンドを再入力してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1267I *command* FAILED - CANNOT DEFINE
nodename

説明: VTAM は *command* の処理を停止しました。VTAM は以下のいずれかの理由で、リソース *nodename* を定義できませんでした。

- *nodename* がこのドメインにある別のリソースと同じ名前を持っている。
- *nodename* がこのドメインにある別のリソースと同じネットワーク・アドレスを持っている。
- *nodename* の VNNAME の値が、このドメイン内の PU の CPNAME の値と一致する。
- *nodename* の VNNAME の値が、VN=YES が指定されていない ADJCP を参照している。

command は、失敗したコマンドです。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

nodename はコマンドに指定されたリソースの名前です。

nodename がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *nodename* を表示します。

- リソースが存在すれば、リソースはすでに定義されているため *command* は失敗します。
- nodename* が通信コントローラーであれば、DISPLAY STATIONS コマンドを入力してください。
- nodename* のサブエリアが、ディスプレイで隣接サブエリアとしてリストされた場合、別の通信コントローラーが、そのサブエリアに対して定義されています。そのサブエリアへのリンクがまだ活動状態であれば、通信コントローラーはまだ存在する可能性があります。問題を訂正するために、隣接サブエリアへのリンクに対して、VARY INACT コマンドを入力してください。
- リソースが存在しなければ、VNNAME を表示してください。VNNAME がすでに存在する場合、VNNAME がすでに異なるノード・タイプで定義されているために、*command* は失敗します。

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *nodename* が固有の名前、固有のネットワーク・アドレスまたは固有の VNNAME であることを確認してください。VNNAME 定義の詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1268I *nodename* DEACTIVATION request FAILED: *code*

説明: *request* が、センス・コード *code* で失敗したために、VTAM が *nodename* の非活動化を完了できません。

request の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。*code* はセンス・コードです。*code* の説明については、779 ページの『センス・コード』を参照してください。

nodename がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

システムの処置: *nodename* についての VARY 非活動化処理は、保留されます。ノードは、VTAM に対し使用不能です。

オペレーターの応答: VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを出し、ノードを非活動化してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログと *code* を使用して、問題の原因を判別するヒントにしてください。

IST1269I *command* FOR *nodename* FAILED

説明: VTAM は、*nodename* の *command* の処理が失敗したときに、このメッセージを出します。例えば、処理の継続に使用できるストレージがなかったため、非活動化コマンドが失敗しました。

nodename は、リソースの名前で、NCP か論理装置 (LU) のいずれかの名前です。リソースが LU の場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出します。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答:

- このメッセージの前に IST383I または IST1268I があれば、VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを入力して、リソースを非活動化してください。
- ストレージの問題の場合は、IST561I、IST562I、IST563I、IST564I、IST565I または IST566I がこのメッセージの前に出されて、影響を受けたストレージのタイプを示している場合があります。

メッセージ IST467I が接続エラー・タイプ 5 と共に表示された場合は、追加情報についてそのメッセージの「プログラマーの応答」を参照してください。

VTAM バッファ・プールに使用されているストレージと、システム GETVIS 域 (SGA) に関する情報を表示するには、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

プログラマーの応答: ストレージ問題の場合は、開始プロシージャに指定したように、以下の開始オプションをオペレーターが入力したことを確認してください。

- バッファ・プール
- SGA

VPBUF バッファ・プールに必要なストレージの量を、少なく見積もりすぎた可能性があります。

必要に応じてストレージを増やしてください。ストレージ不足エラーの場合は、バッファ・プールまたは CSA 開始オプションを再定義してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用しても開始オプションを修正できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を修正し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

「VTAM Operation」を参照してください。「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

ダンプの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。外部トレースが活動状態である場合、VIT 分析ツールを使用してストレージを分析する方法については、VTAM Diagnosis を参照してください。

IST1270I *command FAILED - nodename NOT ACTIVE*

説明: *nodename* が非活動状態のために *command* が失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

次のいずれかの状況が発生したと思われる。

- *nodename* に対して強制非活動コマンドが出されたが、リソースはすでに非活動状態である。
- *nodename* に強制再活動化コマンドが出されたが、活動化処理がそれほど進まなかった。

nodename がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

システムの処置: VTAM は *command* の処理を停止します。

オペレーターの応答: 正しいノードに対してコマンドを出したかどうかを、確認してください。ノードが正しければ、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログを参考にして、問題を訂正してください。エラー状態を訂正したら、オペレーターにコマンドを再入力するように依頼してください。

IST1271I *command2 FOR nodename SCHEDULED BY command1*

説明: VTAM は、*command2* が *nodename* に対してスケジュールされたときに、このメッセージを出します。*command1* が、*command2* のスケジュールングの責任を果たします。例えば、周辺ノードの明示的な非活動化は、そのノードの LU の暗黙的な非活動化となります。

command1 および *command2* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

nodename がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

システムの処置: *command2* の処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1272I *command nodename CONTINUES - name UNDEFINED*

説明: *command* の処理中に、VTAM は以下の理由のいずれかのため、*name* を *nodename* の一部として定義できないと判断しました。

- 隣接制御点 *name* が、有効なノード・タイプではない。
- NCP フレーム・リレー交換装置設定 (FRSESET) *name* が、このドメイン内の別の FRSESET と同じ名前である。
- リソース *name* に以下のいずれかのエラーがある。
 - *name* がこのドメインにある別のリソースと同じ名前を持っている。
 - *name* がこのドメインにある別のリソースと同じネットワーク・アドレスを持っている。

- *name* がこのドメインにある別のリソースと同じ CPNAME の値を持っている。
 - *name* がこのドメインにある別のリソースと同じ LUALIAS の値を持っている。
 - *name* が、このドメイン内の別のリソースと同じ値を、IDBLK と IDNUM に持っている。
 - *name* が NCP 大ノード定義にあり、NCP 大ノード定義と同じ SUBAREA アドレスを使用する CDRM 定義である。
 - *name* がこのドメインにある PU で CPNAME の値と一致する VNNAME の値を持っている。
 - *name* が VN=YES を指定していない ADJCP を指す VNNAME の値を持っている。
- 要求を処理するためのストレージが使用できない。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

name がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *name* を発行します。システムの処置: *command* の処理は継続されますが、ただし、VTAM は *name* を使用できません。

オペレーターの応答:

- これは通常、定義エラーです。重複している名前を検査するには、*name* に DISPLAY ID コマンドを入力してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。
- 定義エラーを検出できない場合は、DISPLAY BFRUSE コマンドを入力して、ストレージが不足していないかを調べてください。メッセージ IST981I には、すべての VTAM 専用ストレージについての情報も表示されます。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。MAP コマンドを実行して、表示された出力を保管してください。

このメッセージは、セッション引き継ぎ処理中に出された可能性があります。セッション引き継ぎ問題の説明については、「VTAM Diagnosis」の共通 APPN 問題の項を参照してください。

プログラマーの応答:

- 定義にエラーがあるために定義が失敗したのであれば、システム・ログを参考にして、問題を訂正してください。NCP と VTAM 定義ステートメントに重複するオペランドがある場合に、同時に両方のリソースを定義するのであれば、重複するステートメントの一方または両方を変更してください。この問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」の共通 APPN 問題に関する項を参照してください。VNNAME 定義の詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- ストレージ不足のために定義が失敗した場合は、VTAM 区画に対して必要な量だけストレージの量を増やしてください。
 - VTAM のストレージ要件を判別するには、*Estimating Storage for VTAM* プログラムを使用してください。

- 追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。
- ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1273I *command2 nodename FAILED: command1 PENDING*

説明: *command1* を処理すると、VTAM は *nodename* に出される *command2* を拒否します。これは、*command1* が *command2* よりも優先されるためです。例えば、VARY REL コマンドを処理してから、同じノードに VARY INACT を出しても失敗します。

command1 および *command2* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

nodename がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

システムの処置: *command1* の処理は続けますが、VTAM は *command2* を拒否します。

オペレーターの応答: DISPLAY コマンドを使用して、*command1* の処理をモニターしてください。 *command1* の処理が完了したときに、必要なコマンドを入力して、希望するネットワーク構成または装置の状況を完了してください。

上記の例で、*nodename* をネットワークの一部として活動化したい場合は、*nodename* に対して VARY ACQ コマンドを出し、次に *nodename* に対して VARY ACT コマンドを出してください。

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: システム・ログを調べて、問題を起こした一連のコマンドを判別してください。

IST1274I *command minornode FAILED: highernode NOT ACTIVE*

説明: VTAM はノード *minornode* (論理装置、物理装置、物理装置タイプ 4、またはリンク) を活動化する *command* を入力したときに、このメッセージを出します。高位ノード *highernode* が活動状態ではないために、コマンドが失敗しました。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

minornode とは、論理装置、物理装置 (デバイスまたは通信コントローラー) またはリンクのことです。

- *minornode* が論理装置の場合、*highernode* は物理装置です。VTAM は *minornode* を *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出します。
- *minornode* が物理装置 (デバイスまたは通信コントローラー) の場合、*highernode* はリンクです。
- *minornode* がリンクの場合、*highernode* は、回線グループに対する GROUP 定義ステートメントの PHYRSC オペランドに指定された物理装置です。

highernode は *minornode* を活動化する前に活動していなければなりません。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *highernode* に VARY ACT コマンドを入力してから、*minornode* を活動化してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1275I *operand IGNORED ON command nodename*

説明:

説明: *command* に指定したリソース *nodename* に無効な *operand* を入力したときに、VTAM はこのメッセージを出します。

command の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

nodename がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *nodename* を発行します。

システムの処置: *command* の処理は続行されますが、VTAM は *operand* を無視します。

オペレーターの応答: コマンドを再入力する必要はありません。そのコマンドを次に使用する場合は、「VTAM Operation」を参照して、コマンドに対する有効なオペランドを調べてください。

プログラマーの応答: なし。

IST1276I *cdrsname status CDRM = cdrmname*

説明: このメッセージは、VTAM がクロスドメイン・リソースへの DISPLAY コマンドの応答に出す、メッセージ・グループの一部です。これは以下のいずれかの応答です。

- CDRSC 大ノードを指定する DISPLAY ID コマンド
- このドメインに対して定義された、クロスドメイン・リソースについての情報を要求する DISPLAY CDRSCS コマンド。

メッセージは、リソース名 *cdrsname*、*cdrsname* の状況、および制御 CDRM *cdrmname* の名前をリストします。CDRM が使用可能でなければ、*cdrmname* は *****NA***** になります。

VTAM は *cdrsname* を *netid.name* の形式のネットワーク修飾名として出します。

VTAM は、この大ノードまたはドメイン内のクロスドメイン・リソースをすべてリストするために必要な回数だけ、このメッセージを繰り返します。 *status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1277I *commandinfo* [*statementname*] *action resource*
 [TO *toname*] [FROM *fromname*] FAILED

説明: このメッセージは、動的再構成、または動的変更が失敗したことを示すために、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。以下のいずれかのコマンドが原因で失敗しました。

MODIFY DR コマンド
 VARY ACT コマンド
 VARY DRDS コマンド

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

1. MODIFY DR コマンド

```
IST1277I MODIFY DR action resource
      [TO toname] FROM fromname FAILED
IST523I REASON = reason
IST314I END
```

IST1277I

- このメッセージ・グループでは、*commandinfo* は必ず **MODIFY DR** になります。
- action* は以下のコマンド・タイプです。
 - DELETE** は、物理装置、または論理装置の削除です。
 - MOVE** は、物理装置と、その関連 LU の移動です。
- resource* はコマンドによって影響を受ける物理装置、または論理装置の名前です。リソースが論理装置の場合、VTAM は *netid.name* の形式で、ネットワーク修飾名として *resource* を出します。
- toname* は、PU が移動される先の回線の名前で、*action* が、**MOVE** の場合にのみ、表示されます。
- fromname* は PU が移動、または削除される元の回線の名前、または LU が削除される元の PU の名前です。

IST523I

このメッセージは、失敗の理由を説明します。 *reason* の可能な値は、このメッセージの説明の後の方で説明されます。

2. VARY DRDS コマンド

```
IST1277I DR drname [statementname] action resource
      [TO toname]
      [FROM fromname] FAILED
IST523I REASON = reason
IST368I FUNCTION GROUP functiongroup FAILED
IST314I END
```

IST1277I

- このメッセージ・グループでは、*commandinfo* は必ず **DR drname** になります。 *drname* は、再構成定義ステートメントを含む、動的再構成データ・セット名です。
- statementname* は、指定された場合、失敗した特定の定義ステートメントです。
- action* は、以下のいずれかの定義ステートメントです。
 - ADD** は、物理装置、または論理装置の追加です。
 - DELETE** は、物理装置、または論理装置の削除です。
 - MOVE** は、物理装置と、その関連 LU の移動です。

- resource* は、定義ステートメントの影響を受けた物理装置または論理装置の名前です。リソースが論理装置の場合、VTAM は *netid.name* の形式で、ネットワーク修飾名として *resource* を出します。
- toname* は PU の移動先または追加先の回線の名前、あるいは LU が追加される PU の名前です。 *toname* は、*action* が **MOVE**、または **ADD** の場合にのみ、表示されます。
- fromname* は PU が移動、または削除される元の回線の名前、または LU が削除される元の PU の名前です。 *fromname* が表示されるのは、*action* が **MOVE** または **DELETE** の場合だけです。

IST523I

このメッセージは、失敗の理由を説明します。 *reason* の可能な値は、このメッセージの説明の後の方で説明されます。

IST368I

このメッセージは、失敗した動的再構成データ・セットの特定の定義ステートメントを示します。 *functiongroup* は、失敗した定義ステートメントの VARY DRDS デックにある **ADD**、**DELETE**、または **MOVE** 定義ステートメントにある名前です。

3. VARY ACT コマンド

```
IST1277I DR drname [statementname] action resource
      [TO toname] [FROM fromname] FAILED
IST523I REASON = reason
IST314I END
```

IST1277I

- このメッセージ・グループでは、*commandinfo* は必ず **VARY ACT** になります。
- statementname* は、VARY ACT コマンドの ID オペランドに指定された大ノード名です。
- action* は以下のいずれかで、障害が発生した場合に実行される処置です。
 - ADD** は、物理装置、または論理装置の追加です。
 - CHANGE** は、オペランド値の変更です。
 - DELETE** は、物理装置、または論理装置の削除です。
 - MOVE** 物理装置とそれに関連する LU の移動、または論理装置の移動を行います。
- resource* はコマンドによって影響を受ける物理装置、または論理装置の名前です。リソースが論理装置の場合、VTAM は *netid.name* の形式で、ネットワーク修飾名として *resource* を出します。
- toname* は、PU の移動先または追加先の回線の名前、あるいは LU の移動先または追加先の PU の名前です。 *toname* が表示されるのは、*action* が **MOVE** または **ADD** の場合だけです。
- fromname* は、PU が移動または削除される回線の名前、または LU が移動または削除される PU の名前です。 *fromname* が表示されるのは、*action* が **MOVE** または **DELETE** の場合だけです。

IST523I

このメッセージは、失敗の理由を説明します。 *reason* に表示される可能性のある値を、以下に示します。

各メッセージ・グループの 2 番目のメッセージは IST523I であり、このメッセージが障害の理由を説明します。 *reason* は次のいずれかです。

DUPLICATE STATION ID

交換 PU に対して、IDBLK または IDNUM の DR CHANGE を実行しようとしたが、その結果のステーション ID がネットワーク内で固有のものではありませんでした。

DR DELETE INVALID FOR INDEPENDENT LU

独立 LU に DR DELETE を実行しようとしたが、この LU は FROM オペランドに指定された隣接リンク・ステーションには関連していませんでした。これは無効な要求です。

DR NOT SUPPORTED

リソースに対して DR 機能を実行しようとしたが、このリソースが NCP ではないか、または NCP のレベルが DR または DR のこの機能をサポートするものではありません。

INSUFFICIENT STORAGE

VTAM が、DR 操作中にストレージを割り振ることができませんでした。

INVALID MACRO

定義ステートメントが読み取られましたが、これはこのタイプの定義デッキでは無効なメンバーです。例えば、GROUP 定義ステートメントは、DR デッキでは無効なメンバーです。

INVALID NAME

functiongroup が、PU または LU 定義ステートメントに対して無効です。

INVALID PARAMETER

無効な、または許可されないオペランドが、定義ステートメントに見つかりました。

INVALID RESOURCE CURRENT STATE

リソースを移動するか削除しようとしたが、現在の状況では不可能です。リソースは非活動、リセット、解放、または定義された状況でなければなりません。

INVALID RESOURCE TYPE

動的再構成が許されないリソースに対して、移動、または削除を試みました。DR ADD、DELETE および MOVE は、SNA タイプ 1、2、または 2.1 の PU と、その従属 LU に対して、および従属 LU といくつかの独立 LU に対して実行することができます。

INVALID TO/FROM RESOURCE TYPE

動的再構成を許可していないターゲット・リソースに対して、リソースの追加、削除、またはその間の移動を試みました。PU を回線に、または LU を PU に DR ADD することが許可されています。DR DELETE は、回線と PU からの場合に許可されます。DR MOVE は、回線と PU の間に対して許可されます。

INVALID VALUE

定義ステートメントのオペランドにコーディングされている値が無効です。

INVALID VALUE FOR ADDR

ADDR オペランドについて、PU 定義ステートメントに

コーディングされた値が、すでに目的の回線の PU ADDR で指定されていて、重複していることが見つかりました。

MACRO SEQUENCE ERROR

DR 定義デッキに含まれている定義ステートメントの順序が、正しくありません。回線ターゲットの後には PU、PU 定義ステートメントの後には LU がなければなりません。PU 定義ステートメントは、回線への追加、回線間の移動、回線からの削除の後に、続けなければなりません。LU 定義ステートメントは、PU への追加、PU への移動、PU からの削除の後に、続けなければなりません。

MISSING MACRO

DR デッキに、定義ステートメントがありません。VBUILD 定義ステートメントは必須です。ヌルの定義デッキは、無効です (VBUILD 定義ステートメントの後にもない)。ヌルの機能のグループは、無効です (機能グループに PU、または LU 定義ステートメントがない)。

MISSING NAME ON PU OR LU MACRO

DR 定義デッキ内の PU または LU ステートメントに名前がコーディングされていません。追加中、削除中または移動中のすべての PU および LU リソースに、名前が必要です。

MISSING PARAMETER

DR 定義デッキ内の定義ステートメントに、必要なオペランドがありませんでした。

NO RESOURCES FOUND UNDER FROM LINE/PU

DR DELETE または DR MOVE 機能が要求された回線、または PU リソースは、リソースを持っていません。

PUTYPE CANNOT BE CHANGED DYNAMICALLY

指定されたリソースの PUTYPE の値を変更しようとした。

RESOURCE NOT FOUND WHERE SPECIFIED

指定されたターゲット *fromname* の下には存在しないリソースを削除または移動しようとした。

SYNTAX ERROR

DR 定義デッキに構文エラーがあります。

TO/FROM RESOURCE NOT IN SAME NCP

ある NCP 側の回線と、別の NCP 側の回線との間で PU、または LU を、DR MOVE しようとした。

TO/FROM RESOURCE UNKNOWN

存在しないターゲットに、リソースを追加または移動しようとしたか、あるいは存在しないターゲットから、リソースを削除または移動しようとした。

システムの処置:

- MODIFY DR の場合、コマンドの処理は終了します。
- VARY DRDS の場合、IST368I に指定された *functiongroup* は処理されません。DR データ・セット *dname* の他の機能グループは、処理されます。
- VARY ACT の場合、*resource* が PU でない限り、残りの定義ステートメントは処理されます。その場合、*resource* に従属する LU は処理されません。

オペレーターの応答: メッセージ IST886I で示されたリソース *resource* に DISPLAY コマンドを入力してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

reason が **INSUFFICIENT STORAGE** の場合は、**DISPLAY BFRUSE** コマンドを入力してください。問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答: オペレーターからの報告を参考にして、出されたコマンドと定義ステートメント (該当する場合) を訂正してください。

reason が **INSUFFICIENT STORAGE** であれば、ストレージを必要だけ大きくしてください。ストレージ不足エラーの場合は、バッファ・プールまたは CSA 開始オプションを再定義してください。MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して開始オプションを変更できない場合は、VTAM 開始オプション・ファイル (ATCSTRxx) を変更し、VTAM を再始動して、新しい開始オプションを使用してください。

「VTAM Operation」を参照してください。「VTAM Diagnosis」に、追加情報があります。

IST1278I *runame FROM fromnetid TO tonetid FOR
fornodename*

説明: このメッセージは VTAM が出すメッセージ・グループの一部で、対応する応答単位が受信されるまで要求単位 (RU) *runame* がノード *fornodename* で保留される場合に出されず。グループの最初のメッセージは IST1436I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1279I *resourcename NOT UPDATED, operand AND
CDRSC CONFLICT*

説明: CPNAME または NETSRVR オペランドに指定されたリソースと同じ名前を持つ CDRSC 大ノードに対して、MODIFY DIRECTRY,UPDATE コマンドが処理されると、VTAM はこのメッセージを出します。

CPNAME または NETSRVR オペランドに指定されたリソースは、更新中の CDRSC と同じ名前にはできません。CPNAME または NETSRVR オペランドに無効な値が入力されたか、または CDRSC の定義が間違っています。

resourcename は、*netid.name* の形式で、更新中の CDRSC のネットワーク修飾名です。

operand は CPNAME または NETSRVR で、コマンドに指定されたオペランドを識別します。

システムの処置: CDRSC *resourcename* は更新されません。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: CPNAME または NETSRVR オペランドに指定されたリソースが正しいことを検査して、コマンドを再入力してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 定義ライブラリーを調べて、CDRSC 定義が正しいことを確認してください。必要であれば、所有 CP やネットワーク・ノード・サーバーとして定義できるように、CDRSC 定義を変更してください。

IST1280I **SESSION TYPE = *sessiontype* - SENSE =
code**

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。メッセージ・グループの最初のメッセージは、IST1110I または IST1097I です。詳しくは、該当するメッセージの説明を参照してください。

IST1281I *luname ON command MUST BE NETWORK
QUALIFIED*

説明: VTAM は、MODIFY *command* への応答としてこのメッセージを出します。*luname* とセッション中のアプリケーション・プログラムがネットワーク修飾名を使用しているため、*luname* もネットワーク修飾名でなければなりません。

luname は、MODIFY コマンドに指定された論理装置の名前です。

command は入力された MODIFY コマンドで、F CNOS または F DEFINE です。

システムの処置: コマンドは失敗しました。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答:

- *netid.luname* に指定された通りに、要求されたネットワーク修飾名を指定して、MODIFY コマンドを再入力してください。
- ネットワーク ID が認識されていない場合、LUNAME オペランドに *luname* を指定して、DISPLAY,CNOS コマンドまたは DISPLAY,CONVID コマンドを入力してください。VTAM は、アプリケーション・プログラムと各論理装置のネットワーク ID に関連する、指定された名前をもつすべての論理装置を表示します。

プログラマーの応答: なし。

IST1282I **MESSAGE FROM *exitname* IN *modulename***

説明: 出口 (例えばセッション管理出口の ISEXCAA) が、VTAM 出口サービスを呼び出して、システム・コンソールにメッセージを出す場合に、VTAM はこのメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

注: メッセージ IST1405I を出そうとしたときに VTAM がエラーを見つけると、メッセージ IST1455I が出されることがあります。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

```
IST1282I MESSAGE FROM exitname IN modulename
IST1405I      data
:
:[IST1405I    data]
IST314I      END
```

IST1282I

exitname は ISEXCAA のような出口の CSECT 名で、メッセージのテキストを提供します。

modulename は、出口 *exitname* を含むロード・モジュールの名前です。

IST1405I

data は *exitname* が提供する最大 56 文字のテキストです。
exitname が提供するすべてのテキストが表示されるまで、IST1405I メッセージが表示されます。1 つのメッセージ・グループに表示されるテキストの最大量は、4096 文字です (IST1405I メッセージなら、約 74 個分です)。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージ・グループのテキストをすべて保管して、問題を判別してください。

プログラマーの応答: *data* について質問があれば、*exitname* の作成者に連絡してください。*exitname* については、「VTAM Customization」を参照してください。

IST1283I MODIFY USERVAR COMMAND COMPLETE

説明: このメッセージは VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージで、USERVAR が事前に定義されている場合に MODIFY USERVAR コマンドが出されると、このメッセージが出されます。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

注: 以下のメッセージはパーコレートされています。追加情報については、451 ページの『メッセージ・パーコレーション』を参照してください。

1. MSGLVL=V4R1|V4R2 が指定される場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST1283I MODIFY USERVAR COMMAND COMPLETE
[IST1150I uservar CHANGED: value1 TO value2]
[IST1030I USERVAR EXIT IS exitname]
[IST973I USERVAR uservar {CLASS HAS BEEN
CHANGED FROM AUTO TO USER}
TYPE HAS BEEN CHANGED FROM type TO
type}]
IST314I END
```

2. MSGLVL=BASE が指定されるか、またはデフォルトとして取られると、以下のメッセージ・グループが表示されません。

```
IST1283I MODIFY USERVAR COMMAND COMPLETE
[IST813I USERVAR uservar CHANGED FROM value1
to value2]
[IST1030I USERVAR EXIT IS exitname]
[IST973I USERVAR uservar {CLASS HAS BEEN
CHANGED FROM AUTO TO USER}
TYPE HAS BEEN CHANGED FROM type TO
type}]
IST314I END
```

MSGLEVEL 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。USSMSG マクロ命令の MSGLVL オペランドについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST813I

ネットワーク修飾名が表示されない場合、*uservar* の値が変更されると VTAM はこのメッセージを出します。

value1 は、*uservar* の元の値です。

value2 は、*uservar* の新しい値です。

その後の *uservar* へのセッション要求は、*value2* に指定されているアプリケーションに送られます。

IST973I

- 以下のいずれかが発生した場合、VTAM はこのメッセージを出します。

- **CLASS HAS BEEN CHANGED FROM AUTO TO USER**

VTAM によって自動的に管理されていた USERVAR に対して MODIFY コマンドが入力されたため、クラスがユーザー管理に変更されました。

注: VTAM が、この USERVAR の更新や削除を管理することはもうありません。

- **TYPE HAS BEEN CHANGED FROM type TO type**

ユーザー管理 USERVAR のタイプが変更されました。
type は **STATIC**、**DYNAMIC**、または **VOLATILE** です。

IST1030I

USERVAR 出口が *uservar* に関連する場合、VTAM はこのメッセージを出します。

exitname は、USERVAR 出口ルーチンの名前です。

USERVAR 出口が定義されていない場合、VTAM はこのメッセージを出しません。

IST1150I

ネットワーク修飾名が表示される場合、*uservar* が変更されると、VTAM はこのメッセージを出します。

value1 は、*uservar* の元の値です。事前の MODIFY コマンドでネットワーク修飾名が入力されていた場合、VTAM は *netid.name* の形式で、ネットワーク修飾名として *value1* を出します。

value2 は、*uservar* の新しい値です。現在の MODIFY コマンドでネットワーク修飾名が入力された場合、VTAM は *netid.name* の形式で、ネットワーク修飾名として *value2* を出します。

その後の *uservar* へのセッション要求は、*value2* に指定されているアプリケーションに送られます。

IST1283I

このメッセージは、MODIFY USERVAR コマンドが正常に完了したことを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1284I LUALIAS lualias IS nodename FOR APPLICATIONS

説明: このメッセージは、VTAM が以下のコマンドに応答して出すメッセージ・グループの一部です。

- DISPLAY ID コマンド (ID オペランドに指定されたリソース名が、LUALIAS の名前である場合)
- DISPLAY SESSIONS コマンド (コマンドに指定された LU 名のいずれか、または両方が LUALIAS として定義されている場合)

グループの最初のメッセージは IST075I です。

lualias は、リソース *nodename* に定義された LUALIAS 名です。

nodename は、クロスドメイン・リソース (CDRSC) のネットワーク修飾名で、*netid.name* の形式です。

nodename が、メッセージ IST075I に表示されているのと同じリソースを識別しない場合、名前 *lualias* を使用しても、必ず同じリソースを識別するとは限りません。

例えば、名前 *lualias* を使用するこのドメインのアプリケーション・プログラムは *nodename* を識別します。ただし、名前 *lualias* を使用する他の論理装置とオペレーター・コマンドは *nodename* を識別しませんが、IST075I に表示されるリソースは識別します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *nodename* (このメッセージでの) が、メッセージ IST075I に表示されているのと同じリソースを識別しない場合、システム・ログを保管して問題を判別してください。

プログラマーの応答: *nodename* (メッセージでの) が、メッセージ IST075I に表示されているのと同じリソースを識別しない場合、この名前はすでにリソースの実名になっているので、*nodename* の LUALIAS を名前変更してください。

IST1285I ADDRESS FOR *cdrsname* DELETED FROM *alsname*

説明: アドレス不一致のエラーが発生すると、VTAM はこのメッセージを出します。VTAM は、隣接リンク・ステーション *alsname* で生成されたクロスドメイン・リソース *cdrsname* を削除しようとしています。このメッセージは、*cdrsname* が削除されたことを示します。

alsname の PU が見つからない場合、VTAM は *****NA***** を出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1286I SHADOW PROCESSING FAILED, *majornode* - *minornode* RESET

説明: このメッセージは、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージで、シャドー・リソース (*minornode*) の持つ、LUALIAS 名が、他の活動状態のリソースと同じであるために活動化できない場合に、このメッセージが出されます。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST1286I SHADOW PROCESSING FAILED, *majornode* - *minornode* RESET

IST1287I FAILURE REASON IS LUALIAS *lualiasname* ALREADY IN USE

IST314I END

IST1286I

majornode は、小ノード *minornode* を含む大ノードの名前です。

minornode は、リソースのネットワーク修飾名で、LUALIAS 名が重複しているためにリセット状態になっています。

IST1287I

lualiasname は、重複する LUALIAS 名です。

システムの処置: VTAM はシャドー・リソース *minornode* を削除し、リセットの状態にします。その他の処理を続行します。

オペレーターの応答: *minornode* を活動化したい場合、定義された LUALIAS 名の指定された活動中のリソースを非活動化してください。それから大ノード *majornode* を非活動化してから再び活動化してください。

必要でない場合、処置は不要です。*minornode* はリセット状態となり、LUALIAS 名の指定された活動中のリソースは、活動状態のままになります。

プログラマーの応答: LUALIAS 名が固有であることを確認してください。シャドー・リソースについては、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST1287I FAILURE REASON IS LUALIAS *lualiasname* ALREADY IN USE

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1286I です。詳しい説明については、そのメッセージを参照してください。

IST1288I TOPOLOGY DATASET RETRIEVAL WAS NOT SUCCESSFUL, CODE = *code*

説明: 事前に保管されたデータ・セットから、トポロジー・データを正常に読み取れない場合、VTAM はこのメッセージを出します。

このメッセージは主に情報として出されるもので、処理能力が下がることを示す訳ではありません。VTAM を開始する度にこのメッセージが表示される場合、最初のいくつかのセッションをセットアップするのに多少時間がかかることを示しています。

code はエラーの原因を示し、以下のいずれかになります。

コード エラー

- | | |
|----|---|
| 1 | ストレージが不足しています。 |
| 2 | ディスク・ファイルが定義されていません。 |
| 4 | ディスク入出力エラーが発生しました。このエラーは、このメッセージの前に出される別のメッセージで報告されます。 |
| 8 | データ・セット・リカバリー・タスクが異常終了しました。このメッセージが出されると、これ以上データ・セットのリカバリー処置は行われません。 |
| 9 | 事前に保管したデータ・セットが不完全です。 |
| 10 | データベースからトポロジーをリカバリーしようとしたところ、トポロジーおよびルーティング・サービス・タスクが異常終了しました。 |
| 11 | トポロジーおよびルーティング・サービス・データ・セットが見つかりましたが、名前が重複するために、データ・セットは無視されます。 |
| 12 | VTAM 4 版ではサポートされない形式でデータ・セットが保管されたために、トポロジーおよびルーティング・サービス・データ・セットは無視されます。 |

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答:

コード エラー

1 ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST98II は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。このメッセージが表示されない場合、NUM オペランドにより高い値を指定して、DISPLAY STORUSE コマンドを出し直してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

2、9、11、12

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

4、8、10

問題判別のためにシステム・ログを保管し、ダンプを要求してください。

プログラマーの応答:

コード エラー

1 必要に応じてストレージを増やしてください。

「VTAM Operation」を参照してください。ダンプの分析方法、および VIT 分析ツールを使用したストレージの分析方法については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

2 欠落したディスク・ファイル TRSDB を定義してください。詳細については、該当する順次アクセス方式の資料と「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

4 詳細については、該当する順次アクセスの方法についての資料を参照してください。

8 詳細については、該当する順次アクセスの方法についての資料を参照してください。

9 直前の VTAM チェックポイントの段階では、IST1122I に示された早期の問題を訂正する処置が取られなかったことを、このコードは示しています。最後に出した MODIFY CHKPT コマンドのシステム・ログを調べて、メッセージ IST1122I に記された情報を検討してください。

10 システム・ダンプの内容を検討して、問題を判別するための正しい処置を判別してください。

11 データ・セットが異なる制御点名で保管されたために、使用できないことを、このコードは示しています。VTAM はデータ・セットを読み取りませんが、書き込みはします。次回に MODIFY CHKPT コマンドが入力されると、古いデータ・セットは新しいデータ・セットに置換されます。

12 このコードは、VTAM 第 4 版ではサポートされない形式のために、データ・セットを使用できないことを示します。次に MODIFY CHKPT コマンドが入力されると、そのデータ・セットは再形式設定され、使用できるようになります。

IST1289I FRSESET *frsesetname* PHYSICAL UNITS:

説明: このメッセージは VTAM が出すメッセージ・グループの一部で、フレーム・リレー交換装置セット (FRSESET) または NCP フレーム・リレー物理装置に出された DISPLAY ID コマンドに応答して出されます。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

1. FRSESET ステートメントがコーディングされている場合、以下のメッセージ・グループが出されます。

```
IST075I NAME = frsesetname, TYPE = STATIC FRSESET
IST1289I FRSESET frsesetname PHYSICAL UNITS:
IST080I primary_pu1 status primary_pu2 status
[IST080I [backup_pu1
status] [backup_pu2 status]]
IST314I END
```

2. VARY ACT,UPDATE=ALL コマンドを使用して、FRSESET ステートメントが動的に追加されている場合は、以下のメッセージ・グループが出されます。

このメッセージ・グループの 2 番目のメッセージは、IST1290I、IST1291I、IST1292I、または IST1294I のいずれかで、FRSESET が NCP に送信されているかどうかを示されます。

```
IST075I NAME = frsesetname, TYPE = DYNAMIC
FRSESET
[IST1290I FRSESET HAS BEEN SUCCESSFULLY SENT
TO NCP ncpname]
[IST1291I FRSESET WILL BE SENT TO THE NCP
DURING PU ACTIVATION]
[IST1292I FRSESET WILL NOT BE SENT TO THE NCP
DUE TO DEFINITION ERROR]
[IST1294I FRSESET HAS BEEN SENT TO NCP ncpname
BUT FAILURE OCCURRED]
IST1289I FRSESET frsesetname PHYSICAL UNITS:
IST080I primary_pu1 status primary_pu2 status
[IST080I [backup_pu1
status] [backup_pu2 status]]
IST314I END
```

3. NCP フレーム・リレー物理装置について表示する場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST075I NAME = puname, TYPE = PU_T1
IST486I STATUS = currentstatus, DESIRED STATE =
desiredstate
IST081I LINE NAME = linename, LINE GROUP =
linegroup, MAJNOD = majnode
IST1289I FRSESET frsesetname PHYSICAL UNITS:
IST080I primary_pu1 status primary_pu2 status
[IST080I [backup_pu1
status] [backup_pu2 status]]
IST654I I/O TRACE = {ON|OFF}, BUFFER TRACE =
{ON|OFF}
IST355I LOGICAL UNITS:
IST080I nodename1 status1 nodename2 status2
nodename3 status3
IST314I END
```

IST075I

メッセージ・グループ 1 および 2 では、NCP *frsesetname* はコマンドの ID オペランドに指定されたフレーム・リレー交換装置セット (FRSESET) の名前です。

メッセージ・グループ 3 では、*puname* はコマンドの ID オペランドに指定された物理装置の名前で、PU タイプは必ず 1 になります。

IST080I

IST1289I の後にこのメッセージが続いて出される場合、FRSESET *frsesetname* に定義された 1 次物理装置とバックアップ物理装置の名前を表示します。

バックアップ PU は任意指定で、1 つまたは両方のバックアップ PU を指定することができます。指定されるバックアップ PU が 1 つの場合、VTAM は指定されたバックアップ PU の名前と状態を表示し、その他のフィールドはブランクになります。バックアップ PU が指定されないと、メッセージは表示されません。

primary_pu1 は、FRSESET 定義ステートメントの SUBPORTS オペランドに指定された最初の PU の名前です。

primary_pu2 は、FRSESET 定義ステートメントの SUBPORTS オペランドに指定された 2 番目の PU の名前です。

backup_pu1 (指定された場合) は、FRSESET 定義ステートメントの SUBPORTS オペランドに指定された 3 番目の PU の名前です。*backup_pu1* は、*primary_pu1* のバックアップ PU です。

backup_pu2 (指定された場合) は、FRSESET 定義ステートメントの SUBPORTS オペランドに指定された 4 番目の PU の名前です。*backup_pu2* は、*primary_pu2* のバックアップ PU です。

IST355I の後にこのメッセージが出される場合、*nodename* は論理装置の名前です。

status は、表示されるリソースの状況です。*status* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

IST081I

linename は、*majnode* が接続している回線です。

groupname は、回線 *linename* が属している回線グループです。

majnode は、回線に関連している大ノードです。

IST355I

論理装置とその状況が表示されると、このメッセージは IST080I のヘッダー・メッセージとなります。

IST486I

currentstatus は、リソースの現在の状況です。*currentstatus* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

desiredstate はリソースの要求状態です。*desiredstate* の説明については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。VTAM が要求状態を判別できない場合、***NA*** が表示されます。

IST654I このメッセージは、メッセージ IST075I 内の *puname* に対する入出力トレースが活動しているかどうか、および *puname* に対するバッファ・トレース機能が活動しているかどうかを示しています。

IST1289I

frsesetname は、メッセージ IST075I に表示される FRSESET 定義ステートメントの名前です。

IST1290I

このメッセージにより、FRSESET *frsesetname* が正常に NCP *ncpname* に送信されたことが確認されます。

ncpname は、FRSESET *frsesetname* を受信した NCP の名前です。

IST1291I

このメッセージは、FRSESET *frsesetname* が有効であり、FRSESET 内のすべての PU が肯定 RNAA 応答を受信すると NCP に送信されることを示しています。

IST1292I

このメッセージは、FRSESET *frsesetname* が NCP に送信されないことを示します。FRSESET またはいずれかの PU の定義がエラー状態になっているために、FRSESET が無効です。このメッセージ・グループの前に出されたメッセージに、エラーについての追加情報が提供されています。

IST1294I

このメッセージは、FRSESET *frsesetname* が NCP *ncpname* に送信されていても、障害が発生したために正常に完了できなかったことを示します。

ncpname は FRSESET *frsesetname* を拒否した NCP の名前です。

このメッセージ・グループの前に、メッセージ IST380I または IST1139I が出され、障害の原因についての追加情報が提供されます。

システムの処置: 処理を続行します。

- IST1291I が表示される場合、FRSESET 内のすべての PU が肯定 RNAA 応答を受信すると、FRSESET は NCP に送信されます。
- IST1292I が表示される場合、PU は活動状態になる場合と異なる場合があります。メッセージ IST080I の PU *status* を調べて、これをモニターすることができます。
- IST1294I が表示される場合、VTAM は *frsesetname* 内の PU を非活動化します。

オペレーターの応答: 以下の状況を除いては、不要です。

- IST1291I が表示される場合、FRSESET 中のすべての PU が活動化されていることを確認してください。
- IST1292I または IST1294I が表示される場合、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

IST1290I • IST1295I

プログラマーの応答: 以下の状況を除いては、不要です。

- IST1292I が表示される場合、FRSESET または PU 内の定義のエラーを訂正し、それから動的再構成を使用して FRSESET に新しい PU を追加してください。
- IST1294I が表示される場合、IST380I または IST1139I に示されるセンス・コードによってエラーを訂正し、それから動的再構成を使用して FRSESET に新しい PU を追加してください。

FRSESET 定義ステートメントの詳細については、「NCP, SSP, and EP Resource Definition Reference」を参照してください。

動的再構成については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST1290I FRSESET HAS BEEN SUCCESSFULLY SENT TO NCP *ncpname*

説明: VTAM はこのメッセージをメッセージ・グループの一部として出し、NCP フレーム・リレー交換装置セット (FRSESET) に出される DISPLAY ID コマンドに回答して出します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST1289I の説明を参照してください。

IST1291I FRSESET WILL BE SENT TO THE NCP DURING PU ACTIVATION

説明: VTAM はこのメッセージをメッセージ・グループの一部として出し、NCP フレーム・リレー交換装置セット (FRSESET) に出される DISPLAY ID コマンドに回答して出します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST1289I の説明を参照してください。

IST1292I FRSESET WILL NOT BE SENT TO THE NCP DUE TO DEFINITION ERROR

説明: VTAM はこのメッセージをメッセージ・グループの一部として出し、NCP フレーム・リレー交換装置セット (FRSESET) に出される DISPLAY ID コマンドに回答して出します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST1289I の説明を参照してください。

IST1294I FRSESET HAS BEEN SENT TO NCP *ncpname* BUT FAILURE OCCURRED

説明: VTAM はこのメッセージをメッセージ・グループの一部として出し、NCP フレーム・リレー交換装置セット (FRSESET) に出される DISPLAY ID コマンドに回答して出します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST1289I の説明を参照してください。

IST1295I CP NAME NODETYPE ROUTERES CONGESTION CP-CP WEIGHT

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

1. このメッセージ・グループは、以下のコマンドに回答して出されます。

- DISPLAY,TOPO,ID=*cpname*
- DISPLAY,TOPO,ID=*cpname*, LIST=ADJ
- DISPLAY,TOPO,LIST=CDSERVR
- DISPLAY,TOPO,LIST=ICN
- DISPLAY,TOPO,LIST=VN

```
IST350I  DISPLAY TYPE = TOPOLOGY
IST1295I  CP NAME NODETYPE ROUTERES CONGESTION
          CP-CP WEIGHT
IST1296I  cpname nodetype routeres congestion
          cp-cp weight
:
```

2. このメッセージ・グループは、DISPLAY,TOPO,ID=*cpname*, LIST=ALL コマンドに対する応答として出されます。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = TOPOLOGY
IST1295I  CP NAME NODETYPE ROUTERES CONGESTION
          CP-CP WEIGHT
IST1296I  cpname nodetype routeres congestion
          cp-cp weight
```

```
IST1297I  ICN/MDH CDSERVR RSN
IST1298I  {YES|NO}
          {YES|NO} rsn
```

```
IST1223I  BN NATIVE
IST1224I  {YES|NO} {YES
          |NO}*NA*}
```

```
IST1299I  TRANSMISSION GROUPS ORIGINATING AT CP
          cpname
```

```
IST1357I  CPCP
```

```
IST1300I  DESTINATION CP TGN STATUS TGTYPE
          VALUE WEIGHT
```

```
IST1301I  destcpname tgn status tgtype
          cpcpvalue weight
```

```
:
```

```
IST314I  END
```

3. このメッセージ・グループは、以下のコマンドに回答して出されます。

- DISPLAY,TOPO,ORIG=*cpname*,DEST=*cpname*
- DISPLAY,TOPO,ORIG=*cpname*,TGN=*tgn*

```
IST350I  DISPLAY TYPE = TOPOLOGY
IST1299I  TRANSMISSION GROUPS ORIGINATING AT CP
          cpname
```

```
IST1357I  CPCP
IST1300I  DESTINATION CP TGN STATUS TGTYPE VALUE
          WEIGHT
```

```
IST1301I  destcpname tgn status tgtype cpcpvalue
          weight
```

```
IST1163I  RSN
```

```
IST1164I  rsn
```

```
IST1302I  CAPACITY PDELAY COSTTIME COSTBYTE
```

```
IST1303I  capacity pdelay costtime costbyte
```

```
IST1304I  SECURITY UPARM1 UPARM2 UPARM3
```

```
IST1305I  security uparm1 uparm2 uparm3
```

```
IST314I  END
```

IST1163I

このメッセージは、IST1164I に表示された情報のヘッダー・メッセージです。

IST1164I

rsn は、10 進数で表現された TG *tgn* のリソース・シーケンス番号 (RSN) です。

- リソースの RSN を表示すると、そのリソースについての VTAM の現在の認識情報が提供されます。

- 例えば、2 つの異なる VTAM からリソースを表示したところ、同じリソースの異なる RSN が示される場合、一方の VTAM にはバックレベル情報があることがあります。このような不一致が発生する場合は、問題があることを示している場合があります。

IST1223I

このメッセージは、IST1224I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1224I

BN は、ノードが境界ノードであるかどうかを示します。値は **YES** または **NO** のいずれかです。ノードに使用可能な境界ノード機能があり、ノードに少なくとも 1 つの活動状態のサブネットワーク間リンクがある場合、**BN** の値は **YES** になります。VTAM の場合は VTAM 開始オプションに **BN=YES** とコーディングすることによって、境界ノード機能を使用可能にすることができます。

NATIVE の値は、以下のいずれかです。

YES **BN** は **YES** で、このノードおよび表示を発行するノードは、トポロジー情報を共有するサブネットワークにあります。

NO **BN** は **YES** で、このノードおよび表示を発行するノードは、トポロジー情報を共有するサブネットワークにはありません。

NA **BN** は **NO** です。

IST1295I

このメッセージは、IST1296I に表示された情報ヘッダー・メッセージです。

IST1296I

cpname は、コマンドに指定された制御点 (CP) の名前で、*netid.name* の形式のネットワーク修飾名です。

nodetype は **NODETYPE** 開始オプションに指定された値で、*cpname* のノード・タイプです。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

EN エンド・ノード

NN ネットワーク・ノード

VN 仮想ノード

UNKNOWN が表示される場合、トポロジー・データベースが、*cpname* についての矛盾する情報を受信し、ノードのタイプの判別処理中であることを示します。この状況は一時的なもので、ノードのタイプはすぐに使用可能になります。

routeres は経路抵抗です。これは開始コマンドか、または開始リストに指定されたユーザー定義値で、中間経路で *cpname* を使用する際の望ましい状態を示します。

- 可能な値は 0 から 255 です。値が小さいほど、望ましい状態です。

- *cpname* がエンド・ノードの場合、***NA*** が表示されます。エンド・ノードは中間ルーティングに含まれません。
- **ROUTERES** 開始オプションについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

congestion は *cpname* についてのセッション輻輳 (ふくそう) 情報を提供します。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

NONE *cpname* にはセッションふくそうがないことを示します。

NODE *cpname* がセッション限度にあることを示します。

TDU 大量のトポロジー・データベースの更新トラフィックが、*cpname* への CP-CP セッションでキューイングされていることを示しています。

NODE/TDU

cpname がセッション限度にあることを示し、また大量のトポロジー・データベースの更新トラフィックが *cpname* への CP-CP セッションでキューイングされていることを示しています。

NA *cpname* がエンド・ノードであることを示します。エンド・ノードは中間ルーティングに含まれません。

TDU および **NODE/TDU** は、以下の両方が当てはまる場合にだけ表示されます。

- **LIST=ADJ** がコマンドに指定されている
- コマンドの ID オペランドに指定されたノードが、コマンドの入力されるノード (ホスト・ノード) である。

cp-cp は、CP-CP セッションが活動中であるかどうかを示します。表示される可能性のある値は、***NA***、**YES**、または **NO** です。***NA*** が表示されるのは、*cpname* が仮想ノードである場合、または *cpname* がコマンドを出しているノードである場合です。

weight は、VTAM がノードとサービス・クラス (COS) 定義を使用して計算した、*cpname* の実際の重みを表します。ノードが操作不能である場合、または **DISPLAY TOPO** コマンド内の **APPNCOS** パラメーターで指定された COS 要件に一致しない場合、32767 の値が表示されます。

- *cpname* の重みは、経路選択処理においてどの程度のリソースを選択すべきかを測る尺度となるもので、0 から 255 または 32767 です。
- **APPN** サービス・クラス定義のコーディング方法については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1297I

このメッセージは、IST1298I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1298I

ICN/MDH は、*cpname* が交換ノード (ICN) であるか、移行データ・ホスト (MDH) であるかを示します。表示される可能性のある値は、**YES** または **NO** です。

IST1295I

- *cpname* は、NODETYPE 開始オプションに NN が指定されていて、HOSTSA が指定されていれば、交換ノードです。
- *cpname* は、NODETYPE 開始オプションに EN が指定されていて、HOSTSA が指定されていれば、移行データ・ホストです。

CDSERVR は、*cpname* が中央ディレクトリー・サーバーであるかどうかを示し、**YES** または **NO** のいずれかです。

rsn は、*cpname* のリソース・シーケンス番号 (RSN) で、10 進数で表されます。

- リソースの RSN を表示すると、そのリソースについての VTAM の現在の認識情報が提供されます。
- 例えば、2 つの異なる VTAM からリソースを表示したところ、同じリソースの異なる RSN が指示される場合、一方の VTAM にはバックレベル情報があることがあります。このような不一致が発生する場合は、問題があることを示している場合があります。

IST1299I

このメッセージは、CP *cpname* に表示された情報のヘッダー・メッセージです。

IST1300I

このメッセージは、IST1301I に表示された情報のヘッダー・メッセージです。

IST1301I

destcpname は、TG 宛先の CP 名で、*netid.name* 形式のネットワーク修飾名です。

tgn は TG 番号です。可能な値は 0 から 255 です。

status は TG の現行の値で、**OPER** (操作可能)、**INOP** (操作不能)、または **QUIES** (静止状態) です。

tgtype は **ENDPT VRTG** (端点)、**INTERM VRTG** (中間ルーティング)、または **INTERCLUST** (中間クラスターまたは中間サブネットワーク・リンク) です。

cpcpvalue は、この接続が CP-CP セッションをサポートするかどうかを示します。

weight は、VTAM が TG、TG プロファイル、およびサービス・クラス (COS) 定義を使用して計算した TG *tgn* の実際の重みを表します。TG が操作不能である場合、または **DISPLAY TOPO** コマンド内の **APPNCOS** パラメーターで指定された COS 要件に一致しない場合、32767 の値が表示されます。

- TG *tgn* の重みは、経路選択処理においてどの程度のリソースを選択するべきかを測る尺度となるもので、0 から 255 または 32767 です。

- TG プロファイルのコーディング方法および APPN サービス・クラス定義のコーディング方法の詳細については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST1302I

このメッセージは、IST1303I に表示された情報のヘッダー・メッセージです。

IST1303I

capacity は、GROUP、LINE、PU、または TGP 定義ステートメントに指定できるユーザー定義値です。この値は、リンクでの転送にかかるビット/秒数を表示します。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

nnnnK

nnnn に有効な範囲は 1 から 1000 までで、K ビットで表されます。

nnnnM

nnnn に有効な範囲は 1 から 1000 までで、M ビットで表されます。

CAPACITY オペランドの詳細については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

pdelay (伝送遅延) はユーザー定義値で、

GROUP、LINE、PU、または TGP 定義ステートメントに指定できます。この値は、信号がリンクの一方の終端から他方の終端に伝わるまでにかかる時間を表します。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

NEGLIGIB

.48 マイクロ秒より小さい

TERRESTR

.48 から 49.152 マイクロ秒の間

PACKET

49.152 から 245.76 マイクロ秒の間

LONG

245.76 マイクロ秒より大きい

PDELAY オペランドの詳細については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

costtime は、GROUP、LINE、PU、または TGP 定義ステートメントに指定できるユーザー定義値です。この値は接続時間当たりの回線コストまたはノード・コストを示します。

- 可能な値は 0 から 255 です。低い値の方が、高い値よりも低コストです。
- **COSTTIME** オペランドの詳細については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

costbyte は、GROUP、LINE、PU、または TGP 定義ステートメントに指定できるユーザー定義値です。この値は送信バイト当たりの回線コストまたはノード・コストを示します。

- 可能な値は 0 から 255 です。低い値の方が、高い値よりも低コストです。
- **COSTBYTE** オペランドの詳細については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST1304I

このメッセージは、IST1305I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1305I

security は、GROUP、LINE、PU、または TGP 定義ステートメントに指定できるユーザー指定値です。この値は、伝送グループのセキュリティ・レベルを示します。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

ENCRYPT

リンク暗号化を使用

GUARDED

保護コンジット、物理のみ

PUBLIC

公衆交換網

SECURE

安全保護コンジット、非保護

SHIELDED

保護コンジット、物理および放射シールド

UNSECURE

安全ではない

UNDERGRO

地下ケーブル、非保護

SECURITY オペランドの詳細については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

uparm1、*uparm2* および *uparm3* は、ユーザー定義パラメータ一値です。ユーザーはこれらの値の意味を決めてください。有効な範囲は 0 から 255 です。

UPARM1、UPARM2、および UPARM3 オペランドの詳細については、「*VTAM Resource Definition Reference*」を参照してください。

IST1357I

このメッセージは、IST1301I に表示された情報のヘッダー・メッセージです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1296I *cpname nodetype routeres congestion cp-cp weight*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1297I *ICN/MDH CDSERVR RSN*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1298I *icn/mdh cdservr rsn*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1299I *TRANSMISSION GROUPS ORIGINATING AT CP cpname*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。

- このメッセージの後に IST1300I が出される場合、表示される可能性のあるメッセージ・グループの記述については、IST1295I の説明を参照してください。
- このメッセージの後に IST1308I が出される場合、メッセージ・グループについては詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1300I *DESTINATION CP TGN STATUS TGTYPE VALUE WEIGHT*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1301I *destcpname tgn status tgtype cpcpvalue weight*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては詳しくは、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1302I *CAPACITY PDELAY COSTTIME COSTBYTE*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては詳しくは、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1303I *capacity pdelay costtime costbyte*

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについては詳しくは、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1304I SECURITY UPARM1 UPARM2 UPARM3

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについて詳しくは、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1305I security uparm1 uparm2 uparm3

説明: VTAM は DISPLAY TOPO コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。表示される可能性のあるメッセージ・グループについて詳しくは、IST1295I のメッセージを参照してください。

IST1306I LAST CHECKPOINT ADJ NN EN SERVED EN CDSERVR ICN BN

説明: VTAM は DISPLAY,TOPO,LIST=SUMMARY コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I DISPLAY TYPE = TOPOLOGY
IST1306I LAST CHECKPOINT ADJ NN EN SERVED EN
CDSERVR ICN BN
IST1307I date time adj nn en served_en
cdservr icn bn
IST314I END
```

IST350I

このメッセージは表示される情報のタイプを識別し、このメッセージ・グループでは必ず **TOPOLOGY** になります。

IST1306I

このメッセージは、メッセージ IST1307I に表示される情報のヘッダーです。

IST1307I

- *date* および *time* は **LAST CHECKPOINT** に表示されます。
 - *date* は、最後のトポロジー・データベース・チェックポイントの日付です。 *date* の形式は DATEFORM 開始オプションに基づいており、以下のいずれかになります。
 - DATEFORM|DATEFRM=DMY**
date は DD/MM/YY です。
 - DATEFORM|DATEFRM=MDY (デフォルト)**
date は MM/DD/YY です。
 - DATEFORM|DATEFRM=YMD**
date は YY/MM/DD です。
 - *time* は最後のトポロジー・データベース・チェックポイントの時刻 (*hh:mm:ss*) で、24 時間表記になります。例えば、1:00 P.M. は、**13:00:00** として表示されます。
- *adj* は、コマンドを出すノードに隣接するノードの数です。
- *nn* は、ネットワークに認識されているネットワーク・ノードの合計数です。
- *en* は、このノードへの直接 APPN 接続をもつエンド・ノードの合計数です。
- *served_en* は、コマンドを出すノードが利用できる隣接エンド・ノード数です。

- *cdservr* は、ネットワークに認識されているディレクトリ・サーバーの合計数です。
- *icn* は、ネットワークに認識されている交換ノードの合計数です。
- *bn* は、ネットワークに認識されている境界ノードの合計数です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1307I date time adj nn en served_en dirsrv icn bn

説明: VTAM は DISPLAY,TOPO,LIST=SUMMARY コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。グループについて詳しくは、メッセージ IST1306I を参照してください。

IST1308I RESOURCE WAS NOT FOUND IN THE TOPOLOGY DATABASE

説明: コマンドに指定されたリソースがトポロジー・データベースに見つからない場合、VTAM はこのメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

- DISPLAY TOPO コマンド


```
IST350I DISPLAY TYPE = TOPOLOGY
[IST1299I TRANSMISSION GROUPS ORIGINATING AT CP
cpname]
IST1308I RESOURCE WAS NOT FOUND IN THE TOPOLOGY
DATABASE
IST314I END
```

cpname は、コマンドの ORIG オペランドに指定されたリソースの名前です。ネットワーク修飾名が、コマンドに入力された場合、VTAM は *cpname* を *netid.name* の形式で出します。

以下のコマンドが出されると、メッセージ IST1299I が出されます。

- DISPLAY,TOPO,ORIG=*cpname*,DEST=*cpname*
- DISPLAY,TOPO,ORIG=*cpname*,TGN=*tg*

注: 元の *cpname* が無効な場合、メッセージ IST1299I は出されません。

- MODIFY TOPO コマンド

```
IST1158I MODIFY TOPO COMMAND FAILED, ID =
nodename
IST1308I RESOURCE WAS NOT FOUND IN THE TOPOLOGY
DATABASE
IST314I END
```

nodename は、コマンドの ID オペランドに指定されたリソースの名前です。ネットワーク修飾名が、コマンドに入力された場合、VTAM は *nodename* を *netid.name* の形式で出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: コマンドを正しく入力したかどうか確認してください。

プログラマーの応答: なし。

**IST1309I START OPTION CURRENT VALUE
ORIGINAL VALUE ORIGIN**

説明: VTAM は DISPLAY VTAMOPTS コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1188I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1310I option current_value original_value origin

説明: VTAM は DISPLAY VTAMOPTS コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1188I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

**IST1311A ENTER START OPTION OVERRIDES OR
ENTER HALT TO EXIT VTAM**

説明: VTAM は開始処理中に、以下の状況に回答してこのメッセージを出します。

- VTAM 開始オプションの処理中に、VTAM にエラーが発生した。
- メッセージ IST051A に回答して、追加の指示を要求した。
システムの処置: VTAM は、このメッセージに対する回答を待ちます。
- LIST 開始オプションが入力されると、VTAM はこれを無視します。
- HALT が入力されると、開始処理は終了し、VTAM は終了します。

オペレーターの応答:

- 開始オプションを入力して現在の値を上書きするか、ブランクにしてデフォルト値が必要なことを指示してください。さらに上書きする場合に別の指示が必要であれば、最後のオプションの後にコンマを続けてください。
- HALT を入力して VTAM を終了してください。

プログラマーの応答: なし。

**IST1312I NO START OPTIONS HAVE BEEN
MODIFIED**

説明: FORMAT=MODIFIED が指定され、VTAM が開始してから開始オプションが修正されていない場合、VTAM は DISPLAY VTAMOPTS コマンドに回答してこのメッセージを出します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1313I NO TRACES ACTIVE FOR *resourcenam*

説明: *resourcenam* に対して活動中のトレースがない場合、VTAM はこのメッセージを DISPLAY TRACES コマンドに回答して、このメッセージ・グループの一部として出します。

resourcenam は、コマンドの ID オペランドに指定されたリソースの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST1314I TRLE = *trl_element* STATUS = *trle_status*
CONTROL = *lnctl***

説明: VTAM は以下のいずれかのコマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。

- APPN ホスト間接続をサポートする PU に対する DISPLAY ID コマンド。
- TRLE オペランドが指定されていない場合の DISPLAY TRL コマンド。

trl_element は、活動中のトランスポート・リソース・リスト内のエレメントの名前です。

trle_status は、TRL エレメントの現在の状況です。

trle_status が ****NA**** である場合は、PU 定義に指定された TRLE を持つ TRL 大ノードを活動化しなければなりません。*trle_status* の値の詳細については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

このメッセージ・グループでは、*lnctl* は必ず MPC (マルチパス・チャンネル) になります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST1315I DISPLAY TRUNCATED AT *keyword* =
*number***

説明: このメッセージは、VTAM が DISPLAY コマンドに回答して出す、複数の異なるメッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST1186I、IST1238I、IST1240I、IST1242I、IST1345I または IST1417I です。詳しくは、それらのメッセージの説明を参照してください。

**IST1316I PU NAME = *puname* STATUS = *status*
TRLE = *trl_element***

説明: VTAM は、APPN ホスト間接続をサポートする PU を少なくとも 1 つは持つローカル SNA 大ノードに出される DISPLAY ID、SCOPE=ALL コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。

puname は、APPN ホスト間接続をサポートする PU の名前です。

status は PU の状況です。状況情報については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

trl_element は、活動中のトランスポート・リソース・リスト (TRL) 内のエレメントの名前です。これにより、マルチパス・チャンネル (MPC)・グループを定義するどのエレメントが、この APPN 間接続でのサポートするデータ・リンク制御 (DLC) として使用されるのかを識別します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1317I DLCADDR SUBFIELDS FOR PID: *pid* [*instance*]

説明: このメッセージは、VTAM が DISPLAY PATHS コマンドに応答して出すメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。

このメッセージ・サブグループは、IST148I を見出しに持つメッセージ・グループに表示されます。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST1317I DLCADDR SUBFIELDS FOR PID: pid [instance]
IST1318I parameter_value
[IST1319I parameter_value]
:
[IST1318I parameter_value]
[IST1319I parameter_value]
:
```

IST1317I

pid は、PATH 定義ステートメントに指定された経路 ID です。

instance は、後続の IST1318I メッセージ・グループ内の *parameter_value* が、000 の *pid* のメッセージ IST168I の *instance* インスタンスに対応していることを示します。

IST168I メッセージのグループをカウントして、000 の *pid* を持つメッセージ IST168I の *instance* インスタンスを見つけてください。 *instance* は、*pid* が 000 の場合のみ表示されます。

IST1318I

- *parameter_value* は、PATH 定義ステートメントに指定された DLCADDR 値です。メッセージは以下のように表示されます。

```
IST1318I yy,N'parameter value'
```

- *N* は DLCADDR キーワードに指定された値です。
- *yy* はサブフィールド ID です。
- DLCADDR 値が 16 進数または 2 進化 10 進数 (BCD) でコーディングされた場合、*parameter_value* は、データが 8 文字ごとにブランクで分割されて表示されます。DLCADDR 値として奇数の桁数がコーディングされた場合には、*parameter_value* の左側に 0 が埋められます。

IST1319I

このメッセージは、IST1318I の *parameter_value* からのオーバーフロー情報を表示するために使用されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1318I *parameter_value*

説明: VTAM はこのメッセージを、メッセージ・サブグループの一部として出します。サブグループについて詳しくは、メッセージ IST1317I の説明を参照してください。

IST1319I *parameter_value*

説明: VTAM はこのメッセージを、メッセージ・サブグループの一部として出します。サブグループについて詳しくは、メッセージ IST1317I の説明を参照してください。

IST1320I *command IS ONLY VALID AT type*

説明: VTAM は、境界ノードではないノードに *command* が入力されると、このメッセージを出します。

command は次のいずれかです。

- D BNCOSMAP
- D ADJCLUST

type は常に BORDER NODES になります。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: このリソースから *command* を入力するには、リソースを境界ノードとして定義してください。

IST1321I TABLE FOR *tabletype* [*netid*]

説明: このメッセージは、DISPLAY BNCOSMAP コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

- 表示タイプが BNCOSMAP の場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST350I DISPLAY TYPE = BNCOSMAP
IST1321I TABLE FOR BNCOSMAP netid
IST1322I NON-NATIVE NATIVE
IST1323I non-native native
:
IST314I END
```

- 表示タイプが APPNTOSA の場合、以下のメッセージ・グループが表示されます。

```
IST350I DISPLAY TYPE = APPNTOSA
IST1321I TABLE FOR APPNTOSA
IST1431I APPN COS SUBAREA COS
IST1323I appn_cos subarea_cos [DEFAULT]
:
IST314I END
```

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。

このメッセージ・グループの *type* は、BNCOSMAP または APPNTOSA です。各テーブルでのサービス・クラス (COS) のマッピングについての情報も、表示されます。

IST1321I

tabletype は BNCOSMAP または APPNTOSA です。

netid は、*tabletype* が BNCOSMAP で、COS マッピングに対応するネットワーク ID を表す場合に表示されます。

- *netid* は、NETWORK 定義ステートメントに指定されたネットワークの名前です。

- **DEFAULT_NETID** は、*netid* に特定の値が定義されていない場合に表示されます。

IST1322I

このメッセージは、メッセージ IST1323I に表示される情報のヘッダーです。

IST1323I

- メッセージ IST1321I の *tabletype* が、**BNCOSMAP** の場合、このメッセージは、対応する非ネイティブおよびネイティブ **COS** 名を表示します。
non-native は、隣接非ネイティブ・サブネットワーク内で定義された **COS** の名前です。
native は、該当ノードのトポロジー・サブネットワーク内で、非ネイティブ **COS** がマップする **COS** の名前です。
- メッセージ IST1321I の *tabletype* が **APPNTOSA** の場合、このメッセージは対応する **APPN** とサブエリア **COS** のマッピングを示します。
appn_cos は、**APPN** ネットワークのルーティングに使用される **COS** 名です。
subarea_cos は、サブエリア・ネットワークのルーティングに使用される **COS** 名です。

VBUILD 定義ステートメントの **MAPSTO** 項目に **COSDEF=YES** が指定されると、**DEFAULT** が表示されます。

IST1431I

このメッセージは、メッセージ IST1323I に表示される情報のヘッダーです。

システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

IST1322I NON-NATIVE NATIVE

説明: **VTAM** は **DISPLAY COSMAP** コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST1321I の説明を参照してください。

IST1323I non-native native

説明: **VTAM** は **DISPLAY COSMAP** コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST1321I の説明を参照してください。

IST1324I VNNAME = vnname VNGROUP = vngroup

説明: 以下のいずれかのリソースが、コマンドの **ID** オペランドに指定されている場合、**VTAM** は **DISPLAY ID** オペランドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。

- **NCP** 大ノードの回線定義ステートメントの名前
- **XCA** 大ノードのポート定義ステートメントの名前

vnname は、**NCP** 大ノードのグループまたは回線定義ステートメントか、または **XCA** 大ノードのポート定義ステートメントの **VNNAME** オペランドに指定された接続ネットワーク名です。*vnname* は、ネットワーク修飾名で、*netid.name* の形式です。

vngroup は、**NCP** 大ノードのグループまたは回線定義ステートメントか、または **XCA** 大ノードのポート定義ステートメントの **VNGROUP** オペランドに指定された論理グループの名前です。このグループは、**NCP** と接続ネットワーク内のその他の隣接ノードとのリンク、または **XCA** 大ノードとその他の隣接ノードとのリンクを確立するのに使用されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1325I table TABLE FOR netid - DYNAMICS = dynamics

説明: **VTAM** は、**DISPLAY ADJCLUST** コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = ADJACENT CLUSTER TABLE
IST1325I  table TABLE FOR netid - DYNAMICS =
          dynamics
IST1326I  CP NAME   TYPE   STATE   STATUS   SNVC
IST1327I  cpname   type   state   status   snvc
          :
          :
IST314I  END
```

IST1325I サブグループは、各ターゲット・ネットワークに繰り返し出されます。

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループでは、**DISPLAY TYPE** は常に **ADJACENT CLUSTER TABLE** になります。

IST1325I

table は、表示中のテーブルのタイプです。*table* の値は、隣接クラスター・テーブル項目を定義したエクステントによって異なります。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

DEFINED

ユーザーは隣接するクラスター・テーブル内に指定された **NETID** に、項目を定義しました。

DEFAULT

ユーザーは、表示された **NETID** には項目を定義しませんでしたでしたが、**DEFAULT_NETID** 項目が定義されています。

DYNAMIC

ユーザーは、表示された **NETID** には項目を定義せず、デフォルト・テーブルもコーディングされませんでしたでしたが、動的に処置することは可能です。(SSCPDYN=YES)

netid は、探索のターゲットとなっているネットワークのネットワーク **ID** です。デフォルトは **DEFAULT_NETID** です。ネットワーク定義ステートメントから **NETID** オペランドが省

略されていると、VTAM は **DEFAULT_NETID** を使用します。ネットワーク定義ステートメントの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

dynamics は、ルーティング・リストの判別で使用された動的サポートのレベルを示します。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

NONE NEXTCP 定義ステートメントによって、隣接クラスター・テーブル内に明示的に定義された CP 名だけを表示するのに使用されます。

FULL 隣接非ネイティブ境界ノードとネットワーク・ノードに加えて、ネイティブ APPN トポロジー・サブネットワーク内のすべての活動状態の境界ノードの表示を可能にするのに使用されます。

LIMITED

活動状態の隣接非ネイティブ境界ノードと、以下の基準に合致するネットワーク・ノードに加えて、ネイティブ APPN トポロジー・サブネットワーク内のすべての活動状態の境界ノードを表示するのに使用されます。

- BN または NN のいずれかと、リソースの NETID が一致する
- この BN または NN から行った直前の探索により、この NETID を持つリソースが正常に検出された

APPN トポロジー・サブネットワークは、同じトポロジー・データベースを共有するノードの集合です。

IST1326I および IST1327I

以下のメッセージは、ターゲット・ネットワークに到達するのに使用できる境界ノードについての状況情報を提供します。

- *cpname* は境界ノードのネットワーク修飾名で、*netid.name* の形式になります。
- *type* は、表示中の CP のタイプです。表示される可能性のある値は、**DEFINED** または **DYNAMIC** です。
 - メッセージ IST1325I 内の *table* が **DEFINED** または **DEFAULT** の場合、テーブル項目の *type* は **DEFINED** か **DYNAMIC** になります。
 - *table* が **DYNAMIC** の場合、*type* は必ず **DYNAMIC** になります。
- *state* は境界ノードの現在の状況で、**ACTIVE** または **NOT ACTIVE** になります。
- *status* は、この特定の境界ノードに対して最近行われた探索の結果を示します。表示される可能性のある値は、**FOUND**、**NOT FOUND** または **NOT SEARCHED** です。
- *snvc* は、APPN トポロジー・サブネットワークの往来カウントです。これはターゲット・ネットワークの位置指定中に、交差される可能性のある中間サブネットワークの最大数を示します。APPN トポロジー・サブネットワークは、同じトポロジー・データベースを共有するノードの集合です。

IST1327I は、隣接クラスター・テーブルに存在する各境界ノードに対して繰り返されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1326I CP NAME TYPE STATE STATUS SNVC

説明: このメッセージは、DISPLAY ADJCLUST コマンドに応答して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1325I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1327I cpname type state status snvc

説明: このメッセージは、DISPLAY ADJCLUST コマンドに応答して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1325I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1328I TRLE trl_element NOT FOUND IN TRL

説明: 要求された TRLE が、活動中のトランスポート・リソース・リスト (TRL) に見つからない場合、VTAM は DISPLAY TRL コマンドに応答してこのメッセージを出します。

trl_element は、活動中の TRL に存在しないエレメントの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

TRL を含む VTAMLST メンバーに、TRLE ステートメントが追加されてから、その TRL に UPDATE=ALL を指定した VARY ACT コマンドを出してください。

プログラマーの応答: TRL 大ノード定義に TRLE ステートメントを追加してください。

IST1329I command resource FAILED - VIRTUAL NODE NOT DEFINED

説明: *resource* に仮想ノードが定義されていなかった場合、VTAM は MODIFY TGP コマンドに対応してこのメッセージを出します。

command は常に **MODIFY TGP** です。

resource は次のいずれかです。

- *command* の ID オペランドに指定されたリソース名
- ID オペランドにコーディングされた隣接制御点、および *command* の TGN オペランドにコーディングされた伝送グループ番号で識別されるリソース

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: *resource* が正しく入力されていることを確認してください。

VTAM がこのメッセージを出し続ける場合、システム・ログを保管して問題を判別し、*resource* の大ノード定義を印刷してください。

プログラマーの応答: 以下の項目に VNNAME および VNGROUP をコーディングすることで、*resource* が仮想ノードを定義したことを確認してください。

- XCA 大ノードのポート定義ステートメント

- NCP 大ノードの回線またはグループ定義ステートメント

これらの定義ステートメントの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1330I *type* CANNOT BE ACTIVATED FROM
 nodetype

説明: この *nodetype* から *type* を活動化できない場合、VTAM は VARY ACT コマンドに回答してこのメッセージを出します。

type は次のいずれかです。

APPNCOS

APPN サービス・クラス

ADJCP 隣接制御点

ADJSSCP

隣接システム・サービス制御点

CDRM クロスドメイン・リソース・マネージャー

NCP ネットワーク制御プログラム

NETSRVR

ネットワーク・ノード・サーバー・リスト

PATH 経路定義ステートメント

PUTYPE4

物理装置タイプ 4

PUTYPE5

物理装置タイプ 5

TGP 伝送グループ・プロファイル

nodetype はコマンドが出されるノードのタイプを表し、以下のいずれかとなります。

APPN NODE

ノードは APPN ネットワーク・ノードか APPN エンド・ノードです。

EN ノードは APPN エンド・ノードです。

MDH ノードは移行データ・ホストで、APPN エンド・ノードとしても、サブエリア・ノードとしても活動します。

NN ノードは APPN ネットワーク・ノードです。

SUBAREA NODE

ノードはサブエリア・ノードです。ネットワークの構成を反映するルーティング・テーブルを維持します。

THIS NODE

このノードにない機能サポートです。

このメッセージに続いて IST072I または IST1264I が出され、VARY ACT コマンドの ID オペランドに指定されたリソースの名前が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: コマンドを正しく入力したかどうか確認してください。問題が解決しない場合は、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: ネットワーク構成を調べて、どの値 (*type* または *nodetype*) が正しくないのかを判別してください。

IST1333I **ADJLIST=** *listname*

説明: このメッセージは、SCOPE=ALL の指定された DISPLAY ID コマンドか、または DISPLAY ADJSSCPs、ADJLIST= **listname* コマンドに回答して、VTAM が出す複数のメッセージ・グループの一部です。

- 最初のメッセージが IST977I、IST831I または IST611I の場合、メッセージ・グループについて詳しくは、これらのメッセージの説明を参照してください。
- 最初のメッセージが IST350I の場合、メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = ADJACENT SSCP TABLE
IST1333I ADJLIST = listname
IST624I  sscpname
        ⋮
IST314I  END
```

ADJLIST と ADJSSCP がコマンドに指定されている場合、このメッセージ・グループが出されます。

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループの場合、DISPLAY TYPE は常に **ADJACENT SSCP TABLE** になります。

IST624I

VTAM はこのメッセージを、表示中の隣接 SSCP テーブルの、各 *sscpname* に対して出します。

IST1333I

このメッセージは、定義されて活動化されている、各 ADJLIST に表示され、隣接 SSCP リスト内の各メンバーに対しては、IST624I メッセージが続いて出されます。ADJLIST 定義ステートメントが活動状態でなければ、このメッセージは表示されません。 *listname* は、ADJLIST 定義ステートメントで定義されている隣接 SSCP テーブルの名前です。隣接 SSCP テーブルが CDRSC に定義されていなかった場合は、***NA*** が表示されます。隣接 SSCP テーブルの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の ADJLIST 定義ステートメントの説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1334I **TGN NOT AVAILABLE**

説明: このメッセージは仮想ノードへの論理接続の活動に障害が起きたとき、VTAM がある回線に対する VARY ACT の応答として出すグループ・メッセージの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1166I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1335I *statementname* HAS NO ADJCDRM
STATEMENT FOR ADJLIST *listname*

説明: このメッセージは、VBUILD TYPE=ADJSSCP 定義が 1 つまたは複数の空の ADJLIST リストを持つ場合に、VTAM が構成中に出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。空の ADJLIST は無視されます。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1335I statementname HAS NO ADJCDRM STATEMENT
FOR ADJLIST listname
IST323I LABEL = label name - MACRO TYPE = macrotype -
KEYWORD = keywordb
```

statementname は ADJSSCP ステートメントです。 *listname* は、ADJLIST 定義ステートメントで定義された隣接 SSCP テーブルの名前です。

システムの処置: ADJSSCP の活動化は、失敗します。

オペレーターの応答: システム・ログを保管して、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: 以下いずれかを実行して、空の ADJLIST 状況を訂正してください。

- ADJLIST リストが必要ない場合、定義から除去してください。
- ADJLIST リストが必要な場合は、ADJCDRM ステートメントに続けて、1 つまたは複数の ADJLIST ステートメントを追加してください。

IST1336I *puname* ACTIVATION FAILED -
CONFLICTING operand VALUES

説明: PU 定義に NATIVE オペランドがあり、その値が ADJCP 定義の値と矛盾する場合に、VTAM はこのメッセージを出します。

puname は、活動化に失敗した PU の名前です。

operand は NATIVE です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: オペランドの値が、ADJCP および PU 定義の値と同じであることを確認してください。

IST1337I *operand* ON *labelname* IGNORED - ONLY
VALID FOR BN

説明: GROUP、LINE、PU または ADJCP 定義ステートメントに NATIVE オペランドが指定されていても、このノードが境界ノードではない場合に、VTAM はこのメッセージを出します。オペランドは無視されます。

operand は常に NATIVE です。

labelname は、オペランドを指定する定義ステートメントのラベルです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: このノードが境界ノードと想定されない場合、NATIVE オペランドを除去してください。想定される場

合は、ノードを終了させてから、境界ノードとして立ち上げてください。

IST1338I *operand* VALUE ON *resourcename* IGNORED-
VALUES CONFLICT

説明: ADJCP 定義が NATIVE または NN オペランドを含み、その値が既存の ADJCP 定義内の値と矛盾する場合、VTAM はこのメッセージを出します。指定された NATIVE/NN 値は、既存の値が使用されるために無視されず。

operand は NATIVE または NN です。

resourcename は、エラー状態の ADJCP ステートメントのネットワーク修飾名です。 *resourcename* は *netid.label* の形式です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 動的 ADJCP 定義内の NATIVE または NODETYPE に指定された値を訂正してください。

IST1340I TAKEOVER OF *pu_name* FAILED - NCP IS
level

説明: このメッセージは、*level* の NCP に対して SSCP 引き継ぎを実行しようとした場合に VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。 *level* の NCP は、SSCP 引き継ぎ機能をサポートしません。SSCP 引き継ぎが失敗する前であれば、VTAM はシステムをリストアする際に DACTLINK (GIVEBACK) を実行します。ただし、これが正常に完了するという保証はありません。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1340I TAKEOVER OF pu_name FAILED- NCP IS level
IST1341I BEGINNING DACTLINK(GIVEBACK) FOR line_name
IST314I END
```

IST1340I

このメッセージは、SSCP 引き継ぎの実行中にエラーが発生したことを示します。エラーの *pu_name* についての情報が含まれています。

pu_name は、引き継ぎ中の PU の名前です。

level は、実行中の NCP の版、リリースおよび修正 (適用可能な場合) です。これは必ず **PRE-V6R3** となり、NCP 第 6 版、リリース 3 を示します。

IST1341I

このメッセージは、実行中の処置を示します。

line_name は、非活動化中の回線の名前です。

システムの処置: SSCP 引き継ぎ処理が失敗する前であれば、VTAM はシステムをリストアする際に DACTLINK (GIVEBACK) を実行します。ただし、これが正常に完了するという保証はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**IST1341I BEGINNING DACTLINK(GIVEBACK) FOR
linename**

説明: このメッセージは、*level* の NCP に対して SSCP 引き継ぎを実行しようとした場合に VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。 *level* の NCP は、SSCP 引き継ぎ機能をサポートしません。 メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1340I です。 詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1345I ID VALUE DESCRIPTION

説明: VTAM は DISPLAY STATS,TYPE=VTAM コマンドに
応答して、このメッセージ・グループの一部として出します。

注:

- ここで表示される情報は、*Estimating Storage for VTAM* プログラムが、VTAM に必要なストレージ量を計算するために使用することができます。ここで表示されたホスト・ベースのストレージ情報の使用方法については、オンライン・ヘルプか、または *Estimating Storage for VTAM* プログラムの情報ブックレットを参照してください。
- 使用のネットワークのサイズと構成によっては、ISTSTATS プログラムのオペレーターまたはコンソールからこのコマンドを出すと、システムのパフォーマンスが下がることがあります。 ISTSTATS プログラム・オペレーターを使用して DISPLAY STATS コマンドを出す方法については、オンライン・ヘルプか、または *Estimating Storage for VTAM* プログラムの情報ブックレットを参照してください。
- NUM オペランドによって、コンソールに表示される回線の数が判別されますが、コマンドの処理は制限されません。コンソールから DISPLAY STATS コマンドを出すことは、推奨できません。
- DISPLAY STATS コマンドの説明については、「VTAM Operation」を参照してください。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I DISPLAY TYPE = STATS,TYPE=VTAM
IST1349I COMPONENT ID IS dddd-ddddd-ddd
IST1345I ID VALUE DESCRIPTION
IST1227I dddd value = description
:
:
IST1315I DISPLAY TRUNCATED AT NUM = number
IST314I END
```

IST350I

このメッセージは表示される情報のタイプを識別し、このメッセージ・グループでは必ず **STATS,TYPE=VTAM** となります。

IST1227I

- dddd* は、VTAM によって割り当てられたストレージ評価機能の ID 番号です。これは最高 5 桁の長さで、表示される場合、先行ゼロは付きません。
- 表示される可能性のある機能 ID 番号と、その記述を以下に示します。

2 value = VIT TABLE SIZE

value は、VTAM 内部トレース・テーブルに割り振られた 4K ページの数を表します。

5 value = CHANNEL-ATTACHED CONTROLLERS

value は、この VTAM に定義され、またこの VTAM の所有するチャンネル接続通信コントローラーの数を表します。 *value* は、VTAM によって内部的に定義された 1 つのリソースを含みます。

6 value = MAXBFUR FOR CHANNEL-ATTACHED CONTROLLERS

value は、この VTAM に定義されたすべてのチャンネル接続通信コントローラーの MAXBFUR オペランドにコーディングされた値の合計を表します。

7 value = INTERCONNECT CONTROLLERS FOR *majornode*

value は、この VTAM で *majornode* に対して定義された IBM 3172 相互接続コントローラーの数を表します。

8 value = XCA MAJOR NODES *majornode*

value は、VBUILD, TYPE=XCA 定義ステートメントを使用して、この VTAM で定義された外部通信アダプターの数を表します。

9 value = 3172 CONNECTIONS FOR *majornode*

value は、外部通信アダプター (XCA) *majornode* の PORT 定義ステートメントに指定された、固有の CUADDR オペランドの数を表します。

10 value = TOTAL LINE STATEMENTS FOR XCA MAJOR NODES

value は、すべての外部通信アダプター (XCA) 大ノードの、LINE ステートメントの数を表します。

11 value = CHANNEL-TO-CHANNEL ATTACHMENTS

value は、VBUILD,TYPE=CA 定義ステートメントと、LNCTL=CTCA を指定する GROUP 定義ステートメントを使用して VTAM に定義された、チャンネル間 (CTC) 回線の数を表します。マルチパス・チャンネル接続リソースは、ID 120 で含まれます。

12 value = TOTAL MAXBFUR FOR CTC ATTACHMENTS

value は、この VTAM で定義されたチャンネル間 (CTC) 接続のすべての MAXBFUR オペランドにコーディングされた値の合計を表します。

13 value = CTC TOTAL MAXBFUR CROSS DOMAIN

value は、この VTAM へのチャンネル間 (CTC) 接続 (ただし、他の VTAM で定義済) のすべての MAXBFUR オペランドのコーディングされた値の合計を表します。

14 value = CA CLUSTER CONTROLLER TOTAL

value は、この VTAM にチャンネル接続されたクラスター・コントローラーの数を表します。

15 value = SNA PU TOTAL MAXBFUR

value は、この VTAM から活動化されたチャンネル接続 SNA PU のすべての MAXBFUR オペランドにコーディングされた値の合計を表します。

16 value = LOCAL NON-SNA TERMINALS

value は、ローカル非 SNA 大ノードの一部である LOCAL 定義ステートメントに定義された、ローカル非 SNA 端末の数を表します。

17 value = NETVIEW PIU TRACE BUFFER SIZE

value は、NetView PIU トレース・バッファのサイズを表します。

18 value = NETVIEW PIU TRACE BUFFERS

value は、NetView PIU トレース・バッファの数を表します。

19 value = NETVIEW SAW BUFFER SIZE

value は、すべての NetView セッション認識 (SAW) バッファのサイズを表します。

20 value = NETVIEW SAW BUFFERS

value は、NetView セッション認識 (SAW) バッファの数を表します。

21 value = ICA DEVICES

value は、通信統合アダプター (ICA) 装置の数を表します。

22 value = DESTINATION SUBAREAS

value は、この VTAM が通信する、固有のタイプ 4 および 5 のノードの数を表します。 *value* は常に、VTAM により内部的に定義された 1 つのリソースを含みます。

23 value = ICA SDLC links

value は、交換および非交換の、両方の通信アダプター同期データ・リンク制御 (SDLC) リンクの数を表します。

24 value = SDLC PU count

value は、すべての通信アダプター SDLC リンクに接続された PU の数を表します。 LNCTL=SDLC の指定された GROUP ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=CA ステートメントで定義されたすべての PU タイプが含まれます。

25 value = SDLC links

value は、LNCTL=SDLC が指定された GROUP 定義ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=CA 定義ステートメントに指定された、PUTYPE=2 の PU の数です。

26 value = MAXBFRU SDLC ICA SUMMED

value は、すべての SDLC ICA 接続リンクの MAXBFRU の合計を表します。 MAXBFRU は、VTAM がチャンネル・プログラムを開始するときに必ず使用する入出力バッファの数を、VTAM に定義します。 MAXBFRU は、LNCTL=SDLC の指定された GROUP ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=CA ステートメントの下での LINE ステートメントで定義されます。

27 value = BSC LINKS

value は、LNCTL = BSC の指定されたグループ定義ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=CA 定義ステートメントに指定された、BSC リンクの数を表します。

28 value = CLUSTER CONTROLLERS TO BSC LINK

value は、LNCTL=BSC の指定された GROUP 定義ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=CA 定義ステートメントの下での CLUSTER ステートメントの数です。 クラスター・コントローラーは、2 進数同期通信リンクに接続されます。

29 value = BSC TERMINALS

value は、LNCTL=BSC が指定された GROUP 定義ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=CA 定義ステートメントの下での TERMINAL ステートメントのカウンタを表します。 クラスター・コントローラーに制御された端末だけが含まれます。

30 value = LAN DEVICES

value は、VTAM が LAN サポートを提供する周辺装置の数を表します。 LAN は、LAN 大ノードの下での PU ステートメントで定義されます。 LAN とは通信を行う目的で、一連の装置が 1 つに接続されたネットワークのことです。

31 value = LAN Major Nodes

value は、定義されたローカル・エリア・ネットワーク (LAN) の大ノードの数を表します。 LAN 大ノードは、VTAM と LAN の間の各接続 (ポート) に定義されます。 LAN は、VBUILD TYPE=LAN ステートメントと PORT ステートメントで定義されます。

32 value = MAXDATA LAN

value は、LAN 定義大ノードの MAXDATA 値の合計を表します。 MAXDATA 値は、LAN に伝送されるリンク・プロトコル・データ装置 (LPDU) の情報フィールドにある最大バイト数です。 この値は、PORT ステートメントで定義されます。

33 value = LAN PUs

この値は、VTAM が LAN を通じて通信するすべてのローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 大ノードで定義された PU の合計数です。 LAN PU は、PU ステートメントで定義されます。

34 value = X.25 PSDNs

value は、X.25 パケット交換データ・ネットワーク (PSDNs) に接続されるように指定された装置のカウンタを表します (例、通信アダプター用の X.25 ポート)。

37 value = LINE stmts for PVC and SVC

この値は、PORT ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=PACKET ステートメントの下で定義された、USER=SNA の指定されたすべての LINE ステートメントです。 LINE ステートメントは、すべてのパーマネント・バーチャル・サーキット (PVC) および交換仮想回線 (SVC) に定義されます。

40 value = SNA X.25 Major Nodes

value は、定義された SNA X.25 大ノードの数を表します。 SNA X.25 大ノードは、通信アダプター上の X.25 ポートとして構成される、一組のチャンネル装置アドレスを定義します。 SNA X.25 大ノードは、指定された USER=SNA を持つ LINE ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=PACKET ステートメントとともに定義されます。

41 value = Max PLENGTH pckt maj no

この値は、SNA X.25 のパケット大ノードだけに定義される最大パケット・サイズです。 PLENGTH は、PORT ステートメントに定義されます。

42 value = SNA X.25 PVC & SVC defined

value は、PORT ステートメントが後に続く VBUILD TYPE=PACKET ステートメントの下で定義された、USER=SNA の指定された LINE ステートメントの数を表します。 LINE ステートメントは、すべてのパーマネント・バーチャル・サーキット (PVC) および交換仮想回線 (SVC) に定義されます。

43 value = SNA X.25 PUs

value は、定義されたすべての X.25 パケット大ノード

- に接続された PU の数を表します。交換または非交換回線から接続された各 PU に定義されたすべての PU ステートメントが含まれます。
- 44 value = SPLENGTH FOR PACKET MAJOR NODES**
value は、すべてのパケット大ノード (SPLENGTH) に定義されたパケット・サイズ (PLENGTH) の合計です。例えば、2 つの大ノードが定義され、各ノードの PLENGTH が 128 の場合、SPLENGTH は 256 または 128+128 になります。PLENGTH は、PORT ステートメントに定義されます。
- 45 value = DEPENDENT LU TOTAL FOR *majornode***
value は、VBUILD, TYPE=LOCAL がコーディングされた *majornode* の下で定義された従属 LU の合計数です。
- 46 value = INDEPENDENT LU TOTAL**
value は、VTAM が境界機能サービスを提供する独立 LU の数を表します。
- 47 value = MAXIMUM SUBAREA**
value は、この SSCP で使用できる最大サブエリア数を表します。
- 48 value = DEFINED PU TOTAL**
value は、この VTAM に定義された PU の合計数を表します。
- 49 value = ACTIVE PU TOTAL**
value は、VTAM で活動状態の PU の合計数を表します。
- 50 value = DEFINED LU TOTAL**
value は、この VTAM に定義された装置タイプの LU の数を表します。
- 51 value = ACTIVE LU TOTAL**
value は、VTAM で活動状態の LU の合計数を表します。
- 52 value = ACTIVE DEPENDENT LU TOTAL**
value は、VBUILD TYPE=LOCAL 大ノードで活動状態の従属 LU の合計数を表します。
- 53 value = LOCAL LU-LU SESSIONS**
value は、VBUILD,TYPE=LOCAL 大ノードの下のこの VTAM に定義された、1 つまたは両方のセッション・パートナーとのセッションの数を表します。
- 54 value = PERSISTENT LU-LU SESSIONS**
value は、この VTAM が所有する持続 LU-LU セッション可能アプリケーションとともに存在するセッションの数を表します。
- 56 value = TOTAL APPL SESSIONS**
value は、この VTAM で実行しているアプリケーション・プログラムとのセッションの数を表します。これにはローカル、クロスドメイン、およびネットワーク間リソースが含まれます。
- 57 value = LU6.2 APPLICATIONS**
value は、この VTAM 内のアプリケーション制御ブロック (ACB) をオープンする LU 6.2 アプリケーションを表します。表示中のノードが APPN をサポートする場合、value には内部的に APPN に定義されたリソースが必ず 1 つ組み込まれます。
- 58 value = LU6.2 SESSIONS**
value は、この VTAM が所有するアプリケーション LU との LU 6.2 セッションを表します。
- 61 value = SNA DATA COMPRESSION SESSIONS**
value は、SNA データ圧縮機能を使用するセッションの数を表します。
- 63 value = RECOVERABLE SESSIONS**
value は、ネットワーク障害中にリカバリーされるセッションの数を表します。value には、すべての SSCP-LU セッションと LU-LU セッションが含まれます。
- 64 value = CURRENT NUMBER OF SESSION PARTNERS**
value は、現在セッション中にある LU、アプリケーションおよびクロスドメイン・リソースの合計数を表します。
- 65 value = NUMBER OF LINES DEFINED**
value は、この VTAM が所有する LINE ステートメントに定義された回線の数を表します。value には、VTAM 大ノードの下に定義されたすべての回線と同様に、この SSCP の所有するすべての NCP 回線が含まれます。
- 66 value = SWNET STATEMENTS**
value は、この VTAM に対する VBUILD ステートメントのうち、TYPE=SWNET が指定されているステートメントの数を表します。value は常に、VTAM により内部的に定義された 1 つのステートメントを含みます。
- 67 value = PU STATEMENTS UNDER SW LINES**
value は、指定された DIAL=YES を持つすべてのグループ・ステートメントの下の PU ステートメントの数を表します。
- 68 value = MAXNO OPERAND**
value は、すべての VBUILD TYPE=SWNET 定義ステートメント上の MAXNO オペランドにコーディングされた値の合計を表します。
- 69 value = MXGRP OPERAND**
value は、すべての VBUILD TYPE=SWNET 定義ステートメント上の MXGRP オペランドにコーディングされた値の合計を表します。VTAM は大ノード内の各グループ・ステートメントの値に 1 を追加します。
- 70 value = PATH STATEMENTS**
value は、交換回線大ノードに定義されたすべての PU の下のすべての PATH 定義ステートメントを表します。
- 71 value = LU-APPL SESSIONS**
value は、この VTAM が所有するアプリケーション・プログラムとセッション状態にある、この VTAM が所有する LU の数を表します (例えば CICS にログオンしている端末)。value には、動的に定義されたすべての LU が含まれます。
- 73 value = CROSS DOMAIN LU SESSIONS**
value は、VTAM が所有する非 LU タイプ 6.2 リソースで他のノードまたは VTAM 内のリソースとセッション状態にあるリソースを表します。
- 74 value = CROSS NETWORK APPL SESSIONS**
value は、この VTAM 内のアプリケーション・プログ

ラムと、他のネットワーク内の VTAM が所有するリソースとのネットワーク間セッションの数を表します。

77 value = SAME DOMAIN LU6.2 SESSIONS

value は、両方の LU がこの VTAM に所有されている LU 6.2 セッションを表します。

78 value = CROSS DOMAIN LU6.2 SESSIONS

value は、一方の LU がこの VTAM に所有されており、他方の LU が同じネットワーク内の別の VTAM によって所有されている LU 6.2 セッションの数を表します。

79 value = CROSS NETWORK LU6.2 SESSIONS

value は、一方の LU がこの VTAM によって所有され、他方の LU が別のネットワーク内の VTAM によって所有される LU 6.2 セッションの数を表します。

80 value = NETWORK INDEPENDENT LU TOTAL

value は、ローカルに定義されたか、リモート側で定義されたか、または CDRSC として定義された独立 LU の数を表します。すべての LU は、VTAM によって CDRSC として表されます。

81 value = DYNAMICALLY DEFINED LU TOTAL

value は、電源オンされたときに、PSID (例 : 3174) を受信することができる PU に動的に定義される従属 LU の数を表します。

99 value = VTAM CONFIGURATION .

value は、VTAM 開始パラメーター内のノード・タイプを表します。ノード・タイプが指定されていない場合、value は SUBAREA になります。

100 value = DYNAMIC DIRECTORY ENTRIES

value は、この VTAM がセッションの確立やネットワークの管理をするために、位置指定やアクセスをしなければならない、異なる LU と CP の数を表します。この VTAM が中央ディレクトリー・サーバーである場合、value にはこの VTAM とともに中央に登録されたすべてのリソースも含まれます。

101 value = CENTRAL DIRECTORY SERVER SUPPORT

value は、VTAM 開始パラメーター内の CDSERVR に指定された値を表します。

- value が CDSERVR=YES を表す場合、この VTAM はネットワークの中央ディレクトリー・サーバーです。
- value が CDSERVR=NO を表す場合、この VTAM はネットワークの中央ディレクトリー・サーバーではありません。

102 value = REGISTERED DIRECTORY ENTRIES

value は、この VTAM に登録される他のノードの、異なる宛先 LU と CP の数を表します。VTAM が APPN をサポートする場合、value には必ず、APPN に対して内部的に定義されたリソースが 1 つ含まれます。

103 value = SYSTEM DEFINED DIRECTORY ENTRIES

value は、この VTAM の VTAMLIST にシステムで定義される、異なる宛先 LU と CP の数を表します。

104 value = ADJACENT END NODES

value は、この VTAM との CP-CP セッションを確立したエンド・ノードの数を表します。

106 value = CENTRAL DIRECTORY SERVER

value は、このネットワークに存在する中央ディレクトリー・サーバーの数を表します。

107 value = ADJACENT NETWORK NODES

value は、この VTAM との CP-CP セッションを確立したネットワーク・ノードの数を表します。

108 value = APPN CLASS OF SERVICE

value は、この VTAM に定義された APPN サービス・クラスの合計数を表します。

109 value = NETWORK NODES IN THE NETWORK

value は、この VTAM に認識されているネットワーク・ノードの数を表します。

111 value = CONNECTION NETWORKS

value は、この VTAM に認識されている接続ネットワーク (仮想ノード) の合計数を表します。

112 value = CROSS DOMAIN APPL SESSIONS

value はクロスドメイン・セッションの数を表し、このセッションはこの VTAM 内のアプリケーション・プログラムと、他のノードまたは VTAM の所有する非 LU 6.2 との間のセッション (例えば、ほかの VTAM の所有する端末とセッション状態の CICS) です。

113 value = PARALLEL SESSION PER LU

value は、この VTAM が所有するアプリケーションを持つ各 LU のセッションの平均数を表します。

116 value = INTERMEDIATE ROUTED SESSIONS

value は、VTAM が処理する経路指定を行うセッションの数で、いずれのセッション・パートナーもこの VTAM には定義されていません。

119 value = CROSS NETWORK LOGICAL UNIT SESSIONS

value は、非 6.2 LU のうち、別のノードで所有されているリソースとのセッションでこの VTAM が所有している数、または別のネットワークの VTAM (例えば、別のネットワークの CICS にログオンされた端末) が所有している数です。

120 value = MULTIPATH CHANNEL MAJOR NODES

value は、マルチパス・チャンネル (MPC) サポートを使用するチャンネル接続大ノードの数を表します。MPC 大ノードは定義ステートメント内に、GROUP, LNCTL=MPC の指定された VBUILD, TYPE=CA 定義ステートメントを含んでいます。

121 value = MPC READ SUBCHANNEL ADDRESSES

value は、READ= の指定されたサブチャンネル・アドレスで、MPC サポートのチャンネル接続大ノードに定義された LINE 定義ステートメントに指定されています。

122 value = MPC WRITE SUBCHANNEL ADDRESSES

value は、WRITE= の指定されたサブチャンネル・アドレスで、MPC サポートのチャンネル接続大ノードに定義された LINE 定義ステートメントに指定されています。

123 value = MPC READ BUFFER

value は、この VTAM に定義されたすべての READ サブチャンネルの MAXBFRU を表します。同じ MPC 大ノードに定義されているすべての READ サブチャンネルは、同じ MAXBFRU 値を使用します。入力された

数は、MPC CTC 接続でデータを受信するために VTAM が割り振るページの数を示します。

124 value = MPC WRITE BUFFER

value は、MPC サポートを行うためにこの VTAM にチャンネル接続される隣接 VTAM に定義された、すべての WRITE サブチャンネルの MAXBFRU の合計を表します。WRITE サブチャンネルのバッファ・サイズは、VTAM の他のサイドの READ サブチャンネルの MAXBFRU 値によって異なります。同じ MPC 大ノードに定義されているすべての WRITE サブチャンネルには、同じ MAXBFRU 値を使用します。入力された値は、MPC CTC 接続でデータを受信するために、VTAM が割り振るページの数を表します。

125 value = APPLICATION SESSIONS

value は、両方のセッション・パートナーが、この VTAM に定義されたアプリケーションであるセッションの数を表します。

140 value = MAXIMUM DIRECTORY SIZE

value は、DIRSIZE 開始オプションに対して、指定またはデフォルトの値を示します。

141 value = MAXIMUM TRS ROUTING TREES

value は、NUMTREES 開始オプションに対して、指定またはデフォルトの値を示します。

142 value = END NODE TRANSMISSION GROUPS

value は、このノードと、接続されたエンド・ノードとの間の APPN 伝送グループの数を表します。

143 value = NETWORK NODE TRANSMISSION GROUPS

value は、このノードと、接続されたネットワーク・ノードの間の APPN 伝送グループの数を表します。

144 value = VIRTUAL NODE TRANSMISSION GROUPS

value は、このノードと、接続された仮想ノードとの間の APPN 伝送グループの数を表します。

151 value = DEPENDENT LU TOTAL FOR *majornode*

value は、PU タイプ 4 または 5 大ノードで定義された従属 LU の合計数を表します。

152 value = ACTIVE DEPENDENT LU REQUESTERS

value は、現在この VTAM 従属 LU サーバーによりサービスを提供されている従属 LU リクエスターの数を表します。

153 value = ACTIVE DLUR SERVED PU TOTAL

value は、この VTAM 従属 LU サーバーによりサービスを提供されている従属 LU リクエスターの所有する物理装置の合計数を表します。

154 value = ACTIVE DLUR SERVED LU TOTAL

value は、この VTAM 従属 LU サーバーによりサービスを提供されている従属 LU リクエスターの所有する、従属論理装置の数を表します。

155 value = VR-BASED TRANSMISSION GROUPS

value は、このノードと他の VTAM CDRM との間にある、仮想経路ベースの伝送グループの数を表します。

156 value = CONNECTION NETWORK DYNAMIC TGS

value は、接続ネットワークとともに使用するために、このノードで活動化された動的伝送グループの数を表します。VTAM はこれらの動的伝送グループを作成します。

- この VTAM と、同じ仮想ノードから接続された他のノードの間にセッションが確立されている。
- 他のノードに対して事前に定義された回線が存在しない。

157 value = TRANSPORT RESOURCE LIST ENTRIES

value は、この VTAM 内で活動状態の伝送リソース・リスト項目 (TRLE) の数を表します。

159 value = ADJACENT CLUSTER TABLE CPNAME ENTRIES

value は、活動隣接クラスター・テーブル内の事前に定義された項目、または活動状態の項目の数を表します。隣接クラスター・テーブルは APPN ディレクトリー・サーバーにより使用され、境界ノード探索論理において、探索するノードの順番を選択します。

161 value = HIGHEST ELEMENT ADDRESS ASSIGNED

value は、VTAM によって割り当てられている最大ネットワーク・アドレス・エレメント番号を示します。*value* は 10 進数で表示されます。割り当てることができるエレメント・アドレスの最大数は 65,536 ('0000' から 'FFFF'X) です。

162 value = HIGHEST EXTENDED ELEMENT ADDRESS ASSIGNED

value は、VTAM によって割り当てられている最大拡張ネットワーク・アドレス・エレメント番号を示します。*value* は 10 進数で表示されます。割り当てることができる拡張エレメント・アドレスの最大数は 16,777,216 です。詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の ENHADDR 開始オプションの説明を参照してください。

IST1315I

出力が途中で切れている場合、このメッセージは表示された行数を示します。

number は、DISPLAY STATS コマンドの NUM オペランドに指定された数、DSPLYMAX 開始オプションの値、またはデフォルトの DSPLYMAX 値を表します。開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1345I

このメッセージは、IST1227I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1349I

dddd-ddddd-ddd は、VTAM によって割り振られているコンポーネント ID です。この ID は、弊社が VTAM プログラムを維持するために使用します。

ベクトルのリスト、および構成 ID の詳細については、「VTAM Programming」の、アプリケーション・プログラムのオープンとクローズについての説明を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1346I NCP DOES NOT SUPPORT CONNECTION NETWORK FUNCTION

説明: このメッセージは仮想ノードへの論理接続の活動に障害が起きたとき、VTAM がある回線に対する VARY ACT の応答として出すグループ・メッセージの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1166I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1347I INSUFFICIENT STORAGE TO DELAY DISCONNECT OF *puname*

説明: DISCNT=DELAY として定義されていた物理装置の切断を遅延させるために十分な記憶がないときに、VTAM はこのメッセージを出します。

puname は、切断される物理装置の名前です。

システムの処置: VTAM は、遅延なしで物理装置を切断しようと試みます。

- メッセージ IST169I が同じ物理装置に出された場合、切断は遅延なしで完了しています。
 - メッセージ IST348I が同じ物理装置に出された場合、切断を遅延なしで行うとしてもストレージが不足しています。
- オペレーターの応答:
- メッセージ IST169I がこのメッセージに続く場合、処置は必要ありません。
 - メッセージ IST348I が、IST1347I に続く場合、*puname* に VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドを入力してください。
 - ストレージ不足のために、コマンドが頻繁に失敗する場合、以下のように行ってください。
 - DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。
 - 問題判別のためにシステム・ログを保管し、コンソール・ログを要求してください。

プログラマーの応答: ストレージ不足の問題が頻繁に発生する場合、必要に応じてストレージを大きくしてください。

ストレージに関連する問題については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

「VTAM Operation」を参照してください。

IST1348I VTAM STARTED AS *nodetype*

説明: VTAM は以下の状態のときにこのメッセージを出します。

- VTAM 初期設定中
- DISPLAY VTAMOPTS コマンドへの応答

DISPLAY VTAMOPTS コマンドへの応答でこのメッセージが出された場合、メッセージ IST1188I が先頭になっているメッセージ・グループの一部です。このグループの詳しい記述については、そのメッセージを参照してください。

nodetype は、このホストのノード・タイプを示し、指定されている、またはデフォルトの開始オプションによって決定されます。表示される可能性のある値は、以下のとおりです。

END NODE
INTERCHANGE NODE
MIGRATION DATA HOST
NETWORK NODE
SUBAREA NODE

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1349I COMPONENT ID IS *dddd-ddddd-ddd*

説明: VTAM は以下の状態のときにこのメッセージを出します。

- VTAM 初期設定中

このメッセージが VTAM 初期設定中に出される場合、その前にメッセージ IST020I が出されます。

- DISPLAY VTAMOPTS コマンドへの応答

DISPLAY VTAMOPTS コマンドへの応答でこのメッセージが出された場合、メッセージ IST1188I が先頭になっているメッセージ・グループの一部です。このグループの詳しい記述については、そのメッセージを参照してください。

- DISPLAY STATS,TYPE=VTAM コマンドへの対応

このメッセージが DISPLAY STATS,TYPE=VTAM コマンドへの応答で出される場合、メッセージ IST1345I が先頭になっているメッセージ・グループの一部です。このグループの詳しい記述については、そのメッセージを参照してください。

dddd-ddddd-ddd は、VTAM によって割り振られているコンポーネント ID です。この ID は、弊社が VTAM プログラムを維持するために使用します。

V4R2 用のコンポーネント ID は 5695-11701-201 です。ベクトル・リストおよびコンポーネント ID の詳細については、「VTAM Programming」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1350I DEFINITION ERROR: *reason*

説明: メッセージ IST322I および IST323I に表示されている定義エラーについての詳細を提供するために、VTAM はこのメッセージを出します。

reason はエラーの原因を示し、以下のいずれかになります。

DATA LIMIT EXCEEDED AT DLCADDR ID *id*

PATH 定義ステートメントの DLCADDR すべてに指定できるデータの最大バイト数は 252 バイトです。このバイト数は、コーディングされている DLCADDR それぞれのサブベクトル・ヘッダーのための 2 バイトを含んでいます。VTAM が DLCADDR ID *id* を処理していたとき

に、このデータ制限を超えました。この DLCADDR ID を含む PATH 定義ステートメント全体は使用不可能です。

DELAY NOT VALID FOR PU OR VBUILD TYPE

DISCNT=DELAY が定義に指定されましたが、PU や VBUILD タイプが不正です。DELAY が指定される場合、PU タイプは 2.0 または 2.1 で、VBUILD タイプは MODEL または SWNET でなければなりません。DISCNT パラメーターにはデフォルト値が使用されます。

DLCADDR ID *id* - DATA IS NOT TYPE *type*

DLCADDR サブフィールド ID *id* に与えられている値が、指定されているデータ・タイプと矛盾しています。この DLCADDR ID を含む PATH 定義ステートメント全体は使用不可能です。

DLCADDR ID *id* - DATA TYPE IS NOT VALID

DLCADDR データ・タイプは D、C、X、A または BCD でなければなりません。この DLCADDR ID を含む PATH 定義ステートメント全体は使用不可能です。

DLCADDR ID *id* IS NOT BETWEEN 1-96

指定するサブフィールド ID は 1 から 96 までの 10 進数でなければなりません。この DLCADDR ID を含む PATH 定義ステートメント全体は使用不可能です。

注: このメッセージが、PATH 定義ステートメントにコーディングされている最初の DLCADDR を指している場合、システムは PATH で検出された後続の DLCADDR では、制限された量だけを検査します。

DLCADDR [*id*] REQUIRES AT LEAST 3 VALUES

PATH ステートメントでのいずれかの DLCADDR が、必要な情報すべてを指定していません。DLCADDR ID が指定されていれば、*id* が表示されます。この DLCADDR ID を含む PATH 定義ステートメント全体は使用不可能です。

注: このメッセージが、PATH 定義ステートメントにコーディングされている最初の DLCADDR を指している場合、システムは PATH で検出された後続の DLCADDR では、制限された量だけを検査します。

DUPLICATE DLCADDR ID *id* IS IGNORED

サブフィールド ID *id* が複数回使用されていて、指定に 1 のサブフィールド ID をもつ DLCADDR がありません。2 番目の指定は無視されます。

FIRST DLCADDR ID MUST BE 1

PATH 定義ステートメントの最初の DLCADDR に、1 のサブフィールド ID がありません。この DLCADDR ID を含む PATH 定義ステートメント全体が使用不可能です。

注: このメッセージが、PATH 定義ステートメントにコーディングされている最初の DLCADDR を指している場合、システムは PATH で検出された後続の DLCADDR に対して制限された量のチェックしか行いません。

ICA DEVICE NOT VALID WITH IOBUF31=YES

IOBUF31=YES の VSE サポートがあり、IOBUF31=YES と構成されているのに、通信統合アダプター (ICA) の大ノードを定義しようとした。IOBUF31=YES が指定さ

れている場合、VTAM は、ICA が接続された装置 (SDLC、BSC、X.25、および LAN) をサポートしません。IOBUF31=YES が指定されている場合、ICA リソースを活動化することはできません。

LMI PU NOT VALID IN FRSESET

IST323I の FRSESET 定義でローカル管理インターフェース (LMI) プロトコル PU を使用するように試みましたが、これは無効です。LMI キーワードの情報については、「NCP, SSP, and EP Resource Definition Reference」を参照してください。

puname ALREADY USED IN *frsesetname*

すでに FRSESET *frsesetname* に静的、または動的に定義されているので、メッセージ IST323I の FRSESET 定義に *puname* を使用することはできません。

puname DEFINED BUT NOT USED IN FRSESET

puname は NCP に正しく定義されていますが、メッセージ IST323I の FRSESET 定義には使用されていません。

puname NOT PREVIOUSLY DEFINED IN NCP

puname はメッセージ IST323I の FRSESET 定義で使用されていますが、NCP に定義されていません。

STATIC AND DYNAMIC NOT ALLOWED IN FRSESET

メッセージ IST323I の FRSESET 定義に、静的および動的に定義されている PU があります。FRSESET の PU はすべての静的および動的のいずれかでなければなりません。

VRTG ONLY VALID FOR ICN OR MDH

ノードが APPN またはサブエリア・ノードとして構成されている場合、VRTG キーワードは無効です。このキーワードは、ノードが交換ネットワーク・ノードまたは移行データ・ホストとして構成されている場合のみ有効です。

VRTG NOT VALID FOR HOST CDRM

VRTG キーワードがホスト CDRM に指定されている (指定されている SUBAREA がこのノードのサブエリア番号に等しい) 場合、このキーワードは無効です。

VRTG NOT VALID FOR CROSS-NET CDRM

VRTG キーワードが、対応する NETWORK ステートメント NETID がこのノードと同じネットワークでない CDRM ステートメントに指定されている場合、このキーワードは無効です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: IST322I、IST323I およびこのメッセージの情報は、エラーを訂正するために役立ちます。

VTAM 定義ステートメントの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。NCP 定義ステートメントの詳細については、「NCP, SSP, and EP Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1351I DLURNAME DIAL NUMBER PID GID CNT

説明: このメッセージは、DISPLAY PATHS コマンドに回答して、VTAM が出すメッセージ・サブグループの最初のメッセージです。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

IST1352I • IST1355I

```
IST1351I  DLURNAME  DIAL NUMBER
          PID GID CNT
IST168I   dlurname  {phonenum|linename}
          pid gid cnt
          {AVA|NAV} {MAN|AUT|DIR}
:
:
IST314I  END
```

IST1351I

これはメッセージ IST168I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

DLURNAME は従属 LU リクエスター (DLUR) 名です。

IST168I

dlurname は従属 LU リクエスター名です。

phonenum は電話番号 (非 X.21 回線用) です。

linename は回線名 (X.21 回線用) です。

pid は経路 ID (PID) です。

gid は、すべての物理装置に通じている経路グループのグループ ID (GID) です。

cnt は、ダイヤル操作が NCP で試みられる回数です。

AVA は VTAM が経路を使用できることを示します。

NAV は VTAM が経路を使用できないことを示します。

MAN は手動ダイヤルを示します。

AUT は、非 X.21 回線では自動ダイヤルであることを示します。

DIR は X.21 回線に直接ダイヤルすることを示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1352I DLUR NAME DLUS CONWINNER STATE DLUS CONLOSER STATE

説明: このメッセージは、DISPLAY DLURS コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。従属 LU サーバー (DLUS) によってサポートされている従属 LU リクエスター (DLUS) がディスプレイにリストされます。または CPSVRMGR セッション・パイプ状況も表示されます。CPSVRMGR パイプは、競合勝者 (conwinner) と競合敗者 (conloser) の 2 つの LU 6.2 セッションで構成されます。どちらのセッションの状況も表示されます。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = DEPENDENT LU REQUESTER
IST1352I  DLUR NAME  DLUS CONWINNER STATE
          DLUS CONLOSER STATE
IST1353I  dlurname  conwinner_state
          conloser_state
IST314I  END
```

IST1352I

このメッセージは、メッセージ IST1353I に表示されている情報のヘッダー・メッセージです。

IST1353I

- *dlurname* は、*netid.name* の形式の従属 LU リクエスターのネットワーク修飾 CP 名です。
- *conwinner_state* は、指定された DLUR への DLUS 競合勝者セッションの状況です。DLUS 競合勝者セッションを使用して、DLUS はデータを送信します。
- *conloser_state* は、指定された DLUR への DLUS 競合敗者セッションの状況です。DLUS 競合敗者セッションを使用して、DLUS はデータを受信します。
- *conwinner_state* および *conloser_state* に使用される可能性のある値は、以下のとおりです。

ACTIVE

INACTIVE

PENDING ACTIVE

PENDING INACTIVE

RESET

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1353I dlurname conwinner_state conloser_state

説明: VTAM は DISPLAY DLURS コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1352I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1354I DLUR NAME = dlurname MAJNODE = majornodename

説明: このメッセージは、以下の状況で VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

- DLUR サポート物理装置への接続要求が拒否された場合。そのグループの最初のメッセージは IST680I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。
- DISPLAY ID=*dlur_pu* コマンドに対する応答の場合。

dlurname は、*netid.name* の形式の従属 LU リクエスター (DLUR) のネットワーク修飾 CP 名です。*dlurname* は、コマンドの ID オペランドに指定されている物理装置に関連する DLUR です。

majornodename は、コマンドの ID オペランドに指定された物理装置の交換回線メジャー・ノードの名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1355I PHYSICAL UNITS SUPPORTED BY DLUR dlurname

説明: このメッセージは、DISPLAY ID=*dlurname* コマンドに回答して VTAM が出す、メッセージ・サブグループの一部です。これは、DISPLAY コマンドに指定されている DLUR によってサポートされている PU の情報を含む IST089I のヘッ

ダー・メッセージです。メッセージ・サブグループの完全な記述は以下の通りです。

```
IST1355I PHYSICAL UNITS SUPPORTED BY DLUR dlurname
IST089I nodename TYPE = nodetype, status
:
```

IST1355I

dlurname は、表示される物理装置をサポートしている DLUR を表す CDRSC の名前です。 *dlurname* は、 *netid.name* の形式の従属 LU リクエスト (DLUR) のネットワーク修飾 CP 名です。

IST089I

nodename は、 *dlurname* によってサポートされている物理装置です。

nodetype は必ず PU です。

status は物理装置の状況です。 *status* の詳細については、713 ページの『VTAM リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1356I NETWORK NODE DOES NOT PROVIDE REQUIRED SERVER FUNCTION

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1110I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1357I CPCP

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1295I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1358I NO QUALIFYING MATCHES FOR *id*

説明: DISPLAY コマンドの ID オペランドに指定されているワイルドカード名、またはコマンドのキーワード (例えば SCOPE、IDTYPE) によって指示されているその他の制約に一致するリソース名が見つからないときに、VTAM はこのメッセージを出します。これは以下のコマンドに対して出されません。

```
DISPLAY APPLS
DISPLAY CDRMS
DISPLAY CLSTRS
DISPLAY CDRSCS
DISPLAY GROUPS
DISPLAY LINES
DISPLAY PENDING
DISPLAY RSCLIST
DISPLAY TERMS
DISPLAY TGPS
```

id は DISPLAY コマンドの ID オペランドに指定されている名前です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1363I GENERIC RESOURCE NAME *generic_name* REPRESENTS *resource*

説明: このメッセージは、DISPLAY ID=*resource* コマンドに回答して VTAM が出す、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST075I です。

resource は、コマンドに指定されているリソースの、およびメッセージ IST075I にあるリソースのネットワーク修飾名です。

generic_name は、*resource* に与えられている総称リソース名です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1364I *name* IS A GENERIC RESOURCE NAME FOR:

説明: VTAM は DISPLAY SESSIONS コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。グループの最初のメッセージは IST873I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1378I *command* FAILED FOR *name* - GENERIC RESOURCE NAME EXISTS

説明: ID に指定された値が、すでに総称リソース名としてこのノードに認識されているために *command* が失敗した場合、VTAM はこのメッセージを出します。USERVAR と総称リソース名を同じ名前にすることはできません。

command は常に F USERVAR です。

name は、総称リソース名でもある ID に指定されている名前です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: 異なる USERVAR 名を ID に指定して、コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1385I ADJCLUST INFORMATION WAS IGNORED DUE TO INSUFFICIENT STORAGE

説明: 境界ノードが隣接クラスター情報を受信しても、その情報を保管するために十分なストレージがなかった場合、VTAM はこのメッセージを出します。これは専用ストレージの問題です。

システムの処置: 情報を受信しなかったものとして、隣接クラスター・ルーティングを継続します。

オペレーターの応答: DISPLAY BFRUSE コマンドを入力してください。メッセージ IST981I は、すべての VTAM 専用ストレージの情報を表示します。

ストレージ・プールのストレージの使用率を表示するには、DISPLAY STORUSE コマンドを入力してください。

IST1392I • IST1402I

問題判別のためにシステム・ログを保管し、コンソール・ログを要求してください。

プログラマーの応答: 必要に応じてストレージを増やしてください。「VTAM Operation」を参照してください。ストレージに関連する問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1392I DISCNTIM = *seconds* DEFINED AT *source* FOR DISCONNECT

説明: このメッセージは、VTAM が DISPLAY ID コマンドに回答して出すメッセージ・サブグループの一部で、物理装置が DISCNT= DELAY として定義されている場合に出されます。メッセージ・サブグループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST075I NAME = *nodename*, TYPE = *nodetype*
IST1392I DISCNTIM = *seconds* DEFINED AT *source*
FOR DISCONNECT

IST075I

nodename は、表示されるリソースまたは ID タイプの名前です。

nodetype の説明については、739 ページの『VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述』を参照してください。

IST1392I

seconds は、DISCNTIM に定義された値を秒数で示します。DISCNTIM は、最後の LU-LU セッションが終了した後で、VTAM が PU の切断を遅らせる時間を定義します。

source は、DISCNTIM 定義のソースを示します。値は以下のいずれかです。

PU 遅延時間は PU 定義に指定されました。これは DISCNTIM キーワードとともに MODIFY RESOURCE または MODIFY DEFAULTS コマンドを使用すれば、変更することができます。

HOST

遅延時間は、VTAM の開始時に DISCNTIM 開始オプションによってホストで指定されたか、またはデフォルト値を使用して指定されました。これは DISCNTIM キーワードとともに MODIFY VTAMOPTS コマンドを使用して、変更することができます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1394I CPNAME = *cpname* STATION ID = *stationid*

説明: VTAM は、以下の状況の場合に、メッセージ・グループの一部としてこのメッセージを出します。

- メッセージ IST680I 中にある、リソース *nodename* への接続要求が拒否された場合。このメッセージの後に、メッセー

ジ IST081I または IST352I が出されて、リソースについての詳細な情報が提供される場合があります。

- メッセージ IST1452I 内のリソース *puname* に対する接続要求が正常に受け入れられた場合。

詳細については、IST680I の記述を参照してください。

IST1395I FLDTAB = *fldname*

説明: VTAM は DISPLAY ID=ISTNOP コマンドに回答して、このメッセージ・サブグループの一部として出します。サブグループの中では、IST977I が最初のメッセージです。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1401I RESOURCE NOT FOUND-RETRY IN *time* SEC(S) OR *number* REQUEST(S)

説明: VTAM は、DISPLAY ID または DISPLAY DIRECTRY コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。

SRCHRED 開始オプションが ON で、表示中のリソースが探索縮小項目を表している場合、VTAM はこのメッセージを出します。このリソースへの探索は、*time* と *number* フィールドに示されているように制限されます。探索縮小項目の処理の詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

- *time* は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する残りの秒数です。指定された秒数が満了すると、リソースへのそれ以降の探索は制限されません。
- *number* は、VTAM が探索縮小制限なしでリソースを探索するまでに必要な要求の量を示します。
 - **NEXT** が表示されると、リソースへの次の探索要求を制限しません。
 - その他の場合、*number* の要求が受信されるまで、VTAM は探索を制限します。例えば *number* が 2 であれば、VTAM は最初に受信した要求を制限しますが、2 番目に受信した要求は制限しません。
- *time* や *number* の値が *NA* であれば、これは適用不可を意味します。タイマーやカウンタが 0 に設定されていると、この値が表示されます。
- このリソースに使用されている SRTIMER と SRCOUNT のしきい値は、メッセージ IST1402I に表示されます。

SRCHRED、SRCOUNT、および SRTIMER 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1402I SRTIMER = *srtimer* SRCOUNT = *srcount*

説明: VTAM は、DISPLAY ID または DISPLAY DIRECTRY コマンドに回答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。

SRCHRED 開始オプションが ON であるときに、VTAM はこのメッセージを出します。表示されるリソースに使用されている SRCOUNT と SRTIMER の値が示されます。

srtimer は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する、秒単位の時間です。

srcount は、VTAM が前に探索できなかったリソースへの探索を制限する、要求の数です。

SRCHRED、SRCOUNT、および SRTIMER 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。MODIFY VTAMOPTS を使用すれば、開始オプションの値を変更することができます。このコマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

SRTIMER および SRCOUNT の値は、MODIFY RESOURCE コマンドを使用して修正することができます。「VTAM Operation」を参照してください。

SRTIMER および SRCOUNT の値は、CDRSC 大ノード内の CDRSC および GROUP 定義ステートメントを介して、特定のリソースに指定することもできます。「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1403I **MODIFY QUERY REPLY FROM** *ncpname*

説明: このメッセージは、MODIFY QUERY コマンドが出されて応答が受信されたときに VTAM が出すメッセージ・グループの、最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳細記述は以下のとおりです。

```
IST1403I  MODIFY QUERY REPLY FROM ncpname
IST1404I  id data
          .
          .
          .
[IST1405I  data]
          .
          .
          .
IST314I  END
```

IST1403I

ncpname は、MODIFY QUERY コマンドの ID オペランドに指定された NCP の名前です。

IST1404I

id は、コマンドに指定されたベクトルのサブフィールド ID です。

data は、*ncpname* の要求した情報です。

IST1405I

このメッセージは、IST1404I の *data* の続きを表示するのに使用されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1404I *id data*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。メッセージ・グループの最初のメッセージは、IST1403I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1405I *data*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。メッセージ・グループの最初のメッセージは、IST1282I または IST1403I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1408I **MODIFY TGP NOT APPLICABLE FOR** *resource_type resource_name*

説明: 以下の両方の状況が発生したために MODIFY TGP コマンドが失敗すると、VTAM はこのメッセージを出します。

- 接続で使用された PU が、動的に作成された
- DISPLAY ADJCP コマンドが出されたときに、この接続でのトポロジー報告状況が以下のいずれかになっている

AC/N	活動中: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない
AO/N	指定変更によって活動中: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない
AQ/N	休止: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない
IN/N	非活動: APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない
NEV	APPN トポロジーとルーティング・サービスに報告されない

resource_type は、リソースのタイプを示すもので、CP または PU のいずれかです。

resource_name はリソースの名前です。

- *resource_type* が CP の場合、*resource_name* は、MODIFY TGP の ID オペランドにコーディングされた隣接制御点と TGN オペランドにコーディングされた伝送グループ番号によって識別されるリソースです。
- *resource_type* が PU の場合、*resource_name* は、MODIFY TGP の ID オペランドに指定された動的 PU 名です。

MODIFY TGP コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: DISPLAY ADJCP コマンドを出して接続の状況を調べてください。DISPLAY ADJCP コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1410I **QUERY status resource**

説明: VTAM はこのメッセージを出して、MODIFY QUERY コマンドの状況を報告します。

resource は照会のターゲットです。

status はこのコマンドの状況で、以下のいずれかになります。

SENT TO

このコマンドまたは一連のコマンドは、MODIFY QUERY コマンドに指定された形で、*resource* に送信されました。

IST1411I

QUEUED FOR

このコマンドは一連の MODIFY QUERY コマンドの一部です。このコマンドが受信されるまで、*resource* に対して実行されません。

RESET FOR

resource に対して実行されていなかった一連のコマンドは除去されました。プログラム・オペレーター・アプリケーション (POA) が MODIFY QUERY コマンドに CONTINUE=RESET を指定した場合か、またはコマンドの処理中にエラーが発生した場合に、この状況が起こります。

システムの処置: VTAM の取る処置は、報告された *status* によって異なります。

- *status* が **RESET FOR** の場合、この *resource* に出される一連の MODIFY QUERY コマンドは、VTAM によって除去されます。
- *status* が **SENT TO** の場合、このコマンドや一連のコマンドは、*resource* に対して送信されます。
- *status* が **QUEUED FOR** の場合、すべてのコマンドが受信されるまでは、このコマンドは *resource* にキューイングされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1411I INOP GENERATED FOR *resourcename*

説明: このメッセージは、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) ノード *resourcename* について、エラー条件が検出された場合に、VTAM が出す一連のメッセージの最初のもので

考えられるメッセージ・グループは以下のとおりです。

- LAN 操作が識別されている場合、VTAM は以下のメッセージを出します。

```
IST1411I INOP GENERATED FOR resourcename
IST1412I lan_operation action - RETURN CODE
          return_code
IST314I  END
```

- LAN 操作が識別されていない場合、VTAM は以下のメッセージを出します。

```
IST1411I INOP GENERATED FOR resourcename
IST1430I REASON FOR INOP IS reason
IST314I  END
```

IST1411I

resourcename は、INOP 状況が発生する原因となった LAN ノードの名前です。

IST1412I

- *lan_operation* は、失敗した LAN 操作の名前です。より詳しく問題を判別する必要がある場合、この名前を IBM のソフトウェア・サポート・センターに報告してください。
- *action* は次のいずれかです。

FAILED

lan_operation は、否定応答が戻された LAN 操作です。

RECEIVED

lan_operation は、受信され、接続性の変更を報告した LAN 操作です。

- *return_code* (表示された場合) は、*resourcename* によって出される 4 桁の 16 進数コードで、問題の原因についての情報を提供します。*return_code* の説明については、「z/OS Communications Server IP and SNA Codes」の「LAN Channel Station Error Return Codes」を参照してください。戻りコードが利用できない場合、*NA* が表示されます。さらに詳しく問題を判別する必要がある場合、IBM のソフトウェア・サポート・センターに、このコードを報告してください。

IST1430I

- *reason* は次のいずれかです。

INBOUND PIU COULD NOT BE ROUTED

INOP の原因としては、以下の状況が考えられます。

- PIU の処理中に、ABEND が発生した。またメッセージ IST1037I も出され、追加の状況が提供されます。
- PIU セグメントがばらばらに受信された。
- PIU が消失した。新しい PIU を開始する前に PIU を完了しなかったセグメントが受信されました。
- セグメントのサイズが大きすぎた。インバウンド PIU が受信され、セグメントのサイズが最大フレーム・サイズまたは最大 PIU サイズを超えました。
- 以下のいずれかの理由で、PIU が無効でした。
 - PIU が FID4 ではない
 - 内部 PIU が FID0 または FID2 ではない
 - PIU が短すぎ、VR ページング応答で RH を含むことができない
 - PIU 内のデータ・カウント・フィールドが、PIU のサイズを超えた

注: INOPDUMP 開始オプションが ON の場合、ISTTSCPD が SVC のダンプを要求しました。

TIMEOUT OCCURRED - PORT TIMER EXPIRED

XCA 大ノードの PORT 定義ステートメントに指定された時間枠が満了し、要求に対する応答が受信されませんでした。

MACADDR OR SAPADDR IN USE

この接続に使用する MACADDR または SAPADDR が、使用中のリモート MACADDR または SAPADDR と重複します。

UNRECOGNIZED OPERATION

このメッセージ・グループを出したモジュールでは、INOP の原因を判別できませんでした。

システムの処置: *resourcename* に対してエラー・リカバリー処置を試行し、次に出す VTAM メッセージで、その試行の結果を示します。処理を続行します。

オペレーターの応答: リソースの状況を判別するには

DISPLAY ID=*resourcename*,SCOPE=ALL コマンドを入力してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答:

- メッセージ IST1412I が出された場合は、システム・ログと *return_code* の説明を使用して、問題を訂正してください。
lan_operation が **CLOSE_STATION_INDICATION** で、*action* が **RECEIVED** で、*return_code* が *NA* であれば、VTAM は、前にオープンしたか、またはオープン処理中であったステーションをクローズしたことを通知しました。
- メッセージ IST1430I が出される場合、*reason* の値によって、次に取る処置が異なります。

INBOUND PIU COULD NOT BE ROUTED

- PIU の処理中に、ABEND が発生した。推奨される処置については、IST1037I を参照してください。
- PIU がばらばらに受信された。
インバウンド PIU の FID4 TH 内の TG シーケンス番号が、VTAM の予期した次のシーケンス番号と異なっていたために、受信できませんでした。VTAM 内部トレースが実行中だった場合、PIU 破棄トレース項目が書き込まれます。LS6I の DSC2 トレース・レコードで、破棄理由コード 0001 とモジュール ID を含む DSCD 項目を探してください。DSCD および DSC2 トレース項目の形式と内容については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- PIU が消失した。
新しい PIU を開始する前に PIU を完了しなかったセグメントが受信されました。VTAM 内部トレースが実行中だった場合、PIU 破棄トレース項目が書き込まれます。LS6Z のトレース・レコードで、破棄理由コード 0001 と 0004、およびモジュール ID を含む DSCD 項目を探してください。DSCD トレース項目の形式と内容については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- セグメントのサイズが大きすぎた。
インバウンド PIU が受信され、セグメントのサイズが最大フレーム・サイズまたは最大 PIU サイズを超えました。インバウンド PIU の最大セグメント・サイズは、最大 PIU かまたは XID に渡されたフレーム・サイズによって判別されます。VTAM 内部トレースが実行中だった場合、PIU 破棄トレース項目が書き込まれます。LS6Z の DSC2 トレース・レコードで、破棄理由コード 0003 と 0004、およびモジュール ID を含む DSCD 項目を探してください。DSCD および DSC2 トレース項目の形式と内容については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。
- PIU が無効でした。
INOPDUMP 開始オプションが ON の場合、ISTTSCPD によって SVC DUMP が試行されました。その名前はダンプの表題に表示されます。システム・ログとダンプを参考にして、INOP が発生した原因を判別してください。INOPDUMP 開始オプションの詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。VTAM 内部トレースが実行中だった場合、PIU 破棄トレース項目が書き込まれます。LS6I の DSC2 トレース・レコードで、破棄理由コード 0002 とモジュール

ル ID を含む DSCD 項目を探してください。

DSCD および DSC2 トレース項目の形式と内容については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

TIMEOUT OCCURRED - PORT TIMER EXPIRED

PORT 定義ステートメントの TIMER 値が十分に高いことを確認してください。追加情報については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

MACADDR OR SAPADDR IN USE

この接続に使用する MACADDR と SAPADDR が固有のペアであることを確認してください。XCA 大ノードに MACADDR および SAPADDR を指定する方法については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

UNRECOGNIZED OPERATION

INOP の原因を判別できませんでした。IBM サポート・センターに連絡してください。

IST1412I *lan_operation action - RETURN CODE*
return_code

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1411I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1413I *error_type - REDIAL ATTEMPTED FOR*
puname

説明: 物理装置 *puname* に対してリダイヤルが試みられると、VTAM はこのメッセージを出します。

error_type は次のいずれかです。

PROTOCOL VIOLATION

この従属 LU リクエスターに対して活動化された最初の PU への ACTPU または REQACTPU 応答では、CV X'51' は見つかりませんでした。

SESSION OUTAGE

VTAM と従属 LU リクエスターとの間での、CPSVRMGR セッションのいずれか 1 つが、VARY INACT コマンド以外の方法で終了されました。

TDU ERROR

トポロジー・データベース更新 (TDU) エラーが発生しました。エンド・ノード従属 LU リクエスターは、そのトポロジーをネットワーク・ノード・サーバーとともに登録しようとし、否定応答を受信しました。

puname は物理リソースの名前です。

システムの処置: リダイヤルが試行されます。*puname* へのリダイヤルが成功すると、メッセージ IST093I が出されます。リダイヤルが正常に終了しないと、メッセージ IST619I または IST1416I が出されます。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

- *error_type* が **SESSION OUTAGE** の場合は、バッファー内容トレースが追加情報を提供する可能性があります。「VTAM Diagnosis」を参照してください。

プログラマーの応答:

- *error_type* が **PROTOCOL VIOLATION** の場合、この CPSVRMGR パイプで活動化された最初の PU の ACTPU 応答 (VARY DIAL を行っている場合) か、REQACTPU 応答 (DLUR 開始の CPSVRMGR パイプ活動化を行っている場合) を探してください。RU が正しく形式設定され、必要な制御ベクトルをすべて含んでいることを確認してください。
- *error_type* が **SESSION OUTAGE** の場合、従属 LU リクエスト (DLUR) へのすべてのリンクが現在も使用可能であること、および DLUR が現在でも活動状態であることを確認してください。
- *error_type* が **TDU ERROR** の場合、ダンプで失敗した TDU RU を探し、RU が正しくフォーマットされていることを確認してください。

IST1414I *error_type* - REDIAL NOT ATTEMPTED FOR *puname*

説明: 物理リソース *puname* へのリダイヤルが試行されない場合、VTAM はこのメッセージを出します。

error_type は次のいずれかです。

PROTOCOL VIOLATION

この従属 LU リクエストに対して活動化された最初の PU への ACTPU または REQACTPU 応答では、CV51 は見つかりませんでした。

SESSION OUTAGE

VTAM と従属 LU リクエストとの間での、CPSVRMGR セッションのいずれか 1 つが、VARY INACT コマンド以外の方法で終了されました。

TDU ERROR

トポロジー・データベース更新 (TDU) エラーが発生しました。エンド・ノード従属 LU リクエストは、そのトポロジーをネットワーク・ノード・サーバーとともに登録しようとし、否定応答を受信しました。

puname は物理リソースの名前です。

システムの処置: *puname* に対するリダイヤルは試行されません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

- *error_type* が **SESSION OUTAGE** の場合は、バッファ内容トレースが追加情報を提供する可能性があります。

「VTAM Diagnosis」を参照してください。

プログラマーの応答:

- *error_type* が **PROTOCOL VIOLATION** の場合、この CPSVRMGR パイプで活動化された最初の PU の ACTPU 応答 (VARY DIAL を行っている場合) か、REQACTPU 応答 (DLUR 開始の CPSVRMGR パイプ活動化を行っている場合) を探してください。RU が正しく形式設定され、必要な制御ベクトルをすべて含んでいることを確認してください。
- *error_type* が **SESSION OUTAGE** の場合、従属 LU リクエスト (DLUR) へのすべてのリンクが現在も使用可能であること、および DLUR が現在でも活動状態であることを確認してください。

- *error_type* が **TDU ERROR** の場合、ダンプで失敗した TDU RU を探し、RU が正しくフォーマットされていることを確認してください。

IST1415I *resource_name* CONFLICTS WITH A GENERIC RESOURCE NAME

説明: IDTYPE が指定され、かつ以下の両方の条件が存在する場合に、VTAM は DISPLAY ID=*resource_name* コマンドに回答して、このメッセージを出します。

- *resource_name* が総称名であり、かつ実リソースである。
- IDTYPE= の値が、**GENERIC** でない。

システムの処置: VTAM は総称名よりも、実リソースについての情報を表示します。処理を続行します。

カップリング・ファシリティが使用できない (すなわちカップリング・ファシリティが再構築中である) ために、総称リソースの解決が延期される場合、動的 CDRSC が一時的に作成され、総称リソースを表します。これは情報を提供するためだけに作成されたメッセージであって、エラー・メッセージではありません。

オペレーターの応答: 総称名情報を表示するには、DISPLAY ID コマンドに IDTYPE=GENERIC を指定してください。

プログラマーの応答: 重複しているいずれかの名前を変更してください。重複名が存在する間は、実リソースを他のリソースとセッションで結ぶことはできません。また、探索を行っても総称名しか検出されません。

IST1416I ID = *nodename* FAILED - RECOVERY IN PROGRESS

説明: VTAM はノード *nodename* について失敗状態を認識したので、ノードのリカバリーを試みています。リカバリー処置の結果については、後続のメッセージを参照してください。

ノードが常駐するネットワークが VTAM に認識されていれば、*nodename* は *netid.name* 形式のネットワーク修飾名となります。

システムの処置: *nodename* のユーザー、または *nodename* に接続している装置にも、障害が通知されます。VTAM は *nodename* のリカバリーを試みます。

オペレーターの応答: リカバリー処置の成否を示す追加メッセージが出されるまで待ってください。

プログラマーの応答: なし。

IST1417I NETID NAME STATUS NODETYPE MAJNODE

説明: このメッセージは、VTAM が DISPLAY RSCLIST コマンドに回答して出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I  DISPLAY TYPE = RSCLIST
IST1417I  NETID   NAME     STATUS   NODETYPE
          MAJNODE
IST1418I  netid  name     status   nodetype
          majnode
          :
```

```
[IST924I  -----]
[IST1203I  VALUE resourcename FOR operand IS UNKNOWN
          RESOURCE ]
```

```
[IST924I -----]
[IST1358I NO QUALIFYING MATCHES FOR id]
[IST924I -----]
[IST1417I NETID    NAME      STATUS    NODETYPE
MAJNODE]
[IST1418I netid    name      status    nodetype
majnode]
IST1315I DISPLAY TRUNCATED AT MAX = number
IST314I  END
```

IST350I

このメッセージは、表示される情報のタイプを示し、このメッセージ・グループでは常に RSCLIST となります。

IST1203I

operand の値 *resourcename* が、構文的には正しくても、VTAM に定義されていないリソースの場合、このメッセージが表示されます。

resourcename は、VTAM に定義されていないリソース名です。

operand は、DISPLAY RSCLIST コマンドのオペランドです。

IST1315I

出力が途中で切れている場合、このメッセージは表示された行数を示します。

number は、DISPLAY RSCLIST コマンドの MAX オペランドに指定された数、DSPLYMAX 開始オプションの値、またはデフォルトの DSPLYMAX の値のいずれかを表します。

IST1358I

DISPLAY RSCLIST コマンドの ID オペランドに指定されたワイルドカード文字と、コマンドのキーワード (例: SCOPE, IDTYPE) で識別されるその他の制限に一致するリソース名が見つからない場合、このメッセージが出されます。

id は、DISPLAY RSCLIST コマンドの ID オペランドに指定された名前です。

IST1417I

このメッセージは、IST1418I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST1418I

- IST1418I は、ID キーワードに指定された値と同じ数だけ表示されます。ID が単一の値である場合、IST1418I が一度だけ表示されます。ID がワイルドカードの指定になっている場合、IST1418I は複数回表示されます。
- ID キーワードに複数の値が指定されている場合、(例: ID=(A,B*,C))、IST924I によってそれぞれグループ化されず。

netid は、表示中のリソースのネットワーク ID です。

name は、表示中のリソースの名前です。ID キーワードが指定するパターンに一致するリソースだけが表示されます。

status は、*name* の現在の状況です。表示される可能性のある値については、『リソース状況コードおよび修飾子』を参照してください。

nodetype は、大ノードまたは小ノードのリソース・タイプです。*nodetype* の記述については、『VTAM メッセージの中のノードと ID タイプ』を参照してください。

majnode は、*netid.name* を含む大ノードの名前です。

詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1418I *netid name status nodetype majnode*

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1417I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1419I **DUPLICATE SESSION INFORMATION REPORTED FOR *luname***

説明: SSCP の引き継ぎ処理中に BFSESSINFO 要求単位 (RU) が受信されると、VARY ACT コマンドの処理が完了した時点で VTAM はこのメッセージ・グループを出します。またこのメッセージは、メッセージ・グループの最初のメッセージです。このメッセージ・グループは、VTAM が現在 2 つのタイプの 2.1 リンク・ステーションを所有しており、またこのリンク・ステーションの方向が、BFSESSINFO RU に記述される 1 つまたは複数のセッションに使用する同じ論理装置 *luname* の方向であることを示しています。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1419I DUPLICATE SESSION INFORMATION REPORTED FOR
luname
IST1420I UNABLE TO ASSOCIATE THE FOLLOWING SESSION(S)
WITH puname
IST873I  PLU          SLU          SID
STATUS
IST874I  netid.pluname netid.sluname sessionid
status
[IST874I  netid.pluname netid.sluname sessionid
status]
IST314I  END
```

IST1419I

luname は、独立論理装置のネットワーク修飾名です。

IST1420I

puname は、BFSESSINFO RU に関連する、タイプ 2.1 リンク・ステーション (引き継ぎ物理装置) の名前です。

IST873I

このメッセージは、IST874I に表示される情報のヘッダー・メッセージです。

IST874I

plunname は、ネットワーク修飾 1 次セッション・パートナー名です。

slunname は、ネットワーク修飾 2 次セッション・パートナー名です。

sessionid はセッション ID です。セッションの追加情報については、`DISPLAY SESSIONS,SID=sessionid` コマンドを入力してください

status はセッション状況です。(可能なセッション開始状態および終了状態については、「VTAM Messages and Codes」の『Session States and Modifiers』を参照してください。) 状況修飾ビットは、このメッセージ・グループの *status* フィールドには表示されません。この情報を獲得するには、`DISPLAY SESSIONS,SID=sessionid` コマンドを入力してください。

システムの処置: BFSESSINFO RU の処理中にエラーが発生する場合、このあと続いてメッセージが出されます。

BFSESSINFO RU の処理中にエラーが発生しなければ、セッション状況は変更されません。ただし、セッション情報と問題情報の中には、引き継ぎ中のリンクが元の所有 SSCP に返されるまで使用できなくなるものもあります。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

セッション情報と問題情報の中には、引き継ぎ中のリンクが元の所有 SSCP に返されるまで使用できないものもあるために、影響を受けたセッションの *lunname*、*punname* および *sessionid* などの情報は、保管する必要があります。この情報は、例えば論理装置が現在 *punname* を使用していないことをシステム情報が示したために、非活動化されそうな場合に、役に立つことがあります。

punname に `DISPLAY` コマンドを入力しても、現在 PU を使用しているすべての論理装置が表示されるわけではありません。このため、このメッセージ・グループ内の情報を保管しておかないと、特定の論理装置および (または) セッションを表示して、現在 PU を使用しているかどうかを判別することができません。

注:

- SCOPE=ALL が指定されて `DISPLAY ID=lunname` が入力されると、*lunname* を含むすべてのセッションが表示されます。タイプ 2.1 隣接リンク・ステーションを使用する複数のセッションは、メッセージ・グループ内で表示されます。この後には、これらのセッションで使用されている隣接リンク・ステーション (PU) を示すメッセージ IST1081I が出されます。

ただし、SSCP の引き継ぎ中に IST1419I メッセージ・グループにリストされたセッションは、*punname* に対して出されるメッセージ IST1081I の後に出される IST1420I には表示されません。

- SCOPE=ALL が指定されて `DISPLAY ID=punname` コマンドが入力されると、その PU を現在使用している論理装置のリストが、メッセージ IST355I に続いて出されます。

ただし、SSCP の引き継ぎ中に IST1419I メッセージに表示されるセッションのみが、*punname* を使用するセッションである場合、*punname* を使用する論理装置の中には表示されないものもあります。

SSCP 引き継ぎの説明については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1420I UNABLE TO ASSOCIATE THE FOLLOWING SESSION(S) WITH *punname*

説明: このメッセージは、SSCP の引き継ぎ処理中に VTAM が表示するメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは、IST1419I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1421I *nodetype resourcename* HAS DUPLICATE ADDRESS

説明: このメッセージは、メッセージ・グループの一部です。グループの最初のメッセージは IST718I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1422I SAVED TRACE REQUESTS FOR *value*

説明: VTAM は `DISPLAY TRACES` コマンドに応答して、このメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。このメッセージ・グループについて詳しくは、メッセージ IST1041I の説明を参照してください。

IST1423I *rscname* REJECTED BECAUSE DSPLYWLD = *option*

説明: `DISPLAY` コマンドの ID キーワードの *rscname* 値に、ワイルドカード ("*" または "?") が指定されていました。DSPLYWLD 開始オプションの現在の値が *option* である場合、`DISPLAY` コマンドではワイルドカードを使用できません。*option* に指定される可能性のある値は、以下のとおりです。

NOWILD

どの `DISPLAY` コマンドにもワイルドカードを使用できません。

OPERONLY

ネットワーク・オペレーター機能では、`DISPLAY` コマンドにワイルドカードを指定できますが、プログラム・オペレーター・アプリケーションでは指定できません。

POAONLY

プログラム・オペレーター・アプリケーションでは、`DISPLAY` コマンドにワイルドカードを指定できますが、ネットワーク・オペレーター機能では指定できません。

システムの処置: `DISPLAY` コマンドに残存する ID キーワードの値を使用して、処理を続行します。

オペレーターの応答: `MODIFY VTAMOPTS` コマンドを使用し、DSPLYWLD の値を変更して、`DISPLAY` コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: いつでもワイルドカードを使用できるよ

うにするには、VTAM 開始リスト (ATCSTRxx) 内の
DSPLYWLD 開始オプションの値を、
DSPLYWLD=FULLWILD に更新してください。

IST1430I REASON FOR INOP IS *reason*

説明: ローカル・エリア・ネットワーク (LAN)・ノードにエラー状況が検出されると、VTAM はこのメッセージをメッセージ・グループの一部として出します。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST1411I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1432I DYNLU AND CDRSC VALUES FOR *cpname* CONFLICT

説明: DYNLU オペランドまたは DYNLU 開始オプションの値が、CDRM 定義ステートメントの CDRSC オペランドの値と一致しない場合、VTAM はこのメッセージを出します。これらの値により、動的 CDRSC 定義が使用できるかどうかが判別されます。

cpname は *netid.name* の形式の隣接制御点のネットワーク修飾名です。

システムの処置: セッションのトラフィックの流れが止まっていなかったとしても、この値の不一致により、断続的に障害が発生する可能性があります。処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 不一致を訂正するには、DYNLU の値と CDRSC の値が一致していることを確認してください。

- DYNLU および CDRSC オペランドの説明については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- DYNLU 開始オプションの説明については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

IST1433I *rscname* REJECTED - DSPLYWLD = NO FOR APPL *applname*

説明: プログラム・オペレーター・アプリケーション *applname* の出した DISPLAY コマンドの ID キーワードの *rscname* 値に、ワイルドカード ("*" または "?") が指定されていました。アプリケーションの定義ステートメントは DSPLYWLD=NO を指示しているため、*applname* から DISPLAY コマンドにワイルドカードを指定することはできません。

システムの処置: DISPLAY コマンドに残存する ID キーワードの値を使用して、処理を続行します。

オペレーターの応答: このアプリケーションから DISPLAY コマンドにワイルドカードを指定できるようにでもならない限り、処置は不要です。

プログラマーの応答: ワイルドカードを使用できるようにするには、*applname* の APPL 定義ステートメントの DSPLYWLD キーワードの値を、DSPLYWLD=YES (デフォルト値) に更新してください。

IST1434I DLUR ANS SUPPORT CONFLICT FOR PU *puname* - SET TO ANS=STOP

説明: 従属 LU リクエスト (DLUR) は ANS=STOP しかサポートできないのに、従属 LU のサーバー PU では ANS (自動ネットワーク終了) キーワードに CONT がコーディングされている場合、VTAM はこのメッセージを出します。

puname は、従属 LU のサーバー PU の名前です。

システムの処置: VTAM は PU にコーディングされた ANS 値をデフォルト (ANS=STOP) に変更します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: DLUR とともに使用される DLUS は、ANS=CONT をサポートしません。このメッセージを表示しないようにするには、ANS をデフォルトにするか、または PU の PATH ステートメント上の DLURNAME パラメーターにこの DLUR がコーディングされている交換回線大ノードにある DLUS PU に、ANS=STOP をコーディングしてください。

IST1435I LEVEL INPUT OUTPUT

説明: このメッセージは、TYPE=COMPRESS が指定された場合に、DISPLAY STATS コマンドに反応して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。

メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST350I DISPLAY TYPE = STATS,TYPE=COMPRESS
IST1435I LEVEL INPUT OUTPUT
IST1176I BASIC FROZEN
IST1177I 0 input basic **NA**
IST1177I 1 input basic **NA**
IST1177I 2 input basic frozen
IST1177I 3 input basic frozen
IST1177I 4 input basic frozen
IST314I END
```

IST350I

このメッセージは表示された情報のタイプを識別します。このメッセージ・グループの場合、タイプは常に **STATS,TYPE=COMPRESS** になります。

IST1176I

このメッセージは、メッセージ IST1177I のヘッダー・メッセージです。

BASIC と FROZEN は OUTPUT 値で、出力データに対して、与えられた圧縮レベルを使用するハーフセッションの数を表します。

詳細については、メッセージ IST1177I の記述を参照してください。

IST1177I

- このメッセージは、それぞれのデータ圧縮レベルに対して 1 回出されます。
- *level* は 0、1、2、3、または 4 です。
 - レベル 0 は、データ圧縮が使用されないことを示します。これはデフォルトの圧縮レベルです。
 - レベル 1 は、VTAM が実行長コード化 (RLE) 圧縮を使用することを示します。このタイプの圧縮では、圧縮デ

イクシヨナリーを使用せずに、同一の文字ストリングを 1 バイトか 2 バイトに置換するものです。

- レベル 2、3、および 4 は、VTAM が適切な圧縮アルゴリズムを使用することを示します。このタイプの圧縮レベルでは、レベル 2、3、4 のそれぞれに対して、文字列データをコード 9、10、12 ビットにそれぞれ置換します。コードは、文字列データのディクシヨナリー内の項目を識別します。
- BASIC モードは常に初期モードであり、このモードでは最も新しい圧縮データが反映されるように、VTAM はディクシヨナリーを継続的に更新します。
- FROZEN モードでは、圧縮処理を早めるために、VTAM は更新を停止 (凍結) します。このモードでは、CPU で使用できれば、VTAM は ESA/390* データ圧縮機能を利用することができます。

圧縮すると、ディクシヨナリーの更新を再開するために、モードが定期的に FROZEN から BASIC に切り替えられます。ディクシヨナリーが再び最新の圧縮データを反映する場合には、FROZEN に切り替えられます。

RLE および適応できる圧縮アルゴリズムの詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

INPUT 値 *input* は、着信データに対して与えられた圧縮レベルを使用しているハーフセッションの数を表します。

- セッションが確立されると、このホスト内の対応するハーフセッションの使用する入力圧縮レベルに対して、*input* が 1 つ増加します。
- セッションが終了すると、このホスト内の対応するハーフセッションの使用する入力圧縮レベルに対して、*input* が 1 つ減少します。

OUTPUT 値の *basic* と *frozen* は、出力データに対して与えられた圧縮レベルを使用するハーフセッションの数を表します。

- セッションが確立されると、このホスト内の対応するハーフセッションに使用される出力圧縮レベルに対して、*basic* が 1 つ増加します。
- 出力を行う場合に、VTAM がハーフセッションの圧縮ディクシヨナリーを凍結する度ごとに、そのハーフセッションの *basic* が 1 つ減少し、同じレベルの *frozen* が 1 つ増加します。

出力を行う場合に、VTAM がハーフセッションの圧縮ディクシヨナリーを再開する度ごとに、そのハーフセッションの *frozen* が 1 つ減少し、同じレベルの *basic* が 1 つ増加します。

- セッションが終了すると、*basic* または *frozen* (その時の圧縮状況によって異なります) が、このホスト内の対応するハーフセッションの使用する出力圧縮レベルに対して 1 つ減少します。

注: 同じホスト内の両方のハーフセッションとセッションを確立すると、圧縮を使用できなくなります。2 つのハーフセッションは、レベル 0 の **INPUT** と **OUTPUT** として、それぞれ別々にカウントされます。

IST1435I

- このメッセージは、メッセージ IST1177I のヘッダー・メッセージとして出されます。
 - LEVEL はデータ圧縮レベルを示します。
 - INPUT は、着信データに対して与えられた圧縮レベルを使用するハーフセッション (セッションの一方の末端) の数を示します。
 - OUTPUT は、出力データに対して与えられた圧縮レベルを使用するハーフセッションの数を示します。値は *basic* と *frozen* です。
- 詳細については、メッセージ IST1177I の記述を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: この画面の情報を使用して、異なる圧縮レベルに対するセッションの分配をモニターすることができません。以下のいずれかを使用すれば、この分配を変更することができます。

MODIFY COMPRESS コマンド

MODIFY VTAMOPTS,CMPMIPS=*cmpmips* コマンド

CMPVTAM 開始オプション

CMPMIPS 開始オプション

CMPAPPLO または CMPAPPLI による APPL 定義ステートメント

個々のセッション圧縮効率をモニターするには、DISPLAY SESSIONS,SID=*sid* コマンドを使用してください。ここに表示される情報の記述については、メッセージ IST879I の説明を参照してください。

コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

データ圧縮の詳細については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

IST1436I *runame* [FROM *fromnetid*] [TO *tonetid*] [FOR *fornodename*]

説明: このメッセージは、要求単位 (RU)*runame* が、対応する応答単位を受信せずに、一定の期間にノード *fornodename* で保留状態になる場合に、VTAM が出すメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

```
IST1436I RU PENDING:
IST1278I runame FROM fromnetid TO tonetid
FOR fornodename
[IST531I FROM SUBAREA = subarea, ELEMENT = element]
[IST531I TO SUBAREA = subarea, ELEMENT = element]
IST1051I EVENT CODE = code
IST1062I EVENT ID = eventid
```

注: 次の時間間隔でも *runame* が未解決のままである場合は、*runame* が受信されるまでか、または要求単位が削除されるまで、これらのメッセージが繰り返して出されます。

IST531I

FROM ネットワーク名 *fromnetid* と、**TO** ネットワーク名 *tonetid* の両方がこのメッセージに表示される場合は、VTAM はこのメッセージを出しません。

VTAM は、ネットワーク名の 1 つが不明の場合は一度、両方が不明の場合は 2 度、メッセージを表示します。

サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに **0** または ***NA*** を発行します。

IST1051I

code は、表示されているイベント ID の形式を識別するイベント・コードです。

code の説明については、767 ページの『待ち状態イベント ID』を参照してください。

IST1062I

eventid は、保留要求の内部 VTAM ID です。

eventid の説明については、767 ページの『待ち状態イベント ID』を参照してください。

IST1278I

runame は、保留状態の要求単位 (RU) です。*runame* の説明については、731 ページの『VTAM メッセージのコマンド・タイプ』を参照してください。

runame の発信元と宛先は、以下のいずれかによって識別されます。

- このメッセージに表示されているネットワーク名。
(*fromnetid* と *tonetid*)
- メッセージ IST531I に示されているネットワーク・アドレス。(サブエリア番号 *subarea* およびエレメント番号 *element*)

注: このメッセージに **FROM** ネットワーク名 *fromnetid* と **TO** ネットワーク名 *tonetid* の両方が表示される場合、VTAM はメッセージ IST531I を出しません。いずれかのネットワーク名が認識されていない場合、VTAM はこのメッセージ IST531I を一度表示し、両方のネットワーク名が認識されていない場合は 2 度表示します。サブエリアとエレメント・アドレスが不明の場合、VTAM は、アドレスの代わりに **0** または ***NA*** を発行します。

fornodename は、RU が保留されているノードの名前です。*fornodename* がセッション可能な状態であれば、VTAM はネットワーク修飾名として、*netid.name* 形式の *fornodename* を発行します。

IST1436I

これはメッセージ IST1278I のヘッダー・メッセージです。
システムの処置: 対応する応答単位を待ちながら、処理が続けられます。

オペレーターの応答: このメッセージ・グループは、問題が存

在 するかもしれないことを示しています。RU が未解決になっている時間が長い程 (つまり同じ RU に対してこれらのメッセージが何度も繰り返し表示されるほど)、問題がある可能性が高くなります。

特定の RU が一定の期間を過ぎても未解決のままである場合、入出力が保留中になっているノードを表示し、システム・ログを保管して、問題を判別してください。

- *runame* が **CD DSEARCH** である場合、このメッセージ・グループは以下のいずれかの問題を示しています。
 - コーディングされた IOINT 値が低く、ADJSSCP テーブル値がコーディングされていない
 - DYNASSCP 開始オプションと ADJSSCP テーブルが正しく調整されていない

これらの DSRLST 問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

- *runame* が **CHAR CODED** の場合、このメッセージ・グループは、VTAM が LU に USSMSG を送信し、応答を待機していることを示します。通常これは装置の問題です。ユーザーがログオフせずに端末の電源を切ると、しばしばこのようなエラーが発生します。この状況を訂正するには、リソース *fornodename* に VARY INACT コマンドを入力してから、同じリソースに VARY ACT コマンドを入力してください。

- *runame* が **NMVT** である場合、このメッセージ・グループは、装置が実時間でモニターできない状態にあることを示します。つまり、ほとんどの装置の NetView プログラム、または RISC System/6000 装置の RISC System/6000 ネットワーク管理プログラムに対して、要求情報が正しく応答されなかったり、返されなかったということです。この問題を完全に解決するには、マイクロコードを変更しなければなりません。

この問題の詳細については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

プログラマーの応答: MODIFY IOPD コマンドを使用して、このメッセージの表示を制御しているタイムアウト間隔を変更してください。追加情報については、「VTAM Operation」を参照してください。

待機手順については、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

IST1438I LOGMODE *logmode* UNKNOWN IN THIS DOMAIN, DEFAULT IS ISTCOSDF

説明: このメッセージは、DISPLAY SESSIONS,SID コマンドに回答して VTAM が出すメッセージ・グループの一部です。メッセージ・グループの最初のメッセージは IST879I です。詳細については、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1440I USE = *text*

説明: 表示中のリソースが NCP 大ノードの回線である場合に、VTAM は DISPLAY ID コマンドに回答してこのメッセージを出します。

text は、回線の使用状況を示します。

EP, DEFINED RESOURCE, CANNOT BE REDEFINED

回線が EP モードにあり、定義済みで、さらに再定義が不可能な回線であることを示しています。

NCP, DEFINED RESOURCE, CANNOT BE REDEFINED

回線が NCP モードにあり、定義済みで、さらに再定義が不可能な回線であることを示しています。

NCP, DEFINED RESOURCE, CAN BE REDEFINED

回線が NCP モードにあり、定義済みで、さらに再定義が可能な回線であることを示しています。

NCP, SPARE RESOURCE, CAN BE REDEFINED

回線が NCP モードにあり、予備回線で、さらに再定義が可能な回線であることを示しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1441I VARY ACT FOR *linename* FAILED, USE=SPARE

説明: 活動化されているリソースが予備回線である場合、VTAM はこのメッセージを VARY ACT コマンドに応答して出します。

linename は回線の名前を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 回線が DEFINED でなければならない場合、USE=DEFINED を指定して MODIFY LINEDEF コマンドを出してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1442I MODIFY LINEDEF FAILED, *linename* CANNOT BE REDEFINED

説明: 回線を再定義できない場合、VTAM はこのメッセージを MODIFY LINEDEF コマンドに応答して出します。

linename は回線の名前を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 回線を表示して、適切な回線が使用されているかどうか確認してください。

問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 回線が正しく定義されているかどうか確認してください。

IST1445I RESOURCE *value* FOR USERVAR *uservar* NOT FOUND

説明: USERVAR, *uservar* に関連しているアプリケーション・プログラム *value* が VTAM に定義されていない場合、VTAM はこのメッセージを DISPLAY ID=*uservar*,IDTYPE=USERVAR に応答して出します。

value は USERVAR の値です。 *value* が MODIFY USERVAR コマンドのネットワーク修飾名であった場合には、*value* はアプリケーション・プログラムであり、*netid.name* の形式のネットワーク修飾名として表示されます。

uservar は USERVAR の名前です。

システムの処置: VTAM はコマンドを拒否します。

オペレーターの応答: *value* を含むアプリケーション大ノード

を活動化して、コマンドを出し直してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1449I DEFAULTS(S) WILL BE USED IF NO OVERRIDE IS SPECIFIED

説明: 開始オプションが無効な値で指定されている場合、または START コマンドで構文エラーが検出された場合、VTAM は START 処理の間にこのメッセージを出します。 IST1449I を出した後、VTAM は IST1311A を出して開始オプションを再入力するようオペレーターに指示します。 オペレーターが値を再入力しないと、VTAM はエラーのある開始オプションにデフォルト値を使用します。

システムの処置: IST1311A への応答を待機している間、処理を停止します。

- LIST 開始オプションが入力されると、VTAM はこれを無視します。

- HALT が入力されると、開始処理は終了し、VTAM は終了します。

オペレーターの応答:

- 開始オプションを入力して現在の値を上書きするか、ブランクにしてデフォルト値が必要なことを指示してください。 さらに上書きする場合に別の指示が必要であれば、最後のオプションの後にコンマを続けてください。

- HALT を入力して VTAM を終了してください。

プログラマーの応答: なし。

IST1451I *resource minutes console*

説明: DISPLAY TNSTAT コマンド、または MODIFY TNSTAT ID= や MODIFY TNSTAT TYPE= コマンドが処理されているときに、メッセージ・グループの一部として VTAM はこのメッセージを出します。 このメッセージはメッセージ IST1450I の後に出されます。 このメッセージ・グループの詳しい記述については、メッセージ IST1450I の説明を参照してください。

IST1452I *type* MISMATCH IGNORED FOR *puname*

説明: 交換物理装置 *puname* への接続が確立されても、CP 名や *puname* のステーション ID が、XID 要求で渡された CP 名やステーション ID に一致しなかった場合、メッセージ・グループの一部として VTAM はこのメッセージを出します。 メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST1452I *type* MISMATCH IGNORED FOR *puname*
 IST1394I CPNAME = *cpname* STATION ID = *stationid*
 IST314I END

IST1452I

puname は PU の名前です。

type は、生じた不一致のタイプです。 値として CPNAME または STATION ID が考えられます。

IST1394I

cpname は、接続を試みているノードからの XID で渡された制御点 (CP) のネットワーク修飾名です。 VTAM は *cpname* を *netid.name* の形式で表示します。 CP 名が与えられない場合、***NA*** が表示されます。

stationid は、16 進数で表されるステーション ID です。ステーション ID の形式について詳しくは、「VTAM Resource Definition Reference」の IDBLK および IDNUM オペランドの説明を参照してください。

システムの処置: 接続を確立し、処理を続行します。

オペレーターの応答: *puname* に DISPLAY ID を入力し、問題判別のためにシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 以下のいずれかを実行してください。

- 適切なステーション ID、または CP 名で物理装置を初期設定し直す
- PU と交換回線大ノードの間に CP 名やステーション ID の不一致がないかどうかを調べ、必要であれば訂正する

IST1453I VARY INACT FOR *resourcename* FAILED - FRSESET PU ACTIVE

説明: VARY NET,INACT,ID=*resourcename* がフレーム・リレー LMI PU に対して試みられても、その LMI PU に関連する少なくとも 1 つの FRESESET PU が活動中である場合、VTAM はこのメッセージを出します。非活動化の試みは無視されます。

システムの処置: 処理を続行します。非活動化の試みは無視されます。

オペレーターの応答: FRSESET PU はすべて、LMI PU の非活動化の前に非活動化されなければなりません。非活動化した LMI PU に定義されている FRESESET PU を判別するには、以下の手順に従ってください。

1. 非活動化したい LMI PU に DISPLAY ID を出して、対応する回線名を調べる
2. DISPLAY LINE (SCOPE=ALL を指定) を出して、その回線に定義されている FRSESET PU の名前を獲得する。

プログラマーの応答: なし。

IST1455I ERROR DETECTED BY EXIT SERVICES FOR *exitname* IN *modulename*

説明: このメッセージは、ユーザー作成出口ルーチンからの要求の処理中にエラーが検出されたときに VTAM 出口ルーチン・サービスによって出されるメッセージ・グループの最初のメッセージです。メッセージ・グループの詳しい記述は以下のとおりです。

IST1455I ERROR DETECTED BY EXIT SERVICES FOR
exitname IN *modulename*

IST1456I FUNCTION *function* - REASON: *reason*
IST314I END

IST1455I

exitname は出口ルーチンの CSECT 名です。

modulename は、*exitname* を含むロード・モジュールの名前です。

IST1456I

- *function* は VTAM 出口ルーチン・サービスによって実行されている機能で、以下のいずれかになります。

***UNKNOWN**

要求された機能を判別できません。

MESSAGE

出口ルーチン *exitname* がメッセージ機能を要求しました。

- *reason* はエラーの原因で、以下のいずれかになります。

EXSPL POINTER IS ZERO

EXSPL (レジスター 1 の出口ルーチンによって渡された) へのポインターがゼロです。

INPUT PARMLIST POINTER IS ZERO

EXSPL の入力パラメーター・リストへのポインターがゼロです。

MESSAGE LENGTH IS NOT VALID

EXMPL に指定されているメッセージ・テキストの長さが無効です。メッセージ・テキストの長さは、0 より大きく 4096 (10 進数) 以下でなければなりません。

MESSAGE TEXT POINTER IS ZERO

EXMPL のメッセージ・テキストへのポインターがゼロです。

REQUESTED FUNCTION IS NOT VALID

EXSPL に指定されている機能コードが、VTAM 出口ルーチン・サービスの現在のレベルに定義されて (サポートされて) いません。

VTAM MESSAGE MACRO FAILED

システム・コンソールにメッセージを送るために VTAM に使用されているマクロが、出口ルーチン・サービスに非ゼロの戻りコードを返しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: *exitname* のエラーを訂正してください。*exitname* の詳細については、「VTAM Customization」を参照してください。

IST1456I FUNCTION *function* - REASON: *reason*

説明: VTAM は、このメッセージをメッセージ・グループの一部として発行します。グループの最初のメッセージは IST1455I です。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

IST1497I VTAM FUNCTIONAL SUPPORT LEVEL IS *package_name*

説明: VTAM は以下の状態のときにこのメッセージを出します。

- VTAM 初期設定中
- DISPLAY VTAMOPTS コマンドへの応答

DISPLAY VTAMOPTS コマンドへの応答でこのメッセージが出された場合、メッセージ IST1188I が先頭になっているメッセージ・グループの一部です。このグループの詳しい記述については、そのメッセージを参照してください。

package_name は以下のいずれかになります。

- Client/server
- MultiDomain
- Inter-Enterprise

VTAM パッケージ *package_name* のためにサポートされているさまざまな機能のリストについては、「VTAM V4R2

Packages」を参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1512I *lan_operation* **FAILED - CODE X'***return_code* **-**
CUA *channel_unit_address*

説明: ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) でエラー条件が検出された場合に、VTAM はこのメッセージを出します。

lan_operation は、失敗した LAN 操作の名前です。

return_code は、4 桁の 16 進数コードです。 *return_code* の説明については、「OS/390® eNetwork Communications

Server: IP and SNA Codes」を参照してください。

channel_unit_address は、エラーのポートのチャンネル装置アドレスです。

システムの処置: VTAM は要求を実行しません。

オペレーターの応答: DISPLAY NET,ID=*name*,E を入力し

て、xca 大ノードとそのリソースを表示してください。問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: 「OS/390 eNetwork Communications

Server: IP and SNA Codes」を参照してください。

注: *lan_operation* が ACTIVATE_SAP_CONFIRM で、*return_code* が 763A または 7658 の場合は、あまりにも多くの回線を含む XCA PORT 定義ステートメントがないことを確認してください。これらの回線は、LINE 定義ステートメントか、または GROUP 定義ステートメントの AUTOGEN パラメーターのいずれかによって、明示的に定義することができます。1 つの PORT のもとの合計回線数は 255 を超えてはなりません。また、D/T3172 IBM 相互接続コントローラーで OF/2 を使用している場合は、合計回線数は 245 を超えてはなりません。1 つの PORT 定義ステートメントのもとに複数の GROUP 定義ステートメントが定義されている場合、合計回線数は、明示的にまたは GROUP 定義ステートメントの AUTOGEN パラメーターによって定義された回線の合計になります。

IST1513I *lan_operation* **FAILED - reason**

説明: ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) でエラー条件が検出された場合に、VTAM はこのメッセージを出します。

lan_operation は、失敗した LAN 操作の省略名です。

reason はエラーの原因を示し、次のようになります。

PORT TIMER LESS THAN LLC REPLY TIMER

XCA 大ノードでの PORT 定義ステートメントの TIMER 値が、IBM 3172 相互接続コントローラーのシステム・パラメーターで指定された、REPLY TIMER (T1) 時間の結果である伝送の最大数 (N2) より少なくなっています。

システムの処置: VTAM は要求を実行しません。

オペレーターの応答: 問題判別のためシステム・ログを保管してください。

プログラマーの応答: XCA 大ノードでの PORT ステートメントのタイマー値を、IBM 3172 相互接続コントローラーで定

義された T1 応答時間より大きくなるように調節してください。

IST1544I **DIAL OUT PURGE IN PROGRESS -- ID =**
nodename

説明: 呼び出しの衝突が発生したとき、VTAM は、メッセージ・グループの一部として、このメッセージを出します。呼び出しの衝突は、ダイヤルインとダイヤルアウトが同じ回線を同時に使用しようと試みたときに発生します。グループの最初のメッセージは、IST680I か IST690I のどちらかです。詳しくは、そのメッセージの説明を参照してください。

システムの処置:

オペレーターの応答:

プログラマーの応答:

IST1883I **SESSION ESTABLISHED WITH** *rscname* **-**
DLUR *dlurname*

説明: *rscname* という名前の物理装置との間のセッションが DLUR *dlurname* を使用して確立されると、VTAM はこのメッセージを出します。

rscname はリソースの名前です。

dlurname は、*netid.name* の形式の従属 LU リクエスト (DLUR) のネットワーク修飾 CP 名です。DLUR 名を特定できない場合は、***NA*** (データなし) が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

IST1884I **SESSION ENDED WITH** *rscname* **- DLUR**
dlurname

説明: *rscname* という名前の物理装置との間のセッションが DLUR *dlurname* を使用して終了されると、VTAM はこのメッセージを出します。

rscname はリソースの名前です。

dlurname は、*netid.name* の形式の従属 LU リクエスト (DLUR) のネットワーク修飾 CP 名です。DLUR 名を特定できない場合は、***NA*** (データなし) が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

第 17 章 VTAM コード

VTAM 取り消しコード

アプリケーション・プログラムの区画が取り消される場合、VTAM は関連するすべてのダンプ上に取り消しコードを提供します。特定のエラー条件を理解する助けとして、取り消しコードを渡す VTAM メッセージもあります。メッセージ IST252I は、取り消しコード 40 および 41 に関連した機能コードも渡します。これらの機能コードの説明は、以下のリスト中のコード 40 および 41 を参照してください。

注: メッセージに表示されるコードが以下のリストにない場合、そのコードは System/370 プログラムの割り込みコードであると考えられます。それらのコードに関する詳細については、「Enterprise System Architecture/370 Reference Summary」を参照してください。

取り消し
コード

(16 進数)	条件の記述
00	デフォルト - 他のコードが適用されない場合に実行
08	VSE/POWER からの CANCEL 要求。
09	LIOCS からの CANCEL 要求。
0A	次のいずれかが起こります。 <ul style="list-style-type: none">• システムのアクセス制御テーブル中のエラー。• アクセス制御操作の際の処理エラー。
0B	アクセス制御違反。
0C	対話式 VSE/ICCF 区画の失敗。
0D	サブシステムまたは付加ルーチン中でのプログラム・チェック。
0E	サブシステムまたは付加ルーチン中でのページ・フォルト。
0F	FBA システム・ディスク・ファイルに対するディスク・アドレスが無効です。
10	通常 EOJ。
11	サポートされない装置に対するチャンネル・プログラム変換がない。
12	チャンネル・プログラム変換に対してバッファ・スペースが不十分。
14	ページ・プールが小さすぎる。
15	使用禁止プログラム中のページ・フォルト。
17	プログラム要求 (23 と同様だが、メインタスクが CANCEL マクロを出したときにサブタスクが接続されていたので、ダンプが起きる)。
18	サブタスクが生成された状態でメインタスクが DUMP マクロを出すときに、取り消しを排除する。
19	入出力オペレーター・オプション。
1A	入出力エラー
1B	チャンネル障害。
1C	CANCEL ALL マクロ。
1D	メインタスク終了。
1E	ENQ リクエストが不明である。
1F	CPU 障害。
20	プログラム・チェック。
21	SVC 違反。
22	フェーズがない。
23	プログラム要求。

VTAM 取り消しコード

取り消し コード	条件の記述
(16 進数)	
24	オペレーター介入。
25	アドレスが無効。
26	SYSxxx が割り当てられていない (未割り当て LUB コード)。 注: CCB が使用不能であれば、論理装置は STSxxx です。
27	未定義論理装置。
28	LTA または区画に対してフェーズが長すぎる。
29	ライブラリー構造が無効。
2A	ページ・データ上の入出力エラー。
2B	PCIL からの取り出しの際の入出力エラー。
2C	PHO ルーチンから無効なパラメーターが渡された。
2D	障害ストレージ・ブロックのために、プログラムを実行または再始動できない (あるいはその両方)。
2E	無効なりソース要求 (デッドロックの可能性)。
2F	1 ページについて、255 より多くの PFIK 要求が出された。
30	/& ステートメント読み飛ばし (SYSRDR または SYSIPT)。
32	DASD アドレスが無効。
33	長シークなし (ディスク)。
34	GETVIS スペースが使い果たされた。
35	ジョブ制御オープン障害。
36	入出力付加ルーチン中のページ・フォルト。
38	私的に変換された CCW が正しくない。
39	SYSLOG チャンネル・プログラム中のエラー。
3A	SYSLOG チャンネル・プログラム中の順序に外れたスプール要求の順序が正しくない。
3B	VSE/OCCF からの要求が取り消された。
3C	VSE/OCCF からの要求が取り消された。
3D	PFIK 要求が失敗。
40	VTAM によるタスク終了。
2101	ユーザー要求のパラメーター・リスト (RPL) がアプリケーション・プログラムのタスク制御ブロック (TCB) と同じ保護キーを持っていないので、その RPL の VTAM 妥当性検査が失敗した。
7001	ユーザーのイベント制御ブロック (ECB) が無効。
7002	ストレージに対する VTAM 要求が失敗した。
7003	ユーザー要求パラメーター・リスト (RPL) が無効。

取り消し
コード
(16 進数)
41

条件の記述

無効な VTAM 条件コード。

- 0000 VTAM HALT CANCEL コマンドが首尾良く処理された。
- 7002 ストレージは、ユーザー出口を操作できなかった。
- 7005 ユーザー出口が VTAM に戻った後、VTAM は RPH からレジスターをリストアできなかった。
- 7006 CPPROC は、可変作業域 (VWA) から十分なストレージを得ることができなかった。
- 7007 処理が処理スケジューリング・サービス (PSS) ロックを保持している際に、TPEXIT が出された。
- 7008 EIDMAX より大きいイベント ID 長で CPWAIT が試みられた。
- 7009 メッセージ・モジュールは、コンポーネント・リカバリー域 (CRA) 内で、現在使用可能なものに加えてさらに可変作業域 (VWA) ストレージを必要としている。
- 7010 リソース定義テーブル項目 (RDTE) チェーンが破壊されているので、リソースに対する GETRDTE または RDTFIND が失敗した。
- 7012 ロックのカウンタによればユーザーはロックを保持していないのに、ロックは保持されている。
- 7013 ロック階層違反
- 7014 TSLINK が、データのすべてを保持するには、コンポーネント・リカバリー域 (CRA) の大きさが不十分であることを検出した。
- 7015 伝送サブシステム制御ブロック (TSCB) が、無効な状況を検出した。
- 7071 以前に解放されたバッファに対して RELSTORE が出された。
- 7072 以前に解放された区域に VTFREE が出された。
- 7074 無効なバッファについて VTFREE が出された。
- 7075 以前に解放されたストレージ域に対して VTFREE が出された。
- 7077 ストレージ管理ヘッダー (SMHDR) がオーバーレイされた。

VTAM 取り消しコード

取り消し
コード

(16 進数)

条件の記述

FE02	プールが受け入れられない長さを持つ POOLDEF マクロによって定義されているか、可変長プールの長さが昇順で定義されていない。
FF02	FREEBLK マクロは、非ゼロ戻りコードを戻した。
FF03	ユーティリティ・モジュールは、正しくない機能コードを検出した。
FF04	要求、応答、またはベクトルが RU 情報テーブルに対して定義されていない。
FF05	拡張経路指定機能プログラムに対する主項目が呼び出されたが、CALLSSCP 環境中で、処理はすでに行われている。
FF06	設定されているべきセンス・コードが設定されていない。
FF07	CPCBURC フィールドが形式を含んでいないのに、応答は形式を持っている。
FF09	使用中の VWA 域は、要求を満たすには小さすぎる。
FF10	処理アンカー・ブロック (PAB) に対する応答をキューに入れるようにという要求がなされた。
FF11	無効な延期コードが延期のために渡された。
FF12	無効な SENDER 呼び出しがなされた。
FF13	予期しない値が受信された。この値は、別のコンテキストでは有効な場合があります。
FF14	予期しない有限状態機械 (FSM) 状態に遭遇した。
FF15	予期しないフィールド値 (列挙タイプ) が検出された。
FF16	予期しない制御ブロックが入力として受信された。
FF17	無効なセッション情報ブロック (SIB) または SIB アドレスが FREESIB に渡された。
FF18	SENDER バッファ領域が十分大きくない。
FF19	DETERMINER ルーチンが無効な結果を戻した。
FF20	BUILD ルーチンが無効な結果を戻した。
FF22	SRTDEL が失敗した。
42	DASD ファイル保護違反 (プログラムがファイル範囲限界を超えてアクセスしようとした)。
43	プログラムは、動的区画では実行できません。
44	セキュリティー・マネージャーのエラー。
45	実行モード違反。
46	データ・スペース・サービスを使用したときのエラー。
FF	多重取消条件 (詳細は SYSLST を参照のこと)
xx	以下のいずれかを示す。 <ul style="list-style-type: none">• 認識されない取り消しコード。• 監視プログラム・カタログ障害。• IPL 障害。

監視プログラム・カタログまたは IPL 障害の場合には、終了プログラムによってそれ以上の処理をせずに、システムが待ち状態に置かれているので、取り消しコードは重要ではありません。

注: 上記の取り消しコードを認識することに加えて、終了プログラムは 16 進数の 80 ビットがオンになっている (取り消しは LTA で起こる) 同じコードも認識します。16 進数の 80 ビットは \$BEOJ でテストされ、後でリセットされます。

VTAM リソース状況コードおよび修飾子

VTAM はリソースの状況についての詳細な情報を提供します。この状況は状態コードによって定義され、10 文字以下の文字からなる形式に含められます。

注: オプションの状況情報がポジション 4-10 までに表示されているときは、リソース状態コードの省略形が切り捨てられることがあります。例えば、LU が活動状態にあると、**ACTIV** が表示されます。セッションが、この LU について、行列待ち状態、活動保留状態または活動状態である場合は、リソース状況修飾ビット **/S** はポジション 4 および 5 に表示され、**ACTIV** は切り捨てられます (**ACT/S**)。

オペレーター **DISPLAY ID** コマンドへの応答に、5 文字の状態頭字語が現れる VTAM メッセージもあります。DISPLAY ID コマンドに関する詳細、およびこのコマンドに応答して VTAM が出すメッセージについては、「VTAM Operation」を参照してください。

状態コード・カテゴリー

状態を以下の大カテゴリーに分類することは、問題が存在するかどうかを判別する助けとなります。問題判別が必要な場合は、「VTAM Diagnosis」を参照してください。

カテゴリー

意味

最終 VTAM がノードに対してなすべき処理はもうない。

短期遷移 (**Short**)

ノードは、比較的短時間で終わる操作 (入出力など) の完了を待っている。ノードがこの状態に長時間とどまっているなら、ハードウェアまたはソフトウェア・エラーの可能性がります。

長期遷移 (**Long**)

ノードは、比較的長時間かかる操作の完了を待っている。ノードがこの状態に不自然なほど長時間とどまっているなら、ハードウェアまたはソフトウェア・エラーの可能性がります。

延期 (**Susp**)

このノードは、別のノードの処理を待っている。待っていた処理が完了するのであれば、このノードの状況は変わるはずですが、待っていた処理が完了したのに、このノードの状況が変わらなければ、ソフトウェア上の問題があることが考えられます。

内部 (**Int**)

この状態は、VTAM 内での処理を指示するのに用いられます。これは表示されることはありません。もし表示されたならば、ソフトウェア上の問題が生じていることが考えられます。

状態コード値

最初のバイトはリソース状況カテゴリーを表します。

値 (16 進数)	現行の状態カテゴリー	望ましい状態カテゴリー
00	非活動	非活動
01	非活動保護	未使用
02	接続可能	接続可能

VTAM リソース状況コード

値 (16 進数)	現行の状態カテゴリ	望ましい状態カテゴリ
03	再活動化	再活動化
04	活動保留	未使用
05	活動	活動
06	ルーティング可能	ルーティング可能

RPRCURST および RPRDESST の 2 番目のバイトは、特定のリソース状況を示します。以下のテーブルは、組み合わせになっている 2 バイトを示しています (例えば、16 進数の 0001 は、カテゴリの 00 と特定コードの 01 示します)。

以下のテーブルについての注:

1. 状態の短縮形は、アルファベット順にリストされています。
2. アスタリスク (*) は、ロード状況を含んでいる 1 バイトのフィールドに現れる状態値を示すのに用いられます。これらの値は、ACTPU 応答上の物理装置によって要求されたロードの進行状況を示します。
3. 2 重のアスタリスク (**) は、回線トレース、GPT トレース、または SIT トレース状況を含む 1 バイトのフィールドに現れる状態値を示すのに、用いられません。

短縮形	値 (16 進数)	カテゴリ	リソース状況
ACTIV	0505	最終	リソースは活動状態にある。
APEER	0501	最終	接続 PU タイプ 4 または 5(対等)。そのノードは、別のドメインの PU タイプ 4 または 5 が接続されているバックアップ・リンク・ステーションです。
CONCT	0200	最終	接続可能。VARY ACT コマンドが、交換またはチャンネル接続の、物理または論理装置、あるいはアプリケーション・プログラムに関して完了した。 1. ダイアルインまたはダイアルアウト要求が受け付けられるが、リソースはこの時点では使用中ではない。 2. アプリケーション・プログラムの場合、OPEN ACB がまだ出されていない。
CTDER	041D	延期	接触エラー。リンク・ステーションや物理装置などのノードが活動化されていたとき、接触エラー状態を示す接触要求が受信されました。物理装置の場合、そのリソースを非活動化させる要求がスケジュールされます。リンク・ステーションの場合、それが接触しようと試みている NCP が活動化されている最中ならば、リンク・ステーションの活動化は、その活動化が完了するまで延期されます。第 2 の CTDER は、リンク・ステーションの非活動化を引き起こします。
CTD1	043D	延期	接触 (1)。リンク・ステーションは活動化されている最中であり、該当する PU サービスからの接触要求を受信した。接触した通信コントローラーが活動化の最中だったので、リンク・ステーションの活動化は、その通信コントローラーが活動化されるまで、延期されます。そのリンク・ステーションの活動化処理は、通信コントローラーが活動化された後、再び進められます。
CTRQI	043A	延期	接触 (2)。要求 IPL。リンク・ステーションや物理装置などのノードが活動化されているときに、再ロードが必要であることを接触要求が示します。物理装置の場合、そのリソースを非活動化させる要求がスケジュールされます。リンク・ステーションの場合、それが接触しようと試みている NCP が活動化されている最中ならば、その通信コントローラーが活動化されるまで、リンク・ステーションの活動化は延期されます。リンク・ステーションはそれから再び接触されます。2 番目の CTRQI はリンク・ステーションを非活動化させます。

短縮形	値 (16進数)	カテゴリ	リソース状況
CT1NS	040F	延期	接触 (1) が送信されていません。リンク・ステーションの活動化において、接触要求が送信されるべき時点に到達しましたが、接触されるべき NCP が適切な状態にありませんでした。リンク・ステーションの活動化は延期され、NCP の活動化が接触可能な時点 (状態が PAPU2 になったとき) に到達すると再開されます。
DALUC	011E	延期	DACTLU 完了。DACTLU が送信され、応答が受信されましたが、高位レベル・ノードリカバリー処理が開始されました。このノードは、高位レベル処理がそれを再び開始するまで、この状態のままです。
DAPUC	011F	内部	DACTPU 完了。強制非活動化または強制再活動化コマンドの結果として、DACTPU が送信されました。そして、応答が受信されたか、または通信コントローラーの場合、経路に障害があり、DACTPU 要求が受信されました。
DEFND	0001	短期	定義済み。VARY ACT コマンドは、大ノードに対して処理されています。大ノードとそのサブノードは、VTAM に知られています。活動化は、コマンドの処理が 1 つの内部 VTAM PAB から別のものに移動している間、延期されました。
* DLLDD	05	最終	ロード済み。論理装置はロード要求し、そのロードが首尾良く完了しました。
* DLPAB	04	短期	保留ロードの打ち切り。物理装置の要求したロードを完了できません。ロードを取り消すための要求が物理装置に送信されました。
* DLPLD	03	長期	保留ロード。その物理装置は、現在ロードされている最中です。
* DLPRP	02	短期	保留 ACTPU 応答。ACTPU 要求単位が物理装置に送られ、VTAM は ACTPU 応答を待っています。その ACTPU 応答によって、物理装置はロードの必要があるかどうかを示します。
* DLRST	01	最終	リセット。物理装置はロードされている最中ではありません。
DUMPC	011B	延期	ダンプ完了。NCP をダンプするのにリンク・ステーションが用いられ、そのダンプが完了しましたが、NCP のリカバリーまたは非活動化は、その NCP に接続されているリンク・ステーションが処理されるまでの時点には至っていません。リカバリーの場合は、NCP のロードまたはダンプ手順が RESET されると該当する時点に到達します。非活動化の場合は、NCP の状況が PRSET になると該当する時点に到達します。
FDSCC	0445	内部	強制切り離し完了。切り離しは強制非活動化または強制再活動化コマンドの結果として送られ、切り離しに対する応答が受信されました。
HLACF	0409	内部	高位レベル活動化失敗。ノードが活動化の最中で、その高位レベル・ノードの活動化が失敗しました。例えば、チャンネル接続物理装置または論理装置が活動化の最中で、関連したチャンネルの PUB 割り振りが失敗しました。チャンネル接続物理装置または論理装置に対する非活動化要求がスケジュールされました。
HLACT	042D	内部	高位レベル活動化完了。ノードが活動化の最中で、その高位レベル・ノードの活動化を完了しました。例えば、チャンネル接続物理装置または論理装置が活動化の最中で、関連したチャンネルの活動化が完了しました。リソースの活動化が始まろうとしています。
IINOP	0005	最終	非活動 (操作不能)。リソースが、INOP 要求または強制非活動化要求によって、非活動化されています。

VTAM リソース状況コード

短縮形	値 (16 進数)	カテゴリ	リソース状況
INACS	0006	最終	<p>非活動状態でセッション可。そのリソースが論理装置の場合、ノードは非活動状態にありますが、アクティブ・セッションを持つことはできます。 LU-SSCP セッションがありませんが、論理装置は活動 LU-LU セッションを持つことはできます。 この状態は、クロスドメイン・リソースが同一のドメイン・リソースを、失敗した SSCP の引き継ぎの一部としたときに生じ得ます。</p> <p>そのリソースが CDRM の場合、ノードは非活動状態にありますが、それは活動クロスドメイン LU-LU セッションをサポートします。 この状態の場合、SSCP-SSCP セッションはありませんが、CDRM は活動クロスドメイン LU-LU セッションをサポートできます。 この状態は、(1)SSCP-SSCP セッションによって用いられた仮想経路が操作不能または DACTVR (FORCE) によって非活動化された場合、(2) 活動 CDRM 競合が起きた場合、または (3)SSCP-SSCP セッションにおいてリカバリー不能エラーが検出された場合に生じ得ます。 SSCP-SSCP セッションをセットアップに用いたクロスドメイン・アクティブ・セッション SSCP-SSCP は、不変のままです。</p>
INACT	0003	最終	非活動。そのリソースは非活動化されました。
INACX	0007	最終	非活動状態でアドレス変換あり。外部 CDRM を活動化できませんでした。 CDRM に至るパスに沿ったゲートウェイ NCP が、CDRM とのネットワーク間セッションをサポートするのに十分な情報を持っていませんでした。
INOP	0441	延期	操作不能。INOP 要求、経路障害、または強制非活動化コマンドが処理されています。 アクティブ・ユーザー・セッションは終了されました。 リソースは再活動化されようとしていますが、高位レベル・ノードが、それを活動化するのを待たなければなりません。
INVAP	0417	内部	無効活動化 PU 応答。通信コントローラーや物理装置などのノードが、活動化されている最中です。 ACTPU 要求が送られましたが、応答が無効です。 無効な応答の 2 つの例は、(1) 応答単位が無効な形式を持っているか、あるいは物理装置が COLD または ERP 状態にないことを示している、(2) リソースがロードされ、内容 ID が予期した値ではない。 リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
LLQED	043B	延期	下位レベル・キュー。通信コントローラーに関して VARY ACT コマンドが処理されている最中で、RDT セグメントがその時点で構築されました。 大ノードおよびそのサブノードのネットワーク名が、両方とも VTAM に知られています。 2 番目の通信コントローラーの VARY ACT コマンドに RNAME=キーワード・オペランドが指定されているため、少なくとも 1 つのサブノード・リンク・ステーションが別のリンク・ステーション・キューに入っています。通信コントローラーの活動化は、コマンドの処理が 1 つの内部 VTAM PAB から別のものに移動する間、抑止されます。
NACDR	042F	内部	CDRM 活動化否定要求。CDRM が活動化されている最中に CDRM 活動化要求が送られましたが、応答は否定応答 (要求は失敗しました) でした。 CDRM を非活動化する要求がスケジュールされました。
NACTL	0410	内部	LU 活動化否定応答。アプリケーション・プログラムまたはその他の論理装置などのノードが非活動化されている最中で、LU 活動化要求が送られましたが、応答は否定応答でした (要求は失敗します)。 リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
NACTP	0412	内部	PU 活動化否定要求。通信コントローラーまたは物理装置などのノードが活動化されている最中で、PU 活動化要求が送られましたが、応答は否定応答でその要求は失敗しました。 リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。

短縮形	値 (16進数)	カテゴリ	リソース状況
NADLK	0423	内部	リンク追加否定応答。チャンネル・リンクが活動化されている最中で、リンク追加要求が該当する PU サービスに送られました。しかし、応答は否定応答でその要求は失敗しました。リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
NADST	0420	内部	リンク追加否定応答。チャンネル・リンク・ステーションが活動化されている最中で、リンク・ステーション追加要求が該当する PU サービスに送られました。しかし、応答は否定応答でその要求は失敗しました。リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
NALNK	0415	内部	リンク活動化否定応答。回線が活動化されている最中で、リンク活動化要求が送られましたが、応答は否定応答でした (その要求は失敗しました)。その回線を非活動化する要求がスケジュールされました。
NANNA	0431	内部	否定割り振りノード・ネットワーク・アドレス。動的に追加された物理装置や論理装置などのノードが活動化されていた最中に、ネットワーク・アドレス割り当て要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は否定応答でその要求は失敗しました。リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
NASNA	0426	内部	否定割り振りサブノード・ネットワーク・アドレス。チャンネル接続装置または交換物理装置などのノードが接続されている最中で、ネットワーク・アドレス割り当て要求が該当する PU サービスに送られました。しかし、応答は否定応答でその要求は失敗しました。そのリソースを切り離す要求がスケジュールされました。
NCONO	0400	内部	否定コネクアウト応答。チャンネル接続または交換物理装置などのノードが接続されていた最中に、コネクアウト要求が該当する物理装置サービスに送られましたが応答は否定応答でその要求は失敗しました。そのリソースを切り離す要求がスケジュールされました。
NCONT	041C	内部	否定接触応答。リンク・ステーションまたは物理装置などのノードが活動化されている最中で、接触要求が送られてきましたが、応答は否定応答でした (その要求は失敗しました)。リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
NEVAC	0004	最終	未活動化。そのリソースは活動化されたことはありません。
NFRSV	0407	内部	否定 FRS 制御ベクトル。特定のフレーム・リレー交換装置セットにあるすべてのフレーム・リレー物理装置 (FRSESET) は、活動化されており、FRS 制御ベクトルの要求は該当する PU サービスに送られました。しかし否定応答が出され、その要求は失敗しました。FRSESET 中にある、すべてのフレーム・リレー物理装置を非活動化させる要求がスケジュールされています。
NLOAD	043C	内部	否定ロード応答。通信コントローラーが活動化されている最中で、ロード要求が該当する物理装置サービスに送られましたが、応答は否定応答で要求は失敗しました。通信コントローラーを非活動化するという要求がスケジュールされました。
NNAUV	0403	内部	否定 NAU 制御ベクトル設定。交換論理装置または動的に追加された論理装置などのノードが接続されている最中で、該当する物理装置サービスに対して NAU 制御ベクトル要求が送られましたが、応答は否定応答で要求は失敗しました。そのリソースを切り離す要求がスケジュールされました。
NSARV	041A	内部	否定 SAR 制御ベクトル設定。リンク・ステーションなどのノードが活動化されている最中で、SAR 制御ベクトル要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は否定応答でその要求は失敗しました。リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
NSDT	0428	内部	否定 SDT 応答。通信コントローラーが活動化の最中であり、データ・トラフィック開始要求が送られましたが、応答は否定応答で要求が失敗しました。通信コントローラーを非活動化するという要求がスケジュールされました。

VTAM リソース状況コード

短縮形	値 (16進数)	カテゴリ	リソース状況
NSNCP	042E	内部	NCP への切り替え否定応答。PEP リンクが活動化されている最中で、NCP への切り替え要求が送られましたが、応答は否定応答でその要求は失敗に終わりました。 PEP リンクを非活動化する要求がスケジュールされました。
NSSSV	0405	内部	否定 SSS 制御ベクトル設定。動的再構成により追加される DR 追加物理装置、または交換物理装置などのノードが接続されている最中に、SSS 制御ベクトル設定要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は否定応答でその要求は失敗に終わりました。 そのノードを切り離す要求がスケジュールされました。
NSTD	042A	内部	日時設定否定応答。通信コントローラーなどのノードが活動化されている最中で、日時設定要求が送られましたが、応答は否定応答で要求は失敗しました。 ノードを非活動化する要求がスケジュールされました。
NVYLM	0436	内部	オペレーター照会否定応答 (VFYLM)。リソースは活動化されている最中で、VTAM メッセージ IST361A への応答によって NCP の活動化が終了されました。リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
PABCN	010B	短期	接続中止応答の保留。チャンネル接続または交換物理装置などのノードが切り離されそうになっています。 接続中止要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答が受信されていません。
PABCO	0116	短期	コネクアウト中止応答保留。チャンネル接続または交換物理装置などのノードが切り離されている最中に、コネクアウト中止要求が該当する物理装置サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
PACDR	0430	長期	CDRM 活動化応答保留。CDRM が活動化されている最中で、CDRM 活動化要求が送られましたが、応答が受信されていません。
PACTL	0411	短期	LU 活動化応答保留。アプリケーション・プログラムまたはその他の論理装置などのノードが活動化されており、LU 活動化要求が送られましたが、応答が受信されていません。
PADLK	0421	短期	リンク追加応答保留。チャンネル・リンクが活動化されている最中で、リンク追加要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
PADST	0419	短期	リンク・ステーション追加応答保留。チャンネル・リンク・ステーションが活動化されている最中で、リンク・ステーション追加要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
PALNK	0416	短期	リンク活動化応答保留。回線が活動化されている最中で、リンク活動化要求が送られましたが、応答が受信されていません。
PALUC	0434	短期	LU 終結処置活動化応答保留。活動論理装置がリカバリー処理の過程にあります。 ACTLU 要求が送られましたが、応答は受信されていません。
PANNA	0432	短期	ノード・ネットワーク・アドレス割り振り保留。動的に追加された物理装置または論理装置などのノードが活動化されている最中で、ネットワーク・アドレス割り当て要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されませんでした。
PAPU1	0413	長期	PU(1) 活動化応答保留。通信コントローラーが活動化されている最中で、ロードされる必要はありません。 ACTPU 要求が送られましたが、応答は受信されていません。 この要求を送るには、仮想経路が使用できるまで待たなければならないことがあります。 1 つまたは複数の明示経路が操作可能であれば、経路活動化が進行している間の短時間の遷移状態です。操作可能な経路がなければ、これは、経路に沿って接続性が確立されるのを VTAM が待っている、長時間にわたる遷移状態である可能性があります。

短縮形	値 (16 進数)	カテゴリー	リソース状況
PAPU2	0425	短期または長期	PU(2) 活動化応答保留。物理装置が活動化されている最中で、ロードされる必要がなかったか、ロードされているときに PU 活動化要求が送られましたが、応答が受信されていません。通信コントローラーの場合、この要求を送るには、仮想経路が使用可能になるまで待たなければならない場合があります。1 つまたは複数の明示経路が操作可能であれば、この状態は経路活動化が進行中の事実上短時間の過渡状態になります。操作可能な経路がなければ、これは、経路に沿って接続性が確立されるのを VTAM が待っている、長時間にわたる遷移状態である可能性があります。
PASNA	0427	短期	サブノード・ネットワーク・アドレス割り振り保留。チャンネル接続または交換物理装置などのノードが接続されている最中です。ネットワーク・アドレス割り当てまたはネットワーク・アドレス割り当て要求が、該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
PBFSI	0448	短期	保留 BFSESSINFO。LU に対する引き継ぎ処理が進行中で、SSCP にアクティブ・セッションが完全に報告されていません。
PCDLA	0121	短期	終結処置 DACTLINK 活動。状況が活動、活動保留、または非活動保留にある NCP 接続回線に対して VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドが出されました。下位レベル・ノードが活動化されている最中で、DACTLINK (終結処置) 要求が回線に対して送られましたが、応答はまだ受信されていません。
PCDLI	0122	短期	終結処置 DACTLINK 非活動保留。状況が非活動、活動保留、または非活動保留の NCP 接続回線に対して VARY INACT,TYPE=FORCE コマンドが出されました。DACTLINK (終結) 要求が回線に対して送られましたが、応答はまだ受信されていません。
PCONO	0401	短期	コネクタアウト応答保留。チャンネル接続または交換物理装置などのノードが接続されている最中で、コネクタアウト要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されませんでした。
PCON1	041E	短期	接触 (1) 応答保留。リンク・ステーションなどのノードが活動化されている最中で、最初の接触要求が該当する PU サービスに送られましたが、その応答が受信されていません。
PCON2	0422	短期	接触 (2) 応答保留。物理装置またはリンク・ステーションなどのノードが活動化されている最中で、接触要求 (リンク・ステーションに対する 2 番目の試み) が該当する物理装置サービスに送られましたが、その応答は受信されていません。
PCTD1	041F	長期	被接触 (1) 要求保留。リンク・ステーションなどのノードが活動化されている最中で、最初の接触要求が肯定応答として受信されましたが、被接触要求が受信されていません。通信コントローラーに接続されているリンク・ステーションが活動化されるのを待っている際に、その通信コントローラーも活動化の間この状態になります。CTC において、チャンネルの両側が PCTD1 の状態である場合は、その問題を回避するために、一方の側にだけ VARY INACT,TYPE=FORCE を出し、それから VARY ACT を出してください。

VTAM リソース状況コード

短縮形	値 (16進数)	カテゴリ	リソース状況
PCTD2	0424	長期	<p>被接触 (2) 要求保留。リンク・ステーションまたは物理装置などのノードが活動化されている最中で、最終被接触要求が該当する PU サービスに VTAM によって送られ、NCP から応答が受信されましたが、被接触要求がリモート装置から受信されていません。通信コントローラーに接続されているリンク・ステーションが活動化されるのを待っている際に、その通信コントローラーも活動化の間この状態 (この場合は延期状態) になります。PCTD2 と PCTD1 の間の相違は以下のとおりです。PCTD1 状態にある通信コントローラーは、NCP がロードされる必要があることを示す被接触要求をリンク・ステーションが受信した場合、通信コントローラーはロードされますが、PCTD2 状態では、リンク・ステーションと NCP の両方が非活動化されます。</p> <p>注:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リモート装置が 3274 である場合、最も可能性の高い原因は、NRZI 定義パラメーターです。NCP のデフォルトは NRZI です。3274 中の NRZI 定義パラメーターが NCP で指定されたものと異なっている場合には、PCTD2 となります。 2. SNA 3174 チャネル接続のコントローラーは、トークンリング装置が起動時にトークンリングと論理的および物理的に接続されていない場合、その装置は PCTD2 状態のままです。 3. PCTD2 状態は、ネットワーク間で不法な活動化の試みがなされるときに起こる場合があります。 4. PCTD2 の状態の原因は、ローカル装置またはリモート装置のケーブルの不具合にあると思われます。各導入場所に用意してある、ケーブル折り返しテストの完全セットを実行してください。
PDACL	010F	短期	DACTLU 応答保留。アプリケーション・プログラムまたは論理装置などのノードが切り離されているまたは非活動化されている最中です。DACTLU 要求が送られましたが、応答は受信されていません。
PDACP	0110	短期	DACTPU 応答保留。通信コントローラーまたは物理装置などのノードが切り離されているか非活動化されている最中です。DACTPU 要求が送られましたが、応答は受信されていません。
PDANC	0442	短期	DACTPU ANSC 保留。DACTPU がリソースに送られましたが、応答を受信していません。自動ネットワーク・シャットダウン完了 (ANSC)RU が NCP から受信されたときに、リソースは活動化されている最中です。この要求で、SSCP は SSCP-PU セッションをリセットし、それから活動化手順を再開します。
PDANS	0104	短期	コネクアウト中止要求単位が、交換回線リンクのようなノードに送られました。
PDELR	010E	短期	ネットワーク・リソース削除応答保留。アプリケーション・プログラムなどのノードが切り離されている最中です。ネットワーク・リソース削除要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
PDGBK	0123	短期	DACTLINK 返却保留。VTAM サブタスク VTMTRACE が再始動されたときに、レコードが失われました。NCP 接続回線に対して、VARY INACT,TYPE=GIVEBACK コマンドが出されました。その回線に対して、DACTLINK(返却) 要求が送られましたが、応答はまだ受信されていません。
PDISC	010D	短期	切り離し応答保留。リンク・ステーションまたは物理装置などのノードが、非活動化または切り離されている最中です。切り離し要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。

短縮形	値 (16進数)	カテゴリ	リソース状況
PDLNK	0112	短期	DACTLINK 応答保留。回線またはチャネル接続装置が非活動化されている最中で、DACTLINK 要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
PDLUC	011D	短期	LU 終結処置非活動化保留。活動論理装置がエラー・リカバリー処理の最中で、DACTLU 要求が送られましたが、応答は受信されていません。
PDMPC	0439	長期	ダンプ競合保留。VTAM は、操作を再開するために通信コントローラーからの指示を待っています。
PDPA1	0443	短期	DACTPU(ACT1) 保留。DACTPU がリソースに送られましたが、応答を受信していません。通信コントローラーは活動化の最中で、すでにロードされていることがわかりました。DACTPU 応答が受信されると、この状態から離脱して、処理が最初から続けられます。ロードする別の試みが許されます。
PDPA2	0444	短期	DACTPU(ACT2) 保留。DACTPU がリソースに送られましたが、応答を受信していません。そのリソースが物理装置タイプ 4 の場合、それは活動化されている最中で、ロードは実行されました。一度 DACTPU 応答が受信されると、通信コントローラーの活動化が進行します。そのリソースが BSC 3270 物理装置である場合、一括ボーリング障害が起き、DACTPU が内部制御ブロックを消去するために、送られました。応答が受信されると、ACTPU が送られます。
PFDCP	0440	短期	強制 DACTPU 応答保留。通信コントローラーなどのノードに対する強制再活動化コマンドまたは強制非活動化コマンドの結果として、DACTPU が送られました。その応答は受信されていません。
PFDLU	0120	短期	強制 DACTLU 応答保留。論理装置に対する強制非活動化コマンドの結果として、DACTLU が送られましたが、応答はまだ受信されていません。
PFDMP	0119	短期	ダンプ応答保留。リンク・ステーションの通信コントローラー上でダンプが実行されていますが、その処理はまだ完了していません。
PFDSC	042C	短期	強制切り離し応答保留。物理装置が強制的に非活動化または強制的に再活動化されている最中で、切り離し要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答が受信されていません。
PFNNA	011C	短期	ノード・ネットワーク・アドレス解放保留。交換または動的に追加された物理装置または論理装置などのノードが非活動化されている最中です。ネットワーク・アドレス解放要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
PFRSV	042F	延期	保留状態 FRS 制御ベクトル応答。フレーム・リレー物理装置は活動化されており、以下の状態のどれかが起こりました。 <ul style="list-style-type: none"> • フレーム・リレー交換装置セット (FRSESET) にある他の物理装置が、RNAA からの肯定応答を受け取っていません。 • FRS 制御ベクトル要求は、該当する PU サービス (物理装置サービス) に送られましたが、それに対する応答が未受信です。
PFSNA	010C	短期	サブノード・ネットワーク・アドレス解放保留。チャネル接続または交換物理装置などのノードが切り離されている最中です。ネットワーク・アドレス解放要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
PHLAC	040A	延期	高位レベル活動化保留。ノードが、その高位レベル・ノードの活動化を待っています。例えば、チャネル接続物理装置または論理装置が活動化されている最中で、関連したチャネル (すなわち関連 PUB) を活動化するという要求が完了していません。
PHLIN	0102	延期	高位レベル非活動化保留。ノードが、非活動化状態で、その高位レベル・ノードが非活動化されている最中です。例えば、チャネル接続物理装置が非活動状態にあって、関連したチャネル PUB が割り振り解除されている最中です。
PINAC	0100	長期	非活動状態保留。CDRM が非活動化されています。

VTAM リソース状況コード

短縮形	値 (16 進数)	カテゴリ	リソース状況
PLOAD	040E	長期	ロード保留。NCP が活動化されている最中でロード操作が始まっているか、または 8775 などの周辺物理装置が活動化されている最中で、その物理装置がロード要求し、SSCP がロード要求を CNM ルーティング・テーブルで定義されているアプリケーション・プログラムに送りました。その物理装置が受信していません。
PLODC	043E	長期	ロード競合保留。VTAM は、操作を再開するために通信コントローラーからの指示を待っています。
PLSTC	043F	長期	条件付きステーション・ロード保留。通信コントローラーの活動化処理は、その通信コントローラーにロードを行うリンク・ステーションが利用可能になるのを待っています。リンク・ステーションがロードのために使用可能である場合、リンク・ステーションがチャンネル・リンク・ステーションであるならば、VTAM はその通信コントローラーがロードされるかどうかを判別します。リンク・ステーションがチャンネル・リンク・ステーションであるならば、ロードはされず、活動化が進行します。それがチャンネル・リンク・ステーションでなければ、または通信コントローラーがロードされていなければ、ロードが実施されます。
PLSTU	040D	長期	無条件ステーション・ロード保留。通信コントローラーがロードされ、利用可能になります。リンク・ステーションがロードのために使用可能であれば、NCP のロードがなされます。
PMALD	0446	長期	ACTPU ロード/ダンプ手順移行保留。進行中のロードまたはダンプ操作のために、NCP セッション・リカバリー・ループが保留されています。
PMATM	0447	長期	ACTPU タイマー移行保留。セッション活動化を再試行するまでの時間間隔が満了するのを、NCP が待っています。
PNAUV	0404	短期	NAU 制御ベクトル設定応答保留。交換論理装置または動的に追加された論理装置などのノードが接続されている最中に、NAU 制御ベクトル要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信していません。
PNFY1	0113	長期	通知保留 (1)。論理装置などのノードが非活動化または切り離されている最中です。ユーザー・セッションを終了させるようにという要求がスケジュールされましたが、ユーザー・セッションが終了したということを示す通知要求はまだ受信していません。
PNFY2	0108	長期	通知保留 (2)。論理装置などのノードが、まさに接続可能になりそうで、キューに入れられたユーザー・セッションを終了させようとする要求がスケジュールされました。しかし、ユーザー・セッションが終了したことを示す通知要求は、まだ受信していません。
PNFY3	0105	長期	通知保留 (3)。ノードはまさに非活動になろうとしていて、キューに入れられたユーザー・セッションを終了させようとする要求がスケジュールされました。しかし、ユーザー・セッションが終了したことを示す通知要求は、まだ受信していません。
POAS1	0437	長期	オペレーター照会 (AUTOSYN1) 応答保留。通信コントローラーが活動化されている最中で、通信コントローラーを再ロードまたは再同期化すべきかどうか尋ねるメッセージ IST183A が出されました。メッセージは、通信コントローラーが接触された後で、SSCP-PU セッションが確立される前に、送られました。応答は受信していません。
POAS2	0438	長期	オペレーター照会 (AUTOSYN2) 応答保留。通信コントローラーが活動化されている最中で、通信コントローラーを再ロードまたは再同期化すべきかどうか尋ねるメッセージ IST183A が出されました。メッセージは、通信コントローラーが接触された後で、SSCP-PU セッションが確立された後に送られました。応答は受信していません。

短縮形	値 (16進数)	カテゴリ	リソース状況
PREQC	0402	長期	接触要求保留。チャネル接続または交換物理装置などのノードが接続されている最中で、コネクタアウト応答が受信されていますが、接触要求の要求が受信されていません。
PRMPO	0103	短期	RMPO 応答保留。リモート電源オフ要求が、リンク・ステーションを経由して送られ、応答は受信されていません。
PRSET	0101	短期	リセット保留。リソースは非活動ですが、ネットワーク名は依然として VTAM に認識されています。
PSARV	041B	短期	SAR 制御ベクトル設定応答保留。リンク・ステーションなどのノードが、活性化されている最中で、SAR 制御ベクトル要求が該当する PU に送信されましたが、応答が受信されていません。
PSDT	0429	短期	データ・トラフィック開始応答保留。通信コントローラーなどのノードが、活性化され、データ・トラフィック開始要求が送られましたが、応答は受信されていません。
PSNCP	0414	短期	NCP への切り替え応答保留。PEP リンクが活性化されている最中で、NCP への切り替え要求が送られましたが、応答は受信されていません。
PSSSV	0406	短期	SSS 制御ベクトル設定応答保留。交換物理装置が接続されている最中、または動的に追加された物理装置が活性化されている最中に、SSS 制御ベクトル設定要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答を受信していませんでした。
PSTD	042B	短期	日時設定応答保留。通信コントローラーが活性化されている最中で、日時設定要求が出されましたが、応答が受信されていません。
PSUBD	0502	延期	サブノード定義保留。リソースは活動状態にありますが、サブノードが動的に定義されるのを待っています。交換回線がこの状態にある場合、ダイヤルアウトすることはできません。
PSUBR	0504	延期	サブノード解放保留。獲得される前に活動化されていた、獲得された通信コントローラーが、解放されている最中です。すなわち、通信コントローラーの所有されていない部分のサブノードを解放させる要求が進行中です。
PSUB1	0115	延期	サブノード非活動化保留 (1)。アプリケーション・プログラム、通信コントローラー、リンク、または物理装置のような、ノードをサポートしているサブノードが、非活動化または切り離しされつつあります。アプリケーション・プログラムまたは LU に対するユーザー・セッション終了要求が、実行されています。
PSUB2	010A	延期	サブノード非活動化保留 (2)。アプリケーション・プログラム、通信コントローラー、リンク、または物理装置のような、ノードをサポートしているサブノードが、まさに接続可能になるようとしています。アプリケーション・プログラムまたは LU に対する、キューに入れられたユーザー・セッションの終了要求が実行されています。
PSUB3	0107	延期	サブノード非活動化保留 (3)。アプリケーション・プログラム、通信コントローラー、リンク、または物理装置のような、ノードをサポートしているサブノードが、まさに非活動化されようとしています。アプリケーション・プログラムまたは LU に適用される、キューに入れられたユーザー・セッションの終了要求が実行されつつあります。
PSWEP	0111	短期	EP への切り替え応答保留。PEP リンクが非活動化されています。EP モードへ切り替え要求が該当する PU サービスに送信されましたが、応答が受信されていません。
PTRM1	0114	短期	終了応答保留 (1)。論理装置などのノードが非活動化または切り離しされている最中です。ユーザー・セッションを終了させるようにという要求がスケジュールされていますが、応答はまだ受信されていません。

VTAM リソース状況コード

短縮形	値 (16進数)	カテゴリ	リソース状況
PTRM2	0109	短期	終了応答保留 (2)。論理装置などが、まさに接続可能になろうとしていて、キューに入れられたユーザー・セッションを終了するという要求がスケジュールされました。しかし、応答はまだ受信されていません。
PTRM3	0106	短期	終了応答保留 (3)。論理装置がまさに非活動になろうとし、キューに入れられたユーザー・セッションを終了させるようにという要求がスケジュールされていますが、応答はまだ受信されていません。
PVYLM	0435	長期	オペレーター照会 (VFYLM) 応答保留。リソースは活動化の最中で、VTAM オペレーター・メッセージ IST361A または IST937A が出されましたが、応答はまだ受信されていません。メッセージ IST361A は、オペレーターに対して NCP をロードするか、NCP の活動化を終了するかどうかを尋ねました。メッセージ IST937A は、NCP を再ロードする、NCP を非活動化する、または相関の不一致を無視するかどうかを尋ねました。
P095A	0118	長期	オペレーター照会応答保留。ERP が、ERP DUMP が必要かを尋ねるメッセージ IST095A を出しました。応答は受信されていません。
P284A	0408	長期	オペレーター照会応答保留。通信コントローラーがリカバリーの最中で、通信コントローラーを再ロードするかどうか尋ねるメッセージ IST284A が出されました。応答は受信されていません。
RACTH	0301		高位レベルでの再活動化。リソースは非活動化されている最中ですが、非活動状態になると、高位レベル・ノードによって再活動化が行われることを待っています (これは要求状態のみ)。
RACTN	0300		現行レベルでの再活動化。そのリソースは非活動化されている最中ですが、このレベルで再活動化されます (これは要求状態のみ)。
RADDF	0433	内部	RDTADD の失敗。ノードが活動化されている最中で、関連するネットワーク・アドレスを VTAM RDTADD データベースに追加するようにという要求が失敗に終わりました。リソースを非活動化する要求がスケジュールされました。
RDIAL	0201		再ダイヤル。交換物理装置が切り離されている最中で、切り離しが完了したならば、物理装置に再ダイヤルする試みがなされます (これは要求状態のみ)。
RELSA	0002	最終	解放。物理装置が解放されたか、またはそれが活動化済みで獲得前の通信コントローラーの非所有部分に存在していて、まだ獲得されていません。
RESET	0000	最終	リセット。VTAM はリソースを表す制御ブロックを作成しましたが、そのリソースが記号テーブルに追加されていません。そのリソースは VTAM により処理できません。リソース名が重複している可能性があります。NCP リソースの場合、そのリソースを獲得するため、使用前に VTAM VARY ACQ コマンドを入力する必要があります。
RINAC	0600	長期	ルーティング可能、非活動。MODIFY LL2 コマンドが、非活動の動的に追加された物理装置に対して処理されています。コマンドを処理するためには、その物理装置に対するネットワーク・アドレスが入手されなければなりません。LL2 テストが終了したときに、その物理装置は非活動状態に戻ります。
RRLSD	0601	長期	ルーティング可能、解放。MODIFY LL2 コマンドが、解放された動的に追加された物理装置に対して処理されています。コマンドを処理するためには、その物理装置に対するネットワーク・アドレスが入手されなければなりません。LL2 テストが終了したときに、その物理装置は解放状態に戻ります。
** TRACT	03	最終	活動。示されたトレースは活動状態です。
** TRPAR	02	短期	ACT TRACE 保留。そのトレースは活動化され、ACTTRACE 要求が該当する PU サービスに送られましたが、応答は受信されていません。
** TRPDR	01	短期	DACTTRACE 保留。そのトレースは非活動化されていて、DACTTRACE 要求が送られました。
** TRRES	00	最終	リセット。示されたトレースは活動状態ではありません。

短縮形	値 (16進数)	カテゴリ	
	ー		リソース状況
183AF	0418	内部	オペレーター照会 (AUTOSYNCH) が失敗に終わりました。メッセージ IST183A を出す要求がスケジュールされましたが、メッセージを出すことができませんでした。否定応答が返されたかのようにして、処理が継続されます。
284AF	0407	内部	オペレーター照会障害。メッセージ IST284A を出すようにという要求がスケジュールされましたが、そのメッセージを出すことができませんでした。否定応答が返されたかのようにして、処理が継続されます。

状況修飾子

以下の状況修飾子は、状況フィールドの第 4 および 5 桁に現れます。一度に 1 つの修飾子のみが表示されます。

状況修飾子	意味
/I	持続セッション・リカバリーが進行中です。 この状況修飾ビットは、アプリケーション・リソースにのみ使用されます。
/R	持続セッション・リカバリーが保留されています。 この状況修飾ビットは、アプリケーション・リソースにのみ使用されます。
/S	この論理装置、端末、またはアプリケーションに関するセッションは待機中、活動化保留中、または活動中です。

注: 状態コードの短縮形は、2 文字の状況修飾子を追加する前に 3 文字に短縮されるため、その状況コードを固有なものにしている文字 (4 および 5 番目の文字) が失われている場合があります。例えば、/I という修飾子が PNFY1、PNFY2 または PNFY3 に追加されると、新しい状態コードは PNF/I となります。この場合、元の状態コードを判別することは不可能です。

リソース状況情報

以下のリソース状況情報は、VTAM メッセージのリソース状況フィールドの 6-10 の文字位置に現れることがあります。

文字位置が使用されていない場合は、ハイフン (-) が表示されます。例えば、論理装置またはクロスドメイン・リソース (CDRSC) が活動状態で、シャドー・リソースとして定義されている場合は、**ACTIV--S--** が表示されます。

リソース 状況コード	文字位置	意味
A	10	呼び出し進行シグナル (CPS) が発生し、VTAM は遅延タイマーが満了するまで再試行を遅延しています。
B	10	そのリンク・ステーションは別のリンク・ステーション (特定の移行状況にある) のバックアップ用として機能しています。
C	8	VARY RELEASE GIVEBACK コマンドが NCP に対して出された結果、DACTLINK GIVEBACK 処理が LINE に対して行われようとしています。
D	10	そのリソースは動的再構成を用いて追加または移動されています。
E	10	リンク・ステーションまたはサブエリア間リンクが明示的に活動化されました。
F	10	そのリンク・ステーションは暗示的にバックアップ用として活動化されました。

VTAM リソース状況コード

リソース 状況コード	文字位置	意味
G	10	そのリソースは論理回線です。
I	10	そのリンク・ステーションまたサブエリア間リンクは、このリンクまたはリンク・ステーションが従属または隣接しているリソースを活動化させた結果として、暗示的に (または自動的に) 活動化されました。自動活動化の説明については、「VTAM Operation」を参照してください。
L	8	独立 LU はこの PU を隣接リンク・ステーションとして使用しています。
M	6	引き継ぎが、PU に対して進行中です。
N	7	リソースは、元々 DISPLAY コマンドを処理するホストによって所有されていませんでした。
R	9	ローカル・エリア・ネットワークの活動状態の専用回線に関して、テスト分析解決再試行条件が存在しています。この条件は、VTAM LAN サポートが経路を分析解決するために、テスト LPDU をステーションに送っていること、そしてステーションが活動状態になるかまたはオペレーターがその回線を非活動化するまで、そうし続けることを示します。
S	8	その論理装置またはクロスドメイン・リソース (CDRSC) はシャドールソースとして定義されています。
T	10	そのリソース (リンク、物理装置、または論理装置) は、NCP のプログラム式リソース機能 (NTO) を介して接続されています。
X	9	そのリソースは、モデルの定義から動的に作成されました。
Y	10	クロスドメイン・リソース (CDRSC) は動的に作成されました。
W	8	物理装置は ALLOWACT=YES で定義されています。

X.25 エラー・コード

エラー・コードは、以下のいずれかの状況が発生する場合に、メッセージ IST824I または IST837I の中に出されます。

- VTAM X.25 通信アダプター・サポートに関する定義ステートメントのオペランドが以下の状況にある。
 - コードが正しくない。
 - 失われている。
 - 指定したネットワークの互換性がない。
- 一時エラー状況が生じている。
- 着信呼び出しが拒否されている。

これら 2 つのメッセージに出されるエラー・コードは、以下の項で説明されています。

一時エラーに対するエラー・コード

エラー・コード	誤りのあるオペランド	解説
1100	なし。	発信呼び出し用に利用可能な自由論理チャネルが、現在はない。
1201	なし。	着信呼び出しを取り扱うために十分なストレージがない。

永続エラーに対するエラー・コード

エラー・コード	誤りのあるオペランド	解説
1101	PORT の NETTYPE	サポートされないネットワーク・タイプ。
1102	PORT の PMOD	指定されたモジュールが、DCE で使用されているモジュールと合致していない。
1107	PATH の DIALNO	ダイヤル文字が指定されていない。
1108	PATH の DIALNO	指定されたダイヤル文字が多すぎる (25 文字を超えている)。
1109	PATH の DIALNO	呼び出されたアドレスが、ダイヤル文字に含まれていない。
1110	PATH の DIALNO	呼び出されたアドレスが長すぎる (15 文字を超えている)。
1111	PATH の DIALNO	ダイヤル文字中に無効な分離文字がある。
1113	PATH の DIALNO	閉域ユーザー・グループ (CUG) が、ダイヤル文字から欠落しているが、CUG 分離文字が指定された。
1114	PATH の DIALNO	閉域ユーザー・グループ (CUG) が無効な文字を含んでいる。
1116	PATH の DIALNO	許可済み私企業 (RPOA) ID が欠落または無効。しかし RPOA 分離文字が指定されている。
1117	PATH の DIALNO	ダイヤル文字内に許可済み私企業 (RPOA) 無効文字がある。
1119	PORT の DIALNO	起呼アドレスが必要だが欠落している。
1121	PATH の DIALNO	着信課金要求が、ダイヤル文字中で誤ってコーディングされている。
1122	PORT の VCALLS または LINE の ADDRESS	スイッチド・バーチャル・サーキットおよびパーマネント・バーチャル・サーキットとして同じ論理チャネル番号が定義されている。
1123	LINE の ADDRESS	複数の非交換回線に対して同じアドレスが指定されている。
1124	PORT の CUADDR	その装置は X.25 回線として活動化できないか、またはそのアドレスが VTAM に知られていない。
1125	ATCSTRxx にある IOBUF または LFBUF	バッファ・サイズを増やしてください。
1126	GROUP の SHOLD	短期保留モードはサポートされません。
1202	PORT の CHARGACC	リモート DTE が着信課金を要求しますが、PORT は着信課金を受け入れないように定義されています。
1203	なし。	リモート DTE はサポートされていない論理リンク制御を要求します。

X.25 エラー・コード

エラー・コード	誤りのあるオペランド	解説
1204	LINE の CALL	CALL=IN または CALL=INOUT が指定されている非サブエリア・ダイヤル回線は、未定義または着信呼び出しの際に使用不能です。非サブエリア・ダイヤル回線のタイプは、着信呼び出しの非 INN プロトコル ID のために必要です。
1205	LINE の CALL	CALL=IN または CALL=INOUT が指定されているサブエリア・ダイヤル回線は未定義または着信呼び出しの際に使用不能です。サブエリア・ダイヤル回線のタイプは、着信呼び出しの INN プロトコル ID のために必要です。

内部エラーに対するエラー・コード

以下のエラー・コードは、内部エラーを示しています。エラーを IBM 技術員に報告してください。

- 9001
- 9002
- 9003
- 9004
- 9005
- 9006
- 9007
- 9008
- 9009

DTE 生成診断コード

理由コードが DTE に由来する消去またはリセットを示すときに、DTE 生成診断コードがメッセージ IST823I および IST836I 中に出されます。

注: これらのコードは、ネットワークがリモート DTE からの診断コードを受け入れるときにのみ、メッセージ IST836I に対して表示されます。

以下のテーブルには、すべての DTE 生成診断コードとその説明がリストされています。

10 進数コード	コードの説明
0	通常の初期設定または終了
1	Ps が無効
2	Pr が無効
12	LLC タイプが無効
16	パケット・タイプ (一般) が無効
17	状況 r1 パケット・レベル作動可能
18	状況 r2 DTE 再始動要求
19	状況 r3 DCE 再始動表示
20	状態 p1 スイッチド・バーチャル・サーキット作動可能
21	状況 p2 DTE 待機状態
22	状況 p3 DCE 待機状態
23	状況 p4 データ伝送
24	状況 p5 呼び出し競合
25	状況 p6 DTE 復旧要求
26	状態 p7 DCE 消去表示
27	状態 d1 流れ制御作動可能

10	進数コード	コードの説明
28		状態 <i>d2</i> DTE リセット要求
29		状態 <i>d3</i> DCE リセット表示
32		DCE タイマー満了 (一般)
33		着信呼び出し
34		消去表示
35		リセット表示
36		再始動表示
43		無許可の INTERRUPT_CONFIRMATION
44		無許可の INTERRUPT
48		DTE タイマー満了 (一般)
49		呼び出し要求
50		復旧要求
51		リセット要求
52		再始動要求
80		QLLC エラー (一般)
81		C フィールドが未定義
82		予期せぬ C フィールド
83		I フィールドが欠落
84		I フィールドが未定義
85		I フィールドが長すぎる
86		フレーム拒否受信
87		ヘッダー無効
88		受信したデータが誤った状態にある
89		時間切れ条件
90		Nr が無効
91		リカバリーが拒否または終了
93		ELLC 時間切れ条件
96		PSH エラー (一般)
97		シーケンス・エラー
98		ヘッダーが短すぎる
99		PSH 形式無効
100		コマンドが定義されていない
101		プロトコルが無効
102		受信したデータが誤った状態にある
105		時間切れ条件
112		PAD エラー (一般)
113		PAD アクセス機能障害
114		SDLC FCS エラー
115		SDLC 時間切れ
116		SDLC フレームが無効
117		I フィールドが長すぎる
118		SDLC シーケンス・エラー
119		SDLC フレーム中断
120		SDLC FRMR を受信した
121		SDLC 応答が正しくない
123		パケット・タイプが正しくない
127		PAD 操作不能
128		DTE 特定 (一般)
129		8100_DPPX 特定
130		INN_QLLC 特定
131		INN_QLLC 特定
132		INN_QLLC 特定
133		INN_QLLC 特定
134		INN_QLLC 特定

10 進数コード	コードの説明
135	INN_QLLC 特定
136	INN_QLLC 特定
137	INN_QLLC 特定
138	INN_QLLC 特定
139	INN_QLLC 特定
140	INN_QLLC 特定
141	INN_QLLC 特定
142	INN_QLLC 特定
143	INN_QLLC 特定
144	ネットワーク特定
145	DDX-P RNR パケットを受信した
160	許されていないパケット (一般)
161	'M' ビット・パケット順序が無効
162	無効なパケット・タイプが受信された
163	永続バーチャル・サーキット上に無効なパケットがある
164	論理チャンネル (LC) が割り当てられていない
165	診断パケットを受信した
166	パケットが短すぎる
167	パケットが長すぎる
168	GFI が無効
169	識別不能
170	サポートされていない
171	Ps が無効
172	Pr が無効
173	無効な 'D' ビットが受信された
174	無効な 'Q' ビットが受信された
176	DTE 特定 (NPSI ゲート/日付) (一般)
177	LU-LU セッションがない
192	DTE 特定 (一般)
193	終了保留
194	チャンネル操作不能
195	無許可割り込み確認
196	無許可割り込み要求
197	PU (パーマネント・バーチャル・サーキット) 使用不可
198	非活動時間切れ
199	回線構成に互換性がない
208	リソース (一般)
209	バッファが空にされる
210	パス情報単位 (PIU) が長すぎる
224	ローカル手順エラー (一般)
225	LC=0 を指定したパケットが受信されなかった
226	再始動または診断パケットが論理チャンネル 0 上にない
227	着信呼び出しが誤った論理チャンネル上で受信された
228	加入していない機構
229	再始動または診断以外のパケット・タイプが論理チャンネル 0 上にある
230	機構パラメーターがサポートされていない
231	機構がサポートされていない
232	予期せぬ呼び出し DTE
233	無効な 'D' ビット要求
234	仮想呼び出し上のリセット表示
235	プロトコル ID が無効
236	接続 ID の不一致
237	理由または診断コードが失われている
240	リモート手順エラー (一般)

10 進数コード コードの説明
241 リモート手順エラー (一般)

VTAM メッセージのコマンド・タイプ

以下のコマンドまたは RU タイプが VTAM メッセージ中に現れることがあります。コマンドの詳細については、「VTAM Operation」を参照してください。RU に関する詳細については、「SNA Formats」または「SNA Network Product Formats」を参照してください。

コマンドまたは RU タイプ	関数
ABCONN	接続中止
ABCONNOUT	コネクタアウト中止
ACTCDRM	CDRM 活動化
ACTCONNIN	コネクタイン活動化
ACTIVATE	活動化
ACTLINK	リンク活動化
ACTLU	LU 活動化
ACTPU	PU 活動化
ACTTRACE	トレース活動化
ACTVR	仮想経路活動化
ADDNR	ネットワーク・リソース追加
AM ADDLINK	リンク追加
AM ADDLSTA	リンク・ステーション追加
AM ADRQCMP	アドレス要求完了
AM ALLORSC	リソース割り振り
AM CLEANUP	終結処置
AM CLSACB	ACB クローズ
AM CONNECT	接続
AM CONDL0D	必要な条件付きロード
AM CS	構成サービス
AM DEACTXF	変形非活動化
AM DELETNR	ネットワーク・リソース削除
AM DISCNCT	切り離し
AM FLUSH	仮想経路フラッシュ
AM FREERSC	リソース解放
AM GAINGWN	獲得されたゲートウェイ・ノード
AM GBIND	汎用 BIND
AM GENTERM	汎用打ち切り
AM GUNBIND	汎用 UNBIND
AM INIT_PU	PU 初期設定
AM LOSTGWN	ゲートウェイ・ノード喪失
AM NFY SLT	通知 (LOSTERM 出口ルーチンのスケジュール)
AM NOTIFY	通知
AM OPNACB	ACB オープン
AM OSA	セッション・アドレス指定変更
AM PCE	チェーン・エレメント除去
AM PWQ	キュー除去
AM RDTADD	リソース定義追加
AM REALLOC	再割り振り
AM REQ ERA	明示経路活動化要求
AM REQ VRD	仮想経路非活動化要求
AM REQDUMP	ダンプ要求
AM REQLOAD	リソース・ロード

VTAM メッセージのコマンドおよび RU

コマンドまたは RU タイプ	関数
AM RESETRT	ルーティング可能状態リセット
AM RESUME	再開
AM RNAA	ネットワーク・アドレス割り当て要求
AM SC AMRU	交換接続 AMRU
AM SC EXIT	交換接続終了
AM SETRT	ルーティング可能設定
AM SSA	セッション・アドレス設定
AM SSADISC	セッション・アドレスおよび切り離し設定
AM UNCDLOD	必要とされる無条件ロード
AM VR INOP	仮想経路操作不能
AM VR STAT	仮想経路状況
ANA	ネットワーク・アドレス割り当て
ANS	自動ネットワーク・シャットダウン開始済み
ANSC	自動ネットワーク・シャットダウン完了
API CHGEAF	CHANGE(ENDAFFIN) マクロ命令
API CLSPAS	CLSDST(PASS) マクロ
API CLSRLS	CLSDST(RELEASE) マクロ
API INQAPS	INQUIRE(APPSTAT) マクロ
API INQCID	INQUIRE(CIDXLATE) マクロ
API INQCNT	INQUIRE(COUNTS) マクロ
API INQDPY	INQUIRE(DISPLAY) マクロ
API INQDVC	INQUIRE(DEVCHAR) マクロ
API INQLOG	INQUIRE(LOGONMSG) マクロ
API INQNQN	INQUIRE(NQN) マクロ命令
API INQPER	INQUIRE(PERSESS) マクロ
API INQSKY	INQUIRE(SESSKEY) マクロ
API INQSNM	INQUIRE(SESSNAME) マクロ命令
API INQSPM	INQUIRE(SESSPARMS) マクロ
API INQSTA	INQUIRE(STATUS) マクロ命令
API INQTOP	INQUIRE(TOPLOGON) マクロ
API INQTRM	INQUIRE(TERMS) マクロ
API INTERP	INTRPRET マクロ
API OPNDACC	OPNDST(ACCEPT) マクロ
API OPNDACQ	OPNDST(ACQUIRE) マクロ
API OPNRES	OPNDST(RESTORE) マクロ
API OPNSEC	OPNSEC マクロ
API RCVCMD	RCVCMD マクロ
API RECEIV	RECEIVE マクロ
API REQSES	REQSESS マクロ
API RSETSR	RSETSR マクロ
API SEND	SEND マクロ
API SESONC	SESSIONC マクロ
API SETGNA	SETLOGON(GNAMEADD) マクロ命令
API SETGND	SETLOGON(GNAMEDEL) マクロ命令
API SETLQS	SETLOGON(QUIESCE) マクロ
API SETLSP	SETLOGON(STOP) マクロ
API SETLST	SETLOGON(START) マクロ
API SETNPER	SETLOGON(NPERSIST) マクロ
API SETPER	SETLOGON(PERSIST) マクロ
API SIMLOG	SIMLOGON マクロ
API SNDCMD	SENDSCMD マクロ
API TRMSES	TERMSESS マクロ
BFCINIT	境界機能制御開始
BFCLEANUP	境界機能終結処置

コマンドまたは RU タイプ	関数
BFINIT	境界機能開始
BFTERM	境界機能終了
BFSESSEND	境界機能セッション終了
BFSESSINFO	境界機能セッション情報
BFSESSST	境界機能セッション開始
BID	送信権要求
BIND	セッション確立
BIND FAIL	確立失敗
BIS	ブラケット開始停止
CANCEL	取り消し
CD DSEARCH	クロスドメイン直接探索リスト
CD NOTIFY	クロスドメイン通知
CDCINIT	クロスドメイン制御開始
CDINIT OTH	クロスドメイン開始 (その他)
CDRM CLEAR	CDRM-CDRM セッション消去
CDRM ERP	CDRM ERP 内部消去
CDESSEND	クロスドメイン・セッション終了
CDESST	クロスドメイン・セッション開始
CDSSF	クロスドメイン・セッション・セットアップ障害
CDSTF	クロスドメイン・セッション分解障害
CDTAKEDOWN	クロスドメイン分解
CDTD COMP	クロスドメイン分解完了
CDTERM	クロスドメイン終了
CHAR CODED	不定様式要求単位
CHASE	追跡
CHG NRSPOL	ポーリング限界の否定応答変更
CHG POLLIM	ポーリング限界変更
CHG SESSLM	セッション限度変更
CHG TLIMIT	伝送限界変更
CHKPT	リソース状況チェックポイント機能
CINIT	制御開始
CKPTN	ノード状況チェックポイント機能
CLEANUP	終結処置
CLEAR	セッション消去
CNM	通信ネットワーク管理要求
CONNOUT	コネクタアウト
CONTACT	接触
CONTACTED	被接触
CPCRYPT	暗号管理機能
CPMSG	内部 WTOR 機能
CRV	暗号検査
CTERM	制御終了
D ADJCP	DISPLAY ADJACENT CONTROL POINT コマンド
D ADJCLUST	DISPLAY ADJACENT CLUSTER TABLE コマンド
D BNCOSMAP	DISPLAY BORDER NODE CLASS-OF-SERVICE MAPPING コマンド
D CNOS	DISPLAY CNOS コマンド
D CONVID	DISPLAY CONVID コマンド
D DLURS	DISPLAY DLURS コマンド
D DIRECTRY	DISPLAY DIRECTORY コマンド
D DISK	DISPLAY DISK コマンド
D LMTBL	DISPLAY LMTBL コマンド
D NCPSTOR	DISPLAY NCPSTOR コマンド
D NETSRVR	DISPLAY NETWORK NODE SERVER LIST コマンド

VTAM メッセージのコマンドおよび RU

コマンドまたは RU タイプ	関数
D PATHTAB	DISPLAY PATH TABLE コマンド
D STORUSE	DISPLAY STORUSE コマンド
D TGPS	DISPLAY TRANSMISSION GROUP PROFILES コマンド
D TOPO	DISPLAY TOPOLOGY コマンド
D TRACES	DISPLAY TRACES コマンド
D VTAMOPTS	DISPLAY VTAMOPTS コマンド
DACTCDRM	クロスドメイン・リソース・マネージャー非活動化
DACTCONNIN	コネクティン非活動化
DACTLINK	リンク非活動化
DACTLU	LU 非活動化
DACTPU	PU 非活動化
DACTTRACE	トレース非活動化
DACTVR	仮想経路非活動化
DDDLU RU	独立 LU の動的定義
DELETE	削除
DELETENR	ネットワーク・リソース削除
DELIVER	配布要求
DIAL START	ダイヤル開始要求
DISCONTACT	RU 切り離し
DISP STOR	ストレージ表示
DISPLAY	コマンド表示
DLR PURGE	ダンプ/ロード/再始動の除去
DUMP FINAL	最終ダンプ
DUMP INIT	開始部ダンプ
DUMP TEXT	テキスト・ダンプ
DWACT	活動中のダイヤル
ECHO TEST	ECHO 検査
ENT SLOWDN	スローダウン状態への切り替え
ER ACT	明示経路活動化
ER ACT RPY	明示経路活動化応答
ER INOP	明示経路操作不能
ER OP	明示経路作動可能
ER TEST	明示経路テスト
ER TESTED	テスト済み明示経路
ER TST RPY	明示経路テスト応答
EXT SLOWDN	スローダウン状態からの離脱
F ACT GPT	MODIFY TRACE,TYPE=GPT コマンド
F ACT NCTR	MODIFY TRACE,TYPE=NETCTLR コマンド
F ACT SIT	MODIFY TRACE,TYPE=SIT コマンド
F ACT TG	MODIFY TRACE,TYPE=TG
F ALSLIST	MODIFY ALSLIST コマンド
F ALTRACE	MODIFY TRACE,TYPE=LINE
F CDRM	MODIFY CROSS DOMAIN RESOURCE MANAGER コマンド
F CHKPT	MODIFY CHECKPOINT コマンド
F CHANGE	MODIFY NEG POLL または POLL または SESSLIM
F CNOS	MODIFY CNOS コマンド
F COMPRESS	MODIFY COMPRESS コマンド
F DACT GPT	MODIFY NOTRACE,TYPE=GPT コマンド
F DACT SIT	MODIFY NOTRACE,TYPE=SIT コマンド
F DACT TG	MODIFY NOTRACE,TYPE=TG コマンド
F DACTNCTR	MODIFY NOTRACE,TYPE=NETCTLR コマンド
F DEFAULTS	MODIFY DEFAULTS コマンド
F DEFINE	MODIFY DEFINE コマンド

コマンドまたは RU タイプ	関数
F DIR DEL	MODIFY DIRECTRY,FUNCTION=DELETE コマンド
F DIR UPD	MODIFY DIRECTRY,FUNCTION=UPDATE コマンド
F DIRECTRY	MODIFY DIRECTORY コマンド
F DLTRACE	MODIFY NOTRACE,TYPE=LINE コマンド
F DR DEL	MODIFY DR,TYPE=DELETE
F DR MOVE	MODIFY DR,TYPE=MOVE
F DUMP	MODIFY DUMP コマンド
F DUMP CSP	MODIFY DUMP,TYPE=CSP コマンド
F DUMP DYN	MODIFY DUMP,TYPE=NCP,OPTION=DYNA コマンド
F DUMP MOS	MODIFY DUMP,TYPE=MOSS コマンド
F DUMP PGC	MODIFY DUMP,ACTION=PURGE,TYPE=CSP
F DUMP PGM	MODIFY DUMP,ACTION=PURGE,TYPE=MOSS
F DUMP PGN	MODIFY DUMP,ACTION=PURGE,TYPE=NCP
F DUMP STO	MODIFY DUMP,ACTION=STORE
F DUMP TRC	MODIFY DUMP,ACTION=TRANSFER, TYPE=CSP
F DUMP TRH	MODIFY DUMP,ACTION=TRANSFER, TYPE=NCP (ヘッダー)
F DUMP TRM	MODIFY DUMP,ACTION=TRANSFER, TYPE=NCP (主ストレージ)
F DUMP TRN	MODIFY DUMP,ACTION=TRANSFER, TYPE=NCP
F ENCR	MODIFY ENCR コマンド
F EXIT	MODIFY EXIT コマンド
F IMR	MODIFY IMR コマンド
F LL2	MODIFY LL2 コマンド
F LOAD ADD	MODIFY LOAD ADD コマンド
F LOAD CAN	MODIFY LOAD CANCEL コマンド
F LOAD PRG	MODIFY LOAD PURGE コマンド
F LOAD REN	MODIFY LOAD RENAME コマンド
F LOAD REP	MODIFY LOAD REPLACE コマンド
F LOAD SET	MODIFY LOAD SET コマンド
F NOTNSTAT	MODIFY NO TUNING STATISTICS コマンド
F PROFILES	MODIFY PROFILES コマンド
F QUERY	MODIFY QUERY コマンド
F RESOURCE	MODIFY RESOURCE コマンド
F TABLE	MODIFY TABLE コマンド
F TGP	MODIFY TRANSMISSION GROUP PROFILE コマンド
F TNSTAT	MODIFY TUNING STATISTICS コマンド
F TOPO	MODIFY TOPOLOGY コマンド
F USERVAR	MODIFY USERVAR コマンド
F VTAMOPTS	MODIFY VTAMOPTS コマンド
FNA	ネットワーク・アドレスの解放
FORCE DEAC	強制非活動化
FORCE REAC	強制再活動化
FORWARD	前進要求
GDS CDINIT	クロスドメインが開始する汎用データ・ストリーム (GDS) 変数
GDS CP_CAP	制御点機能汎用データ・ストリーム (GDS) 変数
GDS DELETE	汎用データ・ストリーム (GDS) 変数の削除
GDS FIND	汎用データ・ストリーム (GDS) 変数の検索
GDS FOUND	汎用データ・ストリーム (GDS) 変数の検知
GDS IOCD	他のクロスドメイン汎用データ・ストリーム (GDS) 変数の開始
GDS LOCATE	汎用データ・ストリーム (GDS) 変数の所在確認
GDS NOTIFY	汎用データ・ストリーム (GDS) 変数の通知

VTAM メッセージのコマンドおよび RU

コマンドまたは RU タイプ	関数
GDS REGSTR	汎用データ・ストリーム (GDS) 変数の登録
GDS TDU	トポロジー・データベース更新汎用データ・ストリーム (GDS) 変数
HALT CDLNK	HALT 中のクロスドメイン・リンクの処理
HARD INOP	ハード INOP
INACT GVBK	VARY INACT,TYPE=GIVEBACK コマンド
INACT SON	非活動化 (セッション故障停止通知)
INIT LOAD	ネットワーク・サービス初期ロード
INIT OTHER	開始 - その他 RU
INIT SELF	開始 - 自己 RU 形式 0
INIT SELF	開始 - 自己 RU 形式 1
INOP	操作不能
INT SYNCH	TPPOST マクロ
IPL ABORT	ネットワーク・サービス IPL 打ち切り
IPL FINAL	IPL 最終要求
IPL FINAL	ネットワーク制御最終 IPL
IPL FINAL	ネットワーク・サービス最終 IPL
IPL INIT	IPL 初期要求
IPL INIT	ネットワーク制御初期 IPL
IPL INIT	ネットワーク・サービス初期 IPL
IPL TEXT	IPL テキスト要求
IPL TEXT	ネットワーク制御 IPL テキスト
IPL TEXT	ネットワーク・サービス IPL テキスト
IPS ACC	隣接制御点に接触しているプロセス間シグナル (IPS)
IPS ACL	隣接クラスター・プロセス間シグナル (IPS) の処理
IPS ACR	クロスドメイン応答 AMRU
IPS BNP	ボーダー・ノード・セッション応答のプロセス間シグナル (IPS)
IPS BNQ	ボーダー・ノード・セッション要求のプロセス間シグナル (IPS)
IPS BRI	ブロードキャスト・プロセス間シグナル (IPS)
IPS CBN	キャッシュ・ボーダー・ノード情報プロセス間シグナル (IPS)
IPS CDY	クロスドメイン・リソース表示
IPS CMA	COS マッピング・プロセス間シグナル (IPS) の処理
IPS COS	サービス・クラス・プロセス間シグナル (IPS) の定義
IPS CPS	CP 状況プロセス間シグナル (IPS)
IPS CRQ	CRR 要求
IPS CSH	キャッシュ検索プロセス間シグナル (IPS)
IPS CSR	キャッシュ応答プロセス間シグナル (IPS)
IPS DIA	隣接クラスター表示
IPS DLR	DLUR 状況
IPS DQE	行列解除プロセス間シグナル (IPS)
IPS DSN	登録簿サーバー通知
IPS GCR	総称キャッシュ検索応答プロセス間シグナル (IPS)
IPS GCS	総称キャッシュ検索更新プロセス間シグナル (IPS)
IPS GUS	総称キャッシュ検索更新要求プロセス間シグナル (IPS)
IPS INO	他のプロセス間シグナル (IPS) 開始
IPS IOC	他の完了プロセス間シグナル (IPS) の開始
IPS OTC	正常終了セッションの完了プロセス間シグナル (IPS)
IPS OTD	出力トポロジー・データベース更新プロセス間シグナル (IPS)
IPS OTR	正常終了セッションの完了要求プロセス間シグナル (IPS)
IPS PCQ	PCID 照会

コマンドまたは RU タイプ	関数
IPS PCR	PCID 照会応答
IPS PND	保留状態セッション特性プロセス間シグナル (IPS)
IPS PNL	ネットワーク・ノード・サーバー・リスト処理のプロセス間シグナル (IPS)
IPS PRC	プロセス間シグナル (IPS) 処理続行
IPS PRV	セッション特性提供プロセス間シグナル (IPS)
IPS QED	キューイングされたプロセス間シグナル (IPS)
IPS RAC	リソース利用可能完了プロセス間シグナル (IPS)
IPS RAV	リソース利用可能プロセス間シグナル (IPS)
IPS RMR	多重経路要求プロセス間シグナル (IPS)
IPS RQR	経路要求プロセス間シグナル (IPS)
IPS RRC	解放要求完了プロセス間シグナル (IPS)
IPS RRQ	解放要求プロセス間シグナル (IPS)
IPS RSR	リソース登録
IPS SAC	サブエリア・クリーンアップ・プロセス間シグナル (IPS)
IPS SCR	検索要求
IPS SHR	単一ホップ経路要求
IPS SIR	セッション開始情報要求
IPS SRC	セッション要求完了プロセス間シグナル (IPS)
IPS SRO	CPSVRMGR セッション故障率
IPS SRP	プロトコル違反の検出
IPS SRQ	セッション要求プロセス間シグナル (IPS)
IPS SRT	DLUR に TDU エラーを検出
IPS TGU	TG 更新
IPS UPD	ディレクトリー更新
IPS UMR	更新モード・プロセス間シグナル (IPS)
LINKLVL2	テスト・モード (LL2) への切り替え
LL2	MODIFY LL2 コマンド
LOAD REQRD	ネットワーク・サービス・ロード要求
LOAD STAT	ネットワーク・サービス・ロード状況
LOST CTLPT	制御点消失
LOST PATH	パス消失
LUSTAT	LU 状況
MODIFY	MODIFY コマンド
MODIFY NOTNSTAT	MODIFY NO TUNING STATISTICS コマンド
MODIFY TNSTAT	MODIFY TUNING STATISTICS コマンド
MS SCV	保守サービス・セット制御ベクトル
NTNMON REP	NCPMON 応答 RU
NCLSA	ネットワーク制御喪失サブエリア
NMVT	ネットワーク管理ベクトル移送
NLSA	ネットワーク・サービス喪失サブエリア
NSPE	ネットワーク・サービス手順エラー
NTFY NS(C)	セッション終了通知
NTFY NS(S)	通知
QC	静止完了
QEC	チェーン終了での静止
RDELETENR	ネットワーク・リソース削除要求
REC TEST	テスト・データ記録
REC TRACE	回線トレース・データ記録
RECFMS	定様式保守統計記録
RECMD	測定データ記録
RECMS	保守統計記録
RECSTOR	ストレージ記録
RECTR	テスト結果記録

VTAM メッセージのコマンドおよび RU

コマンドまたは RU タイプ	関数
REL IMMED	VARY REL,TYPE=IMMED コマンド
REL GVBK	VARY REL,TYPE=GIVEBACK コマンド
RELEASE	VARY REL コマンド
RELQ	静止解除
REQ ECHO	エコー・テスト要求
REQ RTTEST	経路テスト要求
REQACTCDRM	ACTCDRM 要求
REQACTPU	PU 活動化要求
REQC	接触要求
REQCONT	接触要求
REQDACTPU	PU 非活動化要求
REQDISCONT	切り離し要求
REQDMP CSP	CSP ダンプ要求
REQDMP MOS	MOSS ダンプ要求
REQDUMP	ダンプ要求
REQDUMP DY	動的ダンプ要求
REQLOAD	ロード要求
REQMS	保守統計要求
RESET LU	LU リセット
RMPO	リモート電源オフ
RNAA	ネットワーク・アドレス割り当て要求
ROUTE_INOP	ネットワーク・サービス経路操作不能
RQR	リカバリー要求
RSHUTD	シャットダウン要求
RTR	受信実行可能
SBI	ブラケット開始停止
SCV	制御ベクトル設定
SDT	データ・トラフィック開始
SELECT VR	仮想経路選択
SESS ENDED	終了済みセッション
SESS START	開始済みセッション
SETCV	制御ベクトル設定
SETCV(DPU)	制御ベクトル動的パス更新設定
SETCV(NAU)	制御ベクトル・ネットワーク・アドレス指定可能装置設定
SETCV(SAR)	制御ベクトル・サブエリア・ルーチン設定
SETCV(SSS)	制御ベクトル SDLC 2 次局 ID 設定
SETCV(STD)	制御ベクトル日時設定
SETCV(FRS)	制御ベクトル・フレーム・リレー切り替え設定
SETTIM CAN	スケジュールされた取り消し
SETUP	総称セッション開始
SHUTC	シャットダウン完了
SHUTDOWN	シャットダウン
SIGNAL	信号
SOFT INOP	ソフト INOP
SSCP TKOVR	SSCP 引き継ぎ
STSN	シーケンス番号設定とテスト
SW TO EP	回線の EP モードへの切り替え
SW TO NCP	回線の NCP モードへの切り替え
SYNTAX CHK	VARY ACT,SCOPE=SYNTAX コマンド
TERM OTHER	終了 - その他 RU
TERM SELF	終了 - 自己形式 0
TIMER REQ	タイマー要求設定
TR_INQUIRY	照会変換
TR_REPLY	応答変換

コマンドまたは RU タイプ	関数
UBIND FAIL	アンバインド障害
UNBIND	アンバインド RU
VARY	VARY コマンド
VARY ACQ	VARY ACQ または VARY ACT, ACQ コマンド
VARY ACT	VARY ACT コマンド
VARY ANS	VARY ANS コマンド
VARY DIAL	VARY DIAL コマンド
VARY DRDS	VARY DRDS コマンド
VARY HGUP	VARY HGUP コマンド
VARY INACT	VARY INACT または VARY INACT,TYPE=IMMED コマンド
VARY INOP	VARY INOP コマンド
VARY LOGON	VARY LOGON コマンド
VARY NOLOG	VARY NOLOGON コマンド
VARY PATH	VARY PATH コマンド
VARY REL	VARY REL コマンド
V NOLOGON	VARY NOLOGON コマンド
XID	ID 交換
XID3	ID 3 交換

VTAM メッセージ中のノードと ID タイプ、およびそれらについての記述

このトピックでは、VTAM オペレーター・メッセージの中に現れる、ノードおよび ID タイプについて記述しています。

ノード/ID タイプ	説明
ADJ CLUSTER TABLE	隣接クラスター・テーブル
ADJCP	隣接制御点大ノード
ADJACENT CP	隣接制御点
ADJCP MAJOR NODE	隣接制御点大ノード
ADJSSCP TABLE	隣接 SSCP テーブル
APPL	アプリケーション・プログラム
APPL SEGMENT	アプリケーション・プログラム大ノード
APPN COS TABLE	APPN サービス・クラス・テーブル
BN COS MAP TABLE	BN サービス・クラス・マップ・テーブル
CA MAJOR NODE	チャンネル接続大ノード
CDRM	クロスドメイン・リソース・マネージャー
CDRM SEGMENT	クロスドメイン・リソース・マネージャー大ノード
CDRSC	クロスドメイン・リソース
CDRSC SEGMENT	クロスドメイン・リソース大ノード
CP	制御点
DIRECTORY ENTRY	ディレクトリー・サービス・データベースのエントリー
DYNAMIC FRSESET	動的に定義される NCP フレーム・リレー切り替え装置セット (FRSESET)
GENERIC RESOURCE	総称リソース名
HOST CP	ホスト制御点
ILU/CDRSC	CDRSC として表される独立 LU
LAN MAJOR NODE	ローカル・エリア・ネットワーク大ノード

ノードおよび ID タイプの記述

ノード/ID タイプ	説明
LCL SNA MAJ NODE	1 つ以上の SNA クラスター・コントローラ ーで構成されるチャンネル接続 (ローカル) 大 ノード
LCL 3270 MAJ NODE	ローカル 3270 大ノード
LINE	通信回線
LINE GROUP	回線グループ
LINK STATION	NCP またはホスト・プロセッサを表す PU タイプ 4 または 5
LOGICAL UNIT	論理装置
LUGROUP MAJ NODE	LU グループ大ノード
MODEL LU GROUP	モデル LU グループ
MODEL MAJOR NODE	モデル大ノード
MODEL SEGMENT	モデル大ノード
NN SERVER LIST	ネットワーク・ノード・サーバー・リスト
適用外	表示された大ノードはリストまたはテーブル などの ID タイプを表すことを示します。 ID タイプによっては、表示されないものもあ ります。
PACKET MAJOR NODE	X.25 回線用のパケット大ノード
PATH TABLE	PATH テーブル
PHYSICAL UNIT	物理装置
PU_T1	物理装置タイプ 1
PU_T2	物理装置タイプ 2
PU_T2.1	物理装置タイプ 2.1
PU_T4/5	通信コントローラー、または SSCP 付きホス ト
PU T4/5 MAJ NODE	通信コントローラー、または SSCP 付きホス ト
RESOURCE	VTAM にまだ定義されていないかもしれない リソース
SHM LINE GROUP	短期保留モード回線グループ
SSCP	システム・サービス制御点
STATIC FRSESET	静的に定義される NCP フレーム・リレー切 り替え装置セット (FRSESET)
SW SNA MAJ NODE	交換 SNA 大ノード
TG PROFILE TABLE	APPN 伝送グループ・プロファイル
TRL MAJOR NODE	トランスポート・リソース・リスト大ノード
TRLE	活動状態のトランスポート・リソース・リス ト内のエレメント
XCA MAJOR NODE	外部通信アダプター (XCA) 大ノード

戻りコードおよび戻りコード通知用のセンス・フィールド

RPL 準拠マクロ命令

この章では、通知される戻りコードに関する情報を提供し、各戻りコードの違いとフィールドバック・フィールド値の意味を説明します。加えて、SNA センス・フィールドに関する情報も提供します。SNA センス・フィールドに関する詳細については、766 ページの『SNA センス・フィールド』を参照してください。3270 SNA 装置または非 SNA 装置のセンス情報については、「VTAM Programming」を参照してください。

VTAM は、戻りコード情報をレジスター 0 および 15、さらに要求元の要求パラメーター・リスト (RPL) の特定のフィールドに入れて通知します。これらのフィールドはフィードバック・フィールドとして参照されます。レジスター 0、15 およびフィードバック・フィールドが通知される方法は、以下のうちのどれが使用されるかに応じて異なります。

- 同期要求取り扱い
- イベント制御ブロック (ECB) を指定した非同期要求取り扱い
- RPL 出口ルーチンを伴った非同期要求取り扱い

注: RTNCD および FDB2 は、RPL DSECT フィールドを指します (RPL オペランドではありません)。RTNCD の RPL DSECT ラベルは RPLRTNCD、および FDB2 のラベルは RPLFDB2 です。これらのフィールドとラベル指定間のスペルの類似性、さらに RPL で検出される他のものにも類似性があるため、フィールド名などを誤って解釈または指定することのないように、「VTAM Programming」を参照してください。SHOWCB および TESTCB マクロ命令での FDBK2 パラメーターは、RPLFDB2 フィールドを示しています。

プログラム実行中にこの付録で記述されている以外の戻りコードを検出した場合には、セッションでの通信を試みることをやめてください。RPL フィールドの内容を取り出すのに SHOWCB マクロ命令を使うことができますが、プログラム・ダンプを取らなければなりません。IBM プログラム・サービス技術員のために、原始リストおよびプログラムの実行出力を保管してください。詳細については、「VTAM Programming」を参照してください。

戻りコード (RTNCD-FDB2) の組み合わせ

この章では、完了が通知されたときに RPL 中に入れることのできる RTNCD-FDB2 の組み合わせすべてを記述しています。レジスター 0 および 15 に通知される情報、およびマクロ命令の説明については、「VTAM Programming」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
0	0	通常完了または要求が受諾された。

操作は正常に完了した、または要求が受諾されました。

RTNCD	FDB2	解説
0	5	入力域が小さすぎる。

INQUIRE、INTRPRET または OPNDST OPTCD=RESTORE を出して入力作業域を指定しましたが、それが小さすぎます。VTAM は要求された長さ (バイト単位) を RPL の RECLLEN フィールド (INQUIRE の場合) または ARECLLEN (INTRPRET の場合) 中に置きました。作業域にデータが置かれませんでした。

RECLLEN または ARECLLEN 中に設定された値以上の長さの作業域を入手してください。AREALEN フィールド (INQUIRE の場合) または AAREALN (INTRPRET の場合) に長さを置き、INQUIRE または INTRPRET を再び出してください。

RTNCD	FDB2	解説
0	6	利用可能な入力がない。

RECEIVE OPTCD=NQ が出されましたが、指定された RTYPE でそのマクロ命令を満足する使用可能な入力がありませんでした。または、RCVCMD OPTCD=NQ が出されましたが、そのマクロ命令を満足する使用可能な入力がありませんでした。

RTNCD	FDB2	解説
0	7	INQUIRE 情報が使用不能。

以下のいずれかが起こりました。

- キューに入れられた CINIT からユーザー・データ (ログオン・メッセージ) を入手するために INQUIRE OPTCD=LOGONMSG を出しましたが、キュー中に CINIT がありません。
- キューに入れられた、CINIT からセッション・パラメーターを入手するために INQUIRE OPTCD=SESSPARM を出しましたが、キュー中に CINIT がありません。
- セッション暗号鍵を入手するために INQUIRE OPTCD=SESSKEY を出しましたが、セッション暗号鍵がありません。
- クロスドメイン・リソースのために INQUIRE OPTCD=DEVCHAR を出しました。
- キューに入れられた CINIT のために INQUIRE OPTCD=TOPLOGON を出しましたが、キュー中に CINIT がありません。
- まだ確立されていないセッションのために INQUIRE OPTCD=CIDXLATE を出しました。
- INQUIRE OPTCD=USERVAR を出しましたが、USERVAR が定義されていません。
- INQUIRE OPTCD=PERSESS を出しましたが、リカバリーを保留しているレコード・アプリケーション・プログラム・インターフェース (API) セッションはありません。

問題は、NIB 中に誤って設定された NAME フィールド、NIB または RPL 中の無効な CID、VTAM 定義の際に適切な項目を作成することに失敗したシステム・プログラマーの責任、または VTAM オペレーターが出したその項目を非活動化させる VARY コマンド、によるものである可能性があります。

RTNCD	FDB2	解説
0	8	OPNDST OPTCD=ACQUIRE, SIMLOGON または CLSDST OPTCD=PASS が失敗に終わった。

要求された論理装置がセッション限界にあるか、またはそれが SLU になるはずのセッションで使用可能になっていないために、OPNDST OPTCD=ACQUIRE または SIMLOGON OPTCD=NQ が失敗に終わりました。(OPNDST および SIMLOGON の説明については、「VTAM Programming」を参照してください。)

要求された論理装置がセッション限界にあり、少なくとも現行セッションの 1 つが SIMLOGON を出したアプリケーション・プログラムとのセッションであるので、SIMLOGON OPTCD=Q が失敗に終わりました。

CLSDST OPTCD=PASS は、以下のいずれかの理由のため失敗しました。

- 渡された論理装置とターゲット基本論理装置との間のセッションがすでにキューに入っている。
- 同じ PLU APPL に対してセッションの開始、または譲渡を試みました。

RTNCD	FDB2	解説
0	9	OPNDST OPTCD=ACCEPT が拒否された (キューイングされた CINIT が無い) か、または OPNDST OPTCD=RESTORE が拒否され (セッションがリストアされていない) ました。

セッションを受諾しようと試みました。このとき、受諾されるべく待機している保留アクティブ・セッションがない場合には、要求が拒否されるように指示しました (OPTCD=NQ)。ユーザーのアプリケーション・プログラム用にキューに入れられている CINIT はありませんので、要求が拒否されます。OPNDST OPTCD=RESTORE は、要求したセッションがリストア保留状態でないために、失敗しました。NIBLIST で指定したセッションのいずれも、リストアされません。

RTNCD	FDB2	解説
0	10(X'0A')	アプリケーション・プログラムが接続不能

アプリケーション・プログラムがセッションを確立する能力があるかを調べるために、INQUIRE OPTCD=APPSTAT を出しました。VTAM オペレーターがそれを非活動化させたので、アプリケーション・プログラムは非活動、接続不能状態にあります。そのために、アプリケーション・プログラムはセッションで使用できません。

RTNCD	FDB2	解説
0	11(X'0B')	APPCCMD の条件付き完了。

なんらかのタイプのエラーが APPCCMD マクロ命令で発生している可能性があります。さらに詳しい問題判別を行うには、RPL 拡張の 1 次および 2 次戻りコードを参照してください。詳細については、「VTAM Programming for LU 6.2」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
0	13(X'0D')	リカバリー保留状態の追加セッション

INQUIRE PERSESS が出されましたが、指定してある入力作業域が小さ過ぎます。VTAM は、可能なかぎりの情報を作業域に入れ、RPL の RECLEN に使用している長さに並べます。INQUIRE をもう一度出して、情報の残りの部分もリカバリーしてください。

RTNCD	FDB2	解説
4	3	例外要求が受信された。

例外要求が受信されました。例外の理由は RPL の SSENSEI、SSENSMI および USENSEI フィールドにあります。否定応答がこのチェーンの要求に対してすでに送信されているのでなければ、またこの要求 (例外要求) が応答を求めているのであれば、入力センス・フィールドを出力センス・フィールドに移動させ、否定応答を送信してください。アプリケーション・プログラムによってすでに受信されている現行のチェーン中の要求は、すべて破棄されなければなりません。現行の要求がチェーンを終了させなければ、CHAIN=LAST または CONTROL=CANCEL を受信するまで、OPTCD=TRUNC および AREALEN=0 を指定した RECEIVE マクロ命令を出してください。そのチェーンの残りの中では、どの要求に対しても応答を送ってはなりません。

RTNCD	FDB2	解説
4	4	否定応答が受信された。

論理装置 (またはネットワーク中の他のノード) は、このセッションでアプリケーション・プログラムが送った要求のいずれかに関して例外要求が検出されたことを示す応答を送りました。SEQNO フィールドは、否定応答が適用される要求のシーケンス番号を示します。SSENSEI、SSENSMI、および USENSEI フィールドは、例外条件についての理由を示します。

否定応答が関連している要求が、現在論理装置に転送されている不完全チェーンの一部である場合、そのアプリケーション・プログラムは、論理装置が現在受信しつつある要求の廃棄を停止できることを示す、SEND STYPE=REQ,CONTROL=DATA, CHAIN=LAST または SEND STYPE=REQ,CONTROL=CANCEL を出して、そのチェーンを打ち切らなければなりません。STSN および CLEAR を使用してシーケンス番号を変更する方法については、「VTAM Programming」を参照してください。さらに、この項にある (RTNCD,FDB2)=(12,13) の説明も参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
4	5	この SSCP の中で、ネットワーク修飾名のみによって認識されている記号名

実名を記号名に変換する要求が出され、NIBNET にはネットワーク ID が入れられます。しかし、VTAM は記号名を提供することができません。VTAM は、このリソースをネットワーク修飾名のみにより認識します。この場合は、リソースを表す記号名がありません。以下のいずれかを行ってください。

- ネットワーク修飾名を使用する。
- このリソースを表す記号名を定義する。

RTNCD	FDB2	解説
8	0	一時ストレージ不足

VTAM は、要求を処理するのに十分なストレージを確保することが一時的にできません。その要求は通常再び出すことができます (例えば、EXECRPL を指定して)。場合によっては、マクロ命令処理が実質的な作業を十分に行うところまで進んでいないので、要求を再び出すことができます。別の場合には、戻れないところまで処理が進んでから障害が起きることもあり得ます。その結果、その要求を単純に再び出すことはできません。例えば、LOGON 出口ルーチンが CINIT 要求と共にスケジュールされ、OPNDST OPTCD=ACCEPT が出された場合、CINIT に応答する前に OPNDST 操作が失敗することがあります。この場合には、簡単に OPNDST を再び出すことができます。しかし、CINIT に対する応答が送信されていて、ストレージが入手できない場合には、受け入れることのできる CINIT がもはやないので、OPNDST 要求を再び出すことはできません。この場合、アプリケーション・プログラムはそれ自身とその LU との間で、SIMLOGON を用いて、別のセッションを始めることを望むかもしれません。これら 2 つのケースは、NIB 中のビットによって区別されます。OPNDST OPTCD=ACCEPT が通知されると、CINIT に対する応答が送信されていれば NIBNAQLQ は 1 で、そうでなければ 0 です。

RTNCD	FDB2	解説
12(X'0C')	10(X'0A')	要求は RESETSR によって取り消された。

この RECEIVE 操作は、ユーザーのアプリケーション・プログラムの別の部分によって出された RESETSR マクロ命令によって取り消されました。

RTNCD	FDB2	解説
12(X'0C')	11(X'0B')	セッションが打ち切られているので、要求が取り消された。

セッションが打ち切られたので、その要求が取り消されました。セッションが打ち切られれば、常にそのセッションに対する保留要求が取り消され、この戻りコードが RPL 中に戻されます。セッション停止通知に関する情報、およびセッション終了の原因となり得るもののリストについては、「VTAM Programming」を参照してください。

OPNDST OPTCD=(ACCEPT,SPEC,Q) が CLSDST によって取り消されるときにも、この戻りコードが用いられます。

RTNCD	FDB2	解説
12(X'0C')	12(X'0C')	CLEAR 要求によって要求が取り消された。

RPL 準拠要求が処理されていたときに、CLEAR 要求が送られたか、またはセッション上で受信されました。これによって、そのセッション上のすべてのデータの流が停止され、すべての保留通信要求が取り消されます。CLEAR 要求は、ユーザーのアプリケーション・プログラム (SESSIONC マクロ命令) によって送られたか、またはユーザーのアプリケーション・プログラムに代わって VTAM によって送られました。CLEAR 要求は、セッションの他端からも送られた可能性があります。

RTNCD	FDB2	解説
12(X'0C')	13(X'0D')	検出されたチェーン中の以前の例外

一連の連鎖された要求が論理装置に送られ、それらの 1 つに否定応答が戻されました。そのチェーンに対するそれ以降のすべての SEND マクロ命令は、この戻りコードによって完了が通知されます。しかし、このような SEND の各々に対して、関連要求単位がセッション・パートナーに送られ、そこで廃棄されます。

RTNCD	FDB2	解説
12(X'0C')	14(X'0E')	要求取消 - POA キュー限界を超過

POA がキュー限界 (APPL 定義ステートメント上の POAQLIM) に達した後で、SEND CMD を出しました。キュー中のすべてのメッセージを受信するまで、それ以降の SEND CMD は、この戻りコードをもって完了します。RCV CMD が戻りコードと X'0006' というフィードバックで完了するまで、RCV CMD OPTCD=NQ (キューなし) を出して、メッセージ・キューを空にすることができます。SEND CMD が首尾良く戻ります。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	0	論理装置が使用不能、アプリケーション・プログラム状況が使用不能、キューに入れられた BIND が使用不能、またはダイヤル・パラメーターが誤っている。

このコードは以下のいずれかの理由で設定されます。

- ・ 非活動状態の論理装置とのセッションを確立しようと試みている。
- ・ 論理装置を、活動状態にない (または非活動化の過程にある) 基本論理装置に渡そうと試みている。
- ・ OPNSEC マクロ命令を出そうと試みているが、それに応答するキューに入れられた BIND 要求がない。
- ・ 別のドメインにあるアプリケーション・プログラムの状況を判別しようと試みているが、その状況は使用不能で、ユーザーのアプリケーション・プログラムはそれなしで進行しなければならない。
- ・ 非交換 PU にダイヤル・パラメーターを指定した SIMLOGON マクロ命令を出した。
- ・ SIMLOGON マクロ命令で指定されているダイヤル・パラメーターが、元のダイヤル・パラメーターと一致しない。
- ・ マクロ命令およびリソース (例えばネットワーク・アドレスやストレージ) を指定したが、利用不能であった。特定の情報を含む RPL に、センス・コードが戻されます。

RPL システム・センス (SSENSEI)、システム・センス修飾子 (SSENSMI) およびユーザー・センス (USENSEI) は、その障害のより詳しい説明を含んでいる場合があります。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	1	OPNDST が失敗に終わった。

OPNDST が失敗に終わりました。セッションが OPNDST によって開設されたものであれば、それは打ち切られます。OPNDST 障害の理由には次のようなものがあります。

- ネットワーク・パスが入手できなかった。例えば、仮想経路または経路拡張機能に障害があったり、オペレーターがそのパスにあるネットワーク・コンポーネントを非活動化していた。
- ダイヤル接続が不完全であった。
- CRV 要求に対する否定応答が受信された。
- BIND 要求に対する要求拒否応答が受信された。
- 論理装置が存在していない。
- 無効な BIND 応答が受信された。例えば、交渉不能 BIND 要求に対して、交渉可能 BIND 応答が受信された。
- OPNDST OPTCD=ACQUIRE が非交換 PU にダイヤル・パラメーターを指定した。
- OPNDST OPTCD=ACQUIRE で指定されているダイヤル・パラメーターが元のダイヤル・パラメーターと一致していない。

SSENSEI、SSENSMI および USENSEI フィールドが設定されている (これらのフィールドについては、この項の最後の部分で説明されています)。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	2	論理装置がセッションに対して使用禁止になっている。

セッションを開始しようと試みましたが、要求されたセッション中の論理装置の 1 つが使用禁止です。例えば、VTAM アプリケーション・プログラムがセッションを使用禁止にされるのは、SETLOGON OPTCD=QUIESCE を出した場合や、SETLOGON OPTCD=START を出したことがない場合です。論理装置とのセッションの確立および終了の詳細については、「VTAM Programming」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	3	HALT が出された。

VTAM オペレーターが HALT コマンドを出しました。HALT のタイプによっては、ユーザーのアプリケーション・プログラムが特定のマクロ命令をもち出すことができません。TPEND 出口ルーチンの詳細については、「VTAM Programming」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	5	要求または応答の暗号化の障害

以下の際に、暗号化が失敗に終わりました。

- FM データ要求を送信する際。
- OPNSEC 処理の間に BIND 応答を送信する際。
- OPNDST 処理の間に CRV 要求を送信する際。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	7	VARY コマンドによって要求が取り消された。

マクロ命令の処理中に VTAM オペレーターがパスの必要な部分を非活動化したために、通信操作が取り消されました。 LOSTERM 出口ルーチンが使用可能であれば、それがスケジュールされました。その LU と通信することは、もはやできませんし、ユーザーのアプリケーション・プログラムとのセッションを終了させるために CLSDST を出さなければなりません。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	9	無条件打ち切りまたは文字でコーディングされたログオフが受信された。

論理装置が無条件に要求または無条件セッション打ち切りを要求する、文字でコーディングされたログオフを送信しました。そのセッション上ではこれ以上の通信は不可能です。 CLSDST が出されなければなりません。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	10(X'0A')	VTAM エラー

VTAM 自体でエラーが起きました。その論理装置とのセッションを開設または終了させる試みをこれ以上行ってはなりません。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	13(X'0D')	VTAM はユーザーの ACB に対して非活動状態

OPEN によって確立された、VTAM とユーザーのアプリケーション・プログラム (ACB) との間に関連が壊れました。ACB はクローズ処理中です。これは、ユーザーがどこかで出した CLOSE がまだ完了していないか、または VTAM が非活動になったか、あるいは VARY NET,INACT がユーザーのアプリケーション・プログラムに対して出されたために起きたと考えられます。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	14(X'0E')	要求異常終了

要求の処理中にエラーが検出されたため、または関連したセッション、タスク、またはアドレス・スペースにエラーがあったために、VTAM は要求を異常終了させました。エラーの分離とリカバリーの詳細については、「VTAM Programming」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	15(X'0F')	バッファがいっぱいである。

VTAM が以前に RU を受信した。アプリケーション・プログラムは適切な EXLST 出口ルーチン、または RU 用の未処理 RECEIVE を持っておらず、VTAM にはその RU をキューに入れるためのバッファ・スペースが残されていませんでした。

これらの環境下では、VTAM はその RU およびセッションに対してキューに入れられているその他の RU を破棄し、理由コード 36 を指定して LOSTERM 出口ルーチン (それがあある場合) をスケジュールします。このセッションの TS プロファイルに関して適切であれば、取消しがセッション・パートナーに送られます。すべての場合、バッファ不足になったセッションの終わりは、データ・トラフィック・リセット状態に入ります (少なくとも一時的に)。セッションがこの状態にあるときに送られた SEND または RECEIVE は、(RTNCD,FDB2)=(X'10',X'0F') で拒否されます。この操作モードは、データ・トラフィック開始応答が処理されるまで (または、SDT が TS プロファイルに対して適切でない場合には、消去機能が完了するまで)、継続されます。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	17(X'11')	OPNDST 上の SDT 障害

データ・トラフィック開始 (SDT) 要求に対する応答として、否定応答が論理装置によって送られました。OPNDST は首尾良く完了しませんでした。SSENSEI、SSENSMI および USENSEI フィールドが設定されます。これらのフィールドはこの項の最後の部分で説明されています。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	18(X'12')	センスが含まれている、マクロ命令障害

REQSESS、TERMSESS または OPNSEC が失敗に終わりました。センス・コード (SSENSEI、SSENSMI および USENSEI) は、失敗したマクロ命令に対する RPL 中に戻されます。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	19(X'13')	LU 6.2 セッション要求開始の試みが拒否された。

LU 6.2 アプリケーションが、VTAM から独立した LU 6.2 セッションを開始しようとした。影響を受けた保留セッションはありません。これは、OPNDST が LU 6.2 のユーザー指定の BIND により出されたときに起こります。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	20(X'14')	LU 6.2 セッションの保留セッションを開始する試みが打ち切られた。

LU 6.2 アプリケーションが、VTAM から独立した LU 6.2 セッションを開始しようとした。保留セッションは打ち切られました。これは、OPNDST で指定されている LOGMODE が LU 6.2 BIND に分析解決を行う際に、または OPNSEC が LU 6.2 に出される際に起こります。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	21(X'15')	APPCCMD が出されなければならない。

OPNDST または CLSDST が保留 LU 6.2 セッションに出されました。APPCCMD CONTROL=OPRCNTL, QUALIFY=ACTSESS または

VTAM 戻りコード/センス・フィールド

QUALIFY=DACTSESS マクロ命令がこのセッションに出されなければなりません。詳細については、「VTAM Programming for LU 6.2」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	22(X'16')	指定した LU が非交換

アプリケーションは、ダイヤルアウト機能を提供するアプリケーションを使用して、SIMLOGON または OPNDST OPTCD=ACQUIRE マクロ命令を出します。指定した LU が非交換であったため、要求は失敗に終わりました。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	23(X'17')	セッション・レベルの暗号の要求が拒否された。

送信の際に暗号化要求を試みましたが、セッションが暗号化をサポートしていません。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	24(X'18')	シスプレックスはアクセス不能です。

以下のどれかのマクロ命令が出されましたが、このホストについてのカップリング・ファシリティはアクセス不能です。INQUIRE OPTCD=SESSNAME, SETLOGON OPTCD=GNAMEADD, SETLOGON OPTCD=GNAMEDEL, OPNDST, OPNSEC

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	25(X'19')	ホストは、シスプレックスのメンバーではありません。

以下のマクロ命令のどれかが出されましたが、このホストについてのカップリング・ファシリティはアクセス不能です。INQUIRE OPTCD=SESSNAME, CHANGE OPTCD=ENDAFFIN, SETLOGON OPTCD=GNAMExxx

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	26(X'1A')	仮想記憶間 SUSPEND が失敗した

VTAM が仮想記憶間 RPL 要求を SUSPEND しようとしたが失敗しました。

RTNCD	FDB2	解説
16(X'10')	27(X'1B')	仮想記憶間 RESUME が失敗した

VTAM が仮想記憶間 RPL 要求を RESUME しようとしたが失敗しました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	0	VSAM 要求

RPL に、VSE/VSAM または他の非 VTAM 要求コードが含まれています。ECB が通知されず、RPL 出口ルーチンもスケジュールされません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	2	ゼロ EXIT フィールド

RPL は、ECB-EXIT フィールドが EXIT フィールドとして使用されているものの、その中の RPL 出口ルーチン・アドレスが 0 であることを示しています。RPL 出口ルーチンはスケジュールされていません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	3	ゼロ ECB フィールド

RPL は、ECB-EXIT フィールドが外部 ECB を示すのに使用されているものの、フィールド中のアドレスが 0 であることを示しています。ECB は通知されませんでした。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	4	非活動 RPL の検査

非活動 RPL (完了が通知されており、すでに CHECK が首尾良く出された RPL) に対して CHECK が出されました。すべての RPL 準拠マクロ命令は、非活動 RPL を使用しなければなりません。しかし、すべての CHECK マクロ命令は活動 RPL を使用しなければなりません。RPL を 2 度検査することはできません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	16(X'10')	制御ブロックが無効

RPL の ACB フィールドが有効な ACB のアドレスを含んでいないか、または ACB がクローズされています。このことは、RPL の ACB フィールドが誤って設定されたか、または ACB が破壊されていることを意味します。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	17(X'11')	RTYPE が無効

RTYPE フィールドを NDFSYN、NDFASY および RESP に設定した RECEIVE が出されました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	18(X'12')	CLSDST が処理中

このマクロ命令が実行されたとき、CLSDST 要求がそのセッションに対して保留状態でした。CLSDST 要求が優先順位を持っていたので、この戻りコードを受信した要求が受諾できません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	19(X'13')	CID が無効

VTAM 戻りコード/センス・フィールド

RPLARG フィールドも NIBCID フィールドも有効な CID を含んでいません。または誤った ACB を指定して有効な CID が出されました。あるいは、クロスドメイン LU に対して INTRPRET が使用されています。

フィールドを不注意に修正したか、またはそれを最初に設定することに失敗したか、あるいはもはや存在していないセッションの CID を使用した可能性があります。

以下の規則に違反した可能性もあります。RPLARG フィールド中に CID を置くときには、ARG キーワード - 例えば ARG=(6) - を常に用い、RPL の NIB フィールド中に NIB アドレスを置くときには、常に NIB キーワード - 例えば NIB=(6) を使用します。これらの 2 つのフィールドは RPL 中で同一の 4 バイトを占めているので、VTAM はユーザーが使用した ARG または NIB キーワードによるのみ、NIB アドレスと CID を見分けることができます。したがって、この戻りコードが存在しているときには、ARG キーワードを指定して RPL に NIB アドレスを置いたため、VTAM がユーザーの「CID」を無効として拒否したことを意味することがあります。

このフィードバック情報はまた、CID が INTRPRET に対して指定されるときに、また CID によって暗示される LU が別のドメインにあるときにも、使用されません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	30(X'1E')	無効なデータ・アドレスまたはデータ長

ユーザーのアプリケーション・プログラムがアドレス指定できる範囲を超えた作業域アドレスを指定した要求が出されました。ここで作業域とは、RPL オペランドによってアドレス指定されるいずれかのストレージのことです。例えば AREA および AAREA によって参照される区画です。

RPL 中の作業域アドレスおよび作業域長フィールドに誤った指定がないかを調べてください。各マクロ命令について、どのフィールドで有効な作業域を指し示さなければならないかについては、「VTAM Programming」の RPL マクロ命令の説明を参照してください。

ユーザーのアプリケーション・プログラムが許可ライブラリー中に常駐している場合には、ロード・モジュール特性が正しいかを調べてください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	35(X'23')	要求タイプが無効

RPL 準拠マクロ命令が出されるときに、VTAM は RPL 中の REQ フィールドを設定して、その RPL を使用しているマクロ命令のタイプを示します。この戻りコードが存在しているということは、要求操作が完了する前にユーザーがそのコードを修正したことを示しています。このことや他の関連したエラーを避けるために、RPL が使用されているときにそれを決して修正しないでください。VSE/VSAM 要求の (RTNCD,FDB2)=(X'14',X'00') と比較してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	36(X'24')	アドレス・スペースに対して要求が無効

セッション・アドレス・スペース以外のところで、以下のマクロ命令の 1 つを出そうとしました。すなわち、RECEIVE OPTCD=SPEC、RESETSR、SEND または SESSIONC (BIND への応答で拒否された要求を除く)。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	59(X'3B')	NFME-NRRN 応答

RESPOND フィールドを NFME または NRRN に指定した応答を送信しようと試みました。応答は FME、RRN またはその両方で識別されなければなりません。実際には、その応答がいずれでもありませんでした。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	60(X'3C')	以前のマクロ命令が未処理

同一のタイプの以前のマクロ命令が完了する前に、ユーザーが、SEND POST=SCHED、急送データ・フロー制御要求の SEND、または SESSIONC マクロ命令を出しました。上記の 3 つのタイプのマクロ命令の場合、セッション上で未処理なものは一時に 1 つだけ許されています。先行するマクロ命令が完了した後で、このマクロ命令を出すことができます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	64(X'40')	CONTROL 無効

ユーザーが CONTROL フィールド中のビットを修正したか、または BIND、RQR、SDT、CLEAR、STSN または SWITCH ではない SESSIONC マクロ命令用に CONTROL 値を用いました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	65(X'41')	データ・トラフィックは許されていない。

データ・トラフィック開始 (SDT) 要求が送られていない、または CLEAR が進行中であるセッション上で、通信を行おうとしました。特定の TS プロファイルの場合、SDT 要求または応答交換 (あるいはその両方) がセッション上で起きるまで、トラフィック流れは不可能です。SDT、シーケンス番号設定テスト (STSN)、要求リカバリー (RQR)、および復旧要求のみを交換することが可能です。セッション上で復旧要求が送られるたびに、トラフィック流れが再開されるためには、新しい SDT 要求が必要な場合があります (これは使用された伝送サービス・プロファイルによります)。トラフィック流れの制御方法について詳しくは、「VTAM Programming」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	66(X'42')	SESSIONC に対して無効な STYPE

SESSIONC CONTROL=CLEAR または SESSIONC CONTROL=RQR マクロ命令に対して STYPE=RESP が指定されました。 STYPE=REQ のみが有効です。 同様に SDT=SYSTEM を指定したセッションを開設するために NIB が使用されたならば、STYPE=RESP に対して SESSIONC CONTROL=SDT は無効です。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	68(X'44')	RESPLIM 超過

セッションに対する未処理 SEND POST=RESP マクロ命令の数が、そのセッションを開設するのに用いられた NIB 中の RESPLIM 値を超えています。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	71(X'47')	3270 SEND オプションが無効

ユーザーの LU タイプ 0 3270 SEND マクロ命令によって指定された RPL が、以下のフィールドの中で 1 つまたはそれ以上の無効なものを持っています。すなわち、STYPE, RESPOND, CHAIN または CONTROL。例外条件に関する詳細については、「VTAM Programming」を参照してください。

その RPL が 3270 の RECEIVE に対して用いられた最後のものであれば、RESPOND フィールドをまず調べてください。RECEIVE の次のフィールドをリセットし忘れていた可能性もあります (この場合、RECEIVE は RESPOND フィールドを (NEX,NFME,NRRN) に設定します)。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	72(X'48')	セッション制御プロトコル違反

以下のようなプロトコル違反が示されました。

- データ・トラフィック・リセット状態にないときに、PLU が SDT 要求を送ったか、または TS プロファイルでは送られた SDT が許されていなかった。
- 以前の復旧要求が送られて完了していないのに PLU が復旧要求を送信したか、または TS プロファイルでは復旧要求が許されていない。
- データ・トラフィック・リセット状態にない間に PLU が STSN 要求を送った。または、TS プロファイルでは、STSN 要求は許されていなかった。
- PLU は RQR 要求を送ったものの、RQR 要求は TS プロファイルでは許されていなかった。
- SLU は SDT 応答を送ったものの、以前に受信された SDT 要求が受信されていなかった。

要求と応答の流れを制御する方法については、「VTAM Programming」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	73(X'49')	無効な STSN 処置/結果コード

シーケンス番号設定テスト (STSN) 要求を送ろうと試み、IBSQAC または OBSQAC フィールドを、SET、TESTSET、IGNORE または INVALID 以外の値に

設定しようとした。または、STSN 応答を送ろうと試み、IBSQAC または OBSQAC フィールドを、TESTPOS、TESTNEG、INVALID または RESET 以外の値に設定しようとした。または、その処置コードに対する有効な応答ではない結果コードを送ろうと試みました。SESSIONC マクロ命令記述を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	74(X'4A')	インストール先出口ルーチンが使用不能

ユーザーが INTRPRET マクロ命令を出しました。VTAM は、解釈テーブル中で該当する項目を見つけだし、システム・プログラマーが、ログオン解釈出口ルーチンにその解釈機能を行わせるように指定していることが分かりました。しかし、そのルーチンはロードされていません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	75(X'4B')	INTRPRET 順序または LOGMODE が無効。または暗号が矛盾している。

INTRPRET マクロ命令が出されましたが、以下のどれかが起こりました。

- VTAM は、解釈テーブル中で該当する項目を見つけることができなかった。
- ユーザーがそのシーケンス、またはそのシーケンスを指し示す RPL の AREA フィールド中のアドレスを知らずに修正した。
- システム・プログラマーが解釈テーブル中で項目を適切に定義していなかった。

ユーザーのアプリケーション・プログラムがテストおよびデバッグ済みであり、上記の状況があり得ないことが分かっているならば、ログオンを開始した端末オペレーターまたはプログラムがユーザーのアプリケーション・プログラムに無効なログオン・シーケンスを渡してしまったと考えられます。

ユーザーは INQUIRE、OPNDST、SIMLOGON、REQSESS または CLSDST OPTCD=PASS マクロ命令を出しました。この要求に対する NIB の指定したログオン・モード名が、その NIB 中の論理装置名に対するログオン・モード・テーブル中に見いだされなかった、または暗号化がその要求セッションに対して指定されているものの、要求されたセッションの中の少なくとも 1 つの論理装置が暗号化をサポートしていないことが SSCP によって分かりました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	76(X'4C')	INQUIRE または INTRPRET に対する検索指数が無効

ユーザーが INQUIRE または INTRPRET を出しましたが、VTAM に対して、保留状態のアクティブ・セッション、論理装置、またはアプリケーション・プログラムを適切に識別させることができませんでした。

- INTRPRET が出されましたが、NIB 中の名前が、論理装置中のものと異なっていました。
- INQUIRE (OPTCD=APPSTAT) が出され、以下のいずれかの条件が存在しています。
 - その名前がアプリケーション・プログラムのものと同じではない。

VTAM 戻りコード/センス・フィールド

- アプリケーション・プログラムはクロスドメイン・リソースで、そのリソースを所有している SSCP が INQUIRE (OPTCD=APPSTAT) をサポートしていない。
- アプリケーション・プログラムはクロスドメイン・リソースであり、そのアプリケーション・プログラムを所有しているホストに対する活動状態の経路が存在していない。
- INQUIRE OPTCD=TERMS が出され、その名前が VTAM 構成テーブル中のそのリソース (LU, PU, CLUSTER または CDRSC) の名前と異なっている。
- INQUIRE OPTCD=DEVCHAR が出されたが、装置特性が使用不能 (その論理装置が別のドメインにあり、そのアプリケーション・プログラムに対する適切な CINIT がキュー上になかったためと思われる)。
- INQUIRE OPTCD=LOGONMSG が出されたが、そのアプリケーション・プログラムに対する CINIT がキュー上になかった。
- INQUIRE OPTCD=SESSPARM が、LOGMODE=0 を指定して NIB 中では出され、そのアプリケーション・プログラムに対する適切な CINIT がキューになかった。
- INQUIRE OPTCD=NQN が出されたが、以下のどれかが起こった。
 - リソースが存在しない。
 - リソースはクロスドメインであり、そのリソースへの活動状態経路が存在していない。

詳細については、「VTAM Programming」の INQUIRE マクロ命令を参照してください。

システム・プログラマーが VTAM 構成テーブル中の論理装置に関する項目を適切に定義していると想定した場合、ユーザーが以下のいずれかを行ったことが考えられます。(1) NIB の NAME フィールド中に有効な記号名を設定しなかった。(2) INQUIRE OPTCD=SESSPARM または INQUIRE OPTCD=DEVCHAR が正しく出されたが、セッションが終了してしまいました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	77(X'4D')	解釈テーブルがない

ユーザーが INTRPRET マクロ命令を出したものの、その論理装置に対する解釈テーブルがありません。VTAM 定義処理の際に、システム・プログラマーがこの論理装置に対する解釈テーブルを含めることができなかったか、またはその論理装置が別のドメインにあることが考えられます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	78(X'4E')	NIB リストの無効な使用

NIB の LISTEND を YES と設定せずに OPNDST OPTCD=ACCEPT を出したか、または複数の NIB が PROC=NEGBIND を示している NIB リストを指定しました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	79(X'4F')	OPTCD 設定値が無効である

OPTCD フィールドのビットが正しく設定されていないので、OPNDST または INQUIRE 要求は失敗します。ユーザーは、OPNDST および INQUIRE オプション・コードの設定値から、相互に排他的なオプション・コードのセットについては、値を 1 つだけ選びます。VTAM マクロ命令を使ってこの仕方フィールドを誤って設定することはあり得ないので、アセンブラー命令で OPTCD フィールドを誤って修正したことが考えられます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	80(X'50')	RPL フィールドが無効

RPL の OPTCD または AAREA フィールド中のビットが無効であることがわかったので、OPNDST、CLSDST、SIMLOGON または REQSESS が失敗しました。

OPNDST または SIMLOGON が失敗したならば、設定が正しくない特定のビットは、CONANY-CONALL オプション・コードを形成しているものです。この戻りコードは、CONANY オプションが CONALL の代わりに誤って使用されたこと、またはその逆を意味するものではありません。これは、OPTCD フィールド中で CONALL も CONANY も示されなかったことを意味します。VTAM マクロ命令を使ってこの仕方フィールドを誤って設定することはあり得ないので、アセンブラー命令で OPTCD フィールドを誤って修正したことが考えられます。

REQSESS が失敗に終わった場合、OPTCD=NQ が指定されなかったか、または RPL の AAREA フィールドがゼロに設定されませんでした。

CLSDST が失敗に終わった場合、OPTCD=SENSE が指定され、また RPL の SSENSEO、SENSMO、USENSEO フィールド内にゼロ・センスが提供されました。CLSDST OPTCD=SENSE ではゼロ・センスは許されていません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	81(X'51')	OPNDST OPTCD=ACCEPT および SIMLOGON は許されていない

ユーザーは論理装置とのセッションに対する CINIT を受信するために OPNDST OPTCD=ACCEPT を、またはセッションを開始するために SIMLOGON を出そうとしました。しかし、以下のいずれかの理由で、これらの操作を実行できませんでした。

- ACB が MACRF=NLOGON によってオープンされた。
- SETLOGON OPTCD=QUIESCE が出され、CINIT は保留されていない。
- SETLOGON OPTCD=QUIESCE が出され、一致する CINIT が見つからなかった。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	82(X'52')	NIB は無効

RPL の NIB フィールド中に示された場所に NIB がないので、その要求は失敗しました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	83(X'53')	論理装置が見つからない

ユーザーが NIB の NAME フィールド中に与えた記号名、または RPL の AAREA フィールドによって示された記号名が、VTAM 構成テーブル中に対応する項目を持っていません。これは以下のいずれかの理由で生じることがあります。

- ユーザーが NAME フィールドを正しく設定しなかった。
- VTAM 定義の際に、システム・プログラマーが VTAM 構成テーブル中にその項目を含めなかった。
- VTAM オペレーターが、そのマクロ命令を出したアプリケーション・プログラムを含む大ノードを活動化しなかった。
- VTAM オペレーターが、NIB 中のリソース名を含む大ノードを活動化しなかった (クロスドメイン環境において)。
- 定められた期間の間に使用されなかったので、クロスドメイン LU に対して動的に作成された定義が削除された。
- リソースとの接触が失われ、それに続いてリソースの定義が VTAM 構成テーブルから削除された。

NIB リストを使用している場合、セッションが開設されませんでした。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	85(X'55')	以下のうちいずれかが当てはまります。 <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーション・プログラムが許可されていない。 • アプリケーション・プログラムが使用不能。 • タスク関連が指定されていない。 • アプリケーションがダイヤル・パラメーターの提供を許可されていない。 • PU がダイヤル・パラメーターの受諾を許可されていない。 • ユーザーが送信 RPL を出す必要がある。

- 論理装置 (SIMLOGON または OPNDST) を獲得しようとしたが、インストール先はユーザーにそうする権限がないとして否定しました。VTAM 定義の際に、システム・プログラマーが、ユーザーのアプリケーション・プログラムが論理装置を獲得する権限がないものと指定したと考えられます。ユーザーが論理装置を獲得する権限を持っているのに、この戻りコードを受信した場合には、許可出口ルーチンが呼び出され、ユーザーが要求の中で指定したその特定の論理装置を獲得できないと判断したことを意味しています。
- ユーザーはセッションを開始しようと試みましたが、許可出口ルーチンがユーザーの権限を否定しました。
- ユーザーが INTRPRET マクロ命令を出しました。VTAM は解釈テーブルの適切な項目を捜し出し、インストール先が入力手順を出力手順に変換する出口ルーチンを指定していることを見いだしました。そのルーチンはロードされていますが、その変換に失敗しました。
- ダイヤル・パラメーターの提供を許可されていないアプリケーションがダイヤル・パラメーターの提供を試みたか、ダイヤル・パラメーターの受諾を許可されていない PU がダイヤル・パラメーターの受諾を試みました。

許可機能については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

アプリケーション・プログラム大ノードのコーディング方法 (APPL 定義ステートメントの AUTH オペランド) については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	87(X'57')	無効な MODE フィールド

ユーザーは OPNDST または OPNSEC マクロ命令を出しましたが、NIB の MODE フィールドを RECORD に設定するのに失敗しました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	94(X'5E')	CLSDST OPTCD=PASS が許可されていません。

CLSDST OPTCD=PASS は、使用がインストール先によって許可される機能です。この機能を使用しようと試みましたが、インストール先はユーザーが論理装置を別の基本論理装置に渡す権限を与えていません。この CLSDST マクロ命令は PASS ではなくて RELEASE を指定して出されるべきでした。

APPL 定義ステートメントの AUTH オペランドについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	96(X'60')	CLSDST、SESSIONC または OPNSEC に対する LU 名が無効

ユーザーのアプリケーション・プログラムとのセッションにない、またはユーザーのアプリケーション・プログラム用の CINIT がキューにない論理装置とのセッションを打ち切ろうとしました。この戻りコードは、論理装置の記号名を指定して使用した CLSDST に適用されます。

ユーザーは BIND に対する要求拒否応答を送信するために SESSIONC マクロ命令を出しましたが、NIB 中の LU 名フィールドが、そのアプリケーション・プログラムに対してキューに現在入れられている BIND のいずれとも合致しません。

ユーザーは OPNSEC マクロ命令を出し、キューに入れられた BIND は NIB に渡された LU 名に対して検出されませんでした。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	97(X'61')	無効な SETLOGON

ユーザーが ACB の MACRF フィールドを NLOGON と指定してオープンしたか、またはユーザーがすでに SETLOGON OPTCD=QUIESCE を出して CINIT キューを永続的にクローズしてあります。ユーザーがオープンできない CINIT キューをオープンしようとしたか、またはすでにクローズされている CINIT キューをクローズしようとしたので、SETLOGON START, STOP および QUIESCE は無効

VTAM 戻りコード/センス・フィールド

です。ユーザーは、SETLOGON OPTCD=PERSIST または NPERSIST について、PSTIMER の値を、許可されている (86400 秒) よりも大きい値を指定して出したのかもしれない。

注: ユーザーは、SETLOGON OPTCD=PERSIST または SETLOGON OPTCD=NPERSIST を、MACRF フィールドを NLOGON に設定するか、QUIESCE の後に設定して、正常に発行することができます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	108(X'6C')	未処理 RVCMD 要求の限界を超過

前の RVCMD が未処理であるのに、RVCMD マクロ命令を出そうとしました。未処理 RVCMD 要求の限界は 1 です。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	109(X'6D')	アプリケーション・プログラムが許可されていない

ユーザーのアプリケーション・プログラムは、SEND CMD および RVCMD マクロ命令を出す権限が与えられていない、またはユーザーの CNM アプリケーション・プログラムが、SSCP に対して定様式正方向 RU 以外のものを送ろうと試みました。

APPL 定義ステートメントの AUTH オペランドについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	110(X'6E')	VTAM オペレーター・メッセージに対する応答中の構文エラー

VTAM オペレーター・メッセージへの応答中で、ユーザーは REPLY コマンド中に構文エラーを含んでいる SEND CMD マクロ命令を出しました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	111(X'6F')	SEND CMD/RVCMD 処理装置非活動

SEND CMD および RVCMD マクロ命令を処理している VTAM の部分は現在ユーザーのアプリケーション・プログラムに対して非活動で、アプリケーション・プログラムは SEND CMD または RVCMD マクロ命令を出しました。アプリケーション・プログラムの SEND CMD または RVCMD を出した部分に対して ACB がオープンされていないので、またはこの ACB に対して最終 CLOSE が出されているのにまだ完了していないので、その要求を処理することができません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	112(X'70')	プログラム・オペレーターは、要求が未処理のまま ACB クローズ中

アプリケーション・プログラムは ACB をクローズしつつあり、ユーザーは (1) REPLY 以外のコマンドに対して SENDCMD マクロ命令を出したか、または (2) RCVCMD OPTCD=Q を出したのに、その要求を満足させる利用可能な VTAM メッセージがありませんでした。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	113(X'71')	オペレーター・コマンドが無効

ユーザーは、SENDCMD マクロ命令を使って VTAM オペレーター・コマンドを VTAM に送ろうとしました。しかし、そのコマンドは VTAM によって認識されなかったか、またはアプリケーション・プログラムによっては送られないコマンド (START または HALT) でした。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	115(X'73')	SEND パラメーターが CNM に対して無効

ユーザーは、CNM アプリケーション・プログラムを使用したときに SEND マクロ命令を出し、無効なパラメーターを指定しました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	116(X'74')	交渉不能な BIND への交渉可能応答

交渉不能 BIND 要求に対して、ユーザーが OPNSEC PROC=NEGBIND を出そうとしました。BIND に対する要求拒否応答が、リソースが使用不能であることを示すセンス・コード (X'08010000') を指定して送られます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	117(X'75')	無効な交渉可能 BIND 応答パラメーター

ユーザーが、OPNSEC マクロ命令上で無効な交渉可能 BIND パラメーターを指定しました。BIND に対する要求拒否応答が、リソースが使用不能であることを示すセンス・コード (X'08010000') を指定して送られます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	118(X'76')	無効な交渉可能 BIND 応答サイズ

OPNSEC 上で、256 バイトよりも大きい交渉可能 BIND 応答を指定しました。BIND に対する要求拒否応答が、リソースが使用不能であることを示すセンス・コード (X'08010000') を指定して送られます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	119(X'77')	FMD 要求単位が必要

ユーザーは SEND OPTCD=BUFFLST または SEND OPTCD=LMPEO を送りましたが、指定された RU が FMD 要求単位ではありませんでした。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	120(X'78')	チェーン仕様が無効

ユーザーは、バッファ・リスト中で複数連鎖または複数部分連鎖が指定されている、SEND OPTCD=(BUFFLST,USERRH) を出しました。 バッファ・リスト中では、単一チェーンからの要求のみを指定できます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	121(X'79')	バッファ・リスト長が無効

ユーザーは SEND OPTCD=BUFFLST を出しましたが、RECLEN がゼロではない 16 の倍数を含んでいませんでした。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	123(X'7B')	ユーザー RH が無効

SEND OPTCD=USERRH に対して、以下のいずれかの条件が検出されました。

- ユーザー RH 中の CONTROL オペランドおよび RU カテゴリ・フィールドの設定が矛盾しています。 CONTROL=DATA の場合、RU カテゴリは FMD でなければなりません。 CONTROL が DATA でない場合、RU カテゴリは DFC でなければなりません。(RTNCD,FDB2)=(X'14',X'77') も参照してください。
- ユーザー RH フィールド中の予約標識は、ゼロ検知つきのオンであることがわかりました。非 LUO セッションでは、ゼロの検知は体系的に誤りとなります。
- また、ISTTSCSE では、ローカル・ビットを調べ、PIU のタイプ (要求または応答) によって、継続して ISTTSCFO に進むか、次の DVT に進むかが決められます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	124(X'7C')	OPTCD=USERRH は SESSIONC に対して無効

ユーザーは OPTCD=USERRH を付けて SESSIONC マクロ命令を指定しました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	125(X'7D')	XRF プロトコル・エラー

SIMLOGON または OPNDST マクロ命令を処理する際に、プロトコル・エラーが起きました。

バックアップ XRF 要求についての SIMLOGON は、INITIATE RU 中で「XRF セッション要求のバックアップ」標識を設定することによって処理されます。この標識は OPTCD=BACKUP (RPLBCKUP) を示している RPL ビットに基づいて設定されます。バックアップ XRF セッションおよびキューを指定した開始が受信された場合には、それは拒否されます。

RPL システム・センス (SSENSEI)、システム・センス修飾子 (SSENSMI) およびユーザー・センス (USENSEI) は、その障害のより詳しい説明を含んでいる場合があります。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	126(X'7E')	マクロ命令要求上での競合する OPTCD

以下のいずれかの条件が検出されました。

- TERMSESS マクロ命令が OPTCD なしで、または複数の OPTCD (COND、UNCOND、または UNBIND) を指定して出されました。
- SETLOGON 要求が OPTCD なしで、または複数の OPTCD (HOLD、NPERSIST、PERSIST、または QUIESCE) を指定して出されました。
- SIMLOGON 要求が、複数の OPTCD (QALL、QSESSLIM、または QNOTENAB) を指定して出されました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	127(X'7F')	ポリシング・エラー - 非 APPC マクロ命令

アプリケーション・プログラムは、LU6.2 セッションを確立するために非 APPCCMD マクロ命令を出したか、現行の LU6.2 セッションに反する非 APPCCMD マクロ命令を出しました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	128(X'80')	SETLOGON が無効

持続不能のアプリケーションについて SETLOGON OPTCD=NPERSIST または PERSIST が指定されました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	129(X'81')	セッションが保留状態にあり OPTCD=UNBIND が指定されていない TERMSESS

TERMSESS マクロ命令が保留アクティブ・セッションに対して、OPTCD=UNBIND を指定せずに出されました。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	130(X'82')	パラメーターの長さが無効

アプリケーション提供ダイヤル・パラメーターの長さが無効です。有効な長さについては、「VTAM Programming」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	131(X'83')	サブフィールド・エラー

VTAM 戻りコード/センス・フィールド

サブフィールドがサポートされていないか、指定されたサブフィールドの組み合わせが無効です。指定できる有効なサブフィールドについては、「VTAM Programming」を参照してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	132(X'84')	NIBASDPA=0

NIBASDPA の値は 0 です。NIBASDP 標識がオンになっており、これはアプリケーションがダイヤル・パラメータを提供することを示しています。しかし、制御ブロックのためのアドレスが与えられていません。そのため、アプリケーション・プログラムが無効なアドレスを渡したことが原因であると考えられます。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	133(X'85')	セッションのリストアが必要

保留リカバリー状態にあるセッションに対して出されたため、SEND、RECEIVE、RESETSR、または SESSIONC の要求は受け入れられません。OPNDST OPTCD=RESTORE を使用して、セッションをリストアし、再度要求を出してください。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	134(X'86')	既存のセッションが、この操作の正常終了を妨げている。

次のいずれかに該当する状態です。

- ユーザーのアプリケーション・プログラムと指定 LU (論理装置) の関連を終了させるため、CHANGE OPTCD=ENDAFFIN が出されました。しかし、少なくとも 1 つのセッションが、指定 LU とアプリケーション・プログラム間に存在しています。パートナー LU を持つセッションはすべて、関連を終了する前に終わってなければなりません。
- アプリケーションを総称リソースとして登録するために、SETLOGON OPTCD=GNAMEADD を指定しましたが、セッションがすでに存在しています。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	135(X'87')	リソース名と総称名は同じ操作を指している。

アプリケーション・ネットワーク名と同じ名前を総称名に使用して、SETLOGON OPTCD=GNAMEADD または SETLOGON OPTCD=GNAMEDEL を出しました。この 2 つの名前は、異なるものでなければなりません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	136(X'88')	所定の基準に一致する関連 (association) がない。

CHANGE OPTCD=ENDAFFIN または INQUIRE OPTCD=SESSNAME が出されましたが、NIB に指定した値は既存のどの関連とも対応しません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	137(X'89')	総称名は許可された操作ではない

RACF のようなセキュリティー管理製品を使用する総称名は、許可されていません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	138(X'8A')	アプリケーション・プログラムは登録済み操作である

アプリケーション・プログラムは、総称リソースとしてすでに登録済みですが、名前が異なります。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	139(X'8B')	SETLOGON OPTCD=GNAMEDEL が無効

総称リソースの登録を取り消すために、SETLOGON OPTCD=GNAMEDEL を出しましたが、VTAM は総称マッピングが存在しないと判別しました。VTAM メッセージは表示されません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	140(X'8C')	この総称リソースについては、ネットワーク識別名が競合している

この総称リソースは、別のネットワーク識別名ですすでに存在しています。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	141(X'8D')	総称リソースを同時に登録中

同じアプリケーション・ネットワーク名を持つ 2 つのアプリケーションが、1 つの総称名を同時に登録しようとしています。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	142(X'8E')	APPC の競合

総称リソースとして登録中のすべてのアプリケーションは、APPL ステートメント上に、同一 APPC 機能が登録されている必要があります。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	143(X'8F')	VTAM 類縁性の削除は受け入れられない

VTAM は類縁性を持っていて、これをアプリケーションが削除することはできません。

RTNCD	FDB2	解説
20(X'14')	144(X'90')	総称リソース登録中に USERVAR の競合が発生

総称リソース登録のために SETLOGON OPTCD=GNAMEADD を出しましたが、VTAM は、競合状態 (総称リソースはすでに USERVAR 名として存在) を検出しました。

SNA センス・フィールド

アプリケーション・プログラムまたは論理装置が、例外要求、否定応答、または論理装置状況 (LUSTAT) 要求を受信したとき、関連するセンス・データがその例外条件についての理由に関する情報を含みます。例外条件を記述する 3 つのタイプの情報があります。

- システム・センス情報
- システム・センス修飾子情報
- ユーザー・センス情報

システム・センス情報は、システム定義エラーの 5 つの主要なクラスの 1 つを示します。

システム・センス修飾子情報は、システム・センス情報によって示されるエラーの多くの特定の原因の 1 つを示しています。RTNCD や FDB2 のように、システム・センス情報およびシステム・センス修飾子情報は 1 組になって、エラー条件の一般クラス中の特定のタイプを示しています。

ユーザー・センス情報は一般に、そのエラー条件がユーザーの書いたプログラムそれ自身によって検出されたときに、用いられます。一般にはエラーのタイプを示すための特定のコードや値は、IBM によって定義されていません。論理装置は、他の論理装置によって理解されるそれ自身のユーザー・センス情報を生成しなければなりません。

センス・フィールドに対して SNA が定義した値は、779 ページの『センス・コード』を参照してください。ただし、センス・コード情報は、正式には「SNA Formats」に記載されています。補足情報は、「SNA Format and Protocol Reference: Architectural Logic」および「SNA Sessions between Logical Units」に取められています。

これらの 3 つのタイプのセンス情報 (システム、システム修飾子、およびユーザー) は、RPL フィールド中に設定されています。3 つのフィールドは (センス情報の各タイプに対して 1 つ)、論理装置に対して否定応答や LUSTAT 要求を送るときに、アプリケーション・プログラムによって設定されます。その他の 3 フィールドは、アプリケーション・プログラムが例外要求、否定応答、または LUSTAT 要求を論理装置から受信するときに、VTAM によって設定されます。これらが、6 つのフィールドが操作可能マクロ命令または RPL マクロ命令上で使用される時の名前です。

センス情報	アプリケーション・プログラムによって受信される場合	アプリケーション・プログラムから送信される場合
システム・センス情報	SSENSEI	SSENSEO
システム・センス修飾子情報	SSENSMI	SSENSMO
ユーザー・センス情報	USENSEI	USENSEO

システム・センス情報

システム・センス・フィールド中に設定されている値は、IBM によって事前設定されています。これらの値は以下の通りです (ここに示されているオペランドは、MODCB または TESTCB マクロ命令と共に使われるものです。対応する 16 進数も括弧の中に示されています)。

システム・センス値	意味
SSENSEI=PATH (X'80')	パス・エラーが起きた。ネットワーク・パス中の物理的問題または、RU に付随するシステム提供伝送ヘッダー中のエラーのために、RU が予定された受信先に配送されませんでした。リカバリー処置が不可能であれば、その論理装置に関するセッションは打ち切られます。
SSENSEI=CPM (X'40')	リカバリー不能な要求ヘッダー・エラーが起きました。
SSENSEO=CPM (X'40')	送信元は現行セッション・プロトコルを正しく実施しませんでした。その論理装置に関するセッションは打ち切られます。
SSENSEI=STATE (X'20')	アプリケーション・プログラムまたは論理装置の使用するシーケンス番号、チェーニング標識、ブラケット標識、または方向転換標識に、状況エラーが起きました。状況エラーはまた、データ・フロー制御要求が出されたときに、または復旧要求の後にデータが送られたとき、あるいはセッション制御要求が復旧要求より前に出されたときに、起こることがあります。このタイプのエラーはリカバリー可能です。消去、STSN および SDT 要求を使ってください。
SSENSEO=STATE (X'20')	
SSENSEI=FI (X'10')	要求エラーが起きた。要求そのものが無効なので、アプリケーション・プログラムまたは論理装置が要求を取り扱えません。このエラーは、リカバリー可能な場合も、そうでない場合もあります。
SSENSEO=FI (X'10')	
SSENSEI=RR (X'08')	要求拒否が起きました。その要求は予定された受信先まで配送されました。それは正しく解釈されましたが、受信先によって取り扱われませんでした。これはリカバリー可能条件である場合も、そうでない場合もあります。
SSENSEO=RR (X'08')	

待ち状態イベント ID

待ち状態 ID は、VTAM がなぜ待ち状態にあるかを判別するのに用いられます。待ち状態にある、SSCP、PU サービス、LU サービス、およびネットワーク・オペレーター・サービス処理は、待機中の処理を制御するサブコンポーネントの LQAB から離れてキューに入れられている待機要求エレメント (WRE) によって表されます。処理に関する WRE は、イベント ID そのものを見なくて済むようにするための、イベントを識別する 2 バイトのイベント・コードを含んでいます。

注: 情報は、イベント・コードの番号順に配列されています。

構成サービス LQAB グループ (コード 0102-010A)

その他の構成サービス・コマンド LQAB に関連した待ち状態イベント・コード、ID、およびその意味が、以下に示されています。

イベント ID:

EIDCNACT

イベント・コード:

0102

イベント形式:

xxxxxxxxxxxx

説明: 構成サービスは、NCP が活動状態になるのを待っています。xxx...xxx は 6 バイトの NCP ネットワーク・アドレスです。

イベント ID:

EIDCLACT

イベント・コード:

0103

イベント形式:

xxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 0000

説明: 構成サービスは、リンクが活動状態になるのを待っています。xxx...xxx は 6 バイトの NCP ネットワーク・アドレスで、yyy...yyy は 6 バイトのリンク・ネットワーク・アドレスです。

イベント ID:

EIDCCIRS

イベント・コード:

0104

イベント形式:

xxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 0001

説明: 構成サービスは、活動化または非活動化コネクトイン要求 (VARY ANS コマンドについての) に対する応答を待っています。xxx...xxx は 6 バイトの NCP ネットワーク・アドレスです。yyy...yyy は 6 バイトのリンク・ネットワーク・アドレスです。

イベント ID:

EIDCTRRS

イベント・コード:

0105

イベント形式:

xxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy zzzzzz aa

説明: 構成サービスは、汎用 PIU トレースの活動化要求または汎用 PIU トレースの非活動化要求への応答を待っています。xxx...xxx は 6 バイトの NCP ネットワーク・アドレスです。yyy...yyy は 6 バイトのトレース・リソース・ネットワーク・アドレス (PU、LU、回線、または GPT 用の NCP) です。zzzzzz は、トレース RU 活動化/非活動化の 3 バイトの SNA 要求コードです。aa は、1 バイトのトレース RU タイプ・バイトです。

イベント ID:

EIDCSTBL

イベント・コード:

0106

イベント形式:

0000 xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: セッション・サービスは、セッションをセットアップできるように、LU が安定化されるのを (例えば、エラー・リカバリーが完了するのを) 待っています。xxx...xxx は、LU の 8 バイトのネットワーク名です。

イベント ID:

EIDCTNRS

イベント・コード:

0107

イベント形式:

xxx yyyyyyyyyyyyyyyyyy

説明: 構成サービスは、NETCTLR の活動化要求または非活動化要求への応答を待っています。xxx...xxx は、16 バイトの活動化または非活動化トレース ID (EIDCTRRS) です。yyy...yyy は、回線の 8 バイトの名前です。

イベント ID:

EIDCTRNA

イベント・コード:

0108

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxxx yyyyyyy

説明: 構成サービスは、ACT トレース・コマンドの処理中に、独立 LU に対する RNAA への応答を待っています。xxx...xxx は、LU リソースの 8 バイトの名前です。yyyyyy は、RNAA の 3 バイトの SNA 要求コードです。

イベント ID:

EIDCCKPT

イベント・コード:

010A

イベント形式:

CHKPT

説明: チェックポイント・データ・セットは、ISTPDCLU が完了してクローズするのを待っています。

I/O LQAB グループ (コード 0201-020D)

I/O LQAB に関連した待ち状態イベント・コード、ID、およびその意味は、以下のとおりです。

イベント ID:

EIDINFRS

イベント・コード:

0201

イベント形式:

xxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyyyy 0201 aaaaaaaa zzzz

説明: 要求元 (6 バイトのネットワーク・アドレス xxx...xxx を持つ) が、6 バイトのネットワーク・アドレス yyy...yyy を持つリソースに対して送られた通常フロー要求単位への応答を待っています。aaaaaaa は、RU タイプに対応した 4 バイトの CPCB 操作コードです。zzzz は要求単位の 2 バイトのシーケンス番号です。

イベント ID:

EIDIEFRS

イベント・コード:

0202

イベント形式:

xxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 0202 aaaaaaaa zzzz

説明: 要求元 (6 バイトのネットワーク・アドレス xxx...xxx を持つ) が、6 バイトのネットワーク・アドレス yyy...yyy を持つリソースに対して送られた急送フロー要求単位への応答を待っています。aaaaaaa は、RU タイプに対応した 4 バイトの CPCB 操作コードです。zzzz は要求単位の 2 バイトのシーケンス番号です。

イベント ID:

EIDIRCRU

イベント・コード:

0203

イベント形式:

xxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 0203 zzzz

説明: 管理サービスは、DISPLAY STORE コマンドの一部として、NCP からのレコード・ストレージ要求を待っています。xxx...xxx は 6 バイトの SSCP ネットワーク・アドレスです。yyy...yyy は 6 バイトの NCP ネットワーク・アドレスです。zzzz は、2 バイトのプロシージャ関係 ID (PRID) です。

イベント ID:

EIDIURSP

イベント・コード:

0204

イベント形式:

xxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 0204

説明: 論理装置サービスは、UNBIND 要求単位への応答を待っています。xxx...xxx は、要求の送信元 LU の 6 バイトのネットワーク・アドレスです。yyy...yyy は、要求の送信先 LU の 6 バイトのネットワーク・アドレスです。

イベント ID:

EIDIRSTO

イベント・コード:

0206

イベント形式:

xxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 0206 vv aaaaaaaa llll

説明: 構成サービス (6 バイトの SSCP ネットワーク・アドレス xxx...xxx を持っている) は、MODIFY DUMP 処理の一部として、NCP (6 バイトのネットワーク・アドレス yyy...yyy を持っている) からの RECSTOR RU を待っています。aaaaaaa と llll は、要求されている NCP ストレージのアドレスと長さです。

vv は、以下の通りです。

- 04 動的 NCP ダンプを示す。
- 05 MOSS ダンプを示す。
- 06 CSP ダンプを示す。
- 07 転送 NCP ダンプ・ヘッダー。
- 08 転送 NCP ダンプ主ストレージ。
- 09 表示ディスクを示す。

イベント ID:

EIDISEND

イベント・コード:

0208

イベント形式:

xxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 0208 aaaaaaaaaaaaaaaaa zzzzzzzzzzzzzzzzz

説明: セッション・サービス (6 バイトの SSCP ネットワーク・アドレス xxx...xxx を持つ) は、セッションに関連したブロックが解放されて LU が再び振られるように、LU(6 バイトのネットワーク・アドレス yyy...yyy を持つ) から SESSEND が受信されること、または CDRM (ネットワーク・アドレスは yyy...yyy) から CDESSEND が受信されることを待っています。aaa...aaa は、アドレスが認識されているネットワークの 8 バイトのアドレスです。zzz...zzz は、そのセッションの 8 バイトの PCID です。

イベント ID:

EIDIHOSC

イベント・コード:

0209

イベント形式:

xxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 0209 aaaaaaaa zzzzzzzzz

説明: PVI サブコンポーネントは、入出力操作がスケジュールされたときに、TSC によって通知されるのを待っています。6 バイトのフィールド xxx...xxx および yyy...yyy は、その要求単位の発信元と宛先のネットワーク・アドレスです。aaaaaaa は、RU タイプに対応した 4 バイトの CPCB 操作コードです。zzzzzzzz は、その要求単位と関連した TSCB のアドレスです。

イベント ID:

EIDIOSAR

イベント・コード:

020B

イベント形式:

xxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 020B

説明: セッション・サービス (SSCP ネットワーク・アドレス xxx...xxx) は、非 SNA 論理装置 (6 バイトのネットワーク・アドレス yyy...yyy を持つ) が完了するように、指定変更セッション・アドレス (OSA)RU を待っています。

イベント ID:

EIDIORREQ

イベント・コード:

020C

イベント形式:

xxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 020C

説明: セッション・サービスは、装置 LU からの応答を待っています。xxx...xxx は 6 バイトの SSCP ネットワーク・アドレスです。yyy...yyy は、装置 LU の 6 バイトのネットワーク・アドレスです。

イベント ID:

EIDIFRSE

イベント・コード:

020D

イベント形式:

xxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyy 020D aaaaaaaaaaaaaaaaa

説明: 構成サービスは、SETCV(FRS) 要求への応答を待機しています。

論理装置サービス **LQAB** グループ (コード **0301-0306**)

論理装置サービス・サービス・マネージャー LQAB と関連した待ち状態イベント ID およびその意味は、以下のとおりです。

イベント ID:

EIDLACPT

イベント・コード:

0301

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxx 0301 ACCEPT yyyyyyyyyyyyyyy wwwwwwwwwwwwwwwww z

説明: 論理装置サービスは、OPNDST ACCEPT 要求を満足するために、SSCP からの CINIT RU を待っています。xxx...xxx は 8 バイトの 1 次 LU 名で、yyy...yyy は 8 バイトの 2 次 LU 名 (OPNDST ACCEPT SPECIFIC の場合) または 2 進ゼロ (OPNDST ACCEPT ANY の場合) のいずれかです。

z は Y または N です。

- Y は、その要求がバインド・イメージ指定変更を指定したことを示します。
- N は、その要求がバインド・イメージ指定変更を指定しなかったことを示します。

www...www は、SLU に対する 8 バイトのネットワーク識別名です。

イベント ID:

EIDLAQIR

イベント・コード:

0302

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxx 0302 ACQUIRE yyyyyyyyyyyyyyy

説明: LU サービスは、OPNDST ACQUIRE 要求を満足するために、SSCP からの CINIT RU を待っています。xxx...xxx は 8 バイトの 1 次 LU 名であり、yyy...yyy は、CINIT を特定の OPNDST ACQUIRE 要求と関連させるために使用された 9 バイトのユーザー要求相関関係子です。

イベント ID:

EIDLRCVC

イベント・コード:

0304

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxx 0304 RCVCMD

説明: 論理装置サービスは、プログラム・オペレーター・アプリケーション要求からの待機 RCVCMD を完了できるように、VTAM オペレーター・メッセージが受信されるのを待っています。xxx...xxx は、アプリケーション・プログラムの 8 バイトのネットワーク名です。

イベント ID:

EIDLCRV

イベント・コード:

0305

イベント形式:

CRVbbbbbbbb 0305 xxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyy

説明: 論理装置サービス (6 バイトのネットワーク・アドレス xxx...xxx を持つ 2 次論理装置について) は、OPNSEC マクロ命令処理を完了するため、1 次論理装置 (6 バイトのネットワーク・アドレス yyy...yyy を持つ) からの CRV 要求単位の受信を待っています。bbbbbbbb は、5 バイトのブランク・フィールド (X'40404040') です。

イベント ID:

EIDLTRK

イベント・コード:

0306

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxx 0306 TRKEY yyyyyyyyyyyyyy zzzzzzzzzzzz

説明: 論理装置サービスは OPENSEC 処理の際に、CRYPTO キーが変換されるのを待っています。xxx...xxx は、8 バイトのアプリケーション名です。yyy...yyy は、6 バイトの 1 次ネットワーク・アドレス、zzz...zzz は、6 バイトの 2 次ネットワーク・アドレスです。

物理装置サービス LQAB グループ (コード 0401-0409)

論理装置サービス LQAB に関連した待ち状態イベント ID とその意味は、以下の通りです。

イベント ID:

EIDPPCMP

イベント・コード:

0401

イベント形式:

0000 xxxx

説明: 物理装置サービスは、別の要求を処理できるように、進行中の処理が完了するのを待っています。xxxx は、(チャンネル) リンクの 2 バイトの要素・アドレスです。

イベント ID:

EIDPFLUC

イベント・コード:

0402

イベント形式:

xxxx FREELUCB

説明: 物理装置サービスは、CLOSE ACB 処理が完了できるように、アプリケーション・プログラムと関連した LUCB が解放されるのを待っています。xxxx は、そのアプリケーション・プログラムの 2 バイトの要素・アドレスです。

イベント ID:

EIDPTERM

イベント・コード:

0403

イベント形式:

xxxx PENDTERM

説明: オープンまたはクローズは、持続性クローズの間に、保留中でキューに入れられているアクティブ・セッションが終了するのを待っています。xxxx は、そのアプリケーション・プログラムの 2 バイトの要素・アドレスです。

VTAM 待ち状態 ID

イベント ID:

EIDPVHLT

イベント・コード:

0404

イベント形式:

VTAM HALT

説明: 物理装置サービスは VTAM に対する HALT 処理が完了できるように、すべてのアプリケーション・プログラムに対する CLOSE ACB 処理が完了するのを待っています。

イベント ID:

EIDPACT

イベント・コード:

0405

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxxx ACTIVATE

説明: 物理装置サービスは、アプリケーション・プログラムの OPEN ACB 処理を完了できるように、SSCP から ACTLU が受信されるのを待っています。xxx...xxx は、アプリケーション・プログラムの 8 バイトのネットワーク名です。

イベント ID:

EIDPDACT

イベント・コード:

0406

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxxx DEACTIVATE

説明: 物理装置サービスは、アプリケーション・プログラムに対する CLOSE ACB 処理が完了できるように、SSCP からの DACTLU の受信を待っています。xxx...xxx は、アプリケーション・プログラムの 8 バイトのネットワーク名です。

イベント ID:

EIDPADDV

イベント・コード:

0407

イベント形式:

xxxx LK AL DEAL

説明: 物理装置サービスは、DACTLINK 処理を完了できるように、リンクの割り振りまたは割り振り解除を待っています。xxxx は、割り振り中または割り振り解除中であるリンクの 2 バイトの元素・アドレスです。

イベント ID:

EIDPDNRR

イベント・コード:

0408

イベント形式:

xxxxxxx DELETENR RESUME

説明: OPEN/CLOSE サブコンポーネントは、CLOSE ACB 要求を続ける前に、物理装置サービスがネットワーク・リソース削除 (DELETENR) 要求の処理を再開するのを待っています。xxxxxxx は、CLOSE ACB が進行中である 4 バイトの LUCB ストレージ・アドレスです。

イベント ID:

EIDPCDER

イベント・コード:

0409

イベント形式:

xxxxxxx CIDCTL DELETE

説明: 物理装置サービスは、使用不能の伝送サブシステム・コンポーネント (TSC) コードが論理装置制御ブロック (LUCB) を削除する前にその LUCB の処理を終了するのを待っています。xxxxxxx は、TSC が処理している 4 バイトの LUCB ストレージ・アドレスです。

ネットワーク・オペレーター・サービス LQAB グループ (コード 0501-0502)

ネットワーク・オペレーター・サービス LQAB と関連した待ち状態イベント・コードおよびイベント ID とその意味は、以下のとおりです。

イベント ID:

EIDNNORS

イベント・コード:

0501

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxx 000000 aaaaaaaaa llll tt

説明: ネットワーク・オペレーター・サービスは、D NCPSTOR または D DISK コマンド処理の一部として、RECSTOR RU が NCP から受信されるのを待っています。xxx...xxx は、NCP の 8 バイトのネットワーク名であり、aaa...aaa と llll は、表示される NCP ストレージのアドレスと長さです。tt は、1 バイトのイベント ID タイプ・コードです。

イベント ID:

EIDNRTR

イベント・コード:

0502

イベント形式:

xxxxxxxxxxxxxxxx yyyy

説明: ネットワーク・オペレーター・サービスは、MODIFY LL2 コマンド処理の一部として、NCP から RECTRD RU が受信されるのを待っています。xxx...xxx は、NCP の 8 バイトのネットワーク名で、yyyy は、要求に関連した 2 バイトのプロシージャ関係 ID (PRID) です。

セッション・サービス LQAB グループ (コード 0601-060F)

セッション・サービス各種 LQAB と関連した待ち状態イベント・コード、ID、およびその意味は、以下の通りです。

イベント ID:

EIDSIDEQ

イベント・コード:

0601

イベント形式:

0601 xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: セッション・サービスは、別のイベントの RU 完了保留状態の処理を延期しています。他のイベントが完了すると、この RU が処理されます。

これは以下のいずれかの理由で生じることがあります。

- ゲートウェイ SSCP で CDCINIT が受信されており、SETCV 処理は完了していません。
- CDCINIT が受信されましたが、暗号処理は完了していません。
- 重複セッション情報ブロック (SIB) または、直接検索リスト SIB (DSSIB) が検出されましたが、この中には入力要求よりも低い、PCID プロシージャ再受け渡し番号が含まれています。
- CDINIT QUEUED に対する応答よりも先に、CDINIT DQ を受け取りました。
- CDCINIT 応答よりも先に CDESSST を受け取りました。

xxx...xxx は、そのセッションの 8 バイトの PCID です。

イベント ID:

EIDSINIT

イベント・コード:

0602

イベント形式:

0602 xxxxxxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyyyyyy

説明: セッション・サービスは CDINIT RU がセッション開始パス中の次の SSCP に経路指定されるのを待っています。xxx...xxx は、次の SSCP の 8 バイトのネットワーク ID で、yyy...yyy は宛先 LU の 8 文字の名前です。

イベント ID:

EIDECDIN

イベント・コード:

0603

イベント形式:

0603 xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: セッション・サービスは、CDRM の活動化が完了するのを待っています。xxx...xxx は、その CDRM の 8 バイトの名前です。

イベント ID:

EIDCDIAL

イベント・コード:

0604

イベント形式:

0604 DIAL xxxxxxxxxxxxxxxx zzzzzzzzzzzzzzzz

説明: セッション・サービスは、前のダイヤル操作が完了するのを待っています。

xxx...xxx は、PU の 8 バイトの記号名です。zzz...zzz は、LU-LU セッションに関連する 8 バイトの 16 進プロシージャ関連 ID (PCID) です。

イベント ID:
EIDCDTAK
イベント・コード:
0605
イベント形式:
0605 xxxxxxxxxxxxxxxx
説明: 指定された SSCP を使用するすべてのセッションが終了したことを SSCP に知らせるために、CDTAKEDOWN 完了 RU が送信されます。xxx...xxx は、外部 SSCP の 8 バイトの名前です。

イベント ID:
EIDICDSE
イベント・コード:
0606
イベント形式:
0606 xxxxxxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyyyy zzzzzzzzzzzzzzzz
説明: セッション要求を開始した PLU が終了セッションのネットワーク・アドレスの対を重複したので、セッション・サービスは CDSESEND を待っています。xxx...xxx は PLU に対する 8 バイトのネットワーク ID で、yyy...yyy は PLU に対する 6 バイトのネットワーク・アドレスです。zzz...zzz は、終了セッションに関連した 8 バイトの PCID です。

イベント ID:
EIDCRYPY
イベント・コード:
0607
イベント形式:
0607 xxxxxxxxxxxxxxxx
説明: セッション・サービスは、セッションの暗号鍵を入手するのを待っています。xxx...xxx は、そのセッションの 8 バイトの PCID です。

イベント ID:
EIDSXRCS
イベント・コード:
0608
イベント形式:
0608 xxxxxxxxxxxxxxxx
説明: セッション・サービスは、XRF バックアップ・セッション開始が再開されるように、暗号情報を持つ XRF 1 次セッションの SESSST を待っています。xxx...xxx は、8 バイトの XRF SLU 名です。

イベント ID:
EIDSXCRT
イベント・コード:
0609
イベント形式:
0609 xxxxxxxxxxxxxxxx
説明: セッション・サービスは、XRF バックアップ・セッションの暗号鍵を入手するのを待っています。xxx...xxx は、そのセッションの 8 バイトの PCID です。

VTAM 待ち状態 ID

イベント ID:

EIDSI OCD

イベント・コード:

060A

イベント形式:

060A xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: セッション・サービスは、INIT OTHER CD に対する SLU の宛先を持った直接探索リスト (DSRLST) を待っています。xxx...xxx は、そのセッションの 8 バイトの PCID です。

イベント ID:

EIDSDNTS

イベント・コード:

060B

イベント形式:

060B xxxxxxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyyyyyyyy

説明: DLU のネットワーク ID を判別するために、セッション・サービスは DSRLST 応答を待ちます。同一 DLU の別のセッションを探すため DSRLST が送られます。

イベント ID:

EIDSCDCR

イベント・コード:

060C

イベント形式:

060C xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: セッション・サービスは、CDINIT 要求または応答処理の間、セッションの暗号鍵を入手するために待ち状態になります。

イベント ID:

EIDSDSCR

イベント・コード:

060D

イベント形式:

060D xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: セッション・サービスは、DSRLST 処理の間、セッションの暗号鍵を入手するために待ち状態になります。

イベント ID:

EIDSDQRQ

イベント・コード:

060E

イベント形式:

060E xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: セッション・サービスは、DEQUEUE 要求処理の間、セッションの暗号鍵を入手するために待ち状態になります。

イベント ID:

EIDSDQRS

イベント・コード:

060F

イベント形式:

060F xxxxxxxxxxxxxxxx

説明: セッション・サービスは、DEQUEUE 応答処理の間、セッションの暗号鍵を入手するために待ち状態になります。

セッション・サービス LQAB 2 グループ (コード 0701)

2 次セッション・サービス各種 LQAB と関連した待ち状態イベント・コード、ID、およびその意味は、以下の通りです。

イベント ID:

EIDINTFY

イベント・コード:

0701

イベント形式:

0701 xxxxxxxxxxxxxxxx yyyyyyyyyyyyyyyyyy zzzzzzzzzzzzzzzz

説明: セッション・サービスは、セッション起動側に通知できるように、セッション・セットアップ試行の成否を待っています。xxx...xxx は、8 バイトの 16 進プロシージャ- 相関 ID (PCID) です。yyy...yyy は、OLU 方向にある SSCP の 8 バイトの名前です。zzz...zzz は、論理装置の 8 バイトの名前です。

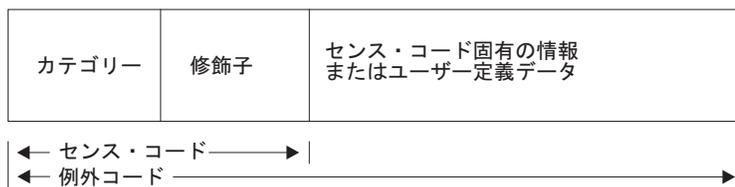
センス・コード

本節は、「*Systems Network Architecture Format and Protocol Reference Manual: Architectural Logic*」から引用したもので、読者の方々の便宜を図る目的で記載されています。この項での情報は、出版時以降に変更が加えられることもあります。センス・コードに関する正式な情報は、「*SNA Formats*」に掲載されています。

要求単位 (RU) 中のセンス・データは、カテゴリ用の 1 バイト、修飾子用の 1 バイト、およびユーザー定義データまたはセンス・コード特定情報のいずれかに対する 2 バイトから構成されています。ユーザー定義データは、実装時にまたはエンド・ユーザーによって定義されます。詳しくは、適切なエンド・ユーザー資料を参照してください。NCP によって出されたセンス・コードについては、「*NCP Reference*」を参照してください。バイト 2 および 3 が 0000 の場合の特定の補足情報はありません。

特定のセンス・コードの場合、ユーザー定義データを含めることはできず、その場所にセンス・コード特定情報が含まれるものがあります。センス・コード特定情報は、この項で説明されています。センス・データ形式をここに示します。

バイト 0 1 2 3



注: セッション・パートナーの 1 つが BSC 3270 で、センス・コードが 8000 であるセッションを記述するメッセージの場合、ユーザー定義データは FIDO NCP システムおよび拡張応答です。

例外コードのカテゴリと修飾子バイトはセンス・コードを構成します。この項に載せられているカテゴリが定義されています。その他すべては予約されています。

00 ユーザー・センス・データのみ (カテゴリ・コード 16 進数の 00)

他のカテゴリ中で SNA によって定義されていない (および関連したユーザーに対して固有と思われる) 条件の場合、センス・コードに続くバイト 2 および 3 がユーザー・センス・データを含む場合があります。修飾子の値も 16 進数の 00 です。ユーザー・センス・データは LU 6.2 上で送ることができません。

SNA 形式またはプロトコルに対する例外が起きたことを示すセンス・コードを含んでいる VTAM メッセージもあります。SNA 定義センス・コード (16 進数) とその意味は、以下のページにカテゴリ別にリストされています。

要求拒否 (カテゴリ・コードは 16 進数の 08)

このカテゴリは、その要求が予定されたコンポーネントに配送され、認識されサポートされているものの、実行されなかったことを示しています。

カテゴリおよび修飾子 (16 進数):

0801 リソースが使用不能です。RU に指定された LU、PU、リンク・ステーション、またはリンクが使用不能です。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 独立 LU が ACTLU を受信していません。ACTLU は SSCP によって独立 LU に送信されました (BF による送信)。

0002 セッション用に要求された予約済みリソースが許容最大数を超過しています。RNAA 内のリソース予約要求が、システムで定義された許容最大数を超過しています。LU に対するリソースの現行の予約に対して、アドレスは割り当てられず、変更は加えられませんでした。

0003 別名指定機能が利用できないので、名前の別名を付けられませんでした。

0004 活動中のリンクに関して交換接続が現在存在しているのに、SSCP またはサブエリア PU が、このようなリンクの引き継ぎを可能にするのに必要なプロトコルをサポートしていません。

0005 使用可能な制御ブロックのプール中で依然として表されているリソースに対する SETCV を受信しました。

0006 その回線は、回線アダプターと関連していません。または、回線は、各種の使い方に関して有効ではない回線アダプターに関連しています。

0007 その回線は、配置されていないかまたはその CCU に接続されていない回線アダプターと関連付けられています。

0008 その回線は操作不能な回線アダプターと関連しています。

0009 その LU はセッションを受け入れる準備ができていないので、使用不能です。

000A その PLU は取り外されていて使用不能なので、新しいセッションを受託しません。その開始要求を再実行してはなりません。

- 000B** その PLU は、PLU-SLU 役割仕様に従うことができないので、使用不能です。
- 000C** その SLU は、PLU-SLU 役割仕様に従うことができないので、使用不能です。
- 000D** その LU の SSCP は取り外される過程にあり、使用不能なので新しいセッションを開始することが許されません。その開始要求を再実行してはなりません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000E** 中間ゲートウェイ SSCP が取り外される過程にあり、LU が使用不能なので新しいセッションを開始することが許されません。
- 000F** その SLU は取り外されている最中で使用不能なので、新しいセッションを受託しません。その開始要求を再実行してはなりません。
- 0010** 交換サブエリア・リンクが定義されていないので、交換サブエリア接続は確立できません。
- 0011** ゲートウェイ NCP 中で交換サブエリア・リンクが定義されていないので、他のネットワークへの交換サブエリア接続は確立できません。
- 0012** このノードは、新規 TG を示す利用可能な整数を持っていないため、APPN 接続は設定できません。
- 0013** 交換 PU の PATH 定義中に SHM GROUP が定義されていないので、交換接続は確立できません。
- 0014** 交換接続は確立できません。コール要求検査が要求されましたが、この構成ではサポートされていません。対立しているシステム定義のためにこの状況が生じました。
- 0021** リソース使用不可: インストールされていない、電源が入っていない、初期化されていない、または操作可能ではない接続サブシステムにリンクが関連付けられています。
- VTAM におけるヒント: このセンス・コードは Network Control Program (NCP) によって設定されているため、回線/コントローラーのハードウェア障害を示している可能性があります。
- 0026** PU が利用不能です。なぜなら、従属 LU のサーバー従属 LU リクエスター接続が設定できないからです。
- 0027** 交換回線リンクが未定義であるため、交換接続を設定できません。
- 0028** 定義されてはいるが、その SSCP-PU セッションが非活動状態である PU について、REQDACTPU を受け取りました。
- 4001** パネル回線テストが活動状態である間は、回線を強制的に非活動化することはできません。
- 4002** 折り返しテストが活動状態であるときに、強制的に非活動化を試みました。
- 0802** 介入要求です。出力装置にフォームまたはカードが必要であるか、装置が一時的にローカル・モードになっているか、またはその他の条件では介入が必要です。
- 0803** パスワードが欠落しています。必要なパスワードが提供されていませんでした。
- 0804** 無効なパスワードです。パスワードが有効ではありませんでした。
- 0805** セッション限界を超過しています。NAU のいずれかがセッション限界、例えば、LU-LU セッション限界や (LU、モード) セッション限界に達してい

るため、要求されたセッションを活動化できません。このセンス・コードは ACTCDRM、INIT、BIND および CINIT 要求に適用されます。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 BIND 要求が受諾されると、受信 LU または送信 LU によって、いくつかのセッション数変更手順の間に合意されたパートナー LU に対する、競合勝者セッション数が、活動化されることがないようにします。

0002 BIND 要求が受諾されると、XRF バックアップ・セッション限度を超過させます。

0003 BIND 要求が受諾されると、XRF アクティブ・セッション限度を超過させます。

注: XRF アクティブ・セッションに対するセッション限度は 1 です。XRF 活動 BIND は、受信 SLU に関連した活動 XRF や XRF バックアップ・セッションがない場合のみ有効です。

0004 独立 LU に関し、BIND 要求を出すと (それが受け入れられた場合は)、この LU については、各 LU に許可されているシステムが定義したセッションの最大数 (MAXSESS) を超えてしまいます。

0005 中間セッション経路指定機能プログラムが、セッション接続プログラム制御ブロックを作成できません。セッション接続プログラムのプールは、アクティブ・セッションや BIND 中にキュー・ビットが設定されていた保留アクティブ・セッションによっていっぱいになっています。BIND を再実行してはなりません。

0006 中間セッション経路指定機能プログラムが、セッション接続プログラム制御ブロックを作成できません。セッション接続プログラムのプールは、BIND 中にアクティブ・セッションやキュー・ビットが設定されていない保留アクティブ・セッションによっていっぱいになっています。BIND を再実行してください。

0008 独立 LU の場合、BIND 要求が受諾されたならば、それはセッション限度を超えることになります。

0009 要求が受諾された場合、PLU セッション限度を超えることとなります。

000A 要求が受諾された場合、SLU セッション限度を超えることとなります。

000B その要求は、同一の LU 対の間にセッションがすべてに存在していて、LU の少なくとも 1 つが並行セッションをサポートしていないので、拒否されました。

000C コントローラー・セッションが重複して試みられました。

0806 リソースが不明です。例えば、受信側または送信側が認識している PU、LU、SSCP、リンク、またはリンク・ステーションを識別しない名前やアドレスが、要求に含まれていました。

注: 相互接続されたネットワーク環境において、このセンス・コードは、サブネットワークおよびドメイン中にその LU が常駐するはずである SSCP によって、設定されます。セッション・セットアップ・パス上の中継局ではない SSCP によっては設定されません。ゲートウェイ SSCP は、セッ

ション・セットアップ要求 (例えば、CDINIT) のリソース ID 制御ベクトルを調べ、LU が SSCP のサブネットおよびドメイン内に存在するかどうかを判別します。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。
- 0001** SNA アドレス・リスト (X'04') MS 共通サブベクトル内で識別されたリソースが、その要求を受信する PU に認識されていません。

注: このセンス・データが、ネットワーク管理ベクトル・トランスポート (NMVT) に対する否定応答である場合、参照されている X'04' サブベクトルは、否定応答の相手である、要求 NMVT にあったサブベクトルです。このセンス・データがセンス・データ (X'7D') MS 共通サブベクトルを流れる場合、参照されている X'04' サブベクトルは、同じ主ベクトル中の X'7D' サブベクトルとともに存在します。

- 0004** 付随している名前リスト (X'06') サブベクトル中に示されているリソースは、そのサブベクトルを含む要求が経路指定された制御点には認識されていません。

注: 階層における最初の未知のリソースの下のレベルにある名前は、制御点によって調べられません。

- 0005** この物理装置は現在、物理装置動的再構成プール中にあります。
- 0006** 動的再構成 DELETE、MOVE または REPLACE 操作の場合、動的再構成されるべきリソースが見つかりません。
- 0007** RNAA タイプ X'04' のバイト 8 から 9 中の LU アドレスは、すでに空きプール中に存在しています。
- 0008** 動的再構成 DELETE、MOVE または REPLACE 操作の場合、RNAA 中の NAU 名が RNAA 中のエレメント・アドレスによって識別されるリソースに対応していません。
- 0009** SSCP(OLU) は、SSCP(DLU) を識別できず、デフォルト SSCP ルーティングが不可能です。
- 000A** 管理サービス・コマンド中に指定されている構成 ID は、受信ノードの DLC マネージャーによって識別されません。
- 0011** 要求中で不明な OLU 名が指定されました。
- 0012** 要求中で不明な DLU 名が指定されました。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。
- 0013** 要求中で不明な SLU 名が指定されました。
- 0014** 要求中で不明な PLU 名が指定されました。
- 0015** 要求中で不明な OLU アドレスが指定されました。
- 0016** 要求中で不明な DLU アドレスが指定されました。
- 0017** 要求中で不明な SLU アドレスが指定されました。
- 0018** 要求中で不明な PLU アドレスが指定されました。

- 0021** セッション開始要求が、受信先 SSCP がその定義中に DLU を持っている SSCP であると指定しましたが、その DLU が受信先 SSCP には知られていません。このエラーは、CDRM が CDRSC 定義ステートメントで誤ってコーディングされている場合に発生することがあります。
- 0022** 要求または応答の発信元が、受信先に知られていません。
- 0023** 要求または応答の宛先が送信元に知られていません。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。
- 0024** 要求中で不明な LU1 名が指定されました。
- 0025** 要求中で不明な LU2 名が指定されました。
- 0026** SSCP が、独立 LU の境界機能 PU とのセッションを持っていません。
- 0027** 交換 SLU に関連付けられた PU が知られていません。交換 SLU についてのセッション・セットアップ処理を進めることができません。
- 0028** NAU1 ネットワーク・アドレスが知られていません。
- 0029** NAU2 ネットワーク・アドレスが知られていません。
- 002A** CONTACT または ACTLU 中の NAU 名が、ターゲット・アドレスにおけるリソースに対応していません。
- 002B** 活動化されている TG は認識不能のものです。
- 002C** XID3 の中の隣接ノードが提供する ID (識別コード) は、受信ノードが構成中で予想している ID とは異なったものでした。
- 0031** ノード中の別のコンポーネントが出す経路要求を受け取ると、TRS は、そのトポロジー・データベースの中に、宛先ネットワーク・ノードまたは、宛先エンド・ノードに関して TG ベクトルに指定されているネットワーク・ノードを、見つけることができなくなります。
- 0032** FRSE PCV セグメント内部のサブポート・セットを定義する SETCV (受信側には認識不能なエレメント・アドレスを含む) を受け取りました。
- 0033** セッション確立に必要なネットワーク・リソースが、使用不能になっており、この結果、保留状態セッションの確立処理が中断されました。
- 0034** 認識不能の PU に対する REQDACTPU を受け取りました。
- 0036** VRTG エンドポイント間に SSCP-SSCP セッションがありません。VTAM は、VRTG の 2 つの端点の間に SSCP セッションがないために CDINIT(5) を送ることができない時、このセンス・コードを設定します。
- 3426** 製品固有のセンス・コードです。
- 0807** リソースが使用不能です - LUSTAT が後で出される。不定期間の間、補助装置は使用不能になります。LUSTAT は、装置が使用可能になったときに送られます。
- 0808** 内容 ID が無効です。ACTCDRM 要求上に含まれていた内容 ID が無効であることが分かりました。
- 0809** モード不一致です。要求された機能は現在の状態の受信先では、実行できません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。
- 0001 論理装置ベクトル・テーブル (LUV) が小さすぎます。
- 0002 SSCP が所有者ではないか、または動的再構成によって追加されなかったかのいずれかです。
- 0003 同一のアドレスに対して RNAA が以前に受信されました。LU 定義中の LOCADDR を調べてください。
- 0004 クラスタ・コントローラ・モジュール (PU タイプ 2) に追加された論理装置に対して、ローカル・アドレス X'0000' が指定されました。
- 0005 リンクがすでに活動状態にあるときに、回線モードを切り替えようとしてしました。
- 0006 論理装置は、システム生成時に動的再構成に関して使用不能として指定されました。
- 0007 リンク活動化コマンドが進行中のときに、回線モードを切り替えようとしてしました。
- 0008 リンク非活動化が進行中のときに、回線モードを切り替えようとしてしました。
- 0009 この回線上で折り返しが進行中のときに、回線モードを切り替えようとしてしました。
- 000A 指定された論理装置が指定されたリンクに割り当てられていなかったか、または指定された論理装置が指定された物理装置に割り当てられていませんでした。
- 000B その論理装置または物理装置が、アクティブ・セッション中でした。
- 000D 論理装置が依然としてその物理装置に割り当てられていました。
- 000E 動的再構成されるべきリソースがシステム生成リソースで、動的再構成削除可能として定義されていません。
- 000F 別の SSCP が物理装置を所有しています。
- 0010 スキャナ・インターフェース・トレース (SIT) の回線トレースが進行しているときに回線モードの切り替えが試みられました。
- 0014 ANS 不一致が検出されました。
- 0015 タイプ修飾子 (3270 標識) がすでに設定されており、このコマンドのタイプ修飾子と合致していません。
- 0016 SETCV 上の PU タイプが、実際の PU タイプと合致していません。
- 0017 エラー・リカバリー修飾子がすでに設定されており、このコマンドのエラー・リカバリー修飾子と合致していません。
- 0018 パス限度がすでに設定されており、このコマンドのパス限度フィールドと合致していません。
- 0019 SDLC BTU に関する値を含む SETCV を受け取りました。この送信限界は、受信済みの以前の値と対立します。
- 001A セグメント・サイズがすでに設定されており、このコマンドの最大セグメント・サイズと合致していません。

- 001B** コマンドが、X'00' または X'01' ではないプール標識を指定しました。
- 001C** RNAA 要求が、ゲートウェイ PU は知られていないネットワーク ID を含んでいます。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。
- 001D** ネットワーク修飾アドレス対制御ベクトル (X'15') 中のアドレス対セッション・キーが、ゲートウェイ PU には知られていません。
- 001E** ゲートウェイ PU がネットワーク間セッションに対する RNAA 要求を受信しましたが、名前を指定されたリソースに対するすべての可能なアドレス変形が割り振られています。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。
- 0020** RNAA 要求を受信するゲートウェイ・ノードが、名前の挙げられたリソースの対の別のセッションをサポートできません。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。
- 0024** PU は、送信元 SSCP が ENA をサポートしていないことを示す SSCP-PU セッション機能制御ベクトル (X'0B') を持った ACTPU 要求を受信しましたが、その PU は SSCP の最大のサブエリア・アドレス値を認識していません。
- 0026** ゼロという MAXOUT が受信されました。
- 0027** コンポーネントが機能に対する要求を受信しましたが、その機能は使用可能ではなく活動化もされていませんでした。
- 0028** LU-LU セッションの終結処置終了が、LU によって強制終了に変換されました。SSCP は、そのセッションのセッション認識レコードを削除する前に、セッション終了信号を待たなければなりません。
- 0030** 活動 SSCP-LU セッションを持つ LU に対する FNA が受信されました。
- 0031** バインド失敗。日付、時刻、または NCP ロード・モジュール名が一致しません。CCU で現在処理中のロード・モジュールが、NPM リソース分析テーブル (RRT) と一致していません。NPM の RRT における NCP の生成の日付、時刻、およびロード・モジュール名は、NCP のものと一致していなければなりません。検査は、バインド・イメージのユーザー・データを経由して行われます。
- 0032** LU が BFSESSINFO を保留していなかったときに、BFSESSINFO が受信されました。報告されたセッションは打ち切れ、関連したネットワーク・アドレスが解放されます。このセンス・データは、そのセッションが打ち切られるときに BFCLEANUP にも含まれます。
- 0033** 境界機能が、既存の保留リセット・セッションとして同一の LFSID を持つ BIND を周辺 PLU から受信しました。
- 0034** SSCP によって引き継がれたリソースに対する打ち切り要求が受信されました。その打ち切りタイプは、そのリソースに適用できるほどの強いものではありません。打ち切りタイプは強制または終結処置でなければなりません。

- 0035 活動状態にあるはずのクロスドメイン・リソースが、非活動状態にあります。
- 0036 選択された短期保留モード論理接続が存在していません。
- 0037 短期保留モード操作専用のポート (またはポート・グループ) で、非短期保留モード接続が試みられました。
- 0038 XID 送信元と受信先の間でモードが一致していません。XID 送信元は短期保留モードで作動しています。例としては短期保留標識 (SHI)、短期保留状況標識 (SHSI)、および XID 交換状態標識の設定が首尾一貫していないことがあげられます。
- 0039 CP トランザクション・エラーです。送信された CP 機能 ('12C1') GDS 変数要求は、会話の完了か、変更指示なし (すなわち、CEB または -CD) を示しています。あるいは、送信された CP 機能応答が会話未完了 (すなわち、-CEB) であることを示しています。
- 0053 CDRM の活動化要求が受信されましたが、そのサブエリア・アドレスはすでに別の CDRM 名で知られています。
- 0054 隣接ノードは、受信ノードが構成上予期しているノード・タイプではありません。
- 0057 受け取った NOTIFY タイプは、受信局の現在の状態ではサポートされません。
- 0058 FRSE PVC セグメント内部のサブポートは、RNAA (割り当てタイプ X'5') を受け取りましたが、DLC ヘッダー・リンク・ステーション・アドレス・フィールドにある値が、有効範囲外です。RNAA は拒否されます。
- 0059 FRSE PVC セグメント内部のサブポートは、RNAA を受け取りましたが、制御ベクトル X'43' には、自動ネットワーク・シャットダウン手順が開始されているときは、リンク・レベル接触を中止するように指定しています。RNAA は拒否されます。
- 0060 FRSE PVC セグメント内部のサブポートは、RNAA を受け取りましたが、制御ベクトル X'43' はモデム・テスト・サポートを許可するように指定しています。RNAA は拒否されます。
- 0061 FRSE PVC セグメント内部のサブポートは、RNAA を受け取りましたが、制御ベクトル X'43' フレーム送信制御値フィールドにある値が有効範囲外です。RNAA は拒否されます。
- 0062 FRSE PVC セグメント内部サブポートは RNAA を受け取りましたが、制御ベクトル X'43' ノード・タイプ ID フィールドには TI 以外のノード・タイプを指定しています。RNAA は拒否されます。
- 0063 FRSE PVC セグメント内部サブポートは RNAA を受け取りましたが、制御ベクトル X'43' は、2 次局に対して空の XID ポーリングを行うよう指定しています。RNAA は拒否されます。
- 0064 FRSE セグメント内部のサブポート・セットを定義している SETCV (DR プールにエレメント・アドレスを含む) を受け取りました。
- 0065 FRSE PVC セグメント内部のサブポート・セットを定義している SETCV を SSCP から受け取りました。この SSCP は本来、SETCV にリストされているすべてのサブエリア・エレメント・アドレスを、DR プールに加えていません。
- 0067 FRSE PVC セグメント内部のサブポートは、RNAA5 を受け取りま

した。この RNAA5 には、現存のフレーム・リレー終端装置サブポートが使用している、DLC ヘッダー・リンク・ステーション・アドレスが含まれています。

- 0068 XID を受け取りましたが、ネットワーキング機能標識 (送信側が APPN ネットワーク・ノードであるかどうかを指定する) は、接続に関する受信側の定義と矛盾しています。接続は拒否されます。
- 006A 2 つの SSCP が VRTG を設定していますが、ノード・タイプが一致していません。
- 080A 許可が拒否されました。受信先が送信元の暗黙要求または明示要求を拒否しました。BIND への応答として送信された場合、これは BIND を受諾できるときに 2 次 LU が SSCP に通知しないか、または SSCP が NOTIFY ベクトル・キー X'0C' を認識しないことを意味します。(逆の応答については、X'0845' センス・コードを参照してください)。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 SSCP は、そのリソースを経由するセッションを確立する許可を拒否しました。受信 SSCP はその要求を別の SSCP に再び経路指定しようとしてはなりません。
- 0002 SSCP は、そのリソースを経由するセッションを確立する許可を拒否しました。受信 SSCP はその要求を別の SSCP に再び経路指定しようとしなければなりません。
- 0005 別名アプリケーションは、この SSCP を経由するセッションを確立する許可を否定しました。受信 SSCP は、その要求を別の SSCP に再び経路指定しようとしてはなりません。
- 0006 別名アプリケーションは、この SSCP を経由するセッションを確立する許可を否定しました。受信 SSCP は、その要求を別の SSCP に再び経路指定しようとしなければなりません。
- 0007 要求側の SSCP のネットワーク ID とは異なるネットワーク ID を持つリソースの活動化要求を受け取りましたが、許可されませんでした。要求側の SSCP は、この構成をサポートしない旨を以前に表示しました。
- 0008 MS 要求変更主ベクトルに指定された要求は、拒否されました。なぜなら、この要求は、有効なフォーカル・ポイントで作成されたものではないからです。
- 0009 MS 要求変更主ベクトルに指定された要求は、拒否されました。理由は、その要求をサポートする機能が受信側で使用不能になっているからです。
- 000D SSCP または CP は、位置付け探索要求を拒否しました。受信側 SSCP は、その要求の転送を行ってください。
- 080B ブラケット・レース・エラーです。ブラケット・プロトコル中の競合の喪失です。このエラーは、両方の NAU によるブラケット開始または打ち切り (あるいはその両方) が許可されているときに生じることがあります。
- 080C 手順がサポートされていません。RU 中で指定されている手順 (テスト、トレース、IPL、REQMS タイプ、MS 主ベクトル・キー) は、受信先でサポートされていません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0005 MS 主ベクトル・キーは、受信側ではサポートされません。
- 0006 MS 主ベクトルは、コマンドを持っていると識別されていますが、受信側はコマンド・サブベクトルを認識していないし、サポートしません。(コマンド・サブベクトルは識別されたが、必要な追加のサブベクトルが欠落している場合については、X'086C' センス・コードを参照してください。)
- 0007 機能がサポートされていません。
- 0009 独立 LU に関するセッション情報検索要求が REQMS で受信されました。このような要求は、NMVT でのみ許されています。
- 000A 複数の項目を持つ名前リストまたはアドレス・リストの MS サブベクトルを含む要求を受け取りましたが、受信側は、このようなサブベクトルについては、単一項目しかサポートしません。
- 000D 事後テストを要求する MS 要求変更制御主ベクトルが受信されましたが、受信先はこの機能をサポートしていません。
- 000E 変更の自動除去を禁止する MS 要求変更主ベクトルが受信されましたが、受信先はこの機能をサポートしていません。
- 000F 実動だけにインストールされた変更点の使用を指定する活動状態の MS 主ベクトルを変更管理フォーカル・ポイントから受信しましたが、受信先はそのような要求をローカルで受信する場合にのみサポートします。
- 0012 MDS_MU のアプリケーション GDS 変数が、サポートされていません。
- 0013 MDS メッセージ・タイプはサポートされていません。受信アプリケーションが、この MDS_MU の MDS メッセージ・タイプをサポートしていません。
- 0161 フォーカル・ポイント権限要求 (X'61') サブベクトルから機能サブフィールドが欠落しています。(X'10'、X'20' または X'30') が必要です。
- 0162 フォーカル・ポイント権限応答 (X'62') サブベクトルから機能サブフィールドが欠落しています。(X'10'、X'20' または X'30') が必要です。
- 0163 フォーカル・ポイント権限要求 (X'63') サブベクトルから機能サブフィールドが欠落しています。(X'10' または X'30') が必要です。
- 0164 フォーカル・ポイント権限応答 (X'64') サブベクトルから機能サブフィールドが欠落しています。(X'10' または X'20') が必要です。
- 080D NAU 競合です。受信ハーフセッションが以前に送られた活動化要求への応答を待っているときに、同一のセッションを活動化させる要求を受信しました。例えば、SSCP がもう一方の SSCP に送った ACTCDRM に対する応答を受信する前に、もう一方の SSCP からの ACTCDRM を受信し、受信された ACTCDRM 中の SSCP ID が、以前に送信した ACTCDRM 中の SSCP ID 以下でした。
- 080E NAU が許可されていません。要求 NAU が要求されたリソースに対するアクセス権を持っていません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。
- 0001** システム定義によれば、その PU は、送信 SSCP のネットワーク ID を持つ SSCP からの ACTPU を受諾しません。
- 0002** ゲートウェイ T4 ノードは、ゲートウェイ・ノードのネイティブ・ネットワーク中にない SSCP から、無効な要求を受け取りました。
- 0003** リンク・ステーションは、無許可 SSCP から CONTACT を受信しました。
- 0004** 無許可 SSCP から BFCLEANUP を受信しました。
- 0005** 無許可 SSCP から RNAA を受信しました。
- 0006** ネットワーク・ノード (NN) は、無許可の終了ノードから REGISTER を受信しました。
- 0007** NN は別の NN から REGISTER を受信しました。受信先はこのコードを指定してその REGISTER を拒否しました。
- 0008** NN は別の NN から DELETE を受信しました。受信先はこのコードを指定してその DELETE を拒否しました。
- 0009** ネットワーク・ノード (NN) は、無許可の終了ノードから DELETE を受信しました。
- 000A** LU に対して REGISTER が受信されましたか、この LU に対して競合する登録簿項目が存在しています。
- 080F** エンド・ユーザーが無許可です。要求しているエンド・ユーザーが、要求されたリソースに対するアクセス権を持っていません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0002** セッション・レベルの LU-LU 検査プロトコルに不一致がありました。拡張 LU-LU 検査プロトコルのみをサポートする LU が、基本 LU-LU 検査プロトコルを指定されている BIND または RSP(BIND) を受信しました。
- 0003** リモート・サブネットワークが指定されましたが、そこには発信元サブネットワークは許可されていません。
- 6051** アクセス保護情報が無効です。要求には、受信側がセキュリティー上受諾不能なアクセス保護情報フィールドが指定されています。エラーについてのこれ以上の情報は提供されません。このセンス・データは FMH-7 または UNBIND 中でのみ送信されます。リモート LU またはトランザクション・プログラムから受信した RU に、セキュリティー・プロトコル・エラーが検出されました。検査を持続して行う場合、RACF プロファイルに VERIFY および PV を会話セキュリティー・レベル (CONVSEC) でコーディングする必要があります。
- 0810** 要求元 ID が欠落しています。必要な要求元 ID が欠落しています。
- 0811** 中断です。このセンス・コードの受信先に、CANCEL または EC を送信する FMD 要求を使用して、現行のチェーンを打ち切るように依頼してください。中断センス・コードを送っているハーフセッションは、中断センス・

コードが送られるとチェーン除去状態に入ります。中断センス・コードを受信しているハーフセッションは、打ち切られたチェーンを再び伝送することなく、廃棄します。

0812 リソース不足です。リソースの一時的な不足のために、受信先は要求に基づいた処置が取れません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。

0001 RNAA が、現在プールにあるよりも多くの PU または LU を要求しました。

0002 RNAA が、持続リソースが保持するよりも多くの PU または LU を要求しました。

0003 XRF セッションをサポートするだけのリソースが現在使用可能ではありません。

0004 RNAA 要求は、要求されたアドレスが ENA 以前との互換性のあるものでなければならないことを示していますが、ENA 以前との互換性のあるアドレスが使用不能です。詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」の MAXSUBA の説明を参照してください。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。

0005 要求されたセッションの予約済みリソースが使用不能です。予約されたセッション・リソースの数が、RNAA で使用可能なリソースの数を超えています。アドレスが割り当てられず、LU の現行の予約状況に変更が加えられていません。

0006 境界 LU-LU セッションに対する使用可能なリソースが十分ではありません。

0007 LU アドレス割り振りに関して、使用可能なリソースが十分ではありません。

0008 バッファ・スペースがありません。非拡張の正 RSP (BIND) を拡張しているときのバッファ不足のために、セッションが非活動化されました。BIND 応答を拡張するのに十分なリソースがありません。

0009 LU を追加するのに使用可能な予約されていないセッション接続子がありません。

000A ネットワーク・ノードが、REGISTER を実行するのに適切なリソースを持っていません (使用可能な登録簿容量を超えてしまっている)。

000B VTAM に認識されていない LU に対する BFSESSINFO が受信されました。VTAM はその LU の表示を作成しようとしたが、リソース不足のため、作成できませんでした。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。

000C デッドロックなし伝送グループをサポートするのに十分なバッファ

ー・スペースがありません。受信先は BIND 受信バッファを割り振るのに十分なバッファを持っていません。

000D セッションを活動化するのに十分なバッファが存在していません。

000E ネットワーク名テーブルは、いっぱいです。

000F BFINIT を構築するのに十分なバッファ・スペースが存在していません。

0010 CP は、GDS 変数位置指定要求を処理するのに適切なリソースを持っていません。競合敗者の CP-CP セッションは非活動化されます。

0011 この時点では、要求を満足させるだけの十分なストレージが SNA コンポーネントで使用できません。

0012 並行セッションを割り当てるのに使用可能なネットワーク・アドレスがありません。

0015 短期保留モード論理接続を開始するのに十分なリソースが使用できません。

0016 認識不能のネットワーク識別名です。

001A TG を活動化するためのストレージが不足しています。

001B トークンリング接続を活動化するためには、リソースが不足しています。

VTAM におけるヒント: このエラーの修正方法として、NCP パラメーター NEWDEFN のコーディングが考えられますが、VTAM 定義ライブラリ・メンバーで見つかった VTAM 構成に出力デッキを指定する必要があります。

001D PU タイプ 4 ノードには、要求されたダンプを実行するのに必要なディスク・スペースがありません。

001E セッションが失敗しました。理由は、セッションの占有使用のために、プールされたバッファ・ストレージの割り当て量が、しきい値の限界を超えたからです。

0022 該当する特定コードがありません。

0813 ブラケット送信権要求拒否 - RTR が後で出されることはありません。最初の話し手がブラケット中状態にあるときに、または最初の話し手がブラケット間状態にあってその最初の話し手が許可を否定したときに、**BID** (または **BB**) が受信されました。RTR は送信されません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 ブラケット送信権要求拒否です。ブラケット要求を受信したときに、そのコンポーネントはブラケット中状態にありました。

0002 ブラケット送信権要求拒否。ブラケット要求を受信したときに、そのコンポーネントはブラケット間状態にありました。

0814 ブラケット送信権要求拒否 - RTR が後で出されます。最初の話し手がブラケット中状態にあるときに、または最初の話し手がブラケット間状態にあってその最初の話し手が許可を否定したときに、**BID** (または **BB**) が受信されました。RTR が送信されます。

0815 機能活動状態。ネットワーク・エレメントまたは手順の活動化要求が受信されましたが、そのエレメントまたは手順がすでに活動状態にあります。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 すでに活動状態にあるセッションを活動化させるためのセッション活動化要求が、境界機能によって受信されました。

0002 すでに活動状態にあるネットワーク間セッションを活動化させるためのセッション活動化要求が、ゲートウェイ機能によって受信されました。

0003 別の管理サービス要求の処理が進行中です。送信元はその要求を再試行しなければなりません。

注: このセンス・データは、十分なキュー・スペースを持っていないタイプ 2 ノードによってのみ送られます。

0004 セッションの受信先がバインドを拒否するときに、T2.1 ノードからバインドが受信されました。

0005 IPL 機能 (ロード・モジュールのロードまたは記憶) が進行中 (MOSS 使用中) です。

0006 選択された短期保留モード論理接続が、別のポートに再び呼び出されました。

0816 機能が非活動状態です。ネットワーク・エレメントまたは手順の非活動化要求が受信されましたが、そのエレメントまたは手順が活動状態ではありませんでした。

0817 リンクまたはリンク・リソースが非活動状態です。活動状態にはないリンクまたはリンク・リソースを使用しなければならない要求が出されました。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 リンクが非活動です。

0002 リンク・ステーションが非活動です。

0003 交換回線リンク接続が非活動です。

0004 指定したリンクの TG 数は再検討の結果、新しい値になりました。経路は活動化できません。

0009 トランスポート構成テーブル項目が活動状態ではありません。

0818 リンク手順が処理中です。CONTACT、DISCONTACT、IPL、または他のリンク手順が進行中のときに、矛盾する要求が受信されました。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0003 CONTACT 順序に従っていません。再試行してください。最初の CONTACT 手順が進行中の時に、PU が CONTACT の非活動化を受信しました。非活動化 CONTACT は、最初の CONTACT 手順が完了するまで拒否されます。

0005 モデムのリンク問題判別テストが進行中です。

0007 SDLC リンク・テスト (レベル 2) が進行中です。

0009 要求されたテストは開始しませんでした。理由は、別のテストがすでに進行中だったからです。

000A オンライン端末テスト (OLTT) がサービス・リンク上で進行中です。

- 000B** SDLC リンク・テスト (レベル 2) がサービス・リンク上で進行中です。
- 000C** モデムのリンク問題判別テストがサービス・リンク上で進行中です。
- 0819** RTR は不必要です。READY TO RECEIVE の受信先が送信するものを持っていません。
- 081A** 要求シーケンス・エラーです。要求の順序が正しくありません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** ACTLU が受信されたのに SSCP-PU セッションが存在していません。
- 0002** IPL または DUMP RU シーケンス・エラーが起きました。
- 0004** ROUTE_TEST 要求が受信された結果として、NC_ER_TEST が送信されました。ROUTE_TEST があるサブネットワーク内で送られ、NC_ER_TEST が別のサブネットワーク内で送られました。ROUTE_TEST を送信している SSCP が、NC_ER_TEST が送られることになっていたサブネットワークで必要な別名アドレスを持っていませんでした。(ROUTE_TEST を送信する前に、SSCP が RNAA を送信するか、またはインストールによって別名アドレスが事前定義されます。これにより、テストされる経路のサブネットワーク中で起点 SSCP アドレスが使用可能になります。そのあと、このアドレスは NC_ER_TEST RU 内に指定されます。)
- 0006** RNAA が拒否されました。LU が追加されることになっている PU が、追加された RNAA であり、制御ベクトルが受信されていなければ、その RNAA は拒否されます。PU に対する SETCV は受信されておらず、処理されません。
- 0007** 永続 (システム定義) リソースの所有権を確立していない SSCP から、CONTACT、BIND または ACTLU が受信されました。RNAA(Move) が受信されるまで、そのリソースは使用不能です。
- 0008** 一時 (動的再構成による追加) リソースの所有権を確立していない SSCP から、CONTACT、BIND または ACTLU が受信されました。そのリソースは、RNAA(ADD) が受信されるまで使用不能です。
- 0009** 実装過程の特定の使用のためにとっておきます。SNA では、このようにしないと定義されません。用法の詳細は実装のための資料を参照してください。
- 081B** 受信先が伝送モードです (レース条件)。半二重競合状態が非受信 (*S,-R) であるとき、または通常フロー・データを取り扱うのに必要なリソース (バッファなど) が使用不能であるときに、通常フロー要求が受信されました。(このセンス・コードを、プロトコル違反を知らせるセンス・コード X'2004'と比較してください。)
- 081C** 要求が実行不能です。受信先の永続エラー条件のために、要求された機能は実行できません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

注: VTAM センス・コードの場合、バイト 2 およびバイト 3 のデータの意味はセンス・コードのコンテキストにより異なります。

0000 該当する特定コードがありません。

0002 受信先にソフトウェア問題によるエラーがあるため、要求を実行することができません。

0004 「ダンプ要求」要求単位の場合:

要求された NCP ダンプは、ダンプ・ファイル上の永続入出力エラーのために打ち切られました。ダンプは部分的に完了し、形式設定して印刷することができます。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

チャンネル・リンクを活動化中に、活動化されているリンクのチャンネル装置名を正しい 3 桁の 16 進数で指定しませんでした。

0008 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合: VTAM は、NCP ロード・モジュールを含むデータ・セットを正常にオープンすることができません。

「ダンプ要求」要求単位の場合:

要求された NCP ダンプは、通信コントローラーの永続入出力エラーのために打ち切られました。ダンプは部分的に完了し、形式設定して印刷することができます。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

チャンネル・リンクの活動化中に、活動化されるリンクのチャンネル装置名がオペレーティング・システムに定義されていないことがわかりました。

000A 「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

トークンリング用ダウンストリーム PU (ループ・アダプター接続 PU) を持つ、ローカル接続の T3174 の活動化時に、ダウンストリーム PU 用のチャンネル装置アドレスが、オペレーティング・システムに対して定義されていないことが検知されました。

チャンネル・リンクの活動化中に、リンクのチャンネル装置名がオペレーティング・システムに検知されませんでした。

000C 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

以下のいずれかが起こりました。

- 診断またはロード・モジュール・データ・セットで永続入出力エラーが起きた。
- 診断プログラムが通信コントローラーハードウェア・エラーと思われるものを検出した。
- 通信コントローラーで永続入出力エラーが起きた。そのチャンネル・アダプターが使用可能になっていること、さらにチャンネル装置アドレス (CUA) が接続されていることを確かめてください。

「ダンプ要求」要求単位の場合:

要求された NCP ダンプは、ダンプ・ファイル上の永続入出力エラーのために打ち切られました。ダンプ・データ・セットを形式設定して印刷することはできません。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

活動化されているチャンネル・リンクのチャンネル装置名に関連したハードウェア装置タイプが、ACTLINK を受信している PU によってサポートされていません。

0010 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

診断ロード・プログラムが実行されているときに、時間切れが起きました (通信コントローラーにおけるハードウェア停止)。

「ダンプ要求」要求単位の場合:

要求された NCP ダンプは、通信コントローラーの永続入出力エラーのために打ち切られました。ダンプ・データ・セットを形式設定して印刷することはできません。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

チャンネル・リンクの活動化中に、チャンネル装置名によって指定される接続装置がすでに別のユーザーに割り振られているので、それを割り振ることができませんでした。

0014 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

ロードされた NCP はエラーを検出して、初期設定が失敗に終わりました。

「ダンプ要求」要求単位の場合:

ダンプ・データ・セットを正常にオープンできません。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

チャンネル・リンクの活動化または非活動化中に、装置名は、SYS000 について未完了の一時 UNASSIGN コマンドを持っています。

「リンク活動化」要求単位の場合:

チャンネル・リンクの活動化の間、PUB インデックスによってチャンネル・キュー項目を PUB に割り当てているときにエラーがありました。(LSA のみ)。

0018 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

HALT が進行中で、ロードが実行されませんでした。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

チャンネル・キュー項目が空いていません。

001C 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

通信コントローラー・ダンプ・ロード再始動ルーターが、認識不能のコマンド・コードを含んでいる入力作業エレメントを受信しました。NCP ロード・モジュールがロード・モジュール・データ・セット中に存在していません (BLDL 障害)。

ファイルのロード中に入出力エラーが起きると、このエラーになることがあります。

0020 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

永続入出力エラーが起きました。考えられる原因として以下があげられますが、原因はこの限りではありません。

- 装置タイプが適切に定義されていない。
- 通信コントローラーの状態がロードに適切ではない。
- サービス・プロセッサは適正な状態ではありません。例えば、MOSS-E の電源がオフです。
- ハードウェア・エラーが発生している。
- NCP GEN チャンネル・アダプター・アドレスがハードウェア・アドレスと一致していない可能性がある。

「ダンプ要求」要求単位の場合:

必要なダンプ・ユーティリティー・モジュールを正常にロードすることができなかったか、使用可能なリソースが十分ではありません。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

VPBUF ストレージが十分ではありません。

0024 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

VTAM は、診断プログラムを含むデータ・セット (DD 名 INITTEST) を正常にオープンできませんでした。

0028 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

NCP のロードが V3R4 以前の SSP および V3R2 以前の VTAM (これは禁止されている) を指定して要求されたかまたは IFWLEVEL が SSP V3R4 を指定してロードされませんでした。

002A 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

IFULOAD が失敗しました。

002C 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

診断プログラムが通信コントローラーハードウェア・エラーと思われるものを検出した。

0030 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

NCP または診断プログラム・ロード・モジュールのブロック・サイズが 1024 バイトを超えている (リンク・エディットが実行されたときに DC オプションが指定されていない) か、コントローラーのチャンネル・アダプター・アドレスが NCP GEN において正しくありません。

0034 「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

SSCP は、ACTLINK または DACTLINK が適用されないリソース・タイプに対して ACTLINK または DACTLINK を送りました。

0038 「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

チャンネル・リンクの活動化または非活動化中に、RDTE がありませんでした。この結果、PU に、リソース定義を探し出すときに永続エラーが起きたことが検出されました。

このセンス・コードが 3172 XCA 大ノードの活動化の結果出されたものであれば、PORT 定義ステートメントの ADAPNO パラメーターが IBM 3172 コントローラーが割り当てたアダプター番号と一致することを確認してください。

003C 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

通信コントローラー制御ブロックにはチャンネル・アダプター・タイプ・フィールドの有効な値がないか、制御装置のチャンネル・アダプター・アドレスが NCP GEN において正しくありません。

ファイルのオープン中にエラーが発生したか、要求したファイルが見つかりませんでした。

「ロード要求」要求単位の場合:

VTAM は、SSP に NCP ロードを実行するように要求し、SSP ロード・ユーティリティから X'3C' の戻りコードを受け取りました。SSP は NCP フェーズをロードしようとして以下のどれかの状態になりました。

要求された NCP フェーズは、VTAM のジョブ制御ステートメントに定義されている SYS007 ライブラリー中にありませんでした。SYS007 が定義されており、NCP フェーズがライブラリーに存在していることを確認してください。

利用可能な GETVIS が十分ではなく、かつ NCP PCCU マクロの NCPLUB パラメーターで識別される順次ディスク・ファイルが NCP フェーズをもっていません。または、データ・セットをオープンできません。この場合、VTAM の GETVIS 域を大きくするか、または、NCP フェーズがディスク・ファイルに穿孔されていて、VTAM のジョブ制御ステートメントに定義されていることを確かめてください。

NCPLUB パラメーターについては、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。

VTAM の始動および VTAM のジョブ制御ステートメントの要件については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

また、VTAM 区画のサイズの定義方法については、「VTAM Network Implementation Guide」を参照してください。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

チャンネル・リンクの活動化中に、チャンネル装置名で指定されている装置は、オペレーティング・システムにより活動化されていないことがわかりました。

0040 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

NCP または診断プログラム・ロード・モジュールの構成が適切ではありません。

「リンク活動化」および「リンク非活動化」要求単位の場合:

チャンネル・リンクの活動化中に、オペレーティング・システムが OPEN 処理を完了できずに、チャンネル・リンクへのアクセスが否定されました。

「ダンプ要求」要求単位の場合:

要求された NCP ダンプは、ダンプ・ファイルが空であるため打ち切られました。

0044 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

IFLOADRN 通信コントローラーロード・ユーティリティー・プログラムが十分なストレージを割り振ることができませんでした。

0048 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

機能はすでに活動状態にあります (NCP がすでにロードされている)。

004A 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

NCP は、ロード・モジュールを受け取る準備ができています。

004C 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

NCP ロード・モジュールのサイズが、通信コントローラーのストレージ容量を超えています。

0050 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

NCP ロード・モジュール・ライブラリー上で、永続入出力エラーが起きました。

0054 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

診断プログラム・ロード・モジュール・ライブラリー (ddname INITTEST) 上で永続入出力エラーが起きました。

0058 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

診断プログラム・ロード・モジュール・ライブラリー (DD 名 INITTEST) 中に診断プログラムが見つかりませんでした。BLDL 障害です。

005C 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

別のホストがすでに通信コントローラー (SENSE チャンネル・プログラム上の装置例外) をロード中に、ロード要求 (条件付き) が試みられました。

0060 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

以下の状況では、SENSE チャンネル・プログラム上で入出力開始条件コード 3 が発生することがあります。

- 別のホストがすでに通信コントローラーをロード中に、ロード要求 (条件付き) が試みられた。
- チャンネル・バイパス・スイッチがオンになっていた。
- ESCON チャンネルを使ってロード要求を行う場合は、ルーズ・コネクタについてのファイバー・リンクを検査してください。

0064 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

ロード入出力操作 (リンク接続通信コントローラーに対する) が除去されました (その通信コントローラーへのパス中の別のノードの VARY INACT または通信コントローラーのエラー・リカバリーによって)。

0068 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

ロード入出力操作 (リンク接続通信コントローラーに対する) が失敗しました (隣接通信コントローラーによって否定応答が生成されました)。

0070 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

ディスクからのロードが開始され、保管は無視されました。

0074 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

3725 または 3720 と共に DIAG を指定することによって、エラーが起きました。

0078 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

CCU が正しいレベルにないか、または CTLR ディスク・オプションが使用不能です。

007C 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

ディスク上でロード・モジュールが使用不能。

0080 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

MOSS エラー。ロード・モジュールがディスクからロードされませんでした。

0084 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

MOSS エラー。ロード・モジュールおよびスイッチが保管されません。

0088 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:

ディスク機能はサポートされていません。CCU が正しいレベルにないか、または CTLR ディスク・オプションが使用不能です。

- 008C** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
NCP ロード・モジュールの入り口点アドレスがゼロです。
- 0090** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
注意。ロードは継続されます。LOADFROM、SAVEMOD または DUMpload を実行できません。
- 00AB** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
ロードが実行されませんでした。ロード・サブタスクが異常終了しました。
- 00B0** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
MOSS エラーの可能性あります。ロード・モジュールまたはスイッチが保管されないことがあります。
- 00B4** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
MOSS エラー。スイッチが保管されません。
- 00B8** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
ロードの処理中です。
- 00BC** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
ディスクに重複ロード・モジュールがあります。
- 00C0** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
ディスク上に十分なスペースがありません。
- 00C4** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
ディスク・リソースが一時的に使用不能です。
- 00C8** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
RU 長エラー。
- 00CC** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
要求がオペレーターによって取り消されました。
- 00D0** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
高速ロードが実行されませんでした。順次ロードが開始されました。
- 00D4** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
コントローラーの論理装置ブロック (LUB) が正しくありません。

- 00D8** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
スケジュールされた IPL をキャンセルできません。実際にはスケジュールされていなかったからです。
- 00DC** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
この機能はサポートされません。
- 00E0** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
RU シーケンス・エラー。
- 00E4** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
MOSS ディスク上で、5 分以内に、別のロード・モジュールの IPL がスケジュールされています。
- 00F2** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
IPL 時刻がシステム時刻より早い。
- 00F6** 「ロード要求 (条件付き)」および「ロード要求 (無条件)」要求単位の場合:
通知時刻がシステム時刻より早い。
- 0A01** 管理サービス要求の実行中に、受信先のノードの DLC マネージャーによってエラーが検出されました。リンク接続状況は、実行前の状態から変更されていません。揮発性ストレージ・エラー。
- 0A02** 管理サービス要求の実行中に、受信先のノードの DLC マネージャーによってエラーが検出されました。リンク接続状況は、実行前の状態から変更されていません。不揮発性ストレージ・エラー。
- 0A03** 管理サービス要求の実行中に、受信先のノードの DLC マネージャーによってエラーが検出されました。リンク接続状況は、実行前の状態から変更されていません。リンク接続コンポーネント・インターフェース・エラー。
- 0A04** 管理サービス要求の実行中に、受信先のノードの DLC マネージャーによってエラーが検出されました。リンク接続状況は、実行前の状態から変更されていません。ソフトウェア未指定エラー状態。
- 0B01** 管理サービス要求の実行中に、受信先のノードの DLC マネージャーによってエラーが検出されました。リンク接続状況は、実行前の既存の状態から修正されました。揮発性ストレージ・エラー。
- 0B02** 管理サービス要求の実行中に、受信先のノードの DLC マネージャーによってエラーが検出されました。リンク接続状況は、実行前の既存の状態から修正されました。不揮発性ストレージ・エラー。
- 0B03** 管理サービス要求の実行中に、受信先のノードの DLC マネージャーによってエラーが検出されました。リンク接続状況は、実行前の既存の状態から修正されました。リンク接続コンポーネント・インターフェース・エラー。
- 0B04** 管理サービス要求の実行中に、受信先のノードの DLC マネージャーによってエラーが検出されました。リンク接続状況は、実行前の既存の状態から修正されました。ソフトウェア未指定エラー状態。

- 081D** 無効なネットワーク・アドレスまたは名前。要求中のノード、ステーション、または CP ID (ID) が無効です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 要求中のステーション ID または SSCP ID が無効です。
 - 0001** 要求中のネットワーク ID、LU 名のペアが無効です。
 - 0002** 要求中に無効なリソース名があります。
 - 0003** 要求中のネットワーク ID、SSCP 名のペアが無効です。
 - 0004** 重複した CP 名が見つかりました。このため、リンクのノードの片方または両方が非活動化されます。
- 081E** セッション参照エラー。その要求は、ハーフセッションを参照していましたが、そのセッションが見つからなかったか、予想していた状態ではありませんでした (通常ネットワーク・サービス要求に適用されます)。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
 - 0001** セッションが見つかりません。BFCLEANUP 中で識別されるセッションが見つかりませんでした。BFCLEANUP は拒否されます。
 - 0002** BFCINIT 中で識別されるセッションが見つかりませんでした。BFCINIT が拒否されます。
 - 0003** セッション・サービス要求を処理中に、セッションが見つかりませんでした。
 - 0004** セッション・サービス要求を処理中に適切なセッションが見つかりましたが、そのセッションは予想された状態にありません。
- 0820** 制御ベクトル・エラーです。制御ベクトルとして無効なデータが、宛先ネットワーク・アドレスおよびキーによって指定されました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
 - 0001** FRSE PVC 内部サブポート・セットを定義する SETCV 中に、サブポート・セットを定義する 1 次サブポート・パートナーの片方または両方が定義されていません。
 - 0002** FRSE PVC 内部のサブポート・セットを定義する SETCV 中で、指定エレメント・アドレスにサブポート・セット中のサブポートが定義されていません。または、サブポート・セット中で複数回定義されています。
 - 0003** SETCV 中に受信した FRSE PVC 内部サブポート・セットのエレメント・アドレスは、別のサブポート・セットとすでに関連していることがわかりました。
- 0821** セッション・パラメーターが無効です。BIND に含まれていたセッション・パラメーターが無効であるか、または活動化が求められたハーフセッションによってサポートされていません。セッション・パラメーターは、通常ログモード・テーブル項目から入手します。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。

- 0001 LU におけるモード名が無効です。指定されたモード名は LU によって認識されていません。
- 0002 CP でのモード名が無効です。指定されたモード名は CP によって認識されていません。
- 0003 1 次側ハーフセッションは暗号を必要としていますが、2 次側ハーフセッションは暗号をサポートしていません。
- 0004 2 次側ハーフセッションは暗号を必要としていますが、1 次側ハーフセッションは暗号をサポートしていません。
- 0005 選択的または必要暗号が指定されていますが、SLU 暗号データ・キーが提供されていません。
- 0006 BIND は拒否されました。理由は、この BIND は折衝不能であり、SSCP または境界機能 (BF) が処理できる範囲より大きい 1 次送信ペーシング・ウィンドウ・サイズが、ログオン・モード項目または PACING/VPACING パラメーターから判別されて、指定されているからです。
- 0007 指定されたモード名は、サブエリア・ネットワーク中で認識されませんでした。
- 000A 指定されたモード・テーブル名は受信側 CP には検出されません。
- 0822 リンク手順障害。リンク機器の障害、リンク・ステーションとの接触喪失、またはリンク・コマンドに対する無効な応答のために、リンク・レベル手順が失敗しました。拒否されている要求がその宛先に配送されているので、これはパス・エラーではありません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 コントローラーはロードされているが、ロード・モジュールを受信する準備ができていません。
- 0010 製品固有のセンス・コードです。
- 80nn nn は製品固有のものであり、SNA ではそれ以外には定義されません。
- 0823 制御ベクトルが不明です。ネットワーク・アドレスおよびキーによって指定された制御ベクトルは、受信先に認識されていません。
- 0824 作業論理単位の異常終了です。現行の作業単位が異常終了されました。同期点プロトコルが使用されている場合、両方の同期点マネージャーは以前にコミットされた同期点に戻ります。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000 LU 6.2 の場合、バックアウトが開始されました。トランザクション・プログラムまたはその LU がバックアウトを開始しました。配布されている作業論理単位に対する保護されているリソースは、以前にコミットされた同期点に戻ることになります。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 非 LU 6.2 の場合、特定コードは適用されません。
- 0825 コンポーネントは使用不能です。LU コンポーネント (FM ヘッダーによって示されている装置) は使用不能です。
- 0826 FM 機能はサポートされていません。受信先は FMD RU 中で要求された機能をサポートしていません。VTAM がセッション開始に関するこのセン

ス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。

- 0827** 断続的エラー - 再試行が要求されました。受信先で発生したエラーにより、RU が失われます。そのエラーは永続的でなく、RU (またはチェーン) の再試行が要求されています。
- 0828** 応答が許可されていません。要求は通常フロー応答を要求していますが、このハーフセッションに対するアウトバウンド・データ・フローが静止またはシャットダウンされ、遅延応答機能がありません。
- 0829** 方向転換が求められています。要求は通常フロー応答を要求していますが、その半二重フリップフロップ状態 (その要求の受信先の) は非送信であり、その要求が出されたときに方向転換 (CD) が設定されませんでした。このために、遅延応答機能がありません。
- 082A** 表示スペースが変更されました。半二重状態が非送信 (-S,*R) である間に、表示スペースがエンド・ユーザーによって変更されました。要求は実行されます。
- 082B** 表示スペース保全性が喪失しました。一時ハードウェア・エラーまたは SSCP が表示サービスを使えるようにするエンド・ユーザー処置などの一時的な条件のために、表示スペース保全性が失われました (例えば、消去または変更されました)。

注: センス・コード X'082A' および X'084A' の所で記述されているエンド・ユーザー処置は、ここでは除外されています。

- 082C** リソース共用限界に達しました。そのリソースが共用限界にあるときに、ハーフセッション、リンク、または手順を活動化させるようにという要求を、SSCP から受信しました。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 要求が無効です。指定されたリンク・ステーションはすでに CONTACT を受信しており、そのため別の SSCP の制御の下にあります。この CONTACT は共用限界 (=1) を超えます。
- 0002** 要求が無効です。指定された PU はすでに ACTPU を受信しており、それゆえ別の SSCP の制御の下にあります。この ACTPU は共用限界値 (=1) を超えます。
- 082D** LU が使用中です。その要求を処理するのに必要な LU リソースが使用中です。例えば、SSCP から受信した要求を処理するのに必要な LU リソースが、LU-LU セッションで使われています。
- 082E** LU 補助装置において、介入が必要です。用紙切れ、電源オフ、またはカバーの止め金が開いているなどの、介入を必要とする条件が補助装置で発生しています。
- 082F** LU 補助装置が原因で、要求が実行不能です。1 つ以上の受信先の補助装置で永続エラーが発生したために、要求された機能は実行できません。
- 0830** セッション関連の ID が見つかりません。受信先は、指定されたセッションのセッション関連の ID を見つけることができませんでした。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0001** 指定されたリソースに PCID が見つかりません。
- 0002** 指定されたセッションに LSID が見つかりません。

- 0831** LU コンポーネントが切り離されています。電源オフまたはその他の切断状態が発生しているために、LU コンポーネントが使用不能です。
- 0832** カウント・フィールドが無効です。要求に含まれているカウント・フィールドで示された値が長すぎるか短すぎて、受信先で解釈できないか、またはカウント・フィールドが残りのフィールドの長さとは矛盾しています。
- nnnn* バイト 2 および 3 は、無効な計数フィールドの最初のバイトを指し示す 2 進数の値 (ゼロが起点) を含んでいます。

注: BIND が名前の変換によって影響を受ける場合、BIND 中のフィールドの変位はセッションの両端で同じではないことがありますので (例えば BIND がゲートウェイを通過した後)、このセンス・コードは BIND エラーでは用いられません。BIND エラーの変位を指定するには、センス・コード X'0835' が用いられます。

- 0833** 無効なパラメーター (ポインターおよび完了バイト)。その要求の固定長または可変長フィールドに含まれている、1 つまたは複数のパラメーターが、無効またはその要求を受信した NAU によってサポートされていません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

nnmm バイト 2 は、無効なパラメーターの最初のバイトを指し示す (ゼロが起点) 2 進値を含んでいます。

バイト 3 は、無効なパラメーターを含んでいた最初のバイトの変形を含んでいます。1 つまたは複数の無効なパラメーターを構成しているビットは補数となり、その他のすべてのビットはコピーされます。

注: BIND が名前の変換によって影響を受ける場合、BIND 中のフィールドの変位はセッションの両端で同じではないことがありますので (例えば BIND がゲートウェイを通過した後)、このセンス・コードは BIND エラーでは用いられません。BIND エラーの変位を指定するには、センス・コード X'0835' が用いられます。

- 0834** RPO が開始されていません。指定したノードに 1 つまたは複数のほかの SSCP が接続していたため、あるいはそのノードで接続、ダンプ、IPL、または接続切り離し手続きが進行中であったため、そのノードの電源オフ手続きが開始されませんでした。
- 0835** パラメーターが無効です (ポインターのみ)。その要求は、内容が無効であるか、またはその要求を受け取った NAU によってサポートされていない、固定長または可変長フィールドを含んでいます。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

000A SLU 最大 RU サイズが正しくありません。

000B PLU 最大 RU サイズが正しくありません。

nnnn バイト 2 および 3 は、無効な内容を持っている固定長または可変長フィールドの最初のバイトを指し示す (ゼロが起点) 2 バイトの 2 進数値を含んでいます。

注: このセンス・コードは、MS 主ベクトル中で無効な値を報告するのには使われません。形式設定済みの MS サブベクトル中で無効な値が生じた場

合は、センス・コード X'086B' が用いられます。不定様式サブベクトル中で生じた場合は、センス・コード X'0870' が用いられます。

- 0836** PLU/SLU 仕様が一致しません。指定された LU-LU セッションでは、両方の LU は基本セッションのみ可能か、2 次セッションのみ可能です。これら 2 つの LU 間でセッションを確立することはできません。
- 0837** キュー限度を超過しています。LU-LU セッション開始要求 (INIT、CDINIT または INIT-OTHER-CD) で、(1) 開始またはキュー (開始が不可能な場合)、あるいは (2) キューのみを指定したため、OLU または DLU (あるいはその両方) のキュー限度を超過しました。
- 0838** リソースまたはコンポーネントの状態が矛盾しているため、要求を実行することができません。その要求は、受信先のリソースまたはコンポーネントの状態と矛盾しています。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 送信元は正しいデータを送りました。データは正しく解析されますが、そのデータが予想していたものではないため、受信先はそれを処理する正しい状態にありません。

例えば、フォーカル・ポイント機能において、入り口点は X'63' サブベクトルを送りますが、フォーカル・ポイントが X'64' サブベクトルではなく、誤って X'62' サブベクトルを送り返してきたとします。そうすると、受信先は X'62' サブベクトルを予期していなかったため、それを処理できません。

0001 要求変更制御 MS 主ベクトルまたは報告 FS アクション・コマンドが示す変更点は、除去不可能としてマーク付けされてインストールされていたため、削除また置換することができません。

0002 要求変更制御 MS 主ベクトルが示す 1 つまたは複数の変更点は、バックレベル状態であるため、その変更点をインストール、除去、受諾することはできません。

0003 要求変更制御 MS 主ベクトルが示す 1 つまたは複数の変更点は、すでに試行中とマーク付けされてインストールされているため、さらにそのようにインストールすることはできません。

0004 要求変更制御 MS 主ベクトルが示す 1 つまたは複数の変更点は、すでに除去可能プロダクション内とマーク付けされてインストールされているため、それを試行中またはプロダクション内とマーク付けてインストールすることはできません。しかし、望むときにそれらをインストールすることができます。

0005 要求変更制御 MS 主ベクトルが示す 1 つまたは複数の変更点は、すでにプロダクション内および除去不可能とマーク付けされてインストールされているため、それを試行中またはプロダクション内とマーク付けてインストールすることはできません。唯一可能なのは、禁止されているまたは望む (必要ではない) 除去可能を指定して「送信およびインストール」を使用し、データ・オブジェクト更新を実行することです。

0006 要求変更制御 MS 主ベクトルが指定する 1 つまたは複数の変更点は、除去不可能とマーク付けされてインストールされているため、除去または受諾することはできません。

- 0007** 要求変更制御 MS 主ベクトルが指定する 1 つまたは複数の変更点は、まだインストールされていないため、除去または受諾することはできません。
- 0008** 事前テストは、要求変更制御 MS が指定している 1 つまたは複数の変更点に対して適切ではありません。
- 000A** 自動除去は、要求変更制御 MS 主ベクトルが指定する 1 つまたは複数の変更点に対して適切ではありません。
- 000B** 事後テストは、要求変更制御 MS 主ベクトルが指定している 1 つまたは複数の変更点に対して適切ではありません。
- 000D** 要求変更制御 MS 主ベクトルが示す 1 つまたは複数の変更点は、このインストール要求で要求した相互に必要なセットとは異なるものを指定し、試行中とマーク付けされてインストールされているため、プロダクション内とマーク付けしてインストールすることはできません。
- 000E** 要求変更制御 MS 主ベクトルが指定する 1 つまたは複数の変更点は、試行中とマーク付けされインストールされているため、受諾することはできません。
- 000F** 要求変更制御 MS 主ベクトルまたは報告 FS アクション・コマンドが指定する 1 つまたは複数の変更点は、常に加えられたインスタンスを持っている必要のある重要なシステム・コンポーネントであるため、置換または削除することはできません。唯一可能なのは、禁止されているまたは望む (必要ではない) 除去可能を指定して「送信およびインストール」を使用し、データ・オブジェクト更新を実行することです。
- 0010** 変更処理系定義の限界数を越えたため、要求変更制御 MS 主ベクトルまたは報告 FS アクション・コマンドが指定する 1 つまたは複数の変更点を記憶またはインストールすることはできません。
- 0011** 要求変更制御 MS 主ベクトルまたは報告 FS アクション・コマンドが指定する 1 つまたは複数の変更点は、ほかの変更点の除去可能を維持するのに必要であるため、削除または置換することはできません。それらの変更点は、バックアップ状態またはプロダクション内とマーク付けされインストールされている可能性があります。
- 0012** 要求変更制御 MS 主ベクトルが指定する 1 つまたは複数の相互に必要な変更点は、失われているか、要求と適合しない状態にあります。
- 0013** 要求変更制御 MS 主ベクトルまたは報告 FS アクション・コマンドが示す変更点は、プロダクション内および除去不可能とマーク付けされてインストールされており、ほかの変更点がこの操作にインストールされていないため、置換することはできません。
- 0014** 除去可能使用サブフィールド、自動除去使用サブフィールド、自動受諾使用サブフィールド、活動化使用サブフィールドの値の禁止された組み合わせが指定されたため、要求変更制御 MS 主ベクトルが指定する 1 つまたは複数の変更点はインストールされません。
- 0015** すでにインストールされている 1 つまたは複数の変更点が、これらの変更により変更される 1 つまたは複数のコンポーネントに対して除去可能であるため、要求変更制御 MS 主ベクトルが指定する 1 つまたは複数の変更点をインストールすることはできません。
- 0016** 要求変更制御 MS 主ベクトルまたは報告 FS アクション・コマンド

が指定する 1 つまたは複数の変更点は除去可能インストールに必要であるため、さらに除去可能性が必要であるため、それらの変更点を置換することはできません。

0039 キューイングはサポートされません。

003A 要求された機能は完了できません。理由は、指定した隣接ノードの CP 機能 GDS 変数が、補足機能のサポートを指示していないからです。

0839 LU-LU セッションが取り除かれている最中または LU が非活動化されている最中。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 セッション開始処理中に、セッション打ち切り要求によって LU-LU セッションが取り除かれました。

0002 セッション非活動化処理中に、セッションに対する RNAA (タイプ 3) を受信しました。RNAA を再試行しなければなりません。

0003 SSCP は、このセッションがもはや存在してはならないことを検出し、打ち切りを要求しました。すでにクロスドメイン・リソースに所属していると SSCP が解釈していたサブジェクト LU アドレスを報告する BFSESSINFO が受信された場合などです。

083A LU が使用不能です。LU-LU セッション開始要求が SSCP で受信されたときに、2 つの LU の少なくとも一方が、SSCP とのアクティブ・セッションを待っているのに、CINIT または BIND 要求を受諾する準備ができていません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 PLU は使用不能です。

0002 SLU は使用不能です。

083B PCID が無効です。新しいセッションに対して受信された PCID が、別のセッションに割り当てられた PCID と重複しているか、または既存のセッションに対する ID として意図された受信済み PCID が、そのような既存のセッションと関連付けることができませんでした。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 CDINIT (開始またはキューイング) INIT-OTHER-CD、または CDTAKED の PCID は、以前にこれらの要求のどれかから受信した PCID と重複しています。VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接する SSCP テーブルを探索し続けます。

0002 受信済みの、完全な形で修飾された PCID が、他のセッションに割り当てられている PCID を重複していました。

083C ドメイン除去が競合します。CDTAKED への応答を待っている際に、SSCP-SSCP 1 次ハーフセッションを含んでいる SSCP によって、

- CDTAKED 要求が受信されます。1 次側ハーフセッションによって送信された CDTAKED に優先度を与えることによって、競合が解決されます。
- 083D** デキュー再試行が失敗しました - キューから除去されます。SSCP は正常に CDINIT (デキュー) 要求 (これは「デキュー再試行が失敗したときにキューを離れる」ように指定するものです) を受諾できないため、以前にキューに入れた CDINIT 要求をデキューして処理できず (例えば、そのドメイン中にある LU が、指定されたセッションに対して依然として使用不能であるので)、キューに入れられた CDINIT 要求をキューから除去します。
- 083E** セッション・キー 08 が必要です。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0004** 競合勝者 CP-CP セッション活動化試行で処理系定義限界を超えました。
- 083F** 打ち切り競合です。CDTERM への応答を待っている間に、SLU の SSCP から CDTERM を受信しました。SLU の SSCP から送られた CDTERM に対して優先度を与えることによって、競合が解決されます。
- 0840** リソースに対して無効な手順です。指定された RU は、このタイプのリソースの受信先ではサポートされません。(例えば、(1)SETCV はタイプ 1 ノードについて境界機能を指定しましたが、その機能は受信ノードによってはサポートされません。または (2)EXECTEST または TESTMODE を受信する NCP PU は、ターゲット・リンクに対しては基本 NCP PU ではありません)。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** サロゲート・セッションの設定に失敗しました。
- 0003** リンクが無効です。PU が追加されるリンクは、SNA リンクではありません。SNA リンクのみがサポートされます。
- 0004** リンクが無効です。非交換回線リンクに対してのみ許可されている要求を、受信先に対して交換であると定義されているリンクが受信しました。
- 0005** リソースは動的に追加されていません。この要求は動的再構成によって追加されたリソースに関してのみ作用します。
- 0007** リソースが検出されません。DELETE または FIND の条件を満たせませんでした。理由は、指定した項目が受信側登録簿に存在していません。
- 0008** 登録簿項目は削除できません。ネットワーク・ノードは、削除項目条件を持つ DELETE を受信しましたが、これはその項目がリーフ (葉) であるときのみ削除できることを意味しています。その項目はリーフ (葉) ではありません。そのため、DELETE は拒否されます。
- 0009** RNAA (移動) が、動的再構成によって追加されたリソースを受け取りました。このようなリソースは、RNAA (移動) によっては移動できません。
- 000A** リソースに対して手順が無効です。独立 LU をサポートしている PN が、独立 LU を持つセッションをサポートしていない境界機能にダイヤルインしました。SSCP は独立 LU を活動化できません。

- 000B** REGISTER 要求は、固有の登録簿項目が必要とされていることを指定しています (例えば、REGISTER は LU 用です) が、登録簿データベース中に重複があります。
- 0010** 非交換リソースに対して、制御ベクトル X'43' を持つ SETCV が受信されました。
- 0011** 動的に追加されたまたは切り替えられたリソースが、また活動化されていません。
- 0012** 基本リンク・ステーションのみにみ許されている要求が受信されました。その要求はサービス・リンクを使用する必要があります。そのリンクは、2 次として定義されます。
- 0015** このセンス・データの値は、APPN セッション経路を 2 つの部分 (2 つの RSCV) に分けて計算する必要がある場合に生成されるもので、この 2 つの RSCV は、1 つの共通ノードを識別するように決められています。すなわち、セッション経路は特定のノードを 2 回通ることになります。
- 0016** このセンス・データの値は、RSCV が、OLU または DLU がサブエリア・ネットワーク内にあったと考えられ、かつ DLU の位置が誤りと判別 (RSCV により) されるために、事前計算されるときに生成されます。例えば、RSCV で、DLU は APPN ネットワーク中にあると示しているが、実は DLU はサブエリア・ネットワークにある、またはその逆の場合などです。
- 0841** ネットワーク・アドレスが重複しています。LU-LU セッション開始要求で、指定された LU の 1 つがすでに使用されているネットワーク・アドレスと重複しています。このエラーは、CDRM および NCP にあるゲートウェイ NAU サブエリア/エレメント定義の値が不一致の場合に起こります。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** DLU の SSCP は、CDINIT 要求中に指定された OLU ネットワーク・アドレスが、異なった LU 名に割り当てられた LU ネットワーク・アドレスと重複していることを判別しています。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0001** セッション開始中に、重複した SLU アドレスが見つかりました。
- 0002** セッション開始中に、重複した PLU アドレスが見つかりました。
- 0003** SSCP は、ゲートウェイの OLU 側の DLU のネットワーク・アドレスが重複していることを検出しました。
- 0004** SSCP は、ゲートウェイの DLU 側の DLU のネットワーク・アドレスが重複していることを検出しました。
- 0005** SSCP は、ゲートウェイの OLU 側の OLU のネットワーク・アドレスが重複していることを検出しました。
- 0006** SSCP は、ゲートウェイの DLU 側の OLU のネットワーク・アドレスが重複していることを検出しました。
- 0008** すでに使用中のネットワーク・アドレスを含んでいる ACTCDRM 要求が受信されました。
- 0842** セッションは活動状態にありません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** タイプ 2.1 CP 間のセッションが活動状態ではありません。
- 0002** セッション開始要求の場合、DLU の方向に SSCP のある SSCP-SSCP セッションを、SSCP が持っていません。
- 0003** セッション開始要求の場合、OLU の方向に SSCP のある SSCP-SSCP セッションを、SSCP が持っていません。
- 0004** 中間 SSCP が、LU-LU セッション用のセッション・セットアップ・パス中の SSCP との接続性を失いました。このセンス・データは、SSCP が 1 つまたは複数参加しているゲートウェイ・ノードとの接続性を以前に失ったために、ゲートウェイ・ノードから NOTIFY RU を受信することによって LU-LU セッションが終了したことを知ることができない場合に使用されます。
- FFFF** ログオン代行受信。
- 0843** 必要な同期が提供されていません。例えば、2 次 LU (LU タイプ 2 または 3) が RQE および -CD と共に Write Control Code = Start Print が指定された要求を受信しました。
- 0844** 開始デキューが競合しています。CDINIT (デキュー) への応答を待っているときに、SLU の SSCP が CDINIT(デキュー) を受信しました。競合は、SLU の SSCP によって送られた CDINIT(デキュー) に優先度を与えることによって解決されます。
- 0845** 許可が拒否されました - SSCP に通知されます。受信先は送信元の暗黙または明示の要求を否定しました。BIND への応答として送信される際には、BIND を受け入れることが可能で、さらに SLU の SSCP がその通知をサポートする場合は、2 次 LU が SSCP に通知する (NOTIFY ベクトル・キー X'0C' を用いて) ことを意味します。(逆の応答については、X'080A' センス・コードを参照してください)。
- 0846** ERP メッセージが後で出されます。受信された要求は、後で出される要求中に指定された理由のために、拒否されました。
- 0847** 再始動不一致です。2 次側ハーフセッションが再同期再始動を実行しようとしていることを示すために、STSN、SDT、または BIND への応答で送信されましたが、受信された情報が不十分であるか、正しくありません。
- 0848** 暗号機能が操作不能です。要求の受信先が、暗号機能の誤作動のためにその要求を解読できませんでした。
- 0849** システム生成不一致。
- 084A** 表示スペースが変更されました。半二重状態が非送信 (-S,*R) である間に、表示スペースがエンド・ユーザーによって変更されました。要求は実行されません。
- 084B** 要求されたリソースが使用不能です。その要求中に指定され、その要求を引き受けるのに必要なリソースが、現在使用不能です。そのリソースがいつ使用可能になるかは分かりません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** BIND のキューイングはサポートされていません。再試行してください。SLU は使用不能で、UNBIND の送信元は PLU によって要求された BIND のキューイングをサポートしていません。

- 0002** 要求されたリソースは使用不能です。動的再構成 MOVE、ADD または ADDLINK 操作の場合、要求されたローカル・アドレスはすでに活動リソースに割り当てられています。MOVE PU の場合、これは DLC アドレスです。MOVE LU の場合、これは LU ローカル・アドレスです。
- 0003** 要求中に指定されたアプリケーション・トランザクション・プログラムは使用不能です。
- 0004** セッション・リソースが使用不能です。RNAA の受信側は、LU 特性割り当て (X'30') 制御ベクトルに指定された予約セッション・リソースに対する要求を満たすことができません。
- 0005** コントローラー・リソースが使用不能です。
- 0009** サブネットワーク間の位置付けが失敗しました。理由は、サブネットワーク間のホップ回数が制限を超えたからです。最大サブネットワーク間ホップ・カウント・フィールドの値からは、経路に沿って境界ノードにより処理される時に、1 を超える数値が引かれます。
- 6002** 宛先プログラム名 (DPN) によって識別されるリソースはサポートされていません。
- 6003** 基本リソース名 (PRN) によって識別されるリソースはサポートされていません。
- 6031** トランザクション・プログラムが使用不能です - 再試行が可能です。FMH-5 接続コマンドが、受信先の始動できないトランザクション・プログラムを指定しています。そのプログラムの実行が許可されていないか、またはそれを実行するリソースがこの時点で使用不能です。この条件は一時的なものです。送信元が、その後の再試行を行う責任を持っています。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 084C** 永続的なリソース不足です。その要求を受諾するのに必要なリソースが永続的に使用不能なので、受信先はその要求にしたがって処理することができません。状況は一時的なものではないので、送信元は直ちに再試行をすべきではありません。このエラーは、MAXBFRU がコーディングの誤りのために、読み取られなかった場合、またはプログラムされていない場合のどちらかで起こります。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** LU 6.2 の場合、トランザクション・プログラムが使用不能です - 再試行は行われません。FMH-5 接続コマンドが、受信先の始動できないトランザクション・プログラムを指定しています。この条件は一時的なものではありません。送信元は直ちに再試行すべきではありません。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 非 LU 6.2 の場合、補足情報は指定されません。
- 0001** 要求は処理されません。ACTLINK 要求の処理、およびバッファ読み取りは許可されません。ACTLINK 要求は処理されません。
- 0002** 割り振りの作成で利害が発生しました。割り振り時にストレージが十分でなかったため、受信先は指定されたデータ・オブジェクトを作成することができません。
- 0003** 割り振りの置き換えで例外が発生しました。割り振り時にストレージ

- ジが十分でなかったため、受信先は指定されたデータ・オブジェクトを置き換えることができません。
- 0006** データ・オブジェクト記憶で例外が発生しました。記憶処理の際、ストレージが十分でなかったため、受信先は指定されたデータ・オブジェクトを記憶することができません。
- 0007** データ・オブジェクト分類コードがサポートされていません。受信先は、指定されたデータ・オブジェクト分類コードの割り振り必要要件を満たしていません。
- 0008** ボリュームが取り付けられていません。必要なボリュームが取り付けられていないため、受信先は要求された割り振り/記憶操作を実行することができません。
- hnnn** ここで $h \geq 8$ 、すなわちバイト 2 の高位ビットは 1 に設定されます。バイト 2 および 3 の下位 15 ビットは、エラーとわかったフィールドの最初のバイトを指し示す (ゼロが起点) 2 進カウントを含んでいます。
- 084D** セッション・パラメーター - BF が無効です。セッション・パラメーターが無効であるか、境界機能によって受け入れられません。
- 084E** セッション・パラメーター - PRI が無効です。活動化要求 (例えば BIND) に対する肯定応答が受信されましたが、その応答中に含まれていたセッション・パラメーターが無効だったので、否定応答に変えられました。その応答を受信したサービス・マネージャーが、対応するセッションに対して活動化要求を送ります。このエラーは、NETID が CDRM 定義の NETWORK ステートメントで誤ってコーディングされている場合に発生することがあります。詳細については、「VTAM Resource Definition Reference」を参照してください。
- 084F** リソースが使用不能です。要求されたリソースを使用して、与えられた要求を実行できません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** ディスクに空がありません。そのために、ロード・モジュールを記憶できません。
- 0002** セキュリティー・コンポーネントが使用不能です。
- 0850** リンク・レベル操作が実行できません。システム定義またはハードウェア構成の現在の状態が原因で、アドレス指定されたリンク・ステーションを介して IPL、ダンプ、またはリモート電源オフ (RPO) を実行することができません。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** リンク活動化限界に達しました。指定した TG は活動化されませんでした。理由は、このポートに許された活動リンク・ステーションの最大数にすでに達しているからです。
- 0851** セッションが使用中です。このセッション上で要求されている機能を完了するために必要な別のセッションが、一時的に使用不能です。
- 0852** セッション活動化要求が重複しています。関連した ID を持つ 2 つのセッション活動化要求が受信されています。ID と結果の処置の関係は、要求の内容により異なります。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 セッションが活動化処理の最中であるときに、周辺ノード PLU から 2 次 BIND が受信されました。
- 0002 同一 PU についてすでに ACTPU を送信した SSCP が、REQACTPU を受信しました。
- 0853 TERMINATE (終結処置) が要求されました。使用不能なクロスドメイン SSCP-SSCP サービスを要求しているため、SSCP は終了要求を処理できません。(対応する SSCP-SSCP セッションは活動状態にありません)。TERMINATE(終結処置) が必要です。
- 0856 SSCP-SSCP セッションが失われました。SSCP(ILU)-SSCP(OLU) セッションが失われたので、LU-LU セッションの活動化は保証できないことを示すために、ILU に送られた NOTIFY (第三者通知ベクトル X'03') または -RSP(INIT_OTHER) 中のセンス・データ・フィールドで運ばれます。(LU-LU セッション活動化が完了できないことがわかっているときには、別のセンス・コード X'0842' が使用されます)。
- 0857 SSCP-LU セッションは活動状態にありません。要求の処理に必要な SSCP-LU が活動状態にありません。例えば REQECHO を処理する際に、SSCP が REQECHO RU 中に名前の挙げられたターゲット LU との間でアクティブ・セッションを持っていません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 SSCP-SLU セッションが再活動化処理の最中です。
- 0002 SSCP-PLU セッションが活動状態にありません。
- 0003 SSCP-SLU セッションが活動状態にありません。
- 0004 SSCP-PLU セッションが再活動化処理の最中です。
- 0005 LU-LU セッションが開始された後に、SSCP は PLU との接続性を失い、そのセッションが終了したことを知るための方法が他にありません。SSCP は LU-LU セッション・パスでのゲートウェイ・ノードとセッションを持ったことがないか、そのノードへの接続性を以前に失ったかのいずれかです。
- 0006 LU-LU セッションが開始された後に、SSCP は SLU との接続性を失い、そのセッションが終了したことを知るための方法が他にありません。SSCP は LU-LU セッション・パスでのゲートウェイ・ノードとセッションを持ったことがないか、そのノードへの接続性を以前に失ったかのいずれかです。
- 0007 OLU に関して選択された ALS は、LU-LU セッションを設定することを許可されていません。この条件は、セッション要求 (BFINIT) が受信されたときに検出されます。しかし、要求が処理されたとき、ALS はもはや活動状態ではありませんでした。セッション要求は拒否されます。
- 0008 DLU に関して選択された ALS は、LU-LU セッションを設定することを許可されていません。この条件は、セッション要求が DLU ドメインで処理され、かつ DLU に関して選択した ALS がすでに活動状態ではない場合に検出されます。セッション要求は拒否されます。

- 0858** SSCP-SSCP セッションの活動化が拒否されました。
0000 該当する特定コードがありません。
0001 SSCP は、オペレーター開始の非介入非活動化要求のため打ち切られたセッションを再始動しようと試みる ACTCDRM を受信しましたが、それを拒否しました。
- 0859** REQECHO データ長エラーです。エコーされるように指定されたデータの長さ (REQECHO 中で) が、その宛先 LU の最大 RU サイズの限度に違反します。
- 085A** 特定サーバー例外です。データ・オブジェクト内容に関係する、体系的に定義されたサーバーまたはユーザー定義のサーバーが例外を検出しました。
- 085B** リソース名が不明です。要求された作業単位を完了するのに必要な識別されたリソースは、SNA ノードに対して知られていません。
 センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
0000 該当する特定コードがありません。
0001 サーバー名は知られていません。この SNA 報告コードが SNA 状態報告に使用されている場合、それにはサーバー名を含む補足報告が伴います。
0002 エージェントは知られていません。
- 085C** システム例外です。ノードは、常駐のシステムまたはサブシステム内で SNA コンポーネントによる次の処理を禁止する例外条件となりました。
 センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
0000 該当する特定コードがありません。
0001 例外は、システムが関係する問題であると識別できます。
0002 例外は、システムが関係する永続問題であると識別できます。
- 085D** MU_id が MU_id 登録で受け入れられませんでした。
 センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
0000 該当する特定コードがありません。
0001 MU_id が重複しています。この SNA 報告コードが SNA_Condition_Report に使用されている場合、受信先の MU_id 登録に関する情報を識別する 3 つの補足レポートが付随します。補足レポート 1 には、受信先が受諾する最下位の MU_id が入っています。補足レポート 2 には、受信先が受諾する最上位の MU_id が入っています。補足レポート 3 には、受信先の MU_id 登録のタイム・スタンプが入っています。
0002 MU_id の値が予期していた値よりも大きいです。この SNA 報告コードが SNA_Condition_Report に使用されている場合、受信先の MU_id 登録に関する情報を識別する 3 つの補足レポートが付随します。補足レポート 1 には、受信先が受諾する最下位の MU_id が入っています。補足レポート 2 には、受信先が受諾する最上位の MU_id が入っています。補足レポート 3 には、受信先の MU_id 登録のタイム・スタンプが入っています。
0003 一時的な状態のため、MU_id を受諾することができません。
0004 永続的な状態のため、MU_id を受諾することができません。
0005 MU_id 登録が初期設定されていません。

085E オペレーター介入。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 オペレーターは、メッセージ単位の送信を中断しました。

0002 オペレーターは、メッセージ単位を除去しました。

0860 機能がサポートされていません - セッションは継続されます。要求された機能はサポートされていません。その機能は、要求コードまたはその他のフィールド、制御文字、または RU 中の図形文字によって指定されたことが考えられます。

nnnn バイト 2 および 3 は、エラーが検出された最初のバイトを指し示す (ゼロが起点) 2 バイトの 2 進数値を含んでいます。このセンス・コードは、エラーを無視してセッションを継続するように要求するために、使用されます。

0861 COS 名が無効です。ILU によって指定されたか、またはモード・テーブルからの SLU の SSCP によって生成されたサービス・クラス (COS) 名が、PLU の SSCP によって使用される『COS 名対 VR ID リスト』テーブル中に入っていません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 COS 名が SSCP によって生成されました。

0001 COS 名が ILU によって生成されました。

0002 ILU に対してローカルのタイプ 2.1 CP または ILU に対するタイプ 2.1 NNCP サーバーによって生成された COS 名が、COS 名定義テーブルに含まれていません。

0003 CDINIT 要求または応答が、適切に指定されていないサービス・クラス (COS) 名フィールドを持つセッション開始制御ベクトルを含んでいます。その COS 名に関連した仮想経路リストが見つかりません。

0862 メディア表示スペースをリカバリーします。現行の表示スペース上でエラーが起きました。リカバリーを実行すると、現行の表示スペースの先頭から再始動されます。戻されたシーケンス番号は RU のもので、実際に現行の表示スペースの先頭のもので。

nnnn センス・コードに続くバイト 2 および 3 には、RU の先頭から現行の表示スペースの先頭に表示されている RU 最初のバイトのバイト・オフセットが含まれています。

0863 参照されたローカル文字セット ID (LCID) が見つかりません。参照された文字セットが存在していません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

hmmn ここで $h \geq 8$ 、すなわちバイト 2 の高位ビットは 1 に設定されます。バイト 2 および 3 の下位 15 ビットは、エラーであることが見つかったフィールドの最初のバイトを指し示す (ゼロが起点) 2 進数の値を含んでいます。

0864 機能の異常終了です。会話が異常終了しました。再び実行した場合、再び打ち切られます。要求の送信元は、このようなループを検出できなければなりません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 LU 6.2 の場合、会話の時期尚早終了です。会話が異常終了しました。例えば、トランザクション・プログラムが DEALLOCATE_ABEND verb を出したか、またはプログラムが会話を明示的に打ち切らせないで終了 (正常または異常) したことが考えられます。このセンス・データは FMH-7 または UNBIND でのみ送信されます。

LU 6.2 半二重会話では、このセンス・データは FMH-7 でのみ送信されるか、または UNBIND で指示されます。

LU 6.2 全二重会話では、応答すべきチェーンがある場合は、このセンス・データは FMH-7 に先行する否定応答の中で送信されます。否定応答中のセンス・データは、ERP メッセージを出すトランザクション・プログラムに対して予告 (エラー戻りコード) を出します。このエラーについては、ERP メッセージには、否定応答に使用したセンス・データ値と同じ値が含まれます。

非 LU 6.2 の場合、補足情報は指定されません。

0001 システム論理エラーです。再試行は行われません。システム論理エラーが検出されました。会話の再試行を試みないでください。このセンス・データは FMH-7 または UNBIND でのみ送信されます。

LU 6.2 半二重会話では、このセンス・データは FMH-7 でのみ送信されるか、または UNBIND で指示されます。

LU 6.2 全二重会話では、応答すべきチェーンがある場合は、このセンス・データは FMH-7 に先行する否定応答の中で送信されます。否定応答中のセンス・データは、ERP メッセージを出すトランザクション・プログラムに対して予告 (エラー戻りコード) を出します。このエラーについては、ERP メッセージには、否定応答に使用したセンス・データ値と同じ値が含まれます。

0002 経過時間が長すぎます。再試行は行われません。必要な処置またはイベントを待っている間に、経過時間が超過しました。例えば、トランザクション・プログラムが会話に関連したプロトコル境界 verb を出すことに失敗した場合などです。会話の再試行を試みないでください。応答すべきチェーンがないときに、このセンス・データは UNBIND で送られます。そうでない場合、FMH-7 で送られます。

LU 6.2 半二重会話では、応答すべきチェーンがない場合は、このセンス・データは UNBIND で送信されます。それ以外の場合は FMH-7 で送られます。

LU 6.2 全二重会話の場合、このセンス・データは FMH-7 に先行する否定応答で送信されます。否定応答中のセンス・データは、ERP メッセージを出すトランザクション・プログラムに対して予告

(エラー戻りコード) を出します。このエラーについては、ERP メッセージには、否定応答に使用したセンス・データ値と同じ値が含まれます。

0003 割り振りエラー・メッセージが近く出されます。受信接続要求でエラーが検出されました。この結果、接続が拒否されます。拒否の理由を示すセンス・データ値は、この後に起こる FMH-7 に指定されます。

このセンス・データは、LU 6.2 全二重会話に関する割り振りエラー FMH-7 に先行する否定応答の中で送信されます。否定応答は、ERP メッセージがこれから出されるトランザクション・プログラムに対する予告 (エラー戻りコード) です。

注: センス・データに後続する句は、記号化された戻りコードで、センス・データを含む否定応答が LU に受信された場合に、全二重トランザクション・プログラムに対して出されるものです。(全二重動詞および関連する戻りコードについては、*SNA Transaction Programmer's Reference for LU 6.2* を参照してください。)

センス・
データ 戻りコード

08640000

ERROR_INDICATION (サブコード
DEALLOCATE_ABEND_PROG と共に使用)

08640001

ERROR_INDICATION (サブコード
DEALLOCATE_ABEND_SVC と共に使用)

08640002

ERROR_INDICATION (サブコード
DEALLOCATE_ABEND_TIMER と共に使用)

08640003

ERROR_INDICATION (サブコード
ALLOCATION_ERROR と共に使用)

0867 同期イベント応答です。(RQE,CD) 同期化要求に対する、必要な否定応答を示します。

0868 パネルがロードされません。そのディスプレイに対してパネルがロードされていないので、参照された形式が見つかりませんでした。

0869 パネルがロードされていません。そのディスプレイに対して参照パネルがロードされていません。

086A サブフィールド・キーが無効です。MS サブベクトル中のサブフィールド・キーが、いくつかの条件下で無効であったために処理できませんでした。

nnmm センス・コードに続くバイト 2 には、認識されなかったサブフィールドを含むサブベクトルのサブベクトル・キー (nn) が含まれており、バイト 3 には識別されなかったサブフィールド・キー (mm) が含まれています。

086B サブフィールド値が無効です。MS 主ベクトル中のサブフィールドの値が、その受信先で無効です。

nnmm センス・コードに続くバイト 2 には、無効な値を持ったサブフィールドを含むサブベクトルのサブベクトル・キー (nn) が含まれてお

り、バイト 3 には無効な値を持つサブフィールドのサブフィールド・キー (*mm*) が含まれています。

注: 不定様式サブベクトル、すなわちキーや長さのサブフィールドを持たないもの、または部分的に形式設定されたサブベクトルの不定様式部分の中で無効な値が生じた場合には、センス・コード X'0870' を参照してください。

086C 必要な制御ベクトルとサブベクトルが欠落しています。受信先がある機能を実行するのに必要とされる 1 つまたはそれ以上の制御ベクトルまたは MS サブベクトルが、受信されたサブベクトルのリストから欠落しているか、または所定の位置に存在していません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

nn00 センス・コードに続くバイト 2 には欠落している、または位置が誤っている制御ベクトルあるいはサブベクトルのいずれかのキー (*nn*) が含まれています。バイト 3 は予約されています (00)。

注: 主ベクトル・キーが認識されていても、実行される機能を表すサブベクトルを識別できない場合には、X'080C0006' センス・データを参照してください。

0400 サブベクトル X'04' が先頭になっていません。

0800 宛先接頭部報告 (X'08') サブベクトルがありません。

0900 宛先位置報告 (X'09') サブベクトルがありません。

0B00 宛先接尾部報告 (X'0B') サブベクトルがありません。

2100 必要なフォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルがありません。すでに X'61'、X'63'、または X'E1' サブベクトルが見つかっています。

4400 TDU 中の 2 番目の CV が CV44 ではなかった。

4600 CV46 が存在しない。

7D00 報告コード (X'7D') サブベクトルがありません。

8000 TDU 中の最初の CV が GVC280 ではなかった。

8100 起点ロケーション名 (X'81') サブベクトルがありません。

8200 宛先ロケーション名 (X'82') サブベクトルがありません。

9000 フラグ (X'90') サブベクトルがありません。

086D 必要なサブフィールドが欠落しています。要求された機能を実行するのに受信先が必要とする 1 つまたはそれ以上のサブフィールド・キーが制御ベクトルまたは MS サブベクトルから欠落しています。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

nnmm

センス・コードに続くバイト 2 には、必要なサブフィールドを欠いているサブベクトルまたは制御ベクトルのバイト・キー (*nn*) が含まれており、バイト 3 には欠落しているサブフィールドのサブフィールド・キー (*mm*) が含まれています。

0901 宛先位置報告 (X'09') サブベクトルの NETID (X'01') サブフィールドが存在しません。

0902 宛先位置報告 (X'09') サブベクトルの NAU (X'02') サブフィールドが存在しません。

- 2101 フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルから MS_category サブフィールド (X'01') が欠落しています。
- 2102 フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルからフラグ・サブフィールド (X'02') が欠落しています。
- 2110 フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルから FP Netid サブフィールド (X'10') が欠落しています。
- 2111 フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルから FP NAU 名サブフィールド (X'11') が欠落しています。
- 2112 フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルから FP アプリケーション・プログラム名サブフィールド (X'12') が欠落しています。
- 2120 フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルにおいて、バックアップ FP NAU 名 (X'21') サブフィールドまたはバックアップ FP アプリケーション・プログラム名 (X'22') サブフィールドのいずれかが検出されたのに、バックアップ FP Netid サブフィールド (X'20') が欠落しています。
- 2121 フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルにおいて、バックアップ FP Netid (X'20') サブフィールドは存在するのに、バックアップ FP NAU 名サブフィールド (X'21') が欠落しています。
- 2122 フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルにおいて、バックアップ FP Netid (X'20') サブフィールドおよびバックアップ FP NAU 名 (X'21') サブフィールドは存在するのに、バックアップ FP アプリケーション・プログラム (X'22') サブフィールドが欠落しています。
- 4580 ノード特性 (X'45') 制御ベクトルからノード・タイプおよび状況サブフィールド (X'80') が欠落しています。
- 4680 TG 記述子 (X'46') 制御ベクトルから TG ID サブフィールド (X'80') が欠落しています。
- 6240 フォーカル・ポイント許可応答 (X'62') サブベクトルにおいて、許可要求拒否 (X'20') サブフィールドまたは許可取り消し (X'30') サブフィールドに必要なときに、現行 FP CP 名サブフィールド (X'40') が欠落しています。
- 6241 フォーカル・ポイント許可応答 (X'62') サブベクトルにおいて、許可要求拒否 (X'20') サブフィールドまたは許可取り消し (X'30') サブフィールドに必要なときに、現行 FP アプリケーション・プログラム・サブフィールド (X'41') が欠落しています。
- 8101 起点ロケーション名 (X'81') サブベクトルの NETID (X'01') サブフィールドが存在しません。
- 8102 起点ロケーション名 (X'81') サブベクトルの NAU 名 (X'02') サブフィールドが存在しません。
- 8103 起点ロケーション名 (X'81') サブベクトルの MS アプリケーション・プログラム名 (X'03') サブフィールドが存在しません。
- 8201 宛先ロケーション名 (X'82') サブベクトルの NETID (X'01') サブフィールドが存在しません。
- 8202 宛先ロケーション名 (X'82') サブベクトルの NAU 名 (X'02') サブフィールドが存在しません。
- 8203 宛先ロケーション名 (X'82') サブベクトルの MS アプリケーション・プログラム名 (X'03') サブフィールドが存在しません。

- 086E** サブベクトルの組み合わせが無効です。それ自身では許可されている 2 つまたはそれ以上のサブベクトルが、許可されていない組み合わせで存在しています。
- nnmm** センス・コードに続くバイト 2 および 3 には、組み合わせて存在してはならない 2 つのサブベクトルのサブベクトル・キー (*nn*) と (*mm*) が含まれています。
- 086F** 長さが正しくありません。MS 主ベクトル中の長さフィールドが無効であるか、2 つまたはそれ以上の長さフィールドが矛盾しています。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** MS 主ベクトル長が、RU 長と矛盾しています。
- 0002** MS サブベクトル長の合計が、MS 主ベクトル長と矛盾します。
- 0007** MDS_MU の長さフィールドが組み込み GDS 変数の長さの合計と矛盾しているか、組み込み構造 (または GDS 変数) 内で無効な長さが見つかりました。
- 0008** CP-MSU の長さフィールドが組み込み構造の長さの合計と矛盾します。
- 2103** フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルのサブフィールド長の合計が、サブベクトルの長さとは一致していません。
- 2106** フォーカル・ポイント識別 (X'21') サブベクトルの 1 つまたは複数のサブフィールドの、長さフィールドが無効です。
- 8103** 起点ロケーション名 (X'81') サブベクトルのサブフィールド長の合計が、サブベクトルの長さとは一致していません。
- MDS ルーティング情報 (X'1311') GDS 変数の起点ロケーション名 (X'81') サブベクトルに、無効なサブフィールド長が含まれています。(これは、サブフィールド長の合計が、サブベクトル長と矛盾していないときのみ指定されます)。
- 8203** 宛先名 (X'82') サブベクトルのサブフィールド長の合計が、サブベクトルの長さとは一致していません。
- 8206** MDS ルーティング情報 (X'1311') GDS 変数の宛先ロケーション名 (X'82') サブベクトルに、無効なサブフィールド長が含まれています。(これは、サブフィールド長の合計が、サブベクトル長と矛盾していないときのみ指定されます)。
- 9005** MDS ルーティング情報 (X'1311') GDS 変数において、フラグ (X'90') サブベクトル長が無効です。(長さは 5 ではありません)。
- nn03** MS サブフィールド長のサブフィールド中の合計が、サブベクトル長と矛盾します。センス・コードに続くバイト 2 が、サブベクトル・キー (*nn*) を含んでいます。
- nn05** MS サブベクトル長が無効です。センス・コードに続くバイト 2 には、関連するサブベクトル・キー (*nn*) が含まれています (これは、サブベクトル長の合計が、主ベクトル長と矛盾していないときのみ指定されます)。
- nn06** サブフィールド長が無効です。センス・コードに続くバイト 2 には、無効なサブフィールド長を含んでいる MS サブベクトルのサブ

ベクトル・キー (*nn*) が取められています (これは、サブフィールド長の合計が、サブベクトル長と矛盾していないときのみ指定されます)。

- 0870** 不定様式サブベクトル値が無効です。不定様式 MS サブベクトル中の、または部分的に形式設定されている MS サブベクトルの不定様式部分中の値が、無効です。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

nnxx センス・コードに続くバイト 2 には、無効な値を含む MS サブベクトルのサブベクトル・キー (*nn*) が取められています。バイト 3 には、無効な値が置かれている最初のバイトを指し示す 1 バイトの 2 進数値が含まれています。この表示はゼロ、すなわちそのサブベクトルの先頭が起点です。

注: 定様式 MS サブベクトル、すなわちキーや長さのサブフィールドを含んでいるもの、または一部が形式設定されたサブベクトルの定様式部分で無効な値が生じた場合には、センス・コード X'086B' を参照してください。

- 8106** 起点ロケーション名 (X'81') サブベクトルのサブフィールド長が無効です。NETID が有効な長さ (1-8 文字) ではありません。
- 8206** 宛先ロケーション名 (X'82') サブベクトルのサブフィールド長が無効です。NETID が有効な長さ (1-8 文字) ではありません。
- 9002** フラグ (X'90') サブベクトルに、MDS メッセージ・タイプに関する無効な設定が含まれています。
- 9003** フラグ (X'90') サブベクトルに、無効なフラグ設定が含まれています。
- 0871** 区画読み取り状態エラーです。ディスプレイが再試行状態であったときに、区画読み取り構造化フィールドが受信されました。
- 0872** 順次非活動化が拒否されました。NC_DACTVR(順次) 要求が受信されましたが、VR にセッションが割り当てられており、非活動化されません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** NC_DACTVR (順次) 要求が受信されましたが、VR にセッションが割り当てられており、非活動化されません。
- 0001** 受信先のノードの順次非活動化を指定する MS 主ベクトルが受信されましたが、セッションが活動状態にあるため、暗黙の非活動化は許されていません。要求される活動化は処理されません。
- 0002** 受信先のノードの非活動化を指定する MS 主ベクトルが受信されましたが、受信先はセッションが活動状態にあるかどうかを判別できません。要求される活動化は処理されません。
- 0873** 仮想経路が未定義です。この VRN をサポートするように指定されている ERN がありません。
- 0874** ER が有効な状態にありません。要求された VR をサポートしている ER が、VR 活動化を許可する状態にありません。
- 0875** 正しくないか、または未定義の明示経路が要求されました。NC_ACTVR で指定された反転 ERN に、要求された VR で使用するよう定義された ERN が含まれていないか、または VR で使用するよう指定された ERN が未定義です。

- 0876** 反転不能明示経路が要求されました。NC_ACTVR によって使用される ERN が、RSP(NC_ACTVR) で使用される ERN と同じ順序の伝送グループ (逆順) を使用しません。
- 0877** リソースの不一致です。要求の受信先が、次のうちの 2 つの間での不一致を検出しました。(1) 影響を受けるリソースの定義 (2) 実際の構成 (3) その要求の中で暗示されているリソースの定義。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 交換回線として定義されたリンクが、非交換回線です。交換回線として ACTLINK 受信先に定義されているリンクが、活動化の試行中に非交換であることが検出されました。
- 0002** SDLC として定義されているリンクが、非 SDLC です。SDLC として ACTLINK 受信先に対して定義されているリンクが、活動化試行中に非 SDLC であることが検出されました。
- 0003** 自動コネクアウト機能を持つものとして定義されているリンクがその機能を持っていません。ACTLINK 受信先に自動コネクアウト機能を持つとして定義されているリンクが、活動化試行中に、その機能を持っていないことが検出されました。
- 0004** リンク以外のリソースに対する ACTLINK が受信されました。リンク以外の装置を表すローカル装置アドレスに解決される ACTLINK が受信されました。
- 0005** X.21 として定義されているリンクが X.21 ではありません。
- 0006** LPDA 可能と定義されているリンクが、NRZI モードで構成されています。
- 0007** 基本リンク・ステーションに対してのみ許されている要求が、受信先に対して 2 次であると定義されているリンク・ステーションに関して受信されました。
- 0008** モデムに対するリンク問題判別に対する要求が、受信されましたが、そのリンクはモデムに対するリンク問題判別をサポートしていないものとして、受信側に対して定義されています。
- 0009** モデムのリンク問題判別をサポートするものとして受信先に対して定義されているリンクに関するモデムのリンク問題判別に対する要求が受信されましたが、そのリンク上には、モデムのリンク問題判別をサポートするリンク・ステーションが見つかりませんでした。
- 000A** 非交換回線リンクに対してのみ許されている要求が、受信先に交換として定義されているリンクに、受信されました。
- 000B** 多重リンク機構を使用していないモデムを持つリンクのみに許される要求が、多重リンク機構を使用するモデムを持っていると、受信先に定義されているリンクに関して受信されました。
- 000C** リソース定義が、モデムに関して一致していません。非テール・モデムを持つリンクに対してのみ許可されている要求が、テール・モデムを持っているとして受信先に対して定義されているリンクに受信されました。
- 000D** 送信 SSCP と受信タイプ 4 ノードのシステム定義が競合します。誤りの SLU アドレスを含む SLU についての BIND を受信しまし

た。BIND 中の LU アドレスは、基本アドレスです。その LU アドレスは新しいセッション上で 2 次役割としては使用できません。

- 000E** 送信 SSCP と受信タイプ 4 ノードのシステム定義が競合します。独立 LU に関して BIND が受信されましたが、指定された LU タイプ 2.1 ノードにはありません。
- 000F** 送信 SSCP と受信タイプ 4 ノードのシステム定義が競合します。SSCP 所有者は、非活動化 CONTACT PIU を送っている SSCP と同一ですが、その PU はタイプ 2.1 ではありません。その CONTACT はタイプ 2.1 ノードに関するものですが、その PU は受信先に対してタイプ 2.1 として定義されていません。
- 0010** BFCLEANUP は独立 LU に関するものですが、指定された LU は独立 LU ではありません。
- 0011** アドレス指定されている LU のサブエリア・アドレス部分が、タイプ 4 ノードのサブエリア・アドレスに等しくありません。LU はタイプ 4 ノードと同一のサブエリア中にはありません。
- 0012** BFCLEANUP が BF LU ではないリソースに対するものであるならば、その要求は拒否されます。これは、その機能がターゲット・リソースによってサポートされていない状況です。タイプ 4 と SSCP の間での SYSDEF 不一致によってこのことが引き起こされる場合があります。
- 0013** BIND SLU 名中のネットワーク ID フィールドが、境界機能のネットワーク ID と等しくないか、または SLU 名フィールドが、LU に対する境界機能制御ブロック中の LU 名フィールドと等しくありません。
- 0014** FNA 中に指定された LU は、FNA 中に指定された PU と関連していません。すなわち LU アドレス (バイト 7-n) は指定された PU 宛先アドレスに関連していません。
- 0015** BFCINIT 名の不一致です。NQ PLU 名が一致していないので、BFCINIT から BIND を構築できません。セッション活動化は BFTERM を持つ境界機能によって拒否されます。
- 0016** 宛先アドレスが無効です。以下のいずれかです。
1. 指定された LU が関連することになる PU が、タイプ 1 でもタイプ 2 でもありません。すなわち SSCP が PU に LU を追加しようと試みましたが、境界機能はその PU をタイプ 4 として定義しています。
 2. SSCP は、リンクの代わりに PU または LU を指定して、RNAA 割り当てタイプ X'0' または X'5' を送信しました。これは定義の不一致によって引き起こされます。
- 0017** ENA 以前のアドレス割り当てに、MAXSUBA が必要とされました。MAXSUBA が指定されずに、ENA 以前のアドレスを要求する RNAA が受信されると、その RNAA は拒否されます。
- 0018** 従属 LU 上の補助アドレスを要求している RNAA タイプ 4 が受信されました。
- 001A** BFCLEANUP または BFCINIT 中で指定されているターゲット LU が、URC 制御ベクトル中で示されているセッションに関連しているのと同じのリンク・ステーションに関連付けられていません。
- 001B** BFCLEANUP 中で指定されているターゲット・リンク・ステーショ

ンが、URC 制御ベクトル中で示されているセッションと同一のリンク・ステーションではありません。

- 001C BFCINIT に対するリソース定義不一致です。送信 SSCP および受信タイプ 4 ノードのシステム定義が矛盾します。現在活動 LU-LU セッションで使用されている LU アドレスに対する BFCINIT が受信されました。その LU アドレスは、すでにアクティブなセッション上での基本アドレスです。その LU アドレスは新しいセッション上で 2 次役割としては使用できません。
- 001D BFCINIT 中の LU アドレスは 2 次アドレスです。BFCINIT が拒否されます。
- 001E BFSESSINFO RU 中で指定されているサブジェクト LU は、独立 LU としては SSCP に対して定義されていません。これは SSCP と BF との間での不一致です。
- 001F ACTPU を抑止するように示している PU に、独立 LU が接続されています。ACTLU がサポートされていないので、SSCP は LU を活動化できません。
- 0020 独立 LU をサポートしている周辺ノードが、それを経由する独立 LU セッションを持つことのできないタイプ 2 PU に接続され (非交換回線リンクを使って) ました。これらの独立 LU の 1 つに対して受信された SSCP 活動化が失敗に終わりました。
- 0021 システム定義時に定義されたリソースに対する境界機能によって RNAA (追加) が受信されましたが、これは許されていません。
- 0022 ACTLINK が出されたリンクは、タイプ 2.1 ノードにのみ接続されるように定義されている S/370 チャネルです。しかし、ACTLINK を送った SSCP は、それがタイプ 2.1 接続をサポートしないとして以前に示されています。
- 0025 受信ノードは、与えられた LU 名について指定された LU タイプに関する BIND を処理できません。
- 0027 非空活動リンク接続構成に対するリンク接続要求が、管理サービス・エレメントによって受信されました。DLC エレメントの活動リンク接続構成が空です。すなわち、リンク接続コンポーネントが存在していません。
- 0028 ALS に対する RNAA (移動) が受信されましたが、TO および FROM リンクが両者とも基本または 2 次ではありませんでした。
- 0029 RU はリソースを参照しますが、送信元と受信先は状況の見方が一致していません。送信元は、それを静的リソースと見なしており、受信先は動的リソースと見なしています。
- 002C 別のネットワーク中のサブジェクト LU を報告している BFSESSINFO、または、ALS (XNETALS=YES) または受信側 SSCP (XNETALS=NO) の NETID とは異なる PLU について指定している NETID を持つ BFINIT を、受信しました。
- 002D (独立した) サブジェクト LU に対して BFSESSINFO が受信されましたが、報告された LU は受信先から従属 LU と見なされます。
- 002E その BFSESSINFO 中で報告されているのとは異なった ALS の下に位置しているものと受信先が考える動的サブジェクト LU を報告している BFSESSINFO を受信しました。SSCP はこの構成不一致を正すように試みました。
- 002F その BFSESSINFO 中で報告されているのとは異なった ALS の下

に位置しているものと受信先が考えるサブジェクト LU を報告している BFSESSINFO を受信しました。SSCP はこの構成不一致を直すことはできません。

- 0030 サブジェクト LU に対する BFSESSINFO が受信されましたが、その受信先は異なった LU と関連した、静的と考えられるアドレスを待っています。
- 0031 サブジェクト LU に対する BFSESSINFO が受信されたが、その受信先は静的 LU またはクロスドメイン・リソース以外のものと関連したアドレスを持っています。
- 0032 BFSESSINFO が LU に対して受信されました。サブジェクト LU が検査されましたが、与えられたセッションに関して、パートナー LU は基本 LU として報告されているが受信先はその LU を基本 LU になり得ると見なしていないか、あるいはそのパートナー LU は 2 次 LU として報告されているが受信先はその LU を 2 次 LU になり得るとは見なしていないかのいずれかです。
- 0033 BFSESSINFO が受信されたときに、受信先はパートナー LU に関連した制御ブロックが、非アクティブのクロスドメイン・リソースまたは非アクティブのアプリケーションであると考えます。
- 0034 BFSESSINFO が受信されたときに、受信先はパートナー LU に関連した制御ブロックが、LU でも、クロスドメイン・リソースでも、またはアプリケーションでもないと考えます。
- 0035 受信先が、異なったリソースとすでに関連付けられていると見なしているネットワーク・アドレスが、RSP(RNAA) 中で戻されました。
- 0036 無効な ALS アドレスを含んでいる BFSESSINFO が受信されました。例えば、ALS はタイプ 2.1 ノードを表しません。
- 0037 BFSESSINFO がサブジェクト LU に対して受信されました。しかし、BFSESSINFO 中で指定された 2 次アドレスが、SSCP がその LU と関連していると信じている 2 次アドレスに合致していません。
- 0038 BFSESSINFO RU 中で指定されたサブジェクト LU が、LU またはクロスドメイン・リソースとして SSCP に対して定義されていません。
- 0039 交換サブエリア・リンクに対してのみ有効な要求が、サブエリア機能のないリンクに対して受信されました。
- 003A 非交換サブエリア・リンクに対してのみ有効な要求が、サブエリア・ダイヤル・リンクに対して受信されました。
- 003B RNAA (追加) が LU に受信されました。しかし、同じ名前を持つ LU (ローカル・アドレスは異なる) が、指定された ALS の下にすでに存在しています。
- 0041 引き継ぎ処理が完了しましたが、SSCP が静的独立 LU と見なしているリソースに対する BFSESSINFO を、SSCP が受信しませんでした。
- 0042 境界によって送信された BFINIT が SSCP によって処理され、PLU リソースはもはやこの SSCP によって所有されていません。これは BFINIT が SSCP によって処理される前に、TAKEOVER / GIVEBACK が起きた結果であると考えられます。これは、PLU の定義エラーによって起こる場合があります。

- 0043 交換リソースにのみ有効な要求が非交換リソースに対して受信されました。
- 0044 X.21 ダイアルおよび自動呼び出し機能がありません。リソース不一致。
- 0045 セッション要求が受信されましたが、リソースの NETID がそのリソースにサービスを提供する隣接リンク・ステーションの NETID と一致しません。
- 0046 送信側および受信側にシステム定義の不一致があることを示す CONNOUT を受信しました。CONNOUT 接続タイプ・フィールドでは非交換回線リンクを指定していますが、受信側では関連ノードを、非交換回線リンク上の T2.1 ノードとして、もしくは XID3 交換をサポートするものとして、定義していません。
- 0047 セッション要求または BFSESSINFO 要求が受信されましたが、OLU またはサブジェクト LU のネットワーク ID がそのリソースにサービスを提供する隣接リンク・ステーションのネットワーク ID と一致しません。
- 0048 DLU は独立 LU ですが、選択された境界機能は独立 LU に対応できません。
- 0049 BFSESSINFO 要求が受信されましたが、サブジェクト・リソースが活動状態ではありません。
- 0050 SETCV に指定された、FRSE PVC セグメント内部サブポートのエレメント・アドレスは、同一フレーム・リレー・ポート上に、サブポート・セット中の別のサブポートとして常駐します。
- 0051 システム定義中の最大フレーム・サイズは、SETCV に指定された FRSE PVC セグメント内部のサブポート・セットにある、2 つのパートナー次第で異なります。
- 0052 隣接するフレーム・リレー装置管理プロトコルは、FRSE PVC セグメント内部のサブポート・セットについて SETCV に指定されている、基本サポートのフレーム・リレー・ポートまたはバックアップ・サポートのフレーム・リレー・ポートのどちらでも、サポートされません。
- 0053 ノードは、一部のセッションについては、自身を拡張ボーダー・ノードとして識別しますが、他のセッションについては、拡張ボーダー・ノードとならないように指定します。
- 0054 FRSE セグメント内部サブポート・セットを、互換性のないサブポート間で定義するために、SETCV が受信されました。サブポートの片方は、代替物理パスをサポートしません。
- 0055 FRSE セグメント内部サブポート・セットを、互換性のないサブポート間で定義するために、SETCV が受信されました。サブポートの片方は、外部 DLC 上にあり、他方は外部 DLC 上にありません。
- 0056 CPSVRMGR セッションは、タイプ TCP ではない LEN 接続上では設定できません。
- 0878 ストレージ不足です。データ形式に対して必要とされるストレージ・リソースが使用不能です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000 該当する特定コードがありません。

- 0001 CONNOUT には受信プロダクトによって記憶可能なより多くのダイヤル番号が含まれています。
- 0879 ストレージ・メディア・エラー。ストレージ・メディアに関する永続エラーが起きました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 ディスク入出力エラー。
- 0002 入出力エラーです。ロード・モジュールとダンプ/再 IPL スイッチがディスクに保管されません。
- 0003 入出力エラーです。自動ダンプ・スイッチがディスクに保管されません。
- 087A 形式処理エラーです。データ形式設定中に処理エラーが起きました。
- 087B リソースが不明です。要求には、一部のゲートウェイ・ノードに認識されているセッションを識別しないセッション・キーが含まれています。例えば、セッション活動化要求は、目的のセッションへのアドレス変形を解放した後で、ゲートウェイ・ノードに到着します。
- 087C SSCP-PU セッションは活動状態にありません。目的のネットワーク間 LU-LU セッションに対するアドレス変形を確立するのに必要なゲートウェイ SSCP-PU セッションが活動状態でなかったか、ゲートウェイ・ノードが定義されていません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- バイト 2 および 3 は、その要求を経路指定しない特定の理由を示した、センス・コード特定情報を含んでいます。
- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 LU-LU セッションに対するセッション・セットアップ・パス中の SSCP が、そのセッションを経由するゲートウェイ・ノードとの接続性を失い、そのセッションが終了したことを知るための方法が他にありません。中間 SSCP は、それが以前に同一のセッション・セットアップ・パス上の他の隣接 SSCP との接続性を失っている場合には、このセンス・データを 1 つの隣接 SSCP に送ります。終点 SSCP は、従属 LU または独立 LU の境界機能への接続性を以前に失っている場合には、このセンス・データを隣接 SSCP に送ります。
- 0002 LU-LU セッションが開始された後に、SSCP は PLU との接続性を失い、そのセッションが終了したことを知るための方法が他にありません。SSCP は LU-LU セッション・パスでのゲートウェイ・ノードとセッションを持ったことがないか、そのノードへの接続性を以前に失ったかのいずれかです。
- 0003 SSCP は LU-LU セッションが開始された後で、独立 SLU の境界機能との接続性を失い、そのセッションが終了したことを知るその他の方法がありません。SSCP は LU-LU セッション・パスのゲートウェイ・ノードとセッションを持ったことがないか、そのノードへの接続性を以前に失ったかのいずれかです。
- 087D セッション・サービス・パス・エラーです。セッション・サービス要求を

SSCP-SSCP セッションのパス経由で転送できません。この機能は、例えばネットワーク間 LU-LU セッションをセットアップするのに必要とされません。

バイト 2 および 3 は、その要求を経路指定しない特定の理由を示した、センス・コード特定情報を含んでいます。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 SSCP は、1 つまたはそれ以上の隣接 SSCP を経由してセッション・サービス要求をその宛先に転送しようとしたが、失敗に終わりました。その値は、試行錯誤再ルーティングが尽きたときに、ゲートウェイ SSCP または非ゲートウェイ SSCP によって送られます。

注: このコードは宛先 SSCP への転送が完全に失敗したときに使用されます。残りのコードは SSCP への転送の失敗に使用されます。例えば、転送を試みているノード中で再ルーティングの失敗に関する情報が表示されたときに、それらは特定の SSCP に関連付けられます。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

0002 必要なルーティング・テーブルが利用できないので、SSCP がセッション・サービス要求を転送できません。このことは、リソース ID 制御ベクトル中の再ルーティング・キーに対応する隣接 SSCP テーブルがないことを意味しています。この値の受信先は、可能であれば、別の SSCP への再ルーティングを試みます。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

0003 このセンス・コードは、以下のどちらかの場合に設定されます。

1. ADJSSCP(OLU) から CDINIT が受信され、ADJSSCP(OLU) に対する CDRM ステートメントが、この SSCP が動的 CDRSC(CDRSC=REQ) を構築することを許さない場合。
2. SSCP(OLU) または SSCP(INT) が DLU のために動的 CDRSC を構築したが、選択された ADJSSCP(DLU) が、この SSCP が動的 CDRSC を構築することを許さない場合。

VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

0004 セッション・サービス・パス・エラーです。ゲートウェイ機能サポートで競合が発生しています。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

0005 ゲートウェイ・ノードが意図されたネットワーク間 LU-LU セッションに対するアドレス変形を割り振ることができないので、SSCP が CDINIT 中で指定されているゲートウェイ・ノードを使用できません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

0006 SSCP は、それに対して使用可能な代替ゲートウェイ・ノードのサ

ブセットのみを使用することができます。しかし、それが使用できるサブセットに関して、必要とされる別名アドレス対を提供できるものはありません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

- 0007** SSCP はセッション・サービス要求を転送できません。セッション・パートナーの 1 つは実 CDRSC として、また NETID なしの CDRSC として定義されました。これは許可されていません。
- 0008** 隣接 SSCP は要求された CDINIT 機能をサポートしません (例えば、XRF リソース可用性の通知)。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0009** ネットワーク・アドレスが無効です。NCP は、別のセッションですでに使用されているアドレスを戻しました。その開始要求を転送することはできません。
- 000A** 同一の SSCP を 2 度経由して要求が経路指定されているので、SSCP はセッション・サービス要求を転送することはできません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000B** CDINIT 中で指定された DLU は、受信 SSCP に知られておらず、受信 SSCP は CDINIT を転送することはできません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000D** SSCP はセッション・サービス要求を除去しました。理由は、隣接する SSCP から要求に対して出す応答が、インストール先定義の時間制限内に出せなかったからです。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000E** 位置付け探索要求が限定されました。理由は、先に出された探索が、ターゲット・リソースは現在アクセス可能ではなく、探索遅延しきい値をまだ超えていないと判別したからです。
- 087E** SSCP 訪問カウントが限度を超えました。セッション・サービス要求-CDINIT、INIT_OTHER_CD、または DSRLST- で指定された SSCP 訪問カウントが、0 に減少しました。セッション・サービス要求の経路指定中に経由する SSCP の数が多すぎます。(SSCP は、必ずしも別々のものであるとは限りません。) VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 087F** セッション・サービス・パス・エラー。セッション・サービス要求を APPN サブエリア・ネットワークに転送できません。
- バイト 2 および 3 は、その要求を経路指定しない特定の理由を示した、センス・コード特定情報を含んでいます。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 指定探索後再サブミットを示す位置づけ /CD 開始応答が、以前の位置づけ /CD 開始応答に対する応答として指定探索が実行された後で、受信されました。

- 0002 重複している、または無効な要求を受信しました。
- 0003 サブエリア探索が APPN ネットワークに経路づけされませんでした。理由は、要求された機能は、APPN サブエリア交換ノードによりサポートされていません。
- 0004 APPN 探索がサブエリア・ネットワークに経路づけされませんでした。理由は、「サブエリアの探索」は許可されていないからです。
- 0005 サブエリアの探索は APPN ネットワークに経路づけされませんでした。理由は、APPN ネットワークで生成された要求は、このノードおよび APPN ネットワークを含んでおり、ブロードキャスト探索を実行できるからです。
- 0006 サブエリア探索は APPN ネットワークに経路指定されませんでした。理由は、必要なコンポーネントが利用不能だったからです。
- 0007 交換ノードが制御ベクトル X'5D' (サブフィールド X'81') を持つ APPN ネットワークから位置づけ /CD 開始要求を受信し、非結合ネットワーク ID が設定されていないためにその制御ベクトルに指定されたネットワーク内の SSCP に経路指定しないときに、このセンス・データの値が生成されます。
- 0008 APPN 検索 (または DLUS サポート・リソースに代わる検索) が、APPN ネットワーク経由で検索される、またはすでに検索されたサブエリア SSCP に送られませんでした。
- VTAM 情報: VTAM がセッション開始に関するこのセンス・コードを受信すると、宛先 LU が見つかるか、または経路が尽きるまで、VTAM は隣接 SSCP テーブルを探索し続けます。
- 0881 ACTCDRM 障害です - REQACTCDRM が送信されました。一部のゲートウェイ PU において必要な変換が完了しておらず、ゲートウェイ PU がゲートウェイ SSCP に REQACTCDRM を送信したので、SSCP-SSCP セッション活動化要求の ACTCDRM をゲートウェイ SSCP に転送できません。
- 0884 ACTCDRM 障害です - REQACTCDRM が送信されません。一部のゲートウェイ・ノード PU において必要な変換が完了しておらず、またゲートウェイ SSCP-PU セッションが活動状態でないか、または目的の SSCP セッション・パートナーでゲートウェイ・サービスを利用できないため、SSCP-SSCP セッション活動化要求 ACTCDRM を宛先 SSCP に転送できません。
- 0886 サブネットワーク転送はサポートされていません。SSCP は、サブネットワーク中の SSCP から、サブネットワーク境界を超えて転送できないセッション・サービス要求 -CDINIT、INIT_OTHER_CD、NOTIFY (ベクトル・キー=X'01')、または DSRLST - を受信しました。SSCP はサブネットワーク中の再ルーティングをサポートしていません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0887 デキュー再試行が失敗しました - セッションはキューに入れられたままです。SSCP は CDINIT (デキュー) 要求を正常に受諾できません。その要求は「デキューが失敗したならば、そのままキューに入れておく」ことを指定しています。SSCP はキューに入れているセッションをそのキューに残しておきます。
- 0888 名前が対立しています。RU 中で指定されている名前が認識されていないか、認識されているが必要な機能を持っていないか、または指定されたリソ

ース・タイプに対する重複リソースです。名前の対立が検出された場合、それ以上の名前検査は行われません。複数の名前の対立は報告または検出されません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0001 指定された DLU 実ネットワーク名は知られていますが、LU-LU セッションが不可能なリソースを識別しています。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0002 指定された DLU 別名ネットワーク名は知られていますが、LU-LU セッションが不可能なリソースを識別しています。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0003 指定された OLU 実ネットワーク名は知られていますが、LU-LU セッションが不可能なリソースを識別しています。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0004 指定された OLU 別名ネットワーク名は知られていますが、LU-LU セッションが不可能なリソースを識別しています。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0005 名前変換が無効でした。すなわち、元の LU とは異なった LU 名が、同一のネットワーク ID と共に戻されました。
- 0006 指定された DLU 実ネットワーク名は知られていますが、重複したリソースです。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0007 指定された DLU 別名ネットワーク名は知られていますが、重複したリソースです。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0008 指定された OLU 実ネットワーク名は知られていますが、重複したリソースです。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0009 指定された OLU 別名ネットワーク名は知られていますが、重複したリソースです。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000A 事前定義の実リソース名と事前定義の別名リソース名が同じリソースで見つかりました。

- 000B** ネットワーク間 DLU 名がシャドー・リソースとして定義されていますが、ネットワーク間セッションではシャドー・リソースはサポートされません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000C** クロスドメインまたはネットワーク間 DLU 名が代替アプリケーション名と同じ。しかし、代替アプリケーション名はそのリソースの実名ではありません。同じドメイン・セッションの中でのみ、このことは許されます。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000D** セッション開始 RU を処理するときに、SSCP が OLU に対する 2 つの異なったリソース定義を見つけました。1 つは実 OLU 名を持ち、他方は別名 OLU 名を持っています。
- 000E** セッション開始 RU を処理するときに、SSCP が DLU に対する 2 つの異なったリソース定義を見つけました。1 つは実 DLU 名を持ち、他方は別名 DLU を持っています。
- 000F** 指定された DLU ネットワーク名は総称リソースとして定義されています。このセッションは、LU の名前を用いて再初期設定されなければなりません。
- 0013** 境界ノードは、インター・サブネット TG を通る境界ノードに隣接する、ノードの CP 名を含むローカル・サブネット内のノードから、トポロジー・データベース更新 (TDU) を受信しました。
- 0014** リソースに関して処理されたトポロジー・データベース更新 (TDU) の数が、制限を超えています。
- 0015** リソースの実名しか指定できない場合に、リソースの総称名が指定されました。
- 0889** トランザクション・プログラム・エラーです。トランザクション・プログラムがエラーを検出しました。
- センス・コードは FMH-7 中でのみ送られます。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** プログラム・エラーです - データ切り捨ては行われません。データを送信している トランザクション・プログラムがエラーを検出しましたが、論理レコードを切り捨てませんでした。
- プログラム・エラーです - 除去されます。データを受信している トランザクション・プログラムが、エラーを検出しました。送信プログラムがエラー通知を受ける前に送った情報で、受信プログラムがまだ受け取っていないものがあれば、それらはすべて破棄されます。
- 0001** プログラム・エラーです - データは切り捨てられます。データを送信している トランザクション・プログラムがエラーを検出し、送信している論理レコードを切り捨てました。
- 0100** サービス・トランザクション・プログラム・エラーです - データ切り捨ては行われません。データを送信している サービス・トランザクション・プログラムがエラーを検出し、論理レコードを切り捨てませんでした。

サービス・トランザクション・プログラム・エラーです - 除去されます。データを受信している サービス・トランザクション・プログラムがエラーを検出しました。送信サービス・トランザクション・プログラムがエラー通知を受ける前に送った情報で、受信プログラムが、受信サービス・トランザクション・プログラムが受け取っていないものがあれば、それらはすべて破棄されます。

0101 サービス・トランザクション・プログラム・エラーです - データは切り捨てられます。データを送信している サービス・トランザクション・プログラムがエラーを検出し、送信している論理レコードを切り捨てました。

088A リソースが使用不能です - NOTIFY が後で出されます。必要なリソースが一時的に使用不能なので、SSCP は要求を満たすことができません。必要なリソースが使用可能になった時点で、NOTIFY NS キー X'07' または X'08' が送られます。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 SSCP-SSCP セッションは活動状態ではありません。ネットワーク間要求を転送するのに必要な SSCP-SSCP セッションが活動状態ではありませんでした。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

0003 SSCP-LU セッションは活動状態ではありません。SSCP(DLU) は、現在 DLU とのセッションを持っていません。

0004 LU セッション限度を超過しました。その DLU は現在セッション限度にあり、要求されたセッションを行うとその限度を超えます。

088B BB が受諾されません - BIS 応答が要求されました。受信先が BIS 要求を送信し、それ以上の会話を処理することなくそのセッションを打ち切りたいと望んでいることを示すために、BB (LUSTAT 送信権要求または接続) に対する応答として送信されましたが、UNBIND が送信されませんでした。否定応答送信元が通常 UNBIND を送信できるように、BIS 応答が求められます。このセンス・コードは、セッション・プロトコル数の変更をサポートしていない LU によってのみ送られます。

088C 制御ベクトルが欠落しています。RU または XID に、必要な制御ベクトルまたはサブフィールドが含まれていませんでした。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

mnyy バイト 2 には、サブジェクト制御ベクトルのキー (*nm*) があり、バイト 3 (*yy*) には、制御ベクトルのタイプまたは欠落しているサブフィールドがあります。

0EF3 第三者が開始したフローから新規 PLU 名が欠落しています。

0EF4 SLUINIT BIND から PLU CP_NAME 制御ベクトル X'0E' が欠落しています。

2B00 APPN セッションのための RSCV 制御ベクトル X'2B' が与えられませんでした。

3100 BIND イメージ制御ベクトル X'31' が欠落しています。

4581 登録簿拡張サブベクトル制御ベクトル X'4581' が欠落しています。

- 4683 TG 記述子 X'46' のサブベクトル X'83' が欠落しています。
- 5F00 制御ベクトル X'5F' が欠落しています。
- 6000 制御ベクトル X'60' が欠落しています。
- 6380 制御ベクトル X'63' 暗号化機能 (制御ベクトル X'80') が欠落しています。
- 6500 装置特性制御ベクトル X'65' が欠落しています。
- 8000 制御ベクトル X'80' が欠落しています。
- 8100 制御ベクトル X'81' が欠落しています。
- 088D ネットワーク名が重複しています。SSCP は、複数のドメインで使用されるネットワーク名はマルチドメイン・ネットワーク中で固有でなければならぬという要求が満たされていないことを検出しました。例えば、SSCP(DLU) が、CDINIT 中で受信された OLU 名が、SSCP(DLU) のドメイン中でも現在定義されていることを検出しました。
- 088E 機能の不一致。ネットワーク・コンポーネントは、同一ネットワーク機能に含まれる異なるリソース間の機能不一致を検出しました。例えば、SSCP は LU が、セッション開始に使用する他のリソースのどれかにとって、大き過ぎてサポートできないサブエリア・アドレスを割り当てているのを検出しました。
- センス・コードに続くバイト 2 および 3 には、センス・コード特定情報が含まれています。
- 0000 LU-LU セッション開始中に遭遇したリソースは ENA 可能ではありません。セッション開始要求は転送することができます。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0001 LU-LU セッション開始中に、遭遇したリソースは ENA 可能ではありません。セッション開始要求を経路指定し直してはなりません。
- 0002 SSCP は、すでに ENA アドレスを持っている SLU に対して「ENA 以前との互換性のある」SLU アドレスを要求しました。
- 0003 ENA 可能ゲートウェイ・ノードが必要とされているときに、ゲートウェイ・ノード・リストからゲートウェイ SSCP によって選択されたゲートウェイ・ノードが、ENA 可能ではありません。別のゲートウェイ・ノードを試行することができます。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0004 動的パス更新中に、SSCP はその更新が 7 よりも大きい ER 番号を持つパス定義を含んでいること、そしてターゲット・ノードが拡張サブエリア・アドレッシングをサポートしていないことを検出しました。そのために、この宛先サブエリアに対する動的パス更新情報は、ターゲット・ノードに送られません。
- 0005 セッション・セットアップ・パスに沿った拡張サブエリア・アドレス指定の不一致のために、そのセッションを確立することができません。ゲートウェイ・ノードの選択を行っているゲートウェイ SSCP は、DLU を含んだネットワーク中で大きいサブエリア・アドレス限界を持つ別のゲートウェイ・ノードを選ぶことにより、そのセッションのセットアップを再試行できます。

- 0006** セッション・セットアップ・パスに沿った拡張サブエリア・アドレス指定の不一致のために、そのセッションを確立することができません。ゲートウェイ SSCP は、DLU ネットワーク中のより小さなサブエリア・アドレスを持つ別のゲートウェイ・ノードを選択することによって、そのセッション・セットアップを再試行できます。
- VTAM** の場合のヒント: このセンス・コードは、セッション・セットアップ・パス上に、互換性のない ESA 機能が存在する場合に出されます。OLU 機能サブエリア・アドレスは DLU 指示機能より大きいアドレスです。
- 0007** 動的パス更新において、その更新に 255 よりも大きいサブエリア・アドレスを持つパス定義が含まれていること、そしてそのターゲット・ノードが拡張サブエリア・アドレッシングをサポートしていないことを、SSCP が検出しました。そのために、この宛先サブエリアに対する動的パス更新情報は、ターゲット・ノードに送られません。
- 0008** セッションを設定できませんでした。理由は、従属 LU サーバーが、従属 LU サーバーと従属 LU リクエスターの機能の間に、互換性のないことを検出したからです。
- 0009** セッションを設定できませんでした。理由は、従属 LU リクエスターが、従属 LU リクエスターと従属 LU サーバーの機能の間に、互換性のないことを検出したからです。
- 000A** サブネットワーク間接続をサポートしない境界機能と、境界ノードとの接続を設定しようとしていました。
- 000B** 拡張境界ノード標識が XID 交換時に設定されましたが、境界ノードおよびサブネットワーク間拡張セッション・サービス・サポート標識の両方とも、CP 機能 GDS 変数中に設定されていませんでした。
- 000C** APPN サブネットワーク・リンクの不一致があります。2 つのノードのシステム定義に不一致があるか、または、2 つのノードがすでに活動状態の非 APPN サブネットワーク接続を持っており、そのどちらかが APPN サブネットワーク接続を活動化しようとしています。
- 000E** 仮想経路ベースの伝送グループは、非ネイティブ接続をサポートしません。伝送グループ接続は終了します。VTAM はこのセンス・コードを、仮想経路ベース伝送グループ接続が、非ネイティブのタイプ 2.1 接続により接続されている 2 つの隣接ノード間で要求された場合に設定します。VRTG 接続についての要求は失敗します。SSCP-SSCP セッションも失敗します。
- 000F** 従属 LU サーバーと従属 LU リクエスターの間の、サブネットワーク境界を通る CP-SVR パイプを、制限つきサブネットワーク・サポートを使用して設定しようとする試みがなされました。
- 088F** XRF 手順エラーです。XRF アクティブ・セッションまたは XRF バックアップ・セッションに対する要求が受信されましたが、処理されていません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。

- 0003 すでに存在している状態への切り替えを指定している SWITCH 要求が受信されました。
- 0004 無効な SWITCH 要求が受信されました。
- 0005 SLU が SWITCH (条件付き、バックアップへの) を受信しましたが、このセッションを置き換えることのできる (すなわち XRF 活動状態になる) 現行の XRF バックアップ・セッションが存在していません。
- 0006 キューイングを許している、XRF バックアップ・セッションに対する INITIATE 要求が受信されました (XRF バックアップおよびセッションのキューイングは同時には使用できない機能です)。
- 0007 XRF バックアップ・セッションを指定している XRF バックアップ・セッションに対する開始要求が受信されましたが、DLU は XRF セッションをサポートしていません。
- 0008 既存の XRF セッションと関連したセッション相関 ID と重複するセッション相関 ID を指定した XRF 活動 BIND が、受信されました。
- 0009 現在 XRF セッションを持っていない LU に対する XRF バックアップ BIND が受信されました。
- 000A 暗号はサポートされていません。暗号を示す XRF BIND が受信されました。暗号鍵を NCP セッションに定義する必要があります。
- 000B XRF バックアップ・セッションを指定した XRF バックアップ・セッションに対する開始要求が受信されましたが、OLU は XRF セッションをサポートしていません。
- 000F バックアップ・コマンドが無効です。
- 0010 その LU との既存の XRF セッションと関連したセッション相関 ID と合致しないセッション相関 ID を指定した XRF バックアップ BIND が、受信されました。
- 0011 バックアップ XRF セッションのために暗号情報を取得することはできません。
- 0012 データ圧縮をサポートしている既存の XRF セッションと関連した XRF バックアップ BIND が受信されましたが、その BIND データ圧縮をサポートしていません。
- 0013 既存のセッションは、長さ検査圧縮 (X'66') 制御ベクトルを運ぶ、拡張された BIND を使用して確立されましたが、XRF バックアップ BIND は拡張されていません。
- 0890 探索障害。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0010 有向検索中に経路指定エラーが発生しました。中間 NNCP が有向検索の位置指定 GDS 変数を受信しましたが、宛先制御点に正常に経路指定できませんでした。
- 0020 有向検索中にリソースが見つかりませんでした。指定された宛先 CP が有向検索の位置指定 GDS 変数を受信しましたが、検索指数リソースがローカル・リソースではありません。
- 0022 CP が探索の宛先を提供していません。
- 0028 リソースが見つかりませんでした。ブロードキャストが必要です。有向 LOCATE/CDINIT 検索では、リソースが見つからず、宛先で

- は制限付きブロードキャストが実行されましたが失敗しました。ブロードキャストを試みてください。
- 0030** リソースは削除されました。ブロードキャストは不要です。指定された宛先 CP が有向検索の位置指定 GDS 変数を受信しましたが、その検索指数リソースは削除されています。
- 0037** 従属 LU リクエスターに対する TG ベクトルが認識不能です。従属 LU リクエスターの、従属 LU に関する位置付け済み探索の再サブミットは失敗しました。この条件は、従属 LU サーバーが、従属 LU の存在を検証し終わった時点でのみ発生します。
- 0038** 有向検索の副手順が多すぎます。LOCATE が探索ツリーの最大高を超過しました。試行された有向検索副手順が多すぎます。再試行はされません。
- 0040** ブロードキャスト探索中に、リソースが見つかりませんでした。CP がブロードキャスト探索の位置指定 GDS 変数を受信しましたが、この CP は探索指数リソースに対してネットワーク・サービスを提供せず、またブロードキャスト・サブツリー中で探索された CP にもネットワーク・サービスを提供しません。この条件が横断探索要求 (CP が同一の PCID および同一の探索指数リソースを指定した探索要求を送受信する) によって、またはローカル探索障害によって検出されますが、ブロードキャスト・サブツリー中のすべての CPS がこのセンス・コードを戻します。
- 0048** 中立応答を終了ノードから受信しました。APPN 終了ノードから「検出せず」および「拡張センス・データなし (X'35') 制御ベクトル」を示す位置付け応答を受信しました。
- 0050** CP が静止しました。ブロードキャスト探索ツリー中の CP は静止状態にあり、そのため位置指定 GDS 変数を受信していません。この条件は、探索サブツリー中の CP が静止しており、そのサブツリー中の他の CP が要求されたリソースを見つけていないときに、検出されます。
- 0060** ストレージが使用不能です。ブロードキャスト探索ツリー中の CP には、探索に使用するストレージが不十分であり、探索サブツリー中の他のどの CP も要求されたリソースを見つけていません。
- 0070** セッションが停止しています。探索ツリー中の CP は、位置指定 GDS 変数を送信した CP との CP-CP セッションを失い、応答は受信されていません。
- 0080** 完全修飾された PCID が重複しています。探索ツリー中の CP が、最初に完全修飾 PCID を使用したセッション要求とは異なるセッション要求で、重複する完全修飾 PCID を検出しました。
- 0081** PCID 修飾子が長過ぎます。10 バイトを超える長さの PCID 修飾子リストを受信しました。
- 0082** PCID 修飾子用のスペースがもうありません。10 バイトを超える長さの PCID 修飾子リストを受信しました。リスト・サイズの最大長に達しているため、10 バイトを超える別のリスト項目は作成できません。
- 0891** ネットワーク ID (NETID) が無効です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。

- 0001 PLU NETID が無効です。PLU の NETID が、SSCP(PLU) のものと同一ではありません。
- 0002 NETID が無効です。CONNOUT 中の NETID フィールドが、CONNOUT を受信するリンク・ステーション中で定義されている NETID と一致してません。
- 0003 NETID が無効です。RNAA 中の NETID フィールドが、ネイティブ NETID と同一ではありません。SSCP のシステム定義とタイプ 4 ノードとの間に不一致があります。
- 0004 受信済み XID3 に追加されたネットワーク名制御ベクトルは、有効なネットワーク ID をもっていません。CP 名に先行するネットワーク ID は、長さが 0 バイトより大きく、8 バイトより小さくなければなりません。
- 代わりに、レジスタ GDS 変数中の項目として、リソース名をもっていないネットワーク ID を受信しました。これにより、無効なリソース名が受信側に生じました。項目は登録されませんでした。
- 0005 受信済み XID3 に追加されたネットワーク名制御ベクトルは、有効な CP 名をもっていません。ネットワーク ID に後続する CP 名は、長さが 0 バイトより大きく、8 バイトより小さくなければなりません。
- 0006 無効な NETID です。送信側は、以下のどれかの状態が起こったために、隣接する非ネイティブ CP を持つ、非活動化された CP-CP セッションを持っています。
- どちらの CP も境界ノード・サポートを持っていません。(すなわち、どちらの CP も、送信する CP 機能 GDS 変数中のバイト 9、ビット 7 を 1 に設定しません。)
 - 片方または両方のノードが接続をネイティブと定義しました。両方のネットワーク ID が異なる場合は、このような定義は許可されません。
- 0007 NETID が無効です。PU NETID が SSCP の要求したものと同じでないため、交換回線リンク接続は失敗しました。
- 0892 自動ネットワーク・シャットダウン (ANS) が起きました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 ANS=STOP 時にセッションがリセットされました。LU を制御している SSCP が失われました。この LU に対して ANS=STOP が指定されていたので、セッションは打ち切られます。
- 0002 そのセッションは、SSCP が失敗したときには、保留活動状態でした。ただし ANS=CONT であるので LU-LU セッションは通常継続されますが、セッションが完全にセットアップされていないので、リセットされました。
- 0003 ANS=STOP 時に XRF バックアップ・セッションがリセットされました。ANS=STOP が指定されていたので、XRF バックアップ・セッションがリセットされました。
- 0893 引き継ぎが完了しません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** PLU に制御点が欠落しています。再試行してください。PLU は現在ネットワーク・サービスを制御点から受けていません。セッションが確立できないので BIND は拒否されます。このセンス・データは PLU の境界機能によって戻されます。
- 0002** SLU に制御点が欠落しています。再試行してください。SLU は現在ネットワーク・サービスを制御点から受けていません。セッションが確立できないので BIND は拒否されます。このセンス・データは SLU の境界機能によって戻されます。
- 0003** シーケンス・エラーです。リンク・ステーションに対する引き継ぎ順序が完了するまで、すなわち LU に対するすべての BFSESSINFO が受信されて受諾されるまで、SSCP は独立 LU に RNAA を送信しません。
- 0894** 移行サポート・エラーです。その要求の送信元は、使用不能な移行サポートに依存しています。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** BIND を拡張することはできません。LU 6.2 BIND ではない BIND が受信されましたが、受信先はこれを拡張できません。
- 0895** 制御ベクトル・エラー。RU または XID に含まれている制御ベクトルにエラーがあります。センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- xyyy** バイト 2 (xx) には、最初にエラーと認められた制御ベクトルのキーが含まれています。複数の制御ベクトルにエラーがある場合は、最初にエラーを検知されたベクトルのみが報告されます。センス・コードの特定のデータのバイト 3 (yy) には、制御ベクトル内のエラーのバイト・オフセット (0 から始まる) を指定しています。
- 0896** 制御ベクトルが長すぎます。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** ネットワーク名 (X'OE') 制御ベクトルが長すぎます。ベクトルのデータ部分が 18 バイトを超えています。
- 0897** システム定義が一致していません。要求された機能が受信先によってサポートされていないか、または送信システム定義と受信システム定義との間で不一致があります。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** BFCLEANUP は、それが独立 LU に対してであることを指定していますが、指定された LU は独立 LU ではありません。これは、リソースの不一致によって引き起こされる場合もあります。
- 0002** ターゲット LU がタイプ 4 ノードと同一のサブエリアにありません。

- 0003** その機能はターゲット・リソースによってサポートされていません。
- 0004** SLU 名が無効です。NS SLU 名フィールドのネットワーク ID があるときは、そのネットワーク ID がタイプ 4 ノードのネットワーク ID と等しくないか、または、SLU 名が LUB 中の LU 名フィールドと等しくありません。
- 0005** FNA 中で指定されている LU アドレスが、FNA 中で指定されている PU ターゲット・アドレスと関連付けられていません。
- 0006** SSCP は LU を事前に定義しておらず、動的リソース定義をサポートしていません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0007** 受信 SSCP は、SSCP(DLU) に対して、セッション開始要求の SSCP (DLU) 名とは異なったシステム定義名を持っています。
- 0008** 3 つのゲートウェイ SSCP を持ったゲートウェイにおいて、ゲートウェイの OLU 側のゲートウェイ SSCP が、CDINIT 中に事前指定制御を持つものとして定義されていました。この構成において、中央ゲートウェイ SSCP のみが事前指定制御を持つことが可能です。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0009** 多重ゲートウェイ SSCP を含むゲートウェイのゲートウェイ・ノードは、1 つのゲートウェイは GWCTL=ONLY でコードされると想定します。この結果、ゲートウェイ・ノードはゲートウェイ制御 RU を、予期していた SSCP とは異なる SSCP から受信することになります。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000A** BFINIT 中に名前の挙げられた独立 PLU の PU は、BFINIT の ALS フィールド中のものと同じの要素・アドレスを持っていません。
- 000B** SSCP が、CDINIT 要求中で、それ自身の定義と矛盾しているゲートウェイ責務の指定を見つけました。例えば、CDINIT 要求中で指定されているゲートウェイ・ノードを制御する事前指定の責務を持つ SSCP が、セッション・パートナーから CDINIT を受信して、その CDINIT がセッション・パートナーもそのゲートウェイ・ノードに対する事前指定の責務を持っていることを示すときに、このセンス・データを送信します。この場合、両方の SSCP が同時にそのゲートウェイ・ノードに対する事前指定責務を持つことはできないので、SSCP の責務に関して不一致が存在しています。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 000C** 受信先が DLU 名を解釈することができません。
- 000D** 受信側にリソース・タイプが定義されていません。
- 000F** ゲートウェイ・ノードが、ネットワーク間セッションに対する経路データを受信しましたが、その形式はサポートしません。

- 0010 隣接 SSCP が、DLU を所有している SSCP と同一の SSCP 名を持っていますが、ネットワーク ID はその DLU とは異なっています。
- 0011 サブシステム LU が、付加 LU 定義 (X'2F') 制御ベクトルを持つ CINIT を受信しましたが、その制御ベクトルを処理できません。
- 0012 セッション開始要求が、OLU の SSCP に戻されるように経路指定されました。要求中の SSCP を所有している OLU は、そのリソースに対して SSCP が定義した OLU 名と同一です。セッション確立は処理されません。
- 0013 セッション要求 (CDINIT) が SSCP(OLU) に戻されるように経路指定したか、またはセッション・セットアップ・パス上の SSCP が SSCP(OLU) と同一の名前を持っています。
- 0014 MOSS 自動 IPL/ダンプ・スイッチが正しく設定されていません。
- 0015 動的リソースは OLU として使用されましたが、隣接リンク・ステーション (ALS) では事前定義リソースのみが許されています。独立 LU に関するセッション開始要求が受信され、OLU リソースには事前定義がない場合、この条件が検出されます。セッションの開始は失敗します。
- 0016 動的リソースは DLU として使用されましたが、隣接リンク・ステーション (ALS) では事前定義リソースのみが許されています。独立 LU に関するセッション開始要求が受信され、DLU リソースには事前定義がない場合、この条件が検出されます。セッション開始要求は拒否されます。
- 0017 特定の ALS 上の独立 LU についての要求を受信しましたが、この ALS はこの LU にサービスを提供するように定義されていません。この条件は、セッション開始要求が受信され、要求受信の対象である ALS が、独立 LU に関するサービスを提供するよう事前定義されていない場合に検出されます。セッション開始要求は拒否されます。
- 0018 セッション開始状況はサポートされません。受信側ノードについて、無効なセッション開始状況フィールドを持っているセッション開始要求を受信しました。
- 0019 SSCP は、認識されていない CP 名を持つ XID3 を含んでいる CONTACTED または REQCONT を受信しました。この SSCP は、事前定義された CP 名のみサポートします。
- 0898 セッションがリセットされました。XRF セッションがリセットされていません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 XRF バックアップ PLU が引き継ぎを強制したので、XRF アクティブ・セッションがリセットされました。
- 0002 XRF バックアップの階層的リセットです。関連する XRF アクティブ・セッションが正常終了したので、示された XRF バックアップ LU-LU セッションは非活動化の最中です。このセンス・データを送信している LU は、パートナー LU からの応答を受信する前に、そのハーフセッションをリセットしつつあります。(UNBIND タイプ X'12' を参照してください。)

- 0003** XRF 活動の階層的リセットです。関連する XRF バックアップ・セッションが (SWITCH を用いて) このセッションの強制引き継ぎを実行したので、示された XRF 活動 LU-LU セッションは非活動化の最中です。このセンス・データを送信している LU は、パートナー LU からの応答を受信する前に、そのハーフセッションをリセットしつつあります。(UNBIND タイプ X'13' を参照してください。)
- 0899** アドレスが無効です。制御機能を変更しているアドレスが無効であるか、またはその受信先によって許可されている範囲外です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0002** RNAA 中で要求されたアドレスが既存のアドレスで、このアドレスに対する FNA が受信された場合、RNAA を拒否してください。
- 0003** 動的再構成 MOVE または REPLACE 操作の場合、RNAA 中で指定された新しい LU ローカル・アドレスが、制御ブロック中ですでに指定されている LU ローカル・アドレスと矛盾しています。両方ともゼロまたは非ゼロでなければなりません。
- 089A** ファイルが無効であるか見つかりません。要求されたファイルが見つからなかったか、またはそれが無効なファイルであることが分かりました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 要求されたファイルが見つかりませんでした。
- 0002** ロード・モジュールが重複しています。同一の名前のものがすでにディスク上にあります。ロード・モジュールを追加することはできません。
- 0003** 必要な関連オブジェクトを見つけることができません。
- 0004** MOSS ディスク上の別のロード・モジュールが、このロード・モジュールについて、MODIFY LOAD コマンドで指定されているのと同じ IPL 時間を持っています。
- 089B** セッション相関例外です。セッション相関手順が SLU で例外条件を検出しました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** RU の順序が正しくありません。相関づけられたセッションで UNBIND (タイプ X'02') が受信される前に、相関する完全修飾 PCID 制御ベクトル (X'5F') が指定された BIND 要求が到着しました。このセンス・データは、その相関セッションを打ち切る UNBIND 中で送られます。
- 0002** 相関関係子が見つかりません。相関する完全修飾制御ベクトル (X'5F') が指定された BIND 要求を、前のどのセッションとも関係付けることができません。
- 089C** セッションに関連した ID の重複。URC が無効です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 BFINIT 中で受信された UR が、同じ BR からの未処理セッション開始試行の URC と重複しています。

089D ネットワーク間セッション開始中に、ゲートウェイ・ノード・エラーが検出されました。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0001 ネットワーク境界を横切るためのゲートウェイ・ノードを選択するのに使用されたゲートウェイ・ノード・リストが、使いつくされました。このエラーは、エレメント・アドレスの不一致によって起こる場合があります。

0003 RNAA が失敗に終わりました。別のゲートウェイ・ノードを試みてみなければなりません。

0004 サブエリアまたはエレメント・アドレス分割 (あるいはその両方) に基づいたアドレス変換は失敗しました。

0005 1 つのゲートウェイ SSCP によって選択されたゲートウェイ・ノードが、同一のゲートウェイ中の別のゲートウェイ SSCP によって知られていません。これは、ゲートウェイ・ノードを認識できないという、ゲートウェイ SSCP 中のシステム定義エラーであることが考えられます。

0006 ゲートウェイ SSCP は、ゲートウェイ・ノードが重複したアドレスを割り当てられたことを検出しました。

089E 識別されたデータ・オブジェクトは、すでに存在しています。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0001 新しいデータ・オブジェクトの作成要素は、識別されたデータ・オブジェクトがターゲット・ノードですすでに存在しているために失敗しました。

0002 データ・オブジェクトの置き換え要求は、保管データ・オブジェクトと異なる削除データ・オブジェクトを指定しましたが、その保管データ・オブジェクトがすでに存在しているために失敗しました。

089F 要求を満たすために必要なノード・コンポーネントは、現在利用可能ではありません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0004 セッション開始に失敗しました。理由は、総称リソース・カップリング・ファシリティが、必要な情報の更新を行いたいの利用不能であるためです。

08A0 セッション・リセット。LU または PU が LU-LU セッションをリセットしています。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 LU は、理由コード X'0A' (SSCP が失われた) を指定した UNBIND を送信しています。関連した SSCP-PU または SSCP-LU

が強制非活動化されている (例えば、DACTPU、DACTLU または DISCONTACT のために) ので、識別された LU-LU セッションを非活動化しなければなりません。

- 0002** LU または SCM は、理由コード X'0F' (終結処置) を指定して UNBIND を送信しています。
- 0003** ゲートウェイ・ノードがセッションをクリーンアップしています。理由は、ゲートウェイ SSCP がゲートウェイ・ノードに対してセッションを非活動化するように命令したからです (通知を通じて)。例えば、セッションのセットアップ・エラーまたはセッションの分解エラーが起こった場合です。ゲートウェイ・ノードは、理由コード X'11' (ゲートウェイ・ノード終結処理) で UNBIND を送信します。
- 0004** 反転 FRSN 値。最終 FRSN 送信フィールドの値が、受信した TDU GDS 変数 (再試行なし) にある現行 FRSN フィールドの値よりも大きくなっています。CP は、理由コード X'0F' (終結処理) を指定して UNBIND を送信します。
- 0005** TDU 送信の順序が正しくない。現行 TDU GDS 変数の最終 FRSN 送信フィールドの値が、すぐ前にある TDU GDS 変数の現行 FRSN フィールドの値よりも小さいか、または、それよりも大きくかつ受信側は順序の正しくない値を記憶できません。(再試行なし) CP は、理由コード X'0F' (終結処理) を指定して UNBIND を送信します。
- 0006** このセンス・コードは VTAM メッセージに表示できますが、設定は他のプロダクトにより行われます。
- 0007** DLUS-DLUR セッションの非活動化 (破壊)。DLUR がサポートする従属 LU に関する LU-LU セッションはリセットする必要があります。
- 0008** DLUS-DLUR セッションの非活動化 (非破壊)。DLUR がサポートする従属 LU に関する LU-LU セッションを、リセットしてはなりません。
- 0009** DLUS-DLUR セッションの非活動化 (非破壊)。プロトコル違反がありました。(DLUR がサポートする従属 LU に関する LU-LU セッションを、リセットしてはなりません。)
- 000A** DLUS-DLUR セッションの非活動化 (非破壊)。DLUR は DLUS-DLUR セッションの DLUS 再活動化を待機する必要があります。(DLUR がサポートする従属 LU に関する LU-LU セッションを、リセットしてはなりません。)
- 08A2** リソースが活動状態です。要求された機能は非活動リソース上で実行されなければなりません、そのリソースが活動状態です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 活動リソースに対して RNAA(MOVE) が受信されました。
- 08A3** セキュリティ検査の呼び出しが失敗しました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。

- 0001** 呼び出し先が、セキュリティー検査の呼び出し中にパスワードの不一致を検出しました。
- 08A4** トークン突き合わせ例外。必要な検索または記憶操作中に、部分名突き合わせが失敗しました。この例外に関する正規の ID は、FS サーバー報告の中で報告されています。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 一致しているべき 1 つまたは複数のトークンが指定されていません。
- 0002** 指定されたトークン突き合わせ標識が複数登録簿突き合わせを破棄します。
- 08A6** オブジェクトが見つかりません。一般サーバーがサーバー・オブジェクトの処理を試みましたがサーバー・オブジェクトが見つからなかったため、例外が起きました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** サーバー・オブジェクトが見つかりません。
- 08A8** マルチドメイン・サポート経路指定例外。NAU を報告する MDS ルーティング機能は、MDS-MU に必要な経路指定を実行することができません。
- この SNA 報告書コードが SNA 条件報告書 (X'1532') GDS 変数で使用される場合は、宛先 NAU 名は条件報告書のロケーション名報告 (X'09') サブベクトルに入れられ、宛先 MS アプリケーション名は条件報告書のエージェント報告 (X'04') サブベクトルに、それぞれ入れられます。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 宛先 NAU 名が認識不能です。ディレクトリー・サービスは、必要な宛先名を見つけることができませんでした。
- 0002** ディレクトリー・サービスが利用不能です。経路指定ができません。
- 0003** MS アプリケーション・プログラム名が認識されていません。
- 0004** CPSVCMG セッションの使用は許可されていません。報告ネットワーク・ノードは、別のネットワーク・ノードから出された CPSVCMG セッションの MDS-MU を受信しました。これらのセッションは、MDS-MU のネットワーク・ノードおよびネットワーク・ノードがサービスする終了ノードの間でのみ使用されます。
- 0005** 機能が EN 宛先によってサポートされていません。バックレベル終了ノード宛先は、MS メッセージ (サービスするネットワーク・ノードが報告する) の受信をサポートしません。
- 0006** 機能が宛先によってサポートされていません。バックレベル宛先は、MS 機能およびアラート以外の MS メッセージの受信をサポートしません。
- 0007** 機能が活動中の NN によってサポートされていません。終了ノード

ド宛先の活動中のネットワーク・ノードは、MS メッセージ (経路指定を実行するネットワーク・ノードが報告する) の経路指定をサポートしません。

- 0008** 機能が EN によってサポートされていません。報告終了ノードは自分以外の宛先を持つ MDS-MU を受信しました。
- 0009** 宛先は報告 NN にサポートされません。ネットワーク・ノードは、経路指定できない別のネットワーク・ノードから MDS-MU を受信しました。宛先は、報告ネットワーク・ノード自身でもないし、終了ノードの 1 つでもありません。
- MDS-MU が、未検査の登録簿情報に基づいて経路指定された場合 (MDS ルーティング情報の経路指定検査標識の指定に従い)、MDS-MU は、SNA 条件報告書と一緒に、経路指定ネットワーク・ノードに戻されます。
- 000A** セッション障害がリカバリー不能です。報告ノードの MDS_SEND TP は、割り振りエラーのためメッセージを送信することができません。再試行は行えません。
- 000B** リモート・ノード TP 障害がリカバリー不能です。報告ノードの MDS_SEND TP は、リモート・ノードの TP 障害のためメッセージを送信することができません。再試行は行えません。
- 000C** MS アプリケーション障害。宛先 NAU の MDS ルーティング機能は、宛先 MS アプリケーション・プログラムと通信することができません。
- 000D** 報告ノードの TP 障害がリカバリー不能です。報告ノードの MDS ルーティングは、ローカル TP 障害のためメッセージを送信することができません。
- 000E** 関連エラー。MDS-MU は、最初のものでない作業単位を受信しました (MDS ルーティング情報メッセージの最初の MDS メッセージ標識はオフです) が、その作業単位相関子が不明 (活動状態にあるすべての MDS トランザクションと一致しない) です。また、重複相関子 (第一 MDS メッセージ標識が 1 である MDS-MU だが、作業単位相関子のエージェント装置が、現在使用中のどれかと一致する) の受信を報告するのにも使用されます。
- 000F** MS アプリケーション混雑。宛先 NAU の MDS ルーティング機能は、ローカル混雑の (キューに入れられている追加の MDS-MU のためのバッファ・スペースがなくなった) ため、宛先 MS アプリケーションと通信することができません。
- 0011** MS アプリケーション・プログラムは、MDS HPO をサポートしていません。宛先 MS アプリケーション・プログラムは、MDS 高性能オプションの使用をサポートしていません。
- 0012** ユーザー・モード・セッションの障害がリカバリー不能です。MDS は、ユーザー・モード・セッション (この場合は、SNASVCMG または CPSVCMG 以外のモード名を持つユーザー・モード・セッションのことです) 上でエラーを検出しました。再試行は行えません。アプリケーション・プログラム・データは、失われた可能性があります。
- 0013** セッションのアンバインド通知。指示された宛先に対する最終セッションは、非活動化されています。詳細については、製品の資料を参照してください。

08A9 マルチドメイン・サポート・トランザクション障害。報告 MDS ルーティング機能または MS アプリケーションが、未処理の作業単位 (MDS エラー・メッセージの作業単位相関子により識別される) または MDS MS に影響を及ぼす状態を検出しました。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 障害の原因は CPSVCMG セッションの停止にあります。

0002 SNASVCMG セッションの停止により障害が起きました。再試行は行えません。

0003 作業単位は、報告 MS アプリケーション・プログラムにより取り消されました。作業単位は、報告 MS アプリケーション・プログラムのタイムアウトのため、取り消されました。

0004 作業単位は、報告 MDS ルーターにより取り消されました。作業単位は、報告 MDS ルーターの不要情報収集タイムアウトによって取り消されました。

0005 MDS ルーターに内部障害があります。作業単位は、報告 MDS ルーターの内部障害が原因で取り消されました。

0006 MS アプリケーションに内部エラーがあります。報告 MS アプリケーション・プログラムが終了したか、またはそのプログラムにより提供される別のプログラムが終了したかの、いずれかの理由のため、作業単位は取り消されました。プログラム終了のタイプ (正常または異常) は示されません。

0007 MS アプリケーション・ルーターの再初期設定。作業単位は、報告 MDS ルーターにより取り消されました。理由は、アプリケーション・レベル・ルーターの再初期設定です。

08AA 必要な GDS 変数が欠落しています。MS マルチドメイン・サポート・メッセージ単位 (MDS MU) から、必要な GDS 変数が欠落しています。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

nnnn センス・コードに続くバイト 2 および 3 には、欠落している GDS 変数の ID が入っています。

1212 制御点管理サービス単位 X'1212' GDS 変数が欠落しています。

1310 DS MU ヘッダー X'1310' GDS 変数が欠落しています。

1311 MDS ルーティング情報 X'1311' GDS 変数が欠落しています。

1532 MDS SNA 条件報告書 X'1532' GDS 変数が欠落しています。

1549 MDS 作業単位 X'1549' GDS 変数が欠落しています。

80F0 MS 機能 X'80F0' MS 主ベクトルが欠落しています。

08B2 データ伝送障害。SNA MS 入り口点のアプリケーション・プログラムと副入り口点のアプリケーション・プログラムの間でのデータ伝送は、機能の異常終了が起きたため未完了です。

08B5 ネットワーク・ノード・サーバーは不要です。(1) NNCP を持つ CP-CP セッションを非活動化するために、または (2) NNCP から CP-CP セッション BIND を受け入れないために、APPN 終了ノード制御点がネットワーク・ノード制御点に送信しました。終了ノードはそれ以上、受信側からのネットワーク・ノード・サービスを要求しません。

注: このセンス・データ値は、上記の (1) の場合は UNBIND (タイプ = X'01') で、(2) の場合は UNBIND (タイプ = X'FE') で、X'35' 制御ベクトルに含まれます。

- 08B6** CP-CP セッションはサポートされません。別の APPN 制御点から CP-CP セッション BIND を受け入れないために、ネットワーク・ノード制御点が送信しました。その TG 上の CP-CP セッションについてのサポートは、TG が最初に活動化されたあとで除去されました。

注: このセンス・データ値は、UNBIND (タイプ = X'01') で、X'35' 制御ベクトルに含まれます。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。
0001 交換回線リンク上のリンク活動化の間に、パートナー・ノードはこの TG 上で CP-CP セッションをサポートしていないことが判明しました。

要求エラー (カテゴリー・コードは 16 進数の 10)

このカテゴリーは、RU が予定された NAU コンポーネントに配送されたのに、解釈または処理できなかったことを示します。この条件は NAU 機能の不一致を表しています。

カテゴリーおよび修飾子 (16 進数):

- 1001** RU データ・エラーです。要求 RU 中のデータは、受信コンポーネントでは受諾不能です。例えば、文字コードがサポートされている設定になっていないか、表示サービスが定様式データ・フィールドを受諾できないか、または構造化フィールドの長さフィールド (LL) に指定された値が無効であるなどの場合があります。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
0001 その要求には 0 というサブエリア・アドレス、または、指定あるいは暗示されたネットワーク中の最大サブエリア値よりも大きいサブエリア・アドレスを含んでいます。
0002 ACTPU 中で指定されたネットワーク ID は ACTPU が受信されたリンク上で知られていないか、または無効です。
0003 分離ペーシング・メッセージ (IPM) 形式エラーです。形式設定が誤っている IPM が受信されました。
0005 ローカル・アドレス・フィールド長が 1 よりも大きい RNAA タイプ 4 が受信されました。インストール・システムの設定は、1 以外の長さをサポートしません。
0006 リンク・ステーション・アドレス・フィールド長が 1 よりも大きい RNAA タイプ 4 が受信されました。インストール・システムの設定は、1 以外の長さをサポートしません。
0007 BFCINIT 上で、ネットワーク修飾名のネットワーク名部分の形式が誤っています。

- 0008 無効な文字コードが見つかりました。
- 0009 表示サービスにとっては定様式データ・フィールドが受諾不能です。
- 000A 構造化フィールドで無効な長さフィールドが見つかりました。
- 000B 名前の長さがフィールド (PLU または SLU) 中の値が大きすぎます。
- 000C 暗号鍵長フィールド中の値が大きすぎます。
- 000D URC 長さフィールドが無効です。
- 000E 制御ベクトル長フィールドが、制御ベクトル・データと矛盾しています。
- 000F PLU または SLU 役割仕様コード化が無効です。
- 0010 ユーザー・データ長フィールドの値が無効です。
- 0020 存在するセッション・キーが多すぎます。
- 0021 制御ベクトルまたはセッション・キー・データが無効です。
- 0022 セッション・サービス RU 中の BIND イメージが無効です。
- 0023 装置特性フィールドが無効です。
- 0026 要求 RU 内の GDS 変数の長さが無効です。
- 0027 位置付け内の GDS 変数が無効です。
- 0030 制御ベクトルが不明確です。その要求には、2 つ以上の競合する制御ベクトルが含まれています。2 つの制御ベクトルが同一のキーを持っています。しかし、新しい制御ベクトルキーが古いものにとって代わる場合があります。この場合、他には区別するデータ (ネットワーク ID のような) のない、異なったキーを持つ 2 つの制御ベクトルは区別しにくくなる可能性があります。同一のネットワークに対する、VR ID リスト制御ベクトル (CV X'1B') および経路パラメーター制御ベクトル (CV X'4E') の両方を指定したゲートウェイ・ノードに対する SETCV がその例です。
- 0033 暗号 (X'63') 制御ベクトル内の復号 CP の名前が、受信 CP(PLU) の名前と一致していません。
- 0034 隣接サブネットについてのトポロジー情報を含む APPN サブネットワーク・リンクを通して、トポロジー・データ更新が受信されました。
- hmmn* ここで $h \geq 8$ 、すなわちバイト 2 の高位ビットは 1 に設定されます。バイト 2 および 3 の下位 15 ビットは、エラーであることが見つかったフィールドの最初のバイトを指し示す (ゼロが起点) 2 進数の値を含んでいます。
- 1002 RU 長さエラーです。要求された RU は長すぎたか短すぎました。
- 1003 機能がサポートされていません。要求された機能はサポートされていません。機能は定様式要求コード、RU 中のフィールド、または制御文字によって、指定されます。

注: 0001 および 0002 は、導入先に特有な使用方法にも割り当てられます。使用方法の詳細については、導入資料を参照してください。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。

0001 その要求を受信するハーフセッションは、それを行う能力がないので、その機能を実行しませんでした。要求側のハーフセッションが、受信先のサポートしていない機能を要求し、その受信先ではセッション活動化中にその機能をサポートできることを指定しませんでした。そのために、ハーフセッション能力に関して明らかに不一致があります。

注: これはシステム・エラーにも及びます。例えば、SETCV (ベクトル・キー=X'15') を受信する PU がゲートウェイ PU ではないとき、すなわち PU がゲートウェイ PU であることを ACTPU 応答で示していなければ、その PU は SETCV を送信した SSCP に対して、ハーフセッション能力の明らかな不一致があることを報告します。

0002 その要求を受信するハーフセッションは、それを行う能力があるにもかかわらず、その機能を実行しませんでした。要求を行っているハーフセッションは、セッション活動化中に、その機能をサポートできると指定しませんでした。そのために、ハーフセッション能力に関して明らかに不一致があります。

注: これはシステム・エラーにも及びます。例えば、SETCV (ベクトル・キー=X'15') を送信している SSCP が、受信している PU に対してゲートウェイ SSCP としては知られていない場合、すなわち、SSCP はそれがゲートウェイ SSCP であることを ACTPU 中で示していない場合、PU は能力の不一致を報告します。

0003 コンポーネントがサポートされていない通常流れ DFC コマンドを受信しました。

0004 コンポーネントが、サポートされていない急送フロー DFC コマンドを受信しました。例えば、LU 6.2 ハーフセッションが、ローカル会話スタイルが全二重である場合に、SIGNAL RU を受信したかもしれません。(しかし、ハーフセッションは、SIGNAL が現行ブラケット用である場合のみ、SIGNAL を受け入れません。早期の SIGNAL は、ブラケットを正しく行うため、保留されます。つまり、SIGNAL 値を正しい BB を受信するまで保管します。)

0005 コンポーネントが LU-SSCP セッション中にネットワーク制御コマンドを受信しました。

0006 コンポーネントが LU-SSCP セッション中に、サポートされていないセッション制御コマンドを受信しました。

0007 コンポーネントが、LU-SSCP セッション中に、サポートされていないデータ・フロー制御コマンドを受信しました。

0008 予約されたブロードキャスト探索です。NNCP は予約されたブロードキャスト探索要求を受信しました。

0009 開始タイプ。CDINIT GDS 変数中で要求された開始タイプであるか、または、INIT_OTHER_CD GDS 変数が受信側でサポートされていない。

000A セッション極性が正しくありません。CDINIT GDS 変数中で要求されたセッション極性は、受信先ではサポートされていません。

000B 非 6.2 タイプ LU から、遅延要求モードを指定する BIND を受信しましたが、受信先では遅延要求モードはサポートされていません。

- 000C** SSCP によってサービスされるノードから独立型 BIND が受信されましたが、その SSCP は独立型 BIND をサポートしていません。
- 000D** 要求中で識別されている機能は、処理アプリケーション・トランザクション・プログラムによってはサポートされていません。
- 0010** その RU はセッション・サービスに知られていません。
- 0011** セッション・キーはサポートされていません。
- 0012** 制御ベクトルはサポートされていません。
- 0014** 暗号はサポートされていませんが、暗号鍵に対してゼロではない長さが指定されました。
- 0015** コントローラー・セッションに対してキューイングはサポートされていません。
- 0016** サービス・パラメーターはサポートされていません。この SNA 報告コードが SNA 条件報告書中で使われる場合は、サポートされなかったサービス・パラメーター・トリプレット (1 つまたは複数) を識別する補足報告書を伴います。
- 0017** サービス・パラメーター・レベルはサポートされていません。この SNA 報告コードが SNA 条件報告書中で使われる場合は、サポートされなかったサービス・パラメーター・トリプレット (1 つまたは複数) を識別する補足報告書を伴います。
- 0018** 宛先役割機能がサポートされていません。この SNA 報告コードが SNA 条件報告書中で使われる場合は、構造を識別し、サポートされない機能を指定する内容を持つ、構造報告書を伴います。構造報告書の内容が、サポートされない機能を識別するのに十分でない場合は、補足報告書も表示される場合もあります。
- 0019** 全役割機能がサポートされていません。この SNA 報告コードが SNA 条件報告書中で使われる場合は、構造を識別し、サポートされない機能を指定する内容を持つ、構造報告書を伴います。構造報告書の内容が、サポートされない機能を識別するのに十分でない場合は、補足報告書も表示される場合もあります。
- 001B** エージェントを開始できません。
- 001C** 機能は、形式セット 1 の符号化と対立します。この SNA 報告コードが SNA 条件報告書中で使われる場合は、構造を識別し、対立する機能を指定する内容を持つ、構造報告書を伴います。
- 001F** 複数宛先トラフィックはサポートされていません。報告ロケーションは、単一宛先トラフィックのみをサポートする、特殊化された終了専用役割実施です。
- 0020** セッション開始要求が同一の LU である OLU を DLU 指定しました。LU はそれ自身とセッションを確立できません。
- 0021** セッション開始要求タイプと LU タイプ (独立または従属) の間で不一致があります。例えば、BFINIT 以外のセッション開始要求は、セッション・パートナーとして独立 LU を識別します。
- 0023** 拡張セッション・サービス NNS サポートを要求するセッション開始要求が、このサービスが利用可能でない EN で受信されました。
- 0025** コンポーネントは、サポートされていないタイプの NOTIFY 要求を受信しました。
- 0027** LU タイプはサポートされていません。
- 0036** ネットワーク・ノード・サーバーは、DLU にサポートされていないタイプの NOTIFY 要求を受信しました。

- 0037 受信された要求は、ネットワーク・アドレス可能単位の受信タイプに適切ではありません。
- 6002 宛先プログラム名 (DPN) によって識別されるリソースはサポートされていません。
- 6003 基本リソース名 (PRN) によって識別されるリソースはサポートされていません。

注: このセンス・コードは、センス・コード X'0826' の代わりに使用されることもあります。

- 1005 パラメーター・エラーです。制御機能を変更するパラメーターが無効であるか、または受信先によって許可されている範囲内にありません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 NMVT の場合、SNA アドレス・リスト・サブベクトル中のアドレス・タイプ・フィールドが、コマンド・サブベクトルによって必要とされるアドレス・タイプと合致していません。
- 0003 要求されたエレメント・アドレスの数が無効です。
- 0004 無効な表示タイプが要求されました。
- 0005 要求された表示タイプのストレージ長が無効です。
- 0006 ストレージ・アドレスが無効です。指定された範囲外。
- 0007 要求変更制御 MS 主ベクトルでのコマンドが SNA/FS サーバー命令と矛盾します。
- 0010 現行のバックアップ・フォーカル・ポイント情報が保持される場合に、新しいバックアップ・フォーカル・ポイント名が提供されました。
- 1006 要求されたフィールドまたはパラメーターが欠落しています。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。VTAM は、セッションの開始に対してこのセンス・コードを受信した場合、宛先 LU が見つかるか、経路が尽きるまで隣接 SSCP テーブルを検索し続けます。
- 0001 必要な COS 名が 1 つまたはそれ以上除外されています。
- 0002 必要な名前が除外されています。
- 0003 必要なネットワーク ID が除外されています。
- 0004 必要なセッション・キーが除外されています。
- 0005 必要な制御ベクトルが除外されています。
- 0006 制御ベクトルの必要なサブフィールドが除外されています。
- 0007 TG 番号フィールドが除外されています。
- 0008 特定の ID(IDNUM) が除外されています。
- 0009 必要な GDS 変数が欠落しています。
- 1007 カテゴリーがサポートされていません。DFC、SC、NC または FMD 要求が、そのカテゴリーの要求をサポートしないハーフセッションによって受信されたか、または NS 要求バイト 0 が定義された値に設定されていなかったか、バイト 1 がその受信先によってサポートされている NS カテゴリーに設定されていませんでした。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 無効な NS ヘッダーが受信されました。NS 要求バイト 0 が定義された値に設定されていませんでした。

1008 FM ヘッダーが無効です。FM ヘッダーが受信先によって理解されなかったか変換不能でした。または、FM ヘッダーが必要であったのに存在していませんでした。LU 6.2 の場合、このセンス・コードは FMH-7 または UNBIND に入れて送られます。

以下の表には、LU タイプごとに許されている値の使用法を示しています。

表 2. LU タイプ別の 16 進数 1008 センス・コード特定情報の使用法

範囲	LU 1	LU 4	LU 6.1	LU 6.2
0801-0824	X	X		
0825	X			
0826-082A	X	X		
2001-200D	X	X		
200E	X	X	X	
200F-201C	X	X		
201D				X
4001-400E	X	X		
6000				X
6001,6004			X	
6005			X	X
6006-6008			X	
6009			X	X
600A			X	
600B			X	X
600C-6010			X	
6011-6034				X
6040			X	X
6041				X
6046				X
6047				X
6048				X
C000-C003			X	

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0801 機能コード・パラメーターは無効です。

0803 用紙機能は実行できません。

0805 コピー機能は実行できません。

0806 短縮テーブルがサポートされているセットの範囲を超えています。マスター文字数が有効な範囲内にありません。

- 0807 PDIR (周辺データ情報レコード) ID が無効です。
- 0808 印刷トレーン機能を実行できません。
- 0809 FCB (用紙制御ブロック) ロード機能を実行できません。
- 080A FCB (用紙制御ブロック) ロード機能はサポートされていません。
- 080B 短縮テーブル名が無効です。
- 080C ACCESS が無効です。
- 080D RECLEN が無効です。
- 080E NUMRECS が無効です。
- 080F データ・セットは使用中です。
- 0810 データ・セットが見つかりません。
- 0811 パスワードが無効です。
- 0812 機能は、その宛先またはそのデータ・セットに対して許されていません。
- 0813 レコードが長すぎます。
- 0814 データ・セットがいっぱいです。
- 0815 RECID が無効です。
- 0817 VOLID 形式が無効です。
- 0818 チェーン当たりの論理レコードの最大数を超過しています。
- 0819 データ・セットが存在しています。
- 081A スペースが使用不能です。
- 081B VOLID が無効です。
- 081C DSACCESS が無効です。
- 081D RECTYPE が無効またはそのデータ・セットが見つかりません。
- 081E 分析解決スペースが不十分です。
- 081F キー手法が無効です。
- 0820 キー変位が無効です。
- 0821 キーが無効です。
- 0822 無効な N(レコード数) があります。
- 0823 KEYIND が無効です。
- 0824 SERID が無効です。
- 0825 ディスク・エラーです。ディスクへの読み書き中にエラーが検出されました。
- 0826 RECID 形式が無効です。
- 0827 パスワードが提供されていません。
- 0828 レコード ID が提供されていません。
- 0829 ボリューム ID が提供されていません。
- 082A PGMNAME が無効です。
- 2001 宛先 (活動) が無効です。
- 2002 宛先 (非活動状態) が無効です。
- 2003 宛先 (延期状態) が無効です。
- 2004 延期再開順が無効です。
- 2005 割り込みレベル違反がありました。
- 2006 再開特性が無効です。
- 2007 宛先が使用不能です。
- 2008 終了順が無効です。
- 2009 FM ヘッダー長が無効です。
- 200A フィールド設定が無効です。予約フィールドが 1 に設定されたか、または設定が定義されていません。

- 200B 宛先が無効です。宛先が存在しません。
- 200C ERCL が無効です。
- 200D データ・ストリーム・プロファイル (DST) が無効です。
- 200E 連結標識が無効です。連結標識がオンですが、連結は許可されていません。
- 200F FM データはヘッダー用に許されていません。
- 2010 BIND 中に指定されている FM ヘッダー・セットが違反です。
- 2014 FM ヘッダーが連結されて送信されませんでした。
- 2019 スタック参照標識 (SRI) が無効です。
- 201A CMI 修正が受諾されませんでした。
- 201B CPI 修正が受諾されませんでした。
- 201C ECRL 修正が受諾されませんでした。
- 201D FM ヘッダーおよび関連したデータが一致していません。FM ヘッダーは、関連したデータが続くかどうか (例えば、FM ヘッダー 7 にはログ・データが、FM ヘッダー 5 にはプログラム初期設定パラメーターが続きます) を示しますが、この指示が誤っています。または、以前に受信された RU (例えば、-RSP(X'0846')) が FM ヘッダーが続くことを示しているのに、それが受信されていません。
- 4001 FM ヘッダー・タイプがこの LU に対して無効です。FM ヘッダーのタイプが、5、7 または 12 以外になっています。
- 4002 FMH コードが無効です。
- 4003 圧縮はサポートされていません。
- 4004 短縮はサポートされていません。
- 4005 基本交換はサポートされていません。
- 4006 基本交換のみがサポートされています。
- 4007 そのメディアはサポートされていません。
- 4008 コード選択圧縮違反がありました。
- 4009 FMHC サポートされていません。
- 400A 需要選択はサポートされていません。
- 400B DSNAME はサポートされていません。
- 400C メディア・サブアドレス・フィールドが無効です。
- 400D 要求された機能を実行するには、リソースが不足しています。
- 400E DSP 選択はサポートされていません。
- 6000 FM ヘッダー長が正しくありません。FM ヘッダー長フィールドの値が、FM ヘッダーのサブフィールドの長さの和と異なっています。
- 6001 非ブロック化アルゴリズム (DBA) が無効です。
- 6004 キュー名の長さが無効です。
- 6005 アクセス・セキュリティ情報長さフィールドが正しくありません。アクセス・セキュリティ情報長さフィールドの値が、アクセス・セキュリティ情報サブフィールドの長さの和と異なっています。
- 6006 データ・ストリーム・プロファイル (DSP) が無効です。
- 6007 FMH-7 の前に X'0846' センス・コードを送る否定応答が先行していません。
- 6008 接続アクセス・コードが無効です。
- 6009 パラメーターの長さが無効です。固定長パラメーターの長さを指定するフィールドの設定が無効です。

- 600A** これは最初の FMH-5 ではなく、交換装置タイプは古いものと同じではなく、交換装置終了標識はオフです。
- 600B** FM ヘッダー・コマンド・コードが認識されていません。パートナー LU は、認識できない FM ヘッダー・コマンド・コードを受信しました。LU 6.2 の場合、このセンス・データは FMH-7 中でのみ送信されます。
- 600C** 空の順序フィールドが必要です。
- 600D** ユーザーからユーザーへのプログラム遷移は許されていません。
- 600E** ユーザーから非 SNA 定義へのプログラム遷移は許されていません。
- 600F** FMH-5 リセット接続プログラム (RAP) は適切に送信されませんでした。
- 6010** FMH-5 接続プログラム (RAP) は、非活動状態にある接続レジスターで送信されました。
- 6011** 無効な作業論理単位 (LUW)。LUW 長さフィールド (GDS 変数状態比較または FMH-5 中の) が正しくないか、または長さフィールドが無効か、あるいは LUW が無いのに同期レベル・フィールドの設定値によって必要とされています。
- 6021** トランザクション・プログラム名が認識されません。FMH-5 接続コマンドは、受信先が認識しないトランザクション・プログラム名を指定しています。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 6031** PIP は許可されていません。FMH-5 接続コマンドはプログラム初期設定パラメーター (PIP) データが存在することを指定していますが、受信先は指定されたトランザクション・プログラムでは PIP データをサポートしていません。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 6032** PIP が正しく指定されていません。FMH-5 接続コマンドはプログラム初期設定パラメーター (PIP) データを必要とするトランザクション・プログラム名を指定していますが、FMH-5 によって PIP データが存在しないように指定されているか、または提示されている PIP サブフィールドの数がそのプログラムで必要とされている数と合っていません。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 6034** 会話タイプが一致していません。FMH-5 接続コマンドが、指定されたトランザクション・プログラムについて受信先がサポートしていない会話タイプを指定しています。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 6040** 接続パラメーターが無効です。FMH-5 接続コマンドの中のパラメーターが、以前に BIND 交渉で提供された LU 機能のステートメントと対立します。
- 6041** 同期レベルがサポートされていません。FMH-5 接続コマンドは、指定されたトランザクション・プログラムについて受信先がサポートしていない同期レベルを指定しています。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 6042** 再接続はサポートされていません。FMH-5 接続コマンドは再接続サポートを指定していますが、受信先は指定されたトランザクショ

ン・プログラムについては再接続をサポートしていません。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。

- 6043** トランザクション・プログラムを再接続できません - 再試行は行われません。FMH-5 再接続コマンドが、受信先が再接続できないトランザクション・プログラムの会話相関関係子を指定しています。この条件は一時的なものではありません。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 6044** トランザクション・プログラムを再接続できません - 再試行が許可されます。FMH-5 再接続コマンドが、受信先が再接続できないトランザクション・プログラムの会話相関関係子を指定しています。この条件は一時的なものです。このセンス・データは、FMH-7 でのみ送信されます。
- 6046** SNA/DS トランザクション・プログラムは、SNA/DS パートナーとの会話を割り振ることができません。
- 6047** 隣接 SNA/DS トランザクション・プログラムと会話中の SNA/DS トランザクション・プログラムが、LU 6.2 PS からの resource_failure 戻りコードを検出しました。
- 6048** 隣接 SNA/DS トランザクション・プログラムと会話中である SNA/DS トランザクション・プログラムは、割り振り解除タイプ (異常終了) の戻りコードを LU 6.2 PS から検出しました。
- C000** そのヘッダーがサポートされていません。
- C001** そのヘッダー長が無効です。
- C002** 論理メッセージ・サービス・ブロック・レベル・エラーがありました。
- C003** バージョン ID の不一致があります。
- 1009** 形式グループが選択されませんでした。現在の絶対または相対形式構造化フィールドを表示画面に出す前に、形式グループが選択されませんでした。
- 100A** ユーザー名が不明です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 指定された操作管理提供のアプリケーション名は、操作管理により登録されていません。操作管理提供のアプリケーション名は、R および TI X'154D' に含まれている名前リスト X'06' サブベクトルの DAN X'50' サブフィールドで指定されています。
- 100B** 形式例外。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 必要な構造が不在です。この SNA 報告コードが SNA 状態報告で使用される場合、不在構造を識別する構造報告が伴います。例えば、受信された MDS_MU に、宛先アプリケーション名がない等です。
- 0002** 除外した構造が存在しています。この SNA 報告コードには構造を識別する構造報告が伴います。

- 0003** 操作不能構造の複数のオカレンス。この SNA 報告コードには、構造の 2 番目のオカレンスを識別し、そのオカレンスを含んでいる構造報告が伴います。
- 0004** 反復可能構造のオカレンスが過剰です。この SNA 報告コードには、オカレンスの最大数を越えた構造のオカレンスを識別し、それを伴う構造報告が伴います。
- 0005** 認識できない構造が排除された場所に存在しています。この SNA 報告コードには、排除された認識不能の構造を識別し、それを伴う構造報告および許可されているすべての構造の兄弟リストが伴います。
- 0006** 長さが指定された範囲を超えています。このコードは、長さの計算が合っており、送信側がその長さで構造を送ろうと試みていたことを示します。この SNA 報告コードには、超過した長さの構造を識別し、それを伴う構造報告、および許可されている最大長を含む補足情報が伴います。
- 0007** 長さ例外。長さの計算が合っていません。この SNA 報告コードには、親の境界を超えた構造のヘッダーを識別し、それを伴う構造報告が伴います。
- 0008** 構造の必要な組み合わせがありません。この SNA 報告には、組み合わせをつくる構造を識別し、それが存在するかしないかを相互に示す構造報告が伴います。
- 0009** 排除した構造の組み合わせが存在しています。この SNA 報告には、排除された組み合わせを作った構造を識別する構造報告が伴います。
- 000A** 必要な構造およびデータ値の組み合わせがありません。この SNA 報告コードには、存在する構造およびデータ値を識別する構造報告、および組み合わせを完了するのに必要な不在構造を識別する構造報告が伴います。
- 000B** 排除した構造およびデータ値の組み合わせが存在しています。この SNA 報告には、排除した組み合わせを作った構造とデータ値を識別する構造報告が伴います。
- 000C** データ値が不明またはサポートされていません。この SNA 報告コードには、構造を識別し、不明またはサポートされていないデータ値を含む構造報告が伴います。
- 000D** データ値が矛盾しています。この SNA 報告コードには、構造を識別し、矛盾したデータ値を含む構造報告が伴います。
- 000E** 排除した文字が存在しています。この SNA 報告コードには、構造を識別し、違反バイトのバイト・オフセットを示し、排除されたコード・ポイントを持つバイトを含む構造報告が伴います。
- 000F** データ値が範囲を超えています。この SNA 報告コードには、構造を識別し違反データ値を含む構造報告、および範囲内で許可されている最大値 (最大範囲値が使用可能である場合) を含む補足報告が伴います。
- 0010** セグメント化が排除された位置に存在しています。この SNA 報告コードには、セグメント化すべきでない構造を識別する構造報告が伴います。
- 0011** データ値が排除されています。この SNA 報告コードには、構造を識別し違反データ値を含む構造報告が伴います。

- 0012** 構造は認識されていますがサポートされていません。この SNA 報告コードには、構造を識別する構造報告が伴います。
- 0013** いくつかの可能な構造が見つかりません。この SNA 報告コードには、不在構造の親を識別し不在構造の位置で検出された認識されない構造を含む構造報告が伴います。さらに、この構造報告には可能な構造の兄弟リストが含まれています。
- 0014** 子構造の順序が間違っていることが検出されました。この SNA 報告コードには、誤った順序の子構造の親を識別する構造報告が伴います。
- 100C** メッセージ単位が認識されません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 受信されたバイト・ストリームは、受信側の SNA コンポーネントでは識別できません。
- 100D** 要求が矛盾しています。要求によって与えられた制御情報が、その要求中の他の情報と矛盾しています。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** サーバーのオブジェクト・サイズがサービス・レベルと矛盾しています。
- 100E** ダイレクト例外。ディレクトリー・サポートが十分でないため、または TP 名と存在または不在のユーザー名の間には矛盾があるため、ノードは要求に応じてダイレクトまたはリダイレクト機能を実行することができません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** エージェント名は、指定されたユーザー宛先に知られていますがサポートされていません。
- 0002** エージェント名は、指定されたノード宛先に知られていますがサポートされていません。
- 0003** エージェント名は、この DSU で知られていますが使用不能です。
- 100F** LU 6.2 の SNA/DS 使用法が適切ではありません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 隣接する SNA/DS トランザクション・プログラムと会話中の SNA/DS トランザクション・プログラムは、LU 6.2 基本会話動詞の順序が誤っていることを検出しました。
- 1010** 位置付け探索のエラーであるか、または CP 機能メッセージが検出されました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 例えば重複制御ベクトルのようなりカバリー不能エラーを検出しました。

- 0001** ブロードキャスト探索を行った結果、ターゲット・リソースを所有する CP 上に、複数の対立する肯定応答が生じました。複数の肯定応答は、そのすべてが同じ所有 CP を示す限りは、受け入れられます。
- 0003** CP 機能の交換を妨げたエラーを検出しました。リカバリー処理が行われます。
- 0005** サブネットワーク間位置付けに失敗しました。理由は、境界ノードのサブネットワーク・リストに、宛先ネットワーク ID についての項目が存在していないからです。
- 1000** CP 機能 GDS 変数内の長さのエラーです。
- 1002** CP 機能 (X'12C1') GDS 変数を予期していたのに、無効な GDS 変数を受信しました。
- 4004** ブロードキャストまたは「すべて」を指定している直接探索に示された、探索または予約中に、不完全な否定応答、または中立応答を受信しました。
- 5002** 探索要求に対して、CD が開始する GDS 変数は戻されませんでした。
- 5006** セッション極性、または、CD が開始する GDS 変数の中で受信した開始タイプの値は、サポートされません。
- A002** 位置付け検索要求に GDS 変数の検索がありません。
- B080** 検出された GDS 変数にコマンド・パラメーター (X'80') 制御ベクトルが存在しません。
- 1011** RNAA 要求エラーです。送信するシステム定義と受信するシステム定義との間に不一致があるか、または複数の機能の間で不一致があるので、RNAA は拒否されます。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** ENA 以前のアドレスが使用不能です。ENA 以前との互換性のあるアドレスを要求する RNAA を拒否してください。そうすれば ENA 以前のアドレスは使用不能となります。
- 0002** RNAA 引き継ぎエラーです。引き継ぎ状況で、『古い』SSCP と引き継ぎを行っている SSCP との間でシステム定義の不一致が検出されました。例えば、RNAA 中の LU 名フィールドが、LUB 中の LU 名フィールドと同一でなければその RNAA は拒否されます。同一のローカル・アドレスを持った既存の LU が見つかったが、その LU が動的再構成による追加ではなく生成されている場合、その RNAA は拒否されます。RNAA 中で与えられた ALS 名が、CUB 中の ALS 名と一致していないならば、その RNAA は拒否されます。
- 0003** NETID が無効です。RNAA 中の NETID フィールドがネイティブ・ネットワーク ID のものと同一でなければ、その RNAA は拒否されます。PU タイプ 4 と SSCP システム定義の間に不一致が存在することが考えられます。
- 0004** PU または LU タイプが無効です。LU が追加される PU がタイプ 1 またはタイプ 2 ではないときは、RNAA は拒否されます。SSCP は PU に LU を追加しようと試みましたが、NCP は PU を PU タイプ 4 であると定義しています。2 番目の状況として、

SSCP が PU または LU を指定して RNAA タイプ X'00' または X'05' を送信したことが考えられます。これは SSCP-NCP 定義の不一致によって引き起こされた RU-NAU 不一致です。

- 0005 ENA 以前のアドレス割り当てに、MAXSUBA が必要とされました。MAXSUBA が指定されずに、ENA 以前のアドレスを要求する RNAA が受信されると、その RNAA は拒否されます。
- 1012 SNA/DS 受信先例外 MU 形式例外。SNA/DS 形式の解析または作成が成功しませんでした。
- 1013 サーバー・パラメーターが不明です。指定されたパラメーターは、サーバーによって認識されません。
- 1014 登録簿 GDS 変数の制御ベクトル・エラーです。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 003C 検索または検索済みで、関連したリソース項目 (X'3C') 制御ベクトルが欠落しています。
- 003D 検索または検索済みで、ディレクトリー項目 (X'3D') 制御ベクトルが欠落しています。
- 0060 LOCATE GDS 変数に CV60 がありません。
- 0080 制御ベクトルが無効です。
- 023C ディレクトリー項目が矛盾しているか、または関連するリソース項目 (X'3C') 制御ベクトルが無効です。
- 502C ネットワーク・ノード・サーバーからの CD 開始応答に、COS/TPF 制御ベクトル受信されません。
- 502D BIND で受信した COS/TPF 制御ベクトルは、対応する Locate の COS/TPF 制御ベクトルとは異なっています。
- 5046 終了ノード OLU または DLU からの CD 開始時に、TG ベクトルがありません。
- A080 検索において、コマンド・パラメーター (X'80') 制御ベクトルがありません。
- A082 検索において、検索索引数ディレクトリー項目 (X'82') 制御ベクトルがありません。
- B280 終了ノードからの検索済み分は、位置付けされたリソースについての登録簿項目はワイルドカード項目であったことを示しました。
- 1015 XID 長さエラー。XID3 は長過ぎるか、短過ぎるかのどちらかです。センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
 - 0000 該当する特定コードがありません。
 - 0001 受信した XID3 は 29 バイトより小さい値です。
- 1016 XID 形式 3 パラメーター・エラーです。XID3 にあるデータは、受信コンポーネントに受け入れられません。受信した XID3 フィールドには、XID 折衝エラー (X'22') 制御ベクトル (このセンス・データも含む) に指定されたバイトおよびビット・オフセットがありますが、このフィールドの値が送信された XID3 にある対応するフィールドと矛盾しているためです。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

 - 0000 該当する特定コードがありません。

- 0001 受信済み XID3 のフィールドは、I フレーム (送信側が肯定応答の前に受け取れる) の最大数を指定するものですが、この値がゼロに設定されました。
- 0002 隣接ノードは ACTPU についての要求が矛盾しています。非活動化 XID3 交換では、以前の XID3 交換時に送信された ACTPU 抑止標識の値を変更しています。
- 0004 受信した XID には、XID 形式 3 が予期されていましたが、XID 形式 3 ではありませんでした。
- 0005 隣接ノードは BIND セグメント生成をサポートしませんが、BIND セグメントの受信はサポートします。BIND セグメントの受信をサポートする T2.1 ノードはどれも、BIND セグメントの生成もサポートします。
- 0006 この隣接ノードは終了ノードであり、BIND セグメントの受信はサポートしません。この隣接ノードは、265 より小さい最大 BTU サイズをもっていますが、この場合は最小 BTU サイズが要求されています。
- 0007 この隣接ノードは終了ノードであり、BIND セグメントの受信はサポートしません。この隣接ノードは、521 より小さい最大 BTU サイズを持っていますが、この場合は最小 BTU サイズが要求されています。
- 0008 隣接ノードは XID3 中にあるネットワーキング機能を、以前の折衝処理または非活動化 XID3 の中で宣言した内容から変更しています。2 つの異なる折衝処理または非活動化 XID3 においては、ノードが終了ノードからネットワーク・ノードへ またはその逆へ、変更されない場合があります。
- 000A 非活動化 XID3 交換の間、隣接ノードは活動化交換時に折衝された TG 数を変更します。
- 000B 隣接ノードは、TG 数折衝の勝者であり、受信ノードがこの接続に割り振れない TG 数を指定します。2 つのノード間で並列 TG がサポートされている場合、とられる数は常にゼロです。
- 000E 別々の製品セット ID が、同一隣接ノードから受信された 2 つの異なる XID3 に追加された、製品セット ID (X'10') 制御ベクトルに指定されています。
- 000F 送受信された折衝処理 XID3 の中で指定されたリンク・ステーションの役割に、互換性がありません。接続を活動化するためには、片方のノードには 1 次リンク・ステーションが、もう一方のノードには 2 次リンク・ステーションが含まれている必要があります。
- 0010 送受信された折衝処理 XID3 が指示する、結合非同期平衡モードリンク・ステーションのサポートが、不一致の状態です。
- 0011 受信した XID3 は、XID 交換に関与する 2 つのノード間で並列伝送グループがサポートされていない場合に、複数の接続を活動化しようとする試みがなされていることを示しています。
- 0013 DLC タイプは、送受信された折衝処理 XID3 が不一致であることを示しました。
- 0016 この TG はこのノード (範囲 1-20) に事前定義されていますが、隣接ノードから XID3 で受け取った TG 番号と同じではありません。

- 0018** 隣接ノードは APPN ノードですが、送信側または受信側として BIND 適応ペーシングはサポートしません。
- 001A** この隣接ノードは並列 TG のサポートに矛盾があります。2 つのノード間の並列 TG のサポートは、異なる TG の活動化 XID 交換にも、同一 TG の連続 XID 交換にもなりえません。
- 001B** この隣接ノードは、CP サービスを提供または要求しますが、CP-CP セッションはサポートしません。受信した折衝処理 XID3 のバイト 8 から 9、ビット 10 から 11 が 10 に設定されました。T2.1 ノードについては、設定値の組み合わせは許可されません。
- 001F** XID3 に受信した TG 記述子制御ベクトルのサブネットワーク間リンク標識の設定は、受信ノードのシステム定義と矛盾しています。センス・データの値は、送信側および受信側両方がこのビットの設定をサポートする場合のみ使用されます。
- 0022** 製品固有のセンス・コードです。
- 1018** MU 順序例外。SNA/DS トランザクション・プログラムは、SNA/DS MU の適切でない順序を検出しました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0001** DMU が受信されましたが、MU_id はすでに終了しています。
- 0002** パートナーから受信した MU_id 状態は、MU_id 登録での状態と矛盾しています。
- 0004** 以前の会話終了標識が無視されています。
- 0005** RRMU が受信されましたが、その後に change_direction 標識がありません (すなわち、RRMU の受信後に出された receive_and_wait verb が、what_received=send 以外のものを戻しました)。
- 1019** 再始動バイト位置が正しくありません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0001** DCMU で指定されている再始動バイト位置の値が、CRMU で受信された最後のバイトの値に 1 を加えたものよりも大きくなっています。
- 0002** 受信先は、バイト・カウント再始動選択をサポートしておらず、DCMU で指定されている再始動バイト位置の値は、最後に LLid 構造を正常に受信された位置に続く LLid 構造の開始位置ではありません。
- 0003** 受信先はバイト・カウント再始動選択をサポートしていますが、DCMU で指定されている再始動バイト位置の値が 1 と等しくなく、CRMU で指定されている最後に受信されたバイトの値以下になっています。
- 101A** 制御ベクトルの順序が無効です。TDU 内の制御ベクトルの位置について無効なキーを含んでいる制御ベクトルが検出されました。
- 101C** 無効なデータを受信しました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 入力データの変更は許可されません。

- 101E** 機能が不適切。隣接ノードの制御点機能が受諾不能である場合に送信されます。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- nnnn** バイト 2 および 3 は、X'12C1' CP 機能 GDS 変数のサポート標識サブフィールド内の、最初の受諾不能サブフィールドを索引づけるビットである 2 進カウントを持っています。

状態エラー (カテゴリー・コードは 16 進数の 20)

このカテゴリーは、シーケンス番号エラー、または受信先の現行のセッション制御またはデータ・フロー制御状態では許可されていない RH または RU を示しています。これらのエラーが起きると、要求が予定のコンポーネントに配送されなくなります。

カテゴリーおよび修飾子 (16 進数):

- 2001** シーケンス番号です。通常フロー要求上で受信されたシーケンス番号が、最後のものよりも 1 つだけ大きいものではありませんでした。
- 2002** チェーン。チェーン標識設定値 (BCI, ECI) の順序にエラーがあります。例えば、先頭、中央、先頭などです。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 受信先がチェーン内状態にあるときに、中央またはチェーン終了要求を受信しました。
- 0002** 受信先がチェーン内状態にあるときに、チェーン開始要求を受信しました。
- 2003** ブラケット。送信元がセッションに対してブラケット規則を強制できなかったために発生したエラーです。(このエラーは競合またはレース条件には適用されません。)
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 受信先は、それ自身が以前に送信したブラケット開始要求への応答を受信する前に、ブラケット開始要求を受信しました。
- 0002** 受信先は、ブラケット間状態にあるときに、ブラケット開始を指定していないブラケット開始要求を受信しました。
- 0003** 受信先は、順序の正しくない LUSTAT コマンドを受信しました。
- 2004** 方向。半二重フリップフロップ状態が受信になっていないときに、通常フロー要求を受信した結果生じたエラーです。
- 2005** データ・トラフィックがリセットされました。セッション活動化状態が活動状態となっているが、データ・トラフィック状態が非活動であるハーフセッションによって、FMD または通常フロー DFC 要求が受信されました。
- 2006** データ・トラフィックが静止しています。QUIESCE COMPLETE または SHUTDOWN COMPLETE を送信したが、RELEASE QUIESCE にはまだ応答していないハーフセッションからの FMD または DFC 要求が受信されました。
- 2007** データ・トラフィックはリセットされていません。データ・トラフィック状

態がリセットされているときにのみ許可されるセッション制御要求 (STSN などが) が、データ・トラフィック状態がリセットされていないときに受信されました。

- 2008** 開始ブラケットがありません。受信先が BRACKET INITIATION STOPPED 要求を事前に受信した後で、BBI=BB を指定している FMD 要求が受信されました。
- 2009** セッション制御プロトコル違反です。SC プロトコルが違反されました。SC 要求とそれに関連した肯定応答が正常に交換された後にのみ許可されている要求が、このような交換が成功する前に受信されました (例えば、必要な暗号確認要求よりも前に FMD 要求がなされている)。特定の SC 要求の要求コードや必要な応答、あるいはもし判別されていなければ X'00' が、センス・データの第 4 番目のバイトに現れます。
- 200A** 即時要求モード・エラーです。その要求は即時要求モード・プロトコルに違反しています。
- 200B** キューイング応答エラーです。要求がキューイング応答プロトコルに違反しました。すなわち、未処理要求が QRI=QR と指定されているときに QRI=-QR になっています。
- 200C** ERP 同期イベント・エラーです。DFC 中の ERP 同期イベント・プロトコルに違反しました。例えば、チェーンに対する否定応答を受信した後で、同期イベント応答の送信請求を行う以外の要求が DFC_SEND に送信されて拒否されました。
- 200D** 要求の送信前に返すべき応答があります。以前に受信された要求に対する応答がまだ送られていないときに、半二重 (フリップフロップまたは競合) 送受信モードにおいて通常フロー要求の送信が試みられました。
- 200E** 応答関連エラーです。以前に送信された要求と関連付けられない応答が受信されました。
- 200F** 応答プロトコル・エラーです。応答プロトコルにおいて違反が起きました。例えば、RQE チェーンに対して +RSP が生成されました。
- 2010** BIS プロトコル・エラーです。BIS プロトコル・エラーが検出されました。例えば、以前の BIS が受信され処理された後に、BIS 要求が受信されました。
- 2011** ページング・プロトコル・エラー。
センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** ページング・カウントがゼロに低減された後で、しかもページング応答が送信される前に、ハーフセッションが通常流れ要求を受信しました。
- 0001** 予期せぬ分離ページング・メッセージ (IPM) を受信しました。受信先で許可されない状態であるときに、IPM を受信しました。
- 0002** 予期せぬページング要求を受信しました。受信先で許可されない状態であるときに、ページング標識がセットされた要求を受信しました。
- 2012** 無効なセンス・コードを受信しました。送信された要求には使用できない SNA 定義センス・コードを含んでいる否定応答が受信されました。
- 2013** 圧縮解除プロトコル・エラー。圧縮されたデータを含む要求がエラー状態で受信されました。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 解凍プログラムは、予期したりセット圧縮解除制御順序なしで圧縮された RU を受信しました。圧縮プログラムと解凍プログラムが同期していません。
- 0002 解凍プログラムは、無効な圧縮解除制御順序を含んだ圧縮された RU を受信しました。圧縮プログラムと解凍プログラムが同期していません。
- 0003 圧縮解除 RU の長さが圧縮ヘッダーでの長さとは一致していません。
- 0004 この解凍プログラムは、圧縮ヘッダーが、間違っただ圧縮アルゴリズムが使用されたことを示しているかどうかを判別します。圧縮アルゴリズムは、セッション活動化折衝の間一致しませんでした。
- 0005 解凍プログラムは、圧縮解除された RU サイズが最大 RU サイズを超過していることを検出しました。

RH 使用法エラー (カテゴリー・コードは 16 進数の 40)

このカテゴリーは、RH 中のフィールドまたはフィールドの組み合わせの値が、アーキテクチャー規則または以前に選択された BIND オプションに違反していることを示しています。これらのエラーは予定されたコンポーネントの要求送信を阻むもので、セッションの現行の状態に無関係です。これらは、送信元がセッション規則を強制しようとした誤りから生じることがあります。受信先がこれらの各エラーを検出することは、任意指定です。

カテゴリーおよび修飾子 (16 進数):

- 4001 無効な SC または NC RH。セッション制御 (SC) またはネットワーク制御 (NC) 要求の RH が無効でした。例えば、ペーシング要求標識が 1 に設定された SC RH は無効です。
- 4003 BB は許可されていません。ブラケット開始標識 (BBI) が誤って指定されていました (例えば、BCI= \rightarrow BC で BBI=BB)。
- 4004 CEB または EB は許可されていません。条件付きブラケット終了標識 (CEBI) またはブラケット終了標識 (EBI) の指定が正しくありません。例えば、ECI= \rightarrow EC のときに CEBI=CEB であつたり、BCI= \rightarrow BC のときに EBI=EB と指定されています。あるいは、2 次側ハーフセッションのみが EB を送信できる場合に 1 次側ハーフセッションによって送信されたか、または 1 次側ハーフセッションのみが EB を送信できる場合に 2 次側ハーフセッションによって送信されました。
- 4005 RH が不完全です。完全な TH-RH よりも伝送が短くなります。
- 4006 例外応答は許されていません。許されていない場合に、例外応答が要求されました。
- 4007 確定応答は許可されていません。許可されていないときに確定応答が要求されました。
- 4008 ペーシングはサポートされていません。要求にしたがつてペーシング標識が設定されましたが、受信ハーフセッションまたは境界機能ハーフセッションがこのセッションに対するペーシングをサポートしていません。
- 4009 CD は許可されていません。方向転換標識 (CDI) の指定が正しくありません (例えば、ECI= \rightarrow EC で CDI=CD または EBI=EB で CDI=CD)。

- 400A** 無応答は許可されていません。無応答が要求上で指定されましたが許可されていません。(EXR 上でのみ使用されます。)
- 400B** チェーニングはサポートされていません。チェーニング標識 (BCI および ECI) の指定が正しくありません。例えば、チェーニング・ビットが (BC,EC) 以外を示していますが、このセッションまたは要求ヘッダーで指定されたカテゴリーでは複数要求チェーニングがサポートされていません。
- 400C** ブラケットがサポートされていません。ブラケット標識 (BBI、CEBI および EBI) の指定が正しくありません。例えば、ブラケット標識は (BBI=BB、CEBI=CEB または EBI=EB) と設定されていますが、そのセッションにおいてブラケットは使用されていません。
- 400D** CD はサポートされていません。方向転換標識が設定されましたが、サポートされていません。
- 400F** 形式標識の使用が正しくありません。形式標識 (FI) の指定が正しくありません。例えば、BCI=-BC と FI が一緒に設定されているか、または DFC 要求上に FI が設定されていません。
- 4010** 代替コードはサポートされていません。そのセッションに対してサポートされていないのに、コード選択標識 (CSI) がセットされています。
- 4011** RU カテゴリーの指定が正しくありません。RU カテゴリー標識の指定が正しくありません。例えば、RU カテゴリー標識 =FMD のときに、急送流れ要求または応答が指定されました。
- 4012** 要求コードの指定が正しくありません。応答上の要求コードが、それに対応する要求上の要求コードと合致しません。
- 4013** (SDI, RTI) の指定が正しくありません。センス・データ収容標識 (SDI) および応答タイプ標識 (RTI) が、応答上で適切に指定されていませんでした。適切な値の組は、(SDI=SD, RTI=negative) および (SDI=-SD, RTI=positive) です。
- 4014** (DR1I, DR2I, ERI) の使用が正しくありません。確定応答 1 標識 (DR1I)、確定応答 2 標識 (DR2I) および例外応答標識 (ERI) が、間違っ指定されています。例えば、DR1I=DR1、DR2I=-DR2、および ERI=-ER で SIGNAL 要求が指定されていませんでした。
- 4015** QRI の使用が正しくありません。キューイング応答標識 (QRI) の指定が正しくありません。例えば、急送流れ要求上の QRI=QR。
- 4016** EDI の使用が正しくありません。暗号化データ標識 (EDI) の指定が正しくありません。例えば、DFC 要求上に EDI=ED があります。
- 4017** PDI の使用が正しくありません。埋め込みデータ標識 (PDI) の指定が正しくありません。例えば、DFC 要求上に PDI=PD があります。
- 4018** 送信権要求元の BB を指定した QRI の設定値が正しくありません。最初の話し手ハーフセッションが、セッションの使用を要求している (LUSTAT(X'0006') によって) BB チェーンを受信しましたが、QRI の指定が正しくありません。すなわち QRI=-QR です。
- 4019** チェーン内での最後の要求に関する標識が正しくありません。チェーン内での最後の要求が、互換性のない RH 設定値を指定しました。例えば、RQE*、CEBI=-CEB、および CDI=-CD です。
- 4021** 応答中の QRI 設定値が、要求されたものと異なっています。応答中の QRI 設定値が、それに対応する要求中の QRI 設定値と異なっています。

パス・エラー (カテゴリー・コードは 16 進数の 80)

このカテゴリーは、パス故障停止、無効な活動化要求順、またはリストされているパス情報単位 (PIU) エラーのいずれかによって、意図された受信先に要求を送ることができないことを示しています。他のカテゴリーに属する PIU エラーもあります。例えば、シーケンス番号エラーはセンス・コード・カテゴリー X'20' です。セッションが活動状態にある間に受信されたパス・エラーは、通常セッション・パートナーへのパスが失われたことを示しています。

カテゴリーおよび修飾子 (16 進数):

- 8000** パス・エラーが起きましたが、そのエラーに関する詳細は、これ以上得られません。未処理入出力要求が除去されたために、エラーが起きました。例えば、未処理入出力要求を持っているアプリケーションに対する ACB が INOP を受信したか、またはオペレーターが未処理入出力要求を持っているリソースに対する VARY INACT を入力しました。
- 8001** 中間ノード障害です。中間ルーティング機能を提供しているノード中で、機械チェックまたはプログラム・チェックが実行されました。応答は可能であることも、そうでないこともあります。
- 8002** リンク障害です。データ・リンク障害です。
- 0000** 該当する特定コードがありません。

VTAM におけるヒント:

- このセンス・コードで IST1097I メッセージ・グループが表示され、その後にセンス・コード 80140001 の IST1110I メッセージ・グループの表示が続いている場合、隣接制御点との最後の CP 対応接続が失われたために、CP-CP セッションに障害がありました。
 - 交換 PU を使用し、DISCNT=YES であるセッションについて 80020000 を受け取り、これ以上の LU-LU セッションがないために非活動化が進行中である場合、これは一時的な状況で、セッションを再試行することができます。
 - 交換 PU を使用し、インバウンドおよびアウトバウンド呼び出しを同時に受け取っているセッションについて 80020000 を受け取った場合、これは一時的な状況で、セッションを再試行することができます。
 - システムが 9221 プロセッサで稼働していて、LAN メジャー・ノードを活動化しているときに DEVICE NOT OPERATIONAL 00,00FE,00 を受け取ったことをメッセージ IST446I が示している場合、IODEVICE ステートメントが IOCP GEN に欠落していることが問題の原因だと考えられます。
- 8003** NAU が操作不能です。NAU は要求や応答を処理できません。例えば、NAU が異常終了によって途絶されています。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

0000 該当する特定コードがありません。

0001 階層的リセットです。識別された LU-LU セッションは非活動化さ

れている最中です。ACTLU/ACTPU (コールド) または DACTLU/DACTPU が受信されたか、または PU が失敗しました。

- 0003** リカバリー不能な LU 障害です。PLU または SLU の異常終了のために、識別された LU-LU セッションを非活動化しなければなりません。この障害からはリカバリーできませんでした。
- 0004** リカバリー可能 LU 障害です。セッションの LU の 1 つが異常終了したために、識別された LU-LU セッションを非活動化しなければなりません。この障害からのリカバリーは可能です。
- 0005** 階層のリセットです。階層のリセットによって、バックアップ・セッション・リセットが起きました。
- 8004** 宛先を認識できません。パス中のノードが、BIND 要求中の SLU 名または TH によって指定された宛先に対する経路指定情報を持っていません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 無効または不完全な経路指定情報のために、経路指定し直せなかった要求が、ゲートウェイ機能によって受信されました。
- 8005** セッションがありません。示された起点 - 宛先に対する受信終了ノードに活動状態にあるハーフセッションがありません。または境界機能を提供しているノード中に起点 - 宛先に対する活動状態にある境界機能セッション接続子がありません。セッション活動化要求が必要です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 活動状態の LU-LU セッションがないときに、受信先がセッション制御要求以外の要求を受信しました。
- 0002** 活動状態の LU-SSCP セッションがないときに、受信先がセッション制御要求以外の要求を受信しました。
- 0003** 活動状態の LU-LU セッションがないときに、受信先が BIND/UNBIND 以外のセッション制御要求を受信しました。
- 0004** 活動状態の LU-LU セッションがないときに、受信先が UNBIND を受信しました。
- 0005** 活動状態の LU-SSCP セッションがないときに、LU-SSCP に対する ACTLU/DACTLU 以外のセッション制御要求を受信しました。
- 0006** 活動状態の LU-SSCP セッションがないときに、受信先が DACTLU を受信しました。
- 0007** セッションは活動化されません。SSCP-LU セッションを活動化するために ACTLU を受信していない従属 LU に対する BIND が受信されました。
- 0008** 宛先ノードとのアクティブ・セッションが存在しないため、要求をそのノードへ転送することができません。要求を転送できなかったノードの名前は、付随する名前リスト (X'06') サブベクトルに示されています。
- 8006** FID が無効です。受信ノードに対する FID が無効です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 受信された FID-5 伝送ヘッダー (TH) が、そのメッセージのそれ以上の処理を妨げるエラーを含んでいました。
- 8007 セグメント化エラー。最初の BIU セグメントが 10 バイトよりも少ない。または、先頭、末尾、中間などの、マッピング・フィールド順序のエラー。またはセグメント化がサポートされておらず、マッピング・フィールドが BBIU、EBIU に設定されていません。
- 注: セグメント化がサポートされていない場合、否定応答は RH を含んでいる最初のセグメントにのみ戻されます。 後続のセグメントは破棄されません。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 ノードはセグメントの受信をサポートせず、BBIU、EBIU 以外のマッピング・フィールド値が受信されました。 UNBIND に送信されます。
- 0002 インターリーブド BIND セグメントは許可されていません。1 つの BIND の受信セグメントの中央にある BIND 受信先が、異なった BIND からのセグメントを受信します。受信先は両方の BIND を拒否し、伝送グループ中のすべてのリンクを切り離します。
- 8008 PU が活動状態にありません。受信ノード中の SSCP-PU 2 次側ハーフセッションが活動化されておらず、その要求はこのハーフセッションに対する ACTPU ではありませんでした。例えば、その要求はアドレス指定された LU と関連した PU との活動 SSCP-PU セッションを持っていない SSCP からの ACTLU でした。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0001 物理装置名は、独立 LU セッションの末尾に指定されています。指定された PU は、不明であるか正しくない状態にあります。
- 0002 独立 LU に ALS (隣接リンク・ステーション) リストが提供されていません。独立 LU に VARY LOGON および LOGAPPL を使用する場合、独立 LU に ALS を定義しておく必要があります。ALS を動的に判別するには、VTAM 機能を使用することもできます。
- 8009 LU が活動状態ではありません。宛先アドレスは、SSCP-LU 2 次側ハーフセッションが活動化されていない LU を指定していますが、その要求は ACTLU ではありませんでした。
- 800A PIU が長すぎます。PIU が最大長を超えたかまたは十分なバッファが使用できなかったため、受信ノードによって伝送が打ち切られました。
- 800B TH が不完全です。受信された伝送が TH よりも短いものでした。
- 注: 応答を生成するのに必要な情報 (FID、アドレス) が使用不能であるため、この例外条件に応答を送信することは通常不可能です。
- 800C DCF エラーです。データ・カウント・フィールドが伝送長と矛盾します。
- 800D 接触が失われました。伝送の対象であるリンク・ステーションとの接触が失われましたが、リンクは失敗していません。リンク障害と接触喪失との違いが検出不能であれば、リンク障害 (X'8002') が送信されます。

- 800E** 起点が認識できません。TH 中で指定された起点アドレスが認識されませんでした。
- 800F** アドレスの組み合わせが無効です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** (DAF',OAF')(FID2) の組み合わせまたは LSID (FID3) が、例えば PU-LU の組み合わせなどの無効なタイプのセッションを指定しました。
- 0001** 受信された BIND 中の FID2 ODAI 設定値が正しくありません。その BIND は拒否されます。
- 8010** セグメント化 RU 長のエラーです。RU が最大長を超えていることが検出されました。すなわち要求されたバッファ割り振りでは、将来バッファを使い尽くすことになります。
- 8011** ER が操作不能または未定義です。ER および VR プロトコルをサポートしていないサブエリア・ノードから PIU が受信され、宛先への明示経路が操作不能または未定義です。
- 8012** サブエリア PU が活動状態にないか、または仮想経路が無効です。SSCP-PU セッション周辺 PU または LU に対するセッション活動化要求を満足できません。理由としては、境界機能サポートを提供しているサブエリア・ノードに対する活動 SSCP-PU セッションがないか、または指定された SSCP-PU (タイプ 1 またはタイプ 2 ノード) あるいは SSCP-LU セッションの仮想経路が、タイプ 1 またはタイプ 2 ノードの PU あるいは LU のサブエリア PU の SSCP-PU セッションに対して使用されているものと同一ではない、といったことが考えられます。
- 8013** 経路が使用不能です。指定された COS に指定された起点サブエリア (OSA) および宛先サブエリア (DSA) を接続する経路が使用不能です。

注: VR ID リスト中に指定された経路も、そのセッションに対する経路指定も、活動状態でないか活動化できないならば、報告された理由は障害イベントの階層に基づいて設定されます。仮想経路の組の中で「最高位」の障害は、その応答上で戻されます。例えば、VR マネージャーが、VR ID リスト中で指定されている VR に対する NC_ACTVR 要求に対して否定応答を受信し、リスト中のその他すべての VR について VR から ER へのマッピングが指定されていないときは、理由 X'nn06' が報告されます。障害理由の階層は数字の昇順です。すなわち、理由 X'nn02' は理由 X'nn01' よりも高位です。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、障害が検出された環境と障害の理由を示しています。

- 0000** 適用される特定コードがありません。このことは、エラーが起きたけれども、以下に挙げた条件のいずれも適用されないことを意味しています。このコードは単一ネットワーク環境において出されません。
- 0001** マッピングが指定されていません。セッションの VR ID リスト中のそれぞれの VR に対して、VR から ER へのマッピングが指定されていないので、セッション活動化要求を満たすことができません。このコードは単一ネットワーク環境において出されます。
- 0002** 明示経路が定義されていません。セッションの VR ID リスト中のそれぞれの VR が、マッピングされる対応する ER が定義されて

- いないので、セッション活動化要求は満たされません。このコードは単一ネットワーク環境において出されます。
- 0003** VR リソースが使用不能です。セッションの VR ID リスト中に指定されている各 VR が、使用不能なノード・リソースを必要としているので、セッション活動化要求を満たすことができません。このコードは単一ネットワーク環境において出されます。
- 0004** 作動可能な明示経路がありません。セッションの VR ID リスト中に指定されている VR に対して作動可能な基礎 ER がないので、セッション活動化要求を満たすことはできません。このコードは単一ネットワーク環境において出されます。
- 0005** 活動化できる明示経路はありません。セッションの VR ID リスト中に指定されている VR のうち、活動化可能な定義済み作動可能 ER に対してマッピングされているものがないので、セッション活動化要求を満たすことはできません。このコードは単一ネットワーク環境において出されます。
- 0006** 活動化できる仮想経路がありません。セッションの VR ID リストに指定されている VR の内、少なくとも 1 つの VR については、基礎 ER が定義されて作動可能で活動化されているが、PU によって活動化できる VR がないため、セッション活動化要求を満たすことはできません。このコードは単一ネットワーク環境において出されます。
- 0007** 仮想経路 ID リストが使用不能です。経路指定が使用不能または不完全なので、セッション活動化要求を満足させることができません。有効な経路指定は VR ID リストまたは経路の動的経路仕様制御ベクトルです。このコードは単一ネットワーク環境において出されます。
- 0100** 適用される特定コードがありません。このことは、エラーが起きたけれども、以下に挙げた条件のいずれも適用されないことを意味しています。このコードは、相互接続ネットワークにおいて出されます。障害は、活動化要求を送信している NAU 以外のサブネットワークのノードで検出されました。
- 0101** マッピングが指定されていません。セッションの VR ID リスト中のそれぞれの VR に対して、VR から ER へのマッピングが指定されていないので、セッション活動化要求を満たすことができません。このコードは、相互接続ネットワークにおいて出されます。障害は、活動化要求を送信している NAU 以外のサブネットワークのノードで検出されました。
- 0102** 明示経路が定義されていません。セッションの VR ID リスト中のそれぞれの VR が、マッピングされる対応する ER が定義されていないので、セッション活動化要求は満たされません。このコードは、相互接続ネットワークにおいて出されます。障害は、活動化要求を送信している NAU 以外のサブネットワークのノードで検出されました。
- 0103** VR リソースが使用不能です。セッションの VR ID リスト中に指定されている各 VR が、使用不能なノード・リソースを必要としているので、セッション活動化要求を満たすことができません。この

コードは、相互接続ネットワークにおいて出されます。障害は、活動化要求を送信している NAU 以外のサブネットワークのノードで検出されました。

- 0104** 作動可能な明示経路がありません。セッションの VR ID リスト中に指定されている VR に対して作動可能な基礎 ER がないので、セッション活動化要求を満たすことはできません。このコードは、相互接続ネットワークにおいて出されます。障害は、活動化要求を送信している NAU 以外のサブネットワークのノードで検出されました。
- 0105** 活動化できる明示経路はありません。セッションの VR ID リスト中に指定されている VR のうち、活動化可能な定義済み作動可能 ER に対してマッピングされているものがないので、セッション活動化要求を満たすことはできません。このコードは、相互接続ネットワークにおいて出されます。障害は、活動化要求を送信している NAU 以外のサブネットワークのノードで検出されました。
- 0106** 活動化できる仮想経路がありません。セッションの VR ID リストに指定されている VR の内、少なくとも 1 つの VR については、基礎 ER が定義されて作動可能で活動化されているが、PU によって活動化できる VR がないため、セッション活動化要求を満たすことはできません。このコードは、相互接続ネットワークにおいて出されます。障害は、活動化要求を送信している NAU 以外のサブネットワークのノードで検出されました。
- 0107** 仮想経路 ID リストが使用不能です。経路指定が使用不能または不完全なので、セッション活動化要求を満足させることができません。有効な経路指定は VR ID リストまたは経路の動的経路仕様制御ベクトルです。
- 8014** 宛先ノードへのパスがありません。CP の経路選択サービスは、宛先ノードへのパスがないことをトポロジー・データベースから判断しました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 特定のサービス・クラスについて、宛先ノードへの経路がありません。
- 0002** 無効な COS 名を受信しました。
- 0003** トポロジー・データベースは、現時点で宛先ノードが利用不能であることを示しています。宛先ノードが矛盾するデータを持っているか、または宛先ノードが静止しています。
- 0004** トポロジー・データベースは、端点リソースが使い尽くされたことを示しています。ノードのハーフセッション制御ブロック、もしくはメッセージ・バッファが不足しています。
- 0005** 生成された RSCV の長さが許可された最大値を超えています。
- 0006** 宛先ノードに対して、HPR (高性能経路指定) リンクのみを使用する経路がありません。
- 0007** BIND RSCV が交換 TG のみから構成されています。
- 0008** ノードが境界機能を持たない RSCV を計算しました。
- 8015** 経路が利用不能です。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0004 ネットワーク間位置付けが失敗しました。理由は、要求したサービス・クラスに一致するネットワーク間経路が存在しなかったからです。
- 8017 隣接事前 ER-VR サブエリア・ノードからの PIU が拒否されました。サブエリア・ノードが、ER-VR プロトコルをサポートしない隣接サブエリア・ノードからの、中間パス制御経路指定を必要とする PIU を受信しましたが、受信サブエリア・ノードは ER-VR プロトコルをサポートしない隣接サブエリア・ノードに対する中間パス制御経路指定をサポートしていません。
- 8018 管理サービス・コンポーネントは、要求中に指定されているアプリケーション・トランザクション・プログラムの名前を検出または認識することができません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
操作管理は、提供されるアプリケーションのサブタスクが活動状態でないため、R および TI の DAN フィールドで指定されている提供されるアプリケーションへ MDS_MU を経路指定することができません。
- 0001 要求中に指定されているアプリケーション・トランザクション・プログラムが物理装置管理サービス (PUMS) によって認識されません。
- 8019 経路指定例外。ノードは、要求に対する必要な経路指定機能を実行することができません。

センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。

- 0000 該当する特定コードがありません。
- 0001 経路指定グループ名が不明です。
- 0002 経路指定グループ名、経路指定エレメント名の組み合わせが不明です。
- 0004 必要なサービスのレベルのための接続が使用不能です。
- 0005 経路指定およびターゲット命令 GDS 変数が要求されていますが、存在していません。
- 0006 ネットワーク間経路選択サブフィールド (IRSS) を BIND RSCV に組み込むように要求されましたが、このサブフィールドが欠落しているか、形式が無効です。
- 0007 ネットワーク間経路選択サブフィールド (IRSS) を位置付け要求または応答に組み込むように要求されましたが、このサブフィールドが欠落しているか、形式が無効です。
- 0008 境界ノードは、位置付け要求または応答、もしくは、BIND の中で、ネットワーク間経路選択サブフィールド (IRSS) にある自分の名前の複数インスタンスが、経路指定ループを示しているのを検出しました。
- 0009 仮想経路ベースの APPN TG の活動化を許可するための、明示の経路指定が利用不能でした。

- 000A** 指定された仮想経路ベース APPN TG の、その時の状態では無効な活動化要求を受信しました。
- 000B** 発信元ノードが検出されません。TRS は、発信元端点 TG ベクトルを持たない経路計算要求を受信しました。TRS は、トポロジー・データベースの発信元ノードについて、ノード項目を検出できませんでした。
- 000C** DLUS がサポートする LU を探索するとき、境界ノードが PLU のサブネットワークにありません。この状態は、DLUS ノードが、PLU ノードのサブネットワークは、サブネットワーク接続性に関して、DLUS が提供する従属 LU について位置付け要求を送信する時、境界ノードを使用しなかったと判別するとき起こります。
- 801C** ホップ・カウントが尽きました。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 要求が、制限を超えた数のノードによって送られました (例えば、各ノードでカウントが減っていき、0 になった)。そのため、要求を 1 つまたは複数の宛先に対して送ることができません。一般的には、この例外は 1 つまたは複数のノードが要求を誤って経路指定または指示したことを示します。さらにこの例外は、経路指定または指示カウントがネットワーク・サイズに応じて正しく開始されなかったことを示します。
- 8020** セッションがリセットされました。UNBIND 中で識別されている LU-LU セッションが、リセット条件のために非活動化されている最中です。
- センス・コードに続くバイト 2 とバイト 3 が、センス・コード特定情報を含んでいます。許可されている設定は、以下のとおりです。
- 0000** 該当する特定コードがありません。
- 0001** 仮想経路が操作不能です。LU-LU セッションによって使用された仮想経路が操作不能になり、識別された LU-LU セッションを強制的に非活動化しています。
- 0002** XRF 活動および XRF バックアップ・セッションの両方の階層的リセットです。XRF バックアップ・セッションが失敗しました。そのために、XRF 活動および XRF バックアップ・セッションがリセットされています。
- 0003** 仮想経路の非活動化です。識別された LU-LU セッションによって使用されている仮想経路が強制的に非活動化されたので、その LU-LU セッションが非活動化されなければなりませんでした。
- 0004** 経路拡張機能の障害です。LU-LU セッションによって使用されている経路拡張機能が操作不能になったので、示された LU-LU セッションが強制的に非活動化されます。
- 0005** 経路拡張機能の障害です。XRF バックアップ LU-LU セッションによって使用されている経路拡張機能が操作不能になったので、示された XRF バックアップ LU-LU セッションが強制的に非活動化されます。
- 0006** 仮想経路が操作不能です。LU-LU セッションによって使用されて

いる仮想経路が作動可能になったので、示された XRF バックアップ LU-LU セッションの VR-INOP を用いて、強制的な非活動化が行われます。

- 0007 LU が打ち切りを要求しました。
- 0008 リセットの要求が示されないで、BFTERM が受信されました。
- 0009 TERMINATE_SELF または文字コーディング LOGOFF を指定した従属 SLU によって、打ち切りが要求されました。

記述子コード、宛先コード、および抑止レベル

この項は、VTAM および TSO/VTAM メッセージのメッセージ ID、記述コード、宛先コード、および抑止レベルの要約です。この情報を使うとプログラム・オペレーター・プログラム中の問題を診断し、メッセージが出される仕組みを理解し、またはどの開始オプションを選ぶか、またはどのようにシステム・コンソールを定義するかを判別する助けとなります。

メッセージのリストには、メッセージ ID を示す欄と、そのメッセージに関する情報を示す欄があります。左から右の順に、欄には以下の情報が含まれています。

- メッセージ ID。
- そのメッセージに対する記述コード (以下に記述されています)。
- 各メッセージの宛先コード (下記の「メッセージ宛先コード」参照)。
- 各メッセージの抑止レベル (抑止レベルについては、このセクションの後半、および本書の概説部分を参照してください。)

メッセージ記述コード

記述コードは出されたメッセージの種類を記述しています。これらのコードは宛先コードと共に、そのメッセージが印刷されるまたは表示される方法、そしてそのメッセージが図形装置からどのように削除されるかを、判別します。記述コード 1 から 7 は、同時には使用できません。1 つのメッセージに対して 1 つのコードのみを割り当てることができます。記述コード 8 から 10 は、その他の記述コードと共に現れる場合があります。記述コードの意味は、以下の通りです。

コード 意味

- 1 システム障害: このメッセージは、訂正不能エラーが起きたことを示しています。継続するには、オペレーターがシステムを再始動しなければなりません。
- 2 即時処置が必要: このメッセージは、オペレーターによる即時処置を必要としています。メッセージ発信元は処置が実行されるまで待ち状態にあるので、または処置が取られるまでシステム・パフォーマンスが低下するので、処置が必要と考えられます。
- 3 事後処置が必要: このメッセージは、オペレーターによる事後処置が必要です。タスクは処置の完了を待ちません。
- 4 システム状況: このメッセージは、システム・タスクの状況またはハードウェア装置の状況を示します。
- 5 即時コマンド応答: このメッセージは、システム・コマンドに対する即時応答として出されます。応答の完了は、別のシステム処置またはタスクに依存していません。
- 6 ジョブ状況: このメッセージは、ジョブまたはジョブ・ステップに関する状況情報を含んでいます。

- 7 アプリケーション・プログラム/処置装置: プログラムが問題モードにある間に、このメッセージが出されます。
 - 8 行外れメッセージ: このメッセージは、行を外れて表示される 1 つまたはそれ以上のメッセージのグループの 1 つです。装置サポートが行外れメッセージを印刷できなければ、そのコードは無視され、メッセージは他のメッセージと共に行中に印刷されます。
 - 9 オペレーターの要求: このメッセージは、情報に関するオペレーターの要求 (DEVSERV、MONITOR、およびその他のオペレーティング・システム・コマンドによる) への応答として表示されます。
 - 10 このメッセージは TRACK コマンドへの応答として出されます。
 - 11 このメッセージは、事後も処置を続けなければならない致命的なイベントが起きたことを示します。処置が取られるまでは、画面上にメッセージが残ります。
- 12-16 予約済み。

メッセージ宛先コード

宛先コードは、メッセージが現れる場所を判別します。これらのコードは、VTAM メッセージを、選択された機能コンソールに経路指定します。メッセージに対して複数の宛先コードを割り当てることができます。複数コンソール・サポートの場合、各コンソール・オペレーターは、そのコンソールから入力されたコマンド、またはそのコンソールに割り当てられた機能に関連するメッセージのみを受信します。特定のコンソールに経路指定されたメッセージをそのコンソールに出さない場合、そのメッセージは主コンソールに出されます。宛先コードの意味は、以下の通りです。

コード 意味

- 1 主コンソール処置: このメッセージはシステム状況の変更を示し、主コンソール・オペレーターによる処置を必要とします。
- 2 主コンソール情報: このメッセージはシステム状況の変更を示しています。このようなメッセージは処置を必要としていませんが、主コンソールのオペレーターが処置を取る必要のある条件が起きる可能性のあることを警告しています。このルーチン・コードはジョブ状況を示すメッセージ、および主コンソール・オペレーターへのプロセッサおよび問題プログラム・メッセージにも使われます。
- 3 テープ・プール: このメッセージはテープ装置またはリールの状況、テープ・リールの後処理、またはその他のテープに関連した情報を指定します。例えば、テープを取り付けるように要求するメッセージがそうです。
- 4 直接アクセス・プール: このメッセージは直接アクセス装置またはパックの状況、ディスク・パックの後処理、またはその他の直接アクセス装置に関連した情報を指定します。例えば、ディスクを取り付けるように要求するメッセージがそうです。
- 5 テープ・ライブラリー: このメッセージはテープ・ライブラリー情報を指定します。システムまたはプログラマーの使用のためにテープを入手するように、ボリューム通し番号によって要求するメッセージが、その例です。
- 6 ディスク・ライブラリー: このメッセージはディスク・ライブラリー情報を指定します。システムまたはプログラマーの使用のためにディスク・パックを入手するように、ボリューム通し番号によって要求するメッセージが、その例です。

- 7 ユニット・レコード・プール: このメッセージはディスク記録機器情報を指定します。例えば、印刷トレーンを取り付けるように要求するメッセージがそうです。
 - 8 リモート処理制御: このメッセージはデータ通信機器の状況や後処理を指定します。回線エラーを示すメッセージが、その例です。
 - 9 システム・セキュリティー: このメッセージはセキュリティー検査と関連があります。パスワードを指定する応答を要求するメッセージが、この例です。
 - 10 システム・エラー/保守: このメッセージはシステム・エラーまたは訂正不能入出力エラーを示します。システム保守に関連したメッセージも示します。
 - 11 プログラマー情報: このメッセージは問題プログラマーのためのものです。この宛先コードは、メッセージを出しているプログラムが、システム出力データ・セット機能を用いてプログラマーにメッセージを経路指定する方法がない時のみ、用いられます。このメッセージは、そのジョブのシステム出力メッセージ・クラス中に現れます。
- 注: 宛先コード 11 を割り当てられたメッセージは、VTAM 定義処理中にこれらのメッセージを受信するものとして指定された 2 次コンソールが活動状態になれば、デフォルトとして主コンソールに送られます。2 次コンソールがこれらのメッセージを受信するものとして指定されていないければ、メッセージはデフォルトとして主コンソールに送られることはありません。
- 12 エミュレーター: このメッセージはエミュレーター・プログラムによって出されます。
 - 13 ユーザー用に予約済み。
 - 14 ユーザー用に予約済み。
 - 15 ユーザー用に予約済み。
 - 16 将来の拡張のために予約済み。

メッセージ抑止レベル

VTAM がメッセージを抑止できるレベルは、SUPP 開始オプションまたは MODIFY SUPP コマンドによって指定されます。メッセージが指定されたレベルまたはそれよりも低位のレベルにあるならば、それはコンソールやプログラム・オペレーターに対して書き出されません。

メッセージが抑止不能メッセージと同じほど高位レベルにある場合、それはコンソールおよびプログラム式オペレーターに出されます。

以下の抑止レベルは、IBM によって定義されています。ユーザーが独自のメッセージ抑止基準を決定する場合、元の抑止レベルに対して行った変更の文書化は、ユーザーの責任で行ってください。

抑止レベルの意味は、以下の通りです (下位から高位への順で示されています)。

コード 意味

通知 通知レベル・メッセージは、エラー状態を示すものではなく、何らかの VTAM 処理が開始したことを示すメッセージである場合が通例です。これらのメッセージは除外されたとしても、ほとんどあるいはまったく影響がありません。

警告 警告レベル・メッセージは、コマンドの失敗または拒否の原因とはならないエラー状態を示します。これらのメッセージは、誤ったコマンドを使用している、または小ノードが活動化できない状態にあるなどの問題が存在していることを示しています。VTAM は、コマンドまたは手順の他の部分の処理を続けることができます。

正常 正常レベル・メッセージには、すべての VTAM 完了メッセージが含まれます。例えば、これらのメッセージはコマンドが正常に処理を完了したこと、または構成が正常に活動化されたことを示します。

重大 重大レベル・メッセージは、コマンドまたは手順の失敗の原因となったエラー状態を示します。これらのメッセージは、コマンドを入力し直すか手順を開始し直す必要があることを示しています。

抑止不能

抑止不能レベル・メッセージとは、抑止できないメッセージのことです。このレベルには、以下のカテゴリーのメッセージが含まれています。

1. VTAM 開始プロシージャの失敗を示すメッセージ
2. DISPLAY コマンドにより表示画面に現れるメッセージ
3. オペレーターの応答を要求するメッセージ
4. VTAM の異常終了の原因または理由である状態を示すメッセージ

注: IST522I から IST525I などのような、複数行メッセージ・グループの場合、出された最初のメッセージの抑止レベルが、そのグループ内の下方のメッセージにも適用されます。その結果として、最初のメッセージに関連するメッセージは、すべて同じ抑止レベルを持つこととなります。

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST001I	5	2	なし
IST003I	5	2	重大
IST004I	5	2	なし
IST009I	5	2	なし
IST010I	5	2	重大
IST011I	5	2	正常
IST014I	5	1	警告
IST015A	2	1	なし
IST017I	5	2	警告
IST018I	5	2	警告
IST020I	5	2	正常
IST025I	5	2	警告
IST033I	5	2	重大
IST037I	5	2	重大
IST038I	5	2	重大
IST039I	5	2	正常
IST040I	5	2	なし
IST043I	5	2	重大
IST049I	5	2	なし
IST050I	5	2	重大
IST051A	2	1	なし
IST052I	5	2	警告
IST054I	5	2	警告
IST056A	2	1	なし

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST057I	5	2	警告
IST058I	5	2	警告
IST059I	5	2	警告
IST061I	5	2	重大
IST066I	5	2	重大
IST072I	5	2	重大
IST073I	5	2	重大
IST074I	5	2	重大
IST075I	5	2	なし
IST077I	5	2、8	なし
IST080I	5	2	なし
IST081I	5	2	なし
IST082I	5	2	なし
IST084I	5	2	なし
IST085I	5	2	重大
IST087I	5	8	なし
IST089I	5	2	なし
IST092I	5	2	なし
IST093I	5	2	正常
IST095A	2	1	なし
IST096I	5	2	重大
IST097I	5	8	なし
IST101I	5	2	重大
IST102I	4	2、8	なし
IST105I	5	2	正常
IST107I	5	2	警告
IST109I	5	2	通知
IST112I	5	2	なし
IST113I	5	2	なし
IST115I	5	2	警告
IST116I	6	2	警告
IST117I	4	2、10	警告
IST118I	5	2	警告
IST120I	5	2	正常
IST122I	6	2	警告
IST127I	6	2	重大
IST128I	6	2	重大
IST129I	5	2、8、10	警告
IST133I	4	2	通知
IST134I	5	2	なし
IST135I	5	2	なし
IST136I	5	2	なし
IST137I	5	2	警告
IST142I	5	2	警告
IST146I	5	2	なし
IST148I	5	2	なし
IST149I	5	2	なし
IST150I	5	2	正常
IST153I	6	2	通知
IST154I	5	2	重大
IST159I	5	2	なし
IST165I	5	2	正常
IST167I	5	2	なし
IST168I	5	2	なし

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST169I	5	2	通知
IST170I	5	2	なし
IST171I	5	2	なし
IST172I	5	2	なし
IST176I	5	2	重大
IST180I	5	2	警告
IST181I	5	2	警告
IST182I	5	2	警告
IST183A	2	2	なし
IST184I	5	2	警告
IST185I	5	2	警告
IST186I	5	2	警告
IST187I	5	2	重大
IST191I	5	2	重大
IST192I	5	2	警告
IST193I	5	2	重大
IST194I	5	2	重大
IST195I	5	2	重大
IST199I	5	2	正常
IST206I	5	2	なし
IST208I	5	2	警告
IST211I	4	2	警告
IST212I	5	8	なし
IST213I	5	8	なし
IST214I	4	2	警告
IST219I	4	2	警告
IST221I	5	2	正常
IST223I	5	2	なし
IST225I	5	2	重大
IST226I	5	2	通知
IST228I	5	2	なし
IST231I	5	2、8	なし
IST232I	5	2、8	なし
IST234I	4	2、8、10	警告
IST238I	4	8	警告
IST240A	2	2	なし
IST241I	5	8	正常
IST242I	4	8	重大
IST243I	5	8	正常
IST244I	5	8	なし
IST245I	5	8	なし
IST246I	4	8	なし
IST247I	5	2、8	なし
IST252I	5	2	なし
IST258I	5	2	警告
IST259I	4	8	通知
IST260I	5	2	警告
IST264I	4	8	重大
IST265I	4	8	重大
IST266I	5	2	通知
IST270I	5	2	正常
IST271I	5	2	なし
IST272A	2	1	なし
IST278A	2	1	なし

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST282A	3	1	なし
IST284A	2	1	なし
IST285I	5	2	重大
IST301I	5	2	警告
IST302I	5	2	警告
IST303I	5	2	警告
IST309I	5	2、4、8	警告
IST310I	5	2	重大
IST311I	5	2、4、8	警告
IST314I	5	2	なし
IST315I	5	2	正常
IST316I	5	2	正常
IST317I	5	2	重大
IST318I	5	2	重大
IST319I	5	2	正常
IST320I	5	2	警告
IST321I	5	2	警告
IST322I	5	2	警告
IST323I	5	2	警告
IST324I	5	2	通知
IST326I	5	2	正常
IST327I	5	2	正常
IST328I	5	2	正常
IST330I	5	2	警告
IST331I	5	2	警告
IST333I	5	2	警告
IST336I	5	2	なし
IST339I	5	2	警告
IST348I	5	2	正常
IST350I	5	2	なし
IST351I	5	2	なし
IST352I	5	2	なし
IST353I	5	2	なし
IST354I	5	2	なし
IST355I	5	2	なし
IST356I	5	2	なし
IST359I	5	2	なし
IST360I	5	2	なし
IST361A	2	2	なし
IST362I	5	2	警告
IST363I	5	2	警告
IST366I	5	2	警告
IST367I	5	2	警告
IST368I	5	2	警告
IST380I	5	2	正常
IST381I	5	2	重大
IST382I	5	2	重大
IST383I	5	2	正常
IST384I	5	2	重大
IST388I	5	8	なし
IST389I	5	8	なし
IST391I	5	8	なし
IST393I	5	8	なし
IST394I	5	8	なし

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST395I	5	8	なし
IST396I	5	8	なし
IST397I	5	8	なし
IST398I	5	8	警告
IST399E	3	2	重大
IST400I	5	2	正常
IST401I	5	2	なし
IST403I	5	2	重大
IST407I	5	2	なし
IST408I	5	2	なし
IST409I	5	2	なし
IST411I	5	2	重大
IST412I	5	2	通知
IST413I	5	2	なし
IST414I	5	2	重大
IST416I	4	2、8	なし
IST422I	5	2	警告
IST423I	5	2	警告
IST424I	5	2	警告
IST425I	5	2	警告
IST430I	5	2	警告
IST432I	5	2	重大
IST433I	5	2	重大
IST435I	5	2	警告
IST436I	5	2	警告
IST437I	5	2	警告
IST440I	4	2	なし
IST441I	4	2	なし
IST442I	4	2	なし
IST443I	4	2	なし
IST446I	5	2	警告
IST447I	5	2	警告
IST448I	5	2	なし
IST449I	5	8	なし
IST450I	5	2	重大
IST451I	5	8	なし
IST452I	5	8	重大
IST453I	5	8	なし
IST454I	5	8	重大
IST455I	5	2	正常
IST456I	5	8	重大
IST457I	5	2	正常
IST458I	5	2	なし
IST459I	5	2	重大
IST460I	5	2	重大
IST461I	4	2	正常
IST462I	5	2	警告
IST464I	4	2	正常
IST465I	5	2	重大
IST466I	4	2	警告
IST467I	5	8	重大
IST468I	5	8	重大
IST469I	5	8	重大
IST470I	5	8	重大

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST471I	5	8	重大
IST473I	4	2、8	警告
IST474I	5	2	なし
IST475I	5	2	なし
IST476I	5	2	なし
IST477I	5	2	なし
IST478I	5	2	なし
IST479I	5	2	なし
IST482I	5	8	なし
IST483I	5	8	なし
IST484I	5	2	なし
IST486I	5	8	なし
IST487I	5	2	通知
IST488I	5	2	重大
IST489I	5	2	警告
IST490I	5	2	重大
IST493I	5	2	重大
IST494I	5	2	重大
IST495I	4	2	なし
IST496E	3	8	警告
IST499I	5	2	正常
IST500I	4	2、8	警告
IST501I	4	2、8	なし
IST502A	2	2、8	なし
IST503I	4	2、8	なし
IST504I	4	2、8	通知
IST505I	4	2、8	正常
IST506I	4	2、8	警告
IST510I	5	8	なし
IST511I	5	2	なし
IST512I	5	2	なし
IST513I	5	2	なし
IST516I	5	2	なし
IST517I	5	2	なし
IST518I	5	2	なし
IST520I	4	8	なし
IST521I	4	8	重大
IST522I	4	8	重大
IST523I	4	8	通知
IST524I	4	8	通知
IST525I	4	8	通知
IST526I	5	2	警告
IST528I	4	8	通知
IST529I	4	8	警告
IST530I	4	8	通知
IST531I	4	8	通知
IST533I	5	8	なし
IST534I	5	8	なし
IST535I	5	8	なし
IST536I	5	8	なし
IST537I	5	8	なし
IST538I	5	8	なし
IST539I	5	8	なし
IST540I	5	8	正常

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST541I	5	8	警告
IST542I	5	8	警告
IST543I	5	8	警告
IST544I	5	8	警告
IST546I	4	8	なし
IST547I	4	8	通知
IST548I	4	2	重大
IST549I	5	8	正常
IST561I	5	2	重大
IST562I	5	2	重大
IST566I	5	2	重大
IST567I	5	2	正常
IST571I	5	2	重大
IST572I	5	8	なし
IST574E	3	2	重大
IST577I	4	2	なし
IST578I	4	2	なし
IST579I	4	2	なし
IST580I	4	2	なし
IST581I	4	2	なし
IST582I	5	8	警告
IST585E	3	2	重大
IST587I	4	8	警告
IST588I	5	2、8	なし
IST589I	4	8	警告
IST590I	4	8	通知
IST591E	3	2	重大
IST592I	5	2	なし
IST593I	5	2	警告
IST594I	5	2	警告
IST595I	5	8	なし
IST596I	5	8	なし
IST597I	5	8	なし
IST599I	5	8	なし
IST602I	5	2	重大
IST605I	5	2	重大
IST607I	5	2	重大
IST608I	5	2	重大
IST610I	5	8	なし
IST611I	5	8	なし
IST617I	5	2	通知
IST619I	4	2、8	警告
IST621I	4	2、8	正常
IST623I	5	8	なし
IST624I	5	8	なし
IST627I	5	2	重大
IST632I	5	2	なし
IST633I	5	2	なし
IST634I	5	8	なし
IST635I	5	8	なし
IST636I	5	8	なし
IST637I	5	8	なし
IST638I	5	8	なし
IST639I	5	8	なし

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST640I	5	8	なし
IST641I	5	8	なし
IST642I	5	8	なし
IST643I	5	8	なし
IST644I	5	8	なし
IST645I	5	2	重大
IST650I	5	2	なし
IST652I	5	2	なし
IST654I	5	2	なし
IST655I	5	2	なし
IST656I	5	2	通知
IST658I	5	8	なし
IST660I	5	2	警告
IST663I	4	8	重大
IST664I	4	8	重大
IST670I	4	8	正常
IST674I	5	2	正常
IST675I	5	8	なし
IST678I	5	2	なし
IST679A	2	1	なし
IST680I	4	8	重大
IST683I	4	8	重大
IST684I	4	8	警告
IST688I	5	2	重大
IST690I	4	8	重大
IST693I	4	8	重大
IST700I	5	2	警告
IST701I	5	2	通知
IST702I	5	2	警告
IST703I	5	2	警告
IST706I	5	2	警告
IST707I	5	2	通知
IST708I	5	2	警告
IST709I	5	2	重大
IST710I	4	2	警告
IST712I	5	2	警告
IST713I	5	2	警告
IST714I	5	2	警告
IST715I	5	2	警告
IST716I	4	8	警告
IST717I	4	8	警告
IST718I	5	8	警告
IST719I	5	8	警告
IST720I	5	8	通知
IST721I	4	8	警告
IST723I	4	8	通知
IST725I	4	8	通知
IST726I	4	8	通知
IST727I	4	8	正常
IST728I	4	8	通知
IST732I	4	8	重大
IST734I	4	8	重大
IST735I	4	8	通知
IST737I	4	8	通知

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST740I	4	8	警告
IST742I	4	8	通知
IST744I	4	8	通知
IST745I	4	8	通知
IST746I	4	8	通知
IST751I	5	2、8	なし
IST752I	5	8	なし
IST755I	4	8	正常
IST756E	3	8	重大
IST757E	3	8	重大
IST758E	3	8	重大
IST759E	3	8	重大
IST760E	3	8	重大
IST761E	3	8	重大
IST762I	4	8	正常
IST763I	4	8	正常
IST764I	4	8	正常
IST765E	3	8	重大
IST766I	5	2	正常
IST767E	3	8	重大
IST768E	3	8	重大
IST769E	3	8	重大
IST770E	3	8	重大
IST771E	3	8	重大
IST772I	5	8	重大
IST773I	5	8	重大
IST778I	4	8	通知
IST784I	5	8	なし
IST786I	5	8	なし
IST787I	5	8	重大
IST788I	5	8	なし
IST789I	5	8	なし
IST790I	5	8	なし
IST792I	5	2	なし
IST793E	3	8	重大
IST794I	5	2	なし
IST796I	5	2	警告
IST797I	5	2	なし
IST798I	5	2	なし
IST799I	5	8	なし
IST804I	5	2	通知
IST805I	5	2	正常
IST806I	5	2	正常
IST807I	5	2	重大
IST808I	5	8	なし
IST809I	5	8	なし
IST812I	5	8	なし
IST813I	5	8	なし
IST814I	5	8	なし
IST815I	5	4、5、9	なし
IST816I	5	2	なし
IST819I	4	8	正常
IST820I	4	8	重大
IST821I	5	2	正常

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST822I	4	8	重大
IST823I	4	2	警告
IST824I	4	2	警告
IST825I	5	8	なし
IST830I	4	8	重大
IST831I	4	2	警告
IST832I	4	2	警告
IST833I	4	2	警告
IST834I	5	8	なし
IST836I	4	2	警告
IST837I	4	2	警告
IST838I	7	2	なし
IST839I	7	2	なし
IST840I	7	2	なし
IST841I	5	2	なし
IST842I	5	2	正常
IST844I	5	2	なし
IST845I	4	2	警告
IST846I	5	2	通知
IST849I	5	2	警告
IST860I	5	2	警告
IST861I	5	2	なし
IST862I	5	2	なし
IST863I	5	2	なし
IST864I	5	2	なし
IST865I	5	2	なし
IST866I	5	2	なし
IST867I	5	2	通知
IST869I	5	2	なし
IST870I	5	2	正常
IST871I	5	2	正常
IST872I	5	2	正常
IST873I	5	2	なし
IST874I	5	2	なし
IST875I	5	2	なし
IST876I	5	2	なし
IST877I	5	2	なし
IST878I	5	2	なし
IST879I	5	2	なし
IST880I	5	2	なし
IST881I	5	2	正常
IST882I	5	2	正常
IST883I	5	2	なし
IST886I	5	2	正常
IST887I	5	2	なし
IST888I	5	2	なし
IST889I	4	8	通知
IST890I	5	2	重大
IST891I	4	8	通知
IST892I	4	8	通知
IST893I	4	8	通知
IST894I	4	8	通知
IST895I	4	8	通知
IST896I	5	2	通知

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST897I	5	2	通知
IST898I	5	8	なし
IST899I	5	2	通知
IST900I	5	2	通知
IST901A	5	2	なし
IST902A	5	2	なし
IST903A	5	2	なし
IST904A	5	2	なし
IST905A	5	2	なし
IST906A	5	2	なし
IST907A	5	2	なし
IST908A	5	2	なし
IST909A	5	2	なし
IST910I	5	2	通知
IST911I	5	2	通知
IST912I	5	2	通知
IST913I	5	2	通知
IST914I	5	2	通知
IST915I	5	2	通知
IST916I	5	2	通知
IST917I	5	2	通知
IST918A	5	2	なし
IST919I	5	2	正常
IST920I	5	2	なし
IST921I	5	2	なし
IST922I	5	2	なし
IST923I	5	2	なし
IST924I	5	2	なし
IST925I	5	2	なし
IST926I	5	2	正常
IST927I	5	2	正常
IST928I	5	2	正常
IST929I	5	2	正常
IST930I	5	2	なし
IST932E	3	2	重大
IST933I	5	2	なし
IST934I	5	2	なし
IST935I	5	2	なし
IST936I	5	2	なし
IST937A	2	2	なし
IST938I	5	2	なし
IST939I	5	2	重大
IST940I	4	8	重大
IST946I	5	2	なし
IST947I	5	2	なし
IST948I	5	2	なし
IST949I	5	2	警告
IST950I	5	2、8	なし
IST951I	5	2	なし
IST952I	5	2	なし
IST953I	5	2	なし
IST954I	5	2	なし
IST955I	5	2	なし
IST956I	5	2	なし

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST957I	5	2	なし
IST958I	5	2	なし
IST959I	5	2	警告
IST960I	5	2	重大
IST961I	3	2	なし
IST962I	4	8	通知
IST963I	3	2	なし
IST965I	3	2	なし
IST966I	5	2、8	なし
IST967I	4	2	警告
IST970I	4	2	警告
IST971I	5	8	なし
IST972I	5	2	重大
IST973I	5	2	通知
IST974I	5	2	通知
IST976I	5	2	警告
IST977I	5	2	なし
IST979I	5	2	警告
IST981I	5	2	なし
IST982I	4	8	通知
IST983E	11	2	なし
IST984I	4	8	なし
IST985I	4	8	なし
IST986I	5	2	なし
IST987I	5	2	なし
IST988I	5	2	なし
IST989I	5	2	なし
IST990E	3	2	警告
IST991I	5	2	警告
IST996I	5	8	なし
IST997I	5	8	なし
IST998E	3	2	なし
IST999E	3	2	なし
IST1000I	5	2	なし
IST1001I	5	8	なし
IST1002I	5	8	なし
IST1003I	5	8	なし
IST1004I	5	8	なし
IST1005I	5	8	なし
IST1006I	5	8	なし
IST1007I	5	8	なし
IST1008I	5	8	なし
IST1009I	5	8	なし
IST1010I	5	8	なし
IST1011I	5	2	警告
IST1012I	5	8	なし
IST1013I	5	8	なし
IST1014I	5	2	重大
IST1015I	4	8	重大
IST1016I	5	2	通知
IST1017I	5	2	なし
IST1018I	5	2	なし
IST1019I	5	8	なし
IST1020I	5	2	重大

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST1021I	8	5	なし
IST1022I	4	2	なし
IST1023E	3	2	重大
IST1024I	2	4	警告
IST1025I	9	2	なし
IST1026I	9	2	なし
IST1027I	9	2	なし
IST1028I	4	8	重大
IST1029I	5	8	なし
IST1030I	5	8	なし
IST1031I	5	8	なし
IST1032I	5	8	重大
IST1033I	5	2	なし
IST1034I	5	2	なし
IST1035I	4	8	警告
IST1038I	5	2	なし
IST1039I	5	2	なし
IST1040I	5	8	なし
IST1041I	5	2	なし
IST1042I	5	2	なし
IST1043I	5	2	なし
IST1044I	5	2	なし
IST1045I	5	2	正常
IST1046I	5	2	なし
IST1048I	5	2	なし
IST1049I	5	2	なし
IST1050I	5	2	なし
IST1051I	4	8	通知
IST1052I	5	2	なし
IST1053I	5	2	なし
IST1054I	5	2	なし
IST1055I	5	2	なし
IST1056I	5	2	なし
IST1057I	5	2	なし
IST1058I	5	2	通知
IST1059I	5	2	通知
IST1060I	5	2	通知
IST1061I	5	2	通知
IST1062I	4	8	通知
IST1063I	5	2	警告
IST1064I	5	2	警告
IST1065I	9	2	通知
IST1066I	9	2	通知
IST1067I	5	2	なし
IST1068I	5	2	なし
IST1069I	5	2	なし
IST1070I	5	2	なし
IST1071I	5	2	なし
IST1072I	5	2	なし
IST1073I	5	2	なし
IST1074I	5	2	なし
IST1075I	5	2	なし
IST1076I	5	2	なし
IST1077I	5	2	なし

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST1078I	5	2	なし
IST1079I	5	2	なし
IST1080I	5	2	なし
IST1081I	5	2	なし
IST1082I	5	2	正常
IST1083I	5	2	重大
IST1084I	5	2	なし
IST1085I	5	2	重大
IST1086I	5	2	正常
IST1088I	5	2	正常
IST1089I	5	2	なし
IST1090I	5	2	正常
IST1091I	5	2	なし
IST1092I	5	2	なし
IST1093I	5	2	なし
IST1094I	5	2	なし
IST1095I	5	2	重大
IST1096I	5	2	正常
IST1097I	5	2	正常
IST1098I	5	2	なし
IST1099I	5	2	なし
IST1100I	5	2	なし
IST1101I	5	2	なし
IST1102I	5	2	なし
IST1103I	5	2	なし
IST1104I	5	2	なし
IST1105I	5	2	なし
IST1106I	5	2	なし
IST1107I	5	2	なし
IST1108I	5	2	なし
IST1110I	5	2	重大
IST1111I	5	2	重大
IST1112I	5	2	重大
IST1113I	5	2	重大
IST1114I	5	2	なし
IST1115I	6	2	なし
IST1116I	6	2	警告
IST1117I	5	2	警告
IST1118I	3	2	なし
IST1119I	3	2	なし
IST1120I	5	2	重大
IST1121I	5	2	警告
IST1122I	5	2	警告
IST1123I	5	2	なし
IST1124I	3	2	警告
IST1125I	3	2	警告
IST1126I	3	2	警告
IST1127I	3	2	警告
IST1128I	5	2	警告
IST1129I	5	2	重大
IST1130I	5	2	重大
IST1131I	5	2	なし
IST1132I	5	2	正常
IST1133I	5	2	正常

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST1134I	5	2	正常
IST1135I	5	2、8、10	警告
IST1136I	5	2、8、10	警告
IST1137I	5	2	重大
IST1138I	4	8	重大
IST1139I	5	2	正常
IST1140I	5	2	重大
IST1141I	5	2	重大
IST1142I	5	2	重大
IST1143I	5	2	正常
IST1144I	5	2	正常
IST1145I	5	2	重大
IST1146I	5	2	警告
IST1147I	5	2	警告
IST1148I	5	2	警告
IST1149I	4	8	正常
IST1150I	5	8	なし
IST1151I	5	8	なし
IST1152I	5	2	正常
IST1153I	5	2	なし
IST1154I	5	2	なし
IST1155I	5	2	重大
IST1156I	5	2	なし
IST1157I	3	2	警告
IST1158I	5	2	なし
IST1159I	9	2	なし
IST1160I	9	2	なし
IST1161I	5	2	なし
IST1162I	5	2	なし
IST1163I	9	2	なし
IST1164I	9	2	なし
IST1166I	5	2	警告
IST1167I	5	2	警告
IST1168I	5	2	なし
IST1169E	11	2	なし
IST1171I	5	2	警告
IST1172I	5	2	警告
IST1174I	4	2	正常
IST1175I	5	2	警告
IST1176I	9	2	なし
IST1177I	9	2	なし
IST1183I	5	2	重大
IST1184I	9	2	なし
IST1185I	9	2	なし
IST1186I	9	2	なし
IST1187I	5	2	重大
IST1188I	5	2	なし
IST1189I	5	2	なし
IST1193I	3	2	重大
IST1194I	3	2	警告
IST1196I	5	2	正常
IST1197I	5	2	正常
IST1198I	5	2	正常
IST1199I	5	2	警告

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST1200I	5	2	なし
IST1201I	5	2	重大
IST1202I	5	2	なし
IST1203I	5	2	なし
IST1204I	5	2	なし
IST1205I	5	2	警告
IST1206I	5	2	警告
IST1207I	5	2	警告
IST1208I	5	2	警告
IST1209I	5	2	警告
IST1211I	4	2、 8、 10	警告
IST1213I	5	2	警告
IST1215I	5	2	なし
IST1216A	2	1	なし
IST1217A	2	1	なし
IST1218I	5	2	なし
IST1219I	5	2	なし
IST1220I	5	8	なし
IST1221I	5	2	なし
IST1222I	4	2	警告
IST1223I	9	2	なし
IST1224I	9	2	なし
IST1225I	5	2	なし
IST1226I	5	2	警告
IST1227I	9	2	なし
IST1228I	5	2	警告
IST1229I	5	2	警告
IST1230I	4	2	なし
IST1231I	4	2	なし
IST1232I	4	2	なし
IST1233I	4	2	なし
IST1234I	4	2	なし
IST1235I	4	2	なし
IST1236I	9	2	なし
IST1237I	5	2	なし
IST1238I	5	2	なし
IST1239I	5	2	なし
IST1240I	5	2	なし
IST1241I	5	2	なし
IST1242I	5	2	なし
IST1243I	5	2	なし
IST1244I	5	2	なし
IST1245I	5	2	重大
IST1246I	5	2	重大
IST1247I	5	2	重大
IST1248I	9	2	なし
IST1249I	5	2	警告
IST1250I	5	2	なし
IST1251I	5	2	なし
IST1252I	5	2	なし
IST1253I	5	2	なし
IST1254I	5	2	なし
IST1255I	5	2	なし
IST1256I	5	2	なし

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST1257I	5	2	警告
IST1258I	5	2	警告
IST1259I	5	2	警告
IST1260I	5	2	警告
IST1261I	3	2	なし
IST1262I	5	2	なし
IST1263I	5	2	警告
IST1264I	5	2	重大
IST1265I	5	2	重大
IST1266I	5	2	通知
IST1267I	5	2	重大
IST1268I	5	2	正常
IST1269I	5	2	重大
IST1270I	5	2	重大
IST1271I	5	2	通知
IST1272I	5	2	警告
IST1273I	5	2	重大
IST1274I	5	2	重大
IST1275I	5	2	正常
IST1276I	5	8	なし
IST1277I	5	2	正常
IST1278I	4	8	通知
IST1279I	5	2	警告
IST1280I	5	2	重大
IST1281I	5	8	重大
IST1283I	5	2	なし
IST1284I	5	2	なし
IST1285I	5	2	正常
IST1286I	5	2	通知
IST1287I	5	2	通知
IST1288I	5	2	警告
IST1289I	5	2	通知
IST1290I	5	2	通知
IST1291I	5	2	なし
IST1292I	9	2	なし
IST1294I	5	2	通知
IST1295I	9	2	なし
IST1296I	9	2	なし
IST1297I	9	2	なし
IST1298I	9	2	なし
IST1299I	9	2	なし
IST1300I	9	2	なし
IST1301I	9	2	なし
IST1302I	5	2	なし
IST1303I	9	2	なし
IST1304I	9	2	なし
IST1305I	9	2	なし
IST1306I	9	2	なし
IST1307I	9	2	なし
IST1308I	9	2	なし
IST1309I	5	2	なし
IST1310I	5	2	なし
IST1311A	1	2	なし
IST1312I	5	2	なし

VTAM メッセージ・リスト

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST1313I	5	2	なし
IST1314I	5	2	なし
IST1315I	5	2	なし
IST1316I	5	2	なし
IST1317I	5	2	なし
IST1318I	5	2	なし
IST1319I	5	2	なし
IST1320I	5	2	重大
IST1321I	5	2	なし
IST1322I	5	2	なし
IST1323I	5	2	なし
IST1324I	5	2	なし
IST1325I	5	2	なし
IST1326I	5	2	なし
IST1327I	5	2	なし
IST1328I	5	2	なし
IST1329I	5	2	なし
IST1330I	5	2	通知
IST1333I	5	2	なし
IST1334I	5	2	警告
IST1335I	5	2	警告
IST1336I	5	2	通知
IST1337I	5	2	通知
IST1338I	5	2	通知
IST1340I	5	2	通知
IST1341I	5	2	通知
IST1345I	5	2	なし
IST1346I	5	2	警告
IST1347I	5	2	正常
IST1348I	5	2	なし
IST1349I	5	2	なし
IST1350I	5	2	警告
IST1351I	5	2	なし
IST1352I	5	2	なし
IST1353I	5	2	なし
IST1354I	5	2	なし
IST1355I	5	2	なし
IST1356I	5	2	重大
IST1357I	5	2	なし
IST1358I	5	2	なし
IST1363I	5	2	なし
IST1364I	5	2	なし
IST1378I	5	8	なし
IST1385I	5	2	通知
IST1392I	5	2	正常
IST1393I	5	2	なし
IST1394I	4	8	重大
IST1395I	5	2	なし
IST1401I	5	2	なし
IST1402I	5	2	なし
IST1403I	5	2	なし
IST1404I	5	2	なし
IST1405I	5	2	なし
IST1406I	5	8	なし

メッセージ ID	記述コード	宛先コード	抑止レベル
IST1408I	5	2	なし
IST1410I	5	2	なし
IST1411I	4	8	通知
IST1412I	4	8	通知
IST1413I	5	2	正常
IST1414I	5	2	正常
IST1415I	5	2	なし
IST1416I	4	2、8	警告
IST1417I	3	2	なし
IST1418I	5	2	なし
IST1419I	5	2	通知
IST1420I	5	2	通知
IST1421I	5	8	警告
IST1422I	5	2	なし
IST1423I	2	8	重大
IST1430I	8	4	通知
IST1431I	5	2	なし
IST1432I	5	8	なし
IST1433I	2	8	重大
IST1434I	5	2	なし
IST1435I	9	2	なし
IST1436I	4	8	通知
IST1437I	5	2	通知
IST1438I	5	2	なし
IST1439I	11	2	なし
IST1445I	5	8	なし
IST1449I	3	2	通知
IST1452I	3	2	通知
IST1453I	5	2	なし
IST1497I	5	2	なし
IST1544I	4	8	重大

第 18 章 接頭部 IRR のシステム許可機能メッセージ

IRR012I VERIFICATION FAILED. USER PROFILE NOT FOUND.

説明: このジョブに関連したユーザーのセキュリティ管理プログラム・データベースに、ユーザー・プロファイルがありません。

システムの処置: 外部セキュリティ管理プログラムはその要求を処理できませんでした。アプリケーションが、ジョブを終了させるか、代替方法を使用して継続するかを決定します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: アプリケーションがジョブの継続を許可する場合、処置は必要ありません。それ以外の場合は、セキュリティ管理プログラム定義のユーザーを、VSE/POWER ジョブ・カードの SEC パラメーター、または // ID ステートメントに指定するか、あるいは対話式インターフェースを介してジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

IRR013I VERIFICATION FAILED. INVALID PASSWORD GIVEN.

説明: 指定されたパスワードが、ユーザーのプロファイルに含まれていませんでした。

システムの処置: 検査を要求したアプリケーションが、処理を継続するか終了するかを決定します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/POWER ジョブ・カードの SEC パラメーター、または // ID ステートメントに、正しいパスワードを指定してください。

プログラマーの応答: なし。

IRR014I VERIFICATION FAILED. EXPIRED PASSWORD GIVEN.

説明: ユーザーのパスワードの有効期限が切れています。新しいパスワードを与える必要があります。

システムの処置: 検査を要求したアプリケーションが、処理を継続するか終了するかを決定します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 新しいパスワードをユーザー・プロファイルに指定してください。対話式インターフェースダイアログを使用してパスワードを変更することができます。

プログラマーの応答: なし。

IRR015I VERIFICATION FAILED. NEW PASSWORD IS NOT VALID.

説明: 新しいパスワードが有効でないか、または古いパスワードと同じです。

システムの処置: 検査を要求したアプリケーションが、処理を継続するか終了するかを決定します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 有効な新しいパスワードを指定してください。インストール・システムのパスワード規則を知りたいときは、セキュリティ管理者に相談してください。

プログラマーの応答: なし。

IRR016I VERIFICATION FAILED BY SECURITY MANAGER INSTALLATION EXIT.

説明: ジョブが開始時に RACINIT インストール・システム出口ルーチンによって失敗させられました。

システムの処置: 検査を要求したアプリケーションが、処理を継続するか終了するかを決定します。

システム・プログラマーの応答: 「インストール・システム出口」については、セキュリティ・マネージャー資料を参照してください。

ユーザーの処置: このメッセージをセキュリティ管理プログラムのシステム・プログラマーに連絡してください。

IRR017I VERIFICATION FAILED. USER IS REVOKED AT THE GROUP LEVEL.

説明: 指定されたグループ (デフォルト・グループまたは指定されたグループのいずれか) は、このユーザーの有効なグループです。しかし、このグループへのユーザーのアクセスが取り消されました。

システムの処置: 検査を要求したアプリケーションが、処理を継続するか終了するかを決定します。

システム・プログラマーの応答: 「グループ・レベル」については、セキュリティ・マネージャー資料を参照してください。

ユーザーの処置: このメッセージをセキュリティ管理プログラムのシステム・プログラマーに連絡してください。

IRR018I VERIFICATION FAILED. OIDCARD IS REQUIRED.

説明: ユーザーは、システムに入るとき、オペレーター ID を与える必要があります。このバッチ・ジョブで OI DCARD を与えることはできません。

システムの処置: ジョブを終了し、ステップを実行しません。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/POWER ジョブ・カードの SEC パラメーター、または // ID ステートメントに、異なるユーザーを指定してください。

プログラマーの応答: なし。

第 19 章 IXFP メッセージ

IXFP0nI INVALID COMMAND OR OPERAND

説明: 指定されたコマンドには、不正または無効なオペランドが含まれています。MSG 番号は、誤りのあるオペランドを示しています。(IXFP01 が最初のオペランドで、IXFP02 が 2 番目、... IXFP07 が 7 番目、というようになります)。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: オペランドを訂正するか、または指定のリソースが使用可能であって、システムにアクセス可能であることを確認してください。

IXFP1nI INVALID COMMAND OR OPERAND

説明: 指定されたコマンドには、不正または無効なオペランドが含まれています。MSG 番号は、誤りのあるオペランドを示しています。(IXFP10 が 10 番目のオペランドで、IXFP12 が 12 番目、... IXFP17 が 17 番目、というようになります)。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: オペランドを訂正するか、または指定のリソースが使用可能であって、システムにアクセス可能であることを確認してください。

IXFP1XI INVALID COMMAND OR OPERAND

説明: 指定されたコマンドには、不正または無効なオペランドが含まれています。オペランド番号が 19 を超えていました。他の IXFP メッセージの場合と区別するため、この番号を指定することはできませんでした。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: オペランドを訂正するか、または指定のリソースが使用可能であって、システムにアクセス可能であることを確認してください。

IXFP20I SNAP FUNCTION COMPLETED AT

hh:mm:ss mm/dd/yyyy

説明: 以前に発行された IXFP コマンドが指定の装置について指定の時間で正常に完了しました。このメッセージ内の日付および時刻情報は、RVA サブシステムによって保持されている(該当する場合) 時間であるため、CPU によって保持されている TOD とは多少異なる可能性があります。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 結果的には装置に対して DVCUP を実行し、正規の装置としてその装置を使用することができますが、FROM (ソース) 装置の VOLID と TO (ターゲット) 装置の VOLID が固有でないため、汎用の ASSGN ステートメントではなく、明示的な ASSGN ステートメントが要求されることがあることに注意してください。

IXFP21I SNAP FUNCTION PROCEEDING

説明: 以前に発行された IXFP コマンドが指定の装置について実行中です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

IXFP22I SNAP TO CUU=*cuu* STARTED AT

hh:mm:ss mm/dd/yyyy

説明: 以前に発行された IXFP コマンドが指定の装置について指定の時間で受け入れられ、開始されました。このメッセージ内の日付および時刻情報は、CPU によって保持されている時間です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

IXFP23D SNAP FROM CUU=*cuu* CYL='cyl' TO CUU=*cuu* CYL='cyl' NCYL='ncyl' - REPLY 'YES' TO PROCEED

説明: システムが指定のシリンダー範囲の内容をソース装置からターゲット装置に SNAP (COPY) しようとしています。ターゲット・シリンダー範囲はエクステント・オーバーレイについて検査されません。代わりに、コマンドが確認されると、そのコマンドによりターゲット・アドレス範囲が無条件に上書きされます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 装置および境界が正しいことを確認します。正しければ「YES」で応答し、正しくなければ「NO」(または他の入力) で応答してシステムにコマンドを終了させます。

IXFP23D SNAP FROM CUU=*cuu* DSN='data-set-name' TO CUU=*cuu* - REPLY 'YES' TO PROCEED

説明: システムが、指定のデータ・セット名 (DSN) を持つファイルをソース装置からターゲット装置に SNAP (COPY) しようとしています。ターゲット・ファイルは、ソース・ファイルとまったく同じエクステント境界に保管されます。最終的に、既存のターゲット・ファイル・エクステントを持つ既存のオーバーレイが検査および報告されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 装置およびファイル ID が正しいことを確認します。正しければ「YES」で応答し、正しくなければ「NO」(または他の入力) で応答してシステムにコマンドを終了させます。

IXFP24I IXFP FUNCTION TERMINATED AT USERS REQUEST

説明: 以前に IXFP コマンドを試みた結果、オペレーター決定メッセージが発行されました。このメッセージで、オペレーターは機能またはコマンドが開始される前にその機能またはコマンドの終了を選択します。指定の機能が実行されませんでした。システムは処理を続行することができます。

システムの処置: コマンドに応じて、システムはコマンドを終了するか、あるいは次のファイルまたは装置の処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

IXFP25I ERROR DURING VTOC *function* PROCESSING RC='rc' on CUU=*cuu*

説明: VTOC 処理で指定の「機能」が失敗し、所定の RC (戻りコード) が発行されました。戻りコードの意味は次の通りです:

RC=00 エラーなし
 RC=04 VOL1 ラベル読み取り時の入出力エラー
 RC=08 ボリュームが取り付けられていません
 RC=0C VTOC 読み取り時の入出力エラー
 RC=10 ボリューム上で名前が重複しています
 RC=14 VTOC フル
 RC=18 予約済み
 RC=1C 期限がきていないファイルでの重複
 RC=20 期限がきていない保護ファイルでの重複
 RC=24 VTOC 上でオーバーラップ
 RC=28 予約済み
 RC=2C F1 または次のラベルがありません
 RC=30 無効な読み取りまたは書き込みアドレス
 RC=34 予約済み
 RC=38 有効期限が切れた保護ファイルでの重複
 RC=3C 予約済み
 RC=40 GETVIS が失敗しました
 RC=44 セキュリティ違反
 RC=48 予約済み
 RC=4C 無効な VTOC 共用オプション
 RC=50 エクステンタがそれぞれと重複します
 RC=54 ユーザー指定の WRKA が小さすぎます
 RC=58 F4 ラベルがありません
 RC=5C VOL1 ラベルがありません
 RC=60 JIB 処理が失敗しました
 RC=64 予約済み
 RC=68 予約済み
 RC=6C サポートされていないラベル・タイプ

IBM サポート・グループに連絡して、メッセージの詳細を使用できるようにしておいてください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

IXFP26D DSN='file-id' has expired ON CUU=cuu - REPLY 'YES' FOR DELETION

説明: IXFP コマンドの DDSR 機能が、所定のデータ・セット名 (DSN) を持つファイルを検出しました。しかし、このファイルの有効期限は切れていて、保護ファイルでもありませんでした。システムは、示された装置上のこのファイルを削除しようとしています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 指定のファイルが不要であることを確認します。不要であれば「YES」で応答し、不要でなければ「NO」(または他の入力)で応答してシステムにコマンドを終了させます。

IXFP27I UNABLE TO OBTAIN VTOC-LOCK FOR CUU=cuu

説明: 指定のコマンドは、VTOC アクセスの排他使用を必要とします。しかし、このロックは障害のため実行できませんでした。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 後でこのコマンドを再サブミットしてください。

IXFP28I ERROR IN VTOC CCHHR=ccccchhhrrr ON CUU=cuu

説明: 指定の装置についての VTOC に、矛盾したレコード情報が含まれています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 「VTOC リスト・プログラム」(DITTO DVT) を実行して、該当する情報が IBM サポート・グループへの連絡時に入手できるようにしておいてください。CCHHR 情報を使用すれば、エラーを含む正確なディスク位置を見つけることができます。

IXFP29D DDSR FOR CUU=cuu { (WHOLE VOLUME) | CYL='cyl' NCYL='ncyl' }

説明: システムがボリューム全体の内容または認識されている装置に対して指定されたシリンダー範囲を消去しようとしています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 指定の装置および境界が正しいことを確認します。正しければ「YES」で応答し、正しくなければ「NO」(または他の入力)で応答してシステムにコマンドを終了させます。

IXFP30I cuu IS NOT A DASD DEVICE

説明: コマンドが、DASD 装置ではない装置の指定を組み込みました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: コマンドに DASD 装置の指定が含まれていることだけを確認してください。

IXFP31I NO TARGET DEVICE GIVEN

説明: IXFP コマンドの SNAP 機能は、ターゲット装置が指定されることを必要とします。このターゲット装置が指定されていないか、コマンド構文が守られていません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: コマンド構文に従ってコマンドを指定してください。

IXFP32I DEVICE SPECIFICATION EXCEEDS MAXIMUM

説明: 装置 (または SNAP 機能の場合、対になっている装置) の数が、最大数である 16 装置を超えています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 単一のコマンドを使用するのではなく、複数のコマンドを使用して、1 つのコマンドに最大で 16 装置を指定するようにしてください。

**IXFP33I PERMANENT I/O ERROR ON
DEVICE=cuu
SNS=sense-data**

説明: 指定された装置が、指定された機能を提供するために適したハードウェア・レベルの ESS 装置であることを確認してください。ご使用の ESS サブシステムでこの機能が (まだ) 使用できないか、あるいは (まだ) 活動化されていない可能性があります。上記の条件を満たしている場合はハードウェア障害の可能性があるので、ハードウェア・サポート・グループに連絡して、メッセージに付随するセンス・データを報告してください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: コマンドに正しい装置の指定が含まれていることを確認してください。

**IXFP34I DEVICE=cuu IS NOT FUNCTION
CAPABLE**

説明: 指定の装置を識別できなかったか、その装置が ESS 装置でないか、またはハードウェアにこの機能をサポートするための適切なレベルがありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: コマンドに正しい装置の指定が含まれていることを確認してください。装置が READY かつ OPERATIONAL であることを確認して、最後に「ONLINE cuu」コマンドを発行するか、あるいは装置が実行できるコマンドを発行してください。

IXFP35I DEVICE=cuu INVALID DEVICE STATUS

説明: コマンドは、ターゲット装置が DOWN 状態であることを必要とします。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 指定の装置に現在アクセスしているプログラムやアプリケーションがないことを確認し、DVCDN コマンドを発行して装置を強制的に DOWN 状態にしてください。

IXFP36I NO MORE 31-BIT GETVIS AVAILABLE

説明: 31 ビット・システム GETVIS ストレージを割り振ろうとしましたが、失敗しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 指定の機能は、現在使用できない一部の 31 ビット・システム GETVIS ストレージを必要とします。この動的に割り振られたシステム GETVIS スペースを開放するか、あるいはシステム管理者に連絡して最終的に 31 ビット・システム GETVIS ストレージを増やしてもらう必要があります。

**IXFP37I ECAM UNKNOWN ERROR TYPE
completion-condition**

説明: ECAM メッセージ要求が不明なメッセージ完了コードで失敗しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: IBM サポート・グループに連絡して、最後に試みたコマンドの他にメッセージの詳細も報告してください。

**IXFP38I MDISK CACHING NEEDS TO BE
TURNED OFF FOR SOURCE/TARGET
DEVICE**

説明: ソース装置またはターゲット装置のいずれかあるいは両方の MDISK キャッシングがアクティブであることが検出されました。これはデータの不整合を招く可能性があるため、SNAP 要求は拒否されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 少なくともソース装置とターゲット装置の MDISK キャッシングを無効にした後で、コマンドを再サブミットしてください。

**IXFP39I NO VSE-FILE WITH MATCHING DSN
FOUND IN VTOC**

説明: DSN キーワードと一緒に指定したデータ・セット名が、指定の装置の VTOC にありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 正しい装置と正しいデータ・セット名 (DSN) を必ず指定して、最後にコマンドを再サブミットしてください。

**IXFP40I FUNCTION NOT ALLOWED FOR VM
PARTIAL-MINI-DISK**

説明:

- 指定のターゲット装置は VM-partial-mini-DAS 装置であり、SNAP コマンドが再配置も要求しました。しかし、VM-partial-mini ディスクについて再配置はサポートされていません。
- 指定の装置は VM-partial-mini-DAS 装置であり、VM-partial-mini DAS 装置について REPORT 機能はサポートされていません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

**IXFP41I NO DEVICE WITH MATCHING ID
FOUND**

説明: IXFP コマンドに指定されているような、マッチング ID を持つ装置がありませんでした。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 正しい ID または VOLID を指定したことを確認し、装置が READY であり、アクセス可能であることも確認してください。

**IXFP42I VOL1 LABEL NOT ALLOWED WITH DSN
SPECIFICATION**

説明: SNAP ターゲット装置での VOL1 ラベルの変更を要求しています。この機能はボリューム SNAP についてのみ有効であり、ファイル SNAP については無効です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 選択を行って、コマンドを再サブミットしてください。

**IXFP43I THE GIVEN VOLID=*valid* IS NON
UNIQUE**

説明: 指定された VOLID は固有ではありません。つまり、同じ VOLID を持つ別のボリュームが存在します。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: VOLID によってボリュームを一意的に識別することができないため、コマンドを再発行して VOLID の代わりに cuu アドレスを使用してください。

**IXFP44I FUNCTION NOT COMPATIBLE WITH
FILE-TYPE**

説明: 指定された DSN は VSAM ファイルを示したか、あるいは示されたファイルが SAM ファイルではなく、再配置が要求されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

**IXFP45I FUNCTION REQUIRES THE VSE-IXFP
PRODUCT**

説明: 要求された機能は、VSE-IXFP と同等の製品を必要とします。ロードされたモジュールは、この特殊なサポートを行わない基本コードです。

システムの処置: 要求された機能は実行されませんでした。

オペレーターの応答: なし。

IXFP50I RC=00 UNDETERMINED ERROR

説明: IXFP 処理モジュールで、処理できないエラーが発生しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: IBM サポート・グループに連絡してください。

**IXFP62I RC=*nn* ERROR DURING FLASH-COPY
ESTABLISH**

説明:

RC=*nn* FlashCopy 要求が正常に開始された後に、システムが、処理できない「不明」な完了コード (16 進数 '*nn*') を受信しました。FlashCopy が正常に設定されているかどうかは不明です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: IBM サポート・グループに連絡してください。

**IXFP63I FLASH-COPY RELATIONS EXCEED
MAXIMUM**

説明: FlashCopy を設定しようとしたが、拒否されました。サブシステムのリソースが使用できなかったか、指定の装置がすでに関係保留を持っていたことが原因です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 指定の装置がいずれも関係保留を持っていないことを確認するか、またはコマンドを発行してみるか、ジョブを後で再サブミットしてみてください。

**IXFP64I ESS BATTERY IS LOW OR
UNAVAILABLE**

説明: FlashCopy を設定しようとしたが、拒否されました。バッテリーを使用できなかったか、充電が少なくなっていたことが原因です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: バッテリーが充電されているか、または充電し直されていることを確認してください。

**IXFP65I SOURCE AND TARGET NOT IN SAME
LOGICAL SUBSYSTEM**

説明: FlashCopy を設定しようとしたが、拒否されました。同じ論理サブシステムがソース装置およびターゲット装置にアクセスできないことが原因です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: ソース装置およびターゲット装置が同じ論理サブシステムにあることを確認して、コマンドを再発行するか、ジョブを再サブミットしてください。

**IXFP66I SOURCE AND TARGET NOT IN SAME
PHYSICAL SUBSYSTEM**

説明: FlashCopy を設定しようとしたが、拒否されました。同じ物理サブシステムがソース装置およびターゲット装置にアクセスできないことが原因です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: ソース装置およびターゲット装置が同じ物理サブシステムにあることを確認して、コマンドを再発行するか、ジョブを再サブミットしてください。

**IXFP67I DEVICE=*cuu* STATUS NOT AS
REQUIRED RC=*nn* SYSTEM**

説明: FlashCopy を設定する試みは拒否されました。その理由について詳しくは、提供されている RC を参照してください。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: IBM サポート・グループに連絡して、慎重な問題判別のために ReasonCode (RC) を調べてもらってください。

**IXFP68I DEVICE=*...* TEMPORARILY INCAPABLE -
PLEASE RETRY**

説明: FlashCopy SNAP 要求を設定しようとしたが、拒否されました。ソース装置が使用できなかったか、指定のソース装置がすでに関係保留になっていたことが原因です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 指定の装置がいずれも関係保留を持っていないことを確認するか、またはコマンドを発行してみるか、ジョブを後で再サブミットしてみてください。

IXFP69I *cuu=...* **SPACE EFFICIENT TARGET
REPOSITORY HAS REACHED A
WARNING WATERMARK**

説明: FlashCopy 要求が正常に開始された後に、Space Efficient TARGET リポジトリについて、空き容量に関する警告レベルに達したことを示す通知をシステムが受け取りました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: ターゲット装置の Space Efficient リポジトリ設定とフリー・スペースを確認してください。

IXFP6AI *cuu=...* **SPACE EFFICIENT TARGET
REPOSITORY HAS BEEN EXHAUSTED**

説明: FlashCopy 要求が正常に開始された後に、Space Efficient TARGET リポジトリが完全に使用し尽されたことを示す通知をシステムが受信しました。FlashCopy が正常に設定されているかどうかは不明です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: ターゲット装置の Space Efficient リポジトリ設定を確認し、可能であればスペースを解放してから再試行してください。

IXFP70I **NO FLASH-COPY FUNCTION
ESTABLISHED OR PENDING**

説明: ユーザーが、装置の指定されたエンティティ (デフォルトは ALL) の FlashCopy 状況を問い合わせるコマンドを発行しました。システムは、その指定されたエンティティについて保留になっている関係を検出しませんでした。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

IXFP71I *cuu IS A devid scope OF A FL-COPY
RELATION*

説明: メッセージで指定されている *cuu* は、現在、FlashCopy 関係でソース装置またはターゲット装置として使用されています。有効範囲がボリュームとして装置を示す場合は、ボリューム全体のコピーが進行中であり、メッセージ・テキストの有効範囲が装置を示す場合は、部分的な FlashCopy が進行中です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

IXFP72I *percent% OF scope REMAIN TO BE
COPIED*

説明: このメッセージは、オペレーターの便宜を図る目的で提供されており、前のメッセージ IXFP71I で指定した FlashCopy 機能の進行に関する情報が記載されています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

IXFP73I *cuu was FLASH-COPIED drct cuu AT time*

説明: このメッセージは、オペレーターの便宜を図る目的で提供されており、指定した FlashCopy 操作が正常に完了した時間に関する情報が記載されています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

IXFP74I **IXFP74I FL/SE QUERY *cuu=...* POOLID=
ALLOCATED SPACE='.....' CYL POOL
SIZE='....' 'CYL**

説明: メッセージで指定されている *cuu* は、現在、FlashCopy Space Efficient TARGET リポジトリとして定義されています。可能な場合は、エクステント・プール ID に関する追加情報、現在このエクステント・プールのリポジトリに割り振られているスペース、およびプールのエクステント・リポジトリのサイズが戻されます。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

IXFP80I **DEVICE=*cuu* NOT OPERATIONAL**

説明: 指定の機能を実行しようとしているときに、示された装置が「NOT OPERATIONAL」であることが判明しました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 指定の装置を OPERATIONAL および READY にして、コマンドを再発行してください。

IXFP90I **COMPARE MISMATCH AT CYL=X'*cccc*'
HD='hhhh' REC='rr'**

説明: IXFP COMPARE コマンドの指定されたエンティティの比較で、指定された DASD レコード・アドレスでの不一致が検出されました。両方の比較値の最初または次の DASD データ・レコード内の次の倍数の整数である、16 に切り下げられたオフセットが、このメッセージとともにリストされます。

システムの処置: システムは、オペレーターの応答を待つか、IXFP COMPARE 機能を開始したときに NOPROMPT オプションが指定されていた場合は、COMPARE 機能を終了します。

オペレーターの応答: COMPARE の実行を終了するには、オペレーターは END で応答する必要があります。他の応答では、システムは、被比較数エンティティに達するまで、次の DASD レコードでの不一致を検索します。

IXFP93I **CUU=*...* SPACE EFFICIENT EXTENT POOL
HAS REACHED A WARNING WATER
MARK**

説明: FlashCopy 要求が正常に開始された後に、Space Efficient エクステント・プールについて空き容量に関する警告レベルに達したことを示す通知をシステムが受け取りました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: ターゲット装置の Space Efficient エクステント・プール設定とフリー・スペースを確認してください。

IXFP94I

IXFP94I CUU=... SPACE EFFICIENT EXTENT POOL HAS BEEN EXHAUSTED

説明: FlashCopy 要求が正常に開始された後に、Space Efficient エクステンツ・プールの使用が完了したことを示す通知をシステムが受信しました。FlashCopy が正常に設定されているかどうかは不明です。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: ターゲット装置の Space Efficient リボジトリ設定を確認し、可能であればスペースを解放してから再試行してください。

第 20 章 接頭部 IXP の IOCP メッセージ

この項では、以前は、IBM エンタープライズ・システム接続 (ESCON) アーキテクチャーをサポートしている入出力構成プログラム (IOCP) によって出される VSE 特定メッセージを説明していました。

IXPxxx=IOCP メッセージ

接頭部 IXP のメッセージの詳細については、「*ES/9000, ES/3090 IOCP User's Guide and ESCON CTC Reference*」を参照してください。

第 21 章 接頭部 IZP の IOCP メッセージ

この項では、以前は、IBM エンタープライズ・システム接続 (ESCON) アーキテクチャーおよび ESCON 複数イメージ機能 (EMIF) をサポートしている入出力構成プログラム (IOCP) によって出される VSE 特定メッセージを説明していました。

IZPxxx=IOCP メッセージ

接頭部 IZP のメッセージの詳細については、「*ES/9000, S/390 Multiprise 2000, S/390 9672, S/390 9674 IOCP User's Guide and ESCON CTC Reference*」を参照してください。

第 22 章 接頭部 K の VSE/ICCF メッセージ

接頭部 K のメッセージ

初期設定 (K001I-K100I)

K001I **DEVICE TYPE IS xxxx**

説明: VSE/ICCF の初期設定で、VSE/ICCF ライブラリー・ファイル (DTSFILE) がオープンされました。xxxx は、ライブラリーが置かれている装置のタイプを示します。
システムの処置: VSE/ICCF の初期設定が続行されます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K002I **BEGIN ICCF INITIALIZATION**

説明: 初期設定モジュールが入力されました。
システムの処置: VSE/ICCF の初期設定が続行されます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K004I **nnm INTERACTIVE PARTITIONS NOT BUILT, TOO LITTLE STORAGE**

説明: CICS GETVIS ストレージが不足しているため、DTSOPTNS マクロで指定された対話型区画をすべて入れることができません。
システムの処置: このメッセージには、割り振られなかった対話区画の数が表示されます。初期設定が始まると、実際に割り振られた数の対話区画のみを使用して実行します。
オペレーターの応答: CICS GETVIS 空間に対話型区画が作られています。CICS/ICCF 区画に 16MB 境界より下の GETVIS をさらに割り振ってください。ICCF ストレージ要件については、「VSE/ICCF Administration and Operation」を参照してください。
ユーザーの処置: なし。

K005I **CANNOT ALLOCATE FIRST INTERACTIVE PARTITION**

説明: VSE/ICCF に十分な GETVIS ストレージが割り振られていませんでした。
システムの処置: 対話型区画を割り振ることができません。VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。
オペレーターの応答: GETVIS ストレージをさらに CICS/ICCF 区画に割り振ってください。メッセージ K004I の割り振り手順を参照してください。
ユーザーの処置: なし。

K007I **NUMBER OF EXTENTS HAS CHANGED SINCE LAST OPEN OF DTSFILE**

説明: DTSFILE の /CONNECT 後、DTSFILE のエクステン卜数の増加または減少が見つかりました。
システムの処置: DTSFILE は切り離されたままになります。
オペレーターの応答: DTSFILE に正しい DLBL/EXTENT ス

テートメントを指定してください。
ユーザーの処置: なし。

K008I **ICCF LIBRARY MAY HAVE BEEN DESTROYED - RUN DTSANALS RECOVER IN ANOTHER PARTITION**

説明: VSE/ICCF が正しく遮断されておらず、変更されたライブラリー・レコードを VSE/ICCF ライブラリーに書き戻すことができませんでした。現在、ライブラリーには、不完全なレコード連鎖が入っていることとなります。
システムの処置: CICS の場合: システムは、DTSANALS を別の区画で実行できるように、DTSFILE を切り離します。
オペレーターの応答: CICS の場合: RECOVER オプションを指定して別の区画で DTSANALS を実行してください。出力が正しければ、/CONNECT DTSFILE コマンドで VSE/ICCF を再始動してください。また、受け入れ可能なバックアップ・テープがある場合は、ライブラリー全体をリストアしてください。
ユーザーの処置: なし。

K015I **REPLY INVALID, TRY AGAIN**

説明: 最後のメッセージに対する応答が正しくありませんでした。
システムの処置: システムはメッセージを再び出し、正しい応答を待ちます。
オペレーターの応答: メッセージに対して正しい応答をしてください。
ユーザーの処置: なし。

K016I **SUBTASK NOT AVAILABLE**

説明: 対話型区画実行要求に応答して、サブタスクを生成しようとしたが、CICS/ICCF 区画では 31 のサブタスクがすでに生成されているため、これ以上サブタスクを生成することはできません。
システムの処置: 処理を続行します。さらに 100 回 ATTACH に失敗した後、メッセージを再表示します。
オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。
ユーザーの処置: なし。

K017I **ICCF ABEND PROCESSING COMPLETE**

説明: システムの誤動作またはコンソール・オペレーターの CANCEL により、VSE/ICCF が異常終了しました。
システムの処置: 異常終了処理ルーチンが開始され、首尾よく完了しました。
オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

**K018I ICCF LIBRARY SYSTEM RECORD COULD
NOT BE READ - RTNCODE=xx**

説明: ファイル・ルーチンが VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの最初のレコードを読み取ろうとしたところ、エラーを検出しました。エラーのタイプは戻りコード xx で示されます。966 ページの『VSE/ICCF 戻りコード』を参照してください。戻りコードが 00 であれば、ライブラリーの最初のレコードが VSE/ICCF システム・レコードではありません。これは、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが正しいラベル情報および割り当てを使用して適切に識別されていないか、またはまだ作成されていないことを示しています。

システムの処置: DTSFILE を切り離します。

オペレーターの応答: ラベルおよび割り当てが正しいこと、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが存在することを確認してください。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

ユーザーの処置: なし。

**K019I ICCF LIBRARY TEMPORARY AREAS
NOT FREED**

説明: 異常終了条件が発生しました。VSE/ICCF は変更されたライブラリー・レコードをすべて書き戻せたため、VSE/ICCF ライブラリーは元のままです。しかし、対話式処理を行うユーザーの一時域の割り振りは、解除されていません。

システムの処置: VSE/ICCF のスタートアップを継続します。

オペレーターの応答: パフォーマンス上の理由のため、まだ割り当てられているユーザーの一時域を解放すべきです。これを行うためには DTSUTIL バックアップを実行し、続いて DTSUTIL リストアを実行してください。一時域を解放しないと、VSE/ICCF のスタートアップを行うたびに、このメッセージが出されます。

プログラマーの応答: なし。

**K020D ICCF LIBRARY MAY HAVE BEEN
DESTROYED - RUN DTSANALS
RECOVER. CONTINUE? YES/NO.**

説明: VSE/ICCF が正しく遮断されておらず、ストレージ内の変更された VSE/ICCF ライブラリー・レコードを VSE/ICCF ライブラリー・ファイルに書き戻すことができませんでした。現在、ライブラリーには、不完全なレコード連鎖が入っていることになります。ライブラリーを修復するには、DTSANALS RECOVER 機能を実行します。あるいは、ライブラリーの使用可能なバックアップ・テープがあれば、ライブラリー全体をリストアします。

システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: NO と応答してジョブを取り消し、RECOVER 機能を指定した DTSANALS を実行して、ライブラリーをリカバリーさせるか、あるいは DTSUTIL を実行して、壊されていないバックアップ・コピーからライブラリー全体をリストアしてください (DTSANALS RECOVER または ANALYZE の実行だけで、ライブラリーが実際に壊されたかどうかを知ることができます)。ライブラリーをリストアする場合には、端末ユーザーに連絡して、最後のバックアップ以降に入力したデータを入力し直してもらい、VSE/ICCF を開始してください。

システムを再始動させたくなければ、YES と応答しますが、ライブラリーをアクセスすると問題が生じることになります。ライブラリーをリカバリーまたはリストアしないと、VSE/ICCF をスタートアップするたびに、このメッセージが出されます。VSE/ICCF ユーティリティが破壊された VSE/ICCF ライブラリー・ファイルにアクセスして、次のような、ライブラリーのリストア以外の機能を実行しようとしたときにも、このメッセージが出されます。

Any DTSANALS function except RECOVER and REORG.
Any DTSUTIL function except FORMAT and full RESTORE.
Any DTSBATCH function.
ユーザーの処置: なし。

**K021I COULD NOT PFIX NECESSARY AREAS,
ALLOCATE MORE REAL STORAGE**

説明: VSE/ICCF 初期設定で、実記憶になければならない特定の区域をページ固定できませんでした。

システムの処置: VSE/ICCF 初期設定を取り消します。

オペレーターの応答: CICS/ICCF 区画 (ALLOC R コマンド) により多くの実記憶を割り振ってください。通常の実記憶要件は 28K から 36K の範囲ですが、VSE/ICCF 管理者が指定した値を割り振る必要があります。詳細については、『VSE/ICCF Administration and Operation』の『ストレージの見積もり』の項を参照してください。

ユーザーの処置: なし。

**K022I MANDATORY ICCF PHASE MISSING.
PHASE: xxxxxxxx yyyyyyyyyy**

説明: 必須 VSE/ICCF フェーズをロードできませんでした。xxxxxx は、フェーズ名、yyyyyyyyy は、LOAD マクロの RC です。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。

オペレーターの応答: LOAD 戻りコードを分析して、問題の原因を判別してください (『z/VSE System Macros Reference』を参照してください)。

ユーザーの処置: なし。

**K023I INSUFFICIENT GETVIS SPACE RC=xxxx
REQUESTED GETVIS SPACE IN BYTES
(DEC): yyyyyyyyyy**

説明: CICS GETVIS スペースの不足のため、VSE/ICCF を初期設定できません。

システムの処置: ICCF の初期設定を打ち切ります。

オペレーターの応答: 提供された GETVIS 戻りコードを分析してください (『z/VSE System Macros Reference』を参照してください)。必要に応じて、CICS GETVIS ストレージの一部を増加または解放してください。このストレージは、16MB より小さくなければならないことに注意してください。

ユーザーの処置: なし。

K024I ICCF PHASE DTSMAIN CORRUPTED

説明: 初期設定ルーチンが、壊れた DTSMAIN フェーズを見つけました。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。

オペレーターの応答: 正しい DTSMAIN フェーズがサブライ

ブラリ探索チェーンにあることを確かめてから、VSE/ICCF を再始動してください。
ユーザーの処置: なし。

K025I NO SUBTASK(S) AVAILABLE FOR ICCF CONTROL

説明: ICCF の初期設定中に、ICCF 制御サブタスクの生成機能が失敗しました。3 つのサブタスクが ICCF 制御に必要です。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。
オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。適切な CICS 区画でサブタスクを使用できるようにしてください。対話型区画操作を行うには、少なくとも 1 つの追加サブタスクが使用可能でなければならないことに注意してください。

ユーザーの処置: なし。

K026I ICCF GENERATION TABLE tablename BAD OR NOT FOUND

説明: ユーザー提供の ICCF 生成テーブル *tablename* が ICCF 生成テーブルではないか、またはテーブルが存在しません。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。
オペレーターの応答: ICCF ライブラリー 59 にある弊社提供のスケルトン SKICFGEN の修正および受け渡しを行って、正しい ICCF 生成テーブルを作成してください。パラメーター (テーブル名) を使用せずにトランザクション I\$ST を始動するときは、デフォルトのテーブル DTSIGEN が使用されます。
ユーザーの処置: なし。

K027I ICCF INITIALIZATION TERMINATED

説明: リソースの欠落または重大エラーのため、VSE/ICCF を初期設定できませんでした。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。
オペレーターの応答: システム・コンソールで、前に出された接頭部 K を持つメッセージを分析して、問題の原因を調べてください。
ユーザーの処置: なし。

K028I CANNOT FIND GENERATED DUMMY DEVICE - PUB=cuu

説明: VSE/ICCF が実ユニット・レコード装置を持たない区画で実行されています。つまり、SYSIPT、SYSLST、または SYSPCH の割り当てがありません。VSE/ICCF に生成されたダミーのユニット・レコード装置が監視プログラムに存在していません。VSE/ICCF は、必要なユニット・レコード装置を見つかることができませんでした。関連するダミー装置を使用しようとしたが、これは使用できませんでした。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。
オペレーターの応答: 適切なユニット・レコード割り当てを行って、VSE/ICCF 初期設定を再始動するか、または再 IPL してください。IPL 時に、ダミーのユニット・レコード装置をシステムに追加してください。この装置は通常、FFC、FFA、FFD、FFE ですが、DTSOPTNS マクロの RDR=、RDR2=、

PCH=、PRT= パラメーターで指定された装置アドレスであることも考えられます。

ユーザーの処置: なし。

K029I ICCF INITIALIZATION COMPLETED

説明: ICCF が正常に初期設定されました。制御権が CICS に戻されます。

システムの処置: VSE/ICCF がトランザクション I\$ST を介して始動されたときは、VSE/ICCF はいつでも使用できます。CICS PLT で始動しているときは、CICS は初期設定を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K031I USER=xxxx TERM=xxxx,

説明: メッセージに示されている端末ユーザーが、メッセージを送信してきています。端末識別名も表示されます。この端末識別名のあとに、端末ユーザーのメッセージ・テキストが続きます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K037I CISIZE INCORRECT FILE=DTSFILE

説明: CISIZE (制御インターバル・サイズ) 調整オプションに指定された値が、物理ブロック・サイズの倍数ではないか、8K を超えているが 2K の倍数ではないか、最大の 32768 を超えているかのいずれかです。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を終了します。

オペレーターの応答: 調整マクロ DTSOPTNS の CISIZE 指定を訂正し、VSE/ICCF 調整ジョブを再実行しなければなりません。「z/VSE System Macros Reference」に、VSE/ICCF の調整方法が説明されています。

ユーザーの処置: なし。

K038I INCONSISTENT CISIZE: IN FORMAT 1 LABEL xxx, ICCF xxx FILE=DTSFILE

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの形式 1 ラベルの CISIZE が、CISIZE 調整オプションの値と一致していません。

システムの処置: DTSFILE は切り離されたままになります。
オペレーターの応答: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルを再作成するか、または形式 1 ラベルの CISIZE と一致するように調整パラメーター CISIZE を変更してください。
ユーザーの処置: なし。

K040I DTSCDUMP CANNOT BE FOUND--OPTION DUMP REJECTED

説明: SVA に DTSCDUMP がなければなりません。

VSE/ICCF 初期設定ルーチンで見つけることができませんでした。

システムの処置: 対話区画での /OPT DUMP の要求を無視します。VSE/ICCF の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: DTSCDUMP を SVA にロードした VSE/ICCF 管理者に連絡してください。フェーズ

DTSCDUMP を システム・ライブラリーにカタログしなければならないことに注意してください。

ユーザーの処置: なし。

**K042I VSE ACCESS CONTROL NOT ACTIVE,
VSE/ICCF ACCESS CONTROL ACTIVE**

説明: システムでは、VSE のアクセス制御機能を活性化しないで、IPL が行われました。VSE/ICCF のアクセス制御機能は自動的に活性化されます。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定が続行されます。

オペレーターの応答: なし。これは、VSE/ICCF 管理者に対する通知メッセージです。

ユーザーの処置: なし。

**K044I ICCF ALREADY ACTIVE,
INITIALIZATION TERMINATED**

説明: VSE/ICCF の初期設定が試みられましたが、VSE/ICCF はすでに活動状態にあります。z/VSE システム内では、1 つの CICS のみが活動状態の VSE/ICCF を持つことができます。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。

オペレーターの応答: 活動状態の VSE/ICCF を終了させてから、再始動してください。

ユーザーの処置: なし。

**K045I SUBSYSTEM ID COULD NOT BE SET,
RTNCODE=nn**

説明: VSE/ICCF が初期設定処理で、VSE/ICCF をシステムに識別させようとしたのですが、サブシステム ID を設定することができませんでした。この原因は、戻りコードで示されています。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を打ち切ります。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。戻りコードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」の『VSE/拡張機能戻りコード』のトピック(セクション『VSE/拡張機能コードおよび SVC エラー』)を参照してください。

ユーザーの処置: なし。

**K046I VSE/POWER INTERFACE IS NOT
AVAILABLE, TAILORING OPTION CRJE
IS SET TO 'NO'**

説明: システム・ストレージが足りないために、VSE 区画間通信のユーザーとしての VSE/ICCF の識別が失敗しました。システムの処置: RJE (リモート・ジョブ入力) サポートなしで、VSE/ICCF を初期設定します。

オペレーターの応答: RJE サポートが必要な場合には、VSE 監視プログラムに、より大きな仮想記憶を割り振ってください。

ユーザーの処置: なし。

**K084I ICCF LABEL INFORMATION NOT
FOUND IN LABEL AREA FILE=filename**

説明: 示されたファイルの DLBL ステートメントが、VSE/ICCF 初期設定 JCL または VSE/ICCF ユーティリティ・ジョブ・ストリームで与えられておらず、システム・ラベル域にも見つかりませんでした。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を終了します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。正しい DLBL/EXTENT ステートメントで、ジョブのサブミットをし直すか、あるいは、VSE/ICCF 管理者が、SYSnnn 論理装置が正しく割り当てられていることを確認した上で、これらのステートメントをラベル域に追加してください。

ユーザーの処置: なし。

**K085I NO DEVICE TYPE- OR SAM/VSAM- MIX
ALLOWED FOR ICCF FILES FILE=filename**

説明: マルチボリューム VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが異なるタイプの複数のボリュームにまたがっているか、または DTSANALS の作業ファイルのような別の VSE/ICCF ファイルが異なる装置に割り当てられています。この文脈では、VSAM 管理スペースは異なった装置タイプのように取り扱われます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を終了します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。正しい DLBL/EXTENT ステートメントで、ジョブのサブミットをし直すか、あるいは、VSE/ICCF 管理者が、SYSnnn 論理装置を同じ装置タイプの装置に割り当てた上で、これらのステートメントをラベル域に追加してください。

プログラマーの応答: なし。

**K086I PROGRAMMER LOGICAL UNIT NOT
GIVEN ON EXTENT(S) FILE=filename**

説明: // EXTENT ジョブ制御ステートメントが入力されましたが、SYSnnn の指定がないか、あるいはシステム論理装置が指定されています。処理を続けるためには、VSE/ICCF は、示されたファイルのプログラマー論理装置を必要とします。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を終了します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 各 EXTENT ステートメントに正しいプログラマー論理装置を指定して、ジョブのサブミットをし直すか、またはラベル域に正しいステートメントを追加して、ジョブをやり直してください。

**K087I DEVICE TYPE NOT SUPPORTED BY ICCF
FILE=filename**

説明: そのファイルは、VSE/ICCF ではサポートされない装置タイプに割り当てられています。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を終了します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: そのファイル (メッセージ中のファイル名を参照) を現行の VSE および VSE/ICCF 装置サポートと適合する装置に割り当て、再実行してください。このエラーが起こる可能性があるのは、VSE システムが、使用中の VSE/ICCF バージョンにまだ含まれていない新しい DASD をサポートする

場合だけです (「VSE/ICCF Administration and Operation」を参照してください)。

K088I HI FILE RECORDS=*nnn* (*mm*%)

説明: このメッセージは、最後の論理レコードと VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの終わりとの間に残っている論理レコードの数を知らせます。このレコード数は、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの全体に対する、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの最後にある未使用レコード域の百分率 (*mm*%) としても表されます。レコード数は、D TSAUDIT の全機能を使用可能とする場合には、0 よりも大きくしなければなりません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: この数をご使用先で定義された最小の値よりも小さい場合には、VSE/ICCF 管理者に知らせてください。

ユーザーの処置: なし。

K089I EXTENT SMALLER THAN CONTROL INTERVAL SIZE

説明: FBA 装置の DTSFILE についての受け渡されたエクステント情報には、生成された DTSFILE の制御インターバル・サイズよりも小さい、少なくとも 1 つのエクステントがあります。

システムの処置: VSE/ICCF は終了します。

オペレーターの応答: エクステント情報を訂正し、ジョブを再実行してください。EXTENT ステートメントで指定するブロック数は、少なくとも 1 つの制御インターバルと同じ大きさ (制御インターバル・サイズ/512 = 最小ブロック数) にする必要があります。

ユーザーの処置: なし。

K090I ICCF SYSTEM HAS TOO FEW FILE BUFFERS GENERATED

説明: このメッセージは、VSE/ICCF オンライン実行中に印刷されるもので、サポートされているユーザーおよびタスクの数の割に、システム内に生成されるファイル・バッファが少な過ぎる場合に出されます。このメッセージはバッファ不足の状態、つまりバッファを要求したユーザーがバッファが使用可能になるまで待たされる状態が、32 回起こるたびに 1 回印刷されます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: DTSOPTNS 調整マクロの NBUFS パラメーターをシステムの要件に合わせて調整するように、VSE/ICCF 管理者に依頼してください。

ユーザーの処置: なし。

K093I DIRECT ACCESS(DA) NOT GIVEN ON ICCF LIBRARY DLBL STATEMENT FILE=DTSFILE

説明: VSE/ICCF の初期設定中または VSE/ICCF ユーティリティの処理中に処理された、VSE/ICCF ライブラリー・ファイル (ファイル名 DTSFILE) に対する DLBL ステートメントに、直接アクセス (DA) が指定されていません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を終了します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡し、DLBL ステートメントを修正して、それをジョブ・ストリームに置くか、ラベル域に追加してもらってください。どちらの場合も、VSE/ICCF 初期設定を再始動しなければなりません。

ユーザーの処置: なし。

K095I ICCF SYSTEM ERROR FOR SUPERVISOR SERVICE *xxx...* RC=*nn* FILE=*filename*

説明: VSE/ICCF が、GETVCE、LABEL (記号ラベル・アクセス)、GETVIS のような上記の監視プログラム機能を使用しているときに、エラーが起きました。システムに対応する 10 進戻りコード (RC=) を出しました。このメッセージは、上記ファイルの VSE/ICCF オープン処理を行っているとき、またはこのファイルの装置タイプを調べているときに出されることがあります。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を取り消します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。戻りコードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」(セクション『VSE/拡張機能コードおよび SVC エラー』) の『VSE/拡張機能戻りコード』トピックを参照してください。これはメッセージに示されている戻りコードの処置を決めるために役立ちます。

CICS/ICCF 区画にストレージをさらに割り振るなどして、エラーを外部で訂正できるときは、VSE/ICCF 管理者はエラーを訂正し、ジョブを再実行すべきです。

記号ラベル・アクセス処理時のエラーは通常、示されたファイルのラベル情報が正しくないことを示しています。VSE/ICCF 管理者は、ラベル情報を訂正し、ジョブを再実行する必要があります。

GETVCE エラーは、ファイルの装置が正しく割り当てられていないか、または処理時に装置が作動していなかったことを示している可能性があります。VSE/ICCF 管理者は、割り当てを訂正する必要があります。再度ジョブをサブミットする前に、該当する装置が作動可能状態であることを確かめてください。

エラーを判別できないときは、問題判別に備えてログ・シートとダンプを用意してください。

ユーザーの処置: なし。

K096I GETVIS UNSUCCESSFUL - CANCEL

説明: VSE アクセス制御権がシステムにあります。アクセス制御で使用する対話型区画制御ブロックのストレージを確保するための、GETVIS 要求が受け入れられませんでした。これは、連続する仮想記憶が不足しているためであると思われる。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を取り消します。

オペレーターの応答: CICS/ICCF 区画の GETVIS 域を拡大してください。

ユーザーの処置: なし。

K098I ERROR DURING INITIALIZE FOR /SEND SERVICE

説明: 端末制御タスクの初期設定時に、/SEND コマンドで使用される通知タスクに接続することができませんでした。

システムの処置: 初期設定を続行します。

オペレーターの応答: なし。この VSE/ICCF セッションの間、/SEND コマンドは機能しません。

ユーザーの処置: なし。

K099I ICCF COULD NOT GET EXCLUSIVE CONTROL OVER DTSFILE, RTNCODE=xx

説明: 初期設定中、または /CONNECT DTSFILE コマンドの処理中に、別の区画の VSE/ICCF ユーティリティ・プログラムからの書き込みアクセスによって DTSFILE がロックされました。このプログラムは D TSAUDIT、DTSBATCH、DTSANALS または DTSUTIL (RTNCODE 04) です。

RTNCODE が 04 よりも大きい場合には、それは VSE LOCK マクロの戻りコードであり、VSE LOCK サポートに問題があることを示しています。ユーザーのシステムに 2 つ以上の VSE/ICCF ライブラリーがある (一度に 1 ライブラリーだけ書き込みアクセスができ、一度に 1 ライブラリーだけバックアップができる) 場合は、メッセージ K099I も表示されます。

システムの処置: /CONNECT DTSFILE コマンドが再度出されるまで待つか、または VSE/ICCF が終了するまで待ちます。

オペレーター通信 (K102I - K153I)**K102I INVALID COMMAND, REENTER THE COMMAND**

説明: オペレーターが、正しくないコマンドあるいはつづりの誤っているコマンドを入力しました。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: 正しい VSE/ICCF オペレーター通信コマンドを入力し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K105I commandcode COMMAND NOT ALLOWED

説明: この VSE/ICCF オペレーター・コマンドは制限されています。このコンソールの権限は十分ではありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K106I ICCF CONTROL TASK HAS TERMINATED, ICCF TERMINATING

説明: VSE/ICCF 制御タスクが異常終了しました。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を終了します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF を再始動してください。

ユーザーの処置: なし。

K109I /CICS AND /TC COMMAND ARE OBSOLETE, USE "MSG xx" COMMAND

説明: これらの 2 つのコマンドはもう、CICS サブタスクに接続されません。xx は、区画 ID を示します。

オペレーターの応答: RTNCODE が 04 の場合には、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルをロックした VSE/ICCF ユーティリティを取り消してから、VSE/ICCF を再始動しなければなりません。戻りコードが 04 よりも大きい場合には、VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

ユーザーの処置: なし。

K100I CAN'T READ HIGH FILE RECORD, [CANCEL]

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイル (ファイル名 DTSFILE) をオープンした後、ハイ・ファイル・レコードを読み取れませんでした。VSE/ICCF ライブラリー・ファイルは、この VSE/ICCF のスタートアップ・ジョブで指定されたエクステントよりも大きいエクステントで形式化されています。

システムの処置: 問題が ICCF ユーティリティ・プログラムで見つかったときは、プログラムを取り消します。ICCF 制御で見つかったときは、DTSFILE を切り離します。

オペレーターの応答: DTSFILE (複数エクステント・ファイルの場合もあり) の DLBL と EXTENT ステートメントを訂正し、ジョブを再実行してください。

ユーザーの処置: なし。

システムの処置: オペランドを無視して、処理を続行します。オペレーターの応答: アテンション・ルーチン・コマンド MSG xx を使用してください。

ユーザーの処置: なし。

K110I USER xxxx LOGOFF FORCED

説明: 識別コード xxxx のユーザーが、強制的にログオフされました。これはログオフが不可能なためか、あるいは見落とされたためによるものです。

システムの処置: VSE/ICCF の終了を続行します。

オペレーターの応答: なし。これは、VSE/ICCF 管理者に対する通知メッセージです。

ユーザーの処置: なし。

K112I * CURRENT USERS *** USER=xxxx TERM=yyyy MODE=zz**

説明: /USERS コマンドが入力されたので、システム上に現在存在しているすべての VSE/ICCF ユーザーが表示されます。xxxx は、ユーザー識別コードです。yyyy は、ユーザー端末の端末識別コードです。zz は、そのユーザーの現在の操作モードです。ユーザーの操作モードとしてとり得るものは次の通りです。

00 ユーザーは、システム・コマンド・モードです。

01 ユーザーは、システム入力モードです。

02 ユーザーは実行モードで、前景区画の印刷処理中です。

04 ユーザーは、システム編集モードです。

16 ユーザーは実行モードで、背景ジョブが実行中です。

- 17 ユーザーは実行モードですが、前景区画のサービスが要求されたために、背景ジョブは休止中です。
- 18 ユーザーは実行モードです。特別にスプールされた印刷が端末に表示されています。
- 19 ユーザーは実行モードで、対話式読み取り要求が保留になっています。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K113I * * * SYSTEM STATUS DISPLAY * * *

TASKS=aa ACTIVE=bb
PARTITIONS=cc ACTIVE=dd
RQES=ee ACTIVE=ff
PART=gg USER=hhhh STATUS=iiCLASS=k
jjjj

説明: /DISPLAY コマンドが入力され、システム状況の表示がオペレーター・コンソールに書き戻されました。個々の項目とその意味は、次の通りです。

- aa 背景 (対話型区画) の活動をサポートするために現在使用されている最大タスク数。これは、DTSOPTNS 調整マクロの NTASKS パラメーターの値です。
- bb 現在使用中のタスク数。
- cc 使用可能な対話型区画の最大数。
- dd 現在活動している対話型区画数。
- ee 任意の時点でキューイングできる最大実行要求数 (キュー項目)。これは、DTSOPTNS 調整マクロの NUSERS パラメーターの値です。
- ff 現在キューイングされている最大実行要求数。
- gg 区画番号またはアスタリスク。区画番号は 1-35 の 10 進数であり、/CANCEL コマンドでユーザーを取り消すときに、指定しなければならないコードです。アスタリスクは、実行要求がまだ対話型区画にスケジュールされていないこと、また要求が終了し、端末が出力印刷を完了するときに区画が解放されたことを示します。
- hhhh ユーザーの識別コード。
- ii ユーザーの実行要求の現在の状況。起こりえる状況を下記の 'jjjj' に示します。
- jjjj ユーザーの実行要求の現在の状況を全体的に説明します。例えば、JOB ENDED、CANCELED、ROLLED OUT、IN EXECUTION、WAITING FOR PARTITION。ii と jjjj の組み合わせと意味は次の通りです。

- WAITING FOR PARTITION -
 - 00 要求はキューイングされていますが、対話型区画がまだ割り当てられていません。
- IN EXECUTION -
 - 00 実行中。
 - 01 スプール印刷の完了。実行の再開待ち状態です。
 - 02 対話式読み取りの完了。実行の再開待ち状態です。
 - 03 別のタイム・スライス待ち状態です。

05 最初にスケジュールされたジョブの開始待ち状態です。

- ROLLED OUT -
 - 01 スプール印刷中により対話型区画が休止しています。
 - 02 対話型区画読み取りにより対話型区画が休止しています。
 - 03 タイム・スライスの経過により対話型区画が休止しています。
- JOB ENDED -
 - 00 ジョブの完了。
- CANCELED -
 - 08 ジョブの異常終了。
 - 14 端末ユーザーによる取り消し。
 - 28 主コンソールのオペレーターによる取り消し。

その他の戻りコードについては、966 ページの『VSE/ICCF 戻りコード』を参照してください。

k 対話型区画に割り当てられるスケジュールリング・クラス。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K114I MISSING OR INVALID OPERAND

説明: /CANCEL または /CLASS コマンドが入力されましたが、入力した対話型区画コードがないか正しくありません。あるいは何らかの他のコマンドが出されましたが、オペランドがないか正しくありません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: 正しいオペランドで、コマンドを入力し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K115I PARTITION NOT ACTIVE

説明: /CANCEL コマンドで指定された対話型区画では、何も実行されていません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: / DISPLAY コマンドを使用して、どの対話型区画が活動中であるかを判断してください。活動中の対話型区画が決まったら、/CANCEL コマンドを入力し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K116I CANCEL REQUESTED

説明: /CANCEL コマンドの処理が成功し、対話型区画は、次に VSE/ICCF 制御タスクが指名される時に取り消されます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K118I PART=nn(n) STATUS=xxxxxx SIZE=xxxxK
CLASS=xxx

説明: /CLASS コマンドの処理が正しく行われました。このメッセージは、区画番号、状況 (FREE または IN-USE)、サイズ、および現在のスケジュール・クラスを示しています。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K119I *** INTERACTIVE PARTITION MAP ***

説明: /MAP コマンドが入力されました。システム対話型区画ごとに行が表示されます。それぞれの行には、対話型区画の番号と識別名、開始アドレスとそのサイズ、使用状況、所有ユーザー ID、区画に割り当てられた事前割り振りの作業ファイル数が示されます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K121I ICCF SHUT DOWN IN PROGRESS

説明: オペレーターが、CICS または VSE/ICCF を遮断するためのコマンドを入力したので、VSE/ICCF が終了中です。

システムの処置: VSE/ICCF の終了を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K122I NOTIFY TASK HAS TERMINATED,
/SEND COMMAND IGNORED

説明: 通知タスクが終了し、VSE/ICCF から除かれました。この終了は、異常条件が原因です。VSE/ICCF 処理は続行しますが、/SEND コマンドは、これ以上処理されません。

システムの処置: すべての /SEND コマンドを無視します。

オペレーターの応答: /SEND コマンドを再び機能させたい場合には、VSE/ICCF を遮断した上で、再始動しなければなりません。

ユーザーの処置: なし。

K123I TIMEOUT BEFORE REPLY DATA
RECEIVED

説明: 5 分経過しても、通知タスクから応答がありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: オペランドを指定しないで、/SEND コマンドを出してください。メッセージ K128I が表示されます。

ユーザーの処置: なし。

K125I ICCF HAS BEEN TERMINATED

説明: VSE/ICCF が終了しました。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を終了します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF が終了しても CICS が活動状態であるときは、トランザクション I\$ST を使用して VSE/ICCF を再始動することができます。

ユーザーの処置: なし。

K126I NOTIFY TASK HAS TERMINATED -
/SEND COMMAND WILL BE IGNORED

説明: オペレーターが /SEND コマンドを出しましたが、通知タスクが中止しました。

システムの処置: /SEND コマンドを無視します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF を再始動して、/SEND コマンドが使用できるようにしてください。

ユーザーの処置: なし。

K127I /SEND COMMAND NOT POSSIBLE YET,
TRY AGAIN LATER

説明: オペレーターが /SEND コマンドを出しましたが、通知タスクとの接続がまだ、確立されていません。

システムの処置: /SEND コマンドを無視します。

オペレーターの応答: しばらくしてから、/SEND を入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K128I message text

説明: 入力された /SEND コマンドの応答として、このメッセージを出されました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: このメッセージ・テキストには、必要な処置があればその処置が示されます。

ユーザーの処置: なし。

K129I DTSFILE IS CONNECTED

説明: /CONNECT DTSFILE コマンドの処理が、正しく完了しました。

システムの処置: VSE/ICCF の端末ユーザーは現在、ログオンして、VSE/ICCF ライブラリーを使用することができます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K130I COMMAND IN PROGRESS

説明: /DISCONN DTSFILE コマンドの処理が、まだ完了していません。

システムの処置: すべての端末ユーザーを強制的にログオフさせます。これは、ログオンしているユーザーの数によっては、ある程度の時間を要する可能性があります。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K131I DTSFILE IS DISCONNECTED

説明: スタートアップ中、または /CONNECT コマンドに続いて、VSE/ICCF が次の状態を検出しました。

1. DTSFILE が破棄されています。または、
2. 別の区画が DTSFILE に書き込む権限を得ています。または、

3. /DISCONN コマンドが正しく処理されました。

システムの処置: VSE/ICCF は休止状態にあります。ユーザーはいずれかの非 VSE/ICCF CICS トランザクションを入力できます。

オペレーターの応答:

- 1 の場合は、RECOVER オプションで DTSANALS を実行してください。この実行が正しく完了した時には、/CONNECT コマンドを出してください。
- 2 の場合は、別の区画にあるジョブが中止されるのを待つか、またはそのジョブを取り消すかして、/CONNECT コマンドを出してください。
- 3 の場合は、ライブラリー保守を実行できます。完了後に、/CONNECT コマンドを出してください。

ユーザーの処置: なし。

K132I DUMP COMMAND COMPLETED

説明: このメッセージは、完了までに相当の時間を要した可能性があります。/FDUMP コマンドまたは /PDUMP コマンドが完了したことを示します。\$\$LST ステートメントの RBS オペランドによっては、VSE/POWER リスト・キューで出力セグメントが見つかることがあります。メッセージ 1Q53I で VSE/POWER リスト・キューに出力セグメントがあるかどうかを示しています。最後のセグメントは CICS/ICCF ジョブの終了時にスプールされます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K134I USER/TERMINAL IS NOT LOGGED ON

説明: コマンド '/DISCONN USER userid' または '/DISCONN TERM termid' が出されましたが、そのユーザーまたは端末は VSE/ICCF にログオンされていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K135I DISCONNECT USER/TERMINAL INITIATED

説明: コマンド '/DISCONN USER ユーザー ID' または '/DISCONN TERM 端末 ID' が出されました。

システムの処置: 指定されたユーザー、または指定された端末上のユーザーに対して、ログオフするために、トランザクション I\$S9 が活動化されました。

オペレーターの応答: ユーザー/端末が切り離されているかを調べるために、/USER コマンドの受け渡しを行ってください。

現在 VSE/ICCF にログオンしているすべてのユーザーのリストが表示されます。

ユーザーの処置: なし。

K150I NO ACTIVE CONNECTIONS

説明: メッセージ送信側に対する区画接続は、どれも活動状態ではありません。

システムの処置: メッセージ切り替えタスク DTSNTFY を中止させます。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

ユーザーの処置: なし。

K151I MESSAGE MEMBER LIBRARY IS NOT ACCESSIBLE

説明: メッセージ切り替えタスクが、メッセージのメンバーを含むライブラリー 1 をアクセスできません。

システムの処置: メッセージ切り替えタスク DTSNTFY を中止させます。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に知らせて、ライブラリー 1 があるかを調べてもらってください。

ユーザーの処置: なし。

K152I MESSAGE SWITCHING TASK TERMINATED

説明: メッセージ K150I または K151I が出されました。

システムの処置: メッセージ切り替えタスク DTSNTFY を中止させます。

オペレーターの応答: 前記のメッセージを参照してください。

ユーザーの処置: なし。

K153I NOTIFY TASK XPCC CONNECT TO VSE/POWER FAILED

説明: VSE/ICCF 通知タスクが VSE/POWER に接続しようとして失敗しました。アプリケーション SYSICCFN のために別の接続がすでに確立されていたため、VSE/POWER は拒否しました。

システムの処置: 通知タスクはメッセージ K152I を出し、終了します。

オペレーターの応答: SYSICCFN として XPCC を介して SYSPWR に接続しているプログラムを識別してください。

ユーザーの処置: なし。

DTSUTIL プログラム (K200I - K249I)

DTSUTIL は、VSE のバッチ区画または VSE/ICCF の対話区画で実行されます。バッチ区画の場合は、以下のことに注意してください。ユーティリティ・コマンドはカード読取装置またはコンソールのいずれからでも入力できますが、以下のメッセージは、それらがコンソールから入力されたことを暗黙的に意味するのが普通です。なぜならば、コンソールから入力されるべき応答がカード読取装置から入力されても、それらは無視されるからです。

DTSUTIL が対話式区画中で実行されているならば、DTSUTIL メッセージはユーザー端末に現れ、システム・コンソールには現れません。この場合、「オペレーターの処置」として提示されているものは、「端末ユーザーの処置」になります。

K201I BACKUP IS NOT ICCF FORMAT

説明: RESTORE 機能の実行中に、バックアップ・ファイルから読み取られたユーザー・プロファイル・レコードが、正しい VSE/ICCF 形式ではありません。

システムの処置: RESTORE コマンドを無視します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルで、BACKUP 形式になっている正しいテープまたはディスクから、RESTORE が実行されているか確かめてください。

ユーザーの処置: なし。

K201D BROADCAST RECORD MUST BEGIN WITH '*'

説明: ADD BROADCAST コマンドの後の最初のレコードが、アスタリスク (*) で始まるブロードキャスト・レコードではありませんでした。

システムの処置: システムは、コンソールからの応答を待ち、カード読取装置からのコマンドを無視します。

オペレーターの応答: 1 桁目にアスタリスク (*) のある修正済みのブロードキャスト・レコードを入力するか、あるいは IGNORE を入力して、ブロードキャスト・レコードの追加を中止してください。カード読取装置を使用中の場合には、ブロードキャスト・レコードを修正して、ジョブを実行し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K202I CANNOT PRINT COMPRESSED MEMBER

説明: PRINT または PRTPCH コマンドで、圧縮されているメンバーを指定しました。

システムの処置: PRINT/PRTPCH コマンドを無視します。

オペレーターの応答: 圧縮されているメンバーを印刷するために、DTSBATCH LIST コマンドを使用してください。

ユーザーの処置: なし。

K203I DIRECTORY CHAIN INVALID--RUN DTSANALS

説明: 登録簿の検索中に、登録簿レコード識別名 (D\$) を持っていない登録簿レコードが見つかりました。登録簿のチェーンが正しくないものと見なされます。

システムの処置: BACKUP または MERGE 以外の機能については処理を続行します。BACKUP または MERGE は、コマンドの処理を終了させ、次の読み取りを始めます。

オペレーターの応答: ANALYZE または RECOVER コマンドを使用して DTSANALS を実行し、登録簿のチェーンを終了してください。このエラーは、通常、異常終了後、リカバリーを

行わずに、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルを使用すると生じます。DTSANALS の実行によって、しばしば、データが失われているか慎重に調べなくてはならないような、別のチェーニング・エラーが示されることがあります。BACKUP または MERGE 機能の実行中にエラーが見つかった場合には、該当する機能は終了します。部分的に書き出された出力ファイルは、使用できません。

ユーザーの処置: なし。

K204I BACKUP TERMINATED DUE TO PREVIOUS ERROR

説明: 前のメッセージで示された終了の原因は、登録簿チェーンのエラーかあるいはユーザー・レコードの一部が失われたものと考えられます。

システムの処置: VSE/ICCF はコマンドの処理を中止させ、次の読み取りを行います。

オペレーターの応答: DTSANALS を実行してください (メッセージ K203I または K243I を参照してください)。

ユーザーの処置: なし。

K205I *FILE ERROR -- RETURN CODE xx

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルのファイル操作中に、エラーが生じました。xx はエラー・コードです。

システムの処置: ダンプを出して、処理を中止させます。

オペレーターの応答: エラー・コードはハードウェア、プログラム論理、またはファイル・チェーニングにエラーがあったことを示しています。エラーの説明については、966 ページの『VSE/ICCF 戻りコード』を参照してください。

ユーザーの処置: なし。

K206I ICCF LIBRARY NOT FORMATTED

説明: コマンドが処理され、その結果、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルへのアクセスが試みられましたが、そのファイルが正しく形式設定されていませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: ファイルが事前に形式設定されていなかった場合には、DTSUTIL を実行し直して、基本的な、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの骨組みを作成してください。ファイルが形式設定されていると考えられる場合には、EXTENT ステートメントが、VTOC 内の VSE/ICCF ライブラリー情報と一致するかを確かめてください。さらに、第 1 トラック、またはライブラリーの最初のエクステントの第 1 ブロックは、A\$ で始まらなくてはならず、CKD のブロック長は、88 で割り切れなくてはなりません。この条件が満たされ

ない場合には、ファイルは重ね書きされることもあります。
ユーザーの処置: なし。

K2071 LIBRARY DELETED--RECORDS TO BE RECOVERED AT REORG

説明: ユーザーが DELETE ライブラリー・コマンドを出したので、削除されたライブラリーのレコードは、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルで使用できなくなりました。性能上の観点から、これらのレコードは、単に連鎖がはずされただけのことです。

システムの処置: 次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: レコードをフリー・チェーンにリストアする必要がなければ処置は不要です。フリー・チェーンにレコードを戻すには、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルを再編成する BACKUP/RESTORE を実行するか、DTSANALS の RECOVER か REORG オプションを実行してください。

ユーザーの処置: なし。

K2081 *parameter* IS MISSING OR INVALID--ENTER COMMAND

説明: メッセージ内に示されているパラメーターがないか、または正しくありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: コンソールで作業している場合には、正しいパラメーターを指定してコマンドを入れ直してください。カード読取装置を使用している場合には、コマンドは無視します。

ユーザーの処置: なし。

K2091 THE NEW/CHANGED LIBRARY IS NUMBER *nn*

説明: 示されている新しいライブラリーが、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルに追加されたか、あるいは示されているライブラリー・レコードが更新されました。

システムの処置: VSE/ICCF は、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K2101 *INTERRUPTED BY OPERATOR

説明: オペレーター通信ルーチンによって、コンソール・オペレーターが印刷/穿孔を中止させました。

システムの処置: VSE/ICCF は、印刷/穿孔を停止し、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 完全な出力が必要であれば、コマンドを入れ直してください。

ユーザーの処置: なし。

K2111 LIBRARY *nnnnn* IS NOT ACTIVE ON ICCF LIBRARY

説明: RESTORE 要求に、活動中でないライブラリーを入れています。1 つのライブラリーのリストア時に TOLIBRARY、あるいは前に TOLIBRARY オペランドを持たない FROMLIBRARY か ARCHLIBRARY としてそのライブラリーが指定されました。

ファイル全体のリストア時に、このメッセージはデータ (ライブラリーおよびメンバー) がバックアップ・ファイルにある

が、リストアできないことを示します。これは主に、MERGE コマンドを使用したあとでライブラリーに対する DELETE コマンドを出したことによります。

システムの処置: これが全体のリストアに対する要求でない場合は、次のコマンドを処理します。全体のリストア要求である場合には、RESTORE 処理を続けようとしています。

オペレーターの応答: ライブラリーを TOLIBRARY として指定した場合には、DTSUTIL コマンドの ADD LIBRARY を使用して必要なライブラリーを追加するか、リストア要求を変更しなければなりません。

ライブラリーが FROMLIBRARY、ARCHLIBRARY として、あるいは MEMBER オペランドで指定されたか暗黙の指定があり、このライブラリーがリストアされたデータを受け取る場合には、TOLIBRARY *nnnnn* が指定された場合と同様の処置をとってください。

別のライブラリーを予定していた場合には、そのライブラリーを FROMLIBRARY または ARCHLIBRARY として指定するか、MEMBER に指定する前に RESTORE コマンドを指定してください。

ユーザーの処置: なし。

K2121 LIBRARY NOT DELETED--AT LEAST 1 USER IS ACTIVE

説明: まだ使用中のライブラリー・レコードに対して、DELETE が要求されました。

システムの処置: ライブラリーを削除せずに次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: DISPLAY USERS コマンドを使用して、問題のライブラリーの使用が許可されているユーザーを見つけてください。ユーザー・プロファイルがすべて削除されるか、あるいは別のライブラリーを指すように変更されれば、このライブラリーを削除することができます。

ユーザーの処置: なし。

K2131 MEMBER IS ALREADY IN LIBRARY

説明: メンバーに対する ADD コマンドに指定したライブラリーに、すでにあるメンバー名が指定されています。

システムの処置: 重複メンバーをとばし、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 指定されているメンバーを置き換えたい場合には、PURGE コマンドを使用して、ライブラリーからそのメンバーを取り除くか、あるいはその名前を変更してください。DSERV コマンドを使用すればメンバー名のリストを得ることができます。

ユーザーの処置: なし。

K2141 MEMBER NOT 'COMMON'--NOT PURGED

説明: PURGE COMMON コマンドに、共通として識別されていないメンバーが指定されています。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: PURGE LIB(nn) MEMBER コマンドを使用して、メンバーを消去してください。ライブラリー番号がわからない場合には、DSERV コマンドを使い、すべてのライブラリー名を表示してください。

ユーザーの処置: なし。

K215I *mmmmmmmm* MEMBER NOT IN LIBRARY
ELIGIBLE FOR COMMON

説明: SHARE コマンドで、COMMON として適格などのライブラリーにも入れることができないライブラリー・メンバーが、要求されました。

システムの処置: SHARE コマンドの次のオペランドを処理します。

オペレーターの応答: メンバー名が正しければ、SHARE コマンドを出す前に、メンバーが格納されているライブラリーに COMMON 属性を与えるか、あるいはメンバーを、COMMON 属性をもつライブラリーに移さなければなりません。

ユーザーの処置: なし。

K216I *mmmmmmmmmm--MEMBER OVER*
LIMIT--LIBRARY AND USER ID ARE... *nn*
uuuuu

説明: RESTORE 機能の実行中に、指定されているメンバーのレコード・カウントが、メッセージで示されているユーザー用にあらかじめ定義された限界値よりも大きくなっています。

システムの処置: RESTORE コマンドのオペランドとして、CUTOFF オプションが指定された場合、このメンバーの処理を停止して、次のメンバーをリストアします。CUTOFF オプションが指定されていない場合、このメッセージは、警告メッセージとして出されます。

オペレーターの応答: 失ったレコードをリストアしたい場合、RESTORE MEMBER コマンドを使い、メンバーの全体をリストアしてください。今後、同じ問題を起こさないために、ユーザーの限界値を増加させることも考慮しなくてはなりません。

ユーザーの処置: なし。

K217I *mmmmmmmmmm* EXISTS IN MORE THAN
ONE LIBRARY

説明: SHARE コマンドで指定されたメンバーが、COMMON データに適切な VSE/ICCF ライブラリーのセットの全体の中で固有ではありませんでした。

システムの処置: SHARE コマンドの次のオペランドを処理します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF システムの /RENAME コマンドを使用して、共通メンバーにたくないメンバーの名前を変更してください。

ユーザーの処置: なし。

K220I NEW LIBRARY ALLOCATION TOO LOW

説明: RESTORE コマンドの新しいライブラリー・レコードの割り振りで、活動中のレコードの数よりも小さい値が指定されました。

システムの処置: システムは、このコマンドがコンソールから入力された場合には、正しいライブラリー割り振りの指定された新しい RESTORE コマンドの入力を待ちます。このコマンドがカード読取装置から読み取られた場合には、システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 先に出されたメッセージ (K237I) は、前のライブラリー・レコード割り振り値を示しています。新たに指定する値は、前の値以上にしてください。新しい適切なユーザー・レコード割り振りを指定して RESTORE コマンドを入力し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K221D NEW USER ALLOCATION TOO LOW

説明: RESTORE コマンドの新しいライブラリー・レコードの割り振りで、アクティブ・ユーザー・レコードの数よりも小さい値が指定されました。

システムの処置: システムは、このコマンドがコンソールから入力された場合には、正しいユーザー割り振りの指定された新しい RESTORE コマンドの入力を待ちます。このコマンドがカード読取装置から読み取られた場合には、システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 先に出されたメッセージ (K236I) は、前のユーザー・レコード割り振り値が示されています。新たに指定する値は、前の値以上にしてください。新しい適切なユーザー・レコード割り振りを指定して RESTORE コマンドを入力し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K222D NO AVAILABLE LIBRARY RECORD

説明: 使用可能なライブラリー・レコードがないにもかかわらず、ADD LIBRARY コマンドを実行しようとした。

システムの処置: このコマンドがコンソールから入力された場合には、システムは応答を待ちます。このコマンドがカード読取装置から読み取られた場合には、システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 後続のコマンドが、ライブラリー・レコードが正しく割り振られたかどうかに影響されるものであれば、CANCEL を入力し、ライブラリー・レコードなしで処理を続行したければ、IGNORE を入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K223D NO AVAILABLE USER RECORD

説明: 割り振りされている未使用のユーザー・レコードで、使用できるものがないのに、ADD USER コマンドが入力されました。

システムの処置: このコマンドがコンソールから入力された場合には、システムは応答を待ちます。このコマンドがカード読取装置から読み取られた場合には、システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 後続のコマンドが、ライブラリー・レコードが正しく割り振られたかどうかに影響されるものであれば、CANCEL を入力し、ライブラリー・レコードなしで処理を続行したければ、IGNORE を入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K224I PROGRAM LOGIC ERROR - INVALID
RECORD ON BACKUP FILE

説明: このメッセージは、DTSUTIL プログラムに論理的なエラーまたは RESTORE 中の BACKUP ファイルにエラーがあることを示しています。

システムの処置: ダンプを出して、ジョブを中止させます。オペレーターの応答: 問題判別のため、VSE/ICCF 管理者にダンプを提供してください。RESTORE を行おうとしていた場合、入力ファイルが正しいものであり、それが VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの BACKUP の結果得られたものであることを確認してください。

ユーザーの処置: なし。

K225I REQUESTED LIBRARY/MEMBER NOT ON BACKUP

説明: RESTORE コマンドで要求されたメンバーまたはライブラリーが、バックアップ・ファイル上にありませんでした。

システムの処置: 次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 指定したメンバー名やライブラリー番号を調べてください。正しければ、要求したメンバーまたはライブラリーは、前のバックアップ・ファイルにあります。END コマンドを用い DTSUTIL を終了し、そのバックアップ・ファイルで再実行してください。

ユーザーの処置: なし。

K226I REQUESTED recordtype RECORD IS NOT ON FILE

説明: このメッセージは、要求されたユーザー、ライブラリー、またはメンバーが VSE/ICCF ライブラリー・ファイルにないことを示しています。recordtype はレコード・タイプを示しています。

システムの処置: 次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 以下のオペランドを検査してください。

USER ユーザー ID のつづりを修正するか、または所要の ID のユーザー・プロファイルを追加してください (ユーザー ID の確認に DTSUTIL コマンドの DISPLAY USERS を使用することができます)。

LIBRARY または **TOLIBRARY**

LIBRARY または TOLIBRARY の番号を修正する (DTSUTIL コマンドの DSERV ALL を使って、正しいライブラリーに位置付ける) かあるいは所要のライブラリーを追加してください。

FROMLIBRARY または **ARCHLIBRARY**

TOLIBRARY を指定する場合、FROMLIBRARY または ARCHLIBRARY オペランドよりも前でなくてはなりません。TOLIBRARY が指定されていないか、FROMLIBRARY か ARCHLIBRARY と同じ値である場合には、上記の LIBRARY についての処置を参照してください。

MEMBER

メンバー (DTSUTIL DSERV を使ってメンバーを探します) の名前をつづりを修正するか、あるいは必要なメンバーをファイルに ADD してください。

ユーザーの処置: なし。

K227I PREVIOUS DTSUTIL COMMAND CANNOT EXEC IN CURRENT MODE

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの変更、またはパスワード情報の表示を行うためのコマンドが入力されましたが、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが CICS/ICCF 区画に接続されている間は、このようなコマンドを出すことはできません。VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが切り離されていた場合は、次の理由でエラーが起きました。

- コマンドは現行の BKUP 入力モードでの使用を許可されていない。
- 別の区画が現在 VSE/ICCF ライブラリーにアクセスしている。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: (CICS/ICCF 区画は活動状態のまま)

VSE/ICCF ライブラリー・ファイルを切り離した後、または CICS/ICCF 区画が活動状態でなくなった後、ジョブを再実行してください。あるいは、現行の INPUT モードが問題の原因になっている場合は、正しい INPUT ステートメントを入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K228D COMMAND INVALID--ENTER COMMAND

説明: 正しくないユーティリティ・コマンドが入力されました。

システムの処置: このコマンドがコンソールから入力された場合には、システムは応答を待ちます。このコマンドがカード読取装置から読み取られた場合には、システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 有効な VSE/ICCF ユーティリティ・コマンドを入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K229I INVALID DECIMAL NUMBER

説明: コマンドに正しくない 10 進数が入っています。

システムの処置: 正しくないコマンドを無視します。

オペレーターの応答: 必要な部分に正しい 10 進数を指定して、コマンドを修正してください。数値オペランドがないために、別のオペランドが、誤って、要求された数値として使われたことも考えられます。

ユーザーの処置: なし。

K230I ICCF IS ACTIVE--ACCESS IS READ ONLY

説明: ユーティリティがバッチ区画で使用される一方で VSE/ICCF が別の区画で活動中であるか、対話区画で実行中です。いずれの場合にも、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルへのアクセスは、読み取り専用です。一般に、VSE/ICCF の活動中には、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルに書き出しを行おうとしないコマンドのみが許可されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: この状態で使えるユーティリティ・コマンドを調べてください。

ユーザーの処置: なし。

K231I ICCF LIBRARY IS FULL

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルがいっぱいです。システムの処置: FORMAT または完全な RESTORE が指定された場合には、ジョブは取り消されます。そうでない場合は、現在のコマンドは終了して次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に知らせ、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルにさらにスペースを割り振ってもらってください。その上で、ジョブを再実行してください。

ユーザーの処置: なし。

K232I RECORD UPDATED

説明: ユーザー・レコードが更新されました。

システムの処置: 次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K233I LIBRARY *lllll* USER *uuuu* RECORD USAGE *nnnnn* FOR USER NOT ON FILE

説明: ライブラリー *lllll* に、ユーザーとして定義されていないユーザー *uuuu* を割り当てている、サイズ *nnnnn* のメンバーがあります。完全なライブラリー・ファイルの BACKUP で、プロファイル・レコードが VSE/ICCF ライブラリー・ファイルでもはや活動状態でない、ユーザーに関連するメンバーを処理しました。メンバーのサイズは、レコード使用としてリストされます。

システムの処置: 処理を続行しますが、スペースは、どのユーザーのアカウント・レコードにも加えられません。

オペレーターの応答: 通常は処置を必要としません。ただし、使用されるスペースを計算しなくてはならない場合は、/PROTECT コマンドを使用して、ユーザー ID を活動状態のものに変えるか、または、メンバーをもはや使用しない場合には、/PURGE コマンドを使用して削除してください。

メッセージ・メンバーを削除するには、DTSUTIL の PURGE MESSAGE コマンドを使用してください。このメッセージがたびたび現れる場合は、後のリスト中に、パフォーマンスを低下させる可能性があります。これを防止するには、ユーザー ID に関連のないメンバーを削除してください。

ユーザーの処置: なし。

K234I SYSTEM RECORD NOT FOUND

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの最初のレコードが、VSE/ICCF システム・レコードではありません。これは、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルがシステムに正しく識別されていないものと思われます。すなわち、正しいラベル情報および割り当てによって示されていないか、あるいは VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが作成される前に、このライブラリーをアクセスしようとするなど、誤った順序でコマンドが出されました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: ラベルおよび割り当てが正しいこと、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが存在することを確認してください。

ユーザーの処置: なし。

K235I RESTORE FROM BACKUP OF *dd/dd/dd* *hh.mm.ss*

説明: 示されている日付でバックアップされている、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの 'BACKUP' を RESTORE しようとしています。

システムの処置: メッセージ K238D を出して、RESTORE を続行します。

オペレーターの応答: これは通知メッセージです。バックアップ・ファイルが正しいレベルであることを確認後、メッセージ K238D に応答してください。

ユーザーの処置: なし。

K236I USER REALLOCATION FROM *nnnn* TO *nnnn*

説明: ユーザー数を変更するために、RESTORE を要求しました。初めの値は BACKUP 上のもので、次の値は、RESTORE を要求するユーザー数です。新しい値は、アクティブ・ユーザーの数以上でなければなりません。それより小さい場合は、メッセージ K221D が出されます。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K237I LIBRARY REALLOCATION FROM *nnnn* TO *nnnn*

説明: ライブラリー数を変更するために、RESTORE を要求しました。初めの値は BACKUP ファイル上のもので、次の値は、RESTORE に要求するライブラリー数で、これは、活動中のライブラリー以上でなくてはなりません。それより小さい場合は、メッセージ K220I が出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K238D RESPOND 'GO' TO RESTORE / 'NOGO' TO IGNORE

説明: このメッセージは、RESTORE される VSE/ICCF ライブラリー・ファイルのレベルを示す、メッセージ K235I に続いて出されます。

システムの処置: システムは、応答を待ちます。

オペレーターの応答: RESTORE される BACKUP が正しいレベルであれば GO、RESTORE コマンドを無視するには NOGO と応答してください。

ユーザーの処置: なし。

K239I NO RECORDS PURGED

説明: ユーザーが出した PURGE コマンドでは、どのレコードも消失しませんでした。

システムの処置: システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: PURGE コマンドが正しかったか調べてください。

ユーザーの処置: なし。

K240I COMMON MEMBER CANNOT BE REPLACED

説明: すべてのユーザーに共通のメンバーに対する RESTORE および ADD MEMBER ... REPLACE が要求されました。

システムの処置: そのメンバーの RESTORE/REPLACE を無視します。

オペレーターの応答: まず共通メンバーを PURGE してから、RESTORE/ADD MEMBER を実行し、そのあと、メンバーの新しいコピーを共通として SHARE してください。

ユーザーの処置: なし。

K241I DTSUTIL, -ANALS, -AUDIT OR -BATCH IS ACTIVE IN ANOTHER PARTITION

説明: 別の z/VSE 区画で DTSUTIL、DTSANALS、D TSAUDIT、DTSBATCH、VSE/ICCF のいずれかが初期設定されているときに、ユーティリティ・プログラムを実行しようとしたが、VSE/ICCF は z/VSE システム内で 1 つだけ活動することができます。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: 他の区画のユーティリティが活動状態でないときに、ジョブを再実行してください。

ユーザーの処置: なし。

K242I TOO LITTLE STORAGE, INCREASE PARTITION OR REDUCE GETVIS

説明: EXEC ステートメントに SIZE=AUTO が指定されていますが、DTSUTIL が現在のコマンドを処理するのに十分なストレージが、区画に割り振られていません。

システムの処置: 次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 区画サイズを大きくするか、または GETVIS 域を小さくして、割り振るストレージを大きくしてください。いずれの場合にも、EXEC DTSUTIL ステートメントには SIZE=AUTO を指定しません。

ユーザーの処置: なし。

K243I CANNOT PRINT/PUNCH MEMBER xxxxxxxx SINCE UPDATE IN PROGRESS ON MEMBER

説明: 現在更新中のメンバーを、印刷または穿孔しようとした。

システムの処置: コマンドは実行されません。システムは、次のコマンドが入力されるのを待ちます。

オペレーターの応答: メンバーの更新が完了するまで待ち、そのあとジョブをやり直してください。

ユーザーの処置: なし。

K244D BACKUP FILE MAY CONTAIN A BAD LIBRARY. CONTINUE? YES/NO

説明: VSE/ICCF シャットダウンに続いてバックアップ・ファイルが作成されました。バックアップの実行が開始された時点で、警告メッセージ K020D が出されましたが無視されました。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: プログラムを取り消すならば NO と応答し、エラーでないバックアップ・ファイルからライブラリーをリストアしてください。YES と応答した場合には、ライブラリーのリストアが完了しない場合もあります。

ユーザーの処置: なし。

K245D ICCF SLI FOR: *mm* PARTITIONS IN**DTSANALS プログラム (K300D - K333I)**

DTSANALS は VSE バッチ区画または VSE/ICCF の対話区画で作動することに注意してください。DTSANALS が対話区画で作動している場合、DTSANALS メッ

PROCESS, CONTINUE? YES/NO

説明: 現在、*mm* 区画で SLI の組み込みを処理しているときに、DTSANALS または DTSUTIL が VSE/ICCF ライブラリー・ファイルへの書き込みを行おうとしています。

システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: DTSANALS または DTSUTIL ジョブを終了するときは、NO を応答してください。DTSANAL または DTSUTIL ジョブを続行するときは、YES を応答してください。ただし、この場合、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルに対して次のレコード要求が出されたあと、現在 SLI の組み込みを処理しているジョブは取り消されます。

ユーザーの処置: なし。

K246I AT LEAST ONE DTSUTIL COMMAND FAILED

説明: 少なくとも、1 個以上の DTSUTIL コマンドが失敗しました。

オペレーターの応答: この失敗の情報については、SYSLST 上の出力メッセージを参照してください。誤りを修正して DTSUTIL ジョブを再実行してください。

ユーザーの処置: なし。

K247I DSERV COUNT NOT POSSIBLE FOR INPUT BKUP

説明: バックアップ・ファイルに対する COUNT オペランドはサポートされていません。

システムの処置: COUNT オペランドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K249I CONDITIONAL BACKUP/RESTORE COMPLETE, FREE SPACE = *mm*%

説明: DTSFILE の条件付き BACKUP/RESTORE が正しく完了しました。連続するフリー・スペース量は *mm* パーセントになりました。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: フリー・スペース量がそれ程増えていなかった場合は、VSE/ICCF 管理者に連絡すれば、DTSFILE に追加のエクステンツを割り振ってもらえるはずですが。

ユーザーの処置: なし。

K250I DSERV COUNT IGNORED

説明: PASSWRD と COUNT オペランドは出力を同じ場所に経路指定するため、これらを同時に使用することはできません。PASSWRD オペランドが実行されます。

システムの処置: COUNT オペランドは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

セージはシステム・コンソールではなくてユーザー端末に現れます。この場合、「オペレーターの処置」として提示されているものは、「端末ユーザーの処置」になります。

K300D ALTER COMMAND USED WITHOUT RECOVERY--REPLY 'RECOVER'

説明: ALTER コマンド使用時に、RECOVER コマンドの前に END コマンドが出されました。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: RECOVER を入力して、処理を中止させ、リカバリー処理が完了したら、END を入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K301I BEGIN AND/OR END RECORD NOT ON FREE CHAIN

説明: INSERT の両オペランドに一致するものが、フリー・チェーン上で見つからないうちに、チェーンの終わり条件が生じました。

システムの処置: このコマンドの処理を中止させます。

オペレーターの応答: ファイルの位置ポインターは、INSERT コマンドが出された以前の位置と変わりません。挿入されるチェーンの開始レコードおよび終わりレコードが正しいか、両方もフリー・チェーン上にあるか、また始めの相対レコードがフリー・チェーンの前方スキャンにおける終わりのレコードの前に読み取られるかを確認してください。

ユーザーの処置: なし。

K302I BROADCAST CHAIN HAD NO VALID RECORDS

説明: 最初のブロードキャスト・レコードに対するポインターが、正しくありません。すなわち、ポインターが、ファイルの限界を超えた位置を示しているか、あるいは別のレコードのチェーンに属するレコードを指しています。

システムの処置: ブロードキャスト・レコード・チェーンを取り除きます。

オペレーターの応答: DTSUTIL を使い、ブロードキャスト・レコードを追加してください。

ユーザーの処置: なし。

K303I CANNOT DELETE OR INSERT BEFORE 1ST RECORD OF COMMON MEMBER

説明: 共通メンバーの最初のレコードへの登録簿レコード・ポインターは変更できません。

システムの処置: このコマンドの処理を中止させます。

オペレーターの応答: DTSUTIL コマンドの RESTORE MEMBER を使い、バックアップ・ファイルからレコードをリストアしてください。

ユーザーの処置: なし。

K304I *chaintype* CHAIN INVALID, LIBRARY *nmnn* MEMBER *name*

説明: ANALYZE 機能が、正しくないレコード・チェーンを見つけました。チェーンのタイプは、メッセージの最初のワードに示されています。次の行に出るメッセージには、

DTSANALS がとる処置が示されています。ライブラリー番号 'N/A' は、処理中のレコードを特定メンバー (例えば、登録簿レコード) と関連付けることができないことを示しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 次のメッセージを参照してください。

ユーザーの処置: なし。

K305I COMMAND INVALID FOR CURRENT DIRECTION

説明: 要求されたコマンド機能は、現在の処理モードでは処理できません。

システムの処置: システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: CHASE、LIBRARY、または RECORD コマンドを使って、使用するコマンドに必要な処理モードをセットしてください。以下のコマンドは、特定モードで出さなければなりません。

MODE/DESCRIPTION					
COMMAND	FWD	BKWD	SEQU.L	FREE	注
ALTER			X		
BACKWARD	X	X		X	1
BOTTOM	X	X		X	2
COUNT	X	X		X	
DELETE	X	X			3
DSERV	X	X			4
FORWARD	X	X		X	2
INSERT	X	X			3
LIST	X	X		X	
MEMBER	X	X			4
NEXT	X	X		X	2
RESET	X				3
TOP	X	X		X	1
UP	X	X		X	1

注:

1. 次のレコード番号として、常に逆方向ポインターを使用します。
 2. 次のレコード番号として、常に順方向ポインターを使用します。
 3. LIBRARY および MEMBER を指定しなければなりません。
 4. LIBRARY を指定しなければなりません。
- ユーザーの処置: なし。

K306I DIRECTORY POINTER CLEARED--MEMBER HAS NO RECORDS

説明: 分析の段階で、メンバーの最初のレコードに対するポインターが正しくないことがわかりました。指定されているメン

パーに合ったレコードが、フリー・チェーンに加えられたと思われる。

システムの処置: システムの処理は続きます。

オペレーターの応答: 分析段階の印刷出力で、メンバーのレコードの位置を突き止めてください。INSERT コマンドを使用して、データをメンバーに戻してください。

ユーザーの処置: なし。

K307I ICCF IS UP -- ACCESS IS READ ONLY

説明: VSE/ICCF が活動中で、DTSANALS では、読み取り専用タイプの機能を実行することができます。RECOVER、REORG、ALTER、INSERT などの機能は、VSE/ICCF が終了した後でだけ実行することができます。

システムの処置: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルに読み取り専用アクセスを行いながら処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K308I NO MATCH FOUND

説明: FIND または LOCATE で、データを見つけることができませんでした。

システムの処置: 次に送られるメッセージで示されるように、ポインターは、ファイルの始めまたは終わりの位置を指しています。

オペレーターの応答: コマンドのオペランドが正しいか確認してください。

ユーザーの処置: なし。

K309D OPERAND *n* IS MISSING OR INVALID--ENTER COMMAND

説明: 出されたコマンドのオペランドがないか、正しくありません。

システムの処置: システムは、正しいコマンドが入力し直されるのを待ちます。

オペレーターの応答: 正しいコマンドを入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K310I FILE EXCEEDS VALIDATION TABLE CAPACITY

説明: VSE/ICCF ライブラリーの容量を超えています。

システムの処置: 分析を取り消します。

オペレーターの応答: このメッセージをソフトウェア・サポート部門に報告してください。

ユーザーの処置: なし。

K311I FIRST DIRECTORY POINTER INVALID--CLEARED, LIBRARY *nnnn*

説明: 最初の登録簿レコードが、分析段階で正しくないことがわかったので、このレコードに対するポインターが 0 に設定されました。

システムの処置: リカバリー段階で、ライブラリーの全メンバーを削除し、フリー・チェーンに入れます。

オペレーターの応答: DTSUTIL を使って、ライブラリーをリストアしてください。

ユーザーの処置: なし。

K312I FREE CHAIN HAD NO VALID RECORDS

説明: 分析段階で、フリー・チェーンのポインターが正しくなかったことがわかりました。

システムの処置: チェーンの終わりを示すようにフリー・チェーンのポインターを設定し、フリー・チェーンに置かれているメンバーに属していないすべてのレコードの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。リカバリー処理において、失われていたチェーンが戻されます。

ユーザーの処置: なし。

K313IINVALID BACK POINTER-- CORRECTED, STATEMENT NO ..

説明: 分析段階において、メンバー・レコードの逆方向ポインターが正しくないことがわかりました。

システムの処置: 逆方向ポインターを、前に読み取られたレコードを指すように変更します。

オペレーターの応答: システムの処置で、メンバーの内容が変更されていないかを調べてください。メンバーを印刷し、修正されたポインターのあとのレコードがメンバーの一部であることを確認してください。

ユーザーの処置: なし。

K314I *record number* IS TERMINATION ADDRESS OF CHAIN--STATEMENT NO. IS ..

説明: 分析フェーズで、メンバー・レコードの順方向ポインターが無効であることがわかりました。

システムの処置: チェーンの終わりを示すように、順方向ポインターを設定します。

オペレーターの応答: 修正の位置によって、レコードが失われなかったかを確認してください。レコードがメンバーから失われた場合、DTSUTIL の RESTORE を使って、リカバリーすることができます。失われたレコードがフリー・チェーンに置けるものであれば、DTSANALS の INSERT コマンドを使って、リカバリー処置をとることもできます。

ユーザーの処置: なし。

K315I LIB *number* MEMBER *name* EXCEEDS 3000 RECORDS

説明: メンバーの分析中に、レコード・カウントが、3000 よりも大きくなりました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: これはメンバー内に不適当なフリー・チェーンが付加している可能性があることを警告するメッセージです。メンバーが実際に、3000 よりも多いメッセージを持っている場合には、このメッセージを無視してください。その他の場合には、DTSUTIL の RESTORE MEMBER コマンドを使って、メンバーをバックアップ・ファイルからのメンバーで置き換えてください。メンバーを削除し、そのメンバーの全レコードをフリー・チェーンに付加してください。

ユーザーの処置: なし。

K316D *xxxxxx* NOT PREVIOUSLY GIVEN

説明: ライブラリー (*xxxxxx* = LIBRARY) またはライブラリー・メンバー (*xxxxxx* = MEMBER) を参照するコマンドが出されましたが、いずれも LIBRARY または MEMBER コマンドによって、前もって指定されていません。

システムの処置: コマンドを無視して、システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: LIBRARY または MEMBER コマンドを出して、参照されるライブラリーまたはメンバーを確立させてください。メッセージ K305 を参照してください。

ユーザーの処置: なし。

K317D INVALID HEXADECIMAL NUMBER

説明: 応答として、またはコマンドのオペランドとして、正しくない 16 進数が与えられました。

システムの処置: 正しくないコマンドを無視します。システムは、正しい応答を待ちます。

オペレーターの応答: 正しい 16 進数を使って応答するか、あるいはコマンドのオペランドを修正してください。

ユーザーの処置: なし。

K318I POINTER AT BOTTOM--CANNOT DELETE

説明: DELETE コマンドが入力されましたが、ポインターが、メンバーの終わりを示しています。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: 削除する最初の行にファイルを位置付けて、DELETE コマンドを入力し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K319I MEMBER CONTAINS NO RECORDS

説明: レコードを含んでいないメンバーに対して、DELETE コマンドが出されました。

システムの処置: DELETE を無視します。

オペレーターの応答: メンバー名を正しく指定したかを調べてください。

ユーザーの処置: なし。

K320I MEMBER (ALL) NOT VALID FOR INSERT/DELETE

説明: LIB 番号、ALL、または MEMB ALL によって、現在の操作モードがセットされましたが、INSERT および DELETE コマンドは、単一メンバーの操作の場合にだけ有効です。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: LIB または MEMB コマンドを使って、参照される実際のライブラリーおよびメンバーを指定してください。

ユーザーの処置: なし。

K321I *mmn* MORE RECORDS IN SUBCHAIN

説明: これはフリー・チェーンに加えられた部分のチェーン内の、印刷されていないレコードの数を示しています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K322I PREVIOUS DTSANALS COMMAND CANNOT RUN IN READ ONLY MODE

説明: VSE/ICCF の活動中に DTSANALS が実行され、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルへの書き出しを要求するコマンドが出されました。VSE/ICCF の活動中には、DTSANALS は、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルから読み取りを行うコマンドのみを処理します。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: VSE/ICCF が活動中でないときに、機能を実行し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K323I RECORDS LISTED BELOW ARE NOW CHAINED TOGETHER ON THE FREE CHAIN

説明: フリー・チェーンに部分チェーンが付加されました。レコードのタイプを判別しやすいように最初の 5 つのレコードが印刷されます。部分連鎖に 6 レコード以上含まれている場合には、メッセージ K321I も印刷され、部分連鎖内の追加レコードの数が示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: レコードがスプール区域の一部である場合には、処置は必要ありません。レコードがメンバーの一部である場合には、印刷出力の全体を調べ、分析の段階で異常状態を示すメッセージが出されていないか調べてください。レコードがなかった場合には、これ以上の処置は不要です。

ユーザーの処置: なし。

K324I RECORD *number* OUTSIDE FILE LIMITS

説明: 指定されたレコード番号が、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの範囲を超えています。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: レコード番号を修正するか、あるいは DTSUTIL を使って、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルのレコードの最大数を表示してください。

ユーザーの処置: なし。

K325I UNIDENTIFIABLE RECORD WITHIN *xxxxxx* RECS

説明: 前の DTSANALS コマンドの処理中に、ユーザー・レコードとして識別できないレコードがファイルのユーザー・プロファイル・レコード (*xxxxxx* = USER) 域で見つかったか、あるいはライブラリー・レコードとして識別できないレコードがライブラリー・ヘッダー・レコード (*xxxxxx* = LIBRARY) 域で見つかりました。

システムの処置: 識別できないレコードを印刷し、処理を続行します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが、重ね書きされていないことを確認してください。
ユーザーの処置: なし。

K326I NO RECORDS IN FREE CHAIN

説明: コマンド処理中に、フリー・チェーンにレコードがないことがわかりました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K327D CHAINING VIOLATIONS FOUND DURING ANALYSIS CHECK PRINTER OUTPUT FOR RECORDS PUT IN FREE CHAIN USE ANY COMMANDS TO VIEW OR RECOVER DATA REPLY 'CONTINUE' TO REORGANIZE

説明: これは、REORG コマンドが出されてから、REORG 分析処理で、チェーニング・エラーに関する修正処置が必要になった時点で出される警告メッセージです。
システムの処置: システムは応答を待ちます。
オペレーターの応答: 分析段階で印刷される報告書を検討してください。修正処置がすべて正しい場合には、CONTINUE と応答し、フリー・チェーンを編成し直してください。修正処置が正しくなかった場合には、必要なファイル更新を手動で行い、REORG を使って、リカバリーおよび分析のフェーズを繰り返してください。
ユーザーの処置: なし。

K328D TOO MANY OPERANDS SPECIFIED--ENTER COMMAND

説明: 最後に出されたコマンドに、正しくない数のオペランドが指定されています。
システムの処置: コマンドは無視されます。
オペレーターの応答: 正しい形式でコマンドを再入力してください。
ユーザーの処置: なし。

K329I POINTER AT TOP

説明: 最後に出されたコマンドによって、処理中の論理チェーンの一番前にポインターが位置付けられました。
システムの処置: システムは、次のコマンドを処理します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K330I POINTER AT BOTTOM

説明: 最後に出されたコマンドによって、処理中の論理チェーンの最後にポインターが位置付けられました。
システムの処置: システムは、次のコマンドを処理します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K331I INVALID CHAIN IN MSG MEMBER FOR USER userid, MEMBER PURGED

説明: 正しくないメッセージ・メンバー・チェーンが検出されました。
システムの処置: そのメッセージ・メンバーを削除します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K332I RECOVERY OF DTSFILE IN PROGRESS

説明: DTSANALS が DTSFILE をリカバリーしています。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K333I DTSANALS TERMINATED - WORKFILES OVERLAYED

説明: SYS001 または SYS002 上の作業ファイルが他のプログラムによって部分的あるいは全体を上書きされました。
システムの処置: ダンプを出して、処理を中止させます。
オペレーターの応答: 他のプログラムが SYS001 または SYS002 上の作業ファイルのいくつかまたは全体を使用していないことを確認して、DTSANALS を再度実行してください。
ユーザーの処置: なし。

K334I UPIP FLAG CLEARED FOR MEMBER XXXXXXXX LIB YYYY

説明: DTSANALS RECOVER OPX が、示されたメンバーのUPIP フラグを検出し、クリアしました。
システムの処置: DTSANALS 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

さまざまなユーティリティー (K350I - K373I)

K350I CONTROL STATEMENT NOT FOUND

説明: 入力ストリームの最初のステートメントとして、DTSCOPY のための /PARM 制御ステートメントが見つかりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /PARM ステートメントを含めたか確認してください。 '/PARM' は、1 桁目から始めなければなりません。

K351I PARAMETERS SPECIFIED ARE INCOMPLETE

説明: /PARM ステートメントに、入力ファイル名も出力ファイル名も入っていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /PARM ステートメントに両方のファイル名を含めてください。

K352I A PARAMETER IS INVALID OR MISSING

説明: /PARM ステートメント上のパラメーターが正しくないか、または完全ではありません。ファイル名は 7 文字以下とします。装置タイプを指定する場合は関連するファイル名の次に指定します。STOP=nnn パラメーターは最後のパラメーターとし、ブランクは含められません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /PARM ステートメントを修正して、ジョブを実行し直してください。

K353I DEVICE TYPE IS INVALID

説明: 入力装置または出力装置のタイプが 3380、3390、FBA のいずれでもありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /PARM ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

K354I DTSCOPY -- FILE COPY IN PROGRESS

説明: /PARM ステートメントが処理され、コピー処理が始まりました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K355I MAXIMUM BLOCKSIZE IS 4000

説明: この警告メッセージは、常に出されます。入力ファイル・ブロックのはじめの 4000 バイトだけが複写されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K359I ADDRESSES NOT IN USER AREA OR ADDRESSES INVALID-REASON=n

説明: スナップ・ダンプの範囲として要求された区画が、要求側の対話式区画にありません。理由コードは次のとおりです。

- 1 開始アドレスが正しくありません。
- 2 終了アドレスが正しくありません。
- 3 終了アドレスが、開始アドレスよりも小さくなっています。
- 4 区域が 2K より大きくなっています。

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: エラーのアドレスを修正し、ジョブを実行し直してください。

K360I mnn RECORDS SORTED

説明: DTSSORT プログラムが終了しました。これは、分類されたレコードのレコード・カウントです。

システムの処置: ジョブを終了させます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K361I NO RECORDS TO SORT

説明: レコードを 1 つも読み取らないうちに、DTSSORT でファイル終わり条件が起きました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 分類されるファイルがあるかを調べてください。SORT ステートメントの指定が適切であるかどうかを調べてください。デフォルトの入力は、入力域からです。

K362I SORT SEQUENCE NOT A OR D

説明: SORT 制御ステートメントの順序フィールドに、正しくない文字が含まれています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: SORT 制御ステートメントの形式を調べて、すべてのフィールドが正しく指定されていることを確認してください。

K363I START COLUMN + LENGTH GREATER THAN 81

説明: 順序を表す分類制御フィールドが、ステートメント・イメージの範囲内に収まりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: それぞれの順序制御フィールドの開始桁と長さの和が、81 よりも大きくなっていないかを調べてください。修正して、受け渡しをし直してください。

K364I OPERAND 1 NOT 'INPUT' OR 'PUNCH'

説明: SORT 制御ステートメントの最初のオペランドが、'INPUT' でも 'PUNCH' でもありません。この 2 つだけが有

効なオペランドで、SORT ステートメントを使用する場合には、デフォルトの値はありません。
 システムの処置: ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: SORT ステートメントを修正してジョブを実行し直してください。

K365I THIS PROGRAM WILL NOT RUN IN AN INTERACTIVE PARTITION

説明: 対話式区画で、DTSBATCH プログラムを実行しようとした。このプログラムは、オンライン環境では機能を果たしません。したがって VSE バッチ区画だけで実行してください。
 システムの処置: ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: プログラムをバッチ区画で実行するか、あるいはコマンド自体をオンラインで使用してください。

K366I ANOTHER PARTITION LOCKED THE LIBRARY FILE, NO WRITES ISSUED

説明: DTSBATCH ユーティリティが VSE バッチ区画で実行中ですが、一方で VSE/ICCF、すなわちもう 1 つの VSE/ICCF ユーティリティが別の区画で活動中です。
 システムの処置: 処理を続行しますが、ライブラリー・ファイルに対するアクセスは、読み取り専用です。ライブラリー中のレコードを変更するコマンドを無視します。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: なし。

K367I ENTER /* TO TERMINATE THIS JOB

説明: これは通知メッセージです。/* を用いることは、DTSBATCH 処理を終了させる唯一の方法です。/LOGOFF の前に /* を入力することによって、ただちに /LOGOFF を行わせることができます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: DTSBATCH 処理が完了した時点で、/* を入力してください。
 ユーザーの処置: なし。

K368I INPUT FILE NOT 80 COL IMAGE

説明: 外部ファイルからの /INSERT によるデータのブロック・サイズが、80 バイトの倍数ではありません。部分レコードの内容を断定することはできません。
 システムの処置: 1 ブロックに入っている 80 バイトのイメージと同数のイメージを使用して処理を続行します。部分ブロックも使用しますが、埋め込みは行われません。
 オペレーターの応答: 入力ファイルが、80 バイトの倍数でなくてはならないか調べてください。ブロック化されていない場合には、81 バイトのレコードでも受け入れられます。
 ユーザーの処置: なし。

K369I INSUFFICIENT STORAGE, MEMBER NOT SORTED

説明: 対話式区画が、指定されたメンバーを分類するのに十分な大きさではありません。
 システムの処置: ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: メンバーの大きさを縮小するか、あるいはより大きな対話式区画を使用してください。

K370I FAILURE DURING LOAD OF DTSIGEN, CANCEL

説明: コア・イメージ・ライブラリー中に正しい DTSIGEN テーブルが入っていません。DTSIGEN のリリースまたは版(バージョン)が、別の VSE/ICCF プログラムのものと一致していません。
 システムの処置: VSE/ICCF プログラムを取り消します。
 オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に知らせ、現在インストールされている VSE/ICCF システムから、新たに DTSIGEN テーブルをカタログしてもらってください。
 ユーザーの処置: なし。

K371I /LOGON COMMAND MISSING

説明: 正しくない /LOGON コマンドを入力したか、/LOGON コマンドを入力していません。
 システムの処置: DTSBATCH の処理を中止します。
 オペレーターの応答: DTSBATCH を再度呼び出して、正しい /LOGON コマンドを入力してください。
 ユーザーの処置: なし。

K372I INVALID \$\$FILE STATEMENT

説明: 無効な /INSERT または GETFILE ステートメントが検出されました。\$\$FILE の次のオペランドが正しく指定されていません。
 システムの処置: ユーザーを記録しません。
 オペレーターの応答: ログオン・プロシーチャーを再開してください。正しいオペランドの次に \$\$FILE オペランドを指定して /INSERT または GETFILE コマンドを再入力してください。
 ユーザーの処置: なし。

K373I FAILURE DURING CDLOAD OF DTSFILRT, CANCEL

説明: フェーズ DTSFILRT が VSE/ICCF 実動ライブラリーにないか、または CICS/ICCF 区画で十分な GETVIS ストレージが使用できません。
 システムの処置: VSE/ICCF プログラムを取り消します。
 オペレーターの応答: CICS/ICCF 区画の GETVIS ストレージのサイズを大きくして、VSE/ICCF 実動ライブラリーにフェーズ DTSFILRT が入っていることを確かめるか、またはそのいずれかを行ってください。
 ユーザーの処置: なし。

DTSCDUMP プログラム (K401I - K448I)

ダンプ・プログラム・コマンドへの応答として、以下のメッセージが出される場合があります。

K401I LOAD HI-PTN HI-PHS ORIGIN SCAN****STATUS***

説明: このメッセージは、ダンプ・プログラムの始めと取り消し時に、あるいは STATUS コマンドに対する応答として出されます。実アドレスおよび相対アドレスのメッセージ行が続きます。示されているアドレスは、プログラム・ロード点、区画高位アドレス、プログラム高位アドレス、現在、参照されている区域 (ORIGIN コマンド) のアドレスおよびポインターのスクラン/位置付けのセットです。相対アドレスが表示されない場合は、相対アドレスが現在参照されている区域内にはありません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K402I CSECT ENTERED = xxxxxxxx

説明: メッセージには、ダンプ・プログラムを呼び出す原因となった CSECT の名前が示されています。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K403I ICCF RETURN CODE = xx

説明: このメッセージは、STATUS ダンプ・コマンドが入力された時点で出されます。VSE/ICCF 戻りコードの条件によって、ダンプが呼び出された場合に、このコードが表示されます。このコードの説明については、966 ページの『VSE/ICCF 戻りコード』を参照してください。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K404D ENTER DUMP COMMAND

説明: これは、次のダンプ・プログラム・コマンドを要請する通常のプロンプトです。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 次のコマンドを入力してください。

K405I INVALID DUMP COMMAND

説明: 正しくないダンプ・プログラム・コマンドが入力されました。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 修正したコマンドを入れ直すか、CANCEL を入力して、ダンプ・プログラムを中止させてください。

K406I INVALID OPERAND

説明: オペランドのつづりが正しくないか、その順序が間違っているか、またはその構文が正しくないか、あるいはダンプ・プログラムで使用できない機能呼び出そうとしました。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 修正したコマンドを入れ直すか、あるいは他のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K415I MISSING OPERAND

説明: ダンプ・プログラム・コマンドの必須のオペランドが省略されています。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 修正したコマンドを入れ直すか、あるいは他のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K417I ADDRESS OR SYMBOL NOT IN REFERENCE AREA

説明: プログラム内がないアドレスが指定されたか、あるいは ORIGIN コマンドが出されましたが、アドレスが、現在の参照域内にありません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しいアドレスを指定して、コマンドを入れ直すか、あるいは他のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K418I INVALID ADDRESS OPERAND

説明: アドレス (16 進数による相対アドレス、実アドレス、または '*') でなくてはならないコマンド・オペランドが、正しく指定されていません。オペランドを、上記アドレス・タイプに変換することができません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: オペランドを修正して、コマンドを入れ直すか、あるいは別のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K420I ORIGIN ADDRESS = xxxxxx, REL=xxxxxx

説明: ORIGIN コマンドが受け入れられ、参照域が、メッセージに示されている実アドレスおよび相対アドレスにセットされました。表示されている相対アドレスは、前の ORIGIN からの相対アドレスです。REL= が表示されない場合には、ORIGIN アドレスは、負の相対アドレスになってしまっています。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K421I ADDRESS IS NOT AN INSTR

説明: STATUS INSTR コマンドのアドレス・オペランドは、有効な 370 命令を指してはならないのですが、これが行われていません。これは、指定されているアドレスが、ハードワード境界でないか、あるいは正しい命令コードでないためです。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: オペランドを修正して、コマンドを入れ直す

か、あるいは別のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K422I INVALID DATA OPERAND

説明: 有効なデータ形式でなくてはならないオペランドが、正しくありません。16進数データの場合、データの長さが16桁よりも大きいか、正しい16進数のみで構成されていません。引用符で囲まれた文字データの場合に、長さが正しくありません。正または負の符号で始まる10進数データの場合に、データに正しい10進数以外のものが含まれているか、または長さが正しくありません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: オペランドを修正して、コマンドを入れ直すか、あるいは別のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K423I CANNOT LOCATE DATA -- TOP FORCED

説明: SEARCH または LOCATE コマンドで指定されたデータ文字を、ユーザー・プログラムで位置付けることができませんでした。スキャン/位置付けポインターが、プログラムの始め(または現在のORIGIN参照域)にセットされます。ユーザーが位置付けようとしたデータを越えた位置に、ORIGINがセットされたか、あるいは文字データがアポストロフィで囲まれています。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: コマンドを正しく入れ直すか、あるいは別のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K433I DUMP PROGRAM CANCELED

説明: これは、ダンプ・プログラムを中止させるCANCELダンプ・コマンドに対する応答です。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K434I DUMP PROGRAM ENDED

説明: これは、EOJ または END ダンプ・プログラム・コマンドに対する応答です。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K435I SECOND OPERAND IGNORED

説明: 最初のオペランドは、2番目のオペランドを必要としないものです。2番目のオペランドは無視されます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K436I DUMP LIBRARY FULL OR NOT DEFINED - DUMP NOT SAVED

説明: ダンプ・ライブラリー中の、新しいダンプ・メンバー用フリー・スペースが不足しているか、またはダンプ・ライブラリーが作成または定義されていません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に問題を訂正してもらってください。

K437I PROBLEM WITH DUMP LIBRARY - DUMP NOT SAVED

説明: VSE/ICCF が、ダンプをダンプ・ライブラリーへ書き出すように要請しましたが、これは、以下のいずれかの理由で行うことができませんでした。

- ラベル情報が正しくありません。
- ダンプ・ライブラリー装置がシステムにないか、またはサポートされていないか、あるいは故障中です。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: ダンプ・ライブラリー装置が作動可能であるか、ラベル情報および割り当てが正しいかを確認してください。

ユーザーの処置: ダンプ・ライブラリーへのアクセスができなかったことを、VSE/ICCF 管理者に知らせてください。

K438I END ADDRESS EXCEEDED

説明: スキャン/位置付けポインターを、ユーザー・プログラム域を超える位置にセットしようとしてしました。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しいアドレスでFORWARD/DOWNコマンドを入れ直すか、または別のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K439I HEX VALUE IS xxxxxxxx

説明: これは、HEX、SUB、またはADDダンプ・プログラム・コマンドに対する応答です。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K440I DECIMAL VALUE IS mnn

説明: これは、DECダンプ・コマンドに対する応答です。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K441I ACTUAL=xxxxxx REL=xxxxxx

説明: このメッセージは、前に行われた機能に関連する実アドレスおよび相対アドレスを表示しています。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K442I PSW=xxxxxxx...

説明: プログラム・チェック割り込みまたはSTATUS PSW要求に対する応答で、現在のプログラム状況ワードが表示されました。最後の6桁の16進数は、現在の命令アドレスを表

K443I • K448I

しています。PSW は、基本制御 (拡張制御でない) 形式で表示されます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K443I INSTR=xxxxxxx

説明: 表示される命令は、ダンプ中のプログラムの終了点 (またはその近く) にあります。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K444I OPERAND1 CONTENTS=xxx...

説明: プログラム・チェック割り込みが起きたか、あるいは STATUS INSTR コマンドによって、命令のデータ・フィールドの解釈を要求しました。命令のオペランドがレジスターの場合には、レジスターの内容のみが表示されます。命令のオペランドがストレージ参照の場合には、その位置、長さ (適用できる場合) および内容が表示されます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K445I OPRND2 ACT=xxxxxx REL=xxxxxx LEN=xxx CONTENTS=xxx...

説明: このメッセージは、命令のオペランド 2 の実アドレス、相対アドレス、長さ、および内容を表示します。この表示は、保管操作の場合のみ現れます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K446I STORAGE DISPLAY

説明: 16 バイトよりも大きい次のストレージに対する表示が要求されました。この始めには 3 つの 16 進数アドレス、つまりデータの実アドレス、プログラムのロード点からの相対的なデータ・アドレス、および現在の参照域 (ORIGIN) からの相対的なデータ・アドレスが表示されます。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K447I MUST BE EVEN NO. OF HEX DIGITS

説明: データを 16 進形式で指定する場合、バイト全体を形成するためには、偶数個の 16 進数値を指定しなければなりません。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しいアドレス・オペランドを指定して、コマンドを入れ直すか、あるいは別のダンプ・プログラム・コマンドを入力してください。

K448I DUMP xxxxxxxx SAVED

説明: SAVE コマンドにより、対話式区画のダンプがダンプ・ライブラリーへ書き出されました。ダンプ・メンバー名は xxxxxxxx です。

システムの処置: VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 情報/分析を使用して、ダンプ・メンバーを取り出してください。

動的スペース (K450I - K489I)

K450I NO DYNAMIC DISK SPACE AREAS

説明: VSE/ICCF は、動的スペース域を定義しておらず、また初期設定もしていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 照会またはスクラッチ要求を行う前に、必ず、VSE/ICCF が動的スペースを保有して、実行するようにしてください。

K451I I/O ERROR WHILE READING CONTROL SPACE RECORD - CODE=xx

説明: 入出力エラーのために、動的制御情報を読み取ることができません。この原因は以下のコードに示す通りです。11 = ディスク入出力エラー; 12 = レコードが重ね書きされました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に、制御レコードを正しく作り直せるよう VSE/ICCF の再始動を依頼してください。変更されたレコードが制御する特定域の中に割り振られるファイルは、すべて失われることに注意してください。

K452I SPACE CONTROL RECORD HAS BEEN DESTROYED

説明: 入出力エラーのために、動的スペース制御情報を読み取ることができません。この原因は以下のコードに示す通りです。11 = ディスク入出力エラー; 12 = レコードが重ね書きされました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に、制御レコードを正しく作り直せるよう VSE/ICCF の再始動を依頼してください。変更されたレコードが制御する特定区域の中に割り振られるファイルは、すべて失われることに注意してください。

K453I INTERACTIVE PARTITION IS TOO SMALL -- RERUN IN LARGER ONE

説明: GETVIS 域を除く対話式区画のサイズが小さ過ぎます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 大きな対話式区画でジョブを再実行し直すか、または GETVIS スペースを小さく割り振ってください。

K454I OPEN/CLOSE/SCRATCH/CHECKOV/READ VTOC UNSUCCESSFUL -- SYSxxx, RETURN CODE=mmm

説明: SYSxxx に割り当てられたディスクの VTOC に、指示された処置 (OPEN、CLOSE、その他) を実行しようとしているときに、エラーが起きました。特定のエラーは、メッセージに含まれている戻りコードによって示されています。戻りコードの意味は、メッセージ 4n67I の個所に記されています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: この問題を VSE/ICCF 管理者に知らせてください。

K455I FILE DOES NOT MATCH CONTROL RECORD

説明: スクラッチ要求の場合: 動的スペース内にありますが制御レコードで、1 つのファイルに属するものとして正しく示されていないファイルを指定しました。消去要求の場合: 消去するように指定された区域全体が、同じ所有プログラムで、同じ処置のものではありません。

システムの処置: VTOC のファイルで、関連する区域が重複するものはすべて消去され、動的スペースのための制御レコードを、スペースが再び割り振り可能になったことを示すように設定します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K456I FILE NOT DISP=KEEP

説明: 処置が KEEP でないファイルを、消去またはスクラッチしようとしてしました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K457I PURGE NOT PERFORMED

説明: 前のエラーのために、示されているファイル域は、消去されませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

K458I FILE SCRATCHED

説明: 要求されたスクラッチが行われました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K459I USER NOT AUTHORIZED FOR PURGE OPTION

説明: VSE/ICCF 管理者以外のユーザーが、動的スペース中の区域を除去しようとしてしました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に、この要請が出されたことを知らせてください。

K460I PARM CARD OR SERIAL # MISSING

説明: 必要な PARM ステートメントが存在しないか、または存在しても、スクラッチを行うディスクにボリューム通し番号が付いていないため、DTSCRATCH 要求を処理できませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 「VSE/ESA VSE 中央機能 VSE/ICCF 使用者の手引き」に記載されている SCRATCH プロシージャーを使用してください。

**K461I MATCHING FILE CANNOT BE FOUND
 WITHIN DYNAMIC SPACE**

説明: スクラッチするように要求されたファイルが、VSE/ICCF が管理する動的スペース域の中に見つけることができません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: \$SPACE を使用して、スクラッチしようとするファイルの正しいファイル識別名を探してください。

K462I NO LABEL INFO FILE=UIN

説明: スクラッチまたは消去しようとするファイルのためのラベルを見つけることができません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: SCRATCH プロシージャを使って、VSE/ICCF 動的スペース中のファイルをスクラッチまたは除去してください。

**K463I FILE DOES NOT BEGIN/END ON
 CORRECT FBA BLOCK BOUNDARY**

説明: FBA 装置上のファイルまたは区域に対してスクラッチ要求が出されましたが、開始ブロック番号またはブロック数が、16 の倍数ではありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: \$SPACE プロシージャを使って、ファイルまたは区域の正しいエクステントを調べ、スクラッチ要求を再度出してください。

**K479D ENTER TYPE OF DYNAMIC SPACE
 START--WARM/COLD/BYPASS/NORMAL**

説明: VSE/ICCF システム初期設定プログラムが、ユーザーに対して動的スペース域の開始タイプを入力するように要請しています。この要請は、初期設定ジョブ制御で少なくとも 1 つの動的スペース域が見つけれられた場合にのみ出されます。システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: オペレーターの希望に応じて、以下のいずれかの方法で応答してください。

ENTER キー

NORMAL を参照してください。

WARM 可能であれば、動的スペースをすべてウォーム・スタートさせるように要求してください。

COLD すべての動的スペース域の古いファイルは、DISP=KEEP のものも含めてクリアし、動的スペース域全体をコールド・スタートさせるように要求してください。

BYPASS

動的スペースの初期設定をスキップさせるように要求してください。すなわち、VSE/ICCF ユーザーは、動的スペースを使用することができません。

NORMAL

初期設定ジョブ制御で、ウォーム・スタートに指定されている区域は、ウォーム・スタートさせ、初期設定ジョブ制御でコールド・スタートに指定されている区域は、コールド・スタートさせるように要求してください。

ユーザーの処置: なし。

**K480I DYNAMIC FILE SPACE SUCCESSFULLY
 INITIALIZED**

説明: VSE/ICCF 動的ファイル・スペースの初期設定が完了しました。

システムの処置: VSE/ICCF の初期設定を継続します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

**K481I DYNAMIC FILE SPACE INITIALIZATION
 BYPASSED**

説明: 動的スペース域が使用できません。あるいは、メッセージ K479D に BYPASS を、メッセージ K488D に YES を応答しました。

システムの処置: VSE/ICCF 初期設定を、動的ファイル・スペースを使用しないで、続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

**K482I COLD START FORCED FOR CURRENT
 VOLUME. REASON=xxx**

説明: ウォーム・スタート域で、ウォーム・スタートを行えない状態が起きました。これは、以下の理由によります。

004 VTOC レコード中のこの動的スペース・エクステントに関する情報が、VSE/ICCF 初期設定で受け渡された EXTENT 情報に一致しません。

005 ウォーム・スタートされた動的スペースの制御レコードの読み取り時に入出力エラーが生じたか、あるいは制御レコードが重ね書きされ、確認できませんでした。

010 ウォーム・スタート域のファイル (DTSYDYNW) が、VTOC 内に見つかりません。

システムの処置: 区域をコールド・スタートします。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

**K484I DYNAMIC SPACE AREA TOO LARGE,
 DEFAULT TO MAXIMUM**

説明: 動的ディスク・スペース域の各エクステントの最大のサイズは、カウント・キー・データ方式 (CKD) 装置では 7200 トラック、固定ブロック方式 (FBA) の装置では 16 個の物理ブロックが 7200 個分です。エクステントのサイズがその最大数よりも大きくなっています。

システムの処置: CKD エクステントの始めの 7200 トラックを使って、あるいは FBA エクステントの始めの 7200 個の 16 ブロック単位を使って、VSE/ICCF 処理を続行します。

オペレーターの応答: 動的ディスク・スペース域の定義を修正できる VSE/ICCF 管理者に知らせてください。

ユーザーの処置: なし。

**K486I DYNAMIC FILE SPACE CANNOT BE
INITIALIZED--REASON CODE=mmm**

説明: 以下のいずれかの理由で、VSE/ICCF の動的スペース域を初期設定できません。

- 001** DTSDYNC および DTSDYNW ファイルのファイル・ラベル情報のエクステントの合計数が 9 よりも大きい。
- 002** DTSDYNW または DTSDYNC のタイプが、DLBL ステートメント上で DA ではありません。
- 003** DLBL の形式が認識できません。DTSDYNW および DTSDYNC ファイルには、DLBL および EXTENT ステートメントのみが使用可能です。さらに、これらのファイル名を新しいプログラムのどのオープンでも参照してはなりません。
- 006** 動的スペース制御レコードの書き出し中に、入出力エラーが起きました。
- 007** DTSDYNC または DTSDYNW ファイルのエクステントがシステム論理装置を参照しています。有効な論理装置番号は SYS000 から SYS240 までです。
- 008** DTSDYNC または DTSDYNW で重複するファイルとして 2 つのエクステントが見つかりました。2 つのファイルは、互いに重複していないかどうか調べられます。
- 009** DTSDYNC および DTSDYNW のファイル識別名が同じであり、2 つのファイルは、同じディスク上にエクステントを持ちます。
- 011** 所定のディスク上のすべてのエクステントのプログラマー論理装置が同じではありません。
- 012** // EXTENT ステートメントで指定された通し番号のボリュームに、エクステントがありません。
- 030** GETVCE 機能から戻りコードを受け取りました。
- 031** OVTOC/CVTOC から戻りコードを受け取りました。
- 032** LABEL から戻りコードを受け取りました。
- 033** PVTOC から戻りコードを受け取りました。
- システムの処置: 処理を続行して、メッセージ K488D を出します。
- オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に依頼して VSE/ICCF の動的スペースを使用する必要があるかどうかを決めてもらい、さらにエラーの訂正方法について助言を求めてください。

LINKGO プログラム (K601I - K623I)

以下のメッセージは、オブジェクト・デックに誤りがあることが検出された条件に関するものです。有効な実行を保証するためには、誤りのあるオブジェクト・モジュールを作成したプログラムまたはサブプログラムを再アセンブルし、結果のオブジェクト・モジュールで誤りのあるオブジェクト・モジュールを置換してください。エラーが再発する場合、VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

K601I INPUT CARD NOT RECOGNIZED

説明: 入力ストリーム中のステートメントが、正しい制御ステートメントまたは目的ステートメントではありません。正しい制御ステートメントは PHASE、INCLUDE、ACTION、ENTRY、および CATALR です。キーワードは、2 桁目以降に指定され、前後に 1 桁または複数桁のブランクが必要です。

ユーザーの処置: なし。

**K487I ERROR OCCURRED WHILE PROCESSING
extent information**

説明: エラーの生じた区域の位置を突き止められるように、エラーが検出された時に処理中であったエクステントについて、以下の情報が提供されます。

1. 処理中であった DLBL ステートメントのファイル名
2. 最も関連のあるエクステントのエクステント番号 (0 から
の相対番号)
3. ディスクの通し番号

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

**K488D CONTINUE WITHOUT DYNAMIC SPACE?
YES/CANCEL**

説明: 動的スペースを利用して VSE/ICCF の初期設定を続行することを不可能にする重大エラーが起きました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 動的スペースなしで VSE/ICCF の初期設定を続けるには YES、初期設定を停止させるには 'CANCEL' と応答してください。

ユーザーの処置: なし。

**K489I RETURN CODE FROM SYSTEM
FUNCTION = mmm**

説明: システム機能から 0 以外の戻りコードを受け取りました。このメッセージには特定の戻りコードが示されます。要求された機能は、メッセージ K486I の戻りコードの項に示されています。システム戻りコードについては、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」(セクション『VSE/拡張機能コードおよび SVC エラー』)の『VSE/拡張機能戻りコード』を参照してください。

システムの処置: システムは、メッセージ K487I および K488D を出します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

正しい目的ステートメントは、1 桁目に 16 進数の 02 が指定されており、2 桁目から 4 桁目には、

TXT、ESD、REP、RLD、END、または SYM が指定されます。VSE/ICCF では、*REP ステートメントも有効です。

システムの処置: エラーのあるステートメントをメッセージの前に印刷して、このステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

K602I • K612I

ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

K602I INVALID CARD IN OBJECT MODULE

説明: オブジェクト・モジュール内に制御ステートメントが見つかりました。オブジェクト・モジュールを指定している最初のステートメント (ESD) とオブジェクト・モジュールの最後のステートメント (END) の間には、正しい目的ステートメント (メッセージ K601I を参照) だけを入れます。
システムの処置: エラーのあるステートメントをメッセージの前に印刷して、このステートメントを無視します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: ステートメントを無視されたくない場合には、ステートメントを修正して、ジョブの再サブミットをしてください。

K603I ACTION CARD INVALID

説明: ACTION ステートメントにパラメーターがないか、正しくないパラメーターがあります。あるいはそのステートメントの処置が正しくありません。ACTION ステートメントは処理される最初の制御ステートメントとし、LINKNGO プログラムへの入力では、一度しか使用できません。
システムの処置: エラーのあるステートメントをメッセージの前に印刷して、このステートメントを無視します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

K604I PHASE CARD PREVIOUSLY PROCESSED

説明: 2 番目の PHASE ステートメントが見つかりました。複数フェーズ・プログラムは処理できないので、ローダーの入力としては、ただ 1 つの PHASE ステートメントしか使用できません。
システムの処置: 追加の PHASE ステートメントを無視します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K605I INVALID PHASE CARD

説明: PHASE ステートメントにエラーがあるか、その順序が正しくありません。PHASE ステートメントが有効であると見なされるためには、どのオブジェクト・モジュールよりも前にそれが読み取られなくてはなりません。
システムの処置: PHASE ステートメントを無視します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: なし。

K606I SVA PARAMETER IGNORED

説明: PHASE ステートメントに SVA が指定されていました。
システムの処置: SVA オプションを無視して、PHASE を対話式区画にロードします。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: フェーズを SVA に入れたい場合には、SUBMIT 機能を使って、VSE 区画で関係を行ってください。

K607I SUBMODULAR LINK INVALID-- IGNORED

説明: オブジェクト・モジュールから 1 つまたは複数の制御セクションを選択して組み入れようとしたが、これは LINKNGO プログラムではサポートされていません。
システムの処置: プログラムを完全なものとするために、オブジェクト・モジュール全体を組み込みます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: VSE リンケージ・エディターでリンク・エディットされるように、ジョブをバッチ区画にサブミットしてください。

K608I INVALID MODNAME

説明: 組み込みもうとするモジュールの名前の長さが、8 文字よりも大きくなっています。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: ステートメントのモジュール名を修正し、ジョブの再サブミットをしてください。

K609I *name* INCLUDE MEMBER NOT FOUND

説明: /INCLUDE ステートメントにメンバー '*name*' が指定されましたが、このメンバーがタイプ OBJ のメンバーの探索チェーンで指定されたライブラリーに入っていないか、または検索チェーンが CICS/ICCF 区画で定義されていません。
システムの処置: /INCLUDE をスキップします。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: 次回の VSE/ICCF 始動時までに、タイプ OBJ のメンバーの探索チェーンに必要な定義を VSE/ICCF 管理者に依頼してください。

K610I ENTRY CARD INVALID

説明: プログラムの入り口点として用いられる名前が、9 文字以上となっているか、あるいはこれが最初の ENTRY ステートメントではありません。
システムの処置: そのステートメントは無視されます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: ENTRY ステートメントを修正して、ジョブを再サブミットしてください。

K611I *esdname* INVALID ESD TYPE

説明: この ESD 名のタイプ・コードは認識されていません。
システムの処置: ESD 項目を無視します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: K6xx メッセージの始めて説明した処置を行ってください。

K612I DUPLICATE ESID NUMBER

説明: このエラーは、ESD ステートメントが重複しているため、あるいは END ステートメントがないために、ESID 番号がすでに処理されている場合に起こります。
システムの処置: ステートメントを無視しますが、END ステートメントがないためにエラーが起きた場合には、この結果作られるプログラムは正しくありません。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: K6xx メッセージの始めて説明した処置を行ってください。

K613I INVALID ESID NUMBER

説明: オブジェクト・モジュールまたは目的デッキにおいて、ESD レコードが順序通りではありません。

システムの処置: ステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: K6xx メッセージの始めて説明した処置を行ってください。

K614I INSUFFICIENT STORAGE

説明: プログラムを使用可能なストレージ域に収容することができません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: GETVIS 域を、必要最小限度まで小さくするか、プログラムのサイズを小さくして使用可能な区域に収まるようにするか、あるいはより大きな対話式区画でプログラムを実行してください。

K615I NO VALID INPUT TO LINKNGO

説明: LINKNGO で、完全なオブジェクト・モジュールが処理されませんでした。これは、原始コードに重大エラーがあったためにコンパイラーが目的デッキを作成しなかった場合か、あるいは LINKNGO が、完全なオブジェクト・モジュールにならない入力ステートメントを無視した場合に生じます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: このメッセージに先立って、診断メッセージが出されていない場合には、穿孔域が空である理由を調査して、必要な修正を行ってください。

K616I ESID NOT PREV PROCESSED

説明: 目的ステートメントが順序通りになっていないか、あるいは前に ESD ステートメントが無視されました。

システムの処置: ESID 番号を含むステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: K6xx メッセージの始めて説明した処置を行ってください。

K617I INVALID ESID NUMBER IN REP CARD

説明: REP ステートメントで指定した識別番号が、制御セクションを表していません。

システムの処置: REP カードを無視します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: アセンブラー・リストの外部記号ディクショナリーから、制御セクションの正しい識別番号を知った上で、REP ステートメントの識別番号を修正してください。

K618I INVALID REP CARD

説明: REPLACE ステートメントが必要な形式に合っていないか、あるいは 5 から 71 桁目に正しくない 16 進数があります。このエラーは、REPLACE ステートメント (*REP) が、オブジェクト・モジュール内にも起こることがあります。

システムの処置: REP ステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: K6xx メッセージの始めて説明した処置を行ってください。

K619I name DUPLICATE ENTRY NAME

説明: ロードされたプログラムにおいて、参照された名前が 2 つ以上の制御セクションで入り口点として使われています。これは、オブジェクト・モジュールが 2 度、穿孔ファイルに作成されたか、同じ名前の 2 つの別なプログラムが共に連続編集されたか、あるいはサブルーチン全体およびサブルーチンの一部が必要なために起こりました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 通常、ユーザー・プログラム内の名前を変更するか、あるいはプログラムを 1 個だけ穿孔ファイルに出力することによって、この問題を解決することができます。

K620I OBJECT MODULE INCOMPLETE--END MISSING

説明: END ステートメントが読み取れず、次のレコードの読み取りで、ファイルの終わりが検出されました。これは通常、前のコンパイルまたはアセンブリーが取り消されたために、目的デッキの一部が穿孔域に残った場合に起こります。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: コンパイルし直して、ジョブを再サブミットしてください。K6xx メッセージの始めて説明した処置を行ってください。

K621I ENTRY NAME NOT FOUND

説明: ENTRY ステートメントが処理されましたが、ロードされた制御セクションに、この名前の入り口点がありません。

システムの処置: プログラムの最初の入り口名に制御権を渡します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: このステートメントを無視されたくない場合には、ENTRY ステートメントを修正して、ジョブを再サブミットしてください。

K622I I/O ERROR

説明: 入出力エラーが検出されました。このメッセージの前にプログラム・ダンプの一部が示されていますが、これはこのエラーに関するチャンネル制御ブロック (CCB) のダンプです。

システムの処置: 処理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: ダンプ情報を保管して、VSE/ICCF 管理者に知らせてください。

K623I mmmmmn RETURN CODE FROM GETVCE

説明: SYSRES 装置のための GETVCE によって、0 以外の戻りコードが戻されました。

システムの処置: 処理を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

DTSPROCS プログラム (K701I - K713I)

以下のメッセージは手順 (CLIST) 処理プログラムによって出されます。

K701I THIS PROGRAM ONLY RUNS UNDER ICCF

説明: DTSPROCS プログラムを「通常」の (つまり、VSE/ICCF でない) VSE 区画で実行しようとしてしました。
 システムの処置: プロシージャーを取り消します。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

K702I DTSPROCS PROGRAM LOGIC ERROR -II

説明: このメッセージは、&&OPTIONS 副指令のオプション C がセットされない場合にだけ、表示されます。
 システムの処置: 実行を続けます。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: エラー・コードを書き留め、実行中のプロシージャーおよび指定されたパラメーターをリストして、この情報を VSE/ICCF 管理者に提供してください。

K703I CLIST MAY NOT EXECUTE ANOTHER CLIST

説明: プロシージャーが、別のプロシージャーを呼び出すために、プロシージャー・プロセッサを要求しました。プロシージャーでほかのプロシージャーを呼び出すことはできません。
 システムの処置: プロシージャーを取り消します。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: 別のプロシージャーに対して明示的な呼び出しを行わないで、呼び出しプロシージャーに別のプロシージャーのコードを入れてください。

K704I INVALID ORDER, LAST OPERAND SCANNED=xxxxxxx

説明: 正しくないプロシージャー用副指令 (&&IF、&&SET、など) が見つかりました。エラーが見つかったときにスキャンされていた最後のオペランドが、メッセージに表示されます。
 システムの処置: 正しくない副指令を無視します。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: エラーのある副指令を修正してください。プロシージャーを実行し直してください。

K705I TOO MANY LOOPS OR GOTO ORDERS

説明: プロシージャー内で起こるブランチ (&&GOTO 副指令) が多過ぎます。デフォルトの制限値は 150 で、これは &&MAXLOOP 副指令 (オーダー) を使って変更することができます。
 システムの処置: &&GOTO 副指令に続くステートメントをすべて読み飛ばします。プロシージャーを中止させます。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: このメッセージは、プロシージャー中に非終止のループ (論理エラー) があることを示す場合もあります。非終止ループでない場合には、ループの最大数を大きくするかプロシージャーを作り直してください。

K706I LABEL COULD NOT BE LOCATED, OR GOTO -LABEL WAS LAST LINE

説明: &&GOTO 副指令 (オーダー) 内のラベルを、プロシー

ジャー内で論理的に &&GOTO 副指令に続く &&LABEL 副指令で見つけることができません。あるいは負のラベルをもつ &&GOTO ステートメントが、プロシージャーの最後のステートメントでした。

システムの処置: &&GOTO 副指令に続くステートメントをすべて読み飛ばします。プロシージャーを中止させます。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: 適切な &&LABEL 副指令がプロシージャー内にあるか、およびプロシージャーにおいて、この副指令が &&GOTO 副指令の前にある場合は、&&GOTO 内のラベルの前に負符号があるかを確認してください。

K707I VALUE MUST BE NUMERIC, RE-ENTER

説明: プロシージャーは数値を入力するように要求しましたが、入力されたデータは数値ではありませんでした。数値による応答あるいは取り消し要求だけが受け入れられます。
 システムの処置: 正しい応答を待ちます。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: プロシージャーを検査してください。数値を入力して続行するか、プロシージャーを取り消してください (/CANCEL または PA2 キー)。

K708I CURRENT LINE POINTER NOT AVAILABLE

説明: エディターの現在の行を示す変数 (&&CURLN) との比較を要求しましたが、プロシージャー処理プログラムは、エディターの現在の行を見つけることができません。
 システムの処置: &&IF 副指令を無視します。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡し、ライブラリー中のチェーニング上の違反の検査を依頼してください。プロシージャーを実行し直してください。

K709I INVALID PLACEMENT OR USAGE

説明: &&MAXLOOP 副指令は、プロシージャー中の最初のラベル (&&LABEL) または &&GOTO 副指令の前でしか出せません。
 システムの処置: &&MAXLOOP 副指令を無視します。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: &&MAXLOOP 副指令を、最初の &&LABEL 副指令より前に置いてください。プロシージャーを実行し直してください。

K710I EDIT ZONE INVALID OR TOO SMALL FOR COMPARE

説明: 現在の編集区間が、比較のために要求された長さより短いので、&&CURLN (最小) 変数と比較することができません。m=0 の場合にだけ、このメッセージが表示されます。
 システムの処置: &&IF 副指令を無視します。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: 編集区間をセットするか、あるいは &&CURLN 変数を修正してください。プロシージャーを実行し直してください。

K711I FLUSHED statement

説明: /PEND が指定されていたかデフォルトになっていたときに (/PEND 制御ステートメントまたは MULTEX=NO によって)、プロシージャ内で、/RUN または EXEC 要求の後で、データ、コマンドまたは副指令 (オーダー) が見つかりました。

システムの処置: プロシージャ中の残りのステートメントすべてを無視します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡して、MULTEX オプションの設定について検査してください。/PEND 状態を起こしたくない場合には、&&OPTION 副指令にオプション 'e' を設定して、プロシージャを再実行してください。

K712I /LOGOFF COMMAND INVALID

説明: /LOGOFF コマンドが、プロシージャ内では使用できないのに、プロシージャ内で見つかりました。このメッセージは、&&OPTION のオプション 'C' がセットされなかった場合にのみ表示されます。

ICCF トランザクション・プログラム (K751I - K799I)

K751I INSUFFICIENT GETVIS SPACE AVAILABLE. SYSTEM ACTION: x

説明: 端末管理または対話区画に、端末関連の VSE/ICCF 制御情報に必要なストレージを割り振るための GETVIS スペースが不足しています。(1 端末につき約 1.6KB 必要です。)

システムの処置:

- A** 現行のトランザクションは異常終了し、システムは稼働を続行します。
- B** 現行のトランザクションは、切り縮められた入力とともに実行中のプログラムに復帰します。
- C** メッセージ・トランザクションを始動できるだけのストレージが不足しているため、自動表示について未処理のメッセージは表示されません。通常の処理を続行します。

オペレーターの応答: より大きい GETVIS スペースの CICS/ICCF 区画への割り振りをシステム・プログラマーに依頼してください。

ユーザーの処置: なし。

K752I NO TCTUA, LOGIC ERROR, OR WRITE TO NON-ICCF TERMINAL

説明: 次のいずれかの状態です。

- 端末管理テーブルが壊れました。
- VSE/ICCF 論理エラーが起きました。
- 内部 VSE/ICCF トランザクション・コードが端末から誤って入力されました。
- VSE/ICCF 以外のユーザー ID で /SEND コマンドが出されました。

システムの処置: 現行のトランザクションを異常終了します。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF の使用に予約されたトランザクション ID (I\$\$1-I\$\$9, I\$\$P, および I\$\$Q) を使用しないでください。これらの ID の詳細については、「VSE/ICCF

システムの処置: /LOGOFF コマンドを無視します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: プロシージャから /LOGOFF コマンドを取り除いてください。プロシージャへの呼び出しを VSE/ICCF マクロに組み入れて、プロシージャから戻った後で、/LOGOFF コマンドをこのマクロで使ってください。

K713I PHASE phasename AND phasename LEVEL MISMATCH, CANCEL

説明: 名前がメッセージの最初に示されている再入可能なフェーズと、その次に示されている対応する再入不可能なフェーズが、同じアセンブリー・レベルにありません。

システムの処置: 対話式区画のジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。再入可能なフェーズが SVA にあり、アセンブリー・レベルが正しくない場合には、正しいフェーズをシステム・ライブラリーにカタログしてください。次の IPL 時に、そのフェーズを SVA にロードしてください。

Administration and Operation」の CICS 要件の項を参照してください。

K753I INVALID TRANS. ID, PROG TABLE ERROR

説明: プログラム・テーブルに DTSICCF トランザクション・プログラムを指し示す正しくないトランザクション識別名が入っています。

システムの処置: 現行のトランザクションを異常終了します。

システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡して、プログラム・テーブルの修正を依頼してください。

K754I INVALID USE OF I\$\$ TRANSACTION, TCTUA DESTROYED OR WRITE TO NON-ICCF TERMINAL

説明: 一般に K752I と同じです。

システムの処置: 現行のトランザクションを異常終了します。

システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF の使用に予約されたトランザクション ID (I\$\$1-I\$\$9, I\$\$P, および I\$\$Q) を使用しないでください。これらの ID の詳細については、「VSE/ICCF Administration and Operation」の CICS 要件の項を参照してください。

K755I YOU ARE BEING LOGGED OFF BY SYSTEM OPERATOR OR BY A CICS TIME OUT

説明: コンソール・オペレーターが、指定した端末に対して /DISCONN コマンドを出したか、または CICS 'AICA' 異常終了が起きました。

システムの処置: ユーザーをログオフして、処理を続行して

ださい。ユーザーは、再度ログオンすることができます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K757I BUFFERED DEVICE HAS TOO SMALL A PHYSICAL BUFFER

説明: バッファ機構付き装置には、少なくとも 400 文字の受信バッファが必要です。

システムの処置: 現行のトランザクションを異常終了します。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: この端末を VSE/ICCF で使用しないでください。

K758I INSUFFICIENT CICS STORAGE

説明: ICCF トランザクションは、端末出力バッファ領域を取得する試みを 30 秒間繰り返しましたが、得られませんでした。CICS システム用に割り振られた動的ストレージが小さ過ぎるものと考えられます。

システムの処置: ユーザーを強制的にログオフします。ハードコピー印刷装置を作動させるのに十分なストレージがない場合には、残りの印刷データを無視して、印刷トランザクション (I\$S6) を終了させます。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡し、CSD のトランザクション定義を訂正してもらってください。

K759I INSUFFICIENT TWA AREA FOR ICCF

説明: VSE/ICCF トランザクション・コードのいずれかに関するプログラム管理テーブル中の、指定されたトランザクション作業域が小さ過ぎます。

システムの処置: 現行のトランザクションを異常終了します。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡して、プログラム管理テーブルを訂正してもらってください。

K760I INVALID BUFFER SIZE IN TCT - xxxx

説明: 端末管理テーブルに含まれている、328x 印刷装置のバッファ・サイズの値が無効です。VSE/ICCF がサポートするバッファ・サイズは、1920、2560、3440、および 3564 です。

システムの処置: 印刷要求を無視し、印刷装置トランザクション (I\$S6) を終了させます。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 別のハードコピー印刷装置を使用してください。

K761I INSUFFICIENT TCTTE USER AREA FOR TCT - xxxx

説明: 端末識別名 xxxx の端末の端末管理テーブル項目に指定したユーザー域が小さ過ぎます。システムは処理を続行します。

システムの処置: 現行のトランザクションを異常終了します。

印刷装置トランザクション (I\$S6) が終了する場合、印刷の対象となるデータは失われます。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡して、端末定義を訂正してもらってください。

K762I INVALID PRINTER DEVICE TYPE, TCT - xxxx

説明: ユーザーが、ハードコピー印刷装置として使用しようとした端末識別名 xxxx の端末は、3270 型の装置ではありません。

システムの処置: 印刷要求を無視し、印刷装置トランザクション (I\$S6) を終了させます。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 別のハードコピー印刷装置を使用してください。

K764I TERMINAL OR LINE ERROR, TCT = xxxx

説明: CICS のバッファ読み取り要求時に、端末の入出力エラーが起きました。

システムの処置: メッセージの表示を延期して、通常のトランザクション処理を再開します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡して、端末が正しく定義されているかどうかを調べてもらってください。

K765I INVALID SCREEN SIZE IN TCT - xxxx

説明: 端末識別名 xxxx の端末の端末管理テーブル項目に、画面のサイズに対する正しい値が入っていません。VSE/ICCF がサポートする画面のサイズは、(24,80)、(32,80)、(43,80)、および (27,132) です。

システムの処置: 現行のトランザクションを異常終了します。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 別の端末から VSE/ICCF にログオンしてください。VSE/ICCF 管理者に連絡して、端末管理テーブルを変更してもらってください。

K766I INCONSISTENT SCREEN SPECIFICATION FOR TRANSACTION =xxxx TRMID=yyyy

説明: VSE/ICCF トランザクションの PROFILE 項目が指定されましたが、一部のものは SCRNSIZE=DEFAULT で指定され、他のものは SCRNSIZE=ALTERNATE で指定されています。他の VSE/ICCF トランザクションと異なる指定を持つことができるトランザクションは、I\$S5 および I\$S6 だけです。TRANSACTION=xxxx は、失敗したトランザクション、TRMID=yyyy は、対応する端末 ID です。

システムの処置: 現行のトランザクションを異常終了します。システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡して、VSE/ICCF のプロファイル項目を訂正してもらってください。

K768I ANOTHER ICCF TRANSACTION ACTIVE FOR THIS TERMINAL, TERMID=xxxx

説明: ある VSE/ICCF トランザクションが端末で活動しているときに、別のトランザクションが制御権を受け取りました。これは、

/DISC {DTSFILE|USER|TERM}

コマンドが受け渡された後に起きると考えられます。

システムの処置: VSE/ICCF は後者のトランザクションを打ち切ります。

オペレーターの応答: 活動トランザクションを除去するには、以下を行ってください。

- はじめに、CEMT INQUIRE TASK コマンドを出して、トランザクションが現在も活動状態であるかどうかを調べてください。
- 次に活動トランザクションを除去してください。

ユーザーの処置: 入力した最後のコマンドが長時間にわたる実行機能を要求したときは、コマンドの実行には、通常よりも多くの時間を要することがあります。まだ端末にハードウェア問題があると思われるときは、CICS オペレーターに活動トランザクションの除去を依頼してください。

K782I ICCF IS NOT ACTIVE

説明: ユーザーが VSE/ICCF にログオンしようとしたが、VSE/ICCF はまだ、活動化されていません。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF が開始されるまで待ってください。

K783I INTERNAL SUBSYSTEM ERROR FOR TRMID=xxxx

説明: CICS トランザクションが、VSE/ICCF 機能を使用しようとしたが、データの通信が失敗しました。または、トランザクションが、サブシステム状況をシステムに連絡することができませんでした。xxxx は、障害のあるトランザクションを延期させます。

システムの処置: 現在のトランザクションを延期させます。

システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF 管理者に、エラーの調査および修正を依頼してください。

ユーザーの処置: なし。

K784I /DISC DTSFILE CMD NOT COMPLETED**VSE/ICCF スケジューラー・プログラム (K803I - K893I)**

以下のメッセージは、ジョブ・スケジューラーが対話式区画で実行中にジョブ入力ステートメントを処理するときに出されます。VSE/ICCF ジョブ・ストリームが、VSE/POWER (SUBMIT 手順) を用いてバッチ・サブミット用にサブミットされるときにも、同じメッセージが出されることがあります。メッセージ K803I から K829I の詳細については、966 ページの『VSE/ICCF 戻りコード』を参照してください。

DUE TO ACTIVE ICCF TRANSACTIONS

説明: オペレーターが /DISCONN DTSFILE コマンドを出しましたが、すべての VSE/ICCF トランザクションが終了したわけではありませんでした。これは、多数のユーザーがログオンされたか、あるいは誤動作が起こったことによるものです。

システムの処置: 端末ユーザーのログオフを続行します。

オペレーターの応答: CICS コマンドの CEMT INQ TAS を使って、システム中の活動タスクを随時表示してください。

VSE/ICCF トランザクション ICCF の I\$\$1 から I\$\$4、I\$\$7 から I\$\$9、および I\$\$P の 1 つまたは複数がなくなる場合には、CICS オペレーター・コマンド CEMT SET TASK (...) PURGE を使用してページしてください。

何人の VSE/ICCF ユーザーがまだログオンされているかを知りたい場合には、/USER オペレーター・コマンドを出してください。/DISCONN USER/TERM コマンドを使ってユーザーを除去することができます (表示画面で **** になっているユーザー ID は、該当するユーザーがログオン中で、ユーザーが不明であることを示します。除去するには /DISC TERM コマンドを用いてください)。

注: I\$\$Q を除去してはなりません。除去すると /DISCONN コマンドが、正しく処理できなくなります。

ユーザーの処置: なし。

K785I ICCF LIBRARY DISCONNECTED - LOGON NOT POSSIBLE

説明: オペレーターが、/DISCONN DTSFILE コマンドを出しました。もはや VSE/ICCF のログオンは行えません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K799I DBCS SUPPORT NOT ACTIVE, FAILURE DURING CDLOAD OF xxxxxxxx

説明: フェーズ xxxxxxxx をロードするために CICS/ICCF 区画で使用できる GETVIS スペースが不足しています。

システムの処置: 現行のトランザクションは異常終了し、システムは稼働を続行します。

オペレーターの応答: より大きい GETVIS スペースの

CICS/ICCF 区画への割り振りをシステム・プログラマーに依頼してください。

ユーザーの処置: なし。

K803I INVALID /INCLUDE STATEMENT

説明: メンバー名がないか、または 9 文字以上となっておりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /INCLUDE ステートメントのメンバー名を修正してください。

**K809I UNAUTHORIZED PROGRAM USE,
INVALID ACCESS UNAUTHORIZED
USER****NOT IN PROG TBL**

xxxxxxx NOT IN PROG TBL

説明: ユーザーは、必要な権限が与えられていないにもかかわらず、/LOAD ステートメントを使用してフェーズをロードしようとした。このメッセージは、次のいずれかの理由で出されます。

1. このプログラムは許可プログラムであるが、ユーザーは許可を与えられていない。
2. ユーザーのセキュリティ・レベルが問題のプログラムには十分ではない。
3. ユーザー・プロファイルは、VSE/ICCF プログラム・テーブルで定義されているプログラムのみロードを許可しているが、指定のプログラムがこのテーブルになかった。
4. VSE セキュリティが活動状態 (SEC=YES) であるが、ユーザーが制御ファイルまたは DTSECTAB のユーザー定義で定義されていない。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 許可を与えられているユーザーにプログラムの実行を依頼するか、または VSE/ICCF 管理者にプロファイルのセキュリティの変更を依頼してください。

**K810I INVALID OR MISSING /LOAD OR
EXECUTION DID NOT READ TO FILE
END**

説明: ジョブに /LOAD ステートメントがないか、/LOAD ステートメント上に名前がないか、名前が長すぎます。あるいは SYSIPT ファイルの終わりまで読み進まないうちに、ジョブ・ステップが正常に完了しました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /LOAD ステートメントが、正しいオペランドをもつ有効なものであるか確認してください。

**K811I INCLUDED MEMBER NOT IN LIBRARY,
NAME=xxxxxxx**

説明: /INCLUDE に指名されたメンバーが、基本ライブラリーおよびこれに結合されているライブラリーのいずれにも、また共用ライブラリーにもありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: メンバーが正しく指定されているか、またメンバーが入っているライブラリーがアクセス可能であるかを確認してください。

K812I USER IS UNAUTHORIZED FOR**INCLUDED MEMBER, NAME=xxxxxxx**

説明: 専用メンバーに対するユーザー識別名が正しくないか、パスワードで保護されているメンバーに対するパスワードがないか、あるいはメンバーが圧縮されました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 許可されているユーザー ID を使用してジョブを実行するか、あるいは必要なパスワードを入力してください。

**K813I TOO MANY /INCLUDES OR NEST LIMIT
EXCEEDED**

説明: ジョブ・ストリームの解釈時に、256 個の /INCLUDE が見つかったか、あるいは /INCLUDE に対するネストの制限 (8) を超えました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: プロシージャーを使用中の場合には、エラー状態を起こすような論理エラーが入っていないか調べてください。組み込み処理にループ、例えば、メンバー A が /INCLUDE B を含み、メンバー B が /INCLUDE A を含むようなループがないかを確認してください。

K814I SCHEDULER CANCELED BY OPERATOR

説明: ジョブ・スケジューラーに制御権がある時に、/CANCEL コマンドが入力されたか、または 3270 PA2 キーが押されました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

**K820I SYSTEM LIBRARY OR ENQ FACILITY
NOT AVAILABLE**

説明: 単独では、他のプログラムと同時に実行することができないプログラムが、対話式区画において実行のため要求されました。

システムの処置: 対話式区画を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 後で、ジョブを再サブミットしてください。

K828I LOGICAL UNIT ALREADY ASSIGNED

説明: 拒否された /ASSGN ステートメントで指定された論理装置は、他の機能で使用するためにすでに割り当てられています。

システムの処置: システムはメッセージ K842D を出して、応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 指定した論理装置を使用しなければならない場合には、最初にその割り当てを解除して (/ASSGN SYSnnn,UA で)、元の拒否された /ASSGN ステートメントを再度サブミットしてください。

K829I EXECUTION CANCELED DUE TO JOB ENTRY STMT ERROR

説明: ジョブ・ストリームの解釈中に、ジョブの修正または継続を妨げるようなエラーが検出されました。
 システムの処置: ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: このエラーは、通常、前のメッセージに示されます。

K830I CONCURRENT JOB STREAM USE

説明: ジョブ・ストリームまたはジョブ・ストリームに含まれるメンバー (/INCLUDE) で、正しくないレコード・チェーニング状態が認識されました。 /INCLUDE ステートメントによって、ジョブ・ストリームに組み入れられたメンバーがジョブの処理中に、更新、編集、または消去されている場合に最もよく生じるチェーニングのエラーです。これは、次のいずれかが原因で起こります。

- ユーザーが非同期モード状態となり、ジョブ・ストリームに含まれているメンバーを編集しました。
- 実行中に、別のユーザーがメンバーを更新中でした。
- 組み込みメンバーが、入力と出力で同時に使用されていますが (例えば、SORT プロシージャによって)、出力 (穿孔) レコードの数が入力 (読み取り) レコードの数よりも小さいです。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に、DTSANALS の RECOVER 機能を実行するように依頼してください。

K836I INSUFFICIENT PARTITION SIZE FOR ASMA90

説明: 対話型区画が、高水準アセンブラーを実行するには小さ過ぎます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 適切な対話型区画でアセンブリー・ジョブを再度実行してください。

K840I OPTION DUMP REJECTED -- DUMP PROGRAM NOT PRELOADED

説明: /OPTION ステートメントに DUMP オプションが含まれていますが、SVA に DTSCDUMP が見つかりません。

システムの処置: オプションを無視します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡し、SVA に DTSCDUMP をロードしてもらってください。

K841I INVALID JOB ENTRY STATEMENT

説明: ジョブ入力ステートメントとして認識されないステートメントが入力されました。

システムの処置: ステートメントを無視して、システムは正しいステートメントの入力を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しいステートメントを入力するか、または

ENTER を押して、正しくないステートメントを無視してください。

K842D ENTER JOB ENTRY STATEMENTS

説明: /PAUSE ステートメントまたは正しくないジョブ入力ステートメントが見つかりました。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 新しいジョブ入力ステートメントを用意するか、あるいはステートメントを修正してください。 ENTER を押して (データを入力しないで) 応答し、ジョブ入力ステートメントの対話式入力を中止させてください。 ジョブを取り消すには /CANCEL を入れるか PA2 キーを押してください。

K843I INVALID OR MISSING OPERAND NEAR xxxxxxxx

説明: ジョブ入力ステートメントのスキャン中に、無効なオペランドまたはパラメーターの欠落のために無効と思われるオペランドが見つかりました。 メッセージ中の xxxxxxxx は、ステートメントで見つかった最後の 8 文字を示します。

システムの処置: メッセージ K842D を出して、システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しいオペランドの有効なステートメントを用意してください。

K845I /LOAD HAS ALREADY BEEN PROCESSED

説明: /LOAD ステートメントが入力されましたが、前に /LOAD ステートメントが、すでに見つかっています。

システムの処置: メッセージ K842D を出して、システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: ENTER を押して (データを入力しないで) 実行を続けるか、あるいは /LOAD 以外の別のジョブ入力ステートメントを入力してください。

K846I INVALID CONTINUATION, REENTER /FILE AND ABOVE JOB ENTRY STMT

説明: /FILE ステートメントで継続が示されていますが、次のステートメントは、/FILE ステートメントの継続としては無効なものです。

システムの処置: メッセージ K842D を出して、システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しい /FILE 継続ステートメントのあとに、上記のメッセージの前に印刷されているジョブ入力ステートメントを入力してください。

K847I TOO MANY SPECIFIC AREA DESIGNATIONS -- FILE=xxxxxx

説明: ファイル xxxxxx の /FILE ステートメントに、VOLUME、UNIT、または SERIAL パラメーターが 2 つ以上含まれています。 動的スペースの要求では、これらのオペラ

K848I • K854I

ンドの 1 つだけしか許されていません。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: 必要な特定域を要求するのどのオペランドを使用するべきか決めて、それ以外のオペランドは取り去ってください。

K848I INCOMPATIBLE OPERAND VALUES - xxxxxx

説明: /FILE ステートメントに、矛盾するオペランドが指定されています。
システムの処置: メッセージ中の xxxxxx を矛盾したオペランドの組で置き換えます。エラーのある /FILE ステートメントを無視します。メッセージ K842D を出して、システムは正しいジョブ入力ステートメントが入力されるのを待ちます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: システムの行う置き換えが正しいか調べてください。

CISIZE/TYPE

TYPE は順次にセットされます。

BLKSIZE/TYPE

BLKSIZE は無視されます。

SPACE/DATE

保存期間が 0 にセットされます。

SPACE/TYPE

TYPE は順次にセットされます。

LOC/SPACE

SPACE 要求は無視されます。LOCATION が使われます。

CAT/SPACE

CATALOG の指定は無視されます。

K849I FILE NAME MUST BE SPECIFIED

説明: /FILE ステートメントに NAME オペランドがありません。/FILE ステートメントにはすべて、NAME オペランドを指定しなければなりません。
システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続行し、メッセージ K842D を出して、/FILE ステートメントを修正する応答が入力されるのを待ちます。ジョブが非同期的に実行中か、あるいはプロシージャから実行中の場合には、ジョブを取り消します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: /FILE ステートメントを正しく入力し直してください。

K850I SERIAL NUMBER MUST BE SPECIFIED FOR xxxxxx

説明: xxxxxx という VSE ファイルの /FILE ステートメントに、ボリューム通し番号が入っていません。動的に割り振られたファイル以外のファイルに対する /FILE 要求には、すべて通し番号 (SER=) を入れなければなりません。
システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続けて、メッセージ K842D を出して、/FILE ステートメントの再入力を待ちます。非同期的に実行中か、あるいはプロシージャから実行中の場合には、このジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: 正しいボリューム通し番号を指定した /FILE ステートメントを入力し直してください。

K851I SERIAL NUMBER IS UNAUTHORIZED -- NAME=xxxxxxx

説明: /FILE ステートメントのボリューム通し番号が、VSE/ICCF ファイル・テーブルに入っていません。
システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続けて、メッセージ K842D を出し、修正された /FILE ステートメントが入力されるのを待ちます。ジョブが非同期的に実行中か、あるいはプロシージャから実行中の場合には、ジョブを取り消します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: VSE/ICCF ファイル・テーブルで、現在定義されているボリューム通し番号を指定して、/FILE ステートメントを入力し直してください。通し番号は、ユーザー・プロファイルで使用が許可されているものでなければなりません。必要であれば、VSE/ICCF 管理者に、VSE/ICCF ファイル・テーブルの更新を依頼し、使用しようとするボリュームの通し番号を入れてもらってください。

K852I FILE (ident) IS UNAUTHORIZED -- NAME=xxxxxxx

説明: 識別名 (IDENT=) によって示されるファイルの使用が、許可されていません。
システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続けて、メッセージ K842D を出し、修正された /FILE ステートメントが入力されるのを待ちます。ジョブが非同期的に実行中か、あるいはプロシージャから実行中の場合には、ジョブを取り消します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: 正しい FILEID を入れてください。この FILEID は、それによってアクセス許可されるものでなければなりません。

K853I TOO MANY /FILE STATEMENTS

説明: ジョブに対して指定されたファイルが多過ぎます。対話式区画の実行に使用できるのは、28 以下で固有の、VSE/ICCF ファイル以外の単一エクステンツ・ファイルです。
システムの処置: メッセージ K829I を出して、取り消します。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: /FILE ステートメントの数を減らして、ジョブを再サブミットしてください。

K854I ERROR DURING SPACE ALLOCATION - xx

説明: 動的に割り振られるディスク・スペースに対する要求を処理しようとしているときに、エラーが起きました。エラー・コード (上記の xx) は次のとおりです。
00 前のメッセージにエラーが示されています。
01 動的スペース割り振りが、VSE/ICCF 内に生成されませんでした。

- 02 対話式区画の最も低い位置にある、ファイル情報ストレージ域が壊されました。
- 11 スペース制御レコードの読み取り中に、ディスク・エラーが生じました。
- 12 スペース制御レコードがオーバーレイされました。
- 13 スケジューラーに、論理エラーがあります。
- 14 正しい読み取りを行わずに、制御レコードを書き出そうとしました。
- 15 スペース制御レコードの書き出し中に、ディスク・エラーが生じました。
- システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: エラー・コードに応じて以下のことを行ってください。
- 00 前のメッセージに対する「ユーザーの処置」を参照してください。
- 01 SPACE= パラメーターの使用を避けてください。
- 02 ジョブの前のステップに、区画の最下部のストレージを破壊するような、エラー状態がないか調べてください。
- 11-15 VSE/ICCF 管理者に、次の VSE/ICCF 初期設定中に、動的スペースをコールド・スタートしてエラーを訂正するように依頼してください。

K855I DYNAMIC SPACE ALLOCATION NOT SUPPORTED

説明: VSE/ICCF システムに、動的スペース割り振りオプションがセットされていません。
システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続けて、メッセージ K842D を出し、修正された /FILE ステートメントが入力されるのを待ちます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: 割り振られたファイルを使用する /FILE ステートメントを修正するか、あるいは VSE/ICCF が、動的スペース割り振りについては初期設定されていないことを、VSE/ICCF 管理者に知らせてください。

K856I NO FILE SPACE AVAILABLE, DYNAMIC ALLOCATION TERMINATED

説明: すべての動的ディスク・スペース域が、すでに割り振られているか、あるいは使用可能なスペースが、要求を満たすのに十分な大きさではありません。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
ユーザーの処置: しばらく待ち、再試行してください。

K858I CANNOT FIND SPECIFIC VOLUME - xxxxxx

説明: 動的スペース割り振りが要求され、特定のボリューム(通し番号、ボリューム番号、または論理装置番号を使用)が要求され、要求の処理では、一時的でないファイル(DISP=KEEP)が指定されていますが、指定されたボリュームが存在しません。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: xxxxxx で示されているボリュームが、正しく指定されているか調べてください。

K859I ALLOCATION FOR xxxxxx - SERIAL=xxxxxx UNIT=SYSnnn LOC=xxx,xxx

説明: このメッセージは、動的ディスク・スペース割り振り要求が正しく完了するたびに表示されます。このメッセージは、ボリューム通し番号、ボリュームに割り当てられる SYSnnn 番号、およびファイルの位置(開始トラック/ブロック、トラック/ブロック数)によって、名前が表示されているファイルの位置を示しています。

システムの処置: 示されている割り振りで、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: これが永続(DISP=KEEP)ファイルの場合には、後の使用に備えて位置(LOC=)を記録しておいてください。指定される FBA ブロック数は、要求されるスペース単位の 16 倍です。例えば、10 単位が要求された場合、割り振られる FBA ブロックの数は 160 です。

K860I TYPE=ICCF FILE NOT IN LIB, NAME=xxxxxxxx

説明: TYPE=ICCF を指定した /FILE 要求に示されている名前が、基本ライブラリー、結合ライブラリー、およびシステム共有ライブラリーのいずれにもありません。

システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続けて、メッセージ K842D を出し、修正された /FILE ステートメントが入力されるのを待ちます。ジョブが非同期的に実行中か、あるいはプロシージャーから実行中の場合には、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: ライブラリーが結合されているか、または名前の指定が正しいかを確認してください。

K861I TYPE=ICCF NO ACCESS TO MEMBER, NAME=xxxxxxxx

説明: TYPE=ICCF /FILE 要求で指定されたメンバーが、現在、更新中であるか、ユーザーのメンバーでないか、パスワード保護がなされているか、または圧縮されたメンバーであるかのいずれかです。

システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続けて、メッセージ K842D を出し、修正された /FILE ステートメントが入力されるのを待ちます。ジョブが非同期的に実行中か、あるいはプロシージャーから実行中の場合には、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 許可されている場合には、更新処置中なので、ジョブは後で実行しなければなりません。許可されていない場合には、許可されているユーザーがジョブを実行し直さなければなりません。圧縮されているメンバーの場合には、/INSERT コマンドを使って解凍してから、SAVE または REPLACE コマンドを使い、解凍された形で更新してください。

K862I TOO MANY TYPE=ICCF FILES

説明: 1つのジョブ・ステップに対する TYPE=ICCF 入力ファイルの指定が多過ぎます。指定できる最大数は2です。
 システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続けて、メッセージ K842D を出し、修正された /FILE ステートメントが入力されるのを待ちます。ジョブが非同期的に実行中か、あるいはプロシージャーから実行中の場合には、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: TYPE=ICCF が必要な場合、ジョブ・ステップごとに2つだけを指定して、処理されなかった /FILE ステートメントを別に実行しなければなりません。

K863I USER UNAUTHORIZED FOR PERMANENT SPACE

説明: 永続ファイル・スペースを確保しようとしたが、ユーザー・プロファイルは、DISP=KEEP を指定できないことを示しています。

システムの処置: デフォルトのファイル処理である DELETE を適用し、処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: DISP=KEEP が必要な場合には、DISP=KEEP が指定できるように、VSE/ICCF 管理者に、ユーザー・プロファイルの変更を依頼してください。

K864I PRE-ALLOC'D FILE AVAILABLE FOR filename

説明: IJSYS01、2、3、または4の動的割り振りが出されましたが、指定されているデータ・セット用にあらかじめ割り振られている区域が使用できます。

システムの処置: 要求を無視し、事前に割り振られた区域を使います。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K865I SPACE LOCATION OVERLAPS CTRL REC filename

説明: LOC= (LOCATION) パラメーターで要求している位置が、動的スペース割り振り域制御レコードと重複するような、/FILE ステートメントが見つかりました。

システムの処置: システムは /FILE ステートメントを無視して、メッセージ K842D を出して、正しい /FILE ステートメントが入力できるようにします。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: LOC= の指定を修正して、/FILE ステートメントを入力し直してください。

K866I TYPE=ICCF FILE INVALID SYS NO.

説明: /FILE ステートメントの UNIT= パラメーターに、動的スペース域の位置指定に使用するプログラマー論理装置があります。

システムの処置: システムは /FILE ステートメントの分析を続けて、メッセージ K842D を出し、修正された /FILE ステートメントが入力されるのを待ちます。ジョブが非同期的に実

行中か、あるいはプロシージャーから実行中の場合には、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: UNIT= パラメーターを、動的スペース装置と矛盾ないように修正して、/FILE ステートメントを入力し直してください。\$SPACE コマンドを使用して、どれが動的スペースであるかを調べてください。

K867I GETVIS SET TO nnnK

説明: /OPTION ジョブ入力ステートメントの GETVIS オプションが、処理されました。GETVIS 域のサイズは、指定された値、あるいは48KまたはP-20K (Pは区画のサイズです)のデフォルトの値にセットされます。

システムの処置: メッセージに示された値で処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K868I GETVIS REQUEST CONFLICTS WITH PARTITION SIZE

説明: 区域には、GETVIS 要求を満たすだけの使用可能なスペースが不足しています。

システムの処置: メッセージ K842D を出して、ユーザーの応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しい GETVIS オプションを指定して、/OPTION ステートメントを入力し直してください。

K870I GET QUEUE FACILITY CANNOT BE INITIALIZED FOR THE FOLLOWING REASON: After the above message, one of the following texts is displayed:

a.VSE/POWER IS NOT ACTIVE

b.IT'S NOT RUNNING IN AN ICCF INTERACTIVE PARTITION

c.THE RECORD FORMAT OF THE REQUESTED VSE/POWER QUEUE ENTRY CANNOT BE HANDLED

d.INPUT DID NOT ORIGINATE FROM 'GETL' | 'GETP' | 'GETR' PROCEDURE

説明: 正しく GETQ 初期設定を行うための前提条件のいずれかが、満たされていません。

システムの処置: 処理を中止させ、GETL、GETP、または GETR を中止させて端末をコマンド・モードにします。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置:

- VSE/ICCF 管理者に VSE/POWER の初期設定を依頼してください。
- プログラムはバッチでは実行できず、対話式区画でだけ使用できます。
- DTSGETQ は要求されたサイズのレコードを処理できません。この VSE/POWER キュー項目は、取り出すことができません。
- GETL、GETP、または GETR プロシージャーと共にのみ DTSGETQ を使用してください。

K871D *nnnnn*CARDS OR LINES TO BE PLACED
IN MEMBER *membername* queue type: JOB
NAME=*jobname*
NUMBER=*nnnnn* CLASS=*class*
DISP=*disposition print option*
ENTER CANCEL|
ENTER START POINT AND NUMBER
OF CARDS OR LINES|
PRESS ENTER

説明: 指定されたジョブ名 *jobname*、およびユーザーが任意に指定したジョブ番号 *nnnnn* が、VSE/POWER の CLASS *class* で示されたリスト、穿孔、または読み取りキューに置かれ、処理されようとしています。VSE/POWER キュー項目は、*nnnnn* のカードまたは行で構成され、メンバー *membername* の中に入れられます。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: CANCEL を入力して処理を中止させてください。GETL、GETP、または GETR コマンドの指定とは無関係に VSE/POWER キューのファイルは削除されません。カードまたは行の開始番号、および転送されるカードまたは行の数を入力してください。例えば、200 カードのファイルで、カード番号 150 から始めて、5 枚のカードを転送したい場合には、150 5 と入力してください。150 だけを入力すると、カード番号 150 からファイルの終わりまでのすべてのカードが転送されます。

VSE/POWER 出力ファイルの全体をメンバー *membername* に転送するためには、ENTER を押してください。

K872I *nnnnn* CARDS OR LINES PLACED IN
MEMBER *membername* BY USER: 'uuuu' ON
TERMINAL: 'tttt'
date HH:MM:SS

説明: VSE/POWER キュー・ファイルから VSE/ICCF へのデータの転送が完了しました。このメッセージには、「日付」HH:MM:SS に、端末 'tttt' の VSE/ICCF ユーザー 'uuuu' が、表示されているメンバー '*membername*' に入れたカードまたは行の数が示されています。リスト出力の転送の場合、80 文字レコードの総数は、示されている行数のおよそ 2 倍となります。

システムの処置: VSE のジョブの中止を出します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K873I VSE/POWER INTERFACE IS NOT
AVAILABLE

説明: GETL/GETP/GETR と VSE/POWER との間の通信が、システム・ストレージの不足により失敗しました。

システムの処置: 要求を取り消します。

オペレーターの応答: RJE サポートが必要な場合には、VSE 監視プログラムに、より大きな仮想記憶を割り振ってください。

ユーザーの処置: オペレーターに連絡してください。

K874D VSE/POWER JOB
[NAME|NUMBER|SUFFIX|CLASS] IS
MISSING OR INVALID, RE-ENTER

説明: メッセージ内に示されているパラメーターがないか、または正しくありません。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しいジョブ名、ジョブ番号、ジョブ接尾部、またはジョブ・クラスを入力してください。ジョブ名は 2 から 8 の英数字、ジョブ番号は 1 から 5 の数字、ジョブ接尾部は 1 から 3 の数字、およびクラスは 1 文字または (読み取りキューだけの場合は) 1 桁です。ジョブ名が正しくなく、MEM=メンバーがプロシージャー呼び出しで指定されていない場合には、デフォルトの正しくないジョブ名が、相変らずデータ転送先のメンバーです。

CANCEL を入力して、GETL、GETP、または GETR 処理を中止させてください。

K876D INVALID RECORD NUMBER SPECIFIED,
RE-ENTER

説明: メッセージ K871D に対する応答で数値の開始点あるいは処理するカードまたは行数が正しく指定されていません。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しい数値で応答を入力し直してください。開始番号は、ファイル内のカードまたは行の数以下としなければなりません。開始点にカードまたは行の数を加えた数が、ファイル内のカードまたは行の合計数より大きい場合は、開始点からファイルの終わりまでが戻されます。CANCEL を入力して、GETL、GETP、または GETR 処理を終了させてください。

K877I APPROXIMATELY *nnnnn* CARDS OR
LINES NOT TRANSFERRED DUE TO
CANCELATION

説明: このメッセージは、転送されたカードまたは行の数を示すメッセージ K872I とともに現れます。上記のメッセージには、転送されないで残っているカードまたは行の概数が示されています。穿孔および読み取りファイルの場合は、その数は正確な数です。

システムの処置: キュー処理を終わらせます。VSE/POWER キュー項目からは何も削除されません。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF ライブラリー・メンバーの内容に、予期できない結果をもたらすようなエラーがないかを調べてください。ライブラリーがいっぱいであることも考えられます。また、次のメッセージで表示される戻りコードも調べてください。問題点を修正して、残りの出力をとり出す GETP、GETR、または GETL プロシージャーを再度出してください。

K880I TYPE=ICCF FILE NOT AVAILABLE THRU 'SUBMIT'

説明: VSE/POWER によって、バッチでサブミットするために受け渡されたジョブ・ストリームの中に、TYPE=ICCF の /FILE ステートメントが見つかりました。

システムの処置: 受け渡しを終了させます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /FILE ステートメントを除去し、これだけが入力カード・ファイルであれば、/INCLUDE ステートメントを使用してください。このジョブを、対話式区画で実行する場合と同様に、VSE バッチ区画で実行することはできないということにご注意ください。

K881I PUNCH INPUT FACILITY NOT AVAILABLE THRU 'SUBMIT'

説明: ジョブ・ストリーム中に穿孔域入力装置に対する /ASSIGN が見つかりました。この機能は、VSE 区画で実行することはできません。

システムの処置: そのステートメントは無視されます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: このジョブを、対話式区画で実行された場合と同様に VSE バッチ区画で実行することはできません。このジョブは、多分バッチ区画で VSE/POWER 内部読取装置を使用するように変換することができます。

K883I SUBMIT FACILITY IS AVAILABLE ONLY THRU ICCF

説明: SUBMIT ユーティリティ機能は、VSE/ICCF 対話式区画でのみサブミットすることができます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: 対話式区画で、DTSSUBMT を実行してください。

ユーザーの処置: なし。

K884I VSE/POWER INTERFACE IS NOT AVAILABLE

説明: システム・ストレージが足りないために、VSE 区画間通信のユーザーとしての SUBMIT の識別を正しく行うことができませんでした。

システムの処置: 要求を取り消します。

オペレーターの応答: RJE サポートが必要な場合には、VSE 監視プログラムに、より大きな仮想記憶を割り振ってください。

ユーザーの処置: オペレーターに連絡してください。

K885I REQUIRED PARAMETERS ARE MISSING/INVALID--parmname

説明: パラメーターが誤って指定されたか、あるいは SUBMIT プロシージャ・コマンドが出された時点で省略されました。あるいは、許可されていないユーザーによって、プロシージャのない受け渡し機能が呼び出されました。

システムの処置: ジョブの実行依頼を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 指定されていない名前フィールドに、TYPE

または NAME を指定してください。許可されていないユーザーが受け渡し機能呼び出す場合には、受け渡しパラメーターを正しく使用してください。(この場合、パラメーター名は 'ALL' と表示されます。)

K886I SYSTEM CONFIGURATION DOES NOT SUPPORT SUBMIT OF THIS TYPE --

説明: 操作環境が、受け渡しのサポートをするようには構成されていません。VSE/POWER がサブミット中でないか、または受け渡しタイプが使用できないかのいずれかです。

システムの処置: ジョブの実行依頼を取り消します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に、正しい受け渡しのタイプを尋ねてください。

K887I SUBMISSION IGNORED -- NO INPUT DATA

説明: 受け渡されるジョブ・ストリームに、レコードがありません。

システムの処置: 受け渡し処理を中止させます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 受け渡されるメンバーに、データが入っているか確認してください。

K888I SUBMISSION CANCELED BY USER

説明: VSE/POWER への受け渡し処理中に、/CANCEL を入力したか、あるいは PA2 を押ししました。

システムの処置: 受け渡しを終了させます。部分的な受け渡しが行われる場合もあることにご注意ください。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K889I JOB xxxxxxxx mnnnn SUCCESSFULLY SUBMITTED ----- STATEMENTS OUT=nn

説明: これは、バッチへの受け渡し機能に対する、通常のジョブの終了メッセージです。

システムの処置: ジョブの終了まで処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K891I JOB xxxxxxxx mnnnn NOT SUBMITTED STATEMENTS READ=nn JOB xxxxxxxx mnnnn NOT SUBMITTED DUE TO UPSI SET STATEMENTS READ=nn

説明: メッセージ K888I (このメッセージの前に出ています)の原因を参照します。

システムの処置: SUBMIT 機能を中止させます。受け渡されるジョブのいずれの部分も、サブミット時に VSE/POWER に渡されませんでした。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

**K892I TYPE=ICCF FILE FOR PUNCH/LIST
IGNORED**

説明: 穿孔ファイル用の TYPE=ICCF が指定されている /FILE ステートメントが、受け渡されたジョブ・ストリーム中にあります。

システムの処置: VSE には、この機能に対応するものがないので、/FILE ステートメントを無視して、通常の穿孔を行います。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 通常の穿孔が不要であれば、/ERASEP コマンドを使用して、ジョブを取り消してください。

**K893I SUBMIT CANCELLED -- ICCF CANCEL
CODE=nm**

説明: 受け渡しプログラムで、取り消し条件が見つかりました。取り消しコードが取り消しの理由を示しています。

システムの処置: ジョブは取り消されます。部分的に受け渡されたか、またはまったく受け渡されなかったかについては、前のメッセージで示されています。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /ERASEP を使って、VSE/POWER 読み取りキューから部分的に受け渡されたジョブを除去してください。エラーを修正してジョブのサブミットを再度行ってください。

**K895I VSE/ICCF LIMIT FOR USER-DEFINED
JECL KEYWORD OPERANDS EXCEEDED**

説明: DTSSUBMT では、ユーザー定義のキーワード・オペランドの作業域に制限があります。* \$\$ LST または * \$\$ PUN ステートメントの定義が、このスペースを超えています。

システムの処置: DTSSUBMT はメッセージ K895I を出し、オペランドを切り捨てて、ジョブを VSE/POWER にサブミットします。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: ユーザー定義のキーワード・オペランドの数または長さ (あるいはその両方) を減らすか、対話式インターフェースを使用してジョブをサブミットしてください。

**K896I * \$\$ LSTDUP AND * \$\$ PUNDUP ARE
NOT SUPPORTED BY VSE/ICCF SUBMIT**

説明: このリリースの VSE/ICCF ジョブ・スケジューラーでは、これらの VSE/POWER JECL ステートメントをサポートしていません。

システムの処置: ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 対話式インターフェースのサブミット・オプションを使用してください。

D TSAUDIT プログラム (K900D - K922I)

D TSAUDIT は VSE バッチ区画または VSE/ICCF の対話区画で作動することに注意してください。D TSAUDIT が対話区画で作動する場合、D TSAUDIT メッセージはユーザー端末に現れ、システム・コンソールには現れません。この場合、「オペレーターの処置」として提示されているものは、「端末ユーザーの処置」になります。

K900D ENTER D TSAUDIT COMMAND

説明: D TSAUDIT プログラムは、システム・コンソールから入力を受け入れる準備ができています。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: D TSAUDIT コマンドを入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K901I xxx... D TSAUDIT COMMAND

説明: メッセージの始めに印刷されている D TSAUDIT コマンドが入力され、D TSAUDIT ユーティリティで処理されません。

システムの処置: システムはコマンドを処理します (コマンドが正しいものである場合)。

オペレーターの応答: これは通知メッセージです。処理されるコマンドが、正しいものか調べてください。

ユーザーの処置: なし。

**K902I MISSING OR INVALID COMMAND
NAME**

説明: D TSAUDIT コマンド・ステートメント全体がブランクであるか、または 1 桁目から始まる正しい D TSAUDIT コマンドが入っていません。

システムの処置: 欠如している、または正しくないコマンドを無視します。

オペレーターの応答: 正しい D TSAUDIT コマンドを入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K903I INVALID OPERAND - wwwwww

説明: コマンド・ステートメントに、正しくないオペランド (wwwwww) が入っています。

システムの処置: 正しくないコマンドを無視します。

オペレーターの応答: 正しい D TSAUDIT コマンドを入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K904I MISSING/INVALID MEMBER NAME/PASS

説明: MEMBER または PASSWORD オペランドのあとに、正しいメンバー名またはパスワード (英字で始まらなくてはなりません) がありません。

システムの処置: 正しくないコマンドを無視します。

オペレーターの応答: 正しくないコマンドを修正して、入力し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K905I MISSING OR INVALID LIB NUMBER

説明: LIBRARY オペランドがないか、数値でないの正しくないか、あるいはこの番号のものが VSE/ICCF ライブラリー・ファイル上にありません。

システムの処置: 正しくないコマンドを無視します。

オペレーターの応答: LIBRARY オペランドを、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルにある正しいライブラリー番号に変更してください。DTSUTIL ユーティリティを使って、VSE/ICCF ライブラリー・ファイル内に存在するライブラリーを確認してください。

ユーザーの処置: なし。

K906I MISSING OR INVALID SEQUENCE PARAMETER

説明: SEQUENCE スキャンで指定されるパラメーターがないか、または正しくありません。

システムの処置: コマンドは無視されます。

オペレーターの応答: SEQUENCE n1 n2 n3 パラメーターを修正してください。ここで開始桁 n1 は 1 から 80 の範囲とし、順次フィールド n2 の桁数は 1 から 8 の範囲としなければなりません。また増分 n3 は、1 から 32767 の範囲です。

ユーザーの処置: なし。

K907I DIRECTORY TOO LARGE, SORT SET OFF

説明: プログラムの終わりにあるストレージが、コア内での分類で、ライブラリー登録簿の全体が保管できるほどの大きさになっていません。

システムの処置: システムは、SORTED オプションなしで処理を続けます。

オペレーターの応答: SORTED オプションを使用する場合には、スキャンされる最大の登録簿が収容できるストレージが必要で、通常、128K の VSE 区画に十分なストレージがなくてはなりません。それだけのストレージがない場合には // EXEC ステートメントで SIZE=AUTO が指定されていれば、それを取り除くか、あるいは VSE 区画により大きなストレージを割り振ってください。

ユーザーの処置: なし。

K908I ERROR ON ICCF LIBRARY FILE

説明: これは、このメッセージの左側に現れるメッセージ K205I の補足説明です。メッセージ K205I に示されるエラー・コードは、このメッセージが出された原因を調べるのに役立ちます。

システムの処置: Processing is terminated.

オペレーターの応答: このメッセージの左側に表示されるファイル・エラー・メッセージ K205I を参照してください。メッセージ K205I の「オペレーターの処置」を行ってください。

ユーザーの処置: なし。

K909I MISSING OR INVALID SEQ. NO.S ON MORE THAN 30 RECORDS IN MEMBER

説明: シーケンス・スキャンが要求されましたが、すでにスキャンされたファイルには 31 以上のシーケンス・エラーがあります。または SEQUENCE オペランド・パラメーターが正しく指定されなかった場合に起こります。

システムの処置: このメンバーの順序検査を中止します。

オペレーターの応答: SEQUENCE パラメーターで指定された

ように、ファイル内にシーケンス番号が与えられているか、また指定された SEQUENCE パラメーターが正しいか確認してください (正しい SEQUENCE パラメーターについては、メッセージ K906I のオペレーターの処置を参照してください)。

ユーザーの処置: なし。

K910I MEMBER CONTAINS NO RECORDS

説明: スキャン中のメンバーにレコードがありません。

システムの処置: ライブラリー・スキャンを続けます。

オペレーターの応答: メンバー名が正しく指定されたか調べてください。

ユーザーの処置: なし。

K911I ALL RECORDS IN MEMBER ARE NEW

説明: 最後のファイル・チェックポイント以降に、おそらく DTSUTIL RESTORE によってメンバーが追加されたことが物理スキャンで明らかにされました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: これが新しいメンバーか、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが最近の必要なチェックポイントを反映しているか調べてください。

ユーザーの処置: なし。

K912I RECORDS BETWEEN SEQUENCE NO.S mmmmmmm AND mmmmmmm HAVE BEEN DELETED ***

説明: シーケンス番号タイプのスキャンによって、示されているレコードが削除されたか、または存在しないことがわかりました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K913I mmmmm RECORDS DELETED AT THIS POINT

説明: 物理スキャンによって、示されている数のレコードが削除されていることがわかりました。削除されたレコードは、通常印刷されますが、これらのレコードを収容する VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの終わりに空き区域がないために、これらのレコードはもはや使用できません。

システムの処置: 削除されたレコードを印刷しないで処理を続けます。これらのレコードは、もはやアクセスできません。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K914I DECOMPRESSION ERROR - 1n

説明: 圧縮解除処理において、圧縮メンバーを読み取り中にエラーが起きました。これは、プログラムの論理エラー、不注意によるストレージの重ね書き、あるいはファイルに関する問題に起因します。

システムの処置: メンバーの処理を中止させます。

オペレーターの応答: メッセージおよび戻りコード (1n) が入っている SYSLOG または SYSPRINT 出力を、問題判別のために VSE/ICCF 管理者に提供してください。

ユーザーの処置: なし。

K915I OPERATOR TERMINATED COMMAND

説明: システム・コンソールのオペレーターが、MSG BG または MSG Fn VSE オペレーター・コマンドを出したために、前に出された D TSAUDIT コマンドが完全に処理される前に中断されました。

システムの処置: システムはコンソールから次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: 次のコマンドを入力してください。

ユーザーの処置: なし。

K916I NO RECORDS FLAGGED FOR MEMBER

説明: メンバー・スキャン・タイプに一致する記録が見つかりません。例えば、FLAGGED 付きメンバーすべてを印刷しようとしたのですが、スキャンされたライブラリーにそのタイプの記録が存在していません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: PRINT コマンド上のスキャン・オペランドが正しいか調べてください。

ユーザーの処置: なし。

K917I NO MEMBER(S) FOUND TO SCAN

説明: 印刷されたコマンドに対して、どのメンバーもスキャンされませんでした。ライブラリーにメンバーが入っていないか、あるいは指定したライブラリーに、所定のメンバーがなかったためと考えられます。

システムの処置: システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: スキャンするライブラリーおよびメンバーを正しく指定したかを調べてください。

ユーザーの処置: なし。

K918I OPTION INVALID IF ON-LINE

説明: VSE/ICCF 管理者以外の端末ユーザーが使用できるオプションは、特定メンバーのスキャンだけです。

システムの処置: システムは、次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K919I ILLEGAL ACCESS OR NO PASSWORD

説明: 端末ユーザーは、対話式区画で D TSAUDIT を実行中ですがスキャンされるメンバーが、以下のいずれかの理由でアクセスできません。

1. メンバーが別のユーザーに属しています。
2. メンバーは、パスワードで保護されていますが、パスワードが指定されていません。
3. メンバーは、パスワードで保護されていますが、正しくないパスワードが指定されました。

システムの処置: システムは、このメンバーを無視して、処理を続けます。

オペレーターの応答: 正しいパスワードを指定して、コマンドを入力し直してください。

ユーザーの処置: なし。

**K920I DELETED RECORDS NOT AVAILABLE
BACKUP/RESTORE SHOULD BE RUN**

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルからの新しいレコード割り振りによって、ファイルの終わりにある自由域を使い果たしてしまい、現在はフリー・チェーン中のレコードを使用しています。これは、削除されたレコードがビユー構成で使用できなくなることを意味しています。メッセージ K913I は、削除されたレコードの数および削除された時点を示します。

システムの処置: 削除されたレコードを印刷しないで、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: D TSUTIL BACKUP/RESTORE を実行するようにスケジュールしてください。

**K922I YOU GOT ONLY READ-AUTHORITY FOR
DTSFILE RESET OPTN IGNORED**

説明: D TSAUDIT RESET オプションが間違っていて使用されています。このオプションは、VSE/ICCF ライブラリー・ファイル (D TSFILE) が CICS/ICCF 区画に接続されているときは使用できません。D TSUTIL、D TSBATCH、D TSANALS のいずれかが D TSFILE の排他制御を持っているときも使用できません。

システムの処置: RESET 機能なしで処理を続行します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルが CICS/ICCF 区画から切り離され、上記のユーティリティのいずれも実行されていないときに、RESET オプションを指定して D TSAUDIT を実行してください。

ユーザーの処置: なし。

DTSFDUMP プログラム (K950I - K961D)

DTSFDUMP は VSE バッチ区画または VSE/ICCF の対話区画で作動することに注意してください。DTSFDUMP が対話区画で作動する場合、DTSFDUMP メッセージはユーザー端末に現れ、システム・コンソールには現れません。この場合、「オペレーターの処置」として提示されているものは、「端末ユーザーの処置」になります。

K950I POINTER TO TABLE AT xxxxxx NOT TAKEN, POINTERTABLE IS FULL

説明: DTSFDUMP は、ダンプ内の xxxxxx の位置にあるテーブルへのポインターを見つけましたが、ポインター・テーブルはいっぱいです。

システムの処置: 処理を続けますが、xxxxxx にあるテーブルは形式設定しません。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

K951I TABLE POINTER TAKEN AT xxxxxx POINTING TO yyyyyy IS INVALID POINTER IGNORED

説明: DTSFDUMP は、テーブルを指すポインターが CICS/ICCF 区画の範囲外にあることを見つけました。(このメッセージは、ダンプ内の最後の定様式テーブルに達したときにも出されます。そのときは、このメッセージは無視してかまいません。)

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: エラー分析を行ううけのために、このダンプを保管してください。

ユーザーの処置: なし。

K952I EOF ON TAPE. JOB TERMINATED

説明: DTSFDUMP ダンプ・テープで EOF を検出しました。ダンプ・データが印刷されていない場合は、テープが正しく位置づけられていないか、または CICS/ICCF 区画がテープにダンプされていません。ダンプ・データが印刷されている場合は、テープのダンプは完了していません。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: ダンプ・データが印刷されていない場合は、// UPSI ステートメントを使用して、正しいファイルにテープを位置づけてください。

ユーザーの処置: なし。

K953I ICCF NOT UP AND UPSI BIT SET. JOB TERMINATED

説明: オペレーターがオンライン・ダンプをとるために、// UPSI 1 を使用して DTSFDUMP を開始させましたが VSE/ICCF が活動状態になっていません。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF を開始し、DTSFDUMP を再実行してオンラインのダンプをとってください。

ユーザーの処置: なし。

K954I TAPE IS NOT DUMP FORMAT. JOB TERMINATED

説明: ダンプ・テープ上のデータが、ダンプの形式ではありません。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: VSE/ICCF ダンプが入っているテープを使って実行し直してください。

ユーザーの処置: なし。

K955I STRING BIGGER THAN 32 OR ODD. TRY AGAIN

説明: スキャン・オプションを指定して、DTSFDUMP を使用中ですが、入力された 16 進数のストリングに 32 文字よりも多い文字が入っているか、またはそれが奇数となっています。

システムの処置: このメッセージのあとで、メッセージ K960D を表示します。

オペレーターの応答: メッセージ K960D が表示されたら、処理してください。

ユーザーの処置: なし。

K956I INVALID HEX CHARACTER IN STRING. TRY AGAIN

説明: スキャン・オプションを指定して、DTSFDUMP を使用中ですが、入力された 16 進数のストリングに、正しくない 16 進数文字が入っています。

システムの処置: このメッセージのあとで、メッセージ K960D を表示します。

オペレーターの応答: メッセージ K960D が表示されたら、処理してください。

ユーザーの処置: なし。

K957I ERROR ON ADDRESSES. TRY AGAIN

説明: スキャン・オプションを指定して、DTSFDUMP を使用中ですが、スキャン範囲として正しくないアドレスが入力されています。

システムの処置: このメッセージのあとで、メッセージ K960D を表示します。

オペレーターの応答: メッセージ K960D が表示されたら、処理してください。

ユーザーの処置: なし。

K958I INVALID CHARACTER STRING. TRY AGAIN

説明: スキャン・オプションを指定して、DTSFDUMP を使用中ですが、引用符で囲まれて入力された文字ストリングが 0 であるか、または 16 より大きいかのいずれかです。

システムの処置: このメッセージのあとで、メッセージ K960D を表示します。

オペレーターの応答: メッセージ K960D が表示されたら、処理してください。

ユーザーの処置: なし。

K959I ICCF IS RUNNING IN ANOTHER

ADDRESS SPACE. NO DUMP POSSIBLE

説明: DTSFDUMP と VSE/ICCF が、異なったアドレス・スペースで実行中です。

システムの処置: 処理を中止させます。

オペレーターの応答: DOSVSDMP が作り出したテープを用いて、DTSFDUMP を実行して VSE/ICCF のダンプをとってください。

ユーザーの処置: なし。

**K960D SCAN ADDRESS FROM nnnnnn TO
mmmmmm ENTER SCAN START AND
STOP
ADDRESS OR EOJ FOR EXIT**

説明: スキャン・オプションを指定して DTSFDUMP を使用中です。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: nnnnnn から mmmmmm までのスキャン範囲を入力してください。以下の形式で指定できます。

nnnnnn mmmmmm

アドレス nnnnnn からアドレス mmmmmm までをスキャンします。'mmmmmm' は 'nnnnnn' より大きくしてください。

nnnnnn

アドレス nnnnnn から終わりのアドレスまでをスキャンします。

-mmmmmm

開始アドレスから mmmmmm までをスキャンします。

ENTER 開始アドレスから終わりアドレスまでをスキャンします。

POWER インターフェース (K970I - K988I)

**K970I NOTHING FOUND IN VSE/POWER
QUEUE**

説明: 要求された項目が見つかりません。あるいはそのキューが空です。

システムの処置: 要求を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**K971I JOB OR OUTPUT NOT FOUND IN
VSE/POWER QUEUE**

説明: 指定したジョブまたは出力を、指定された VSE/POWER キューに見つけることができません。

システムの処置: 要求を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: /DQ コマンドを出して問題のキューを調べて、正しいジョブ名、ジョブ番号、ジョブ・クラスを指定して実行し直してください。

**K972I PASSWORD INVALID OR MISSING FOR
VSE/POWER QUEUE ENTRY**

説明: 指定された VSE/POWER キュー項目が、指定したパスワードと異なるパスワードで保護されているか、あるいはパスワードが必要であるのに、まったく指定されていません。

システムの処置: 要求を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: なし。

**K961D ENTER SCAN STRING OR SCAN
STRING WITH FO FOR FIRST
OCCURRENCE ONLY**

説明: スキャン・オプションを指定して DTSFDUMP を使用中です。

システムの処置: システムは応答を待ちます。

オペレーターの応答: 16 文字 (16 進数文字 2 つで 1 文字とする) までのスキャン・ストリングを入力してください。一致したものはすべて SYSLSLST 上に表示されます。指定できるスキャン引数は次の通りです。

'ABC'DE'

文字ストリングをスキャンします (文字ストリングに含まれる引用符は、2 個指定しなければなりません)。

47EA8004

16 進数ストリングをスキャンします。(ストリングには偶数個の文字を含めなければなりません)

47EX80X4

16 進数ストリングをスキャンします。('X' の位置にあるデータは等号として扱われます)

ABCD3456 FO

'FO' は、最初の一致が生じたらスキャンが終了することを示します。これを指定しないと、高位アドレスまでスキャンが続けられます。

ユーザーの処置: なし。

ユーザーの処置: 正しいパスワードを指定して、実行し直してください。

K973I VSE/POWER QUEUE ENTRY IS BUSY

説明: 指定されたキュー項目は現在、活動中のマークが付けられており、アクセスすることはできません。

システムの処置: 要求を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 後で再試行してください。

K974I THE START POINT IS OUT OF RANGE

説明: 指定された開始点が、使用可能な範囲外にあります。

システムの処置: 要求を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: 正しい開始点を指定して、実行し直してください。

**K975I VSE/POWER IS SHORT ON SPOOL FILE
SPACE**

説明: VSE/POWER データ・ファイルには、新たに VSE/POWER キュー項目を追加するだけの使用可能なスペースがありません。

システムの処置: 要求を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

K976I VSE/POWER IS SHORT ON ACCOUNT FILE SPACE

説明: VSE/POWER アカウンティング・ファイルに、使用可能なスペースがありません。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

K977I ACCESS TO VSE/POWER QUEUE ENTRY BY UNAUTHORIZED USER OR REMOTE-ID

説明: TO または FROM ユーザー (またはノード) 以外のユーザーまたはリモート ID で、VSE/POWER キュー項目にアクセスしようとしたが、キュー項目はどこにもスプールされません。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: なし。

K978I VSE/POWER JOB OR OUTPUT CLASS INVALID OR MISSING

説明: クラスの指定中に構文エラーが起こったか、あるいはクラスがまったく指定されていません。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: 正しいクラスを指定して、再度実行してください。

K980I OPERATOR TERMINATED CONNECTION TO VSE/POWER

説明: 要求された VSE/POWER キューにサービスを行っているタスクが停止されました。しばらくの間、これ以上のサービスを要求することはできません。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: VSE/POWER を開始してください。
 ユーザーの処置: あとで再度実行してください。

K984I VSE R15/RC/REASON: X'nn'/X'nn' /X'nn' VSE/POWER RC/FDBK: X'nn'/X'nn'

説明: VSE/POWER との通信実行中に、異常状態が見つかりました。レジスター 15 の内容、VSE 戻りコード (RC)、および VSE 理由コード (REASON) は、VSE XPCC MACRO サ

ービスに起因します。VSE/POWER 戻りコード (RC)、および VSE/POWER フィードバック・コード (FDBK) に、VSE/POWER の戻り情報が入っています。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。この情報は、弊社のサービス・サポート・グループと連絡する上で、欠くことのできないものです。

K985I NO COMMUNICATION WITH VSE/POWER POSSIBLE

説明: VSE/POWER からキュー処理で、戻りコードを受け取りました。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: 詳細については、次のメッセージを参照してください。

K986I TIME-OUT TRYING TO COMMUNICATE WITH VSE/POWER

説明: VSE/POWER との通信を制御するために、時間制限がセットされています。この時間枠で通信が確立されませんでした。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: あとで再度実行してください。

K987I VSE/POWER NOT UP AND ACTIVE

説明: VSE/POWER が開始していないため、通信を行うことができません。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 ユーザーの処置: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

K988I INVALID REQUEST WAS RECEIVED BY DTSIXP

説明: 処理することができない DTSIXP に、XPCC 要求を送信しました。
 システムの処置: 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

VSE/ICCF 端末メッセージ

この項には、ユーザーの端末に現れるコマンド処理プログラム・メッセージの大部分が含まれています。読んだだけで分かるメッセージや、ただ単に有効なコマンド条件への応答にすぎないメッセージは、含まれていません。

複数のコマンドが一緒に入力され、それらのコマンドのうちのあるものにエラーがあった場合には、最後のエラー・メッセージのみが表示されます。

フルスクリーン編集機能によって出されるエラー・メッセージは、スケール/ヘッダ行の第 1 桁から始まります。音響警報機構を備えている端末では、メッセージが表示されるときに警報が鳴ります。

***ABNORMAL CHAIN TERMINATION**

説明: 先行コマンドで指定されたメンバー中での、1 つのレコードから次のものへのチェーニングは無効です。要求された操作は、障害が起きた時点で打ち切られます。これは、通常、別のレコードに不正に連鎖されたレコードによって起こります。そして通常は VSE/ICCF 管理者に取り上げてもらうべきシステム問題です。

***ASYNCH REQUEST IGNORED, TERMINAL ALREADY IN USE**

説明: 端末において実行出力データが表示されている間、または会話型読み取りが保留となっている間は、/ASYNCH コマンドを出すことはできません。印刷出力をスキップするかページングすることによって、または会話型読み取りに応答することによって、実行を進行させてください。それから、/ASYNCH コマンドを入力します。

***BG EXECUTION NOT SUPPORTED**

説明: ユーザーが VSE/ICCF 対話式区画内のプログラムの実行を要求しましたが、ユーザー・プロファイルはそれを許可していません。要求をバッチにサブミットするか、対話式区画内でプログラムをサブミットできるようにユーザー・プロファイルを変更してもらうべく VSE/ICCF 管理者に依頼してください。

***BG IN PROGRESS, INPUT IGNORED, UNITS=aaaa,bbbb,cccc**

説明: ユーザーの端末は、現在 VSE/ICCF 対話式区画中のプログラムの実行と同期をとっています。ユーザーの入力は無視されました。/CANCEL 以外のいずれかのコマンドを入力するには、端末を非同期実行モードにするか (/ASYNCH コマンドを用いて)、またはそのプログラムが停止するまで待たなければなりません。'UNITS=' の後ろに表示されている値は、以下のことを意味します。

aaaa これは、対話式区画中でプログラムが使用した実行単位の数です。1 実行単位は、対話式区画における実行時間のおよそ半分です。

bbbb これは、プログラムによって印刷されたレコードの数です。

cccc これは、プログラムによって穿孔されたレコードの数です。

***CAN ONLY SAVE -0 MEMBER**

説明: ユーザーは、生成メンバー・グループの現行メンバー以外のメンバーを保管しようとした。

***CHARACTER STRING NOT FOUND, PRESS ENTER TO RESUME**

説明: /LOCP コマンドが出されましたが、文字ストリングが VSE/POWER リスト・ファイル中に位置していませんでした。実行キーを押して /LOCP コマンドが入力されたリスト・ファイル中の位置に置き換えてください。

***COMMAND TABLE INVALID**

説明: コマンド処理ルーチンが入力されましたが、入力されたコマンドを取り扱うようにセットアップされていません。コマンド・テーブルが無効 (DTSCOMTB) であるか、またはシステム中に論理エラーがあります。VSE/ICCF 管理者に通知してください。

***CONCURRENT FREE SPACE ACCESS**

説明: 複数のユーザーが同時に新しいメンバーをライブラリーに保管しようとした。システムは、空き登録簿域に新しいメンバーを挿入しようとするこの試みを終了させ、新しい登録簿レコードを割り振ります。

***CONCURRENT MEMBER ACCESS**

説明: メンバーが置き換えられている際に、より高い優先順位を持っている別の誰かが、それを移動させたか除去しました。このメッセージに「not in library」メッセージが続く場合、そのメンバーは除去されているので、ユーザーは /REPLACE の代わりに /SAVE コマンドを出さなければなりません。

***DATA FORMAT CANNOT BE DISPLAYED**

説明: VSE/POWER から受信したリスト出力を表示することができません。

***DEVICE MUST BE 3270**

説明: フルスクリーン編集機能によってサポートされているのは、3270 ファミリーのディスプレイ端末のみです。別のタイプの端末からフルスクリーン編集機能を入力する試みがなされました。

***EDIT COMMAND INVALID**

説明: 入力されたコマンド名が、エディターによって認識されませんでした。

***EDITOR MODS NOT RESIDENT**

説明: 必要とされるエディター・モジュールの 1 つが永続的に常駐していません。フルスクリーン・エディターが機能するためには、VSE/ICCF モジュールの DTSTX00、DTSTX02、DTSTX11、および DTSTX13 は、CICS/ICCF 区画内に永続的に常駐していなければなりません。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

***ENTER DATA?**

説明: これは、対話式区画内で作動しているプログラムが会話型読み取り要求を出すときに現れる、入力のための通常のプロンプトです。実行されているプログラムの要件にしたがって、読み取り要求に応答してください。

*ENTER /SYNCH COMMAND • *FUNCTION REQUESTED BEYOND|EXCEEDS ZONE

*ENTER /SYNCH COMMAND

説明: ユーザーはジョブを実行しようとして試みましたが、ユーザーは対話式区画中で非同期モードでのジョブをすでに実行しています。 /SYNCH コマンドを出して現行の実行が完了するようにし、そのジョブの実行をそれ以上望んでいない場合、それから /CANCEL コマンドを出してください。

*EOF

説明: あるメンバーから連続したレコードを読み取る機能が、論理ファイル域の末尾に達したか、あるいは逆向きに読んでいるならばファイル域の先頭に達しました。

*ERR xxxxxxxx

説明: フルスクリーン編集機能の ENTER コマンドに続いて *ERR メッセージが生じる場合があります。これは、メッセージ中に示された理由のために、要求されたメンバーを編集する権利が拒否されたことを示します。このメッセージ ID は、文脈編集機能がメッセージをフルスクリーン編集機能に渡すときに現れます。

*ERROR IN TYPE III AREA

説明: 無効なコマンドまたはオペランド条件が、全面編集機能のタイプ III コマンド域中で認識されました。エラーのある実際のコマンドは、それ以上識別されることはありませんが、同一の画面上にあるタイプ III コマンド域中の有効なコマンドは、通常通り処理されます。どのコマンドが実際に障害を起こしたかは、結果の画面を判別してください。

*FILE ERROR CODE=xx

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイル上で入出力エラーが起きました。示されたコードを記録して、VSE/ICCF 管理者に連絡を取ってください。コードの説明は、966 ページの『VSE/ICCF 戻りコード』にあります。

*FILE NOT IN LIBRARY

説明: 以前のコマンドで要求されたライブラリー・メンバーは、ユーザーの基本、結合 (ある場合)、または共通ライブラリー (それが存在する場合) 中にありませんでした。または、穿孔域や印刷域がまだ割り振られていません。また、暗示された実行がオフに設定されない限り (/SET IMPEX)、端末がコマンド・モードにある際に無効なコマンド (処理手順名と見なされる) が入力されると、このメッセージが生じます。

*FORCED LOGOFF REASON CODE=xx

説明: VSE/ICCF は異常な状況に遭遇し、ユーザーを強制的にログオフしました。上記のメッセージの xx によって識別されるログオフの理由は、以下に与えられています。理由コード 01 によるもの以外のすべての強制ログオフは、VSE/ICCF 管理者に通知しなければなりません。

- 01 端末の時間切れ限界を超えました (/SETIME TIMEOUT コマンドを参照)。
- 02 VSE/ICCF または CICS 中で論理エラーが起きました。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

- 03 VSE/ICCF または CICS 中で論理エラーが起きました。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。
- 04 VSE/ICCF コマンド処理モジュール (DTSTXmm) が VSE/ICCF 中に常駐されておらず、適切なプログラム管理テーブル中でも表されていません。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。
- 05 コマンド処理プログラム中でプログラム・チェックまたは何らかの異常終了が起きました。ユーザーは再びログオンすることができますが、障害を引き起こしたコマンドを避けてください。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。
- 07 CICS システムは現行の VSE/ICCF 活動をサポートするだけの十分な動的ストレージを持っていません。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。
- 08 以前にログオンされた VSE/ICCF ユーザーは適切にログオフされていなかったため、現在ログオフされつつあります。これは、ログオフが実行できなかった ICCF トランザクションが現在打ち切れつつあるか、または端末がサービスから外されつつあるためと思われる。CICS の下で、VSE/ICCF を作動させている間に、無効な端末管理代行受信コードを使用すると (例えば、BMS ページング・コマンド)、この障害が起きます。単に VSE/ICCF コマンドを再入力し、ログオン処理を継続してください。
- 09 07 と同じ条件です。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。
- 0A インターフェース制御ブロック中の何らかの情報が無効なため、許可された CICS-VSE/ICCF ブリッジをまたいで開始されたシミュレートされたセッションが、強制的に打ち切られます。
- 11 コンソール・オペレーターは、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルを切り離すために /DISCONN コマンドを出しました。

*FULL SCREEN EDITOR TERMINATED

説明: 1 つのファイルのみが活動状態にあるときに QUIT または FILE コマンドを出しました。あるいは、1 つまたはそれ以上のファイルが活動状態にあるときに、CANCEL コマンドまたは PA2 キーを入力しました。フルスクリーン編集機能が通常通り打ち切られます。

*FUNCTION INVALID FOR GENERATION MEMBER

説明: まずメンバー・グループをグループ解除しない限り、特定の機能 (/PURGE など) を実行できないメンバーが、生成メンバー・グループの中にあります。この機能を実行することを依然として望むならば、/GROUP コマンドを検討してください。

*FUNCTION REQUESTED BEYOND|EXCEEDS ZONE

説明: 現行のゾーン域を超えてデータを修正することを要求するコマンドが出されました。

***GROUP INVALID ON LIBRARY**

説明: 生成メンバー・グループに対して /SAVE または /REPLACE が出されました。しかし、ライブラリー中のグループは項目を持っていないか、または項目が少なすぎます。

***GROUP INTEGRITY LOST, RECREATE**

説明: 生成メンバー・グループに対して /SAVE または /REPLACE が出されました。しかし、別のユーザーによって、そのグループは同時に改名または除去されています。

***HARDCOPY MODE INVALID**

説明: ハードコピー・モードが効力を持っている間は、フルスクリーン編集機能を入力することはできません。しかし、出力を LIBRARY、PRINT、および SHOW コマンドからハードコピー印刷装置に送るために、ユーザーの端末がフルスクリーン編集機能にあるときに HARDCPY コマンドを入力することができます。

***INCLUDED MEMBER NOT IN LIBRARY,
NAME=xxxxxxx**

説明: /INCLUDE コマンド中に名前の挙げられたメンバーは、ユーザーの基本ライブラリーにも接続ライブラリーにも、または共通ライブラリーにもありません。

***INPUT (FILE|AREA) EMPTY**

説明: 入力域がレコードを含んでいないときに、入力域中のデータに対してなされる機能を、ユーザーが要求しました (このメッセージはまた、ライブラリーまたは特別な領域に空メンバーが不注意に置かれたときにも生じます。例えば、\$\$PUNCH がアクセスされたのに、レコードが含まれていない時などに生じます)。

***INPUT FILE NEAR CAPACITY**

説明: 入力ファイル域は、ユーザーのプロファイル・レコードで指定された最大許容量値の 25 レコード以内となっています。

***INPUT FULL - INPUT IGNORED**

説明: 入力ファイル域は、ユーザーのプロファイル・レコードで指定されている最大許容量値を含んでいます。入力域を保管し、それから新しい入力域の最初のレコードとして、入力を再入力してください。

***INPUT IGNORED**

説明: 入力された最後の行は無視されます。これは、ユーザーの現行状況または、ユーザーが削除文字 (/SET コマンドを参照) を行の最後の文字として入力したためと考えられます。

***INSUFFICIENT STORAGE - x**

説明: このメッセージはフルスクリーン編集機能が最初に呼び出されたとき、または ENTER コマンドが出されるときに、出ます。これは CICS 区画中にフルスクリーン編集機能環境を制御するのに必要なテーブルを構築するだけの、十分な動的スペース (GETVIS 域) がないことを示しています。ENTER コマンドに続いてこのメッセージが出されたならば、すでに入力されているファイルの編集を継続することができます。このメッセージがフルスクリーン編集機能初期設定時に現れたならば、フルスクリーン編集機能には入らず、ユーザーは文脈編集機能の内部での編集を継続することができます。「x」は、フルスクリーン編集機能中のどのストレージ要求が障害を持ったかを示しています。

このメッセージをしばしば受け取る際には、この問題について VSE/ICCF 管理者に通知しなければなりません。

***INVALID CHARACTER SPECIFIED**

説明: /SET コマンド中で、ユーザーは許されていないか、またはすでに別の制御文字設定値として、割り当てられている制御文字を指定しました。別の文字で試みてください。

***INVALID COMMAND**

説明: VSE/ICCF はコマンドを予期していましたが、データ行または認識不能コマンドが入力されました。正しいライブラリーを接続または切り替えたこと、[/SET] IMPEX をオンに設定したことを確認してください。そうならないければ、手順は認識されません。

***INVALID COMMAND USAGE**

説明: 有効なコマンドを入力したと考えられます。しかし、現行の文脈中では有効ではありません。このメッセージは、以下のいずれかの理由によって出されたと考えられます。

1. PRINT または PUNCH 域からの追加または削除を行う結果となるコマンドが入力された。
2. プログラム機能キーが、/PF または PF のようなプログラム機能キー・コマンドと等しいものとされた。
3. 非同期実行モード時に、PUNCH または PRINT 域の編集が試みられた。
4. 手順から、または対話式区画から、/SEND コマンドが出された。

***INVALID DATA STREAM, PAGE IS IGNORED**

説明: ユーザーの出力データ・ストリームは無効です。例えば、それにはディスプレイ端末上で使用可能なバッファー・アドレスを超えるバッファー・アドレスが含まれています。ユーザーのプログラムを取り消すには PA2 (または /CANCEL と入力する) を押してください。あるいは、出力データが正しかったかのようにユーザーのプログラムに転送する、別の入力データを入力することもできます。

*INVALID DELETE • *LIBRARY DIRECTORY IS FULL

*INVALID DELETE

説明: フルスクリーン編集機能の論理画面内で複数の形式域が定義されている場合、削除コマンド (タイプ II または III) は一度に 1 つの形式域にのみ入力できます。すなわち、1 つの領域に対して削除を入力し、ENTER キーを押し、それから別の領域に対する削除を入力しなければなりません。

*INVALID MEMBER

説明: このメッセージは、編集される領域 (\$\$PRINT、\$\$PUNCH またはライブラリー・メンバー) にレコードが含まれていないときに、フルスクリーン編集機能の ENTER コマンドに続いて生じます。保管される領域にレコードが含まれていないときに、SAVE または FILE コマンドに続いて、このコマンドが生じます。

*INVALID OPERAND

説明: コマンド中のオペランドのつづりが間違っています。または、オペランドが置かれている場所が誤っているか、その文脈の中では無効です。正しいオペランドを指定して、コマンドを再入力してください。

*INVALID OR UNAUTHORIZED LIBRARY

説明: 使用する権限を持っていないライブラリー、または現在ユーザーの基本ライブラリーまたは接続ライブラリーのファイル上にはないライブラリーを、/SWITCH または /CONNECT しようとしています。

*INVALID PASSWORD

説明: ユーザーが入力したライブラリー・メンバー・パスワードが、ライブラリー中のメンバーに対するパスワードと合致していません。

*INVALID PRINTER OR QUEUE FULL

説明: ハードコピー装置またはキューに対して書き出そうと試みている際に、エラーが起きました。ユーザーのコマンド中でハードコピー装置またはキューの名前のつづりを間違えたことが考えられます。ハードコピー装置またはキューの名前が正しくつづられている場合には、VSE/ICCF 管理者に連絡を取ってください。

CICS を作動させている場合、そのエラーは以下のいずれかによって引き起こされました。

1. 指定された装置またはキュー名に対する DCT 項目が欠落しています。「*VSE/ICCF Administration and Operation*」のセクション『Define CICS System Requirements, 4. Destination Control Table』を参照してください。
2. 一時データ・キューがいっぱいです。
3. 一時データ・キューにレコードを書こうとしたときに入力エラーが起きました。
4. キューに書き出されている一時データ・レコードが、その一時データ・キューをサポートしている VSAM データ・セットに対して指定された CI サイズよりも大きくなっています。*VSE/ICCF Administration and Operation* のセク

ション『Define CICS System Requirements, 7. Transient Data Program』を参照してください。

*INVALID - POINTER AT BOTTOM|TOP

説明: 現行の行ポインターがファイルの先頭または末尾になっているので、入力されたコマンドは処理できません。例えば、現行の行ポインターがすでにファイルの先頭にあるときには、UP または BACKWARD コマンドは無効です。

*INVALID RANGE ...

説明: UP、NEXT、BACKWARD または FORWARD などのコマンドで要求したポインター移動が完全に実行される前に、ファイルの先頭または末尾に遭遇しました。

*INVALID SAVE/FILE

説明: フルスクリーン編集機能がこのエラーを検出しました。タイプ I SAVE/FILE コマンド処理プログラム内の論理エラーであることが考えられます。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。このメッセージは、SAVE コマンドの処理中に、メンバーが VSE/ICCF 管理者によってライブラリーから除去されるときにも起こり得ます。

*INVALID USER ACCESS

説明: ユーザーは、自分に所属していないライブラリー・メンバーにアクセスしようと試みています。

*INVALID USAGE

説明: 有効な VSE/ICCF コマンドが入力されました。しかし、そのコマンドは現行の操作モードでは無効でした。例えば、システム・コマンド・モードでは、/CANCEL コマンドは無効です。

*LIB DOES NOT EXIST

説明: このライブラリーに対する有効なライブラリー読み取りレコードは存在していません。ライブラリー・レコードは破壊されます。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

*LIBRARY DIRECTORY INTEGRITY LOST

説明: 有効なライブラリー登録簿レコードが存在していません。そのライブラリーは破壊されます。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

*LIBRARY DIRECTORY IS FULL

説明: インストール・システムは、ライブラリーが含むことのできるメンバーの最大数を設定しています。ユーザーの /SAVE 要求によって、この最大値を超えました。不必要なメンバーを除去し、それから再び /SAVE を出してください。ライブラリー登録簿のサイズが足りないならば、VSE/ICCF 管理者にその旨を通知する必要があります。

***LIBRARY FILE IS FULL**

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルがいっぱいです。データが入力された場合には、入力された最後の行はファイルに入りません。/INSERT が進行中であれば、そのメンバーは部分的にのみ挿入されます。VSE/ICCF 管理者に連絡を取らなければならないでしょうが、ライブラリーからメンバーを除去すると、データ・レコードが解放されて新しいレコードが入力されるようになります。

***LOGIC ERROR-n**

説明: フルスクリーン編集機能で異常なエラーが起きました。メッセージに続くレコードが、そのメッセージの特定の理由を示しています。コードおよびそれらに関連する理由が以下に説明されています。このエラーが起きたときには VSE/ICCF 管理者に通知してください。

- 2 画面から読み取られたレコードが、編集されているファイルと合致しません。これはフルスクリーン編集機能中の論理エラーか、フルスクリーン編集機能に関連した動的スペース域を別のアプリケーションが誤って破壊したためか、または論理画面の境界外にカーソルが置かれたためです。そのエラーが誤ったカーソル位置によるならば、単に CLEAR キーを押してください。
- 4 このメッセージは通常、ENTER キーが押されたときにカーソルが無効な画面位置にある場合に現れます。画面を再生して編集を継続するために ENTER キーを再び押してください。このメッセージは、ユーザーが別の端末からメッセージを受信した後に ENTER キーを押したときにも表示されます。画面を再生して編集を継続するために ENTER キーを再び押してください。他の端末からメッセージを受信した後で CLEAR キーを押せば、このエラー・メッセージを避けることができます。
- 5 ストレージにロードしようとしたときに、非常駐 VSE/ICCF コマンド処理プログラムが使用不能でした。LOAD が出された時点で、コマンド処理プログラムがコア・イメージ・ライブラリー中に存在していませんでした。これはシステム・インストールに関する問題です。影響を受けるモジュールは DTSTX04、DTSTX05、DTSTX07、および DTSTX09 です。
- 7 これは、フルスクリーン編集機能の論理エラーか、またはフルスクリーン編集機能の動的ストレージが破壊されていることを表しています。
- F VSE/ICCF ライブラリー・ファイルにアクセス中に、エラーが起きました。これは、フルスクリーン編集機能中の論理エラーまたは、VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの無効な条件によるものと考えられます。

***LOOP IN MACRO**

説明: マクロが最大レコード・カウント値を超したことをフルスクリーン編集機能が検出したときに、そのマクロは打ち切られました。最大レコード・カウントは 150、またはマクロ中の @LIMIT 副指令によって設定された値です。事前に設定され

たカウントに到達するまでマクロがループするように設計されている場合には、これは通常の条件です。

***MACRO LOOP COUNT EXCEEDED**

説明: 最大コマンド・カウント値を超過したので、VSE/ICCF マクロの処理が打ち切られました。マクロが、指定された回数だけ一連のコマンドをループするように設定されている場合には、これはエラー状況ではありません。

***MACRO NOT IN LIB OR FILE EMPTY**

説明: 指定されたマクロがライブラリー・ファイル中に存在しません。または、ユーザーがそのマクロを含んでいないライブラリーに切り替えたかまたは接続をしてしまいました。あるいは、そのマクロは共通ライブラリー中にあり、ユーザーが共通ライブラリーの探索をオフに指定しました (/SET COMLIB コマンド)。@\$PUNCH または @\$STACK がマクロ名として指定されているならば、その領域中には項目がありません。

***MEMBER IS NOT A MACRO**

説明: 指定されたマクロはマクロとしてセットアップされていません。すなわち、マクロ中の最初のステートメントにマクロ・ヘッダー (MACRO) がありません。

***MISSING OPERAND**

説明: 必要なオペランドがコマンドから欠落しています。必要なオペランドを追加して、そのコマンドを再入力してください。

***MISSING PASSWORD**

説明: パスワードを提供しないで、パスワード保護されているメンバーにアクセスしようと試みました。

***MSG=xxxxxxx ...**

説明: このメッセージ ID は、文脈編集機能がメッセージをフルスクリーン編集機能に渡すときに現れます。このメッセージが通常出されるのは、タイプ II コマンド中でエラーに遭遇する際、コマンドを処理する間に例外条件が起きるとき、または無効なコマンドが入力されたときです。

***NO STORAGE FOR BUFFER AVAILABLE, /LOCP IS NOT POSSIBLE**

説明: /LOCP コマンドが出され、VSE/ICCF はバッファ付き区画間通信処理のためにストレージを入手できません。リスト出力を検討するために GETL 手順を使うか、または VSE/ICCF 管理者に依頼して (あるいはその両方)、CICS/ICCF 区画中のストレージ・フラグメント化によって引き起こされた、GETVIS 障害の理由を調査してください。

***NO COMMON LIB**

説明: VSE/ICCF 環境中に共通ライブラリーが存在していません。

*NO LIB CONNECTED • *STACK IS FULL

*NO LIB CONNECTED

説明: 現在ユーザーは接続されているライブラリーを持っていません。

*NO QUEUE SPACE - TRY LATER

説明: インストール・システムは、その時点でログオンされているすべての端末ユーザーを、サポートするのに十分な要求キュー・スペースを生成していません。RQE 項目が消去されるためにしばらくの間待ったあとで、/EXEC または /RUN を入力してください。

*OK

説明: このメッセージは、要求された最後の機能が実行されたことを確認します。

*OPERAND IGNORED

説明: コマンド上に無効なオペランドが入力されました。しかし、そのオペランドが指定されなかったものとして、そのコマンドは処理されました。

*PARTIAL CREATE, MUST RECREATE

説明: ユーザーが生成メンバー・グループを作成していたときに、誰かがライブラリーにグループ・メンバーの 1 つと同じ名前を持つ通常メンバーを追加しました。そのグループをグループ解除して除去するか、または異なった名前の下でそれを作成してください。

*PARTIAL END PRINT

説明: このメッセージは 3277 端末に関してのみ起きます。これは、印刷スプール域が完全に印刷されたことを通知します。ENTER キーを押すと、実行プログラムが再びスプール域を満たし始めます。実行を再開する前のこの休止によって、ユーザーは印刷データが失われる前にページを戻すことが可能になります。

*PARTIAL END PRINT BEFORE FULL SCREEN WRITE

説明: SYSLOG または SYSLST 要求によって出される印刷出力が表示されるのを待っています。そしてユーザーのプログラムがフルスクリーン書き出しを要求しています (DTSWRTEFS)。ユーザーのプログラムのデータが表示されるように ENTER キーを押すか、または実行スプール・モジュールで許されているいずれかのコマンドを入力してください。

*PLEASE LOG OFF

説明: VSE/ICCF はすぐに打ち切られます。現在の活動を完了してログオフしてください。

*QUEUE ENTRY ACTIVE, PROCESSING NOT STARTED, PRESS ENTER TO RESUME

説明: キュー項目には活動状態を表すフラグが立てられていますが、処理はまだレコード 1 になく、レコード 1 を超えてもいません。

*QUEUE ENTRY COMPLETE IN LST|PUN|RDR|XMT QUEUE

説明: すでに作成の完了したキュー項目のスキャン検索中に /SKIP ACTIVE コマンドが出されたか、または QC オペランドを指定した /LISTP コマンドがスキャン検索のために出されましたが、そのキュー項目が作成されていなかったか、もはや作成中ではありません。

*QUEUE ENTRY IN-CREATION BUT EMPTY

説明: スキャン検索しようとしたキュー項目には作成中を表すフラグが立てられていますが、まだレコードがスプールされていません。

*QUEUE ENTRY -INVALID POWER TASK

説明: 指定された VSE/POWER タスクのスキャン検索は、VSE/POWER および VSE/ICCF でサポートされていません。

*QUEUE ENTRY NEITHER ACTIVE NOR IN-CREATION, PRESS ENTER TO RESUME

説明: VSE/POWER キュー項目のスキャン検索中に、/SKIP ACTIVE コマンドが出されましたが、そのキュー項目は活動状態でなく、作成中でもありません。

*QUEUE ENTRY VSE/POWER RC/FDBK/FDBK2 X'04/01/xx'

説明: FDBK2 の詳細については、「VSE/POWER Application Programming」の直接 GET サービス要求を参照してください。

*READY

説明: ユーザーの端末はシステム・コマンド・モードにあります。このモードで有効などのコマンドでも入力することができます。

*SIGN ON PROCEDURE CANCELED

説明: ログオン手順の際に /LOGOFF または /CANCEL のいずれかを出しました。または、ログオンが完了する前に端末時間切れが起きました。

*STACK IS FULL

説明: エディター・スタック域がいっぱいです。スタックするように要求されているデータのうち、スタックされていないものがある可能性があります。スタックの内容を調べるには PRINT \$\$STACK コマンドを用いてください。ポインターをスタック域の先頭に設定するようにスタック域を OPEN し忘

STORAGE CURRENTLY UNAVAILABLE • *nnnnnn RECORDS IN MEMBER name **UPDATE IN PROGRESS*

れて、このメッセージが出されることがしばしばあります。文字列オペランドを指定した STACK コマンドを出して、現行のスタックの残りの部分に入るより多くのデータをスタックしようとしてみたときにも、このメッセージが現れます。

***STORAGE CURRENTLY UNAVAILABLE**

説明: 端末制御システムで動的ストレージが不足しました。ユーザーの先行要求 (例えばプログラム機能キー設定) は処理されません。プログラム機能キーは手順からは設定できません。要求を再び入力してください。それまでの間に、システムのどこか他の所でストレージが解放されている可能性があります。

***SYS ERR-mn**

説明: コマンド処理モジュール中でプログラム論理エラーが起きました。m コードは、エラーを見いだしたモジュール 'TX' を示しています (例外は SYS ERR-32、33 および 35 で、これらは DTSPROCS から出され得ます)。n はそのモジュール中の特定の領域を示しています。VSE/ICCF 管理者に連絡をとって、IBM のサービス・サポートを要請してください。

***TERMINAL NOT FREE - DISCONNECT FOR USER
userid IS REQUIRED**

説明: 表示された *userid* によって識別された端末が、VSE/ICCF にログオンされています。何らかの理由 (例えば、ハードウェア・エラーやオペレーターの介入など) で、ログオンされたセッションが秩序だった終わりを迎えませんでした。VSE/ICCF は、そのログオンされたセッションがオペレーターによって終了させられない限り、ユーザーのログオンをこの端末で処理することができません。次の手順に従ってください。

1. オペレーターに '/DISC USER *userid*' コマンドを出してもらってください (ここで *userid* はメッセージ中に表示された端末 ID です)。
2. 通常のように VSE/ICCF にログオンしてください。

***TIOA TOO SMALL**

説明: フルスクリーン編集機能が端末に送信されるデータを構築する端末入出力域が、小さすぎます。CICS システムの場合、このメッセージは論理またはインストール・エラーを示していると考えられます。文脈編集機能の編集モードで継続できます。このエラーが起きたときには VSE/ICCF 管理者に通知してください。

***UNAUTHORIZED COMMAND**

説明: ユーザーのプロファイル・レコードは、今入力したばかりのコマンドを使用する権限がないことを示しています。

***UPDATE IN PROGRESS - TRY LATER**

説明: 現在別のユーザーによって更新または編集されているメンバーを、ユーザーが更新または編集しようとしています。あるいは、更新が進行中に、またそのメンバーに対する「更新進行中」標識が消去されていなかったときに、システムに障害が起きました。

***UPD IN PROGRESS ON GROUP MBR**

説明: 生成メンバー・グループのメンバーの 1 つが、現在、編集または更新されています。/SAVE または /REPLACE 操作を後ほど再び試行してください。

***USER HAS JOB IN EXECUTION**

説明: ユーザーは非同期実行モードにあり、そのモードでは許されていない事柄を試みました。そのジョブを取り消すことができるならば、/SYNCH および /CANCEL を入力することを試みてください。

***USER HAS NO JOB IN EXECUTION**

説明: ユーザーは /SYNCH または /ASYNCH コマンドを出しましたが、実行中の対話式区画ジョブがありません。

***USER IS UNAUTHORIZED FOR INCLUDED MEMBER,
NAME=xxxxxxx**

説明: 専用メンバーに対するユーザー識別名が正しくないか、パスワードで保護されているメンバーに対するパスワードがないか、あるいはメンバーが圧縮されました。

***YOUR ICCF PASSWORD IS CHANGED TO YOUR
CENTRAL PASSWORD**

説明: DTSFILE の ICCF アクセスのユーザー・パスワードと、例えば制御ファイルの中央パスワードは、通常同じです。しかし、以下のいずれかの場合に異なる可能性があります。

1. ICCF が活動状態にない間にユーザーがパスワードを変更した。
2. ユーザーが ICCF ユーティリティを使用した。
3. ユーザーが ICCF パスワードの変更に /PASSWORD コマンドを使用した。
4. 外部セキュリティ・マネージャーが ICCF パスワードを維持していない。

ICCF パスワードと対話式インターフェース・パスワードが異なる場合、対話式インターフェースから ICCF への最初の /LOGON によって、ICCF パスワードは対話式インターフェース・パスワードと一致するように変更されます。

ICCF への固有ログオンの場合、ICCF には、基本または外部セキュリティ・マネージャーで検査されたパスワードが与えられています。OK であれば、ICCF パスワードが変更されます。

***nnnnnn RECORDS IN MEMBER name
COMPRESSED**

***nnnnnn RECORDS IN MEMBER name **UPDATE IN
PROGRESS****

説明: メンバー *name* は *nnnnnn* 個の物理レコードを持っています。カウントされたメンバーが圧縮されているか、または更新進行中 (UPIP) フラグがオンであれば、警告メッセージが出されます。

VSE/ICCF 戻りコード

00

説明: ユーザーのジョブは正常に終了しました。または、異常終了したとしても、VSE/ICCF は異常終了に気付きませんでした。

問題判別: ジョブの最終ステップは通常のジョブの終わりに入りました。

01

説明: 穿孔されたカード・イメージの数が、ユーザーのユーザー・プロファイル・レコードまたは MAXR パラメーターによって決定された ICCF メンバーまたは穿孔域のサイズを超えているので、ユーザーのプログラムが取り消されました。

問題判別: プログラムは、カード・イメージを穿孔している間に終わりのないループに入りました。

02

説明: プログラムは、無効なアドレス指定のために取り消されました。これは、マクロまたは監視機能が出され、SVC が出されたときに渡されたアドレス・パラメーターの 1 つが無効、またはユーザーのストレージ域の中になかったことを意味しています。詳しくは、メッセージ 0P77 の記述を参照してください。

問題判別: 入出力要求が出され、CCB 中の CCW のアドレスまたは CCW 中のデータ域のアドレスが無効です。フェーズに対して LOAD が要求されましたが、そのフェーズが区画または区画の非 GETVIS 域に対して大きすぎるか、あるいは GETVIS アンカー・テーブルが重ね書きされてしまいます。

03

説明: 以下のいずれかが発生しました。

- メンバー名が /INCLUDE ステートメント中で指定されませんでした。
- モジュール名が 8 文字を超えています。
- パスワードが 4 文字を超えています。
- ICCFSLI 以外のキーワードが見つかりました。

04

説明: ジョブが、SYSIPT ファイルの末尾を乗り越えて読もうとしたか、ジョブ・ストリームから限度を超えた入力カード・イメージを読み取ろうとしたので、取り消されました。1 つのジョブ・ステップで読み取れるジョブ・ストリーム読み取りの限界は 32767 です。

問題判別: カード・イメージを読み取っている際に実行プログラムに入り、SYSIPT ファイルの終わり条件か、またはジョブ・ストリーム読取装置として割り当てられている装置をチェックしませんでした。あるいは、物理的ファイルの終わりを確認した後で、プログラムが別のジョブ・ストリーム読み取り要求を出しました。

05

説明: スペース要求をサポートするのに十分なスペースが VSE/ICCF ライブラリーになかったため、そのジョブは取り消されました。

問題判別: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルがいっぱいであるか、または空きレコード・チェーンが失われました。このエラーは通常、印刷または穿孔域スペースが割り振られているときに起きます。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

06

説明: 未使用。

07

説明: DUMP または JDUMP マクロを出すことによってそのジョブは打ち切れ、DUMP オプションが設定されていませんでした。そのジョブは終了し、ダンプは取られません。

問題判別: ユーザー・エラーです。

08

説明: そのジョブは、プログラム実行時に CANCEL マクロを使ってユーザーによって異常終了されたか、または無効な条件のために VSE によって異常終了されました。取り消しの理由は、このメッセージまたはこのメッセージに先行するメッセージ中に見いだされます。これらのメッセージは標準 VSE メッセージ番号 (例えば 0S02I、0S03I、0S04I、0P77I) によって識別されます。これらのメッセージの記述については、接頭部 0 の項を参照してください。

問題判別: ユーザー要求

09

説明: ユーザーがアクセスする権限を持たないプログラムを使用しようとしたので、そのジョブは取り消されます。

問題判別: ユーザーが使用する権限を持たないプログラムが、/LOAD ステートメント上で指定されたか、または内部的にロードされました。詳細については、メッセージ K809I の説明を参照してください。

10

説明: この戻りコードは有効なジョブ・ストリーム条件を表すことも、無効なジョブ・ストリーム条件を表すこともあります。ジョブ・ストリームをスキャンしたときに /LOAD ステートメントが見つからなかったか、または /LOAD ステートメントは見つかったものの、ロードされるべきフェーズ名がそこに含まれていませんでした。

問題判別: これは、ジョブ中の最後のまたは唯一のステップがジョブ・ストリームの最後まで読み通さないときの、通常のジョブの終わり条件を表しています。これは、ジョブ・ストリーム入力データの途中での通常終了によって、またはジョブ・ストリームの最後より前にある /DATA INCON という最終ステートメントによって、引き起こされる場合があります。無効な状況は、通常の場合無効な、欠落した、または誤っておかれている /LOAD ステートメントによって引き起こされます。ジョブが (非 VS BASIC) オブジェクト・デックで始まらない限り、/LOAD ステートメントがジョブ中の最初のジョブ入力ステートメントでなければならないことに注意してください。

11

説明: 指定されたメンバー名を持つメンバーが、ユーザーのライブラリー中にありません。

問題判別: /INCLUDE ステートメント中のメンバー名が無効であるか、またはそのメンバーがユーザーのライブラリー中にまだ保管されていません。

12

説明: ユーザーの指定した名前のライブラリー・メンバーに対するアクセスが否定されました。

問題判別: この取り消し条件は、以下のいずれかによって引き起こされています。

1. メンバーがパスワード保護されているのに、パスワードが指定されなかったか、または誤って指定されました。
2. ユーザーは別のユーザーに属している PRIVATE メンバーにアクセスしようとした (代替セキュリティが有効な場合)。
3. そのメンバーは圧縮形式です。

13

説明: /INCLUDE ネスト限界を超過しました。または 256 個より多くの /INCLUDE ステートメントが 1 つのジョブ・ストリーム中に現れました。それ自身が、/INCLUDE オブジェクトである、包含されたモジュール中に /INCLUDE ステートメントを含めることは可能です。しかし、このタイプのネストは 8 レベルの深さまでしか許されていません。

問題判別: /INCLUDE... 中の /INCLUDE 中の /INCLUDE を指定しました。/EXEC ステートメントを使用したことは 1 レベルの /INCLUDE を暗黙指定していることを思い出してください。そのため、実際に参照されるジョブ・ストリームは 7 レベルのネストまでとなります。このエラーは、包含されたメンバーが、自分自身を参照する、またはそのメンバーを包含するように試みる別のメンバーを参照する、/INCLUDE ステートメントを含んでいて、包含のループが起きるときにも起こり得ます。

14

説明: 実行が進行中のときに /CANCEL コマンドを入力することによって、または IBM 3270 PA2 キーを押すことによって、ユーザーが背景の実行を取り消しました。

問題判別: ユーザー要求

15

説明: ジョブの時間制限が超過したので、ジョブは打ち切られました。

問題判別: ジョブがループに入って時間制限を超えたか、またはより多くの時間が必要です。そして時間制限を増加させるための /SETIME コマンドも /OPTION STATEMENT TIME= オペランドも指定されませんでした。このコードは /DISCONN DTSFILE コマンドがシステム・コンソールで入力された場合にも設定されます。その場合には、対話式区画中のジョブは取り消されます。

16

説明: フルスクリーン読み書き操作の際にエラーが検出されました。

問題判別:

- ユーザーの端末は IBM 3270 ディスプレイ端末ではありません。
- 依然として活動状態にあるプロシージャーによって開始されたプログラム中で操作が出されました。
- LTA の内部から命令が出されました。
- 内部論理エラーが生じました。

17

説明: これは VSE/ICCF 内の論理エラーです。

問題判別: 無効入出力要求が、ファイル・ルーチンによって受信されました。有効な要求は READ、UPDAT、READU、RELSE、および FORCE です。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

18

説明: これは VSE/ICCF 内の論理エラーです。入出力要求を満たすための使用可能なファイル・バッファがあります。

問題判別: レコードはシステムのいずれかの場所で予約されていますが、バッファを解放するための書き込みまたは解除はされません。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

19

説明: これは VSE/ICCF 内の論理エラーです。

問題判別: RELSE または FORCE 要求が出されましたが、書き出されるまたは解放されるレコードが、バッファのいずれにも入っていません。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

20

説明: 別の対話式区画中で実行されているプログラムのロードを要求しました。

問題判別: ユーザーが要求したプログラムは、一度に複数のユーザーに対して活動状態になれないリソースを使用しています。30 秒待ってから、その機能を再び試みてください。

21

説明: これはおそらく VSE/ICCF 内のプログラム論理エラーです。

問題判別: ファイル・ルーチンによるレコードへの要求が受信されましたが、そのレコード要求はファイルの限界を超えています。VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

22

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルで長さがゼロのレコード (EOF) が見つかりました。

問題判別: コード 26 を参照してください。

23

説明: ディスク・エラー条件が疑われます。
問題判別: コード 26 を参照してください。

24

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルで誤長ブロック・サイズ条件が見つかりました。
問題判別: コード 26 を参照してください。

25

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルで、欠落または無効 ID 条件が見つかりました。
問題判別: コード 26 を参照してください。

26

説明: VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの読み取り中に、データ・チェックが検出されました。
問題判別: コード 22 から 26 は、VSE/ICCF ライブラリー・ファイル内の物理入出力エラー条件です。それらは以下のいずれかを意味します。

- VSE/ICCF ライブラリー・ファイルの一部が破壊された。
- 直接アクセス・ハードウェアが適切に機能していない。
- VSE/ICCF 生成テーブルのブロック・サイズ指定が、DTSFILE のブロック・サイズと一致していない。

VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

27

説明: VSE/ICCF プログラム論理エラー。
問題判別: システム・レコードに重ね書きをするなどの、無効なファイル操作を実行しようとする試みがなされました。
VSE/ICCF 管理者に連絡してください。

28

説明: ユーザーの現行ジョブは取り消されます。
問題判別: コンソール・オペレーターの要求。

29

説明: ユーザーの現行ジョブは取り消されます。
問題判別: 重大または訂正不能ジョブ入力ステートメント・エラーのため。

30

説明: ジョブ・ストリーム中でチェーニング・エラーが現れました。
問題判別: /INCLUDE ステートメントを使ってジョブ・ストリームに組み込まれたメンバーが、ジョブが進行中に編集または除去されました。これは、ユーザーが非同期モードで、ジョブ・ストリーム中に含まれていたメンバーを編集しているため、または実行が進行中に誰か他のユーザーがそのメンバーを編集していたためです。

31

説明: ユーザーのジョブには JOBCOM マクロが含まれているので、取り消されます。
問題判別: JOBCOM マクロは、対話式区画中ではサポートされません。

32

問題判別: ユーザーのジョブは、2K よりも長いラベルを検索しようとしたので、取り消されました。2K よりも長いラベルを対話式区画中で使用することはできません。

33

問題判別: ユーザーのジョブは、一度に複数の対話式区画内で使用できない LOCGRPL/CLRGRPL/MODGRPL LABEL 機能を要求したので、取り消されます。LSERV プログラムは、LOCGRPL 機能をも内部的に要求するので、LSERV が実行中にこれらの機能を使用している他のプログラムと共に、取り消されます。

34

説明: ジョブの実行依頼の際に VSE/POWER からゼロ以外の戻りコードが受信されたので、ユーザーのジョブは取り消されました。
問題判別: 受け渡されているジョブの中に、無効な VSE/POWER JECL ステートメントがありました。

35

説明: ユーザーのジョブは、使用中ではないリソースによって引き起こされた LOCK/UNLOCK エラーのために、取り消されました。

36

説明: 対話型区画が、高水準アセンブラー ASMA90 を実行するには小さ過ぎます。

第 23 章 接頭部 L のライブラリアン・メッセージ

L001A ENTER COMMAND OR END

説明: ライブラリアンが SYSLOG から実行されます。
システムの処置: 次のコマンドまたは終了要求を待ちます。
プログラマーの応答: なし。

L002A CONTINUE

説明: 継続記号を伴うコマンド/注釈が、SYSLOG から入力されました。
システムの処置: 次の入力行を待ちます。
オペレーターの応答: 継続行を入力してください。
プログラマーの応答: なし。

L003A ENTER MEMBER DATA OR *cod-string*

説明: SYSLOG から CATALOG コマンドが実行されました。プログラムは、カタログを作成するデータ行の受け入れ態勢が整っています。
システムの処置: 次のデータ行、またはデータ入力終了のための 2 バイトのデータ終了ストリングが入力されるのを待ちます。
プログラマーの応答: なし。

L004A ENTER UPDATES OR)END

説明: SYSLOG から UPDATE コマンドが実行されました。プログラムは、メンバー更新のためのデータ行の受け入れ態勢が整っています。
システムの処置: 次の UPDATE サブコマンド、データ行、あるいはデータ入力打ち切りのための)END ステートメントの入力を待ちます。
プログラマーの応答: なし。

L005I END DELIMITER OF COMMENT MISSING

システムの処置: 注釈コマンドの一部になっている場合 (つまり注釈がコマンド行またはコマンド継続行から始まっている場合) には、そのコマンドは実行されません。
オペレーターの応答: SYSLOG モード: 正しい注釈区切り文字を用いて再試行してください。
プログラマーの応答: BATCH モード: 正しい注釈区切り文字を指定した上で、ジョブのサブミットをし直してください。

L006I END OF INPUT BEFORE END OF COMMAND CONTINUATION

説明: SYSIPT 入力の場合のみ: ファイルの終わりに達したのに、最後の入力行に継続記号が指定されています。
システムの処置: コマンドは実行されません。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

L007I ===== EQUAL =====

説明: このメッセージは、COMPARE 機能が完了し、「等し

い」という結果が出たときに表示されます。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

L008I ***** UNEQUAL *****

説明: このメッセージは、COMPARE 機能が完了し、「等しくない」という結果が出たときに表示されます。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

L009I LABEL *label* AFTER GOTO IS NOT FOUND IN INPUT

説明: ライブラリアン 'ON \$SRC ... GOTO' 条件が活動化されたか、または 'GOTO' ステートメントが処理されましたが、対応するラベルが入力ストリームに見つかりません。
システムの処置: この入力ストリームを飛ばし、処理を打ち切ります。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: GOTO 式に指定した各ラベルがライブラリアンの入力ストリームの中にあることを確認してください。分岐は前進の場合に限り可能です。ラベルが見つかった後で、活動化された ON ステートメントの GOTO が処理され、同じ ON 条件が生じているかどうか調べてください。もし生じていれば、'/. label' ステートメントのあとにさらにライブラリアン・コマンドがあることを意味します。この場合には、新たな ON 条件を '/. label' ステートメントのあとに挿入するか、あるいは同じラベルを別々の場所に 2 箇所挿入してください。

L010I INVALID COMMAND NAME

システムの処置: 構文検査を打ち切ります。
オペレーターの応答: 正しいコマンド名を用いて再試行してください。
プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

L011I INVALID SYNTAX ---> *input*

説明: コマンドの構文エラーです。
システムの処置: エラーのあるストリングを最大 14 バイトまで表示します。このコマンドは実行されません。
オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。
プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

L012I INVALID SPECIFICATION IN THE SEQUENCE OPERAND

説明: UPDATE コマンドの SEQUENCE オペランドに、1 より小さい数を指定しました。
システムの処置: UPDATE 機能は実行されません。

L013I • L021I

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、機能の受け渡しをし直してください。

L013I MUTUALLY EXCLUDING OPERANDS SPECIFIED

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

L014I START COLUMN VALUE IS GREATER THAN END COLUMN VALUE

説明: UPDATE コマンドの COLUMN オペランドに、無効な開始桁/終了桁が指定されています。

システムの処置: UPDATE 機能は実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、機能の受け渡しをし直してください。

L015I MANDATORY OPERAND MISSING

説明: 必要なオペランドが指定されていません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

L016I DUPLICATE OPERAND *operand-name*

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

L017I STATEMENT OUT OF SEQUENCE OR SEQUENCE STRING NOT FOUND IN MEMBER

説明: UPDATE コマンドの処理中ですが、次のいずれかのエラーが生じました。

-)ADD、)DEL、または)REP ステートメントに指定されているシーケンス番号が、メンバー・データの中に見あたりません。
-)ADD、)DEL、または)REP ステートメントに指定されたシーケンス番号が、先行の)ADD、)DEL、または)REP ステートメント中の指定値より低くなっています。
- SEQUENCE=FS が指定されているのに、更新データ・レコードが昇順になっていません。

システムの処置: UPDATE 機能は実行されません。元のメンバーの名前をそのまま保管します。SAVE パラメーターが指定されていれば、元のメンバーの名前をそのパラメーターに指定された名前に変更します。

オペレーターの応答: SAVE パラメーターが指定されている場合にはメンバーを名前変更して元の名前に戻してください。正

しい入力指定を用いて再試行してください。

プログラマーの応答: SAVE パラメーターが指定されている場合にはメンバーを名前変更して元の名前に戻してください。正しい入力指定を用いて再試行してください。

L018I THE COLUMN SPECIFICATION HAS MORE THAN 8 DIGITS

説明: UPDATE コマンドの処理中ですが、COLUMN パラメーターの開始番号または終了番号が、1 つの番号に 8 桁という限度を超えています。

システムの処置: UPDATE 機能は実行されません。元のメンバーの名前をそのまま保管します。SAVE パラメーターが指定されていれば、元のメンバーの名前をそのパラメーターに指定された名前に変更します。

オペレーターの応答: SAVE パラメーターが指定されている場合にはメンバーを名前変更して元の名前に戻してください。正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: SAVE パラメーターが指定されている場合にはメンバーを名前変更して元の名前に戻してください。コマンド入力を訂正し、機能の受け渡しをし直してください。

L019I INVALID SUBCOMMAND SPECIFICATION

説明: UPDATE コマンドの処理中ですが、)ADD、)DEL、)REP、または)END サブコマンドに構文エラーがあります。

システムの処置: UPDATE 機能は実行されません。元のメンバーの名前をそのまま保管します。SAVE パラメーターが指定されていれば、元のメンバーの名前をそのパラメーターに指定された名前に変更します。

オペレーターの応答: SAVE パラメーターが指定されている場合にはメンバーを名前変更して元の名前に戻してください。正しいサブコマンド指定を用いて再試行してください。

プログラマーの応答: SAVE パラメーターが指定されている場合にはメンバーを名前変更して元の名前に戻してください。そして、サブコマンドを訂正し、機能の受け渡しをし直してください。

L020I INPUT IS SKIPPED UP TO NEXT *end-of-data* STATEMENT

説明: CATALOG または UPDATE コマンドの処理に失敗しました。SYSIPT データは、EOD 指定が見つかるまで飛び越されます。

システムの処置: CATALOG/UPDATE 機能は実行されません。SYSIPT データを飛び越します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: L020I の前に出たメッセージを参照してください。

L021I RIGHT PARENTHESIS MISSING

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいコマンド指定により再試行してください。

プログラマーの応答: コマンド入力を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

L022I PARTITION IS TOO SMALL - NO WORKAREA SPACE AVAILABLE

説明: コマンド処理のための区画の作業域スペースが不十分です。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 区画サイズまたは SIZE パラメーターを増加して再試行してください。

プログラマーの応答: 区画サイズまたは SIZE パラメーターを大きくして、もう一度ジョブを受け渡してください。

L023I LIBDEF MISSING FOR FROM-LIBRARY OF TYPE *old-lib-type*

説明: オンライン移行処理中ですが、上記のライブラリー・タイプに関し、必要な FROM パラメーターの入った LIBDEF ステートメントがありません。「旧ライブラリー・タイプ」が示すタイプは次のとおりです。

CL コア・イメージ・ライブラリー

PL プロシージャー・ライブラリー

RL 再配置可能ライブラリー

SL ソース・ステートメント・ライブラリー

システムの処置: メッセージ L146A を出して、欠けているライブラリー、サブライブラリー情報の指定を求めます。

オペレーターの応答: エラーの発生をプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: LIBDEF ステートメント、または移行テーブル INLPLMT の項目を追加して、プロンプトが出ないようにしてください。

L024I LIBDEF MISSING FOR TO-LIBRARY OF TYPE *old-lib-type*

説明: オンライン移行処理中ですが、上記のライブラリー・タイプに関し、必要な TO パラメーターの入った LIBDEF ステートメントがありません。「旧ライブラリー・タイプ」が示すタイプは次のとおりです。

CL コア・イメージ・ライブラリー

PL プロシージャー・ライブラリー

RL 再配置可能ライブラリー

SL ソース・ステートメント・ライブラリー

システムの処置: メッセージ L146A を出して、欠けているライブラリー、サブライブラリー情報の指定を求めます。

オペレーターの応答: エラーの発生をプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: LIBDEF ステートメント、または移行テーブル INLPLMT の項目を追加して、プロンプトが出ないようにしてください。

L025I ACCESS IS ACTIVE FOR *library.sublibrary*

説明: ACCESS 情報表示要求に対する応答です。

システムの処置: 機能は完了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L026I TOO MANY NAMES SPECIFIED IN THE COMMAND - INCREASE THE PARTITION GETVIS AREA OR SPLIT THE COMMAND

説明: ライブラリー・オブジェクトの長いリストが指定されたコマンドが出ました。リスト全体が入るほど十分な区画 GETVIS スペースがありません。

システムの処置: 機能は実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 区画 GETVIS スペースを大きくするか、または、可能ならコマンドを 2 つ以上のコマンドに分割してください。

L027I ABNORMAL END DURING *command-name* COMMAND PROCESSING

説明: ライブラリアンのサービス機能が失敗しました。理由はこの前のメッセージに示されています。

システムの処置: このコマンドの処理を中止させます。

オペレーターの応答: この前に出たメッセージの説明を読んでください。

プログラマーの応答: この前に出たメッセージの説明を読んでください。

L028I NO *command-name* INFORMATION AVAILABLE

説明: 'ACCESS-' / 'CONNECT-' 情報表示要求が出ましたが、この情報はまだ確立されていません。あるいは、メンバーに対する CATALOG、COMPARE、COPY、DELETE、LISTDIR、LIST、MOVE、PUNCH、RENAME、RESTORE、または UPDATE 要求が出ましたが、必要な ACCESS コマンドまたは、CONNECT コマンドがありません。

システムの処置: このメッセージが表示要求に対する回答の場合には、機能は完了します。他の場合はすべて、機能は実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L029I MEMBERS OF TYPE *type* ARE NOT PROCESSED BY THE *command-name* COMMAND

説明: コマンドを用いてメンバーを処理しようとしたのですが、このコマンドで、メッセージに示されたタイプのメンバーを処理することはできません。(例: 'CATALOG' コマンドは、'PHASE' または 'DUMP' というタイプのメンバーを処理することはできません。)

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: このメンバー・タイプのための機能 (例: カタログを作成するフェーズならリンク・エディット機能) を使用してください。

プログラマーの応答: このメンバー・タイプのための機能 (例: カタログを作成するフェーズならリンク・エディット機能) を使用してください。

L030I DATA=YES IN CATALOG ALLOWED ONLY FOR TYPE PROC OR FOR USER TYPES

説明: DATA=YES パラメーターを伴う CATALOG コマンドが、ユーザーまたは 'PROC' 以外のメンバー・タイプに指定されています。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいメンバー・タイプを指定するか、または DATA パラメーターを取り除いて、再試行してください。

プログラマーの応答: 正しいメンバー・タイプを指定するか、または DATA パラメーターを取り除いて、再試行してください。

L031I MEMBER member.type IN SUBLIBRARY library.sublibrary ALREADY EXISTS - IS NOT REPLACED

説明: CATALOG、COPY、RESTORE、または MOVE コマンドに REPLACE=NO (デフォルト) が指定されているし、このメンバーもすでに入っています。

システムの処置: 機能は実行されません。次のメンバーまたはコマンドを用いて処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L032I MEMBER member.type IN SUBLIBRARY library.sublibrary IS MSHP CONTROLLED - command-name REQUEST IS IGNORED

説明: MSHP の制御下にある既存メンバーが、現行機能 (例えば CATALOG、COPY、MOVE、RESTORE、UPDATE、または内部 STOW 機能) で重ね書きされます。

システムの処置: このメンバーについては、機能は実行されません。次のメンバーまたは機能を用いて続けます。

オペレーターの応答: プログラマーの処置を参照してください。

プログラマーの応答: MSHP を用いて、MSHP 制御のメンバーを更新してください。

L033I MEMBER TYPE MISSING ON MIGRATED COMMAND

説明: 古いソース・ステートメント・ライブラリーを処理するコマンドを移行していますが、メンバー名と共に指定されるはずのソース・ブックのタイプが指定されていません (例えば、CATALS type.name で、type が抜けている場合など)。

システムの処置: このメンバーについては、機能は実行されません。次のメンバーまたは機能を用いて続けます。

オペレーターの応答: プログラマーの処置を参照してください。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、機能の受け渡しをし直してください。

L034I END OF INPUT FILE FOUND BEFORE END OF DATA WAS REACHED

説明: メンバーの CATALOG 処理または UPDATE 処理中に、有効なデータ終わりステートメント (CATALOG の場合は EOD スtring、UPDATE の場合は、END サブコマンド) がまだ現れないうちに入力ファイルが終了しました。

システムの処置: このメンバーはカタログが作成または更新されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力を訂正し、機能の受け渡しをし直してください。

L035I MEMBER l.s.m.t EMPTY - command-name REQUEST IS IGNORED

説明: CATALOG コマンドの直後にデータ終わり指定がきています。これは、使用可能なメンバー入力がないことを意味します。BACKUP、LIST、または PUNCH 機能がサブライブラリー中に空のメンバーを見つけました。

システムの処置: システムは、メンバーのカタログを作成またはテープへのバックアップを行わずに、処理を続行します。

オペレーターの応答: CATALOG の場合は、メンバー・データを入れるか、あるいはデータ終わり指定をメンバー・データとして使わないようにしてください。BACKUP の場合: なし。

プログラマーの応答: CATALOG の場合は、メンバー・データを入れるか、あるいはデータ終わり指定をメンバー・データとして使わないようにしてください。BACKUP の場合: なし。

L036I BKEND/MEND STATEMENT MISSING AT END OF MEMBER l.s.m.t

説明: ソース・タイプ付きでメンバーのカタログを作成しようとしています。メンバー入力に始めの BKEND または MACRO ステートメントが含まれていますが、メンバーの終わりに対応する BKEND または MEND ステートメントがありません。

システムの処置: このメンバーはカタログが作成されません。

オペレーターの応答: 終わりの BKEND または MEND ステートメントを挿入して、再試行してください。

プログラマーの応答: 終わりの BKEND または MEND ステートメントを挿入して、再試行してください。

L037I LIBRARY lib IS THE SYSTEM LIBRARY - command-name REQUEST IS IGNORED

説明: 現行 SYSRES ファイルに対する DEFINE、DELETE、または RESTORE 要求が出ています。

システムの処置: 機能は実行されません。

オペレーターの応答: DELETE、DEFINE、または RESTORE の場合には、現行の SYSRES ファイルの DLBL および EXTENT ステートメントに、IJSYSRS という名前またはその別名を用いしないでください。

プログラマーの応答: DELETE、DEFINE、または RESTORE の場合には、現行の SYSRES ファイルの DLBL および

EXTENT ステートメントに、IJSYSRS という名前またはその別名を用いないでください。

L038I SUBLIBRARY *library.sublibrary* IS THE SYSTEM SUBLIBRARY - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: システム・サブライブラリー IJSYSRS.SYSLIB に対する RENAME、MOVE、RESTORE、または DELETE 要求が出ています。

システムの処置: 機能は実行されません。

オペレーターの応答: RENAME、MOVE、RESTORE、または DELETE コマンドの場合には、システム・サブライブラリー IJSYSRS.SYSLIB は使用しないでください。

プログラマーの応答: RENAME、MOVE、RESTORE、または DELETE コマンドの場合には、システム・サブライブラリー IJSYSRS.SYSLIB は使用しないでください。

L039I *command-name* INTO *library.sublibrary* COMPLETED

説明: 機能の完了についての情報は、ライブラリアンが MSHP の制御下で実行されている場合にだけ表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L040I LIBRARY *lib* RESIDES IN VSAM SPACE - TO FREE THE LIBRARY USE VSAM ACCESS METHOD SERVICES

説明: VSAM の管理下にあるスペースに入っているライブラリーに対する DELETE 要求が出ています。

システムの処置: 上記のライブラリーに、ヘッダーを壊すことによって削除のマークを付けます。しかし、そのライブラリーのエクステントは VSAM には返されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラム IDCAMS を実行して、エクステントを解放してください。

L041I LIBRARY *lib* IS IN USE - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: ライブラリーに対する DEFINE または RESTORE 要求が出ましたが、別のタスク、区画、またはその区画で活動中の LIBDEF がそのライブラリーを使用中です。(ライブラリーは異なるファイル名によりアクセスすることができます。)

システムの処置: ライブラリーの定義またはリストアを行いません。ただし、VTOC は、DLBL/EXTENT ステートメントの値を用いて更新されます。

オペレーターの応答: プログラマーの処置を参照してください。

プログラマーの応答: ライブラリーが使用中でないことを確認してから DEFINE または RESTORE 機能を再試行してください。このライブラリーをすでに所有しているタスクは、ライブラリーへのアクセスを続けることができます。VTOC のエクステント情報が変更されると、ライブラリーへのアクセスを試みたタスクはメッセージ L251 を受け取ります。

L042I SUBLIBRARY *library.sublibrary* DOES NOT EXIST - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: 上記のライブラリーをアクセスしようとしたが、このサブライブラリーは指定のライブラリーの中にありませんでした。

システムの処置: このサブライブラリーについての機能要求を無視し、次のサブライブラリーまたはコマンドを用いて処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 何らかの形で指定ライブラリー内にこのサブライブラリーが存在するようにするか、あるいはサブライブラリー名を訂正してください。

L043I SUBLIBRARY *library.sublibrary* ALREADY EXISTS - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: サブライブラリーについての RENAME コマンドが出ていますが、新しいサブライブラリー名は、上記のライブラリー内にすでにある名前です。

システムの処置: この RENAME 要求を無視し、次のサブライブラリー・ペアまたは次のコマンドを用いて処理を続けます。

オペレーターの応答: 別のサブライブラリー名を用いて、RENAME を再試行してください。

プログラマーの応答: サブライブラリー名を訂正し、RENAME 要求の受け渡しをし直してください。

L044I MEMBER *member.type* IN SUBLIBRARY *library.sublibrary* ALREADY EXISTS - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: メンバーについての RENAME または UPDATE コマンドが新しいメンバー名およびメンバー・タイプは、上記のサブライブラリーの中の既存の名前およびタイプと同じです。

システムの処置: この RENAME または UPDATE 要求を無視し、次のメンバー・ペアまたは次のコマンドを用いて処理を続けます。

オペレーターの応答: 別のメンバー指定を用いて再試行してください。

プログラマーの応答: メンバー指定を訂正し、RENAME 要求の受け渡しをし直してください。

L045I WRONG GENERIC NAMES WHEN PROCESSING MEMBER *l.s.m.t* - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: メンバーについての RENAME コマンドが出ていて、古いメンバー名か新しいメンバー名か、いずれか一方が総称名です。両方とも総称名か、どちらも総称名でないか、このどちらかでなければなりません。

システムの処置: この RENAME 要求を無視し、次のメンバー・ペアまたは次のコマンドを用いて処理を続けます。

オペレーターの応答: 正しいメンバー指定を用いて再試行してください。

プログラマーの応答: メンバー指定を訂正し、この RENAME

要求の受け渡しをし直してください。

**L046I INCORRECT LENGTH WHEN BUILDING
 A GENERIC NAME - MEMBER *l.s.m.t* IS
 NOT RENAMED**

説明: 総称名をもとに新しい名前を作成する際に、新しい名前の長さがゼロか、8 文字を超えました。

システムの処置: この RENAME 要求を無視し、次のメンバー・ペアまたは次のコマンドを用いて処理を続けます。

オペレーターの応答: 正しいメンバー指定を用いて再試行してください。

プログラマーの応答: メンバー指定を訂正し、この RENAME 要求の受け渡しをし直してください。

**L047I LIBRARY *lib* RESIDES ON A SHARED
 VOLUME - GIVE A RELEASE SPACE
 COMMAND FROM EACH CPU USING
 THE LIBRARY**

説明: 共用ボリュームに入っているライブラリーについての RELEASE SPACE コマンドが出ています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: このライブラリーを使用中のすべての CPU から、RELEASE SPACE コマンドが出ていることを確認し、その上でライブラリーの処理を続行してください。

プログラマーの応答: なし。

**L048I SUBLIBRARY *library.sublibrary* RESIDES ON
 A SHARED VOLUME - GIVE A RELEASE
 SPACE COMMAND FROM EACH CPU
 USING THE SUBLIBRARY**

説明: 共用ボリュームに入っているサブライブラリーについての RELEASE SPACE コマンドが出ています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: このサブライブラリーを使用中のすべての CPU から、RELEASE SPACE コマンドが出ていることを確認し、その上で再度サブライブラリーをアクセスしてください。

プログラマーの応答: なし。

**L049I RECORD LENGTH IS CONFLICTING -
 command-name REQUEST IS IGNORED
 FOR MEMBER *l.s.m.t***

説明:

1. メンバーを、レコード長の異なる新しいタイプに名前を変更しようとしてしました。(例えば、PROC タイプから PHASE タイプへの変更、またはその逆の変更)
2. レコード長の異なる 2 つのメンバーを COMPARE しようとしてしました。
3. レコード長が 80 バイトではないメンバーを UPDATE または PUNCH しようとしてしました。

システムの処置: この要求を無視し、次のメンバー・ペアまたは次のコマンドを用いて処理を続けます。

オペレーターの応答: 正しいメンバー指定を用いて再試行してください。

プログラマーの応答: メンバー指定を訂正し、要求の再サブミットをしてください。

L050I INVALID DATA ON BACKUP TAPE

説明: 入力テープで、エラーのあるテープ・ブロック・ヘッダー (間違った記述子または間違ったブロック番号) が見つかりました。可能性のある理由は次のとおりです。

1. テープの位置決めが誤っています。
2. 前回のバックアップが失敗したために、テープに入っているデータが不完全です。
3. ラベル付き入力テープが取り付けられており (システム・アクセス制御機能がシステムのスタートアップ時に活動化されていません)、ラベル無しテープに対する RESTORE コマンドが出されました。

システムの処置: ボリューム終わり条件がある場合には、プログラムはメッセージ L051A を出して新しいテープ・ボリュームをセットするように要請します。その他の場合には、RESTORE 要求を打ち切ります。

オペレーターの応答: 誤ったボリュームが取り付けられていて、ラベル無しテープに対して RESTORE コマンドが出された場合、

入力テープに正しいボリュームを取り付けて、ジョブを再度サブミットしてください。

プログラマーの応答: ラベル付き入力テープが取り付けられており、また、ラベル無しテープに対して RESTORE コマンドが出された場合、

正しいボリュームを取り付けるか、または、TAPELABEL オペランドを指定してジョブを再度サブミットしてください。

**L051A WRONG INPUT TAPE ON *cuu* - REPLY
 NEWTAPE OR CANCEL**

説明: テープ装置 *cuu* に取り付けられているテープは、RESTORE プログラムが期待している内容を備えていません。1 つの理由として、ボリュームの終わりに達したときに誤ったリールをセットしたとも考えられます。

システムの処置: システム (区画) は、オペレーターからの応答を待ち、その応答に従って対処します。

オペレーターの応答: 誤ったリールをセットした場合は、正しいリールを上記のテープ装置にセットして NEWTAPE を入力してください。その他の場合は CANCEL を入力して RESTORE 要求を打ち切ってください。

プログラマーの応答: なし。

**L052I INPUT TAPE IS A PRE VERSION 2
 CREATED BACKUP TAPE**

説明: 入力テープは VSE/AF 1.3 (またはそれ以前のバージョン) によるバックアップ・テープですが、VSE/AF 2.1 バックアップ・テープ用の RESTORE コマンドまたは独立リストア機能が指定されています。

システムの処置: RESTORE 機能は実行されません。

オペレーターの応答: コマンドを再指定するか、または正しい入力テープを取り付けて、ジョブを再サブミットしてください。旧バックアップ・ファイルの変換については、プログラマーの指示を求めてください。

プログラマーの応答: 古いバックアップ・ファイルを変換するには、RESTORE コマンドを使用してください。「z/VSE System Control Statements」の RESTORE 制御ステートメントの説明を参照してください。

L053I OPERAND ID IS NOT ALLOWED FOR RESTORE OLDLIB

説明: バックアップ・ファイル ID が、VSE/AF 1.3 (またはそれ以前のバージョン) のバックアップ・テープ上にありません。

システムの処置: RESTORE 機能は実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コマンドを再度指定し、ジョブを再サブミットしてください。

L054I SPECIFIED BACKUP FILE ID NOT FOUND ON INPUT TAPE

説明: 可能性のある理由は次のとおりです。

- 間違ったバックアップ・テープを取り付けたか、
- 間違ったバックアップ・ファイル ID を指定したか、
- ラベル付きバックアップ・テープの場合、テープ上の 1 つのバックアップ・ファイル ID が、指定したバックアップ・ファイル ID と一致しません。

システムの処置: RESTORE 機能は実行されません。

オペレーターの応答: 正しいボリュームを取り付けるか、あるいは正しいバックアップ・ファイル ID を指定し、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: 正しいバックアップ・ファイル ID を指定して、ジョブを再度サブミットしてください。

L055A INCORRECT REPLY - PLEASE TRY AGAIN

説明: この前に表示されたメッセージに対するオペレーターの応答が正しくありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 前のメッセージに対して正しい応答を入力してください。前のメッセージを再表示したければ、? を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

L056I TAPE END OF VOLUME REACHED WHILE WRITING THE STANDALONE PROGRAMS

説明: 装置型サポート機能プログラム (DSF) が独立型ユーティリティー・プログラムのダンプ中に、テープの終わりに達しました。

システムの処置: BACKUP 機能を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 別のテープを準備し、ジョブを再サブミットしてください。

L057I TAPE IS POSITIONED AT END-OF-BACKUP RECORD

説明: RESTORE 機能の開始時点で、テープが、テープ上の最後のバックアップ・ファイルの前の位置にセットされていません。

システムの処置: 要求された RESTORE 機能を実行しません。

オペレーターの応答: テープの位置をセットし直し、ジョブを再サブミットしてください。

バックアップ・テープの位置をセットし直すとは、通常、入力テープを REWIND することを意味します。

ただし、各バックアップ・コマンドについて 3 つのファイルが生成される点に注意してください。これは、バックアップ・ファイル ID を使用せず、バックアップ・テープ上に複数のバックアップ・ファイルがある場合に重要です。

プログラマーの応答: なし。

L058I INPUT TAPE IS NOT A PRE VERSION 2 CREATED BACKUP TAPE

説明: 入力テープが VSE/AF 1.3 (またはそれ以前) のバックアップ・テープでないのに RESTORE OLDLIB コマンドが指定されました。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: そのコマンドを再度指定するか、または正しい入力テープを取り付けてジョブを再サブミットしてください。

L059I BACKUP FILE ID=backup file ID

説明: RESTORE コマンドでパラメーター SCAN=YES または ID=* パラメーターを指定してある場合に、テープ上の次のバックアップ・ファイルのバックアップ・ファイル ID が見つかったら、このメッセージが出ます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L060I CONFLICTING I/O ASSIGNMENT FOR PHYSICAL UNIT *cuu*

説明: 物理装置 *cuu* は、すでにシステム論理装置 (SYSLST、SYSPCH など) に割り当てられています。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コマンドを再度指定し、ジョブを再サブミットしてください。

L061I LOGICAL UNIT SPECIFIED FOR TAPE IS INVALID

説明: 論理装置番号が 000 から 255 までの範囲にありません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいプログラマー論理装置とともにコ

マンドを再度指定し、ジョブを再サブミットしてください。

L062I PHYSICAL UNIT *cuu* IS NOT A TAPE UNIT

説明: 物理装置 *cuu* がテープ装置ではありません。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: コマンドを再度指定し、ジョブを再サブミットしてください。

L063I PHYSICAL UNIT *cuu* IS DOWN

説明: 物理装置 *cuu* がダウン状態にあります。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: コマンドを再度指定し、ジョブを再サブミットしてください。

L064I PHYSICAL UNIT *cuu* NOT DEFINED

説明: IPL の際に、物理装置 *cuu* が受け入れられていません。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: システムに受け入れられたテープ装置にテープを取り付け、コマンドを再指定し、ジョブを再サブミットしてください。

L065I TAPE UNIT *cuu* IS OWNED BY ANOTHER PARTITION

説明: 物理装置 *cuu* はすでに別の区画の中で割り当てられています。
 システムの処置: コマンドは実行されません。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: コマンドを再度指定し、ジョブを再サブミットしてください。

**L066I LIBRARY *lib* IS TOO SMALL -
command-name LIBRARY REQUEST IS
 IGNORED**

説明: DLBL もしくは EXTENT カードで指定されているエクステンツが小さすぎて、バックアップ・テープ上のライブラリーが入りません。これは、新しい主索引を作成する時に発生します (例えば、RESTORE 中)。
 システムの処置: RESTORE 要求は実行されず、次のライブラリー名または次のコマンドに移って処理が続けられます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: DLBL もしくは EXTENT ステートメントまたはコマンドを再指定しジョブを再サブミットしてください。

L067I TAPE LABEL MISSING

説明: 入力テープは、標準テープ・ラベルが入っているのに、RESTORE コマンドには TAPELABEL オペランドが実行されていません。
 システムの処置: RESTORE コマンドは、実行されません。
 オペレーターの応答: コマンドを指定し直すか、正しい入力テープを取り付けて、ジョブを再サブミットしてください。
 プログラマーの応答: なし。

L068I FBA DISK IPL PHASES ARE NOT ON INPUT TAPE

説明: システム・サブライブラリーのバックアップが行われたときにシステム・サブライブラリーの中に FBA DISK IPL フェーズがないか (メッセージ L082I、L083I を参照)、またはバックアップ・テープ上のライブラリーが SYSRES ファイルではありません。またはバックアップ・ファイルの名前が適切に付けられていません (IJSYSRS または IJSYSR1 から R9)。
 システムの処置: RESTORE 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: 正しいバックアップ・テープを取り付けてから、ジョブを再サブミットしてください。
 プログラマーの応答: なし。

L069I CKD DISK IPL PHASES ARE NOT ON INPUT TAPE

説明: システム・サブライブラリーのバックアップが行われたときにシステム・サブライブラリーの中に CKD DISK IPL フェーズがないか (メッセージ L082I、L083I を参照)、またはバックアップ・テープ上のライブラリーが SYSRES ファイルではありません。またはバックアップ・ファイルの名前が適切に付けられていません (IJSYSRS または IJSYSR1 から R9)。
 システムの処置: RESTORE 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: 正しいバックアップ・テープを取り付けてから、ジョブを再サブミットしてください。
 プログラマーの応答: 正しいバックアップ・テープを取り付けてから、ジョブを再サブミットしてください。

L070I SCSI DISK IPL PHASES ARE NOT ON INPUT TAPE

説明: システム・サブライブラリーのバックアップが行われたときにシステム・サブライブラリーの中に SCSI DISK IPL PHASES がなかったか (メッセージ L082I および L083I を参照)、またはバックアップ・テープ上のライブラリーが z/VSE SYSRES ファイルではありません。
 システムの処置: RESTORE 要求を打ち切ります。
 オペレーターの応答: 正しいバックアップ・テープを取り付けてから、ジョブを再サブミットしてください。
 プログラマーの応答: 正しいバックアップ・テープを取り付けてから、ジョブを再サブミットしてください。

L071I STAND-ALONE PROGRAMS FOUND ON INPUT TAPE

説明: このメッセージは、オペランド SCAN=YES が RESTORE コマンドに指定され、入力テープの最初の部分に VSE/ESA 2.1.0 (またはそれ以上のリリース) の独立型プログ

ラムが見つかったときに、表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L072I **command-name OF LIBRARY lib[:lib] IS IN PROGRESS**

説明: BACKUP、COPY、COMPARE、または RESTORE プログラムが、指定されたライブラリーの処理を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L073I **command-name OF SUBLIBRARY library.sublibrary[:library.sublibrary] IS IN PROGRESS**

説明: BACKUP、COPY、COMPARE、または RESTORE プログラムが、指定されたサブライブラリーの処理を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L074I **command-name OF MEMBER(S) l.s.m.t[:library.sublibrary] IS IN PROGRESS**

説明: RESTORE プログラムまたは BACKUP プログラムは、指定されたメンバーの処理を開始しました。メンバーの指定が総称であり、LIST=YES が指定されているときは、処理されたメンバーは SYSLST に印刷されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L075I **command-name COMPLETE**

説明: 指定されたライブラリー、サブライブラリー、またはメンバーのダンプまたはリストアが終わりました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L076I **command-name OF LIBRARY lib[:lib] COMPLETE**

説明: RESTORE プログラムが、指定されたライブラリーの処理を完了しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L077I **command-name OF SUBLIBRARY library.sublibrary[:library.sublibrary] COMPLETE**

説明: RESTORE プログラムが、指定されたサブライブラリーの処理を完了しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L078I **MEMBER member.type IN SUBLIBRARY library.sublibrary IS NOT ACCEPTED AS BACKUP HEADER**

説明: BACKUP コマンドの中で指定されているヘッダーに属するレコードの長さが 80 バイトではありません。

システムの処置: BACKUP 要求は実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L079I **SUBLIBRARY library.sublibrary IS EMPTY - PROCESSING CONTINUES**

説明: バックアップの元になっているサブライブラリーにメンバーが 1 つも入っていません。

システムの処置: その空のサブライブラリーがテープに書き込まれ、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L080I **SUBLIBRARY library.sublibrary IS IN ERROR - SUBLIBRARY IS SKIPPED**

説明: 指定されたサブライブラリーのアクセスの際にエラーが起きました。

システムの処置: BACKUP 要求を飛ばして、次のサブライブラリーまたはコマンドに処理を進めます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: サブライブラリーの個々のメンバーをコピーすることにより、その内容をできるだけ保管してください。

L081I **MEMBER member.type IS IN ERROR - MEMBER IS SKIPPED**

説明: 指定されたメンバーのアクセスの際にエラーが起きました。

システムの処置: メンバーのバックアップまたはリストアを飛ばします。アクセスされたサブライブラリーまたは入力テープの次のメンバーに処理を進めます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L082I **MEMBER member.type NOT FOUND IN SUBLIBRARY library.sublibrary**

説明: 指定されたメンバーがサブライブラリーの中に見つかりませんでした。

システムの処置: BACKUP または UPDATE の場合には、このメッセージに続いてメッセージ L083I (処理続行) またはメッセージ L027I (異常終了) が出ます。その他のコマンドの場合は、次のメンバー (使用可能な場合) に進んで処理が続けられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**L083I MEMBER *l.s.m.t.* WILL BE OMITTED -
PROCESSING CONTINUES**

説明: ライブラリー指定リスト中の最初の SYSRES ファイル内に、指定のメンバー (独立型装置サポート機能プログラムまたは独立型ユーティリティー・プログラム) が見つかりません。

システムの処置: メンバーをダンプせずに処理を続けます。

オペレーターの応答: 今回のバックアップに関しては不要ですが、このテープの用途によっては、欠落しているメンバーのカタログ作成後もう一度バックアップを実行しなければならないこともあります。

プログラマーの応答: なし。

**L084I BACKUP OF STAND-ALONE PROGRAMS
IS IN PROGRESS**

説明: オペランド RESTORE=STANDALONE が、バックアップ・コマンドに指定されました。BACKUP が独立プログラムの処理を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**L085I LIBRARY *lib* NOT FOUND ON INPUT
TAPE**

説明: RESTORE コマンドでファイル名に指定したライブラリーが入力テープ上に見つかりませんでした。このメッセージはリストアの実行終了時に outputs します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指定したファイル名が正しくない場合には、

ファイル名を再指定し、バックアップ・テープを位置変更してから、ジョブを再サブミットしてください。指定したバックアップ・ファイル ID が正しくない場合には、

バックアップ・ファイル ID の指定とテープの位置付けをし直してから、ジョブを再サブミットしてください。バックアップ・テープの位置付けが正しくない場合には、

バックアップ・テープの位置を直し、ジョブを再び受け渡してください。バックアップ・テープの再位置付けは、一般に入力テープの REWIND を意味します。ただし、各バックアップ・コマンドについて 3 つのファイルが生成される点に注意してください。これは、バックアップ・ファイル ID を使用せず、バックアップ・テープ上に複数のバックアップ・ファイルがある場合に重要です。

**L086I SUBLIBRARY *library.sublibrary* NOT
FOUND ON INPUT TAPE**

説明: RESTORE コマンドで指定されたサブライブラリーが入力テープ上にありません。このメッセージはリストアの実行終了時に outputs します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: サブライブラリー名か、またはバックア

ップ・ファイル ID の指定とバックアップ・テープの位置付けをし直してから、ジョブを再サブミットしてください。バックアップの再位置付けは一般に入力テープの巻き戻しを意味します。ただし、各バックアップ・コマンドについて 3 つのファイルが生成される点に注意してください。これは、バックアップ・ファイル ID を使用せず、バックアップ・テープ上に複数のバックアップ・ファイルがある場合に重要です。

**L087I MEMBER *l.s.m.t.* NOT FOUND ON INPUT
TAPE**

説明: RESTORE コマンドで指定されたメンバーが入力テープ上にありません。このメッセージはリストアの実行終了時に outputs します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メンバー名またはバックアップ・ファイル ID の指定とバックアップ・テープの位置付けをし直してから、ジョブを再サブミットしてください。バックアップの再位置付けは一般に入力テープの巻き戻しを意味します。ただし、BACKUP コマンドについては 3 つのファイルが作られるという点に注意してください。これは、バックアップ・ファイル ID を使用せず、バックアップ・テープ上に複数のバックアップ・ファイルがある場合に重要です。

**L088I BACKUP FILE CONTAINS
{*sublibraries* | *members*} ONLY - RESTORE
{*library* | *sublibrary*} REQUEST IS IGNORED**

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- RESTORE ライブラリー・コマンドが出されましたが、バックアップ・ファイルにあるのは、サブライブラリーまたはメンバーのみです。
- RESTORE サブライブラリー・コマンドが出されましたが、バックアップ・ファイルにあるのはメンバーのみです。

システムの処置: RESTORE 要求は実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コマンドまたはバックアップ・ファイル ID を指定して、バックアップ・テープを再位置付けしたあと、再度ジョブを受け渡してください。バックアップの再位置付けは一般に入力テープの巻き戻しを意味します。ただし、BACKUP コマンドについては 3 つのファイルが作られるという点に注意してください。これは、バックアップ・ファイル ID を使用せず、バックアップ・テープ上に複数のバックアップ・ファイルがある場合に重要です。

**L089I OPERAND DSF IS OBSOLETE -
IGNORED**

説明: 独立 DSF プログラムが、VSE/ESA 2.1.0 以前のリリースで独立バックアップ・テープの先頭に書き込まれますが、これは現在では差し替えられています。独立バックアップ・テープの標準独立型ユーティリティー・ファイルにある標準 ICKDSF ユーティリティーによって置換されました。

システムの処置: DSF オペランドは無視されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: BACKUP コマンドには、DSF オペラン

ドを指定しないようにしてください。

L0901 LIBRARY *lib* FOUND ON INPUT TAPE

説明: このメッセージが出るのは、RESTORE コマンドでオペランド SCAN=YES が指定してあり、入力テープ上のバックアップ・ファイル内に指定のライブラリー名が見つかった場合です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L0911 SUBLIBRARY *library.sublibrary* FOUND ON INPUT TAPE

説明: このメッセージが出るのは、RESTORE コマンドでオペランド SCAN=YES が指定してあり、入力テープ上のバックアップ・ファイル、またはバックアップされているライブラリーもしくはサブライブラリーの中に指定のライブラリー名が見つかった場合です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L0921 MEMBER(S) *l.s.m.t.* FOUND ON INPUT TAPE

説明: このメッセージは、オペランド SCAN=YES が RESTORE コマンドで指定され、指定のメンバーが入力テープのバックアップ・ファイルで見つかったときに現れます。メンバーの指定が総称のとき、見つかったメンバーは SYSLST に印刷されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L0931 TARGET SUBLIBRARY SPECIFICATION MISSING

説明: RESTORE OLDLIB コマンドに目的サブライブラリー指定がありません。リストアには目的サブライブラリーが必要です。SCAN 機能に対してのみオプションです。

システムの処置: RESTORE 要求は実行されません。

オペレーターの応答: 目的サブライブラリーを指定して、再実行してください。

プログラマーの応答: 目的サブライブラリーを指定して、ジョブを再サブミットしてください。

L0941 DOS/VS RELEASE 34 BACKUP TAPES CONTAINING A SYSRES FILE CANNOT BE RESTORED

説明: バックアップ・テープ (DOS/VS リリース 34 以前) に SYSRES ファイル (ファイル名 IJSYSRS) が入っています。この種のテープは専用ライブラリーだけが入っている場合に限り使用できます。

システムの処置: RESTORE 要求は実行されません。

オペレーターの応答: 正しいテープを使用してジョブを再度サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

L0951 DEFECT IN MEMBER *member.type* DUE TO A READ ERROR DURING PRE VERSION 2 BACKUP

説明: VSE/AF 1.3 (またはそれ以前) の BACKUP プログラム・プロシーチャー・ライブラリーの一部に損傷のある FBA 装置からテープを作成しました。このメッセージは、エラーの可能性のある 6 つの論理装置のそれぞれについて出されます。システムの処置: 欠陥のあるメンバーをリストアし、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 欠陥のあるプロシーチャーを更新してください。

L0961 SCAN=YES IS MANDATORY FOR RESTORE * OF A PRE VERSION 2 BACKUP TAPE

説明: RESTORE * が指定してあり、VSE/AF 1.3 (またはそれ以前) の入力テープが取り付けられています。その場合には、SCAN=YES パラメーターが必須です。

システムの処置: RESTORE 要求は実行されません。

オペレーターの応答: 正しいテープを取り付けるか RESTORE コマンドを再指定してから、ジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

L0971 NO PRIVATE LIBRARY FOUND ON A PRE VERSION 2 BACKUP TAPE

説明: VSE/AF 1.3 (またはそれ以前) のテープにはシステム・ライブラリーしか入っていません。RESTORE OLDLIB は入力として専用ライブラリーを必要とします。

システムの処置: RESTORE 要求は実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいバックアップ・テープを使用してください。(システム・ライブラリーは専用ライブラリーとしてバックアップできます)

L0981 SUBLIBRARY *library.sublibrary* IS BEING DELETED CONCURRENTLY - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: ライブラリー BACKUP コマンドの処理中に、処理対象のサブライブラリーが、同時進行しているライブラリー MOVE 要求またはサブライブラリー MOVE 要求により削除されようとしています。

システムの処置: サブライブラリーについての処理をやめ、次のサブライブラリーに移って処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: サブライブラリーの使用状況を検査してください。

**L099I A SYSRES FILE ON A PRE z/VSE
BACKUP TAPE CANNOT BE RESTORED
AS A SYSRES FILE - LIBRARY *lib* IS
SKIPPED**

説明: VSE/SP バージョン 4 (またはそれ以前のバージョン) 入力テープ上の SYSRES ファイルは、z/VSE でしか専用ライブラリーとして CKD 装置にリストアすることができません。VSE/ESA 以降では、SYSRES ファイル・レイアウトが新しくなったためです。VSE/ESA (またはそれ以前) 入力テープ上の SYSRES ファイルは、z/VSE では専用ライブラリーとして FBA 装置にリストアすることができます。z/VSE では、SYSRES ファイル・レイアウトが新しくなったためです。

システムの処置: RESTORE 要求は実行されません。

オペレーターの応答: 正しいバックアップ・テープを用意するか、正しいターゲット・ライブラリーを指定して、ジョブを受け渡しし直してください。

プログラマーの応答: 正しいバックアップ・テープを用意するか、正しいターゲット・ライブラリーを指定して、ジョブを受け渡しし直してください。

L101t LIBRARY *lib* DOES NOT EXIST

説明: 可能性のある理由は次のとおりです。

1. 存在しないライブラリーに対して機能要求が出ました。
2. ライブラリー名が正しくありません。
3. ラベル情報域のライブラリーに対するファイル ID またはエクステント情報が正しくありません。
4. ラベル情報域のライブラリーに対して定義されたエクステントが正しくありません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合: システムはオペレーターの応答を待機します。

タイプ・コード I の場合: この機能要求を無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合

- DEFINE ライブラリアン・コマンドによりライブラリーを定義するか、または、
- ライブラリー名を訂正するか、または、
- DLBL ステートメントのファイル ID またはエクステント情報を訂正するか、または、
- 正しいライブラリーをライブラリー・エクステントにリストアして再試行してください。

タイプ・コード I の場合 - なし。

プログラマーの応答:

- DEFINE ライブラリアン・コマンドによりライブラリーを定義するか、または、
- ライブラリー名を訂正するか、または、
- DLBL ステートメントのファイル ID またはエクステント情報を訂正するか、または、
- 正しいライブラリーをライブラリー・エクステントにリストアして再試行してください。

**L102I *operand* OPERAND FOR LISTDIR SDL IS
IGNORED**

説明: LISTDIR SDL コマンドが出され、オペランド OUTPUT=FULL か、DATE または LOCKID の有効なオペランドが指定されました。

システムの処置: OUTPUT=FULL、DATE または LOCKID オペランドを無視し、そのコマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージを回避するには、LISTDIR SDL に OUTPUT=FULL、DATE='...' または LOCKID=... を指定しないでください。

**L103I OUTPUT=STATUS FOR LISTDIR
MEMBER IS NOT ALLOWED**

説明: メンバーに対する LISTDIR コマンドが出されましたが、オペランド OUTPUT=STATUS が指定されています。

システムの処置: このコマンドを飛ばして処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メンバーの LISTDIR については、OUTPUT=STATUS を指定せずに、その機能を再サブミットしてください。

**L104I PUNCH=YES IS IGNORED WHEN
DATA=MEMBER IS SPECIFIED**

説明: DATA=MEMBER および PUNCH=YES オペランドを指定した COMPARE コマンドが出されました。

システムの処置: PUNCH=YES オペランドを無視して、コマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DATA=MEMBER を指定して比較を行う場合には PUNCH=YES を指定しないでください。

**L105I REUSE = *reuse-option* IS ALREADY
ACTIVE FOR SUBLIBRARY *library.sublibrary*
- *command-name* REQUEST IS IGNORED**

説明: あるサブライブラリーについて REUSE オペランドを指定した CHANGE コマンドが出されましたが、要求された REUSE オプションがそのサブライブラリーについてすでに活動状態にあります。

システムの処置: そのサブライブラリーに対する CHANGE 要求を無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**L106I REPAIR=YES IS IGNORED FOR TEST
LIBRARY WHEN AREA=SPACE IS
SPECIFIED**

説明: オペランド AREA=SPACE および REPAIR=YES を指定した TEST コマンドがライブラリーに対して出されました。システムの処置: REPAIR=YES オペランドを無視してコマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: AREA=SPACE を実行する場合は REPAIR=YES を指定しないでください。

L107I REPAIR=YES IS IGNORED

説明:

- オペランドに REPAIR=YES を指定した TEST コマンドが サブライブラリーまたはメンバーに対して出されました。
- TEST コマンドが TRACE オペランドと REPAIR=YES オペランドの両方を含んでいます。

システムの処置: REPAIR=YES オペランドを無視してコマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: TEST サブライブラリー/メンバーの実行時、または TRACE オペランドを指定している時には、REPAIR=YES を指定しないでください。

L108I REPAIR=YES IS IGNORED FOR LIBRARY lib BECAUSE IT IS NOT UNIQUELY ASSIGNED

説明: オペランド REPAIR=YES を指定した TEST コマンドがライブラリーに対して出されましたが、そのライブラリーは要求元に対して固有のものとして割り当てられていません。

システムの処置: REPAIR=YES オペランドを無視してコマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: そのライブラリーが別のタスクまたは区画に割り当てられていないこと、および異なる CPU 相互間で共有されている DASD に入っていないことを確かめてから、REPAIR 機能付きの TEST コマンドを実行してください。

L109I AREA=SPACE IS IGNORED

説明:

- オペランドに AREA=SPACE を指定した TEST コマンドが、サブライブラリーまたはメンバーに対して出されました。
- TEST コマンドが TRACE オペランドと AREA=SPACE オペランドの両方を含んでいます。

システムの処置: AREA=SPACE オペランドを無視してコマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: TEST の実行時、または TRACE オペランドを指定する時は、AREA=SPACE を指定しないでください。

L110I THERE ARE MORE THAN 30 DIFFERENT LIBRARIAN ON CONDITIONS IN ONE JOBSTEP - THE LIBRARIAN IS TERMINATED

説明: 1 つの EXEC LIBR ステップで 30 を超える ON 報告書制御機能条件が起りました。

システムの処置: 31 番目の異なる ON 条件が処理されることになった時点で、EXEC LIBR ステップを打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 異なる ON 条件の数を減らしてからジョブを再サブミットしてください。

L111I LIBRARIAN PHASE CANNOT BE LOADED - ENLARGE PARTITION SIZE

説明: ライブラリアン・コマンド実行フェーズを区画にロードすることができません。区画サイズが小さすぎるか、または EXEC LIBR ステートメントの SIZE オペランドに指定したスペースが不十分です。

システムの処置: EXEC LIBR ステップを打ち切ります。

オペレーターの応答: 区画のサイズを大きくしてください。

プログラマーの応答: 区画サイズ、または EXEC LIBR ステートメントの SIZE 指定の値を大きくしてください。

L112I ===== SUBSET OR EQUAL =====

説明: このメッセージは、COMPARE 機能の後に発行されることがあります。

パラメーター Data=Directory (デフォルト・オペランド) が指定されたとき、送信側サブライブラリー内のメンバーのセットは、着信側サブライブラリー内のメンバーのセットのサブセットです。サブセットというのは、送信側サブライブラリーのすべてのメンバーが、着信側サブライブラリーに含まれていることを意味します。これはまた、双方のメンバーのセットが同じものである可能性があることも示唆しています。

パラメーター Data=Member が指定されたとき、短い方のメンバーの長さにおいてメンバー・データは同一であり、このメッセージの後にメッセージ L143I が表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L113I RETURN CODE OF function IS return-code, yyyy-mm-dd hh:mm:ss

説明: このメッセージは、各コマンドの実行後または構文エラーの後に出ます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L114I ENDING QUOTE OF A STRING MISSING

説明: 開始引用符のついた文字列を含むライブラリアン・コマンドが出されましたが、同じコマンド行の中に終了引用符が見当たりません。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 同一コマンド行の中に終了引用符を指定してからコマンドの実行を再度試みてください。

プログラマーの応答: 同一コマンド行の中に終了引用符を指定してからコマンドの受け渡しをし直してください。

L115I MSHP BYPASS ACCEPTED, THE REST OF THE PARM STRING IN THE// EXEC LIBR STATEMENT IS IGNORED

説明: // EXEC LIBR ステートメントの PARM パラメーターに、空白以外の文字が文字列 MSHP に後続します。PARM スtringは MSHP またはライブラリアン・コマンドのいづ

れかであり、両方入れてはなりません。

システムの処置: スtring MSHP を受け入れて、それ以外の PARM スtringは無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PARM パラメーターを訂正し、必要に応じてジョブを再サブミットしてください。

L116I RESEtLOCK OPERAND IS IGNORED

説明: ライブラリーに RESEtLOCK オペランドを使用する DEFINE コマンドを指定しました。

システムの処置: RESEtLOCK オペランドを無視して、コマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージを出さないようにするには、ライブラリーに DEFINE コマンドを出すときに、RESEtLOCK オペランドを省略してください。

L117I PHASE OPERAND IS IGNORED

説明: オペランド PHASE および Output=Status を指定した LISTD SDL コマンドが指定されました。

システムの処置: PHASE オペランドを無視し、そのコマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このメッセージを回避するためには、コマンド LISTD SDL を出すとき、PHASE オペランドまたは Output=Status オペランドのいずれかを省いてください。

L118I MEMBER *member.type* IN SUBLIBRARY *library.sublibrary* IS NOT A CUSTOMIZATION TABLE

説明: サブライブラリーにあるメンバーはフェーズではありません。または、フェーズの頭 8 バイトの識別名が IJWCUST ではありません。

システムの処置: BACKUP 要求は終了します。

オペレーターの応答: バックアップ・ステートメントを修正するか、あるいは、カスタマイズ・テーブルを再度作成し、ジョブをもう一度サブミットしてください。

プログラマーの応答: バックアップ・ステートメントを修正するか、あるいは、カスタマイズ・テーブルを再度作成し、ジョブをもう一度サブミットしてください。

L119I DATE=OLD IN RESTORE IS IGNORED FOR PRE VERSION 2 BACKUP TAPES

説明: オペランド DATE=OLD をもつ RESTORE OLDLIB が指定されました。

システムの処置: DATE=OLD は無視され、コマンドが実行されます。

プログラマーの応答: バージョン 2 以前のテープをリストアするときは、DATE=OLD を使用してはなりません。

L120I PHASE *phasename* NOT FOUND

説明: PHASE オペランドを指定した LISTD SDL コマンドが出されましたが、SDL 中に一致するものが見つかりませんでした。

システムの処置: 処理は正常に終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L121I WARNING - SUBLIBRARY *library.sublibrary* IS IN AN INCONSISTENT STATE

説明: サブライブラリーにあるメンバー数が、サブライブラリーのディレクトリー入力に記憶されている数と異なります。システムがそのサブライブラリーの更新操作中に障害を起こしたことも考えられます。

システムの処置: 処理を続行します。BACKUP 機能がサブライブラリーにあるすべてのメンバーをテープ上に書き出します。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: 後続のコマンドでライブラリーにある対象をアクセスする場合には、ライブラリーが一貫性のある状態になっていることを確認してからにしてください。この一貫性のある状態はライブラリーのリストアで得られます。

L122I DATE OPERAND IGNORED FOR RENAME SUBLIBRARY

説明: オペランド DATE を指定した RENAME サブライブラリー・コマンドが出されました。DATE は RENAME メンバーにのみ有効です。

システムの処置: DATE オペランドを無視し、そのコマンドを実行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RENAME サブライブラリーに DATE を指定しないでください。

L123I HISTORY FILE FOUND ON TAPE

説明: バックアップ・テープにシステム・ヒストリー・ファイルが入っています。

ケース 1: メッセージからの情報が RESTORE SCAN 機能から出されました。

ケース 2: リストアが MSHP の制御下で実行される場合には、システム・ヒストリー・ファイルからの情報がリストアされるだけです。

システムの処置:

ケース 1: 処理を続行します。

ケース 2: 処理を続行します。ヒストリー・ファイルをリストア機能で飛ばします。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答:

ケース 1: なし。

ケース 2: MSHP 機能を使用して、ヒストリー・ファイルからの情報をリストアしてください。

L124I PID-V2-STACKED BACKUP TAPE

説明: バックアップ・テープは、PID-V2 スタック・テープです。このメッセージは通知目的で出されたもので、処置は必要ありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L125I TAPE IS POSITIONED AT END OF PID-V2-STACKED TAPE

説明: RESTORE 機能を開始しましたが、テープが最新のバックアップ・ファイルの前に位置付けられませんでした。

システムの処置: RESTORE を実行しません。

オペレーターの応答: テープを巻き戻してジョブを再サブミットしてください。

プログラマーの応答: なし。

L126I THE TAPE LABEL OPERAND IS NOT ALLOWED FOR A PRE VERSION 2 BACKUP TAPE

説明: TAPELabel (TLabel) オペランドをもつ RESTORE コマンドが出されましたが、次のいずれかが起こりました。

- OLDLIB パラメーターが指定されているか、または
- SCAN=YES をもつ RESTORE * が指定されていますが、VSE/拡張機能 1.3 (またはそれ以前) の入力テープが取り付けられます。

システムの処置: RESTORE 機能は実行されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コマンドを再度指定し、ジョブを再サブミットしてください。

L127I STANDALONE BACKUP TAPE STARTS WITH STANDARD TAPE LABELS

説明: TAPELabel (TLabel) オペランドと RESTORE=STANDALONE オペランドをもつ BACKUP コマンドが指定されました。

システムの処置: BACKUP 機能が実行されます。

オペレーターの応答: 独立のリストアを行うときは、最初に標準テープ・ラベルをスキップさせてから、作成されたバックアップ・テープを IPL してください。

プログラマーの応答: なし。

L128I LIBRARY *name* ALREADY EXISTS - IS NOT REPLACED

説明: 以下のいずれかが起こりました。

- ライブラリアン用の DEFINE または RESTORE 要求が REPLACE=NO オプションで処理されていますが、定義またはリストアするライブラリーがすでに存在します。
- ライブラリアン用の DEFINE または RESTORE 要求が REPLACE=NO オプションで処理されていますが、同じ ID を持つファイルが VTOC に存在します。
- DEFINE または RESTORE 要求が、ロックされたメンバーを含むライブラリーに対して処理されています。

システムの処置: このライブラリーの実行をスキップし、次の

ライブラリーの処理を続けるか、または可能であれば、次のコマンドの処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 機能を実行する場合には、説明に記述された状況にしたがって以下のいずれかを指定してください。

- REPLACE=YES および TLOCK=RESET を指定
- COPY

L129I *command-name* REQUEST IS TERMINATED FOR MEMBER *l.s.m.t.*

説明: リストまたは穿孔しようとしているメンバーを、別のタスクが置き換えまたは削除しようとしています。この前が出るメッセージ L135I も参照してください。

システムの処置: そのメンバーに対する LIST もしくは PUNCH 機能の実行を打ち切り、次のメンバーまたはコマンド (もしあれば) に処理を進めます。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: そのメンバーのリストまたは穿孔が完全に行われていないという点を考慮に入れておいてください。

L130I CONNECT IS ACTIVE FOR

library.sublibrary. : library.sublibrary

説明: CONNECT 情報表示要求に対する答えです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L131I SUBLIBRARY *library.sublibrary* IS BEING BUILT CONCURRENTLY - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: ライブラリーまたはサブライブラリーに対する COPY、DEFINE、または RESTORE コマンドを処理しています。システムは、受け入れサブライブラリーがないので暗黙のうちこれを定義しようとしたが、別のタスクが同じサブライブラリーを作成しようとしているために、その暗黙の DEFINE 要求は失敗しました。

システムの処置: サブライブラリーについての処理をやめ、次のサブライブラリーに移って処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: サブライブラリーの使用状況を検査し、必要ならば、そのサブライブラリーについての要求を再試行してください。

L132I LIBRARY NAMES ARE NOT IDENTICAL - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: サブライブラリーに対する RENAME コマンドが出されましたが、コマンドの中で指定されているライブラリー名が違います。

システムの処置: そのサブライブラリーについての RENAME を飛ばして、次の一対のサブライブラリー (それが使用可能であれば) に処理を進めます。

オペレーターの応答: 正しいライブラリー指定で再試行してください。

プログラマーの応答: ライブラリー指定を訂正してから、要求

の受け渡しをし直してください。

L133I THE REUSE OPERAND IS IGNORED FOR DEFINE LIBRARY

説明: ライブラリーに対する DEFINE コマンドで REUSE オペランドが指定されましたが、このオペランドはサブライブラリーの場合に限り有効です。

システムの処置: REUSE オペランドを無視して要求を実行します。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: ライブラリーに対する DEFINE では、REUSE オペランドを指定しないでください。

L134I FORMAT=OLD NOT ACCEPTED FOR USER TYPES - MEMBER *l.s.m.t* IS NOT PUNCHED

説明: ユーザー定義のタイプについて、FORMAT=OLD オプションの指定された PUNCH 要求が出されましたが、このオプションが有効なのはシステム定義のメンバー・タイプの場合だけです。

システムの処置: PUNCH 要求を無視し、次のメンバーまたはコマンドに移って処理を続けます。

オペレーターの応答: コマンドを訂正してから、PUNCH 要求を再試行してください。

プログラマーの応答: 入力を訂正してから、PUNCH 要求の受け渡しをし直してください。

L135I MEMBER *member.type* IN SUBLIBRARY *library.sublibrary* IS BEING DELETED OR REPLACED CONCURRENTLY

説明: 上記のサブライブラリーから現在読み取られているメンバーに、そのメンバーについての登録簿項目に示されているライブラリー・ブロック識別名とは異なる ID があります。これはサブライブラリー内のメンバーが、メンバーの削除または置き換えのあとただちに再使用されたからです。(サブライブラリーのスペース再利用属性が IMMEDIATE であるか、またはメンバーの削除もしくは置き換え後に RELEASE SPACE コマンドが出されていれば、メンバー・スペースをただちに再使用することができます。)

システムの処置: その読み取り要求を打ち切り、次のメンバーまたはコマンドに移って処理を続けます。

オペレーターの応答: ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: ジョブを再実行依頼してください。

L136I LIBRARIES *lib : lib* ARE IDENTICAL - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: 同じライブラリーに対して COPY、MOVE、または COMPARE 要求が出ました。

システムの処置: COPY、MOVE、または COMPARE 要求を無視し、次の一対のライブラリーまたは次のコマンドに移って処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力を訂正してから COPY、MOVE、または COMPARE 要求の受け渡しをし直してください。

L137I LIBRARY *lib* IS EMPTY

説明: 空のライブラリーに対する

BACKUP、COPY、MOVE、RELEASE、または COMPARE 要求が出ました。

システムの処置: 要求は無視されます。次のライブラリーまたはコマンドに移って実行を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力を訂正してから、要求の受け渡しをし直してください。

L138I FORMAT=IEBUPDTE IS NOT ACCEPTED FOR PHASES - MEMBER *l.s.m.t* IS NOT PUNCHED

説明: タイプが PHASE のメンバーに対してオペランド FORMAT=IEBUPDTE を付けた PUNCH コマンドが指定されました。このメンバーに対する PUNCH 要求は無視されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L139I SUBLIBRARIES *library.sublibrary :library.sublibrary* ARE IDENTICAL - *command-name* REQUEST IS IGNORED

説明: 同じサブライブラリーに対する COPY、MOVE、または COMPARE 要求が出されました。

システムの処置: 要求は無視されます。次の一対のライブラリーまたは次のコマンドに移って実行を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力を訂正してから、要求の受け渡しをし直してください。

L140I CANCEL REQUEST ACCEPTED

説明: LIBR の実行中にオペレーターから CANCEL 要求が出ました。

システムの処置: CANCEL 要求を受け入れます。ただし、ライブラリアンが重大な実行段階にある場合、すなわちライブラリーが非統合状態にある場合には、その重大な機能の実行が終わるまで CANCEL 要求を延期します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L141I *command-name* OF MEMBERS *member.type* IS IN PROGRESS

説明: オペランド DATA=MEMBER を指定した COMPARE コマンドが開始されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**L142I FORMAT=IEBUPDTE MUST BE
SPECIFIED IN ALL PUNCH REQUESTS
OR NONE OF ONE LIBR RUN -
REQUEST IS IGNORED**

説明: この LIBR 実行時に、オペランド
FORMAT=IEBUPDTE を付けた PUNCH コマンドがすでに指
定されており、現在の PUNCH 要求にはこのオペランドが付
いていません (あるいはその逆)。

システムの処置: 要求された PUNCH 機能は実行されませ
ん。

オペレーターの応答: プログラマーの応答と同じです。
プログラマーの応答: 正しい FORMAT オペランドを付けて
コマンドを再サブミットするか、次の LIBR 実行時にコマ
ンドを再サブミットしてください。

**L143I MEMBER *l.s.m.t* IS SHORTER THAN *l.s.m.t*
- COMPARE REQUEST IS TERMINATED**

説明: 長さの異なる 2 つのメンバーについて、
DATA=MEMBER オペランドの指定された COMPARE コマ
ンドが出ました。

システムの処置: これらの 2 つのメンバーの比較を打ち切
り、次の一対のメンバーまたは次のコマンドに移って処理を続
けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**L144I RELEASE SPACE FOR LIBRARY *lib* IS IN
PROGRESS**

説明: ライブラリーに対する RELEASE SPACE 機能が開始さ
れました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**L145I RELEASE SPACE FOR SUBLIBRARY
library.sublibrary IS IN PROGRESS**

説明: サブライブラリーに対する RELEASE SPACE 機能が開
始されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**L146A ENTER THE LIBRARY.SUBLIBRARY
SPECIFICATION TO BE PROCESSED -
OR TYPE CANCEL**

説明: 移行の実行中ですが、必要な LIBDEF ステートメント
が欠落しています (メッセージ L023I または L024I が出ま
す)。システムは欠落している「ライブラリー.サブライブラ
リー」仕様の入力を求めます。

システムの処置: オペレーターからの応答を待ちます。

1. 応答が「ライブラリー.サブライブラリー」文字列の訂正で
あれば、そのサブライブラリーに対して機能を実行しま
す。

2. 応答が CANCEL であれば機能を打ち切ります。

3. 応答が無効であれば再びメッセージ L146A を出します。
オペレーターの応答: 処理すべきサブライブラリーを「ライブ
ラリー.サブライブラリー」という形の文字列を入力するか、ま
たは CANCEL を入力して機能の実行を打ち切ってください。
プログラマーの応答: このプロンプトを回避するには、欠けて
いる LIBDEF ステートメントをジョブ・ストリームに入れてく
ださい。

**L147I THE MIGRATION OF THE *command-name*
STATEMENT IS NOT SUPPORTED**

説明: このコマンドの移行はサポートされていません。例え
ば、CORGZ プログラムの ALLOC または NEWVOL コマン
ドなどがその例です。

システムの処置: 戻りコード 16 で処理を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 移行すべきジョブ・ストリームから該当
ステートメントを削除してください。

**L148I SUBLIBRARY *library.sublibrary* ALREADY
EXISTS - IS NOT REPLACED**

説明: ロックされたメンバーを含む既存のサブライブラリー
(コピー先) または任意のサブライブラリー (コピー先) に、
REPLACE=NO が指定された COPY、MOVE、DEFINE、
RESTORE のいずれかのサブライブラリー・コマンドが出され
ました。

システムの処置: サブライブラリーを処理しません。次のサ
ブライブラリー (対) または次のコマンドで処理を続行しま
す。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 説明に示された原因に応じて、次のい
ずれかを指定してください。

- REPLACE=YES および TLOCK=RESET
- COPY
- RESETLOCK=YES

L149I SUBLIBRARY *library.sublibrary* IS EMPTY

説明: メンバーに対する

COPY、MOVE、COMPARE、DELETE、または RENAME コ
マンドが出されましたが、サブライブラリーに何も入って
いません。

システムの処置: この要求を飛ばして、次の一対のサブラ
イブラリーまたは次のコマンドに処理を進めます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力を訂正してから、要求の受け渡しを
し直してください。

**L150I INTERNAL ERROR DETECTED BY
MODULE *module-name* IN PHASE
phase-name - FEEDBACK CODE = *code***

説明: おそらくシステム障害です。フィードバックは、主と
して、サービス担当員が使用するためのものです。16 進数フ
ィードバック・コードの意味については、1009 ページの『第
25 章 ライブラリアン・フィードバック・コード』を参照して
ください。

システムの処置: このメッセージの後にダンプが表示されま
す。戻りコード 16 で処理を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: アクセスすべきライブラリーが存在して
おり、しかも正しく作成されている場合には、弊社に連絡して
ください。

**L151I UNEXPECTED RETURN CODE FROM
MACRO/MODULE *m-name* IN MODULE
module-name/PHASE *phasename* - RC = *return
code***

説明: 示されたモジュールが、上記のマクロまたはフェーズを
介してサービス・ルーチン呼び出したところ、そのモジュー
ルが扱えない戻りコードがレジスター 15 に返されました。
GETVIS マクロからの戻りコード GV は、GETVIS が 0、4、
または 12 以外の戻りコードを返したことを意味します。シス
テム・マクロからの戻りコードについては、「IBM z/VSE メ
ッセージおよびコード 第 1 巻」の『VSE/拡張機能戻りコー
ド』(セクション VSE/拡張機能コードおよび SVC エラー)を
参照してください。ライブラリアン・マクロ/モジュールから
の戻りコードは、主にサービス担当員によって行われる問題の
判別に役立ちます。

注: ボリューム ID はシステムで固有でなければなりません。

システムの処置: このメッセージの後にダンプが表示されま
す。戻りコード 16 で処理を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 戻りコードの意味については、「IBM
z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」(セクション『VSE/
拡張機能コードおよび SVC エラー』)の『VSE/拡張機能戻り
コード』トピックにあるマクロ/サービス・ルーチンの説明を
参照してください。ジョブ・ストリームと印刷出力を、問題判
別に使用できるようにしておいてください。

**L152I ENTRY CONDITION FOR MODULE
modulename IN PHASE *phasename* FAILED -
FEEDBACK CODE = *nn***

説明: 示されたライブラリアン・サービスは、不正確または不
完全オペランド・リストで呼び出されました。フィードバッ
ク・コード *nn* は主にサービス担当員が後で問題判別を行うと
きに使用するためのものです。16 進数フィードバック・コー
ドの意味については、1009 ページの『第 25 章 ライブラリア
ン・フィードバック・コード』を参照してください。

システムの処置: ライブラリアン・サービスは実行されていま
せん。このメッセージの後にダンプが表示されます。戻りコー
ド 16 で処理を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 弊社サポート・センターに連絡して、こ
のメッセージで表示されるフィードバック・コードを報告して
ください。

**L153I MEMBERS *l.s.m1.m1* : *l.s.m2.m2* ARE
IDENTICAL - action REQUEST IS
IGNORED.**

説明: 同一のソース・メンバーとターゲット・メンバーに対し
て COPY、MOVE、COMPARE のいずれかの要求が出されました。

システムの処置: 要求を迂回します。次の対または次のコマ
ンドの処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力データを訂正して、再度要求を受け
渡してください。

L154I MEMBER *l.s.m.t* EXCEEDS MAXIMAL SIZE

説明: ライブラリアンでサポートされている最大サイズを超え
るメンバーをカタログしています (最大サイズ = 約 2**31-1
レコード (固定フォーマットの場合)、約 2**31-1 バイト (未定
義フォーマットの場合))。

システムの処置: ライブラリアンのコマンド (UPDATE およ
び CATALOG) および LIBRM PUT は異常終了します。メン
バーはカタログも置換もされません。ダンプ・アクセスで書
き込まれるダンプは切り捨てられます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L155I SUBLIBRARY *library.sublibrary* MISSING

説明: SYSRES ファイル (ライブラリー名 IJSYSRn, n=1,
..., 9) のバックアップを行おうとしましたが、必須サブライ
ブラリー SYSLIB が欠けています。

システムの処置: Processing is terminated.

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: サブライブラリー SYSLIB を用意して
ジョブを再実行してください。

**L156I INPUT=SYSLNK IN CATALOG ALLOWED
ONLY FOR MEMBER TYPE OBJ**

説明: INPUT=SYSLNK パラメーターを伴う CATALOG コマ
ンドが、「OBJ」以外のメンバー・タイプに指定されていま
す。

システムの処置: コマンドは実行されません。

オペレーターの応答: 正しいメンバー・タイプを指定するか、
または INPUT パラメーターを取り除いて、再試行してくださ
い。

プログラマーの応答: 正しいメンバー・タイプを指定するか、
または INPUT パラメーターを取り除いて、再試行してくださ
い。

**L157t DEFECT IN LIBRARY *lib* DETECTED BY
MODULE *module-name* IN PHASE
phase-name - FEEDBACK CODE = *code***

説明: ライブラリーの使用中に、上記モジュールがデータ・エ
ラーを検出しました。FEEDBACK CODE は、主として、サ
ービス担当員があとで問題判別を行う際に使用するためのもの
です。16 進数フィードバック・コードの意味については、
1009 ページの

1009 ページの『第 25 章 ライブラリアン・フィードバック・コード』を参照してください。

システムの処置: 示されているモジュールの機能は実行されません。

タイプ・コード D の場合

システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを入力する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。または
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合 - なし。

プログラマーの応答: ライブラリーを作成し直してください。問題がまた起きる場合には、弊社のサポート・センターに連絡して、メッセージに表示されているフィードバック・コードを報告してください。

L158t **DEFECT IN SUBLIBRARY** *library.sublibrary*
DETECTED BY MODULE *module-name* **IN**
PHASE *phase-name* - **FEEDBACK**
CODE=*feedback code*

説明: サブライブラリーの使用中に、上記のモジュールがデータ・エラーを検出しました。FEEDBACK CODE は、主として、サービス担当員があとで問題判別を行う際に使用するためのものです。16 進数フィードバック・コードの意味については、1009 ページの『第 25 章 ライブラリアン・フィードバック・コード』を参照してください。

システムの処置: 示されているモジュールの機能は実行されません。

タイプ・コード D の場合

システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 訂正したステートメントを入力する。
- CANCEL を入力してジョブを取り消す。または
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合 - なし。

プログラマーの応答: ライブラリーを作成し直してください。問題がまた起きる場合には、弊社のサポート・センターに連絡して、メッセージに表示されているフィードバック・コードを報告してください。

L159t **LIBRARY CONTROL TABLE** *table-identifier*
OVERFLOW

説明: 空き項目がないため、新しいサブライブラリーを指定されたライブラリー制御テーブルに追加できません。

システムの処置: タイプ・コード I の場合

サブライブラリーを追加しません。

タイプ・コード D の場合

システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合

CANCEL を入力してジョブを取り消すか、IGNORE を入力または (ステートメントが不要なときは) END キー/ENTER キーを押して処理を続行するか、あるいは下記のタイプ・コード I のいずれかの処置を行ってください。

タイプ・コード I の場合

タスク処理またはジョブ終了処理を開始して一時サブライブラリーの除去を行う、または LIBDROP ステートメントを使用してサブライブラリーを消去してください。メッセージ・テキストで指定されたテーブルが LDT、SDT、DDT、EDT のいずれかのときは、SYS コマンド内の変更した SUBLIB パラメーター **m** を使用してシステムを再 IPL してください。メッセージ・テキストに指定されているテーブルが LOT の場合は、SYS コマンドにおいて変更した SUBLIB パラメーター **n** を使用してシステムを再 IPL してください。プログラマーの応答: なし。

L160t **LIBRARY** *lib* **IS IN USE - MAXIMUM**
RETRY COUNT=10

説明: 他のタスクが専用で使用しているライブラリーにアクセスしようとした。ライブラリアンは、指示されたサブライブラリーへのアクセスを 10 回まで再試行します。

システムの処置: ライブラリアン・サービスを使用するプログラムに応じて、1 回から 10 回までメッセージが発行されます。ライブラリアンが 10 回再試行してライブラリーにアクセスできなかった場合、該当するコマンドは実行されません。

タイプ・コード D の場合: システムはオペレーターの応答を待機します。

タイプ・コード I の場合: 再試行操作が成功しなかったとき、このメッセージの後にメッセージ L027I および L113I が発行されます。

次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答:

タイプ・コード D の場合、サブライブラリーが使用中でなくなるまで、LIBDEF コマンドを再入力してください。

タイプ・コード I の場合 - なし。

プログラマーの応答: ライブラリーへのアクセスが正常に行われた場合、プログラムは続行するため、処置は必要ありません。10 回試みた後、システムが終了する場合、要求を再試行するか、IBM サポートに連絡してください。

L162D **SUBLIBRARY** *library.sublibrary* **IS IN USE - MAXIMUM RETRY COUNT=10.**

説明: 他のタスクが専用で使用しているライブラリーにアクセスしようとした。ライブラリアンは、指示されたサブライブラリーへのアクセスを 10 回まで再試行します。

システムの処置: ライブラリアン・サービスを使用するプログラムに応じて、1 回から 10 回までメッセージが発行されます。ライブラリアンが 10 回再試行してサブライブラリーにアクセスできなかった場合、該当するコマンドは実行されません。

タイプ・コード D の場合: システムはオペレーターの応答を待機します。

タイプ・コード I の場合: 再試行操作が成功しなかったとき、このメッセージの後にメッセージ L027I および L113I が発行されます。

次のコマンドを処理します。

オペレーターの応答:

タイプ・コード D の場合には、サブライブラリーが使用中でなくなるまで待つてから、LIBDEF コマンドを再入力してください。

タイプ・コード I の場合 - なし。

プログラマーの応答: 要求を再試行してください。

L163I **SECURITY VIOLATION FOR** *library-object*

説明: アクセス許可のないライブラリー・オブジェクト (ライブラリー・サブライブラリー、またはメンバー) をアクセスしようとした。

システムの処置: システムは要求を無視します。セキュリティー違反が記録されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: システム管理者に、必要なアクセス権の許可を要請してください。

L164I **DIRECTORY OF SUBLIBRARY**
library.sublibrary **CANNOT BE OPTIMIZED - ENLARGE LIBRARY SPACE**

説明: ライブラリーがいっぱいのため、上記のサブライブラリーの高レベルの索引の更新を完了するためのライブラリー・スペースがありません。

システムの処置: サブライブラリー索引の一貫性を確保するために、システムは高位索引の更新未完了部分を除去します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 示されているサブライブラリーの登録簿は完全な形のものとなりますが、決して最良のものとは言えません。したがって、サブライブラリーの中のメンバーをアクセスする際の効率が低下するおそれがあります。この状況に不満であれば、次のいずれかの方法を用いて、サブライブラリーについての最良の索引構造を作り直すことができます。

1. ライブラリーの内容を保管し (BACKUP または COPY を使って)、より大きなライブラリーを定義し、それからライブラリーの古い内容をリストア (RESTORE または COPY を使って) する。
2. 該当ライブラリーに属するサブライブラリーのどれかからメンバーをいくつか削除し (フリー・スペースを作るた

め)、問題の生じたサブライブラリーに新しいメンバーをいくつかカタログの形で入れてください (登録簿の更新にスペースが必要になった時に、完全な索引が作成されます)。

L165I **MEMBER** *l.s.mn.mt* **IN WRITE MODE BY OTHER TASK. REQUEST CANCELED.**

説明: 別のタスクが、同じリソース名のメンバーへの書き込みアクセスを持っています。リソース名は、メンバー名、タイプ、サブライブラリーの先頭のディスク・アドレスから構成されます。したがって、リソース名はすべてのメンバーに固有ではありません。プログラムは、デッドロックが起きないように他のタスクが書き込みを終了するまで待つことはありません。同時に 2 つのタスクによって、同じリソース名の、同一のメンバーへの書き込みを行うことはできません。

システムの処置: コマンドを異常終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 再実行してください。

L166I **LIBRARY DESCRIPTOR OF LIBRARY I**
COULD NOT BE READ CANCELED.

説明: DEFINE コマンドで、ロックされたメンバーの数を検査しようとしたが、最初のライブラリーを読み取ることができませんでした。理由は次のいずれかと考えられます。

- ライブラリーが別の BAM または VSAM ファイルをオーバーレイしている。
- ラベル情報が一致していない。
- ライブラリーに損傷がある。

システムの処置: コマンドを終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L167I **INVALID MEMBER TYPE:** *mt*

説明: 機能 LISTDIR SDL の有効なメンバー・タイプは、'PHASE' か、文字列 'PHASE' と一致する総称指定だけです。

システムの処置: そのフェーズを無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 再実行してください。

L168I **PHASE** *phasenam* **RELOADED INTO**
SVA-xx - PREVIOUS LOC. SVA-yy

説明: メッセージで示されたフェーズが、SET SDL コマンドで開始された共用仮想域 (VLA) に再ロードされました。1 つの SET SDL コマンドで (例えば、LIST = loadlistname によって) 複数のフェーズが再ロードされた場合には、各フェーズごとに (フェーズ名のアルファベット順に) このメッセージが与えられます。

システムの処置: これは、共用仮想域に常駐するフェーズにサービスが適用されたときに起こる標準の状況です。SDL 項目はレクラメーションされますが、前にロードされたフェーズを含む SVA 内のスペースは、次の IPL 時にしかレクラメーションされません。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L169I NOT ALL SVA-31 ELIGIBLE PHASES
LOADED INTO SVA-31 - *phase-name*

説明: メッセージに示されたフェーズは、共用仮想区域の残りのフリー・スペースには合いません (31 ビット)。

システムの処置: SVA-31 に適格なフェーズは、'MOVE MODE' または 'RMODE=ANY' フェーズです。これらのフェーズはアルファベット順で、SVA-31 にカタログされますが、SVA-31 に適格なフェーズでメッセージに指定されたフェーズから、SVA-24 にカタログされた可能性があります (オペランド SDL を指定したライブラリアン LD (ディレクトリーのリスト) コマンドを使用して、どのフェーズが SVA-31 または SVA-24 にロードされたかを見つけてください)。処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージをシステム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: さらに多くの SVA-31 に適格なフェーズを SVA-31 にロードするには、SVA コマンドの PSIZE オペランドにある 2 番目のパラメーターを増やしてください。

L170I *phase-name* NOT IN LIBRARY

説明: システム登録簿が作成され、上記のフェーズについての (非活動の) 項目が作成されましたが、そのフェーズ自体がカタログに登録されていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 欠落しているフェーズをカタログ登録またはコピーの形で該当のサブライブラリーに入れ、SET SDL コマンドを出してそれを SVA にロードしてください。

注: システム・サブライブラリー IJSYSRS.SYSLIB にフェーズを入れた場合には、そのフェーズは自動的に SVA にロードされます。

L171I SYSTEM DIRECTORY LIST IS TOO SMALL

説明: IPL 時に、SDL が小さすぎてすべての項目を入れることができません。

システムの処置: IPL を中止します。

オペレーターの応答: SVA コマンドの SDL オペランドにもっと大きい値を指定して、IPL をやり直してください。

プログラマーの応答: なし。

L172I *phase-name* IS ALREADY IN SYSTEM
DIRECTORY LIST (SDL)

説明: SET SDL コマンドのあとに、すでに SVA に入っている SVA の名前が指定されています。

システムの処置: システムは要求を無視します。

注: SET SDL コマンドのあとに、すでに SVA の中にあるフェーズについて フェーズ名、SVA または フェーズ名、MOVE を付けた場合には、そのフェーズ名が再ロードされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L173I *phase-name* IS NOT SELF RELOCATING -
PHASE IS NOT LOADED

説明: ユーザーは、非自己再配置フェーズを自己再配置フェーズとして指定しています。

システムの処置: メッセージに示されているフェーズを SVA にロードせずに、次のフェーズに移って処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: フェーズを SVA にロードする場合、それは自己再配置フェーズでなければなりません。自己再配置プログラムを書く際に使用するプログラミング手法については、「z/VSE System Macros User's Guide」に説明されています。

L174I *phase-name* IS NOT SVA ELIGIBLE -
PHASE IS NOT LOADED

説明: ユーザーが SVA 適格フェーズ (再入可能かつ再配置可能なもの) として指定したものが SVA 適格フェーズではありません。

システムの処置: メッセージに示されているフェーズを SVA にロードせずに、次のフェーズに移って処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SVA にフェーズをロードする場合、そのフェーズは再入可能かつ再配置可能なものでなければなりません。「z/VSE Guide to System Functions」に記載されている再配置可能フェーズの作成規則を順守してください。

L175I SVA IS FULL - NOT ALL PHASES
ACCEPTED - *phase-name*

説明: 共用仮想記憶域の最大容量に達しました。

システムの処置: フェーズは、アルファベット順にカタログされて、SVA がいっぱいになるまで SVA に入れられます。アルファベット順に数えてメッセージに示されているフェーズおよびそれ以降のフェーズの一部は SVA にカタログ登録されないこととなります。フェーズ名の個所がブランクの場合には、フェーズは 1 つもロードされません。処理を続行します。

オペレーターの応答: このメッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: SVA コマンドの PSIZE を大きくしてください。

L176I SECOND LEVEL DIRECTORY FOR
SUBLIBRARY *library.sublibrary* CANNOT BE
BUILT OR UPDATED

説明: 原因については、このメッセージの前のメッセージを参照してください。

システムの処置: 処理を続行します。プログラム・ロード操作中に、効率の低下はあり得ますが、システムの処理は正常です。

オペレーターの応答: プログラムを再実行する前に、システム GETVIS スペースを IPL SVA コマンドで指定して拡大してください。LIBDEF フェーズ以外のライブラリアン・コマンドまたはジョブ制御ステートメントを実行中にメッセージが発生した場合は、LIBDROP PHASE の実行後に、該当サブライブラリーの新しい LIBDEF PHASE を実行すれば、SLD は更新されます。

プログラマーの応答: なし。

L177I **LOAD REQUEST FOR *phase* FAILED RC=**
***rc* - PHASE NOT LOADED**

説明: LOAD 要求が失敗し、戻りコード *rc* が返されました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: LOAD エラー・コードを分析し、適切な処置を取ってください。

L178I **LOAD REQUEST FOR *phase* FAILED RC=**
***rc* - PHASE NOT LADED**

説明: 独立 IPL の間に、独立テープから VLA にフェーズをロードする LOAD 要求が失敗し、戻りコード *rc* が返されました。独立 IPL テープの内容が、部分的に破壊されている可能性があります。
システムの処置: 独立 IPL の処理は異常終了します。
ユーザーの処置: 新しい独立 IPL テープを注文するか作成し、独立 IPL テープから再び IPL を行ってください。
プログラマーの応答: なし。

L179I **LOAD REQUEST FAILED RC= *rc***

説明: 独立テープ上の 2 番目の独立ファイルの最後にあるテープ・マークをスキップするダミー LOAD 要求が失敗し、戻りコード *rc* が返されました。独立テープの内容が、部分的に破壊されている可能性があります。
システムの処置: 独立 IPL の処理は異常終了します。
ユーザーの処置: 新しい独立 IPL テープを注文するか作成し、独立 IPL テープから再び IPL を行ってください。
プログラマーの応答: なし。

L180I **CHAIN *chainspecification* DOESN'T EXIST**

説明: 指定されたチェーンにはサブライブラリーがありません。
システムの処置: コマンドは正常に終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

L181I **MEMBER *mn.mt* NOT FOUND**

説明: 指定されたメンバーと一致するメンバーが見つかりませんでした。
システムの処置: コマンドは正常に終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

L182I **OVERFLOW OF NAMELIST**

説明: 区画ストレージには、メンバーを検索するサブライブラリーの名前のすべてを保管するために十分な大きさがありません。
システムの処置: コマンドを異常終了します。さらに、メッセージ L027 を表示します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: ライブラリー名またはサブライブラリー

名の数減らすか、または区画スペースを拡大して、コマンドを再実行してください。

L183I **SUBLIB LIST FOR MEMBER *mn.mt* NOT COMPLETE**

説明: 内部作業域が過負荷状態です。このメンバーの探索を継続できません。
システムの処置: 収集済みの情報をすべて印刷しますが、完全ではありません。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: より詳細にメンバーを指定してコマンドを再実行するか、または使用可能な区画スペースを拡大してください。

L184I **INTERNAL ERROR IN LIST PROCESSING**

説明: 内部処理を行っているときに、リカバリー不能なエラーが起きました。
システムの処置: コマンドを異常終了します。さらに、メッセージ L027 を表示します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

L185I **INVALID SEARCH REQUEST**

説明: 矛盾したパラメーターが入力されました。
システムの処置: コマンドを終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 正しいパラメーターを指定してコマンドを再実行してください。

L186I **SUBLIBRARY *lib.slib* NOT FOUND. PROCESSING CONTINUED**

説明: サブライブラリー *lib.slib* がありません。
システムの処置: コマンドがサブライブラリー名リストにある次のサブライブラリーに進むか、または RESTORE=STANDALONE を指定する BACKUP コマンドの場合には、このメッセージの後にロードされていない独立型ユーティリティ・フェーズの名前を識別する、メッセージ L083I が続きます。処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: イベント内のサブライブラリーの名前を調べて、間違ったサブライブラリー名がサブライブラリー・リストに指定されたことを確認してください。

L187I **NO MEMBER *mn.mt* WITH LOCKID *lockid* FOUND**

説明: ライブラリー、サブライブラリー、総称メンバーのいずれかを UNLOCK する要求が出されましたが、指定されたロック ID でロックされたメンバーが見つかりませんでした。
システムの処置: コマンドはそのメンバーをバイパスします。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

L188I TIMEFRAME IS INVALID.

説明: LISTDIR コマンドの DATE オペランドに、無効な時間枠 (時間枠の始まり > 時間枠の終わり) が含まれています。
 システムの処置: コマンドは終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 時間枠の指定を訂正してください。

L189I AMODE 31 NOT ALLOWED FOR LIBRM

説明: LIBRM マクロがアドレッシング・モード 31 で呼び出されました。LIBRM はアドレッシング・モード 24 で呼び出さなければなりません。
 システムの処置: マクロは戻りコード 16 と、フィードバック・コード FDBCAM31 を返します。
 オペレーターの応答: なし。

L190I *opname* OPERAND IGNORED FOR *function*

説明: オペランドが指定されましたが、これは指定されたコマンドまたは機能には関連がありません。
 システムの処置: オペランドは無視されます。処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 今後この機能を使用する場合には、このオペランドを使用しないでください。

L191I PARTITION *pid* DOES NOT EXIST

説明: PART オペランドで指定された区画はシステムには存在しません。
 システムの処置: TEST TRACE コマンドは異常終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 区画の仕様を訂正してください。

L192I MAXIMAL NUMBER OF TRACE SPECIFICATIONS REACHED

説明: システム内で、最大数の TEST TRACE ... PART/TASK=... コマンドがすでに活動状態です。
 システムの処置: TEST TRACE コマンドは異常終了します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: TEST TRACE=OFF を入力して、トレースの仕様をクリアしてください。これにより直前のすべての TEST TRACE コマンドが活動を停止します。異常終了した TEST TRACE コマンドを出し直してください。

L193I RECORDS HAVE BEEN TRUNCATED FOR MEMBER *l.s.m.t.*

説明: このメッセージは、LIST、PUNCH、COMPARE または UPDATE コマンドを処理中に、メンバー・レコードを読み取ってから出されます。レコード (固定形式) が 80 バイト以上あるために、80 バイトで切り捨てられました。これは通常、ディスク上ではメンバー・レコードが非圧縮形式で存在しているのに、ディレクトリ項目には圧縮形式になっていると宣言されていることが原因で発生します。これは TEST コマンドでは検査できません。
 システムの処置: LIST、PUNCH および UPDATE の処理は

継続します。COMPARE コマンドは切り捨てられたメンバーを無視し、次のメンバーの処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

L201I LIBRARY *lib* IS FULL

説明: ライブラリー中の使用可能なフリー・スペースが足りないために、カタログを作成/リンク/編集/リストアしようとしているモジュールを入れることができません。サブライブラリー DEFINE、RENAME、COPY、MOVE または RESTORE などの索引の変更をもたらす機能の実行には、追加ライブラリー・スペースが必要になるかもしれません。
 システムの処置: 機能を打ち切ります。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 以下のいずれかです。

- サブライブラリーが REUSE=IMMEDIATE の属性を備えている場合には、不要なメンバーを削除してください。
- ライブラリーがこの区画に割り当てられている場合は、不要なモジュールを削除するか (可能な場合)、あるいは、バックアップをリストアし、そしてジョブを再実行してください。
- ライブラリーがこの区画に割り当てられておらず、ライブラリー・スペース・レクラメーションが保留になっている場合には、すべての活動タスクからライブラリーを切り離すことにより、自動的な強制レクラメーションが生じるようにしてください。
- カタログ・ジョブの通常でない取り消しで、ライブラリー・ブロックがカタログ・メンバーまたは登録簿に属していないのに占有されたままになっています。この場合には、ライブラリー・ブロックを解放するために、REPAIR=YES を指定してライブラリー全体または TEST ライブラリーの BACKUP/RESTORE が必要です。
- TEST コマンドを用いて、エラー・スペース管理によるエラーの有無を検査し、エラーがあれば、BACKUP/RESTORE によりライブラリーの再編成をしてください。

L251I FILE *lib* IS EITHER NOT A VSE LIBRARY / SYSRES FILE OR THE LABEL INFORMATION IS INCORRECT

説明: オープンされたファイルが、VSE ライブラリーまたは SYSRES ファイルの形式を持っていない、またはそのライブラリーが破壊されています。(例えば、DEFINE-LIB または RESTORE-LIB ジョブが取り消されるために)。

FCOPY を使用して、あるライブラリーをサイズの異なる別のエクステントに移動させる場合、そのライブラリーもまた、壊されたものとして処理されます。複数エクステント・ライブラリーの個々のエクステントは VSE ライブラリー形式に従っている必要があります。BAM ライブラリーの場合、EXTENT ステートメントの数とそれらのエクステント定義は、ライブラリー・エクステントとその DASD 位置に一致する必要があります。

注: このメッセージは、次のような場合にも出されます。
 z/VSE 3.1.0 (またはそれ以降のリリース) の SYSRES ファイルが、IJSYSRS、IJSYSR1、...、IJSYSR9 以外の名前アクセスされており、FBA/SCSI でのライブラリー開始アドレスがプロ

ック 4096 でない場合。このメッセージは、次のような場合にも出されます。VSE/ESA 1.1.0 (またはそれ以降のリリース) の SYSRES ファイルが、IJSYSRS、IJSYSR1、...、IJSYSR9 以外の名前でアクセスされており、ライブラリー開始アドレスが CKD ではシリンダー 0 トラック 8、FBA 装置ではブロック 130 でない場合。または任意の専用ライブラリー (非 SYSRES ファイル) が、IJSYSR1、...、IJSYSR9 の名前でアクセスされた場合。(以前の VSE/ESA SYSRES ファイルでは、ライブラリー開始アドレスは CKD ではシリンダー 0 トラック 2、FBA 装置ではブロック 20 です。FBA/SCSI での以前の VSE/ESA SYSRES ファイルおよび以前の z/VSE SYSRES ファイルは専用ライブラリーとしてアクセスされなければならず、IJSYSR1、...、IJSYSR9 の名前を使用してはなりません。) システムの処置:

タイプ・コード D の場合システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合このメッセージの後の別のメッセージでシステムの処置についての詳細が与えられます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合は、次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。正しい DLBL/EXTENT ステートメントを受け渡し、拒否されたステートメントをもう一度入力してください。
- 拒否されたステートメントを訂正して、もう一度受け渡してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 示されたライブラリーについて、拒否されたステートメント、DLBL または EXTENT ステートメント、あるいはその両方を修正してください。または、ライブラリーを (例えば RESTORE を使用して) 再作成してください。

L252t NO LABEL INFORMATION FOUND FOR LIBRARY *lib*

説明: 要求されたライブラリーは、DLBL/EXTENT ステートメントにより定義されていません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合

システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージがこのメッセージに続いて出るか、または次のライブラリーまたはコマンドに移って処理が続けられます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。指定したライブラリーについての DLBL/EXTENT ステートメントの受け渡し後、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 指定したライブラリーについての DLBL/EXTENT ステートメントを受け渡してから、ジョブを再サブミットしてください。

L253I NEITHER VALID NOR LOGICAL UNIT SPECIFIED ON EXTENT STATEMENT FOR LIBRARY *lib*

説明: ライブラリーについての EXTENT ステートメントには VALID もしくは論理装置あるいはその両方が含まれていなければなりません。要求されたライブラリーについての 1 つまたは複数の EXTENT ステートメントに、VALID または論理装置のいずれも含まれていません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合

システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。VALID または論理装置を指定した DLBL/EXTENT ステートメントの受け渡し後、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: すべての EXTENT ステートメントで論理装置もしくは VALID またはその両方を指定してから、ジョブを再サブミットしてください。論理装置を指定する場合、物理装置に割り当てられているものでなければなりません。

L254A MOUNT VOLUME *valid* OR READY DEVICE, THEN HIT ENTER - OR TYPE CANCEL

説明: システムにとって未知の DASD ボリュームに入っているライブラリーが要求されました。要求されたライブラリーは、論理装置ではなく EXTENT ステートメント上の VALID によって定義されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 指定されたボリュームをディスク駆動機構に取り付け、駆動機構を作動可能な状態にしてから、END/ENTER を押してください。あるいは、CANCEL を入力して要求を取り消してください。

プログラマーの応答: なし。

L255t LIBRARY *lib* - OPEN FAILURE

説明: この前に出た OPEN メッセージに示されている理由により、上記のライブラリーをオープンすることができませんでした (DTFPH マクロ展開のバイト 21 のビット 5 は OPEN ルーチンによりオンにセットされません)。

システムの処置: タイプ・コード D の場合

システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。該当ライブラリーについて正しい DLBL/EXTENT (ASSGN) ステートメントの受け渡し後、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- 拒否されたステートメントが不要ならば IGNORE を入力するか END/ENTER を押してそれを無視し、処理を続行してください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 前の OPEN メッセージに示されているエラーを訂正してください。

L256I POOL OF LOGICAL UNITS EXHAUSTED

説明: ジョブまたはコマンドが実行される区画の中でのライブラリーまたはテープの自動割り当てに使用できる空いたプログラマー論理装置またはシステム論理装置 (ディスクまたはテープのための論理装置) がありません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: NPGR JCL コマンドを用いてその区画のプログラマー論理装置の数を増やすか、あるいは、SV 生成マクロ命令 IOTAB-NPGR により指定されているプログラマー論理装置のプールを大きくしてください。そして、ジョブの終わり (/&) を強制して、一時使用されている論理装置を解放してください。

L257t SYSTEM GETVIS SPACE OR DYNAMIC SPACE GETVIS EXHAUSTED

説明: 障害のある区画が静的区画である場合 (BG、F1、...、FB)、SYSTEM GETVIS は使用できなくなります。そうでない時は、DYNAMIC SPACE GETVIS が使用できなくなります。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- 拒否されたステートメントが不要ならば IGNORE を入力するか END/ENTER を押してそれを無視し、処理を続行してください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: IPL コマンド SVA にパラメーター GETVIS を付けてシステムの GETVIS スペースを大きくするか、障害のあった動的区画クラスの SPACE GETVIS サイズを広げてください。

L258I PARTITION GETVIS SPACE EXHAUSTED

説明: 区画 GETVIS 域が小さすぎるか、あるいは、EXEC ステートメントで SIZE 不要の REAL を指定したために区画 GETVIS 域が存在していません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- ALLOC コマンドにより区画サイズを大きくするかまたは SIZE コマンドにより GETVIS 域を大きくしてから、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 可能ならば、EXEC ステートメントの SIZE の値を減らすことにより区画 GETVIS スペースを大きくして、大きい GETVIS 域を備えた大きい区画の中でジョブが実行されるようにしてください。プログラム REAL を実行する際には SIZE の値を指定してください。

L259I MORE THAN 16 EXTENT STATEMENTS SUBMITTED FOR LIBRARY lib

説明: ライブラリー・スペースはエクステント 16 個までです。

システムの処置: このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXTENT ステートメントの数を調整してから、ジョブを再サブミットしてください。

L260t THE DLBL STATEMENT FOR LIBRARY lib IS NOT OF TYPE SD OR VSAM

説明: DLBL タイプは、SD (デフォルト) または VSAM でなければなりません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。当該ライブラリーについて正しい DLBL/EXTENT ステートメントの受け渡し後、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: DLBL ステートメントを訂正してから、ジョブを再サブミットしてください。

L261t DLBL/XTENT STATEMENTS ARE NOT ACCEPTED FOR THE DEFINITION OF SYSRES FILE *filename*

説明: SYSRES ファイルの定義のためのステートメントとして受け入れられるのは DLBL/EXTENT だけです。

システムの処置: タイプ・コード D の場合: システムはオペレーターの応答を待機します。タイプ・コード I の場合: システムの処置についての詳しい情報を示すメッセージがこのメッセージに続いて出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。当該ライブラリーについて正しい DLBL/EXTENT ステートメントの受け渡し後、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- 拒否されたステートメントが不要ならば IGNORE を入力するか END/ENTER を押してそれを無視し、処理を続行してください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: DLBL/EXTENT ステートメントを与えてジョブを再サブミットしてください。

L262t SYSRES FILE *filename* CANNOT RESIDE IN VSAM MANAGED SPACE

説明: ファイル名 IJSYSRS および IJSYSR1..9 は SYSRES ファイルの定義に使用します。SYSRES ファイルを VSAM が管理するスペースに入れておくことはできません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。正しいライブラリー名を指定した DLBL/EXTENT ステートメントと共に、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: DLBL ステートメントを訂正してから、ジョブを再サブミットしてください。

L263I SYSRES FILE *filename* MUST HAVE ONLY ONE EXTENT

説明: 複数のエクステントのある SYSRES ファイルを指定しようとした。ファイル名 IJSYSRS および IJSYSR1..9 は SYSRES ファイルの定義に使用します。

システムの処置: このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DLBL/EXTENT ステートメントを訂正してから、ジョブを再サブミットしてください。

L264t FILENAME *filename* IS RESTRICTED FOR DEFINITION OF SYSRES FILES

説明: SYSRES ファイルに限定されている名前 (IJSYSRn, n=1..9) により専用ライブラリーをアクセスしようとした。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。正しいライブラリー名を指定した DLBL/EXTENT ステートメントと共に、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 正しいライブラリー名を指定してから、ジョブを再サブミットしてください。

L265t WRONG START ADDRESS GIVEN FOR SYSRES FILE *filename* - SPECIFY TRACK 1 FOR CKD OR BLOCK 2 FOR FBA

説明: CKD 装置の場合にトラック 1 以外、FBA 装置の場合にブロック 2 以外の DASD アドレス上に、SYSRES ファイルを定義しようとする試みがなされました。

注: CKD/ECKD ディスクでの以前の VSE/ESA SYSRES ファイルは専用ライブラリーとしてアクセスされなければならない、IJSYSR1、...、IJSYSR9 の名前を使用してはなりません。FBA/SCSI ディスクでの以前の z/VSE SYSRES ファイルは専用ライブラリーとしてアクセスされなければならない、IJSYSR1、...、IJSYSR9 の名前を使用してはなりません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。正しいライブラリー開始アドレスを持つ DLBL/EXTENT ステートメントを受け渡し、拒否されたステートメントをもう一度入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: EXTENT ステートメントを訂正してから、ジョブをもう一度受け渡ししてください。

L266t THE EXTENT FOR SYSRES FILE *filename* IS TOO SMALL - MINIMUM SIZE: 8 TRACKS FOR CKD, 5004 BLOCKS FOR FBA

説明: SYSRES ファイル (IJSYSR1、...、IJSYSR9) を CKD 装置には 8トラック以下のエクステントで、または FBA 装置には 5004 ブロック以下のエクステントで定義しようとした。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。正しい EXTENT 値で DLBL/EXTENT ステートメントを受け渡し、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: EXTENT ステートメントを訂正してから、ジョブをもう一度受け渡ししてください。

L267I AN EXTENT OF LIBRARY *lib* IS TOO SMALL - MINIMUM SIZE: 1 TRACK FOR CKD, 10 BLOCKS FOR FBA

説明: 最小サイズより小さいエクステントでライブラリーを定義しようとした。最小サイズは、CKD の場合は 1トラック、FBA の場合は 10 ブロックです。

システムの処置: このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXTENT ステートメントを訂正してから、ジョブをもう一度受け渡ししてください。

L268I MAXIMUM NUMBER OF EXTENTS -maxexts- ALLOCATED TO LIBRARY *lib* - NO FURTHER EXTENSION POSSIBLE

説明: VSAM 管理のスペース内にあるライブラリーがいっぱいであり、しかもすでに最大エクステント数 (16 または 32) に達しています。このメッセージは、このような飽和状態が生じるたびに表示されます。1つのコマンド (例えば COPY) の実行中に飽和状態が 2 回以上発生することもあり、したがってこのメッセージも 2 回以上出ることがあります。(飽和状態が生じると、ライブラリアンは指示を与えなくてもメンバーをいくつか削除して、コマンドの完了に必要なだけのスペースを解放しようとしています。)

どのメンバーが処理されたかを調べるのに役立つ COPY または Move コマンドの LIST=No/Yes パラメーターを参照してください。

システムの処置: コマンドが暗黙のうちにメンバーを削除し、その結果コマンドの実行が完了した場合には、そのまま処理を続けます。

そうでない場合には、システムの処置についてのさらに詳しい情報を示す別のメッセージがこのメッセージに続いて出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: コマンドが正しく完了しなかった場合には、使用していないメンバーを削除してから、ジョブを再サブミットしてください。コマンドが正常に実行された場合には、このメッセージは、ライブラリーが最大制限サイズに達したことを示しています。

ライブラリーを大きくするためには、次に示す一連のジョブ・ステップを実行しなければなりません。

1. ライブラリーのバックアップ (EXEC-LIBR-BACKUP-LIB)
2. ライブラリーの削除 (EXEC-LIBR-DELETE-LIB)
3. クラスターの削除
4. より大きいクラスターの定義
5. ライブラリーのリストア (EXEC-LIBR-RESTORE-LIB)

L269t LIBRARY *lib* RESIDING IN VSAM MANAGED SPACE CANNOT BE CLOSED

説明: 上記ライブラリーは VSAM が管理するスペースに入っており、前の VSAM メッセージに示されている理由により、VSAM はそのライブラリーをクローズすることができませんでした (CLOSE ルーチンは、DTFPH マクロ展開のバイト 21 のビット 5 をオフにセットしません)。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 前の VSAM-CLOSE メッセージに示されているエラーを訂正してください。

L270t EXTENT STATEMENT IS MISSING FOR FILE *filename*

説明: SAM ファイルについての DLBL ステートメントが受け渡されましたが、その DLBL ステートメントのあとに EXTENT ステートメントが 1 つもありません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 表示されているファイル名についての DLBL/EXTENT ステートメントを受け渡し、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 正しい DLBL/EXTENT ステートメントを与えて、ジョブを再サブミットしてください。

L271t MOUNT REQUEST FOR VOLUME *valid* CANCELED BY OPERATOR - AFFECTED LIBRARY: *lib*

説明: システムにとって未知の DASD ボリューム上にあるライブラリーが要求されました。オペレーターは、オペレーター・メッセージ L254A が出たときに、要求されたボリュームをセットせずに CANCEL を入力しました。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。ステートメント全体が拒否されます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 指定されたボリュームを取り付け、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 要求したボリュームが取り付けられることを確認してから、ジョブを再サブミットしてください。

L272t A LOGICAL UNIT FOR LIBRARY *lib* IS NOT ASSIGNED

説明: ライブラリーの EXTENT ステートメントは割り当てられていない (ASSGN ステートメントによって) 論理装置を含んでいます。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。ステートメント全体が拒否されます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 表示されているライブラリーのための論理装置を割り当ててから、拒否されたステートメントの受け渡しをし直してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 必要な論理装置についての ASSGN ステートメントを与えて、ジョブを再サブミットしてください。

L273I THE EXTENT TYPE GIVEN FOR LIBRARY *library* IS OTHER THAN 1 (DATA-AREA)

説明: ライブラリーについての EXTENT ステートメントのタイプ指定が 1 ではありません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。ステートメント全体が拒否されます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。正しいタイプ指定を備えた DLBL/EXTENT ステートメントを受け渡してから、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。
プログラマーの応答: 正しい EXTENT ステートメントを与えて、ジョブを再サブミットしてください。

L274E **SHARED LIBRARY *lib* IS EXTENDED.
RUN LIBRARIAN COMMAND <TEST
LIB=*lib* AREA=SPACE> ON ALL OTHER
SHARING CPUS**

説明: ライブラリーが拡張されます。2 つ、あるいはそれ以上の CPU 間で共有されているディスク上の VSAM 管理のスペース内にこのライブラリーがあります。(IPL-ADD コマンド上でボリュームに対して SHR が指定されているならば、このボリューム上から始まるすべてのライブラリーは、共用として取り扱われます。) このメッセージは、オペレーターに対して、他の共有 CPU にプログラム・ロード機能を使うときの問題を回避できるようにするために出されます。'TEST LIB=*lib* AREA=SPACE' というライブラリー用コマンドを実行すると、CPU 内部ライブラリー制御テーブルは、ライブラリーの新しい状況を反映して更新されます。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: ライブラリー用コマンド 'TEST LIB=*lib* AREA=SPACE UNIT=SYSLST' を共用 CPU 間でメッセージ 0P92I を避けるために、すべての共用 CPU に対して実行してください。
プログラマーの応答: なし。

L275t **THE EXTENTS GIVEN ON EXTENT
STATEMENT DO NOT MATCH THE
ACTUAL EXTENTS OF LIBRARY *lib***

説明: 既存のライブラリーの中のエクステント値が、そのライブラリーについての EXTENT ステートメントでのエクステント指定に符合していません。エクステント・サイズの指定が正しくないか、EXTENT ステートメントの順序に誤りがあるものと考えられます。EXTENT の指定が正しい場合、またはその指定が欠落している(したがって VTOC から取られた)場合には、ライブラリーは壊れています。ライブラリーが FCOPY によりエクステント・サイズの異なるエクステントに移された場合にも、そのライブラリーは壊れているものとして扱われます。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。ステートメント全体が拒否されます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。
オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。正しいエクステント指定を備えているかまたはエクステント指定のない DLBL/EXTENT ステートメントの受け渡しをしてから、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。

- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 正しい EXTENT ステートメントを与えて、ジョブを再サブミットしてください。既存のライブラリーのアクセスの場合には、EXTENT ステートメントでのエクステント指定は必要ありません。TEST コマンドを用いて、ライブラリーが物理的に正しいものであるかどうかを検査してください。ライブラリーに欠陥がある場合は再作成が必要です。

L276t **NUMBER OF EXTENT STATEMENTS
DOES NOT MATCH NUMBER OF DISK
EXTENTS OF LIBRARY *lib***

説明: ラベル域の EXTENT ステートメントの数が、VTOC 項目で定義されたライブラリーのディスク・エクステントの実数と一致しません。

システムの処置: タイプ・コード D の場合
システムはオペレーターの応答を待ちます。ステートメント全体が拒否されます。

タイプ・コード I の場合

このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。
オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 間違った DLBL/EXTENT ステートメントを削除してください。正しい DLBL/EXTENT ステートメントの受け渡しをしてから、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- 拒否されたステートメントが不要ならば IGNORE を入力するか END/ENTER を押してそれを無視し、処理を続行してください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: 正しい DLBL/EXTENT ステートメントを与えて、ジョブを再サブミットしてください。

L277I **THE EXTENTS OF A LIBRARY CANNOT
RESIDE ON VOLUMES OF DIFFERENT
DEVICE TYPES - AFFECTED LIBRARY: *lib***

システムの処置: タイプ・コード D の場合: システムはオペレーターの応答を待機します。タイプ・コード I の場合は、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージがこのメッセージに続いて出ます。

オペレーターの応答: タイプ・コード D の場合には次のいずれかを行ってください。

- 当該ライブラリーについて正しい DLBL/EXTENT ステートメントの受け渡し後、拒否されたステートメントを再入力してください。
- CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。
- IGNORE を入力するかまたは END/ENTER (そのステートメントが不要な場合) を押して処理を続けてください。

タイプ・コード I の場合は、処置は不要です。

プログラマーの応答: EXTENT ステートメントの数を調整してから、ジョブを再サブミットしてください。

L278I VSAM DATA SPACE EXHAUSTED WHEN ATTEMPTING TO EXTEND LIBRARY

library name

説明: ライブラリアンが VSAM 管理スペース中にあるライブラリーを拡張しようとしたのですが、スペースが十分ではありませんでした。

システムの処置: コマンドが正しく完了するだけのメンバーを削除する場合は、処理を続行します。それ以外の場合は、次のメッセージの「システムの処置」を参照してください。

オペレーターの応答: エラーの発生をプログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: コマンドが正しく完了しない場合には、未使用のメンバーを削除するか、または VSAM データ・スペースを拡張してジョブを再サブミットしてください。コマンドが正しく完了する場合には、使用可能な VSAM スペースを拡大して将来の障害を防いでください。

L280I LIBRARY *lib* CANNOT BE DELETED OR OVERWRITTEN BECAUSE IT IS NOT UNIQUELY ASSIGNED

説明: 示されたライブラリーが、別の区画またはタスクへの並行割り当て、または LIBDEF ステートメント上での指定を許されていない処置に対して要求されています (ライブラリーの削除、移動、またはリストアなどの処置)。

システムの処置: このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: 適用可能なならば、プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: そのライブラリーが、他の区画もしくはタスクの中、あるいは LIBDEF ステートメント上で定義されていないことを確認した後で、ジョブを再サブミットしてください。

L281I SUBLIBRARY *library.sublibrary* CANNOT BE DELETED OR RENAMED BECAUSE IT IS NOT UNIQUELY ASSIGNED

説明: 示されたサブライブラリーが、別の区画またはタスクへの並行割り当て、または LIBDEF ステートメント上での指定を許されていない処置に対して要求されています (ライブラリーの削除、移動、または復元などの処置)。

システムの処置: このメッセージのあとに、システムの処置についての詳しい情報を示す別のメッセージが出ます。

オペレーターの応答: 適用可能なならば、プログラマーの応答と同じです。

プログラマーの応答: そのサブライブラリーが、他の区画もしくはタスクの中あるいは LIBDEF ステートメント上で定義されていないことを確認した後で、ジョブを再サブミットしてください。

L282A LIBRARY *lib* RESIDES ON SHARED VOLUME *valid* - ENTER YES TO DELETE THE LIBRARY, ELSE HIT ENTER

説明: 別のシステムと共用の DASD ボリューム (IPL 中に ADD コマンドのパラメーター SHR で示されます) 上に、ライブラリーが常駐しています。要求された機能の場合、他のシステムがそのライブラリーを同時に使用してはなりません。また、ライブラリーを LIBDEF ステートメントで参照してはなりません。*valid* は、最初の (または唯一の) ライブラリー・エクステントのボリュームの名前です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: ライブラリーが別のシステムに使用されていない (例えば、別のシステムのすべてがダウン状態にある) 場合にだけ「YES」を入力し、それ以外は、実行キーを押してください。

プログラマーの応答: なし。

L283A LIBRARY *lib* RESIDES ON SHARED VOLUME *valid* - ENTER YES TO DELETE OR RENAME OR REPLACE SUBLIBRARY *sublib*, ELSE HIT ENTER

説明: ライブラリーおよびサブライブラリーは、他のシステムと共用している DASD ボリュームに存在します (IPL 時に ADD コマンドの SHR パラメーターで示されています)。要求された機能の場合、他のシステムがサブライブラリーを同時に使用してはなりません。また、サブライブラリーを LIBDEF ステートメントで参照してはなりません。*valid* は、最初の (または唯一の) ライブラリー・エクステントのボリュームの名前です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: サブライブラリーが他のシステムに間違いなく使用されていない場合にのみ (例えば他のすべてのシステムがダウンしている等)、「YES」を入力してください。

「YES」以外を入力すると、メッセージ L281I が出されます。プログラマーの応答: なし。

L284I MEMBER *l.s.mn.mt* IS LOCKED. REQUEST BYPASSED

説明: COPY、MOVE、RESTORE、RENAME、UPDATE、DELETE は、メンバー *l.s.mn.mt* がロックされているため、それを置き換えまたは削除することができません。

システムの処置: コマンドはその要求をバイパスします。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メンバーは UNLOCK コマンドによって、アンロックすることができます。これは通常、メンバーをロックしたユーザーに矛盾をもたらします。

L285I MEMBER *l.s.mn.mt* IS LOCKED BY OTHER LOCKID. *action* BYPASSED

説明: UNLOCK コマンドで指定されているロック ID 以外のロック ID でロックされているため、メンバーをアンロックできません。

システムの処置: コマンドはその要求をバイパスします。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メンバーのロックで指定されているロック ID を指定してください。

L286I LIBRARY/SUBLIBRARY *l(s)* CONTAINS LOCKED MEMBERS. REQUEST BYPASSED

説明: COPY、MOVE、RESTORE、RENAME、CATALOG、DELETE、DEFINE は、ライブラリーまたはサブライブラリーがロックされたメンバーを含んでいるため、それらを更新、名前変更または削除することができません。

システムの処置: コマンドはライブラリーまたはサブライブラリーの処理をバイパスします。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ライブラリーまたはサブライブラリーのすべてのメンバーを UNLOCK コマンドでアンロックすることができます。これは通常、該当するメンバーをロックしたユーザーに矛盾をもたらします。

L287I MEMBER *l.s.mn.mt* HAS BEEN UNLOCKED

説明: このメッセージは、ライブラリー、サブライブラリー、総称メンバーのいずれかについての UNLOCK コマンドを処理しているときに、メンバーがアンロックされるたびに出力されます。

システムの処置: コマンドは正常に終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L288I MEMBER *l.s.mn.mt* WAS NOT LOCKED

説明: 指定のメンバーについての UNLOCK 要求が終了しました。メンバーはすでにアンロックされています。

システムの処置: UNLOCK 要求を終了します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L289I LOCKED MEMBER *l.s.m.t.* WILL BE processed BECAUSE OF JOB CONTROL OPTION

説明: ジョブ制御オプション // OPTION IGNLOCK が活動しています。このため、ロックされたメンバーは名前変更、削除または置換されます。

システムの処置: ロックは無視されます。処理を続行します。正常に処理された後、メンバーはアンロックされます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ロックされたメンバーのうち使用されたもののリストを使用して、メンバーをロックしたユーザーに警告を与えてください。

L290I LIBRARIAN TP-SERVER XPCC COMMUNICATION FAILED WITH RETURN CODE=*rc* AND REASON=*reason*

説明: 上記のエラーが原因で XPCC 要求が失敗しました。返

された値は IJBXRETC (戻りコード) と IJBXREAS (理由コード) です。

システムの処置: ダンプを出して、処理を中止させます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: IJBXRETC と IJBXREAS については、対応する XPCC 資料に記載されています。例外を分析して、適切な処置を行ってください。

L291I LIBRARIAN TP-SERVER INTERNAL ERROR, ERROR CODE=*code*

説明: ライブラリアン TP サーバーが、示された例外によって失敗しました。

エラー・コードの意味は次の通りです。

01 コマンド要求のためのサブタスクを接続できませんでした。

02 LIBR ルート・フェーズの LOAD 要求が失敗しました。

03 CONNECT WAIT の制限時間に達しました。

04 RECEIVE WAIT の制限時間に達しました。

10 LIST プロセッサーが失敗しました。

システムの処置: ダンプを出して、処理を中止させます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: ダンプを分析してください。

L292I LIBRARY/SUBLIBRARY *l.s.* WILL BE processed BECAUSE OF JOB CONTROL OPTION - IT CONTAINS LOCKED MEMBERS

説明: ジョブ制御オプション // OPTION IGNLOCK が活動しています。このため、ライブラリーまたはサブライブラリーは、ロックされたメンバーを含んでも名前変更、削除、置換またはメンバー消去されます。

システムの処置: ロックは無視されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 処理されたライブラリーおよびサブライブラリーのリストを使用して、これらのライブラリーまたはサブライブラリーにあるメンバーをロックしたユーザーに警告を与えてください。

L293I LOCK/UNLOCK IS A NULL OPERATION BECAUSE OF JOB CONTROL OPTION - LOCKING STATUS OF MEMBER(S) DID NOT CHANGE

説明: ジョブ制御オプション // OPTION IGNLOCK が活動しています。このため、LOCK または UNLOCK コマンドは NULL 操作になります。

システムの処置: 指定されたロック状況は変わりません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L294I MEMBER *l.s.m.t* HAS BEEN LOCKED CONCURRENTLY TO A MOVE OPERATION - THE MEMBER WILL NOT BE DELETED IN THE SOURCE SUBLIBRARY

説明: メンバーが MOVE 操作に並行してロックされています。メンバーはすでに複写されていますが、まだロックされているため削除できません。

システムの処置: 複写元メンバーは削除されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L300I FORMATTING OF LIBRARY *lib* IN PROGRESS

説明: 独立型リストアがライブラリーの形式設定を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L301I BACKUP FILE DOES NOT CONTAIN LIBRARIES

説明: 独立型リストアが SYSRES ファイルを要求していますが、バックアップ・ファイルにはサブライブラリーまたはメンバーしかありません。

システムの処置: 独立型リストア処理は、このメッセージの後に異常終了します。

オペレーターの応答: リストアする SYSRES ファイル (IJSYSR_x) がある、バックアップ・テープを入力テープとして使用してください。

プログラマーの応答: なし。

L302A ENTER YES TO RESTORE SYSRES FILE *filename* OR NO TO SKIP TO NEXT SYSRES

説明: STANDALONE RESTORE のプロンプト。

システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 表示されている名前の SYSRES ファイルをリストアするためには YES、バックアップ・テープ上の次の SYSRES ファイルに移るためには NO を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

L303I ENTER THE DESIRED ALLOCATION AS NUMBER OF BLOCKS

説明: STANDALONE RESTORE のプロンプト。

システムの処置: このあとにメッセージ L313A が出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L304I ENTER THE DESIRED ALLOCATION AS NUMBER OF TRACKS OR CYLINDERS.TRACKS

説明: STANDALONE RESTORE のプロンプト。

システムの処置: このあとにメッセージ L313A が出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L305I NO MORE SYSRES FILES ON BACKUP FILE

説明: バックアップ・ファイルが終わる前に SYSRES ファイルが選択されませんでした。

システムの処置: このメッセージのあとハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: 独立型リストアを再開し、提供される SYSRES ファイルのどれかを選択してください。

プログラマーの応答: なし。

L306I RESTORE OF LIBRARY *lib* IN PROGRESS

説明: RESTORE プログラムは、指定されたライブラリーの処理を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L307I OUTPUT DEVICE NOT ASSIGNED TO DASD

説明: 指定した出力装置は DASD 装置に割り当てられていません。

システムの処置: このメッセージのあとハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: 独立型リストアを再開し、正しい出力装置を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

L308I ORIGINAL ALLOCATION= *count* BLOCKS

説明: 最初の割り振りでの FBA ブロック数が 10 進数で表示されています。

システムの処置: このあとにメッセージ L310A が出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L309I ORIGINAL ALLOCATION= *count* TRACKS = *count* CYLINDERS *count* TRACKS

説明: 最初の割り振りでのシリンダー数およびトラック数とともに合計トラック数が表示されています。

システムの処置: このあとにメッセージ L310A が出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**L310A ENTER YES TO KEEP OR NO TO
RESPECIFY ALLOCATION**

説明: STANDALONE RESTORE のプロンプト。
 システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: SYSRES ファイルの最初の割り振りを
 用いる場合は YES、新たな割り振りを指定する場合は NO を入
 力してください。
 プログラマーの応答: なし。

L311I MINIMUM ALLOCATION= count BLOCKS

説明: ライブラリーのリストアに必要な FBA ブロック数が表
 示されています。
 システムの処置: このあとにメッセージ L313A が出ます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**L312I MINIMUM ALLOCATION= count TRACKS
= count CYLINDERS count TRACKS**

説明: ライブラリーのリストアに必要なシリンダー数およびト
 ラック数とともに合計トラック数が表示されています。
 システムの処置: このあとにメッセージ L313A が出ます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

L313A ALLOC=

説明: 新たな割り振りについての STANDALONE RESTORE
 のプロンプト。
 システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: CKD 装置の場合は ccc.hh もしくは
 tttttt の形式で、また FBA 装置の場合は bbbbbb の形式で、
 SYSRES ライブラリーの新たな割り振りを入力してください。

ccc = フルシリンダー数
 hh = 追加トラック数
 tttttt = 合計トラック数
 bbbbbb = number of FBA blocks
 プログラマーの応答: なし。

**L314I ALLOCATION IS TOO SMALL, PLEASE
GIVE A LARGER ALLOCATION**

説明: 指定された割り振りではライブラリーのリストアはでき
 ません。
 システムの処置: このあとにメッセージ L311I または L312I
 が出ます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

L315I ORIGINAL FILE ID= id

説明: ライブラリーの最初のファイル ID が表示されていま
 す。
 システムの処置: このあとにメッセージ L316A が出ます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**L316A ENTER YES TO KEEP OR NO TO
RESPECIFY THE SYSRES FILE ID**

説明: STANDALONE RESTORE のプロンプト。
 システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: SYSRES ファイル ID を変えない場合は
 YES、新しいファイル ID を指定する場合は NO を入力して
 ください。
 プログラマーの応答: なし。

L317A FILE ID=

説明: STANDALONE RESTORE のプロンプト。
 システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: SYSRES ファイル ID を入力してくださ
 い。
 プログラマーの応答: なし。

L318I FILE NAME = name

説明: SYSRES ファイルのファイル名が確認のために表示され
 ています。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

L319I FILE ID = id

説明: SYSRES ファイルのファイル名が確認のために表示され
 ます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

L320I ALLOCATION= count BLOCKS

説明: SYRES ファイルに割り振られている FBA ブロック数
 が確認のために表示されます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

L321I ALLOCATION= count TRACKS

説明: SYSRES ファイルに割り振られている合計トラック数が
 確認のために表示されます。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**L322A ENTER YES IF THE SPECIFICATION IS
CORRECT OR NO TO RESPECIFY**

説明: STANDALONE RESTORE のプロンプト。
 システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 前のメッセージに示されている指定に
 従って SYSRES ファイルをリストアする場合は YES、新たな指
 定を与える場合は NO を入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

L323I VOLUME 1 LABEL NOT FOUND ON DASD

説明: リストア目的装置上に VOLUME-1 ラベルがありませんでした。

システムの処置: このメッセージのあとハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: ディスクを初期設定してください。

プログラマーの応答: なし。

L324I EQUAL FILE ID IN VTOC

説明: リストアすべき SYSRES のファイル ID がすでに VTOC に入っています。

システムの処置: このあとにメッセージ L319I および L330I が出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L325I RESTORE OF SUBLIBRARY *library.sublibrary* IN PROGRESS

説明: リストア・プログラムが指定したサブライブラリーの処理を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L326I RESTORE COMPLETE FOR LIBRARY *lib*

説明: リストア・プログラムはその機能の実行を完了しました。

システムの処置: ハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L327I RESTORE ALL SUBLIBRARIES

説明: すべてのサブライブラリーは、サブライブラリーにプロンプトを出すことなく、リストアされました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L328I OVERLAP ON UNEXPIRED FILE

説明: SYSRES ファイルのリストアにより未満了ファイルが壊されることとなります。

システムの処置: このあとにメッセージ L319I および L330A が出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

L329A ENTER YES TO RESTORE ALL SUBLIBRARIES OR NO FOR SELECTIVE RESTORE

説明: STANDALONE RESTORE のプロンプト。

システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 選択した SYSRES ファイルのすべての

サブライブラリーをリストアする場合は YES、選択したサブライブラリーだけをリストアできるようにしたい場合は NO を入力してください。SYSLIB サブライブラリーはプロンプト不要で必ずリストアされます。

プログラマーの応答: なし。

L330A TYPE CANCEL OR DELETE

説明: 未満了ファイルとの重なり合いが生じたか、または VTOC 内に同じファイル ID があります。

システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: VTOC 項目を置き換える場合は DELETE、リストア処理を打ち切る場合は CANCEL を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

L331I INVALID RESPONSE, PLEASE TRY AGAIN

説明: リストア・プロンプト・メッセージに対する応答が無効です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 画面に再び表示されるメッセージに従って入力を訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

L332I NO SPACE IN VTOC FOR A NEW LABEL

説明: VTOC がいっぱいです。

システムの処置: このメッセージのあとハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: VTOC の割り振りをし直してください。

L333I OVERLAP ON VTOC

説明: SYSRES ファイルの割り振りにより VTOC に損傷が生じるかもしれません。

システムの処置: このメッセージのあとハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: VTOC の割り振りをし直すか、SYSRES ファイルの割り振りを小さくしてください。

プログラマーの応答: なし。

L334I NO FORMAT 4 LABEL FOUND

説明: VTOC に FORMAT-4 ラベルが入っていません。

システムの処置: このメッセージのあとハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: ディスクを初期設定してください。

プログラマーの応答: なし。

L335I ERRONEOUS VTOC

説明: VTOC にエラーがあります。

システムの処置: このメッセージのあとハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: ディスクを初期設定してください。

プログラマーの応答: なし。

L351A • L355A

SYSRES ファイルは、専用ライブラリーとしてのみリストアすることができます。

システムの処置: システムは、このメッセージの後でハードウェア・ウェイト状態に入ります。

オペレーターの応答: 正しいバックアップ・テープを用意するか、または以前の z/VSE 独立型ユーティリティーを使用して独立型テープを IPL してください。

プログラマーの応答: なし。

L351A WRONG INPUT TAPE ON *cuu* - REPLY NEWTAPE OR CANCEL

説明: 装置 *cuu* に取り付けられたテープは RESTORE プログラムが予想した内容ではありません。ボリュームの終わり状態のあとで、間違ったリールが取り付けられました。

システムの処置: システム (区画) は、オペレーターが応答するのを待ち、そして応答に従って処理を進めます。

オペレーターの応答: ボリュームの終わりに間違ったリールを取り付けた場合、正しいテープを指定されたテープに取り付け、NEWTAPE と応答します。それ以外は RESTORE 要求を終了するために CANCEL と入力します。

プログラマーの応答: なし。

L355A INCORRECT REPLY - PLEASE TRY AGAIN

説明: 前に出されたメッセージに対するオペレーターの応答が無効です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 前のメッセージに対し正しい応答を入力するか、または疑問符を入力してメッセージを再表示してください。

プログラマーの応答: なし。

第 24 章 LFP 接頭部 Linux ファースト・パス・メッセージ

LFPB001I **USAGE:IJBLFPOP,PARM='START
<CFGFILE>[LOGALL]'**

説明: IJBLFPOP がどの PARM も指定せずに呼び出されたため、使用法の情報が表示されました。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

LFPB002E **OPEN OF DD:SYSLOG FAILED.**

説明: プログラムはコンソールをオープンできませんでした。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: IBM サポートに連絡してください。
プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

LFPB003E **INVALID INVOCATION PARAMETER:
parameter**

説明: IJBLFPOP が無効な PARM パラメーターを指定して呼び出されました。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: PARM を訂正する。
プログラマーの応答: PARM を訂正する。

LFPB004E **SVA PHASE 'IJBLFP' NOT FOUND IN
SVA.**

説明: SVA フェーズ IJBLFP が SVA 内に見つかりませんでした。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: SVA に IJBLFP をロードしてください。
プログラマーの応答: SVA に IJBLFP をロードしてください。

LFPB005E **READ FROM CONFIG FAILED,
ERRNO=errno,RC=rc,FDBK=fdbk**

説明: 構成ファイルからの読み取りが失敗し、
errno、rc、fdbk が問題を示している場合があります。コード
はファイル・タイプにより異なります。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: コードの意味について LE/C 資料を確認するか、IBM サポートにお問い合わせください。
プログラマーの応答: コードの意味について LE/C 資料を確認するか、IBM サポートにお問い合わせください。

LFPB006E **INVALID VALUE FOR CONFIG KEY 'key':
value**

説明: 値が、この構成キーに対して無効です。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 構成を訂正してください。

LFPB007E **UNKNOWN CONFIGURATION KEY: key**

説明: 構成キーが認識されていません。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 構成を訂正してください。

LFPB008E **CONFIG PARAMETER 'key' NOT
SPECIFIED**

説明: 必須の構成パラメーター key が構成に指定されていません。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 構成を訂正してください。

LFPB009E **CONFIGURATION KEY WITHOUT
VALUE: key**

説明: 構成キーに値がありません。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 構成を訂正してください。

LFPB010E **EMPTY VALUE FOR CONFIGURATION
KEY: key**

説明: 構成キーに空値があります。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 構成を訂正してください。

LFPB011E **ERROR OPENING CONFIG FILE 'file'.**

説明: 指定した構成ファイルのオープン・エラー。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: ファイル名が正しく指定されていることを確認してください。

LFPB012I **REALLY STOP INSTANCE 'id' (task TASKS
ACTIVE)? (YES/NO/LIST)**

説明: インスタンス id の停止を確認してください。このインスタンスは task アクティブ・タスクを保持しています。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: YES で応答するとインスタンスが停止し、NO で応答すると取り消されます。LIST を応答すると、アクティブ・タスクの task ids のリストを検索できます。
プログラマーの応答: なし。

LFPB013I **STARTED LFP INSTANCE 'id'.**

説明: インスタンス id が正常に開始されました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**LFPB014E START OF LFP INSTANCE 'id' FAILED,
RC=Xrc**

説明: インスタンス *id* の開始に失敗しました。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: テキストで記述された失敗の原因を確認するか、IBM サポートに連絡してください。
プログラマーの応答: なし。

**LFPB015E INVALID FORMAT OF INSTANCE ID:
'%s'**

説明: 指定されたインスタンス *id* の形式が無効です。2桁の数字でなければなりません。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: *id* を修正してください。
プログラマーの応答: *id* を修正してください。

LFPB016E COULD NOT RETRIEVE INSTANCE LIST.

説明: インスタンス・リストを IJBLFP から取り出すことができませんでした。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: IBM サポートに連絡してください。
プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

LFPB017E INSTANCE 'id' IS NOT STARTED.

説明: インスタンス *id* は開始されていません。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: 開始されているインスタンスの *id* を指定してください。
プログラマーの応答: 開始されているインスタンスの *id* を指定してください。

LFPB018E COULD NOT ACCESS CONSOLE.

説明: IJBLFPOP がコンソールにアクセスできなかったため、問題のメッセージが表示されます。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: IBM サポートに連絡してください。
プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

LFPB019I STOP OF INSTANCE 'id' CANCELLED.

説明: オペレーターがインスタンス *id* を取り消しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

LFPB020I STOPPED LFP INSTANCE 'id'.

説明: インスタンス *id* が正常に停止されました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**LFPB021E STOP OF LFP INSTANCE '%s' FAILED,
RC=Xrc.**

説明: インスタンス *id* の停止に失敗しました。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: テキストで記述された失敗の原因を確認するか、IBM サポートに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**LFPB022E COULD NOT RETRIEVE INSTANCE
INFO, RC=Xrc**

説明: インスタンス情報を IJBLFP から取り出すことができませんでした。
システムの処置: 処理は終了します。
オペレーターの応答: IBM サポートに連絡してください。
プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

LFPB023I INFO ABOUT LFP INSTANCE 'id':

説明: このメッセージは、インスタンス *id* のインスタンス情報出力の始まりを示します。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**LFPB024I END OF INFO ABOUT LFP INSTANCE
'id'.**

説明: このメッセージは、インスタンス *id* のインスタンス情報出力の終わりを示します。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

LFPB025I ACTIVE LFP INSTANCES:

説明: メッセージは、活動 LFP のインスタンス・リストの開始を示します。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

LFPB026I END OF ACTIVE LFP INSTANCES LIST.

説明: メッセージは、活動 LFP のインスタンス・リストの終了を示します。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

LFPB027I NO ACTIVE TASKS FOR INSTANCE 'id'.

説明: インスタンスにはアクティブ・タスクがありません。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

LFPB028I ACTIVE TASK IDS FOR INSTANCE 'id':

説明: メッセージは、アクティブ・タスク ID に関するリストの開始を示します。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

LFPB029I END OF LIST OF ACTIVE TASK IDS.

説明: メッセージは、アクティブ・タスク ID に関するリストの終了を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**LFPB030E COULD NOT CHANGE INSTANCE
DIAGNOSIS.**

説明: インスタンスに関する診断設定の変更が失敗しました。

システムの処置: 処理は終了します。

オペレーターの応答: テキストで記述された失敗の原因を確認するか、IBM サポートに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

**LFPB031I DIAGNOSIS FOR INSTANCE 'id' SET TO
(on or off).**

説明: インスタンス *id* の診断がオンまたはオフに設定されました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

第 25 章 ライブラリアン・フィードバック・コード

このセクションでは、ライブラリアン・フィードバック・コードをリストして説明します。フィードバック・コードは、1 から 255 までの 1 バイトの値です。ライブラリアン・モジュールが検出した予期しない条件の概要、およびシステムの内部エラーの結果について説明するために、これらのコードは、メッセージ L150、L152、L157、L158、および 1QC4I のメッセージの一部としてリストされています。

値	10 進数	16 進数	説明
PARAMETER CHECKING			
FDBCCONN	1	1	ANY CONNECTION ACTIVE. 要求されたライブラリー・オブジェクトに接続せずにサービスが呼び出されました。
FDBCMBRC	2	2	CONNECTION TO MBR ACTIVE. メンバーへの接続の保持中に適用されないサービスが実行されました。
FDBCNOVC	3	3	NO VALID CONNECTION. LRPL で示された接続は、定義されていないか、現在の要求と互換性がありません。
FDBCNSUB	4	4	NO CONNECTION TO SUBLIB ACTIVE. 使用されるサービスでは、存在しないサブライブラリーへの接続が必要です。
FDBCNLIB	5	5	NO CONNECTION TO LIBRARY ACTIVE. 使用されるサービスでは、存在しないライブラリーへの接続が必要です。
FDBCNEWC	6	6	NEW CONNECTION W/O LBRACCES NEW. 前の LBRACCES DEFINE=NEW を行わずに、CONNECT=NEW 要求が発行されました。
FDBCSIPT	7	7	呼び出しインターフェース・ブロック INLCPARB での SYSIPT EXIT 指定が無効です。
FDBCSLOG	8	8	呼び出しインターフェース・ブロック INLCPARB での SYSLOG EXIT 指定が無効です。
FDBCSLST	9	9	呼び出しインターフェース・ブロック INLCPARB での SYSLST EXIT 指定が無効です。
FDBCSPCH	10	A	呼び出しインターフェース・ブロック INLCPARB での SYSPCH EXIT 指定が無効です。
FDBCLTYP	11	B	LIBRARY TYPE MISSING. 渡されたパラメーター LIBTYPE に無効な値が含まれているか、他のパラメーターと互換性がありません。
FDBCLUSE	12	C	LIBRARY USAGE MISSING. 渡されたパラメーター LIBUSE に無効な値が含まれているか、他のパラメーターと互換性がありません。
FDBCAM31	13	D	API CALLED WITH AMODE 31 (API)

ライブラリアン・フィードバック・コード

値	10 進数	16 進数	説明
FDBCSTOR	15	F	MINIMUM BUFFER STORAGE NOT AVAIL. バッファ・プールに割り振られた領域が小さすぎます。少なくとも 1 つのバッファと対応する制御ブロックが必要です。
FDBCFREE	16	10	NO FREE BUFFER AVAILABLE. 1 つ以上のバッファの割り振り要求を満たすことができません。
FDBCPRBA	17	11	LB-# OUTSIDE RANGE. 入出力要求のために示した PRBA が、OPEN で指定したライブラリー・エクステンットの限界内に収まりません。
FDBCINBF	18	12	INVALID BUFFER REQUEST
FDBCNGEN	21	13	GENERIC REQUEST W/O VALID ARGUMENT
FDBCSTLN	22	14	LENGTH FOR STOW TABLE TOO SMALL
FDBCSTNS	23	17	INVALID # OF STOW ENTRIES. ライブラリー・サービスに渡された STOW 項目数の値が無効です。
FBCGKEY	24	18	BLDL-SUBLIB REQ.,INF=KEY
FDBCISTP	25	19	INVALID STOW TYPE. STOW タイプ (主な機能) を定義せずに STOW 機能が要求されました。
FDBCRLN	28	1C	レコード長が無効です。
FBCGDIR	29	1D	INCONSISTENT GET DIRECTORY INFORM. INLMGDIR 要求のディレクトリー・ポインターの位置が無効です。
FBCLDWSW	30	1E	INLPLDS のワークスペースが不十分です。
FBCLRPL	31	1F	LRPL MISSING
FBCCLAMB	32	20	LAMB MISSING. 制御ブロック LAMB が、要求されたサービスに渡されませんでした。
FBCSTOW	33	21	STOW TABLE MISSING. STOW テーブルを必要とするサービスが要求されました。
FBCCLACB	34	22	STOW TABLE MISSING. STOW テーブルを必要とするサービスが要求されました。
FBCSACB	35	23	SACB MISSING. サブライブラリーは接続されていますが、サブライブラリーのアクセス制御ブロックがありません。
FBCMACB	36	24	MACB MISSING. メンバーは接続されていますが、メンバーのアクセス制御ブロックがありません。
FBCCLINF	37	25	LIBINFO MISSING. LIBINFO がないか、アドレス指定されたライブラリーまたはサブライブラリーのチェーンが存在しないため、ライブラリーまたはサブライブラリーに接続できません。
FBCNOTE	38	26	INVALID NOTE WORD
FBCWRKA	39	27	作業域またはバッファがありません。
PROCESSING ERROR			
FBCSERV	40	28	USED SERVICE FAILED. 使用されるシステム・サービスが、予期しない戻りコードで戻りました。
FBCXUPD	41	29	XUPDLIST IN ERROR

値	10 進数	16 進数	説明
FDBCBFCH	42	2A	INCONSISTENT BUFFER CHAINS
FDBCIOER	43	2B	I/O ERROR
FDBCLOCK	44	2C	RESOURCE ALREADY LOCKED. 要求が LOCK=RETURN で指定されましたが、リソースを使用できないか、LOCK サービスが失敗しました。
FDBCOPFA	45	2D	OPEN FAILURE
FDBCCLFA	46	2E	CLOSE FAILURE
FDBCLNID	47	2F	LIBRARY NOT IMPLICITLY DELETED
FDBCMSLK	48	30	メンバーの監視プログラムがロックされています。
LIBRARY VERIFICATION			
FDBCNO LB	51	33	DATA SET IS NOT A VSE LIBRARY. アクセスしたデータ・セットが無効なライブラリーです。
FDBCINTR	52	34	NO VALID INDEX ENTRY TYPE
FBCDTYP	53	35	DUPLICATE TYPE ENTRY
FBCNSTP	54	36	NO STARTING TYPE ENTRY IN LB
FBCMINX	55	37	INCONSISTENCY IN MEMBER INDEX. メンバーの索引のライブラリー・ブロックの整合性検査が失敗しました。
FBCLBEM	56	38	EMPTY LB
FBCNXLV	57	39	INVALID # OF MEMBER INDEX LEVELS
FBCRECL	58	3A	INVALID DASD SPACE MGMT REQUEST. スペースの開放要求のために示した PRBA が、ライブラリーの限界外にあるか、スペースを開放できません (ライブラリーの制御ブロック)。
FBCTPMX	59	3B	NO MBRX ENTRY AFTER TYPE ENTRY
FBCLBIV	60	3C	INVALID LB DATA INVARIANT
FBCMBX0	61	3D	ZERO PRBA IN MBRX ENTRY
FBCIDEN	62	3E	LIBRARY BLOCK IDENTIFIER WRONG. 読み取られたライブラリー・ブロックに、記述子に含まれている値と一致しない LBID 値があります。
FBCDIRL	63	3F	DIRECTORY ENTRY IS TOO LONG
FBCCLKSC	64	40	SPECIFIED LOCKID IS NOT ALLOWED
FBCFULL	65	41	LIBRARY IS FULL
FBCSLCK	66	42	LIBRARY/SUBLIB CONTAINS LOCKED MEMBERS
FBCMLCK	67	43	メンバーはロックされています (API)。
FBCCLKID	68	44	Lockid が無効です。
FBCDMDI	69	45	DUPLICATE MEMBER DIRECTORY EXISTS. 1 つ以上の LB の割り振り要求を満たすことができません。
FBCNXMB	70	46	MEMBER DOES NOT EXIST
FBCNXSB	71	47	SUBLIB DOES NOT EXIST. 存在しないサブライブラリーに対してサービスが実行されました。

ライブラリアン・フィードバック・コード

値	10 進数	16 進数	説明
FDBCXLB	72	48	LIBRARY DOES NOT EXIST. 存在しない (あるいは定義中または削除中の) ライブラリーに対してサービスが実行されました。
FDBCVIPL	73	49	VIFS INCONSISTENT
FDBCMLN	74	4A	MEMBER EXCEEDS MAXIMAL LENGTH
ENVIRONMENT			
FDBCGLVIS	100	64	GETVIS SPACE EXHAUSTED. GETVIS または INLMDSTO 要求が失敗しました。
FDBCLCTO	105	69	LIBRARY CONTROL TABLES OVERFLOW. オーバーフローが原因で、ライブラリー制御テーブルへの挿入が失敗しました。
FDBCUNUN	106	6A	LIB/SUBLIB NOT UNIQUELY ASSIGNED
FDBCLUFX	107	6B	LOGICAL UNITS EXHAUSTED
FDBCVMNO	108	6C	VOLUME NOT MOUNTED
FDBCSPIB	109	6D	ERROR DURING SCANNING PIB
YEAR 2000 SUPPORT			
FDBCCENT	112	70	INCONSISTENT DATE
PARAMETER CHECKING (LCT SERVICES)			
FDBCDFLT	151	97	INVALID DEFAULT PARAMETER. LBRACCES マクロのパラメーター DEFAULT に無効値が含まれています。
FDBCMFUN	152	98	INVALID MAIN FUNCTION. 呼び出されたサービスの要求された主な機能が定義されていません。
FBCFNME	153	99	MISSING/INVALID FILE NAME. LBRACCES または LBRCTUPD マクロの ADD または EXTEND 要求のパラメーター FILENAM がありません。
FDBCHAIN	154	9A	INVALID CHAIN PARAMETER. LCT サービスの CHAIN パラメーターに無効値が含まれています。
FDBCNEXT	155	9B	INVALID CHAINING REQUEST
FDBCFLIB	156	9C	MISSING SUBLIB NAME. LBRACCES または LBRCTUPD マクロの ADD 要求のパラメーター SUBLIB がありません。
FDBCEDTE	157	9D	MISSING EXTENT ENTRIES. LBRCTUPD マクロの ADD または EXTEND 要求のパラメーター EXTENTS がありません。
FBCDDTE	158	9E	MISSING DEVICE CHAR. ENTRIES. LBRCTUPD マクロの DEVCHAR パラメーターがありません。
FBCUSET	159	9F	INCORRECT LBRUPDAT-SET
FBCULEV	160	A0	INCORRECT LBRUPDAT-LEVEL
FBCULIB	161	A1	INCORRECT LBRUPDAT-LIBINFO
FBCEDTM	162	A2	EDT MISSING
FBCDDTM	163	A3	DDT MISSING
FBCCTYPF	164	A4	INVALID TYPFLE
FBCDDTY	165	A5	EXTENT ON DIFFERENT DEVICE TYPE

値	10 進数	16 進数	説明
FDBCTYPE	166	A6	無効/欠落タイプ (API)
FDBCMEMB	167	A7	無効/欠落メンバー (API)
INPUT CHECKING (LCT SERVICES)			
FDBCUNAL	174	AE	INCONSISTENCY: LIB/NOACC-LDTFLAGS
FDBCUNAS	175	AF	SUBLIB/NOACC-SDTFL.
FDBCUACL	176	B0	LIB/ACC-LDTFLAGS
FDBCUACS	177	B1	SUBLIB/ACC-SDTFLAGS
FBCUDEL	178	B2	LIB/DEL-LDTFLAGS
FBCUDES	179	B3	SUBLIB/DEL-SDTFLAGS
FDBCEXST	180	B4	MORE THAN 16 EXTENT STATEMENTS
FDBCNOEX	181	B5	LIBRARY IS NOT EXTENDABLE
FDBCNOVS	182	B6	LABEL FOR LIB EXTENSION NOT VSAM
FDBCLAMI	183	B7	DLBL/EXTENT STATEMENT MISSING
FDBCINEX	184	B8	INCORRECT EXTENT STATEMENT
FDBCINDL	185	B9	INCORRECT DLBL STATEMENT
FDBCMIEX	186	BA	EXTENT STATEMENT MISSING
FDBCUNPA	187	BB	LDT ENTRY WITHOUT PARTITION FLAGS
FDBCLDTM	188	BC	REFERENCED LDT ENTRY MISSING. LIBINFO が参照する LDT 項目がありません。
INPUT CHECKING (LEVEL 3 SERVICES)			
FDBCL3P1	201	C9	MORE THAN 32 PARAMETERS PER COMMAND IN PARSER TABLE
FDBCL3P2	202	CA	MORE THAN 10 EXCLUDING ALTERNATIVE PARAMETERS PER COMMAND IN PARSER TABLE
FDBCFOUT	203	CB	INVALID FORMATTED OUTPUT EXIT. 呼び出し インターフェース制御ブロック INLCPARB の定様 式出力出口の指定が無効です。
FDBCISOV	211	D3	STAND-ALONE PHASE >= 64K. テープ・ブロッ クの最大サイズが 64k であるため、独立型フェーズ は、64k より小さくなければなりません。
FDBCINVT	212	D4	TAPE BUFFER CONTAINS INVALID DATA. テ ープ・バッファの内容が破棄されました。
FDBCINVR	213	D5	INCORRECT RLD POINTER. RLD ポインター は、フェーズの範囲外のアドレスを指しています。
FBCIPOV	214	D6	IPL BOOTST> PHASE > 16K
FBCORDR	215	D7	\$SVASA NOT IN REQUIRED ORDER
FBCALFA	231	E7	NO ALPHANUMERIC STRING (API)
FBCMTYP	232	E8	RENAME WITHOUT TARGET MEMBER SPEC. (API)
FBCNTST	233	E9	NOTE-STACK OVERFLOW/UNDERFLOW(API)
FBCMOPN	234	EA	MEMBER NOT OPENED (API)
FBCRFMI	235	EB	RECORD FORMAT MISMATCH (API)

ライブラリアン・フィードバック・コード

値	10 進数	16 進数	説明
FDBCVICE	236	EC	ERROR IN PHASE VIF (API)
FDCMCHN	238	EE	MISSING CHAIN AREA (API)
FDBCCHID	242	F2	CHAIN ID MISSING (API)
FDBCMLIB	246	F6	LIB/SUBLIB MISSING (API)
FDCINSQ	248	F8	INVALID MACRO SEQUENCE (API)
FDCNSTG	249	F9	INVALID OPEN NESTING (API)
FDCIALC	250	FA	INVALID IALC REQUEST(API)
FDCSTSK	255	FF	NOT FOR SYSTEM TASKS

第 26 章 接頭部 M のシステム・ヒストリー保守プログラム・メッセージ

M001I NO MSHP CONTROL STATEMENT IN INPUT DEVICE

システムの処置: MSHP ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 必要な制御ステートメントを追加し、ジョブを再サブミットしてください。

M002I INVALID CONTROL STATEMENT

説明: DATA ステートメントまたは入力の終わりが現れるはずのところで、別のステートメントを読み取りました。
システムの処置: SELECT 処理中の場合は、次の PTF を用いて処理を続けます。その他の場合には、処理は打ち切られます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 弊社に連絡してください。

M003I SYNTAX ERROR --> input

説明: コマンドの構文エラーです。
システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。構文エラーを含む文字列が表示されます。
オペレーターの応答: 正しいコマンド指定で再実行してください。
プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M004I MSHP CONTROL STATEMENT IN ERROR

説明: 問題の原因については、この前のメッセージに詳しく示されています。
システムの処置: MSHP は、EOJ に進むか、あるいはプロンプト・メッセージを出します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M005D ENTER CONTROL STATEMENT, OR PRESS END/ENTER TO QUIT

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 処理を続けるには正しい MSHP ステートメントを入力し、MSHP 処理を打ち切るには END/ENTER を押してください。
プログラマーの応答: なし。

M006I FIRST STATEMENT MUST BE FUNCTION CONTROL STATEMENT,

説明: EXEC MSHP のあとの最初のステートメントは、明細ステートメントではなく、機能制御ステートメントでなければなりません。
システムの処置: MSHP 処理を打ち切ります。
オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M007I FUNCTION CONTROL STATEMENT HAS TOO MANY CONTINUATION LINES

システムの処置: MSHP 処理を打ち切ります。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M008D ENTER CONTINUATION LINE

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 要請に応じて継続行を入力してください。処理を中止したい場合には、; を入力してください。
プログラマーの応答: なし。

M009I MSHP EXECUTION COMPLETED

説明: MSHP ジョブが処理を完了しました。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M010D AWAITING A MSHP CONTROL STATEMENT

説明: MSHP 制御ステートメントではなく、注釈または (END/ENTER を押すことにより) ヌル・ステートメントが入力されました。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 有効な MSHP ステートメントを入力してください。
プログラマーの応答: なし。

M011I STATEMENT ENTERED IS NOT ALLOWED OR IN ERROR

説明: 制御ステートメントがくるはずの場所に、機能制御ステートメントまたは誤ったコマンドが入力されました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: 正しいコマンドを入力してください。個々のコマンドの入力が終わった場合には、END/ENTER キーを押してください。
プログラマーの応答: なし。

M012D ENTER DETAIL STATEMENT OR PRESS END/ENTER TO START FUNCTION

説明: 制御ステートメントが入力されました。システムは次の制御ステートメントを待っています。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 明細ステートメントを入力してください。制御ステートメントの入力を完了した場合には、END/ENTER キーを押してください。

M013D • M029I

プログラマーの応答: なし。

M013D ENTER FIRST/NEXT DATA LINE OR PRESS END/ENTER

説明: DATA ステートメントが入力されました。
システムの処置: システムは、次の入力を待ちます。
オペレーターの応答: 入力が続けてください。入力を完了している場合には、END/ENTER キーを押してください。
プログラマーの応答: なし。

M014I DETAIL STATEMENT NOT ALLOWED

説明: 指定の明細ステートメントは、制御中の機能では使用できません。
システムの処置: 入力が入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: このステートメントを取り除き、ジョブを再サブミットしてください。

M015D ENTER DETAIL STATEMENT OR "?"

説明: 明細ステートメントが入力されました。システムは、次の明細ステートメントの入力を待っています。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 有効なステートメントを入力するか、または、使用可能な明細ステートメントのリストを要求してください。
プログラマーの応答: なし。

M016I EXPECTED CONTINUATION LINE NOT PROVIDED

説明: システムは継続カードがあるものと予期しているのに、読取装置が EOF を出しました。
システムの処置: MSHP は処理を停止します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: エラーのあるステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M017I LIST OF ALLOWED DETAIL STATEMENTS:

説明: メッセージに続いて、活動中の機能で利用できるすべての明細ステートメントのリストが表示されます。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M021I CREATE IN PROGRESS

説明: CREATE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M022I PERSONALIZE IN PROGRESS

説明: PERSONALIZE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M023I BACKUP IN PROGRESS

説明: BACKUP 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M024I RESTORE IN PROGRESS

説明: RESTORE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M025I COPY IN PROGRESS

説明: COPY 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M026I MERGE IN PROGRESS

説明: MERGE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M027I ARCHIVE IN PROGRESS

説明: ARCHIVE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M028I REMOVE IN PROGRESS

説明: REMOVE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M029I DUMP IN PROGRESS

説明: DUMP 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M030I APPLY IN PROGRESS

説明: APPLY 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M031I INCORPORATE IN PROGRESS

説明: INCORPORATE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M032I REVOKE IN PROGRESS

説明: REVOKE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M033I LOOKUP IN PROGRESS

説明: LOOKUP 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M034I LIST IN PROGRESS

説明: LIST 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M035I SELECT IN PROGRESS

説明: SELECT 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M036I RESIDENCE IN PROGRESS

説明: RESIDENCE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M037I TAILOR IN PROGRESS

説明: TAILOR 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M038I INSTALL IN PROGRESS

説明: INSTALL 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M039I RETRACE IN PROGRESS

説明: RETRACE 機能は、正しく指定されています。実行を開始しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M041I FUNCTION COMPLETED

説明: MSHP 機能が、正常に完了しました。

システムの処置: 次の機能を用いて処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M042I END OF SELECT

説明: TAILOR ジョブが指定通りに選択されました。各メンバー生成の終了は、メッセージ M041I で示されます。このメッセージは、SELECT 機能全体の終了も示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**M045I SELECTED MEMBER NOT
REGENERATED - PROCESSING
CONTINUES**

説明: メンバー (前のメッセージに示されたもの) を再生成しようとしたときに、エラーが起きました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メンバーの再生成ができなかった理由を示すエラー・メッセージに応答した後、新しいジョブをサブミットしてください。

M060I *program* PROGRAM NOW INVOKED

説明: MSHP が、別のシステム制御プログラムを呼び出しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**M061D MSHP ACTIVE IN ANOTHER
PARTITION. ENTER "CANCEL" TO QUIT,
OR PRESS END/ENTER TO WAIT**

説明: MSHP はすでにユーザーのシステムの、またはユーザーのシステムと DASD を共用している別の仮想/実システム内の、別の区画内で活動状態にあります。ユーザーが VM を指定して作動している場合は、後者の状況がしばしば起こり得ます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: MSHP をあきらめるなら CANCEL を入力してください。他の区画で MSHP が完了するまで待つ場

合には END/ENTER キーを押してください。
プログラマーの応答: なし。

M063I INSUFFICIENT STORAGE IN PARTITION

説明: 以下のいずれかです。

- MSHP が置かれている区画が小さすぎて、要求された機能を実行できない。
- 要求された機能が必要とする修正が多すぎるので、MSHP は 1 回の要求で全部を処理できない。1 つの CORRECT 機能要求で修正するライブラリー・メンバーが多いと、このようなことが起こります。

要求された機能がプロダクト・インストールであって、区画が十分に大きくて MSHP がすでに 254 個のバッファーを作成していた場合は、区画サイズをさらに大きくしても効果はありません。バックアップ・テープが作成される前に、いくつかのプロダクトがすでに 1 つのサブライブラリーにパッケージ化されている可能性があります。これらのプロダクトは複数のサブライブラリーにパッケージ化しておくべきです。あるいは置き換えるべきプロダクトを先にシステム・ヒストリー・ファイルから除いてから、インストールし直す必要があります。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: 区画に割り振るストレージをもっと大きくして、ジョブをやり直してください。このメッセージが再び現れた場合は、ジョブをいくつかに分割して、分割ジョブを再サブミットしてください。

**M064I INSUFFICIENT STORAGE FOR
HANDLING SUBMITTED LABEL
INFORMATION**

説明: 内部バッファー長が小さすぎて、ユーザー・ラベル域からのラベルをすべて入れることはできません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: 区画のストレージ・サイズを拡大し、ジョブを再実行してください。

プログラマーの応答: なし。

M065I LABEL INFORMATION AREA IS FULL

説明: MSHP が内部で使用するラベルを入れるためのユーザー・ラベル情報域に、十分なスペースがありません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーザー・ラベル情報域の中にある不要なラベルを削除し、ジョブを再サブミットしてください。必要に応じて、ジョブを分割して実行しても差し支えありません。

**M066I MSHP INTERNAL ERROR. ANTICIPATED
STORAGE REQUIREMENT EXCEEDED**

説明: このメッセージは、MSHP のプログラム・エラーが原因で出されます。

システムの処置: プログラムは取り消しを要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM に連絡を取り、IBM の既知問題デ

ータベースを調べてください。問題判別のためにダンプを準備しておいてください。

M067I file HISTORY FILE IS FULL

説明: ヒストリー・ファイルのスペースが小さすぎて、必要な情報をすべて記録することはできません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: より大きいエクステントをもつ新しいファイルにヒストリー・ファイルをコピーしてください。新ヒストリー・ファイルに関する DLBL 情報と EXTENT 情報を受け渡し、ジョブを再度サブミットしてください。

M068I TARGET HISTORY FILE IS TOO SMALL

説明: コピー機能のコピー先であるヒストリー・ファイルが小さすぎるために、ソース・ファイルからの重要なレコードをすべて入れることはできません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ターゲット・ファイルにもっと大きいエクステントを与えて、ジョブを再サブミットしてください。

**M069I OPERAND 'DOCUMENT' FOR 'LIST
SERVICE FROMDISK' IS IGNORED**

説明: メッセージの通りです。

システムの処置: オプション NODOCUMENT で処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 印刷すべきサービス文書化ファイルがありません。

**M071I SYSmnn INCORRECTLY ASSIGNED, OR
THE DEVICE IS NOT READY**

説明: 表示された装置は、本来、テープまたはディスクに割り当てなければならないものです。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 割り当てを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。割り当てに誤りがない場合には、装置を自動可能な状態にし、ジョブを再サブミットしてください。

**M076I SPECIFIED CI SIZE FOR IJSYSLN
EXCEEDS 6K**

説明: DLBL ステートメントに指定した IJSYSLN の制御インターバル・サイズが、6K を超えています。MSHP に使用するサイズは、6K 以下でなければなりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IJSYSLN についての DLBL ステートメント中の CI サイズを訂正してください。

M078I NO LABEL FOUND FOR file

説明: 表示されているファイルについてのラベル情報が見つかりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 表示されたファイルについての DLBL 情報と EXTENT 情報を指定してください。

M080I CONTROL STATEMENT CANNOT BE ANALYZED

説明: 入力した制御ステートメントにエラーがあり、分析できません。SELECT または INSTALL により生成された場合は、受け渡した PTF ジョブまたは TAILOR ジョブが正しくないか不完全なために、このエラーが起きる場合があります。

システムの処置: プログラムは取り消しを要求します。

SELECT モードまたは INSTALL モードの場合には、次のジョブが使用可能なら次の PTF ジョブまたは TAILOR ジョブに進んで処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーザーが制御ステートメントを入力した場合はステートメントを検査し訂正して、ジョブを再サブミットしてください。システムのモードが SELECT または ACCEPT なら、SYSLST の印刷出力からエラーのある PTF をはずし、代わりにエラーのない PTF を入れてください。

M081I JOB CANCELED - FAILURE OF MSHP

説明: システムに内部エラーが起きました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ダンプをとり、弊社の既知問題データベースを探索するために弊社に連絡してください。

M083I FUNCTION CANCELED AS REQUESTED

説明: MSHP メッセージに答えて CANCEL か REQUEST を選択しました。あるいはプロンプト・モード (SYSLOG から制御ステートメントが入力されます) で、2 つの疑問符 (??) を入力して機能を打ち切ったか、または CANCEL を入力しました。

システムの処置: 制御中の MSHP 機能を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M084I JOB CANCELED - MSHP HAS BEEN SERVICED. RESTART MSHP

説明: 現在実行中のジョブが MSHP を再連係したために、MSHP をロードし直さなければなりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リストを調べ、実行されていない機能を再サブミットしてください。

M087D PHASE phasename IN SUBLIBRARY lib.sublibname IS MSHP CONTROLLED. USE THE MSHP "CORRECT" FUNCTION. ENTER 'GO' TO CONTINUE OR 'CANCEL' TO TERMINATE

説明: MSHP 制御フェーズが PATCH ステートメントで変更されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: GO または CANCEL を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M088D ENTER "APPLY" TO CONTINUE, OR ENTER "REJECT"

説明: このメッセージの前に出たメッセージの説明を読んでください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: APPLY または REJECT を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M089D ENTER "GO" TO CONTINUE, OR "CANCEL" TO TERMINATE

説明: このメッセージの前に出たメッセージの説明を読んでください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: GO または CANCEL を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M090I JOB CANCELED - HISTORY FILE IS SMALLER THAN 3 FBA CONTROL INTERVALS

説明: FBA パックの指定されたヒストリー・ファイル (システムまたは補助) のエクステントが 3 つの制御インターバルより小さいですが、ヒストリー・ファイルを作成するには、少なくとも 3 つの制御インターバルが必要です。補助ヒストリー・ファイルが VSAM 管理スペースに位置する場合は、最初のエクステントだけが、MSHP によって使用されます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ヒストリー・ファイルについてのエクステント情報を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M091I JOB CANCELED - file HISTORY FILE HAS NOT BEEN CREATED

説明: 表示された (システムまたは補助) ヒストリー・ファイルが見つかりません。作成されていないか、リストアされていないか、あるいはラベル情報にエラーがあります。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 表示されたヒストリー・ファイルのラベル情報を調べてください (IJSYSHF はシステム・ヒストリー・ファイルで、IJSYS02 は補助ヒストリー・ファイルです)。ラ

ベル情報が正しい場合には、弊社にご連絡ください。

**M092I JOB CANCELED - HISTORY FILE NOT
 FOUND ON INPUT TAPE**

説明: テープ上のヒストリー・ファイルをオープンするための要求が出ていますが、オープンすべきファイルが空白であるか、あるいはヒストリー・ファイル・ヘッダー・レコードで始まっていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: 正しいテープを取り付けたかどうか調べてください。

プログラマーの応答: 目的のヒストリー・ファイルがテープ上にあるかどうか調べてください。テープに 2 つ以上のファイルが入っている場合には、テープを正しいファイルの位置にセットしたかどうか調べてください。

**M093I JOB CANCELED - SERVICE FILE HAS
 INCORRECT BLOCKSIZE**

説明: サービス・ファイルのブロック・サイズが 10320 でない。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: サービス・ファイルがテープならば、IBM サポートに連絡してください。FROMDISK オペランドを使用していた場合、正しいブロック・サイズでサービス・ファイルを作成してください。

**M094D ENTER 『DELETE』 TO OVERWRITE
 EXISTING HISTORY FILE=*filename* ON
 VOLUME=*valid* OR ENTER "CANCEL"**

説明: 機能がヒストリー・ファイルのあるディスク・エクステンツに書き込もうとしたところ、そのエクステンツから既存のヒストリー・ファイル・ヘッダー・レコードが始まっていた場合に、このメッセージが出ます。

システムの処置: DELETE を入力すれば、機能は通常の処理を続けます。CANCEL を入力すると、ジョブが取り消されます。

オペレーターの応答: メッセージ・テキストの指示に従って、メッセージに回答してください。

プログラマーの応答: なし。

**M095I JOB CANCELED - END OF VOLUME
 REACHED DURING BACKUP OF
 HISTORY FILE**

説明: MSHP BACKUP 機能の実行中に、テープがボリュームの終わりに達しました。

システムの処置: MSHP 処理を打ち切ります。

オペレーターの応答: もっと高密度のテープを用いるか、または BACKUP 機能用のテープをもう 1 つ取り付けてください。

プログラマーの応答: なし。

**M097D HISTORY FILE ENTRY FOR FEATURE
 feature name CANNOT BE CONVERTED
 INTO NEW FORMAT. ENTER THE
 THREE DIGIT PRODUCT IDENTIFIER OR
 ENTER "DELETE" FOR DELETION.**

説明: VSE 拡張機能 (VSE/AF) 2.1 に先だって CREATE されたヒストリー・ファイルを VSE/AF 2.1 形式に変換するときに、示された機能が変換テーブル中に見つからなかったか、またはその機能のコンポーネントに関する情報が使用不能です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 足りない 3 桁を補って、3 桁の CLC を 6 桁の新しい製品 ID に (例えば、G98 を XE8G98 に) 変換してください。

**M099I NO GENERATED MEMBER
 membername.membertype FOUND FOR
 COMPONENT *component***

説明: 示されたコンポーネントに関するフェーズ、モジュール、またはマクロを除去しようとしたが、それらのメンバーがそのコンポーネントで見つかりませんでした。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**M100I (COMPONENT *component* | PRODUCT
 product | PTF *ptf* | LOCAL/APAR FIX *fix*) NOT
 INSTALLED**

説明: 表示された項目が MSHP 機能で必要ですが、その項目がヒストリー・ファイル中に見つかりません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RETRACE 機能を用いて、ヒストリー・ファイルの状況を調べてください。

**M101I HISTORY FILE ENTRY MISSING FOR
 COMPONENT *component* OF PRODUCT
 *product***

説明: 表示されたプロダクト・コンポーネントについてのヒストリー・ファイル項目が見つかりません。そのコンポーネントについての ARCHIVE が必要なこともあります。

システムの処置: このプロダクトについては、要求された機能を実行しません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RETRACE 機能を用いて、ヒストリー・ファイルの状況を調べてください。表示されたコンポーネントの項目をヒストリー・ファイルに保存した上でジョブを再サブミットしてください。

M102I PRODUCT ID FOR COMPONENT
component MISSING

説明: 表示されたコンポーネントは、履歴・ファイル中にありますが、それが属しているプロダクトの ID が指定されていません。このプロダクトについての ARCHIVE が必要なのもあります。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RETRACE 機能を用いて、履歴・ファイルの状況を調べてください。このコンポーネントが属しているプロダクトの id を活動記録ファイルに保存してください。

M103I (COMPONENT *component* | PRODUCT
product | PTF *ptf* | LOCAL/APAR FIX *fix*)
ALREADY INSTALLED

説明: 表示された修正項目を履歴・ファイルに保存しようとしたが、その項目はすでに入っていました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RETRACE 機能を用いて、履歴・ファイルの状況を調べてください。

M104I THE SPECIFIED LOCAL/APAR FIX IS
ALREADY FIXED BY PTF *ptf*

説明: ローカルまたは APAR の修正を適用しようとしたが、これは表示された PTF ですすでに解決されています。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M105I UPDATE OF MEMBER
membername.membertype IN PROGRESS

説明: このメッセージは、訂正中のメンバーを示すために出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M106I UPDATE OF MEMBER
membername.membertype SUCCESSFULLY
FINISHED

説明: このメッセージは、訂正中のライブラリー・メンバーを示すために出されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M107D UPDATE OF MEMBER
membername.membertype FAILED:
PRESS "END/ENTER" TO CONTINUE;
ENTER "KEEP" TO RETAIN THE
INCOMPLETE UPDATE;
OR ENTER "CANCEL" TO QUIT

説明: 表示されたメンバーの更新に失敗しました。別のメンバーを更新することにより訂正処理を続けるか、訂正を現状のまま保留しておいてあとで処理を続けるか、あるいはその修正の完全打ち切りを要求することができます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 処理を続けたければ、END/ENTER キーを押してください。
- 訂正を未完了のまま保留したければ、KEEP を入力してください。
- 処理を中止したければ、CANCEL を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M108I UNDO OF FIX IN MEMBER
membername.membertype IN PROGRESS

説明: 指定されたメンバーにおける修正を元に戻している途中です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M109I COMPONENT *component* INSTALLED ON
LEVEL *level*

説明: 表示されているコンポーネントについてはいくつかのレベルがインストールされていますが、要求された機能には、どのレベルを更新するのか指定されていません。

システムの処置: 処理を続行します。メッセージ M110D が次に出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M110D ENTER LEVEL TO QUALIFY
COMPONENT, OR ENTER "CANCEL" TO
QUIT

説明: これは M109I に続いて出るメッセージで、更新するコンポーネントのレベルの指定を求めています。インストールされているコンポーネントのレベルはメッセージ M109I に示されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: メッセージ M109I に表示されたレベルの 1 つを入力するか、またはジョブを取り消してください。

プログラマーの応答: なし。

M111D COMPONENT/PTF *xxxx* ALREADY
INSTALLED.
ENTER "APPLY" TO CONTINUE OR
"REJECT" TO QUIT

説明: 組み込みを指定したコンポーネント、あるいは適用また

M112I • M121I

は取り消しを指定した PTF が、すでにシステムに入っています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: この機能の処理を打ち切る場合には REJECT を入力してください。処理を続けたい場合には APPLY を入力してください。APPLY によってレベル低下状況が生じ、サービスの喪失という結果になる可能性がありますので、注意してください。
プログラマーの応答: なし。

M112I COMPONENT LIST FOR PRODUCT *name* INCOMPLETE OR MISSING

説明: 表示されたプロダクトについてのヒストリー・ファイル項目が正しくありません。プロダクトのコンポーネントのリストが不完全か、あるいは欠けています。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 表示されたプロダクトのヒストリー・ファイル項目を訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M113I GENERATED BACKOUT PTF IS INCORRECT - DO NOT USE IT TO REVOKE THE PTF

説明: AFFECTS ステートメントに、実際に影響を受けるライブラリー・メンバーのすべてが指定されていません。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

M114I COMPONENT *component* BELONGS TO PRODUCT *product a* IT MAY NOT BE SHARED BY PRODUCT *product b*.

説明: あるプロダクトに属するコンポーネントを、別のプロダクトに含めて保存しようとしています。プロダクト相互間でコンポーネントが共用できるのは、プロダクト・コード (プロダクト id の最初の 3 文字) が同じ場合だけです。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M116I PTF *ptf* NOT APPLIED - DOES NOT COMPLETELY RESOLVE APAR *apar*

説明: この PTF は現行のローカル/APAR 修正を解決するはずですが、この修正の影響を受けるすべてのモジュールを修正するわけではありません。
システムの処置: この PTF を拒否し、処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: ライブラリーとヒストリー・ファイルから当該ローカル/APAR 修正を除き、PTF を再適用してください。

M117I PTF *ptf* NOT APPLIED IT WOULD PARTIALLY OVERLAY LOCAL/APAR FIX *fix*

説明: PTF は、表示された修正に一部重なるために、拒否されました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: そのローカル/APAR 修正を除去し、PTF を再適用して、もう一度問題を解決してください。

M118I NO REVOKE JOB FOR PTF *ptf* CREATED

説明: 表示された PTF は、すでにインストールまたは代入されています。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 必要なら、最初に作成された REVOKE ジョブを使用してください。

M119I THE REVOKE JOB for PTF *ptf* IS INCOMPLETE LIBRARIAN PUNCH FUNCTION FAILED

説明: バックアウト PTF の作成中に、ライブラリアン PUNCH 機能が失敗しました。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: SYSLSLST に印刷されたメッセージに他の情報が示されていないかどうか調べてください。

M120I PTF *ptf* NOT REVOKED - IT IS A PREREQUISITE

説明: この PTF は、まだ取り消されていない別の PTF の前提として必要なものです。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 前提となる PTF を取り消す前に、それを前提として必要としている別の PTF の方を取り消してください。

M121I PTF *ptf* NOT REVOKED - IT EITHER SUPERSEDED OR NOT INSTALLED

説明: この PTF はシステム・ヒストリー・ファイル中に見つかりません。あるいは、置き換え済みを示すフラグが立っています。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: PTF 番号の指定が正しい場合には、詳しい情報を得るために、この PTF について LOOKUP を実行してください。

**M123I LIBRARY MEMBER IS NOT SPECIFIED
IN AFFECTS STATEMENT**

説明: ライブラリアン・ステートメントの中にあるライブラリー・メンバーが、MSHP AFFECTS ステートメントに指定されていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 詳しくは M113I のメッセージを参照してください。

**M124I LOCAL/APAR FIX IS NOT COMPLETELY
UNDONE**

説明: ローカル/APAR を完全にやり直すことができません。理由はこの前のメッセージに示されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**M125I FOLLOWING LINKBOOKS HAVE TO BE
LINKED:**

説明: 連係中のエラーのために、必要な連係ブックをすべて MSHP で処理することはできませんでした。このメッセージのあとに、メッセージ M126I が出ます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M126I LINKBOOK: *linkbook*

説明: このメッセージはメッセージ M125I に続いて出るもので、処理できなかった連係ブックを表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このメッセージにリストされた連係ブックについて、LNKEDT ジョブを設定してください。

**M127I LOCAL/APAR FIX NOT UNDONE - FIX
DESCRIPTIONS ARE MISSING**

説明: IRREVOKABLE オプションを用いて訂正を行ったために、修正のやり直しに必要な情報がヒストリー・ファイルに含まれていません。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M128I INCORRECT DATA IN PTF

説明: データ制御ステートメントにより開始された PTF データは、対応する制御ステートメントがデータ中にないために、リンケージ・エディターの入力またはライブラリアンの入力として識別することができません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

**M129I A MODULE THAT HAS LOCAL/APAR
FIX *fix* CANNOT BE REVOKED**

説明: 取り消し PTF で置き換えられたモジュールに対するローカル/APAR 修正が見つかりました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 取り消し PTF が必要な場合には、ヒストリー・ファイル中のローカル項目を前もって削除しなければなりません。取り消し後は、そのローカル/APAR 修正を再適用してください。

**M130I APPLICATION OF APAR INCOMPLETE -
INCOMPLETE STATUS IS RETAINED**

説明: ローカル/APAR 修正の適用に失敗しました。必須の明細ステートメントが欠けているか、正しくないか、あるいはライブラリー・メンバーの更新に失敗したためです。

システムの処置: CORRECT 機能を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLSST に印刷されたメッセージを調べ、エラーを訂正し、修正の適用を完了してください。

M131I INVOKED PROGRAM HAS FAILED

説明: MSHP により呼び出されたプログラムは、正常に実行できません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 詳しい情報を知るために印刷出力を調べてください。機能の受け渡しをし直してください。

M132I AFFECTED MEMBER NOT FOUND

説明: 処理すべきメンバーが、指定されたコンポーネントのサブライブラリーの中に見つかりません。

システムの処置: SYSIPT から入力されている場合には、ジョブを取り消します。コンソールから入力されている場合には、システムは、その後の処理を決めるための処置メッセージを出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ヒストリー・ファイルに入っている、指定のコンポーネントについての常駐情報を調べ、エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M133I DATA AT SPECIFIED ADDRESS
ALREADY CHANGED. NOTHING
ALTERED**

説明: 訂正で参照しているアドレスは、先行の ALTER コマンドによりすでに変更されています。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 入力にエラーがあるかどうか調べてくだ

M134I • M143I

さい。エラーがあれば訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

M134I AFFECTED LIBRARY MEMBER AT SPECIFIED LOCATION ALREADY CHANGED BY LOCAL/APAR FIX *fix*. CHANGE NOT ACCEPTED

説明: 訂正すべき位置には、前回の CORRECT の呼び出しで適用された修正がすでに含まれています。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 前の CORRECT が必要かどうか調べてください。不要なら、古い修正を UNDO し、ジョブを再度サブミットしてください。

M135I SPECIFIED ADDRESS IS OUT OF RANGE

説明: 間違った ESDID が指定されたか、または変更で参照しているアドレスがメンバーのアドレス範囲外にあります。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M136I VERIFICATION DATA DO NOT MATCH

説明: ALTER コマンドで与えられた検査データが、指定位置にあるメンバーの実際の内容と一致していません。あるいは、古いテキストと新しいテキストの長さが異なっています。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。非標準テキスト構造がないか OBJ モジュールを調べてください。

M137I ALL FIXES ENTERED ARE UNDONE. FUNCTION IS TERMINATED

説明: このメッセージは、変更のうち CORRECT が失敗したものについてはすべて再実行を試みたことを確認するためのものです。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M138I CHANGE ADDRESS: *address*

説明: このメッセージは、ALTER により変更される位置を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M139I OLD DATA: *data*

説明: このメッセージは、変更が行われる前の、変更対象位置の内容を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M140I NEW DATA: *data*

説明: このメッセージは、変更が行われた後の、変更対象位置の内容を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M141I UNDO FAILED - REP STATEMENTS MISSING

説明: 再配置可能なメンバーを訂正した結果、あるはずの REP カードがメンバーの中に見当たりませんでした。ライブラリー・ファイルの内容がライブラリー状況と一致していません。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ユーザーのライブラリーの割り当てをチェックし、エラーを訂正して、ジョブを再サブミットしてください。

M142I LIBRARY MEMBER ALREADY MODIFIED BY AN INCOMPLETE CORRECTION

説明: このメッセージは、APAR 修正の完了前に同一のライブラリー・メンバーに新しい訂正が適用された場合に、出るものです。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このメンバーへの修正を完了してください。

M143I AFFECTED LIBRARY MEMBER BELONGS TO ANOTHER COMPONENT

説明: 影響を受けるライブラリー・メンバーが、CORRECT コマンドまたは UNDO コマンドで与えられたコンポーネントに属していません。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合には

ジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M144I SCAN CONTINUES FROM OFFSET *offset*

説明: 連続した SCAN 操作の開始点を示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M145I *scan-data*

説明: 前のメッセージの結果として、16 データ・バイトの値が 16 進数形式と文字形式の両方で表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M146I FOLLOWING REQUIREMENTS ARE NOT MET:

説明: 前提必要条件または相互必要条件のような必要条件が満たされていない場合に、このメッセージが出ます。この後に、満たされていない必要条件を説明した別のメッセージが出ます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M147I SCAN DATA: *data*

説明: SCAN の要求に対する応答として出ます。表示されるデータは "NOT FOUND" か、"FOUND AT OFFSET" に 16 進数が続くかのいずれかです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M148I REQUISITE CONDITION NOT MET

説明: 1 つまたは複数の必要条件が満たされていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 印刷出力により、満たされていない必要条件を調べてください。この問題を解決した上で、ジョブを再サブミットしてください。

M152I CO-REQUISITE *local/APAR fix* NOT ON SYSTEM

説明: 相互必要条件が満たされていませんが、修正は受け入れられます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 表示された相互必要条件の修正をできるだけ早く適用してください。

M153I NEGATIVE REQUIREMENT *component: ptf* REFERS TO A REVOKED PTF. PROCESSING CONTINUES

説明: 適用しようとしているサービスは、取り消された PTF に対する否定必要条件を備えています。

システムの処置: 必要条件は満たされているものとみて、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M154I PRE/CO-REQUISITE PTF *component: ptf* HAS BEEN SUPERSEDED. PROCESSING CONTINUES

説明: 上記の PTF を必要とするサービスを適用しようとしていますがこの PTF はすでに廃止されたものであり、使用してはなりません。

システムの処置: 必要条件は満たされているものとみて、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M156I ESDID NUMBER DOES NOT POINT TO A CSECT

説明: AFFECTS ステートメントで指定されている ESD-ID が定義済みの CSECT を示していません。

システムの処置: MSHP は、現在処理中の機能要求を終了しています。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムのアセンブリー・リストがあればそれを調べて、あるいは LIBR プログラムによりモジュールを表示して、正しい ESD-ID 番号を指定したかどうか確かめてください。必要な訂正を施し、その機能要求の受け渡しをし直してください。

M160I JOB CANCELED - FAILURE OF MSHP - PARAMETER LIST TOO LONG FOR MESSAGE *mmn*

説明: メッセージ *mmn* を出す過程で、プログラム・エラーが起きました。

システムの処置: プログラムは取り消しを要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージ *mmn* の原因となったエラーが訂正できればそれを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。訂正が不可能な場合には、弊社に連絡してください。

M161I JOB CANCELED - FAILURE OF MSHP - INCOMPLETE PARAMETER LIST FOR MESSAGE *mmn*

説明: メッセージ *mmn* を出す過程で、プログラム・エラーが起きました。

システムの処置: プログラムは取り消しを要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージ *mmn* の原因となったエラーが訂正できればそれを訂正し、ジョブを再サブミットしてくだ

さい。訂正が不可能な場合には、弊社に連絡してください。

**M162I JOB CANCELED - FAILURE OF MSHP -
MESSAGE *nnm* IS TOO LONG. MESSAGE
*nnm***

説明: メッセージ *nnm* を出す過程で、プログラム・エラーが起きました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メッセージ *nnm* の原因となったエラーが訂正できればそれを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。訂正が不可能な場合には、弊社に連絡してください。

**M163I JOB CANCELED - FAILURE OF MSHP -
THE REQUESTED SET OPERATION
CANNOT BE PERFORMED SINCE NO
SET HAS BEEN CREATED.**

説明: プログラム・エラーが起きました。

システムの処置: プログラムは取り消しを要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM サポートに連絡してください。

**M165I AFFECTS STATEMENT NOT
IMMEDIATELY FOLLOWED BY AN
ALTER, INSERT, REPLACE, DELETE,
VERIFY, OR SCAN STATEMENT**

説明: 明細ステートメント AFFECTS の直後に、上記のステートメントの 1 つがありません。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M170D DO YOU WISH A PRINTOUT OF
MEMBER *membername.membertype*? REPLY
"YES" OR "NO"**

説明: このメッセージは、エラーが起きた後で、影響を受けたライブラリー・メンバーを SYSLST で表示するために、出るものです。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: メンバーを表示したい場合には YES を入力し、処理を続けたい場合には NO を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**M172I TOO MANY STATEMENTS PROCESSED,
MACRO UPDATE FLUSHED**

説明: 許容最大数よりも多くのステートメントを処理しようとしてしました。(許容最大値は区画のサイズにより異なります。)

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: ジョブをもっと大きい区画に入れるか、

あるいは区画サイズを拡大してジョブをサブミットすることができます。

プログラマーの応答: 区画サイズをもっと大きくして、ジョブを再サブミットしてください。

**M174I PREPARATORY FUNCTION FAILED
DURING MACRO UPDATE, MACRO
UPDATE FLUSHED**

説明: マクロ更新を準備するために MSHP によって呼び出されたシステム・プログラムが失敗しました。マクロ更新は行えません。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 失敗したプログラムからの SYSLST 出力に、詳しい情報が示されているかどうか調べてください。エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M175I SYSTEM ERROR DURING MACRO
UPDATE, UNDO THIS APAR**

説明: マクロ更新を実行するために MSHP によって呼び出されたシステム・プログラムが失敗しました。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 作成済みの UNDO ジョブをサブミットしてください。呼び出されたプログラムから出たメッセージを調べ、エラーを訂正しジョブを再サブミットしてください。

**M176I SOURCE LIBRARY DATA REQUIRED TO
UNDO THIS APAR**

説明: UNDO ジョブに DATA ステートメントが入っていません。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DATA ステートメントをジョブ・ストリームに入れ、ジョブを再サブミットしてください。

**M177I SOURCE LIBRARY DATA IS MISSING.
UNDO OF THE APAR FAILED.**

説明: UNDO ジョブにソース・ライブラリー・データが入っていません。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M178I REINSTALL THE PREVIOUS VERSION OF THE AFFECTED MACROS AND DELETE THE HISTORY ENTRY USING THE REMOVE COMMAND

説明: 訂正を行おうとしましたが失敗し、UNDO ジョブは作成されませんでした。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 上記のメッセージ・テキストを参照し、それにしたがってエラーを訂正した上で、ジョブを再サブミットしてください。

M179I USE THE CREATED UNDO JOB TO RECOVER THE AFFECTED MACROS

説明: マクロの訂正に失敗しましたが、UNDO ジョブを用いて、影響を受けたマクロをリカバリーすることができます。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: UNDO ジョブを再サブミットしてください。

M180I NO APAR ENTRY CREATED. RECOVER THE AFFECTED LIBRARY MEMBERS

説明: 訂正に失敗し、UNDO ジョブは作成されませんでした。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リストを調べ、影響を受けたライブラリー・メンバーをリカバリーしてください。

M181I PTF *ptf* IS NOT INCLUDED IN THIS UNDO JOB

説明: 上記の PTF は CORRECT 機能の実行後に適用されました。UNDO を行うと、この PTF は壊されるおそれがあります。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: この PTF を取り消して、ジョブを再サブミットしてください。PTF を再適用してください。

M182I APAR *apar* IS NOT INCLUDED IN THIS UNDO JOB

説明: 上記の APAR は CORRECT 機能の実行後に適用されました。UNDO を行うと、この PTF は壊されるおそれがあります。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合には

ジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: APAR を UNDO し、ジョブを再サブミットしてください。そのあとで、APAR の CORRECT を再実行してください。

M183I LIBRARY MEMBER HAS BEEN MODIFIED SINCE CORRECTION

説明: ライブラリー・メンバーの現在の内容が、CORRECT 機能により変更されたデータと一致しません。このメンバーは、訂正後に MSHP の制御を受けずに修正されました。

UNDO は実行できません。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: メンバーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M186I NO "/" DELIMITER FOUND

説明: ファイルの終わりに達しましたが区切り文字 /\$ がありません。INSERT または REPLACE のあとの入力の次にはこの区切り文字が必要です。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M201I PTF *ptf* NOT APPLIED - IT IS SUPERSEDED ON USER SYSTEM

説明: このジョブが適用しようとしていた PTF は、システム内の別の PTF によってすでに廃止されています。

システムの処置: この PTF を拒否し、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M202D PTF *ptf* WILL OVERLAY LOCAL/APAR FIX *fix*. REPLY " APPLY" OR "REJECT"

説明: この PTF は、ローカル/APAR 修正の影響も受けているライブラリー・メンバー全体に影響を与えます。しかし、この PTF はローカル/APAR 修正を解決するものではありません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: PTF を拒否する場合には、REJECT を入力してください。適用の結果、上記の修正はこの PTF に置き換えられ、ヒストリー・ファイルから取り除かれます。

プログラマーの応答: なし。

M206I PTF *ptf* NOT APPLIED - IT IS ALREADY INSTALLED

説明: 上記の PTF は適用されませんでした。この PTF は、すでにシステムに組み込まれています。

システムの処置: 処理を続行します。

M2071 • M222D

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M2071 PTF *ptf* NOT APPLIED/REVOKED - IT IS ALREADY REVOKED

説明: 上記の PTF を適用/廃止しようとして、失敗しました。この PTF は、すでに適用/廃止されています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M208I PTF *ptf* APPLIED/REVOKED - ITS REQUIREMENTS ARE NOT SATISFIED

説明: 上記の PTF を適用/廃止しようとして、失敗しました。この必要条件が満たされていません。満足していない必要条件のリストが、このメッセージのあとに表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 印刷出力を参照して、満足していない条件のリストを調べてください。その条件を満たし、ジョブを再サブミットしてください。

M209I PTF *ptf* NOT APPLIED - REASON IS GIVEN IN NEXT MESSAGE

説明: 次のメッセージが出されるのを待っています。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 原因と応答については、次のエラー・メッセージを調べてください。

M210I AFFECTED COMPONENT IS NOT YET COMPLETELY INSTALLED

説明: サービス部分がまだインストールされていないコンポーネントに対して、PTF の適用またはライブラリー・メンバーの生成を行おうとしました。

システムの処置: MSHP 処理を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プロダクトのサービス部分をまずインストールした上で、ジョブを再サブミットしてください。

M211I THE SUBLIBRARIES OF THE COMPONENT CANNOT BE ACCESSED.

説明: 要求された機能の実行に必要なサブライブラリーの一部が、アクセス可能です。理由は、この前のメッセージに示されています。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 要求されたサブライブラリーがすべてアクセスできることを確認してから、ジョブを再サブミットしてください。

M212I SUBLIBRARY *sublibrary* DOES NOT EXIST IN LIBRARY *library*

説明: MSHP が、上記のサブライブラリーにアクセスしようとしてしました。続いてもう 1 つのメッセージが表示されます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M213I APPLY FUNCTION COULD NOT BE PERFORMED. PROCESSING TERMINATES

説明: SYSIN から PTF の適用を試みましたが、MSHP が受け付けませんでした。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PTF が拒否された原因について、印刷出力を調べてください。原因を修正して、ジョブを再度サブミットしてください。

M217I RESIDENCE INFORMATION MISSING FOR THE AFFECTED COMPONENT

説明: ヒストリー・ファイルの中のコンポーネント項目が、そのコンポーネントが常駐しているサブライブラリーを示していません。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: そのコンポーネントが属しているプロダクトを見つけ、RESIDENCE コマンドを用いて、プロダクトのサブライブラリーについての情報を MSHP に与えてください。

M222D DOWNLEVEL CHECK FAILED. CONTINUATION WILL RESULT IN A LOSS OF SERVICE. ENTER 'GO' TO CONTINUE OR 'CANCEL' TO TERMINATE.

説明: システムにインストールしたバージョンよりも低いメンテナンス・レベルのメンバーが入ったプロダクトをインストールしようとしてしました。競合リストは SYSLST に印刷されません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: メッセージ M089D に必要な処置については、システム・プログラマーに問い合わせてください。

プログラマーの応答: 競合リストの印刷出力を調べてください。示されたサービスの脱落を承知の上で継続する場合は、M089D で「GO」を入力してインストール完了後に、脱落した PTF とローカル/APAR 修正を再適用してください。そうでない場合は、「CANCEL」を入力してインストールを中止してください。

**M223I INSTALL TERMINATED - REQUISITE
CHECK FAILED.**

説明: 前提要件または相互要件のような必要条件に、満たされていないものが少なくとも 1 つはある場合に、このメッセージが出ます。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 印刷出力を検査して欠けている条件を調べ、システムを更新して、ジョブを再サブミットしてください。

**M224D OLD MSHP "INSTALL" STATEMENT
FOUND. ENTER TARGET LIBRARY
NAME TO ALLOW THE CONVERSION
TO A NEW "INSTALL" STATEMENT OR
ENTER "CANCEL" TO QUIT**

説明: MSHP が古いインストール INSTALL ステートメント (VSE/拡張機能 2.1 以前) を検出しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: ライブラリー名の形式でターゲット仕様を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**M225D ENTER NAME OF TARGET LIBRARY
AND SUBLIBRARY**

説明: MSHP が、プロダクトのインストール先となるライブラリーとサブライブラリーについての情報を必要としています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 「ライブラリー名.サブライブラリー名」の形式でターゲット仕様を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**M226I INCOMPLETE HISTORY FILE ON
INSTALLATION MEDIUM. RESIDENCE
INFORMATION FOR PRODUCT=product IS
MISSING.**

説明: インストール・テープ/ディスクの履歴・ファイルが不完全です。プロダクトが入っているサブライブラリーについての情報がありません。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: そのインストール・メディアが弊社提供のものであれば、弊社に連絡してください。そうでない場合には、MSHP の BACKUP PRODUCT コマンドを用いてインストール・メディアを作成し直してください。

**M227I THE REQUESTED PART IS NOT ON THE
INSTALLATION MEDIUM**

説明: あるプロダクトの特定部分 (実動またはサービス) をインストールまたはリストアップしようとしたのですが、そのプロダクトがインストール・テープ/ディスク上に見あたりません。誤った BACKUP コマンドを用いてインストール・テープを作成したと考えられます。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: INSTALL コマンドを調べてください。それが正しければ、インストール・テープ/ディスクの内容をチェックしてください。

**M228I PRODUCTION PART IS NOT YET
INSTALLED**

説明: プロダクトのサービス部分をインストールしようとしたのですが、実動部分がまだインストールされていません。実動部分を先にインストールすることが必要です。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: そのプロダクトの実動部分をインストールした後で、ジョブを再サブミットしてください。

**M229I YOU ARE REINSTALLING. RESIDENCE
INFORMATION IS MISSING**

説明: プロダクトを再インストールしようとしたのですが、そのプロダクトに関する履歴・ファイル項目が不完全です。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RESIDENCE コマンドを用いて、インストールされたプロダクトが入っているサブライブラリーの情報を MSHP に与えてください。

**M230I THE GENERATION PART YOU ARE
INSTALLING IS ON A HIGHER SERVICE
LEVEL THAN THE INSTALLED
PRODUCTION PART.**

説明: 再インストールしようとしている生成部分に、そのプロダクトの実動部分より高いサービス・レベルをもつメンバーが含まれています。競合リストは SYSLST に印刷されます。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: レベル中の生成部分のレベルに対応するように実動部分をインストールし直すか、あるいは、サービス部分の再インストールの前に必要な PTF およびローカル/APAR 修正をすべて適用してください。

**M231D INSTALLATION WILL OVERWRITE
PRODUCT product. ENTER "DELETE" OR
"KEEP".**

説明: インストール中のプロダクトは、示されたインストール済みのプロダクトを上書きします。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 「DELETE」と「KEEP」のどちらを入力すべきかわからないときは、正しい応答をシステム・プログラマーに問い合わせてください。

プログラマーの応答: 置き換えられたプロダクトのサブライブラリーと導入先サブライブラリーが異なる場合、次のいずれかを行ってください。

- KEEP を入力して、履歴・ファイルの両方のプロダクトの情報を参照する。
-

M232I • M241I

- DELETE を入力して、置き換えられたプロダクトのヒストリーを除去する。

いずれの場合も、新規のプロダクトがインストールされ、旧プロダクトは他のサブライブラリーに残ります。置き換えられたプロダクトとターゲット・サブライブラリーが同じである場合、次のいずれかを行ってください。

- KEEP を入力して、新規のプロダクトのインストールを防ぐ。
- DELETE を入力して、新規のプロダクトをインストールし、旧プロダクトを置き換える。

M232I UNABLE TO DETERMINE ALL NEEDED TARGET LIBRARIES AND SUBLIBRARIES

説明: プロダクトをインストールまたはリストアしようとしたが目的となる物の指定がまったくないか、あるいは不完全です。MSHP は、デフォルトの名前が選択できるだけの十分な情報が与えられていません。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: INSTALL/RESTORE コマンドに、ターゲット情報をもっと詳しく指定してから、ジョブを再サブミットしてください。

M233I SUPERSEDING PRODUCTS MAY NOT BE INSTALLED INTO THE SAME SUBLIBRARY

説明: メッセージ M231D で、置き換えられるプロダクトも保管することを決めました。このプロダクトと新たにインストールされるプロダクトは、同じライブラリーに入れることはできません。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: INSTALL コマンドの中のターゲット物指定を訂正してからジョブを再サブミットしてください。

M234I FOLLOWING SUPERSEDED/OBSOLETED PRODUCTS WILL BE DELETED:

説明: これは、今回のインストールにより置き換えられるかまたは廃止されるプロダクトのリストのヘッダーです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M235I INSTALLATION WILL BE DONE AS FOLLOWS:

説明: これは、どのサブライブラリーがどのターゲット・サブライブラリーにリストアされるかを示す情報画面のヘッダー行です。これは、ターゲット指定について MSHP がデフォルトの処置をとった場合に表示されます。

システムの処置: 処理を続け、メッセージ M089D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M236I RESTORING INTO EXISTING SUBLIBRARIES IS NOT ALLOWED.

説明: RESTORE コマンドのターゲット物情報の中に既存のサブライブラリーが指定されています。RESTORE は、新しいサブライブラリーをリストア先として実行しなければなりません。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M238I FOLLOWING PRODUCTS MUST RESIDE IN THE SAME SUBLIBRARIES:

説明: インストール・メディア上で同じサブライブラリーに入っている複数のプロダクトを、システムの別々のサブライブラリーに再インストールしようとした。それらのプロダクトについての RESIDENCE 情報にエラーがあると考えられます。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RETRACE PRODUCT コマンドを用いて、各プロダクトの RESIDENCE 情報を検査してください。必要に応じて、情報を (RESIDENCE コマンドにより) 訂正するか、あるいはプロダクトを再編成した上で、ジョブを再サブミットしてください。

M239I THE PRODUCTION PART CANNOT BE INSTALLED WITHOUT THE GENERATION PART

説明: プロダクトの実動部分だけをインストールしようとしたが、このプロダクトはリンケージ・エディターの呼び出しを必要としています。したがって、生成部分が必要です。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M240I YOU ARE RE-INSTALLING. TARGET SPECIFICATIONS ARE IGNORED

説明: プロダクトを再インストールする場合には、MSHP は、常に、ヒストリー・ファイルの情報に基づき、そのプロダクトが入っているのと同じサブライブラリーにインストールします。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M241I PRODUCTION PART AND GENERATION PART OF PRODUCT *product* CANNOT BE SEPARATED

説明: 上記プロダクトの特定部分の BACKUP を行おうとしました。ヒストリー・ファイルによれば、このプロダクトの両部分は同一のサブライブラリーに入っているため、分離することはできません。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: プロダクトの両部分を一緒に BACKUP
 するか、あるいはプロダクトを再編成してください。

M242I PRODUCTION PART OF PRODUCT

product DOES NOT RESIDE IN sublibrary

説明: MSHP の BACKUP を用いて 1 ステップでバックアップ
 できるのは、実動部分が同じサブライブラリーに入っている
 プロダクトだけです。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミッ
 してください。

**M243I PRODUCT *product* SHARES A SERVICE
 SUBLIBRARY WITH A REQUESTED
 PRODUCT. ITS PRODUCTION PART
 DOES NOT RESIDE IN sublibrary**

説明: MSHP は、ヒストリー・ファイルの情報に基づき、こ
 れからテープにコピーするサブライブラリーの中に、上記のプ
 ロダクトの一部が入っていると判断しました。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: プロダクトを再編集し、ジョブを再サブ
 ミットしてください。

**M244I RESIDENCE INFORMATION MISSING
 FOR PRODUCT *product***

説明: 上記のプロダクトについての、ヒストリー・ファイル中
 の情報が不完全です。 RESIDENCE コマンドが欠けているお
 それがあります。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: RESIDENCE コマンドを用いて、上記の
 コンポーネントが入るサブライブラリーについての情報を
 MSHP に与えてください。

**M245I PRODUCTION PART AND GENERATION
 PART CANNOT BE SEPARATELY
 RESTORED**

説明: 実動部分と生成部分は、インストール入力装置上で同じ
 サブライブラリーに入っています。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 両部分をインストールし、インストール
 後に、必要に応じて分離してください。

**M246I GENERATION PART OF PRODUCT
product NOT YET INSTALLED**

説明: あるプロダクトの生成部分の BACKUP をとろうとした
 が、その部分はまだインストールされていませんでした。
 システムの処置: バックアップ製品制御ステートメント上で生
 成部分のみが要求されているならば、MSHP は打ち切れま

す。 実動部分と生成部分の両方が要求されている場合には、メ
 ッセージ M089D と共に処理が継続されます。

システムの処置: MSHP は中止されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

**M247I JOB CANCELED - INSTALLATION OF
 "OLD PRODUCTS" REQUIRES
 "IJSYSCL,IJSYSRL OR IJSSYL" ON THE
 TAPE.**

説明: 配布テープがスキャンされ、IJSYSCL、IJSYSRL、また
 は IJSSYL という名前を持った「古い形式」のライブラリー
 が見つかりませんでした。

システムの処置: MSHP ジョブは取り消されます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: 正しい配布テープがないか調べてくださ
 い。

**M248D ENTER 'GO' TO CONTINUE OR
 'CANCEL' TO TERMINATE**

説明: メッセージ M234I と置換または廃止されたプロダクト
 のリストが、このメッセージの前に出されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 「GO」と「CANCEL」のどちらを入力
 すべきかわからないときは、正しい応答をシステム・プログラ
 マーに問い合わせてください。
 プログラマーの応答: なし。

**M249D ENTER 'GO' TO CONTINUE OR
 'CANCEL' TO TERMINATE**

説明: メッセージ M235I と、ターゲット・サブライブラリー
 でリストアするサブライブラリーのリストが、このメッセージ
 の前に出されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 「GO」と「CANCEL」のどちらを入力
 すべきかわからないときは、正しい応答をシステム・プログラ
 マーに問い合わせてください。
 プログラマーの応答: なし。

**M250D GENERATION PART OF PRODUCT
product NOT YET INSTALLED. ENTER
 'GO' TO CONTINUE OR 'CANCEL' TO
 TERMINATE**

説明: プロダクトの生成部分と実動部分の BACKUP を行おう
 としましたが、生成部分がまだインストールされていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 「GO」と「CANCEL」のどちらを入力
 すべきかわからないときは、正しい応答をシステム・プログラ
 マーに問い合わせてください。
 プログラマーの応答: なし。

M251D PTF SELECTION COMPLETED. ENTER 'GO' TO CONTINUE OR 'CANCEL' TO TERMINATE

説明: サービス・インストール処理の検査がすべて終了し、適用される PTF のリストが SYSLST に印刷されています。区画が POWER の制御で実行しているときは、SYSLST 出力がセグメント化されます。出力を調べてください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 「GO」と「CANCEL」のどちらを入力すべきかわからないときは、正しい応答をシステム・プログラマーに問い合わせてください。

プログラマーの応答: なし。

M255I COMPONENT *component* CANNOT BE SERVICED - ITS SUBLIBRARIES CANNOT BE ACCESSED

説明: 示されたコンポーネントが常駐するサブライブラリーにアクセスしようとして失敗しました。PTF はいずれも適用できません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下のいずれかが原因ですので訂正してください。

1. ライブラリアン・メッセージを調べ、原因を訂正してください。
2. ラベル情報の誤りを訂正してください。
3. 要求したライブラリーがライン上にありません。
4. 要求したサブライブラリーが定義されていません。

M256I LNKEDT OF LINK BOOK *book* FAILED

説明: 指定された関係ブックのリンク・エディット中にエラーが起きました。サービス適用処理では、すべてのメンバーのカタログの作成に成功し、すべてのヒストリー・ファイル更新を完了しました。しかしメンバーは関係されず、したがって有効ではありません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: リンケージ・エディターの印刷出力の対応箇所を調べれば、このエラーの詳しい説明が示されています。エラーを訂正し、失敗したジョブを再実行するか、あるいは、INSTALL ... RESTART 機能を用いて最終関係を完了させてください。

M257I RESTART FAILED - NONE OF THE PTF'S IN THE HISTORY IS IN STATUS "NOTLK"

説明: 機能 'RESTART' が入力されました。しかし、ヒストリー中にリンクし直す必要のある PTF がありません。オブジェクト・コードがない場合、フェーズのみに影響を与える PTF は、再度リンクするために始動し直すことができないことに注意してください。

システムの処置: ジョブは取り消されました。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: PTF アプリケーション・ジョブを再度サブミットしてください。

M258I PTF *ptf* NOT *applied/revoked* RESIDENCE INFORMATION IS MISSING

説明: 上記の PTF が属しているプロダクトのヒストリー・ファイル項目が不完全です。RESIDENCE コマンドが欠けているおそれがあります。

システムの処置: PTF 検査の処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: RESIDENCE コマンドを用いて、プロダクトが入っているサブライブラリーについての情報を MSHP に与えてください。

M259I PTF *ptf* NOT *applied/revoked* - ITS COMPONENT IS NOT INSTALLED

説明: PTF の適用/廃止を要求しましたが、この PTF のコンポーネントはまだインストールされていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プロダクトをインストールし、ジョブを再度サブミットしてください。

M262D PTF *ptf* WILL OVERLAY PART OF LOCAL/APAR FIX *fix*. ENTER 'APPLY' TO CONTINUE AND INVALIDATE THE LOCAL/APAR FIXES OR 'REJECT' TO QUIT.

説明: 指摘された PTF は、指摘されたローカルまたは APAR プログラムの一部にオーバーレイして、システムに組み込まれます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: APPLY と入れて PTF を適用すると、

その修正は部分的に重ね書きされてシステムに組み入れられ、システム・ヒストリー・ファイル内に「無効」のフラグが付けられます。PTF の適用を拒否するなら、REJECT と入れてください。

プログラマーの応答: なし。

M263D PTF *ptf* DOES NOT COMPLETELY RESOLVE APAR *apar*. ENTER "APPLY" TO CONTINUE AND INVALIDATE THE LOCAL/APAR FIXES OR "REJECT" TO QUIT.

説明: ローカル修正によって影響を受けたモジュールがすべて PTF で置き換えられていません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: PTF を適用するには、APPLY を入力してください。その結果、修正はシステムで一部上書きされ、またシステム・ヒストリー・ファイルで「無効」のフラグが付けられます。PTF を拒否するには、REJECT を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M264I LOCAL/APAR FIX *fix* IS ALTERED BY A PTF. APAR ENTRY INVALIDATED IN HISTORY

説明: メッセージ M263D に対し、APPLY と応答しました。
システムの処置: システム・ヒストリー・ファイルの中の、当該 APAR *apar* についての項目に「無効」のフラグを付けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M265I LOCAL/APAR FIX *fix* IS RESOLVED OR OVERWRITTEN. APAR ENTRY REMOVED FROM HISTORY

説明: 上記のローカル/APAR 修正は、PTF または UNDO ジョブにより解決されるか重ね書きされます。APAR 項目は、ヒストリー・ファイルから取り除かれます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M268D MEMBER *member* DOES ALREADY EXIST. ENTER 'GO' TO CONTINUE OR 'CANCEL' TO TERMINATE

説明: このメッセージは z/VSE 環境にいるときだけ意味があります。MSHP はライブラリー・メンバーを作成しようとしたが、そのメンバーはすでにサブライブラリーにあります。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: 既存メンバーを無視するなら GO と入れ、ジョブを中止するなら CANCEL と入れてください。
プログラマーの応答: 指定されたメンバーが存在することは、サービス処理が完了しなかったことを意味します。MSHP INSTALL SERVICE ジョブが以前に実行されたとき作成された適用済み PTF のリストを収めている既存メンバーが余分であるか確かめてください。

M270I NO PTF HAS BEEN APPLIED

説明: サービスをインストールしようとしたのですが、すべての PTF が MSHP によって拒否されました。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 印刷出力で、PTF が拒否された理由を調べてください。原因を修正して、ジョブを再度サブミットしてください。これ以外にメッセージが出されていないときは、PTF 要求が出されたコンポーネントと CLC が、インストールに適合するかどうかを調べてください。さらに前提 PTF と相互要求 PTF があるかどうかを調べてください。

M271I CATALOGING MEMBERS FOR PTF *ptf*

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M272I LINKING *link book*

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M273I CREATION OF BACKOUT TAPE/JOB IN PROGRESS

説明: バックアウト・ジョブまたはバックアウト・テープの作成中です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M274I CREATION OF BACKOUT TAPE/JOB COMPLETED

説明: バックアウト・テープの作成またはジョブが完了しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M275I CATALOG OF MEMBERS IN PROGRESS

説明: ライブラリー・メンバーのカタログの作成が進行中です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M276I CATALOG OF MEMBERS COMPLETED

説明: ライブラリー・メンバーのカタログの作成が完了しました。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M277I FINAL LINK STEP IN PROGRESS

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M278I FINAL LINK STEP COMPLETED

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M279I UPDATES FOR LINKAGE RESTART COMPLETED

説明: サービス適用処理で、サービス・テープから全メンバーのカタログの作成が正常に終了し、ヒストリー・ファイルの更新もすべてを完了しました。このステップでエラーが起きた場合には、失敗の原因となった事項を訂正し INSTALL ... RESTART 機能を用いて最終連係を完了させてください。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M300I MERGING HISTORY INFORMATION
FOR COMPONENT *component*
COMPLETED**

システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M301I MERGING HISTORY INFORMATION
FOR PRODUCT *product* COMPLETED**

システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M306I FOLLOWING PRODUCTS HAVE BEEN
COPIED TO TAPE:**

説明: これはコピー済みプロダクトのリストのヘッダー行です。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M307I HISTORY FILE INFORMATION FOR
FOLLOWING PRODUCTS SELECTED:**

説明: パラメーター 'NOTAPE' を指定して BACKUP PRODUCT を実行させたとき選択されたプロダクトのリストのヘッダー行。これらのプロダクトのヒストリー・ファイル情報は、補助ヒストリー・ファイルにコピーされます。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M311I CUSTOMER NAME AND ADDRESS
MANDATORY FOR 1ST PERSONALIZE**

説明: ヒストリー・ファイルを個人情報設定しようとしたのですが、このヒストリー・ファイルには得意先の名前と住所が入っていません。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: PERSONALIZE ステートメントに得意先名と住所を指定した上で、ジョブを再サブミットしてください。

M312I MANDATORY OPERAND MISSING

説明: 構文規則に違反しています。
システムの処置: SYSIPT から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールから入力された場合には、そのステートメントを無視して処理を続けます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M313I YOU MAY REVOKE A SINGLE PTF
ONLY**

説明: INSTALL BACKOUT の機能を用いれば、INCLUDE に 1 つの特定の PTF だけを指定することができます。
システムの処置: SYSIPT から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、ジョブを続けます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M321I ONLY ONE AFFECTED LIBRARY
MEMBER ALLOWED**

説明: 指定した機能に対して、影響を受ける (AFFECT される) モジュール、フェーズ、またはマクロ (あるいはこれらの組み合わせ) のリストを与えようとしたのですが、これは許可されません。
システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: さらに訂正を追加するためには、新しい AFFECTS ステートメントを入力しなければなりません。

**M323I INVALID OPTIONS ON "DEFINE"
STATEMENT. ONLY "DEFINE HISTORY
SYSTEM ..." IS
ALLOWED**

説明: メッセージ中で参照されている詳細制御ステートメント以外のものが現れました。
システムの処置: MSHP を開始したのが SYSRDR からの // EXEC MSHP ステートメントであれば、プログラムは取り消しを要求します。コンソールから MSHP を開始した場合には、プログラムは、メッセージ M012D を出して再試行を指示します。
オペレーターの応答: コンソールから入力している場合には、メッセージ M012D に適切に回答してください。
プログラマーの応答: 制御ステートメントの入力ストリームを訂正し、ジョブを再実行依頼してください。

**M324I INVALID DETAIL STATEMENT FOR
SPECIFIED ARCHIVE SUBFUNCTION**

説明: 最後に分析した明細制御ステートメントは、指定の保存には使用できません。
システムの処置: SYSIPT から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールから入力された場合には、そのステートメントを無視して処理を続けます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: このステートメントを取り除き、ジョブを再サブミットしてください。

M326I MANDATORY DETAIL STATEMENT MISSING

システムの処置: SYSIPT から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールから入力された場合には、そのステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 指定の機能を行うために追加しなければならない明細制御ステートメントが何かを調べて追加し、ジョブを再サブミットしてください。

M327I THE KEYWORD "APAR" MAY BE SPECIFIED ON A RESOLVES STATEMENT ONLY WHEN ARCHIVING A PTF

説明: PTF 以外のものを保存しようとしたが、無効な RESOLVES ステートメントがありました。このような場合、RESOLVES ステートメントには注釈だけしか入れることはできません。

システムの処置: SYSIPT から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールから入力された場合には、そのステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M328I THE SPECIFIED COMMENT IS TRUNCATED

説明: 指定した注釈が長すぎます。

システムの処置: 注釈を切り捨て、処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M329I THE KEYWORDS "ESDID" AND "EXPAND" CAN BE SPECIFIED ON AN "AFFECTS" STATEMENT ONLY FOR A CORRECT OR AN ARCHIVE APAR/LOCAL-FIX JOB.

システムの処置: SYSIPT から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールから入力された場合には、そのステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M330I THE KEYWORD "LIOCS" MAY BE SPECIFIED ON AN "AFFECTS" ONLY FOR AN APPLY PTF JOB.

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M331I KEYWORDS "LIOCS", "ESDID" AND "EXPAND" ARE INVALID IF TWO OR MORE LIBRARY MEMBERS ARE SPECIFIED AS AFFECTED.

説明: 複数のモジュールを指定した場合には、上記のキーワードを使用することはできません。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M332I DETAIL STATEMENT OUT OF SEQUENCE

説明: 以下のいずれかです。

- INSERT、ALTER、DELETE、または REPLACE ステートメントの前に、単一フェーズ/モジュール/マクロ用の AFFECTS ステートメントがありません。
- OR ステートメントの前に REQUIRES ステートメントがありません。
- 次の REQUIRES ステートメントの前に、別の REQUIRES または OR ステートメントがありません。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M333I "PRE", "CO" OR "NOT" OPERAND MANDATORY ON REQUIRES STATEMENT

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M334I WHEN SPECIFIED IN THE FORM "REQUIRES COMPONENT..." THE OPERANDS "PRE", "CO", OR "NOT" MAY REFER TO PTFs OR LOCAL/APAR FIXES ONLY

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M335I ANY "AFFECTS" CONTROL STATEMENTS OTHER THAN "AFFECTS PHASE ..." IS NOT ALLOWED FOR THIS FUNCTION

システムの処置: 次のいずれかを行ってください。

- 入力か SYSIPT 装置であればシステムはジョブを取り消します。
- 入力かシステム・コンソールであれば、システムは機能要求を無視し、処理を続行します。

オペレーターの応答: 機能要求がシステム・コンソールからなされたときに、該当します。正しい AFFECTS ステートメントで機能要求を再入力するか、別の有効な MSHP 機能要求を入れてください。

プログラマーの応答: ジョブが取り消されたときに、該当します。AFFECTS ステートメントを修正しジョブを再実行してください。

M336I "AFFECTS" CONTROL STATEMENT SPECIFIED WITH NO OPERAND

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M337I DATA TO BE REPLACED MUST BE SPECIFIED WHEN ALTERING A PHASE

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M338I SCAN ARGUMENT MISSING

説明: 引数を探しましたが、使用可能な引数がありません。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 処理を続けるには正しい MSHP ステートメントを入力し、MSHP 処理を打ち切るには END/ENTER を押してください。

M339I ANY DEFINE STATEMENT OTHER THAN "DEFINE HISTORY..." IS NOT ALLOWED FOR THIS FUNCTION

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M340I ALTERING A MACRO IS NOT ALLOWED

説明: マクロに ALTER 明細制御ステートメントを使おうとしました。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメント INSERT、DELETE または REPLACE を用いて、マクロを変更することができます。

M341I DETAIL STATEMENT NOT ALLOWED FOR SPECIFIED MEMBER TYPE

説明: フェーズまたはモジュール内で、INSERT、DELETE または REPLACE を行おうとしました。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ALTER 制御ステートメントを用いて、フェーズまたはモジュールを変更することができます。

M342I START LINE NUMBER MUST BE EQUAL TO OR LESS THAN ENDING LINE NUMBER

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M343I START TRACK MUST BE SPECIFIED IN "EXTENT" OPERAND.

説明: 開始トラックが指定されていません。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M345I THE PRODUCTION PART MUST BE INSTALLED/RESTORED INTO A DIFFERENT SUBLIBRARY THAN THE GENERATION PART

説明: SYSRES をインストールまたはリストアする場合には、実動部分と生成部分を別々のサブライブラリーに入れなければなりません。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M346I NO RANGE INCREMENT FOR NON-EDITED MACROS

説明: MSHP 制御ステートメントの中で、未編集のマクロに対して行番号の増分を使おうとしました。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M347I THE TARGET LIBRARY FOR THE PRODUCTION PART MUST BE IJSYSRX

説明: IJSYSRX では、X は 1 - 9 の数字でなければなりません。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M348I SPECIFIED SUBLIBRARY INFORMATION IS IGNORED

説明: SYSRES をインストールまたはリストアする場合は、ターゲット情報はライブラリー名だけで十分です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M349I SPECIFIED INCLUDE/EXCLUDE COMMAND IS IN CONFLICT WITH A PREVIOUSLY SPECIFIED INCLUDE/EXCLUDE

説明: プロダクト、コンポーネント、または PTF について INCLUDE/EXCLUDE コマンドを 1 つ指定すると、それは他のすべてに暗黙に適用されます。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: ステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M351I COMPONENT ID MISSING IN REQUIRES STATEMENT

説明: REQUIRES 制御ステートメントに PTF が指定されていますが、コンポーネント ID が指定されていません。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: REQUIRES ステートメントを訂正し、

ジョブを再サブミットしてください。

M353I INVALID SEQUENCE FIELD ENCOUNTERED. REPLACED BY BLANK CHARACTERS

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M356I A STRING OF HEXADECIMAL DIGITS MUST BE A MULTIPLE OF 2

システムの処置: 正しいコマンドを待ちます。

オペレーターの応答: 16 進数を正しい形式で入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M357D REQUIRED SEQUENCE FIELD INVALID OR MISSING. ENTER CORRECT SEQUENCE NUMBER

説明: 挿入行または置き換え行の桁 73 から 78 のシーケンス番号フィールドが無効であるか、または欠落しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 新しい 6 桁のシーケンス番号を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M358I REPLACING DATA MUST BE A MULTIPLE OF 2 BYTES WHEN ALTERING A MODULE

説明: 再配置可能メンバーの訂正では、置き換えデータは 2 バイトの倍数になっていなければなりません。MSHP により生成される REP ステートメントが、この形式を必要とするためです。

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M359I "AFFECTS" AND "COMPRISES" STATEMENTS ARE MUTUALLY EXCLUSIVE

システムの処置: 入力か SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: AFFECTS か COMPRISES かどちらかのステートメントを用いて、影響を受けたメンバーを記述してください。

M360I CROSS-REFERENCE LIST OF APPLICABLE PTFS IS PRINTED ON SYSLST

説明: MSHP は適用 PTF のすべての内容を SYSLST に印刷出力します。その出力は、「RETRACE PTF」および「RETRACE APARS」形式です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M363D MOUNT SERVICE TAPE NO. *volumeno* AND MAKE THE TAPE-UNIT READY. ENTER "READY" TO CONTINUE OR ENTER "CANCEL" TO QUIT.

説明: "INSTALL SERVICE" コマンドで 2 つ以上のサービス・テープが指定されました。指示されたボリュームを取り付ける必要があります。最後のサービス・テープを取り付けた後にこのメッセージが発行された場合は、最初のサービス・テープを再度取り付けてください。

システムの処置: オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 「READY」を入力して続行するか、または「CANCEL」を入力してジョブを終了してください。

プログラマーの応答: なし。

M364D NOT ALL SERVICE TAPES PROCESSED, WHICH HAVE BEEN SCANNED BEFORE. MOUNT MISSING TAPE AND ENTER "READY" TO CONTINUE OR "CANCEL" TO QUIT.

説明: (メッセージ M089D に "GO" と応答した後の) 2 次スキャンは、適用可能 PTF のカタログ中にすべてのテープが再度取り付けられなければなりません。このメッセージは、サービス・テープの 2 次スキャン中に PTF が 1 つも見つからなかった場合に出されます。おそらく、1 つまたは複数のテープが 2 次スキャン時に取り付けられていなかったと思われます。「CANCEL」と応答する場合は、すべての適用可能 PTF には、サブライブラリーにすでに完全にカタログされているものも含めてヒストリー・ファイルに "FAIL" としてフラグが立てられます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 欠落しているテープを取り付けたあと、「READY」と入力してジョブを続行するか、または "CANCEL" と入力してジョブを終了してください。

プログラマーの応答: なし。

M365I INCORRECT SERVICE FILE. PTF *ptf* HAS INVALID // JOB STATEMENT.

説明: PTF のジョブ名は必ず PTF 番号にしなければなりません。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM サポートから正しいサービス・テープを受け取ってください。

M366I NO PTF FOUND ON SERVICE FILE

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: サービス・ファイルがテープにある場合は、正しいテープが使用されたか調べ、ディスクにある場合は、正しく作成されていたか調べてください。

M367I INCORRECT SERVICE FILE. PTF *ptf1* AND PTF *ptf2* SHARE A MEMBER, BUT THEIR SEQUENCE CANNOT BE DETERMINED

説明: あるメンバーを共用する PTF は、それらが適用される際の順序を REQUIRES か SUPERSEDES ステートメントで定義する必要があります。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: IBM サポートから正しいサービス・テープを受け取ってください。

M368I SYNTAX ERROR IN *xxx* FILE

説明: 上記のファイルに使用不能なジョブがあります。

システムの処置: そのジョブを無視して、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーのあるジョブは、SYSLST の印刷出力を調べれば、おそらく見分けが付きま。エラーのあるジョブを除外してまだ選択がすんでいないジョブを選択するためのジョブを作成し、システムに受け渡してください。

M369I CONTROL STATEMENTS OUT OF SEQUENCE IN *xxx* FILE

説明: 上記のファイルに使用不能なジョブがあります。

システムの処置: そのジョブを無視して、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーのあるジョブは、SYSLST の印刷出力を調べれば、おそらく見分けが付きま。エラーのあるジョブを除外してまだ選択がすんでいないジョブを選択するためのジョブを作成し、システムに受け渡してください。

M370I DISALLOWED CONTROL STATEMENT IN *xxx* FILE

説明: 上記のファイル中の制御ステートメントが、APPLY、REVOKE、または TAILOR 以外の機能のために MSHP を呼び出しています。

システムの処置: そのジョブを無視して、処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SYSLST の印刷出力をスキャンしてエラーのあるジョブを見つけ、訂正してください。

**M371I TOO MANY LINKAGE EDITOR
CONTROL STATEMENTS BEFORE PHASE
OR INCLUDE**

説明: PHASE または INCLUDE ステートメントの前に、7 つ以上の ACTION または ENTRY (あるいはその両方) ステートメントがあると PTF は使えません。スタック能力を超えています。

システムの処置: プログラムは取り消しを要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーのある PTF は、SYSLST の印刷出力を調べれば、おそらく見分けがつきます。エラーのある PTF を除外してまだ選択がすんでいない PTF を選択するためのジョブを作成し、システムに受け渡ししてください。

**M380I LOGICAL UNIT MUST BE SPECIFIED AS
"SYS" FOLLOWED BY THREE DIGITS**

説明: DEFINE HISTORY 明細ステートメントの中で、論理装置を *SYSmmn* の形式で指定しませんでした。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: UNIT = キーワードのあとに続く論理装置パラメーターを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M381I SPLIT CYLINDER NOT ALLOWED FOR
FBA**

説明: FBA 分割シリンダーを指定している DEFINE HISTORY 明細制御ステートメントが見つかりました。

システムの処置: ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーのあるステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M386I TOO MANY REQUIREMENTS

説明: REQUIRES 明細ステートメントが、89 以上の要件を指定しています。これは MSHP の実行限度を超えています。

メッセージ M408 と比較してください。

システムの処置: プログラムは取り消しを要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: REQUIRES ステートメントを明細制御ステートメントとして適用している機能は、SYSLST の印刷出力を調べれば見分けられます。選択済みの PTF でエラーが起きている場合には、エラーのある PTF を除いて、新たな INSTALL の受け渡しをしてください。

**M387I TOO MANY PTFS LISTED AS
SUPERSEDED**

説明: SUPERSEDES 明細ステートメントが、256 以上の PTF 廃止済みとして指定しています。これは MSHP の実行限度を超えています。

システムの処置: プログラムは取り消しを要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: SUPERSEDES ステートメントを明細制

御ステートメントとして適用している機能は、SYSLST の印刷出力を調べれば見分けられます。選択済みの PTF でエラーが起きている場合には、エラーのある PTF を除いて、新たな INSTALL の受け渡しをしてください。

M391I ONLY MACROS MAY BE SPECIFIED

説明: 現在の機能は、フェーズまたはオブジェクト・モジュールの処理用として要求されましたが、これはマクロにしか使用できません。

システムの処置: SYSIPT から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M392I THE SPECIFIED SEQUENCE OF
PROGRAMS TO BE INVOKED IS
INVALID**

説明: 新しいメンバーを生成しようとしたが、MSHP が呼び出すプログラムの指定順序が間違っています。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M393I ONLY TWO PROGRAMS CAN BE
INVOKED AT A TIME**

説明: 新しいメンバーを生成しようとしたが、MSHP が呼び出すプログラムとして指定したプログラムの数が多すぎます。

システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

**M394I THE SPECIFIED MEMBER CANNOT BE
GENERATED. INPUT FOR THE INVOKED
PROGRAM IS INVALID.**

説明: PHASE または CATALOG ステートメント中のフェーズ、モジュール、またはマクロの名前が、TAILOR ステートメント中に指定されたメンバー名と一致しません。見つかったステートメントを以下に示します。

システムの処置: 機能を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M395I INPUT DATA MISSING FOR PROGRAMS TO BE INVOKED

説明: 新しいメンバーを生成しようとしたが、指定されたプログラムについてのソース・データが与えられていません。
 システムの処置: 入力が SYSIPT から行われている場合にはジョブを取り消し、コンソールから行われている場合には処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M397I TAILORING FAILED DUE TO MISSING DATA

説明: 以下のいずれかです。

- KEEPDATA オプションを用いずに調整された既存のメンバーを再調整しようとした。
- 新しいメンバーを生成しようとしたが、必須の情報が欠けています。
- すでに最新の保守レベルになっているメンバーを再調整しようとした。

システムの処置: 機能を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 再調整したい場合には、もとの

TAILOR ジョブを、すべてのデータも含めて受け渡さなければなりません。

M403I END OF PTF FILE LEAVES PTF *ptf* INCOMPLETE

説明: 上記の PTF に終わりを示す /& ステートメントがなく、新しい PTF の始まりを // JOB ステートメントによって識別できない場合にこのメッセージが出ます。

システムの処置: MSHP は処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M405I OLD FORMAT PTF *ptf* CONTAINS NO JCL COMMENTS

説明: 上記の PTF は、変換に必要な情報の大部分が入っている JCL コメント・ステートメントがないために、新しい形式に変換することができません。

システムの処置: この PTF は適用されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 弊社に連絡して、新しい PTF を入手してください。

M406I OLD FORMAT PTF *ptf* AFFECTS MORE THAN ONE COMPONENT

説明: 上記の PTF に、この PTF が複数のコンポーネントに影響を与えることを指定した JCL 注釈があります。これは MSHP サポートと互換性がありません。

システムの処置: この PTF は適用されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M407I MORE THAN 32 PTFs SPECIFIED ON THE "SUPERSEDED" STATEMENT OF PTF *ptf*

説明: SUPERSEDED コメント・ステートメントに、33 番目の廃止済み PTF が指定されましたが、これは実行限度を超えています。メッセージ M387 と比較してください。

システムの処置: この PTF は適用されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 弊社の既知問題データベースの探索を弊社サポート・センターに依頼してください。

M408I MORE THAN 76 REQUISITES SPECIFIED ON THE "REQUISITE" STATEMENT.

説明: PTF の PREREQ、COREQ、および NPRES コメント・ステートメントに、77 以上の要件が指定されています。これは内部スタック容量を超えています。

システムの処置: この PTF は適用されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M409I INVALID SPECIFICATION ON THE "SUPERSEDED" STATEMENT OF PTF *ptf*

説明: 上記の PTF の SUPERSEDES コメント・ステートメントに、PTF 番号の形式に合った文字ストリングも NONE という語も入っていません。

システムの処置: 現時点以降、この SUPERSEDES コメント・ステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M410I INVALID SPECIFICATION ON THE "REQUISITE" STATEMENT OF PTF *ptf*

説明: 上記の PTF について、メッセージに示すコメント・ステートメントの 1 つに、PTF 番号の形式に合った文字ストリングも NONE という語もありません。

システムの処置: 現時点以降、該当のコメント・ステートメントを無視します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M411I MORE THAN 255 APARS SPECIFIED ON THE "APARS FIXED" STATEMENT OF PTF *ptf*

説明: APARS FIXED コメント・ステートメントで、解決済みとして参照されている APAR の数が 256 以上あります。これは内部スタック容量を超えています。

システムの処置: この PTF は適用されません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**M412I INVALID SPECIFICATION ON THE
"APARS FIXED" STATEMENT OF PTF *ptf***

説明: 上記の PTF の APARS コメント・ステートメントに、APAR 番号の形式に合わない文字ストリングが含まれていません。
システムの処置: 現時点以降、該当のコメント・ステートメントを無視します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M413I MORE THAN 6 RELEASES SPECIFIED
ON THE "APPLICABLE RELEASE"
STATEMENT OF PTF *ptf***

説明: 上記のコメント・ステートメントに、適用可能なものとして 7 つ以上のリリースを指定しています。これは実行限度を超えています。
システムの処置: この PTF は適用されません。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M414I INVALID SPECIFICATION ON THE
"APPLICABLE RELEASE" STATEMENT OF
PTF *ptf***

説明: 上記の PTF の APPLICABLE RELEASE ステートメントに、リリース番号の形式に合わない文字ストリングが含まれています。
システムの処置: 現時点以降、該当のコメント・ステートメントを無視します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M415I MSHP "/" DELIMITER FOUND BEFORE
END OF MEMBER**

説明: データの終了探索中に、区切り記号 "/" が見つかりました。適用 PTF が正しくありませんでした。
システムの処置: ジョブは取り消されます。
オペレーターの応答: 失敗について、担当のシステム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: 弊社のサポート・センターに助言を求めてください。

M416I PTF *ptf* NOT FOUND ON FILE

説明: PTF ファイルにある PTF ジョブはどれも、名前が PTF 明細ステートメントで指定された PTF と一致していません。
システムの処置: なし。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: 必要とする PTF のつづりを確かめ、正しくなければ訂正し、正しい PTF ファイルが使用されているか確かめてください。そのあとで、最初には見付からなかった PTF に対するジョブのサブミットを出し直してください。

M417I // JOB STATEMENT INSIDE PTF *ptf*

説明: 上記の PTF の /& ステートメントを PTF ファイル内で探しているときに、SELECT 機能または ACCEPT 機能が、// JOB ステートメントを見つけました。
システムの処置: この PTF は適用されません。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M419I MEMBER *membername.memberbtype* ALREADY
GENERATED FOR COMPONENT
*component***

説明: 新しいメンバーを生成しようとしたが、同じ名前が付いたメンバーがすでに存在します。
システムの処置: MSHP による処理は中止されます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

**M420D GENERATED MEMBER
membername.memberbtype ALREADY EXISTS
FOR COMPONENT *component*. ENTER
"APPLY" TO CONTINUE OR ENTER
"REJECT"**

説明: 新規メンバーを生成しようとしたが、同じ名前のメンバーがすでに存在しています。MSHP では、新規メンバーの適用、旧メンバーの削除、新規メンバーの拒否、旧メンバーの保存を行うことができます。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: APPLY または REJECT を入力してください。
プログラマーの応答: なし。

**M421D MEMBER *membername.memberbtype* WILL
OVERWRITE LOCAL/APAR FIX *fix* IN
COMPONENT *component*. ENTER "APPLY"
TO CONTINUE OR ENTER "REJECT"**

説明: 生成中のメンバーを修正するローカル修正または APAR 修正が見つかりました。MSHP では新規メンバーの作成、修正の削除、新規メンバーの拒否、修正の保存を行うことができます。
システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
オペレーターの応答: APPLY または REJECT を入力してください。
プログラマーの応答: なし。

**M422D MEMBER *membername.memberbtype* WILL
OVERWRITE PART OF LOCAL/APAR FIX
fix IN COMPONENT *component*. MAKE
SURE THAT CONTINUING DOES NOT
DESTROY YOUR SYSTEM. ENTER
"APPLY" TO CONTINUE OR ENTER
"REJECT"**

説明: 他のメンバーと同様に生成されているメンバーに影響のあるローカル修正または APAR 修正が見つかりました。MSHP は新規メンバーの作成、修正の無効化、生成の拒否を行

うことができます。無効な修正の修復または UNDO を忘れずに行ってください。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: APPLY または REJECT を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M423I MEMBER *membername.membertype* WILL OVERWRITE PTF *ptf* IN COMPONENT *component*

説明: PTF の影響を受けているメンバーを生成しようとしてしました。生成は不可能です。

システムの処置: 機能を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M424I FOLLOWING GENERATED MEMBERS ARE AFFECTED BY THE APPLIED SERVICE. RE-GENERATION IS NEEDED TO ACTIVATE SERVICE

説明: 生成されたメンバーにサービスされたマクロが含まれています。サービスを活動化するためには、以下にリストするメンバーを再生成しなければなりません。再生成が必要なのは、システムの実行で実際に使用されるメンバーだけです。(例えば、実際に使用中の監視プログラムだけを再生成すればよいわけです。)

システムの処置: メッセージ M425I を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M425I MEMBER *membername.membertype* IN COMPONENT *component*

説明: このメッセージは、生成済みのメンバーで、適用されたサービスの影響を受けるものをすべてリストします。少なくとも使うつもりメンバーだけは再調整が必要です。これは M424I の補足メッセージです。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M426D PTF *ptf* WILL OVERWRITE GENERATED MEMBER *membername.membertype*. ENTER "APPLY" TO CONTINUE OR ENTER "REJECT"

説明: コンポーネントの組み込み、または生成メンバーを上書きする PTF の適用を行おうとしてしました。MSHP では、サービスの適用、生成メンバー項目の除去、サービスの拒否が許可されています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: APPLY または REJECT を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

M427I TAILOR JOB FOR MEMBER *membername.membertype* OF COMPONENT *component* NOT FOUND IN GENERATION FILE

説明: メンバーを生成しようとしてしましたが、該当する TAILOR ジョブが生成ファイルの中にありませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M428D ASSEMBLY MAY HAVE FAILED. CHECK DIAGNOSTICS BEFORE CONTINUING. ENTER 'APPLY' TO CONTINUE OR ENTER 'REJECT'.

説明: 呼び出された ASSEMBLY プログラムがエラー・メッセージまたは警告メッセージを出しました。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: APPLY または REJECT を入力してください。

プログラマーの応答: リストを調べて、続行するかどうかを決めてください。

M429I NO MEMBER FOUND MATCHING SPECIFIED GENERIC NAME

説明: 1 グループのメンバーを作成しようとしてしましたが、ヒストリー・ファイルの中に該当するメンバーがありませんでした。名前のつづりが間違っていると思われます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M430I MEMBER *membername.membertype* OF COMPONENT *component* BEING GENERATED

説明: 指定されたメンバーの再生成が進行中です。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M431I BACK LEVEL MACROS HAVE BEEN INCLUDED BY THE ASSEMBLY PROGRAM

説明: 新しいメンバーを生成しようとしてしましたが、ASSEMBLY プログラムが、最新サービス・レベルにないマクロを組み込んでいました。

システムの処置: 機能を打ち切ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: (モジュールを追跡し直して) 組み込まれているバックレベル・マクロを調べ、該当のマクロを生成し直してください。

M432I *file* HISTORY FILE RECORD CONTAINS
INVALID RBA *pppppp*. LAST VALID RBA
WAS *pppppp*

説明: MSHP が、示された履歴・ファイル (システムまたは補助) 内に無効なポインターを検出しました。この履歴・ファイルは破壊されています。

システムの処置: MSHP 処理を続行し、戻りコードを 8 に設定します。続いてメッセージ 4n36I を出す場合は、ジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 履歴・ファイルのバックアップを利用できる場合は、それを使用してください。それ以外の場合、履歴・ファイルを再編成することができます。

- BAM スペースに補助履歴・ファイル IJSYS02 の DLBL/EXTENT 情報を定義して、以下の MSHP ジョブ・ステップを実行します。

```
// EXEC MSHP
CREATE HIST AUX
COPY HIST SYS AUX
CREATE HIST SYS
MERGE HIST AUX SYS
/*
```

これが役に立たない場合は、IBM サポートに連絡してください。

M500I DIALOG MESSAGES FOR LOOKUP

説明: このメッセージには MSHP LOOKUP 情報が入っています。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

M501I CORRECT FUNCTION NOT ALLOWED
FOR SPECIFIED MEMBER TYPE

説明: タイプ PROC または HTML のメンバー用にローカル/APAR 修正をインストールすることはできません。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

M502I TAILOR FUNCTION NOT ALLOWED FOR
SPECIFIED MEMBER TYPE

説明: タイプ PROC または HTML のメンバーを生成できません。

システムの処置: カード読取装置から入力された場合には、ジョブを取り消します。コンソールからの場合は、当該ステートメントを無視して処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: このステートメントを訂正し、ジョブを再サブミットしてください。

第 27 章 接頭部 P の 3800 印刷装置メッセージ

P000I UNABLE TO OBTAIN VIRTUAL STORAGE, UTILITY TERMINATED

説明: IEBIMAGE プログラムが作業域として使用するためのユーザー GETVIS ストレージを取得しようとした。要求したストレージは使用不可能でした。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは中止されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントにおける SIZE の指定および区画のサイズによって、プログラムに必要なストレージが得られるようにしてから、ジョブを再実行してください。

P001I IEBIMAGE UTILITY COMPLETE. RETURN CODE = *nn*

説明: このユーティリティの実行は完了しました。戻りコードは、要求された操作のいずれかのうちの最大の重大度を示しています。

00 = 要求された操作が正常に完了しました。

04 = 操作が実行されました。例外条件に関するメッセージを調べる必要があります。

08 = 操作は実行されませんでした。

12 = プログラムは正常に終了しませんでした。

システムの処置: IEBIMAGE の処理は中止されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 戻りコードが「08」またはそれよりも大きい場合には、先行のメッセージを見てエラー状態を調べ、必要に応じて訂正を行ってからジョブを再実行してください。

P002I PHASE *phasename* WILL BE ADDED/REPLACED IN DIRECTORY

説明: 指定のフェーズが使用可能となり、アクセス可能なライブラリーに記憶できるようになりました。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは、引き続き次の制御ステートメントを処理します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

P003I PHASENAME *phasename* FOUND IN SYSTEM/PRIVATE LIBRARY

説明: このフェーズ名は、表示されたライブラリー内で検出されました。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

P004I A PRIVATE LIBRARY IS CURRENTLY ASSIGNED

説明: IEBIMAGE プログラムは実行中です。このプログラムにより、専用ライブラリーが LIBDEF ステートメントで割り当てられたか定義されたかのいずれかであることが検出されまし

た。このプログラムでは、すべてのオブジェクト出力が専用ライブラリーに送られることを想定しています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

P005I FCB SPECIFICATION BEYOND RANGE OF FORM

説明: FCB 制御ステートメントで与えられたキーワードは、FCB イメージの最後の印刷可能行を超えて、チャンネル制御を指定しました。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: FCB 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P006I PARAMETERS SPECIFIED IN (LOC) KEYWORD RESULT IN X(FF), AN UNPRINTABLE CHARACTER

説明: TABLE 操作の処理中に、4 番目の WCGM の最終桁を使うように LOC キーワードで指定されました。例えば、パラメーター・グループ (23, 3F, 03) がこの例としてあげられます。WCGM '03' に対する '3F' 索引は、印刷不能の文字を表すために予約されています。このメッセージは文字配列テーブルの構成を妨げるものではありませんが、この文字は使われても印刷されません。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは、引き続き次の制御ステートメントを処理します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 印刷不能な文字が必要な場合には、例えば LOC=23 のように、文字配列テーブルの位置だけを指定してください。印刷可能な文字を指定したければ、WCGM または CGMID の参照を変更してジョブを送り直してください。

P007I MODULE EXCEEDS MAXIMUM SIZE

説明: 制御ステートメントの指定で、上限を超えた大きさのモジュールの生成が要求されました。

COPYMOD の最大サイズは 8177 バイトであり、GRAPHIC の最大サイズは 64 セグメントです。FCB の場合、LPI キーワードで指定した行数が、SIZE キーワードで指定された行数を超えています。

システムの処置: IEBIMAGE は引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作のオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: COPYMOD ステートメントを指定し直して、ストレージの使い方を最適化してください。

'GRAPHIC'で 64 セグメントを超えたサイズが必要な場合、'GRAFMODS' を 4 つまで作成するか、あるいはこれらの名前を該当の文字配列テーブル内に含めることができます。FCB の場合、SIZE キーワードが最大行数を決定します。制御ステートメントを指定し直して、ジョブを再実行してください。

P008I NO PHASE NAME SPECIFIED

説明: NAME 制御ステートメント、あるいは NAME または INCLUDE ステートメント内の名前が指定されていません。システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: (1 文字から 4 文字までの) 抜けている名前を指定して、ジョブを再実行してください。

P009I DUPLICATE PHASE NAME FOR *phasename* FOUND IN (SYSTEM|PRIVATE) LIBRARY

説明: 表示された名前のライブラリーにフェーズを追加するように要求されましたが、このライブラリーの登録簿には、追加すべきフェーズと同一の名前がすでに含まれています。システムの処置: REPLACE=NO が指定された場合またはデフォルト値として用いられる場合、新しいフェーズは、同じ名前のフェーズが入っているライブラリーには追加されません。IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理します。要求があれば、SYSPCH 出力は妨げられません。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: 追加すべきメンバーの名前を変更するか、あるいは、現在ライブラリーに入っているメンバーがもはや必要でない場合は、NAME 制御ステートメント内で REPLACE=YES を指定してください。ジョブを再実行してください。

P010I PHASE *phasename* NOT FOUND

説明: ユーティリティー制御ステートメントの処理中に、表示された名前がライブラリー登録簿の中から見つかりませんでした。システムの処置: IEBIMAGE プログラムは処理を続けます。現在の操作に関するオブジェクト出力は妨げられるかもしれません。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: 指定した名前が正しいものであることを確認してください。アクセスされたライブラリーの最新の DSERV 出力を見て、このフェーズがカタログされたかどうか調べてください。必要があればジョブを再実行してください。

P011I FCB NOT MULTIPLE OF 1/2 INCH

説明: LPI キーワードで、6、8、および 12 インチ/行が組み合わされて指定され、それぞれに指定された合計行が 2 分の 1 インチの倍数になっていません。システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: LPI キーワードの指定を訂正し、ジョブを再実行してください。

P012I CONTINUATION INVALID

説明: 制御ステートメントが継続されましたが、継続行の最初の文字位置がブランクになっていません。システムの処置: IEBIMAGE プログラムは、この制御ステートメントを新たな制御ステートメントとして処理し直します。現在の操作に関するオブジェクト出力は抑止されます。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。

- 継続を示す制御ステートメントを変更してください (文字位置 72 がブランクになっていないか、最後のキーワード値に続くコンマになっていないかのいずれかです)。
- 継続行が正しく指定されるようにしてください。

ジョブを再実行してください。

P013I PREVIOUS INCLUDE STATEMENT INVALID FOR THIS OPERATION, IT IS IGNORED

説明: INCLUDE 制御ステートメントは、FCB 制御ステートメントまたは印刷専用の要求に先行する場合には、無効であり無視されます。複数の INCLUDE ステートメントが存在する場合、IEBIMAGE プログラムは最後の INCLUDE ステートメントだけを使います。システムの処置: IEBIMAGE プログラムは、引き続き次の制御ステートメントを処理します。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: 不要の INCLUDE ステートメントを削除し、必要があればジョブを再実行してください。

P014I PARAMETER(S) INVALID FOR KEYWORD *keyword*

説明: 表示されたキーワードに指定された値には、誤りがあります (例えば、文字が多すぎる、値が多すぎる、あるいは入力のエラーなど)。システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: エラーのある指定を訂正して、ジョブを再実行してください。

P015I KEYWORD *keyword* INVALID FOR THIS OPERATION

説明: 表示されたキーワードは、現在の操作に関しては無効です。システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。オペレーターの応答: なし。プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再度サブミットしてください。

P016I OPERATION INVALID

説明: 要求された操作が誤って指定されているか、あるいは正しい順序で指定されていないかのいずれかです。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 影響を受けた制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P017I INVALID CONTROL CARD FORMAT

説明: 次のいずれか 1 つの理由により、現在処理されている制御ステートメントは無効です。

- ラベルが正しくありません。
- データが含まれていません。
- ブランクになっています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 影響を受けた制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P018I INVALID SEQUENCE FOR INITIAL COPY NUMBER IN SEGMENT *segment-no.*

説明: IEBIMAGE ユーティリティ以外のプログラムで組み込まれたか、または変更された既存モジュールの示されたセグメントが、前のセグメントより低い初期複製番号になっています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 該当セグメントの削除には、DELSEG キーワードの INCLUDE 制御ステートメントを使用してください。

P019I NO STORAGE AVAILABLE TO LOAD *phasename*

説明: 表示されたフェーズをロードするために、8K のユーザー GETVIS ストレージを取得しようとしたのですが、要求されたストレージ・スペースは使用できません。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: EXEC ステートメントの SIZE の指定および区画のサイズによって、プログラムに必要なストレージが得られるようにしてから、ジョブを再実行してください。

P020I OPTION(S) IN EFFECT *optionlist*

説明: IEBIMAGE プログラムの実行には、メッセージで表示されたオプションが有効です。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは、引き続き次の制御ステートメントを処理します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

P022I INVALID CHARACTER IN CARD COLUMN *number*

説明: 現在処理中の制御ステートメントにおける表示された桁(文字位置)で、予想外の文字が見つかりました。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 影響を受けた制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P023I DUPLICATE OR MUTUALLY EXCLUSIVE KEYWORD *keyword* FOR OPERATION

説明: 表示されたキーワードが 2 回以上指定されたか、あるいは他のキーワードまたは要求された操作と矛盾しています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 影響を受けた制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P024I SEGMENT NUMBER *number* NONEXISTENT

説明: 表示されたセグメント番号は、参照されたモジュール内のセグメント数よりも大きくなっています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: DELSEG または REF のセグメント番号の指定を訂正して、ジョブを再実行してください。

P025I INSUFFICIENT KEYWORD INFORMATION TO COMPLETE OPERATION

説明: 必要なキーワードが指定されていなかったために、要求された操作を正常に完了させることができませんでした。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 必要なキーワードがすべて指定されていることを確認したあとで、ジョブを再実行してください。

**P026I INVALID USE OF DELIMITER IN
KEYWORD *keyword***

説明: 現在処理中の制御ステートメントの中で使われているコンマまたは括弧が、表示されたキーワードに関する指定における他の区切り文字と正しく関連していないことが、IEBIMAGE プログラムによって検出されました。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 影響を受けた制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P027I NO OPERATION DEFINED

説明: 現在処理中の NAME 制御ステートメントは、操作制御ステートメント (FCB、COPYMOD、TABLE、および GRAPHIC のうちの 1 つ) の直後に続いていません。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントの順序を訂正して、ジョブを再実行してください。

P029I PHASE NAME INVALID

説明: 指定した名前が、4 文字を超えています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

**P030I GRAPHIC DATA EXCEEDS RANGE OF
PITCH IN SEGMENT *segment-no.***

説明: GRAPHIC データ・ステートメントで指定されたデータが、ASSIGN キーワードで指定されたピッチの限界外のビットの文字を作成することを要求しました。この文字の定様式印刷においては、誤りのある各文字の代りに円記号 (¥) が印刷されます。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

**P031I NO VALID INPUT DATA FOR GRAPHIC
ASSIGN**

説明: ASSIGN キーワードで指定した GRAPHIC 操作のあとに、25 桁目から 28 桁目までに SEQ= を指定したデータ・ステートメントが続いていません。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御

ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 正しいデータ・ステートメントを入れて、ジョブを再実行してください。

P032I SIZE OF FORM IS *number* INCHES

説明: FCB の用紙サイズは、インチおよび 10 分の 1 インチ単位で印刷されます。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは、引き続き次の制御ステートメントを処理します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**P033I SEGMENT *seg-no.* COPY *copyno* LINE *lineno*
MAY CREATE A LINE OVERRUN
CONDITION IF PREVIOUS LINE IS
PRINTED AT *no.-per-inch***

説明: 指定されたコピー変更機能モジュールが使用された場合、表示されたセグメントは、先行のすべてのセグメントと結合して、印刷装置のオーバーラン状態を起こす可能性があります。8 行/インチだけが影響を受ける場合には、このセグメントは 6 行/インチで機能します。

定様式のリストでは、対応するセグメント *n* は NOTE(*n*) のフラグが付きます。この *n* は、次の事柄を示す 1 から 3 までの値です。

1 = 少なくとも 1 つの 12 行/インチのオーバーランを示します。

2 = 少なくとも 1 つの 8 行/インチのオーバーランを示します。

3 = 少なくとも 1 つの 6 行/インチのオーバーランを示します。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは、引き続き次の制御ステートメントを処理します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: COPYMOD ステートメントを指定し直して、各セグメントが先行のセグメントと結合した場合に、使用に適するようにしてください。制約条件に関する解法については、「IBM 3800 漢字印刷サブシステム解説書」の『コピー変更機能の制約』の項を参照してください。今後このメッセージが出ないようにするために、OPTION ステートメントで OVERRUN キーワードを指定することもできます。

**P034I CHARACTERS SPECIFIED IN TEXT
KEYWORD RESULT IN HEXADECIMAL
(FF)**

説明: TEXT キーワードにおける指定によって 16 進数 FF が作られる場合、その指定は無効です。16 進数 FF は、コピー変更機能テキスト内でコピー因数を表す目的で使うために予約されています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

P035I UNBALANCED PARENTHESIS IN KEYWORD *keyword*

説明: 表示されたキーワードの指定で、右括弧の数と左括弧の数が一致していません。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P036I DUPLICATE CHANNEL SPECIFICATION FOR PRINT LINE *line-number*

説明: 同じ印刷行に対して 2 つ以上のチャンネル指定が要求されました。(例えば、CH1=10、CH2=10)

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P037I REFERENCES TO NONEXISTENT CGMID WITHIN TABLE

説明: 現在使われている文字配列テーブル内の 1 つまたは複数の個所で、テーブルの後書き部分において定義されていない CGMID に対する参照が行われています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P038I TABLE REFERENCES NO PRINTABLE CHARACTERS

説明: 文字配列テーブルが作成または修正された結果、テーブル内の 256 個所すべてで、印刷不可能な文字 'X'FF' が参照されるようになりました。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P039I INVALID PARITY IN SEGMENT *segment-no.*

説明: IEBIMAGE ユーティリティ以外のプログラムによって作成または修正された図形文字変更モジュールの中で、表示

されたセグメントのパリティが正しくないことが検出されました。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のような制御ステートメントを使って、モジュールを作り直してください。

DELSEG キーワードを指定した INCLUDE

ASSIGN キーワードのあとにデータ・ステートメントを指定した GRAPHIC

P040I INCONSISTENT PITCH WITHIN SEGMENT *segment-no.*

説明: IEBIMAGE ユーティリティ以外のプログラムによって作成または修正された図形文字変更モジュールの中で、表示されたセグメントのピッチが矛盾していることが検出されました。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 次のような制御ステートメントを使って、モジュールを作り直してください。

DELSEG キーワードを指定した INCLUDE

ASSIGN キーワードのあとにデータ・ステートメントを指定した GRAPHIC

P041I PREVIOUSLY USED EBCDIC ASSIGNMENT IN SEGMENT *segment-no.*

説明: 図形文字変更モジュール内のセグメントが、以前にこのモジュールで使われたセグメントと同じ値を割り当てられています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは、引き続き次の制御ステートメントを処理します。ただし、もしもこのモジュールが後で使用された場合、印刷装置では重複した最後の割り当て値だけが使われます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: システムによるデフォルト値が受け入れられない場合には、下に示すような制御ステートメントを使って、モジュールを作り直してください。

DELSEG キーワードを指定した INCLUDE

ASSIGN キーワードのあとにデータ・ステートメントを指定した GRAPHIC

P042I MODULE NOT ADDED TO LIBRARY, ERROR(S) LISTED

説明: このステートメント以前のエラーにより、このユーティリティが、現在の操作で指定されたモジュールを使ってライブラリーを更新することができなくなっています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

P043I • P104I

プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

P043I IN SEGMENT *segment-no. keyword* SPECIFICATION BEYOND RANGE OF MAXIMUM VALUE

説明: 次のオペランドのいずれか 1 つに関して、表示された上限の値を超えた指定が行われています。

COPY 255
LINE 132 (下記の「注:」を参照)
TEXT 204

注: IEBIMAGE ユーティリティでは行指定を 132 まで許容していますが、これは ISO 用紙サイズを用いる 3800 の場合に有効です。一般に用いられる用紙サイズの場合にこの値が 120 を超えると、入力は使われません。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: エラーを訂正して、ジョブを再実行してください。

P044I SEQUENCE NUMBER INVALID OR PREVIOUSLY USED

説明: データ・カードのシーケンス番号が次のいずれかになっていることを、IEBIMAGE プログラムが検出しました。

- 1 よりも小さいかあるいは 24 を超えています。
- 一連のデータ・ステートメント内で先に使われた番号と等しくなっています。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: データ・カードを訂正して、ジョブを送り直してください。

P048I DUPLICATE TABLE REFERENCE FOR LOCATION *location*

説明: 文字配列テーブル内の同一個所に 2 つ以上の指定が行われていることを、IEBIMAGE プログラムが検出しました。しかし、それぞれの参照は固有でなければなりません。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは引き続き次の制御ステートメントを処理しますが、現在の操作に関するオブジェクト出力はありません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 制御ステートメントを訂正して、ジョブを再実行してください。

P049I NO CHANNEL 1 CODE HAS BEEN SPECIFIED

説明: チャンネル 1 のコードを持たない FCB が作成されました。

この FCB は使用可能ですが、印刷中にチャンネル 1 へのスキッ

プを実行すると、ブロック化不可能のデータ・チェックが起きます。

システムの処置: IEBIMAGE プログラムは処理を続けます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: チャンネル 1 へのスキップを要求しないプログラムだけでこの FCB が使われるようにしてください。

P100I *cuu*, BURST=*x*, CHARS=*name*, FCB=*name*, FLASH=*name*, FORMS=*name* MODIFY=*name*

説明: LIST オプションとともに SETDF コマンドが指定されました。LIST キーワードは、印刷装置用のデフォルトの設定をコンソールに表示します。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 3800 印刷装置のデフォルトの設定を検査し、必要に応じてそれらを訂正してください。

プログラマーの応答: なし。

P101I INVALID MESSAGE CODE

説明: SETDF アテンション・ルーチンのエラー・メッセージ・テーブルに含まれていないエラー・コードが設定されました。おそらくシステム・エラーと思われます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: このメッセージが繰り返されるようであれば、既知問題データベースの探索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

P102I NO PARAMETERS SPECIFIED

説明: 送られた SETDF コマンドがキーワードを含んでいないか、あるいはキーワード LIST または RESET だけを含んでいます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 必要があれば、有効なキーワードを指定して、SETDF コマンドを送り直してください。

プログラマーの応答: なし。

P103I INVALID KEYWORD OR PARAMETER

説明: 指定されたキーワードまたはキーワードに関して指定された値にエラーがあります。

システムの処置: 特定のデフォルト値の設定は変更されずに残ります。処理を続行します。

オペレーターの応答: 正しいキーワードと値を指定して、SETDF コマンドを送り直してください。

プログラマーの応答: なし。

P104I ERRONEOUS DELIMITER OR OPERAND FOR *keyword*

説明: 表示されたキーワードに関する区切り文字またはオペランドにエラーがあります。

システムの処置: 特定のデフォルト値の設定は変更されずに残ります。処理を続行します。

オペレーターの応答: 正しい区切り文字またはオペランドを指

定して、SETDF コマンドを送り直してください。

プログラマーの応答: なし。

P105I UNKNOWN DEVICE ADDRESS

説明: 以下のいずれかです。

- 現在処理中の SETDF コマンドで、誤った装置アドレスが指定されました。
- システムのスタートアップ時に、装置アドレスの指定が正しくなかったか、あるいは指定がまったく行われませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 以下のいずれかです。

- 誤った装置アドレスを指定した場合には、正しい装置アドレスを指定して SETDF コマンドを送り直すか、あるいは
- 次のシステム・スタートアップ時に、装置が (ADD コマンドによって) システムに正しく定義されていることを確認してください。

プログラマーの応答: なし。

P106I DEVICE NOT A 3800

説明: 指定されたアドレスにある装置が 3800 印刷装置ではありません。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: 有効な装置アドレスと装置タイプを指定して、SETDF コマンドを送り直してください。

プログラマーの応答: なし。

P107I INVALID OR NO UNIT SPECIFICATION

説明: SETDF コマンドが送られましたが、装置の指定が無効か、あるいは指定が行われていません。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: 正しい装置アドレスを指定して、SETDF コマンドを送り直してください。

プログラマーの応答: なし。

P108I SETDF FAILED FOR DEVICE *cuu*

説明: 表示された装置に関する SETDF コマンドの処理が失敗しました。おそらくシステム・エラーと思われれます。

システムの処置: 処理を続行します。

オペレーターの応答: メッセージをプログラマーに報告してください。

プログラマーの応答: このメッセージが繰り返されるようであれば、既知問題データベースの探索を弊社に依頼してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

P109I DUPLICATED KEYWORD FOR *keyword*

説明: 表示されているキーワードは、現在処理中の SETDF コマンド内で 2 回以上指定されています。

システムの処置: 特定のデフォルト値の設定は変更されずに残ります。処理を続行します。

オペレーターの応答: キーワードの重複を避けて、SETDF コマンドを送り直してください。

プログラマーの応答: なし。

P200I 3800 PRINTER EXTENDED BUFFERING MODE NOT USED - REASON CODE=*nn*

説明: システムで、3800 印刷装置用の拡張バッファ・モードを使うことができません。理由はコード (*nn*) で示されています。これには以下のようなものがあります。

01 = 区画 GETVIS のスペースが不十分

02 = SETPRT または QSETPRT 操作の失敗

03 = IJDANCHX に関する CDLOAD 要求の失敗

04 = IJDPR3 に関する CDLOAD 要求の失敗

システムの処置: 処理は続けられますが、拡張バッファ・モードによるパフォーマンス向上は得られません。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 理由コードが 01 の場合には、EXEC ステートメントを変更して SIZE に対してより小さな値を指定するか、より大きな区画を使用してください。

理由コードが 01 以外の場合には、このメッセージが繰り返されるようであれば、既知の問題に関するデータベースを探索するよう弊社に連絡してください。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

P201I AUTOMATIC CLOSING OF PRINTER FILES WAS UNSUCCESSFUL

説明: システムは 1 つ以上の印刷装置ファイルをクローズするのに失敗しました。

印刷装置ファイルの自動クローズ・ルーチンはジョブ・ステップの終わりに、制御権を受け取りました。このルーチンには以下の場合にプログラムがクローズしなかった印刷装置ファイルをクローズします。

- 印刷装置が IBM 3800 で、ファイルが拡張バッファ・モードでオープンされた。
- 印刷装置が IBM 4248 である。

この結果、システム自動ファイル・クローズ・ルーチンには、ファイルをクローズするために必要な情報に欠けています。IBM 3800 印刷装置の場合、拡張印刷バッファの中でのデータが印刷されずに残っていることを意味します。例えば、IBM 3800 に対してプログラムがファイルをオープンして次のことをしようとしたときに起きます。

1. いくつかの PUT マクロを出し
2. そのファイルの制御 (DTF) ブロックで使われたストレージを再使用し
3. ファイルをクローズしないで終了しようとしたときです。

システムの処置: ジョブの終了段階の処理が続けられます。ただし IBM 3800 の場合、印刷装置拡張バッファに残ったデータは印刷されないことがあります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムがオープンする各印刷装置ファイルに対する CLOSE 要求が、プログラムに含まれていることを確認してください。すでに CLOSE 要求が存在する場合には、

- 要求を出す前に、影響を受けるファイルの DTF ブロックを重ね書きあるいは破壊しないようにして、

- 印刷装置ファイルに対する出力中にリカバリー不能エラーが起きて、CLOSE 要求を出してください。

P300D *cuu* **SETUP REQUIRED [FORMS=number]
[THREAD=(BTS|CFS)] [FLASH=name]
REPLY GO OR CANCEL**

説明: 指定されたアドレス (*cuu*) の 3800 で、オペレーターの処置が必要です。用紙、用紙スレッド、または書式オーバーレイ枠、あるいはこれらの組み合わせを変更すべきです。メッセージで触れていない項目については変更の必要がありません。使用する用紙または書式オーバーレイ枠は、位置によって異なります。メッセージ中で表示された場合は、それぞれ以下を表します。

BTS = 用紙切り離し・縁取り・スタッカー機構

CFS = 連続用紙スタッカー

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のいずれかを行ってください。

- このメッセージで要求されたすべての処置を行って GO で応答してください。これにより、システムは (要求された) 新しい印刷装置セットアップで処理を続けます。
- 要求された処置をどれも行わず、CANCEL で応答してください。ジョブ制御が印刷装置の設定を要求していれば、システムはジョブを取り消し、要求がユーザー作成プログラムで出されていれば、戻りコード X'18' およびメッセージ

P306I が現れ、このプログラムに制御権が再び渡されます。

プログラマーの応答: ジョブが取り消された場合には、オペレーターが適切な実行命令を受け取ったことを確認してから、ジョブを再実行してください。

P301I *cuu* **BURSTING REQUESTED-FEATURE
NOT INSTALLED -- RC=00000004**

説明: アドレス *cuu* にある 3800 (BURST=Y が指定されている) の用紙切り離し・縁取り・スタッカーに用紙を装着することを要求する SETPRT (または QSETPRT) が送られました。しかし、この 3800 には、用紙切り離し・縁取り・スタッカー機構がインストールされていません。おそらく、システムのスタートアップ時に 3800 がシステムに正しく定義されていません。

システムの処置: この状態が原因となって、戻りコード X'04' がセットされ、システムは残っているデフォルト・セットの要求の処理を続けます。ただし、この要求がジョブ制御によって出された場合には、そのシステム・プログラムは戻りコードを無視します。

オペレーターの応答: 用紙切り離し・縁取り・スタッカー機構がインストールされていないにもかかわらず、BURST に対するシステムのデフォルト値が Y にセットされている場合には、SETDF コマンドを使ってデフォルト値を N (このようなスタッカーには装着しません) に変更してください。

プログラマーの応答: 表示された 3800 印刷装置がこのスタッカーを備えていない場合には、縁取りと切り離しを要求しないようにするか、あるいはこのスタッカーを備えた別の 3800 印刷装置を使ってください。3800 がスタッカーを備えている場合には、システムのスタートアップ時に次のような形式の ADD コマンドを使って、この印刷装置がシステムに正しく定

義されていることを確認してから、ジョブを実行し直してください。

ADD *cuu*, (3800B|3800BC)

P302I *cuu* **INVALID DEVICE TYPE ASSIGNED --
RC=00000008**

説明: 3800 または PRT1 印刷装置以外の装置に対して、SETPRT または QSETPRT が送られました。メッセージ中の *cuu* は、この装置のアドレスを示します。

システムの処置: この状態が原因となって、戻りコード X'08' がセットされ、処理が続けられます。ただし、この要求がジョブ制御によって出された場合には、そのジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 装置指定を検査し、必要に応じて訂正を行ってジョブを実行し直してください。

P303I *cuu* **INVALID SETPRT PARAMETER LIST
-- RC=0000000C**

説明: 表示されたアドレスの印刷装置に関して、次の 1 つまたは複数の状態を示すパラメーター・リストを伴う SETPRT または QSETPRT が送られました。

- 最初のバイトに X'44' が入っていません。
- 論理装置が指定されていません。
- リストがワード境界上にありません。
- 予約されたフィールドの 1 つに 2 進数のゼロが入っていません。

おそらく、パラメーター・リストが SETPRT または QSETPRT マクロの指定で作成されたものではないか、このリストがワード境界上にない区域にコピーされたか、あるいはプログラムの実行時にオーバーレイされた可能性があります。

システムの処置: 要求された処置はどれも行われません。この状態が原因となって戻りコード X'0C' が設定されます。処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムを訂正して、正しいパラメーター・リストが渡されるようにしてから、ジョブを実行し直してください。

P304I *cuu* **PHASE phasename (NOT FOUND IN
LIBRARY|HAS INVALID FORMAT) --
RC=ggcctf10**

説明: アドレス *cuu* にある 3800 印刷装置に対して SETPRT が出されました。表示された制御フェーズは次のいずれかになっています。

- アクセス可能な専用またはシステム・ライブラリーの中から見つかりませんでした。
- 見つかりましたが、形式が無効でした。

名前が表示されたフェーズの最初の 4 文字は、次のいずれかの可能性があります。

FCB1 = 用紙制御バッファ - FCB オペランドが指定されました。

GRF1 =
図形変更 - これが CHARS キーワードとともに、あるいは MODIFY の 2 番目の値として指定されました。

MOD1 =
コピー変更機能 - MODIFY オペランドが指定されました。

XTB1 = 文字配列テーブル - CHARS キーワードとともに、あるいは MODIFY の 2 番目の値として指定されました。

「フェーズ」内の残りの文字は要求された名前です。

この状態が原因となって、戻りコードが設定されます。このコード内のバイト 2 (*tt*) は、次のような要求されたタイプを表しています。

04 = 用紙制御バッファ
08 = コピー変更機能
0C = 文字配列テーブル
10 = 図形文字変更機能

tt が 04 または 08 の場合、*ggcc* は 0000 にセットされます。

tt が 0C の場合:

gg = 00
cc = テーブルの番号:
01 (1 番目の場合)、02 (2 番目の場合)、
など。
05 (テーブルが CHAR キーワードではなく、
MODIFY キーワードを指定して
要求された場合。)

tt が 10 の場合:

gg = 検出されなかった GRAPHIC 文字の
変更フェーズ (*graphmod*) の
数。
cc = *graphmod* が要求された文字配列テーブル
の数。

どちらの場合でも、01 は 1 番目のフェーズ
またはテーブルのことをそれぞれ示しています。

システムの処置: 戻りコード *ggcctt10* が要求元に送られて、
処理が続けられます。ただし、要求元がジョブ制御である場
合、ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: システムまたは専用のライブラリーにフ
ェーズを追加するか、このライブラリーの内容を変更してくだ
さい。このエラーの原因としては、専用ライブラリーが割り当
てられていないか、あるいは要求が送られたときにアクセス可
能になっていないことが考えられます。

P305I *cuu* I/O ERROR DURING PRINTERS
SETUP -- RC=*ggccop14*.

説明: アドレス *cuu* にある 3800 に関する SETPRT が送ら
れ、QSETPRT または SETPRT の処理中にリカバリー不能な
入出力エラーが発生しました。メッセージの原因として次のこ
とを考えられます。

- 制御フェーズ内に無効なデータがあります。

- 実際にインストールされているよりも多くの書き込み可能文
字生成記憶機構を使おうとしました。この場合、このメッ
セージの代わりに P308I が出されているはずですので、ハ
ードウェアの定義が正しく行われていません。

戻りコードのバイト 2 (*op*) は失敗したチャンネル・コマンドを
識別します。例えば、次のようになります。

- 25 =** 図形文字変更機能ロード操作が失敗した場合 (下記の
「注:」を参照)。
35 = コピー変更機能ロード操作が失敗した場合。
63 = 用紙制御バッファ・ロード操作が失敗した場合。
83 = 変換テーブル・ロード操作が失敗した場合。

注: この場合の *ggcc* の意味は、メッセージ P304I の場合と同
じです。

システムの処置: 戻りコード *ggccop14* が要求元に送られて、
処理が続けられます。ただし、ジョブ制御がこの要求を送った
場合には、システムがジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 無効なデータを含むフェーズが使われた
のか、あるいは使用可能な限度を超えて書き込み可能文字生成
ストレージが要求されたのかを判別してください。

ジョブの処理中にハードウェア・エラーが起こったかどうかを
判別してください。これは、ログ・シートが使えればこれを検
査することにより、あるいはオペレーターにたずねることによ
り判別できます。通常は、このメッセージ (P305I) が出る前
に、誤りリカバリー・ルーチンがメッセージを書き出します。

P306I *cuu* OPERATOR CANCELED MANUAL
SETUP -- RC=00000018.

説明: オペレーターがメッセージ P300D に CANCEL と回答
しました。

システムの処置: 戻りコード X'00000018' が要求元に送られ
て、処理が続けられます。ただし、ジョブ制御がこの要求を送
った場合には、システムがジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: プログラムの SETPRT 要求がエラーに
なっている場合は必要な訂正を行い、それ以外の場合はジョブ
に関する新たな準備の説明をオペレーターに出してください。
ジョブを再実行してください。

P308I *cuu* CAT phasename IN
(CHARS=IMODIFY=) CAUSED CGS
OVERFLOW (214) RC=00ccnn20

説明: アドレス *cuu* にある 3800 印刷装置に対して SETPRT
が出されました。表示された文字配列テーブル (CAT) は印刷
装置にロードできません。この CAT と他の CAT が、使用可
能な限度を超えた書き込み可能文字生成記憶機構 (CGS) を必
要とするからです。戻りコードにおいて、

- cc* = CHARS オペランドで要求される CAT の数 (01 か
ら 04 までの中の 1 つ) です。 *cc* = 05 の場合に
は、CAT は CHARS オペランドではなく MODIFY
オペランドの 2 番目の値によって要求されます。
nm = CAT が要求できる書き込み可能文字生成モジュール
(WCGM) の数 (02 または 04) です。

複数の CAT で参照され、図形文字変更機能で変更されない WCGM は、何度参照されても 1 回として数えられます。システムの処置: 戻りコード 00ccnn20 が要求元に送られて、処理が続けられます。ただし、ジョブ制御がこの要求を送った場合には、システムがジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: より少ない文字生成記憶機構しが必要としない文字配列テーブルを要求してください。

ハードウェアが WCGM 用の記憶機構を 4 つ備えているのにこのメッセージで表示された限界が 2 つの場合には、次の 3800 スタートアップのときに正しい指定を行ってください。

P309I *cuu* CAT *phasename* REFERENCED AN
UNSPECIFIED CGM -- RC=00cc0024

説明: アドレス *cuu* にある 3800 印刷装置に関する SETPRT が送られました。文字配列テーブル (CAT) の変換テーブル部分にあるバイトは、テーブルの終わりで識別されていない書き込み可能文字生成モジュール (CGM) を参照しています。これは、IEBIMAGE で作成した CAT の場合には、行われるべきではありません。戻りコードの中の *cc* は、CHARS キーワードに関する 1 番目、2 番目、3 番目、または 4 番目の値を示す 01、02、03、または 04 であるか、あるいは MODIFY キーワードの 2 番目の値を示す 05 です。

システムの処置: 戻りコード 00cc0024 が要求元に送られて、処理が続けられます。ただし、ジョブ制御がこの要求を送った場合には、システムがジョブを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 表示された CAT の内容を訂正してください。

P310I *cuu* NOT ENOUGH VIRTUAL STORAGE
FOR PRINTER SETUP -- RC=0000ss28

説明: アドレス *cuu* にある 3800 印刷装置に関する SETPRT または QSETPRT が送られました。区画内の GETVIS ストレージが不十分なため、要求された処置は実施できません。戻りコードにおける *ss* は次のような値になります。

- 00 - 最初の 512 バイトの作業域が得られない場合。
- 04 - 11776 バイトの 2 次作業域が得られない場合。

WORKA に対して指定された作業域が小さすぎた場合、その指定は無視されます。

システムの処置: 戻りコード 0000ss28 が要求元に送られて、処理が続けられます。SETPRT がジョブ制御によって送られる場合には、問題は起こらないはずですが。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 以下のいずれかです。

- EXEC ステートメントの SIZE の値をより小さく指定して、プログラムを実行し直してください。
- より大きな区画でプログラムを実行し直してください。
- SETPRT または QSETPRT マクロ内の WORKA に (十分に大きな) 有効な値を指定してください。

P311I SYSxxx IS INVALID OR NOT ASSIGNED
-- RC=0000uu2C.

説明: 表示された論理装置に関する SETPRT または QSETPRT が送られました。

xxx が 3 つの疑問符の場合には、論理装置はサポートされないシステム論理装置であるか、その区画用の論理装置の範囲以外のもので、戻りコード内の *uu* が次の値である場合、

- 04 - この論理装置は SETPRT または QSETPRT でサポートされません。サポートされるシステム論理装置は、SYSLST と SYSLOG だけです。
- 08 - この区画ではこの論理装置が割り当てられていません。

システムの処置: 戻りコード 0000uu2C が要求元に送られて、処理が続けられます。SETPRT がジョブ制御によって送られる場合には、問題は起こらないはずですが。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 割り当てるべき論理装置をオペレーターが割り当てていないかどうかを調べて、使用中の論理装置が SETPRT または QSETPRT によってサポートされることを確認してください。ジョブを再実行してください。

P312I *cuu* SETPRT INTERNAL MACRO CALL
FAILED -- RC=00yyzz34.

説明: アドレス *cuu* にある 3800 印刷装置について SETPRT または QSETPRT が出され、SETPRT または QSETPRT によって出された内部マクロに障害がありました。おそらくシステム・エラーです。戻りコード内の *zz* が次の値である場合

- 04 - 障害のあるマクロは EXTRACT です。
- 08 - 障害のあるマクロは MODCTB です。
- 0C - 障害のあるマクロは CDLOAD です。

戻りコード内の *yy* は、障害のあるマクロからの戻りコードの低位バイトです。

システムの処置: 戻りコード 00yyzz34 が SETPRT または QSETPRT の呼び出し元に送られて、処理が続けられます。呼び出し元がジョブ制御である場合には、ジョブは取り消されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: 影響を受けるマクロによって出される戻りコードの説明については、「IBM z/VSE メッセージおよびコード 第 1 巻」を参照してください。弊社にご連絡いただければ、すでに確認されている問題であるかどうかを、データベースで検索いたします。エラー情報を収集して利用したい場合は、「z/VSE Guide for Solving Problems」を参照してください。

P313I *cuu* SETPRT CALL TO LFCB FOR PRT1
FAILED-RC=0000rr3C.

説明: アドレス *cuu* にある PRT1 印刷装置に関して、FCB オペランドを指定した SETPRT が送られました。SETPRT ルーチンは、印刷装置に関する LFCB マクロを送ったときに、ゼロ以外の戻りコード *rr* を受け取っています。

システムの処置: 戻りコード 0000rr3C が SETPRT の呼び出し元に送られます。処理を続行します。

オペレーターの応答: LFCB からの要求に対して誤った回答を行っていないことを確認してください。

プログラマーの応答: 装置が 3800 印刷装置である場合には、これが割り当てられていることを確認してください。装置が正しく割り当てられていた場合には、「z/VSE System Macros Reference」の中の、LFCB 戻りコードの説明を参照してください。

第 28 章 接頭部 R の z/VSE REXX/VSE ジョブ制御メッセージ

R001t REXX/VSE NOT FOUND IN SVA

説明: REXX/VSE がシステムにインストールされていないか、または正しくインストールされていません。「IBM VSE/ESA VSE 中央機能 VSE/REXX 解説書」に REXX/VSE のインストールについての情報が記載されています。

システムの処置: REXX プログラムは処理されません。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合
 - END/ENTER を押してメッセージを無視するか、または
 - CANCEL を入力してジョブを取り消す。または
 - システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: なし。

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合
 - END/ENTER を押してメッセージを無視するか、または
 - CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。

プログラマーの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合 - 戻りコードを調べてください。可能なら、スタックに残されたデータ量を検査してください。スタック上に残されたデータ量が多すぎる場合は、プログラムを修正してください。それ以外の場合は、システム・プログラマーに連絡してください。

R002t REXX/VSE INITIALIZATION FAILED, RETURN CODE RR REASON CODE NN

説明: REXX は言語プロセッサ環境の作成でエラーを検出したとき、戻りコードを設定します。これが起きた場合、JCL がこのメッセージを出します。RR は、ARXINIT の呼び出しからの戻りコードです。戻りコードが 20 の場合は、理由コード NN は障害に関連する ARXINIT 理由コードです。戻りコードが 20 以外の場合、理由コードは 0 です。理由コードとその意味の完全なリストについては、「IBM VSE/ESA VSE 中央機能 VSE/REXX 解説書」にある ARXINIT の説明を参照してください。

システムの処置: プログラムは処理されません。

オペレーターの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D の場合
 - END/ENTER を押してメッセージを無視するか、または
 - CANCEL を入力し、ジョブを取り消してください。

プログラマーの応答:

- タイプ・コード I の場合 - なし。
- タイプ・コード D - 理由コードを調べ、問題を修正できない場合はシステム・プログラマーに連絡してください。

R003t REXX/VSE EXEC PROCESSING FAILED, RETURN CODE RR

説明: REXX は、ARXEXEC の呼び出し時にエラーを検出したとき、戻りコードを設定します。RR は、ARXEXEC の呼び出しからの戻りコードです。ARXEXEC の詳細と戻りコードについては、「IBM VSE/ESA VSE 中央機能 VSE/REXX 解説書」を参照してください。

REXX はまた、スタック処理中にエラーを検出したときにも、戻りコード 40 を設定します。このようなエラーが起きる原因としては、SVA 内のストレージの不足が考えられます。

システムの処置: プログラムは処理されることもされない場合もあります。処理された場合は、ジョブ制御に渡されないデータはスタックに残っていることもありますが、消失します。

オペレーターの応答:

第 29 章 接頭部 S の独立型 JCL メッセージ

SAxx=汎用独立型 JCL メッセージ

SA01I ***** STAND ALONE PROGRAMS LOADED *****

説明: IPL 処理の完了と独立型の入力要求の開始を知らせるものです。独立型処理の開始時に 1 回だけ表示されます。

システムの処置: 入力要求はメッセージ SA02D から行われませ

す。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA02D IF YOU WANT A LISTING, SPECIFY *pcuu* OF PRINTER, ELSE (ENTER)

説明: このメッセージは、後に続くすべての独立型ジョブのための印刷装置アドレスを入力するよう要求します。独立型処理の開始時に 1 回だけ入力要求されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- 後に続くすべての独立型ジョブに対してリストが欲しい場合には、印刷装置の *pcuu* を指定してください。

- リストが欲しくない場合には、ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

SA03D DEVICE TYPE IS *xxxxyy*. ACCEPT (ENTER) OR SPECIFY ALTERNATE TYPE

説明: このメッセージは、前に指定された *cuu* の装置タイプを知らせるものです (*xxxxyy* は装置タイプを含んでいます)。メッセージが表示されるのは、装置がセンス可能な場合だけです。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- 特別な装置に対する装置タイプの変更例えば、3211 印刷装置の場合、タイプを PRT1 に変更することができます。センスした装置タイプと一致しない装置タイプを入力すると、例えば、センスした装置タイプを指定した装置として追加できず、*cuu* に対して再度入力要求が出ます。

- 入力を確認し受け入れるには ENTER を押してください。

プログラマーの応答: なし。

SA04I DEVICE TYPE IS UNKNOWN. FOLLOWING DEVICE TYPES ARE SUPPORTED:

説明: このメッセージが表示されるのは、前に指定された *cuu* の装置がセンス可能でない場合のみです。装置タイプのリストが後に続きます。

システムの処置: システムは装置タイプのリストを表示し、その後

にメッセージ SA06D が出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA05I *list of supported device types*

説明: このメッセージは、その機能に対しサポートされるすべての装置タイプのリストを表示します。例えば、印刷装置のみを必要とする場合は、印刷装置装置タイプのリストだけのことがあります。または DASD またはテープのみ、あるいは DASD とテープの場合もあります。SA04I の後にメッセージが出ます。

システムの処置: システムは、メッセージ SA06D を表示しませ

す。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA06D SPECIFY DEVICE TYPE

説明: このメッセージは、メッセージ SA04I と SA05I が表示されると出ます。例えば、装置タイプがセンスできなかった場合がそれに該当します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 前に表示された装置タイプの 1 つを入力しなければなりません。

プログラマーの応答: なし。

SA07I THE PHYSICAL DEVICE ADDRESS *pcuu* CORRESPONDS TO THE ADDRESS *cuu* USED BY VSE

説明: X'FFF' より大きい物理装置アドレスがテープからの IPL 時に追加されました。このメッセージは、内部使用される 3 桁の *cuu* を知らせるものです。*cuu* は実行されるプログラムが使用します。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA08D DATE IS *mm/dd/yy*. ACCEPT DATE (ENTER) OR SPECIFY DATE MM/DD/YY

説明: このメッセージは、システム日付を表示します。独立型処理の開始時に 1 回だけ入力要求されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- 後に続くすべての独立型ジョブ用のジョブ日付を変更するため、MM/DD/YY の形式で新しい日付を入力してください。

- ENTER キーを押し、システム日付をジョブ日付として受け入れてください。

プログラマーの応答: なし。

SA09I SELECT ONE OF THE FOLLOWING PROGRAMS, OR TYPE END

説明: ユーティリティ選択メッセージの最初の部分です。このメッセージは、独立型処理の始め (SA08D の後)、または選択されたユーティリティのジョブ終了処理の後に表示されません。

システムの処置: システムはメッセージ SA10D を表示し、オペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA10D FASTCOPY, RESTORE, ICKDSF, DITTO, REIPL

説明: ユーティリティ選択メッセージの 2 番目の部分です。このメッセージは、SA09D の後に表示されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- FASTCOPY (または F、FA、FAS、FAST、...)、FASTCOPY の入力要求順序を望む場合。
- RESTORE (または R、RE、RES、REST、...)、RESTORE の入力要求順序を望む場合。
- ICKDSF (または I、IC、ICK、ICKD、...)、ICKDSF の入力要求順序を望む場合。
- DITTO (または D、DI、DIT、DITT、...)、DITTO の入力要求順序を望む場合。
- REIPL、ソフトウェア REIPL の入力要求順序を望む場合。
- END、独立型処理を終了する場合。

プログラマーの応答: なし。

SA11D SPECIFY ADDRESS OF INPUT DEVICE PCUU

説明: このメッセージは、選択したユーティリティの入力装置のアドレスを入力するよう要求します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 前に選択したユーティリティの入力装置 *pcuu* のアドレスを指定します。

プログラマーの応答: なし。

SA12D SPECIFY ADDRESS OF OUTPUT DEVICE PCUU

説明: このメッセージは、選択したユーティリティの出力装置のアドレスを入力するよう要求します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 前に選択したユーティリティの出力装置 *pcuu* のアドレスを指定します。

プログラマーの応答: なし。

SA13D TAPE MODE IS xx. ACCEPT (ENTER) OR SPECIFY ALTERNATE MODE YY

説明: 入力または出力装置がテープです。入力装置がテープの場合、メッセージが表示されるのは、読み取り時に記録モードに自動的に適応しないテープ装置の場合だけです。出力装置がテープの場合、必ずメッセージが表示されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

1060 z/VSE V6R2 メッセージおよびコード 第 2 巻

オペレーターの応答:

- ENTER キーを押し、表示されたデフォルトのテープ・モードを受け入れてください。
- テープ・モードを変更したい場合、新しいテープ・モードとして *yy* を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

SA14D SPECIFY ADDRESS OF ALTERNATE TAPE (PCUU), OR (ENTER)

説明: 入力または出力装置がテープです。このメッセージは、代替磁気テープのアドレスを入力するよう要求します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- 代替磁気テープが必要でない場合、ENTER を押ししてください。
- 代替磁気テープのアドレス *pcuu* を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

SA15D FOR TAPE LABEL CHECKING SPECIFY // TLBL, ELSE (ENTER)

説明: 入力または出力装置がテープです。このメッセージは、指定したテープに対し TLBL ステートメントを入力するよう要求します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答:

- テープまたはテープのバックアップ (またはその両方) がラベルなしテープの場合、ENTER を押しください。
- 標準ラベル付きテープおよびテープ上のラベル付きバックアップを処理するためには、TLBL ステートメントを 1 行に指定してください (継続行はサポートされません)。これについては、「z/VSE System Control Statements」で説明されています。TLBL ステートメントでは次のファイル名を受け入れます。

入力装置がテープの場合、ファイル名を UIN としてください。

出力装置がテープの場合、ファイル名を UOUT としてください。

プログラマーの応答: なし。

SA16D SPECIFY ADDRESS OF SYSRES DISK PCUU

説明: この独立型ジョブで RESTORE ユーティリティが選択されました。このメッセージは、出力ディスクのアドレスを入力するよう要求します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: SYSRES ファイルをリストアしたいディスク・アドレスを入力しなければなりません。

プログラマーの応答: なし。

SA17W *** END OF STAND ALONE PROCESSING *******

説明: SA10D に対して END が応答されました。新しい独立型の実行を行う場合、IPL テープを巻き戻し、テープから IPL しなければなりません。

システムの処置: システムは待ち状態に入ります。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA18I INVALID CUU SPECIFICATION

説明: 指定した CUU は無効なアドレス (例えば 2GR) です。

システムの処置: システムは、前の入力要求メッセージを再度出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA19I TYPE NOT MATCHING

説明: センス可能でない装置に対して指定された TYPE がサポートされた装置タイプでないか、または無効です。

システムの処置: 再度、装置 (例えば、入力/出力/印刷装置) のアドレスを入力するよう要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA20I INVALID MODE SPECIFICATION

説明: 指定されたテープ・モードが無効です。

システムの処置: システムは、モードの入力要求メッセージを再度出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA21I INVALID DATE SPECIFICATION

説明: 指定した日付が無効であるか、または要求形式の MM/DD/YY で入力されていません。

システムの処置: システムは、日付の入力要求メッセージを再度表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA22I INVALID // TLBL STATEMENT

説明: 指定された TLBL ステートメントが有効ではありません。例えば、「z/VSE System Control Statements」で指定された形式に従っていません。

システムの処置: システムは、TLBL ステートメントの入力を要求するメッセージを再度表示します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA23I UTILITY COMPLETED WITH RC=xxx

説明: 前に実行されたユーティリティがゼロでない戻りコードで終了しました。戻りコードの詳細については、「z/VSE System Utilities」を参照してください。

システムの処置: システムは、次に実行すべきユーティリティを入力するよう要求します。カスタマイズ・サービスが使用され、取り消し状態 (戻りコード ≥12) の場合は、強制的に入力要求が行われ、独立型のログ記録域がコンソールに表示されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA24I CUSTOMIZATION SERVICES NOT AVAILABLE. NORMAL PROMPT IS FORCED

説明: カスタマイズ・サービスの初期設定ができませんでした。

システムの処置: システムは、通常の入力要求の処理を続行します。独立型の入力要求が実行されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA25I INCORRECT REPLY

説明: 前の表示メッセージに対するオペレーターの応答が無効です。

システムの処置: 関連メッセージがもう一度表示されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA30I NOT SAME DEVICE TYPE FOR DOSRES AND SYSWK1

説明: DOSRES/SYSWK1 に指定された cuu が、z/VSE に必要な、同じ装置タイプを持っていません。

システムの処置: システムは、DOSRES と SYSWK1 に対する cuu の入力要求を再度行います。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA31I SPECIFIED DEVICE IS NOT A TAPE/DISK/PRINTER

説明: 指定された cuu が上記に指定されたタイプの装置ではありません。

システムの処置: システムは、cuu の入力要求メッセージを再度出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA32I INSTALLATION DISK WAS ASSIGNED TO VIRTUAL TAPE cuu FOR RESTORE FROM INSTALLATION DISK SPECIFY cuu AS INPUT DEVICE PCUU

説明: ユーザーがインストール・ディスクを IPL しました。このメッセージでは、インストール・ディスクに割り当てられている仮想テープ cuu (インストール・ディスクは、内部的に仮想テープとして使用される) が示されています。ユーザーは、インストール・ディスクからの手動インストールを続行したい場合、メッセージ SA11D によるプロンプトに対して、この cuu を PCUU として使用する必要があります。

システムの処置: なし。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA35I CANCEL CONDITION OCCURED

説明: 前に実行されたユーティリティが、取り消し条件または戻りコード ≥ 12 となりました。システムはカスタマイズ・モードで実行中でした。

システムの処置: システムは、メッセージ SA36I を表示します。通常の入力要求が出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA36I LISTLOG OUTPUT FOLLOWS

説明: 前に実行されたユーティリティが、取り消し条件または戻りコード ≥ 12 となり、印刷装置なしで自動インストールが選択されました。

システムの処置: システムはログ記録域を表示し、通常の入力要求を行います。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA40I INTERNAL ERROR. ORIGINATOR CODE

xx. RETURN CODE=xxxx

説明: 独立型処理でエラーが起きました。考えられるエラー理由に関しては、戻りコードとコンソールの出力を保管し、弊社にサポートを依頼してください。

システムの処置: 戻りコードまたはメッセージ表示の時間により、独立型処理は終了または継続します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SA41I PRINTER NOT ASSIGNED.
RC=xxxx.PROCESS CONTINUES**

説明: 要求された印刷装置を割り当てることができませんでした。MSAT 監視プログラム・サービスが、上記に表示された戻りコードを戻しました。問題が不明確な場合、戻りコードとコンソールの出力を保管し、考えられるエラーに関して弊社にサポートを依頼してください。

システムの処置: システムは、印刷装置を割り当てずに処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SA42I DEVICE CUU COULD NOT BE
ASSIGNED. RC=xxxx.UTILITY IS
CANCELED.**

説明: 指定された cuu を入力または出力装置として割り当てることができませんでした。MSAT 監視プログラム・サービスが、上記に表示された戻りコードを戻しました。問題が不明確な場合、戻りコードとコンソールの出力を保管し、考えられるエラーに関して弊社にサポートを依頼してください。

システムの処置: システムはそのユーティリティを取り消します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA43I TAPE MODE NOT CHANGED. RC=xxxx.

説明: テープに対して指定されたモードを変更することができませんでした。MSAT 監視プログラム・サービスが、上記に表示された戻りコードを戻しました。問題が不明確な場合、戻りコードとコンソールの出力を保管し、考えられるエラーに関して弊社にサポートを依頼してください。

システムの処置: システムは、デフォルトのテープ・モードで処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SA44I UTILITY COULD NOT BE LOADED.
RC=xxxx**

説明: ユーザーから要求されたユーティリティをロードすることができませんでした。LOAD 監視プログラム・サービス(マクロ)が、上記に表示された戻りコードを戻しました。問題が不明確な場合、戻りコードとコンソールの出力を保管し、考えられるエラーに関して弊社にサポートを依頼してください。

システムの処置: システムは、メッセージ SA09I と SA10D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA45I DEVICE cuu UNKNOWN AT IPL TIME

説明: 指定された装置が IPL 時に作動可能ではなく、独立型環境で指定することができません。

システムの処置: システムは、cuu を指定するよう再度入力を要求します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SA46I DEVICE TYPE OF ALTERNATE TAPE
NOT MATCHING**

説明: 指定された装置が 1 次テープと同じ装置タイプではありません。

システムの処置: 指定された cuu は代替磁気テープとして受け入れられず、代替磁気テープの入力要求が再度出ます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SA47I DEVICE TYPE COULD NOT BE
CHANGED**

説明: 指定された装置タイプを変更することができず、受け入れられませんでした。

システムの処置: 処理を続行します。cuu の装置タイプはメッセージ SA03D で以前に表示されたものです。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA48I UNIT= cuu DEVICE NOT READY

説明: 以前に装置タイプを指定した装置が操作不能です。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: ユーティリティの 1 つが取り消される場合にはそれを再実行してください。その際、要求する装置が作動可能であることを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

SA49I UNIT= cuu VOL1 LABEL NOT FOUND OR INVALID

説明: 以前に装置タイプを指定した装置に有効なボリューム 1 ラベルがありません。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: 該当の場合、次のことを行ってください。すなわち、正しいボリュームが取り付けられていたかを調べ、ボリューム内容をチェックします。正しいボリュームが取り付けられており、しかもその中に重要なデータが入っていない場合には、装置サポート機能プログラムの INIT 機能を実行してそのボリュームを初期設定してください。
 プログラマーの応答: なし。

SA50I UNIT= cuu UNRECOVERABLE I/O ERROR

説明: 以前に装置タイプを指定した装置にリカバリー不能な入出力エラーがあります。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SA51I UNIT= cuu DEVICE NOT OPERATIONAL

説明: 以前に装置タイプを指定した装置が操作不能です。
 システムの処置: 処理を続行します。
 オペレーターの応答: ユーティリティにより使用される装置が操作可能であり、作動可能であることを確認してください。
 プログラマーの応答: なし。

SA54I INVALID PARAMETER

説明: TLBL ステートメントで指定されたパラメーターが無効です。
 システムの処置: TLBL ステートメントを入力するよう再度要求します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SA55D ENTER ADDRESS OF REIPL DEVICE p_{cuu}

説明: メッセージ SA10D への応答として REIPL を入力しました。システムは、ソフトウェア REIPL を実行しなければならないディスク・アドレスを入力するよう要求します。
 システムの処置: IPL は指定された p_{cuu} から実行されます。
 オペレーターの応答: IPL をしたいディスク装置の p_{cuu} を指定します。IPL が可能なディスク、すなわちブートストラップ・レコードのあるディスクを指定するのはオペレーターの責任です。
 プログラマーの応答: なし。

SA56I MANDATORY PARAMETER MISSING

説明: TLBL ステートメントに必須パラメーターが欠落しています。
 システムの処置: TLBL ステートメントを入力するよう再度要求します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SA57D CONTINUE MANUAL INSTALLATION? SPECIFY YES OR NO.

説明: ユーザーは手動インストールを選択し、SYSRES の RESTORE の後で REIPL を入力しました。ユーザーは、インストール・ディスクからの手動インストールを続行したい場合、YES を指定する必要があります。NO であれば、インストール・ディスクに関する情報は保持されません。
 システムの処置: システムは、YES または NO を待っています。
 オペレーターの応答: YES または NO を入力してください。
 プログラマーの応答: なし。

SA60I *** FOR THE xxxxxx UTILITY YOU NEED TO SPECIFY VSE DEVICE ADDRESSES WHICH YOU CAN FIND BY USING THE QUERY IO COMMAND *******

説明: ユーティリティ ICKDSF および DITTO には VSE アドレスが必要です。ユーティリティ制御ステートメントに X'FFF' より大きい物理装置アドレスを指定しないでください。
 システムの処置: システムは処理を続行します。
 オペレーターの応答: アテンション・ルーチン・コマンド QUERY IO,CUU=p_{cuu} を使用して、X'FFF' より大きい物理装置アドレス p_{cuu} のために、内部使用される VSE アドレスを取得します。
 プログラマーの応答: なし。

SA61I INVALID SCSI DEFINITION FBA=CUU

説明: メッセージは、SCSI FBA 装置の CUU が正しく入力されなかったか、SCSI コマンドの構文が間違っていることを示しています。
 システムの処置: システムは、新たに SCSI 定義を入力するよう、続けてプロンプトを出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SA62I A MAXIMUM OF TWO SCSI DEVICES IS ACCEPTED. PROCESSING CONTINUES

説明: メッセージは、独立型環境に 2 つの SCSI 装置が定義されていることを示しています。これは、この環境で受け入れられる SCSI 装置の最大数です。
 システムの処置: システムは、独立型に関するプロンプトを続けて出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SA63I IF YOU DO NOT WANT TO INSTALL ON SCSI, PLEASE REIPL TAPE

説明: メッセージは、ユーザーに対して、SCSI 装置を使用または定義していない場合に独立型テープの再 IPL を行う必要があることを示しています。

システムの処置: システムは、SCSI 定義を行うよう、プロンプトを続けて出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA70D IF YOU WANT TO USE SCSI DEVICES SPECIFY YES, ELSE NO

説明: この環境では FCP (ファイバー・チャンネル・プロトコル) ハードウェア・チャンネルのサポートが提供されています。このチャンネルを使用すると、IBM zSeries サーバーが、ファイバー・チャンネル・ファブリックに接続して、そのファブリックに接続されている SCSI コントローラー上の選択された装置に特殊定義を使用してアクセスすることができます。SCSI 構成をセンスすることができず、装置を使用する前にユーザーが定義と接続を定義する必要があります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: SCSI 装置を定義して使用したい場合、YES を指定してください。SCSI 装置を使用する予定がない場合、NO を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

SA71D PLEASE ENTER SCSI *cuu*

説明: メッセージは、装置タイプ・コード FBA の SCSI 装置の CUU の入力を要求しています。これは IOCP に定義されたものであってはなりません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: SCSI 装置の *cuu* を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

SA75I ENTER SCSI COMMAND OR ENTER

説明: メッセージは、SCSI 定義を要求しています。

システムの処置: メッセージ SA80D で、続けてプロンプトが出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SA77D ENTER *cuu* OF SYSWK1

説明: メッセージは、装置タイプ・コード FBA の SCSI 装置の CUU の入力を要求しています。これは IOCP に定義されたものであってはなりません。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: VOLID SYSWK1 の SCSI 装置の *cuu* を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

SA79D REIPL FROM SCSI? SPECIFY YES OR NO

説明: この環境では FCP (ファイバー・チャンネル・プロトコル) ハードウェア・チャンネルのサポートが提供されています。このチャンネルを使用すると、IBM zSeries サーバーが、ファイバー・チャンネル・ファブリックに接続して、そのファブリックに接続されている SCSI コントローラー上の選択された装置に特殊定義を使用してアクセスすることができます。SCSI 装置の場合、システムによる特殊な再 IPL 処理が必要です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: SCSI 装置からの再 IPL を行いたい場合、YES を指定してください。SCSI 装置を使用する予定がない場合、NO を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

SA80D SCSI,FBA=*CUU*,FCP=*PCUU*,WWPN=*PORTNAME*,LUN=*LUN*

説明: メッセージは SCSI 定義を要求しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。オペレーターの応答: 次を入力してください。

FBA=cuu

装置タイプ・コード FBA で追加された VSE CUU を示します。これは IOCP に定義されたものであってはなりません。これは *FBA CUU* として参照されます。

FCP=pcuu

装置タイプ・コード FCP で IPL 時に追加された FCP 番号を示します。これは、IOCP 内に新しい CHPID タイプ FCP で構成されていなければなりません。これは *FCP pcuu* として参照されます。

WWPN=portname

FC トポロジー内のポートを識別するために使用される、固有の 64 ビット・ポート・アドレスを示します。これらのアドレスは、FCP 装置に組み込まれ、IEEE 標準委員会によって定義されたベンダー固有の部分と共に、製造メーカーによって割り当てられます。このようなポート・アドレスが全世界で固有なものである場合、これは WWPN (World-Wide Port Name) と呼ばれます。この 64 ビット・アドレスは、16 桁の 16 進数字として指定されます。16 桁よりも少ない 16 進数字が指定された場合、システムは入力に後続ゼロを埋め込みます。

LUN=lun

SCSI ターゲット装置に関連した論理装置番号。LUN はターゲット装置内の論理装置 (例えば特定の論理ディスク・ボリューム) を識別します。この番号は、ノード・コントローラーによって割り当てられるか構成されます。この 64 ビット・アドレスは、16 桁の 16 進数字として指定されます。16 桁よりも少ない 16 進数字が指定された場合、システムは入力に後続ゼロを埋め込みます。

プログラマーの応答: なし。

SA85D MORE SCSI DEFINITIONS NEEDED? YES OR NO

説明: メッセージは、より多くの SCSI 装置を要求するかどうかを尋ねています。SCSI 構成をセンスすることはできないため、ユーザーが装置と接続を定義する必要があります。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: より多くの SCSI 装置を定義して使用したい場合、YES を指定してください。現在、独立型環境では最大 2 個の SCSI 装置が許可されています。SCSI 装置を使用する予定がない場合、NO を指定してください。

プログラマーの応答: なし。

SA90I PLEASE REDEFINE YOUR SCSI DOSRES AT THE HARDWARE CONSOLE

説明: メッセージは LPAR 内で出され、SCSI 定義をロード・パネルに再入力する必要のあることをユーザーに示しています。その後、DOSRES の IPL を行う必要があります。
 システムの処置: SCSI 定義に関する情報が続きます。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SIxx=自動インストール独立型 JCL メッセージ**SI01D DO YOU WANT TO DO AN AUTOMATIC INSTALLATION (YES/NO)?**

説明: IBM 提供のインストール・テープを IPL しました。ユーザーは、IBM 提供のデフォルト値を使用して自動インストールしたいか、または通常の入力要求順序で処理を継続したいかを入力するよう要求されます。ICKDSF 処理および独立型リストアで使用されるデフォルトについては、「IBM z/VSE インストール」を参照してください。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 次のように入力してください。
 • YES - デフォルト値を使って自動インストールを実行したい場合
 • NO - 通常の入力要求順序で実行したい場合

システムの処置: システムは、メッセージ SI05I の後に SI06D を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SI05I list of supported DASD

説明: このメッセージの後に DOSRES と SYSWK1 の装置タイプの入力要求メッセージが出ます。
 システムの処置: システムはメッセージ SI06D を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

注: NO を応答するのは、次の場合です。

- 以前に初期設定されていないディスク装置を使用する場合
- 以前に VSE 以外のシステムで使用されていたディスク装置を使用する場合
- エミュレーション・モードから固有モードにディスク装置を変更の場合

プログラマーの応答: なし。

SI06D ENTER DEVICE TYPE OF DOSRES/SYSWK1

説明: 独立型プログラムは、DOSRES と SYSWK1 の装置タイプの入力を要求します。DOSRES と SYSWK1 の装置タイプは同じでなければなりません。したがって、一度入力された装置タイプは、両方の DASD に対して有効な装置タイプとされます。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: DOSRES/SYSWK1 の装置タイプを入力します。
 プログラマーの応答: なし。

SI02D ENTER PCUU OF DOSRES

説明: 独立型プログラムは、DOSRES の pcuu、例えば、システム・ライブラリーをリストアする装置の pcuu を入力するよう要求します。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: その装置の pcuu を入力します。
 プログラマーの応答: なし。

SI08I DOSRES IS cuu, DEVICE TYPE xxxx

説明: このメッセージは、DOSRES ディスク、例えば、IJSYSRS ライブラリーがリストアされるディスクの cuu および装置タイプを知らせるものです。
 システムの処置: システムはメッセージ SI09I を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SI03D ENTER PCUU OF SYSWK1

説明: 独立型プログラムは、SYSWK1 の pcuu、例えば、後で SYSWK1 ディスクとして使うため形式設定される装置の pcuu を入力するよう要求します。
 システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: その装置の pcuu を入力します。
 プログラマーの応答: なし。

SI09I SYSWK1 IS cuu, DEVICE TYPE xxxx

説明: このメッセージは、SYSWK1 ディスクの cuu と装置タイプを知らせるものです。
 システムの処置: システムはメッセージ SI10D を出します。
 オペレーターの応答: なし。
 プログラマーの応答: なし。

SI04I FOLLOWING DEVICE TYPES ARE SUPPORTED:

説明: このメッセージの後にサポートされるディスク装置タイプが出ます。

SI10D START WITH AUTOMATIC INSTALLATION (YES/NO) ?

説明: システムは、自動初期インストールを開始する前に、入力を検査するための最後の機会をユーザーに提供します。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のように入力してください。

- YES - 入力が正しく、かつ自動インストールを実行したい場合。
- NO - 入力が正しくないか、またはそれ以上自動インストールを実行したくない場合。メッセージ SI01D により、自動インストールを実行したいかしたくないかを入力するよう要求されます。

プログラマーの応答: なし。

**SI18I DOSRES PHYSICAL DEVICE ADDRESS
IS *pcuu*, VSE ADDRESS IS *cuu*, DEVICE
TYPE *xxxx***

説明: このメッセージは、物理装置アドレス *pcuu*、VSE が使用する装置アドレス *cuu*、および DOSRES ディスク (IJSYSRS ライブラリーがリストアされるディスク) の装置タイプを知らせるものです。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SI19I SYSWK1 PHYSICAL DEVICE ADDRESS IS
pcuu, VSE ADDRESS IS *cuu*, DEVICE
TYPE *xxxx***

説明: このメッセージは、物理装置アドレス *pcuu*、VSE が使用する装置アドレス *cuu*、および SYSWK1 ディスクの装置タイプを知らせるものです。

システムの処置: システムはメッセージ SI10D を出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SI20I FORMATTING OF DOSRES/SYSWK1 IN
PROGRESS**

説明: このメッセージは、初期インストールの独立型処理に関して知らせるものです。このメッセージが最初に出ると、DOSRES の形式設定が進行中であり、2 度目に表示されると、SYSWK1 の形式設定が進行中です。

システムの処置: システムは処理を続行します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SI30I DEVICE TYPE NOT SUPPORTED AS
SYSTEM DISK**

説明: 指定された装置タイプは、システム・ディスクとしてサポートされていない装置タイプです。

システムの処置: 通常の入力要求と通常の独立型処理を余儀なくされ、例えば、自動インストールは処理されません。

オペレーターの応答: システム・ディスクとして別の装置タイプを指定した後、独立型メッセージに対し手作業で応答しながらインストールを継続するか、またはインストール・テープを巻き戻して再度自動インストールを開始してください。

プログラマーの応答: なし。

**SI31I DEVICE TYPE *type* NOT SUPPORTED AS
INSTALLATION DISK**

説明: 指定された *pcuu* のデバイス・タイプは、インストール・ディスクとしてサポートされていません。ECKD、FBA、または FCP 接続の SCSI が必要です。

システムの処置: システムは、前の入力要求メッセージを再度出します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

**SI40D ENTER VOLID OF THE INSTALLATION
DISK. DEFAULT IS 'ZVSEID'**

説明: リムーバブル・メディアまたはサーバーからのインストールが開始されました。最初のステップとして、インストール・ディスクを初期化する必要があります。そのためにはボリューム・ラベルが必要です。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: インストール・ディスクのボリューム・ラベルを入力してください。

プログラマーの応答: なし。

SI41D ENTER PCUU OF *valid*

説明: システムが、インストール・ディスクの物理 *cuu* を入力するよう要求しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: インストール・ディスクの物理 *cuu* を入力してください。

プログラマーの応答: なし。

**SI45D DO YOU WANT TO CONTINUE WITH
CREATION OF INSTALLATION DISK
PCUU=*pcuu*, CURRENT VOLID=*xxxxxx*
(YES/NO) ?**

説明: システムが、ボリューム・ラベル *xxxxxx* のディスク *pcuu* が初期化され、インストール・ディスクとして使用される前の、入力を確認する最後の機会を用意しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: 次のように入力してください。

- 入力が正しく、ボリューム・ラベル *xxxxxx*、物理 *cuu* *pcuu* のディスクをインストール・ディスクとして使用する場合、「YES」と入力します。ディスク上のデータは上書きされます。
 - 入力が正しくないか、またはインストール・ディスクの作成を続行したくない場合、「NO」と入力します。
- プログラマーの応答: なし。

**SI70D IF YOU WANT TO INSTALL VSE ON
SCSI SPECIFY YES, ELSE NO**

説明: この環境では FCP (ファイバー・チャネル・プロトコル) ハードウェア・チャネルのサポートが提供されています。このチャネルを使用すると、IBM zSeries サーバーが、ファイバー・チャネル・ファブリックに接続して、そのファブリックに接続されている SCSI コントローラー上の選択された装置に特殊定義を使用してアクセスすることができます。SCSI 構成

をセンスすることができず、装置を使用する前にユーザーが定義と接続を定義する必要があります。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: SCSI 装置を定義して使用したい場合、YES を指定してください。SCSI 装置を使用する予定がない場合、NO を指定してください。
 プログラマーの応答: なし。

SI71D IF YOU WANT TO PREPARE AN INSTALLATION DISK ON SCSI SPECIFY YES, ELSE NO

説明: システムが、インストール・ディスクの装置タイプを入力するよう要求しています。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。
 オペレーターの応答: 次のように入力してください。

- YES (FCP 接続 SCSI ディスク上にインストール・ディスクを準備する場合)。
- NO (ECKD ディスクまたは FBA ディスク上にインストール・ディスクを準備する場合)。

プログラマーの応答: なし。

SI75I ENTER SCSI COMMAND FOR DOSRES

説明: メッセージは、VOLID DOSRES の SCSI 定義を入力する必要があることをユーザーに示しています。

システムの処置: プロンプトは、メッセージ SA80D で続けて出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SI76I ENTER SCSI COMMAND FOR SYSWK1

説明: メッセージは、VOLID SYSWK1 の SCSI 定義を入力する必要があることをユーザーに示しています。

システムの処置: プロンプトは、メッセージ SA80D で続けて出されます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SI77I ENTER SCSI COMMAND FOR INSTALLATION DISK

説明: このメッセージは SCSI 定義を要求しています。このメッセージの後にメッセージ SA80D が表示されます。

システムの処置: システムはオペレーターの応答を待ちます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SI81I ENVIRONMENT STORAGE FAILURE

説明: GETVIS の障害が原因で、永続 C 環境をセットアップできませんでした。IBM サポートに連絡してください。

システムの処置: システムは処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SI82I ENVIRONMENT INITIALIZATION FAILURE

説明: 永続 C 環境を初期化できませんでした。IBM サポートに連絡してください。

システムの処置: システムは処理を停止します。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

SI83I VIRTUAL TAPE PROCESSING FAILURE, RC *mmmm*

説明: 仮想テープ処理でエラーが検出され、該当するコードが返されました。エラー分析のためには、その戻りコードと (可能であれば、デバッグ用に LOADPARM を設定して再実行した結果の) コンソール出力を保管しておいて、IBM サポートに連絡してください。

仮想テープ処理は、インストール・ディスクの処理中に起動されました。インストール・ディスクが破損していると考えられます。

システムの処置: 仮想テープ・サービスを要求した機能が、戻りコードに関するアクションを行います。

オペレーターの応答: インストール・ディスクを再作成してください。

プログラマーの応答: なし。

第 30 章 接頭部 VMCF の VM/VSE メッセージ

VMCF10I CMS-z/VSE CONSOLE INTERFACE ACTIVATED

説明: CMS-z/VSE 間のインターフェースを使用できます。
システムの処置: 処理を続行します。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

VMCF12I CMS-z/VSE CONSOLE INTERFACE DEACTIVATED

説明: 予期しないエラー状態になったため、インターフェースが操作不能になりました。または、未定義の CMS ユーザーが VMCF インターフェースを使用しようとした。
システムの処置: CMS へのメッセージの経路指定は延期され、CMS からの入力は受け付けられません。
オペレーターの応答: このメッセージをプログラマーに報告してください。コマンド SIR VMCF=ON でインターフェースを再始動してください。
プログラマーの応答: システム・エラーの報告と解決のための手順に従ってください。IBM z/VSE 計画の説明にあるように DTSECTAB で定義済みユーザー ID を確認してください。

VMCF13I VM/VSE SERVICE ROUTINE FAILURE

説明: VM/VSE サービス・ルーチンは、予期しないエラーによりコンソールからの入力が処理されていないことを検出しました。このメッセージは、VSECMD コマンドが出された場合に、それに応じて CMS 端末にだけ表示されます。(VSECMD RC=32)
システムの処置: 入力を見捨てます。
オペレーターの応答: 失敗した入力を再サブミットしてください。問題が解決しない場合は、システム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: 問題が解決しない場合、システム・エラーの報告と解決のための手順に従ってください。

VMCF14D ENTER VSE INPUT

説明: VSECMD コマンドが *input* オペランドなしで入力されました。
システムの処置: CMS コマンド行に VSE 入力が行われるのを待機しています。
オペレーターの応答: CMS 入力行で VSE 入力を行ってください。
プログラマーの応答: なし。

VMCF36I VMCF ENABLED FOR SYSECHO ONLY

説明: SYSECHO コマンドの ONLY オプションが有効なので、他の CMS ユーザーからの入力は拒否されます。(VSECMD RC=36)
システムの処置: 入力を見捨てます。
オペレーターの応答: なし。
プログラマーの応答: なし。

VMCF40I PROGRAM LOGIC ERROR *nm*

説明: 表示されているコード *nm* に対応する予期しないエラーが、CMS と VSE の間の通信プロトコルで検出されました。(VSECMD RC=40)
システムの処置: 入力を見捨てます。
オペレーターの応答: エラー・コードを記録して、システム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: システム・エラーの報告と解決のための手順に従ってください。

VMCF44I TARGET USERID NOT AVAILABLE FOR VMCF

説明: ターゲット・ユーザー ID は VMCF 通信を行うことができません。メッセージ内のユーザー ID が活動状態の z/VSE ゲスト仮想マシンに対応している場合、そのシステムが SYS VMCF=NO を指定して IPL されているか、リカバリー不能エラーが原因で VMCF 通信が中断されています。(VSECMD RC=44)
システムの処置: 入力を見捨てます。
オペレーターの応答: 誤ったユーザー ID が指定されていた場合、もう一度やり直してください。そうでなければ、システム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: z/VSE ゲストの IPL プロシージャを検査するか、HC ファイルのメッセージ VMCF12I を調べてください。後者の場合は、システム・エラーの報告と解決のための手順に従ってください。

VMCF48I VMCF MESSAGE LIMIT EXCEEDED, RETRY

説明: 要求側、または宛先の仮想マシンで VMCF メッセージの制限を一時的に超過しました。この状況は通常の VSE 操作でよく発生します。(VSECMD RC=48)
システムの処置: 入力を見捨てます。
オペレーターの応答: 再試行してください。
プログラマーの応答: なし。

VMCF52I VMCF ERROR *nnnn* WHILE SENDING

説明: 予期しないエラー・コード *nnnn* が VMCF SEND/RECEIVE 要求によって返されました。(VSECMD RC=52)
システムの処置: 入力を見捨てます。
オペレーターの応答: エラー・コードを記録して、システム・プログラマーに連絡してください。
プログラマーの応答: システム・エラーの報告と解決のための手順に従ってください。

VMCF56I INCOMPATIBLE VERSIONS OF VMCF

説明: 通信を行う CMS と VSE の間でレベルの不一致が検出されました。(VSECMD RC=56)
システムの処置: 入力を見捨てます。
オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。
プログラマーの応答: 最新レベルの VM/VSE サービス・ルー

VMCF60I • VMCF80I

チンがどちらの環境にもインストールされているかどうか確認してください。

プログラマーの応答: なし。

VMCF60I PROCESSING SUSPENDED BY USER

説明: 応答を VSE から受信する前に、CP EXT コマンドで生成された外部割り込みによって VSECMD 入力の処理が中断されました。(VSECMD RC=60)

システムの処置: 入力は処理されますが、即時 VSE フィードバックは失われます。

オペレーターの応答: なし。

プログラマーの応答: なし。

VMCF64I NO HELP AVAILABLE

説明: ヘルプ情報を要求する VSECMD が入力されましたが、要求された情報を含む VSECMD EXPLAIN ファイルがアクセスされているどのミニディスクにも見つかりませんでした。(VSECMD RC=64)

システムの処置: 要求は無視されます。

オペレーターの応答: システム・プログラマーにお問い合わせください。

プログラマーの応答: すべての VSECMD ユーザーがアクセスできるミニディスクに VSECMD EXPLAIN がインストールされているかどうか確認してください。

VMCF68I NO DATA ENTERED

説明: VSECMD 入力用のプロンプトに対してブランク行が入力されました。(VSECMD RC=68)

システムの処置: 制御を CMS に返します。

オペレーターの応答: ブランク以外の入力を行って、操作を繰り返してください。

プログラマーの応答: なし。

VMCF72I VMCF ERROR *nnnn* WHILE AUTHORIZING THIS USERID

説明: 予期しないエラー・コード *nnnn* が VMCF AUTHORIZE 要求によって返されました。(VSECMD RC=72)

システムの処置: 入力を無視します。

オペレーターの応答: エラー・コードを記録して、システム・プログラマーに連絡してください。

プログラマーの応答: システム・エラーの報告と解決のための手順に従ってください。

VMCF76I INPUT DATA TOO LONG

説明: VSECMD に指定されている入力文字列が 126 文字を超えています。

システムの処置: 制御を CMS に返します。(VSECMD RC=76)

オペレーターの応答: 入力を短くして操作をやり直してください。

プログラマーの応答: なし。

VMCF80I CMS USER INVALID

説明: CMS-z/VSE ユーザーが DTSECTAB に定義されていません。(VSECMD RC=80)

システムの処置: 入力を無視します。

オペレーターの応答: なし。

第 31 章 VSE/VSAM 戻りコードおよびエラー・コード

VSAM が VSAM マクロ (ACB、RPL または EXLST 以外の) を処理した後に制御権を戻すときに、レジスター 15 には要求された操作が成功であったかを示す戻りコードが入れられます。通常の場合、戻りコード X'00' は操作が成功したことを示しています。

要求された操作が失敗したことをレジスター 15 が示しているときには、VSAM もまたエラー・コードを提供します。要求のタイプおよびレジスター 15 中の戻りコードによってグループ分けされたエラー・コードが、以下にリストされ、説明されています。

VSAM によって出される可能性のあるシステム・メッセージの中には、これらのエラー・コードを表示するものがあるので、このエラー・コードのリストが含められています。問題プログラムの実行中に VSAM エラー・コードを調べるには、次のようにしてください。

- OPEN、CLOSE、および TCLOSE の場合は、SHOWCB または TESTCB マクロの ERROR キーワードを用いてください。
- 要求マクロの場合は、SHOWCB または TESTCB の FDBK キーワードを用いてください。GET、PUT、POINT、ERASE、ENDREQ、および WRTBFR が、要求マクロです。
- 制御ブロック操作マクロ (GENCB、MODCB、SHOWCB、および TESTCB) の場合は、レジスター 0 をテストしてください。

理由コードの説明の一部として明示的に記されていない限り、プログラマーの応答とオペレーターの応答は、以下の通りです。

プログラマーの応答: プログラムを訂正し、ジョブを再実行してください。

オペレーターの応答: なし。

エラー・コード 10 進数	エラー・コード 16 進数	レジスター 15=	エラー・コードを出すもの	解説
1	X'01'	X'04'	CBMM	制御ブロック操作要求は無効です。
2	X'02'	非ゼロ	CLOSE	CLOSE または TCLOSE が、この ACB には無効な制御ブロック構造を見つけました。
		X'04'	CBMM	BLK = オペランドが ACB、RPL または EXLST を指定していません。あるいは、そのオペランドが省略されています。
		X'08'	OPEN	OPEN が、この ACB は無効である制御ブロック構成を見いだしました。
3	X'03'	X'04'	CBMM	無効なキーワードが指定されています。
4	X'04'	非ゼロ	CLOSE	ACB はすでにクローズされていました。
		X'00'	要求マクロ	VSAM が、ボリュームの終わり条件を検出しました。
		X'04'	CBMM	示されたアドレスにおけるブロックまたはリストが、マクロ内で指定されたタイプではありません。
		X'08'	OPEN	ACB はすでにオープンされています。
		X'08'	要求マクロ	VSAM がファイルの終わりに遭遇 (順次検索中に) したか、または探索指数がファイル中の既存キー (または相対レコード番号) の最高のものよりも大きくなっています。

VSAM コード

エラー・コード 10 進数	エラー・コード 16 進数	レジスター 15= X'0C'	エラー・コード を出すもの 要求マクロ	解説
				VSAM 要求されている通りにデータを読むことに失敗しました。 このエラーは、VSAM が定様式レコードを期待していたときに不定様式レコードが見つかったり、予期されていないデータを含むボリュームが見つかったり、または入出力エラーが見つかったなどの条件が起きた場合に、起こります。SYNAD 出口ルーチンにおいて、プログラムが DUMP マクロを出すことを確認してください。取得するダンプ、および後の問題判別のための SYSLOG 出力を保管してください。
5	X'05'	X'04'	CBMM	SHOWCB/TESTCB の場合、マクロはクローズされている ACB をアクセスすることを試みています。ACB はオープンしていなければなりません。
6	X'06'	X'04'	CBMM	SHOWCB/TESTCB の場合、OBJECT オペランドが存在していない索引を参照しています。
7	X'07'	X'04'	MODCB	参照されている EXLST は、ユーザーが MODCB/SHOWCB 内で指定した出口ルーチンに対する項目を含んでいません。
8	X'08'	X'00' X'04'	要求マクロ GENCB	VSAM は、代替索引中に非固有キーを検出しました。 区画内で利用可能な仮想記憶は、要求されているブロックやリストを生成するためには不十分です。
		X'04'	CBMM	プログラマーの応答: もっと大きな仮想区画でジョブを再実行してください。レジスター 0 にエラー・コードが含まれています。レジスター 15 は、参照されたパラメーター・リスト中に存在していない項目を更新する試みにおいて、マクロの実行形式が用いられたことを示す X'08' を、または、VSAM フェーズのロード中にエラーが起きたために要求が実行されなかったことを示す X'0C' を、含む場合もあります。その場合、レジスター 0 には、CDLOAD からの戻りコードが入れられません。
		X'08'	要求マクロ	重複したキーによって、レコードを保管する試みがなされました。または、UNIQUEKEY オプションを指定した代替索引について重複したレコードが見つかりました。あるいは、アクセスされたレコード位置にすでにレコードが存在しています。
		X'0C'	要求マクロ	VSAM は索引の索引セット・レコードを読み取ることができませんでした。 このエラーは、VSAM が定様式レコードを期待していたときに不定様式レコードが見つかったり、予期されていないデータを含むボリュームが見つかったり、または入出力エラーが見つかったなどの条件が起きた場合に、起こります。SYNAD 出口ルーチンにおいて、プログラムが DUMP マクロを出すことを確認してください。取得するダンプ、および後の問題判別のための SYSLOG 出力を保管してください。
9	X'09'	X'04'	GENCB	このプログラム内で与えられる作業域は、要求されているブロックやリストを生成するには小さすぎます。 プログラマーの応答: もっと大きな作業域を指定してプログラムを再コンパイルしてください。
		X'04'	SHOWCB	このプログラム内で与えられる作業域は、要求されているフィールドを表示するには小さすぎます。
		X'04'	SHOWCB	LSRINF または EXTINF が指定されている場合、プログラムに用意された作業域は、マトリックスのヘッダーを表示するためには十分です。ただし、この作業域は、すべてのマトリックス情報を表示するには小さすぎます。 システム処置: 表示できるだけの情報を表示します。
10	X'0A'	X'04'	CBMM	プログラマーの応答: ヘッダーを確認し、VSAM がすべてのマトリックス情報を返すために必要なスペースの大きさを調べてください。すべてのマトリックス情報を表示するために必要な領域で、もう一度 SHOWCB 呼び出しを実行してください。EXLST オペランドの内の 1 つが、L サブパラメーターを指定していますが、新しいアドレスが与えられていないか、またはそのオペランドが、アドレスも、A と N サブパラメーターのうちのどちらも指定していません。
11	X'0B'	X'04'	MODCB	マクロが活動 RPL を修正することを試みます。RPL は非活動状態になければなりません。
12	X'0C'	X'00'	要求マクロ	制御インターバルの内容を読み込むための、修正されていないバッファがもう無いので、WRFBFR マクロを出してください (共用リソースのみ)。

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説	
10	進数	15=	X'04'	CBMM	レジスター 15 は、参照されたパラメーター・リスト中に存在していない項目を更新する試みにおいて、マクロの実行形式が用いられたことを示す X'08' を、または、VSAM フェーズのロード中にエラーが起きたために要求が実行されなかったことを示す X'0C' を、含む場合があります。その場合、レジスター 0 には、CDLOAD からの戻りコードが入れられます。
			X'04'	MODCB	マクロがオープン ACB を修正することを試みます。ACB はクローズされていないければなりません。レジスター 15 は、参照されたパラメーター・リスト中に存在していない項目を更新する試みにおいて、マクロの実行形式が用いられたことを示す X'08' を、または、VSAM フェーズのロード中にエラーが起きたために要求が実行されなかったことを示す X'0C' を、含む場合があります。その場合、レジスター 0 には、CDLOAD からの戻りコードが入れられます。
			X'08'	要求マクロ	VSAM が、キー順、または相対レコード・ファイル中で順序の誤りがあるレコード(キーレコード番号が重複していることが考えられます)、または以前の要求と矛盾するユーザー要求を検出しました。
			X'0C'	要求マクロ	VSAM は索引の順序セット・レコードを読み取ることができませんでした。
					このエラーは、VSAM が定様式レコードを期待していたときに不定様式レコードが見つかったり、予期されていないデータを含むボリュームが見つかったり、または入出力エラーが見つかったなどの条件が起きた場合に、起こります。SYNAD 出口ルーチンにおいて、プログラムが DUMP マクロを出すことを確認してください。取得するダンプ、および後の問題判別のための SYSLOG 出力を保管してください。
13	X'0D'	X'04'		MODCB	EXLST フィールドにおいて活動化されるべきアドレスは 0 です。
14	X'0E'	X'04'		CBMM	指定されたパラメーターが矛盾しています。
		X'08'		OPEN	EXTENT ステートメント内の記号装置が無効です。
15	X'0F'	X'08'		OPEN	エクステント・ブロックの処理が失敗に終わりました。
					プログラマーの応答: 同時にオープンされるファイルが少なくなるように、プログラムを再構築してください。マルチプログラミング環境の中では、より少ないエクステント・ブロックを要求する他のジョブと共に、そのジョブを再実行してください。問題が繰り返し起きるようであれば、IBM サポートに連絡を取る前に、ジョブ・ストリームを保管し、システム・ダンプを行ってください。
		X'04'		GENCB	WAREA オペランドで指定された領域が、フルワード境界から始まっていません。
		X'04'		SHOWCB	プログラムで与えられた作業域が、フルワード境界から始まっていません。
16	X'10'	X'00'		要求マクロ	順序セット・レコード内に索引項目を作るためのスペースが十分存在していなかったため、制御域の分割が生じました。いくつかのデータ制御インターバルは、分割された制御域で使用することができませんでした。
		X'08'		要求マクロ	レコードが見つかりませんでした。相対レコード・ファイルがアクセスされていた場合、VSAM はアクセスされたレコード位置において、削除された、または無効なレコードを検出したことが考えられます。
		X'0C'		要求マクロ	VSAM は要求されていたようにデータを書き出すことができませんでした。
					このエラーは、VSAM が定様式レコードを期待していたときに不定様式レコードが見つかったり、予期されていないデータを含むボリュームが見つかったり、または入出力エラーが見つかったなどの条件が起きた場合に、起こります。SYNAD 出口ルーチンにおいて、プログラムが DUMP マクロを出すことを確認してください。取得するダンプ、および後の問題判別のための SYSLOG 出力を保管してください。
		X'04'		CBMM	(ACB EXLST RPL) = アドレス・パラメーター内で正しくない制御ブロック・アドレスが指定されました。
17	X'11'	X'08'		OPEN	VSAM ポリュームのための ASSGN ステートメントのアドレスが、IGN に設定されました。
					プログラマーの応答: ASSGN ステートメント中の装置アドレスを、オープンしようとしている VSAM ポリュームのものに変更してください。
18	X'12'	X'08'		OPEN	VSAM ポリュームのための ASSGN ステートメントのアドレスが、UA に設定されていました。
					プログラマーの応答: ASSGN ステートメント中の装置アドレスを、オープンしようとしている VSAM ポリュームのものに変更してください。

VSAM コード

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10 進数	16 進数	15=	エラー・コードを出すもの	
19	X'13'	X'08'	OPEN	<p>要求されているボリュームが取り付けられている装置に対して、論理装置を割り当てることができません。以下のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラマー論理装置は、この区画内では利用不能です (利用可能なプログラマー論理装置は、ASSGN ステートメント、またはファイル、カタログあるいはカタログ・リカバリー域 (CRA) のための VSAM 自動割り当てによって用いられています。リカバリー可能カタログの場合、VSAM は常にプログラマー論理装置を各 CRA に割り当てます。) エクステント・ブロックがシステムで使用できません (一時割り当てが使用しています)。 ボリュームが取り付けられている装置は予約済みです (アテンション・ルーチン VOLUME コマンド)。 ボリュームが取り付けられている装置が「ダウン」しています (ジョブ制御コマンド DVCDN)。 <p>プログラマーの応答: 必要なボリュームを備えた装置が「ダウン」状況または予約状況にあるため、あるいは使用可能なプログラマー論理装置がないために、自動割り当て機能が失敗しました。この区画内で利用可能な論理装置の数をチェックするために、ジョブ制御コマンド LISTIO NPGR を用いてください。もし利用可能な論理装置が十分になければ、ジョブ制御コマンド NPGR を用いてその数を増やしてください。しかしながら、すべての区画に対する論理装置の合計数は、監視プログラム生成時の NPGR パラメーター内で指定されている数を超えてはなりません。ジョブを再実行してください。もしこれが複数のステップ・ジョブであるならば、いくつかのジョブに分けてください。ボリュームの取り付けが完了している装置が確実に立ち上げられた状況になり、そして 'NEWPAC' と答える前に決して予約がなされていないことを確認するように、オペレーターに指示してください。</p>
20	X'14'	X'04'	SHOWCB	<p>STRMAX または TRANSID が指定されましたが、LSR は ACB 内で指定されませんでした。</p> <p>要求されたレコードは、別の要求によってすでに排他的制御下に入っている制御インターバル中に含まれています。</p> <p>VSAM が索引の索引セット・レコードを書くことに失敗しました。</p> <p>このエラーは、VSAM が定様式レコードを期待していたときに不定様式レコードが見つかったり、予期されていないデータを含むボリュームが見つかったり、または入出力エラーが見つかったなどの条件が起きた場合に、起こります。SYNAD 出口ルーチンにおいて、プログラムが DUMP マクロを出すことを確認してください。取得するダンプ、および後の問題判別のための SYSLOG 出力を保管してください。</p>
		X'08'	要求マクロ	
		X'0C'	要求マクロ	
21	X'15'	X'04'	SHOWCB	<p>LSRINF または EXTINF が指定されている場合、プログラムに用意された作業域は、マトリックスのヘッダーを表示するには小さすぎます (必要最小限の 32 バイトより小さい)。</p> <p>システム処置: 情報は表示されません。</p> <p>プログラマーの応答: もっと大きな作業域を指定してプログラムを再コンパイルしてください。</p>
24	X'18'	X'08'	要求マクロ	<p>要求されているレコードは、利用可能なエクステント・ブロックが存在しないためアクセス不能であるボリュームまたはエクステント上にあります。</p> <p>プログラマーの応答: ボリュームまたはエクステントが利用不能な理由を調べてください。もし利用可能なエクステント・ブロックがもうない状況であれば、必要なエクステント・ブロック数が少なくてよい他のジョブと共に、そのジョブを再実行してください。もしエラー状況を訂正することができないならば、IBM サポートに連絡を取ってください。</p>
		X'0C'	要求マクロ	<p>VSAM が索引のシーケンス・セット・レコードを書くことに失敗しました。</p> <p>このエラーは、VSAM が定様式レコードを期待していたときに不定様式レコードが見つかったり、予期されていないデータを含むボリュームが見つかったり、または入出力エラーが見つかったなどの条件が起きた場合に、起こります。SYNAD 出口ルーチンにおいて、プログラムが DUMP マクロを出すことを確認してください。取得するダンプ、および後の問題判別のための SYSLOG 出力を保管してください。</p>

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10 進数 28	16 進数 X'1C'	15= X'00'	エラー・コードを出すもの 要求マクロ	更新なしの GET によって検索されたレコードは、別の CI 中のレコードと重複している可能性があります。キーによるアクセスを使用して更新によってデータを処理することにより、重複レコードを排除してください。順次処理の場合、このエラー・コードは CI の最初のレコードのためにのみ設定されます。
		X'08'	要求マクロ	このファイルのすべてのエクステントがいっぱいになっています。そして下記に示されたいずれかの理由により、VSAM がさらにエクステントの割り振りをすることは不可能となっています。 <ul style="list-style-type: none"> 2 次割り振りは指定されておらず、追加のボリューム (指定されている場合) の 1 次スペース 2 次割り振りで、必要なクラスのスペースが使用できません。 ファイルの拡張の最大数を超えました。 必要なクラスのスペースが、追加の 2 次割り振りに使用できません。 リカバリー可能カタログ内にある固有ファイルのエクステントの割り振りで、CRA を候補ボリュームに構築するためのスペースが定義されていませんでした。
32	X'20'	X'00'	要求マクロ	可変長レコード SAM ESDS の場合、ゼロの RBA を指定した POINT または直接 GET が出されました。実際には RBA 8 にあるファイルの最初のレコードに対する位置決めがなされました。
		X'08'	OPEN	このファイルに指定した OPEN 後処置が、他のファイル特性と矛盾しています。 <ul style="list-style-type: none"> 入力ファイルに対して DISP=NEW が指定されました。 ローカル共用リソースを用いるファイルに対して DISP=NEW が指定されました。
34	X'22'	X'08'	要求マクロ	無効な RBA が指定されています。
		X'08'	OPEN	エクステント・ステートメント中で指定されているボリューム通し番号が、カタログ項目に記録されているものと一致しません。アクセスするボリュームごとに、EXTENT ステートメントが必要になります。例えば、基本クラスターや代替索引が常駐するボリュームごとに必要です。
36	X'24'	X'08'	要求マクロ	挿入されるべきレコードのキーが、ファイル中の既存キー範囲に当てはまりません。
40	X'28'	X'08'	OPEN	どのボリュームにも動的ファイルの 1 次割り振りのために利用可能なスペースがありません。
				プログラマーの応答: LISTCAT を使用して、ファイルの 1 次割り振り値に割り振られたボリューム、ファイル USECLASS 指定、およびこれらのボリュームのスペース割り振り状況を判別してください。以下のいずれかを行ってください。 <ul style="list-style-type: none"> クラスの一致するデータ・スペースを占有する、不要なファイルを削除してください (CLASS, USECLASS/USECLASS パラメーター)。 必要なクラスの追加データ・スペースを、任意のボリュームに定義してください。 ALTER コマンドの ADDVOLUMES パラメーターを用いて、ファイルの 1 次割り振り値を満たすために、必要なクラスの未割り振りスペースが十分にあるボリュームを、ファイルに追加してください。
		X'08'	要求マクロ	それから、ジョブを再実行してください。 VSAM は、十分に大きい隣接した仮想記憶を入手することができませんでした。
41	X'29'	X'04'	OPEN	プログラマーの応答: 大きな区画でジョブを再実行してください。 VSAM オブジェクトの BACKUP を実行する必要がありますが、その VSAM オブジェクトは現在別のタスクによって更新中です。このオブジェクトのオープン処理は続行され、バックアップ・ファイル内のオブジェクト項目に不整合が起きる可能性があります。
				プログラマーの応答: BACKUP が終了すると、2 つの BACKUP 参照リスト BECR および BOCR に先立って、メッセージ IDC11310I が出され、バックアップされたオブジェクトの名前を示し、BACKUP ファイルに矛盾がある可能性を警告します。このオブジェクトに対して BACKUP を再実行してください。
44	X'2C'	X'08'	要求マクロ	提供されている (RPL のための AREA=addr オペランド中で) 作業域が、要求されているデータ・レコードにとって十分大きくありません。

VSAM コード

エラー・コード 10 進数	エラー・コード 16 進数	レジスター 15=	エラー・コードを出すもの	解説
46	X'2E'	X'08'	要求マクロ	その要求を処理するのに利用可能なバッファが不十分です (非共用リソースのみ)。共用 (LSR) バッファでの同様なエラーの戻りコード x'98' を参照してください。
48	X'30'	X'08'	OPEN	プログラマーの応答: VSAM 定義を変更して、アプリケーションに許可されるバッファを増やします。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。 再使用 (REUSE) できない NOALLOCATION ファイルをオープンする試みがなされました。このようなファイルは実際はモデルであって、オープンすることはできません。
		X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: DLBL ステートメント中のファイル ID にデフォルト・モデルの名前を指定しないようにしてください。 使用されている仮想区画が小さすぎるので、1 つまたはそれ以上の VSAM 処理フェーズをロードすることはできません。
50	X'32'	X'08'	OPEN	プログラマーの応答: もっと大きな仮想区画でジョブを再実行してください。 使用されている仮想区画が小さすぎるので、1 つまたはそれ以上の VSAM 処理モジュールをロードすることはできません。
52	X'34'	X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: もっと大きな仮想区画でプログラムを実行してください。 VSAM は、内部論理エラーを検出しました。
56	X'38'	X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: このエラーにより SDUMP が出されます。出されていない場合は、失敗するジョブに「// OPTION DUMP」を指定して再実行してください。次に SDUMP をプリントし、ダンプ、コンソール・ログ、およびすべての SYSLSL 出力を保存してから、IBM サポートに連絡してください。 ボリュームの動的割り当てを行っている間に、エラーが生じました。 <ul style="list-style-type: none"> この区画 (SYSxxx のための割り当てステートメントがこれらを使用します) 内では、プログラマー論理装置は利用不能です。または、 システム内ではエクステント・ブロックは利用不能です (一時割り当てがこれらを用います)。 ボリュームが取り付けられている装置が「ダウン」しています (ジョブ制御コマンド DVCDN)。
58	X'3A'	X'08'	要求マクロ	ファイルにレコードを追加する試みが行われましたが、追加を行うと、ファイルの合計サイズが X'FFFFFFFF' (4.3 GB) を超えてしまいます。要求は拒否されました。
63	X'3F'	X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: ファイルを再編成して、サイズを X'FFFFFFFF' 制限以下にしてください。 upgrade-reset 処理時にエラーが発生しました。LSR バッファ不足状態が原因と考えられます。代替索引が壊れる可能性があります (関連基礎レコードなしのポインター)。
		X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: upgrade-set におけるすべての代替索引の整合性を確認し、必要に応じて再構築します。影響を受けるクラスターに割り当てられる LSR プールを拡大することを検討してください。
64	X'40'	X'08'	OPEN	ACB を用いて NOCIFORMAT をオープンする試みがなされました。VSAM では、CI 形式以外のファイルはサポートされません。
		X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: 管理下の SAM を使用してファイルにアクセスするようにプログラムを変更するか、または SAM ESDS 以外のファイルを指定するように DLBL ステートメントを変更してください。ジョブを再実行してください。 ACB または BLDVRP マクロの STRNO = n オペランドの中で指定されている数と同じだけの要求が、活動状態にあります。それゆえ、他の要求を開始することができません。
65	X'41'	X'08'	OPEN	SAM ESDS をオープンするための試みがなされましたが、SAM 機能のための VSAM スペース管理機能はシステム内にインストールされていません。
				プログラマーの応答: SAM 機能のための VSAM スペース管理をシステムにインストールし、ジョブを再実行してください。SAM 機能のための VSAM スペース管理をインストールしたくない場合には、SAM ESDS 以外のファイルを指定するように DLBL ステートメントを変更し、ジョブを再実行してください。

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10 進数 66	16 進数 X'42'	15= X'08'	OPEN	<p>VSAM カタログ中のフィールド特性と適合しないファイル特性を持つ DTF をオープンする試みがなされました。これらの非適合性の例は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> DTF BLKSIZE が、ファイルのために定義された最大 RECORDSIZE よりも大きすぎて適合しません。 DTF が CI 形式ファイルを暗黙指定しますが、ファイルが NOCIFORMAT となっています。NOCIFORMAT ファイルと共に用いられるのは、DTFPH のみです。 <p>SAM ESDS の管理 SAM アクセスの場合、このメッセージは単なる通知用と考えられます。注: DTFPH の場合、BLKSIZE が DTFPH CISIZE から 7 を減じたものとして扱われます。</p> <p>プログラマーの応答: ファイルが明示的に定義されていた場合は、ファイルに適合するようにプログラムを変更するか、明示的に削除した上でプログラムと一致するように再定義することによってファイルを変更するか、または別のファイルを使用しなければなりません。もしファイルが暗黙のうちに定義されていた場合は、DISP=NEW を指定することにより、オープンによってそれを暗黙のうちに削除し、ユーザーのプログラムに合うように暗黙のうちに再定義することができます。暗黙のうちに削除する際に、もしファイルに対して以前に指定された満了日が過ぎていなければ、削除を許可するようにオペレーターに要求が出されます。</p>
67	X'43'	X'08'	OPEN	<p>DTF を用いて、期限がきていないファイルを出力用にオープンすることが試みられました。DAM ESDS の管理された SAM アクセスの場合、このメッセージは単に通知用のものとして考慮されます。</p> <p>プログラマーの応答: この VSAM OPEN 戻りコードは、SAM 機能の VSAM スペース管理が未満了ファイルの削除許可をオペレーターに要求することで、内部的に処理されます。このメッセージは、メッセージ 4233A を伴います。権限が与えられると、OPEN は他に問題がなければ、首尾良く完了します。</p>
68	X'44'	X'08' X'08'	OPEN 要求マクロ	<p>オープンされるファイルは、DEFAULT.MODEL ... で始まる名前を持っています。これは無効な接頭部です。</p> <p>要求に対するアクセスのタイプが、ファイルがオープンしているときの ACB におけるアクセス・タイプと合致していません。原因として以下が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ADR または CNV が指定されましたが、キー順アクセスが要求されました。 IN が指定されましたが (暗黙のうちにまたはデフォルトによって)、更新要求がなされています。 GET UPD ADR が要求されましたが、SHAREOPTIONS (4) KSDS がオープンされたときに ACB 上で ADR が指定されませんでした。
69	X'45'	X'08'	OPEN	<p>DTF を用いて、SAM ESDS ではないファイルをオープンしようとしていました。</p> <p>プログラマーの応答: ジョブ制御エラーであると思われます。DLBL ステートメントが、SAM ESDS であることがわかっているファイル ID を指定していることを確かめてください。</p>
70	X'46'	X'08'	OPEN	<p>暗黙の定義または暗黙の削除の際に、無効な識別コードが検出されました。SAM ESDS の管理 SAM アクセスの場合、このメッセージは単なる通知用と考えられます。</p> <p>プログラマーの応答: ジョブ制御エラーであると思われます。DLBL ステートメント中で指定されたファイル ID が、有効な VSAM ファイル ID の基準を満たしているかを確かめてください。</p>
71	X'47'	X'08'	OPEN	<p>DTF と VSAM で指定されたファイル特性と対立する暗黙の定義のために割り振り指定を行っても、その対立を解決することができません。SAM ESDS の管理 SAM アクセスの場合、このメッセージは単なる通知用と考えられます。</p> <p>プログラマーの応答: ジョブ制御エラーであると思われます。DTF 中で指定されているブロック・サイズ以下の平均レコード・サイズを、DLBL ステートメント中で指定してください。</p>

VSAM コード

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10 進数	16 進数	15=	コードを出すもの	
72	X'48'	X'08'	OPEN	DLBL ステートメントで指定されたファイル ID がカタログに存在せず、暗黙定義で指定された割り振りに関する情報が不足しています。SAM ESDS の管理 SAM アクセスの場合、このメッセージは単なる通知用と考えられます。 プログラマーの応答: ジョブ制御ステートメントにスペース割り振りパラメーターを追加してください。このことは、EXTENT ステートメント中でトラックとブロックの数を指定することによって、または装置独立割り振りのための DLBL ステートメントで RECORDS と RECSIZE を指定することによってなされます。
73	X'49'	X'08'	OPEN	SAM ESDS の DLBL ステートメントに指定する RECORDS/CYL/BLK のパラメーター値は 16,777,215 を超えます。 プログラマーの応答: DLBL ステートメントのパラメーターを調べて、訂正してください。
74	X'4A'	X'08' X'08'	要求マクロ OPEN CLOSE	入力シーケンス・ファイルでキーによるアクセスが要求されています。VSAM ACB を 31 ビット・ストレージに配置できます。ただし、リスト終了区切り文字の問題を避けるため、31 ビット ACB が OPEN または CLOSE に渡された場合、リスト内の単独エレメントである必要があります。このエラー・コードは、31 ビット ACB が入っているオープン・リストまたはクローズ・リストで別の ACB または DTF が検出されたことを示します。
76	X'4C'	非ゼロ	CLOSE	CLOSE 中に後処理が失敗しました。 システム処置: CLOSE 処理は継続され、他に問題がなければ首尾良く完了します。このファイルのジョブ終了ステップにおいて、メッセージ 4226I または 4227I が出されます。
78	X'4E'	X'08' X'08'	要求マクロ OPEN	プログラマーの応答: 削除されているはずのファイルがまだ存在している可能性、割り振り解除されているはずのファイルがまだスペースを使用している可能性、またはリセットされているはずのファイルがまだ 2 次割り振りを持っている可能性に注意してください。あるいは、ファイルが再使用可能として定義されているかどうかを調べてください。要求されているようにファイルを最終処理するために、アクセス方式サービス・プログラム・コマンドを使用してください (例えば、LISTCAT、DELETE)。 キー順または相対レコード・ファイルに対して、アドレス指定によるまたは制御インターバルによる挿入が要求されました。 暗黙削除時にカタログ管理エラーが検出されました。問題の診断に必要なカタログ管理戻りコードとエラー・コードを示すメッセージ 4A37I が出されます。SAM ESDS の管理 SAM アクセスの場合、このメッセージは単なる通知用と考えられます。
79	X'4F'	X'08'	要求マクロ OPEN	非常に大きなキー順データ・セットに対して、アドレス指定または制御インターバル・アクセスが要求されました。 暗黙の削除の際に、カタログ管理エラーが検出されました。問題診断のために用いられるカタログ管理の戻りコードと理由コードを与えるために、メッセージ 4A37I が出されます。SAM ESDS の管理 SAM アクセスの場合、このメッセージは単なる通知用と考えられます。
80	X'50'	X'08'	OPEN	ACB において直接またはキー順処理が指定される際に、2 つのボリュームを同じ装置に取り付けようとした。またはオペレーターが要求されているボリュームを取り付けませんでした。 プログラマーの応答: 有効なプログラマー論理装置を要求してください。プログラマー論理装置 (ASSGN SYSxxx) を再割り当てするか、すでに割り当てられている装置を要求してください。オペレーターが正しいボリュームを取り付けたか確認してください。
84	X'54'	X'08'	要求マクロ	ERASE マクロが、入力シーケンス・ファイル (直接またはパスを経由しての) または制御インターバル処理が指定されているファイルに対して出されました。 PUT 要求のために、またはユーザーのバッファ中での処理のために、位置指定モードが指定されました。

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10	16	15=		
88	X'58'	X'08'	エラー・コードを出すもの 要求マクロ	位置決めエラー。問題プログラムによって以下が行われました。 <ul style="list-style-type: none"> この GET で VSAM に位置決めをさせずに、順次 GET を出しました。 MACRF=LSR を使用している場合、VSAM は OPEN の後に自動的に位置決めをしません。 VSAM がキー順検索のための位置決めされないままに、アドレス指定アクセスからキー順アクセスに変更しました。 この要求で VSAM に位置決めをさせずに、相対レコード・ファイルの順次 PUT 挿入要求を出しました。 正方向処置と逆方向の間で、不適切な切り替えを行おうとしました。
92	X'5C'	X'04'	OPEN	警告: MACRF=LSR (共用リソース) が指定されましたが、OPEN/CLOSE/TCLOSE メッセージ域が指定されませんでした。もしリソース・プール内でオプション DFR が指定された ACB が存在しないならば、このエラー・コードを無視してください。
96	X'60'	X'04'	OPEN	更新のための PUT または ERASE が、更新のための先行する GET を伴わずに出されました。 このファイルのカタログ・リカバリーが失敗に終わったので、入力のためにオープンされるはずのファイルが、使用できないことが見いだされました。
100	X'64'	X'04'	OPEN	プログラマーの応答: このファイルのカタログ・リカバリー操作を失敗させた状況を訂正するか、またはファイルを再作成してください。 変更されているレコードの基本キーの変更が試みられました。または、UNIQUEKEY 属性を持つ代替キーを変更しようとしてしました。シーケンス・エラーが、順次更新中に起こりました。例えば、REPRO REPLACE の際に、同一のレコードに別個の 2 つの更新が試みられました。
104	X'68'	X'04'	OPEN	OPEN が、更新セットの一部である空の代替索引に遭遇しました。 アドレス指定アクセスによる更新の際にレコード長を変更する試み、または相対レコード・ファイルのレコード長を変更しようとしてしました。 このファイルが保管されているボリューム上のタイム・スタンプが、カタログ項目中のシステム・タイム・スタンプよりも低くなっています。カタログ項目中のエクステント情報は、ボリューム VTOC 中のエクステント情報と一致しないと考えられます。
		X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: 矛盾するエクステント情報のために問題が起こった場合には、VTOC を表示し、アクセス方式サービス LISTCAT コマンドを実行して、エクステント情報を比較してください。誤ったボリュームが取り付けられた可能性があります。もし正しいボリュームが取り付けられている場合は、ボリュームとカタログ・タイム・スタンプと一致するかどうか確認するために、ファイルをリカバリーしてください。ジョブを再実行してください。無効な IPL 日付が原因である可能性も存在します。この場合、タイム・スタンプをリカバリーしなければなりません。 無効な、または対立する RPL オプションまたはパラメーター。 <ul style="list-style-type: none"> SKP に BWD がある。 LRD はあるが、BWD がない。 CNV に BWD がある。 要求時に ARG パラメーターが指定されなかった。 UPD と NSP がともにある。 ERASE 要求に対して NSP が指定される。 ローカル共用リソースの場合、ACB アドレスが、同一の RPL を使用した以前の要求のものとは異なる。 「RPL の長さ (RPL Length)」と「RPL サブタイプ (RPL Subtype)」フィールドとの間に不一致があります。
105	X'69'	X'08'	要求マクロ	共有リソースの場合、WRTBFR が出されましたが、以下のいずれかの状況にあります。 <ul style="list-style-type: none"> TRANSID が 31 を超えていた。 共有リソース・オプション (LSR) が指定されなかった。または LRU のパーセント値が 0 から 100 の範囲外だった。
106	X'6A'	X'08'	要求マクロ	ACB が破壊されたか、正常にオープンできませんでした。 拡張ユーザー・バッファ (XBF) オプション・コードの使用が無効です。 <ul style="list-style-type: none"> 処理中のファイルが ESDS ではないか、または GET または PUT 以外の要求が出されました。

VSAM コード

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
108	10 進数 X'6C'	15= X'04'	OPEN	<p>ファイルのデータのシステム・タイム・スタンプとその索引が一致しません。このことは、データか索引のどちらかが別々に更新されていることを示します。そして、もしファイルが現在処理されているならば、データ保全性の問題がその結果として生じる可能性があります。</p> <p>プログラマーの応答: データ保全性に問題が生じた場合には、ファイルの有効なバックアップ・コピーに戻ってください。</p>
		X'08'	要求マクロ	<p>RPL のために指定された RECLEN の値は、下記に記したもののいずれかでした。</p> <ul style="list-style-type: none"> 許可された最大値よりも大きい。 ゼロ。 キー長に相対キー位置を加えたものよりも小さい。 相対レコード・ファイルに対して指定されたレコード (スロット)・サイズと等しくない。代替索引上方移行処理のために、代替索引が含んでいる重複キーが多すぎます。より多くのキーを受け入れるために、最大レコード長を増やしてください。
110	X'6E'	X'08'	OPEN	<p>VSAM が、入力専用 (ACB に対して MACRF = IN が指定されている) に用いられる空のファイル (レコードが入っていないもの)、または初期ロードで適切にクローズされなかったファイルを、オープンしようとしてしました。</p> <p>プログラマーの応答: 空のファイルを処理したい場合は、ACB 中で MACRF=OUT を指定するようにプログラムを変更してください。SAM ESDS の管理 SAM アクセスの場合、このメッセージは単なる通知用と考えられます。</p>
112	X'70'	X'08'	要求マクロ	<p>RPL に指定された総称キー長が大きすぎるか、または指定された値がゼロと等しくなっています。</p>
113	X'71'	X'00'	OPEN	<p>このファイルのカタログ・レコードの妥当性を検査するために、OPEN でカタログ検査サービス援助プログラムを実行しようとしてしましたが、CDLOAD が失敗したか、サービス援助プログラムが出力エラーに遭遇したかのいずれかです。ファイルは首尾良くオープンされています。</p> <p>プログラマーの応答: カタログ検査サービス援助プログラムを実行してください。それによってカタログ・エラーが識別されます。出されるエラー・メッセージの指示にしたがってください。</p>
114	X'72'	X'00'	OPEN	<p>OPEN 処理の際に、カタログ検査サービス援助プログラムが呼び出され、カタログの異常を検出しました。またはカタログ検査処理のためのストレージが不十分でした。</p> <p>プログラマーの応答: データに対するこのアクセスは許可されますが、カタログ構造中に存在するエラーを見つけなければなりません。この情報は OPEN 処理の際に収集されたので、それを印刷することはできません。カタログ全体に対してカタログ検査サービス援助プログラムを実行してください。それによってカタログ・エラーが識別されます。出されるエラー・メッセージの指示にしたがってください。もしカタログ検査によってエラーが見つからないならば、その問題はストレージが不十分なところにあります。元のジョブを再実行してください。</p>
115	X'73'	X'00'	OPEN	<p>OPEN 処理の際にカタログ検査サービス援助プログラムが呼び出され、エラーを検出しました。</p> <p>プログラマーの応答: この情報は OPEN 処理の際に収集されたので、それを印刷することはできません。カタログ全体に対してカタログ検査サービス援助プログラムを実行してください。それによってカタログ・エラーが識別されます。出されるエラー・メッセージの指示にしたがってください。もしカタログ検査によってエラーが見つからないならば、その問題はストレージが不十分なところにあります。元のジョブを再実行してください。</p>

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
116	10 進数 X'74'	15= X'04'	エラー・コードを出すもの OPEN	<p>オープンされるべきファイルが、最後に処理されたときに正常にクローズされていませんでした。以下のいずれかが起こりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ファイル用のカタログ・レコードを検査するために OPEN が試みられましたが、検査は完了しませんでした。 ファイルは非 CI 形式の SAM ESDS であるため、OPEN はカタログ・レコードを検査しようとしません。 ファイルは CNV モードでオープン中の ESDS です。これが起こるとすれば、次の 2 とおりの場合です。 <ul style="list-style-type: none"> ジョブ・ストリームに VERIFY コマンドがあります (VERIFY はファイルを CNV モードでオープンします。) 検査は正常に行われ、このエラー・コードは無視されます。 RPL において CNV モード要求しました。OPEN はファイルのカタログ・レコードを検査しようとしませんでした。 前回ファイルがオープンされたのはファイルの初期ロードのときであり、SPEED が指定されました。OPEN カタログ・レコードを検査しようとしませんでした。 <p>プログラマーの応答: 前回の実行時に行われた処理によって異なります。もしレコードが検索されただけであるなら、プログラマー処置は必要ありません。もしレコードが追加、削除、または更新された場合、また ACB 中で CNV モードが要求されたならば、ESDS は CNV モードでオープンされていますので、オープンの際の自動検査が始まりません。AMS VERIFY を実行してください。</p>
		X'08'	要求マクロ	レコードを挿入するために、順次またはスキップ順次 PUT でない要求が、ファイルの初期ロードの際に出されました。または、PUT 挿入でない要求が、相対レコード・ファイルの初期ロードの際に出されました。空のファイルを読み込むことが試みられたと考えられます。
117	X'75'	X'08'	OPEN	EXTENT ステートメント中で指定された論理装置が、有効な装置タイプに割り当てられていないか、または無効なエクステンツが指定されています。
118	X'76'	X'00'	OPEN	<p>前の出力用 OPEN で、クローズされていないファイルがオープンされました。OPEN はフィールドのカタログ・レコードを検査しますが、今回この OPEN が入力用のものであるならば、カタログ RBA 値は有効になっていないので、このエラー・コードは、出力用の OPEN を与えるまで、または明示的 VERIFY を実行するまで出されます。</p> <p>プログラマーの応答: 処置は不要です。この通知メッセージは、このファイルのカタログ・レコードは正しいが、カタログ統計は正しくない可能性があることを示しています。これらの統計は、処理エラーを起こすことはありませんが、LISTCAT 出力が誤った情報を含んでいる可能性があることに注意してください。</p> <p>ファイルまたはカタログのための DLBL ステートメントが欠落しています。またはそのステートメント中で指定されたファイル名が、ACB の名前と合致しません。</p> <p>VSAM リダイレクター・アクションの間にエラーが発生する場合、ターゲット・ファイル・システムは到達不能です。</p>
128	X'80'	X'08'	OPEN	

VSAM コード

エラー・コード 10 進数	エラー・コード 16 進数	レジスター 15= X'08'	エラー・コード を出すもの 要求マクロ	解説
				<p>VSAM カタログが要求の処理中にアクセスされ、このカタログをアクセスしているときにエラーが起きました。理由は、以下のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • GETVIS 障害。 • ファイルを処理する試みが行われましたが、処理すると、ファイルの合計サイズが X'FFFFFFFF' (4.3 GB) を超えてしまいます。要求は拒否されました。 <p>プログラマーの応答:</p> <ul style="list-style-type: none"> • リカバリー可能カタログが使用されていた場合は、必要な EXTENT ステートメントがすべて与えられたかどうかを調べてください。リカバリー可能カタログが使用されていなかった場合は、もっと大きな仮想区画を与えてください。SNAP1 を使用可能にしてください。詳細については、「VSE/VSAM User's Guide and Application Programming」を参照してください。ジョブを再実行してください。再実行が失敗するならば、IBM サポートに連絡を取ってください。問題判別のために、以下のものを用意してください。 <ul style="list-style-type: none"> - プログラム・リスト - SYSLOG 出力 - (利用可能であるなら) プログラム・ダンプ • ファイルのサイズが X'FFFFFFFF' (4.3 GB) を超えた場合は、CLUSTER の DEFINE 中にオプション EXTRALARGEDATASET を使用して、KSDS でのこの制限を見直してください。ESDS では、4.3 GB の制限を回避することはできません。ファイルを再編成して、サイズを削減してください。
132	X'84'	X'08'	OPEN	<p>VSAM がラベル情報域からラベル情報を読んでいる際に、永続入出力エラーが生じました。</p> <p>プログラマーの応答: 再試行してください。問題が繰り返して起きるようならば、ROD を出して EREP を実行するよう、オペレーターに指示してください。IBM サポートに連絡を取ってください。そして問題判別のために EREP と SYSLOG 出力を利用可能にしてください。</p>
136	X'88'	X'08' 非ゼロ	要求マクロ CLOSE	<p>位置指定モードでスパン・レコードを検索することが試みられました。VSAM は、CLOSE ルーチンが作業域として必要とするだけの大きさの、隣接した仮想記憶を入手することができませんでした。</p> <p>プログラマーの応答: もっと大きな仮想区画でプログラムを実行してください。VSAM は、必要な作業域、制御ブロック、そしてバッファを収容するために十分な大きさの、連続した仮想記憶を確保することができませんでした。</p>
		X'08'	要求マクロ OPEN	<p>プログラマーの応答: 次のいずれかの処置をとって、もっと大きな GETVIS 域を VSAM に与えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EXEC ステートメント中で SIZE パラメーターを指定してください (もし欠落しているならば)。または、 • より大きい仮想記憶を区画に割り振ってください。 <p>アドレス指定アクセスによってキー順ファイルのスパン・レコードを検索することが試みられました。</p>
140	X'8C'	X'08'	要求マクロ	<p>VSAM が矛盾したスパン・レコードに遭遇しました (すなわち、1 つまたはそれ以上のセグメントが不完全に更新されているか、破壊されています)。</p>
144	X'90'	非ゼロ	CLOSE	<p>以下のいずれかが起こりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VSAM は、CLOSE 処理のためにカタログ・ルーチンが必要とする、十分に大きい隣接するストレージを入手することができませんでした。 • CLOSE 要求を処理している際にカタログがアクセスされ、そのときエラーが起きました。例えば、VSAM がカタログ・リカバリー域レコードの読み書きを行っている際に永続入出力エラーが生じた可能性があります。 • GETVIS 障害、または VSAM フェーズをロードする際の失敗が起きました。 <p>プログラマーの応答: 再試行してください。問題が繰り返して起きるようならば、ROD を出して EREP を実行するよう、オペレーターに指示してください。IBM サポートに連絡を取ってください。</p>

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10 進数	16 進数	15=	エラー・コードを出すもの	
		X'08'	OPEN	<p>OPEN 要求を処理中に、カタログがアクセスされるときエラーが起きました。例えば、VSAM がカタログ項目またはカタログ・リカバリー域レコードの読み書きを行っている永続入力エラーが生じた可能性があります。</p> <p>プログラマーの応答: 再試行してください。問題が繰り返して起きようならば、ROD を出して EREP を実行するよう、オペレーターに指示してください。IBM サポートに連絡を取ってください。そして問題判別のために EREP と SYSLOG 出力を利用可能にしてください。</p>
		X'08'	要求マクロ	<p>VSAM が、関連した基本レコードを持たない代替索引中で、ポインターに遭遇しました。</p> <p>この戻りコードを出すエラーには 2 つのクラスがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 一時 <p>CLOSE または ENDREQ の後に基本レコードがあります。この状態は読み取り保全制限によります。「IBM z/VSE VSE 中央機能 VSE/VSAM コマンド」の『DEFINE CLUSTER』で SHAREOPTIONS パラメーターを参照してください。</p> 永続 <p>CLOSE または ENDREQ の後にもかかわらず、基本レコードがありません。代替索引が作成され、「UPGRADE」とフラグ付けされた基本クラスターにレコードが挿入される場合、代替索引がまず更新され、次に基本クラスターが更新されます。基本クラスターの更新中にエラーが生じた場合、VSAM は代替索引に加えられた変更を取り消そうとします。これが失敗し、矛盾する代替索引ポインターが残された場合、VSAM は、RPLFDBK のバイト 1 および 3 に該当エラー・コードを設定し、更新セットが正しくないことを示すために、RPLFDBK のバイト 2 を X'01' に設定します。次に VSAM は呼び出し側プログラムに制御を戻します。ユーザーは代替索引を再構築することができます。ただ要求を再試行するだけでは問題は訂正されません。</p> <p>更新リセット処理から非ゼロの戻りがあった場合、VSAM は IDUMP を出します。これは代替索引のリセットが失敗した理由をユーザーが識別する助けになります。</p>
148	X'94'	X'08'	OPEN	<p>オープンされる ACB またはこの ACB に関係した代替索引構造のために有効な項目が、そのカタログ中に見つかりませんでした。プログラマーが次のことをした可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 誤ったクラスター、代替索引、またはパス名などを指定した。 正しいカタログ名を指定していない。 アクセス方式サービス・プログラムの DEFINE または DELETE が失敗した。 <p>プログラマーの応答:</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムが正しいクラスター、代替索引、およびパス名を用いていることを確かめてください。 プログラムが正しいカタログを用いていることを確かめてください。 クラスター、代替索引、およびパスが正しい名前前で要求されたカタログに定義されていることを確かめてください。 以前のアクセス方式サービス・プログラムの DEFINE または DELETE が失敗しなかったか調べてください。
152	X'98'	X'08'	要求マクロ	<p>使用しているカタログの内容を判別するために LISTCAT を実施してください。</p>
		X'08'	要求マクロ	<p>代替索引中のポインターの最大数が、限界を超えています。</p> <p>その要求を処理するのに利用可能なバッファが不十分です (LSR、共有リソースのみ)。非共有バッファでの同様なエラーの戻りコード x'2E' を参照してください。</p> <p>プログラマーの応答:VSAM 定義を変更して、アプリケーションに許可されるバッファを増やします。問題が解決しない場合は、IBM サポートに連絡してください。</p>

VSAM コード

エラー・コード 10 進数	エラー・コード 16 進数	レジスター 15= X'08'	エラー・コード を出すもの 要求マクロ	解説
				その要求を処理するのに利用可能なバッファが不十分です (共有リソースのみ)。
153	X'99'	X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: 要求を再試行してください。追加のバッファが解放されている可能性があります。 レコード管理の呼び出しは、破壊された RPL または ACB を使用して行われました。SDUMP が出され、戻りコード X'08' が要求に戻されます。
156	X'9C'	X'08'	要求マクロ	この CI 中の 1 つ以上のレコードが、アドレス指定された更新付き GET の後に重複データを含んでいる可能性があります。キー順アクセスを用いてデータ・セットを処理することにより、重複を取り除くことができます。
160	X'A0'	X'08'	OPEN	以下のいずれかが起こりました。 <ul style="list-style-type: none"> ACB にキー順アクセスが指定されました (ACB 中または GENCB マクロ中) が、ファイルは入力順になっています。 キー順ファイルをキー順ではなく、キー順以外のアクセス・タイプでロードすることが試みられました。 相対レコード・ファイルをキー順または制御インターバル以外のアクセス・タイプでアクセスすることが試みられました。 MACRF = LSR (共有リソース) と UBF (ユーザー・バッファリング) が同時に指定されています。 LSR (共有リソース) を指定せずに、MACRF = DFR (据え置き書き出し) が指定されています。 SHAREOPTIONS (4) で定義されたファイルに MACRF=DFR が指定されていません。 共用オプション 4 出力ファイル用にオープンされている ACB 中で、KEY と ADR/CNV アクセスの両方が指定されました。 ジョブ制御ステートメント上で、矛盾したまたは無効なファイル属性指定のされたファイルを入力用にアクセスすることが試みられました。
161	X'A1'	X'08'	OPEN	ユーザー・バッファ (ACB MACRF=UBF) が以下のいずれかで指定されました。 <ul style="list-style-type: none"> キー順またはアドレス順のアクセス。この場合、ユーザー・バッファは制御インターバル・アクセスのみ指定可能です。または データ・セット名共用 (ACB MACRF=DSN)。この場合、ユーザー・バッファは ACB MACRF=DDN でのみ指定可能です。
162	X'A2'	X'04'	OPEN	プログラマーの応答: ACB MACRF=NUB (ユーザー・バッファなし)、ACB MACRF=CNV (制御インターバル・アクセス)、または ACB MACRF=DDN を指定してください。ジョブを再実行してください。 データ・セット名を共用する OPEN (ACB MACRF=DSN) が正常に行われましたが、ACB は逆の入出力モードを持つ既存の DSN 構造に接続しています。現行 OPEN が ACB MACRF=OUT でなされた場合、出力アクセスは不可能となります。現行 OPEN が ACB MACRF=IN でなされた場合、出力アクセスは不可能となり、既存の DSN 構造が出力構造である場合でもやはり不可能です。
163	X'A3'	X'08'	OPEN	プログラマーの応答: なし。 パス関連基本クラスターのために利用可能な文字列が十分でなかったため、データ・セット名共用でのパス OPEN は失敗しました。データ・セット名共用にある単一クラスターの前回の OPEN 中に定義された ACB BSTRNO 値はこの OPEN 試行には小さすぎます。
165	X'A5'	非ゼロ	CLOSE	プログラマーの応答: 前に OPEN したクラスターの ACB BSTRNO 値を増やすか、またはこのパス OPEN の ACB STRNO 値を減らしてください。 システム・ロック・ファイルで永続入出力エラーが検出されました。
		X'08'	OPEN	プログラマーの応答: システム・プログラマーに相談して問題を訂正してください。システム問題が解決されてから、ジョブを再実行してください。 システム・ロック・ファイルで永続入出力エラーが検出されました。
166	X'A6'	非ゼロ	CLOSE	プログラマーの応答: システム・プログラマーに相談して問題を訂正してください。システム問題が解決されてから、ジョブを再実行してください。 システム・ロック・テーブルは、並行要求を扱うほど大きくありません。
				プログラマーの応答: システム内の並行活動が少ないときに、ジョブを再実行してください。

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10 進数	16 進数	15= X'08'	OPEN	システム・ロック・テーブルは、並行要求を扱うほど大きくありません。
167	X'A7'	非ゼロ	CLOSE	プログラマーの応答: システム内の並行活動が少ないときに、ジョブを再実行してください。 システム・ロック・ファイルが、並行要求を収容するために十分な大きさではありません。
		X'08'	OPEN	プログラマーの応答: システム内の並行活動が少ないときに、ジョブを再実行してください。 システム・ロック・ファイルが、並行要求を収容するために十分な大きさではありません。
168	X'A8'	非ゼロ	CLOSE	プログラマーの応答: システム内の並行活動が少ないときに、ジョブを再実行してください。 ロック・マネージャーからの戻りコードが、要求されたりソースが使用不能であるか、またはすでに同じタスクで所有されていることを示しています。
				プログラマーの応答: 下記の OPEN の場合と同じです。

VSAM コード

エラー・コード 10 進数	エラー・コード 16 進数	レジスター 15= X'08'	エラー・コード を出すもの OPEN	解説
				<p>下記のいずれかの理由によって、そのファイルを利用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 別の ACB の排他的制御のもとで更新されています。例えば、ファイルの SHAREOPTION 指定では、要求されたタイプのオープンをさらに行うことはできません。 他の ACB が初期ロード・モードでファイルをオープンしています。初期ロード・モードは、MACRF=RST または DLBL...DISP=NEW... が指定されている場合、または出力用に空のデータ・セットをオープンしているときに使用されません。 別の ACB によってリセット中です。 RESET を伴う OPEN が ACB 中で指定されました。そしてそのファイルは、他の ACB によってアクセスされています。 それは TEMPORARY と INHIBITSOURCE オプションを指定してエクスポートされました。そして更新は許可されていません。 ファイルのコピーが INHIBITTARGET オプションを指定してエクスポートされ、このシステム内に搬入されました。更新は許可されません。 それは INHIBIT オプションを指定した ALTER コマンドによって変更されました。 SAM ESDS が、別の SAM アクセス・ユーザー (DTF) によって、ロードまたは拡張されています。 管理 SAM アクセス・ユーザー (DTF) が、他の管理 SAM アクセス・ユーザー (DTF) によって用いられている SAM ESDS を、ロードまたは拡張しようと試みました。SHAREOPTIONS(4) KSDS の ACB は、MACRF = ADR, MACRF = CNV または MACRF = KEY を示していますが、アドレス指定出力または制御インターバル出力アクセスのためにオープンしている ACB が他にもあります。 MACRF=(KEY,CNV) または MACRF=(ADR) を使用して SHR(4) KSDS の ACB をオープンしようとした。 ファイルを MACRF=ADR または MACRF=CNV で出力用にオープンしようとしたが、SHAREOPTION(4) ファイルは MACRF=KEY ですすでに出力用にオープンされています。 ファイルを MACRF=KEY で出力用にオープンしようとしたが、SHAREOPTION(4) ファイルは MACRF=ADR または MACRF=CNV ですすでに出力用にオープンされています。 ファイルを SHAREOPTION(4) で出力用にオープンしようとしたが、そのファイルはすでに他の処理装置から出力用にオープンされています。ファイルが SHAREOPTION(4) で定義されていない限り、ファイルをオープンできるのは 1 つの処理装置だけです。 ファイルをオープンしたシステムが操作不能になった場合は、アテンション・ルーチン UNLOCK コマンドを使用してアンロックすることができます。 <p>プログラマーの応答: プログラム内でファイル競合問題が起こっているかどうかを判別してください。もしそうであるならば、競合を避けるためにプログラムを変えてください。または望む操作ができるようにファイル定義を変えてください。ジョブを再実行してください。その競合が、ユーザーのジョブと同一のファイルを使用している他のジョブ (ユーザーのシステム内または別のシステム内の) によって引き起こされているものであると判別されるならば、対立するジョブが実行されていない時にユーザーのジョブを実行するようにスケジュールし直すことを試みてください。</p>
169	X'A9'	X'08'	OPEN	<p>MACRF=DSN が ACB 内で指定されました。さらに、オープンされる ACB の SHRPOOL 値が、ファイルをオープンし、かつデータ・セット名 (DSN) 共用構造を構築した最初の ACB の SHRPOOL 値と同じではありません。後続の SHOWCB/TESTCB 要求から正しくない情報を受け取らないように OPEN は失敗しました。</p> <p>プログラマーの応答:</p> <ul style="list-style-type: none"> DSN が必要ならば、失敗した ACB が、ファイルをオープンしてデータ・セット名共用構造を構築した最初の ACB と同じ値を持つように、SHRPOOL 値を変更してください。 DSN なしでオープンする場合、ACB の MACRF ステートメントから 'DSN' を除去してください。

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
180	10 進数 X'B4'	15= X'08'	エラー・コードを出すもの OPEN	<p>カタログまたは CRA をオープンする際に、エラーが生じました。考えられる理由は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カタログが存在しないか、または誤ったカタログが検索された。 • 仮想記憶を得るための試みが失敗した。 • VSAM が VTOC を読み取っている際に入出力エラーが生じた。 • システム内でエクステント・ブロックが利用不能。 • 論理装置を割り当てることができない。 • システム・ロック・テーブルまたはシステム・ロック・ファイルがいっぱいであるか、またはシステム・ロック・ファイル上で入出力エラーが検出された。 • システム上に同じボリューム識別ラベル (ボリューム通し番号) を持つ複数のボリュームが取り付けられている。 <p>プログラマーの応答: EXEC ステートメントに SIZE を指定して、十分な GETVIS スペースを与えてください。正しいボリュームが取り付けられていたことを確認してください。エラーがないかどうか、カタログや CRA を定義しているジョブ制御ステートメントを調べてください。エラーを訂正し、ジョブを再実行してください。正しいボリュームが取り付けられ、ジョブ制御エラーがないのにエラーが生じていたならば、バックアップ・コピーまたはカタログ・リカバリー機能を用いてカタログをリストアしてください。</p>
184	X'B8'	非ゼロ	CLOSE	<p>VSAM が入出力要求の処理を完了中に、VSAM ルーチンで内部エラーが起きました。</p> <p>プログラマーの応答: この種のエラーが起こったときに、プログラムが DUMP マクロを出すかどうかを確認してください。後の問題判別のためにそのダンプを、保管してください。</p>
188	X'BC'	非ゼロ	CLOSE	<p>クローズされる ACB が使用されています (例えば SHOWCB または TESTCB マクロによって)。</p>
		X'08'	OPEN	<p>オープンされる ACB がすでに使用されています。</p>
		X'08'	要求マクロ	<p>その ACB は、排他制御を使用する別の操作 (例えば、OPEN、CLOSE、制御ブロック操作など) によってすでに活動状態にあります。</p>
192	X'C0'	X'08'	OPEN	<p>出力のためのオープンすべきファイルまたはバックアップすべきファイルが、次のいずれかの理由で、使用不能 (カタログ項目に使用可能のマークが付いている) であることがわかりました。</p> <ol style="list-style-type: none"> (a) このファイルのカタログ・リカバリーが失敗した。 (b) FORCE 付きの DELETE SPACE によって、ファイルに必要なボリュームが削除されたか、または出力のためにデータ・セットをオープンしようとしたが、対応するカタログが R/O ディスクに置かれている。 (c) 無許可のプログラムが、VSAM 圧縮制御データ・セットの出力 OPEN を試みた。 <p>プログラマーの応答: 次のいずれかを行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 以前のカatalog・リカバリー操作を失敗させた問題点を訂正してください。 • あとで再搬入するために、アクセス方式サービス・プログラム EXPORTRA コマンドを用いてファイルをエクスポートしてください。 • ファイルを再定義し、再ロードしてください。 • R/O ディスクからデータを読み取りたいならば ACB MACRF=IN を指定してください。 • そのファイルをバックアップから除外してください。 • VSE/VSAM 圧縮制御データ・セットを操作してはなりません。
194	X'C2'	X'08'	要求マクロ	<p>VSAM は、無効な相対レコード番号を検出しました。</p>
		X'08'	OPEN	<p>出力のために圧縮クラスターのデータ・コンポーネントをオープンしようとしたか、または圧縮クラスターの索引コンポーネントをオープンしようとした。VSE/VSAM には、これらの機能はありません。</p> <p>プログラマーの応答: 圧縮クラスターをそのクラスター・コンポーネント名で使用してください。</p>

VSAM コード

エラー・コード 10 進数	エラー・コード 16 進数	レジスター 15=	エラー・コードを出すもの	解説
195	X'C3'	X'08'	OPEN	ACB MACRF=(CNV,NCM) を指定して、クラスターを圧縮しました。制御インターバル・モードでは、VSE/VSAM は、非圧縮形式のレコードにアクセスを行うことはできません。 プログラマーの応答: 次のいずれかの解決策を適用することができます。 <ul style="list-style-type: none"> 制御インターバル・モードを使用しない MACRF=CMF を指定する (非圧縮レコードへのアクセスが必要でない場合のみ) COMPRESSED 属性を使用してクラスターを定義しない
196	X'C4'	X'08' X'08'	OPEN 要求マクロ	空の代替索引によってデータにアクセスすることが要求されました。 相対レコード・ファイルに対してアドレス指定された要求が出されます。 プログラマーの応答: アクセス方式サービス BLDINDEX コマンドを使用して、代替索引を初期設定してください。ジョブを再実行してください。
200	X'C8'	X'08'	要求マクロ	アドレスによるアクセスまたは制御インターバルによるアクセスが、パスを通じて試みられました。
204	X'CC'	X'08'	要求マクロ	逆方向モードにある間に、レコードを挿入するためにプログラムが PUT を出しました。
208	X'D0'	X'08'	要求マクロ	SHAREOPTIONS (4) の場合、更新または挿入処理のために必要なロックが、別の ACB によって排他的に制御されています。現行の要求が処理されている ACB と、別の ACB の間の通信がありません。しかし、その別の ACB のための処理は、同じ VSE タスクの下で実行されています。 プログラマーの応答: 次のいずれかの手法を使用して問題を軽減することができます。 <ul style="list-style-type: none"> 別の ACB のもとで要求の処理を完了させてから、失敗した要求を再試行してください。 2 つの ACB の処理を、1 つの ACB だけが要求されるように組み合わせてください (しかし同じ状況が生じると、これはエラー・コード X'14' を引き起こす可能性があります)。 互いに通信できるようにするには、ローカル共用リソースの下で両方の ACB を実行させてください。 (しかし同じ状況が生じると、これはエラー・コード X'14' を引き起こす可能性があります)。 別個の VSE タスクでそれぞれの ACB を実行してください。
210	X'D2'	X'08'	要求マクロ	VSAM は、その要求がシステム内でデッドロック状態を引き起こす恐れがあることを示す戻りコードを、LOCK マクロから受け取りました (システム間のデッドロックは生じません)。 プログラマーの応答: 別の ACB のもとで要求の処理を完了させてから、失敗した要求を再試行してください。
212	X'D4'	X'08' X'08'	OPEN 要求マクロ	MACRF = LSR (共有リソース) が指定されましたが、オープンされているファイルは空です (これはファイルがロードされることを意味しています)。 VSAM は、LOCK マクロからロック・テーブルにロック項目を作成するためのスペースがないことを示す戻りコードを受け取りました。 プログラマーの応答: 別のプログラムを使用してファイルをロードするか、またはファイルがロードされるまで、ACB MACRF = NSR (非共有リソース) を指定してください。
216	X'D8'	X'08'	OPEN	MACRF = LSR(共有リソース) が指定されましたが、オープンされているファイルのキー長は、リソース・プールに対して BLDVRP 中で指定されたキー長の最大値よりも大きくなっています。
220	X'DC'	X'08'	OPEN	MACRF = LSR (共有リソース) が指定されましたが、オープンされているファイルの制御インターバル・サイズは、そのリソース・プールのために BLDVRP 中で指定されている最大バッファ・サイズよりも大きくなっています。
224	X'E0'	X'08'	要求マクロ	圧縮クラスターにあるレコードの更新を、アドレス・モード (OPTCD=ADR) を使用して行うことはできません。
228	X'E4'	非ゼロ	CLOSE	VSAM 共有リソース・テーブル (IKQVSRT) ID は無効です。 プログラマーの応答: システム・ダンプをとり、IBM サポートに連絡してください。問題判別のために、ダンプ出力、SYSLOG 出力、およびジョブ・ストリームのコピーを手元に用意しておいてください。

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10 進数 229	16 進数 X'E5'	15= X'08'	エラー・コードを出すもの 要求マクロ	圧縮レコードの拡張の結果、レコードの長さが、圧縮を行った時点で VSE/VSAM が記録した長さと異なりました。
		X'08'	OPEN	プログラマーの応答: データが破壊された可能性があります。失敗したジョブを再実行し、エラーが直らないようであれば、IBM サポートに連絡してください。 ACB MACRF = LSR (ローカル共用リソース) が指定されていますが、リソース・プールが定義されていないか、プールの値が正しくありません。リソース・テーブルをロードする際に問題が生じていた可能性があります。
232	X'E8'	X'08'	OPEN	プログラマーの応答: ローカル共用リソースを使用する ACB のオープンを試みる前にリソース・プールを作成するように、プログラムを変更してください。ジョブを再実行してください。 ACB MACRF = RST (リセット) が再使用不可ファイルに対して指定されていますが、そのファイルが空ではありません。リセット指定は、ACB 内の MACRF = RST、または DLBL ステートメント内のオープン後処理 NEW またはクローズ後処理 DELETE の結果として生じます。
		X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: リセット指定を変更し、ジョブを再実行してください。 圧縮制御サービスのエラーがありました。問題点の内容は、SYSLOG に書き込まれたメッセージ 4A91I に示されています。
245	X'F5'	X'08'	要求マクロ	プログラマーの応答: リセット指定を変更し、ジョブを再実行してください。 圧縮処理中に圧縮管理サービス・エラーがありました。問題点の内容は、SYSLOG に書き込まれたメッセージ 4A90I に示されています。
246	X'F6'	X'08'	OPEN CLOSE	OPEN または CLOSE 処理中に、圧縮管理サービス・エラーがありました。4228I メッセージに、圧縮管理サービスからの戻りコードと理由コードが含まれています。これらのコードについては、メッセージ 4A90I のもとに説明されています。
246	X'F6'	X'08'	要求マクロ	拡張処理中に圧縮管理サービス・エラーがありました。問題点の内容は、SYSLOG に書き込まれたメッセージ 4A90I に示されています。
247	X'F7'	X'08'	OPEN CLOSE	圧縮したクラスターのオープンまたはクローズ中に、圧縮制御エラーを検出しました。このエラーは、SYSLOG に書き込まれているメッセージ 4A91I によって詳しい内容がわかります。
248	X'F8'	X'08'	OPEN	IKQLAB または IKQMVRJ (SAM 機構のための VSAM スペース管理) が、LABEL または EXTRACT マクロに正しくないパラメーター・リストを渡しました。おそらくシステム・エラーと思われる。
252	X'FC'	非ゼロ	CLOSE	プログラマーの応答: システム・ダンプをとり、IBM サポートに連絡してください。問題判別のために、ダンプ出力、SYSLOG 出力、およびジョブ・ストリームのコピーを手元に用意しておいてください。
254	X'FE'	非ゼロ	CLOSE	管理 SAM ファイルのための DTF の自動クローズが失敗しました。 予想外のロック管理からの戻りコードがクローズによって検出されました。VSAM は VSAM 制御ブロックを含む領域の IDUMP を提供します。
				プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。問題が繰り返し起こる場合は、IBM サポートに連絡してください。問題判別のために下記のものを利用できるようにしておいてください。 <ul style="list-style-type: none"> • IDUMP 出力。 • 監視プログラム・ロック・テーブルのストレージ・ダンプ。 • IPL 時にロック・ファイルが指定された場合には、そのロック・ファイルのダンプ。 • SYSLOG 出力。 • ジョブ・ストリーム。

VSAM コード

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード	解説
10 進数	16 進数	15=X'08'	OPEN	<p>ロック管理からの予期しない戻りコードを OPEN が検出しました。 VSAM は VSAM 制御ブロックを含む領域の IDUMP を提供します。</p> <p>プログラマーの応答: ジョブを再実行してください。 問題が繰り返し起こる場合は、IBM サポートに連絡してください。 下記の情報は問題判別に役立つ場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IDUMP 出力。 • 監視プログラム・ロック・テーブルのストレージ・ダンプ。 • IPL 時にロック・ファイルが指定された場合には、そのロック・ファイルのダンプ。 • SYSLOG 出力。 • ジョブ・ストリーム。
255	X'FF'	非ゼロ	CLOSE	<p>カタログ処理の際に予期しないエラーが起きました。 次の問題が一般的です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 区画 GETVIS のスペースが不足しています。 2. 区画のプログラマー論理装置が不足しています。 3. エクステント・ブロックが不足しています。 4. ロック・マネージャーの処理中にエラーが起きた可能性があります。 <p>VSAM は VSAM 制御ブロックを含む領域の IDUMP を提供します。</p> <p>プログラマーの応答: リカバリー可能カタログを使用している場合は、必要なすべての EXTENT ステートメントが存在し、かつ正しいかどうか、および十分なストレージが使用可能かどうかを調べてください。 問題が上記のいずれかであると考えられる場合には、以下の該当する処置を取ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. EXEC ステートメントに SIZE=AUTO を指定して GETVIS 域のサイズを大きくしてください。 これで成功しなければ、ジョブをより大きい区画内で再実行してください。 2. これが複数ステップのジョブであれば、複数の独立ジョブに分割するか、または簡略化 JCL の代わりに ASSGN ステートメントを指定してください。 3. エクステント・ブロックに割り振られるスペースの量を増加させるために、IPL SVA コマンド中で GETVIS パラメーターを用いてください。 注: IPL SYS コマンド中で DASDFP パラメーターが指定されたときのみ、エクステント・ブロックを使用することができます。 4. 239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』の、戻りコード 246、理由コード 8、28、および 36 を参照してください。 <p>問題が繰り返し起きるようであれば、SYSDUMP ライブラリーからダンプを印刷してください。 IBM サポートと連絡を取って、問題判別のために IDUMP 出力、SYSLOG 出力、およびジョブ・ストリームを利用可能にしてください。</p>

エラー・コード	エラー・コード	レジスター	エラー・コード
10 進数	16 進数	15=	を出すもの
		X'08'	OPEN

解説

カタログ処理の際に予期しないエラーが起きました。次の問題が一般的です。

1. 区画 GETVIS のスペースが不足しています。
2. 区画のプログラマー論理装置が不足しています。
3. エクステント・ブロックが不足しています。
4. ロック・マネージャーの処理中にエラーが起きた可能性があります。

VSAM は VSAM 制御ブロックを含む領域の IDUMP を提供します。

プログラマーの応答: リカバリー可能カタログを使用している場合は、必要なすべての EXTENT ステートメントが存在し、かつ正しいかどうか、および十分なストレージが使用可能かどうかを調べてください。リカバリー可能カタログを使用している場合は、ストレージが使用可能かどうかを調べてください。問題が上記のいずれかであると考えられる場合には、以下の該当する処置を取ってください。

1. EXEC ステートメントに SIZE=AUTO を指定して GETVIS 域のサイズを大きくしてください。これで成功しなければ、ジョブをより大きい区画内で再実行してください。
2. これが複数ステップのジョブであれば、複数の独立ジョブに分割するか、または簡略化 JCL の代わりに ASSGN ステートメントを指定してください。
3. エクステント・ブロックに割り振られるスペースの量を増加させるために、IPL SVA コマンド中で GETVIS パラメーターを用いてください。
注: パラメーター DASDFP が IPL SYS コマンドで指定されていたときは、エクステント・ブロックのみが使用されます。
4. 239 ページの『第 9 章 IDCAMS 戻りコードおよび理由コード』の、戻りコード 246、理由コード 8、28、および 36 を参照してください。

問題が繰り返し起きるようであれば、SYSDUMP ライブラリーからダンプを印刷してください。IBM サポートと連絡を取って、問題判別のために IDUMP 出力、SYSLOG 出力、およびジョブ・ストリームを利用可能にしてください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、これを入力するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive, MD-NC119
Armonk, NY 10504-1785
US

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向性および指針に関する記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものにすぎません。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、名前や住所が類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するユーザーが z/VSE のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用される条件

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入 関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるようにサポートします。 z/VSE のアクセシビリティの主要機能により、ユーザーは以下のことができるようになります。

- 画面読み上げ機能および画面拡大機能などの支援機能の使用
- キーボードのみを使用して、特定の機能または画面を使用したのと同等の機能を実行
- 色、コントラスト、フォント・サイズなど表示属性のカスタマイズ

支援機能の使用

画面読み上げ機能などの支援機能は、z/VSE のユーザー・インターフェースを使用して機能します。 この支援機能を使用して z/VSE インターフェースにアクセスする場合、その特定情報については支援機能の資料を参照してください。

資料の形式

本製品の資料は、Adobe Portable Document Format (PDF) で提供され、アクセシビリティ標準に準拠しています。 PDF ファイルの使用に問題があり、Web ベース形式の資料を必要とする場合は、s390id@de.ibm.com 宛てに E メールを送信するか、または下記の宛先まで書面でご請求ください。

IBM Deutschland Research & Development GmbH
Department 3282
Schoenaicher Strasse 220
D-71032 Boeblingen
Federal Republic of Germany

この請求には必ず、資料番号および表題を付記してください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。



プログラム番号: 5686-VS6

Printed in Japan

SC43-2939-01



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21